



大正新編

大藏經

目次

一五四六 阿毘曇毘婆沙論(六十卷) [No. 1545; cf. Nos. 1543, 1544, 1547]

迦旃延子造 五百羅漢釋……北涼浮陀跋摩共道泰等譯……………一

(一) 雜 健 度

- 1 世第一法品(一四)……………四
- 2 智 品(五三)……………三
- 3 人 品(三一五)……………九二
- 4 愛 敬 品(六一八)……………一六
- 5 無 慚 愧 品(九一〇)……………一三五
- 6 色 品(三〇)……………一四八
- 7 無 義 品(三一三)……………一五二
- 8 思 品(三一四)……………一六七
- (三) 使 健 度……………一八二

- 1 不 善 品(五二〇)……………一八二
- 2 一 行 品(三一三)……………一三二
- 3 人 品(三一六)……………一四五
- 4 十 門 品(三一六)……………一七〇
- (三) 智 健 度……………三五五
- 1 八 道 品(四九)……………三五五
- 2 他 心 智 品(四七)……………三七〇
- 3 修 智 品(五二五)……………三九〇
- 4 相 應 品(五二〇)……………三九九

一五四七 鞞婆沙論(十二卷) [cf. Nos. 1543-1546]

說阿毘曇八健度(一)……………四一六

- (一) 三 結 處(一)……………四一九
- (二) 三 不 善 根 處(二)……………四二二
- (三) 三 有 漏 處(三)……………四二四
- (四) 四 流 處(三)……………四二八
- (五) 四 受 處(三)……………四二九
- (六) 四 縛 受 處(三)……………四二九
- (七) 五 蓋 處(三)……………四三〇
- (八) 五 結 處(三)……………四三三
- (九) 五 下 結 處(三)……………四三三

戶陀槃尼撰……符秦僧伽跋澄譯……………四一六

- (〇) 五 上 結 處(三)……………四三三
- (二) 五 見 處(三)……………四三四
- (三) 六 身 愛 處(三)……………四三五
- (三) 七 使 處(三)……………四三六
- (四) 九 結 處(三)……………四三六
- (五) 九 十 八 使 處(三)……………四三八
- 解 十 門 大 章(四)……………四三九
- (六) 二 十 二 根 處(四)……………四三九
- (七) 十 八 界 處(五)……………四三七
- (八) 十 二 入 處(六)……………四五四

(一) 五陰處 (六) 四五七

(二) 五盛陰處 (六) 四五九

(三) 六界處 (六) 四六〇

(四) 色無色法處 (七) 四六一

(五) 可見不可見法處 (七) 四六二

(六) 有對無對處 (七) 四六二

(七) 有漏無漏處 (七) 四六三

(八) 有為無為法處 (七) 四六四

(九) 三世處 (七) 四六四

(十) 善不善無記處 (七) 四六六

(十一) 欲界色界無色界繫法處 (七) 四六八

(十二) 學無學非學非無學法處 (七) 四六九

五四八 舍利弗阿毘曇論 (三十卷)

〔問分〕

(一) 入品 (一) 五二五

(二) 界品 (三) 五三四

(三) 陰品 (三) 五四三

(四) 四聖諦品 (四) 五五二

(五) 根品 (五) 五六〇

(六) 七覺品 (六) 五六八

(七) 不善根品 (六) 五七〇

(八) 善根品 (六) 五七一

(九) 大品 (六) 五七二

(十) 優婆塞品 (六) 五七三

〔非問分〕

(一) 界品 (七) 五七五

(二) 業品 (七) 五七九

(三) 人品 (八) 五八四

(一) 見斷思惟斷不斷法處 (七) 四六九

(二) 四聖諦處 (八—九) 四七〇

(三) 四禪處 (二〇) 四八三

(四) 四等處 (二二) 四九一

(五) 四無色處 (三三) 五〇〇

(六) 八解脫處 (三二) 五〇三

(七) 八除入處 (三三) 五〇七

(八) 十一切入處 (三三) 五〇八

(九) 八智處 (三三) 五〇九

(十) 三三昧處 (三三) 五一二

(十一) 中陰處 (三四) 五一六

(十二) 四生處 (三四) 五二二

姚秦曇摩耶舍共曇摩崛多等譯 五二五

〔攝相應分〕

(一) 智品 (九—二) 五八九

(二) 緣品 (三) 六〇六

(三) 念處品 (三) 六一二

(四) 正勤品 (三) 六一六

(五) 神足品 (三) 六一七

(六) 禪品 (二—七) 六一九

(七) 道品 (五—七) 六二三

(八) 煩惱品 (八—一〇) 六四六

〔緒分〕

(一) 攝品 (三—三) 六六一

(二) 相應品 (三—四) 六七二

(三) 遍品 (五—六) 六七九

(四) 因品 (三) 六八七

(五) 名色品 (六) 六八九

(四) 假結品 (六一七)	六九〇	(八) 十不善業道品 (三七)	七〇〇
(五) 行品 (三七)	六九四	(九) 十善業道品 (三七)	七〇〇
(六) 觸品 (三七)	六九四	(一〇) 定品 (六一三)	七〇一
(七) 假心品 (三七)	六九七		
一五四九 尊婆須蜜菩薩所集論 (十卷)		尊婆須蜜造 符秦 僧伽跋澄等譯	七二一

(一) 聚健度 (一一三)	七二二	(八) 結使健度 (七)	七七二
(二) 心健度 (五)	七三七	(九) 行健度 (八)	七七七
(三) 三味健度 (四)	七四五	(一〇) 智健度 (八)	七八六
(四) 天健度 (四)	七五二	(一一) 見健度 (九)	七九一
(五) 四大健度 (五)	七五四	(一二) 根健度 (九)	七九三
(六) 契經健度 (五)	七五九	(一三) 一切有健度 (九)	七九五
(七) 更樂健度 (六)	七六五	(一四) 偈健度 (九一〇)	七九七

一五五〇 阿毘曇心論 (四卷) [cf. Nos. 1551, 1552]	八〇九	尊者法勝造 晉 僧迦提婆共慧遠等譯	八〇九
(一) 界品 (一)	八〇九	(六) 智品 (三)	八二〇
(二) 行品 (一)	八一〇	(七) 定品 (三)	八二三
(三) 業品 (一)	八一二	(八) 契經品 (四)	八二六
(四) 使品 (三)	八二五	(九) 雜品 (四)	八三〇
(五) 賢聖品 (三)	八二八	(一〇) 論品 (四)	八三三
一五五一 阿毘曇心論經 (六卷) [cf. Nos. 1550, 1552]		法勝論 優波扇多釋 高齊 那連提耶舍譯	八三三

(一) 界品 (一)	八三三	(六) 智品 (四)	八五二
(二) 行品 (一)	八三六	(七) 定品 (四一五)	八五五
(三) 業品 (三)	八三九	(八) 修多羅品 (五一六)	八五九
(四) 使品 (一一三)	八四三	(九) 雜品 (六)	八六五
(五) 賢聖品 (三)	八四八	(一〇) 問論品 (六)	八六八

一五五二 雜阿毘曇心論 (十一卷) [cf. Nos. 1550, 1551]		尊者法救造 宋 僧伽跋摩等譯	八六九
序品 (一)	八六九	(一) 行品 (三)	八八〇
(一) 界品 (一)	八七〇	(二) 業品 (三)	八八八

(四) 使 品 (四)	八九九	(八) 修多羅品 (八)	九三一
(五) 賢 聖 品 (五)	九〇七	(九) 雜 品 (九)	九四二
(六) 智 品 (六)	九一六	(一〇) 擇 品 (一〇)	九五〇
(七) 定 品 (七)	九二三	(一一) 論 品 (一一)	九六三

一五五三 阿毘曇甘露味論 (二卷)

(一) 布施持戒品 (上)	九六六	(九) 結使禪智品 (上)	九七二
(二) 界 道 品 (上)	九六六	(一〇) 三十七無漏人品 (上)	九七二
(三) 住食生品 (上)	九六七	(一一) 智 品 (下)	九七四
(四) 業 品 (上)	九六七	(一二) 禪 定 品 (下)	九七四
(五) 陰持入品 (上)	九六八	(一三) 雜 定 品 (下)	九七五
(六) 行 品 (上)	九七〇	(一四) 三十七品 (下)	九七五
(七) 因緣種種品 (上)	九七〇	(一五) 四 諦 品 (下)	九七七
(八) 淨 根 品 (上)	九七一	(一六) 雜 品 (下)	九七九

一五五四 入阿毘達磨論 (二卷)

一五五五 五事毘婆沙論 (二卷) [cf. No. 1556]

(一) 分別色品 (上、下)	九八九	塞建陀羅造	唐 玄 奘 譯	九八〇
(二) 分別心品 (下)	九九三	尊者法救造	唐 玄 奘 譯	九八九
(三) 分別心品 (下)	九九三	(三) 分別心所法品 (下)	九九四

一五五六 薩婆多宗五事論 (一卷) [cf. No. 1555]

一五五七 阿毘曇五法行經 (一卷)

後漢 安世高譯

法 成 譯

九九五

九九八

毘婆沙序

釋道挺作

毘婆沙者。蓋是三藏之指歸。九部之司南。
 *司南既准。則群迷革正。指歸既宜。則邪輪
 輟。親自釋迦運暉。六百餘載。時北天竺有五
 百應真。以為靈燭久潛。神炬落耀。含生昏喪。
 重。夢方始。雖前勝迦栴延撰阿毘曇。以拯頹
 運。而後進之賢。尋其宗致。儒墨就構。是非紛
 拏。故乃澄神玄觀。搜簡法相。造毘婆沙。抑
 止衆說。或即其殊辯。或標之銓評。理致淵曠。
 文。蹄豔博。西域勝達之士。莫不資之以鏡心。
 ①監之以朗識。而冥瀾潛灑。將洽殊方。然理
 不虛運。弘之由人。大沮渠河西王。天懷遐廓。
 標誠冲奇。雖跡纏紛務。而神栖玄境。冉能丘
 壑。廊館林野。是使淵叟投竿。巖逸來庭。息
 心昇堂。玄客入室。誠詣既著。理感不期。有
 沙門道泰。才敏自天。冲氣疏朗。關博奇趣。遠
 參異言。往以漢土。方等既備。幽宗粗暢。其所
 未練。唯三藏九部。故杖策冒險。爰至蔥西。
 綜攬梵文。義承高旨。并獲胡本十萬餘偈。
 既達涼境。王即欲令宣譯。然懼環中之固。將
 或未盡。所以側席虛衿。企囑明勝。天竺沙
 門浮陀摩。周流敷化。會至涼境。其人開悟
 淵博。神懷深遠。研味鑽仰。愈不可測。以乙
 丑歲四月中旬。於涼城內苑閑豫宮寺。請令

傳譯理味。沙門智嵩道朗等三百餘人。考文

評義。務在本旨。除煩即實。質而不野。王屢

迴駕。陶其幽趣。使文當理詣。片言有奇。至丁

卯歲七月都訖。合一百卷。會涼城覆沒。淪

湮遐境。所出經本。零落殆盡。今涼王信向發

中。探練幽趣。故每至新異。悌仰奇聞。更寫已

出本六十卷。送至宋臺宣布未聞。庶令日新

之美。敞於當時。福祚之興。垂於來葉。擬以微

緣。豫參聽末。欣遇之誠。竊不自默。粗列時

事。以貽來哲

如來滅後法勝比丘造阿毘曇心四卷。又迦

旃延子造阿毘曇。有八健度凡四十四品。後

五百應真造毘婆沙重釋八健度。當且翻時

大卷一百。太武破沮渠已後。零落收拾得六

十卷。後人分之作一百一十卷。唯釋三健度

在。五健度失盡

阿毘曇毘婆沙論卷第一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北凉天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

云何世第一法。何故名世第一法。如是章及
 解章義。是中應廣說。優波提舍問曰。誰造此
 經。答曰。佛世尊。所以然者。諸法性相甚深微
 妙。唯一切智乃能究盡。問曰。誰問誰答。答
 曰。或有說者。尊者舍利弗問佛答。復有說者。
 五百阿羅漢問佛答。復有說者。諸天問佛答。

復有說者。化人問佛答。所以者何。諸法性相

應當廣說。然無問者。爾時世尊。作化比丘。

剃除鬚髮。著僧伽梨。形容端政。彼問佛答。如

問衆義。經因緣。問曰。若然者。何故復言迦旃

延子造耶。答曰。彼尊者常好受持讀誦。爲他

解說。廣令流布。名稱歸彼。故言其造。復有說

者。即彼尊者迦旃延子造作此經。問曰。向言

諸法性相甚深微妙。唯一切智乃能究竟。尊

者迦旃延子云何能造。答曰。彼尊者迦旃延

子。亦有猛利甚深智慧。善知總相別相。又知

文義及前後際。通達三藏。三明六通。具八解

脫。離三界。欲獲得願智。於五百佛所修行立

願。願使我於未來世釋迦牟尼佛遺法之中。

造阿毘曇經。問曰。若然者。佛阿毘曇何者是

耶。答曰。世尊於處處方邑。爲化衆生作種種

說。彼尊者迦旃延子。於種種說中。立意門

造偈頌。制品名作健度。若說種種不相似義

立難健度。若說使相立使健度。若說智相立

智健度。若說業相立業健度。若說四大相立

四大健度。若說根相立根健度。若說定相立

定健度。若說見相立見健度。如法句經。世尊

於處處方邑。爲衆生故種種演說。尊者達摩

多羅。於佛滅後種種說中。無常義者立無常

品。乃至梵志義者立梵志品。此迦旃延子亦

復如是。又諸佛出世盡說三藏。所謂修多羅

毘尼阿毘曇

問曰。修多羅毘尼阿毘曇有何差別。答曰。或

有說者無有差別。所以者何。從一智海佛河

出故。因大慈心說故。復有說者亦有差別。云

①(阿毘曇)十毘 ②沙十(論) ③作二撰 ④司二何 ⑤輪二論 ⑥夢二錄 ⑦墨一默 ⑧擊一如 ⑨蹄二界 ⑩監二聖 ⑪箱一廟 ⑫者二容 ⑬唯二惟 ⑭攬二寶 ⑮胡二梵 ⑯囑一囑 ⑰陀十(跋) ⑱俞一俞 ⑲評二詳 ⑳城二城 ㉑例二列 ㉒[如來...盡]九十一字一 ㉓翻二譯 ㉔[釋]一 ㉕大盡二盡失 ㉖盡十(阿毘曇毘婆沙論序) ㉗[迦旃延子造]一 ㉘[五百羅漢釋]一 ㉙[天竺]一 ㉚[等]一 ㉛唯二惟 ㉜下同 ㉝作化二化作 ㉞竟二盡 ㉟門二門 ㊱健度二健度 ㊲下同 ㊳健二健

何差別。名即差別。所謂此修多羅此毘尼此阿毘曇。復次為分別心名修多羅。為分別戒名為毘尼。為分別慧名阿毘曇。問曰。若然者。修多羅中亦分別戒亦分別慧。毘尼中亦分別心。亦分別慧。阿毘曇中亦分別心。亦分別戒。如是三藏。有何差別。答曰。從多分故。修多羅中多說心法。毘尼中多說戒法。阿毘曇中多說慧法。復次修多羅中。若分別心名修多羅。若分別戒名毘尼。若分別慧名阿毘曇。阿毘曇中。若分別戒名毘尼。若分別心名修多羅。若分別慧名阿毘曇。毘尼中。若分別慧名阿毘曇。若分別戒名毘尼。若分別心名修多羅。如是三藏。是名差別。復次修多羅中應次第求。以何等故。世尊說此。次復說此。如說信佛次應信。毘尼中。應因緣求。如說此戒緣何事制。阿毘曇中。應以相求。不以次第。復次修多羅依力故說。毘尼依大慈故說。阿毘曇依無畏故說。復次種種雜說名修多羅。廣說戒律名曰毘尼。說總相別相名阿毘曇。復次未種善根令種善根名修多羅。已種善根欲令成熟名曰毘尼。善根已熟得正解脫名阿毘曇。復次為初入法名修多羅。已入法中為受持戒名曰毘尼。已受戒者為令正解脫名阿毘曇。修多羅毘尼阿毘曇。是名差別。問曰。彼尊者以何因緣造作此經。答曰。為饒益他故。若有受持讀誦通利說正憶念。無量煩惱及諸惡行不現在前。以此勤修能入法相。譬如有人。欲饒益他於黑闇中。然大燈明。為有目者見種種色。彼尊者亦復如是。為饒

益他造作此經。佛亦如是為饒益他說十二部經。一修多羅。二祇夜。三婆伽羅那。四伽帝。目多伽。九闍陀伽十毘佛略十一阿浮陀達。摩。十二優婆提舍。所以者何。若有眾生。雖有內因無外緣者。終不能修勝進之行。若遇外緣則能修行。譬如鉢頭摩分陀利拘物頭優鉢羅華在池水中。日光不照不開不敷不香。日光若照則開敷出香。如闇室中有種種物。若無燈照終不可見。有燈則見。眾生亦然。雖有內因若無外緣。終不能修勝進之行。若遇外緣。則能修習勝進之行。以是緣故。佛說偈言

譬如闇室中	雖有種種物
若無燈照明	有目不能見
若人雖有智	不從他聞法
是人終不能	分別善惡義
譬如有人目	因燈見衆色
有智依多聞	能別善惡義
多聞能知法	多聞能遠惡
多聞離無義	多聞得涅槃

佛經亦說。有二因緣發於正見。一從他聞法。二內正思惟。又說。人有四法甚為希有。一親近善知識。二從他聞法。三內正思惟。四如法修行。又說。若我弟子。一心聽法能斷五蓋。具足修行七覺分法。如佛世尊為饒益他故。說十二部經。彼尊者亦復如是。復次為破無明闇故。如燈破闇作明。阿毘曇者亦復如是。破無明闇與智慧明。復次欲令無我像得分明

故。譬如明鏡照諸色像。若人能以阿毘曇慧善分別總相別相。無我人像自然顯現。復次為度生死河故。譬如百千那由他眾生。依堅牢船而無所畏。能從此岸到於彼岸。如是百千那由他諸佛世尊。及諸眷屬亦復如是。依阿毘曇船而無所畏。能從此岸到於彼岸。復次為諸修多羅經作燈明故。如人執炬於諸闇中終無所畏。如是行者執阿毘曇炬。於諸修多羅義中而無所畏。復次為觀察善不善無記法故。如善識寶人善別金剛等寶。如是知者。以阿毘曇慧。分別善不善無記法。復次為現阿毘曇人須彌山不傾動故。如須彌山王安住金輪地上。四方猛風不能傾動。如是智者。以阿毘曇慧須彌山。安置於戒金輪地上。四倒邪風不能傾動。復次以三因緣故。尊者迦旃延子造作此經。一為增益智故。二為開覺意故。三為斷我人故。增益智者。於內外法中一切經論。莫若阿毘曇。開覺意者。眾生常眠無有覺時。不知何者是一切遍使何者不遍使。何者自界緣遍使。何者他界緣遍使。何者有漏緣。何者無漏緣。何者有為緣。何者無為緣。云何為攝。云何相應。云何因。云何緣。誰成就。誰不成就。能了知如是等遠近法者。是阿毘曇力。斷我人者。彼尊者造阿毘曇經。未曾說有我人。於一切處常說無我無人。以如是等衆因緣故。彼尊者造阿毘曇經。問曰。阿毘曇體為何者是耶。答曰。無漏慧根。自體攝一界一入一陰。一界者法界。一入者法入。一陰者行陰。若取相應共。有攝三界二

◎他二陀◎ ◎目二日◎ ◎摩二廣◎ ◎婆二波◎ ◎知二智◎ ◎有一◎

入五陰。三界者。意界。識界。法界。二入者。意入法入。五陰者。色受想行識。又修多羅說。此帝釋長夜其心質直無有諂曲。諸有所問。爲了知故不爲燒亂。我當以甚深阿毘曇。忒汝所問。此中何者是甚深義。所謂無漏慧根。又

如經說。有梵志姓。其性質直無有諂曲。諸有所問。爲了知故不爲燒亂。我當以甚深阿毘曇。忒汝所問。此中何者是甚深義。所謂無漏慧根。復有梵摩瑜婆羅。門須跋梵志。亦如上說。如佛告先尼梵志。我法甚深。難解難了。難知難見。非思量分別之所能及。唯有微妙決定智者。乃能知之。非汝淺智之所能及。所以者何。空即無我。而汝計我。汝常長夜有異見異欲異心。以是之故。非汝淺智之所及也。此中何者是甚深義。所謂空三昧也。如說

愚人無眼。而與上座智慧比丘論甚深義。此中何者是甚深義。所謂退法是也。如佛告阿難。此十二因緣法甚深。難解難了。難知難見。非思量分別之所能及。唯有微妙決定智者。乃能知之。非汝淺智之所能及。此中何者是甚深義。所謂因緣是也。如說此處甚深。所謂緣起。此法離欲寂滅涅槃。此中何者是甚深義。所謂因緣寂靜滅性也。如說諸法甚深故難見。難見故甚深。此中何者是甚深。一切諸法體性甚深是也。問曰。阿毘曇體。何者是耶。答曰。無漏慧根。以無漏慧根力故。令生處得慧。能受持十二部經。讀誦通利。亦名阿毘曇也。又以無漏慧根力故。能令聞慧知總相別相。又令聞慧建立總相別相。又令聞慧斷自

性愚及緣中愚。於法不謬。又以無漏慧根力故。能令思慧。不淨安般念處等。亦名阿毘曇。又以無漏慧根力故。能令修慧。煖頂忍世第一法。亦名阿毘曇。又以如是等慧。令無漏慧根。轉得明淨。名阿毘曇。

問曰。若無漏慧根。是阿毘曇體者。何故此經復名阿毘曇。答曰。阿毘曇具故。亦名阿毘曇。如處處經中說。因種種具立種種名。以漏具故說漏。如說七漏是煩惱。是熾然。是苦惱。實漏有三。所謂欲漏有漏無明漏。垢具故說垢。如偈說

女垢梵行 女縛衆生 苦行梵行 不因水淨 女實非垢 實垢有三 所謂貪瞋癡垢 樂具故說樂。如偈說

飲食時樂 著衣亦樂 經行山窟 斯亦復樂

飲食等非樂。實樂者是樂受。使其故說使。如說比丘爲色所使爲色所繫。色非是使。實使有七。味具說味。如說比丘眼味於色。色是魔鉤。眼非是味。實味是愛。欲具說欲。如說五欲美。好能令愛心增長染著。色等非欲。實欲是愛。退具說退。如說時解脫阿羅漢有五因緣退。一者營事勤勞。二者多誦經。三者諍訟。四者遠行。五者長病。非營事等是退。實退是不善隱沒無記法。業具說業。如說比丘有三種意不善業。生苦果報。所謂貪恚邪見。貪恚邪見。體非是業。實業有三。謂身口意報具故說報。如尊者阿泥盧頭說。我以一食施報。七生

三十三天。七生波羅奈國。食非生報。生報者是不善。善有漏法。如是等處處經中說。因種種具說種種名。此亦如是。阿毘曇具故說阿毘曇。問曰。以何義故名阿毘曇。答曰。尊者和須蜜說。能決定分別十二部經名阿毘曇。復說能覺了十二因緣名阿毘曇。復次於四聖諦。能次第得正決定名阿毘曇。復說能解說修習八聖道法。名阿毘曇。復說能證涅槃名阿毘曇。尊者婆檀陀說曰。煩惱出要。繫縛解脫。生死涅槃。如是等法。以名味句身。次第撰集。分別解說。名阿毘曇。尊者瞿沙說曰。求解脫者。諸所施行。未分別者。皆分別之。所謂是苦是苦因。是道是道果。是方便道。是無礙道。是解脫道。是勝進道。是向。果道。是得果。名阿毘曇。尊者波奢說曰。此智是究竟智。此智是第一智。此智是不謬智。名阿毘曇。阿毘曇人說曰。能種種選擇覺了。證知一切諸法。名阿毘曇。復說法性甚深。能盡其原底。名阿毘曇。復說能淨法眼。名阿毘曇。復說顯發幽隱甚深智慧。名阿毘曇。復說若人以阿毘曇慧。分別總相別相。無有人能如法說其過者。名阿毘曇。彌沙塞部說曰。如燈能照名阿毘曇。如說一切照中慧照。最上曇摩掘部說曰。此法增上名阿毘曇。如說一切諸法慧爲最上。譬喻者說曰。種種諸法涅槃爲上。此法次故名阿毘曇。聲論者說曰。阿毘言除棄亦言選擇。除棄者所謂結縛使纏煩惱。選擇者所謂陰入界緣起道品等諸法。復次阿毘言增上慢。如說名增上慢。如說上者名增上者。如說上逸

報。如尊者阿泥盧頭說。我以一食施報。七生

名增上逸。此經增上名阿毘曇。復次阿毘曇現前。一切諸善道品等法皆現在前。名阿毘曇。復次阿毘曇言恭敬。此法尊重可敬。名阿毘曇。此經名智慧基本。問曰。何故名智慧基本。答曰。諸究竟智皆出此經。故名基本。復次此經名安智足處。諸究竟智皆因此經而得成立。是故名安智足處。問曰。此經有何利益。答曰。隨順解脫。隨順無我。斷計我人。顯明無我。發人覺意。出生智慧。除愚癡。斷疑網。得決定。背熾然。向出要。得相續。樂寂靜。止生死輪。隨順空法。到涅槃岸。能斷一切外道異見。於佛法中。能生一切欣樂之心。此經有如是等利。名阿毘曇。

阿毘曇毘婆沙雜健度世第一法品第一。云何世第一法。問曰。何故此經先說世第一法。為順次說。為逆次說耶。若順次說者。應先說不淨。次說安般。次說念處。次說七處。善三種觀義。煖頂忍。然後應說世第一法。若逆次說者。應先說阿羅漢果。次說阿那含果。次說斯陀含果。次說須陀洹果。次說見道。然後應說世第一法。又問。為以初入法故說。為以達分善根故說。為以最勝功德故說。若以初入法說者。應說不淨若說安般。若以達分善根說者。應先說煖法。以煖法最在初故。如尊者瞿沙論中先說煖法。若以最勝功德說者。應先說阿羅漢果。有如是等事。如佛在世。尊者大迦旃延有正觀智慧。成就無量功德。無礙精進。入阿毘曇海。心無增減。覺意無邊。言論難勝。一切義論無能當者。第二迦旃延

子亦有如是智慧功德。何故造作此經。先說世第一法。答曰。諸論師說世第一法種種不同。或有說者不以順次故說。亦不以逆次故說。但彼作經者意爾。隨彼意造作此經。不違法相。是故先說世第一法。或有說者。阿毘曇應以相求。不求次第。修多羅經應求次第。毘尼應求因緣。阿毘曇經若求次第於文煩亂。是故不應求其次第。或有說者。世尊經說。若人不能正觀諸行性相。能起世第一法者。無有是處。若能正觀諸行性相。能起世第一法者。斯有是處。如世尊經中先說世第一法。彼作經者。因經造論。故亦應先說世第一法。問曰。置作經者。世尊何故先說世第一法。答曰。世尊為化眾生次第說法。諸受化者已得下忍中忍。未得上忍及世第一法。欲令得故。世尊說正觀思惟諸行性相。當知即是上忍。次得此世第一法。是故先說。或有說者。為止諸誹謗故。世第一法多諸誹謗。所謂名受誹謗。體受誹謗。界受誹謗。現前受誹謗。退受誹謗。名受誹謗者。或言是性地法非世第一法。體受誹謗者。或言是五根性。界受誹謗者。或言是欲界繫。或是色。無色界繫。或是三界繫。或是不繫。現前受誹謗。或是多心相續。非是一心。退受誹謗者。或言世第一法退。為止如是等諸誹謗故。先說世第一法。復次一切生死非牢固法。如糞掃污泥。此中誰最勝。誰牢固。誰如醍醐。所謂世第一法。是故先說。復次以隨順無我故。此經常說無我。非如外典說我說欲法說有法說財。此經唯說無我

解脫涅槃。此世第一法。亦觀無我。隨順此經故。是以先說。復次此經於一切論中最勝。世第一法於一切世俗善法中最勝。以此經勝故。應先說勝法。復次若住世第一法時。名真佛出世。能得自在受用聖法。佛出世間。眾生入法。凡有二種。一假名。二真實。假名者。剃除鬚髮而被法服。正信出家。真實者。起世第一法。次第能入苦法忍。是假名沙門有二過患。一者破戒。二者捨戒。入正法者無如是過。真實沙門。受用聖法能得自在。隨其性分終無退失。復次住世第一法時。無始生死已來。聖道門閉。今始能開。未曾能捨凡夫之性。今始能捨。未曾能得無漏聖道。今始能得。是故先說世第一法。復次住世第一法時。捨名得名。捨數得數。捨界得界。捨性得性。捨名得名者。捨凡夫名得聖人名。數界性亦如是。復次住世第一法時。得心不得心。因得明不得明。因得受不得受。因。復次住彼法時。捨舊緣得新緣。捨共得不共。捨世間得出世間。復次為斷疑故。眾生謂凡夫性。無始亦謂無終。今說世第一法。即示其終。復次住彼法時。凡夫退息。凡夫變異。凡夫剛強。悉不復起。煖頂忍法。或有起。復次住彼法時。無有不得聖法而命終者。煖頂忍不爾。住彼法時。無有不得聖道而命終者。不得正決定。而得正決定。不得果得果。出。不定聚入正定聚。無聖道有聖道。無不壞淨。淨有不壞淨。亦如是。復次住此善根。無有止滯。煖頂忍法。而有止滯。復次住彼法時。凡夫人所修念處。究竟滿足。餘則不爾。復次住彼

①「阿毘曇毘婆沙」一②* ③一十(之一)④ ⑤次二若⑥ ⑦稱二勝⑧ ⑨色十(界)⑩ ⑪「無」一⑫ ⑬誘十(者)⑭

法時。漏無漏心。有斷有續。斷者有漏心。續者無漏心。餘則不爾。復次如須彌山王安金輪上。四方猛風不能傾動。住此法時。四倒邪風不能傾動。復次住彼法時。示始終故。猶如明相。是夜未晝初。彼亦如是。世俗之末。聖道之初。如示始終。度已度入。出方便究竟。亦如是。復次欲示相似法。有異相故。世第一法。苦諦所攝。能生滅苦道。以苦攝。世俗攝。生死攝。諸有攝。身見所攝。攝法。生滅苦道。餘則不爾。復次世第一法。體。是世俗緣。能生出世緣。是故先說。如是有垢無垢。有過無過。有毒無毒。有濁無濁。有身見聚無身見聚。有顛倒聚無顛倒聚。有愛聚無愛聚。有使聚無使聚。亦如是。復次以世第一法。有勢有力。能有所作。猶如健夫。住此法中。得正決定。故。復次以三事故。一。以經義故。二。止誹謗故。三。即此剎那得果故。經義止。謗如上說。即此剎那得果者。世第一法。次第能生苦法忍。名功用果。以是。次第諸因緣故。先說世第一法。復次欲逆次說凡夫所得法故。如說世第一法。乃至婁法。是名凡夫所得出要法。如說二十身見等。是名凡夫煩惱法。此二種法。誰能知者。唯無我智。是故第二品中。作如是說。頗有一智。知一切法。乃至廣說。此無我智。何由而生。由覺緣起。是故第三品中。作如是說。一人此生十二種緣。乃至廣說。所以能覺緣起。由於愛敬。是故第四品中。作如是說。云何為愛。云何為敬。乃至廣說。此愛敬何因而起。由有慚愧。是故第五品中。作如是說。云何慚。云何愧。乃至

廣說。誰能慚愧。由解法相。是故第六品中。作如是說。色中生住老無常。當言色也。非色也。乃至廣說。何由能解法相。由斷無義修習有義。是故第七品中。作如是說。諸他修苦行。當知無義俱。乃至廣說。何由斷無義修有義。由正思憶。是故第八品中。作如是說。云何為思。云何為憶。乃至廣說。以是衆因緣事。欲逆次說凡夫所得法。是故先說世第一法。云何世第一法。答曰。於諸心心數法。次第得正決定。是名世第一法。問曰。已能得正決定。當能得正決定。復是世第一法。不。答曰。亦是。若說現在當知。則說過去未來。問曰。世第一法。得正決定。為住時得為滅已得。若住時得者。亦是凡夫亦是聖人。若滅已得者。何故不言已得正決定而言今得。答曰。應說已得。所以經文不說已得。自有已得說。言今得。如說大王從何處來。此名已來而說今來。已覺諸受。已斷漏。已得解脫。亦如是。或有說者。應作是說。無間得正決定。是名世第一法。評曰。無間得正決定。次第得正決定。有何差別。復有說者。苦法忍雖未生。此第一法決定為次第緣。是故言今得正決定。或有說者。於諸五根。次第得正決定。是名世第一法。問曰。誰作此說。答曰。舊阿毘曇人說。問曰。彼何故說五根。是世第一法。答曰。彼不必欲令五根是世第一法。為斷異論故。異論者毘婆闍婆提說。信等五根一向無漏故。一切凡夫悉不成就。問曰。彼以何故作如是說。答曰。彼依佛經。佛經說言。五根猛利通達滿足。向阿羅漢若

無五根墮凡夫數。彼以經作如是說。故。言信等五根悉是無漏。為斷彼人如是論故。說信等五根是世第一法。若信等五根是無漏者。無。始已來未曾能起一念無漏。而得世第一法。是故當知五根非純無漏。復次若五根是無漏者。違佛正經。如說若我於信等五根。不能如實觀是集是滅是味是患。是捨者。則不能得阿耨多羅三藐三菩提。乃至廣說。不應以如是相觀無漏法。毘婆闍婆提曰。應以如是相觀無漏法。云何應觀如經說。不能如實觀信等五根者。是別相觀信等五根。何由而得。由親近善知識積集而得。是名觀集。云何觀滅。未知欲知根滅。已知根生。是名觀滅。云何無漏法亦為愛所繫耶。答曰。不也。如汝法中。有無漏緣使緣而不縛。我亦如是。云何觀思。諸無漏法。是無愛故。是名觀思。云何觀捨。一切有為涅槃時捨。是名觀捨。為斷如是種種諸論故作是說。於諸五根次第得正決定。是名世第一法。復次若當五根一向無漏。復違佛經。如說我以佛眼。觀衆生根有上中下。毘婆闍婆提說曰。佛經說上根者阿羅漢。中根者阿那含。下根者斯陀含。須陀洹。有多婆提說曰。若爾者。世尊不轉法輪名轉法輪。一切聖人已滿世間。佛亦不須復轉法輪。毘婆闍婆提說曰。世尊所以說諸衆生上中下根者。說根所依處。不說根體。有多婆提說曰。若然者。復違此經。如說開提輪那婆羅門。往至佛所。白佛言。沙門瞿曇。說有幾根。佛答言。有二

①以二如②法二能③(詳)十謗④次第二⑤(得)一⑥始已二已⑦始以⑧愛十(所)⑨

十二根。此亦說根所依處。然俱同說是根。一
 是根所依。一是根體無有是處。是故信等五
 根。應有漏無漏。問曰。毘婆闍婆提所引佛經。
 當云何通。答曰。信等五根有二種。有漏無漏。
 彼經唯說無漏。所以者何。因諸根故說。聖
 人差別。復次五根有漏無漏。彼經唯說無漏。
 所以者何。以聖為對治法故。聖人差別。問曰。
 上言若無五根。墮凡夫數。此云何通。答曰。彼
 言墮凡夫數者。謂斷善根凡夫。或有說者。墮
 子部說。五根是世第一法。何以故。五根是善
 性。以五根善故。餘數法亦善。亦以根故。聖人
 差別。如說五根。猛利通達滿足。得阿羅漢。廣
 說如上。問曰。以何事故。尊者迦旃延子。引墮
 子部所立義耶。答曰。彼墮子部所說。而與此
 經少有相違。所謂五根是世第一法。凡夫性
 一向染污。彼以欲界苦諦所斷十使。是凡夫
 性。涅槃有三種。學無學非學非無學。阿羅漢
 是第六道。說有我人。為如是等。若五若六。與
 此經相違。莫謂彼部所說。盡與此經同。彼作
 經者。為斷如是意故。次作是說。如我義。於諸
 心心數法。次第得正決定。是名世第一法。問
 曰。如汝所說。五根性善。餘心心數法。性非是
 善者。應是不善無記。若以五根性善不善無
 記。親近五根。亦名善者。今五根亦親近不善
 無記。應是不善無記。此則不然。何以故。根與
 心心數法。同一所依。同一行。同一所緣。同
 一果。同一依。同一報。共成一事。而云其性善
 是親近善者。是妄想耳。或有說者。誦持修
 多羅者。說言。五根是世第一法。尊者達摩

多羅說曰。世第一法。體性是思名差別耳。尊
 者佛陀提婆說曰。世第一法。體性是心。名差
 別耳。所以者何。信心異。乃至慧。心異。若有衆
 生。能於一時。以五種心。次第得正決定。無有
 是處。若一。一次。次第得正決定。斯有是處。問曰。
 若然者。以不相應法。得正決定耶。答曰。不也。
 所以者何。汝法。心不與心相應。有為所緣。有
 為所緣故。能次第得正決定。我信亦爾。不與
 信相應。能有所緣。有所緣故。次第得正決定。
 乃至慧亦如是。問曰。若然者。則有大過。所以
 者何。若但信心得正決定。不以精進念定慧
 等得正決定者。懈怠失念。亂意惡慧。亦應次
 第得正決定。乃至慧亦如是。為斷彼人如是
 意故。故作是說。如我義。於諸心心數法。次第
 得正決定。是世第一法。如我義者。謂不顛倒
 如法性順。經文同我。等意。而作是說。諸心心
 數法。次第得正決定。是名世第一法。彼迦旃
 延子。欲顯正義。故言世第一法。亦是根亦非
 根。問曰。如世第一法。現在前未來世中心心
 數法。亦修彼為是。第一法不耶。答曰。或有說
 者。依如經本。非世第一法。何以故。經本說諸
 心心數法。次第得正決定。是世第一法。彼未
 來者。不能作次第。是故非世第一法。復次若
 當是者。復違經本。如說世第一法。當言一心
 非衆多心。評曰。應作是說。彼未來者。亦是世
 第一法。問曰。彼未來者。不能作次第緣。云何
 是世第一法耶。答曰。彼未來者。雖不能作次
 第。而能隨順作次第法。譬如比丘布薩時。不
 在僧中。而與僧欲。名得布薩。僧事亦成。如

是彼在未來世中。為現在得如與欲者。若未
 來世中。無現在得不與欲者。今現在者。亦不
 能作次第。若作次第。當知皆是未來者力。何
 以故。彼未來者。不與聖道作障礙故。復次若
 彼未來非世第一法者。與智體度經文相違。
 所以者何。如未曾得道。今現在前。彼未來世
 中。相似種修。若彼未來不作世第一法者。云
 何名彼種相似修。以是事故。彼未來者。亦是
 世第一法。問曰。若未來是世第一法者。經文
 何故不說耶。答曰。若能與次第緣者。經文則
 說。彼不能與次第緣。是故不說。復次若流轉
 三世者。則說。未來不爾。或有說者。從因而生。
 成就此法。住在身中。是故說之。彼未來者。雖
 從因生成。就此法。不住身中。是故不說。問曰。
 若然者。云何非是衆多心耶。答曰。此中唯說
 現在剎那能成事者。故非衆多心。或有說者。
 若能令未來世中修者。則說。未來不爾。或有
 說者。若心彼因彼心。此果。是以故說。未來不
 爾。或有說者。能與因能取果。住身中。能有所
 緣。是以故說。未來不爾。或有說者。有一修義。
 是以故說。彼未來者。唯有得修。無有行修。是
 以故說。問曰。彼世第一法。俱生色心。不相應
 行。為是世第一法不耶。答曰。或有說者。如經
 本說。彼非世第一法。所以者何。彼不能與次
 第緣故。評曰。應作是說。彼亦是世第一法。問
 曰。彼不能與次第緣。云何名世第一法耶。答
 曰。彼雖不能與次第緣。而能隨順次第緣義。
 所以者何。彼與世第一法。俱生住滅。同一果
 一依一報。是以故說。問曰。彼若是世第一法

●耳一取●●● ●五二三● ●摩一唐● ●名得一得名●

者。經本何故不說耶。答曰。彼不能與次第緣故。是以不說。或有說者。若從因生成成就此法。能有所緣是以說之。彼雖從因生成成就此法。不能有所緣是故不說。或有說者。若是相應。有依有勢。有行有緣。是以故說。彼非相應。無依無勢。無行無緣。是故不說。問曰。彼世第一法。得為是世第一法不耶。答曰。彼非世第一法。問曰。以何等故。生住無常。是世第一法。而得非耶。答曰。生等一事。世第一法。同一果。共行不相離。常相隨。無前後。得則不爾。不同一果。不共行相離。不相隨。有前後。或離所得法。如樹皮離樹。以是義故。非世第一法。問曰。以何義故。沙門果得即沙門果。而此第一法。得非世第一法耶。答曰。以成就得故。名沙門果。是以得即沙門果。能與次第緣。亦能隨順次第緣義。名世第一法。得則不爾。是故非世第一法。如是餘達分善根。得非達分善根。何以故。若得即是達分善根者。已得聖果。應重起達分善根。現在前。以成就得故。而實不爾。是故得非達分善根。或有說者。若共起世第一法。俱生者。名世第一法。後生者。非。餘達分善根亦如是。或有說者。得即是世第一法。其餘達分善根。即是達分善根。問曰。若然者。已得聖果。應重起達分善根。現在前。答曰。或現前。或不現在前。何者。現前所謂得也。何者。不現在前。所謂諸相應法也。評曰。不應作如是說。如先所說者好。

問曰。世第一法為幾念處。答曰。現在一壞緣法念處。未來四。問曰。世第一法為幾緣。答曰。為四緣。因緣者。相應共有因。次第緣者。與苦法忍。作次第緣。境界緣者。忍智所緣。威勢緣者。除其自體。餘一切法是彼緣生法。於世第一法。亦有四緣。因緣者。相應共有法。次第緣者。苦忍是。境界緣者。欲界五陰是。威勢緣者。除其自體。餘一切法是復有義說者。云何。名出世第一法。答曰。苦法忍是。所以者何。是聖道種子故。復有說者。金剛喻定是。所以者何。能盡諸結。得究竟果故。復有說者。盡智是。所以者何。以初得盡智。餘無漏法時。淨修故。復有說者。正三昧是。所以者何。得一切有為法中。正定最勝故。復有說者。涅槃是。所以者何。一切法中。最妙勝故。復有說者。阿羅漢最後心。是所以者何。凡夫人最後心。名世第一法。阿羅漢最後心。名出世第一法。評曰。不應作是說。彼阿羅漢最後心。非出世法故。如先說者好。問曰。頗有世第一法。不與苦法忍。作次第緣耶。答曰。有。世間第一法。色心不相應法。則是。問曰。頗有相應法。不與苦法忍。作次第緣耶。答曰。有。未來修者是也。尊者。佛陀提婆說曰。若以信心。得正決定。是名世第一法。與苦法忍。作次第緣。餘精進。念定。慧心。是名世第一法。而不與苦法忍。作次第緣。說相似法。沙門說曰。受與受。作次第。不與想等。餘數法亦如是。心法生時。遇緣便生。若愛前緣。生樂受。欲有所想。生欲。有所作。生思。問曰。若然者。無相似次第義。答曰。有。但非一次第耳。如汝法中。無想。生時。心滅。死時。心生。想去。雖遠。得作次第。我法亦爾。如受滅。

想等生。復還生受。相去雖遠。得作次第。評曰。不應作是說。心與心。作次第。受與受。作次第。心心數法。一一次第生。作次第緣。若作是說。與經文相違。如說云。何心。次第法。答曰。心心數法。是也。若然者。復更有過。如依有覺。有觀。三昧。入無覺。無觀。三昧。有覺。有觀。三昧。不應與無覺。無觀。三昧。作次第緣。不相似故。無覺。無觀。三昧。則不從次第緣生。若依無覺。無觀。三昧。入有覺。有觀。三昧。亦如是。若然者。無解脫。何以故。欲相應。心。唯次第生。欲相應。心。不淨觀等。及諸善心。無由得生。若善心不生。則無解脫。有如是等過。如先說者好。問曰。前雖說世第一法。體性。未說所以。名世第一法。今欲說故。猶如有人。世稱言勝。未知為以族姓。財力。眷屬。言為勝耶。彼亦如是。今欲說其所以。名世第一。名第一者。此心心法。於餘法。為最勝。為長。為尊。為上。為妙。以如是等義。故名第一。問曰。言第一者。於世法中。為都勝。為分勝耶。若都勝者。彼則不勝。見諦邊等。智。何以故。彼等。智。見道。眷屬。不相離。慧力。勝故。一切。見道。慧力。偏多。復次。彼亦不勝。淨修。勤禪。何以故。修。勤禪者。不與。凡。夫。同生。一處。復次。彼亦不勝。得。盡。智。時。一切。善。根。何以故。得。盡。智。時。所。修。善。根。永。離。一切。諸。垢。障。故。復次。彼亦不勝。空空。三昧。無。願。無。願。三昧。無。相。無。相。三昧。何以故。空空。三昧。等。乃至。惡。賤。無。漏。何。況。有。漏。若。分。勝。者。彼。煖。頂。忍。法。亦。應。言。第一。答曰。或有說者。應言。分勝。何以

◎卷第一終◎◎卷第二雜說世第一法品之二首◎◎卷第二雜說世第一法品第一之二首◎造釋釋譯說同異如首卷
◎沙二妙◎◎想二相◎◎等第二第一◎◎見二身◎◎動一熏◎下同

故。唯勝頓頂忍法等故。復有說言。第一者。彼則勝一切凡夫所得禪無量解脫。除入一切入乃至第一。有中思故。或有說者。彼則都勝。言都勝者。非謂一切事業中勝。但以能開聖道門故。勝彼見道邊等智。雖是見道眷屬。不相離慧力勝。而不能開聖道門。如等智淨修動禪盡智。俱生善根。空空三昧等。不能開聖道門亦復如是。或有說者。一切都勝。以能開聖道門故。見道邊等智。雖是聖道眷屬。乃至慧性偏多。若當世第一法。不開聖道門者。彼則不修。若得修者。皆是彼世第一法功用之力。餘淨修動禪盡智俱生善根空空三昧等。亦復如是。問曰。第一有何義。答曰。最勝義是第一義。得妙果義是第一義。能入勝分破有頂義是第一義。最後心義是第一義。如高幢頂更無有上。問曰。上言最勝等有何差別。答曰。或有說者。無有差別。所以者何。此言皆是歎說上妙之義。或有說者。以善根故。而有差別。於不淨安般名為最。於聞慧名為勝。於思慧名為長。於煖法名為尊。於頂法名為上。於忍法名為妙。或有說者。以地故而有差別。若依未至名為最。若依初禪名為勝。若依中間名為長。若依二禪名為尊。若依三禪名為上。若依四禪名為妙。或有說者。邊頂義名為最。上義名為勝。增善義名為長。昇進義名為尊。堅牢義名為上。滿足義名為妙。復有說者。能與苦法忍作次第故名最。勝諸凡夫善根故名勝。速勝進故名長。勝世俗善根故名尊。無二故名為上。與無漏相應

故名為妙。復有說者。以最故名勝。以勝故名長。以長故名尊。以尊故名上。以上故名妙。復有說者。是凡夫最後心故名最。猶如樹端。能開聖道門故名為勝。根猛利故名為長。於達分善根中勝故名為尊。折伏煩惱名為上。得好果故名為妙。復次此心法捨凡夫性者。問曰。捨凡夫性為世第一法。為苦法忍耶。若世第一法捨凡夫性者。云何於一刹那。以凡夫法捨凡夫性。若以苦法忍捨凡夫性者。為以生時捨為以滅時捨。若以生時捨者。云何未起法。能有所作。若以滅時捨者。彼已滅已復何所捨。答曰。或有說者。即彼世第一法時捨。問曰。若然者云何於一刹那。以凡夫法捨凡夫性。答曰。凡夫性。世第一法相妨礙。是故住世第一法時捨。猶如象師乘象策象。馬師船師勝怨之人亦復如是。復有說者。苦法忍生時捨。凡夫性滅時。斷見苦所斷十使。如燈生時破闇。已生燻炷盡油。問曰。若爾者云何未起法。能有所作。又一法不應能作二事。答曰。若然者有何過。一切內法有二種。於未來中。能有所作相應者苦法忍是也。不相應者生相是也。一切外法。於未來世。能有所作。唯燈是也。或有說者。世第一法。苦法忍。共捨凡夫性。世第一法如無礙道。苦法忍如解脫道。世第一法與凡夫性。成就得俱滅。苦法忍與不成就俱生。世第一法。依苦法忍。苦法忍助其勢力。能捨凡夫性。譬如羸人依因健者能伏怨家。彼亦如是。得聖法者苦法忍是也。捨邪性者世第一法是也。問曰。邪性

有三種。一趣邪性。二業邪性。三見邪性。趣邪性者。三惡趣是也。業邪性者。五無間業是也。見邪性者。五見是也。於此三種邪性為捨何等。若捨趣業邪性者。爾時則不成就。若捨見邪性者。道比智現在前。爾時乃捨。答曰。三種俱捨。問曰。云何俱捨。答曰。不趣不作不行名為捨。不趣者捨趣邪性。不作者捨業邪性。不行者捨見邪性。問曰。若然者住。上忍時已捨。何故乃言住世第一法捨耶。答曰。破其所依故。諸煩惱以凡夫性為所依。能起生死過患。猶如師子依於窟穴能害諸。彼亦如是。是故說住世第一法時捨。或有說者。苦法忍是邪性對治。問曰。趣邪性業邪性是修道所斷。何以乃言苦法忍是其對治耶。答曰。對治有衆多。有捨對治有斷對治。有持對治。有不作對治。有不趣對治。苦法忍是凡夫性捨對治。斷見苦十使是斷對治。諸無漏道是持對治。不作無間業及餘不善業是不作對治。不趣惡道是不趣對治。如是等名捨邪性。得正性者苦法忍是也。得正決定者見道是也。問曰。一切聖道是正決定。何故獨稱見道是也。答曰。或有說者。諸煩惱令衆生善根不熟。愛潤增長染著不離。彼見諦道能令衆生善根成熟。乾竭愛水離諸染著。不作覆障。不為所壞。不雜餘心。是故見道名正決定。或有說者。衆生根熟入於聖道。是故見道名正決定。復有說者。拔煩惱根入於聖道。是故見道名正決定。復有說者。捨五人種入八人性。是故見道名正決定。或有說者。扶。持長養名正決

◎持二件◎ ◎持一時◎ ◎持二獸◎ ◎上二止◎ ◎共一◎ ◎好一妙◎ ◎道二建◎

定。猶如牛馬因於水草長養性命。一切聖人。因於見道長養慧命。是故見道名正決定。或有說者。此法解縛永永不繫。是故見道名正決定。或有說者。正必定義是決定義。自有決定而非正。所謂邪定。是故必定名正決定。或有說者。相應如法義是決定義。見道相應如法故名正決定。問曰。諸正是正性耶。答曰。諸正性彼正也。頗正非正性耶。答曰。有。世第一法是也。問曰。以何等故。世第一法是正而非正性耶。答曰。或有說者。衆生無始已來。煩惱惡行。邪見顛倒。惱亂此心。住世第一法而能制伏。是故名正體。是有漏爲使所使不名正性。復有說者。等義是正義。猶如稱懸在中物偏則低。如是世第一法。等住凡夫性。見道中間若苦法忍。生聖道偏多。是故等義是正義也。復有說者。等義是正義。佛辟支佛阿羅漢等住上上法故。是故等義是正義也。復有說者。等現前行義是正義。一切行人皆同住一刹那故。復有說者。彼世第一法與苦法忍四事同等。所謂地根行緣地者。如苦法忍。依何地與何根相應。行何行緣何法。彼亦如是。與苦法忍四事同故。名爲正體。是有漏爲使所使。不名正性。

阿毘曇毘婆沙論卷第一

阿毘曇毘婆沙論卷第一

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

雜度世第一法品之二

世第一法。當言欲界繫耶。乃至廣說問曰。何故作此論。答曰。先已說世第一法體性。及說所以名世第一法。未說在何界繫。如人言勝。已說勝事。未知住處。今欲說故。故作此論。或有說者。爲止。並義者意故。如摩訶僧祇部說。世第一法是欲界繫。如犢子部說。是色無色界繫。何以故。若地有聖道處。亦有世第一法。如曇摩掘部說。或言三界繫。或言不繫。或言非不繫法。爲止如是等。並義意故。而作此論問曰。以何等故。世第一法不當言欲界繫。應說其所以。不可但以言故。此義便立。答曰。不以欲界道得斷諸蓋。亦不能制伏纏。亦不能令現前不行。所言斷制不行者。謂究竟斷制不行。何以故。以欲界中無道能令蓋纏究竟斷制不行故。問曰。以何等故。欲界中無道能究竟斷蓋制伏纏耶。答曰。或有說者。欲界中不善根強善根弱。是故無道能斷蓋制纏。色界善根強。無不善根。是故有道能斷蓋制纏。復有說者。欲界不善根如舊住。善根如客舊住有勢。客則無力。是故無道。色界善根如舊住。無不善。是故有道。復有說者。欲界善不善。善同一繫縛。是故無道。色界善根。欲

界不善根。不同繫縛。是以色界道。能斷欲界蓋制纏。復有說者。欲界威儀。無有忌難。猶如夫妻。色界威儀。共相敬難。猶如母子。復有說者。欲界是破慚愧法。如居士子與旃陀羅子交。色界有慚愧。如王不與旃陀羅交。復有說者。欲界愛結。愛欲界善根。以愛善根故。不能生厭離想。欲界愛不能愛色界善根。以不愛故。能生厭離想。以如是等因緣故。欲界中無道能斷蓋制纏。色界有道能斷蓋制纏。或有說者。言斷蓋者。是究竟斷。制伏諸纏不現前行者。是須臾斷。如究竟須臾斷如是。有縛無縛有影無影有片無片亦如是。復有說者。言斷蓋者害其根本。言制伏不現前行者。是制伏諸纏復有說者。言斷蓋者。拔諸煩惱制伏不現前行者。是制伏諸纏。問曰。欲界中雖無究竟斷蓋制纏道。可無須臾斷蓋制纏道耶。答曰。有。但不可信。何以故。不堅牢。不久住。不相續。不相著。不久住心中不能久伏煩惱得正決定。猶如水上浮萍以小石投之。雖散隨合。蝦蟆入中。數散數合。有如是等緣故。欲界雖有須臾斷道。而不可信。色界斷道可信。何以故。牢固久住相續相著。久住心中能制伏煩惱。得正決定。猶如大石投浮萍中散而不合。龍象入中亦散不合。有如是等緣。是故色界道。能拔諸蓋制纏害。諸煩惱制伏不行。問曰。若然者如汝所說。世第一法應。唯在末至禪。所以者何。斷欲界蓋制纏對治道。唯在末至禪。餘上地則不應有。答曰。對治有二種。一斷對治。二過患對治。若依末至禪。斷

◎ ① 不分卷及品 ◎ ② 並一併 ◎ ③ * 善十(根) ◎ ④ 纏一縛 ◎ ⑤ 唯一惟 ◎ ⑥ 下同

欲界欲。有二種對治道。餘上地雖無斷對治。有過患對治。尊者瞿沙說曰。六地中盡有斷欲界欲二種對治道。所謂斷對治。過患對治。何以故。依未至禪。斷欲界欲。其餘諸地而不斷者。先已斷故。猶如日光於一切時與闇相妨。日初出時已破夜闇。其餘日分。雖與闇相違。而不破者。先已破故。亦如六人同一怨家而共譏言。隨於何處獲便害之。猶如有人次持六燈入於闇室。初燈破闇。其餘諸燈。雖與闇相違。而不破者。先已破故。如是六地中。盡有斷欲界欲二種對治道。乃至廣說。復次云。何知六地中盡有斷欲界欲二種對治耶。若當六地中無斷欲界欲二種對治者。行者依上地。得正決定。不應分別欲界。亦不作證。然能分別作證。以是緣故。知六地中盡有斷欲界欲二種對治。若以欲界道。能斷蓋制纏。亦能除欲界結。乃至廣說。問曰。世第一法。不能斷結。何以言若當以欲界道得斷蓋制纏。乃至廣說。答曰。世第一法。雖不能斷結。而此善根妙勝第一。在深遠處。宜應與彼地離欲界道同在一處。是故以道證之。問曰。以何等故。世第一法不能斷結耶。答曰。彼善根微小。法身未長。雖爾有大威勢。以善根微小。法身未長。不能斷結。有大威勢。不為諸結之所毀壞。如師子子身小未長。不能害。狩。有大威勢。一切諸。狩不能侵害。或有說者。世第一法是一刹那故不能斷結。問曰。苦法忍亦一刹那。何以能斷結耶。答曰。彼雖一刹那。後有同性相續故。是以能斷。或有說者。彼是方

便道。不以方便道能斷煩惱。但不以欲界道得斷蓋制纏。亦不能除欲界結。乃以色界道得斷蓋制纏。乃至廣說。作義者說曰。以何等故。世第一法不欲界繫耶。或有說者。欲界卑賤。彼善根尊勝。復有說者。欲界薄淡。彼善根美妙。復有說者。欲界散亂。彼善根寂定。復有說者。欲界非修。彼善根修。復有說者。欲界非離欲法。彼善根隨順離欲法。復有說者。若世第一法是欲界繫者。有自緣過。云何名自緣過。如苦法忍緣欲界五陰。若世第一法是欲界繫者。亦應緣欲界繫五陰。若緣欲界繫五陰。彼應自緣。若不緣者。復違經文。如說如苦法忍所緣。彼世第一法亦緣。便有如是自緣之過。作義者說曰。以何等故。世第一法是色界繫。答曰。色界法能與三種道作次第緣。所謂見道修道無學道。餘界不能與三道作次第緣。若欲界能與三道作次第緣者。則有世第一法。如三道三地三根。初生法智分。次生。比智分。如是等色界種種功德。應當廣說。以何等故。世第一法。不當言無色界繫。答曰。得正決定。先見欲界苦諦苦行。後色無色界俱。問曰。苦諦有四行。何以此中說見苦時。但說苦行。不說無常空無我行耶。答曰。此文應作如是說。得正決定時。先見欲界苦諦。不應言苦行。然不爾者。彼作經者。有何等意。答曰。為現初次方便法故。如說苦行無常空無我行。亦應如苦行說。復有說者。以苦行唯在苦諦中。無常行在三諦中。空無我行在一切。法。復有說者。此苦與一切有法相違。

能棄生死。猶如小兒。雖有種種美食在前。有人語言。此食是苦。即便捨之。復有說者。一切衆生老少愚智。內道外道皆信是苦。復有說者。此苦能現易以智知。所以者何。佛說苦智。為緣何法。即緣苦法。如智所知覺所覺行所行。根根義緣所緣。應如智說。復有說者。說苦文句。久遠所傳。古昔諸佛皆說苦行。是以行者先見於苦。問曰。以何等故。先見欲界苦。後色無色界俱。答曰。或有說者。欲界苦能現。在在了易見。是以先見。色無色界苦細不現。不了了難見。是以後見。問曰。若然者。色界苦。無色界苦細。何以俱見耶。答曰。以定不定故。欲界不定。是以先見。色界苦雖與無色界俱。同定故。是以俱見。如是定不定。住離欲地。住不離欲地。住修地。住不修地。說亦如是。復有說者。欲界苦是行者身生病苦痛。是以先見。色無色界苦。非行者身不生苦痛。是以後見。復有說者。欲界苦近。是以先見。色無色界苦遠。是以後見。如近遠。現見不現見。俱不俱。此身他身亦如是。復有說者。行者成就欲界凡夫性故。是以先見。不成就色無色界凡夫性故。是以後見。復有說者。行者於欲界苦現見故。是以先見。色無色界苦不現見故。是以後見。問曰。若色無色界苦不現見者。行者云何見耶。答曰。現見有二種。一離欲現見。二自身現見。行者於欲界苦。有二種現見。一離欲現見。二自身現見。於色無色界苦。有一種現見。所謂離欲現見。猶如商人有財兩擔。一自負之。二使人擔。於自所負有二種現見。一

◎若二苦◎ * ◎比二此◎ ◎法十(中)◎ ◎在二前◎

乃至廣說。云何有覺有觀。答曰。若依有覺有觀三昧。得世第一法。如未至禪初禪是也。問曰。上言依者有何義耶。答曰。或有說者。共俱生義。是依義。彼世第一法生時。相應定力故。持彼心品不散亂。是依義也。何以知之。有成文說。共俱生義是依義。如說。若依空三昧得正決定。是中即說俱生是依義。如苦法忍與空三昧相應。是共俱生依義。空三昧亦與世第一法相應。是名依義。復有說者。與次第緣義是依義。如增上忍相應三昧。與世第一法作次第緣。是名依義。評曰。即依彼地是名依義。如是說者好。云何無覺有觀。答曰。若依無覺有觀三昧。得世第一法。是名無覺有觀。如禪中間是也。云何無覺無觀。答曰。若依無覺無觀三昧。得世第一法。是名無覺無觀。如二禪乃至第四禪是也。問曰。何以說世第一法在三地耶。答曰。為止併義者意故。如彌沙塞部說世第一法是有覺有觀。有相有勢無定。是凡夫性緣。有為有覺有觀者。能分別故。有相者能緣故。有勢者難得故。無定者。無相似心相續故。是凡夫者。凡夫身中可得故。緣有為者。緣諸行故。為止如是併義者意故。說在三地。若依未至地得正決定。彼一地見道修。一地世第一法修。若依初禪得正決定。彼二地見道修。一地世第一法修。若依禪中間得正決定。三地見道修。一地世第一法修。若依二禪得正決定。四地見道修。一地世第一法修。若依三禪得正決定。五地見道修。一地世第一法修。若依四禪得正決定。六地見道

修。一地世第一法修。復有說者。若依未至禪得正決定。一地見道修。一地世第一法修。若依初禪得正決定。二地見道修。二地世第一法修。若依禪中間得正決定。三地見道修。三地世第一法修。何以故。皆是一地法故。此中有漏法。一種使所使故。此中諸善。展轉為因。二禪以上如先說評曰。彼不應作是說。何以故。若依無覺有觀三昧。得正決定。得二種世第一法。有覺有觀。無覺有觀。若然者。則違經文。如說云何名無覺有觀。若依禪中間得世第一法。是名無覺有觀。如先說者好。問曰。以何等故。見道自地他地修。非世第一法耶。答曰。或有說者。見道展轉為因。非世第一法。復有說者。見道聖人身中修。以聖人身中修故。自地他地修。世第一法。凡夫身中修。以凡夫身中修故。唯自地修。非他地修。復有說者。見道有三事故修。一從因生。二能作對治。三能辦事。從因生者。六地中展轉更相為因。對治者。若對治斷一地欲。餘地亦名對治。斷辦事者。如一地事辦。餘地亦辦。世第一法。不從因生者。不展轉為因故。非對治者。不斷結故。不辦事者。非如聖道能辦事故。修道亦以此三事故。自地他地修。彼亦展轉為因。如法智斷欲界結。比智亦修。彼比智非欲界對治道。法智現前時。亦名修亦名對治。辦事者。如第四禪地苦智修。如初禪地亦修。如初禪地辦事。第四禪地亦辦。如第四禪地辦事。初禪地亦辦。復有說者。無漏法所作異。有漏法所作異。所以者何。世第一法。為

愛所繫。無漏法者。不為愛所繫。復有說者。世第一法。有垢有過患。雜毒滓濁。是以不他地自地修。見道無垢無過。不雜毒不滓濁。是以自地他地修。復有說者。世第一法。在界為界所繫。在地為地所繫。無漏法。在界在地。不為界地所繫。復有說者。世第一法。在身有繫。無漏法。在身不繫。復有說者。世第一法。必生報。無漏法。不生報。問曰。同是有漏。以何等故。見道邊等智。自地他地修。非世第一法耶。答曰。或有說者。見道邊等智。不用功而得。以見道力故修。如見道力。能自地他地修。彼見道邊等智亦修。世第一法。大功力得。是以唯自地修。非他地修。復有說者。見道邊等智。是見道眷屬。常不相離。如見道自地他地修。彼亦如是。世第一法。非見道。眷屬相離。是以唯自地修。非他地修。復有說者。見道邊等智。堅信堅法。身中可得。若起上地。法現在前。下地便修。世第一法。凡夫身中可得。一切凡夫。不能修於他地。問曰。以何等故。上地見道現在前時。下地修。下地見道現在前時。上地不修耶。答曰。或有說者。上地法勝。若現在前時。下地則修。下地法劣。現在前時。不修上地。猶如勝人不造詣劣人。劣人則應造詣勝人。彼亦如是。復有說者。若依上地。得正決定。下地諸法。先已得故。是以故修。若依下地。得正決定。上地諸法。或得不得。是以不修。復有說者。上地諸法。從下地因生。下地諸法。不從上地因生。是以不修。復有說者。下地法不能對治上地。上地法。能對治下地。

● 卷第二終 ● 卷第三雜蘊度世第一法品之三首 ● 卷第三雜蘊度世第一法品第一之三首 ● 造釋譯說譯說同異如首卷 ● (如)一 ● (他)十地 ● (力)二 ● (不)十能 ●

以不對治故是以不修。復有說者。若依上地得正決定。爾時離下地欲故。是以修。若依下地得正決定。上地或離欲或不離欲。設使離欲。於上地法不得自在。設得自在。應即上地得正決定而不能得。是以知不自在。復有說者。下地法攝屬上地。是以故修。上地法不攝屬下地。是以不修。復有說者。猶如六種守護法故。三十三天。為備阿修羅故。安六種守護。一依水住龍。二杵手神。三持花鬘神。四常放逸神。

五四天王。六三十三天。若依水住龍。能壞阿修羅者。餘五無事。而水住龍若不能。杵手神助。餘四無事而住。若二不勝持花鬘神助。餘三無事而住。若三不勝放逸神助。餘二無事而住。若四不勝四天王助。餘一無事而住。若五不勝三十三天助。帝釋無事而住。彼若不勝爾時帝釋躬身自出。執金剛杵兩金剛。電時阿修羅衆即時退散。如是見道斷結對治。在六地中。若依未至得正決定。即彼地見道斷。見道所斷結。其餘五地無事而住。若依初禪得正決定。上地則無事而住。未至禪得修。亦隨順初禪。若依中間二禪三禪亦如是。若依四禪得正決定。彼四禪中見道斷。見道所斷結。下地得修。亦隨順第四禪。復有說者。猶如山陂有六重池次第而下。其在上池次流於下。下池不能逆流於上。如是。上地無漏流注下地。是以故修。下地無漏不能流注上地。是以不修。問曰。世第一法頗有覺非有觀耶。有觀非有覺耶。亦有覺有觀耶。非有覺非有

觀耶。答曰。有。云何有覺非有觀耶。答曰。如未至禪初禪覺。相應觀是也。所以者何。觀不相應故。云何有觀非有覺。答曰。覺。諸中間禪觀相應法。云何有覺有觀。答曰。如未至禪初禪。除其覺觀餘相應法。所謂十大地。十善大地及心。云何非有覺非有觀。答曰。謂中間禪觀。諸餘覺觀不相應法。如二禪三禪四禪相應法及色心不相應行。問曰。頗世第一法。非有覺有觀。非無覺有觀。非無覺無觀耶。答曰。有。如未至禪初禪地觀。彼非有覺有觀。所以者何。如說。云何覺觀相應法。答曰。若法與覺觀相應。彼觀唯與覺相應。不與觀相應。云何非無覺有觀。答曰。觀所以者何。如說。云何無覺有觀相應法。答曰。若法不與覺觀相。應。彼觀雖不與觀相應。與覺相應。問曰。頗世第一法。非與有覺有觀相應。非不是觀耶。答曰。有。禪中間觀。彼不與覺觀相應。非不是觀。問曰。頗世第一法。有覺有觀。非無覺有觀。唯與觀相應。答曰。有。在未至及初禪地覺。唯與觀相應。非無覺有觀。問曰。頗世第一法。在無覺有觀地。非覺非觀相應耶。答曰。有。禪中間觀。問曰。頗世第一法。在有覺有觀地。亦有覺有觀。無覺有觀。無覺無觀耶。答曰。有。云何有覺有觀。如未至禪及初禪地覺觀相應法。云何無覺有觀。即彼覺是也。云何無覺無觀。即彼色心不相應行是也。問曰。頗世第一法。在無覺有觀地無

覺有觀。無覺無觀耶。答曰。有。云何無覺有觀。如禪中間無覺有觀相應法是。云何無覺無觀。彼觀色心不相應行。世第一法。當言樂根相應。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。先已說世第一法體性所以界地。未說相應。今欲說故。復有說者。先已說世第一法在三地。未說在六地。今欲以根明六地義。分明了。如觀掌中阿摩勒菓。云何世第一法樂根相應。答曰。若依第三禪得世第一法。何者樂根相應。何者非樂根相應。答曰。除樂根。諸餘樂根相應法。何者不相應。答曰。樂根色心不相應行。云何喜根相應。答曰。若依初禪二禪。得世第一法。此中誰與相應。誰不與相應。除喜根。諸餘喜根相應法。誰不與相應。喜根色心不相應行。云何捨根相應。答曰。若依未至禪第四禪。得世第一法是也。問曰。何以不說禪中間耶。答曰。應作是說。若依未至中間禪第四禪。得世第一法。而不爾者有何義。答曰。中間禪通名未至。是中誰與相應。誰不與相應。誰與相應。除捨根諸捨根相應法。誰不與相應。捨根色心不相應行。頗有世第一法。不與喜根樂根捨根相應耶。答曰。有。色心不相應行。頗有相應法而不與世第一法相應耶。答曰。有。即三根體是也。世第一法。當言一心為多心。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。先已說世第一法體性。已說所以。已說界。已說地。已說根相應。未說現在前。今欲說故。或有說者。言世第一法是相續現前為止。彼人如是意。欲顯世第一法現在前一

○以十(故)○ ○(水)一 ○上二土 ○相二自 ○諸二謂 ○應十(與觀相應) ○(彼)一 ○(在)十有 ○云二應 ○耶二即 ○行十(是) ○何二無 ○應十(誰與相應) ○問二問

刹那故。或有說者。先說諸心心數法次第得正決定。或謂有心心數法多彼刹那亦多。為決定此義故。而作此論。復有說者。相續有三種。一時相續。二生相續。三相似相續。或謂無二相續。唯有相似相續。如彌沙塞部所說。為止彼人意故。而作此論。世第一法。當言一心為衆多心。答曰。當言一心。不當言衆多心。問曰。如世第一法現在前。未來心心數法修。亦名世第一法。此中何以不說答曰。彼亦應說而不說者。當知此義是有餘之說。如有餘義。簡略義亦如是。復有說者。彼未來者屬現在。若說現世當知亦說未來。復有說者。若能與次第緣。是中說之。如是義應如先以次第說。問曰。以何等故。世第一法當言一心。應說所以不但以言故。此義便立。答曰。此心心法。次第便不起。世間有漏心。唯生無漏苦法忍相應心。若當起者。無有是處。為分別故。設使起者。若小若相似若勝若當小者。不能得正決定。所以者何。不以衰退。未成道得正決定。應以勝進勢力道得正決定。若相似者。亦不能得正決定。所以者何。先不以此道得正決定。如初刹那。後刹那亦爾。如初刹那。留難停住不得正決定。後衆多刹那。亦留難停住不得正決定。如初刹那不能取聖道。後衆多刹那亦不能取聖道。問曰。若然者。修道中。若以下心。亦不能取聖道。答曰。見道異本會得道異。若當勝者。亦不能得正決定。所以者何。前者則非世第一法。問曰。若非者。為是何法。答曰。是增上忍。後是世第一法。問曰。以何等故。修道

中若相似若小。能與無漏作次第。見道唯勝。答曰。修道是本會得道。不多用功力。而現在前。是以若相似若小。能作次第。見道是未曾得道。多用功力。乃現在前。是以必用。勝者世第一法。於世第一法。因威勢。因者共生。因。相應。因。相似。因。三。因者是總說義。若別說者。過去於過去。二。因相應共生。過去於未來。一。相似。因。未來於未來。二。因相應共生。現在於現在。二。因相應共生。現在於未來。一。相似。因。障礙生得法。是威勢緣。

世第一法當言退。當言不退。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。前已說世第一法體性。所以界地根一心。未說不退。今欲說故。而作此論。或有說。世第一法是退者。為止彼人意故。又欲去他義。顯自義與法相應。問曰。世第一法。當言退。當言不退。耶。答曰。不退。問曰。云何不。應說其所以。不可但以言故。此義便立。答曰。世第一法。隨順諦。轉近諦。垂入諦。云何隨順諦。隨順見道。云何轉近諦。轉近見道。云何垂入諦。垂入見道。復有說者。隨順道諦。轉近道諦。垂入道諦。復有說者。隨順苦法忍。轉近苦法忍。垂入苦法忍。世第一法。於苦法忍有二種轉近。一。隨順轉近。二。垂入轉近。彼中間不起。不相似有漏心。使苦法忍不現在前。問曰。世第一法是有漏心。向言不起。不相似有漏心。苦法忍是不相似心。何以言有漏是不相似心。無漏是相似心。耶。答曰。世第一法。惡賤有漏心。以惡賤故。言不相似。無漏言相似。猶如有人為自親里

之所苦惱。親近他人作親里想。於自所親作他人想。彼亦如是。復有說者。世第一法。苦法忍同辦一事故。所謂捨凡夫事。得住聖法。猶如士夫。渡河。渡谷。渡山。渡坑。乃至廣說。渡河者。從此至彼。渡谷者。從此岸至彼岸。渡山者。從此山至彼山。渡坑者。從高至下。從下至高。猶如有人從高上墮。未至地頃。便作是念。欲還本處。得如意不。答曰。不得。假使彼人。若以神足。若以呪術。若以藥草。還至本處。可有是事。任世第一法時。無有一法能障苦法忍。使不現前。譬如閻浮提有五大河。一名恒伽。二名夜摩那。三名薩羅由。四名阿夷羅跋提。五名摩醯。流趣大海。乃至廣說。問曰。前喻後喻。有何差別。答曰。無有差別。所以者何。欲因二喻。以明一義。令分明故。復有說者。前者以內法具為喻。後者以外法具為喻。復有說者。前喻為止內留難法。後喻為止外留難法。復有說者。前喻為止不如法事。後喻為止顯如法事。彼五河流趣大海。無能制者。無能遮者。無能住者。無能移者。彼五大河流趣大海。頗有人能遮住者不。答曰。無也。若以神足。呪術藥草。使彼大河停住不流。未足為難。無有一法能障世第一法。使苦法忍不現在前。造此經時。在於東方。此五大河在於東方。故以為喻。復有四大河。從阿耨達池出。流趣大海。一名。呬伽。二名。辛頭。三名。博叉。四名。私陀。彼呬伽河。從金象口出。繞阿耨達池。一匝。流趣東海。彼辛頭河。從銀牛口出。亦繞大池。一匝。流趣南海。彼博叉河。從琉璃馬口出。

●恒二更● ●後二復● ●流二度● ●下阿 ●後二後● ●唯二恒● ●下同

繞大池一匝流趣西海。彼私陀河從頤梨師子口出。繞大池一匝流趣北海。彼咄伽河有四大河。以爲眷屬。一夜摩那。二薩羅由。三阿夷羅跋提。四名摩醯。彼辛頭河亦有四大河。以爲眷屬。一名毘婆奢。二名伊羅跋提。三名奢多頭。四名毘德多。彼博叉河有四大河。以爲眷屬。一名婆那。二名毘多羅尼。三名朋儻。四名究仲婆。彼私陀河亦有四大河。以爲眷屬。一名薩梨。二名毘摩。三名那提。四名毘壽波婆。此中唯說廣大有名。字者。然彼四河各有五百眷屬。合有二千流趣大海。頗有人能遮住者不。答曰。不能。無有是處。以分別故假使有人。以神足呪術藥草。能令彼河停住不流。未足爲難。無有一法能障世第一法使苦法忍不現在前。復次世第一法。與苦法忍。作次第緣。此文是根本義第一答。所以者何。彼世第一法生時。能與苦法忍次第緣果。若此法能與彼法次第緣果者。此法無有衆生。若法若呪術藥草。若佛若辟支佛若聲聞。能作障礙。使第二剎那不現在前者。無有一法速於心者。能於爾時爲作障礙。使不能得正決定。彼言無有一法速於心者。即苦法忍相應心是也。作義者說曰。以何次第故。世第一法不當言退。答曰。或有說者根本牢固故。彼行者修布施時。悉以迴向解脫持戒不淨安般念處七處善煥頂忍亦迴向解脫。是名根本牢固。復有說者。世第一法後次生見道。無有退見道者。彼亦不退。復有說者。世第一法後次生忍智。無有退忍智者。彼亦不退。復

有說者。世第一法後。乃至斷非想非非想處見道所斷結。無有退非想非非想處見道所斷結者。彼亦不退。復有說者。世第一法。是勝進分善根。無有退勝進分善根者。煥法有三種。退分任分勝進分。頂亦有三種。忍有二種。任分勝進分。世第一法。有一種。謂勝進分。問曰。此皆是達分善根。何以說三種。答曰。名數異耳。如定。體度說。此善根有三種。於此善根退者名退分。不退不進名任分。勝進者名勝進分。彼說三種。此說達分善根。名數異耳。復有說者。此善根是一剎那。無有退半剎那者。問曰。頗有二聖人同生一處。於世第一法。一成就。一不成就耶。答曰。有。一依初禪得正決定。二依第二禪得正決定。彼俱命終生二禪中。彼依初禪得正決定。則不成就。所以者何。以離地故。依二禪者。彼則成就。問曰。頗二阿羅漢俱在欲界中。於世第一法。一成就。一不成就耶。答曰。有。一依初禪得正決定。二依二禪得正決定。彼俱命終。生二禪中。陰中得阿羅漢果。彼依初禪得正決定者。則不成就。所以者何。以離地故。問曰。頗有聖人不成就世第一法。成就世第一法解脫得耶。答曰。有。依初禪得正決定。彼命終生二禪中。以離地故。不成就世第一法。彼成就世第一法解脫得。彼得以二禪所攝故。若命終生三禪以上。則不成就世第一法。問曰。頗有聖人不成就世第一法。亦不成就解脫得耶。答曰。有。依初禪得正決定。彼若命終。生第三禪以上。則不成就世第一法及解脫得。

如經說。諸比丘。我不見一法速疾迴轉過於心者。難以喻知。乃至廣說。問曰。言速疾迴轉者。爲於世耶。爲於緣耶。若於世者。一切有爲法。亦隨世速疾迴轉。不但心也。若於緣者。諸心心數法受緣。亦速疾迴轉。不但心也。答曰。此中亦說世速疾迴轉。亦說緣速疾迴轉。謂一身中非謂一剎那也。若一剎那言速疾迴轉者。則有少分速疾迴轉。少分不速疾迴轉。亦無於緣速疾迴轉。所以者何。如說若法能緣彼法。或時不緣。無有是事。是以說世之與緣速疾迴轉。謂一身中非謂一剎那。彼一身中。或生善心。或時染污。或時不隱沒無記。或依眼生。乃至依意生。若緣色生。乃至緣法生。問曰。若於世於緣。名速疾迴轉者。心心數法。亦於世於緣。速疾迴轉。何以獨言心耶。答曰。或有說者。此是世尊有餘之說。亦是世尊爲化衆生。簡略之說。復有說者。於心法中誰爲最勝。所謂心也。是以說心。猶如王來餘人亦來。以王勝故。但言王來。復有說者。以因心故名爲心數。是故說心。以心大故。數法亦名大地。是故說心。復有說者。若修證心通法時。彼無礙道唯緣於心。是故說心。復有說者。心是遠行法。如說

獨行遠逝 不在此身 若能調伏
是世覺志

復有說者。心爲尊導。如說
心爲前導 心尊心使 中心念善
亦言亦行 安樂自追 如影隨形
或有說者。心猶如王。如說

①朋儻一多者 ②字二多 ③大第一等 ④種一性 ⑤雙二體

第六增上王 此染彼亦染 無染而生染 染者名愚小

復有說者。心名城主。如說比丘當知言城主者。即有漏識。復有說者。心是內法。遍一切處。能有所緣。內者。內入所攝。遍者。從阿毘地獄上至有頂。能有所緣者。緣一切法。復有說者。能起善不善尸羅。如說善不善尸羅。皆因心起。復有說者。心起惡法生惡道中。心起善法生。天人中。如世尊言。諸比丘。都提夜子叔迦摩納婆。以向如來生惡心故。身壞命終。如擲真珠頃當墮惡道。比丘都提夜子叔迦摩納婆。以向如來起善心故。如擲真珠頃身壞命終。當生善道。復有說者。此心為主。多所統攝。如說此五情根各行境界。心悉能行種種境界。復有說者。如心行於緣。數法皆隨。猶如雄魚。其所。住處雌魚皆隨。復有說者。心是數法所依之處。復有說者。心所依受身之處。無不有心。數法不爾。有增有減。復有說者。若心不調伏。不守護。不淨修。數法亦爾。若心調伏。守護淨修。數法亦爾。復有說者。若心不伏。數法不伏。以不伏故。流行色聲香味觸法。若心折伏。數法亦伏。以折伏故。不行色聲香味觸法。如瀘水。筒上開則漏。上閉則止。彼亦如是。復有說者。世尊先說心速疾迴轉。當知餘有。緣法亦速疾迴轉。如經說。我不見一法速疾迴轉過於心者。難以喻知。問曰。如餘經說以猿猴為喻。今何故言難以喻知。答曰。或有說者。此經難以喻知。不言不以喻知。所以者何。非凡人能作。不易作。不過時作。非無慧

者作。非凡人作者。唯佛能作。不易作者。用功能作。不過時作者。佛日出世。爾時能作。非無慧作者。非亂心亂意之所能作。又非凡作者。能知善心起住滅相。亦知出入及知方便。如佛緣覺及諸弟子。善於總相別相。復有說者。言難以喻知者。喻若同若相似。同者。如說心速疾迴轉。其猶如受。此是心法。經先已說。若非心法。喻不相似。復次難以喻知者。不以少功而能得知。復次難以喻知者。如心速疾能有所緣。彼喻亦爾。而無有法與心等者。猶如猿猴從一枝至一枝頃。心想迴轉。有百千刹那。尊者波奢說曰。世尊為化眾生。還以心喻心。彼猿猴輕躁。躁動皆心所為。問曰。彼心可以一法為定喻不。答曰。或有說者。有誰能作。唯佛能作。但無能知者。如佛化作一刹那以喻心而無知者。是故比丘應善知心。應善知心迴轉。乃至廣說。問曰。善知心善知心迴轉。有何差別。答曰。或有說者。無有差別。言善知心即是善知心迴轉。復有說者。有差別。若觀心總相是名善知心。觀心別相是名善知心迴轉。復有說者。若觀心是名善知心。若觀數法。是名善知心迴轉。復有說者。若觀心念處。是名善知心。若觀法念處。是名善知心。若觀觀數法。是名善知心迴轉。復有說者。若觀心餘陰。是名善知心迴轉。復有說者。若觀意入。是名善知心。若觀餘入。是名善知心迴轉。復有說者。若觀七識界。是名善知心。若觀餘界。是名善知心迴轉。復有說者。若觀心自相。是名善知心。若觀心所緣行處。是名善知心迴

轉。復有說者。若觀識。是名善知心。若觀識住處。是名善知心迴轉。尊者波奢說曰。若知有欲心是名善知心。若知轉離欲心是名善知心迴轉。如有欲心轉離欲心。有瞋心轉離瞋心。有癡心轉離癡心。散亂心攝心。懈怠心精進心。有掉心無掉心。少心多心。有染心無染心。定心不定心。修心不修心。解脫心不解脫心。繫心不繫心。當知亦如是。尊者佛陀提婆說曰。世尊言善知心迴轉者。即是善知心異名說耳。如定健度說我弟子中善知心迴轉。摩訶般特迦是也。此即說心念處。名善知心迴轉。問曰。頗任一刹那頃。當得世第一法。不當得所依緣耶。當得所依緣不當得世第一法耶。亦當得世第一法及所依緣耶。亦不當得世第一法及所依緣耶。答曰。有。應作四句。若依未來禪。當得正決定。住增上忍。一刹那頃。當得世第一法。不當得所依緣者。除未至禪所攝世第一法現在前及所依緣。謂諸餘未來世第一法也。當得所依緣。不當得世第一法者。謂初禪二禪三禪四禪所攝世第一法。當得所依緣者。謂未來依緣也。當得世第一法及所依緣者。謂未來禪所攝世第一法現在前及所依緣也。亦不當得世第一法及所依緣者。謂初禪二禪三禪四禪所攝世第一法。諸餘所依緣。問曰。頗住一刹那頃。當得世第一法。緣有緣法耶。當得緣無緣法耶。當得緣有緣無緣法耶。不當得緣有緣無緣法耶。答曰。有。住增上忍。應作四句。初句者。謂世第一法。能緣心心數法也。第

①天人二人天②住二住③筒二筒④緣二餘⑤者一⑥緣一

二句者。謂世第一法。能緣色心不相應行也。第三句者。謂世第一法。能緣心心數法。色心不相應行也。第四句者。除上爾所事。彼作經者說世第一法。凡作七論。五是根本。二因論生論。五根本者。從云何世第一法。乃至根相應。二因論生論者。謂當言一心當言不退。造毘婆沙者。因此造論廣現多文。阿毘曇毘婆沙論卷第二

阿毘曇毘婆沙論卷第二

*迦旃延子造 *五百羅漢譯
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等 譯

雜。健度世第一法品之六三

云何頂法云何頂法退。云何煖法乃至廣說。問曰。此中逆說凡夫所得法。說世第一法已。何以不次說忍耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應說云何為忍。以何等故名忍。當云何繫乃至廣說。而不說者。有何意耶。答曰。此是有餘之說簡略之義。復有說者。先已說忍而不彰顯。如先說若後心心數法。勝者前者。則非世第一法。為何是耶。答曰。增上忍是名說忍。復有說者。若佛經說此中便說。若經不說此中不說。佛經無說忍處是故不說。說曰。如增一阿含中說。若不成就六法。則不能遠塵離垢得法眼淨。云何為六一不樂聞法。二離聞法不攝耳聽。三不

為知解。四所未得法。不方便勤求。五所得法不善守護。六不成就忍。若成就六法。則能遠塵離垢。得法眼淨。云何為六喜樂聞法。乃至成就順忍。問曰。彼經雖說順忍。不說是順諦忍。答曰。順忍順諦忍。有何差別。因論生論。以何等故。忍言順諦忍。煖頂不耶。或有說者。如說忍言順諦。煖頂亦應說。而不說者。當知皆是有餘之說。復有說者。順者言隨順。彼忍善隨順。煖頂不爾。復有說者。煖法能止緣諦增上愚。頂。止中愚。忍。止下愚。以止身中愚故。生世第一法。復有說者。煖法能生緣諦。下明頂生中明。忍生上明。以此身中有緣諦明故。能生世第一法。復有說者。煖法於陰悅適。頂法於實悅適。忍法於諦悅適。以觀聖諦身中悅適故。能生世第一法。復有說者。忍於一切時。與見道相似。如見道一切時。唯法念處現在前。彼忍亦爾。煖頂不爾。所以者何。先修法念處。後增長三念處。展轉現在前。是故不相似也。忍修習法念處。唯增長法念處。以與見道相似故。名順諦忍。煖頂不爾。不名順諦。復有說者。忍法側近見道。煖頂不。如。復有說者。忍法亦多相續。亦一刹那現在前。頂煖唯多相續現在前。復有說者。忍法唯一定意。煖頂不爾。復有說者。忍法正觀不雜。煖頂有雜。或時起欲界善根。復有說者。忍法正觀。不多不廣。而能隨順趣向涅槃。煖頂亦多亦廣。亦能隨順趣向涅槃。此中應說轉寶摩尼寶喻。以如是等。乘因緣故。忍名順諦。煖頂不得名順諦。

是煖頂及下中忍。行十六行。緣四真諦。增上忍。行四行。緣苦諦。復有說者。增上忍。緣道諦。問曰。忍為緣何法得正決定。答曰。或有說言。緣於道諦。問曰。若然者。云何不緣行倒錯耶。若緣行倒錯。云何不為得正決定。而作留難。答曰。假令緣行倒錯。於正決定。不作留難。所以者何。於此善根。修習緣行。先有徑路。是以入聖道時。於此緣行。自在能用。如見道中。先起欲界忍智道。次生有頂忍智道。彼有頂忍智道。後復還生欲界忍智道。觀苦行。後復生觀習行。乃至廣說。如此皆名緣行倒錯。不以緣行倒錯。便為見道。而作留難。何以故。以於見道修習。緣行先有徑路故。忍亦如是。於得正決定。不作留難。諸作是說。緣道諦增上忍。後得正決定。彼有三心。應同一緣一行。所謂世第一法。苦法忍。苦法智。二心應同一行。不同一緣。謂苦比忍。苦比智。二心同於一緣。不同一行。謂習法忍。習法智。評曰。應作是說。應緣苦諦增上忍。後得正決定。彼見道是猛健善根。雖緣行倒錯。於正決定。而無留難。彼忍是世俗有漏善根。其性羸劣。若緣行倒錯。則與見道。而作留難。如實義者。應觀苦增上忍。後得正決定。非先觀道忍。後得正決定。增上忍。行苦行。緣苦。而忍。方便道廣行十六行。緣四真諦。彼行者正觀欲界苦。觀色無色界苦。欲界行集。色無色界行集。欲界行滅。色無色界行滅。斷欲界行道。斷色無色界行道。如是三十二心。是名下忍。行者後時漸漸減損行及緣。復更正觀欲界苦。色無色界

①第二二三三②③ ④第三三四四⑤ ⑥第一一十之⑦ ⑧三三四⑨ ⑩止二上⑪ * ⑫唯二惟⑬ ⑭下同 ⑮如一爾
⑯頂煖二煖頂⑰ ⑱正二止⑲ * ⑳緣二涉㉑ * ㉒倒錯二錯倒

苦。乃至觀斷欲界行道。除觀斷色無色界行道。從是中忍。復更正觀欲界苦。觀色無色界苦。乃至觀色無色界行滅。除一切道。復更正觀欲界苦。無色界苦。乃至觀欲界行滅。除色無色界行集。復更正觀欲界苦。乃至觀色無色界行集。除一切集。復更正觀欲界苦。無色界苦。復更正觀欲界苦。常相續不斷不遠離。如是觀時。深生厭患。復更減損。但作二心。觀於一行。如似苦法忍苦法智。如是正觀。是中忍。彼復以一心。觀欲界苦。是名上忍。後次生世第一法。世第一法後。次生苦法忍。譬如有人。欲從己國適於他國。多有財寶及諸生業之具。不能持去。以此財物。轉以易錢。猶嫌其多不能持去。以錢易金。猶嫌其多不能持去。以金復易多價寶珠。持此寶珠。隨其所安。往適他國。如是行者。乃至漸捨。相續不離。生於上忍。忍後次生世第一法。世第一法後。次生苦法忍。諸言緣苦忍後得正決定。彼四心。須同一行。一緣。所謂增上忍。世第一法。苦法忍。苦法智。二心同一行。不同一緣。所謂苦比忍。苦比智。二心同一緣。不同一行。所謂集法忍。集法智。是故如此說者好。問曰。世第一法。為有上中下不。答曰。無也。不得一人心中。有多人心中。乃有如尊者舍利弗。是上目連是中。其餘聲聞是下。性分亦有上中下。佛為上。緣覺為中。聲聞為下。云何名頂。以何等故名頂。尊者瞿沙說曰。有

二種達分善根。一是欲界所謂煖頂。二是色界所謂忍及世第一法。欲界中下者是名煖。上者名頂。色界中下者名為忍。上者名世第一法。評曰。彼不應作是說。此盡是色界法。是修法住定地法。能行聖行法。如是說者好。問曰。何以言頂法耶。答曰。色界善根。有動者有不動者。有住不住。有難無難。有斷不斷。有退不退。諸彼動者。諸不住有難有斷有退者。有二。下者是煖。上者是頂。諸彼不動住無難不斷不退者。有二。下者是忍。上者是世第一法。復有說者。應言下頂。所以者何。在下煖頂故。復有說者。猶如山頂。故名為頂。如山頂之道人不久住。若無諸難。必過此山。到於彼山。若遇諸難。即便退還。如是行者。任頂無久住者。若無諸難。必到於忍。若有諸難。還退到煖。是以猶如山頂。故名為頂。復有說者。勝於煖法。故名為頂。云何為頂。歡喜於佛法僧。生下小信。乃至廣說。

問曰。何以故。言此信為下小耶。答曰。如尊者瞿沙說。此煖頂二達分善根。是欲界法。故言下小。復有說者。此住不久停故。故言下小。復有說者。此信當言異信。何以故。異於色界定地修地行聖行煖法故。故名為異。於佛僧。生下小信。是緣道諦信。於法生下小信。是緣滅諦信。問曰。如頂能緣四諦。此中何以唯說緣二諦信。不說緣苦集信耶。答曰。或有說者。此中說名義最勝法故。於此四諦何者最勝。所謂滅道。何以故。此二諦清淨無過故。復有說者。此二諦是妙是離。

復有說者。此二諦能生信處。復有說者。此二諦有二義。一可信。二可求。復有說者。為生受化者。信樂心故。若世尊說。苦集是可敬信者。則無受化者。何以故。彼受化者。當作是念。此是煩惱惡行。邪見顛倒。何可敬信。而我等常為此苦之所逼迫。若世尊說滅道。是可敬信。彼受化者。心生欣樂。是故滅道最勝可信。復有說者。此滅道有可信敬事。一樂觀在前。二無心捨離。復有說者。信佛信僧說緣道。信信法是緣三諦信。若如是者。則說盡緣四諦信也。如說波羅延摩納婆等。能於佛法僧。生下小信。是名頂法。彼作經者。引經為證。問曰。如住頂時。亦信陰亦信三寶亦信諦。以何等故。世尊為摩納婆等。但說信寶。不說信陰諦耶。答曰。或有說者。彼摩納婆等。非不信苦集諦。但不信三寶。以不信故。佛故為說。復有說者。彼為苦所困。欲求離苦。往詣佛所。如說偈

為苦所逼諸衆生 不知離苦來詣佛
願示法要除衆患 猶如熱時入涼池
如實能離苦者。唯有滅道。彼有二義可信。一常樂觀。二常喜求。復有說者。信佛說緣二諦信。信僧說緣道諦信。信法說緣滅諦信。復有說者。信佛說緣四諦信。信僧說緣道諦信。信法說緣三諦信。復有說者。三寶是生信敬處。是以說之。復有說者。隨行者意悅適。故是以說之。若於陰生悅適。是名為煖。於寶生悅適。是名為頂。於諦生悅適。是名為忍。問曰。如頂體性。是五陰。何以世尊為波羅延

①滅二滅②③ ④諸二論⑤ ⑥須二頂⑦⑧ ⑨頃⑩ ⑪元本脫須字 ⑫名二多⑬ ⑭佛故二故佛⑮ ⑯說偈一偈說⑰

等以信名說為諸新學比丘以慧名說答曰或有說者唯佛世尊決定明解法相亦知所應作事非餘所及應為衆生而說何法即便說之復有說者以波羅延等未任所作地未入佛法中未得舍摩他未有漸次聞他天言生信來詣佛所爾時世尊因彼善根欲令增長故以信名說彼諸新學比丘與上相違故即慧名說復有說者隨他之少為饒益故如波羅延等之少於信釋種比丘之少於慧是以波羅延等說信以饒益之釋種比丘說慧以饒益之復有說者為止諂曲愚癡意故波羅延等雖復聰明之少於信無信之慧能增長諂曲是故為波羅延等說信止其諂曲新學比丘釋種出家雖少有信而乏於慧無慧之信增長愚心是故為新學比丘說慧止其愚心復有說者世尊說法受化者二種有利根有鈍根為利根者說信為鈍根者說慧以波羅延等利根故說信新學比丘等鈍根故說慧如利根鈍根內因力外緣力內分力外分力內正觀思惟增益外從他聞法內增益無愚無貪修不修損身見聚處不損身見聚處當知亦如是

云何頂法退乃至廣說問曰以何等故說頂有退不說煖退答曰或有說者如說頂退亦應說煖退而不說者當知皆是有餘之說復有說者行者在頂之時多諸留難有三時諸煩惱業多諸留難如從頂至忍爾時惡道諸煩惱業多作留難所以者何彼諸煩惱而作是念若彼行者已到於忍我復於誰身中當

生果報離欲界欲時彼欲界諸煩惱業多作留難所以者何諸煩惱業而作是念若彼行者出於欲界我復於誰身中生於果報離非想想非非想處欲時受未來有諸煩惱業多作留難所以者何諸煩惱業而作是念若彼行者離欲已彼更不受身我復於誰身中生於果報行者於此三時多諸留難是故說頂有退不說煖退復有說者行者爾時生大憂惱猶如有人見珍寶藏見已歡喜作是思惟我今永斷貧窮根本後欲取時忽然還滅彼人爾時於此寶藏生大憂惱如是行者住頂法時自念不久當得於忍永斷惡道心生歡喜後便還退生大憂惱復有說者若說頂有退當知亦說煖退復有說者以頂法不久住故是以有退復有說者欲得忍時大獲重利猶如聖人不墮惡道得忍之時亦復如是如沙門二十億九十一劫不墮惡道與上相違名失重利云何頂退答曰猶如有人親近善知識從其聞法乃至廣說何以復作此論答曰前雖說頂體相未說云何得頂云何失頂今欲說之故作此論猶如有人親近善知識者說親近善友從其聞法者聽隨順方便法內正觀思惟者自身修行正信佛菩提信善說法信僧清淨功德是說信實說色無常乃至說識無常是說信陰知有苦集滅道是說信諦彼於餘時不親近善知識者親近惡友不從他聞法者不聽隨順方便法不正觀思惟者自身行邪行失此信法名頂退問曰頂退體

相為是何耶答曰是不成就性不隱沒無記心不相應行行陰所攝復有說者是不信體性所以者何有信便得無信便失復有說者以何使纏而退頂法即彼使纏性如是說者亦是染污性復有說者若法隨順退法即是其性若然者一切諸法盡是退性何以故一切諸法與威勢緣故尊者佛陀提婆說曰無所有性是退性強生分別無有相對彼善根和集名頂善根離散名退復有何性猶如有人多諸財物他人劫去後便貧窮人問之汝今貧窮為何性他人答言我有財他人劫去今唯貧窮當有何性又如有人衣裂他人問言汝今衣裂為何性他人答言衣本完整今者破裂更有何性又如有人身本著衣人奪其去他人問言汝今裸形無衣為何性他人答言我本著衣他人奪去今者裸形無衣當有何性如是行者善根和集之時名為頂後若離散名之為退當有何性是故無所有性是名退性評曰不應作是說如前說者好頂退是不成就性不隱沒無記心不相應行行陰所攝問曰如說信佛菩提是名信佛乃至廣說以何等故世尊或說信實或說信陰或說信諦答曰或有說者佛於法明了乃至廣說復有說者隨衆生愚處佛隨其所愚而解說之復有說者受佛化者有三種一多疑心二染著於我三為見所覆為疑者說實為染著我者說陰為見所覆者說諱云何煖法乃至廣說以何等故名煖答曰或

①〔以〕—①② ③—如④ ⑤欲已彼一彼欲已⑥ ⑦優十(耳) ⑧染二深⑨*

有說者。智緣境界。能生於煖。燒煩惱薪。猶如火。攢。上下相依。生火燒薪。復有說者。以有智知有能生煖智。今有萎悴。猶如夏時聚花為穢花生煖氣。還自萎悴。復有說者。智生依陰。在陰智火。還燒於陰。猶如兩竹相。摩生火還燒竹林。尊者瞿沙說曰。求解脫智火。彼最在初。如火以烟在初為相。無漏智火。亦以煖法在先為相。如日明相在初為相。無漏智日。亦以煖在初為相。是故名煖。云何為煖。於正法毘尼中。生信愛敬。乃至廣說。問曰。若然者。說於正法毘尼中生信愛敬。盡得煖耶。答曰。不然。何以故。煖者乃是色界修地地。能行聖行所攝。於正法毘尼中。生信愛敬者也。彼正法者。說緣道諦信。毘尼者。說緣滅諦信。問曰。煖能緣四諦。何以但說緣滅道諦信。答曰。或有說者。滅道於諦中最勝。故應如先頂中廣答。復有說者。滅道是可歸依處。是以故說。復有說者。正法說緣三諦信。毘尼說緣滅諦信。是亦名煖。能緣四諦。彼作經者。引經為證。如說佛告馬師滿宿比丘。我有四句法。當為汝說。為欲知不當恣汝意。彼二人言。我等今者便為非器。何用知為。乃至廣說。問曰。佛深知彼人不堪受法。何故告言當恣汝意。答曰。或有說者。人謂彼人無教化者。所以造作衆惡。而自毀壞。是以如來。舉手語言。我所應作。今已作之。而汝自行邪行。以自毀壞。非我不教化之過。復有說者。為止外道誹謗。故所以告言當恣汝意。若當如來不告彼者。諸外道等。當作是謗。云何大悲。於弟子衆。有隨

順者。說法教化。不隨順者。不說法教化。若當如來告彼人者。諸外道等。不生誹謗。復有說者。為止諸釋。不信心故。若當如來不告彼者。爾時諸釋生不信心。云何悉達。不為親族說法教化。心懷嫉妬。將慮彼人共已相似。若其如來告彼人者。諸釋爾時便。更不生不信之心。復有說者。彼人自行邪行。如來以彼。即為證人。而語之言。汝本在家。及今出家。自行邪行。非是我過。爾時如來。即以軟語。面前責數。是故告言當恣汝意。復有說者。為生彼人將來善根故。佛知彼人。而今雖復不能受化。將來必生追悔善根。所以者何。彼人作是念。彼大悲者。恣我意。而我不受。非如來過。能生如此追悔善根。以此緣故。必出惡道。復有說者。佛知彼人於此命終。必生龍中受大苦痛。便作是念。我本從何來生此間。自知本在佛法出家。次作是念。無化我者。我今應往作不利益事。破壞佛塔及諸精舍。殺諸比丘。當於爾時。佛神力故。有如來像。當立其前而告之言。馬師滿宿。我有四句之法。汝欲知不當知。今。苦汝等過。非我咎也。我應作者。皆已作之。而汝今者。自為邪行。欲止彼龍。瞋恚纏故。令守護佛法。是以告言當恣汝意。問曰。云何名四句法。答曰。或有說者。是四諦法。何以故。彼二人以不見諦故。造斯惡行。復有說者。四念處是。何以故。彼二人以顛倒故。造斯惡行。復有說者。四正勤是。何以故。彼二人者。多懈怠故。造斯惡行。復有說者。四如意足是。何以故。彼二人者。不能積集諸善故。造斯惡行。復

有說者。四聖種是。何以故。彼二人者。貪著利養故。造斯惡行。復有說者。四沙門果是。何以故。彼二人者。實不得沙門。而言我得四沙門果。故造斯惡行。復有說者。四善是一善。知界二善。起四善。知入三善。知緣處非。處。何以故。彼二人者。愚於因果故。造斯惡行。復有說者。如雜阿含中說偈

賢聖法中善言最 二常愛言遠不愛
三常實語離虛妄 四常法言遠非法
是名為四。復有說者。如增一阿含所說。無貪無恚正念正定是名為四。彼作是言。我今何用知是法為。世尊告言。汝愚癡人。遠離我法。乃至無有少許煖法。問曰。彼二人者。何以作如是說。我今何用知是法為。答曰。或有說者。彼人自知非是法器。趣向善道。猶為非器。況趣涅槃。當是器也。復有說者。諸邪惡行。在彼身中。數數犯禁。自知此身非是法器。瓦石可令生牙。我今此身。終不能生解脫法分。復有說者。彼人已作決定業故。復有說者。彼人已近報果法故。彼人惡道報相。已現在前。乃至十指水流而出。復有說者。佛記彼人當成辟支佛菩提。彼作是念。何煩如來。為我說法。我於現世。終不能得入正決定。以是等衆因緣故。彼作是言。我今何用知是法為。世尊告言。遠離我法。愚癡人。於我法毘尼中。乃至無有少許煖法。問曰。有衆多毘尼。有時毘尼。有方毘尼。有種性毘尼。有家法毘尼。有罰罪毘尼。有犯毘尼。有明毘尼。有聖毘尼。有欲瞋癡毘尼。此中為說何者毘尼耶。答曰。或有說者。此中說聖毘尼。復有說者。此中說欲瞋癡毘

●彼二(鐵) ●(智)一 ●摩二(廣) ●(彼)一 ●更二 ●(是)十 ●(也)十

尼。問曰。諸不得暖法。一切皆與馬師滿宿同耶。答曰。不一切也。衆生凡有三種。一有期心。二除期心。三斷期心。有期心者。清淨持戒者是也。除期心者。所作已辦阿羅漢是也。斷期心者。犯戒者是也。以彼無有期心。無除期心。但有斷期心。是以世尊。而呵。嘖之。其餘衆生。斷期心者。亦與彼同。如說乃至無有少許暖法。問曰。此暖善根。最勝微妙。住寂靜地。今者何以言少耶。答曰。以於達分善根中最是微小。故言爲少。復有說者。以是見聚善根後邊生故。故言少許。見聚善根者謂安般不淨四念處也此四種善根。所謂暖法頂法忍法世第一法。名爲達分。亦名觀諦。亦名修治。亦名善根。言達分者無漏聖道。是達此善根隨順彼法。羽翼彼法。是彼法性分。故言達分。觀諦者。以無常等行觀諦察諦。故名觀諦。修治者。爲求聖道及果修治。此身除去穢惡。欲爲法器。猶如農夫爲求子實。修治田地。除去惡草。彼亦如是。故名修治。言善根者。聖道言善。涅槃言果。此諸法等。是彼初基始立之本。故名善根。問曰。此暖等善根。有何差別。答曰。暖法能止緣諦增上。愚乃至能止身中愚。故生世第一法。復有說者。暖法能生緣諦下明。乃至身中有緣諦明。故生世第一法。復次暖法。能生緣諦下信。頂法生中信。忍法生上信。以身中有此信故。能生世第一法。復次暖法。於陰悅適。乃至身中悅適。故生世第一法。復有說者。暖是念處所入處。頂是暖法所入處。忍是頂法所入處。世第一法。是忍所入處。如是次第無間。亦如是。

尊者瞿沙說曰。此善根。二是欲界。所謂暖頂。二是色界。所謂忍世第一法。評曰。不應作是說。此是色界。故。定地修地。能行聖行所攝法。如是說者好。問曰。暖法有幾種。乃至世第一法。幾種。答曰。或有說者。暖法有三種。謂下下中下上。頂法有三種。中下中中上。忍有二種。上下上中。世第一法有一種。謂上上。此四善根以三言之。煖是下。頂是中。忍世第一法是上。復有說者。煖有二種。謂下下中。頂有三種。謂下上中中。忍法有三種。謂中上上下上中。世第一法有一種。謂上上。此善根以三言之。煖是下。頂是中。忍是中上。世第一法是上。尊者瞿沙說曰。煖有三種。下下中下上。頂有六種。下下乃至中上。忍有八種。下下乃至上中。世第一法一種。謂上上。若以三言之。煖法一種。謂是下。頂有二種。謂下中。忍有三種。謂下中上。世第一法有一種。謂上上。得煖法亦捨。捨有二種。離界地時。及退時捨。退時捨者。作無間業。能斷善根。亦墮惡道。復有何善利。已爲涅槃。作決定因。如吞鉤餌法。得頂法亦捨。捨有二種。離界地時。及退時。退時捨者。作無間業。亦墮惡道。復有何善利。更不斷善根。若然者。提婆達多。不得頂法耶。如偈說

無德受供養 是名爲凡。小
有善皆忘失 是名爲頂退

此偈當云何通。答曰。此說得退。復有說者。世尊如頂。彼以惡心向佛。墮於惡道。故言頂墮。得忍亦捨。捨有一種。離界地時。捨彼善根無退。不作無間業。不斷善根。復有何善利。不斷善根。得世第一法亦捨。捨有一種。離界地時。捨不退。所以者何。此善根性是不退。不作無間業。不斷善根。不斷善根。復有何善利。彼次第得正決定。復有說者。得煖法亦捨。捨有二種。離地界時。及退時。退時捨者。作無間業。亦墮惡道。復有何善利。唯不斷善根。若然者。提婆達多。不得煖法。何以故。彼斷善根。故得頂法亦捨。捨有二種。離地界時。及退時。退時捨者。墮惡道。復有何善利。不作無間業。不斷善根。得忍亦捨。捨有一種。離地界時。彼善根無退。不作無間業。不斷善根。不斷善根。復有何善利。不染著我。問曰。若然者。尸利掘多。安仇利摩羅薩遮尼。捷子。便爲不得忍。何以故。染著我。故。答曰。彼不染著我。以論義。故。言有我耳。問曰。彼與如來。競諍論我。云何乃言不染著我耶。答曰。彼以不斷我見。暫現在前。非染著也。世第一法得亦捨。離地界地時。捨。餘如先說。西方人。作此論言。暖善根。有何意趣。爲何所依。有何因緣何法。有何果。有何依。有何報。有何善利。爲行幾行。爲緣名生。爲緣義起。爲是聞慧。爲是思慧。爲是修慧。爲欲界繫。爲色無色界繫。爲有覺有觀。爲無覺有觀。爲無覺無觀。爲樂根相應。爲喜捨根相應。爲一心。爲衆多心。爲退爲不退。乃至世第一法亦如是。問曰。暖有何意趣。答曰。所有布施持戒。乃至上忍善根。盡以迴向解脫。是其意趣。爲何所依者。依色界定起。有何因

●(暖)二黃● ●(者)一白● ●止上上● ●(故)一白● ●(有)十黃● ●(捨)十退● ●小二心● ●(善)十者● ●(離)二●

緣者。於自地前生善根。是相似因。緣何法者。緣四真諦。有何果者。頂近於暖。是功用果。有何依者。自地相似。後生善法。是其依果。有何報者。謂色界五陰。有何善利者。或有說者。是涅槃決定因。復有說者。不斷善根。為行幾行者。行十六行。為緣名生為緣義生者。當言緣義生。為是聞思修慧者。當言是修慧。欲色無色界繫者。當言色界繫。有覺有觀無覺有觀無覺無觀者。當言三行。為何根相應者。當言三隨所應說。為一心為衆多心者。當言多心。為退不退者。當言退忍。於頂近者是功用果。頂有何善利。或有說者。不斷善根。或有說者。不作無間業。餘如暖說。世第一法。於忍近者。為功用果。忍有何善利。有此善利。不墮惡道。復有說者。不染著我亦不退。其餘如頂世第一法。緣苦苦法忍。是功用果世第一法。有何善利次第。得正決定。行四行。當言一心不退。其餘如忍生煖法時。若苦集道諦。現在一法念處。未來修四念處。現在行一行。未來修四行。取其同性。非不同性。若緣滅諦。現在一法念處。未來修一法念處。現在一行。未來四行。增長煖法。以下增長中。以中增長上時。若緣苦集道諦。現在四念處。展轉現在前。未來四。現在一行。未來十六。若緣滅諦。現在法念處。未來四。現在一行。未來十六。問曰。以何等故。初生煖法時。未來同性者。修非不同性。增長煖時。未來同性。不同性修。答曰。*初生時。以行觀諦。未曾得彼種而得。增長時。以行觀諦。已曾得彼種而得。是以具修。初

生頂時。緣苦集滅道。現在一法念處。未來四。現在一行。未來十六。增長時。下增長中。中增長上。若緣苦集道諦。四念處展轉現在前。未來四。現在一行。未來十六。若緣滅諦。現在一法念處。未來四。現在一行。未來十六。初生忍。及增長時。現在一法念處。未來四。現在一行。未來十六。尊者瞿沙說曰。初忍時。若緣苦集道諦。現在一法念處。未來四。現在一行。未來四。同性修不異性。若緣滅諦。現在一法念處。未來亦一法念處。現在一行。未來四。同性修不異性。若增長時。緣苦集道諦。四念處展轉現在前。未來四。現在一行。未來十六。若緣滅諦。現在一法念處。未來四。現在一行。未來十六。評曰。彼不應作是說。如前說者好。

問曰。以何等故忍一切時。法念處現在前耶。答曰。如見諦道一切時法念處現在前。忍亦相似。問曰。如增長忍時。盡修十六行耶。答曰。不也。如漸除所緣行亦如是。若緣四諦有十六行。若緣三諦有十二行。若緣二諦有八行。若緣一諦有四行。通一忍生勢則有十六。問曰。以何等故。增長忍時。或十六或十二。或八或四行修。答曰。漸除所緣漸除所行。轉近得正決定。是以或時修十六行。乃至四行。生世第一法時。現在一法念處。未來四。現在一行。未來四。問曰。如世第一法曾得彼種。以行觀諦。何以故。同性行修不異性耶。答曰。隨彼所得。即此法修。如人裸形無衣可奪。彼亦如是。復有說者。世第一法。最近見道。如見道中不修餘行。唯修同性。世第一法亦復如是。問

曰。若生煖乃至忍時。為常相續。為不相續。答曰。或有說者。言常相續緣於四諦。如見道中十五心常相續現在前。彼煖法生時。常相續緣四真諦。復有說者。此義不定。或相續或不相續。或有煖緣苦而止者。或緣集滅道而止者。

問曰。為正觀思惟。何法次能生煖耶。答曰。是色界修。地定地心。有厭離有惡賤有渴仰。有不隨順生勢不樂。有如此正思惟時。次能生煖。煖次生頂。頂次生忍。忍次生世第一法。世第一法次得正決定。問曰。若離欲者可爾。不離欲者云何。答曰。不離欲者。彼亦可爾。有欲界思慧正觀思惟緣苦行。苦行次第生煖法。餘如上說。

問曰。諸前身生煖法。未生頂法。彼便命終。於此生中。欲生頂法。為即生頂法。為還起煖法耶。答曰。或有說者。若從師順次聞頂法。即從頂去。若師不為說。還從根本起。問曰。若然者。何以言煖次生頂。頂次生忍。忍次生世第一法。答曰。作如是說者。謂一身中次第生者。若前身中。曾得煖法。從根本起者也。問曰。若前身曾得煖法。於此生中。欲生頂法。作何正觀思惟。答曰。如煖正觀思惟。頂亦復爾。如生頂生忍。亦爾。問曰。若生煖法為離欲不。答曰。或有說者。不為離欲。所以者何。彼行者愛樂寧生頂法。不起有頂中忍。復有說者。若彼行者。自知有力能生頂者。即便生頂。自知無力不能生頂。欲得離欲。所以者何。若得離欲我生處轉勝。

◎(緣)一◎◎(初)一◎◎* ◎◎卷第四終◎◎ ◎◎卷第五雜難度世第一法品之五首◎◎◎◎卷第五雜難度世第一法品第一之五首◎◎。造號釋號譯號同異如首卷

問曰若依根本地。生達分善根爲有退不。答曰。或有說者。煇頂有退。忍則不退。何以故。此善根是不退法故。評曰。彼不應作是說。何以故。若依根本地生達分善根者。卽於現身。得正決定。何以故。此諸善根。盡爲生聖道故。若依未至。此則不定。

問曰若依未至禪。生煇法。亦生頂忍世第一法。得正決定耶。答曰。或有說者。若依未至禪。生煇法。乃至生世第一法。得正決定。初禪乃至第四禪亦如是。復有說者。若依未至禪生煇法。次生初禪。煇頂。忍世第一法。得正決定。禪中間二禪三禪四禪亦如是。復有說者。若依未至禪。生於煇頂。次生初禪。頂忍世第一法。得正決定。禪中間二禪三禪四禪亦如是。復有說者。若依未至禪。生煇頂忍。次生初禪。忍世第一法。得正決定。乃至第四禪亦如是。此則說聲聞次第法。問曰。菩薩云何。答曰。菩薩依第四禪生煇法。乃至生世第一法。得正決定。復有說者。菩薩依初禪。生煇法。頂忍世第一法。得正決定。問曰。如達分善根中。不應次生下上。不應次生中下。云何菩薩而能生耶。答曰。自地不能。他地則能。復有說者。欲離如是過。當作是說。若依初禪。生煇法。乃至第四禪。若依初禪生頂法。乃至第四禪。若依初禪生忍法。乃至第四禪。次生世第一法。得正決定。評曰。不應作是說。如前說者好。所以者何。一切菩薩盡依第四禪生煇法。乃至生世第一法。得正決定。故。問曰。辟支佛復

云何。答曰。辟支佛獨出世者。當知如佛。若衆多出世者。此則不定。與聲聞同。如渴伽。狩獨生一角。彼亦如是。獨出世者。當知如佛。

問曰。菩薩前身爲會生達分善根不耶。答曰。或有說者。會生爲障惡道故。菩薩九十一劫。不墮惡道者。是達分善根之力。此是他性達分善根。非是己性。評曰。不應作是說。應作是說。菩薩不會生達分善根。所以者何。一切菩薩所有善根。不經歷世。菩提樹下。一結。加趺坐。生不淨觀。乃至盡智。問曰。菩薩九十一劫。不墮惡道。此豈非忍力耶。答曰。不必以達分善根能障惡道。或以施力。或以戒力。或以不淨。或以安般。或以聞慧。或以思慧。或以煇頂後。乃以忍。尊者佛陀提婆說曰。障於惡道。非不因知緣起法。其義云何。彼作是說。覺知緣起法。卽是無漏道。非無漏道力不能障惡道。評曰。不應作是說。如先說者好。所以者何。菩薩若行布施。亦以戒以慧。若行戒時。亦以施以慧。若行慧時。亦以施以戒。以是因緣。能障那由他惡道。況十處惡道耶。聲聞辟支佛。所有煇頂。菩薩盡能起。以障惡道。唯不起忍。所以者何。忍與惡道相妨。菩薩於三阿僧祇劫。在生死中。以願力故。生惡道中。此中應說魚因緣。復有說者。起聲聞辟支佛忍。以障惡道。不起菩薩忍。所以者何。於得道身大玄遠故。求辟支佛人。以生辟支佛忍。不能生佛種忍。以近辟支佛道故。復有說者。求辟支佛人。能起佛種忍。評曰。不應作是說。應作是說。求辟支佛人。不能起佛種忍。問曰。得忍

凡夫命終時。爲捨忍不。若捨者何。故不生惡道。若捨者何。故凡夫捨聖人不捨。若不捨者。行。捷度四大。捷度何故不說耶。如說。若成就身。彼成就身業。乃至廣說。答曰。或有說者。捨。問曰。若捨者。何以不生惡道。答曰。或有說者。彼善根勢力能爾。雖捨不墮惡道。自有善根雖成就。不障惡道。況不成就。所謂生處得善。自有善根。雖不成就。能障惡道。況復成就。所謂忍也。是故彼善根勢力能障惡道。復有說者。彼善根勢力。能令身中墮惡道。煩惱業極令遠離於此身中。更不復行。若其不行。何由得墮惡道耶。如人秋時服於下藥。藥亦不住彼人身中。或有與病俱出。或身中自消。而能除去病患。永使不起。如是彼善根勢力。令墮惡道。諸煩惱業。永更不起。復有說者。此善根會在彼身中。如師子住處在彼身中。雖不成就。勤著之力。能令惡道諸煩惱業。更不復行。況墮惡道。猶如師子所住之處。師子若行不在其餘小。狩。無能到者。何況在時。復有說者。彼善根住此身中。猶如舊住。諸惡道煩惱業。住此身中。其猶如客。舊住力強。客則不如。復有說者。行者有二種期心。一者期心遠離諸惡。二者期心深著善法。以有此二期心故。不墮惡道。是故尊者瞿沙說。彼行者有如是期心。有如是欲如是忍如是可如是意如是敬如是愛如是樂復有說者。彼惡道已得非數緣滅。諸法已得非數緣滅。終不現前。復有說者。彼行者墮法雨駛流河中。不容作餘惡道之業。是以不墮惡道。復有說者。依倚

●忍二思● ●持二獸● ●加二強● ●許二問● ●此二以● ●地二健● ●變二端● ●下問 ●勤二煎● ●深二染●

聖道故。彼行者依倚聖道。使此身中惡道煩惱業。不現在前。況墮惡道。猶如有人畏於怨家。依倚於王。而彼怨家。猶尚不能正面視之。何況加害。復有說者。彼行者以此善根。於自身中。以守護聖道所住處故。猶如王人先守護王所住之地。一切人民不敢復住。復有說者。彼善根決定作人天處故。若作決定處業。必生彼處。猶如貴勝之座處所。以定。不應復更坐於餘坐。如是彼善根所住處。定亦復如是。復有說者。彼行者以正方便。令彼惡道諸煩惱業更不復行。何況生於惡道。復有說者。彼行者見惡行過患。見善行利益。是故不作惡行墮惡道中。復有說者。有善好期心。在此身中。不作惡行墮惡道中。復有說者。以心柔軟故。隨順趣涅槃故。以信根深牢固故。是以不作惡行墮於惡道問曰。若捨者。何以凡夫捨聖人不捨耶。答曰。彼凡夫人。無聖道對治力以自持御。雖有對治道以自持御。此道羸劣。不堅固久住。是以命終時捨。聖人身上。有無漏對治道以自持御。彼以無漏定力牢固久住。是以命終時不捨。此中應說合衆。采喻。復有說者不捨。問曰。若不捨者。業難度四大難度。何以不說耶。答曰。或有說者。彼中應說。而不說者。當知此義是有餘之說。復有說者。彼業難度中。亦說在第三句中。說聖人在胎是也。聖人有二種。有名數聖人。實義聖人。得達分善根者。謂名數聖人。得正決定者。謂實義聖人。是故彼亦說之。若人有一出家之心。猶得名為聖弟子。何況得達分善根者

也。復有說者。或有捨者。有不捨者。誰不捨耶。於此善根。常勸方便故。作方便一切時作方便。善受持善修習者不捨。與上相違捨。如所聞。若於善根。常勸方便。乃至善修習者。雖經生死。而常不捨。如彌多羅達子初生之時。便作是言。結有二種。乃至廣說。如先所聞。若於善根。不勸方便。乃至不善修習於此身中。雖得速捨。如是當知有捨不捨。評曰。如實義者。凡夫人依彼地。生達分善根猶有捨者。何況生於他地

問曰。達分善根言得報所謂色界五陰。為作彼身初業不。答曰。或有說者。不作初業。所以者何。彼似無漏道。憎惡受生故。餘業作初業。彼達分善根。唯作滿業。然後受報。復有說者。亦作初業。得身報妙好。隨順行道

此媛等善根。有七十三種。其事云何。欲界有十種。所謂一具縛凡夫。二除一品結。乃至九品盡者。初禪有九。或有除一品結。乃至九品初禪無具縛人。即欲界說故。如是乃至無所有處。有九種頂忍世第一法亦如是。問曰。具縛凡夫。所得煖法。除一品結。乃至九品為一種耶。答曰。不也。具縛凡夫異除一品結異。乃至九品異

問曰。若退煖法。還生煖法。為本得得不。答曰。不也。所以者何。彼不數數得用功而得。不前後相似故。如捨波羅提木。又戒後更受。非本得得彼亦如是。如煖頂亦爾。問曰。增長煖時。煖增長已。還起初者不。答曰。不也。所以者何。得勝進善根。前所得者。無可欣尚頂忍亦

如是

問曰。為於何處生此善根耶。答曰。欲界人中。謂三天下。非躡單越。問曰。欲界六天不能生耶。答曰。不能。初生已曾生者。能起現在前所以者何。若有好身。亦有隨順厭患。正觀彼處。則能生媛。此三天下。具有此二。問曰。若有好身。則諸天勝人。若取隨順厭患正觀。則惡道勝。答曰。如先說俱有者。能天與惡道不俱有。故。是以不能。問曰。煖法亦依男身。亦依女身。若依女身得於煖法。復得自身中男子所依煖法耶。答曰。得如是當知。頂忍亦爾。問曰。若依男身。得於煖法。復得自身中女人所依煖法耶。答曰。不得頂忍亦如是。黃門般吒有男形不能。有女形不能。無形二形。不能生煖等四善方便法

慧有三種。聞慧思慧修慧。答曰。或有師略說十八界十二入五陰。復有善誦修多羅毘尼阿毘曇生厭惱心。彼作是說。三藏所說要者。唯是十八界十二入五陰。彼即觀察界觀察界已。復作三種。所謂名體性總相。名者謂眼界乃至法界。體性者謂別相。總相者謂無常苦空無我。如是觀時。修習此智。轉得定意。於此界中。生厭惱想。復。略觀十二入。眼界即是眼入。乃至觸界即是觸入。七識界即是意入。法界即是法入。又略入觀陰。彼觀十色入及法入中造色。即是色陰。意入即是識陰。法入即是三陰。又略陰即是四念處色陰即是身念處。受陰即是受念處。識陰即是心念處。想陰行陰。即是法念處。又略陰觀諸五陰

◎以二已◎ ◎采二彩◎ ◎如十(先)◎ ◎[有男...女]十二字一◎ ◎女十(也)◎ ◎略十(界)◎

果是苦諦。諸五陰因是集諦。五陰滅是滅諦。學無學法。是道諦。彼諦復作三種名。體性總相者。謂是苦。乃至道。體性者。謂別相。別相者。逼迫行義。是苦義。乃至出要行義。是道義。總相者。苦有四行。無常苦空無我。集有四行。因集有緣。滅有四行。滅止妙離。道有四行。道如迹乘。修習此智。轉得定意時。如見彼諦時。彼亦次第觀別。欲界苦作異相別。色無色界苦乃至別斷。欲界行道亦別。乃至色無色界行道。當於爾時觀諦。猶如觀。疊外物。作如是觀時。是名聞慧滿足。如是展轉修習。次生思慧。轉進修習。次生修慧。能行聖行。如是觀時。是名煥法。如是展轉增長。次生頂。頂次生忍。忍次生世第一法。次生苦法忍。斷見苦所斷十使。次生苦法智。如是次生道比智。得須陀洹果。次第乃至盡智。是名諸善根生次第生法。

善根有三種。一福分善根。二解脫分善根。三達分善根。福分善根者。謂能作生天種子。若在人中生豪貴家。有大威勢。多饒財寶。眷屬成就。顏貌端嚴。能作轉輪聖王。帝釋魔王。梵王種子。解脫分善根者。謂能作解脫種子。決定不退因。必至涅槃。達分善根者。謂煥法。乃至世第一法。問曰。解脫分善根。於何處種耶。答曰。於欲界中。非色界。欲界中人道。非餘道。人道中在三天下。非躡單越。佛出世時。非無佛時。復有說者。若無佛時。遇辟支佛。亦種解脫分善根。體性是何。答曰。若身業口業意業。但意業偏多。為是五識身。為是意地。答曰。是

意地。非五識身。為是方便善。為是生得善。答曰。亦是方便善。亦是生得善。為是聞慧。為是思慧。為是修慧。答曰。是聞慧。思慧。非修慧。為以何事種此善根。答曰。或以布施。或以持戒。或以多聞。而不必定。所以者何。有人以一揣食施。能種解脫分善根。自有能作長齋。般遮于瑟。而不能種解脫分善根。或有持一日齋。能種解脫分善根。自有終身持戒。而不能種解脫分善根。或有誦持一偈。能種解脫分善根。自有善通三藏文義。而不能種解脫分善根。是故不定。何以故。或有種者。有不種者。若以此事。迴向解脫涅槃。欲永離生死。有如是勇猛心者。是則能種。若不為迴向解脫涅槃。永離生死。雖多布施。終身持戒。廣學多聞。而不能種解脫分善根。有近有遠。近者前身中種。此身成熟。來身解脫。遠者。曾種解脫分善根。經那由他世受身。而不能生達分善根。聲聞所得解脫分善根。可迴向趣辟支佛。辟支佛所得解脫分善根。亦可迴向趣佛。佛所種解脫分善根。不可迴轉。

問曰。有生滅觀。彼以何為方便耶。答曰。彼行者見春時草木青色。如紺琉璃。見河駛流。浮沫著岸。見已作是思惟。此諸外法。今已復生。若入城邑聚落。見諸男女歌舞戲笑。而問之言。何以故爾。答言。此中生男。生女。彼復思惟。如此內法。今已復生。彼行者。於後秋時。見諸草木。為秋日所曝。冷風所吹。被諸霜露。枝葉零落。河水枯涸。彼復思惟。如此外法。今已復滅。若入城邑聚落。見諸男女鬢髮舉手。嗥咷

啼哭。而問之言。何以故爾。答言。此中男女死喪。彼復思惟。此中內法。今已復滅。彼行者深見。如此相已。還所住處。自觀己身。有少壯老無常之相。次第觀於歲月日時晝夜。相續是名方便。於此諸時展轉除滅。乃至觀陰二剎那。一生一滅。是名生滅觀。問曰。此生滅觀。為虛想觀。為實觀耶。若是虛想觀者。此偈云何通如說。

若有知見能盡漏

若無知見云何盡

若能觀陰生滅者

是則解脫煩惱心

非以虛想觀能斷煩惱。若當非實觀者。應不見諸行有來去相。而諸行實無來去。或有作論者。說是虛想觀。問曰。若爾者。此偈云何通。答曰。有轉轉因。故。是以說彼轉轉相生。猶子孫法。其事云何。虛想觀能生實想觀。實想觀能斷煩惱。是故說轉轉因。如子孫法。復有說者。是實想觀。問曰。若然者。諸行無來去。然彼行者。見於來去。答曰。若生滅觀。未滿足時。便見諸行有來去相。若其滿足。見諸行無來去相。猶如小兒弄於獨樂。旋速則見。如住旋遲。則見來去。陶家輪喻。亦復如是。

問曰。為以一心見生滅。為二心一見生一見滅耶。若以一心見生滅者。云何一心而有二慮。若有二慮。破一心義。復云何見為以見生時。復見滅耶。見滅滅時。復見生耶。若見生時。復見生者。是則為正。若見生時。復見滅者。是則為邪。若見滅滅時。復見滅者。是則為正。若見滅滅時。復見生者。是則為邪。若當一心見生。一心見滅者。則無生滅觀。答曰。應

●(彼)十修● ●星一觀● ●至十(生)● ●解一觀● ●滅一滅● ●(不)一●

中如血在身中。問曰：如受是我，色是具可爾色。能受細故。如說色是我受是具。云何見色。入細受中。尊者波奢說曰：不應責盲人墮坑。亦不應問無明者。復有說者：彼見色是我受是具者。彼人見受色細。是以見色住於受中。尊者和須蜜說曰：此四大身中。盡能覺觸。有所觸處。則能生受。以受處處生故。言色裏在受中。尊者佛陀提婆說曰：彼見受遍在身中。從足至頭無不有受處。然計色是我。不遍在身。是故彼見色住在受中。

問曰：以何等故。我見說二十種。其餘諸見不說耶。答曰：或有說者。彼作經者意欲爾乃至廣說。復有說者。此為現初起初方便初法。如說身見有二十種。戒取應有四十種。邪見見取應各有八十種。應說而不說者。此義是有餘之說。復有說者。為對治我見故。佛說十種空。十種空者。所謂內空。外空。內外空。有為空。無為空。第一義空。無所行空。無始空。性空。空空。此十種空。與何法相對。與我見相對。以空與我見相對。故有二十種我見。餘見不爾是故不說。

問曰：頗於一陰。起我見我所見耶。答曰：起如於眼入起我見。其餘諸色。起我所見。餘四陰亦如是。問曰：頗有我見者。一時於五陰盡計我不耶。若有者。朔迦書云何通如說。唯有一我見。無有五我見。無五我見者。無計五陰是我者是也。所以者何。計我見。唯計一法。五陰是別異法。計我見家。說一我一人無分不壞不變是常。若無者。薩遮尼乾子經云何通。如

說瞿曇沙門色是我受想行識是我。答曰：無有一時計五陰是我者。問曰：若然者。薩遮尼乾子經云何通耶。答曰：彼自大心重故。作如是說。復有說者。彼不信佛。內有知見。欲試如來。彼為知不。故作不順理說。次見如來。諸論議相。頗如師子。鉤牙銛利。口四十齒。出梵音聲。彼人聞已。心懷怖懼。作不順理說。復有說者。彼人見如來威德。勝於梵釋。難近難親。有如是威德故。作不順理說。復有說者。天神威逼故。令彼人作不順理說。復有信佛天神。作如是念。此弊惡人。何以久惱如來。故以威逼能令彼人作不順理說。復有說者。或有一時計五陰為我。問曰：若然者。朔迦書所說云何通。答曰：彼人於此五陰。盡作一具聚相。問曰：若然者。復以何為具。答曰：若計內入為我。則以外入為具。若計外入為我。則以內入為具。問曰：為有見微塵計以為我不。若有者。是則無我見。非是我見。若無者。朔迦書復云何通。如說五大微塵雖各異相。是我是常。若言無常是則無理。問曰：彼書云何通我見見微塵。答曰：此書說邊見緣微塵。此義已立。當知我見緣微塵。此義亦立。答曰：無有見微塵計以為我。問曰：若然者。朔迦書復云何通。答曰：此書所說不順正。法理。復有說者。有見微塵計以為我。有推理見義無實見生時義。評曰：不應作是說。如前說者好。

問曰：五陰之外。為有起我見者不。若有者。此經云何通。如說若有沙門婆羅門。起於我見。盡見五受陰。若無者。說第六我見。復云何有。答曰：無有五陰之外。起於我見。問曰：若然者。第六我見云何而有。答曰：思是行陰。於思起我。見其餘行陰起於我所見。即是第六我見。佛經說身見是六十二見根本。餘經復說。若有沙門婆羅門。所起諸見。盡依二邊。若斷若常。此二經有何差別。答曰：云何能生諸見故。說身見為本。守護長養諸見故。是說邊見。復有說者。能生諸見。是說身見為根本。使諸見轉行是說邊見。

復有經說。若入地一切處定行者。作是念。地即是我。我即是地。不離不異。餘一切處亦如是。問曰：諸得一切處定。必離第三禪欲。彼若見地是我。當知是第四禪地身見。見第四禪中地為我。一切處定法緣欲界。彼云何不。相違耶。答曰：此中不定說定。如非沙門說名沙門。復有說者。以本名說故。如王失位。猶名為王。行者本曾得此定。後雖失時。猶稱得定。復有說者。行者於定速疾。故失。於彼定起欲界身見。捨於身見。還得彼定。如提婆達多。於定速疾。以神足力。自化己身。作太子像。於阿闍世王抱上。迴轉遊戲。復現相貌。令阿闍世王知是尊者。提婆達多。當作太子像時。阿闍世王抱弄鳴之。唾其口中。貪利養故。即便咽之。是以世尊而語之言。汝是死尸食唾之人。若咽唾時。彼非離欲。若作太子。為阿闍世王所抱弄時。爾時離欲。復有說者。身見見第四禪中地是我。一切處定。亦緣第四禪中地。問曰：若然者。一切處定。不緣欲界耶。答曰：一切處定。亦緣欲界。亦緣第四禪。問曰：如色

領二領(法)一(云何)一(根)十本(卷)第五終(卷)第六雜度世第一法品之六首(第六雜度世第一法品第一之六首)造號譯號譯號阿異如首卷(二)禪十(中地)(中)

界諸天一切悉白。彼復云何見青黃赤等差別。答曰。彼衆生數者。其色悉白。非衆生數有青黃赤色。評曰。不應作是說。所以者何。若我見與一切處定。是相應共有法者。應有是過。云何是一切相應共有法。少緣欲界。少緣色界。身見與一切處定。雖非相應共有法。而一人亦得二名。以計我故名爲身見。以得定故名得定人。身見緣第四禪中地。一切處定緣於欲界。不同一時。是故此論爲已善通。

無常見常。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。此諸邪見於生死中。爲諸衆生作大繫縛。作大衰患作大藏伏。猶如世間繫縛衰患藏伏人。若不見不能遠避人。若見時則能遠避。此諸邪見。乃至廣說。亦復如是。此中應以二事推求邪見。一以體性。二以對治。如智。體度見體度。如增益智論。彼中亦以二事。推求邪見。一體性。二對治。如增益智論中說。沙門瞿曇汝是幻。世尊之道已過於幻。此邪見謗道是其體性。見道斷是其對治。復作是說。此是阿羅漢。汝何故慳惜阿羅漢名也。世尊之道已過於慳。此邪見謗道是其體性。見道斷是其對治。如偈問論如梵網經說。應以起處推求邪見。便有三事所謂起處體性對治。復有說者。不應推求邪見三事。所謂起處體性對治。若推求邪見。如責無明。汝何以愚。復有說者。應以三事推求邪見。所謂起處體性對治。若能以三事。推求邪見。雖是具縛凡夫。邪見過患不現在前。猶如聖人以無漏道斷諸邪見。永不復起。如陀婆法師昔在罽賓。與衆多

修行比丘。共會一處。論說諸見。有作是言者。諸大德。聖人能斷多諸過患。邪見惡行永不現前。甚爲希有。爾時陀婆法師在此會中。而作是言。聖人以無漏道斷諸邪見。永不現前。有何奇事。如我今者住凡夫地。以此二事。推求邪見。若久住生死者。無有是處。設久住生死。更不現前。以是緣故。應以三事推求邪見。無常有常見者。云何無常。答曰。一切有爲法。問曰。彼諸外道爲以何事言常耶。答曰。見色相似相續。諸心法憶本所作。能誦持。諸論云何見色相似相續。如昨日所見色今日相似。彼作是念。童幼時色。即老時色。云何心法憶本所作。如昨日所作今日故憶。如是諸先所作。後時皆憶。能誦持經論者。如少所讀。至老能誦。彼作是念。今日誦心。即往日讀心。彼以是故計常。無常計常是邊見。邊見有二種。有斷有常。是則說邊見。體性見苦斷。是其對治。此見緣苦而生。故見苦斷。如草上露日照乾。彼亦如是。若見苦時。彼見則斷。復有說者。苦法忍苦法智。是其對治。苦法忍苦法智生時。斷此虛妄分別顛倒險惡斷見。問曰。如善說法中。亦說諸法。有自體性相常住。而不是邪見。何故惡說法中。若說此相便是邪見。答曰。或有說者。善說法雖說有自體性相常住。住無所作。惡說法中。於一切時。常有所作。復有說者。善說法中。說法性不數數作。惡說法中。說於法性。則數數作。復有說者。善說法中。說於法性。爲生所生。爲老所老。爲無常所壞。惡說法中。不爲生所生。乃至廣說。復

有說者。善說法中。說法性屬諸因緣。彼所說法。不屬因緣。復有說者。善說法。所說則與生滅相應。彼則不爾。復有說者。善說法中說法。則從因生。能有所作。屬於衆緣。以是諸因緣故。善說法。雖說體性常住。不墮邪見。惡說法者。墮於邪見。問曰。邊見是何義。答曰。取於斷邊。取於常邊。是邊見義。如經說。佛告迦旃延。若以正智。觀世是集。言無所有。則更不行。無所有者。即斷見也。見此有滅。未來身生。而作是念。是衆生死此生彼。非是斷耶。又迦旃延。若以正智。觀世是滅。言世有所有。則更不行。言世有所有者。則是常見。知此陰界諸入展轉相續。彼作是念。此諸法等。有生有滅。非是常也。復次起我見者。猶是邊僻下賤。世所呵責。沉復於我。計有斷常。復有說者。此見行邊處。故有二種義。名行邊處。一行常邊。二行斷邊。以是等義。故名邊見。問曰。實義常者。是滅盡涅槃。云何無常見常。不名邪見。答曰。諸言無所有。是名邪見。此則不言無所有。更增益所有。是故非邪見。常見無常者。云何爲常。答曰。滅盡涅槃。問曰。彼諸外道爲以何事言涅槃無常。答曰。彼以四無色定。爲解脫涅槃。一名無身。二名無邊意。三名淨聚。四名世塔。無身者是空處定。無邊意是識處定。淨聚是無所有處定。世塔是非想非非想處定。彼作是說。如此涅槃雖久當還。當知釋種所說涅槃。亦當復還。是以故言涅槃無常。彼常見無常者。此是邪見。是其自性。見滅所斷。是其對治。此見因滅生故。

●雙一健●下同 ●精一經● (若)十苦● ●住十(而)● ●耶一也●

故見滅斷。如草上露。乃至廣說。問曰。爲有邪見。能觀是無常行不。若有者。彼伽羅那經云。何通。如說云。何邪見使使。答曰。諸謗無因無作。是名邪見使。此中何以不說。若無者。此文復云何通。如說常見無常。此是邪見。見滅所斷。答曰。有此邪見常見無常。問曰。若然者。波伽羅那經何以不說耶。答曰。彼說邪見。行相不盡。自有諸結行相。彼中不盡說。復有說者。雖有此見。悉入彼所說中。如謗言無因。當知謗集。如謗言無作。當知謗於三諦。復有說者。謗言無因。是說謗於三諦。謗言無作。是說謗於滅諦。復有說者。無有邪見。能謗言無常。問曰。若然者。此文復云何通。答曰。涅槃有常相。若言無涅槃。亦謗常相。猶如有人。謗人無指。亦謗指所依色香味觸。彼亦如是。復有說者。彼外道言。五陰是常。釋種言。涅槃是常。非陰。彼作是說。除陰之外。更無有常。以是義故。豈非謗涅槃耶。

苦作樂見者。乃至廣說。云何爲苦。五。受陰是實苦。彼諸外道。以何等故。言苦是樂。答曰。以少時樂故。言樂。如人極時止息爲樂。熱時涼爲樂。寒時煖爲樂。飢渴時得飲食爲樂。以是事故。言陰是樂。如說以下法爲最。名曰見取。是其自性見苦斷。是其對治。問曰。苦有樂見。名曰見取。以何等故。無常見常。不名見取。答曰。彼無常。常見者。勝不勝法。同爲一體。自有法雖言常不勝。如計虛空非數緣滅。苦有樂見。以下法爲最。名爲見取。無常見常。不名見取。復有說者。陰中有大苦故。以小苦

爲樂。以此小樂同於涅槃。故名見取。無常見常。陰中無有少常同於常者。所以者何。一刹那頃。更無停住。是散滅法。如說云。何滅時法。答曰。現在法。以是事故。無常見常。是名邊見。不名見取。

樂有苦見者。乃至廣說。云何爲樂實義。樂者滅盡涅槃。彼諸外道以何等故。以涅槃爲苦。答曰。如人壞一根時。便以爲苦。彼作是念。若壞一根。猶以爲苦。況衆多根。以是事故。以樂法爲苦。尊者須蜜說曰。若一根在。猶爲苦因。況多根在。不爲苦因。若諸根滅。則爲解脫。涅槃樂有苦見。邪見。是其體性見滅斷。是其對治。此見依滅生還見滅斷。如草上露。乃至廣說。問曰。以何等故。見涅槃是苦。名爲邪見。非見道諦耶。如說道諦亦是樂。能至樂故。答曰。道有二分。苦分樂分。以道能至樂處。故名爲樂分。無常故。苦分爲苦分。涅槃無二分純樂。謗者即是邪見道諦不爾。復有說者。如見麤度所說。有二種樂。一名數樂。二實義樂。上言能至樂處者。是名數樂。非實義樂。復次以涅槃樂故。道得稱樂。問曰。爲有邪見能緣涅槃。是苦不耶。若有者。波伽羅那經云。何通。如說云。何邪見使使。答曰。諸謗無因無作。乃至廣說。應如上常計無常句中說。不淨見淨者。云何不淨。答曰。一切有漏法有二事故不淨。一以煩惱。二以境界。彼諸外道。以何事故不淨見淨。答曰。愚於所行。以少時淨故。如治爪齒髮膚形容摩身洗浴等。以是事故。彼見是淨。若此法中。有少淨性者。彼計

則非邪見。以顛倒想故。計屎尿腸胃等是淨。故名爲見取。復應以二事知有漏行是不淨法。一從煩惱生。二從婬欲生。如說以下法爲最。此名見取。是其自性。見苦所斷。是其對治。乃至廣說。問曰。現見屎尿。涕唾流出。彼云何言淨。答曰。彼作是說。所流出者雖是不淨。彼流出處是淨。猶如緊首迦樹花。其色似肉花盛之時。野干見之。便作是念。如我今者。定當食肉。久住樹下。或時樹花有墮地者。即便嗅之。乃知非肉。復作是念。墮者雖非是肉。樹上餘者必應是肉。彼諸外道亦復如是。所流出者雖非是淨。所流出處必應是淨。問曰。如善說法中。亦說有漏善行是淨。而非邪見。彼說即是邪見。答曰。有少淨相。便見少淨。問曰。何等是淨相。答曰。不雜煩惱。復與煩惱相遠。是故非是邪見。彼惡說法中。以不淨法。同於實義清淨之法。是名邪見。復有說者。如善說法中。以善行爲淨。故非邪見。彼以善不善行不善根煩惱顛倒邪見是淨。故名邪見。問曰。如有漏法。雜煩惱故。當知不淨。云何說言三淨。答曰。如實義。一切有漏法盡是不淨。以假名故說淨。云何假名。從無貪無恚無癡善根生故。亦能對治貪欲等法。故名假名。淨見不淨者。此見有二種。乃至廣說。云何爲淨。答曰。道道果。彼諸外道以何事故言滅道不淨。答曰。彼作是說。如實義諸煩惱是不淨法。道能斷之。以道能斷諸煩惱。故道亦不淨。以涅槃從不淨道生故。亦是不淨。猶如以刀割不淨物。刀則不淨。以不淨刀更割餘物。能

●受二愛● ●常見二見常● ●(此名)十邪● ●第一淨● ●雜二離●

令餘物不淨。又如水洗不淨物水則不淨。若以此水更洗餘物則不淨。如是以道斷諸煩惱道則不淨。若以此道。生於涅槃亦是不淨。言道是不淨。此見名邪見。是其自性。見道斷。是其對治。若言滅是不淨。此見名邪見。是其自性。見滅斷。是其對治。見道斷邪見。緣道生故。若道智道忍生時。斷見滅斷邪見亦如是。無我見我者。乃至廣說。云何無我。答曰。一切諸法無我。彼諸外道以何事故見我。答曰。愚於來去威儀法故。彼作是說。若無我者。誰來誰去。誰住誰坐。誰屈誰申耶。以有我故。能來去住坐屈申。復次若無我者。則無見聞嗅香知味覺觸憶念。以有此事必知有我。彼無我見我。此名身見。是其自性。見苦所斷。是其對治。此見緣苦生。乃至廣說。我有二種。一假名我。二計人我。若計假名我。則非邪見。若計人我。此則邪見。問曰。此中但說我見。何以不說我所見。答曰。我見是顛倒性。我所見非顛倒性。復有說者。我見是根本。若說我見。當知亦說我所見。復有說者。以有我見得有我所見。若說我見。當知亦說我所見。已見已所見亦如是。問曰。以何等故。不說我見無我。名為邪見。答曰。以無我故。復有說者。若我見無我是則正見。不名邪見。

非因見因。乃至廣說。問曰。彼云何非因見因。答曰。謬見因故。如農夫種殖秋大。獲實。彼作是言。此皆尸利夜天思陀夜天舍摩夜天恩之所與。若生男女。彼作是言。此皆難陀天難陀婆羅天之所與。若富貴者生男女。彼作

是言。此皆是毘紐天摩醯首羅天之所與。彼作如是謬見。於因非因計因。此名戒取。是其自性。見苦所斷。是其對治。此戒取緣苦生。故還見苦斷。問曰。無因見因。是亦名謬因。云何非邪見。答曰。尊者須蜜說。若謬無因。是名邪見。彼不言無因非因計因。故非邪見。有因無因見。乃至廣說。彼諸外道。以何事故。言無因耶。答曰。見內外所有諸物。有種種相。故。彼作是言。誰鑿河誰積山。誰織刺誰。采畫禽獸。故說是偈。

誰能造刺織。采畫諸禽獸。此皆無因作。世無自在者。彼有因無因見。此名邪見。是其自性。見集所斷。是其對治。此見緣集生。還見集斷。乃至廣說。問曰。以何等故。此中說謬因邪見見集所斷。見健度中說謬因邪見。當言見集見道斷。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。此中不說一切因義。彼說一切因義。復有說者。此中謬生果因。彼中說者。謬生果不生果因。若說涅槃無因。此豈非正見耶。復有說者。此中說謬苦因。彼中說謬苦不苦因。復有說者。此中無謬道因義。是故不說是謬道邪見。唯有謬集因義。是以說是謬集邪見。有作無見。乃至廣說。云何為有。答曰。四諦是也。彼諸外道。以何事故。言無諦耶。答曰。以有我見。故言無諦。彼作是說。我無有苦。是則謬苦。我無有因。是則謬集。我若無滅。是則謬滅。若無有滅。則無對治。如善法中。作如是言。此陰是苦。無我生信。苦心言有苦諦。此

苦有因生信。集心言有集諦。若苦有滅生信。滅心言有滅諦。滅若有對治生信。道心言有道諦。彼有作無見。此名邪見。是其自性。見苦集滅道所斷。是其對治。此見緣四諦生。還見四諦斷。乃至廣說。問曰。以何等故。邪見不緣虛空非數緣滅。答曰。或有說者。若法是陰。是陰因。是陰滅。是陰對治。邪見則緣虛空非數緣滅。非陰因滅對治。是以邪見不緣。復有說者。若法是苦。是苦因。是苦滅。是苦對治。邪見則緣虛空非數緣滅。與上相違。是故邪見不緣。復有說者。若法是煩惱。是出要。邪見則緣虛空非數緣滅。與上相違。是故不緣。復有說者。若法為無漏正見所緣。亦為邪見所緣。虛空非數緣滅。不為正見所緣。邪見亦不緣。如邪見正見明非明。智非智。決定疑信誹謗。當知亦如是。問曰。若言無虛空非數緣滅。此心為何所緣。答曰。即緣虛空非數緣滅名。所以者何。此無深重心。如謬煩惱出要法。問曰。為何智。答曰。此是思惟所斷。不隱沒無記邪智。有作無見者。有有三種。一相待有。二處所有。三實有。相待有者。因有故有。無因無故有。有處所有者。如此處有彼處無。實有者。此實有此實無。如苦實有。復有說者。有有二種。一物體有。二施設有。物體有者。謂五陰施設有者。謂男女等。謬苦有二種。一謬物體。二謬果。若謬集者。謬物體。謬因。若謬滅者。謬物體。不謬果。若謬道者。謬物體。不謬因。或有說者。亦謬因。無作有見。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。

① 滅二種 ② 復二種 ③ 采二彩 ④ 造二作 ⑤ 滅若二若苦 ⑥ 無十(也)

或有說者。應作是說。若無作有見。當言是身見。見苦所斷。復有說者。應作是說。無作有慧。所以者何。此非見性。復有說者。應作是說。此非是見。所以者何。五見不說故。而不說者。彼有何意。答曰。欲作問答故。如說無作有見。此是何見。是名為問。答曰。此非是見。是名為答。自有雖無是事。而有問答。如十門中。未知欲知根知根。已根無漏無為法亦問。幾使所使。此亦是問。答曰。不為使所使。此亦是答。如彼雖無是事。而有問答。此亦如是。無有是事。而作問答。無作有見。此是何見。答曰。此非是見。是邪智。問曰。云何邪智。答曰。或有說者。是思惟所斷。不隱沒無記法。如行正路作非路想。如行非路作正路想。如男作女想。女作男想。如是等想是也。復有說者。此智亦有隱沒無記。所謂與慢相應者。如彼梵天作如是說。我是大梵。諸梵中尊。我能造化。此是邪智。所以者何。無有住見諦所斷心。能作是言者。應作是說。如前說者好。是思惟所斷。不隱沒無記法。問曰。若然者。違智。捷度如說。云何邪智。謂染污慧。答曰。不與彼相違。所以者何。無知有二種。所謂實義假名。實義者。與無明使相應。是諸阿羅漢已斷盡。假名者。如見机謂是人等者。阿羅漢辟支佛亦有。唯有如來等正覺二事俱盡。有四倒所謂常樂淨我。為相似法所覆故。不知無常。為適意威儀法。所覆故。不知苦。為皮膚所覆故。不知不淨。為所作事覆故。不知無我。問曰。此四倒性。是何。答曰。是慧性。問

曰。若是慧者。此五見。幾是倒幾非倒。答曰。二見半是倒。二見半非倒。二見半是倒者。身見見取。及邊見所攝常見。二見半非倒者。邪見戒取。及邊見所攝斷見。問曰。以何等故。二見半是倒。二見半非耶。答曰。以三事故名倒。一轉行。二增益。三性倒。邪見斷見。雖轉行性倒。而非增益。所以者何。是壞物性故。戒取雖轉行。雖增益性。非是倒。所以者何。有少相似法故。亦說有色界道。能離欲界欲。有無色界道。能離色界欲。此是倒自體。是我是物是相。是分是性。已說自體所以。今當說以何等故名為倒。答曰。倒有所增故名倒。此四倒唯見苦斷。所以者何。緣苦生故。還見苦斷。復次此倒緣果生。還以見果慧斷。復次身見見苦所斷性是倒。若身見斷亦斷。復次苦龜。若於龜苦。有錯謬者。賢聖所呵。如人晝日錯謬。人之所呵。三諦微細。若於微細有錯謬者。不深呵責。如於夜中有脫失者。則世人不深呵責。復次行者已見苦。永無倒心。若當行者見苦。已不見集者。無有是處。為分別故。設見苦已。更不見餘諦。若問彼言。此陰為是常。為是無常。彼定。答。言。是無常。乃至無一刹那停住者。若問為是苦。為是樂。彼定。答。言。是苦。猶熱鐵丸。若問為淨。為不淨。彼定。答。言。是不淨。猶如糞聚。若問為有我。無我耶。彼定。答。言。無我。以無作者。無彼作者。無受者故。如草木糞掃等。

阿毘曇毘婆沙論卷第五
迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

◎雜。毘度智品第二
頗有一智知一切法耶。如此章及解章義。是中應廣說。優。波提舍。問曰。何以作此論。答曰。為止他義故。如摩訶僧祇部作如是說。自體能知自體。如燈是照性。能自照亦能照他。彼智亦爾。是智性。能自知亦能知他。曇摩掘部。作是說。智能知相應法。彌沙塞部。作是說。智能知共有法。彼作是說。智有二種。一時共生。一與心相應。一不與心相應。心相應智。知心不相應法。心不相應智。知心相應法。犢子部。作是說。人能知非智。為止如是諸異義故。而作此論。頗有一智知一切法耶。答曰。無也。若復有此智生一切諸法無我。此智何所不知耶。答曰。不知自體。是為便止摩訶僧祇意。不知相應。便止曇摩掘部意。不知共有。便止彌沙塞部意。以智知不以人知。便止犢子部意。此中作問作答。作難作通。如說頗有一智知一切法耶。此則是問。答曰。無也。此則是答。若復有此智生一切諸法無我。此智何所不知。此則是難。答曰。不知自體。不知相應。不知共有。此則是通。問曰。誰作此問。誰作此答。或有說者。毘婆闍婆提問。育多婆提答。如毘婆闍婆提問。育多婆提言。頗有一智知一切

◎門二問◎ ◎女二於◎ ◎捷二捷◎ ◎[所]一◎ ◎言二日◎ * ◎ ◎不分卷◎ ◎ (阿毘曇毘婆沙)十雜◎ ◎捷二捷◎ ◎二十(之一)◎ ◎波二婆◎ ◎智二知◎

法耶。有多婆提答無也。毘婆闍婆提復難。若此智生一切法無我。此智何所不知。有多婆提。作如是通。不知自體不知相應不知共有。復有說者。弟子問師答。復有說者。無有問者。無有答者。但作經者。有如是意。若有人問。頗有一智知一切法。我當答無也。彼復作此難。若此智生一切諸法無我。此智何所不知。我當答言。不知自體不知相應不知共有。此中說一智者。是一刹那智。是故說不知自體。乃至廣說。若作是說。此十智中。頗有一智知一切法耶。可作是答。有謂等智是也。如是九八七六五四三亦如是。若作是說。此二智中。頗有一智知一切法也。答曰。有謂等智也。頗即彼等智。能知一切法不。答曰。知。若一刹那頃。等智除自體相應共有。能知除一切法次第。二刹那生。能知前刹那等智及相應共有。是故等智二刹那頃。一智能知一切法。上言一智不知者。言一刹那一智。問曰。以何等故。自體不知自體。答曰。或有說者。諸法除自體於他有緣生義。自體於自體。無長無損。無害無利。無育養無壞。無增無減。無因無緣。無次第。復有說者。若自體知自體者。則與世間現喻相違。猶如指端不能自觸。如眼瞳黑不見自黑。如刀不自割。是故自體不知自體。復有說者。若自體知自體者。則無二處法。如世尊說。眼綠色生眼識。乃至意緣法生意識。復有說者。若自體知自體者。則無三等觸。如世尊說。眼綠色生眼識。是三等觸。然有此觸生。是以無有自體能知自體。復有說者。若自體知自

體者。則無邪見。若邪見能自知我是邪見。此則正見。不名邪見。復有說者。若自體知自體者。此智畢竟能自知。不能知他。然能知他。是故不知自體。復有說者。若自體知自體者。則無取所取。如取所取。智所知亦如是。復有說者。若自體知自體者。云何知耶。為知自體是自體。為知他體亦如知自體耶。為知他體是他體。為知自體亦如知他體耶。若知自體是自體。若知他體是他體。是則為正。若知自體如知他體。是則為邪。若此智生。能知自體亦知他體者。一智則有二作相。有二作相則有二智。有二智則有眾多自體。問曰。若自體不知自體者。摩訶僧祇喻云何通。答曰。此喻不必須通。所以者何。此喻非修多羅毘尼阿毘曇中說。不可以世俗現喻難賢聖法。賢聖所作法異世俗所作法。異若必欲通者。當云何通。答曰。應說其喻過。若喻有過。所喻法亦有過。云何喻有過。答曰。燈無根無心。非衆生數。彼智亦非根非心。非衆生數耶。復次燈衆微塵所成。彼智亦衆微塵所成耶。若不爾者。則不相似。復次如燈體性是照。不若是照性。復何所照。若體性非照。應當是闇。則無明性。為破闇故取燈。若燈體性是闇。則有大不相似過。以何等故。不知相應。答曰。同緣一法生故。是諸心心數法。同緣一法生。以同緣一法故。不能展轉相緣。如衆多人仰視虛空。不能展轉自相見。面彼亦如是。復次若慧緣自相應受。彼受為自緣為緣他。若自緣者。有上自緣之過。若緣他者。則不與慧共同一緣。

以何等故。不知共有法。答曰。以逼近故。如以銅鑊盛安闍那藥著於眼中。以逼近故。眼不得見。問曰。云何名共有法。答曰。彼迴轉身口業生住無常是也。西方沙門作如是說。云何共有法。慧生時所依陰身。是共有法。問曰。如汝所說。慧生時所依身。是共有法。若然者。眼識。生則不自見身。衆色差別。如眼識餘識亦爾。彼作是說。五識生時。能各自緣所依。意識不能。問曰。意能緣一切法。汝先言不能。是則不然。復次若慧生時所依身。是名共有法者。則有大過。何以知之。如苦忍生時。便於自身不得決定。是名於苦得少決定。彼作是言。若苦法忍。不盡決定。苦法智生。盡得決定。如道法忍。不盡決定。道法智生。盡得決定。彼亦如是者。彼不應作是說。所以者何。於道得決定時。異於苦得決定時。異。問曰。其事云何。答曰。如道諦所斷邪見。總誇一切道。欲令於道少分決定。無有是處。為分別故。設使於道少分決定。便能斷誘道邪見。何況盡決定。唯。除一刹那相應共有法。如身見或計色是我。乃至計識是我。若苦法忍生時。於所依身。不得正決定者。所緣身我見則不應斷。所以者何。以苦忍不見我見所緣身故。如身見於苦諦所斷煩惱為首。若其不斷。則餘結不斷。餘結不斷。則無於苦究竟得正決定。若於苦不得究竟正決定。於集滅道亦不得究竟正決定。以是事故。若苦法忍現在前。於所依身。亦見是苦得正決定。何以知之。如說苦法忍所緣。世第一法亦緣。彼世第一法。緣欲界五陰盡無有餘。

①法十(耶)② ③若二答④ ⑤也二耶⑥ ⑦體十(是則為正若知他體如知自體是則為邪)⑧ ⑨(異)一⑩ ⑪生十(時)⑫ ⑬除二餘⑭ ⑮卷第六終⑯

。頗有一識識一切法。乃至廣說。問曰。以何等故。智後次說識。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。此是經論舊法。如經說。長老摩訶拘。祁羅。往長老舍利弗所問。言。長老舍利弗。所言智者云何爲智。次作是問。所言識者云何爲識。乃至廣說。如波伽羅那論中說。云何。知法。次問云何識法。如此義等。先說智次說識。如尊者曇摩難提說。若以智以識。有所觀察。此事必定。彼作經者。亦隨順舊法。是以先說智次說識。復有說者。識即智。智即識。唯長一字。何者。闍那秦言智。毘闍那秦言識。長二字者所謂毘也。爲斷如是意欲說差別義故。先說智次說識。復有說者。以此俱是根本法故。增長法中識爲根本。寂滅法中智爲根本。復有說者。俱是元首法故。如說道品法中誰爲元首。所謂智也。生死法中誰爲元首。所謂識也。復有說者。此俱是依法故。如說依智不依識。亦說如行五根識。盡依意識。復有說者。若說智則說數法。所未說者唯是心。是故先說智次說心。復有說者。十二入中。二入能緣。所謂意入法入。若說智。即說法入。若說識。即說意入。復有說者。此六識各別行境界。如眼識識色。耳識識聲。鼻識識香。舌識識味。身識識觸。意識識法。爲止如是意欲說意識能緣一切法故。次智說識。復有說者。智總緣一切法。次智說識。復有說者。智能緣總相。相識唯緣別相。爲止彼人意欲說識能緣總相相故。次智說識。復有說者。智行相似不相似境界。識唯行相似境界。

爲止彼人意欲說識行相似不相似境界故。次智說識。復有說者。欲止憍子部意故。彼說智是道支。識是有。枝。彼依佛經。作如是說。識緣名色故。知是有。枝。云何聖道。所謂正見。乃至正定。是故說智是道支。爲止如是意欲說智識俱是有。枝。俱是道支。次智說識。復有說者。止譬喻者意。譬喻者說。智之與識。是次第生法。不一時生。爲止彼人意。故。作如是說。若此智生一切法無我。此智何所不知。此智必有相應識。便止彼人識智次第生意。故。如智能緣一切法無我。識亦如是。餘文如上說。頗有一識識一切法。此中亦有問有答。有難有通。應如智文說。如說有緣一切法無我行。問曰。此何處經中說。答曰。如偈說。

若能以智觀 一切行無我 能生厭苦心 是道得清淨

此偈當知說諸行無我。問曰。如說能生厭苦心。此云何能緣一切法。答曰。有說者。初半偈說一切法無我行。後半偈說緣苦諦行。復有說者。初半偈是觀行時。後半偈說。是見苦時。復有說者。此偈舉說緣苦時無我行。所以者何。無漏法非是可厭法。問曰。若然者。云何是緣一切法無我行。答曰。一切有二種。有少分一切。有一切一切。此中說少分一切。非一切一切餘經亦說一切皆熾然。無漏法不熾然。當知說少分一切。彼亦如是說少分一切。復有說者。餘經亦說。一切行無常。一切行無我。涅槃寂靜。此經即說一切法無我行。評曰。且置佛經說與不說。如是說者好。應有緣一

切。無我法行。所以者何。行者在初行地。必有如是觀現在前。是以說之。問曰。如空行亦能緣一切法。此中何以不說。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應說而不說者。當知此義是有餘之說。復有說者。如空行有所以空。有所以不空。有所以空者。如自中無他。有所以不空者。以自故不空。無我行無。如此分別。是以尊者須蜜作如是說。我不說一切諸法悉空。問曰。以何等故。有漏無我行。能緣一切法。無漏無我行。唯緣於苦。答曰。或有說者。有漏無我行。於觀行中。勝。無漏無我行。得正決定時。自分中勝。如初觀行時。行者必觀一切法是我。是以有漏無我行。勝。能緣一切法。無漏無我行。於自分中。明了。故勝。是以不緣一切法。復有說者。無漏無我行。能對治四倒。如四倒所緣。彼無漏無我行。亦緣有漏無我行。不能對治四倒。是以能緣一切法。復有說者。無漏觀諦有分齊。有漏觀諦無分齊。復有說者。無漏者。對治煩惱。非一切法是煩惱性。有漏者。不對治煩惱。是以能緣一切法。問曰。如有漏無我行。不能盡緣一切法。彼作是念。一切諸法無我。云何非是邪也。答曰。或有說者。彼緣多分。不緣少分。緣多分者。如大海水。少分不緣者。如海水。一。復有說者。隨其所行。隨其境界。盡緣自體。相應共有。非其所行。非其境界。是以不緣。問曰。緣一切法無我行。體性。是何。答曰。慧是體性。乃至廣說。已說體性。今當說所以名無我行。答曰。此行無我法故。名無

◎ 卷第七雜度智品之二首 ② 卷第七雜度智品第二之二首 ③ 造說釋說譯說同異如首卷 ④ 一。知一智 ⑤ 一。義等二等義 ⑥ 枝。支。支。 ⑦ 得。二行。 ⑧ 是。一。 ⑨ 見。一。 ⑩ 無我法。二。法。無我。 ⑪ 一。 ⑫ 一。 ⑬ 一。

我行

界者。在欲色界無色界中。亦有緣一切法無我行。而不能普緣一切法。地者在七地。謂欲界未至禪中間。根本四禪空處亦有。而不能緣一切法。問曰。為能緣幾所法。答曰。緣四無色陰。諸彼因。諸彼滅。諸彼比智分。諸比智分非數緣滅。諸無色非數緣滅及虛空。虛空與衆生。若言是一。若言是異。彼空處無我行盡能緣。識處亦有無我行。而不能緣一切法。問曰。能緣幾所法。答曰。緣三無色陰。諸彼因。諸彼滅。諸彼比智分。諸比智分非數緣滅。三無色非數緣滅。除一切虛空。彼識處無我行盡能緣。不用處。緣二地。非想非非想處。緣一地。餘如上說。復有說者。空處無我行能緣。如上所說法。復緣五地。非數緣滅四無色第四禪如是識處緣四地。不用處緣三地。非想非非想處緣二地。非數緣滅。評曰。不應作如是說。如前說者好。所依身者。依欲色界身初生依欲界身後依色界。所以者何。初生依欲界身。命終生色界。依色界身。重起現在前行者。唯行無我行。緣者。緣一切法。念慮者。壞緣法念慮。智者等智。三昧相應者。不與三昧相應。根相應者。三根相應。謂喜樂捨。第三禪與樂根相應。初禪二禪喜根相應。未至中間禪及第四禪。捨根相應。欲界二根相應。謂喜捨。問曰。如善憂根相應能緣一切法。此中何以不說與相應。答曰。體性相違。無我行體性欣尚。憂。根體性愁悴。是以不與相應。世者。當言在過去未來現在。緣世者緣過去未來現在

在及非世法。善不善無記者當言善。緣善不善無記者當言三種緣。欲色無色界繫者。當言欲色界繫亦無色界繫。緣欲色無色界繫法者。當言緣欲色無色界繫法亦緣非繫法。是學無學非學非無學者。當言非學非無學。緣學無學非學非無學者。當言三種緣。見諦斷道斷法不斷法者。當言三種緣。緣名緣義者。當言二俱緣。緣已身緣他身者。當言緣已身他身亦緣非已非他。聞慧思慧修慧者。當言三種慧。欲界是聞慧思慧。色界是聞修慧。無色界是修慧。方便得生得者。當言是方便得是生得。如色界聞慧。可言是方便。亦可言是生得。云何言方便得。答曰。如於此間修總相別相生彼則得。若不修習。雖生彼不得云何亦可言生得。答曰。此雖修習。不生彼間。不名生得。欲界命終生二禪中。二禪命終生初禪中。彼為得不。答曰。或有說者。不得。所以者何。以遠故。若即二禪得修習。生初禪中。則得。初禪命終。生二禪中。初禪地法盡捨。二禪命終。還生二禪。彼為得不。答曰。得欲界命終。生無色界中。無色界命終。還生無色界中。彼為得不。答曰。或有說者。不得以遠故。復有說者。若即無色修習。還生無色界則得。問曰。為是聖人能生此法。為凡夫人能生此法。答曰。聖人亦能凡夫亦能。凡夫有二種。有內道凡夫。有外道凡夫。何道凡夫能生此法。答曰。內道亦能外道亦能。內道凡夫。亦方便得。亦生處得。外道凡夫。唯生處得。復有說者。外道凡夫。

唯生處得。不起現在前。所以者何以計我故。問曰。云何起緣一切法。無我行現在前。答曰。生欲界中。起現在前時。緣一切法。生欲界中。起色界者現在前。亦緣一切法。若生初禪。不入定現在前時。亦緣一切法。若入定現在前時。緣初禪乃至非想非非想處。生初禪起二禪三禪四禪者現在前。亦緣初禪乃至非想非非想處。若生二禪不入定現在前時。能緣一切法。若入定現在前時。緣二禪乃至非想非非想處。若生三禪起三禪四禪者現在前。亦緣二禪乃至非想非非想處。生三禪四禪亦如是。無色中緣一切法無我行。若生欲界。若生色界。若生無色界現在前。緣一切法。如上說。問曰。欲界者緣法多。色界者緣法多。答曰。色界者若不入定。所緣與欲界等。若入定欲界者多非。色界者。所以者何。不自緣定共色。故應作是說。不入定時。無有不緣一切色身念慮。無有緣一切受念慮。無有緣一切心心念慮。無有緣一切法法念慮。問曰。一切法無我行。為是欣尚行。為是厭離行。若是欣尚行者。云何緣苦集。若是厭離行者。云何緣可欣尚法。答曰。應作是說。是欣尚非厭離行。問曰。若是欣尚行者。云何能緣苦集。答曰。雖緣苦集。故是欣尚行。所以者何。設使彼多緣有漏法。少緣無漏法。而於無漏法故是欣尚行。如銅錢積上置一金錢。銅錢雖多。得一金錢。猶生欣尚。彼亦如是。問曰。此行為斷結不。耶。答曰。不斷。問曰。若不斷結。何用起現在前。答曰。欲令心猛利故。心若

●慶二唯● ●善二喜● ●根二相● ●色十(界)● ●便十(得)● ●尚十(行)● ●[取]一●●

猛利。能入聖道。

問曰。空行無我行。有何差別。答曰。對治我是無我行。對治我所是空行。復次對治五我見是無我行。對治十五我所見。是空行。復次對治己見。是無我行。對治己所見。是空行。我愛我所愛亦如是。復次陰非是我。是無我行。我不入陰中。是空行。復次見眼無我生悅適。是無我行。見我不入眼中。生悅適。是空行。乃至意入亦如是。復次性空義。是無我行。行空義是空行。

頗有二心展轉相因耶。問曰。何以作此論。答曰。為止外道意故。外道作如是說。後心是前心因。所以者何。如水流時。後水能逼前水。駛流。如是法生。未來世法逼。駛現在。現在逼。駛過去。如是未來法是現在因。現在法是過去。去因。為斷如是意故。明後心非前心因。若當後是前因者。則違內外因緣生法。如世尊說。無明緣行。乃至生緣老死。若後是前因。應當行緣無明。乃至老死緣生。如說眼緣色生眼識。若後為前因。應當緣眼識生色。如父母是兒因。若然者。應是父母因。違如是等內緣生法。云何與外緣生法相違。如種子為牙因。乃至花為果因。若然者。應。牙為種子因。乃至果為花因。若後為前因。復有大過。何以故。不作業而受果。已作業而無果故。云何不作業而受果。答曰。如先受善不善果。然後作善不善業。先受律儀不律儀戒果。然後受律儀戒。先受阿毘地獄果。然後作五逆業。先受轉輪聖王果。然後修轉輪聖王業。先得阿

耨多羅三藐三菩提。然後行諸波羅蜜。若爾不作業而受果。已作業應無果。作業而無果。則無解脫出要之道。若後是前因。則有如是

大過。復次所以作此論者。如摩訶僧祇部說。二心俱生。為止如是意。故作此論。復次或有說者。言因緣無體性。今欲分明因緣體性。故作此論。頗有二心展轉相因耶。答曰。無。耶。所以者何。無有一人前後二心俱生。復有說者。言前者諸過去心無二俱生者。言後者諸未來心無二俱生者。是故答言。一人前後二心不俱生。復有說者。言前者除過去世。言後者除未來世。不俱者。欲明現在一刹那無二心俱生。若作是說。無有一人前後二心俱生。此則止二心俱生者意。次作是說。非未來心與前心因。此則止後與前作因者意。復有說者。若作是說。無有一人前後二心俱生。此則止相應共有因義。次作是說。非未來心與前心因。此則止相似因一切遍因報因義。此中依五因作論。答曰。無若依六因作論者。應答言有。以有所作因故。如二心二受二想二思二觸二作意二解脫二念二定二眼乃至二身二命根二身種類。如是等則無展轉因義。頗有二心展轉相緣。乃至廣說。問曰。不應先作是論。應先作此論。以何等故。一人前後二心不俱生。然後應次作此問。頗有二心。前後展轉相緣。應作是說。而不說者。有何意耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。論有二種。一是根本。二是傍生。諸作是問。頗有二心展轉相因。頗有二心展轉相

緣。此是根本論。以何等故。一人前後二心不俱生。是傍生論。是以先論根本。次問傍生。復有說者。阿毘曇應以相求不以次第。若前若後俱無有過。但莫違其相。不應責次第。頗有二心展轉相緣。問曰。何以作此論。答曰。前說無有二心展轉相因。亦謂二心無展轉相緣義。欲斷如是疑故。而作是論。頗有二心展轉相緣耶。復有說者。或有言境界緣無體性。為止彼人如是意欲分明境界緣有實體性。故作此

論。問曰。頗有二心展轉相緣耶。答曰。有。問曰。若答言有。此言便足。所以者何。如說若法是彼境界緣。或時不作境界。無有是事。以何等故。復作是說。若生無當來心耶。答曰。不應作是說。所以說者。欲饒益弟子。令受義時分明了。故。頗有二心展轉相緣耶。答曰。有。若發意。思惟無有未來。問曰。其事云何。答曰。邪見。身言無未來。次後復生邪見。言無過去。邪見。亦言無過去。諸法。是名二心展轉相緣。邪見。次生身見。身見。復計過去。邪見。為我。如身見。邊見。計斷常亦如是。見取。計過去。勝第一。戒取。計淨能至。解脫。計是乘。疑。猶豫。計二。里。想。受。計好。妙。適意。患。計不好。妙。不適意。慢。計自高。自舉。無明於彼。愚冥不知。如是等名染污心展轉相緣。善心云何。答曰。如正見。計過去。是無常。苦。空。無我。因集有緣。是有是性分。是有因是有緣。如是等名善心邪見展轉相緣。不隱沒。無記心云何。答曰。非是巧便。非是不巧便。是名無記心邪見展轉相緣。若發意思。惟有未來。其事云何。答曰。如正見。身言有未

○不十於○ ○受二愛○ ○里二理○ ○耶二也○ ○牙二芽○ ○去十法○ ○駛二使○

來。次後生正見言有過去。亦言有過去諸法。是名二心展轉相緣。身見計過去正見為我。乃至不隱沒無記緣過去正見亦如是。若發意思惟無未來道。問曰。何以復作此論。答曰。先說有漏心相緣。今欲說無漏心相緣。問曰。其事云何。答曰。若發意思惟無未來道。此心與邪見相應。緣無未來道後得正決定。緣過去法。作無常苦空無我因集有緣。此中言後時者。遮一念遮相續。不限時不限身。不限無始已來。以何等故不限時。答曰。或有初夜謗道中夜得正決定。中夜謗道後夜得正決定。或有後夜謗道書得正決定。有書謗道夜得正決定。或有一日一夜謗道。一日一夜得正決定。如是半月一月。一時一歲。乃至一身。當知亦如是。若發意思惟無未來道。此心與正見相應。緣有未來道。次後生無漏道。緣過去正見。是無常苦空無我因集有緣。如是正見緣未來道。未來道生還緣正見。是名展轉相緣。後時者如說。總相觀後。能入聖道者。遮一剎那頃。不限相續。不限時不限身。乃至不限無始生死已來。如說三種正觀。後能入聖道。不限一剎那頃。乃至不限無始生死已來。如二知他心智。亦展轉相緣。問曰。何以復作此論。答曰。前說己身相緣法。今欲說他身相緣法。故如二知他心展轉相緣。問曰。此中為說何等二知他心。答曰。此中說根同。同利根。同中根。同下根。同是初禪地他心智。乃至第四禪地他心智。同有漏。同無漏。同是法智分。同是比智分。問曰。彼云何相緣。答曰。俱緣彼

心。不緣彼心所緣。若緣心所緣。是則自緣心。不名緣他心。問曰。此中為說何等知他心智。答曰。此中說得證他心智通者。問曰。亦更有餘能知他心智。此中何以不說。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。此應說而不說者。當知此義是有餘之說。復有說者。此中說名義俱好者。復有說者。若體性是通。若體性是修。若是離欲得。若是四支五支。禪果。此中說之。復有說者。若智知他心。如實無謬是中說之。因此事故。擾動智海。如二心展轉相緣。諸數法亦如是。亦應分別五識。種界善染污不隱沒無記威儀工巧。彼五識不能展轉相緣。各行境界故。意識能展轉相緣。緣一切法。故苦諦所斷心。與集諦所斷心。能展轉相緣。苦諦所斷心。與修道所斷心。展轉相緣。集諦所斷心。與修道。斷心。展轉相緣。滅諦所斷。有漏緣使展轉相緣。亦能緣無漏緣使。無漏緣使不能緣有漏緣使。道諦所斷有漏緣使。展轉相緣。亦能緣無漏緣使。無漏緣使不能緣有漏緣使。無漏緣使於道展轉相緣。修道所斷善不善隱沒無記。能緣五行所斷心。其餘修道所斷。展轉相緣不斷心。如苦忍苦智。集忍集智。能緣五行所斷心。道緣道。隨其所應展轉相緣。界者欲界色界展轉相緣。欲界不繫法展轉相緣。欲界無色界無展轉相緣。色界無色界及不繫心展轉相緣。善者能緣三種。善染污不隱沒無記。染污能緣三種。善染污不隱沒無記。善報無記心緣三種。善染污不隱沒無記。不善報無記無

展轉緣。所以者何。意地無不善報無記。如說。頗業身受受報非心耶。答曰。有諸不善業威儀無記心展轉相緣。其事云何。答曰。威儀有二種。一是威儀。二是威儀心。威儀者謂色香味觸。威儀心者能起威儀心是也。四識是威儀方便。非起威儀心。意識是威儀方便。亦是起威儀心。彼四識能緣威儀。不能緣起威儀心。意識能緣威儀。亦能緣起威儀心。復有說者。因威儀心更生意識。能緣十二入。是能展轉相緣。工巧無記心展轉相緣。其事云何。答曰。工巧有二種。一是工巧。二是工巧心。工巧謂色聲香味觸。工巧心者能起工巧心者。是五識是工巧方便。非起工巧心。意識是工巧方便。亦是起工巧心。五識能緣工巧。不能緣起工巧心。意識能緣工巧。亦能緣起工巧心。復有說者。因工巧心更生意識。能緣十二入。是能展轉相緣。邪見。或以因謗果。或以果謗因。或不以果謗因。或不以因謗果。云何以因謗果。如說此善惡業無果報。云何以果謗因。如說是人諸所受報無因無緣。云何以不果謗因。眾生煩惱無因無緣。云何以不果謗果。如說無過去未來現在。是名不以因謗果。此邪見苦諦所斷。先說二心展轉相因。展轉相緣者。此中說二緣義。所謂因緣境界緣。問曰。以何等故。此中不說次第緣威勢緣耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應說而不說者。當知此是有餘之說。復有說者。此義。以入彼所說中。其事云何。若說因緣當知已說次第緣。所以者何。如說二心無

◎比此◎ (所)十斷◎ ◎是十(也)◎ ◎以二已◎

展轉相因。當知二心亦無次第緣。若說境界緣當知亦說威勢緣。所以者何。如說二心展轉相緣。當知二心亦展轉威勢緣。是名已入彼所說中。

阿毘曇毘婆沙論卷第五

阿毘曇毘婆沙論卷第六

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

雜健度智品之二

◎以何等故一人前後二心不俱生。問曰。何以作此論答曰。此是傍生論。所以者何。前說二心不得展轉相因。何以故。無有一人前後二心俱生故。雖有是說未說所以。今欲說之。故作此論。以何等故一人前後二心不俱生者。答無第二次第緣。此說心心數法。依次第緣生未來世法。依現在世法和合則生。不和合則不生現在。若與未來次第則生。不與次第則不生。復有說者。以何等故一人前後二心不俱生。乃至廣說答曰。衆生法爾。一一心次第生。不得有二。所以者何。無第二次第緣故。復有說者。此說前如兩鞅相繫。以何等故無第二次第緣。答曰。衆生一一心次第生。不得有二。以何等故。衆生一一心次第生。不得有二。答曰。無第二次第緣。是名展轉更相答義。如現在有一次第緣。未來生一心。是中

應說。如。園中閉衆多羊門。狹少。喻如羊。園。狹小門中一一羊出。彼心心法生亦復如是。現在一剎那與未來。剎那開次。設現在世有衆多剎那者。則與未來衆多剎那開次。以無故現在一剎那與未來一剎那開次。作義者說曰。以何等故二心不俱生。答曰。或有說者。如命根是一剎那。依命根心亦一剎那。是故不俱。復有說者。如身根是一剎那。依身根心亦一剎那。是故不俱。復有說者。若二心俱生。則心不可調伏。如今一心猶剛強難伏。何況二心。復有說者。若二心俱生者。則一時有煩惱出要一心煩惱一心出要。若爾者則無解無離無乘。如是等過。復有說者。若二心俱生何妨有三。若有三者則三界身可一時受。若三界一時受身則破界。若界破一人亦是欲界亦是色界無色界。若然則無解脫。乃至廣說。若三心俱生何妨有四。若有四心則可一時受四生身。若然者則壞四生。一身亦是胎生亦是卵生亦是濕生亦是化生。則無解脫。乃至廣說。復有說者。若四俱生何妨有五。若有五者則可一時受五道身。若然者則五道壞。若五道壞地獄身乃至即是天身。乃至廣說。若五俱生何妨有六。若有者則可一時緣六根義。乃至廣說。若不妨六乃至百千未來世中一時俱生。一剎那生一剎那滅。若然則無未來。以有未來則有現在。以有現在則有過去。若無未來則無現在。若無現在則無過去。若無過去則無有為。若無有為則無無為。若無有為無為則無一切諸法。有如是等

過。不得二心一時俱生。問曰。如衆多數法一時生。無如上等諸過。若當二心如數法一時生者。復有何過。答曰。如一次第緣。與未來一心和合。以一心和合故。衆生一一心生。復有說者。如作觀。與未來一心和合。以一心和合故。衆生一一心生。若有二心俱生。應有二受俱生。若有二受則破衆生身法。若破衆生身法則有二種身。若有二身則有十陰。以有如是過故。二心不得俱生。

◎問曰。次第緣體性是何。答曰。如波伽羅那說。除過去現在阿羅漢最後心。諸餘過去現在心心數法是也。復有說者。諸過去現在心心數法。是次第緣體性。問曰。若然者阿羅漢最後心。無次第緣義。云何名次第緣耶。答曰。不以阿羅漢最後心過故。餘心不生。更有餘事故。令後心不生。若當生者。能與次第緣。問曰。次第緣者有何相耶。答曰。所言體性即是其相。所言相者。即是體性一切諸法。不可離體性別立其相。尊者和須蜜說曰。相避義是次第緣。復有說者。發跡相避義。是次第緣。復有說者。能生心義。是次第緣。復有說者。心相續義。是次第緣。復有說者。能取義。是次第緣。復有說者。心勢用義。是次第緣。尊者佛陀提婆說曰。次第生心相。是次第緣。復有說者。未生剎那令剎那生。是次第緣。阿毘曇人說曰。異相法令俱生。是次第緣。復有說者。未生法似自己是次第緣。已說次第緣體相。未說所以。以何等故名次第緣。答曰。等無間義是次第緣。問曰。若然者心與心作次第。不與數法

◎不分卷及品目 ◎答十(日) ◎圖二圖 ◎俠二俠 ◎喻十(猶) ◎(-)十利 ◎卷第七終 ◎卷第八雜健度智品之三首 ◎卷第八雜健度智品第二之三首 ◎造號釋號譯號同異如首卷

作次第耶。數法與數法作次第。不與心作次第耶。答曰。如說相似法沙門所說。心與心作次第。受與受作次第。如是說者則有過。所以者何。貪欲心還與貪欲心作次第。瞋恚還與瞋恚。愚癡還與愚癡。善還與善。不善還與不善。無記還與無記。如是說者。則無解脫涅槃。如是說者好。所謂心與心作次第。亦與數法作次第。數與數作次第。亦與心作次第。前心聚與後心聚作次第。問曰。若心與心作次第。則相隨順非數法耶。若數法與數法作次第。則相隨順非心耶。答曰。若如說相似法沙門所說。心隨順心。數法隨順數法。評曰。不應作是說。作如是說者好。所謂心與數法作次第。數法與心作次第。前心聚與後心聚作次第。等無差別。猶如豆聚。如波伽羅那所說。若法與彼法作次第。或時不作次第耶。答曰。有。若彼法未生。問曰。此說未生為前者耶。為後者耶。為如前法未生後法不名次第。若生是次第耶。復如後法未生。前法不名有次第。若生是有次第耶。如世第一法苦法忍作次第。為如世第一法未生。苦法忍不名次第。若生是次第耶。復如苦法忍未生。世第一法不名有次第。若生是有次第耶。若前法未生。後法不名次第。若生是次第者。有心時可爾。無心時云何可爾。如入無想定滅盡定。若一七若過一七。出定心與入定心名為次第。彼第二剎那心必生。所以者何。若法與彼法。能作次第緣。果無有衆生。無有法。無有呪術。無有藥草。無有佛。無有辟支佛。無有聲聞。能遮此法

使第二剎那心不生者。若然者二定則無體。若當後法未生。前法不名有次第。若生是有次第。若然者則苦法忍未生。世第一法不名有次第。何故說未生耶。或有說者。應作是說。前法未生不名次第。問曰。若然者有心時可爾。無心時云何。答曰。有心時已爾。無心時亦可爾。其事云何。如入無想定滅盡定。彼入定心。定初剎那亦取果亦與果。諸餘剎那。及出定心。但名取果。彼入定心。滅在過去。定餘剎那。及出定心。其現在者與果。彼不應作是說。所以者何。次第緣義。無有異時取果異時與果。即與果時取果。問曰。若與果時取果。有心時可爾。無心時云何。答曰。如入無想定滅盡定。彼入定心。與定初一剎那。取果與果。彼滅在過去。定餘剎那。及出定心。若現在前。取果與果。若作是說。則無異時取果異時與果。問曰。若然者過去法則有所作。答曰。雖過去有所作能取果與果。而無有果。過去世見色乃至知法。無如是作事。與果取果。可有是事。復有說者。後法未生前法不名次第。後法若生則前法名次第。問曰。若然者苦法忍未生。世第一法不名次第耶。答曰。可名次第。不名次第緣。若苦法忍生。是名次第。亦名次第緣。如次第次第緣。次第有次第相續有相續。依有依。當知亦如是。

無有制伏貪欲生不淨觀。如是亦不能制伏一切煩惱生對治觀。若爾則無解脫涅槃。乃至廣說。若無者八分經云何通。如說是人十劫不墮惡趣。乃至二十劫。云何知三業差別是現法報。是生法報。是後法報。何故一切時世第一法。但生苦法忍。何以不生乃至盡智等諸法。何故金剛喻定但生盡智不生餘法。答曰。應作是說。未來世中無次第緣。問曰。若無者則無前說諸過。此八分經云何通。答曰。世尊觀過去現在以。比相。亦知未來世。其事云何。答曰。世尊觀過去世。見彼衆生修如是業。爾所劫中不墮惡道。見此衆生修如是業。爾所劫中當不墮惡道。見諸衆生於過去世修如是業。於現世中受如此報。見諸衆生於彼造業若受現報若受後報。見諸衆生於此造業若受現報若受後報。見諸衆生復有說者。衆生有相是心不相應行住衆生身中。世尊不因禪定神通能知衆生身中有此法者。爾所劫中不墮惡道。即見此相。知是衆生受現法報。次受生報復受後報。評曰。不應作是說。若作此說。明如來唯有比相智無了達智。應作是說。佛世尊有了達智。能知未來。雖未來法亂無定次第。如來以明淨智。能知未來亂法無定次第。知諸衆生造如此業。經爾所劫不墮惡道。受於現報。次受生報。復受後報。悉實無謬。如算數法知於觀聚明了無謬。何況如來有自然智。問曰。以何等故世第一法次生苦法忍。不生乃至盡智等諸法。答曰。此名數定事相不定。所以者何。苦法忍

●果一過● ●未來世十(中)● ●二二三● ●何十(以)● ●比二此● ●是一此●

法。在於六地。未知爲是何地。苦法忍三根相應。不知定與何根相應。行於四行。不知定行何行。如住增上忍時。地行根定。剎那不定。所以者何。有多剎那故。不知生者。是何剎那。次第緣亦不定。住世第一法時。有五事定地。根行次第剎那。是名數定事相不定。復有說者。若法依前法相續生。不必次第緣。猶如外物無次第緣。依於前法相續而生。如牙依前種相續得生。乃至果依前花相續而生。內法亦爾。不因次第緣。依於前法相續而生。苦法忍依世第一法故相續而生。餘乃至盡智。不依世第一法故。是以不生金剛喻定。亦應如是通。然未來世法屬於現在。若於現在和合則生。若不和合不生。世第一法後能生修道。無有是處。以分別故。設當世第一法與修道和合。爾時則生。以不與和合故。是則不生。如是苦法忍。屬世第一法故生。餘乃至盡智不屬故不生。復有說者。未來世中。有次第緣。問曰。若未來世。有次第緣。諸法應次第住。答曰。未來世中有次第緣義。無次第住。未來世法應從何次第緣。生者已定。然不次第住。後若生時。從何緣生亦定。次第住亦定。猶如衆多比丘。亂住一處。臘數已定。行列不定。後次第住時。臘數亦定。行列亦定。如是法未生時。應屬何緣。生者已定。次第住亦定。後若生時。從緣生亦定。次第住亦定。問曰。若然者。修正方便。則無有用亦無解脫涅槃。答曰。一心次第略說有二種心當生。所謂善與染污。若修正方便。善心便生染污不生。若行邪方便。

染污便生善心不生。如一種子後二種當生。所謂牙與爛壞。若遇生牙因緣則便生牙。若遇爛壞因緣則生爛壞。一心次第生二種心亦復如是。評曰。應作是說。未來世中無次第緣。所以者何。次第緣者是次第住法。未來世中無次第住。次第緣者是不亂法。未來法亂。復有說者。若未來世有次第緣者。修善者常應修善。不應作惡。若修惡時。常應作惡。不應修善。今現見提婆達多。本欲修善而後作惡。央掘魔羅氣噓惡人。本欲作惡而後修善。以如是等因緣故。知未來世無次第緣。問曰。以何等故。色法無次第緣。答曰。或有說者。若法定有所依。定有所行。定有所緣。故有次第緣。色法無有所依。無所行。無所緣。是故無次第緣。復有說者。若法是相應。有所依有所行。有勢用有所緣。故有次第緣。色法不相應。無依無行。無勢用無緣。故無次第緣。復有說者。次第緣者是次第住法。色非次第住法。或二萬劫或四萬劫。或六萬劫或八萬劫斷絕者。復有說者。次第緣現在前時不亂。色法現在前時。亂。如一時中起。欲色界繫色現在前。欲界繫不繫色現在前。色界繫不繫色現在前。是故尊者須蜜說曰。欲界增益色未滅。色界增益色生。尊者佛陀提婆說曰。少色無間生多色。多色無間生少色。彼少色無間生多色者。如空中雲少便生多。如小種子生於大樹。如小迦羅羅後成大人。多色無間生少色者。如燒大草積後生少灰。以少色無間生多色。多色無間生少色。故無次第緣。問曰。如心

數法少無間生多。多無間生少。其事云何。答曰。如無覺無觀地。次生無覺有觀。次生有覺有觀。如此名少無間生多。如有覺有觀地。生無覺有觀。次生無覺無觀。如此名多無間生少。答曰。不應以地定。應以數法定。若一受次第生二受。若二受次第生一受。有如上過。以不生故無如上過。問曰。以何等故。心不相應行。無次第緣。答曰。或有說者。若法定有所依。定有所行。定有所緣。故有次第緣。心不相應行不爾。色法。三界繫。心不相應行三界繫。餘如上色法說。問曰。以何等故。說無想定滅盡定是心次第。不說無想天。答曰。或有說者。亦應說而不說者。當知此是有餘之說。復有說者。若用功難得者說。不用功不難得者不說。復有說者。若是善者說。彼是無記故不說。問曰。以何等故。無想定滅盡定。是心次第而非次第緣耶。答曰。或有說者。若法能生心能增益。心能取心是次第緣。彼定生時。住心礙心使心不相續。是以不作次第緣。復有說者。此定斷心遮心行處。是不相應無勢用法。是以不作次第緣。問曰。入無想定滅盡定。心出定心。是其次第。中間有爾許多相續定。云何是次第。答曰。此中更無餘心故。得名次第。猶如有人一在前行一在後來。他人問言。彼後來人。與誰共來。其人答言。與某甲人次後而來。彼二中間。雖有村落樹木畜生等物。更無餘人。故言次第。如是彼二心中間。雖復曠遠更無餘心故。得名次第。

①〔法〕一②③ ④以不二不以⑤ ⑥有十(說)⑦⑧ ⑨染污十(心)⑩⑪ ⑫未來法二未來世⑬ ⑭亂一得⑮⑯ ⑰三二⑱⑲

問曰 諸法是心次第亦是無間耶 答曰 或有是心次第非心無間 有是心無間非心次第 有是心次第非心無間 有非心次第非心無間 是心次第非心無間者 除定初剎那及餘有心法 諸餘定及出定心 是謂心次第非心無間 是心無間非心次第者 定初剎那及餘有心法 生住無常 是謂心無間非心次第 是心次第亦心無間者 定初剎那 諸餘有心法 是謂心次第亦心無間 非心次第非心無間者 除定初剎那及餘有心法 生住無常 諸餘定剎那及出定心生住無常 是謂非心次第非心無間 問曰 諸是心次第 亦是定無間耶 答曰 應作四句 是心次第非定無間者 謂定初剎那諸餘有心時 是謂心次第非定無間 是定無間非心次第者 除定初剎那及餘有心法 生住無常 諸餘定及出定心生住無常 是謂定無間非心次第 是心次第亦定無間者 除定初剎那及餘有心法 諸餘定及出定心 是謂心次第亦定無間 非心次第非定無間者 定初剎那生住無常 及餘有心生住無常 是謂非心次第非定無間

相觀能入聖道出聖道時三種現在前 問曰 若虛想觀不入聖道 此經云何通 如說不淨觀次修念覺意 答曰 此說展轉相因 如子孫法 其事云何 答曰 先以不淨觀 善調伏心 使心止息堪任質直柔軟 心得自在 然後總相觀現在前能入聖道 復有說者 總相觀現在前能入聖道 出聖道時亦總相觀而現在前 問曰 若然者 若依未至若依初禪 若依中間 得正決定出聖道時 欲界總相觀現在前 可爾 若依二禪三禪四禪得正決定 彼無欲界總相觀 所以者何 以大遠故 復更不得總相觀 除達分善根 所以者何 以聖道後不能復起現在前故 出聖道時 爲起何等總相觀 現在前 答曰 於煖頂忍中間 修總相觀 所謂諸行無常 苦空無我 涅槃寂靜 出聖道時 此觀現在前 評曰 不應作是說 如前說者好 欲界有三種觀 所謂聞慧思慧生得慧 色界有三種 所謂聞慧思慧生得慧 無色界有二種 修慧生得慧 問曰 欲界有三種觀 慧何等慧現在前能入聖道 答曰 欲界思慧觀現在前能入聖道 出聖道時 三種觀現在前 色界修慧觀現在前能入聖道 出聖道時 二種 聞修慧觀現在前 非生得慧 無色界修慧現在前 能入聖道 出聖道時 亦修慧觀現在前 非生得慧 問曰 以何等故 出聖道時 欲界生得慧現在前 非色無色界 答曰 欲界生得慧 猛利 色無色界不猛利 若依未至禪 得阿羅漢 出聖道時 還起未至地及欲界心 若依無所有處 得阿羅漢 出聖道時 還起無所有處

及非想非非想處心 若依餘地得阿羅漢 出聖道時 即起彼地心 初禪有三種 味淨無漏 乃至無所有處亦三種 非想非非想處二種 味淨味相應次第生 味相應及淨不生 無漏淨有三種 無漏二種 淨及無漏不生 味淨 初禪有四種 有退分住分勝進分達分 乃至非想非非想處亦有四種 退分次第生退分住分 不生勝進分不生達分 住分次第生住分生退分生勝進分不生達分 勝進分次第生勝進分住分生達分 不生退分 達分次第生達分生勝進分 不生住分退分 復有說者 退分次第生三種 不生達分住分勝進分 盡生四種 達分次第生三種 除退分 問曰 若坐二禪三禪四禪地 欲入初禪 識現在前 幾種觀現在前 答曰 隨所住地 未離欲者 三種觀現在前 所謂善染污不隱沒無記 出時亦三種 現在前 若離欲二種 有十二種心 欲界繫四種 善不善隱沒無記不隱沒無記 色界繫三種 善隱沒無記不隱沒無記 無色界繫亦三種 學無學心 問曰 欲界繫善心次第生 幾心復從幾心次第生 乃至無學心次第生 幾心復從幾心生 答曰 欲界繫善心 次第生九心 欲界繫四 色界繫二 善隱沒無記 無色界繫一 隱沒無記 學無學 亦從八心次第生 欲界繫四 色界二 善隱沒無記 學無學 不善心次第生 欲界四 心亦從十心次第生 欲界繫四 色界繫三 無色界繫三 隱沒無記心 亦如是 欲界繫不隱沒無記心 次第生七心 欲界四 色界二 善隱

◎想二相 ◎ 〇般一暖 ◎ 〇坐二生 ◎

沒無記。無色界一。隱沒無記。亦從五心次第生。欲界四。色界一。善心。色界繫善心。次第生十一心。除無色界繫不隱沒無記心。餘次第能生亦從九心生。自地三。欲界二。善不隱沒無記。無色界二。善隱沒無記。學無學心。色界繫。隱沒無記心。次第生六心。色界繫三。欲界三。除不隱沒無記心。亦從八心次第生。色界三。欲界二。善不隱沒無記。無色界三。色界繫不隱沒無記心。次第生六心。色界三。欲界二。不善隱沒無記。無色界一。隱沒無記。亦從色界三心次第生。無色界善心。次第生九心。無色界三。欲界二。不善隱沒無記。色界繫二。善隱沒無記。學無學心。亦從六心次第生。無色界三。色界一。善心。學無學心。無色界繫。隱沒無記心。次第生七心。無色界三。欲界二。不善隱沒無記。色界二。善隱沒無記。亦從七心次第生。無色界三。欲界一。善不隱沒無記。色界二。善不隱沒無記。無色界繫不隱沒無記心。次第生六心。無色界三。欲界一。不善隱沒無記。色界一。隱沒無記。亦從無色界三心次第生。學心。次第生五心。欲界善色界善無色界善。學無學心。亦從四心次第生。欲界善色界善無色界善。學心。次第生四心。欲界善色界善無色界善無學心。亦從五心生。欲界善色界善無色界善學無學心。

- 九八四與十 七五當知欲
- 十一九六八 六三當知色
- 九六七亦七 六三知無色
- 五四亦四五 當知學無學

有二十種心。欲界有八心。方便善心。生得善心。不善心。隱沒無記心。威儀心。工巧心。報心。通果心。色界有六心。方便善心。生得善心。隱沒無記心。威儀心。報心。通果心。無色界有四心。方便善心。生得善心。隱沒無記心。報心。無漏有二心。學心。無學心。問曰。欲界方便善心。次第生幾心。亦從幾心次第生。乃至無學心。次第生幾心。亦從幾心生。答曰。欲界方便善心。次第生十心。欲界七。除通果心。色界一。方便善心。學心。無學心。亦從八心次第生。欲界四。方便善心。生得善。不善隱沒無記。色界二。方便善隱沒無記。學無學。欲界生得善心。次第生九心。欲界七。除通果心。色界隱沒無記心。無色界隱沒無記心。亦從十一心次第生。欲界七。除通果心。色界二。方便善隱沒無記。學無學。不善心。次第生欲界七心。除通果心。亦從十四心次第生。欲界七。除通果心。色界四。生得善。隱沒無記。威儀報。無色界三。除方便善。隱沒無記心。亦如是。欲界威儀心。次第生八心。欲界六。除方便善。通果心。色界一。隱沒無記心。無色界一。隱沒無記心。亦從七心。次第生。欲界七。除通果心。報心。亦如是。工巧心。次第生六心。除方便善。通果心。亦從七心。次第生。欲界七。除通果心。欲界通果心。次第生二心。欲界通果。色界方便善心。亦從二心。次第生。欲界通果。色界方便善心。色界方便善心。次第生十二心。色界六。欲界三。方便善心。生得善。通果心。無色界一方。方便善。學無學心。亦從十心。次第生。色界四。除威儀心。

報心。欲界二。方便善。通果心。無色界二。方便善。隱沒無記。學無學心。色界生得善。次第生八心。色界五。除通果心。欲界二。不善心。隱沒無記。無色界一。隱沒無記心。亦從色界五心。次第生。除通果心。色界隱沒無記心。次第生九心。色界五。除通果心。欲界四。方便善。生得善。不善隱沒無記。亦從十一心。次第生。色界五。除通果心。欲界三。生得善。威儀報心。無色界三。除方便善。色界威儀心。次第生七心。色界四。除方便善。通果心。欲界二。不善隱沒無記心。無色界一。隱沒無記心。亦從五心。次第生。色界五。除通果心。報心。亦如是。色界通果心。次第生色界二。方便善。通果心。亦從二心。次第生。色界方便善。通果心。無色界方便善心。次第生七心。無色界四。色界一。方便善。學無學心。亦從六心。次第生。無色界三。除報心。色界一。方便善。學無學心。無色界生得善。次第生七心。無色界四。欲界二。不善隱沒無記。色界一。隱沒無記心。亦從無色界四心。次第生。無色界隱沒無記心。次第生八心。無色界四。欲界二。不善隱沒無記。無記心。色界二。方便善。隱沒無記心。亦從十心。次第生。無色界四。欲界三。生得善。威儀報心。色界三。生得善。威儀報心。無色界報心。次第生六心。無色界三。除方便善。欲界二。不善隱沒無記心。色界一。隱沒無記心。亦從無色界四心。次第生。學心。次第生六心。欲界二。生得善。方便善。色界一方。方便善心。無色界一方。方便善心。學無學心。亦從四心。次第生。欲界一方。方便善心。色界一方。

●九八二八九● ●十二九● ●二二一● ●無記十(心)●

便善心。無色界一。方便善心。學心。無學心。次
第生五心。欲界二。方便善心生得善心。色界
一。方便善心。無色界一。方便善心。無學心。亦
從五心次第生。欲界一。方便善心。色界一。方
便善心。無色界一。方便善心。學無學心

- 十八次生九 十一生於七
- 十四亦生八 七六及與七
- 二生二欲盡 十二十八五
- 九十一七五 二二當知色
- 七六七四八 十六四無色
- 六四亦五五 當知學無學

以何等故。如人不可得。乃至廣說。問曰。何故
作此論。答曰。為止他人意故。或有說者。有人
以有人故憶本所作。復有說者。物性相入。相
入論者。作如是說。一切有為法有二分。若晝
若夜。夜時晝入夜中。晝時夜入晝中。所以者
何。如夜中所作晝則憶之。以夜入晝中故。如
晝中所作夜則憶之。以晝入夜中故。是故憶
本所作。或有說者。物性變物。性變論者。作如
是說。迦羅羅變作阿浮陀。乃至中年變作老
年。是故憶本所作。如婆吒樹葉青變為黃。彼
亦如是。或有說者。物性往來。往來論者。作如
是說。迦羅羅來至阿浮陀中住。乃至廣說。
以是事故憶本所作。問曰。物性變論。往來論
有何差別。答曰。物性變論言。迦羅羅變作阿
浮陀。往來論言。迦羅羅來至阿浮陀中住。俱增
長故。或有說者。覺是一性。後所知覺。即是前
所作覺。或有說者。意界是常。以意界常故。憶
本所作。或有說者。有根本陰。有客陰。客陰所

作根本陰能知。以是故能憶本所作。或有說
者。前心往後心。語後心我作如是事。是故憶
本所作。恒河沙數諸佛。及佛弟子。不作此論。
言有人不言物性相入。不言物性變。不言物
性往來。不言覺性。一。不言意界常。不言有根
本陰客陰。不言前心往後心。然能憶本所作。
如此事。微細甚深難知。為顯如此微細甚深
難知法故。而作此論。問曰。以何等故。唯說如
人不可得前心不。住後心。言我有所作而能
憶本所作。答曰。應如是說。以何等故。人不可
得。物性不相入。物性不變。物性不往來。覺性
不一。意界不常。陰性無根本無客陰。前心不
往後心。而能憶本所作。而不說者。欲現始終
略其中間。令經文易故。若說如人不可得則
止。有人者意前心不往後心則止。往來論者
意前心後心則止。其餘諸論者意。答曰。衆生
之法得如是相似習智。問曰。前言無人今何
以言衆生。答曰。欲令所說與法體相順故。所
以者何。若不言衆生但言法。法於義雖順於
文不便。若言衆生文義俱順。以是故說於衆
生。復有說者。前說實義今說假名衆生之法。
得如是相似習智。習智者是決定。是修習。是
自在義。本所作者。隨其本事。本事者。如其性
如其體。如其相。如其物。復有說者。應言憶本
共作。云何共作。如本所見會所更。復有說者。
應言憶本作事。云何本作事。隨本形色本所。
為欲明憶本所作義故而作此論。喻如能書
者。乃至廣說。如能書者不至彼能書者所。問
言。汝作何字。彼亦不答。我作是字。然能書

者得如此所習智。自所作字亦知。他所作字
亦知。乃至海外書來亦能讀知。如是前心不
往後心。然後心能憶本所作。復欲重明此義
故。更作喻。如二知他心展轉相緣。此亦不問
彼汝思何事。彼亦不答我思此事。乃至百由
旬外。二心而能相知。如是前心不至後心。後
心而能憶本所念。

復次諸心心數法。於所緣定。問曰。為於何
法定言定耶。為於眼入定。為於色定。為於利
那定。答曰。或有說者。於眼入定。不於色定
利那定也。所以者何。未生心心數法甚多。云
何於眼入定。答曰。如眼識於色定。其餘諸識
各於自境界定。若眼與青色和合。則生青識。
若與餘色和合。則生餘識。問曰。若然者。便有
二心。知青色心。則異知黃色等心。復遠識身
經文。如說過去眼識。為緣過去法。緣現在法
緣未來法耶。答曰。緣過去法。不緣現在。未
來。復有說者。於眼入定色定。於利那不定。所
以者何。未生心心數法甚多。云何於色定。答
曰。若緣青色。則生青識。餘則不生。緣黃等色
亦復如是。問曰。青色衆多。有青莖青枝青葉
青花青果。若緣青莖識。云何不。耶。即是緣
青枝青葉青花青果識耶。評曰。應作是說。於
三法定。問曰。若然者。未生心心數法則多。
答曰。未生法多復有何過。未來世。竟無住處
耶。先已有住處故。問曰。若心心數法。於緣定
於所依亦定耶。答曰。於所依亦定。其事云何。
如未來心心數法。於所依則遠。若生現在前
與所依則俱。若滅則遠所依。復有說者。未生

●二二欲 ●住二往 ● ●卷第八終 ● ●卷第九雜持度智品之四首 ● ●卷第九雜持度智品第二之四首 ● 造號舞號號
號同異如首卷 ●未來十(法) ●(耶)一 ●三二二 ●竟二寬 ●

心心數法。於所依遠若現在前則俱。若滅俱滅。問曰。若心心數法。於所緣所依定者。彼於何時。能有所緣。為於生時。為於滅時。若以生時。生時是未來。云何未來能有所作。若以滅時。滅是壞散衰退之法。云何壞散衰退之時。能有所緣。評曰。應作是說。滅時能緣非是生時。所以者何。未生法是未來。未來法不能有所作。滅時名現在。現在法能有所作。問曰。若然者。云何以壞散衰退之法。能有所作。答曰。一切有法皆爾。體性羸劣。屬眾因緣不得自在。若心心數法。於依所緣和合。能有所緣。未來世依及境界散亂。如未來過去亦爾。現在則眾緣和合。若當現在。不能緣境界者。則畢竟無緣境界義。問曰。若心心數法。於所緣所依定者。此中何以但說所緣。不說所依。答曰。此中說所念事故。不說所依。若有所念。必依所緣。不用所依。如一境界。則為眾多心心數法所緣。如前一心緣已後。眾多心亦緣。猶如一人而有百子。若一子念父。餘子亦念。彼一境界。為多心所緣。亦復如是。

問曰。若所更事異。所念事異。云何不提婆達多所更。延若達多能憶。若延若達多所更。提婆達多能憶。答曰。提婆達多身異。延若達多身異。憶本所作者。身則不異。復有說者。如提婆達多延若達多心不得展轉為因。憶本所作前為後因。復有說者。若心相續。若身相續。能憶本所作。提婆達多。延若達多。心不相續。身不相續。問曰。若心相續者。何以先見一牛。後見餘牛。言是本牛。答曰。曾所更事。要當相

似爾乃識之。先所見牛。雖復曾更。而與後牛不相似故。是以不識。若前牛與後牛相似。爾乃可識。前所更意。必當有力。後不失念。而能憶本所作。先生心聚。以意名說。後生心聚。以念名說。以前意有勢力故。令後念憶本所作。不失念者。所謂不狂心不亂。不為苦痛所逼是也。

有二種心。一同行心。二同緣心。苦法忍苦比忍。苦比智是名同行心。不名同緣心。集法忍。集法智。是名同緣心。不名同行心。苦法智亦名同行心。亦名同緣心。其餘心亦不同行。亦不同緣。同行心所更事。同緣心能憶。同緣心所更事。同行心能憶。有三種心。善不善無記。若善心所更事。善不善無記心能憶。不善無記心亦如是。復有四種心。善不善隱沒無記。不隱沒無記。如善心所更事。四種心能憶。乃至不隱沒無記心所更事。四種心能憶。復有四種心。從因緣生心。從次第緣生心。從境界緣生心。從威勢緣生心。若一心會所更事。四心盡能憶。復有五種心。見苦所斷心。乃至修道所斷心。若見苦所斷心所更事。五種心能憶。見集所斷修道所斷亦如是。見滅所斷心所更事。四種心能憶。除見道所斷心。道亦如是。除見滅所斷心。復有六種心。所謂六識。若六識所更事。意識能憶。復有十二種心。欲界善心。不善心。隱沒無記心。不隱沒無記心。色界三種。除不善。無色界亦如是。學心。無學心。如十二種心。有相似十二法十二念。如欲界善心所更法。十二念盡能憶。不善亦如是。

隱沒無記心所更法。有八種念能憶。欲界四。色界善不隱沒無記學無學。欲界不隱沒無記亦如是。色界善心所更法。十二種念能憶。色界隱沒無記心所更法。十種念能憶。除欲界隱沒無記不隱沒無記。色界不隱沒無記心所更法。十種念能憶。除無色界隱沒無記不隱沒無記。無色界善心所更法。十種念能憶。除欲界隱沒無記不隱沒無記。無色界隱沒無記。無色界善心所更法。九種念能憶。欲界善不善。色界善隱沒無記。無色界三種學無學不隱沒無記亦如是。學心所更法。十二種念能憶。無學心亦如是。

如經說。尊者舍利弗。作如是言。諸長老。若若壞意。內入照了。外入法能生。正觀現在前。則意識生。彼云何壞意入。答曰。壞有三種。所謂須臾壞。命終壞。究竟壞。須臾壞者。若入無想定。滅盡定。是名須臾壞。命終壞者。如斷善根壞善意。如凡夫人離欲乃至命終時壞不善意。究竟壞者。如苦比智生苦諦所斷意。究竟壞。乃至道比智生見諦所斷意。究竟壞。住不退法。斯陀含見諦所斷意。及欲界修道所斷六種意。究竟壞。住不退法。阿那含一切見諦所斷意。欲界修道所斷染污意。究竟壞。住不退法。阿羅漢一切染污意。究竟壞。

以何等故所念事忘而復憶。答曰。眾生之法心相似。次第生知見者。有三種相似。所謂方便相似。境界相似。隨順相似。云何方便相似。如人讀修多羅。而後忘失。後勸方便。還復通利。毘尼阿毘曇勸方便亦如是。先修不淨觀。

而後忘失。後勲方便。隨其境界。還現在前。安般觀界方便亦如是。曾聞有婆羅門子讀違陀經。而後忘失。還欲通利。盡其方便。而猶不能。往詣師所而問之。本所讀經今悉忘失。還欲通利。雖勲方便。猶故不能。今當云何。其師問言。汝本讀時云何而讀。弟子答言。初讀經時。手則索繩口誦經文。師告之言。當如先法還讀誦之。弟子如教後便通利。是名相似方便。云何境界相似。如於此處見河池山林經行住處。後至異處。若見如先事者。還復憶念本所見事。是名境界相似。云何隨順相似。如得隨順飲食方土住處說法同行之人。則能憶本所作。曾聞有一比丘讀誦阿含。而後忘失。雖勲方便。猶故不能。還得通利。往詣大德阿難所。作如是言。本讀阿含而今忘失。雖勲方便。猶故不能。還令通利。今當云何。阿難語言。可求多油入浴室中。以用塗身煖水洗浴。加求隨順飲食方土住處說法同行之人。彼如其言。具諸方便。即還通利。是名隨順相似。云何次第。彼相續不斷是名次第。復有說者。次第者。不相續心還令相續。無能遮止。不為對治所壞。亦所更意力強。而不失念者。前生心聚。以意名說。後生心聚。以念名說。前心有力量。能令後心憶本所作。不失念者。不狂不心亂。不為苦痛所逼。尊者和須蜜說曰。以三事故所念事忘而復憶。一者善取前相。二者有相似方便。三者不失念。以何等故。先所念事忘而不憶。答曰。衆生之法心不相似。次第生心知見者。有三種不相似。所謂方便不相似。境界不相似。隨順不相似。云何方便不相似。如人讀修多羅而後忘失。復讀毘尼阿毘曇亦復忘失。先修不淨觀。後復忘失。復修安般觀。方便亦復忘失。是名方便不相似。云何境界不相似。本會見河池山林經行住處如是等事。後至異處。不見如是等事。於前所見更不復憶。是名境界不相似。云何隨順不相似。若不得隨順飲食方土住處同行之人。於前所作永不復憶。是名隨順不相似。不次第者。不相續斷絕。是名次第。亦所更意力弱。而失所念者。彼前生心聚。以意名說。後生心聚。以念名說。前心弱故。不能令後心憶本所作。失念者若狂心亂為苦所逼。尊者和須蜜說曰。以三事故。前所念事忘而不憶。一者不善取前相。二者無相似方便。三者失所念。

問曰。色界修慧。亦有忘而不憶耶。答曰。亦有。以身羸弱故。心亦羸弱。心羸弱故。所念事忘而不憶。誰有此忘而不憶耶。答曰。聖人凡夫俱有。聖人者須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛。亦於所念事忘而不憶。唯有如來。憶而不忘。何以知之。如經說。佛告舍利弗。假使諸比丘。於百年中。若以坐床臥床。與我而行。若當如來無上智辯。而有退失。無有是處。如持四弓喻。乃至廣說。以是事故。知如來無忘。

阿毘曇毘婆沙論卷第六

阿毘曇毘婆沙論卷第七

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

雜度智品之三

何故祭祀餓鬼則乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。欲解佛經故。如經說。生聞婆羅門。往至佛所。問佛言。沙門瞿曇。我有親里命過。欲施其揣食。為得食不。佛告婆羅門。此事不定。所以者何。有五道生處。地獄乃至天道。婆羅門若汝親里生地獄中。即食地獄中食。以自存活。彼云何能受汝所施揣食。生畜生人天中。亦復如是。婆羅門言。沙門瞿曇。若我親里不生餓鬼中者。所施揣食。誰當受之。佛語婆羅門。欲令餓鬼道中無汝親里者。無有是處。彼經雖說。施與餓鬼。則未說所以。今者欲說祭祀餓鬼則到。非餘處故。而作此論。彼佛經。是此論根本因緣。諸經中未說者。今盡說之。以何等故。祭祀餓鬼則到。問曰。為以此道高勝故到。為以下賤故到。若以此道是下賤者。地獄畜生是則下賤。若以此道是高勝者。人天則勝。答曰。應作是說。不以勝到。亦不以賤到。云何能到。答曰。此道自爾乃至廣說。有二事故。祭祀餓鬼則到。一者是業。二者此道自爾。先已說之。猶鴻雁孔雀鸚鵡舍利瞿翹羅共命等諸鳥。而能飛行。乃至廣說。然神不勝。

人勢不勝人。隨其所欲。而能飛行。於虛空中。久住遊戲。然人欲住虛空。去地四指經須臾間。猶無能者。如彼衆鳥。而能飛行。生處自爾。此餓鬼道。祭祀則到。生處亦爾。亦如一地獄道中。或有能自識宿命者。如經說地獄衆生。作如是念。諸沙門婆羅門。恒如是說。貪欲。是將來過患。可畏之處。是以當斷貪欲。我等以不能斷貪欲。因緣故。今受極劇苦痛極惱。問曰。彼作如是念時。爲初生時。爲中時。爲後時耶。答曰。初生時。非中後時。所以者何。初生之時。未受苦痛。若受苦痛。次前滅事。尚不能憶。況復久遠。問曰。爲任何心。作如是念。善耶不善。無記耶。答曰。住三種心。能作是念。爲是意地。爲五識身。答曰。意地非五識身。爲是威儀。爲是工巧。爲是報心。答曰。是威儀。非是工巧。報心。所以者何。彼處無有工巧。以報心是五識地故。爲念幾世耶。答曰。一世。於彼處死。來生此間。或有說者。亦能憶念多世。評曰。不應作是說。如先說者好。亦能知他心者。其事云何。答曰。若獄卒。種種殺害之器。在前而立。作如是念。彼獄卒。意今欲殺我。評曰。不應作是說。若然者。人亦能知。可名他心智耶。如是說者好。彼有生處得智。能知此事。爲初知爲中知爲後知耶。答曰。應如前廣說。畜生中亦有能自識宿命者。如經中說。傷佉。汝若是我父。都提耶者。可昇此坐。即便昇之。復作是言。汝若是我父。都提耶者。可食此糲米肉飯。即便食之。復作是言。汝若是我父。都提耶者。可示我所寶藏物。即便示之。問曰。作

如是念時。爲是初爲中後耶。答曰。三時俱能。爲任何心。答曰。住善不善無記心中。悉能。威儀工巧報心。亦能。能知幾世耶。答曰。或有說者。能知一世。死彼生此處。或有說者。能知多世。何以知之。曾聞有一女人。置其嬰兒。在於一處。有因緣故。餘行不在。時有一狼。攬其兒去。時人捕擄而語之。汝今何故攬他兒去。狼答之言。此小兒母是我等怨家。時人問言。有何怨耶。狼即答言。此小兒母。五百世中常食我兒。我亦五百世中常殺其子。若彼能捨舊怨之心。我亦能捨。時人語其兒母。可捨怨心。兒母答言。我今已捨。時狼觀兒母心。雖口言捨。而心不放。即便害其兒命而去。如此者。能知他心。亦識宿命。何時知耶。答曰。初中後悉知任何心知。答曰。善不善無記。悉知。意地知非五識身。威儀工巧報心。亦能知。彼經文雖不說。而餓鬼道亦有此智。何以知之。曾聞有一女人。爲餓鬼所持。即以呪術而問鬼言。何以惱他女人。鬼答之言。此女人者。是我怨家。五百世中。而常殺我。我亦五百世中。斷其命根。若彼能捨舊怨之心。我亦能捨。爾時女人。作如是言。我今已捨怨心。鬼觀女人。雖口言捨。而心不放。鬼即斷其命根。捨之而去。爲何時知耶。答曰。廣說如上。諸天道亦有此生處得智。而無現事可說。爲何時知耶。答曰。廣說如上。人道中無如此生得智。問曰。何以故無。答曰。非器非田故。復次人中。有瞻相智。有觀言相智。彼生得智。爲如此智所覆蔽故。復次人中。雖無此生得智。而有勝妙者。所

謂他心智願智。問曰。爲知幾心。答曰。或有說者。地獄還知地獄心。畜生還知畜生心。餓鬼還知餓鬼心。復有說者。地獄還知地獄心。畜生還知畜生心。亦知地獄心。餓鬼還知餓鬼心。亦知地獄畜生心。天盡知五道心。問曰。若畜生不知天心者。施設世界經云何通。如說善住龍王。伊羅拔那龍王。知帝釋心所念。猶如猛健丈夫。屈伸臂頃。於自住處沒。在帝釋前立。答曰。此是比智。何以知之。諸天若欲出軍鬪戰之時。善住龍王。脊背諸骨。自然出聲。彼作是念。今我脊背發出。定知諸天必與阿修羅共戰。諸天若欲遊戲之時。伊羅拔那龍王背上。自然有香手像現。彼作是念。我今背上。有香手像現。定知諸天欲遊戲園林。餓鬼亦有生得智。能識宿命。如偈說

我本求財物 如法或非法
他人得其樂 今我受苦惱
問曰。爲何時知。答曰。廣說如上。諸天亦有生得智。能自識宿命。如偈說

我今。祇洹林 恒住諸聖衆
法王亦在中 今我心歡喜
問曰。爲何時知。答曰。廣說如上。問曰。以何等故人。無生得智。自識宿命。答曰。非其器。廣說如上。復次爲餘法所覆蔽。如性自念。前生智。復次人中。雖無生得智。自識宿命通。而有勝妙者。所謂宿命通願智。彼亦能。雷電與風降雨者。唯畜生能非餘。畜生道中。唯龍。能非餘。彼畜生中。能與風降雨。近者是其功用。果。所住之處。遠邊外出者。是其威勢。果。問曰。

①是一見②③ ④若二若⑤* ⑥知十(他)⑦⑧ ⑨寶藏二藏寶⑩⑪[等]一⑫⑬ ⑭我今二今我⑮⑯ ⑰祇洹一祇祖⑱⑲⑳ ㉑唯二惟
㉒下同 ㉓能十(作)㉔

爲一龍能作如是等事不耶。答曰能作。問曰。若然者。經何以說異耶。如說或有天能雨或有天能風。乃至廣說。答曰。隨其所樂故。或有樂爲雨者樂爲風者。乃至廣說。以所樂不同。經說有異。如此等自爾。所欲便。果。彼餓鬼道自爾。施其搗食則到。復有說者。五道生處。各有自爾之法。如地獄報色斷便還續。生處自爾。畜生中能飛虛空。餓鬼施搗食則到。人中有勇健念力梵行勇健者。不見果而廣能修因念力者。久遠所作。久遠所說。而能憶念梵行者。能得解脫分。達分善根得正決定。天中有自然隨意所須之物。如是等諸道。各有生處自爾之法。復有說者。方土亦有生處自爾之法。如罽賓土秋時牛。咽繫鬱金花鬘。餘方貴勝。所不能得。如那伽羅國。凡人飲蒲桃酒。東方貴人所不能得。如東方貴勝衣絹。凡人衣氈。如北方人貴勝衣氈。凡人衣絹。如諸道諸方各有生處自爾之法。隨意能果。彼餓鬼亦爾。施其搗食。隨意能果。

復次有人長夜有如是欲。有如是念。乃至廣說。彼人長夜有如是欲如是念。所念便果。猶如邊僻聚落中人。爲富名故守護家財。多畜牛羊衣服穀米及諸生業之具。爲名譽故不施與人。以不施與人故。身壞命終墮餓鬼中。復有說者。有人性親愛眷屬欲饒益之。爲眷屬故。如法或不如法求財。及其得時。以慳惜故。於己眷屬尚無心與。況復餘人。以無施心故。身壞命終墮餓鬼中。若在本舍邊不淨糞穢廁溷中住。諸親里等。生苦惱心。作如是念。彼

積聚財物自不受用。又不能施人。以苦惱心故。欲施其食。請諸眷屬親友知識沙門婆羅門。施其飲食。爾時餓鬼親自見之。於眷屬財物生己有想。作如是念。如此財物我所積聚。今施與人心大歡喜。於福田所生信敬心。即時增長捨相應思。以如此業。能得現報。是故施其搗食則到。復有說者。過去世時作如是業。施與則到。其事云何。尊者和須蜜答曰。彼諸餓鬼。以慳惜故有顛倒想。有顛倒見。以有顛倒想見故。河見非河。水見非水。於好飲食。見是不淨。彼諸親里。爲於此人修布施時。能生信心。則除顛倒。見河是河。見水是水。見食是食。復有說者。餓鬼有二種。一者樂淨。二者樂不淨。彼樂淨者。以慳惜故。於河等顛倒想。如先說。樂不淨者。見河則乾。於滿器飲食。見其中空。若諸親里。爲其人故。修布施時。其鬼見已。於所施物及福田所。生歡喜心。即能增長捨相應思。以是業故。除顛倒想。樂淨者。於河見河。見水是水。器中飲食。見是淨食。樂不淨者。見水滿河。於空器中。見食滿器。以是事故。作如是說。施與餓鬼搗食則到。復有說者。彼餓鬼前世有少善行。於諸飲食。不生倒想。以慳惜故。身心怯弱。以怯弱故。不能往詣諸餓鬼中有威德者所。或有因緣。往詣其所。心不喜樂。所以者何。以自身卑賤故。彼威德餓鬼。以福德因緣。有種種飲食。此鬼身心怯弱故。不敢食之。若諸親里。爲其人故。修布施時。其鬼見已。於所施物及福田所。生歡喜心。以此信樂心故。便得勝身心。以得勝身

心故。而能往詣諸餓鬼中有威德者所。生喜心樂心。所得飲食。盡能食之。以是事故。施於餓鬼搗食則到。尊者佛陀提婆說曰。不應他作他受。但以彼諸親里爲其鬼故。修行布施。其鬼若於福田財物。生信敬心。於此果報。亦有其分。以是事故。施與餓鬼搗食則到。非餘道也。問曰。爲餓鬼作福。爲唯得飲食。亦增益其身耶。答曰。亦得飲食。亦增益身。得飲食如先所說。云何增益其身。其身臭者得香。惡色得好。龜觸得細。無威德身。得威德身。問曰。餘道中亦能得此果報不耶。答曰。若能生信心則得。不能生者則不得。問曰。若諸道中。皆得如是等事。此中何以獨說餓鬼道。不說餘道。答曰。以諸餓鬼爲飢渴故。常有渴望飲食之心。以自存活。餘道不必有如是心。是故不說。復有說者。以餓鬼道中常有求心期心。是故施之則到。有五趣所謂地獄畜生餓鬼人天。問曰。五趣體性。爲是不隱沒無記。爲是三趣。若無記者。波伽羅那說云何通。如說趣性是一切使所使。若有三種。則壞諸趣體。云何壞趣體。答曰。地獄衆生則應成就他化自在天煩惱業。及善他化自在天亦成就地獄衆生煩惱業及不善。應作此說。趣體性是不隱沒無記。問曰。若然者。波伽羅。那說云何通。答曰。彼應作如是說。地獄畜生餓鬼人趣體性。是欲界一切遍使。及思惟所斷。諸使所使。天趣體性。是三界一切遍使。及思惟所斷。諸使所使。應如是說。而不說者有何意耶。答曰。彼誦者錯謬故作如是說。復有說者。

①果二異 ②達二遠 ③咽二顯 ④人二夫 ⑤桃一荷 ⑥於一施 ⑦是二其 ⑧(那說云何...答曰)三千四百九十七字一

和合諸趣心。是五行所斷。是以一切使所使。復有說者。趣體性有三種。問曰。若然者。云何不壞趣體性。答曰。若已成就言之。則壞。若以現在行言之。則不壞。云何現在行言之。則不壞。答曰。如地獄畜生。餓鬼成就。他化自在。天。煩惱業及善。而不現前行。如他化自在。天成。就地獄餓鬼畜生煩惱業及不善。而不現前行。評曰。應作是說。地獄體性。是不隱沒無記。何以知之。如尊者舍利弗。作如是言。諸長老。若地獄漏現在前。造作地獄苦痛。身口意業。所謂身口意曲濁穢果報。生地獄中。生已受彼報。色乃至識。是名地獄趣。諸長老。除此五陰。更無有法名地獄趣。以是事故。知趣體性。是不隱沒無記。然以報故。五趣差別。此是趣性。今當說趣。所以者何。故名爲趣。答曰。趣彼生處。趣彼生相續。是名爲趣。

已說諸趣總相。一一相今當說。云何名地獄趣。答曰。是地獄分。與地獄衆生爲伴。受地獄身處。所得體性。得諸入。得生彼處。得不隱沒。無記色。受想行識。是名地獄趣。以何等故名泥。梨迦。泥梨迦。秦言無有。所以者何。彼中無有喜樂。無氣味。無歡喜。無利。無喜。無樂。無喜樂。故言無有。復有說者。作增上。身口意惡行。故生彼處。彼處生相續。是名地獄趣。復有說者。地獄趣者。是名施設。是想施設。不必如名。悉有其義。復有說者。是趣卑下。於五道中。更無卑下。如地獄趣。故名卑下。復有說者。是趣墮落。如偈說。

諸墮地獄者 其身盡倒懸

坐誹謗賢聖 及諸淨行者 諸根皆毀壞 如彼焦爛魚

復有說者。泥梨迦。秦言無去處。所以者何。生彼衆生。無有去處。無有依處。無有救處。故名無去處。復以何故名阿毘至。阿毘至。秦言無間。亦名淳受苦痛。亦名百釘釘身。亦名六苦觸。復有說者。衆生彼者。多無處容受。故言無間。不應作是說。所以者何。生餘地獄者多。生阿毘至者少。何以知之。作增上。身口意惡業。生阿毘至中。衆生少。有作增上。身口意亦如是。復有說者。無有暫樂。故名無間。問曰。若然者。餘大地獄中。有意樂爲樂受。問耶。答曰。雖無意樂樂受。有二種。一者依二者報。一切地獄。無報樂受。而有依樂受。阿毘至中。依樂受亦無。何以知餘大地獄中有依樂受。如施設世界經中說。唱活地獄中。有冷風來。吹衆生身。還生血肉。或作是唱。諸衆生活。諸衆生活。爾時衆生。即便還活。以是事故。知餘地獄有依樂受。阿毘至中。無如是事。故無依樂受。復有說者。生阿毘至中。衆生其身雖大。受苦痛時。無有間處。故名無間。問曰。地獄爲在何處。答曰。或有說者。閻浮提下。四萬由旬。有阿毘至地獄。問曰。其餘諸獄。爲在上下耶。爲在傍邊耶。答曰。或有說者。阿毘至獄。在於中央。其餘諸獄。周迴四邊。如今城在其中。村落圍繞。問曰。此閻浮提縱廣。七千由旬。下諸地獄。各各廣大。如偈說。

火焰遍滿多由旬 見者恐怖身毛豎

諸惡衆生常然之 其焰熾盛不可近

如是地獄。一一廣大。云何可受。答曰。此大地形。下廣上狹。其猶梁穀在地。是故經說。大海漸廣。轉深。復有說者。阿毘至獄。最在其下。次上有火炙地獄。次炙地獄。次大喚地獄。次大喚地獄。次押地獄。次黑繩地獄。次唱活地獄。彼阿毘至獄。縱廣高下二萬由旬。周匝八萬由旬。其餘諸獄。縱廣萬九千由旬。或有說者。其餘諸獄。縱廣萬由旬。復有說者。閻浮提下。四萬由旬。有阿毘至獄。阿毘至獄。縱廣高下二萬由旬。周迴八萬由旬。火炙地獄。縱廣高下五千由旬。乃至唱活地獄。各各五千由旬。如是七地獄。合三萬五千由旬。餘五千由旬。千由旬青色地。千由旬黃色地。千由旬赤色地。千由旬白色地。五百由旬是白。燿五百由旬是泥。一地獄。有十六眷屬。云何十六。答曰。一地獄。各有四門。一一門各有四眷屬。一名熱沙。上下沒膝地獄。二名惡虫。沸尿地獄。有刀道地獄。有兩刀葉地獄。有刀林地獄。如是三種。是第三眷屬。第四名熱灰河地獄。如是門門。各有四種眷屬。阿毘至獄。通己身及眷屬。合有十七。餘七地獄。亦爾。都合有一百三十六。諸眷屬地獄中。以種種苦治罪人。正地獄中。以一種苦治罪人。閻浮提下。亦有正地獄。閻浮提地上。唯有邊地獄。或在山上。或在谷中。或在曠野。或在空中。弗婆提瞿陀尼。唯有邊地獄。無正地獄。無正地獄。無正地獄。亦無邊地獄。所以者何。彼是淨果。報問曰。以何等故。閻浮提下。有

①已二以② ③梨二梨④ ⑤泥梨迦秦言無有七字宋元二本俱作夾註明本無 ⑥泥一聖⑦ ⑧秦言無去處五字宋元二本俱作夾註明本無 ⑨秦言無間四字宋元二本俱作夾註明本無 ⑩處容受二容受處⑪ ⑫問二鼻⑬ ⑭通二通⑮ ⑯堅二堅⑰ ⑱深二堆⑲ ⑳火二大㉑ ㉒押一壓㉓ ㉔地十有㉕ ㉖壽單越二壽單口㉗ ㉘無二有㉙ ㉚報十故㉛

正地獄餘處則無。答曰。閻浮提人。修善猛利。作不善業。亦復猛利。是故閻浮提。有正地獄。餘處則無。問曰。如餘方亦作五無間諸餘重業。爲於何處受其報耶。答曰。於此閻浮提下受。問曰。諸地獄卒。爲是衆生。爲非衆生耶。若是衆生者。多作不善業。當於何處復受此報。若非衆生者。曇摩須菩提所說偈。復云何通。如說

剛強瞋恚人 常樂作諸惡
見他苦生喜 死作閻羅卒

答曰。或有說者。是衆生數。問曰。若然者。多作不善業。當於何處復受此報。答曰。即於彼處受報。所以者何。作無間業斷善根。增上邪見者。猶於如受報。沉地獄卒。復有說者。非衆生數。以諸衆生罪業因緣故。實非衆生。作衆生像。而現其前。以種種事。治諸罪人。問曰。若然者。曇摩須菩提偈云何通。答曰。此造文頌不必須通。所以者何。造文頌。有增有減。有得有失。若欲通者。其事云何。答曰。諸以鐵鎖繫縛衆生。詣閻羅王所。是衆生數。餘種種治諸罪人者。非衆生數。如是說者好。地獄衆生其形云何。答曰。其形如人。言語云何。答曰。初生未受苦痛時。盡作聖語。後受苦痛時。雖出苦痛聲。乃至無有一言可分別者。但有打棒壞裂之聲。云何名畜生趣。答曰。是畜生趣分。與畜生爲伴。乃至廣說。以何等故。名畜生趣。答曰。其形傍故亦傍。其行傍故形亦傍。故名畜生趣。復有說者。作身口意過行。生彼道中。故名

畜生趣。復有說者。畜生者名施設。施設不必如名盡有其義。復有說者。遍有故名畜生趣。此遍五道中。地獄中有無足者。如能兜陀。有二足者。如鳥鳩羅那等。有四足者。如狗等。有多足者。如百足等。餓鬼中亦有無足者。如蛇等。有二足者。如鳥鳩羅那等。有四足者。有威德者。則有象馬等。無威德者。唯有狗等。有多足者。如百足等。人中亦有無足者。如腹行虫等。有二足者。如鴻雁等。有四足者。如象馬等。有多足者。如百足等。天中四天王三十三。天。有二足者。如雁孔雀等。有四足者。如象馬等。自上有二足者。如雁孔雀鳥等。問曰。聞自上諸天。亦乘象馬。今言無者。其事云何。答曰。彼衆生福業因緣故。作非衆生數象馬形。以自娛樂。復有說者。以盲冥故。名爲畜生。盲冥者。謂無明也。五道之中。無明多者。莫若畜生。問曰。畜生住處正在何所。答曰。根本住處在大海中。諸渚亦有。其形云何。答曰。其形傍側。亦有形上向者。如昆舍遮。如伊盧薩迦。如。閻盧破迦羅羅那羅等。言語云何。答曰。世界初成時。一切衆生。盡作聖語。後以飲食過患。時世轉惡。諂曲心多。便有種種語。乃至有不能言者。云何名餓鬼趣。答曰。是餓鬼分。乃至廣說。以何等故。名卑帝梨。卑帝梨。秦言祖父。或有衆生。最初生彼道中。名爲祖父。後諸衆生。生彼處。生彼相續者。亦名祖父。是故此趣名爲祖父。復有說者。衆生長夜。修行廣布慳貪之心。生彼趣中。故名餓鬼。復有說者。此是名施設。乃至

廣說。復有說者。多飢渴故。名曰餓鬼。彼諸衆生其腹如山。咽如鍼孔。於百千歲不聞水聲。亦不會見。何況得觸。復有說者。被驅使故名曰餓鬼。彼恒爲諸天。處處驅使。是故此趣名曰驅使。復有說者。常於他人有希望故。名曰餓鬼。以如是等緣故。此趣名餓鬼。問曰。此趣住在何處。答曰。或有說者。閻浮提下五百由旬。有閻羅王住處。是根本住處。其餘諸渚亦有。住閻浮提渚者有二種。一有威德。二無威德。有威德者。住花林果林種種樹下。好山林中。亦有宮殿在虛空中者。無威德者。住淨糞穢屎尿之中。弗婆提瞿陀尼。亦有二種。有威德者。無威德者。躡單越。唯有威德者。所以者何。彼地清淨果報處。四天王三十三天。唯有威德者。復有說者。閻浮提西。有五百渚。兩渚中間。有五百餓鬼城。其二百五十。有威德者住。其二百五十。無威德者住。是故尼彌轉輪聖王。告御者摩多羅曰。我欲昇天。汝可從是道去。使吾見諸衆生受惡。報者受善報者。爾時摩多羅御者。即如王教。從諸城過爾時彼王。罪福俱見。有威德者。如諸天子。頭戴天冠。身著天衣。食甘美食。各各遊戲。而自娛樂。無威德者。裸形無衣。以髮自覆。手執瓦器。行乞自活。其形云何。答曰。有上立者。有傍側者。或面似猪。如壁上畫像。言語云何。答曰。世界初成。一切衆生。盡作聖語。餘如先說。復有說者。隨其死處。往生彼間。如彼本形。隨彼本語。評曰。不應作是說。所以者何。若從無色界死。來生此趣。可無形無言耶。應

◎陀十(等)◎ ◎天二大◎ ◎閻一閻◎ ◎卑帝梨秦言祖父七字宋元二本俱作夾註明本無 ◎夜十(不)◎ ◎下二上◎

作是說。隨彼生處。形言亦爾。

人趣云何。答曰。是人分。是人伴侶。乃至廣說。以何等故。名摩鞞奢。摩鞞奢。秦言意。昔有王名頂生。化四天下。告諸衆生。諸有所作。意當善思。當善籌量。當善憶念。時諸衆生。即如王教。諸有所作。思量憶念。然後便自有工巧作業。種種差別。以人所作。先意思故。是故名。人。爲意如人。先未有此名時。展轉相呼。多羅裳伽。亦呼阿婆。達茶。復有說者。以修下身口意善業。生彼趣中。故名。人趣。復有說者。是名施設。廣說如上。復有說者。慢偏多故。五道之中。慢心多者。莫若於人。是故此趣名爲人趣。復有說者。此趣能止息意。故五道之中。能止息意。莫若人趣。所以者何。人能得解脫。分善根。達分善根。能親近善知識等四法。亦能修行親近善知識等四法。是故此趣名。人。問曰。爲住何處。答曰。住四天下。亦住八大渚上。所謂一名拘羅婆。二名喬羅婆。三名毘地呵。四名蘇毘地呵。五者奢吒。六名鬱多羅曼提那。七名婆羅。八名遮摩羅。彼拘羅婆。喬羅婆。二渚。是鬱單越眷屬。毘地呵。蘇毘地呵。二渚。是弗婆提。眷屬奢吒。鬱多羅曼提那。二渚。是瞿陀尼眷屬。婆羅遮摩羅。二渚。是閻浮提眷屬。復有說者。此二渚。是閻浮提。別名三天下。二渚亦如是。復有說者。此諸渚上。盡有人住。但其形短小。此一渚。有五百小渚。以爲眷屬。或有人住。或無人住。問曰。人形云何。答曰。其形上立。言語云何。答曰。世界初成時。盡作聖語。餘如上說。云何天趣。答曰。天分天

伴侶得天身。乃至廣說。以何等故名天趣。答曰。諸趣中勝。故有何等勝。所謂有勝樂勝。吉善勝。身勝。形體勝。有如是勝。故名曰天趣。復有說者。行增上。身口意善業。生彼趣中。故名天趣。復有說者。此名施設。廣說如上。復有說者。諸天無晝夜。常以光明自照。故名天趣。復有說者。以善行因緣。故生彼天趣中。常自遊戲。娛樂。故名天趣。爲住何處。答曰。住須彌山側。四邊水上。繞須彌山。廣六千由旬。有杵手天。住處。次上萬由旬。遠須彌山。廣八千由旬。是持花鬘天。所住之處。次上萬由旬。遠須彌山。廣四千由旬。是常放逸天。所住之處。次上二萬由旬。繞須彌山。廣二千由旬。是四天王所住之處。有七種金山。四天王城。天民村落。悉在其中。此處諸天。於下最多。次上四萬由旬。須彌山頂。有善見城。縱廣萬由旬。是十三天所住之處。須彌山頂。縱廣幾何。答曰。周匝四萬由旬。離須彌山頂。四萬由旬。中間如雲。有焰摩諸天。依地而住。如是次第。上至善見諸天。皆依地住。從善見天。上至阿迦。貳吒天。亦依地住。

齊量云何。如須彌山頂量。上至他化自在天。量亦如是。如四天下齊量。初禪地齊量亦如是。如千世界齊量。第二禪地齊量亦如是。如二千世界齊量。第三禪地齊量亦如是。如三千大千世界齊量。第四禪地齊量亦如是。復有說者。如須彌山頂齊量。焰摩諸天齊量。轉大一倍。如是乃至他化自在天。轉大一倍。亦爾。如千世界齊量。初禪齊量亦爾。如二千

世界齊量。第二禪齊量亦爾。如三千大千世界齊量。第三禪齊量亦爾。第四禪地齊量。則無量無邊。是故於第四禪地。起我見者。是見難斷。難捨。復有說者。第四禪地齊量不定。若諸天子。生彼禪中。則有爾許宮殿處所。若其命終。處所便滅。是故不定。評曰。如前說者。好彼地無量無邊。問曰。彼第四禪地。三災所不及。云何非是常耶。答曰。非常。墮諸刹那故。諸天其形云何。答曰。其形上立。言語云何。答曰。盡作聖語。已說諸趣種種所以。今當復說阿修羅所以。何故名阿修羅。答曰。修羅是天。彼非天故名阿修羅。復有說者。修羅言端政。彼非端政故。名阿修羅。何以知之。世界初成時。諸阿修羅。先住須彌山頂。後光音諸天。命終。生須彌山頂上。亦有宮殿。自然而出。諸阿修羅。與大瞋恚。即便避之。如是有第二天宮。展轉乃至三十三天。悉滿其上。諸阿修羅。生大瞋恚。捨須彌山頂。退下而住。以瞋恚故。形不端政。以是事故。名不端政。問曰。爲住何處。答曰。或有說者。須彌山中。有空缺處。猶覆寶器。中有大城。諸阿修羅。在中而住。問曰。若然者。諸龍見阿修羅軍。著金銀琉璃。頗梨。鎧。手執弓箭種種器。杖。從阿修羅城出。此言善通。如說阿修羅言。我所住大海同一鹹味。此說云何通。答曰。諸阿修羅。村落人民。居在大海。阿修羅王。住須彌山中。復有說者。阿修羅居大海水。以金爲地。地上有金臺。縱廣五百由旬。其上有城。諸阿修羅。在中而住。問曰。若然者。此經善通。如說諸阿修羅言

①摩鞞奢秦言意 ②秦言意三字宋元二本俱作夾註 ③達二建自 ④貳二賦 ⑤卷第九終 ⑥卷第十雜建度智品之五首 ⑦卷第十雜建度智品第一之五首 ⑧造號釋號譯號同異如首卷 ⑨成十(就) ⑩杖二仗

我住大海同一鹹味。此言善通。如說諸阿修羅軍從城而出。乃至廣說。此云何通。答曰。諸天以龍在金山中。用為守邏。是以見之。阿修羅城中。有四種園觀。一名歡喜。二名喜樂。三名大喜樂。四名愛樂。亦有質多羅。波吒梨樹。問曰。阿修羅為天趣所攝。為餓鬼趣攝。若是天趣。何以無有得正決定者。若是餓鬼趣者。何以乃與諸天交親。何以復與諸天戰鬪。此經復云何通。如說帝釋作如是說。毘摩質多羅王。汝本是此處天。答曰。或有說者。此是天趣所攝。問曰。若然者。何以無有得正決定者。答曰。為諂曲所覆故。其事云何。答曰。彼阿修羅作如是念。佛偏為諸天。若佛為說四念處。彼作是念。為我等說四念處。必為諸天說五念處。若佛為說三十七助道法。彼作是念。佛為我等說三十七助道法。必為諸天說三十八助道法。以為如是諂曲心所覆故。不能得正決定。復有說者。是餓鬼趣所攝。問曰。若然者。何以與諸天交親。答曰。諸天貪美色故。不為族姓。如舍。芝阿修羅女。端政無雙。是以帝釋納之為妻。亦如頭摩緊那羅王女。名曰摩菴訶利。須陀那菩薩納之為妻。菩薩是天趣。緊那羅是畜生趣。如此皆為美色。不為族姓。以何等故。復與諸天共戰鬪耶。答曰。亦有。不如與勝者共鬪。如奴僕亦與其主。而共鬪。狗亦與人鬪。彼亦如是。此經復云何通。如說毘摩質多羅王。汝本是此處天。答曰。毘摩質多羅王。是帝釋婦公。以尊重恭敬故。作如是言。

問曰。如拔陀那神女旃陀神女旃陀利迦神女伊吒地婆神摩頭建陀神等。為是天趣所攝。為餓鬼趣所攝。若是天趣所攝。何以奪人精氣。亦斷人命。受人祠祀。若是餓鬼趣所攝者。此經云何通。如偈說

鬱多利莫開 畢陵伽亦然
若我見真諦 汝等亦當得

答曰。或有說者。是天趣所攝。問曰。若然者。何以奪人精氣。亦斷人命。受人祠祀。答曰。彼不奪人精氣。亦不斷人命。不受人祠祀。彼所將眷屬。或有奪人精氣者。斷人命者。受人祠祀者。復有說者。是餓鬼趣所攝。問曰。若然者。如所說偈。云何通耶。答曰。彼有信向諦心。故實不見諦於諦中。愚何由能見。如摩頭建陀神所說云何通。答曰。此是自高之言。於諸趣中。愚何能見趣差別。但自高故作如是說。如今富者。於奴僕邊。亦自稱高。彼亦如是。是四天王給使。自言我是天生四天王中。諸依地住神。彼盡餓鬼趣所攝。諸毘舍遮神。緊那羅神。醯樓索迦神。婆樓尼神。奢羅破仇羅神。盡畜生趣所攝。彼雖其形上立。猶有畜生相。或有耳尖。或有著甲。諸夜叉羅刹。竭吒富單。那鳩槃荼等。盡是餓鬼趣所攝。如說是地獄分。是地獄伴侶。命根等心不相應行。此說是地獄衆生。或有說者。不應作是說言。是處所得體性得諸入得。應言是地獄分地獄伴侶。復有說者。應說所以者何。說處所得者。諸界得。體性得者。諸陰得。諸入得者。說內外入得。問曰。若說界陰入得便足。何以復作是說生。

地獄衆生。得無記色。乃至識。答曰。為說報果故。以報果故。五道差別。

阿毘曇毘婆沙論卷第七

阿毘曇毘婆沙論卷第八

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

譯

雜健度智品之四

當言一眼見色。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。為止併義者意故。如尊者曇摩多羅說。眼不見色。識見色。為止如是意故。言眼見非識見。如犢子部說。一眼見色。非二眼一時見。所以者何。以相遠故。以捷疾故。人謂兩眼一時見色。問曰。若以相遠。不得一時見者。身根亦相遠。如兩臂而能一時覺觸。生於身識。兩眼亦應爾。是故為止併義者意。而作此論。復次為斷人疑意故。而作此論。衆生兩眼相去。或半指一指二三四指。半尺一尺。一肘一尋。半拘盧舍。一拘盧舍。半由旬。一由旬。二三四由旬。乃至百由旬。如大海中有衆生身。或百由旬。或百四十由旬。或二百一十由旬。如色界阿迦。膩吒天。身長萬六千由旬。如是等衆生。兩眼相去甚遠。有如此事。人生疑心。為二識一時生兩眼中。為一眼各有一識耶。為一識眼中生已復生一眼中。為一識分為二分在兩眼中生。為如橫木通兩眼中耶。

◎波二婆◎◎芝二脂◎◎茶二茶◎◎不分卷及品◎◎賦一式◎◎一一識二識一◎◎

若當二識一時生兩眼中者。云何不有二心過。若當一眼中生已復生一眼中者。云何不有前後剎那過。若當一識分爲二分在二眼中者。云何一識非是分法。若依身法。是名身識。若依眼生。是名眼識。若當如橫木通兩眼中者。云何一識。不亦是身識亦是眼識耶。而此五識所依各異。所行識界亦異。一識二依事不應爾。如是二識一時生兩眼中。一識生一眼中已。復生一眼中。一識分爲二分。在兩眼中。如橫木通兩眼中。皆不應爾。非不依二眼生於一識。而能分別極遠微細之色。如此皆是甚深微妙難知之法。欲說甚深微妙難知之法。而作此論。問曰。云何一識依二眼生。答曰。是識所依法故。兩眼相去雖遠能爲一識。而作所依。俱是眼識所依法故。設有百眼。而爲一識作依者。亦無有過。如百水精器一面往觀則有百面像現。彼亦如是。雖是二依生於一識行於境界。當言一眼見色。乃至廣說。答曰。當言兩眼見色。應說所以令世人信。何以故。當言兩眼見色。不當言一眼見色。如合一眼。不生淨眼識。則不能廣見境界。於境界不明不淨。若開兩眼。則生淨眼識。則能廣見境界。於境界明了清淨。設如合一眼不生淨眼識。不廣見境界。乃至廣說。開兩眼亦不生淨眼識。不廣見境界。乃至廣說者。不當言兩眼見色。但一眼見色。生不淨眼識。不廣見境界。乃至廣說。若開兩眼。生淨眼識。能廣見境界。乃至廣說。是故當言兩眼見色。不當言一眼見色。合者。若以手以衣以葉。

諸餘障眼具壞者。若。瞽。瞶。若赤膜若眼雲若生白膜。覆者。爲烟塵垢所覆。滅者。若爛敗。若虫噉。若墮若破。若消涸。若挑出。若自脫。如眼色。耳聲鼻香亦如是。如所依淨識則淨。所依不淨識則不淨。實義淨者。善識是淨。染污是不淨。或有眼識淨。或有識淨。眼淨不淨。或有眼識俱淨。或有眼識俱不淨。眼淨不淨者。如眼有障。醫生善識。眼識俱淨者。如眼無障。醫生善識。眼識俱不淨者。如眼有障。醫生染污識。問曰。何故眼耳鼻。有二處所。而舌身無兩處所耶。答曰。如此諸根。以莊嚴身。若有二舌。是鄙陋事。世所嫌笑。云何此人而有二舌。如似毒蛇。若有二身。亦是鄙陋爲世所笑。云何一人而有二身。如孿子併。問曰。以何等故。但有二眼二鼻二耳。而不多耶。答曰。如此諸根。以莊嚴身。若有多眼。廣說如上。復有說者。若有多眼。則無所益。所以者何。如二眼見色。則淨多亦無益。以無益故。唯有一眼。耳鼻亦應如是說。問曰。何故二眼二鼻二耳處所。唯說一界一入一根。答曰。行一境界一識所依。以作一事。故說一界。乃至廣說。

亦如是。色入有三種。有長養報依。香味觸亦如是。聲有二種。有長養有依。意入有三種。報依剎那。彼苦法忍相應心名曰剎那。法入有四種。有報依剎那物體。物體者。以有無爲法故。問曰。頗有。唯報眼。無長養眼。頗有唯長養眼非報眼。答曰。無有。有報眼無長養眼者。如人重人。如牆重牆。報眼長養眼亦如是。頗有長養眼。無報眼耶。答曰。得天眼者是。或時長養眼有勢力。非報眼。或時報眼有勢力。非長養眼。或時長養眼報眼有勢力。或時長養眼有勢力。非報眼者。如少年時眼。或時報眼有勢力。非長養眼者。如老病時。彼長養力少。或時長養眼報眼俱有勢力者。如中年時。或有衆生。長養眼有勢力。非報眼。或有報眼有勢力。非長養眼。或有長養眼報眼俱有勢力。或有長養眼報眼俱無勢力。長養眼有勢力。非報眼者。如富貴人。本眼性劣。以種種所須。令眼明淨。或報眼有勢力。非長養眼者。如田作人。無種種所須之具。本眼自淨。或有長養眼報眼俱有勢力者。如富貴人。有種種所須之具。本眼明淨。或長養眼報眼俱無勢力者。如田作人。無種種所須之具。本眼不明淨。問曰。爲長養眼見色多。爲報眼見色多。答曰。長養眼見多。所以者何。天眼是長養眼故。或時長養眼見淨好。非報眼。或時報眼見淨好。非長養眼。或長養眼報眼俱見淨好。或時長養眼報眼俱見非淨好。問曰。爲善行報眼見淨好。爲不善行報眼見淨好。答曰。總而言之。善行報眼見淨好。所以者何。善行報得人。如

法二生(三) 行識二得境(三) 瞽二深(三) 瞶二眼(三)* 唯二惟(三) 下同 唯二惟(三)

佛辟支佛轉輪聖王。皆是人故。不善行報是畜生。是故總而言之。善行報眼見淨好。以身言之。或有象見勝人。如人眼。雖是善行報。而有障^障。畜生眼。雖是不善行報。而無障^障。賢問曰。眼微塵。為次第傍布。為前後重生。若次第傍布。云何不散壞。若前後重生。云何前者不障於後。答曰。或有說者。次第傍布。於黑瞳子上。對諸境界。猶如器中盛水以糠塗上。亦如阿闍花子次第傍生。眼微塵亦如是。問曰。若然者。云何不散壞耶。答曰。薄膜覆故。而不散壞。復有說者。前後重生於黑瞳子上。問曰。若然者。前者云何不障於後。答曰。造色性不障礙。復有說者。明淨色不相障礙。猶如秋時潢水明淨不障細鐵墮底猶故可見。明淨色不相障礙。亦復如是。耳微塵住耳孔內。鼻微塵住鼻孔內。此三根透頭。如著花鬘。舌微塵依舌。如半月像。其中間空猶如毛許。是身根分。餘者悉是舌微塵身微塵。次第而立。復有說者。眼微塵其形如銅杵頭。耳微塵在耳孔內。其形如燈器。鼻微塵在鼻孔中。其形如爪甲。舌微塵其形如偃月刀。身微塵其形如大刀。男根微塵其形如指。女根微塵其形如鼓。樞。以如是等因緣。是佛經說相似喻。眼。根微塵。或時是分。或時是彼分。或時是一分。或時是彼一分。耳根鼻根舌根微塵亦如是。身根微塵。或時是彼分。或時是一分。或時是彼一分。無有全是分時間。若無全是分時者。如入冷池水時。如入熱鑊湯時。如地獄中十三種猛焰燒身之時。此豈非是耶。

答曰。如此之時。故是彼分。所以者何。若身根微塵。盡能生身識者則散壞。色入有二十一種。所謂青黃赤白長短方圓適不適高下。光影明闇。煙雲塵霧虛空色。問曰。為緣一色能生眼識。為緣多色能生眼識。若緣一色能生眼識者。此云何通。如說眼能緣五色。若緣多色能生眼識者。云何不有二覺意。有二覺意則有多體。答曰。緣一種色。能生眼識。問曰。若然者。能緣五色云何通。尊者須蜜。答曰。於緣捷疾故。佛說俱緣。如旋火輪。而實不匝。以捷疾故。而似輪像。彼亦如是。尊者佛陀提婆說曰。於色不決了故言俱緣。如觀樹林葉。有種種諸色。彼亦如是。復有說者。如五色能生一色。見一色時。名見五色。復次若諸色集聚。則見多色。生一識。若諸色別異。則見一色生一識。

聲入有八種。有內大因聲。有外大因聲。內大因聲有二種。有適意不適意。外大因聲亦如是。有衆生數。有非衆生數。衆生數有二種。適意不適意。非衆生數亦如是。為緣一聲能生耳識。為緣多聲能生耳識。若但緣一聲能生耳識者。如今一時能聞五樂聲。亦聞多人誦聲。若緣多聲生耳識者。云何不有二心。乃至廣說。答曰。應作是說。緣一聲生耳識。問曰。若然者。不於一時聞五樂聲及多人誦聲耶。答曰。五樂聲多人誦聲。同是一聲。能生耳識。復有說者。若諸聲聚集。則緣多聲。能生一識。若聲別異。則緣一聲。而生一識。

減。惡香亦爾。問曰。為緣一香能生鼻識。為緣多香能生鼻識。若緣一香生鼻識者。如今一時能嗅百種和香。若緣多香生鼻識者。云何不有二心。乃至廣說。答曰。應作是說。緣一香能生鼻識。問曰。若然者。不能一時嗅百種香耶。答曰。或有說者。百種香能生一種香。生於鼻識。如是說者好。如多香聚集。則嗅多香。生於一識。若香別異。則嗅一香。能生一識。

味入有六種。甜。酢。鹹。辛。苦。澁。問曰。為緣一味能生舌識。為緣多味能生舌識。若緣一味能生舌識者。如今一時能嘗百味歡喜丸等。若緣多味能生舌識者。云何不有二心。乃至廣說。答曰。應作是說。緣於一味。能生舌識。問曰。若然者。不能一時嘗百味歡喜丸耶。答曰。或有說者。百味歡喜丸。能生一種味。生於舌識。如是說者好。如多味聚集。則嘗多味。生於一識。若味別異。則嘗一味。生於一識。

觸入有十一種。四大澁滑輕重。冷飢渴。問曰。為緣一觸能生身識。為緣多觸能生身識。答曰。十一種觸。能生十一種身識。復有說者。五觸能生一身識。如四大及滑。生一身識。如是四大。乃至及渴。生一身識。問曰。若然者。云何不名總緣境界。答曰。同一觸入故。不名總緣境界。評曰。不應作是說。如前說者好。

問曰。為嗅嘗覺身中香味觸。不若嗅嘗覺身中香味觸者。云何檀越所施。而有果報。復云何不於一切時嗅嘗覺耶。若嗅嘗覺外香味觸。外香味觸。與內香味觸。無有因義。答曰。應作是說。能緣內香味觸。問曰。若然者。云何

① 障二障 ② 中二內 ③ 樞二者 ④ 樞二區 ⑤ 〔根〕一 ⑥ 二二一 ⑦ 酢二醋 ⑧ 澁二淡 ⑨ 冷十〔暖〕

檀越所施。而有果報。云何不一時嗅嘗覺耶。答曰。外香味觸。能發內香味觸。以是事故。名之為食。復有說者。亦嗅嘗覺觸。內入外入。若時覺內則不知外。覺外則不知內。問曰。內香味觸體無增減。云何嗅嘗覺觸。答曰。彼法雖無增減。亦為識所緣所知。

法入有七種。無作假色受想行虛空數緣滅非數緣滅。問曰。為緣一法生意入。為緣多法生意入。答曰。一法亦生。二三乃至多法亦生。唯除自體相應共有。餘一切法能生意識。曾聞菩薩六識猛利。為知幾所法名為猛利。答曰。菩薩宮邊。有阿泥盧頭舍。舍中次第行列。然五百燈。菩薩爾時於自宮中。不見彼燈及與燈焰。但見其光。知然五百燈。若一燈滅時。菩薩作是言。彼五百燈中。一燈已滅。以是事故。言眼識猛利。阿泥盧頭舍中。有五百伎女作樂歌舞。菩薩聞聲。知有五百伎女中或琴弦絕。或時睡眠不彈琴時。菩薩亦知是名耳識猛利。菩薩宮中。常燒百種和香。菩薩嗅之。便知是百種香。彼合香者。欲試菩薩於百種中。或增或減。若燒香時。菩薩亦知本有百種。今增爾所種滅爾所種。是名鼻識猛利。菩薩食時。常有百味歡喜丸。彼諸使人。於百味中。或增或減。菩薩即知。以是事故。名舌識猛利。菩薩洗浴時。侍者奉劫波育鬘。菩薩觸時。即便知彼纖麗師身有熱病。以是事故。名身識猛利。菩薩意根。於一切法。而無罣礙。以是事故。名意識猛利。

一者取境界。二者於境界無間。若以取境界言之。六根盡到。若以無間言之。則三到三不到。三到者。謂鼻舌身根。三不到者。謂眼耳意根。問曰。若三是不到。而能知者。何故聞近聲。而不見近色。尊者須蜜答曰。彼界法自爾。復有說者。眼能取遠境界。以極近故不見。問曰。耳亦是遠境界。何以聞近聲。答曰。如以銅籌。筋安開那藥置黑瞳上。以近故不見。若聲到耳根微塵上。亦復不聞。尊者佛陀提婆說曰。眼因明故能見近。則冥奪於明。是以不見。如是耳因空故聞聲。鼻因風故嗅香。舌因水故知味。身因地堅故覺觸。意因所觀故能知法。

問曰。頗有一微塵作所依。一微塵為境界。能生識不。答曰。無也。所以者何。此五識身。依有對緣有對。依積聚緣積聚。依和合緣和合。復有說者。如眼識依自分緣自分彼分。耳識亦如是。意識依自分彼分。緣自分彼分。鼻舌身識。依自分緣自分。復有說者。眼識依自界。緣自界他界。耳識亦如是。意識依自界他界。緣自界他界。餘三識依自界緣自界。界者。復有說者。眼識依無記緣三種。耳識亦如是。意識依三種緣三種。餘三識依無記緣無記。復有說者。眼識依近緣近遠。耳識亦如是。意識依近遠緣近遠。餘三識依近緣近所以者何。若三塵與三依合時。三識則生。不合時則不生。復有說者。眼識或所依。大所緣。小。或所依。小所緣。大。或所依所緣等。所依大所緣小者。如見毛端。所依小所緣大者。如見大山。所依所緣等者。如見蒲桃珠。耳識亦如是。意識所依。雖無大小。而所緣有大小。餘三識所依所緣等。隨香與所依等。生鼻識。乃至舌身識亦如是。或有色雖遠而是境界。或有色雖不遠而非境界。有色亦遠亦非境界。有色亦不遠亦非境界。云何有色雖遠而是境界。如四天。王所居宮遠。人眼所不見。此非不是境界。以遠故人眼不見。不遠亦非境界者。如梵天在此。人眼不見。亦遠亦非境界者。如梵天自住宮。亦不遠亦非境界者。除上爾所事。尊者和須蜜說曰。色有四事。故不見極近極遠極細障色。迦毘羅弟子。作是說。色有八事。故不見極遠極近。根壞意不住。微細障為勝所。譬同故不見。問曰。眼根為有筋骨皮肉不耶。答曰。無也。是淨四大。言有骨等者。是眼根處所。筋骨皮肉是四入。謂色香味諸過去者。盡不現耶。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。優陀耶經。是此論本緣。世尊共優陀耶。東方遊行。爾時世尊著一重衣。而自洗浴。時優陀耶。給事世尊。摩拭身體。優陀耶是菩薩少小親友。常為菩薩按摩調身。今見世尊。光明照耀。勝菩薩時。生於尊敬歡喜之心。白佛言。世尊。我今欲以龍喻之。偶讚歎世尊。世尊告言。隨意說之。時優陀耶便說此偈。

①舍二合 ②彼十(境) ③筋二者 ④界十(也) ⑤近十(遠) ⑥大二小 ⑦小二大 ⑧挑二荷 ⑨王二

便過去。世尊於諸結得解脫。是名結過去。於林離林來者。林名居家。離林來者。所謂出家。於林來出家。故名於林離林來。出欲生喜樂者。欲有二種。一煩惱欲。二境界欲。出者。出家欲。煩惱欲。生喜樂者。身心寂靜。是名出欲。生喜樂。猶如山頂金者。山者日出處山也。金者日也。如日在山頂出時其光明淨。世尊於諸煩惱使垢山頂。出時其光明淨。亦復如是。復有說者。山者黑沙山也。金者金沙山也。若除黑沙山。則金沙山。其光明淨。世尊亦爾。除去一切煩惱使垢黑沙之山。則力無畏念處大悲金沙之山。其光明淨。是故說猶如山頂金。是名過去非不現。所以者何。如來身猶現在故。或有不現非過去者。猶如有一。若以神足若以呪術乃至廣說若以神足者。爾時世尊入如是三昧於梵世中。放大光明。普令周遍。出大音聲。令梵天王及諸梵眾。普使聞知。而無見者。如尊者目連入如是三昧。能令提婆達多不見其身。問曰。此神足於誰不現。答曰。佛於一切眾生邊不現。辟支佛除佛。餘一切眾生邊不現。舍利弗除佛辟支佛。餘一切眾生邊不現。目犍連除佛辟支佛舍利弗。餘一切眾生邊不現。乃至利根於鈍根邊。能令不現。呪術者諸仙人。結如是呪。有能誦者。令身不現。彼神足者。於呪術邊。令身不現。呪術不能於神足邊令身不現。問曰。呪術還於呪術能令身不現耶。答曰。能如善呪術者。於不善呪術邊。能令身不現。藥草者有如是藥草。人若執之令身不現。如毘舍遮鳩槃荼等呪

術者。能於持藥草者邊。令身不現。持藥草者。於呪術者邊。不能令身不現。何以故。呪術力能取藥草故。生得處者。如地獄生得處。不能令身不現。若當能令身不現者。乃至須臾不住地獄中受苦。復有說者。雖於地獄卒邊不能令身不現。能於餘處令身不現。畜生餓鬼天。亦能令身不現。問曰。如是各各能於誰令身不現。答曰。或有說者。地獄還於地獄。令身不現。畜生於畜生地獄。能令身不現。餓鬼能於餓鬼畜生地獄。令身不現。天於五道。能令身不現。評曰。應作是說。地獄能於五道。令身不現。乃至天能於五道。令身不現。所謂障隔也。是謂不現非過去。云何過去亦不現耶。諸法生始生。乃至過去過去世攝。如此盡明生法。是謂過去亦不現。云何非過去非不現。答曰。除上爾所事。諸法第一第二第三句已稱已說。已行已立名字者。除諸餘法未稱未說未行未作名字者。作第四句。彼已說者。是何等耶。答曰。所謂一切過去。去現在世中。取如來身及障隔不現者。其餘現在法。一切未來世法。無為法在在者。作第四句。是謂非過去非不現。問曰。以何等故。此中不說結不現耶。答曰。處處有說結是盡是滅。無有處說結不現。如此四句。亦依世俗法。亦依佛經。亦依世諦。亦依第一義諦。諸過去者彼盡耶。乃至廣說。過去不盡者。如長老優陀耶所說。廣說如上。盡不過去者。如世尊言。此比丘。盡地獄趣。乃至廣說。問曰。地獄畜生餓鬼。即說地獄畜生餓鬼盡。何

以復言不墮惡道惡趣耶。答曰。更無未曾有事。言不墮惡道者。即是盡地獄畜生餓鬼。但前廣說。後是略說。文雖有異義無異也。復有說者。前是廣說。後是略說。前說是解後說不解。復有說者。盡是地獄畜生餓鬼。如前說不墮惡道惡趣者。是黃門般吒。無形二形。所以者何。此亦是人中惡道惡趣故。復有說者。盡地獄等。如前說不墮惡道惡趣者。是不斷善根。所以者何。若斷善根。即是惡道惡趣故。如說身壞命終。如擲異珠。須墮惡道中。復有說者。盡地獄等。如前說不墮惡道惡趣者。說十二非律儀家。所以者何。此亦是惡趣故。復有說者。盡地獄等。如前說不墮惡道惡趣者。說惡道惡趣。以因說果故。如世尊言。汝等比丘。若見有人作身口意惡業。當知是地獄趣。復有說者。盡地獄等。如前說不墮者。說地獄趣。所以者何。不能成就善果故。惡道者。是餓鬼趣。所以者何。於一切時。常乏少所須故。惡趣者。是畜生趣。所以者何。有眾生。生彼趣中。世界成時受身。乃至世界壞時命終。復有說者。不墮者。盡說三惡道。如畜生餓鬼中。雖有成就善果者少。惡道者。盡說三惡道。以人天言之。盡是惡道。惡趣者。亦盡說三惡道。以身心生其中故。盡地獄趣。乃至廣說。問曰。如今地獄鑊湯獄卒等猶在。何以言盡。答曰。或有說者。不往不生故言盡。不往者。不復往彼處。不往者。不復生地獄陰界入。復有說者。彼聖人。不生故言盡。彼諸陰界入。住不生法故。復有說者。得非數緣滅故言盡。問

◎林二家◎ ◎[家]一◎ ◎目健連二目健連◎ ◎去十(法)◎ ◎有二而◎ ◎須二須◎ ◎不三所◎ ◎成就二成熟◎ ◎三惡道三惡趣◎

曰。彼亦盡天趣。亦盡人趣。盡天趣者。不生無想天。盡人趣者。不生鬱單越。何以但言盡地獄等趣。答曰。以都盡故說盡。不都盡故說不盡。過去亦盡者。諸行始生。廣說如上。亦不過去不盡者。除上爾所事。如前廣說。已說者一切過去現世有如來身。未來世中聖人墮惡趣陰界入住。不生者。餘未來現在法。無為法在在者。作第四句。此說世盡四句。今當說結盡四句。

復次今當說結。結有過去不盡。乃至廣說。結過去不盡者。諸過去結。不斷不知不滅不吐。不斷者。不以聖道斷諸結得。不知者。不證解脫得。復有說者。不斷者是斷知。不知者是智知。不滅者。不得數緣滅。不吐者。不斷諸結得。不證無為得。復有說者。不吐者。不捨棄。彼不斷等。復是何耶。答曰。具縛人。見道修道所斷結是也。聖人若住苦法忍時亦爾。苦比智生。餘有四種結。如是次第。乃至道比智生。餘有一種見諦具足。修道所斷。隨相而說。盡不過去者。諸結已斷。已知已滅。已吐。斷者。以聖道斷諸結得。已知者。證解脫得。復有說者。已斷者。所謂斷知。乃至廣說。斷等復是何耶。答曰。阿羅漢三界結使斷。乃至廣說。斷等復是何耶。答曰。阿羅漢三界結使斷。乃至欲界凡夫結使斷。應隨相說。過去亦盡者。諸過去結已斷。乃至廣說。斷者。以聖道斷。乃至廣說。不過去亦不盡者。諸未來結不斷。乃至廣說。諸過去盡滅耶。乃至廣說。作四句。過去不滅者。如長老優陀耶言。乃至廣說。是謂過去不

滅。滅不過去者。當說小事。小舍言舍滅。乃至廣說。此是世所傳。如東方人小舍言舍滅。乃至小眼見色言眼滅。故作是說。頗有滅眼能見色耶。答曰。有。如此者是也。是名滅不過去。過去亦滅者。諸行始生。廣說如上。不過去亦不滅者。除上爾所事。廣說如上。已說者是何。一切過去法。現在有佛身及小滅。餘現在法未來世及無為法在在者。作第四句。復次今當說結。乃至廣說。前四句明世滅。今四句明數緣滅。或過去不滅。乃至作四句。廣說如上。問曰。以何等故。但說結不說結法。答曰。或有說者。作結者意欲爾。乃至結說。復有說者。若說結當知亦說結法。所以者何。同一對治斷故。復有說者。若緣結法。皆為結故。復有說者。結一向染污故。結法染污不染污。故不說復有說者。若與聖道相妨者。說善有漏不隱沒無記法。不與聖道相妨。所以者何。善有漏法。於道有出入。於定亦有出入。不隱沒無記。與聖道作所依。煩惱與聖道相妨。所以應斷。若斷煩惱。彼法亦斷。以同對治斷故。譬如燈明。不與炷油器相妨。唯與闇相妨。欲壞闇故。燒炷盡油熱器。如是有漏善法。不與無漏道相妨。猶如燈炷油。不隱沒無記法。不與無漏道相妨。如是。以說結不說結法。如王不與自國自軍相妨。與他國他軍相妨。為壞他軍故。亦少自損國。少自壞軍。如有漏善法。不與無漏道相妨。猶如自軍。不隱沒無記法。猶如自國。如是。若說斷結。當知結法亦斷。復有說者。若斷害煩惱。亦斷害生

死。以是故說結不說結法。如結結法。受受法。使使法。垢垢法。纏纏法。亦如是。若苦生疑。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。如經說。有事論婆羅門。往詣佛所。作如是問。沙門瞿曇。甚為希有。是疑難度。非是易度。佛語婆羅門。如是。如是。甚為希有。是疑難度。非是易度。婆羅門於意云何。古昔諸婆羅門。作韋陀者。造呪術者。一名阿吒駒。二名傍摩駒。三名傍摩提婆。四名毘婆蜜哆。五名闍婆阿尼。六名阿祈羅。七名婆羅池殊。八名婆私吒。九名迦葉。十名毘浮。如是等皆不斷疑心。而便命終。婆羅門以是因緣故。當知疑心難斷難度。佛經說疑。不廣分別。佛經是此論根本因緣。彼中未說者。今當盡說。故作此論。若苦生疑。乃至廣說。此是甚深微細。難可顯現。若緣此苦如是之間。多心已過。以是事故。尊者迦旃延子。說苦法忍生。乃至道比智生。於其中間。有六十剎那現。其性速疾有苦。邪。是一意無苦。邪。是二意彼。邪字者。以成疑義。所以者何。若無邪字者。有苦是正見。無苦是邪見。如是以邪字成。於苦疑亦應以邪字。乃至成於道疑。如此八心。是最少者。若緣諦生疑。亦有多心。頗有一意。是疑非疑。乃至廣說。問曰。何以作此論。為以自體。為以境界。若以自體者。疑心相應法。猶豫是疑。慧是非疑。若以境界者。一切凡夫。於如來身疑。一切聖於如來身不疑。若作是說。頗有一意。是疑非疑。何以答言無。答曰。所問者。頗有一意。是疑非疑。是疑者。一

○答一 ○邪一取 ○闍一 ○三二二 ○經二結 ○(警)十如 ○結一經 ○設二結 ○諸十(未來) ○若

意猶豫。亦是決定。邪非疑者。一意決定。亦是猶豫。邪。是故答曰。無邪。是苦。邪此心是疑是苦。此心非疑。是正見無苦邪。此心是疑無苦。此心非疑是邪見。如是有四正見。有四邪見。有八疑。問曰。此八疑心。幾能生正決定。幾能生邪決定。答曰。四能生正決定。四能生邪決定。問曰。何等入疑。能生正決定。何等入疑。能生邪決定。答曰。有人喜親近善知識。樂聽聞法。有人不喜親近善知識。不樂聞法。若人意親近善知識。樂聽聞法者。如此人疑。能生正決定。有人不喜親近善知識。不樂聞法者。如此人疑。能生邪決定。復有說者。有人多與內道人共住。有人多與外道人共住。若多與內道人共住者。如此人疑。能生正決定。若多與外道人共住者。如此人疑。能生邪決定。復有說者。有人多好習內道經。有人多好習外書。若好習內道經者。如是人疑。能生正決定。若好習外書者。如此人疑。能生邪決定。

有三種冥身。所謂於過去世疑猶豫。現在未來亦如是。問曰。如疑性。非是無明。何以說是冥身。答曰。與無明相似。無有法非無明而與無明相似如疑者。是故說疑是冥身。復有說者。冥是無明。彼疑是其處所。是其舍宅。復有說者。疑是住處。故所以者何。若身中有疑必有無明。如世人言。以親他故言。汝即是我身。復有說者。同是一法。所以者何。俱是不決定故。問曰。以何等故。世尊說緣世生疑是冥身。不說緣無為是冥身耶。答曰。或有說者。

世是龜法。現可了知。若於世脫失諸聖說是冥身。無為法微細。不可現得了知。是故諸聖不說是冥身。如人晝行脫失。為世人所呵笑。如人夜行脫失。則不為世所呵笑。彼亦如是。復有說者。為諸外道故緣世生疑。說是冥身。諸外道偏愚於世。我曾在過去世不。乃至廣說。是故說疑世是冥身。復有說者。疑心多緣世生少緣無為生。復有說者。世乃至小兒。猶於中愚。所謂去來今事。以如是等現事故。世尊說疑世心是冥身。涅槃是非根法。甚深微細覺性。乃能了知。是故疑此法者。不說冥身。如經說佛告比丘。以五事故令心弊惡。云何為五。所謂有人於如來所。而生疑心。不解不觀不信。是名於如來所不斷心弊惡。於法於戒於教亦如是。佛所讚歎。智人所識。修梵行者。常以龜言。譏刺毀譽觸惱。無恭敬心。是名於梵行者不斷心弊惡。問曰。此心弊惡體性是何。答曰。此心弊惡有二分。所謂疑與瞋恚。四是疑分。一是瞋恚。問曰。瞋恚是弊惡。是事可爾。所以者何。如說云何瞋恚結。答曰。若心生害。心生弊惡。心生瞋恚。是名瞋恚結。如疑心性非瞋恚。何以說是弊惡。答曰。或有說者。無有法性非瞋恚。而與瞋恚相似如疑心者。如所說疑隱瞋心。令心堅。鞞弊惡。猶如良田不種植時堅。鞞弊惡。彼亦如是。復有說者。疑隱瞋心時。尚不能生邪決定。況正決定。如田弊惡。猶不生草。何況苗稼。復有說者。瞋恚令自身弊惡。疑心能令自身弊惡。亦復如是。如田弊惡人所棄捨。所生稗穠。猶不任

用。何況。粳糧。如是疑結。令衆生心弊惡。猶不能生於邪決定。況正決定。復有說者。同行相對故。同行者俱行愁感。行相對者。同與欣踊行相對。問曰。以何等故。於佛生疑。說是弊惡於僧非。邪。答曰。佛無過失之行。若於佛生疑。此疑無過而起。僧少有過失之行。可見。若於僧生疑。此疑因過而起。以是事故。因佛生疑。名爲弊惡。因僧生疑。名爲弊惡。復有說者。一向無過故。佛世尊乃至無有少過。若於佛生疑。此疑無過而起。衆僧少有過失。可見。若於僧生疑。因過而起。以是事故。因佛生疑。名爲弊惡。因僧生疑。名爲弊惡。如佛生疑。法戒教亦如是。問曰。以何等故。於僧生惡名爲弊惡。於佛非耶。答曰。若佛生惡。此心偏重。以偏重故。更立重名。名爲橫惡。阿毘曇毘婆沙論卷。第八

阿毘曇毘婆沙論卷第九

①迦旃延子造 ②五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

雜毘度智品之五

云何名身。云何句身。云何味身。乃至廣說。問曰。何以故作此論。答曰。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。彼尊者迦旃延子。於此經中。現種種事。善於義相。或有人疑。彼但善於義不善於文。爲斷如是等疑。欲現於文義中。

①無邪二無也 ②此二是一 ③[問曰·弊]五百九字一 ④世十(人) ⑤和一二硬 ⑥者十(如) ⑦梗二糧 ⑧僧十(有) ⑨第八二第十 ⑩第九二第十一 ⑪[迦旃延子造]一 ⑫[五百羅漢釋]一 ⑬[天竺]一 ⑭[等]一 ⑮二之六 ⑯二之六

俱得自在。故作此論。復有說者。如聲論家。欲令字是色法。字體是聲聲。是色陰所攝。為斷如。是意故。作如是說。字是心不相應行。行陰所攝。復有說者。此名身句身味身。能照煩惱出要法。所以者何。若稱煩惱名。當知此法是煩惱。若稱出要名。當知此法是出要。以名身句身味身。能顯煩惱出要法故。而作此論。復有說者。以覺知名句味等法故。有三種菩提差別。其事云何。答曰。若增上慧。覺知名等法。是名為佛。若以中慧。名辟支佛。若以下慧。名曰聲聞。復有說者。以覺知名等法故。名佛一人。為無量說法者。復有說者。若不能觀察名句味身。生大過患。若能觀察。生大善利。其事云何。若不能觀察名句味身。則煩惱惡行之河。常流不絕。如罵琉璃太子言婢子。何以昇釋種堂。彼以不能觀察四五字故。與百千衆生。墮惡道中。彼若能觀察四五字者。如山等惡行。亦能堪忍。以不觀察故。有如是折減。問曰。行者得他罵時。云何觀察名身等。令恚心不生。答曰。或有說者。阿拘盧奢。秦言是罵拘盧奢。秦言喚聲。行者作如是念。我今不應念是阿字。所以者何。若有阿字。是名為罵。若無阿字。名曰喚聲。若我不念是阿字者。使他人終日竟夜常作喚聲。於我何為生瞋恚心。復有說者。行者作如是念。若以如是等字罵我。於此方是卑陋語。於他方是嘆美語。我若於此方卑陋語中。生於憂苦。於異方語。生喜樂者。我則常憂常苦。常喜常樂。誰有苦人與我等者。以是事故。不生恚心。復有

說者。罵我者以是等字。行者作是念。讚嘆我者。為以是字更有異字。諦觀察之。更無異字。但此諸字。次第顛倒。言是罵是讚。我今何為於字中而生瞋恚。復有說者。行者作如是念。若人罵我。以一界少入。一入少入。一陰少入。餘不罵我者。十七界一界少入。十一入一入少入。四陰一陰少入。如是不罵我者多。罵我者少。而我何為生瞋恚心。復有說者。行者作是念。此罵名誰所成就。為是罵者。為是受罵者。推之應是罵者成就。若然者。便是自罵。於我何為而生瞋恚。復有說者。行者作是念。若以一字則不成罵。二字則成。無有能一時稱二字者。若稱後字時。前字已滅。不至後字。如是但以意分別故。言是罵者。是受罵者。以是事故不生。瞋心。復有說者。行者作是念。罵者及我。一時同一剎那滅。後生諸陰。亦無罵者及受罵者。罵法不可得故。是以不生恚心。復有說者。行者作是念。罵者受罵者。皆悉是空。所以者何。無我無人。無衆生。無壽命。無作無作者。無受無受者。但有諸陰空聚。是故不生瞋心。行者應以如是等法觀名身句身味身。問曰。何以復依名句身味身作論耶。答曰。欲現此經文義具足故。而作此論。復有說者。以依此文能顯明陰界入中衆多之義。亦能讚嘆佛法僧寶。以是事故。而作此論。

云何名身。名身。胡音有三種。一語名。名身。二語名。名身。三語名。名身。以上名多身。一語名。名身。二語名。名身。三語名。名身。以上名多身。句身。亦如是。此所問名身者。問多語名身也。問曰。何以問多語名身。不問名。不問名身耶。答曰。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應問而不問者。當知此是有餘之說。復有說者。多與名身。悉入多語名身中。是故問多語名身。不問名與名身。答曰。名者。稱語種種語增語。想數施設世所傳說是謂名。如是等語。盡說是名。問曰。何故問多名身。而答名耶。答曰。以名成滿多名身故。多名身還成滿多名身。復次名能生多名身。多名身還生多名身。是故問多名身。答曰。名多名身體性。是何。答曰。是心不相應行。已說體性。所以今當說。何故名名。答曰。名者。亦名隨。亦名求。亦名合。天竺名。晉中。隨者。隨其所作。有如是名求者。以是名求有此物應。復次求者。四陰名求。以四陰。能取諸界。能取諸趣。能取諸生。是故名求。合者。於義於造相應故名。問曰。何故名多名身。答曰。衆多名合聚故名。多名身。如一鳥不名多鳥身。衆多鳥名多鳥身。馬等亦如是。如是一名不名多名身。衆多名合集名多名身。句身味身當知亦如是。如是有名。有名身。有多名身。名者有一字名。二字名。多字名。一字名者名曰名。二字名者名曰名身。多字名者或說三字。或說四字。名多名身。二字名者亦名。四字名名身。或六字名身。或八字名身。或九字名身。或十名身。或十一名身。或十二名身。或十三名身。或十四名身。或十五名身。或十六名身。或十七名身。或十八名身。或十九名身。或二十名身。如是乃至多字立門亦爾。如名身。味身當知亦如是。云何句身。問多。答曰。隨句義滿。現如是事。是名句身。所以引揚者。為作證故。如說

○折二損 ○若二君 ○賦十(志) ○胡二梵 ○名十(名) ○[也]一 ○義十(也) ○名十(身) ○身十(也) ○

諸惡莫作 諸善奉行 自淨其意 是諸佛教

彼諸惡莫作是初句。乃至廣說隨句義滿者。滿偈義也。現如是事者。顯明如是事也。是名句身。此偈有說有解。如說諸惡是說。莫作是解。下諸句亦如是說。如說諸惡於說是足。於解不足。於句。不足。於偈不足。莫作於說於解於句足。於偈不足。乃至是諸。於。說於解於句足。於偈不足。佛教於說於解於句於偈足。此。是偈中。不長不短。八字為一句。三十二字為一偈。此結偈法。名阿窣陀闍提。是經論數法。亦是計書寫數法。六字為句者。名初偈。二十六字為句者。是後偈。或有減。六字為句者。此偈名周利。茶。若過二十六字為句者。云何味身。答曰。字說是味身。所以引偈者。為作證故。如說

欲是偈本 字即是味 偈依於名 造是偈體

欲是偈本者。云何為欲。答曰。欲者欲造偈。欲作偈。是名為欲。本者是所起是所因。是名為本。字即是味者。諸字即是味。偈依於名者。偈依名有。造是偈體者。造者是作偈者。偈從作偈者生。如泉出水。如乳房出乳。偈從造者生。故以為體

有名有名身有多名身。有句有句身有多句身。有味有味身有多味身。彼一字名者名曰名。不名名身。不名多名身。不名句不名句身。不名多句身。是名味不名味身不名

多味身。二字名者名曰名。不名名身不名多名身。不名句不名句身不名多句身。是名味名味身不名多味身。彼二字名。一字為名者名曰名。二字名名身不名多名身。不名句不名句身不名多句身。是名味名味身不名多味身。彼四字名。一字為名者名曰名。二字名名身。餘二字。名多名身不名多句身。不名句身不名多句身。是名味名味身不名多味身。以二字為名者名曰名。名名身不名多名身。不名句不名句身。名味名味身不名多味身。名味名味身不名多味身。八字名者名曰名。不名名身不名多名身。是名句不名句身不名多句身。是名味名味身不名多味身。彼八字名。以一字為名者名曰名。名名身不名多名身。名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。以二字為名者名曰名。四字為名者名曰名。名身不名多名身。名句不名多句身。十六字為名者名曰名。不名名身不名多名身。名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。彼十六字。一字為名者名曰名。名名身不名多名身。名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。二字四字為名者名曰名。八字為名者名曰名。名身不名多名身。名句不名多句身。名味名味身不名多味身。名身不名多句身。名味名味身不名多味身。二字四字為名者名曰名。八字為名者名曰名。名身不名多名身。名句不名多句身。名味名味身不名多味身。三十二字為名者名曰名。不名名身不名多名身。名句不名多句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。彼三十二字。一

字為名者。二字為名者。四字為名者。八字為名者。如前說。十六字為名者名曰名。名名身不名多名身。名句不名多句身。名味名味身不名多味身。一字一名。如上廣說。一字二名者名曰名。名名身不名多名身。不名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。一字四名者名曰名。名名身不名多名身。不名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。一字八名者名曰名。名名身不名多名身。不名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。一字十六名者名曰名。名句不名多句身。餘如上說。一字三十二名者。說皆具足。二字一名如前說。二字二名者名曰名。名身不名多名身。不名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。二字二名。一字為名者。如前說。四字一名者。如前說。四字二名者名曰名。名身不名多名身。名句不名句身。不名多句身。名味名味身不名多味身。彼四字二名。一字二名為名者。如前說。八字二名者名曰名。名身不名多名身。如前說。八字二名者名曰名。名身不名多名身。名句不名多句身。名味名味身不名多味身。彼八字二名。一字二字四字為名者。如前說。十六字為一名者。如前說。十六字二名者名曰名。名身不名多名身。名句不名多句身。名味名味身不名多味身。彼十六字。一名。一字二字四字八字為名者。如前說

●不二是一● ●說十(足)● ●是偶一偶是● ●茶二茶● ●名十(者)● ●一=二●

生欲界中。作欲界語。語是欲界。名是欲界。人是欲界。所說義。或三界繫。或不繫。生欲界。作初禪地語。語是初禪地。名是初禪地。人是欲界。所說義。或三界繫。或不繫。生初禪中。作初禪地語。語是初禪地。名是初禪地。人是初禪地。所說義。或三界繫。或不繫。生初禪中。作欲界語。語是欲界。名是欲界。人是初禪地。所說義。如前說。生二禪三禪四禪中。作初禪地語。語是初禪地。名是初禪地。人是初禪地。所說義。如前說。生二禪三禪四禪中。作欲界語。語是欲界。名是欲界。人是二禪三禪四禪。所說義。如前說。問曰。諸作是說。名隨語處所者。名是欲界初禪。餘三禪地。為有名不。答曰。或有說者無復有說者有。而不可說。評曰。不應作是說。如前說者好。復有說者。名隨人處。若作是說。名隨人處者。生欲界中。作欲界語。語是欲界。名是欲界。人是欲界。所說義。如前說。生欲界中。作初禪地語。語是初禪地。名是欲界。人是欲界。所說義。如前說。生初禪中。作初禪地語。語是初禪地。名是欲界。人是欲界。所說義。如前說。生初禪中。作初禪地語。語是初禪地。名是初禪地。人是初禪地。所說義。如前說。生初禪中。作欲界語。語是欲界。名是初禪。人是初禪地。所說義。如前說。生初禪中。作欲界語。語是欲界。名是初禪。人是初禪地。所說義。如前說。生二禪三禪四禪中。作初禪地語。語是初禪地。名是初禪地。人是初禪地。所說義。如前說。問曰。若作是說。名隨人處者。二禪三禪四禪地有名。無色界為有名不。答曰。或有說者無。復有說者有。而不可說。評曰。不應作是說。如前說者好。問曰。名為

是衆生數。為非衆生數耶。答曰。名是衆生數。問曰。名者為是長養。為是報。為是依。答曰。一切名是依。非長養。非報。問曰。若名非報者。此經云何通。如佛告阿難。我亦說名從業生。答曰。此中說業感勢果。言從業生。如作。好業亦生好名。問曰。名當言善不善無記耶。答曰。名當言無記。問曰。誰成就此名。為是說者。為是所說法耶。若是說者。斷善根人。亦說善法。可成就善耶。離欲人亦說不善。可成就不善耶。若是所說法者。非衆生數法。及無為法。亦是所說法。可成就名耶。答曰。應作是說。名是說者成就。問曰。若然者。斷善根人亦說善法。離欲人亦說不善法。可成就善不善耶。答曰。不也。所以者何。彼雖成就善不善法名。然名體是無記法。

曰。有現在法有現在名者。如今。以如是名。說現在法。現在法有過去名者。如毘婆尸佛。以如是名。說現在法。現在法有未來名者。如彌勒佛。以如是名。說現在法。如語能說名名能顯義。問曰。一切名盡能顯義不耶。答曰。一切名盡能顯義。問曰。若然者。以如是名。顯斷常見。第二頭。第三手。第六陰。第十三入。第十九界。如是等名。為顯何義。答曰。顯衆生常想斷想。第二頭想。第三手想。第六陰想。第十三入想。第十九界想。顯如是等義。問曰。若以名顯一切法無我。此何所不顯。答曰。或有說者。不顯自體相應共有。餘法悉顯。復有說者。唯除自體。餘法悉顯。復有說者。唯除四字。所謂諸法無我。餘法悉顯。復有說者。一切法悉顯。所以者何。如婆字顯婆字。婆字顯婆字。問曰。為名多耶。為義多耶。答曰。或有說者。義多。何以故。義攝十七界。一界少入。十一入。一入少入。四陰一陰少入。名攝一界。一入一陰。少入。復有說者。名多非義多。何以故。一義有多名故。如尼。攪茶書分別諸名。一義有千名。評曰。如是說者好。義多非名多。所以者何。不須更以餘事。但以攝界等多故。義攝十七界。一界少入。十一入。一入少入。四陰一陰少入。名攝一界。一入一陰。少入。彼名亦是義。若然者。應全攝陰界入。復有說者。若以說法故。則名多於義。所以者何。世尊說法。一義以多名說故。若以陰界入。則義多於名。問曰。義為可說不耶。若可說者。說火則應燒

是衆生數。為非衆生數耶。答曰。名是衆生數。問曰。名者為是長養。為是報。為是依。答曰。一切名是依。非長養。非報。問曰。若名非報者。此經云何通。如佛告阿難。我亦說名從業生。答曰。此中說業感勢果。言從業生。如作。好業亦生好名。問曰。名當言善不善無記耶。答曰。名當言無記。問曰。誰成就此名。為是說者。為是所說法耶。若是說者。斷善根人。亦說善法。可成就善耶。離欲人亦說不善。可成就不善耶。若是所說法者。非衆生數法。及無為法。亦是所說法。可成就名耶。答曰。應作是說。名是說者成就。問曰。若然者。斷善根人亦說善法。離欲人亦說不善法。可成就善不善耶。答曰。不也。所以者何。彼雖成就善不善法名。然名體是無記法。

聲聞一心。能起一語。一語不能說一字。問曰。如說。阿此非一字耶。答曰。爾時已經多刹那。世尊一心起一語。一語說一字。唯佛世尊。其言輕疾。言聲無過。辭辯第一。問曰。諸法過去。有過去現在未來名耶。答曰。有過去法。有過去名者。如毘婆尸佛。以如是名。說過去法。過去法有未來名者。如彌勒佛。以如是名。說過去法。過去法有現在名者。如今現在。以如是名。說過去法。頗未來法。有未來現在過去名耶。答曰。有未來法。有未來名者。如彌勒佛。以如是名。說未來法。未來法有過去名者。如毘婆尸佛。以如是名。說未來法。未來法有現在名者。如今現在。以如是名。說未來法。頗現在法。有現在過去未來名耶。答

曰。有現在法有現在名者。如今。以如是名。說現在法。現在法有過去名者。如毘婆尸佛。以如是名。說現在法。現在法有未來名者。如彌勒佛。以如是名。說現在法。如語能說名名能顯義。問曰。一切名盡能顯義不耶。答曰。一切名盡能顯義。問曰。若然者。以如是名。顯斷常見。第二頭。第三手。第六陰。第十三入。第十九界。如是等名。為顯何義。答曰。顯衆生常想斷想。第二頭想。第三手想。第六陰想。第十三入想。第十九界想。顯如是等義。問曰。若以名顯一切法無我。此何所不顯。答曰。或有說者。不顯自體相應共有。餘法悉顯。復有說者。唯除自體。餘法悉顯。復有說者。唯除四字。所謂諸法無我。餘法悉顯。復有說者。一切法悉顯。所以者何。如婆字顯婆字。婆字顯婆字。問曰。為名多耶。為義多耶。答曰。或有說者。義多。何以故。義攝十七界。一界少入。十一入。一入少入。四陰一陰少入。名攝一界。一入一陰。少入。復有說者。名多非義多。何以故。一義有多名故。如尼。攪茶書分別諸名。一義有千名。評曰。如是說者好。義多非名多。所以者何。不須更以餘事。但以攝界等多故。義攝十七界。一界少入。十一入。一入少入。四陰一陰少入。名攝一界。一入一陰。少入。彼名亦是義。若然者。應全攝陰界入。復有說者。若以說法故。則名多於義。所以者何。世尊說法。一義以多名說故。若以陰界入。則義多於名。問曰。義為可說不耶。若可說者。說火則應燒

◎好二如◎ ◎阿二何◎ ◎唯二惟◎ 下同 ◎以十(今)◎ ◎[如]一◎ ◎雙二建◎ ◎◎

舌。說刀則割舌。說不淨則汚舌。若不可說。云何有顛倒耶。如索象則馬來。如索馬則象來。此經復云何通。如佛告比丘。我所說法。文亦善義亦善。答曰。應作是論。義不可說。問曰。若然者。云何所索非顛倒耶。答曰。古時人立於象名。有如是想。索象則象來非馬。索馬則馬來非象。復有說者。語能生名。名能顯義。如是語生象名。象名能顯象義。馬等亦如是。此經云何通者。尊者和須蜜答曰。說顯義文。故言說義復有說者。為破外道所說法故。外道所說。或無義。或有少義。世尊所說。有義有多義。是故言說義。復有說者。外道所說。文與義相違。義與文相違。世尊說法。文不違義。義不違文。問曰。文義有何差別。答曰。文者味義者所味。問曰。彼味亦為餘味所味。彼味亦是所味耶。答曰。彼味亦是所味。問曰。若然者。味與所味有何差別。答曰。所味是十七界一界少入。十一入一入少入。四陰一陰少入。所攝味是一界一入一陰少入。所攝。復有說者。義是色非色。文是非色。如色非色。相應不相應。有依無依。有勢用無勢用。有行無行。有緣無緣。文是不相應。乃至是無緣。復有說者。義是可見不可見。文是不可見。義是有對無對。文是無對。義是有漏無漏。文是有漏。義是有為無為。文是有為。義是善不善無記。文是無記。義是墮世不墮世。文是墮世。義是三界繫不繫。文是欲色界繫。義是學無學非學非無學。文是非學非無學。義是見道斷修道斷不斷。文是修道斷。義是染汚不染汚。文是不染汚。

如染汚不染汚。有過無過。黑白隱沒不隱沒。退不退。有報無報。文是不染汚。乃至是無報。文義是謂差別。

如經說。云何為名。四陰為名。問曰。如名是心。不相應行陰所攝。以何等故。世尊說四陰非色陰為名耶。答曰。佛說色法非色法為二分。諸色法為色陰。諸非色法為四陰。諸顯義名。是心不相應行。陰所攝。

名有六種。所謂功德生處時隨欲作事相。功德為名者。如誦修多羅故名修多羅者。誦毘尼故名持律者。誦阿毘曇故名阿毘曇者。以得須陀洹果故名須陀洹。乃至得阿羅漢果者名阿羅漢。生處為名者。城中生者名城中人。如是隨何國生。名彼國人。時為名者。如小兒時名為小兒。如老時名為老人。隨欲名者。如生時父母為作名。亦沙門婆羅門為作名。

如能畫。故名為畫師。能銅鐵作故名銅鐵師。相為名者。如柳杖執蓋故名為柳杖執蓋者。復有說者。有四種名。所謂一想。二枳互。三相地多。四三摩婆。想為名者。如世貴人以奴為名。如貧賤人以貴為名。枳互為名者。能腹行故名復行虫。相地多為名者。如事毘紐天名事毘紐天者。如從婆修提婆天生名婆修提婆子。三摩。沙為名者。如牛駝色名為駝牛。如人屬王名為王人。復有說者。名有二種。所謂生作。生為名者。如婆羅門利利毘舍首陀。作為名者。如生時父母為作名。若沙門婆羅門為作名。復有說者。生為名者。如生時父母為作名。亦沙門婆羅門為作名。作為

名者。後時親友知識。更為作名。名第二名。復有說者。有二種名。所謂有相無相。有相為名者。如無常苦空無我陰入等名。無相為名者。如眾生人那羅禪頭等名。若佛出世。作有相名。若佛不出世。唯無相名。復有說者。有二種名。所謂共不共。不共為名者。如三寶等名。共為名者。諸餘名。復有說者。一切名。盡是共。無不共名。所以者何。一義可立一切名。一切義可立一名。復有說者。有二種名。所謂決定不決定。決定為名者。如須彌山四天下大海。此世界始成時。是決定名。不決定為名者。諸餘等名。復有說者。無決定名。所以者何。諸餘邊方。亦為須彌山等。更作餘名。評曰。如是說者好。世界初成時。名須彌山四天下大海名亦如是。問曰。如劫盡時。一切散壞。誰復作此名。答曰。或有說者。是仙人入定力。復傳此名。復有說者。眾生有因力。能說此名。問曰。諸名為先有共傳。為更有新作者。答曰。世界初成。須彌山等諸名。先有共傳。餘名不定。復有說者。名有二種。所謂物作。物為名者。如提婆達多。延若達多。名。作為名者。如作者刈者。煮者讀者等名。問曰。為有知名邊際者不。答曰。有唯佛能餘無知者。所以者何。以佛能知一切名邊際。故名一切智。

如經說。如來出世。便有身等出現世間。問曰。若佛出世。若不出世。常有身等現於世間。何以言如來出世。便有身等出現世間。答曰。言身等出世者。所謂陰界入名。隨順無我。隨順解脫。隨順空。斷人見。生覺意。背

①有不二② ③作字名者如能六字宋元明宮四本俱作本文 ④故十(故)⑤ ⑥瓶二擲⑦ ⑧持* ⑨互二氏⑩* ⑪沙二梁⑫ ⑬諸二謂⑭ ⑮名二若⑯ ⑰煮二煮⑱

煩惱。向出要。止愚癡。生智慧。斷猶豫。生決定。厭生死。樂寂靜。斷外道意。歎內道意。爲說如是等名身言出現世間。

問曰如火名火。此名爲是有相名。爲是無相名耶。答曰是有相名。如向所說一切顯義名。此名是有相問曰若然者。火有何相。答曰凡義有二種。有相無相。如火外無火相。言是無相。如焰是火相言有火相。

佛經有三種名說法。謂去來今。問曰此三種名說法。體性是何。答曰如波伽羅那說。三種名說法體性。攝十八界十二入五陰。問曰如波伽羅那說三種說法體性攝十八界十二入五陰。所說是語所顯。是名應是一界一入一陰少入。云何說攝十八界十二入五陰。答曰或有說者。取三種名說法及眷屬故。其事云何。答曰語能生名。名能顯義。故說及其眷屬。復有說者。爲三義說法。言三名說法。所以者何。說者聽者。皆爲於義。以是事故。盡攝陰界入。問曰何故有爲說法是三名說法。不說無爲法耶。尊者須蜜答曰此經爲說有爲法有爲法不得作第四第五說法。復有說者。此經爲說一切法無爲法隨現在世中。所以者何。以現在法能證得無爲法故。以是故。無爲法亦在三種名說法中。復有說者。若有三性者。說是三名說法。三性者所謂語名義。無爲法。雖語有義。無語無名。是故說不在三名說法中。問曰何故世尊說世是三名說法。答曰或有說者。爲止外道意。故外道於世中愚故。復有說者。爲壞未來世中說無過去未

來者意故。是故說世是三種名說法。復有說者。外道作如是說若無我者。是人說法。終無所爲。爲壞如是意。而作是說雖無有我。爲世故說。問曰若爲過去說法。解未來現在事。若爲未來說法。解過去現在事。若爲現在說法。解未來過去事。於三種名說法中。爲是何名說法。答曰或有說者。如是說者。於三種名說法中。是異說。復有說者。若爲過去說法。解未來現在事者。爲過去。即過去世。解未來現在事。即未來現在世攝。乃至爲現在說。過去未來亦如是。復有說者。若作是說。是說三世義。若爲過去。是說過去義。解未來現在。是說未來現在義。未來現在亦如是。

如經說。有三種名說法。無第四第五。問曰若說三種名說法。有說有解。於義已足。何以復言無第四第五。答曰無第四者。遮有第四世。無第五者。決定此義無第五世。復有說者。無第四者。遮第四世。無第五者。遮無爲法。復有說者。應說四種名說法。所謂四聖諦。無第五者。無第五諦。無第六者。遮虛空非數滅。復有說者。應有五種名說法。所謂五陰。無第六者。無第六陰。無第七者。遮無爲法。此爲三世名說法。無第四第五。應有一種名說法。所謂作觀。無第二第三。無第二者。無第二作觀。無第三者。遮作觀所不攝法。復有說者。應有二種名說法。所謂定慧。無第三者。無第二定若第二慧。無第四者。遮定慧所不攝法。此說三世名說法。無第四第五。無第四者。遮第四世。無第五者。遮三世所不攝法。以如是數法。

應說三解脫門。說四諦五陰六聖明分想。心覺分。八道分。九次第定。十種無學法。如來十力。應有十種名說法。無第十一第十二。無第十一者。無第十一力。無第十二者。遮十力所不攝法。

即彼經說。應以四事察人是長老。爲可與語。爲不可與語。云何爲四。一不住是處非處。二不住智論。三不住分別。四不住道迹。問曰如此四事有何差別。答曰或有說者。不住是處非處者。不如實知是處非處。不住智論者。不如實知智與。不智。不住分別者。不如實知世諦第一義諦。不住道迹者。不如實知此身集道迹。不如實知此身滅道迹。復有說者。不住是處非處者。如眼色能生眼識。乃至意法能生意識。名爲是處。不如實知者。名爲不住。不住智論者。不如實知十智。不住分別者。不如實知了義。不了義經。不住道迹者。不如實知四種道迹。復有說者。不住是處非處者。不能自定所說是處非處。不住智論者。不能堪忍分別前後問答。不住分別者。不如實知詭誑真實。不住道迹者。他如法問心不悅可。復有說者。不住是處非處者。不別有無。不住智論者。不解智人論。不住分別者。不知假設無有是處之言。不住道迹者。無有隨應覺意。復有說者。不住是處非處者。於所言論。不別自義他義。不住智論者。於先所聞。執著不捨。後所聞義。不能觀察。不住分別者。他說正義。心生疑慮。如人見蘇謂是米飯。不住道迹者。不識他人所說次第。以前爲中。以中爲後。復有

◎五十(名)◎ ◎語二言◎ ◎故十(外道意故)◎ ◎卷第十一終◎ ◎卷第十二雜捷度智品之七首◎ ◎卷第十二雜捷度智品第二之七首◎ 造號釋號譯號同異如卷首 ◎不智二知◎

說者。不住是處非處者。不知現前可了不可了事。不住智論者。不能以比想籌量所論。不住分別者。不知前後所說次第。不住道迹者。不解他人所問意。尊者婆摩勒說曰。不住是處非處者。不能定所說。不住智論者。不知詭誑及與真實。不住分別者。不堪忍分別前後問答。不住道迹者。他人如法論心不悅可。尊者僧伽婆秀說曰。不住是處非處者。不知多界經所說。是處非處義。不住智論者。不知四十四智七十七智體分。不住分別者。不知煩惱出要。不住道迹者。不如實知色滅道法。復應以四事察人是長老。應以決定答論作決定答。是可與語乃至廣說云何決定答論。如問佛是等正覺耶。應決定答言是此佛法是善好耶。應決定答言。是此聲聞。是善隨順眾耶。應決定答言。是一切行無常。一切行無我。涅槃是寂靜耶。應決定答言是。是名決定答論。問曰何故如是問者。作決定答。答曰此問於義利益。能增長善。亦進梵行。通達覺意。能得涅槃。是故如是問者。作決定答論。云何分別答論。答曰若作是問。為我說法。彼應作是答。法亦衆多。過去未來現在。善不善無記。欲界繫色界繫無色界繫不繫。學無學非學非無學。見道斷修道斷無斷。如是等法。為說何法。如是隨所問。應分別答。是名分別答論。云何反問答論。答曰如說為我說法。應作是答。法亦衆多。有過去乃至無斷法。於此法中。為說何法。是名反問答論。問曰分別答反問答。有何差別。答曰若以答而言。無有差

別若以所問應有差別。所以者何。問有二種。有欲知義故問。為觸惱故問。若為知義故問。為我說法者。應作是答。法亦衆多。有法過去乃至不斷於此法中。為說何法。若言為我說過去法。應作是答。過去法亦衆多。有善不善無記。若作是言。為我說法。應作是答。善法亦衆多。有色乃至識。若作是言。為我說法。應作是答。色亦衆多。有不殺生乃至不綺語。若作是言。為我說法。應作是答。不殺有三種。從不貪不恚不癡生。為說何等。若作是言。為我說法。從不貪生者。應作是答。從不貪生有二種。作無作。若為知義故問。應次第分別顯說。若為觸惱故問者。應答言法亦衆多。為說何法。不應語言。有過去未來乃至不斷。若作是言。為我說過去法。應作是答。過去法亦衆多。不應說善不善無記。若作是言。為我說法。應作是答。善法亦衆多。不應說色乃至識。若作是言。為我說法。應作是答。色亦衆多。不應說不殺生乃至不綺語。若作是言。為我說法。應作是答。不殺生亦衆多。不應說從無貪無恚無癡生。若作是言。為我說法。應作是答。從無貪生亦衆多。不應說作無作。如是為觸惱問者。應作如是。答乃至問盡。或時自答。如是。有求善義故問。有試他覺意深淺故問。或有求善義故問。或有輕他故問。或有質直故問。或有諂曲故問。或有情性軟弱故問。或有自恃智故問。如軟弱問者。應分別答。若自恃智問者。應反問答。乃至問盡。或時自答。云何置答論。答曰。如諸外道。

詣世尊所。作如是問。沙門瞿曇。世界是常無常。佛言是不應答。問曰何故問世界常無常。佛不答耶。答曰諸外道以人是常。往詣佛所。作如是問。人為是常是無常耶。佛作是念。畢竟無人。若答言無人。彼當作是言。我不問有無。若答言斷常。畢竟無人。有何斷常。如人問他言。善男子。石女兒。為恭敬孝順不。彼作是念。石女兒無兒。若我答言石女兒無兒。彼當作是語。我不問有無。若當答言恭敬孝順者。石女兒無兒。有何恭敬孝順。彼亦如是。此問論非是真實。以是非有非實故。佛不答。如有常無常。亦常無常。非有常非無常。世界有邊無邊。亦有邊無邊。非有邊非無邊。當知亦如是。復作是問。沙門瞿曇。神即身耶。佛言是不應答。問曰何故佛不答。此問。答曰諸外道以身是神。往詣佛所。作如是問。沙門瞿曇。是身即神。乃至廣說。佛作是念。有身無神。若我答言有身無神。彼當作是言。我不問有無。若當答言神異於身。畢竟無神。云何是身是異。如人問他言。善男子。兔角牛角。為等相似耶。彼人作如是念。兔無角。牛有角。若我答言兔無角。牛有角。彼當作是言。我不問有無。若言等相似。兔無角。云何言等相似。彼亦如是。是問論是有是無。是虛是實。以是問論是有是無。是虛是實。佛不答。身異神異。亦復如是。復作是問。沙門瞿曇。如來死後。為斷為常。乃至廣作四句。佛言是不應答。問曰何故佛不答耶。答曰。諸外道以神本無今有。往詣佛所。作如是問。沙門瞿曇。如此神本無今有。已有

①當二常 ②此二比 ③竟二章

爲是常爲是斷佛作是念。畢竟無神。云何本無今有。已有若斷若常。是問論。非有非實。以是問論。非有非實。故。佛不答。復作是問。沙門瞿曇。自作自受耶。佛言。不應答。問曰。何故佛不答耶。答曰。諸外道。以我作我受。世尊常說無我。復作是問。沙門瞿曇。他作他受耶。佛言。不應答。問曰。何故佛不答耶。答曰。諸外道。作如是說。自在天作我受。世尊常說自行果報。復作是問。沙門瞿曇。無作無受耶。佛言。不應答。問曰。何故佛不答耶。答曰。諸外道。作如是說。苦樂不從因生。佛常說有因有緣。問曰。如前三答與答法相應。此云何名答論。乃至不。論一句。答曰。雖無所說。此是根本答論。所以者何。與答理相應。乃至不說一句。於理善通。或有默然於理得勝。況有所說而不勝耶。曾聞有大論師名奢提羅。至罽賓國。于時佛跡林中有阿羅漢名婆秀羅。具足三明。離三界欲。通達三藏。於內外經論無不究暢。時奢提羅。聞彼林中有大論師。即詣其所。到已與尊者婆秀羅共相問訊。種種慰勞。在一面坐。時奢提羅。語尊者婆秀羅言。誰當先立論門。婆秀羅答曰。我是舊住。應先立論門。然汝遠來聽汝。隨意先立論門。時奢提羅作如是言。一切論有報論。時婆秀羅聞是語已。默然而坐。時奢提羅諸弟子輩。唱如是言。沙門釋子。今墮負處。從坐欲起而去。時尊者婆秀羅作如是言。善去汝師。若是奢提羅者。自知此事。從彼林中。展轉前行。其師作是思惟。沙門釋子。何故作是言。汝師若是奢提羅

者。自知此事。即便自憶。我作是言。一切論有報。彼沙門釋子。默然不言。便爲我論無報。沙門釋子。已爲勝我。即如所念。告諸弟子。今我當往還歸謝之。諸弟子言於大衆中。今已得勝。何須復往。時師復言。我寧於智者邊負。不於愚者邊勝。即時還詣婆秀羅。所作如是言。汝是勝者。我墮負處。汝今是師。我是弟子。如是默然而能得勝。何況所說如。佛世尊責諸弟子言。是癡人。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。佛世尊。無相似愛。無相似恚。無相似慢。無相似無明。世尊愛恚已斷。離於憎愛。斷一切諍訟根本。如諸弟子。有煩惱習。如畢陵伽婆蹉。有瞋恚習。彼長老罵恒河神言。小住弊婢。長老阿難。則有愛習。以憐諸釋子故。尊者舍利弗。有憍慢習。捨隨病藥等如是等習。佛世尊永無。所以者何。已離一切。諸無巧便煩惱習故。然佛有。巧便相似言。愛相似言者。如說。善來比丘。快能出家。瞋恚相似言者。汝是釋種婢子。諸釋是汝大家。慢相似言者。如說。我成就十力。四無所畏。無明相似言者。如說。大王從何處來。如告阿難。園林外。何以有高聲大聲。問曰。如來以拔習氣根本。何以有如是相似言。答曰。爲守護受化田故。其事云何。此中應廣說。破僧因緣。所以者何。即是此經根本因緣故。諸比丘。爲提婆達多所壞。尊者舍利弗。化使還來。彼諸比丘。生大慚愧。兼有疑心。我等親近提婆達多。所受禁戒。將不失耶。以慚愧心。往詣佛所。爾時世尊。以親愛軟語而告之言。善來比丘

快能出家。說是語時。彼諸比丘。皆得除去慚愧。及其疑心。所以罵菴婆。吒言婢子者。欲破其憍慢心。以破憍慢心。故次第二身。得生天上。見於聖諦。所以說我成就十力。四無所畏者。不知佛功德者。欲令知故。所以言大王從何處來者。欲生談論次第法故。所以問園林外。有高聲大聲者。欲令阿難生。閑靜親近心故。以如是等衆因緣。故而作此論。何故世尊責諸弟子言。是癡人。此有二義。一。是呵責。二。言是癡人。今欲說癡人義。故作是說。云何名癡人。答曰。於佛法中。生於愚癡。佛法者。所謂道也。問曰。云何於道。生愚癡耶。答曰。不能令道愚癡。但於自身。增長愚癡。復有說者。亦能令道愚癡。所以者何。以道遠離故。道不得自在。故。復有說者。佛說斷愚癡法。是人於此法。不斷愚癡。反增愚癡。故作是說。於佛法中。生於愚癡。無生分別者。令佛功用方便。無有果實。其事云何。如婦人不產名無產分。如是聞佛所說。不受聖道胎者。是人於佛法中。名無產分。無果者。無依果解脫果。無得者。於佛法中。無所得故。無味者。不得出離味。閑靜味道。品味寂滅味。故言無味。無利者。無善果利故。譬如良醫。四方勸求種種藥草。以與病人。爲除病故。而彼病人。反以藥草。棄糞掃中。生二過患。一。自病不愈。二。唐捐醫功。如是諸佛世尊。作百千萬種種苦行。勸求無漏聖道之藥。爲受化者。而解說之。而聞法者。不能修行。生二過患。一。不能自愈。諸煩惱病。二。唐捐諸佛所

者。自知此事。即便自憶。我作是言。一切論有報。彼沙門釋子。默然不言。便爲我論無報。沙門釋子。已爲勝我。即如所念。告諸弟子。今我當往還歸謝之。諸弟子言於大衆中。今已得勝。何須復往。時師復言。我寧於智者邊負。不於愚者邊勝。即時還詣婆秀羅。所作如是言。汝是勝者。我墮負處。汝今是師。我是弟子。如是默然而能得勝。何況所說如。佛世尊責諸弟子言。是癡人。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。佛世尊。無相似愛。無相似恚。無相似慢。無相似無明。世尊愛恚已斷。離於憎愛。斷一切諍訟根本。如諸弟子。有煩惱習。如畢陵伽婆蹉。有瞋恚習。彼長老罵恒河神言。小住弊婢。長老阿難。則有愛習。以憐諸釋子故。尊者舍利弗。有憍慢習。捨隨病藥等如是等習。佛世尊永無。所以者何。已離一切。諸無巧便煩惱習故。然佛有。巧便相似言。愛相似言者。如說。善來比丘。快能出家。瞋恚相似言者。汝是釋種婢子。諸釋是汝大家。慢相似言者。如說。我成就十力。四無所畏。無明相似言者。如說。大王從何處來。如告阿難。園林外。何以有高聲大聲。問曰。如來以拔習氣根本。何以有如是相似言。答曰。爲守護受化田故。其事云何。此中應廣說。破僧因緣。所以者何。即是此經根本因緣故。諸比丘。爲提婆達多所壞。尊者舍利弗。化使還來。彼諸比丘。生大慚愧。兼有疑心。我等親近提婆達多。所受禁戒。將不失耶。以慚愧心。往詣佛所。爾時世尊。以親愛軟語而告之言。善來比丘

快能出家。說是語時。彼諸比丘。皆得除去慚愧。及其疑心。所以罵菴婆。吒言婢子者。欲破其憍慢心。以破憍慢心。故次第二身。得生天上。見於聖諦。所以說我成就十力。四無所畏者。不知佛功德者。欲令知故。所以言大王從何處來者。欲生談論次第法故。所以問園林外。有高聲大聲者。欲令阿難生。閑靜親近心故。以如是等衆因緣。故而作此論。何故世尊責諸弟子言。是癡人。此有二義。一。是呵責。二。言是癡人。今欲說癡人義。故作是說。云何名癡人。答曰。於佛法中。生於愚癡。佛法者。所謂道也。問曰。云何於道。生愚癡耶。答曰。不能令道愚癡。但於自身。增長愚癡。復有說者。亦能令道愚癡。所以者何。以道遠離故。道不得自在。故。復有說者。佛說斷愚癡法。是人於此法。不斷愚癡。反增愚癡。故作是說。於佛法中。生於愚癡。無生分別者。令佛功用方便。無有果實。其事云何。如婦人不產名無產分。如是聞佛所說。不受聖道胎者。是人於佛法中。名無產分。無果者。無依果解脫果。無得者。於佛法中。無所得故。無味者。不得出離味。閑靜味道。品味寂滅味。故言無味。無利者。無善果利故。譬如良醫。四方勸求種種藥草。以與病人。爲除病故。而彼病人。反以藥草。棄糞掃中。生二過患。一。自病不愈。二。唐捐醫功。如是諸佛世尊。作百千萬種種苦行。勸求無漏聖道之藥。爲受化者。而解說之。而聞法者。不能修行。生二過患。一。不能自愈。諸煩惱病。二。唐捐諸佛所

快能出家。說是語時。彼諸比丘。皆得除去慚愧。及其疑心。所以罵菴婆。吒言婢子者。欲破其憍慢心。以破憍慢心。故次第二身。得生天上。見於聖諦。所以說我成就十力。四無所畏者。不知佛功德者。欲令知故。所以言大王從何處來者。欲生談論次第法故。所以問園林外。有高聲大聲者。欲令阿難生。閑靜親近心故。以如是等衆因緣。故而作此論。何故世尊責諸弟子言。是癡人。此有二義。一。是呵責。二。言是癡人。今欲說癡人義。故作是說。云何名癡人。答曰。於佛法中。生於愚癡。佛法者。所謂道也。問曰。云何於道。生愚癡耶。答曰。不能令道愚癡。但於自身。增長愚癡。復有說者。亦能令道愚癡。所以者何。以道遠離故。道不得自在。故。復有說者。佛說斷愚癡法。是人於此法。不斷愚癡。反增愚癡。故作是說。於佛法中。生於愚癡。無生分別者。令佛功用方便。無有果實。其事云何。如婦人不產名無產分。如是聞佛所說。不受聖道胎者。是人於佛法中。名無產分。無果者。無依果解脫果。無得者。於佛法中。無所得故。無味者。不得出離味。閑靜味道。品味寂滅味。故言無味。無利者。無善果利故。譬如良醫。四方勸求種種藥草。以與病人。爲除病故。而彼病人。反以藥草。棄糞掃中。生二過患。一。自病不愈。二。唐捐醫功。如是諸佛世尊。作百千萬種種苦行。勸求無漏聖道之藥。爲受化者。而解說之。而聞法者。不能修行。生二過患。一。不能自愈。諸煩惱病。二。唐捐諸佛所

◎(是)十論◎◎論一說◎◎佛一何◎◎巧便二使◎◎今欲說二令斷◎◎生二坐◎◎*◎藥草二草藥◎

行功報。復次生愚癡者。能令自身為非器故。名生愚癡。復有說者。斷佛期心故。名生愚癡。佛期心者。欲令衆生解脫諸苦。彼不能修離苦方便。故言斷佛期心。復有說者。斷於佛法。令不相續。若彼人身修正行。亦令他人修於正行。如是轉轉。令多衆生修於正行。若自身不能修於正行。亦令他人不修正行。如是轉轉。令多衆生不修正行。如是之人。不能利益一身何況多人。復有說者。本出家所為。而不能得。名生愚癡。復次於佛法中。不如義次行。言是癡人。此中以佛語為佛法行者。應如義次行。然後不能行。故言癡人。復有說者。如所應行名。如義次行。彼於佛法中。不如所應行。名不如義次行。不隨順者。於佛法中。不如法隨順。不次第行者。於佛法中。不作相續行。犯衆過惡者。犯於佛法。不如法行者。不行次法。謂聖道也。復有說者。不如義語次行者。不於一切時能行。如婆他利比丘。於三月後。乃受不非時食法。復有說者。不如義次行者。此答前說。於佛法中。生於愚癡。云何生愚癡。答曰。於佛教戒。不如義次行。乃至不如法修行次法亦如是。以何等故。佛責諸弟子。此答先所說義。答曰。諸佛世尊。常訓誨語。如今。和上阿闍梨。向諸弟子。以憐愍意。言是癡人。佛亦如是。以憐愍饒益故。言是癡人。諸佛世尊。常以四事教化。一以歎美。二以呵責。三以因他。四以放捨。歎美者。如歎美億耳等。善哉善哉。比丘能以清妙之音聲。頌經法。呵責者。如呵責優陀耶等。因他者。如轉法輪時。為五比

丘說法。令八萬諸天得道。如頻婆娑羅王迎佛。令八萬人天得道。如帝釋問佛。亦有八萬諸天得道。放捨者。如犢子性梵志等。諸應以呵責教化者。若不呵責。則不受化。以是故佛世尊。呵責弟子。如阿闍梨向近住弟子。和上向同住弟子。以苦切語。而呵責之。而彼和上阿闍梨。非是惡心。但以不順法故。而呵責之。如父母見子為非法事。欲擁護故。以苦切言。而呵責之。而彼父母。無有惡心。若當諸子為非法事。而彼父母生苦惱心。欲制諸子為非法事。以苦切語。而呵責之。佛亦如是不以惡心。若當應以呵責受化。而不呵責。彼人畢竟無有調伏。是故世尊。而呵責之。復有說者。佛大悲心。重於一切時。常作是念。以何方便。能饒益衆生。若如來不呵責提婆達多者。諸餘比丘。隨從者衆。復當數數觸饒世尊。若當向無比女。不言如是盛屎尿器。彼女欲心。無由得息。若當不罵菴婆羅吒。言是婢子者。彼人無由能破憍慢。若不罵其師弗迦羅婆羅者。亦無由能破憍慢。如是等為增益功德故。亦呵責餘人。復次以二事故。呵責餘人。一善根不熟者。以呵責故。令善根熟。二善根雖熟。不作方便。以呵責故。令生方便。得於道果。問曰。以何義故言癡人耶。為以從癡生故。言是癡人。為以現行癡故。言是癡人。若從癡生者。阿羅漢亦是癡人。何以故。阿羅漢身。從癡生故。若以現行故。言癡人者。唯阿羅漢得言不癡。所以者何。阿羅漢不現行癡故。若然者。此經云何通。如說。癡人遠去。莫我前往。評曰。

應作是論。現前行癡。名曰癡人。問曰。若然者。唯阿羅漢。是不癡人。此經云何通。乃至廣說。答曰。此經應如是說。速去比丘。莫我前往。會聞。佛般涅槃時。長壽諸天。嫌如是事。此。天德神力比丘。今者何以在我前立。障我等前。使不得見世尊身。此是我等最後見世尊身。所以者何。世尊不久當般涅槃。爾時世尊知諸天心所念。告比丘言。遠去莫我前往。復有說者。先說應以呵責得度者。而呵責之。若呵責阿羅漢。得勝進者。佛亦呵責言是癡人。問曰。人有愛有恚有慢有見有癡。何以言是癡人。不言是愛等人耶。答曰。以癡遍一切處故。若行彼地癡。即是彼地癡人。

阿毘曇毘婆沙論卷第十

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

雜健度智品之六

有六因乃至廣說。論曰。此六因非佛經說。四緣是佛經說。今欲以因解緣。其事云何。相應因乃至報因是緣。所作因者是次第緣。境界緣成勢緣。問曰。因攝緣緣攝因。答曰。隨體性相攝。或有說者。應有差別。云何差別。如相應因。乃至報因是緣。所作因是威勢緣。次第緣境界緣是緣非因。為因攝緣。為緣攝

① 諸二是一 ② 和上一和尙 ③ 頌一誦 ④ [能]一 ⑤ 彼一破 ⑥ 速一遠 ⑦ 天一大 ⑧ 不分卷及品 ⑨ 論二說

因緣攝因非因攝緣。不攝何等次第緣境界緣。復有說者。六因亦是佛經說。如增一阿含六法中說。經久遠故。而有亡失。彼尊者迦旃延子。以願智力。觀佛經中說六因處。於此阿毘曇中。依一而作論。曾聞增一阿含。從一法增乃至百法。今唯有一法增乃至十法在餘悉亡失。又於一法中。亡失者多。乃至十法亡失亦多。曾聞有大德阿羅漢名奢那婆。數是尊者著婆迦。和上。彼尊者般涅槃時。即日有七萬七千本生因緣。有一萬阿毘曇論滅不復現。從是以後。更不復行。一論師滅。有爾所經論。更不復行。何況若百若千諸論師滅。復有說者。雖無有經一處全說六因。處處經中。別說六因中一一因問曰。若然者。何經中說相應因。答曰。如說是名見道根本信名不壞智相應。此經說相應因。何處說共生因者。如說眼緣色生眼識。亦共生受想等。此經說共生因何處說相似因者。如說此人成就善法。亦成就不善法。此人不善法滅。善法更生。此經說相似因。何處說遍因者。如說比丘若有所思。有所分別。是名起使。何處說報因者。如說修行廣布殺生。身壞命終。生地獄中。受不善報。此經說報因。何處說所作因者。如說以二因二緣。生於正見。乃至廣說。此經說所作因。如是等經。皆說六因。此。健度分別因不分別緣。見健度。分別緣不分別因。問曰。何故彼尊者依六因作論。答曰。以此六因斷無因惡因者意故。復有說者。彼尊者所以依六因作論者。欲顯現四種果。如觀掌中阿

摩勒故。若說相應共生因。即顯現功用果。若說相似因遍因。即顯現依果。若說報因。即顯現報果。若說所作因。即顯現威勢果。以是事故。依六因作論。

云何相應因。答曰。受於受相應法相應因中。受相應法於受相應因中。問曰。何故此法展轉為因。答。有為法。性羸劣故。義言問受法不用想。能所覺不受。當答言。不能如是餘法相離。不能有所作。是故心心數法展轉相長。養展轉相增益。展轉相依。而能負重。如二葦束相依而住。衆多亦然。如以一繩不能挽大材。多繩則能。彼亦如是。問曰。何故不說心耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應說心心數法相應因中。有說者此文說諸因。義不盡若盡說者。應作是說。云何相應因。心心數法相應因中。云何共生因。一切有為法。云何相似因。過去現在法。云何一切遍因。過去現在一切遍使。及使相應共有法。云何報因。不善及善有漏法。云何所作因。一切諸法。應如是說諸因。若不說者。當知說諸因義不盡。復有說者。已說在先所說受相應法中。其義云何。如說受受相應法相應因中。乃至廣說。問曰。若然者。何以不即心名說耶。答曰。等義是相應義。此心是宗主。如偈說。心是第六增上王。復有說者。以心故名相應。不相應法。如說是名心相應法。是名心不相應法。如是想思觸作觀欲解脫念定慧慧相應法相應因中。乃至廣說。

問曰。何以但說十大地數法。不說餘數法耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應說而不說者。當知此義是有餘說。復有說者。諸界諸地諸心諸種中可得者說。餘數法與上相違故不說。

問曰。云何是相應義。答曰。等義是相應義。問曰。若等義是相應義者。此數法於心。或多或少。於善心多。於染污心少。於染污多。於不隱沒無記少。於欲界繫多。於色界繫少。於色界繫多。於無色界繫少。於有漏多。於無漏少。如是者。云何等義是相應義。答曰。以體等故。言等義是相應義。若當一心中有二受一想。如是不名為等。非相應義。一心。一受餘數法亦爾。以是故。等義是相應義。復有說者。等不相離義。是相應義。復有說者。等不別異義。是相應義。復有說者。等同受義。是相應義。如車載時。諸分皆載。無不載者。如是心車受緣時。諸大地。於緣等受。無不受者。復有說者。等同受義。是相應義。非前後故。如秋時群鴿一時詣場。一時食一時起。如是心心數法。於緣一時造。一時所作。一時滅。復有說者。合義是相應義。如水乳不相妨故。共合。如是此法與彼法。不相妨故相應。復有說者。等相愛義。是相應義。如人更相隨順。言是相愛。如是此法與彼法。更相隨順。言是相應。尊者婆已說曰。有四事等故。是相應義。所謂時所。依行境界。時者同一剎那。所依者同一所依。行者同於一行。境界者同行一境界。以是事故。是相應義。復有說者。葦束義。是相應義。如葦二束多

一五四六 阿毘曇婆沙論卷第十

一五四六 阿毘曇婆沙論卷第十

一五四六 阿毘曇婆沙論卷第十

◎唯二惟◎ ◎數一數◎ ◎和上二和向◎ ◎健度二健度◎ ◎下同 ◎法二汝◎ ◎一十(心)◎ ◎依一以◎

束相依而住。如是心心數法。性羸劣故。一一不能生。不能取緣。心與十大地合。能行世能取果。能知境界。能有所作。復有說者。繫材義是相應義。如一斤麻不能繫材。若多合為索則能繫材。如是心大地法。廣說如上。復有說者。相牽渡河義。是相應義。相牽者展轉相牽手。如山谷中駛河。一人則不能渡。若與多人。更相牽手。然後能渡。如是心與大地。廣說如上。復有說者。同伴義是相應義。如曠野道。多諸盜賊惡獸。一人則不能過。若集多人。展轉相因。然後能過。如是心與大地。廣說如上。尊者須蜜說曰。云何是相應義。相生義是相應義。問曰。若然者。眼識能生意識。彼是相應耶。答曰。所依異。若同所依。能相生者是相應義。復次不別異義。是相應義。問曰。若然者四大亦不別異。是相應耶。答曰。四大無有所依。若有所依。不別異者是相應義。復次有所緣義是相應義。問曰。若然者五識亦有所緣。是相應耶。答曰。所依各異。若同所依。同所緣。是相應義。復次同一緣義。是相應義。問曰。若然者眼識意識。同於一緣。是相應耶。今現見多人俱共生心。同觀初月。是相應耶。答曰。所依各異。若同所依。同於一緣。是相應義。復次合義是相應義。問曰。若然者壽命。煖氣識。合在一處。是相應耶。答曰。彼二無所依。若有所依。亦有合相。是相應義。復次一時生義是相應義。問曰。若然者四大一時生。是相應耶。答曰。四大無所依。若有所依。一時俱生。是相應義。復次俱生俱住俱滅。是相應義。問曰。若

然者心迴轉。色心不相應。行俱生俱住俱滅。則相應耶。答曰。無有所依。若有所依。俱生俱住俱滅。是相應義。復次同一所依。同一行。同一所緣。是相應義。問曰。何以知同一所依。同一行。同一所緣。是相應耶。答曰。復何以知同一所依。同一行。同一所緣。非是相應義耶。復次。同行一事。義是相應義。問曰。若然者。忍智。同行一事。是相應耶。答曰。彼不同時生。若同時生。同行一事。是相應義。尊者佛陀提婆說曰。同伴義是相應義。如識隨所緣事。為諸數名。離於俱生。是相應義。尊者瞿沙說曰。同一依。同一行。同一緣。是相應義。所以者何。有為法性羸劣。展轉相因力生。不見有一大地。獨行世者。是故說名相應。此相應因。於三世中。決定能生功用果。

云何共生因。乃至廣說。問曰。相應因共生因。有何差別。答曰。或有說者。若有相應因。則有共生因。頗有共生因。非相應因耶。答曰。有諸不相應共生因也。問曰。此事可爾。所謂差別者。於一刹那中。受與想有二因。所謂相應因共生因。有何差別。答曰。不相離義。是相應因。義同一果義。是共生因。復有說者。同一所依。同一行。同一緣。是相應因。義。同一生一住一滅。是共生因。復有說者。牽手。渡河義。是相應因。自勦力。渡義。是共生因。復有說者。共財義。是相應因。能起義。是共生因。復有說者。等義。是相應因。義。不相離義。是共生因。義。

云何共生因。答曰。心與數法。是共生因。中因。

乃至廣說。先不說心。今則說之。心與數法。是共生因。中因。數法轉還與心。是共生因。中因。心與心迴轉身口業。是共生因。中因。身口業者。謂禪無漏戒。問曰。何以不說心迴轉身口業與心。是共生因。中因。答曰。應說而不說者。當知此義。是有餘說。復有說者。前後廣說。中說則略。如所作因。前後廣說。中說則略。此亦復爾。復有說者。心於身口業與因。不隨其事。身口業於心。隨其事。不與其因。如王於其眷屬。與其飲食饒益。不隨其事。眷屬於王。隨其事。不與飲食饒益。如是心身口業。乃至廣說。復有說者。身口業從心起。屬於心。從心生。故是共生因。身口業不能起心。心不屬業。亦不從生。故非共生因。評曰。不應作是說。如是說者好。心與心迴轉身口業共生因。當知心迴轉身口業。與心共生因。中因。所以者何。同一果同一所作。故。問曰。若然者。何以不說。答曰。上已廣說。故。心不相應。行共生因。中因。問曰。何等是心不相應行。答曰。或有說者。心自體生。生與心共生因。中因。復有說者。心與自體生。老住滅。共生因。中因。生與心共生因。中因。非老住滅。所以者何。增長義。是因義。彼是散壞義。復有說者。心與生等。生等與心共生因。中因。復有說者。心與心數法。生等共生因。中因。心生等與心共生因。中因。評曰。不應作是說。如是說者好。心與心數法。生等共生因。中因。心數法。生等與心共生因。中因。問曰。若然者。此說云何通。如說除身見。老住滅。諸餘苦諦。於身見非共生因。答曰。應作是說。除身

●斤二片 ●渡一廣 ●煖一暖 ●共二執 ●於二與

見相應法生老住滅。諸餘苦諦。於身見非共生因。而不說者。當知此義是有餘說。復次共生四大共生因中。諸作是說。四大勢無偏者。地大水風火大。共生因中。三大於地大。共生因中。諸作是說。四大勢有偏者。地大於三大。共生因中。三大於地大。共生因中。所以者何。地大則有多體。一體與多體。是共生因。多體於一體。是共生因。乃至風大亦如是。評曰。如是說者好。四大若有偏勢。若無偏勢。地大於三大。三大於地大。作共生因。所以者何。地大不因地大生於造色。問曰。為生已是因。為未生是因。答曰。生亦是因。未生亦是因。所以者何。生已未生。盡墮因義中。如波伽羅那說。云何從因生法。一切有為法。如彼所說。生與未生。悉是從因生法。此亦如是。問曰。造色為有共生因不耶。答曰。有。所以者何。以一切有為法盡有共生因故。問曰。造色與造色。有共生因不耶。答曰。無。所以者何。自體不與自體作共生因。復有說者。造色與造色。作共生因。其事云何。如根根共生。微塵展轉共生因。評曰。不應作是說。所以者何。有對造色。不得還與有對造色作共生因。

一切心盡有俱迴轉。所謂數法及生等。非一切心盡有心迴轉。色有十事。故名迴轉。云何為十。一。共生。二。共住。三。共滅。四。共一果。五。共一依。六。共一報。七。善共善。八。不善共不善。九。無記共無記。十。共墮一世中。共一果者。謂解脫果。共一依者。謂依果。共一報者。謂報果。總而言之。有十事。如世俗斷結道迴轉有八事。除不善無記。除世俗斷結道迴轉。諸餘善有漏迴轉有七事。除解脫果。不善無記無漏斷結道迴轉有七事。除報果。不善無記無漏斷結道迴轉。諸餘無漏迴轉有六事。除解脫果報果。不善無記不善心迴轉有七事。除解脫果。善無記無記心迴轉有六事。除解脫果報果善不善。是故總而言之。有十事。心於心。數法迴轉有五事。二共所依。二共所行。三共所緣。四共果。五共報。數法迴轉於心。亦同有五事。心與心迴轉。心不相應。行有二事。一果二報。心迴轉。心不相應。與心迴轉有二事。一果二報。問曰。何者是迴轉體性。答曰。是四陰五陰。如色界是五陰。欲界無色界是四陰。所以者何。欲界無色界。無心迴轉戒。此是迴轉體性。是我是物是相是分是性。已說體性。所以今當說。問曰。迴轉是何義。答曰。隨順義。是迴轉義。取一果義。是迴轉義。同作一事義。是迴轉義。如義言。如汝等所作。我等亦作是迴轉義。

問曰。何故欲界戒。不與心迴轉。答曰。非其田。非其器。非其地。以非田非器非地故。復有說者。以欲界非是定地。非修地。非離欲地。此中戒亦不與心迴轉。色界是定地。修地。離欲地。彼中戒與心迴轉。復次義言。欲界戒語欲界心。汝能為我若破戒。若起破戒心煩惱。作擁護不。欲界心答言不能。戒言汝若不能。我何為隨順汝耶。猶如有人。怖畏怨家。語他人言。汝能為我作擁護不。我當隨順汝。他人答言不能。其人語言。汝若不能者。我何為隨順汝耶。彼亦如是。色界心能為破戒及起破戒煩惱。而作擁護。是故彼戒隨順於心。問曰。一切色界善心。盡有迴轉戒色不。答曰。不盡有也。初禪中。有六善心。無迴轉戒色。三善識身。聞慧死時善心起作善心。二禪三禪四禪中。有二善心。無迴轉戒色。聞慧死時善心無色界無戒。問曰。何故無色界無戒。答曰。非其田。故乃至廣說。戒與色俱無色界。無色故無戒。復有說者。戒是四大造。無色界無四大故無戒。問曰。無漏四大。亦無無漏戒耶。答曰。無漏戒。不以四大故。是無漏。以心故。是無漏戒。復次戒對治破戒及起破戒煩惱。無色界無破戒及起破戒煩惱。是故無戒。問曰。何故無色界無破戒及起破戒煩惱對治耶。答曰。破戒及起破戒煩惱。是欲界法。無色界於欲界有四事極遠。謂所依所依者依次第一緣。所行。所緣。對治極遠。問曰。若然者。二禪三禪四禪。無犯戒及起犯戒煩惱對治。彼亦無迴轉戒色耶。答曰。對治有二種。一。斷對治。二。過患對治。二禪三禪四禪。雖無斷對治。有過患對治。如世尊說。不動法心解脫。聖弟子入三昧。斷不善法修善法。爾時彼身無不善法。以過患對治故。作如是說。無色界。無過患對治。亦無斷對治。

○[心]一○◎ ◎卷第十二終◎ ◎卷第十三雜度智品之八首◎ ◎卷第十三雜度智品第二之八首◎ 造釋釋譯號同 異第九卷 ◎緣十(也)◎ ◎身十(中)◎

生戒耶。答曰彼若有道俱生戒。亦有定俱生戒。頗有定俱生戒非道俱生戒耶。答曰有謂有漏戒。復有說者。道俱生戒是無漏。定俱生戒是根本禪。是故應作四句。若有道俱生戒。彼亦有定俱生戒耶。若有定俱生戒彼亦有道俱生戒耶。答曰或有道俱生戒非定俱生戒。乃至廣作四句。道俱生戒非定俱生戒者。謂未至中間禪無漏。定俱生戒非道俱生戒者。根本禪中有漏戒。道俱生戒亦定俱生戒者。根本禪中無漏。非道俱生戒非定俱生戒者。未至中間禪有漏戒。一切欲界戒。若得道俱生戒。彼亦得定俱生戒耶。若得定俱生戒。彼亦得道俱生戒耶。應作四句。得道俱生戒非定俱生戒者。未離欲得正決定。見道中十五心道比智離欲者。依未至禪。得正決定。見道十五心聖人。離欲界戒。方便道。九無礙道。八解脫道。未離欲信解脫人。轉根作見到方便無礙解脫道。未離欲聖人。起無量心。起不淨安般念處。如是等時。得道俱生戒非定俱生戒。得定俱生戒。非道俱生戒者。凡夫人離欲界戒最後解脫道。離初禪欲。即以初禪。為方便方便道。最後解脫道。若依二禪邊。為方便方便道。最後解脫道。乃至第三禪亦如是。離第四禪欲。若以第四禪為方便方便道。起神通時。五無礙道。三解脫道。離欲凡夫。起無量心。起初第二第三解脫。起勝處。起一切處。起不淨安般念處。依禪起達分善根。無色界死生色界時。色界中上地死。生下地時。如是等時。得定俱生戒。非道俱生戒。得道俱

生戒定俱生戒者。離欲人依未至禪。得正決定。道比智依上地。得正決定。見道十五心道比智聖人。離欲界戒。最後解脫道。離初禪欲。方便道。九無礙道。九解脫道。如是乃至離非想非非想處欲。離欲信解脫人轉根。得見到方便無盡解脫道時。解脫阿羅漢轉根。得不動時。方便道。九無礙。九解脫道。動禪時。三心起神通時。五無礙道三解脫道。離欲聖人。起無量心解脫勝處。一切處不淨安般念處。辯無諍願智半多俱提迦。空無想無願空無相無願滅。定微細相。如是等時。得道俱生戒。得定俱生戒。不得道俱生戒定俱生戒者。除上爾所事。若捨道俱生戒。亦捨定俱生戒耶。乃至應作四句。捨道俱生戒非定俱生戒者。得須陀洹果。得斯陀含。順次得阿那含。未離欲信解脫轉根。得見到斯陀含果。於勝進道退。須陀洹果勝進道退。是時捨道俱生戒。不捨定俱生戒。捨定俱生戒不捨道俱生戒者。凡夫人離欲色界欲退時。凡夫人聖人。欲色界命終。生無色界。色界命終。生欲界中。是時捨定俱生戒。不捨道俱生戒。捨道俱生戒亦捨定俱生戒者。依禪得阿那含果阿羅漢果。離欲信解脫轉根。得見到時。解脫轉根。得不動。退阿羅漢果。阿那含勝進道退阿那含果。是時捨道俱生戒。亦捨定俱生戒。不捨道俱生戒不捨定俱生戒者。除上爾所事。若成就道俱生戒。亦成就定俱生戒耶。乃至廣作四句。成就道俱生戒非定俱生戒者。生欲界中。未離欲聖人。是名成就道俱生戒非定俱

生戒。成就定俱生戒非道俱生戒者。生欲界中。離欲凡夫人。亦生色界中。是名成就定俱生戒非道俱生戒。俱成就者。生欲界中聖人。離欲界欲。亦生色界中。是名俱成就。俱不成就者。生欲界凡夫人。不離欲。生無色界凡夫人。是名俱不成就。若不成就道俱生戒。亦不成就定俱生戒耶。乃至廣說作四句。前成就初句作第二句。第二句作第一句。第三句作第四句。第四句作第三句。有四種戒。一逮解脫戒。二禪戒。三無漏戒。四斷戒。逮解脫戒者欲界戒。禪戒者色界戒。無漏戒者道俱生戒。斷戒者禪戒無漏戒。其事云何。離欲界欲。九無礙道中。世俗迴轉色。是名禪戒。斷戒。離欲界欲。九無礙道中。無漏迴轉色。是名無漏戒。斷戒。問曰何故離欲界欲。九無礙道中迴轉色。名斷戒耶。答曰以離欲界欲九無礙道中迴轉色。是犯戒及起犯戒煩惱對治。以是事故。應作四句。若是禪戒。彼亦是斷戒耶。若是斷戒。亦是禪戒耶。乃至廣作四句。是禪戒非斷戒者。除離欲界欲九無礙道中迴轉色。諸餘世俗迴轉色。是名禪戒非斷戒。是斷戒非禪戒者。離欲界欲九無礙道中無漏迴轉色。是名斷戒非禪戒。俱是者。離欲界欲九無礙道中世俗迴轉色。是名俱是。俱非者除離欲界欲九無礙道中無漏迴轉色。諸餘無漏道迴轉色。是名俱非。若是無漏戒。彼亦是斷戒耶。乃至廣作四句。是無漏戒非斷戒者。除離欲界欲九無礙道中無漏迴轉色。諸餘無漏迴轉色。是名無漏非斷戒。

①道一勝處 ②空無想一空空無相 ③定一室 ④空 ⑤時二等 ⑥色二已

持對治。第九無礙道。與破戒作斷對治。遠分對治。持對治。與起破戒煩惱。作斷對治。捨對治。遠分對治。持對治。除上所說迴轉戒。諸餘迴轉戒。與破戒及起破戒煩惱。作遠分對治。持對治。問曰。如法智迴轉戒。能捨破戒及起破戒煩惱。非比智。何以言比智有迴轉戒耶。尊者。和須蜜答曰。彼是因故。復次屬彼故。復次與彼相續故。復次從彼生故。復次此已住對治法故。所以者何。若當法智不捨破戒及起破戒煩惱者。比智當捨。復次對治法多。比智與破戒及起破戒煩惱。雖不作捨對治。斷對治。而作遠分對治。持對治。尊者。佛陀提婆說曰。若當法智有迴轉戒。比智無迴轉戒者。則雖有能對治戒。然世尊說。有能對治戒。有不能對治戒。

問曰。為欲界戒多。為色界戒多。答曰。或有說者。欲戒多。所以者何。以根本業。前業後業可得故。又以從。正性罪。遮罪可得故。色界雖有根本業性業。非餘處可得。評曰。應作是說。色界戒多。但未至禪所。可攝戒。與欲界戒等。餘者則多。問曰。有漏戒多。無漏戒多。答曰。或有說者。有漏戒多。有漏戒有二種。一種少入無漏戒。少無漏戒有一種。一種少入評曰。應作是說。無漏戒多。但苦法忍迴轉戒。則與有漏戒等。餘則是多。問曰。苦法忍迴轉戒多。盡智無生智迴轉戒多。答曰。或有說者。苦法智迴轉戒。於苦法忍迴轉戒一倍勝。如是次第轉倍勝。乃至盡智無生智。於施設經說善通。所謂苦法智勝苦法忍。乃至道比智勝道比

忍。離欲界欲。方便道。一無礙一解脫則勝。如是轉勝。乃至第九解脫。所以者何。如漸漸捨破戒及破戒煩惱。彼戒亦漸漸增益。如是次第轉勝一倍勝。乃至盡智無生智。評曰。如是說者好。如苦法忍戒。乃至盡智無生智戒。等無有異。所以者何。同從身口七善生故。問曰。若然者。施設經說云何通。答曰。從因生增益故。作如是說。如苦法智從苦法忍因生而得增益。乃至盡智無生智亦如是。如是等戒。盡是七善。問曰。佛戒多。聲聞戒多。答曰。或有說者。聲聞戒多。非佛。所以者何。佛。唯有一界身戒。聲聞有二界身戒。評曰。應作是說。佛戒多。所以者何。力無畏大悲三不共念處。如是等戒。聲聞辟支佛所無。

問曰。生欲界中。得阿羅漢道。得幾地身迴轉戒。答曰。如西方沙門。作如是說。得二十六地身迴轉戒。所以者何。初禪地有三種。所謂梵迦夷梵富樓大梵。如鬪資沙門說曰。得二十五地身迴轉戒。所以者何。初禪有二處所。所謂梵迦夷梵富樓大梵。天即梵富樓攝。故猶如村落與阿練若處。得彼地身迴轉戒。未來世中修。不得起現在前。所以者何。即彼地報身。能起彼地身迴轉戒。現在前。諸餘地身迴轉戒。成就不起現在前。生無色界。成就不起現在前。所以者何。此戒是六地所攝。未至禪乃至第四禪。無色界自地無戒。下地所攝。不能起現在前。問曰。諸生下地。盡能起現在前耶。答曰。不盡起也。所以者何。一切功德。不必盡起現在前。故。過惡猶不盡起現在前。何況

諸功德。諸功德皆從方便生。如先所說。依彼地報身。起彼地身迴轉戒。無有一時起二地報身現在前者。何況多也。是故得二十五地身迴轉戒。不盡起現在前。

問曰。何故世尊弟子。生無色界。成就道俱生戒。不成就定俱生戒。何以故。無色界阿羅漢。成就道俱生戒。不成就定俱生戒。答曰。或有說者。世俗戒縛是繫法。是以不成就。無漏戒不縛。不是繫法。是以成就。復有說者。世俗戒墮在界中。墮在地中。是故不成就。無漏戒雖在地中。不墮界中。是故成就。

問曰。諸佛世尊。有百年時身戒。乃至八萬歲時身戒。若百年時。身得阿耨多羅三藐三菩提。為得八萬歲時身戒不耶。若得者。云何此身得異身中戒。若不得者。施設經說云何通。如說。諸佛世尊。皆應作是。論得。問曰。若然者。云何此身得異身。口戒。答曰。若以此身。得異身戒。復有何過。復次百年時。得阿耨多羅三藐三菩提。於百年時身所得戒。名得在身中成就。現在前。異身中戒。名得不在身中。名成就。不現在前。八萬歲時身。得阿耨多羅三藐三菩提。於八萬歲時身所得戒。名得在身中成就。現在前。於餘異身。名得不在身中。名成就。不現在前。復有說者。不得。問曰。若然者。施設經說云何通。如說。諸佛皆等。答曰。即彼經說。以三事故等。過去世積行皆等。所得法身皆等。利世間皆等。過去世積行皆等者。如一佛於三阿僧祇劫。行四波羅蜜。然後得阿耨多羅三藐三菩提。諸佛皆爾。所得法

身得異身中戒。若不得者。施設經說云何通。如說。諸佛世尊。皆應作是。論得。問曰。若然者。云何此身得異身。口戒。答曰。若以此身。得異身戒。復有何過。復次百年時。得阿耨多羅三藐三菩提。於百年時身所得戒。名得在身中成就。現在前。異身中戒。名得不在身中。名成就。不現在前。八萬歲時身。得阿耨多羅三藐三菩提。於八萬歲時身所得戒。名得在身中成就。現在前。於餘異身。名得不在身中。名成就。不現在前。復有說者。不得。問曰。若然者。施設經說云何通。如說。諸佛皆等。答曰。即彼經說。以三事故等。過去世積行皆等。所得法身皆等。利世間皆等。過去世積行皆等者。如一佛於三阿僧祇劫。行四波羅蜜。然後得阿耨多羅三藐三菩提。諸佛皆爾。所得法

①正二止 ②[可]一 ③同二因 ④唯二惟 ⑤下同 ⑥論二說 ⑦口二中 ⑧得二在

身皆等者。如一佛成就力無畏大悲三不共念處。諸佛亦爾。利世間等者。如一佛度百千萬那由他衆生。令入涅槃。諸佛亦爾。復次根等。故言等。所以者何。皆住增上根故。戒亦等。皆得增上戒故。地亦等。皆依第四禪。得阿耨多羅三藐三菩提故。

云何相似因。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。爲止無過去未來法現在是無爲法。以此此文止無過去未來者意故。復次爲止。說相似法沙門意故。彼作是說。心唯與心作因。受唯與受作因。乃至慧唯與慧作因。爲止如是意故。作如是說。心與心數法。心數法與心作相似因。如是事故。而作此論。

問曰。以何等故作如是說。前生善根。與後生善根及善根相應法。作相似因。而不作是說。過去善根。與現在善根及善根相應法。作相似因。答曰。欲現過去。有前後義故。過去法衆多。應有前後。若作是說。過去法與現在作相似因者。則不明過去於過去有相似因。若作是說。則明過去於過去有相似因。問曰。以何等故作前生善根。不說相應法。後生善根。說相應法。答曰。應作是說。前生善根。善根相應法。與後生善根及善根相應法。自界中作相似因中因。而不說者。當知此是有餘說。如先所說。此文說因處不盡。復有說者。爲止說相似法沙門意故。彼作是說。善根與善根。作相似因。非善根相應法。善根相應法。與善根相應法。作相似因。非善根不無記根亦如是。爲止如是意故。作如是說。善根與善根相應

法。善根相應法與善根。作相似因。自界中者。欲界還與欲界。色界還與色界。無色界還與無色界。如說自界。自地亦如是。初禪地還與初禪地。乃至非想非非想處還與非想非非想處。過去善根與未來現在。過去現在與未來善根。作相似因中因。問曰。何以復作此論。答曰。若別世說。於文不亂。乃至廣說。自界無記根亦如是。前生不善根。乃至廣說。問曰。以何等故。此不善根中。不說自界耶。答曰。以不善根唯在欲界故。復有說者。應說自種。見苦所斷種。還與見苦所斷種。乃至修道所斷種。還與修道所斷種。復有說者。應作是說。說善根已。不善無記根亦如是。問曰。若然者。不善根唯在欲界。云何言自界耶。答曰。以自種故。言是自界。問曰。以何等故。不作是說。前生不善根。與後無記根。前生無記根。與後生不善根。作相似因。耶。答曰。或有說者。應作是說。而不說者。當知此義是有餘說。復有說者。若作是說。則明。不善根在三界中。無記根唯在欲界。少因則有多果。多因則有少果。故問曰。未來世有相似因不。若有者。此中何以不說。如說云何相似因。答曰。前生善根。與後生善根。善根相應法。自界相似因中因。如是過去與未來現在。過去現在與未來。作相似因中因。而不說未來與未來作相似因中因。若有者。云何不二心展轉爲因。若無者。此說云何通。如說若法能與彼法作因。或時而不與彼法作因耶。答曰。不也。問曰。此法與彼法。或時作因。或時不作因。若法生者。則作因。若

不生者。則不作因。何以言不也。若無者。波伽羅那說云。何通。如說非心因法云何。答曰。得正決定人。初無漏心是也。諸餘凡夫。必當得正決定者。初無漏心。問曰。如未得正決定者。一切無漏心。是非心因法。何以但說初無漏心耶。若無者。復與此經。餘所說相違。如說苦諦。或以身見爲因。不與身見作因。乃至廣說。身見爲因。不與身見作因者。除過去現在見苦所斷。使及使相應法苦諦。除過去現在見集所斷。一切遍使及使相應法苦諦。除未來世身見及身見相應法。諸餘染汚苦諦。是。謂以身見爲因。不與身見作因。問曰。如未來身見不能與未來身見作因。何以故。除未來身見及身見相應法。若無者。識身經說云。何通。如說過去染汚眼識諸使所使。亦是因耶。若是因。亦使所使。耶。應廣作四句。是因不爲使所使者。諸使在彼心前。是自界一切遍不緣。若緣已斷。相應使解脫。爲使所使非因者。諸使在彼心後。是自界一切遍緣而不斷。亦因亦使者。諸使在彼心前。是自界一切遍緣而不斷。相應使不解脫。非因非使者。諸使在彼心後。是自界一切遍非緣。緣者已斷。他界一切遍使。如過去。未來現在亦應如是。廣作四句。問曰。過去現在四句可爾。未來云何通。若無者。施設經說云。何通。如說諸法以四事故決定。一因。二果。三所依。四所緣。若無者。云何不無因而有因。無果而有果。答曰。應作是說。未來世無相似因。以無故。所以不說。亦無二心展轉相因過。問曰。若然者。如所說。

○次二以○ ○說二謂○ ○(如)一○ ○(無)十色界○ ○(無)一○ ○因耶乃至現在亦五百九十九字宮本斷缺 ○也二耶 ○耶二耶○

若法能與彼法作因。或時不作因。乃至廣說。此云何通。答曰或有說者。此中以二因故作論所謂相應因。共生因。復有說者以四因故作論所謂相應因。共生因。報因。所作因。復有說者。以五因故作論。除所作因。所以者何。一切處不遮故。應作是說。以六因故作論。問曰有法或與彼法作因。或時不作因。何故作如是說。若法能與彼法作因。或時不與彼法作因。答言不也。答曰此說最後生時。能作一切遍相似因義。從是已後生者。無不以此法為因。問曰若然者此說云何通。如說若法能與彼作次第。或時不作次第。答曰若彼法未生。問曰次第緣最後生時亦能作次第緣義。從是已後生者。無不以此為次第緣。何以答言未生不說最後生時耶。答曰應說而不說者。當知此義是有餘說。復次現異說異文。若以異文。莊嚴於義。義則易解。復次現二門義。故現二種略義。故現二種入法性。故現二種炬。故現二事故。現二種文影。故現俱生俱通。故。如說最後生因義。亦應說最後生緣義。如說次第緣未生義。亦應說因未生義。說現二門義。乃至廣說。如波伽羅那說。非心因法。乃至廣說。云何通。答曰此說究竟非心因法。如未得正決定者。一切無漏心未生盡。是非心因法。若得正決定時。初無漏心。是非心因法。諸餘無漏心。是心因法。是故彼經說。初無漏心。是非心因法。復有說者。此中不說相似因。此說二種凡夫。所謂能得涅槃者。不能得涅槃者。此中說不能得涅槃者。言是非心因。何

以知有不得涅槃者。答曰如此所說。必得正決定者。當知亦有不必得正決定者。如是則所說善通。如此波伽羅那第二所說。除未來身見及身見相應法。此云何通。答曰應作是說。除未來身見相應法。諸餘染污苦諦。如是者此亦善通。如識身經說。復云何通。答曰如過去作四句。現在亦應作四句。未來世應作三句。或有是因非使所使。或是因為使所使。或非是因非使所使。是因非使所使者。諸使與彼心相應已斷。是因為使所使者。諸使與彼心相應不斷。非是因非使所使者。如餘緣他使所使。他界一切遍使。應作如是說。而不說者有何意。答曰欲現未來世有前後義。故如施設經說。一切有為法。有四事決定。此義云何通。答曰因者說四因。相應因。共生因。報因。所作用。果者說三果。功用果。報果。威勢果。所依者說六種。所謂眼識及相應法。依眼。乃至意識。識相應法。依意。緣者眼識。眼識相應法。緣色。乃至意識。識相應法。緣法。云何不無因而有。無果而有果者。答曰如我義亦無因而有。無果而有果。言因者。以時故說非謂無法而有。復有說者。未來世中有相似因。

問曰若然者諸所難者。善通經文。何以不說。答曰。應說而不說者。當知此義是有餘說。復有說者。此說相似因不盡。此中唯說因。有力能與果取果者。未來世相似因。不能與果取果。若有者云何不二心展轉相因。答曰未來世中有四行相隨從。以通此事。如無常行有。四行相隨從。苦空無我。亦有四行相隨從。如無常行。先生為因。後生三行。不能與無常行作因。餘三行亦如是。若作是說。依第四禪得阿羅漢。彼第四禪相隨從。有九地無漏未來世修。若出彼禪欲起無漏。初禪現在前時。則無有因。何以故。以無相隨從故。若然者過去現在無漏道。則有作相似因者。有不能作者。復違此經文。前生善法。與後生善法。乃至廣說。欲令無如是等過者。未來世中。無相似因。問曰色法為有相似因不。答曰譬喻者作如是說。色法無相似因。以緣力故生。其事云何。如鑿地深百肘出泥。天雨日曝風吹。而便生草。如此泥未曾生。如屋上生草樹。此處亦未曾生。誰與彼作相似因。問曰若然者彼文云何通。如說過去四大。與未來四大因威勢緣。彼作是答。我無如是經。欲去如是文。故作如。先說。以是事故。不必須通。若欲必通者。當云何通。彼威勢緣有二種。有近在遠。有在此身。有在餘身。諸近在此身者。說名為因。若遠在餘身者。說名為緣。阿毘曇人。作如是說。色法有相似因。問曰若有者。譬喻者說云何通。答曰以有種子在彼法中住。但未得生。芽因緣故不生。若得便生。屋上生草樹者。若鳥銜種來。若風吹來然後乃生。以是事故。色法有相似因。復有說者。色法有相似因。亦與相似法作因。亦與不相似法作因。與相似法作因者。與此身相似作因。不與餘身相似作因。與此身相似作因者。如此身歌羅羅時。與歌羅羅。作相似因。作不相似因者。如歌

①先二是 ②日=田 ③芽=死

羅羅與老作因。如此身阿浮陀時。與阿浮陀作因。乃至老時亦作因。與歌羅羅作緣。如是此身老時。與老時作因。與餘時作緣非因。若作如是說者。初歌羅羅則無因。最後。從色則無果。復有說者。色法有相似因。與相似法作因。不與不相似法作因。亦與此身相似法作因。亦與餘身相似法作因。餘身相似法。與此身相似法作因。此身相似法亦與餘身相似法作因。於餘時作緣非因。如是餘身老時。與此身老時作因。此身老時。復與餘身老時作因。於餘時作緣非因。復有能者。色法有相似因。與相似法作因。亦與不相似法作因。與此身作因。亦與餘身作因。如餘身歌羅羅與此身歌羅羅作因。此身歌羅羅。乃至。與老時作因。此身歌羅羅。與餘身歌羅羅作因。乃至與餘身老時作因。餘身阿浮陀。與此身阿浮陀作因。乃至老時作因。此身阿浮陀。與餘身阿浮陀作因。乃至老時作因。於歌羅羅時作緣非因。餘身老時。與此身老時作因。此身老時。與餘身老時作因。於餘時作緣非因。評曰。應作是說。餘身十時。與此身十時作因。此身十時。與餘身十時作因。外法當知隨所應。亦如是說。善五陰展轉爲因。染污亦如是。展轉爲因。不隱沒無記四陰。或有說者。展轉爲因。復有說者。不隱沒無記四陰。與不隱沒無記色陰爲因。色陰不能與不隱沒無記四陰作因。何以故。性羸劣故。復有說者。不隱沒無記色陰。與不隱沒無記四陰作因。不隱沒無記四陰。不與不隱沒無記色陰作因。所以者何。四陰是

勝法。色陰是下法。勝法不爲下法作因。復有說者。不隱沒無記四陰。不與色陰作因。不隱沒無記色陰。不與四陰作因。不隱沒無記四陰。展轉爲因。不隱沒無記四陰有三種。謂威儀。工巧報。彼三種展轉爲因。不。答曰。或有說者。展轉爲因。復有說者。報與報作因。亦與威儀。工巧作因。威儀與威儀作因。亦與工巧作因。不與報作因。勝法不與下法作因。故。工巧與。工巧作因。非報非威儀。勝法不與下法作因。故。復有說者。此三法展轉爲因。所以者何。同在一界。同一縛故。評曰。不應作如是說。前所說者好。染污法有九種。下下中下上。中下中中上。上上中上上。問曰。彼爲展轉作因不。答曰。展轉爲因。問曰。若然者。云何有九種。答曰。對治有九種故。此法亦有九種。其事云何。如下下修道對治上上煩惱。乃至上上修道。對治下下煩惱。以對治有九種故。此法亦有九種。復有說者。以現前行有九種故。善法亦有九種。從下下乃至上上。問曰。此法爲展轉爲因不。答曰。善法有二種。有生得善方便善。彼生得善九種相。於展轉爲因。問曰。若然者。云何有九種。答曰。以報有九種故。此法有九種。如最勝善能生最勝報。乃至下下善。生下下報。復有說者。以此法現前。行有九種故。方便善亦有九種。下下乃至上上。問曰。此法展轉爲因不。答曰。不也。下下與下下作因。乃至與上上作因。生得善與方便善作因。以方便善勝故。方便善不與生得善作因。以生得善

劣故。方便善有三種。聞慧。思慧。修慧。問曰。此展轉作因不。答曰。不也。聞慧與聞慧作因。亦與思慧修慧作因。思慧與思慧作因。不與修慧作因。以不同界故。不與聞慧作因。以聞慧下故。修慧與修慧作因。不與聞慧思慧作因。以異界故。以下故。修慧有四種。有。煇頂忍。世第一法。煇法與。煇法作因。乃至與世第一法作因。頂法與頂法作因。乃至與世第一法作因。忍法與忍法作因。亦與世第一法作因。欲界變化心有四種。初禪果乃至第四禪果。問曰。此四種心。爲展轉作因不。答曰。初禪果爲初禪果作因。乃至第四禪果。爲第四禪果作因。所以者何。如禪不展轉作因。彼果亦如是。復有說者。初禪果與初禪果作因。乃至與第四禪果作因。二禪果與二禪果作因。乃至與第四禪果作因。三禪果與三禪果作因。亦與第四禪果作因。第四禪果與第四禪果作因。復有說者。盡展轉爲因。所以者何。俱墮一界。同一縛故。評曰。如第二說者好。問曰。如初禪地。有識身有變化心爲展轉作因不。答曰。識身。爲變化心作因。非變化心爲識身作因。所以者何。勝法不爲下法作因。故。問曰。若相似因。能取果者。亦能與果耶。答曰。若能與果。亦能取果。頗有能取果不能與果耶。答曰。有阿羅漢最後陰。如此是總說。今當分別說。善不善無記。問曰。若善相似因。能取果者。亦能與果耶。若能與果者。復能取果耶。

○(從)一○● ○與一身○ ○爲二與○

乃至廣作四句。取果不與果者。斷善根時。最後捨善根得。與果不取果者。善根得最初現在前。取果與果者。如不斷善根餘時。不取果不與果者。除上爾所事。若不善相似因。能取果亦能與果耶。乃至廣作四句。能取果不能與果者。如離欲界欲最後捨不善得。能與果不取果者。離欲界欲。退不善得最初生。能取果能與果者。如不離欲者餘時。不取果不與果者。除上爾所事。若隱沒無記法相似因。能取果亦能與果耶。能與果亦能取果耶。乃至廣作四句。能取果不能與果者。如離非想非非想處欲。最後捨隱沒無記得。與果不取果者。退阿羅漢果時。隱沒無記得最初生。取果與果者。不離非想非非想處欲餘時。不取果不與果者。除上爾所事。若不隱沒無記相似因。取果者亦能與果耶。答曰。若能與果。彼亦能取果。若不取果云何與。頗有取果不與果耶。答曰。有阿羅漢最後心。已說善不善無記相。今當說能緣相。若善相似因。能取果亦能與果耶。若與果亦能取果耶。乃至廣作四句。能取果不與果者。善心次第生不善無記心現在前。與果不取果者。若不善心無記心次第善心現在前。取果與果者。如善心次第善心現在前。不取果不與果者。除上爾所事。若不善心相似因。能取果者。亦能與果耶。若與果者。亦能取果耶。乃至廣作四句。取果不與果者。如不善心次第。若善心無記心現在前。與果不取果者。如善心無記心次第不善心現在前。取果與果者。如不善心次第不

善心現在前不取果不與果者。除上爾所事。若隱沒無記心相似因。能取果亦能與果耶。若能與果亦能取果耶。乃至廣作四句。能取果不與果者。隱沒無記心次第善不善不隱沒無記心現在前。與果不取果者。善不善不隱沒無記心次第隱沒無記心現在前。取果與果者。隱沒無記心次第隱沒無記心現在前。不取果不與果者。除上爾所事。若不隱沒無記心相似因。能取果亦能與果耶。若能與果亦能取果耶。乃至廣作四句。取果不與果者。不隱沒無記心次第善不善隱沒無記心現在前。與果不取果者。善不善隱沒無記心次第不隱沒無記心現在前。取果與果者。不隱沒無記心次第不隱沒無記心現在前。不取果不與果者。除上爾所事。已說相似因有緣相。相似因相續相。今當說。若相似因取果亦能與果耶。若能與果亦能取果耶。乃至廣作四句。善心後相續生二十善心。取果不與果者。除第二心。餘十八心。與果不取果者。初心滅在過去。十八心若生現在前。取果與果者。第二心是也。不取果不與果者。除上爾所事。不善隱沒無記不隱沒無記亦如是。頗一剎那頃。若得相似因。亦得相似因因耶。若得相似因因。亦得相似因耶。乃至廣作四句。得相似因不得相似因因者。從上沙門果退。住須陀洹果勝進道。本得須陀洹初果現在前。是時不成就見道得。相似因因不得相似因者。如本住須陀洹果勝進道。能與後生沙門果。作相似因。得相似因亦得相似因因者。除須陀

洹初心。諸餘須陀洹果。會起現在前。不得相似因亦不得相似因因者。除上爾所事。頗一剎那頃。知相似因。不知相似因所緣耶。知相似因所緣。不知相似因耶。乃至廣作四句。知相似因不知相似因所緣者。見道中道法智緣前生苦集滅智分。知相似因所緣不知相似因者。緣未生法智分。知相似因亦知相似因所緣者。道法忍是也。不知相似因不知所緣者。除上爾所事

問曰。相似因有增減不。答曰。有其事云何。或有前身煩惱作增上相似因非今身。曾聞阿難入舍衛城乞食時。摩。鄧伽女。見已隨逐而行。所以者何。以五百世中曾為阿難妻。今見阿難欲覺熾盛。無心。能離。如長老彌祇迦在。菴羅林中坐。是時三惡覺意增上。所以者何。曾聞此長老本昔曾於此林處作王。若本五樂自娛樂處則欲覺增上心生厭患。後至餘處悲覺增上。所以者何。本為王時。恒於此處。割截人民手足頭耳故。悲覺增上心生厭患。復至餘處害覺增上。所以者何。曾於此處。繫縛鞭打人民。奪其財物故。害覺增上。如是等過去身煩惱。作增上相似因非此身也。或有欲心與悲心作增上相似因。令悲心增上。或有悲心與欲心作相似因。令欲心增上。如說不善。說善無記亦如是。以是事故。當知相似因因有增減。是相似因。定在過去。現在世果是依果

阿毘曇毘婆沙論卷第十

①因十(因) ②鄧二登 ③能二而 ④如一斷 ⑤卷二卷 ⑥後一復 ⑦第十二第十三

阿毘曇毘婆沙論卷第十一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門淨陀跋摩

共道秦等

譯

雜毘婆沙智品之七

云何一切遍因。前生見苦所斷一切遍使。乃至廣說問曰。何以作此論。答或有說者。一切結使。盡是遍使。為止如是意故。亦明結使是一切遍非一切遍而作此論。復有說者。此五種所斷結。有一切遍非一切遍。為止如是意。明苦集所斷使有一切遍非一切遍而作此論。復有說者。苦集所斷使。盡是一切遍。滅道所斷使。盡是無漏緣。為止如是意。明苦集所斷有一切遍有非一切遍。滅道所斷使。有漏緣有無漏緣。而作此論。復有說者。諸使通三界者。是一切遍。如諸見疑愛慢無明。為止如是意。明通三界使亦是一切遍。非一切遍而作此論。復有說者。無明有愛。是一切遍使。如譬喻者說。彼何故作是說耶。答曰。以是根本使故。其事云何。無明是前生緣起因。有愛是後生緣起因。為止如是意。亦明遍不遍使。而作此論。復有說者。五結是一切遍使。所謂諸見愛慢無明心。此是毘婆闍婆提所說。如說偈

一切處五法 能廣生於苦

諸見愛無明 慢心是為五

為止如是意。亦明一切遍不遍使。而作此論。如是為止他義。欲顯己義。亦現法性相應義。故

而作此論

云何一切遍因。答曰。前生見苦所斷一切遍使。乃至廣說問曰。何故不先說過去。答曰。欲現過去世中有一切遍因故。過去法衆多。亦有前後。若先說過去。則不現過去世一切遍因。若先作是說。則明過去世有一切遍因。其事云何。若作是說。過去於未來現在。現在於未來。是一切遍因。則不明過去於過去。有一切遍因。若作是說。則明過去世有一切遍因。前生見苦所斷一切遍使。後生見集滅道修所斷使。乃至廣說問曰。自種一切遍使。與自種一切不遍使作遍因。不若作者。此中何以不說。若不作者。何以他種作。自種不作。答曰。應作是說。問曰。若然者。何以不說。答曰。應作如是問。前生見苦所斷一切遍使。後生見苦集滅道修所斷。乃至廣說。而不說者。為有何意。答曰。欲明不成義。自種使不說。義已成。是故欲明不成義。是以不說。復次自種於自種。有二種因。所謂一切遍因。相似因他種。唯有一切遍因。無相似因。故。是以不說。復次自種於自種。有二種增長。所謂一切遍因門。相似因門。他種唯有一切遍因門增長。故。是以不說。問曰。何故前生見苦所斷一切遍使。不說相應法。後生使說相應法耶。答曰。應作是文。前生見苦所斷一切遍使。及相應法。與後生見集滅道修所斷使及相應法。乃至廣說。而不說者。當知此義是有餘說。復次為止說。相似法沙門意故。彼作是說。使還與使作因。不

與使相應法作因。使相應法。與使相應法作因。不與使作因。為止如是說者。意故。作如是文。使與使作因。亦與使相應法作因。使相應法。與使相應法作因。亦與使作因。自界者欲界還與欲界作因。色界還與色界作因。無色界還與無色界作因。如說自界。自地亦爾。初禪地還與初禪地作因。乃至非想非非想處。還與非想非非想處作因。過去見苦所斷。乃至廣說問曰。何以復作此論。答曰。為止言無過去未來以現在世是無為遍於世故。而作此論。一切遍因未分別為分別故。說見苦所斷相似略說故。言見集所斷亦如是。問曰。一切遍因體性是何。答曰。欲界有十一遍使。見苦所斷七。五見疑無明。見集所斷四。二見疑無明。如是色無色界亦十一。以是事故。波伽羅那。作如是說。此九十八使。幾是一切遍。幾非一切遍。答曰。三十三是一切遍。六十五非一切遍。問曰。如見苦所斷無明使非一切遍。何以故。言三十三是一切遍。六十五非一切遍。答曰。如西方沙門。此文作如是說。二十七是一切遍。六十五非一切遍。六當分別見苦所斷無明使。或是一切遍。或非一切遍。云何一切遍。見苦所斷。非一切遍使。不相應無明使。如是說者好。見苦所斷。非一切遍使。不相應無明使。若作是說。一切遍使。相應無明。則不攝不共無明。所以者何。彼不與使相應故。云何非一切遍。見苦所斷。非一切遍使。相應無明。見集所斷亦如是。西方沙門作如是說。闍婆沙門。何以不作如是說。答曰。是

第十一二第十四(三) (迦旃延子造) (五百羅漢釋) (天竺) (等) (健) (之七) 之九(九) 第二之九(九) (答十(日)) (斷十(使)) (現二明) (唯二惟) (說二作) (如) (十說) (三)

文應如是說。如西方沙門若不說當知義則如是。復次分多故。其事云何。見苦所斷無明使有十種。七種是一切遍。三種非一切遍。見集所斷無明使有七種。四種是一切遍。三種非一切遍。以分多故。說在一切遍使分中。復次彼見苦所斷不共無明使。一向是遍。以自功用力生。以是事故。三十三是一切遍。六十五非一切遍。若說身見是一切遍。當知相應無明。亦一切遍。其義已成。邊見見取戒取邪見疑。若說如是等是遍。當知相應無明亦是遍。若說愛恚慢是非一切遍。當知相應無明亦非一切遍。餘所不說者是何。唯有不共無明一向是一切遍。以自功用力生。以是事故。作如是說。三十三是一切遍。六十五非一切遍。皆是一切遍體性。乃至廣說。

已說體性所以今當說。何故言一切遍。一切遍有何義。一切緣義。是一切遍義。於緣中有力義。是一切遍義。緣中有力義者。能廣緣義。是緣中有力義。復次有三種。一切本會起故。是一切遍義。初一切者。是九品使。中一切者。是一切衆生。後一切者。是一切有漏法處。問曰。何以知初一切後一切本會起耶。答曰。如施設經說。一切皆是苦。於是苦法中。無有一法凡夫人於中不起。我所見無有不起。斷常亦謗無因。無作亦起。見最勝。第一亦起。見淨見解脫。見是乘凡夫人。無有不曾起。疑心無。智慧闇者。如是等衆生。無有不曾起者。以會起三種一切故。名一切遍。復次若於一剎那。起現在前。能為五種所斷。作因。能緣五種

所斷。能令五種所斷生愚。問曰。云何能令緣無漏緣。使於緣生愚。答曰。若計於我。則誘於對治。及我寂滅。先於中愚。然後生誘。復次若於一剎那起現在前。則為五種所斷。作因。亦能緣使。是一切遍義。彼相應法。雖能作因。亦能緣而不能使。非使性故。彼共俱生等。雖能作因。而不能緣。亦不能使。非緣非使性故。問曰。遍使相應共有法。為是一切遍。為非一切遍。若是者。何以但說三十三使是遍。若非者。何以相應共有法。或是一切遍。或非一切遍。答曰。應作是說。非一切遍。問曰。若然者。何以相應共有法。或是一切遍。或非一切遍。答曰。如相應共有法。或是使或非使。如是相應共有法。或是一切遍。或非一切遍。評曰。應作是說。是一切遍。問曰。若然者。何以但說三十三使。為使故。說所為有二種。一為法。二為使。若為使故。說有三十三。若為法故。說是一切遍。復有說者。此文以彰故。說一切遍。一以因故。二以緣故。三以使故。彼遍使相應法。以因以緣故。名一切遍。不以使故。一切遍使。共有法以因故。不以緣不以使。使則以三事故。而以為文。以是事故。使其俱生等。是一切遍。問曰。一切遍得。為是一切遍不。尊者。僧伽婆修說曰。是一切遍。若一切遍得。非一切遍者。非一切遍。是一切遍耶。此難非難。所以者何。若作是說。色法得非色。非色是色耶。如是說者好。非是一切遍。問曰。何故一切遍。生老住無常。是一切遍得。非一切遍耶。答曰。生老住無常。與一切

遍使同一果。常相隨不相離。前後不相遠。得不同。一果不相隨。相離前後相遠。於彼聚。便為非聚。如樹皮離樹。彼亦如是。問曰。以何等故。見苦見集所斷。立一切遍使。見滅見道所斷。不立一切遍耶。舊阿毘曇人作如是說。此處是一切遍使。族姓生地故。復有說者。見苦集所斷使。同一意。同一作。以同意同作故。所為牢固。以牢固故。立一切遍使。彼見滅道所斷使。意不同。所作亦不同。以不同故。羸劣。羸劣故。不立一切遍使。猶如城邑村落人民。若意同所作同者。村主怨敵。不能降伏。若彼諸人。意不同所作不同者。則為村主怨敵之所降伏。彼亦如是。復有說者。見苦集所斷使。有二種作相應使。亦作緣使。是故立一切遍。見滅道所斷使。或作相應使。緣使。或唯作相應使。是故不立一切遍使。復有說者。見苦集所斷使。安立二足。安立二足者。即上二種使義。見滅道所斷使。不安立二足。不安立二足者。即上二種使義。復有說者。見苦集所斷使。於緣得增長。云何於緣增長。答曰。此緣有漏法。以緣有漏法故。能自增長。如人觀月。眼得增益。無有損減。彼亦如是。見滅道所斷使。於緣不得增長。云何不得增長。以緣無漏法。若緣無漏法。不得增長。如人觀日。眼無增長。唯有損減。彼亦如是。復有說者。一切見諦所斷結。分為二分。見苦集所斷作。一切遍分。非一切遍分。見滅道所斷作。有漏緣分作。無漏緣分。復有說者。此諸結皆是墮相。云何墮相。答曰。墮在苦集中。為苦集諦所攝故。復有說者。

◎唯二惟◎ ◎智二知◎ ◎影二掌◎ ◎作二住◎ ◎二二一◎

以苦集所斷使能遍緣一切有。調因果故。復有說者。以我見可得故。問曰。見集所斷。有何我見可得耶。答曰。雖無我見可得。而有增長我見法可得。復有說者。若知見苦所斷果。若知見集所斷因。則見滅道所斷。根本羸劣。以羸劣故。不立一切遍使。如樹斷根故羸劣。彼亦如是。以如是等緣故。不立一切遍

問曰。何故見苦集所斷使。立一切遍使。立不遍使。不立一切遍使。愛患慢。答曰。或有說者。此無一切遍相故。復有說者。此是別相使。若是總相使。立一切遍。云何別相使。答曰。於髮爪齒。各各別起愛等諸使。云何總相使。答曰。於一切界於一切地。一切生處。能取我見。乃至能取無知愚闇。復有說者。難可熾燃。是非一切遍易可熾燃。是一切遍。云何難可熾燃。答曰。為欲故。求瓔珞衣服塗香園林樓閣

遊戲之處。亦求妻妾侍女。為患故求種種鎧仗鬪戰之具。為慢故。見他莊嚴治身。亦莊嚴治身。以是難熾燃故。不立一切遍。云何易熾燃。答曰。諸結若現在前。猶如河流。諸惡行煩惱不用功流行。亦復如是。復有說者。此七使能緣四諦故。立一切遍。能緣者見疑無明。問曰。何故滅道所斷。愛患慢見取戒取。非無漏緣。答曰。彼滅道無。怨害故無愛患。彼體無可慢故。不生慢。見取見第一戒取見清淨。若於滅道。見第一清淨者。云何是使。以是事故。愛等諸結非無漏緣。

欲界有十一遍使。九是他界緣。二是自界緣。自界緣者。身見邊見。問曰。以何等故。身見邊

見不緣他界。答曰。唯有爾所勢力故。復有說者。身見邊見從龜法生。亦從現見生。於龜現見陰。而取於我。生欲界中。色無色界陰。是龜非現見。問曰。生色界中。欲界陰是龜是現見。何以色界身見。不於欲界陰取我。答曰。若是現見不離欲。能於中取我。生色界中。欲界陰雖是現見。以離欲故。不於中取我。復有說者。生色界中。欲界陰雖是現見法。無有結使。能緣下地。問曰。如是則因論生論。以何等故。無有結使。能緣下地。答曰。若離下地欲。上地煩惱現在前。以離下地欲。上地煩惱。不緣下地。問曰。何以知離下地欲。上地煩惱現在前。答曰。如施設經說。有六種非戒。欲界繫有二種。有心相應心不相應。色無色界繫。亦有二種。有心相應不相應。若欲界繫心相應法非戒現在前。則四種非戒現在前。一欲界心相應。二心不相應。三色界心不相應。四無色界心不相應。色界繫心相應非戒現在前。則三種非戒現在前。一色界心相應。二色界心不相應。三無色界心不相應。無色界繫心相應非戒現在前。則二種非戒現在前。一無色界心相應。二心不相應。此中諸煩惱。以非戒名說。以是事故。知離下地欲。上地煩惱現在前。不緣下地。

問曰。以何等故。欲界諸使。能緣色無色界。色無色界諸使。不能緣欲界。答曰。欲界是不定界。非離欲地。非修地。不能善攝伏諸使故。能緣色無色界。色無色界是定地。離欲地。修地。能善攝伏諸煩惱故。彼諸使不能緣下地。如

人不攝伏已。妻得與他人作非法事。若善攝伏。乃至不能以眼視他。況作非法。彼亦如是。復有說者。生欲界中。於色無色界陰。生疑怪心。彼為是常耶非常耶。為第一耶非第一耶。為淨耶為非淨耶。以有如是疑怪故。能緣。生色無色界中。於欲界陰。不生如是疑怪心。故不緣欲界。復有說者。若色無色界使。能緣欲界者。則能緣使欲界。若使欲界者。則界壞。問曰。如欲界諸使緣色無色界而不使。如是色無色界諸使緣欲界而不使者。有何等過。答曰。色無色界。是尊勝界。欲界諸使。緣而不使。欲界是卑賤界。若色無色界諸使緣則能使。如下賤人於尊勝者不能作不愛事。如尊勝人於下賤者隨意能作。彼亦如是。

問曰。如欲界有九種他界緣使。色界亦有九種他界緣使。無色界亦有他界緣使。不答曰。或有說者無。所以者何。以上更無界故。復有說者有。以能緣故。不以現在前故。評曰。不應作是說。更無有界。彼何所緣。初禪地有九種他地緣。一切遍使。乃至無所有處。亦有九種。非想非非想處。為有他地緣。一切遍使。不答曰。或有說者無。所以者何。更無上地。又不緣下地。復有說者有。以能緣故。有。不以現在前故。有。評曰。不應作如是說。更無上地。彼何所緣。

欲界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

界。邪見能緣三界苦集。非一剎那頃能誘。先誘欲界。若苦若集。異剎那頃。誘色無色界。問曰。以何等故。不於一剎那頃誘三界若苦若集。答曰。欲界邪見。緣欲界亦使。緣色無色

①調一漏②③ ④爪一抓⑤ ⑥仗一仗⑦⑧ ⑨想一思⑩ ⑪一一二⑫ ⑬(非)十是⑭⑮

界不使問曰以何等故緣欲界使緣色無色界不使耶答曰欲界是緣處使緣而則使色無色界是緣處非是使緣雖緣不使復有說者欲界是緣聚使聚緣而則使色無色界是緣聚非使聚緣而不使復次欲界有五種一切遍果色無色界無故緣而不使復次欲界若見苦若見集所斷邪見緣三界若苦若集者云何而緣為如欲界緣而則使色無色界亦緣而則使耶為如色無色界緣而不使欲界亦緣而不使耶若如色無色界緣而不使欲界亦緣而不使者無有自界使緣有漏法而不作二種使緣使相應使若一時能緣三界苦集或有使或不使彼相應法亦應或有所使或無所使彼若然者有如是過則體無自相使性亦壞相應法欲令無如是過故別緣欲界若苦若集別緣色無色界若苦若集如是初禪地邪見能緣八地若苦若集非一剎那頃能誘八地若苦若集先誘初禪地若苦若集異剎那頃誘餘七地若苦若集如是乃至無所有處邪見緣二地若苦若集非一剎那頃能誘二地若苦若集先誘無所有處若苦若集後異剎那頃誘非想非非想處若苦若集

欲界見苦集所斷邪見能緣三界苦集欲界見滅所斷邪見能緣欲界諸行滅問曰以何等故欲界見苦集所斷邪見能緣三界苦集見道所斷邪見唯緣欲界斷諸行對治尊者婆已說曰若為欲愛所愛起我我所見此法斷對治為欲界見道斷邪見所緣彼我見法不能他界緣故復次欲界見苦集所斷邪見所緣異對治異欲界見道所斷邪見所緣即是其對治初禪地見苦見集所斷邪見能緣八地若苦若集初禪地見滅所斷邪見緣初禪地諸行滅廣說如上初禪地見苦集所斷邪見能緣八地若苦若集初禪地見道所斷邪見或有說緣斷初禪地諸行對治或有說緣九地比智分斷對治九地者從未至禪乃至無所有處評曰說緣一切比智分此是實義問曰以何等故初禪見滅所斷邪見緣初禪地諸行滅見道所斷邪見緣九地比智分答曰滅不展轉作因道展轉作因如是乃至非想非非想處見苦集所斷邪見緣非想非非想處苦集非想非非想處見滅所斷邪見緣非想非非想處諸行滅見道所斷邪見緣九地比智分餘問答如初禪說

問曰如一使不能使一切云何名遍使答曰總而言之能使一切諸一切遍使是一切遍因一切遍因是一切遍使耶應廣作四句是也一切遍使非一切遍因者未來一切遍使是也一切遍因非一切遍使者過去現在一切遍使相應共有法是也一切遍使一切遍因者過去現在一切遍使是也非一切遍使非一切遍因者除上爾所事

問曰見道所斷法盡為一切染污法作因不若見道所斷法盡為一切染污法作因者斷亦作因不斷亦作因斷與不斷有何差別若見道所斷法盡為一切染污法作因者何故聖人修道所斷染污或起現在前或不起現在前不起現在前者謂無有中愛瞋恚纏諸慢起現在前者謂諸餘愛恚纏慢若見道所斷法盡為一切染污法作因者施設經說云何通如說頗法不善以不善為因耶答曰有離欲聖人於彼退最初染污思現在前若見道所斷法不為一切染污法作因者波伽羅那說云何通如說何者是見道所斷作因法答曰染污法亦見道所斷法若見道所斷法不為一切染污法作因者復與此經相違如說云何無記作因法答曰無記有為法不善法若不作因者復違此文如說以身見為因不為身見作因乃至廣說若不作因者復與識身經文相違如說頗有不善眼識以不善無記為因乃至不善意識以不善無記為因耶答言有答曰應作是說見道所斷法盡為一切染污法作因問曰若然者諸後所說善通前所說者云何通答曰如所說斷與不斷有何差別者名即差別本作因時不斷今雖為因已斷是名差別復有說者前作因時則不為對治所壞今雖為因為對治所壞復有說者本作因時能於自身障礙聖道今雖為因不障聖道復有說者本作因時能於自身辦所作事今雖為因不復能作復次本作因時於自身中能取果與果今雖為因不能取果與果唯除已取果者復次本作因時能於自身與相似因一切遍因今雖為因更不與相似因一切遍因復次本作因時能於自身取依果報果與依果報果今雖為因不能取依報果復次本作因時於自身中

比二苦(一) (也)一(法)二有(言)二日(依)十(果) (一)

生於諸得。如火出煙。今雖爲因。更不生得。復次本作因時。於自身中。墮可嫌責。墮在非法。亦自染污。今雖爲因。於自身中。不墮嫌責。不墮非法。亦不染污。斷與不斷。是名差別。何故聖人修道所斷染污。或起現在前。或不起現在前。答曰。見道所斷法。或與修道染污法。作相續近因。或作不相續遠因。若作相續近因者。彼聖人則不起現在前。若作不相續遠因者。彼聖人則起現在前。復次若得非數滅者。不起現在前。若不得者。起現在前。何故不起。無有中愛現在前。答曰。彼爲斷見所長養。斷見相續生此愛。聖人已斷斷見。故不起此愛。現在前。何故不起。瞋恚纏現在前。答曰。彼爲邪見所長養。邪見相續生此瞋纏。聖人已斷邪見。故不起此瞋。纏現在前。何故不起。諸慢現在前。答曰。彼爲我見所長養。我見相續生此慢。彼聖人我見已斷。故此諸慢不現在前。施設經說云。何通。答曰。爲不斷因故說。彼思有二種因。有斷不斷。彼說不斷因。問曰。如聖人未離欲時。彼思以不善爲因。何故說退時。答曰。爾時此得斷還相續死結還生故。問曰。後相續思。亦以不善爲因。何故說最初思耶。答曰。以爾時不成就今成就不相續今相續故。復有說者。非一切見道所斷法爲一切染污作因。問曰。若然者。先所說善通。波伽羅那識身經云。何通。答曰。當以總相通。所以者何。自有染污色。以見道所斷法爲因者。非一切色。乃至行陰亦如是。自有染污眼識。以見道所斷法爲因。非一切識。乃至意識亦如是。是

故應以總相通彼所說。尊者奢摩達多。立諸使異。彼作是說。自有見苦所斷使。還以見苦所斷使爲因。自有見苦所斷使。以見苦所斷使爲因。亦以見集所斷使爲因。自有見集所斷使。以見集所斷使爲因。自有見集所斷使。以見集所斷使爲因。亦以見苦所斷使爲因。彼作是說。實無是處。以分別故說。假設聖人見苦不見集。乃至從聖道起。從聖道起已。若見集所斷使。現在前。此使當言。見集所斷使。見集所斷使。生見集所斷使。見苦所斷使。答曰。應作是說。是使因見集所斷使。見集所斷使。因見苦所斷使。不現在前。所以者何。彼因已斷故。如是自有見滅所斷使。唯以見滅所斷使爲因。自有見滅所斷使。以見滅所斷使爲因。亦以見苦所斷使爲因。自有見滅所斷使。以見滅所斷使爲因。亦以見集所斷使爲因。無三種因。見道所斷使。亦如是。自有修道所斷法。唯以修道所斷使爲因。自有修道所斷法。以修道所斷使爲因。亦以見苦所斷使爲因。自有修道所斷法。以修道所斷使爲因。亦以見集所斷使爲因。無三種因。諸修道所斷。唯以修道所斷使爲因。聖人起現在前。諸修道所斷。以見苦所斷使爲因。亦以見集所斷使爲因。聖人不起現在前。所以者何。因已斷故。尊者奢摩達多。作如是說。則爲通前所說。彼作如是說。如聖人離欲界欲。諸修道所斷。以修道所斷使爲因者。修道所斷。以見苦所斷使爲因者。諸修道所斷。以見集所斷使爲因者。盡合集爲束。如剋契法九品斷。後於離欲退。諸修道所斷。修道所斷使爲因者。成就亦得。

諸修道所斷。見道所斷使爲因者。成就而不得。所以者何。因已斷故。諸修道所斷使。未來世成就亦得。當起現在前。過去者。成就而不得。評曰。不應作是說。所以者何。同一對治斷使。於彼對治道退時。云何成就亦得。云何成就不得。如是波伽羅那識身經所說便不通。如前說者好。見道所斷法。爲一切染污法作因。問曰。如愛。果斷地斷種斷他界緣使。何以不使他界他地。但使他種耶。答曰。此一切遍使。於自界自地五種中。有依果故能使。他界他地無依果故不使。問曰。一切遍使報。一切不遍使報。展轉爲因。不。答曰。或有說者。一切遍使報。與一切遍使報爲因。非一切遍使報。與一切遍使報作因。所以者何。如一切遍與一切遍作因。彼一切遍報。亦與一切遍報作因。如他種不遍使不能與遍使作因。如是不一切遍報。不能與一切遍報作因。評曰。如是說者好。一切遍報。與一切遍報作因。不一切遍報。與一切遍報作因。所以者何。一切遍使。一切不遍使。異一切遍使報。一切不遍使報。不異一切遍因。定在過去現在果是依果。云何報因。乃至廣說問曰。何以作此論。答曰。爲止他義。故其事云何。或有說者。離思更無報因。離受更無報果。如譬喻者說。思是報因。受是報果。爲止如是意。令離思有報因。離受有報果。復有說者。報熟因則失壞。彼作是說爲因。乃至報未熟。報熟因則失壞。如爲種乃至牙未生。牙生則種失壞。爲止如是意。明報熟因不失。

○一見一○ ○二見二○ ○起一○ ○見一諸○ ○生十(生)○ ○使二故○ ○唯二惟○ ○唯二惟○ ○果二界○ ○牙二芽○*

壞故。復有說者。為止諸外道意故。外道言善惡諸業。無有果報。為止是意。明善惡諸業有果報故。復有說者。為止摩訶僧祇部意故。摩訶僧祇部作如是說。唯心心數法能生報。非餘法。為止是意。明五陰是報因是報果。為止他義現於己義亦顯法相相應義故。而作此論

云何報因。答曰。諸心心數法受報色。心心數法心不相應行乃至廣說。色者是色陰。心者是識陰。心數法是三陰。心不相應行是彼生老住無常。此五陰是報果。心迴轉色。亦攝在心心數法中。復次身口業受報色。乃至廣說。問曰。如心迴轉。身口業前已說。今復言身口業者。是何。答曰。或有說者。是作無作。所以者何。同受一果故。不應作是說言。同受一果。復有說者。此說作即此剎那生無作。所以者何。同一時受報故。此亦不定。或有前受或有後受。評曰。應作是說。是作無作。復次心不相應行受報色。乃至廣說。問曰。彼法生老住無常。已攝在彼法中。今說心不相應行。是何心不相應行。答曰。是無想定滅盡定諸得報。問曰。無想定為受何報。答曰。或有說者。受無想定及色命根受身處。此言受身處者是舊言業生種類。是第四禪有心報。其餘陰是共報。復有說者。無想定唯受無想報。命根受身處。是第四禪有心報。餘陰是共報。復有說者。無想定受無想報。命根是第四禪有心報。餘陰是共報。復有說者。無想定受無想報。餘陰是共報。問曰。若然者。如所說云何通。一法是業。報非業。答

曰。一切命根盡是報。報以業差別故作是說。一法是業。報非業。復有說者。此是世俗言說法。如見短壽人言是人作短壽業。如見長壽人言作長壽業。命根亦從非業生報。復有說者。無心時亦受第四禪有心報。有心時亦受無心報。問曰。云何無心時亦受第四禪有心報。有心時亦受無心報耶。答曰。若爾有何過。如受色報時。亦受非色報。如受非色報時。亦受色報。尊者奢摩達多說曰。無想定報。得無想得受身處有心報。得色得命根。餘心不相應行。心心數法非是報。評曰。不應作是說。如是說者好。無想定不能造受身處。受身處有二性。二是不相應行。此中言不造者不造具五陰性者也。所以者何。非是業故。業能造受身處。及能得報命根。無想定報得無想諸餘陰是彼報果。諸餘者。陰五情根餘。悉是。問曰。滅盡定為受何報。答曰。滅盡定不造受身處。若業造受身處。受彼報時。亦受彼四陰報。問曰。諸得為受何報。答曰。得亦不造受身處。若造受身處。受彼報時。亦受彼報色。心心數法心不相應行。色者四入。四入者色香味觸。心心數法者苦受樂受不苦不樂受。及相應法。心不相應行者得生老住無常。尊者僧伽婆修作是說。得能造受身處。其事云何。積集諸得。能造受身處。受身癡不猛利卑小如是報。當知皆從得生得。能造受身處。能得報色。心心數法心不相應行。色者九入除聲入。心心數法者。苦受樂受不苦不樂受及相應法。心不相應行者。命根受身處得生老住無常。評曰。如是說者好。得不能造受身處。所以者何。若得

同一果。可言積集業造受身處。諸得不同一果。積集百千億得。亦不能造受身處。積集何所益。尊者佛陀羅。又說曰。得不能造受身處。受受身處報時。亦受彼報。如眼處所。色香味觸等。展轉受報如是。乃至身處所。色香味觸等。展轉受報。生老住無常。無有別報。諸法生老住無常。還與彼法。俱共受報。問曰。已得報當得報者。為是報因不耶。答曰。是報因。問曰。此文何以不說。答曰。以現在顯過去未來故。若說現在當知亦說過去未來。復有說者。所以者說。是地獄乃至天因。何事故施設。答曰。以現在事故施設。如說報現在前。是名地獄眾生。以是事故但說現在。如波伽羅那說。云何有報法。答曰。不善法有漏善法。問曰。彼經所說與此文說報因。有何差別。答曰。彼經所說了義。此文所說是不了義。此有餘意彼無餘意。此說有餘彼說無餘。此有岸有影有相續。彼無岸無影無相續。復次此說生。彼說生不生。此說現在彼說三世。此文彼說是謂差別。

問曰。有作無作。同一報不。答曰。不也有作報異。無作報異。問曰。身口有作同一報不。答曰。不也。即身有作。報亦不同。彼身有作。有爾所微塵有爾所報。即彼生老住無常。俱同一報。所以者何。同一意所起。同一果故。有作有七種。不殺生乃至不綺語。當知如向所解。如欲界中善不善心心數法四陰。作報因得一果。善不善色二陰。作報因得一果。得生老住無常一陰。作報因得一果。初禪地有心迴

◎心十(心)◎◎[此言...類]十三字一◎◎第二等◎◎報十(業)◎◎陰二除◎◎又二又◎◎[者]一◎◎岸二片◎

轉五。陰。作報因得一果。善心無迴轉四陰。作報因得一果。善身口有作二陰。作報因得一果。得生老住無常一陰。作報因得一果。二禪三禪四禪有心迴轉五陰。作報因得一果。無迴轉善心四陰。作報因得一果。得生老住無常。及無想定一陰。作報因得一果。無色界善心四陰。作報因得一果。得生老住無常。及滅盡定一陰。作報因得一果。

有業得一入報。謂法入中命根。有業得二入報。謂意又法入。觸入法入亦如是。若得報眼入。得四入。眼入身入觸入法入。如眼入耳鼻舌入亦如是。若得身入。得三入。身入觸入法入。如身入色香味入亦如是。諸作是說。一切四大。能生色聲。一切欲界色香味。終不相離。若業報得眼入爾時得七入。眼身色香味觸法。如眼耳鼻舌入亦如是。若得身入。得六入。身色香味觸法。若得色入。得五入。色香味觸法。如色入香味觸入亦如是。有業報得八入。九入十入十一入。問曰。何故業或報得多入。或報得少入。答曰。有業得種種果。有業不得種種果。得種種果者得入多。不得種種果者得入少。如小種子法。有得果多者。有得果少者。得多果者。如甘蔗蒲。葡萄藕花子等。得少果者。如種娑羅樹子。後生極高。唯有一葉。其形如蓋。如修芝草等。生雖極高。唯有一葉。彼亦如是。問曰。何故一世業得三世報。無三世業得一世報耶。答曰。無有多業生於少果。如是有剎那業得多剎那報。無有多剎那業得一剎那報。

問曰。爲先作受身處造業。先作滿業。答曰。或有說者。先作造業。然後作滿業。若不造者。彼何所滿。猶如畫師。先摸後以衆采滿之。彼亦如是。復有說者。先作滿業。後作造業。如菩薩於三阿僧祇劫。修集滿業。於最後身乃作受身處造業。評曰。應作是說不定。或有先作造業。後作滿業。或有先作滿業。後作造業。有三種業。謂現報業。生報業。後報業。云何現報業。若業於此生作。亦令增益彼業。次生中得報。非餘生。是名生報業。云何後報業。若業於此生作。亦令增益彼業。後生中得報。是名後報業。也云何報義。答曰。不相似義是報義。報有二種。有相似報。有不相似報。相似報者。如善法有善依。不善法有不善依。無記法有無記依。不相似報者。如善不善法得無記報。問曰。若不相似義是報義者。如地獄作不善業。受無記報。亦不相似。何故言無報耶。答曰。彼亦是報。但是下賤。以下賤故。名爲無報。如下賤村名爲無村。復次彼亦有報。以極苦切故。名曰無報。猶如無巧便陶師。以多薪燒物。燒過爛壞。言物不熟。彼亦如是。復次無善果。故言無報。彼中無有善報。問曰。餓鬼畜生趣中。亦有善報。何故言無報。答曰。以少故言無報。復次彼雖有善。但減無增。猶如倉穀有出無入。名曰倉空。復有說者。彼雖有報所趣。非處故言無報。問曰。何故不謂善有漏法。生報。無漏無記法不生報耶。答曰。如外種子。其性不破堅實。糞土調

適。既灌以時。亦以自力亦衆具力。然後生*牙。如不破堅實種子在良田中。如外種子不破堅實。不以糞土調適。既灌不時。無衆具力。不能生*牙。如種子在於倉中。如外種子。若不破亦不堅實。羸劣腐壞。雖復糞土調適。既灌以時。以性羸劣。不能生*牙。如腐種子在良田中。如外緣起法有三種。內緣起法。亦有三種。如初種子。如是不*善有漏法。其性不破堅實。以愛水既灌。諸餘煩惱糞土調適。亦以自力亦衆具力。生於有*牙。如外種子在良田中。如第二種子。如是不漏善法。其性不破堅實。無愛水既灌。亦無煩惱糞土調適。無衆具力。故不生有*牙。如種子在於倉中。如第三種子。如是不記法。亦不破不堅實。其性羸劣敗壞。雖以愛水既灌。煩惱糞土調適。自性羸劣。故不生有*牙。如腐種子在良田中。問曰。復以何故。無漏法不生報耶。答曰。行苦集性。則能生報。無漏是苦集對治道。則不生報。如是行諸有世俗生死老病道。則不生報。復次如無諸有世俗生死老病道。則不生報。復次如無漏法有報者。無漏道則與世俗相續。若與世俗道相續。無有是事。復次無漏道。無報器故。若無漏法有報者。何處受耶。若在欲界受。非欲界繫法。若在色界受。非色界繫法。若在無色界受。非無色界繫法。除三界繫法。更無報器。復次若無漏法能生報者。則勝法爲下作因。因是善無漏果。是無記有漏。復次無漏法是對治。若當生報。復須對治。彼對治復對治。如是便爲無窮。若無窮者。則無解脫出要。

① (陰作·因)十七字(得...得)十七字 ② 卷第十四終 ③ 卷第十五雜度智品之十首 ④ 卷第十五雜度智品第二之十首 ⑤ 造號釋號課號同異如卷首 ⑥ 小二外 ⑦ 菊二洗 ⑧ 娑二娑 ⑨ 唯二惟 ⑩ 摸二摹 ⑪ 作二於 ⑫ (也)一 ⑬ 善十(善) ⑭ (須)十對

欲令無如是過故。說無漏法無報。何故無記法無報。答曰。有記法能生報。若當無記法能生報者。如是報法。復能生報。若報復生報。便為無窮。乃至廣說。欲令無如是過故。說無記法無報。

有種種法。以報名說。或有是依。或有增益。或有豐賤飢饉之相。或有梵天當來。或有即報。如是等。以報名說。或有是依以報名說者。如說。誰是受報。當言愛是我說。愛是受報。或有增益以報名說者。如說。樂受是飲食醫藥等報。或有豐賤飢饉之相。以報名說者。如說。日月在如是道行。有如是相。當有豐賤飢饉等報。或有梵天當來以報名說者。如說。今此光明照耀。為是梵天當來。有餘事。我等更不餘行。當待此光。為何報。或有即報以報名說者。如今此文報。得色心心數法。乃至廣說。問曰。為以一業造一受身處。為以一業造多受身處。若以一業造一受身處者。施設經說云何通。如說。如此衆生。本為人時。曾作大王。若作大臣。非法取財。以供己身及與妻子。僮僕兵人。以是惡行報故。生阿毘地獄。彼處命終。彼行果報。不得生四天下。生大海中。作水性衆生。其形長大。所食亦多。常噉衆生。所噉衆生。復噉其餘衆生。如是轉轉相噉。有餘衆生。著其身者。如拘執毛。啖食其身。常受苦痛。受苦痛故。以身揩摩。願梨山上。殺諸衆生。流血染水。經百由旬。阿尼盧頭經。復云何通。如說諸長老。我以一食報故。七生三十三天。七生波羅。捺國。摩訶迦葉因緣。復云何通。

如說我以一器。梘子飯施報故。千反生壽單越。一兩鹽喻經。復云何通。如說爾許地獄行報。於現身受。現身行報。於地獄受。若一業造多受身處者。涅昆陀經。復云何通。如說。以此業報。生地獄中。以餘業報。乃至生諸天中。施設經復云何通。如說。以業種種差別。種種勢力。種種行緣。便施設諸趣。以趣種種差別。種種勢力。種種行緣。施設諸生。以生種種差別。種種勢力。種種行緣。施設諸人。復云何有三業差別。現報業。生報業。後報業。施設經說復云何通。如說。修行廣布。增上殺生之罪。身壞命終。墮阿毘地獄中。中者下者。乃至廣說。評曰。應作是說。一業造一受身處。若然後所說善通。前所說云何通。如施設經說者。答曰。此說別業。不說一業。餘報本造業時。造五道業。彼以造二趣業故。生二趣中。謂地獄趣業。畜生趣業。地獄業者。生地獄中。畜生業者。畜生中。阿尼盧頭經云何通者。答曰。若取食報。食則無報。所以者何。是無記法故。以因食故。作如是說。因食故。生多善思。以思多故。受生亦多。或有天中取果。或有人中取果。天中取果者。生於天中。人中取果者。生於人中。復有說者。言一食施報者。取初種子。以一食施故。生大富家。饒財多寶。或有說。彼有憶前世念。或有說。有前因力。復以百千食施。此處命終。復生轉勝大富之家。饒財多寶。復行布施。以是事故。作如是說。猶如農夫。春時下一斗種。後所獲實。不敢食用。

而復種之。如是勤種不息。後獲百千斛子實。其人於大眾中。作師子吼。唱。如是言。我種一斗子實。今得百千斛。彼人不能以一斗子實。得百千斛。實以種子轉轉相生。故獲如是實。如人於一兩金。倍息得百千兩。彼亦如是。復有說者。彼以一食施。造上中下業。下者生人中。中者生天中。上者出家得解脫。摩訶迦葉因緣。亦當如是通。一兩鹽喻經云何通者。答曰。或有說者。彼中說二人作二業。受二報。有二人俱同殺生。作地獄業。一人不修身。不修戒。不修心。不修慧。生地獄中。一人修身。修戒。修心。修慧。得生人中。復有說者。此說一人作二業。受二報。作一業報。生地獄中。作異業報。得生人中。若不修身等。生地獄中。若修身等。得生人中。復有說者。此說一人作一業。受二種報。如一人殺生。應受地獄報。彼業報。應生人中。若不修身等。生地獄中。應生人中。報住不生法中。若修身等。得生人中。應生地獄報。住不生法中。彼不應作是說。若作是說。則破趣破業。一業亦是地獄業。亦是人業。亦是惡趣。亦是善趣。應作是說。此說一人作一業。受一報。如一人殺生。造地獄業。報後時。於佛法出家。便勤方便求道。得阿羅漢果。以修道力故。取地獄業。人身中受。以是事故。尊者和須蜜。作如是說。地獄業。能於人身中受不。答曰。能人身中。有修道力故。如煮飯人。以水漬手。取飯之時。則不燒手。不漬則燒。彼亦如是。問曰。鹽喻經文說爾許。云何名爾許。答曰。爾許者。若少若等。若相似業。故言爾許。

●一●二●三●四●五●六●七●八●九●十●十一●十二●十三●十四●十五●十六●十七●十八●十九●二十●二十一●二十二●二十三●二十四●二十五●二十六●二十七●二十八●二十九●三十●三十一●三十二●三十三●三十四●三十五●三十六●三十七●三十八●三十九●四十●四十一●四十二●四十三●四十四●四十五●四十六●四十七●四十八●四十九●五十●五十一●五十二●五十三●五十四●五十五●五十六●五十七●五十八●五十九●六十●六十一●六十二●六十三●六十四●六十五●六十六●六十七●六十八●六十九●七十●七十一●七十二●七十三●七十四●七十五●七十六●七十七●七十八●七十九●八十●八十一●八十二●八十三●八十四●八十五●八十六●八十七●八十八●八十九●九十●九十一●九十二●九十三●九十四●九十五●九十六●九十七●九十八●九十九●一百

復有說者。一業能造多受身處。問曰。若然者。前所說善通。後所說云何通。答曰。或有業別異轉行。或有業不別異不轉行。若業別異轉行。則通前所說。諸不別異不轉行者。通後所說。如是者。前後所說。俱得善通。評曰。應作是說。一業造一受身處。若如是者。現報等三業。則有別異。作增上不善業。生地獄中。受增上不善報。作中業。生畜生中。受中報。下業生餓鬼中。受下報。復有說者。作增上業。生地獄中。受增上報。中報畜生。餓鬼如前說。復有說者。作增上業。生地獄中。受三種報。中業生畜生中。受中報。復有說者。增上業。生地獄中。受三種報。中業生畜生中。受三種報。下業生餓鬼中。受三種報。評曰。應作是說。或有上中下業。生地獄中。各受三種報。畜生餓鬼亦如是。或有作三種業。生畜生餓鬼中。各受三種報。作欲界增上善業。生他化自在天中。受增上善報。中業生五天中。受中報。下業生人中。受下報。問曰。若下業生人中。受下報者。菩薩。是業人中。受報。此業最上。何以言生人業是下。答曰。菩薩業勝者。自有異緣。所以者何。此身是力無畏所依故。若以受報輕妙。則他化自在天業勝。所以者何。彼報身輕妙無垢。猶如燈焰。菩薩報身故。有糞穢不淨。復有說者。增上善業。生他化自在天。受三種報。五天中人。如前說。如是下中上善業。從他化自在天。轉增乃至人中。亦如前。

不善業廣分別。評曰。應作是說。或有上中下業。生他化自在天中。各受三種報。五天人中。亦如是。或有作三種業。生五天及人中。各受三種報。初禪地作不別異三種業。生初禪地。受不別異三種報。作第二禪下業。生少光天中。受下報。中業生無量光天。受中報。上業生光音天。受上報。作第三禪下業。生少淨天中。受下報。中業生無量淨天。受中報。上業生遍淨天。受上報。作第四禪下業。生無量礙天。受下報。中業生受福天。受中報。增中業生廣果天。受上報。修下。薰禪。生不煩天中。受下報。修中。薰禪。生不熱天中。受中報。修上。薰禪。生善。見天中。受上報。修勝上。薰禪。上善。見天中。受勝上報。修勝上。滿足。薰禪。生色究竟天中。受勝上。滿足報。作不別異業。生空處。受不別異報。乃至作不別異業。生非想非非想處。受不別異報。不善業。造地獄受身處。生地獄中。受不善報。心心數法。心不相應行。色者九入除聲入。心心數法者。苦受及相應法。心不相應行者。命根受身處。得生老住無常。不善業。造畜生餓鬼受身處。生畜生餓鬼中。受善不善報。色心心數法。心不相應行。色者不善色。有九入除聲入。心心數法者。苦受及相應法。心不相應行者。命根受身處。得生等。善色有四入。色香味觸。心心數法者。樂受不苦不樂受及相應法。心不相應行者。得生等。復有說者。善業。生畜生餓鬼中。善報色。若生報生。心心數法。心不相應行。問曰。今現見畜生餓鬼。形色好

妙。或有形色醜陋。答曰。或不善業。不善業。為眷屬。善業為眷屬。諸不善業為眷屬者。形色醜陋。善業為眷屬者。彼善業力。障蔽不善業。使形色好妙。善業造。人六欲天受身處。生彼處。受善不善報。色心心數法。心不相應行。色者。善報色。有九入除聲入。心心數法者。樂受不苦不樂受及相應法。心不相應行者。命根受身處。得生等。不善報色。有四入。色香味觸。心心數法者。苦受及相應法。心不相應行者。得生等。復有說者。不善業。不生人六欲天。不善報色。若生報生。心心數法。心不相應行。問曰。今現見人天。或有形色醜陋。形色好妙。答曰。或有善業。善業為眷屬。不善業為眷屬。善業為眷屬者。形色好。不善業為眷屬者。彼不善業。障蔽善業。使形色醜陋。善業造。色無色界受身處。生彼中。受善報。問曰。生人中有二形者。為是善業報。為是不善業報。答曰。一形是善業報。若非時非處。第二形生者。是不善報。復有說者。諸根體。是善業報。根處所。是不善業報。問曰。何故欲界不善業。受一劫報。善業無受。一劫報者。答曰。不善業自有勝事。所以者何。五道中受報故。善業自有勝事。所以者何。於三界中受報故。自有俱勝事。所以者何。俱受五陰報故。問曰。若然者。何以欲界不善業。受一劫報。善業不耶。答曰。欲界是不定界。非離欲地。非修地。是故不善業。受一劫報。善業不受。復有說者。欲界不善根強盛。善根劣弱。復次。欲界不善根恒增長。善根恒不增長。復次。

①是業一業是② ③薰一動④* ⑤見一現⑥ ⑦好十(妙)⑧ ⑨劫一切⑩

欲界不善根是舊住。善根是客。舊住勢勝。客則不如。復次欲界不善根能斷善根。欲界善根。則不能斷不善根。復次欲界法。不相忌難。猶如夫妻威儀無忌。如居士子與。栴陀羅子交。復次無報器故。欲界中一切處。無器受善業報經一劫者。問曰。如四天下須彌山金山等。此非一劫器耶。答曰。言非報器者。此四天下須彌山金山等。非是善報。復次若欲界善業。能得一劫報者。何由而得。唯有最上善業。然最上善業。離欲時得。以離欲業。不能造受身處。復次先作是說。不善業於五道受報。問曰。因論生論。何故善業不五道受報。答曰。應如先答。欲界善根。此中。唯一不共。答。所謂欲界。是不善田種。不善法易種善法難。如田惡草易長稻等難生。

佛經說業是眼因。阿毘曇說四大是眼因。復有說眼是眼因。此三所說有何差別。答曰。以報因故。佛經說業是眼因。以生因所依因住因增長因潤益因以生因等故。言四大是眼因。以相似因故。言眼是眼因。問曰。如四大是眼因。眼亦是眼因。何故佛經但說業是眼因。答曰。業是衆生自業。以業放生。業是衆生取果財處。衆生屬業。衆生以業故。有差別異。所謂貴賤好惡。復次以業種種差別。種種勢力。種種行。因緣。乃至廣說。復有說者。以業故。壽有增減與衰進退。復有說者。以業故。有愚小聰。復有說者。以業故。諸界諸生諸趣受報差別。復有說者。以業故。七衆有次第別異。復有說者。一切衆生。皆爲業所印。復次以業異

故諸根亦異。如種異故。牙亦異

佛經說若人修行廣布殺生。生地獄中。從彼命終。來生人中。壽命短促。問曰。即以生地獄業。來生人中。得短命耶。答曰。或有說者。即以如說。修行廣布殺生。生地獄中。從彼命終。來生人中。壽命短促。復有說者。以殺生。故業生地獄中。以業方便。生便短命。復有說者。以殺生業生地獄中。生便短命。是彼依果。復有說者。殺衆生時。使他受二種苦。一者使他受苦痛。二者斷他所愛命。以苦痛他故。生地獄中。斷他所愛命。故生便短命。問曰。若人短命爲是善業報。爲是不善業報。尊者。和須蜜說曰。是善業報。非不善業報。所以者何。以人命等八根是善業報。以善業造人中二十年壽報。以殺生故。使壽損減。應壽二十年。唯壽十年。十年則斷

佛經說人壽十歲時。當生壽二十歲男女。問曰。無有成就他業者。亦無他作他受者。何以故。作如是說。答曰。即彼壽十歲人。轉壽二十歲。如是行十善業道。則壽命十倍。尊者。瞿沙說曰。諸業各有定報。十歲業有十歲報。乃至八萬歲業有八萬歲報。隨修何等因。受如是報。問曰。人壽十歲時不殺生。爲是善。業道所攝不。答曰。非是業道所攝。是不作道。非是業道。所以者何。彼作是制。不應殺生。爲不作道。不爲業道。施設經說。頗不受現法報。受生報後報耶。答曰。有若現報業。不現前與報。生報業。後報業。現前與報。爾時受生。報得阿羅漢者。非不得生報。後報亦如是說。問曰。如學凡

夫人。亦有是事。何以但言阿羅漢。答曰。阿羅漢。漢能知業。是遠是近。是可轉是不可轉。復有說者。阿羅漢。更不受有彼諸業。起現在前。如人欲至他國。債主來責。彼亦如是。學人。凡夫人。更受身故。當受此報。是故不說。復有說者。若有自力。能了知此業報。是故說之。諸作是說。一業歷諸趣。有餘報者。彼作是說。阿羅漢。於前餘生。作業受報。此報有餘。以修道力故。捨人身上。現法業報。受生報後報。所以受者。能以如是緣。發起是報。唯阿羅漢。能學人。凡夫人。不能施設經說。有四種人。有壽盡財不盡死者。有財盡壽不盡死者。有壽盡財盡死者。有壽不盡財不盡死者。初句者。如有一人。作短壽業。廣令增長。廣作財業。亦令增長。彼壽盡財不盡而死。第二句者。如有一人。作少財業。廣令增長。復作壽業。亦令增長。彼財盡壽不盡而死。第三句者。如有一人。作少財業。作短壽業。俱令增長。彼財盡壽盡而死。第四句者。如有一人。廣作財業。廣作壽業。俱令增長。彼財不盡壽不盡。以餘惡緣故。死。彼尊者。目捷連。作如是說。明有橫死是報因定。在三世。報是其果。

阿毘曇毘婆沙論卷第十一

○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○[則]一○
次頁 ○不分卷及品○

阿毘曇毘婆論卷第十二

迦旃延子造 五百羅漢譯

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

雜難度智品之八

云何所作因。乃至廣說問曰。何以作此論。答曰。爲止諸法生時無所作者意。亦明法生時因所作而作此論。

云何所作因。眼緣色生眼識。彼識以眼作所作因。亦以色。亦以相應共有法。亦以耳聲。乃至意識相應共有法。作所作因。如眼識乃至意識亦如是。應說如是等。不應說色法無色法等。所以者何。此六二法。攝一切法。以善說善解。應作是說。而不說者有何意。答曰。初是廣說。後是略說。初是別說。後是總說。初是分別。後不分別。初說是次第。後非次第。問曰。何以不作是說。云何所作因。答曰。一切法有自體過故。若說一切法是所作因。自體亦在一切中。欲令無如是過故。不作是說。眼緣色生眼識。問曰。除自體餘一切法亦是緣。能生眼識。何以但言眼緣色生眼識耶。答曰。取眼識所依。取眼識所緣故。復次以眼色與眼識作近威勢緣故。作如是說。眼色與眼識作近威勢緣。勝眼識俱生等。是故作是說。除其自體。問曰。何故自體不作所作因。答曰。非其田器。乃至廣說。復有說者。一切法除其自體。於他法作緣。自體於自體。無損無益。無

增無減。無進無退。復有說者。無有差別過。所以者何。因即是果。作即作事。成即成事。乃至生即生事。復次自體不能與自體作依。復次自體不於自體作尊勝。復次與世現見法相違。世現見。眼不自見。指端不能自觸。刀不能自割。多力之人。不能自負。彼亦如是。復有說者。不障礙義。是所作因義。自體障礙。自體障礙有二種。一者假名。二者真實。假名障礙者。如人在床座上。真實障礙者。如自體障礙。自體復有說者。若自體作所作因者。復違佛經。如經說無明緣行乃至廣說。若自體作所作因者。則無明緣。無明不緣行。乃至生緣。生不緣老死。如經說眼緣色生眼識。不應眼緣色生眼識。應緣眼識生眼識。欲令無如是過故。自體不作所作因。

所作因即是威勢緣。云何威勢緣。如說。此法與彼法作威勢緣。或時此法不與彼法作威勢緣耶。答曰。無也。問曰。法生時除自體餘一切法。是威勢緣和合。則生無有。不和合時。何以不數數生。尊者和須蜜說曰。法生時有一和合。無二無多。法滅時亦一和合。無二無多。復有說者。法生已餘生法多。彼法無力能更生。如人墮河欲起復墮一河彼亦如是。尊者佛陀提婆說曰。一和合能生一事。無有一事能生二果。問曰。威勢緣體性是何。答曰。一切法。問曰。云何是威勢緣義。答曰。多勝義。是威勢緣義。問曰。如波伽羅那說。云何境界緣。云何威勢緣。答曰。一切法。此有何多勝。答曰。若以境界。若以前物言之。則無多勝。若以利

那。則有多勝。若緣一切法無我。此法何所不緣。答曰。不緣自體。自體不緣相應共有。誰不作威勢。唯自體。威勢緣。即是所作因。云何是所作因義。答曰。如先說。不障礙義。是所作因義。問曰。若不障礙義。是所作因義者。如人陰界入障礙人趣。餘趣不能障礙。如眼識障礙所依處。餘識不生處所。有房舍樹木。則餘房舍樹木不生。若如是者。云何不障礙義。是所作因義。答曰。以如所說故。不障礙義。是所作因義。如義言。人中陰界入。語餘趣陰界入言。我障礙人趣。不障礙餘趣。使汝餘趣得生。如是眼識語餘識言。我障礙眼處所。不障礙餘處所。使汝得生。二房舍樹木。語餘房舍樹木言。我障礙此處所。不障礙餘處所。使汝得成。以是事故。不障礙義。是所作因義。五陰生時。一切法。與威勢緣。若有一法不隨順者。則不生。問曰。如色法生時。一切法與威勢緣。無色法生時。一切法亦與威勢緣不。若無色法生時。一切法與威勢緣。色法生時。一切法亦與威勢緣不。答曰。不也。若與色法威勢緣時。與無色法威勢緣亦爾者。一切法皆是色耶。若與無色法威勢緣時。與色法作威勢緣亦爾者。一切法皆是無色耶。阿毘曇者作如是說。法生時有因故生。滅時有因故滅。有緣故生。有緣故滅。有事故生。有事故滅。譬喻者作如是說。法生時有因故生。法滅時無因故滅。有緣故生。無緣故滅。有事故生。無事故滅。我不說滅法有因緣應說。喻如射箭空中。去時用力。墮時不用力。誰作其

◎前頁 ◎ ①不分卷及品◎ ◎止二生◎ ◎無有二有無◎ ◎遠一追◎ ◎唯一惟◎ * ◎如二時◎

因。如陶家輪轉時用力。住時不用力。誰作其因。評曰。不應作是說。如前說者好。問曰。若然者。譬喻者說。喻云何通。答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。不可以世間現喻難賢聖法。世俗法異。賢聖法異。若欲通者。當云何通。答曰。彼箭墮亦有因。以何為因。箭去時若楯等種種除物障礙使墮。即是其因。設無障礙者。用力射時。即是其因。若無射者。何由而墮。如是陶家輪轉。若以手等餘物持令不行。即是其因。設無手持者。先用力轉時。即是其因。若無轉者。何由而住。問曰。若法生亦有因。滅亦有因。乃至廣說。何以生時不滅。滅時不生。尊者和須蜜說曰。生時和合異。滅時和合異。復有說者。法生時作緣異。法滅時作緣異。云何生時異。生時作緣則隨順。滅時作緣則不隨順。猶如外國皆夏安居時。多持衣鉢。從一寺至一寺。爾時諸賊善取其相。此諸比丘。出在曠野有人之處。諸賊親近禮拜而隨順之。前至嶮難無人之處。劫其衣鉢而不隨順。彼亦如是。

一法與多法。作所作因。多法亦與一法作所作因。問曰。一法與多法作因時。為如一法與多法與耶。為如多法與耶。多法與一法作因時。為如多法與耶。為如一法與耶。若如一法與多法作因者。云何非一因果。若如多法與一法作因者。云何一法不作多果。多法與一法作威勢緣時。云何作。為如多法與耶。為如一法與耶。若如多法與一法作威勢緣者。云何不多因果。若如一法與者。云何多法作一法耶。

評曰。應作是說。一法如多法與威勢緣。多法如一法與威勢緣。問曰。若然者。云何多不作一。一不作多。答曰。如我義。一亦作多多。亦作一。以所作因義。不以法體有異。過去法與未來現在法。作近所作因。義言過去法語。未來現在法言。若我不與汝等作所作因者。則汝無因。一切有為法。無有無因者。現在法與過去未來法。作近所作因。義言現在法語。過去未來法言。若我不與汝等作所作因者。則汝過去法無果。未來法無因。一切有為法。無有無果無因者。過去法是未來現在法所作因。未來現在法。是過去法果。未來法是過去現在法所作因。過去現在法。非未來果。所以者何。果法若俱在後。過去現在。於未來法。不俱不在後。現在法與過去未來法。作所作因。未來法作所作因。未來法與現在法作果。過去法非果。所以者何。果法若俱在後。過去法於現在法。不俱不在後。色法與色法。作所作因。作威勢果。色法與無色法。作所作因。及威勢果。無色法與無色法。作所作因。及威勢果。如是可見與不可見。可見與不可見。不可見與不可見。不可見與可見。作所作因。及威勢果。有對無對。有漏無漏亦如是。有為法與有為法。作所作因。及威勢果。有為法與無為法。作威勢果。不作所作因。無為法與無為法。不作所作因。不作威勢果。無為法與有為法。作所作因。不作威勢果。問曰。何以故有為法有因有緣。無為法無因無緣。答曰。有為法性羸劣。須因緣。無為法性猛健。不須因緣。

如人羸劣依他而住。如人猛健不依他住。彼亦如是。復次有為法有所作故。須因緣。無為法無所作故。不須因緣。如掘者須鑿。如刈者須鎌。彼亦如是。復次有為法隨世行。能取果。能知緣。故須因緣。無為法不隨世行。廣說如上。如人遠行須糧。不遠行者不須糧。彼亦如是。復次有為法如王及眷屬。如因陀羅及眷屬。故須因緣。無為法如王。不如王眷屬。如因陀羅。不如因陀羅眷屬。故不須因緣。問曰。有為法不生。為是有為留難故不生。為是無為留難故不生耶。答曰。有為留難故不生。非無為法。無為法威勢緣不與他。不生法作留難。若生隨順作緣。如潢池邊。剋木作師子口。摩竭魚口。水在中流出。水不流時。非此口中。為作留難。自有餘緣。令水不流。水若流時。為作所依。彼亦如是。問曰。無為法與有為法二種緣。謂境界緣。威勢緣。無為法與他作近威勢緣時。為與有緣者。為與無緣者。答曰。或有說者。與有緣者不與無緣者。評曰。不應作是說。應作是說。與他作威勢緣。等無有異。如小豆聚境界緣。或與或不與。有緣法則與。無緣法則不與。

善法與善法。作近所作因。善法與不善法。作近所作因。不善法與不善法。作近所作因。不善法與善法。作近所作因。善法與善法。作近所作因者。以善業故。生大富長者。商主家。其家諸人好樂行善。以親近故。亦好行善。是名善與善作近所作因。善與不善作近所作因者。以善業故。生王若大臣家。其家諸人

卷第十五終 卷第十六雜度智品第十首 卷第十六雜度智品第二之十一首 卷第十六雜度智品第十一首 造號釋號譯號同異如卷第十一 鉢一益 不二人 可十 覆一 如 刈 卷第十五終 卷第十六雜度智品第十首 卷第十六雜度智品第二之十一首 卷第十六雜度智品第十一首 造號釋號譯號同異如卷第十一 鉢一益 不二人 可十 覆一 如 刈

集故乃名和合。彼亦如是。復有說者。相似是因。不相似是緣。相似者如麥似麥。如火似火。問曰。麥與麥。牙。有何相似。答曰。總而言之。麥是牙。因。問曰。若然者四大因等。總而言之。亦是牙。因。復有說者。近者是因。遠者是緣。問曰。若然者因之與緣。無有差別。所以者何。如。心次第生善心是因。不名為緣耶。復有說者。不共者是因。共者是緣。問曰。若然者麥亦是牙。亦是爛壞。彼復是緣耶。如眼是眼識生處。不共餘識。彼眼復是眼識因耶。復有說者。生是因。隨生是緣。問曰。若然者生不是緣。隨生不是因耶。復有說者。自體長養是因。他體長養是緣。問曰。若然者現在善心緣於善法。唯名為因。不名為緣耶。尊者佛陀提婆說曰。作是因。所作是緣。復有說者。相似是因。不相似是緣。復有說者。近者是因。遠者是緣。如近遠彼此亦如是。此所作因。定是一切法果。是威勢果。問曰。若有相應因。亦有共生因耶。答曰。若有相應因。亦有共生因。頗有共生因。無相應因耶。答曰。有不相應法。共生因。若有相應因。亦有相似因耶。若有相似因。亦有相應因耶。乃至廣作四句。有相應因。無相似因者。未來世相應因。有相似因。無相應因者。不相應法相似因。有相應因。亦有相似因者。相應法相似因。無相應因。亦無相似因者。除上爾所事。若有相應因。亦有一切遍因耶。若有一切遍因。亦有相應因耶。乃至廣作四句。有相應因。無一切遍因者。未來世相應因。過去現在非一切遍相應因。一切遍因非相應

因者。不相應法一切遍因。相應因一切遍因者。相應法一切遍因。非相應因。非一切遍因者。除上爾所事。若有相應因。亦有報因耶。若有報因。亦有相應因耶。乃至廣作四句。有相應因。無報因者。無記無漏相應因。有報因。無相應因者。不相應法報因。有相應因。亦有報因者。相應報因。非相應因。非報因者。除上爾所事。若有相應因。亦有報因耶。答曰。若相應因。亦有所作因。頗有所作因。無相應因耶。答曰。有諸不相應法所作因。若有共生因。亦有相似因耶。答曰。若有相似因。亦有共生因。頗有共生因。無相似因耶。答曰。有未來世共生因。若有共生因。亦有一切遍因耶。答曰。若有一切遍因。亦有報因耶。答曰。若有報因者。亦有共生因。頗有共生因。非報因耶。答曰。有無記無漏共生因。若有共生因。亦有所作因耶。答曰。若有共生因。亦有所作因。頗有所作因。非共生因耶。答曰。有無為法所作因。若有相似因。亦有一切遍因耶。答曰。若有一切遍因。亦有相似因。頗有相似因。無一切遍因耶。答曰。有非一切遍相似因。有相似因。亦有報因耶。若有報因。亦有相似因。非一切遍相似因。有報因。無相似因者。無記無漏相似因。有報因。無相似因者。未來世報因。有相似因。亦有報因者。過去現在報因。非相似因。非報因者。除上爾所事。若有相似因。亦有所作因耶。答曰。若有相似因。亦有所作因。頗有所作因。非相

似因耶。答曰。有。未來世無為法所作因。若有一切遍因。亦有報因耶。若有報因。亦有一切遍因耶。乃至廣作四句。一切相遍因。非報因者。無記一切遍因。有報因。非一切遍因者。未來世報因。過去現在非一切遍報因。一切遍因報因者。一切遍報因。非一切。報因。非報因者。除上爾所事。若有一切遍因。亦有所作因耶。答曰。若有一切遍因。亦有所作因。頗有所作因。非一切遍因耶。答曰。有。未來世過去現在非一切遍無為法所作因。若有報因。亦有所作因耶。答曰。若有報因。亦有所作因。頗有所作因。非報因耶。答曰。有。無記無漏所作因。問曰。此六因。幾色幾非色。答曰。二是非色。謂相應因。一切遍因。餘是色非色。如色非色。相應不相應。有依無依。有勢用無勢用。有緣無緣。有對無對。可見不可見。當知亦如是。問曰。此六因。幾有漏幾無漏。答曰。二有漏。謂一切遍因報因。餘有漏無漏。問曰。此六因。幾有為幾無為。答曰。五是有為。相應因乃至報因。一是有為無為。謂所作因。問曰。此六因。幾過去幾現在幾未來。答曰。二是在過去現在。謂相似因。一切遍因。三是在三世。謂相應因。共生因。報因。一在三世。亦不在世。謂所作因。問曰。此六因。幾善幾不善幾無記。答曰。一是不善。無記。謂一切遍因。一是不善。謂報因。餘是善不善無記。問曰。此六因。幾欲界繫乃至不繫。答曰。三是在三界繫。謂一切遍因報因。餘是在三界繫不繫。問曰。此六因。幾學幾無學。幾非學非無學。答曰。二是在非學非無學。謂一

◎牙二芽◎◎*(善)十心◎◎不十(是)◎◎(者)一◎◎報二編◎◎三二二◎◎

使俱無。所說是集要毘婆沙。若心有使。三界有五種。使有使心。三界亦有五種。

若心有使。使有使心。彼使使此心耶。答曰。或使或不使。云何使。答曰。諸使未斷。彼使使此有使心。云何不使。答曰。諸使斷。彼使不使。此有使心。所以者何。諸使未斷。故使。斷。故不使。

問曰。何故緣使未斷。名有使心。斷則不有。相應使斷與不斷。恒名有使心耶。答曰。先作是說。以二事故。心名有使。一是使性。二是伴性。諸緣使與心。是名使性。不名伴性。若彼得斷。彼使性義亦斷。相應使有一事使性伴性。彼若得斷。使性則斷。伴性不斷。不能除心伴性。如去文闍草皮。尊者須蜜說曰。相應使心。染污緣使心。不染污相應使無別異。緣使不爾。相應使覆蔽心。緣使不爾。相應使同一。所依。同一行。同一緣。緣使不爾。相應使與心同一生。一住一滅。緣使不爾。亦同一果。一依一報。緣使不爾。相應使與心俱生。緣使不爾。無有能除心相應使。如去文闍草皮。

設使使心。即使使。彼有使心耶。答曰。或是彼非異。或是彼是異。是彼非異者。或有說者。具縛凡。夫染污心。評曰。不應作是說。所以者何。具縛者可爾。不具亦可爾。染污心可爾。不染污心亦可爾。應作是說。若心不斷。是說為使所使。心名有使。若不為使所使。是說心名無使。是彼是異者。苦智已生。集智未生。若心見苦所斷。見集所斷。是彼者見集所斷。使所使。是異者。見苦所斷。不使。問曰。以何等

故。他種說是彼自種說是異。答曰。是故先作是說。設使使心。即使使有心。彼見集所斷。使緣使故。說是彼見苦所斷。不使。故說是異。復有說者。是異者置異處。故。云何置異處。斷。故設置異處。復有說者。本得自在。隨意所作。今者已斷。是故說異。復有說者。今已斷。故。更無所為。猶如死人。是故說異。復有說者。聖道力使彼異。故說異。問曰。修道中亦有是。彼是異。何故不說。答曰。或有說者。應說而不說者。當知此義是有餘說。復有說者。若他種是彼自種。是異。此中說之。修道所斷自種。是彼自種。是異。是故不說。問曰。云何相應使。

罽賓沙門作如是說。諸使隨所行。如愛於境界。愛樂可適。廣說餘使。隨所行亦爾。相應使者。如同罪同繫。西方沙門作如是說。繫縛義。是緣使。親近義。是相應使。尊者婆已說曰。以四事故。使名所使。一墮惡意。二如火熱。三如煙塵垢。四是呵責。墮惡意者。如一人作惡。令多人亦作。以一煩惱故。令多心心數法盡墮惡意。如火熱者。如火燒鐵丸。所著器中。其器皆熱。如是煩惱從何心品。生令彼皆熱。如煙塵垢者。如煙塵垢所著之處。令彼皆汚。如是諸煩惱。隨彼生處。令彼心垢汚。呵責者。如一比丘作惡。令僧受呵責。如是諸使。隨彼生處。令彼心受呵責。云何相應使。答曰。如緣使所使。相應使亦爾。問曰。相應使無緣。云何說如緣使。答曰。相應使雖無緣。有如上四過。問曰。過去未來。使不能使不耶。答曰。能使。若不使。無染心。現在前。應是無使。人復有說

者。出生諸得。如火出煙。過去未來。諸結出生。諸得亦復如是。復有說者。若不使。則違佛經。如經說。佛告摩勒子。比丘童子。不知欲事。況起欲心。然為欲愛所使。復有說者。以五事故。過去未來。使所使。一不斷其因。二得不斷。三不轉其器。四不知緣。五不得對治。

若心有使。使有使心。彼使此心。當斷耶。此說緣使當斷。諸使於緣可制伏。相應使不可制伏。如去文闍草皮。若心有使。乃至廣說。云何斷諸使。於緣不斷。不應作是說。諸使於緣不斷。所以者何。先已問。故。應作是說。諸使不斷。當斷。云何不。諸使已斷。及相應使。諸使云何斷。答曰。諸使緣斷。先已現義。言緣使當斷者。是今欲說文。諸使於緣生過患。是故制伏於緣。如人好樂博奕。喜入酒舍。淫舍。而可制伏。如是諸使。於緣生過患。亦可制伏。如是汝語。諸使緣斷耶。此是定他之言。若不定他言。說他過患。反生自過。彼作是說。答曰。如是若作是說。諸使見滅。見道所斷。無漏緣。此使云何斷。若言此相應使斷。先定言。諸使緣斷。非相應使。若。如所說。諸使緣斷者。諸使於緣不生過患。應作是說。諸使見滅。見道有漏緣使。此使當斷。此使若斷。彼使亦斷。如樹有根莖葉等。滋茂。若斷其根莖等。更不滋茂。彼亦如是。問曰。若然者。先定言。諸使緣斷。今則明後緣使斷。復有說者。如是使緣斷耶。答曰。諸使若見所緣則斷。若作是說。諸使見滅。見道有漏緣使。此使云何斷。若見苦集斷。此使非見苦集時斷。若見滅道斷。此使則不緣滅道。應作是

◎所二時◎ ◎夫二未◎ ◎使二能◎ ◎如十(此)◎

說。諸見滅道無漏緣使若斷。彼使亦斷。所以者何。有漏緣使。依無漏緣使。而得增長。若彼無漏緣使斷。此亦斷。如人依材得立。若去其材。是人必墮。彼亦如是。問曰。若然者。先定言諸使見緣斷。今則明緣使斷。答曰。若爾。有何過。諸使見緣則斷。何況所緣斷而彼不斷耶。如果依樹。動樹則墮。何況斷根而不墮耶。彼亦如是。復有說者。如是使緣斷耶。答曰。諸使有緣道所斷。評曰。不應作是說。所以者何。世尊說。此八聖道。能斷去來今苦。永無生分。滅盡離欲。得寂滅涅槃。有緣道。無緣道。俱能斷使。尊者奢摩達多說曰。以四事故。諸使斷。一以緣斷。二以後緣故。三以展轉相緣故。四得對治故。以緣斷者。見滅道所斷有。漏緣使。以後緣斷者。自界使斷。他界緣使亦斷。展轉緣斷者。餘有漏緣使。得對治斷者。隨所得對治。即以斷彼使。復有說者。以四事故。諸使斷。一知緣故斷。二斷緣。三斷後緣。四得對治斷。亦應廣說也。

設使心當斷。彼心有此使耶。答曰。或是彼非異。或是彼是異。云何是彼非異。答曰。若心無染。修道所斷。是彼緣使非異。相應使使所使。所以者何。以體無使故。是彼是異者。染汚心。是彼者緣使所使。是異者。共住不相離。問曰。以何等故。相應使說是異。答曰。是故先作是說。設使心當斷。彼心有此使耶。諸緣使說是當斷。彼心說有使。莫謂諸當斷者。是心有使。諸不斷者。如相應使非心有使。欲現決定義故。亦說心有使。復有說者。彼相應使。雖不與

心可斷。而於緣可斷。伏復有說者。欲生論本。故作是說。是彼者緣使。是異者相應使。頗使斷慧不見所緣。慧見所緣使不斷。乃至廣作四句。使斷慧不見所緣者。見諦道中。見欲界苦集時。斷他界緣使。見滅道時。斷見滅道所斷有漏緣使。修道中。以滅道法智離欲時。斷修道所斷使。慧見所緣使不斷者。見色無色界苦集時。欲界他界緣使。見苦時。見集所斷自界緣使。見滅道所斷有漏緣使。修道所斷使見集時。當知亦如是。修道中以苦智集智等智離欲時。見道所斷有漏緣使。以滅智道智離欲時。無漏緣使。使斷慧見所緣者。見苦見集時。自界緣使。見滅道時。無漏緣使。修道中。以苦智集智等智離欲時。斷修道所斷使。

使不斷。慧不見所緣者。除上爾所事。頗一剎那頃。使斷慧不見所緣。慧見所緣使不斷。乃至廣作四句。使斷慧不見所斷者。一品欲乃至離多分欲。道法忍現在前時。彼斷欲界見道所斷有漏緣使。慧見所緣使不斷者。先所斷道諦所斷無漏緣使。使斷慧亦見所緣者。斷見道所斷無漏緣使。使不斷。慧不見所緣者。先所斷見道有漏緣使。道比忍亦應作如是四句。見滅時亦作如是。二四句。頗使滅身作證。慧不見滅。身不作證。慧見滅。乃至廣作四句。初句者。見苦時。斷見苦所斷使。見集時。斷見集所斷使。見道時。斷見道所斷使。修道中。以苦智集智道智等智離欲。斷修道所斷結。第二句者。見滅時。見苦見集見道所斷使。第三句者。見滅時。斷見滅所斷使。修道中。以

滅智離欲第四句者。除上爾所事。頗一剎那頃。使滅身作證。慧不見滅。慧見滅身不作證。乃至廣作四句。以滅法智。得斯陀含果時。使滅身作證。慧不見滅者。色無色界見道所斷使。慧見滅身不作證者。欲界餘不斷使。身作證。慧見滅者。欲界先所斷使。及今所斷使。非身作證。非慧見滅者。色無色界修道所斷使。云何緣斷因識。乃至廣說。此中所說識者。所緣斷因亦斷。諸作是說。自種不與自種。作遍因者。此說緣斷因識。因都斷。其事云何。苦智已生。集智未生。若心集諦所斷。苦諦所斷。苦諦所斷緣。此說因都斷所緣。都斷緣斷因識。是時集諦所斷心緣。集諦所斷緣。滅道修道所斷。此心因都斷所緣不斷。是時集諦所斷心緣。苦集滅道修道所斷。此心因都斷所緣。有斷不斷。諸作是說。自種與自種。作遍因者。是說他種因斷緣斷因識。其事云何。苦智已生。集智未生。若心集諦所斷。苦諦所斷。是名緣斷因識。所以者何。苦諦所斷是彼因。是彼所緣。彼已俱斷故。名緣斷因識。若以苦諦所斷言之。是緣斷因識。若以集諦所斷言之。因有斷不斷緣斷。是時集諦所斷心緣。集滅道修道所斷。因有斷不斷所緣不斷。是時集諦所斷心緣。緣苦所斷。乃至修道所斷。因有斷不斷。所緣亦有斷不斷。如此現義。今當說。文緣斷因識幾使。答曰。十九一心耶。答曰。不也。未離欲界欲。苦智已生。集智未生。若心集諦所斷。苦諦所斷緣。此心為欲界集諦所斷。七使所使。已離欲界欲。未離色界欲。乃至彼

●(斷)一●(集)一●(也)一●伏復二復次●(界)一●(斷)一●是二此●自二因●文二問●

識為幾使所使答曰。色界集諦所斷六使。問

曰未離欲界亦可爾。何以說離欲界耶。問

答曰是中說現前行時。不說成就色界使現

在前時。要離欲界欲。非不離欲。是故說現前

行時。不說成就離色界欲未離無色界欲。評

曰。不應說未離無色界欲。所以者何。若集智

未生。當知未離無色界欲。應作是說離色界

欲。若智已生集智未生。乃至廣說。彼識幾使

所使。答曰。無色界。集諦所斷六使。問曰修

道中亦有緣斷因識。其事云何。答曰如上上

使斷餘八種心。是緣斷因識。所以者何。彼上

上斷使。亦是因亦是所緣。乃至八種斷餘一

種未斷八種於一種。亦是因亦是所緣。何故

不說耶。答曰應說而不說者。當知此義是有

餘說復有說者。他種為因他種為緣。是他種

識。是中說之。彼三種盡在修道中。彼雖有九

種而盡在修道中。是故不說

問曰以何等故。諸因次第說使。答曰以是阿

毘曇藏故。應以十四事了知阿毘曇。何等十

四。六因四緣攝相應成就不成就。若了知此

十四事。名了知阿毘曇。復有說者。應以七事

了知阿毘曇。一善知因。二善知緣。三善知總

相。四善知別相。五善知攝不攝。六善知相應

不相應。七善知成就不成就。若於七法善知

者。當知於阿毘曇亦善。於七法善者名阿毘

曇人。非謂但誦持其文

阿毘曇毘婆沙論卷。第十二

阿毘曇毘婆沙論卷。第十三

*迦旃延子造 *五百羅漢釋

北涼*天竺沙門浮陀跋摩

共道泰*等 譯

雜。捷度人品第三。上

一人此生十二支緣。幾在過去幾在未來幾

在現在。如是章及解章義。此中應廣說優波

提舍。問曰何故作此論。答曰為止他義故。如

毘婆闍婆提說緣起是無為法。問曰彼以何

義故說緣起是無為法。答曰彼依佛經。佛經

說若佛出世若不出世。法住法界。如來成等

正覺。為他顯現乃至廣說。彼以是義故說緣

起法。是無為。為止如是說者意故。緣起法墮

在世中。若墮在世。當知緣起法定是有為非

是無為。所以者何。無有無為法墮在世中。問

曰若緣起是有為法。彼經云何通。若佛出世

若不出世。法住法界。乃至廣說。答曰應知彼

經意趣。問曰彼經意趣云何。答曰彼經說因

果決定義故。若佛出世若不出世。無明常是

行因。行常是無明果。如是乃至至生是老死因。

老死是生果。如此義是彼經意趣。若如汝所

解。彼經意趣。若佛出世若不出世。地常堅相

乃至風常動相。四大可是無為法耶。若佛出

世若不出世。色常色相。乃至識常識相。如是

諸陰。復是無為法耶。若佛出世若不出世。訶

梨勒果迦中伽盧醯尼藥。常是苦味。復是無

為法耶。如汝所說。若佛出世若不出世。四大

諸陰。訶梨勒果迦中伽盧醯尼藥等。常是有

為。如是緣起法。若佛出世若不出世。雖住法

界亦應是有為。非是無為。是故為止他義欲

顯已義。亦欲現法相相應義故。而作此論

一人此生乃至廣說。彼尊者於此中。欲明五

種義故。一者何以唯說一人。二者為說何等

人。三者何以說此生。四者為說何等生。五者

說何現在。唯說一人者。欲去經文煩闕過故。

若說一切眾生經文則煩。欲令無煩過故唯說

一人。如說一人當知一切眾生亦爾。為說何

等人者。若人經歷十二支緣。猶如登石亦如

上梯。若過去無明行起現在前。能生現在識

名色六入觸受。若現在愛取有起現在前。能

生未來生老死者。說如此人。若過去無明行

起現在前。能生現在識名色六入觸受。若現

在愛取有不起現在前。不能生未來生老死

者。此中不說如此人。若過去無明行。乃至能

生未來生老死者。此中說之。如智。捷度中所

說學人成就八種道迹。彼中為說何等學人。

答曰若經歷諸禪三昧。猶如登石亦如上梯

者。先入有覺有觀定。次入無覺無觀定。次入

無色定。出無色定入滅盡定。出滅盡定起世

俗心。現在前者彼中說如此人若入有覺有觀

定從彼定起。乃至入滅盡定。從滅盡定起。無

漏心現在前者。彼中不說。若入有覺有觀定。

從彼定起。乃至入滅盡定。從滅定起。有漏心

現在前彼中說之。亦如經說。見此姊妹形容

端正。彼於後時羸瘦老劣。復於後時見病著

床席。復於後時見其已死。經一日二日乃至

①集一欲②第十二第十六③第十三第十七④捷一健⑤〔上〕一⑥⑦⑧上二之一⑨支二枝⑩下同⑪唯二惟⑫下同⑬捷一健⑭

七日。復於後時見其^①色青。乃至骨節散壞。彼中所說女人。要經上爾所時事。若不經上爾所時事。彼中不說。此中說一人者。要經歷十二因緣。廣說如上。何以說此生者。若說現在生。當知說過去未來亦爾。爲說何等生者。通此一身以生名說。說何現在者。說此一生現在。不說剎那現在。不說時現在。

一人此生十二支緣。幾在過去。答曰。二謂無明行則止無前世所更事。二在未來謂生老死則止無未來世生事。八是現在識。乃至有則說因果相續。二是過去則止常見。二是未來則止斷見。八是現在則顯中道。問曰。過去亦有十二支緣。未來亦有十二支緣。現在亦有十二支緣。何故說二在過去。二在未來。八在現在。耶。答曰。現在法。以因推果。以果推因。現在以因推果者。現在愛取有。是未來生老死。因。生老死是其果。以果推因者。現在識名色六入觸受果。此因是過去無明行。以現在因推果。以現在果推因。故而是說。此中說衆生數緣起法。如波伽羅那經所說。云何緣起法。答曰。一切有爲法。問曰。此說彼說有何差別。答曰。此說衆生數。彼說衆生數非衆生數。此說有根法。彼說有根無根法。此說有心法。彼說有心無心法。此說內法。彼說內外法。此文不了義。彼文了義。乃至廣說。緣起法有四種。一者剎那。二者相續。三者時。四者次第。此說剎那。彼說相續。此說時。彼說次第。問曰。此中何以唯說衆生數緣起法耶。答曰。彼尊者依佛經作論。佛經中說衆生數緣起

法。佛經是此論根本。是故彼尊者依佛經作論。問曰。如是因論生論。以何等故世尊經中。唯說衆生數緣起法。不說非衆生數。答曰。隨順有義是支義。此支隨順有故。是故唯說衆生數。不說非衆生數。如此經說衆生數緣起法。當知餘經說有支。亦說衆生數緣起法。問曰。緣起法緣生法有何差別。答曰。或有說者。無有差別。所以者何。如波伽羅那經所說。云何緣起法。一切有爲法。云何緣生法。一切有爲法。此義可爾。然亦應更求差別相。因是緣起。果是緣生。如因果。事所事。相所相。成所成。續所續。生所生。取所取。當知亦如是。復有說者。過去是緣起。未來是緣生。復有說者。過去是緣起。未來是緣生。復有說者。無明是緣起。行是緣生。乃至生是緣起。老死是緣生。復有說者。無明是緣起。老死是緣生。餘十支是緣起緣生。復有說者。二在過去是緣起。二在未來是緣生。餘支是緣起緣生。尊者富那奢說曰。此中應作四句。或有緣起非緣生。或有緣生非緣起。乃至廣作四句。緣起非緣生者。未來法是也。緣生非緣起者。過去現在阿羅漢最後死陰是也。緣起緣生者。除過去現在阿羅漢最後死陰。諸餘過去現在法是也。非緣起非緣生者。無爲法是也。如法身經所說。諸無明決定生行不相離常相隨。是名緣起緣生。若無明不決定生行。或時相離不相隨。是名緣生非緣起。乃至生老死亦應如是說。尊者須蜜說曰。因是緣起。從因生法是緣生。復次和合是緣起。從和合生是緣生。

復次起所起。生所生亦如是。緣起緣生是謂差別。問曰。此緣起法體性是何。答曰。體是五陰。五陰是緣起體。是性是我。是物是相。已說體性。所以今當說。以何等故名緣起法。答曰。或有說者。體性可起待緣而起故名緣起。復有說者。等從緣生故名緣起。問曰。諸法或從四緣生。或從三緣生。二緣生。云何等從緣生是緣起義耶。答曰。卽以是事故。等從緣生是緣起義。若法應從四緣生者。三緣二緣則不能生。從三緣生者。二緣四緣則不能生。從二緣生者。三緣四緣則不能生。以是事故等從緣生。是緣起義。復有說者。法生時除其自體。餘一切法與威勢緣。以是事故等從緣生。是緣起義。復有說者。等生是緣起義。如說一切衆生心等生等住等滅。復有說者。一切衆生等同此緣。故名緣起法。問曰。如此衆生。或有前般涅槃者。或有後般涅槃者。云何等同此緣耶。答曰。前般涅槃者。於緣起法前少後多。後般涅槃者。於緣起法前多後少。以是事故等從。同緣生是緣起義。此中說時緣起法。有十二時十二支十二五陰。尊者奢摩達說曰。於一剎那頃。有十二支緣。若以貪心殺生。彼相應愚是無明。彼相應思是行。彼相應心是識。起有作業必有名色。起有作業必有六入。彼相應觸是觸。彼相應受是受。貪卽是愛。彼相應纏是取。彼身口作業是有。如此諸法生是生。此諸法變是老。此諸法壞是死。此所說可爾。但此中

①色青一青色 ②八二以 ③〔在〕一 ④同二因

說時緣起。有十二時十二支十二五陰。不說一刹那頃也。如識身經說。於前物愚故生愛。愚即是無明愛即是行。分別前物是識。與識俱生四陰是名色。與名色相隨諸根是六入。六入和合是觸。觸所更是受。受所樂是愛。愛增廣是取。能得未來業是有。增長諸陰是生。諸陰變是老。陰散壞是死。內熱是憂。發聲哀泣是悲。身心憔悴是苦惱。如是等事是大苦陰種種厄難。問曰前說此說有何差別。答曰前說是一心。此說是多心。前說是一刹那後是多相續。

如施設經所說。云何無明。過去諸結是也。評曰不應作是說。若然者諸法則離自相。應作是說。云何無明過去諸結時。云何行過去諸行時。云何識相續心及眷屬。云何名色。已受生相續。未生四種色根。六入未具。一歌羅羅。二阿浮陀。三卑戶。四伽那。五波羅奢呵。如是等名曰名色。云何六入。已生四種色根。具足六入。此諸根未能為觸作所依。是時名六入云何為觸。此諸根已能為觸作所依。未別苦樂。不能避危害。搔火觸毒把刃及諸不淨。是時名觸。云何為受。能分別苦樂。避諸危害。不搔火觸毒不把刃。離諸不淨。能生貪愛不起淫欲於一切物不生染著。是時名受。云何為愛。具上三愛。是時名愛。云何為取。以貪境界故四方追求。是時名取。云何為有。追求之時起身口意業。是時名有。云何為生。如現在識在於未來。是時名生。云何老死。如現在名色六入觸受在於未來。是時名老死。復

有說者。無明有二種。有破體無明。有不破體無明。緣行有二種。有思有思所造。行緣識有二種。有與悔俱有不與悔俱。識緣名色有二種。有愛處有不愛處。名色緣六入有二種。有報有長養。六入緣觸有二種。有對觸增語觸。觸緣受有二種。有身受有心受。受緣愛有二種。有淫欲愛有資生愛。愛緣取有二種。有從見生有從愛生。取緣有有二種。有從內生有從外生。有緣生有二種。有一刹那有通一身。生緣老有二種。有眼所見有與慧所見。老緣死有二種。有刹那死有一身死。

如說無明。因行。問曰以何等故。但說無明緣行。不說無明因行耶。答曰或有說者。亦說無明因行。如摩訶尼陀那經所說。佛告阿難。以如是因如是緣如是事。生為老死因。如生為老死因。乃至無明為行作因亦如是。復有說者。若說無明因行。但說因緣。不說餘緣。若說無明緣行。則具說四緣。復有說者。若說無明因行。唯說染污行。若說無明緣行。則說染污不染污行。問曰以何等故唯說無明緣行。不說行緣無明。答曰或有說者。若說行緣無明。則唯說緣不說因。復次此中說時緣起法。前生者。是無明後生者是行。問曰如無明是十二支緣。何以但說無明緣行。答曰或有說者。應說而不說者。當知此說有餘。乃至廣說。復有說者。緣有二種。有近有遠。若說無明緣行則說近緣。若於餘支則說遠緣。是中說近不說遠。如近遠。此生他生當知亦如是。復次無明與行作緣隨順不同餘支。是故說與行

作緣不與餘支。如說行緣識。亦說名色緣識。復說緣二生識。此三有何差別。答曰或有說者。行緣識說業差別。名色緣識說識住差別。緣二生識。說所依及境界差別。復有說者。行緣識如初取時。名色緣識如守護時。緣二生識如長養時。復有說者。行緣識說初相續。名色緣識說已成立。緣二生識說成立已能緣境界。復有說者。行緣識說行名色。名色緣識說報名色。緣二生識說所依及緣境界。復有說者。行緣識說惡趣識。名色緣識說人及六欲天識。緣二生識說色無色界色識。尊者波奢說曰。行緣識是中陰識。名色緣識是生陰識。緣二生識是根本有識。復有說者。行緣識。名色緣識說染污識。緣二生識說染污不染污識。如染污不染污。隱沒不隱沒。有過無過。退不退。當知亦如是。問曰識緣名色名色緣識有何差別。答曰識緣名色說初相續。名色緣識已相續說成立。如是識緣名色說初生。名色緣識說生已守護。復有說者。此展轉相緣。如束葦相依而立。如御者與象展轉相依能有所至。亦如船與船師展轉相依到彼岸。問曰如化生。云何識緣名色。答曰此說胎生不說化生也。評曰應說化生亦爾。如化生者。初得諸根。未猛利時。說是識時。後若猛利說名色。名色緣六入。問曰如名色在六入內。何故言名色緣六入耶。答曰如先說。未得四種色根。六入未具。歌羅羅阿浮陀卑戶伽那波羅奢法時。是名名色時。六入緣觸。問曰此中說六入緣觸。餘處復有說名色緣觸。復說緣

有說者。無明有二種。有破體無明。有不破體無明。緣行有二種。有思有思所造。行緣識有二種。有與悔俱有不與悔俱。識緣名色有二種。有愛處有不愛處。名色緣六入有二種。有報有長養。六入緣觸有二種。有對觸增語觸。觸緣受有二種。有身受有心受。受緣愛有二種。有淫欲愛有資生愛。愛緣取有二種。有從見生有從愛生。取緣有有二種。有從內生有從外生。有緣生有二種。有一刹那有通一身。生緣老有二種。有眼所見有與慧所見。老緣死有二種。有刹那死有一身死。

① 識二說 ② 二一 ③ 唯二惟 ④ 因二緣 ⑤ 與一覺 ⑥ 眼二根 ⑦ 食二食 ⑧ 投二捉 ⑨ 十(名) ⑩ 熾二熾

二生觸。此三有何差別。答曰六入緣觸。說所依差別。名色緣觸。說所依及境界差別。所以者何。一切外法和合。皆依於內緣。二生觸。說現在觸。復有說者。六入緣觸說時觸。名色緣觸。即說觸體。緣二生觸。說三等觸。觸緣受。問曰。觸受是相應共有法。何故說觸緣受不說受緣觸耶。答曰。雖是相應共有法。自有法與彼法。有隨順有不隨順。如觸與受。作緣隨順。受與觸。作緣不隨順。如燈雖與照俱生。燈是照因。照非燈因。彼亦如是。如向所說。此中說時緣起法。觸是前時。受是後時。是故說觸緣受。不說受緣觸。受緣愛。問曰。如樂受緣愛可爾。所以者何。為稱意故。四方追求苦受。云何與愛作緣。尊者須蜜說曰。苦受與愛作緣。勝於樂受不苦不樂受。其事云何。如世尊說。為苦受所逼。貪求樂受。受樂受故。為欲愛使所使。復有說者。三種受。盡能與愛作緣。其事云何。義言曰。樂受作如是說。我能使生有相續。衆生以貪我故。四方追求。苦受作如是說。我亦能使生有相續。為我所逼。以貪樂故。四方追求。不苦不樂受。作如是說。有苦樂受處。我亦能使生有相續。何況第四禪已上無苦樂處。而不能也。復有說者。三受悉能與愛作緣。如識身經所說。不如實知三受。便生於愛。問曰。此三受云何與愛作緣耶。答曰。愛有五種。一求樂愛。二不欲離樂愛。三不生苦愛。四速離苦愛。五愚愛。求樂愛者。未生樂受。欲令生。故生愛。不欲離樂愛者。已至樂受。心不欲離。故生愛。不生苦愛者。苦受未至。

欲令不生。故生愛。速離苦愛者。已生苦受。欲令速滅。故生愛。未生不苦不樂受。欲令生。故生愛。已生欲不失。故生愛。亦能生於愚愛。愛緣取。問曰。受緣愛。取中愛。此二有何差別。答曰。初生愛名愛。愛增廣名取。復有說者。下者名愛。上者名取。復有說者。若愛以受為因。是名受緣愛。以愛為因。是名為取。復有說者。若愛是受果。是名受緣愛。若愛是愛果。是名為取。復有說者。若愛從受生。是名受緣愛。若愛從愛生。是名為取。復有說者。若愛能生煩惱。是名受緣愛。若愛能生業。是名為取。問曰。以何等故。前生緣起無明在初。後生緣起愛在初耶。答曰。或有說者。以此二結是根本使。無明是過去緣起因。愛是未來緣起因。復有說者。無明有六事。一通五種。二通六識。三能起身口業。四是使性。五斷善根時。能作堅強方便。六是一切遍愛。有五事如上所說。唯非一切遍。以無明有六事故。在前生緣起法初。以愛有五事故。在後生緣起法初。復有說者。無明有三事故。說在初。一常為元首。二與一切結相應。三是一切遍愛。於受生法中勝故。說在後緣起法初。復有說者。無明有四事。一緣有漏無漏。二緣有為無為。三是遍非遍。四能緣自界他界。愛唯緣有漏緣有為。是不遍緣自界。以是事故。愛能生未來苦勝故。說在後緣起法初。此中因事故略說。後當廣說。有緣生。問曰。以何等故。三有為相中。生獨說一支。老死共說一支耶。尊者波奢說曰。佛知諸法相。餘無能過。乃至廣說。復有說者。隨

其事相故。法起時生勢用勝。法滅時老死勢用勝。復有說者。法起時生能使此法相續成立。老死能使不相續不成立。問曰。以何等故。病不立有支耶。答曰。或有說者。病無支相故。復有說者。若一切衆生。一切時一切處有者。說支病。非一切衆生。一切時一切處盡有。如尊者婆拘羅所說。我於佛法中出家。年過八十。不曾有小頭痛。何況身病。如此欲界衆生。不盡有身病。況色無色界。老死緣憂悲苦惱。問曰。憂悲苦惱。為是有支非耶。答曰。非也。所以者何。有支既立。憂悲等法。壞散有支。猶如霜雹。是故非支。問曰。如憂悲等法。壞散有支。猶如霜雹。十二有支盡為作緣。何以唯說老死耶。答曰。或有說者。應作是說。無明緣行。乃至憂悲苦惱。而不說者。當知此說有餘。復有說者。以終顯始故。復有說者。老死時生大憂悲苦惱。復有說者。當於爾時。行惡行者。生大恐怖。問曰。無明為有因不。老死為有果不。若有者。云何。不有十三十四支緣耶。若無者。云何。無明非是無因法。老死非是無果法耶。答曰。應作是說。無明有因。老死有果。但在有支中。何者是無明。因謂不正念。思惟何者是老死。果。謂憂悲苦惱。復有說者。無明有因。老死有果。體是有支。非不在有支中。是故有支有非十三十四。無明因是何。謂老死。老死果是何。謂無明。現在愛取是過去無明。現在名色六入觸受。此四若在未來名老死。如說受緣愛。當知說老死緣無明。十二支緣當知猶如輪轉。

◎應知有一種緣起法。如說云何緣起法。謂一切有為法。復有二種緣起法。所謂因果。復有三種緣起法。所謂業煩惱體。行有是業。無明愛取是煩惱。餘支是體。復有四種緣起法。所謂無明行生死。現在八支。應攝在過去未來四支中。現在愛取攝在過去無明中。現在有攝在過去行中。現在識攝在未來生中。現在名色六入觸受攝在未來老死中。復有五種緣起法。所謂愛取有生老死。過去現在七支。應攝在現在未來五支中。過去無明是現在愛取。過去行是現在有。現在識是未來生。現在名色六入觸受是未來老死。復有六種緣起法。過去因果。現在因果。未來因果。復有七種緣起法。所謂無明行識名色六入觸受。諸未來現在五支。應攝在過去現在七支中。現在愛取是過去無明。現在有是過去行。未來生是現在識。未來老死是現在名色六入觸受。復有八種緣起法。所謂識乃至有。過去未來四支。應攝在現在八支中。過去無明是現在愛取。過去行是現在有。未來生是現在識。未來老死是現在名色六入觸受。復有九種緣起法。如摩訶尼陀那經所說。復有十種緣起法。如城喻經所說。復有十一種緣起法。如智種中說。復有十二種緣起法。如餘經處處中說十二有支。

此十二支緣。煩惱為業。作緣。業為苦作緣。苦為苦作緣。苦為煩惱作緣。煩惱為煩惱作緣。煩惱為業作緣。業為苦作緣。苦為苦作緣。如說無明緣行。是名煩惱為業作緣。行緣識是名業為苦作緣。識緣名色乃至觸緣受。是名苦為苦作緣。受緣愛是名苦與煩惱作緣。愛緣取是名煩惱與煩惱作緣。取緣有是名煩惱與業作緣。有緣生是名業與苦作緣。生緣老死是名苦與苦作緣。

此十二支緣。二是相續餘是三分。二是相續者識與生。三分者業煩惱體業者行與有。煩惱者無明愛取。體者謂餘支。如業煩惱體當知三集三道亦如是。

此十二支緣。如樹有根有體有花有果。無明行是其根。識名色六入觸受是其體。愛取有是其花。生老死是其果。此十二支緣。或有花有果或無花無果。有花有果者。謂凡夫人學人。無花無果者。謂阿羅漢。

問曰此十二支緣。幾是剎那幾是相續。答曰。二是剎那。謂識與生。餘是相續。問曰十二支。幾是染污幾是不染污。答曰。五是染污。謂無明識愛取生。餘是染污不染污。評曰此中說時緣起法。應說是染污不染污。如前所說五時。若是心心數法是染污。餘染污不染污。

此十二支緣。幾在欲界幾在色無色界。答曰。或有說者。此中唯說欲界網生衆生。復有說者。欲界有十二支。色界有十一支。除名色時。無色界有十支。除名色六入時。色界應作是說識緣六入。無色界應作是說識緣觸。評曰應作是說。欲界有十二支。色無色界亦有十二支。問曰如色界無名色。無色界無名色六入。云何俱有十二支耶。答曰如初生色界衆生。諸根未猛利。名名色時。無色界雖無色

有名。雖無色根。而有意根。彼應作是說。識緣名。名緣意入。意入緣觸。以是義故一切處悉有十二支緣。相似有支。還令相似有支相續。欲界有支。還令欲界有支相續。色無色界亦如是。唯除。受時能令不相似支相續。其事云何。如生欲界中未離欲。起欲界愛取有現在前。造未來生老死。彼現在有一愛一取一有。未來有一生一老死。離欲界欲。未離初禪欲。起初禪愛取有現在前。造未來生老死。彼現在有二愛二取二有。未來有二生二老死。如是乃至離無所有處欲。未離非非想處欲。起非非想非非想處愛取有現在前。造未來生老死。彼現在有九愛九取九有。未來有九生九老死。彼人從欲界命終。生非非想非非想處。彼本會起非非想非非想地。現在愛取是過去無明有是行。未來生是現在識。未來老死。是現在名意觸受。諸餘地若現在。若未來諸支。彼亦不過去。亦不現在。亦不未來。所以者何。若成就因果。則有過去未來現在。以不成就因果故。則無過去未來現在。彼復從非非想非非想處命終。生無所有處。本會起無所有處。現在愛取有。愛取是過去無明。有是過去行。未來生是現在識。未來老死是現在名意觸受。諸餘地若現在未來諸支。亦不過去未來現在。所以者何。以成就因果故。則有過去未來現在。以不成就因果故。則無過去未來現在。從無所有處命終。乃至生欲界中。本會起欲界愛取有現在前。愛取是過去無明。有是過去行。未

◎卷第十八雜毘婆沙人三之首(一)◎(二)◎(三)◎(四)◎(五)◎(六)◎(七)◎(八)◎(九)◎(十)◎(十一)◎(十二)◎(十三)◎(十四)◎(十五)◎(十六)◎(十七)◎(十八)◎(十九)◎(二十)◎(二十一)◎(二十二)◎(二十三)◎(二十四)◎(二十五)◎(二十六)◎(二十七)◎(二十八)◎(二十九)◎(三十)◎(三十一)◎(三十二)◎(三十三)◎(三十四)◎(三十五)◎(三十六)◎(三十七)◎(三十八)◎(三十九)◎(四十)◎(四十一)◎(四十二)◎(四十三)◎(四十四)◎(四十五)◎(四十六)◎(四十七)◎(四十八)◎(四十九)◎(五十)◎(五十一)◎(五十二)◎(五十三)◎(五十四)◎(五十五)◎(五十六)◎(五十七)◎(五十八)◎(五十九)◎(六十)◎(六十一)◎(六十二)◎(六十三)◎(六十四)◎(六十五)◎(六十六)◎(六十七)◎(六十八)◎(六十九)◎(七十)◎(七十一)◎(七十二)◎(七十三)◎(七十四)◎(七十五)◎(七十六)◎(七十七)◎(七十八)◎(七十九)◎(八十)◎(八十一)◎(八十二)◎(八十三)◎(八十四)◎(八十五)◎(八十六)◎(八十七)◎(八十八)◎(八十九)◎(九十)◎(九十一)◎(九十二)◎(九十三)◎(九十四)◎(九十五)◎(九十六)◎(九十七)◎(九十八)◎(九十九)◎(一百)◎

來生是現在識。未來老死是現在名色六入觸受。諸餘地支若現在未來。非過去未來現在所以者何。若成就因果。則有過去未來現在。若不成就因果。則無過去未來現在。生欲界中。能造業增長。諸有無明現在時。現在有一支即無明也。餘支在未來。無明時造諸行。現在有二支謂無明行。十在未來。從行時至識時。一在現在謂識也。二在過去謂無明行。餘支在未來。乃至從取時至有時。二支在過去謂無明行。二支在未來謂生老死。八在現在識乃至有。尊者富那奢重明此義。若無明行在現在。當知十支在未來。八在次生中。謂識乃至有。二在第三生謂生老死。若生老死現在前。十支在過去。八支在次前生中謂識乃至有。二在前第三生謂無明行。若八現在前。一在過去謂無明行。二在未來謂生老死。佛經中處處說因緣法。或時說因。或時說果。或時說因果。為誰說因。為誰說果。為誰俱說。答曰受化衆生凡有三種。有上中下根。為上根者說因。為中根者說因果。為下根者說果。復有衆生。初學已學久學應隨為說。或有衆生。於因中果中因果中愚。若於因中愚者為說因。果中愚者為說果。因果中愚者為說因果。問曰若為下根衆生說緣起果。菩薩於一切衆生中其根最勝。以何等故觀緣起果。答曰或有說者。彼隨順觀法故。所以者何。菩薩見老病死作是思惟。此老病死何緣而有。皆由有生乃至廣說。復有說者。菩薩見老病死厭世出家。既出家已隨其本心觀生老死。復有

說者。隨順得正決定故。菩薩得正決定時先觀於果。何況未得正決定不先觀也。復有說者。如先所說。為初學者說果。菩薩於最後生名為初學。雖曾無數劫觀因緣法。後若觀時還從本始。如人先雖數數上樹。後若上時還從根上。彼亦如是。復有說者。欲燒增長有樹使無餘故。如人以火先燒樹端至根乃止。彼亦如是。尊者波奢說曰。不以菩薩觀因緣果故名為下根。然有二種人。有隨見行有隨愛行。若隨見行者。依空三昧得正決定觀緣起因。隨愛行者。依無願三昧得正決定觀緣起果。菩薩雖隨愛行能依空三昧得正決定觀緣起果。菩薩厭老病死苦。於諸生死不生欲樂。問曰何故菩薩不觀無明行耶。答曰或有說者。先已廣略觀故。觀愛取時即是觀無明。觀有時即是觀行。以是事故名先已觀乃至廣說。問曰若然者。觀老死時即是觀名色六入觸受。觀生時即是觀識。何以復更觀耶。答曰先是略觀後是廣觀。先不分別後是分別。問曰若然者。識無廣略何以重觀耶。答曰雖無廣略。菩薩畏於生故是以重觀。所以者何。菩薩厭老病死。推求其本。此老病死由何而有。知從相續識生。誰造相續識知從業而得。業從誰起知從煩惱起。煩惱為何所依知依於體。彼復更思惟。誰造此體知從相續識生。菩薩於是念。從相續識造一切過患。以是事故重觀於識不觀於行。以行無廣略義故齊識而止。問曰若然者。無明有廣略義。何以不觀耶。答曰以行無廣略義故是以不觀。不可捨行復

觀無明。何以故觀緣起法應從次第。不應越次。復有說者。菩薩觀有緣生時。即是觀業名色。若觀行緣識亦是觀業名色。如此則是無差別觀。復非是觀報名色。若觀名色緣識。則是觀報名色。復有說者。若觀有緣生時。是名觀遠緣法。若觀行緣識。亦是觀遠緣法。如此則是無差別觀。復非是觀近緣法。若觀名色緣識則是觀近緣法。如近遠。此身他身當知亦如是。復有說者。若觀有緣生則是觀前生緣法。若觀行緣識亦是觀前生緣法。復非是觀共生緣法。若觀名色緣識則觀共生緣法。復有說者。識從二緣生謂遠緣生伴侶生。若觀有緣生是則觀遠緣。若觀行緣識亦是觀遠緣。如此則是無差別觀。復非是觀伴緣法。若觀名色緣識是則觀伴緣法。復有說者。欲離無窮過故。菩薩觀老死時。即觀此身名色六入觸受。觀生時即觀此身相續識。若觀名色六入觸受。即觀第二生中老死。若觀識時即觀第二身生。若觀無明行即是觀第三世。亦可觀第四世。如是轉轉便為無窮。欲離如是過故不觀無明行。問曰以何等故。菩薩於起作分中觀十支。寂滅分中觀十二支耶。答曰菩薩憎惡起作愛樂寂滅。是故於起作分中觀十支。寂滅分中觀於十二支。如說比丘我於是識心便轉還。問曰以何等故。菩薩於識心中便轉還耶。尊者波奢說曰。識住所依。何等是識所依所謂名色。以名色未斷故齊識而還。復有說者。以緣還故名為轉還。如說識緣名色。亦說名色緣識。以識是名色緣故說於緣

①支二枝 ②問二門 ③死二病 ④止二盡 ⑤於二作

轉還復有說者。以此二法展轉相緣故。名於緣轉還。復有說者。如步屈虫乘草而行。先安前足得移後足。若至草端無安足處而便轉還。彼亦如是。復有說者。菩薩厭老病死。求其原本何由而有。知從相續識生。乃至知煩惱依體推體。復依何而有。知從相續識生。作是思惟一切眾患皆從此生。若觀識緣名色。即觀此身相續識。若觀名色緣識。即觀過去身相續識。以是事故尊者富那奢所說。義便爲明了。若生老死二支現在時。十支在過去。八支在次前生中。二支在前第三生中。若觀此生過去相續識過患。未來相續識亦如是。故於誠心便轉還。佛經處處說緣起法。喻如燈如火聚如城。問曰以何等故佛經說緣起法。如燈乃至如城。答曰有人以燈喻緣起法而得明了者。佛說如燈。若以火聚城喻得分明者。佛說如火聚如城。復有說者。或有衆生於愛取中。有少分在者。有中分在者。有上分在者。若少分在者說猶如燈。中分在者說猶如火聚。上分在者說猶如城。

如佛經說無明緣行。乃至廣說。問曰何故作此論。答曰欲令疑者得決定故。所以者何。行與有體俱是業。人謂是一。今欲說其所以及差別相故作此論。

云何無明緣行。答曰爲顯示分明施設解說諸業相故。若於餘生中作業。亦令增長彼業報。今得此身。彼業此生中俱受報。是名無明緣行。問曰作與增長有何差別。答曰或有說者。無有差別。所以者何。作即增長增長即作

故。復有說者。應有差別。所以者何。或有以一惡行故墮於惡道。或有以三惡行故墮於惡道。若作一惡行應墮地獄。方便時止。是名爲作不名增長。若此行成滿。亦名爲作亦名增長。以三惡行應墮地獄。若作一行二行。是名爲作不名增長。若作三行滿足。亦名爲作亦名增長。善行生人天當知亦如是。復有說者。若作一無間業應墮地獄。若方便時止。是名爲作不名增長。若此業成滿。亦名爲作亦名增長。若作五無間業應墮地獄。若作一二三四。是名爲作不名增長。若具作五無間業。是名爲作亦名增長。十惡墮惡道十善生人天說亦如是。復有說者。或以一善業得生人中。或以多善業得生人中。如菩薩以三十二百福故得最後邊身。若作三十一百福時。是名爲作不名增長。若具三十一百福。是名爲作亦名增長。復有說者。業有二種。有決定有不決定。若作不決定業者。是名爲作不名增長。若作決定業者。是名爲作亦名增長。如是必生報。必不生報。現報生報後報不定報。當知亦如是。復有說者。業有二種。有方便業。無方便業。有方便業。有作有增長。無方便業。有作無增長。如是故作不故作。有先思而作。有不思而作。當知亦如是。復有說者。業或有是造非滿。或是滿非造。或是造是滿。若是造是滿。是名爲作亦名增長。餘者名作不名增長。復有說者。若業不善得惡道果。若業不善得人天果。不善得惡道果者。是名爲作亦名增長。不善得人天果者。是名爲作

不名增長。復有說者不善業。或有心壞方便不壞。有方便壞心不壞。有心壞方便壞若心壞方便壞者。是名爲作亦名增長。餘者名作不名增長。復有說者。有善心具足方便不具足。有方便具足善心不具足。有善心具足方便具足。善心具足方便具足者。是名爲作亦名增長。餘者名作不名增長。復有說者。不善業有壞戒不壞見。有壞見不壞戒。有壞戒壞見。壞戒壞見者。是名爲作亦名增長。餘者名作不名增長。如是善業。使戒具足見具足說亦如是。復有說者。有善業以善業爲眷屬。有善業以不善業爲眷屬。善業以善業爲眷屬者。是名爲作亦名增長。善業以不善業爲眷屬者。是名爲作不名增長。若說不善。與上相違。復有說者。作不善業。不捨不。咄。不訶責。不依對治。是名爲作亦名增長。作不善業。捨。咄訶責依對治。是名爲作不名增長。復有說者。有作善業常生憶念。有作善業不生憶念。常生憶念者。是名爲作亦名增長。不生憶念者。是名爲作不名增長。復有說者。若作不善業不悔。是名爲作亦名增長。若作不善業悔。是名爲作不名增長。如是見過不見過。犯惡向他說罪還如法行。犯惡不向他說罪不。如法行。說亦如是。復有說者。若作惡知有報。是名爲作不名增長。若作惡不知有報。是名爲作亦名增長。復有說者。若數數作業不隨喜。是名爲作不名增長。若數數作業隨喜。是名爲作亦名增長。復有說者。若作善行於此身中。數生善心。是名爲作亦名增長。若作善

◎是十(是)◎◎說猶一猶說◎◎止二上◎◎[若]一◎◎使二便◎◎咄一吐◎*

行。不數生善心。是名爲作不名增長。作不善行。說亦如是。復有說者。若作業都竟。如作房舍一切都竟。是名爲作亦名增長。若作業不竟。是名爲作不名增長。復有說者。若作業爲同行人所稱譽者。是名爲作亦名增長。不者名作不名增長。復有說者。若作和合行得和合果。是名爲作亦名增長。若作和合行不得和合果者。是名爲作不名增長。和合如作十善行具足。得人天果。復有說者。若善業決定迴向者。是名爲作亦名增長。若善業不決定迴向者。是名爲作不名增長。不善業決定迴向亦如是。復有說者。善業爲煩惱所覆者。是名爲作不名增長。不善業不爲煩惱所覆者。是名爲作亦名增長。不善業不爲善業所覆。是名爲作亦名增長。爲善業所覆。是名爲作不名增長。作與增長。是名差別。若業報今得此有。是名無明緣行。諸過去如是等業。當知盡攝在行分中。云何取緣有若於此作業。亦令增長。彼業報使未來有相續。諸未來如是等業。當知盡攝在有分中。問曰以何等故。過去業說名爲行。現在業說名爲有耶。答曰以過去業已消已用已作已與果無勢力報已熟。猶如糞掃棄於空地。更不能生報果。以是事故說名爲行。與上相違說名爲有。問曰無明緣行。取緣有。有何差別。答曰已說差別。此是過去。此是現在。此是已與果。此是未與果。此是故業。此是新業。問曰如汝所說可爾。應當說緣差別相。答曰無明緣行。爲顯示業。廣說如上。彼業緣世尊說是一結。謂無明結也。取緣有

者。若於此作業。乃至廣說彼業緣世尊說。是一切結。所謂諸取。問曰何故過去業緣說是無明。現在業緣說是一切結。答曰諸過去世不現見故。云何爲諸趣。答曰所謂趣生方時。所爲方便起處身緣。起者。不知本在何趣。造今有業生者。不知於何生造。今有業方者。不知在何方造。今有業時者。不知於何時造。今有業所爲者。不知爲是殺生爲是打縛乃至爲是無義言造。今有業方便者。不知爲於衆生數爲於非衆生數作方便造。今有業起處者。爲是貪欲瞋恚癡處造。今有業身者。不知爲是男女身造。今有業緣者。不知爲緣過去未來現在爲緣色聲香味觸造。今有業如是。過去世不現見故。說行緣是無明現在世。如上所說趣。乃至緣盡是現見。是故彼業說緣是一切結。復有說者。過去無明緣行。是已作方便。是已與果不猛利。不猛利故說是無明。取緣有。是現在業。不已作方便。未與果性是猛利。以猛利故說是取。復有說者過去業。不知爲從貪生爲從瞋生爲從癡生。自身他身無現見者。然煩惱相應共有法中。盡有無明。是故說是無明。現在業自身他身。俱可現見。亦可知從貪恚癡及餘煩惱生。是故說一切結。問曰諸阿羅漢所有業。爲是無明緣行。爲是取緣有耶。答曰非是無明緣行。亦非取緣有。所以者何。以不從無明生亦不從取生。雖然已與果報已熟。當知盡攝在行分中。若未與果報未熟。當知此業攝在有分中。已離有支不在有支中。

問曰凡夫人生欲界中。爲造幾種業耶。答曰凡夫人生欲界中未離欲。能造四種善不善業。已離欲界欲。未離初禪欲。能造欲界四種善業。造初禪三種業。除現報業。如是乃至離無所有處欲。能造欲界四種善業。能造四禪四無色定三種業。除現報業。凡夫人生初禪中未離欲。能造初禪中四種業。若離初禪欲。未離第二禪欲。能造初禪中三種業。除生報業。能造二禪中三種業。除現報業。離二禪欲。未離三禪欲。能造初禪中三種業。除生報業。能造二禪中二種業。除生報現報業。能造三禪中三種業。除現報業。乃至離無所有處欲。能造初禪中三種業。除生報業。三禪三無色定中。能造二種業。除生報現報業。能造非想非非想處三種業。除現報業。如是凡夫人。乃至生無所有處未離欲。能造無所有處四種業。已離欲能造無所有處三種業。除生報業。能造非想非非想處三種業。除現報業。凡夫人生非想非非想處。能造四種業。聖人生欲界中未離欲。能造四種業。若離欲界欲未離初禪欲。能造欲界二種善業。除生報後報業。能造初禪三種業。除現報業。離初禪欲未離二禪欲。能造欲界二種業。如前說。若是不退法。唯能造初禪一種業。謂不定報業。若是退法。能造三種業。除現報業。能造二禪中三種業。除現報業。能造三禪中三種業。除現報業。能造四禪中三種業。除現報業。能造空處欲。能造欲界二種業。除生報後報業。若是不退法。能造四禪中一種業。謂不定報業。若是退法。能造三種業。除現

諸趣一說。諸。起一趣。卷第十八終。卷第十九雜健度人品之三首。卷第十九雜健度人品之三首。造號釋號譯號同異如卷第十一

報業。能造空處三種業。除現報業。若造生報業。不造後報業。若造後報業。不造生報業。乃至離無所有處欲。未離非非非想處欲。能造欲界二種業如前說。若是不退法。能造四禪三無色一種業如前說。若是退法。能造三種業如前說。能造非非非想處三種業。如空處說。聖人生初禪中。未離初禪欲。能造初禪三種業。除後報業。離初禪欲未離二禪欲。能造初禪二種業。除生報後報業。能造二禪三種業。除現報業。離二禪欲未離三禪欲。三種業。除現報業。離三禪欲未離四禪欲。能造初禪二種業。除生報後報業。能造二禪一種業。謂不定報業。能造三禪三種業。除現報業。乃至離四禪欲。未離空處欲。能造初禪二種業如前說。能造餘三種業。謂不定報業。能造空處二種業。除現報後報業。乃至離無所有處欲未離非非非想處。能造初禪二種業如前說。能造餘三種業。謂不定報業。能造非非非想處二種業。除現報後報業。如說生初禪。當知生餘三禪亦如是。是中差別者。生餘三禪中未離自地欲。能造四種業。聖人生空處未離彼地欲。能造空處二種業。除生報後報業。離空處欲未離識處欲。能造空處二種業如前說。能造識處二種業。除現報後報業。乃至離無所有處欲未離非非非想處欲。能造空處二種業如前說。能造識處無所有處一種業。謂不定報業。能造非非非想處二種業。除現報後報業。如是生無所有處說亦如是。聖人生非非非想處。若離欲若未離欲。能造彼處

二種業。除生報後報業。住欲界中陰中。能造二十二種業。還中陰受不定報。如是歌羅羅阿浮陀卑尸伽那波羅。耆法嬰孩童子。少年中年老時。皆受不定報。住歌羅羅時。能造二十種業。還歌羅羅時。受不定報。乃至老時。皆受不定報。乃至住老時。造二種業。還於老時受二種報。謂不定報。問曰。住中陰中造業。生陰中受報。此報為是生報為是現報耶。答曰。當言現報。不當言生報。所以者何。中陰即是此生身故。

阿毘曇毘婆沙論卷第十三

阿毘曇毘婆沙論卷第十四

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

雜度人品中

顯行緣無明。不緣明耶。乃至廣說。問曰。何故因無明與明而作此論。答曰。或有說者。作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。無明與明相違。明與無明相違。無明與明對治。明與無明對治。復有說者。以俱是無首俱是九種俱是根本。無明是起作法根本。明是寂滅分根本。

顯行緣無明。乃至廣說。處處廣說諸行名。如說無明緣行。阿毘曇人作如是說。此中說時五陰是行。尊者瞿沙作如是說。此中說業是行。如說有害他行。此中說不善業是行。如說

無有害他行。此中說善業是行。如說造有為行。如說一造有為行。此中說思是行。如說五陰心心數法心不相應行無為。此中說心不相應行陰是行。如說有此色受想行識。此中說心相應不相應五陰是行。如說三行。謂身口意。身行者謂出入息。口行者謂覺觀。意行者謂思想。此中說想陰及二陰少分是行。如說三行有福分非福分不動分。此中說善不善業是行。如說行有五過患。此中說不善法是行。亦說是苦觸。復有說者。此中說五取陰是行。如說聰明者。不以行捨行。如說諸行無常。此中說五取陰是行。如說寂滅為樂。此中說寂滅為樂。此中說寂滅是數法無漏行。非以數滅。如說諸行無常。諸法無我。涅槃寂靜。此中說一切有為法是行。此經亦說一切有為法是行。若說相似行。凡有十一種。欲界有四善不善隱沒不隱沒。色界有三善隱沒不隱沒。無色界亦爾及無漏行。無明與明。非欲界善行因。為作三緣。謂次第境界威勢緣。無明與不善行作四因。謂相應共生相似遍因。為作四緣。明非其因為作二緣。謂境界威勢緣。欲界隱沒無記說亦如是。無明非欲界不隱沒無記因。除無明報。為作三緣。謂次第境界威勢緣。明非其因為作一緣。謂威勢緣。無明無明報。作一因謂報因。作四緣。謂因次第境界威勢緣。明非其因為作一緣。謂威勢緣。無明與明。非色界善行因。為作三。因除因緣。無明與色界隱沒無記行作四因。謂相應共生相似遍因。為作四緣。明非其因為作

①(能)十造②③者二者④⑤[定]-⑥⑦⑧不分卷及品⑨⑩因二緣⑪

二緣謂境界威勢緣。明與無明。非色界不隱沒行因。無明爲作三緣除因緣。明爲作一緣。謂威勢緣。無色界亦如是。無明與無漏行。除初明。諸餘無漏行非因。爲作二緣謂境界威勢緣。明與其相似者。作三因謂相應共生相似因。爲作四緣。初明與無明非因。爲作二緣。謂境界威勢緣。無明與初明非因。爲作一緣。威勢緣。如此說是略毘婆沙。

頗行緣無明不緣明耶。答曰無也。所以者何。無有行於無明有緣於明無緣。頗行於明有緣。於無明無緣耶。答曰此亦無也。所以者何。無有行於明有緣於無明無緣。頗行於無明與明有緣耶。答曰有。所以者何。衆生從久來。無有不謗道言非道者。彼於後時。作地利行。亦令增長。乃至廣說地利行者。得田地園林果者是也。王行者得作邊地王。如摩菟羅王等大王行者。得王於一方。如瞿沙王無崙茶王秦天子等是也。轉輸王行者得王四天下。復有說者。王行者得王一方。如瞿沙王無崙茶王秦天子等是也。大王行者得爲轉輸王太子已登王位。七寶未至是也。轉輸王行者。已登王位。七寶自至是也。復有說者。地利行者。謂一切地處。於中尊貴。王行者。得爲轉輸王眷屬小王。大王行者。居轉輸王太子位。轉輸王行者。得王四天下。七寶自至。以是因緣。展轉生故。使諸衆生及種子藥草樹木皆得生長。亦以如法賦稅。以此業力故。使外種子皆得增長。如此義今當廣說。如諸外道見壽命有增有減。心生厭離。復爲怨憎會苦愛別

離苦。在家諸苦之所逼切而使出家。既出家已少欲知足。精勤苦行持嶮難戒。種種苦行欲求解脫。彼依邪道故。轉遠聖道。以轉遠故。不能得道。不得道故。便生誹謗。言無有道。雖有解脫。而無其道。若當有者。我等種種苦行應得此道。以不得故當知無道。於修行法而便退還。作是思惟。於生死中多修福者。猶有嶮難。況不作者。我今當修施福。即作大祀。以諸飲食充足多人。作如是願。使我爲王。乃至轉輸王。如佛弟子見壽命有增有減。心生厭離。復爲怨憎會苦愛別離苦在家諸苦之所逼切而使出家。既出家已。初夜後夜勤修方便。一七。二七日沒。於其中間。結加趺坐。頂安禪鎮行禪龜法杖。常住山頂巖石間修行精進。雖然以二事故不得道。一善根未熟。二行邪方便善根未熟者。始於此身而求解脫。佛法之中。速得解脫者。一身中種解脫分善根。二身中成熟。三身中得解脫。而彼未種解脫分善根而求解脫。是名善根未熟。行邪方便者。受錯謬對治。以是事故不能得道。以不得故便謗於道。雖有解脫而無其道。若當有者我今種種精進苦行。則應當得。以是事故而便退還。復更思惟。於生死中。多作福者猶爲嶮難。何況不作。我今當修福業自作亦教他作。施設長齋般闍于瑟因講經法會等。以種種飲食充足多人。發如是願。使我爲王。至轉輸位。如願皆得。若當無道邪見無由生謗。以有道故。邪見便謗。是故無漏道作近緣。若邪見不謗道。後則不生施俱心。如是染污心

與不染心作緣。若無施俱心。則外種子不增長。如是內法與外法作近緣。此前心具有四緣。前心者。謂邪見俱心。彼相應共有是因緣。疑。是次第緣。道是境界緣。除其自體。餘一切法。是威勢緣。彼後心有一威勢緣。後心者。謂施俱心也。問曰以何等故。前心有四緣。後心有一緣耶。答曰或有說者。此文應如是說。前心有四緣。後心亦應有四緣。應如是說。而不說者。當知此說有餘。復有說者。此中一向說近緣。如識身經所說。不爲心作障礙是威勢緣。諸法爲作境界者是境界緣。前滅心是次第緣。俱生法是因緣。如是皆說近緣。當知此文亦說近緣。前心四緣是近緣。前心四緣於後心。是一威勢緣。非因緣非次第緣非境界緣。所以者何。前心與邪見作因緣。邪見相應心。不行布施。疑心不能與施心開次第緣。道心不行。施。問曰如後生心體。以在四緣中。前心四緣於後心。是威勢緣故。云何不自體還與自體作威勢緣耶。答曰或有說者。此文應如是說。前心四緣。與後心作一威勢緣。除其自體。而不說者。當知此說有餘。乃至廣說。復有說者。我先作是說。此中一向說近緣。後心於前心四緣。是遠緣。是爲捨遠取近。復有說者。先已除自體是餘論。餘日誦餘。捷度中說。除其自體者。猶當信受。何況此論。此。捷度。同日誦前品中說。一切諸法。除其自體。作威勢緣而不信受。以是事故。此中雖不言除其自體亦無過

頗行不緣無明。亦不緣明耶。答曰無也。無有

○緣十(謂)○ ○疑二(疑)○ ○未二(來)○ ○二二七○ ○(布)十(施)○ ○捷二(捷)○ ○同二(問)○

行不緣無明亦不緣明。復次若別為一法說者則有。頗行緣無明不緣明乃至廣說。緣無明不緣明者。謂無明報染汚行無明報者。無明為作報因明非其因。所以者何。明無因義故。無明與染汚行作四因。謂相應共生相似遍因。明非其因無因義故。緣明不緣無明者除初明。諸餘無漏行。明與彼作三因。謂相應共生相似因。無明非其因。無因義故。緣無明緣明者此則無也。所以者何。無有行緣無明亦緣明者遠故。如偈說

虛空大地相去遠 海彼此岸亦復遠
日出沒處斯亦遠 正法邪法遠中遠

不緣無明不緣明者。除無明報。諸餘不隱沒無記行。何者是耶。謂一切善行報。不善身口業。得生住老。無常等報。諸長養色。餘依色威儀工巧通果法。及初明有漏善行。如是等法不緣無明不緣明。何以故。無明與明非其因故。問曰。如苦法忍得無明與明。俱非其因此中何以不說耶。答曰。或有說者。應說而不說者。當知此說有餘。復有說者。以分別初明共有法時彼亦在中故。評曰。不應作是說。如前說者好。問曰。無明是何義。答曰。不知不解不識。是無明義。問曰。除明餘一切法。亦不知不解不識。彼盡是無明耶。答曰。若不知不解不識。是愚癡相者。說是無明餘一切法。雖不知不解不識。無愚癡相故說不是無明。問曰。明是何義。答曰。知解識義是明義。問曰。世俗智亦知解識。何以不說是明耶。答曰。或有說者。若知解識。能於真諦決定者是明。世俗智雖

知解識。不於真諦得決定故。如遠分智雖復猛利。不能於真諦盡得決定。復有說者。若知解識能於真諦決定了知。究盡第一義者是明。世俗智雖知解識。不能於真諦決定了知。究盡第一義故非明。復有說者。若知解識。能斷煩惱。更不生者是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。若知解識。能破壞有是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。若知解識。斷生死有相續法及老死相續法者是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。若知解識。是盡苦集身見。諸取道者是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。若知解識。非身見顛倒體。非貪欲瞋恚愚癡之處。不雜垢濁毒。不墮諸有。不墮苦集諦中者是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。若知解識。知已更非無知。得決定智。更不生愚癡猶豫邪見者是明。世俗智與上相違故非明。復有說者。世俗智在無明明分中所以者何。於明無明。俱有三緣義故。如人親友亦親他怨。是人於他不名親友。不名怨家。彼亦如是。復有說者。不雜無明故是明義。世俗智雜無明故非明。復有說者。世俗智分能生謗道法。是中應說叛臣喻。復有說者。能治義者是明。如人為鬼所著以呪治之。如是凡夫為煩惱鬼所著。以無漏道治彼世俗智。不能究竟治故非明。除心因法及非心法。諸餘法攝二界一入一陰。彼是何耶。謂苦法忍相應心攝一界者。意識界。一入者意入。一陰者識陰。除明因法及諸餘法。非明者攝一界一入一陰。彼是何耶。

謂苦法忍是也。攝一界者法界。一入者法入。一陰行陰。說受等諸數法。亦應如是。問曰。諸明以明為因耶。設為明因是明耶。乃至廣作四句。是明非以明為因者。謂初明也。是明因非明者。明相應共生法也。是明亦以明為因者。除初明。諸餘明也。非明不以明為因者。明也。乃至廣作四句。是明不為明作因者。謂未來明也。為明作因非明者。謂明相應共生法也。是明亦為明作因者。謂過去現在明也。非明不為明作因者。除上爾所事。苦法忍得有十五。一與苦法忍俱。二與苦法智俱。如是乃至與道比忍俱。苦法智得有十四。如是轉。滅。乃至道比忍得有一。問曰。見道更有餘得不耶。答曰。或有說者。無。所以者何。如見道滅。彼得亦隨滅。猶如日沒光亦隨沒。如是日如見道。日光如諸得。若彼道滅。得亦隨滅。評曰。應更有得謂未來世是也。此中唯說生者。不說不生者。苦法忍有一得俱生忍。於得不作因。得於忍亦不作因。與後生無漏道。盡為作因。苦法智俱生得有。三。二。是道得。一。是解脫得。二。是道得者。一。是苦法忍得。二。是苦法智得。解脫得者。謂欲界見苦所斷十使解脫是也。苦法智於得無因義。得於智亦無因義。苦法忍及俱生得。與彼三得作相似因。苦比忍俱生得有。四。三。是道得。一。是解脫得。苦比忍與得無因義。得於苦比忍。亦無因義。苦法忍及俱生得與四得。作相似因。苦法智及俱生得與三得。作相似因。除苦法忍得。以此

①而不說者二者而不說 ②不十(能) ③諸二識 ④之處不雜一是一處離 ⑤隨二隨 ⑥(意界)十意 ⑦陰十(者) ⑧也二耶 ⑨滅二滅

事故而作是說。頗有前生無漏不與後生無漏道而作因耶。答曰有勝不與下作因。若比智俱生得有六四是道得。二是解脫得。若比智與六得無因義。六得亦與若比智。亦無因義。若法忍俱生得與六得作相似因。若法智及俱生得與五得作相似因。除若法忍得。若比智及俱生得與後三得作因。與前三得不作因。問曰。何故不為前三得作因耶。答曰。以下故。勝道不為下作因。問曰。以道下故。不為作因可爾。解脫得勝何故不為作因也。答曰。解脫得雖勝。下道力所得故不為作因。如是乃至道比忍。有二十二得。俱生十五。是道得。七是解脫得。道比忍與二十二得無因義。二十二得與道比忍。亦無因義。若法忍及俱生得與二十二得。作相似因。乃至道法智及俱生得與後三得。作相似因。不與前得作因。若若法忍現在前。未來中所修道。盡為作因。若若法忍。乃至無學道。復有說者。若法忍現在前。未來中所修道不為作因。何以故。乃至無一刹那生。云何名果。評曰。說是因者好。俱是一身所得。復是勝道故。如是乃至道比忍。現在前。未來中所修道。彼道比忍。盡為作因。從道比智乃至無學道。盡為作因。乃至金剛喻定現在前。未來中所修道。盡為作因。及諸無學道。盡為作因。初生盡智。除其自體。與一切無學道作因。信行人道。還與信行人道作因。亦與法行人道作因。法行人道。唯與法行人道作因。復有說者。信行人道。與信行人道作因。不與法行人道作因。無有信行人

作法行人者。評曰如是說。為作因者好。俱是一身。復是勝道故。信解脫道。與信解脫道作因。亦與見到道作因。見到道唯與見到道作因。時解脫道與時解脫道作因。亦與不時解脫道作因。不時解脫道。唯與不時解脫道作因。見到道與見到道作因。亦與修道無學道作因。修道與修道作因。亦與無學道作因。無學道。唯與無學道作因。聲聞道還與聲聞道作因。辟支佛道還與辟支佛道作因。佛道還與佛道作因。此三道。各不更相為因。無漏道。亦依女身。亦依男身。或有說者。依女身道。還與依女身道作因。依男身道。還與依男身道作因。應展轉為因。隨其利鈍根性。如是說者好。或有說一道者。或有說多道者。說一道者。不言見道。即是修道。見道異修道異。見道依九處身得。三天下六欲天。說一道者。閻浮提道。乃至即是他化自在天道。說多道者。閻浮提所依身道異。乃至他化自在天所依身道異。言多道者。復有二種。一者作如是說。若以閻浮提身得見道。此道名。得在身中成就。亦現在前。餘身所依道。是得不。不在身中成就。不現在前。二者作是說。若以閻浮提身得見道。彼道名。得在身中成就。亦現在前。餘身所得見道。不名得。不在身中。不成就。不現在前。修道依欲界身。亦依色界無色界身。言一道者。若依欲界身所得道。色無色界身所得道。即是一身。言多道者。依欲界身所得道異。依色無色界身所得道異。言多道者。復有二種。一者說。依欲界身得道。此道名。得在。身中成就。現在

前。依餘身得道名。不在身中成就。不現在前。二者說。依欲界身得道名。得在。身中成就。現在前。依餘身中成就。現在前。依餘身得道。不得不在身中。不成就。不現在前。評曰。不應作是說。若然者。依欲界身。得果已。生色無色中。彼生已起。聖道現在前。可言重得果耶。如前說者好。聖道亦依女身。亦依男身。言一道者。依女身道。依男身道。即是一身。言多道者。女身道異。依男身道異。言多道者。復有二種。一者言。若女身所得道。此道名。得在。身中成就。現在前。男身中道。此道名。不得在。身中成就。不現在前。二者言。若依女身所得道。此道名。得在。身中成就。現在前。男身中道。此道。不得不在。身中。不成就。不現在前。評曰。不應作是說。所以者何。依女身得果。後得男身起。聖道現在前。可言重得果耶。如前說好。阿耨多羅三藐三菩提。依百歲身而得。乃至亦依八萬歲身而得。言一道者。依百歲身而得。阿耨多羅三藐三菩提。即是依八萬歲身得者。言多道者。百歲時身所得道異。八萬歲身所得道亦異。言多道者。有二種。一者言。依百歲身。得阿耨多羅三藐三菩提。此道名。得在。身中成就。現在前。餘道名。得。不在。身中。不成就。不現在前。二者言。百歲身得阿耨多羅三藐三菩提。此道名。得在。身中。成就。現在前。餘身道。不得。不在。身中。不成就。不現在前。問曰。若然。一切諸佛皆等。此說云何。通耶。答曰。以三事。故言等。一者。本修集善行等。二者。成就法身等。三者。利益世間等。修集善行者。一切諸

①一二三四五六七八九十②道一前③唯二惟④下同⑤唯二惟⑥得在二在得⑦〔身〕一⑧不得二得不⑨

佛。盡於三阿僧祇劫。修諸方便。四波羅蜜成。就法身等者。諸佛盡有十力。四無所畏。大悲。三不共念處。盡住上上根。利益世間等者。欲令無量那由他衆生眷屬。皆得解脫。入於涅槃。以是三事故名等。復有說者。戒亦等。盡住上上戒。根亦等。盡住上上根。故道亦等。盡成就上上道。故。評曰。如前說者好。問曰。頗有一法。於一刹那頃。能起二十四得。現在前耶。答曰。有若依第四禪。得正決定。得六地中苦法忍。一地有四行。謂無常行等。得現在前。問曰。頗斷煩惱得。得而不捨。捨而不得。乃至廣作四句。得而不捨者。凡夫人離欲界欲。乃至離無所有處欲。聖人除轉根及得果時。諸餘斷結道是也。捨而不得者。凡夫人離欲還退時。從色無色界命終。生欲界中時。下地命終。生上地聖人果中間退時是也。亦得亦捨者。凡夫人從無色界命終。生於色界。上地命終。生色無色界。下地中聖人得果時。轉根時及退果時是也。不得捨者。除上爾所事。

入息出息當言依身迴耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。如攝法經所說。世尊何故說入息出息是身行耶。答言。此是身法。身是其本。亦屬於身。依身故迴。如施設經說。如曇摩提那經說。以何等故。死有入息出息不迴耶。答言。入息出息由心勢力。死者無心。故入息出息不迴。一經說由身。一經說由心。人謂此二經。亦是了義。亦是不了義。欲顯此二經真實義故。而作此論。入息出息當言依身迴耶。當言依心迴耶。答曰。當言依身迴。依心迴。

隨其宜便。問曰。云何隨宜便。答曰。或有說者。如嬰孩入息出息少。中年中老年多。復有說者。此有四事故。言隨宜便。云何為四。一者依身。二者風道通。三者諸孔開。四者入息出息地。地心現在前。此四事說隨其宜便。若當入出息。但依身不依心者。入無想滅盡定。入出息亦應迴。何以故。彼亦有入出息所依身。風道亦通。諸毛孔亦開。雖無龜心現在前。故。入出息不迴。若入出息。但依心不依身者。無色界衆生。亦應入出息迴。然彼無此四事故不迴。若入出息。但依身心不隨宜便者。此則在卵等中時。乃至廣說。在卵等中身。非入出息所依。風道不通。諸孔不開。唯有入出息地。龜心故。是以不迴。若當迴者。則應躁動。復有說者。以卵迦羅。暹時軟薄故。入出息不迴。阿浮陀。卑尸時。身諸孔未開。故。入出息不迴。入第四禪。雖有入出息所依身。風道亦通。諸孔不開。以定力故。身體盡合。復不起入出息地。龜心。彼地心微細。故。問曰。以何等故。說入第四禪者。不說生第四禪者耶。答曰。或有說者。作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。此文應作是說。入第四禪及生第四禪。而不說者。當知此說有餘。乃至廣說。復次若說入定。當知亦說生處。如經說。前修此定。後生彼處。是故入出息。依身迴。亦依心迴。隨其宜便。從阿鼻獄。上至遍淨天。於其中間。諸衆生。生諸根具者。乃至廣說。此中說諸根具足者。具上四事。非眼等根也。問曰。以何等故。入第四禪。入出息不迴耶。答曰。龜心能起入出息。彼心心數法細故。復有說者。

躁動。心能起入出息。彼心不躁動。如人在煩鬧道行。便起於塵。彼亦如是。尊者須蜜說曰。以何等故。入第四禪。入出息不迴耶。以入第四禪者。身諸毛孔合。以無所依故。入出息不迴。尊者婆檀陀說曰。入第四禪。身不動。搖彼心不動。故。身亦不動。復有說者。欲界以愛境界故。令身心龜。初禪以覺觀故。第二禪以喜故。第三禪以樂故。第四禪中。永離如是法故。入出息。有出息。有入出息地。有無入出息地。入息者來出息者去。四地中有入出息。四地者。謂欲界初禪二禪三禪。五地中無入出息。五地者。謂第四禪及四無色定。問曰。住入出息地。無入出息地。心現在前。為有入出息迴不耶。答曰。不迴。問曰。住不入出息地。入出息地。心現在前。為有入出息迴不耶。答曰。不迴。問曰。若住入出息地。身。入出息地。心現在前。當言入出息迴。為以身故迴。為以心故迴耶。答曰。或有說者。以身故迴。諸作是說。以身故迴者。生欲界中。欲界中心現在前。此身是欲界。入出息亦是欲界。從欲界心迴。即是此心所觀境界。生欲界中。初禪心現在前。身是欲界。入出息是欲界。從初禪心迴。即是彼心所觀境界。問曰。若然者。此說云何通。如說欲界入出息。是初禪無礙道中滅。答曰。欲界入出息。或從欲界心迴。或從初禪心迴。若從欲界心迴者滅。若從初禪心迴者現在前。復有說者。言滅者是數滅也。生欲界中。二禪三禪心現在前。身是欲界。入出息是欲界。從二禪三禪心迴。即是彼心所觀境界。初禪初禪

◎卷第十九終◎ ◎卷第二十雜捷度人品之四首◎ ◎卷第二十雜捷度人品第三之四首◎ ◎造號釋號譯號同異如卷第十一◎
 唯二推◎ ◎唯二推◎ ◎邏二羅◎ ◎諸十(毛)◎ ◎四二三◎ ◎令二今◎ ◎無十八◎ ◎生十初◎

心現在前。身是初禪。入出息是初禪。從初禪心迴。即是彼心所觀境界。生初禪。欲界心現在前。身是初禪。入出息是初禪。從欲界心迴。非是彼心所觀境界。生初禪。二禪三禪心現在前。身是初禪。入出息是初禪。從二禪三禪心迴。即是彼心所觀境界。生二禪中。隨其相說。生第三禪中。第三禪心現在前。身是三禪。入出息是第三禪。從第三禪心迴。即是彼心所觀境界。生三禪中。欲界心現在前。身是第三禪。入出息是第三禪。從欲界心迴。非是彼心所觀境界。如是起初禪。二禪心現在前。身是第三禪。入出息是第三禪。從初禪二禪心迴。非是彼心所觀境界。諸作是說。入出息以身故迴者。欲界入出息。為四種心作境界。初禪入出息。為三種心作境界。第二禪入出息。為二種心作境界。第三禪入出息。即為第三禪作境界。諸作是說。入出息。以心故迴者。生欲界中。欲界心現在前。身是欲界。入出息是欲界。從欲界心迴。即是彼心所觀境界。若初禪心現在前。身是欲界。入出息是初禪。從初禪心迴。即是彼心所觀境界。若第二第三禪心現在前。身是欲界。入出息是第二第三禪。從第二第三禪心迴。即是彼心所觀境界。生初禪中。初禪心現在前。身是初禪。入出息是初禪。從初禪心迴。即是彼心所觀境界。若欲界心現在前。身是初禪。入出息是欲界。從欲界心迴。即是彼心所觀境界。若第二第三禪心現在前。身是初禪。入出息是第二第三禪。從第二第三禪心迴。即是彼心所觀境界。生

第二禪中說亦如是。生第三禪中。第三禪心現在前。身是第三禪。入出息是第三禪。從第三禪心迴。即是彼心所觀境界。若欲界心現在前。身是第三禪。入出息是欲界。從欲界心迴。即是彼心所觀境界。若初禪二禪心現在前。身是第三禪。入出息是初禪二禪。從初禪二禪心迴。即是彼心所觀境界。諸作是說。入出息依心迴者。欲界入出息。即是欲界心所觀境界。初禪即初禪。二禪即二禪。三禪即三禪。評曰不應作是說。如前說者好問曰。入出息。為是衆生數。為非衆生數耶。答曰。是衆生數。問曰。為是內法。為是外法耶。答曰。是外法。此身中亦有內風。然入出息是外風。為是長養。為是依。為是報耶。答曰。是依。此身亦有長養風。報風。然入出息是依。如經說。佛告阿難。若能令入出息。如射箭。箭箭相續者。是名異食。云何名異食耶。答曰。雖以上妙飲食長養人身。不如正方便入出息。切害身法。莫若邪方便。入出息。如箭。箭箭相續。是何義耶。答曰。如以後箭射於前箭。是名。箭箭相續義。復有說者。相續不斷義。是。箭箭相續義。問曰。入出息。為先入耶。為先出耶。答曰。或有說者。言先出。騰邊有風起。能開諸孔。然後乃出。復有說者。能開諸孔。非入出息。諸孔開已。風先入。如飢渴人。少有所食。令身長養。死時最後息出。更不復入名死。復有說者。最後息入。更不復出。名死。如說使我當得入出息。入第四禪時息出。出第四禪時息入。如說有阿那般那。有阿那般那念。云何名阿

那。云何名般那。云何名修阿那般那念耶。答曰。諸入息是阿那。出息是般那。復有說者。出息是阿那。入息是般那。如說比丘吸外風入時名阿那。如內風出散名般那。能緣彼念。是名阿那般那念。修行廣布念相應共有法。是名修阿那般那念。阿那般那念說有六事。云何為六。一。數二。隨三。止四。觀五。轉六。淨。數者有五種。一。數二。減數三。增數四。聚數五。淨數者。從一至三四。聚數者。觀六息入六息出。復有說者。聚數者。觀入息是出。觀出息是入。淨數者。觀五息出。問曰。為先數入息。為先數出息耶。答曰。先數入息。所以者何。生時息入。死時息出。如是觀者。是名隨順生死觀法。是以先觀入出。乃至廣說。隨者。觀息至咽時。心亦隨至。至心至臍。乃至脚指心亦隨至。止者。息入時住在咽心亦止觀。如是至心至臍。乃至住脚指心亦止觀。復有說者。止者。觀風在身中住。如觀明珠中繩。觀者不但觀風。以風大故。等觀四大。不作差別。觀此四大能生何物。知生造色。次觀造色者。為誰作依。誰有所作。知為心心數法。以是事故。觀五陰。轉者。轉此入息觀。起身念處。次起受心法念處。次起煩惱忍世第一法。淨者。謂苦法忍是也。復有說者。是諸善根。皆是慧分。數有二事。一。數入出息。二。能捨。思覺。隨有二事。一。能隨入出息。二。捨離欲覺。止有二事。一。能住息在鼻端。二。不捨三昧。觀有二事。一。能觀入出息住異相。二。能取心心數法相轉有二事。一。能知

①入字明本缺 ②答答二括括 ③* ④邪二耶 ⑤(是)十名 ⑥誰一能 ⑦(都)十觀 ⑧思二惡

陰。二能入聖道。淨有二種。一能斷結。二能淨見。問曰阿那般那念體性是何。答曰是慧以此心中念偏多故。名阿那般那念。取其相應共有法故。欲界體依。是四陰性色界是五陰性地者。在五地中。欲界未至。初禪中間二禪未至。三禪未至。所依身者。依欲界身。亦依色界。然初起時。必依欲界。行者體非行。境界者境界是。風念處者。非根本念處。是念處方便。若取念處眷屬者。則是身念處。所以者何。以緣色故。問曰若然者。何故佛經說阿那般那念是四念處耶。答曰以是念處方便故。名四念處。問曰若然者。不淨觀亦是四念處方便。何故不說名四念處耶。答曰若有眾生。應聞阿那般那是念處者。世尊則說若有眾生。應聞不淨是念處而得悟者佛亦說之。復有說者。如此經中。亦說不淨觀是念處。如此經偈說

若能觀青色 亦能觀爛壞
 是名身念處 觀淨生欲心
 是中亦有受 是名受念處
 能以無瞋心 是名心念處
 亦斷於愛恚 是名法念處

復次何故說阿那般那念是念處。不說不淨觀耶。答曰以阿那般那念觀牢固可恃。不淨觀法則不爾。若行者失念。煩惱現在前時。速能還觀。如人怖恐速走入城。彼亦如是。復有說者阿那般那念。不與外道共。不淨觀共。復有說者。不淨觀能增長眾生想。所以者何。觀時必觀男女身骨故。阿那般那念。能增長

法相。所以者何。以是空三昧根本故。是故說四念處。復有說者。阿那般那念。緣近法。是不雜觀。非次第觀。非是因眾生觀。不多用功。不淨觀不爾。是故說是念處。不說不淨觀也。智者一等智。根相應者。一根相應謂捨根。世者謂是三世。緣世者。謂緣三世。善不善無記者。謂是善緣善不善無記者。謂緣無記。欲色無色界繫者。謂欲色界繫。緣三界繫及不繫者。謂緣欲色界繫。是學無學非學非無學者。謂是非學非無學。緣學無學非學非無學者。謂緣非學非無學。見道斷修道斷無斷者。謂修道斷緣見道修道不斷者。謂緣修道斷。緣名緣義者。謂緣義也。緣自緣他者。謂緣自他。如經說偈

若於安般念 具足能修行
 次第而習學 如佛之所說

問曰此偈中說。誰具足誰不具足。答曰或有說者。此中說佛具足聲聞緣覺不具足。復有說者。佛辟支佛是具足。聲聞是不具足。復有說者。阿羅漢以上是具足。學人凡夫人是不具足。復有說者。聖人是具足。凡夫人是不具足。評曰如是說者好。若具上六事。名為具足。若不具上六事。名不具足

如經中說。佛言我於二月入於禪定。現如所應瑞相。云何瑞相。答曰世尊。自敷床而坐。化作比丘眷屬圍遶是其瑞相。復有說者。世尊令地微動。諸比丘見已尋詣佛所。此亦是其瑞相。爾時世尊告諸比丘。若有外道梵志來問汝言。沙門瞿曇於二月中。為入何定者。

汝當答言。入阿那般那定。問曰如諸外道梵志。乃至不誠阿那般那定名佛何故作如是說。若諸外道來問汝者。汝當答言。入阿那般那定耶。答曰欲令外道生。怖有想。若諸外道。聞阿那般那定名。必生。怖有想。以生。怖有想故來至我所。以此緣故當入我法。作如是說。問曰如世尊悉入諸禪定解脫三昧。何以但說入阿那般那定耶。答曰以阿那般那定在諸禪定初故

如說當觀息短。乃至廣說。問曰息為先短後長。為先長後短耶。答曰先觀短後觀長何以知耶。答曰。如說世尊入定不久入出息速動。入定轉久。入出息安住。如入重擔上嶮難處。身體疲極。入出息速動。若止息時。入出息住。佛亦如是。入息時知息遍身。出息時亦知遍身。問曰繫念在鼻端。云何復知入出息遍身耶。答曰尊者。和須蜜作如是說。遍知此身。是無常法。而不失念。問曰若然者。不名起定耶。答曰不名起。以不捨其方便故。如是展轉觀此身。是苦空無我穢污不淨性。若此阿那般那念未成時。繫念在鼻端。後若成已。觀身毛孔猶如藕根風從中入出問曰若然者。云何不名起定耶。答曰以不捨方便所期心故。不名起定。尊者。婆檀陀說曰。如菩薩觀時。先繫念在身諸孔風入出處。令心不散亂。亦不捨方便。止息身行。入息出息。乃至廣說。止息身行者。令此入出息轉微寂靜。或時不觀。復有說者。觀息短時。名入初禪。觀息長時。入第二禪。知息遍身。入第三禪。止息身行。入第

初二禪 愛二受 法二說 怖恐二恐怖 用二想 聞二念 經二緣 怖二希 諸二謂 息二自 不二人 愛二姿

四禪如是等四義。亦應如是說。覺喜入出息者。謂初禪二禪也。覺樂入出息者。即觀察此樂也。覺心行入出息者。觀察思想也。復有說者。覺心行者。觀業思。止息意行。入出息者。令彼意行轉微寂靜。或時不觀。覺心入出息者。謂觀察於識也。覺隨喜心定心解脫心入出息者。如來無隨喜心。無定心。無解脫心。觀察菩薩本所行。隨喜心定心解脫心也。覺無常入出息者。觀察入出息是無常也。覺斷入出息者。觀察斷過去煩惱也。覺離欲入出息者。觀察斷未來煩惱也。覺滅入出息者。觀察斷現在煩惱也。復有說者。覺無常入出息者。觀察心數法。覺斷入出息者。除愛結。觀察斷餘結也。覺離欲入出息者。觀察斷諸煩惱也。覺滅入出息者。觀察斷一切結法也。復有說者。覺無常者。是觀察身無常也。覺斷者。觀察斷無明也。覺離欲者。觀察離欲愛也。覺滅者。觀察涅槃是寂靜也。尊者婆檀說曰。覺無常者。觀察五取陰也。覺斷者。觀察五取陰是空無我也。覺離欲者。觀察五取陰是苦也。覺滅者。觀察五取陰是不生寂滅法也。我作如是念。如是住者。皆是龜定。我應廣住微細定中。問曰。云何微細定耶。答曰。或有說者。第四禪是復有說者。滅盡定是。是時夜分有欲界三天。來詣菩薩所。一下根。二中根。三上根。彼下根天。見其無入出息。又不動搖。無思想行。作如是言。此瞿曇沙門今者已死。彼中根天。見其身猶煖。雖復經久而不爛壞。彼作是言。今雖未死。後必當死。彼上根天。會

見諸佛及佛弟子入禪法。彼作是言。今非是死亦不當死。然住此定法應如是。

若有人問云何聖住。云何天住。云何梵住。云何學住。云何無學住。云何如來住。應當答言。是阿那般那念。如是說者是名正答。問曰。阿那般那念。是非學非無學。何故說是學住無學住耶。答曰。從學無學邊得故。名學無學。能入學無學法故名學無學。復有說者。無煩惱故。名聖清淨。天所有故名。能得學法故名學無學所有故名無學。能生無學法故名無學。如來住者。阿羅漢住。名如來住。未得而得者。勝進是也。已曾得者。一受現法樂。二已至不動。復有說者。聖所有故名聖住。能生聖法故名聖住。天所有故名天住。能生天故名天住。乃至如來所有故名如來住。能生如來。法故名如來住。未得而得者。阿羅漢是也。已得受現法樂者。現法樂有四種。一。出家樂。二。閑靜樂。三。寂滅樂。四。三菩提樂。

如色衆生依身故心迴乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。如欲色界衆生依色故心迴。無色界無色。或謂彼心無所依而迴。爲令彼意得決定故。而作此論。說有所依。問曰。彼何所依耶。答曰。命根受身處。如是等諸餘心心不相應。行。不相應行。名何等。謂凡夫性。不成就。得生住老滅。問曰。亦依心迴。何以但說身耶。答曰。以身爲故說身。眼根及次第滅心與眼識。作依所依。生眼根四大身根。生身根四大命根。受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。耳識。鼻識。舌識。說亦如是。身根及次第滅心與身識。作依所依。生身根四大色香味觸命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。復有說者。眼根及次第滅心與眼識。作依所依。生眼根四大身根。生身根四大色香味觸命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。耳識。鼻識。舌識。說亦如是。身根及次第滅心與身識。作依所依。生身根四大色香味觸命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。復有說者。眼根及次第滅心與眼識。作依所依。生眼根四大身根。生身根四大色香味觸命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。耳識。鼻識。舌識。說亦如是。身根及

次第滅心與身識。作依所依。生身根四大命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。意識。前次第滅心與意識。作依所依。身根生身根四大色香味觸命根受身處得生住老滅。如是等法。作依所依。復有說者。眼根及次第滅心與眼識。作依所依。俱生四陰。作依所依。耳。鼻。舌。身。識。亦如是。意識。前次第滅心與意識。作依所依。俱生四陰。作依所依。如是則說生欲色界者。生無色界者。云何。答曰。意識。前次第滅心與意識。作依所依。俱生三陰。作依所依。

問曰。命根體。爲是一。爲是多耶。若是一者。斷其手足。何故命不斷耶。若是多者。斷其手足。何以手足中而無命耶。答曰。應作是說。體實是一。以一命根在身中。故名之有命。如有一受名之有受。如有一思名之有思。有一心故名曰有心。一心滅故名曰無心。如是有。一命故名曰有命。問曰。若然者。斷其手足。何以不死耶。答曰。命所依身有二種。有具足不具足。若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

若斷手足時。具足者滅。不具足者續生。具足

◎得+(相)◎◎行+(心)◎◎十+(天不懼害故名)十二字

所依身。在不生法中住。不具足者。遇緣便生。問曰。何故斷手足時不死。斷頭截腰。而便死耶。答曰。若斷手足及餘身分時。不壞害多入。若斷頭截腰。則壞害多入。復次。若斷手足時。不壞害多入。亦不壞緣。若斷頭截腰。則壞害多入。亦破其緣。令多入在不生法中住。復次。以頭是諸根聚處。以腰是入出息住處。若壞害則死。手足等身分。非諸根聚處。亦非入出息住處。是故斷截不死。復有說者。命根體是多法。手足中異。如是諸餘身分中亦異。問曰。若然者。斷其手足。棄在於地。何以無命耶。答曰。手足中命。雖性各異。而屬於身。若離於身。更不屬身。是故不活。復次。以離所依長養緣。故不活。

云何受身處。答曰。衆生相似法。受身處亦是一體。是不隱沒無記。亦是報亦是依。報者說諸趣相似。如地獄衆生展轉相似。如是餘趣餘生。當知亦展轉相似。依者說界相似。如欲界還似欲界。色無色界說亦如是。如界相似。如是方。土族姓居家比丘婆羅門學無學。亦應隨相說。復有說者。報者初生時所得者是也。依者後時所得者是也。如沙門還似沙門。婆羅門還似婆羅門。此相似法。有得有捨。捨者或身死時捨。或餘事故捨。餘事者如得正決定。捨凡夫相似。得聖相似。阿羅漢般涅槃時。捨而不得。復有說言。衆生相似法有三種。謂善不善無記。如八人相似法。是善。五無間業人相似法。是不善。諸餘人相似法。是無記。問曰。諸死此生彼。盡捨受身處耶。設捨受

身處。盡死此生彼耶。乃至廣作四句。死此生彼。不捨受身處者。地獄中死。還生地獄中。乃至天中死。還生天中。是捨受身處。非死此生彼者。謂得正決定者是也。死此生彼。亦捨受身處者。地獄中死。生餘道中。乃至天中死。生餘道中。是也。不死此生彼。亦不捨受身處者。除上爾所事。

阿毘曇毘婆沙論卷第十四 校正後序

此卷第十七張第五行。欲令無量那由他眷屬。下皆得解脫。入於涅槃。上國本有能斷貪欲修悲心者。乃兄弟姊妹欲令安樂非等。凡四百五十五字。丹宋二本並無者。詳其文勢。非唯首尾不相連續。至於立文之體。亦非此論國本妄加耳。故今不取。但恨未詳此文來自何經。此須待勘。因書其意。以告來賢云。

阿毘曇毘婆沙論卷第十五

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩 共道泰等 譯

雜度人品行

無有中愛。當言見道斷。當言修道斷。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。世尊經說有三種愛。一欲愛。二有愛。三無有愛。世尊經。雖說無有中愛。不說見道斷修道斷。

彼經是此論所為根本。彼中不說。此悉說之。以是事故。而作此論。

問曰。無有中愛。當言見道斷。當言修道斷。答曰。當言修道斷。所以者何。無有是無常諸緣。彼愛是無有中愛。問曰。此亦是見道斷。何以但言修道斷耶。答曰。為隨順經義故。如經中說。猶如有。一為恐怖痛苦所逼。作如是念。使我斷壞。乃至死。死後無病。常得安樂。彼經義趣。說受身處無常。彼所緣愛。是修道斷。以隨順經義故。說修道斷。復次。或有說者。無有中愛。或見道斷。或修道斷。云何見道斷。答曰。見道所斷。無有中愛。乃至廣說。此文先說。隨順經義。今者則說真實義。如我義。無有中愛。當言修道斷。如我義者。如我隨順佛經中義。彼經是此論根本。以是事故。言無有中愛。修道所斷。如是汝欲令無有中愛。修道所斷。耶。此是毘婆闍婆提。毘婆闍婆提。言有多婆提。若不定他言。說他過者。此則非理故。言汝欲令無有中愛。修道斷耶。有多婆提。答曰。如是。毘婆闍婆提。作如是言。若作是說。須陀洹。能起此愛。使我斷壞。乃至死。死後無病。常得安樂耶。答曰。不也。問曰。何故須陀洹。不能起此愛耶。答曰。或有說者。須陀洹。信法信業故。復有說者。已見諸法。自體生故。復能滿足修空解脫門故。復有說者。此愛是斷見所增長。依斷見生。聖人已斷斷見故。復有說者。此愛從次第因生。彼次第已斷故。尊者奢摩達說曰。見道所斷法。是其因。聖人已斷見道所斷法故。毘婆闍婆提。作如是言。

地二他 土二土 不分卷及品 宋元明宮四本俱無此校正後序 一十(人) 受二愛 〔秦〕一

聽我所難說。汝違言負處。汝作是言。無有中愛。修道所斷。汝亦應說。須陀洹。能起此愛。使我斷壞乃至死。死後無病。常得安樂。若作是語。此事不然。不應作是說。無有中愛。修道所斷。若說無有中愛。修道所斷。此事不然。若說此愛。修道所斷。不應言須陀洹不起此愛。若須陀洹不起此愛。不應言此愛。修道所斷。育多婆提。作如是說。我不言諸不斷者。必起現在前。自有不斷不起現在前。有雖斷而起現在前。若當不斷盡起現在前者。則無解脫出要。所以者何。凡夫人學人。未來世中不斷者多。若當盡起現在前。則不得解脫。以未來世無邊故。如是事者。智人所不可。育多婆提。先說如是等法。為說他過而欲立難。如是汝意。欲令須陀洹未盡地獄畜生餓鬼愛耶。毘婆闍婆提答言。如是。育多婆提復更定言。汝意欲令須陀洹能起如此愛。使我作伊羅跋那龍王善住龍王若闍羅王。使我於地獄衆生中尊。毘婆闍婆提答言。不也。問曰。何故須陀洹不起如是等愛耶。答曰。凡夫人生處。非聖人生處。復有說者。愚者生彼中。彼是智者故。復有說者。彼惡道已得非數滅故。若法得非數滅。不復起現在前。復有說者。愛有二種。一生處愛。二資生愛。須陀洹於惡道。雖不起生處愛。而起資生愛。愛於象馬等。如帝釋於青衣鬼所而起愛心。問曰。於地獄趣。復云何。起耶。答曰。若其父母。生地獄中。從可信人邊聞。便生愛心。育多婆提復作是言。聽我所難說。汝違言負處。汝作是言。須陀洹未盡

地獄畜生餓鬼愛。應作是說。須陀洹能起此愛。使我作伊羅跋那龍王。乃至廣說。若作是說。此事不然。若不說須陀洹能起此處。亦不應說須陀洹未盡地獄畜生餓鬼愛也。若須陀洹未盡地獄畜生餓鬼愛。而不起現在前。即是汝違言負處。如汝所說。須陀洹緣惡道愛未盡。而不起現在前。我所說無有中愛亦如是。育多婆提。復難毘婆闍婆提言。於意云何。為纏所纏殺父母。此纏是修道所斷耶。毘婆闍婆提答曰。如是。育多婆提責。毘婆闍婆提答曰。不也。問曰。何故須陀洹不起此纏耶。答曰。或有說者。有增上善心者。能起此纏殺父母。彼須陀洹。有增上善心故。復有說者。有增上無慚無愧者。能殺父母。須陀洹有增上慚愧故。復有說者。彼纏邪見所長養。隨邪見後生。須陀洹邪見已斷故。復有說者。須陀洹已得不作戒。以是事故不起此纏。育多婆提復責毘婆闍婆提。廣說如上。育多婆提復更難毘婆闍婆提言。於意云何。修道所斷法。無有中愛。此愛當言修道所斷耶。毘婆闍婆提答曰。如是。修道所斷法者。謂有漏善法。無有者。謂斷善根。育多婆提。復責毘婆闍婆提言。於意云何。須陀洹能起此愛。我當斷善根耶。毘婆闍婆提答曰。不也。問曰。何故須陀洹不起如是愛耶。答曰。聖人愛樂功德。常欲成就善法現在前。不欲遠離。是故不起。育多婆提復責毘婆闍婆提。廣說如上。諸言不斷必起現在前。應說有如上等過。外書中有三種難。一名疑難。二名說過難。三名除壞難。佛經

中說。世尊亦以三種難難他。一名轉勝難。二名等義難。三名違言難。轉勝難者。如長。爪梵志作如是言。我一切不忍。佛難言。汝於此見亦不忍耶。等義難者。如波知離問佛。汝知幻耶。佛答言。知。波知離言。沙門瞿曇。即是幻者。佛問波知離。汝知拘荼國有惡人名薩婆周羅多行惡法者不耶。答言。我知。佛言。汝亦是多行惡法人也。違言難者。如優波離居士。先言身業重。後說仙人惡意。故滅迦陵伽大城等。此中有多婆提。以等義難。毘婆闍婆提。使墮負處。無有名何法耶。答曰。三界無常問曰。何以作此論答曰。欲令毘婆闍婆提無所言故。若不作是說。毘婆闍婆提當作是語。汝雖以言語伏我。然無有中愛體性與法相應者。或見道斷。或修道斷。是故彼尊者作如是說。無有名何法。三界無常。復有說者。先說隨順經義趣。後說真實義。復有說者。育多婆提還語毘婆闍婆提。我雖以言伏汝。然無有中愛體性與法相應。或見道斷。或修道斷。是故作如是說。無有名何法。三界無常。問曰。無漏法亦有無常。此中何以不說耶。答曰。若法是愛安足處所緣處。此中便說無漏無常非愛安足處非愛所緣處。是故不說。何等心解脫。有欲心耶。無欲心耶。乃至廣說。問曰。何故作此論答曰。此是佛經。佛經中說。欲心得解脫。慧癡心得解脫。不作是說。為有欲心得解脫。無欲心得解脫。乃至廣說。彼經是此論根本。今當廣解此經。復次或有說。心性本淨。為客煩惱所覆。如毘婆闍婆提說。

①是二見②起二趣③放二從④爪二抓⑤語二說⑥卷第二十終⑦卷第二十一雜難度人品之五首⑧卷第二十一雜難度人品第三之五首⑨尊者迦旃延子造北涼沙門浮陀跋摩共道泰譯⑩迦旃延子造北涼沙門浮陀跋摩共道泰譯⑪北涼沙門浮陀跋摩共道泰譯

心性本淨。彼客煩惱生覆心故不淨。問曰。若當心性本淨客煩惱覆故不淨可爾者。何不以此本性淨心令客煩惱亦淨耶。汝若不說以心淨故令客煩惱淨者。為有何因緣。復次為心先生後客煩惱生。為俱生耶。若心先生後客煩惱生者。則心住待客煩惱。客煩惱生。然後覆心。若作是說。是則一心住二剎那。若當俱者。為以何時言心性本淨。復無未來世。以住本性淨心。是故為止他義。自顯己義。亦欲說法相應義故。而作此論

何等心解脫。有欲患癡心解脫耶。無欲患癡心解脫耶。答曰。無欲患癡心解脫。問曰。無欲患癡心。即是解脫。復何所解脫耶。答曰。若以煩惱而言。則心名解脫。若以世以身而言。則不名解脫。若諸煩惱不斷。彼心不行於世。不於世得解脫。不行於身。不於身得解脫。若諸煩惱斷。彼心行於世。於世得解脫。行於身。於身得解脫。復次或有說者。欲相應心得解脫。患癡相應心得解脫。如毘婆闍婆提作如是說。染汚心即是無染汚心。若煩惱未斷是染汚煩惱已斷是不染汚。猶如。同器有垢。未去垢時名曰有垢。已去垢故名曰無垢。彼亦如是。彼如是說者。應當違逆呵責。所以者何。非彼心與欲患癡相應難合。若欲患癡不斷。此心不名解脫欲患癡。若欲患癡斷。此心名解脫欲患癡。欲證此義故引佛經。世尊經說。日月有五。為五障所覆。故日月不明淨。云何為五。謂雲。乃至廣說。雲者如夏時。少雲能遍虛空。煙者如焚燒草木。煙遍虛空。塵者如天

不雨時。風動地塵。遍於虛空。霧者如大河邊出霧。遍於虛空。復有說者。東方國土若晝若夜。雨後日出時。霧從地起。遍於虛空。羅睺羅阿修羅王障者。日月是諸天前軍。天與阿修羅。常共鬪戰。以日月威力故。諸天常勝。羅睺羅阿修羅王。而先欲摧滅。以是一切眾生業力故。而不能滅。以手障之。如此諸障。與日月相遠。而不相近。未除彼障。日月於此諸障。而不明淨。若除諸障。日月於此諸障。而得明淨。如是彼心不與欲患癡相應難合。若是欲患癡不斷。彼心不名解脫欲患癡。若欲患癡斷。彼心名解脫欲患癡。世尊經說。比丘當知。得第一大身者。謂羅睺羅阿修羅王是也。乃至廣說。無有眾生能自化身端正第一。如羅睺羅阿修羅王者。此說變化非謂實身

何等心解脫。過去耶。未來耶。現在耶。答曰。未來遠心生時。無學諸障。得解脫障者。非想非非想處。下下煩惱是也。若說未來。則止過去現在。若說無學。則止學心。問曰。如學心亦得解脫。何以但言無學耶。答曰。或有說者。以尊勝故。若求勝法。無學法勝於學法。若求勝人。則無學人。勝於學人。尊者瞿沙說曰。若多勝無過。言是解脫。若得無學心。則解脫多亦勝無過。復次若心得二種解脫者。名為解脫。謂自體解脫。身得解脫。以是事故。而作四句。或有心自體得解脫非身。或有身得解脫非自體。乃至廣作四句。自體得解脫非身者。謂學心是也。身得解脫非自體者。阿羅漢善有漏不隱沒無記心是也。自體解脫身亦解

脫者。謂無學心是也。非自體解脫非身解脫者。謂學有漏心一切凡夫心是也。復次無障礙故名解脫。學人則為。邪解脫所障。無學不爾。如是學正解脫。與邪解脫相對。無學不爾。復次若心於一切結得解脫。名為解脫。學心有分解脫。有分不解脫。無學不爾。復有說者。若心於五種煩惱事中得解脫。五種緣中得解脫。名為解脫。五種煩惱障礙。五種緣障礙。說亦如是。復有說者。若不為如摩樓多愛草所繫者。是名解脫。復次若能擁有頂所依周羅者。是名解脫。復次若斷三界諸煩惱。是名解脫。復次若減少解脫能令滿足。是名解脫。如學人乃至金剛喻定。名不滿足。得無學心名為滿足。復次若得猗樂。不為煩惱所障。是名解脫。學人雖得猗樂。為煩惱所障。無學人得猗樂。不為煩惱所障。復次若廣受猗樂。名為解脫。學人以此有所作故。受猗樂不廣若得無學心。所作已辦。則廣受猗樂。猶如國王怨敵未盡。受樂不廣。若怨敵盡者。則廣受樂。若所作已辦。除去重擔。更無欲求。亦復如是。復次眾生常共煩惱獨語。若得遠離。牟尼意滿足。是名解脫。復次若離染汚諸陰重擔者。是名解脫。復次若離煩惱熱諸入。得清涼入。是名解脫。復次若離煩惱所依諸入。得無煩惱所依諸入。是名解脫。復次若遠離煩惱眾生聚自立無。煩惱眾生聚中。是名解脫。復次若得為世作福田者。是名解脫。如偈。說

欲心壞眾生 如草敗良田
若施無欲者 必得於大果

○同二第○ ○障十(礙)○ ○邪二耶○ ○減一減○ ○(復)十第○ ○說二言○

復次若害其命。得無間罪者。是名解脫。復次若斷諸著。決煩惱堤塘。除一切障礙。斷於四食。離四識住。破壞四魔。過九衆生居者。是名解脫。復次若行不難。功德學人。難行善法過惡。善行惡行。善根不善根。互現在前。若唯行善行等。不行不善行等者。是名解脫。問曰。如五陰悉得解脫。何以獨說心得解脫耶。答曰。或有說者。以心勝故此中應說。如第一品中答問曰。唯有一剎那心得解脫耶。答曰不也。若說一剎那生心。當知盡說未來一切心。所以者何。未來無學心。得行於世故。問曰得盡智時。未來世所有修三界善根。爲得解脫不也。答曰得所以者何。亦除其障故。問曰。若退阿羅漢果。還得阿羅漢果。先所得過去無漏道。彼爲得解脫不耶。答曰不得。以不除障故。如無礙道滅。乃至廣說。無礙道者是金剛喻定。問曰。何故名金剛喻耶。答曰。猶如金剛無所不斷。無所不壞。無所不穿。若鐵若牙。若石若摩尼珠。若頗梨。若山。如是等物無不摧破。彼定亦爾。於一切煩惱。若不摧破。無有是處。以分別故說。若設當具縛凡夫。能起此定。則能斷一切煩惱。何以故。是一切煩惱對治法故。何以知耶。答曰。得阿羅漢時。證一切三界見道修道所斷煩惱解脫得。以是事故。知此定是一切煩惱對治法。問曰。如金剛喻定體性。若是五陰。若是四陰。何以但名定耶。答曰。以定勢偏多故名爲定。如見道體是五陰。以見勢偏多故名爲見道。如見道邊等智體性。是五陰四陰。以智勢偏多

故說名爲智。如四道。通體性是五陰四陰。以通勢多故說名爲通。金剛喻定體性。是五陰四陰。以定勢多故說名爲定。問曰。若然者。則因論生論。彼處何故定勢多耶。答曰。或有說者。以非想非非想處難斷難破難過。須堅固定。以安其足。發大精進。如人欲害象時。先安其足。發其武勇。然後可害。如是非想非非想處。難斷難破難過。當先安其足。發大精進已。然後能斷。如象非想非非想處。下下煩惱。復有說者。非想非非想處。微細難知難可解了。當須大持意法。如人欲射一毛。當須大持意法。彼亦如是。此金剛喻定。若在未至禪。則有五十二金剛喻定。其事云何。金剛喻定。與六智俱。謂四比智。二法智。謂滅智道智。依未至禪。以苦比智當得阿羅漢果。彼觀非想非非想處等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。若以滅法智。觀欲界諸行滅等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。若以道法智。觀欲界斷諸行道等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。若以滅比智。彼或有觀初禪諸行滅等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。如是乃至觀非想非非想處諸滅亦如是。如是八四有三十二。若以道比智。觀九地中比智分道等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。滅比智三十二。道比智四。前有十六。是名依未至禪有五十二金剛喻定。如是依初禪中間第二

禪第三禪第四禪。亦有五十二金剛喻定。空處有二十八。若依空處。以苦比智。觀非想非非想處等四行。若一行現在前。當得阿羅漢果。若以集比智說亦如上。若以滅比智。觀空處諸行滅等四行。如前說。或觀識處。或觀無所有處。或觀非想非非想處滅等四行。廣說如上。若以道比智。觀九地中比智分道等四行。廣說如上。滅比智有十六。道比智有四。前有八。是名依空處二十八金剛喻定。識處有二十四。無所有處有二十。如是隨所應說。此是一家義。復有說者。未至禪中有八十。其事云何。金剛喻定。與六智俱。如上說。若依未至禪。以苦比智。當得阿羅漢果。觀非想非非想處。如先說。若以集比智。觀非想非非想處。如先說。若以滅法智。觀欲界諸行滅。如先說。以道法智。觀欲界斷諸行道。如先說。若以滅比智。觀初禪諸行滅。如先說。或有觀乃至非想非非想處諸行滅。亦如上說。此八四有三十二。道比智亦有三十二。合六十四。前有十六。是名依未至地有八十金剛喻定。如是初禪中間第二禪第三禪第四禪。亦有八十。空處有四十。若依空處。以苦比智。當得阿羅漢果。廣說如上。以集比智說亦如上。若以滅比智。觀空處諸行滅。乃至非想非非想處諸行滅。有十六。道比智亦有十六。前有八。是名空處有四十金剛喻定。識處有三十二。無所有處有二十四。應隨相廣說。評曰。應作如是說者好。依未至禪。應有百六十四金剛喻定。其事云何。若依未至禪。以苦比智。觀非

①雜二難 ②雜二難 ③善行二行善 ④也二耶 ⑤牙二瓦 ⑥若二無 ⑦知二如 ⑧[爲]一 ⑨[觀行...智]十六字一

問曰。此偈中爲說已度度未度度耶。答曰。此中說已度度。若善心一切得解脫時。名已度而言是度。如此經說。已度言度。已作言作。我亦如是。已解脫言得解脫。

又世尊言。習厭無欲習無欲解脫習解脫涅槃。問曰。何以作此論。答曰。此是佛經。佛經說習厭無欲。乃至廣說。不分別云何厭云何無欲。乃至廣說。佛經是此論根本。彼中不說者。今當說之。以是事故而作此論。

習有二種。一者能生。二者能到。能生者。如習厭能生無欲習無欲能生解脫。能到者。如習解脫能到涅槃。復有說者。習有二種。一者隨順。二者隨應。隨順者。如習厭得無欲習無欲得解脫隨應者。習解脫應得涅槃。問曰。若是習性。亦是緣性耶。答曰。諸是緣性。則是習性。問曰。顯是習性非緣性耶。答曰。有。謂習解脫得涅槃者是也。此習於涅槃無四緣義而能到涅槃云何爲厭。答曰。無學惡賤五取陰諸行。如經本廣說。問曰。如此厭。亦是無學。亦是學。亦是非學非無學。何以唯說無學耶。答曰。或有說者。以名義俱勝故。若求法勝。則無學法勝。若求人勝。則無學人勝。尊者瞿沙說曰。以多勝無過故。唯說無學厭。不說學人凡夫人也。復有說者。世尊說勝法根本故。無學是勝法根本故。無學是勝法根本。非學人凡夫人也。復有說者。若說終者。亦明其始。復有說者。若無二法相對應。如上無學廣說。問曰。厭體性是何。答曰。或有說者。體是慧性。問曰。若然者。厭體性是苦忍苦智。彼說善通。此文云何通。如說。云何

習厭得離欲。答曰。與厭相應無欲恚癡善根。問曰。若然者。慧還與慧相應耶。答曰。此文應如是說。彼厭相應無欲善根。不應說無恚無癡。應作是說。而不說者。當知此文是誦者長說。復有說者。此厭是心數法與心相應。問曰。若然者。此文善通。見。捷度所說體。是苦忍苦智。復云何通。答曰。彼中說厭以親近苦忍苦智故。於何處得厭。答曰。苦忍苦智邊。評曰。不應作是說。如前說者好。厭體性是慧。云何世俗厭。答曰。與不淨相應者是也。即是阿那般那體。是緣苦集。煖頂忍是世第一法。是緣苦集。見道邊等智。與悲相應。第一第二解脫相應。與初四勝處相應。是身如病如癩如瘡。無常苦空無我因集有緣等行。龜說則有如是等相若廣說者。量過四海。問曰。若厭體是可厭耶。若體是可厭是厭耶。乃至廣作四句。初句者無漏厭是也。第二句者除世俗厭諸餘有漏體是也。第三句者世俗厭是也。第四句者除無漏厭諸餘無漏體是也。問曰。如一切法無我觀。爲是厭觀也。爲是欣踊觀耶。答曰。此義前無我行中已說。

云何習厭得離欲。答曰。與厭相應無欲。無有欲善根。此文應如是說。不應說無恚無有恚。問曰。無欲體性是何。答曰。體性無貪。云何習無欲得解脫。答曰。彼無欲相應解脫。乃至廣說。一切諸法中。有二法體是解脫。一者有爲。二者無爲。有爲者心數法中解脫是也。無爲者數滅是也。此中。唯說有爲解脫。不說無爲解脫。有爲解脫有二種。一者染污

二者不染污。染污者是邪解脫。不染污者是正解脫。正解脫復有二種。一者有漏。二者無漏。有漏者。與不淨觀相應。慈悲喜捨相應。無漏者。與學無學相應。學者有四向住三果。無學者唯住一果。無學復有二種。一時心解脫。二非時慧解脫。時心解脫者。謂五種阿羅漢是也。非時慧解脫者。不動阿羅漢是也。此即是斷欲心得解脫。此即是斷無明慧得解脫。問曰。若斷欲即是。慧得解脫斷無明即是。心得解脫者。攝法論所說。云何通耶。如說云何斷欲心得解脫。答曰。無貪善根。云何斷無明慧得解脫。答曰。無癡善根。問曰。如無貪無癡善根。非解脫性。何故說是解脫耶。答曰。此文應如是說。云何斷欲心得解脫。答曰。無貪善根相應解脫是也。云何斷無明慧得解脫。答曰。無癡善根相應解脫是也。此文應如是說。而不說者。有何意耶。答曰。各有所爲故。或有爲斷欲。故動方便。或有爲斷無明。故動方便。或有爲斷欲動方便者。名心解脫。或有爲斷無明動方便者。名慧解脫。然其解脫。更無別體。復有說者。無貪與貪相應。無癡與癡相對。是故以無貪無癡名說。云何習解脫得涅槃。答曰。若斷一切愛盡。乃至廣說。問曰。如斷一身見盡。亦名涅槃。何以言斷一切愛盡耶。答曰。或有說者。此中說滿足涅槃。何者是耶。謂斷一切愛盡。乃至廣說。復有說者。此中諸所說道。盡說無學身中道。如說無學身中道。說無學身中道果亦如是。學人所斷有餘。非是無餘。問曰。云何名涅槃

◎十(也)◎ ◎無學亦是一學亦是無◎ ◎捷二健◎ ◎煖二暖◎ ◎也二耶◎ ◎唯二惟◎ ◎慧二心◎ ◎心二慧◎ ◎

義。答曰。或有說者。諸陰。林斷更不生。是涅槃。復有說者。滅一切煩惱義。是涅槃。復有說者。滅種種大故。是涅槃。復有說者。不織義。是涅槃。如因經緯織。杖等織。便成。若不因經等。織不成。如是因業煩惱經緯故。織受生。便成。若不因業等。織受生。不成。以是事故。不織義。是涅槃。

問曰。厭無欲解脫涅槃有何差別。答曰。惡賤是厭。不求是無欲。心無垢是解脫。捨擔是涅槃。復有說者。惡賤煩惱是厭。斷煩惱。是無欲。不與煩惱俱。是解脫。諸陰盡。是涅槃。如尊者瞿沙解此經。如實知見是說見地。厭是薄地。無欲者是無欲地。解脫者是無學地。涅槃者是諸陰不生。

世尊說三界。斷界無欲界滅界。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說。尊者阿難。往詣長老上座所。到已。乃至廣說。問曰。以何等故。尊者阿難往詣彼所。答曰。或有說者。彼尊者阿難。是持佛法船。他者。常監臨四眾。數數往詣諸比丘所。慮諸比丘。受境界空墮空過。以是事故。往詣彼所。復有說者。尊者阿難。作是思惟。若彼長老比丘。有得勝進功德者。我當讚善隨喜。若不得者。我當示其方便。爾時阿難往詣彼所。生相似信。信有二種。有相似有不相似。相似信者。彼若是阿練若問阿練若法。是阿毘曇人問阿毘曇法。是持修多羅人問修多羅法。是持律人問於律法。不相似信者。問與上相違。爾時阿難問彼長老上座阿練若法。汝數數觀何

境界耶。彼答言。我觀舍摩他毘婆舍那阿難復問。若修行廣布舍摩他法。有何利耶。彼答言。若修行廣布舍摩他法。是名修心。若修心者。得心解脫。問曰。如阿毘曇義。一心中。有定有慧。云何分別。是修定方便人修慧方便人耶。答曰。以依具故。知。或有多依定具。或有多依慧具。多依定具者。性樂獨住。常好閑靜。樂居空舍。不喜言說。多依慧具者。常好受持讀誦。修多羅阿毘曇毘尼。亦以教人。觀察總相別相。如是等事。是名差別。復有說者。或有繫心一緣。而不分別法相。或有不繫心一緣。而分別法相。繫心一緣。不分別法相者。是名修定。若不繫心一緣。分別法相者。是名修慧。阿難問言。若以定方便修心者。得慧。解脫。若以慧方便修心者。得心解脫。若以定以慧方便修心者。得何等解脫。答言。得界解脫。復問。何等界解脫。答曰。三界。謂斷界。無欲界滅界。問曰。如斷是無緣法。不能有所緣。何故說言得斷界解脫耶。答曰。此中觀涅槃解脫。以界名說。所以者何。雖勤行精進。而不能生觀涅槃解脫者。終不能得心解脫也。以是事故。觀涅槃解脫。說名為界。爾時尊者阿難從長老上座比丘所。聞如是說。已。便詣迦梨勒境上。以如是義。盡問五百比丘。諸比丘皆以如是義答。問曰。是諸比丘云何而答。答曰。或有說者。如今法會。處先下座說。彼亦如是。復有說者。一人答。餘者印可。尊者波奢說曰。爾時作白羯磨。行籌受籌者名答。爾時尊者阿難問諸比丘。已往詣佛所。以如是等

義問佛。佛亦以如是義答。問曰。尊者阿難。以不可上座比丘及五百比丘所說。而往問佛。耶。答曰。可適問曰。若可適者。何以復問佛耶。答曰。欲顯善說法中。同見同欲。同意具足。問答故。外道法中。意欲不同。破壞法塔。善說法中。意欲同。故不壞法塔。以此法妙故。師與弟子。始終所說。不相違背。復有說者。欲令多人。遠罪過。故。其事云何。曾聞彼長老上座比丘。經六十年。在母胎中。却後生。已。身形老瘦。無有威德。爾時多人。生輕蔑心。作如是言。此諸年少。氣力強盛。初夜後夜。勤行精進。於勝進法。猶故難得。何況老瘦身者。能得此法。然此五百比丘。以飲食故。為提婆達多所壞。後還歸佛。是時多人。生不信心。是諸比丘。貪利供養。豈當能得勝進之法。乃令多人。作諸罪過。是時阿難。欲令多人。去罪過。故。而往問佛。彼經雖說。斷界無欲界滅界。而不廣說。此論因彼經故。作種種雜說。優波提舍。彼經是此論所為根本。諸彼中所不說者。今此悉說。故作此論。

云何斷界。我今當先說阿毘曇名。數近對治法。云何斷界。答曰。除愛結。諸餘結斷。是名斷界。諸餘者。除愛結。餘八結是也。云何無欲界。答曰。愛結若斷。是近對治。有欲對無欲。云何滅界。答曰。除九結。諸餘結法滅。是名滅界。此中一切。有漏體。說是結法。復有說者。八結結相應法。及所起處。生等若斷。是名斷界。愛結愛結相應法。及所起處。生等。若得離欲。是無欲界。若說九結。則攝一切染污法

林一水◎ 種種大二三種火◎ 杖十(四)◎ 杖二丈四◎ 指十(名)◎ 權二極◎ 生十(彼)◎ 言二日◎ 謀二心◎ 心二慧◎ 日二言◎ 波二婆◎ 諸一謂◎ 卷第二十一終◎ 卷第二十二雜健度人品之餘首◎ 卷第二十二雜健度人品第三之六◎ 造號釋號譯號同異如卷第十一◎ 者二有◎ 結十(八)◎

盡餘。唯有有漏善法及不隱沒無記。彼若滅。是名滅界。復有說者。有法縛而不染汚。有法亦縛亦染。有法不縛不染。縛而不染法若斷。是名斷界。亦縛亦染法。若得離欲。是無欲界。不縛不染者。他縛他染若滅者。是名滅界。如縛繫義亦如是。復有說者。煩惱體若斷。是名斷界。煩惱於緣得離。是名無欲界。諸煩惱果更不生。是名滅界。復有說者。過去諸陰若斷。是名斷界。未來諸陰離欲。是名無欲界。現在諸陰若滅。是名滅界。復有說者。若苦受斷。是名斷界。若於樂受離欲。是名無欲界。不苦不樂受若滅。是名滅界。復有說者。若苦苦斷。是名斷界。壞若離欲。是名無欲界。行若若滅。是名滅界。尊者奢摩達說曰。捨於重擔。是名斷界。無欲對治有欲。若離有欲。是名無欲界。今生不相續。相續者若滅。是名滅界。復有說者。或有言唯斷愛結。問曰。若然者。則違佛經。佛經說諸行若斷。是名斷界。諸行離欲。是名無欲界。諸行若滅。是名滅界。復違波伽羅那經。如說可斷法云何。答言一切有漏法。復說斷智法云何。答言一切有漏法。答曰。愛有緣八結者。有還緣愛者。有緣餘法者。緣八結愛若斷。是名斷界。緣愛結愛若斷。是名無欲界。緣餘法愛若斷。是名滅界。復有說者。唯斷於使緣八結使若斷。是名斷界。緣愛結使若斷。是名無欲界。緣餘法使若斷。是名滅界。若斷界是無欲界耶。問曰。何以復作此論。答曰。先說阿毘曇名數義。今欲說真實義。若不爾者。人謂但自隨己意。不順佛經。今欲隨順佛

經故作如是說。若斷界是無欲界耶。答曰如是。乃至廣說。所言斷無欲滅。此三名雖異義無差別。世尊說三想。乃至廣說。問曰。何以作此論。答曰。此是佛經。佛經說三想。不廣分別。佛經是此論所為根本。彼中不說者。今悉說之。故作此論。

問曰。十六行外。更有聖道不耶。若有者。智健度識身經中。何以不說耶。若無者。此經云何通。如說受樂受時。如實知受樂受。此是何行。又如說我已知。苦。爲是何行。不復更知。此是何行。乃至我已修道。此是何行。不復更修。此是何行。我生已盡。梵行已立。所作已辦。更不受後有。如攝法經所說。比丘盡欲漏。是名盡智。更不復盡。是名無生智。是何等行。有漏無明漏說亦如是。評曰。應作是說。十六行外更無聖道。問曰。若無者。先說善通。此經云何通耶。受樂受時。如實知受樂受。乃至廣說。答曰。不以知受樂受。故名如實知樂受。知此樂受。是道如述乘。故名如實知我已知苦者。是二行。謂無常行苦行。不復更知亦是無常行苦行。我已斷集是集等四行。更不斷集。亦是集等四行。我已證滅是滅等四行。更不證滅。亦是滅等四行。我生已盡。是集等四行。梵行已立。是道等四行。所作已辦。是滅等四行。不受後有。是苦等二行。謂無常行苦行。復有說者。我生已盡有五事。一者身。二者對治。三者所作。四者果。五者人。身者。一切處生身盡。對治者得如此對治。能盡一切生。所

作者智能所作使諸生盡。果者得智果。能盡一切生。人者言是人。能盡一切生。如攝法經所說。比丘盡欲漏者。是盡智。有六行。不復更盡。是無生智。亦有六行。六行者謂無常苦二行。及集四行。有漏無明漏說亦如是。復有說者。十六行外。更有聖道。問曰。若有者。智健度識身經中。何故不說耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。問曰。此有餘說有何義耶。答曰。若行能得正決定。得果離欲。及盡諸漏者。智健度識身經則說。若諸行不能得正決定。不得果不離欲。不盡諸漏者。然是聖所得道。爲受現法樂故。爲遊戲故。觀本所作故。受用無上聖法故。而起現在前。復有說者。若行現在斷煩惱時。能害煩惱。能有所作。有大功用者則說。現在斷煩惱時。彼諸行不能害結。不有所作。無大功用。是故不說。唯在未來

世中修。復有說者。若行在方便無礙解脫勝進道者則說。彼說諸行不在無礙道解脫道。或在勝進道。或在遠方便道。以是事故。智健度識身經不說。若作是說。十六行外有聖道者。想是聖道。若行於斷是斷想。若行無欲是無欲想。若行於滅是滅想。猶如一的。爲若木若鐵衆箭所中。如是一無爲體。爲三想所行。諸作。說。是十六行外。更有聖道者。斷想非離欲想。非滅想。乃至廣說。諸作是說。十六行外更無聖道者。彼想是緣。若緣斷是斷想。若緣無欲是無欲想。若緣滅是滅想。此文應如是說。若斷想是無欲想耶。答曰如是。乃至廣說。

阿毘曇毘婆沙論卷第十五

阿毘曇毘婆沙論卷第十五

阿毘曇毘婆沙論卷第十五

○唯二能○下同 ○壞一變○ ○苦二若○ ○若二苦○ ○(說)一○ ○說是一是說○ ○大頁 ○不分卷○

阿毘曇毘婆沙論卷第十六

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

譯

雜。捷度愛敬品第四

云何爲愛。云何爲敬。乃至廣說。如此章及解章義。此中應廣說優婆提舍。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經中說。若比丘習慚愧滿足。則有愛敬。雖作是說不廣分別云何爲愛。云何爲敬。今欲說故而作此論。復有說者。所以作此論者。欲斷小入法現大人法故。其事云何。答曰。小人愛則妨敬。敬則妨愛。云何愛妨敬。猶如在家法。父母於子。則有親愛。子於父母有愛無敬。出家法中。和上阿闍梨。於諸弟子。則有親愛。弟子於和上阿闍梨。有愛無敬。是名愛妨敬。云何敬妨愛。猶如在家法中。父母於子。教訓嚴難。欲令諸子遠惡修善。子於父母。有敬無愛。出家法中。和尙阿闍梨。於諸弟子。教訓嚴難。欲令諸弟子遠惡修善。諸弟子於和尙阿闍梨。有敬無愛。如是。小人愛則妨敬。敬則妨愛。大人不爾。若愛則加敬。敬則加愛。是故爲斷小入法欲現威勢大人法故。而作此論。佛出世時一人具此二法者多。佛不出世一人具此二法者少。設令有者。當知皆是菩薩摩訶薩云何爲愛。答曰。若愛乃至廣說。如是等言。盡說愛相。問曰。愛體性是何。答曰。愛有二種一

染污。二不染污。染污者體是渴愛。不染污者體是信渴。愛有二種。一是渴愛。二是愛。問曰。若渴愛是愛耶。答曰。若渴愛則。是愛。頗有愛非渴愛耶。答曰。有。不染污愛也。信亦有二種。一是信。二是愛。問曰。若信是愛耶。答曰。或有信非愛。或有信是愛。信非愛者。信而不求者是也。信是愛者。亦信亦求者是也。復有以此義。作四句者。或有信非愛。或有愛非信。乃至廣作四句。信非愛者。信其事而不求也。愛非信者。染污愛是也。亦信亦愛者。愛其事而求者也。非信非愛者。除上爾所事云何敬。若敬善敬。乃至廣說。如是等言。盡說敬相。問曰。此敬體性是何。答曰。體性是慚愧。云何愛敬。問曰。何故作此論。答曰。先雖說其體。未說此二法俱在一人身中。今欲說故。復作此論。云何愛敬。答曰。猶如有一。以愛敬故。意常念佛。凡夫人愛敬佛者。以佛力故。使我得離賦役。驅使種種苦事。使我復得種種資生隨意之物。聖人愛敬佛者。以佛力故。使我斷無始已來無量諸苦。盡惡道。因住決定法。見於真諦。正見清淨。復有說者。俱愛敬佛。意常念之。以佛力故。使我出家得比丘法及餘諸善安樂之利。如尊者。優陀耶言。世尊滅我無量惡法。益我無量善法。復次以佛出世故。淨三種眼。如尊者舍利弗言。若佛不出世。則我盲無目。過此一生。復次佛於此法最尊勝故。復有說者。佛是法主故。復有說者。無始已來七依之法。隱蔽不現。佛能開示。故復有說者。佛能令無數那由他衆生入涅槃

城故。復有說者。佛世尊。獨出無明。殼轉於法輪故。復有說者。以世尊說法故。今無量那由他衆生。種諸善根。亦令成熟。使得解脫。以佛說法故。使有念處。正斷神足。根力覺道。禪定解脫。三摩提。辦如是等一切功德。盡現世間。以如是等事。如凡夫聖人。愛敬於佛。亦愛敬法。意常念之。所以者何。能盡我身心等苦。亦依此法。能到涅槃。亦愛敬僧。意常念之。所以者何。以僧力故。使我出家受具足戒。得畜百一種物。得共^①和尙阿闍梨等梵行者。同^②依佛法。如是等人。我行道時。是我伴侶。以於如是等處。有愛有敬。故名愛敬。有人有愛無敬。有敬無愛。乃至廣作四句。有愛無敬者。如在家法。父母於子。和尙阿闍梨。於諸弟子。有愛無敬。有敬無愛者。如於有德他師長所不相伏習者。有敬無愛。亦敬亦愛者。如在家法。子於父母。弟子於和尙阿闍梨所。無愛無敬者。除上爾所事。愛敬四趣中。盡有此中所說愛敬。是佛法中所行者也。云何爲養。云何爲敬。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。爲斷小入法現大人法故。所以者何。小入養則妨敬。敬則妨養。養妨敬者。如在家法。父母老病。以衣服飲食。隨病醫藥。以養父母。而無有敬。出家法中。如諸弟子。威德多聞。善解法相。衆所知識。彼以衣服飲食。隨病醫藥。以養和尙阿闍梨。其師或時於弟子所。受經問義。如是等養妨於敬。大人不爾。若養則加敬。若敬則加養。佛出世時一人具此二法者多。佛不出世一人具此二法者少。設當有者。當知

①前頁 ②不分卷 (阿毘曇毘婆沙) 十雜 ③捷二 ④四十 (之一) ⑤和上一 ⑥和尙 ⑦ (信) ⑧十愛 ⑨是二 ⑩有 ⑪作二非 ⑫優陀耶 ⑬愛陀耶 ⑭般一 ⑮如 ⑯和尙 ⑰和上 ⑱依二 ⑲住

皆是菩薩摩訶薩也。菩薩若與人養，必加其敬。若與其敬，必加其養。以是事故。欲斷小人法現大人法。甚希有故而作此論。云何爲養。答曰養有二種。一者財。二者法。問曰財養體性是何。答曰或有說者。所捨物是。復有說者。身口業捨是。復有說者。能令諸根四大長養者是。評曰應作是說。財養體性是五陰。問曰爲是何趣耶。答曰除地獄趣。餘趣盡有。復有說者。六欲天中無所以者何。諸天若欲食時。以空金鉢置前。隨其福力飲食自出。何須財養。復有說者。彼飲食雖等有餘財物。可以與他。問曰何處施誰與誰取。答曰或有說者。畜生趣中。還施畜生。餓鬼趣中。施於二趣。人施三趣。天施前三趣。復有說者。能施四趣。若人以饒益他意施飲食。他人食之。四大諸根而得長養。是名爲施亦名爲養。雖有饒益他意。施他飲食。他人食之。不長養諸根四大。是名爲施不名爲養。若人害心。以雜毒食施他。他人以呪術藥草力。若是有德衆生。諸根四大。而更增長。是名爲養不名爲施。彼施者受不善報。問曰法養體是何耶。答曰或有說者。法養體性是名。復有說者。是語。復有說者。若聞法時生未曾有善巧方便。是法養體性。評曰應作是說。取其開法巧便相應共生法者。體是五陰。問曰何處有法養耶。答曰五趣盡有。何以知地獄趣中有耶。答曰曾聞彌多達子小生地獄中謂是浴室。而便說偈

時諸衆生聞說此偈。緣斯福故。從是命終脫地獄苦。云何知畜生道中亦有法養。答曰如迦寶闍羅鳥等。身行梵行。爲他說法者是也。餓鬼中如畢陵迦等是也。人天中者。盡可現見。天中六欲天。及色界諸天。非無色界天。何以知色界諸天亦有耶。答曰如手天子往詣佛所。作如是言。如今世尊。四衆圍繞而說諸法。聞者歡喜奉行。我還至無熱天中。諸天圍繞而爲說法。聞者歡喜奉行。亦復如是。以是事故。知色界天中亦有法養。若以饒益心。爲他說法。他聞法已。生善巧便。是名爲施亦名爲養。若以饒益心。爲他說法。他聞法已。不生善巧方便者。是名爲施不名爲養。若以諷刺心。爲他說法。他人聞已。以智慧心。生善巧便。是名爲養不名爲施。云何爲敬。若敬重敬。乃至廣說。敬體性是慚。如前說。云何敬養。問曰。何以復作此論。答曰。先已說敬養體性。未說一人具此二事故而作此論。云何敬養。答曰。猶如有一而敬養佛。問曰。何以敬養佛。答曰。以財敬養佛。不能以法。所以者何。不能生佛未曾有善巧便故。所以者何。以阿羅呵三藐三佛陀不用他法。法應爾故。問曰。何故此中不說敬養法耶。答曰。作緣義。是養義。彼法離緣故。問曰。若欲施法當施何處。答曰。法有二種。一者名數。二者真實。若欲施名數法者。應施說法人。若書寫經。若欲施真實法者。守護此物。當如敬佛塔。云何施僧法養。答曰。於衆僧中。作三契經偈。

作婆曷遮說決定義。種種問答是也。云何財養。答曰。若以種種飲食。施作長齋。般遮于瑟解經法會。供養和尙阿闍梨及餘清淨梵行者。問曰。誰施誰受。答曰。佛能施一切衆生。法養財養。一切衆生。能施佛財養。不能施法養。辟支佛能施一切衆生法養財養。除佛世尊。一切衆生能施佛施辟支佛財養。不能施法養。舍利弗能施一切衆生法養財養。唯除佛辟支佛。一切衆生能施佛辟支佛舍利弗財養。不能施法養。目犍連能施一切衆生財養法養。唯除佛辟支佛舍利弗。一切衆生能施佛辟支佛舍利弗目犍連財養。不能施法養。乃至利根者。能施鈍根者財養法養。鈍根者能施利根者財養。不能施法養。問曰。若無有能施佛法養者。世尊何故稱可阿難所說。讚言善哉善哉。如汝所言。精進能生菩提。亦稱讚憍耳比丘善哉善哉。汝能以微妙音聲。誦誦妙法。以阿槃提國語音聲遍滿。其言正直易解。令多人樂聞故。此說復云何通。如佛告阿難。我亦增益出家閑靜善法。答曰。何故稱讚阿難者。以阿難所說應時。是以稱可。何以知之。曾聞世尊遊行人間而患背痛。數辭多羅僧枕偈伽梨。右脇而臥告阿難言。汝今當爲諸比丘說法。爾時阿難爲諸比丘解說覺意。諸長老如來。以念覺意故而得成道。亦爲他說。乃至廣說。擇法覺意。精進覺意。當於阿難分別覺意時。世尊。自憶念過去無數阿僧祇劫行諸方便。皆是精進力。以憶念故。而起喜心。令此有患四大速滅。無患四大速生。背痛即除。尋起加

●施二捨● ●以何二何以● ●唯二惟●下同 ●誦二頌● ●(即)十自憶念● ●喜二善●

跌而坐告阿難言。汝說精進耶。阿難言如是。佛言善哉善哉。阿難實如汝所言。精進能生善提。以是事故稱可阿難稱讚。憶比丘者。或有說者。欲生彼比丘無畏心故。阿槃提國和尚大迦旃延。曾遣億耳。汝往佛所請求五願。所謂一求常澡浴。二求皮作敷具。三求毘尼師。作第五人。得受具戒。四求著。二重革屣。五求聽畜長衣過十夜。以此五事故來詣佛所。世尊威德。乃至梵釋護世者。不能側近正觀。以是事故不敢輒求。後世尊稱美乃敢求之。是故為令彼比丘生無畏故。而稱讚之。復有說者。欲饒益彼比丘故而稱讚之。所以者何。彼比丘。於阿槃提土地能作佛事。欲令彼諸人加尊重心故而稱讚之。復有說者。以善能誦持優陀那波羅延乘義經等。適可佛意故而稱讚之。復有說者。以修淨業令言音清妙故而稱讚之。所言增益出家閑靜善法者。諸轉轉出家。得正決定。證於道果。能離愛欲。亦盡諸漏。種佛道因。及緣覺聲聞道。因生於尊貴多財之家。眷屬成就。有大威勢。顏貌端正。能淨天道及解脫道者。皆是我力。以我力故。令多衆生於我法中出家。有如是等利而起喜心故。言我今增益出家閑靜善法。復有說者。欲離誹謗過故。讚歎阿尼盧頭等。欲令其人威德尊重故。讚歎目捷連等。欲顯有大功德故。讚歎舍利弗等。欲令生無畏故。讚歎如億耳比丘等。

云何身力。云何身力劣。乃至廣說。問曰何故作此論。答曰如毘婆闍婆提說。身力身力劣。不由於身。是心所為。為止如是說者意故。欲明力體是觸入故。而作此論。復有說者。所以作論者。欲止彌沙塞部意故。彼作是說。身力體是精進。身力劣體是懈怠。為止如是說者意故。欲明身力身力劣體是觸入。復有說者。所以作此論者。欲止譬喻者意故。彼作是論。說身力身力劣無有定體。如象力勝馬馬力勝牛。云何一體。即是身力。是身力劣。欲止如是說者意故。欲明身力身力劣是決定法故。若當身力非決定法。則非入所攝。非識所識。問曰若身力是決定者。譬喻者所說云何通。如象力勝。馬馬力勝。牛。答曰此因他故說。勝。如馬力於象。弱四大則多。強四大則少。牛力於馬。弱四大則多。強四大則少。然則強力常強。弱力常弱。以是事故。為止他意欲顯己義故。乃至廣說而作此論。一切有為法。力有強弱。所以者何。如眼明了能見。是名強力。不如者名為弱力。乃至身亦如是。如意善能知法。是名強力。不如者名為弱力。此中說身力身力劣。而作此論。

云何身力。答曰若身力身勇等。乃至廣說。如是等名。盡顯現力相。如二力士。角力。乃至廣說。以是義故。知身力身力劣觸入所攝。所以者何。由觸故。知是人力強。是人力劣。猶如二健夫。捉一力劣者。彼當捉時。展轉相知。如強力者捉劣力者。知其力劣。力劣捉強力者。亦知其力強。強力劣力。俱一入所攝。謂觸入二識所識。謂身識意識。身識識別相。意識識別相總相。以如是義。則止說身力不定者意。所以者何。若當身力身力劣不定者。則不應定說一入所攝二識識也。問曰身力身力劣體性是何。答曰或有說者。體性是四大。問曰若然者。何大增故身力強。何大增故身力劣耶。答曰或有說者。四大無增。自有相似四大生身力則強。有相似四大生身力則劣。復有說者。地大增故。身力則強。水大增故。身力則劣。外物亦爾。如陀婆樹。法陀羅樹。毘摩樹。婆陀羅樹等。以地大偏多故則堅。硬。如葦柳。瓠。胡麻。蔴。等。水大偏多故則弱。復有說者。身力。力劣。觸入所攝。體非四大。是造色性。問曰若然者。造色性有七種。何者增故身力強。何者增故身力劣耶。答曰重偏多故身力強。輕偏多故身力劣。外物亦爾。重者則強。輕者則劣。復有說者。七種造色外。更有身力身力劣。評曰應作是說。四大身等身力則強。四大不等身力則劣。如說菩薩有那羅延力。那羅延力齊量云何。答曰或有說者。十凡牛力。與一村天牛力等。十村天牛力。與一青牛力等。十青牛力。與一凡象力等。十凡象力。與一香象力等。十香象力。與一大力人力等。十大力人力。與一鉢建陀力等。十鉢建陀力。與半那羅延力等。二半那羅延力。與一那羅延力等。一那羅延力。與菩薩一節力等。是名菩薩身力。復有說者。此說甚少。十凡牛力。與一村天牛力等。乃至十凡象力。與一野象力等。十野象力。與一伽尼羅象力等。十伽尼羅象力。與一阿羅勒迦象力等。十阿羅勒迦象力。與一雪山象力等。十

○二二一○馬十(力)○牛十(力)○此二比○角二抽○硬二硬○幹二幹○(身)十力○

雪山象力。與一香象力等。十香象力。與一青山象力等。十青山象力。與一黃山象力等。如是次十倍。赤白優鉢羅拘物頭波頭摩說亦如是。十波頭摩象力。與一大力人力等。十大人力。與一鉢建陀力等。十鉢建陀力。與一沙楞伽力等。十沙楞伽力。與一婆楞伽力等。十婆楞伽力。與一章窣勒力等。十章窣勒力。與一婆羅章窣勒力等。十婆羅章窣勒力。與一半那羅延力等。一半那羅延力。與一那羅延力等。是名那羅延力量。復有說者。此說亦少。千伊那拔羅龍王力。與菩薩一節力等。曾聞十三天欲遊戲時。伊那拔羅龍王。其色純白。如拘物頭華七枝安立。具有六牙。頭赤如因提具波色。左右脇各二由。延半。前後各一由旬。如是遶身有七由。延。高二由旬半。此是常身有八千眷屬。彼諸眷屬。其色赤白。如拘物頭華七枝安立。具有六牙。頭赤如因提具波色。三十三天欲遊戲時。伊那拔羅龍王身上。自然有香手現。便作是念。今者諸天須我。即自化身。有三十二頭。頭有六牙。頭赤如因提具波色。第三十三者。是其常頭。一一牙上。化作七池。一一池中。化作七蓮花。一一花上。化作七臺。一一臺上。化作七絞絡帳。一一帳中。有七天女。一天女。有七侍者。二侍者。有七伎女。作是化已。往至諸天城中。所化三十二頭。三十二輔臣。及其眷屬而乘其上。常頭帝釋。及其眷屬。而乘其上。如是凡有一萬諸天家族。其身輕舉。猶如旋風吹於草葉。乘空而上。詣遊戲處。爾時諸天。都不自見有前後

者。到遊戲處。爾時諸天。各各詣遊戲園林。歡娛快意。爾時龍王。亦自化身。作天子形。而自娛樂。如是伊那拔羅龍王力。菩薩身者。有十八大節。一大節。有千伊那拔羅龍王力。如是等名菩薩身力。復有說者。此說猶少。菩薩身力。有十八大節。前所說者。是菩薩十八節中最下節力。第二所說。是菩薩次勝節力。第三所說。是第三節力。如是次第各轉倍勝。尊者婆檀陀說曰。意力無量。當知身力亦無量。何以知之。如阿耨多羅三藐三菩提道在未來世。必生現在前。爾時三千大千世界大地震動。以是事故。知意力無量。身力亦無量。問曰。若然者。何以言菩薩有那羅延力耶。答曰。以那羅延力世人所尚。是以為喻。然則意力無量。身力亦無量。問曰。以何等故。菩薩修集如是力耶。答曰。欲現一切皆勝事故。如菩薩於諸世間。一切事勝。所謂色族財富眷屬積集功德及諸名聞力亦應爾。如色族等。益於世間力亦應爾。復有說者。為阿耨多羅三藐三菩提故。所以者何。阿耨多羅三藐三菩提。應住如是堅牢身故。無有是處。以分別故說。若當阿耨多羅三藐三菩提住須彌山頂者。須彌山便當摧破。以力無畏甚尊重故。是以如來初成道時。舉足欲行。安徐蹈地。地震震動。復有說者。以阿耨多羅三藐三菩提故。於三千大千世界中。閻浮提閻浮提中有金剛座。自然而出。菩薩坐上。成等正覺。如是亦為阿耨多羅三藐三菩提故。積集堅牢之身。復有說者。以此力引致應化衆生故。是中應說化

力人喻諸釋子。射喻般涅槃時。堅石喻。曾聞世尊般涅槃時。詣波波村。爾時五百力士。修治道路。時有一石。長十二丈。廣六丈。諸力士等。盡其身力。不能令動。世尊既至。問諸童子。今何所為。答言。修治道路。世尊復問。我今為汝去此石耶。答言。可爾。佛告諸人。汝悉遠去。爾時世尊。以脚拇指。舉此大石。安置右掌中。復以手擲置虛空中。下復接之。以口吹散。令如微塵。散復還合。與本無異。時諸力士。而問佛言。如是之事。為是何力。世尊答言。以足拇指。舉著掌中。是我父母生身之力。後以手擲置虛空中者。亦是父母生身之力。以口吹散。令如微塵。是神足力。散復還合。如本無異者。是解脫力。時諸力士。復更問佛。頗更有力勝於世尊如是力不。佛答言。有。謂無常力。佛告力士。若是父母所生之力。及神足解脫力。今日中夜。當為無常力之所破壞。爾時力士。聞說是事。心生厭離。佛為說法。得見真諦。是故為欲引致應化衆生故。修集此力。問曰。菩薩何時具滿此力耶。答曰。菩薩年二十五時。具滿此力。從是以後。至年五十。其力無減。過是已後。其力轉減。復有說者。其力無減。所以者何。意力無減。故身力亦爾。評曰。應作是說。法身無減。生身有減。以是報故。如優陀耶言。今見世尊。身色損減。乃至廣說。問曰。餘衆生。有那羅延力不耶。答曰。如初所說。菩薩力。餘衆生尚無。何況餘說。然世界初成時。世界衆生。有那羅延力者。有半那羅延力者。有鉢建陀力者。有大力者。滿閻浮提。問曰。彼諸人

骨節相次云何。答曰。除彼四種人。其餘衆生。骨節相遠。若人力與象馬等者。骨節相近。大力者。骨相接。鉢建陀力者。骨節相鉤。那羅延力者。骨節連。瑣。菩薩骨節。蛟龍相結。如渴伽角辟支佛。名曰大力。問曰。轉輪王。爲有那羅延力無耶。答曰。轉輪王。無那羅延力。隨輪寶德身力及餘寶亦然。若其輪是金王四天下。其力最勝。若其輪是銀王三天下。其力轉減。若其輪是銅王二天下。其力復減。若其輪是鐵王一天下。其力最劣。佛在世時。三人有鉢建陀力。一是尊者阿難。二是跋闍鞞釋子。三是瞿毘迦釋女。問曰。辟支佛出世。爲如佛獨出。爲有俱者耶。答曰。或有說者。獨出無俱。所以者何。辟支佛根勝舍利弗。如舍利弗。並出於世。猶無是事。何況五百功德者一時俱出。問曰。若辟支佛不並出世。言有五百功德一時出世者。爲是何人耶。答曰。此皆本是聲聞。以緣悟菩提。故名辟支佛。若本種辟支佛。行成辟支佛者。獨出世間。當知如佛。

已說如來身力。今當說意力。如來有十力。所謂是處非處智力。乃至漏盡智力。問曰。力體性是何。答曰。體性是智體。是智身。已說體性。今當說所以。何等是力義。答曰。不爲他所伏義是力義。不爲他所覆蓋義是力義。不斷伏義是力義。善義決定知義能。擔義最勝義是力義。界者宿命智力。生死智力。在色界餘力。若是有漏是三界繫。若無漏者是不繫。地者宿命智力。生死智力。在根本四禪地餘力。有漏者在十一地。無漏者在九地。依者依

欲界身。行者是處非處智力。至一切道智力。行十六行。亦行非行。知業法集智力。行八行。亦行非行。第三第四第五第六智力。行十二行。亦行非行。宿命智力。生死智力。行於非行。漏盡智力。若以境界。行於四行。若以在身。則行十六行。亦行非行。緣境界者。是處非處智力。緣一切法。知業法集智力。緣苦集諦。第三第四第五第六智力。緣於三諦。除滅諦。至一切道智力。緣於四諦。宿命智力。緣於前世。欲色界五陰。生死智力。緣於色入。漏盡智力。若以境界。緣於滅諦。若以在身。緣一切法。念處者。知欲智力。宿命智力。是法念處。生死智力。是身念處。漏盡智力。若以境界。是法念處。若以在身。是四念處。餘力是四念處。智者。是處非處智力。至一切道智力。是十智。知業法集智力。是八智。除滅智道智。第三第四第五第六智力。是九智。除滅智。宿命智力。如舊阿毘曇人說。是等智尊者婆已說。是四智。法智。比智。苦智。等智。尊者瞿沙說。是六智。除盡智無生智滅智他心智。評曰。應如前說。一等智者。好生死智力。舊阿毘曇人說。是一等智。尊者婆已說。是四智。法智。比智。集智。等智。眞實義者。是一等智。漏盡智力。若以境界是六智。除他心智苦智集智道智。若以在身。則有十智。所以者何。此十智於如來身中。盡可得故。根者總而言之。則與三根相應。過去未來現在者。是三世法。緣過去未來現在世者。是處非處智力。至一切道智力。緣於三世。亦緣非世。第二第三第四第五第六智力。

緣於三世。宿命智力過去現在者。緣過去世未來世。當生者緣過去世。若不生者。緣於三世。生死智力過去者。緣過去世。現在者。緣現在世。未來當生者。緣未來世。不生者。緣於三世。漏盡智力。若以境界。緣非世法。若以在身。緣於三世。亦緣非世。善不善無記者。是善緣善。不善無記者。知禪解脫三摩提智力。緣善無記。漏盡智力。若以境界緣善。若以在身。緣善不善無記。餘力緣三種繫者。宿命智力。生死智力。色界繫餘力。有漏者三界繫。無漏是不繫。緣三界繫者。宿命智力。生死智力。緣欲色界繫。知業法集智力。緣三界繫。漏盡智力。若以境界。緣不繫。若以在身。緣三界繫及不繫。餘力緣三界繫。緣不繫。是學無學非學非無學者。宿命智力。生死智力。是非學非無學。餘力若是無漏。是無學。若是有漏。是非學非無學。緣學無學非學非無學者。知業法集智力。宿命智力。生死智力。緣非學非無學。漏盡智力。若以境界。緣非學非無學。若以在身。能緣三種。餘力三種盡緣。見道斷修道斷不斷者。宿命智力。生死智力。是修道斷。餘力若有漏。是修道斷。若無漏。是不斷。緣見道斷修道斷不斷者。知業法集智力。宿命智力。緣見道斷修道斷。生死智力。緣修道斷。漏盡智力。若以境界。緣不斷。若以在身。緣於三種。餘力三種盡緣。緣名緣義者。知欲智力。生死智力。緣義漏盡智力。若以境界緣義。若以在身。則緣名義。餘力亦緣名亦緣義。緣自身他身非身者。是處非處智力。至一切道智力。緣

●項二續三● 一三二● 俱十(者)● 卷第二十二終● 卷第二十三雜建度愛敬品之二首● 卷第二十三雜建度愛敬品第四之二首● 造號釋號譯號同異俱如卷第十一● 續二首● 宿命智力如宿●

自身他身亦緣非身法漏盡智力。若以境界緣於非身。若以在身。三種盡緣。餘力緣自身。他身問曰。此諸力。為從方便生。為從離欲得。耶答曰。可言從方便生。亦從離欲得。所以者何。以從三阿僧祇劫積集方便生故。言從方便生。以從離非想非非想處欲得故。言從離欲得。問曰。何處生此力。答曰。依欲界身。生

闊浮提非餘方。依男子身非女身。問曰。知業法集智力。生死智力。有何差別。答曰。從龜至細。是生死智力。從細至龜。是知業法集智力。如龜細現見不現見因果。當知亦如是。已說力無畏。今當說三藐三佛陀有四無所畏。乃至廣說。問曰。無畏體性是何。答曰。體性是慧身。初力是初無畏。第十力是第二無畏。第二力是第三無畏。第七力是第四無畏。一一力攝四無畏。一一無畏攝十力。則有四十四力。十無畏。佛略說故。我成就十力四無所畏。廣說則成就四十力四十無畏。已說體性。所以今當說。何等是無畏義。答曰。不可動義是無畏義。勇猛義是無畏義。不怯弱義是無畏義。安隱義清淨義純白義是無畏義。

問曰。力即是無畏。為異無畏耶。答曰。諸力即是諸無畏。如先所說。初力即初無畏。乃至廣說。問曰。若然者。力與無畏。有何差別。答曰。無有差別。如說無畏即力。力即無畏。復有說者。名即差別。所以者何。是名為力。是名無畏。復有說者。初立是力。已立不動是無畏。復次有堅強是力。勇決是無畏。復次不為他所伏是力。不怯弱是無畏。復次智是力。辦是無

畏。復次因是力。果是無畏。復次不為他所蓋是力。能蓋他是無畏。復次自饒益是力。饒益他是無畏。自利利他亦爾。復次自覺是力。為他說是無畏。積集是力。受用是無畏。受財義是力。分財義是無畏。復次知醫方是力。治他病是無畏。復次法義無礙是力。辭樂說無礙是無畏。復次讚求法義無礙是力。讚求辭樂說無礙是無畏。諸餘分別如力中說。如來有大悲。問曰。大悲體性是何。答曰。是慧。復有說者是照。評曰。不應作是說。如前說者好。大悲當知即是處非處力。地者是第四禪地。其餘分別。應隨相說。問曰。此中何以唯說力無畏大悲。不說三念處耶。答曰。是三種於說法分中。勝三念處不爾。說力則顯現自義。說無畏則現摧伏他義。大悲則生欲說法心。三念處不爾。是故不說。

如來亦說成就七法。彼七法者。當知即是處處非處力。如來若更有餘不共法者。當知盡是是處非處力。問曰。此七為是幾智性耶。答曰。知法知量知眾。此是一等智。知義者諸作是說。涅槃是第一義者。是六智性。除苦集智他心智道智。諸作是說。一切法是第一義者。是十智性。知時知人。是九智性。除滅智。自知是八。知性。除滅智他心智。尊者婆已說曰。自知是四智性。謂法智比智道智等智。評曰。如此諸所說。可有是理。但彼經所說七法義。是一等智。如來有五聖智三昧。此亦是是處非處力。五智者。法智比智道智盡智無生智。

阿毘曇毘婆沙論卷第十六

阿毘曇毘婆沙論卷第十七

阿毘曇毘婆沙論卷第十七

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

雜毘度愛敬品中

云何數滅。云何非數滅。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。為止並義者意。如譬喻者說。三種滅無體。為止如是說者意。欲明三種滅各有體相故而作此論。復次所以作此論者。毘婆闍婆提說。三種滅皆是無為。欲止如是說者意。說三種滅。二是無為。一是有為故而作此論。

云何數滅。答曰。若滅得解脫是也。彼法滅。彼得解脫。得解脫得是名數滅。云何非數滅。答曰。若滅非解脫是也。彼法若滅。彼得不得解脫。不得解脫得是名非數滅。云何無常滅。答曰。諸行散滅是也。無常滅。散滅諸行。非如散豆穀等。無常滅。令諸行於前一剎那能有所作。於後剎那。更不能有所作。非無行體。止其所作故。作如是說。問曰。非數滅無常滅。有何差別。答曰。非數滅者。疾瘦困厄自作他作苦惱種種魔事。如是隨世等法。若得解脫。是名非數滅。若說疾瘦困厄自作他作苦惱種種魔事等法。若得解脫。是名有漏諸行得非數滅。若說隨世等法。若得解脫。是名無漏諸行得非數滅。所以者何。無漏諸行。亦在世故。無常滅者。令諸行散滅。乃至廣說。問曰。

何故但問非數滅無常滅。不問數滅耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。先已說差別。如說云何數滅。其滅者是解脫。乃至廣說。二滅者非解脫。是以問其差別。復有說者。以此二滅俱不用功滅故。復有說者。盡應問三種滅差別。云何數滅。答曰。若滅是解脫不繫相。非數滅者。是解脫非不繫相。無常滅。非是解脫。亦非不繫相。復有說者。數滅三世陰入界中可得。非數滅未來世不生法中可得。無常滅現在世中可得。復有說者。數滅是善。彼得亦善。非數滅是無記。彼得亦是無記。無常滅有三種。彼得亦有三種。復有說者。數滅是不繫。彼得是繫不繫。非數滅是不繫。彼得是繫。無常是繫不繫。彼得亦是繫不繫。復有說者。數滅是非學非無學。彼得亦是學無學非學非無學。非數滅是非學非無學。彼得亦是學無學非學非無學。無常滅三種。彼得亦三種。復有說者。數滅是不斷。彼得或修道斷或不斷。非數滅是不斷。彼得是修道斷。無常滅三種。彼得亦三種。復有說者。數滅是道果。彼得或道是道果。或非道非道果。非道滅非道果。彼得非道非道果。無常滅或道非道果。或道亦道果。或非道非道果。彼得亦爾。復有說者。數滅是滅諦所攝。彼得是三諦所攝。非數滅非滅諦所攝。彼得苦集諦所攝。無常滅三種諦所攝。得亦爾。問曰。何等是數滅義。答曰。數者是慧。滅是慧果。故名數滅。復有說者。別數得故。言是數滅。如見苦時苦忍苦智所得別。見集見滅見

道所得亦別。故名數滅。復有說者。以難得多用功故。名為數滅。問曰。此滅為是一體。為是多體耶。答曰。或有說者。是一體。問曰。若是一體者。證見道所斷諸結滅時。亦證修道所斷諸結滅不耶。若證者則修道無用。若不證者。云何一體法。少分證少分不證。復有說者。滅體有五見苦所斷煩惱滅。是一種。乃至修道所斷煩惱滅。是第五種。問曰。此亦有過。所以者何。如證欲界修道所斷上上使滅時。復證餘品使滅不耶。若當證者。餘品對治道。則無功用。若不證者。云何一體法。少分證少分不證。復有說者。滅體有十三。見道所斷有四。修道所斷有九。問曰。此亦有過。所以者何。若證欲界修道所斷滅時。復證初禪修道所斷滅不。若證不證。俱同前過。評曰。應作是說。隨有漏法體滅體亦爾。問曰。若然者。先何故問涅槃為一體為多體耶。答曰。先應作是問。若一衆生。證一法滅時。一切衆生。亦同證此滅不耶。若同者。云何涅槃不是共法。一衆生得涅槃時。一切衆生。亦應得涅槃。若異者。云何涅槃非是相似法耶。此經復云何通。如說如來解脫。阿羅漢解脫等。無差別。答曰。應作是說。如一衆生證此法。一切衆生亦同證此法。問曰。若然者。云何涅槃不是共法耶。答曰。以體言之則同。以得言之則異。所以者何。以諸得各異故。問曰。若然者。云何不一衆生得涅槃時。一切衆生亦得涅槃耶。答曰。若成就涅槃得者得涅槃。若不成就者。不得涅槃。復有說者。若一衆生。證此滅時。餘衆生所證

者各異。問曰。若然者。云何涅槃非是相似法。答曰。言非相似者。非相似因以涅槃無相似因故。言非相似法。問曰。若然者。苦法忍無相似因。亦是非相似法耶。答曰。苦法忍雖不從相似因生。而能與他作相似因。涅槃不從相似因生。亦不與他作相似因。復有說者。以不同故。言不相似。有為法性同。云何性同同在世。同是陰。同是苦。無有一法是常是善者。復有說者。世法是同。彼非世故不同。如是陰法苦法諸生法諸趣法。當知亦爾。復有說者。前後是相似。彼法無前後。故言不相似。如前後上中下法亦如是。如來解脫。羅漢解脫。此經云何通者。以俱是常是善故。復有說者。以在一身中決定俱有故。所以者何。一切衆生盡有三種菩提性。所謂佛辟支佛聲聞菩提。若從佛道去。亦證此法。若從辟支佛聲聞道去。亦證此法。是故言無差別。評曰。不應作是說。如前說者好。問曰。外物中數滅為有得者不耶。若得者衆生不成就外法云何得。若得者此經復云何通。如說諸長老。我斷一切愛。得內解脫。若不得者此經復云何通。如說云何斷界。答曰。一切諸行斷。是名斷界。乃至廣說。答曰。應作是說。有得者。問曰。若然者不成就外法。云何得耶。答曰。雖不成就外法。而得外法數滅。如過去未來命等八根。雖不成就。得其數滅。我斷一切愛。得內解脫。此經云何通者。此說若內得解脫。當知外法亦得解脫。復有說者。以此解脫從自身修方便得。不由外人修方便得。

是故言得內解脫。復有說者。不得外法中數滅。問曰。若然者。此經云何通。如說一切諸行。斷名斷界。乃至廣說。答曰。有二種一切。有分一切。有一切一切。此中說分一切。故言一切。復有說者。外物中有數滅。而不可得評曰。不應作是說。寧當說無。不應說有而不可得。何用是無用物。為亦有亦得。如是說者好。若當外物數滅不可得者。則遠波伽羅那經。如說云。何得作證法。答言。一切善法。此法是善。亦得可得證。欲令無如是過故。說言可得。

問曰。此數滅體。為是陰為非陰耶。若是陰者。何不本是涅槃。何以故。先有諸陰故。若非陰者。云何為無所有法。而修於道。答曰。應作是說。體非是陰亦非陰。然從色陰乃至識陰體得之。此數滅亦名涅槃亦名不相似。亦名非品亦名無跋那。跋那秦言色亦言性亦言稱讚亦言字亦言最勝亦名智。亦名應亦名不親近。亦名不修亦名可樂。亦名近亦名妙亦名離。問曰。何故言涅槃。答曰。涅槃言離。永離陰林離三火林離四林。故言涅槃。復次不織義是涅槃。如先說。何故名不相似者。無相相似因故。如先說。無上中下等故。何故名非品者。離諸品故。如說有為法體性是品。諸作是說。有住相者。四相及彼法五法。是俱生品。諸作是說。無住相者。三相及彼法四法。是俱生品。彼法無如是相故。名為非品。復有說者。世是品法。彼法離世。名為非品。諸陰諸苦諸生諸趣說亦如是。何故名無跋那者。稱讚之體。已自成故。不待復更稱讚。如人本性賢善。不待稱讚。

本賢善故。彼亦如是。復次有為法中。或以因稱果。或以果稱因。彼法無果可以稱因。無因可以稱果。復次諸聖親證此法故。不待稱讚。復次不稱讚者。有無邊稱讚。如人大德言。此人德不可說。彼亦如是。復次不可稱讚者。周匝有美。稱讚。如淨明珠。周匝除闇。彼亦如是。亦如阿波那加珠所在之處。而便安立。如是若解脫得。在人身中。此身名為安立。復次不可稱讚者。名為非稱。無有人能如法說其過者。名為非稱。復有說者。離諸性故。言無跋那。此中無利利婆羅門居士首陀性故。言無跋那。亦無青黃等色。故言無跋那。有為法或性是色。或依色。或為色作所依。彼法性。非是色。亦非依色。亦不為色作所依。何故名最勝者。以上妙故名最勝。如世間以上妙飲食衣服。纏絡等故名最勝。尊者瞿沙說曰。彼法是最勝。以是通暢究竟法故。何故名智者。以智果故。如經中說。六入是業。六入是業果。以業名說。如斷是智果以智名說。如天眼天耳是通果以通名說。彼亦如是。是智果故。以智名說。何故名應者。應受供養故名應。世界所有上供。盡應受故。何故名不親近者。以無可親近故。有為法以貪其果。而親近之。如人為貪蔭涼花果故親近於樹。彼法與上相違故。名不親近。問曰。若說不親近者。何以故。經中說親近明人耶。答曰。以得智故。明人者佛若佛弟子。以親近故。得所緣忍智及成就得。是故說親近。復有說者。明人所依去故說親近。如說阿羅漢去至涅槃何故名不修者。以不在

身中。若法住在身中者。修彼法不在身中。是故不修。復有說者。以無可修法故。如阿毘曇所說。修法彼中無故。名曰不修。復有說者。以無可親近事故。所以不修。問曰。若不修者。此偈云何通。如偈說

瞿曇坐樹下 禪思不放棄
不久履道迹 涅槃在心中

答曰。如尊者波奢所說言。涅槃在心中者。心中成就涅槃得故。何故名可樂者。以離一切苦故。聖人畏苦涅槃。無身心苦故。聖人樂之。如苦惡戒生死增長老死。說亦如是。世尊經說時。解脫是樂法。無漏戒是樂戒者。以能到涅槃故。何故名近者。以是有法故。或有說是非有法。而彼法實有體性。是故說近。以是事故。世尊經說。行者精進成就十五法。是名學迹。得近涅槃。復次不選擇身故名近。若利利修道。即證婆羅門。毘舍首陀修道亦證。復次不選擇處所故名近。若於村落。若於靜處。修道即得。復次以是近觀故名近。諸聖起緣。彼忍智現在前。正觀此法。如在目前。復次以比相故知近。如波伽羅那經所說。云何遠法。謂過去未來法。云何近法。謂現在前。及無為法。復次住近處得故名近。近處者謂現在世。現在世證故名近。復次捨近法得故名近。近法名現在。聖人捨現在。法入涅槃故名近。尊者瞿沙說曰。精勤次第趣向。修正方便者得故名近。復次聖道所依身定故。此法不爾名近。若依此身。應起聖道。餘身不能。涅槃不爾。隨修道所依身則能證。是名為近。問曰。何故

善一諸 答曰一 非十(非) 跋那...字十五字 亦十無 說一 稱十(讚) 纏絡二 結 瑠璃 觀二觀

名妙耶。如道亦是妙。何以獨稱涅槃為妙。波伽羅那所說云何妙法。無漏善法是也。答曰。道雖是妙。涅槃是妙中妙。復次道雖是妙。難無常過故。涅槃不爾。復次道有對治厭惡善根故。如空空三昧無相三昧無願無願三昧。無有善法能厭惡涅槃者故名為妙。問曰。涅槃何故名離耶。如道亦是離相。如波伽羅那所說云何離法。答言。欲界繫。或色無色界繫。出要寂靜善定學法無學法。數滅等法是也。答曰。涅槃。唯是離道是離是可離。復次捨一切法故言離。有漏法有二種捨。一者離欲捨。二者棄捨。無漏有為法。雖無離欲捨。而有棄捨。涅槃無離欲捨。亦無棄捨。復次第一義是離。以色故離欲。以無色故離色。諸有所作。諸有所思。以涅槃故離。

云何非數滅。答曰。是滅非解脫。問曰。何故名非數滅。答曰。不以功作而得。是名非數滅。所以者何。如人住此四方所有色聲香味觸。是五識身所緣法。不以功作而住。不生法中。故非數滅。問曰。以何法能得此法耶。答曰。或有說者。以過去未來陰入界。非現在世所以者何。以陰入界現在身中可得故。如此說者。一剎那中。有得有剎那生時失。剎那滅時得。復有說者。未來世中得非過去。所以者何。過去諸陰。曾在身中。今日陰即在身故。此說亦有過。所以者何。未來法生時。此法亦捨故。評曰。於未來不生法中得。如是說者好。以是故。一切時常增益。問曰。數滅多。非數滅多耶。答曰。或有說者。數滅多。非數滅少。所以者

何。數滅於過去未來現在法中得。非數滅唯未來不生法中得故。復有說者。非數滅多。數滅少。所以者何。非數滅有漏無漏法中得。數滅唯有漏法中得故。評曰。應作是說。此二法俱無量無邊。以是事故應作四句。有法是數滅所得非非數滅所得。有法非數滅所得非非數滅所得。有法亦數滅所得亦非數滅所得。有法非數滅所得亦非非數滅所得。初句者過去現在有漏法。及未來世生者是也。第二句者未來世不生無漏法是也。第三句者謂未來世不生有漏法是。第四句者謂過去現在無漏法。未來世必生無漏法是也。如住此凡夫人得五道中五識非數滅。所以者何。彼中所有色聲香味觸。緣彼識住。在不生法中故。是以得彼非數滅。如此處色聲香味觸。彼五處衆生。亦於此得非數滅。若惡道分已斷者。彼盡得惡道中非數滅。問曰。誰能斷惡道。答曰。或是布施。或是持戒。或是聞慧。或是思慧。如不淨阿那般那念處。或是修慧。如煖法頂法至忍必斷。尊者婆檀陀說曰。若不因覺知緣起法。則不斷惡道。此說云何。言覺知緣起法者。盡是無漏道。評曰。不應作是說。如是說者好。或以布施。或以持戒。得惡道非數滅。乃至以頂得惡道非數滅。自有衆生。得如上善根惡道分斷。鈍根者。乃至忍斷。問曰。為一時得三惡道非數滅。為次第得耶。答曰。或有說者。三種一時得。問曰。若爾者。提婆達多生地獄中。豈非得餓鬼畜生非數滅耶。答曰。唯除地獄一生分。餘地獄生分。及

餓鬼畜生分一時得。評曰。若起達分善根。斷惡道者。一切惡道。得非數滅。若施等斷惡道。此則不定。若斷地獄。則得地獄非數滅。餘則不定。餘趣亦如是。若以達分善根。斷惡道者。彼惡道一時非數滅。已說得惡道非數滅。復云何得生處非數滅。答曰。住增上忍時。除人天中七生分色無色界一切處一生分。其餘諸生皆得非數滅。須陀洹趣斯陀含果。住方便道不起。得斯陀含得欲界六生分非數滅。若起得者。住第六無礙道時得也。若斯陀含趣阿那含果。住方便道不起。得阿那含得欲界一生分非數滅。最後無礙道。當得欲界一切生分數滅。若起得者。最後無礙道得。欲界一生分非數滅。當得欲界一切生分數滅。離初禪欲時。若是不退法。住方便道不起者。得初禪二分二生分非數滅。最後無礙道。當得初禪一切生分數滅。若起者。最後無礙道。得二生分非數滅。當得一切生分數滅。若是退法。若起若不起。最後無礙道。當得初禪地一切生分數滅。不得非數滅。乃至離無所有處欲。說亦如是。若離非想非非想處欲。若是不退。住方便道不起者。得非非非想處一生分非數滅。最後無礙道。當得非非非想處一切生分數滅。若起者。最後無礙道。得非非非想處一生分非數滅。當得一切生分數滅。若是退法不起。離欲者。住方便道。得八地餘生分非數滅。最後無礙道當得非非非想處一切生分數滅。若起者。最後無礙道。得八地中餘生分非數

①妙十(法)②唯一惟③下同 ④達二遠⑤

滅。當得非想非非想處一切生分數滅。

已說生處。諸煩惱復云何。答曰。住增上忍時。

得三界見道所斷煩惱非數滅。隨無礙道隨

種當得數滅。若是聖人。是不退法。是不起離

欲界欲隨所斷種種住方便道。得非數滅。隨無

礙道隨種。當得數滅。若起者。隨無礙道隨種。

得非數滅。當得數滅。若是退法。若起者。不

隨無礙道隨種。不得非數滅。當得數滅。乃至

離非想非非想處欲。亦如是。問曰。退法者

於諸煩惱。何時得非數滅。答曰。或有說者。若

信解脫轉根得見時。解脫轉根得不動。評

曰。應作是說。若得決定更不退。爾時得諸煩

惱非數滅。以是事故。而作四句。或有煩惱先

得非數滅。後得數滅。先得數滅。後得非數滅。

或有俱得。或有俱不得。初句者。住增上忍。於

三界見道所斷煩惱。是不退法。不起離欲。住

方便道修道所斷煩惱。是謂先得非數滅。後

得數滅。第二句者。若是退法。三界修道所斷

煩惱。是謂先得數滅。後得非數滅。第三句者

若是不退法。起離欲。隨無礙道隨種。得非數

滅。得數滅。復有離欲界欲。斷上上煩惱時。染

污五識身。於所緣得非數滅。得數滅。乃至離

八種欲亦如是。若斷下下煩惱時。彼下下染

污五識身。於所緣得非數滅。得數滅。亦得欲

界善不隱沒無記行數滅。離初禪欲。斷上上

煩惱。彼上上染污三識身。於所緣得非數滅。

得數滅。離八種欲亦如是。若斷下下煩惱時。

彼初禪下下染污三識身。於所緣得非數滅。

得數滅。亦得初禪地善不隱沒無記行數滅。

是謂俱得。第四句者。除上爾所事。

已說煩惱道復云何。答曰。堅信人行堅信

道時。於堅法道。得非數滅。堅法人行堅法道

時。於堅信道。得非數滅。見到人行見到道時。

於信解脫道。得非數滅。非時解脫人。行非時

解脫道時。於時解脫道。得非數滅。聲聞人於

聲。聞道決定者。於辟支佛道。得非數滅。

辟支佛人。於辟支佛道。決定者。於佛道。聲聞

道。得非數滅。求佛道者。於佛道。決定時。於聲

聞辟支佛道。得非數滅。阿羅漢有六種。一退

法。二思法。三護法。四等住。五能勝進。六不

動。問曰。此諸阿羅漢。於何時得非數滅耶。答

曰。若退法者。於退法。決定者。於五種。得非數

滅。若不決定者。不得。乃至能勝進說亦如是。

不動法者。得不動法。於五種道。得非數滅。

問曰。非數滅。皆是勝進時得。何以不是道果

耶。答曰。本離欲時。不為此法。作方便得故。若

當為非數滅。作方便者。非數滅。則不可得。所

以者何。若心貪著。有是人。不能過三惡道。若

心為涅槃。能過惡道。

問曰。非數滅。得。是何心果。答曰。或有說者。

是造受生處心果。復有說者。若心能使生相

續。是彼心功用果。評曰。應作是說。隨住何心

得非數滅。即彼心果。問曰。於何法。得非數滅。

答曰。於三界繫及不繫法中得。生欲界於此

四法中得。生色無色界亦如是。非數滅。得。隨

生何地。即彼地繫。

問曰。非數滅。於何法。得增長耶。答曰。生欲界

中。於欲界繫五識身。而得增長。亦有緣現在

欲界意識身。而得增長。然微細難現。於色界

三識。無量解脫勝處一切處。而得增長。無色

界唯一切處。生色界中。欲界五識身。而得

增長。意識亦得增長。然微細難現。色界三識

無量解脫勝處一切處。而得增長。無色界唯

一切處。生色界中。於欲界五識色界三識。無

量解脫勝處一切處。而得增長。

問曰。聖人生色界中。於欲界繫。何法中。得非

數滅耶。答曰。初禪命終。生二禪中。初禪果。

欲界變化心。得非數滅。若生三禪中。初禪二

禪果。欲界變化心。得非數滅。若生第四禪中。

初禪二禪三禪果。欲界變化心。得非數滅。乃

至第三禪命終。生第四禪中。第三禪果。欲界

變化心。得非數滅。問曰。色界命終。生無色界

中。於欲界繫何法中。得非數滅耶。答曰。若初

禪命終。生無色中。四禪果。欲界變化心。得非

數滅。第二禪命終。生無色中。三禪果。欲界變

化心。得非數滅。第三禪命終。生無色中。二禪

果。欲界變化心。得非數滅。第四禪命終。生無

色中。一禪果。欲界變化心。得非數滅。聖人生

無色界中。於欲色界繫法。不得非數滅。所以

者何。先已得故。

問曰。先入涅槃。阿羅漢。得非數滅多。後入涅槃

阿羅漢。得非數滅多耶。答曰。前入涅槃者

多。迦葉佛時。入涅槃者則多。釋迦牟尼佛時

入涅槃者。釋迦牟尼佛時。入涅槃者則多。彌

勒佛時。入涅槃者。問曰。何等阿羅漢。成就非

數滅最多。答曰。生無色界阿羅漢。住最後心

者。於一切法。得非數滅多。頗有陰界入永滅

◎卷第二十三終◎ ◎卷第二十四雜度愛敬品之三首◎ ◎卷第二十四雜度愛敬品第四之三首◎ 造號釋號譯號同異俱如卷第十一 ◎於十欲界◎ ◎無十色界◎

而不得非數滅耶。答曰。謂阿羅漢住最後心。評曰。不應作是說。所以者何。無有陰界入永滅而不得非數滅者。問曰。阿羅漢住最後心時。非是不得非數滅耶。答曰。非不得。所以者何。阿羅漢若決定欲入涅槃時。爾時除若五心六心。當起現在前。餘陰界入悉得非數滅。

世尊說。有二涅槃界。謂有餘身涅槃界。無餘身涅槃界。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。上說云何數滅。答曰。若滅是解脫。彼數滅有二種。一是有餘身涅槃界。二是無餘身涅槃界。未說云何有餘身涅槃界。無餘身涅槃界。今欲說故而作此論。復有說有餘身涅槃界有體。無餘身涅槃界無體。復有說有餘身涅槃界是善。無餘身涅槃界是無記。復有說有餘身涅槃界是道果。無餘身涅槃界非道果。復有說有餘身涅槃界是諦所攝。無餘身涅槃界非諦所攝。復有說有餘身涅槃界是有為。無餘身涅槃界是無為。有漏無漏亦如是。為止如是說者。意欲明此義俱是無漏。以是事故。為止他義欲顯己義。乃至廣說而作此論。云何有餘身涅槃界。答曰。阿羅漢住壽。四大未滅。乃至廣說。四大者即四大是也。諸根者造色是也。相續心者是心心數法也。若此四大造色。心心數法未滅。是有餘身涅槃界。復有說者。四大是四大身。諸根即諸根。相續心是覺性。若身諸根。覺性未滅。是有餘身涅槃界。如是等諸有餘故。名有餘身涅槃界。身有二種。一煩惱身。二生身。雖無煩惱身。而

有生身。復有說者。身有二種。有染污不染污。染污已盡。唯有不染污。是故說四大等。有餘故言有餘。四大為生何法。謂生造色。依造色能生心心數法。乃至廣說。彼斷一切結得作證。是名有餘身涅槃界。云何無餘身涅槃界。若阿羅漢。已入涅槃四大滅。乃至廣說。四大者即四大。諸根者是造色。相續心者是心心數法。若此四大諸根心心數法滅。是名無餘身涅槃界。復有說者。四大身。諸根即諸根。相續心是覺性。若身諸根覺性滅。是名無餘身涅槃界。問曰。此文不應作是說。身諸根覺性滅。名無餘身涅槃界。應作是說。阿羅漢斷一切結盡入於涅槃。是名無餘身涅槃界。而不說者。有何意耶。答曰。彼尊者依世俗言。說信經故而作是說。阿羅漢死時。風大能損火大火大損故。飲食不消。飲食不消故四大羸。四大羸故諸根亦劣。諸根劣故不能與心心數法作所依。心心數法無所依。故則不生心心數法。不生便是無餘身涅槃界。身有二種。一者生身。二煩惱身。彼二種身俱滅。是名無餘身涅槃界。復有說者。身有二種。謂染污不染污。二種身俱滅。一切結使斷。是名無餘身涅槃界。問曰。此中何以不說斷一切結得作證耶。答曰。以現在得作證。故言得作證。彼時現在得滅。故不言得作證。復有說者。有眾生處有得誰得此得言。是提婆達多延若達多。彼中無如是眾生差別故。唯。此法性。是故不說得作證等。

問曰。凡夫人學人斷。為是有餘身涅槃界。

為是無餘身涅槃界耶。答曰。亦不名有餘身涅槃界。亦不名無餘身涅槃界。但名為斷。亦名無。亦名為滅。亦名為諦少分。是斷智少分。非斷智少分。是沙門果少分。非沙門果。問曰。頗有阿羅漢不住有餘身涅槃界不住無餘身涅槃界耶。答曰。如經本所說。有。如說。具三事者。名有餘身涅槃界。無三事者。名無餘身涅槃界。生色界阿羅漢。入滅盡定。唯有四大諸根。無相續心。生無色界阿羅漢。唯有相續心。無諸根四大。生欲界阿羅漢。唯有四大相續心。有諸根不具者。評曰。如是諸阿羅漢。皆當言住有餘身涅槃界。經文應如是說。云何住有餘身涅槃界。答曰。阿羅漢住壽。一切結盡得作證。云何無餘身涅槃界。答曰。阿羅漢一切結盡入涅槃。若作是說。盡攝生欲界生色無色界有心無心具根不具根者。

涅槃當言學耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。先說數滅。是二種涅槃界。乃至廣說。未說是學無學非學非無學。今欲說故。而作此論。復次何故作此論者。為止並義者意故。如犢子部說涅槃有三種。是學無學非學非無學。若學斷諸結得作證。是名學。若無學斷諸結得作證。是名無學。若非學非無學斷諸結得作證。是名非學非無學。為止如是說者。意欲顯己義。而作此論。涅槃當言學無學非學非無學耶。答曰。涅槃當言非學非無學。復有說者。涅槃是學無學非學非無學。此是犢子部所說。所以者何。彼說涅槃有三種性。若學斷諸結得作證是

①[非]一②③ ④雖二惟⑤⑥ (四大者即)十四大身⑦⑧ ⑨此二是⑩⑪ ⑫無十(欲)⑬⑭

名學也。無學非學非無學。說亦如是。作如是說者則有大過。云何一解脫體爲三。得所得便有三性。如我義者。如此文。如此義。如此論。如我等意。涅槃是非學非無學。此是尊者迦旃延子。欲顯己義經本應齊作是說。不應作餘說。所以者何。若作餘說。育多婆提所說有過。復有說者。應作餘說。所以者何。毘婆闍婆提。問育多婆提。如是汝說涅槃是非學非無學耶。此是問亦是定言。所以者何。若不定他言說。說他過者。是則不可。育多婆提答言。如是。毘婆闍婆提。復作是難。於意云何。若先以世俗道斷結作證。乃至廣說。得阿那含果。彼是學耶。育多婆提答言。不也。所以者何。我說涅槃是非學非無學。育多婆提欲說毘婆闍婆提。若當先以世俗道斷結作證。乃至廣說。得阿那含果。彼是學。本應是學。若不得果。而是學。趣阿羅漢斷結作證。阿羅漢斷結作證。說亦如是。育多婆提。於他法中。不順義者。集置一處。而說其過。若當涅槃是非學非無學。復作學學作無學無學作學。是則不定。若不定者。則是無常。若無常者。有爲無爲。無有差別。所以者何。涅槃未曾作非學非無學。復作學學作無學無學作學。以是故。涅槃於一切時。是常是寂滅。是非學非無學。廣說如經本。復有說者。育多婆提。欲說毘婆闍婆提。毘婆闍婆提。有二種。過。一說涅槃是非學非無學。復作學。學作無學無學作學。二說涅槃是非學非無學。常是非學非無學。學常是學。無學常

是無學。育多婆提。難毘婆闍婆提言。涅槃是非學非無學。復作學。學作無學。無學作學。如是汝說涅槃是非學非無學。然後作學耶。毘婆闍婆提答言。如是。育多婆提。復難毘婆闍婆提言。於意云何。若先以世俗道。乃至廣說。後見四聖諦。得阿那含果。彼是學耶。毘婆闍婆提答言。如是。所以者何。我說涅槃是非學非無學。復作學。育多婆提。復問毘婆闍婆提言。汝意云何。先以世俗道。斷結作證。是非學非無學。即彼非學非無學作學耶。毘婆闍婆提答言。如是。所以者何。我說非學非無學。後作學。育多婆提。復說毘婆闍婆提。若先以世俗道。斷結作證。後得阿那含果。當是學。本應是學。若不得果。而是學。是則不可。育多婆提。復難毘婆闍婆提言。趣阿羅漢。斷結作證。是學。後作學。無學阿羅漢。斷結作證。退作學。說亦如是。育多婆提。於他法中。不順義者。集置一處。說過如上。若說涅槃是非學非無學。常是非學非無學。乃至無學。常是非學。育多婆提。難毘婆闍婆提言。汝說涅槃有三種耶。答曰。如是。育多婆提。難毘婆闍婆提言。於意云何。若先以世俗道。斷欲愛患。未見真諦。欲得見故。勤修方便。修方便時。得見真諦。得阿那含。彼是學耶。答曰。如是。所以者何。我說涅槃有三種。故。育多婆提。難毘婆闍婆提言。於意云何。若先以世俗道。斷結作證。是非學非無學。後得阿那含果。即是學耶。答言。不也。所以者何。我說涅槃是非學非無學。常是非學非無學。乃至廣說。毘

婆闍婆提。反難育多婆提。若當涅槃是非學非無學。後作學。未得阿那含果時。本應是學。育多婆提。欲去此過。故。若不得阿那含果。而是學。此則不可。育多婆提。復難毘婆闍婆提。若趣阿羅漢果。斷結作證。阿羅漢斷結作證。說亦如是。育多婆提。於他法中。不順義者。集置一處。而說其過。若當涅槃是非學非無學。後作學。學作無學。無學作學。非學非無學。常是非學。育多婆提。難毘婆闍婆提言。汝說涅槃有三種耶。答曰。如是。育多婆提。難毘婆闍婆提言。於意云何。若先以世俗道。斷欲愛患。未見真諦。欲得見故。勤修方便。修方便時。得見真諦。得阿那含。彼是學耶。答曰。如是。所以者何。我說涅槃有三種。故。育多婆提。難毘婆闍婆提言。於意云何。若先以世俗道。斷結作證。是非學非無學。後得阿那含果。即是學耶。答言。不也。所以者何。我說涅槃是非學非無學。常是非學非無學。乃至廣說。毘

①即二是一 ②復一後 ③言二日 ④過一 ⑤事則 ⑥此事二何事則 ⑦旃二梅

者何。法生時。法得得俱生。此三滅已。便生六得。三得。三得。是六生十二。十二生二十四。乃至無量無邊。若成就者。定捷度。又云。何通耶。如說無色界命終。生欲界中。所得陰界入四大。善不善無記根結縛使纏煩惱。當言本得本不得。答曰。善染污。當言本得報當言本不得。彼得亦有善。亦有染污。復有說者。有成就過去未來得者。問曰。若然者。云何非是無窮。答曰。假令無窮。復有何過。未來世。窮無容處耶。以生死是無窮故。難斷難除難過。衆苦相續。猶如連鎖。復有說者。無有成就者。問曰。若然者。如說無色界命終生欲界。乃至廣說。此文云何通耶。答曰。此文不說得。說得所不攝法。評曰。不應作是說。應作是說。有成就過去未來得者。所以者何。以得故。沙門果有差別。若不成就過去未來得者。一刹那沙門果。亦得亦捨。修梵行者。則無休息。心復更有過。以三事故。捨於聖道。一退。二轉根。三得果。不因此三。亦捨聖道。然無是處。是故有成就過去未來得者。苦法忍有十五得。一是苦法忍俱。二是苦法智俱。乃至道比忍俱有十五。乃至無學初智除其自體。盡是因。廣說如上。苦集諦得。苦集諦攝。滅諦得。三諦攝。道諦得。卽道諦攝。苦集道諦三世攝。彼得亦三世攝。滅諦不在。三世得三世攝。苦集諦是善不善無記。彼得亦是善不善無記。滅道諦是善。彼得亦是善。苦集諦是三界繫。彼得亦三界繫。滅諦是不繫。彼得是色無色界繫。亦是不繫。道諦是不繫。彼得亦是

亦是不繫。苦集諦是非學非無學。彼得亦是非學非無學。滅諦是非學非無學。彼得亦是學無學非學非無學。道諦是學無學。彼得亦是學無學。苦集諦是見道修道斷。彼得亦是見道修道斷。滅諦是不斷。彼得是修道斷不斷。道諦是不斷。彼得亦是不斷。欲界見道修道所斷。乃至無所有處。見道修道所斷解脫得。有三種。學無學非學非無學。非想非非想處。見道所斷修道所斷八種解脫得有一種。學無學。第九種解脫得是無學。所以者何。彼得與盡智俱生故。問曰。欲界見道修道所斷。乃至非想非非想處。見道修道所斷。彼解脫得。幾地所攝耶。答曰。或有說者。隨其斷對治道在何地。彼得亦爾。諸作是說。隨其斷對治道在何地。彼得亦爾。欲界見道修道所斷解脫得。未至禪所攝。初禪解脫得。三地所攝。謂未至初禪中間禪。第二禪者。四地所攝。第三禪者。五地所攝。第四禪見道修道所斷無色。見道所斷者。是六地所攝。空處修道所斷者。七地所攝。識處八地無所有處。非想非非想處九地。復有說者。隨彼過患對治所在之地。彼得亦爾。諸作是說。彼隨有過患對治所在之地。彼得亦爾者。欲色界見道修道所斷解脫得。六地所攝。空處見道修道所斷。七地。識處。見道修道所斷八地。無所有處。非想非非想處。見道修道所斷九地。復有說者。隨地有法智分。彼地亦有欲界見道修道所斷解脫得。若地有比智分。彼亦。色無色界見道修道所斷解脫得。

諸作是說。隨彼有法智分。彼地亦爾者。欲界見道修道所斷解脫得。六地所攝。色無色界見道修道所斷解脫得。九地所攝。評曰。不應作是說。如前說。隨地有斷對治道。彼得亦爾者好。問若以滅道法智。離色無色界欲。彼色無色界修道所斷解脫得。爲是法智分。爲是比智分耶。答曰。或有說。是法智分。所以者何。以是法智所證故。評曰。不應作是說。是比智分。問曰。是法智所證。云何是比智分耶。答曰。雖是法智所證。而以此智所知。然皆是色無色界根本對治。隨以何斷。而皆是比智分。問曰。若離五種欲入見道者。苦法忍滅苦法智生。彼前所斷欲界見苦所斷五種欲。彼刹那中所斷四種欲。彼九種盡是與苦法忍俱。生無漏得作證。如是乃至道法忍滅道法智生。彼前所斷欲界見道所斷五種欲。彼刹那中所斷四種欲。彼九種盡是與道法智俱生。無漏得作證。若道比忍滅道比智生。是時得三界見道所斷。與道比智俱生解脫得。彼得欲界修道所斷五種欲。無漏解脫得。尊者僧伽婆修答曰。得。所以者何。以是須陀洹。亦是斯陀含向故。評曰。不應作是說。言不得者好。所以者何。不可說住果時復得趣果道。彼得不得趣果道。爲以何事言是趣果問曰。爲以何時得彼解脫得耶。答曰。或有說者。若修向斯陀含果方便是時便得。評曰。不應作是說。言是時得解脫得。應作是說。若得斯陀含果是時便得。

①又二女② ③窮二寬④ ⑤幾二斷⑥ ⑦(有)十色⑧ ⑨問十(日)⑩ ⑪忍一智⑫

問曰。聖人以世俗道離欲。此道爲是會所得道。爲是未曾得道耶。答曰。或有說者。是會所得道。所以者何。如無始以來所用離欲道。今所用道。即是彼道。若以會所得道。離欲界上上欲時。於離上上欲中。得二種解脫得。一是世俗以會得者。二是無漏道未來修故。亦得欲界見道所斷上上煩惱解脫無漏得。問曰。若作是說。是共對治。亦是不共對治。所以者何。以會所得道。斷見道修道所斷煩惱。同在一處。如斷草束。亦如。刻契。斷九種欲。是名共對治道。若聖人以此道斷修道所斷結時。是名不共。答曰。所會得道。唯是共對治。所以者何。以見道所斷結已斷。若當不斷。此亦能斷。復有說者。聖人所用世俗道。是未曾得道。所以者何。無始以來所用道異。今所用道異。若作是說。以未曾得道。離欲界上上欲時。得二種解脫得。一是世俗。二是無漏世俗者。以未曾得道故。無漏者。以未來修故。於欲界見道所斷上上煩惱非對治。所以者何。以未曾得此道故。若作是說。則是不共對治。第九解脫道若未曾得道。已會得道。一時悉得。亦得欲界見道修道所斷漏無漏二種解脫得。問曰。以何等故。第九解脫道。已會得道。已未曾得道修。餘無礙解脫道。何以不修耶。答曰。離欲得地時修異。斷欲道時異。第九解脫道時。是離欲得地。是故以會得道未曾得道修。斷欲道時不得地。是故未曾得道修。會得道不修。以是事故。智慧度所說善通。如說。若成就現在他心智。亦成就過去未來耶。答曰。如

是。評曰。如是說者好。以未曾得道離欲已會得道未曾得道修。若作是說。以未曾得道離欲已會得道未曾得道修者。離欲界修道所斷上上欲時。得三種解脫得。一是世俗會得道。二未曾得道。三無漏。於見道所斷上上欲。得一解脫得。以會得道故。以是義故。善去不共對治過。亦作過說。頗有不退不得果不轉根。而於見道所斷結。得作證耶。答曰。有。如此所說者是也。如上上煩惱。乃至下下煩惱說亦如是。如離欲界欲。乃至離無所有處欲。說亦如是。問曰。頗一剎那頃。當得信等五根。得而不捨。捨而不得。乃至廣作四句。答曰。有初句者。向阿那含果。住最後無礙道時。當得初禪地。善有漏諸根是也。第二句者。欲界悔憂俱根是也。第三句者。無漏諸根。捨無礙道所攝。當得解脫道所攝。第四句者。除上爾所事。問曰。諸得過去。彼法亦過去耶。若法過去。彼得過去耶。乃至廣作四句。答曰。有初句者。數滅非數滅。得在過去。彼法非過去是也。第二句者。過去世非衆生數法是也。第三句者。過去世衆生數法是也。第四句者。虛空未來現在非衆生數法是也。未來現在亦應如是作四句。問曰。若法修彼法。得亦修耶。答曰。若法修彼法。得亦修。頗法得修彼法不修耶。答曰。有數滅是。

解脫得。耶。第二句者。有爲無漏數滅非數滅。是謂無解脫得非不有得也。第三句者。虛空是謂非有得非有解脫得也。第四句者。衆生數有漏法。是謂非不有得。非不有解脫得也。問曰。若法有得。彼法無解脫得耶。若法有解脫得。彼法無得耶。乃至廣作四句。答曰。有初句者。有爲無漏。及數滅非數滅是也。第二句非衆生數法是也。第三句者。衆生數有漏法是也。第四句者。虛空是也。此是句應。在非句前。

阿毘曇毘婆沙論卷第十七

阿毘曇毘婆沙論卷第十八

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼 *天竺沙門浮陀跋摩
共道泰 *等 譯

雜 *捷度愛敬品 *下

世尊說無學成就戒身。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經中說無學成就戒身。雖作是說而不分別。佛經是此論根本。今欲廣解佛經故而作此論。復次所以作論者。先說有餘身涅槃界無餘身涅槃界。涅槃當言學無學非學非無學。如此皆說無爲阿羅漢果。今說有爲阿羅漢果故而作此論。云何無學戒身。答曰。無學身戒口戒及淨命。如餘處無學支中說。正業即是此中無學身戒。正語即是口戒。正命是淨命。問曰。如身口戒外更無淨命。云何立此三名耶。答曰。以淨不

○刻二刻○ ○[已]一○ ○過二是○ ○耶一也○ ○第十七二第二十四○ ○第十八二第二十五○ ○據一○ ○下二之四○ ○(此)十論○

淨相對故。而立三名。七不善業。從貪瞋癡生。從貪生者。是名邪命。從瞋癡生者。身業是邪業。口業是邪語。從貪生者。不復更作。是正命。從瞋癡生。不復更作。身業是正業。口業是正語。復有說者。或有為命故。或以遊戲故。或以怨心故。起七不善業。若為命故。是名邪命。若不為命。起身業是邪業。起口業是邪語。復有說者。或有為命故。行於種種醫方呪術。或有為餘事。故。餘如前說。復有說者。或為四種愛故。行諸惡行。或為餘事者。若為四種愛。行諸惡行。是名邪命。餘如前說。復有說者。若行詭誑等五事。是名邪命。若為餘事。餘如前說。復有說者。或有遮罪。或有性罪。若作遮罪。是名邪命。若作性罪。餘如前說。所以者何。遮罪難除者故。復有說者。有根本不善業。有方便不善業。若行方便不善業。是名邪命。若行根本不善業。餘如前說。所以者何。以方便業難除者故。與上所說相違。是名正命。無學成就戒身。乃至廣說。問曰。如學非學。非無學。亦成就戒身。何以但說無學耶。答曰。或有說者。此是如來教化有餘略勝之說。復有說者。說最勝義故。所以者何。若以法而言。則無學法勝。若以人而言。則無學人勝。廣說如上。無學法勝學法。復有說者。世尊或稱譽說最勝弟子。或稱中者。或稱下者。稱最勝者。如偈說

阿羅漢最樂 以無渴愛故
亦斷於我慢 壞裂無明網

稱中者如讚七善人。經中所說。稱下者如池喻經說。此中唯說稱譽讚說最勝弟子。問曰。

云何是尸羅義耶。答曰。冷義是尸羅義。所以者何。破戒能令身心熱。持戒能令身心冷。復有說者。學習義是尸羅義。所以者何。數數修習善福故。

云何無學定身。答曰。無學空三昧。無相三昧。無願三昧。問曰。定體是一。云何說三耶。答曰。以三事故說三。一以對治。二以期心。三以境界。以對治故說空。空是我見近對治法。問曰。身見有二種。一行於我。二行我所。空有二種。一行於空。二行無我。此行與彼何行作近對治耶。答曰。無我行。對於我見。空行對我所見。復次無我行對五我見。空行對十五我所見。復次無我行對己見。空行對己所見。復次無我行對我親愛。空行對我所親愛。復次陰非是我。是無我行。陰中無我是空行。復次眼入非我。是無我行。眼入中無我是空行。乃至意入說亦如是。復次性空。是無我行。無所行是空行。以期心故說無願。無願者不願於有。問曰。若以期心。不願於有。名無願者。亦期心不願聖道。而言無願耶。答曰。期心不願於陰。而聖道依陰。期心不願於世。而聖道在世。期心不願於苦。而聖道依苦。期心不願增長。而聖道依於增長。問曰。若然者。聖人何以修道耶。答曰。欲至涅槃故。所以者何。聖人觀察。除於聖道。更無有法能至涅槃。是以修道。以境界故說無相。無相者。無十相。無十相故言無相。十相者。謂色聲香味觸男女三有為相。涅槃無如是相。而彼定緣之。復次陰是有相。彼定緣陰不生。復次前後法是有相。彼定緣

無前後復次若法有上中下。是名有相。彼定緣無上中下。復有說者。以行故說三。彼空定行於二行。謂空無我行。無願定行於十行。謂苦無常行。集諦四行道諦四行無相定行於四行。謂滅諦四行。復有說者。以對治故說三。空行是我見近對治。無願是戒取近對治。無相是癡近對治。

云何無學慧身。答曰。若智若見。若明若覺。若現觀。乃至廣說。評曰。此說可爾。但此中說正慧身。不說分別慧身。此文應如是說。云何無學慧身。答曰。盡智無生智不攝無學慧是也。云何無學解脫身。答曰。無學正觀相應解脫。此解脫是大地。是盡智無生智。無學正見相應解脫。

云何無學解脫知見身。答曰。盡智無生智是也。問曰。何故說盡智無生智是無學解脫知見身耶。答曰。以是解脫人身中生故。問曰。無學慧身。無學解脫。知見身。有何差別。答曰。無學苦智集智。是無學慧身。所以者何。此二智緣縛法故。無學滅智道智。是無學解脫知見身。所以者何。緣無縛法故。復次無學苦智集智滅智。是無學慧身。所以者何。此三智緣於解脫。不緣緣解脫。無漏智無學道智。是無學解脫知見身。所以者何。此道智緣於解脫。亦緣緣解脫。無漏智解脫有二種。謂有為解脫。無為解脫。有為者苦集智所緣。無為者滅智所緣。智解脫無漏見。是道智所緣。是故道智是無學解脫知見身。以道智緣三智故。復有說者。慧或對治。邪慧。或對治無

故二者(三) 唯二惟(三) 下同 身十(耶) (三) * 此十(時) (三) 差別十(耶) (三) (緣)一(三) 緣二知(三) 邪二耶(三) *

知若對治邪慧，是無學慧身。若對治無知，是無學解脫知見身。如邪慧無知，利鈍愚智亦如是。戒身在六地，謂未至中間根本四禪，餘身在九地。問曰：佛辟支佛聲聞，此五種身為有差別不耶？答曰：若以地以體，則無差別。若以根者，則有差別。利根者說勝，中根者說中，下根者說下。如佛告諸比丘：一究竟非衆究竟。乃至廣說。問曰：何故作此論？答曰：此是佛經，佛經說一究竟，非衆究竟。佛經雖說一究竟，而不分別，為以發心故言究竟。為以事成故言究竟。佛經是此論所為根本。諸佛經所不說者，今欲說故而作此論。

問曰：究竟有二。何以世尊唯說一耶？尊者波奢答曰：一究竟謂發心究竟，無二發心究竟。一事成究竟，無二事成。就究竟，世尊亦說一諦。無有二諦。謂一苦諦，無第二苦諦。乃至一道理，無第二道理。復有說者，唯一究竟，無二究竟。謂事成究竟，發心究竟者，皆為事成故發心。復有說者，諸外道等，各自於所行法中，生究竟想，佛作是說，唯善說法中，有究竟法。惡說法中，無究竟法。復有說者，此中不說第一究竟。但欲說諸外道過失，諸外道等，斷見者非於常見，常見者非於斷見。佛作是言：若常見者是究竟，斷見應非。若斷見者是究竟，常見應非。然常斷俱非究竟法，是故欲說外道過故說一究竟。非衆究竟。

如說一究竟非衆究竟。乃至廣說。究竟名為何法？答曰：世尊或說道究竟，或說涅槃究竟。云何說道究竟，如偈說

若不知道 是聰明慢 未到究竟
不調而死

不知道者，謂不見八道也。是聰明慢者，外道愚小自謂聰明，而生憍慢，未到究竟者，雖復發意，不到究竟。不調而死者，如有煩惱而生有煩惱而死。如偈說道究竟。云何涅槃究竟。如偈說

到究竟無畏 無說亦無悔
能盡於有箭 此身是後邊

到究竟者，究竟有二種。一發心究竟，二成事究竟。是到第一事成究竟也。無畏者，善修空三昧，深解緣起法故，不畏惡道及生死苦。無說者，不如諸外道說邪智邪見，無義之言也。無悔者，善除戒取生畢竟智故。能盡於有箭者，以善修聖道，能令有愛已盡，永滅寂靜，住不流法中。此身是後邊者，已盡其因，故更不生。更不生故，此身是後邊也。

此是最究竟 無上寂滅道
能盡一切相 出要到不死

此是最究竟者，說事成究竟也。寂滅者，離三火故。道者，智所立處。無上者，無所依故。能盡一切相者，顯現斷一切業，斷一切煩惱相。出要者，除諸煩惱，得清淨故。到不死者，畢竟到不滅法故。

如數目捷連婆羅門，往至佛所而白佛言：沙門瞿曇所化弟子，一切盡到究竟耶？世尊告言：婆羅門，此事不定。或有到者，有不到者。此中說涅槃是事成究竟，有發心有發心究竟。有事成有事成究竟。云何發心究竟。乃至事

成究竟。答曰：或有說者，世俗道是名發心非究竟。聖道名發心亦名究竟。世俗道所斷是名事成不名究竟。無漏道所斷，是名事成亦名究竟。復有說者，果中間道，是名發心不名究竟。根本沙門果道，是名發心亦名究竟。果中間道所斷，是名事成不名究竟。根本、果道所斷，是名事成亦名究竟。復有說者，學道是名發心不名究竟。無學道，是名發心亦名究竟。學道所斷，是名事成不名究竟。無學道所斷，是名事成亦名究竟。

如世尊說：有諸外道梵志，乃至廣說。問曰：何故作此論？答曰：此是佛經。佛經中說：有諸外道梵志，作如是論。我斷諸取。乃至廣說。佛經雖作是說而不分別。佛經是此論所為根本。諸佛經中所不說者，今阿毘曇盡欲說故而作此論。

此中間三事。一問諸外道實不斷諸取。何以佛說諸外道言斷諸取。二問如諸外道不施設斷諸取。何以言諸外道施設斷欲取戒取見取。三問如諸外道施設斷欲取戒取見取，不施設斷我取。於此三種問中，尊者迦旃延子，先答中者。問曰：如諸外道，不斷諸取，何以言斷欲取戒取見取。乃至廣說。答曰：或有說者，此是世尊小小說法之言。此言應當違逆。不應隨順。所以者何？世尊說法，不以無因緣，亦不以少因緣。諸佛所說，盡有因緣。非無因緣。盡有所為，非無所為。盡有所化，非無所化。若他人無緣者，佛終不說。復有說者，世尊現少分斷故。作如是說。此言亦應違逆。不

應隨順。所以者何。如凡夫人。斷欲界戒取見取。乃至斷無所有處戒取見取。凡夫亦斷初禪地我取。乃至斷無所有處我取。是故此言亦不中用。然佛世尊。廣說諸法。乃至廣說此說。是真實義。佛未出世時。外道異學。得名譽利養。後佛出世。蔽於外道。猶如日光蔽於熒火。外道弟子。歸伏世尊。外道利養。轉轉減少。時諸外道。盡集一處。而共譏言。沙門瞿曇。未出世時。世間所有名譽利養。皆歸我等。瞿曇既出。如是等事。轉轉減少。然彼瞿曇。無有實德。但形容端正。善於經論。我等形容粗足相況。然彼所說經法。難及。我等今當作何方便。得彼經法。若當得者。世間利養。還歸我等。作是議言。如我衆中。蘇尸摩納等。聰明利根。兼有念力。必能受持沙門瞿曇所說經法。今可遣往為彼弟子。沙門瞿曇必為此入廣說經法。彼誦讀已。當為我等而來解說。時諸外道。作是議已。即便喻遣蘇尸摩納等。汝當往詣瞿曇沙門所求為弟子。乃至出家於佛法中所聞經法。而能受持。是時如來以十力四無所畏。於大衆中。廣為人天。解說諸法。有諸外道。在大衆邊。彷彿而行。以竊法故。心懷恐怖。以恐怖故。受持者少。忘失者多。以是義故。當知世尊廣說諸法。諸外道等。唯誦斷三受。忘斷我受。復有說者。世尊說法。或有滿足。有不滿足。其所為事。無不滿足。如經說。四念處。於念處義。便為滿足。如說一念處。名不滿足。如說衆生住身身觀者。如。爪甲上土。不住身身觀者。如大地土。如說五蓋七覺支六

界。此說亦是不滿足。如說十蓋十四覺支十八界。是名滿足。以是事故。其所為事。無不滿足。說法有滿足不滿足。有諸外道異學受佛法名者。乃至廣說。為作證故。而引佛經。如經說。有諸外道梵志。詣諸比丘所集會堂。作如是語。諸長老。如汝師瞿曇。為諸弟子。作如是說。當斷五蓋。於四念處。安止其心。修七覺支。我等為諸弟子。亦說如是法。乃至廣說。彼諸外道。與蓋俱生。猶不識蓋。何況知見念處覺支。尚不聞香。況知其味。然佛廣說諸法。乃至廣說。如摩提提梵志。來詣佛所。被憐多羅僧。以手摩此。如病如癰。如箭如瘡之身。作如是言。沙門瞿曇。此身無病。即是涅槃。彼梵志身無疹病。常得飲食。身無病故。言身無病。得飲食故。言是涅槃。彼梵志猶尚不識四大調適無病。何況結盡涅槃。復有說者。無病是道。涅槃是道果。彼梵志尚不識無病道。何況無病道果。然佛廣演說法。乃至廣說。彼所問者。今當說之。何故外道梵志。不施設斷我取。答曰。如經本說。外道梵志。長夜著我著衆生。乃至廣說。復有說者。外道異學。於我取心生恐怖。如人在於山。岸上立怖畏於下。彼亦如是。復有說者。畏捨己見。隨逐他見。外道異學。以我見為己見根本。而不欲捨。復有說者。畏斷我命故。復有說者。畏為同梵行者所輕賤故。前所問者。今當說之。如諸外道。不知斷諸取。何以言斷諸取耶。答曰。此是世尊隨世言說。為作證故。而引佛經。如說有諸衆生見滅斷壞。實義中無有衆生。為隨外

道世俗言。說有衆生。此亦如是。乃至廣說。有二智。一斷智。二知智。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。前說外道異學。施設斷諸取。不施設斷我取。雖作是說。不分別為是斷智。為是知智。今欲說故。而作此論。有二智。謂斷智知智。云何知智。若知見明覺現觀是也。智對無智。見對邪慧。明對無明。覺對邪見。現觀對邪觀。復有說者。此中說無漏知智。所以者何。無有世俗道能現觀者。以是事故。唯說無漏知智。復有說者。此中亦說有漏無漏知智。何以知之。世俗智亦有知見明覺現觀相故。問曰。世俗道無現觀義。云何言現觀耶。答曰。現前觀了了是現前觀義。世俗道亦能現觀。問曰。若然者。為說何等世俗知智耶。答曰。除虛現觀相應慧。所謂無量初第二第三解脫八勝處十一切處。除如是等觀相應慧。諸總相別相觀者。去緣中愚者。去物體愚者。諸餘實觀。如聞思修。懷頂忍。世第一法。如是等也。問曰。何以定知世俗慧是現觀也。答曰。如說現前觀了了義。是現觀義。世俗慧亦能了了現觀。何以知之。如城喻經說。我未成三菩提等。亦能生是現觀。以是事故。知世俗慧能作云何斷智。答曰。若一切愛恚癡斷。一切煩惱斷。名為斷智。問曰。如斷無所緣智有所緣。何以說斷名智耶。答曰。或有說者。以斷是智果故。斷名為智。如阿羅漢。是智果以智名說。如天眼天耳是通果。以通名說。如六入是業果。以業名說。如此六入是本業。如是斷是智果。故說名斷智。問曰。如修

① 焚一蓋 ② 爪一抓 ③ 語一言 ④ 被一披 ⑤ 岸二岸 ⑥ 智十(者) ⑦ 智二知 ⑧ 也二耶 ⑨ 作十 (現觀) ⑩

道中斷是智果見道中斷是忍果何以說名斷
智耶答曰。彼是世俗智果故。若以世俗道離
欲界欲。乃至離無所有處欲。彼欲界乃至離
無所有處。是世俗智果。問曰。世俗道有功處
可爾。世俗道於非想非非想處無功。非想非
非想處。見道所斷。蓋是忍果。云何彼斷復是
斷智耶。尊者僧伽婆修答曰。有二斷智。一是
慧果。二是智果。彼是慧果。評曰。不應作是
說。所以者何。世尊說二智。一是斷智。二是
知智。不說斷慧。復有說者。斷智是無漏知智
功用果。所以者何。如須陀洹。以無漏道當得
斯陀含果。第六無礙道。當通證三界見道所
斷及欲界修道所斷六品結。斯陀含以無漏
道。當得阿那含果。第九無礙道。當通證三界
見道所斷及欲界修道所斷。阿那含當得阿
羅漢果。金剛喻定。當通證三界見道修道所
斷。斷是金剛喻定功用果。以是事故。斷是無
漏知智功用果。尊者佛陀羅測說曰。當言斷
法。所以者何。此是諸聖道第一所應。第一畢
竟。第一勝法故。尊者瞿沙說曰。此當言斷捨
所以者何。捨棄一切生死法。得此斷故。復次
從智種中生故言斷智。如瞿曇姓中生名瞿
曇。彼亦如是。復有說者。彼斷雖無所緣。而住
智相。如過去未來眼。雖不能見。而是見相。如
過去未來受。雖無所覺。而是受相。乃至慧說
亦如是。如是斷雖無所緣。而是智相。是故名
斷智。問曰。如斷身見一結。亦名斷智。何以說
一切結。盡名斷智耶。答曰。斷一身見。亦是
斷智。此中說斷一切結盡斷智。不說漸漸斷

智
復次世尊或說智是知智。或說智是斷智。云
何智是知智。如偈說

此實年少者 欲饒益世間
愛能生諸苦 能知是聰明

多求王此論根本。曾聞有王名曰多求。受性
暴惡。為人輕躁。多劫人民種種財貨。是時人
民普共集議。退其王位。以其次弟立以為王。
時多求王。至國邊邑。編草作屨。以自存活。
是時弟王問諸臣言。我有大兄。今何在。諸
臣答曰。聞在邊邑。編草作屨。以自存活。王
聞此言。心生愁惱。作是思惟。唯有一兄。勤苦
如此。我今何用在此王位。即遣使往追命使
還封一村。落是時人民親附者眾。所得封邑不
供食用。復更封與二村三村。乃至半國猶故
不足。是時其兄以半國人力。與兵殺弟自立
為王。爾時帝釋作是思惟。今此國王不識恩
義。作如是惡。我當往誑而苦惱之。爾時帝釋
自化其身。作婆羅門像。頂戴螺髻。身著龜衣。
左執軍壘。右把法杖。往詣王所。以語告言。讚
美於王。在一面立。時王問言。大婆羅門從何所
來。婆羅門言。我從大海外來。王復問言。大
海之外有何奇事。婆羅門言。我見一國。人民
熾盛。豐樂無極。王復問言。如我今日。多諸兵
衆。若當討。討。為可得。婆羅門言。往必可
得。王復問言。誰當為我導引。在前婆羅門言。
我當導引。王復問言。若可爾者。後更幾日當
示我路。婆羅門言。却後七日言已便去。時王
日下算計所期日。至七日且處處推求。先

婆羅門而都不見。以不見故。心生愁苦。坐於
靜室。時釋迦菩薩。在彼王國內。婆羅門村中
生有小因緣。來詣王城。聞王愁苦無能止者。
是時菩薩。語諸臣言。我能去王心中愁苦。是
時諸臣。便將菩薩。詣其王所。爾時菩薩。為其
國王。說衆義經。偈

追求五欲 若獲得時 以稱意故
必生歡喜

乃至盡說染欲品偈。是時菩薩誦此偈已。心
生厭離。得離欲愛。以離欲故。復說此偈

能行說為正 不行何所說
若說不能行 不名為智者

菩薩說此一偈。半為帝釋。半為國王。若不能
行。不應許他。若許他者。便應即行。而不行者。
是不善事。汝亦應當量。彼人為能去不能
去。復於何時。曾見有人。從大海外來。而信其
言耶。是時國王。於菩薩所。心生歡喜。便說此
偈

此實年少者 欲饒益世間
愛能生諸苦 能知是聰明

以此偈說智是知智
云何說智是斷智。如說。佛告比丘。我今當說
智所知法。智成就智者。云何智所知法。答曰。
五陰是也。問曰。如智知一切法。何以但說知
五陰耶。答曰。若作是問者。如下章答。所以唯
知苦。此中應盡說之。評曰。不應作是說。所以
者何。此中說斷智。不說知智。知五陰不知一
切法。故問曰。若然者。應作此論。如五陰是二
智所知。謂知智斷智。何以世尊。捨知智說斷

●履二條●●* ●日二言●● ●唯二推●●* ●語告二諸吉● ●(答)十言●● ●斷一伐●● ●是十(名)●● ●世間二衆生●●
●以二如●●

智耶答曰。或有說者。以因此五陰得斷知智故。下答知滅等。是中盡應說云何為智。答曰。一切結盡。乃至廣說。問曰。如佛說。一切盡是名斷。界。此中何以說一切結盡是斷智耶。答曰。此是如來教化有餘略勝之言。復有說者。若說結盡。當知盡說一切有漏行斷。如上說。若過去者。一切盡滅耶。彼中答者。此盡應說云何成就智者。答曰。漏盡阿羅漢是也。問曰。如學人處處有智。何以唯說阿羅漢是智人耶。答曰。或有說者。此是如來有餘之說。乃至廣說。復有說者。以勝故如上答。無學人勝學人。此中應廣說。復有說者。學人隨其所知。不悉捨有。無學人隨其所知。悉能捨有。此中亦說云何為說。答曰。一切結盡。誰盡一切結。唯是無學人。復有說者。此文應如是說。云何知智。答曰。若知見明覺現觀等。乃至廣說。亦如說賢年少等。乃至廣說。云何斷智。答曰。一切結盡。亦如說我今當說。法智。乃至廣說。一若歸。佛趣。彼何歸趣。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。為非歸處生歸處想故。欲顯真實歸趣處故。而作此論。如偈說

多有歸趣	山川樹林	園觀塔廟
以畏他故	此歸非安	此歸非勝
其所歸趣	不能免苦	若歸趣佛
法及眾僧	於四聖諦	能以慧見
此趣是安	此趣是勝	此趣能免
一切眾苦		

是故為非歸趣作歸趣想。欲現真實歸趣處故。而作此論。復有說者。為止眾生愚歸趣故。

眾生或謂歸佛者謂歸趣如來父母所生之身頭足等分。為止如是意故。若歸趣佛者當歸趣佛菩提。無學法者。若歸趣法者。謂歸善不善無記法及諸比丘所行。是應作是。不應作法。若歸趣法者。當歸趣愛盡涅槃法。若歸趣僧者。謂歸趣四。性出家之人。欲令眾生成於此法中得決定。若歸趣僧者。當歸趣學無學法。是故欲止眾生意歸趣故。而作此論。

問曰。若歸趣佛。彼何歸趣。答曰。佛者實有此法。以有此法故。施設作如是語。如是名如是名。為佛。乃至廣說。問曰。何故作如是說。佛者實有此法。以有此法故。施設作如是語。如是名如是名。為佛耶。答曰。或有說者。佛不但有名施設作如是語。如是名如是名。為佛。而無其實。為止如是意故。而作是說。佛者實有此法。乃至廣說。若歸趣者。歸趣如是無學佛菩提法。問曰。若無學菩提法。是真實佛者。此經云何通。如須達居士所問。云何名佛。彼答言。佛者有釋種子。以信出家。剃除鬚髮。身著染衣。是名為佛。答曰。此是說佛所依。若說所依。當知亦說依者。問曰。若無學菩提法。是真佛者。何故惡心出血。而得逆罪耶。答曰。或有說者。以心憎惡無學菩提法故。是以惡心出血。而得逆罪。復有說者。壞無學菩提所依故。若壞所依。則壞依者。是故得逆罪。若歸趣法。彼何歸趣。答曰。若歸趣法。則歸趣愛盡離涅槃。若歸趣僧。彼何歸趣。答曰。僧者實有此法。乃至廣說。是名為僧。

問曰。云何為歸。云何為趣。歸趣是何義耶。答曰。歸者。是滅諦道諦少分。趣者。是口語。復有說。趣者。能起口語心是也。復有說者。信可此法。是名為趣。評曰。如是說者。好能起口語心。及共有法五陰體是趣。云何是歸趣義。答曰。救護義是歸趣義。問曰。若救護義是歸趣義者。提婆達多。亦歸趣佛法。而墮惡道。不為救護耶。答曰。若歸趣者。不破戒行。不越分界。能作救護。若歸趣者。破於戒行。越於分界。不為救護。如人畏於怨家。歸趣於王求其救護。王語彼人。若在我國。不越分界。我能為汝而作救護。若越我分界。我則不能為汝救護。如是眾生。畏惡道故。歸趣於佛。佛作是言。若歸趣我。不應破於戒行。越於分界。若破戒行。越於分界。我則不能為汝救護。是故救護義。是歸趣義。復有說者。隨爾所歸趣。則有爾所救護。以歸趣因緣故。得出惡道。

問曰。若歸趣佛者。為歸趣一佛。為歸趣恒河沙等諸佛。若歸趣一佛者。云何不是分歸趣耶。若歸趣恒河沙等諸佛者。何以但言歸趣一佛耶。此經復云何通。如說。我為毘婆尸弟子。我為尸棄弟子。或有乃至我為釋迦牟尼佛弟子。評曰。應作是說。歸趣恒河沙等諸佛。問曰。若然者。何以言歸趣一佛耶。答曰。此文應如是說。我歸趣諸佛。而不說者。若歸趣一佛。當知亦歸趣諸佛。言我為一佛弟子者。隨其見真諦處。言我是彼佛弟子。問曰。若歸趣法者。為歸趣自身諸陰滅。為歸

一切十(行) 界二智 法智一智法 佛趣二趣佛 性二性 卷第二十五終 卷第二十六雜 皮愛敬品之餘首 卷第二十六雜 度愛敬品第四之五首 造就轉號譯就同異俱如卷第十一 越二趣 彼二教 破十(於)

趣他身諸陰滅。為歸趣自他身諸陰滅耶。若歸趣自身諸陰滅者。云何不是分歸趣耶。若歸趣餘者。云何救護義是歸趣義。答曰。若歸趣者。歸趣自身他身。問曰。若然者。云何救護義是歸趣義耶。答曰。雖於我無救護。而性是救護。是故救護義是歸趣義。問曰。若歸趣一佛僧者。云何不是分歸趣耶。若歸趣諸佛僧者。何以言歸趣一佛僧耶。此經復云何通。如說。佛告賈客。汝當歸趣未來世僧。評曰。應作是說。歸趣諸佛僧。問曰。若然者。何以言歸趣一佛僧耶。答曰。此文應作是說。歸趣諸佛僧。而不說者。若歸趣一佛僧。則為歸趣諸佛僧。此經云何通者。以現前無僧實故。復有說者。以僧實難得故。所以者何。有佛出世而無僧實。

問曰。何處有此歸趣耶。答曰。若與戒俱者。唯入中有若不與戒俱。餘趣悉有。問曰。有受戒而不受歸趣者。是人為得戒不。答曰。或有說者。不得。所以者何。若欲受戒。應先受歸趣。故復有說者。若以自大慢心。而不歸趣者。是人不得戒。若人不知。為先受戒。為先受歸趣。若不受歸趣而受戒。是人得戒。而與戒者得罪。

問曰。若不。求歸趣。為得歸趣不耶。答曰。不得。問曰。若不得者。或有在母腹中初生小者。而亦受歸趣。此云何通。答曰。此為隨順戒故。此人本前生時。能施他人受戒具。若在腹中。若初生小時。父母為其受歸趣。後若長大作

非法事時。人便呵言。汝在母腹中及初生小時。已受歸趣。今者何為作非法事。其人聞已。即遠惡修善。是故為隨順戒為受歸趣。而實不得。復有說者。欲令信佛諸天為擁護故。問曰。若他人為求受歸趣者。是人為得不耶。答曰。不得。問曰。若不得者。佛涅槃時。阿難白佛。拘尸城諸某甲人等。歸趣世尊。亦歸法僧。此言云何通。答曰。或有說者。佛威神力故。般涅槃時。令拘尸城諸力人等他人為求而得於戒。復有說者。尊者阿難入拘尸城。為多力人授歸趣戒。而還白佛。世尊復有如是最後弟子衆。復有說者。得如迦尸女。羅。噯不能言者是也。如說。若歸趣佛。不墮惡道。問曰。諸歸趣佛。盡不墮惡道耶。答曰。此為得不壞信者。作如是說。復有說者。為深心歸趣者。作如是說。

問曰。如法寶勝佛。何以歸趣時。先歸趣佛。後歸趣法耶。答曰。或有說者。佛於教法中尊故。是以先歸趣佛。復有說者。猶如病人。先依附醫。然後服藥。佛如明醫。法如良藥。僧如授藥人。

阿毘曇毘婆沙論卷第十八

阿毘曇毘婆沙論卷第十九

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

雜。捷度無慚愧品第五

云何無慚云何無愧如此章及解章義。此中應廣說優波提舍。問曰。何故作此論。答曰。以此二法所行相似。故世人見行無慚言是無愧。見行無愧言是無慚。此二法實異。人謂是一。欲說其定體亦說差別。故作此論。復有說者。以此二法能壞世人。謂無慚無愧。復有說者。以此二法行不善法時勢力最勝。如說。與何纏相應。此心淳是不善謂無慚無愧。復有說者。以此二法令衆生有種種差別相。如說。若世無此二法。則衆生無種種差別相。謂猪羊雞犬等。復有說者。阿毘曇以此二法一心中可得。是故尊者迦旃延子。欲說其體及差別相。故作此論。云何無慚。答曰。若無慚無慚分。乃至廣說。如是等盡說一無慚體。而文有種種。問曰。雖說無慚體。亦應說其所行。答曰。如不善所行。無慚所行亦如是。所以者何。與不善法相應。故。問曰。此為何所緣耶。答曰。緣於四諦。復有說者。先說所行。未說其體。問曰。若然者。體是何耶。答曰。自身即是其體。何以知之。如說。自身法。是自相似法。是總相。諸作是說。先說是所行者。應作四句。初句者。無慚行。餘

○若二是一 ○歸趣十(者) ○求十(受) ○[雜]一 ○噯二噯 ○(若)十諸 ○不分卷 ○(阿毘曇毘婆沙)十雜 ○捷二捷 ○五十一(之一) ○似二以 ○旃二旃

漏。云何增上不善根。云何微不善根。乃至廣說。問曰。何故說增上不善根。不說中耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。應作是問。云何增上不善根。云何中。云何微而不說者。當知此說有餘。乃至廣說。復有說者。已說初後。當知亦略說中間。復有說者。已說在此二中。根。所以者。何若說上。當知中分在微分中。若說微。當知中分在上分中。復有說者。若易見易知者則說。中法難見難知。是故不說。復有說者。若是世現見者

即說。若不現見則不說。世尊必知二法。謂上與微。何以知之。如說。利根者謂央掘魔羅。鈍根者謂薩波達婆。而不說中者。復有說者。若說於中則文重不便。若不說中則文輕便。云何增上不善根。答曰。不善根能斷善根者。乃至廣說。問曰。斷善根者是邪見。何以言是不善根耶。答曰。或有說者。不善根斷善根方便時勢勝。所以者何。一切內外法。方便時功勝於成時。如菩薩見眾生老病死苦發菩提心。此心能荷負三阿僧祇劫善行。使不散壞。亦無留難。此心甚難。後得盡智。三界善根未來中修。未足為難。復有說者。邪見所以能斷善根。皆以不善根力。不善根能令善根羸劣微薄。更無勢力。亦令因緣多諸留難。然後邪見能斷善根。復有說者。此文應如是說。不善根能斷善根。何等不善根。答言。邪見相應癡。不善根。亦斷欲界欲時。最初滅者是也。問曰。斷欲界欲。不應言亦。所以者何。卽是一答。故。答曰。或有說者。此答前所說。何等邪見。能斷

善根。答言。離欲界欲時初滅者。云何微不善根。答曰。斷欲界欲時。最後滅者。彼滅已得名無欲。

問曰。不善根斷善根時。爲一種斷。爲九種斷。若一種斷者。此說云何通。如說。云何微善根。答言。善根斷時最後滅者。彼滅。得名善根斷。若九種斷者。此文云何通。如說。云何增上不善根。斷欲界欲時。最初滅者。云何以一種不善根。斷九種善根。答曰。或有說者。一種斷。問曰。若然者。此文云何通。如說。云何微善根。答言。斷善根時最後滅者。彼滅得名善根斷。答曰。此以現在不行故。作如是說。如上下善根。先不現在前後得不成就。乃至第八善根亦如是。彼下善根。於一時得二種現前。不行亦得不成就。所以者何。若斷下下善根時。於下下善根。一時得二種。一不現前行。二得不成就。於八種善根。得不成就。不得不現前行。本已得故。以次第得不現前故。而作是說。斷善根時。最後滅者。彼滅得名善根。斷。以一時得九種不成就故。而作是說。斷欲界欲時。最初滅不善根。以是義故。此二說善通。復有說者。九種斷。問曰。若然者。此說云何通。如說。斷欲界欲。最初滅者。乃至廣說。答曰。有多名九種。有因九種。有對治九種。有報九種。有善根斷九種。因九種者。如下下善根。乃至能爲上上善根作因。上上與上上作因。不爲餘者。對治九種者。如下下對治道。斷上上煩惱。上上對治道。斷下下煩惱。報九種者。如施設論所說。修行上上殺生。生阿毘大地獄中。轉滅

者。生熱地獄中。乃至轉轉滅者。生畜生餓鬼中。善根斷九種者。如下下邪見。斷上上善根。乃至上上邪見。斷下下善根。若以斷善根邪見。則有九種。若以離欲邪見。則有一種。所以者何。斷善根九種邪見時。盡從離欲一種中起故。下下邪見。斷上上善根。上上邪見。斷下下善根。以盡從一種中起故。此二說善通。

問曰。斷善根體是何耶。答曰。是不成就。不隱沒。無記心。不應行行陰所攝。所以者何。邪見斷善根。非如刀之斷木。若斷善根邪見在彼身中時。成就善根得則滅。不成就善根得則生。以無善根得故。名斷善根。復有說者。能斷善根邪見。則是其體。若作是說。當知斷善根體是染污法。餘義如上頂退申說。

○斷二故

○彼二後

○得二時

○卽二則

○根二攝

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

○

云何通。如說。若成就女根。必成就八根。彼作是答。此文應作是說。若成就女根。必成就十三根。評曰。不應作是說。如是說者。好男子女人。俱能斷善根。如此文義。若成就女根。必成就八根。若女人作斷善根方便。重於男子。如旃遮婆羅門女誘於世尊。

問曰。為愛行人能斷善根。為見行人能斷善根耶。答曰。見行人能。非愛行者。所以者何。愛行人。於煩惱法。不堅固。於出要法。亦不堅固。見行人。行惡堅固。是故見行人。能斷善根。非愛行人。問曰。黃門般吒。無形二形。能斷善根不耶。答曰。不能。所以者何。見行人能。彼是愛行。多恚人能。彼是多欲。復有說者。彼心輕躁故。不能斷善根。

問曰。斷何。界善根耶。答曰。欲界善根。問曰。若然者。此說云何通。如說。若人殺折脚蟻子。無有悔心。當言此人斷三界善根。答曰。此文應如是說。此人當言斷三界中善根。而不說者。有何意。答曰。欲令三數滿故。成就欲界善根。不成就色無色界善根。若斷欲界善根。則三界善根不成就。以是義故。為滿三數故。作如是說。復有說者。以色無色界善根依欲界善根故。復有說者。若此不斷彼則生長。若此斷者。彼則乾萎。復有說者。復更得不成就故。所以者何。令彼轉更遠故。問曰。為斷生得善根。為斷方便善根耶。答曰。斷生得善根。非方便。所以者何。方便善根。先已不成就故。問曰。為緣有漏邪見斷善根。為緣無漏邪見斷善根耶。答曰。有漏緣。非無漏緣。所以者

何。無漏緣使。其性羸劣。有相應使。無緣使故。有漏緣使。其性強盛。有緣使相應使故。問曰。為自界緣邪見斷善根。為他界緣邪見斷善根耶。答曰。自界緣者。所以者何。如前所說故。

問曰。為誘因邪見斷善根。為誘果邪見斷善根耶。答曰。或有說者。誘因者能。所以者何。如說。殺折脚蟻子。無有悔心。當知是人斷善根者。復有說者。誘果者能斷善根。所以者何。如說。若決定言無善惡果報。當知是人斷三界善根。評曰。俱能斷善根。如是說者好。所以者何。誘因者如無礙道。誘果者如解脫道。誘因者與成就得俱滅。誘果者與不成就得俱生。是故俱能斷善根。問曰。何故以折脚蟻子為喻耶。答曰。以無過於人故。殺無過者。猶無悔心。況有過者。是故引以為喻。問曰。住戒人斷善根時。為先捨戒後斷。為俱耶。答曰。或有說者。先捨戒後斷善根。所以者何。彼人身中。有一邪見生。捨戒後一邪見生。斷善根。喻如猛風吹樹。先折其枝葉。後拔其根。彼亦如是。評曰。應作是說。若捨彼能生戒心。當知戒亦捨。

問曰。善根還相續時。為九種一時相續。為一種續耶。答曰。或有說者。一種續。復有說者。地獄中死。還生地獄中。三種相續。畜生餓鬼中。六種相續。生人天中。九種相續。生評曰。如是說者好。一時九種相續次第現在前。喻如病人。一時除病。漸漸生力。彼亦如是。

問曰。善根為斷者多。為相續者多耶。答曰。隨其所斷。還有爾許相續。若斷欲界善根。還欲界善根相續。若斷生得善根。還生得善根相續。問曰。若斷善根。於現法中。還能令相續不耶。答曰。如說。此人於現法中。不能還令善根相續。決定地獄中生。地獄中死。還能令善根相續。問曰。何等入地獄中生時相續。何等入死時相續耶。答曰。或有說者。若於中陰中乃至死時。受邪見報。以報盡故。死時善根還相續。若中陰中不受邪見報者。則生時善根還相續。所以者何。如邪見與善根相妨。報亦復爾。復有說者。或有以因力斷善根者。或有以緣力斷善根者。若以因力斷善根者。死時相續。若以緣力斷善根者。生時相續。復有說者。或有自力斷善根者。或有他力斷善根者。若以自力斷善根者。死時相續。若以他力斷善根者。生時相續。復有說者。或以常見。或以斷見。若以常見。死時相續。若以斷見。生時相續。尊者瞿沙說曰。生地獄中時。不無報現在前。彼作是念。我自作此業。當受此報。若受彼報。亦作是念。是時善根還相續。復有說者。現法中能令善根還相續。尊者佛陀提婆。作如是說。何等入於現法中。能令善根還相續。何等入轉身。答言。若得如是善知識多聞。能為人說次第法語如是言。若於我有信敬心。於諸梵行者。亦應生信敬心。若能生信敬心者。當知是人於現法中。能令善根還相續。何等入轉身者。斷善根人。有作無間罪者。有不作者。若不作無間罪。是人現法中。還令相續。若

作無間罪。是人轉身。或有破見破戒。或有破見不破戒。若破見不破戒。是人現法。若破見破戒。是人轉身。破其心破方便。當知亦如是。問曰。若現法能生善根者。彼所說云何通。如說。此人於現法。不能還生善根。答曰。此說斷善根作無間罪者。若於現法。還相續者。是名成就善根。亦現在前。若死時生時。還相續者。是名成就不能令現在前。若於現法。還相續者。不必生地獄中。問曰。若於現法中。還令相續者。能得正決定不耶。答曰。或有說者。不能所以者何。以彼身中會斷善根故。使善根羸劣。善根羸劣故。不能得正決定。而故能生達分善根。復有說者。能生達分善根。得正決定。乃至能得阿羅漢果。如優仇吒婆羅門居士曾斷善根。尊者舍利弗還令其人生於善根。得正決定。是故當知能生達分善根。乃至亦能得阿羅漢果。

問曰。殺斷善根人。殺折脚蟻子。何者罪重耶。答曰。或有說者。若住等纏。其罪亦等。是為折脚蟻子。斷善根人。其量正等。復有說者。殺折脚蟻子。罪多於彼。所以者何。折脚蟻子。不斷善根。彼人斷善根。如是說者。呵責斷善根者。若以殺生。殺折脚蟻子。罪重。若以得罪。殺人罪重。所以者何。若殺於人。則得邊罪。若殺折脚蟻子。不得邊罪。問曰。於何處受斷善根邪見報耶。答曰。於阿毘地獄受。如阿羅漢所趣。最上到於涅槃。斷善根者所趣。最下到阿毘獄。

問曰。諸斷善根盡住邪定聚耶。答曰。如是。若

斷善根盡住邪定。頗有住邪定不斷善根耶。答曰。有。如阿闍世王是也。復有作四句者。或斷善根非邪定。或邪定不斷善根。乃至廣作四句。初句者。富闍那等。自言是佛六師是也。第二句者。阿闍世王是也。第三句者。提婆達多是也。第四句者。除上爾所事。

問曰。為不起斷九種善根。為數數起斷九種善根耶。答曰。或有說者。不起斷諸善根。如見道中不起。彼亦如是。復有說者。或有斷一二三善根而起。已復斷。評曰。不應作是說。如說不起者好。云何欲界增上善根云何微。乃至廣說。問曰。何故問欲界善根。不問色無色界耶。答曰。或有說者。作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。此問初起方便。入法。如問欲界。當知亦問色無色界。亦不說者。當知此問有餘。復有說者。先說不善根。誰是不善根。近對治。所謂欲界善根也。是故問之。復有說者。若易見易施設者。則問。色無色界增上善根。雖易見易施設。而微者。難見難施設。所以不問。復有說者。欲令經文便故。色無色界增上善根。雖易顯現。而微者。難見。若顯現者。經文煩亂。所以者何。無斷善根法故。欲界有斷善根法故。若說微者。則經文不煩。是以問之。

云何欲界繫上善根。答曰。菩薩得正決定時。見道邊所得等智。如來得盡智時。得欲界無貪無嗔無癡善根。問曰。何故見道邊等智得盡智時善根。此二法等而論耶。答曰。或有說者。此不等論。但欲說見道邊等智。於見道邊等智勝者。得盡智時善根。於盡智時善

根勝者。所以者何。如辟支佛所得見道邊等智。則勝聲聞。如佛所得見道邊等智。則勝辟支佛。辟支佛得盡智時善根。則勝聲聞。佛得盡智時善根。則勝辟支佛。以是義故。欲說見道邊等智於見道邊等智勝故。乃至廣說。復有說者。此二法等而論之。俱能摧伏過於有頂而得之故。所以者何。摧伏出過見道所斷有頂。得見道邊等智。摧伏出過修道所斷有頂。得盡智時善根。以是義故等而論之。復有說者。欲說轉勝法故。如辟支佛得見道邊等智。則勝聲聞。得盡智時善根。菩薩得見道邊等智。則勝辟支佛。得盡智時善根。問曰。若然者。云何言聲聞辟支佛有增上善根耶。答曰。以身勝故說增上。如在辟支佛身中。則勝聲聞。如在佛身中。則勝辟支佛。復有說者。有二道。見道修道。若以見道力得佛亦勝。若以修道力得佛亦勝。復有說者。此中亦不說勝。亦不說等。但說二種善根。

問曰。如菩薩得正決定已。得此等智。何以言得正決定時耶。答曰。或有說者。此文應如是說。菩薩得正決定已。得此等智。而不說者。有何意。答曰。此中得決定已。言得決定時。已來言來。如說。天王從何處來。廣說如上。復有說者。得決定時。得此等智。所以者何。此智。若比智時修。從苦比忍決定。得苦比智時故。集比忍集比智滅比忍滅比智亦如是。同於所緣未休息故。問曰。何故言此智是見道邊耶。答曰。以二事故。一從見道中得。二從見道後邊得。行人見道中得。故言見道中。見苦集滅

道邊等智勝者。得盡智時善根。於盡智時善

殺十(人)◎如十(是)◎入二八◎亦二而◎◎卷第二十六終◎◎卷第二十七雜捷度無慚愧品之二首◎◎卷第二十七雜捷度無慚愧品第五之二首◎造號釋號譯號同異俱如卷第十一◎道二二◎苦二若◎

最後得。故言後邊問曰。如此法體。是四陰五陰。何以說名為智耶。答曰。此中智分多從多分故。說名為智。如見道亦體是五陰。以見分多故。說名見道。四道通金剛喻定。此智亦如是。問曰。見苦邊欲界等智。見集邊欲界等智。此二者何者為勝。答曰。以見集邊等智在勝身中故勝。所以者何。見集時其道轉淨。勝見苦時。問曰。欲界見苦邊等智。色界見苦邊等智。何者為勝。答曰。色界者勝。所以者何。以色界法勝於欲界法故。欲界繫見集邊等智。色界繫見苦邊等智。何者為勝。答曰。欲界者。以在勝身中修故勝。色界者。以界勝故勝。問曰。見苦邊欲界等智。見集邊色界等智。此二者何者為勝。答曰。色界者。以二事故勝。一以界勝。二以在勝身中故勝。如以苦問集。以苦問滅。以集問滅。當知亦如是。

問曰。何故法智邊不修。此智耶。答曰。以非田非器故。乃至廣說。復有說者。此智以見道後邊得故。名見道邊智。若當法智邊亦修者。此智當言見道中智。復有說者。此智能摧伏出過有頂。然後得之。如苦比智現在前。此智便修。是時名摧伏出過見苦所斷法。見集見滅說亦如是。復有說者所作已竟。不作方便時。得此等智。如苦。法智現在前。此智則修。是時名於苦已竟不作方便。集比智滅比智說亦如是。法智當多有所作。雖知欲界苦。未知色無色界苦。雖斷欲界諸行集。證欲界諸行滅。未斷色無色界諸行集。未證色無色界諸行滅。復有說者。若苦比智現在前時。此智修

見苦所斷愛畢竟滅。集比智現在前時。此智修見集所斷愛畢竟滅。滅比智現在前時。此智修見滅所斷愛畢竟滅。法智分時。見苦集滅所斷愛。不畢竟滅。是以不修。問曰。道比智邊。何以不修此智耶。答曰。或有說者。非其田器故。乃至廣說。復有說者。此智是見道眷屬隨從見道。邊。比智是修道故。復有說者。見道邊等智。依堅信堅法身道比智。依信解脫見到身。復有說者。見道邊等智。是向道所得。道比智。是果道所得。復有說者。所作已竟。不作方便。是時此智修。道比智當多有所作。為作何等。謂當得未曾得道。捨會得道。所斷結使。同一味一時得八智。修十六行。復有說者。此智見道邊得故。言是見道邊等智。若諦有邊名者。是處便修。三諦有邊名非道諦。如說此身苦邊此身集邊此身滅邊。不說此身道邊。問曰。因論生論。何故佛經不說道邊耶。答曰。有能盡知苦盡斷集盡證滅。無有能盡修道者。佛於道盡得修。不能盡得行修。復有說者。若諦以世間道出世間道能見者說邊。無有以世間道見道諦者。如世間道出世間道。有味無味。有愛出要。繫不繫當知亦如是。復有說者。前無有際。無始以來。或會以世俗道。見於三諦。彼世俗道。亦言我是道。後若以真實道。見道諦時。世俗道。漸差捨去。如村落中。未立主時。自貴者多。後若立主。諸自貴者。漸差捨去。彼亦如是。復有說者。見道邊等智。是有。苦諦。是有。是有果。說名為邊。苦集諦。是有。是有果。滅諦雖非。是有果。道諦非。有。

有。亦非有果故。復有說者。三諦有無量過患。無量功德。苦集諦是無量過患。滅諦是無量功德。道諦亦無量過患。亦無量功德。故復有說者。凡夫於無始生死已來。於三諦會已有功。後若得正決定時。皆見道邊等智。亦欲證此法。猶如與欲法。我亦當知。苦乃至證滅。然無有凡人曾修聖道者。復有說者。見苦時。不見真道。見集滅時。亦不見真道。見道諦時。乃見真道時。世俗道言我非道。是中應說烏孔雀等喻。復有說者。見道諦時。斷緣道諦道使。非三諦。是故世俗道於三諦。自言是道。後見道諦。而便退還。是故不修。界者在欲色界。問曰。何故無色界中無耶。答曰。非其田器故。乃至廣說。復有說者。若地有見道。則有見道邊等智。無色界無見道故。如是因論生論。何故無色界無見道耶。答曰。非其田故。乃至廣說。復次若有緣一切法無我行。是中則有見道。無色中無緣一切法無我行。故無見道。復次若地有達分善根。則有見道。無色界無達分善根故。無見道。復次若地有忍有智。復次若地有法智分比智分。復次見道法。決定應爾。若依下地。得正決定。則上地不修。無色中。若有見道邊等智者。依第四禪。入見諦道。彼則無用故不修。地者。七地中有。謂欲界未至中間根本四禪。若依未至禪。得正決定。彼一地見道修。二地見道邊等智修。若依初禪。得正決定。二地見道修。三地見道邊等智修。若依中間禪。得正決定。三地見道修。四地見道邊等智修。若依二禪。得正決定。

法二比(三) 邊二道(三) 苦二若(三) (有)一(三) 有+(果)三(三) 後二德(三) 皆二彼(三) 正二證(三)

四地見道修。五地見道邊等智修。若依三禪。得正決定。五地見道修。六地見道邊等智修。若依四禪。得正決定。六地見道修。七地見道邊等智修。依者。依欲界身。或有說者。依色界身。所以者何。如來展轉曾有身。亦能作所依故。辟支佛聲聞亦如是。報者。後當廣說。行者。行十二行。苦邊者。行苦四行。集邊者。行集四行。滅邊者。行滅四行。緣者。欲界緣欲界苦。色界緣色無色界苦。緣集滅說亦如是。復有說者。此是總緣。如緣欲界苦者。緣色界苦者。此總緣苦諦。乃至滅諦說亦如是。評曰。此是別緣非總緣。如前說者好。念處者。苦集邊是四念處。滅邊是法念處。智者。是等智。定者不與定俱。根者總而言之。與三根相應謂喜樂捨根。三世者是未來世。緣三世者。若苦集邊者緣於三世。滅邊者不緣世。善不善無記者。是善緣善。不善無記者。緣欲界苦集者緣三種。色界苦集邊者。緣善無記滅邊者。唯緣善。三界繫者是欲色界繫。緣三界者欲界苦集者緣欲界繫。色界苦集邊者。緣色無色界繫。滅邊者。緣見不繫是學無學非學非無學者。是非學非無學。緣學無學非學非無學者。是緣非學非無學。見道斷修道斷不斷者。是修道斷緣。見道修道不斷者。若苦集邊者緣見道修道斷。若滅邊者緣不斷。緣名緣義者。若苦集邊者是緣名緣義。若滅邊者是緣義。緣自身他身不緣身者。若苦集邊者緣自身他身。若滅邊者不緣身。問曰。此智為依凡夫身。為依聖人身耶。若依凡夫身者。何以不

名凡夫法。若依聖人身者。此法終不起現在前。若起者。云何不二。道俱現在前。或有說者。應作此論。不依凡夫身。亦不依聖人身。評曰。不應作是說。云何名善根。不依凡夫身。不依聖人身。實義者當言依聖人身。問曰。聖人不起現在前。何以言依聖人身耶。答曰。雖不起現在前。以時而言。應在聖人身。復有說者。依堅信堅法身。彼堅信堅法人。不起所期心故。不現在前。問曰。如堅信堅法身。雖智忍所依。云何復是此智所依耶。答曰。彼有二種身。一種得見道。亦在身中成就。亦現在前。即此身得此智。不在身中成就。不現在前。第二身得等智。在身中成就。亦現在前。即此身得見道。不在身中成就。不現在前。若此身得見道。在身中成就。現在前。得是智。不在身中成就。不現在前。如此身堅信堅法起現在前。若此身得是智。在身中成就。現在前。得見道。不在身中成就。不現在前。若起期心。堅信堅法。亦能起此身現在前。是聞思修慧者。欲界者是思慧。以勝故。非是聞慧。以欲界非離欲地非定地非修地故。非修慧。若欲修時。墮思慧中。若色界是修慧。非聞思慧。所以者何以勝故。非聞。以色界是離欲地定地修地故。非思慧。若欲思時。墮修慧中。為在意識五識者。在意地非五識身。問曰。得須陀洹果捨見道。亦捨見道邊等智不耶。答曰。不捨。所以者何。捨無漏時。異捨有漏時。異。無漏法以三時捨。謂退時。得果時。轉根時。有漏法亦三時捨。謂退時。離地離界時。

善根斷時。彼時非退。不離地界。不斷善根故。不捨。復次。修道與見道。二事相妨。一不得俱成就。二不俱現在前。修道與見道邊等智。一事相妨。不俱現在前。得俱成就。問曰。若不捨者。於修道中。起現在前。不耶。答曰。不起現在前。以是事故。先作是說。修道於見道邊等智。一事相妨。成就不現在前。以不妨成就故。不捨。妨現在前行故。不現在前。復次。以是見道眷屬不離見道故。修道中不現在前。復次。以依堅信堅法身故。依餘身不起現在前。復次。以不離向道故。不依餘身現在前。問曰。此為有報無耶。答曰。有報。問曰。此報為在何處。答曰。若欲界者。報在欲界。若色界者。報在色界。若在初禪。報在初禪。乃至若在四禪。報在四禪。問曰。如聲聞可爾。所以者何。聲聞當在色界身故。佛辟支佛。云何可爾。答曰。彼亦有展轉。凡夫時身在色界受報。問曰。若然者。云何聖人身作因。凡夫身受報耶。答曰。若然者。有何過。有聖人身作因。凡夫身受報。如惡道有二種因。一見道所斷。二是修道所斷。六種煩惱。如此聖人身作因。凡夫身應受報。無過彼亦如是。復有說者。佛辟支佛。亦有聲聞陰界入展轉色界身分。而受此報。評曰。不應作是說。如是說者好。以是有漏善根故。言有報。而此報不熟。未曾有受之者。得盡智時。三界善根未來。修問曰。為修幾耶。答曰。若生欲界。得阿羅漢。則三界善根未來世修。若生初禪。則八地修。乃至若生非想非非想處。則一地修。問曰。此善根為是生得。

①色十(無色)②唯二能③下同④緣見二見緣⑤唯二唯⑥唯⑦聞十(慧)⑧道二前⑨修十(者)⑩

為是方便耶。答曰。是方便非生得。為是聞思

修慧者。若欲界者。是聞思慧。若色界是聞思

慧。若無色界是修慧。問曰。如欲界是聞思慧

色界是聞思慧。聞思慧。云何未來世修

耶。答曰。以他力故。未來世修。非自力。為是

意地是六識身。是意地非五識身。所以者何

方便善在意地。生得善在五識問曰。若唯在

意地者此說云何通。如說。漏盡阿羅漢。成就

六識支。幾過去成就幾未來成就。幾現在成

就。為有耶。為無耶。若有者誰有耶。云何有

耶。答曰。有若阿羅漢。初起善眼識現在前。一

支過去。六支未來。一*支現在。彼滅已不捨

若善耳識現在前。二過去。六未來。一現在。彼

滅已不捨。乃至善意識現在前。六過去未來。

一現在。此云何通。答曰。此中所說者。最初得

阿羅漢清淨身所得善根。不取無始生死已

來者。復有說者。此說阿羅漢六常住法。問曰。

阿羅漢六常住法體性是何。答曰。或有說者。

體性是念慧。何以知之。答曰。依佛經故。佛經

中說阿羅漢。若眼見色。以念慧力住於捨。心

不生憂喜。乃至意知法。廣說亦爾。復有說者。

若取迴轉相應共有體。是四陰五陰。此是六

常住體性。乃至廣說。已說體性所以。今當說。

何故名常住。云何常住義。答曰。阿羅漢。常住

此法。未曾遠離。故名常住。問曰。一切阿羅

漢。盡有此常住法不。答曰。或有說者。不盡有。

若阿羅漢。是非時解脫。得種智者。此有常

住法。評曰。應作是說。一切阿羅漢盡有。所以

者何。一切阿羅漢。常有念慧。故界者是欲界

色界。地者五地。謂欲界四禪

問曰。以何等故。得阿羅漢果。三界善根。未來

世修。非餘時耶。答曰。阿羅漢。必須世俗出定

入定心。復次當於爾時。不滿解脫。得滿足故。

學人解脫。乃至金剛喻定。不名滿足。若得盡

智乃名滿足。猶如農夫灌田。一畦滿已復流

一畦。若諸畦已滿。更不復流。彼亦如是。復有

說者。是時心得自在。首繫解脫。羂。是時所

修善根。如貢上法。猶如國王登位首繫。羂

時。一切萬姓。貢上珍寶。彼亦如是。復次是時

能折伏未曾折伏煩惱。力士諸善根。皆稱善

故修。猶如大眾集會一處。若能撲未曾有力

士者。大眾稱慶。彼亦如是。復有說者。是時能

破未曾破煩惱怨家。諸善根如迎法故修。猶

如有人能破怨家歸國之時。多人出迎。彼亦

如是。復有說者。無有前際。無始已來。諸善根

身。常為煩惱身所覆蔽沈沒。不能自。免。欲

界煩惱盡時。不得止息。乃至非想非非想處。

八種煩惱斷時。猶不得止息。若九種煩惱盡

時。是時乃得止息。如束。絹法。九處約之。若

斷一約乃至八約。其束不散。若九約都斷然

後乃散。彼亦如是

時解脫阿羅漢。是時二種慧修。謂盡智無學

正見盡智。行十四行。無學正見。行十六行。若

依未至禪。三十法智修。三十比智修。乃至第

四禪亦如是。若依空處。三十比智修。非法智。

乃至無所有處亦如是。非時解脫阿羅漢。是

時三種慧修。謂盡智無生智無學正見。盡智

無生智有十四行。無學正見有十六行。若依

未至禪。有四十四法智修四十四比智修乃

至第四禪亦如是。若依空處。有四十四比智

分修。非法智乃至無所有處亦如是

諸心過去。一切彼心變易耶。乃至廣說。問曰。

何故作此論。答曰。為止於世中愚言無過去

未來現在世是無為法。為止如是意欲明過

去未來是有法故。而作此論

諸心過去。一切彼心變易耶。心變易有二種。

一隨世變易。二法變易。過去染污心有二種

變易。一隨世變易。二法變易。不染污心。唯

一種變易。謂隨世變易非法也。未來現在染

污心。是法變易非隨世也。不染污心非法變

易。亦非隨世變易。諸心過去。一切彼心變易

耶。答曰。諸心過去。一切彼心變易。若為染污

者。有二種變易。不染污者。有一種變易。謂隨

世變易。顯心變易。彼心非過去耶。答曰。有未

來現在欲志相應心。為明此義引佛經為證。

如說佛告比丘。若伺賊以鋸截汝支節。是時

心變易。口不應惡言。若心變易。口出惡言。是

汝留難。以是義故。志相應心。是名變易。如說

若比丘。姪欲變心。以是義故。欲相應心。是名

變易。問曰。一切染污心盡是變易。何以唯說

欲志相應心是變易。不說餘使相應心耶。答

曰。或有說者。此說有餘。乃至廣說。復有說

者。應說餘使相應心。而不說者。當知此義有

餘。復有說者。若正是佛經所說。此中則說此

二心正是佛經所說。是故說之。如是因論生

論。何故世尊說欲志相應心是變易。不說餘

使相應心耶。答曰。以欲能變身志能變境界

者何。一切阿羅漢。常有念慧。故界者是欲界

色界。地者五地。謂欲界四禪

未至禪。有四十四法智修四十四比智修乃

*支二枚 此有二盡有此 絹二絹 免二勉 絹二絹

所以者何。若於境界生愛。所有心心數法馳騁緣中。是時此身猶無情物。若於境界生恚。猶不能以面向之。何況正視。復有說者。此二能變身。能變生處。欲心能變身者。或有衆生起貪欲纏。能變男形使滅。女形。使生。或有衆生起瞋恚纏。能使人身滅。使成蛇身。此中應說外道來作比丘喻。曾聞有尼捷子。來詣佛出家時。諸比丘在其人前說惡。法中種種過患。其人聞已。於佛法生大瞋恚。以瞋恚故。人身即滅。便成蛇身。云何欲心能變生處。如世尊說。告諸比丘。有遊戲失念天。彼天若快意遊戲受樂之時。身體疲倦。心則失念。以失念故。於彼命終。云何恚變生處。世尊亦說。有恚害意天。彼諸天心懷恚時。以惡眼相視。惡眼相視。故恚心轉盛。恚心轉盛。故於彼命終。瞋恚復能變生處。如以恚心打他人。即死。復有說者。欲能變時。恚能變形。欲變時者。以欲故。有嬰孩少壯男女等時差別。恚變形者。以恚故。鋸截他手足耳鼻種種身分。以此二法能壞時壞形。故。是以說之。復有說者。以此二法能生憎愛種種過患。故。是以說之。復有說者。此二法。速能令身色變異。是以說之。

●若心有染一切彼心變易耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。先說淫欲心變易。或謂唯淫欲心是變易非餘。今說三界欲心盡是變易故。而作此論。

若心有染一切彼心變易耶。答曰。若心有染一切彼心變易。若過去心。有二種變易。若未

來現在。有一種變易。謂法變易。頗有心變易。彼心非有染耶。答曰。有過去欲不相應心。若染污。有二種變易。不染污。一種謂隨世變易。未來現在恚相應心。如說。伺賊以鋸截汝身體。乃至廣說。如是心。是法變易非有染。問曰。現在心至過去名變易。未來心至現在。何以不名變易耶。答曰。若變易心。更不變易。故名變易。未來心至現在。復當變易。至過去。故不名變易。復有說者。若所作變易。隨世變易。是名變易。現在心。雖有隨世變易。無所作變易。所以者何。猶有所作。復當變易。至過去。世故問曰。何故名伺賊耶。答曰。晝伺其便。夜則偷劫。問曰。何故以鋸為喻耶。答曰。以刀截人。有入時痛出時不痛。有出時痛入時不痛。以鋸截人。出入俱痛。是以為喻。若心有恚。一切彼心變易耶。答曰。若心有恚。一切彼心變易。如前所說。盡應說之。願變易一切彼心。非有恚耶。答曰。有過去恚不相應心。未來現在欲相應心。如是一切煩惱相應心。隨相應說。

阿毘曇毘婆沙論卷第十九

阿毘曇毘婆沙論卷第二十

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等
譯

一切掉盡悔相應耶。乃至廣說。問曰。何故作

此論。答曰。世尊說掉與悔作一蓋。或謂掉外無悔。悔外無掉。欲說悔外有掉。掉外有悔。決定義故。而作此論。

一切掉盡悔相應耶。乃至廣說作四句。云何掉不與悔相應。答曰。非悔時心不休不息。乃至廣說。彼是何耶。答曰。一切色無色界掉。欲界見道所斷。四種掉。修道所斷。五識身掉。意識地欲恚慢慳嫉相應掉。如是等掉。不與悔相應。所以者何。彼品中無悔故。云何悔不與掉相應。答曰。不染污心悔。乃至廣說。彼是何耶。如比丘畏戒故悔。若不自舉。若使人舉。露地臥具。若自閉。若使人閉。大小行處門。若

為作福悔。何者是耶。有悔因不善。悔亦不善。有悔因不善。有悔因善。悔亦善。有悔因善。悔亦善。有悔因不善。悔亦不善。猶如有一作惡。悔我所作惡。少應當益作。有悔不善因善者。猶如有一作善後悔。我何故作此善耶。如彼居士施辟支佛食。後。便悔言。我寧以此食與奴婢作人何用。施是人為。有悔因善。悔亦善者。猶如有一作善後悔。我作善少應當益作。如尊者阿尼盧頭。作如是言。我若知此大德。有如是威神者。我當益施其食。有悔善因不善者。猶如有一於戒。不犯我作如是事。非是善好。如不舉露地敷具。如是等戒是也。

此四種中。悔善因善。悔善因不善。是悔不與掉相應。云何掉與悔相應。謂染污心悔是也。乃至廣說。問曰。何故問掉應悔。而答悔應掉耶。答曰。此文應如是說。云何掉應悔。若心悔時。不休不息。乃至廣說。而無說者。有何意

●使一便● (說)十法● 令今● 若心乃至未九十一字宮本斷缺 ●第十九=第二十七● 第二十二=第二十八● ●建二健● *下二=之三● 第五=之三● 便=更● 不=有●

耶。答曰。此說染污心悔。應於掉時。諸餘染污心。唯掉相應。不與悔相應。復有說者。悔之與掉。體俱是蓋。應作是問。云何掉與悔相應。悔云何與掉相應。云何掉不與悔相應。悔不與掉相應。除上爾所事。諸法已立名已稱說者。作第一第二第三句。未立名未稱說者。作第四句。一切睡眠相應耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。世尊說。睡與眠作一蓋。或謂睡外無眠。眠外無睡。今欲說睡外有眠。眠外有睡。決定義故。而作此論。

一切睡眠相應耶。乃至廣說。云何睡不與眠相應。若身未動時。身重是說五識身睡。心重是說意識身睡。身心隱覆等餘句亦如是。彼是何耶。一切色無色界睡。欲界不眠時。是謂睡不與眠相應。云何眠不與睡相應。不染污心眠夢。身動心不散心不行。五識在意。識中眠。不。汚染心者。善心不隱沒無記心。是名眠不與睡相應。云何睡與眠相應。答曰。染污心眠夢。乃至廣說。餘句答餘句如上掉悔中說。

眠當言善耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此因論生論。先說不染污心眠夢。乃至廣說。不說眠是善不善無記。彼中不說者。今欲說故。而作此論。

眠當言善耶。乃至廣說。答曰。眠或善不善無記。云何善。善心眠夢。是謂善。問曰。為是生得善心眠夢。為是方便善心眠夢耶。答曰。生得善。非方便善。問曰。何等來生善心中眠耶。答曰。不眠時。多修行善者。以多修行善故眠

時亦善。如行者不眠時念其境界耶。念境界而眠。眠中還見本境界。誦經施主亦如是。如是來生善心眠。何等來生不善心眠耶。答曰。不眠時多作惡行者。如屠兒獵師畫作不善眠夢亦然。如屠獵師盜賊姪人亦如是。如是等來生不善心眠。何等來生無記心眠耶。答曰。不眠時多作無記行。亦無記心眠。還見無記事報。無記心中亦眠。威儀工巧心亦眠。還作威儀工巧事。身見邊見隱沒無記心亦眠。如本有陰。多修行善不善無記。善不善無記心而死。不眠時。多行善不善無記。眠時亦善不善無記心而眠。

眠中所作善增益。當言迴耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。前說善心眠。乃至廣說。不說眠所作善增益當言迴耶不迴耶。彼中不說者。今欲說故而作此論。

眠中所作善增益當言迴耶。乃至廣說。或有說。得是增益。或有說。生是增益。云何說得是增益耶。如定捷度說。以何等故。凡夫人退時。見道修道所斷煩惱增益。世尊弟子退時。唯修道所斷煩惱增益。云何說生是增益。如施設經說。凡夫人若生欲界愛。必生五法。何謂為五。一欲界愛。二欲界愛增益。三無明。四無明增益。五掉。此中說善不善思。得愛不愛果。說名增益。彼增益。為生愛果。為生不愛果耶。答曰。若善生愛果。若不善生不愛果。云何善增益。如眠夢時施與。如人常行布施。彼眠夢時。亦行是事。若好行多聞。彼眠夢時。亦行是事。讀修多羅阿毘曇持戒善亦如是。若好修

定。彼眠夢時。亦行是事。如修不淨等善眠。是名善增益。云何不淨等善。若好惡事。彼眠夢時。亦行是事。如獵師屠兒夢作殺事。賊取他財。姪人犯他女色。是名不善增益。云何非善增益。非不善增益。如人好行威儀工巧事。彼眠夢時。亦行是事。如行者夢作農夫種。植如銅鐵師等夢作銅鐵等物。

問曰。若眠時所作善增益者。何以佛說愚人眠時無有果報。答曰。如不眠人。能作田種等作。以眠故不作。佛說是人言無果報。如不眠人。能讀誦經。能修不淨等善根。能生念處。能生煖等達分善根。能得須陀洹果。斯陀含阿那含阿羅漢果。以眠故不得如是等果報。是故佛說愚人眠時無有果報。尊者和須蜜說曰。以眠時得果少故。佛說無果。

佛經中說。寧當眠莫起惡覺。問曰。若眠不善增益者。何故佛說寧當眠不起惡覺耶。答曰。以不眠時數數多起惡覺故。眠時則少。以是事故。佛說寧當眠不起惡覺。

問曰。眠時能作生處造業不耶。答曰。或有說者。能作惡道生處造業。如婆羅地迦虫曲。蟬虫等。受此微怯弱之身是也。夢名何法。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。先說夢所作事。未說夢體。今欲說故而作此論。復次佛經說。我為菩薩時。夢見五事。波斯匿王夢見十事。如難陀迦母優。婆斯白佛言。我夫命過。為我現夢。餘經說偈。

夢中共人會 寤已便不見
一切所有物 死已亦不見

●唯二惟●下同 ●汚染二染汚● ●讀十(誦)● ●植一殖● ●煖一暖● ●蟬二蟬● ●婆二波● ●

餘經亦說。汝等當捨如夢之法。云何如夢法。五陰是也。乃至廣說。佛經雖處處說夢而分別。佛經是此論所為根本。彼中不說者。今欲說故而作此論。復有說者。譬喻者說夢。非實有法。彼以何故。作如是說。答曰。以世現事故。作如是說。如人夢中飲食飽足。諸根增益。寤已。飢渴。夢中夢作五樂。寤已。都不復見。夢四種兵而自圍遶。寤已。獨己。以是事故。夢非實有。為止如是說者。意亦明夢是實有法。而作此論。

夢名何法。答曰。眠時心心數法。隨其所緣。寤已。不忘向他人說我夢見。如是事。是名為夢。問曰。如夢所見事。寤已。不憶。設憶不向他人說。為是夢不。答曰。此亦是夢。此中所說。是滿足夢。滿足夢者。夢中所見。寤已。不忘。亦向他人說者是也。

問曰。夢體性是何。答曰。體性是意。所以者何。以意力故。心心數法。生復有說者。夢體性是心心數法。所以者何。如經本說。心心數法。隨其所緣。復有說者。心心數法。境是夢體性。所以者何。如經本說。心心數法。隨其所緣。復有說者。夢體性是五陰。

問曰。何處有夢耶。答曰。欲界非色無色界。或有說者。欲界不盡有夢。如地獄衆生。所以者何。以苦痛所逼。故不得眠。復有說者。地獄亦有眠時。所以者何。如說活地獄中。或時有冷風來。如是唱言。衆生活。衆生活。時諸衆生。即便還活。冷風吹故。暫時得眠。以是事故。知地獄中亦有眠夢。畜生餓鬼人亦有眠夢。問曰。

何等人有夢耶。答曰。凡夫聖人俱夢。聖人從須陀洹至辟支佛盡夢。唯有諸佛不夢。所以者何。唯有諸佛。無有疑故。亦離一切無巧便習氣故。問曰。夢中所見。為是所更事。為非所更事耶。答曰。是所更事。非不所更事。問曰。

若然者。夢見人有角。何處會見有角人耶。答曰。此是亂想故。異處見人。異處見角。以亂想故。言是一處見人有角。復有說者。大海中有人形虫。頭上有角。以會見故。今亦夢見。問曰。如菩薩夢見五事。為於何處會見是事耶。答曰。所更有二種。一者會見。二者會聞。菩薩所夢是會聞。於何處聞。過去諸佛。為諸弟子說此五夢。菩薩於彼而得聞之。以會聞故。今亦夢見。問曰。誰現此夢耶。答曰。或有說者。是諸鬼神。為現吉不吉事。尊者和須蜜說曰。以五事故現夢。如偈說。

以疑心分別 覺習因現事
非人來相語 因此五見夢
警方說。有七事故夢。如偈說

或所更聞見 所求亦分別
覺習及諸患 因此七見夢
問曰。如現在意識不能見色等。云何言夢是意地而能見色等耶。答曰。以見吉不吉相故言見。諸仙人說夢亦如是。尊者佛陀提婆說曰。眠時五識不現在前。不能見色等。如難陀迦母優婆塞所夢。以眠勢衰微。以能見色等。問曰。夢所念事多。第四禪地宿命智所念事多耶。答曰。夢所念事多。非第四禪地宿命智所念事多。以是事故。而作是說。頗不入禪。

不起通現在前。能憶念阿僧祇劫事不。答曰。有謂夢中所念是也。

仙人所說夢書。若人夢見如是事。當有如是果。問曰。如知未來世事。是願智境界。彼不得願智。何由能知耶。答曰。以過去現在事。比未來世事。故能知。如諸仙曾有如是夢。有如是果。今有如是夢。亦當有如是果。如此皆以此相故知。

如經說。當捨如夢等法。云何是如夢等法。答曰。五陰等是也。問曰。以何等故。說五陰如夢。答曰。以不適人意。暫有不經久故。說陰如夢。問曰。於何處眠耶。答曰。如經先說。五道中有眠。中陰中亦眠。在母胎諸根具者亦眠。乃至佛世尊亦眠。問曰。如薩遮尼捷所說。若人眠者。其人亦愚。所以者何。以是蓋故。此云何通。答曰。非一切眠盡是蓋。有眠是蓋。有眠非蓋。眠非蓋者。佛起現在前。欲調適身故。眠是蓋者。佛不起現在前。所以者何。已離一切愚故。有五蓋。五蓋攝一切蓋耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。佛經說五蓋。或謂唯五蓋更無餘蓋。欲明五蓋外更有無明蓋故。而作此論。五蓋攝一切蓋。一切蓋攝五蓋耶。答曰。一切蓋攝五蓋。非五蓋攝一切蓋。乃至廣說。五蓋者所說者是也。一切蓋者第六無明蓋是也。彼一切蓋能攝五蓋。以多故。五不攝一切。以有餘故。如以大器覆小器。則遍小器覆大器。則不遍。彼亦如是。一切攝五。非五攝一切。不攝何等。謂無明蓋。

佛說無明覆愛結繫愚小。得此身聰明亦然。

問曰。如無明是蓋亦是結。愛亦是蓋亦是結。何以唯說無明覆不說愛覆耶。答曰。或有說者。欲現種種文種種說故。若有種種文義則易解。復有說者。蓋義是覆義。更無有結覆衆生慧眼如無明者。繫義是結義。更無有結繫於衆生如愛結者。猶如一人有二怨家。一縛其手足。二以土塗其目。是人被縛無目。不能有所至。如是無明覆衆生慧眼。愛結繫之。不能起向涅槃。以是事故。尊者瞿沙作如是說。以無明覆愛結繫故。不善法得生。是中應說。一名伊利摩。二名摩舍輸賊。尊者佛陀羅測說曰。此現二門。乃至廣說。如說。無明覆愛結繫。說愛結覆無明繫亦如是。以是故。欲現二門義。乃至廣說。問曰。以何等故。不說無明蓋在五蓋中耶。答曰。覆義是蓋義。此五法覆勢用等無明覆勢用偏多。如一無明蓋覆勢用勝於五蓋所覆勢用。復有說者。以無明體重故不立無明蓋。在五蓋中。

諸蓋盡覆耶。乃至廣說。問曰。何故作此論答曰。先解經中五蓋所不攝無明蓋。今欲說阿毘曇義一切煩惱盡是蓋。所以者何。一切煩惱盡覆此身中故。以是事故。尊者迦旃延子。作如是問。諸蓋覆耶。乃至廣作四句。云何是蓋非覆。過去未來五蓋是也。所以者何。以是蓋相故言蓋。過去蓋所作已竟。未來蓋所作未生。故不名為覆。云何覆非蓋。除五蓋諸餘煩惱現在前。何者是。耶謂色無色界一切結欲界繫諸見慢無明蓋所不攝。諸纏現在前時是也。云何蓋亦覆。五蓋展轉現在前。若不眠欲愛蓋現在前時。三蓋現在前。謂欲愛睡掉蓋。眠時有四。即增眠蓋。瞋恚。癡悔說亦如是。不眠睡蓋現在前時。二蓋現在前。謂睡掉蓋。眠時三蓋現在前。即增眠是也。云何非蓋非覆除上爾所事。諸法已立名已稱說者。作第一第二第三句。未立名未稱說者作第四句。何者是耶。行陰作四句。在三世五蓋。現在煩惱五蓋所不攝者。如是法。作第一第二第三句。諸餘相應不相應行陰全四陰無爲法。如是等法。作第四句。問曰。如過去煩惱覆過去法。未來煩惱覆未來法。現在煩惱覆現在法。何以故但說現在煩惱是覆。不說過去未來耶。答曰。或有說者。若說現在。當知亦說過去未來。復有說者。現在煩惱能障聖道。過去未來煩惱不能障聖道。復有說者。現在煩惱能取果報果。非過去未來。復有說者。現在煩惱能取果與果。非過去未來。復有說者。現在煩惱。現呵責染汚此身。墮不是處。非過去未來。復有說者。現在煩惱能生世愚及緣中愚。復有說者。現在煩惱有所作。復有說者。現在煩惱障礙所依所行所緣。復有說者。或有爲法。或有爲人。若爲法而言。過去法爲過去煩惱所覆。未來現在法爲未來現在煩惱所覆。若爲人而言。則現在煩惱名覆人。如世人言。誰爲煩惱所覆。謂不得解脫人爲煩惱所覆。現在陰界入假名爲人。過去未來陰界入假名爲法。以是事故。現在煩惱名覆。非過去未來也。

一切欲界繫無明使。盡不善耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。或有說。一切結使盡是不善。如譬喻者作如是說。一切煩惱盡是不善。所以者何。無巧便故欲止如是說者意。亦欲說欲界身見邊見及相應無明色無色界一切結盡是無記故。復有說者。一切欲界煩惱。盡是不善。一切色無色界煩惱。盡是無記。今欲現欲界身見邊見及相應無明亦是無記。以是事故。欲止他義顯於己義。亦欲說法相相應義故。而作此論。

一切欲界繫無明使盡不善耶。答曰。諸不善者。盡欲界繫無明使。頗有欲界無明使非不善耶。答曰。有。欲界身見邊見相應無明使是也。問曰。何故欲界身見邊見相應無明非不善耶。答曰。若體是無慚無愧。與無慚無愧相應。從無慚無愧生。是無慚無愧依果者是不善。彼與此相違故非不善。復次此法非一向壞於期心。云何非一向壞於期心耶。答曰。體非無慚愧等故。復次此法不妨布施持戒修定等故。所以者何。計我見者。爲我樂故行於布施。爲我生善道故行於持戒。爲我得解脫故而修於定。邊見隨身見後生。彼相應無明亦爾。復次此二見於自法中愚不逼切他。所以者何。我見者。不如是說。眼能見色是可見。作如是說。我能見我所是可見。乃至意知法說亦如是。此見未曾逼切於他。邊見隨身見後生故。相應無明亦爾。復次以此見不能生報故。尊者和須蜜作如是說。何故身見邊見是無記耶。答曰。以不能生身口龜業故。問曰。不善煩惱亦有不能生身口龜業者。可是

○第一二句 ○蓋十(盡) ○耶二也 ○疑二疑 ○現十(可) ○(能)十有 ○現二明 ○日二言

無記耶。答曰。現在雖不起後增益時。能起身口龜業。身見邊見終不能起。復次此見不能令衆生墮於惡道。問曰。不善煩惱亦有不能令衆生墮惡道者。可是無記耶。答曰。不善煩惱後增長時。能令衆生墮於惡道。身見邊見終不能令衆生墮惡道。復次此見不能生不愛果故問曰。若能得未來有。即是生不愛果。世尊亦說。比丘我不稱美乃至彈指頃生未來有者。所以者何。有皆是苦故。邊見隨身見後生。相應無明亦爾。尊者佛陀提婆說曰。此二見是顛倒。能生諸煩惱。非安隱法故是不善。若當身見非是不善者誰是不善。世尊亦說。比丘若無明是不善。邊見隨身見後生相應無明亦爾。

一切色無色界無明使盡無記耶。答曰。一切色無色界無明使盡是無記。廣說如經本。問曰。何故色無色界煩惱是無記耶。答曰。若體是無慚無愧。乃至是無慚無愧依果者是不善。色無色界煩惱。與此相違故非不善。復次此諸煩惱不一向壞期心。如上所說。復次以不能生報故。如是因論生論。以何等故。彼諸煩惱不能生報。答曰。此諸煩惱。爲四支五支三昧所制持故。猶如毒蛇爲呪所持不能整人。彼亦如是。復次彼無報器故。若當色無色界煩惱當生報者。應生何報。必生苦報。苦報在欲界。不可以色無色界行欲界中受報。復次彼煩惱。非一向受於顛倒。亦少有所因。如色無色界邪見謗苦。彼有少樂故。亦有少勝見取見第一。亦有少淨戒取見淨。如色界道

能淨欲界。色無色界道。能淨色無色界道。能淨無色界。尊者和須蜜說曰。以何等故。色無色界煩惱是無記。答言。不能生身口龜業。廣說如上。尊者佛陀提婆說曰。若當色無色界煩惱非是不善者。誰是不善。世尊亦說煩惱生業。一切見苦集所斷無明使。盡是一切遍耶。問曰。何故作此論。答應如上一切遍因中說。一切見苦集所斷無明使。盡是一切遍使耶。答曰。諸一切遍。盡是見苦集所斷無明使。頗見苦集所斷無明使非一切遍耶。答曰。有。非一切遍使相應無明。何者是耶。欲志慢等相應無明。隨相而說。

云何不共無明使。答曰。不說苦於苦不忍不。餘諦亦爾。此心一向愚。一向劣。一向癡。是故說不共無明。問曰。若然者。云何非是邪見耶。答曰。邪見謗言無苦。此不欲忍苦。猶如宿食不消。憎於乳食。彼亦如是。或有說者。上已說體所行云何。答曰。無知黑闇愚癡是也。復有說者。先說所行。如不說苦於苦不忍不可是也。問曰。若然者。波伽羅那經所說云何通。如說云何無明使所使。答言。若無知黑闇愚癡是也。答曰。彼說無明所行不盡有煩惱所行彼中不說。復有說者。不說苦等。是說無明所緣。

問曰。云何是不共義耶。答曰。鬪實沙門作如是說。不與緣四諦煩惱相應故名不共。復有說者。此使緣於四諦。唯是凡夫所行故名不共。尊者婆已說曰。不共餘煩惱故名不共。所以者何。以遠離煩惱所行各異不待煩惱而

生故名不共。尊者婆摩勒說曰。與煩惱別異不共一意故名不共。復有說者。與煩惱別異不共方便故名不共。問曰。不共無明。爲是五種所斷。爲是見道所斷耶。若是見道所斷者。識身經所說云何通。如說彼是修道所斷。不共無明相應心。若是五種者。此中何以不說耶。答曰。或有說者。見道所斷。問曰。若然者。識身經所說云何通。答曰。此文應如是說。彼是修道所斷。無明使相應心。應作是說。而不說者有何意。答曰。識身經所說。不說不共無明使。若以自功力不因他生者。是不共無明使。雖不與煩惱相應。不以自功力因他而生。是故不共。復有說者是五種斷。問曰。此中何以不說耶。答曰。或有說者。若無明緣四諦。不與餘使相應故名不共。修道所斷無明。有不與煩惱相應者。不緣四諦。復有說者。若不與諸使相應。唯凡夫所行者。是中則說彼修道所斷。雖有不與煩惱相應。而是凡夫聖人所行。是故不說。問曰。修道所斷不共無明使何等心邊可得耶。答曰。欲界十小煩惱大地。色界初禪地諳放逸。第二禪乃至非想非非想處放逸俱者是也。問曰。於何時現在前行耶。答曰。若人起正見。若人起見。心疲勞已。或時起如是等不共無明不共無明不說苦。乃至廣說。問曰。如一切心中盡有慧。何以說不忍可苦耶。答曰。爲無明所蔽故彼慧不明不了。頗有使不爲俱使所使耶。答曰。有。緣使已斷不共無明使是也。頗有使不爲使所使耶。答曰。有。即前者是也。頗有使不能。使耶。答曰

○一=二○ ○色+(界)○ ○答+(日)○* ○惜=一○ ○言=二○* ○唯=一○ ○使+(使)○

有。無漏緣不共無明使是也。云何不共掉纏耶。答曰。無不共掉纏。問曰。何故作此論。答曰。爲止人疑故。如有不與煩惱相應。不共無明使亦謂有不共掉纏爲止如是疑意故。答曰。無不共掉纏。所以者何。一切染污心中。盡有無明使。復次如有不與煩惱相應。不共無明使。亦謂有不與纏相應。不共掉纏。爲斷如是疑意。答言。無不共掉纏。所以者何。一切染污心有睡掉故。以是事故而作此論。

問曰。如睡掉通三界五種斷。六識身一切染污心可得。何故不問睡。但問掉耶。答曰。或有說者。作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。以掉多放逸過生諸罪答故。以多過患故。波伽羅那經。立掉爲煩惱大地。此經本中問。云何不共掉纏。亦立爲上分結。施設經亦說。凡夫起欲愛使時。五法現在前。謂欲愛使欲愛使增益。無明使。無明使增益。掉睡無如上等過故不問。復次掉能發動四支五支定覺心。睡隨順三昧。與三昧相似。若睡現在前時。如入禪者。復次睡爲無明所蔽。似無明所行。愚小不猛利。掉不與無明相似。猛利。是故問掉不問於睡。復次睡依於無明。若說無明。當知已說睡復有說者。修善時。掉能令遠善退失。令人心退故。發動睡則不爾。復有說者。掉能令三昧中心心數法散亂。亦於所緣事移動睡則不爾。復有說者。亦應問睡。此文應如是說。云何不共睡纏。答言。無不共睡纏。而不說者。當知此說有餘。復有說者。若說掉當知亦說睡所以者何。一切處共俱故。

阿毘曇毘婆沙論雜。捷度色品第六。色法生住老無常。當言色耶。乃至廣說。此章及解章義。是中應廣說優。婆提舍。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經佛經中說。告諸比丘。有三有爲相。不解此經義趣。故諸家作種種異說。其義不同。如譬喻者說。三有爲相。無有實體。所以者何。三有爲相。是不相應行陰所攝。不相應行陰。無有實體。欲止如是說者。意。亦明三有爲相。是實有法故。而作此論。復有說者。言此法。是無爲法。如毘婆闍婆提。作如是說。若此法。是有爲者。其性羸劣。以羸劣故。不能生法住法滅法。無爲有力。以有力故。能令法生住滅。或有說。此二法。是有爲。一是無爲。如曇摩掘部作如是說。二是有爲。謂生住。一是無爲。謂滅。若此。是有爲。其性羸劣。不能滅法。以是無爲故。能滅法。爲止如是說者。意。欲明此三法。是有爲。復有說者。此法。是相應。爲止如是說者。意。復有說者。爲止即彼法沙門意故。彼法沙門作如是說。色法生住無常。即是色體。乃至識亦如是。爲止如是等說者。意。欲顯己義。亦欲說法相相應義故。而作此論。

對是二入。謂意入法入。非意入所攝。是法入所攝。無對法當言無對。即法入所攝。有漏法當言即有漏。從是已後。還與彼法相似。無漏即無漏。有爲即有爲。以是義故。爲止說有爲相。是無爲者。意。無爲法無過去未來現在當言。即過去未來現在。問曰。何以過去法得通三世。生住老無常。唯過去耶。答曰。過去法得與彼。不同一果。不共行。相離不相隨。於彼聚爲非聚。如樹皮離樹。生等不爾。與彼同一果。乃至廣說。如過去者。未來現在說亦如是。善不善無記。當言即善不善無記。三界繫不繫。學無學非學非無學。見道所斷修道所斷不。說亦如是。

云何老云何死云何無常。問曰。何故作此論。答曰。先說真實義。有爲相。今欲說假名。有爲相。復有說者。先說剎那無常。今欲說一世無常。故作此論。云何爲老。乃至廣說。問曰。此中何故不問生耶。答曰。或有說者。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復有說者。若法於彼法無增益。令彼法散壞者。是中則問。生於彼法。能令增益熾盛。是故不問。復有說。若法能令彼法相離相遠。此中則問。生能令彼法相近相隨。是故不問。云何爲老。答曰。髮白零落。身體皮皺。轉轉損減。身形曲。膜。氣息損少。身生黑點。猶如彩畫。扶杖而行。恒患顛伏。行步遲微。諸根漸損。轉轉衰熟。舉身戰掉。是爲老。云何爲死。答曰。諸行散滅。是名爲死。如說若死即無常耶。云何死是無常。云何無常非死。答曰。或有說者。最後命根滅。一剎那。是名爲死。

色法生住老無常。當言色耶。非色耶。答曰。當言非色。問曰。非色入有二種。謂意入法入。爲意入所攝。爲法入所攝耶。答曰。法入所攝。非色法。當言非色。即法入所攝。可見法。當言不可見。不可見法。有十一入。除色入。彼非眼入。乃至意入所攝。是法入所攝。不可見法。當言不可見。即法入所攝。有對法當言無對。無

○言二曰○ ○卷第二十八終○ ○卷第二十九首○ 造說釋說譯說同異俱如卷第十一。[阿毘曇毘婆沙論]一者 ○婆二波 ○(即)十彼 ○住十(老) ○謂二(爲) ○說十(者) ○應二(復)

亦名無常餘。時陰散滅。是名無常。不名爲死。復有說者。與最後命根俱滅五陰。是名爲死。亦名無常。餘時陰散滅。是名無常。不名爲死。復有說者。一生中命根散滅。是名爲死。亦名無常。餘陰散滅。是名無常。不名爲死。復有說者。一生中與命根俱五陰散失。是名爲死。亦名無常。餘陰散失。是名無常。不名爲死。復有說者。衆生數陰散失。是名爲死。亦名無常。非衆生數陰散失。是名無常。不名爲死。問曰。業力強無常力強耶。答曰。業力強非無常。業是聖道。無常即無常。世尊。或說道是受。或說是想。或說是思。或說是意。或說是燈明。或說是信進念定慧。或說是棧。是石。是水。是花。或說是慈悲喜捨。何處說道是受。如說我實覺苦聖諦。何處說道是想。如說比丘修行廣布無常想能斷欲愛。乃至廣說。何處說是思。如說有業無黑報無白報能盡業。何處說是意。如偈說

意能燒屋宅

亦不染於緣

謂佛天人師

應受一切供

何處說是燈明。如偈說

汝起莫放逸

以戒自調伏

如是等燈明

馳流不能滅

何處說是信。如偈說

信能度大河

不放逸亦然

精進除衆苦

慧能到解脫

何處說精進。如說佛告阿難。精進能增長菩提。何處說是念。如說佛告比丘。我說念過一切處。我聖弟子。具足念力。守護根門。則離

不善法。能修善法。何處說是定。如說有定是正道無定是邪道。有定心得解脫非不定。如是等是也。何處說是慧。如偈說

慧爲世間上 趣向於至真

若能正知此 必盡於老死

何處說是棧。如說比丘當知。棧者即八聖道。何處說是石。如說比丘當知。此是正見大石。何處說是水。如說比丘當知。此八聖道。是八味水。何處說是花。如說此七覺意花。何處說是慈悲喜捨。如說修慈心三昧。得阿那含果。慈悲喜捨亦如是。此中說道是業。是故說業力強非無常。業能滅過去未來現在行。其滅是數滅。無常滅現在行。其滅是無常滅。或有說無常力強非業力。所以者何。業能滅過去未來行。無常能滅彼業。若人能殺千人敵者。是人名爲二千人敵。彼亦如是。是故無常力強非業力。如我義者。業力強非無常力。所以者何。業能令過去未來現在行不行境界。無常何所滅耶。復有說者。業名和合。無常名壞和合。爲業力強。無常力強。答曰。業力強非無常力。所以者何。和合事難壞和合易。復有說者。無常力強非業力。所以者何。彼和合者。必有別離。如我義。業力強非無常力。所以者何。和合事難壞和合易。如人作瓶時難壞瓶時易。復有說者。若業能作五道受生處造業。是業力強非無常力。復有說者。無常力強非業力。所以者何。彼業亦爲無常所壞。如我義。業力強非無常力。所以者何。法造時難壞時易。此中亦應說瓶喻

世尊說三有爲相。問曰。何故作此論。答曰。爲止他義故。如譬喻者。不欲令一剎那中有三有爲相。彼作是說。若一剎那中。有三有爲相者。則一法一時。即生即老。即無常。問曰。若然者。其義云何。答。言。法初時名生。後時名無常。此二中間名老。如是說者。則一剎那中。無三有爲相。此說不如實分別。所以者何。說一生中相似法故。一生中。初生者名生。最後者名無常。此二中間名老。若作是說者。則一法無三相。爲止如是說者意。亦明一法有三相。問曰。若一法有三相者。云何不一法一時。即生即老。即無常耶。答曰。所作異故。所以者何。法生時。生有所作。法滅時。老無常有所作。以所作次第各異故。而無有過。是故爲止他義。欲顯已義亦欲說法相相應義故。而作此論。此三有爲相。有爲法。有生有滅有住變。云何有爲法。一剎那中。有生有滅有住變耶。答曰。法起時生。生彼法。法滅時滅。滅彼法。住變是老。老能熟彼法。問曰。若然者。法體是變異者。云何法不捨自體耶。若不變異者。何以說住變是老。答曰。應作是說。法體無變異。問曰。何以說住變是老耶。答曰。此是老名老。名爲老亦名住變。復有說者。以其體不異故。名不變異。所作異故。名爲變異。所以者何。法生時所作異。滅時所作異。云何生時所作異。滅時所作異。答曰。法生時有力。有功能。有所作法滅時。衰退散壞。以是義故。言有變異。復有說者。法迅速故生。迅速遲微故滅。濕潤故生。萎枯故滅。復有說者。以經三世故變異。

①〔迅速〕一〇

所以者何。過去法異未來現在法。

問曰。此相為是總相。為是別相耶。若是別相者。云何一法而有四相。若是總相者。諸法各自有相。云何是總相耶。答曰。或有說者。此相是別相。問曰。若然者。云何一法而有四相。答曰。此說自相。非如火熱。是自相如受自有生住滅受生住滅不能生乃至識。是故言自相。諸法各自有別相。如色是不久散壞。如病如癩如瘡如箭等。百四十種相。相有二種。一者舊相。二者客相。生等於彼法。是客相非是舊相。合聚他物相。本自體相亦如是。復有說者。是總相。問曰。若然者。諸法各自相。云何是總相耶。答曰。相似。相如一法有三相。一切法亦有三相。復有說者。非別相亦非總相。所以者何。非自體故非別相。各有相故非總相。問曰。若此非總相非別相者。當言是何法耶。答曰。此是諸法印。若法有此印。是為有為。無印者。是無為。如大人相非大人體。若有此相者。名為大人。若無此相者。不名大人。彼亦如是。評曰。不應作此說。說總相者好。

問曰。法生時。除其自體。餘一切法能生此法。何故唯說。能生此法耶。答曰。法生時。餘法雖有功。不名能生。唯生體能生。如女人產時。諸餘女人。雖復佐助。不名為產。唯母名產。彼亦如是。尊者和須蜜說曰。唯生能生彼法。非餘法。所以者何。若無生者。則彼法不生。問曰。若無餘法。彼法亦不生。復次若有生彼法。生非無生。問曰。亦有餘法作緣。使此法

生非無餘法緣。尊者佛陀提婆說曰。法生時。生勢最勝。故生得其名。餘法不爾。如作伎書畫染法。作伎時。非無伎子。毘頭梢等。而伎得成。然彼伎成師得其名。如畫非不因筆墨紙等。而人受其名。畫時非不因眾。彩。而人受其名。染時非不因釜水等。而染者得名。彼亦如是。

問曰。生相為有生相不。若有者。云何非無窮。彼生復有生故。若無者。誰生此生。答曰。應作是說。生相復有生相。問曰。若然者。云何非無窮。答曰。無窮有何過。未來世竟。無住處耶。又生死是無窮法。以是事故。難除難過。能生衆生無量連。瑣之苦。復次。此二同在一剎那中。故非無窮。彼一剎那中。生二法。一。生法。二。生。生。生。生。生。生。問曰。何故生二法。生。生。生。生。答曰。如是。亦無有過。猶如女人有。生一子者。有雙生者。復有說者。生相生八法。謂彼法。生。老。後。老。住。後。住。無。常。後。無。常。生。生。生。一。法。謂。生。問。曰。何。故。生。生。八。法。生。生。唯。生。生。答。曰。是。亦。無。過。猶。如。猪。犬。狼。豺。等。或。生。一。子。或。生。多。子。

問曰。諸行為有住相不。若有者。有為相中。何以不說。此經復云何通。如說。諸行不住。猶如壽行。乃至廣說。若無者。此文云何通。如說。色法。生。老。住。無。常。當。言。色。耶。乃至廣說。波伽羅。那。經。亦。說。云。何。住。諸。行。生。不。散。壞。答。曰。應。作。是。說。諸。行。有。住。相。問。曰。諸。行。有。住。相。者。有。為。相。中。何。以。不。說。耶。答。曰。應。說。有。為。法。有。四。相。若。不。說。者。當。知。此。義。有。餘。復。次。住。相。似。無。為。

法故。不說是有為相。復次。若相能令諸行歷世者。是有為相。如生移未來行。現在世。老無常。移現在行。在過去世。住與彼法相著。無捨離時。復次。分別諸相時。三相墮。有為部中。住相。墮。無為部中。復次。若相能令諸行。不增益散壞者。說是有為相。住能令諸行。增益不散壞。不說是有為相。問曰。若然者。生能令諸行。增益不散壞。何以說是有為相耶。答曰。生能令諸行。增益散壞。其於老無常。所以者何。若生不生。諸行。在現在者。則老無常不能散壞。以生。生。諸。行。在。現。在。世。故。老。令。衰。微。無。常。能。壞。猶。如。有。人。雖。居。牢。固。之。處。有。三。怨。家。一。於。牢。固。之。處。挽。其。人。出。二。共。斷。其。命。此。三。於。彼。人。俱。作。不。饒。益。事。若。一。人。不。於。牢。固。之。處。挽。出。者。則。二。人。無。由。斷。其。人。命。彼。亦。如。是。問。曰。若。諸。行。有。住。相。者。佛。經。云。何。通。耶。答。曰。佛。經。說。不。住。無。有。久。住。相。非。謂。一。剎。那。如。命。根。等。復。次。言。無。住。者。無。長。久。時。住。住。相。謂。少。時。住。復。次。剎。那。中。住。相。微。細。唯。佛。所。知。所。以。者。何。如。以。神。足。屈。申。臂。頃。從。此。間。沒。住。須。彌。山。頂。於。其。中。間。衆。多。剎。那。相。續。非。不。相。續。是。故。言。從。此。至。彼。如。是。等。相。唯。佛。境。界。非。餘。所。知。是。故。經。說。無。有。住。相。復。有。說。者。雖。有。少。時。住。速。為。老。所。衰。無。常。所。滅。是。故。住。相。有。如。是。過。患。故。佛。經。不。說。復。有。說。者。諸。行。無。住。相。是。以。有。為。相。中。不。說。佛。經。善。通。此。文。云。何。通。如。說。色。法。生。老。住。無。常。乃。至。廣。說。答。曰。此。文。應。如。是。說。色。法。生。老。無。常。乃。至。廣。說。不。應。言。住。若。言。住。者。有。何。意。耶。答。曰。此。住。是。老。異。名。如。

問曰。法生時。除其自體。餘一切法能生此法。何故唯說。能生此法耶。答曰。法生時。餘法雖有功。不名能生。唯生體能生。如女人產時。諸餘女人。雖復佐助。不名為產。唯母名產。彼亦如是。尊者和須蜜說曰。唯生能生彼法。非餘法。所以者何。若無生者。則彼法不生。問曰。若無餘法。彼法亦不生。復次若有生彼法。生非無生。問曰。亦有餘法作緣。使此法

①相一總② ③能生二生能④ ⑤問曰二問曰生⑥ ⑦評曰生⑧ ⑨畫一畫⑩ ⑪彩二采⑫ ⑬瑣二釵⑭ ⑮狼豺二材狼⑯ ⑰(在)十現在⑱ ⑲不增益二增益⑳ ㉑其二其㉒ ㉓相二時

生名生亦名出現。無常名無常。亦名滅盡。老名老。亦名住評曰。應作是說。諸行有住相。若諸行無住相者。不能有所緣。欲令無如是過故。說諸行有住相。

問曰。何者是變異。為以滅故壞故。以為變易故言變異耶。答以滅故言變異者。變異與滅。則是一體。有為法。唯有二相。若以壞者。則法捨自相。若以變易者。云何不助成外道。作如是說。諸法變易。答曰。應作是說。勢衰故言變易。所以者何。諸行勢盛故生。勢衰故言變異。復次諸行有力故生。衰劣故變異。復次諸行未熟名生。已熟名變異。復次諸行漸羸故變異。復次諸行新故名生。舊故名變異。問曰。若然者。云何不助成外道。義答曰。諸行相續不住。外道計有住時。住滅言是變。如乳作酪。如薪作灰。不說剎那勢衰故變異。此說剎那勢衰變異。不說住時變異。問曰。此有為相與所相。為一為異耶。若一者。云何一法不為多法耶。若異者。相與所相則異。何故不以餘相為相答曰。應作是說。相所相不一。是故一不為三。三不為一。問曰。若然者。云何不以餘相為相耶。答曰。隨相所作處則相所相。是故無過。復次相與所相。常不相離。若相離者。可以餘相為相。以相所相不相離故。無如是過。如是。離合不相離。共說亦如是。復次相從所相生。生所生異。如烟雖從火生。烟火各異。彼亦如是。復次相是所相過患。如病是人之過患。人異病。若當不異者。人病愈時。應當無人。餘亦如是。復次佛說此相是有為相。以是

言故。當知相異所相。如言此人舍亦如是。

問曰。一切剎那中。盡有老者。何以不一。一切時頭生白髮耶。答曰。不應作如是。問有白髮無白髮。然老與壯年。或有相妨。或不相妨。相妨者。不生白髮。不相妨者。頭生白髮。復次。或有羸弱四大。多強盛四大。少。或強盛四大。多羸弱四大。少。若羸弱四大。多強盛四大。少。頭生白髮。若強盛四大。多羸弱四大。少。不生白髮。多力少力亦如是。復有說者。白髮非老。白髮是色。老是非色。但此身後時。生如是報。非不好之法。猶如麻油。亦如木酒。後欲盡時。必生濁滓。彼亦如是。問曰。何處有此白髮。答曰。界者欲界中。有非色無色界。趣者人畜生餓鬼中。有方者三方有。非禱單。曰。所以者何。白髮是罪報。彼方非受罪報處。問曰。誰有此白髮耶。答曰。凡夫聖人俱有。聖人從須陀洹。至辟支佛。唯除世尊。所以者何。佛世尊無髮。白漸落皮。緩面皺音聲破壞。死時無解支節。痛心不錯亂。根不漸滅。一時而滅。此是佛身之法。問曰。以何等故佛世尊。無白髮漸落皮。緩面皺耶。答曰。此是惡色。佛世尊永離惡色故。問曰。佛作何業。無如是報耶。答曰。佛世尊。本為菩薩時。修行善法。信心堅固。未曾衰退。以行相似因故。受如是相。似果。以是事故。無白髮漸落皮。緩面皺。問曰。若一切剎那中。盡是無常者。何以不一。一切時有死屍現耶。答曰。不應問此事。有死屍無死屍。所以者何。有相。有相法異。無相。無相法異。有心無心說亦如是。復有說者。

以根法滅生有根法。所以無死屍。有根法滅。生無根法。所以有死屍。有心無心。衆生數非衆生數。內法外法。說亦如是。復有說者。衆生業力故。所以有。衆生業力故。所以無。衆生業力故。所以有者。衆生須皮肉筋骨齒爪毛角等。以為資生具。所以便有。衆生業力故。所以無者。一日。夜。二十不滿。有六十五百千剎那。一一剎那。有五陰生滅。若當一一剎那。有死屍者。則一衆生死屍。滿於世間。以衆生業報。所以無。問曰。化生衆生。何以無死屍耶。

答曰。或有說者。以生時頓得諸根。根死時頓捨諸根故。如入水中。暫出。暫沒。不知沒至何所。出從何來。復有說者。化生衆生。其身輕漂。猶如火焰。風吹至空。不知去處。雲霧電光。亦復如是。復有說者。四大多者。有死屍。彼造色多。故無死屍。復有說者。受身非根法多者。有死屍。受身非根法少者。無死屍。復有說者。受身可捨法多者。有死屍。受身可捨法少者。無死屍。可捨法。謂髮毛爪齒等也。

問曰。有為法。為體是生。故生。為與生合。故生耶。若體是生者。生相何所作。若與生合。故生者。何故不與無為法合。而使無為法生耶。答曰。應作是說。體是生相。問曰。若然者。生相何所作耶。答曰。雖體是生。由生相故。顯發。猶如關中有瓊瓶等物。而由燈顯發。不從燈生。彼亦如是。復有說者。與生合。故生。問曰。若然者。何以不與無生法合。令使無為法生耶。答曰。以無合義故。若有者。亦應生。無常說亦如是。

①以爲二爲以②③ ④答二若⑤⑥者⑦⑧ ⑨易二異⑩⑪ ⑫異者二異若異者⑬⑭ ⑮異 ⑯雜二離 ⑰木二米 ⑱日二越 ⑲相二根 ⑳*(-)十夜㉑ ㉒合十(故)㉓

問曰。如有為法有三有為相。無為法有三無為相不耶。若有者。云何無為法非是聚法耶。若無者。波伽羅那經所說云何通。如說云何不生法。答曰。無為法。以無生相故。云何不住法。答曰。無為法。以無住相故。云何不滅法。答曰。無為法。以無滅相故。答曰。應作是說。無為法無為法相。問曰。若然者。波伽羅那經所說云何通。答曰。對有為法故。如有為法有生住滅。無為法無生住滅故。作如是說。佛經說。汝等比丘。即出現。即生。即沒。即滅。問曰。出現與生有何差別。沒與死有何差別。耶。答曰。或有說者。無有差別。所以者何。出現即生沒即死。同是剎那性故。尊者波奢說曰。受中陰身。是名出現。受生陰身。是名生。壞中陰身。是名沒。壞生陰身。是名死。復次卵生胎生濕生衆生。受身時是出現。所以者何。眼等諸根。漸出現故。化生衆生。受身是生。所以者何。頓得眼等諸根故。捨卵胎濕生衆生身。是名死。所以者何。有死屍故。捨化生衆生身。是名沒。所以者何。以無死屍故。尊者和須蜜說曰。入母胎時名生。出胎時名出現。代謝諸陰是名沒。死時陰是名死。尊者佛陀提婆說曰。諸趣中。初受身時名生。已在趣中諸陰名出現。中陰中死。向生陰中是名沒。捨命根時陰是名死。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十

阿毘曇毘婆沙論卷第二十一

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩 譯
共道泰等

雜。毘度無義品第七。上

諸他修苦行 當知無義俱
畢竟無有利 如陸地船*簿

如此章及解章義。此中應廣說優波提舍。問曰。何故作此論答曰。雖一切阿毘曇盡皆說佛經然此品偏多。所以者何。此論品多以經為論。復次所以作此論者。此是佛經。佛經中說。佛在優樓頻螺村尼連禪河邊菩提樹下。成佛未久。爾時世尊。告諸比丘。我遠離苦行。於此苦行快得解脫。以自願力故。今得第一菩提。時諸比丘。聞佛所說。深生愛樂。一心不亂。攝耳聽法。爾時惡魔波旬。作如是念。沙門瞿曇。今在尼連禪河邊優樓頻螺村菩提樹下。坐為弟子說法。乃至攝耳聽法。我今應往為作留難。爾時惡魔。化作婆羅門摩納婆像。往詣佛所。到已說如是偈言

汝今捨苦行 衆生清淨道
若更行餘道 畢竟無有淨

此偈義者。時魔語世尊言。汝捨古。先苦行之道所依。耶。不能令人淨而生淨想。魔以無是淨。種種苦行是淨道。佛語惡魔。非我不能行於苦行而捨之也。我諦觀察此道。不能斷煩惱。以無所能故。而我捨之。以是事故。而說

此偈

諸他修苦行 當知無義俱
畢竟無有利 如陸地船*簿

諸修苦行。有何義耶。答曰。或有說者。此法之外所行。盡言為他說法者。謂八聖道。及聖道方便。除此餘是也。以道是邪道故。與無義俱。以是事故說。諸他修苦行當知無義俱。復有說者。他者言下賤。非他言妙勝。諸外道所行苦行。是下賤法。所以者何。以計我故。是故說諸修苦行當知無義俱。復有說者。他言不死。不死者惡魔也。是故世尊。告不死者。諸他修苦行當知無義俱。復有說者。諸為生天修苦行者。是苦行皆言不死苦行。以是事故。而作是說。諸他修苦行當知無義俱。必竟無有利如陸地船*簿。無用邪見所行苦行。不能斷結。無用亦如是。時魔復語佛言。若種種苦行是邪行者。汝以何道。而自淨耶。爾時世尊。即說此偈

我修戒定慧 如是究竟道
今已逮清淨 無有上菩提

佛經雖作是說。而不廣分別。此論即是佛經優波提舍。佛經是此論根本。諸佛經中所不說者。今欲說故。而作此論。問曰。世尊何故說諸他修苦行當知無義俱。答曰。此是老死道。近老死法。隨順老死法。不能以是法得盡老死道。所以者何。衆生欲度老死海。行此苦行。此諸邪見。所行苦行。還令衆生沒老死海。尊者瞿沙說曰。一切增長法。是無義。一切寂滅法是有義。邪見。苦行苦

① 不分卷 ② (阿毘曇毘婆沙) 十雜毘度 ③ 提一健 ④ (上) 一 ⑤ 上二之一 ⑥ 清二 ⑦ 先二仙 ⑧ 耶二邪 ⑨ 也以道二邪道以 ⑩ 者二言 ⑪ 必二畢 ⑫ 苦二所

行。是隨順增長法。以隨順增長故。不能生寂滅法。衆生欲度老死海故。修諸苦行。而此苦行。必令衆生墮老死海。所以者何。以行邪方便。邪方便者。爲生天故。行此苦行。是故言墮老死海中。

◎又世尊言。正身結。跏趺坐。繫念在前。乃至廣說。問曰。如一切威儀盡中行。何故但說結。跏趺坐。答曰。或有說者。此是舊所行法。所以者何。過去恒河沙諸佛。及佛弟子。盡行此法。復有說者。能生他人恭敬心故。若結。跏趺坐起於惡覺。猶生他人恭敬之心。是故欲生他人恭敬心故。復有說者。此法非是世俗愛欲法故。餘威儀者。世俗用之。復次此法能生三種菩提道故。聲聞辟支佛佛菩提。不以餘威儀得。但以是得。復次此法行道時。隨順安隱。非餘威儀故。復次此法能壞魔軍。如佛世尊結。跏趺坐能破煩惱及天魔軍。復次此法能適可。天人心故。復次此法不與外道共。餘威儀與外道共。云何名結。跏趺坐。尊者波奢說曰。跏趺坐者。累兩足正觀境界。則得隨順。定。跏趺坐。云何繫念在前。面上故名繫念在前。復次背煩惱在後。正觀寂滅在前。故名繫念在前。復次背生死在後。正觀涅槃在前。故名繫念在前。復次背色等境界在後。正觀所緣在前。故名繫念在前。復次繫念在眼中間。故名繫念在前。復次以勝慧力。正觀境界。念。念不散故名繫念在前。復次念與不貪。俱緣於境界。故名繫念在前。復次繫念在肩中間。故名繫念在前。

觀青想等。乃至廣說。問曰。何故繫念在面上耶。答曰。無始以來。勇於女身起欲心。女於男身起欲心。多因於面。復有說者。以面是七入所依處。行者欲觀察諸入故。復有說者。面是隨順不淨觀。所以者何。面上有七孔流出不淨。以此處多出不淨故。行者。偏觀。復有說者。非因照不於自面而生於愛。以不生愛故。繫念在面。復次以上面能生猗樂。然後遍身。猶如受欲時。男女根邊生樂。然後遍身。復次面上速能生欲心故。如見眼耳鼻口好相。即生欲心。問曰。繫念在面者。爲是初行。爲是已行。爲是久行人耶。答曰。是久行人。行人有三種。謂初行。已行。久行人。往至塚間。善取死屍相。謂若青若脹。若爛若壞。若骨若

瑣。若骨。瑣善取如是相已。復觀脚骨。踝骨。膊骨。膝骨。腦骨。腕骨。腋骨。脊骨。臂骨。手骨。腕骨。肩骨。項骨。額骨。齒骨。髑髏骨。於塚間。善取如是相已。憶而不忘。速還住處。洗足坐繩床上。若草敷上。憶念所見死屍。我身亦爾。如是名爲初行。行者於所觀境界。能令廣亦能令略。云何名廣。如觀自身骨。觀所坐床。亦復是骨。次觀屋舍所住之坊。僧伽阿藍村落田地。所有國土人民。乃至大海內所有大地。皆觀是骨。是名爲廣。云何爲略。捨大海內所有骨。觀一國土所有骨。捨國土內骨。乃至捨觀外骨。唯觀己身骨。能作如是廣略觀。是名已行。捨自脚骨。觀自踝骨。捨踝骨。乃至觀髑髏骨。髑髏骨有二種。有左分右分。若捨左分。觀於右分。若捨右分。觀於左分。捨於二分。繫念

眉間。是名久行。是時名爲始入。身念處觀。不淨觀。或有緣少自在多。或有自在少緣多。或有緣少自在少。或有緣多自在多。初句者。謂能數數觀自身。於所觀境界。不能令轉廣。第二句者。謂能觀大海內骨。不能令此觀數數現在前。第三句者。謂唯觀自身。不能令此觀數數現在前。第四句者。謂能觀大海內骨。復令此觀數數現在前。不淨觀。或有緣無量非自在無量。或有自在無量非緣無量。或有緣亦無量自在亦無量。初句者。謂行者能觀大海內骨。不能令此觀數數現在前。第二句者。謂能觀自身骨。數數現在前。不能令此觀廣。第三句者。能觀大海內骨。數數現在前。第四句者。能觀自身骨。不能令此觀數數現在前。是名行者觀於骨想。云何觀揣食。不淨想行者。觀手中若器中食。此食爲從何處來。知從倉中種種穀中來。觀倉中穀。復從何來。知從田中種種種子中來。復觀以何長養種子。知以糞水。糞復從何來。知從屎尿糞掃聚中來。如是觀時。見不淨物。還增益不淨物。行者或時入村乞食。或在僧中。欲入村時。所受用水。而作屎想。所嚼楊枝。作臂骨想。所取衣。作人肉想。帶作腸想。鉢作髑髏想。杖作髀骨想。行石道上時。作髑髏骨想。若至村時。見牆壁屋舍。作骨聚想。見男女大小。作骨人想。其所得食。作骨想。鹽作碎齒想。種種菜。作髮想。甞作皮想。飯作虫想。羹作膿糞穢想。生酥乳酪作腦想。酥油蜜石蜜。作人肪想。蒲

◎卷第二十九終◎ ◎卷第三十雜健度無義品之第二首◎ ◎卷第三十雜健度無義品第七之二首◎ 造號釋號譯號同異如卷第十一。◎加◎天◎定◎念◎偏◎瑣◎膊◎腕◎額◎齒◎髑◎項◎腋◎脊◎臂◎手◎腕◎肩◎項◎額◎齒◎髑◎項◎腋◎脊◎臂◎手◎腕◎骨◎膊◎膝◎腦◎腕◎腋◎脊◎臂◎手◎骨◎腕◎骨◎肩◎骨◎項◎骨◎額◎骨◎齒◎骨◎髑◎髏◎骨◎於◎塚◎間◎善◎取◎如◎是◎相◎已◎憶◎而◎不◎忘◎速◎還◎住◎處◎洗◎足◎坐◎繩◎床◎上◎若◎草◎敷◎上◎憶◎念◎所◎見◎死◎屍◎我◎身◎亦◎爾◎如◎是◎名◎爲◎初◎行◎行◎者◎於◎所◎觀◎境◎界◎能◎令◎廣◎亦◎能◎令◎略◎云◎何◎名◎廣◎如◎觀◎自◎身◎骨◎觀◎所◎坐◎床◎亦◎復◎是◎骨◎次◎觀◎屋◎舍◎所◎住◎之◎坊◎僧◎伽◎阿◎藍◎村◎落◎田◎地◎所◎有◎國◎土◎人◎民◎乃◎至◎大◎海◎內◎所◎有◎大◎地◎皆◎觀◎是◎骨◎是◎名◎爲◎廣◎云◎何◎爲◎略◎捨◎大◎海◎內◎所◎有◎骨◎觀◎一◎國◎土◎所◎有◎骨◎捨◎國◎土◎內◎骨◎乃◎至◎捨◎觀◎外◎骨◎唯◎觀◎己◎身◎骨◎能◎作◎如◎是◎廣◎略◎觀◎是◎名◎已◎行◎捨◎自◎脚◎骨◎觀◎自◎踝◎骨◎捨◎踝◎骨◎乃◎至◎觀◎髑◎髏◎骨◎髑◎髏◎骨◎有◎二◎種◎有◎左◎分◎右◎分◎若◎捨◎左◎分◎觀◎於◎右◎分◎若◎捨◎右◎分◎觀◎於◎左◎分◎捨◎於◎二◎分◎繫◎念◎

◎卷第二十九終◎ ◎卷第三十雜健度無義品之第二首◎ ◎卷第三十雜健度無義品第七之二首◎ 造號釋號譯號同異如卷第十一。◎加◎天◎定◎念◎偏◎瑣◎膊◎腕◎額◎齒◎髑◎項◎腋◎脊◎臂◎手◎腕◎骨◎膊◎膝◎腦◎腕◎腋◎脊◎臂◎手◎骨◎腕◎骨◎肩◎骨◎項◎骨◎額◎骨◎齒◎骨◎髑◎髏◎骨◎於◎塚◎間◎善◎取◎如◎是◎相◎已◎憶◎而◎不◎忘◎速◎還◎住◎處◎洗◎足◎坐◎繩◎床◎上◎若◎草◎敷◎上◎憶◎念◎所◎見◎死◎屍◎我◎身◎亦◎爾◎如◎是◎名◎爲◎初◎行◎行◎者◎於◎所◎觀◎境◎界◎能◎令◎廣◎亦◎能◎令◎略◎云◎何◎名◎廣◎如◎觀◎自◎身◎骨◎觀◎所◎坐◎床◎亦◎復◎是◎骨◎次◎觀◎屋◎舍◎所◎住◎之◎坊◎僧◎伽◎阿◎藍◎村◎落◎田◎地◎所◎有◎國◎土◎人◎民◎乃◎至◎大◎海◎內◎所◎有◎大◎地◎皆◎觀◎是◎骨◎是◎名◎爲◎廣◎云◎何◎爲◎略◎捨◎大◎海◎內◎所◎有◎骨◎觀◎一◎國◎土◎所◎有◎骨◎捨◎國◎土◎內◎骨◎乃◎至◎捨◎觀◎外◎骨◎唯◎觀◎己◎身◎骨◎能◎作◎如◎是◎廣◎略◎觀◎是◎名◎已◎行◎捨◎自◎脚◎骨◎觀◎自◎踝◎骨◎捨◎踝◎骨◎乃◎至◎觀◎髑◎髏◎骨◎髑◎髏◎骨◎有◎二◎種◎有◎左◎分◎右◎分◎若◎捨◎左◎分◎觀◎於◎右◎分◎若◎捨◎右◎分◎觀◎於◎左◎分◎捨◎於◎二◎分◎繫◎念◎

桃漿。作血想。肉作人肉想。若入僧時。所受淨草。作人髮想。得麩等。作骨麩想。餘如前說。問曰。行者何故作如是想耶。答曰。彼行者作是念。無始已來。不淨為淨。念。應觀此物。不淨即作不淨想。能作如是想者。能對治欲愛。復次欲對治欲愛故。作如是觀。義言行者作師子吼。語不淨分。我無始已來。取汝淨相。今欲廣取汝不淨相。

問曰。何以說不淨觀繫念在前。不說阿那波那念觀界方便耶。答曰。或有說者。此說初起方便。如說不淨觀繫念在前。亦應說阿那波那念觀界方便。而不說者。當知此說有餘。復有說者。隨多分故。諸比丘。多修不淨觀。少有修阿那波那念者。是故說不淨觀。不說阿那波那念。尊者瞿沙說曰。隨其入法時。所用繫念在前。不必以不淨觀也。尊者迦旃延子。解佛經故。佛經說正心繫念在前。除世貪心住無貪法中。乃至斷疑蓋亦如是。五蓋之中。何者最重。謂貪欲蓋。不淨觀是貪欲蓋近對治。不淨觀。次第亦能斷餘蓋。亦能起禪。是故以不淨想繫念在前。問曰。不淨觀體性是何。答曰。是無貪。若取其。想應共有。則體是五陰。諸阿練若。說體是慧。所以者何。佛經說若能善攝諸根。是名見不淨觀。復有說者。不淨觀體。是厭厭名。想。應心數法在如是等。是名心數法中。評曰。不應作是說。說是不貪者好。若取相應共有體。是四陰五陰。

界者。是欲色界。地者是十地。謂欲界中間禪根本四禪四禪邊。身者在欲界。行者非十六

行別行不淨行。緣者緣欲界色入。問曰。此為緣欲界一切色入不。答曰。盡緣。問曰。若然者。何以尊者阿尼盧頭。不能於快意天身作不淨觀耶。曾聞尊者阿尼盧頭。於一林中。跏趺坐禪。有四快意天女。自化其形。端正極妙。來詣尊者阿尼盧頭所。作如是言。尊者阿尼盧頭。我是快意天。能於四處。自在變化。若欲見我身何色者。我悉能現。以娛樂之。是時阿尼盧頭。作是思惟。我今應當作不淨觀。即起初禪不淨觀。而不能令此觀現在前。乃至欲起第四禪不淨觀。亦復不能。復作是念。彼是種種色。若當純是一色。我則能起。即語天女言。諸姊妹。盡作青色。是時天女。即作青色。復作不淨觀。猶故不能。復作是言。諸姊妹。盡作黃色。是時天女。即作黃色。復起不淨觀。猶故不能。復語之言。諸姊妹。盡作赤色。是時天女。即作赤色。復起不淨觀。猶故不能。問曰。尊者阿尼盧頭。何故語諸天女作種種色耶。答曰。彼作是念。移轉其色。我或能起不淨觀。復次欲觀彼色。好不好相。如是語。復作是念。白色隨順骨相。彼若作白色者。我能作不淨觀。即語言。姊妹。汝作白色。是時天女。即作白色。起不淨觀。猶故不能。復作是念。此諸天女。端正殊妙。即時默然。閉目不看。是時天女。忽然不現。如是義云何通耶。答曰。彼尊者阿尼盧頭。雖不能觀。餘利根者能。如尊者目犍連舍利弗。辟支佛。問曰。有能於佛身作不淨觀不耶。答曰。一切聲聞辟支佛。能觀。而不能作不淨想。所以者何。佛身極明淨。極妙極勝。

無諸過咎。衆生樂見故。是故一切聲聞辟支佛。不能作不淨觀。唯佛能觀。復有說者。聲聞亦能觀。所以者何。不淨有二種。一是色過患。二是色緣起。不能觀色過患。而能觀色緣起。不淨觀。復有二種。一是總相。二是別相。能觀總相。不能觀別相。念處者。根本而言。非念處方便而言。是身念處智者。與等智相應。根者。總與三根相應。定者。不與定相應。過去未來現在者。是三世法。緣過去未來現在者。過去即緣過去法。現在者即緣現在法。未來不生者。緣三世當生者。緣未來。善不善無記者。是善。緣善不善無記者三種盡緣。緣無記法多。三界繫者。欲色繫。緣三界者。緣欲界。無學非學。非無學者。緣非學非無學。見道斷修道斷無。斷是修道斷。緣見道斷修道斷不。斷者。是緣修道斷。緣自身他身者。緣自身亦緣他身。緣名緣義者是緣義是離欲得。方便得者。亦是離欲亦是方便。離欲得者。離欲界。欲得初禪地者。乃至離三禪。欲得第四禪地者。最後身凡夫人聖人。得會所得。亦得未曾得。其餘凡夫。得會所得。離欲得者。離欲時得。後作方便。起現在前。佛不以方便起現在前。辟支佛起下方便。聲聞或作中方便。或作上方便。起現在前不淨觀。有作方便而得。後作方便起現在前。問曰。何等能起不淨觀耶。答曰。凡夫聖人俱能。聖人者。從須陀洹。乃至阿羅漢。何處起者。答曰。先作是說。欲界中是三方。非驚單越。欲界天中。不能使初行現

念一今念 已二以念 餘二除 想二相 斷十(者)念

在前。所以者何。以無青等死屍故。先於人中得。後於彼起現在前聞思修者。是三種。欲界者是聞思。修。色界者是聞修。問曰。觀一切是骨。而一切非骨。云何此觀非顛倒耶。答曰。能斷結故。非是顛倒。問曰。觀房舍是骨。此觀何所緣耶。答曰。或有說者。緣本所見塚間骨。* 瑣復有說者。緣房舍中所有虛空界。評曰。此是虛想。觀其所觀。即緣彼法。如是說者。妙。問曰。此不淨觀。為在意地。為在六識身耶。答曰。是意地緣於形色。非五識身。問曰。若是意地。非五識身者。此經云何通。如說。眼見色作不淨思惟。答曰。先眼識見色。後意地作不淨思惟。復有說者。從其門從其道。如六喜觀行。是意識地。從眼門道生。乃至身門道生。是故說六不淨觀。當知亦如是。問曰。從眼門道生不淨觀。作如是說者。可爾。如彼經說。耳聞聲。鼻嗅香。身覺觸。意知法。作不淨思惟。此云何通。所以者何。除色入餘入。非不淨觀境界。答曰。或有說者。不淨觀不緣聲等。更有勝行。能厭離聲等。復有說者。為色愛所覆。修不淨觀。為聲香味觸法愛所覆。亦修不淨觀。故作如是說。復有說者。行者觀形色是不淨。形色所依聲香味觸法。更以勝不淨觀厭離行觀。故作如是說。復有說者。行者善修不淨觀。能伏作色。復欲伏於聲等境界。若能伏者善。若不能者。還修不淨觀。猶如鬪軍時。先安營壘。然後出陣。與怨共鬪。若勝怨者善。若不勝者。便還營壘。彼亦如是。是故作如是說。經說。有五現見三昧。云何為五。如說。汝等比丘。當

如實觀察此身。從足至頂髮。種種不淨。充滿其中。所謂髮毛爪齒薄皮厚皮。筋脈肉骨心。肺脾胃肝膽。澹。陰大小腸胃。屎尿。涕唾口中流涎。肪膈髓腦及以腦。腕。膿血汗淚生藏。熟藏。猶如有人。於門窓向觀見倉中種種雜穀。謂胡麻粳米。小諸豆大麥小麥等。比丘如實觀察此身。亦復如是。若能如是觀者。是名初現見三昧。復次比丘。如實觀察此身。乃至廣說。除去血肉。唯觀白骨。識於中行。若能如是觀者。是名第二現見三昧。復次比丘。如實觀察此身。乃至廣說。觀於骨身。識於中行。亦住今世。亦住來世。若能如是觀者。是名第三現見三昧。復次比丘。如實觀察此身。乃至廣說。但觀骨身。識在中行。住於來世。不住今世。若能如是觀者。是名第四現見三昧。復次比丘。乃至觀身白骨。識在中行。不住今世。亦不住來世。若能如是觀者。是名第五現見三昧。問曰。此五現見三昧。誰之所有。答曰。第一第二現見三昧。凡夫聖人所有。第三者是須陀洹斯陀含所有。第四者。阿那含所有。第五者。阿羅漢所有。問曰。第一第二三昧。是現見可爾。所以者何。因現見生故。觀識行時。云何是現見。答曰。現見是其方便。從現見生故。亦名現見。諸法立名處多。或以自體故立名。或以所依故立名。或以相應故立名。或以對治故立名。或以行。或以緣。或以行緣故立名。或以方便故立名。自體立名者。如誦如陰。誦者。體是遍切故名苦諦。乃至體是求故名道諦。體是色故名色陰。乃至體是識故名

識陰。所依立名者。如眼識依眼生故名眼識。乃至意識依意生故名意識。相應立名者。如意業意行。如意觸生愛。此法與意相應故立名。對治立名者。如法智比智。若法對治欲界。是名法智。若法對治色無色界。是名比智。行立名者。如苦智集智。所以者何。此智緣同行不同。緣立名者。如無相三昧。緣無十。想法故。名無相行。緣立名者。如滅智道智。所以者何。此二智行不同。緣亦不同。方便立名者。如他心智空處識處五現見三昧。以現見為方便。生此定故。名現見三昧。問曰。不淨觀。何故名現見三昧耶。答曰。能生現見三昧故。問曰。何故佛不淨觀。獨名無上耶。答曰。或有說者。佛不淨觀。能勝伏一切境界故。獨名無上。聲聞辟支佛所有不淨觀。不能勝伏一切境界。如尊者阿尼盧頭。不能勝伏境界。不名無上。復有說者。佛不淨觀是骨觀。觀骨是骨。觀筋肉等是筋肉。乃至廣說。評曰。若作是說。佛是少境界。不淨觀者。如前說者好。能勝一切境界故。獨稱無上。如佛告目犍連提舍梵天。何以不為汝說第六人住無相。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經中。佛住舍衛國祇陀林中。給孤獨精舍。爾時有三梵天。身光明照曜。以夜初分。來詣佛所。到佛所已。頂禮佛足。在一面立。時一梵天白佛言。世尊。婆翅多國有衆多比丘尼命過。第二梵天。復白佛言。世尊。彼命過者。有是有餘涅槃者。第三梵天。復

①[修]一②③ ④抄二好⑤⑥ ⑦澹二痰⑧ ⑨蓋二廣⑩ ⑪陰⑫ ⑬涕二漬⑭ ⑮腕二脈⑯ ⑰唯二惟⑱ ⑲於二此⑳ ㉑中十(說)㉒ ㉓天身二身天㉔

白佛言。世尊。彼命過者。有是無餘涅槃者。時諸梵天。說是語已。繞佛三匝。忽然不現。爾時世尊。過此夜已。使敷床坐。於僧中坐已。告諸比丘。作如是言。昨夜初分。有三梵天。光明照曜。來詣我所。乃至第三梵天。說是語已。繞我三匝。忽然不現。爾時大目犍連。在彼眾中。作是思惟。彼天有如是知見。言是有餘涅槃。無餘涅槃者。是何天耶。爾時大目犍連。隨其所應。即入三昧。三昧力故。於祇陀林。忽然不現。住梵天上。去提舍梵天不遠。爾時目犍連。從三昧起。詣提舍梵天。到已。作如是言。提舍何等梵天。有如是知見。知是有餘涅槃。知是無餘涅槃。問曰。如目犍連知見。勝於梵天。百千萬分。何以問於梵天耶。答曰。欲顯提舍梵天功德故。此天本是目犍連弟子。得阿那含果。有大功德。彼諸梵天。無有識者。欲顯彼功德。令諸梵眾恭敬尊重故。是以問之。時提舍梵天。答曰。目犍連言。此梵身諸天。有如是知見。能知有餘涅槃者。爾時目犍連。問提舍梵天。一切梵身諸天。盡有此知見。知有餘涅槃無餘涅槃不也。提舍梵天答曰。非一切梵身天有如是知見。乃至廣說。此諸梵天。雖有天壽妙色名譽。而不知足。不知如實最上遠離法者。無是知見。若諸梵天。有壽色名譽。而行知足。能知如實最上遠離法者。有如是知見。尊者目犍連。復問提舍梵天。此諸梵天云何能知。提舍言。尊者目犍連。若諸比丘。得阿羅漢道。是俱解脫。是諸梵天。作是思惟。若此大德有身之時。人天皆見。若身壞命終。人天

更不復見。不但俱解脫。若比丘得阿羅漢。是慧解脫。是諸梵天。作是思惟。此比丘得阿羅漢。是慧解脫。此大德有身之時。人天皆見。乃至廣說。不但慧解脫也。若比丘是身證。此大德亦能勝進。得無學根。見到信解脫。語亦如是。問曰。彼諸梵天。何以不說堅信堅法耶。答曰。或有說者。若是彼天境界者。則說。堅信堅法。非其境界。是故不說。復有說者。若是諸梵所行法者。則說。此法非其所行。是故不說。爾時目犍連。聞提舍梵天所說。心生歡喜。隨其所應。即入三昧。以三昧力。從梵天沒。到祇陀林。爾時尊者目犍連。從三昧起。往詣佛所。頂禮佛足。在一面坐。先共提舍梵天所論說事。具以白佛。爾時世尊。告目犍連言。提舍梵天。不說第六人行無相耶。爾時大目犍連。即從座起。合掌向佛。而白佛言。世尊。今正是時。唯願世尊說第六人行無相。若諸比丘聞已。當奉行之。佛告目犍連。諦聽善思念之。我今當說。目連當知。若比丘。不觀一切相入心。無相三昧。是名第六人行無相。佛經雖作是說。而不分別。佛經是此論所為根本。此論是佛經優波提舍。諸經所不說。今欲說故而作此論。

云何第六人行無相。答曰。堅信堅法。是第六人行無相。所以者何。七種聖人。攝一切聖人。提舍梵天。已說五種。不說此二種。是以知之。問曰。此二人。何以說行無相者耶。答曰。彼尊者不可施設立名。在此在彼。乃至廣說。問曰。此是二人。何以說一耶。答曰。即如文

說。此二俱不可施設立名。在此在彼。以義同故。說名為一。復有說者。此二俱不起不相似心。復有說者。此二所行心等。俱有十五心故。復有說者。此二俱不起期心故。復有說者。此二俱是不可施設。俱是無言說。俱是速疾道。以是義故。二人為第六人。問曰。彼五人。是行無相人耶。何以說此行無相者。名第六行無相人。答曰。彼五人者。非行無相人。唯此名行無相人。問曰。若然者。何以說此是第六行無相人。答曰。此是數法第六。非是行無相第六。餘處亦說已。害第五常行。前四非是常。唯第五者是常。以數法故。第五者是常。非四盡是常。如說第六增上。五亦如是。如是以數法故言第六。非無相故言第六也。問曰。此所說無相無相解脫門。不動法心解脫。亦說是無相。非想非非想處。亦說是無相。此四有何差別。答曰。此中說見道是無相。所以者何。此是速疾道。不起期心。若人入此法者。不可施設。在此在彼。故說無相。無相解脫門。言無相者。以緣無十相法故言無相。不動法心解脫。言無相者。不為諸煩惱相所覆蔽。亦不更生煩惱相。故言無相。非想非非想處。言無相者。以彼處愚劣不猛利不決定所行。以疑彼無了了想相。無了了非想相。是故言無相。見道有十五心。第十六心俱道比智是修道。聲聞能知見道中二心。謂苦法忍。苦法智。若欲觀第三苦比忍心。是時乃知第十六道比智相應心。辟支佛知見道中三心。謂苦法忍。若法智。若欲知苦比忍時。是時乃知第八集

◎以二似◎ ◎五二王◎ *唯二惟◎ ◎唯二惟◎ ◎喜二一◎ ◎語二說◎ ◎答十言◎ ◎日二言◎ *也二耶◎

比智相應心。佛世尊。知見道中所更相續心。問曰。何故聲聞知見道中二心。辟支佛知三心。佛悉知耶。答曰。他心智。知相似境界。不知不相似境界。世俗知世俗心心數法。無漏知無漏心心數法。法智知法智分。比智知比智分。聲聞辟支佛。作方便他心智。乃現在前行者欲入見道。聲聞他心智現在前。是時知見道中二心。謂苦法忍俱心。苦法智俱心。行者入比智分。聲聞作比智分他心智方便。起比智分他心智現在前。欲知第三心。乃知第十六心。行者欲入見道。辟支佛作法智分他心智方便。行者入見道。辟支佛起法智分他心智現在前。知二心。謂苦法忍苦法智。行者入比智分。辟支佛作比智分他心智方便。起比智分他心智現在前。欲知第三苦比忍心。乃知第八集比智心。佛不作方便。他心智現在前。如行者起見道中一一剎那現在前。佛亦起他心智。知見道一一所更相續心。

問曰。有能施堅信堅法人食者不也。答曰。不能。若施衣服床座則能。食則不能。所以者何。此是速疾道故。若入此道。必不起期心。不可施設。在此在彼。是故不能施其食。問曰。若不能施其食者。優伽長者經云何通。如說。居士此是須陀洹。此是向須陀洹。乃至廣說。答曰。此是天語。此天。或有說。是魔王眷屬。欲擾亂居士心故。復有說者。彼天是餘鬼。欲欺誑居士故。作如是說。復有說者。此天是居士家中受。記祠神。欲令居士心生歡喜。亦欲示現情相親近。故作如是說。復有說者。此天是彼

居士本日親屬。欲示其福田非福田故。作如是說。問曰。天於居士。縱令極親。非其境界。何由而知。答曰。向須陀洹果有二種。一是假名。二是真實。若真實者。非其境界。若假名者。是其境界。復有說者。有能施其食者。而彼未食。所以者何。如行者入見道。若弟子。若比坐。為其受食。若檀越以食著其草。上。若衣。被上。如餘經說。婆陀利於意云何。若比丘是堅信。我語之言。汝於污泥。以身為橋。我欲從上而過。為違我言不。答言不。此亦說假名須陀洹向。非是真實。所以者何。真實須陀洹向者。不起不相似心。聞佛所說故。復有說者。此中亦說真實須陀洹向。問曰。彼不起不相似心。能聞佛所說。云何言是真實耶。答曰。雖不開佛所說。以深心敬重佛故。假令見道可起者。亦當隨順佛言。是故佛作是言。有如是功德者。隨順我言。何況汝無功德者也。如說。世尊轉法輪。地神唱言。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。為斷疑故。人謂地神有現前了了智。知佛轉法輪。非是比相智。欲說地神無有現前了了智。有比相智。知佛轉法輪。而作此論。

問曰。轉法輪非是生得智境界。地神云何知耶。答曰。以五事故知。一世尊起世俗心故。知。問曰。何故世尊起世俗心。答曰。見三阿僧祇劫所行今有果報。生歡喜故。起世俗心。復有說者。見本所立弘誓今已果故。復有說者。見本所立願今已果故。復有說者。欲饒益他意令滿足故。以是事故。世尊欲令他知起世

俗心。乃至畜生亦知。何況地神。世尊或起世俗心。舍利弗等諸大聲聞。入頂第四禪。以願智力。尚不能知。或時起世俗心。乃至畜生亦能知。二者亦告他。問曰。佛何故告他耶。答曰。欲現善說法中所言誠諦故。復有說者。欲現三阿僧祇劫所行有果報故。復有說者。欲顯橋陳如是世良福田故。復有說者。欲令人天生信敬心故。復有說者。欲現非如世師格法已破法格故。復有說者。欲現自身是大人法故。復有說者。欲現自身是聰明人故。如說。有三事是聰明相。謂所思是善。所行是善。所言是善。以是事故告他。三者彼尊者亦起世俗心。問曰。彼尊者何故起世俗心耶。答曰。彼尊者令無始生死今有邊故。除無量苦。斷惡道因。生決定聚得見真諦故。復有說者。見本所立誓本所立願本所行事今有果故。起世俗心。四者彼尊者亦告他。問曰。何故告他耶。答曰。欲現善說法中所言誠諦故。復次欲現世尊三阿僧祇劫所行今有果故。復次欲現佛法有大威勢故。亦欲現色身為世福田故。復次欲生五人等欣仰心故。復次欲顯現如來大功用故。復次欲現佛法是神變出離法故。告他。五者從大威德天邊聞。問曰。何者是大威德天耶。答曰。或有說者。是淨居天。復有說者。是欲界天。見真諦者。復有說者。是欲界天。曾見過去佛者。所以者何。過去諸佛。轉法輪時。有如是相。今現是相。知佛欲轉法輪。即便告他。從彼得聞。

問曰。云何是法輪義。答曰。或有說者。法體法

心十(智)① 餘二 鐵② 記二 祀③ 誠二 械④ 卷第三十終⑤ 卷第三十一雜度無義品之三首⑥ 卷第三十一雜度無義品第七之三首⑦ 造說釋號譯號同異如卷第十一 智二 慧⑧ 色二 已⑨

性義。是法輪義。復有說者。選擇法義。是法輪義。復有說者。能現見法義。是法輪義。復有說者。淨法眼義。是法輪義。復有說者。對治非法輪義。是法輪義。所以者何。如六師自言。是天人師。亦轉法輪。然其輪是八邪道。是故對非法輪。是法輪義。問曰。何等是輪義。答曰。速疾義。是輪義。復有說者。捨此趣彼義。是輪義。復次破煩惱義。是輪義。

問曰。何故此輪名法輪耶。答曰。以梵世在初具聖道故。名法輪。第二第三禪不在初。亦不具聖道。第四禪雖是佛身初得。而不具聖道。復次梵行者。身中可得故。名法輪。復次對非梵行故。名法輪。復次破非梵煩惱故。名法輪。復次如來等正覺是梵。彼分別解說施設顯現。名法輪。復次以梵音說故。名法輪。復次若具有八聖道處。名法輪。復次若有三界見道修道所斷煩惱對治法可得處。名法輪。不善無記。有報無報。能生二果。能生一果。無慚無愧相應。無慚無愧不相應。有聚體。無聚體。忍對治。智對治。可得處。名法輪。復次若有九斷知果道。名法輪。餘三禪中。有五斷知果道。無色中。有一斷知果道。初禪中。俱有九斷知果道。故名法輪。亦如經說四十法。二十是不善分。二十是善分。若分別。解此四十法。名法輪。四十法者如勝有十。誘十直。道十。正見等。十直亦如是。問曰。如善法隨順法輪。可是法輪。不善法不隨順法輪。云何言是法輪耶。答曰。不以善不善體言是法輪。以緣善不善智。名法輪。所以者何。此是寂靜。無

有過咎。不害於他。故名法輪。

問曰。何故說見道是法輪。修道非法輪耶。答曰。或有說者。速疾義。是法輪。見道是速疾道。不起期心道故。復有說者。捨此趣彼。是法輪。見道捨苦趣集。捨集趣滅。捨滅趣道。復有說者。以四事故名法輪。一捨此。二趣彼。三未選者選。四已選者不捨。捨此者。見道中捨苦。趣彼者。趣集。未選擇選擇者。是集。已選擇不捨者。是苦。復有說者。上下義。是法輪。猶如輪輻。或時在上。或時在下。見道亦爾。或時智忍緣欲。界苦在下。或時智忍緣於有頂在上。緣於有頂已。復緣欲界。是故上下義。是法輪。復有說者。降伏四方天下義。是法輪。如轉輪王所有輪寶。則能降伏四方天下。行者亦爾。以見道輪降伏四諦四方天下。復有說者。獨如輻轂輞法。輻用持輞。轂用持輞。見道苦忍智集忍集智如輻。滅忍滅智如轂。道忍道智如輞。所以者何。此忍智緣一切道故。法智緣法智分。比智緣比智分。復有說者。見道所斷結。能生非法八邪法輪。見道能對治此法。故名法輪。尊者瞿沙說曰。八聖道一時在此身中轉。故名法輪。正見正覺正精進正念如輻。正語正業正命如轂。正定如輞。此八法皆是。中道中修。故名法輪。佛在波羅捺國。初轉法輪。問曰。菩提樹下。已轉法輪。何以言波羅捺國初轉法輪。答曰。轉法輪有二種。一在自身。二在他身。在菩提樹下。是自身轉法輪。波羅捺國。是他身轉法輪。以在波羅捺國他身中初轉法輪故。

名初轉法輪。復有說者。轉法輪有二種。有共不共。如聲聞辟支佛。是共法輪。佛是不共法輪。以轉共法輪故。言初轉法輪。復有說者。以最初得無我證人故。言初轉法輪。復有說者。若是時得勝辟支佛者。言初轉法輪。所以者何。辟支佛亦於自身。能轉法輪。不能於他身而轉法輪。唯佛能於他身而轉法輪。復有說者。若於三阿僧祇劫所行得其果處。名初轉法輪。所以者何。佛若欲於過去諸佛所般涅槃者。即得隨意。所以身心不礙。作百千苦行者。但欲利益他故。若我得無上智時。當令無量衆生。於生死牢獄。而得解脫。如是願行於波羅捺國。而得滿足。故名初轉法輪。復有說者。能降伏他故名輪。猶如國王降伏城村一切人民。故得名為王。不但降伏宮人。彼直名之為王。如是能降伏他身。名為法王。不獨己身為法王。問曰。若聖道所在身中。即自身名轉法輪者。何以名佛轉法輪耶。答曰。或有說者。以覺悟故。言佛轉法輪。所以者何。隨彼身中有聖道。若不以佛語光照。則聖道不生。若以佛語光照。則彼身中聖道便生。如池水中。雖有波頭摩拘物頭分陀利華。若日光不照。則不開不敷不香。日光若照。則開敷香。彼亦如是。復有說者。雖有聖道在彼身中。若不以如來言說之手而轉之者。則聖道不生。如轉輪王。若不以金輪寶置右手中。以左手轉之。作如是言。我今輪寶。當有所降伏者。是時諸神則不為轉行其輪。若以輪寶。置左手中。以右手旋之。是時

①彼二法 ②解十(說) ③誘一傍 ④道十(有) ⑤界二果 ⑥中二見 ⑦摩二奈 ⑧名二言 ⑨解二 ⑩彼二妓 ⑪便一使 ⑫右二左 ⑬左二右 ⑭今二金

諸神則爲轉行其輪。然轉其輪者是神。而王受其名。彼亦如是。復有說者。彼身中雖有聖道。若不得如來緣顯發者。則聖道不生。猶如倉中有諸種子。若不以緣發者。牙則不生。彼亦如是。復有說者。彼身中雖有聖道。若如來不以善巧方便名句味身除彼身中障礙者。則聖道不生。若除其障礙則聖道生。復有說者。有二因二緣生於正見。一從他聞法。二內自思惟。如從他聞法。名佛轉法輪。如內自思惟。言身中自有聖道。如是得於人身。成就四法者。名多有所作。如近善知識。從其聞法。名佛轉法輪。如內自思惟。如法修行。言身中有聖道。

問曰。如住苦法忍時。已轉法輪。何以道比智時。轉法輪耶。答曰。或有說者。住苦法忍時。雖轉法輪。而轉義未足。道比智時。轉義乃足。復有說者。以道比智時有五事應。一得未曾得道。二捨會得道。三斷煩惱同一味故。四頓得八智。五修十六行。是時名轉法輪。橋陳如汝解法耶。乃至廣說。問曰。此五人皆是解法者。何以獨問橋陳如耶。答曰。或有說者。以橋陳如先見聖諦後。乃餘者。橋陳如見聖諦時。餘者方在達分善根。復有說者。以本願故。先告橋陳如。汝解法耶。答言已解。乃至廣說。問曰。世尊何故。三問橋陳如耶。答曰。或有說者。橋陳如見聖諦已。世尊起於知見。觀前後際。爲橋陳如應在惡道陰界入多。爲我於三阿僧祇劫所經剎那須臾頃多。非我三阿

僧祇劫。所剎那須臾頃多。佛見是已。作是思惟。我於三阿僧祇劫修集無量苦行。今得無上智。但能使橋陳如應在惡道陰界入在不生法中。不更爲餘事者。於我便足。是以三問。復有說者。橋陳如能緣縛一切衆生身。一切衆生。亦能緣縛橋陳如身。橋陳如見諦已。佛作是念。我今得阿耨多羅三藐三菩提。更不作餘事。但斷橋陳如及一切衆生展轉緣縛者。於我便足。是故三問更相吞噉。更相斷命。說亦如是。復有說者。爲近誹謗故。佛本爲菩薩時。出迦毘羅城。是時迦毘羅諸釋遣侍者五人。二人是母親。三人是父親。二人言受欲得淨。三人言苦行得淨。當於菩薩修苦行時。言受欲得淨者。即便捨去。言苦行得淨者。而故給侍菩薩。菩薩捨苦行處已。酥油塗身。食諸飯食。彼言苦行得淨者。心生惱亂。即便捨去。是時菩薩身力轉增。詣菩提樹。降伏衆魔。得阿耨多羅三藐三菩提。成正覺已。遍觀世間。誰先應聞法。我當爲說。見鬱陀迦子。應先得聞。是時有天。即便白言。鬱陀迦子。昨日命終。爾時如來亦說知見。知昨日命終。復作是念。誰次應聞法。我當爲說。見阿蘭迦蘭。次應得聞。天復白言。阿蘭迦蘭。我當爲說。見阿蘭迦蘭。亦。說知見。知阿蘭迦蘭。我當爲說。見阿蘭迦蘭。阿蘭迦蘭。不聞我法。便爲大失。問曰。佛已成道。應爲彼人說法。而不爲說。云何不名教化失時。尊者瞿沙說曰。佛初成道。心愛敬法。不思餘食。未觀衆生誰應得度。復有說曰。如來大悲。未及彼人。而便命終。復有說者。佛未分

衆生立爲三聚。復有說者。受佛化者。必須根熟。彼根未熟。而便命終。又諸根成熟。必由自心。彼人慢意行禪。自稱是一切智。必須久時諸根乃熟。問曰。若此人根未熟者。佛何以言彼人不聞我法。便爲大失。答曰。若彼人不命終者。佛能除其自稱一切智心。亦生信佛。是一切智。心亦可先令橋陳如前諸根得熟。而得受化。若彼一人佛得道後。四十二日。有餘命者。能令彼人於我法中大得利益。而彼命行盡故。世尊捨之。若有衆生應受化者。如來能自住壽。如待須跋陀羅等。若能住他壽命者。無有是處。復有說者。佛本爲菩薩時。是彼人弟子。若當彼人不命終者。當示其師法。亦令彼人知佛所得法。非是彼人本所。受法。以是事故。言彼人大失。佛作是念。誰次應聞法。天復白言。阿若橋陳如等五人。次應得聞。亦起知見。知阿若橋陳如等次應聞法。佛復作是念。今在何所。天復白言。在波羅*捺國。佛亦起知見。知在波羅*捺國。於時世尊。漸次向波羅*捺國。趣彼五人。是時五人。見世尊來。即共立制。如修多羅廣說。橋陳如見真諦已。佛告之言。汝於法解耶。乃至廣說。汝今觀我有懈慢耶。多行法耶。於離欲法有退失耶。我得甘露法耶。是時橋陳如。極生慚愧。而答佛言。今觀世尊。無有懈慢。不行多法。於離欲法。亦無退失。得甘露法。我悉證知。以是事故。而三問之。復次欲滿本誓願故。曾聞此賢劫中。有王名惡行。有仙人名忍辱。時王除去男子。將諸伎女。遊戲林間。種種

○牙二芽○ ○乃二及○ ○所十(經)○ ○樹十(下)○ ○說一起○ ○得一能○ ○一二十○ ○受二授○ ○(佛)十亦 ○ ○伎二妓○ ○*

快意。時王疲厭而便眠臥。時諸伎女。為花果故。於林樹間。處處求覓。是時仙人。於自住處。閑靜禪思。時諸伎女。遙見仙人。即詣其所。頂禮足已。在一面坐。是時仙人。為諸伎女。說欲過患。時王眠覺。四方觀視。不見侍人。作是思惟。將無有人將我伎女去耶。其王即時瞋恚。拔劍遍林樹間。而推求之。見諸伎女坐仙人邊。心生是念。今此大鬼將我。

仙人。王復問言。汝於此間何所作耶。仙人答言。行忍辱道。王作是念。此人見我瞋恚。自稱忍辱。我今當試為實爾不。復更問言。汝得初禪耶。答言不得。汝乃至得非想非非想定耶。答言不得。其王聞已。瞋恚轉增。語仙人言。可申汝臂。以刀斷之。而問之言。汝是何人。仙人答言。是忍辱人。如是復斷一臂。亦斷兩足。割其耳鼻。令仙人身。使為七分。復問之言。汝是何人。仙人答言。是忍辱人。仙人語王。今何故生疲厭心。汝若以刀割我身體。令如微塵者。我言忍辱。終無有異。爾時仙人。復作是念。如彼今日斷我身體。使為七分。我得阿耨多羅三藐三菩提時。先以大悲。令汝修七種道。斷汝七使。時惡行王者。今憍陳如是。忍辱仙人者。今世尊是。憍陳如見真諦已。佛之威力。自見己身。本是惡行王。斷仙人身。使為七分。亦憶本誓願。是時世尊告憍陳如。非我違本誓耶。遵本所願耶。是時憍陳如。即從座起。極懷慚愧。白佛言。世尊。不違本誓。遵本所願。我愚小作是罪。今重懺悔。以本願

滿故。三問阿若憍陳如。阿毘曇毘婆沙論卷第二十一

阿毘曇毘婆沙論卷第二十一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩 共道泰等 譯

雜毘度無義品第七下

地神作如是唱。世尊轉聖法輪。乃至廣說。問曰。時會亦有餘天唱言。佛轉法輪。何以獨言地神唱耶。答曰。或有說者。地神隨從世尊。欲令轉法輪。無諸留難。如來從時。轉正法輪。無諸留難。地神自念。所有功勞。今已得果。心生歡喜。是以高聲先唱。復有說者。時會雖有餘天。而聞地神輕躁。是以先唱。如今大眾集處。性輕躁者。每喜高聲先唱。彼亦如是。復有說者。彼深生歡喜故。是以先唱。復有說者。是次第法故。所以者何。地神先唱。次虛空神。經剎那須臾頃。上至梵世。問曰。如處所起聲。即處所滅。何以言上至梵世耶。答曰。此是轉轉法。地神唱已。餘天復唱。如是轉轉。乃至梵世。猶如一燈轉轉。然彼亦如是。

問曰。如天亦解法。何故言為人轉法輪。答曰。或有說者。以人先見。語天在後故。復有說者。人是現見。天非現見。故復有說者。以人為證。不以天為證。故復有說者。佛所行事業。與人同故。天則不同。復有說者。諸天亦從人中得

善利故。復有說者。人中有四眾故。復有說者。若於此處滅。亦於此處生。雖有聖人滿諸天宮。人中有證甘露法者。不名法滅。若無證者。乃名法滅。是故若於此處滅。亦於此處生。若轉輪聖王出世。聲徹他化自在天宮。憍陳如等聲徹梵世。佛聲徹阿迦膩吒。問曰。何故轉輪聖王聲徹自在天宮。憍陳如等聲徹梵世。佛聲徹阿迦膩吒。答曰。或有說者。眾生造業。有下中上。造下業者。聲徹自在天宮。造中業者。聲徹阿迦膩吒。復有說者。眾生讚歎父母師長。沙門婆羅門。有下中上。若下者聲徹自在天宮。中者聲徹梵世。上者聲徹阿迦膩吒。復有說者。若轉輪聖王出世。則以十善教化。於六欲天中。受其果報。若有新生天者。諸天歡喜。我受樂親屬。今已增多。以轉輪聖王出世之時。諸天歡喜故。聲徹自在天宮。梵天請佛轉法輪故。聲徹梵世。首陀會諸天。覺悟菩薩故。出迦毘羅城。得無上智。是以佛出於世。聲徹阿迦膩吒。復有說者。轉輪聖王。是愛欲人。是以聲徹不離欲處。梵世中有尊卑上下故。憍陳如聲徹梵世。佛有最勝大名。稱聲徹阿迦膩吒。設當有頂眾生有耳識者。世尊聲亦應徹彼。世尊廣修無量名譽業故。問曰。何故轉法輪聲徹於梵世。答曰。以梵世是一切人所尊重處。復有說者。以梵世作三千大千世界分齊故。復有說者。以梵世有尊

◎觀二顯◎ ◎伎二妓女◎ ◎問二問◎ ◎彼二汝◎ ◎見十憍◎ ◎不分卷及品◎

◎觀二顯◎ ◎伎二妓女◎ ◎問二問◎ ◎彼二汝◎ ◎見十憍◎ ◎不分卷及品◎

◎觀二顯◎ ◎伎二妓女◎ ◎問二問◎ ◎彼二汝◎ ◎見十憍◎ ◎不分卷及品◎

◎觀二顯◎ ◎伎二妓女◎ ◎問二問◎ ◎彼二汝◎ ◎見十憍◎ ◎不分卷及品◎

卑上下故。復有說者。以彼地有言語根本覺觀法故。如說以覺觀心故。而有言語。復有說者。以彼有自地善染汚不隱沒無記耳識故。復有說者。以彼有自地善染汚不隱沒無記口有作法故。以是事故。聲徹梵世。

問曰。諸佛所說法。盡是法輪耶。答曰不也。說見道者。是名法輪。問曰。聞佛說法。入見道者多。何以不名法輪耶。答曰。彼雖是法輪。而不在此。初入法者得名法輪。最後入法。如須跋陀羅者。亦名法輪。

問曰。一切諸佛。盡在波羅捺國。轉於法輪。此處定不耶。若定者。此說云何通。如說燃燈佛燈光城而轉法輪。若不定者。曇摩須菩提所說偈云何通。如偈說

應念過去佛所依 迦耶大城施鹿林 皆於此處善分別 清淨妙法無有上

答曰。或有說者。應作是論。有四處定。菩提樹轉法輪處。天上來下處。大現神變處。何以知菩提樹定。曾聞有文陀竭轉輪王。與四種兵。飛行空中。到菩提樹上。其輪便住。不得前過。時王怖懼。作是思惟。我今將無欲失王位。有命難耶。菩提樹神。而語王言。大王莫怖。不失王位。亦無命難。王不見下菩提樹耶。此中有金剛座。一切菩薩。皆坐此上。得無上智。王欲過者。可避此處。從餘道往。時王便下。種種供養菩提樹已。從餘道去。以是事故。知菩提樹定。何以知轉法輪處定耶。即以上偈。知其處定。何以知天上來處定耶。曾聞佛去

世後從天上來處。有苦惱事。諸比丘捨之而去。外道異學。來居其中。後諸比丘。還來其處。語外道言。此是我師天上來處。外道。後言。是我天所當住之處。乃至生大鬪。時諸比丘。語外道言。今當俱立誠言。應屬誰者。當有瑞相。時諸外道皆默。爾時諸比丘。便立誠言。諸神證知。若令此處是過去諸佛為母說法來下處者。當現瑞相。時彼住處。有大石柱。上有石師子。即便大吼。時諸外道。心懷怖懼。捨之而去。口中又出眾寶華鬘。繞此石柱。皆悉周遍。以是事故。知佛從天上來下處定。何以知現大神變處定。佛在世時。諸外道輩。求佛共拘現神變。經十六大國。佛不現神變。還舍衛國。乃現神變。以是事故。知現大神變處定。問曰。若轉法輪處定者。然燈佛於燈光城。轉於法輪。此說云何通。答曰。今此波羅捺國。即是昔日燈光城。復有說者。有三處定。謂菩提樹。天上來下處。現大神變處。此三處定。如上所說。三處不定。轉法輪處。生處。般涅槃處。何以知轉法輪處不定。若阿羅漢陀迦子。不命終者。佛不往其所而為說法。從摩伽陀。將至波羅捺國耶。問曰。若轉法輪處不定者。曇摩須菩提。偈云何通。答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。此是造文頌法。凡造文頌者。言必過實。若必欲通者。當云何通。答曰。過去亦曾有佛於彼處轉法輪。是以作如是說。波羅捺是何義耶。答曰。有河名波羅捺。去其不遠。造立王城。故名波羅捺。何以名仙人論處。答曰。若作是說。一

切諸佛。皆於波羅捺國轉法輪者。諸佛是最勝仙人。始初於彼轉法輪故。名仙人論處。若作是說。諸佛不必於彼處轉法輪者。佛出世時。有阿羅漢大仙。於彼處已住。今住當住。若佛不出世。有辟支佛住。若無辟支佛。有五通仙住。以是事故。名仙人論處。亦名仙人住處。施鹿林有何義。眾鹿於中遊行。名曰鹿林。復次梵摩達王。以此樹林。施與眾鹿。名施鹿林。又世尊言。此比丘漏盡。三十三天數集會。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。波利質多樹。喻經。是此論所為根本。或謂三十三天有現前了了智。知比丘漏盡。非是比相。知欲決定說三十三天無現前了了智。是比相智。所以者何。生得慧。不知漏盡法。以是事故。而作此論。問曰。若生得慧。不能知漏盡法者。彼諸天云何知耶。答曰。以五事故。知。一世尊起世俗心。問曰。何故世尊起世俗心。答曰。以適世尊意。誰能第一適世尊意。謂能斷未來有者。世尊亦說。比丘若起少分未來有者。我不稱讚是人。乃至廣說。彼比丘斷未來有。適世尊意。起世俗心。復有說者。欲令得他心智者。知故。以口言告他。二告他。告他義如先說。三彼尊者亦起世俗心。問曰。彼尊者何故起世俗心耶。答曰。彼尊者無始以來。煩惱熾然。今已得冷。捨熾然諸入。得清涼諸入。捨煩惱眾生。住清淨眾生中。捨染汚陰。重擔得清淨陰。生歡喜故。起世俗心。四彼尊者亦告他。問曰。彼尊者何故告他。答曰。欲現法中所言誠諦故。

◎(是)十最◎ ◎波羅捺一波羅捺◎ ◎下同 ◎論一說轉◎ ◎上二下◎ ◎後一從◎ ◎後二復◎ ◎語二諸◎ ◎默二體◎ 言◎◎◎

亦令施主施飲食衣服床坐臥具病瘦醫藥。生歡喜心。亦顯出家有果實行故。是以告他。五從大威德天問。問曰。何者是大威德天耶。答曰。天中得阿羅漢者是也。問曰。一切皆知耶。答曰。若根等者知。問曰。其餘天亦稱歎此法不耶。答曰。亦稱歎。問曰。若然者。此中何故不說耶。答曰。或有說者。若諸天數數集會者。此中說之。三十三天。八日。十四日。十五日。思念人天有行善法者。不復有說者。彼三十三天中。或有以波利質多羅樹喻阿羅漢者。是以稱歎。復有說者。三十三天。若聞人多行善者。天則歡喜。是以稱歎。復有說者。三十三天。常伺察人有行善者。為作擁護。是故稱歎。問曰。亦稱學人不耶。答曰。亦稱歎。如經說。若世間人。孝事父母。諸天稱歎。何況學人。問曰。若然者。何以但說漏盡者。不說學人耶。答曰。以最勝故。乃至廣說。復有說者。以波利質多羅樹極盛時開敷為喻。復有說者。以漏盡人應受供養故。不難過患故。無罪咎故。無嫌恨故。是以稱歎。復有說者。若世有阿羅漢。諸天增多。惡道減少。是以稱歎。猶如明王治國以正人民增益。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。諸人增多。阿修羅眾減少。如月滿時大海水增。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。諸天與阿修羅戰時則勝。如見善精進天子諸天戰勝。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。後生諸天威德。勝前生諸天故。是以稱歎。如以米泔施於四衢者。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。以少

食施。得生天上故。是以稱歎。如摩訶迦葉以一器糲子飯施。阿泥盧頭以一食施。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。見者能生信心。敬心。得生天上故。是以稱歎。如蝦蟇惡狗氣。噓旃陀羅以敬信心故。得生天上。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。生死牢獄。得遭大赦。如王生子大赦牢獄。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。則能顯示善趣惡趣道。如日出時則見平坦嶮難之道。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。則不失天位。不墮惡道。還得天位。猶如帝釋。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。一切世間。常獲善利。無空缺時。猶如善師教善弟子。常得善利。無空缺時。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。雖有天樂。而能捨離。思得閑靜。如帝釋轉輪聖王。閻羅王思得出家。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。一切世間。得聞道品等寶。而常豐賤。如海船載寶。令天下豐賤。彼亦如是。復有說者。若世有阿羅漢。一切世人受樂。如豐熟時。彼亦如是。問曰。為稱歎一切阿羅漢不耶。答曰。或有說者。皆稱歎一切阿羅漢。所以者何。諸天常好歎說人善。一切事辦者。甚為希有。是故皆歎。復有說者。不必稱歎一切阿羅漢。作阿羅漢作名譽業。亦令增益者。則稱歎。若不作名譽業。雖有作不令增益者。隣比猶無知者。何況諸天。復有說者。若豪貴出家。如釋婆陀王等。則稱歎之。復有說者。如經中所說阿羅漢者。則稱歎之。復有說者。若有大智。有大福報者。若能令諸天眾增惡道減少。則

稱歎之。復有說者。若饒益他。不生疲厭。如舍利弗等。則稱歎之。復有說者。若能護持佛法。世所歸趣者。則稱歎之。問曰。諸天為知增上慢者不耶。答曰。若有增上慢。自言是阿羅漢者。諸天不知。若無增上慢。自言得阿羅漢者。諸天則知。復有說者。若有深厚善根。起增上慢者。則不知。若起欲界繫不淨觀。生增上慢者。則知。如帝釋世無佛時。若見有人閑居無事。即往其所。觀察是人有成佛相不。帝釋尚爾。何況餘天而不知也。問曰。復知犯戒者不耶。答曰。若犯戒戒則知。細者不知。又世尊言。有化法調伏。有如法修行。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。禪那梨師經。是此論所為根本。曾聞摩伽陀國。有大疾。病當是疫時。摩伽陀國。頻婆娑羅王輔佐人。多有死者。復有說者。阿闍世王。殺父王時。亦殺父王左右輔佐。諸輔佐親屬。往請阿難。為我問佛。於處處村落。如信樂佛者。命終之後。世尊常悉說其生處。此摩伽陀國。我諸親屬。命終之者。不說生處。汝當為我請問世尊。此諸人等。命終之者。為生何處。爾時阿難。以親愛故。許作方便。詣世尊所。而白佛言。餘者人民。有命終者。世尊常說其生處。摩伽陀國輔佐命終。不說生處。以佛不說其生處故。彼諸親屬。生愁惱心。不生信敬。唯願世尊。說其生處。世尊於摩伽陀國。成等正覺。又頻婆娑羅王。深心信佛。得究竟法。敬事眾僧。以是事故。應說摩伽陀國諸輔佐等死者生處。爾時世尊。默然許之。即持衣鉢。入那提捷城。乞食。

○令十(彼)○ ○五二善○ ○人二天○ ○米泔一味甘○ ○信敬一敬信○ ○作二若○ ○(此)十經○ ○阿毘曇毘婆沙論卷第三十一終 ○ ○卷第三十二雜度無義品之四首 ○ ○卷第三十二雜度無義品第七之四首 ○ ○造號釋譯同異如卷第十一 ○ ○病二疫 ○ ○許二漸 ○

食已便還精舍。洗足已。於軍閻迦房內敷床而坐。善攝身心。入於禪定。欲觀摩伽陀國侍使生處。問曰。世尊。有如是見。欲有所觀。應念即知。何以故。敷床座。乃至廣說。答曰。或有說者。欲說甚深難知難明難見事故。所以者何。一切佛經所說義深遠者。莫若於業。十二支緣雖是甚深。莫若二支。體是業者。信是甚深。如來十力。知業力者。最是甚深。四不可思議法中。業不可思議。最是甚深。八捷度中。業捷度最是甚深。以是事故。敷床座。乃至廣說。復有說者。欲待受化者。集故。復有說者。禪那利師。未來集故。禪那利師。若聞佛欲說是事。必來詣佛。復有說者。佛因是事。亦說如來有八如實功德故。一明具足。二戒具足。三說法具足。四於現明了。五善說道。六得善伴。七得善眷屬。八於一切衆生有饒益心。如是廣如經說。復有說者。欲令阿難聞持不忘。益加渴仰尊重心故。復有說者。欲斷無有實德輕易心故。有人少有所知。他人來問。以輕易故。所問便答。如來欲現我今雖有如。來知見應念即知。而故作方便。何況小智。而不故作方便耶。復有說者。欲現聰明人法故。世尊亦說聰明有三種相。一善思所思。二善言所言。三善行所行。復有說者。摩伽陀國諸輔佐等。有種種因。有種種果。有種種業。種種報。而遍生六欲天中。欲諦觀如是事故。敷床座。乃至廣說。復有說者。佛時欲入禪定。阿難方問此事。佛未答之。即入禪定。爾時世尊。以日後分。從禪定起。於比丘僧前。敷床而坐。爾時阿難。作

是思惟。今者世尊。身心寂靜。正是問時。佛知阿難心之所念。告阿難言。此摩伽陀國諸輔佐等。凡八萬四千。或過是數。或是化法調伏。或是如法修行。斷於三結。得須陀洹道。乃至廣說。問曰。云何輔佐。答曰。或有說者。是頻婆娑羅王內眷屬故。名曰輔佐。復有說者。常侍三寶故。名曰輔佐。復有說者。此是前世時名。所以者何。頻婆娑羅王。本曾為轉輪聖王。與四種兵遊行虛空時。王輪寶忽然不行。廣說如上。轉法輪中。乃至王八萬四千輔佐。供養菩提樹已。異道而去。爾時轉輪聖王者。今頻婆娑羅王是。爾時輔佐八萬四千人者。今諸輔佐是。是故知是前世時名。復有說者。此諸輔佐。助王治於二國。使國豐盛。命終之後。二國空虛。故名輔佐。佛經中說。是諸輔佐。有是化法調伏。有是如法修行。而不分別佛經。是此論所為根本。諸經中所不說者。今欲說故。而作此論。

云何化法調伏。云何如法修行。答曰。或有說者。諸摩竭輔佐。天身見法者。名化法調伏。人身見法者。名如法修行。復有說者。諸摩竭輔佐。不受戒見法者。名化法調伏。受戒見法者。名如法修行。復有說者。若於此種善根。亦令成熟。於彼得解脫者。名化法調伏。於此三事得具足者。名如法修行。如是於此中種達分善根。彼中入見道。此中種觀諦善根。彼中入見道。此中受假名戒。彼中得真實戒。此中得速解脫戒。彼中得無漏戒。此中善學心善學戒。彼中善學慧。此中得須陀洹果。此中

得修治善根。彼中得淨見。此中得信等五根。彼中得不壞信。當知亦爾。是化法調伏。於此中種達分善根。即此中入見道。此中種觀諦善根。即此中入見道。此中入見道。此中受假名戒。即此中得真實戒。此中得速解脫戒。即此中得無漏戒。此中善學心善學戒。即此中善學慧。此中得須陀洹。即此中得須陀洹果。此中得修治善根。即此中得淨見。此中得信等五根。即此中得不壞信。當知亦爾。是如法修行。問曰。何故天中見法者。名化法調伏。人中見法者。名如法修行。答曰。人中習學故。聖道現在前。亦多讀誦。兼解其義。初夜後夜。勤修方便。受一七。六七法。從日沒時至日出時。結跏趺坐。勤行精進。住於山窟巖石之間。頂安禪鎮行。禪龜法杖。作如是等精進已。然後聖道乃現在前。天中無有是事故。若於此間。修如是等方便。後生彼中。不多用功。聖道現在前。是故名化法調伏。若於人中。修如是等法。聖道現在前者。名如法修行。

云何多欲。云何不知足。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此二法所行相似。有人性多欲。世人言是人不知足。有人性不知足。世人言是人多欲。此二法相似故。世人謂是一。今欲說其體性亦說差別故。而作此論。云何多欲。答曰。未得色聲香味觸。此說在家。衣服飲食床敷臥具。此說出家人。若欲常欲極欲。乃至廣說。在家者。求色等境界。四方馳騁。佃種者。求田地園林牛羊等畜種種穀

①支二枝* ②來一是一 ③六一大 ④跌一跌

麥資生之具。富貴者求王位國土封邑象馬金銀琉璃等寶。出家人求衣鉢等所須之物。及房舍弟子徒眾等。是名多欲。不知足者。已得色聲香味觸。此說在家人。已得衣服飲食床敷臥具。是說出家人。不知足者不可。適所得。乃至廣說。在家不知足者。若於一田地不知足。復求二田地。於二田地不知足。乃至求多。亦不知足。園林牛羊等畜。乃至資生之物。說亦如是。富貴者於一王位不知足。求二王位。於二王位不知足。乃至求多王位。乃至求多珍寶。說亦如是。出家人於一衣鉢不知足。求於二三。乃至多求不知足。乃至資生之具不知足。說亦如是。

多欲不知足。有何差別。問曰。何故復作此論。答曰。此法相似。雖說體性。猶應說差別。云何多欲。云何不知足。多欲者若未得色聲香味觸。乃至廣說。何以知是多欲耶。答曰。以所求故知。若求色等境界時。多作方便。以多方便故知。所以者何。多欲是多方便因。不知足者。已得色聲香味觸。乃至廣說。復欲復求。何以知是不足耶。答曰。若已欲復欲。此必數數多求。以多求故知。所以者何。已欲復欲。是數數多求因。復有說者。不知足是因。多欲是果。此二法更相顯現。或以因顯果。或以果顯因。此二法俱是貪不善根。復有說者。多欲在意地。不知足是在六識身。所以者何。五識緣現在法。多欲緣未來。評曰。此二法俱在六識身。俱是欲界法。如是說者好。云何少欲。云何知足。問曰。何故作此論。答

曰。此二法相似。有人性少欲。世人言是知足。有人性知足。世人言是少欲。此二法相似故。世人謂是一。今欲說其體性。亦說差別故。而作此論。云何少欲。未得色聲香味觸。乃至廣說。此在家人。未得衣服飲食。乃至廣說。此說出家人。若不欲不常欲不極欲。乃至廣說。此在家佃種者。不求田地等。乃至廣說。富貴者不求王位等。乃至廣說。出家者不求衣鉢等。乃至廣說。云何知足。答曰。已得色聲香味觸。乃至廣說。是說在家人。已得衣服飲食等。乃至廣說。是說出家人。知足者可適所得。乃至廣說。在家知足者。於一田地知足。不求二田地。乃至於一資生具知足。不求二。乃至廣說。富貴者。於一王位知足。不求二王位。於二王位知足。不求多王位。乃至廣說。出家人於一衣鉢知足。不求於二。乃至於資生之具。不求多。乃至廣說。少欲知足。有何差別。問曰。何故復作此論。答曰。此法相似。雖說體性。猶應說差別。少欲者若未得色聲香味觸。乃至廣說。何以知是少欲耶。答曰。以不求故知。以不求是少欲因故。知足者已得色聲香味觸。乃至廣說。何以知是知足耶。答曰。不數數求故。不多作方便。不多作方便。是知足因。是名差別。或有少求而是多欲。或有多求而是少欲。少求是多欲者。如須一呵梨勒果得已。復欲於二。是名少求而是多欲。多求而是少欲者。如須百千兩金資生之物得已。更不復欲。是名多求而是少欲。或有多求是知足。或有

多求是知足。多求是不足者。得資生之物。足以供身。猶故多求。是名多求而不知足。多求是知足者。得資生之物。不足供身。雖復更求。猶是知足。問曰。何故問少欲。而答不欲耶。如說不欲不常欲不極欲。答曰。資生之物有二種。一如法。二不如法。如法者少欲。不如法者不欲。復有說者。資生之物有二種。一非所應。二非所應。所應者少欲。非所應者不欲。復有說者。受他物有二種。一以愚故。二為止苦。止苦者少欲。愚者不欲。復有說者。於財不欲。於無漏道欲。復有說者。一切阿羅漢。永斷欲心。憐愍眾生。受他所須。云何難滿。云何難養。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此二法所行相似。有人性是難滿。世人言是人難養。有人性是難養。世人言是人難滿。此二法相似故。世人謂是一。今欲說其體性。亦說差別故。而作此論。

云何難滿。答曰。多飲多食是也。云何難養。答曰。若數數飲食是也。問曰。此二何以不問其差別耶。答曰。應問。應作是說。難滿難養。有何差別。答曰。多食是難滿。選擇食是難養。而不問者。當知此說有餘。乃至廣說。

云何易滿。云何易養。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。應如上難滿難養。所以中說云何易滿。答曰。不多食不多飲是也。云何易養。答曰。不數數食是也。問曰。此中云何不問差別耶。答曰。應問如上所說。或有少食而是難滿。或有多食而是易滿。少食是難滿者。應食一搯。而食二搯。是名少食而是難滿。多食而是易滿者。若食一斛。乃足供身。而更不

①色聲二聲色 ②適二遍 ③[數]一 ④此十(說) ⑤答十(日) ⑥受二愛 ⑦云何一何以

食。是名多食而是易滿。曾聞有桴象名曰磨茶。載佛舍利。來入罽賓國。以此善根故。於罽賓國。死生人中。其後出家。得阿羅漢果。日食飯一斛。乃至欲般涅槃時。告諸比丘尼。汝等集會。我當自說所得勝法。諸比丘尼。不信其言。作如是說。汝是易滿人。云何不自說得勝法耶。復語諸比丘尼言。莫生不信。我有身已來。常是易滿。亦說前世因緣。我本為桴象。捨彼身已。今得此身。能食飯一斛五升。而食一斛。乃至廣說。如是等。雖是多食。而是易滿。曾聞波斯匿王。能食飯二斛。飲漿二斛。是彼功德因緣故。因一。根粳米一莖甘蔗。日日長生。爾許飲食故。身體肥大。以此大身。往詣佛所。佛便問言。大王身體肥大。得無疲耶。時波斯匿王。心生慚愧。具向佛說。爾時世尊便說此偈

人當有正念 於食知止足
亦不遭苦受 易消而增壽

時波斯匿王聞佛所說。漸自減食。乃至後時。唯食飯一斛。如是雖復多食。而是易滿。或選擇食而是難養。或有選擇食而是易養。選擇食是難養者。飽食足供身。而選擇好食是也。選擇食是易養者。飽食不能供身。不選擇好食是也。或有貪味故。數食所食不多。或有所食多而不貪味。數食。或有所食多貪味。數數食。或有所食不多不貪味。數數食。初句者。鳥等是也。第二句者。象馬等是也。第三句者。狼狗狸貓等是也。第四句者。除上爾所事。問曰。此有何差別耶。答曰。體性即是差別。

如前說。難滿者所食多。難養者選擇食。復有說者。難滿者是多欲。難養者是不知足。此二法。俱是欲界法。俱是貪不善根。通六識身。易滿易養與上相違是也。問曰。此有何差別耶。答曰。體性即是差別。如前說。所食不多是易滿。不選擇食是易養。復有說者。易滿是少欲。易養是知足。此二法。俱是三界法。是不貪善根。對於貪故。通六識身。

佛經說。有四聖種。乃至廣說。問曰。世尊何故說此經耶。答曰。為止四種業行故。而說此經。四種業者。或以佃種為業。或以販賣為業。或以事官為業。或以尊貴為業。一種業者。以乞求為業。為止四種業行一種業故。世尊說此經。復欲顯現業及所應作故。業者應乞求衣服飲食床敷具。以自存活。所應作者。應樂斷煩惱樂修善法。如是無盡業所應作。無罪業所應作。無害他業所應作。不同外道業所應作。說亦如是。復次欲現聖道及聖道具故。聖道者。謂樂斷樂修者是也。聖道具者。謂飲食衣服床敷等是也。沙門果沙門果具。婆羅門婆羅門具亦如是。以如是等事故。佛說此經。

問曰。聖種體性是何。答曰。對貪故名無貪善根。若取相應。共有四陰五陰性。復有說者。性是不貪精進。初三者是不貪。樂斷樂修是精進。評曰。不應作是說。如前說者好。所以者何。樂斷樂修。亦是不貪性故。問曰。若然者。云何有四。答曰。為斷生四種愛故。有四。為斷因衣生愛。說於衣知足聖種。為食說食知足。

為房舍敷具。說房舍敷具知足。為增長有故。說樂斷樂修知足聖種。是故為止四種愛故。說四聖種。此是聖種體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說何故名聖種。云何為聖。以善故說聖。以無漏故說聖。復有說者。聖人行此法故說聖。復有說者。能生妙好適意。果故說聖。此說是依果。復有說。報果者能生妙好適意報果故說聖。云何名種。過去恒河沙數諸佛。及諸佛弟子。從是中生故名種。復有說者。能令佛法久住故說種。所以者何。佛般涅槃後。道法千年。而不壞者。是聖種力。如。樑椽持舍使不散壞。彼亦如是。復有說者。相續義。是種義。佛涅槃後。使佛法相續不斷。是種義。有如是聖。有如是種。故名聖種。

界者有漏是三界繫。無漏是不繫。問曰。如欲界有四種可爾。以有衣服飲食床敷臥具。故。色界無飲食。無色界無衣服飲食床敷臥具。云何有四耶。答曰。彼雖無如是物。有如是功德。復有說者。此間修衣服飲食床敷臥具。知足法故。雖生彼間。而猶隨從。尊者和須蜜說曰。彼雖無此法。而有此法對治。對治有多種。有斷對治。有過患對治。有持對治。有遠分對治。色界有此四種對治。無色界有二種。謂持對治。遠分對治。尊者佛陀提婆說曰。無無漏衣服飲食床敷臥具。而有無漏聖種。彼雖無衣服飲食床敷臥具等。而有聖種。地者有漏在十一地。無漏在九地。依者依三界身。初者依欲界。行者行十六行。亦行餘行。緣者緣一

①升二斗②飲二飯③根二把④鳥二鳥⑤第二等⑥復十次⑦日二四⑧復二後⑨道二遺⑩樑椽二椽⑪樑椽

切法。念處者是四念處。智者與十智相應。定者與三定相應。根者與三根相應。謂喜樂捨根。世者在三世。緣者。緣過去未來現在。亦緣非世法。善不善無記者。是善緣善。不善無記者。緣三種。三界繫者如先說。有漏是三界繫。無漏是不繫。緣三界繫及不繫者。緣三界繫。亦緣不繫。是學無學非學非無學者。是三種。緣學無學非學非無學者。三種盡緣。見道斷修道斷無斷者。是修道斷無斷。緣見道修道無斷者。緣自身他身非身法者。緣三種。緣名緣義者。緣名緣義。問曰。為是意地。為是。六識身。答曰。是意地非五識身。所以者何。五識身是生得法故。復有說者。是。五識身。所以者何。一切善心。是聖種故。評曰。不應作是說。如前說者好。為是生得善。為是方便善。答曰。是方便善。非生得善。所以者何。一切聞思修善。皆為解脫。故是聖種。復有說者。是生得善。評曰。不應作是說。所以者何。乃至蟻子。有生得善。可是聖種耶。問曰。若是方便者。外道禪解脫勝處。一切處。為是聖種不耶。答曰。不是。所以者何。如先說。聞思修善為解脫。故是聖種。外道不知足。為增長有及有具。故非聖種。問曰。一切善心中盡有少欲知足。所以者何。是對貪無貪善根故。何以說知足是聖種。不說少欲耶。答曰。或有說者。少欲猶是欲名。又是無所欲異名。若說少欲時。猶有所欲。不名無所欲。知足更無所欲。亦無異名。故說是聖種。復有說者。少欲於未得少欲於未來。知足者知足於已得知足於現

在。若於現在所得少物能知足者。是為甚難。於未得未來轉輪聖王位少欲者。未足為難。以知足難故。說是聖種。復有說者。少欲是欲界。知足是三界。復有說者。少欲是三界繫非不繫。知足是三界繫亦是不繫。評曰。不應作是說。此二法。俱是三界繫。亦是不繫。問曰。若然者。復還生疑。何故說知足是聖種。不說少欲耶。答曰。為異於外道知故。不說少欲是聖種。若說少欲是聖種者。諸外道當作是言。我等亦是行聖種者。所以者何。汝等猶著糞掃衣。而我等不著衣。汝等猶乞食自活。而我等多不食。汝等猶坐樹下。而我等或常舉手。翹足而立。不坐床座。我等行如此法。非是聖種耶。外道梵志。雖行此法。於有有具。而不知足。是故異外道。故不說少欲是聖種。問曰。何故隨病藥。聖種中不說耶。答曰。或有說者。此法以入上所說中。所以者何。隨病藥有二種。一是可食。二不可食。可食者在飲食中攝。不可食者在衣服床敷臥具中攝。復有說者。若一切人。一切時所用者。說是聖種。隨病藥非一切人一切時用。如尊者婆拘羅所說。我於佛法中出家。過八十年。不憶此身有病。乃至頭痛。亦不憶畜隨病藥。乃至畜一。呵梨勒果。如此欲界一切人。非一切時畜隨病藥。況色無色界。復次若受用此法。令人放逸。若能捨者。是名聖種。隨病藥不能令人放逸。故不說是聖種。問曰。何故速解脫戒無作。說是聖種。不說有作是耶。答曰。或有說者。有作隨剎那滅。無作

是相續不斷。不斷義是聖種。復有說者。無作與無漏道俱得。有作不爾。是故無作是聖種。在家人有四聖種。出家人亦有四。在家者有期心。而不能行。曾聞帝釋坐眾華座。有千二百那由他侍女六萬。伎人。常作音樂。以娛樂之。而彼帝釋。常有期心聖種。而不受用。出家人亦有期心。亦行聖種。出家人或有隨得於衣服飲食等。而不知足。是行聖種。曾聞有一比丘。以日沒時。往詣佛所。從佛求房而住。爾時佛告阿難。與此比丘房舍。阿難與之。爾時比丘語阿難言。大德嚴淨此房。除去瓦石糞掃之等。懸繪幡。散種種華。燒上妙香。敷細軟臥具。安置好枕。爾時阿難。具以是事。往白世尊。佛告阿難。如彼比丘所言。盡為辦具。是時阿難。悉為具之。時彼比丘。即入房中。坐其床座。於夜初分。起淨解脫。次第起餘解脫。盡一切漏。得阿羅漢果。兼起神通。於日清旦。以神通力。從彼房舍。忽然而去。爾時阿難。以清旦時。詣彼房舍。見其門開。不見比丘。即往白佛。具說是事。佛告阿難。汝於此比丘。莫生異想。昨夜初分。而彼比丘。起淨解脫。乃至修起神通。以神通力。從彼房去。阿難。彼比丘者。性樂鮮好。從性意天中。來生此間。若汝不為辦具。如是鮮好房舍臥具等者。而彼比丘。則不能得勝進之法。如是出家人。雖於衣服床敷臥具等。不知足。不隨得而用。然能行聖種。過去諸佛。皆稱歎糞掃衣而不聽著。今佛稱歎糞掃衣而聽著。問曰。何故過去諸佛稱歎糞掃衣而不聽著。今佛稱歎而聽

①六二五〇 ②五二六〇 ③翹一履〇 ④阿二阿 ⑤伎人二妓女〇 ⑥佛十(所)〇 ⑦隨一蓋〇 ⑧之二足〇 ⑨夜初夜〇

著耶答曰。或有說者。古昔時人。性不貪愛。雖有價直百千兩金衣。惜著之心。不如今人惜著凡衣。復有說者。古昔時人。饒財多寶。若求百千兩金衣。未足為難。如今世人財寶儉少。求糞掃衣。猶尚難得。何況價直百千兩金衣。復有說者。古昔時人。心好鮮淨。於龜弊物不生敬心。是以讚歎而不聽用。今世時人。性好龜弊。於受用龜弊物者。能生信敬心。是以讚歎亦聽受用。復有說者。古昔時人。身體細軟。若受用龜弊物者。不能自存。是以讚歎不聽受用。今世時人。身體龜強。受用龜弊。能自存身。是以讚歎亦聽受用。尊者佛陀提婆說曰。古昔諸物若讚歎時。亦聽受用。所以者何。佛不無事有所讚歎糞掃衣。輕賤易得。求時無過耶。答曰。或有說者。糞掃衣。無多人著。故輕賤。求時易得。故輕賤。處處可得。故易得。佛所聽故。求時無過。復次此業無過。故。求時無過。復次智人所行。故。求時無過。尊者佛陀提婆說曰。少價故言輕賤。不從他得。故易得。無生故求時無過。

佛以二事故。於知足。說是聖種。一為斷貪著衣。如難陀等。二為讚歎於衣知足。如摩訶迦葉等。以二事故。於食知足。說是聖種。一為斷貪食心。如婆陀利等。二為讚歎於食知足。如婆拘羅等。以二事故。於床座知足。說是聖種。一為斷貪著床坐心。如愚王比丘等。如說愚王比丘白佛。唯願世尊。觀我床座。龜弊如是。二為讚歎床座知足。如離婆多等。以二事故。說樂斷樂修是聖種。一為除懈慢

者心。如闍陀等。二為讚歎勤行精進。如億耳等。以四事故。當知是人住聖種者。一不樂談得利養。二不樂近貪美食人。三不多用資生之物。其所用者。皆是清淨。四於諸利養。得與不得。不生憎愛。佛經說此四聖種。是最勝。是種性是可樂是不雜。一切世間。若沙門婆羅門。若天魔梵。無能如法說其過者。問曰。云何是最勝。答曰。或有說者。若行此法。墮最勝人中。如佛說。我五百弟子。各有最勝之事。若於資生之物。而知足者。佛亦讚歎。此人是最勝。復次涅槃是最勝。此法能到。故名最勝。復次能知最勝法。故名最勝法。何等是最勝法。謂佛若佛弟子。誰能知此法。謂行聖種。及修聖道者。復次此法於一切滿意善根中最勝。故言最勝。所以者何。一切衆生。多不意滿足而死。若住聖種者。命終之時。其意滿足。此法體是最勝。能到最勝。故名最勝。復次能去積聚過故。所以者何。下劣者多積聚。最勝者不積聚。若住聖種者。於諸所須。而不積聚。轉輪聖王。王四天下。所有財寶。由是易盡。住聖種業。所用無盡。能除積聚法。故。體是最勝。能到涅槃最勝法。故名最勝。云何是種性。答曰。如先說。過去恒河沙數諸佛。及諸弟子。皆從是種中生。故名舊種性。亦令諸佛法常相續不斷。故名種性。復有說者。此法能知種性。故名種性。如來等正覺善種性。唯此法能知。故名種性。云何名可樂。答曰。所有斷樂。及修樂。此法能樂。故名可樂。復次此法亦可言知也。所以者何。行此法者。能次第知夜分。故以日

沒時。結跏趺坐。至日出時乃起。復次此法能知可樂法。故名可樂。復次能入聖法胎。故名最勝。入善法種性。故名種性。住善法時。能知善法氣味。故名可樂。云何不雜。答曰。不雜四種業故。謂佃種販賣事官尊貴不雜。此業淳善功德。故名不雜。沙門婆羅門等。不能如法說其過者。不雜過患。不逼切他人。故。如經說比丘當知。我聖弟子。心無憎愛。云何無憎愛。愛名愛恚。聖弟子。降伏愛恚。不為愛恚所伏。故名無憎愛。此經亦說。有樂斷樂修。此二有何差別。答曰。無礙道是樂斷。解脫道是樂修。復次見道是樂斷。修道是樂修。如見道修道忍。知未知欲知根知根見地修地。說亦如是。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十二

阿毘曇毘婆沙論卷第二十三

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

雜毘度思品第八上
云何為思。云何為憶。乃至廣說。如此章及解章義。此中應說憂波提舍。問曰。何故作此論。答曰。此二法所行相似。世人見多思者。言是人多憶。世人見多憶者。言是人多思。今欲說其體性。亦說差別。或有說。此二法是一。所以者何。聲論者說。思之與憶。應是一字。唯長一點。此是法。為止如是。意欲說差別。復有說者。此是心之異名。如譬喻者說。思之與

○存二在○ ②生二主○ ③於十(衣)○ ④億二意○ ⑤無二不○ ⑥隨二隨○ ⑦如十(是)○ ⑧知二智○ ⑨第二十二
二第三十二○ ⑩第二十三○ ⑪第三十三○ ⑫[迦旃延子造]一○ ⑬[五百羅漢釋]一○ ⑭[天竺]一○ ⑮[等]一
○ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

憶是心異名。更無別體。為止如是說者。意欲說思之與憶是心數法各有別體故。而作此論。云何為思。答曰。思數數思。乃至廣說。如是等語。盡是說業名。云何為憶。答曰。憶數數憶。乃至廣說。如是等語。盡是說慧別名。一思憶有何差別。問曰。何故復作此論。答曰。此二法相似故。雖說體性。亦應說差別。思憶有何差別耶。答曰。如經本說。思者是業。憶者是慧。復次所作相是思。所知解相是憶。復次以思別業。以憶故別慧。總相別相。思之與憶。是謂差別。

問曰。憶若是慧者。慧有三種。謂聞思修。此三體性。是何耶。答曰。從聞生者是聞慧。從思生者是思慧。從修生者是修慧。復有說者。若受持讀誦思惟觀察十二部經。是聞慧。依此聞慧。次生思慧。依此思慧。次生修慧。如依金鑛生金。依生金剛。彼亦如是。評曰。不應作是說。如是說者好。受持讀誦思惟觀察十二部經。是生得慧。依生得慧生聞慧。依聞慧生思慧。依思慧生修慧。如依種生。牙依。牙生莖葉等。彼亦如是。問曰。此三慧有何差別。答曰。聞慧一切時依名解義。所以者何。行者作是念。和上所說有何義。修多羅毘尼阿毘曇所說。有何義。是名聞慧。思慧者或時依名解義。或時不依名解義。修慧者於一切時。不依名解義。猶如三人於池水中洗浴。一不能浮。二雖能不善。三善能。不能浮者於一切時。手攀池邊所有草木。然後乃浴。能浮而不善者。於一切時。或攀池邊草木。或時不攀而浴。善

能浮者。於一切時。不攀草木。入中而浴。聞慧如第一人浴。思慧如第二人浴。修慧如第三人浴。復有說者。聞慧為三慧作因。思慧為思慧作因。不為聞慧作因。以下故。不為思慧作因。以界異故。復有說者。聞慧有三慧果。思慧。唯有思慧果。修慧。唯有修慧果。復有說者。聞慧現在前。唯聞慧修。思慧現在前。唯思慧修。此修是行修非得修。性劣不及未來故。修慧現在前時。三慧俱修。此是三慧體性。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名聞思修耶。答曰。從聞生故說聞。從思生故說思。從修生故說修。問曰。聞慧在欲色界。思慧在欲界。修慧在色無色界。問曰。欲界中何故無修慧。答曰。欲界是不定界。非離欲地。非修地。若欲修時。便墮思中。色界何故無思慧。答曰。色界是定地。修地離欲地。欲思時便墮修中。復有說者。欲界中。盡有三慧。問曰。何者是修慧。答曰。見道邊等智空空三昧。無願無願三昧。無相無相三昧。盡智邊所有善根是也。以少故不說。色界有二種。謂聞修。無色界一種。謂修。復有說者。欲界有三種。色界有三種。無色界有二種。謂思修。復有說者。欲界有三種。色界有三種。無色界有三種。無色界有三種。評曰。不應作是說。如初說者好。地者聞慧在七地。思慧在欲界。修慧是有漏在十地。無漏九地。依者聞慧依欲色界身。思慧依欲界身。修慧依三界身。行者聞思

慧行十六行。亦行餘行。修慧行十六行。亦行餘行。問曰。若盡行十六行。亦行餘行。有何差別。答曰。聞思慧自力不能未來得修。因他力故。未來得修。修慧自力未來得修。緣者俱緣一切法。念處者俱是四念處。智者聞思慧是等智。修慧是十智。根者聞修慧與三根相應。思慧與喜捨根相應。定者聞思慧不與定相應。修慧與三定相應。亦不與定相應。世者是三世法緣三世者。是緣三世。亦緣非世善不善無記者。是善緣善。不善無記者。是緣三種。三界繫者。聞慧是欲色界繫。思慧是欲界繫。修慧是色無色界繫。亦是繫。緣三界繫者。盡緣三界繫。亦緣不繫。是學無學非學非無學者。聞思慧是非學非無學。修慧是三種。緣學無學非學非無學者。盡緣三種。見道斷修斷不斷者。聞思慧是修道斷。修慧是修道斷。亦不斷。緣見道修道不斷者。盡緣三種。緣自身他身非身法者。盡緣三種。緣名緣義者。是緣名義。在意地。在六識身者。盡在意地。非五識身。為是生得。為方便者。盡是方便。佛有幾。聲聞辟支佛有幾。答曰。佛有三種。以修慧為名。所以者何。如來自然成道。有力無畏故。辟支佛亦有三種。以思慧為名。所以者何。以內自思惟。自然成道故。聲聞亦有三種。以聞慧為名。所以者何。從聞得生諸善功德故。復有說者。此三慧。盡可謂是聞慧。所以者何。如說多聞能知法。乃至廣說。亦可言盡是思慧。所以者何。如經本說。思者是業。憶者是慧。亦可言盡是修慧。所以者何。如說云何

慧行十六行。亦行餘行。修慧行十六行。亦行餘行。問曰。若盡行十六行。亦行餘行。有何差別。答曰。聞思慧自力不能未來得修。因他力故。未來得修。修慧自力未來得修。緣者俱緣一切法。念處者俱是四念處。智者聞思慧是等智。修慧是十智。根者聞修慧與三根相應。思慧與喜捨根相應。定者聞思慧不與定相應。修慧與三定相應。亦不與定相應。世者是三世法緣三世者。是緣三世。亦緣非世善不善無記者。是善緣善。不善無記者。是緣三種。三界繫者。聞慧是欲色界繫。思慧是欲界繫。修慧是色無色界繫。亦是繫。緣三界繫者。盡緣三界繫。亦緣不繫。是學無學非學非無學者。聞思慧是非學非無學。修慧是三種。緣學無學非學非無學者。盡緣三種。見道斷修斷不斷者。聞思慧是修道斷。修慧是修道斷。亦不斷。緣見道修道不斷者。盡緣三種。緣自身他身非身法者。盡緣三種。緣名緣義者。是緣名義。在意地。在六識身者。盡在意地。非五識身。為是生得。為方便者。盡是方便。佛有幾。聲聞辟支佛有幾。答曰。佛有三種。以修慧為名。所以者何。如來自然成道。有力無畏故。辟支佛亦有三種。以思慧為名。所以者何。以內自思惟。自然成道故。聲聞亦有三種。以聞慧為名。所以者何。從聞得生諸善功德故。復有說者。此三慧。盡可謂是聞慧。所以者何。如說多聞能知法。乃至廣說。亦可言盡是思慧。所以者何。如經本說。思者是業。憶者是慧。亦可言盡是修慧。所以者何。如說云何

◎等語二語等◎ ◎牙一芽◎ ◎和上二和尙◎ ◎若十欲◎ ◎種十(三種)◎

修法。答曰。有爲善法。是世尊亦說三慧。所謂言說究竟慧。禪定究竟慧。出要究竟慧。聞慧即是言說究竟慧。思慧即是禪定究竟慧。修慧即是出要究竟慧。

云何爲覺。云何爲觀。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此二法所行相似。世人見多覺者。言是人多觀。見多觀者。言是人多覺。今欲說其體性亦說差別故。復次譬喻者。作如是說。說覺觀是心之異名。爲止如是說者。意亦明覺觀是心數法故。而作此論。

云何爲覺。答曰。心於緣貫徹。種種貫徹。乃至廣說。如是等語。盡顯說覺相。云何爲觀。答曰。若心行緣。種種行緣。乃至廣說。如是等語。盡顯說觀相。

覺觀有何差別。問曰。何故復作此論。答曰。此二法相似。雖說體性。亦應說差別。覺觀有何差別耶。答曰。如經本說。覺心是覺。細心是觀。若作是說明覺觀是心。復有說者。若心龜時是覺。心細時是觀。若作是說明覺觀不在一心中。復有說者。應作是說。心中龜者是覺。細者是觀。問曰。云何一心中。有龜細相違法耶。答曰。以所作異故。可得龜所作是覺。細所作是觀。云何龜以猛利故。云何細不猛利故。如以針刺身受。覺所作亦爾。如以鳥翅根刺身受。觀所作亦爾。如一兩鹽和一兩水置之口中。鹽生舌識則猛利。水生舌識則不猛利。覺所作當知如鹽。觀所作當知如水。一兩水。一兩苦酒。喻亦如是。法身經亦說。如天雷時。聲有龜細。覺所作當知如龜聲。觀所作

當知如餘細聲。銅鈴銅器。出龜細聲。亦如是。亦如鳥飛虛空。鼓其兩翼。當知如覺。踊身得去。當知如觀。若作是說明覺觀不在一心中。此經所說。明覺觀在一心中。

分別有三種。有自體分別。有憶念分別。有現觀分別。自體分別者。謂覺是也。憶念分別者。謂念是也。現觀分別者。謂慧是也。欲界五識身。有一種分別。謂自體分別。雖有念不能憶念。雖有慧不能了了現觀。意地有三種分別。初禪地三識身有一種分別。謂自體分別。雖有念不能憶念。雖有慧不能了了現觀。意地不入定時。有三種分別。入定有二種分別。除現觀分別。第二第三第四禪。不入定時。有二種分別。除自體分別。入定有一種分別。謂憶念分別。無現觀分別。以極定故。無色中不入定心。有二種分別。除自體分別。若入定有一種分別。謂憶念分別。

云何爲掉。云何爲心亂。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此二法相似。有人心掉。世人言是人心亂。有人心亂。世人言是人心掉。或謂此二法是一。今欲決定說其體性。亦欲說差別故。而作此論。

云何爲掉。答曰。心不休息。不寂靜。乃至廣說。如是等語。盡說掉相。云何心亂。答曰。心觀不住。乃至廣說。如是等語。盡說心亂相。或有說者。染污三昧是心亂。復有說者。染污三昧所不攝。餘相應法名心亂。評曰。不應作是說。如前說者好。

問曰。掉與心亂有何差別。何故復作此論。答曰。此二法相似。雖說體性。亦應說差別。掉與心亂。有何差別。答曰。不休息相是掉。心不住一緣是心亂。復有說者。發動定心是掉。令心馳散於外是心亂。外者謂色聲香味觸。掉能發動定心。如泉水初出。心亂令心馳散。色聲等。如水流遍池中。如人坐床。一人來挽臂使起。一人驅馳令行。掉發動定心。如挽臂使起。心亂令心馳散。色等緣中。如驅馳令行。若掉是心亂耶。若心亂是掉耶。乃至廣作四句。掉非心亂者。若心數數行一緣中是也。心亂非非心亂者。若心行多緣中。不數數行是也。掉亦是心亂者。若心行多緣中。亦數數行是也。非掉非心亂者。若心行一緣。非數數行是也。尊者佛陀提婆說曰。若心是亂。彼亦是掉。或有掉非心散。心行一緣。亦數數行。猶如有人。行一道中。而常馳走。彼亦如是。問曰。三摩提即心亂耶。答曰。染污三摩提是心亂。如先所說。有十大地受乃至慧。有十煩惱大地。謂不信懈怠亂念。心亂無明惡慧。不正作觀邪解脫掉放逸。此十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。所以者何。如受想思觸欲。此名有五。體亦有五。如不信懈怠無明掉放逸。此名有五。體亦有五。如作觀解脫念定慧。若不染污是大地。若染污是煩惱大地。是以名有十體有十五。是故十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。復有說者。名有二十。體有十六。所以者何。心亂體異。定體亦異。故若大地。是煩惱大地耶。若是煩惱大地。是大地耶。乃至廣作四句。是大地非煩惱大地者。受想思觸欲是

曰。此二法相似。雖說體性。亦應說差別。掉與心亂。有何差別。答曰。不休息相是掉。心不住一緣是心亂。復有說者。發動定心是掉。令心馳散於外是心亂。外者謂色聲香味觸。掉能發動定心。如泉水初出。心亂令心馳散。色聲等。如水流遍池中。如人坐床。一人來挽臂使起。一人驅馳令行。掉發動定心。如挽臂使起。心亂令心馳散。色等緣中。如驅馳令行。若掉是心亂耶。若心亂是掉耶。乃至廣作四句。掉非心亂者。若心數數行一緣中是也。心亂非非心亂者。若心行多緣中。不數數行是也。掉亦是心亂者。若心行多緣中。亦數數行是也。非掉非心亂者。若心行一緣。非數數行是也。尊者佛陀提婆說曰。若心是亂。彼亦是掉。或有掉非心散。心行一緣。亦數數行。猶如有人。行一道中。而常馳走。彼亦如是。問曰。三摩提即心亂耶。答曰。染污三摩提是心亂。如先所說。有十大地受乃至慧。有十煩惱大地。謂不信懈怠亂念。心亂無明惡慧。不正作觀邪解脫掉放逸。此十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。所以者何。如受想思觸欲。此名有五。體亦有五。如不信懈怠無明掉放逸。此名有五。體亦有五。如作觀解脫念定慧。若不染污是大地。若染污是煩惱大地。是以名有十體有十五。是故十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。復有說者。名有二十。體有十六。所以者何。心亂體異。定體亦異。故若大地。是煩惱大地耶。若是煩惱大地。是大地耶。乃至廣作四句。是大地非煩惱大地者。受想思觸欲是

問曰。掉與心亂有何差別。何故復作此論。答曰。此二法相似。雖說體性。亦應說差別。掉與心亂。有何差別。答曰。不休息相是掉。心不住一緣是心亂。復有說者。發動定心是掉。令心馳散於外是心亂。外者謂色聲香味觸。掉能發動定心。如泉水初出。心亂令心馳散。色聲等。如水流遍池中。如人坐床。一人來挽臂使起。一人驅馳令行。掉發動定心。如挽臂使起。心亂令心馳散。色等緣中。如驅馳令行。若掉是心亂耶。若心亂是掉耶。乃至廣作四句。掉非心亂者。若心數數行一緣中是也。心亂非非心亂者。若心行多緣中。不數數行是也。掉亦是心亂者。若心行多緣中。亦數數行是也。非掉非心亂者。若心行一緣。非數數行是也。尊者佛陀提婆說曰。若心是亂。彼亦是掉。或有掉非心散。心行一緣。亦數數行。猶如有人。行一道中。而常馳走。彼亦如是。問曰。三摩提即心亂耶。答曰。染污三摩提是心亂。如先所說。有十大地受乃至慧。有十煩惱大地。謂不信懈怠亂念。心亂無明惡慧。不正作觀邪解脫掉放逸。此十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。所以者何。如受想思觸欲。此名有五。體亦有五。如不信懈怠無明掉放逸。此名有五。體亦有五。如作觀解脫念定慧。若不染污是大地。若染污是煩惱大地。是以名有十體有十五。是故十大地。十煩惱大地。名有二十。體有十五。復有說者。名有二十。體有十六。所以者何。心亂體異。定體亦異。故若大地。是煩惱大地耶。若是煩惱大地。是大地耶。乃至廣作四句。是大地非煩惱大地者。受想思觸欲是

●說一● ●說二語● ●觀一故● ●體一種●

也。是煩惱大地非大地者。不信懈怠無明掉放逸是也。是大地亦是煩惱大地者。作觀解脫念定慧是也。作觀即是。耶作觀解脫即是。耶解脫。念即是亂念。定即是心亂。慧即是惡慧。非大地非煩惱大地者。除上爾所事。若作是說。體有十六者。是大地非煩惱大地有六。受想思觸欲定是。煩惱大地非大地有六。謂不。信懈怠心亂無明掉放逸是。大地亦是煩惱大地者。作觀解脫念慧。若不染污是大地。若染污是煩惱大地。非大地非煩惱大地者。除上爾所事。評曰。不應作是說。如前說者好。有十小煩惱大地。謂忿嫌覆。恨慳嫉誑諂。惱害。有十善大地。謂信猗進慚愧不貪不恚不放逸不害捨。有五不善大地。謂無明睡掉無慚無愧。有三隱沒無記大地。謂無明睡掉。有十不隱沒無記大地。謂受乃至慧。大地一切心中可得。煩惱大地。一切染污心中可得。小煩惱大地。非一切染污心中可得。所以者何。所作各異故。若有一則無二。此是修道所斷意地欲界心中可得。是故說小不說大。善大地。一切善心中可得。不善大地。一切不善心中可得。隱沒無記大地。一切隱沒無記心中可得。不隱沒無記大地。一切不隱沒無記心中可得。

有定緣一緣是散亂。緣一緣非散亂。行一行是散亂。行一行非散亂。緣一緣行一行是散亂。緣一緣行一行非散亂。緣多緣是散亂。緣多緣非散亂。緣多緣行一行非散亂。緣多緣行一行非散亂。緣多緣行多行是散亂。緣多緣行多行非散亂。緣多緣行多行是散亂。緣多緣行多行非散亂。

亂。緣一緣是散亂者。如一比丘。緣是法。不淨思惟。於緣中未。善習。若作青想。若作赤汁想。若作爛想。若作脹想。若作已噉想。若作血塗想。若作散想。若骨想。若瓊想。若骨瓊想。作如是觀時。其心散亂。不作一緣。不作一識。前定已失。後定不進。是名。定一緣是散亂。緣一緣非散亂者。如一比丘。緣是法。不淨思惟。於緣善習。若作青想。若赤。汁想。乃至作骨瓊想。作如是觀時。心不散亂。作一緣。作一識。前定不失。能進後定。乃至廣說。

行一行是散亂行者。如一比丘。行無常行。於此行不善修習。復觀無常。復觀須臾。復觀前後不相似。復觀前後壞滅。作如是觀時。其心散亂。前定已失。後定不進。乃至廣說。

行一行非散亂者。如一比丘。行無常行。於此行善修習。復觀無常。乃至觀於壞滅。作如是觀時。心不散亂。前定不失。能進後定。乃至廣說。

緣一緣行一行是散亂者。如一比丘。觀身是無常。於此觀不善修習。復觀此身是無常。乃至觀身是壞滅。作是觀時。其心散亂。前定已失。後定不進。乃至廣說。

緣一緣行一行非散亂者。如一比丘。觀此身無常。於此觀善修習。復觀此身無常。乃至觀身壞滅。作是觀時。心不散亂。不失前定。能進後定。乃至廣說。

緣多緣是散亂者。如一比丘。觀身是無常。於此觀不善修習。復觀於受。觀心觀法。乃至失於前定。不進後定。乃至廣說。

緣多緣非散亂。緣者。如一比丘。觀身是無常。於此觀善修習。復觀受心法。乃至不失前定。能進後定。乃至廣說。行多行是散亂者。如一比丘。觀無常行。於此觀不善修習。復觀若空無我行。乃至失於前定。不進後定。乃至廣說。

行多行非散亂者。如一比丘。觀身是無常。於此觀善修習。復觀若空無我行。乃至不失前定。能進後定。乃至廣說。緣多緣行多行是散亂者。如一比丘。觀身是無常。於此觀不善修習。復觀受是苦。觀心是空。觀時。其心散亂。失於前定。不進後定。乃至廣說。

緣多緣行多行非散亂者。如一比丘。觀身是無常。於此觀善修習。復觀受是苦。觀心是空。觀法是無我。作是觀時。心不散亂。不失前定。能進後定。乃至廣說。

云何無明。云何不智。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。不解不了是無明。不。智相是不智。或謂此二法是一。欲決定說其體相。亦欲說差別故。而作此論。

云何無明。答曰。如經本說。不知三界是也。若作是說。則不攝緣滅道無明使。應作是說。三界中無知是也。則攝緣滅道無明使。云何不。智。答曰。無巧便慧是也。問曰。何故問少答多耶。所以者何。不。智是染污。無巧便慧是染污不染污。何以知之。如業捷度說。諸意惡行。盡是無巧便意業耶。答言。諸意惡行。盡是無巧便意業。頗有無巧便意業非意惡行耶。

◎耶一邪◎◎[信]一◎◎俱二很◎◎善二賢◎◎定十(緣)◎◎計二非◎◎[緣]一◎◎智一知◎◎*

答言。有隱沒無記意業。不隱沒無記無巧便
意業是也。答言。此文應如是說。云何不。智
答言。染汚慧。應作是說。而不說者。有何意
耶。答曰。當知此義有餘。云何無巧便。不。智
答曰。染汚者。是非不染汚。復有說者。無巧便
二種。一者假名。二者真實。業捷度說。於假
名。此。唯說真實。如是汝語。無巧便慧。是不
智耶。此說是定言。不定他言。不應說過。答
曰。如是。於意云何。汝意有如是欲如是說。諸
知故妄語。盡是失念。不。知。而妄語耶。答曰。
如是。我有如是意如是欲如是說。諸知故妄
語。盡是失念。不。智。而妄語。於意云何。有無
智故妄語耶。答曰。不也。聽我說汝違言負
處。故作是說。諸知故妄語。盡是失念。不。智
而妄語。應作是說。無。智故妄語。不應作是
說。知故妄語。應作是說。不。智而妄語。所以
者何。從不。智生故。若不作是說。不應言不
智。是無巧便慧。若說有知故妄語。不應作是
說。諸知故妄語。盡是失念。不。智而妄語。若
作是說。此事不然。答曰。雖從不。智生。而知
故妄語。非不。智故妄語。問曰。若然者。何故
言知故妄語耶。答曰。知彼事故。而相違說。是
故言知故妄語。非不。智故妄語。復有說者。若
於大眾中。問於彼人知此事不。若知言知。不
知言不知。彼人實知。而言不知。是故言知故
妄語。復有說者。若現前知覺此事時。與此事
相違說。是故言知故妄語。復有說者。於彼事
了了現見。而違彼事說。是故言知故妄語。非
不。智故妄語。若如汝。說從不。智生。故言

不。智故妄語。非知故妄語者。妄語不但從不
智生。乃從多法生。謂十大地。十煩惱大地。
受乃至慧。不信乃至放逸。何故捨如是等法。
但言不。智故妄語。於意云何。汝有如是欲
如是說。一切無明與不。智相應耶。答曰。如
是。於意云何。諸知故妄語。盡是無明。愚無明
俱失念。不。智故而妄語耶。答曰。如是。復於
意云何。有無不。智故妄語耶。答曰。無也。聽
我說汝。違言負處。如是汝。語知故妄語。盡是
無明。愚無明俱失念。不。智故而妄語。應作是
說。有無不。智。故妄語。不應但說不。智故而
妄語。亦應說有無明故妄語。所以者何。從無
明生故。若不說無明故妄語。不應作是說。一
切無明。與不。智相應。若作是說。諸知故妄
語。盡是無明。愚無明俱失念。不。智故而妄
語。如汝所說。雖從無明生。不名無明妄語。我
亦如是。雖從不。智生。不名不知故妄語。然
知故名妄語

慢。慢有何差別。問曰。何故復作此論。答曰。此
二法相似。雖說體性。亦應說其差別。慢。慢有
何差別。答曰。緣他故自計勝。是慢相。不緣他
自於法中。心生染汚。是慢相。問曰。慢體性
是何。答曰。或有說者。體性是。慢。問曰。若然
者。慢。慢有何差別。答曰。慢有二種。一緣他
生。二緣自生。緣他生者是慢。緣自生者是慢。
復有說者。體性是愛。所以者何。如說自於法
中。心生染汚。復有說者。有心數法名慢。與心
相應在意地。修道所斷愛後生。問曰。若然者。
慢。慢有何差別。答曰。有多差別。慢是煩惱。慢
非煩惱。慢是結縛使惱。慢非結縛使惱。慢
是煩惱。慢是結縛使惱。慢非結縛使惱。慢
是修道所斷。問曰。無色界慢。見道所斷。慢云
何緣他生耶。答曰。本於此間。修行廣布。後生
彼間。以因力故。亦現前行。復有說者。雖生彼
間。而不現行。於此間。因。入定起慢心。我於定
善。他則不善。我能速入。他則不能。我能久住。
他則不能。云何見道所斷慢。緣他生耶。答曰。
如我見者。聚在一處。更相問言。汝我有何相
耶。答曰。我。我有如是相。他人聞已。作如是
念。彼說我相。相則不如我。因身見後。生如
是慢。復有說者。無始已來。常習此法。不必因
他而生。如尊者阿泥盧頭。生如是慢。諸尊者
舍利弗所。作如是言。我以天眼。觀千世界。不
多用功。乃至廣說。尊者舍利弗而語之言。此
是汝慢。如此慢則不因他生。然慢多分因他
生故。言因他生。亦有因自生者

○言二日○ ○知二智 ○而二有 ○語二諸 ○[故]一 ○種十(種) ○[勝]一 ○慢二慢 ○慢二慢 ○[相]一 ○

故作此論答曰。或有說者。慢能緣他界。亦緣無漏。為止如是說者。意亦明慢是自界緣緣有漏故。而作此論

若生增上慢。我見苦是苦。此增上慢。何所緣耶。答曰。猶如有一親近善知識。善知識者。謂佛佛弟子是也。從其聞法。聞法者。聞隨順涅槃方便法。內正思惟。正思惟者。謂自修正行。復有說者。正思惟者。觀生死是過患。觀出要。是善利。如法修行。如法修行者。謂次第行法。得於順忍。順忍者。謂順諦忍也。依此四須陀洹。枝故。於苦有忍。有欲有說。依如是等法。身心潤益。以是忍力。令諸行衰微羸劣。於諦轉明。便作是念。我見苦。是苦不觀。須臾見疑不行。問曰。此文應如是說。無有正觀。須臾見疑不行。而不說者。有何意。答曰。當知此義不觀者。即是不正觀。義須臾見疑不行。見者。謂身見戒取。疑者。即疑西方沙門。復作是說。見者是戒取。疑即是疑。所以者何。得忍。若身見不行。設有行者。亦復不覺。所以者何。以根鈍故。所行微細。不久住故。是以不覺。復次見疑行細。行者。心慮。是以不覺。復次以五事故。衆生煩惱不行。一以定力故。二以慧力故。三依善師故。四以處所好故。五性少煩惱。彼煩惱不行故。作如是念。我見苦是苦。因此起慢。乃至廣說。問曰。此增上慢。何緣。取答曰。緣苦能生增上慢者。是順諦忍。緣集生增上慢。亦如是。若生增上慢。我見滅是滅。此增上慢何緣。猶如有一親近善知識。廣說如上。乃至我見滅是滅。因此起慢。乃至廣說。問曰。此增

上慢何緣。答曰。即緣彼心心數法。能生增上慢忍者。若作是說。則上慢緣無漏者。意亦非他界緣。亦非無緣。若生增上慢。我見道是道。此中應廣說如滅。問曰。此慢為是欲界。為是色界耶。若是欲界者。此慢緣忍。欲界無忍善根。若是色界者。離欲者可爾。未離欲者云何可爾。答曰。或有說者。應作是說。是色界慢。所以者何。彼慢緣順諦忍。欲界中無順諦忍。問曰。若然者。離欲者可爾。未離欲者云何。答曰。經本所說。明離欲者。復有說者。未離欲者。亦能起此慢。所以者何。依未來禪與根本禪相似故。評曰。不應作是說。如前說者。好。復有說者。是欲色界。問曰。色界者可爾。所以者何。緣彼忍故。欲界者云何可爾。彼慢不能緣忍。自界緣故。答曰。欲界中雖無忍。有與忍相似善根。為慢所緣。所以者何。欲界中。盡有一切善根種子故。以欲界中有忍相似善根。故慢亦能緣。若生增上慢。我生已盡。乃至廣說。此增上慢何緣。乃至廣說。問曰。此增上慢。前所說者。有何差別。答曰。或有說者。先所說者。是凡夫增上慢。後所說者。是凡夫聖人增上慢。如凡夫聖人。見諦不見諦。得果不得果。得正決定。不得正決定。住決定聚。住不決定聚。住正定不住正定。當知亦如是。復有說。先所說者。因見道生。後所說者。因修道生。復有說者。先所起慢有所因。後所起慢無所因。復有說者。前者是欲色界。後者是三界。若生增上慢。我生已盡。此何緣。答曰。猶如有一作是念。此道此迹。我依此道。依此迹。乃至

廣說。此道者。隨其處作道想。此道迹者。隨其處作道迹想。生已盡者。隨其處作生想。問曰。此增上慢何緣耶。答曰。緣生隨彼善根。能生增上慢者。是生梵行已立說亦如是。乃至此增上慢何緣。答曰。即緣彼能生慢。心心數法。梵行已立者。阿羅漢。於學道名梵行已立。於無學道名今立。所作已辦者。猶如有一作是念。此道此迹。乃至所作已辦。我已斷煩惱。已害使。已吐結。已制伏纏。如是等語。盡明斷義。文雖種種。而無異義。所以者何。若斷煩惱。即是斷害使吐結。制伏於纏。問曰。此增上慢何緣耶。答曰。即緣能生增上慢。心心數法。若生增上慢。我更不受有。乃至廣說。問曰。何故復作此論。答曰。前說是因時解脫增上慢。今說是因不時解脫增上慢。前說是因盡智增上慢。今說是因無生智增上慢。而作此論

此增上慢何緣。答曰。即緣能生增上慢。有凡夫能起五種增上慢。一於善根。二於須陀洹。三於斯陀含。四於阿那含。五於阿羅漢。須陀洹起三種。斯陀含起二種。阿那含起一種。阿羅漢無慢。復有說者。聖人亦起果間增上慢。如須陀洹於斯陀含向中起慢。斯陀含於阿那含向中起慢。阿那含於阿羅漢向中起慢。諸起色界增上慢者。要得彼根本地。能起彼地增上慢。所以者何。彼地煩惱。屬彼地故。若不得根本地。不能起彼地煩惱。復有說者。未至法亦有似根本地。若得彼地者。亦能起彼地慢。評曰。不應作是說。如前說者好。云何

◎是二見◎ ◎取一耶◎ ◎上二止◎ ◎好二如◎ ◎有二者◎

卑而起慢。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。慢法自高卑他。此慢。自卑高他。或謂此非是慢。今欲決定說。是慢故。而作此論。云何卑而起慢。猶如。有一見他勝。若生處。姓種色工業財富田宅。見他是事作是念。彼少勝我不如彼。謂生處乃至田宅。然彼不如他非百倍千倍。生處者有四種。謂利。婆羅門。毘舍。首陀。姓者有四種。一婆瑳。二橋瑳。三舍持羅。四婆羅。姓。亦更有餘姓。一佉尼迦夷那。二舍茶蛇尼那。三拘茶蛇尼那。色者謂白紅赤黑。種者謂父種母種。工者謂綵畫等。業者於工巧中得利勝。財富者謂色聲香味觸。及其具。田宅者謂居業是也。見他有如是等事作是念。彼少勝我。我少不如彼。色等乃至田宅。然彼非百倍千倍。而彼言一倍二倍勝我。我一倍二倍不如彼。便自高卑他而起於慢。

有七慢。一慢。二過慢。三慢過慢。四我慢。五增上慢。六卑慢。七邪慢。問曰。此慢幾見道斷。幾修道斷。答曰。三修道斷。四謂慢過慢增上慢。餘見道修道斷。復有說者。二見道斷。謂我慢邪慢。餘是見道修道斷。復有說者。一是修道斷。謂增上慢。二是見道斷。謂我慢邪慢。餘四見道修道斷。復有說者。盡是見道修道斷。問曰。若然者。云何我慢邪慢。修道斷耶。答曰。身見緣五種斷法。計苦諦所斷法是我。於此後生我慢。乃至計修道所斷是我。於此後生我慢。是名我慢修道所斷。云何修道斷邪慢。答曰。邪見緣五種所斷法。邪見謗苦

諸所斷法言無。於此後生邪慢。乃至謗修道所斷法言無。於此後生慢。是名修道斷於邪慢。問曰。七慢幾在欲界。幾在色無色界耶。答曰。或有說者。三在欲界。謂過慢慢過慢卑慢。餘在三界。所以者何。色界無計生處等起慢。復有說者。盡在三界。問曰。若然者。色無色界。無計生處等起慢。乃至廣說。答曰。本於此間。修行廣布。以因力故。於彼亦起現前復有說者。彼中雖不現行。於此因是故亦起現行。言我定勝我定少不如彼。

又世尊言。有三覺。謂欲覺。慧覺。害覺。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經有三覺。欲覺。慧覺。害覺。而不廣分別。云何欲覺。自害。乃至廣說。佛經是此論所為根本。諸經中不說者。今欲說故而作此論。

云何欲覺自害。答曰。猶如有一起欲愛纏身。熱心熱。所以者何。欲愛纏如火燒於自身。世尊亦說有三種火。謂貪欲火。瞋恚火。愚癡火。身熱心熱。是彼依果。長夜起欲愛纏。三惡道中。受不愛報。乃至廣說。是彼報果。是名欲覺自害。云何欲覺害他。答曰。猶如有一起欲愛纏。眼視他妻。其夫見之。自罵其婦。加諸苦害等。是名欲覺害他。問曰。此亦是俱害。所以者何。彼眼看者。亦受苦害等。答曰。彼看者。其夫不能加害。若加害者。則為他人之所呵責。是以不說。云何欲覺俱害。答曰。猶如有一起欲愛纏。姪犯他妻。俱有過故。而彼殺害。是名俱害。問曰。此是三害。何以言俱。所以者何。彼殺者。被殺者。亦受罪故。答曰。彼雖是

害。不為世人所呵責。而為世人所譽。云何此人憎惡惡法。是以不說。云何慧覺自害。答曰。猶如有一起於慧纏。身熱心熱。乃至廣說。是彼依果。長夜起慧纏。故於三惡道。受不愛果。乃至廣說。若生人天中。形色醜陋。是彼報果。是名慧覺自害。云何慧覺害他。猶如有一起於慧覺。斷他人命。是名害他。問曰。若斷他命。是名俱害。何以但言害他。答曰。雖斷他命。不為世人之所呵責。不盡受現世罪。是故不說。云何俱害。猶如有一斷他人命。以斷他命。還斷其命。問曰。還斷其命。是名三害。何以言俱。答曰。雖還斷他命。不為世人所呵。而受歎美。言是人篤親里篤親友。云何害覺自害。答曰。猶如有一起害覺纏。身熱心熱。乃至廣說。是彼依果。長夜起害覺故。乃至廣說。是彼報果。是名自害。云何害他。答曰。猶如有一若杖打他。乃至廣說。是名害他。此中難答如上。云何俱害。答曰。猶如有一起害覺纏。若手若杖打他。他亦還打。是名俱害。此中間答如上。

問曰。此三覺體性是何。答曰。欲覺者是欲界五種斷六識身。愛相應覺也。慧覺者是五種斷六識身。慧相應覺也。害覺者或有說者。慧覺即是害覺。問曰。若然者。慧覺害覺有何差別。答曰。慧覺有二種。或有欲捨眾生。或有但欲打意。若欲捨眾生。是慧覺若欲打意。是害覺。復有說者。慧覺有二種。或有可慧事生。或有不可慧事生。可慧事生。慧相應覺是慧覺。不可慧事生。慧相應覺是害覺。

◎卷第三十 三終 ④ 謂十(過 慢) ⑤ 不十(盡) ⑥ 被二彼 ⑦ 其二自 ⑧ 一十(起害覺纏) ⑨ 二二一 ⑩ 茶一茶 ⑪ 綵二彩 ⑫ 音在和反) ⑬ 姓種一姓 ⑭ 姓種一姓 ⑮ 有十(人) ⑯ 是一共 ⑰ 卷第三十四雜度思品之第二首 ⑱ 卷第三十四雜度思品第八之二首 ⑲ 造說釋說譯說同異如卷首

復有說者。無明相應覺是害覺。何以知之。如
施設經說。以何等故。衆生有重愚癡。答言。修
行廣布害界害想害覺故。有重愚癡。被相應
覺。是名害覺。復有說者。亦非害相應覺。亦非
無明相應覺。自有心數法名害。與心相應。是
悲垢依悲。悲後起現在前在意地。是修道所
斷。此說是真實義

有三善覺。謂離欲覺。無害覺。無害覺問曰。
此三覺體性是何。答曰。離欲覺者是心數法。
是心相應對治欲覺。無害覺無害覺。說亦如
是。一心中不得有三不善覺。得有三善覺。三
不善覺。不遍一切不善心中。三善覺遍一切
善心中。三不善覺。不與一切不善心相應。三
善覺與一切善心相應。三不善覺。不攝一切
不善覺。三善覺攝一切善覺。所以者何。三善
覺無別體故問曰。若三善覺無異體者。云何
立三覺耶。答曰。以對治故。立三善覺。對治欲
覺故名離欲覺。對治害覺故名無害覺。對治
害覺故名無害覺

佛經說。比丘當知。我本勤行精進。而不放逸。
欲斷煩惱。而猶生欲覺。害覺。問曰。若
薩若不放逸。不應生三不善覺。若生三不善
覺。云何名不放逸。尊者須蜜答曰。菩薩雖
起不善覺。勤行精進。故名不放逸。菩薩若起
不善覺時。速能自知是不善覺。此是煩惱非
是好法。復有說者。菩薩若生不善覺時。即捨
即吐。依其對治。復有說者。菩薩雖生不善覺。
不令久住。尋即制伏除去。以是事故。雖生不
善覺。是不放逸。復次菩薩雖生不善覺。尋斷

其因除其依。覺知所緣。是故名不放逸。復次
衆生。以三事故。生諸煩惱。一以因力。二境界
力。三方便利。菩薩雖生不善覺。非境界力。非
方便力。是本因力。故名不放逸。尊者佛陀提
婆說曰。菩薩雖生不善覺。不令經久。即時制
伏。依其對治。經須與問。如一。滯水墮熱鐵
上。是故名不放逸。問曰。菩薩於何處起欲覺。
何處起害覺。何處起害覺。答曰。或有說者。菩
薩捨迦毘羅衛。豐樂之國。及現在轉輪王位。
猶如棄唾。而詣多波樹林。漸次至王舍城。以
日初分。手執藕葉。入王舍城乞食。爾時菩薩
形容甚妙。百千衆生而隨逐之。或以偈頌。而
讚歎者。或有歎詠而稱。告者。或有合掌而禮
拜者。或有仰觀無厭足者。爾時菩薩作如是
念。此諸人等。初始見我。生於歡喜。甚為希
有。便生愛心。愛相應覺。是名欲覺。爾時菩
薩所往之處。多人隨逐。當於此日。竟不得
食。作是思惟。是諸人等。何故隨逐我耶。心
生厭患。與厭患相應覺。是名害覺。依此二
法。生於塵穢。是名害覺。復有說者。菩薩出迦
毘羅衛。住多波林。是時諸釋遣侍者五人。二
是母親。三是父親。給侍菩薩。是時五人。二
以欲是淨。三以苦行是淨。爾時菩薩勤行苦
行。以欲是淨。二人便捨之去。以苦行是淨。三
人而猶隨侍。是時菩薩捨苦行處。還受飲食。
酥油塗身。暖水澡浴。是時三人作如是念。
今觀此人。於斷結法。便為錯亂。即捨之去。是
時村主有。二女人。一名難陀。二名難陀婆
羅。給侍菩薩。時彼二女。成就妙觸。或時摩觸

菩薩手足。是時菩薩便生愛心。與愛相應覺。
是名欲覺。是時菩薩復作是念。若彼五人。不
捨我者。我則不親近女人。以為給侍。於彼五
人。便生害心。是名害覺。依此二法。生於塵穢。
是名害覺。復有說者。菩薩在家時。輸頭檀王。
取五百玉女。以為其妻。菩薩捨此快樂之
處。詣多波林。是時諸王遙聞。悉達今已出家。
即遣使者。白輸頭檀王。王子悉達。今已出家。
便可悉還我等諸女。輸頭檀王作如是言。我
子悉達。雖復捨我出家。今見其妻。如見子無
異。云何相還。是時諸王心生忿恚。合集諸軍。
圍迦毘羅城。或有說者。天神往語菩薩。或有
說者。輸頭檀王。遣使往語。今坐汝故。令我苦
惱。是時菩薩便於父所。生於愛心。於愛心相
應覺。是名欲覺。於彼諸王。生於害心。是名害
覺。依此二法。生於塵穢。是名害覺。尊者瞿沙
說曰。菩薩修苦行時。以根利故。於欲界聞思
善根。隨意能得。便作是念。此諸善根。隨順於
我。雖善積集。欲界善根。猶生煩惱。是時菩薩
於此善根。便生愛心。行於愛禪。自於身中。生
於愛心。愛相應覺。是名欲覺。菩薩根猛利故。
即時自知。我今已起愛。即是煩惱所。不應為。
便生害心。是名害覺。依此二法。能生垢穢。是
名害覺。復有說者。菩薩行苦行時。是時惡魔
於六年中。隨逐菩薩。欲求其短。或以好形。或
以惡形。而現菩薩。若以好形。現時。菩薩爾
時便生愛心。與愛相應覺。是名欲覺。若以惡
形。現時。菩薩是時便生害心。是名害覺。依
此二法。生於塵穢。是名害覺。復有說者。菩薩

一與二 二生一 三淨一 四皆一 五思一 六愛一 七(二)一 八玉一 九不應二 十不
現一見

所以者何。所知攝十七界一界少分十一入一入少分四陰一陰少分。智攝一界少分一入少分一陰少分。何況智亦是所知是故所知攝十八界。十二入五陰。智攝一界一入一陰少分是故所知多非智多。

智多耶識多耶。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。欲決定重明所知多非智多。所以者何。一切智處盡有識。非一切識處盡有智。何處無智耶。謂忍相應識。一切識處。不必有智。是故識多非智多。智盡與識相應。識不必與智相應。何處不相應。謂忍也。所以者何。忍非智故。

問曰。何故忍非智耶。答曰。以不決定故忍非智。忍。唯能見。不能知故。忍是初觀非畢竟故。忍是求覓非轉還故。忍。所作不捨方便故。忍雖是疑對治。猶與疑得俱非決定故。非智。無礙解脫道雖同所作。不得俱在一刹那中故。尊者須。密說曰。欲可此事名忍。不可忍時名智。尊者佛陀提婆說曰。所見究竟。是智。忍時所見非究竟故非智。復有說者。若以陰界入故。識多非智多。所以者何。識攝七識界。智攝一界少分。識攝一入一陰。智攝一入一陰少分。是故識多非智多。

有漏行多。無漏行多。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。為止並義者。如摩訶僧祇部說。佛生身是無漏。彼何故作如是說。答曰。彼依佛經。佛經說。比丘當知。如來生世住世。出現世間。不為世法所染。以是義故。知如來生身是無漏。為止如是說者。意明如來生身是有

漏故。而作此論。若如來生身是無漏者。無比女。不應於如來身生染心。央掘魔羅。不應生悲憐慢。婆羅門不應生慢。優樓頻。不應生愚。以如來生身他愛悲或生慢癡。是故知如來生身非是無漏。問曰。若如來生身。是有漏非無漏者。摩訶僧祇部所說。經云。何通答曰。彼經說如來法身。所以者何。若說如來生世住世。則說如來生身。若說出現世間。不為世法所染。則說如來法身。復次不為世法所染者。如來不為世八法所染。世人隨順世八法。世八法亦隨順世人。世八法隨順如來。如來不隨順世八法。已解脫世法故。言不染世法。問曰。如來亦有世八法有利者。如優伽長者。一日中施佛三百萬兩財。無利者。如於婆羅婆羅門村乞食。空鉢而入。空鉢而還。有譽者。生時名徹他化自在天。成道時。名徹阿迦賦吒天。轉法輪時。名徹梵天。非譽者。旃遮女孫陀利女。謗非譽名徹十六大國。毀罵佛。稱者。還以五百偈讚佛。如婆祇奢優婆離。以種種偈。讚舍利弗。讚跋佛無上法。阿難讚歎佛希有法。樂者。謂猗樂及得一切世間最勝樂。苦者。如佉陀羅刺刺脚。亦以瓦石傷於足指。頭痛背痛。如來亦有如是等世法。云何言不為世法所染。答曰。世尊雖遇有利等四法。而心不高。雖遭無利等四法。而心不下。雖遇有利等四法。心不生愛。雖遭無利等四法。心不生悲。如愛悲欣感憂喜說亦如是。譬如須彌山王安立在於金輪上。四方猛風

不能傾動。佛亦如是。安立戒輪之上。世間八法不能傾動。是故為止他義欲。現已義故。而作此論。有漏行多。無漏行多。答曰。有漏行多。非無漏行多。所以者何。有漏行攝十八入二入少分。無漏行攝二入少分。復有說者。無漏行多。非有漏行多。所以者何。如欲界繫一法。四無漏法緣。謂苦法忍苦法智。集法忍集法智。如欲界一法。餘欲界法亦如是。如色界繫一法。四無漏法緣。謂苦比忍苦比智。集比忍集比智。如一法。餘色界法亦如是。無色界說亦如是。猶有餘無漏法。是故無漏行多。非有漏行復有說者。有漏行多。非無漏行。所以者何。如一無漏法為四種有漏法所緣。謂邪見疑。無明善等智。如一無漏法。一切無漏法亦如是。餘有漏法猶多。是故有漏行多。非無漏行。有為法多。無為法多耶。答曰。或有說者。有為法多。非無為法。所以者何。有為法攝十二入一入少分。無為法。攝一入少分。復有說者。無為法多。非有為法。所以者何。隨所有有漏法。有爾所數滅法。隨所有無漏道。有爾所非數滅法。餘無為法者。有有漏法非數滅虛空。是故無為法多。非有為法。

①十二=十一 ②能=惟 ③* ④所作=作所 ⑤密=蜜 ⑥(人)= ⑦養=螺 ⑧婆=娑 ⑨稱者=復 ⑩(於)= ⑪現=顯 ⑫(漏)= ⑬二=一

唯說無學人耶。答曰。以無學人勝故。廣說無學人勝。應如上第三品中。戒具足者。戒言尸羅。亦言行。亦言守信。亦言器。尸羅者。言冷。無破戒熱故。破戒者身心熱。持戒者身心冷。破戒者三惡道中。熱持戒者人天中冷。又尸羅言夢。持戒者身心不熱。常得善夢故。又尸羅言習。持戒者善習戒法故。又尸羅言定。住戒者心易定故。又尸羅言池。如佛說偈。

法泉戒水池 清淨無瑕穢

聖浴身不濕 必到於彼岸

又尸羅如璣珞。有璣珞嚴身。有少時好中年老年則不好。有中年好少年老年則不好。有老時好少年中年則不好。戒璣珞嚴身。三時常好如佛說偈。

戒終老安 信善安止 慧爲人寶

福無能盡

又尸羅如鏡。如鏡明淨。像於中現。戒清淨者。無我像現。如說依戒立戒。昇無上慧堂。又尸羅言威勢。如來所以於三千大千世界。有威勢者。皆是尸羅力故。會聞罽賓國有龍名阿利那。受性暴惡。去其住處不遠。有僧伽藍。其龍數爲暴害。時有五百阿羅漢。皆共集會。入於禪定。以神足力。欲驅遣此龍。其大龍大威德。而不能遣。時有一羅漢。次從後至。時諸羅漢。具以是事。向後來者說。時後來者。不入禪定。直彈指語言。賢善遠此處去。是時此龍。聞彈指聲。即便遠去。時諸羅漢。語後來者言。汝以何禪定力。令此龍去耶。後來者而答之言。我不以禪定力。直以謹慎於戒。我

守護輕戒。猶如重禁。我以戒力故。令此龍去。是故尸羅名有威勢。又尸羅言頭。如人有頭。則能見色聞聲嗅香嘗味覺觸知法。如是行人有尸羅頭者。能見苦諦等色。聞名身等義。嗅覺意花香。嘗出離無事寂靜三善提味。覺禪定解脫等觸。如色陰等法總相別相。是故尸羅言頭。何故尸羅名守信。此是世俗言說法。若人善護尸羅者。言是人守信。不能善護尸羅言是人。不守信。是故世俗言說。尸羅名守信。尸羅言行者。如人有足能行至餘方。如是行人有尸羅足者。能行至善道及至涅槃。又尸羅言器者。以是一切功德所依之處。是故尸羅言器。尊者瞿沙說曰。不破義是尸羅義。如人不破於足。能有所至。如是行者不破尸羅故。能至涅槃。

云何守具足。答曰。阿羅漢諸根戒是也。此諸根。亦言守亦言根。亦言生亦言泉。亦言白淨。亦言所作。守者守境界故言守。復有說者。以念慧等根。守境界故言守。如鑊能刈名刈具。彼亦如是。根等餘處當廣說。此中略故不說。問曰。根戒根非戒體性是何。答曰。是念慧。何以知之。如經說。天神語比丘言。莫生瘡疣。比丘答曰。我當覆之。天復問言。瘡疣既大。以何覆耶。比丘答言。以念慧覆之。如餘偈說。

諸世所有流 正念能除斷

亦因念慧力 亭住而不行

是故念慧是根戒體性。亂念惡慧是根非戒體性。問曰。若念慧是根戒體性者。此經云何通。如說念慧滿足故。能滿足根戒。云何以自

體。滿自體耶。答曰。不也。所以者何。念慧有因性。亦有果性。因性者。說名念慧。果性說名根戒。復有說者。不放逸是根戒。放逸是根非戒。復有說者。六常住法是根戒。諸煩惱依此六門而生。是根非戒。復有說者。五根若斷若知得成就。是根戒。若五根不斷不知不得。成就就是根非戒。若作是說。則明成就不成就是根戒。非根戒。復有說者。若成就緣五根煩惱。不成就斷緣五根煩惱對治。是名根非戒。若不成就緣五根煩惱。成就斷緣五根煩惱對治。是名根戒。若作是說。則明成就不成就是根戒。是根非戒。復有說者。染污性是根非戒。不染污性是根戒。復有說者。若五根能生惡行煩惱。是非戒。若五根能生善根善行是戒。世尊亦說。根戒根非戒。若作是說。則明根戒根非戒是五陰性。復有說者。罽賓國有二阿羅漢。作如是說。根戒是不隱沒無記性。所以者何。不定故。不說在善中。不說在不善中。問曰。若體性不定者。云何說此是根戒。此是根非戒。答曰。不隱沒無記體是一行。或時隨順善。或時隨順不善。若隨順善時。是名戒。若隨順不善時。是名非戒。

問曰。已說根戒根非戒。斷戒云何。答曰。若以世俗道。斷欲界結。未至禪所攝九無礙道斷對治是也。若依二禪邊。斷初禪結。第二禪邊所攝九無礙道是也。如是乃至非想非非想處邊。斷無所有處結。非想非非想邊所攝九無礙道是也。若以無漏道。斷欲界結。未至禪所攝九無礙道是也。斷初禪結。三地所攝九

體。滿自體耶。答曰。不也。所以者何。念慧有因性。亦有果性。因性者。說名念慧。果性說名根戒。復有說者。不放逸是根戒。放逸是根非戒。復有說者。六常住法是根戒。諸煩惱依此六門而生。是根非戒。復有說者。五根若斷若知得成就。是根戒。若五根不斷不知不得。成就就是根非戒。若作是說。則明成就不成就是根戒。非根戒。復有說者。若成就緣五根煩惱。不成就斷緣五根煩惱對治。是名根非戒。若不成就緣五根煩惱。成就斷緣五根煩惱對治。是名根戒。若作是說。則明成就不成就是根戒。是根非戒。復有說者。染污性是根非戒。不染污性是根戒。復有說者。若五根能生惡行煩惱。是非戒。若五根能生善根善行是戒。世尊亦說。根戒根非戒。若作是說。則明根戒根非戒是五陰性。復有說者。罽賓國有二阿羅漢。作如是說。根戒是不隱沒無記性。所以者何。不定故。不說在善中。不說在不善中。問曰。若體性不定者。云何說此是根戒。此是根非戒。答曰。不隱沒無記體是一行。或時隨順善。或時隨順不善。若隨順善時。是名戒。若隨順不善時。是名非戒。

其二彼 大龍二龍有 生二主 亭二停 是十(根)

無礙道是也。如是次第。第二禪是四地。第三禪。五地。斷第四禪結。及無色界見道所斷是六地。空處修道所斷是七地。識處八地。無所有處。非想非非想處。修道所斷是九地。九地所攝無礙道是斷。戒。

云何凡夫性。乃至廣說。問曰。何故作此論。答曰。為止異義者意故。如犢子部說。欲界見苦所斷十種煩惱。是凡夫性。彼說凡夫性。定是欲界繫是染污。是見道斷。是相應。為止如是說者。意明凡夫性。是三界繫。是不染污。是修道。所斷是不相應法。故作此論。云何凡夫性。答曰。若不得聖法。乃至廣說。問曰。為不得一切聖法。是凡夫性。為不得苦法忍。是凡夫性耶。若不得一切聖法。是凡夫性者。無有聖人得一切聖法者。則無非凡夫性人。佛世尊則非成就一切無漏法。謂聲聞辟支佛。無漏法。及自身學法。若不得苦法忍。是凡夫性者。道比智已生。捨苦法忍。應是凡夫性。答曰。或有說者。應作是說。不得苦法忍。是凡夫性。問曰。若然者。道比智生捨苦法忍。是凡夫性耶。答曰。苦法忍生時。破凡夫性。永更不生。苦法忍。不得言得。不得言不得。如不得未來眼根。得現在者。以得現在眼根故。破未來眼根。不得未來眼根。不名得。不名不得。彼亦如是。復有說者。道比智生捨苦法忍。體性是不。如不得未來眼根。得現在眼根。而不得過去眼根。如是得道比智。不得苦法忍。問曰。若然者。云何非凡夫性耶。答曰。成就依果故。聖人身中。無有不成就苦法忍。依果時雖

不成就苦法忍。而非凡夫。常是聖人。問曰。若不得聖法。是凡夫性者。如說云何凡夫性。三界不染污心。不相應行。其義云何。答曰。若說不得聖法。是凡夫性者。即明三界不染污心。不相應行。所以者何。不得聖法性。即是三界不染污心。不相應行。復有說者。先說是對治。後說是體性。復有說者。凡夫性體是一法。猶如命根。非不得性。是不染污心。不相應行。修道所斷。評曰。不應作是說。體性是不。聖法。如是說者好。復有說者。不得一切無漏法。是凡夫性。問曰。若然者。無有聖人盡成就一切無漏法者。則無非凡夫性。答曰。雖無聖人盡成就一切無漏法者。然非凡夫。所以者何。亦有不得聖道。亦有得聖道故。復有說者。若不得是不共。是凡夫性。若不得是共。非凡夫性。復有說者。若不得不破。是凡夫性。若不得破。是非凡夫性。復次亦不得聖。聖忍。聖見。聖欲。聖慧。乃至廣說。問曰。此復顯現何義耶。答曰。先是略說。今是廣說。先不分別。今則分別。復有說者。此說極下凡夫。不得達分善根者。聖。暖者是。暖法。聖見者是頂法。聖忍者是下中忍。聖欲者是上忍。聖慧者是世第一法。是故此中說極下凡夫。復有說者。此中唯分別苦法忍。所以者何。苦法忍。亦名。暖見忍。欲慧。令有種子熱故名。暖。轉行故名見。堪忍故名忍。可諳故名欲。分別故名慧。復有說者。令有種子熱故名。暖。轉行故名見。行忍故名忍。欲。解脫故名欲。覺知故名慧。是故此中。唯分別苦法忍。

凡夫性。當言善耶。乃至廣說。答曰。凡夫性。當言無記。所以者何。善法由善方便得。亦由餘善法得。由方便者。是方便善根。由此善根。亦令餘善未來世修。如見道邊等智盡智邊所得三界善根。問曰。此中何故不說生得善耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。乃至廣說。復有說者。若勝好善。此中則說。彼是下劣。是故不說。復有說者。方便得善說。方便善根。由他得善。說離欲得善。復有說者。方便善。說達分勝進分善根。由他得善。說住分退分善根。復有說者。此文應如是說。善法若方便得。若得方便者。是方便得。得者是生得。復有說者。得善法若方便。若離欲若得若退。復有說者。方便得者。是方便生。若得者善根。斷還生時得善根是也。無有作方便求為凡夫。所以者何。無有本非凡夫者。此是下賤法故。無有求者。若凡夫性是善則有大過。斷善根時。永滅善法。不成就得。是時應非凡夫。若極惡下賤。非凡夫者。是事不然。欲令無如是過故。凡夫性不當言善。何故非不善耶。答曰。凡夫離欲界欲。不成就不善法。離欲界則非凡夫。以如是說。則止凡夫性。是不善者。意若凡夫性。是不善者。凡夫人離欲界欲者。則不應還生欲界。然還生欲界。是故凡夫性不得言不善。凡夫性當言欲界繫耶。乃至廣說。答曰。凡夫性。或欲界繫。或色無色界繫。問曰。凡夫性。何故不當言定欲界繫耶。答曰。欲界沒生無色界。乃至廣說。問曰。何故不說欲界沒生色界

①(是)十五② ③戒二結④ ⑤卷第三十四終⑥ ⑦卷第三十五雜健度思品之餘首⑧ ⑨卷第三十五雜健度思品第八之三首⑩ ⑪造說釋說譯說同異如卷第二十三⑫ ⑬應十(法)⑭ ⑮(所)一⑯ ⑰而二亦⑱ ⑲(不)一⑳ ㉑有二㉒ ㉓暖二暖④* ㉔耶二聖⑤ ㉕說二諸⑥ ㉖唯二惟⑦* ㉗解二得⑧

中耶。答曰。欲界沒生色界中。雖捨欲界法而不悉捨。生無色界悉捨。所以者何。生色界中猶成就欲界法。謂欲界變化心。生無色界。不成就欲界法。以是事故。不當言定欲界繫。何故不當言定色界繫。答曰。色界沒生無色界中。悉不成就色界繫法。問曰。色界沒生欲界中。亦捨色界法。此中何以不說耶。答曰。雖捨色界法而不悉捨。生無色界悉捨。是故說色界沒生無色界。乃至廣說。若當定是色界繫者。阿私陀阿羅茶憍陀迦等。則不應還生。復次所以不說色界沒生欲界者。色界沒生欲界中。成就色界法。生無色界。悉不成就色界法。是以不說何故凡夫性。不當言定無色界繫。答曰。得正決定時。乃至廣說。法應如是。若成就彼地凡夫性。先見彼地苦。然聖道生為凡夫性。作對治故。若聖道生。先見無色界凡夫苦者。凡夫性當言定無色界繫。但不爾。問曰。若以聖道初生者。凡夫性當言定欲界繫。答曰。不應以此設難。彼說不當言定欲界繫者。先已說故。

凡夫性當言見道斷耶。乃至廣說。答曰。凡夫性當言修道斷。不當言見道斷。所以者何。見道所斷法悉染汚。凡夫性非染汚。若是見道斷者。則是染汚。然凡夫性非染汚。其事云何。若是見道。如世第一法滅。乃至廣說。染汚法要斷得不成就。隨斷幾種染汚法。得不成就。彼種。乃至廣說。是時未斷一種染汚法。而不成就凡夫性。若凡夫性是染汚法者。行者亦是凡夫。亦是聖人。所以者何。住苦法忍時。成

就五種染汚法。是時亦是具縛。亦是聖人。問曰。無有成就色無色界凡夫性者。何以言是時三界凡夫得不成就耶。答曰。或有說者。此文應如是說。三界中凡夫。得不成就。而不說者。有何意耶。答曰。欲令三數滿故作如是說。成就欲界凡夫性。不成就色無色界凡夫性。若不成就欲界凡夫性。是人不成就三界凡夫性。是故欲令三數滿故作如是說。復有說者。斷其可生處故作如是說。彼有更生之處。令悉斷之。令彼法不復得生。復有說者。欲令不成就法復不成就故。云何不成就法復不成就耶。答曰。欲令極遠故。復有說者。三界凡夫性。得非數。滅故說三界。

凡夫性是何等法耶。答曰。三界不染汚心不相應行。問曰。何故復作此論。答曰。為止說凡夫性定欲界繫是染汚。見道斷是相應法者意故。而作此論。說三界則止定在欲界。不染汚則止染汚。修道斷則止見道斷。不相應則止是相應法者意。問曰。凡夫性體性是何。答曰。如此經說。不得聖道。乃至廣說。此中說凡夫性是不成就。不隱沒無記心不相應行。陰所攝。問曰。凡夫性。非行陰所攝。所以者何。心不相應行法中。不說此法故。答曰。亦說在如是等諸法名心不相應行中。此是凡夫性體性。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。凡夫性是何義。阿毘曇人說曰。凡夫分凡夫性。凡夫身凡夫體。是凡夫性義。尊者瞿沙說曰。與凡夫相似義是凡夫性義。如牛似牛故名牛性。餘禽獸等亦

如是。尊者和須蜜說曰。多處受身義是凡夫性義。異界生義是凡夫性義。趣異趣義是凡夫性義。更諸生義是凡夫性義。受諸生義是凡夫性義。信異師義是凡夫性義。行異類義是凡夫性義。造異業義是凡夫性義。尊者佛陀提婆說曰。受異界異趣異生增長生死問曰。何故名凡夫耶。尊者須蜜說曰。受異生異界異生處造異業行異煩惱信異師行異類等諸法故名凡夫。尊者佛陀提婆說曰。異於聖法故名凡夫。問曰。何故說凡夫法耶。答曰。此法是凡夫所有故名凡夫法。猶如聖人所有法名聖法。復次凡夫等得此法。成就在身中。是故名凡夫法。復次凡夫為此法所覆所蔽。所纏故名凡夫法。復有說者。凡夫人作此法。行此法。隨逐此法。故名凡夫。尊者佛陀提婆說曰。此法是凡夫人法。生增長凡夫性故。名凡夫法。問曰。凡夫法。凡夫性。有何差別。答曰。因是凡夫性。果是凡夫法。如因果作已作。廣說亦如是。復次無記是凡夫性。善不善無記是凡夫法。無報是凡夫性。有報無報。是凡夫法。如有報無報。生一果二果。無慚無愧相應。無慚無愧不相應。說亦如是。復次凡夫性攝一陰少分。凡夫法攝五陰。復次凡夫性是不相應。凡夫法是相應不相應。如相應不相應。有依無依等。說亦如是。復次凡夫性是不染汚。凡夫法是染汚不染汚。尊者佛陀提婆說曰。異趣所行。是凡夫性。異趣所得陰界入法。是凡夫法。如牛羊禽獸所行

如是。尊者和須蜜說曰。多處受身義是凡夫性義。異界生義是凡夫性義。趣異趣義是凡夫性義。更諸生義是凡夫性義。受諸生義是凡夫性義。信異師義是凡夫性義。行異類義是凡夫性義。造異業義是凡夫性義。尊者佛陀提婆說曰。受異界異趣異生增長生死問曰。何故名凡夫耶。尊者須蜜說曰。受異生異界異生處造異業行異煩惱信異師行異類等諸法故名凡夫。尊者佛陀提婆說曰。異於聖法故名凡夫。問曰。何故說凡夫法耶。答曰。此法是凡夫所有故名凡夫法。猶如聖人所有法名聖法。復次凡夫等得此法。成就在身中。是故名凡夫法。復次凡夫為此法所覆所蔽。所纏故名凡夫法。復有說者。凡夫人作此法。行此法。隨逐此法。故名凡夫。尊者佛陀提婆說曰。此法是凡夫人法。生增長凡夫性故。名凡夫法。問曰。凡夫法。凡夫性。有何差別。答曰。因是凡夫性。果是凡夫法。如因果作已作。廣說亦如是。復次無記是凡夫性。善不善無記是凡夫法。無報是凡夫性。有報無報。是凡夫法。如有報無報。生一果二果。無慚無愧相應。無慚無愧不相應。說亦如是。復次凡夫性攝一陰少分。凡夫法攝五陰。復次凡夫性是不相應。凡夫法是相應不相應。如相應不相應。有依無依等。說亦如是。復次凡夫性是不染汚。凡夫法是染汚不染汚。尊者佛陀提婆說曰。異趣所行。是凡夫性。異趣所得陰界入法。是凡夫法。如牛羊禽獸所行

○設二說○ ○合二今○ ○滅二法○ ○更二受○ ○受諸生二造異業○ ○(造異業...義)九字一○ ○等二木○ ○蔽二弊○ ○獸二狩○ ○*

是牛羊禽獸性牛羊禽獸所得法是牛羊禽
*獸法。如是等相。是名差別

若凡夫性不斷。亦成就凡夫性耶。若成就凡
夫性。彼凡夫性不斷耶。乃至廣作四句。凡夫
性不斷不成就凡夫性者。生欲界凡夫人。未
離初禪欲。從初禪乃至非想非非想處。凡夫
性不斷亦不成就。離初禪欲未離第二禪欲。
從第二禪。乃至非想非非想處。凡夫性不斷
亦不成就。乃至離無所有處欲。非想非非
*思處。凡夫性不斷亦不成就。生初禪凡夫人
未離第二禪欲。第二禪乃至非想非非想處。
凡夫性不斷亦不成就。離第二禪欲未離第
三禪欲。從第三禪乃至非想非非想處。凡夫
性不斷亦不成就。乃至離無所有處欲。非想
非非想處。凡夫性不斷亦不成就。如凡夫人
生初禪。乃至生識處。說亦如是。凡夫人生無
所有處非想非非想處。凡夫性不斷亦不成
就。凡夫人則爾。聖人云何。聖人未離欲界欲。
從欲界乃至非想非非想處。凡夫性不斷亦
不成就。離欲界欲未離初禪欲。從初禪乃至
非想非非想處。凡夫性不斷亦不成就。乃至
離無所有處欲。未離非想非非想處欲。非想
非非想處。凡夫性不斷亦不成就。是名不斷
亦不成就。成就非不斷者。凡夫人生欲界。離
欲界欲。成就欲界凡夫性非不斷。生初禪離
初禪欲。乃至廣說。無所有處。離無所有處
欲。成就無所有處凡夫性非不斷。是名成就
非不斷。不斷非不成就者。凡夫人生欲界中。
未離欲界欲。欲界凡夫性不斷非不成就。生

初禪未離初禪欲。乃至生無所有處。未離無
所有處欲。說亦如是。生非想非非想處。彼凡
夫性不斷非不成就。是名不斷非不成就。非
不斷不成就者。凡夫人生欲界中。乃至離無
所有處欲。從初禪地。乃至無所有處。凡夫性
非不斷不成就。生初禪中離無所有處欲。從
第二禪。乃至無所有處。凡夫性非不斷不成
就。乃至生識處。離無所有處欲。無所有處凡
夫性非不斷不成就。空處乃至欲界。凡夫性
非不斷不成就。凡夫人生無所有處識處。乃
至欲界。凡夫性非不斷不成就。生非想非非
想處無所有處。乃至欲界。凡夫性非不斷不
成就。一切阿羅漢三界凡夫性。非不斷不成
就。阿那含離無所有處欲。從欲界乃至無所
有處凡夫性。非不斷不成就。乃至聖人離欲
界欲。未離初禪欲。欲界凡夫性。非不斷不成
就。是名非不斷不成就。若凡夫性已斷亦不
成就耶。若不成就凡夫性已斷耶。乃至廣作
四句。彼初句作此第二句。彼第二句作此初
句。彼第四句作此第三句。彼第三句作此第
四句。凡夫性若是數滅。復是非數滅耶。若是
非數滅。復是數滅耶。乃至廣作四句。是數滅
非非數滅者。凡夫人離欲界欲。乃至離無所
有處欲是也。是非數滅。非是數滅者。聖人未
離欲界欲是也。是數滅亦非數滅者。聖人離
離欲界欲。諸地說亦如是。乃至阿羅漢。三界凡
夫性。得數滅亦得非數滅。非數滅非非數滅
者。未離欲凡夫人是也。問曰。頗有法一種時
捨九種時斷耶。答曰。有。謂凡夫性是也。一種

時捨者。謂苦法忍是也。九種時斷者。謂離
欲界欲時。乃至離非想非非想處欲時是也
諸法與邪見相應。復與邪覺。邪。乃至廣說
問曰。何以說凡夫性。次說八邪。枝耶。答曰。
以此二法展轉相扶持故。凡夫性扶持八邪
*枝。八邪。枝扶持凡夫性。復次行者憎惡此
八邪法。而修道故。諸法與邪見相應。復與邪
覺。邪。乃至廣作四句。邪見一切地中可得。
非一切染污心中可得。邪覺一切染污心中
可得。非一切地中可得。此中說誘因果邪見。
不盡說五邪見。是以作大四句。與邪見相應
非邪覺者。邪覺相應邪見。欲界未至禪。地禪
地邪見相應聚中邪覺體。與邪見相應非邪
覺。所以者何。以三事故。自體不應自體。一者
一剎那中無二邪覺。二者前後剎那不俱。三
者除其自體。與他一切法作緣。餘邪覺不相
應邪見相應法。彼是何耶。謂禪中間。乃至無
色界。九大地法。九煩惱大地睡心觀。如是等
法。與邪見相應非邪覺。所以者何。彼地無邪
覺故。邪覺相應非邪見者。邪見。相應邪覺
欲界未至禪初禪邪見體。應於邪覺。所以者
何。以三事故。自體不應自體。如前說。餘邪
見不相應邪覺相應法。彼是何耶。除欲界未
至禪初禪邪見相應法。諸餘染污聚邪覺相
應法。謂身見邊見戒取見疑愛恚慢不共
無明相應聚。如是等法。與邪覺相應非邪見。
所以者何。彼聚中無邪見故。邪見相應亦邪
覺者。除邪覺應邪見。除邪見應邪覺。餘邪
見邪覺相應法。彼是何耶。謂欲界未至禪初

○〔不〕一○ ○思一想○ ○廣說一生○ ○非是一是非○ ○邪二邪○ ○枝二支○ ○地二初○ ○〔相〕一○

禪邪見邪覺相應聚。除其自體。除慧餘有九大地。餘惡慧餘九煩惱大地。心觀睡時眠時。如是等法。與邪見相應。亦應邪覺。不與邪見邪覺相應者。邪覺不應邪見。彼是何耶。謂除欲界未至禪初禪邪見相應聚邪覺。諸餘染污聚邪覺。不應邪見。所以者何。聚各異故。亦不應邪覺。所以者何。自體不應自體。以三事故。亦如上說。邪見不應邪覺。彼是何耶。謂禪中間。乃至無色界邪見。不應邪覺。不應邪見。所以者何。以三事故。自體不應自體。亦如上說。亦不與邪覺相應。彼地無覺故。諸餘心數法。謂除中間禪乃至無色界邪見相應法。諸餘染污聚。不與邪見相應。彼聚中無邪見故。不與邪覺相應。彼地中無邪覺故。善心不隱沒無記心。色無爲心。不相應行。善心無記心。不應者。非染污故。色無爲心。不相應行不應者。非緣法故。

諸法與邪見相應。復與邪方便耶。若與邪方便相應。復與邪見耶。乃至廣作四句。邪見一切地可得。非一切染污心中可得。邪方便一切地一切染污心中可得。作中四句。邪見相應非邪方便者。邪方便應邪見。邪見相應邪方便體。應於邪見非邪方便。以三事故。自體不應自體。亦如上說。應邪方便非邪見者。謂邪見邪方便聚中邪見體。應邪方便非邪見。所以者何。以三事故。自體不應自體。亦如上說。餘邪見不相應法。邪方便相應法。彼是何耶。除邪見相應聚。諸餘染污聚。與邪方便相應非邪見。如是等法。與邪方便相應非邪

見。所以者何。彼聚中無邪見故。與邪見亦與邪方便相應者。除邪方便應邪見。諸餘邪見相應法。除邪方便者。以邪方便多故。除邪見相應聚邪方便體。彼是所除。諸餘邪見相應法。亦除邪見體。是爲於彼聚中除邪方便體。亦除邪見體。諸餘心數法。彼是何耶。謂除慧餘九大地。除惡慧餘九煩惱大地。心覺觀睡無慚無愧眠應隨相說。不與邪見邪方便相應者。邪方便不應邪見。彼是何耶。謂除邪見相應聚。諸餘染污聚。彼聚中邪方便體。不應邪見。所以者何。彼聚中無邪見故。不應邪方便。以三事故。自體不應自體。亦如上說。諸餘心數法。謂善不隱沒無記。色無爲。心不相應行。善心不隱沒無記心。非染污故。色無爲心。不相應行。非緣法故。如邪見邪方便。邪念邪定。說亦如是。邪覺對邪方便邪念邪定亦如是。

諸法與邪方便相應。復與邪念相應耶。乃至廣作四句。此二法一切地一切染污心中可得。是故作小四句。與邪方便相應不與邪念相應者。謂邪念是也。邪念體應邪方便非邪念。所以者何。以三事故。體不自應。亦如上說。邪念相應非邪方便者。謂邪方便是也。餘如上說。亦與邪方便邪念相應者。除邪方便邪念體。諸餘染污心數法。彼是何耶。除念餘九大地八煩惱大地睡覺觀眠時心。無慚無愧應隨相說。非邪方便非邪念相應者。諸餘心數法。謂善心不隱沒無記心。色無爲心。不相應行。所以如前說。如邪方便對邪念。

對邪定亦如是。邪念對邪定亦如是。問曰。此八邪*枝。幾在欲界。幾在色無色界。答曰。欲界有八。色界有八。無色界有四。除邪語邪業邪命邪覺。幾見道斷。幾修道斷。答曰。一是見道斷。謂邪見。三是修道斷。謂邪語邪業邪命。四是見道修道斷。謂邪覺邪方便邪念邪定。問曰。此中何故最後說諸邪*枝耶。答曰。欲顯現世第一法功用故。此。乾度初明出要善法。如世第一法。能入見道。能生聖道。聖道見道。能壞邪見。是故始明聖道。終明邪道。

世第一及智 人品與愛敬
無慚色無義 思品最在後。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十四
宋本此卷首云。智健度八道品中。若成就見亦成就智耶云云。乃至卷末云。與喜覺支相應非念覺支相應者等。凡二十六紙文。其與國本宋本迥異者何耶。今檢宋本錯亂。此文全。是此論第四十八卷之文。而重書爲此第二十四卷耳。今依二本正之。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十五

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

●使。捷度不善品第一。之一

三結乃至九十八使。盡是佛經。唯除五結九十八使。此非佛經。此章中應除此二論。會聞尊者瞿沙作如是說。一切阿毘曇論。盡解佛經。因此經故。作如是論。諸經中不說者。皆悉除之。此二論非經所說。是故應除五結說五上分結。所以者何。五上分結是佛經故。除九十八使。更無所說。非佛經故。復有說者。五結此章中不應除。所以者何。佛於增一阿含五法中說。以經久故。而亡失之。尊者迦旃延子以願智力。觀察於阿毘曇中。還說五結。會聞增一阿含。從一法至百法。而今唯有從一法至十法者在。餘悉亡失。從一法至十法。亡失甚多。在者猶少。如尊者耆那婆秀阿羅漢是會者。婆迦迦和上般泥洹時。是日亡失七萬七千本生經一萬。阿毘曇論。從是以後更不復行。一論師滅猶失爾所經論。何況佛法中多論師滅。復有說者。此二論雖非佛經。不應除之。問曰。若非佛經何故不除。答曰。作經者意欲爾。隨其所欲。而造此論。亦不違法相。於此論中。說一切遍。說非一切遍。說一切遍非一切遍。一切遍者。三結是也。非一切遍者。五結是也。一切遍非一切遍者。九結是

也。問曰。五結可爾。九十八使。亦非佛經。何故不除。答曰。一切阿毘曇廣解佛經義。若廣解佛經義者。是阿毘曇。佛經說七使。以界以種。以行差別故。有九十八使。是故此二論俱不應除。問曰。彼尊者造論。何故先立章。答曰。欲顯現諸門義故。所以者何。若不先立章者。則門義不顯。如人不能。采畫虛空。若欲畫時。必有所依。彼亦如是。復次欲令此論久住世故。雖立章門造偈頌制捷度作品名。百千衆中。乃有一人能具足誦持阿毘曇者。何況不立章門乃至品名。而能具足誦持此煩亂文。欲令無如是過故。而先立章。問曰。彼尊者何故因佛經而立章耶。答曰。以一切阿毘曇盡廣解佛經義故。復次欲顯現佛經有無邊義故。外道書論有文無義。雖有義而少。如羅摩延書。其文有萬二千偈。唯明二事。一明羅摩延劫思。陀去。二明羅摩將思陀羅。一切佛經皆是無量無邊。無量者有無量義。無邊者有無邊文。猶如大海無量無邊。無量者謂深無量。無邊者謂廣大無邊。復次欲顯現佛經堪忍問難轉精妙故。外道書論不堪問難。若其問難轉不牢固。無有義味。如猿猴子不耐打觸。若其打觸便失糞穢。佛經堪耐打觸。若打觸時則出清淨戒色及善根觸。亦如波羅帶。捺衣堪耐打觸。若加打觸光色轉妙出生妙觸。彼亦如是。復次欲顯現佛經發則妙故。佛經說有三事。覆則妙發則不妙。謂愚女人婆羅門書三事。發則妙覆則不妙。謂智人日月佛經。復次欲顯現佛經堪耐

思求轉精妙故。如人觀日眼不明淨。外道書論思求之時。使慧眼不淨。如人觀月眼則明淨。佛法經論思求之時。令慧眼明淨。復次先作是說。一切阿毘曇盡廣解佛經義。以是事故。如來所說。種種不相似義。立難捷度。說諸結義。立結使捷度。乃至說見義。立見捷度。一。捷度中。分別一切法。問曰。彼尊者造論。何故先立章後作門。答曰。如人造舍。先平治地然後立舍。彼尊者亦復如是。欲造法舍如平地法。先立於章。如造舍法後立於門。復次如人種樹。先治地然後乃種。彼尊者亦復如是。欲種法樹如治地法。先立於章。如種樹法。後作於門。復次如華鬘師華鬘弟子欲造種種鬘時。先經其縷。然後以種種色華而莊飾之。彼尊者亦復如是。欲造法鬘。如經縷法。先立於章。如以華莊飾之。後作於門。復次如畫師畫弟子。欲畫之時。先摹其像。後布衆采。彼尊者亦復如是。如摹像法。先立於章。如布采法。後作於門。復次猶如工匠匠弟子。先量其木。後刻之支體。彼尊者亦復如是。如量木法。先立於章。如刻支體法。後作於門。復次如行者觀法。先觀四大造色。後觀微塵剎那。彼尊者亦復如是。如觀四大造色法。先立於章。如觀微塵剎那法。後作於門。復次世尊說法亦爾。先說後解。先說者。如說六界六觸十八意行四處。比丘當知。是名爲人。後解者。此名六界乃至四處。彼尊者亦復如是。先立於章。後作於門。復次欲現二種善故。先立於章。現善於文。後作於門。現善於義。如

●前頁 ● ①不分卷三三(阿毘曇毘婆沙)十使 ● ②捷二捷 ● ③[之一]一 ● ④唯二推 ● ⑤下同 ● ⑥和上二和尙 ● ⑦采一彩 ● ⑧萬二方 ● ⑨陀二還 ● ⑩陀十(還) ● ⑪羅二還 ● ⑫捺二奈 ● ⑬[之]一 ● ⑭支二肢 ● ⑮[者]一 ●

善於文義。於文義有力。於法無礙。於義無礙。法無礙。義無礙。當知亦如是。復次欲現已見不錯亂故。若人知見錯亂。所造經論亦復錯亂。不能善立章門乃至品名。若人知見不錯亂者。所造經論亦不錯亂。善立於章乃至品名。是故欲顯已見不錯亂故。先立於章後作於門。

問曰。以何等故。彼尊者作經先立三結為章。後乃至九十八使。答曰。彼作經者有如是。欲如是以隨其欲意造作此論。亦不違法相。是故先立三結為章。後乃至九十八使。尊者波奢說曰。雖一切處生疑。然不違法相。若先說三不善根。後乃至九十八使。亦有此疑。復次阿毘曇應以相求。不應以次第求。前說後說俱無有過。復次亦可隨義說其次第。所以先立三結為章。後乃至九十八使。若一阿毘曇求其次第。則經文煩亂。誰能具足受持。阿毘曇煩亂文者。復次為增法故。先說三結。後說四五六七九。至九十八使。復次為說煩惱樹次第增長法故。先說三結。後說四五六七九。至九十八使。復次欲次第說得四沙門果故。若斷三結。得須陀洹果。不盡斷三不善根及欲漏。得斯陀含果。盡斷得阿那含果。永斷有漏無明漏。得阿羅漢果。餘流。扼縛。取蓋。下分結。上分結。見身愛結。使等。皆是有漏差別。廣分別漏。是故欲說次第得四沙門果故。先立三結為章。後乃至九十八使。三結身見戒取疑問曰。此三結體性是何。答曰。體性有二。一種身見。三界見。苦所斷有

三種。戒取三界見。苦見道所斷有六種。疑三界見。苦集滅道所斷有十二種。此二十一種。是三結體。我物相性分。

已說體性。所以今當說。何故名結。結是何義。答曰。縛義是結義。合苦義是結義。雜毒義是結義。縛義是結義者。縛即是結。何以故。知如經說。尊者摩訶拘絺羅往尊者舍利弗所。作如是問。為色縛眼。為眼縛色。乃至。意法亦如是問。舍利弗答尊者摩訶拘絺羅。色不縛眼。眼不縛色。其中欲愛。是其縛也。譬如白牛黑牛同一。扼鞞而以繫之。尊者拘絺羅。於意云何。若有說言黑牛繫白牛。白牛繫黑牛。為是如法說不。答言。不也。然彼扼鞞是其縛。如是尊者拘絺羅。色不縛眼。眼不縛色。但於其中。欲愛是縛。乃至意說亦如是。以是事故。知結即是縛。合苦義是結義者。欲界諸結與欲界苦衆生合。色界諸結與色界苦衆生合。無色界諸結與無色界苦衆生合。欲界諸結與苦相。不與樂合。色無色界諸結與苦相。不與樂合。以是事故。合苦義是結義。雜毒義是結義者。一切受生妙有漏定。如無量解脫。除入一切處定等。聖所遠離。以雜煩惱毒故。猶雜毒食。雖復美妙。智人遠之。彼亦如是。以是事故。縛義合苦義。雜毒義是結義。佛經說。若斷三結。名須陀洹。不墮惡趣。決定入究竟道。唯受七有。七生天上人中。得盡苦際。問曰。如阿毘曇說。斷八十八使。名須陀洹。如池喻經說。斷無量苦。名須陀洹。以何等故。世尊說。若斷三結。名須陀洹。答曰。或

有說者。此是如來有餘說。略言要言。為受化者。作如是說。復次為人。故為時衆。故為受化者。故。為法器。故。所以者何。諸佛說法。盡為受化者。智有深淺。亦觀其心。及與結使。其心者。所謂善根。結使者。謂諸煩惱。觀察其心。及煩惱已。隨其煩惱。說對治法。亦不說少。若說少者。則不能除煩惱之病。亦不說多。若說多者。則是如來無利之說。譬如醫師治病。先觀其病及病所因。然後投其對治之藥。亦不少投。若少投者。其病不愈。亦不多投。若多投者。唐捐其功。隨其所應。而投其藥。彼亦如是。復次若略說斷三結。名須陀洹。若廣說。則斷八十八使及無量苦。名須陀洹。如略說廣說。不分別分別。願說次第。說亦如是。復次為利根者。說斷三結。名須陀洹。為鈍根者。說斷八十八結及無量苦。名須陀洹。如利根鈍根。因力緣力。內力外力。依內思惟力。依外說力。捷智遲智。說亦如是。復次欲說易行法。以誘進受化者。如牽他手。令其起。故。此中應說。跛者子喻。曾聞有跛者子。於佛法出家。是時已制二百五十戒。令族姓子。隨其所樂。而履行之。彼人聞已。生愛慮心。誰能守護。如此諸戒。便詣佛所。頭而禮足。而白佛言。世尊。制二百五十戒。令族姓子。隨其所樂。而奉行。之。我今不堪守護此戒。

爾時世尊。示親善相。而不呵責。以軟美言。而慰喻之。善哉善哉。跛者子。汝能善學。三戒不耶。謂善學戒。善學心。善學慧。彼人聞已。生大歡喜。作如是言。我能善學。此三種戒。學三

①卷第三十五終 ②卷第三十六雜 ③卷第三十六使 ④卷第三十六使 ⑤卷第三十六使 ⑥卷第三十六使 ⑦卷第三十六使 ⑧卷第三十六使 ⑨卷第三十六使 ⑩卷第三十六使 ⑪卷第三十六使 ⑫卷第三十六使 ⑬卷第三十六使 ⑭卷第三十六使 ⑮卷第三十六使 ⑯卷第三十六使 ⑰卷第三十六使 ⑱卷第三十六使 ⑲卷第三十六使 ⑳卷第三十六使 ㉑卷第三十六使 ㉒卷第三十六使 ㉓卷第三十六使 ㉔卷第三十六使 ㉕卷第三十六使 ㉖卷第三十六使 ㉗卷第三十六使 ㉘卷第三十六使 ㉙卷第三十六使 ㉚卷第三十六使 ㉛卷第三十六使 ㉜卷第三十六使 ㉝卷第三十六使 ㉞卷第三十六使 ㉟卷第三十六使 ㊱卷第三十六使 ㊲卷第三十六使 ㊳卷第三十六使 ㊴卷第三十六使 ㊵卷第三十六使 ㊶卷第三十六使 ㊷卷第三十六使 ㊸卷第三十六使 ㊹卷第三十六使 ㊺卷第三十六使 ㊻卷第三十六使 ㊼卷第三十六使 ㊽卷第三十六使 ㊾卷第三十六使 ㊿卷第三十六使

種戒故。次第能學一切諸戒。若如來說斷見道所斷八十八使及無量諸苦名須陀洹者。則受化者。心生憂慮。何能拔此八十八煩惱之樹。度八十八煩惱大河。乾竭八十八煩惱大海。摧破八十八煩惱之山。修此八十八對治之道。若佛說斷三結名須陀洹。諸受化者。生大歡喜。若斷三結。則是易事。若斷三結則斷見道一切諸使。所以者何。同一對治斷故。以是事故說易行法。廣說如上。復次欲說最勝法故。一切見道所斷結中。此三結最勝。是故尊者瞿沙。作如是說。此三結是一切見道所斷煩惱最勝。餘隨從生。如因見生愛患慢等復次此三結。是一切見道所斷煩惱。無首。猶如勝軍。常在前行。以彼力故。餘煩惱生。復次以此三結是功德怨家。功德者。謂須陀洹果。誰是彼怨家。謂三結是也。復次此三結是三昧近對治。身見是空。三昧近對治。戒取是無願。三昧近對治。疑是無相。三昧近對治。治復次以此三結是近見道人數行故。如難捷度說。行者住忍。見疑不行。設有行者。亦復不覺。以其智劣煩惱微細故。見者謂身見戒取。疑者即是疑。復次以此三結難斷難破難過。復次以此三結有增盛過重患多過。身見有何增盛過。答曰。身見是六十二見。根見是諸煩惱根。煩惱是業根。業是報根。依報生善不善無記法。戒取有何增盛過。答曰。從戒取生種種邪苦行。疑有何增盛過。答曰。疑者疑過去未來世。內懷猶豫。此是何。云何有此誰造此。此當云何。此眾生為從何來死至

何所。復次以此三結雖斷雖知。阿羅漢猶行相似法。身見苦比忍。永斷雖斷雖知。阿羅漢猶行相似法。而作是說。此是我衣我鉢。是我同房弟子。是我近住弟子。是我房。是我房中資生之物。似如計我。戒取道比忍。永斷。雖斷雖知。阿羅漢猶行相似法。如洗手足住阿練。若。但畜三衣。廣說十三清淨功德。因此得。畢竟淨想。曾聞。尊者聲摩奢恒者迦。雖是阿羅漢。亦日日詣水澡浴以為淨想。疑道比忍。永斷。雖斷雖知。阿羅漢猶行相似法。見於遠物疑為是人耶。為是柁耶。見於二道疑為是所趣道耶。非所趣道耶。見二衣二鉢疑為是我衣鉢。為非我衣鉢耶。復次行者為斷三結故。令一切見道所斷結亦盡得斷。復次行者為斷三結故。亦見知覺識見道所斷結。復次以是三結通於三界。亦是下分。欲愛瞋。雖是下分。不通三界。邊見邪見見取愛慢無明。雖通三界而非下分。復次於七使中。永斷無餘者是中則說。須陀洹於七使中。永斷無餘者是疑使。復次於九結中。永斷無餘。乃至廣說。須陀洹於九結中。三結永斷。謂見結疑結取結。以是事故。尊者瞿沙作如是說。此經應如是說。斷三結得須陀洹。三結者。謂見結疑結取結。復次於十使中。永斷無餘者。乃至廣說。十使者。謂五見愛患慢無明疑。須陀洹。永斷六使。謂五見疑。於六使中。唯說三使。謂身見戒取疑。不說三使。謂邊見邪見見取。所以者何。此從彼生故。身見生邊見。邊見從身見生。戒取生見取。見取從戒取生。疑生邪見。

邪見從身見生。戒取生見取。見取從戒取生。疑生邪見。邪見從疑生。已說能生。當知亦說從生。復次此是現初門略說現始入。此見道所斷結。或一種斷二種斷四種斷。若說身見。當知已說一種斷者。若說戒取。當知已說二種斷。雖更無二種。即戒取名二種。戒取相應共有法。亦名二種。若說疑。當知已說四種斷者。復次見道所斷結。或是自界一切遍。或他界一切遍。若說身見。當知已說自界一切遍。若說戒取疑。當知已說他界一切遍。問曰。何故自界一切遍說一結。他界一切遍說二結。答曰。以他界緣於有漏亦緣無漏。若說戒取。當知已說有漏緣使。若說疑。當知已說無漏緣使。問曰。何故說二有漏緣。說一無漏緣。答曰。有漏緣者。或自界緣。或他界緣。若說身見。當知已說自界緣。若說戒取。當知已說他界緣。如有漏緣無漏緣。世緣出世緣。味緣無味緣。住緣出緣。繫緣不繫緣。結緣非結緣。受緣非受緣。纏緣非纏緣。當知亦如是。復次見道所斷結。或有為緣。或無為緣。若說身見戒取。當知已說有為緣。若說疑。當知已說無為緣。如有為緣無為緣。有常緣無常緣。有恒緣無恒緣。當知亦如是。復次見道所斷結。或性是見。或性非見。若說身見戒取。當知已說見性者。若說

① 恒十(果) ② 結二緣 ③ (無)一 ④ 治十(法) ⑤ 畢二光 ⑥ 結二斷 ⑦ (身見生...從)二十一字一

疑當知已說非見性者。如見性非見性。視不視。轉行不轉行。求不求。轉其心不轉其心。當知亦如是。復次見道所斷結。或不善。或無記。若說戒取疑。當知已說不善。若說身見。當知已說無記。如不善無記。有報無報。生一果二果。無慚無愧相應。無慚無愧不相應。當知亦如是。復次見道所斷結。有二種。或性欣踊。或性憂感。若說身見。當知已說欣踊者。若說戒取疑。當知已說憂感者。復次此三結。壞三種身。身見壞戒身。戒取壞定身。疑壞慧身。復次此三結。能壞八正道。身見壞正語正業正命。戒取壞正念正定。疑壞正見正覺正方便。復次欲令疑者得決定故。世人多深著我我所。深著吉不吉。深懷猶豫。佛言。若衆生行如是法者。不名須陀洹。若不行如是法者。名須陀洹。問曰。為得初道名須陀洹。為得初果名須陀洹。若得初道名須陀洹者。第八人。應是須陀洹。第八人者。名堅信堅法。所以者何。彼得初道故。若得初果名須陀洹者。若離多分欲。若離欲界欲得正決定道。比智時應是須陀洹。所以者何。初得果故。答曰。或有說者。初得道故名須陀洹。問曰。若然者。第八人。應是須陀洹。所以者何。以初得道故。答曰。初得道故名須陀洹。彼所得道。必緣於道者。是須陀洹。第八人。雖初得道。緣於苦故。不名須陀洹。復次初得道故。名須陀洹。彼道要是道。比智果所攝道。是須陀洹。復次初得道故。名須陀洹。彼道要有三事。一得未曾得道。二捨曾得道。三斷結同一味。得未曾得道者。謂修

道是也。捨曾得道者。見道是也。斷結同一味者。見道所斷結。都同一味。證復次初得道故。名須陀洹。彼道要有五事。一得未曾得道。二捨曾得道。三斷結同一味。證。四頓得八智。五具修十六行。復次初得道故。名須陀洹。住彼道時。見道所斷結。永盡無餘。永斷緣倒結。永斷忍對治結。永斷邪見。復次初得道故。名須陀洹。住彼道時。其人可共談說。可施設有相。復次初得道故。名須陀洹。住彼道時。容有生起。復有說者。初得果故。名須陀洹。問曰。若然者。斷多分欲盡欲界結。得正決定道。比智時。應是須陀洹。所以者何。是初得果故。答曰。初得果故。名須陀洹。要是順次第具縛非超越人。復次初得道故。名須陀洹。是初得解脫。是初得度。是。得初果人。復次初得果故。名須陀洹。要不以世俗道故斷一種結。而得果者。復次初得果故。名須陀洹。是四沙門果。最初果者。復次初得果故。名須陀洹。要是具四向四果者。復次初得果故。名須陀洹。是八人四雙者。復次初得果故。名須陀洹。住彼道時。亦不壞地。亦不壞道。斯陀含果。雖不壞地而壞於道。所以者何。有漏無漏道。俱能得故。阿那含果。亦壞於地。亦壞於道。壞地者。依六地而得。壞道者。有漏無漏道。俱能得故。阿羅漢果。雖不壞道而壞於地。所以者何。依九地得故。須陀洹果地。亦不壞道。亦不壞不壞地者。依未至地。得不壞道者。唯以無漏道。不以有漏道得。復有說者。不以初得道故。名須陀洹。不以初得果故。名須陀洹。然以須

陀洹果故。彼人名須陀洹。因法為名。猶如藥水。以藥為名。酥瓶油瓶。亦復如是。問曰。何故名須陀洹。答曰。須陀名聖道流。洹名為入。入聖道流故。名須陀洹。問曰。若然者。斯陀含阿那含阿羅漢。亦名須陀洹。所以者何。亦入聖道流故。答曰。此初受名。初得道故。餘果名者。各自有義。不墮惡趣者。不墮三惡趣。問曰。如斯陀含阿那含阿羅漢。亦不墮惡趣。何故獨說須陀洹不墮惡趣耶。答曰。亦應說而不說者。當知此說有餘。復次沙門果。各自有義。如須陀洹。不墮惡趣勝故。說不墮惡趣。斯陀含一往來勝故名一往來。阿那含不還欲界勝故名不還。阿羅漢更不受有勝故名更不受有。以沙門果各自有義故。隨義立名。問曰。凡夫人亦有不墮惡趣者。何以不說。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次凡夫人。或墮惡趣。或不墮惡趣。是以不說。聖人必定不墮惡趣。是故說之。決定者。住正決定聚故名決定。須陀洹義。應言決定般涅槃。所以者何。有般涅槃因緣故。譬如坏器。於三重屋上。投之於地。未至地頃。當言必破。彼亦如是。入究竟道者。盡智無生智名道。彼人有如是欲。如是期心。如是可如是樂。如是意近。轉近彼道故。言入究竟道。唯受七有者。問曰。應受十四有。若二十八有。若以本有而言。人中有七。天中有七。應有十四。若以本有中。而有七。天中有七。中有有七。人中本有有七。

◎二一者◎ ◎得初二初得◎ ◎蘇二蘇◎

中有有七。應有二十八。何故但說七有。答曰。此是七數法。不過於七。人中亦七。天上亦七。本有亦七。中有亦七。餘經亦說。三說四諦。有十二行。一諦有十二行。四諦應有四十八行。三說苦諦有十二行。乃至三說道諦有十二行。應有四十八行。何故但說有十二行。此是十二數法。不離三轉十二行故。餘經亦說。比丘七處善。三種觀義。速於聖法。能盡有漏。彼不應但七。應有三十五處善若無量處善。何故但說七處善耶。答曰。此是七數法。不離於七觀。一色陰有七種乃至識陰。亦七種故。餘經亦說。比丘我今當說二法。云何二法。眼色乃至意法。是名二法。此非一二。應是六二。但是二數法故。不離於二。此七數法。不離於七。亦復如是。廣說如上。問曰。何故須陀洹。唯受七有不增減耶。尊者波奢說曰。若增若減。受於有者。皆亦生疑。不以疑故。違於法相。復次有爾許報因。還受爾許報果。復次以業力故。唯受七有。以道力故。不受第八有。如人為七步蛇所螫。以四大力故能行七步。以毒力故不至第八步。復次若受第八有。彼身中應空無聖道。若空無聖道。先是見諦今非見諦。本是得正決定今不得正決定。本是聖人今非聖人。復次若受第八有者。則於過去恒沙諸佛則為外人。非是內親。猶如世人七世相於有親。若至八世。使為外人。彼亦如是。復次住增上忍時。除欲界七生分色無色界一一處生分。餘一切生分得非數滅。若法得非數滅。更不復起現在前。復次以唯七生處

故。唯受七有。七生處者。謂人六欲天。是須陀洹生處。而於中生。復次彼於七有中滿修七種道。永斷七使。以如是事故。唯受七有不增不減。如是。諸具受七有。須陀洹。天上七有。人中七有者。然須陀洹。各有差別。或有天七人六天六人五。天五人四天四人三。天三人二天二人一。或有人七天六乃至人二天。說亦如是。此中。唯說具七有者故。說須陀洹受於七有。問曰。具受七有須陀洹。為在天上。為在人中。受第七有耶。答曰。或有說者。於此生中。得須陀洹。即數此生為七。或有說。不在七數者。若如數者。此說人中得道。天上滿七。於彼般涅槃。若天上得果。人中滿七。即般涅槃。若不數者。人中得果。還於人中滿七有。即般涅槃。天中得果。還於天中滿七有。即般涅槃。評曰。不應數初得道生在七有中。所以者何。彼生中有時。是凡夫非是聖人。若數者。唯有二十七有。非二十八。若唯二十七有。則違施設經。如說須陀洹經。二十八生。必盡苦際。欲令無如是過故。不說初得道生在七有中。問曰。受七有須陀洹。於前六生中。為起聖道現在前不耶。答曰。或有說者不起。若當起者。應般涅槃。或有說者。起現在前。問曰。若然者。何故不般涅槃。答曰。以業力故不般涅槃。問曰。若滿第七有時。世無佛在家而得阿羅漢耶。答曰。或有說者不得。雖無佛法於餘法中。要當出家受其法服。然後乃得。或有說者。在家亦得。已不住於家。於餘法出家受其法服。如是比有五百辟支

佛。住仙人山中。本是聲聞。天上人中者。天來人中。人。住天中。猶如世人從林至園中從園至林中。彼亦如是。生者生中有本有中。得盡苦際者。問曰。苦際為在苦中為在苦外。若在苦中。不應言苦際。若在苦外。世間現喻云何通。猶如金籌。初亦是金。中亦是金。後亦是金。苦亦如是。初亦是苦。中亦是苦。後亦是苦。何者是苦際耶。答曰。或有說者。阿羅漢最後陰是苦際。或有說者。滅盡涅槃是苦際。若作是說。阿羅漢最後陰是苦際者。不應言苦際。所以者何。體盡是苦故。答曰。以是事故。應言苦際。所以者何。更不生苦。更不與苦相續。更不造苦因。是故名苦際。若作是說。滅盡涅槃是苦際者。世間金籌現喻云何通。答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。不可以世間現喻難質聖法。所以者何。質聖法異世間法異。三不善根。貪不善根。恚不善根。癡不善根。問曰。三不善根體性是何。答曰。有十五種。貪不善根。欲界五行所斷愛。通六識身。恚不善根。五行所斷恚。通六識身。癡不善根。欲界全四種所斷無明。四種者。謂集滅道修道。苦諦所斷。當分別。苦。諦斷無明。有十種。謂與五見愛。恚。疑。相。應。及不共法八。是不善根。二非不善根。謂欲界身見。邊見。相應者。問曰。因是根義。身見。邊見。相應無明。是一切不善法。因何故不名根耶。答曰。若法體是不善。為一切不善法。作因者立根。身見。邊見。相應無明。雖

○使二便○ ○諸二說○ ○人二七○ ○住二往○ ○諦十(所)○

是一切。不善法因。體非不善。是無記故。是故癡不善根。全是欲界四種。謂集滅道修道所斷。及苦諦所斷八種。通六識身無明。是此十五種。是三不善根體。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名不善根。不善根是何義。答曰。生義養義增義。是不善根義。充足義饒益義。滋盛義流瀾不善義。是不善根義。尊者須蜜說曰。云。何不善根義。答言。不善因義是不善根義。復次不善種子義是不善根義。復次發起不善義是不善根義。復次已生不善助生不善增益不善義。是不善根義。尊者浮陀提婆說曰。不善元本能生不善助生不善增益不善義。是不善根義。問曰。若因義是不善根義者。前生不善五陰。與後生不善五陰作因。前生十不善業。與後生十不善業作因。前生三十四不善使。與後生三十四不善使作因。如是等不善法。皆應是不善根。此三有何異相。立不善根耶。尊者和須蜜答曰。此是如來有餘之說。略言要言。為受化者。作如是說。尊者波奢說曰。佛決定知法根。亦知勢用。餘人所不知。若法有不善根相立不善根。無者不立。尊者瞿沙說曰。佛知此三法於不善法作因。速疾偏重親近。是故此三立不善根。餘不善法。無此三相。故不立根。復次此三不善根於一切。不善法為元首。猶如猛將勝軍在前而行。以其威力故。餘不善法生。復次一切不善法中。誰為最勝。此三法。於一切不善法中。名亦最勝。亦最勝。是故立根。復次貪不善根。是不貪善根近

怨對。法恚不善根。癡不善根。是不恚不癡善根近怨對。法復次以此三法是功德怨家。功德者謂三善根。復次以此三不善根於一切不善法。作因作根作主作本所作。作勢力作緣作增益。作集作起處。作因者猶如種子。作根者令堅牢。餘隨相說。復次此三不善根。能持不善法。能使來能生能養能增故。復次以此三不善根。離欲界欲時。多作留難作障礙。如守門者不令人入。復次以此三不善根。五種斷。通六識身。是使性。能起身口業。斷善根時。有牢強方便。五種斷者。見苦斷種。乃至修道斷種。通六識身者。與眼識相應。乃至意識相應。使性者。貪是欲愛使。恚是瞋恚使。癡是無明使。能起身口業者。貪起從貪生身口業。恚起從恚生身口業。癡起從癡生身口業。斷善根時。牢強方便者。如施設經說。斷善根時。云何而斷。以何事斷。答言。猶如有一貪欲偏重。恚偏重。愚癡偏重者。能斷善根。所以說五種斷者。欲除五見及疑。所以說通六識身者。欲除慢。所以說使性者。欲除諸纏。問曰。如邪見能斷善根。何故不立不善根。答曰。不善根斷善根時。作方便時勢勝。事成時亦勝。一切善不善法。方便時勢用難。事成時勢用易。曾聞。菩薩見世間生老病死苦。初發不退轉無上道心。從此以後。於三阿僧祇劫。此心不住不退。無能留難障礙之者。此心甚難。非得盡智時。三界善根於未來修者。邪。見成時勢用勝。非方便時勝。是故不立不善根。復次。若法斷善根時。能生不善法。助生不善法

者。立不善根。貪恚癡。能生不善法。助生不善法。邪見雖助生不善法。不能生不善法。復有邪見能斷善根者。以諸不善根力故。諸不善根先令善根羸劣微薄。令其困無有勢力。然後邪見能斷善根。復次先作是說。五種斷者。立不善根。邪見非五種斷。不通六識身。彼在心地。雖是使性。不能起身口業。所以者何。見道所斷心。不與身口業俱起。諸不善根所不攝。不善五陰。無此五事。不善色陰。非五種斷。不通六識身。非是使性。不能起身口業。斷善根時。無牢強方便。不相應行陰。雖五種斷。不通六識身。非是使性。不能起身口業。斷善根時。無牢強方便。煩惱中五見及疑。非五種斷。不通六識身。雖是使性。不能起身口業。所以者何。見道所斷心。不與身口業俱起。斷善根時。無牢強方便。雖五種斷。不通六識身。雖是使性。能起身口業。斷善根時。無牢強方便。纏有十種。忿纏覆纏睡纏掉纏眠纏悔纏慍纏慳纏無慚纏無愧纏。睡掉無慚無愧。此四雖五種斷。非是使性。雖能起身口業。斷善根時。無牢強方便。眠雖五種斷。不通六識身。非是使性。不能起身口業。斷善根時。無牢強方便。餘纏非五種斷。不通六識身。非是使性。或時起身口業。斷善根時。無牢強方便。恨恨諂誑惱害。此六使使垢。依使而生。非根本使。無上五事故。不立不善根。復次此三不善根。說是

①〔不〕一②③ ④何十(是)⑤⑥ ⑦三有二有三⑧⑨ ⑩不善法二善法法⑪⑫ ⑬法二治⑭⑮* ⑯來十(世)⑰ ⑱是一見⑲⑳ ㉑〔使〕一 ㉒⑳ ㉓見十(事)㉔ ㉕若二不善㉖ ㉗恢二恢㉘

業本是業集。如說。迦藍摩當知。貪是衆生業。本是衆生業集。恚癡亦是衆生業本。是衆生業集。復次此三不善根盡。業亦盡。如說貪盡業亦盡。恚癡盡業亦盡。復次此三不善根。展轉相生。展轉相助生。如說從貪生恚。從恚生貪。於此二中。亦生無明。復次此三不善根。能使三受。如說貪使樂受。恚使苦受。癡使不苦不樂受。問曰。如此三使盡使三受。何故作是說耶。答曰。從多分故。貪多使樂受。恚多使苦受。癡多使不苦不樂受。復次貪從樂受生。以樂受爲根本。多造惡業故。而生多苦。恚從苦受生。以苦受爲根本。多造惡業故。而生多苦。癡從不苦不樂受生。以不苦不樂受爲根本。多造惡業故。而生多苦。復次此三善根。說是愛憎。以愛憎故衆生多起諍訟。天阿修羅常共鬪。殺多衆生。愛者是貪。憎者是恚。問曰。此中何以不說癡耶。答曰。已說在此二中。若當衆生有智者。乃至天欲境界在前。猶不共諍。何況人間惡欲。復次以此現初門要略始入。諸煩惱盡從三分生。或從愛分生。或從恚分生。或從癡分生。佛經說。婆羅門當知。若人以二十一煩惱。惱於心者。雖修行淨心生淨想。猶墮惡趣。曾聞尊者曇摩修羅。一切煩惱。立爲三分。謂貪恚癡分。此是貪分。此是恚分。此是癡分。若說貪當知已說貪分。若說恚當知已說恚分。若說癡當知已說癡分。如愛恚癡分。親分怨分。不親分不怨分。有恩分無恩分。有適意分無適意分。不有適意不無適意。當知亦如是。復次以三不善根起

十惡業故。墮十惡處。云何三不善根起十惡業。答曰。佛經說殺生有三種。或從貪生。或從恚生。或從癡生。乃至邪見。亦復如是。施設經亦說。三不善根十惡業因根。廣說如上。云何十惡業生十惡處。佛經說。修行廣布殺生之業。生地獄畜生餓鬼中。乃至邪見亦如是。施設經亦如是說。修行廣布增上殺生之業。生阿毘地獄。小輕者生大熱地獄。轉輕者生熱地獄。轉輕者生大叫喚地獄。轉輕者生叫喚地獄。轉輕者生衆合地獄。轉輕者生黑繩地獄。轉輕者生活地獄。轉輕者生畜生。轉輕者生餓鬼。乃至邪見。說亦如是。是名行十惡業生十惡處。復次此三不善根。說是內垢。如說貪爲內垢。恚爲內垢。癡爲內垢。如內垢內怨內嫌當知亦如是。復次此三不善根。亦名爲增。亦名爲減。如說云何貪增。云何恚增。云何癡增。云何貪減。云何恚減。云何癡減。復次此三不善根。能爲退者。作重因重緣。如說若比丘比丘尼。自知欲心熾盛。恚心熾盛。癡心熾盛。不能自制。比丘比丘尼當知。我於善法。便爲衰退。復次此三不善根。說是煩惱障。如說云何煩惱障。答曰。猶如有一。貪偏重。恚偏重。癡偏重。是名煩惱障。復次此三不善根。說名爲塵。如說是貪塵。恚塵。癡塵。如塵穢垢。箭火刺刀毒病。當知亦如是。問曰。此三不善根。云何行耶。答曰。若心有貪。是心無恚。若心有恚。是心無貪。癡則俱有。所以者何。所行各異故。貪行欣踊。恚行憂感。復次欲心盛時。令身柔軟潤益。恚心盛時。令身龜強損減。復

次欲令身柔軟不害前緣。恚令身龜強能害前緣。云何欲令身柔軟。答曰。欲心現在前時。自身柔軟。云何不害前緣。答曰。若於前人生愛心者。晝夜觀之。無有厭足。云何恚心令身龜強。答曰。恚心現在前時。令自身龜強。云何能害前緣。答曰。若於前人生恚心者。乃至不欲以眼視之。此三不善根。是五種斷。通六識身。何故五種斷。若當見道斷非修道斷者。修道所斷心。便爲無根。若當修道所斷非見道斷者。見道所斷心。便爲無根。何故通六識身。若在意地不在五識身者。此五識心。便爲無根。若不在五識身不在意地者。此意地心。便爲無根。一切不善心。以此爲根。與不善欲俱心。有二種根。謂貪及相應無明。恚俱亦如是。癡俱心。及餘煩惱俱心。有一根。有一根謂無明也。問曰。根有多名。或說身見是根。或說世尊是根。或說欲是根。或說不放逸是根。或說自體是根。此諸根名。有何差別。答曰。身見是根者。以是見計我我所。便生諸見。世尊是根者。以所說故。雖此煩惱出要縛解增長寂滅。如是等法。皆從佛出。是故爲根。欲是根者。以能集善法故。所以者何。若有欲心。能集善法。若無欲心。不能集善法。是故以欲爲根。不放逸是根者。以能守護善法。若放逸者。不能守護善法。若不放逸。則能守護善法。是故不放逸爲根。自體是根者。以自體不捨自性。是故自體爲根。問曰。若然者。無爲法亦是自體根。所以者何。不捨自性故。答曰。若以此義。不捨

◎三十(不)◎ ◎分十(不有恩分不無恩分)◎ ◎一十(人)◎ ◎一(食)◎ ◎若二(是)◎ ◎有一(根)◎ ◎是二(身)◎

自性爲根者。無爲法亦不捨自體爲根。復有
何過。復有欲去如是過而作是說。自體是根
者。以相似因是自體根。能生他故。問曰。若然
者。苦法忍及眷屬。便爲無根。所以者何。無相
似因故。答曰。雖不從相似因生。而能與他作
相似因。無爲法亦不從相似因生。亦不能與
他作相似因。評曰。應作是說。以不捨自性故。
名自性根。身見根。乃至自體根。是名差別
阿毘曇毘婆沙論卷第二十五

阿毘曇毘婆沙論卷第二十六

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等 譯

使。捷度不善品第一之一。

三漏欲漏有漏無明漏。問曰。此三漏體性是何
答曰。有百八種。欲漏有四十一種。欲愛
有五種。患有五種。慢有五種。見有十二種。疑
有四種。纏有十種。此四十一種。是欲漏體。有
漏有五十二種。愛有十種。慢有十種。疑有八
種。見有二十四種。此五十二種。是有漏體。無
明漏有十五種。欲界無明有五。色界無明有五。
無色界無明有五。此十五種。是無明漏體。此
百八種。是三漏體。亦名百八煩惱。波伽羅
那經亦說。云何欲漏。答。言。除欲界繫無明。
諸餘欲界繫結縛使垢纏。是名欲漏。云何有
漏。除色無色界繫無明。諸餘色無色界繫結

縛使垢纏。是名有漏。云何無明漏。答。言。三界
無知。是名無明漏。無明漏。是三界無知。如是
說者好。若作是說。云何無明漏。答。言。緣三界
無知。作是說者。則不攝無漏緣使。所以者何。
無漏緣使。不緣在三界法。問曰。身口惡行。爲
是煩惱。非煩惱。若是煩惱。此中何故不說。
若非煩惱。識身經說云何通。如說身口惡行
是不善。法結非使。非縛。是煩惱。非纏。應捨應
斷。應知。能生苦報故。或有作是答者。是煩惱
體。若然者。識身經說善通。此中何以不說。答
曰。應說身口惡行在欲漏中。欲漏有四十三
種。而不說者。有何意耶。答曰。若法體是煩惱
體。亦是纏。說在欲漏中。身口惡行。雖是煩惱。
而體非纏。是故不說在欲漏中。復有說者。身
口惡行。體非煩惱。是以不說在欲漏中。問曰。
若然者。識身經說云何通。答曰。識身經文應
如是說。身口惡行。是不善。非結。非縛。非使。非
煩惱。非纏。應捨應斷。應知。生苦報故。而不說
者。有何意耶。答曰。身口惡行。雖非煩惱。爲煩
惱所惱。故。說是煩惱。問曰。若非煩惱。爲煩惱
所惱。說是煩惱者。非結。爲結所繫。何故不說
是結。非。縛。爲縛所縛。何故不說是縛。非使
爲使所使。何故不說是使。非纏。爲纏所纏。何
故不說是纏。耶。答曰。應說而不說者。當知此
說有餘。復次。欲現種種說種種文。若以種種
說種種文。莊嚴於義。義則易解。復次。爲現二
種門。二種略。二種始入。二種炬。二種相貌。二種
文影。二種俱通。如非煩惱。爲煩惱所惱。說
是煩惱。非結。爲結所繫。說是結。乃至非纏。爲

纏所纏。說是纏。如非結。爲結所繫。不說是結。
乃至非纏。爲纏所纏。不說是纏。如是非煩惱。
爲煩惱所惱。應說非煩惱。是故現二種門。乃
至現二種俱通。此是漏體。乃至廣說

已說體性。所以今當說。何故名漏。漏是何義。
答曰。留住義是漏義。浸漬義是漏義。流出義
是漏義。持義是漏義。在內義是漏義。醉義
是漏義。放逸義是漏義。留住義是漏義者。誰
令衆生留住欲色無色界耶。答曰。漏也。浸漬
義是漏義者。如於精中浸漬種子。其牙便
生。如是衆生以業種子。浸漬煩惱。精中。便
生未來有*牙。流出義是漏義者。如泉出水乳
房出乳。如是衆生於六入門。流出諸漏。持義
是漏義者。如人爲他人所持。則不能隨意遊
行四方。如是衆生爲煩惱所持。於諸界諸趣
諸生生死法中。不能自出。在內義是漏義者。
如人鬼在身內。故。不應說而說。不應作而作。
不應取而取。不應觸而觸。衆生亦爾。煩惱鬼
在內。不應說而說。不應作而作。不應觸而觸。
醉義是漏義者。如人飲根莖枝葉花菓等酒
則便醉亂。無所覺知。衆生亦爾。飲煩惱酒。便
無所知。放逸義亦如是。是故留住義是漏義。
乃至放逸義是漏義。聲論者說曰。漏名阿羅
婆。阿亦言分齊。羅婆亦言漏。如說。天雨分
齊。至婆吒梨城。布施分齊。至旃陀羅。如是
有漏分齊。至於有頂。問曰。若留住義是漏義
者。業亦令衆生留住生死。如說二因。二緣。而
有生。亦令增長。謂業煩惱。業與煩惱。爲生
死種子。是以生死難斷難壞。而不滅沒。若人

①身二根②身十(根)③第二十五第二三十六④第二十六第二十七⑤建一建⑥(第一)一⑦二二三⑧百
二日⑨法二非⑩結二繫⑪精二體⑫牙二芽⑬菓二菓⑭煩惱十(共)⑮

或八歲或十歲。得阿羅漢。從是已後。百年壽中。煩惱永斷。以業力故。留住生死。何故。唯說煩惱是漏。不說業耶。答曰。以煩惱是業根。不可不斷煩惱而捨於業。是故說煩惱為漏。不說於業。復次煩惱能造業。猶能生報。如以濕泥團打於壁上。以濕故著。乾猶不墮。是濕時力。如是衆生有煩惱故造業。煩惱雖斷。業猶生報。復次業是壞法業。或令衆生留住生死業。或為生死。而作對治煩惱。非是壞法。但為衆生。作留住法。復次煩惱盡故。能得涅槃。不必業盡。阿羅漢業。其猶如山。然更不受有。於無餘涅槃界。而般涅槃。以是等諸因緣故。說煩惱是漏。不說於業。

問曰。何故欲界諸煩惱。除無明立欲漏。色無色界諸煩惱。除無明立有漏。無明立無明漏耶。答曰。先作是說。留住義是漏義。欲界衆生。所以留住欲界者。以期心於欲。喜樂於欲。染著於欲。專求於欲。以是事故。欲界諸煩惱。除無明立欲漏。色無色界衆生。所以留住色無色界者。以期心於有。乃至專求於有。以是事故。色無色界諸煩惱。除無明立有漏。欲界衆生。所以留住。以無明故。色無色界衆生。所以留住。以無明故。是故三界無明。立無明漏。復次欲界雖有。然衆生多求於欲。以多求欲故。欲界諸煩惱。除無明立欲漏。色無色界無有欲。然彼衆生。多求於有。以多求有故。色無色界諸煩惱。除無明立有漏。諸求欲求有。皆因無明。以是事故。三界無明。立無明漏。復次若界有成有壞。是界煩惱。除無明立

欲漏。若界有成無壞。是界煩惱。除無明立有漏。三禪以下。雖有成有壞。第四禪及無色界。有成無壞。若界有成有壞。衆生留住。亦因無明。若界有成無壞。衆生留住。亦因無明。是故三界無明。立無明漏。復有別說。有漏者何故。名有漏。答曰。以衆生於此處求彼有。不於彼處求此有。譬喻者說。二漏謂無明漏。有愛漏。所以者何。以此二結是根本使故。無明是過去緣起因。故。有愛是未來緣起因。問曰。若然者。云何具三漏耶。答曰。彼作是說。愛有二種。或不善或無記。或有報或無報。或生一果或生二果。或無慚無愧相應。或不相應。諸不善有報生二果。無慚無愧相應。愛立欲漏。以愛故。諸餘煩惱。除無明使。亦名欲漏。諸無記無報生一果。不與無慚無愧相應。愛立有漏。以愛故。諸餘色無色界煩惱。除無明使。亦名有漏。問曰。何故以愛故。欲界諸煩惱。除無明使。立欲漏。色無色界。以愛故。色無色界諸煩惱。除無明使。立有漏。答曰。以愛故。界有差別。地有差別。種有差別。生諸煩惱。廣解如愛處說。問曰。何故三界無明。立無明漏。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法堪任獨立漏者。使獨立漏。若法不堪任獨立漏者。彼合集為漏。復次留住義是漏義。更無有結留住衆生如無明者。尊者瞿沙說曰。佛知速疾偏重親近。留住衆生。莫若無明。是故獨立無明漏。復次以因無明。有貪有恚有癡。復次無明能令衆生。於前後際。愚後際愚。前後際愚。於內法愚。外法愚。內外法

愚。不知業。不知報。不知業報。不知作善行。不知作惡行。不知作善惡行。不知因。不知從因。生法。不識佛。不知法。不識僧。不知苦集滅道。不知有過。不知無過。不知親近處。不知不親近處。不知好惡。白法黑法。不知總別。不知因緣生法。不如實知見六觸處法。復次以無明難離是大過患。愛難離。而非大過患。悲雖大過患。而非難離。無明是大過患。亦難可離。復次無明說在前法。如說。無明在前為相故。生諸惡不善法。無有慚愧。復次無明自體是重所作。亦重自體。重者與一切使俱。亦有不共者。所作重者。與一切使俱作業。亦有不共作業者。復次無明說是根本。如偈說。今世若後世。所以墮惡趣。無明為根本。亦因於貪欲。復次無明說名慢祇。有蛇名慢祇。自身盲生子亦盲。所整之處。亦令他盲。無明亦爾。白盲亦令相應法盲。於衆生身中。亦能令盲。復次無明在三界。緣一界生愚。謂無色界。在九地。緣一地生愚。謂非非想處。四陰有九種。緣一種生愚。謂下下種。問曰。如所說餘。他界一切遍使所作亦爾。如邪見在三界。緣一界。無色界。謂無色界四陰。見取在三界。緣一界。計最勝。謂無色界四陰。戒取在三界。緣一界。計能淨。謂無色界四陰。疑在三界。緣一界。生猶豫。謂無色界四陰。地種說亦如是。無明有何異事耶。答曰。雖同是事。而無明更有異義。所以者何。欲界他界緣一切遍。無明使有九種。七與他界緣遍使相應。二是不共。一

◎唯二惟◎ ◎諸二說◎ ◎多一◎ ◎故一◎ ◎使二便◎ ◎惡趣二惡道◎ ◎他界二地界◎ ◎無十無◎

一無明復有九種。上上乃至下下。如欲界無明。色無色界無明亦如是。如欲界地。乃至非想非非想處地亦如是。以無明有如是無量門無量處所令衆生愚。是故三界無明。獨立無明漏。復次無明在前。普遍通一切處。在前者爲無明所覆。於苦不忍不可。不欲聞說。於集滅道亦爾。猶如飢餓之人食惡食飽。彼雖得美食。而不忍可。如無明惡食。先在衆生身中。彼雖遇四諦美妙之食。而不忍可。以不忍可故。於諦便生疑心。爲有是苦。爲無是苦。乃至爲有是道。爲無是道。如是因無明生於疑心。必當決定。若遇正說。得正決定。言有苦集滅道。若遇邪說。得邪決定。言無苦集滅道。如是疑心生於邪見。彼作是念。若無苦集滅道。應當有我。如是邪見生於身見。復作是念。此我爲斷爲常。若見我相似相續。便謂是常。是名常見。若我破壞不相續。便謂爲斷。是名斷見。是二見名爲邊見。如是身見生於邊見。於此三見。一計能淨。此見能淨。能得解脫能出要。是名戒取。如是邊見生於戒取。彼作是念。此見能淨能解脫能出要者。此見便爲第一。是名見取。如是戒取生於見取。自可所見生愛。不可他見生悲。於諸見起高是慢。是名無明生使使生纏。纏者十纏。謂忿乃至無愧。忿纏。悵纏。依於悲。覆纏。或有說依於愛者。所以者何。以愛故覆藏其罪。或有說依無明。所以者何。以無知覆藏其罪。睡纏。眠纏。無慚纏。依無明。掉纏。慳纏。無愧纏。依愛。悔纏。依疑。六使垢亦依於使。恨使垢害使垢。

依悲。假使垢依見取。誑使垢高使垢依愛。諸使垢依五見。無明生如是等諸煩惱。是故說在前。普遍見從阿毘地獄。上至有頂。於中盡有。通一切處者。不以一剎那頃能爲一切五行作因緣。一切五行所斷使。一切五行所斷以通一切處故。一切遍中。他地一切遍中。緣有漏中。緣無漏中。緣有爲中。緣無爲中。如是等處皆有。與一切煩惱共俱共合。如油在麻中。膩在糝中。以無明在前。普遍通一切處。是故三界無明。立無明漏。

佛經說以不正思惟。未生欲漏令生。已生欲漏令增廣。有漏無明漏亦如是。問曰。有爾所煩惱生即爾所煩惱滅。所以者何。前後不俱生故。云何欲漏生而得增廣。答曰。以下中上故。說名增廣。下煩惱爲中作緣。中爲上作緣。以下中上作緣。故名增廣。復次與次第緣故。名爲增廣。若前煩惱未生。則不與後煩惱作次第緣。若生者作緣。復次若前煩惱未生。則不與後煩惱作相似因。一切遍因。若生者。作相似因。一切遍因。復次若煩惱未生。則不能與果取果。若生則能取果與果。尊者須蜜說曰。佛經說不正思惟故。便生欲漏。已生欲漏。能令增廣。有漏無明漏亦如是。問曰。此煩惱爲多不耶。答言。不多。煩惱未生而生。已生復生。故名增廣。復次煩惱不多。說名增廣。未來有煩惱生已生。不更名未來。故名增廣。復次煩惱不多。說名增廣。以數數生故。若一煩惱生。不正思惟。不依對治。則二生三生。乃至百生千生。復次煩惱不多。

說名增廣。但以數數生轉重故。生下煩惱。不正思惟。不依對治。便生於中。中便生上。復次煩惱不多。說名增廣。但轉行境界故。如緣色生煩惱。不正思惟。不依對治。復緣聲香味觸法生。尊者佛陀提婆說曰。於一生中。多行煩惱。說名增廣。具縛之人。煩惱無有增減。一切衆生。煩惱悉等。等生阿毘地獄。上至有頂。但諸煩惱有多行者。有少行者。誰多行耶。諸不正思惟。不依對治者。誰少行耶。諸正思惟。依對治者。佛經說此七漏。常爲損害。能生熱惱及諸憂苦。或有漏是見道斷。乃至廣說。問曰。實義有三漏。謂欲漏有漏無明漏。何故說七漏耶。答曰。世尊以漏具說漏。如處處經中說。彼具是漏。彼廣說如上。此亦如是。漏具說漏。尊者波奢說曰。佛說三漏竟。更有異衆生來在會中。佛憐愍故。即以此義。更以異句異文。令彼來衆堪任受化。故說七漏。復次利根者已解爲鈍根者。作如是說。如利根鈍根。因力緣力。內力外力。依內正思惟力。依外聞法力。當知亦如是。尊者富那耶奢說曰。佛經實義說二漏。謂見道所斷漏。修道所斷漏。見道所斷。即漏自名說。修道所斷漏。以對治名說。彼對治有二種。一須臾斷。二根本斷。初五種說是須臾斷對治。後一種說是根本斷對治。

佛經說若○有如是見。於欲漏心解脫。於有漏無明漏心解脫。問曰。如離欲愛時。欲漏心得解脫。離非想非非想處愛時。有漏無明漏心得解脫。佛何故於一時中。說於三漏心得解

○此一能○ ○知十(故)○ ○恨一恨○ ○見二者○ ○富那一富樓那○ ○即漏一漏即○ ○諸二諸○ ○若十(見)○ ○此二能○ ○知十(故)○ ○斷二對治○ ○斷十(對治)○ ○有十(如是知)○

脫答曰。已解脫說。今解脫。如說。大王從何處來。已來說來。廣說如上。復次此二法。是俱一時滅故。更不復現。而作是說。俱者謂欲漏無明漏。有漏無明漏。離欲愛時。雖斷其俱而未永滅。離非非非想處愛時。其俱永滅。復次通證故。作如是說。離欲界欲時。證欲漏斷。離非非非非想欲時。通證三漏斷。復次同證一味解脫得故。離欲時。證欲漏一味解脫得。離非非非非想愛時。證三漏一味解脫得。復次以滅作證故。而作是說。如說。得阿羅漢果時。證九十八使滅。復次阿羅漢得法智故。而作是說。學人得法智。是欲界對治。離非非非非想處欲時。無學得法智。是欲界對治。復次無學人。得無學離縛故。而作是說。離欲界欲時。學人得離縛。離非非非非想處欲時。無學人得離縛。復次斷不相續。還相續故。而作是說。眾生無有前際。數斷欲漏。還與有漏無明漏相續。若離非非非非想處欲時。相續法。更不相續。復次緣不具故。作如是說。眾生不說前際有漏無明漏與欲漏作三緣。謂次第境界威勢緣。若離非非非非想處欲時。則緣不具。復次為過患對治故。而作是說。行者離非非非非想處欲時。於欲漏生過患。言其穢惡。而捐棄之。此漏無始已來。常隱沒我常欺誑我。今已脫欲漏有漏無明漏。是故為過患對治。而作是說。問曰。如阿羅漢五陰得解脫。世尊何以但說心得解脫。答曰。世尊以心為首。說心得解脫。五陰亦得解脫。復次以心名勝義亦勝故。彼聚中何者最勝。心是

最勝。猶如王與眷屬俱走人但言王走。彼亦如是。復次以心故。數法名心數。以心大故。數法名大地。復次證他心智通時。無礙道中。唯緣於心。不緣心數。廣說如心處說。四流。欲流有流見流無明流。問曰。四流體性是何答曰。有百八種。欲流有二十九種。愛有五種。患有五種。慢有五種。疑有四種。纏有十種。有流有二十八種。愛有十種。慢有十種。疑有八種。見流有三十六種。欲界有十二種。色界有十二種。無色界有十二種。無明流有十五種。欲界有五種。色界有五種。無色界有五種。此百八種。是四流體。乃至廣說。亦名百八煩惱。已說體性。所以今當說。何故名。流。有何義。答曰。漂義是流義。流下義是流義。墮義是流義。漂義是流義者。漂諸眾生。墮在諸界。諸趣諸生生死中。流下義是流義者。流下諸眾生諸界諸趣諸生生死中。墮義是流義者。墮諸眾生諸界諸趣諸生生死中。問曰。若漂義流下義。墮義是流義者。上分結則無上分義。所以者何。上分結。令諸眾生。趣上向上使上生相續。答曰。上分義異。流義異。以界故立上分結。所以者何。此結令諸眾生趣上向上使上生相續。以解脫正行聖道善法分故說流。所以者何。眾生雖生有頂中。猶為流所漂。不至解脫正行聖道善法分故。是故尊者瞿沙作如是說。雖久生上地。猶為流所漂。為

中立見取。漏中何故不立見漏。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法堪能別立者。便別立之。若法合集堪能立者。便合集立之。復次諸見輕躁。所行猛利。不住一處。留住義是漏義。與諸愚鈍久住煩惱合故立漏。諸見隨順漂義。立在流中。漂諸眾生。墮在諸界諸趣諸生生死中。是故別立見流。猶如一車駕以二牛性俱躁疾其車必破。若一遲一疾。則相持御其車不破。彼亦如是。復次此諸見。其性躁動。隨順離欲法。不隨順留住法。留住義是漏義。與諸愚鈍久住煩惱合故立漏。隨順漂義故立流。問曰。若諸見性躁動。隨順離欲法。何故立見流耶。答曰。為外道故。諸外道。伺求諸見。於生死中。而轉覆沒。譬如老象墮泥。若欲動身求出。轉覆沒。彼亦如是。毘婆闍婆提。立諸見為見漏。說有四漏。謂欲漏有漏見漏無明漏。如我等欲流。彼為欲漏。乃至我等無明。漏是彼無明漏。彼雖作是說。亦不須問。亦不須答。

下同
①今二今
②說二言
③時二是一
④何一
⑤唯二雖
⑥惟
⑦十二種二一二種
⑧流十流
⑨扼二扼
⑩同

以心名勝義亦勝故。彼聚中何者最勝。心是

最勝。猶如王與眷屬俱走人但言王走。彼亦如是。復次以心故。數法名心數。以心大故。數法名大地。復次證他心智通時。無礙道中。唯緣於心。不緣心數。廣說如心處說。四流。欲流有流見流無明流。問曰。四流體性是何答曰。有百八種。欲流有二十九種。愛有五種。患有五種。慢有五種。疑有四種。纏有十種。有流有二十八種。愛有十種。慢有十種。疑有八種。見流有三十六種。欲界有十二種。色界有十二種。無色界有十二種。無明流有十五種。欲界有五種。色界有五種。無色界有五種。此百八種。是四流體。乃至廣說。亦名百八煩惱。已說體性。所以今當說。何故名。流。有何義。答曰。漂義是流義。流下義是流義。墮義是流義。漂義是流義者。漂諸眾生。墮在諸界。諸趣諸生生死中。流下義是流義者。流下諸眾生諸界諸趣諸生生死中。墮義是流義者。墮諸眾生諸界諸趣諸生生死中。問曰。若漂義流下義。墮義是流義者。上分結則無上分義。所以者何。上分結。令諸眾生。趣上向上使上生相續。答曰。上分義異。流義異。以界故立上分結。所以者何。此結令諸眾生趣上向上使上生相續。以解脫正行聖道善法分故說流。所以者何。眾生雖生有頂中。猶為流所漂。不至解脫正行聖道善法分故。是故尊者瞿沙作如是說。雖久生上地。猶為流所漂。為

中立見取。漏中何故不立見漏。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法堪能別立者。便別立之。若法合集堪能立者。便合集立之。復次諸見輕躁。所行猛利。不住一處。留住義是漏義。與諸愚鈍久住煩惱合故立漏。諸見隨順漂義。立在流中。漂諸眾生。墮在諸界諸趣諸生生死中。是故別立見流。猶如一車駕以二牛性俱躁疾其車必破。若一遲一疾。則相持御其車不破。彼亦如是。復次此諸見。其性躁動。隨順離欲法。不隨順留住法。留住義是漏義。與諸愚鈍久住煩惱合故立漏。隨順漂義故立流。問曰。若諸見性躁動。隨順離欲法。何故立見流耶。答曰。為外道故。諸外道。伺求諸見。於生死中。而轉覆沒。譬如老象墮泥。若欲動身求出。轉覆沒。彼亦如是。毘婆闍婆提。立諸見為見漏。說有四漏。謂欲漏有漏見漏無明漏。如我等欲流。彼為欲漏。乃至我等無明。漏是彼無明漏。彼雖作是說。亦不須問。亦不須答。

下同
①今二今
②說二言
③時二是一
④何一
⑤唯二雖
⑥惟
⑦十二種二一二種
⑧流十流
⑨扼二扼
⑩同

種。色界有十種。無色界有十種。戒取有六種。欲界有二種。色界有二種。無色界有二種。我語取有三十八種。愛有十種。慢有十種。無明有十種。疑有八種。此百八種是四取體。乃至廣說。亦名百八煩惱。

已說體性。所以今當說。何故名取。答曰。以三事故名取。一以屬故。二以擲持故。三以選擇故。復次以二事故名取。一能熾然業。二體性猛利。熾然業者。令五趣衆生諸業常然。體性猛利者。以點慧故。取是何義。薪義是取義。纏裹義是取義。刺害義是取義。薪義是取義者。如緣薪故火熾。衆生亦爾。因煩惱故業火燃。纏裹義是取義者。如虫以繭自裹即於中死。如是衆生以煩惱自裹。惡趣中死。刺害義是取義者。如利刺入身而爲惱害。取。刺刺於法身。亦復如是。故薪義纏裹義。刺義。是取義。問曰。何故漏中立無明漏。流中立無明流。扼中立無明扼。取中何故不立無明取。尊者波奢說曰。世尊決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法堪任獨立者。便獨立之。若法合集堪任立者。便合集立之。復次先作是說。以三事故。一以屬故。二以擲持故。三以選擇故。無明雖有屬義。擲持義無選擇義。所以者何。猛利者能選擇。無明不猛利。復次先作是說。以二事故名取。一熾然業。二所行猛利。無明雖能熾然業。所行不猛利。以愚小不猛利不決定故。

餘人所不知。若法堪任獨立取者。便獨立之。若法合集堪任立者。便合集立之。復次先作是說。以二事故名取。一能熾然業。二所行猛利。戒取一見熾然五趣衆生業。與餘四見等。尊者瞿沙說曰。佛知戒取一見速疾偏重親近熾然衆生業。非餘四見。是故獨立戒取。復次以戒取與道競故。遠於解脫。與道競者。捨八正妙道。行種種苦行。以爲淨想。如不食臥灰。向日曝身。服氣飲水。食果裸。行臥柴棘上。著弊衣等。遠解脫者。以修邪道故。轉遠解脫。復次以戒取能欺誑二種人故。謂內道外道。云何欺誑內道。如洗手足行十二頭陀。以爲淨想。云何欺誑外道。如自餓臥灰種種苦行以爲淨想。是以尊者瞿沙作如是說。如是等淨行。皆是世間所行現見之法。欺誑內道外道。如欺小兒。

問曰。何故說我語取。爲以所行故。爲以境界故。若以所行爲我語取者。身見亦應是我語取。所以者何。行我行故。若以境界者。境界中無我。或有作是答者。不以所行故。亦不以境界故。若以所行是我語取者。身見應是我語取。所以者何。行我行故。亦不以境界。境界中無有我故。但欲界諸煩惱。除見餘立欲取。色無色界諸煩惱。除見立。我語取。問曰。何故欲界諸煩惱。除見立欲取。色無色界諸煩惱。除見立我語取。答曰。欲界諸煩惱。因欲造自身時。須具。須境界。須具。色界諸煩惱。造自身時。不須具。不須境界。不須具。復次欲界諸煩惱。因欲故生。因境界。須具。復次欲界諸煩惱。因欲故生。因他故生樂。色無色界諸煩惱。不因欲。不因境界。不因具。不因他生樂。但因我生。復次欲界諸煩惱。不固定。能造自身。亦因內物。亦因外物。色無色界諸煩惱。因定造自身。因內物。不因外物。復次欲界諸煩惱。不能造廣大自身。亦不久遠相續。色無色界諸煩惱。能造廣大身。久遠相續。如阿迦。貳吒天。身長萬六千由旬。是故欲界諸煩惱。除見立欲取。色無色界諸煩惱。除見立我語取。

佛經說此四取皆以無明爲本。因無明生。因無明集。問曰。如諸經說。皆愛緣取。此中何故說無明爲本。乃至廣說。答曰。以近因故。說愛緣取。以遠因故。說無明爲本因集。如近遠在此在彼。俱不俱。此身他身。說亦如是。復次以相似因故。說愛緣取。以相似因一切遍因故。說無明爲本因集。復次爲諸外道故。作如是說。諸外道無有居家。亦不積聚。不以貪著境界。作諸惡行故。墮於惡趣。以無明故。漂著諸見。墮於惡道。問曰。如愛攝在趣中。何以說愛緣取耶。答曰。始生愛名。愛增廣名取。故名愛緣取。復次下者名愛。上者名取。四縛。貪身縛。恚身縛。戒取身縛。見取身縛。問曰。四縛體性是何。答曰。有二十八種。貪身縛是欲愛有五種。通六識身。恚身縛有五種。通六識身。戒取身縛。三界有六種。見取身縛。三界有十二種。此二十八種。是四縛體。乃至廣說。

◎由二一◎ ◎利二刑◎ ◎刑二刺◎ ◎是十加◎ ◎刺十(齊)◎ ◎取十(取)◎ ◎行二形◎ ◎欺十(欺)◎ ◎卷第三十七終◎ ◎卷第三十八使難度不善品之四首◎ ◎卷第三十八使難度不善品第一之四首◎ ◎造說轉說同異如卷第二十三◎ ◎城十(界)◎ ◎不立◎ ◎貳二貳◎ ◎以一◎ ◎漂著二染著◎ ◎二取◎

已說體性所以今當說。何故名縛縛有何義。答曰繫義是縛義。相續義是縛義。繫義是縛義者。此四縛等繫衆生繫已復繫。集法經亦說。若不斷貪。不知貪皆是一切處。愛身因緣。等繫衆生繫已復繫。譬如善巧繫花鬘師花鬘弟子。以種種花。集於前然後經縷。作種種鬘縷。是花因。亦是花緣。等繫諸花。繫已復繫。彼亦如是。慧身縛。戒取身縛。見取身縛。說亦如是。相續義是縛義者。如經說。以三事合故入母胎。一父母俱有染心。二其母無病亦復值時。三愛身者現在前。或有欲心。或有悲心。以是事故。相續義是縛義。問曰。若繫義是縛義者。縛所不攝餘煩惱。亦繫衆生。於生死中等縛。縛已復縛。四縛有何異義。世尊別立縛耶。答曰。此是世尊有餘之說。乃至廣說。尊者波奢說曰。世尊決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法有縛相者立縛。無者不立。尊者瞿沙說曰。佛知四縛等繫衆生繫已復繫。速疾偏重親近非餘煩惱。是故立縛。復次此縛於諸煩惱。偏繫在家出家。貪身縛。慧身縛。偏繫在家人。戒取身縛。見取身縛。偏繫出家人。如在家出家。有家無家。有積聚無積聚。當知亦如是。復次四縛。偏重繫縛三界衆生。貪身縛。慧身縛。偏重繫縛欲界衆生。戒取身縛。見取身縛。偏重繫縛色無色界衆生。復次此四縛是二種使闍諍根本。貪身縛。慧身縛。能起愛恚使闍諍根本。戒取身縛。見取身縛。能起見使闍諍根本。如經說。執杖持澡。濫婆羅門。往詣尊者迦旃延所。作如是

問。何因何緣。刹利還共刹利闍諍。婆羅門還共婆羅門闍諍。毘舍還共毘舍闍諍。首陀還共首陀闍諍。彼尊者答言。婆羅門。彼因貪著欲愛故。刹利還共刹利闍諍。乃至首陀首陀闍諍。又問。出家人。無有居家。無所積聚。以何因緣。而共闍諍耶。迦旃延答言。以各於所見而起愛著。如二闍諍根本。二邊二箭。二戲論二道。當知亦如是。復次此現門現略現始入。諸煩惱。或見道斷。或見道修道斷。若說戒取身縛。見取身縛。當知已說見道所斷諸煩惱。若說貪身縛。慧身縛。當知已說見道修道所斷諸煩惱。復次諸煩惱。或是一切遍。或非一切遍。若說後二身縛。當知已說一切遍諸煩惱。若說前二身縛。當知已說非一切遍諸煩惱。復次諸煩惱。或是見性。或非見性。若說後二身縛。當知已說見性諸煩惱。若說前二身縛。當知已說非見性諸煩惱。復次諸煩惱。或凡夫人所行。或凡夫人所行。若說後二身縛。當知已說凡夫人所行諸煩惱。若說前二身縛。當知已說凡夫人所行諸煩惱。復次諸煩惱。或性欣踊。或性憂感。若說慧身縛。當知已說憂感諸煩惱。若說餘身縛。當知已說欣踊性諸煩惱。是故說為現門現略現。初入五蓋。欲愛蓋。恚蓋。睡眠蓋。掉悔蓋。疑蓋。問曰。蓋性是何。答曰。有三十種。欲愛蓋有五種。通六識身。恚蓋有五種。通六識身。睡眠蓋。通六識身。恚蓋有五種。通六識身。睡眠蓋。俱在三界五種斷。通六識身。是不善無記。不善者立蓋。無記者不立。有十種。眠在欲界。五行所斷。是意地。是善不善無記。不善者立蓋。

無記不立。有五種。悔是欲界。修道所斷。在意地。是善不善。不善者立蓋。善者不立。有一種。疑在三界。四種所斷。在意地。是不善無記。不善者立蓋。無記不立。有四種。此三十種。是五蓋體。蓋有何相。尊者和須蜜說曰。體即是相。相即是體。諸法不可離體別說於相。復次專求欲。是欲愛相。於衆生。生害是悲相。令身心覆沒。是睡眠相。不動是眠相。不休息是掉相。剋心悔是悔相。心於所行不決定是疑相。已說蓋體相。所以今當說。何故名蓋。蓋是何義。答曰。障義是蓋義。破義是蓋義。壞義是蓋義。墮義是蓋義。臥義是蓋義。障義是蓋義。障於聖道及聖道方便善根。如經說。比丘當知此五種樹。名為大樹。種子雖小。而枝體大。覆餘小樹。令餘小樹破壞墮臥。云何為五。一名千閼那。二名迦毘多羅。三名阿濕婆多。四名優曇跋羅。五名尼拘陀。諸小樹為此諸大樹所覆。不能生於花果。如是衆生欲界心樹。為蓋所覆。不能生覺意花及沙門果。是故障義是蓋義。破義壞義墮義臥義是蓋義。問曰。若障聖道及聖道方便善根。是蓋義者。蓋所不攝餘煩惱。亦障聖道及聖道方便善根。亦應是蓋。此諸煩惱。有何異義。世尊獨立根。亦應是蓋。此諸煩惱。有何異義。世尊獨立根。亦應是蓋。或有說者。此是世尊有餘之說。乃至為受化者故。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。乃至廣說。尊者瞿沙說曰。佛知此五蓋。乃至障衆生聖道及聖道方便善根非餘煩惱。復次此蓋亦障因

①愛一受②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
 (性)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

時亦障果時。因時障者。五蓋一。蓋現在前時。則不得生有漏善心及不隱沒無記心。何況聖道及聖道方便善根。果時障者。以五蓋果故。生惡趣中。則障一切諸善功德。復次此五蓋欲界衆生數。行數行時微細。欲界所有衆生行慢者甚少。如生地獄中。能起是慢。我受苦勝他耶。畜生中。如蝦蟇等以愚癡。故不能起諸見。是故尊者瞿沙作如是說。一切煩惱盡障聖道。與聖道相違。但五蓋數。行數行時微細。世尊立蓋。復次此蓋爲定及爲定果。而作留難。復次此蓋障三界離欲法。障九斷知無漏果。障四沙門果。復次欲愛蓋。遠離欲愛寂滅法。恚蓋遠離離寂滅法。睡眠蓋遠離慧法。掉悔蓋遠離定法。遠離欲愛恚寂滅定慧。故令疑箭在中心。生爲有善惡業報。爲無耶。復次愛恚壞於戒身。睡眠壞於慧身。掉悔壞於定身。壞三種身故。疑心猶豫。爲有善惡業報不耶。如壞三戒。害三戒亦如是。如三戒三修三淨亦如是。復次此現門略略始入。此諸煩惱。或一種斷。或四種斷。或五種斷。若說悔當知已說一種斷者。若說疑當知已說四種斷者。若說餘者。當知已說五種斷者。復次此諸煩惱。或見道斷。或修道斷。或見道修道斷。若說疑當知已說見道斷者。若說悔當知已說修道斷者。若說餘。當知已說見道修道斷者。問曰。蓋名有五。體有幾耶。答曰。名有五。體有七。欲愛蓋名有一。體有一。恚蓋疑蓋亦如是。睡眠蓋名有一。體有二。掉悔亦爾。是爲五蓋名有五。體有七。如名體數體。

名異體異。名異相體異。相。分別名分別體。知名知體。當知亦如是。問曰。何故欲愛蓋恚蓋疑蓋。一體立蓋。睡眠掉悔。二體立蓋。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。乃至廣說。復次若是使性亦是纏性者。一體立蓋。若是纏性非是使性。二體立蓋。復次有滿足煩惱。不滿足煩惱。滿足煩惱者。謂結縛使垢纏。與此相違。名不滿足。諸滿足者。一體立蓋。不滿足者。二體立蓋。復次以三事故立蓋。一食一對治。一等重擔。欲蓋。以何爲食。答曰。食於淨想。以何爲對治。答曰。不淨。以一食一對治。故。一體立蓋。恚蓋。以何爲食。答曰。以害相爲食。以何爲對治。答曰。以慈。以一食一對治。故。一體立蓋。疑。以何爲食。答曰。以於世相猶豫爲食。以何爲對治。答曰。以觀緣起法。以一食一對治。故。一體立蓋。睡眠。以何爲食。答曰。以五法爲食。一瞋。二愁。三欠。四食不消化。五心悶。以何爲對治。答曰。以慧。以五食一對治。故。二體立蓋。掉悔。以何爲食。答曰。以四法爲食。一念親屬。二念國土。三念不欲死。四念曾所更喜笑遊戲種種樂事。以何爲對治。答曰。以定。以四食一對治。故。二體立蓋。等重擔者。欲愛蓋恚蓋疑蓋。一體能負蓋。義重擔。睡眠掉悔。二體能負。義蓋重擔。猶如村中事務。一人能辦。則立一人。一人不能辦者。則立多人。亦如以椽蓋屋。強者用一。弱者用二。彼亦如是。是故一食一對治。一等重擔者。立一蓋。問曰。何故世尊先說欲愛蓋。次說恚蓋。後說疑蓋。答曰。如是說

者。則文隨順。復次若作是說。師授則易。弟子受亦易。復次隨順生時故。蓋生時。先生欲愛。後生恚疑。是故世尊後說恚疑。尊者和須蜜說曰。愛著妙境界故。生欲愛蓋。失妙境界故。生恚蓋。失妙境界。心沒故。故生睡眠。睡眠覆心。故生眠蓋。從眠起。生掉蓋。掉心生。悔隨順疑蓋便生。佛經說。五蓋或復有十。問曰。五蓋云何。或時有十。答曰。以三事故。一以緣內緣外。二以體性。三以善不善法。緣內緣外者。欲愛體。有緣內生。有緣外生。內外生愛俱亦是蓋。亦障於慧。不生菩提。不到涅槃。恚蓋亦如是。體性者。睡眠掉悔。亦障於慧。不生菩提。不到涅槃。以善不善法者。有疑於善法猶豫。有疑於不善法猶豫。俱是疑蓋。亦障於慧。不生菩提。不到涅槃。以是三事故。立蓋或說有十七使中。慢使。見使。無明使。一切色無色界使。不立蓋。問曰。何故慢使不立蓋。答曰。蓋覆沒於心。慢令心高。問曰。無明何故不立蓋。答曰。等負重義是蓋義。無明負重偏多。問曰。見使何故不立蓋。答曰。蓋能滅慧。見體是慧。不可以慧滅慧。如是因論生論。如蓋能滅一切善心心數法。此中何以但說滅慧。答曰。以慧名勝義亦勝故。彼聚中。誰爲最勝。慧爲最勝。若滅於慧。何況餘者。猶如健夫能害千人敵者。何況餘小者。問曰。何故色無色界使不立蓋。答曰。以無蓋義故。是以不立。復次蓋障礙三界離欲法。色無色界煩惱。不障礙三界離欲法。復次蓋障礙九斷知果無漏道。色無

○行數二數行 ○諸二語 ○相一恨 ○義蓋二蓋義 ○[故]一 ○悔十(悔) ○

色界煩惱。不障礙九斷知果無漏道。復次蓋能障礙四沙門果。色無色界煩惱不能障礙四沙門果。復次蓋能為定作留難。色無色界煩惱。不為定作留難。復次蓋能障礙三道。謂見道修道無學道。色無色界煩惱。不障礙三道。復次蓋能障礙三根。謂未知欲知根知根。已知根。色無色界煩惱。不障礙三根。如三根三種菩提。三種慧。三種戒。三種身。三修三淨。當知亦如是。復次蓋一向不善色無色界煩惱。非不善。如是因論生論何故。唯立不善為蓋。答曰。以對善法聚故。世尊獨立不善為蓋。如經說。比丘何等是善法聚。應答四念處是。若問誰是其對。應答不善法聚是。若問何者是不善法聚。應答五蓋是。是故尊者瞿沙。作如是說。欲界衆生。數數行此煩惱行時。微細不覺是過。是故為於衆生說名不善。

佛經說。無明覆。愛結縛。愚者所行。聰明亦然。問曰。如無明亦能覆。亦能繫愛。亦能覆。亦能繫。何故說無明能覆。不說繫。說愛能繫。不說覆。答曰。應說而不說者。當知此是如來有餘之說。復次欲以種種說種種文莊嚴於義。若以種種說種種文莊嚴於義。則易解。復次欲現二門。如說無明是覆。愛亦是覆。如是愛是繫。無明亦是繫。是故欲現二門。乃至廣說。復次先作是說。障義是蓋義。更無有使障衆生慧眼與無明等。繫義是結義。更無有使繫於衆生如愛結者。如衆生為無明所盲愛結所繫。以盲以繫故。不能得趣涅槃。此中應說二賊喻。是故尊者瞿沙。作如是說。

無明盲衆生。愛能繫。是以不善法得生。是中應說二賊喻。復次從多分故。無明多覆衆生。愛多繫衆生。復次無明覆義多。愛繫義多。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十七

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

使捷度不善品之三

◎五結愛結。結。慢結。嫉結。慳結。問曰。此五結體性是何。答曰。有三十七種。愛結三界有十五種。慢亦如是。悲結有五種。嫉結。慳結。欲界修道所斷有二種。此三十七種。是五結體。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名結。結有何義。答曰。繫義是結義。廣說如三結處。五下分結欲愛結。身見戒取疑。問曰。五下分結體性是何。答曰。有三十一種。欲愛結有五種。通六識身。悲結有五種。通六識身。身見三界見苦所斷有三種。戒取三界見苦見道所斷有六種。疑三界見苦集滅道所斷有十二種。此三十一種。是五下分結體。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名下分結。下分結有何義。答曰。下界所行故名下。復次下界。所結。能令下生相續。能生下報果。依果。以是事故。名下分結。下界者是欲界。問

曰。若然者一切煩惱。盡下界所行。六十四使。是下界所斷。三十六是欲界繫。二十八是非想非非想處繫。三十六能令下界生相續。三十四能生下界依果報果。二。唯生依果。如是等煩惱。皆有下分義。何故世尊唯說五結是下分結。尊者波奢說曰。佛世尊決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。乃至廣說。尊者瞿沙說曰。佛知此五下分結速疾偏重親近下界所行。下界中斷令下界生相續。能生下界依果報果。非餘煩惱。是故說下分結。復次有二種下。一界下。二衆生下。界下者是欲界。衆生下者是凡夫分。衆生所以不能出下界者。為是何過。皆是欲愛結。結過。衆生所以不能過下凡夫分者。皆是身見戒取疑過。如說下界下地亦如是。復次此五下分結。於欲界衆生。猶如獄卒伺捕之人。欲愛結。結猶如獄卒。身見戒取疑。猶如伺捕之人。譬如有人。閉在獄中。令二人守之。使不得出。令三人伺捕此人。若以親友。若以眷屬。若以錢財。若以傷害獄卒。而走出者。乃至遠去。汝等三人。必當將還閉在獄中。獄如欲界。被閉人如凡夫。二獄卒如欲愛結。身見戒取疑。如三伺捕人。或有衆生。以不淨觀。傷害欲愛結。慈觀傷害悲結。離欲界欲乃至無所有處欲。生非想非非想處。身見戒取疑。還復將來閉在欲界獄中。是故尊者瞿沙。作如是說。若不斷二法。則不出欲界。不斷三法。則還生欲界。尊者婆摩勒說曰。以為二種結所縛。故不出欲界。不斷三結故。必還生欲界。復次此是現門現

◎能一前◎ 唯二惟◎ ◎ [以]一◎ ◎ 二二一◎ ◎ 是二說◎ ◎ ◎ 不分卷及品◎ ◎ 所結二所斷◎ 唯二惟◎ ◎ 唯二

略現始入。此諸煩惱。或一種斷。或二種斷。或四種斷。或五種斷。若說身見。當知已說一種斷者。若說戒取。當知已說二種斷者。若說疑。當知已說四種斷者。若說愛恚。當知已說五種斷者。若問愛恚。何以立下分結中。應答如不善根中。若問何以說三結立下分結中。應答如三結中。

佛告諸比丘。汝等受持我所說五下分結耶。爾時長老摩勒迦子。在會中坐。即從座起。偏袒右肩。合掌向佛。而白佛言。我受持世尊所說五下分結。佛問摩勒迦子。汝云何受持我所說五下分結耶。彼答言。世尊說欲愛是下分結。我受持之。說恚身見戒疑是下分結。我受持之。佛告之言。愚人汝若如是受持我所說者。外道異學。當呵責汝。如嬰孩小兒。臥床中尚無欲心。況為欲蓋所覆。雖不為欲蓋所覆。亦不得言不為欲使所使。廣說如經。彼嬰孩小兒於色不識欲心。乃至不識法。可言無有使耶。問曰。佛經說五下分結。彼亦如是受持何故呵責摩勒迦子耶。答曰。不以文故。以不解義故責其義。不責其文。長老摩勒迦子。作如是說。煩惱若行。是下分結。煩惱若不行者。非下分結。世尊說。使若不斷。是下分結。不必行與不行。復次摩勒迦子說。使若現前行。是五下分結。佛說若成就則是在於三世。不必現在。復次長老摩勒迦子說。使沒溺於心是結。佛說有諸使得是結。如說若不善知見。斷欲愛所起之處。不名無使恚。乃至疑說亦如是。

五上分結。色愛無色愛掉慢無明。問曰。五上分結體性是何。答曰。有八種。色愛色界修道所斷有一種。無色愛無色界修道所斷有一種。掉慢無明。是色無色界修道所斷有六種。此八種是色無色界修道所斷。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名上分結。上分結有何義。答曰。起上義是上分結義。向上義是上分結義。令上生相續義是上分結義。問曰。若趣上義。向上義。令上生相續義。是上分結義者。彼諸煩惱。不應立流。所以者何。漂義流下義是流義。漂諸眾生諸界諸趣諸生生死中故。答曰。流義異上分結義。亦以界故。立上分結。此諸煩惱。令眾生趣上向上。令上生相續。以無解脫正智無漏聖道善法故。立此諸煩惱。眾生雖生有頂。猶為流所漂。不至解脫正智無漏聖道善法中故。是故尊者瞿沙。作如是說。眾生雖久生在上。猶為流所漂。問曰。愛何故立二上分結。掉慢無明各立一耶。答曰。掉慢無明。亦應說如愛立二上分結。而不說者。當知此說有餘。復次欲以種種文種種說莊嚴於義。若以種種文種種說莊嚴於義。義則易解。復次欲現二種門。如愛立二種。掉慢無明。亦應立二種。如掉慢無明立一種。愛亦應說一種。如是上分結體或四或八。如二門二俱通亦如是。復次以愛故。界別地別。種別。能生諸煩惱。廣說如解愛處。

此上分結修道所斷。問曰。何故上分結。唯修道所斷。答曰。上分結。能令趣上不墮下。見

道所斷煩惱。能令眾生趣上。亦令墮下。復次上分結。是聖人所行。非凡夫所行。聖人中是阿那含所行。非斯陀含須陀洹所行。如是因論生論。問曰。何故上分結阿那含所行。非斯陀含須陀洹所行。答曰。以阿那含一向上生。斯陀含須陀洹。亦上生亦下生故。復次若出界得果者。此身中則行上分結。須陀洹斯陀含。雖得果不出界。復次若出界永斷不善結者。則行上分結。須陀洹斯陀含。亦不出界。亦不永斷不善結。復次若出界永斷下分結者。彼身中則行上分結。須陀洹斯陀含。不出界。亦不永斷下分結。復次此煩惱立各別異。若身中立上分結。則不立下分結。若身中立下分結。則不立上分結。復次更不復行凡夫所行法。立上分結。須陀洹斯陀含。猶行凡夫所行法。凡夫所行法者。共男女同一床宿。衣。橋奢耶衣著華鬘。以栴檀種種香塗身。畜金銀。受用金銀器。驅使奴婢僮僕。亦以手搏頂頭。以瑣鞭人。起如是等身業。共妻婦寢宿。摩觸。骨人生細滑想。如是等凡夫所行法。復次更不入母胎流血中生。不住生。藏熟。藏。如是身中立上分結。如經說。質多居士。語諸親里。汝等當知。我更不入母胎。廣說如上。是故尊者瞿沙。作如是說。若解脫欲恚。則解脫入母胎。問曰。上分結中掉體。為是結非。結。若

是結者。波伽羅那所說云何通。如說云何結法。答言。九結是。云何非結法。答言。除九結餘法是也。若非結者。此經云何通。如說云何上分結。答言。色愛無色愛。掉慢無明。答曰。應

佛十(經說) 受二愛 爲一 起二趣 種二體 骨二滑 藏二藏 結一

作是說是結。問曰。若然者此經善通。波伽羅那所說云何通。答曰。西方沙門。誦持波伽羅那經。作如是說。云何結法。答言。九結及五上分結中掉是也。云何非結法。答言。除九結及五上分結中掉。餘法是也。爾賓沙門。非如是說。問曰。何故爾賓沙門。非如是說。答曰。爾賓沙門。應如西方沙門所說。而不說者。有何意耶。答曰。以掉是壞。想。或少分是結。少分非結。或於一人是結。或於一人非結。或時是結。或時非結。少分是結。少分非結者。色無色界是結。欲界非結。或於一人是結。或於一人非結者。於聖人是結。於凡夫人非結。或時是結。或時非結者。聖人未離欲界欲非結。離欲界欲是結。以有如是壞相故。爾賓沙門。所以不說。如是因論生論。何故色無色界掉立結。欲界掉不立。答曰。欲界是不定界。非修地。非離欲地。此中無如是定為掉所亂。是故欲界掉不立於結。色無色界。是定界。是修地。是離欲地。彼中四枝五枝定。為掉所亂。是故立結。如村落中。若村落邊住處雖有大聲。不能作患。阿練若住處雖復小聲。猶以為患。彼亦如是。復次欲界多諸非法想煩惱。如恨。恨誑諂。高害。如是等煩惱。障覆於掉。不得明了。是故欲界掉不立是結。色無色界無非法想煩惱。彼中掉明了。是故立結。如村落中。村落邊住處。多諸行惡比丘。而不可識。若至阿練若住處。遠來可識。

結。不立睡耶。答曰。以掉是大過重患多過。以是大過重患多過故。世尊立上分結。波伽羅那經說是不善大地。以其多過故。作如是說。云何結法。答言。九結及五上分結中掉是也。以其多過故。波伽羅那復作是說。云何不共無明。云何不共掉。以其多過故。施設經。復作是說。凡夫人若生欲愛。則起五法。一欲愛。二欲愛生相。三無明使。四無明使生相。五掉。睡無如是。大過重患多。故。不立上分結中。復次以掉。慧所行。猛利能亂四枝五枝定。是故立上分結中。睡性愚不。慧猛利。隨順於定。所行似定。若睡在身者。速能起定。是故不立上分結中。復次以睡。覆於無明。無明立上分結。若當立睡。為上分結。則為無明所覆。五見。身見。邊見。邪見。取戒。取。問曰。五見體性。是何。答曰。有三十六種。身見。三界見。苦所斷。有三種。邊見。亦爾。邪見。三界見。苦集滅道所斷。有十二種。見取。亦爾。戒取。三界見。苦見。廣說。已說體性。所以今當說。何故名見。見是何義。答曰。以四事故名見。一能視。二轉行。三所取堅牢。四入緣中。猛利。視者能看。問曰。此是邪見。所視顛倒。何所看耶。答曰。所視雖邪顛倒。而性是慧。以性是慧。故能看。如人雖看不明了。亦復名見。轉行者。問曰。一刹那頃。有何轉行耶。答曰。以其性猛利。故名轉行。所取堅牢者。此諸見於緣。妄取堅牢。非無漏道力。無由可斷。若佛佛弟子出世。以無漏道力。乃能截諸見。牙如大海中。虫名失獸摩羅。

彼所嘯若草若木。非刀不解捨。彼亦如是。如偈說。愚人所受持。鱸魚所銜物。失獸摩羅。嘯非斧不能解。入緣猛利者。諸見入緣猛利。如針墮泥中。復次以二事故名見。一以能觀。二以轉行。復次以三事故名見。一與相相應。二成其事。三不害所緣。復次以三事故名見。一有期心。二堅著。三轉行。復次以三事故名見。一以期心。二以方便。三以無知。期心者。壞於期心。方便者。壞於方便。無知者。壞期心。方便故。復次壞期心者。壞行定人。壞方便者。壞行慧者。無知者。從他邊有所聞。謬見法相。已總說諸見。所以今當別說。一一所以何故名身見。答曰。從自身生。亦從有身生。故名身見。問曰。餘見亦盡從自身生。可是身見耶。答曰。若見從自身生。不從他身生。不從無身生。此見是身見。餘見或從自身生。或從他身生。或從無身生。自身生者。謂緣自身。他身生者。謂緣他界。無身生者。謂緣無漏。問曰。如邊見不從他身生。亦不從無身生。何故不名身見。答曰。身見以先受名故。更以餘事。立邊見名。以見二邊故。復次若見從自身生。染著我我所說身見。餘見雖有從自身生者。而不染著我我所說。如我見我所見。已見已所見。亦如是。復次若見從自身生。不違戒。戒修。說身見。餘見雖從自身生。無如是事。復次若見從自身生。信所作受。是身見。餘見雖從自身生。無有是事。尊者和須蜜說曰。自身名五受陰。此見從自身生。故名身見。問曰。何故說五受陰。名自身耶。答曰。以自作故。復次作

想一相(是結)有二掉(恨一很)高二橋(卷第三十八終)卷第三十九使健度不善品之五首(卷第三十九使健度不善品第一之五首)造號釋號譯號同異如卷第二十三(何以+)故(通)+故(是二見)諸二說(所以+)者(界+)也(戒施二施戒)

故。亦是自煩惱業果故問曰何故名邊見。答曰。此見受二邊。若斷若常。故名邊見。如經說。迦旃延。若以正智。如實知見世間集。則不言無世間。言無世間者。是斷見。若見未來陰生作如是念。是衆生死此生彼而不斷。若以正智。如實知見世間滅。則不言有世間。言有世間者。是常見。若見陰界入相續生。彼作是念。此是滅法。非常。復次。此是外道邊故說邊見。外道計我是可呵責下賤之法。況復計我是斷常者。而不是邊下賤法耶。復次。外道計我。是名取邊。是名妄取於緣。是名所取愚癡。何況計我。有斷有常。而非邊耶。復次。此見行斷常二行故名邊見。佛經說。比丘當知。我不與世間諍。世間與我諍。問曰。佛何故不與世間諍。尊者。和須蜜說曰。佛說有因果。若與常見外道。共集一處。外道計有果無因。所以者何。無因故常。佛作是說。汝等有者。我亦有之。汝言無者。是愚癡故。若與斷見外道。集在一處。彼斷見外道。說有因無果。所以者何。斷果故。佛作是說。汝等有者。我亦有之。汝言無者。是愚癡故。佛於一邊取因。於一邊取果。離於斷常。而說中道。以是事故。佛不與世間諍。世間與佛諍。復次。佛是法論。世間是非法論。法論者。不與非法論者諍。復次。佛以制法隨順世間。世間以實法不隨順佛。復次。佛是善除鬪諍根本。愛之與見。是鬪諍根本。佛善除之。世人不除。是故作如是說。我不與世間諍。世間與我諍。尊者。佛陀提婆說曰。佛則正論。世間不正論。正論不與不正論者諍。如

一馬行於邪道言行惡道。如是外道行邪道。故言行諍道。復次。佛見義見見善見好。是故不與世間諍。問曰。何故名邪見。答曰。行邪行故說邪見。問曰。五見盡行邪行。皆是邪見。耶答曰。以名以行故。若五見不立。名立行者。五見盡是邪見。所以者何。行邪行故。若五見立。名立行。此見。名邪見行。無所有行。是名邪見。復次。行邪行壞前法是邪見。餘見雖行邪行。無如是事。復次。若邪行誘一切因果。是名邪見。餘見雖行邪行。無如是事。復次。行於邪行。與施戒修相違。餘見雖行邪行。無如是事。復次。若行邪行。誘過去未來現在等正覺道及三漏處。是名邪見。餘見雖行邪行。無如是事。復次。若行邪行。誘二種恩。謂法恩。衆生恩。誘法恩者。言無施無祠祀無善惡業果報。無今世後世。誘衆生恩者。言無父無母無化生衆生。言世無阿羅漢無趣正道。乃至廣說。餘見雖行邪行。無如是事。復次。若行邪行。能起二種無恩。謂法無恩。衆生無恩。起法無恩者。言無施。乃至廣說。起衆生無恩者。言無父母。乃至廣說。是名邪見。餘見雖行邪行。無如是事。復次。邪見若行邪行。壞現見事。如人墮火坑中。欲令世人生希有想。而作是說。我今快樂。如是衆生墮熾然陰界入中。以邪見故。言無有苦。餘見雖行邪行。無如是事。復次。若行邪行。說名是惡。如說比丘當知。若人邪見。所有身口意業。及迴轉法。其所願求。盡生不愛。不好不妙法。所以者何。比丘當知。以見惡故。餘見雖行邪行。無如是事。不名邪見。問曰。

何故名見取。答曰。取見故名見取。問曰。此見亦取五陰。何以但說見取。耶答曰。因見故取五陰。復次。若取見。若取五陰。計第一者。是名見取。問曰。何故名戒取。答曰。此見取戒。故名戒取。問曰。此盡取五陰。何以但說取戒。耶。答曰。因戒故取五陰。復次。以所行故。若取戒。若取陰。以所行淨者名戒取。問曰。何故名取。答曰。取他見故名取。如身見計。我所。邊見計斷常。邪見誘言無。見取取此諸見。以爲第一。戒取取此諸見。以爲淨。是故取他見名爲取。

六愛身。眼觸生愛。取鼻舌身意觸生愛。應說一愛。如九結中。三界愛立一愛結。應說二愛。如七使中。欲界愛說欲愛使。色無色界愛。說有愛使。應說三愛。如經說。比丘當知。愛。說有三。謂欲愛。色愛。無色愛。應說四愛。如經說。愛從四事生。若比丘比丘尼因衣服生愛。生便生。成立便成立。善便善。因食生愛。因臥具生愛。因有生愛。若比丘比丘尼。生如是愛。廣說如上。應說五愛。謂因苦斷愛。乃至修道斷愛。應說九愛。如上。乃至下下愛。應說十八愛。如說十八。意行。應說三十六愛。如說三十六愛行。應說百八愛。如說百八愛行。若以在身。若以利那。則有無量無邊愛。問曰。以何等故。世尊廣一愛說六愛。略無量愛說六愛身。答曰。以所依故。若一若無量愛。盡依此六。依六。泉六道六識身相應而生。問曰。若無明。亦依此六。依乃至與六識相應而生。何故。唯說六愛身。不說六慧身。六無明

○非十(是)○ ○(不)十名○ ○取二邪○ ○我十(我)○ ○取二耳○ ○二二三○ ○說二河○ ○[愛]一○ ○意一愛○ ○泉二界○

身。答曰。應說而不說者。當知。此說有餘。復次若說愛身。當知亦說慧身無明身。復次以愛在三界通五識身。能自成立。慧雖通五識身。自成立不在三界。無明雖在三界。不通五識身。能自成立。復次愛界別地別種別。廣說如解愛處。問曰。何故名身。答曰。以多故說身。不以刹那頃眼觸生愛名身。乃至多刹那眼觸生愛名身。不以一象名為象軍。乃以多象故。名為象軍。車馬步軍。亦復如是。乃至意觸生多愛名為愛身。七使。欲愛使。慧使。有愛使。慢使。無明使。見使。疑使。問曰。七使體性。是何。答曰。有九十八種。欲愛使欲界五種。愛通六識身。慧使有五種。通六識身。有愛使。色無色界愛。有十種。慢使三界有十五種。在意地。無明使三界有十五種。見使欲界有十二。色界有十二。無色界有十二。合三十六種。疑使三界四種所斷。有十二種。此九十八。是七使體。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名使。使是何義。答曰。微義是使義。堅著義是使義。相逐義是使義。微義是使義者。微名細。如七微塵成一。細。堅著義是使義者。乃至一刹那頃。使一微塵亦生於著。相逐義是使義者。如空行水行衆生逐影法。空行者是鳥。水行者是水。中虫。鳥以翅力欲度大海。海水中虫。取其相已。而作是念。無有飛鳥能過大海。除金翅鳥王。即逐其影。彼鳥疲極墮水。虫便吞之。如是諸使得一切時常住身中。若不正思惟。則生依果報果。

復次微者是體。著者是所作。相逐者是得。復次微者是過去使。著是現在使。相逐者是未來使。復次微義著義是相應使義。相逐義是心不相應使義。問曰。無有不相應使答曰。此中說使得是使。外國法師說四種義。微義是使義。著義是使義。遍義是使義。相逐義是使義。微義是使義者。此使自性微細。所行亦微細。著義是使義者。彼使於此。義堅著。猶如小兒堅著於乳。遍義是使義者。彼使遍在身中。如油在麻中膩在揣中。相逐義是使義者。如空行水行虫逐影法。復次微義是使義者。是使自體。著義是使義者。是所行。遍義是使義者。是相應。相逐義是使義者。是諸得。應以三事知使。一以自體。二以果。三以人。以自體者。欲愛使如食與渠。慧使如食苦。參子。有愛使如乳母染汚衣。慢使如憍人。無明使如盲人。見使如失道疑使如臨歧路人。果者修行廣布欲愛使。生雀鴛鴦鷓中。修行廣布慧使。生毒蛇中。修行廣布有愛使。生色無色界中。修行廣布慢使。生卑賤中。修行廣布無明使。生盲闇中。修行廣布見使。生外道中。修行廣布疑使。生於邊地。以人者。欲愛使以難陀陀阿羅吒優陀迦等知。慢使以摩那答陀等知。慧使以氣嘘指鬚等知。有愛使以阿私知。無明使以優樓頻螺迦葉等知。疑使以摩勒迦子等知。

問曰。何故嫉慳不立使耶。答曰。無使相故不立使。復次嫉慳是龜煩惱。微細是使嫉慳性重。使性輕。嫉慳性遲。使性捷疾。復次嫉。慳。

習氣不牢固。使性習氣牢固。習氣牢固者立使。不牢固者不立。如燒草燒。裸皮處。火滅其地即冷。嫉慳習氣亦復如是。如燒法陀羅木。火雖久滅。其地猶熱。使性習氣當知亦如是。九結。愛結。慧結。慢結。無明結。見結。取結。疑結。嫉結。慳結。問曰。九結體性。是何。答曰。有百種愛結。三界有十五種。慧結有五種。慢結三界有十五種。無明結三界有十五種。見結有十八種。身見三界有三種。邊見亦爾。邪見三界有十二種。取結有十八種。見取三界有十二種。戒取三界有六種。疑結三界有十二種。嫉慳欲界修道所斷有二。

二種嫉慳欲界修道所斷有二。一已說體性。所以今當說。何故名結。結有何義。答曰。繫義是結義。合苦義是結義。雜毒義是結義。餘如三結處說。已總說九結所以。一所以今當說云何愛結。答曰。三界愛立愛。結。欲界愛立欲愛使。色無色界愛立有愛使。經說有三愛。欲愛。色愛。無色愛。此三種有何差別。答曰。受佛化者有三種。利根中根鈍根。為利根者說愛結。中根者說欲愛使。有愛使。鈍根者說三愛。如利根中根鈍根。久行已行初行。樂略樂廣樂略。廣說亦如是。復次同苦繫義故。欲界愛亦同苦繫。色無色界愛亦同苦繫。云何慧結。害衆生者是也。問曰。如於非衆生法中。亦起於害何故但說害衆生耶。答曰。於衆生數法中起慧多。非衆生數起慧少。復次於衆生數起慧罪重。於非衆生數起慧罪輕。復次因衆生數。亦慧非衆生數。云何慢結。答曰。七種慢。是慢使。一慢。二大。

此二比(細)(塵)度一漢義二身二參二性二標二標二禪二(說)一十經二結

慢三慢大慢。四我慢五增上慢。六如慢七邪慢。廣說如雜捷度。云何無明結。答曰。三界無知。如是說者好。若作是說。緣三界無知者。則不攝無漏緣使。云何見結。答曰。三見。是也。謂身見。邊見。邪見。云何取結。答曰。二取。是也。謂見取。戒取。廣說如波。那羅經。問曰。何故五見三見立見結。二見立取結耶。答曰。同苦繫義故。身見名女聲。是苦繫義非樂。如身見。邊見邪見亦如是。見取戒取名男聲。是苦繫義非樂。天竺論法有男聲。復次此二結體等攝使亦等。體等者見結體有十八。取結體亦十八。攝亦如是。復次若見行邪行。非取是見結若見行邪行取。非見是取結。云何疑結。於諦猶豫。何以作此論耶。答曰。欲令疑意得決定故。若遠見高物。疑爲是人耶。爲是杌耶。若知是人。疑爲是男耶。爲是女耶。見二道疑爲是所趣道。爲非所趣道耶。見二衣二鉢。疑爲是我衣鉢耶。爲非我衣鉢耶。人謂如此是實疑結。欲令此義決定是欲界不隱沒無記邪智。若疑爲有苦集滅道。爲無苦集滅道耶。此是實疑。是名疑結。云何嫉結。答曰。見他善好心不忍。云何慳結。答曰。心。慳著。問曰。何故作此論耶。答曰。欲令疑者得決定故。世人於嫉作慳想。於慳作嫉想。若人見他好物。心生嫉者。世人言此人慳。此非是慳。乃是嫉。若人見他牢藏己妻。世人言是嫉。而實非。嫉乃是。慳。爲斷如是嫉。是慳想。慳是嫉想。亦顯嫉慳差別之相。而作此論。云何嫉結。見他善好心不忍。爲斷如是嫉。是慳意。此結是不忍相。

非慳著相。若見他有好物。便生嫉心。此於我爲好。云何慳結。答曰。心慳著。作如是說。已斷慳作嫉想。此結是慳著相。非不忍相。善守護己妻。不令出故。

問曰。何故於十纏中。嫉慳爲結。非餘纏耶。答曰。無結相者不立。有結相者便立。復次以現其終故。於十纏中。嫉慳是終。復次此二能自成立。無有二相能自成立者。以自力用故成立。無二相者。一向不善故。忿纏覆纏。能自成立。無有二相。然外國法師說。此二是使。不說是纏。故不應問。睡掉不能自成立。以因他力故立。非不二相。以不善無記故。眠悔雖能自成立。亦非不二相。以眠有善不善無記。悔善不善故。無慚無愧。雖非二相。而自不成立。因他力故。嫉慳非二相。亦自成立。復次此二結是下賤可呵責法。復次此是惡人下人所行。若世人供養他。何故生嫉。雖復積聚百千財寶。不能持五錢。至於後世。若當施於他者。有何過。復次世間以此二結故。會多受毀辱。世人輕毀二法。謂無威勢貧窮者。以修行廣布嫉結。令無威勢。修行廣布慳結。令人貧窮。若人貧窮無有威勢。父母兄弟親屬僮僕。乃至己妻。而輕賤之。復次此二結。於欲界衆生。能爲二事。一如獄卒。二如守門人。如人閉在牢獄。以二人守。不令出行。譬如清淨莊嚴園林。以二人守門。不令人入惡道。當知如牢獄嫉慳。當知如獄卒衆生。所以不能出惡道獄者。以嫉慳所守故。人天如清淨莊嚴園林。嫉慳如二守門者。衆生所以不得人

天中樂。以嫉慳故。以是事故。嫉慳立結。如經說釋提桓因。往至佛所。而作是問。世尊。人天多行何結。阿修羅捷闍婆。乃至廣說。佛告憍尸迦。人天多行嫉結慳結。阿修羅。龍迦樓羅。捷闍婆。緊那羅。摩睺羅伽。如是等衆生。亦多行嫉結慳結。問曰。衆生或有九結。或有六結。或有三結。或有無結。九結者。具縛凡夫。有六結者。是離欲界欲凡夫。未離欲愛聖人。有三結者。離欲聖人。無結者。是阿羅漢。無有衆生成就二結一結者。何故世尊說。人天阿修羅等。多成就二結。答曰。以嫉慳是富貴人所行。帝釋於二天中尊。復次以此二結故。人天阿修羅。數數共鬪。諸天有好食。阿修羅有好女。諸天慳惜於食。不欲令餘去。於女生嫉言。於我等好。阿修羅於女慳惜。不欲令出。於食生嫉言。於我等好。諸天爲女故。下詣阿修羅城。阿修羅爲食故。上詣天城。以是事故。天阿修羅。數數共鬪。爾時帝釋。從戰陣出。心懷恐怖。戰慄。未久之間。往詣佛所。而白佛言。天人阿修羅等。以何結故。數數共鬪。世尊以方便力。而作是說。帝釋當知。以嫉慳二結爲汝作患。生恐怖厄難。猶如重擔。以是事故。人天阿修羅等。以此二結數數共鬪。

九十八使。問曰。何故作此論。答曰。欲斷著文沙門意故。有著文沙門所說而受持之。復作是言。佛說七使。誰聰明過佛者。說九十八使耶。欲斷如是說者意故。亦欲說九十八使體相性分。以是事故。而作此論。佛經說七使。以界以種以行。有九十八使。七使中欲愛使。於

天中樂。以嫉慳故。以是事故。嫉慳立結。如經說釋提桓因。往至佛所。而作是問。世尊。人天多行何結。阿修羅捷闍婆。乃至廣說。佛告憍尸迦。人天多行嫉結慳結。阿修羅。龍迦樓羅。捷闍婆。緊那羅。摩睺羅伽。如是等衆生。亦多行嫉結慳結。問曰。衆生或有九結。或有六結。或有三結。或有無結。九結者。具縛凡夫。有六結者。是離欲界欲凡夫。未離欲愛聖人。有三結者。離欲聖人。無結者。是阿羅漢。無有衆生成就二結一結者。何故世尊說。人天阿修羅等。多成就二結。答曰。以嫉慳是富貴人所行。帝釋於二天中尊。復次以此二結故。人天阿修羅。數數共鬪。諸天有好食。阿修羅有好女。諸天慳惜於食。不欲令餘去。於女生嫉言。於我等好。阿修羅於女慳惜。不欲令出。於食生嫉言。於我等好。諸天爲女故。下詣阿修羅城。阿修羅爲食故。上詣天城。以是事故。天阿修羅。數數共鬪。爾時帝釋。從戰陣出。心懷恐怖。戰慄。未久之間。往詣佛所。而白佛言。天人阿修羅等。以何結故。數數共鬪。世尊以方便力。而作是說。帝釋當知。以嫉慳二結爲汝作患。生恐怖厄難。猶如重擔。以是事故。人天阿修羅等。以此二結數數共鬪。

九十八使。問曰。何故作此論。答曰。欲斷著文沙門意故。有著文沙門所說而受持之。復作是言。佛說七使。誰聰明過佛者。說九十八使耶。欲斷如是說者意故。亦欲說九十八使體相性分。以是事故。而作此論。佛經說七使。以界以種以行。有九十八使。七使中欲愛使。於

九十八使。問曰。何故作此論。答曰。欲斷著文沙門意故。有著文沙門所說而受持之。復作是言。佛說七使。誰聰明過佛者。說九十八使耶。欲斷如是說者意故。亦欲說九十八使體相性分。以是事故。而作此論。佛經說七使。以界以種以行。有九十八使。七使中欲愛使。於

①(不)十如慳②③(是)一④那羅二那羅⑤加那那⑥加羅那⑦慳一慳⑧嫉一慳⑨慳二嫉⑩嫉慳二立慳嫉⑪(難)十能⑫自不不自⑬百二日⑭(人)一⑮恐怖二恐⑯二取

九十八使中。以種故有五。善使亦爾。七使中有愛使。於九十八使中。以界故有二。以種故有五。以界以種故有十。七使中慢使於九十八使中。以界故有三。以種故有五。以界以種使有十五。無明使亦爾。七使中見使於九十八使中。以界故有三。以行故有五。以種故有十二。以界以種以行故有三十六。七使中疑使於九十八使中。以界故有三。以種故有四。以界以種故有十二。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十七

阿毘曇毘婆沙論卷第二十八

迦旃延子造 五百羅漢譯

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

使捷度不善品之四

此三結幾不善幾無記。乃至九十八使。幾不善幾無記。問曰。何故作此論。答曰。或有說。一切煩惱。盡是不善。以無巧便所持故。如譬喻者。作如是說。為斷如人意亦明煩惱是不善無記故。若無巧便所持是不善者。諸煩惱。應言無巧便。不應言是不善。所以者何。無巧便是無知持是相應。不可以自體還應自體。復次或有說。欲界諸煩惱。盡是不善。色無色界諸煩惱。盡是無記。為斷如是說者。意亦明身見邊見是無記法故。而作此論。復有說者。所以作論為何義故。而作論答曰。欲令此

義成立故作此論。是故先作是問。以何義故。彼尊者作論先立。答曰。欲現門故。今欲現問故作此論。此三結。幾不善。幾無記。答曰。一。是無記。謂身見。問曰。何故身見是無記耶。答曰。若法。是無慚無愧。與無慚無愧相應。從無慚無愧生。與無慚無愧作依果者。是不善。身見不與無慚無愧相應。不從無慚無愧生。不與無慚無愧作依果故。是無記。復次此結不一向壞期心。云何不一向壞期心。答曰。即如上義。復次此結不與施戒修。相遠故。是無記。若人計我。修行布施。欲令我樂。持戒欲令我生天。習修欲令我得解脫。復次此結於自體。愚不逼切他。若人計我。眼見色時。不作是念。眼能見色。色是可見。而作。見念。我能見色。我所是可見。乃至意知法。不作是念。意能知法。法是可知。而作是念。我能知法。我所是可知。不逼切他者。如是等顛倒見。不逼切他。復次以身見。不生報故。是無記。尊者和須蜜說曰。何故此見是無記耶。答曰。此見不能起。起身口業。問曰。若然者。不善煩惱。亦有不能起。起身口業者。答曰。貪恚癡增盛時能起。復次此見不能令人墮惡道。問曰。若然者。不善煩惱。亦有不能令人墮惡道者。答曰。貪恚癡增盛時。能令人墮惡道。此見增盛時。不能令人墮惡道。復次此見不能生不愛果。問曰。此見能生後有。即是生不愛果。所以者何。如佛說比丘若起後有。乃至一剎那者。我不稱美。所以者何。起於有者。是苦法故。尊者佛陀提婆說曰。此見所取是顛倒。亦生顛倒。應

是不善。若當身見非不善者。誰是不善。世尊亦說。乃至小愚亦是不善。二當分別問曰。何故言分別。答曰。此義應分別。是不善分。是無記分。復次此義當破。故言分別。毘婆闍婆提作是說。此義應。解脫分明。故言分別。戒取疑若在欲界是不善。若在色無色界是無記。問曰。何故色無色界煩惱是無記耶。答曰。若法。是無慚無愧。與無慚無愧相應。從無慚無愧生。與無慚無愧作依果者。是不善。色無色界煩惱。與上。相遠故。是無記。復次此煩惱不壞期心。云何不壞期心。以上義故。復次色無色界煩惱。不能生報。以不生報故。是無記。所以不能生於報者。以為四。枝五。枝定所制伏故。猶如毒蛇。為呪術制伏。則不能整人。彼亦如是。復次非報器故。色無色界煩惱是無記。若當色無色界能生報者。為生何報。應生苦受。苦受是欲界法。不可以色無色界煩惱於欲界中受報。復次色無色界。非一向能生顛倒。有少相似法。如色無色界邪見。謗言無苦。有少樂分見取見。色無色界陰是第一。彼有少分第一戒取見。色無色界有少分淨。亦有能淨欲界道。無色界有能淨色界道。尊者。和須密說曰。何故色無色界諸煩惱是無記。答曰。不能起。起身口業。問曰。不善煩惱。亦有不能起。起身口業者。答曰。貪恚癡增盛時。能起。起身口業。彼諸煩惱增盛時。不能起。起身口業。復次彼諸煩惱。不能令人墮惡道。問曰。不善煩惱。亦有不能令人墮惡道者。答曰。貪恚癡增盛時。能令人墮惡道。彼諸煩

十一十五 不分卷及品 今二令 問二門 相遠一相遠 見二是 解脫二解說 枝二支 和須密二和須蜜 越二道中 卷第三十九終 卷第四十使捷度不善品之六首 卷第四十使捷度不善品第一之六首 造釋說同異如卷第二十三

惱增盛時。不能令人墮惡道。復次彼諸煩惱。不能生不愛果。問曰。若生少後有是不愛果。廣說如上。尊者佛陀提婆說曰。若當色無色界煩惱非不善者。誰是不善。世尊亦說。煩惱生業。應是不善。三不善根。即是不善。所以者何。此不善根。是不善煩惱。為不善法。作因作根。作出處作本。作有作緣。作集作生故。三漏。一是無記。二當分別。一無記者。是有漏。所以是無記。應如上說。二當分別者。謂欲漏。無明漏。欲漏或不善或無記。云何不善欲漏。是無慚無愧。亦與無慚無愧相應者。是不善無慚無愧。即是自體。與無慚無愧相應者。取三十四種。一向不善者三種。少分謂睡眠掉舉。無慚無愧相應者是不善。云何無記欲漏。不與無慚無愧相應。是則說身見邊見。亦說三種。少分謂睡眠掉舉。身見邊見相應者。是名無記。問曰。無慚不與無慚相應。無愧不與無愧相應。可是無記欲漏所攝耶。答曰。此無愧相應。如是說。云何無記。無慚無愧所不攝不。文應如是說。云何無記。無慚無愧所不攝不。相應欲漏。無慚無愧不攝。則。餘無慚無愧不。相應。則。餘無慚無愧相應。而不說者。有何意耶。答曰。無慚雖不與無慚相應。與無愧相應。無愧雖不與無愧相應。而與無慚相應。所以者何。不相離故。是故非無記。欲漏所攝。無明漏。或不善或無記。云何不善無明漏。與無慚無愧相應。如是則說欲界四種所斷無明。謂集滅道所斷。及苦諦所斷。少分謂三。見疑愛恚慢相應無明。及不共無明。云何無記無明漏。不與無慚無愧相應者。如是則

說欲界身見邊見相應無明。色無色界五種所斷無明。問曰。何故十纏中。唯說與無慚無愧相應。不說餘耶。答曰。彼作經者。有如是欲如是意。隨其欲意。而造此論。亦不違法相。復次此二纏。一向不善。與一切不善煩惱相應。忿纏覆纏嫉纏慳纏。雖一向不善。而不與一切不善煩惱相應。睡眠纏掉纏。雖與一切不善煩惱相應。而不一向不善。所以者何。以不善無記故。眠纏悔纏。非一向不善。所以者何。眠有善不善無記。悔有善不善無記故。無慚無愧。一向不善。與一切不善煩惱相應故。隨有爾許無慚無愧相應。有爾許不善煩惱。有爾許不善煩惱。有爾許無慚無愧相應。隨有爾許函。有爾許蓋。彼亦如是。四流。一無記。謂有流。所以者何。以是色無色界法故。如說色無色界煩惱。是無記。此亦如是。三當分別。謂欲流見流無明流欲流。或不善或無記。云何不善。無慚無愧。及相應欲流。無慚無愧。則說無慚無愧。相應欲流。則說二十四種。一向不善者。及三種少分。謂睡眠掉舉。無慚無愧相應者。云何無記。謂不與無慚無愧相應欲流。如是則說睡眠掉舉少分與欲界身見邊見相應者。見流。或不善或無記。云何不善。欲界繫三見。謂邪見見取戒取。云何無記。欲界繫二見。謂身見邊見。色無色界繫五見。無明流。或不善或無記。云何不善。謂與無慚無愧相應無明流。云何無記。謂不與無慚無愧相應無明流如流。扼亦如是。四取。一無記。謂我語取。所以者何。以是色無色界法故。如說

色無色界煩惱是無記。此亦如是。三當分別。謂欲取見取戒取。欲取。或不善或無記。云何不善。無慚無愧。及相應欲取。無慚無愧。則說自體。及相應欲取則說二十八。一向不善者。及四種少分。謂睡眠掉舉無明。與無慚無愧相應者。云何無記。不與無慚無愧相應欲取。是則說四種少分。謂睡眠掉舉無明。與欲界繫身見邊見相應者。見取。或不善。或無記。云何不善。欲界繫二見。謂邪見。見取。云何無記。欲界繫二見。謂身見邊見。色無色界四見。戒取。欲界是不善。色無色界是無記。四縛二縛。是不善。謂貪身縛。恚身縛。二當分別。謂見取身縛。戒取身縛。欲界繫者是不善。色無色界繫者。是無記。五蓋。唯不善。五結。三不善。謂悲結慳結嫉結。二當分別。謂愛結慢結。欲界繫是不善。色無色界繫是無記。五下四分。二不善。謂欲愛悲結。一無記。謂身見。二當分別。謂戒疑疑欲界繫是不善。色無色界繫是無記。上分結。唯無記。五見。二無記。謂身見邊見。三當分別。謂邪見見取戒取。欲界繫是不善。色無色界繫是無記。六愛身。二不善。謂鼻觸生愛身。口觸生愛身。四當分別。謂眼觸生愛身。耳觸生愛身。身觸生愛身。欲界繫是不善。梵世繫是無記。意觸生愛身。欲界繫是不善。色無色界繫是無記。七使。二是不善。謂欲愛使恚使。一是無記。謂有愛使。四當分別。謂慢使。無明使。見使。疑使。慢使。疑使。欲界繫是不善。色無色界繫是無記。無明使。或是不善或無記。云何不善。與無慚無愧相應無

①文二又②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①二又二(種)②分十(結)③口二舌④
⑤二又二(種)⑥分十(結)⑦口二舌⑧
⑨二又二(種)⑩分十(結)⑪口二舌⑫
⑬二又二(種)⑭分十(結)⑮口二舌⑯
⑰二又二(種)⑱分十(結)⑲口二舌⑳
㉑二又二(種)㉒分十(結)㉓口二舌㉔
㉕二又二(種)㉖分十(結)㉗口二舌㉘
㉙二又二(種)㉚分十(結)㉛口二舌㉜
㉝二又二(種)㉞分十(結)㉟口二舌㊱
㊲二又二(種)㊳分十(結)㊴口二舌㊵
㊶二又二(種)㊷分十(結)㊸口二舌㊹
㊺二又二(種)㊻分十(結)㊼口二舌㊽
㊾二又二(種)㊿分十(結)口二舌

明使云何無記。不與無慚無愧相應無明使。見使。或不善或無記。云何不慚。欲界繫三見。云何無記。欲界繫二見。色無色界繫五見。九結三不善謂結慳結嫉結。六當分別謂愛結。慢結。取結。疑結。欲界繫是不善。色無色界繫是無記。無明結。或不善或無記。云何不慚。與無慚無愧相應無明。云何無記。不與無慚無愧相應無明。見結。或不善或無記。云何不慚。欲界繫邪見。云何無記。欲界繫身。見色界繫三見。九十八使。三十三不善。六十四無記。一當分別。欲界繫見苦所斷無明使。或不善或無記。云何不慚。與無慚無愧相應者。云何無記。不與無慚無愧相應者。此門毘婆沙優波提舍。是應廣分別。問曰。何故名善。何故名不善。何故名無記耶。答曰。若為巧便所持生愛果。安隱故名善。巧便所持者是道諦。生愛果者。是苦集諦少分。安隱者是滅諦。若不為巧便所持。生不愛果。不安隱者是不善。此說苦集諦少分此相違是無記。復次生愛果。生樂受果是善。生不愛果。生苦受果是不善。與此相違是無記。復次生可愛有種子。是善。生不可愛有種子是不善。與此相違是無記。復次生可愛趣中是善。生不可愛趣中是不善。與此相違是無記。復次於寂靜分中。體性輕舉者是善。於增盛分中。體性重沒者是不善。與此相違是無記。尊者婆多說曰。以四事故名善。一體二親近。三能起。四實義。體者是自體。或有說。慚愧是自體。或有說。三善根是自體。親近者。謂心心數法。能起者。能

起身口業及心不相應行。實義者是涅槃。以安隱故說善。是以毘婆闍婆提作如是說。自體善者是智。親近善者是誠。能起善者。能起身口業。實義善者是涅槃。以四事故。名不善。一體。二親近。三能起。四實義。體者是自體。或有說。無慚無愧是自體。或有說。三不善根是自體。親近者。是心心數法。能起者。能起身口業及心不相應行。實義者。是生死不安隱。故說不善。是以毘婆闍婆提作如是說。自體者是愚癡。親近者是誠。能起者能起身口業。實義者是生死。尊者波奢說曰。若法是正觀。與正觀相應。從正觀生依果解脫果。是名善。若法非正觀。乃至不從正觀生依果。是名不善。與此相違是名無記。如正觀不正觀。慚愧無慚愧。善根不善根。信等五根五蓋說亦如是。集法經說。何故名善。答曰。有愛果妙果適意果可意果。故名善。報果說亦如是。何故名不善。答曰。有不愛果不妙果不適意果不可意果。故名不善。報果說亦如是。與此相違是無記。問曰。世尊定記苦。定記集。定記滅。定記道。廣說十二入施設解說顯現。何以言無記耶。答曰。不以不解說。故言無記。但世尊善法記善。不善法記不善。此法非善法所記。非不善法所記。故言無記。復次世尊說。善法有愛果。不善法有不愛果。此法不生愛不愛果。故言無記。復次善以二事故名善。一以自體。二以有報。不善亦爾。無記雖有自體。不生於報。故說無記。世尊或有不解說名無記。天竺音無記是無答如經說沙門瞿曇。世界常耶。佛言此不應答。

問曰。何故佛不答此問耶。答曰。外道計人是常。彼諸外道。往詣佛所。作如是問。沙門瞿曇。人為是常。為非常耶。佛作是念。無人我。答言無。彼諸外道。當作是說。我不問有無若當說常無常者。無法云何說有常無常。如問人石女兒為恭敬孝順不。彼作是念。石女兒。我若答言無。彼當作是說。我不問有無若當說恭敬孝順。彼當作是說。石女兒。云何當說恭敬孝順。彼亦如是。此論非有非實。以非有非實故。世尊不答。四種答如雜捷度智品廣說。此三結。幾有報幾無報。乃至九十八使。幾有報幾無報。問曰。何故作此論。答曰。如譬喻者說。除思無報因。除受無報果。為斷如是說者。意亦現五陰是報果。復次何故作此論。答曰。或有說。已受報因則無體。如迦葉維部。彼作是說。因義乃至報未熟。若報熟彼無因義。猶如種子。牙未生時。有種子義。若牙生無種子義。彼亦如是。為斷如是意亦明報雖熟因故有體。復有說者。何故作此論。答曰。為外道故。外道說善惡業無有果報。為斷如是意亦明善惡業有果報。是故為止他義欲顯己義。亦說法相相應義故。而作此論。假使莫為止他義莫為顯己義。但欲說法相相應義故。而作此論。如初門文所說。此門文亦應如是說。三結若不善者有報。無記者無報。乃至九十八使亦爾。此門是廣說優波提舍毘婆沙。問曰。為以自法報俱言有報。為以他法報俱言有報耶。若以自法報俱言有報者。云何因果不並耶。亦違偈說。如說

①見十(邊見色無)②善二若③牙二芽④*

作惡不即熟 如薩遮投乳
不即燒愚小 猶如灰底火

有草名薩遮。若磨爲散。投之乳中。即便成酪。因果不爾。云何爾耶。答曰。如灰底火。初蹈不熱。久住乃熱。如是不善業。因時生喜樂。變成果時。生諸惡趣陰界入。若以他法報俱。言有報者。無漏聖道。亦與他法報俱。應言有報。答曰。應作是說。與自法報俱。故言有報。問曰。若然者。云何因果不並耶。亦違偈說。答曰。

俱有二種。一者有俱。二者並俱。有俱者。有因有果。有緣有報是也。有因有果者。如百億劫前造因。雖滅爲後生法作因。此法於因雖遠。而有因。彼法於果雖遠。而有果。有緣者。如日月。去此四千由旬。眼若緣者。便生眼識。境界雖遠。而生眼識。名之有緣。有報者。百億劫前所造業。雖滅於今身生報。彼業於此報雖遠。而言有報。並俱者。如有覺。有觀。有喜。有用。有覺者。覺相應法。有觀者。觀相應法。有喜者。喜根相應法。有用者。作觀相應法。此中以有俱而作論。不以並俱。復次。俱有二種。一有俱。二不相離俱。有俱者。如說。有因乃至有報。不相離俱者。如說。有覺乃至有用。此中以有俱而作論。不說不相離俱。復有三種俱。有近俱。有遠俱。有近遠俱。近俱者。如說。有覺乃至有用。遠俱者。如說。有因乃至有報。近遠俱者。如說。有漏。有使。有緣。有體。有漏者。有漏法。或與漏相應。或與漏作所緣相應。作緣俱是有漏。如有漏。有使。亦爾。有緣者。緣有近有遠。近緣遠緣俱是有緣。如有緣。者。體亦爾。此中

以遠俱而作論。不以近俱。不以近遠俱。問曰。何故名報。答曰。生不相似法。故名報。報有二種。有相似。有不相似。相似者。如依善法。生善法。依不善法。生不善法。依無記法。生無記法。不相似者。如善不善法。生無記報。除餘報義。如雜捷度智品廣說。

此三結。幾見道斷。幾修道斷。乃至九十八使。幾見道斷。幾修道斷。問曰。何故作此論。答曰。或有說。凡夫不能離欲。聖人不能以世俗道斷結。如譬喻者。尊者佛陀提婆。作如是說。若凡夫人。不能斷結。而能制纏。如是說者。名不覆說。問曰。彼何故作是說耶。答曰。依佛經故。佛經說。比丘當知。若以聖慧。知見法者。是名爲斷。凡夫人。無有聖慧。無聖慧故。不名爲斷。問曰。若然者。此經云何通。如說。比丘當知。憍頭藍弗。斷欲愛。色愛。斷空處愛。乃至無所有處愛。生非想非非想處。亦說。外道仙人。能離欲愛。彼作是答。此經不斷說斷。不離欲說離欲。餘經亦說。不斷是斷。不離欲是離欲。不斷是斷者。如偈說。

人計諸物是我有 死時皆斷不持去
如是智者不應計 於諸物中我有想

不離欲說離欲者。如說。如村落中童男童女。造作土舍。若於此土舍。未離欲時。心生渴愛。修治擁護。計是我有。若離欲時。毀壞捨去。如此經不斷說斷。彼經亦爾。然凡夫人。不能斷結。言凡夫人。離欲界欲者。以世俗道。制伏下界煩惱。上緣初禪。如。閻樓虫行法。離欲界欲。乃至離無所有處欲。非想非非想處。更無

上地而可上緣。得離非想非非想處欲。如人上樹從枝至枝。若至樹端。更無有枝。而便還下。如是凡夫人。緣上地法。能制伏下地煩惱。而不能斷。猶如狼狗。從麻草中過。雖能摧臥。而不能斷。彼亦如是。爲斷如是說者。意亦明。凡夫人能離欲。世俗道能斷結。而作此論。復次。所以作論者。或有說。聖人。不以世俗道斷結。所以者何。彼聖人。何爲捨無漏道。而用世俗道。爲斷如是說者。意亦明。聖人以世俗道能斷結。而作此論。復次。所以作論者。爲止說頓斷沙門意。故。有沙門說頓斷法。如金剛喻定。斷一切結。無結不斷。不破不入。不得其邊。故。喻如金剛。無物不斷。不破不入。不得其邊。謂若鐵牙。貝。珂。玉石。摩尼等。彼亦如是。彼說有四沙門。果金剛喻定。斷一切結。問曰。若然者。何用三沙門。果。爲彼作是答。三沙門。果。已制伏煩惱。後金剛喻定。現在前時。斷一切結。猶如農夫。左手執草。右手一時以鎌斷之。彼亦如是。爲斷如是說者。意亦明。煩惱有二種。有二種對治。一見道斷。二修道斷。見道斷者。以見道爲對治。修道斷者。以修道爲對治。復次。何故作論者。答曰。或有說。一時見諦。非次第見。爲止如是說者。意亦明。見諦有次第。故。若當一時見諦。非次第者。則違佛經。如經說。給孤獨居士。往詣佛所。作如是問。世尊。爲一時見諦。爲次第見耶。佛答言。居士。次第見諦。如登梯法。復次。所以作論者。欲明煩惱有二種。有二種對治。一見道斷。二修道斷。見道爲見道斷。種作對治。修道爲修道斷。種作

●磨二摩● ●復十(次)● ●者一有● ●[除]一● ●聞二開● ●理一制● ●

對治。是故欲止他義欲顯己義。亦說法相相應義故。而作此論。假使莫止他義莫顯己義。但欲說法。相應義故。而作此論。此三結。幾見道斷。幾修道斷。見道在前有二種身見在前有二種。或見道斷或見道修道斷。問曰。在前是何義。答曰。立分義。先答義。是在前義。立分義者。先立見道所斷分。後立不定。先答義者。先答見道所斷。後答不定。云何見道斷。若身見是非想非非想處繫。若堅信堅法。以苦忍斷身見在欲界。乃至非想非非想處。可得以世俗道斷。欲界身見。乃至無所有處。於非想非非想處世俗道便。在更無勢用。而還起見道現在前。斷非想非非想處身見。若說身見。則定體。若說非想非非想處繫。則定地。若說堅信堅法。則定人。若說苦忍。則定對治。若說斷。則定已作事。此則說身見。是不共對治。決定對治。聖人能斷。凡夫不能。用無漏道。不用世俗道。唯用見道。不用修道。以忍不用智。此中則說如是身見。餘身見。若凡夫斷。以修道斷。世尊弟子。以見道斷。何者是餘身見。欲界乃至無所有處。若凡夫人。以修道斷。聖人以見道斷。凡夫人以世俗道斷。聖人以無漏道斷。凡夫人以智斷。聖人以忍斷。凡夫人。九種身見。作九時斷。聖人九種身見。作一時斷。凡夫人斷有止息。聖人斷無止息。凡夫人斷不見諦。聖人斷見諦。是故作如是答。餘身見。若凡夫人。以修道斷。世尊弟子。以見道斷。戒取疑見道。在前有二種。或見道斷。或見道修道斷。在前義。如上說。云何見

道斷。若戒取疑。在非想非非想處繫。若堅信堅法。以諸忍斷。戒取疑。從欲界乃至非想非非想處。可得世俗道現在前斷欲界戒取疑。乃至無所有處世俗道。於非想非非想處便住。更無勢用。而還起見道現在前。斷非想非非想處戒取疑。若說戒取疑。則定體。若說非想非非想處繫。則定地。若說堅信堅法。則定人。若說諸忍。則定對治。若說斷。則定已作事。此則說戒取疑是不共對治。決定對治。聖人能斷。凡夫人不能。用無漏道。不用世俗道。唯以見道。不用修道。以忍不用智。此中則說如是戒取疑。餘戒取疑。凡夫人斷。以修道斷。世尊弟子。以見道斷。餘如上說。貪患癡及欲漏修道。在前有二種。或修道斷。或見道修道斷。在前是何義。答曰。立分義。先答義。是在前義。立分義者。先立修道所斷分。後立不定。先答義者。先答修道所斷。後答不定。云何修道斷。答曰。貪患癡。及欲漏學見迹。以修道斷。貪患癡及欲漏有五種。見苦斷種。乃至修道斷種。見道現在前斷。苦諦所斷。乃至道諦所斷。貪患癡及欲漏。於修道所斷便。生。更無勢用。而還起修道現在前。斷修道所斷貪患癡及欲漏。若說貪患癡及欲漏。則定體。若說學見迹。則定人。若說修道。則定對治。若說斷。則定已作事。此貪患癡及欲漏。是不共對治。決定對治。是聖人所斷。非凡夫人。是修道斷。非見道斷。智斷非忍斷。此中則說如是貪患癡及欲漏。餘者若凡夫人斷。修道斷。世尊弟子見道斷。餘何者是耶。答曰。餘者有四種。謂見苦所斷。乃至見道所

斷。若凡夫人斷。修道斷。世尊弟子見道斷。餘廣說如上。以是事故。而作是說。若凡夫人斷。是修道斷。世尊弟子見道斷。問曰。若說學見迹。以修道斷。貪患癡及欲漏。則說聖人身上修道所斷者。餘若說凡夫人斷。以修道斷。若聖人斷。以見道斷。是則說凡夫人身上見苦集滅道所斷。貪患癡及欲漏。此中何餘未稱說者。答曰。凡夫人身上修道所斷。貪患癡及欲漏。問曰。此何以不說耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次已說在先所說中。所以者何。以種故立。作煩惱種。不在身中立煩惱種。齊五種無第六種。聖人以見道斷見道所斷種。以修道斷修道所斷種。凡夫人。若見道所斷。若修道所斷。盡合集以修道斷。所以者何。凡夫人於五種所斷煩惱。必以修道斷。此義決定。以是事故。當知已說在前所說中。有漏無明漏見道。在前有三種。或見道斷。或修道斷。或見道修道斷。何者是在前義。答曰。立分義。先答義。是在前義。先立見道斷種。次立修道斷種。後立不定。先答者。先答見道所斷種。次答修道所斷種。後答不定。云何見道斷。若有漏無明漏。在非想非非想處繫。若堅信堅法。以諸忍斷。有漏。從初禪乃至非想非非想處。可得無明漏。從欲界乃至非想非非想處。可得世俗道現在前。斷無明漏。從欲界乃至無所有處。斷有漏。從初禪乃至無所有處。於非想非非想處便住。更無勢用。而還起見道現在前。斷非想非非想處見道所斷。有漏無明漏。見道於修道所

相十(相) ③ ② ① 在二住 ③ ② ① 生二住 ③ ② ① (作) ③ ② ①

斷便住。更無勢用。而還起修道現在前。斷修道所斷有漏無明漏。若說有漏無明漏。則定體。若說非想非非想處繫。則定地。若說堅信堅法。則定人。若說諸忍。則定對治。若說斷。則定已作事。有漏無明漏。是不共對治。決定對治。聖人所斷。非凡夫人。以無漏道斷。非世俗道。以見道斷。非修道。以忍斷非智。此中則說。如有漏無明漏。云何修道斷。答曰。有漏無明漏學見迹。以修道斷。有漏無明漏有五種。謂見苦斷。乃至修道斷。見道斷。苦諦所斷。乃至道諦所斷。有漏無明漏見道於修道所斷便住。更無勢用。而還起修道現在前。斷修道所斷有漏無明漏。若說有漏無明漏。則定體。若說學見迹。則定人。若說修道。則定對治。若說斷。則定已作事。有漏無明漏。是不共對治。決定對治。是聖人斷非凡夫人。是修道斷。非見道。是無漏道斷。非世俗道。是智斷。非忍斷。此中則說。如有漏無明漏。餘者若凡夫斷。以修道斷。世尊弟子以見道斷。問曰。何者是餘耶。答曰。無明漏。欲界有四種。有漏無明漏。從初禪乃至無所有處有四種。此若凡夫斷。以修道斷。若聖人斷。以見道斷。餘廣說如上。在前有三種。一不共。二畢竟。三最初不共在前者。如三結。畢竟在前者。如貪恚癡及欲漏。最初在前者。如有漏無明漏。若煩惱是三界見道所斷。應作見道在前二種句。如三結是也。若是欲界五種所斷。應作修道在前二種句。如貪恚癡及欲漏是也。若是三界五種所斷。應作見道在前三種句。如有

漏無明漏是也。此說是略。毘婆沙五蓋中。悔是修道斷。疑若凡夫斷。以修道斷。世尊弟子斷。以見道斷。五上分結。是修道斷。五愛身。是修道斷。嫉結。是修道斷。九十八使。二十八是見道斷。十是修道斷。餘若凡夫斷。是修道斷。世尊弟子斷。是見道斷。
 問曰。如波伽羅那說九十八使。八十八是見道斷。十是修道斷。此中何故說二十八是見道斷。十是修道斷耶。答曰。此文是了義。彼文是未了義。此文無餘意。彼文有餘意。此文無所以彼文有所以。此文是實義諦。彼文是俗諦。復次波伽羅那。說順次法。說具縛人。非超越人。此中不說順次法。不說具縛人。不說超越人。復次。彼中說凡夫聖人離欲聖道所作世俗道所作。此中說聖人離欲。不說凡夫。說聖道所作。不說世俗道。復次彼中說離欲界欲。乃至離無所有處欲。得正決定者。先以世俗道。斷欲界煩惱。乃至無所有處。彼見道斷煩惱。解脫得差別作證。所以者何。彼解脫得。以見道故。而有差別。以是事故。彼作是說。八十八是見道斷。十是修道斷。是故尊者瞿沙。作如是說。二十八使是見道斷。十是修道斷。何故波伽羅那。作如是說。八十八是見道斷。十是修道斷。彼作是答。二十八決定是見道斷。十是修道斷。六十不定。不定者。於見道中。而有差別。波伽羅那說。次第故說八十八是見道斷。十是修道斷。此門是廣分別毘婆沙。問曰。何故名見道斷。何故名修道斷耶。如見不離修。修不離見。見道中如實修亦可得。修道

中如實見亦可得。見名為慧。修名不放逸。如實是何義耶。答曰。數數義。偏重義。是如實義。見道中慧多不放逸。修道中不放逸多。慧少。復次等量義。是如實義。如見道中慧亦有爾許不放逸。如修道中不放逸亦有爾許慧。是故等量義。是如實義。尊者和須蜜說曰。見四真諦。斷諸煩惱。云何分別。此是見道斷。此是修道斷耶。答曰。以見斷。以見制伏。以見吐諸煩惱。故言見道斷。復有說者。見道所斷煩惱。亦應言修道所斷。所以者何。見道中如實修可得故。如我義。以見斷。以見制伏。以見吐諸煩惱。名見道斷。何故名修道斷。答曰。隨所得道。行廣布。斷諸生分。斷其量。斷其種。漸使薄。令究竟斷。故名修道斷。復有作是說者。修道所斷煩惱。亦可言見道斷。所以者何。修道中亦有如實見故。如我義。隨所得道。修行廣布。斷諸生分。斷其量。斷其種。漸使薄。令究竟斷。故名修道斷。此是何義耶。答曰。見道是猛利道。若緣彼時九種煩惱一時斷。修道是不猛利道。數數修習九種煩惱。九時而斷。譬如利。鉄之刀。以用割物利者一下。鈍者數數乃斷。彼亦如是。復次若以見偏多道斷者。名見道斷。若以修偏多道斷者。名修道斷。復次若以二相道斷者。名見道斷。二相者。謂見相慧相。若以三相道斷者。名修道斷。三相者。謂見相慧相智相。復次若以四相道斷者。名見道斷。四相者。謂眼明覺慧。若以五相道斷者。名修道斷。五相者。謂眼明覺慧智。復次若以忍斷者是見道斷。以智斷者是修道

●見二有● ●卷第四十終● ●卷第四十一使捷度不善品之七首● ●卷第四十一使捷度不善品第一之七首● 造號釋號 號同異如第二十三 ●彼二此● ●此一彼● ●偏二偏● ●(修)十行● ●鉄二鈍● ●(便)十斷●

斷。復次九種結一時斷者是見道斷。九種結九時斷者是修道斷。復次以未知欲知根斷者是見道斷。以知根斷者是修道斷。復次斷時如石裂者是見道斷。斷時如藕、絕者是修道斷。復次與發意相違者是見道斷。與方便相違者是修道斷。復次未曾見諦。而見諦斷者是見道斷。已曾見諦。而重觀斷者是修道斷。復次以一因道斷者是見道斷。以二因道斷者是修道斷。復次如力士著鎧斷者是見道斷。如無足人行斷者是修道斷。復次若斷時。即彼智所知行修道者是見道斷。若斷時是餘智餘所知餘行修。是修道斷。復次若是向人不成。果斷者是見道斷。若是向成就果斷者是修道斷。復次若堅信堅法斷者。是見道斷。若信解脫見到身證斷者。是修道斷。復次若初出道斷者是見道斷。若數數出道斷者。是修道斷。復次若斷是四沙門果攝者。是見道斷。若斷或三或二或一沙門果攝者。修道斷。復次若緣無所有生者。是見道斷。若緣有所有生者。是修道斷。復次若斷已不退者。是見道斷。若斷已或退不退者。是修道斷。復次斷已更不縛不繫。是見道斷。斷已或縛或繫。是修道斷。復次若斷時。忍是無礙道智。是解脫道者。是見道斷。若斷時智。是無礙道智。是解脫道者。是修道斷。復次若斷時。智作方便道。忍作無礙道。智作解脫道者。是見道斷。欲若斷時。智作方便無礙解脫道者。是修道斷。復次若先得非數滅者。是見道斷。或先得非數滅。後得數滅。或先得數滅。後

得非數滅。或一時得數滅非數滅者。是修道斷。復次若斷時。緣一諦道修者。是見道斷。若斷時。緣四諦道修者。是修道斷。復次若斷時。四行道修者。是見道斷。若斷時。十六行道修者。是修道斷。復次若斷時。相似道修者。是見道斷。若斷時。相。似不相似道修者。是修道斷。復次若斷時。若一三昧修者。是見道斷。若斷時。若三三昧修者。是修道斷。復次若斷時。不起者是見道斷。若斷時或起或不起者是修道斷。此三結幾見。苦斷。乃至幾修道斷。乃至九十八使。幾見苦斷。乃至幾修道斷。問曰。何故作此論。答曰。前門止說頓斷沙門意。不止說一時見諦。亦不明次第見諦。今欲止一時見諦者。意亦明次第見諦。而作此論。復有說者。前門止說一時見諦者。意亦明次第見諦。而不龜現明了。今欲龜現明了。止一時見諦者。意亦明次第見諦。而作此論。復次欲顯現來種種煩惱及五種對治法。五種斷煩惱者。謂見苦斷。乃至修道斷。五種對治法者。謂苦忍苦智。是見苦斷對治。乃至道忍道智。是見道斷對治。智是修道斷對治。以如是事故。而作此論。此三結。幾見苦斷。乃至廣說。答曰。一見苦斷。謂身見。問曰。何故身見。唯見苦斷耶。答曰。緣苦生故。還見苦斷。復次此見緣果而生。若以慧觀果時。此見即斷。復次身見是顛倒性。一切顛倒盡見苦斷。若顛倒斷時。此見即斷。所以者何。同一對治故。

復次此煩惱龜故。以初無礙道斷。餘細煩惱。後金剛喻定斷。譬如塵垢不堅著者。抖擻便墮。若堅著者。乃以淳灰。多用功力然後乃淨。亦如瓦器。膩不深入。水蕩便去。若膩深入。以湯煮之。然後乃去。彼亦如是。復次以此見根不深入所緣地。以不深入故性劣。性劣故最初無礙道斷。餘煩惱根。深入所緣地。以後無礙道乃至金剛喻定斷。譬如樹根。不深入者。小風吹時。而能摧臥。其根深入者。大風吹時。不能令臥。彼亦如是。尊者須蜜說曰。何故身見。唯見苦斷。答曰。身見緣五陰。後如實見五陰時。身見便斷。復次此見從常想樂想淨想我想生。若見無常想苦想不淨想無我想。此見便斷。尊者佛陀提婆說曰。此見從自身生。故名身見。若見自身無我。此見便斷。戒取或見苦斷。或見道斷。問曰。何故戒取非見集見滅斷耶。答曰。為外道故。外道所行與苦道相違。不與集滅相違。所以者何。外道計集。如垢計滅。如洗浴處。為求洗浴處故。行種種苦行諸苦行故。煩惱垢益更染心。如人為去垢故。入濁水澡浴。更增其垢。彼亦如是。復次因苦生故。還見苦斷。因道生故。還見道斷。復次因垢生者。是見苦斷。因淨生者。是見道斷。復次內道所行。是見苦斷。外道所行。是見道斷。復次非因計因。是見苦斷。非道計道。是見道斷。疑見苦集滅道斷。問曰。何故修道斷中無疑耶。答曰。若未見其體。心生猶豫。已見其體。心則決定。是故修道所斷無有疑。三不善根

① 猶二藕絲 ② [絕]一 ③ 是十(諸道斷者是) ④ 者十(是) ⑤ 作二所 ⑥ [欲]一 ⑦ 見十(道) ⑧ 似十(道) ⑨ 苦二道 ⑩ 來二五 ⑪ [斷]一 ⑫ 唯二惟 ⑬ 揀二揀 ⑭ (功)十力 ⑮ 能二便 ⑯ 不二乃 ⑰ 行十(行) ⑱ 更十(增) ⑲ 垢二苦

三漏。見苦斷。乃至修道斷。總而言之。五種斷。或有一種二種四種五種斷者。餘門廣說。如經本。此門是廣說優波提舍毘婆沙。問曰。何故名見道斷乃至名修道斷耶。答曰。若緣決定。對治決定者。名見道斷。若緣不決定。對治不決定者。名修道斷。復次若處所決定。若緣決定。若對治決定者。名見道斷。若處所不決定。緣不決定。對治不決定者。名修道斷。復次若以苦忍苦智作對治。乃至道忍道智作對治者。名見道斷。若以智對治者。名修道斷。

復次若見苦斷者。名見苦斷。若見道斷者。名見道斷。若或見苦。或見集。或見滅。或見道斷者。名修道斷。復次若違苦者。名見苦斷。乃至若違道者。名見道斷。若違苦集滅道斷者。名修道斷。

阿毘曇毘婆沙論卷第二十八

阿毘曇毘婆沙論卷第二十九

迦旃延子造 五百羅漢譯

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

使健度不善品之五

◎此三結。幾是見幾非見。乃至九十八使。幾是見幾非見。問曰。何故作此論。答曰。或有說。一切煩惱皆是見性。問曰。彼何故作如是說耶。答曰。彼作是說。所行猛利。是見性。一

切煩惱。名於自分。所行猛利。如身見著我。所。邊見著斷常。邪見著無所有見取著第一。戒取著淨所行猛利愛。亦如是。於染著。愛。所行猛利。為斷如是說者。意亦明煩惱有是行亦猛利。為斷如是說者。意亦明煩惱有是見性。有非見性。而作此論。此三結。幾是見性。幾非見性。答曰。二是見性。謂身見戒取。一非見性。謂疑餘門廣說。如經本。問曰。何故名見耶。答曰。此中應廣說。如五見見處。

此三結。幾有覺有觀。幾無覺有觀。幾無覺無觀。乃至九十八使。幾有覺有觀。幾無覺有觀。幾無覺無觀。問曰。何故作此論。答曰。或有說。覺觀從欲界乃至有頂。如譬喻者說。彼何故作是說。彼依佛經。佛經中說。心龜是覺。心細是觀。此龜細相。從欲界乃至有頂中可得。尊者佛提婆說曰。阿毘曇者。作如是說。心次第相。方而有龜細。遍三界中。然從欲界乃至梵世。有覺有觀。如是說者。則名惡說。汝等作如是說。龜心是覺。細心是觀。此龜心細心。乃至有頂可得。然說覺觀從欲界乃至梵世中。有。是故汝等所說是惡說。非善說。惡受持。非善受持。阿毘曇人。作如是說。我等所說。是善說。善受持。非惡受持。所以者何。我以種種事故。說龜細相。非以一事。如說龜使細。是中不說覺龜觀細。所以者何。此一法。非覺觀相。如說色陰是龜。四陰是細。如是則說覺之與觀俱是細法。所以者何。同行陰攝故。如說欲界是龜。初禪是細。如是亦說覺觀是龜是細。所以者何。欲界初禪。俱有覺觀故。如

說。初禪地龜。二禪地細。如是則說覺觀是龜。所以者何。初禪地上。更無覺觀故。問曰。彼說初禪地上有覺觀者。云何復說三地差別。答曰。彼作是說。欲界初禪。乃至非想非非想處。有三種法。謂善染污不隱沒無記。禪中間乃至非想非非想處深染污法。是名有覺有觀地。禪中間善不隱沒無記法。是名無覺有觀地。第二禪已上乃至非想非非想處。善法不隱沒無記法。是名無覺。無觀地。問曰。若然者。彼云何通佛經。如經說。滅於覺觀。定生喜樂。入第二禪。彼作是答。滅善覺觀。非染污。問曰。若然者。為因何事。滅善覺觀。非染污耶。答。應先滅染污。後離地時。乃滅於善。但譬喻者說。上地有覺觀。當知此說是無因果。因果不動方便果。然覺觀欲界初禪中有故。欲止他義。乃至廣說。而作此論。此三結。幾有覺有觀。幾無覺有觀。幾無覺無觀。答曰。三結有三種。或有覺有觀。或無覺有觀。或無覺無觀。云何有覺有觀。答曰。在欲界初禪者。云何無覺有觀。答曰。在禪中間者。云何無覺無觀。答曰。在三禪及四無色者。餘門廣說。如經本。問曰。何故名有覺有觀。何故名無覺有觀。何故名無覺無觀耶。答曰。與覺俱觀俱。與覺相應觀相應。與覺俱現在前。是名有覺有觀。若不與覺俱。但與觀俱。不與覺相應。與觀相應。已滅覺與觀俱現在前。是名無覺有觀。若不與覺觀俱。亦不與覺觀相應。已滅覺觀。是名無覺無觀。復次若種種數。若種種觀。是名有覺有觀。若數觀不種數。是名無覺有觀。

◎道十(者)◎ ◎不分卷及品◎ ◎愛二處◎ ◎情二智◎ ◎癡二疑◎ ◎禪中深十二字二(欲界初禪善法不隱沒無記法三界)十四字◎ ◎答二法◎ ◎數二種◎

如經本說。邪見與四根相應。除苦根。總而言之。邪見與四根相應。然邪見在三界在欲界者。與三根相應。除苦根樂根。在初禪二禪者。與二根相應。謂喜根捨根。在第三禪者。與二根相應。謂樂根捨根。在第四禪及無色定。與一根相應。謂捨根。問曰。欲界邪見。何者與喜根相應。何者與憂根相應。答曰。有人本性。不好布施。不好祠祀。後若與邪見外道。共會一處。而聞是語。無施無祠祀。無善惡業報。聞是語時。心生信樂。便生喜心。我所行善好。如是邪見與喜根相應。有人性好行施祠祀。後若與邪見外道。共會一處。聞作是說。無施無祠祀。無善惡業報。聞是語時。心生信樂。便生憂心。我等所施。便為唐捐。所以者何。無果報故。如是邪見與憂根相應。此門是廣說。優波提舍毘婆沙。問曰。何故名相應。相應義如雜捷度相應因。中廣說。

此三結。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。問曰。何故作此論。答曰。或有說。嫉慳在欲界。世。彼何故作如是說。答曰。彼依佛經。佛經說。梵天王。語諸梵眾。我等皆共住此。不往詣沙門瞿曇所。而於此處。自能至老死。彼作是說。梵王以嫉慳故。而作是言。為止如是說者。意亦明嫉慳唯在欲界故。而作此論三結。或欲界繫。或色界繫。或無色界繫。此門義廣說。如經本。問曰。何故名欲界繫。何故名色界繫。無色界繫。答曰。縛欲界法故。名欲界繫。縛色無色界法故。名色無色界繫。如牛繫著柱名柱繫牛。彼亦如是。復次欲界足。為欲界法所

繫故。名欲界繫。色無色界足。為色無色界法所繫故。名色無色界繫。足名煩惱。如偈說。

佛有無量行 無足誰將去

如人有足。則得自在四方遊行。如是有煩惱足者。則能行於諸趣諸生。生死中。復次煩惱於欲界作居處。想我有想故。名欲界繫。色無色界煩惱。於色無色界。作居處。想我有想故。名色無色界繫。居處是愛。我有是見。以欲界愛潤故。見計我我所。以色無色界愛潤故。見計我我所。復次能生欲界樂欲故。名欲界繫。能生色無色界樂欲故。名色無色界繫。樂是愛。欲是見。復次為欲界生死法所繫故。名欲界繫。為色無色界生死法所繫故。名色無色界繫。復次為欲界垢所污毒所害患所過故。名色無色界繫。

諸結是欲界。彼結在欲界耶。是有六種。一界是。二趣是。三人是。四入是。五漏是。六自身是。界是者。如此中說。諸結是欲界。彼結在欲界耶。此中說。法處名是。欲界法。名欲界是。色無色界法。名色無色界是。趣是者。如說。法法施時。而作是言。一切是五趣眾。盡生死苦。人是者。如毘尼說。是二人。在僧數中。僧中可得。入是者。如波伽羅那說。云何色陰。十色入。及法入中色是。漏是者。如說。云何漏有漏法。身是者。如四大捷度說。云何大法。答曰。自身是。於六是中。以界是。而作論。不以餘是。在有四種。一自體在。二器在。

三所行在。四處所在。自體在者。一切諸法。自體自相自性。在自分中。器在者。如果在器中。如提婆達多在舍中。如器在。所行在處所在。義亦爾。此中以四在而作論。隨相而說。諸結是欲界。彼結在欲界耶。答曰。或結是欲界。彼結不在欲界。或結在欲界。彼結不是欲界。或結是欲界。彼結亦在欲界。或結不是欲界。彼結不在欲界。云何結是欲界。彼結不在欲界。耶。答曰。為纏所纏。魔波旬。住梵天上。欲與如來語言。問曰。魔波旬。為何纏所纏。欲與如來語言耶。答曰。為忿纏所覆故。欲與如來語言。復有說者。為嫉纏所覆故。欲與如來語言。復有說者。為慳纏所覆故。欲與如來語言。評曰。應作是說。為十纏所覆。起一一纏現在前。欲與如來語言。問曰。何故名魔。答曰。斷慧命故名魔。復次常行放逸。而害自身故名魔。何故名波旬。答曰。常有惡意。成就惡法。成就惡慧。故名波旬。波旬。尊者瞿沙說曰。應言波旬。所以者何。從波旬。生彼中故。惡論名國。住梵天上。欲與如來語言。問曰。魔王住梵天上。何所為耶。答曰。梵天諸魔。是此論本緣。曾聞佛住舍衛國給孤獨精舍。祇陀林中。爾時有一梵天。於梵天上。生如是惡見。而作是言。此處是常不斷棄出寂滅之法。更無有常不斷棄出寂滅之法勝此處者。爾時世尊。知彼梵天心之所念。譬如壯夫屈申臂頃。從祇陀林。忽然不現。至梵天上。去梵天不遠。而任其邊。爾時梵天。遙見如來。即便請之。而白佛言。善來大仙。此處是常不斷

①(中)一①② ③足一④是⑤⑥ ⑦(生)一⑧⑨ ⑩卷第四十一終⑪⑫ ⑬卷第四十二使捷度不善品之八⑭⑮⑯ ⑰卷第四十二使捷度不善品第一之八⑱ ⑲造號釋號號同異如卷第二十三 ⑳一⑳㉑㉒ ㉓漏十(法)⑳㉔ ㉕大⑳內⑳ ㉖(覽素言殺)一⑳ ㉗[波旬...惡]五字一⑳ ㉘惡十(也)⑳㉙㉚ ㉛[波旬...國]八字一⑳

棄出寂滅。更無有常勝此處者。而汝能捨欲界煩惱。亂種種苦事。而來此間。甚是快事。汝可於此安樂常住。爾時如來。告梵天言。此處非常。而汝說常。此處非是安樂寂靜棄出之處。而汝說是安樂寂靜棄出之處。汝為無明所覆。作如是說。汝應憶念過去諸梵墮欲界者。如華果落。爾時梵天。復白佛言。善來大仙。此處常樂。廣說如上。第二第三。亦如是說。爾時如來。亦第二第三。告梵天言。此處無常。乃至廣說。無明覆。汝應憶念過去諸梵墮欲界者。如華果落。爾時梵天。心作是念。今者如來。難可親近。難共語論。然諸梵法。在離欲地。志意閑靜。不能與佛競於言論。復作是念。魔王波旬。常與如來共相違逆。必能與佛競於言論。是時梵王。即致波旬。到梵天上。化作欲界地。而以安止。爾時梵天。復白佛言。大仙當知。此處是常。乃至更無勝者。爾時如來。復告梵王。此處無常。廣說如上。爾時波旬。白佛言。大仙汝莫違逆梵王所說。隨其教勅。常奉行之。汝若違逆梵王言者。猶如有人。功德天神。來入其舍。以杖驅之。我不須汝。汝若違逆梵王之言。亦復如是。亦如有人。從高轉墮。若其不以手足自御。復當更墮。如人墮樹。不堅執枝。則受苦痛。若堅執枝。不受苦痛。如是大仙。汝莫違逆梵王之言。如其所說。當奉行之。復白佛言。大仙今者不見梵眾及與我等圍遶梵王。隨順梵王不違其言耶。爾時世尊便作是念。今者惡魔。來留難我。知是事已。即告魔言。汝非梵王亦非梵王眷

屬。所言惡魔留難我者。汝身是也。爾時波旬便作是念。沙門瞿曇。今者已知我心所念。心懷恐怖。生厭離意。在一面坐而不能還。爾時梵王。以神足力。能令波旬還自在宮。是故彼經。即是此論本緣。亦為纏所纏。色界命終。生欲界中陰。凡夫人。色界命終。當生欲界。欲界中陰。在色界中而現在前。所以者何。法應如是。死陰滅處。即生中陰。猶如種子滅處。必生萌芽。彼亦如是。從死陰至中陰時。欲界三十六使。若一現在前。令生相續。是名結是欲界彼結不在欲界。此中是者是界是。在者除自體在。是餘三在。云何結在欲界彼結不是欲界。為纏所纏。欲界命終。生色界中陰。凡夫聖人。欲界命終。生色界中。色界中陰。在欲界中。所以者何。法應如是。死陰滅處。即生中陰。猶如種子滅處。即生萌芽。彼亦如是。凡夫人從死陰至中陰時。色界三十一使。若一現在前。令生相續。聖人從死陰至中陰時。色界修道所斷三使。若一現在前。令生相續。亦結是色無色界住欲界現在前。住欲界不死不命終。色無色界結現在前。凡夫三十一使。若一現在前。聖人修道所斷三使。若一現在前。如是等說。因愛行禪者。因慢行禪者。因見行禪者。因疑行禪者。是名結在欲界彼結不是欲界。在者是三在。是者是界是。云何結是欲界亦在欲界。為纏所纏。凡夫聖人。欲界命終。還生欲界中陰。凡夫人。生五趣無礙。聖人生二趣無礙。若生天中。若生人中。凡夫人。從死陰至中陰時。三十六使。若一現在前。令生相

續。聖人從死陰至中陰時。欲界修道所斷四使。若一現在前。令生相續。如從死陰至中陰。從中陰至生陰。說亦如是。亦結是欲界。住欲界現在前。住欲界不死不命終。起欲界結現在前。凡夫人。三十六使。若一現在前。聖人欲界修道所斷四使。若一現在前。是名結是欲界亦在欲界。此中是者是界是。在者是四在。云何結不是欲界亦不在欲界。為纏所纏。色界命終。生色界中陰。色界中陰。在欲界中者。是凡夫聖人。凡夫人亦生上亦生下。一一處有多生分。聖人生上不生下。一一處有一生分。凡夫人從死陰至中陰時。三十一使。若一現在前。令生相續。聖人修道所斷三使。若一現在前。令生相續。從中陰至生陰。說亦如是。色界命終。生無色界中。亦是凡夫聖人。凡夫人一一處有多生分。聖人一一處有一生分。凡夫人。從死陰至生陰時。無色界三十一使。若一現在前。令生相續。聖人三使。無色界命終。還生無色界。亦是凡夫聖人。凡夫人亦生上。亦生下。一一處有多生分。聖人生上不生下。一一處有一生分。凡夫人。從死陰至生陰時。三十一使。若一現在前。令生相續。聖人三使。無色界命終。生色界中。從死陰至中陰時。色界三十一使。若一現在前。令生相續。亦結是色無色界。住色界現在前。住色界不死不命終。亦是凡夫聖人。凡夫人。三十一使現在前。聖人三使現在前。如是等說。因愛行禪者。因慢行禪者。因見行禪者。因疑行禪者。住無色界。不死不命終。起

①(亂)一② ③(心)一④ ⑤(天)二王⑥ ⑦(常)二當⑧ ⑨(牙)二芽⑩下同 ⑪(是)一⑫

無色界三十一使現在前。亦是凡夫聖人。凡夫人起三十一使現在前。聖人三使。是名結不是欲界亦不在欲界。所以者何。在色無色界故。是者是界是在者是在。諸結是色界亦在色界耶。乃至廣作四句。前四句初句。作此第二句。前第二句。作此初句。前第三句。作此第四句。前第四句。作此第三句。諸結是無色界。亦在無色界耶。答曰。諸結在無色界。彼結亦是無色界。所以者何。無色界。唯有無色界繫結故。頗有結是無色界不在無色界耶。答曰。有是無色界結。住欲色界現在前。不死不命終無色界結現在前。亦是凡夫聖人。凡夫人起無色界三十一使現在前。聖人三使。如是等因愛因慢因見因疑行禪者。是名結是。無色界是者。是界是不在無色界。所以者何。在欲色界故。在者除自體在。是餘三在。諸結非是欲界亦非在欲界耶。乃至廣作四句。前四句初句。作此第二句。前第二句。作此初句。前第三句。作此第四句。前第四句。作此第三句。諸結非是色界。彼結亦非在色界耶。乃至廣作四句。如欲界說。諸結非是無色界。彼結亦非在無色界耶。答曰。諸結非是無色界。彼結亦非在無色界。頗結非在無色界。彼結非不是無色界耶。答曰。有。諸結非不是無色界。住欲色界現在前。住欲色界不死不命終。起無色界結現在前。亦是凡夫。亦是聖人。凡夫人起三十一使現在前。聖人三使。此結非在無色界中。所以者何。在欲色界故在者三在。除自體在。非不是無色界。所以者何。是無

色界結故。是者是界是。問曰。何故彼尊者立非句而作論耶。答曰。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復次欲現言論自在故。若人於言論。自在。則能以非句而作論。於言論不自在者。於正句猶不能作。何況非句耶。復次欲生弟子覺意故。若以非句作論。則生弟子覺意說法相此亦可爾。彼亦可爾。復次或有作非句而得長養者。如人品中作正句。彼人有四。彼人有三。彼人有二。非句。彼人有五。彼人有六。彼人有四。以是事故。彼尊者以非句而作論。見諦具足。世尊弟子。若色不斷。為色所繫耶。設為色所繫色不斷耶。乃至識亦如是。問曰。何故作此論。答曰。或有說。斷色有次第斷分齊斷段段斷。如外國法師作是說。如染污心心數法。九種斷色亦如是。為斷如是說者意故。亦明染污心心數法九種斷色善有漏不隱沒無記心心數法。於最後無礙道一時斷故。而作此論。問曰。何故染污心心數法九種斷色善有漏不隱沒無記心心數法。最後無礙道一時斷耶。答曰。以明無明常相妨。下下明斷上上無明。下中斷上中。上下斷上下。中下斷中上。中中斷中中。中上斷中下。上下斷下上。上中斷下中。上上斷下下。色善有漏不隱沒無記法。不妨明。不妨無明。但為明無明作所依處立足處。如燈明不與炷油器相妨與闇相妨。但炷油器。為燈明作所依處立足處。如是色善有漏不隱沒無記法。不與明無明相妨。而與明無明作所依處立足處。復次染污心心數法。隨幾種斷。不成就彼種。色

是染污者。住方便道時。即不成就。最後無礙道。斷色是善不隱沒無記者及餘善有漏不隱沒無記有為法。悉於最後無礙道。一時斷此諸法。雖已知已斷離三界欲猶故成就。是故為止他義欲顯己義。乃至廣說。而作此論。見諦具足。世尊弟子。色愛未斷。乃至廣說。問曰。為避何事。說見諦具足。為制何事。說世尊弟子。答曰。見諦具足。為避堅信堅法人。世尊弟子。為制愚小凡夫。問曰。何故堅信堅法人。不名見諦具足耶。答曰。若具足見四真諦。永斷邪見。是名見諦具足。堅信堅法人。見諦未具足。而當具足。未永斷邪見。而當永斷。復次若身中無四種無明愚闇。有四種智。名見諦具足。堅信堅法人。未捨四種無明愚闇。未具四種智。復次若裂四種猶豫疑網。生四種決定者。是見諦具足。堅信堅法人。未裂四種猶豫疑網。亦未具足四種決定。復次若身中無如霜雹煩惱邪見顛倒及諸惡行者。名見諦具足。堅信堅法人。無是事故。不名見諦具足。猶如霜雹無諸霜雹名為具足。彼亦如是。復次若能降伏四諦方士。是名見諦具足。堅信堅法。未能降伏四諦方士。故名不具足。問曰。何故凡夫不名世尊弟子耶。答曰。若聞佛所說。於四諦三寶。心無有異。凡夫不爾。或信佛語。或信外道語。復次若不事餘天。唯事於佛。是名世尊弟子。凡夫人。或事於佛。或事自在天等。復次若於佛有不壞信。是名世尊弟子。凡夫人。無於佛不壞信。故名世尊弟子。復次若於佛法。心不移動。猶如

◎唯二惟◎◎自在十(者)◎◎

門闕者。是名世尊弟子。凡夫輕躁。猶如樹花。復次若有所聞不為邪聞所壞。是名世尊弟子。凡夫若有所聞。則為邪聞所壞。問曰。此中誰是見諦具足世尊弟子耶。答曰。須陀洹。斯陀含。阿那含。阿羅漢。見諦具足世尊弟子。若色不斷。為色所繫。色若斷即時解脫。若解脫。即時斷。若先斷後得解脫。無有是事。染污心心數法。或有先斷後得解脫者。或有俱斷亦解脫者。染污心有九種。下下乃至上上。前八種先斷後得解脫。後一種亦斷亦得解脫。若上上斷餘八種有緣縛。乃至第八種斷下下種緣縛八種。所以者何。盡是一使展轉相使故。如是等說。是略毘婆沙。見諦具足世尊弟子。若色未斷。為色所繫耶。答曰。如是。設為色所繫。色不斷耶。答曰。如是。所以者何。先作是說。色若斷即時解脫。若解脫即時斷。若先斷後得解脫者。無有是事。須陀洹。斯陀含。五地色不斷。為色所繫。未離初禪欲。阿那含四地色不斷。為色所繫。乃至離第三禪欲。阿那含未離第四禪欲。一地色不斷。為色所繫。見諦具足世尊弟子。若受不斷。為受所繫耶。答曰。若為受所繫。彼受不斷。須陀洹。斯陀含。三界修道所斷。受不斷。為受所繫。未離初禪欲。阿那含八地。受不斷。為受所繫。乃至離無所有處欲。阿那含一地。受不斷。為受所繫。頗為受所繫。彼受非不斷耶。答曰。有。家家斯陀含一種子。彼欲界修道所斷上中結。彼結相應受。為下下結所縛。家家若斷三種。若斷四種。如彼結斷。彼相應受亦

斷。彼相應受。為若五若六種結所縛。斯陀含已斷六種結。如彼結斷。相應受亦斷。彼相應受。為三種結所縛。一種子若斷七種八種結。如彼結斷。彼相應受亦斷。彼相應受。為一種。若一種結所縛。如受想行識說亦如是。見諦具足世尊弟子。若色已斷。彼色不繫耶。答曰。如是。若色不繫。彼色斷耶。答曰。如是。所以者何。先作是說。若色斷即時解脫。若色解脫即時斷。若先斷後得解脫。無有是事。離色愛聖人。斷五地色。彼色不繫。離三禪欲。未離第四禪欲。阿那含四地色斷。彼色不繫。乃至未離初禪欲。阿那含一地色斷。彼色不繫。見諦具足世尊弟子。若受已斷。彼受不繫耶。答曰。若受不繫。彼受已斷。阿羅漢三界見道修道所斷受。已斷不繫。離無所有處欲。阿那含三界見道所斷八地修道所斷受。斷亦不繫。乃至未離初禪欲。阿那含三界見道所斷一地修道所斷受。斷亦不繫。須陀洹斯陀含三界見道所斷受。斷亦不繫。頗有斷非不繫耶。答曰。有。家家斯陀含一種子欲界繫修道所斷上中結斷。彼所斷結相應受。為下結所繫。家家若斷三種。若斷四種。如彼結斷。受亦斷。彼相應受。若為五種若六種結所繫。斯陀含斷六種結。如彼結斷。受亦斷。彼相應受。為三種結所繫。一種子。若斷七種。若八種結。如彼結斷。受亦斷。彼相應受。若為一種。若二種結所繫。如受想行識說亦如是。問曰。家家須陀洹所不攝須陀洹。斷上。上中結者。為下。若七若八種結所繫。此中何以不說耶。答曰。

應說而不說者。當知此說有餘。復次此是壞相不定故不說。若是不壞是定相者。此中則說問曰。如色無色界結亦可爾。如離初禪上上結為八種結所繫。乃至八種結斷。為一種結所繫。乃至非想非非想處結斷亦如是。何以但說欲界結。不說色無色界耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次此現初義。若說欲界。當知說色無色界亦爾。復次以欲界結斷時。生種種人名。若斷三種四種。名家家。若斷六種。名斯陀含。若斷七八名一種子。離色無色結更無如是異人名故。是以不說。問曰。下結斷亦可爾。如下上煩惱斷。為下中下下結所縛。若下上。下中結斷。為下下結所縛。何以但說上中。不說下耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。如上上結斷。為下八種結所縛。若斷二種。為七種所縛。如是一一種斷。皆為下所縛。但不能一一作文。是故略說。家家是須陀洹差別。一種子是斯陀含差別。家家者。若在二家。若在三家。二家者。斷四種結。餘有二有種子。三家者。斷三種結。餘有三有種子。家家無有斷五種結者。所以者何。若能斷五種。必斷第六種。得斯陀含果。所以者何。第六種結。性羸劣不能障礙留難。斯陀含果。猶如一。礙不能制象。彼亦如是。一種子斷。若七若八種結。餘有一種子。問曰。餘有二種結在。何以言一有種子耶。答曰。不。以一種結在名一種子。以有一有種子故。名一種子。復有說者。無有盡八種結一種子者。所以者何。若斷八種結。必得離欲界九種結。不能

◎色十(法)◎ ◎繫二縛◎ ◎為若二若為◎ ◎縛二繫◎ ◎含二含◎ ◎上十(上)◎ ◎下二上◎ ◎疑二疑◎

障礙留難離欲法故。復有說者。有斷八種結一種子者。無有說斷五種家須陀洹。所以者何。若斷五種。必斷六種。得斯陀含。第六種結。性羸劣不能障礙留難斯陀含果。問曰。第九種結亦性羸劣。不能障礙留難。若一種子。能斷第八種者。亦能斷第九種。而得離欲。答曰。家家須陀洹。若斷六種結。猶在欲界中生。所有決定已熟業。應於欲界而受報者。不能障礙留難斯陀含果。一種子斷九種結。更無欲界生分所有決定已熟業。應於欲界而受報者。能障礙留難。不得離欲。作如是說者。衆生有三時煩惱業。能極障礙留難。一頂向忍時。二聖人離欲界欲時。三得阿羅漢果時。頂向忍時者。諸惡趣決定業。極爲障礙留難。若起忍者。我等於誰身中。而受報耶。聖人離欲界欲時者。欲界決定諸業。應受報者。極作障礙留難。若離欲者。我等於誰身中。而受報耶。得阿羅漢果時。決定應受未來有業。極作障礙留難。若得阿羅漢果。我等於誰身中。而受報耶。是故有斷八種結。是一種子者。無有斷五種是家家須陀洹。家家有二種。有人中家家。天中家家。天上。若一生若三生。若一天中。若二天中。若三天中。或一天中。一天下。或二天下。或三天下。若一天下。或一天二家三家中。生一種子。天中一種子者。天中有一生分。人中一種子者。人中有一生分。以三事故名家家。一以業。二以根。三以斷結。以業者。或造二生業報。或造三生業報。以根者。得無漏

根故。斷結者。若斷三種。若斷四種結。於此三事。不具一事。不名家家。以三事故。名一種子。一以業。二以根。三以斷結。以業者。造一生業報。以根者。得無漏根故。斷結者。若斷七種。若斷八種結。於此三事。不具者。不名一種子。問曰。聖人住欲界受身造業不耶。答曰。或有說者。不造。所以者何。以欲界多過患故。雖不作受身造業。而作受身。滿業。問曰。若聖人不作欲界受身造業者。此云何通如說。爾時世尊。讚說彌勒成佛時事。會中有未離欲學人。聞說是已。皆共立願。使我聞見此好妙事已。然後乃般涅槃。答曰。此須臾時。於所須物。無所乏少。不爲苦痛所逼。而有所願求。若爲苦痛所逼。於一切生處。更無願求。我若能如鳥飛於空者。卽於今日。而般涅槃。若作是說。聖人不作欲界受身造業者。彼作是說。彼家家。若二生三生造業。於凡夫時造。若斷三種四種結。或凡夫時造。或聖人時斷一種子。有一生分業。亦凡夫時造。彼若斷七種八種結。或凡夫時斷。或聖人時斷。復有說者。聖人住欲界受身處造業。聖人所造者。清淨妙好。無諸苦患。隨順善法。若作是說。聖人住欲界。身受身處造業者。家家須陀洹。造二生若三生。必受報業。此業或凡夫時造。或聖人時造。斷若三。若四種結。或凡夫時斷。或聖人時斷。一種子造一生。必受報業。此業或凡夫時造。或聖人時造。斷若七若八種結。或凡夫時斷。或聖人時斷。問曰。若人中得須陀洹斯陀含果。命終已生欲界天中。得阿那含果。彼

命終已爲生色無色界中不耶。若生者。增一經說云何通。如說。有五人。此間種子。此間畢竟。五人者。一受七有人。二家家人。三斯陀含人。四一種子人。五現法般涅槃人。此間種子者。此間得正決定。此間畢竟者。此間盡漏。復有五人。此間種子。彼間畢竟。一中般涅槃。二生般涅槃。三有行般涅槃。四無行般涅槃。五上流般涅槃。此間種子者。此間得正決定。彼間畢竟者。彼間得盡漏。若不生者。帝釋所問經云何通。如偈說

若知於此法 俱生梵世中
於諸梵中勝 威德最在前

卽此經說。復云何通。如帝釋白佛言。世尊如我所行正行。若有爲我重解說者。我當勝進得阿羅漢果。能盡苦際。我所行正行。若無人爲我說者。我必生彼妙色摩訶摩天中。諸根具足。無有缺減。亦不卑陋。有清淨色。以愛樂爲食。身出光明。飛行虛空。壽命長遠。於此命終。當生如是天中。答曰。或有說者。如此聖人不生色無色界中。問曰。若然者。增一經善通。如說。有五種人。此間種子。此間畢竟。帝釋所問經云何通。如偈說。若知於此法。乃至廣說。答曰。此所說者。不說死。亦不說生。何以知之。曾聞。釋女瞿夷。有三比丘。常入其舍。以清淨音聲。爲其唄唱。亦數數爲說法要。爾時瞿夷。以聞法故。心生欣樂。厭患女身。願男子身。命終之後。生三十三天。爲帝釋子。時彼諸天。卽爲立字稱。瞿夷天子。時三比丘。以自愛音聲。生於下處。毘闍婆中。* 捷

①滿二漏 ②若二者 ③[身]一 ④愛二受 ⑤唱二偈 ⑥捷二乾

闍婆。是諸天作樂神也。朝夕常為諸天作樂。爾時瞿夷天子。見便誡之。而語之言。我因汝等。生信樂心。厭患女身。成男子身。命終之後。今得生此為帝釋子。汝等淨修無上梵行。何緣生。卑下。捷闍婆中。時捷闍婆。聞天子言。心生厭離。得離欲愛。二以神足力。往梵天中。一猶住此。以是事故。知其不死。亦復不生。復有說者。彼二此間。死生彼中。本於人中。得達分善根。聞瞿夷天子所言。心生厭患。得正決定。後離欲愛。得阿那含果。命終之後。生梵世中。雖死雖生。非本人中。得須陀洹斯陀舍者。問曰。若然者。帝釋所問經第二說云何通。如說。我所行正行。乃至廣說。答曰。帝釋雖當得道果。以不知阿毘曇相義故。作如是說。問曰。即於佛前。而作是說。佛何以不呵之耶。答曰。佛知此說。不能障道。後入法時。自當知之。復有說者。如此聖人。生色無色界。問曰。若然者。帝釋所說經善通。增一經云何通。答曰。聖人不定。或有轉行。有不轉行。若轉行者。如帝釋問經說。不轉行者。如增一經說。是則二經俱通。評曰。如此聖人。不生色無色界。所以者何。聖人易世。必有三事。一不退。二不轉根。三不生色無色界。所以者何。聖道於彼身中。以是舊住故。阿毘曇毘婆沙論卷第二十九

阿毘曇毘婆沙論卷第二十二

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等
譯

使捷度。不善品之六

五人。堅信。堅法。信解脫。見到。身證。堅信人。於此三結。幾成就幾不成就。乃至九十八使。幾成就幾不成就。幾不成就。乃至九十八使。幾成就幾不成就。就問曰。何故彼尊者。於使捷度中。因五人而作論。智定捷度中。因七人而作論耶。答曰。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復次此使捷度。因有使人而作論。智定捷度。因有使無使人。但有智定者。而作論。有結說亦如是。復次彼尊者。以人為章。以煩惱為門。慧解脫俱解脫人無結故。不立門。智定捷度。以人為章。以智定為門。慧解脫俱解脫人。有智定故。而立門。以是事故。彼尊者於使捷度中。因五人而作論。智定捷度中。因七人而作論。七人。堅信。堅法。信解脫。見到。身證。慧解脫。俱解脫。云何堅信人。猶如有一。多敬多信。多淨多愛。多隨所聞而解了。不好多思。不多量。不多察。不多選擇。如好信乃至多隨所聞而解了故。若聞佛及佛弟子說法教授。為說苦空無常無我。彼作是念。能為我說苦空無常無我。甚是快事。我應修行苦空無常無我。彼修行苦空無常無我時。能生世第一法。次生苦法

忍。知欲界諸行是苦空無常無我。乃至未生道比智。是名堅信人。堅信人。或是證須陀洹果向。或是證斯陀含果向。或是證阿那含果向。若是具縛。若斷五種結。得正決定。在見道十五心頃。是證須陀洹果向人。若斷六種結。乃至斷八種結。得正決定。在見道十五心頃。是證斯陀含果向人。離欲界欲。乃至離無所有處欲。得正決定。在見道十五心頃。是證阿那含果向人。云何堅信人。猶如有一性好多思。多量。多察。多選擇。不好多信。乃至不好隨所聞而解了。以性好多思。乃至多選擇故。若聞佛及佛弟子說法教授。乃至廣說。如堅信人。是名堅信人。云何信解脫人。即彼堅信人。得道比智。捨堅信名。得信解脫名。問曰。為捨何等耶。答曰。捨名得名。捨道得道。捨名者。捨堅信名。得名者。得信解脫名。捨道者。捨見道。得道者。得修道。信解脫人。或是須陀洹。或是斯陀含向。或是斯陀含。或是阿那含向。或是阿那含。或是阿羅漢向。住須陀洹果。更不勝進。名須陀洹。若勝進。名斯陀含向。住斯陀含果。不勝進。名斯陀含果。若勝進。名阿那含果向。若住阿那含果。不勝進。名阿那含。若勝進。名阿羅漢果向。云何見到人。堅信人。得道比智。捨堅信名。得見到名。問曰。為捨何等。得何等耶。答曰。捨名得名。捨道得道。乃至廣說。如信解脫人。云何身證人。答曰。若人以身證八解脫。非以慧盡餘漏。是名身證人。云何慧解脫人。若人。不以身證八解脫。以慧斷餘漏。是名慧解脫人。云何俱解

①生十(此)②③ ④卑二果⑤ ⑥第二十九—第四十二⑦⑧ ⑨第三十一—第四十三⑩⑪ ⑫捷一捷⑬ ⑭不善品之六二不善品之九⑮⑯⑰, 不善品第一之九⑱ ⑲捷度二捷度⑳下同 ㉑慧一慧⑳㉒下同 ㉓[信]—㉔ ㉕道十(中)⑶* ㉖[果]—㉗*

脫人答曰。若人以身證入解脫。以慧盡餘漏。是名俱解脫人。問曰。何以名俱解脫耶。答曰。煩惱障是一分解脫障。是一分斷。此二障名俱解脫。問曰。若得阿羅漢。後得滅盡定。離於解脫障時。有漏心得解脫耶。無漏心得解脫耶。答曰。或有說者。有漏心得解脫。所以者何。無心定時得解脫。評曰。應作是說。有漏無漏心得解脫。所以者何。身得解脫。世得解脫。若不得滅定時。出定入定心。於彼身不行。若於彼身不行。於世亦不行。若得滅定時。入定出定心。則於身中行。以於身中行故。於世亦行。如說俱解脫人義。餘人義亦應說。問曰。何故名堅信人。答曰。此人依信生信。依有漏信。生無漏信。依縛信。生解脫信。依繫信。生不繫信。如是等人。本性多信。若一語言。男子汝應田作。可以自活。彼聞是語。而不思。惟應作不應作。能作不能作。有宜便無宜便。聞已便作。若復語言。男子汝應商估學習兵法。親近王者。學書算數。以此業自活。彼不思惟。應作不應作。能作不能作。有宜便無宜便。聞已便作。若復語言。男子汝應出家。彼不思惟。我應出家。不應出家。有宜便無宜便。能守護梵行為。不能守護梵行。聞是語已。即便出家。既出家已。若復語言。比丘汝應勸化。彼不思惟。我於勸化有力耶。無力耶。能辦不能辦耶。聞已便作。若復語言。比丘汝應學誦習。彼不思惟。我為能辦誦習。不能辦耶。為當誦習修多羅。毘尼阿毘曇耶。聞已誦習。若復語言。比丘汝應住阿練若。處習阿練若法。亦不思惟。能與

不能聞已便作。以是因緣。轉近聖道。彼於後時。生世第一法。次生苦法忍。乃至未得道比智。於見道十五心頃。是名堅信人。問曰。何故名堅信人。答曰。此人因法生法。因世法。生出世法。因有漏法。生無漏法。因縛法。生不縛法。如是等人。本性好思量。若有人語言。男子汝應田作。可以自活。彼便思量。我能不能為有宜便無宜便。廣說如堅信人。皆悉思量。以是因緣。轉近聖道。彼於後時。生世第一法。次生苦法忍。乃至未生道比智。於見道十五心頃。是名堅信人。問曰。堅信人。有爾許信。亦有爾許慧。堅信人。有爾許慧。亦有爾許信。何故一名堅信。一名堅法耶。答曰。或信他言入聖道。或有內自思惟入聖道。若信他言入聖道者。名堅信。若內自思惟入聖道者。名堅法。復次。或有以定入聖道。或有以慧入聖道。若以定入聖道者。名堅信。若以慧入聖道者。名堅法。如以定以慧。定多慧多。樂定樂慧。鈍根利根。從他聞法力。依內思惟力。親近善知識。聞於正法。內自思惟。如法修行。先以定修心。後得慧解脫。先以慧修心。後得定解脫。或有得內心定不得慧。或有得慧不得內心定。無貪偏多。無癡偏多。說亦如是。問曰。何故名信解脫。答曰。以信觀信。從信得信。以信觀信者。以見道信。觀修道信。從信得信者。從向道信。得果道信。是名信解脫。復次。此人以信故。於三結心得解脫。是名信解脫。何故名見到。答曰。此人以見到見。以見道見。到修道見。以向道所攝見。到果道所攝見。復次。此人

以見故。於三結心得解脫。是名見到。問曰。如信解脫。亦可言信到。如見到。亦可言見解脫。何故一說信解脫。一說見到耶。答曰。應說如說信解脫。亦應說信到。如說見到。亦應說見解脫。而不說者。有何意耶。答曰。欲現種種文故。乃至廣說。何故名身證。答曰。若信解脫。若見到得滅定。捨信信解脫見到名。得身證名。為捨何等得何等。外國法師。作如是說。捨名得名。捨道得道。捨名者。捨信解脫見到名。得名者。得身證名。捨道者。捨信解脫見到道。得道者。得身證道。屬賓沙門。作如是說。捨名得名者。捨信解脫見到名。得身證名。若不得滅定得阿羅漢果。名慧解脫。若得滅定。得阿羅漢果。名俱解脫。問曰。如見道中有二人。堅信堅法。修道中有二人。信解脫見到。何故無學道中。唯說一人耶。答曰。或有以世俗道。離欲。界欲乃至離無所有處欲。或以無漏道。若離非想非非想處欲時。合為一道故。唯說一人。復次。或有偏行貪者。或有不者。若離非想非非想處欲時。身中無貪。同一相故。唯說一人。復次。或有偏行癡者。或有不者。若離非想非非想處欲時。身中無癡。同一相故。唯說一人。偏行慢者。說亦如是。復次。解脫等故。如說。如來等正覺所得解脫漏盡。阿羅漢比丘所得解脫。此二解脫。等無差別。復次。以俱除三界煩惱螺髻故。俱不欲未來。有。俱出最後。開要故。復有說者。無學地亦說二種人。一時解脫。二不時解脫。問曰。若然者。聖人則有六。見道有二。堅信堅法。修道有

①惟二唯② ③能二作④ ⑤唯二推⑥ * ⑦[界欲]-⑧ ⑨開二關⑩

二信解脫見到。無學道有二時解脫不時解脫。云何施設有七人耶。答曰。以五事故。施設七人。一以方便。二以根。三以定。四以解脫。五以定以解脫。以方便者。是堅信堅法。以根者。是信解脫見到。以定者。是身證。以解脫者。是慧解脫。以定以解脫者。是俱解脫。應說一堅信人。如七人中。一人以根故應說三堅信人。謂上中下根。以性故應說五堅信人。謂退法乃至必勝進。以道故應說十五堅信人。謂苦法忍乃至道比忍。以離欲故。應說七十三堅信人。欲界有具縛人。有離一種欲。乃至離九種欲。初禪離九種欲。無具縛人。所以者何。離欲界欲。即是初禪具縛乃至離無所有處一種欲。乃至離九種欲所依身者。閻浮提有七十三。瞿陀尼有七十三。弗婆提有七十三。四天王乃至他化自在天。各有七十三若在一一身一剎那。則有無量無邊堅信人。此中總說。一堅信人。堅法人說亦如是。唯除以性故者。所以者何。彼是不動性故。應說一種信解脫人。如七人中。一人以根故。應說三。以性故應說五。以離欲故應說八十二。欲界具縛離一種欲。乃至離九種欲。乃至離無所有處欲亦如是。離非想非非想處一種欲。乃至離八種欲。及斷第九種欲時。所依身者。欲界有八十二。初禪有七十三。第二禪有六十四。第三禪有五十五。第四禪有四十六。空處有三十七。識處有二十八。無所有處有十九。非想非非想處有十具縛。斷八種欲。及斷第九種欲時。若以在身。以剎那。則有無量無

邊信解脫。此中總說一信解脫人。如信解脫。見到說亦如是。唯除以性故者。所以者何。彼是不動性故。應說一身證人。如七人中。一人以根故應說三。以性故應說六。以離欲故應說十。非想非非想處具縛。離一種欲。乃至離八種欲。及斷第九種欲時。所依身者。欲界有九。色界有九。無色界有九。若以在身。以剎那。則有無量無邊。此中總說一身證人。應說一慧解脫人。如七人中。一人以根故應說三。以性故應說六。所依身者。有三依欲界身。色界身無色界身。若以在身。以剎那。則有無量無邊。此中總說一慧解脫人。俱解脫亦如是。堅信人。於此三結變成幾不成就。先作是說。彼尊者以人為章。以煩惱為門。今欲以煩惱門明人。堅信人。苦比智未生。於此三結。一切成就若生。成就。謂戒取疑。一不成就。謂身見。餘廣說如經本。乃至離色愛。滅比智。生欲色界。一切不成就及無色界苦集滅所斷。一切不成就。餘者成就問曰。何故不說道比智耶。答曰。道比智若生。名信解脫。如堅信。堅法亦如是。所以者何。此二。地等。道等。離欲等。所依身等。定等。生處等。唯根有差別。若鈍根者名堅信。利根者名堅法。信解脫人。於此三結。一切不成就。廣說如經本。如信解脫。見到亦如是。所以者何。此二。地等。道等。離欲等。所依身等。定等。生處等。唯根有差別。若鈍根者名信解脫。若利根者名見到。身證人。於此三結。一切不成就。餘廣說如經本。此中應作論。頗有聖人成就九十八使耶。答曰。

有。具縛人。住苦法忍時。頗有人斷八十八結不斷十*結而不得果耶。答曰。有。離色愛人。得正決定。滅比智時。欲界三十六使斷。色界三十一使。無色界苦集滅諦所斷二十。一使。十不斷者。無色界道諦所斷七使。修道所斷三使。彼不得果。所以者何。是向道故。頗有九十八使斷而非阿羅漢耶。答曰。有。離無所有處欲。未離非想非非想處欲。欲界三十六使斷。色界三十一。無色界空處識處無所有。處三十一使。彼非是阿羅漢。所以者何。凡夫人亦斷。阿那含亦斷。評曰。不應作此論。所以者何。以界故立煩惱。不以身見於身見有幾緣。問曰。何故作此論。答曰。或有說。緣無體。如譬喻者。彼何故作是說耶。答曰。彼依佛經。佛經說。無明緣行。無明是一相行。是若干相。云何一相法。與若干相作緣。尊者佛陀提婆說曰。諸師所說。緣但有名而無體。為止如是說者。意亦明緣有實體。若當緣無體者。一切諸法亦無體。所以者何。一切有為法。盡是因緣次第緣。除過去現在阿羅漢最後心。餘過去現在一切心心數法。境界緣。威勢緣。一切法是復次若緣無體者。一切諸法。無甚深義。諸法若不緣相觀察。則淺近易知。若以緣相觀察諸法則深過四海。唯佛智能知。非餘所知。復次若緣無體者。則不施設有三種菩提。若以上智觀於緣相。名佛菩提。若以中智。名辟支佛菩提。若以下智。名聲聞菩提。復次若緣無體者。則無上中下覺差

◎人一八◎ ◎一十(聖)◎ ◎結二使◎ ◎一八二◎

別。若下覺者常是下覺。中覺常是中覺。上覺常是上覺。以觀緣相故。下覺可令中。中可令上。是故尊者瞿沙。作如是說。若緣無體者。則師不能教授弟子。使覺性增廣。以緣有體故。則師教弟子。下覺爲中。中覺爲上。本是弟子。後便爲師。以是事故。當知緣實有體相。問曰。若緣實有體者。譬喻者所說經。云何通。答曰。無明體雖一相。所作有若干。以若干義門。爲行作緣。猶如一人有五種能人。雖是一而有五能。彼亦如是。復次所以作論者。欲現一切有爲法性羸劣。無自力由他不自在。無所欲作故。而作此論。或有說。有爲法自性羸劣。或有說。由羸劣因緣生。故性羸劣如說。比丘當知。色是無常。能生色因緣。亦是無常。因緣生者。色云何是常。以有爲法性羸劣故。或有從四緣生者。三緣生者。二緣生者。乃至無有從一緣生者。何況無緣。如衆多羸病人。或須四人扶者。或須三人。或須二人。乃至無有一人能扶起者。何況無人而能起耶。彼亦如是。無自力者。無有自力勢用。而能生由他者。若無自力名爲由他不自在者。莫令我生。莫令我滅。不得自在。無所欲作者。無有如是欲作之心。誰作我。我當作何欲現諸法性劣。乃至無所欲作故。而作此論。復次所以作論者。欲止於緣起法過故。或謂。緣起法。唯無明緣行。乃至生緣老死。更無緣起法。欲令此義決定。若法從緣生。即是緣起。此中應說僧伽婆修喻。是故爲止他義欲顯己義。乃至廣說。問曰。身見於身見。有幾緣。答曰。或四三二一。問

曰。何故彼尊者作論。此中間身見於身見有幾緣。答或四三二一。如智健度問法智於法智有幾緣。答因次第。緣境界威勢緣。耶。答曰。彼作經者意欲爾。乃至廣說。復次爲現二門二略。乃至廣說。此身見於身見。有幾緣。答或四三二一。法智於法智有幾緣。亦應如是。答。或四三二一。彼法智於法智有幾緣。答因次第境界威勢。此中身見於身見有幾緣。亦應如是。答。因次第境界威勢。復次此說。是了義。彼說是未了義。乃至廣說。此是實諦。彼是世諦。復次此中分別四種法。一分別界。二分別世。三分別剎那。四分別次第。彼但分別次第。身見於身見有幾緣。答曰。或四三二一。云何四。身見次第生身見。即緣前生身見。前生身見。與後身見作四緣。謂因次第境界威勢。如一身見剎那。後次生第二身見剎那。若後生身見。緣前生身見者。前生身見。與後生身見作四緣。謂因次第境界威勢。因緣者。有二因。謂相似因。一切遍因。次第緣者。後生身見。次前身見後生。境界緣者。後生身見。即緣前生身見。因緣者如種子法。次第緣者。如開。道法。境界緣者。如執杖起法。威勢緣者。是不相障礙法。後生身見。受前。身四緣威勢。能行世能取果。能有所作。能知境界。云何三。答曰。如身見次第生身見。不緣前身見。前生身見。於後身見。因次第威勢無境界。如一身見剎那。次生第二身見剎那。後生身見。雖不緣前生身見。或緣色陰。或緣受陰。或緣想陰。或緣識陰。除身見。或緣餘行陰。前生身

見。與後生身見作三緣。因次第威勢無境界。因緣者有二因。謂相似因。一切遍因。次第緣者。後生身見。次前身見後生。無境界。以不緣前身見故。因緣者。如種子法。次第緣者。如開導法。威勢緣者。是不障礙法。後生身見。受前身見三緣故。能行世。能取果。能有所作。能知緣。能知境界。復有三緣。如身見次第生不相似心。後還生身見。即緣前身見。前生身見。與後生身見。因境界威勢。無次第。如一身見剎那。後生身見。因境界威勢。無次第。如一身見剎那。後生身見。與後生身見。即緣前身見。前生身見。與後生身見。作三緣。謂因境界威勢無次第。以生不相似心。故境界緣者。以緣前身見故。後生身見。受前身見三緣勢故。能行世。乃至廣說。云何二。如身見次第生不相似心。後生身見。不緣前身見。前生身見於後生身見。因緣威勢。無境界緣。次第緣。如一身見剎那。後生第二身見剎那。或生邊見。乃至生善不隱沒無記心。還生身見。雖不緣前身見。或緣色陰。乃至識陰。除身見。亦緣餘行。除前生身見。與後生身見。作二緣。謂因緣威勢。因緣者。有二因。謂相似因。一切遍因。威勢緣者。不障礙。故無境界緣。不緣前身見。無次第緣。後生身見。不。次前身見後生。後生身見。受前身見二緣勢故。能行於世。廣說如上。云何一。後生身見。於前生身見。若緣者。境界緣威勢。若不緣者。一威勢緣。問曰。何故問一緣。

①義門二門義②③ ④[緣]一⑤⑥ ⑦耶一也⑧⑨ ⑩道二導⑪⑫ ⑬身十(見)⑭⑮ ⑯身見乃至見不緣四百九十九字增上寺宋本落張
⑰除二陰⑱⑲ ⑳大二以㉑㉒

心命終欲界戒取。俱心令生相續。欲界戒取。即緣色界身見。色界身見。於欲界戒取。有三緣。謂次第境界威勢緣。次第緣者。欲界戒取。次色界身見後生。境界緣者。欲界戒取。緣色界身見故生。威勢緣者。不相障礙故。無因緣。以界以地。因各異故。若不作次第緣。不作境界緣。一威勢緣。若不住色界身見。俱心命終欲界戒取。俱心令生相續。不緣色界身見。故生。色界身見。於欲界戒取。一威勢緣。無因緣。以界以地。因各異故。無次第緣。以不次色界身見後生故。無境界緣。以不緣色界身見。故。以不相障礙故。一威勢緣。欲界身見。於無色界戒取。一威勢緣。無色界身見。於欲界戒取。廣說如上。色界身見。於無色界戒取。廣說如上。無色界身見。於色界戒取。廣說如上。如身見於戒取。於邪見於見取於疑於無明。說亦如是。是名身見於一切遍。一切遍於一切遍者。如邪見於邪見。於見取於戒取於疑於無明。戒取於見取於戒取於疑於無明於邪見。戒取於戒取於疑於無明於邪見於見取。疑於疑於無明於邪見於見取於戒取。無明於無明於邪見於見取於戒取於疑。是名一切遍於一切遍。不一切遍於一切遍者。如身見於戒取。於邪見於見取於疑於無明亦如是。如身見。邊見愛患慢說亦如是。是名不一切遍於一切遍。若問諸法攝。應以入觀察。若問智。應以諦觀察。若問識。應以界觀察。若問煩惱。應以種觀察。若如是觀察。則法體相。易知易見。此中間煩惱。應以種觀察。法有五種。見苦斷

種。乃至修道斷種。見苦所斷有二種。一一切遍。二不一切遍。見集所斷亦如是。見滅所斷有二種。一緣有漏。二緣無漏。見道所斷亦如是。修道所斷非一切遍。見苦所斷一切遍。於見苦所斷一切遍。因次第境界威勢緣。因緣者。有四因。謂相應因。共生因。相似因。一切遍因。次第緣者。見苦所斷一切遍。次第生見苦所斷一切遍。境界緣者。見苦所斷一切遍。即緣見苦所斷一切遍。威勢緣者。不相障礙故。見苦所斷一切遍。於見苦所斷一切遍。因次第境界威勢緣。因緣者。有二因。謂相似因。一切遍因。次第緣者。見苦所斷一切遍。次第生見苦所斷一切遍。境界緣者。見苦所斷一切遍。緣見苦所斷一切遍。威勢緣者。不相障礙故。見苦所斷一切遍。於見集所斷一切遍。因次第境界威勢緣。因緣者。一因。謂一切遍因。次第緣者。見苦所斷一切遍。次第生見集所斷一切遍。境界緣者。見集所斷一切遍。緣見苦所斷一切遍。威勢緣者。不相障礙故。見苦所斷一切遍。於見集所斷一切遍。見滅所斷見道所斷修道所斷。因次第威勢緣。無境界緣。因緣者。一因。謂一切遍因。次第緣者。見苦所斷一切遍。次第生彼諸使。境界緣者。彼諸使。緣於自種。不緣他種。威勢緣者。不相障礙故。見苦所斷一切遍。於見苦所斷一切遍。因次第境界威勢緣。因緣者。有三因。謂相應因。相似因。共生因。次第緣者。見苦所斷一切遍。後次第生見苦所斷一切遍。

境界緣者。見苦所斷一切遍。緣見苦所斷一切遍。威勢緣者。不相障礙故。見苦所斷一切遍。於見苦所斷一切遍。因次第境界威勢緣。因緣者。有一因。謂相似因。次第緣者。見苦所斷一切遍。後次第生見集所斷一切遍。境界緣者。見集所斷一切遍。緣見苦所斷一切遍。威勢緣者。不相障礙故。無因緣。所以者何。不一切遍使。不為他種作因。見苦所斷一切遍。於見集所斷一切遍。見滅所斷見道所斷修道所斷。次第威勢緣無因緣。無境界緣。次第緣者。見苦所斷一切遍。後次第生彼諸使。威勢緣者。不相障礙故。無因緣。所以者何。不為他種所緣。如見苦所斷一切遍。不一切遍。見集所斷一切遍。說亦如是。

◎見滅所斷有漏緣使。於見滅所斷有漏緣。因次第境界威勢緣。因緣者。有三因。謂相應因。共生因。相似因。次第緣者。見滅所斷有漏緣使。後次第生見滅所斷有漏緣使。境界緣者。見滅所斷有漏緣使。緣見滅所斷有漏緣使。威勢緣者。不相障礙故。見滅所斷有漏緣使。於無漏緣使。因次第威勢緣。無境界緣。因緣者。有一因。謂相似因。次第緣者。見滅所斷

◎[緣]一◎◎◎卷第四十三終◎◎◎卷第四十四使難度不善品之十首◎◎◎卷第四十四使難度不善品第一之十首◎◎造號釋說譯說同異如卷第二十三

所有愛結繫復有悲結繫耶。五種法名處所所以者何。五種煩惱。能繫此五種法故。五種法者謂見苦所斷。乃至修道所斷。因緣處所者。如波伽羅那所說云何有處所法。云何無處所法。乃至云何有因法。云何無因法。有因法名有處所法。無因法名無處所法。如說

比丘心寂靜 能斷諸處所

盡於生死苦 不受未來有

此中說因是處所所以者何。有因故有生死。因斷故生死斷。屬處所者。如經說。應捨田舍市肆屬我之心。如偈說

不捨田財 牛馬奴婢 種種女色 不得解脫

不得解脫

如世人言。此物屬我。此處所屬我。於此五種處所中。依繫處所而作論。不依餘處所。復有說者。有五種處所。一界處所。二入處所。三陰處所。四世處所。五刹那處所。於此十處所中。依繫處所而作論。續子部作如是說。處所是假名法。無有定體。結非假名。衆生非假名。各有定體。阿毘曇者。作如是說。處所非假名。結非假名。衆生是假名。譬喻者。作如是說。結非假名。有定體。處所是假名。衆生是假名。而有定體。問曰。彼何故說處所是假名法。無有定體。答曰。彼作是說。以於境界中有欲無欲。猶如有一端嚴女人。他人見已。或起敬心。或起欲心。或起恚心。或起。悵心。或起厭心。或起悲心。或起捨心。起敬心者。如子見母。起欲心者。如多欲者見可愛色。起恚心者。如怨相見。起。悵心者。如共夫者見之。起厭心者。

如修不淨觀者。起悲心者。是離欲人。彼作是念。如是好色。不久當壞。起捨心者。得阿羅漢者。以於境界起如是等有欲無欲心故。智處所是假名法。無有定體。此諸煩惱通五識身。及在意地。通五識身者。過去者繫過去處所。現在者繫現在處所。未來世必生法。繫未來世處所。必不生者。繫三世處所。在意地者。過去者繫於三世。未來者亦繫三世。現在者亦繫三世。依眼識生。使繫於色。彼相應法。是相應繫。彼相應法。是意入法入。乃至依身識生。使。亦如是。依意識生使。繫十二入。彼相應者。是相應繫。相應法者。是意入法入。如是說者。是一行。毘婆沙。若處所有愛結繫。復有悲結繫耶。答曰。若有悲結繫。亦為愛結繫。頗為愛結所繫。不為悲結所繫耶。答曰。有色無色界法未斷。愛結者在三界。有五種緣。有漏非一切遍。若具縛欲界五種處所。為有漏非一切遍。若是具縛欲界五種處所。為愛結所繫。亦為悲結所繫。若為悲結所繫。亦為愛結所繫。若非具。結則愛結長在三界。是故得作稱後句。若處所有愛結繫。復有悲結繫耶。答曰。若有悲結繫。亦有愛結繫。處所者。是欲界繫五種處所。頗為愛結所繫。不為悲結所繫耶。答曰。有色無色界愛結未斷。非者。或有八地愛結未斷。或有乃至非非非。想處愛結未斷。彼非非非非。或有五種愛結未斷。或有乃至修道所斷者未斷。彼非非非非。想處修道所斷。或有九種愛結未斷。或有乃至下下種未斷者。以總說故。言色無

色界繫法愛結未斷是名為愛結所繫。不為悲結所繫。所以者何。色無色界無悲結故。問曰。何故色無色界無有悲結耶。答曰。非其田器。乃至廣說。復次衆生厭患悲故。願生色無色界。若色無色界有悲結者。則不為彼處而修方便。若法。是下地有上地亦有者。則無次第斷法。若無次第斷法。則無究竟斷法。所以者何。以次第斷法能生究竟斷法故。若無究竟斷法。則無解脫出離。欲令無如是過故。色無色界無有悲結。復次若有苦根愛根。則有悲結。所以者何。衆生以愛苦根故。於他生悲。色無色界無憂苦根。復次若有無慚無愧處。則有悲結。因無慚無愧故。衆生起悲。色無色界無有。無慚無愧。如無慚無愧。悵慳男根女根搗食姪愛五蓋勝妙五欲。當知亦如是。復次若有怨憎相處。則有悲結。怨憎相者。是九惱法。色無色界無有怨憎相。是故尊者瞿沙作如是說。衆生以怨憎故起於悲結。色無色界無有怨憎。復次色界有悲結。近對治。近對治者。謂慈是也。猶如毘嵐摩風處則無雲翳。彼亦如是。若處所有愛結繫。復有慢結繫耶。答曰。如是。若有慢結繫。復有愛結繫耶。答曰。如是。所以者何。此二結俱在三界。有五種緣。有漏非一切遍。故若是具。結三界五種法。為愛結所繫。亦為慢結所繫。若為慢結所繫。亦為愛結所繫。是故得作如是句。若處所有愛結繫。復有無明結繫耶。愛結在三界。有五種緣。有漏非一切遍。無明結。在三界。有五種緣。有漏無漏。是一切遍。非一切遍。若具縛三界五種法。為愛結

①(偶)十說②③而二無④⑤悵一厭⑥⑦相一⑧⑨使二彼⑩⑪(略)十毘⑫⑬繫結一結繫⑭⑮結一縛⑯*
⑰無慚無愧二無愧無慚⑱

所繫亦為無明結所繫。若為無明結所繫亦為愛結所繫。若非具縛無明使。則長於一切遍無漏緣。是故得作順前句。若處所有愛結繫。亦有無明結繫耶。答曰。若有愛結繫。則有無明結繫。處所者。是三界五種處所。頗為無明結所繫。不為愛結所繫耶。答曰。有苦智已生集智未生。見苦所斷法。見集所斷無明使未斷。苦智已生。集智未生。見苦所斷無明使未斷。見集所斷無明結。緣繫見苦所斷法。所以者何。無明結是一切遍故。愛結不爾。所以者何。自種愛結已斷。見集所斷無明使於見苦所斷法。不緣繫。以非一切遍故。非相應繫。以是他聚故。若處所有愛結繫。復有見結繫耶。愛結在三界。有五種緣。有漏非一切遍。見結在三界。有四種緣。有漏無漏。是一切遍。非一切遍。若是具縛三界五種處所。為愛結所繫。亦為見結所繫。若為見結所繫。亦為愛結所繫。若非具縛愛結。則於五種中長。見結。於一切遍無漏緣中長。是故得作四句。若處所有愛結繫。復有見結繫耶。乃至廣作四句。為愛結所繫。不為見結所繫者。集智已生。滅智未生。見滅所斷。見道所斷。見不相應法。愛結未斷。見滅見道所斷。見不相應法。何者是耶。答曰。即彼邪見。見取戒取愛患慢疑無明相應法是也。如是見不相應為愛結所繫。於自聚中緣繫相應繫。於他聚中作緣繫。非相應繫。非見所以者何。見是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者。於餘見不相應法。不緣繫。緣無漏故。不相應繫。以異聚故。自體不與

自體相應。修道所斷法。愛結未斷。或有九地愛結不斷者。或有乃至非想非非想處未斷者。彼非想非非想處。修道所斷愛結。或有九種未斷者。或有乃至下下種未斷者。總而言之。修道所斷法。愛結未斷。是名愛結所繫。不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍。能緣五種者已斷。修道所斷。無有見結。滅智已生。道智未生。見道所斷。見不相應法。愛結緣未斷。見道所斷。見不相應法。何者是耶。答曰。即彼邪見。見取戒取疑愛患慢無明相應法。如是等見不相應法。為愛結所繫。自聚有緣繫相應繫。他聚有緣繫。不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者。於彼法不緣繫。以緣無漏故。不相應繫。以他聚故。自體不與自體相應。修道所斷法。愛結未斷。如前說。見諦具足世尊弟子。愛結未斷。廣說如上。為見結所繫。非愛結者。苦智已生。集智未生。見集所斷。見結未斷。苦智已生。集智未生。見苦所斷。見結未斷。見集所斷。見結緣繫。見苦所斷法。為見結所繫。非愛結繫。所以者何。自種愛結已斷。他種者。於見苦所斷法。不緣繫。非一切遍故。非相應繫。以他聚故。二俱繫者。具縛見道所斷法。修道所斷法。二俱繫。

見不相應法。一種愛結繫。二種見結繫。見道所斷亦如是。修道所斷法。一種愛結繫。二種見結繫。苦智已生。集智未生。見集見滅見道修道所斷法。二俱繫。見集所斷。修道所斷。一種愛結繫。一種見結繫。見滅所斷。見相應法。一種愛結繫。二種見結繫。見不相應法。一種愛結繫。一種見結繫。見道所斷亦如是。見苦所斷法。惟為見結所繫。不為愛結所繫。是故不說。集智已生。滅智未生。見滅見道所斷。見相應法。二俱繫。見滅所斷。見不相應法。一種愛結繫。一種見結繫。見滅所斷。見不相應法。惟為愛結所繫。不為見結所繫。是故不說。見道所斷亦如是。修道所斷法。惟為愛結所繫。不為見結所繫。二俱不繫者。集智已生。見苦見集所斷法。二俱不繫。滅智已生。道智未生。見苦見集滅所斷法。二俱不繫。見諦具足世尊弟子。見道所斷法。二俱不繫。已離欲愛。欲界繫法。二俱不繫。已離色無色界欲。色無色界繫法。二俱不繫。所以者何。若結斷者。處所亦斷。此中作是論。頗見滅見道所斷。見相應法。為愛結所繫。不為見結所繫。非不為見使所使耶。答曰。有斷六種欲者。得正決定。集智已生。滅智未生。見滅見道所斷六種見相應法。為愛結所繫。不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍。緣五種者已斷。緣無漏六種見已斷。餘三種未斷。無漏緣見。於六種已斷法。無緣繫。緣無漏故。無相應繫。以他聚故。未斷三種愛結。於見滅見道所斷。六種已斷法。作緣繫。彼非不為見使所使。所以者何。三

①於二非② ③惟二唯④下同 ⑤繫十(是故不說)⑥⑦ ⑧得二行⑨

見作見結。五見作見使。為見使中見取戒取所使故。如愛結見結。愛結疑結亦如是。所以者何。如見結在三界四種斷緣有漏無漏是遍不遍。疑結亦如是。若處所有愛結繫。復有取結繫耶。愛結在三界。五種斷緣有漏非一切遍。取結在三界。四種斷緣有漏非一切遍。非一切遍。若是具繫三界五種處所愛結繫。亦為取結所繫。若為取結所繫。亦為愛結所繫。若非具縛愛結。則長於五種。取結長於一切遍。是故得作四句。或為愛結所繫。不為取結所繫。乃至廣作四句。為愛結所繫。不為取結所繫者。集智已生滅智未生。修道所斷法。愛結未斷。或有九地愛結未斷。或有乃至非想非非想處愛結未斷。彼非想非非想處愛結。或有九種未斷。或有乃至下種未斷。總而言之。修道所斷法。愛結未斷。滅智已生道智未生。修道所斷法。愛結未斷。廣說如上。見諦具足世尊弟子。修道所斷法。愛結未斷。是名愛結所繫非取結所繫。取結能緣五種者已斷。所以者何。取結是一切遍。能緣五種者已斷。取結非修道所斷。為取結所繫。不為愛結所繫者。苦智已生集智未生。見苦所斷法。見集所斷取結未斷。苦智已生集智未生。見苦所斷愛結若斷。取結亦斷。見集所斷取結。緣繫見苦所斷。是名取結所繫非愛結所繫。所以者何。自種愛結已斷。他種愛結不作緣繫。非一切遍故。非相應繫。以他聚故。俱繫者。具縛見道修道所斷法。二俱繫具縛。見苦所斷法。為一種愛結所繫。為二種取結

所繫。見集所斷亦如是。見滅所斷。為一種愛結所繫。三種取結所繫。見道所斷亦如是。修道所斷。一種愛結所繫。二種取結所繫。苦智已生集智未生。見集見滅見道修道所斷法。二俱繫。見集所斷修道所斷法。為一種愛結所繫。亦為一種取結所繫。見滅見道所斷法。一種愛結所繫。二種取結所繫。見苦所斷法。惟為取結所繫。不為愛結所繫。是故不說。集智已生滅智未生。見滅見道所斷法。二俱繫。見滅所斷法。為一種愛結所繫。一種取結所繫。見道所斷亦如是。修道所斷法。惟為愛結所繫。不為取結所繫。是以不說。滅智已生道智未生。見道所斷法。二俱繫。見道所斷法。為一種愛結所繫。一種取結所繫。修道所斷。廣說如上。二俱不繫者。集智已生道智未生。見苦見集所斷法。二俱不繫。滅智已生道智未生。見苦集滅所斷法。二俱不繫。見諦具足世尊弟子。見道所斷法。二俱不繫。欲愛已斷。欲界繫法。二俱不繫。色愛已斷。色界繫法。二俱不繫。無色愛已斷。一切二俱不繫。所以者何。彼結若斷。處所亦斷。若處所有愛結繫。復有悵結繫耶。愛結在三界。五種斷緣有漏非一切遍。悵結在欲界。修道所斷緣有漏。非一切遍。若是具縛欲界修道所斷法。若為愛結所繫。亦為悵結所繫。若為悵結所繫。亦為愛結所繫。若非具縛。繫愛結。長在三界五種斷。是故得作稱後句。若處所有愛結繫。復有悵結繫耶。答曰。若為悵結所繫。亦為愛結所繫。修道所斷法。為一種愛結所繫。一種悵結所繫。頗

為愛結。繫不為悵結所繫耶。答曰。欲界見道所斷法。愛結未斷。或有四種法愛結未斷。或有乃至見道所斷愛結未斷。色無色界繫法。愛結未斷。是名愛結所繫。不為悵結所繫。所以者何。色無色界無悵結。無悵結義如上說。如愛結悵結。愛結悵結說亦如是。如愛結門慢結門說亦如是。所以者何。此二俱在三界。五種斷緣有漏非一切遍。若處所有悵結繫。復有慢結繫耶。悵結在欲界。欲界五種斷緣有漏。非一切遍。慢結在三界。五種斷緣有漏。非一切遍。若是具縛欲界繫五種處所。為慢結所繫。若為慢結所繫。亦為悵結所繫。若非具縛慢結。長在三界。是故得作順前句。若處所有悵結繫。復有慢結繫耶。答曰。若為悵結所繫。亦為慢結所繫。處所者是欲界五種所斷。頗為慢結所繫。不為悵結繫耶。答曰。有色無色界慢結未斷。或有八地慢結未斷。或有乃至非想非非想處慢結未斷。彼非想非非想處。或有五種斷慢結所繫。或有修道所斷慢結所繫。彼修道所斷慢結。或有九種未斷。或有乃至下種未斷者。總而言之。色無色界慢結未斷。是名慢結所繫。不為悵結所繫。所以者何。色無色界無悵結。色無色界無悵結義。如上說。若處所有悵結繫。復有無明結繫耶。悵結在欲界。五種所斷緣有漏非一切遍。無明結在三界。五種所斷緣有漏無漏。是一切遍。若是具縛欲界五種處所。為悵結所繫。亦為無明結所繫。若為無明結所繫。亦為悵結所繫。若非具縛無明結。

①見一是一* ②繫二縛③* ④繫二縛⑤ ⑥(所)十繫⑦⑧* ⑨為二是一⑩

長在三界。長一切遍。是故得作順前句。若處所有慧結繫。復有無明結繫耶。答曰。若為慧結所繫。亦為無明結所繫。處所者欲界繫。五種處所。頗為無明結所繫。不為慧結所繫耶。答曰。有苦智已生。集智未生。欲界見苦所斷。見集所斷。無明結未斷。苦智已生。集智未生。見苦所斷法。見集所斷無明結緣繫。是名為無明結所繫。不為慧結所繫。所以者何。自種慧結已斷。他種者。於見苦所斷非緣繫。非一切遍。故非相應繫。是他聚故。色無色界繫。無明結未斷。或有八地無明結未斷。或有乃至非想非非想處無明結未斷。彼非想非非想處。或有五種未斷。或有乃至修道所斷未斷。非想非非想處修道所斷。或有九種未斷。或有乃至下種未斷。總而言之。色無色界繫無明結未斷。是名無明結所繫。不為慧結所繫。所以者何。色無色界無。慧。色無色界無慧結義。如上說。若處所有慧結繫。復有見結繫耶。慧結在欲界。五種斷。緣有漏非一切遍。見結在三界。四種斷。緣有漏無漏。一切遍。非一切遍。若是具縛欲界五種斷。處所有慧結所繫。亦為見結所繫。若為見結所繫。亦為慧結所繫。若非具縛慧結。長在五種斷。見結長在三界一切遍。是故得作四句。若為慧結所繫。不為見結所繫耶。乃至廣作四句。為慧結所繫。不為見結所繫者。未離欲愛。集智已生。滅智未生。欲界繫見滅見道所斷。見不相應法。慧結未斷。欲界繫見滅見道所斷。見不相應法。何者是耶。答曰。即彼邪見見取

戒取愛。慧慢疑無明相應法是也。此法慧結未斷。自聚緣繫。相應繫。他聚緣繫。非相應繫。不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍緣。五種者已斷。餘不斷者。於見不相應法。非緣繫。緣無漏。故非相應繫。以他聚故。自體不應自體故。欲界繫修道所斷法。慧結未斷。或有九種未斷。或有乃至下種未斷者。滅智已生。道智未生。欲界繫見道所斷。見不相應法。慧結未斷。欲界繫見道所斷。見不相應法。何者是耶。答曰。即彼邪見見取戒取愛。慧慢疑無明相應法是也。此法慧結未斷。自聚中緣繫。相應繫。他聚作緣繫。非見結繫。所以者何。見結是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者。於見不相應法。非緣繫。緣無漏。故非相應繫。是他聚故。自體不應自體故。欲界修道所斷法。慧結未斷。廣說如上。見諦具足。世尊弟子。欲界修道所斷。慧結未斷。廣說如上。是名為慧結所繫。不為見結所繫。

◎為見結所繫。不為慧結所繫者。未離欲愛。苦智已生。集智未生。欲界見苦所斷法。見集所斷法。見結未斷。苦智已生。集智未生。見苦所斷法。見結已斷。見集所斷法。見結緣繫。見苦所斷法。為見結所繫。不為慧結所繫。所以者何。自種慧結已斷。他種者。於見苦所斷法。非緣繫。非一切遍。故非相應繫。是他聚故。色無色界見結未斷。或有八地見結未斷。或有乃至非想非非想處見結未斷。彼非想非非想處。或有四種斷。見結未斷。或見乃至見道所斷法。總而言之。色無色界繫法見結

未斷。是名見結繫。不為慧結所繫。所以者何。色無色界無有慧結。廣說如上。

云何二俱繫。具縛欲界見道修道所斷法。二俱繫。具縛欲界見苦所斷法。一種慧結繫。二種見結繫。見集所斷法亦如是。見滅所斷法。見相應法。為一種慧結繫。三種見結繫。見不相應法。一種慧結繫。二種見結繫。見道所斷法亦如是。欲界繫修道所斷法。一種慧結繫。二種見結繫。欲愛未斷。苦智已生。集智未生。欲界繫見集滅道修道所斷法。二俱繫。見集所斷法。一種慧結繫。一種見結繫。見滅所斷法。一種慧結繫。二種見結繫。見不相應法。一種慧結繫。二種見結繫。見道所斷法亦如是。修道所斷法。一種慧結繫。一種見結繫。欲界見苦所斷法。雖為見結繫。不為慧結繫。是故不說。集智已生。滅智未生。欲界繫。見滅所斷法。二俱繫。欲界見滅所斷法。見相應法。一種慧結繫。一種見結繫。見不相應法。雖為慧結所繫。不為見結所繫。是故不說。見道所斷法亦如是。欲界修道所斷法。雖為慧結所繫。不為見結所繫。是故不說。未離欲愛。滅智已生。道智未生。欲界繫見道所斷法。見相應法。二俱繫。一種慧結繫。一種見結繫。欲界見道所斷法。及修道所斷法。雖為慧結所繫。不為見結所繫。是故不說。是名二俱繫。不繫者。集智已生。滅智未生。見苦見集所斷法。二俱不繫。色無色界見滅見道所斷法。二俱不繫。色無色界修道所斷法。二俱不繫。滅智已生。道智未生。欲界

◎志十(結)◎ ◎卷第四十四終◎ ◎卷第四十五使離度一行品之二首◎ ◎卷第四十五使離度一行品第二之首◎ 造號釋號譯號同異如卷第二十三◎ ◎見二有◎

見苦集滅所斷法。二俱不繫。色無色界繫見不相應法。及修道所斷法。二俱不繫。見諦具足世尊弟子。見道所斷法。二俱不繫。色無色界繫修道所斷法。二俱不繫。已離欲愛欲界繫法。二俱不繫。已離色愛色界繫法。二俱不繫。已離無色界愛。一切不繫。所以者何。彼結斷故處所亦斷。如志結見結。志結疑結。說亦如是。所以者何。此二結俱在三界。四種斷緣有漏無漏。是一切遍非一切遍故。問曰。欲界中有志結繫不繫義可爾。色無色界中無有志結。云何說言志結不繫耶。答曰。不繫有二種。一從繫得不繫。二性不繫。欲界不繫。是從繫得不繫。以有志結故。色無色界不繫。是性不繫。以無志結故。亦如毘尼中說。有二人名淨脫起。一未曾犯戒。二雖有所犯。如法除却。未曾犯戒者。名本淨脫起。雖有所犯。如法除却者。名本非淨脫起。得淨脫起。彼亦如是。若處所有志結繫。復有取結繫耶。志結在欲界。五種斷緣有漏非一切遍。取結在三界。四種斷緣有漏。是一切遍。非一切遍。若是具縛欲界繫。五種處所。若為志結所繫。亦為取結所繫。若為取結所繫。亦為志結所繫。若非具縛志結。長在五種斷。取結長在三界。是一切遍。是故得作四句。若處所有志結。復有取結繫耶。乃至廣作四句。為志結所繫。不為取結所繫者。未離欲愛。集智已生。滅智未生。欲界繫修道所斷法。志結未斷。或有九種未斷。或有乃至下下種未斷者。滅智已生。道智未生。欲界繫修道所斷法。志結未

斷。見諦具足世尊弟子。欲愛未斷。欲界繫修道所斷法。志結未斷。是名志結所繫不為取結所繫。所以者何。取結。是一切遍。能緣五種者已斷。修道所斷法中。無有取結。為取結所繫不為志結所繫者。欲愛未斷。苦智已生。集智未生。欲界繫見苦所斷法。見集所斷。取結未斷。苦智已生。集智未生。欲界見苦所斷。取結志結已斷。見集所斷。取結緣繫。見苦所斷法。為取結所繫。不為志結所繫。所以者何。自種志結已斷。他種者。於見苦所斷。非緣繫。非一切遍。故非相應繫。是他聚故。色無色界繫法。取結未斷。或有八地取結未斷。或有乃至非想非非想處者。彼非想非非想處。或有四種未斷。或有乃至一種未斷者。總而言之。色無色界繫法。取結未斷。是名取結所繫不為志結所繫。色無色界無有志結廣說如上。俱繫者。具縛欲界繫。見道修道所斷法。二俱繫。具縛欲界見苦所斷法。一種志結繫。二種取結繫。見集所斷。修道所斷。說亦如是。欲界繫見滅所斷法。一種志結繫。二種取結繫。見道所斷法。說亦如是。欲愛未斷。苦智已生。集智未生。欲界見集滅道修道所斷法。二俱繫。見集所斷修道所斷。一種志結繫。一種取結繫。欲界見滅所斷法。一種志結繫。二種取結繫。見道所斷法。說亦如是。欲界見苦所斷法。雖為取結所繫。不為志結所繫。是故不說。欲愛未盡。集智已生。滅智未生。欲界繫見滅所斷法。一種志結繫。一種取結繫。見道所斷法。說亦如是。修道所斷法。雖為志結所繫。不為取

結所繫。是故不說。欲愛未斷。滅智已生。道智未生。欲界見道所斷法。二俱繫。一種志結繫。一種取結繫。修道所斷法如上說。是名二俱繫。俱不繫者。廣說如經本。乃至離無色界欲。二俱不繫。所以者何。若彼結斷。處所亦斷。若處所有志結繫。復有悵結繫耶。志結在欲界。如上說。悵結在欲界。修道斷緣有漏。非一切遍。若是具縛欲界修道所斷處所。若為志結所繫。亦為悵結所繫。若為悵結所繫。亦為志結所繫。若非具縛志結。長在五種斷。是故得作稱後句。若處所有志結繫。復有悵結繫耶。答曰。若有悵結繫。亦有志結繫處所者。謂欲界修道所斷處所也。頗為志結所繫。不為悵結所繫耶。答曰。有欲界繫見道所斷志結未斷。或有四種斷志結未斷。或有乃至見道所斷志結未斷。總而言之。欲界繫見道所斷法。志結未斷。是名志結所繫。不為悵結所繫。所以者何。見道所斷。無悵結故。如志結。悵結志結悵結。說亦如是。所以者何。此二結俱是欲界繫。修道所斷。緣有漏。非一切遍。故若處所有無明結繫。復有見結繫耶。無明結在三界五種斷。緣有漏無漏。是一切遍。非一切遍。見結在三界。四種斷。緣有漏無漏。是一切遍。非一切遍。若是具縛三界五種斷處所。若為無明結所繫。亦為見結所繫。若為見結所繫。亦為無明結所繫。若非具縛無明結。長在五種斷。是故得作稱後句。若處所有無明結繫。復有見結繫耶。答曰。若為見結所繫。亦

為無明結所繫。處所者三界五種斷處所。頗為無明結所繫。不為見結所繫耶。答曰。集智已生滅智未生。見滅見道所斷見不相應法無明結未斷。見滅見道所斷見不相應法何者是也。答曰。即彼邪見見取戒取愛恚慢疑不共無明相應法是也。此法無明結所繫。不為見結所繫。自聚中。緣繫相應繫。他聚中。作緣繫非相應繫。不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者。於見滅見道所斷見不相應不緣繫。緣無漏故。不相應繫。以他聚故。修道所斷法。無明結未斷。或有九地無明結未斷。或有乃至非想處。非非想處無明結未斷。彼非想非非想處。或有九種無明結未斷。或有乃至下下種未斷者。總而言之。修道所斷無明結未斷。是名無明結所繫非見結所繫。所以者何。見結是一切遍能緣五種者已斷。修道所斷。無有見結。滅智已生道智未生。見道所斷。見不相應法。無明結未斷。及修道所斷法。無明結未斷。廣說如上。見諦具足世尊弟子。修道所斷法。無明結未斷。廣說如上。如無明結。見結無明結疑結。說亦如是。所以者何。此二結俱在三界。四種斷緣有漏無漏。是一切遍。非一切遍。若處所有無明結繫。復有取結繫耶。無明結在三界。如上說。取結在三界。亦如上說。若是具縛三界五種斷處所。如上說。若非具縛無明結。長在五種斷。是故得作稱後句。若處所有無明結繫。復有取結繫耶。答曰。若為取結所繫。亦為無明結所繫。頗為無明結所繫。

不為取結所繫耶。答曰。有。集智已生滅智未生。修道所斷法。無明結未斷。廣說如上。滅智已生道智未生。修道所斷法。無明結未斷。如上說。見諦具足世尊弟子。修道所斷法。無明結未斷。廣說如上。若處所有無明結繫。復有結候繫耶。無明結在三界。如上說。候結在欲界。如上說。若是具縛欲界繫。修道斷處所。若為無明結所繫。亦為候結所繫。若為候結所繫。亦為無明結所繫。若非具縛無明結。長在三界五種斷。是故得作稱後句。若處所有無明結繫。復有候結繫耶。答曰。若為候結所繫。亦為無明結所繫。處所者。是欲界繫。修道所斷處所。頗為無明結所繫。不為候結所繫耶。答曰。有。欲界繫見道所斷法。無明結未斷。或有四種無明結未斷。或有乃至見道一種未斷。色無色界繫法。無明結未斷。或有九地無明結未斷。或有乃至非非想處未斷。即彼非非想非非想處。或有五種無明結未斷。或有乃至修道所斷未斷。彼修道所斷無明結。或有九種未斷。或有乃至下下種未斷者。總而言之。色無色界無明結未斷。如無明結候結無明結候結。說亦如上。所以者何。此二結俱在欲界。如上說。

所繫耶。答曰。有。集智已生滅智未生。見滅見道所斷見不相應法。取結未斷。滅智已生道智未生。見道所斷見不相應法。取結未斷。廣說如上。若處所有見結繫。復有疑結繫耶。見結在三界。如上說。疑結在三界。亦如上說。若是具縛三界五種斷處所。若為見結所繫。亦為疑結所繫。若為疑結所繫。亦為見結所繫。若非具縛。各各長在自聚中。是故得作自根本四句。若處所為見結所繫。復為疑結所繫耶。乃至廣作四句。為見結所繫。不為疑結所繫者。集智已生滅智未生。見滅見道所斷見相應法。見結未斷。滅智已生道智未生。見道所斷見相應法。見結未斷。是名見結所繫。非疑結所繫。所以者何。疑結是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者於見相應法。非緣繫緣無漏故。非相應繫以他聚故。為疑結所繫。不為見結所繫者。集智已生滅智未生。見滅見道所斷疑相應法。疑結未斷。滅智已生道智未生。見道所斷疑相應法。疑結未斷。是名疑結所繫不為見結所繫。所以者何。見結是一切遍。能緣五種者已斷。餘不斷者。於疑相應法。不緣繫。緣無漏故。非相應繫。以他聚故。俱繫者。具縛見道修道所斷法二俱繫。具縛見苦所斷法。二種見結繫。二種疑結繫。見集所斷修道所斷法亦如是。見滅所斷見相應法。三種見結繫。二種疑結繫。疑相應法。三種疑結繫。二種見結繫。見結疑結不相應法。二種疑結繫。二種見結繫。見道所斷亦如是。苦智已生集智未生。見集見滅見道修道

◎九二八◎ ◎之二道◎ ◎邪二耶◎ ◎二二◎

所斷法二俱繫。苦智已生集智未生。見苦集滅道修道所斷法二俱繫。見苦所斷法。一種見結繫。一種疑結繫。見集所斷修道所斷亦如是。見滅所斷見相應法二種見結繫。一種疑結繫。疑相應法。二種疑結繫。一種見結繫。見結疑結不相應法。一種見結繫。一種疑結繫。見道所斷法亦如是。二俱不繫者。廣說如經本。乃至離無色界欲。二俱不繫。所以者何。彼結若斷。處所亦斷。若處所有見結繫。復有懷結繫。耶。見結在三界如上說。懷結在欲界。廣說如上。若是具縛欲界修道所斷法。若為見結所繫。亦為懷結所繫。若為懷結所繫。亦為見結所繫。若非具縛見結。長在三界。四種斷。懷結長在修道所斷。是故得作四句。若處所為見結所繫。復為懷結所繫。乃至廣作四句。為見結所繫。不為懷結所繫者。欲界繫見道所斷法。見結未斷。或有四種未斷。或有乃至見道見結未斷。色無色界繫法見結未斷。或有八地見結未斷。或有乃至非想非非想處未斷。彼非想非非想處。或有四種未斷。或有乃至見道見結未斷。是名為見結所繫。不為懷結所繫。為懷結所繫非見結所繫者。欲愛未斷。集智已生滅智未生。欲界繫修道所斷法。懷結未斷。乃至見諦具足世尊弟子。欲愛未斷。欲界繫修道所斷法。懷結未斷。是名為懷結所繫。不為見結所繫。俱繫者。具縛人。欲界繫修道所斷法二俱繫。具繫人欲界繫修道所斷法。一種懷結繫。二種見結繫。未離欲。苦智已生集智未生。欲界繫修道所斷

法二俱繫。一種見結繫。一種懷結繫。俱不繫者。廣說如經本。乃至離無色界愛。二俱不繫。如見結。懷結見結懷結亦如是。如見結門疑結門亦如是。若處所有取結繫。復有疑結繫。耶。廣說應如見結取結。取結疑結亦如是。若處所有取結繫。復有懷結繫。耶。廣說如經本。如取結懷結取結懷結說亦如是。若處所有懷結繫。復有懷結繫。耶。答曰如是。所以者何。此俱在欲界。修道所斷俱緣有漏。俱非一切遍。問曰。如懷因他生。懷因自起。何故。答言。如是。耶。答曰。懷緣他亦因他生。緣已不因已生。懷緣已亦因已生。緣他不因他生。復有說者。此二法。緣他亦因他生。緣已亦因已生。問曰。如懷緣他亦因他生。緣已亦緣已生。云何可爾。耶。答曰。猶如有人。為二比丘。作資生物。一則成好。二不成好。不成好者。便作是念。如我所作。或不好使彼所作亦不成好。問曰。如懷緣已亦因已生。可爾。緣他亦因他生。云何可爾。耶。答曰。懷亦有因他生。猶如有人。見他布施。便生懷心。此人何以施他如是物。耶。是故此二亦緣自他生。因自他生。若處所有過去愛結繫。復有未來愛結繫。耶。乃至廣說。有總相煩惱。有別相煩惱。別相煩惱者。謂愛恚慢懷慳。總相煩惱者。謂無明結見結取結疑結。別相煩惱。繫三界五種處所在未來世者。能繫三世。過去不定。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。現在亦不定。若現在前則繫。若不在前則不繫。愛結繫三界五種處所。未來愛結。繫三界五

種三世處所。過去不定。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。現在亦不定。若現在前則繫。若不在前則不繫。如愛結。慢結說亦如是。恚結繫欲界五種斷三世處所。未來愛結繫欲界五種斷三世處所。過去不定。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。現在亦不定。若現在前則繫。若不在前則不繫。懷結繫欲界修道所斷法三世處所。未來懷結。繫欲界。繫三世修道所斷處所。過去不定。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。現在亦不定。若現在前則繫。若不在前則不繫。如懷結。懷結說亦如是。總相煩惱。繫三界五種斷處所。過去總相煩惱。繫三界五種斷三世處所。未來現在說亦如是。此說是歷。六七。人七。略毘婆沙。若處所有過去愛結繫。復有未來愛結繫。耶。答曰。如是。取。所以者何。先作是說。未來愛結。繫三世處所。設有未來愛結繫。復有過去愛結繫。耶。答曰。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。問曰。若過去愛結斷時。即彼時未來愛結亦斷。何故未來世定過去不定。而作是說。若前生不斷則繫。若前不生。生者已斷則不繫。耶。外國法師作如是說。若說前生不斷則繫。是說中結。若前不生。是說下結。生者已斷。是說上結。屬賓沙門復作是說。若說前生不斷則繫。是說三種結。若說前不生。是說下結。若說生者已斷。是說中結上結。如過去上中愛結斷。未來亦爾。不生下愛結未來世繫處所有未來愛結繫。即彼處所。過去前生愛

○取一 ○二人 ○(小)六 ○三縛繫

則明有過去愛結結繫。即彼處所結現
在前。則明有現在結繫。設有過去現在結
結繫。復有過去愛結繫耶。答曰。若前生不斷
則繫。若前不生。生者已斷。則不繫。廣說如上。
若處所有過去愛結繫。復有未來現在結
繫耶。答曰。餘廣說如經本。作七。句如經本。
如愛結結繫。愛結結繫。愛結結繫。亦如是。
此中差別者。應說。欲界繫見道所斷法。前生
愛結。不斷則繫。愛結慢結。愛結無明結。廣說
如經本。若處所有過去愛結繫。復有過去見
結繫耶。答曰。若不斷。云何不斷。答曰。若道
比智未生。設有過去見結繫。復有過去愛結
繫耶。答曰。若前生不斷則繫。廣說如上。若
處所有過去愛結繫。繫耶。答曰。若不斷。云何
不斷。答曰。道比智未生。設有未來見結繫。復
有過去愛結繫耶。答曰。廣說如經本。作七句
亦如經本。如愛結見結作七句。愛結取結愛
結疑結作七句。說亦如是。

過去愛結。過去結。問過去慢結。應作七句。
或有說者。七句中。初句應作七句。所以者何。
此中間七七句。答曰。七七句故。如先以過去
愛結結繫。問過去慢結。次問未來慢結。次問
現在。次問過去現在。次問未來現在。次問過
去未來。次問過去未來現在。慢結亦應如是
說。先以過去愛結。問未來慢作初句。次問現
在。次問過去現在。次問未來現在。次問過去
未來。次問過去未來現在。次問過去。作最後
句。復以過去愛結。問現在慢作初句。次問過
去現在。次問未來現在。次問過去未來。次問

過去未來現在。次問過去。次問未來作最後
句。乃至過去愛結。問過去未來。現在慢作初
句。乃至過去愛結。問過去慢作最後句。若
作是說。則有七七句。若作是說。則唐捐其功。
於文無益於義無益。亦不成七七句。若欲於
文有益於義有益。亦成七七句者。應作是說。
如先以過去愛結。問過去慢作初句。乃至以
過去愛結。問過去未來現在慢作最後句。應
以未來愛結。問未來慢作初句。次問現在。次
問過去現在。次問未來現在。次問過去未來。
次問過去未來現在。次問過去作最後句。復
次現在愛結。問現在慢作初句。次問過去現
在。次問未來現在。次問過去未來。次問過去
未來現在。次問過去。次問未來作最後句。乃
至以過去未來現在愛結。問過去未來現在
慢作初句。乃至以過去未來現在愛結。問過
去未來現在慢作最後句。若作是說。則於文
義有益。七七句成。如愛結。問慢作七七句。愛
結。問無明亦如是。乃至問慢結作七七句亦
如是。置愛結。以結慢結。問無明結作七七
句。乃至問慢結。作七七句亦如是。置慧以慢
無明。問見結作七七句。乃至問慢結作七七
句亦如是。乃至最後取結。以疑結慢結。問慢
結作七七句亦如是。如以二結。問一結作七
七句。以三以四以五以六以七以八。問一結
作七七句亦如是。

問曰。一行歷六小七大七。有何差別。答曰。名
即差別。復次以一行法作問。名一行。以六句
作問名歷六。以七句作問名小七。以二結問

一結。乃至以八結問一結名大七。復次問不
相似法。不以世定。名一行。問相似法。以世定
名歷六。問不相似法。以世定名小七。以二法
問一法。乃至以八法問一法。以世定名大七。
一行歷六小七大七。是名差別
阿毘曇毘婆沙論卷第三十一

阿毘曇毘婆沙論卷第三十一

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等
使*釋度一行品中
譯

身見攝幾使。問曰。何故作此論。答曰。或有說
攝法攝他法不攝自法。如毘婆闍婆提。依佛
假名所說經。亦依世俗言語法。說攝法攝他
法不攝自法。何者是假名所說經。如佛說譬
如。憍斗受入*憍子。為*憍子依。以*憍斗勝
故。攝諸*憍子。彼作是說。憍斗異於*憍子。
而攝*憍子。是故知攝法攝於他法不攝自法。
餘經亦說。五根慧。最勝。為慧所攝。慧異
四根。能攝四根。是故知攝他法。餘經亦說。
如佛問呵德迦居士。汝云何攝眷屬。何以復
知已攝眷屬。居士答言。世尊所說四攝法。布
施愛語利益同事。以四法攝於眷屬。亦知己
攝眷屬。彼作是說。居士眷屬。及與攝法。各各
別異。而能相攝。是故知攝他法不攝自法。餘
經復說。正見正方便正覺。是慧身所攝。正

①句十(亦)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
十六⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲ ③鍵二鍵④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲
⑩根十(根)⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲ ⑭以十(此)⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲

念正定。是定身所攝。彼作是說。正見是慧。

*慧身所攝。正定定身所攝可爾。正覺正方便。非慧性。正念非定性。正覺正方便為慧身所攝。正念為定身所攝者。故知攝法。攝於他法。世俗言語法者。世俗亦作是說。戶攝戶

樞縷能攝衣。索攝薪束。在家之人亦作是說。我能攝我家資財象馬僮僕。出家之人亦作

是說我攝衣鉢。及攝沙門所用之物。彼以如是假名經所說。及世俗言語所攝法故。知攝法攝他不攝自法。亦明攝法攝於自體。若當攝法。但攝於他不攝自體者。則一法體與一切法體同。若一法生一切法亦生。一法滅一切法亦滅。復更有過。見苦所斷法。則攝修道所斷法。見苦所斷法若斷。修道所斷法亦應斷。若然者則後生對治。而無有用。欲令無如是過故。說攝法攝於自性不攝他法。問曰。

若攝法。但攝自法不攝他者。毘婆闍婆提所引經。及世俗言語法云何通。答曰。彼經是未了義是假名。是有餘意。

問曰。云何彼經是未了義是假名。是有餘意耶。答曰。如經說。懂斗受入。懂子能攝。懂子者。此中說依持是攝。所以者何。懂子依

*懂斗。懂斗持。懂子故。而不散壞如說。五根中。慧為最勝。為慧所攝。此中。慧是方便說攝。所以者何以。慧方便故。五根能有所行。而成大事如說。我以世尊所說四攝法。攝於眷屬。乃至廣說。此中說不離散是攝。以四攝方便。令眷屬不離散故。如說正覺正方便

正念。是慧身定身所攝者。此中說隨順是攝。正覺正方便。隨順慧身。正念隨順定身故。如說戶攝戶樞縷能攝衣。索攝薪束。此中說持是攝。如說在家出家人。攝田財衣鉢等。此中說饒益是攝。攝法攝他。法者。或時攝或時不攝。或有所以攝。或有所以不攝如偈說

因事生於愛 因事生於悲 世人起愛悲 無不因事者

攝法攝自法者。一切時攝皆有所以。一切時攝者。無有不攝自相時皆有所以者何。自體不待所以故攝法。若觀察自相法。還攝自相法時。有何善利耶。答曰。除去我想聚想能修法想別想。若衆生有我想聚想。便生貪患癡心。生貪患癡故。於生老病死憂悲苦惱不能得脫。若能除去我想聚想觀色。猶如散塵。觀無色法。前後不俱總觀。有為法離散之相猶如散沙。便生空解脫門種子。若觀諸行空而不樂生死。便生無願解脫門種子。若不樂生死而求涅槃。便生無相解脫門種子。依下三昧。便生中三昧。依中三昧生上三昧。依上三昧能離三界欲。觀察自相法。還攝自相法時。有如是善利。身見攝三使。總而言之。身見攝三使。身見在三界。欲界身見。還攝欲界身見。乃至無色界身見。還攝無色界身見。戒取攝六使。疑攝十二使。餘攝如經本說

問曰。云何名攝。答曰。自體於自體。是有是實。是可得故名攝。自體於自體。非異自體。於自體非外。自體於自體非遠。自體於自體不相捨。自體於自體非空。自體於自體無盈長。自體於自體。非不已有。非不今有。非不當

有。自體還攝自體故名攝。非如手把食指捻衣名攝。以諸法還攝自體名攝。不攝於他。三結攝三不善根耶。三不善根攝三結耶。問曰。何故作此論。答曰。或有說攝法攝於他不攝自體。欲重止如是說者意故。而作此論。三結攝三不善根。三不善根攝三結耶。答曰。各不相攝。餘廣說如經本

身見令幾有相續。問曰。何故作此論。答曰。或有說不染汚心。令有相續。如毘婆闍婆提作如是說

問曰。彼何故作此說耶。答曰。依佛經。佛經說菩薩住正智入母胎。住正智住母胎。住正智出母胎。為止如是說者意。欲明。唯以染汚心令有相續故而作此論。問曰。唯以染汚心令有相續者。佛經云何通。答曰。此說不顛倒心名正智。衆生皆以顛倒心入母胎。唯除菩薩。菩薩入母胎時。有如是念。此是我母。此是我父。於母起母親愛。於父起父親敬。以不顛倒心入母胎故名正智

復次所以作此論者 或有說唯以愛悲二結。令有相續。如譬喻者。彼何故作是說耶。答曰。彼依佛經。佛經說三事合故入母胎。一父母有染心共會一處。二其母無病值時。三受身者現在前。當於是時。受身者二種心。展轉現在前。若與欲俱。若與悲俱。為止如是說者意。亦明一切結令有相續故。而作此論。問曰。若然者。佛經云何通。答曰。彼說中有心。不說有相續心。或有說。惡道中心。以悲心令有相續。人天中心。以愛

【攝】一 (他)十法 (特)二時 (唯)一惟 (下)可 (此)一 (說)十(者) (說)十(生)

心令有相續。爲止如是說者。亦明欲界衆生三十六使令有相續。色界三十一使。無色界三十一使。令有相續。爲止他義。乃至廣說。而作此論。有亦多名。如此中說。衆生數受身處五陰是有。如說欲界。死生欲界中。一切欲界有相續耶。此中亦說。衆生數受身處五陰名有。如說爲纏所纏。令地獄有相續。此中亦說。衆生數受身處五陰名有。如說欲界有相續時。最初得幾業報。根。此中亦說。衆生數受身處五陰名有。如說有四有。前時有死有中。有生有。此中亦如上說。如說捨欲界有。還令欲界有相續時。一切盡滅欲界繫法。還起欲界繫法現在前。此中亦如上說。如說云何有法。答言。有漏法。是此中說。一切有漏法是有。如說沛仇當知有生時以識爲食。此中說。生相續時心眷屬名有。如說

佛告阿難。若業能令後生相續是有。是亦名。此說造未來有思名有。如說取緣有阿毘曇者。作如是說。此中說時五陰名有。尊者瞿沙作如是說。造未來有業名有。如說七有。一地獄有二畜生有三餓鬼有四天有五人六業有七中有。此中說五。趣因五趣向。是有五趣有。即是五趣業有。是五趣因中。有是五趣向。如說云何欲有。欲界繫取緣。能生未來有業。此中說業報。不說取緣

問曰。若此中但說業報。不說取緣者。十門中說。云何通。如說欲有欲界一切使所使。色無色有。色無色界一切使所使。欲界可爾。所以者何。欲界五種斷。業盡能生報。色無色界

修道所斷業能生報。云何可爾。答曰。十門文應如是說。欲有欲界一切使所使。色無色。色無色界修道所斷使。及通一切使所使。而不說者。有何意耶。答曰。此中五種斷心。能生有令有相續。在有分中。是有眷屬而作是說。復有說。十門章中。說業業報。解章義中。說業報。及說取緣

問曰。若然者。此云何通。如說彼尊者。何故先立章。欲顯門義。云何立章義異。解章義異。是故如先說者好。問曰。何故名有。答曰。生滅故名有。問曰。若然者。所行道亦生滅。可是有耶。答曰。若生滅能令有增廣者。是有。聖道雖生滅。不令有增廣。但令損滅。復次若生滅能令有相續增長。生老病死者。是有。聖道雖復生滅。能斷有相續。不增長生老病死。復次若生滅是苦集道迹。是世間生死道迹者。是有。聖道雖復生滅。是苦集滅道迹。是世間生死滅道迹。復次若生滅是身見體。是顛倒體。是愛體。是使體。是貪悲癡立足處。雜垢雜毒雜刺雜滓。在有墮苦集諦中者。是有。聖道與此相違。不在有。復次可畏義。是有義

問曰。若然者。涅槃可畏。可是有耶。如說比丘當知。凡夫愚小。聞說涅槃。無我無彼。無我所須。一切諸物。於此法中。生怖畏心。答曰。若畏有者。是正畏涅槃。是邪。復次可畏法。凡夫聖人俱畏。涅槃唯凡夫所畏。非聖人所畏。復次是苦器故名有

問曰。此亦是樂器。如說摩訶男當知。若色一

向是苦。無有樂分。不生喜樂者。衆生於色。不應染著。摩訶男。以色非一向。苦有少樂分。能生喜樂。故衆生染著。亦說。有三受。苦受樂受。不苦不樂受。亦說。所須是道具。道是涅槃具。亦說。所須樂能生道樂。道樂能到涅槃。答曰。生死雖有少樂。苦分多。以樂分少。故說名苦分。猶毒瓶。雖一。帝蜜墮中。不以一。帝蜜故說名蜜瓶。以毒多。故說名毒瓶。身見少分。令欲有相續。少分令色有相續。少分令無色有相續。身見在三界。在欲界者。令欲有相續。在色有者。令色有相續。在無色有者。令無色有相續。戒取疑亦如是。餘廣說如經云。相續有五種。一中有相續。二生有相續。三時相續。四法相續。五剎那相續。中有相續者。死陰滅。次生中陰。中陰續死陰。名中有相續。生有相續者。中陰滅。次生生陰。生陰續中陰。名生有相續。時相續者。迦羅羅時滅。次生阿浮陀時。阿浮陀時續迦羅羅時。名時相續。乃至中年時滅。次生老年時。老年時續中年時。是名時相續。法相續者。善法後次生不善無記法。不善無記法續善法。後不善無記說亦如是。是名法相續。剎那相續者。前生剎那。次生後剎那。後剎那續前剎那。是名剎那相續。此五種相續。悉入二相續相中。謂法相續。剎那相續。所以者何。中有相續。生有相續。時相續。盡是法剎那相續。界中欲界有五種相續。色界有四。除時相續。無色界有三。除中有相續。時相續。中地獄趣有四。除時相續。餘四趣及四生。有五種相續。此中依二種相續而作論。謂

根一相二。趣十。五趣。屬十。故。滅二滅。說法。一。日若畏有。邪二耶。苦二若。滯二滴。

中有相續。生有相續。問曰。使能令有相續。非纏是意地。非五識身。何故作如是說。睡眠掉悔鼻觸生愛。舌觸生愛。令欲有相續。眼觸生愛。耳觸生愛。身觸生愛。令二有相續。少入欲有。少入色有。答曰。此文應如是說。貪欲蓋志蓋疑蓋。令欲有相續。意觸生愛。令三有相續。餘蓋餘觸生愛。不能令有相續。若不如是說者。當知此說有餘。復次以不斷故。說名相續。若不斷蓋不斷鼻觸生愛。舌觸生愛者。命終還生欲界。若不斷眼觸生愛耳觸生愛身觸生愛者。命終生欲界。色界復有三事故。令有相續。一不斷。二能生果。三令有相續。使在五識身。不善者有二事。一不斷。二能生果。不能令有相續。無記者有一事。不斷不能生果。不能令有相續。使在意地。不善者有三事。不斷能生果。能令有相續。無記者有二事。不斷令有相續。不能生果。纏在意地。五識身。不善者有二事。不斷能生果。不能令有相續。無記者有一事。不斷不能生果。不能令有相續。若有此三事者。能令有相續。

身見以何三昧滅。問曰。何故作此論。答曰。欲顯佛出世間有如是希有力故。而作此論。施設經。作如是說。閻浮提外。有轉輪聖王道。廣一由旬。海水覆之。若無轉輪聖王時。無有眾生能過上者。若轉輪聖王出時。海水減一由旬。轉輪聖王所行道乃現。以金沙布上。栴檀香水灑之。轉輪聖王欲與四種兵衆遊巡四天下時。行此道上。如是佛不出世時。無有眾生能行根本地。衆生雖有離欲者。依於邊道。

不得根本。若十力轉輪法王出世時。根本道爾乃顯現。以三十七品金沙布上。以戒定慧栴檀香水。而以灑之。世尊與無量百千萬那由他衆生。而行其上。至無畏涅槃城。是故欲現佛出世間有如是希有力故。而作此論。身見以何三昧滅。亦可言以何道。亦可言以何對治。亦可言以何正觀。如是說者。皆同一義。滅亦可言斷。亦可言無欲。亦可言盡。亦可言解脫。如是等說。皆同一義。昔有二大師。一名耆婆羅。二名瞿沙跋摩。尊者耆婆羅。作如是說。此中說畢竟斷無餘斷。一向是聖人。非凡夫人。以無漏道。非世俗道。七依經是此論根本。七依經說根本地。不說邊。無有依根本地以世俗道而離欲者。尊者瞿沙跋摩。作如是說。此中說畢竟斷無餘斷。亦有凡人亦有聖人。亦世俗道。亦以無漏道。問曰。若然者。七依經非此論根本。七依經純說根本。答曰。以是事故。阿毘曇照明修多羅。其猶如燈。經中所不說者。此中說之。經中不現者。此中顯之。經中有餘義者。此中說之。彼二家所說。俱得善通。三結依四依未至。依四依者。依四禪。依未至者。依未至中間。此地名未至。問曰。何故名未至耶。答曰。未入根本地。根本地未現在前。而能離欲。名未至地。

問曰。未至地不名為依。何故作是說。或依四。或依未至。答曰。此文應如是說。若入四依。若不入四依而滅。而不說者。有何意耶。答曰。欲重說四依名故。如說。或入根本得滅。或不入根本得滅。如人問他男子。汝為入城事得成耶。為不入城事得成耶。三結從欲界。乃至非想非非想處可得。欲界者。依未至。初禪者。依初依。依未至。二禪者。依二依。依未至。三禪者。依三依。依未至。四禪及無色。依四依。依未至。所以者何。三結是見道所斷。必以見道。而畢竟斷。見道必在六地。謂未至中間根本四禪。若依未至禪。得正決定三結。則以未至禪滅。若依初禪。得正決定三結。則依初禪滅。若依乃至第四禪。得正決定及無色三結。即依第四禪滅。此中說第四禪及無色三結。依四禪及未至貪患癡及欲漏。依未至。所以者何。離欲愛時。此法永斷。若凡人斷。依未至斷。聖人亦依未至斷。世俗道聖道。俱依未至斷。有漏或依七。或依未至。七依者。四禪三無色定。未至者。未。來中間。有漏從初禪乃至非想非非想處可得。彼非想非非想處。或依未至。而離彼欲。或乃至依無所有處。離彼欲。為無所有處。非非想處。有漏言七。地及未至。初禪地者。或依。初依。或依未至。二禪地者。或依二依。或依未至。乃至識處。或依六依。或依未至。無所有處。非非想處。或依七依。或依未至。無明漏。欲界乃至非想非非想處可得。彼非想非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。總而言之。依七依。或依未至。若欲界者。依未至。在初禪者。依初依。或依未至。乃至識處。依六依。依未至。無所有處。非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。餘廣說如經本。

耶。為不入城事得成耶。三結從欲界。乃至非想非非想處可得。欲界者。依未至。初禪者。依初依。依未至。二禪者。依二依。依未至。三禪者。依三依。依未至。四禪及無色。依四依。依未至。所以者何。三結是見道所斷。必以見道。而畢竟斷。見道必在六地。謂未至中間根本四禪。若依未至禪。得正決定三結。則以未至禪滅。若依初禪。得正決定三結。則依初禪滅。若依乃至第四禪。得正決定及無色三結。即依第四禪滅。此中說第四禪及無色三結。依四禪及未至貪患癡及欲漏。依未至。所以者何。離欲愛時。此法永斷。若凡人斷。依未至斷。聖人亦依未至斷。世俗道聖道。俱依未至斷。有漏或依七。或依未至。七依者。四禪三無色定。未至者。未。來中間。有漏從初禪乃至非想非非想處可得。彼非想非非想處。或依未至。而離彼欲。或乃至依無所有處。離彼欲。為無所有處。非非想處。有漏言七。地及未至。初禪地者。或依。初依。或依未至。二禪地者。或依二依。或依未至。乃至識處。或依六依。或依未至。無所有處。非非想處。或依七依。或依未至。無明漏。欲界乃至非想非非想處可得。彼非想非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。總而言之。依七依。或依未至。若欲界者。依未至。在初禪者。依初依。或依未至。乃至識處。依六依。依未至。無所有處。非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。餘廣說如經本。

初禪者。依初依。或依未至。乃至識處。依六依。依未至。無所有處。非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。餘廣說如經本。

初禪者。依初依。或依未至。乃至識處。依六依。依未至。無所有處。非非想處。無明漏。或依七依。或依未至。餘廣說如經本。

①次一有②③ ④[界]一⑤⑥ ⑦[若轉輪聖王出]一⑧ ⑨與二與⑩ ⑪[同]一⑫ ⑬七依一依七⑭ ⑮來二至⑯ ⑰地二依⑱ ⑲初十(禪) ⑳依十(或)㉑ ㉒阿毘曇毘婆沙論卷第六十三終。此下聖本有光明皇后顯文

諸結過去。彼結已繫耶。答曰。若結過去。彼結已繫諸結過去。彼得亦過去是也。頗結已繫彼結非過去耶。答曰。有。未來現在結是也。諸未來現在結。得在過去。諸結生時。或如大牛在前而行。或如犢子隨後而行。或有俱行。如大牛在前行者。先生結。後生得。如犢子隨後行者。先生得。後生結。俱行者。結得俱生。此中說犢子隨行法。諸結未來。彼結當繫耶。答曰。或結未來。彼結不當繫耶。乃至廣作四句。云何結在未來。彼結不當繫耶。答曰。諸未來結。已斷已知已滅已吐。於彼斷結心。更不退斷者。是斷智。知者是智知。滅者是數滅。吐者斷不解脫。得解脫。得作證。於彼斷結心。更不退者。不退法阿羅漢。未來三界見道修道所斷結。已斷乃至已吐。彼結更不復繫。所以者何。彼是不退法故。若是退法阿羅漢。未來三界見道所斷結。已斷乃至已吐。彼結更不復繫阿那含是不退法者。離無所有處欲。未來三界見道所斷結。及修道所斷八地結。已斷乃至已吐。彼結更不復繫。乃至離欲界欲未離初禪欲。三界見道所斷。欲界修道所斷法。彼結已斷。乃至已吐。更不復繫。不退法斯陀含。未來三界見道所斷結。及欲界修道所斷六種結。已斷乃至已吐。更不復繫。須陀洹未來三界見道所斷結。已斷乃至已吐。更不復繫。不退法凡夫。如菩薩等離無所有處欲。八地見道修道所斷結。已斷乃至已吐。更不復繫。乃至離欲界欲。一地說亦如是。云何結當繫。彼結不在未來耶。答曰。諸結過去

已斷已知已滅已吐。於彼斷結必退。退法阿羅漢。三界過去修道所斷結。已斷乃至已吐。彼結當繫。退法阿那含。離無所有處欲過去。八地修道所斷結。已斷乃至已吐。彼結當繫。乃至離欲界欲。未離初禪欲。說亦如是。離無所有處欲。退凡夫人。過去八地見道修道所斷結。已斷乃至已吐。彼結當繫。乃至離欲界欲。未離初禪欲。說亦如上。云何結在未來。彼結當繫耶。答曰。諸未來結。已斷乃至已吐。彼結必退。廣說如過去。云何結不在未來。彼結不當繫耶。答曰。諸結過去。已斷乃至已吐。彼結必不退。廣說如未來。諸結現在。彼結今繫耶。答曰。若結現在彼結。今繫諸結現在。彼得亦現在。頗結今繫。彼結非現在耶。答曰。有諸過去未來結。諸過去未來結。得在現在。繫過去者。如大牛行法。現在者。如犢子行法。所可用道斷欲界結退。彼道時還得彼結得不耶。問曰。何故作此論。答曰。或有說。無有退法。如毘婆闍婆提。以現喻故。而作是說。今現見瓶破。唯有破瓦。不可還作瓶。如是阿羅漢。以金剛喻定。破諸煩惱。令無有餘。不可還成煩惱性。亦如燒木為灰。更無木用。如是阿羅漢。以智慧火。燒諸煩惱。更無煩惱用。以是現喻故。言無退法。為斷如是說者意。亦明退法有實體。若言無退法。則違佛經。佛經說有二種阿羅漢。一退法。二不退法。復違餘經。如說有五因緣。時解脫阿羅漢退。云何為五。一營事。二多誦。三和鬪諍。四遠行。五長病。復違餘經。如說。尊者瞿醯迦得阿羅漢。是時解脫。六反退失阿羅漢果。

第七反時。畏退此法。以刀自害而死。欲令無如是過故。說退法實有定體。問曰。若退法實有定體者。毘婆闍婆提。說現喻。云何通。答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。不可以世間現事。過賢聖法。賢聖法異。世間法異。若欲必通。有何意耶。答曰。應說喻過。若喻有過。義亦有過。如瓶破時。有餘碎瓦。阿羅漢諸結斷時。為有餘結。為無有耶。若有餘結。是名有結。不名阿羅漢。若無餘結。義異喻異。猶如燒木有餘灰在。如是阿羅漢諸結盡時。為有餘結。為無餘結。若有餘結。不名阿羅漢。若無餘結。義異喻異。然木無燒義。木微塵與火微塵作因已滅。火微塵與灰微塵作因已滅。是故作如是說。木是灰因。灰因木生。作燒木想。燒木已有餘灰。非無所有。是故喻不似義。如是阿羅漢煩惱盡時。非無本性。在過去未來世中。有相有實體。若與結相違。諸善功德。在彼身中。未生之時。名結不斷。若與結相違。諸善功德。在彼身中。出生之時。彼結名斷。如是修聖道時。不令結體使無本性。如是聖道。是希有事。能令阿羅漢斷一切結。不令此結非無本性。是故尊者瞿沙。作如是說。煩惱不在身中行。故名斷。如提婆達多。不在舍中。非無提婆達多性。彼亦如是。問曰。毘婆闍婆提。云何通。有多婆提所引經耶。答曰。彼作是說。阿羅漢退道不退果。所以者何。果是無為法故。問曰。若然者。雖不退果。而退於道。退於道非是退耶。若退無學道

①(耶)一② ③彼斷一斷彼④ ⑤破一碎⑥ ⑦自一目⑧ ⑨過二難⑩ ⑪有二有

時。為得學道。為不得耶。若得者亦應言。退果。若不得者。便有大過。退無學道。不得學道。是時應是凡夫。毘婆闍婆提。復作是說。使是纏種子。使不與心相應。纏與心相應。使能生纏。纏若現在前名退。阿羅漢諸使已斷故。不能生纏。云何起纏現在前而退耶。是故彼作是說。言無退法。如是說者好。彼作是說。言無退法者。是無知果。闍果。愚果。不勤方便果。而退法有相有實體。是故為止他義。乃至欲顯已義故。而作此論。

問曰。退法體性是何。答曰。是不成就性。不隱沒無記。心不相應行陰攝。在如是法中。如說。如是等諸法。名心不相應行。退異退法異。退者。是不成就性。如上說。退法是不善法。及隱沒無記法。亦如破僧異。破僧罪異。破僧是不和合性。是不隱沒無記。心不相應行陰攝。破僧罪是妄語僧成就不和合破僧人成就罪。如是退異退法異。廣說如上。復有說者。若起使若起纏現在前。是退性。若然者。退法性是染污。復有說者。若法隨順退法是退性。若作是說。一切諸法。盡是退性。所以者何。一切諸法。隨順退性故。尊者浮陀提婆。作如是說。退無體性。所以者何。行者本有如是諸善功德。於彼法退失墮落。如人為賊所劫財物。有人問言。汝失財物。體性是何。答言。無有體性。本有財物。賊劫之去。復有何性。猶如有一人劫衣去。他人問言。汝今失衣。體性是何。彼答言。無有體性。所以者何。本有此衣。人劫之去。當有何性。猶如有一人裂其衣。他人問

言。汝今衣裂體性是何。彼答言。無有體性。所以者何。衣本是完。他人裂破。當有何性。彼亦如是。評曰。應如上說。退體性是不成就性。乃至廣說。

問曰。為退已煩惱現在前。為煩惱現在前退耶。若煩惱現在前退者。波伽羅那說云。何通。如說。以三事故。起欲愛結。一。不斷不知欲愛使。二。起欲愛具現在前。三。不正觀。若煩惱現在前退者。此經云何通。如說。有五因緣時解脫阿羅漢退。若煩惱現在前退者。定。健度說云何通。如說。以非學非無學心退。生學法得。云何是阿羅漢。起煩惱心現在前。何等心次第起煩惱心。若當退已起煩惱者。施設經說云何通。如說。或時心遠。或時心剛強。以遠以剛強故。或時起無色界三纏現在前。謂愛慢無明。然多起慢纏。若彼人於無色界。三纏起。一。現在前。是人名於無色界欲盡。退住色界欲盡中。識身經說復云何通。猶如有一起無色界染污心現在前。是時名捨何善根何善根相續耶。答曰。捨無學善根。善根相續。退無學心。住於學心。波伽羅那經說云何通。如說云何退法。不善隱沒無記法。住何等心。煩惱現在前。答曰。應作是論。或有說者。起煩惱現在前退。如是後說善通。波伽羅那說云。何通。答曰。此為說煩惱不斷者。或有已斷煩惱起煩惱現在前。或有未斷煩惱起煩惱現在前。此中說煩惱未斷現在前者。或有染污心次第起煩惱現在前。或有不染污心次第起煩惱現在前。此中說染污心次第起煩惱現在前

者。或有退煩惱現在前。或有不退煩惱現在前。此中說不退煩惱現在前者。復次。此中說能起滿足煩惱者。以三事故。眾生起於煩惱。一。以因力。二。以境界力。三。以方便力。如說。不斷不知欲愛使者。是說因力。起欲愛具現在前者。是說境界力。不正觀者。是說方便力。復次。不同外道故。作如是說。外道說以境界故煩惱生。若境界壞則無煩惱。為止如是意故。彼尊者說。因不正觀故煩惱生。佛經云何通。有五因緣時解脫阿羅漢退。答曰。此中說退具名退。餘經亦說。以餘法具故說名餘法。此亦如是。以退具故名退法。定。健度說云何通。答曰。此中說根退。不說果退。云何阿羅漢起煩惱現在前。便非阿羅漢。如凡夫人。起無漏法現在前。若起無漏法現在前。便非凡夫。學人起無學法現在前。若起無學法現在前。便非學人。何等心次第起煩惱心現在前。答曰。畢竟離非想非非想處欲。還起非想非非想處結便退。彼結次第善心後生。若非畢竟離欲者。起非想非非想處結退。彼次第。或起善心。或起染污心。乃至離初禪欲。說亦如是。永斷欲界退時。二種心次第生煩惱。謂善心不隱沒無記心。若不都離欲界欲。三種心次第生煩惱。謂善染污不隱沒無記心。復有說者。退後煩惱現在前。前所說善通。施設經識身經說云何通。答曰。此說不知不覺。而作是說。先退不知不覺。後煩惱起時。乃知乃覺。我今退猶如比丘誦四阿含。不誦誦故。而便忘失。

◎退二道◎ ◎言二日◎ ◎卷第四十六終◎ ◎卷第四十七使健度一行品之四首◎ ◎卷第四十七使健度一行品第二之四首◎ 造號釋號同異如卷第二十三◎ ◎健二健◎ ◎心十(起)◎

都不覺知。後誦不得。乃知忘失。而非誦時先忘失。誦不得故。而知忘失。彼亦如是。波伽羅那經說。復云何通答曰。此說減損善法。遠於善法。若煩惱數現在前時。遠於善法。住何等心起煩惱現在前。答曰。住不隱沒無記心。若威儀。若工巧。非報心。所以者何。報心羸劣故。

問曰。羸劣心不能隨順退法耶。答曰。於出要分中心羸劣。煩惱分中心熾盛。是時乃退報心。於二種心中。俱是羸劣。評曰。住威儀。功巧報心中盡退。謂欲界不隱沒無記心。與三界煩惱心相妨。彼心若現在前時。三界煩惱不得現在前退。或有與欲色界煩惱相妨。不與無色界煩惱相妨。彼心現在前時。欲色界煩惱不得現在前。若退者。起無色界煩惱現在前。或有與欲界煩惱相妨。不與色無色界煩惱相妨。彼心若現在前。欲界煩惱不得現在前退。若退者。起色無色界煩惱乃退。或不與三界煩惱相妨者。彼心若現在前時。三界煩惱。展轉現在前。若不得淨禪淨無色得者。謂現前行得。彼不能以色無色界煩惱現前退。若退者。起欲界煩惱退。若得淨禪者。謂現前行得。不得淨無色定。彼不能起無色界煩惱退。若退者。起欲界煩惱退。若得淨禪淨無色。若得者。謂現前行得。若退者。能起三界煩惱。展轉現在前。

問曰。退時爲任意地退。爲住五識身退耶。答曰。任意地退。非五識身。問曰。若任意地非五識身者。優陀延王因緣云何通。會聞。優陀延

王。將諸宮人嫁女。詣鬱毒波陀山林。除却男子。純與女人五樂自娛。其音清妙。燒衆名香。時諸嫁女或有裸形而起舞者。爾時有五百仙人。以神足力。飛騰虛空。經過彼處。時諸仙人眼見色。耳聞聲。鼻嗅香。便失神足。猶無翼鳥。墮彼林中。時王見之。而問言。汝等是誰。諸仙答言。我是仙人。王復問言。諸賢。汝得非想非非想處定耶。答言。不得。乃至問言。汝得初禪耶。答言。曾得而今已失。時王瞋恚。作如是言。有欲之人。見我宮人嫁女。非其所以。便拔利劍。斷五百仙人手足。彼諸仙人。或有住眼識退者。或有住耳識退者。或有住鼻識退者。憂陀羅摩子因緣。復云何通。會聞。

*憂陀羅摩子有王。常施其食。若食時至。以神足力。猶如鷹王。飛騰虛空。詣於王宮。時王即。時躬自迎。抱坐金床上。以諸仙人所食之味。而供養之。時彼仙人。飯食已竟。除器澡漱。說偈呪願。飛空而去。是王後時。以國事故。欲詣餘處。作是念。若我行後。無人如我常法。給事仙人。仙人性躁。或起瞋恚。而呪咀我。或失王位。或斷我命。便問其女。作如是言。仙人若來。如我常法。汝能供養不。女答。言能。時王重約勅女。盡心奉養。然後乃行。營理國事。後日食時。仙人從空飛行而來。時王女。如父王法。躬身迎。抱坐金床上。王女身體細軟。仙人離欲。而復妙薄。相觸女時。退失神足。飯食訖。除器澡漱。說偈呪願。欲飛空去。而不能飛。時王宮中。有後園林。卽入其中。欲修神足。耳聞象馬車乘之聲。而不得修。時彼

城中人民。恒作是念。若令大仙在地行者。我等當得親近禮足。爾時仙人。聰明黠慧。善知方便。語王女言。汝今宣告城中人民。今日大仙。當從王宮步行而出。汝等人民。所應作者。皆悉作之。時彼王女。如其所勅。卽便宣告城中人民。是時人民。卽時除去城中街陌瓦礫糞穢。懸諸幡蓋。燒衆名香。散種種華。嚴飾鮮潔。猶如天城。是時仙人步行而出。去城不遠。入林樹間。欲修神足。聞衆鳥聲。修不能得。便捨林樹。復詣河邊。以其本法。欲修神足。復聞水中魚鼈迴轉之聲。而不得修。便上山。上作是思惟。我今所以退失善法。皆由衆生。凡我所有善法。淨行苦行。使我當作如是衆生。能害世間所有地行飛行水性衆生。無免我者。發是惡誓願已。離八地欲生。非想非非想有頂處。開甘露門。寂靜田中。八萬劫中。處閑靜樂業報盡已。還生此間。答波樹林。曇摩阿蘭若處。作著翅狸。身廣五十由旬。兩翅各廣五十由旬。其身量百五十由旬。以此大身。殺害空行水陸衆生。無得免者。身壞命終。生阿毘地獄。如是等住身識時。退帝釋因緣。復云何通。會聞。佛未出世時。天帝釋常往詣提波延那仙人所聽法。帝釋後時。乘寶飾車。欲詣仙人。是時帝釋阿修羅女。舍芝夫人。作是念。今者帝釋。捨我欲詣。諸餘嫁女。卽隱其形。上車上。帝釋不知乘。到仙人所。願視見之。而問言。汝何故來。仙人今者。不欲眼見女人。汝可還宮。爾時舍芝不欲還去。帝釋以蓮華莖打。時舍芝夫人。以女人軟美之音。而謝帝釋。仙人聞

功二工(一) 心十(若) 前十(退) 一(若) 一(若) 二(前) 言二日(一)

已起如是欲愛。而現在前。令其鬚髮即時落地。如是等住耳識而退。若任意識。不住五識退者。如是等諸因緣云何通。答曰。如是等說。皆先依五識生於意識。然後乃退。尊者僧伽婆修。作如是說。住五識身亦退。所以者何。眼見色能生煩惱。乃至身觸觸能生煩惱。以其對治羸劣故。眼見色便退。乃至身觸觸便退。評曰。應作是說。住意地退。不住五識所以者何。意地有六事。不與五識共。一退。二離欲。三死。四生。五斷善根。六還令相續。

阿毘曇毘婆沙論卷第三十二

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩 譯
共道泰等

使權度一行品下

◎退有三種。一得退。二不得退。三不現前行退。得退者。得諸善功德而退。不得退者。一切衆生。若勤方便。皆應得聖慧眼。以貪著名色故。不勤方便。是名不得退。如偈說

一切天世人 皆應得慧眼
貪著名色故 不得見真諦

又如偈說

愚小衆所敬 是則名失利
亡失諸善法 是名爲頂墮

世尊爲提婆達多故。而說此偈。彼已起煖善

根不久當得頂法。於其中間。貪著利養故。於善法退。如是名不得退。不現前行退者。已得善法。不現前行。如佛不起佛菩提現前。辟支佛不起辟支佛菩提現前。聲聞不起聲聞菩提現前。是名不現前行退。問曰。此三種退。幾是佛幾是辟支佛幾是聲聞。答曰。佛有一種退。謂不現前行退。本得善法。不現前行故。無不得退。所以者何。於一切衆生中。得最勝根故。無不得退。所以者何。非是退法故。辟支佛有二種退。一不得退。二不現前行退。不得退者。不得佛根故。現前行退者。本得善法。不現前行故。無不得退。非是退法故。聲聞是非時解脫者。有二種退。一不得退。二不現前行退。不得退者。不得佛辟支佛根故。不現前行退者。本得善法。不現前行故。無不得退。者非退法故。時解脫阿羅漢。有三種退。得退者。先得善法而退。不得退者。不得三種根。現前行退者。先得善法。不現前行。復有說者。佛世尊無一種退。無不得退。非是退法故。無不得退。以住一切衆生中最勝根故。無現前行退。所以者何。佛於無數阿僧祇劫。集諸難行苦行。皆欲爲衆生說法故。無有少時不爲衆生。辟支佛有一種退。先得善法。不現前行。無得退。非退法故。無不得退。若於辟支佛。根已定。無求佛根故。非時解脫阿羅漢。有一種退。先得善法。不現前行。無得退。非退法故。無不得退。若於非時解脫根已定。不求辟支佛。佛根故。時解脫。有二種退。得退者。先得善法而退。現前行退者。先得善法。不現

前行。無不得退。若於時解脫根已定。則不求上三種根故。評曰。應作是說。佛世尊有一種退。謂現前行退。辟支佛有二種退。謂現前行退。不得退。非時解脫阿羅漢亦如是。時解脫阿羅漢有三種退。謂得退。現前行退。不得退。問曰。云何知佛世尊有現前行退。答曰。依佛經故。如經說。佛告阿難。如來有四種增上心。受現法樂。於此四心。展轉有退。如諸弟子聚會爲說法時。若不動法心得解脫。身作證。不說有退。問曰。此中爲說現前行退。爲說得退。若說現前行退者。不動法心得解脫。亦應有退。所以者何。不能一切時令不動法。常現在前。若說得退者。四種增上心。亦不應退。所以者何。如來是不退法。應作此論。是現前行退。問曰。若然者。不動法心得解脫。亦應有退。答曰。不動法心得解脫者。以得爲勝。若得彼法。更無所作。增上心。以現前行爲勝。若不現在前。便言是退。復有說者。若依未至。是說不動法。若依根本禪。是說增上心。如來依未來現在前多。若食時若食後。爲他說法時。說法已。欲入定時。如來雖於禪定速疾。於未至禪速疾。勝根本禪。猶如疾行之人。於行法疾。然近處疾。勝於遠疾。復次自利益。是說增上心。利益他。是說不動。如來利益他多。自利益少。復次慈悲。是說不動。喜捨是說增上。如來多起慈悲。少起喜捨。復次大悲。是說不動。大捨是說增上心。如來多起大悲。少起大捨。尊者瞿沙說曰。永斷一切結。是說不動。如來一切時。彼得現在前。問曰。若佛世

◎(心)上十 ◎如二知 ◎一二三 ◎[者]一 ◎(不)十現 ◎退二得 ◎不分卷及品 ◎一螺一

尊。有現前行退。有現前行退。佛多。辟支佛多。聲聞多耶。答曰。如來。現前行退多。非聲聞辟支佛。所以者何。若如來一刹那頃。現前行退。勝辟支佛聲聞盡其形壽退。以如來有廣大無邊甚深明淨幽隱之法。譬如王四天下轉輪聖王。若於一日。離自國土。勝於小王。盡其形壽離自國土。

定。健度作如是說。以何等故。阿羅漢果退。阿那含果退。斯陀含果退。非須陀洹果耶。答曰。即彼文說。見諦所斷法。緣無所有。云何緣無所有。答曰。因無法起。云何因無法起。答曰。因於我起。實義中無有我。修道所斷法。緣於有法。云何緣於有法。答曰。因於有起。云何因於有起。答曰。因淨故。淨有少淨。如髮爪齒。唇形色淨。等觀此法。作淨想故。於不淨法退。無有法少分。是我我所。而計於我。觀此法時。無有於無我法退。是故不退。復次斷三界見道所斷煩惱名須陀洹果。無有能。退須陀洹果者。復次斷非非想處見道所斷煩惱名須陀洹果。無有能退非非想處見道所斷煩惱者。此因論生論。以何等故。無有能退非非想處見道所斷煩惱。答曰。非非非想處煩惱。難斷難破難過。以難斷難破難過故。還令相續亦難。復次以忍作對治。斷緣無所有煩惱。名須陀洹果。無有退忍作對治斷緣無所有煩惱者。復次以見道。能到須陀洹果。無有能退見道者。如是因論生論。以何等故。無有能退見道耶。答曰。見道是速疾道。不起道。無有勢力起彼道者。復次行者入

見道名入大法河大流中。猶不能起善不隱沒無記心現在前。何況染污心。譬如有人墮山。間河峻流之中。猶不能據彼此岸。何況能渡。彼亦如是。復次見道是三界見道所斷對治法。無有能退三界見道所斷煩惱者。復次見道是非非非想處見道所斷對治。無有能退非非非想處煩惱者。復次見道是忍作對治。斷緣無所有煩惱。無有能退忍作對治斷緣無所有煩惱者。問曰。若退阿羅漢果。住須陀洹果時。當言退斯陀含果阿那含果不耶。答曰。當言退。譬如有人。從三重屋上。墮至於地。當言此人墮三重屋。彼亦如是。問曰。彼二沙門果。本不成就。何以言退。答曰。以不成就。復不成就故。云何以不成就。復不成就。答曰。本遠今復遠故。復次以斷爾所結故。名斯陀含果阿那含果。以退結故。果亦名退。復次諸煩惱。以斯陀含果阿那含果為對治。彼煩惱本得成就。成就煩惱故。彼對治名退。復次以無礙解脫道。能到斯陀含果阿那含果。於彼道退果亦名退。復次斯陀含果阿那含果。是阿羅漢果。因阿羅漢果。若退彼果。因亦名退。問曰。須陀洹果。亦是阿羅漢果。因阿羅漢果。亦是彼果。何以退彼果時。不退因耶。答曰。須陀洹果前。更無有果。若彼退時。更無住處。若當退須陀洹果者。本是見諦。今非見諦。本是得果。今非得果。本是決定。今非決定。本是聖人。今非聖人。欲令無如是過故。說須陀洹果不退。

退根本沙門果不命終。果中間退命終。問曰。

何故退根本沙門果不命終。果中間退命終耶。答曰。以易見易施設。謂此是須陀洹果。乃至謂是阿羅漢果。果中間。不易見。不易施設。復次行者是時於果。生大悅適。譬如農夫。於六月中。修治田業。後獲子實。積聚場上。心大悅適。彼亦如是。復次是時有三事故。一得未曾得道。二捨會得道。三斷煩惱同於一味。復次是時有五事。一得未曾得道。二捨會得道。三斷煩惱同於一味。四頓得八智。五修十六行。復次是時是止息處。最勝止息處。復次是時斷結事事成。道方便便成。果中間斷結事未成。道方便未成。復次是時容廣修道。果中間不容廣修道。復次行者是時善知功德過惡。知功德者。是道道果。知過惡者。是生死法。復次行者是時善取相貌。如人道中行時。不能善取四方相貌。若坐一處。則能善取四方相貌。彼亦如是。復次行者是時有隨從知見者。猶如有人。於村落中間。為人所劫。無有隨從知見者。若在村落。為人所劫。多有隨從知見者。復次行者。是時先廣修方便道。立足處牢固。須陀洹果。廣修方便道者。先為解脫故。修施持戒。聞慧思慧修慧。煩忍世第一法。見道中十五心頃是也。斯陀含果廣修方便道者。如上說。諸善復更有未曾有者。離欲界欲方便道六無礙道五解脫道是也。阿那含果廣修方便道者。如上說。諸善復更有未曾有者。離欲愛時。方便道三無礙道。二解脫道是也。阿羅漢果。廣修方便道者。如上說。諸善復更有未曾有者。離初禪欲時。方便道九

●二二二● ●中二處● ●問二類● ●[者]一● ●退十(三界見道所斷煩惱者)● ●捷二健●

無礙道九解脫道。乃至離無所有處欲。說亦如是。離非想非非想處欲時。方便道九無礙道八解脫道是也。復次行者是時斷一切生分。止一切生分。須陀洹除欲界七生分。色無色界一一生處。除一一生分。餘一切生分。得非數滅。斯陀含除欲界二生分。色無色界一一生處。除一一生分。餘一切生分。得非數滅。阿那含色無色界一一生處。除一一生分。餘一切生分。得非數滅。阿羅漢一切生分。得非數滅。復次行者是時頓證三界見道所斷煩惱。須陀洹頓證三界見道所斷煩惱。斯陀含頓證三界見道所斷煩惱及欲界修道所斷六種煩惱。阿那含頓證三界見道所斷煩惱及欲界修道所斷九種煩惱。阿羅漢頓證三界見道修道所斷煩惱。以如是等事故。根本沙門果退不命終果中間退者命終離欲界欲乃至離無所有處欲得正決定。若退者。以上地煩惱退。問曰。何故退上地煩惱。不退下地者耶。答曰。下地煩惱。以為二種對治所害故。不能更生。復次彼煩惱斷已。更有重見道法墮上。墮上故不能更生。如人偃臥在地。大山墮上。猶不能動。何況能起。復次彼結斷已。生於忍智。無有退忍智者。復次彼結斷已。生法智比智。無有畢竟退法智比智者。復次彼結斷已。生世第一法。無有退世第一法者。復次彼結斷已。生增上忍。無有退增上忍者。復次凡夫人離欲界欲。乃至離無所有處欲。從欲界乃至無所有處。見道修道所斷煩惱。合集如刈草法。作九種一時斷。後得果時。於對治退。

當言成就見道所斷結不耶。若成就者。無有聖人退見道所斷結者。若不成就者。云何煩惱同一對治斷於彼對治退。或有成就。或不成就。此事云何可爾

當得阿羅漢果住金剛喻定時。成就下下煩惱。若退阿羅漢果時。還成就非非想處下下煩惱。為成就金剛喻定不答曰。不成就。問曰。何故當得阿羅漢果住金剛喻定時。成就下下煩惱。若退阿羅漢果時。成就下下煩惱。不成就金剛喻定耶。答曰。金剛喻定。多用功多用方便。然後乃得。下下煩惱。不多用功。不多用方便。而現在前。復次金剛喻定。勝進時得。下下煩惱。退失時得。復次金剛喻定。與下下煩惱。不妨成就。妨現前行。下下煩惱與金剛喻定。妨成就妨現前行。如金剛喻定。與下下煩惱。不妨成就。如是住金剛喻定。成就下下煩惱。如下下煩惱。與金剛喻定。妨成就。亦妨現前行。如是住下下煩惱。不成就金剛喻定。復次金剛喻定。是無礙道。無有住無礙道退者。亦無退已住無礙道者。皆住解脫道勝進道而退。得已還住解脫道勝進道

問曰。於何處退。答曰。界者在欲界。非色界。非無色界。趣者在人趣非餘趣。問曰。何故六欲天中無退耶。答曰。彼處無退具。故問曰。彼處非不多諸退具耶。答曰。佛經中所說退具。彼中無。然諸天得果者。多是利根。利根者不退。問曰。若鈍根者。人中得果。後生六欲天上。在彼退耶。答曰。不退。所以者何。聖人易世。不退不轉根。不生色無色界。所以者何。聖

道在彼身中。舊住牢固故

問曰。何等人退。何等人不退耶。答曰。或有信他隨他。或有自信自欲。若信他隨他。入聖道者退。自。信欲入聖道者不退。復次或有廣因力廣方便力廣不放逸力。或有不爾。若廣者不退。不爾者退。復次或有以信入聖道者。或有以慧入聖道者。若以信入聖道者退。若以慧入聖道者不退。如以信以慧以奢摩他毘婆舍那。可定可慧。修定修慧。得定得慧。得內心定不得慧。得慧不得內心定。住堅信法。住堅法法。鈍根利根。緣力因力。內。枝力外。枝力。內正思惟。從他聞法。當知亦如是。復次或不貪多者。或不愚多者。不貪多者退。不愚多者不退。復次或有心善解脫慧善解脫。或有心善解脫慧不善解脫。若心善解脫慧善解脫者不退。若心善解脫慧不善解脫者退

問曰。退者經幾時。答曰。經少時不久。乃至不自知退。若自知退。便修勝進方便。復次彼煩惱現在前時。心生慚愧故。速修方便。如明目人晝於平地而便顛蹶。尋即還起。四方顧視。無見我者不耶。如是行者煩惱起時。心生慚愧。若佛若佛弟子。若諸善人。無見我者不耶。復次彼煩惱現在前時。身心生熱。欲令煩惱熱滅滅故。尋修方便。猶如軟身體人小火墮上。尋即除却。彼亦如是。復次煩惱臭穢在身。不堪忍故。尋修方便。猶如好淨之人。有少不淨墮於身上。尋即除却。彼亦如是。復有說者。此事不定。或有久者。乃至。令根猛利。信

①從二彼 ②得二退 ③信十(自) ④枝二支 ⑤次十(以) ⑥令二今

斷*智。色愛斷八斷*智一切結斷九斷*智。問曰。九斷*智攝一切斷*智。一切斷*智攝九斷

*智。廣說如經本。斷者是無為。問曰。若斷者是無為。不能有所緣。何。故斷是智耶。答曰。

斷是智果故說智。業果說業。如說。六入是舊業。天眼天耳是通果說通。阿羅漢是智果說

智。如是智果故說斷智。問曰。若然者。修道所斷結。以智斷故是智果。可言斷*智。見道所

斷結。以忍斷是忍果。云何言斷智耶。答曰。彼是世俗智果故言斷智。如先以世俗道。離欲

界欲。乃至離無所有處欲。八地中所斷結斷是世俗智果。問曰。若然者。世俗道能有所作

處可爾。非想非非想處世俗道。不能有所作。非想非非想處見道所斷結斷是忍。云何是

斷智耶。尊者僧伽婆修說曰。此是。慧果說斷智。斷有二種。一是*慧果。彼不應作是說。所

以者何。佛經說。二智。一知智。二斷智。不說斷慧。評曰。應作是說。實義智者。是金剛喻

定。斷是彼果。所以者何。得阿羅漢果時。以金剛。喻定。斷三界見道修道所斷結。頓證解

脫得故。復有說者。從智種中生故名斷智。如瞿曇姓中生故名瞿曇。彼亦如是。復次彼斷

性相是斷智。彼斷雖不能有所緣。而性相是斷智。說名斷智。如過去未來眼根。雖不能

見。而性相是眼。彼亦如是。尊者瞿沙說曰。應言正斷是最勝斷相應斷畢竟斷。尊者波奢

說曰。應言棄斷。所以者何。棄一切生。死。得此斷故。此斷亦可言斷。亦可言無欲。亦可言

滅。亦可言諦。亦可言斷智。亦可言沙門果。亦

可言有餘涅槃界無餘涅槃界。苦法忍滅苦法智生。是時彼斷名斷名無欲。名滅名諦。不

名斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。苦比忍滅苦比智生。是時彼斷名斷

乃至名諦。不名斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。集法忍滅集法智生。是時

彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂欲界見苦見集所斷結盡斷智。不名沙門果。不名

有餘涅槃界無餘涅槃界。集比忍滅集比智生。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂

是時彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂色無色界見苦見集所斷結盡斷智。不名沙

門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。滅法忍滅滅法智生。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦

名斷智。謂欲界見滅所斷結盡斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。滅比忍滅

滅比智生。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂色無色界見滅所斷結盡斷智。不

名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。道法忍滅道法智生。是時彼斷名斷名無欲名滅

名斷智。謂欲界見道所斷結盡斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。道比

忍滅道比智生。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂色無色界結盡斷智。不名沙

門果。謂須陀洹果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。是時三界見苦見集見滅。及欲界見道所

斷結同一味。頓證解脫得。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂須陀洹

果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。須陀洹當得斯陀含果。斷一種結。乃至五種結。是時彼斷

名斷名無欲名滅名諦。不名斷智不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。第六無礙道

滅第六解脫道生。是時彼斷名斷名無欲名滅名諦。不名斷智名沙門果。謂斯陀含果。不

名有餘涅槃界無餘涅槃界。是時三界見道所斷彼斷名斷。名無欲名滅名斷智。謂先所

得斷智名沙門果。謂斯陀含果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。欲界修道所斷五種結同一

味。頓證解脫得。是時彼斷名斷。名無欲名滅名諦。不名斷智名沙門果。謂斯陀含果。不名

有餘涅槃界無餘涅槃界。斯陀含當得阿那含果。斷第七第八種結時。彼斷名斷。名無欲名

滅名諦。不名斷智不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。第九無礙道滅。第九解脫道

生。是時彼斷名斷。名無欲名滅名諦名斷智。謂五下分結盡斷智。名沙門果。謂阿那含果。不

名有餘涅槃界無餘涅槃界。即彼時三界見道所斷結。及欲界修道所斷九種結同一味。頓

證解脫得。是時彼斷名斷。名無欲名滅名諦名斷智。謂本得斷智五下分結盡斷智。名沙門果。

謂阿那含果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。離初禪欲。斷一種結。乃至斷九種結。是時彼斷

名斷名無欲名滅名諦。不名斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。乃至離第四

禪欲。斷一種結。乃至斷八種結。說亦如是。第九無礙道滅。第九解脫道生。是時彼斷名斷

名無欲名滅名諦名斷智。謂色愛斷斷智。不名沙門果。不名有餘涅槃界無餘涅槃界。離空

處欲。乃至離非想非非想處。斷八種結。是時

○故十(彼)○ ○慧二(萬)○ ○二十(斷)○ ○喻二(前)○ ○三二(二)○ ○[難]一(一)○ ○死二(無)○ ○[名斷]一(一)○ ○界十(見道所斷)○ ○(見道)○ ○滅十(名諦)○ ○界二(果)○ ○斷十(名斷)○ ○九二(八)○

彼斷。名斷名無欲名滅名諦。不名斷智不名沙門果。不名有餘涅槃無餘涅槃界。金剛喻定滅。初盡智生。是時九種結斷。彼斷名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂一切結盡斷智。名沙門果。謂阿羅漢果。名有餘涅槃界。不名無餘涅槃界。即彼時三界見道所斷。八地修道所斷。非想非非想處修道所斷。八種結同一味。頓證解脫得。是時彼斷。名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂一切結盡斷智。名沙門果。謂阿羅漢果。名有餘涅槃界。不名無餘涅槃界。若阿羅漢陰界入。更不相續。入無餘涅槃界。是時彼斷。名斷名無欲名滅名諦名斷智。謂所得斷智。名沙門果。謂阿羅漢果。不名有餘涅槃界。名無餘涅槃界。

問曰。諸斷是無爲。何以有時名斷智。有時不名斷智。答曰。爾時。或有四事。或有五事者。名斷智。四事者。一害俱。二俱繫得解脫。三得無漏解脫得。四害非想非非想處一切遍使。五事者。卽上四事。五永斷於界。見道中有四事。修道中有五事。苦法忍滅。苦法智生。是時不害俱因。雖害見苦所斷不害見集所斷。不俱繫得解脫。雖見苦所斷繫得解脫。見集所斷不得解脫。雖得無漏解脫。不害非想非非想處一切遍使。是時唯有一事無。二事。是故彼斷。名斷不名斷智。苦比忍滅。苦比智生。是時不害俱因。雖斷見苦所斷因。不害見集所斷因。不斷俱繫雖斷見苦所斷繫。不斷見集所斷繫。雖得無漏解脫得。而不畢竟斷非想非非想處一切遍使。是時唯有一事。

無有三事故。彼斷不名斷智。集法忍滅。集法智生。是時害俱因。先見苦所斷因。今害見集所斷因。俱繫得解脫。先見苦所斷得解脫。今見集所斷得解脫。得無漏解脫得。亦害非想非非想處一切遍使。是時得名斷智。集比忍滅。集比智生。是時害俱因。先見苦所斷因。今害見集所斷因。俱繫得解脫。先見苦所斷繫得解脫。今見集所斷繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。是時具四事故。彼斷名斷智。滅法忍滅。滅法智生。是時害俱因。先見苦見集所斷因。今害見滅所斷因。俱繫得解脫。先見苦見集所斷繫得解脫。今見滅所斷繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。是時具四事故。故彼斷名斷智。滅比忍滅。滅比智生。道法忍滅。道法智生。道比忍滅。道比智生。說亦如是。如是則說見道斷智。修道中有五事名斷智。離欲界一種欲。乃至離八種欲。是時不害俱因。雖斷八種因。不斷下下因。所以者何。九種結展轉相繫故。雖得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。而不永離界。是時唯有一事無。三事。是故彼斷不名斷智。斷第九種結。是時害俱因。先斷八種因。今斷下下因。俱繫得解脫。先八種繫得解脫。今下下繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。畢竟離界。謂離欲界。是時有五事故。彼斷名斷智。離初禪欲斷一種結。乃至斷八種結。廣說

如欲界斷第九種時害俱因。先斷八種因。今斷下下因。俱繫得解脫。先八種繫得解脫。今下下繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。而非畢竟離界。是時唯有一事無。五事。是故彼斷不名斷智。第二第三禪。說亦如是。離第四禪欲。斷一種結。乃至斷八種結。不害俱因。俱繫不得解脫。雖得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。而不畢竟離界。是時唯有一事無。三事。是故彼斷不名斷智。斷第九種結。時害俱因。俱繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。畢竟離界。是時有五事故。彼斷名斷智。謂色愛盡斷智。如離初禪欲。乃至離三禪欲。離空處欲。乃至離無所有處欲。說亦如是。離非非想處欲。斷一種結。乃至斷八種結。時不害俱因。俱繫不得解脫。雖得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。而不畢竟離界。是時唯有一事無。三事。是故彼斷不名斷智。斷第九種結。是時害俱因。俱繫得解脫。得無漏解脫得。害非想非非想處一切遍使。畢竟離界。是時有五事故。彼斷名斷智。謂一切結盡斷智。問曰。爲離四禪修道所斷愛名斷智。爲唯離第四禪修道所斷愛名斷智耶。答曰。或有說。離四禪愛名斷智。復有說。離第四禪九種愛名斷智。復有說。唯離第四禪下下種愛名斷智。評曰。應作是說。離色界一切修道所斷愛名斷智。所以者何。若離第四禪下下愛色界一切修道所斷愛盡。乃名斷智。問曰。斷法是最勝法。何故二斷得通證。謂阿那含

①相二修 ②因二同 ③斷二離 ④說十(得) ⑤二二三 ⑥三二二 ⑦(先見苦所斷得解脫) ⑧(是) ⑨(道) ⑩五十一 ⑪(五) ⑫(是)十時 ⑬(離)一

阿羅漢果時。答曰。此二時畢竟離界亦得果。得須陀洹果斯陀含果。時。雖得果不畢竟離界。離第四禪欲。雖畢竟離界。而非得果。得阿那含果時。畢竟離界。謂離欲。界得果。得阿那含果。得阿羅漢果時。畢竟離界。謂離無色界。得果。得阿羅漢果。時。復次是時畢竟離界。斷下分上分結。得須陀洹果斯陀含果時。不畢竟離界。不斷下分上分結。離色愛時。雖畢竟離界。謂離色界。不畢竟斷上分結。得阿那含果時。畢竟離界。謂離欲界。畢竟斷下分結。得阿羅漢果時。畢竟離界。謂離無色界。畢竟斷上分結。復次是時畢竟離界。畢竟斷不善無記煩惱。得須陀洹果斯陀含果時。不畢竟離界。亦不畢竟斷不善煩惱離色界時。雖畢竟離界。不畢竟斷無記煩惱。得阿那含果時。畢竟離界。謂離欲界。畢竟斷不善煩惱。得阿羅漢果時。畢竟離界。謂離無色界。畢竟斷無記煩惱。如不善無記。有報無報。生二果一果。無慚無愧相應。無慚無愧不相應。當知說亦如是。

九斷智誰捨誰得幾。答曰。或有無捨無得者。如凡夫人是也。問曰。此中不問凡夫。不答凡夫。復有聖人不捨不得者。如住本性者是也。勝進者亦。是如苦法忍滅苦法智生。是時不捨不得。苦比忍滅。苦比智生。是時亦不捨不得。集法忍滅。集法智生。是時得一。而無所捨。集比忍滅。集比智生。是時得一。而無所捨。滅法忍滅。滅法智生。是時得一。而無所捨。滅比忍滅。滅比智生。是時得一。而無所捨。

捨。道法忍滅。道法智生。是時得一。而無所捨。道比忍滅。道比智生。若非離欲人得一。而無所捨。若是離欲人。捨五得一。謂道比智時。是五下分聖人離欲界欲斷一種乃至八種結。若盡斷智聖人離欲界欲斷一種乃至八種結。無得捨。斷第九種結。是時捨六得一。謂五下分結盡斷智是也。離初禪欲。斷一種乃至九種結。無得無捨。第二第三禪亦如是。離第四禪欲。斷一種乃至八種。無得捨。斷第九種。得一而無所捨。如初禪二禪三禪空處識處無所有處亦如是。離非想非非想處欲斷一種乃至八種結。亦無得無捨。斷第九種時。捨二得一。謂一切結盡斷智。是則說勝進時。退時亦有捨有得。阿羅漢起無色界煩惱退時。捨一得二。起色界煩惱退時。捨一得一。起欲界煩惱退時。捨一得六。離色愛阿那含。起色界煩惱退時。捨一而無所得。起欲界煩惱退時。捨二得六。未離色愛阿那含。起欲界煩惱退時。捨一得六。退斯陀含果時。無捨無得。

此九斷智。幾是禪果幾是無色定果。幾是根本禪果。幾是禪邊果。幾是根本無色定果。幾是無色定邊果。幾是見道果幾是修道果。幾是忍果幾是智果。幾是法智果。幾是比智果。幾是法智分果幾是比智分果。幾是世俗道果幾是無漏道果。幾是禪果者。答曰。九是禪及眷屬果。幾是無色定果者。答曰。二是無色定。及眷屬果。幾是根本禪果者。答曰。阿毘曇者作如是說。五是根本禪果。尊者瞿沙作如是說。八是根本禪果。幾是禪邊果者。答曰。九

謂未至依是也。非餘禪邊。幾是根本無色定果者。答曰。一。幾是無色定邊果者。答曰。一。謂空處邊。非餘處無色定邊。幾是見道果者。答曰。七。幾是修道果者。答曰。三。幾是忍果。應說如見道。幾是智果者。應說如修道。幾是法智果者。答曰。三。幾是比智果者。答曰。二。幾是法智分果者。答曰。六。幾是比智分果者。答曰。五。幾是世俗道果者。答曰。二。幾是無漏道果者。答曰。九。若離色愛。得正決定。色愛盡斷智何時得耶。尊者僧伽婆修說曰。道比智現在前時得。所以者何。道比智亦是向道。亦是果道。不應作是說。任果而言是向。彼未曾起一刹那頃向道現在前。何故說言向道耶。復有說若離空處欲。是時於未來世。修無漏禪。是時得色愛盡斷智。此說亦不應爾。所以者何。是時對治無色界禪未來修。不對治色界禪。復有說。當得阿羅漢果。住金剛喻定。三界見道修道所斷結同一味。通證解脫得。是時得色愛盡斷智。評曰。應作是說。彼從果必起勝果道現在前。是時得色愛盡斷智。若不從果。更起勝果道現在前者。離三禪欲人依下地。得正決定。彼若命終。生四禪中。若無色界。彼不應成就樂根。若然者則與十門所說相違。如說誰成就樂根。若生遍淨。若聖人生遍淨上。欲令無如是過故。從果起必起勝果道現在前。是時得色愛盡斷智。

九斷智攝一切斷智。一切斷智攝九斷智耶。答曰。一切攝九非九攝一切。九者如此中說。一切者此九。及諸餘斷是。一切者多九者少。

①(是)十時②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 忍二智①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(無)十生②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(無)十捨②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(是)如一如是②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(減)一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(愛)二受②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

聚名婆羅門種。彼亦如是所言種者。亦可言聚。亦可言群。實義是一。名有差別。頓得耶。云何名頓得。答曰。頓得名一時。何以知之。答曰。有經者。波斯匿王。往詣佛所。面共世尊。種種言論。在一面坐。而白佛言。我聞沙門瞿曇。作如是說。於去來今。無有沙門婆羅門能如實知見一切法。若言知見無有是處。沙門瞿曇為憶念有此語不。佛答王言。我不憶念。王復言。沙門瞿曇。世或有人。不善受文義。聞時異為他說異。唯願世尊。憶念此事。而解說之。佛答王言。我曾作是說。於去來今。無有頓得如實知見一切法者。若言頓得知見無有是處。皆從三阿僧祇劫。漸漸修行六波羅蜜。然後乃知。非一時知。以是事故知頓得是一時。頗欲界繫見道修道所斷結頓得耶。答曰。頓得離欲凡夫人。於彼無欲退。問曰。誰頓得耶。答曰。凡夫人離欲愛時。欲界繫見道修道所斷結總為一聚。如刈草法。九種結一時斷。以下下無礙道。斷上上結。乃至以上上無礙道。斷下下結。凡夫人以下下結。於彼無欲退。頓得欲界繫見道修道所斷一種結。下中退頓得二種。乃至以上上結退。頓得欲界繫見道修道所斷九種結。色界無色界命終生欲界時。凡夫以下下結。乃至上上結。令生相續。頓得欲界繫見道修道所斷九種結。頓捨耶。答曰。捨。凡夫人離欲愛時。問曰。誰頓捨耶。答曰。凡夫人離欲愛時。欲界繫見道修道所斷九種結。總為一聚。如刈草法。九種結一時斷。以下下無礙道。斷上上結。乃至以上上無礙道。斷下下結。彼欲界繫見道修道所斷下下。頓

捨漸得耶。答曰。不得。所以者何。若先得見道所斷結。後得修道所斷結。若先得修道所斷結。後得見道所斷結。無有是處。漸捨耶。答曰。捨世尊弟子。先捨見道所斷結。後捨修道所斷結。見道所斷結。以見道斷修道所斷結。以修道斷。頗色界繫見道修道所斷結頓得耶。答曰。頓得。離色愛凡夫人。於彼無欲退。問曰。誰頓得耶。答曰。凡夫人離色愛時。色界繫見道修道所斷結總為一聚。如刈草法。九種結一時斷。以下下無礙道。斷上上結。彼頓捨色界繫見道修道所斷結。乃至以上上無礙道。斷下下結。頓捨色界繫見道修道所斷結。漸得耶。答曰。不得。所

以者何。無有先得見道所斷後得修道所斷者。無有先得修道所斷後得見道所斷者。漸捨耶。答曰。捨世尊弟子。先捨見道所斷結。後捨修道所斷結。見道捨見道所斷。修道捨修道所斷。頗頓得無色界繫見道修道所斷結耶。答曰。不得。所以者何。頓得是凡夫人。無有凡夫人能盡斷無色界結。於彼退。頓得無色界見道修道所斷結者。頓捨耶。答曰。不捨。所以者何。頓捨者是凡夫人。無有凡夫人頓捨無色界煩惱者。漸得耶。答曰。不得。所以者何。無有先得見道所斷結後得修道所斷。斷。先得修道所斷。後得見道所斷者。漸捨耶。答曰。捨世尊弟子。先捨見道所斷結。後捨修道所斷結。見道捨見道所斷結。修道捨修道所斷結。有世俗行。問曰。凡夫人以世俗道離欲時。斷九種結。幾無礙道捨。幾解脫道捨。聖人以無漏道。斷九種結。幾無礙道捨。幾解脫道捨。答曰。或有說者。凡夫人斷九種結。以三無礙道三解脫道斷。謂下下無礙道。下下解脫道。斷上三種結。下中無礙道。下中解脫道。斷中三種結。下上無礙道。下上解脫道。斷下三種結。聖人亦如是。復有說者。凡夫人斷九種結。以一無礙道一解脫道斷。聖人斷九種結。以九無礙道九解脫道斷。問曰。何故凡夫人斷九種結。以一無礙道一解脫道斷。聖人斷九種結。以九無礙道九解脫道斷。答曰。凡夫人所用道。鈍於前法。不能觀察思量。一一分別。聖人所用道。猛利於前法。能觀察思量。一一分別。

①(問)十言② ③凡夫十(人)④ ⑤(是)十時⑥ ⑦夫二天⑧ ⑨於二捨⑩ ⑪斷十(無有)⑫

問曰。若作是說。欲令凡夫人下而說是勝。欲令聖人勝而說是下。所以者何。凡夫人斷九種結。以一無礙道一解脫道斷。聖人斷九種結。以九無礙道九解脫道斷。是則凡夫人勝於聖人。如人多服毒藥。一時吐出誰不可耶。評曰。應作如是說。凡夫人斷九種結。以九無礙道九解脫道斷。聖人亦爾。問曰。若凡夫人亦爾者。凡夫人有何差別。答曰。凡夫人見道所斷修道所斷結。總為一聚。如刈草法。九種結一時以九無礙道九解脫道斷。聖人見道所斷九種結。以一無礙道一解脫道修道所斷。九種結以九無礙道九解脫道斷。凡夫人聖人是謂差別。

問曰。以世俗道斷結時。以幾方便。以幾入定。答曰。以三方便。以三入定。以初方便。以初入定。斷上三種結。以第二方便。以第二入定。斷中三種結。以第三方便。以第三入定。斷下三種結。問曰。為起定斷耶。為不起定斷耶。答曰。或有說者。凡夫人不起定斷。聖人或起定。或不起定斷。復有說者。凡夫人或起定。不起定斷。聖人不起定斷。評曰。應作是說。此事不定。凡夫人或不起定。聖人或起定不起定。凡夫人或起定不起定。聖人或不起定而斷結。復有說者。斷欲界結不起定。斷色無色界結。或起定或不起定。復有說者。斷欲界結。或起定或不起定。斷色無色界結不起定。評曰。此事不定。斷欲界結起定不起定。斷色無色界結不起定。斷欲界結不起定。斷色無色界

結。起定不起定。則說勝進時。

凡夫人。起下結退時。成就下三種結。起中結退時。成就六種結。起上結退時。成就九種結。聖人起下下結退時。成就下下結。乃至起上上結退時。成就九種結。復有說者。凡夫人起下下結退時。乃至起上上結退時。成就九種結。聖人如前說。

問曰。何故凡夫人。起下下結退。乃至起上上結。退成就九種結。聖人起下下結退時。成就下下結。起下中結退時。成就二種。乃至起上上結退時。成就九種結。答曰。凡夫人以世俗定自持。彼定性羸劣。聖人無漏定自持。彼定牢固。應作是說。凡夫人不服毒藥而死。評曰。應作是說。凡夫人起下下結退。還成就下下結。乃至起上上結退。成就九種結。

問曰。若然者。凡夫人聖人。有何差別。答曰。凡夫人若起下下結退。成就見道修道所斷下下結。乃至起上上結退。成就見道修道所斷九種結。聖人起下下結退時。成就修道所斷下下結。乃至起上上結退時。成就修道所斷九種結。不成就見道所斷結。凡夫人聖人。是謂差別。

在欲界聖人有三事。一畢竟離欲而命終。二退已而命終。三漸離欲已而命終。凡夫人有二事。一畢竟離欲而命終。二退已而命終。在色界聖人。有二事。一畢竟離色愛而命終。二漸離欲而命終不退。所以者何。色界無有退者。凡夫人有一事。畢竟離色愛而命終不退。所以者何。色界無退。無漸離欲而命終者。

問曰。何故聖人有漸離欲而命終。凡夫人不爾耶。答曰。聖人以無漏道自持。彼道牢固。凡夫人以世俗道自持。彼道羸劣。復次聖人成就定慧分故。漸斷結而命終。凡夫人不成就定慧分故。不能漸斷結而命終。復次聖人成就無漏分故。漸斷結而命終。凡夫人無無漏分故。不能漸斷結而命終。復次聖人有業力道力。以業力故。能漸斷結而命終。以道力故。能畢竟離欲而命終。凡夫人無業力。以道力強。能畢竟離欲而命終者則退。復次欲界聖人分中。有漸離欲人。若斷三種四種結名家。若斷六種結。名斯陀含。若斷七種八種結。名一種子。是故聖人有漸離欲而命終者。凡夫人分中。無漸離欲而命終。是故凡夫人無漸離欲而命終者。尊者僧伽婆修說曰。凡夫人亦有漸離欲而命終者。住相續心。還成就本所斷結。評曰。不應作是說。如前說者好。

以世俗道。離欲時。無礙道有幾行。解脫道有幾行。答曰。無礙道有三行。謂龜行。苦行。龜壞行。解脫道有三行。謂止行。妙行。離行。問曰。若無礙道中有龜行。彼解脫道中有止行耶。若無礙道中有苦行。彼解脫道中有妙行耶。若無礙道中有龜壞行。彼解脫道中有離行耶。答曰。或有說者如所問。若無礙道有龜行者。彼解脫道必有止行。若無礙道有苦行者。彼解脫道必有妙行。若無礙道有龜壞行者。彼解脫道必有離行。評曰。此事不定。若無礙道中有龜行。彼解脫道中三行。展轉現在前。若無礙道中。有苦行龜壞行者。解脫道

◎人十(是)◎ ◎ (是)十則◎ ◎退十(時)◎

中三行展轉現在前

問曰。以世俗道離欲愛時。無礙道為緣何法。解脫道為緣何法。答曰。九無礙道緣於欲界。九解脫道緣於初禪。問曰。若然者。根。健度說善通。如說頗思惟色界法。能知欲界耶。答言能知。云何不緣倒錯行倒錯。若緣行倒錯。云何不為離欲法作障礙留難耶。答曰。假令緣行倒錯。而不能為離欲法作障礙留難。所以者何。於彼離欲法。已善修習。徑路已成。就。如見道中。緣欲界忍智。後緣色無色界忍智。現在前。緣色無色界忍智。後緣欲界忍智。現在前。如此雖復緣行倒錯。而不為得正決定。而作障礙留難。所以者何。於彼見道。已善修習。徑路已成。就。彼亦如是。復有說者。九無礙道。八解脫道緣於欲界。最後解脫道緣於初禪。如以滅道智離非非想處愛。彼九無礙道。八解脫道。緣於滅道。最後解脫道。緣於非非想處四陰。彼亦如是。復有說者。若離欲愛時起定。斷一種結已。而住彼一無礙道。緣於欲界。一解脫道。緣於初禪。若斷二種結已。而住彼二無礙道。一解脫道。緣於欲界。一解脫道。緣於初禪。若乃至斷八種結已。而住彼八無礙道。七解脫道。緣於欲界。第八解脫道。緣於初禪。復有說者。九無礙道。九解脫道。盡緣欲界。如以苦集智離欲愛時。九無礙道。九解脫道。緣於欲界。彼亦如是。問曰。若然者。則不行倒錯。於離欲法。不作障礙留難。根。健度說云何通耶。如說頗思惟色界法。能知欲界耶。答言能知。此說先觀察

分別時行者。先作如是分別觀察。欲界是龜。初禪是止。

問曰。根。健度。次說復云何通。如說頗思惟無色界法。能知欲界耶。答言不能知。行者是時。不先分別觀察。欲界是龜。無色界是止耶。何故言不能知耶。答曰。行者亦分別觀察。而所觀是遠。非如是遠觀後而能離欲。復有說者。九無礙道。九解脫道。盡緣初禪。問曰。若然者。根。健度說善通。如說頗思惟色界法。能知欲界耶。答言能知。亦非緣行倒錯。云何緣於他處。離他處欲耶。答曰。若緣餘處。離他處欲。此亦無過。如以滅道智緣於滅道。而離苦集所斷欲。彼亦如是。如是所說。盡為生弟子覺意故。然此義。最初說。九無礙道。緣於欲界。九解脫道。緣於初禪者好。

問曰。無礙道中。為修幾行。解脫道中。有修幾行。答曰。凡夫人。離欲愛時。無礙道中。修龜等三行。八解脫道中。修六行。謂龜等三行。止等三行。最後解脫道中。即修此六行。亦修未至初禪無量行。乃至離無所有處愛亦如是。聖人離欲愛時。無礙道中。修十九行。謂龜等三行。有漏無漏十六聖行。八解脫道中。修二十二行。謂龜等三行。止等三行。有漏無漏十六聖行。最後解脫道中。即修此二十二行。亦修未至初禪無量行。聖人離初禪欲時。無礙道中。修十九行。謂龜等三行。十六聖行。唯修無漏。非有漏。八解脫道中。修二十二行。謂龜等三行。止等三行。十六聖行。唯修無漏。非有漏。最後解脫道。即修此二十二行。亦修未至。初

禪無量行。乃至離無所有處愛亦如是。問曰。何故初禪邊修有漏無漏行。上地邊唯修無漏。不修有漏耶。答曰。初禪邊有有漏無漏聖行。是故修。上地邊唯有。有漏行。無有。漏。無漏聖行。是故唯修無漏行。復有說者。凡夫人離欲愛時。無礙道中修九行。謂龜等三行。慈悲喜捨。不淨觀安般念。八解脫道中。修十二行。即上九行。及止等三行。最後解脫道中。即修此十二行。亦修未至初禪無量行。聖人離欲愛時。無礙道中。修二十五行。謂龜等三行。慈悲喜捨。不淨觀安般念。有漏無漏十六聖行。八解脫道中。修二十八行。即此二十五行。及止等三行。最後解脫道中。即修此二十八行。及修未至初禪無量行。上地邊如上說。

問曰。何故初禪邊修如是等諸行。上地邊不修耶。答曰。初禪邊有種種善根故。修如是等諸行。上地邊諸善根少故。不修如是等諸行。復次欲界有種種煩惱故。須種種對治。上地無種種煩惱故。不須種種對治。此中所說諸行。在於現在俱行。負重同。所作同者。所緣如上說。未來世所修行。為何所緣耶。答曰。離欲愛時。九無礙道中。龜等三行修者。緣於欲界。八解脫道中。龜等三行修者。緣於初禪。止等三行修者。緣於初禪。最後解脫道中。龜等三行修者。緣於三界。止等三行修者。緣於初禪。乃至非非想處。離初禪欲時。九無礙道中。龜等三行修者。緣於初禪。八解脫道中。龜等三行修者。緣於初禪。止

等諸行。上地邊諸善根少故。不修如是等諸行。復次欲界有種種煩惱故。須種種對治。上地無種種煩惱故。不須種種對治。此中所說諸行。在於現在俱行。負重同。所作同者。所緣如上說。未來世所修行。為何所緣耶。答曰。離欲愛時。九無礙道中。龜等三行修者。緣於欲界。八解脫道中。龜等三行修者。緣於初禪。止等三行修者。緣於初禪。最後解脫道中。龜等三行修者。緣於三界。止等三行修者。緣於初禪。乃至非非想處。離初禪欲時。九無礙道中。龜等三行修者。緣於初禪。八解脫道中。龜等三行修者。緣於初禪。止

①健二建②③④* ⑤不十(緣)⑥⑦ ⑧次二所⑨⑩ ⑪最十(勝)⑫⑬ ⑭初二第二⑮⑯ ⑰有一無⑱ ⑲[漏]一⑳ ㉑[無漏]一㉒ ㉓(九)十無⑳ ㉔阿毘曇毘婆沙卷第六十八首 ㉕[者]一⑳ ㉖二閱⑳* ㉗十(於)⑳*

等三行修者。緣於二禪。最後解脫道中。龜等三行修者。緣於三界。止等三行修者。緣於二禪乃至非想非非想處。離第二禪欲第三禪欲。應隨相說。離第四禪欲時。九無礙道中。龜等三行修者。緣第四禪。八解脫道中。龜等三行修者。緣第四禪及空處。止等三行修者。緣空處。最後解脫道中。龜等三行。止等三行修者。緣於空處乃至非想非非想處。問曰。若離第四禪欲時。八解脫道中。龜等三行修者。緣第四禪及空處者。識身經。說云何通。如說頗有。無色界繫心。能知色無色界耶。答言。不知。答曰。彼中遮一剎那頃。不遮多相續。若於一剎那頃。能知色無色界者。無有是處。彼解脫道。起現在前者。未來修行者。或緣色界。或緣無色界。是故一剎那頃不知。多相續則知。二說便為善通。離空處欲時。九無礙道中。龜等三行修者。緣於空處。八解脫道中。龜等三行修者。緣於空處識處。止等三行修者。緣於識處。最後解脫道中。龜等三行。止等三行修者。緣於識處。乃至非想非非想處。離識處欲。離無所有處欲。應隨相說。

問曰。何故禪中所修諸行。緣於三界。無色中所修諸行。唯緣無色界耶。答曰。禪能遍緣。能緣自地。能緣下地。亦緣上地。無色定不能遍緣。唯能緣自地。及緣上地。不緣下地。以是事故。禪中所修諸行。能緣三界。無色中所修諸行。唯緣無色界。欲界繫見道所斷結種斷。為何沙門果攝。問曰。何以作此論。答曰。諸煩惱。先分別在界。未分別種。今欲分別種故。而

作此論。欲界繫見道所斷結種斷。為何沙門果。攝。答曰。四沙門果攝。或無處所。四沙門果者。須陀洹須陀洹果攝。乃至阿羅漢阿羅漢果攝。無處所者。凡夫人離欲。無處所離欲人得正決定。見道中十五心頃。無處所。次第人。見道中見道諦二心頃。無處所。如是等時。欲界見道所斷結種斷。無處所欲界繫修道所斷結種斷。為何果攝。答曰。阿那含果阿羅漢果攝。阿那含阿那含果攝。阿羅漢阿羅漢界攝。無處所者。凡夫人離欲。無處所離欲人得正決定。十五心頃。無處所。次第人。不得言無處所。所以者何。離欲愛時。最後無礙道。斷修道所斷結。解脫道生時。即阿那含果所攝。色界繫見道所斷結種斷。為何果攝。答曰。四沙門果攝。或無處所。四沙門果。如上說。或無處所者。凡夫人。離色。愛時。無處所離色愛人。得正決定。十五心頃。無處所。次第人。不得言無處所。所以者何。道。比忍畢竟斷此結。道比智生時。彼斷即為果攝。色界繫修道所斷結種斷。為何果攝。答曰。阿羅漢果攝。或無處所。阿羅漢阿羅漢果攝。無處所者。凡夫人。離色愛。無處所離色愛人。得正決定。見道中十五心頃。道。比智現在前。無處所。次第人。離第四禪欲時。最後解脫道無處所。離空處愛時。九無礙道。九解脫道無處所。乃至離無所有處愛時亦如是。離非想非非想處愛時。九無礙道。八解脫道時。及色界繫修道所斷。已斷。已知結無處所無色界繫。見道所斷結種斷。為何果攝。答曰。四沙門果攝。

四沙門果如上說。此中不說凡夫人無處所。所以者何。無有凡夫人能離非非非想處愛者。次第人亦不得言無處所。所以者何。道。比忍畢竟斷此結。道。比智現在前時。彼斷即為果攝。無色界繫修道所斷結種斷。為何果攝。答曰。唯阿羅漢果攝。此中無離欲凡夫人。所以者何。無有凡夫人能離非非非想處愛者。次第人亦不得言無處所。所以者何。金剛喻定畢竟斷此結。初盡智生時。彼斷即為果攝。謂阿羅漢果。結有五種。謂見苦所斷種。乃至修道所斷種。問曰。何故作此論。答曰。先分別煩惱在界有二種。未分別五種。今欲分別故。而作此論。見苦所斷結種斷。為何果攝。答曰。四沙門果攝。或無處所。四沙門果如上說。無處所者。此中不應說凡夫人離欲。次第人見苦時。一心頃。見集時。四心頃。見滅時。四心頃。見道時。三心頃。見集時。見苦所斷結種斷。彼斷非果攝。見集所斷結種斷。為何果攝。答曰。四沙門果。或無處所。四沙門果如上說。無處所者。此中無有凡夫人離欲。次第人見集時。一心頃。見滅時。四心頃。見道時。三心頃。是時見集所斷結種斷。彼斷非沙門果攝。見滅所斷結種斷。彼斷何果攝。答曰。四沙門果。或無處所。此中不說凡夫人離欲。次第人見滅。一心頃。見道。三心頃。是時見滅所斷結種斷。彼斷非沙門果攝。見道所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。四沙門果。此中不說凡夫人離欲。亦不說次第人。所以者何。道。比智忍畢竟斷。此結。道。比智現在

①(三)十行②③(所)十說④⑤(無)一⑥⑦以二故⑧⑨(所)十攝⑩⑪次二欲⑫⑬愛二處⑭⑮比二法⑯⑰時一證⑱⑲果十(所攝)⑳㉑此二比

論欲界繫見苦所斷結種斷。為何果攝。答曰。四沙門果。或無處所。四沙門果如上說。無處所者。凡夫人離欲。無處所離欲人。得正決定。見道中十五心頃。無處所次第人。見苦三心頃。見集四心頃。見滅四心頃。見道三心頃。是時欲界見苦所斷結種斷。彼斷非沙門果攝。欲界繫見集所斷。見滅所斷見道所斷。修道所斷應隨相說。色界繫見苦所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。四沙門果。或無處所。四沙門果如上說。無處所者。凡夫人離色愛。無處所離色愛人。得正決定。見道中十五心頃。無處所次第人。見苦一心頃。見集四心頃。見滅四心頃。見道三心頃。無處所。是時色界繫見苦所斷結種斷。彼斷非沙門果。攝。色界繫見集見滅見道修道所斷結種斷。應隨相說。無色界五種所斷結種斷。亦應隨相說。

身見斷為何果攝。答曰。四沙門果或無處所。四沙門果如上說。無處所者。是中不說凡夫人離欲。次第人見苦一心頃。見集四心頃。見滅四心頃。見道三心頃。是時身見斷。彼斷非沙門果攝。如身見斷。下分中身見斷。見中身。見斷。說亦如是。戒取疑斷。彼斷為何果攝。答曰。四沙門果。四沙門果如上說。此中不說凡夫人離欲。亦不說次第人。所以者何。道比忍畢竟斷此結。道比智現在前。彼斷即為沙門果攝。如戒取疑斷見流見。扼見。取取戒取。取戒取身縛見取身縛下分中戒取疑見中邪見見取戒取見疑疑見結取結。廣說亦如是。貪恚癡不善根。及欲漏斷。彼斷為

何果攝。答曰。阿那含果。阿羅漢果。或無處所。廣說如欲界繫。見修道所斷結種斷。如欲漏有漏無明漏。餘煩惱與彼相似者。應隨相說。蓋中疑蓋應廣說。如道法智所斷結種斷。上分結廣說。如色無色界修道所斷結種斷。眼耳身觸生愛斷為何果攝。答曰。阿羅漢果。或無處所。阿羅漢阿羅漢果攝。無處所者。凡夫人離梵世愛無處所。離梵世愛人得正決定。見道中十五心頃。及道比智無處所次第人。斷初禪愛時。最後解脫道。斷第二禪愛。乃至斷無所有處愛。九無礙道。九解脫道。離非想非非想處愛。九無礙道。八解脫道。是時眼耳身觸生愛斷。彼斷非沙門果攝。九十八使斷。廣說如十五結種斷。

向須陀洹果證人所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。無處所。所以者何。須陀洹果前。更無有果。能攝彼斷。須陀洹須陀洹果攝。須陀洹果攝三界見道所斷結種斷。向斯陀含果證人所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。須陀洹果。或無處所。須陀洹果攝三界見道所斷結種斷。無處所者。次第人。斷欲界繫五種結斷。彼斷非須陀洹果攝。所以者何。彼勝果道證故。如。勝果道非果攝。斷亦如是。斯陀含斯陀含果攝。斯陀含果。攝三界見道所斷結種斷。及欲界修道所斷六種結斷。向阿那含果證人所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。斯陀含果。或無處所。斯陀含果。攝三界見道所斷結種斷。及欲界修道所斷六種結斷。無處所者。斷欲界修道所斷七種八種結斷。向阿

羅漢果證人所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。阿那含果。或無處所。阿那含果。攝三界見道所斷結種斷。及欲界修道所斷九種結斷。無處所者。斷初禪九種結。乃至無所有處九種結。斷非非非想處八種結。所以者何。彼勝果道證故。如勝果道非果攝。彼斷亦爾。阿羅漢阿羅漢果攝。阿羅漢果。攝三界見道修道所斷結種盡問曰。如斷一種結。乃至斷五種結。以得道比智故。名須陀洹。斷欲界繫五種結。非須陀洹果攝。若斷七種八種結。得正決定。得道比智時。名斯陀含。彼斷七種八種結。非斯陀含果攝。若斷初禪愛。乃至離無所有處愛。得正決定。得道比智時。名阿那含。彼斷初禪九種結。乃至無所有處九種結。非阿那含果攝。何以言須陀洹須陀洹果攝。斯陀含斯陀含果攝。阿那含阿那含果攝。何故不說。或無處所耶。答曰。此文應如是說。須陀洹須陀洹果攝。或無處所。斯陀含斯陀含果攝。或無處所。阿那含阿那含果攝。或無處所。而不說者。有何意耶。答曰。此說次第具轉人。不說超越人。

見諦具足。世尊弟子。未離欲愛。欲界繫修道所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。斯陀含果。或無處所。斯陀含果。攝欲界修道所斷六種結斷。無處所者。斷七種八種結斷。已離欲愛。未離色愛。色界繫修道所斷結種斷。彼斷為何果攝。答曰。無處所。斷初禪九種結。乃至第四禪八種結斷。無處所。已離色愛。未離無色愛。無色界修道所斷結種斷。彼斷為何果攝。

①(所)十攝②③ ④應隨相一應相隨⑤ ⑥如十(是)⑦ ⑧見十(邊見)⑨ ⑩扼二扼⑪ ⑫[取]一⑬* ⑭[見]一⑮ ⑯[勝]一⑰ ⑱種結斷二結斷種⑲ ⑳[果]一㉑

答曰。無處所。斷空處九種結乃至非想非非想處八種。結斷無處所。
阿毘曇毘婆沙論卷第三十四

阿毘曇毘婆沙論卷第三十五

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

使難度人品中

四沙門果謂須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。問曰。何故作此論。答曰。或有說。沙門果。惟是無為。如毘婆闍婆提說。問曰。彼何故作是說耶。答曰。彼依佛經。佛經說。告諸比丘。我今當說沙門沙門果沙門人。云何名沙門。答曰。八聖道名沙門。云何名沙門果。答曰。須陀洹果。乃至阿羅漢果。何者是須陀洹果。答曰。永斷三結是也。何者是斯陀含果。答曰。永斷三結。薄愛恚癡是也。何者是阿那含果。答曰。永斷五下分結是也。何者是阿羅漢果。答曰。永斷愛慢癡一切結是也。何者是沙門人。答曰。成就如是等法。名沙門人。因此經故。說沙門果。惟是無為。為止如是說者。意亦明沙門果。是有為無為故。若沙門果。惟是無為。非有為者。達於佛經。經說有四向。有住四果。住果者。住有為沙門果。不住無為沙門果。問曰。是時亦住斷中。如施設經說。彼住於斷。不求勝法。不得者得。不證者證。不

解者。解答曰。言住斷者。非如乘象馬住象馬上。但於斷法。不退不進。故言住斷。世尊經亦有一向說有為沙門果者。如說比丘當知於此五根。令增上。猛利通達滿足。當得俱解脫。阿羅漢果。轉不如者。得。慧解脫乃至堅信。問曰。若沙門果。是有為無為者。佛經云何通。答曰。沙門果。是有為無為。佛經惟說無為。問曰。何故佛經惟說無為沙門果。答曰。佛經惟說沙門果。不說沙門道是沙門。亦是沙門果。復次此經惟說婆羅門果。不說婆羅門道是婆羅門。亦是婆羅門果。復次佛經說。梵行道是梵行。亦是梵行果。復次佛經說。離更有離道。是離更有離。以是事故。欲止他義欲顯已義。乃至廣說。而作此論。四沙門果。須陀洹果。乃至阿羅漢果。云何須陀洹果。答曰。如波伽羅那說。須陀洹果。有二種。有為無為。云何有為須陀洹果。答曰。證須陀洹果時。已得今得當得。諸學法。已得是過去。今得是現在。當得是未來。是名有為須陀洹果。云何無為須陀洹果。答曰。證須陀洹果時。諸結斷。已得今得當得。廣說如上。

問曰。道是有為墮世。已得今得當得。此事可爾。斷是無為不墮於世。已得今得當得。云何可爾。答曰。波伽羅那經。應如是說。諸結斷。今得今解今證。而不說者。有何意耶。答曰。此說在身中得已得者。說過去身得今得者。說現在身得當得者。說未來身得。如須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。說亦如是。云何阿羅漢果。答曰。阿羅漢果有二種。謂有為無為。云何有為阿羅漢果。答曰。證阿羅漢果時。已得今得當得。諸無學法。廣說如上。施設經說。云何須陀洹果。答曰。須陀洹果有二種。謂有為無為。云何有為須陀洹果。答曰。彼果得彼得得果。得者。謂須陀洹果得。得者。謂彼得得。以得故名果。以得得名成就。諸學根學力學戒學善根學八法。如是等諸學法。名有為須陀洹果。云何無為須陀洹果。答曰。永斷三結。如是等諸結法斷。八十八使斷。如是等諸使法斷。是名無為須陀洹果。云何斯陀含果。答曰。斯陀含果有二種。謂有為無為。廣說如上。此中差別者。漸斷愛恚癡。及漸斷受。云何阿那含果。答曰。阿那含果有二種。謂有為無為。有為阿那含果如上說。無為阿那含果者。永斷五下分結。永斷如是等結法。永斷九十二使。永斷如是等使法。是名無為阿那含果。云何阿羅漢果。答曰。阿羅漢果有二種。謂有為無為。云何有為阿羅漢果。答曰。阿羅漢果得。及彼得得果。得者。謂阿羅漢得。得者。謂彼得得。以得故名果。以得得名成就。諸無學根無學力無學戒無學善根無學十種法。如是等諸無學法。是名有為阿羅漢果。云何無為阿羅漢果。答曰。永斷愛慢癡一切煩惱。出一切趣。斷一切生死道。滅三種火。已過四流。摧滅諸慢。離於渴愛。破散巢窟。無上究竟。無上寂滅。無上安樂。愛盡無欲。涅槃。是名無為阿羅漢果。此是沙門果體性。乃至廣說。

①結斷一斷結 ②不分卷及品 ③此下聖本有光明皇后顯文 ④第三十四二第六十八 ⑤惟二唯 ⑥[如]一 ⑦惟二唯 ⑧下同 ⑨二惠 ⑩下同 ⑪說十(梵行果不說) ⑫(是)十名

已說體性。所以今當說。何故名沙門果。沙門果是何義。答曰。聖道名沙門。是其果故。名沙門果。問曰。聖道名沙門。彼果是沙門果者。見道中八忍。名沙門八智。是有為沙門果。八種結斷。是無為沙門果。離欲愛時。九無礙道。名沙門。九解脫道。是有為沙門果。九種結斷。是無為沙門果。乃至離非非想處欲。亦如是。是則有八十九有為沙門果。八十九無為沙門果。以世分別。八十九在過去。八十九在未來。八十九在現在。波伽羅那經說。云何果法。答曰。一切有為及數滅。隨有幾許聖道。刹那有爾許。有為沙門果。隨有幾許解脫法。有爾許沙門果。若以刹那在身分別。則有無量無邊沙門果。何故佛經惟說四沙門果。答曰。或有說者。此是如來有餘略要。為受化者而作。是說尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法次第相續立沙門果。彼次第相續。說沙門果。復次是時易見易施設。謂此是須陀洹果。乃至阿羅漢果。果中間不易見。不易施設。復次行者。是時於果生大悅。適譬如農夫。於六月中。修治田業。後獲子實。積聚場上。心大悅適。彼亦如是。復次是時有三事故。一得未曾得道。二捨曾得道。三斷煩惱。同於一味。復次是時有五事。一得未曾得道。二捨曾得道。三斷煩惱同於一味。四頓得八智。五修十六行。復次是時是止息處。復次是時斷結事事成。道方便便成。果中間斷結事未成。道方便未成。復次是時容廣修道果中間不容廣修道。復次行者是時善知功德過

惡。知功德者。是道道果。知過惡者。是生死法。復次行者是時善取相貌。如人道中行時。不能善取四方相貌。若坐一處。則能善取四方相貌。彼亦如是。復次行者是時有隨從知見。猶如有人。於村落中間。為人所劫。無有隨從。知見者。若在村落為人所劫。多有隨從。知見者。復次行者是時先廣修方便道。立足處牢固。須陀洹果。廣修方便道者。先為解脫故。修施持戒。聞慧思慧修慧。煩頂忍世第一法。見道中十五心頃是也。斯陀含果。廣修方便道者如上說。諸善復更有未曾有者。離欲界方便道六無礙道五解脫道是也。阿那含果。廣修方便道者如上說。諸善復更有未曾有者。離欲愛時。方便道三無礙道二解脫道是也。阿羅漢果。廣修方便道者。如上說。諸善復更有未曾有者。離初禪欲時。方便道九無礙道九解脫道。乃至離無所有處欲。說亦如是。離非非非想處欲時。方便道九無礙道八解脫道是也。復次行者是時斷一切生分。止一切生分。須陀洹。除欲界七生分。色無色界一生處。除一生分。除一切生分。得非數滅。斯陀含。除欲界二生分。色無色界一生處。除一生分。除一切生分。得非數滅。阿那含。色無色界一生處。除一生分。除一切生分。得非數滅。阿羅漢。一切生分。得非數滅。復次行者是時頓證三界見道。修道所斷煩惱。須陀洹。頓證三界見道。修道所斷煩惱。斯陀含。頓證三界見道。所斷煩惱及欲界修

道所斷九種煩惱。阿羅漢。頓證三界見道。修道所斷煩惱。復次根本沙門果退者不命終。果中間退者命終。復次對五趣故。說四沙門果。須陀洹果對地獄畜生餓鬼道。斯陀含果對人道少分。阿那含果。畢竟對人道。阿羅漢果對於天道。復次對四生故。須陀洹果對濕生卵生。斯陀含果對胎生少分。阿那含果。畢竟對胎生。阿羅漢果。對化生。復次對二種思故。一斷善根思。二造五逆業思。須陀洹果。對斷善根思。斯陀含果。對造五逆業思。阿那含果。對彼業報。阿羅漢果。對彼受報陰。所以者何。受報必依陰故。復次對三三法故。須陀洹果。對三結。斯陀含果。對漸薄三不善根及欲漏。阿那含果。畢竟對三不善根及欲漏。阿那含果。對有漏無明漏。復次對四流故。須陀洹果。對見流。斯陀含果。對欲流少分。阿那含果。畢竟對欲流。阿羅漢果。對有流無明流。對。扼亦如是。復次對四取故。須陀洹果。對見取。取戒取。斯陀含果。對欲取少分。阿那含果。畢竟對欲取。阿羅漢果。對我語取。復次對三五法故。須陀洹果。對疑蓋下分中三結。斯陀含果。對餘蓋下分中二結。少分阿那含果。畢竟對餘蓋下分中二結。阿羅漢果。對上分結。復次對諸見及六愛身故。須陀洹果。對五見。斯陀含果。對鼻舌觸生愛身少分。阿那含果。畢竟對鼻舌觸生愛身。阿羅漢果。對餘愛身。復次對七使故。須陀洹果。對見使疑使。斯陀含果。對欲愛使。使少分。阿那含果。畢竟對欲愛使。使。阿羅漢果。對餘使。復次對九

○許十(無為)○◎◎說一時○◎◎扼一扼○◎◎

結故須陀洹果。對見結取結疑結斯陀含果。對志結嫉結慳結少分。阿那含果畢竟對志結。嫉結慳結。阿羅漢果對餘結。復次對九十八使故須陀洹果。對三界見道所斷使。斯陀含果對欲界修道所斷少分。阿那含果。畢竟對欲界修道所斷。阿羅漢果。對色無色界修道所斷。問曰。何故離欲愛時。立二沙門果。謂斯陀含果。阿那含果。離色無色界愛時。立一沙門果。謂阿羅漢果。尊者波奢說曰。皆以離三界愛故。立四沙門果。以斷三界見道所斷結故。立須陀洹果。以斷三界見道所斷結及欲界修道所斷六種結故。立斯陀含果。以斷三界見道所斷結及欲界修道所斷九種結故。立阿那含果。以斷三界見道修道所斷結故。立阿羅漢果。復次欲界。是不定界非修地非定地。非離欲地。離彼欲時。立二沙門果。色無色界。是修地定地。離欲地離彼愛時。立一沙門果。

復次欲界。難斷。難壞。難過。離彼欲時。立二沙門果。色無色界。與此相違。離彼愛時。立一沙門果。復次欲界多重過患。離彼欲時。立二沙門果。色無色界。與此相違。離彼欲時。立一沙門果。復次欲界。是。駛流難度。離彼欲時。立二沙門果。猶如有人。入山。間大河。其水深廣。駛疾。為其所漂。處處止息。然後乃度。如是欲界是流漂界。如經說村主當知。夫流漂者。是上妙五欲。離彼欲時。立二沙門果。色無色界。與此相違。離彼欲時。立一沙門果。復次欲界諸煩惱。重所作業。亦重離彼欲時。立二沙門果。譬如負重擔人。上嶮難山。必數止息。然後乃到平地。雖復重擔猶能遠有所至。如是欲界諸煩惱。重所作業。亦重離彼欲時。立二沙門果。色無色界。與此相違。離彼欲時。立一沙門果。復次欲界。是淤泥糞穢穢穢界。離彼欲時。立二沙門果。色無色界。與上相違。離彼欲時。立一沙門果。譬如糞穢聚上立堂舍人。所不樂。如是色無色界。雖復妙好。以下有不淨欲界故。賢聖不樂。是故尊者僧伽婆修。作如是說。欲界多諸過惡。謂父母兄弟姊妹妻子死喪。亡失財物。截剔耳鼻頭手等苦頭痛等。四百四病。若離此處欲時。立。二沙門果。亦無有過。復次以欲界有男身女身。離彼欲時。立。一沙門果。唯有男身。離彼欲時。立。一沙門果。復次欲界有男根女根。離彼欲時。立。二沙門果。色無色界。無男女根。離彼欲時。立。一沙門果。復次欲界有二種煩惱。謂不善無記。離彼欲時。立。二沙門果。色無色界。有一種煩惱。謂無記。離彼欲時。立。一沙門果。如不善無記。有報無報生。二果。一果。與無慚無愧相應。不與無慚無愧相應。當知亦如是。復次以欲界有憂根苦根無慚無愧嫉慳飲食愛姪欲愛諸蓋五欲如是等過。離彼欲時。立。二沙門果。色無色界。無如是等過。離彼欲時。立。一沙門果。問曰。聖道沙門。是彼果故。名沙門果。若以無漏道。得沙門果者可爾。若以世俗道。得斯陀含果阿那含果。云何可爾。答曰。如以無漏道。離欲愛。次第立斯陀含果阿那含果。聖人以世俗道。離欲愛。亦次第立

斯陀含果阿那含果。尊者僧伽婆修說曰。以世俗道斷結。無漏道。於未來修。二沙門果。是彼道果。不應作如是說。所以者何。未來道不能有所作。復有說者。以世俗道現在前斷結。無漏道得。一切時生。無有斷絕。二沙門果。即是彼果。不應作是說。所以者何。非是彼果。復有說者。金剛喻定。是實義沙門。通證三界。見道修道所斷煩惱解脫得。即是彼果。評曰。以從多分故。是沙門果。聖道果多。非有漏道果多。若以世俗道。得斯陀含果。三界見道所斷結斷。是沙門果。欲界繫修道所斷六種結盡。是世俗道果。若以世俗道。得阿那含果。三界見道所斷結斷。是沙門果。欲界繫修道所斷九種結斷。是世俗道果。是故當知從多分故名沙門果。

問曰。四沙門果。幾是假名。幾是實義。答曰。二是假名。謂斯陀含果。阿那含果。二是實義。謂須陀洹果。阿羅漢果。問曰。何故二是假名。二是實義。答曰。以此二果或以世俗道得。或以無漏道得。須陀洹果。阿羅漢果。悉以無漏道得。復次斯陀含果。阿那含果。以世俗假名道得。故果亦。是假名。須陀洹果。阿羅漢果。不以假名道得。故名實義。復次以世俗道。無漏道。共得假名。復有說者。二是實義。謂阿那含果阿羅漢果。所以者何。佛辟支佛聲聞。皆得此二果。故。問曰。外物或得果多。或得果少。斷法不爾。云何言果。答曰。以方便故。言果行者。住於高山閑靜房舍。於諸飲食資生之物。皆悉知量受。一七。六七法。頂安禪

① 駛二駛 ② 間二潤 ③ 度二渡 ④ 二二四 ⑤ 二二一 ⑥ 唯二推 ⑦ 長二名 ⑧ (如)十是 ⑨ 六二大

鎮行禪龜。法杖堅強精進。生如是法。是時其師深慰勞言。善哉善哉。汝行正方便。今得此果。譬如農夫。於六月中。修治田業。後獲子實。聚置場上。諸舊農夫。慰勞新者。善哉善哉。汝六月勞動。今獲此果。彼亦如是。問曰。此四沙門果。幾是禪果。幾是無色定果。幾是根本禪果。幾是禪邊果。幾是根本無色定果。幾是無色定邊果。幾是見道果。幾是修道果。幾是忍果。幾是智果。幾是法智果。幾是比智果。幾是法智分果。幾是比智分果。幾是有漏道果。幾是無漏道果。幾是禪果者。答曰。四是禪及眷屬果。幾是無色定果者。答曰。一是無色定果。謂阿羅漢果。幾是根本禪果者。答曰。二謂阿那含果。阿羅漢果。幾是禪邊果者。答曰。四謂初禪邊。非餘禪邊。幾是根本無色定果者。答曰。一謂阿羅漢果。幾是無色定邊果者。答曰。無幾是見道果者。答曰。三除阿羅漢果。幾是修道果者。答曰。三除須陀洹果。幾是忍果者。答曰。三除阿羅漢果。幾是智果者。答曰。三除須陀洹果。幾是法智果者。答曰。三除須陀洹果。幾是比智果者。答曰。一謂阿羅漢果。幾是法智分果者。答曰。三除須陀洹果。幾是比智分果者。答曰。四幾是世俗道果者。答曰。二。謂斯陀含果。阿那含果。幾是無漏道果者。答曰。四。佛經說摩伽陀國。毘提希子阿闍。貴王。往詣佛所。頭面禮足。在一面坐。白佛言。世尊。為設有現法沙門果。可得。不耶。佛言。可得。佛告王言。我今問汝。隨汝意答。於意云何。若王給侍。及諸奴僕。不自在者。見於大

王。昇高殿堂。五樂自娛。受諸快樂。便作是念。我亦是人。然王多修福故。昇高殿堂。五樂自娛。受諸快樂。我等亦應修諸福業。信家非家。剃除鬚髮。捨家出家。彼於後時。即便出家。修行十善。不殺乃至正見。王餘使人。於外見之。若來白王。作是言。大王侍使奴僕。不自在者。今已剃除鬚髮。出家學道。修行十善。王今應當將還。如前策使。王如其言。還將來耶。答曰。不也。我應往見親近恭敬。如彼本日禮敬迎送於我。我今亦應禮敬迎送還恭敬之。盡其形壽。施與衣服飲食房舍臥具資生之物。大王當知。如此之事。豈非是現法沙門果耶。王白佛言。實如聖教。問曰。沙門果有四。今者何故說五沙門果耶。答曰。此是出家近功用果。如師子吼經復說。此處有初沙門第二沙門第三沙門第四沙門。非餘外道沙門婆羅門空行之者。汝等應當如是作師子吼。此處有初沙門。乃至有第四沙門。初沙門者是須陀洹。第二沙門是斯陀含。第三沙門是阿那含。第四沙門是阿羅漢。尊者波奢說曰。佛世尊先說次第根本法。初沙門者。是阿羅漢。第二沙門者。是阿那含。第三沙門者。是斯陀含。第四沙門者。是須陀洹。須跋陀羅經復說。須跋陀羅當知。此處若有八聖道。便有初沙門果。乃至第四沙門果。或有說者。此中說四向是沙門。初沙門者是向須陀洹果證。第二沙門者。是向斯陀含果證。第三沙門者是向阿那含果證。第四沙門者是向阿羅漢果證。尊者波奢說曰。此中說四向四果是沙

門。如說須跋陀羅當知。若有八聖道處。當知說向。便有初沙門乃至第四沙門。當知說果。純陀經復說。有四沙門無第五沙門。四沙門者。一勝道沙門。二說道沙門。三宿命沙門。四過道沙門。勝道沙門者是佛世尊。所以者何。以佛有自然智故。辟支佛亦爾。說道沙門者如舍利弗等。所以者何。我隨佛轉法輪故。餘無學聲聞亦爾。宿命沙門者阿難是。所以者何。彼是學亦令他住學法。多聞持戒具足。餘學聲聞亦爾。過道沙門者如摩訶羅倫盜者是。問曰。師子吼經所說沙門。須跋陀羅經所說沙門。純陀經所說沙門。有何差別。答曰。或有說者。師子吼經。說住果沙門。須跋陀羅經。說住向沙門。純陀經。說在不住果沙門。復有說者。師子吼經。須跋陀羅經。說住果沙門。純陀經。說一切沙門。復有說者。師子吼經。須跋陀羅經。說聖人沙門。純陀經。說聖人凡夫沙門。復有說者。師子吼經。須跋陀羅經。說學無學沙門。純陀經。說學無學非學非無學沙門。復有說者。師子吼經。須跋陀羅經。說淨戒沙門。純陀經。說淨不淨戒沙門。復有說者。如師子吼經所說沙門。須跋陀羅經。純陀經所說亦爾。如須跋陀羅經所說沙門。師子吼經。純陀經。所說亦爾。如純陀經所說沙門。師子吼經。須跋陀羅經。所說亦爾。問曰。若然者。此說云何通。如說作如此師子吼。我此眾中。有初沙門乃至第四沙門。世尊亦說惡戒破諸威儀離於白法之人。而師子吼耶。答曰。亦說。所以者何。彼雖破戒。而不

破見。雖破方便。不破期心。若他人問此事。為好為不好耶。答言不好。是沙門所應作。所不應作耶。答曰。不應作此事。為有報為無報耶。答言。有報。此報為是。可。愛為惡道中受。為人天中受。答言。惡道中受。為自身受。為他人受。答言。自身受。非他身受。為是師過。為是經過。答言。非是師過。答言。亦非經過。是我之過。如是正見。於因緣中不愚。則九十六種道中所無。是故世尊。於此眾中。作師子吼。

佛經說世有三人。名多有所作計。其所作不易可報。若盡形壽。衣服飲食。隨病醫藥。而供養之。亦不能報。云何為三有人。為他說法。令信家非家。捨家出家。是名初人。多有所作。不易可報。次復有人。為他說法。令他能知集法。皆是滅相。於諸法中。遠塵離垢。得法眼淨。是人所作。不易可報。乃至廣說。次復有人。為他說法。能令他人。盡有漏成。無漏心得解脫。慧得解脫。自身作證。是人所作。不易可報。乃至廣說。問曰。如教人令受優婆塞戒。是人亦名多有所作。此中何故不說耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次以出家戒。是因果故。出家戒。是比丘戒。因。是優婆塞戒。果。復次若教他出家。則名教他入假名法。入法有二種。一者入假名法。二者入實義法。入假名法者。剃除鬚髮。出家是也。入實義法者。住世第一法。入苦法忍是也。復次若教他出家。則令他人脫。多役驅使等種種諸苦。復次若教他出家。則救濟他人。雖於現苦。不久亦當得離生

老病死苦。復次若教他出家。則令他人得現法樂。不久亦當得自在樂。復次若教他出家。則假名佛出世間。不久亦當實義佛出世間。復次若教他出家。則教他人三戒三身三學三修三淨三道三地三根三種菩提。復次若教他出家。則得決定解脫道。如說。若能剃除鬚髮。出家者。此人必當決定見四真諦法。復次若教他出家。則教他人。令身少事。身少事能生心少事。身遠心遠。身淨心淨。身好心好。身端正心端正亦如是。復次若教他出家。則教他剃髮。著袈裟。剃髮則能生牟尼著袈裟則能去離惡。復次若教他出家。則令他人得無盡業無盡財無過業無過財。復次若教他出家。則令他人盡形壽持戒。淨修梵行。傷法諸利。傷法諸利。是何義耶。尊者和須蜜說曰。有仙人。一名傷法。二名諸利。淨修梵行。威儀具足。在家之人。所不能行。如畫珂貝上。非風吹日曝。所能壞滅。在家之人。修行梵行。不能如是。如畫貝上。分明了。在家之人。修行梵行。不能如是。如阿那含。猶如妻子。畜眾。生數非眾。生數物。凡夫聖人。無有差別。復次若教他出家。則示他人。帝釋轉輪聖王。閻羅王所欲之事。問曰。何故教他出家。置二果。唯說須陀洹果。阿羅漢果。答曰。已說在此義中。所以者何。遠塵離垢。得法眼淨。三果可爾。具縛人。漸離欲人。永離欲人。得正決定。悉名遠塵離垢。得法眼淨。復以現始終故。始是須陀洹果。終是阿羅漢果。如始終。始入已度方便畢竟。說亦如是。復次此二果。一向

無漏道得。非有漏道。二果無漏有漏道得。如有漏無漏道。解脫道。繫縛道。亦如是。復次此果俱過。非想非非想處人。得須陀洹果。過非非想非非想處。見道所斷結。乃得阿羅漢果。過非非想非非想處。修道所斷結。乃得。復次此現門現略所有沙門果。或以見道得。或以修道得。若說須陀洹果。當知已說見道得者。若說阿羅漢果。當知已說修道得者。如見道修道。見地修地。未知欲知根知根。說亦如是。復次有沙門果。或因見道所斷結盡而立。或因修道所斷結盡而立。如見道所斷。緣無所有煩惱。緣所有煩惱。忍對治煩惱。智對治煩惱。亦如是。復次已說在此義中。所以者何。以必得故。若得須陀洹果。必得斯陀含果。若得阿羅漢果。必由阿那含果。

① 謂二日 ② 愛二受為不可受 ③ 答曰不可受 ④ 愛為不可愛 ⑤ 答曰不可愛 ⑥ 多二苦 ⑦ 離二離 ⑧ 十髮 ⑨ 如二有 ⑩ 四離二離 ⑪ 所十有 ⑫ 果十攝耶 ⑬ 卷第五十終 ⑭ 卷第五十一使健度人品第三之三首 ⑮ 卷第五十一使健度人品之三首 ⑯ 造說釋 ⑰ 說譯說同異如卷第二十三首 ⑱ 卷第五十終 ⑲ 卷第五十一使健度人品之三首 ⑳ 造說釋 ㉑ 說譯說同異如卷第二十三首

學。答曰。無爲須陀洹果。謂三界見道所斷結。斷斯陀含成就諸學法。彼法斯陀含果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。有爲斯陀含果。得已不失。得者信解脫得信解脫諸根。見到得見到諸根。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫諸根。云何不攝斯陀含。前進得勝妙無漏諸根。前進者。方便道。三無礙道。二解脫道。如是等前進道所有學法。斯陀含成就。彼非斯陀含果攝。所以者何。前進道非果所攝。設法斯陀含果攝。彼法是學耶。答曰。或是學或是非學。非學。學者有爲斯陀含果。若道比智及眷屬。若第六解脫道及眷屬。云何非學。非學。答曰。無爲斯陀含果。謂三界見道所斷結斷及欲界修道所斷六種結斷。阿那含成就諸學法。彼法阿那含果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。有爲阿那含果。得已不失。得者信解脫得信解脫諸根。見到得見到諸根。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫諸根。云何不攝。阿那含前進得勝妙無漏諸根。前進者離初禪欲。方便道。九無礙道。九解脫道。乃至離非想非非想處愛方便道。九無礙道。八解脫道。如是等前進道所有學法。阿那含成就。彼非阿那含果攝。所以者何。前進道非阿那含果攝。設法阿那含果攝。彼法是學耶。答曰。或是學或是非學。非無學。云何是學。答曰。有爲阿那含果若道比智及眷屬。若第九解脫及眷屬。云何非學。非無學。答曰。無爲阿那含果。三界見道所斷結斷。及欲界修道所斷九種結斷。阿羅漢成

就諸無學法。彼法阿羅漢果攝耶。答曰。如是。所以者何。阿羅漢所有方便道。無礙道。解脫道。前進道。盡阿羅漢果攝。設法阿羅漢果攝。彼法是無學耶。答曰。或是無學或是非學。非無學。云何是無學。答曰。有爲阿羅漢果。盡智無生智。無學等見及眷屬。云何非學。非無學。答曰。無爲阿羅漢果。三界見道修道所斷結斷。須陀洹成就諸無漏法。彼法須陀洹果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。須陀洹果。得已不失。得者信解脫得信解脫性。須陀洹果。見到得見到性。須陀洹果。三界見道所斷結斷。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫性。須陀洹果。云何不攝。須陀洹果前進得勝妙諸無漏根。方便道。六無礙道。五解脫道。如是等前進道。及漸斷結得作證。謂欲界修道所斷五種結斷。如前進道非果攝。彼斷亦爾。須陀洹所成就非數滅。此滅非是須陀洹果。所以者何。非數滅是無記。須陀洹果是善故。設法須陀洹果攝。彼法是無漏耶。答曰。如是。所以者何。有爲須陀洹果無爲須陀洹果皆是無漏故。斯陀含成就諸無漏法。彼法斯陀含果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。斯陀含果。得已不失。得者信解脫。性得信解脫斯陀含果。見到得見到性斯陀含果。三界見道所斷結斷。及欲界修道所斷六種結斷。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫性斯陀含果。云何不攝。斯陀含果前進得勝妙諸無漏根。方便道。三無礙道。二解脫

道。如是等道。及漸斷結得作證。謂欲界修道所斷二種結斷。如前進道非斯陀含果攝。斷亦如是。斯陀含果所成就非數滅。此滅非是斯陀含果。所以者何。非數滅是無記。斯陀含果是善故。設法是斯陀含果攝。彼法是無漏耶。答曰。如是。所以者何。有爲斯陀含果。無爲斯陀含果。皆是無漏故。阿那含成就無漏諸法。彼法阿那含果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。阿那含果。已得不失。得者信解脫得信解脫性阿那含果。見到得見到性阿那含果。三界見道所斷結斷。及欲界修道所斷九種結斷。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫性阿那含果。云何不攝。答曰。阿那含前進得勝妙無漏諸根。離初禪愛。方便道。九無礙道。九解脫道。如是乃至離非非非想處愛。方便道。九無礙道。八解脫道。如是等道。及漸斷結得作證。謂離七地愛及非想非非想處八種愛。如前進道非果攝。彼斷亦爾。阿那含所成就非數滅。廣說如上。設法阿那含果攝。彼法是無漏耶。答曰。如是。廣說如上。阿羅漢成就無漏諸法。彼法阿羅漢果攝耶。答曰。或攝或不攝。云何攝。答曰。已得阿羅漢果不失。得者時解脫得時解脫性。非時解脫得。非時解脫性。三界見道修道所斷結斷。不失者時解脫不轉根作非時解脫。不失時解脫性阿羅漢果。云何不攝。答曰。阿羅漢所成就非數滅。於如是法得非數滅。謂欲界色無色界繫有漏。及無漏法非數滅。此滅非是阿羅漢果。所以者何。非數滅是無記。阿羅

一五四六 阿毘曇毘婆沙論卷第三十五

二三四 七五

●攝十(答曰)●* ●性得信解脫二得信解脫性● ●七二士●

漢果是善故。設法阿羅漢果攝。彼法是非漏耶。答曰。如是。所以者何。有為阿羅漢果。無為阿羅漢果。皆是無漏故。

須陀洹成就諸法。彼法須陀洹果攝耶。此中間轉增法。先問學次問無漏。今問不定。須陀洹成就諸法。彼法須陀洹果攝耶。答曰。或法須陀洹果成就。彼法非須陀洹果攝。云何法須陀洹成就。彼法非須陀洹果攝。答曰。須陀洹前進。得勝妙無漏諸根及漸斷結得作證。須陀洹所成就非數滅。亦成就有漏諸法。謂善染污不隱沒無記善者。數方便善。生得善。染污者三界修道所斷染污。不隱沒無記者威儀工巧報。如是等法。須陀洹成就。非須陀洹果攝。云何法須陀洹果攝。彼法非須陀洹成就。答曰。不得須陀洹果。得已便失。不得者信解脫不得見到性。須陀洹果。見到不得信解脫性須陀洹果。得已便失者。信解脫轉根作見到。便失信解脫性須陀洹果。云何法須陀洹成就。彼法亦須陀洹果攝。答曰。得須陀洹果不失。廣說如上。云何法須陀洹果不成。彼法非須陀洹果攝。答曰。除上爾所事。若法已稱名已說者。作第一第二第三句。未稱未說者。作第四句。彼是何耶。答曰。有三種謂善染污不隱沒無記善有二種。謂無漏有漏。無漏者一切上下無漏道。有漏者謂方便善。離欲善。生得善。若本不得。若得便失。染污者。三界見道欲界修道所斷染污。須陀洹已斷者。不隱沒無記者。謂威儀工巧報須陀洹所不成者。一切變化心。如是等

諸法。作第四句故。言除上爾所事。如須陀洹。斯陀含亦如是。阿那含成就諸法。彼法阿那含果攝耶。乃至廣作四句。云何法阿那含成就。彼法非阿那含果攝。答曰。阿那含前進。得勝妙無漏諸根及所斷結得作證。阿那含所成就非數滅。廣說如上。阿那含成就。諸餘有漏法。彼是何耶。答曰。有三種。謂善染污不隱沒無記。善者方便善。生得善。離欲善。染污者。色無色界繫修道所斷染污。不隱沒無記者。威儀工巧報變化心。如阿那含所成就者。云何法阿那含果攝。彼法非阿那含成就。答曰。不得阿那含果。得已便失。不得者。信解脫不得見到性。阿那含果見到不得信解脫性。阿那含果。得已便失者。信解脫轉根作見到。失信解脫性阿那含果。云何法阿那含成就。彼法阿那含果攝。答曰。得阿那含果不失。得者信解脫得信解脫性阿那含果。見到得見到性阿那含果。三界見道所斷結斷欲界修道所斷九種結斷。不失者信解脫不轉根作見到。不失信解脫性阿那含果。云何法非阿那含成就。彼法亦非阿那含果攝。答曰。除上爾所事。若法已稱名已說者。作第一第二第三句。未稱未說者。作第四句。彼是何耶。答曰。有三種。謂善染污不隱沒無記。善者謂無漏有漏。無漏者上下無漏道。有漏者方便善。生得善。離欲善。若本不得。若得便失。染污者三界見道所斷染污。欲界修道所斷染污。不隱沒無記者。威儀工巧報變化心。本不得已便失者。如是等諸法。作第四句。故言除上爾所事。阿

羅漢成就諸法。彼法阿羅漢果攝耶。乃至廣說四句。云何法阿羅漢成就。彼法非阿羅漢攝。答曰。阿羅漢成就非數滅。謂善染污不隱沒無記。阿羅漢於此法。得非數滅。阿羅漢所成就有漏法。此法有二種。謂善不隱沒無記。善者方便善。生得善。離欲善。若不隱沒無記者。威儀工巧報變化心。阿羅漢所成就者。云何法阿羅漢果攝。彼法非阿羅漢成就。答曰。阿羅漢。本不得。得已便失。不得者時解脫不得非時解脫性阿羅漢果。非時解脫不得時解脫性阿羅漢果。得已便失者。時解脫轉根作不時解脫。失時解脫性阿羅漢果。云何法阿羅漢成就。彼法阿羅漢果攝。答曰。阿羅漢果。得已不失。得者時解脫得時解脫性阿羅漢果。不時解脫得不時解脫性阿羅漢果。三界見道修道所斷結斷。不失者。時解脫。阿羅漢。不轉根作不時解脫。不失時解脫性阿羅漢果。云何法阿羅漢不成。彼法非阿羅漢果攝。答曰。除上爾所事。若法已稱名已說者。作第一第二第三句。未稱未說者。作第四句。彼是何耶。答曰。有三種謂善染污不隱沒無記。善者方便善。離欲善。生得善。阿羅漢。本不得。得已便失者。染污者三界見道修道所斷染污。不隱沒無記者。威儀工巧報變化心。阿羅漢。本不得。得已便失者。如是等諸法。作第四句。故言除上爾所事。

問曰。信解脫為轉根作見到不耶。若轉者。根。度度中。何以不說。如說若捨無漏根。得無漏根。彼盡從果至果耶。答曰。若從果至果。盡捨

無漏根。得無漏根。頗有捨無漏根得無漏根。彼非從果至果耶。答曰。有得正決定道。比智現時時。時解脫阿羅漢。轉根作不動。彼尊者有何勞倦。不說信解脫轉根作見到耶。若信解脫。不轉根作見到者。此文所說云何通。如說若不得須陀洹果。得已便失。若信解脫。不轉根作見到者。云何言得已便失耶。智。健度說復云何通。如說須陀洹。於此三三昧。未來盡成就過去已滅不失。現在若現在前。若信解脫不轉根作見到者。已滅三昧。云何失耶。識身經說。復云何通。如說過去無學心。得作三句。名已知。不名今知。不名當知。此中成就已知名說時解脫阿羅漢。退作信解脫。轉根作見到。還得阿羅漢果。今不成就。不當成就時解脫道。答曰。應作是說。信解脫轉根作見到。

非非想處。非是數數舊法。無有衆生曾出過者。是故離彼欲時。得二沙門果。但名得果。不名轉根。問曰。如汝所說。得斯陀含果阿那含果時。亦名得果。亦名轉根。是事可爾。退法轉根作憶法。乃至等住轉根作能進。此中何以不說彼作是答。已說在此義中。何以知之。退法轉根作憶法時。得憶法時根。不捨退法根。乃至等住轉根作能進時。得能進根。不捨四種根。能進轉根作不動時。得不動根。不捨五種根。彼不應作是說。所以者何。無有一人成就二根者。何況多耶。復有說者。信解脫不轉根作見到。是故根健度不說。

問曰。本不成就中下須陀洹果。何故言失。答曰。超過二根故名失。所以者何。超彼二根能生之勢。故作是說。識身經復云何通。答曰。識身經則不可通。評曰。應作是說。信解脫轉根作見到。若信解脫不轉根作見到者。時解脫亦不轉根作不動。所以者何。如學地無止息。無救護無學地亦爾。

問曰。本不成就中下須陀洹果。何故言失。答曰。超過二根故名失。所以者何。超彼二根能生之勢。故作是說。識身經復云何通。答曰。識身經則不可通。評曰。應作是說。信解脫轉根作見到。若信解脫不轉根作見到者。時解脫亦不轉根作不動。所以者何。如學地無止息。無救護無學地亦爾。

問曰。若然者。後所說善通根健度中。何故不說耶。答曰。彼文應如是說。得正決定道。比智現在前。信解脫轉根作見到。時解脫轉根作不動。應如是說。而不說者。有何意耶。答曰。現始終故。始是道比智。終是時解脫轉根作不動。如始終。初入已度方便畢竟亦如是。尊者僧伽婆修說。曰。信解脫轉根作見到。得斯陀含果時。亦名是得果。亦名轉根。得阿那含果時。亦名得果。亦名轉根。問曰。若然者。得須陀洹果時。何不名轉根。得阿羅漢果時。何不名轉根耶。答曰。出過欲界。是數數舊法。無有衆生曾不出過欲界者。是故離彼欲時。得二沙門果。亦名得果。亦名轉根。出過非想

問曰。此文所說復云何通。答曰。或有說。成就過去未來得。或有說。成就過去未來得。若作是說。不成就過去未來得者。彼作是說。若不得須陀洹果。是說未來。若得已。是說現在。便失是說過去。若作是說。成就過去未來得者。彼作是說。須陀洹果有三種。謂下中上。若初住下須陀洹果。不得中上須陀洹果。故言不得。得下須陀洹果。故言得已。不應言便失。若初住中須陀洹果。故言得已。不得上須陀洹果。故言不得。失下須陀洹果。故言便失。若初住上須陀洹果。不應言不得。得上須陀洹果。故言得已。便失者。失中下須陀洹果。

尊者佛陀羅測說曰。信解脫轉根作見到。有六事不共。一在欲界不在色無色界。二依禪不依無色定。三用無漏道。不用世俗道。四用法智。不用比智。五退非不退。六住果道。不住勝果道。在欲界不在色無色界者。欲界有說法。人以說法。力故。能轉。根鈍作利。依禪不依無色定者。本依何地得學果。即依彼地。信解脫轉根作見到。用無漏道。不用世俗道者。以猛利道能轉根。世俗道非猛利。用法智不用比智者。生欲界轉根者。於法智得自在。不於比智。退非不退者。厭患退故轉根。住果道非勝果道者。若住勝果道轉根者。則失多道得少道。是名減少。不名增益。阿毘曇者。作如是說。信解脫轉根作見到。如彼所說。但於六事中。三事不可爾。唯在欲界不在色無色界。此事可爾。依禪不依無色定。此亦可爾。唯以無漏道。不以世俗道者。此亦可爾。唯用法智不用比智者。此不必爾。所以者何。或有於比智善得自在非法智。退法非不退法者。此不必爾。所以者何。退法亦能轉根。不退法亦能轉根。不必退法。唯住果道不住勝果道者。此不必爾。所以者何。住果道。亦能轉根。住勝果

問曰。本不成就中下須陀洹果。何故言失。答曰。超過二根故名失。所以者何。超彼二根能生之勢。故作是說。識身經復云何通。答曰。識身經則不可通。評曰。應作是說。信解脫轉根作見到。若信解脫不轉根作見到者。時解脫亦不轉根作不動。所以者何。如學地無止息。無救護無學地亦爾。

問曰。若然者。後所說善通根健度中。何故不說耶。答曰。彼文應如是說。得正決定道。道比智現在前。信解脫轉根作見到。時解脫轉根作不動。應如是說。而不說者。有何意耶。答曰。現始終故。始是道比智。終是時解脫轉根作不動。如始終。初入已度方便畢竟亦如是。尊者僧伽婆修說。曰。信解脫轉根作見到。得斯陀含果時。亦名是得果。亦名轉根。得阿那含果時。亦名得果。亦名轉根。問曰。若然者。得須陀洹果時。何不名轉根。得阿羅漢果時。何不名轉根耶。答曰。出過欲界。是數數舊法。無有衆生曾不出過欲界者。是故離彼欲時。得二沙門果。亦名得果。亦名轉根。出過非想

問曰。此文所說復云何通。答曰。或有說。成就過去未來得。或有說。成就過去未來得。若作是說。不成就過去未來得者。彼作是說。若不得須陀洹果。是說未來。若得已。是說現在。便失是說過去。若作是說。成就過去未來得者。彼作是說。須陀洹果有三種。謂下中上。若初住下須陀洹果。不得中上須陀洹果。故言不得。得下須陀洹果。故言得已。不應言便失。若初住中須陀洹果。故言得已。不得上須陀洹果。故言不得。失下須陀洹果。故言便失。若初住上須陀洹果。不應言不得。得上須陀洹果。故言得已。便失者。失中下須陀洹果。

尊者佛陀羅測說曰。信解脫轉根作見到。有六事不共。一在欲界不在色無色界。二依禪不依無色定。三用無漏道。不用世俗道。四用法智。不用比智。五退非不退。六住果道。不住勝果道。在欲界不在色無色界者。欲界有說法。人以說法。力故。能轉。根鈍作利。依禪不依無色定者。本依何地得學果。即依彼地。信解脫轉根作見到。用無漏道。不用世俗道者。以猛利道能轉根。世俗道非猛利。用法智不用比智者。生欲界轉根者。於法智得自在。不於比智。退非不退者。厭患退故轉根。住果道非勝果道者。若住勝果道轉根者。則失多道得少道。是名減少。不名增益。阿毘曇者。作如是說。信解脫轉根作見到。如彼所說。但於六事中。三事不可爾。唯在欲界不在色無色界。此事可爾。依禪不依無色定。此亦可爾。唯以無漏道。不以世俗道者。此亦可爾。唯用法智不用比智者。此不必爾。所以者何。或有於比智善得自在非法智。退法非不退法者。此不必爾。所以者何。退法亦能轉根。不退法亦能轉根。不必退法。唯住果道不住勝果道者。此不必爾。所以者何。住果道。亦能轉根。住勝果

問曰。本不成就中下須陀洹果。何故言失。答曰。超過二根故名失。所以者何。超彼二根能生之勢。故作是說。識身經復云何通。答曰。識身經則不可通。評曰。應作是說。信解脫轉根作見到。若信解脫不轉根作見到者。時解脫亦不轉根作不動。所以者何。如學地無止息。無救護無學地亦爾。

●健二健● ●今不不今● ●日二句● ●[是]一● ●習二者● ●力二九● ●根鈍二鈍根●

道亦能轉根。問曰。若然者。豈非捨多道得少道。是損減非增益耶。答曰。彼求利根。不求多道。

尊者瞿沙跋摩說曰。信解脫轉根作見到。唯在閻浮提。不在餘方。問曰。依何地得學果。即依彼地轉根耶。答曰。即依彼地。亦依餘地。是勝地非下。須陀洹。斯陀含。必依未至禪。得果轉根阿那含。依得果地。亦依餘地轉根。阿那含極少者。成就三地阿那含果。謂初禪未至中間禪。若依未至。若依初禪。若依禪中間。必成就三地道。比智阿那含果。若依一禪。得正決定者。必成就四地道。比智阿那含果。若依第三禪。成就五地。若依第四禪。成就六地。次第一人離欲愛時。最後解脫道。成就三地阿那含果。若依初禪。得正決定。即依初禪轉根者。彼捨三地阿那含果。得三地阿那含果。若依初禪。得正決定。依第二禪轉根者。彼捨三地得四地。若依初禪。得正決定。依第三禪轉根者。彼捨三地得五地。若依初禪。得正決定。依第四禪轉根者。彼捨三地得六地。若依二禪。得正決定。即依二禪轉根者。彼捨四地得四地。若依二禪。得正決定。依第三禪轉根者。彼捨四地得五地。若依二禪。得正決定。依第四禪轉根者。彼捨四地得六地。若依三禪。得正決定。即依三禪轉根者。彼捨五地得五地。若依三禪。得正決定。依第四禪轉根者。彼捨五地得六地。若依第四禪轉根者。彼捨六地得六地。問曰。頗有依上地得果。依下地轉根耶。答曰。或有說

者無。若有者則捨多道得少道。是損減非增益故。復有說者。如依第四禪得正決定。依第三禪轉根者。捨六得五。依第四禪得正決定。依第二禪轉根者。捨六得四。依第四禪得正決定。依初禪轉根者。捨六得三。三禪二禪初禪應隨相說。

問曰。若然者。豈非捨多道得少道。是損減非增益耶。答曰。若爾亦無有過。所以者何。彼求利道。不求多道。頗有離無所有處愛聖人成就一地無漏耶。答曰。有。離無所有處愛。依未至禪得正決定。見道中十五心頃是也。頗有離無所有處愛阿那含成就三地無漏耶。答曰。有。若依初禪未至中間禪。信解脫轉根作見到。頗有身證人不成。就無漏無色定耶。答曰。有。依禪信解脫轉根作見到。未離初禪愛。依初禪轉根者。捨三地無漏道。得三地無漏道。離初禪愛。未離二禪愛。依初禪轉根者。捨四得三。離第二禪愛。未離第三禪愛。依初禪轉根者。捨五得三。離第三禪愛。未離第四禪愛。依初禪轉根者。捨六得三。離第四禪愛。未離空處愛。依初禪轉根者。捨七得三。離空處愛。未離識處愛。依初禪轉根者。捨八得三。離識處愛。未離無所有處愛。依初禪轉根者。捨九得三。離第二禪愛。乃至離識處愛。依第二禪轉根者。捨九得四。離第三禪愛。乃至離識處愛。依第三禪轉根者。捨九得五。離第四禪愛。乃至離識處愛。依第四禪轉根者。捨九得六。問曰。離無所有處愛。信解脫轉根作見到。捨無色界對治道。為捨斷不。若捨者。何不成就

結。若不捨者對治已捨。以何事故不捨斷耶。答曰。應作是說。不捨。問曰。對治已捨。以何事故。不捨於斷。答曰。無色界對治有二種得。雖捨無漏。不捨有漏。以為有漏所持故不捨。問曰。如有漏道。能有所作處可爾。不能有所作處。云何可爾。如漸離非想非非想處愛。信解脫。轉根作見到。捨非想非非想處修道所斷對治道。為捨彼斷不。若捨者。云何不成就結。若不捨者。對治已捨。以何事故。不捨於斷。答曰。或有說者。無有漸離非想非非想處愛而轉根者。若轉者。或是退。或畢竟離欲復有說者。有漸離非想非非想處愛轉根者。捨對治道不捨斷。評曰。應作是說。捨對治道亦捨斷。而不成就結。如離無所有處愛。命終生非想非非想處。從欲界乃至識處所有對治道及斷悉捨。而不成就結。彼亦如是。信解脫轉根作見到時。用一方便道一無礙道一解脫道。時解脫轉根作不動時。或有說以一方便道一無礙道一解脫道。評曰。應作是說。以一方便道九無礙道九解脫道。所以者何。以更得沙門果重用功故。如人壞舍。壞已更作。名重用功。彼亦如是。信解脫轉根作見到時。方便道是有漏無漏。未來亦修有漏無漏道。無礙道是無漏。未來亦修無漏道。解脫道亦是無漏。或有說者。未來修有漏無漏道。或有說者。唯修無漏。時解脫轉根。作不動時。方便道是有漏無漏。未來修有漏無漏道。九無礙道。八解脫道。唯是無漏。未來修無漏道。

最後解脫道是無漏。未來修有漏無漏道。及三界善根。信解脫轉根作見到時。方便道。或是會得。或非會得。無礙道。解脫道。一向非會得時。解脫轉根作不動時。方便道或是會得。或非會得。無礙道解脫道。一向非會得。是信解脫轉根作見到時。方便道無礙道。是信解脫道攝。解脫道是見到道攝。時解脫轉根作不動時。方便道。九無礙。八解脫道。是時解脫道攝。最後解脫道。是非時解脫道攝。信解脫轉根作見到時。若住果道。而轉根者。彼方便無礙解脫道。是果道攝。若住勝果道。而轉根者。彼方便無礙道。是勝果道攝。解脫道。是果道攝。時解脫轉根作不動時。方便無礙解脫道。是果道攝。所以者何。無勝果道故。信解脫轉根作見到時。住果而轉根者。是名捨果得果。若住勝果道。而轉根者。是名捨果捨勝果道而得果。時解脫轉根。作不動時。名捨果得果。

六種阿羅漢。謂退法。憶法。護法等住。能進。不動。若退法轉根作憶法時。捨退法根。得憶法根。若憶法轉根作護法時。捨憶法根。得護法根。若護法轉根作等住時。捨護法根。得等住根。若等住轉根作能進時。捨等住根。得能進根。若能進轉根作不動時。捨能進根。得不動根。如無學地六種。修道中六種學性亦如是。

問曰。退法轉根作不動時。為住退。法根得不動。為次等轉五種根得不動耶。答曰。或有說者。住退法根轉根得不動。無學時異用功多。

難得。是故次第轉學地不爾。評曰。應作是說。一切時次第而轉。如修道中有六種性。見道中亦有六種性。謂退法乃至不動。無有轉根者。所以者何。見道是速疾不起道故。如見道中有六種性。修行地中。亦有六種性。謂退法乃至不動。若轉者退法煩法不現在前。憶法煩法現在前。乃至能進煩法不現在前。不動煩法現在前。聲聞性煩法不現在前。辟支佛性煩法現在前。辟支佛性煩法不現在前。佛性煩法現在前。如煩法頂法亦如是。忍差別者。聲聞性忍不現在前。辟支佛性忍現在前。無有聲聞辟支佛忍不現在前。佛忍現在前。所以者何。忍與惡趣相妨。菩薩以願力故。當生惡趣。復有說者。聲聞煩頂不現在前亦不起。辟支佛煩頂現在前。所以者何。如佛自然無師。彼辟支佛亦爾。如佛一結跏趺坐。生諸善法現在前。從不淨乃至盡智無生智。辟支佛亦爾。世第一法。亦有六種性。退法乃至不動。無轉根者。所以者何。彼善根一剎那頃。無住相故。須陀洹有六種性。退法乃至不動。是故作如是說。頗有退須陀洹果。不成就見道所斷結耶。答曰。有從上根。性退下根時。

阿毘曇毘婆沙論卷第三十六

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道奏等譯

使。健度人品下

欲界死還生欲界。盡欲界有相續耶。乃至廣作四句有多名此中說有。是受身處衆生數五陰有。餘有廣說。如一行中。云何欲界死還生欲界。不欲界有相續耶。答曰。如欲界死。色界。中有現在前。欲界死。色界。亦是聖人亦是凡夫。彼色界中有。於欲界現在前。所以者何法應如是。若處所死有滅。即處所中有生。如種子滅處。此處即生於牙。彼亦如是。欲界死者。是欲界死。有欲界死。是色界中有。非欲有相續。色有相續。是色界中有。云何欲有相續。不欲界死。不生欲界。答曰。色界死。欲界中有現在前。凡夫人。於色界死。欲界中有。於色界現在前。法應如是。若處所死有滅。即處所中有生。廣說如上。是名欲有相續。是欲界中有。非欲界死。非欲界生。所以者何。色界死。是色界死。色界生。是欲界中有。云何欲界死還生欲界。欲界有相續耶。答曰。如欲界死還生欲界。中有生有。欲界死還生欲界。亦是聖人。亦是凡夫。凡夫於諸趣無礙生一一趣中。聖人於諸趣有礙。生人天中。欲界死。是欲界死。欲界生。是欲界中有。欲界有相續者。是欲界中有。若從中有。至

①能二勝②能二勝③法二故④性退二退住⑤第三十五第五十一⑥第三十六第五十二⑦健二健⑧下二之四⑨第三之四⑩牙二芽⑪(者)一⑫死二生

中說得名所使。如欲界凡夫。色無色界使得常現前生。色界凡夫人。無色界使得常現前生。復次於得不解脫故。名使所使。欲界凡夫。於色無色界使得不得解脫。色界凡夫。於無色界使得不得解脫。復次今得當得已得得故。作如是說。今得得是現在。當得得是未來。已得得是過去。復次能生彼使故。作是說。能生者生欲界凡夫。以離欲愛。能生色界諸使。色界凡夫。以離色愛。能生無色界諸使。復次現會所行有餘勢故。欲界衆生。無始以來。無有不曾起色無色界使。色界衆生。無有不曾起無色界使。問曰。若然者。色界凡夫。曾起欲界使。無色界凡夫。亦曾起欲色界使。何故不使耶。答曰。雖復曾起。以離欲故。欲界凡夫。未離色無色界愛。色界凡夫。未離無色界愛。聖人十使所使。問曰。欲界聖人有九十八使所使。如具縛人。得正決定。苦法忍現在前時。成就九十八使。此中何以不說耶。答曰。以時少故。不久苦智生。是故不說。復次此中說現行煩惱人。入見道人。猶不能起善有漏心。何況染污餘處。亦說現行煩惱人。如經說。有一婆羅門。往詣佛所。作如是問。汝當爲天人龍阿修羅。伽樓羅。健闍婆。緊那羅。摩睺羅伽耶。佛言。我不當爲。天乃至摩睺羅伽等。所以者何。婆羅門當知。以諸漏故。爲天乃至摩睺羅伽等。如來永斷諸漏。是故婆羅門。我不當爲。天乃至摩睺羅伽等。或有說。報現前故名。如經說偈

佛者是人 自調常定 行於梵道

心寂靜樂

此中說身受何。果報。即名此界衆生身受欲界報。即名欲界衆生身受色無色界報。即名色無色界衆生。佛受人報故。即名爲人。餘處亦說。報現前故名。如十門中說。誰成就眼根。答曰。生色界。若生欲界人。得已不失。如是等報現前故名。如是受欲界報者。名欲界衆生。受色無色界報者。名色無色界衆生。非欲界死。非欲界生。盡非欲界有相續耶。乃至廣作非四句。前四句初句作此第二句。前第二句。作此初句。前第三句。作此第四句。前第四句。作此第三句。色界非四句亦如是。非無色界死。非無色界生。盡非無色界有相續耶。廣說如經本。非欲界死。非欲界生。此人有五。欲界凡夫。色界凡夫。聖人。無色界凡夫。聖人。問曰。應有八人。何故說五耶。如色界死。還生色界。凡夫聖人。色界死。生無色界。凡夫聖人。色界死。生欲界。凡夫。無色界死。生無色界。凡夫聖人。無色界死。生色界。凡夫。如是等有八。何故說五。答曰。以相似故說五。亦色界死。生色界。凡夫。無色界死。生色界。凡夫。此二俱是色界凡夫。色界死。生無色界。聖人。無色界死。生無色界。聖人。此二俱是無色界聖人。色界死。生無色界。凡夫。無色界死。生無色界。凡夫。此二俱是無色界凡夫。餘有欲界凡夫。色界聖人。以相似故說五。非色界死。非色界生。此人有六。欲界凡夫。聖人。色界凡夫。聖人。無色界凡夫。聖人。問曰。應有九人。何故說六耶。如欲界死。還生欲界。凡夫聖人。欲

界死。生色界。凡夫聖人。欲界死。生無色界。凡夫聖人。無色界死。生無色界。凡夫聖人。無色界死。生欲界。凡夫。答曰。以相似故說六。欲界死。還生欲界。凡夫。無色界死。生欲界。凡夫。此二俱是欲界凡夫。欲界死。生無色界。凡夫。無色界死。生無色界。凡夫。此二俱是無色界凡夫。欲界死。生無色界。聖人。無色界死。生無色界。聖人。此二俱是無色界聖人。以相似故說六。非無色界死。非無色界生。此人有四。欲界凡夫。聖人。色界凡夫。聖人。問曰。應有七人。何故說四耶。如欲界死。還生欲界。凡夫聖人。欲界死。生色界。凡夫聖人。色界死。還生色界。凡夫聖人。色界死。生欲界。凡夫。何故說四耶。答曰。以相似故說四。欲界死。還生欲界。凡夫。色界死。生欲界。凡夫。此二俱是欲界凡夫。欲界死。生色界。凡夫。色界死。還生色界。凡夫。此二俱是色界凡夫。欲界死。生色界。聖人。色界死。還生色界。聖人。此二俱是色界聖人。餘有欲界聖人。以相似故說四。此諸人爲向所說使所使向所說

結所繫

願欲界死。不生欲界耶。如先說義。今則遮於生有。願欲界死。不生欲界耶。答曰。不生。生欲色界中有。若生無色界。若般涅槃。餘廣說如經本。問曰。無色界死。生欲色界。彼中有於何處現在前。答曰。或有說者。在第四禪。不應作是說。若無色界。有方所者。此說便是。但無色界。無有方所。何爲遠至第四禪耶。復有說者。是處所死。生無色中。即彼處所中有

●[人]一●●●以二已●●伽一迦●●健一健●●者二說●●寂一常●●果二界●●結所二所結●●是一若●

現在前如是說者。無色界死。生無色界。是事不爾。評曰。應作是說。欲界色界死。生無色界。即彼所生處。中有現在前

願欲界死不生欲界。不生色界。不生無色界耶。此中亦遮生有餘廣說如經本。問曰。此中何故不問般涅槃耶。答曰。應問而不問者。當知此說有餘。復次此中說死而生者。彼雖死而不生。復次此中因人而作論。彼般涅槃者。捨人名法

頗不離欲愛死。不生欲界耶。毘婆闍婆提。於此法中甚愚。謂不離欲愛。不生欲界。復不說中有。頗有不離欲愛欲界死不生欲界耶。答曰。不生欲界中有。頗不離色愛死。不生欲界色界耶。答曰。不生。生欲色界中有。頗不離無色愛死不生欲界色界無色界耶。答曰。不生。生欲色界中有。未離欲愛死。不生欲界。此人有二。欲界凡夫聖人。未離色愛死。不生欲色界。此人有四。欲界凡夫聖人。色界凡夫聖人。問曰。應有七人。欲界死。還生欲界。凡夫聖人。欲界死。生色界。凡夫聖人。色界死。還生色界。凡夫聖人。色界死。生欲界。凡夫。何故說四耶。答曰。以相似故說四。欲界死。生欲界凡夫。色界死。生欲界凡夫。此二俱是欲界凡夫。色界死。生色界凡夫。欲界死。生色界凡夫。此二俱是色界凡夫。欲界死。生色界聖人。色界死。生色界聖人。此二俱是色界聖人。餘有欲界聖人。以相似故說四。未離無色愛死。不生欲色無色界。此人有四。欲界凡夫聖人。色界凡夫聖人。問曰。應有九人。欲界

死。還生欲界中有。凡夫聖人。色界死。還生色界中有。凡夫聖人。色界死。生欲界。中有凡夫。無色界死。生色界中有凡夫。無色界死。生欲界中有凡夫。何故說四耶。答曰。以相似故說四。欲界死。還生欲界中有凡夫。色界死。還生色界中有凡夫。此三俱是欲界凡夫。欲界死。生色界中有凡夫。色界死。還生色界中有凡夫。無色界死。生色界中有凡夫。此三俱是色界凡夫。欲界死。還生色界中有聖人。此二俱是色界聖人。餘有欲界聖人。以相似故說四。此諸人為向所說使所使向所說結所繫。中有為有為無。問曰。何故作此論答曰。或有說無中有。或有說有中有。毘婆闍婆提說無中有。育多婆提說有中有。問曰。毘婆闍婆提。依何經說。信何事言無中有。答曰。彼依佛經。無經說作五無間業。作已增廣。命終無間生地獄中。以生地獄無有間故。言無中有。偈中亦說壯年便老病 當生閻羅邊 中間無息處 亦不用資糧 以無中息不用資糧故。知無中有亦作種種難。猶如光影無有中。死有生有。無有中。亦復如是。問曰。育多婆提。依何經說。信何事言有中有。答曰。彼依佛經。佛經說三事合故。得入母胎。一父母俱有染心。共會一處。二其母無病值時。三。健闍婆現在前。健闍婆者即是中有。說。健闍婆現在前故。知有中有。餘經亦說。中有般涅槃。以說有中有般涅槃故。知有中有。餘經復說。沙門瞿曇。此身已滅。未生彼處。於其中間。摩訶摩中為施設。有諸取不。佛告婆蹉。於其中間。愛是取。以說此身滅未生彼處在摩訶摩中故。知有中有。亦作種種難。若於此死。當生壽單越。此間斷滅。彼間本無而生。如是則有法而無。無法而有。欲令無如是過故。言有中有。問曰。毘婆闍婆提。云何通育多婆提經耶。答曰。彼經所說是未了義。是假名有餘意耶。彼以何事。為未了義。是假名有餘意耶。彼作是答。佛經說三事合故。得入母胎。一父母俱有染心。共會一處。二其母無病值時。三。健闍婆現在前。不應言。健闍婆。若言。健闍婆。彼作樂耶。應言諸陰行。問曰。若說健闍婆。若說諸陰行。俱非無中有。毘婆闍婆提。復作是問。汝說四生盡有中有。二生有三事合可爾。謂胎生卵生。餘二生不爾。答曰。若可爾便說。不可。爾不說。然非無中有。通第二經者。有天名中有。於彼天中般涅槃故言中有。般涅槃中有天者。此間死已。應生天中未至頃。於其中間。壽命未盡。便般涅槃。問曰。此天一切經中不說。佛經說有四天王天。乃至非想非非想天。不說中有天。佛經亦說有生般涅槃。復有天名生。於彼生天。而般涅槃。言生般涅槃耶。乃至上流般涅槃。復有天名上流。於彼天中。而般涅槃。言上流般涅槃耶。汝說未到諸天。壽命未盡。而般涅槃。衆生多壽命未盡而死。除壽單越人兜率天上最後身菩薩。如是等衆生。皆是有中有般涅槃耶。婆蹉經。復云何通。彼作是說。摩訶摩是無色界天。彼梵志得天眼。離色

●色二欲●●●[還生]一●●●(還)十生●●●●欲二色●●●●無二聖人●●●●夫十(無色界死生欲界中有凡夫)●●●●有十(耶)●●●●●十(耶)●●●●爾十(者)●●●●於二餘●●●●(有)十●●●●

受二種報業。謂色報業、無色報業。是處則有中有、無色界、唯有無色報業。如色報業、無色報業、相應業。不相應業。有所依業。無所依業。有勢業。無勢業。有緣業。無緣業。說亦如是。復次若處所有三種業。謂身口意業。則有中有、無色界、唯有意業。復次若有十善業道處。則有中有、無色界、唯有三善業道。復次若有五陰報業處。則有中有、無色界、唯有四陰報業。復次若有二種白法。謂白因白果。則有中有、無色界、唯有白因。而無白果。復次若有來去處。則有中有、無色界、無有來去。問曰。若然者。死已還生自屍中。有何來去耶。答曰。眾生或有生惡道者。或有生四天下者。或有生天者。或般涅槃者。生惡道者。識在足下滅。生四天下者。識在臍邊滅。生天者。識在面滅。般涅槃者。識在心邊滅。眾生多於面上生愛。若心識從足下滅。來生面上。豈非來去耶。若識從足滅。還生足中。無色界猶無是事。

問曰。中有為有移轉不耶。答曰。無有移轉。謂於界於趣於處。問曰。若中有於界無移轉者。少聞比丘因緣云何通。曾聞有族姓子。於佛法出家。不修多聞方便。住阿練若處。以宿因力故。能起世俗初禪。謂是須陀洹果。乃至起世俗第四禪。謂是阿羅漢果。於一生中。未得謂得。未解謂解。未證謂證。更不求勝進道。未得當得。未解當解。未證當證。後證後身壞命終。第四禪中有。而現在前。當於爾時。便作是念。我斷一切生分。應般涅槃。不應更生。今我中有何緣而生。定無解脫。若有解脫。我應得之。

便生謗涅槃邪見。以邪見故。第四禪中有即滅。阿毘地獄中有。而現在前。命終後生阿毘地獄。答曰。此是前有時移轉。非中有時。彼死時。第四禪相現在前。見彼相已。便作是念。我斷一切生分。應般涅槃。今此瑞相。何緣而生。定無解脫。若有解脫。我應得之。便生謗涅槃邪見。生邪見故。第四禪相便滅。阿毘地獄瑞相。而現在前。身壞命終。生阿毘地獄。以是事故。知於前有時移轉。非中有。轉問曰。若中有於趣無移轉者。善行惡行因緣云何通。曾聞舍衛國有二人。一名善行。二名惡行。善行者。於一身中。常行善行。不行惡行。惡行者。於一身中。常行惡行。不行善行。行惡行者。以後報善業故。天中有現在前。當於是時。便作是念。我一生內。常行惡行。不行善行。應生惡趣。不應生天。今我天中有何緣而生。便作是念。定無善惡業報。若有者。我應得之。便生謗因果邪見。以邪見故。天中有便滅。地獄中有即生。身壞命終。生地獄中。行善行者。命終時。以後報不善業故。地獄中有。而現在前。便作是念。我一生內。常行善行。不行惡行。應生善趣。不應生惡趣。今我地獄中有何緣而生。便作是念。定是我後報不善之業。今生此果。即自憶念所作諸善。生大善心。而現在前。地獄中有便滅。天中有即生。身壞命終。生於天上。答曰。如此皆是前有時移轉。非中有時。一切眾生死時。必有好惡瑞相。若多行善業。生時。多見好堂舍樓觀園林浴地遊戲之處。多行惡業。生時。多見火焰刀毒狼狗塚墓。

行惡行者死時。以後報善業故。天瑞相現在前。見已便作是念。我一生內。常行惡行。不行善行。我應生惡趣。不應生天。今此瑞相。何緣而生。定無善惡業報。便生謗因果邪見。生邪見故。生天瑞相便滅。地獄瑞相即生。行善行者死時。以後報惡業故。地獄瑞相現在前。見已便作是念。我一生內。常行善行。不行惡行。應生善處。不生惡趣。今此瑞相。何緣而生。定是我後報不善業故。今生此果。即自憶念所行諸善。生大善心。而現在前。地獄瑞相便滅。天中瑞相即生。身壞命終。生於天上。以是事故。此二俱是前有時移轉。非中有時。問曰。若中有於處無移轉者。頻婆娑羅王因緣云何通。曾聞頻婆娑羅王。兜率天中有現在前。當生兜率天。經須彌山頂。見毘沙門天王所食之食。其色鮮明。香味具足。便作是念。我先生此。後當生兜率天。作是念時。兜率天中有便滅。四天王中有即生。命終生於四天王天。答曰。此亦是前有時移轉。非中有時。曾聞頻婆娑羅王。為假名子阿闍貴所縛。閉在獄中。斷其飲食。以刀剝足下皮。爾時世尊。住著闍崛山。以憐愍故。便放光明。從窓牖中。照其身上。遇佛光故。身得安隱。生念佛心。我今遭此厄難。世尊而不見念。爾時世尊。知其心念。便告大目犍連。汝詣頻婆娑羅王所。作如是言。我於大王。所應作者。皆已作之。濟汝惡趣。決定報業。如來尚不得免。爾時大目犍連。從佛聞是語已。即入禪定。以禪定力。如其所念。從著闍崛山滅。如於泉池水中。從地而出。住頻

婆娑羅王前作如是言。大王當知。如來言無有二慧眼照淨。深見因果。作如是言。我於大王所應作者。皆已作之。濟汝惡趣。決定報業。如來尚不得免。作是語已。而為說法。時頻婆娑羅王。以飢渴故。而不解了。便作是言。尊者大目犍連。何天揣食。最為美妙。爾時尊者大目犍連。次第歎說。四天王食。時頻婆娑羅王。聞已身壞命絕。生四天王天。作毘沙門天王太子。名閻那梨沙。以是事故。知是前有時移轉。非中有時。譬喻者。作如是說。中有可移轉。彼作是說。一切諸業。皆可移轉。造五無間業。尚可移轉。何況中有。若作無間業。不可移轉者。則無有能過有頂者。以有能過有頂者故。知五無間業。亦可移轉。評曰。應作是說。中有不可移轉。

問曰。住中有為經幾時。答曰。經於少時。不久所以者何。彼於六入。求受身處。是故速令生有相續。問曰。衆生受身法和合。速令生有相續。可爾。若受身法不和合者。如父在廟賓。母在真丹。父在真丹。母在廟賓。云何速令生有相續耶。答曰。應觀此衆生。或於母作業可移轉。於父作業不可移轉。或於父作業可移轉。於母作業不可移轉。或於父母作業。俱不可移轉。或於父母作業。俱可移轉。若於母作業可移轉。於父作業不可移轉者。若是威儀具足。淨修梵行。身持五戒。極善男子。必至他婦女邊。令彼生相續。若於父作業可移轉。於母作業不可移轉者。若是威儀具足。淨修梵行。身持五

戒。極善女人。必至他男子邊。令彼生相續。若於父母作業。俱不可移轉者。受身者雖未死。其人雖所求未得。便生去心。於其道路。火不能燒。刃不能傷。毒不能害。必至彼和合。令彼生相續。

問曰。若衆生常有欲心者可爾。若衆生時有欲心者。云何可爾。如狗時有欲心。熊冬時有欲心。馬春時有欲心。牛夏時有欲心。如是等云何可爾。答曰。以彼衆生業力故。非時亦生欲心。而得和合。令彼生相續。復有說者。生相似者中。如狗時有欲心。豺常有欲心。應生狗中者。生於豺中。熊時有欲心。熊常有欲心。應生熊中者。生於熊中。馬時有欲心。驢常有欲心。應生馬中者。生於驢中。牛時有欲心。野牛常有欲心。應生牛中者。生野牛中。尊者奢摩達多說曰。中有衆生。壽七七。日。尊者和須密說曰。中有衆生。壽命七日。不過一七。所以者何。彼身羸劣故。問曰。若至七日。生處不和合者。彼斷滅耶。答曰。不斷滅。即於中有。而得久住。尊者佛陀提婆說曰。中有壽命不定。所以者何。生處緣不定故。中有雖得和合。生有不和合故。令久時住。

純黃金色繞身圓光一尋。以是事故。菩薩住。中有時。其身光明。照百億四天下。問曰。若然者。法須菩提所說偈云何通。如說其形如白象。四足有六牙。來入母胎時。如遊園觀想。

答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。是自造義。或然不然。或有言無或無言有。若必欲通者。有何意耶。答曰。彼方士法。以是夢為吉。是故其母夢見是事。欲令占相者皆言吉善。菩薩於九十一劫。更不墮惡趣。何緣作畜生形來入母胎。問曰。中有為具諸根。為不具諸根。答曰。諸根皆具。所以者何。中有初生時。六入皆求於有。復有說者。不具諸根。問曰。不具何根。答曰。前時有諸根不具者。隨中有故。猶如印像似印前時有似。中有亦爾。評曰。應作是說。無不具諸根者。所以者何。中有生時。六入皆求於有。問曰。中有行時云何。答曰。衆生應生地獄者。行時頭下足上。如偈說。

墮於地獄者 其身皆倒懸
誹謗於賢聖 及諸淨行故
生四天下者 則傍行如鳥飛空如壁上畫人
飛應生天者 頭則上向。如仰射虛空箭
問曰。中有生時。為有衣不。答曰。一切色界中有生時。皆有衣。所以者何。色界是多慚愧界。如法身常以衣覆。生身亦爾。欲界衆生中有。多無衣而生。唯除菩薩白淨比丘尼。復有說者。菩薩中有無衣。白淨比丘尼有衣。

問曰。其形若爾。云何生如是顛倒想。於母生愛心。於父生悲心。答曰。其形雖小。諸根猛利。猶如壁上畫老人像。其形雖小。而有老相。問曰。菩薩中有其形大小。答曰。如前時有少年形等。亦以三十二相嚴身。八十種好隨形。

●結二終● ●聞二聞● ●梨二利● ●刀二刀● ●密二蜜● ●中二者●

問曰。何故菩薩中有無衣。白淨比丘尼有衣。答曰。白淨比丘尼。施四方僧。問曰。菩薩施四方僧衣。多於白淨比丘尼所施。疊縷。答曰。白淨比丘尼。施僧已。發如是願。使我生生之處。常著衣服。以發願力故。中有生時著衣。入胎出胎。亦常著衣。其身轉大。衣亦隨大。於佛法生信。而後出家。即以此衣。作五種大。勤修方便。得阿羅漢。般涅槃時。即以此衣纏身。而闍維之。菩薩所行善法。皆為迴向無上菩提。以能生於似因之果。於最後身。得於一切衆生最勝之身。

問曰。中有衆生。為何所食。答曰。或有說者。有飲食處便食。食。河池水邊。飲水自存。一問曰。若然者。曾聞。如寫囊。米著釜鑊中。五趣衆生中有。散在世間。亦復如是。一切世間所有飲食。但狗中有食者。猶不供足。何況餘者。然彼身輕微。飲食愈重。若食此食。身應散壞。若然者。云何自活。答曰。以香為食。若衆生有福德者。食清淨飲食。花果香氣。以自存濟。無福德者。食糞穢不淨種種臭氣。以自存濟。

中有名中有。亦名捷闍婆。亦名求有。亦名摩窣摩。問曰。何故名中有。答曰。二有中問生故名中有。問曰。若然者。餘有亦在二有中問。盡名中有耶。答曰。若是二有中問。趣所不攝者。名中有。若在二有中問。趣所攝者。不名中有。復次若在二有中問。微細難。明難見難了者。名中有。

餘者雖在二有中問。是龜易見。明易了。不名中有。何故名捷闍婆。答曰。以香自活故名捷闍婆。何故名求有。答曰。生時以六入求有故名求有。何故名摩窣摩。答曰。從意生故名摩窣摩。衆生或有從意生。或有從業生。或有從報生。或有從合會生。從意生者。謂色無色界諸天。及中有。從業生者。謂地獄衆生。如說。彼中衆生。為業所繫。從報生者。謂飛鳥也。從合會生者。謂人六欲天。

佛經說。三事合故。得入母胎。一父母俱有染心。共會一處。二其母無病值時。三捷闍婆現在前。三事合故。謂父母捷闍婆。父母有染心者。謂欲心現在前。共會一處者。謂欲共合會。其母無病者。其母歡喜時。毘尼者。作如是說。其母以欲濁心。如天雨時。河水皆濁。彼亦如是。亦無風冷熱等。諸病值時者。值女人經水時。若經水多薄不成胎。若經水少乾不成胎。因父母精血分。然後成胎。是名值時。亦名有身。捷闍婆現住前者。中有現在前。若起愛心。若起悲心。若是男子。於母生愛。於父生悲。彼作是念。若無此男子者。我當與此女人交會。是時便起如是顛倒想。見彼人遠去。見於自身。與此女人。而共交會。父母合會。所有精氣。見是己有。見已便生喜心。生喜心故。而便迷悶。以迷悶故。中有轉重。更不移動。是時自見己身。在母右脇。面向母背而坐。若是女人。於父生愛。於母生悲。彼作是念。若無此女人者。當與此男子交會。是時便起如是顛倒想。見彼女人遠去。見於自身。與此男

子。而共交會。父母合會。所有精氣。見是己有。見已便生喜心。生喜心故。而便迷悶。以迷悶故。中有轉重。更不移動。是時自見己身。在母左脇。面向母腹而坐。一切衆生。皆有如是顛倒想。而入母胎。唯除菩薩。菩薩入胎時。知此是我母。此是我父。於母生母想。於父生父想。

問曰。中有於何處入母身。答曰。或有說者。彼無障礙隨處得入。問曰。若無障礙者。則不應住母身中。答曰。以業力故。住母身中。評曰。應作是說。中有從生門入母身中。以是事故。變產者後出為大。所以者何。以先入母胎故。

施設經說。父母福德等者。乃能受胎。問曰。如富貴男子。近貧賤女人。富貴女人。近卑賤男子。云何乃能受胎。答曰。當於是時。見彼女人。生尊貴想。自見己身。生卑賤想。女人自以為勝。視男為卑。尊貴女人。近卑賤男子。以他為勝。以己為賤。彼男子見己為勝。以他為賤。是時有如是想。福德等故。乃能受胎。

一母胎中。有五趣中有。如狗豺魚蝦羣等。問曰。若地獄中有在彼腹中。云何不燒。答曰。若作業者被燒。不作業者不燒。若有持戒等。著地獄中。亦不能燒。所以者何。以不作業故。衆生在地獄前。不必被燒。如施設經說。有時活地獄衆生。冷風來吹。唱如是言。諸衆生活。諸衆生活。是時衆生便活。以是事故。彼中有不必被燒。

●星一數● ①存二在● ②寫二滿● ③米二水● ④明難見二見難明● ⑤故一者● ⑥見二血● ⑦己二已● ⑧者十(我)● ⑨住二任● ⑩胎二腹●

還於中有。為相障礙不答曰。或有說者。相障礙

問曰。若然者。云何中有名無障礙。答曰。唯除中有。於餘無障礙。復有說者。中有於中有。還不相障礙。所以者何。以無言語故。

問曰。所往之處。為中有去疾。為神足去疾。答曰。或有說者。中有去疾。所以者何。業力勝神足力故。評曰。應作是說。神足去疾。非業力疾。問曰。若然者。云何說業力勝神足力。答曰。應知為以何事。言業力勝佛神足力。能留住一切眾生。神足力舍利弗。除佛目捷連。除佛舍利弗。彼中有無有眾生。呪術法藥草。佛。離辟支佛。能留住。使彼生不相續者。以是事故。說業力勝神足力。

問曰。中有為展轉相見不。答曰。或有說者。相見。為見幾所。答曰。地獄見地獄。畜生見畜生。餓鬼見餓鬼。人見人。天見天。復有說者。地獄見地獄。畜生見二趣。餓鬼見三趣。人見四趣。天見五趣。復有說者。中有非人眼境界。是天眼境界。

問曰。天眼為見幾所。答曰。四天王報天眼。除自地見下地。乃至他化自在天。除自地見下地。復有說者。一切欲界眼。不見中有。色界眼能見。

問曰。色界報得眼。能見幾所。答曰。初禪報得眼。除自地見下地。乃至第四禪。除自地見下地。若作是說。則無有見第四禪中有者。評曰。應作是說。一切報得眼。不見中有。天眼者。清淨者。能見中有。若不清淨者。則不見中有。何

以知之。佛經說若男子女人。破戒行惡。身壞命終。生如是有。其色如黑縷毳。亦如闇夜。若天眼淨者。乃能見之。若男子女人。持戒修梵行。身壞命終。生如是有。其色白淨。猶如白氈。亦如明月時夜。若天眼淨者。乃能見之。

如說。毘琉璃王。對吒惡魔提婆達多。即以此身。入阿毘地獄。

問曰。如是等為中有不耶。答曰。有在一剎那。死有無間。生於中有。中有無間。生於生有。但在一剎那。如經說。帝釋說偈。

大仙應當知 我於此坐處 還得天壽命 唯願憶持之

問曰。如此為有死生不。若有死生。云何受中有。若無死生。此偈云何通。如說。我於此坐處。還得天壽命。答曰。應作是說。不死不生。問曰。若然者。偈云何通。答曰。此以斷帝釋惡道因緣。故作如是說。佛為帝釋說法。得見真諦。斷惡道因緣。得生人天隨意之處。欲還向佛。作如是愛語。我於此坐處。還得天壽命。乃至廣說。如人於牢獄中。免濟他人。住隨意處。其人欲還。向彼作如是愛語。今我所以得全命者。皆是汝恩。若無汝者。我則永沒。復次除見道所斷結病。作如是說。佛為帝釋說法。除其見道所斷結病。令住第一無病之處。謂道道果。欲還向佛。作如是愛語。我於此坐處。乃至廣說。猶如慈心醫師。治他人病。令得無病安隱之處。其人欲還。向醫作如是愛語。若無汝者。我於此處。則為永沒。彼亦如是。復次得

神足壽命故。作如是說。如經說比丘。以何為壽命。謂四神足。是其壽命。佛為彼說法。得神足壽命。欲還向佛。作如是愛語。我於坐處。乃至廣說。復次得慧命根。作如是說。如經說。以慧為命者。是則最勝。佛為說法。令其得慧命根。欲還向佛。作如是愛語。我於此坐處。乃至廣說。

問曰。彼本無慧命根耶。答曰。本雖有慧命。而是有漏。聞佛說法。見四真諦。得無漏慧根。故作如是說。復次除五種似死相。作如是說。諸天命欲終時。有五似死相。五死相現。云何五似死相。諸天往來之時。身上瓔珞。出五樂聲。其聲便滅。諸天身出光明。自身無影。或有說者。是時身光減少。或有說者。身光悉滅。自身影生。諸天身細軟。無有垢穢。入香池水。澡。出時。乃至無一滯水。而著身者。如蓮花葉。是時水滯著身。諸天有種種清淨妙好境界。漂諸情根。不住一境界。於境界迴旋。猶如火輪而不暫住。是時專住於一境界。諸天福德之身。眼不會瞬。是時便瞬。五死相者。經說諸天若男若女。命欲終時。先有五死相現。一衣不垢而垢。二華不萎而萎。三腋下本不汗而汗。四身本不臭而臭。五先安本坐。而今不安。五似死相。則可除却。五死相不可除却。爾時帝釋。五似死相現。不久當五死相現。便作是念。誰能濟我如是危難。除佛世尊。更無能者。尋詣佛所。爾時世尊。即為說法。以聞法故。除五似死相。欲還向佛。作如是愛語。我於此坐處。乃至廣說。若作是說。言造現法

我於此坐處。乃至廣說。若作是說。言造現法

①切二劫②離二與③離一④見一⑤善十男⑥毘琉璃二毘流離⑦對二勤⑧還二遠⑨上二衣⑩深十浴⑪滯二滿⑫暫二聚⑬汗二汚⑭却二即⑮釋二釋

報業者，即於坐上，更得命等八根，復有說者，是時亦有死生問曰：若然者，施設經說云何通。如說：三十三天，若男若女，初生之時，其身如五歲小兒，在諸天抱上，忽然化生，爾時諸天若男若女，作如是言：此是我男，此是我女，化生者亦作是言：此是我父，此是我母，問曰：爾時諸天，為見帝釋如是相不。答曰：皆見而作是念：今者帝釋，有大神力，於世尊前，現神足力，復次諸天中，有威德者，一名因陀羅，二名夏昆因陀羅，三名伊舍那，四名波闍鉢哆，如是等有威德諸天，如前有壯年時，身初生時身亦爾，化生諸天，無有死屍，評曰：彼無死生，如前說者好。

施設經說，劫初人有化為腹行，虫人，號之為腹行，化為三手者，號之為象，如是等身變者，為有死生不。若有者彼中有云何。若無死生者，人即作畜生耶。答曰：應作是說，無有死生。問曰：若然者，人即作畜生耶。答曰：人非即作畜生，但畜生身，與人身相續，復有說者，劫初時人，其形似人，後以時惡飲食，諂曲多故，人形便滅，畜生形現在前，實是人形是畜生，猶如呪術力，呪人為驢，雖形是驢，其實是人，彼亦如是，復有說者，衆生從光音天死，來生此間，實是畜生，其形似人，後以時惡飲食，諂曲多故，人形便滅，還作畜生形，如蝦蟇，前時形具，後時形具，前時形圓黑色，後時形方而壯，復有說者，彼有死生。問曰：若然者，中有云何。答曰：中有微細，劫初時人化生無有死生，評曰：應作是說，無

有死生
阿毘曇毘婆沙論卷第三十六

阿毘曇毘婆沙論卷第三十七

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等 譯

使，健度十門品第四之一

二十二根，十八界，十二入，五陰，五取陰，六界，二法，謂色法，無色法，可見法，不可見法，有對法，無對法，有漏法，無漏法，有為法，無為法，三法，謂過去未來現在法，善不善無記法，欲色無色界繫法，學無學非學非無學法，見道斷修道斷無斷法，四法，謂四諦，四禪，四無量，四無色定，八解脫，八勝處，十一切處，八智，三三昧，三結，乃至九十八使，眼根幾使所使，乃至無色界修道所斷無明使，幾使所使，如此章及解章義，此中應廣作優波提舍，二十二根，眼根，耳根，鼻根，舌根，身根，意根，男根，女根，命根，樂根，苦根，喜根，憂根，捨根，信根，精進根，念根，定根，慧根，未知欲知根，知根，知已根，問曰：何故彼尊者，立二十二根而作論，答曰：彼作經者，有如是欲如是意，隨其欲意而作論，亦不違法相，彼意欲立二十二根而作論，隨其意立二十二根，復有說者，此中不應問彼尊者所以立二十二根，所以者何，佛經說二十二根，佛經是此論所

為根本。此論亦說二十二根，彼尊者，不能於二十二根減一根說二十一根，增一根說二十三根，所以者何，佛經不可增減，無減可增，無增可減，如無增無減，無多無少，無益無損，無量無邊，亦如是，無量者，謂義無量，無邊者，謂文無邊，猶如大海無量無邊，無量者，謂深無量，無邊者，謂廣無邊，佛經亦如是，如尊者舍利弗等百千萬億那由他論師，為解佛經二句義故，造百千萬論，盡其覺性，猶不能知其量得其邊際，問曰：置造論者，何故佛經說二十二根，答曰：為受化者故，受化者聞說此法，則得增益，復次此經皆有所以因緣，何者是耶。答曰：生聞婆羅門，往詣佛所，問訊世尊種種語，已在一面坐，而作是言，說諸根者多，沙門瞿曇，說有幾根耶。佛告婆羅門，我說二十二根，謂眼根乃至知已根，如來說二十二根，則攝一切諸根義，婆羅門若有人言，沙門瞿曇，所說諸根，我能遮止，更說餘根，但有是言，而無有實，若還問者，亦不能知反生愚惑，所以者何，非其境界故，婆羅門問佛，若不應廣問，此經所以因緣，應問，婆羅門，往至佛所，但問二十二根，而不問陰界入真諦沙門果緣起助道等法耶。答曰：彼婆羅門所疑處，便問，不疑者不問，復次此婆羅門，善能旋歷，喜試有所問，為問根義故，經歷九十六種，為欲知一道為說幾根，如尼健子說一根謂命根，是故彼不飲冷水，不斷生草，所以者何，於外物中，計有命根故，問曰：外道於外物中，計有何根。答曰：或有說，計有意

①夏一憂②舍二舍③虫一蟲④復二後⑤生二屍⑥第三十六第五十三⑦第三十七第五十四⑧健二健⑨之一⑩善十法⑪作十處⑫波二婆⑬惑二或⑭旋二遊⑮種十外道⑯健二健

根。復有說。計有命根。復有說外道於物中。計有意根。名有根法。計有命根。名有命法。或有計二根者。謂業及意。復有說若眼不見色。耳不聞聲。是名聖修根。如波羅奢等。作如是說。問曰。何故名波羅奢耶。答曰。是其人名。無有難名者。所以者何。自有不如義而立名。復次波羅奢是其姓。如婆羅門。各有別姓。有姓拘蹉。有姓婆蹉。有姓奢緻羅。有姓婆羅墮。波羅奢姓亦如是。復次若從刹利婆羅門姓生者。名波羅奢。猶如從驢馬生者名爲驢。評曰。此姓波羅奢故。名波羅奢。彼有弟子。名優多羅摩納婆。往詣佛所。問訊世尊。種種語論。在一面坐。世尊問言。汝師波羅奢。爲諸弟子。說修根法不。摩納答言。我師說之。佛問云。何說摩納答言。若眼不見色。耳不聞聲。是名聖修根。時佛難言。若不見色。名聖修根者。盲者便是聖修根人。爾時尊者阿難。侍佛後立。以扇扇佛。復難摩納言。若汝所說。聖者便是聖修根人。所以者何。以不聞聲故。問曰。如尊者舍利弗等百千萬億。那由他諸大論師。惟佛一人。能難其義辯及所立言。使令不行。何故世尊作第一難。尊者阿難。作第二難。世尊何故而不制止尊者阿難耶。答曰。佛觀阿難。咽喉有相。欲有所問。佛行菩薩道時。不會斷人。乃至弟子亦不斷其問。復次佛知阿難所說與我所說等。無有異。無有增減。無增減故。而不制止。復次若師與弟子俱能伏者。是名善伏。復次欲令外道無餘言故。若當世尊作第一難。阿難不作第二難者。彼梵志。還自

衆中。作如是說。雖爲彼師所伏。不爲彼弟子所伏。難伏我等弟子。不伏我等師。若世尊作第一難。阿難作第二難。則破外道憍慢之心。彼作是念。弟子猶能伏我。何況於師。復次爲滿彼梵志意故。作如是說。彼梵志作是念。沙門瞿曇。一切力士。無能伏者。一切論中。無能報者。一切論中。爲最上者。往昔諸大論師。無能伏者。何況我等。若彼弟子。共我言論。往反於理。乃可。佛於一切時。常欲滿化人意。如其所念。而便作之。復次佛以阿難。作證此義人。彼諸外道。於阿難所。生信敬處。阿難形容端正。善知因陀毘陀羅論。是故世尊。欲以阿難作證此義人。令彼外道。於此義中。生信敬故。復次欲現不斷弟子問難。外道法不聽弟子有所難問。所以者何。若聽弟子問難者。或時令師墮負處門。若師墮負處門者。則失利養。如舍利弗等百千萬億。諸大論師所立問難。猶無有能共佛等者。何況能勝。是故佛法。不斷弟子問難。復次爲現聖法斷故。外道所以不聽弟子問難。彼作是念。或能因是事故。多得利養。佛則不爾。若令一切世人。多得利養。乃至無有施佛毫末者。如來終無異相之言。復次欲現善說法中所說具足。同於一見。無異意故。外道法中。師所說異。弟子所說異。師所

第二難。以是事故。不制止阿難所難。問曰。外道自作是說。眼不見色。耳不聞聲。是名聖修根。世尊難言。若然者。盲聾之人。是聖修根。則順他說。云何名難。答曰。佛作是說。是名大難。斷他所說。亦名總說諸外道過。若眼不見色。耳不聞聲。名聖修根者。汝等何爲緣。棄居家。除去飾好。修行梵行。但當害於二根。便是聖人是故。佛說名爲大難。斷他所說。亦名總說諸外道過。衛。施師復說。五根。謂眼耳鼻舌身根。如僧佉經。復說十一根。謂五覺根五事根。五覺根者。謂眼耳鼻舌身根。五事根者。謂語根手根。脚根。大便根小便根。意根第十一。或有說百二十根者。謂兩眼根。兩耳根。兩鼻根。舌根。身根。意根。命根。五受根。信等五根。如是等有二十根。地獄趣有二十。畜生趣有二十。餓鬼趣有二十。人趣有二十。天趣有二十。阿修羅趣有二十。復有說者。諸外道不說百二十根。說有百二十主。如天主龍主阿修羅主人主。如是等上妙之身。經百二十處。然後得般涅槃。彼婆羅門。聞說是語。心轉疑惑。不知何者是實。爲說一根者。爲說乃至百二十根者。彼聞釋種種生太子。有三十二大人相。以自莊嚴身。有八十種隨形好。純黃金色。圓光繞身。一尋。觀無厭足。出家求道。得一切。知見。能斷一切疑。與一切決定。盡一切問難邊際。我應往問。即詣佛所。到已。問訊世尊。廣說如上。爾時生聞婆羅門。白佛言。沙門瞿曇。說諸根者多。爲有幾根。問曰。何不

◎(外)十物◎ ◎計一說◎ ◎優二養◎ ◎惟二唯◎ ◎難十(故)◎ ◎故十(而)◎ ◎緣二捐◎ ◎施二世◎ ◎知二智

答曰。彼婆羅門。雖復黠慧。其性諂曲。有如是念。若我作如是問者。沙門瞿曇。當選好者而說。佛告婆羅門。有二十二根。謂眼根。乃至知已根。如來說如是等根。能攝一切根義。汝婆羅門。若有人言。沙門瞿曇。所說諸根。我能遮止。更說餘根。但有是言。而無有實。若還問者。亦不能知。反生愚惑。所以者何。非其境界。故問曰。何故復作是說。若有人言。乃至廣說。答曰。欲止彼人先所聞。或說一根者。乃至說百二十根者。皆非如實我。雖有一切。知見不能於二十二根減一根說二十一。增一根說二十三。何況外道小智小見邪慧之者。以是事故。彼婆羅門。往詣佛所。但問諸根。不問陰界入真諦沙門果緣起助道法。問曰。二十二根。名有二十二。實體有幾。答曰。阿毘曇者。作如是說。二十二根。名有二十二。實體十七。彼作是說。五根更無別體。謂男根。女根。未知欲知根。知已根。問曰。彼何故說男根女根無別體。答曰。彼說身根外更無男根女根別體如說。云何男根。答曰。身根少分。云何女根。答曰。身根少分。何故三無漏根。無有別體。答曰。九根之外。更無三。根別體。九根者。意根。樂根。喜根。捨根。信等五根。此九根。有時名未知欲知根。有時名知根。有時名知已根。在見道時。名未知欲知根。在修道時。名知根。在無學道時。名知已根。復次在堅信堅法身中。名未知欲知根。在信解脫見到身證身中。名知根。在慧解脫俱解脫身中。名知已根。所以者何。九根合聚。名未知欲知根。九根合

聚。名知根。九根合聚。名知已根。以是事故。說三無漏根無有別體。是故說根。名有二十二。實體有十七。尊者曇摩多羅。作如是說。二十二根。名有二十二。實體有十四。向說五根無有別體。更說三根亦無別體。謂命根。捨根。定根。問曰。彼何故說命根無別體。答曰。命根是心不相應行陰。彼說心不相應行陰無有別體。何故說捨根無別體。答曰。彼說苦受樂受外更無別捨受。諸所受若苦若樂不苦不樂。云何名受。問曰。若然者。云何通佛經。佛經說有苦受樂受不苦不樂受。答曰。彼作是說。樂受或時上或時下。或時黠慧。或時不黠慧。或時寂靜。或時不寂靜。苦受亦爾。若樂受中下者。苦受中下者。樂受中不黠慧者。苦受中不黠慧者。樂受中寂靜者。苦受中寂靜者。是名不苦不樂受。此不決定在一分中。其猶如疑無有決定。問曰。何故說定根無有別體。答曰。彼作是說。心外無別定根。如說云何定根。答曰。一心是也。是故彼說二十二根。名有二十二。實體有十四。尊者佛陀提婆。作如是說。二十二根。名有二十二。實體有一。謂意根。彼說有為法作二分。一四大分。二心分。四大之外無別造色。心外更無別數法。彼作是說。諸色是四大差別。諸無色根是心差別。是故說二十二根。名有二十二。實體有一。謂意根。評曰。如前說者好。名有二十二。實體有十七。如名體。名假體假名異相體異相分別名分別體知名知體亦如是。此是根體。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名根。根是何義。答

曰。威勢義是根義。明義是根義。異義是根義。喜觀義是根義。勝義是根義。最義是根義。主義是根義。問曰。若威勢義是根義者。一切有為法。展轉有威勢。無為法於有為法亦有威勢。如是一切有為法盡應是根。佛何故獨立此二十二法為根。尊者婆奢說曰。佛世尊決定知法相。亦知勢用。餘人所不知。若法有根相者立根。若法無根相者不立根。復次威勢緣。或有下者。或有上者。或有減者。或有增者。若上者增者立根。若減者下者。是非根法。復次雖有為法展轉有威勢。無為法於有為法亦有威勢。不如二十二根威勢無明義無異義無喜觀義無勝義無最義無主義。如一切眾生。展轉有威勢緣。或有勝者。如閻羅王於地獄眾。生。師子王於獸中。村主於村中。王於國中。轉輪聖王於四天下。自在天王於欲界。梵天王於千世界。佛於三界。佛有如是威勢。勝一切眾生。如是一切有為法。雖展轉有威勢。無為法於有為法有威勢。不如二十二根威勢有明義乃至主義。以是事故。威勢義明義。乃至主義是根義。問曰。若威勢義是根義者。於何處有威勢耶。答曰。眼根於四處作威勢緣勝。一自莊嚴身。二護自身。三為眼識及眼識相應作所依。四獨能見色。自莊嚴身者。雖有妙身一切。肢體具足。若無眼根。則無威勢。護自身者。眼根能見好不好色。好者從之。惡者避之。令此身久住。為眼識及眼識相應法作所依者。眼識及相應。依眼根生。獨能見色者。眼根能見色。餘

●根十(者)● ●姿二波● ●生二主● ●村一封● ●肢二支●*

二十一根所不能耳根於四處。作威勢緣勝。一自莊嚴身。二護自身。三為耳識及耳識相應作所依。四獨能聞聲。自莊嚴身者。雖有妙身一切。肢體具足。若無耳根則無威勢。護自身者。耳根能聞好。不好聲。好者從之。惡者避之。令此身久住。為耳識。及識相應法作所依者。耳識及相應。依耳根生。獨能聞聲者。耳根能聞聲。餘二十一根所不能。復有說者。眼根擁護生身。作威勢緣勝。如偈說

譬如眼明人 能避險惡道
世有聰明人 能遠離諸惡

多聞能知法 多聞能遠離
多聞捨無義 多聞到涅槃

復有說者。此二俱擁護生身法身。作威勢緣勝。擁護生身者如上說。擁護法身者。眼根親近善知識。作威勢緣勝。耳根從其聞法。作威勢緣勝。親近善知識。從其聞法。能生內正思惟。如法修行。以是事故。經作是說。梵摩喻婆羅門。二根不壞。謂眼根耳根。問曰。何故於諸根聚中。說二根不壞。答曰。以此二根。佛出世時。能入佛法門故。復次以此二根。能解知佛法。如說比丘當知。若不能如實知他心者。應以二處觀察如來。一以眼觀色。二以耳聽聲。鼻舌身根。於四處作威勢緣勝。一莊嚴自身。二護自身。三能為鼻識舌識身識及相應法作所依。四鼻獨能嗅香。舌獨能知味。身獨能覺觸。莊嚴自身者。雖有妙身一切。肢體具足。若於此三根。無一一根者。則無威勢。護自

身者。以此三根故。能食揣食。令身久住。所以者何。以揣食是香味觸入故。為三識及相應法作所依者。依此三根。能生三識。鼻根獨能嗅香者。鼻根能嗅香。餘二十一根所不能。舌根獨能知味者。舌根獨能知味。餘二十一根所不能。身根獨能覺觸者。身根獨能覺觸。餘二十一根所不能。意根於二處。作威勢緣勝。一令未來有相續。二自在令他隨順。令未來有相續者。如說佛告阿難。若識不在母身。名色成迦羅羅。不答言不也。自在令他隨順者。如說比丘當知。心能將世間。能生世間。若心生處。皆得自在。復有說者。意根於煩惱出要二處。作威勢緣勝。煩惱處勝者。如說心煩惱故。衆生煩惱。出要處勝者。如說心出要故。衆生出要。男根。女根。於二處作威勢緣勝。一異衆生。二分別衆生。古昔時人。無有男女。以少造色生故。便有男女。廣長形異。顏色。語言。衣服飲食。皆悉有異。復有說者。男根女根於煩惱出要二處。作威勢緣勝。煩惱處勝者。不以婬欲合會故勝。所以者何。此處應爾。不足生疑。若有男根女根者。能受惡戒。能斷善根。令此身中無善種子。能作五無間業。如是等事。黃門般吒。無形二形所不能作。出要處勝者。若此二根不壞。能受逮解脫戒。能生禪戒。無漏戒。能離欲愛色無色愛。能生佛種子及聲聞辟支佛種子。如是等事。黃門般吒。無形二形所不能作。命根於二處。作威勢緣勝。一言有根。二令諸根不斷。隨幾時活言有根。死已言無根。隨幾時活諸根相續。死已諸根

不相續。復有說者。命根於四處。作威勢緣勝。一令此生相續。二擁護此生。三能持此生。四令此生不斷。五受根於煩惱分中。作威勢緣勝。衆生以受故。四方追求。行鐵鎖道及鈎道索道上。登越高山。入於大海。有無量艱難。所謂波浪。洄復難。失獸摩羅難。黑風旋風難。水中伏山難。沒水難。漂在沙上難。墮惡龍宮難。墮羅利國難。如是等種種追求。皆為受因。問曰。無漏受。云何於煩惱分。作威勢緣勝。答曰。無漏受。以方便初生時。於煩惱分。作威勢緣勝。行者欲生無漏受時。亦須追求衣服飲食資生之物。是故亦於煩惱分中。作威勢緣勝。復有說者。受根於煩惱出要分。作威勢緣勝。樂受於煩惱分。作威勢緣勝者。如說樂受為愛所使。出要分中作威勢緣勝者。如說心樂則定。苦受於煩惱分中作威勢緣勝者。如說志使使苦受。苦受於出要分中。作威勢緣勝者。如說苦能生信。不苦不樂受。於煩惱分中作威勢緣勝者。如說無明使使不苦不樂受。不苦不樂受。於出要分中作威勢緣勝者。如說。依六出要捨觀行。信等五根。於出要分中作威勢緣勝者。如說有信者。能親近善人。亦如偈說

能信度流 越放逸海 精進除苦

慧到彼岸

復如說若我弟子以信為障。板則能障不善外敵。修行善法。如佛告阿難。精進能生菩提。若我弟子具足精進身者。能捨不善法。修行善法。如說念是遍法。若我弟子以念守門者。能

①好二妙②③④及十(耳)⑤⑥⑦獨一願⑧⑨眼明二明眼⑩(別)十便⑪⑫語言二言語⑬⑭酒二週⑮⑯依六二六依⑰能信一信能⑱板二故

捨惡法修行善法。如說定是正道。不定是邪道。定心得清淨。非不定心。定能知諸陰生滅。若我弟子能具足三昧花鬘者。則能捨惡法修行善法。如偈說

慧為世間上 能趣厭離者
亦能如實知 能盡老死苦

亦說慧於一切法中。為無有上。亦說姊妹當知。我諸弟子以慧力斷一切結繫使垢纏。復說若我弟子具足智慧城者。能捨惡法修行善法。未知欲知根於未曾見而見法。作威勢緣勝。知已根於已除過患。得現法樂。作威勢緣勝。如是等諸根。於如是等諸法。作威勢緣勝。尊者瞿沙跋摩。作如是說。實義應說一根謂意根。所以者何。意根有三事。一在內。二遍一切處。三能有所緣。在內者內入所攝。遍一切處者。從阿毘地獄上至有頂。可得能有所緣者緣一切法。餘根不具三事。眼耳鼻舌身根。雖是內入攝。不遍一切處。不能有所緣。命根雖遍一切處。亦不內入攝。不能有所緣。除捨根餘受根。雖能有所緣。非內入攝。不能遍一切處。捨根信等五根。雖遍一切處能有所緣。非內入所攝。三無漏根。更無別體。諸根合聚。立此三根如上說。問曰。若然者其餘諸根。以何事故得名為根。答曰。為意根作所依作依作煩惱作出要作出要處。誰作所依。答曰。眼耳鼻舌身根。誰作依。答曰。命根。誰作煩惱。答曰。諸受根。誰作出要。答曰。信等五根。誰作出要處。答曰。見道修道無學道。問曰。男根

女根。以何事故。得名為根。答曰。以四事故。一能有所生。二能生欲樂。三能制煩惱。四能為染污識及相應法作所依。能有所生者。生胎生卵生。能生欲樂者。行欲之人。此處生樂遍身中。如聖人肩間生聖樂。遍在身中。彼亦如是。制煩惱者。須臾間斷。能為染污識及相應作所依者。餘所依生三種識。或善不善無記。此二所依。唯生染污。愛相應相親近識。尊者僧伽婆修說曰。命等六根。是實義根。命等六根者。謂眼耳鼻舌身命根。所以者何。此六根是眾生根本。問曰。若然者。餘根以何事故。得名為根。答曰。此六根是眾生根本。以何為種子。誰為種子。誰令其煩惱。謂五受根。誰令其出要。謂信等五根。何處得出要。謂見道修道無學道。問曰。如身根微塵。從足至頂盡遍。何故此處所身根。名男根女根。非餘處所耶。尊者須蜜說曰。以此處所故。分別是男是女。問曰。若然者。二形人亦名男亦名女耶。答曰。此不名男亦不名女。復次此處所。能生增長人寂靜人增長人者。如富蘭那等六師。寂靜人者。謂佛辟支佛聲聞。

尊者佛陀提婆說曰。此處所能生諸仙。能生牟尼。能生善調伏者。能生善共住者。已總說諸根所以今當一一別說。云何眼根。答曰。若眼已見色。今見色。當見色。及餘彼分眼。已見色是過去眼。今見色是現在眼。當見色是未來眼。及餘彼分眼者。廣說如界處。乃至意根。說亦如是。云何女根。答曰。身根少分。云何男根。答曰。身根少分。云何命根。答曰。三界中壽。云何樂根。答曰。因觸生樂受。若在身。若在心。覺樂能忍。是名樂根。云何苦根。答曰。因觸生苦受。在身覺苦不可忍。是名苦根。云何喜根。答曰。因觸生喜受。在心覺喜能忍。是名喜根。云何憂根。答曰。因觸生憂受。在心覺憂不可忍。是名憂根。云何捨根。答曰。因觸生不苦不樂受。若在身。若在心。覺不苦不樂。非不可忍。非不可忍。是名捨根。云何信根。答曰。於遠離寂靜善法生信。若信是法善信。有是分別。受其事。取其相。如是淨心。是名信根。精進根念根定根慧根。廣說如經本。云何未知欲知根。答曰。不見人。不得決定人。所有覺慧慧根。及諸餘根。堅信堅法人。未見四諦。當見四諦。是名未知欲知根。不見人者。謂不見諸諦人。不得決定人者。不於諸諦得決定。所有學慧慧根者。則說慧根。諸餘根。堅信堅法。所用八根。未見四諦。當見四諦。則說八根。如是等九根合聚。名未知欲知根。問曰。彼根聚中。何故再說慧根。一說餘根耶。答曰。以名勝義勝故。彼根聚中慧名勝義亦勝。復次慧說名前道。如說比丘當知。種種善法生

①趣一起 ②力二刀 ③子十(謂意根) ④蜜一密 ⑤界二男 ⑥根二耶 ⑦覺二學 ⑧道二導

時慧為前導，慧為前相。次有慚愧。復次慧於三事得決定。一於見得決定。二於緣得決定。三於事得決定。彼相應法於二事得決定。於緣得決定。於事得決定。非於見得決定。所以者何。非見性故。非相應共有法。得一決定。謂於事得決定。非見決定。非見相故。非緣決定。非緣法故。復次若以慧見煩惱時。煩惱則不得久住。如穴居衆生人若見時便還入穴。彼亦如是。復次若身中有慧照。則煩惱賊不能偷劫。猶如屋中有燈照者。賊則不能偷劫。彼亦如是。復次以慧能照一切法外物。如日月藥草摩尼珠。諸天宮能照一界一入一陰一世少分。一界少分者謂色界。一入少分者謂色入。一陰少分者謂色陰。一世少分者。謂現在世。慧能照十八界十二入五陰三世及無為法。復次無慧者縛。有慧者解。復次佛出世時。入佛法者。以慧而自娛樂。佛法以知解為勝。譬如有目之人能至寶處。如是有慧眼者。能至佛法寶處。譬如盲人雖往寶處而無所見。惡慧之人入佛法寶處。亦復如是。復次慧名為將。亦名為眼。亦名為頭。亦名為覺。亦名為支。亦名為道。亦名道支。復次慧名為眼。餘助道法。名為盲。如衆多盲人。一有目者而獎導之。令行正路。彼亦如是。復次慧斷煩惱刀。如說姊妹當知。聖弟子以智慧刀。斷一切結縛使垢纏。復次慧說名為堂如。尊者阿尼盧豆所說。我依戒立戒昇無上智慧堂。復次慧能立別相總相法。能解別相法。能解總相法。能被自體慧。能被緣中愚。於諸法中得

不顛倒。復次慧是諸佛所愛敬。諸佛不愛敬人色族財富。愛敬有慧者。復次諸佛以慧故。而有差別。非以色族財富等。以如是事故。慧則再說。餘根一說。云何知根。見人。決定人。所有學慧慧根。及諸餘根。信解脫見。到身證。已見四諦。重見四諦是名知根。見人者見諸諦。決定人者於諸諦決定。所有學慧慧根。則說慧根。餘諸根信解脫見。到身證所用八根。見四諦重見四諦。則說八根。如是等九根合聚名知根。問曰。如無學人重見四諦。如退法至憶法。憶法至護法。護法至等住。等住至能進。能進至不動。何故唯說學人。不說無學人。耶答曰。應說無學而不說者。當知此說有餘。復次若說始。當知亦說終。若始說學。當知終說無學。如始終。初入已度方便畢竟。說亦如是。復次斷未曾斷結。得未曾得果者。說名重見。無學不斷未曾斷結。得未曾得果故。不名重見。復次若斷未曾斷煩惱得。證未曾證解脫得。是名重見。無學雖證未曾證解脫得。而不斷未曾斷煩惱故。是故不說。如斷煩惱得證解脫得。除過患修功德捨穢惡取勝妙。去無義取有義。盡渴愛受無煩惱樂。當知亦如是。復次斷未曾斷無知。得未曾得智。是名重見。無學雖得未曾得智。不斷未曾斷無知。謂染污無知。以如是等事故。唯說學重見諦。不說無學。云何知已根。答曰。若漏盡阿羅漢無學所有慧慧根。解脫俱解脫所用諸根。能生現法樂。是名知已根。漏盡阿羅漢。所有慧慧根。則說慧解脫。俱解脫阿羅漢。所用諸根。

能生現法樂者。則說八根。如是等九根合聚。名知已根。問曰。學人亦有現法樂。何以但說無學。答曰。應說如說無學現法樂。亦應說學現法樂。復次若說終當知亦說始。說畢竟當知亦說方便。說已度當知亦說初入。復次以名勝義亦勝故。若以法而言。無學法勝於學法。以人而言。無學人勝於學人。復次無學人所有猗樂。不為煩惱所覆。學人雖有猗樂。為煩惱所覆。復次若受猗樂時。寬博廣大。是說現法樂。學人有所作故。受猗樂時。不寬博廣大。不名現法樂。無學人無有所作。受猗樂寬博廣大。故。名現法樂。譬如國王於諸怨敵。未盡降伏。所受快樂。不寬博廣大。彼亦如是。復次若無煩惱。意語亦滿。諸牟尼是說現法樂。復次若受現法樂。不受後樂。是名現法樂。學人受現法樂。亦受後樂。故名現法樂。以如是等事故。無學猗樂名現法樂。學人猗樂不名現法樂。問曰。為有三明阿羅漢不。若有者此中何以不說。若無者此經云何通。如說尊者舍利弗白佛言。世尊。此五百比丘。幾是三明。幾是俱解脫。幾是慧解脫。問曰。尊者舍利弗。為知是事不。若知者何故問。若不知者云何名得聲聞波羅蜜。答曰。應作是說。尊者舍利弗。知問曰。若知者何故問。答曰。自有知而故問。如比尼說。佛世尊知而故問。復次尊者舍利弗。為利益他故問。尊者舍利弗。雖自知。彼會中有不知者。無無畏故。不能問佛。尊者舍利弗。無如是過。欲利益他故而問。復次欲說總相

① 卷第五十四終 ② 卷第五十五使捷度十門品之二首 ③ 卷第五十五使捷度十門品第四之二首 ④ 造說轉釋譯說同 ⑤ 如卷第二十三 ⑥ 比尼二毘尼 ⑦ 契二將 ⑧ 餘諸二諸餘 ⑨ 憍二熱 ⑩ 卷第五十四終 ⑪ 卷第五十五使捷度十門品之二首 ⑫ 卷第五十五使捷度十門品第四之二首 ⑬ 造說轉釋譯說同 ⑭ 如卷第二十三 ⑮ 比尼二毘尼

令別異故而問。佛為五百比丘說法。問佛所說得阿羅漢果。斷未來有。盡可佛意。衆生若能得阿羅漢。斷未來有。是名第一可世尊意。尊者舍利弗作如是念。此諸尊者雖皆得阿羅漢。斷未來有。不知誰勤方便。欲說如是總相令別異故而問。復次佛世尊令五百比丘等住於果。舍利弗欲令其道差別故而問。復次佛世尊令五百比丘等住無爲解脫。舍利弗欲令有爲解脫差別故而問。復次欲顯功德寶藏令世知故而問。譬如寶藏覆在土中多人不見。如是以少欲知足土。覆功德寶藏世無知者。復次欲令施主生信心故而問。有諸檀越於夏四月中。以衣食等所須之物供給衆僧。欲令施主知之。汝等所施。值如是等清淨福田故而問。復次彼尊者淨行弟子法故。弟子法應問。師應答。復次爲現破憍慢求法情深故而問。復次爲壞少有所知生於憍慢不喜問人故而問。尊者舍利弗作如是念。我所有智慧有十六。世人所知有一分。我猶問他。何況汝等。少知見而不問耶。復次欲現己身法無慳垢故。若人慳於法者。見他人問。猶尚不喜。何況自問。復次爲止誹謗故而問。諸外道等。作如是謗。沙門瞿曇夜從優波提舍拘律陀邊受法。晝爲弟子說。若尊者舍利弗合十。爪掌。於大衆中而問於佛。彼誹謗便止。復次弟子說善法。欲以如來印印故而問。譬如王家所有符疏。若不印印者。所經關津而不信用。若以王印印者。住之處而皆信用。如是弟子所說善法。若不印印而

印印者。則於道法四衆無信受者。若以如來印印者。則遺法。而四衆皆信受。是故弟子所說。欲以如來印印故而問。答曰。應作是說有三明阿羅漢。問曰。此中何故不說。答曰。應說此文。應如是說。若慧解脫。俱解脫。三明阿羅漢。能生現法樂。復次已說在先說義中。三明阿羅漢。若是慧解脫。若是俱解脫。若說慧解脫。當知已說慧解脫。有三明者。若說俱解脫。當知已說俱解脫。有三明者。昔有二論師。一名時婆羅。二名瞿沙跋摩。尊者時婆羅偏讚歎慧。尊者瞿沙跋摩偏讚歎滅定。尊者時婆羅作如是說。慧勝滅定。所以者何。慧能有所緣。滅定無所緣。尊者瞿沙跋摩說滅定勝慧。所以者何。滅定唯聖人有。慧凡聖俱有。讚歎慧者作如是說。若有三明。不具八解脫者。是名三明。若有三明。具八解脫者亦名三明。具八解脫。無三明者。是名俱解脫。若有一明二明者。是名慧解脫。所以者何。慧勝滅定故。若讚歎滅定者。作如是說。若具八解脫。無三明者。是名俱解脫。若具八解脫。有三明者。亦名俱解脫。若有三明。不具八解脫者。是名三明。若有一明二明。名慧解脫。所以者何。滅定勝慧故。此二所說。俱唐捐其功。此二所說。於文無益。於義無益。三明。或得滅定。或不得滅定。若得者。名俱解脫。若不得者。名慧解脫。今當重說未知欲知根知根。所以。何故名未知欲知根。答曰。未知當知。未決定當決定。未斷當斷。是故名未知欲知根。問曰。若未知當知。未決定當決定。未斷當斷。

名未知欲知根者。苦法忍生時。觀欲界五陰苦得決定。後生苦法智。亦觀欲界五陰苦得決定。是時名知苦已復知苦。何故名未知欲知根。不名知根耶。答曰。苦法忍。始觀欲界五陰苦。不名已知苦法智名始知。復次苦法忍。觀欲界五陰決定是苦。不名爲智。苦法智乃知。以智爲決定不以忍。復次若後更不生未知欲知道。不爲未知欲知。學所覆不以上著下。不得自在。名知根。與此相違故名未知欲知根。何故名知根。答曰。未知已知。未決定已決定。未斷已斷。問曰。若未知已知。未決定已決定。未斷已斷。名知根者。道比忍現在前。除自體及相應共有法。餘比智分悉得決定。後生道比智。於彼相應共有法。始得決定。名知根。何不名未知欲知根耶。答曰。外國法師說第十六心最初道比智剎那。名爲見道。問曰。此中不論如是說者。乃論十五心是見道者。尊者僧伽婆修作如是說。道比忍現在前。未來有無量道比忍修。彼未來修者。能於現在道比忍剎那相應共有法得決定。不應作是說。所以者何。未來道不緣有所作。問曰。若然者其義云何。答曰。從多分故。已得決定者多未得決定者少。已得決定猶如大地。未得決定如一土。須彌山芥子。大海一滯。虛空蚊翅處空喻亦如是。復次彼後更無未知欲知道。更不爲未知欲知覺所覆。不以上著下。不得自在。是故不名未知欲知根。何故名知已根。答曰。知已更不知。決定已更不決定。斷已更不斷。是名知已根。

○(少)十少 ○現一見 ○瓜一瓜 ○(所)十說 ○住二住 ○而四來二四來而 ○文二又 ○學二覺 ○不
二下 ○* ○不一所 ○論二說 ○攝二攝 ○覺二學 ○

問曰若知已更不知。決定已更不決定。斷已更不斷名知已根者。何故於三知已法中。一獨名為佛耶。答曰。佛初成道時。覺一切法。作別相觀。非總相觀。聲聞辟支佛。初成道時。覺一切法。總相觀。非別相觀。復次若智自知遍知。決定知。是名為佛。辟支佛智。雖自知非遍知。非決定知。聲聞智。不名自知。非遍知。非決定知。復次若於一切種。以緣自覺。是名為佛。辟支佛雖以緣自覺。不於一切種。聲聞不於一切種。以緣自覺。復次若智遍所知。覺遍所覺。行遍所緣。根遍根義所。境界遍境界。是名為佛。聲聞辟支佛不爾。復次若所聞不如重。擔。是名為佛。聲聞辟支佛不爾。復次所不應行習氣。於此身永斷。是名為佛。聲聞辟支佛不爾。復次於甚深十二因緣河。能盡其底者。是名為佛。聲聞辟支佛不爾。如三獸度河。謂兔馬象兔。騰躡乃度。馬或盡其底。或不盡底而度。香象於一切時。足蹈其底而度。如兔度河。聲聞度因緣河亦復如是。如馬度河。辟支佛度因緣河。亦復如是。如香象度河。佛度因緣河亦復如是。復次若永斷二種無知。謂染污不染污。是名為佛。聲聞辟支佛雖斷染污無知。不斷不染污者。復次若永斷二種疑。謂人是杌疑及使性疑。是名為佛。聲聞辟支佛。雖斷使性疑。不斷是人是杌疑。復次佛得盡智時。於二種障心得解脫。謂煩惱障解脫障。是名為佛。復次若依所依具足者。是名為佛。或有所依具足依不具足。如轉輪聖王。或依具足所依不具足。如

辟支佛。佛世尊依所依二俱具足。如依所依器中物器。當知亦爾。復次若三事具足。是名為佛。一色二族三言語。復次若具足三事。是名為佛。一誓願具足。二功果具足。三恣所問具足。復次若有三不護。有三不共念處。是名為佛。復次若所言無二。有無盡辯。所記無失。是名為佛。復次若善知因。善知時。善知相。善知為他說法。是名為佛。復次若有四種智。一無畏智。二無著智。三無缺失智。四不退智。是名為佛。復次若知種種因。知種種果。知種種性。知種種對治法。是名為佛。復次若於世八法得解脫。其德無有能得邊者。能為一切厄難者作救護。是名為佛。復次若於十八不共法。十力四無所畏。大悲三不共念處。是名為佛。復次若大悲心。深遠微細。遍一切處。於一切衆生。無怨憎心。深遠者。從三阿僧祇劫積聚故。微細者。濟衆生三苦故。遍一切處者。緣三界衆生故。於一切衆生無怨憎者。於怨親中人等不異故。如是等事故。三已作法中。說一為佛。

問曰。何故色陰中。眼耳鼻舌身立根。色聲香味觸不立根耶。答曰。無根故不立根。復次若是內入者立根。外入者不立根。復次若作所依者立根。若作所緣者不立根。復次若是衆生數者立根。若或是或非者不立根。復次在自身中者立根。不定者不立根。復次若自所用者立根。不定者不立根。復次不共者立根。共者不立根。

問曰。受陰中。樂受立二根。苦受立二根。何故不苦不樂受立一根耶。答曰。應說二根而不說者。當知此說有餘。復次欲現種種說種種女。乃至廣說。復次欲現二門二略。乃至廣說。復次樂受。或有點慧者。有不點慧者。或有輕躁者。有不輕躁者。苦受亦爾。樂受中。若不點慧。不輕躁者立樂根。若點慧。輕躁者立喜根。苦受亦爾。不苦不樂受。不點慧。不輕躁。故立一根。復次樂受。樂根所作異。喜根所作異。苦受亦爾。不苦不樂受所作無異。復次離相對法故。樂受對苦受。苦受對樂受。不苦不樂受。無相對故立一根。

問曰。何故想陰不立根耶。答曰。不立根法多。何故獨問想。問曰。所以問者。色陰行陰。少分立根。少分不立根。受陰識陰。盡立根。想陰不盡立根。不少分立根。是故問想陰何故不立根。答曰。無根相故不立根。復次根以自力自功用立。想以他力他功用立。如傭作人。他教則作不教不作。若受有所覺。思有所思。識有所識。然後想有所想。復次為他所覆故。善想為慧所覆。如人憶想不妄。世言是人智慧。不善想為顛倒所覆。如無常常想顛倒。尊者和須密說曰。何故想不立根耶。答曰。威勢義是根義。想威勢少。問曰。想亦有威勢。如說一切有為法。展轉有威勢無為法。於有為法。亦有威勢。復次根能害煩惱。想不能害。問曰。想亦能害煩惱。如說比丘修行廣布無常想。除一切欲愛色無色愛。尊者佛陀提婆說曰。想取想分別。分別體唯取想。餘數法行境界已想然後取想分別。

○智二知○ ○擔二誓○ ○度二渡○ ○記二說○ ○著二蓋○ ○於二得○ ○說一一一說○ ○根十相○ ○略二略○ ○離二離○ ○(不)十立○ ○安二忘○ ○勢十(少)問○ ○想二相○ ○餘二除○

問曰。煩惱何故不立根。答曰。無根相故不立根。復次威勢義是根義。煩惱威勢少故不立根。問曰。煩惱能沒生死遠離涅槃。壞諸善法。云何言威勢少耶。答曰。以是下賤可呵法故。言威勢少。問曰。若然者。染污受。何故立根耶。答曰。受於煩惱有威勢。煩惱威勢少。猶如獄卒。雖所住處下。亦與貴勝交往。諸獄卒守門者。雖復苦切於人無有威勢。而不得與貴勝交往。彼亦如是。尊者僧伽婆修說曰。若法有欲無欲身中可得故立根。煩惱唯有欲身中可得故不立根。若作是說。則憂根知已根不爾。所以者何。憂根唯有欲人心中可得。知已根。唯無欲人心中可得。是故如前說者好。

問曰。何故受善染污不隱沒無記立根。慧唯善立根。染污不隱沒無記不立根耶。答曰。受於煩惱分中勢用勝。善染污不隱沒無記盡立根。慧於出要法中勢用勝。善慧能增益出要法。染污慧能斷出要法。不隱沒無記慧。於出要法無所增益。

問曰。俱是不相應行陰。命根立根。受身處何故不立根耶。答曰。無根相故不立根。復次命根是報。一切報從業生。是以命根立根。受身處不定。或有是依。或有是報。是故不立根。問曰。最勝義是根義。滅盡涅槃。於一切有為無為法中最勝。何以不立根耶。答曰。此是根畢竟盡處不立根。譬如瓶衣。畢竟盡處。不名瓶衣。復次若法行世。能取果。能有所作。能知

境界者立根。滅盡涅槃。與此相違故不立根。復次若法是生滅有因。是有為相者立根。滅盡涅槃。與此相違故不立根。復次根屬因屬緣屬所作立根。涅槃與此相違故不立根。復次若法為生所生為老所老為壞所壞者立根。涅槃不爾。復次根在陰墮世。與苦相續。有前後相上中下相者立根。涅槃不爾。復次言最勝者。於有為法中最勝故立根。涅槃於有為無為法中最勝故不立根。

阿毘曇毘婆沙論卷第三十八

迦旃延子造 五百羅漢釋
北露天竺沙門浮陀跋摩 譯
共道泰等

使健度十門品之二

◎十八界。眼界色界眼識界乃至意界法界意識界。界名略說亦名廣說。略說者於說大經。如大因緣經大涅槃經等。廣說者於說入經。入亦名略說亦名廣說。略說者於說界經。廣說者於說陰經。陰亦名略說亦名廣說。略說者於說入經。廣說者如說。若有所受。當知皆苦。於如是等經名為廣說。復有說者。界亦名略說亦名廣說。即於界中。不於餘法。所以者何。界中心色是廣說。心數法是略說。入亦是略說。亦是廣說。即於入中。不於餘法。所以者何。入中色是廣說。心心數是略說。陰亦是

略說。亦是廣說。即於陰中。不於餘法。所以者何。陰中心色是略說。心數是廣說。如說若有所受。當知皆苦。此說一向是略。復有說者。界是廣說。亦攝一切法。大因緣經大涅槃經。雖是廣說。不攝一切法。入雖攝一切法。而非廣說。所以者何。是中說法故。陰不攝一切法。所以者何。攝一切有為法。不攝無為法。故亦非廣說。所以者何。是略說故。如說若有所受當知皆苦。此一向是略說。佛所說經。廣略義如此。非謂如說法施財施是略說。大因緣經大涅槃經是廣說。世尊於所知法。先廣說十八界。即於彼所知。次略說十二入。於彼十二入。除無為法。略說五陰。是名世尊廣略之說。以如是廣略所說法。佛告尊者舍利弗。我說諸法。若廣若略。能知解者難得。以如是廣說略說故。尊者舍利弗。請於世尊。世尊說法若廣若略。能有知解法寶者。譬如大海中龍於大海中化作大身。上昇虛空興起大雲。遍覆虛空放電光。出如是雷音。我今當雨藥草樹木。聞如是音。皆生恐怖作如是念。大海中龍。若降雨者。我等皆當沒滅。是時大地。心無疑懼。又無異色而請之言。汝當降雨經百千歲。我盡能受。世尊亦爾。於主。童佛然燈佛迦拘遜陀村佛迦那含牟尼佛乃至迦葉佛所。長養智身。上昇有餘涅槃虛空界中。以大悲雲遍覆世間。放智電光。出無我師子吼音作如是言。舍利弗我所說。若廣若略。知解者難得。是時一切受化者。聞說是言。心懷恐懼。唯除尊者舍利弗。世尊以未曾聞名味句身。而

◎者十(何故)◎ ◎[何故]一◎ ◎[法]一◎ ◎ 不分卷及品◎ ◎[說]一◎ ◎ 童二續◎ ◎拘遜陀村一羅拘遜陀◎

說諸法，我等所不能解。尊者舍利弗。於六十劫中增長如地知見。心無恐懼又無異色。而請於佛。世尊說法。若廣若略。能有知解。法寶之者。

問曰。有法非聲聞辟支佛境界。何故尊者舍利弗。作如是請佛。答曰。聲聞所知。非佛。知以聲聞境界。非佛境界。以聲聞所行。非佛所行。以聲聞根。非佛根。復次佛聽故請。尊者舍利弗。作如是念。世尊所說。常以憐愍。知量觀其田器。當雨法雨。不唐捐其言。若說一句。前人不受。佛則不說。世尊知我有爾所受法器。則為我說。如是法。以是事故。佛聽故請。

問曰。為何等受化者說界。何等說入。何等說陰。答曰。於界中愚者為說界。於入中愚者為說入。於陰中愚者為說陰。復次受化者。或是初行。或是已行。或是久行。為初行者說界。為已行者說入。為久行者說陰。下根中根上根。樂廣樂略。樂廣略者。說亦如是。復次若特性。憍慢縱逸者為說界。所以者何。性義是界。義故。若恃財。憍慢縱逸者為說入。所以者何。輪門義是入。義故。恃命。憍慢縱逸者為說陰。所以者何。陰說名殺賊。復次於色心愚者為說界。所以者何。界中廣說色心。略說數法。於色愚者為說入。所以者何。入中廣說色。略說心心數法。於心心數法愚者為說陰。所以者何。陰中廣說心心數法。略說色心。復次為計我者說界。為於所依緣愚者說入。為我。憍者說陰。佛為如是受化衆生說陰界入。

問曰。十八界。名有十八。實體有幾。答曰。十八界。名有十八。實體或十七或十二。若說六識身。則無意界。所以者何。離六識身外。更無意界。是故名有十八。體有十七。若說意界。則無六識身。所以者何。意界之外。更無六識身。是故名有十八。體有十二。如名體名假體假。乃至知名知體。說亦如是。問曰。十八界體。或有十七。或有十二者。云何立十八界。答曰。以三事故立十八界。一以所依。二以依。三以境界。六界是所依。六界是依。六界是境界。所依者。眼界乃至意界。依者。眼識乃至意識。境界者。色乃至法。問曰。若以所依依境界。立十八界者。阿羅漢最後心。則非意界。所以者何。不能生識故。答曰。彼亦是意界。所以識更不相續者。非以意界。更以餘事故。若識生者。亦能作所依。過去有十八。未來現在。亦有十八。

問曰。過去有十八界可爾。所以者何。六識次第滅者是意界。未來現在。云何有十八界。答曰。以是決定相故。若未來現在。無意界相者。過去者亦無。以決定相故。過去有十八界。是故以三事說十八界。謂所依依境界。佛經作如是喻。如大樹葉聚。比丘當知。無量界性亦復如是。雖說無量界性。而不過十八界。盡以三事故名界。謂所依依境界。佛經。又說六十二界。如多界經說。彼亦不過十八。盡以三事故名界。

問曰。佛經何故說六十二界。答曰。欲異外道故。外道有六十二見。以身見為本。為對治彼見故。說六十二界。餘經又說。憍尸迦。世間有種種無量界衆生。各於自界。而起貪著。生牢強想。言我界勝。唯我是實。餘者是愚。如是盡在十八界。亦以三事。謂所依依境界。復有說者。此中諸見。以界名說。悉在法界中。以是事故。十八界以三事立界。謂所依依境界。尊者婆摩勒說曰。以四事故。故立十八界。一以自體。二以事。三以所作。四以分別陰。以自體者。色界乃至法界事者。眼識乃至意識。所作者。眼界乃至意界。分別陰者。色陰有十界。識陰有七。三陰有一界。此是界體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名界。界是何義。答曰。性義是界義。段義分義別義種種相義。不相似義分齊義。是界義。種種所依是界所作。聲論者說曰。趣義是界義。持養義是界義。性義是界義者。譬如一山之中。多有諸性。鐵性白鐵性。鉛性銅性。銀性金性。石性白塔性。如是一所依身。有十八界性。段義是界義者。如諸材段次第安置。名宮殿樓觀。次第安置竹簾。名扇名蓋。次第安置肉段。名為男女。分義是界義者。十八分是男。十八分是女。別義是界義者。男別有十八。女別有十八。種種相義是界義者。眼界相異。乃至法界相異。不相似義是界義者。眼界於餘界不相似。乃至法界。於餘界不相似。分齊義是界義者。眼界自有分齊。餘十七界亦有分齊。乃至法界自有分齊。餘十七界亦有分齊。種種所作是界所作者。眼界所作。乃至非法界所作。法界所作。乃至非法界所作。聲論者說。趣義是界義者。趣諸界諸趣諸生。持養義是界義者。能

○(所)十知○ ○當二而○ ○(如)十如○ ○為二答○ ○(若)十恃○ ○憍二慢○ ○若二苦○ ○又二亦○ ○唯二惟○ ○(故)一○ ○者十(何)○ ○依二作○ ○塔二塔○

持自性故。是故性義。乃至持義。是界義。

已總說界所以。今當一一別說。云何眼界。若

眼已見色。今見色。當見色。已見色是過去。今

見色是現在。當見色是未來。及諸餘彼分眼。

外國法師作如是說。彼分眼有四種。過去有

彼分眼界。謂眼不見色。滅墮過去者。現在亦

有彼分眼界。謂眼不見色。今滅者。未來亦有

彼分眼界。謂眼不見色。當滅者及未來必不

生彼分眼。屬賓沙門說。彼分眼有五種。三種

如先說。未來必不生彼分眼。有二種。一與眼

識合。二不與眼識合。若以眼見色。於己名自

分於餘一切衆生。亦名自分。若眼不見色。於

己名彼分。於餘一切衆生。亦名彼分。復有說

者。若以眼見色。於己名自分。於餘一切衆生。

○名彼分。若眼不見色。於己名彼分。於餘一

切衆生。亦名彼分。復有說者。若以眼見色。於

己名自分。於餘一切衆生。不名自分。亦不

名彼分。若眼不見色。於己為彼分。於餘一切

衆生。非自分亦非彼分。不應作是說。云何是

眼。不名自分亦非彼分。評曰。如前說者好。若

以眼見色。於己為自分。於餘衆生。亦名自分。

若眼不見色。於己名彼分。於餘衆生。亦名彼

分。

問曰。無有以他眼見色者。云何已眼於餘衆

生。名為自分耶。答曰。誰說以他眼見色者耶。

問曰。若無說以他眼見色者。云何已眼於餘

衆生。名為自分耶。答曰。以所作同故。如己眼

見色已滅。於餘衆生。亦名見色已滅。無有以

他眼見色者。問曰。自分眼見色。彼分眼不見

色。不見色眼。於見色眼。云何名彼分。答曰。展

轉為因故。見色眼與不見色眼作因。不見色

眼與見色眼作因。復次以展轉相生故。見色

眼能生不見色眼。不見色眼。能生見色眼。復

次展轉相續故。見色眼續不見色眼。不見色

眼續見色眼。復次見色眼。不見色眼。俱是一

界。一入一見。諸界有如是相者。此中略

說。如眼界。耳界。鼻舌身界。說亦如是。云

何色界。答曰。若色為眼。已見今見當見。已見

者是過去色。今見者。是現在色。當見者是未

來色。及餘彼分色。彼分色有四種。過去有彼

分色界。謂不為眼所見已滅者。現在有彼分

色界。謂不為眼所見今滅者。未來有彼分色

界。謂不為眼所見當滅者。及未來必不生色。

有色界於一衆生。是自分。於二三乃至百千

衆生。是自分色界。於一衆生乃至百千衆生。

是自分者。如初生月。若生緣彼眼識。是自分

色界。若不生緣。彼眼識。是彼分色界。譬如大

會之中。有一端正莊嚴。伎女。在中種種舞戲。

若生緣。彼眼識。是名自分色界。若不生緣。

彼眼識。是名彼分色界。大衆之中。昇立坐

法師說法。亦復如是。有色界於一衆生。是彼

分。於二三乃至百千萬一切衆生。是彼分。謂

如須彌山中。色大海大地中。色。問曰。如是色

界。非天眼境界耶。答曰。雖是境界。以不用故。

然有天眼者。不必一切時見所應見色。

問曰。彼色不為佛眼所見耶。答曰。是所見以

不用故。如今無佛。無佛眼見色。問曰。若以眼

見色。於己是自分。於餘一切衆生。亦是自

分。何故色界。若為眼所見。是自分。不為眼所

見。是彼分耶。答曰。一色界。容有一衆生。不

見二三衆生。則見無有一眼二人用見。何況

多耶。色界有如是相者。此中略說。如色界聲

香味觸界說亦如是。以世俗言說故作。是說。

世俗作如是語。汝所嗅香我亦嗅之。汝所嘗

味我亦嘗之。汝所覺觸我亦覺之。實義不爾。

若一人已嗅香。第二人不能嗅。一人已嘗

味。第二人不能嘗。一人已覺觸。第二人

不能觸。若世俗言說文說如上。若以實義文

應如是說。如眼界。耳界鼻舌身界。香味界

身界觸界說亦如是。云何眼識界。答曰。眼緣

色生眼識。問曰。眼識生時除其自體。餘一

切法皆作緣。何以但說眼色作緣耶。答曰。此

說眼識所依及境界眼。是彼所依色。是彼境

界。復次與眼識。作近威勢緣者說。眼色與眼

識作近威勢緣勝。於自體生老無常。是以故

說。問曰。眼識亦緣色生。何以但言眼識不言

色識。答曰。如外入經說。緣色生識。是名色

識。乃至廣說。

問曰。但一經說色識。餘經多說眼識。答曰。

若是內法則說。不說外法。如內外所依所緣

根根義所境界境界不共共說亦如是。復次

識以所依故有別名。從眼生者。名為眼識。乃

至從意生者名為意識。如聲以所依故有別

名。如鼓聲依鼓。貝聲依貝。琴聲依琴。彼亦如

是。問曰。此皆依意。何以不盡依名意識耶。答

曰。若依是不共不同別異。相作識別名。云何

眼識所依不共不同別異。謂依於眼不依餘。

○(若)十名○此二比○鼻十(界)○伎二枝○立坐一高座○(如)十是○(如)十世○[餘]一○卷第五十五終○卷第五十六使健度十門品之三首○卷第五十六使健度十門品第四之三首○造說釋說譯說同異如卷第二十三

乃至身識說亦如是。以是事故而作四句。或作所依。不作次第緣。乃至廣作四句。作所依不作次第緣者。謂俱生眼。作次第緣不作所依者。謂前次第滅心數法。作所依作次第緣者。謂意界。不作所依不作次第緣者。除上爾所事。乃至身識說亦如是。若為意識作所依。亦為意識作次第緣耶。答曰。若作所依。亦作次第緣。頗有作次第緣不作所依耶。答曰。有前次第滅心數法。尊者須。蜜說曰。亦綠色生識。何故不言色識。但言眼識。答曰。眼為識作所依非色。復次眼所作勝。復次眼在自身中色則不定。復次眼是內入。色則不定。復次眼屬內色則不定。復次眼於識有損益。色則不爾。問曰。若然者色亦有損益。答曰。一色雖有損益。餘色能生眼識。眼不爾。若一眼壞更無餘眼能生識。餘識說亦如是。復次眼有上中下識。亦有上中下色則不爾。復次眼。所不共。色則不定。如緣一界中色生二界中識。無有依一界中眼生二界中識。緣一趣中色生五趣中識。無有依一趣中眼生二趣中識。何況多四生。說亦如是。復次眼是威勢非色。尊者佛陀提婆說曰。若眼無留難。識亦無留難。問曰。色若有留難。識亦有留難。若無色者。識何緣生。答曰。不爾。境界常不壞。所依有壞。若所依壞者。識則不生。假令有那由他色者。若所依壞。綠色識不生者。識則住不生法中。問曰。眼識識色。何故言眼識色耶。答曰。或說所依以顯依。或說依以顯所依。說所依以顯依者。如此中說眼能識色。說依以顯所依者。如說

眼識所更所分別。名見。復次以名義勝故。如伎人染衣書法。猶如伎師作伎時。非無伎子伎女及餘侍從時會。然伎師於中勝故。但言伎師作樂。如以染染衣。非無人水器等。但染勝故。言以染染衣。如以筆作字。令字有差別。非無人工紙墨等。但筆於中勝故。說筆作字。令字差別。如是雖識能識色。以眼勝故。說眼識色。復次眼是識色具。故言眼識色。如說伴行於道。行者是足非伴。伴是道行之具。彼亦如是。雖識識色。眼是識色具。故言眼識色。有心意識。問曰。心意識。有何差別。答曰。或有說者。無有差別。心即是意。意即是識。如是等。皆同一義。無有差別。如火名火亦名炎。亦名熾。亦名。熾薪。如是等十名經說。帝釋名因陀羅。亦名憍尸迦。亦名釋迦。亦名千眼。一帝釋有如是等十名。如阿毘曇說。受名為受。亦名別受。亦名等受。亦名覺受。一受有如是等五名。彼亦如是。一心法有三種名。復有說差別者。名即差別。是名心。是名意。是名識。復次過去名意。未來名心。現在名識。復次說界時名心。說入時名意。說陰時名識。復次遠行義。是心義。如偈說

獨行遠。逝 不依於身 能調是者 解脫。畏怖 復次前導義是意義。如偈說 意為前導 意尊意駛 意若念惡 即言即行 罪惡報應 如影隨形 生相續義是識義。復次性義是心義。輸門義是意義。聚義是識義。復次種種雜色義是心義。如說比丘當知。畜生趣所以有種種雜色者。皆由心有種種故。有種種雜色。歸屬義是意義。如說比丘當知。此五根雖行種種境界。必。持意分別。終歸屬意。分別物體相是識義。復次增積義是心義。解了義是意義。別識義是識義。尊者婆奢說曰。增積義斷義是心義。解了義知義是意義。能識義別識義是識義。增積是有漏。斷是無漏。解了是有漏。知是無漏。能識是有漏。別識是無漏。心意識。是謂差別。若界有如是相者。此中略說。如眼識耳識鼻識舌識身識說亦如是。云何意界。答曰。若意能識法。已識今識當識。及餘彼分意。是名意界。已識是過去意界。今識是現在意界。當識是未來意界。及餘彼分意界者。未來必不生意界。無有過去現在彼分意界。如意界。意識界亦如是。問曰。何故不說五識界彼分。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次五識以生為差別。彼分是不生法。復次五識以所作為差別。彼分是無所作。復次若說意識界彼分。當知亦略說五識界彼分。云何法界。答曰。已為意所知。今為意所知。當為意所知。已為意所知是過去法。今為意所知是現在法。當為意所知是未來法。問曰。何故不說法界彼分耶。答曰。無有彼分法界。所以者何。無有如是法非意境界。若生一剎那意界。除其自體相應共生。餘一切法盡緣。問曰。十色入亦是意境界。何故說名彼分耶。答曰。不以意界故。說自分彼分。乃以眼於色有自分彼分。色於眼有自分彼分。乃至身觸。亦如是。若以

●蜜一密● 所是● 說一識● 名二色● 熾一熾● 逝一近● 畏怖一怖畏● 持二待●

欲界。以欲界意。知欲界法。生欲界意識。乃至生非想非非想處。以非想非非想處意。知非想非非想處法。生非想非非想處識。是則說即生彼處繫識。生餘繫識者。或有說。欲界善心次第生未至依。未至依次第生欲界善心。復有說者。欲界善心次第生未至依。亦生初禪未至依。初禪次第生欲界善心。

復有說者。欲界善心次第生未至依。初禪中間禪。彼三地次第生欲界善心。尊者瞿沙。作如是說。欲界善心次第生未至依。初禪中間禪第二禪。彼四地次第生欲界善心。如行者入超越定。從初禪超二禪及眷屬。起第三禪現在前。此亦如是。評曰。應作是說。欲界善心次第生未至依。初禪彼二地次第生欲界善心。欲界善心次第生未至依。初禪者。欲界意識。初禪意識法。或三界繫或不繫。彼二地意次第生欲界善心。初禪意識欲界意識法。或三界繫或不繫。初禪次第生第二禪。是順次定。初禪意識第二禪意識法。或三界繫或不繫。第二禪意識。生初禪意識法。或三界繫或不繫。乃至第三禪次第生第四禪。是順次定。第三禪意識。生第四禪意識法。或三界繫或不繫。第四禪次第生空處。是順次定。第四禪意識。生空處意識法。或無色界繫或不繫。空處次第生第四禪。是逆次定。空處意識。生第四禪意識法。或三界繫或不繫。空處次第生識處。是順次定。空處意識。

生識處意識法。或識處繫或無所有處繫。或非想非非想處繫。或不繫。識處次第生空處。是逆次定。識處意識。生空處。意識法。或無色界繫或不繫。乃至無所有處次第生非想非非想處。是順次定。無所有處意識。生非想非非想處意識法。或非想非非想處繫或不繫。非想非非想處次第生無所有處。是逆次定。非想非非想處意識。生無所有處意識法。或無所有處繫。或非想非非想處繫或不繫。初禪次第生第三禪。是順超定。初禪意識。生第三禪意識法。或三界繫或不繫。第三禪意識。生初禪意識法。或三界繫或不繫。如是乃至識處次第生非想非非想處。是順超定。識處意識。生非想非非想處意識法。或非想非非想處繫或不繫。非想非非想處次第生識處。是逆超定。非想非非想處意識。生識處意識法。或識處無所有處非想非非想處繫或不繫。如是等則說定。復有餘定亦可爾。欲界有四種變化心。欲界有初禪果變化心。欲界有第二第三第四禪果變化心。此變化心次第生淨禪。淨禪次第生變化心。淨初禪次第生欲界初禪果變化心。初禪意識。生欲界意識法。是變化。或四入。或二入。欲界初禪果變化心次第生淨初禪。欲界意識。生初禪意識法。或三界繫或不繫。乃至淨第四禪次第生欲界第四禪果變化心。第四禪意識。生欲界意識法。是變化。若四入。若二入。欲界第四禪果變化心次第生淨第四禪。欲界意識。生第四禪意識法。或三界繫或不繫。如是則說

定。生時亦可爾。欲界命終生初禪。欲界意生初禪意識法。或八地繫或不繫。初禪命終生欲界。初禪意識。生欲界意識法。或三界繫或不繫。欲界命終。乃至生非想非非想處。欲界意生非想非非想處意識法。或非想非非想處繫或不繫。非想非非想處命終。生欲界。非想非非想處意識。生欲界意識法。或三界繫或不繫。乃至無所有處命終。生非想非非想處。無所有處意識。生非想非非想處意識法。或非想非非想處繫或不繫。非想非非想處命終。生無所有處意識。或無所有處繫。或非想非非想處繫或不繫。是則說生時

若成就眼界。亦成就色界耶。答曰。成就眼界。亦成就色界。頗成就色界。非成就眼界耶。答曰。有。生欲界。若不。得。設得便失。廣說如根。若成就眼界。亦成就眼識界耶。答曰。成就眼界。不成就眼識界。乃至廣作四句。成就眼界。不成就眼識界者。生第二第三第四禪。眼識不現在前。成就眼識界。不成就眼界者。生欲界。不得眼界。設得便失。成就眼界。亦成就眼識界者。生欲界得眼界不失。若生初禪。若生第二第三第四禪。眼識界現在前。不成就眼界。亦不成就眼識界者。生無色界。若成就色界。亦成就眼識界耶。答曰。若成就眼識界。亦成就色界。頗成就色界。不成就眼識界耶。答曰。有。生第二第三第四禪。眼識不現在前。若不成就眼界。亦不成就色界耶。答曰。若不成就色界。亦不成就眼界。頗不成

◎依二餘◎ ◎起二超◎ ◎得十(眼界)◎

就眼界。非不成就色界耶。答曰。有。生欲界。不
得眼界。設得便失。若不成就眼界。亦不成就
眼識界耶。答曰。若不成就眼界。非不成就眼
識界。乃至廣作四句。不成就眼界非不成就
眼識界者。生欲界不得眼界。設得便失。不成
就眼識界非不成就眼界者。生第二第三第
四禪。眼識不現在前。俱不成就者。生無色
界。俱非不成就者。生欲界。得眼界不失。若生
初禪第二第三第四禪。眼識現在前。若不成就
就色界。亦不成就眼識界耶。答曰。若不成就
色界。亦不成就眼識界。頗不成就眼識界。非
不成就色界耶。答曰。有。生第二第三第四禪。
眼識不現在前。若成就眼界得。不成就色界
亦爾耶。答曰。或成就眼界得。不成就非色界。
乃至廣作四句。成就眼界。得不成就非色界
者。生欲界。失眼界。成就色界得不成就非眼
界者。生欲界無眼界。命終生無色界。俱成就
得不成就者。生欲界。有眼界。命終生無色界。
若色界命終。生無色界。俱不成就不得不成
就者。除上爾所事。若成就眼界得。不成就眼
識界亦爾耶。乃至廣作四句。成就眼界得不
成就非眼識界者。若欲界失眼界。第二第三
第四禪命終。生無色界。成就眼識界得不成
就非眼識界者。欲界無眼界。命終生無色界。若
第二第三第四禪眼識現在前而滅者。俱成
就得不成就者。欲界有眼界。命終生無色界。
若初禪命終。生無色界。俱不成就不得不成
就者。除上爾所事。若成就色界得。不成就眼
識界亦爾耶。乃至廣作四句。成就色界得不

成就非眼識界者。第二第三第四禪命終。生
無色界。成就眼識界得不成就非色界者。第
二第三第四禪眼識現在前滅者。俱成就得
不成就者。欲界初禪命終。生無色界。俱不成
就不得不成就者。除上爾所事。若不成就眼
界得。成就色界亦爾耶。答曰。有。若不成就色
界得。成就眼界亦爾。頗不成就眼界得。成就
非色界耶。答曰。有。生欲界次第得眼界。若不
成就眼界得。成就眼識界亦爾耶。乃至廣作
四句。不成就眼界得成就非眼識界者。無色
界命終。生第二第三第四禪。生欲界次第得
眼界。不成就眼識界得成就非眼識界者。生第
二第三第四禪眼識現在前。俱不成就得成
就者。無色界命終。生欲界初禪。非俱不成
就成就者。除上爾所事。若不成就色界得。
成就眼識界亦爾耶。乃至廣作四句。不成就
色界得成就非眼識界者。無色界命終。生第
二第三第四禪。不成就眼識界得成就非色
界者。生第二第三第四禪。眼識現在前。俱
不成就得成就者。無色界命終。生欲界初禪。
非俱不成就得成就者。除上爾所事。如說眼
界色界眼識界。乃至意界法界意識界亦應
隨相說。是則說相似者。如眼色眼識界。於餘
不相似作五三句。耳聲耳識界作四二句。鼻
香鼻識界作三三句。舌味舌識界作二三句。
身觸身識界作一三句也
阿毘曇毘婆沙論卷第三十八

阿毘曇毘婆沙論卷第三十九

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等 譯

使。毘度十門。品之三

十二入。眼入乃至法入。問曰。何故作此論。答
曰。此是佛經。佛經說。生聞婆羅門。往詣佛所
到已。面共世尊種種語論。問訊已在一面坐。
爾時生聞婆羅門。白佛言。世尊。說一切者多。
一切有幾種。沙門瞿曇。為施設何一切耶。佛
告婆羅門。我施設一切者。謂眼入乃至法入。
是名一切。如來說如是法名一切。婆羅門若
有作是說。我能遮止沙門瞿曇所說一切。更
說餘一切者。但有是語。而無有實。若還問者。
反生疑惑。所以者何。非境界故。佛經雖作是
說。而不廣分別。佛經是此論所為根本。彼
中諸不說者。今欲廣說故。而作此論。問曰。若
作是說。有說。一切者。謂十八界。有說。一切
者。謂五陰及無為法。有說。一切者。謂四諦及
虛空非數滅。有說。一切者。謂名色。如是等所
說。皆但有是語。而無有實。若還問者。反生愚
惑。非其境界耶。答曰。此中遮義不遮於文。若
作是說。一切法性。十二入攝。若更有說。除法
非十二入攝者。如是說者。但有是語。空無有
實。乃至廣說說十二入。是勝說妙說最上說。
問曰。說十二入。何故名勝說妙說最上說。
耶。答曰。說入是中說能攝一切法。說界雖能

①生十(色)②二二三③三二二④第三十八二第五十六⑤第三十九二第五十七⑥健二健⑦品十(第
四)⑧三二四⑨而二而⑩

攝一切法。而是廣說。說陰不攝一切法。唯攝有為法。不攝無為法。而是略說。說入是中說亦攝一切法。若欲觀一切法者。當以入門。若以入門觀者。便生十二智光現十二義像。如人鑿磨十二明鏡。在其中立有十二像現。彼亦如是。一身有十二入可得。問曰。若一身有十二入可得者。云何說有十二入耶。答曰。以所作異故。雖一身中十二入可得。然十二入所作各異。譬如一屋有十二工巧人居。雖同居一屋。而所作有十二種。彼亦如是。復次以二事故。立十二入。一以所依。二以所緣。復次以三事故。立十二入。一以自體。二以所依。三以所緣。自體者。謂眼入乃至法入。所依者。六所依。謂眼乃至意。所緣者。六所緣。色乃至法。此是入體性。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名入。入是何義。答曰。輪門義是入義。輪道義是入義。藏義是入義。倉義是入義。經義是入義。殺處義是入義。田義是入義。泉義是入義。流義是入義。海義是入義。白義是入義。淨義是入義。輪門義是入義者。猶如城中及與村落所輸之物。衆生得已。長養於身。如是以所依及所緣故。令心長養。輪道義亦如是。藏義是入義者。猶如藏中有金等寶物可取。如是以所依及所緣故。有心心數法等可取。倉義是入義者。猶如倉中有麥等種種種子實可取。如是以所依及所緣故。有心心數法等可取。經義是入義者。猶如織機經緯在於處處。如是以所依及所緣故。心心數法。在於處處。殺處義是入義者。

猶如殺處斷百千衆生頭在地。如是以所依及所緣故。令心心數法。爲無常滅所滅。田義是入義者。猶如田中有種種苗稼可取。如是以所依及所緣故。有種種心心數法可取。泉義是入義者。如偈說

何處泉水生 何處道不通
世間諸苦樂 何處得滅盡
佛作是說

眼耳及與鼻 舌身及與意
此處盡名色 能令無有餘
是處能生泉水。乃至廣說。流義是入義者。如偈說

一切皆流出 以何制此流
以何爲流戒 令流止不出
佛作是說

世間所有流 當以正念制
亦名爲流戒 慧令流不出
海義是入義者。如經說。比丘當知。眼是。人海。色是濤波。若忍受色濤波者。是人能廣度眼海。得免。洄復羅刹等難。乃至意說亦如是。白義是入義者。以淨故名白。亦名爲淨。是故輪門義是入義。乃至廣說。外道書說入名部那天竺音部那名根亦亦名爲作也如彼摩。健提梵志。作如是說。沙門瞿曇。心無部那。而不受我女。

已總說諸入。所以今當一一別說其體。云何眼入。答曰。若眼已見色。今見色。當見色。及餘彼分眼入。已見色是過去。今見色是現在。當見色是未來。及餘彼分眼入。廣說如界處。乃至意入說亦如是。云何色入。答曰。若色入

已爲眼所見。今爲眼所見。當爲眼所見。廣說如界處。問曰。十色入。皆體是色。何故說一入名色。不說餘耶。答曰。以此一入是僮了了現見法。復次此入是二眼境界。謂肉眼天眼。復次此入是三眼境界。謂肉眼天眼慧眼。復次

此是二入境界。爲眼色所緣。是故尊者瞿沙。作如是說。是二眼境界。爲眼識所緣。是故此入名爲色入。非餘。復次此入施設。有龜細長短。在此在彼故。復次此入是大障礙故。復次此入可種可生可長外物。可種者是種子

時。可生者是萌牙時。可長者是莖葉華果時。內物可種者。是迦羅羅時。可生者是安浮陀時。可長者是卑尸伽那婆羅奢法時。復次方體是色。以色故施設諸方。復次由句體是色。以色故施設由句。復次此入能覆餘入。猶如巾帽。故名色入。復次若說二十種二十一

種。是名色入。餘色入不爾。香味入。廣說如界處。問曰。觸入。爲可觸故是觸入。爲體是觸入者。微塵不能觸微塵。若體是觸名觸入者。體是四大造色。非是觸體。若爲觸所緣名觸入者。亦爲餘數法所緣。答曰。應作是說。可觸故名觸入。問曰。若然者。微塵不能觸微塵。

答曰。此是世俗言說。世俗作如是說。眼所更事名見。耳所更事名聞。鼻所更事名嗅。舌所更事名味。身所更事名觸。復次以緣身緣觸

故生身識生。彼能緣實義身識故名觸。尊者佛陀提婆說曰。應言無觸。所以者何。合聚無間色觸時。假名爲觸。無實義觸。復次能生

①以一 ②何二佛 ③人二大 ④人二入 ⑤酒覆二還復 ⑥亦二作 ⑦健二健 ⑧此十入 ⑨色二識 ⑩牙二芽 ⑪伽那二健男 ⑫味二甘

餘入。增長餘入故名觸入。云何法入。若法已為意所知今為意所知。當為意所知。廣說如界處。問曰。十二入體性是法。何故說一入名法。非餘入耶。答曰。雖十二入體性是法。然法入應名為法。所以者何。如十八界。雖體性是法。獨法界名法。如十智雖體性是法。獨法智名法。七覺。支雖體性是法。擇法覺。支名法。六念念法名法。四念處法念處名法。四不壞淨。於法不壞名法。四無礙法。無礙名法。三歸三寶法。歸法寶名法。復次餘入有二名。此唯有一名。復次餘入是不共名。此入是共名。以共為名。復次能生一切諸法。生在彼中故名法入。復次一切諸法印封相。生老無常。在彼中故名法入。復次以名顯明諸法。名在彼中故名法入。復次諸法來處。說名法入。如風來處名為風孔。彼亦如是。復次能解空法。在彼中故名法入。

問曰。若然者。能計我法。亦在彼中。可言我入耶。答曰。計我非實。解空是實。復次第一實法。謂常住不變。不為生老死所壞。滅盡涅槃。在彼中故名法入。復次能分別總相別相。除物體慧。及餘緣中愚。不取虛相。慧在彼中。故名法入。復次彼中有多法故名法入。多法者。謂色無色法。相應不相應法。有依無依法。有行無行法。有緣無緣法。有勢用法。無勢用法。已別說諸入一一體。今當求其次第。何故世尊。於內入中。先說眼入乃至意入。外入中。先說色入乃至法入。答曰。欲令文義隨順故。復次欲令說者隨順受持者亦隨順故。復次以

有龜細故。內六入中眼入龜故先說。意入細故後說。外六入中。色入龜故先說。法入細故後說。問曰。云何立內六入外六入。為以。人故為以法故。若以法者。一切諸法。無有欲心。云何立內外。若以。人者。如實義中。畢竟無*人。若無*人者。云何有內外。答曰。應作是說。以。說法故。立內外入。非一切法。若法能與六識作所依是內入。作所緣是外入。復次根者是內入。根義是外入。所境界境界亦爾。然此內外法不定。若我內入是他外入。若他內入是我外入。佛經說此六入。當知是內法。問曰。如一切法。當知皆是內法。何故獨說六入是內法耶。答曰。世尊欲教諸弟子於內法行禪故。如說觀察內根心不外緣。復次欲教諸弟子不行虛妄禪故。如說。汝等不應行虛妄禪計常樂我淨。應行不虛妄禪計無常無我無樂無淨。計因集有緣。當以是八聖行觀察於有。復次欲教諸弟子行不共禪故。如說。汝等不應行共禪法。觀龜觀苦觀龜壞觀止妙離。應行不共禪法。應觀如病如癩如箭入身常是過患無常苦空無我。當以此八法觀察於有。復次此經說觀察內法。若於內法。計有我便計我所。計已便計已所。於我有愛。於我所亦有愛。若見有我。亦見我所。為長養內我故求外所須物。佛經說六觸入。當知是內法。問曰。六入六觸入。有何差別。答曰。或有說者。無有差別。若說六觸入。名雖有異。無差別義。復有說者。名即差別是名觸入。是名六入。復次若有所作是名觸入。若無所

作是名六入。若作是說現在者是觸入。過去未來者是六入。復次若已生六入是觸入。若未生六入是六入。若作是說。過去現在是觸入。未來是六入。復次若為觸作依是名觸入。若為數法作依名六入。復次若為心心數法作依是名觸入。若空不為心心數法作依是名六入。尊者波奢說曰。體是六入。若為觸作依。名六觸入。如鉢體性是鉢。比丘用故。名比丘鉢。彼亦如是。尊者富那奢說曰。體性入是六入所作。入是六觸入。猶如鐵鉢。體性是鉢。以盛。蘇故。名盛。蘇鐵鉢。問曰。此亦如是。六受入六想六思等入。何故獨說六觸入耶。答曰。應說六受入乃至六思等入。而不說者。當知此說有餘。復次以觸名義勝故。若說六觸入。當知亦說六受入乃至六思等入。復次觸是心心數法。今心心數法。皆從觸生以觸力故。而現在前。是故說名觸入。佛經說內六入是此岸。外六入是彼岸。問曰。佛說此岸彼岸。為以何法。答曰。以近遠法故。如河於人。近者是此岸。遠者是彼岸。如是心心數法。近者是所依。遠者是所緣。復次如初入已度法故。如人初入河處是此岸。已度處是彼岸。如是心心數法。初入如所依已度如所緣。復次滅盡涅槃。是彼岸彼法。外入所攝。以攝彼法故。外入名彼岸。佛經說身見是此岸。身見滅是彼岸。問曰。此中何者是河。答曰。心心數法。是如河所攝。衆生數非衆生數。漂入大海。如是所依所緣。所攝衆生心心數法。皆漂入生死大海。佛經說。有八勝處

支二枝 餘二除 云二六 人二入 人二入 說二識 鉢二鐵 蘇二 蘇 如一 今二命

十一切處。問曰。此亦是入。何故但說十二入耶。答曰。彼亦在此十二入中。彼相應共有法。當知皆是意入法入。佛經說。四無色定是處。如空處乃至非想非非想處。問曰。何故世尊說四無色定是處耶。答曰。欲異外道故。外道計彼是四種解脫。一無身。二無邊意。三淨聚。四世塔。無身者是空處。無邊意者是識處。淨聚者是無所有處。世塔者是非想非非想處。為異外道故。作如是說。此是生處。非是解脫。佛經說二處。一無想衆生處。二非想非非想衆生處。問曰。何故佛經說此二處名處。答曰。佛欲異外道故。外道計此二處是解脫。佛說此是生處非解脫。復次此處是退還法。而外道計是解脫。佛說此處是衆生退還處。還生諸界諸生諸趣中故。復次此是散法。而外道計是解脫。佛說此二處是散法。衆生於此處。散在諸界諸生諸趣中。無想衆生。散在欲界。非想非非想處衆生。散在地下。復次壽命長遠故。外道計是解脫。一切凡夫受身處。壽命長遠。莫若無想處壽五百大劫。一切生處。壽命長遠。莫若非想非非想處壽八萬大劫。佛作是說。此是受生處。非是解脫。復次佛說餘處有二名。一是衆生居。二是識住。亦以二種名說此二處。一名衆生居。二名處。復次衆生居。佛說是識住。若是衆生居。非識住。佛說是處。

如經說。尊者舍利弗。往詣佛所。作如是說。世尊說入為無有上。所言一切。謂十二入。世尊知此法。更無有餘。世尊無餘之智。更無有上。無有沙門婆羅門等覺所知過世尊者。問曰。尊者舍利弗。云何能知所言一切謂十二入。答曰。從他聞故。能知是法。佛經說所言一切。謂十二入。尊者舍利弗。得不壞信。於佛所說。生尊重信。問曰。尊者舍利弗。從他聞故。能知是法。非自現智耶。答曰。亦自有現智。能知。所以者何。尊者舍利弗。於十二入。亦能一一知見。問曰。世尊於十二入。一一知見。尊者舍利弗。於十二入。亦一一知見。世尊。尊者舍利弗。所知有何差別。答曰。世尊一一知見十二入。亦以總相。亦以別相。尊者舍利弗。一一知見十二入。但以總相。不能別相。所以者何。更有無量入義。在十二入中。尊者舍利弗。須他顯示。然後乃知。復次尊者舍利弗。一一知見十二入。從他聞故。知世尊所知。獨覺無師。復次世尊有一切智。一切種智。尊者舍利弗。有一切智。無一切種智。復次尊者舍利弗。以識身故。知尊者舍利弗。作是念言。一切者。謂六識所依及緣。復次尊者舍利弗。以所說無餘故。知佛說十二入。眼入乃至意入。最後說法入。尊者舍利弗。作如是念。諸法十一入中。所不稱說者。應盡在法入中。是故以所說無餘故。知五陰。色陰乃至識陰。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說五陰。乃至廣說佛經雖說五陰。而不廣分別。佛經是此論所為根本。今欲廣分別故。而作此論。云何色陰。佛經說。諸所有色。盡是四大。及四大造。餘經復說。云何色陰。諸所有色。過去未來現在。若內若外。若麤若細。若惡若妙。若遠若

近。如是等總名色陰。乃至識說亦如是。阿毘曇者。作如是說。云何色陰。謂十色入。及法入中色。是名色陰。此三說有何差別。答曰。各各皆止他義。問曰。如經說。諸所有色。皆是四大。及四大造。此中為止何等他義。答曰。佛為未來世故。作是說。佛知未來世中當有作是說者。四大之外。更無造色。如佛陀提婆等。為止如是說者。意故。經作是說。諸所有色。盡是四大。及四大造。如說。諸所有色。過去未來現在。若內若外。乃至廣說。此中為止何等他義。答曰。時世有梵志。名。牢羅尼佉。不說有過去未來。世尊為止彼人意故。作如是說。諸所有色。過去未來現在。若內若外。乃至廣說。如說。云何色陰。謂十色入。及法入中色。此中為止何等他義。答曰。為止譬喻者意故。譬喻者不說法入有色。是故尊者達磨多羅。作如是說。諸所有色。盡五識所依。五識所緣。云何名為色。非五識所依五識所緣。為止如是說者意故。彼尊者造阿毘曇論。作如是說。云何色陰。謂十色入。及法入中色。問曰。若法入中色。有實體相者。尊者達磨多羅。說云何通。答曰。可作是說。諸所有色。盡五識所依。六識所緣。法入中色。雖不為五識所依。五識所緣。而為意識所緣。復次法入中。雖非五識所緣。彼所依是身識所緣。誰是彼所依。謂四大是。云何受陰。謂六受身。眼觸生受。耳鼻舌身意觸生受。如佛經說。阿毘曇說亦爾。云何想陰。謂六想身。眼觸生想。耳鼻舌身意觸生想。如佛經說。阿毘

◎他二佛◎ ◎〔說〕一◎ ◎妙一好◎ ◎牢羅尼二罕羅尸◎ ◎中十〔色〕◎

曇說亦爾云何行陰。答曰。佛經說。謂六思身。眼觸生思。耳鼻舌身意觸生思。阿毘曇者。作如是說。行陰或相應。或不相應。乃至廣說。問曰。世尊何故諸相應不相應行陰。但說思是行陰。非餘相應不相應法耶。答曰。以思長養行。勝是故世尊說思是行。如愛長養於集勝。是故世尊一切有漏中。說愛是集。彼亦如是。復次造作義是行義。思體造作。云何識陰。謂六識身。眼識身乃至意識身。如經所說。阿毘曇說亦爾。此是陰體。乃至廣說。已說體相。所以今當說。何故名陰。陰是何義。答曰。聚義是陰。義略義是陰。積義是陰。總義是陰。若施設世。即是施設陰。若說多語陰是多語。聚義是陰。諸所有色。過去未來現在。若內若外。乃至廣說。盡聚為色陰。乃至識陰亦爾。略義說亦如是。積義是陰。義者。如種種雜物。合為一積。如是種種諸色。合為色陰。乃至識陰亦爾。總義是陰。義者。識所為色。過去未來現在。若內若外。乃至廣說。如是等色。總名色陰。乃至識陰亦爾。問曰。過去未來現在色可合聚。不答曰。可能合聚其名。不合聚其體。乃至識亦如是。施設世即是施設陰者。如色陰施設有三世。乃至識陰亦爾。多語是陰語者。如多財名財陰。多穀名穀陰。多軍名軍陰。如是億萬那由他極遠多色。總為色陰。乃至識陰亦爾。問曰。一微塵。可立色陰不耶。答曰。或有說。不可立。若欲立者。必須積聚。復有說者。可立。以相故立。若一微塵。不名陰者。衆多合聚。亦不名陰。阿毘曇者作如是說。

一微塵。不以陰故。是一界一入一陰所攝。若以陰者。是一界一入一陰少分。如人於穀聚上取一粒穀。他人問言。汝取何等。彼人若不取。穀聚者。言我取一粒穀。若以穀聚者。言我取。穀聚一粒穀。

已總說陰所以。今當求其次第。世尊何故先說色陰。後說乃至識陰。答曰。欲令文義隨順。復次欲令說者隨順。受持者亦隨順。故。復次以龜細故。五陰中。色陰龜細。先說。四無色陰中。受陰龜細。次色陰說。問曰。如受非色。不住方所。云何施設有龜細耶。答曰。以所行故。如世人言。我手受苦樂。頭足身諸分等。皆受苦樂。如是等。說色受亦爾。想轉細於受。次受說。行轉細於想。次想說。行。識最細在後。問曰。如五陰是作。想作是行陰。世尊何故一陰說名行陰。餘不說耶。答曰。雖五陰盡是作相。而行陰得名。如十八界。雖體盡是法。而法界得名。乃至三寶三歸。雖體是法。而法實法歸。得名為法。如是五陰雖體是行。而行得名。復次此陰有一。餘陰有二。復次此陰是共名。餘陰是共不共名。以不共名說。復次以能生一切諸法。生在彼中。故名行陰。復次一切諸法。印封相。生老無常。在彼中故名行陰。復次以名顯明諸法。名在彼中故名行陰。復次能解空法。在彼中故名行陰。問曰。若然者。能計我法。亦在彼中。可言我陰耶。答曰。計我非實。解空是實。復次能分別總相別相。除物體愚及緣中愚。不取虛相。慧在彼中。故名行陰。復次彼中有多法故名行陰。

多法者。相應不相應法。有依無依法。有行無行法。有緣無緣法。有勢用無勢用法。問曰。何故諸心數法中。說想受獨立為陰。餘心數法立行陰。尊者婆奢說曰。世尊決定知法相。亦知勢用。餘人不能知。若法堪任獨立陰者。便立。不堪任者。合集乃立。復次欲以種種說種種文莊嚴於義。若以種種說種種文莊嚴於義。義則易解。復次欲見二門二略二入。乃至廣說。復次此現門現略現始入所有心數法。若根性若非根性。若說受當知已說根性。若說想當知已說非根性。如根性非根性。明非明。有威勢無威勢。有力無力。當知亦如是。復次以此二法故。色無色界有差別。以受故說色界差別。以想故說無色界差別。復次行者以此二法故。於二界中。極生苦惱。以受故於色界中。極生苦惱。以想故。於無色界中。極生苦惱。復次以貪樂受。染著顛倒想故。衆生於生死中。受大苦惱。復次以此二法是鬪諍根本。受是愛鬪諍根本。想是見鬪諍根本。如二鬪諍根本。二煩惱。二邊。二箭。二戲論。二見。當知亦如是。復次以此二法。獨受識住名。餘數法在行陰中。受識住名。復次行者。增惡此二法故。入滅盡定。如施設經說。以何方便。得滅盡定。云何修方便。得滅盡定。答曰。彼初行者。作如是念。云何令我不思諸行。令想受不生。生者便滅。若想受不生。生者便滅。是名滅定。

問曰。無為法。何故不立陰耶。答曰。無陰相。故不立陰。復次以是陰究竟處。故不立陰。如

◎識所為二諸所有◎◎穀聚一聚穀◎◎想一相◎◎心十心◎◎見一現◎◎染一深◎◎增一情◎◎卷第三十九◎◎卷第五十八使健度十門品之五首◎◎卷第五十八使健度十門品第四之五首◎◎造說釋說譯說同異如卷二十三

瓶衣究竟處不名瓶衣。彼亦如是。復次若法
是生滅有因有緣。有為相者立陰。無為法無
生滅無因無有為相。故不立陰。復次若法屬
因屬緣屬和合作者立陰。無為法。不屬因。不
屬緣。不屬和合作。故不立陰。復次若法隨世
行能取果。能有所作。能知緣者立陰。無為
法與上相違。故不立陰。復次陰隨世行。無為
法。不隨世行。陰與苦相續。無為法不與苦相
續。陰有前後。無為法無前後。陰有上中下。無
為法無上中下。復次無為體非是色。亦不名
色。乃至體非是識。亦不名識。復次從他生故
立陰。無為法。不從他生故不立陰。無為法以
如是等事故不立陰。

世尊經說五陰。戒陰。定陰。慧陰。解脫陰。解
脫知見陰。問曰。如是則有十陰。何故說五陰
耶。答曰。此後五陰。即在前五陰中。戒陰在色
陰中。餘四陰在行陰中。是故說五。經中復說。
尊者阿難作如是言。我從佛邊。受八萬法陰。
從比丘邊。受二萬法陰。問曰。有如是等多陰。
世尊何故說五陰耶。答曰。雖有如是多陰。亦
在五陰中。或有說。佛語體是口業。或有說。體
是名。若說體是口業者。是色陰攝。若說體是
名者。是行陰攝。是故在五陰中問曰。法陰
。劑量為幾。許。答曰。或有說者。如法陰論所
說。六千偈是一法陰。劑量。餘法陰亦爾。復
有說者。如世尊種種言辭說四念處。是一法
陰。劑量。四正斷。四如意足。五根五力。七覺
八道種。亦如是。尊者瞿沙說曰。五十萬五千
五百五十偈。是一法陰。劑量。評曰。應作是

說。衆生行有八萬佛說對治法。亦有八萬受
化者入佛法中。以八萬法。即是八萬法陰。

五取陰色取陰受想行識取陰。問曰。何故作
此論答曰。此是佛經。佛經說五取陰。乃至廣
說。佛經雖說五取陰。而不廣分別。今欲廣分
別故。而作此論云何色取陰。答曰。若色是有
漏是取彼色在過去未來現在。若緣彼。生欲
生愛生患生癡生怖。生如是等心煩惱法。生
欲生愛者是渴愛。生患者是患。生癡者是無
明。生怖者。或有說者。不應作是說。所以者
何。先所說煩惱性。即是怖故。問曰。若然者。
怖體性是何。答曰。或有說者。是身見性。所以
者何。衆生計我者常怖。若說身見。當知已說
怖。復有說者。體性是愛。所以者何。行愛者
常怖。故若說愛當知已說怖。復有說者。體性
是無明。所以者何。癡者常怖。若說癡當
知已說怖。評曰。應說怖。所以者何。怖體性
異。怖是心數法與心相應。在如是法中。如是
等諸餘法。是名心數法。問曰。何處有此怖。答
曰。在欲界非色無色界。問曰。若色界無怖者。
佛經云何通。如說。比丘當知。先生光音衆生。
見後生者。心生恐怖。而憊勞言。大仙莫怖。我
等數數曾見燒諸梵宮。於彼即滅。偈義云何
通。如偈說

聞諸長壽天 有妙色名譽
心懷恐怖惱 如鹿畏獅子

答曰。此中說厭離是怖。問曰。厭離怖畏。有
何差別。答曰。名即差別。是名厭離。是名怖
畏。尊者須蜜說曰。若在欲界名怖。若在

色界名厭離。煩惱中間生者是怖。善根中間
生者是厭離。尊者佛陀提婆說曰。於無利事
生疑欲得遠離是怖。已得遠離。心猶生動是
厭離。怖與厭離。是謂差別。問曰。誰有此怖。

為是凡夫。為是聖人。答曰。或有說者。是凡夫
非是聖人。所以者何。聖人已離五恐怖故。五
恐怖者。一不活怖。二惡名怖。三大衆怖。四死
怖。五惡道怖。評曰。應作是說。凡夫亦怖。聖
人亦怖。問曰。聖人非已離五恐怖耶。答曰。雖
無如是等怖。有須與怖。問曰。何等聖人有怖
畏耶。為學人。為無學人。答曰。亦學人亦無學
人。學人者。須陀洹斯陀含阿那含。無學人者。
阿羅漢辟支佛。唯除佛世尊。所以者何。世尊
無有恐怖疑慮。毛豎如是等心煩惱法者。謂
緣彼色。一切遍使。及修道所斷。云何受取陰。
答曰。若受是有漏是取。廣說如色陰。此中差
別者。謂緣彼受。一切遍非一切遍使。如受想
行識。說亦如是。此是取陰體。乃至廣說已說
體性。所以今當說。何故名取陰。取陰是何義。
答曰。從取生故名取陰。能生取故名取陰。復
次從取轉故名取陰。能轉取故名取陰。復次
能從取受故名取陰。能受取故名取陰。復次
從取長故名取陰。能長取故名取陰。復次從
取廣故名取陰。能廣取故名取陰。復次屬取
故名取陰。如人屬王名為王人。彼亦如是。中
無有我。若人問陰。汝屬誰耶。陰應答言。我屬
於取。復次取於陰中。生時生。住時住。使時
使。而不衰損。是名取陰。復次取於陰中生長
增廣故。是名取陰。復次取於陰中。增長饒益

取。復次取於陰中。生長增廣故。是名取陰。復次取於陰中。增長饒益

①取十(聖)②劑二劑③許二計④蜜二密

故名取陰。復次取於陰中。生於貪著。猶如塵垢。是名取陰。復次取於陰中。心生樂著。如魚等樂水。故名取陰。復次取是陰。屋舍立處故名取陰。依此陰故。生愛見慢無明。疑誑諸煩惱及垢。與取相似故。彼名取陰。如欲界取名。欲界取陰。色界取名。色界取陰。無色界取名。無色界取陰。不壞於界。不壞於地。而壞於身。以我取故。他陰名取陰。以他取故。我陰名取陰。若不壞身者。則一切外物。不名取陰。所以者何。彼外物中。無取陰故。問曰。陰取陰。有何差別。答曰。名即差別。此是陰。此是取陰。復次陰是有漏無漏。取陰是有漏。復次陰攝三諦。取陰攝二諦。復次陰受呵責時增長人受呵責讚歎時寂靜人受讚歎取陰唯受呵責時增長人受呵責。陰取陰是謂差別。

六界。地界。水界。火界。風界。虛空界。識界。問曰。何故尊者迦旃延子。因六界而作論。答曰。彼尊者有如是欲如是意。隨其欲意而作論。亦不違法相。彼意欲因六界而作論。便因六界而作論。復次不應求彼尊者何故因六界而立論。所以者何。此是佛經。佛經說十八界。佛於十八界中說六界。六界攝十八界五界及四界少分。攝五界者。謂眼識界。耳鼻舌身識界。四界少分者。色界觸界。意識界。識界虛空界。攝。色界少分。地水火風界。攝。觸界少分。識界攝。意識界。識界少分。云何此二少分。答曰。此二界有漏無漏。攝有漏不攝無漏。是故攝少分五界及四界少分攝六界。問曰。佛何故於十八界中說六界。答曰。為受化者。受化者。

於智境界。或有全愚。或有少分愚。若少分愚者。為說六界。全愚者。為說十八界。復次受佛化者。根有利鈍。利根者為說六界。鈍根者為說十八界。復次受佛化者。或有疾有遲。疾者為說六界。遲者為說十八界。復次受佛化者。或有慧略。或有慧廣。慧略者為說六界。慧廣者為說十八界。復次欲現門故。諸所有界。若色性。若非色性。若說五界當知已說色性諸界。若說識界當知已說無色性諸界。如色無色。可見不可見。有對無對。相應不相應。有依無依。有行無行。有勢用無勢用。有緣無緣。當知亦如是。復次六界。能生養長色無色身。生者是識界。養者是地水火風界。長者是虛空界。復次此六界。能取持增長色無色身。取者是識界。持者是地水火風界。增長者是虛空界。復次此六界。是衆生根本。是一切處衆生根本。是無始已來衆生根本。是有所分別無所分別衆生根本。衆生根本者。欲色界衆生從生有乃至死有。心。此六界無有無勢用時。一切處衆生根本者。無有欲色界衆生從生有乃至死有。此六界無有無勢用時。無始已來衆生根本。本衆生無有前際。無有衆生從生有乃至死有。此六界無有無勢用時。有所分別無所分別衆生根本者。衆生可分別。是男是女。如波羅奢佉時。此六界亦有勢用。衆生不可分別是男是女。如迦羅羅安浮陀卑尸。伽那時。此六界亦有勢用。尊者瞿沙說曰。緣此六界故。得入母胎。以如是等事故。於十八界中說六界。

云何地界。答曰。堅。總而言之。是堅而堅。無量差別。內法中堅異。外法中堅異。內法中堅異者。謂髮毛爪齒薄皮厚皮膚肉筋脈骨心脾腎肝肺生藏熱藏胃尿管手足等。諸身分堅。內法分中。足堅勝手堅。所以者何。足行衆生。若當以手行者。手所有筋血肉。則速壞盡。如是等。身分衆生。各自有勝。外法中。堅者。謂地山大石小石樹木。銅鐵白鐵鉛錫金銀琉璃。車乘馬瑙珂貝等諸物。如是等。內外諸堅。總為堅相。云何水界。答曰。濕。總而言之。是濕而濕。無量差別。內法濕異。外法濕異。內法中濕者。謂淚汗涕唾肪髓涎膽膿血腦。澹陰尿。如是等。內濕。外法中濕者。謂泉池河四海水輪等諸濕。如是等。內外諸濕。總名水界。云何火界。答曰。熱。總而言之。是熱而熱。無量差別。內法中熱異。外法中熱異。內法中熱者。能令此身煖。所食飲食能令消熟。使身安隱。若增長時。名為熱病。外法中熱者。如炬燈燭火燒城燒村。火摩尼珠。火藥草。火日光明。火諸天宮。光明火波多羅火等。或有說。內法火熱。非外法火。所以者何。若以飲食著銅鐵釜中。然於猛火。不能令其色變。如腹中食。如是等。內外法中熱。總名火界。云何風界。答曰。輕動。總而言之。是輕動而輕動。相。無量差別。內法中輕動異。外法中輕動異。內法中輕動者。如上向風下向風。住脇風。住腹風。住背風。如針刺風。如截刀風。曠風。出入息風。諸支節風等。外法中風者。如四方風。有塵風。無塵風。遍風。不遍風。小風。大風。毘嵐風。風輪等風。如是等。

①疑一取(是) ②地二能(是) ③二二三(是) ④門二問(是) ⑤若十(是) ⑥[心]一(是) ⑦本十(者) ⑧堅十(異) ⑨車乘馬瑙一神 ⑩瞿沙說 ⑪澹陰二痰 ⑫宮二官 ⑬瞋二眼

色法答曰。十入一入少分。十入者。眼耳鼻舌身。色聲香味觸。一入少分者。謂法入云何無色法。答曰。一入。謂意入。一入少分。謂法入。問曰。云何名色法。云何名無色法。答曰。若法名是色。體是色。是色。若法名非色。體非色。是無色。復次若法。體是四大。及四大造。是色。若法。體非四大。非四大造。是無色。復次若四大為因。體是造色者。是色。若法不以四大為因。體非四大造者。是無色。復次若法可生。生增長。是色。與此相違。是無色。尊者須蜜說曰。此中何者是色相。答曰。漸次來義是色相。漸次壞義是色相。有方所義是色相。障礙義是色相。如與怨俱。常有折減義。是色相。復次有三義。是色相。有可見有對。有色不可見有對。有色不可見無對。可取捨相義是色相。復次礙義是色相。問曰。過去未來色微塵。及無作色。應非色。答曰。彼亦是色。有色相故。過去色是已礙。未來色是當礙。微塵雖一不能礙。合聚則能礙。無作色。雖是無礙。所依是礙。何者是所依。謂四大是也。以四大礙故。彼亦有礙。譬如樹動影亦隨動。復次可除却義。是色相。復次有一相義是色相。眼色相異。乃至法入中色相異。尊者佛陀提婆說曰。障礙可壞義是色相。與此相違。是無色相。問曰。何故法入中色。十入中不說耶。答曰。若色經剎那。是微塵性者。在十入中。法入中色。雖經剎那。非微塵性。是故不說。復次若色是五識所依。五識所緣。是十入中說。法入中色。非五識所依。亦非五識所緣。是故不

說。問曰。為色界色多。欲界色多。答曰。若以入故。欲界色多。所以者何。欲界色是二入九入少分。色界色是九入少分。若以體分。色界色多。所以者何。如施設經所說。光音天身。轉大梵世天身。乃至阿迦膩吒天身。亦復轉大。二法可見法不可見法。問曰。何故作此論。答曰。為止人見顯智希有故。廣說如上。復有說者。所以作此論。為止併義者意故。或有說。一切法。皆是可見。如尊者瞿沙等。瞿沙作如是說。一切法。皆是可見。以是慧眼境界故。為止如是說者意。亦明法是不可見不可見故。而作此論云何可見法。答曰。一入。謂色入。云何不可見法。答曰。十一入。問曰。何故十色入中。說一。是可見。餘非可見耶。答曰。以色入是龜現見。廣說如十二入中。色入有二十種。謂長短方圓好不好高下青黃赤白光影明闇雲烟塵霧。復有說。二十一種者。二十種如前說。及虛空一種色。此二十種色。幾種有色無形。幾種有色有形。答曰。八種有色無形。謂青黃赤白光影明闇。餘十二種。有色有形。復有作四句者。或有色無形。或有形無色。乃至廣作四句。有色無形者。謂青黃赤白光影明闇。此八種是也。有形無色者。謂身有作色也。有色有形者。謂長短方圓好不好高下雲烟塵霧等。十二種是也。無色無形者。若色無有色。亦無有形是也。問曰。云何可見義。云何不可見義。尊者和須蜜說曰。可見在彼此故。是不可見義。不可見在彼此故。是不可見義。尊者佛陀

提婆說曰。是眼境界是眼所行處。是可見義。與此相違。是不可見義。問曰。水器中像。鏡中像。為是實為非實耶。譬喻者。說言非實。所以者何。鏡不入面中。面不入鏡中。云何是實。阿毘曇者。說言是實。所以者何。是色入為眼識所緣故。問曰。面不入鏡中。鏡不入面中。云何是實耶。答曰。說若干種生色為色入。不說一種生色。如緣月緣月光珠緣器故出。水如緣日緣日光珠緣。乾牛糞故出。火而有火用。非無其實。如因火。攢火燧人。工故出。火而有火用。非無其實。如是緣鏡緣面。生鏡中像。實有像用。能生眼識。非無其實。所聞響聲。為是實耶。為非實耶。譬喻者。說言非實。所以者何。如一剎那頃。聲生時。即彼剎那聲滅。何容得及生於響耶。阿毘曇者。說言是實。所以者何。是耳境界。為耳識所識故。問曰。如一剎那頃。聲生時。即彼剎那聲滅。何容得及生響耶。答曰。說若干種生聲為聲入。不說一種生聲。如緣舌齒唇。噓。咽。喉等。相觸故出聲。能生耳識。非無其實。彼亦如是。二法有對法。無對法。問曰。何故作此論。答曰。欲止人見顯智希有故。廣說如上。云何有對法。答曰。十色入。謂五內入。五外入。云何無對法。答曰。二入。謂意入。法入。有對有三種。一障礙有對。二境界有對。三緣有對。障礙有對者。如以手打手。更相障礙。以石打石。更相障礙。如是等。是名障礙有對。境界有對者。如眼對色等。是名境界有對。緣有對者。如心心數法各自受所緣。是名緣有對。三種有對。此

①蜜二密 ②大十(梵) ③說二論 ④見二現 ⑤水十(而有水用) ⑥乾二末 ⑦攢二攢 ⑧工二功 ⑨力 ⑩耶二也 ⑪噓二噓 ⑫咽二咽 ⑬此二足

中依障礙有對而作論問曰。爲障礙幾入耶。答曰。或有說者。障礙一入謂觸入。餘入非觸。復有說者。障礙五入。內入中障礙身入。外入中障礙色香味觸。若作是說。障礙五入者。以手打手時。以五打五。以手打石等時。以五打四。以石打石時。以四打四。以石打手時。以四打五。復有說者。障礙無色入。除聲入。若以手打眼時。豈非礙耶。評曰。應作是說。障礙十入。若不障礙聲入者。聲則無積聚義。施設經說。眼決定對色。色決定對眼。乃至意決定對法。法決定對意。彼尊者造論說境界有對。有眼水中不障礙陸地則障礙。如魚等有有限陸地不障礙水中則障礙。如人等。於水不障礙於陸不障礙。如頭跋陀人水生羅叉等。於水障礙於陸障礙者。除上爾所事。有眼夜不障礙晝則障礙。如鴉鳥等。晝不障礙夜障礙者。如人等晝夜不障礙者。如鹿馬狸猫等。晝夜障礙者。除上爾所事。此中何者是有對。何者

是無對。答曰。若積聚微塵是有對。若不積聚微塵是無對。復次種種異相是有對。無種種異相是無對。復次若覆蔽相是有對。無覆蔽相是無對。復次若積聚相是有對。無積聚相是無對。復次若有大形段是有對。無大形段是無對。復次若可除却是對。不可除却是無對。尊者波耆說曰。若別異相。是則障礙。若有障礙。是則積聚。若有積聚。則是形段。則可除却。若可除却。則是有對。與此相違。則是無對。尊者和須。蜜說曰。有別異相。有障礙相。是有對。無別異相。無障礙相。是無對。尊

者佛陀提婆說曰。可除却相是有對。不可除却相是無對。尊者瞿沙說曰。若是積聚微塵性有色。可施設長短。亦能出聲者。是有對。積聚微塵性。則說八入。有色可施設長短者。則說色入。亦能出聲者。則說聲入。與上相違。是無對。尊者婆摩勒說曰。合集多微塵聚。是有對。與此相違。是無對。

曰。爲止人見爲顯智希有。廣說如上。云何有爲法。答曰。十一入。一入少分。謂法入。云何無爲法。答曰。二入少分。謂法入。問曰。何故名有爲無爲法。耶。答曰。若法有生滅。有因。有有爲相。是有爲法。與此相違。是無爲法。復次若法屬因緣緣屬所作。屬和合者。是有爲法。與此相違。是無爲法。復次若法爲生所生。爲住所住。爲老所老。是有爲法。與此相違。是無爲法。復次若法行世。能聚果。能知緣。能所作。是有爲法。與此相違。是無爲法。復次若法墮世。在陰。是苦相續。有前後。有上中下。是有爲法。與此相違。是無爲法。尊者須蜜說曰。云何是有爲相。答曰。世相陰相。是有爲相。云何無爲相。答曰。非世相非陰相。是無爲相。尊者佛陀提婆說曰。若以衆生故。有生滅者。是有爲相。若不以衆生無生滅者。是無爲相。

三法過去法未來法現在法。云何過去法。答曰。過去五陰。云何未來法。答曰。未來五陰。云何現在法。答曰。現在五陰。問曰。何故作此論。答曰。爲止併義者意。故如譬喻者。作如是說。世是常。行是無常。行行世時。如物從器至器。猶如多人從一舍至一舍。諸行行世。亦復如是。爲止如是說者意。亦明行即是世世即是行。是故四大捷度。作如是說。世名何法。答曰。說行之言。復有說者。所以作論者。爲止言無過去未來於世中。愚說現在是無爲法者意。故亦明過去未來是實有相。若無過去未來者。則無成就不成就。如第二頭第三手。第十三

二法。有爲法無爲法。問曰。何故作此論。答曰。欲止人見顯智希有故。廣說如上。復有說者。所以作論者。爲止併義者意。故如摩訶僧祇部說。佛身一向無漏。問曰。彼何故作此說。答曰。彼依佛經。佛經說如來於世間生世間長。而出世間。不爲世間所染。彼作是說。佛若出世間。不爲世間所染。則知佛身一向無漏。爲止如是說者意。亦明佛身是有漏。若佛身是無漏者。無比女不應於佛身生愛心。餘廣說如雜捷度。云何有漏法。答曰。十入二入少分。謂意入法入。云何無漏法。答曰。二入少分。謂意入法入。問曰。何故名有漏法無漏法。耶。答曰。若法能增長。是有漏。與此相違。是無漏。復次若法能令有相續。能增長生老病死。是有漏。與此相違。是無漏。乃至廣說。若法墮苦集諦。是有漏。與此相違。是無漏。尊者須蜜說曰。云何有漏相。云何無漏相。答曰。從有漏生。是有漏相。不從有漏生。是無漏相。復次能生有漏相。是有漏。不能生有漏相。是無漏。尊者佛陀提婆說曰。若處所能生漏。是有漏。若處所不能生。漏是無漏相。

二法。有爲法無爲法。問曰。何故作此論。答

二法。有爲法無爲法。問曰。何故作此論。答

○無二九○ ○須二須○ ○卷第五十八終○ ○卷第五十九使捷度十門品之六首○ ○卷第五十九使捷度十門品第四之六首○ ○造號釋號譯號同異如卷第二十三 ○佛一○ ○聚二取○ ○第十(六陰第)○

入。無有成就不成就者。若無過去未來。則無成就不成就。若有成就不成就。則知必有過去未來是實有相。若言無過去未來。則應如是說。彼過去。若現在時造因。彼果當言在過去。當言在未來。當言在現在耶。若在過去者。應言有過去。不應言無過去。若言無過去。是事不然。若言在未來。應言有未來。不應言無未來。若言無未來。是事不然。若言在現在。則因果俱。若因果俱者。則違偈說。如說

作惡不即受 不如乳成酪
愚蹈灰底火 不即時燒足

若果不在過去未來現在則無果。若無果則無因。如第二頭第三手第六陰第十三入。若有因果。不在過去未來現在者。則是常。如無為法。若果在現在時。彼因當言在何處。為在過去。為在未來。為在現在。若在過去。亦如上說。若在未來。亦如上說。若在現在。亦如上說。若不在過去未來現在則無因。若無因則無果。如第二頭第三手第六陰第十三入。若有因果。不在三世者。則應是常。如無為法。復次若無過去未來者。則無出家法。如偈說

若說無過去 則無過去佛
若無過去佛 則無出家法

復次若無過去未來者。則常妄語。如偈說
若說無過去 而言有臘數

則是一切時 而常故妄語
復次若無過去未來者。則無現在。所以者何。以有過去未來故。施設現在。若無三世。則無有為法。若無有為法。亦無無為法。所以者何。

以有有為故。則施設無為。若無有為無為法。則無一切法。若無一切法。則無解脫出離。欲令無如是過故。說過去未來是實有相。是故為止他義欲顯己義。亦欲顯法相相應義故。而作此論。問曰。世體性是何。答曰。過去五陰。未來現在五陰。此是世體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名世。世是何義。答曰。去義是世義。問曰。諸行不來不去。若來者則不去。若去者則不來。若來者則來處應空。所以者何。從彼處來故。若去者則妨礙去處。所以者何。去至彼處故。是故尊者須。蜜說如是偈

諸行無來相 以諸刹那故
而無有去相 亦無有住者

若行無來去。云何有三世耶。答曰。以所作故。若諸行無所作。是名未來。若有所作。是名現在。若所作已滅。是名過去。若眼未見色。是未來見色。是現在見色。已滅是過去。問曰。若然者。現在彼分眼。云何有所作。答曰。以作相似因故。若不現在前。則不與未來者作相似因。若現在前。則與未來者作相似因。乃至意亦如是。如色未作障礙是未來。若作障礙是現在。若作障礙已滅是過去。如受未生是未來。受若生是現在。受若生已滅是過去。受乃至想行識亦如是。復次若法未取果與果是未來。若取果與果是現在。若取果與果已滅是過去。復次若法不取不與。依果報果。是未來。若取依果報果未與者是現在。若取依果報果已滅是過去。復次若法未與相似因一

切遍因是未來。若與是現在。若與已滅是過去。復次若法未生未滅是未來。若已生未滅是現在。若生已滅是過去。未生未壞。已生未壞。已生已壞。未生未離。已生未離。已生已離。說亦如是。復次若法未作三有為相是未來。若已作一今作二是現在。若已作三是過去。復次若法未作四緣是未來。若作四緣是現在。若作四緣已滅是過去。復次若法與三世作因是過去。若與二世作因是現在。若與一世作因是未來。復次若法是一世果是未來。若是一世果是現在。若是一世果是過去。復次以過去未來故。施設現在。不以現在施設現在。以無第四世故。以過去現在故。施設未來。不以未來施設未來。以無第四世故。以未來現在。施設過去。不以過去施設過去。以無第四世故。諸過去所有。色所有耶。答曰。或是過去所有非色所有。乃至廣作四句。過去所有非色所有者。過去四陰是色所有。非過去所有者。未來現在色所有。過去所有亦色所有者。謂過去去色所有。非過去所有非色所有者。謂未來現在四陰所有。及無為所有。如色作四句。乃至識亦作四句。如過去作五四句。未來現在。亦作五四句。是則有十五四句。若色所有。盡是方分所有耶。答曰。若是方分所有。盡是色所有。頗有色所有非方分所有耶。答曰。有。過去未來色。現在微塵。及無作色。若受所有。彼盡非方分所有耶。答曰。若受所有。盡非方分所有。頗非方。方分所有非受所有耶。答曰。有。想行識所有過去未來色。現在微塵。無作

●足二之● ○則是二是一則● ●[方]一●●

色及無爲法所有。如受想行識說亦如是。諸所有色。盡障礙耶。答曰。若障礙者。盡是色所有。頗有色非障礙耶。答曰。有過去未來色。現在微塵及無作色。諸所有受。盡覺耶。答曰。若覺盡是受。頗有受非覺耶。答曰。有過去未來受。如受。想行識說亦如是。問曰。爲已生未生。若已生。云何諸行非還轉耶。若未生。云何諸行非本無而有耶。答曰。應作是說。以事故已生。以事故未生。以事故已生。諸法本住自體相故。以事故未生。一切未來法。是未生法故。問曰。爲世生。爲世中生。若世生者。云何不一法生時一切法生。若一法生一切法生者。則壞世。若世中生者。云何非行異世耶。答曰。應作是說。以事故世生。以事故世中生。以事故世中生者。一刹那生時。即是事故。以事故世中生者。於未來世中。一刹那生。餘刹那未生。故。問曰。爲彼法生。即彼法滅耶。爲餘法生。餘法滅耶。若彼法生。即彼法滅者。未來法生。即未來法滅耶。若除法生。除法滅者。色生受滅耶。答曰。應作是說。以事故彼法生。即彼法滅。以事故餘法生。除法滅。以事故。彼法生。彼法滅者。色生即色滅。乃至識生。即識滅。以事故餘法生。餘法滅者。未來世生。現在世滅。問曰。爲自生。爲他分生。若自生者。云何非本無自分而有自分。本無物體而有物體。若他分生者。云何法不捨自體。答曰。應作是說。不自分生。亦不他分生。然如其法體。生已而滅。問曰。未來世滅。過去世增。云何不施設二世有增減

耶。尊者須蜜說曰。爲增計數過去未來世有增減不。若不增計數過去未來世。何故言過去未來世有增減耶。復次過去未來。無量無邊。不說有增減。譬如於海。取百千瓶水不減。投百千瓶水不增。以海水無量故。彼亦如是。復次未來法未滅。故不滅。過去法生已滅。故不增。復次未來法未生。不壞。故不滅。過去法生已壞。故不增。復次未來法未生。未離。故不滅。過去法生已離。故不增。尊者佛陀提婆說曰。若法行世者。何不說有增減。但法因緣和合故。生。因緣離散則滅。問曰。過去未來。爲有積聚。如現在牆壁樹木山巖等。爲散在處處。若積聚者。云何施主所作。不唐捐其功。云何不有方所。云何不是常。云何不現見。若散在處處者。云何說有過去。王名善見。城名拘奢提。講堂名善法。亦說。有毘婆尸佛。乃至迦葉佛。云何說有未來。城名鷄頭。未來佛名彌勒。云何施設宿命智。觀過去事。願智觀過去未來事。云何非本無。今已有。還無。答曰。應作是說。或有說者。積聚如現在牆壁等。問曰。若然者。云何非檀越所作。不唐捐其功。答曰。以他見故。若彼不修功不現。修功則現。問曰。云何不有方所。答曰。若有方所。復有何過。云何非是常耶。答曰。以有利那無常故。何故不現耶。答曰。若未爲五識身作境界。則不現。若已作則現。評曰。應作是說。現在者是積聚。未來過去者。散在處處。所以者何。在法數中。故問曰。若然者。云何說有過去。答曰。如說過去。如本現在時。云何說有未來。答曰。如

未來當現在時。云何宿命智願智境界過去。答曰。如其所更故。譬如會所更字。次第立句。以顯明義。如是彼次第念會所更事。生於。智見。云何願智境界未來。答曰。如過去現在。比相故。知。猶如農夫。以比相故。知。云何非本無。今有已。有還無。答曰。此則不能通。薩婆多中。有四種論師。一說事異。二說相異。三說時異。四說異。說事異者。言。法行世時。事異體不異。譬如金銀器。破已更作。雖形有異。其色不異。亦如乳成酪時。香味雖異。其色不異。如是未來法。至現在時。雖捨未來法。不捨其體。現在法。至過去時。雖捨現在法。不捨其體。說相異者。言。法行世時。過去法。有過去相。非不有。未來現在相。未來法。有未來相。非不有。過去現在相。現在法。有現在相。非不有。過去未來相。如人愛一女性。於餘女性。非不有愛。彼亦如是。說時異者。言。法行世時。以時異故。生於異名。非其體異。譬如算籌。初下名一。一轉名十。復轉名百。如是至千萬。算籌是一。轉其處故。有種種名。彼亦如是。如是說世者。名不燒亂。說以所作故。便有三世。若法未有所作。名未來。已作名現在。所作已滅。名過去。說異異者。言。法行世時。以前後故。生異名。猶如一女。亦名爲女。亦名爲母。以其有母故名女。以其有女故名母。如是法行世時。以前後生於異非時異體異。如是說者。則名燒亂。所以者何。一世則有三世。過去世有三世。過去前後二刹那。名過去未來。過去中刹那。名過去現在。未來世亦如是。問曰。何者是。薩婆多中四大論

●城二滅● ●智一知●

師。第一名達摩多羅。第二名瞿沙。第三名和須。第四名佛陀提婆。

三法。善法不善法無記法。云何善法。答曰。善五陰。及數滅。云何不善法。答曰。不善五陰。云何無記法。答曰。無記五陰。及虛空非數滅。何故名善不善無記。廣說如不善品中。

三法。欲界繫法色界繫法無色界繫法。云何欲界繫法。答曰。欲界繫五陰。云何色界繫法。答曰。色界繫五陰。云何無色界繫法。答曰。無色界繫四陰。何故名欲界繫色界繫無色界繫法。廣說如上。

三法。學法無學法非學非無學法。云何學法。答曰。學五陰。云何無學法。答曰。無學五陰。云何非學非無學法。答曰。有漏五陰及無為。何故名學無學非學非無學。答曰。以無貪道學斷貪故名學。以無貪道不學斷貪名無學。所以者何。先已學故。與此相違名非學非無學。無悲無癡。說亦如是。復次以無愛道學斷愛。彼非愛體是學。以無愛道學斷愛。則遮無學道體非愛者。則遮世俗道。以無愛道不學斷愛先已學故。體非是愛是無學。以無愛道不學斷愛。則遮道體非是愛則遮世俗道。與此相違是非學非無學。復次學斷煩惱學見真諦是學不學斷煩惱先已斷故不學。見真諦先已見故是無學。與此相違是非學非無學。復次學斷二求。謂欲求有求學斷二求。欲滿一求謂梵行。求是學不學。斷二求。先已斷故不學。滿一求先已滿故是無學。與此相違是非學非無學。復次若身中有煩惱得。亦有

無漏法可得。學斷煩惱是學。若身中無煩惱得。有無漏法可得。不學斷煩惱是無學。與此相違。是非學非無學。復次不離愛有無漏法可得。學斷愛是學。已離愛有無漏法可得。不學斷愛是非學。與此相違。是非學非無學。復次見道修道所攝是學。無學道所攝是非學。復次見道修道亦如是。復次若無漏法。若五種人身中可得者是學。五種人者。謂堅信堅法信解脫見到身證是學。若無漏法二種人身中可得是無學。二種人者。謂時解脫不時解脫。與此相違。是非學非無學。復次。若無漏法七人身中可得。是學。七人者。謂四向住三人者。若無漏法一人身中可得。是無學。一人者。謂住一果人。與此相違。是非學非無學。復次若無漏法十八人身中可得是學。若無漏法。無學人身中可得是無學。與此相違是非學非無學。三法。見道斷法修道斷法無斷法。云何見道斷法。答曰。若法堅信堅法行諸忍斷。彼是何耶。答曰。見道所斷八十八使及相應法。從彼起共生法。是名見道所斷法。云何修道斷法。答曰。若法學見迹。以修道斷彼是何耶。答曰。修道所斷十使。及彼相應法。從彼生身口業共生法。不染汚有漏法。是名修道斷法。云何不斷法。答曰。無漏法。問曰。何故名見道斷修道斷無斷法。答曰。廣說如上。

四諦。苦諦集諦滅諦道諦。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說四諦。苦諦乃至道諦。佛經雖說四諦。而不廣分別。佛經是此論所

為根本。今欲具分別故。而作此論。問曰。諦體性是何。答曰。阿毘曇者。作如是說。五取陰是苦諦。有漏因是集諦。數滅是滅諦。學無學法是道諦。譬喻者作如是說。名色是苦諦。煩惱業是集諦。煩惱業盡是滅諦。定慧是道諦。毘婆闍婆提作如是說。八苦相是苦是苦諦。餘有漏法是苦非苦諦。生後有愛是集諦。餘愛餘有漏法是集非集諦。生後有愛盡是滅是滅諦。餘愛餘有漏法盡是滅非滅諦。學八道。文是道是道諦。餘學法一切無學法。是道非道諦。若如所說。阿羅漢則成就二諦。謂苦諦滅諦。不成就集諦。所以者何。生後有愛是集諦。阿羅漢。生後有愛已斷故。不成就道諦。所以者何。彼說學八道。支是道諦。阿羅漢得果時已捨故。尊者瞿沙說曰。若是自身陰。若是他身陰。若是眾生數。若非眾生數。如是皆是苦是苦諦。行者見苦時。自見身苦。非他身苦。非非眾生數。所以者何。逼切義是苦義。他身苦非眾生數。不逼切故。以是事故。生智論作如是說。自身中苦逼切。非他身中苦。非不因自身他身然後逼切。若無自身者。他身及非眾生數苦。何所逼切。若自身中苦因。他身中眾生數非眾生數苦。是集是集諦。行者見集時。見自身苦。不見他身苦。因。不見非非眾生數苦。若自身中苦盡。若他身中苦盡。眾生數非眾生數苦盡。是滅是滅諦。行者見滅時。見自身中滅。非他身滅。非非眾生數滅。若自身對治。若他身。若眾生數。非眾生數對治。是道是道諦。行者見道時。見自

①名二言②③ ④進十(學)⑤⑥ ⑦已二以⑧⑨ ⑩若十(學)⑪⑫ ⑬者十(是)⑭⑮ ⑯無學一無漏⑰⑱⑲⑳ ㉑具二廣⑳㉒ ㉓支二枝 ㉔① ㉕② ㉖③ ㉗④ ㉘⑤ ㉙⑥ ㉚⑦ ㉛⑧ ㉜⑨ ㉝⑩ ㉞⑪ ㉟⑫ ㊱⑬ ㊲⑭ ㊳⑮ ㊴⑯ ㊵⑰ ㊶⑱ ㊷⑲ ㊸⑳ ㊹㉑ ㊺㉒ ㊻㉓ ㊼㉔ ㊽㉕ ㊾㉖ ㊿㉗

身對治道。非他身非非衆生數對治道。阿毘曇者。作如是說。若自身若他身若若衆生數非衆生數苦。行者見苦時。盡見如是苦。問曰。行者見苦時。見逼切苦。他身中苦。非衆生數苦。非逼切。行者見苦時。何故見耶。答曰。彼苦雖非逼切。而是所愚處。應生於智。而是猶豫處。應生決定。而是誹謗處。應生信敬。誰作是說。他身中苦。非衆生數苦。非逼切耶。若爲他人所打。非逼切耶。若空中木石。墮其身上。非逼切耶。若自身陰因。若他身陰因。若衆生數非衆生數陰因。盡是集是諦。行者見集時。盡見是集。若自身苦盡。若他身苦。若衆生數非衆生數苦盡。是滅是諦。行者見滅時。盡見是滅。若自身陰對治。若他身。若衆生數非衆生數陰對治。盡是道諦。行者見道時。盡見是道。此是諦體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名諦。諦是何義。答曰。實義是諦義。審義如義不顛倒義不異義。是諦義。問曰。若實義審義如義不顛倒義不異義。是諦義者。虛空非數滅亦是實義。乃至是不異義。何故不立諦耶。答曰。若法是苦。若因是苦。盡是苦對治者立諦。虛空非數滅。非苦非苦因。非苦盡。非苦對治。故不立諦。如苦陰病癱瘓過患重擔。說亦如是。復次若法如此岸彼岸河筏者立諦。虛空非數滅。非此岸彼岸河筏。故不立諦。復次若法是苦。是苦因。是道是道果者立諦。虛空非數滅。與上相違。故不立諦。復次若法有因有果。故立諦。虛空非數滅。無因果。故不立諦。復次虛空非數

滅。無漏。故非苦集諦。無記。故非滅諦。無爲。故非道諦。復次此法不行世故。不立三諦。無記。故不立滅諦。復次此法非陰。故不立三諦。非善。故不立滅諦。復次此法不與苦相隨。故不立三諦。非善。故不立滅諦。復次若法爲邪見。無漏。正見。所緣。立諦。此法非邪見。無漏。正見。所緣。故不立諦。復次若法爲無明明所緣者。立諦。此法不爲無明明所緣。故不立諦。復次若法體是煩惱。出要者立諦。此法非煩惱。出要。故不立諦。復次若法能生厭離。隨喜者立諦。此法不能生厭離。隨喜。故不立諦。問曰。若不顛倒義是諦義者。顛倒不應爲諦所攝。所以者何。體是顛倒。故答曰。以餘事故立顛倒。以餘事故。爲諦所攝。以三事故立顛倒。一者轉行。以猛利故。二者虛妄。三者一向是顛倒。以此法實有體性。故爲諦所攝。復次無常計常。無樂計樂。不淨計淨。無我計我。故是顛倒。此法有因有果。故爲諦所攝。問曰。若不異義。是諦義者。妄語。不應爲諦所攝。所以者何。妄語。欲誑他。作異語。故答曰。以餘事故立妄語。以餘事故。爲諦所攝。以異語誑他。故立妄語。有實體性。故爲諦所攝。復次不見言見。不聞言聞。不知言知。不識言識。故立妄語。此法有因有果。故爲諦所攝。是故實義是諦義。乃至廣說。

問曰。云何立四諦。爲以體性。爲以因果。爲以見時。若以體性。則有三諦。所以者何。離苦無集。離集無苦。滅是第二諦。道是第三諦。若以因果。應有五諦。苦亦可言因。亦可言果。道亦可言因。亦可言果。滅是第五。若以見時。應有八諦。行者先見欲界苦。後見色無色界。先見欲界諸行因緣。後見色無色界。先見欲界諸行滅。後見色無色界。先見欲界諸行對治道。後見色無色界。答曰。應作是說。以因果。故立諦。問曰。若然者。應有五諦。答曰。以總說。故無五諦。道。若因若果。總名苦滅道。總名盡生老病死道。問曰。若若因若果。亦是苦集道。亦是生老病死道。答曰。以所行異故。若有果義者行四行。謂苦空無常無我。若有因義者行四行。謂因集有緣。道亦有因義。亦有果。果義者。盡行一。種四行。謂道如迹乘。復次以三事故立四諦。一以體性。二以因果。三以誹謗生信。以體性者。四諦體性。是有漏無漏。以因果者。有漏體性。有因有果。有果者是苦諦。有因者是集諦。無漏體性。亦有因有果。亦有果無因。有因有果者是道諦。有果無因者是滅諦。問曰。何故有漏體性。有果者立一諦。有因者立一諦。無漏體性。有因有果。立一諦耶。答曰。以誹謗生信。故有漏體性。生二種誹謗言。無苦無集。生二種信。言有苦集道。若因若果。生一種誹謗。言無有道。生一種信。言有道。以此三事故立四諦。復次以見諦時。故立四真諦。問曰。若然者。應有八諦。答曰。若欲界苦。若色無色界苦。見苦時。總是苦等四行。若欲界行因。色無色界行因。見集時。總是集等四行。若欲界行滅。色無色界行滅。見滅時。總是滅等四行。若欲界行對治。色無色界行對治。見道時。總是道等四行。是故見諦時

○若二苦盡 ○以十(者阿) ○[果]一 ○種二謂 ○見二是

總行故。唯有四諦。無八諦。

問曰。苦集滅道有何相。尊者波奢說曰。遍切相是苦相。有相是集相。寂靜相是滅相。乘相是道相。尊者須蜜說曰。轉相是苦相。能轉相是集相。止相是滅相。住轉相是道相。復次轉有身是苦相。能轉有身是集相。轉有身盡是滅相。往轉有身是道相。尊者佛陀提婆說曰。物體作諦。名五取陰。體如熱鐵。久共火合。與火同色。三苦與五取陰合。亦復如是。是苦諦苦。從煩惱生業。能迴轉。是集諦。煩惱業壞。更不受有。是滅諦。修戒修定。以慧觀生滅。能斷有因。是道諦。佛。經說偈

一諦無有二 衆生於此疑

種種說諸諦 不說有沙門

問曰。有四諦。何故說一諦。尊者波奢說曰。一諦者謂苦諦。無第二苦諦。一集諦無第二集諦。一滅諦無第二滅諦。一道諦無第二道諦。復次一諦者謂滅諦。爲對種種解脫故。外道計種種解脫。無身解脫。無邊意解脫。淨聚解脫。世。俗解脫。無身解脫。無邊意解脫。世。俗解脫。無身解脫。無邊意解脫。淨聚解脫。淨聚解脫。無所有處。世。俗解脫。非想非非想處。佛作是說。此是受身處。非是解脫。真解脫者。唯一滅盡涅槃。復次一諦者謂道諦。爲對種種道故。外道計多種道。謂不食道。臥灰上道。事日月道。食風食果道。裸形道。臥刺棘道。著弊衣道。佛作是說。此非是道。此是邪道。非善人所依道。真實道者。謂八聖道。復次一諦者謂滅諦。以能盡身苦故。一諦謂道諦。能盡惡道苦故

佛經說二諦。謂世諦第一義諦。問曰。云何是世諦。云何是第一義諦耶。答曰。或有說者。二諦是世諦。謂苦諦。集諦。所以者何。世法在此二諦中故。如男女行來現在所作事。悉在彼中。二諦是第一義諦。謂滅諦。道諦。復有說者。三諦是世諦。謂苦集滅諦。所以者何。滅諦佛說是假名彼岸城故。一諦是第一義諦。謂道諦。復有說者。道諦亦是世諦。所以者何。佛說道諦亦是假名。如沙門婆羅門。評曰。應作是說。四諦亦是世諦。亦是第一義諦。苦集諦是世諦者。如先所說。第一義諦者。如苦空無常無我。因集有緣是也。滅諦說是世諦者。佛說滅諦。如城如園林。第一義諦者。盡止妙離。道諦是世諦者。佛說道諦如。筏如石如山如華如水如梯如樓觀。第一義諦者。道如述乘。若作是說。四諦盡是世諦。第一義諦者。則一切法。盡有世諦第一義諦。世諦攝十八界十二入五陰。第一義諦亦攝十八界十二入五陰。問曰。世諦中。爲有第一義諦不。若有第一義諦者。便是第一義諦。無有世諦若無者。亦是一諦。謂第一義諦。答曰。應作是說。世諦中。有第一義諦。若世諦中。無第一義諦者。如來說二諦。則不如其實。以如來說二諦。如其實故。世諦中。應有第一義諦。問曰。若然者。便有一諦。謂第一義諦。答曰。如是。唯有一諦。謂第一義諦。問曰。若然者。佛何故說二諦。答曰。以事故。不以體分。唯有一諦。謂第一義諦。以事故。而有差別。若以事故。名爲世諦。不以此事名第一義諦。若以事故。名第一義諦。不以此

此事名爲世諦。猶如一受。有四緣性。謂因次第境界威勢緣。若。因事故。名爲因緣。不以此事故。乃至名威勢緣。若以事故。名威勢緣。不以此事故。乃至名因緣。又一受有六因性。謂相應共生相似一切遍報所作因。若以事故。名相應因。不以此事。乃至名所作因。若以事故。名所作因。不以此事。乃至名相應因。彼亦如是。問曰。世諦第一義諦。爲可得施設別體不。雜合耶。答曰。可得尊者須蜜說曰。名是世諦。名所顯義。是第一義諦。復次隨順世間所說名。是世諦。隨順賢聖所說名。是第一義諦。尊者佛陀提婆說曰。若說衆生。如其所念相應之言。是名世諦。若說緣起等法。如其所念相應之言。是名第一義諦。尊者佛陀羅達多說曰。世諦體相。是名苦集諦少分

佛經說二諦。謂世諦第一義諦。問曰。云何是世諦。云何是第一義諦耶。答曰。或有說者。二諦是世諦。謂苦諦。集諦。所以者何。世法在此二諦中故。如男女行來現在所作事。悉在彼中。二諦是第一義諦。謂滅諦。道諦。復有說者。三諦是世諦。謂苦集滅諦。所以者何。滅諦佛說是假名彼岸城故。一諦是第一義諦。謂道諦。復有說者。道諦亦是世諦。所以者何。佛說道諦亦是假名。如沙門婆羅門。評曰。應作是說。四諦亦是世諦。亦是第一義諦。苦集諦是世諦者。如先所說。第一義諦者。如苦空無常無我。因集有緣是也。滅諦說是世諦者。佛說滅諦。如城如園林。第一義諦者。盡止妙離。道諦是世諦者。佛說道諦如。筏如石如山如華如水如梯如樓觀。第一義諦者。道如述乘。若作是說。四諦盡是世諦。第一義諦者。則一切法。盡有世諦第一義諦。世諦攝十八界十二入五陰。第一義諦亦攝十八界十二入五陰。問曰。世諦中。爲有第一義諦不。若有第一義諦者。便是第一義諦。無有世諦若無者。亦是一諦。謂第一義諦。答曰。應作是說。世諦中。有第一義諦。若世諦中。無第一義諦者。如來說二諦。則不如其實。以如來說二諦。如其實故。世諦中。應有第一義諦。問曰。若然者。便有一諦。謂第一義諦。答曰。如是。唯有一諦。謂第一義諦。問曰。若然者。佛何故說二諦。答曰。以事故。不以體分。唯有一諦。謂第一義諦。以事故。而有差別。若以事故。名爲世諦。不以此事名第一義諦。若以事故。名第一義諦。不以此

佛經說二諦。謂世諦第一義諦。問曰。云何是世諦。云何是第一義諦耶。答曰。或有說者。二諦是世諦。謂苦諦。集諦。所以者何。世法在此二諦中故。如男女行來現在所作事。悉在彼中。二諦是第一義諦。謂滅諦。道諦。復有說者。三諦是世諦。謂苦集滅諦。所以者何。滅諦佛說是假名彼岸城故。一諦是第一義諦。謂道諦。復有說者。道諦亦是世諦。所以者何。佛說道諦亦是假名。如沙門婆羅門。評曰。應作是說。四諦亦是世諦。亦是第一義諦。苦集諦是世諦者。如先所說。第一義諦者。如苦空無常無我。因集有緣是也。滅諦說是世諦者。佛說滅諦。如城如園林。第一義諦者。盡止妙離。道諦是世諦者。佛說道諦如。筏如石如山如華如水如梯如樓觀。第一義諦者。道如述乘。若作是說。四諦盡是世諦。第一義諦者。則一切法。盡有世諦第一義諦。世諦攝十八界十二入五陰。第一義諦亦攝十八界十二入五陰。問曰。世諦中。爲有第一義諦不。若有第一義諦者。便是第一義諦。無有世諦若無者。亦是一諦。謂第一義諦。答曰。應作是說。世諦中。有第一義諦。若世諦中。無第一義諦者。如來說二諦。則不如其實。以如來說二諦。如其實故。世諦中。應有第一義諦。問曰。若然者。便有一諦。謂第一義諦。答曰。如是。唯有一諦。謂第一義諦。問曰。若然者。佛何故說二諦。答曰。以事故。不以體分。唯有一諦。謂第一義諦。以事故。而有差別。若以事故。名爲世諦。不以此事名第一義諦。若以事故。名第一義諦。不以此

◎卷第五十九終◎◎卷第六十使健度十門品之七首◎◎卷第六十使健度十門品第四之七首◎造號釋號譯號同異如卷第二十三◎往二住◎◎經說偈二說偈◎◎身二有◎◎俗二捨◎◎筏二根◎◎因十以◎

自言是婆羅門。而逼切他。所以者何。為祠祀故。殺牛羊水牛及餘種種衆生。佛作是說。若逼切衆生。不名婆羅門。實義婆羅門者。謂不惱害一切衆生。外道自言。是婆羅門。為天女色故。而修梵行。佛作是說。婆羅門者。不應為天女色。而修梵行。實義婆羅門。不為女色。不為居家。無所染著。外道自言。是婆羅門。而貪著斷常見。佛作是說。婆羅門者。不應貪著斷常。若知集法即是滅法。是實義婆羅門。復次此經說。三解脱門方便。不害一切衆生。是空解脱門方便。我非彼所有。彼非我所有。是說無作解脱門方便。所有集法悉是滅法。是說無相解脱門方便。如三解脱門。三三昧。三種身。三學。三修。三淨說亦如是。

佛經說比丘當知。觀察四方者是四諦。問曰。世尊何故說方名諦。答曰。為教化故。受化者應聞諦以方名說。然後悟解。如餘經中說。佛為受化者。說解脱門名方。受化者應聞解脱門以方名說。佛便以方名說解脱門。彼亦如是。問曰。四諦四方。有何相似。答曰。俱是法。方亦有四。諦亦有四。問曰。何方與何諦相似。答曰。東方當知如苦諦。西方如集諦。如行者見諦時。前見苦諦。後見集諦。復有說者。東方是集諦。西方是苦諦。是因果法。前因後果故。南方如道諦。所以者何。道諦是福田故。北方如滅諦。滅諦無有上故。

佛經說慧根當知在四諦中。問曰。為以攝故言在中。為以緣故言在中。若以攝故言在中者。慧根不攝四諦。四諦不攝慧根。若以緣

者。慧能緣一切法。答曰。應作是說。不以攝故。亦不以緣故。言在中。以慧根分別諦時。勢用最勝。說言在中。如信根於四不壞。信勢用勝故。佛作是說。信根當知在四不壞中。如精進根。於四正斷中。勢用勝故。佛作是說。精進根當知在四正斷中。念根於四念處。勢用勝故。佛作是說。念根當知在四念處中。定根於四禪中。勢用勝故。佛作是說。定根當知在四禪中。復有說者。以緣故作如是說。問曰。若然者。慧緣一切法。答曰。此中說緣有漏無漏。慧緣虛空非數滅慧。一向有漏故說緣。尊者舍利弗作如是言。諸長老當知。所有一切善法。皆從四諦生。四諦所攝。在四諦中。問曰。如三諦是有為能生善法可爾。滅諦是無為。云何能生善法耶。答曰。雖不能生善法。能攝善法。復次生有二種。一有善法。二生善法。滅諦雖不生善法。而是有善法。復次此中說得生。滅諦雖不生善法。而滅諦得善法生。尊者波耆說曰。此中說忍及。知緣在緣中。苦忍苦智。道諦所攝。緣在苦諦。集忍集智。道諦所攝。緣在集諦。滅忍滅智。道諦所攝。緣在滅諦。道忍道智。道諦所攝。緣在道諦。

佛經說如來等正覺。隨宜說法。皆為拔濟衆生令。在勝處。亦為分別顯現解說四聖諦法。云何為四。謂苦聖諦。苦集聖諦。苦滅聖諦。苦滅道聖諦。問曰。何故言拔濟。答曰。自拔濟非以他修道故名拔濟。何以知之。答曰。經說有婆羅門。名度得迦。往詣佛所。而說是偈。今見婆羅門。現行在人間。

我今禮遍眼。願脫我狐疑。問曰。此偈為說何事。答曰。彼婆羅門。其性懶墮。欲令他人修道斷煩惱。是故向佛。作如是愛語。汝實是天。而生人間。願見矜愍。汝為我故。而修聖道。斷我煩惱。佛即說此偈。我無自在力。能斷汝狐疑。汝見勝法時。乃得度大流。

佛作是說。婆羅門當知。有他人修道自斷煩惱。若當他人修道自斷煩惱者。我初在菩提樹下修道之時。一切衆生煩惱應斷。所以者何。我有大悲心。普及一切衆生故。但他人修道。自斷煩惱。無有是事。若自修道。自斷煩惱。可有是事。猶如他人服藥自除其病。無有是事。若自服藥。自除其病。斯有是事。是故自拔濟。名為拔濟。不以他修道故。而得拔濟。復次言拔濟者。如高山。峻谷是可畏處。凡夫法亦如是。平坦地無可畏處。聖法亦如是。能拔凡夫高山。峻谷可畏之處。安置聖法平坦之地。無可畏處。故言拔濟。復次等入正法中。故言拔濟等者是世第一法。入正法中者。是苦法忍。問曰。何故說諦名拔濟。說陰界入。不名拔濟耶。答曰。以觀諦時。得正決定。能得果。離欲盡漏。復次說諦是勝說。亦為勝受化者說。以近生法。身近得諦故說。界為初行者說。入為已行者說。陰為久行者。

問曰。言聖諦者。為以善聖故言聖。為以無漏聖故言聖。為以聖人成就故言聖。若以善聖言聖諦者。一是善謂滅道。二有二種謂苦集。若以無漏聖言聖諦者。二諦是有漏。二諦是

緣十(故言在中) 知二智 在二得 流二海 (無)十有 一除 者十(說)

無漏。若以聖人成就言聖諦者。非聖亦成就如說誰成。就苦集諦。答曰。一切眾生。答曰。應作是說。聖人成就故言聖。問曰。若然者。非聖亦成就諦。答曰。言成就者。成就四諦。凡夫雖成就諦。不具四諦。問曰。聖人亦有不具成就四諦者。如具縛人。入見道。苦法忍現。在前。答曰。以時少故。若苦法智生具成就四。復次聖人中有具成就四諦者。凡夫中乃至無有一人具成就四諦者。尊者僧伽婆修說曰。佛在世時。凡夫聖人。共論此事。凡夫人作如是說。諸行是常樂我淨。聖人作如是說。諸行是無常苦空無我。凡夫人言我所說是實。聖人亦言我所說是實。以是事故。共詣佛所。佛作是言。聖所說是實。所以者何。聖諦是聖人所知見法。是故名聖諦。復次若身中有聖法印者。彼所有諦名為聖諦。復次若得聖戒。名為聖人。彼所有諦。名為聖諦。復次若得聖慧。名為聖人。彼所有諦。名為聖諦。復次若得聖舍摩他毘婆舍那。名為聖人。廣說如上。復次若得聖財。名為聖人。廣說如上。復次若得聖胎名為聖人。廣說如上。

云何苦聖諦佛經說生苦。老苦。病苦。死苦。不愛會苦。愛別離苦。求不得苦。略說五取陰是苦。生相故是生苦。住變異相故是老苦。逼切相故是病苦。盡相故是死苦。不愛相共會故是不愛會苦。相別離故是愛別離苦。不得自在故是求不得苦。如是等諸苦。皆是有漏五取陰所攝。是故略而言之五取陰苦。復次

生是一切苦。立足處一切苦。因故名生苦。壞可愛盛年故是老苦。壞可愛無病故是病苦。壞可愛命故是死苦。共不可愛境界會故是不愛會苦。與可愛境界別離故是愛別離苦。一切意所念不果故是求不得苦。如是等諸苦。是有漏取陰所攝。故作是說。略說五取陰是苦。問曰。五取陰是廣苦。何故言略說五取陰是苦。答曰。五取陰廣亦是苦。略亦是苦。住五取陰。多諸過患。說不可盡。是故佛說略而言之。五取陰是苦。猶如有人。多諸過惡。人作是言。此人過惡。不可具說。略而言之。多過惡人。彼亦如是。問曰。陰中為有樂不耶。若陰中有樂者。何以不言樂諦。但言苦諦。若無者。佛經云何通。如說摩訶男。若色一向是苦無樂。不能生喜樂意。眾生則更無餘因。能令眾生起於愛心。摩訶男色非一向苦故。眾生於中起染愛心。乃至識亦如是。又如說三受各有定體。不相雜合。謂苦樂不苦不樂。又如說以所須具。能修於道。以道能到涅槃。以道樂能得涅槃。答曰。應作是說。陰中有樂。而樂少苦多。樂法少。苦法多。以樂少故。說在苦分中。譬如毒瓶。一。滯蜜墮中。不以一。滯蜜故名為蜜瓶。以毒多故名為毒瓶。彼亦如是。復有說者。陰中無樂。以是事故名為苦諦。不名樂諦。

問曰。若然者。佛經云何通。答曰。受上苦時於中苦作樂想。受中苦時。於下苦作樂想。受地獄苦時。以畜生苦作樂想。受畜生苦時。以餓鬼苦作樂想。受餓鬼苦時。以人苦作樂想。受人苦時。以天苦作樂想。復有說者。如世人所言。陰中有樂。世人。飢得飲食。寒時得溫。疲時得乘熱時得涼。作如是說。我今得樂。如聖人言。陰中無樂。聖人觀阿鼻地獄陰界入。如熱鐵丸。乃至觀有頂陰界入。亦如熱鐵丸。云何苦集聖諦。佛經說生後有愛及喜心俱愛處處喜愛。是名苦集聖諦。問曰。世尊何故捨諸有漏法。但說愛是集諦。非餘法耶。答曰。施設集諦。愛增益勢用勝。是故佛唯說愛是集諦。非餘有漏法。如思於造作法增益勢用勝故。佛於一切相應不相應法中。說思是行陰。彼亦如是。復次以愛是過去未來現在苦因。根本出處起處因故。復次以愛數數生苦勢用勝故。如偈說
如樹不拔根 雖斷而復生
不拔愛使本 數數還受苦

①就十(者)②[答曰]一③道十(時)④不不可⑤* ⑥別離二難別⑦(是)十多⑧ ⑨若二苦⑩情二滴⑪* ⑫十(滿)⑬愛二受⑭虫二蟲⑮

木以水潤故而不萎枯。彼亦如是。復次以愛潤故。後有牙生。以愛故父母精氣。在母胎中。為毘闍婆所依。復次如愛行所依所緣。故而生。餘煩惱行所依所緣亦生。如大魚去處。小魚亦隨。彼亦如是。以是事故。說愛。眾生煩惱王。復次若身中有愛著。餘煩惱亦著。如衣膩塵垢亦著。彼亦如是。復次若身中有愛水。諸煩惱則樂著此身。譬如有水處魚等水性則生樂著。彼亦如是。復次愛。如鹹水難可止足。猶如渴人飲於鹹水。飲已轉渴。如是未離欲眾生。得於境界。轉生渴愛。復次以愛故。別異眾生能令合會。如以水故能令別異土沙而得合會。彼亦如是。復次以愛故。能令眾生善根不熟。亦作潤濕。令自身相著。譬如蠅著。酥油蜜濕草之上。則不能飛騰虛空。彼亦如是。復次愛因時所行異。果時所行異。因時所行如親愛。果時所行如怨家。猶如商人入海與羅利交。初所行異。後所行異。初作是言。善來賢善。善來大仙。願為我等作主。乃至廣說。後若交會。得其意時。擲鐵城中。食其血肉。唯有餘骨。愛亦如是。因時所行猶如親愛。果時所行猶如怨家。眾生以愛故。造諸惡業。墮惡趣中。受無量苦。復次。愛說是受生因。如說業是取生因。愛是受生因。復次愛難斷難却。此中應說喻。如有人。為二羅利所持。一作母形。二作怨形。作母形者難除難却。作怨形者易除易却。如是未離欲眾生。為一結所因。謂悲結。愛結。悲結。易斷易却。愛結難斷難却。復次以愛結數數微細行。愛行

時微細。難可識知。譬如旋師所用利器。有所截斷。微細難覺。彼亦如是。復次以愛在三有枝中。初生是愛。增廣是取。前次第滅是無明。復次佛經說愛是前導。如說阿難當知。緣愛故有追求。緣追求故得。緣得故分處。緣分處故生。緣生故貪著。緣貪著故生慳。緣慳故受不捨。緣受不捨故生守護。緣守護持刀執杖。生種種譟詬。欺誑妄語。生餘種種惡不善法。復次以愛於八處染汚。定勢用勝故。如說味初禪任時亦味。起時亦味。乃至非想非非想處亦如是。復次佛說愛如縛。如偈說愛繫縛眾生。如繩繫飛鳥。乃至廣說。復次佛說愛如網。如說我因說愛如網。如枝。復次佛說愛是廣。如說廣無過於愛。渴復次。愛說如河。如說比丘當知。三河者謂欲愛。色愛無色愛。復次愛難斷難離。復次愛多諸過患。復次以愛故。有界差別地差別種差別。能生一切煩惱。以如是等事故。佛經說愛是集諦。非餘有漏法。云何苦滅聖諦。答曰。佛經說生後有愛。及喜心俱愛。處處喜愛。已吐已捨盡無餘。是名苦滅聖諦。問曰。集亦滅。何故但說苦滅聖諦。不說集滅聖諦。答曰。應說集滅聖諦。亦應說苦滅聖諦。而不說者。當知此說有餘。復次若說苦滅。當知已說集滅。所以者何。苦外更無有集。若說苦滅。當知已說集滅。復次若說苦滅。受化者。則生喜心。言是滅妙好能滅此弊惡。苦集法不爾。以如是等事故。但說苦滅。不說集滅。

云何苦滅道聖諦。答曰。佛經說八聖道是也。正見乃至正定。問曰。此亦是集滅道不。但是苦滅道。何故但說苦滅道。不說集滅道耶。答曰。如說苦滅道聖諦。亦應說集滅道聖諦。而不說者。當知此說有餘。復次若說苦滅道聖諦。當知已說集滅道聖諦。所以者何。苦外更無集故。復次若說苦滅道聖諦。受化者則生喜心。言是道妙好能滅此弊惡。苦集法不爾。復次欲現道力令苦不生。故設有人問道。汝能令因非因果非果耶。彼當答言不能。但能令生苦因緣者不生。復次為止誹謗道故。若人年七歲八歲。得阿羅漢道。後壽百年。於其中間身受無量諸苦。如是四百四病等世人見之。而作是言。此人無道。為無所益。受苦若此。佛作是言。道已於此人。大有所作。此人若身壞命終。更不受諸苦。以如是等事故。說苦滅道聖諦。不說集滅道聖諦。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十

①牙二芽 ②衆生二是衆 ③如一於 ④得二復 ⑤酥二蘇 ⑥愛說二說愛 ⑦(猶)十如 ⑧怨十(家) ⑨作母二母作 ⑩覺二滅 ⑪枝二支 ⑫備二備 ⑬[說]一 ⑭滅二諦 ⑮若二苦 ⑯次真 不分卷及品

阿毘曇毘婆沙論卷第四十一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

使健度十門品第四之五

問曰。世尊何故先說苦諦。乃至後說道諦。答曰。欲令文義隨順。故若先說苦諦。後乃至說道諦。則文義隨順。復次若如是說諦。則說者亦易。受者亦易。復次此諸法。或以起處得名。或以隨義得名。或以見時得名。以起處得名者。如念處禪無色定等行者。先修身念處。佛先說身念處。後乃至說法念處。禪無色定。廣說亦爾。隨義得名者。如正斷神足根力覺道等。見時得名者。如四聖諦行者。先見苦諦。佛先說苦諦。後乃至見道諦。佛後說道諦。問曰。此中因論生論。行者何故先見苦諦。後乃至見道諦。答曰。以龜細故。四諦中苦諦最難。以苦龜故。行者先見三諦。細故行者後見。如索迦人蛇摩那人兜佉羅人學射之時。先射簸箕草人濕泥團等。箭矢無不著。後漸更學。乃至射一毛。彼亦如是。問曰。應先因後果。何故行者先見苦果。後見集因。答曰。先見苦。後斷集。是隨順法。云何知苦隨順斷集。耶答曰。如樹先斷其枝。後拔根易。如生死樹。先知苦枝。後拔集根則易。問曰。道在前滅在後。何故行者先證滅。後修道。答曰。先滅

修道。是則隨順。若當先修道後證滅者。不知此道為是誰道。若先證滅後修道者。乃知此道是滅道。如人問他示我道處。他人問言。為問至何處道。答言欲至城道。他人答言。此道即是。如彼以城示道。則得隨順。此亦如是。以滅示道。則得隨順。復次行者先以道斷緣三諦。後起緣道現在前斷緣道。如人於他面無疑。於自面有疑。若以明鏡。照自面像。疑心則除。彼亦如是。復次緣苦愚持緣集愚。緣集愚持緣滅愚。緣滅愚持緣道愚。不得不除緣苦愚。除緣集愚。不得不除緣集愚。除緣道愚。如持生亦如是。復次觀苦觀能生觀集觀。觀集觀能生觀滅觀。觀滅觀能生觀道觀。不可不生觀苦觀。乃至能生觀道觀。復次觀苦觀是集觀。因。是根本是出處是所作。是緣是起處。集觀是滅觀。因。等滅觀是道觀。因。不可不生觀苦觀。乃至生觀道觀。復次觀苦觀是觀集觀。方便是門是所依。乃至滅觀是觀道觀。方便是門是所依。餘廣說如上。復次觀苦觀是觀集觀所依處立足處。餘廣說如上。尊者波奢說曰。行者先知五取陰如癩。後求其因知集是因。何處能除此因。滅處能除。唯能滅耶。道能滅之。如身體細軟之人。色生癩瘡受大苦惱。作如是念。此瘡何由而生。知從風冷熱生。何處能令無此。謂無病處。誰能除此。謂若塗若熟若破。彼亦如是。復次行者知此五取陰是過患。誰是其因。集是其因。何處得除。滅處

得除。誰能除之。道能除之。如人有子。作賊行惡。親近惡友。彼人作是念。誰令我子。作如是惡。知親惡友。誰能除制。知是善友。彼亦如是。彼見苦時。先見欲界苦。後見色無色界苦。問曰。何故行者先見欲界苦。後見色無色界苦。耶。答曰。以龜細故。欲界苦。色無色界苦。細。行者先見欲界苦。後見色無色界苦。問曰。若然者。色界苦。無色界苦。何故一時見耶。答曰。以與此身俱不俱故。欲界苦與身俱。色無色界苦。雖有龜細而不與此身俱。故一時見。復次欲界苦。屬我是有。色無色界苦。不屬我不。是我有。是故俱見。復次欲界苦。苦痛逼切。如負重擔。是以先見色無色界苦。非苦痛逼切。如重擔。是以俱見。復次欲界苦。是近故先見。色無色界苦。是遠故俱見。如近遠俱不俱。此身他身說亦如是。問曰。行者於色無色界苦為現見不。答曰。現見有二種。一離欲現見。二自身現見。行者於欲界苦有二種現見。謂自身現見。離欲現見。於色無色界苦。雖有離欲現見。而無自身現見。譬如賈客。有財兩擔。一自身擔。二使他擔。於自身擔者。有二種現見。一知財現見。二知重現見。於他擔者。有一種現見。謂知財現見。復次。見欲界苦。是善不善無記。是以先見。色無色界苦。是善無記。是故俱見。復次行者成就欲界凡夫性。是以先見。不成就色無色界凡夫性。是故俱見。復次誹謗時。先誹無欲界苦。是以先於欲界苦生信。後誹謗色無

①前頁 ②不分卷及品 ③滅二證滅後 ④是一見 ⑤如十(負) ⑥重一輕 ⑦[見]一

色界苦。是以後生信。

問曰。見諦時。為別相見。為總相見。若以別相者。別相有無量。見諦則無竟已。如地有無量別相。若觀地別相。不能令盡。而便命終。若以總相者。云何不名一時見諦。別相諸法復云何知。答曰。應作是說。以總相見諦。問曰。若然者。云何不名一時見諦。答曰。以總相者。於一諦總相。非四諦總相。為少分相故。分別無量。總相別相。如地有總相。以三大故。地是別相。一切地。皆是堅相是總相。四大是色陰。色陰有總相別相。別相者以四陰故。總相者一切色。皆是障礙。五取陰是苦諦。苦諦有別相總相。別相者以三諦故。總相者一切苦。皆是逼切相。以如是總相見諦。以無常苦空無我行見諦。以苦諦故是總相。以餘三諦故是別相。以諦故是別相。以陰故是總相。復次一諦非四諦。四諦非一諦。是故不一時見諦。復次一行非四行。四行非一行。是故不一時見諦。復次以覺所覺分明了了故。根根義所境界境界。亦分明了了故。不一時見諦。復次以有漏無漏別故。不一時見諦。復次以有為無為差別故。不一時見諦。復次苦諦不一時見。先見欲界苦。後見色無色界苦。先見欲界諸行因。後見色無色界諸行因。先見欲界諸行滅。後見色無色界諸行滅。先見欲界對治道。後見色無色界對治道。是故非一時見諦。云何知別相法耶。答曰。見諦時不知別相法。一切別相。智所應知者。盡以總相智知。復次若緣諦別相無知。若緣諦總相

無知。一時斷故。是故總相見諦時。亦知別相所知。

佛經說未知苦聖諦。當知阿毘曇說。云何智所知法。答曰。一切法。問曰。一切諸法。是智所知。如阿毘曇說。佛經何故但說知苦耶。答曰。佛經說知苦是出世間智。阿毘曇說。知一切法。是世間出世間智。如世間出世間。有漏無漏縛解繫不繫。當知亦如是。復次佛經說。知苦是近智。阿毘曇說。知一切法。是近智遠智。如近遠俱不俱。當知亦如是。復次以總相知故。佛說知苦。以總相別相知故。阿毘曇說。知一切法。如總相知。別相知。總相解。別相解。總相觀。別相觀。當知亦爾。復次佛經說不共智。阿毘曇說共不共智。復次佛經說見苦時。阿毘曇說觀行時。復次解有二種。一者假名。二者實義。佛經說假名解知苦。阿毘曇說實義知一切法。問曰。云何假名解。答曰。現見苦是知果。現見集是知因。證滅時知滅。有二功德不在身中。行修道時。為斷一切煩惱道。以如是等總相解故。名假名解。尊者波奢說曰。佛經說當知苦。或謂但當知苦。更不知餘。是故阿毘曇。作如是說。應知一切法。佛經說當斷集。或謂但當斷集更不斷餘。是故阿毘曇作如是說。云何斷法。一切有漏法。佛經說當證滅。或謂但當證滅更不證餘。是故阿毘曇作如是說。云何證法。答曰。一切善法。佛經說當修道。或謂但當修道更不修餘。欲令此事決定故。阿毘曇作如是說。云何修法。答曰。善有為法。復次為斷生死根本及道故。佛

經說當知苦身見是六十二見根。六十二見是煩惱根。煩惱是業根。業是報根。依報故生善不善無記法。身見知苦時斷。是故佛經

唯說知苦。復次若知苦時。斷五我見十五我所見。是故佛經唯說知苦。復次知苦時斷二見。謂身見邊見。得二三昧。謂空無願。是故佛經唯說知苦。復次無始已來。衆生於陰中。計我想人想。念想。誰能斷此惡想。使住善想。唯知苦能。是故佛經唯說知苦。復次衆生無始已來。於此無常無我無樂無淨陰中。計有常我樂淨。誰能斷如是顛倒。唯有知苦。是故佛經唯說知苦。復次為斷貪著陰者故。衆生無始已來。為此陰受苦痛逼切。如負重擔受是苦已。復追求陰。以追求故。復更生陰。猶如小兒為乳母所打還復歸趣。彼亦如是。為苦所逼。還復歸苦。是故佛經唯說知苦。復次行者見苦時。令無始已來。詭曲之心邪見。顛倒煩惱惡行。皆令正直。是故佛經唯說知苦。復次若知苦時。亦名斷苦。若斷集時。不名知集。是故佛經唯說知苦。復次行者知苦時。任不顛倒想。無有是處。以分別故。說。若行者知苦更不知餘諦。若有人問。此陰為是常。是無常耶。答言無常。無一刹那住故。是苦是樂耶。答言是苦。如熱鐵丸。是淨不淨耶。答言不淨。猶如糞穢。有我無我耶。答言中無有人。無作者受者。但是諸行糞穢之聚。復次苦如癰瘡。常自困苦。如箭入身。如刀自割。如毒自殺。如火自燒。如怨自害。如住邊城多受厄難。復次行者見苦時。名真佛出世間。如法入

◎ 卷第六十終 ◎ ◎ 卷第六十一使健度十門品之八首 ◎ ◎ 卷第六十一使健度十門品第四之八首 ◎ 造號釋說譯號異如 卷第二十三 ◎ 苦二共 ◎ ◎ 唯二惟 ◎ 下同 ◎ 念二命 ◎ ◎ 不 ◎ ◎ 若二苦 ◎

佛法。得無障礙。受行佛法。復次行者見苦時。捨舊緣得新緣。捨共得不共。捨世間得出世間。復次行者見苦時。未開無漏道門今開。未曾捨凡夫性今捨。未曾得聖道今得。復次行者見苦時。捨名得名。捨界得界。捨性得性。捨名得名者。捨凡夫名得聖人名。捨界得界者。捨凡夫界。得聖人界。捨性得性者。捨凡夫性。得聖人性。復次行者見苦時。得心不得心。因得業不得業。因得明不得明。因得復次行者見苦時。得離五人聚入八人聚。五人聚者。謂五逆人。八人聚者。謂四向四果。復次行者見苦時。捨如樹華凡夫性。得住如門闍聖性。復次行者見苦時。初得於法不壞信。復次行者見苦時。得無有是處法。如說無有是處。是見諦具足人。不故殺生。不故犯戒。乃至廣說。以如是等事故。佛經唯說知苦。佛經說集。聖諦應知應斷。阿毘曇說。云何斷法。謂有漏法。若作是說。生後有愛是。集聖諦者。則生是難。如阿毘曇說。云何斷法。一切有漏法。何故佛經但說生。彼有愛是集諦耶。答曰。前說愛所以此中應廣說。若作是說。一切有漏因是。集諦則生是難。如苦亦應斷。何故佛經但說斷集。答曰。為不生苦故。佛作是說。汝等若不欲苦。應當斷集。若斷集者。苦則不生。復次為不生果故。佛作是說。若汝等不欲果者。應當斷因。若斷因者。果則不生。復次欲斷苦流故。猶如水相續流。若不斷其源。則水流不止。若斷其源。水則不流。如是若不斷苦源。苦流不止。若斷苦源。苦流則止。復次若斷集者。則

斷俱因。俱繫得解。得無漏解脫得。斷非想非非想處一切遍因。復次若斷因者。果亦斷。因若滅果亦滅。捨因亦捨果。吐因亦吐果。復次為捨重擔。如人身負重擔上嶮難處。為此重擔之所逼切。他人語言。汝若為此重擔所逼切者。應斷其擔索。若擔索斷。擔自當墮。衆生亦爾。身負陰擔。上於生死險難之山。為此陰擔之所逼切。佛作是說。汝等若不欲負陰擔者。應斷於集。若斷於集。陰擔則墮。復次為對外道故。外道不欲苦果。而不斷因。猶如愚狗捨人逐塊。外道亦爾。不斷苦因。不欲苦果。佛作是說。汝等若不欲苦果。當斷其因。若斷其因。苦則不生。復次集中已有三界上中下果。佛作是說。汝等若於三界上中下果。不欲求者。應當斷集。若斷集者。則三界上中下果。更不復生。復次以集能生三苦故。三苦者。謂欲界色界無色界苦。佛作是說。汝等不欲三苦者。應當斷集。廣說如上。復次以集能生四苦故。四苦者。謂四生。佛作是說。汝等若不欲四苦者。廣說如上。復次以集能生五苦故。五苦者。謂五趣。佛作是說。汝等若不欲五苦者。廣說如上。以如是等事故。佛經說集應知應斷。

佛經說苦滅聖諦應知應證。阿毘曇說。云何得作證法。答曰。一切善法。問曰。如阿毘曇說一切善法應證。佛經何故唯說證滅。答曰。此滅是解脫。亦是不繫相。復次此滅無處所。無有所依。復次此滅是因無果。是果無因。復次此滅是因非有因。是所作非有所作。是緣

非有緣。是離非有離。是果非有果。復次此滅能令陰無非無法體。復次此滅息三攝四捨五。復次此滅是一味種種道果。淨於四姓。名無上法。復次此滅是無漏。得是有漏無漏滅。是非學非無學。得是學無學非學非無學。滅是不繫。得是繫不繫。滅是無斷。得是修道斷或不斷。滅是滅諦攝。得是苦諦集諦道諦攝。復次此滅是善是常。是善離陰。是善無有中下。是無前後際。復次此滅是沙門果非沙門。是婆羅門果非婆羅門。是梵行果非梵行。是道果非道。以如是等事故。佛經說應證滅。佛經說苦滅道聖諦應知應修。阿毘曇說。云何修法。答曰。一切有為善法。問曰。如阿毘曇說一切有為善法皆應修。何故佛經但說修道。答曰。以道應修應習故。復次以道有二種修故。一得修。二行修。世俗道有四種修。謂得修。行修。對治修。除去修。復次此道修時。不斷緣愛。世俗道修時。斷於緣愛。復次此道修時。其性出而不沒。世俗道修時。其性亦出亦沒。於欲界而出。於初禪而沒。乃至於無所有處而出。於非想非非想處而沒。問曰。無漏道亦爾。離欲界欲。而生初禪。乃至離無所有處欲。而生非想非非想處。答曰。世俗道。於彼處生報。非無漏道。復次此道若修。則滅損毀壞於有。世俗道修時。則增益長養於有。復次此道若修。則令有不相續斷。增長生老病死法。世俗道修時。令有相續增長生老病死法。復次此道若修。是滅苦集道。是滅增長生老病死道。世俗道修時。是苦集道。是增

長生老病死道。復次此道修時。不為身見作所緣。乃至不墮。苦集諦中。世俗道雖修為身見作所緣。乃至墮苦集諦中。復次此道修時。不為界趣生增長生死法作因。世俗道雖修為界趣生增長生死法作因。復次此道修時。能盡界趣生增長生死法。世俗道雖修不能盡界趣生增長生死法。復次此道修時。是沙門是沙門果。是婆羅門是婆羅門果。是梵行是梵行果是有果。以如是等事故。佛經唯說修道。問曰。聖行名有十六種。體有幾耶。答曰。或有說者。名有十六體有七。緣苦四行。名有四體亦有四。緣集四行。名有四體有一。緣滅道亦爾。問曰。何故緣苦四行。名有四體亦有四。答曰。緣苦四行。是顛倒近對治。如顛倒名有四體亦有四。此行亦爾。評曰。應作是說。聖行名有十六體有十六。如名體。名數體數名相體相名異體異。當知亦如是。問曰。聖行體性是何。答曰。體性是慧。彼慧體是行。行餘行。亦為行所行。彼相應法體。非行行餘行。亦為行所行。彼共有法體。非行不餘行。為行所行。復有說者。聖行體性。是一切法。若作是說。聖行體性。是心心數法者。相應法體性。是行行餘行。為行所行。不相應法體。非行不餘行。為行所行。復有說者。聖行體性。是心心數法者。相應法體。是行行餘行。為行所行。不相應法體。是行不餘行。為行所行。評曰。應作是說。聖行體性是慧。如先所說。此是行體性。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名無常行。乃至名乘行耶。答曰。以二事故。是無常。一以所作。二屬於緣所作。一切有為法所作。唯一剎那頃屬於緣者。待因緣而生。苦。痛。逼切。如負重擔。是苦對我見故。空。對我見故。是無我。因如種子法。集。如出現法。有相續法。能生故是緣。如泥團杖輪水縷等合集故瓶生。彼亦如是。諸陰盡是滅。無三相故是止。是善是常故。是妙是離。更無所離故是離。對邪道故是道。對不正故是正。能到解脫城故是迹。體性是出。不沈沒故是乘。復次非究竟故是無常。如重擔故苦。內無人無作者無受者無說者故空。不自在故無我。生故是因。出現故是集。流故是有。作相故是緣。不相續盡相續故是滅。滅三火故是止。無苦惱故是妙。無過患故是離。能去是道相應方便故是正。正能到正故名迹。畢竟過生死故是乘。問曰。見苦諦時。見苦四行。謂無常苦空無我。何故但說苦諦。不說無常苦空無我諦耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次若說苦諦。當知已說無常苦空無我諦。復次此行是不共行。唯在苦諦中。無常行在三諦中。空無我行在一切法中。復次此行與有相違。能棄生死。若有美妙飲食。持與小兒。而語之言。此食是苦。小兒聞已。便生捨心。而不欲食。復次此行是一切所信處。謂愚智內道外道。復次智所知善分別故。佛經說苦智。為知何法。答曰。知苦如智所知。解所解行所行根義所境界境界。當知亦如是。復次此行是舊法。是

舊文句。過去諸佛。說苦諦苦行。今佛亦說苦諦苦行。問曰。見集諦時。見集四行。謂因集有緣。何故但說集諦。不說因有緣諦。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次若說。集諦。當知已說因有緣諦。復次智所知善分明故。佛經說集智。為知何法。答曰。知集如智所知。乃至所境界境界。說亦如是。復次此行是舊法。是舊文句。過去諸佛。說集諦集行。今佛亦說集諦集行。問曰。見滅時見滅四行。謂滅止妙離。何故但說滅諦。不說止妙離諦。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。餘如集諦說。道諦隨義說亦如是。滅諦名涅槃。名不相似。名非品。名無色。名第一。名勝智果。名阿羅漢。不應親近不應修。名可受。名近名妙名離。廣解如雜。健度。佛以聖語。為四天王。說四諦二解二不解。佛欲饒益憐愍故。復作陀尼羅語說四諦。謂伊彌彌彌。彌被陀踏被。二不解者。一解一不解。世尊欲饒益憐愍故。作彌梨車語說四諦。謂摩奢兜奢奢摩薩婆多毘羅織。是名苦邊。四皆得解。問曰。佛能以聖語。為四天王說四諦。令其解不。若能者何故不使他解。不能者何所說云何通。如偈說。佛以一音演說法。而現種種若。千義。眾生皆謂獨為我。解說諸法不為他。一音者謂梵音。現種種義者。若會中有真丹人者。謂佛以真丹語。為我說法。如有釋迦人夜摩那人。陀羅陀人。摩羅。婆人。佉沙人。兜佉羅人。如是等人。在會中者。彼各各作是念。佛以

四〇

①若二若 ②痛一病 ③去十(故) ④正一如 ⑤(緣)十集 ⑥健一健 ⑦論二踏 ⑧(彼)十二 ⑨千二千 ⑩法二說 ⑪陀二他 ⑫婆二婆

我等語。獨爲我說法。若貪欲多者。佛爲我說

不淨。瞋恚多者。佛爲我說慈心。愚癡多者。佛

爲我說緣起。衆生皆謂爲我解說。諸法不爲

他者。時會各謂佛爲說法不爲他。答曰。應作

是說。佛能問曰。若然者。何故不令他解。答

曰。爲滿足諸天王心所念故。二天王作是念。

若佛爲我作聖語。說四諦者。我則能解。一

天王作是念。若佛以彌梨車語。說四

能解。一天王作是念。若佛以彌梨車語。說四

諦者。我則能解。如其念而爲說之。復次欲現

知衆生語言音聲故。或謂如來唯能作聖語

不能作餘語。欲令如是疑心得決定故。而作

是說。復次受化者。或於如來。不變形言。而得

受化。或於如來。變異形言。而得受化。者。若

於如來不變形言得受化者。若變形言而受

作釋迦語。以速疾迴轉故。人謂一時

佛經說諸比丘。是苦聖諦。曾從他聞於法中

正觀思惟。生眼智明覺。諸比丘是苦聖諦。我

應當知。曾從他聞。廣說如上。諸比丘是苦

聖諦。我已知。曾從他聞。廣說如上。集滅道說

亦如是。諸比丘是苦聖諦。曾從他聞。廣說如

上。是說未知欲知根。諸比丘是苦聖諦。我應

當知。曾從他聞。廣說如上。是說知根。諸比

丘是苦聖諦。我已知。曾從他聞。廣說如上。是

說知已根。如是餘一二諦三轉生三根亦爾

尊者達。磨多羅作如是說。我思惟此所說法

舉身毛豎。如來所說。義無相違。不失次第

今此所說。失於次第。所以者何。此中知已

根。後說未知欲知根。如是觀法。非佛辟支佛

聲聞所觀。所以者何。無有知已根。後起未知

尊者達。磨多羅。利根智慧。不如前者。問曰。

若然者。此所說豈不違次第耶。答曰。有二種

隨順。一所說隨順。二見諦隨順。以所說隨順

故。世尊作如是說。以隨順見諦故。尊者達

*磨多羅。作如是說。尊者波奢說曰。此中不

說未知欲知根知已根。此中說菩薩欲界聞

慧思慧。菩薩坐道樹下時。作如是方便觀行

問曰。若然者。此說云何通。如說諸比丘。我是

時得阿耨多羅三藐三菩提。如來以欲界聞

慧思慧。得阿耨多羅三藐三菩提耶。答曰。如

來本爲菩薩。作如是方便觀行時。以欲界聞

慧思慧。觀於諸法。生智慧光明。除去愚闇義

名必得阿耨多羅三藐三菩提。如人先以生

皮覆面。除去之後。以沙羅覆面。其所障礙

而甚微少。彼亦如是。諸比丘。我三轉四諦十

○(者)一○

○十二七○

○大二太○

○二二一○

○磨二摩○

○知十(知)○

○沙二鈔○

○

○

○

○

○

○

○

○

善禪。不說染污不隱沒無記。或謂禪唯是善非染污不隱沒無記。今欲決定說禪是善染污不隱沒無記。而作此論。四禪初禪。乃至第四禪。問曰。何故名禪。為以斷結故名禪。為以正觀故名禪。若以斷結故名禪者。無色中亦有定能斷結亦應名禪。若以正觀故名禪者。欲界亦有定能正觀。亦應名禪。答曰。應作是說。斷結故名禪。問曰。若然者。無色中亦有定能斷結。亦應名禪。答曰。若定能斷不善無記結者是禪。無色定雖能斷無記結。不能斷不善結故。不名為禪。問曰。若作是說。唯未至依是禪。所以者何。能斷不善無記結故。答曰。此中說過患對治。對治有二種。有過患對治。對治。上地雖無不善結斷對治。有過患對治。問曰。若作是說。上地滅法智。道法智。一切比智。則不名禪。所以者何。於欲界結。不能作斷對治過患對治。答曰。雖非全界全地。而彼界彼地中。有能與欲界結。作過患對治者。以能者故。不能者亦得名禪。復次禪中。遮少分有少分與欲界結。作斷對治過患對治。無色界悉遮。乃至無一刹那與欲界結。作斷對治過患對治者。尊者瞿沙。作如是說。此六地盡能與欲界結。作斷對治過患對治。以未至禪初出故。斷欲界結。餘者不斷。以未至禪斷故。如日光初中後時。盡與闇相妨。妨初出者。能除夜闇。中後者。雖與闇相妨。而不除闇。以初者除故。猶如六人共一怨家。而共議言。我等若先得怨者。必斷其命。六人之中。一得怨而殺。餘五人雖於彼人是怨。而

不殺者。先已殺故。如人持六燈次第入闇室中。初入者除室中闇。餘燈雖與闇相妨。而不破闇者。已先破故。如是六地中。雖與欲界結。作斷對治過患對治。以未至禪初生斷欲界結。餘地不斷者。以未至禪先已斷故。若六地作欲界結斷對治者。依根本禪得正決定時。欲界見道所斷結。則無分齊。亦不應證解脫得。以依根本禪得正決定者。於欲界見道所斷煩惱。而有分齊。證解脫得。以是事故。知六地盡有欲界煩惱斷對治過患對治。復次若定能畢竟斷見道修道所斷結者名禪。無色定雖畢竟斷修道所斷結。不斷見道所斷結。復次若定能遍緣能斷結者名禪。無色定雖能斷結。不能遍緣欲界定。雖能遍緣。不能斷結。禪定能遍緣。亦能斷結。復次若定與五陰俱生作依者名禪。無色定與四陰俱生作依者。不名為禪。復次若定有四枝五枝者名禪。無色定無四枝五枝故。不名為禪。復次若有樂道處名禪。無色定無樂道故。不名禪。復次若定能與道作依者名禪。無色定不能與道作依者。不名禪。復次若定有三種示現者名禪。無色定無三種示現故。不名禪。復次若定有三無漏根故。不名禪。三道亦如是。復次若有二道處名禪。二道者。謂見道。修道。忍道。智道。法智道。比智道。無色中無見道忍道法智道。故不名禪。復有說者。以正觀名禪。問曰。若然者。欲界亦有正觀。應名為禪。答曰。若定能正觀亦能斷結者名禪。欲界定雖能正觀。不

能斷結。故不名禪。復次若定牢固相續久住出入意不捨者名禪。欲界定與此相違。故不名禪。復次若有定名亦有定用者名禪。欲界定雖有定名。無有定用。猶如泥椽。雖有椽名。而無椽用。禪定猶如木椽。亦有椽名。亦有椽用。復次若定不為燒亂風所吹動者名禪。欲界定。為燒亂風所吹動。故不名禪。猶如四衢道中燈。為風所吹動。禪定不為燒亂風所吹動。故名禪。猶室中燈。不為風所吹動。彼亦如是。禪有十八枝。初禪有五枝。覺觀喜樂一心。第二禪有四枝。內信喜樂一心。第三禪有五枝。捨念慧樂一心。第四禪有四枝。不苦不樂捨念一心。問曰。禪枝名十八。體有幾。答曰。名有十八。體有十一。初禪有五枝。名有五。體亦有五。第二禪增一枝。謂內信。第三禪增四枝。謂捨念慧樂。第四禪增一枝。謂不苦不樂。是故禪枝名有十八。體有十一。復有說。禪枝名有十八。體有十。所以者何。初禪第二禪第三禪樂。俱是一樂枝故。不應作是說。所以者何。初禪樂第二禪樂異。第三禪異。初禪第二禪樂是猗樂。第三禪樂是受樂。初禪第二禪樂是行陰攝。第三禪樂是受陰攝。是故如前說者好。如名體名數體數。乃至知名知體說亦如是。問曰。何者是禪。何者是枝。答曰。一心是禪。餘者是枝。問曰。若然者。初禪第三禪有四枝。第二禪第四禪有三枝。答曰。一心是禪。亦是禪枝。餘者是枝。非禪。如正見是道。道枝。餘是道枝。如擇法覺是覺。覺枝。餘者是覺

枝不非時食是齋是齋枝。餘者是齋枝。如是
 一心是禪亦是禪枝。此是禪枝體性。乃至廣
 說。已說體性。所以今當說。何故名枝。枝是何
 義。答曰。隨順義是枝義。俱負義是枝義。成大
 事義是枝義。牢堅最勝義是枝義。別異義是
 枝義。隨順義是枝義者。若法隨順彼地立枝。
 俱負重成大事牢堅最勝亦如是。別異義是
 枝義者。如軍別異名軍枝。如車別異名車枝。
 如是禪別異故名禪枝。是故隨順義是枝義。
 乃至廣說

問曰。若是初禪枝。亦是二禪枝耶。答曰。或是
 初禪枝。非二禪枝。乃至廣作四句。是初禪枝
 非二禪枝者。覺觀是也。是第二禪枝非初禪
 枝者。內信是也。是初禪第二禪枝者。喜樂一
 心是也。非初禪非第二禪枝者。除上爾所事
 若是初禪枝。亦是第三禪枝耶。乃至廣作四
 句。是初禪枝非第三禪枝者。覺觀喜樂是也。
 是第三禪枝非初禪枝者。捨念慧樂是也。是
 初禪枝是第三禪枝者。一心是也。非初禪枝
 非第三禪枝者。除上爾所事。若是初禪枝亦
 是第四禪枝。乃至廣作四句。是初禪枝非第
 四禪枝者。覺觀喜樂是也。是第四禪枝。非初
 禪枝者。不苦不樂捨念是也。是初禪枝亦是
 第四禪枝者。一心是也。非初禪枝非第四禪
 枝者。除上爾所事。是第二禪枝亦是第三禪
 枝耶。乃至廣作四句。是第二禪枝非第三禪
 枝者。內信喜樂是也。是第三禪枝非第二禪
 枝者。捨念慧樂是也。是第二禪枝亦是第三
 禪枝者。一心是也。非第二禪枝非第三禪枝

者。除上爾所事。乃至第三禪四句。歷第四
 禪。應隨相說。

問曰。如捨捨一切地中有何故初禪二禪
 立捨不立捨耶。第三第四禪立捨不立捨耶。
 答曰。先作是說。隨順義是枝義。若法隨順
 彼地者立枝。捨隨順初禪第二禪故立枝。
 捨隨順第三第四禪故立枝。復次勢用勝故
 更相覆蔽。如初禪第二禪。勢用勝。覆蔽於
 捨。第三第四禪。捨勢用勝。覆蔽於捨。問
 曰。云何此二法。更相覆蔽。答曰。以所行相違
 故。如一人一時。亦行亦住。亦眠亦寤。一向相
 違。彼亦如是。復次對治欲界五識及龜身故。
 初禪立捨為枝。對治初禪三識及龜身故。第
 二禪立捨為枝。第二禪無龜身故。第三禪
 不立捨為枝。第三禪無龜身故。第四禪不
 立捨為枝。復次以初禪二禪有染污喜。以是
 事故佛作是說。應捨不應捨。是故初禪二禪
 立捨為枝。第三第四禪。無染污喜。是故諸
 聖行捨。復次以初禪二禪。捨生有所緣如說。
 若心喜時身則生捨。第三第四禪。捨生無所
 緣。是故諸聖行捨。問曰。內信一切地盡有何
 故。第二禪地立枝。非初禪耶。答曰。先作是
 說。隨順義是枝。若法隨順彼地者立枝。內
 信隨順第二禪地故立枝。復次初禪覺觀如
 火。識身如污泥。令心擾濁。信不明淨。如熱濁
 泥中而像不現。第二禪無覺觀火識身污泥。
 信則明淨。如清冷水而像則現。彼亦如是。復
 次行者住第二禪。於界離欲。於地離欲。生大
 信心。行者離不定欲界欲。起初禪現在前。作

如是念。我已得離不定欲。不知定欲為
 可離不。後離初禪欲。起二禪現在前。是時於
 界離欲。於地離欲。生大信心。如初禪地欲可
 離。當知一切地。乃至非想非非想處。盡可
 離。以是事故。二禪信立枝。初禪不立。問曰。
 念慧一切地中有何故第三禪地立枝。非餘
 地耶。答曰。先作是說。隨順義是枝。若法隨
 順彼地者立枝。念慧隨順第三禪故立枝。復
 次第三禪道。多諸留難。自地亦有留難。他地
 亦有留難。他地道多諸留難者。第二禪喜漂
 沒輕躁。猶如羅刹。令行者離第三禪欲時。生
 諸衰退。為對是事故。第三禪立念為枝。是故
 佛作是說。汝等當正念。莫為第二禪喜之所
 漂沒。自地留難者。第三禪樂受。是一切生
 死中最勝樂。令行者樂著不能離上地欲。為
 如是事故。第三禪慧立枝。是故佛作是說。汝
 等應於是樂莫生貪著。不求上地離欲法。問
 曰。念慧一切地中有何故第四禪地立念為
 枝。不立慧。答曰。先作是說。隨順義是枝。若
 法隨順彼地者立枝。念隨順第四禪故立枝
 慧不隨順故不立枝。復次第四禪道。多諸留
 難。他地有留難。自地無留難者。第三禪地
 樂受。於一切生死中最勝。行者貪著故。不求
 離上地欲。是故佛作是說。汝等應當正念。莫
 為第三禪地樂之所覆沒。以自地無留難故。
 不立慧為枝。復次第四禪地。立不苦不樂受
 為枝。不苦不樂受。是無明分。慧是明分。明
 無明。是相違法故
 問曰。若是禪枝。亦是助道分耶。答曰。或是禪

◎枝一◎◎◎◎卷第六十一終◎◎◎◎卷第六十二使健度十門品之九首◎◎◎◎卷第六十二使健度十門品第四之九首◎◎◎◎造號
 釋號譯號同異如卷第二十三◎枝二支◎下同◎地十(道)◎◎

枝非助道分。乃至廣作四句。是禪枝非助道分者。初禪觀第三禪樂第四禪不苦不樂是也。是助道分非禪枝者。精進正語正業正命是也。是禪枝亦是助道分者。諸餘助道分是也。非禪枝非助道分者。除上爾所事。問曰。初禪觀第三禪樂。第四禪不苦不樂。何故不立助道分耶。答曰。以覆蔽故。初禪地觀為覺所覆蔽故。不立助道分。第三禪地樂。為猗樂所覆蔽故。不立助道分。第四禪地。不苦不樂。為行捨所覆蔽故。不立助道分。以如是事故。不立助道分。問曰。精進何故不立禪枝。答曰。禪枝於得地勝。精進於他地勝。初禪地精進。作第二禪地方便勝。乃至無所有處精進。作非想非非想處方便勝。復次精進與生定法相妨。與何生定法相妨。答曰。樂如說樂故。定心生衆生行精進者必苦。問曰。何故正語正業正命。不立禪枝耶。答曰。禪枝是相應。是有緣。是有行。是有依。是有勢用。正語正業正命。與此相違。故不立禪枝。問曰。若是禪枝。亦是念處耶。若是念處。亦是禪枝耶。若是禪枝。亦是正斷神足根力覺道分耶。若是正斷神足根力覺道分。亦是禪枝耶。應隨相廣說。復作是問。曰。若是初禪枝。亦是助道分耶。若是助道分。耶。若是助道分。亦是初禪枝耶。乃至第四禪問亦如是。應隨相廣說。復作是問。若是初禪枝。亦是念處正斷神足根力覺道分耶。若是念處。乃至八道分。亦是初禪枝耶。乃至第四禪問亦如是。應隨相廣說。

何故不說。若不立者。施設經云何通。如說頗有空處定於空處定道勝。根勝定勝枝等耶。答曰。有從空處定起次第。還入空處定。答曰。或有說者。諸邊及無色定立枝。施設經所說善通。此中何故不說。答曰。應說如初禪。有五枝邊。亦有五枝。除喜增不苦不樂受。如根本第二禪。有四枝邊。亦有四枝。除喜增不苦不樂受。如根本第三禪。有五枝邊。亦有五枝。除樂增不苦不樂受。如根本第四禪。有四枝邊。亦有四枝。如第四禪四無色定亦應爾。評曰。諸邊及無色定不立枝。是故此中不說。問曰。施設經所說云何通。答曰。此中說根勝道勝定勝者。以後定用前定為因生故。枝等者說覺道枝。

定。若是四枝。或是無枝。此中云何得隨順耶。答曰。一切外法內法所作。初須隨順後事成時。則不須隨順外法所作者。曾聞有王名。旃陀掘。臣名遮那伽於十二年。造出金法。始成得一麥粒許。便作師子吼。我今力能造作金山內法所作者。如行者修神足時。初能舉身離地。如半胡麻轉如胡麻半麥一麥。半指一指。半寸一寸。半尺一尺。半肘一肘。半尋一尋。衣鉤衣架。後若成時。舉身至阿迦。賦吒天。如是外法內法。事未成時。必須隨順。事已成後。不須隨順。彼超越定亦爾。事未成時。起五枝定。入五枝定。起四枝定。入四枝定。事已成後。起五枝定。入四枝定。若無枝定。佛經說有四種勝心數法定。受現法樂。問曰。何故名四種勝心數法定。答曰。彼定有大勢力。能成大事。有大功用。是根本禪。是故根本四禪名勝心數法定。復次彼定中。多諸心數法可得故。如無量解脫勝處一切處無礙無諍願智半多俱置等。是故名勝心數法定。復次行者於彼定。得多種心受樂。如無量解脫乃至空空三昧無相無相三昧無願無願三昧。是故名勝心數法定。受現法樂者。問曰。此法亦受後法樂。不但現法樂。何故說言受現法樂。不說受後法樂耶。答曰。應說如說受現法樂。亦應說受後法樂。而不說者。當知此說有餘。復次若說現法樂。當知已說後法樂。所以者何。後法樂必因現法樂故。如說先於此修定。後生彼處。復次現法樂。能令後法樂相續。非後法樂能令現法樂相續。是故說現法

○(日)一○(日) ○諸二說○ ○樂二喜○ ○旃二梅○ ○今二合○ ○賦二賦○

樂。復次現法樂。是後法樂方便所依門。復次現法樂。是一切所信處。如愚智內道外道。皆信現法樂後法樂。或有信者。或有不信者。不信後法樂者如外道。復次諸凡小。貪著少欲樂。不求離欲。佛作是說。汝等若欲得廣大樂者。當斷欲愛。起根本禪現在前。當受廣大之樂。復次現法樂一切盡受。後法樂有受者。有不受者。以如是等事故。佛說禪是現法樂。非後法樂。

佛經說。諸比丘有四種天道。能令衆生不淨者淨。淨者轉更明勝。問曰。云何立天道。爲以得正決定。爲以盡漏耶。若以得正決定立天道者。則應有六。所以者何。依六地得正決定故。六地者。未至中間根本四禪。若以盡漏者。則應有九。所以者何。行者依九地。得盡漏故。九地者。謂未至中間四禪三無色定。答曰。應作是說。亦以得正決定。亦以盡漏。故立天道。是說則遮無色定。問曰。若然者。天道應有六。尊者波奢說曰。此中說禪及眷屬故。有四無六。尊者瞿沙。作是說。此中說清淨天名天。天有三種。一假名天。二生天。三清淨天。假名天者。謂人王等。生天者。從四天王天。乃至非想非非想處天。清淨天者。謂阿羅漢。此中說清淨天名天。得二種道。謂見道修道。忍道智道。法智道比智道。能令身心清淨者。復次於生天道。生怖畏想。欲令安住實義天道故。佛說此經有四種天道。生天者。謂三十三天是也。彼有四種園林。一名質多羅地。二名頗留沙。三名彌尸迦婆那。四名難陀那。

彼園林中。有四種道。種種綵女所遊行處。作諸音樂。燒衆名香。安置種種餽膳飲食。隨意生形。鳥出種種音。能令諸天。遊戲園林。受於快樂。諸聖亦爾。滅盡涅槃。爲園林四禪爲道。種種道品善法。而嚴飾之。令諸賢聖。受種種快樂。入於涅槃。云何四種天道。如比丘離欲惡不善法。乃至廣說。問曰。盡離欲界法。何故佛但說離欲惡不善法耶。答曰。如佛說離欲惡不善法。當知已說盡離欲界法。復次此法體應斷。斷已則不成就。與聖道相妨。有漏善法。不隱沒無記法。不與聖道相妨。欲惡不善法。與聖道相妨。若斷欲惡不善法。當知有漏善法不隱沒無記法亦斷。所以者何。同一對治斷故。譬如燈不與炷油器相妨。而與開相妨。若破開時。亦燒炷盡油令器熱。復次以此法難斷難除難過故。復次以此法是重惡多諸過患故。復次此法離欲愛時。多作留難。令離欲法不得相續。如守門人。不令他人入。彼亦如是。復次行者爲對除此法故。修初禪定道。復次行者以憎惡此法故。盡離欲界。復次此法上地所無所不行故。以如是等事故。佛說離欲惡不善法。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十一

阿毘曇毘婆沙論卷第四十一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

使捷度十門品之六

問曰。此中何者是欲。何者是惡不善法。答曰。資生欲是欲。煩惱欲是惡不善法。復次欲是五欲。惡不善法是五蓋。復次欲是欲愛使。惡不善法是餘煩惱。復次欲是欲覺。惡不善法是悲覺害覺。復次欲是欲界。惡不善法是悲界害界。復次欲是欲想。惡不善法是悲想害想。有覺有觀者。與覺俱故名有覺。與觀俱故名有觀。離生者。問曰。如上地離清淨妙好。何故但說初禪離。不說上地離。答曰。說始以顯終故。世尊或說始以明終。或說終以明始。說始以明終者。如此中說。說終以明始者。如說何處受身。不自害命。不害他命。佛告舍利弗。非想非非想處天受身。不自害命。亦不害他命。如始終初入已度方便畢。竟亦如是。復次以此離初入初得故。復次初禪離從離生。從初禪定心生。如因陸生故名陸生。因水生故名水生。彼亦如是。因離生故名離生。復次初禪離。爲二種無漏所守護。二種者謂未至中間。復次初禪離。是上地離方便所依門。復次初禪離。能生養增廣上地離。復次初禪離。是上地離因根本有。集緣生起處。復次初禪

離對非離法故。欲界非離法。誰是近對治謂初禪離是。復次欲令疑者得決定故。如欲界有覺觀有識身有尊卑有眷屬。初禪亦爾。或謂欲界有如是過故非離欲。初禪亦有如是過故非離欲。令此疑得決定故。說初禪有離。復次欲令行者心歡喜故。行者離欲惡不善法。起初禪離。生大歡喜。勝於後時。起上地離。猶如飢人初得蔬食。勝於後時得好美食。復次以初。禪能起諸離現在前。復次以依初禪。能令三種行人。入正決定。得果離欲盡漏。三種行人者。謂具縛。離欲。漸離欲人。復次以依初禪故。令三種信解脫。轉根作見到。三種信解脫者。謂次第漸離欲。離欲人。復次以初禪離能對治三界。復次以初禪有得四沙門果道有九斷智果道有七覺。枝八道*枝。是三十七助道法。有七種修道。有苦根憂根無慚愧男根女根姪欲搏食愛五蓋五欲對治法。復次以初禪是五陰十二入十八界對治法。以如是等事故。佛經說初禪是離喜樂者。喜是喜根。樂是猗樂。復次喜是受陰攝。樂是行陰攝。入初禪者。若得成就初禪善五陰。是名入初禪。已滅覺觀。乃至廣說。問曰。如離初禪欲。盡滅初禪法。何故佛但說滅覺觀耶。答曰。如佛說滅覺觀。當知已說滅初禪法。復次以覺觀難斷難除難過故。復次以此法是重多諸過患。復次此法離初禪愛。多作留難。令離欲法不相續。如守門人。不令他入。彼亦如是。復次行者為對治此法故。修二禪定道。復次行者憎惡此法故。盡離初

禪。復次此法上地所無不行故。以如是等事故。佛說滅於覺觀生內信者。內是心。信是信根。心信此法故名內信。尊者須蜜說曰。覺觀擾亂定心。覺觀若滅。心則清淨。故名內淨。如水不波浪時名為澄清。彼亦如是。染污喜。令定心濁。彼若滅心則清淨。譬如濁水澄清則名為淨。尊者達摩多羅說曰。行者入第二禪時。於彼禪心。則寬博信樂。堪忍久住。樂觀彼法。心不移動。住於一處。有是處所。有是體性。我得第二禪心。住一處者。心唯行一門中故。欲界心行於六門。初禪心行於四門。第二禪心行於一門。故言心住一處。無覺無觀者。覺觀已滅故。定生者。問曰。如初禪亦有定。何故第二禪說定。初禪不說耶。答曰。以二禪定明淨勝妙勝初禪定。復次二禪中定從定生。定所長養定後現在前。定者謂初禪。初禪定是初定。從不定心後現在前。不定心者謂欲界心。復次初禪有不定。心有內向心。有外向心。或緣外法。或緣內法。第二禪唯定。唯內向心。唯緣內法。復次以第二禪滅聲根本。聲根本者是覺觀。如說有覺觀者。能出語聲。非無覺觀。第二禪中。無有是事。復次第二禪說是賢聖默然法。如佛告目犍連。汝莫輕蔑第二禪。此是賢聖默然法。以如是事故。說二禪定。不說初禪喜樂者。喜是喜根。樂是猗樂。復次喜是受陰攝。樂是行陰攝。入第二禪者。若得成就第二禪善五陰。名入第二禪。離喜住捨。乃至廣說問曰。如離二禪欲時。盡離第二禪法。何故世尊獨說離喜。答

曰。如佛說離喜。當知已說離二禪法。復次以喜難斷難除難過故。復次以喜是重多諸過患故。復次此法離二禪愛時。多作留難。令離欲法不相續。如守門人不令他入。彼亦如是。復次行者為對治此法故。修三禪定道。復次行者憎惡此法故。盡離二禪。復次此法上地所無不行故。以如是等事故。佛說離喜住捨。有念慧身受樂者。身者是意身。復次若說意受樂。令四大身亦受樂。是賢聖所說應捨者。所說為他。應捨者是自身。問曰。如一切地盡是賢聖所說應捨。何故佛獨說第三禪應捨。答曰。以第三禪道多諸留難。有自地留難亦有他地留難。他地道留難者。第二禪喜漂沒輕躁。猶如羅刹令行者於離二禪欲法。而便衰退。自地道留難者第三禪地。有一切生死中最勝樂。行者生貪著故。不求上地離欲法。是故說道者。為初行人。說留難處。第三禪道多諸留難。謂第二禪喜。汝等應修正念。離第二禪欲時。莫為喜所漂沒。自地留難者。謂一切生死中最勝樂。汝等應以正慧除去貪著。應求上地離欲法。譬如商人。為諸新學商人不知方土過患者。說留難事。此城中多諸姪女聚博飲酒欺誑之處。汝等應遠離之。勿令他欺劫奪財物永盡。彼亦如是。住念樂入第三禪者。若得成就第三禪善五陰。是名入第三禪斷樂。乃至廣說。問曰。離第三禪欲時。盡斷第三禪諸法。何故唯說斷樂。答曰。如佛說斷樂。當知已說斷第三禪法。復次以樂難斷難除難過故。復次以樂是重多諸過

◎枝二支◎* ◎二二一◎ ◎博二博◎ ◎唯二惟◎◎* ◎健二健◎◎

佛經說四禪有四善利。四無色定有一善利。

問曰。佛何故說四禪有四善利說四無色有

一善利耶。答曰。先所說諸答此中應廣說。

更有二不同。答曰。一以禪有三種。謂有覺

有觀。無覺有觀。無覺無觀。故有四善利。無色

定。唯無覺無觀。故有一善利。二以禪有種種

根。為喜根樂根捨根。故有四善利。無色定無

種種根。唯一捨根故。有一善利。問曰。禪善

利有何差別。答曰。名即差別。是名為禪是名

善利。復次禪三種。善染污不隱沒無記。善利

*唯善。復次禪有漏無漏。善利*唯無漏。復次

禪是色界繫不繫。善利*唯不繫。復次禪是學

無學非學非無學。善利*唯學無學。復次禪是

見道斷修道斷無斷善利*唯無斷。禪善利。是

謂差別

佛經說四禪是床座。問曰。何故佛說四禪是

床座。答曰。以是高攝故。高者高於欲界。攝者

攝諸善法。復次為諸聖人疲厭生死道示其

座處故。如道行疲厭坐於床座則得休息。如

是諸聖疲厭生死道。坐於四禪床座。則得休

息。

佛經說四禪是涼風。問曰。何故佛說四禪

是涼風。答曰。能除止煩惱業熱故。以初禪

涼。止欲界煩惱業熱。以第二禪涼。止初禪熱。

以第三禪涼。止第二禪熱。以第四禪涼。止第

三禪熱

佛經說四禪是食。問曰。何故佛經說四禪是

食。答曰。為滿法身故。如村落中所有飲食送

向城者。皆為長養城中諸人身故。如是禪中

所有善根。皆為長養法身故

佛經說婆羅門當知第四禪是畢竟道。問曰。

何故佛捨三禪。說第四禪是畢竟道。答曰。彼

婆羅門。聞佛有一切知見。復聞如來以第四

禪成阿耨多羅三藐三菩提。說第四禪是畢

竟道。便作是念。若沙門瞿曇。說第四禪是畢

竟道者。必定有一切知見。便詣佛所。到已問

如是義。佛知彼心所念。便捨三禪說四禪是

畢竟道。彼人聞已。生決定心。必有一切知見。

婆羅門是亦名如來所行。亦名如來現行法。

譬如野象。於夏中時。見地生青茂華草及諸

池水。心生欣。躡以牙掘地。然後安足。如來

亦爾。亦以四禪行捨。掘所知地。而安智足。如

來道者。是住舍摩。陀。如來所行者。是住毘

婆舍那。如來現行法者。是二俱住

佛經說四禪是樂住。問曰。何故佛說四禪是

樂住耶。答曰。以易生。樂故。根本禪以易生

故是樂。諸邊及無色定。以難生故是苦。有何

難生耶。答曰。為欲界煩惱業所縛故。未至禪

難生現在前。如人牢固反繫其手多用功力。

然後自解。如是為欲界煩惱所繫縛故。多用

功力。生彼地道現在前。或有以不淨觀起彼

地道現在前。或有以阿那波那念者以不淨觀

者。或於十年十二年中修白骨想。或有能起

彼地者。或有不能者。以阿那波那念者。或

十年十二年中。常數出入息。或有能起彼地

現在前者。或不能者。已斷欲愛。不多用功

力。起初禪現在前。異心滅。起異心現在前。龜

心滅。起細心現在前。與覺俱心滅。起與觀俱

心現在前。如人以木。折木。多用功力。然後

乃折。如是初禪異心滅。異心現在前。龜心

滅。細心現在前。與覺俱心滅。與觀俱心現

在前。多用功力。亦復如是。若離初禪欲。不

多用功力。起第二禪現在前。離第二禪欲。起

第三禪現在前。離第三禪欲。起第四禪現在

前。亦復如是。問曰。若離第四禪欲。起空處

現在前。亦不多用功力

何故不名樂道。答曰。以無色定微細故。或有

說。無無色定。如梨毘婆居士。往詣尊者阿難

所。作如是說。我是在家之人。長夜樂著色聲

香味觸。聞說無色定。心生怖畏。如臨深坑。

云何樂生。而無有色。復次以行時樂故。譬如

二人俱欲至一方。一從陸道。二從水道。雖俱

到一方。從水道行者樂。從陸道行者苦。如是

無邊衆生。得離欲時。或依根本禪。或依諸

邊及無色定。雖俱得離欲。依根本禪者樂。依

諸邊無色定者苦。復次。苦處所有二種樂。謂

受樂。廣有猗樂勝於受樂。復次有二種故。一

舊住樂。二客樂。舊住樂者如住禪起禪現在

前。客樂者如住禪起無色定現在前。復次此

中有不惱害衆生。樂可得故。如說若不惱害

他。是名為樂。復次若起根本禪現在前。則遍

身四大柔軟。若起諸邊現在前。則遠心四大

柔軟。復有說者。起諸邊現在前。亦遍身四大

柔軟。但不如起根本禪現在前者。譬如二人。

同一池澡浴。一在其邊。一入其中。雖俱澡

浴而入中者。令四大潤益勝。彼亦如是。復次

○[日]一○ ○卷第六十二終 ○卷第六十三使捷度十門品之十首 ○卷第六十三使捷度十門品第四之十首 ○造號釋號譯號同異如卷第二十三 ○別二摩 ○陀二他 ○樂故二故樂 ○折二折 ○問二問 ○苦二若

以有二法共在一處等俱生故。二法者謂定慧也。未至中間禪，慧多定少。無色定。定多慧少。根本禪生定慧等。復次有二法等俱生故。二法謂定精進。精進雖一切地偏多。以根本禪力故。二法生時俱等。復次斷有二種。有多用功有不多用功。諸邊無色定若有所斷。則多用功。根本禪。若有所斷。不多用功。譬如二人乘馬。俱至一方。一乘調者。一乘不調者。雖俱至一方。乘調馬者。不多用功。乘不調馬者。則多用功。如是諸衆生離欲時。或依根本禪。或依諸邊無色定。若依根本禪者。不多用功。若依諸邊無色定者。則多用功。復次以修道時得安樂故。譬如多人渡河。或因草束。或因浮囊。或因船。或因舫。雖從此岸俱渡到彼岸。但乘舫渡者安樂。彼亦如是。以如是等事故。佛經說根本禪是樂住。如樂住。觸住樂觸住亦如是。四無量。謂慈悲喜捨。問曰。何故禪次第說無量耶。答曰。以無量從禪中生故。復次以無量是禪中餘功德故。以是事故。禪次第說無量。問曰。無量體性是何。答曰。慈悲是無量善根。對治於悲。取其迴轉相應共有法。體性是四陰五陰。欲界者是四陰。色界者是五陰。問曰。此二俱是無量善根。對治於悲。慈對治何等悲。悲對治何等悲耶。答曰。悲或有欲殺衆生者。或有欲打衆生者。若欲殺衆生者。慈為對治。欲打衆生者。悲為對治。復次悲有二種。一者應悲處而悲。二者不應悲處而悲。慈則對治應悲處而悲者。悲則對治不應悲處而悲者。喜是喜根。取其

迴轉相應共有法。體是四陰五陰。欲界是四陰。色界是五陰。問曰。若喜體是喜根者。波伽羅那所說云何通。如說云何為喜。答曰。喜相應受想行識。及從彼起身口業。從彼起心不相應行。是名為喜。為受還應受耶。答曰。波伽羅那文。應如是說。喜相應想行識。乃至廣說。不應說受。而不說者。有何意耶。答曰。誦者錯謬故。復次波伽羅那說。無量體性是五陰。雖不與受相應。而與餘數法相應。復有說者。喜自有體。是心數法。與心相應。或有說者。是喜根。心數聚中可得。或有說者。是喜根。後生捨。是無貪善根。對治於貪取其迴轉相應共有法。體是四陰五陰。欲界是四陰。色界是五陰。此是無量體性。已說體性。其相云何。答曰。體性即是相。相即是體性。諸法不可捨於體性別更說相。尊者須蜜說曰。饒益相是慈。除不饒益相是悲。隨喜相是喜。放捨相是捨。已說無量體相。所以今當說。何故名無量。無量是何義。答曰。對治戲論故名無量。問曰。若對治戲論是無量者。戲論有二種。一愛戲論。二見戲論。以何等無量。對治何等戲論。答曰。無量不能斷結。或以無量對治於愛。或以無量對治於見。若取其近對治者。慈悲是見近對治。所以者何。見行衆生。多喜瞋。悲是見近對治。所以者何。愛行衆生。多喜相親近。復次對治放逸法故名無量。放逸者。是欲界諸煩惱。誰是其近對治。謂四無量。復次是賢聖所遊戲處。名為歡喜。如富

貴人。有種種遊戲處。如園林綵女遊獵等。名歡喜處。彼亦如是。界者在欲色界。地者慈悲捨十地中可得。謂根本四禪四禪邊欲界禪中間。喜在三地。欲界初禪二禪。復有說者。初禪第二禪無悲。所以者何。初禪第二禪喜。是心地。愛。喜根是欣踊行。悲是憂感行。若初禪第二禪有悲者。則一心聚中。有欣踊行。亦有憂感行。問曰。初禪第二禪。無無漏厭行耶。答曰。無漏厭行。是實觀。隨其實觀。心則生喜。隨其生喜。則欲更知。如人為寶故掘地。隨其掘地。則便得寶。隨其得寶。復欲更掘。彼亦如是。非是虛觀。評曰。應作是說。初禪第二禪有悲。所依者。依欲界行者慈是樂行。悲是苦行。喜是歡喜行。捨是放捨行。緣者盡緣欲界。緣聚緣衆生。緣欲界五陰二陰。衆生若緣住自心衆生。則緣五陰。若緣住他心及無心衆生。是緣二陰。復有說者。初禪無量。緣於欲界。第二禪無量。緣欲界初禪。第三禪無量。緣欲界初禪。第二禪無量。緣欲界初禪第二禪。第三禪。復有說者。初禪無量。緣欲界初禪。乃至第四禪無量。緣欲界乃至第四禪。復有說者。慈緣欲界初禪第二第三禪。所以者何。慈行樂行。欲界三禪中。有樂受故。悲緣欲界。所以者何。悲行苦行。欲界中有苦受故。喜緣欲界初禪第二禪。所以者何。喜行歡喜行。欲界初禪第二禪。有喜根故。捨緣欲界乃至第四禪。所以者何。捨行放捨行。欲界乃至第四禪有捨故。評曰。如前說者好。無量盡緣欲界

①偏二偏②愛二受③

緣聚緣衆生念處者。盡與法念處俱。智者。盡與等智俱。三昧者。不與三昧俱。根者。總與三根相應。謂樂根喜根捨根。世者是過去未來。現在。緣三世者。過去緣過去。現在緣現在。未來必不生者。緣三世。必生者。緣未來。善不善無記者。是善緣善不善。無記者。三種盡緣。是三界繫不繫者。是欲色界繫。緣三界繫不繫者。緣欲界繫。學無學。非學非無學者。是非學非無學。緣學無學。非學非無學者。緣非學非無學。見道斷修道斷無斷者。是修道斷。緣見道斷修道斷不斷者。緣見道修道斷。緣名緣義者。二俱緣。緣自身他身及非身者。是緣他身。爲是離欲得。爲是方便得者。是離欲得。亦是方便得。離欲得者。離欲界欲得。初禪者。離初禪欲。得第二禪者。離第二禪欲。得第三禪者。離第三禪欲。得第四禪者。離四禪欲得者。爲是新得。爲是本得者。亦是新得。亦是本得。聖人最後身凡夫。亦是新得亦是本得。餘凡夫。唯是本得。方便得者。以方便故起現在前。佛不以方便起現在前。辟支佛以下。方便起現在前。聲聞或以中方便。或以上方便起現在前。

問曰。云何生起無量耶。答曰。慈因親分生行者。欲起慈心時。一切衆生。盡作三分。一作親分。二作怨分。三作非親非怨分。親分復作三種。謂下中上。怨分亦爾。非親怨分。唯作一種。上親分中。有重恩者。謂父母和。上阿闍梨。及餘尊重處智慧梵行者。於彼衆生。先作樂觀。此諸衆生。皆令得樂。此心堅強難

調。以從無始以來常習惡心。於諸衆生故。雖有如是重恩衆生。猶不能令善心使住。復強還迴此心。令住彼法。譬如有人。以芥子打於錐鋒。甚難可住。習打不已。後乃得住。彼亦如是。若能觀此上親衆生。皆令得樂。次觀中親衆生。次觀下親。若能都觀親分衆生。皆令得樂。次觀非親非怨分者。次觀下怨。次觀中怨。次觀上怨。衆生欲令得樂。若能如是觀一切衆生。皆令得樂。如上親衆生。於上怨衆生。等無有異。是則成就。於慈悲喜亦爾。捨因非親非怨衆生起。所以者何。捨親者生愛心。捨怨者生悲心。是故先捨非親非怨衆生。次捨下怨。次捨中怨。次捨上怨。所以者何。悲心易却。非愛心故。次捨下親。次捨中親。次捨上親。若於一切衆生。能作如是捨觀者。心則平等。無所分別。其猶如稱如觀樹林。無有差別。觀諸衆生。亦復如是。是則成就捨心。

問曰。何等能起無量。何等人不能起無量。答曰。人有三種。一者喜求人過。二者喜求人善。若喜求人過者。不能起無量。所以者何。乃至於阿羅漢身。猶求其過。爲有何破何實何垢。令我呵之。若喜求人善者。則能起無量。所以者何。乃至於斷善根人。邊猶求其善。問曰。斷善根人。無有諸善。云何於彼人邊求其善耶。答曰。雖無現善。有過去善業報。令其身端正。生於豪族。言有威德。多聞機辯。取如是等相。生於善念。彼行妙好。有如是果報。問曰。此四無量。爲如說而生。爲說異生異。答曰。或有說者。如說而生。所以者何。行者先

欲饒益衆生。饒益衆生相是慈。是故世尊先說慈心。次除不饒益。除不饒益相是悲。是故世尊次慈。說悲。若與饒益。除不饒益。次生歡喜。歡喜相是喜。是故世尊次悲說喜。次捨衆生。捨捨相是捨。是故世尊最後說捨。復有說者。行者先起。慈喜捨悲。後起慈喜捨。所以者何。先除衆生不饒益事。後與饒益。次生捨喜。次生捨。尊者僧伽婆修說曰。二無量展轉相御。若先起悲。次必起喜。所以者何。悲是憂感。喜是歡喜。若先起喜。次必起悲。所以者何。喜是掉。悲則制之。評曰。應作是說。無量不如說而起。所以者何。行者或先起慈乃至捨。或有先起捨乃至慈。或有得慈不得餘者。或有乃至得捨不得餘者。無量無有順次逆次順超逆超。如解脫除入一切入。彼亦如是。

問曰。慈次第能起悲喜捨不耶。答曰。定。健度說。云何心念慈三昧。答曰。衆生樂。乃至云何心念捨三昧。答曰。衆生捨。或有說。此文是俱生行。或有說。是次第緣行。若說是俱生行者。慈次第能起悲喜捨。若說是次第緣行者。慈次第不能起悲喜捨。問曰。若不起初禪地無量。能起第二禪地無量不耶。乃至不起第三禪地無量。能起第四禪地無量不耶。答曰。或有說者不能。所以者何。初禪地無量。是第二禪地無量方便門所依。乃至第三禪地無量。是第四禪地無量方便門所依。故復有說者。能若行者於彼地得自在者。即依彼地。能起無量現在前。問曰。爲初禪地無

◎(第)十四◎ ◎唯二惟◎ * ◎唯二惟◎ ◎上二尙◎ ◎[說]一◎ ◎[慈喜捨]一◎ ◎[捨]一◎ ◎[捨]一◎ ◎[捨]一◎

經劫成壞。不來生此間。世界壞時。我生光音天。世界成時。我生空梵世中。我曾為大梵天王。諸梵中尊無勝我者。於千世界而得自在。三十六反為帝釋。亦於無量世。作轉輪聖王。主四種兵。常以正法。降伏衆生。成就七寶。乃至廣說。七歲中者。謂七雨時。古世好時。菩薩為中國王。彼國多熱。去城不遠有林。其地高涼。生華果草木及諸流水。皆悉具足。夏熱之時。城中村落人民皆捨居處。趣彼林中。各修所業。菩薩亦爾。更以餘人。鎮守於城。自詣林中。於高顯閑靜處。離欲界欲。起四無量。於夏雨四月中。遊四無量心。夏熱已過。天時轉涼。是時人民。捨彼樹林。還詣居處。各修所業。爾時菩薩。亦捨樹林。還詣宮城。以憐愍故。設大法祀。修布施福業。施沙門婆羅門諸貧弱作業者及行道人。有來求者。施其飲食。衣服塗香房舍具象馬車乘及施燈明。如是六反往。彼林中。或有說者。第七反菩薩命行盡。命終生光音天。或有說者。遭世界壞。命終生光音天。是故於七雨中。名為七歲。問曰。若生梵世光音天中可爾。所以者何。是彼果是色界繫故。言作帝釋轉輪王者。云何可爾。無量亦於欲界中受報耶。答曰。菩薩起三地無量。謂欲界地。初禪地。二禪地。受欲界地無量報。作轉輪聖王帝釋。受初禪地無量報。作大梵王。受第二禪地無量報。生光音天。復次欲界有無量出定入定心。受出入定心報故。作轉輪聖王帝釋。受無量報故。生梵世光音天中。復次欲界有無量方便。

受方便報故。作轉輪聖王帝釋。受無量報故。生梵世光音天中。復次欲界是一切善根種子界。一切善根。乃至滅定。皆有相似法。受無量善根相似報故。作轉輪聖王帝釋。受無量報故。生梵世光音天中。復次受法。祠祀報故。作轉輪聖王。受持戒報故。作帝釋。受彼林中修無量報故。生梵世光音天中。復次此經說三種福業。謂布施持戒修定福業。如彼經說諸比丘。我以三業報故。令我有大威勢。三業者。謂施定戒。施者是布施福業。定者是修定福業。戒者是修戒福業。以布施福業報故。作轉輪聖王。以持戒福業報故。作帝釋。以修定福業報故。生梵世光音天中。佛經說有三種福業。謂布施福業。持戒福業。修定福業。云何布施福業。若以物施沙門婆羅門。乃至燈明。是名布施福業。云何持戒福業。不殺於殺。更不欲殺。不盜不姪不妄語不飲酒亦如是。是名持戒福業。云何修定福業。常以無怨無害無害慈心。廣說如上。悲喜捨心說亦如是。是名修定福業。問曰。何故色無色界善根。唯說無量。是修定福業。非餘色無色界善根。答曰。世人以饒益為福想。一切色無色界善根。欲饒益他。無有如無量者。復次世人以福果為福想。無量能生廣福果故。如偈說

問曰。如非福火。亦不能燒。何故但說福耶。答曰。非福雖不燒。燒非福果無量果。不已為火燒。不當為火燒。不今為火燒。佛經說諸比丘。蘇尼哆弟子。於一切時。滿足學者。身壞命終。生梵世中。或於一切時。不滿足學者。身壞命終。生他化自在天。或生化樂天。或生兜率天。或生夜摩天。或生三十三天。或生四天王。或生利利大姓婆羅門大姓居士大家。或生如是等家。饒財多寶倉庫盈溢之處。問曰。若然者。蘇尼哆。則勝佛世尊。所以者何。蘇尼哆弟子。於一切時。滿足學者。身壞命終。生梵世中。於一切時。不滿足學者。身壞命終。生他化自在天。廣說如上。世尊弟子。於一切時。滿足學者。得生天中。或得涅槃。於一切時。不滿足學者。身壞命終。生惡道中。答曰。於此事中。不應說佛不如。所以者何。如世尊最小弟子須陀洹。則勝蘇尼哆身。此乃是佛行菩薩道。名蘇尼哆時事。問曰。世尊行菩薩道時。勝成佛時耶。答曰。應知彼經所以。為以何事。作如是說。蘇尼哆為諸弟子。說梵住法。得生梵天。言一切時。滿足學者。蘇尼哆弟子。為梵住法。勤行精進。能生起者。身壞命終。生梵世中。為梵住法。勤行精進。不能起者。或生他化自在天。乃至或生人中。然古世時人好。不因無量方便。亦得生天。何況為無量故。勤行精進。最勝善根。不生天人中耶。世尊為諸弟子。說速解脫戒。令得涅槃。言應學是法。世尊弟子。於此學中。不破不穿。不越制度者。得生天

①[彼]一②③ ④[祠]一⑤ ⑥卷第六十三終⑦⑧ ⑨卷第六十四使健度十門品之十一首⑩⑪⑫ 卷第六十四使健度十門品第四之十一首⑬ 造號釋號譯號同異如卷第二十三

上及到涅槃。世尊弟子。於此學中。破穿越制
度者。身壞命終。生惡趣中。以是事故。此經
說。無量是滿足學。爾時蘇尼哆。心生是念。我
不應與諸弟子共生一處。我應修上慈生光
音天中。時蘇尼哆。便修第二禪地上慈。身壞
命終。生光音天中。問曰。如蘇尼哆。是近佛菩
薩。不應有法憍。何以爲諸弟子。說生梵世法。
自生光音天。答曰。彼觀弟子諸根。有齊量
故。復次彼諸婆羅門。長夜期心梵天。隨順轉
近欲生梵天。是故爲說生梵天法。復次世無
佛時。無有能起第二第三第四禪地無量者。
唯除近佛菩薩。問曰。如上地無量。明淨勝
好。何故說第二禪地慈。名爲上慈耶。答曰。
第二禪地慈。於初禪地慈爲上故。復次於聲
聞入邊慈勝故爲上。復次此慈於舊勝。故爲
上。復次世無佛時。無有能起第三第四禪地
無量者。以佛力故。佛諸弟子。即依彼地。起
彼地慈。是故尊者瞿沙。作如是說。彼二地
慈。非凡夫人。以佛力故。佛諸弟子。能起彼
慈。

問曰。何故名梵住。答曰。以梵世在初具有故。
未至禪雖在初不具有。第二禪雖具有不在
初。初禪在初亦具有。復次對非梵故名梵住。
非梵者。謂欲界煩惱。彼是近對治故。復次對
非梵行故名梵住。非梵行者。謂欲界婬欲誰
是彼近對治。謂四梵住法。復次梵行者。身中
可得故名梵住。復次世尊是梵。彼梵顯現解
說故名梵住。復次以梵音梵語解說故名梵
住。復次諸梵修此法。得生梵世故名梵住。問

曰。梵住無量。有何差別。答曰。或有說者。無
有差別。所以者何。四梵住即是四無量。四無
量即是四梵住。復有說者。名即差別。是名梵
住。是名無量。復次對非梵故名梵住。對戲論
故名無量。復次梵行者身中可得名梵住。無
戲論者身中可得名無量。復次對治非梵行
故是梵住。對治放逸故是無量。復次在梵世
者是梵住。在上地者是無量。復次在未至。依
梵世者是梵住。在上地者是無量。復次在未
至梵世者是梵住。亦名無量。在上地者是無
量。復次會所得者是梵住。未曾得者是無量。
復次內道中所行者是梵住。亦名無量。外道
中所行者是無量。復次共者是梵住。不共者
是無量。是故尊者瞿沙作是說。梵住是共法。
凡夫聖人共故。無量是不放逸不共法。凡夫
聖人不共故。梵住無量。是謂差別。

佛經說四種人得梵福。云何爲四。若人於未會
起塔坊處。能於此處。以如來舍利起塔。是名
初梵福。復次若人於未曾起聖衆精舍坊處。
能於此處。起聖衆精舍。是名第二梵福。復次
若如來弟子衆破還令合。是名第三梵福。
復次若人能修四梵住法。是名第四梵福。譬
喻者。作如是說。此經非如來所說。此四亦非
梵福。所以者何。此四果報不等故。若人起大
塔。如來生處。得道處。轉法輪處。般涅槃處。
若人聚小石。積爲塔。此二福德等無異耶。若
人起大精舍。如祇桓竹林多摩沙林精舍。
若人起一重房。其福等無異耶。若和合如提
婆達所破僧。若和合俱舍彌闍評僧。其福等

無異耶。四梵住是如來經所說。亦是梵福。阿
毘曇者。作如是說。此經是如來所說。亦是梵
福。問曰。此果報何故不等。答曰。以所爲等
故。若人於未曾起塔坊處。爲如來大梵故起
大塔。若人於未曾起塔坊處。爲如來大梵故
起小塔。以所爲同故。其福無異。若無聖衆
精舍處起聖衆精舍。若如來弟子衆破。還令
和合。此俱爲梵行故。是梵福等無有異。是
三所爲同故。其福等無異。復次以相似故。
若人修四無量。欲饒益無量衆生。若於未曾
起塔坊處。以如來舍利起塔。亦欲饒益無量
衆生。所以者何。百千萬億衆生。以是如來塔
故。以香華伎樂末香塗香及幢幡蓋種種供
具。而供養之。因是事故。生善身口意業種豪
族家因緣。有大威德。饒財多寶。形容端正。
人所樂見。或種轉輪王因緣。或種帝釋因緣。
或種魔王因緣。或種聲聞因緣。或種辟支佛
因緣。或種佛因緣。若修無量欲饒益無量衆
生。若於未曾起聖衆精舍坊處。起聖衆精舍。
亦爲饒益無量衆生。所以者何。百千衆生以
是如來弟子衆故。以種種飲食。作一日七日
半月一月。作般遮于瑟及與常會。亦以床座
隨病藥資生所須。而給與之。令諸比丘讀誦
修多羅毘尼阿毘曇。思惟其義。生不淨安般
念處。暖頂忍世第一法。入正決定得果。離欲
盡漏。因是事故。種豪族因緣。有大威德。饒財
多寶。形容端正。人所樂見。或種轉輪王因
緣。或種帝釋因緣。或種魔王因緣。或種聲聞
因緣。或種辟支佛因緣。或種佛因緣。如修無

○唯二惟 ○好二妙 ○[來]一 ○積二積 ○桓二俱 ○三二二 ○吸二樓

量。饒益無量衆生。如來弟子衆破。還令合。亦欲饒益無量衆生所以者何。若如來弟子衆破。應入正決定者。不入正決定。不得果。不離欲。不盡漏。不轉教。不受不讀誦。是時不能思惟修多羅毘尼阿毘曇。不能種聲聞辟支佛。佛道因緣。令三千大千世界法輪停止。乃至首陀會天。而有異心。若僧破還令合。應入正決定者得入。乃至首陀會天。無有異心。以如是相似事故。俱是梵福。復次若於未曾起塔坊處。以如來舍利起塔。有四事故名梵福。一捨多財生大信心。二令多衆生得種善根。三都令成竟。四安置如來舍利。若無如來弟子聖衆精舍坊處。始立精舍。亦以四事故名梵福。一捨多財生大信心。二令多衆生得種善根。三都令成竟。四無所依者。爲作所依。無居處者。爲作居處。若如來弟子衆破。還令合。亦以四事故名梵福。一離四種口惡業。二行四種口善業。三破非法。四修恭敬法。若修四無量。亦以四事故名梵福。一離憎愛二斷諸蓋。三有彼果。四是彼繫故。問曰。幾許名梵福。答曰。或有說者。若福業報。能得轉輪聖王身。梵福量亦如是。復有說者。若福業報。能得帝釋身。梵福量亦如是。復有說者。若福業報。能得自在天王身。梵福量亦如是。復有說者。以一切衆生福業威勢。故令世界還成。梵福量亦如是。復有說者。除近佛菩薩。餘一切衆生。所有富貴福業。梵福量亦如是。復有說者。如梵天王請佛所得福

業。梵福量亦如是。評曰。梵福量無量無邊。如上所說。皆是讚歎梵福之言。問曰。梵天王請佛。何時得梵福。答曰。或有說者。發心欲往請佛時。不應作是說。所以者何。云何未作業而得福耶。復有說者。請佛時得梵福。亦不應作是說。所以者何。梵天請佛時。是欲界不隱沒無記心。不隱沒無記心不能生報。評曰。應作是說。梵天王請佛已。還自本宮。佛以梵天王請故。而轉法輪。五比丘及八萬諸天。皆得見諦。是聲上聞梵天。梵天王聞是聲已。心生信敬。我請佛故。佛轉法輪。令他得如是利益。是時得梵福。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十二

阿毘曇毘婆沙論卷第四十三

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

使健度十門品之七

◎如說若入慈定。火不能燒。刀不能傷。毒不能害。水不能漂。不爲他所殺。問曰。何故入慈定。不爲水火刀毒他人所殺耶。尊者和須蜜說曰。慈定是不害法故。害法無能害者。復次彼定有大威勢故。威勢諸天皆來擁護。害不能害。復次禪定法。不可思議神足法亦爾。復次入彼定時。不住自心。不住自心者。不死不生。尊者佛陀提婆說曰。行者入慈定時。色界

四大。遍此身中。同爲一體。其猶若石。是故無能害者。問曰。此悲喜捨定。爲害法所害。入悲喜捨定爲害法所害。若不害者。此中何故不說耶。答曰。應作是說不害。問曰。若然者。此中何以不說。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次已說在先所說中。若說慈。當知已說悲喜捨。復次此現始入方便故。如說慈悲喜捨亦如是。復次入悲喜捨定時害法。雖不能害。出定時身有苦痛。慈則不爾。復次入悲喜捨定害法。雖不能害。猶破肌皮。慈則不爾。復次入悲喜捨定時不能害。方便時則害慈。方便時。無能害者。曾聞有人得欲界方便慈。犯於王法時。人縛送於王。而白王言。此人犯王法。應加刑罰。時王乘象執轡。欲出城遊。即讀經。其所作之罪。王應手害。時王瞋恚。即以糞擲其人。彼人見王瞋恚。便起慈心。以慈心故。糞還向王身。不遠落地。王見是事。心生恐怖。而問彼人。汝有何方道術耶。人答王言。我無方道術。見王瞋故。便起慈心。以慈心故。害不害我。以是事故。知慈方便害不能害。佛經說。修行廣布慈心能斷恚。修行廣布悲心能斷苦。修行廣布喜心。能斷不喜樂。修行廣布捨心。能斷欲愛恚。問曰。無量爲能斷結不耶。若能斷者。定。健度所說云何通。如說。慈斷何繫結。答曰。無處所悲喜捨斷何繫結。問曰。無處所若不能斷者。此經云何通。答曰。應作是說。無量不能斷結。問曰。若然者

①(佛)一 ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

定*健度所說善通。此經云何通。答曰。此經說須臾斷。斷有二種。一須臾斷。二畢竟斷。以須臾斷故。佛經說斷。以畢竟斷故。阿毘曇說不斷。是二所說。俱為善通。如須臾斷。畢竟斷。有片斷。無片斷。有影斷。無影斷。有餘斷。無餘斷。制斷。根本斷。當知亦如是。問曰。若無量不斷結者。異經說。復云何通。如說比丘修慈心定。若不勝進餘法。必得阿那含果。乃至捨心亦如是。答曰。此中佛說無漏聖道是慈。世尊或說聖道是想。或說是受。或說是意。或說是證。或說是信進念定慧。或說是棧。或說是石。或說是水。或說是華。或說是慈悲喜捨。何處說是想。乃至是華。廣說如雜*健度。復次常以慈心常觀慈心。為求慈心故。離於欲愛。或是凡夫。或是聖人。若是凡夫。離欲愛已得慈心定。彼於後時。入正決定。得阿那含果。若先不離欲。入正決定者。若得須陀洹果。若得斯陀含果。所以得阿那含果者。以慈定力故。若是聖人離。於欲愛。得慈心定。亦得阿那含果。以是事故。佛作是說。比丘修慈定得阿那含果。但無量不能斷結。如慈悲喜捨亦如是。

佛經說。修行廣布不淨想。斷欲愛。修行廣布捨心斷。欲悲。問曰。不淨想斷何等愛。捨心斷何等愛。答曰。愛有二種。一婬欲愛。二境界愛。不淨想斷婬欲愛。捨心斷。境界愛。復次有色愛形愛。不淨想斷色愛。捨心斷形愛。復次有觸愛有容儀愛。不淨想斷觸愛。捨心斷容儀愛。不淨想斷如是等愛。捨心斷如是等愛。佛經說。修與慈俱念覺。枝。能得離得無欲得滅捨生死悲喜捨心俱說亦如是。問曰。無量是有漏。念覺。枝。是無漏。云何有漏法與無漏法俱耶。尊者和須蜜說曰。無量令心調伏質直任用已。次生覺。枝。生覺。枝。後。復生無量故。而作是說。但有漏法俱。問曰。無量中何者最勝。答曰。或有說者慈勝。所以者何。慈是不害法故。復有說者悲勝。所以者何。佛以悲故。為衆生說法。復有說者喜心勝。所以者何。喜斷不喜樂法故。復有說者捨心勝。所以者何。捨能斷欲愛悲故。尊者佛陀提婆說曰。捨心最勝。所以者何。以二事故。一以所作。二以寂靜。所作者。修行廣布捨心斷欲愛悲。寂靜者。不分別衆生故。問曰。何故說大悲。不說大慈大喜大捨耶。答曰。應說一切佛身中所有功德。皆應言大。所以者何。佛有無量憐愍。饒益衆生心故。但不應作此問。所以者何。若悲即是大悲。可作是問。但悲異大悲異故。不應作是問。問曰。若悲異大悲異者。悲與大悲。有何差別。答曰。名即差別是名悲。是名大悲。復次悲是無悲善根。大悲是無癡善根。復次悲在四禪。大悲在

第四禪。復次悲聲聞辟支佛佛盡有。大悲。唯佛有。復次悲是無量所攝。大悲非無量所攝。復次悲對治悲不善根。大悲對治癡不善根。復次悲緣欲界。大悲緣三界。復次悲緣為欲界苦所苦衆生。大悲緣為三界苦所苦衆生。復次悲緣為苦所苦衆生。大悲緣為三苦所苦衆生。復次悲緣身苦衆生。大悲緣身心苦衆生。復次悲緣衆生不能救。大悲悲衆生能救。譬如二人臨河而坐。有人為水所漂。一人舉手而言。此人喪失。而不能救。第二人褰衣入水。救濟其人。令得出水。悲與大悲。亦復如是。尊者和須。密說曰。悲與大悲。有何差別。答曰。一名為悲。二名大悲。復次體有差別。一是無悲善根體。二是無癡善根體。復次地有差別。悲在四禪。大悲在第四禪。餘廣說如上。尊者佛陀提婆說曰。大悲是佛。在第四禪。是不共法。深遠微細。遍一切處。一切衆生。無有怨親聲聞辟支佛悲。不能緣色無色界悲。大悲。是謂差別。問曰。何故名大悲耶。答曰。拔濟大苦衆生故名大悲。大苦者。謂地獄餓鬼畜生苦。復次拔濟貪欲瞋恚愚癡大。汚泥衆生。安置平坦道果中故名大悲。復次令諸衆生大利益事故。諸衆生以身口意善業故。種豪族因緣。有大威勢。饒財多寶。形色端正。或種轉輪聖王帝釋自在天王因緣。或種聲聞辟支佛佛道因緣者。皆是大悲力故。復次以大法得故名大悲。非如聲聞辟支佛道。或以一齋。或以一說。或以一食等施人故。而得行大布施。於一切處。施一切人。一

①於二欲②欲十(愛)③(欲)十愛④枝二支⑤伏一供⑥(但)一⑦唯二惟⑧苦二若⑨密二蜜⑩汚二泆

切可愛物而得故名大悲。復次以大方便得故名大悲。非如聲聞道六十劫行方便道而得。辟支佛百劫行方便。佛於三阿僧祇劫。行百千難行苦行而得。故名大悲。復次依大身而住故名大悲。非如聲聞辟支佛道依諸根不具身而得。若身有三十二大人相。莊嚴八十隨形好。身光一尋。觀無厭足。住如是身中故名大悲。復次與大樂相違故名大悲。佛有甚深淨明不共法。捨如是等法樂。經過百千萬鐵圍諸山。為他人說法。皆以大悲力故名大悲。復次令大人作難作事故名大悲。世尊或現作師子像。或現作女人像。或現作力士像。或現作執樂人像。或現作乞人牽難陀臂。遍至五趣。於央掘魔羅前。或近或遠。成就增上慚愧衆生。為化女人故。示其陰藏。示輕躁相。出舌覆面。乃至髮際。示現如是難作之事。皆以大悲力故言大悲。復次能動大捨山故。佛有二種不共住法。一是大悲。二是大捨。若如來住不共大捨時。無有是處。以分別故說。假令一切衆生熾然。猶如火燒薪積者。如來猶不視之。若如來住不共大悲時。見諸衆生受苦惱時。如那羅延堅固之身。戰動如芭蕉葉故名大悲。

如鬼以惡心來。尚能生苦。何況如來善心。而不生樂。答曰。應作是說。能令衆生樂。問曰。若然者。偈善善通。地獄餓鬼畜生。及諸苦厄衆生。何不離苦得樂。答曰。佛觀衆生業。有可轉者。有不可轉者。若可轉者。慈則濟之。若不可轉者。慈不能濟。復有說者。不能令衆生樂。問曰。若然者。毘尼說云。何通。如說佛以遍慈為衆生說法。答曰。佛遍慈有種種。或現神足。或現他所愛事。或以藥草與他。或以迦陵觸觸之。或以安樂影覆。以神足者。曾聞佛住王舍城迦蘭陀竹林時。有居士。請佛及僧食。爾時世尊以日前分。著衣持鉢。與諸比丘。入王舍城。時王阿闍世。親近惡友提婆達多。故以酒飲。陀那。波羅象。令其狂逸。欲害如來。爾時如來舉右手五指。化作五師子王。時象見之。心懷恐怖。便欲還走。願視其後。有大深坑。便視左右。有大高舍。仰視空中。有大方石。石出火焰。復四面顧視。皆有猛焰。唯見世尊足邊清涼。象見是已。醉心醒悟。爾時世尊滅五師子。即前以鼻摩世尊足。世尊以相好莊嚴手。摩其頂上。以象語而為說法。諸行無常。諸法無我。涅槃是寂滅法。汝應於我生信敬心。當脫畜生身。象聞是語。不復飲食。即便命終。以清淨心。故生三十三天。復以天身來詣佛所。佛為說法。得見真諦。便還天宮。時世皆言。世尊遍慈。乃至及陀那婆羅。此中遍慈者。謂神足是。餘處亦以遍慈。而現神足。曾聞世尊遊行力士國。至波卑城。住者留迦林。波卑城中。諸力士等。聞佛在彼。即共集

鬼神以惡心 而來趣向人
雖未加毒害 心已懷恐怖

議。我等皆應盡詣佛所。若不往者。當罰五百兩金。爾時有一力士名曰盧遮。無有信心。有大威勢。饒財多寶。不欲詣佛。心作是念。我能輸五百兩金。但違親屬。此事不可。時諸力士。盡共同時往詣佛所。到已頂禮佛足。爾時阿難見盧遮力士。而語之言。汝盧遮。善來見佛。世尊。為世福田。不久當於娑羅雙樹林中而滅。其身質直。少於詭曲。語阿難言。我今來者。不為見佛。但隨順親屬故來。具以前事。向阿難說。爾時阿難牽盧遮臂。前詣佛所。而白佛言。此盧遮力士。不信佛法僧。唯願世尊。為其說法。令於佛法僧生信。爾時世尊作是思惟。是盧遮力士。是愛行人。貪著境界。若直為說法。則不信解。世尊以憐愍心。現神足力。即於彼處。化作一沸屎坑。臭穢不淨。加有火焰。從其中出。有如是聲。而作是言。若盧遮力士。不從佛受法。生信心者。身壞命終。當生此中。時彼力士。見聞是事。心大恐怖。在佛前坐。佛為說法。即生信心。歸佛歸法。歸比丘僧。時世皆言。世尊遍慈。乃至及盧遮力士。此中遍慈者。謂神足是。

或現他所愛事者。曾聞佛住彌絺羅國摩訶提婆菴羅林中。時有婆羅門婦。名婆肆吒。一時喪失六子。追念子故。羸形狂走。至摩訶提婆菴羅林中。爾時世尊與無量百千眷屬圍遶說法。法應如是。狂者見佛。必得正念。爾時婆肆吒以見佛故。還得正念。心生慚愧。曲身而坐。爾時世尊告阿難言。汝可與婆肆吒衣。我當為其說法。阿難即與其衣。時婆肆吒

①非二悲②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①淨明二明淨②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①(或)十成②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①波二婆②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①唯二惟②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①至二不②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①唯二惟②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①羸二探②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

著衣已。禮佛而坐。爾時世尊作是思惟。假令恒沙諸佛。爲其說法。以愁惱故。終不信解。世尊憐愍故。以神足力。化作六子。彼婦人見諸子已。心作是念。我爲此諸子故。心生愁惱。今得見子。無復愁惱。爾時世尊隨其所宜。而爲說法。得見真諦。世人皆言。世尊遍慈。乃至及婆肆吒。此中遍慈者。現他所愛事。餘處。示現他所愛事。名爲遍慈。會聞佛住舍衛國時。舍衛國有一婆羅門。稻田成熟。垂當收刈。令一子守。時天降雹。傷其稻田。又害子命。婆羅門以傷稻田。喪失子。故裸形狂走。至祇陀林中。爾時世尊與百千眷屬圍遶說法。法應如是。狂者見佛。必得正念。爾時婆羅門以見佛故。還得正念。在佛前坐。爾時世尊作是思惟。假令恒沙諸佛。爲其說法。以愁惱故。終不信解。世尊憐愍故。以神足力。化作稻田及所愛子。其人見已。心作是念。我爲稻田所愛子故。心生愁惱。今得見之。無復愁惱。爾時世尊隨其所宜。而爲說法。得見真諦。世皆人言。世尊遍慈。乃至及婆羅門。此中遍慈者。現他所愛事。以藥草與他者。會聞佛在婆尸國遊行。至波羅奈國仙人住處。施鹿林中。爾時波羅奈國。有一居士。名摩訶先那。其婦名摩訶先尼。時彼居士夫婦請佛及僧。當施一切所須資產之物。爾時有一比丘。服吐下藥。發其風病。醫處當服肉汁看病。比丘即以是事。往告摩訶先尼。時摩訶先尼。勅使持錢。買肉作汁。與彼比丘。其日梵摩達王。生子歡喜。宣令不殺。時婢遍波羅奈城。求肉不得。還

白大家。爾時摩訶先尼作是念。我請佛及僧。施一切所須資產之物。彼病比丘若不得肉者。或因此病而死。復作是念。世尊本行菩薩道時。數數爲他命故。以自身肉布施。今我亦應如菩薩法。以自身肉施他。即入靜室。自持利刀。割其脾肉與婢。令辦肉汁。施病比丘。時婢如勅。成熟肉汁。施病比丘。爾時比丘不憶念故。即便服之。所患即除。爾時摩訶先尼身體苦痛。不安一處。爾時摩訶先那從外來入。不見其婦。問其家人。摩訶先尼今在何所。家人答言。今在舍內。身體苦痛。不安一處。具說上事。爾時摩訶先那極生瞋恚。而作是言。沙門釋子。不知時宜。又無厭足。雖施者無量。受者應當知量。當以是事。往白世尊。即詣佛所。爾時世尊百千眷屬圍遶說法。世尊妙色見者。歡喜居士。以見佛故。盡蓋即除。心生歡喜。便作是念。我今不應以是事白佛。當請佛及僧。至我家中。乃當說之。即頭面禮佛。在一面坐。佛說法訖。即從座起。正衣服偏袒右肩。合掌白佛。而作是言。唯願世尊及比丘僧。於我家食。爾時世尊默然受請。摩訶先那知佛許已。禮佛而退。還家即夜辦具。餽膳種種所須。晨朝敷座。遣使白佛。飲食已具。唯聖知時。爾時世尊以日初分。著衣持鉢。將比丘僧。入摩訶先那舍。坐所敷座。佛知故。問摩訶先尼。今何所在。其夫答言。今在舍內。身體苦痛。不安其所。佛告居士。往語汝妻。世尊喚汝。世尊善知內緣起法。亦復善知外緣起法。即以神力。至香山中。取塗斫創香

藥。與摩訶先尼。使用塗創。即得除愈。時彼創處。肌毛皮色。平復如故。爾時摩訶先那。往至其妻摩訶先尼所。而語之言。世尊喚汝。妻便答言。居士當知世尊神力。不可思議。汝語我言。世尊喚汝。如是時間。我身創苦。平復如故。是時夫妻。倍加信敬。共詣佛所。頭面禮佛。在一面坐。爾時世尊隨宜說法。俱得見諦。世人皆言。世尊遍慈。乃至及摩訶先尼。是中遍慈者。謂以藥草與他。餘處亦以藥與他。會聞波斯匿王。斷賊手足。擲棄暫中。爾時世尊以日初分。著衣持鉢。入舍衛城乞食。時賊見佛。舉聲大喚。我今苦厄。願見哀愍。世尊善知內緣起法。亦復善知外緣起法。即以神力。至香山中。取塗斫創。香藥塗其創上。苦痛即除。亦爲彼賊。隨宜說法。即得見諦。世人皆言。世尊遍慈。乃至及賊。此中遍慈者。以藥草與他。以迦陵伽觸觸者。會聞佛住王舍城者。閻崛山如來住山一邊。提婆達多住一邊。爾時提婆達多。患於頭痛。晝夜不得眠寐。極用苦惱。爾時阿難具以白佛。爾時如來。如象王鼻臂。穿者閻崛山。以迦陵伽。觸摩提婆達多頭。作至誠言。我於羅睺維提婆達多。心無增減。此言誠實者。提婆達多頭痛當除。以誠言故。提婆達多頭痛即除。時提婆達多。作如是念。此是誰手。知是佛手。而作是言。快哉。悉達善知醫方。可以自活。世人皆言。世尊遍慈。乃至及提婆達多。此中遍慈。以迦陵伽觸。餘處亦有迦陵伽觸。會聞世尊巡行房舍。至一房內。有一病比丘。不能起居。臥糞穢中。見

衣已禮三字宋本缺 示二亦 卷第六十四終 卷第六十五使健度十門品之十二首 卷第六十五使健度十門品第四之十二首 遺號釋號譯號同異如卷第二十三 使二婢 今二今 即二而 如申二曳

佛世尊高聲而言世尊。我今無依無救。佛告病比丘。汝不以三界世尊故。而出家耶。答言。如是。佛告病比丘。汝以我故出家。何以言無依無救。病比丘。汝不病時。頗曾瞻養病比丘不。答言。不也。佛告病比丘。汝不瞻養他故。今使汝若此。爾時世尊自去身衣。從草敷中起。病比丘復以竹片。刮其身上糞穢。以白土。泥洗。帝釋注水。爾時世尊除其糞穢。更塗房舍。浣所污衣。更敷新草。以所食半食。而以飯之。復以迦陵伽觸手。摩其頂上。時病比丘苦痛即除。佛隨宜為其說法。即得阿羅漢果。世人皆言。世尊遍慈。乃至及病比丘。此中遍慈者。以迦陵伽觸。

以安樂影覆者。曾聞佛共尊者舍利弗。一處經行。時有一鳥。為恐怖逼切。趣舍利弗影。猶故恐怖。舉身戰慄。復趣佛影中。恐怖即除。止不戰慄。爾時尊者舍利弗。合十。爪指掌而白佛言。世尊。此鳥在我影中。恐怖戰慄。在世尊影中。止不恐怖戰慄。佛告舍利弗。汝於六十劫中。習不殺心。我於三阿僧祇劫。習不殺心故。世人皆言。世尊遍慈。乃至及鳥。此中遍慈者。以安樂影覆。餘處亦以安樂影覆。曾聞愚癡毘琉璃王毀壞。如天宮迦毘羅城。斷諸釋命。將五百釋女。還舍衛國。共昇高樓。向諸釋女。而自歎譽。諸釋勇健。心懷憍慢。我已殺之。諸女答言。所以為汝殺者。為戒所縛故。時王瞋恚。諸釋慢心。而今猶有。即斷五百釋女手足。擲城塹中。極大苦惱。諸釋女等。各作是念。我等苦惱。世尊豈不憐我等。佛

知諸女心之所念。亦以大悲心故。往到其所。起世俗心。帝釋可以衣覆此諸女。爾時帝釋知佛心念。即以天衣。覆此諸女。佛放光明。遍諸女上。佛光觸故。苦痛即除。亦隨。宜為說法。時諸釋女皆得見諦。身壞命終。生三十天。世人皆言。世尊遍慈。乃至及諸釋女。此中遍慈者。以安樂光覆。

佛經說。修行廣布慈心。報不過遍淨。修行廣布悲心。報不過空處。修行廣布喜心。報不過識處。修行廣布捨心。報不過無所有處。問曰。慈報不過遍淨可爾。所以者何。是彼果是彼繫故。餘三無量。是色界繫善根可於無色界受報耶。答曰。此義味彌勒下生。乃當顯說。復有說者。尊者奢摩達多。能知此義時入定故。尊者迦旃延子。不問此義。復有說者。世尊為教化眾生故。無色定以無量名說。若以無量名。說無色定者。受化者則易悟解。如受化者應聞解脫。以方名說。而得悟解。佛即以方名說解脫。復有說者。無色定對治覺支。以無量名說。第三禪對治覺支。以慈名說。空處對治以悲名說。識處對治以喜名說。無所有處對治以捨名說。復有說者。以相似故。慈行樂行樂受。從欲界乃至第三禪可得故。悲行苦行。色處則有斷手足耳鼻頭苦。空處呵責於色。喜行歡喜。識處起識現在前。心則多喜捨行。捨捨無所有處。說名捨觀。以如是等相似事故。而作是說。復次以樂住。是處故。或有樂觀慈心。以慈心故求離欲。起初禪現在前。心不喜樂。有餘求心。不能任意離初禪欲

起二禪現在前亦如是。若離第二禪欲起三禪現在前。便生喜樂。受無餘求。能令意住。或有樂觀悲心故。離欲愛。乃至離第三禪愛。起第四禪現在前。廣說如上。若離第四禪愛。起空處現在前。心不喜樂。廣說如上。若離空處愛。起識處現在前。心則喜樂。廣說如上。或有樂觀於捨心。以捨心故。求離欲愛。乃至離空處愛。起識處現在前。心不喜不樂。廣說如上。若離識處愛。起無所有處現在前。心則喜樂。廣說如上。復次隨順故。作如是說。從第三禪起欲界諸根。四大潤益。隨順慈心。從慈心起欲界諸根。四大潤益。隨順第三禪。從空處定。起欲界諸根。四大潤益。隨順悲心。從悲心起欲界諸根。四大潤益。隨順喜心。從喜心起欲界諸根。四大潤益。隨順識處定。從無所有處定。起欲界諸根。四大潤益。隨順捨心。從捨心起欲界諸根。四大潤益。隨順無所有處定。是故以隨順故。而作是說。復次為對治外道故。外道於無色定。作解脫想。謂無身無邊意淨。聚世塔為對外道。如是想故。無色定。以無量名說。是故尊者瞿沙。作如是說。外道於滅盡法中。愚計無色定。以為滅盡。為對外道故。是以佛經說無色定。無量俱非解脫等。無有異。

四無色定。無邊空處。無邊識處。無所有處。非想非非想處。問曰。何故作此論答曰。為止併義者意故。如毘婆闍婆提說無色界有色。有多婆提說。無色界無色。問曰。毘婆闍婆提。

泥二塗(一) 瓜指一指瓜(一) 宜十(而)(一) 是一彼(一) (若)一(一) 受二更(一) (心)一(一) 對外道二外道對(一)

爲何何經。言無色界有色耶。答曰。依佛經。佛經說名色緣識。無色界有識故。亦應有名色。餘經亦說壽。暖氣識。此三法常相隨。不相離。無有分散各在異處。無色界有壽識故。亦應有暖氣。餘經復說比丘當知。若除色受想行識。說有來有去有生有死有住者。不應作是說。無色中有識故。亦應有識住處。亦說過難。若當無色界無色者。欲色界命終。生無色界。或經二萬劫色斷。或經四萬劫色斷。或經六萬劫色斷。或經八萬劫色斷。若無色界命終。還生欲色界。久遠斷色。還與色相續。如是入無餘涅槃界。久遠滅行。亦應還與行相續。欲令無如是過故。說無色界有色。問曰。有多婆提。依何經。說無色界無色耶。答曰。依佛經。佛。經。說。寂靜解脫。過於色入。如是無色定身作證。若說過色入無色定。當知無色界無色。餘經亦說。以色離欲。以無色離色。離一切心法。離一切所作。入滅盡涅槃。若說離色界入無色界。當知無色界無色。如說禪經說若有色。若有受。若有想。若有識。當觀此法。如病乃至廣說。如說無色定。經說若有受。若有想。若有行。若有識。當觀此法。如病乃至廣說。若說禪時說色。若說。無色定時不說色。以是事故。知無色界無色。亦說過難。若無色界有色者。則不應施設次第滅法。若無次第滅法。亦無畢竟滅法。若無畢竟滅法。則無解脫出要。欲令無如是過故。說無色界無色。如是一說無色界有色。一說無色界無色。此二說中。何者爲勝。答曰。有多婆提所

說。無色界無色者勝。問曰。有多婆提。云何通毘婆闍婆提所依經。答曰。彼經是未了義。是假名有餘意。問曰。彼經有何義未了有何義假名有。何餘意耶。答曰。佛經或說欲界法。或說色界法。或說無色界法。或說欲色界法。或說色無色界法。或說三界法。或說非三界法。說欲界法者。如說三界。謂欲界。色界。苦界。三覺。欲覺。慧覺。苦覺。三想。欲想。慧想。苦想。說色界法者。如說四禪。說無色界法者。如說四無色定。說欲色界法者。如此經說。說色無色界法者。如說定。如說摩。說三界法者。如欲界。色界。無色界。欲有色。無色。說非三界法者。如說我今當說涅槃。及趣涅槃法。如說名色緣識。當知此說欲色界法。所以者何。欲色界有色。故名色。爲識作緣。無色界無色。故名爲識作緣。此是通彼經。若如彼經說者。彼經說六入緣觸。無色有觸。亦應有六入。如經說。壽。暖氣識。常相隨。不相離。乃至廣說。此經亦說欲色界法。所以者何。欲色界有暖氣。故。三法常相隨。不相離。無色界無暖氣。壽識。二法常相隨。不相離。此是通彼經。若如彼經說者。彼經說。此三法常相隨。不相離。無有分散各在異處。而此法可施設在異處。或在陰中。或在界中。或在入中。在陰中者。暖氣是色。壽是行陰。識是識陰。在界中者。暖氣是觸。壽是法界。識是七心界。在入中者。壽是法入。暖氣是觸入。識是意入。以是事故。彼法可施設。各在異處。是故不應盡依彼經說。應解其義。如經說比丘當知若除色受想行。識說

有來有去有生有死有住者。不應作是說者。此經亦說欲色界法。所以者何。欲色界有色。故。識依此四法而住。無色界無色。故。識依三法而住。此是通彼經。若如經說者。餘經亦說一切衆生。皆依食存。色無色界。亦有搏食耶。彼說過難。復云何通。答曰。此不必須通。所以者何。此非修多羅毘尼阿毘曇。若必欲通者。有何意耶。答曰。如我義。色續色。色續無色。無色續無色。無色續色。色續色者。如欲色界命終還生欲色界。色續無色者。如欲色界命終生無色界。無色續無色者。無色界命終還生無色界。無色續色者。無色界命終。生欲色界。問曰。若然者。如欲色界命終生無色界。或經二萬劫色斷。或經四萬劫。或經六萬劫。或經八萬劫色斷。若無色界命終還生欲色界。久遠斷色。還與色相續者。如是入無餘涅槃界。久遠滅行。亦應還與行相續。答曰。斷有二種。有須臾斷。有畢竟斷。若須臾斷者。還相續。若畢竟斷者。不相續。問曰。毘婆闍婆提。云何通有多婆提所依經。答曰。彼作是說。彼經是未了義。是假名有餘意。問曰。有何義未了。有何假名有何餘意。答曰。彼作是說。經說。過色入無色者。過於麤色。入於細色。無色界有色而細。經說。以色界離欲界。而色界有色。以無色界離色界。而無色界亦應有色。問曰。若色界以離欲界。故名離欲界者。此事可爾。但色界以離欲故。名離欲界。而色界無欲。是故此事不爾。亦非通經說。禪經說無色定。經及說過難。則不能通。然毘婆闍

①暖=煖下同 ②(經) ③識說=說識

婆提所說。是無明果。闇果。癡果。不勤方便果。說無色界有色。而無色界無色。是故為止他義欲顯己義。亦欲說法相相應義故。而作此論莫止他義。亦莫為顯己義。但欲說法相如實義故。而作此論

四無色定。無邊空處。無邊識處。無所有處。非想非非想處。云何空處。波伽羅那說。云何空處。答曰。空處有二種。謂定生及生。彼中不隱沒無記受想行識。是名空處。如空處識處無所有處。非想非非想處說亦如是。定者是無色定。生者是無色界生及生。彼中不隱沒無記受想行識者。是無色報。佛經說云何空處。

過一切色想。滅有對想。無種種想。思惟入無邊空處。是名空處。問曰。色想是眼識相應想。離初禪欲時已過。何故此處說過色想。答曰。此中說過所依名過。過有二種。一過依二過所依。離初禪欲時過色想依。離第四禪欲時過色想所依。復次此說過所行。過有二種。一過所斷。二過現行。離初禪欲時過所斷色想。離第四禪欲時過現行色想。復次此說過住處。過有二種。一過欲愛。二過住處。離初禪欲時過色想欲愛。離第四禪欲時過色想住處。復次生第四禪中。以眼識故。起色愛現在前。以是事故。說過一切色想。滅有對想者。問曰。有對想者。是耳鼻舌身識相應想。彼或有離欲時滅者。或有離欲時不滅者。何故言此處滅有對想。答曰。先所說答。此中盡應說之。

復有說者。有對想者。名悲相應想。問曰。離欲愛時。滅有對想。何故此處說滅有對想。答曰。滅所為事故。諸所為事。能生悲想者。離第四禪欲時都滅。無種種想。思惟者。云何種種想。思惟。謂第四禪中諸散想。問曰。何故名種種想。答曰。此想緣種種入故。染汚者緣十入。不染汚者緣十二入。問曰。何故說無種種想。思惟。答曰。種種想。離第四禪欲時。極作留難。令離欲法不相續。如守門人。不令他入。彼亦如是。是故佛作是說。不應思惟種種相。應離第四禪欲。無邊空處者。問曰。何故名無邊空處。為以自體。為以所緣。若以自體者。自體是四陰。非無邊空。若以緣者。則緣四諦虛空。非數滅。答曰。應作是說。非以自體。亦非以緣故。以方便故。如施設經所說。以何方便。求無邊空處定。答曰。初行者。若觀垣頭空。若觀樹頭空。若觀屋上空。取如是空相已。觀是虛空。作如是觀。作如是觀察。以緣空故。生於彼定。是故名空處定。復次法應如是。離色初地。必名空處。行者先觀上色地。離下色地欲。離第四禪欲時。觀空處四陰。離第四禪欲。是故彼中作虛空想。如人上樹。緣上枝捨下枝。若至樹頭。更無上枝。便作空想。彼亦如是。復次以依故。說名空處。所以者何。從彼定起。猶有餘依。曾聞有一比丘。得空處定。從彼定起。捫摸虛空。除比丘問言。為何所求。答言。我求我身。比丘說言。汝身即在床上。入空處定者。若得成就。空處善四陰。是名為入。云何無邊識處。過一切空處。入識處定。是名識處。問曰。何故名識處。為以自體。為以所緣。若以自體。體是四陰。若以所緣者。則緣

四諦虛空。非數滅。答曰。非以自體。亦非以所緣。但以方便故。如施設經說。云何方便求識處定。答曰。初行者。取淨眼耳鼻舌身意識。取是相已。思惟觀察於識。以方便觀識故。生識處定。復次以餘依故。從識處定起。識則歡喜。入者若得成就。識處定善四陰。是名為入。云何無所有處。答曰。過一切識處。更無所有。入無所有處。問曰。有何無所有耶。答曰。彼有無我無我所。問曰。一切地盡無我無我所。答曰。雖一切地無我無我所。見無我令我見。羸劣穿薄。少苦無勢。莫如無所有觀者。復次彼中無常恒不變故。名無所有。復次無覆無依無救故。名無所有。復次無所有。名無遊行。彼中無故。名無所有。尊者須蜜說曰。此定是無所屬法故。名無所有。如說我不屬彼。彼不屬我。故名無所有。入者。若得成就。無所有處善四陰。是名為入。佛經說無所有處是捨。問曰。何故佛經說無所有處是捨。答曰。聖道是捨。彼是最後可得處。是故名捨。尊者須蜜說曰。無邊行是龜觀。離彼歡喜。得寂靜故名捨。尊者佛陀提婆說曰。更不念無邊行。心無勢用。而住於捨。云何非想非非想處。答曰。過一切無所有處。入非想非非想處。是名非想非非想處。問曰。何故名非想非非想處。答曰。無了了想相。無了了無想相。無了了想相者。無如七想定相。無了了無想相者。無如滅盡定無想定相。而彼想癡駭不了了不決定故。名非想非非想。入者若得成就。非想非非想處善四陰。是名入

四諦虛空。非數滅。答曰。非以自體。亦非以所緣。但以方便故。如施設經說。云何方便求識處定。答曰。初行者。取淨眼耳鼻舌身意識。取是相已。思惟觀察於識。以方便觀識故。生識處定。復次以餘依故。從識處定起。識則歡喜。入者若得成就。識處定善四陰。是名為入。云何無所有處。答曰。過一切識處。更無所有。入無所有處。問曰。有何無所有耶。答曰。彼有無我無我所。問曰。一切地盡無我無我所。答曰。雖一切地無我無我所。見無我令我見。羸劣穿薄。少苦無勢。莫如無所有觀者。復次彼中無常恒不變故。名無所有。復次無覆無依無救故。名無所有。復次無所有。名無遊行。彼中無故。名無所有。尊者須蜜說曰。此定是無所屬法故。名無所有。如說我不屬彼。彼不屬我。故名無所有。入者。若得成就。無所有處善四陰。是名為入。佛經說無所有處是捨。問曰。何故佛經說無所有處是捨。答曰。聖道是捨。彼是最後可得處。是故名捨。尊者須蜜說曰。無邊行是龜觀。離彼歡喜。得寂靜故名捨。尊者佛陀提婆說曰。更不念無邊行。心無勢用。而住於捨。云何非想非非想處。答曰。過一切無所有處。入非想非非想處。是名非想非非想處。問曰。何故名非想非非想處。答曰。無了了想相。無了了無想相。無了了想相者。無如七想定相。無了了無想相者。無如滅盡定無想定相。而彼想癡駭不了了不決定故。名非想非非想。入者若得成就。非想非非想處善四陰。是名入

◎離十(初禪)◎ ◎相一想◎ ◎說二語◎ ◎苦二力◎ ◎蜜二術◎ ◎歡一觀◎ ◎七十二◎

欲界非想非非想處無漏。問曰。何故欲界非想非非想處無漏耶。答曰。非其田器。乃至廣說。復次對治有根本故。有根本有二。一是欲界。二是非想非非想處無漏道。是有根本對治故。不同一處。復次對治二邊故。邊有二種。一是欲界。二是非想非非想處。無漏道對治二邊故。住於中道。復次欲界是不定界。非離欲地。非修地。非想非非想處。是愚駭不了了。不決定不猛利。聖道是定是猛利。復次欲界掉偏多。非想非非想處定偏多。聖道定慧多。復次非想非非想處。不決定如疑。聖道決定。

佛經說禪名入。說無色定名過。問曰。何故佛經說無色定名過。不說禪耶。答曰。佛經亦說禪名過。如優陀耶經說。優陀耶比丘。離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂入初禪。優陀耶。我亦說此法。是不定。是斷是過。乃至第四禪說亦如是。問曰。唯一經中。佛說禪是過。諸經中。多說無色定是過。答曰。以禪有種種不相似相故。不名為過。無色定無種種不相似相故。說名過。復次禪中多。說功德善利。不名為過。無色定中。無多功德善利。故說名過。復次禪是龜是現見。不名為過。無色定微細難見。故說名過。復次禪是遍照法緣於上地。亦緣下地。亦緣自地。故不名為過。無色定雖緣自地。亦緣上地。不緣下地。故說名過。復次以禪有往來躁動。生欲界中。不死不生。以神足力。到第四禪。第四禪中。亦來欲界。似如不能有所過故。不名為過。無色定無來去。故說名

過。復次禪中有擾亂故。欲界中乃至第四禪中有現在前。第四禪乃至欲界中有現在前。無色中無中有故說名過。復次禪中生上起下地心現在前。如識身變化心。不名為過。無色定生上不起下地心現在前。故說名過。復次禪生上有下地法相續。如識身變化心。不名為過。無色定生上無下地相續法。故說名過。以如是等事故。說無色定是過。不說於禪。空處壽二萬劫。識處壽四萬劫。無所有處壽六萬劫。非想非非想處壽八萬劫。問曰。何故無色界生處。或增倍壽。或不增者。答曰。彼有爾許報因勢故。有爾許報。復次空處識處。有無邊行。亦有餘行。空處無邊行報壽萬劫。餘行報壽萬劫。識處二萬劫。是無邊行報二萬劫。是餘行報。上地無無邊行故無報。復次以空處識處有定有慧。空處定報壽萬劫。慧報壽萬劫。識處定報壽二萬劫。慧報壽二萬劫。上地慧少故報亦少。復次無色生處二萬劫。是定壽。以離欲故。一地增二萬劫。識處二萬劫。是定壽二萬劫。是離空處欲壽無所有處二萬劫。是定壽四萬劫。是離空處識處欲壽。非想非非想處二萬劫。是定壽六萬劫。是離空處識處無所有處欲壽。

八解脫。觀色是色是初解脫。內無色想觀外色是第二解脫。淨解脫身作證得成就是第三解脫。過一切色想滅有對想無種種想思惟。入無邊空處是第四解脫。過一切空處。入無邊識處是第五解脫。過一切識處。入無所有處是第六解脫。過一切無所有處。入非想非非想處是第七解脫。過一切非想非非想處。入滅受想身作證得成就是第八解脫。問曰。解脫體性是何。答曰。初解脫第二第三解脫。是無貪善根。對治於貪取。其相應迴轉。欲界是四陰色界是五陰。空處。識處。無所有處。非想非非想處。解脫。是四陰。滅受想。解脫。是不相應行陰所攝。此是解脫體性。乃至廣說。已說體性所以今當說。何故名解脫。解脫是何義。答曰。背棄義是解脫義。問曰。若背棄義是解脫義者。何等解脫背棄何處心。答曰。初解脫第二解脫。背棄色愛心。第三解脫。背棄不淨心。空處解脫。背棄下地法。乃至非想非非想處解脫。亦背棄下地法。滅受想。解脫。背棄一切有緣心。是故背棄義是解脫義。尊者和須蜜說曰。得解脫是解脫義。心於煩惱得解得淨故名解脫。尊者佛陀提婆說曰。虛想觀得解故名解脫。

①定一足②唯一惟③說二諸④卷第六十五終⑤卷第六十六使健度十門品之十三首⑥卷第六十六使健度十門品第四之十三首⑦造號釋號譯號同異如卷第二十三

則為不淨所摧伏。空處解脫在。空處問曰。空處法。何者是解脫。何者非解脫。答曰。離第四禪欲時。九無礙八解脫。死時善空處非解脫。餘善空處是解脫。識處解脫在識處。問曰。識處法。何者是解脫。何者非解脫。答曰。雖空處欲時。九無礙八解脫。死時善識處非解脫。餘善識處是解脫。無所有處解脫。在無所有處。問曰。無所有處法。何者是解脫。何者非解脫。答曰。若離識處欲時。九無礙八解脫。死時善無所有處非解脫。餘善無所有處。是解脫。非想非非想處解脫。在非想非非想處。問曰。非想非非想處法。何者是解脫。何者非解脫。答曰。離無所有處欲時。九無礙八解脫。死時善非想非非想處非解脫。餘善非想非非想處是解脫。滅受想解脫。在非想非非想處。所依者。初解脫第二第三解脫。依欲界身。滅受想解脫。依欲色界身。餘解脫。依三界身。身行者初解脫第二解脫行。不淨行。淨解脫行。淨行。四無色解脫行。十六行。或行餘行。滅受想解脫不行。緣者初解脫第二第三解脫。緣欲界。為緣何法。答曰。綠色入。空處解脫。緣四無色及彼因。彼滅一切比智分及比智非數滅。四無色非數滅。緣一切虛空。若一相若異相。識處解脫。緣三無色及彼因。彼滅一切比智分及比智非數滅。三無色非數滅。緣一切虛空。若一相若異相。無所有處解脫。緣二無色及彼因。彼滅一切比智分及比智非數滅。二無色非數滅。緣一切虛空。若一相若異相。非想非非想處解脫。緣非想非非

想處及彼因。彼滅一切比智分及比智非數滅。一無色定非數滅。緣一切虛空。若一相若異相。滅受想解脫。無所緣。念處者。初解脫第二第三解脫。與身念處俱。四無色解脫。與四念處俱。滅受想解脫。若以親近念處。性念處者。則不與俱。若以緣念處者。是法念處。智初解脫第二第三解脫。與等智俱。空處識處。無所有處解脫。與六智俱。除法智他心智。非想非非想處解脫。與等智俱。滅受想解脫。不與智俱。定者。初解脫第二第三解脫。非想非非想處解脫。滅受想解脫。不與定俱。空處識處。無所有處解脫。或與定俱。或不與定俱。根者。初解脫第二解脫。與喜根捨根相應。滅受想解脫。不與根相應。餘解脫。與一捨根相應。世者在三世。緣三世者。初解脫第二第三解脫。過去緣過去。現在緣現在。未來必生者緣未來。不生者緣三世。四無色解脫。緣三世及非世。滅受想解脫。無所緣。善不善無記者。是善緣善不善。無記者。初解脫第二第三解脫。緣善不善無記。四無色解脫。緣善無記。滅受想解脫。無所緣。三界繫及不繫者。三是色界繫。二是無色界繫。餘三有漏者。無色界繫。無漏者不繫。緣三界繫及不繫者。三緣欲界繫。四緣無色界繫及不繫。一是不緣。學無學非學非無學者。五是非學非無學。三是學無學非學非無學。緣學無學非學非無學者。三緣非學非無學。四緣三種。一無緣。見道斷修道斷不斷者。五是修道斷。三若有漏者是修道斷。無漏者不斷。緣見道修道

斷不斷者。三緣修道斷。四緣三種。一無所緣。緣名緣義者。三緣義。四若說無色界有名者。緣名緣義。若說無名者緣義。一無所緣。緣自身他身非身法者。初解脫緣自身他身。第二第三解脫。緣他身。四無色解脫。緣自身他身及非身法。一無所緣。為是方便得。為是離欲得者。滅受想解脫。是方便得。餘是離欲得。亦是方便得。若在初禪者。離欲界欲時得。乃至若在非想非非想處者。離無所有處欲時。得方便得者。以方便現在前。佛不以為方便。現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上方便。為是本得。為是未曾得者。滅受想解脫。是未曾得。餘是本得。亦是未曾得。聖人佛法凡夫。是本得未曾得。餘凡夫是本得。八解脫廣說如上。觀色是色。是初解脫者。現見修內色想。不離內色。相。觀外色若青若膿。若離若脹。若骨若骨鎖。是名初解脫。初者。次第數在初故名初。隨順次第義在初故名初。復次。次第入定時數在初故名初。隨順次第義入定時在初故名初。解脫者入是定時。善色受想行識。是名解脫。內無色想。觀外色者。不現見修內色。相。離內色想。觀外色若青廣說如上。是名第二解脫。第二義解脫義亦如上說。問曰。為觀外色時亦觀內無色想。為觀外色已復觀內無色想耶。若觀外色時亦觀內無色想者。云何一心緣於二法。若能緣二法亦可緣多法。若觀外色已復觀內無色想者。此中所說云何通。如說。內無色想觀外色。答曰。應作是說。若觀外色時。是時不觀內無色

●相二想●●●●●若一我●

想。問曰：若然者此中所說云何通。如說內無色相觀外色。答曰：行者有如是期心故。作如是說。行者作如是期心我不觀內色。但觀外色。有如是期心故。佛作是說。復次此中說。行者先分別觀察時故佛作是說。復次以義定故。若觀內無色想。則定觀外色。若觀外色。則定觀內無色想。復次此中說善根及方便內無色想。是善根方便觀外色者。是滿足善根。復次內無色想者。是其心觀外色。是所緣淨解脫身作證得成就。是名第三解脫。

問曰：淨解脫為觀色是色。為內無色想觀外色耶。若觀色是色者。初解脫第三解脫。有何差別。若內無色想觀外色者。第二解脫第三解脫。有何差別。答曰：應作是說。內無色想觀外色。問曰：若然者第二解脫第三解脫。有何差別。答曰：名即差別。是名第二解脫。是名第三解脫。復次第二解脫在初禪。第二解脫第三解脫在第四禪。復次第二解脫。在內道外道身中。淨解脫。唯在內道身中。復次第二解脫。行不淨行。第三解脫。行淨行。復次第二解脫。對治色。愛第三解脫。對治不淨。復次第二解脫。不多所作不多用功而得。淨解脫。明淨。緣不明淨體。勝妙緣不勝妙。淨解脫體勝妙。緣勝妙體。明淨緣明淨。淨解脫緣淨。問曰：行者何故淨解脫。觀緣淨。答曰：欲試善根故。行者作是念。我作不淨觀。煩惱不生。未知此善根為滿足不。復試觀淨。煩惱亦復不生。便知善根已得滿足。復次行者觀不淨故

心劣。心劣故不能修勝進善根。復次淨觀令心欣踊。能修勝進善根。猶塚間比丘。常觀死尸故。心則劣弱。不能修勝進善根。便從住處。往清淨妙好河池園林之中。觀世種種勝妙之事。心生欣踊。然後能生勝進善根。彼亦如是。復次行者作不淨觀。心常愁感。無歡喜時。則不能修勝進善根。若以淨觀。捨不淨心。能修勝進善根。復次欲現自心堅牢。故。彼作是念。我心堅牢。乃至作淨觀。猶不生煩惱。復次欲現善根有大勢用故。復作是念。此善根有大勢用。乃至緣淨法。猶不生煩惱。復次欲現自心堅牢。亦現善根有大勢用故。彼作是念。我心堅牢。善根有大勢用。觀淨境界。猶不生煩惱。復次淨解脫。非凡夫人能起。若行者好喜淨潔。從摩菴摩天中來。曾聞有一比丘。以日入時。往詣佛所。從佛索房。爾時佛告阿難。汝為此比丘。求住房舍。爾時阿難。示彼比丘房時。彼比丘語阿難言。汝可極淨掃灑此房。懸繒幡蓋。散種種華。燒衆名香。敷軟床褥。安置好枕。爾時阿難。具以是事。往白世尊。佛告阿難。如彼比丘所須。悉辦具足。爾時阿難。即為辦具。時彼比丘。入此房中。坐其床座。以夜初分。起淨解脫。因是次第得盡諸漏。成阿羅漢。獲得神通。晨朝以神足力。忽然而去。爾時阿難。晨朝詣彼比丘所入房。但見嚴正床座。不見其人。見是事已。往詣佛所。而白佛言。彼比丘。嚴正床座。不知何去。佛告阿難。汝於彼比丘。莫生輕心。彼比丘。昨夜起淨解脫。得盡漏。成阿羅漢。獲得神通。以神

通力。忽然而去。阿難當知。彼比丘者。好喜淨潔。從摩菴摩天中來。若不得如是清淨房舍。床座臥具者。則不能起是善根。以是事故。知淨解脫非凡常人能起。居好喜淨潔。從摩菴摩天中來者。則能起淨解脫。第三義解脫。如上說。空處識處無所有處。非非非想處。解脫。廣說如四無色定。滅受想解脫。滅盡定處。當廣說第八義解脫。如上說。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十三

阿毘曇毘婆沙論卷第四十四

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

譯

使健度十門品之八

問曰：何故禪中餘善根立解脫。無色定中。盡立解脫耶。答曰：以禪是龜現見了了故。餘善根立解脫。無色定是細不現見了了故。盡立解脫。復次禪中有種種不相似善根故。餘善根立解脫。無色定無種種不相似善根故。盡立解脫。復次禪中多諸功德善利故。餘善根立解脫。無色定無多功德善利故。盡立解脫。復次禪能遍照緣於上地。亦緣下地。緣於自地。餘善根立解脫。無色定不能遍照。能緣上地自地。不緣下地。是故盡立解脫。復次禪解脫。是有漏。無色定解脫。是有漏。無色定是因論生論。何故禪中解脫是有漏。無色定

其二期 唯二惟 愛十(不淨) 觀十(時) 次二以 復一彼 足二之 居二若 不分卷及品

中解脫。是有漏無漏耶。答曰。先所說四答。此中應說。餘有一異答。禪解脫是虛觀。無色定解脫是實觀。

佛經說解脫名方。問曰。何故佛說解脫名方。

答曰。為教化故。受化者應聞說解脫名方。乃得悟解。是故佛以方名說解脫。如餘經說。諸名方。有受化者。應聞說諸名方。乃得悟解。是故佛說諸名方。此亦如是。問曰。解脫與方有何相似。答曰。八法相似。解脫有八。方亦有八。

問曰。方應有十。謂四方四維及上下。何故說八。答曰。如調象法。故應有八。調象之法。必向四方及四維。不能令其向於上下。譬如以方故調於龍象。如是。以方便故得解脫。尊者瞿沙。作如是說。調象解脫有三事。同三事。異三事。同者一。以方故。龍象可調。解脫亦爾。以除障故。眾生能得解脫。二如調龍象。趣於一方時。不能復趣餘方。佛教眾生解脫之法。亦復如是。得一解脫時。無二無多。三如調龍象。趣一方時。便遠餘方。世尊為眾生說解脫法。亦復如是。一解脫現在前。餘解脫便遠。三事異者。二如調龍象。若不趣方。則不能調。佛說解脫法。住一處而無所趣。能令眾生得解脫法。二如調龍象。趣一方時。不能復趣餘方。佛說解脫法。不爾。能於一時說八解脫法。而令眾生皆得悟解。三如調龍象。趣一方時。皆遠餘方。佛說解脫法。不爾。為諸眾生說一解脫法。而作方便。令餘解脫法皆近。復次。此中說最勝調御法。曾聞拘薩羅王波斯匿。勅捕象人。使捕野象。若得象者。來自於我。時捕象人聞

王教勅。即捕野象。來自王言。大王當知。今已捕得野象。王聞是語。勅調象師。令調野象。若善調伏。便來自我。時調象師。受王教勅。即以種種苦切之事。調於野象。能令調伏。如舊調象。時調象者。知象已調。來自王言。大王當知。先勅調象。今已善調。大王應知。是時。爾時波斯匿王。與調象師共乘此象。出田遊獵。時象見雌象群。欲心熾盛。而便馳走。趣雌象群。時調象者。欲迴制之。盡其方便。不能令迴。王及調象者。攀樹而下。得自濟命。還詣宮城。語調象者。汝以不調之象。令我乘之。法應爾耶。時調象者。而自王言。唯願大王莫見瞋責。此象實調。當使大王後驗此事。時象欲心息已。便還王宮。時調象者。將象詣王。燒熱鐵丸。置其頂上。於其耳中。而語之言。此是最後調汝不動之法。汝若堪忍。則善。若不堪忍。當復以前苦切之事。次第調汝。象聞是語。其身不動。其猶如山。時熱鐵丸。燒象頂。如燒樺皮。王見是事。怪未曾有。即勅象師。去鐵丸。語調象言。汝今調象。能令如此。前何故爾。

調象人答王言。我能調身。不能調心。時王復問調象人言。世間頗有能調心者不。時調象人答王言。有佛世尊。住舍衛國祇桓精舍。善能調伏眾生身心。爾時波斯匿王。作是思惟。欲得見佛。即與調象人。共乘本象。往詣佛所。爾時世尊。與百千眷屬。圍遶說法。爾時世尊。見波斯匿王來。以隨宜方便。為王說法。非聲聞辟支佛所知境界。時世尊告諸比丘。如調象人善調象。已趣於一方。若東若西。若南若

北。調牛之人。善調於牛。調馬之人。善調於馬。趣於一方。廣說如上。比丘當知。無上調御師。善調於人。能趣諸方。何者是方。觀色是色。乃至廣說解脫。以是事故。知此經說最勝調御。

經說有一比丘。往詣佛所。頭面禮足。却坐一面。而白佛言。世尊有明界。有淨界。有空處界。有識處界。有無所有處界。有非想非非想處界。有滅界。世尊為以何故立此諸界。佛告比丘。以開故立於明界。以不淨故立於淨界。以色故立於空處界。以邊故立於識處界。以所有故立於無所有處界。以實身故立於非想非非想處界。以滅實身故立於滅界。問曰。彼比丘為問佛何義。佛答。彼比丘何義。答曰。彼比丘。以覆相問八解脫義。佛亦以覆相答八解脫義。

明界者。是初二解脫。淨界者。是淨解脫。空處界者。是空處解脫。識處界者。是識處解脫。無所有處界者。是無所有處解脫。非想非非想處界者。是非想非非想處解脫。滅界者。滅受想解脫。問曰。彼比丘。何故以覆相問佛八解脫義。答曰。彼比丘。少欲知足。覆藏善法。不欲以已功德。顯示他人。故問曰。佛何故以覆相說八解脫。答曰。欲滿彼比丘心所願故。彼比丘心。作是念。若佛以覆相為我說八解脫者。則善。佛是滿他願者。善知根性者。為彼比丘心所念故。覆相而說。比丘當知。明界是初二解脫。為闇故者。闇者是欲界色愛。初二解脫。是彼對治。以彼色愛故。立二解脫。以不淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

淨故立淨界者。不淨是初二解脫淨解脫。是

彼對治。以彼故立淨解脫。以色故立空處境界者。色是第四禪空處解脫。是彼對治。以彼故立空處解脫。以邊故立識處境界者。邊是空處識處解脫。是彼對治。以彼故立識處解脫。問曰。空處何故名邊。答曰。色盡處是色邊故名邊。以所有故立無所有處境界者。所有者是識處。以有無邊行故。無所有處解脫。是彼對治。以彼故立無所有處解脫。以實身故立非非非想處境界者。實身者。是無所有處。非非非想處解脫。是彼對治。以彼故立非非非想處解脫。以滅實身故立滅實身。滅實身名非非非想解脫。滅受想解脫。是彼對治。以彼故立滅受。相解脫。問曰。非非非非想處何故名滅實身。答曰。實身是無所有處。非非非非想處。是彼對治。故言滅時。彼比丘聞佛所說。歡喜隨順。復更問佛。世尊明界。乃至滅界。爲以何定而得。佛告比丘。明界乃至滅界。以行定得。或有說者。彼比丘問次第得。或有說者。彼比丘問斷。若作是說。彼比丘問次第得者。行定是初禪邊。乃至無所有處邊。初禪邊者。離欲愛得初二解脫。第四禪邊者。離三禪欲。得淨解脫。空處邊者。離第四禪欲。得空處解脫。識處邊者。離空處欲。得識處解脫。無所有處邊者。離識處欲。得無所有處解脫。此中餘者。非非非非想處解脫。滅受。相解脫。佛告比丘。非非非非想處解脫。以勝行定得。勝行定者。是非非非非想處邊。以勝行定。離無所有處欲。得非非非非想處解脫。滅界者。以滅受想處定得。滅受想定者。是非

非非非想處定。所以者何。入定出定。心在彼處故。若作是說。彼比丘問斷者。行定是有漏無漏對治。是故能離欲界。乃至離無所有處欲。此中餘者。非非非非想處解脫。滅受想解脫。比丘非非非非想處解脫。以勝行定得。勝行定者。是無漏對治。世俗道。於離非非非非想處。衰退轉還。是故以無漏對治。離非非非非想處欲。滅界者。以滅實身得。滅實身者。是滅盡涅槃。以滅盡涅槃故。而修滅受想定。比丘以聞故立明界者。聞是境界。聞。初二解脫。是彼對治。復有說者。彼比丘。離三界欲。以覆相廣略問佛。佛亦以離三界欲覆相廣略而答。明界者。是現離欲界。方便淨界者。是略現離欲界。空處境界者。是略現離色界。識處境界。無所有處境界。非非非非想處境界。是廣現離無色界欲。滅界是略現離無色界欲。比丘以聞故立明界者。聞者是勝妙。五欲愛。初二解脫。是彼對治。譬喻者。作如是說。彼比丘以覆相問八種定。佛亦以覆相說八種定。解此經者。有增有減。於此經。應作而不作。不應作而作。應說廣界而不說是滅。不應說滅界。而說是增。今當離於增減。而解此經。明界者。是初禪二禪。淨界者。是第三第四禪。空處境界者。是空處。識處境界者。是識處。無所有處境界者。是無所有處。非非非非想處境界者。是非非非非想處。比丘以聞故立明界者。聞是諸蓋。初禪二禪。是彼對治。爾時比丘聞佛所說。歡喜隨順而去。

者意故。或有說者。滅定有心。彼作是說。無有無色衆生無心之定。如尊者佛陀提婆。作如是說。若滅定無心者。不應說有從彼定起者。是名爲死。不名爲定。爲止如是說者。意故。亦現離無所有處欲。非非非非想處心。次第起彼定現在前。是故尊者和須蜜。作如是說。云何滅定。答曰。離無所有處欲。作休息想心。令心心數法滅。以是事故。根。韃度。作如是說。入滅定時。爲滅幾根。答曰。七。謂意根。捨根。信等五根。何繫心心數法滅。答曰。無色界繫。總而言之。是無色界繫。而是非非非非想處心心數法。滅從滅定起時。幾根現在前。答曰。或七或八。有漏心七。無漏心八。若從彼定起心。是非非非非想處心。起七根現在前。謂意根。捨根。信等五根。若是無所有處心。起八根現在前。上所說七。知根知已。根若一現在前。何繫心心數法現在前。答曰。有漏心。是無色界繫。無漏心。是不繫。若出定心。是非非非非想處者。是無色界繫。心心數法現在前。若出定心。是無所有處者。起不繫心心數法現在前。以是事故。明滅定無心。所以者何。入定時說滅。出定時不說滅。出定時說現在前。不說滅。以是事故。而作此論。

◎相二想◎◎行一得◎◎〔二〕一◎◎五二立◎◎〔界〕一◎◎健二健◎

善心。次第起初禪心現在前。乃至無所有處心。次第起非想非非想處心現在前。非想非非想處心數法。有上中下。捨上心。起中心。捨中心。起下心。捨下心。在彼定。是故非想非非想處隨順斷心。猶如女人紡蠶隨轉隨。續蠶。若盡時更不轉續。彼亦如是。復次二滅心定。俱在二界邊。無想定在色界邊。滅定在無色界邊。復次此二定俱在二地邊。無想定在第四禪地邊。滅定在非想非非想處地邊。復次無想定在四大造色邊。滅定在心數法邊。復次一切地。盡有二種過。一過欲。二過住處。過初禪欲者。以自地無漏過初禪住處者。以第二禪。乃至過無所有處欲者。以自地無漏亦以下地。過無所有處住處者。以非想非非想處。過非想非非想處欲者。以下地無漏。過非想非非想處住處者。以滅定。若當下地有滅定者。下地或有二種過。或有三種過。非想非非想處。唯有一種過。欲令無如是過故。不說下地有滅定。復次滅定以二事故立解脫。一以背捨一切緣。法。二以滅最後邊心。若下地有滅定者。不名背捨一切心。所以者何。不盡背捨一切心法故。亦非滅最後邊心。所以者何。滅中心故。復次此定是次第定。非想非非想處心次第生此定。以如是事故。下地無滅定。

云何滅定。答曰。佛經說過一切非想非非想處。問曰。滅定是非想非非想處法。何以言過一切非想非非想處。答曰。雖是彼處法。以寂靜故言過。猶如村落阿練若處。復次

非想非非想處有二種。一有心二無心。過一切非想非非想處者。過於有心非想非非想處。滅受想解脫身作證得成就者。是說無心非想非非想處。如有心無心。相應不相應。有依無依。有行無行。有勢用無勢用。有緣無緣。當知亦如是。復次非想非非想處有二種。謂染污不染污。過一切非想非非想處者。過染污非想非非想處。滅受想解脫身作證得成就。就說不染污非想非非想處。如染污不染污。見道斷修道斷。當知亦如是。復次非想非非想處有二種。謂本得未曾得。過一切非想非非想處者。過本得非想非非想處。滅受想解脫身作證得成就者。是未曾得非想非非想處。如本得未曾得。共不共離欲得方便得。當知亦如是。復次此中說次第過諸地故。先次第過諸地欲後過有心住非想非非想處。問曰。無學人可爾。所以者何。無學人於非想非非想處。有二種過。一離欲過。二住處過。學人於非想非非想處。無二種過。過一切非想非非想處。云何可爾。答曰。一切有二種。有少分一切。有一切一切。此中說少分一切。復次此中說住處過。學人雖無非想非非想處修道所斷欲過。而有住處過。復次此說須與過。彼須與滅非想非非想處有心。次生非想非非想處無心滅受想定身作證得成就者。問曰。入彼定時。餘心心數法盡滅。何故世尊但說滅受想耶。答曰。譬喻者。說彼定有心。彼作是說。入彼定時。唯此二法滅。問曰。我不問彼我問說此言無心者。何故爾耶。答曰。佛說受想滅。當知餘心

心數法亦滅。復次以此二法名義勝故。彼心聚中。誰為最勝。此二法最勝故。佛說復次此現初門略現始入法故。心心數法有二種。或是根性。或非根性。若說受當知已說根性。若說想當知已說非根性者。如根性非根性。明非明。勝不勝。妙不妙。當知亦如是。復次此二法。於二界中。極為行者。而作疲勞受於色界。想於無色界。是故世尊說此二法。復次以此二法於二界中勝故。受於色界中勝。想於無色界中勝。復次以此二法能生二種惱。謂愛惱見惱。受能生愛惱。想能生見惱。復次此二法。能起二種鬪諍根本。受能起貪著欲愛繫縛鬪諍根本。想能起見愛貪著繫縛鬪諍根本。如二鬪諍根本。二邊二箭。二戲論。二我。當知亦如是。復次因樂受故。生顛倒想。令諸眾生。於生死中。受大苦惱。是故世尊說滅此二法。復次行者憎惡此二法。故起滅定。如施設經說。行者以何方便求滅定。答曰。初行者。欲令諸行。更無所作。更無所思。令我受想不生。已生者滅。未生受想令不生。已生受想令滅。是滅於此滅法無障礙。不問他得自在。身作證是名定。以是事故。世尊說滅此二法。問曰。滅之與定有何差別。答曰。滅是一剎那。定是久相續。問曰。心不動故名定。此中心斷無心云何名定。答曰。不動有二種。一心不動。二四大不動。此中雖斷心不動。而四大不動相續生。以四大不動故名定。問曰。二無心定。何故滅定立解脫。無想定不立耶。尊者波奢說曰。佛決定知法相。亦知

續二續自 二二三 唯二惟 下同 法二故 卷第六十六終 卷第六十七使健度十門品之十四首 卷第六十七使健度十門品第四之十四首 造號釋說認號同異如卷第二十三 就十(者是) 愛二受

勢用餘人不知。若法有解脫相者立解脫無解脫相者不立。復次若定是內道法立解脫。若定是外道法不立解脫。如內道外道。聖人凡夫。背煩惱起煩惱。背熾然起熾然。說亦如是。復次捨我見起無我見身中可得者立解脫。若起我見捨無我見身中可得者不立。復次若捨身見起空現在前身中可得者立解脫。若不起空現在前起身見者不立。復次先作是說。以二事故。滅定立解脫。一捨一切緣法。二滅最後邊心。無想定無此二事故。不立解脫。復次若更不生諸界諸生諸趣身中可得者立解脫。若更生諸界諸生諸趣身中可得者不立。復次背棄義。是解脫義。得滅定者。背捨諸界諸生諸趣。增長生死法。無想定不爾。以如是事故。二無心定。滅定立解脫。無想定不立。問曰。滅定無想定有何差別。答曰。名即差別。是名滅定。是名無想定。復次界亦差別。無想定色界繫。滅定無色界繫。復次地亦差別。無想定在第四禪地。滅定在非想非非想地。復次身亦差別。無想定在凡夫身。滅定在聖人身。復次凡夫人入無想定作離想。聖人入滅定作休息想。復次凡夫人厭患想入無想定。聖人厭患受想入滅定。復次凡夫人入無想定。欲滅於想。聖人入滅定。欲滅受想。復次凡夫人入無想定。滅色界繫心心數法。聖人入滅定。滅無色界繫心心數法。復次凡夫人入無想定。滅第四禪地心心數法。聖人入滅定。滅非非想地心心數法。復次凡夫人入無想定。得色界報。聖人入滅

定。得無色界報。尊者須蜜說曰。無想定滅定。有何差別。答曰。一是無想定。二是滅定。復次界亦差別。無想定是色界繫。滅定是無色界繫。餘廣說如上。復次凡夫人入無想定。得無想果。聖人入滅定。得非非非想處果。復次凡夫人入無想定。得色界繫報。聖人入滅定。得無想定滅定。是謂差別。問曰。何故佛經說八解脫二解脫。說身作證耶。答曰。八解脫盡應說身作證。如大因緣經說。八解脫身作證得成就。問曰。何故一經說八解脫身作證。多經說二解脫身作證耶。答曰。此二解脫。多有所作。多用功而得故。復次以名義勝故。八解脫中。何者最勝。此二解脫。復次此二解脫。俱在界邊。淨解脫。在色界邊。滅受想解脫。在無色界邊。復次此二解脫。俱在地邊。淨解脫。在第四禪地邊。滅受想解脫。在非非非想地邊。復次淨解脫。盡四大造色而立。滅受想解脫。盡心心數法而立。故復次淨解脫。取色淨相。而不生煩惱。是故佛說身作證得成就。滅受想解脫。無心在身不在心。以身力起現在前。不以心力。是故佛說身作證得成就。復次經說八解脫身作證者。皆以此。二解脫故得成就者得成就。有多處說。或說色陰少分是得成就。或說善五陰。或說善四陰。或說心不相應行陰少分。或說滅盡涅槃。說色陰少分。得成就者。如偈說

汝於勝慧法 得成就於戒
一切皆賢善 廣有諸珍寶

善五陰者。如說。得成就初禪。乃至第四禪。善四陰者。如說。得成就空處。乃至非非非想處。心不相應行陰少分者。如中說。滅受想解脫滅盡涅槃者。如說。得成就滅盡涅槃。問曰。滅定有幾種。答曰。或有說者。有四種。一具縛人所起滅定。二斷上三種結。三斷中三種結。四斷下三種結。復有說者。此定有四種。非具縛起者。是斷六種七種八種九種結起者。復有說者。此定有九種。斷上上結起者。乃至斷下下結起者。復有說者。此定有十種。具縛起者。斷上上結起者。乃至斷下下結起者。問曰。若具縛人。能起滅定者。凡夫人亦能起。答曰。具縛人有二種。一。見道所斷具縛。二。修道所斷具縛。若無非非非想處見道所斷具縛。有修道所斷具縛者。能起滅定。若有二具縛者。則不能起。評曰。應作是說。滅定有十一種。具縛人起滅定者。斷上上結起者。乃至斷下下結起者。時解脫轉根作不動起者。問曰。若具縛者所起滅定。乃至時解脫轉根作不動者所起滅定。即是具縛者所起滅定耶。答曰。或有說者。即是。問曰。若然者。云何有十一種。答曰。以十一時起故。有十一種。復有說者。具縛者所起異。乃至不動法所起異。問曰。若然者。具縛者所起。乃至不動者所起。有何差別。答曰。具縛者所起。後斷一種結所起者。於前具縛者所起。得不在身中成就。不現前行。斷一種結所起者。得在身中成就。現在前行。乃至不動法所起。於時解脫所起。得不在身中成就。不現前行。不動法所起。得

在身中成就現在前行

問曰。此定為有上中下不耶。若有上中下者。施設經說云何通。如說。滅法無有差別。若無上中下者。佛所有定。即是聲聞辟支佛定也。答曰。應作是說。此定無上中下。問曰。若然者。施設經說善通。滅法無差別故。佛所有定。即是辟支佛聲聞定也。答曰。如佛心斷入此定。辟支佛聲聞心斷入此定。等無差別。而方便有差別。佛不以方便起此定。現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上方方便。評曰。應作是說。此定有上中下。問曰。若然者。佛定異辟支佛聲聞定異。此說善通。施設經說云何通。如說。滅法無有差別。答曰。以住心故。施設經說滅法。無有差別。定是有為故。應有上中下。所以者何。一切有為法。有上中下。相問曰。此定體為有幾耶。答曰。或有說者。體有一。若滅現在前則無心。問曰。若滅剎那現在前。即彼剎那名無心耶。答曰。如是。若滅剎那現在前。即彼剎那名無心。如一受剎那。即彼剎那名為有受。一想剎那。即彼剎那名為有想。一識剎那。即彼剎那名為有識。彼亦如是。若一剎那滅。即彼剎那名無心。復有說者。此定體有十一。所以者何。彼滅十大地及心故。復有說者。體有二十一。所以者何。彼滅十大地十善大地及心。評曰。應作是說。隨滅幾種心數法。彼定體亦有爾許種。此是定體。定相云何。答曰。體即是相。相即是體。諸法不可離體別說相。尊者和須蜜說曰。心法解脫是其相。

問曰。此定不能斷結。何故說名心法解脫。答曰。此說須臾斷。有緣法令不行名解脫。而此定不能斷結。復有說者。若法想微細。為其作因。微微作次第。不與此法俱。而成就是解脫。問曰。此為說何義。答曰。或有說者。此中說定。若作是說。此中說定者。想微細。為其作一因。謂相似因。與微微作一因。謂相似因。微細。亦作次第緣。若作是說。此中說定。若法想微細。為其作因。微微為其作次第者。不應說不俱。所以者何。彼人起定現在前故。應說成就。所以者何。彼人成就定故。復有說者。此中說出定心。若作是說。此中說出定心者。想微細。為其作一因。謂相似因。微細亦作次第緣。若作是說。此中說出定心者。若法想微細。為其作因。微微作次第。應說不俱。所以者何。入定時。不起出定心現在前故。應說成就。所以者何。彼人成就出定心故。以是事故。知彼人本得出定心。復有說者。此中說入定心。若作是說。此中說入定心者。想與定作一因。謂相似因。微細與定作一因。謂相似因。亦作次第緣。若作是說。此中說入定心者。應作是說。想微細與定作因。定與微細作次第。應說不俱。所以者何。在定時不起入定心現在前。應說成就。所以者何。在定時成就入定心故。問曰。此中何者是想。何者是微細。何者是微微。答曰。或有說者。空處識處是想。無所有處是微細。非想非非想處是微微。復有說者。空處識處無所有處是想。非想非非想處是微細。若心心數次第入定者是微微。復有

說者。非想非非想處。亦是想。亦是微細。亦是微微。所以者何。非想非非想處。有上中下。上者是想。中者是微細。下者是微微。問曰。想微細微微。有何差別。答曰。或有說者。名即差別。是名為想。是名微細。是名微微。復次上者是想。中者是微細。下者是微微。復次想微細。能令未來無漏道修。微微不修。復次想微細現在前時。三念處。若一念處現在前。未來四念處。修微微現在前時。法念處現在前。未來修三念處。除身念處。復次想微細。或會得或不曾得。微微是會得。問曰。此中因論生論。何故入定心。或會得或不曾得。出定心唯會得。答曰。入定心難得。多有所作多用功乃得。出定心易得。不多有所作不多用功而得。是故唯是會得。復次入定心。能增益定。令定相續。出定心。不增益定。令定衰退不相續。復次入定心。是有漏。或是會得。或未曾得。出定心。是有漏無漏故。唯是會得。此中因論生論。何故入定心有漏。出定心有漏無漏耶。答曰。隨順斷心故。入定心。不堅牢羸劣。如腐種子不能生相續法。隨順斷心。出定心。堅牢不羸劣。不如腐種子能生相續法。不隨順斷心。復次入定心。以定為寂滅。無漏心不計有法是寂滅。復次此是次第定。非想非非想處心。次第起此定。最後無漏。在無所有處。問曰。入定心。為何所緣。出定心。為何所緣。答曰。入定心緣定。出定心亦緣定。問曰。若入定心緣定。出心亦緣定者。何不入定時出定。出定時入定耶。答曰。入定時期心欲入。出定

時期心欲出。復次入定心緣未來定。出定心緣過去定。問曰。入定心緣未來定時。爲何所緣。答曰。或有說者。緣初剎那。復有說者。緣隨起幾所定現在前。評曰。應作是說。入定心緣未來定。則不可知。爲緣何法。爲不緣何法。所以者何。未來法是亂法。多剎那無次第。以總緣故言緣未來定。問曰。出定心緣過去法時。爲何所緣。答曰。或有說者。緣最後剎那。復有說者。緣隨所起。幾所定現在前。評曰。應作是說。出定心緣過去定。則不可知。爲緣何法。爲不緣何法。所以者何。過去法有多剎那故。

問曰。入滅定時滅何等心。過去耶。未來耶。現在耶。若滅過去者。過去已自滅。若滅未來者。未來未生。若滅現在者。現在不住。若定不滅。彼亦自滅。答曰。應作是說。滅未來者。問曰。未來法未生。云何可滅耶。答曰。行者住現在世。遮住未來心。令不生故言滅。譬如城邑若斷道閉門。堅於高幢。不令人出入。則名爲救。彼亦如是。復有說者。滅未來現在心。問曰。行者住現在世。遮住未來心。使不生言滅可爾。現在法不住。若定不滅。彼亦自滅。云何言滅。答曰。先現在滅心心數法。令有緣法相續而滅。今現在滅心心數法。令有緣法不相續而滅。皆是定力。

問曰。出定時何心心數法現在前。答曰。或有說者。先所遮住未來心心數法。復有說者。起未來心心數法現在前。先所遮住者。在生法中。評曰。應作是說。起未來心心數法。但不

可知爲起何心爲不起何心。所以者何。未來法是亂是多剎那。是無次第。

問曰。此定爲有過去本得未來修不耶。答曰。或有說者。無過去本得。亦無未來修。如天眼天耳。若作是說。此定無本得未來修者。定初剎那成就現在定。第二剎那等成就過去現在出定。成就過去定。復有說者。此定有過去本得。有未來修。如念前世智他心智。若作是說。此定有過去本得未來修者。定初剎那成就未來現在定。第二剎那等成就三世出定。成就過去未來定。評曰。應作是說。此定無過去本得。亦無未來修。若此定有過去本得未來修者。若退此定。還起此定。應得本定而不爾。若退此定。還得此定。名得未曾得定。如不破戒而還家者。還復出家。名得未曾得戒。彼亦如是。

問曰。於何處起此定。答曰。欲色界。非無色界。初在欲界。若於欲界起滅定。於此定退命終。生色界中。能起此定。餘者不能。何以知之。經說。尊者舍利弗。語諸比丘。諸長老當知。若比丘戒具足。定具足。慧具足者。能數數入出滅受想定。若於現法及死時。不得阿羅漢果。身壞命終。過博食諸天。生摩菴摩身天中。復於彼處。數數出入滅受想定。此是實知見。有如此事。爾時長老優陀夷。住彼會中。語尊者舍利弗言。尊者舍利弗。彼比丘生摩菴摩身天中。數數出入滅受想定。無有是處。第二第三說亦如是。問曰。何故長。老優陀夷。三達尊者舍利弗所說耶。答曰。長老優陀

夷所疑。非無處所。彼作是念。若得此定者。必離無所有處欲。命終應生非想非非想處。彼處不能起滅定。亦不解尊者舍利弗意。問曰。彼尊者舍利弗有何意耶。答曰。尊者舍利弗。說生色界阿那含。長老優陀夷。說生無色界者。是以違之。尊者舍利弗。說退阿那含。長老優陀夷。說不退阿那含。是以違之。問曰。尊者舍利弗。何故不爲長老優陀夷解此義耶。答曰。尊者舍利弗。作是念。我不能除此愚人深著之心。復次尊者舍利弗。有如是心。欲爲解說。以優陀夷三違此言故。此心便息。如箭

喻經說。爾時有衆多增上慢比丘。皆於佛前自說聖利。我生已盡。乃至廣說。佛作是念。我今當爲說斷慢法。以諸比丘數數自說聖利。故此心便息。佛世尊有遍大悲。欲說法心。猶尚有息。何況尊者舍利弗耶。復次尊者舍利弗。作是念。此所論事。必聞於佛。佛以此事當呵責優陀夷及長老阿難。當使此辱經歷千載。令無智者不達智者之言。爾時舍利弗。作是念。此比丘三違我所說。諸梵行比丘。亦無讚歎我所說者。我今應往詣世尊所。爾時尊者舍利弗。往詣佛所。到已頭面禮足。却坐一面。語諸比丘。諸長老當知。若比丘戒具足。乃至廣說。爾時長老優陀夷。在彼會中。語尊者舍利弗言。乃至無有是處。爾時尊者舍利弗。作是念。今此比丘。於世尊前。違我所說。諸梵行比丘。亦無稱讚我所說者。我今應當默然。爾時舍利弗。即便默然。爾時佛告優陀夷言。汝意以何是摩菴摩身天耶。以非想非

◎住二在◎◎老二者◎◎論二說◎

非想天是耶。答言。如是。佛告言。汝愚人無眼。何故與上座比丘。論甚深阿毘曇。爾時世尊。現前呵責優陀夷已。便告長老阿難言。汝見上座比丘為他所惱。無有悲心。於彼愚人。而不呵責。爾時世尊。呵優陀夷已。便還精舍。入於禪定。問曰。長老優陀夷。有過故世尊呵之。長老阿難。復有何過而被呵耶。答曰。優陀夷。是阿難弟子。是故世尊告於阿難。汝應教勅。復次優陀夷。是長老阿難攝眷屬人。是故世尊告言。汝應教勅。復次長老阿難。是維那。佛告阿難。汝為維那。云何不知如法說者非法說者。復次此論說甚深阿毘曇事。非多人所知。唯佛尊者舍利弗能知。長老阿難。以多聞力故能知。以阿難知此法故。不稱讚上座比丘所說。不隨如法衆。有如是過故。世尊責之。以是事知初起滅定。必在欲界。若於欲界起滅定。退此定已。生色界中。還起此定。餘則不能。問曰。何故生色界中。能初起禪無色定。不初起滅定耶。答曰。禪以三事故能起。一以因力。二以業力。三以法應爾力。以因力者。過去近生曾起滅此禪。以業力者。作決定業。必生彼處。法應爾力者。世界壞時。下地衆生。必生上地。無色定以二事故能起。一以因力。二以業力。無法應爾力。以因力者。過去近生曾起無色定。以業力者。作決定業。必生彼處。無法應爾力者。無色界中。無世界成壞。滅定以一事故能起。謂解說者。彼解說者。為何處最勝。謂在欲界中。不以因力。所以者何。未曾起此定故。非以業力。所以者何。彼定

性非業故。非法應爾力。所以者何。無色界無世界成壞故。問曰。何故欲色界起此定。現在前。非無色界耶。答曰。命根依二事存。謂依色依心。此定無心心斷故。起現在前。欲色界中。起此定時。心雖斷命根。依色而存。無色界無色依心故。命存。若無色界起此定者。心斷命則斷。是名為死。不名為定。問曰。若起此定已。於此定退。命終為生空處。識處無所有處不。答曰。不生。所以者何。其所應生。若能起此定處。若能受報處。色界中。雖不受此定報。能起此定。非想非非想處。雖不能起此定。而受此定報處。空處識處無所有處。不能起此定。亦不能受此定報。復有說者。生彼處。但不名身證。不名俱解脫。評曰。應作是說。不生。問曰。住彼定。為經幾時。答曰。欲界中。以博食持諸根四大。欲界雖入定時。不令身有患。出定時則有患。是故欲界少時入定。不得久住過於七日。何以知之。曾聞有一僧伽藍。有一比丘得滅定。食時著衣。詣食堂中。其日彼打毬椎。晚彼此比丘。精勤而作是念。我何故空過此時。不觀未來。何時當打毬椎。即立誓願。入於滅定。乃至打毬椎當起時。彼僧伽藍。有事難起。時諸比丘。皆捨僧伽藍去。經於三月。難事乃解。時諸比丘。還集會而打毬椎。時彼此比丘。起定即死。後有一乞食比丘。獲得滅定。以日初分。著衣持鉢。欲詣村乞食。時天大雨。彼作是念。若入村者。壞我衣色。若不往者。何故空過此時。不觀未來。即立願入定。乃

至雨止當起。或有說者。雨經半月。或有說者。雨經一月乃止。天雨既止。彼此比丘。起即死。以是事故。知欲界入滅定無患出時有患。是故少時入定。不過七日。色界不以博食持諸根四大。入此定者。或經半劫一劫。或有過者。問曰。若不立願入滅定者。云何而起。答曰。如入有心定。法自應起。復次若欲食。若欲大小便。入定雖不作患。出則作患。以是事故。必應自起。問曰。凡夫人。為入滅定不。尊者和須蜜說曰。凡夫人不入此定。所以者何。此是聖人定。非凡夫定。若凡夫人入此定者。亦是凡夫定。復次凡夫人。觀上離下地欲。如閻樓蟲。非想非非想處。更無上地可緣。離下地欲。是故凡夫人。不入此定。復次凡夫人。數數入定。則數數身猗心猗。以身心猗故。方便則緩。方便緩故。不能起彼定。尊者佛陀提婆說曰。凡夫人不入彼定。所以者何。凡夫人數數入定。我見牢固。畏後邊滅法。如畏深坑。是故不能入彼定也。問曰。菩薩為入滅定不。尊者和須蜜說曰。菩薩不入。所以者何。此定是聖人定。若菩薩入此定者。亦應是凡夫定。復次菩薩觀上離下地欲。如閻樓蟲。非想非非想處。便無上地可緣。離下地欲。是故菩薩不入此定。復次菩薩入滅定。所以者何。菩薩欲求一切智時。作如是念。我應推求一切處相。若菩薩不入滅定者。則於此處不名推求。尊者佛陀提婆說曰。菩薩不入滅定。菩薩雖復推滅我見。不畏最後滅處。如畏深坑。不欲令慧有留

◎起十(滅)◎◎說二脫◎◎*(此)十報◎◎捷一健◎◎起十(定)◎◎便二更◎◎

難及斷絕故。不欲入滅定非不能入。問曰。菩薩前身時。不曾起滅定。於最後身而起滅定。為先起滅定後得阿耨多羅三藐三菩提。為先起滅定後得阿耨多羅三藐三菩提者。云何起滅定後得阿耨多羅三藐三菩提者。云何不違期心起不相似心。云何名三十四心得一切智。若先得阿耨多羅三藐三菩提後起滅定者。云何名滿足學法。得盡智時。云何名所作已竟。外國法師。作如是說。先起滅定後得阿耨多羅三藐三菩提。問曰。若然者。云何不違期心。

答曰。彼作是說。菩薩先離無所有處欲。依第四禪。入正決定。不起此處。乃至得阿那含果。起於滅定。得阿耨多羅三藐三菩提。問曰。云何不名起不相似心耶。答曰。彼作是說。誰言菩薩無不相似心。菩薩有不相似心。問曰。云何名三十四心得一切智。答曰。彼作是說。言三十四心者。說無漏心。不說入定出定心。罽賓沙門。作如是說。先得阿耨多羅三藐三菩提後起滅定。問曰。若然者。云何名滿足學法。答曰。言滿足者。滿足於根。滿足於果。不滿足於定。問曰。云何得盡智時名所作已竟。答曰。或有說。解脫障是下無知。或有說。是於諸定不自在。或有說。是不定者。若作是說。解脫障是下無知者。世尊得盡智時。斷一切無知。得一切彼對治智。若作是說。解脫障。是於諸定不自在者。世尊得盡智時。於諸禪定解脫三昧。出入皆得自在。若作是說。解脫障。是不定者。世尊得盡智時。得一切定。是故

得盡智時。所作已竟。問曰。云何名三十四無漏心。答曰。菩薩先滅無所有處欲。依第四禪。入正決定。見道中有十五心道比智。第十六心道比智。即是離非非想處欲。方便道無礙道有九。解脫道有九。是名三十四心。

如經說。毘舍佉優婆夷。詣曇摩提那比丘尼所。作如是問。阿夷云何入滅定。彼作是說。毘舍佉優婆夷比丘入滅定。不作是念。我今入滅定。當入滅定。已於先時。調柔其心。欲入此定。問曰。行者入房洗足。敷床結。跏趺座時。無如是念。我今入滅定。當入滅定耶。答曰。雖有是事。皆是遠時。如欲界善心次第起。初禪乃至入滅定。無如是念。我今入滅定。當入滅定。復作是問。阿夷云何起滅定。彼作是說。毘舍佉優婆夷比丘。起滅定時。不作是念。我今起滅定。我當起滅定。然緣此身六入命根故。而起彼定。若為飢渴所逼。若欲大小便。雖在定時不作患。出則作患。以是事故。從彼定起。復問。比丘入滅定時。為先滅何行。身行耶。口行耶。意行耶。彼作是說。毘舍佉優婆夷比丘。入滅定時。先滅口行。次滅身行。次滅意行。問曰。說滅意行。此事可爾。說滅口行。云何可爾。所以者何。從初禪起。入第二禪時。滅於口行。從第三禪起。入第四禪時。滅於身行。何故說言。入滅定時。滅身口行。答曰。入滅定時。有二種。有近有遠。遠時則滅身口行。近時則滅意行。復次若入初禪。乃至入非想非非想處。盡名入滅定時。所以者何。為

入滅定故。起此諸地現在前。復作是問。阿夷比丘。起滅定時。先起何行。現在前。身行耶。口行耶。意行耶。彼作是說。毘舍佉優婆夷比丘。起滅定時。先起意行。次起身行。次起口行。問曰。若作是說。從滅定先起意行。此事可爾。若作是說。起滅定時。起身口行。云何可爾。所以者何。從第四禪起。入第三禪身行。乃至從第二禪起。入初禪口行。乃至生。何故說起滅定時。起身口行。答曰。起滅定。有近有遠。近者起意行。遠者起身口行。復次起於滅定。乃至初禪。盡名起滅定時。所以者何。以滅定故。從彼諸地起。復作是問。阿夷比丘。起滅定時。心何所隨順。心何所轉近。心何所垂入。彼作是說。毘舍佉優婆夷比丘。從滅定起。心隨順離。心轉近離。心垂入離。問曰。此中何者是離。答曰。或有說者。是滅定。若作是說。是滅定者。出定世俗心。有二事隨順離。轉近離。垂入離。一以期心。二以緣。出定無漏心。與苦智集智相應者。有一事隨順離。以緣不以期心。與滅智道智相應者。亦不以緣。亦不以期心。復有說者。離是滅盡涅槃。若作是說。離是滅盡涅槃者。出定世俗心。亦無期心。亦無緣。亦無隨順離。轉近離。垂入離。若無漏與苦智集智道智相應者。於離有期心無緣。與滅智相應者。於離有期心亦緣。復有說者。離是滅定。亦是滅盡涅槃。若作是說。離是滅定。亦是滅盡涅槃者。出定世俗心。無漏心。與苦智集智相應者。總而言之。有二事隨順離。轉近離。垂入離。一以期心。二以緣。與道相應

起二得 卷第六十七終 卷第六十八使健度十門品第十五首 卷第六十八使健度十門品第四之十五首 造 號釋號譯號同 異如卷第二十三 加二加 故二欲

爾時尊者散著婆。於一城中。多所教化。於彼城邊。多人行處。入於滅定。時牧牛羊者。擔薪草者。行道者。見皆作是念。此大德平坐而死。我等應取牛糞乾薪燒之而去。如其念。即取乾薪牛糞燒已捨去。爾時尊者散著婆。晨朝從滅定起。速抖擻僧伽梨。以日初分著衣持鉢。入城乞食。時諸牧羊牛擔薪草行道入見者。皆作是言。此尊者昨日平坐而死。我等以乾薪牛糞燒已捨來。今復還活。時人皆號之為還活。所以不燒身者。以定力護故。所以不燒衣者。以神足力持故。復有說者。所以不燒身不燒衣者。皆以定力故。是故散著婆經是此論因緣。

如因緣中說。施起滅定人。得現世報。問曰。何故施起滅定人。得現世報耶。答曰。此不必須通。所以者何。此說非脩多羅尼阿毘曇。此是因緣。或然不然。若必欲通者。有何意耶。答曰。不得現世報。而受多報。問曰。何故施起滅定者。若得現報。若得多報。答曰。若施滅定者。便為施起諸禪解脫三昧者食。所以者何。若欲入此定者。先起欲界善心。次初入初禪乃至非想非非想處。次第入滅定。欲起此定。從此定次第起非想非非想處心。乃至初禪。次第起欲界善心。以行者身中修如是等功德故。施食得現世報。若得多報。復次從此定起。出入言說著衣受取飲食。如是等威儀寂靜故。信心婆羅門居士。生敬重心。以衣食等施。得現世報。若得多報。復次此定。生人希有想。若人聞比丘得於滅定。極生希

有想。信心婆羅門居士。以清淨心。施其衣食等。得現世報。若得多報。復次若施起滅定者。食便名施。不食人食入有想定者。雖不食。而食有漏觸食意思食。入無漏定。雖不食四種有漏食。而以無漏觸意思識持身。入滅定者。無四種食。亦不以無漏觸意思識持身。是故施起滅定者。則施不食人食。得現世報。若得多報。復次若施起滅定者。食便是施。到涅槃還者食。所以者何。此定與涅槃相似故。如入無餘涅槃時。一切心心數法。不生。滅一切有緣法。此定亦爾。是故施其食者。得現世報。若得多報。不但施滅定人。食得現世報。施五種人食。亦得現世報。一從滅定起。二從慈心起。三從無諍起。四從見道起。五從得盡智起。又施五種人食得多報。一施父。二施母。三施病人。四施說法人。五施近佛菩薩。

問曰。此定為是受生處。造業為是滿業耶。答曰。此是滿業。非是造業。所以者何。造業必是業性。彼非業性。問曰。此定為得現報。為得生報。為得後報耶。答曰。此定得生報。不得現報。所以者何。非想非非想處。不能起此定。問曰。何處受此定報。答曰。於非想非非想處。報四陰。若成就滅定。亦成就滅定報耶。答曰。或成就滅定。不成就滅定報。乃至廣作四句。成就滅定。不成就滅定報者。生欲色界得滅定。若得滅定不退。生非非想處。未受滅定報。成就滅定報。不成就滅定者。於此得滅定報。生非想非非想處。受滅定報。成就滅定亦

成就滅定報者。於此得滅定不退。生非想非非想處。受滅定報。不成就滅定。亦不成就滅定報者。生欲色界中。不得滅定。生空處。識處無所有處。若得滅定退。若不得滅定。生非想非非想處。不受滅定報。

若退滅定。亦退阿羅漢果耶。答曰。或退滅定。不退阿羅漢果。乃至廣作四句。退滅定不退阿羅漢果者。學人退滅定。阿羅漢得滅定退。不得自在。非起結現在前。退阿羅漢果不退滅定者。慧解脫阿羅漢退。學時得滅定。無學時起非想非非想處結。退滅定亦退阿羅漢果者。學時得滅定。無學時起下地結。退無學時得滅定。三界結若起一界結退。不退滅定亦不退阿羅漢果者。除上爾所事。

阿羅漢果者六種。謂退法。憶法。護法。等住。能進。不動。諸退法阿羅漢。盡是俱解脫耶。若是俱解脫阿羅漢。盡是退法耶。乃至不動阿羅漢。盡是俱解脫耶。若是俱解脫阿羅漢。盡是不動耶。答曰。或是退法阿羅漢。非是俱解脫。乃至廣作四句。是退法阿羅漢。非俱解脫者。諸退法阿羅漢。不得滅定。是俱解脫阿羅漢。非是退法者。憶法乃至不動得滅定。是退法阿羅漢。亦是俱解脫者。退法阿羅漢。得滅定。非退法阿羅漢。亦非俱解脫者。憶法乃至不動不得滅定。如退法阿羅漢。作四句。除五種阿羅漢。作五句。亦如是。

如無學道有六種阿羅漢。學地亦有六種性。學諸退法學。盡是身證耶。若是身證。盡是退法學耶。乃至不動性學。是身證耶。若是身證。

①施+(起)②不生+(不滅)③

盡是不動性學耶。答曰。或是退法性學。非身證。乃至廣作四句。是退法性學非身證者。退法性學不得滅定。是身證非退法性學者。憶法乃至不動性學得滅定。是退法性學亦非身證者。退法學得滅定。非。退性學亦非得身證者。憶法乃至不動性學不得滅定。如退法性學作四句。餘五性學作五四句亦如是。若法與心作次第。亦是無間耶。答曰。或法與心作次第。非是心無間。乃至廣作四句。與心作次第非心無間者。除定初剎那及有心時。餘定剎那及出定心是也。是心無間非心次第者。定初剎那及有心時生住無常是也。是心次第亦心無間者。定初剎那及有心時是也。非心次第非心無間者。除定初剎那及有心時生住無常。餘定剎那及出定心生住無常是也。若法是心次第亦是定無間耶。答曰。或法是心次第非定無間。乃至廣作四句。是心次第非定無間者。定初剎那及有心時是也。是定無間非心次第者。除定初剎那及有心時生住無常。餘定剎那及出定心生住無常是也。是心次第亦定無間者。除定初剎那及有心時定。餘剎那及出定心是也。非心次第非定無間者。定初剎那及餘有心生住無常是也。八勝處乃至廣說。問曰。勝處體性是何。答曰。是不貪善根。對治於貪。若取相應迴轉。欲界是四陰。色界是五陰。

已說體性。所以今當說。何故名勝處。勝處是何義。答曰。勝於境界。勝於煩惱。故名勝處。雖諸行者不能盡勝境界。然於境界不生煩

惱故名勝處。如世尊說。勝此處故名勝處。

界者是色界。地者初四勝處。未至中間初禪第二禪地。後四勝處。在第四禪地。所依身者是欲界身。緣者緣於欲界。為何所緣。答曰。綠色入。盡緣一切欲界色入耶。答曰。盡緣。問曰。若然者經云何通。如說。尊者阿泥盧頭。在舍衛國。住一精舍。有四快意天女。來詣尊者阿泥盧頭所。作如是言。尊者阿泥盧頭。我等是快意天女。於四處得自在意欲。作何等色。隨意能作。以自娛樂。若欲須衣服瓔珞。隨意能作。而自娛樂。爾時尊者阿泥盧頭。作如是念。我今應觀此女作不淨想。即起初禪。不淨想。不能勝之。乃至起第四禪。不淨觀。亦不能勝。復作是念。此色雜故。不能勝之。若純一色。我則能勝。作是念已。而語之言。姊妹汝等。於四處中。得自在者。盡作青色來。即皆青色。亦不能勝。復作是念。若轉此色。或能勝之。復語之言。作黃色來。即皆黃色。赤色亦爾。不能勝之。爾時阿泥盧頭。復作是念。白色隨順不淨想。若作白色。我或能勝。復語之言。作白色來。即皆白色。亦不能勝。爾時尊者阿泥盧頭。知此色雜妙不可勝故。閉目而坐。是時天女。作如是念。今此尊者。不能憶念我等。知此事已。忽然不現。尊者阿泥盧頭。不勝境界。境界不勝尊者阿泥盧頭。譬如二力士相撲不能相勝。彼亦如是。此說云何通。答曰。尊者阿泥盧頭。雖不能勝餘利根者。如佛舍利弗目犍連等則勝。問曰。能於佛身作不淨觀不。答曰。能作。唯佛。能非餘聲聞辟支佛

能。所以者何。佛身清淨無垢。一切不淨觀者。不能於佛身作不淨想。唯佛世尊。能於自身。作不淨觀。復次不淨觀有二種。一觀色過患。二觀緣起。觀色過患不淨觀。不能於佛身作觀色過患。不淨觀能作緣起觀。餘廣說如雜毘度不淨觀處。念處者盡與身念處。俱智者盡與等智俱。三昧者不與三昧俱。根者總而言之。與二根相應。謂喜根捨根。過去未來現在者。是三世。緣三世者。過去緣過去。未來必生者緣未來。不生者緣三世。現在者緣現在。善不善無記者。是善緣善。不善無記者盡緣三種。三界繫者。是色界繫。緣三界繫及不繫者。是緣欲界繫。是學無學非學非無學者。是非學非無學。緣學無學非學非無學者。緣非學非無學。是見道斷修道斷無斷者。是修道斷。緣見道斷修道斷無斷者。緣修道斷。名緣義緣者。是緣義。緣自身他身非身者。初二緣自身他身。餘緣他身。是離欲得方便得者。是離欲得。亦是方便得。初禪者。離欲界欲。得二禪者。離初禪欲。得第四禪者。離第三禪欲。得方便起現在前。是方便得。佛不以方便起現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上方便。是會得未曾得者。聖人最後身凡夫起會得。未曾得者。餘凡夫起會得者。

八勝處。內有色想觀外色。內有色想者。觀自身色。修色想。不離色想。觀外色者。觀少外色。若好若惡。少有二種。一境界少。二自在少。好色者。不弊壞青黃赤白色。惡色者。弊壞青黃赤白色。於此色。生勝。知見者。斷於欲

①非十(是)②退十(法)③除二餘④問二問⑤界十(緣於欲界)⑥唯二惟⑦者十(及不繫者)⑧修二前

愛。過於欲愛。緣取前色。皆得自在。是名爲勝。猶如大家子驅使奴僕皆得自在。彼亦如是。是名初勝處。初者次第數在初故名。復次次第入彼定時初入故名初。勝處者若入此定。善色受想行識是名勝處。如初勝處。第二勝處亦爾。異者。先觀少今觀多。多有二種。一境界多。二自在多。餘如上說。內無色想觀外色。內無色想者。內不修色想。離色想觀外色少。餘廣說如上。是名第三勝處。如第三勝處。第四勝處亦爾。異者。第三觀少好惡色。第四觀多內無色想。觀外色。如上所說。觀青色者。作如是觀解。諸所有色。若略若廣。盡觀是青。如眼識所觀眼識所行。次生意識。觀青色青光青影。如是內無色想。觀外青色青光青影。生勝。知勝見者。斷於欲愛。過於欲愛。是名勝於色。緣取前色。皆得自在。猶如大家子驅使奴僕皆得自在。彼亦如是。有如是想者。起如是想現在前。是名第五勝處。第五義廣說如上。如青色。黃色。赤色。白色。說亦如是。一一異者。黃勝處。應說迦那迦華喻。赤色者。應說槃頭者婆迦華喻。白色者。應說優師迦星喻。問曰。此四種色。何者最妙。尊者須蜜說曰。白色最妙。世人亦說是吉色。猶如四方之中東方最勝。世人亦稱爲吉。彼亦如是。尊者佛陀提婆說曰。觀白色者。心則清淨。不隨順睡眠法。

十一切處。乃至廣說。問曰。十一切處體性是何。答曰。八是無貪善根。對治於貪。若取相應迴轉。是四陰五陰性。若是欲界四陰。若是色界五陰。空處識處一切處體性是四陰。此是一切處體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名一切處。一切處是何義。答曰。以二事故。名一切處。一以不處。二以廣大。不處者。無有處所緣地。復緣於水如緣地。若緣水緣火風青黃赤白空處識處不亦如是。廣大者。普遍緣地。乃至普遍緣識。尊者佛陀提婆說曰。遍緣一切。無有空缺。名一切處。

界者。八在色界。二在無色界。地者。八在第四禪地。空處一切處在空處地。識處一切處在識處地。所以者何。淨解脫在第四禪地。能入後四勝處。後四勝處。能入八一切處。淨解脫。緣淨境界。不能分別若好若惡。青黃赤白勝處。能分別不能令無邊一切處。能令青黃赤白無邊。此色爲何所依。如依四大。是故次觀無邊地無邊水無邊火無邊風。此廣大誰所生。以覺故知色等依空。是故次觀無邊空處。彼覺何所依。依於識。是故次觀無邊識。識更無所依。故更不立一切處。所依身者。八依欲界身。後二依三界身。行者不行行。緣者。八緣欲界。緣欲界何法。答曰。緣於色入。二緣無色界。念處者。八與身念處俱。後二與法念處俱。智者盡與等智俱。三昧者。不與三昧俱。根者。與一捨根相應。過去未來現在者。是三世。緣三世者。八。過去者緣過去。未來必生者緣未來。必不生者緣三世。現在者緣現在。後二者緣三世。善不善無記者。是善緣善。不善無記者。八緣三種。二緣善無記。是三界繫不繫者。八是色界繫。二是無色界繫。緣三學無學。非學非無學者。是非學非無學。緣學無學。非學非無學者。緣非學非無學。是見道斷修道斷不斷者。是修道斷。緣見道斷修道斷不斷者。八緣修道斷。二緣見道修道斷。緣名緣義者是緣義。緣自身他身非身法者。八緣他身。二緣自身他身。是離欲得方便得者。是離欲得是方便得。離欲得者。離欲時得。方便得者。作方便得。佛不以方便起現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上。是本得。未曾得者。是本得亦是未曾得。聖人內道凡夫。亦是本得。亦是未曾得。餘凡夫是本得。問曰。一切處方便云何。答曰。四以眼識爲方便。滿足時。緣青黃赤白色入。四以身識爲方便。滿足時。緣地水火風觸入。復有說者。七以眼識爲方便。除風一切處。復有說者。八以眼識爲方便。問曰。風一切處。云何以眼識爲方便。答曰。眼識亦取風色入如是相。謂有塵無塵。滿一切處。毘嵐風等。空一切處。以空爲方便。識處一切處。以識爲方便。

①(說)一② ③如二知④ ⑤空十(處)⑥ ⑦八二入⑧

邊可爾所以者何。彼所緣有方所故。空處一切處。識處一切處。所緣無方所。云何有上下諸邊。答曰。八一切處。應說有上下諸邊。二一切處。無上下諸邊。若如是說者。有何意耶。答曰。行此定者。在上下諸邊故。如人中修空處一切處。是下四天。王天中修識處一切處。是上餘方。說亦如是。

問曰。何故第三禪。無解脫。無勝處。無一切處耶。答曰。非其田器。乃至廣說。復次對治欲界色愛故。初禪立解脫。對治初禪色愛故。第二禪立解脫。第二禪無色愛故。第三禪不立解脫。以第三禪無解脫故。亦無勝處。亦無一切處。所以者何。以解脫入勝處。以勝處入一切處。故復次以遠故不妙。第三禪於欲界遠。於四禪不妙。復次以如第三無色定。空處識處。有無邊行。非想非非想處。有滅定。無所有處。無無邊行。亦無滅定。如第三無色定善根減少。第三禪亦如是。復次第三禪。有一切生死最勝受樂。行者多於中著樂故。不能起解脫勝處一切處。問曰。若然者。何故有無量神通等功德。答曰。一切起不必有一切功德。若當彼地。無無量無神通者。彼地便是空無功德地。

佛經說入地一切定者。作如是念。地卽是我。我卽是地。我定與地。無二無別。餘一切處亦如是。問曰。若得一切處。必離第三禪欲。若計地是我。必是第四禪地身見。計第四禪地是我。一切處緣欲界。此云何可爾。答曰。此中說不定名定。如非沙門說名沙門非婆羅

門說名婆羅門。彼亦如是。復次此說前所得事。譬如國王雖復亡國。富貴之事。猶名爲王。此亦如是。先得此定。而退失之。以曾得故。作如是說。復次彼是速入定者。於彼定退起欲界身見。計欲界地是我。速還離欲。起一切處。復緣欲界。如提婆達多。能速入定。以神足力。自化作小兒。五花。剃髮。著金瓔珞。於太子阿闍世抱上。宛轉遊戲。復現此相。使太子阿闍世知是大聖提婆達多。時太子阿闍世。抱弄鳴之。以唾著其口中。以食利養。故而咽其唾。是故世尊語提婆達多。汝如死尸食唾之人。彼食唾時。退失神足。速入定。故尋得離欲。自化其身。還在太子阿闍世抱上。宛轉遊戲。復次身見計第四禪地是我。一切處亦觀第四禪地。問曰。一切處緣於欲界。答曰。亦有緣第四禪者。若作是說者。一切處亦緣第四禪。問曰。若然者。色界諸天純是白色。云何觀青黃赤色耶。答曰。彼作是說。色界諸天身。純一白色。諸非衆生數物。有青黃赤色。不應作是說。若身見與一切處相應者。有如是過。云何相應共有法。或緣欲界。或緣第四禪身見。不與一切處相應。然一人亦名計我。亦名得定。以起身見。故。名爲計我。以起一切處。故。名爲得定。身見計第四禪地是我。一切處緣欲界。非一時故。此經善通。

有地定。有地一切處定。乃至有白定。有白一切處定。問曰。地定地一切處定。有何差別。答曰。地定在欲界四禪地。一切處定在第四禪。復次方便是定。滿足是一切處。復次因是定。果是一切處。復次少分。是定遍是一切處地。定地一切處定。是謂差別。

問曰。解脫勝處。一切處。有何差別。答曰。名卽差別。是名解脫。是名勝處。是名一切處。復次下善根是解脫。中善根是勝處。上善根是一切處。復次少善根是解脫。中善根是勝處。上善根是勝處。上善根是一切處。復次因是解脫。果是一切處。因是勝處。復次背捨義是解脫。勝緣義是勝處。遍緣義是一切處。復次心解脫是解脫。勝煩惱義是勝處。無缺遍義是一切處。復次若得解脫。不必得勝處一切處。若得解脫勝處。不必得一切處。若得一切處。必得解脫勝處。所以者何。解脫能入勝處。勝處能入一切處。解脫勝處。一切處。是謂差別。

八智法智比智他心智等智苦智集智滅智道智。云何法智。乃至道智。廣說如經本。問曰。彼尊者何故於此論中。以八智而作論。答曰。彼尊者有如是欲。如是可如是意欲。以八智而作論。隨其欲意。亦不違法相。立八智而作論。餘處亦立八智而作論。如定智。慧度中說。或欲以二智而作論。卽立二智。如智。慧度中說他心智念前世智。根。慧度中立法智比智。定。慧度中立。並智無生智。或欲以四智而作論。卽立四智。如根。慧度中說。若苦智。是苦無漏智耶。乃至若道智。是道無漏智耶。或欲以十智而作論。卽立十智。隨其所知。譬如陶師以知泥團安置輪上。隨其所欲出種種物。不損所能。彼尊者亦如是。以聞思修慧。除所知過。隨其所欲而作論。不違法相亦

○七二失 ○刺二結 ○宛二腕 ○宛二腕 ○脫十(勝) ○脫十(能) ○卷第六十八終 ○卷第六十九使慧度十門品之十六首 ○卷第六十九使慧度十門品第四之十六首 ○造號釋號譯號同異如卷第二十三 ○慧二慧 ○根二智 ○中十(亦) ○

如是。復次不應求彼尊者何故立八智耶。所以者何。此是佛經。佛經說八智。法智乃至道智。彼尊者以佛經是此論根本因緣故。依八智而作論。彼尊者無力。於八智中。減一智說七智。增一智說九智。所以者何。佛經無有增減。無增者無增。無減者無減。可增。如無增無減。無益無損。無量無邊。無量者。是無量。無邊者。是無邊。猶如大海水無量無邊。無量者深無量。無邊者廣無邊。一切佛經。亦無量無邊。無量者。義無量。無邊者。文無邊。如尊者舍利弗等。百千論師。欲解佛經二句義故。造百千那。由他論。盡其覺性退還而不能知佛經二句義邊際。到於彼岸。問曰。若佛經是此論根本因緣者。佛經中多種說智。或說二智。如二法中。或說四智。如四法中。或說八智。如八法中。或說十智。如十法中。何故彼尊者於多種智中。此使捷度依八智而作論。答曰。八智是中說攝一切智。二智雖攝一切智。而是略說。十智雖攝一切智。而是廣說。復次若智數修數數現在前者。依此智而作論。復次此八智。亦是智性。亦是見性。盡智無生智。雖是智性。而非見性。復次若智是有欲無欲人身中可得者。依此智而作論。盡智無生智。是無欲人身中可得。復次若智是學無學人身中可得者。依此智而作論。盡智無生智。是無學人身中可得。如學無學。所作已所作。未棄重擔已棄重擔。未逮己利已逮己利。有求無求。當知亦爾。彼尊者或依利那頌一智而作論。如難。捷度說。頗有一智知一切

法耶。答曰。不知。若依十智而作論者。此論不成。若依九八七六五四三二智而作論者。此論不成。乃至一智二利那頌而作論者。此論亦不成。所以者何。初智利那頌。不知自體相應共有法。第二利那頌。知前智相應共有法。彼中依利那頌一智而作論。答曰。不知。或說一智攝一切智。謂法智非如法智。以體是法故。或說二智攝一切智。如有漏智無漏智。縛智解智繫智不繫智。或說三智攝一切智。如法智比智等智。或說四智攝一切智。前三智更增他心智。或說五智攝一切智。如等智苦集滅道智。或說六智攝一切智。前五智更增他心智。或說七智攝一切智。除他心智。或說八智攝一切智。增他心智。問曰。若八智攝一切智者。復有八智。謂法住智。涅槃智。生死智。漏盡智。念前世智。願智。盡智。無生智。云何攝耶。答曰。雖更有八智。亦是八智所攝。所以者何。此八智盡在前八智中。故問曰。此八智云何在。前八智中。答曰。住名諸法因三界上中下果在因中住。若知此智。名爲因智。因智是四智性。等智法智比智集智涅槃智。是滅智。亦是四智性。等智法智比智滅智。生死智者。舊阿毘曇者。闍寶沙門。作如是說。是一智。謂等智。尊者婆。摩勒。已作如是說。生死智是四智性。謂法智比智等智苦智。評曰。應作是說。是一等智。漏盡智。或有說者。是漏盡。人身中可得故。名漏盡智。若作是說。是十智性。或有說者。漏盡智是緣漏盡處智。若作是說。漏盡智是四智性。謂法智比智等

智滅智念前世智。舊阿毘曇者闍寶沙門。作如是說。是一等智。尊者瞿沙。作如是說。是六智。除滅智他心智非他心智。所以者何。他心智緣現在法非滅智。所以者何。滅智緣無爲法。評曰。應作是說。是一等智。願智。是一等智。或有說是八智性者。除盡智無生智。所以者何。願智是見性。彼二智非見性。評曰。應作是說。願智是一等智。盡智無生智是六智。謂法智比智苦集滅道智。以如是等事故。八智攝一切智。尊者僧伽婆修說曰。應說一智。謂決定智。所以者何。決定義是智義。彼決定有有漏有無漏有縛有解有繫有不繫。有漏者是等智。是縛是繫。無漏智。是解。無繫。或是欲界對治。或是色無色界對治。或是欲界對治者。是法智。若色無色界對治者。是比智此三智。若知他心心數法。是知他心智無漏決定智。或行苦四行。乃至行道四行。若行苦四行者。是苦智。乃至若行道四行者。是道智。問曰。若然者。唯有三智。法智比智等智。答曰。如是。唯有三智。謂法智比智等智。問曰。若然者。云何立八智。答曰。以五事故。一以對治。二以方便。三以自體。四以行。五以緣行。對治者。是法智比智。方便者。是他心智。自體者。是等智。行者。是苦智集智。所以者何。此智行不同緣。同緣行者。是滅智道智。所以者何。此智緣不同行。不同故。以此五事故。立八智。尊者婆。摩勒。說曰。對治四種愚故立八智。四種愚者。界愚。心愚。法愚。諦愚。對治界愚故說法智比智。對治

○(由)一○(摩勒)一○(無)一○(法)二○(對)治○(若)十○(是)○

心愚故說他心智。對治法愚故說等智。對治諦愚故說苦集滅道智。此是智體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名智。智是何義。答曰。決定義是智義。問曰。若決定義是智義者。疑相應智則非智。所以者何。不決定故。答曰。疑相應慧亦是智。但疑於聚中有勢用故。言是疑聚。如多愛人名為愛行。非無患癡以愛有勢用故名為愛行。彼亦如是。慧行癡行。說亦如是。譬喻者。作如是說。若心有智。則無不智。若心決定。則無猶豫。若心有龜。則無有細。亦為阿毘曇者說過。汝說法相猶如若干草木雜生一處而無別相。一心中有智無智。非智非不智。猶豫決定。非猶豫非決定。龜細非龜非細。阿毘曇者復作是說。我法生時。聚生一心中。有智無智。非智非無智。決定猶豫。非決定非猶豫。龜細非龜非細。智者是智。非智者是無明。非智非無智者。是餘心心數法。猶豫者是疑。決定者是慧。非決定非猶豫者。是餘心心數法。龜是覺細是觀。非龜非細是餘法。復有說者。以二事故名智。一以決定。二以適可。知苦乃至知道名決定。自適適他意故名適可。

擇法覺支念法念處法不壞淨法無礙法歸法寶法。而名為法。如是十智體。雖是法而法智名法。復次法智有一名。餘智有二名。法智是共名。餘智是共不共名。以不共名說。復次以初知法故名法智。後知法故名比智。復次彼智相應。初得信法名法智。後得信法名比智。復次於法中現見故名法智。次現後生故名比智。復次欲界多諸非法煩惱。如忿恨諂誑放逸害等非法。誰是彼近對治。謂法智是也。色無色界。無如是非法煩惱故名比智。復次若智是六地所攝。緣於一地是法智。若智九地所攝緣於八地是比智。復次若智六地所攝緣六地者是法智。若智九地所攝緣九地者是比智。復次若智對治十八界十二入五陰者是法智。若智對治十四界十。二入五陰者是比智。復次若智對治善不善無記五陰者是法智。若智對治善無記五陰者是比智。若智對治福非福不動行者是法智。若智對治福不動行者是比智。復次若智對治搏食愛姪欲愛是法智。若智對治定愛是比智。何故名知他心智。答曰。知他心故名知他心智。問曰。亦知他心數法。何故但名知他心智耶。答曰。以期心故。行者期心。作如是念。使我知他心。若知他心。亦知數法。猶如有人作如是念。使我見王。若見王時。亦見王侍者。彼亦如是。復次此法以種種事故得名。或以自體。或以對治。或以方便。或以相應。或以所依。或以行。或以緣。或以行緣。以自體者。如陰如諦如等智。以對治者。如法智比智。若

對治欲界名法智。若對治色無色界名比智。以方便者。如空處識處五現三昧他心智。以相應者。如婆伽羅經說。云何樂受法。答曰。若法與樂受相應。云何苦受法。答曰。若法與苦受相應。云何不苦不樂受法。答曰。若法與不苦不樂受相應。以所依者。眼識乃至意識。若依眼生名眼識。乃至依意生名意識。以行者是苦智集智。所以者何。此智行不同緣同。或以緣者。念處無相三昧。以行緣者。是滅道智。所以者何。彼行不同緣亦不同。復次以名義勝故。此聚中。誰為最勝。心為最勝。譬如王來眷屬亦來。但言王來。彼亦如是。餘廣說。如難*捷度說心處。何故名等智。答曰。世人等行此智故名等智。如男女來去世人現所行法等。問曰。亦緣第一義法。何故名世智。答曰。從多分故多緣世法。少緣第一義法。復次此智無第一義相。以多人所稱故名。世智猶如多人所立之王。雖非王種。以多人所立故。亦名為王。彼亦如是。復次此智是假名。所以者何。一切人一切眾生一切處。盡有此智故。復次此智是愚所依處。愚立足處。復次此智是所差故。猶如人。差上座差維那聲。論者說曰。此智為無智所覆故名等智。猶器中物名為覆物。何故名苦智乃至道智。答曰。以對治決定故。所緣決定故。乃至道智亦如是。復次處所決定故。對治決定故。名苦智乃至道智。復次行苦四行故名苦智。乃至行道四行故名道智。問曰。若有漏慧。行苦四行。乃至行道四行。是苦智耶。答曰。若行苦四行。行道

◎(一)◎ (二)◎ (三)◎ (四)◎ (五)◎ (六)◎ (七)◎ (八)◎ (九)◎ (十)◎ (十一)◎ (十二)◎ (十三)◎ (十四)◎ (十五)◎ (十六)◎ (十七)◎ (十八)◎ (十九)◎ (二十)◎ (二十一)◎ (二十二)◎ (二十三)◎ (二十四)◎ (二十五)◎ (二十六)◎ (二十七)◎ (二十八)◎ (二十九)◎ (三十)◎ (三十一)◎ (三十二)◎ (三十三)◎ (三十四)◎ (三十五)◎ (三十六)◎ (三十七)◎ (三十八)◎ (三十九)◎ (四十)◎ (四十一)◎ (四十二)◎ (四十三)◎ (四十四)◎ (四十五)◎ (四十六)◎ (四十七)◎ (四十八)◎ (四十九)◎ (五十)◎ (五十一)◎ (五十二)◎ (五十三)◎ (五十四)◎ (五十五)◎ (五十六)◎ (五十七)◎ (五十八)◎ (五十九)◎ (六十)◎ (六十一)◎ (六十二)◎ (六十三)◎ (六十四)◎ (六十五)◎ (六十六)◎ (六十七)◎ (六十八)◎ (六十九)◎ (七十)◎ (七十一)◎ (七十二)◎ (七十三)◎ (七十四)◎ (七十五)◎ (七十六)◎ (七十七)◎ (七十八)◎ (七十九)◎ (八十)◎ (八十一)◎ (八十二)◎ (八十三)◎ (八十四)◎ (八十五)◎ (八十六)◎ (八十七)◎ (八十八)◎ (八十九)◎ (九十)◎ (九十一)◎ (九十二)◎ (九十三)◎ (九十四)◎ (九十五)◎ (九十六)◎ (九十七)◎ (九十八)◎ (九十九)◎ (一百)◎

比相知果。二以果比相知因。三以身口行比相知心。四以所說比相知佛有四事。名他心智。謂因次第緣威勢。如此智有四事。智所緣亦有四事。謂因次第緣威勢。有四事名等智。一以名等。二以縛等。三以假等。四以著等。有四事名苦。一以熱惱。二以生。三以身受。四以死。若智行此四事是名苦智。有四事名集。一以業。二以煩惱。三以愛。四以無明。若智行此四事名集智。有四事名滅。初沙門果斷三結。第二果斷三結薄愛患癡。第三果斷五下分結。第四果斷一切結。若智行此四行是滅智。有四事名道。一從第八乃至一切學諸有所作。二降伏怨敵。三觀本所作。四近漏盡。若智行此四行。是名道智。有四事名盡智。一不攝見。二不行空。三除他心智。四方便遲緩。有四事名無生智。一知因。二知果。三知自身。四以人。

十智應言一智。謂法智。非如法智以體是法故。十智應言一智。謂決定智。所以者何。決定義是智。十智應言一智。謂智所知。亦是一智。謂於所知審實生著。九智應言一智。謂道智。以道諦攝故。十智應言一智。謂願智。以滿所願故。十智應言一智。謂盡智。盡諸煩惱。身中可得故。十智應言一智。謂無生智。更不迴還故。

三三昧。空無願無相。應說一三昧。如心數法中定。如定根定力定覺。枝正定。應說二三昧。謂有漏無漏縛解。應說四三昧。謂欲界繫色界繫無色界繫不繫。應說五三昧。謂欲界

繫色界繫無色界繫學無學。若以在身。若以剎那。則有無量三昧。云何世尊。於一三昧於無量三昧。立三三昧。答曰。以三事故。一以對治。二以期心。三以所緣。對治者是空三昧。空三昧是身見近對治。身見行我我所行。空三昧行空無我行。為以何行對治何行。答曰。以無我行。對治我行。以空行。對治我所行。復次無我行。對治五我見行。空行對治十五我所見行。復次無我行。對治己見。空行對治己所見。復次無我行。對治我見愛。空行對治我所見愛。復次陰非我是無我行。陰中無我是空行。復次眼非我。是無我行。眼中無我。是空行。乃至意亦如是。復次性空是無我行。無所行空是空行。期心者。是無願期心不願於有。故名無願。問曰。亦期心不願於道耶。答曰。不應作是問。亦不期心。不願於道。然不願於道。自有所以。聖道雖非有。而依於有。行者期心。不願於陰。而聖道依陰。不願於世。而聖道依世。不願於苦。而聖道與苦相續。問曰。若然者。聖人何故修道。答曰。欲到涅槃故。行者作如是念。除於聖道。更有方便到涅槃。不知更無有是故。欲到涅槃故修道。所緣者是無相緣。無十相法故。是無相十相者。謂色聲香味觸男女相。及三有為相。復次陰是相。彼緣陰滅故。是無相。世是相。前後是相。下中上是相。彼不緣世不緣前後不緣下中上。故是無相。復有說者。三三昧亦行行。空三昧行二行。謂空無我行。無願三昧行十行。謂集道八行。無常苦行。無相三昧行四行。謂滅四行。復有

說者。三三昧是對治。空三昧是身見近對治。無願三昧是戒取近對治。無相三昧是疑近對治。施設經說。空三昧是空非無願。無相無願三昧是無願非空。無相無相三昧是無相非空無願。所以者何。空三昧所行非無願無相。無願無相亦如是。復次說空三昧是無願。無願是空三昧。無相即無相非空非無願。問曰。何故二三昧同一體。一三昧異體耶。答曰。以此二三昧一時得對治一種法。一時得者。若依空三昧得正決定。見苦四心頃。未來無願三昧修。若依無願三昧得正決定。見苦四心頃。未來空三昧。修對治一種法者。此二三昧俱對治見苦所斷法。復次說空三昧是空無願無相。云何是空。此中無有常不變易空無我無我所。云何是無願。此三昧。不願於愛。不願於恚。不願於癡。不願未來有。云何是無相。答曰。此三昧無色聲香味觸故。是無相無願。是無願亦是空。亦是無相。云何是無願。此三昧。不願愛患癡。不願未來有。云何是空。此三昧空無有常。乃至無我無我所。云何是無相。此三昧。無有色相乃至觸相。無相三昧。是無相是空是無願。云何是無相。此三昧。無色相乃至無觸相。云何是空。此三昧。無有常乃至無我無我所。云何是無願。此三昧。不願於愛。乃至廣說。此是三昧體性。乃至廣說已說體性。所以今當說。何故名三昧。三昧是何義。答曰。以三事故名三昧。一以正。二以攝。三以相續。正者無始以來。煩惱惡行。邪見顛倒。令心心數法燒。觸。所以令其正直者。

皆是三昧力。攝者無始以來，心心數法散亂，於色聲香味觸法中，所以攝令不散。住一緣中，皆是三昧力。相續者心心數法。生無色定。次第善心。次第生染汚無記心。染汚心次第生善心無記心。無記心次第生善心染汚心所以能捨二種心。但令善心相續者，皆是三昧力。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十五

阿毘曇毘婆沙論卷第四十六

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

使健度十門品之十

◎復有三事故名三昧。一住一緣。二繫在一緣。三正思惟。復有三事故名三昧。一自正心。二生種種善根。三令心正。直相續。復有三事故名三昧。一於緣中不從。二持種種善法。三能令種種善心住一緣中。尊者和須蜜說曰。何故名三昧。答曰。能令種種善心住一緣中。餘說如上。尊者佛陀提婆說曰。三昧有多名。有善法三昧。有不善法三昧。有無記法三昧。有九次第三昧。此中說心正三昧名三昧。◎界者。有漏者。三界繫。無漏者不繫。地者。有漏者在十一地。無漏者在九地。所依身者。依三界身行者。空有二行。無願有十行。無相有四行。緣者空三昧。有漏者緣一切。無漏

者緣苦諦。無願緣三諦。無相緣滅諦。念處者空。無願三昧是四念處。無相三昧是法念處。智者空三昧與四智俱。謂法智比智等智。苦智。無願三昧與七智俱。除滅智。無相三昧與四智俱。謂法智比智等智滅智。三昧者即三昧根者總而言之。與三根相應。過去未來現在者。是三世。緣三世法者。空三昧緣三世及非世法。無願緣三世。無相緣非世。善不善無記者。是善緣善不善無記者。空無願緣三昧。無相緣善。是三界繫不繫者。或三界繫或不繫。緣三界繫及不繫者。空三昧。有漏者緣三界繫及不繫。無漏者緣三界繫。無願緣三界繫及不繫。無相緣不繫。是學無學非學非無學者。是三昧。緣學無學非學非無學者。空三昧。有漏者。緣三種無漏者。緣非學非無學。無願緣三種。無相緣非學非無學。是見道斷修道斷。不斷者。有漏者是修道斷。無漏者不斷。緣見道斷修道斷不斷者。空三昧。有漏者緣三種。無漏者緣見道斷修道斷。無願緣三種。無相緣不斷。緣名緣義者。空無願緣緣名。無相緣緣義。緣自身他身非身者。空三昧。有漏者緣三種。無漏者及無願緣自身他身。無相緣非身。若空三昧。盡行空行耶。答曰。或空三昧不行空行。乃至廣作四句。空三昧不行空行者。空三昧行無我行。行空行非空三昧者。行空行空三昧相應法。空三昧行空行者。行空行空三昧。非空三昧非行空行者。若即取此種性。無我行空三昧相應法。若不即取此種性。除上爾所事。已行當行亦如是。如

空三昧空行作四句。空三昧行無我行亦如是。無願作三十四句。無相作十二句。合四十八四句。問曰。三昧解脫門。有何差別。答曰。三昧是有漏無漏。解脫門唯無漏問曰。何故三昧是有漏無漏。解脫門唯無漏耶。答曰。解脫門不應是有漏。不應是繫縛問曰。為以得正決定。為以盡漏立解脫門耶。若以得正決定者。苦法忍相應定。應是解脫門。若以盡漏者。金剛喻定。應是解脫門。答曰。應作是說。以得正決定亦以盡漏故。名解脫門。所以者何。得一切聖道。盡名決定。一切斷盡名盡。如世第一法次第得苦法忍。苦次第得集。集次第得滅。滅次第得道。盡漏者。或依空三昧。盡三界漏。或依無願三昧。盡三界漏。或依無相三昧。盡三界漏。問曰。何故名解脫門。答曰。如桶法故。譬如闍人執桶在前。斷煩惱。怨家成。就頭墮著不成就地。如說。定是正道。不定是邪道。定心得解脫非不定心。有定者能知陰生滅。施設經廣說空。謂內空。外空。內外空。有為空。無為空。無始空。性空。無所有空。第一義空。空空。問曰。施設經何故廣說空耶。答曰。以空是二十身見近對治。佛經說。若聖弟子。具足三三昧。若斷不善法。修行善法。問曰。何故說三三昧名。答曰。以其妙好世人生欣上心故。如少年時首繫花鬘。若男若女。生愛敬心。行者亦爾。若繫三三昧。諸天世人則生愛敬。復次如人首

◎[色]-一◎ ◎◎不分發及品◎ ◎緣一處◎ ◎九二無◎ ◎◎卷第六十九終◎ ◎◎卷第七十使健度十門品之十七首◎ ◎◎卷第七十使健度十門品第四之十七首◎ ◎造說釋說譯說同異如卷第二十三 ◎一切十(法)◎ ◎若二苦◎ ◎◎若二苦◎ ◎◎滅十(滅)◎

繫華鬢風則不亂其髮。諸功德首。若繫三昧華鬢者。掉風不能亂。譬如花若繫以爲鬢。則所用處多。諸功德亦爾。若繫以爲鬢。則多有所用。能得正決定。得果離欲盡漏。復次世人於所繫華作鬢想。賢聖亦爾。以三三昧。繫諸功德。亦作鬢想。亦如世人次第繫華而生鬢想。賢聖亦爾。次第繫心於一緣中。亦作鬢想。

佛經說。空三昧是上座住處。問曰。何故說空三昧是上座住處。答曰。以諸上座多住是處故。三界中佛是有德上座。次辟支佛。彼尊者舍利弗。常住此處故。言上座住處。復次空是內道中不共法。內道一切皆是上座。外道一切皆是年少。內道中年八歲者。皆是上座。所以者何。成就上座法故。外道年八十者。皆是年少。所以者何。成就年少法故。問曰。諸外道有無願無相耶。答曰。雖無根本者。有相似者。龜行似無願。止行似無相。空乃至無相似者。況根本。復次以能生上座法故。空名上座住處。上座住處。是道果。誰能生者。謂空能生。復次安住審諦法故。空名上座住處。衆生若不得空三昧。則情性輕躁躁動。若得空三昧。情性則不動如山。是故尊者瞿沙。作如是說。若知解脫法。則情性審諦。情性審諦。名上座。是故說空是上座住處。復次行者住空法時。適意不適意不好。有利益事。無利益事。資生樂事。資生苦事。於此事中。心不移動。曾聞尊者舍利弗。其母命終。共住弟子還俗。長齒比丘。常於尊者舍利弗。有怨嫌

心。作如是念。我今應往告其不吉之事。爾時長齒比丘。便詣尊者舍利弗所。作如是語。長老當知。汝母命過。共住弟子還俗。尊者舍利弗。作如是答。我母命過。此是有身之法。我弟子還俗。此是凡夫之法。時長齒比丘。作是念。長老舍利弗。雖作是言。心必有異。爾時尊者舍利弗。以是事故。明朝著衣持鉢。入舍衛城。次第乞食飲食訖。還詣住處。舉衣鉢洗足已。以尼師。檀著肩上。從祇桓林。詣安樂林。於晝日露處坐一樹下。心生是念。世間頗有可愛妙色。變易散滅之時。令我生憂悲苦惱者。不遍觀見無有者。爾時尊者舍利弗。以日暮時。從安陀林。還祇桓林。爾時長老阿難於所住精舍門邊經行。見尊者舍利弗來。問言。尊者舍利弗。從何處來。舍利弗答言。我從安陀林來。復問。尊者舍利弗。汝於安陀林。多住何三昧。舍利弗答言。住覺觀三昧。阿難復問。住何覺何觀耶。舍利弗言。我晝日於安陀林。有如是覺。世間頗有可愛妙色。乃至廣說。阿難問言。尊者舍利弗。於意云何。爲有如是色不。舍利弗答言。無也。阿難復語尊者舍利弗言。汝當作是說。若佛不出世。我等便爲無目而死。佛是可愛妙色。若當變易散滅。汝不生憂悲苦惱耶。尊者舍利弗答言。若今世尊變易散滅。我亦不生憂悲苦惱。但有是念。世尊速般涅槃。世間眼速滅。爾時長老阿難歎言。善哉善哉。尊者舍利弗。善除我見我所見及與我慢。斷其根本。如斷多羅樹頭。更不復生。如來雖是可愛色。若當變易散滅者。

當有何憂悲苦惱耶。是故行者住彼法時。於適意不適意。好不利。有益無利益。資生樂事。資生苦事。心不移動。是故名空。是上座住處。復說。尊者舍利弗。於俱薩羅國。住一林中。爾時有一阿耨婆梵志。亦住彼林。去尊者舍利弗不遠。值彼人民。設四月節會時。彼梵志詣村落中。多飲好酒。飽食猪肉。復持餘肉及酒一瓶。還所住林。見尊者舍利弗坐一樹下。生輕賤心。彼之與我。俱是出家。我今極樂。而彼比丘極苦。卽說偈言

我飲粳糧酒 竊持一瓶來
地上山草木 視之猶金聚

爾時尊者舍利弗。作如是念。此如死梵志。向我說如是偈。我今亦應說偈。時尊者舍利弗。便說此偈

我飲無相酒 復竊持空瓶
地上山草木 視之猶睡聚

此偈中尊者舍利弗。以三解脫門。作師子吼。如說。我飲無相酒。是無相解脫門。復竊持空瓶者。是空解脫門。地上山草木視之猶睡聚。是無願解脫門

說無相有多名。或說空是無相。或說見道是無相。或說不動心解脫是無相。或說非想非非想處是無相。或說無相是無相。說空是無相者。如經說。有一比丘。得無相心定。彼比丘根鈍。不知是定有何功德。有何果報。作是思惟。誰知此定功德果報。復作此念。長老阿難。佛所稱譽。諸梵行者之所信敬。必知此定所有功德果報。我今應往問如是事。復作是

◎彼二次◎ ◎ (何)十況◎ ◎禮一壇◎ ◎桓二俱◎ ◎樂二陀◎ ◎愛十(妙)◎ ◎梗一標◎ ◎惟二誰◎

念。長老阿難。善知物相。若我往問。當還問我。汝得是定耶。若答言得。彼比丘是少欲覆藏。言法者不欲顯己功德。若答言不得。是現前妄語。若作餘言。不正答者。則是惱亂上座比丘。我由來不曾惱亂上座比丘。我今但應隨逐其後。若為他人說是法者。我當得聞。時彼比丘。於六年中。隨阿難後。而猶不聞為他解說。爾時比丘。問長老阿難言。若人得無相心定。心無增減。住難得行。猶水停住。已住故解脫。已解脫故住。世尊說是。空有何功德。有何果報耶。爾時長老阿難。問彼比丘。汝得此定耶。時彼比丘。作如是念。如我所畏。今果問之。即便默然。爾時阿難。作如是說。若比丘於無相心定。無增無減。乃至廣說。佛說此定。所有果報。得一切知見。能生智慧。修道盡漏。汝亦不久當得此法。不增者。是斷我見。不減者。斷我所見。五我見十五我所見。亦如是。不增者。是生死。不減者。是涅槃。住難得行者。此行難得多用功多有所作。如水停住者。譬如水從其源出。停住一處。更不餘流。如是彼定。住於一緣。更不餘緣。住故解脫者。是自體解脫。解脫故住者。是身中解脫。是中說空。是無相。餘處亦說無相是空。如法印經說。若斷色相觀色。乃至廣說。眾生相是境界相。若彼比丘。見於空法則除眾生相。於境界不見有男相女相。是故尊者瞿沙。作如是說。眾生相是境界相。若有是空行。於境界不見有男相女相。說見道是無相者。如說。日捷連提舍梵志。不說第六人行無相耶。云何第六

人行無相答曰。第六人行無相者。是堅信堅法。所以者何。彼是無相。不可數不可易知。在此在彼。若苦法忍若苦法智。乃至道比忍比智。問曰。何故見道名無相答曰。此道是速疾道。不起期心道故。不動心解脫是無相者。如說。長老伽婆多貪欲是相。是相不動心解脫。是最勝無相。問曰。何故不動心解脫名無相耶。答曰。煩惱是相。彼心不為煩惱所覆。不為所壞。不以上著下。非不淨自在。是故說不動心解脫名無相。非想非非想處。名無相者。如說。我多用功德無相心定。問曰。何故說非想非非想。處名無相定。答曰。以非想非非想處。愚疑不猛利不決定。猶如疑亦無了了有想相。亦無了了無想相。說無相名無相者。如此中說。經說

佛在舍衛國。住東方精舍彌伽羅母堂。爾時長老阿難。往詣佛所。頭而禮足。白佛言。世尊。昔於一時。世尊住於釋種彌周吒村。我從世尊。聞如是義。我今多住空三昧。我為善受持憶念如是說不。佛告阿難。如汝所言。善受持憶念如我所說。而無有異。問曰。若善受持。不應生疑。若生疑者。不名善受持。答曰。以是事故。名善受持。所以者何。不生邪見。不轉教餘人。不都忘失故。問曰。如長老阿難。多聞總持一切智。所說八萬法聚。以正念器盛之。何故於一句中。而生疑心。答曰。聞此法時。心有愁惱。害諸釋時。是此論因緣。如愚癡瑠璃王殺害諸釋。爾時阿難。將一比丘入迦毘羅城。此城本時如諸天城。當是之時。其猶

丘塚。所有樓觀。却敵睥睨。種種窓牖。皆悉毀壞。清泉諸池。悉皆燒濁。鴻雁鴛鴦。孔雀鸚鵡。鷓鴣翅羅鳥。為烟火逼。皆飛翔虛空。諸小男女。皆啼哭逐阿難後。作如是言。大德阿難。我母命過。我父命過。我父母命過。爾時長老阿難。復至修迦羅。處梵志精舍。愚癡瑠璃王。於其處。埋迦毘羅諸釋。半身在於地中。以鐵末末之。殺七萬七千賢聖。爾時阿難。見是事已。極生愁惱。次復世尊諸根無異。其心安住。不動如山。善御其心。如持油鉢。制伏五根。如馬正視入迦毘羅城。爾時長老阿難。觀世尊面顏色和悅。見已作是念。如我親族離別。生處毀壞。世尊不爾。我今苦惱。而世尊心不動如山。爾時世尊知阿難所念。而告之言。我多住空三昧故。汝心住村落。我想。我住阿蘭若。若汝住親族想處。我住凡人想。汝作眾生想處。我作滿足法想。爾時世尊知阿難及諸比丘。不堪行道。便將諸比丘。漸次遊行到舍衛國東方精舍彌伽羅母堂。爾時長老阿難愁惱轉滅。往詣佛所。頭而禮足。而白佛言。廣說如上。以是事故。阿難問此事時。心有愁惱。聞佛所說。我常住空三昧。所以生疑。問曰。佛說我多住空。為何何空。答曰。或有說者。住無所行空。所以者何。無所行空。隨順四威儀法。行時餘三威儀空。餘威儀時亦爾。評曰。應作是說。住性空。所以者何。但觀法性故。是故阿難比丘。若欲多住空者。當觀聚落及眾生住阿練若。時諸比丘皆有是念。此住空法。是佛不共法。佛為除比丘心

一五四六 阿毘曇毘婆沙論卷第四十六

言一善(一) 空一定(一) 染十(達) 淨二得(一) 德二得(一) [虛]一(一) 障二障(一) 足十(而) 都二取(一) 睥睨二睥睨(一) 末末二末末(一) 次復二復次(一) 想十(處) 蘭二練(一) 住一作(一) 減二增(一)

所疑而告阿難。若比丘欲多住空三昧者。除聚落及衆生想住阿練若。問曰。何故佛告比丘。除此二想。答曰。以諸比丘於此二想。生苦惱故。阿難若比丘除聚落想及衆生想。住阿練若。當作地想。乃至作非想非非想處想。問曰。何故世尊一切時除下想。說上想。不說其根本耶。答曰。此說是舊法。過去恒沙諸佛說法皆爾。復次欲令所說不亂。故若世尊說不除下想。便說上想者。則所說法亂。諸佛說法而無有亂。復次欲離重說法過故。若世尊不除下想。說於上想。則是重說法。佛世尊不重說法。復次定是略要法。若世尊一切時說根本者。則經文多。復次欲現論議道。故論議之道。若有所說。必定其言。若重定前言。則壞論議道。佛是無對論師。善知論議道。故問曰。說村落想。爲現何事。乃至說非想。非非想處。爲現何事。答曰。村落想。爲現迦毘羅想。衆生想。爲現諸釋想。阿練若想。爲現尼拘陀精舍想。亦現諸比丘行道處想。地想者。現觀色是散壞想。所以者何。有色故有截手足耳鼻。苦空想者。現觀空想。乃至非想非非想處。現觀非想非非想處想。復次村落想者。是十五我所見。衆生想者。是五我見。阿練若處想者。是空三昧。地想者。是所緣。彼諸對治。是無色定。復次村落想者。是欲界器世。衆生想。是欲界衆生世界。阿練若想。是初禪二禪地想。是第三第四禪。彼諸對治。是無色定。復次村落想。是欲界。所以者何。欲界說名村落。如偈說

若伏村落刺 亦無罵繫苦
苦樂心不動 是名爲比丘
衆生想是初禪。所以者何。彼中有尊卑眷屬。阿練若想。是第二禪。所以者何。第二禪是賢聖默然法。地想。是第四禪。所以者何。彼中有勝處一切處。故。彼諸對治。是無色定。阿難。是名入無上空。所謂盡漏不多用。功心得解脫。問曰。云何多用功心得解脫。不多用功心得解脫。答曰。時解脫多用功。非時解脫不多用功。復次五種阿羅漢。名多用功。不動阿羅漢。不多用功。若依未至中間三無色定。所得解脫。名多用功。若依根本禪所得解脫。名不多用功。
復有三三昧。謂空空三昧。無願無願三昧。無相無相三昧。云何空空三昧。答曰。如施設經說。若比丘觀有漏取行是空。此有漏取行空中。無有常不變易法。空無我無我所。作如是思惟時。復更生心心數法。觀前思惟心是空。中無有常不變易法。空無我無我所。譬如有人欲燒十木百木千木聚以爲積。積然火燒之。復捉長。竿在邊其中。若有墮落不燒者。以長竿聚之。知木已燒。所捉長竿亦投火中。行者亦爾。先觀有漏取行是空。廣說如上。云何無願無願三昧。答曰。若比丘觀有漏取行是無常是變易法。如是思惟時。復更生心心數法。觀前思惟心。亦是無常變易法。如人燒木。廣說如上。比丘亦爾。觀有漏取行是無常。乃至廣說。是名無願無願。云何無相無相三昧。答曰。若比丘觀寂滅法。此是妙離。所謂盡

愛離欲滅盡涅槃。作是思惟時。復更生心心數法。觀前思惟心。亦是寂滅。乃至廣說如上。是名取陰是空。次生空空三昧。即觀空是空。汝空亦空。無願三昧。觀五取陰是無常。後生無願無願三昧。觀前無願。汝無願亦是無常。無相三昧。觀寂滅涅槃。後生無相無相三昧。觀前無相三昧。非數寂滅。汝無相三昧。非數滅。無三相故。亦是寂滅。譬如旃陀羅燒死屍時。手執長竿。繞其邊行。若其中有墮落者。當以此竿聚之。知其燒盡。亦以長竿投之火中。空三昧亦爾。觀五取陰是空。後生空空三昧。觀空三昧。汝亦是空。無願無相說亦如是。問曰。云何得此三昧。答曰。或有說者。是見道邊得。如見道邊等智。或有說者。離欲界欲時。如變化心。評曰。應作是說。若應得三昧者。離非想非非想欲時。得作方便現在前。問曰。幾智後起此三昧。現在前。答曰。四法智。比智。苦智。滅智。總而言之。四智後。欲界者。三智。後法智。苦智。滅智。色無色界。亦三智後。比智。苦智。滅智。若是欲界。空空等三昧。依未至禪所攝無漏道。後起現在前。非想非非想處者。無所有處所攝無漏道。後起現在前。餘者。即自地無漏道。後起現在前。問曰。何故空二行。空空。唯一行耶。答曰。以在行空。行空三昧後生故。復次此行與有相違。能捨生死。此善根能觀無漏是過患。何況生死。問曰。何故不行無我行。答曰。若見諸法

○(諸)十佛○ ○議二義○ ○功一出○ ○(是)十中○ ○積一積○ ○竿二杆○ ○燒二應○ ○名十(無相無相)阿毘曇者作如是說空三昧觀五十七字○ ○竿二杆○ ○知二如○ ○現十(在)○ ○唯二惟○

愚言無過去未來世成就說現在世是無為法者意故。亦明過去未來行成就是實有法。若過去未來行。非實有者。則無成就不成就過去未來行者。如第三頭第三手第六陰第十三入。無有成就不成就者。以有成就過去未來行故。知過去未來行是實有法。復有說所以作論者。或有說成就非實有法。如譬喻者。尊者佛陀提婆說。成就無體。非實有法。所以者何。若眾生不離彼法。名為成就。然不離是分別相待和合法。無有實體。如五指聚。名之為拳。散則非拳。若眾生不離彼法名為成就。若離彼法不名成就。問曰。彼何故作如是說。答曰。彼依佛經。佛經說轉輪王成就七寶。彼為成就他身法及非眾生數法耶。若轉輪王成就輪寶神珠寶者。則壞法體。所以者何。亦是眾生數。亦非眾生數故。若成就象馬寶者則壞趣。所以者何。亦是人趣。亦是畜生趣故。若成就玉女寶者則壞身。所以者何。亦是男身。亦是女身故。若成就主藏主兵臣者則壞業。所以者何。亦是尊貴。亦是卑賤故。欲令無如是過故。說成就無有實體。欲止如是說者意。亦明成就有實體。若成就無實體者。則違此經。如說學人成就八種學道。迹。漏盡阿羅漢。梵行已立。成就十種無學道。聖人有漏心現在前時。成就過去未來現在。無無漏道故。則不成就。復違餘經。如說此人成就善法。亦成就不善無記法。若善法現在前時。則離不善。無記法。不應成就。不善法現在前時。則離善法。無記法。不應成就。無記法現在

前時。則離善不善法。不應成就。復違餘經。如說比丘成就七法。於現法中。多住喜樂。若修方便。必能盡漏。無有比丘成就七法者。於七法中。若起一一法現在前。則成就一法。若起餘法現在前。於七法中。則不成就。復違餘經。如說如來成就十力。無有如來成就十力者。若成就一力。若不成就如來。於十力中。若起一一力現在前。則成就一力。所以者何。於一刹那中。無兩慧並現在前何況多。若起餘法現在前。則不成就力。復有餘過。凡夫人可言離三界結。離三界結人可言凡夫人。凡夫人可言離三界結者。凡夫人善不隱沒無記心現在前時。則不成就過去未來現在三界結。應是離三界欲人。離三界欲人是凡夫者。阿羅漢起善有漏及不隱沒無記心現在前時。則不成就過去未來現在無漏法。以不成就無漏法故。應是凡夫。欲令無如是過故。說成就實有法。問曰。若成就實有法者。譬喻者所引經云何通耶。答曰。轉輪王於七寶中。得隨意自在用故。世尊說名成就。復有說所以作論者。或說成就實有法不成就非實有法。為止如是說者意。亦明不成就實有法。若不成就非實有者。成就亦非實有。所以者何。因不成就故。施設成就。如因明有闍因夜有晝因寒有熱。因不成就有成就亦爾。復次不成就與成就。是兩兩近相對法。如貪與不貪。與不癡。是兩兩近相對法。彼亦如是。復次若不成就無實體者。則無施設有斷煩惱法。所以者何。聖道生

時。斷於煩惱。非如以石磨香。聖道生時。斷煩惱得證解脫得故。名斷煩惱。復有說所以作論者。或有說聖道是無為法。如毘婆闍婆提說。聖道是無為法。彼作是說。阿耨多羅三藐三菩提道。是一常住法。諸佛出世。盡覺悟此道。譬如莊嚴象馬之乘。多人更乘人人雖異而乘常一。如是阿耨多羅三藐三菩提道。是一常住。諸佛出世皆悟此道。諸佛雖異。其道常一。問曰。彼何故作如是說。答曰。依於佛經。佛經說。我得過去諸仙所得舊道。以佛說道是舊法故。言是無為。為止如是說者意故。亦明道在世中。若道在世。必是有為非無為。所以者何。無有無為法在於世者。若道是無為法者。則違此經。如說毘舍佉優婆夷。往詣檀摩提那比丘尼所。作如是問。道為是有為是無為耶。彼作是答。毘舍佉優婆夷道是有為非無為。問曰。若道是有為非無為者。毘婆闍婆提所說經云何通。答曰。以五事同故。說名舊道。一以方便同。二以地同。三以行同。四以境界同。五以所作同。方便同者。如一佛於三阿僧祇劫滿足六波羅蜜。諸佛亦爾。地同者。其道盡在第四禪地。行同者。盡行十六行。境界同者。盡緣四諦。所作同者。如一佛以道滅煩惱。一切佛亦爾。以此義通彼經。若如經所說。不依義者。即此經中說。我曾過舊城舊村城村。可是無為法耶。雖說城村是舊。而非無為。道亦如是。雖說舊道。而非無為。如偈說

若斷欲無餘 如蓮華在水

①合二召 ②迹二亦 ③或十(有) ④無二大

比丘離彼此 如蛇脫舊皮

蛇皮可是無為法耶。如是蛇皮雖說是舊。而非無為。道亦如是。是故為止他義欲顯己義。亦欲說法相相應義故。而作此論。

八種者。正見乃至正定。成就者。問曰。誰成就。為法成就。為人成就耶。若法成就。一切法無所欲。云何成就。若人成就於實義中。人不可得。若無有人。云何成就。答曰。應作是說。成就非法非人。實義中有成就不成就。而無成就不成就者。實義中有縛有解。而無縛者解者。有煩惱有出要。而無煩惱者出要者。有生有死。而無生者死者。有業有業報。而無作業受業報者。有道有因果。而無修道證道果者。於實義中。有成就不成就。而無成就不成就者。或有說者法成就問曰。若然者。眼入成就十一入。十一入亦成就眼入耶。答曰。若作是說。眼入成就十一入。十一入成就眼入。而無過。評曰。應作是說。成就非法非人。然四陰五陰生時。有如是相似得。名成就不成就。尊者須蜜說曰。一切法無所欲。於無所欲法中。有何成就不成就者。問曰。若然者。佛經云何通。如說此人成就善不善法。答曰。此是如來隨俗言說。而無有實。問曰。云何是成就。義尊者和須蜜答曰。不斷義是成就義。問曰。若然者。具縛凡夫於一切法。不斷盡成就耶。答曰。不也。不得彼法故。復次不棄義是成就義。問曰。若然者。學人不棄無學法。成就彼法耶。答曰。不也。不得彼法故。尊者佛陀提婆說曰。得而不失義。是成就義。若得彼法不

失。是名成就。問曰。何故名學為學學法故名學耶。為得學法故名學耶。若學學法是學者。定。健度所說云何通。如說學住自性。若得學法是學者。佛經云何通。如說佛告尸婆迦學學法故名學。答曰。應作是說。學學法故名學。問曰。若然者。佛經善通。定。健度所說云何通。答曰。彼中說得學法故名學人。復有說者。得學法故名學。問曰。若然者。定。健度所說善通。佛經云何通。答曰。佛經中說。不捨期心。不捨方便。學人若住善不善無記心。而不捨趣涅槃心故名學。如人在道。路中止息。他人問言。欲何所趣。彼人答言。欲趣某方。其人不以不捨去心故。雖住言去。彼亦如是。學迹者。問曰。無學迹於學迹。明淨勝妙。何故但說學迹。不說無學迹耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次此說始起初入法者已說學。當知亦說無學。復次以所作各各不同故。學人以道迹所作勝。無學人以解脫所作勝。如王與臣所作各各不同。王以尊貴降伏所作為勝。臣以執仗鬪戰所作為勝。彼亦如是。復次學道迹。能斷煩惱。猶如器仗。能破怨敵。無學不爾。復次學道迹。能作斷煩惱方便及斷煩惱。無學不爾。復次數數行義是道迹。義無學不數數行故。不名為迹。

學人成就八種道迹。幾成就過去。幾成就未來。幾成就現在。答曰。若依有覺有觀三昧。有覺有觀三昧者。是未至及初禪。問曰。此中何者是依。答曰。或有說者。俱生故是依。復有說者。次第緣是依。評曰。應作是說。依彼二地

起此法故名依。初者有四種。一得正決定初。二得果初。三轉根初。四離欲初。得正決定初者。依彼二地得正決定。得果初者。依彼二地初得學果。轉根初者。依彼二地信解脫轉根作見到。離欲初者。以世俗道離欲依彼二地。初起無漏道現在前。此中依四種初而作論。隨相而說學見現在前。問曰。學人或起非學非無學見。何故但說學人學見現在前耶。答曰。應作是說。或學見現在前。而不說者。當知學人必起學見。不起非學非無學見。如所說諸初剎那現在前無過去。所以者何。未有一剎那經生滅者。設有生滅。以得果轉根故。而捨八未來成就。修八現在成就。若滅已不捨。滅者是無常。滅不捨者。捨聖道有三種。一得果。二退。三轉根。若不得果。不退不轉根。即依彼地滅已復起現在前。問曰。何故依彼地滅已復起現在前耶。答曰。學人依彼地。共煩惱戰得勝。破結怨敵。念其恩故。復起現在前。如人著鎧執仗。與怨共鬪。既得勝已。其人後時。以念恩故。數數修治器仗。而覆藏之。不令毀壞。彼亦如是。復次以四事故。重起現在前。一欲受現法樂故。二欲遊戲故。三欲觀先所作故。四欲受用聖法故。學第二剎那頃。八成就過去。是前剎那生滅者。八成就未來。是未來修者。八成就現在。是現在前者。彼滅已不捨。若依無覺無觀三昧。學見現在前。八成就過去。是依有覺有觀地生滅者。八成就未來。是未來修者。七成就現在。是現在前者。除正覺。所以者何。地無正覺故。彼滅已不捨。依無

●健一健合●* ●路中二中路合● ●仗一仗合●

色定。學見現在前。八成就過去。是有覺有觀地生滅者。八成就未來。是未來修者。四成就現在。除正覺正語正業正命。彼地無故。彼滅已不捨。若入滅定。若起世俗心現在前。八成就過去。是有覺有觀地生滅者。八成就未來。是未來修者。現在無。若入滅定。是時無心。有心者能修道。若起世俗心現在前。彼心是有漏。此中但說無漏道種。若依無覺無觀三昧。無覺無觀三昧。是第二第三第四禪。問曰。此中何故不說中間禪耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次已在後所說中故。所以者何。更無異種。與第二第三第四禪同故。依義如先說。初者有四種。如先說。學見現在前。如說。初剎那不成就過去。如先說。八成就未來。七現在。如先說。彼滅已不捨。如先說。就未來七現在。如先說。彼滅已不捨。如先說。復依無覺無觀三昧。學見現在前。第二剎那頃。七成就過去。是依無覺無觀地。生滅者。八成就未來。七現在。如先說。彼滅已不捨。依無色定。學見現在前。七成就過去。是無覺無觀地生滅者。八未來四現在成就。如先說。彼滅已不捨。入滅定。若起世俗心。如先說。彼滅已不捨。依有覺有觀三昧。學見現在前。七成就過去。是無覺無觀地。生滅者。八未來八現在成就。如先說。若依無色定。無色定名空處識處無所有處。依者如先說。初者四種初。如先說。此中依離欲初而作論。非得正決定初。所以者何。無有依無色定得正決定者。非得果初。所以者何。無有依無色定得學果者。非轉根初。所以者何。無有依無色定轉學根

者。以世俗道。離下地欲。後依彼地初起無漏道現在前。最初剎那無過去。八未來四現在成就。如先說。問曰。如世俗無色定非不因世俗禪。無漏無色定非不因無漏禪。世俗禪。是世俗無色定方便所依門。無漏禪。是無漏無色定方便所依門。何故說無過去耶。答曰。道種或有在禪地者。或有在無色地者。彼雖起在禪地者。未起在無色地者。是故無過去滅者。是無常滅不捨者。捨聖道有三種。如先說。依彼地生滅聖道復起現在前。問曰。何故依彼地生滅聖道復起現在前耶。答曰。以念恩故。廣說如上。第二剎那頃。四成就過去。是依無色定生滅者。八成就未來。是未來修者。四成就現在。是起現在前者。除正覺正語正業正命。彼地無故。彼滅已不捨。若入滅定。若起世俗心現在前。四成就過去。八成就未來。現在無。如先說。彼滅已不捨。依有覺有觀三昧。學見現在前。四成就過去。是依無色定生滅者。八成就未來。是未來修者。八成就現在。是起現在前者。問曰。無色定次第能起有覺有觀三昧耶。答曰。不能。此說說次第。不說定次第。此說說隨順。不說定隨順。彼滅已不捨。依無覺無觀三昧。學見現在前。四成就過去。是依無色定生滅者。問曰。過去有八。是依有覺有觀三昧生滅者。何故說四耶。答曰。此中一切處唯說最初生滅者。八成就未來。是未來修者。七成就現在。是起現在前者。除正覺。彼地無故。問曰。此中說何等學人。答曰。此中說習學次第入一切定。猶如登石上梯

者。先入有覺有觀三昧。次入無覺無觀三昧。次入無色定。次入滅定。次起世俗心。說如是學人。若先入有覺有觀三昧。次入無覺無觀三昧。次入無色定。次入滅定。不起世俗心。不說如是學人。餘如雜捷度。人品中。說十二枝緣端正女人喻。

有四種道。一苦遲慧道。二苦速慧道。三樂遲慧道。四樂速慧道。問曰。應說一道。謂盡苦道。盡生死有道。盡老死道。應說二道。一盡色道。二盡名道。應說三道。一盡欲界道。二盡色界道。三盡無色界道。應說五道。謂盡色道。乃至盡識道。應說十一道。謂盡老死道。乃至盡行道。若以在身若在剎那。則有無量無邊道。何故世尊於一道廣說四道。於無量無邊道。略說四道。云何施設立四道耶。答曰。以三事故。一以地。二以根。三以人。總而言之。以三事應以二事。或以地以根。或以地以人。以地以根者。依未至中間三無色定。鈍根人所行道。是名苦遲慧道。依依此地利根人所行道。是名苦速慧道。依根本禪鈍根人所行道。是名樂遲慧道。是名以地以根。以地以人者。依未至中間禪三無色定。堅信信解脫時解脫人所行道。是名苦遲慧道。即依此地堅法見到。非時解脫人所行道。是名苦速慧道。依根本禪。堅信信解脫時解脫人所行道。是名樂遲慧道。即依此禪。堅法見到。非時解脫人所行道。是名樂速慧道。是名以地以人。

如十(光) 說一 廣十說 枝二支 慧十(道) [慧] 一 次頁 不分卷及品

阿毘曇毘婆沙論卷第四十七

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

智健度八道品上

問曰。四道體性是何。答曰。是五陰四陰性。若在禪地是五陰。在無色定是四陰。此是四道體性我相物分

已說體性。所以今當說。何故名道。道是何義。趣向正義是道義。趣向涅槃。城義是道義。苦遲慧道者。問曰。無漏道非苦受不與苦受相應。何故名苦耶。答曰。諸邊無色道難生故名苦。根本禪道易生故名樂。云何諸邊無色道難生耶。答曰。欲界煩惱及業繫縛故。多用功。乃生未至禪。如人被縛。多用功力。乃能自解。彼亦如是。或有修不淨觀生彼地者。或有修安那波那念生彼地者。修不淨觀者。或於十年或十二年中。常觀白骨。或有能生彼地者。或不能生者。修安那波那念者。若於十年若十二年中。常數息。或有能生彼地者。或不能生者。已離欲愛。不多用功。能起初禪現在前。初禪異心心數法滅。異心心數法生。滅龜心生細心。覺俱心滅。觀俱心生。如人以木折木多用功然後乃折。初禪亦爾。異心心數法滅。異心心數法生。龜心滅細心生。覺俱心滅觀俱心生。已離初禪欲。不多用功。起第

二禪現在前。第三第四禪亦如是。問曰。離第四禪欲。亦不多用功起無色定現在前。何故名苦道耶。答曰。無色定是微細法。或有言無無色定者。如多毘婆居士。往詣尊者阿難所。作如是問。尊者阿難。我是在家之人。長夜樂著色聲香味觸。聞說無色衆生。心生怖畏。如臨大坑。云何名衆生而無有色根本禪是樂道。如二人俱至一方。一從水道。一從陸道。雖俱至一方。從水道者樂。非陸道者。諸衆生離欲亦如是。或依諸邊無色定。或依根本禪。雖俱得離欲。依禪者樂。非諸邊無色定。復次有二種樂故名樂。謂受樂。猗樂。三禪中有猗樂受樂。第四禪雖無受樂。而猗樂多勝。餘地二種樂。復次有二種樂故名樂。謂舊樂。客樂。舊樂者。住禪起禪現在前。客樂者。住禪起無色定現在前。餘說禪樂相。如上四禪中廣說。問曰。何故名遲。答曰。以得此道不能速至涅槃城故名遲。問曰。何故名速。答曰。以得此道能速至涅槃城故名速。問曰。若不速至名遲疾至名速者。有信解脫人速至勝見者。若信解脫人精勤。見到人不精勤。則信解脫人速有所至。非見到者。如偈說

不放逸放逸 睡眠覺寤者

猶如利鈍馬 前發者先至

猶如二人俱至一方。一乘疾馬。一乘鈍馬。雖乘鈍馬。以前發故。先有所至。如是信解脫人。勤行精進。先至涅槃。見到人不勤精進故。後至涅槃。答曰。此中說等行精進者。若等行精進。見到者則先至。問曰。此四道是四陰五陰

性。何故說名慧耶。答曰。此道雖是四陰五陰性。以慧偏多故名慧道。如見道是五陰四陰性。以智偏多故名智。金剛喻定是五陰四陰性。以定偏多故名定。四道亦爾。是五陰四陰性。以慧偏多故名慧道。云何苦遲慧道。如經說。比丘厭惡五取陰。是名苦遲慧道。問曰。此道緣四諦。何故世尊唯說緣苦諦耶。答曰。應說緣四諦。而不說者。當知此說有餘。復次此說始初入法。為說緣苦諦。當知亦說緣餘諦。復次佛經說四道方便。不說四道體。四道方便道中。作如是厭惡觀集法。經中復說。云何苦遲慧道。答曰。非根本禪所攝利五根是也。云何樂遲慧道。答曰。根本禪所攝利五根是也。云何樂速慧道。答曰。根本禪所攝利五根是也。問曰。此道是五陰四陰性。何故但說是根耶。答曰。此中說最勝者五根性。是巧便能成大事故。問曰。為有中根不。若有者此中何故不說耶。若無者佛經云何通。如說諸衆生隨世而生。隨世而長。有下根者。有中根者。有上根者。其上根者。煩惱微薄易可教化。若不聞法則退失善根。答曰。應作是說。無有中根。所以者何。見道有二種。一堅信道。二堅法道。修道中亦有二種。一信解脫道。二見到道。無學道中亦有二種。一時解脫道。二不時解脫道。以無第三道故。無有中根。問曰。若然者。佛經云何通。答曰。受化見聖諦者。或有在中。或有有在中。或有有在後。在初者

◎前頁 ◎ 不分卷及品 ◎ 城二地 ◎ 折二析 ◎ * ◎ 覺寤二寤寐 ◎ (見道)十見 ◎ 便二不 ◎ 二二一

名利根。在中者名中根在後者名下根。復次受化見聖諦者。有近有遠。或有不近不遠者。近者是利根。如憍陳如等。遠者是鈍根。如須跋陀羅等。不近不遠是中根。如舍利弗目犍連等。復有說者。有中根。問曰。此

中何故不說耶。答曰。已說在先所說中。若說下根時。中根則在上根中。若說上根時。中根則在下根中。是故尊者瞿沙作如是說。中根為在何處。答曰。在下中。所以者何。上中下者名中。復次在上中。所以者何。下中上者名中。復次俱在二中。評曰。如是說者好。所以者何。佛亦是堅法人。辟支佛亦是堅法人。聲聞得波羅蜜者。亦是堅法人。彼根盡等耶。以於一道有三種根故。經作是說。以無第三道故。阿毘曇者。則說無中根。是故二說善通集

法經復說。修行廣布苦遲慧道。能滿足苦遲慧道。修行廣布樂遲慧道。能滿足樂速慧道。問曰。此說何者滿足。為說滿足根。為說滿足離欲耶。若滿足根者。苦遲慧道則滿足二速慧道。樂遲慧道亦滿足二速慧道。若滿足離欲者。則遲道滿足遲道。速道滿足速道。答曰。應作是說。滿足根。所以者何。彼經說相似法滿足。不說不相似法滿足。苦道與苦道相似。樂道與樂道相似。問曰。誰成就幾道。答曰。或一或二。誰一耶。答曰。未離欲界欲鈍根者。成就苦遲道。已離欲界欲成就二。謂樂遲道。未離欲界欲利根者。成就一苦速道。已離欲界欲成就二。謂樂速道。尊者僧伽婆修說曰。有盡成就四道者。如依根本禪。轉根

住無礙道時。不捨二鈍道。已得二利道。不應作是說。所以者何。若作是說。則壞根壞人。壞根者。亦是鈍根。亦是利根。壞人者。亦是信解脫。亦是見到。

問曰。誰以此幾道能有所作。答曰。或有以一二三四道者。而不於一時。鈍根者。離欲界欲時。以苦遲慧道。而有所作。即此人依根本禪。離禪欲時。以樂遲道。而有所作。信解脫人。依根本禪。轉根作見到。復依根本禪。離禪欲以樂速慧道。而有所作。復依無色定。離無色定欲。以苦速道。而有所作。復有以四道而有所作者。鈍根人。離欲界欲。乃至離非想非非想處欲時。以苦遲道樂遲道。而有所作。於彼離欲退。信解脫。轉根作見到。復離欲界欲時。乃至離非想非非想處欲時。以二速道。而有所作

問曰。誰當得此幾道。誰當捨此幾道。答曰。或有不當得不當捨者。如一切凡夫人。問曰。此中不應問答凡夫人。答曰。聖人亦有不當得不當捨者。如任本性聖人。若聖人勝進時。乃有當得當捨者。未離欲界欲。得正決定時。苦法忍乃至道法智無所捨。當得一道比忍。當捨一。已離欲界欲。依未至禪。得正決定時。苦法忍乃至道法智無所捨。當得一道比忍。當捨一。當得二。若依上地。得正決定時。苦法忍乃至道法智無所捨。當得二道比忍。當捨二。當得二。須陀洹向斯陀含果時。方便道。五無礙道。五解脫道。無所捨。當得一。第六無礙道。當捨一。當得一。斯陀含向阿那

含果時。方便道二。無礙二。解脫道無所捨。當得一。第九無礙道。當捨一。得二。離初禪欲。乃至離無所有處欲。方便道無礙道解脫道無所捨。當得二。離非想非非想處欲時。方便道八無礙道八解脫道無所捨。當得二。第九無礙道。當捨二。得二。是說離欲法。轉根時未離欲界欲。信解脫轉根作見到。方便道無所捨。當得一。無礙道。當捨一。得一。已離欲界欲。信解脫轉根作見到時。方便道無所捨。當得二。無礙道。當捨二。得二。時解脫阿羅漢。轉根作不動時。方便道八無礙道八解脫道無所捨。當得二。第九無礙道。當捨二。得二。未離欲界欲聖人。起無量初。一解脫初四勝處。不淨安那波那念念處時無所捨。當得一。已離欲界欲聖人。起無量解脫勝處。一切處不淨安那波那念念處修禪起通時。五無礙道三解脫道。起無礙無諍願智般多俱置空無願無相空無願無相三昧滅定微細想時無所捨。當得二。是說勝進時。退時者阿羅漢起色無色界結退。當捨二。得二。起欲界結退時。當捨二。得二。離色界結阿那含。起色界結退時。當捨二。無所得。即此阿那含起欲界結退時。當捨二。得二。退斯陀含果。時。捨一。得一

如說有四種人。一現法遲身壞速。二現法速身壞遲。三現法遲身壞遲。四現法速身壞速。問曰。如說。有現法遲身壞速。有現法速身壞速。此則不然。所以者何。聖人易世尚不退不轉根。不生色無色界。何況有現法速身壞遲耶。

當捨二。得二。退斯陀含果。時。捨一。得一。如說有四種人。一現法遲身壞速。二現法速身壞遲。三現法遲身壞遲。四現法速身壞速。問曰。如說。有現法遲身壞速。有現法速身壞速。此則不然。所以者何。聖人易世尚不退不轉根。不生色無色界。何況有現法速身壞遲耶。

當捨二。得二。退斯陀含果。時。捨一。得一。如說有四種人。一現法遲身壞速。二現法速身壞遲。三現法遲身壞遲。四現法速身壞速。問曰。如說。有現法遲身壞速。有現法速身壞速。此則不然。所以者何。聖人易世尚不退不轉根。不生色無色界。何況有現法速身壞遲耶。

當捨二。得二。退斯陀含果。時。捨一。得一。如說有四種人。一現法遲身壞速。二現法速身壞遲。三現法遲身壞遲。四現法速身壞速。問曰。如說。有現法遲身壞速。有現法速身壞速。此則不然。所以者何。聖人易世尚不退不轉根。不生色無色界。何況有現法速身壞遲耶。

當捨二。得二。退斯陀含果。時。捨一。得一。如說有四種人。一現法遲身壞速。二現法速身壞遲。三現法遲身壞遲。四現法速身壞速。問曰。如說。有現法遲身壞速。有現法速身壞速。此則不然。所以者何。聖人易世尚不退不轉根。不生色無色界。何況有現法速身壞遲耶。

◎(一)十苦◎ ◎卷第七十一終◎ ◎卷七十二智健度八道品之二首◎ ◎卷七十二智健度八道品第一之一之二首◎ 造說釋說譯說問異如卷第二十三 ◎無礙十(道)◎ ◎一二二◎ ◎時十(時)◎

答曰。此中不說退。亦不說轉根者。但說精勤不精勤者。若現身精勤身壞不精勤。是說現身速身壞遲。若現身不精勤身壞精勤。是說現身遲身壞速。若現身不精勤身壞亦不精勤。是說現身遲身壞亦遲。若現身精勤身壞亦精勤。是說現身速身壞速。

經說有四種道。一不堪忍道。二堪忍道。三調伏道。四寂靜道。不堪忍道者。不堪忍寒熱飢渴蚊虻。虱蚤諸虫等他人惡語非理之言。身生種種苦痛。不能堪忍如是等事。是名不堪忍道。堪忍道者。能堪忍寒熱等苦。是名堪忍道。調伏道者。是能守護諸根。是名調伏道。寂靜道者。無漏聖道。名寂靜道。問曰。爲前四道攝後四道。後四道攝前四道耶。答曰。後則攝前非前攝。後問曰。不攝何等。

答曰。不攝後三道。謂不堪忍道堪忍道調伏道。經說有四種斷。有苦遲慧斷苦速慧斷樂遲慧斷樂速慧斷。若斷是苦是遲是斷以苦以遲故是下。若斷是苦是速是斷以苦故是下。若斷是遲是樂是斷以遲故是下。若斷是樂是速是斷不能利益多人亦不廣及人天故是下。世尊所有斷能利益多人。廣及人天故是斷最上。問曰。爲四道攝四斷四斷攝四道耶。答曰。展轉隨相攝。若斷是苦是遲。是苦遲慧道。若斷是苦是速。是苦速慧道。若斷是樂是遲。是樂遲慧道。若斷是樂是速。是樂速慧道。或有說者。四斷是無學。四道是學。無學若

作是說。四斷是無學。四道是學。無學者。四道則攝四斷。非四斷攝四道。不攝何等。不攝學四道。問曰。聖道非下。如波伽羅那說。云何。下法。不善隱沒無記法。何故說斷名下耶。答曰。下有二種。一染污下。二滅損下。斷雖非染污下。是滅損下。是故名下。若斷是苦是遲。是說未至禪禪中間三無色定。是說時解脫道。若斷是苦是速。是說聲聞人。非時解脫道。若斷是樂是遲。是說根本禪。時解脫道。若斷是樂是速。不利益多人。不廣及人天。是說根本禪聲聞人。非時解脫道。若斷是樂是速。是說辟支佛道。爲在何分。或有說者。是聲聞分。評曰。應作是說。是佛分。所以者何。如佛獨覺無師。辟支佛亦爾。復有說者。三斷如先。若斷是樂是速。不能利益多人。廣及人天者。是說辟支佛道。若斷是樂是速。能利益多人。廣及人天。是說佛道。是中餘者是根本禪聲聞人。非時解脫道。爲在何分。或有說者。是辟支佛分。評曰。應作是說。是佛分。所以者何。此根從佛邊生故。復有說者。三道是外道法。若斷是樂是速。不能利益多人。廣及人天。是說辟支佛道。若斷是樂是速。能利益多人。廣及人天。是說佛道。是中餘者是聲聞道。爲在何分耶。答曰。或有說者。在辟支佛分。評曰。應作是說。在佛分。所以者何。此根從佛邊生故。復有說者。前三道是外道法。若斷是樂是速。不能利益多人。廣及人天。是說聲聞道。若斷是樂是速。能利益多人。廣及人天。是說

佛道。是中餘者。辟支佛道。爲在何分。答曰。或有說者。在聲聞分。評曰。應作是說。在佛分。所以者何。如佛無師。辟支佛亦爾。問曰。此四道中。世尊爲依何道入正決定得果離欲盡漏。辟支佛。爲依何道得波羅蜜聲聞人。爲依何道耶。答曰。佛世尊依樂速道入正決定得果離欲盡漏。何以知之。經說摩勒迦子。往詣佛所。作如是問。世尊於此四道。爲以何道得阿耨多羅三藐三菩提耶。佛答摩勒迦子言。如來依樂速慧道。得阿耨多羅三藐三菩提。時摩勒迦子便作二難言。是樂道。云何行種種苦行。言是速道。云何經六年。佛告摩勒迦子。愚人我不以如是威儀所行得阿耨多羅三藐三菩提。以是事故。知如來以樂速慧道得阿耨多羅三藐三菩提。如渴伽獸角獨出辟支佛當知。如佛世尊。爲衆多出世者。此則不定。尊者舍利弗。依苦速慧道。入正決定。依樂速慧道得盡漏。所以者何。依未至禪。入正決定。依第四禪盡漏故。尊者目犍連。依苦速慧道。入正決定。乃至盡漏。所以者何。依未至禪。入正決定。依無色定盡漏故。問曰。何故尊者舍利弗。依第四禪。尊者目犍連。依無色定。得阿羅漢果耶。答曰。尊者舍利弗多行慧故。依第四禪。尊者目犍連多行定故。依無色定。問曰。得波羅蜜聲聞人。爲盡次第得四沙門果不耶。答曰。盡次第得。所以者何。彼尊者善能解說出入住沙門道果故。問曰。善能解說出入住沙門果。無有與如來等者。何故不次第得四沙門果

○說二二說 ○者二在 ○下二不 ○後十(四道攝前四道耶答曰後則攝前非前攝後) ○二二不 ○說二二說 ○者二在 ○(若) ○(是)十辟 ○二二二

耶。答曰。不應於如來作如是問。所以者何。如來本為菩薩時。自在解說四沙門果。勝於尊者舍利弗得盡智時。復有說者。得波羅蜜聲聞人。不次第得四沙門果。所以者何。若有先離欲者。要退然後得須陀洹果耶。問曰。若然者。云何能善解說四沙門果耶。答曰。此亦無過。如尊者阿難。是鈍根人。住於學地。善能解說四沙門果。何況利根住無學地者。評曰。應作是說。得波羅蜜聲聞人。盡次第得四沙門果。不以善能解說四沙門果。如恒河沙數得波羅蜜聲聞人。盡順次入正決定。次第得四沙門果法。應如是。

漏盡阿羅漢梵行已立。十種無學道。幾成就過去。幾成就未來。幾成就現在。答曰。若。依有覺有觀三昧。有覺有觀三昧者。是未至禪初禪。依者如先說。初者有二種。一得阿羅漢果初。二時解脫轉根作不動初。是中因此二初而作論。應隨相而說無學初智現在前。如所說。二時初利那無過去。所以者何。未有利那生滅故。已有者。以得果轉根故捨。十成就未來。是未來修者。九成就現在。是現在前者。除正見。所以者何。彼利那中無故。若滅已不捨滅者。是無常滅。不捨者捨聖道有三種。如先說。彼不得果不退不轉根。依彼地復起聖道現在前。所以復起聖道現在前者。如先說。第二利那頃。九成就過去。是前利那生滅者。十成就未來。是未來修者。九成就現在。是現在前者。彼滅已不捨。依無覺無觀三昧。無學初智現在前。九成就過去。是有覺有觀地生滅。

者。十成就未來。是未來修者。八成就現在。是現在前者。除正覺。彼地中無故。除正見。彼利那中無故。彼滅已不捨。依無色定。無學智現在前。九成就過去。是有覺有觀地生滅者。十成就未來。是未來修者。五成就現在。是現在前者。除正見。彼利那中無故。除正覺。正語正業正命。彼地中無故。彼滅已不捨。若入滅定。若起世俗心。九成就過去。是有覺有觀地生滅者。十成就未來。是未來修者。現在無入滅定者。無心有心者。能修道世俗心。是有漏無學法。是無漏。彼滅已不捨。依有覺有觀三昧。無學初見現在前。九成就過去。是與智俱生滅者。十成就未來。是未來修者。九成就現在。是現在前者。若智現在前。彼利那中無見。若見現在前。彼利那中無智。滅已不捨。依無覺無觀三昧。無學若智若見現在前。十成就過去。是有覺有觀地生滅者。十成就未來。是未來修者。八成就現在。是現在前者。若智現在前。彼利那中無智。除正見。彼地中無故。彼滅已不捨。依無色定。無學若智若見現在前。十成就過去。是有覺有觀地生滅者。十成就未來。是未來修者。五成就現在。見現在前者。若智現在前。彼利那中無見。若見現在前。彼利那中無智。除正覺。正語正業正命。彼地中無故。彼滅已不捨。若入

滅定。若起世俗心現在前。十成就過去。十成就未來。現在無。如先說。若依無覺無觀三昧。無學初智現在前。無覺無觀三昧者。是第二第三第四禪。問曰。何故不說中間禪耶。答曰。如先說。依者如先說。初者如先說。無學初正智現在前。過去無。如先說。十成就未來。如先說。八成就現在。除正見。彼利那中無故。除正覺。彼地無故。彼滅已不捨。如先說。復依無覺無觀三昧。無學正智現在前。八成就過去。是前利那俱生滅者。十成就未來。如先說。八成就現在。如先說。彼滅已不捨。依無色定。無學正智現在前。八成就過去。十成就未來。五成就現在。如先說。彼滅已不捨。若入滅定。若起世俗心現在前。八成就過去。十成就未來。現在無。如先說。彼滅已不捨。依有覺有觀三昧。無學正智現在前。八成就過去。十成就未來。如先說。九成就現在。除正見。彼利那中無故。彼滅已不捨。依無覺無觀三昧。無學初見現在前。八成就過去。與智俱生滅者。十成就未來。如先說。八成就現在。除正智。彼利那中無故。除正覺。如先說。彼滅已不捨。復依無覺無觀三昧。無學若智若見現在前。九成就過去。與智與見俱生滅者。十成就未來。八成就現在。如先說。彼滅已不捨。依無色定。無學若智若見現在前。九成就過去。十成就未來。五成就現在。如先說。彼滅已不捨。若入滅定。若起世俗心現在前。九成就過去。十成就未來。現在無。如先說。彼滅已不捨。依有覺有觀三昧。無學若智若見現在前。九成就過去。

◎依一衣◎◎[是]一◎◎是現二見◎◎見二是◎◎在十(前)◎◎

十成就未來。九成就現在。如先說。若依無

色定。無學初智現在前。無色定是空處識處

無所有處依者。如先說。初者如先說。無學初

智現在前過去無。十成就未來。五成就現在

如先說。彼滅已不捨。復依無色定。無學正智

現在前。五成就過去。是前剎那俱生滅者。十

成就未來。五成就現在。如先說。彼滅已不

捨。若入滅定。若起世俗心現在前。五成就過

去。十成就未來。現在前。無如先說。彼滅已

不捨。依有覺有觀三昧。無學正智現在前。五

成就過去。十成就未來。九成就現在。如先

說。彼滅已不捨。依無覺無觀三昧。無學正智

現在前。五成就過去。十成就未來。八成就現

在。如先說。彼滅已不捨。依無色定。無學初見

現在前。五成就過去。是與智俱生滅者。十

成就未來。如先說。五成就現在。除正智。彼剎

那中無故。除正覺正語正業正命。彼地中無

故彼滅已不捨。復依無色定。無學若智若見

現在前。六成就過去。與智與見俱生滅者。

十成就未來。五成就現在。如先說。彼滅已

不捨。若入滅定。若起世俗心現在前。六成就

過去。十成就未來。現在無。如先說。彼滅已不

捨。依有覺有觀三昧。無學若智若見現在前。

六成就過去。十成就未來。九成就現在。如先

說。彼滅已不捨。依無覺無觀三昧。無學若

智若見現在前。六成就過去。十成就未來。八

成就現在。如先說。問曰。何故餘沙門果見是

無礙道見是解脫道。阿羅漢果見是無礙道

所作。更不施設方便故

問曰。學人爲有正智正解脫不耶。若有者此

中何故不說。若無者佛經云何通。如說。居士

莫怖。凡夫愚小。成就邪智邪解脫。畏墮地

獄畜生餓鬼趣。汝已斷邪智邪解脫。成就正

智正解脫。答曰。應作是說有。問曰。此中何

故不說。答曰。法或有唯是法體者。或有是

法體亦是。支體者。學人唯有法體而無支體。

問曰。何故無學正智正解脫立支學人不立

耶。答曰。以名義勝故。若以法而言。無學法勝

學法。若以人而言。無學人勝學人。復次以無

學正智正解脫。名勝。無過患故。復次以無學

斷一切有根本故。復次無學得二種心解脫。

一自性解脫。二在身解脫。是故得作四句。有

心自性解脫非在身解脫。有在身解脫非自

性解脫。有自性解脫亦在身解脫。有非自性

解脫非在身解脫。自性解脫非在身解脫者。

學心是也。在身解脫非自性解脫者。無學有

漏心是也。自性解脫亦在身解脫者。無學心

是也。非自性解脫非在身解脫者。學有漏心

一切凡夫人心是也。復次無學正智正解脫無

障礙故。學人邪智障礙正智邪解脫障礙正

解脫。問曰。邪見能障礙正見。何故學正見立

支耶。答曰。學人正見。斷於煩惱時。猶如鎧

仗。故立支。復次無學正智正解脫。無相對法

故。學人正智。與邪智相對。正解脫與邪解脫

相對。復次無學心一切解脫學心。少分解脫

少分不解脫。少分解脫者。是見道所斷煩

心一切障礙解脫一切障礙處解脫者立支一

切障礙者。是五種斷煩惱。一切障礙處者。是

五種斷煩惱。境界學人不爾。餘無學功德。廣

說如雜*捷度。問曰。若如所說學人。則有邪

智邪解脫。佛經云何通。如說。居士莫怖。凡夫

愚小。成就邪智邪解脫。畏墮地獄畜生餓

鬼趣。汝邪智邪解脫。已斷成就正智正解脫。

答曰。經說無墮惡趣。邪智邪解脫。學人猶有

餘邪智邪解脫

佛經說。阿難當知。舍利弗。是聰明比丘。須陀

洹所有四支。爲須達長者。分別有十種。問曰。

云何尊者舍利弗。分別須陀洹四支爲十種

耶。尊者波耆說曰。一支說有十種。親近善知

識有十種。乃至如法修行有十種。尊者富那

耶耆說曰。信是親近善知識多聞。法。正見

是正思惟。餘是如法修行。尊者瞿沙說曰。信

戒是親近善知識。多聞是聞法。正見是正思

惟。餘是如法修行。尊者和須蜜說曰。信戒是

親近善知識。多聞智慧是聞法。正見是正思

惟。餘者是如法修行。阿毘曇者。作如是說。信

戒施是親近善知識。多聞智慧是聞法。正見

是正思惟。餘是如法修行。尊者佛陀提婆說

曰。須陀洹支者。即是須陀洹支尊者舍利弗

爲須達長者。分別不壞信有十種。以三事故。

一以自體。二以起處。三以所依。以自體者。是

信是戒。何者是信戒根本。謂無漏智。無漏善

根。以起處者。是正覺依正覺故。長養戒聞施

慧所依者是解脫

○[前]一○ ○十二一○ ○支二枝○下同 ○名二多○ ○(是聞)十法○ ○慧十(以)○

殺以智慧刀殺煩惱故。名阿羅漢。復次不
生諸界諸趣諸。生死中。名阿羅漢。復次遠離
惡不善法故。名阿羅漢。如偈說

遠離惡不善 安住善。住中
應受世上供 故名阿羅漢

復次應受最勝供養故。名阿羅漢。一切沙門
所應用物。無有不應受者。漏盡者。問曰。如漏
處亦盡。何故但說漏盡。答曰。世尊先說漏盡
常知亦說漏處。復次若法是自。性斷斷已不
成就。此法與聖道相妨。聖道不與有漏善不
隱沒無記法相妨。唯與漏法相妨。若漏斷善
有漏法。不隱沒無記法亦斷同一對治故。如
燈不與炷油器相妨而與闇相妨。為破闇故。
然燈亦燃炷盡油熱器。復次以漏難斷難除
難過。復次以漏是重過患故。復次漏是漏是
漏處。流柅縛取使結亦爾。善有漏不隱沒無
記法不爾

云何為智。云何為見。云何為慧。問曰。何故作
此論。答曰。或有說。忍是智。如譬喻者。佛陀
提婆作如是說。慧眼初緣境界是忍。後增長
是智是故下智是忍。如人在道行。先生念欲
住。然後乃住。慧眼初緣境界時是忍。增長是
智是故下智是忍。為止如是說者意。亦明忍
非智故而作此論。復次所以作論者。或有說
盡智無生智是見性。為止如是說者意。亦明
盡智無生智非見性故。而作此論。復次此健
度是智。此中應分別。何者是智性見性慧性
法。

云何為見。答曰。眼根五見世俗正見學見

無學見是也。問曰。眼根何故名見耶。答曰。以
四事故故名見。一以賢聖人說故。二以世俗人
說故。三以經說故。四以世間現見故。賢聖世
俗人說者。如說我見是人行住坐臥。若見人
顛厥迷錯者。作如是說。如有見邪經說者。佛
說。若眼見色。不應分別。是男是女。生於染
愛。復說。若眼見色。好不生愛。惡不生悲。復
說。若見適意。色不適意。色非適意。色非不適
意。色應當觀察。復說。若眼見色。不應生愛
悲。應生捨心。復說。若見色應當正觀是不淨
法世間現見者。尊者和須蜜說曰。此是世人
言說。我現見是事淨。現見是事不淨。尊者佛
陀提婆說曰。經亦說。世人亦說。眼所及識所
更。是名為見。五見名見者。以四事故。廣說如
見捷度見處中所說。世俗正見名見者。以是
見性故。學見無學見所以名見者。以是見性
故。如夜有雲時見色。染污慧見法亦爾。如夜
無雲時見色。善有漏慧。見亦爾。如晝有雲時
見色。學慧見法亦爾。如晝無雲時見色。無學
慧見法亦爾。云何為智。答曰。除見道中忍。餘
意識相應慧是也。彼有三種。善染污不隱沒
無記。善有二種。有漏無漏。有漏者。是世俗正
見。無漏者。是學無學八智。染污者。是五見及
愛悲慢疑無明相應者。不隱沒無記者。威儀
工巧報生變化心俱者是也。及五識身相應
慧。彼亦有三種。善穢污不隱沒無記者。是
生得善穢污者。與愛悲俱。不隱沒無記者。與
報心俱。云何為慧。答曰。意識相應慧是也。

種。有漏無漏。有漏者。是世俗正見無漏者。
是見道中八忍學無學八智。餘如先說。五識
相應慧。如先說。已說自體。今當說同異相若
見是智耶。乃至廣作四句。是見非智者。眼
根見見道中諸忍是也。問曰。何故眼根非智
耶。答曰。眼根是色智非是色。復次眼根是非
相應非依非行非緣。智是相應是依是行是
緣。見道中諸忍。何故非智耶。答曰。是忍非已
忍。是觀非知是觀非已觀。是求覓非已足。是
施設止息方便。復次忍是疑對治。彼疑得與
此忍俱生故。決定義是智義。復次無礙。道解
脫道。雖同作一事。不得同在一刹那中生。尊
者和須蜜說曰。堪忍故名忍。不可以堪忍是
智。尊者佛陀提婆說曰。已見名智忍非已見
是名見非智。智非見者。除五見及世俗正見
諸餘意識相應有漏慧。彼有二種。染污不隱
沒無記。染污者。與愛悲慢疑無明相應者是
也。問曰。何故與愛等相應染污慧非見耶。答
曰。見所行猛利。彼慧所行不猛利。復次見於
緣深入。慧於緣不深入。復次愛相應慧。為二
結所覆蔽。遍故。二結者。謂愛及相應無明。餘
亦如是。問曰。不共無明相應慧。不為二結所
覆。何以故。不名見耶。答曰。不共無明覆慧
重於三結。不隱沒無記者。是威儀工巧報。生
變化心俱者是也。問曰。何故不隱沒無記慧
非見耶。答曰。見所行猛利。彼慧所行不猛利。
復次見於緣深入。彼慧於緣不深入。復次見
有勢力。彼慧微弱。問曰。如報慧微弱可爾。威
儀工巧者。亦有勢力。如世尊威儀毘首羯

彼亦有三種。善穢污不隱沒無記善者。有二

儀工巧者。亦有勢力。如世尊威儀毘首羯

◎卷第七十三終◎ ◎卷第七十三智健度八道品之三首◎ ◎卷第七十三智健度八道品第一之三首◎ ◎造號釋號譯號同異如卷第二十三◎ ◎見十(法)◎ ◎見耶二見邪◎ ◎邪見◎ ◎[生]一◎ ◎生十(生)◎ ◎住二法◎ ◎性一住◎ ◎◎◎

界不隱沒無記智慧。生色界凡夫。不得無色界善心。成就色無色界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。成就色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。若得無色界善心。未離色界欲。成就色無色界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。色無色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。已離色界欲。成就無色界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。色無色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。慧生無色界凡夫。報心不現在前。成就無色界繫見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。無色界善見智慧。若報心現在前。成就無色界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。無色界善見智慧。不隱沒無記智慧。是則說凡夫人。堅信堅法人者。苦智未生。成就三界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。欲色界善見智慧。欲界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。欲智已生集智未生。成就三界集滅道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。欲色界善見智慧。欲界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。乃至滅智已生道智未生。成就三界見道所斷見智慧。修道所斷染汚智慧。欲色界善見智慧。欲界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。須陀洹斯陀含。成就三界修道所斷染汚智慧。欲色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。生欲界阿那含。若不得無色界善心。成就色無色界修道所斷染汚智慧。欲色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。若得無色界善心未離色界欲。成就

色無色界修道所斷染汚智慧。三界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。已離色界欲。成就無色界修道所斷染汚智慧。三界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。無漏見智慧。生色界阿那含。若不得無色界善心。成就色無色界修道所斷染汚智慧。色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。若得無色界善心未離色界欲。成就色無色界修道所斷染汚智慧。色無色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。已離色界欲。成就無色界修道所斷染汚智慧。色無色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。無漏見智慧。生色界阿羅漢。成就色無色界善見智慧。欲色界不隱沒無記智慧。無漏見智慧。生無色界阿那含。報心不現在前。成就無色界修道所斷染汚智慧。善見智慧。無漏見智慧。若報心現在前。成就無漏見智慧。無漏見智慧。餘如先說。生無色界阿羅漢。報心不現在前。成就無色界善見智慧。無漏見智慧。若報心現在前。成就無漏見智慧。餘如先說。若見斷彼智斷耶。答曰如是。若智斷彼見斷耶。答曰如是。若見斷彼慧斷耶。答曰如是。若慧斷彼見斷耶。答曰如是。若智斷彼慧斷耶。答曰如是。若慧斷彼智斷耶。答曰如是。誰斷見智慧耶。答曰是阿羅漢。餘斷有多有少者。已離無所有處欲阿那含。斷三界見道所斷八地修道所斷見智慧。乃至未離初禪欲阿那含。斷三界見道所斷欲界修道所斷見智慧。須陀洹斯陀含。斷三界見道

所斷見智慧。堅信堅法人。苦智已生集智未生。斷三界見苦所斷見智慧。乃至滅智已生道智未。至。斷三界見苦集滅所斷見智慧。離無所有處欲凡夫人。離八地見道修道所斷見智慧。乃至離欲界欲凡夫人。斷一地見道修道所斷見智慧。諸正見是擇法覺支耶。問曰。何故作此論。答曰。前論是此論所為根本。前作是說。云何為見。云何為智。云何為慧。而不作是說。諸正見是擇法覺支耶。以前所說。是此論所為根本。今欲廣說故而作此論。此阿毘曇中。有是決定相。若覺支後說道支者。當知道支一向無漏。若道支後說覺支者。當知道支是有漏無漏。此中道支。後說覺支。當知道支是有漏無漏。或有正見非擇法覺支。乃至廣作四句。是正見非擇法覺支者。世俗正見是也。所以者何。覺支一向是無漏故。是擇法覺支非正見者。盡智無生智是也。所以者何。彼無見相故。是正見亦是擇法覺支者。除盡智無生智。諸餘無漏慧是也。彼是何耶。謂見道中諸忍。學八智無學正見是也。所以者何。彼有見相。覺相故。非正見非擇法覺支者。除上爾所事。若法已立名已稱說者。作第一第二第三句。未立名未稱說者。作第四句。彼是何耶。行陰作此四句。意識地善慧有漏無漏者。作前三句。餘有相應不相應行陰。作第四句。餘有四陰及無為法。亦作第四句。是名除上爾所事。諸正智是擇法覺支耶。答曰。或正智非擇法覺支。乃至廣作四句。是正智非擇法覺支者。世俗正智是也。

○苦二法 ○慧苦二智慧者法 ○斷二攝 ○至一生 ○有一者 ○覺十(支)

支八道支現在前。若依無色界定。學念覺支現在前時。六覺支四道支現在前。無學六覺支五道支現在前。若作是說。則止說無色界有戒者意。諸覺支道支。一切地一切無漏心中所得者。說亦如念覺支。何者是耶。謂擇法。精進。捨覺支。正見。正方便。正念。正定。喜覺支。現在前時。幾覺支道支現在前。答曰。若依初禪。學喜覺支現在前時。七覺支八道支現在前。無學七覺支。九道支現在前。若依第二禪。學喜覺支現在前時。七覺支七道支現在前。無學七覺支八道支現在前。正覺支現在前時。幾覺支道支現在前耶。答曰。若依未至禪。學正覺支現在前時。六覺支八道支現在前。無學六覺支九道支現在前。若依初禪。學正覺支現在前時。七覺支八道支現在前。無學七覺支九道支現在前。

問曰。何故諸邊中無喜耶。答曰。諸邊離欲未離欲。能起現在前故。不能生喜。如人多處被縛。有解不解處。不能生喜。彼亦如是。問曰。何故上地無正覺耶。答曰。非其田器故。乃至廣說。復次為除正覺故求上地。若上地有覺者。則下地不作方便。求於上地。若法下地有上地亦有者。則無次第滅。若無次第滅。則無究竟滅。所以者何。以次第滅。能到究竟滅。若無究竟滅。則無解脫。復次若有身業口業處。有正覺上地。無身業口業故。無正覺。問曰。何故無色界無戒耶。答曰。無田器故。乃至廣說。復次為除戒故。求無色界。若無色界有戒者。則下地眾生。不作方便。求無色界若

法下地有上地。亦有者。則無次第滅。若無次第滅。則無究竟滅。所以者何。次第滅能到究竟滅。若無究竟滅。則無解脫。復次戒是色少分。無色中無色戒。是四大造。無色界無四大。問曰。無漏戒四大。何故有無漏戒耶。答曰。無漏戒不以四大力故。是無漏。以心力故。是無漏。復次戒對治惡戒。無色界無惡戒。故無戒。所以者何。惡戒在欲界。欲界於無色界。有四事遠。一以所依遠。二以所行遠。三以所緣遠。四以對治遠。

三十七助道法。四念處。四正斷。四如意足。五根。五力。七覺支。八道支。佛說助道法。無三十。七覺支是助道法。何以知之。經說有一比丘往詣佛所。到已頭面禮足。却住一面。而白佛言。世尊。所言覺支者。何故名覺支耶。佛告比丘。是七助道法。故名覺支。謂念覺支。擇法覺支。精進覺支。喜覺支。捨覺支。定覺支。捨覺支。以是事故。知覺支是助道法。問曰。助道法有三十七。世尊。何故說七覺支是助道法耶。答曰。隨彼比丘所問佛說。七覺支是助道法。若彼比丘問四念處者。佛亦說四念處是助道法。復次彼經一向說無漏助道法。餘則不定。如念處有二種。謂有漏無漏。乃至道支有漏無漏。復有說者。佛說三十七助道法。以經久時故。而亡失之。如陀羅達多所說助道法。應言一支。乃至三十七支。如三十七助道法。如斧柯喻經中亦說。無漏三十七助道法。若取決定修道。則是七覺支。若取不決定。則有六支種。所以者何。念處有二種。或有

漏無漏。乃至道支亦如是。問曰。助道法。名有三十七。體有幾耶。答曰。助道法。名有三十七。體有十一或十二。若說盡在覺支中。覺支名有七體亦七。四念處慧根慧力正見。盡在擇法覺支中。四正斷精進根精進力正方便。盡在精進覺支中。四如意足。盡在定根定力正定。盡在定覺支中。念根念力正念。盡在念覺支中。餘者有信根道支中。有正語正業正命。若盡說在道支中者。若說正語正業外。更無正命者。八道支。名有八體。有七。若說正語正業外。別有正命者。道支名有八體。有八。四念處慧根慧力擇法覺支。盡在正見中。四正斷精進根精進力精進覺支。盡在正方便中。四如意足。盡在定根定力定覺支。盡在正定中。念根念力念覺支。盡在正念中。餘有信根覺支中。有喜捨。以是事故。助道法。名有三十七。體有十一或十二。如名體。名數體數。名異體異。名異相體異相。知名知體亦如是。此是助道法體法性。乃至廣說。

何故名助道法。助道是何義。答曰。盡智無生智是菩提。此諸法隨順彼法。助彼法是彼法分勢用勝故。名助道法。已總說助道法所以。今當各各別說所以。何故名念處耶。答曰。分別聚義是念處義。聚名五取陰。若欲分別。應以念處。而燒然義是正斷義。積聚義法義是如意足義。增上勝義是根義。不可壞義是力義。覺知義是覺支義。求覓義是道支義。已別說助道法所以。今當別說覺支道支所以。何故名覺支。為以覺故名覺支。為以是覺

支故名覺支耶。若以覺故名覺支者。一是六非。若以是覺支故名覺支者。六是一非。答曰。應作是說。以覺故名覺支。問曰。若然者。一是六非。答曰。此諸法盡是彼法分。盡隨順彼法勢用勝故名覺支。復有說者。以是覺支故名覺支。問曰。若然者。六是一非。答曰。擇法覺支。是覺是覺支。餘唯是覺支。何故名道支耶。為以求覺故名道支。為以是求覺支故名道支。若以求覺是道支者。一是七非。若以是求覺支故名道支者。七是一非。答曰。應作是說。以求覺故名道支。問曰。若然者。一是七非。答曰。此諸法盡是彼法分。隨順彼法勢用勝故名道支。復有說者。求覺支故名道支。問曰。若然者。七是一非。答曰。正見是求覺是求覺支。餘是求覺支。如擇法覺支是覺是覺支。如正定是禪。是禪支不非時食是齋是齋支。正見亦如是。是求覺是求覺支。

已各各別說助道法所以。今當求其次第。何故先說四念處。乃至後說八道支耶。答曰。隨順言說次第法故。復次佛說則隨順。問者則易受。復次四念處如眼見。餘助道法如盲。不令墮不如法處。如衆多盲人。有目將導。不令墮非道中。彼亦如是。復以念處能了了分別總相別相法。壞物體愚。壞緣中愚。取法實相。不令增減。復次念處從初。覺地乃至盡智無生智。勢用常勝正斷。從。暖法以上。勢用常勝如意足。從頂法以上。勢用常勝五根。從忍法以上。勢用常勝五力。從世第一法以上。勢用常勝。道支於見道中勝。覺支

於修道中勝。問曰。何故見道中道支勝修道中覺支勝耶。答曰。去義是道義。見道中去極速疾故。覺是覺支義。修道中有九種覺數數覺故。問曰。若見道中是道支。修道中是覺支者。世尊何故先說覺支。後說道支耶。答曰。隨順言說次第法故。復次佛說則隨順。問者則易受。復次欲漸次增一支故。先說四法次說五七八法。復次欲漸出要法漸次增益故。已總說助道法次第。今當一一別說覺支道支次第。何故先說念覺支。後乃至捨覺支耶。答曰。隨順言說次第法故。復次佛說則隨順。問者則易受。尊者瞿沙說曰。已見諦人。以憶念先所得法力。能滿足修覺支。是故佛先說念覺支。如經說。行人正觀此法。念現在前。不生愚惑。能滿足修念覺支。以念力故。於法能分別選擇籌量。能滿足修擇法覺支。以於法能選擇分別籌量故。便行精進。能滿足修精進覺支。已行精進故。便生不雜味喜。能滿足修喜覺支。以喜故身心猗樂。能滿足修猗樂支。以定猗樂故。心定。能滿足修定覺支。以心定故。離貪愛住捨捨。能滿足修捨覺支。問曰。何故世尊道支中。先說正見。後乃至正定耶。答曰。隨順言說次第法故。復次佛說則隨順。問者則易受。尊者瞿沙說曰。已見諦者以正見故。能修道支如說。以正見故。能修道支。如說。以正見故。能生正覺正語正業正命。正方便正念正定。

已說覺支道支次第。今當說地。何等處有幾助道法。答曰。未至禪有三十六除喜。初禪有

三十七。中間禪有三十五除喜正覺。第二禪有三十六除正覺。第三禪有四禪有三十五除喜正覺。無色中有三十二。除喜正覺正語正業正命。

已說地。今當說現在前時。何地幾助道法一時現在前耶。答曰。依未至禪。有三十六一時現在前。則有三十三。除三念處。所以者何。以所緣各異故。尚不能起二何況多。初禪有三十七。則有三十四一時現在前。亦除三念處。禪中間有三十五。則有三十二。一時現在前。亦除三念處。如中間禪第三第四禪亦如是。第二禪有三十六。則有三十三一時現在前。亦除三念處。無色中三十二。則有二十九現在前。亦除三念處。

已說現在前。今當說同異相。若是覺支。亦是道支耶。答曰。或是覺支非道支。乃至廣作四句。是覺支非道支者。喜捨捨覺支是也。是道支非覺支者。正覺正語正業正命是也。是覺支亦是道支者。除信。諸餘助道法是也。非覺支道支者信是也。問曰。何故喜立覺支耶。答曰。覺義是覺支義。喜隨順覺支。問曰。云何喜隨順覺支耶。答曰。若如實數數覺境界則生喜。若數數生喜。則如實覺境界。如人掘地得寶。得寶故更掘。更掘故復得。彼亦如是。問曰。何故喜不立道支耶。答曰。去義是道支義。喜不隨順去。問曰。何故喜不隨順去耶。答曰。若數數喜。則住不去。如人在道行。若數數止息。便欲住不去。彼亦如是。問曰。何故捨捨立覺支耶。答曰。覺義是覺支義。捨捨隨順覺

應二欲 卷第七十三終 卷第七十四智健度八道品之四首 卷第七十四智健度八道品第一之四首 造號釋 號譯就同 如卷第二十三 支二枝 下同 以二次 覺二學 暖二煖 支二枝 下同 諸一語

支問曰。云何捨捨隨順覺支耶。答曰。若於一切事得捨捨。則能如實覺境界。問曰。何故捨捨不立道支耶。答曰。去義是道支義。捨捨不隨順去。問曰。何故捨捨不隨順去耶。答曰。捨捨與去相違。如行住眠寤一向相違。彼亦如是。問曰。何故正覺立道支耶。答曰。去義是道支義。以正覺能發動正見出離生死故。如人以杖捶牛能有所至。彼亦如是。問曰。正覺何故不立覺支耶。答曰。正覺性發動覺支性寂靜故。問曰。何故正語正業正命立道支耶。答曰。去義是道支義。正語。業命。於道車為轂故。問曰。何故正語業命不立覺支耶。答曰。正語業命是道支非道。復次正語業命是不相應無依無緣。覺支與此相違。問曰。信何故非覺支道支耶。答曰。始入法時。信勢用勝故。已入法修覺支道支。復次出要法。有滿足不滿足。滿足出要法者。有根力覺道相者是也。與此相違名不滿足。若不滿足出要法。有覺支相無道支相者立覺支。如喜捨捨。若無覺支相有道支相者立道支。如正覺正語業命。若滿足出要法。有覺支道支相者。立覺支道支。如餘覺支道支是也。若不滿足出要法。無覺支道支相者。不立覺支道支。如信是也。

問曰。何故不立心為助道法耶。答曰。無助道分故。復次心於煩惱出要法中。俱有勢用。助道法於出要法中。偏有勢用。復次心緣總相別相。助道法唯緣總相。復次如煩惱。是數法非心。彼對治法亦爾。是數法非心。若作是說。

心定故名定者。即是助道法中定也。問曰。何故三根中。喜根立助道法。樂根捨根不立助道法耶。答曰。無助道相故不立助道分。復次助道法所行猛利。彼二根遲鈍。所行不猛利。復次樂根為捨樂所覆蔽。捨根為行捨所覆蔽。是故不立助道法。

問曰。聖種何故不立助道法耶。答曰。亦有立者。如毘婆闍婆提說。有三十一助道法。問曰。我不問如是說者。答曰。助道法於在家出家人中。有二事勝。一期心勝。二受行勝。聖種於出家人中。二事勝。一期心勝。二受行勝。於在家人中。有一事勝。謂期心勝非受行勝。如帝釋坐衆華座上。十二那由他婦女。而自圍繞有六萬作音樂者。名住聖種。但有期心而不受行。如頻婆娑羅王等。須達長者等。亦復如是。若作是說。樂斷。是精進者。即是精進覺支。波伽羅經說。云何念覺支。答曰。聖弟子觀苦是苦。乃至觀道是道。與不壞智相應。為善提念數數。次第念常不忘不失。是說未知欲知根。復次若聖弟子。見生死是過患。見涅槃是勝妙。為善提念。乃至廣說。是說知根。阿羅漢觀解脫心念。是說知已根。乃至捨覺支。說亦如是。云何正見。答曰。若聖弟子。觀苦是苦。乃至觀道是道。是觀察分別。能取其相。覺明見慧。是說未知欲知根。若聖弟子。見生死是過患。見涅槃是勝妙。是觀察分別。乃至廣說。是說知根。阿羅漢觀自心解脫。是觀察分別。乃至廣說。是說知已根。乃至正定說亦如是。

問曰。何故覺支中說為善提念。道支中不說耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次欲現異文異說故。若以種種說莊嚴於文義則易解。復次欲現二門。二略。二初入法。二影二俱通故。如覺支中說為善提念。道支中說為善提正見亦爾。如道支中不說為善提正見。覺支中亦爾。復次先作是說。盡智無生智是善提。修道中覺支勢用勝。修道近盡智無生智。是故覺支中說為善提非道支。經說為寂滅為離欲為涅槃故。修不淨觀俱念覺支。乃至捨覺支。問曰。不淨觀是有漏。覺支是無漏。云何有漏無漏俱耶。尊者須蜜說曰。先以不淨觀。令心隨從調柔。直堪忍自在。次起覺支。現在前。覺支。後復起不淨觀。以覺支動不淨觀。作如是說。而無有漏無漏俱者。佛經說。聖弟子一心攝耳聽法。能斷五蓋。具足修七覺支。問曰。如定心能斷結。非不

定心。是意地非五識身。何故作如是說。一心攝耳聽法。乃至廣說。答曰。此說轉轉相生法。耳識次生善意識。善意識次生從聞生意。從聞生意次生從思生意。從思生意次生從修生意。以從修生意。而斷煩惱。復次此說相續法。善意識與善耳識相續故。能斷煩惱。而作是說。問曰。若無礙道。能斷煩惱。不能滿足修覺支。若解脫道。能滿足修覺支。不能斷煩惱。答曰。佛說相近法故。而作是說。諸法與念覺支相應。亦與擇法覺支相應耶。答曰。或與念覺支相應。不與擇法覺支相應。乃至廣作四句。與念覺支相應非擇法覺支者。是擇

◎杖二枝◎ ◎業命二正業正命◎ ◎三一四◎ ◎名二若◎ ◎是十(斷)◎ ◎後十(次)◎ ◎動二黑◎ ◎佛二所◎

法覺支，所以者何。以三事故。自體不與自體相應。一以二慧不得併生。二以前後不俱。三以一切諸法除其自體與餘法作緣。與擇法覺支相應非念覺支者。是念覺支。所以者何。以求故自體不與自體相應。如先說。與念覺支擇法覺支相應者。諸法與念覺支擇法覺支相應者。彼是何耶。答曰。與念覺支擇法覺支俱聚中。俱除自體。諸餘與念覺支擇法覺支相應者。彼是何耶。謂八大地十善大地。若在自覺有觀地。則有覺觀及心非念覺支擇法覺支相應者。諸餘心心數法色無為心不應行。此中多說無漏心。更無餘者。餘有有漏心心數法色無為心不應行。作第四句。如念覺支。擇法覺支念覺支念精進決定捨覺支正方便正定。說亦如是。諸法與念覺支相應。亦與喜覺支相應耶。乃至廣作四句。念覺支在一切地一切無漏心中。喜覺支在一切無漏心中。非在一切地。是故得作一中四句。與念覺支相應非喜覺支者。是喜覺支與念覺支相應聚中。喜覺支體。與念覺支相應。不與喜覺支相應。所以者何。以三事故。自體不與自體相應。如先說。餘不與喜覺支相應。與念覺支相應法。彼是何耶。答曰。未至禪中間禪第三第四禪。三無色中。與念覺支相應法。彼法不與喜覺支相應。所以者何。彼諸地中無喜故。與喜覺支相應。非念覺支相應者。

阿毘曇毘婆沙論卷第四十八

阿毘曇毘婆沙論卷第四十九

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

智度度八道品下

念覺支與喜覺支相應。喜覺支俱聚中。念覺支體。與喜覺支相應。不與念覺支相應。所以者何。以三事故。自體不與自體相應。如先說。與念覺支亦與喜覺支相應者。除念覺支相應者。所以者何。以其多故除之。及念覺支喜覺支俱聚中。念覺支喜覺支自體。諸餘心心數。盡與二相應。彼是何耶。謂八大地十善大地。有覺觀地。則有覺觀及心不與念覺支喜覺支相應者。不與喜覺支相應念覺支。彼是何耶。謂未至中間第三第四禪三無色中。念覺支體。不與念覺支相應。所以者何。以三事故。自體不與自體相應。如先說。亦不與喜覺支相應。所以者何。彼諸地中無喜故。諸餘心心數法者。此中盡說一切無漏心。更無餘有餘。有漏心心數法。色無為心不應行。作第四句。如念覺支。喜覺支念覺支正見正覺。亦如是。諸法與念覺支相應。亦與正念相應耶。答曰。如是。設與正念相應。亦與念覺支相應耶。答曰。如是。如念覺支擇法精進決定捨覺支正方便正定。說亦如是。諸法擇法覺支相應。亦與正見相應耶。答曰。若法與正見相應。亦與擇法覺支相應。頗法與擇法覺支相應。非正見耶。答曰。有。正見所不攝擇

法覺支相應法。彼是何耶。謂盡智無生智相應法。諸法精進覺支相應。亦與正方便相應耶。答曰。如是。若與正方便相應。亦與精進覺支相應耶。

答曰。如是。諸法與定覺支相應。亦與正定相應耶。答曰。如是。若與正定相應。亦與定覺支相應耶。答曰。如是。諸法與喜覺支相應。亦與喜覺支相應耶。答曰。或與喜覺支相應。不與喜覺支相應。乃至應作四句。喜在一切無漏心中。不在一切地中。喜在一切無漏心中。亦在一切地中。與喜覺支相應。非喜覺支相應者。與喜覺支相應。喜覺支俱聚中。喜覺支體。與喜覺支相應。不與喜覺支相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。餘喜覺支不相應。喜覺支相應法。彼是何耶。謂未至禪中間第三第四禪三無色中。喜覺支相應法。與喜覺支相應。非喜覺支。所以者何。彼地中無喜故。與喜覺支相應。亦與喜覺支相應者。除喜覺支及與喜覺支相應者。所以者何。以多故除之。與喜覺支喜覺支俱聚中者。除自體。諸餘心心數法。俱與二相應。彼是何耶。謂九大地。九善大地。在有覺有觀地。則有覺觀。及心非喜覺支。亦非喜覺支相應者。喜覺支不相應。喜覺支。彼是何耶。謂未至禪中間第三第四禪三無色中。喜覺支體。不與喜覺支相應。所以者何。彼地中無喜故。亦

彼十(亦)三三二一三三二二(不)十與(不)不分卷及品支二枚下

不與猗覺支相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。諸餘心心數法者。此中盡說一切無漏心。更無餘有餘有漏心心數法。亦色無為心不相應行。如是等諸法。不與喜覺支相應。亦不與猗覺支相應。如喜覺支猗覺支。喜覺支捨覺支正方便正念正定。說亦如是。諸法具喜覺支相應。亦與正見相應。喜在一切無漏心中。不在一切地。正見在一切地。不在一切無漏心中。是故得作大四句。與喜覺支相應。非正見者。正見與喜覺支相應。喜覺支俱聚中正見體。與喜覺支相應。不與正見相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。餘正見不相應喜覺支相應法。彼是何耶。初禪第二禪中。盡智無生智。俱聚中喜覺支相應法。不與正見相應。所以者何。是他聚故。與正見相應非喜覺支者。喜覺支與正見相應。正見俱聚中喜覺支體。與正見相應。不與喜覺支相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。餘喜覺支不相應。正見相應法。彼是何耶。謂未至禪禪中間第三第四禪三無色中正見相應法。不與喜覺支相應。彼地中無喜故。與喜覺支亦與正見相應者。除正見與喜覺支相應。除喜覺支與正見相應。諸餘心心數法。彼是何耶。謂八大地。十善大地。在有覺有觀地。則有覺觀。及心不與喜覺支。亦不與正見相應者。正見不與喜覺支相應。彼是何耶。未至禪禪中間第三第四禪三無色中正見體。不與喜覺支相應。所以者何。彼地中無喜故。不與

正見相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。喜覺支不與正見相應。彼是何耶。初禪第二禪盡智無生智俱。中喜覺支體。不與正見相應。所以者何。是他聚集故。不與喜覺支相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。餘心心數法。彼是何耶。未至禪禪中間第三第四禪三無色中。盡智無生智。俱聚。有漏心心數法。色無為心不相應行。如喜覺支。正見喜覺支正覺正覺於正見。說亦如是。云何世俗正見。云何世俗正智。問何故作此論。答曰。前論是此論所為根本。前論作如是說。云何為見。云何為智。云何為慧。而不作是論。云何世俗正見。云何世俗正智。以前論是此論所為根本。今欲廣分別故。而作此論。復有說所以。作論者。或有說意識相應善慧不盡是見性。如譬喻者說。彼是何耶。謂次五識生者。能起身口業者死時心。問曰。彼何故說次五識生者非見性耶。如五識不能分別彼次生。意識亦不能分別。何故能起身口業者非見性耶。答曰。見行內。彼行於外。何故死時心非見耶。答曰。見有勢力。彼慧微劣。問曰。彼作是說。云何通佛經如。是說。人欲死時善心心數法。與正見俱。答曰。彼作是說。佛說死時前相續心非死時心。為止如是說者。意亦明一切意識相應有漏善慧盡是見性故。而作此論。云何世俗正見。答曰。意識相應有漏善慧。彼是何耶。謂不淨覺相應者。安那般那念念處

與煩頂忍世第一法相應者。與禪無量解脫勝處一切處相應者。世俗正見。多於四大海水。此中略說。云何世俗正智。答曰。意識相應有漏善慧。彼是何耶。答曰。不淨覺相應。乃至世俗正智。多於四大海水。及五識相應善慧。彼是何耶。善眼識相應。乃至善身識相應者。善眼識相應慧。何者是耶。答曰。如見父母佛辟支佛聲聞及諸尊重處。生善眼識善耳識相應慧。何者是耶。答曰。如聞佛語及父母諸尊重處語。生善耳識。餘善三識。非常人能起。唯除觀禪食修行者。能起三善識。已說體性。今當說同異相。若是世俗正見。亦是世俗正智耶。答曰。若是世俗正見。亦是世俗正智。顯是世俗正智。非世俗正見耶。答曰。有五識相應善慧是也。世俗正見攝世俗正智。世俗正智攝世俗正見耶。答曰。世俗正智攝世俗正見。非世俗正見攝世俗正智。不攝何等。謂五識相應善慧。若成就世俗正見。亦成就世俗正智耶。答曰。如是。若成就世俗正智。亦成就世俗正見耶。答曰。如是。誰成就世俗正見世俗正智耶。答曰。不斷善根者。總而言之。是不斷善根者。然有多少。或有但成就欲界善見智者。但成就色界者。或有但成就無色界者。或有成就欲色界者。或成就色無色界者。或有成就欲色無色界見智者。以是事故。總而言之。是不斷善根者。然有多少。若斷世俗正見。亦斷世俗正智耶。答曰。如是。若斷世俗正智。亦斷世俗正見耶。答曰。如

◎除二除◎ ◎除二除◎ ◎ (案)十中◎ ◎ (中)十有◎ ◎論二說◎ * ◎作十(此)◎ ◎ (於)十內◎ ◎是說二說是◎

是。誰斷世俗正見正智耶。答曰。阿羅漢總而言之。是阿羅漢。餘人則有多少。若離無所有處欲。斷八地正見正智。乃至離欲界欲。未離初禪欲。斷一地正見正智。是故總而言之。是阿羅漢。餘人則有多少。

問曰。何故名世俗耶。為以毀壞故言世俗耶。為以是貪立足處言世俗耶。若以毀壞言世俗者。無漏道亦毀壞。應是世俗。若以是貪立足處言世俗者。亦悲癡立足處。應作是說。以毀壞言世俗。問曰。若然者。無漏道亦毀壞。應是世俗。答曰。若毀壞增長於有無漏道。雖毀壞不增長。於有令有損減。復次毀壞能令有相續生老病死相續。無漏道雖毀壞能斷有不令生老病死相續。復次若毀壞是苦集道迹生老病死道迹。無漏道雖毀壞是滅苦集道迹滅生老病死道迹。復次若毀壞是身見。愛使所緣處是貪悲癡立足處。難垢難毒難過難淨。堅在苦集性中者。是世俗。聖道與此相違。不名世俗。復次有說者。是貪立足處言世俗。問曰。若然者。亦是悲癡立足處。答曰。若說是貪立足處亦是悲癡立足處。問曰。若世俗是毀壞耶。答曰。或是世俗非毀壞。乃至廣作四句。是世俗非毀壞者。過去未來二漏。是毀壞非世俗者。現在道諦。是毀壞亦是世俗者。現在二漏。非毀壞亦非世俗者。過去未來道諦。一切無為法。經說長老式蜜提往詣佛所而白佛言。世尊。所言世俗者。是何耶。佛告式蜜提。以毀壞故言世俗。復問。何等是毀壞。佛告式蜜提。眼入是毀壞。乃至意

入是毀壞。問曰。世尊。何故說入是世俗耶。答曰。為受化者故。受化者應聞入是世俗。乃得悟解。故佛說入是世俗。問曰。毀壞有何差別耶。答曰。毀者是剎那頃無常。壞是身壞時無常。復次毀是細無常。壞是龜無常。復次毀是內法無常。壞是外法無常。復次毀是衆生數法。壞是非衆生數法。

云何無漏見。云何無漏智。問曰。何故作此論。答曰。前論是此論所為根本。前論作如是說。云何為見。云何為智。云何為慧。而不作是論根本。今欲廣分別故。而作此論。復次欲說近對治法。先說云何世俗正見云何世俗正智。何法是其近對治。謂無漏見智。故作此論。云何無漏見。答曰。盡智無生智所不攝。餘無漏慧。彼是何耶。見道中八忍學八智無學正見。云何無漏智。答曰。除見道中諸忍。餘無漏慧。彼是何耶。學無學八智是也。已說體性。今當說同異相。諸無漏見。是無漏智耶。答曰。或是無漏見非無漏智。乃至廣作四句。是無漏見非無漏智者。見道中諸忍是也。所以者何。彼有見相無有智相。是無漏智非無漏見者。盡智無生智是也。所以者何。彼是智相無有見相。是無漏見亦是無漏智者。除見道中諸忍盡智。無生智餘無漏慧是也。彼是何耶。學八智無學正見是也。所以者何。彼是見相亦是智相。非無漏見非無漏智者。除上爾所事。若法已立名已稱已說者。除之。餘未立名未稱未說者。作第四句。彼是

何耶。行陰作此四句。一切無漏慧。作三句。有見相智相者。餘有相應不相應行陰四陰及無為法。作第四句。是名除上爾所事。攝。亦如是。若成就無漏見。亦成就無漏智耶。答曰。若成就無漏智。亦成就無漏見。頗成就無漏見。非無漏智耶。答曰。有住苦法忍時。問定理攝成就不說斷。問曰。何故不說斷耶。答曰。若說於文不煩。彼尊者迦旃延子。乃至不捨一剎那。而作文分別。若所說於文煩者。如四大海水。文義盡略說之。復次以垢故斷。無漏法無垢故不斷。問曰。若無漏法不斷者。佛經云何通。如說。比丘汝若解。筏喻法者。法尚應斷。何況非法。答曰。斷二種。一除愛斷。二捨斷。此中說捨斷。無漏法雖。無除愛斷而有捨斷。以捨斷故。而作是說。諸比丘。捨聖道盡漏。以念恩故。復數數起聖道現在前。而受種種身苦。謂頭痛等苦。是故佛作是說。比丘當知。聖道所應作者。皆已作之。應捨此道入於涅槃。如人依筏渡河。以念恩故。猶頂戴肩負。他人語言。汝男子。筏所應作皆已作之。汝今應捨隨意而去。彼亦如是。

云何是法云何非法。耶。答曰。內道言說是法。外道言說是非法。內道法隨順空。隨順無我。隨順涅槃。法尚應捨。何況外道言說。令有相續令生老病死相續者耶。復次善受持名句味身者是法。不善受持者是非法。善受持名句味身者尚捨。何況不善受持名句味身者。尊者瞿沙說曰。善受持阿含經者名法。不善受持者名非法。以增長生死故應捨。何況

○堅二隨○ ○法字元本缺 ○餘二於○ ○亦二立○ ○筏二根○ ○[無]一○ ○應二實○ ○耶二也○ ○

非法。尊者波奢說曰。正觀是法。不正觀是非法。正觀法尚應捨。何況不正觀法耶。復次慚愧是法。無慚愧是非法。三善根是法。三不善根是非法。四念處是法。四顛倒是非法。五根是法。五蓋是非法。六念是法。六愛身是非法。七覺支是法。七使是非法。八道支是法。八邪支是非法。九次第定是法。九結是非法。十善業道是法。十不善業道是非法。如是等法尚應斷。何況非法。

阿毘曇毘婆沙論智。捷度他心智品。第二云何他人心智。云何念前世智。如是章及解章義。此中應廣說優。波提舍。問曰。彼尊者迦旃延子。何故依二智而作論。答曰。彼尊者有如是欲如人意。隨其欲意而作論。亦不違法相。彼意欲因二智而作論。即論二智。謂他心智。念前世智。意欲論二智故。餘處亦因二智而作論。如根。捷度中論法智比智。餘處亦因二智而作論。如定。捷度論盡智無生智。餘處意欲論四智。即因四智而作論。如根。捷度論苦集滅道智。如說。若苦智是苦無漏智耶。乃至若道智是道無漏智耶。餘處意欲論八智。即因八智而作論。如使。捷度定。捷度智。捷度所說。餘處意欲論十智。即因十智而作論。如說。眼根以幾智知。猶如善巧陶師。先調柔泥團。安置輪上。隨其欲意。作種種器。彼尊者亦爾。以聞思慧。觀察法相。斷緣中愚。故隨其欲意造論。亦不違法相。復次此二智以離欲得方便得體是修。慧亦是通體是四。支五支禪果故。復次此二智體是智性見性。復

次以此二智各緣一世。他心智緣現在世。念前世智緣過去世。若作是說。念前世智是有漏無漏者。應作是說。以此二智是有漏無漏故。

云何他心智。答曰。若智是修是修果從修生得不失。是修者體是修。是修果者是四支五支禪果。從修生者。修習故。得不失者。得不捨。問曰。何故不說已得當得者。但說今得耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次若得此智。名得道者。名知他心者。是中說之。非已得當得者。以失故。以此智知他心所覺所觀所行。所覺者是欲界初禪。所觀者是中間禪。所行者。是上三禪。復有說者。所覺是欲界初禪。所觀者從欲界乃至中間禪。所行者從欲界乃至第四禪。問曰。他人心覺觀緣色時他心智。亦知他心所緣色耶。答曰。外國法師經文作如是說。若智知欲色界現前他人心心數法及無漏心。是名他心智。問曰。罽賓沙門。何故不作如是說耶。答曰。亦應作如是說。而不說者。有何意耶。答曰。言所覺所觀所行者。說其體。不說所緣處心心數法。如實知之。心者是心數。法者是數法。如實知之者。是說知境界。應說一。知他心智。謂知他心智通。應說二。謂知有漏無漏及縛解繫不繫。應說三。謂上中下。應說四。謂四禪果。應說六。謂有漏上中下無漏上中下。應說八。謂四禪有漏無漏。應說九。謂下下乃至上上。應說十二。謂四禪中各有三種。謂上中下。應說十八。謂有漏有九無漏有九。應說二十四。

初禪有漏有三無漏有三。乃至第四禪亦爾。應說三十六。謂初禪有九種。乃至第四禪有九種。應說七十二。初禪有漏有九種。無漏有九種。乃至第四禪亦爾。若以在身。若在剎那。則有無量無邊他心智。此中總說一種他心智而作論。

問曰。他心智體是何耶。答曰。體是慧已說體性。所以今當說。何故名知他心智。答曰。知他心故名知他心智。問曰。亦知數法。何故但名知他心耶。答曰。以期心故。行者期心。勤修方便。欲知他心。不期數法。亦知數法故名知他心智。如人求見於王。不求見眷屬。若見王時。亦見眷屬。彼亦如是。復次諸法立名各有所以。或以自體。或以對治。或以方便。或以相應。或以所依。或以所行。或以所緣。或以行以緣。以自體者。如五陰四諦等智是也。餘解廣說如上。

界者。有漏是色界繫。無漏是不繫。問曰。何故無色界無他心智耶。答曰。非其田故。乃至廣說。復次他心智因色故生。無色界無色。地者是四根本禪地。不在諸邊無色地。問曰。諸邊中何故無知他心智耶。答曰。此是通若有三昧。能生通果。則有此智。諸邊中無此定故。問曰。中間禪心。以何知他心智知耶。答曰。或有說者。以初禪地者知。復有說者。以二禪地者知。評曰。應作是說。以初禪地者知。所以者何。是一地法故。所依者依欲色界。身行者無漏者行道等四行。有漏者不行行緣者。初禪地者。緣欲界初禪二禪地者。緣欲界

造說釋說譯說同異如卷第二十三。[阿毘曇毘婆沙論]一。捷二捷。波二波。支二支。下。是二果。道二道。九。十(種)。

◎卷第七十四終◎ ◎卷第七十五首◎ 造說釋說譯說同異如卷第二十三。[阿毘曇毘婆沙論]一。捷二捷。波二波。支二支。下。是二果。道二道。九。十(種)。

乃至第二禪第三禪地者。緣欲界乃至第三禪第四禪地者。緣欲界乃至第四禪。他心智不知無色界。問曰。何故他心智不知無色界。答曰。他心智不知上地法。初禪他心智。不知第二禪心。乃至第三禪他心智。不知第四禪心。問曰。生欲色界。起無色定現在前。他心智能知彼心心數法不耶。答曰。不知。所以者何。如果時不知。因時亦爾。念處者是三念處。除身念處。智者是四智。謂法智比智道智等智。三昧者無漏者與道無願相應。有漏者不與相應。根者總與三根相應。謂樂喜捨根。世者在三世。緣三世者。過去者緣過去。現在者緣現在。未來不生者緣三世。必生者緣未來。善不善無記者是善緣。善不善無記者緣三種。三界繫及不繫者。有漏是色界繫。無漏是不繫。緣三界繫及不繫者。緣欲色界及不繫。是學無學非學非無學者。是三種。緣學無學非學非無學者。盡緣三種。見道斷修道斷不斷者。有漏者是修道斷。無漏者是不斷。緣見道修道不斷者。盡緣三種。緣名緣義者是緣義。緣自身他身及非。身者緣他身。是方便得。離欲得者。是方便亦是離欲。初禪者離欲界欲得。乃至第四禪離三禪欲得。方便者以方便現在前。佛不以方便現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上方便。問曰。他心智方便云何。答曰。如施設經說。初行者先取自身相。若身有如是色。則有如是心。若有如是心。則身有如是色。取自身相已。亦取他人身相。若他身有如是色。則有如是心。

若有如是心。則身有如是色。取如是相已。作是思惟。今此衆生。爲何所觀何所分別。作是思惟時。如實知之。此衆生如是思惟如是分別。是名他心智。滿足集法經亦說。他心智方便云何。答曰。觀五取陰。是苦空無常無我。作如是觀無漏智。問曰。如他心智緣四諦智。何故但說緣苦智者耶。答曰。應說盡緣。而不說者。當知此說有餘。復次此說初起入法方便。若說緣苦智。當知亦說緣餘智。問曰。前方便此後方便。有何差別耶。答曰。前所說方便。至有漏無漏。此所說方便。一向是無漏。復次後方便。勝妙明淨勝前方便。問曰。若眼不見色。爲能知他心不耶。答曰。能知。以耳聞其聲故。若眼不見色。耳不聞聲。爲能知他心不。答曰。知。以鼻嗅其香故。若眼耳鼻不見色聞聲嗅香。爲能知他心不耶。答曰。知。以舌知味故。若不見色聞聲嗅香知味。爲能知他心不耶。答曰。知。以身觸故。若不見色。乃至身不覺觸。爲能知他心不耶。答曰。或有說者。不知。所以者何。以他心智因色故。評曰。應作是說。方便時不知滿足時能知。問曰。何故他心智方便時因色生耶。答曰。因能得入細故。他心智方便時緣自己。滿足時不緣自己。問曰。何故他心智方便時緣自己。滿足時不緣自己耶。答曰。他心智不緣他心所緣所行。若他心智。緣他心所緣所行者。亦可名自心智。本會所得有漏心心數法十五種。欲界有三種。謂上中下。乃至第四禪亦有三種。初禪地下有漏他心智。知欲界三種心心數

法。及知初禪下有漏心心數法。中者。知欲界三種。知初禪下中二種。上者。知欲界三種。初禪三種。如初禪乃至第四禪。上者。知十五種。如本會起有漏心。有十五種。未曾得有漏心。亦有十五種。無漏心有十二種。初禪地有三種。謂上中下。乃至第四禪亦爾。第二禪地下無漏心。知初禪地下無漏心。亦知二禪下者第二禪。中者。知初禪第二禪下中二種。上者。知初禪。第二禪下中上三種。知第二禪乃至第四禪。上者。知十二種。無漏心心數法。問曰。何故下有漏他心智。知下地三種及自地下者。無漏下他心智。知下地心心數法及自地下者。非中上耶。答曰。有漏心心數法異。無漏心心數法異。一身中可有三種有漏心心數法。無漏心心數法。以根故別。若是下根則無中上根。乃至若是上根則無中下根。他心智不知勝地勝根勝人心。勝地者。初禪地他心智。不知第二禪地心心數法。乃至第三禪地。不知第四禪地心心數法。勝根者。下根他心智。不知中上根心心數法。勝人者。學人他心智。不知無學人心心數法。問曰。一切無學人他心智。盡知學人心心數法耶。答曰。不知。時解脫不知見到心。見到不知時解脫心。所以者何。見到於時解脫根勝故。時解脫於見到人勝故。問曰。學人起第二禪心現在前。無學人起初禪心現在前。爲展轉相知。不答曰。不知。所以者何。無學人於學人勝。學人於無學人勝。聲聞起第二禪心心數法現在前。佛起初禪心心數法現在前。爲展

轉相知不。答曰。不知。所以者何。佛於聲聞根勝。聲聞於佛地勝。欲界有四種變化心。謂初禪果。乃至第四禪果。初禪地他心智。為知此四種心不。答曰。或有說者知。所以者何。盡是欲界心故。復有說者。唯知初禪果。餘則不知。所以者何。如不知因果亦不知。

是佛所有無漏心。及未曾得有漏心。無有他心智能知者。已曾有漏心。佛欲令他知則知。若佛欲令鈍根者知。利根者不知。鈍根者則知。利根者不知。佛欲令薩婆達知。舍利弗不知。薩婆達則知。舍利弗不知。欲令畜生得知人不知者。畜生則知人不知。何以知之。有經說。佛住那提迦夜城於迦精舍時。衆多比丘。置鉢在露地。及世尊鉢。亦在露地。爾時有一獼猴。從婆羅樹下。往詣衆多鉢所。時諸比丘。恐破鉢故。皆共遮之。爾時世尊告諸比丘。汝等莫遮此獼猴。不破汝等鉢也。爾時獼猴取世尊鉢。徐還上樹。盛滿流蜜。以奉世尊。世尊不受。以雜虫故。爾時世尊起世俗心。欲令去虫。是時獼猴即知佛意。却在一面除蜜中虫。復上世尊。世尊不受。以未作淨故。世尊復起世俗心。若此獼猴以水作淨者。我則受之。是時獼猴即知佛心。以水作淨。佛便受之。以其淨故。爾時獼猴以世尊受其蜜故。心生歡喜。踊躍無量。起舞却行。墮坑而死。得生人中。於佛法出家。得阿羅漢道。名摩頭婆肆吒。以是事故。尊者波毘奢。作偈讚佛。

欲令人天知佛心 隨其所念皆能知
若入諸禪深妙定 無有能知佛心者

問曰。佛為得知佛心他心智不耶。答曰。或有說者。不得。所以者何。世無二佛故。復有說者。得。以能緣故。不以起現在前。辟支佛如渴伽獸角獨出世者。與佛無異。若作是說。衆多出世者。有緣辟支佛心他心智亦能緣亦能起現在前。聲聞有知聲聞心他心智亦能緣亦能起現在前。佛所有無漏心。及未曾得有漏心。無色界心。無有他心智能知此心者。衆生或有生有滅。生者。生欲界色界衆生。及生無色界凡夫人。為當得他心智不耶。答曰。以二事故當得。一以能緣。二以現前行。滅者。生無色界聖人。若涅槃者。為當得他心智不。答曰。不當得。復有說者。當得。以能緣故。不以現前行。評曰。不應作是說。當得不現前行。寧當說不得。不當說得。不現在前行有境界。是佛他心智所知。非辟支佛聲聞所知。有境界。是佛辟支佛他心智所知。非聲聞所知。有境界。是佛辟支佛聲聞他心智所知。如經說。比丘當知。雪山中有如是處。獼猴所不能行。人亦不能行。有處所獼猴能行人不能行。有處所獼猴能行人亦能行。雪山猶如境界。獼猴如辟支佛。人如聲聞。如是之義。今當顯現。見道有十五心。他心智知相似法。有漏者知有漏。無漏者知無漏。已曾得者。知已曾得。未曾得者。知未曾得。法智分者。知法智分。比智分者。知比智分。聲聞人他心智。見道中知二心。辟支佛知四心。佛一。次前。佛不以方便現在前。行者入見道作方便。

聲聞入為法智分他心智作方便。行者已入見道。聲聞起法智分他心智現在前。能知行二心。謂苦法忍苦法智。行者入比智分。聲聞人為比智分他心智作方便。行者已入比智分。聲聞人起比智分他心智現在前。欲知苦比忍乃知道比智。行者為見道作方便。辟支佛為法智分他心智作方便。行者已入見道。辟支佛起法智分他心智現在前。知行者二心。謂苦法忍苦法智。行者入比智分。辟支佛為比智分他心智作方便。行者已入比智分。辟支佛起比智分他心智現在前。欲知苦比忍乃知滅比忍滅比智。佛不以方便一切功德現在前。如行者一。次第起見道現在前。世尊以他心智。一。次第而知。佛於三種道。以總相知。亦以別相知。辟支佛亦知三種道。於聲聞辟支佛道。以總相知。亦知三種道。於佛道。以總相知。不以別相知。聲聞亦知三種道。於佛道。以總相知。不以別相知。於辟支佛道。以總相知。不以別相知。問曰。聲聞見道諦時。為見辟支佛佛道不。若見者。他心智何故不知。若不見者。云何得緣彼不壞信耶。答曰。應作是說見。問曰。若然者。他心智何故不知耶。答曰。以總相知。見他心智是別相知故。一。衆生所有他心智。知一切衆生心心數法。知時為知受體。為知受諸剎那耶。若但知受體者。諸餘受不被知者。云何知耶。若知受諸剎那者。云何自身非衆多耶。自身衆多者。我他心智。體有二十一種。知一。衆生一剎那受。如一剎那受。餘一切剎那受亦爾。

三三二

佛十(佛) 智二知 知二智

如受剎那。餘心心數法剎那亦爾。如一衆生心心數法。餘衆生心心數法亦爾。我他心智俱心心數法則多。一切衆生。如我他心心數法多所依身亦應多。答曰。應作是說。知受體。問曰。若然者。餘所不知受。云何知耶。答曰。若知餘受。無有是處。知時唯知所知者復有說者。知受諸剎那問曰。若然者。云何自身非衆多耶。答曰。多有何過。所以者何。如我他心智體。有二十一種。知一切衆生心心數法。一切衆生他心智體。亦有二十一種。知我心心數法。是故無過。問曰。他心智爲緣過去緣未來緣現在耶。答曰。緣現在。問曰。若然者。經本所說云何通。如說。過去未來法九智知。答曰。經本應作是說。過去未來法八智知。除滅智他心智。而不說者。有何意耶。隨緣故說。過去者緣過去。未來者緣未來。若如所說。他心智知三剎那。謂知現在剎那。次前滅者。次當生者。經本應作是說。問曰。他心智爲緣一法。爲緣多法耶。若緣一法。經所說云何通。如說。有欲心如實知有欲心。若一時知欲亦知心者。豈非知多法耶。餘經所說復云何通。如說。當世尊憶念時。遍知衆僧心之所念。若緣多法者。云何體是三念處耶。答曰。應作是說。緣於一法。問曰。若然者。佛經云何通。如說。如實知有欲心。答曰。心與欲相應故。名有欲心。若知欲不知心。若知心不知欲。如觀垢衣。若觀垢衣則不觀衣。若觀衣則不觀垢。彼亦如是。餘經復云何通。如說。世尊當憶念時。遍知衆僧心之所念。答曰。

以比相知非以他心智。世尊以他心智。觀一比丘心住寂靜道。次以比相智知諸比丘心亦爾。復有說者。世尊不以他心智知。亦不以比相智知。乃以願智知。復有說者。世尊不以他心智比相智願智知。世尊得盡智時。得未曾得欲界不隱沒無記心心數法。亦不入禪。亦不起通現在前。當憶念時。遍知諸比丘僧心。復有說者。知多法問曰。若然者。云何體是三念處耶。答曰。初方便時是三念處通。若滿足是總緣法念處。評曰。應作是說。一切他心智緣一法。是別相觀。緣現在緣他。緣心心數法。見道中無在修道中。不與空無相三昧相應。不攝盡智無生智。無礙道中無他心智。法應如是。云何念前世智。答曰。若智是修是修果。從修生得不失。以此智憶念過去無數生。如是相貌。是名念前世智。是中問答。廣說如他心智。云何如是相如是貌。答曰。如是相者是前時有。如是貌者是有。復有說者。如是相是中有。如是貌是前時有。所以者何。前時有可示此是剎利婆羅門毘舍首陀差別貌。如經說。佛告阿難。若有如是相如是貌施設者。名色身。若無如是相如是貌可施設。有對觸不。答言。不也。彼經說。內入是相外入是貌。復有說者。彼經說。內入是貌外入是相。所以者何。以內入故。說諸識。相差別。如說除上爾所事。是中無如是相貌。是以除之。如說。若以如是相如是貌入初禪。如是相者是方便。如是貌者是所緣。如偈說。

若成就八智 十六行相貌
如閻浮檀金 無能說其過
是中說慧名相貌。過去無數生者。是說念前世智境界。應說一。念前世智。得念前世智通。念前世明念前世力。應說二。謂已曾得未曾得。應說三。謂上中下。應說四。謂初禪果乃至第四禪果。應說六。已曾得有三種。未曾得有三種。謂上中下。應說八。初禪地有二種。謂已曾得未曾得。乃至第四禪地亦如是。應說九。謂下下乃至上上。應說十二。初禪有三種。謂上中下。乃至第四禪亦如是。應說十八。謂已曾得有三種。未曾得有三種。應說二十四。初禪有六種。謂已曾得有三種。未曾得有三種。乃至第四禪亦如是。應說三十六。初禪有九種。乃至第四禪亦如是。應說七十二。初禪已曾得有三種。未曾得有三種。乃至第四禪亦如是。若以在身若在剎那。則有無量無邊念前世智。此中因總說一念前世智而作論。問曰。念前世智體性是何。答曰。體性是慧。以念力多故名念前世智。如念處體性是慧。以念力多故名念處。如阿那波那念體性是慧。以念力多故名阿那波那念。憶前念體性是慧。以念力多故名憶前念。除色想體性是慧。以念力多故名除色想。如是念前世智體性是慧。以念力多故名念前世智。此是念前世智體性。乃至廣說。
阿毘曇毘婆沙論卷第四十九

①(緣)一②③ ④相二根⑤⑥ ⑦次頁 ⑧不分卷及品⑨

阿毘曇毘婆沙論卷第五十

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

智健度他心智品第二之一

已說體性。所以今當說。何故名念前世智。答曰。念前世。陰故名念前世智。

界者是色界。問曰。何故無色界中。無念前世智。答曰。非其因故。乃至廣說。復次念前世智因色生。無色界無色故。無地者。在根本四禪地。非諸邊無色中。所以者何。若有通所依定處。是處有念前世智。諸邊無色中無通所依定故。無念前世智。問曰。以何地念前世智。念中間禪耶。答曰。或有說。以初禪者。復有說。以第二禪者。評曰。應作是說。以初禪者。所以者何。同一地故。所依身者。依欲色界身。行者無所行緣者。初禪念前世智。知初禪及欲界前生五陰。乃至第四禪者。知欲界。乃至第四禪前生五陰。不知無色界。問曰。何故念前世智。不知無色界耶。答曰。念前世智不知上地法。初禪者不知第二禪前世五陰。乃至第三禪。不知第四禪前世五陰。無色界中則無念。念前世智。問曰。生欲色界中。起無色定現在前。念前世智為能知不。答曰。不知。所以者何。如不知果。因亦如是。問曰。若念前世智。不知無色界者。佛經云何通。如說世尊於過去處處無數生。若生有色無色有想無想。過

去無數生。有如是相貌。盡能憶念。問曰。說何者是色何者非色。答曰。色者是前時有。無色者是有。問曰。若然者。聲聞亦能知。與佛有何異。復有說者。色者是欲色界。無色者是無色界。問曰。若然者。世尊云何知無色界耶。答曰。以比相知。問曰。若然者。聲聞以比相亦能知。與佛有何異耶。答曰。如外道觀前世事。若於欲界色界不見則言斷滅。聲聞觀前世事。若於欲界色界中。過二萬劫不見者。言是衆生。生於空處。而彼衆生。或於上地。未盡其壽。若過四萬劫不見者。言是衆生。生於識處。而彼衆生。或再生空處。或於上地。未盡其壽。若過六萬劫不見者。言是衆生。生無所有處。而彼衆生。或三生空處。或一生半生識處。或於非想非非想處。未盡其壽。若過八萬劫不見者。言是衆生。生非想非非想處。而彼衆生。或四生空處。二生識處。一生半生無所有處。世尊若欲觀無色界時。衆生於欲色界中命終者。觀其死時。心知是衆生。生於空處。是衆生。生於識處。是衆生。生無所有處。是衆生。生非想非非想處。是衆生。盡壽。是衆生。不盡壽。若於無色界命終。生欲色界者。觀生時心知是衆生。從空處死。乃至從非想非非想處死。是衆生。盡彼壽。是衆生。不盡彼壽。外道比相智見於斷滅。聲聞比相智所知。或如其事。或不如其事。佛世尊比相智。明淨妙好。悉如其事。無有虛者。念處者是總緣法念處。尊者瞿沙說。是四念處。如所說念前世苦樂事。若念苦樂。豈非是受念處耶。答

曰。前世時。或會得樂。所須具苦。所須具。念是事故。作如是說。而實是總緣法念處。智者是等智。尊者瞿沙說是六智。除他心智滅智。所以除他心智者。以緣現在故。所以除滅智者。以緣無為故。評曰。應作是說。是一等智。三昧者不與三昧相應。根者總與三根相應。世者在三世。緣三世者。過去現在者緣過去。未來者緣三世。善不善無記者。是善緣善。不善無記者緣三種。三界繫者。是色界繫。緣三界繫者。緣欲色界。是學無學非學非無學者。是非學非無學。緣學無學非學非無學者。緣非學非無學。是見道斷修道斷不斷者。緣非學非無學。是見道斷修道斷不斷者。緣見道修道斷。緣名緣義者。緣名緣義。緣自身他身非身者。是緣自身他身。是離欲得方便得者。是離欲得。亦以方便離欲時。得方便起現在前。初禪者離欲界欲得。乃至第四禪者。離三禪欲得。聖人佛法。凡夫得本會得。念前世智。離欲時。得方便起現在前。佛不以方便起現在前。辟支佛以下方便。聲聞或以中。或以上方便。問曰。念前世智方便云何。答曰。如施設經說。初行始入法者。取次前滅意識相。念已知之。復取久滅意識相。問曰。取久滅意識相。為以時為以利那耶。答曰。以時。若以利那者。則不能念半便死。可是方便。無滿足者。取此生老時相。念已知之。次取中年時相。次取少年時相。次取童子時相。次取嬰孩時相。次取波奢佉時。次取健那時。次取卑尸時。次取阿

前頁 不分卷及品 (五)十陰 四界 者二不 智十(知)

浮陀時。次取迦羅羅時相。念已知之。次取欲入母胎時心相。念已知之。是名念前世智滿足。不應作是說。所以者何。中有中死。次入母胎中有。即屬此生。評曰。應作是說。若能念知前世死時最後一剎那者。是名念前世智滿足。問曰。欲修念前世智時。為緣自身為緣他身。答曰。或有說者。緣自身。問曰。若然者。無色界命終者。則不可爾。復有說者。緣他身。評曰。應作是說。緣自身。亦緣他身。緣自身作方便。若自見從無色界命終者。則緣他身。令得滿足。若緣他身作方便。見他從無色界命終者。則緣自身。令得滿足。是故緣自身他身。修念。前世智。令得滿足。

◎問曰。念前世智。為念會所更事。為念未曾更事耶。答曰。念會所更事。問曰。若然者。則無念生淨居天者。所以者何。無有會生淨居天者。答曰。會更有二種。謂若見若聞。淨居天處。雖不曾見。而得會聞。

問曰。為因欲界生此智耶。為因色界生此智耶。答曰。亦因欲界。亦因色界。或有因欲界作方便。於色界得滿足。或有因色界作方便。於欲界得滿足。或有因欲界作方便。於色界得滿足。因欲界作方便。於色界得滿足者。與惡性難共住。衆生同在一處。作是思惟。如此惡性難共住。衆生必是於欲界命終者。觀察是時。乃是色界命終者。因色界作方便。於欲界得滿足者。與善性易可共住。衆生同在一處。作是思惟。如此善性。易可共住。衆生必是

色界命終者。觀察是時。乃是欲界命終者。因欲界作方便。於欲界得滿足者。與惡性難共住。衆生同在一處。作是思惟。如此惡性難共住。衆生必於欲界命終。觀察是時。是欲界命終者。因色界作方便。於色界得滿足者。與善性易共住。衆生同在一處。作是思惟。如此善性。易可共住。衆生必是色界命終者。觀察是時。是色界命終者。

問曰。為觀一世。為觀多世耶。答曰。初學時。觀一世。滿足時。觀百千萬世。世尊初學時。則能觀百千萬世。問曰。為能捨過百千萬世。乃觀久遠百千萬世不耶。答曰。初學則不能。後滿足時則能。世尊初學則能捨過百千萬世。乃觀久遠百千萬世。問曰。次第觀前世。乃至久遠。若欲止時。各還次第止耶。為一時止耶。答曰。或有說者。還次第止。評曰。應作是說。隨意而觀。亦隨意而止。問曰。次第觀前世。經久遠時。捨已即能觀未來世耶。答曰。佛世尊能非餘人。所以者何。佛世尊觀前世智。次第能生觀未來智。觀未來智。次第能生觀前世智。不以方便一切功德悉現。前故。

問曰。於一剎那中。能觀幾世耶。答曰。一世。何以知之。如毘尼中說。尊者輸毘多。作如是說。我一發意頃。能憶念五百世生事。諸比丘。皆言。應驅逐之。所以者何。自稱得無有是事。過人法故。佛告諸比丘。不應驅逐是比丘。所以者何。是比丘從無想天來生此間。無想天壽。經五百劫。憶念一生事故。言五百世。問曰。於一時頃。能觀幾趣耶。答曰。或有說

者。能觀一趣。復有說者。能觀二趣。謂地獄趣。畜生趣。或畜生。餓鬼趣。或畜生。天趣。或畜生。人趣。若觀轉輪王時。則憶念三趣。謂人。畜生。餓鬼趣。人趣者。王及臣屬。畜生趣者。是象馬。餓鬼趣者。是受祭祀鬼神及轉輪等諸神。若觀頂生王時。則憶念四趣。畜生趣。是象馬。餓鬼趣。是受祭祀神。天趣。是帝釋及眷屬。人趣。是頂生及眷屬。無有是處。以分別故說。若令五趣共在一處者。亦於一時能憶念五趣。

佛經說。常見有三種。有憶念二萬劫者。有憶念四萬劫者。有憶念六萬劫者。問曰。何等常見憶念二萬劫事。何等四萬劫。何等六萬劫耶。答曰。常見者。根有上中下。下者。憶念二萬劫。中者。四萬劫。上者。六萬劫。復次。或有憶念水火風劫者。憶念火者。二滿劫。水者。四萬劫。風者。六萬劫。復次。或有憶念喜樂捨根壞時。憶念喜根壞者。二萬劫。樂根四萬劫。捨根六萬劫。復次。或是聲聞性。或是辟支佛性。或是佛性。聲聞性者。憶念二萬劫。辟支佛性者。憶念四萬劫。佛性者。憶念六萬劫。

若是他心智。盡知他心心數法耶。答曰。或是他心智。不知他心心數法。乃至廣作四句。是知他心智。不知他心心數法者。他心智在過去未來。有如是相。不知他心心數法。所以者何。過去者所作已竟。未來者未有所作。是知他心心數法。非他心智者。猶如有一。若以相知。若聞其說。若生處得。如是智故。能知。問曰。誰能以相知耶。答曰。人能。會聞。跋難陀釋子。至一優婆塞家。其家門邊。

◎卷第七十五終◎ ◎卷第七十六智健度他心智品之二首◎ ◎卷第七十六智健度他心智品第二之二首◎ 造號釋號譯號同異如卷第二十三 ◎住二生◎ ◎常二當◎

繫一。駭。時跋難陀釋子。語優婆塞言。汝家門邊所繫犢子。其色斑駁。若以其皮。作敷具者好。時優婆塞。作是思惟。是比丘。欲得是犢子皮。以為敷具。即便殺犢。以皮與之。時跋難陀釋子。持其犢皮。往詣祇洹。犢母嗚呼而隨逐之。如是等名。以相知。誰聞說能知耶。曾聞。有一居士。著新衣服。詣祇洹精舍。跋難陀釋子。見已而語之。善哉居士。汝所著衣中。作僧伽梨。多羅僧安陀會者。數具。是時居士。作是思惟。是比丘。欲得我衣。即便與之。復有說者。聞說能知。即是以相知。經文應如是說。若以相知。若卜筮。知他心心數法。以相知者。如先說。卜筮。知者。如諸外道。或以指卦。或觸衣物。若以算術。若逆取相。便能知他心心數法。誰有生處得智耶。答曰。地獄眾生。然無定名者。問曰。生處得智。為生時能知中時能知。後時能知耶。答曰。初生未受苦。知後受苦時。猶不能知自心。何況他心。為住善心時能知。為住穢污無記心時知耶。答曰。住三種心。盡能知。為住意識。為住五識身能知耶。答曰。住意識。知非五識。為住威儀。為住工巧。為住報心耶。答曰。住威儀。心非工巧報心。所以者何。彼眾生無工巧。故非報心。報心在五識故。畜生中亦有能知他心心數法者。曾聞。有一女人。以兒置一處。有緣餘行。時有一狼。取其兒去。時人語言。何故取他兒耶。狼作是言。此兒母常食我子。我今還食其子。若彼能捨怨心。我亦捨之。時人語是女人。可捨怨心。女人答言。我今已捨。時狼

觀女人心。不捨其怨。而口言捨。即殺其兒。捨之而去。問曰。畜生為生時知。為中時知。為後時知耶。答曰。三時盡知。為住善心。染污心。不隱沒。無記心。知耶。答曰。三種盡知。為住意識。為住五識身。知耶。答曰。住意識。知非五識身。為住威儀。工巧報心。知耶。答曰。三種盡知。餘鬼亦知他心心數法。曾聞。有鬼入一女人身中。呪師問之。何故觸惱他女人耶。彼鬼答言。此女人五百世中。與我作怨。常斷我命。我亦斷其命。彼若能捨怨心。我亦捨之。時人語是女人。可捨怨心。女人答言。我今已捨。鬼觀女心。雖口言捨。怨心不除。即斷其命。捨之而去。問曰。為生時知。為中時知。為後時知耶。答曰。三時盡知。為住善心。染污心。不隱沒。無記心。知耶。答曰。三種盡知。為住意識。為住五識身。知耶。答曰。住意識。知非五識身。為住威儀。工巧報心。知耶。答曰。三種盡知。天中亦有生處得智。能知他心心數法。然無定名。初中後知者。廣說如畜生。餓鬼。趣。餘廣說。如雜。捷度。是知他心智。亦知他心心數法者。若智是修。是修果。從修生。得不失。此智現在前。知欲色界。眾生心心數法。及無漏心心數法。非知他心智。非知他心心數法者。除上爾所事。除上爾所事者。廣如先說。行陰作此四句。此中盡說過去未來。現在他心智。及現相智。聞他說智。生得智。作前三句。餘相應。不相應。行陰四陰。及無為法。作第四句。是名除上爾所事。

作四句。是念前世智。不知前世無數生者。念前世智。在過去未來。有念前世智。相而不知前世無數生事。所以者何。過去所作。已竟。未來未有所作。知前世無數生。非念前世智者。猶如有一。有自性。念生智者。有生處得智者。誰有念生智耶。答曰。人有誰有生處得智耶。答曰。地獄眾生。如經說。地獄眾生。作如是言。沙門婆羅門。見貪欲。未來過患。故。為我等說法。應當斷欲。我等不用其言。以貪欲。因緣故。今受苦痛果報。問曰。地獄眾生。為初時知。為中後知耶。答曰。初時知。非中後。若未受苦。時則知。已受苦時。次前滅法。猶尚不知。何況久遠滅者。餘廣說。如他心智處。畜生亦有生處得智。如經說。汝若是我父都提。耶者。可昇此座。廣說如雜。捷度。問曰。為初時知。為中後知耶。答曰。初時知。中後亦知。廣說如他心智處。餓鬼亦有生處得智。如偈說

我自聚財物 以法及非法
他今受快樂 而我受苦惱

問曰。為初時知。為中後知耶。答曰。初中後盡知。廣說如他心智處。天亦有生處得智。如偈說

今此祇陀林 賢聖僧所居
法王亦在中 我心大歡喜

問曰。為初時知。為中後知耶。答曰。初中後盡知。廣說如他心智處。問曰。人中何故無生處得智耶。答曰。非其因。故。廣說如上。復次。為念生智所覆蔽。故。復次。人中雖無生處得智。而有勝妙念。前世智願。智。是念。前世智亦知前

●數二駭* ●班二班●●● ●智二知●●●* ●他二其● ●餘二餘●●● ●心二心● ●建二建●●* ●耶二那●●● ●智二知●

世無數生者。若智是修是修果從修生得不失。以此智念前世無數生。有如是相貌。非念前世智亦非念前世無數生者。除上爾所事。除上爾所事。廣說如上。此中行陰作四句。三世念前世智及現在念生智生處得智作前三句。餘相應不相應行陰四陰及無爲法。作第四句。是名除上爾所事。若是念前世智。亦知過去他人陰界入及心耶。乃至廣作四句。初句者。是自緣念前世智。第二句者。是願智方便緣他者。第三句者。是緣他念前世智。第四句者。是願智方便自緣者。此四句是略毘婆沙。是念前世智。不知過去他人陰界入及心者。若智是修是修果從修生得不失。以此智念前世。生自陰界入及心。是說自緣念前世智。知過去他人陰界入及心。非念前世智者。若智是修。乃至廣說。以此智知此生過去陰界入及心。是說願智方便緣他身者。言念前世智亦知過去他人陰界入及心者。若智是修。乃至廣說。以此智知前生過去他人陰界入及心。是說念前世智緣他者。非念前世智。亦不知過去他人陰界入及心者。若智是修。乃至廣說。以此智知此生過去自身陰界入及心。是說願智方便緣自身者。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十

阿毘曇毘婆沙論卷第五十一

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

譯

智健度他心智品第二之三

有自性念生智。問曰。自性念生智體性是何答曰。體性是慧。彼心聚中。以念力多故。名念生智。如念處安那般那念。除去色。想亦如是。此是自性念生智體性。乃至廣說。

已說體性。所以今當說。何故名自性念生智。答曰。生而得此智故。名自性念生智。復次住善心性不善心性無記心性能知故。名自性念生智。復次過去法更不緣故名自性。能知此法故名自性念生智。

問曰。爲作何業得是智耶。答曰。或有說者。常爲衆生。說歡喜樂聞語。彼業能生如是報。復有說者。若修治狹小處。令使寬博。以此業故。在母胎中。而不迫迫。以是業故。能生此報。復有說者。若人以甘美飲食施他。彼業得如此報。評曰。應作是說。此是不惱害他業報。若衆生不作惱害他業。在母胎中。則得寬博。不爲風熱冷病。血所困苦。若出胎時。亦不爲產門所逼切。以是事故。不忘所念一切衆生。若於產門。不逼切者。皆有念前世智。以爲產門所逼切故。皆失所念。問曰。念生智爲初時勝。爲中後時勝耶。答曰。或有初中後盡勝者。或有初勝者。如尸婆羅等。初生之時。作如是說。

此家中頗有種種財物及諸穀米。可以施於貧窮者不。或有中時勝者。如賴吒波羅等。或有後時勝者。如菴摩羅吒等。

問曰。念生智爲念幾生耶。答曰。或有說者。念一生。復有說。念二生。乃至七生。會聞。王舍城中。有屠兒名伽吒。是阿闍。賁王少時親友。而語阿闍。賁言。太子。汝若登王位。與我作何善事耶。阿闍。賁答言。與汝從心所願。阿闍。賁害其父命。而登王位時。屠兒伽吒。往詣王所。而白王言。大王往日許我所願。今正是時。王答之言。隨意求索。時伽吒屠兒。便說心願。使我於王舍城內。獨得屠殺不聽餘人。時王語言。汝今何用是弊惡。願爲更求餘願。是時屠兒。復語王言。善惡諸業。悉無果報。王語之言。何以知之。作是說耶。屠兒答言。大王當知。我自憶念。於七世中。在王舍城。常屠羊自活。命終之後。生三十三天。至聞是語。極生疑怪。卽以是事。而往白佛。佛告王言。如其所說。而無有異。此人施辟支佛食。發於邪願。使我於王舍城中。常獨殺羊賣肉。以此業故。七生人中。七生天上。今於此身。業報已盡。却後七日。身壞命終。當生盧臘地獄。以是事故。知念生智。憶念七世。復有說者。能念五百世事。會聞。有一比丘。自念五百世。次第常生餓鬼中。若憶念過去飢渴苦時。則於諸有。而生苦想。斷一切緣。獨勤行精進。得須陀洹果。作是思惟。我恒得諸比丘所須之物。使我行道。我今應當還求所須施諸比丘。卽行勸化。時諸比丘。而語之言。汝先懶惰。今以

此家中頗有種種財物及諸穀米。可以施於貧窮者不。或有中時勝者。如賴吒波羅等。或有後時勝者。如菴摩羅吒等。

言二是一 不分卷及品 想二相 血十(血) 門十(門) 黃二世 言二日 獨一 一

何故。勤行教化。時彼比丘。即向諸比丘。廣說上事。以是事故。知念生智。憶念五百世事。復有一比丘。自憶念次第五百世。生地獄中。若憶念受地獄苦時。身毛孔血。流出而。汚身及衣。日詣水澡浴洗衣。勤行精進。得阿羅漢果。更不澡浴洗衣。時諸比丘。而語之言。汝常澡浴洗衣。以水為淨。今何以不。此比丘向諸比丘。廣說上事。如此憶念五百世事。復有或憶念世界成時者。曾聞有旃陀羅王。名多羅。蠅佞。善通呪術及諸論。有子名奢頭羅。顏貌端正。當於爾時。尊者舍利弗。作婆羅門。名弗伽羅。婆羅。善通皮陀及皮陀分經。有女名波翅多。時旃陀羅王。往詣弗伽羅。婆羅所而語之言。可以汝女用妻我子。時弗伽羅。婆羅。便生瞋恚。而語之言。汝於四姓卑下。我於四姓尊貴。何緣以女用妻汝子。時旃陀羅王。語婆羅門言。夫。種族姓尊卑。無有常定。汝頗曾聞。誰造梵書耶。婆羅門答。言。我聞是瞿頻陀羅婆羅門所造。復問。誰造佉盧吒書耶。婆羅門答。言。我聞是佉盧吒仙人所造。復問。誰造此。皮陀及。皮陀分經。而答之言。皆是往昔大婆羅門等之所造。作。時旃陀羅言。如是等往昔諸人。皆是我身。時婆羅門。聞是語已。心生歡喜。便以己女。而妻其子。如此憶念世界成時事。

若以自性念生智知者。何故但說憶念七世或五百世。乃至憶念世界成時。而不說憶念九十一劫者耶。答曰。應作是說。佛以念前世智知。問曰。若然者。何故但說九十一劫。而不多耶。尊者波奢說曰。若說百劫。亦生此疑。但說此不違法相。復次九十一劫中。有七佛出世故。復次從此已來。種相好業故。復有說者。以自性念生智知。問曰。若然者。何故說自性念生智憶念七世。若五百世。乃至劫成時。而不說九十一劫耶。答曰。餘人如此。佛則多知。問曰。自性念生智。為憶念中有時不。答曰。或有說者。不知。所以者何。中有微細。非自性念生智境界故。評曰。應作是說。憶念中有。所以者何。若不憶念者。於前生則憶念少。多。不憶念少分。

問曰。菩薩前身時。有自性念生智最後身時。為有不耶。若有者。云何緣力勝因力耶。若無者。菩薩云何轉衰退耶。答曰。應作是說。最後身有。問曰。若然者。云何現在外緣力。勝過去內因力耶。答曰。不以無外緣力。故名為內因力。乃以利根故。名內因力。菩薩於一切眾生。根利最勝。誰作是說。菩薩最後身。無外緣力耶。淨居諸天。為現老病死苦。亦因彌伽釋王女。為說讚涅槃。偈如說

安樂以為母 無憂以為父
寂靜以為妻 不久汝當得

見聞是事。心生厭患。然後出家。過去諸佛。亦為菩薩。說道具諸法。如是等。豈非外緣力耶。復有說者。最後身無。問曰。若然者。云何菩薩

轉衰退耶。答曰。菩薩雖無此智。而有勝妙念前世智願智。

云何時心解脫。云何不動心解脫。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說。佛告阿難。比丘。不應樂著聚集種種談議。所以者何。若樂著聚集種種談議。欲求身證時心解脫。不動心解脫者。無有是處。若比丘。不樂著聚集種種談議。欲求身證時心解脫。不動心解脫者。斯有是處。佛經雖作是說。而不廣分別。云何是解脫體性。云何得此解脫。根。稜度。雖說得是二解脫。而不說此二解脫體性。今欲說此二解脫體性。而作此論。復有說。所以作論者。或說時心解脫是有漏。非時心解脫是無漏。欲止如是說者。亦明此二解脫是無。漏。復有說。所以作此論者。或有說時心解脫是有為。非時心解脫是無為。為止如是說者。亦明此二解脫是有為。復有說。所以作論者。或有說時心解脫是學。非時心解脫是無學。所以者何。時心解脫有所作故。非時心解脫無所作故。為止如是說者。亦明此二解脫俱是無學。而作此論。

一切有為無為法中。二法。是解脫體性。有為法中。是大地中解脫。無為法中。是數滅。大地中解脫有二種。謂染污不染污。染污者。邪解脫。不染污者。正解脫。正解脫有二種。有漏無漏。有漏者。與不淨無量等相應者。是也。無漏者。學無學。學者。與苦法忍乃至金剛喻定相應者是也。無學者。是阿羅漢。阿羅漢有二種。謂時心解脫。非時心解脫。時心解脫者。

①類一廣②③ ④安二婆⑤⑥ ⑦〔婆羅〕一⑧⑨ ⑩〔種〕一⑪⑫ ⑬皮二連⑭⑮ * ⑯念二在⑰ ⑱多二分⑲⑳㉑ ㉒二種㉓㉔㉕ ㉖漏十(故)㉗㉘ ㉙(謂)十有㉚

五種阿羅漢。非時心解脫者。是一種阿羅漢。此二種阿羅漢。離欲得無欲。是心解脫。離無明是慧解脫。問曰。若離欲得無欲。是心解脫。云何時心解脫。答曰。是不貪善根。對治於貪。云何非時心解脫。答言。是不癡善根。對治於癡。如是解脫是善根性耶。答曰。集法經文應如是說。云何時心解脫。答曰。言與不貪善根相應解脫是也。云何非時心解脫。答言。與不癡善根相應解脫是也。此文應如是說。而不說者。有何意耶。答曰。或有為不貪故而斷貪心。或有為不癡故斷於癡心。是故作如是說。問曰。何故名時解脫。答曰。待時得故名時。待時者。待於六時。六時者。謂衣食臥具說法。待衣者。得好細軟衣。則能得解脫。不得則不得解脫。待食者。若得蘇蜜肉等美食。能得解脫。不得則不得解脫。待臥具者。若得厚軟臥具。能得解脫。不得則不得解脫。待說法者。若聞善方便說。法人所說。則能得解脫。不聞則不得解脫。待方者。若其方寂靜無諸亂鬧。則能得解脫。若不寂靜。則不得解脫。待人者。若得善性易共住人同處者。則能得解脫。不得則不得解脫。何故名非時解脫耶。答曰。不待時而得解脫。名非時解脫。不待時者。不待六時。謂衣食臥具說法。方人等。不待衣時者。著糞掃衣。能修善法。勝時解脫。脫著價值百千兩衣。不待食時者。雖食下賤麤食。而能修道。勝時解脫。脫食百味食。不待臥具時者。坐於石上。而能修道。勝時

解脫。坐厚軟座上。不待說法時者。若聞無方便說。法人所說。則速入禪定。不待方時者。若其方多聲亂鬧。則速入定。不待人時者。若得惡性。難共住人。而共同處。則速入定。復次狹小道。得此法故。名時解脫。問曰。何者是狹小道。答曰。或有於一身中。種善根。第二身成熟。第三身得解脫。若不狹小道得者。名非時解脫。何者非狹小道。或有於六十劫而修方便。如尊者舍利弗。或有於百劫而修方便。如辟支佛。或有於三阿僧祇劫而修方便。如佛世尊。復次以劣弱道得故。名時解脫。何者是劣弱道。於彼善法。不數數修。不常修。一切時修。若於日初分修。中分後分則不修。若於初夜修。中夜後夜則不修。與上相違。名非時解脫。復次以多定道得故。名時解脫。以多慧道得故。名非時解脫。復次行者。若為適意。不適意。利益。不利益。苦樂。所須。具作障礙者。名時解脫。與上相違。名非時解脫。時解脫是五種阿羅漢。非時解脫是一種不動法阿羅漢。問曰。何故五種阿羅漢。是時解脫。答曰。各有勝故。五種阿羅漢。是時解脫。以人多故。一種不動法阿羅漢。是非時解脫。合三乘道故。亦有等義。俱在無過。清淨身中生故。復次以下人多故。五種阿羅漢。名時解脫。以上人少故。一種不動法阿羅漢。名非時解脫。如今世間王者。大臣長者居士甚少。卑下人甚多。如是辟支佛。得波羅蜜聲聞甚少。時解脫阿羅漢甚多。復次易得易起故。五種阿羅漢。是時解脫。難得難起故。一種不動法

阿羅漢。是非時解脫。如今世人往師子。王國及真丹國。還者甚少。若從此村。至彼村。還者甚多。彼亦如是。復次時解脫法。不多用功。不有所作而得故。五種阿羅漢。是時解脫。非時解脫法。多用功。多有所作而得故。一種不動法阿羅漢。名非時解脫。復次時解脫法。有增有減故。五種阿羅漢。是時解脫。增者是勝進。減者是退。非時解脫。無增減故。一種不動法阿羅漢。是非時解脫。無增者無勝進。無減者無退。如說時解脫是愛法。問曰。何故時解脫是愛法耶。答曰。如經本說。時解脫阿羅漢。守護愛重此法。使我於此法莫退。如人唯有一目。其家眷屬。皆共護之。不令冷熱風。空而毀壞之。彼亦如是。復次時解脫阿羅漢。於解脫不得自在。多用功。乃現在前。起現在前。心生歡喜。故名愛法。非時解脫。於解脫得自在。不多用功。而現在前。起現在前。心不生喜。不名愛法。復次時解脫阿羅漢。有退。以畏退故。數數起解脫。現在前。非時解脫阿羅漢。無退。以不畏退故。不數數起解脫。現在前。復次時解脫阿羅漢。多人所愛用。故名愛法。與此相違。名不愛法。復次時解脫阿羅漢。以多信得道。故名愛法。非時解脫阿羅漢。以慧多得道。故名不愛法。復次非時解脫阿羅漢。有憎惡聖道善根。如空。空無願。無願。無相。無三昧。以此善根。憎惡聖道。故不愛此法。時解脫阿羅漢。無此善根。故愛護此法。經本雖不說。義應如是。問曰。何故非時解脫阿羅漢。名不動法耶。

◎白二言◎◎蘇二蘇◎◎脫十(者)◎◎修十(不)◎◎王二主◎◎卷第七十六終◎◎卷第七十七智健度他心智品之三首◎◎卷第七十七智健度他心智品第二之三首◎◎造號釋號譯號同異如卷第二十三◎◎(空無相)九字二(無願無相)九字◎

答曰。以勝妙故。如。今世間所有勝妙飲食衣服瓔珞所在之處。不動人瞋心彼亦如是。復次煩惱能令人心動。能令人心生。而不熟濕而相著以穢污故。在善心上。無其勢力故。不得自在。故名不動。復次已斷煩惱。更不復退。故名不動。如善射人正射於的。稱言不動彼亦如是。如經說。佛告舍利弗。若比丘比丘尼。有不動解脫法寶瓔珞者。能斷不善法。修於善法。問曰。何故不動解脫。名法寶瓔珞耶。答曰。以堅牢故。勝妙故。無過故。輕舉故。無垢故。清淨故。難得故。名寶瓔珞。復次譬如泉池之中。若以寶珠投之。則不雜垢穢。若人身中。有不動解脫寶瓔珞者。則不雜煩惱垢穢。亦復如是。復次如人屋中有摩尼寶珠者。則無黑闇。若人身中有不動法寶珠者。則無無明黑闇。亦復如是。復次如方寶珠所置之處。即安不動。若人身中有不動解脫方寶珠者。其心不動。亦復如是。復次如人家中。有無價寶珠者。其家畢。竟無貧窮之苦。若人身中。有不動寶珠者。其人永斷聖道貧窮之苦。亦復如是。復次譬如如意寶珠安置幢上。隨人意念。種種寶寶。能令百千衆生離貧窮苦。佛世尊亦爾。以不動寶珠。安置四無量幢上。隨衆生所念。種種寶寶。除去衆生貧窮法寶之苦。亦復如是。問曰。若不動心解脫。是勝妙法者。何故經說是不增不減法耶。答曰。行者等得此法故。若滿東方有利利子。若滿南方有婆羅門子。若滿西方有居士子。若滿北方有首陀子。剃除鬚髮。身著法服。信家非

家於正法出家。皆身證不動心解脫。而此法無有增減。復次欲說佛法饒財多寶故。佛法除不動心解脫。更有無量餘善法功德。不動心解脫。唯一法故。復次欲現如來身中。有無量功德故。除不動心解脫。更有無量餘善功德。不動心解脫。唯一法故。復次欲令疑者得決定故。經說。尊者目。捷連。於僧中擯出瞻婆比丘。諸比丘。咸有是念。今僧減少。佛作是說。若我弟子。得深遠勝妙。不動心解脫。於僧中出者。不能令僧有增有減。何況彼犯戒衆威儀。遠離白淨法者。豈能令僧有增減耶。復次此法是無增無減法故。無增者無勝進。無減者不退失。一切時心解脫。盡與盡智相應耶。問曰。何故作此論。答曰。欲令疑者得決定故。時解脫阿羅漢。修三種慧。謂盡智無學正見。非時解脫阿羅漢。修三種慧。謂盡智無生智。無學正見。或謂如時解脫阿羅漢。修二種慧。非時解脫者亦爾。如非時解脫阿羅漢。修三種慧。時解脫亦爾。欲決定說時解脫修二種慧。非時解脫修三種慧。故而作此論

諸時解脫。盡盡智相應耶。廣作四句。如經本說。盡智者。時解脫阿羅漢。金剛喻定一剎那頃現在前。盡智次第相續起現在前。從盡智起。或起無學正見。或起世俗心。非時解脫阿羅漢。金剛喻定。盡智俱一剎那頃現在前。次第相續起無生智現在前。從無生智起。或起無學正見。或起世俗心。一切阿羅漢。盡修無學正見。不必盡起現在前。問曰。盡智無生智。有何差別耶。答曰。或有說者。名即差別。是名盡智。是名無生智。復次所作已竟名盡智。從無學因生名無生智。復次或未會得而得。或會得而得。名盡智。未曾得而得。名無生智。復次解脫道勝進道所攝名盡智。唯勝進道所攝。名無生智。復次盡智有五種阿羅漢。無生智有一種阿羅漢。謂不動心解脫。盡智無生智。是謂差別。問曰。初盡智爲是何智耶。答曰。或有說者。是苦比智。所以者何。行者初入聖道時觀果。出亦觀果。如以毒箭射獸。毒遍身中。後若死時。毒氣還在瘡孔。彼亦如是。復有說者。是集比智。所以者何。行者入聖道時觀果。出聖道時觀因。如是生死法。或是因是果。若知因知果。則生死道斷。名爲苦邊。評曰。應作是說。是苦比智集比智。若是苦比智非集比智。若是集比智非苦比智。阿毘曇毘婆沙論卷第五十一

阿毘曇毘婆沙論卷第五十一

①迦旃延子造 ②五百羅漢釋
③北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

智健度他心智品第二之四

我生已盡者。爲盡過去生。爲盡未來生。爲盡現在生。言我生盡耶。若盡過去生。過去生已滅。若盡未來生。未來生未至。若盡現在生。現在生不住。答曰。應作是說。盡三世生。所以

①今二合 ②無其二不堪 ③自二目 ④克十(更) ⑤唯二惟 ⑥健二健 ⑦唯二惟 ⑧不分卷及品 ⑨(論)一 ⑩第五十二第一一 ⑪(迦旃延子造)一 ⑫(五百羅漢釋)一 ⑬[北涼...譯]十五字一 ⑭第二之四二

者何。此中言生者。是非想非非想處四陰。行者於三世中。盡明見故能離非非想處。尊者佛陀提婆說曰。佛經說。牟尼見生盡。亦作是問。爲見過去生未來生現在生盡言生盡耶。答曰。應作是說。見未來生盡。所以者何。行者修一切梵行苦行。盡爲止未來生故。如人有三厄難。一者已受。二者今受。三者當受。已受者受竟。今受者忍受。當受者若以財物若因親族力。作諸方便。斷當生者。行者亦爾。過去不用功已滅。現在生當忍受竟。未來生以正方便滅。永令不生。生有多種。或說。入母胎時名生。或說。出母胎時名生。或說。時五陰名生。或說。不相應行陰少分名生。或說。非想非非想處四陰名生。何處說入母胎時名生者。如經說。諸家生彼彼處生出現出母胎時名生者。如說。菩薩已生。行於七步。說時五陰名生者。如說。有緣生。說不相應行陰名生者。如說。一刹那頃。誰起耶。謂生也。說非想非非想處四陰名生者。如此中說。我生已盡。梵行已立者。爲立學道。名梵行已立。爲立無學道。名梵行已立。答曰。已立學道。名梵行。已立無學道。名今立。所作已辦者。已斷一切煩惱所作事已竟。復次畢竟盡一切界。畢竟盡一切生。畢竟斷一切增長生死法。名所作已辦。不受後有者。是明無生智。尊者和須蜜說曰。若不斷煩惱。不生盡。若斷煩惱。名爲生盡。若不斷煩惱。不名梵行已立。若斷煩惱。名爲生盡。若不斷煩惱。不名所作已辦。若斷煩惱。名所作已辦。若不斷

煩惱。名受後有。若斷煩惱。名不受後有。問曰。一切阿羅漢。不盡得無生智。何以故。一切經中。盡說不受後有耶。答曰。佛說利根。與經相應者。然集經法者。一切經中皆說。復有說者。集法諸尊者。皆有願智無礙智。以觀察之。若利根與經相應者說之。後有不善誦持經者。一切經中。皆作是說。評曰。應作是說。一切阿羅漢。盡不受後有。

問曰。何等阿羅漢。修二種慧。何等阿羅漢。修三種慧。答曰。或有阿羅漢。心善解脫。慧善解脫。或有心善解脫。慧不善解脫。若心善解脫。慧善解脫者。修三種慧。若心善解脫。慧不善解脫者。修二種慧。復次或有以苦智集智盡三界結者。或有滅智道智盡三界結者。若以苦智集智盡三界結者。修三種慧。若以滅智道智盡三界結者。修二種慧。復次或以空苦集無願三昧。盡三界結者。或以無相道無願三昧。盡三界結者。若以空苦集無願三昧。盡三界結者。修三種慧。若以無相道無願三昧。盡三界結者。修二種慧。復次或有爲定入聖道。或有爲慧入聖道。若爲定入聖道者。修三種慧。如定道慧道。定多道。慧多道。欲可定道。欲可慧道。鈍根利根。緣力因力。說亦如是。復次或有以定修心以慧得解脫者。修二種慧。或有以慧修心以定得解脫者。修三種慧。復次得內心寂靜不得觀慧法。或有得內心寂靜亦得觀慧法。前者。修二種慧。後者。修三種慧。復次若人成就四法。甚爲希有。一親近善知識。二從其聞法。三內正思惟。四如法

修行。若成就初二種法者。修二種慧。若成就後二種法者。修三種慧。復次或有從他聞法多。或有內正思惟多。若從他聞法多者。修二種慧。若內正思惟多者。修三種慧。或有無貪善根多。或有無癡善根多。若無貪善根多者。修二種慧。若無癡善根多者。修三種慧。

我生已盡。是說盡智。梵行已立。所作已辦。不受後有。是說無生智。復有說者。我生已盡。梵行已立。是說盡智。所作已辦。不受後有。是說無生智。復次我生已盡。梵行已立。所作已辦。是說盡智。不受後有。是說無生智。問曰。無有阿羅漢。一盡智。利那後起無生智者。何況多。何故作是說。言我生已盡。梵行已立。所作已辦。是說盡智耶。答曰。雖是一刹那。而有三種義。故作是說。尊者波奢說曰。如是說者。不說盡智。不說無生智。亦不說無學正見。此是讚歎阿羅漢辭言。阿羅漢生已盡。梵行已立。所作已辦。不受後有。復次我生已盡。是說盡智。梵行已立。是說道智。所作已辦。是說滅智。不受後有。是說無生智。復次我生已盡。是說知集。梵行已立。是說知道。所作已辦。是說知滅。不受後有。是說知苦。說盡作證亦如是。復次我生已盡。是說斷集。梵行已立。是說修道。所作已辦。是說證滅。不受後有。是說知苦。復次我生已盡。是說斷因。梵行已立。是說修道。所作已辦。是說得果。不受後有。是說知體。復次我生已盡。是說集智。梵行已立。是說道智。所作已辦。是說滅智。不受後有。是說苦智。復次我生已盡。是說集無願。梵行已立。

①何二行②疑二關③說十(是說)④二二三

是說道無願。所作已辦。是說無相。不受後有是說空及苦無願。

問曰。何故名盡智。為以緣盡故名盡智。為以煩惱盡身中生故名盡智耶。若以緣盡故名盡智者。滅智應是盡智。若以煩惱盡身中生名盡智者。無生智無學正見。亦應是盡智。答曰。應作是說。煩惱盡身中生故名盡智。問曰。若然者。無生智無學正見。應是盡智。答曰。若智在初。一切皆有者。名盡智。無學正見。雖一切皆有。而不在初。無生智不在初。亦非一切皆有。盡智在初。一切皆有。故問曰。十六聖行外。更有無漏慧。不此中間答。廣說如雜。捷度。云何學明。云何學智。云何無學明。云何無學智。問曰。何故作此論。答曰。世間以種種世俗諸論。以為明想。不誠真明。欲止如是說者意。亦明真明義。故而作此論。復有說。所以作此論者。此是佛經經說。佛告居士。如汝以學智學見學明見四聖諦。今此耶奢童子。亦以無學智無學見無學明。見四聖諦。不復更住居士家受五欲樂。佛經雖作是說。而不廣分別。佛經是此論所為根本。今欲廣分別。故而作此論。

云何學明。答曰。學慧是也。云何學智。答曰。學八智是也。云何無學明。答曰。無學慧是也。云何無學智。答曰。無學八智是也。謂四法智四。比智。此是明體性。乃至廣說。

所以今當說。何故名明。明是何義。答曰。覺識了了義是明義。問曰。若覺識了了義是明義者。善有漏慧。亦覺識了了。是明義耶。答

曰。若於四真諦。覺識了了。畢竟了了。更不顛倒。廣說如雜。捷度。問曰。若善有漏慧。不名明者。佛經云何通。如說。無學有三種明。無學念前世智證明。無學生死智證明。無學漏盡智證明。答曰。有少分明勢故名明。何者是少分明。與煩惱相違。亦不難煩惱。名少分明。復次此二明。能生能隨順。實義無漏明。故名明。是故尊者須蜜作如是說。第一實義。無漏明者。是漏盡明。餘二明。能生此明。故名明。復次念前世智證明。知前際增長法。生死智證明。知後際增長法。漏盡智證明。知涅槃寂靜法。尊者佛陀提婆。亦作是說。念前世智證明。知此眾生從彼處沒來生此間。過去世因果相續法。生死智證明。知此眾生作如是業當。生彼處未來因果相續法。漏盡智證明。知此眾生以如是道能盡漏因果畢竟法。是名第一實義明。復次念前世智證明。覺識了了過去世事。生死智證明。覺識了了未來世事。漏盡智證明。覺識了了無為涅槃。復次念前世智證明。除過去無知黑闇。生死智證明。除未來無知黑闇。漏盡智證明。除於涅槃無知黑闇。問曰。何故六通中。三立明三不立明耶。答曰。身通是工巧法。天耳通。聞聲而已。他心智通。緣別相法。此三三明。能隨順厭離法。能棄生死。隨順善法。能到涅槃。問曰。此三三明。云何能隨順厭離法。能棄生死。隨順善法。能到涅槃耶。答曰。念前世智證明。見過去世事。生大厭離。生死智證明。見未來世事。生大厭離。以厭離故。漏盡智證明。能作

正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。知過去相續種種諸因。生死智證明。見諸眾生未來陰。如散微塵。生大厭離。故漏盡智證明。能作正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。知過去自身身衰惱事。生大厭離。生死智證明。見未來他身衰惱事。生大厭離。以厭離故。漏盡智證明。能作正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。除於有愚。生死智證明。除眾生愚。漏盡智證明。除於法愚。復次念前世智證明。對治常見。生死智證明。對治斷見。漏盡智證明。對治常二邊。住於中道。復次念前世智證明。能生空。生死智證明。能生無願。漏盡智證明。能生無相。以如是等義故。此三三明隨順厭離之法。能棄生死隨順善法。到於涅槃。集法經說。有三種無學明。謂念前世智證明。生死智證明。漏盡智證明。云何無學念前世智證明。答曰。知諸眾生生死為相續法。無學智。云何無學生死智證明。答曰。知諸眾生自所作業。無學智。云何無學漏盡智證明。答曰。盡漏無學智。問曰。漏盡智證明。言是無學可爾。餘二明是非學非無學。何故說。是無學明耶。答曰。集法經。應作是說。無學人有三明。而不說者。有何意耶。答曰。二明雖是非學非無學。以是無學人身中可得故。亦名無學。如施設經說。三昧有二種。一是聖二非是聖。聖三昧有三種。一善有漏。二無漏。三不隱沒無記。善有漏三昧。以善故名聖。不以無漏。無漏三昧。以善故以無漏故名聖。不隱沒無記三昧。亦非善亦非無漏。而名聖者。以是聖人身中可

覺識了了過去世事。生死智證明。覺識了了未來世事。漏盡智證明。覺識了了無為涅槃。復次念前世智證明。除過去無知黑闇。生死智證明。除未來無知黑闇。漏盡智證明。除於涅槃無知黑闇。問曰。何故六通中。三立明三不立明耶。答曰。身通是工巧法。天耳通。聞聲而已。他心智通。緣別相法。此三三明。能隨順厭離法。能棄生死。隨順善法。能到涅槃。問曰。此三三明。云何能隨順厭離法。能棄生死。隨順善法。能到涅槃耶。答曰。念前世智證明。見過去世事。生大厭離。生死智證明。見未來世事。生大厭離。以厭離故。漏盡智證明。能作

正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。知過去相續種種諸因。生死智證明。見諸眾生未來陰。如散微塵。生大厭離。故漏盡智證明。能作正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。知過去自身身衰惱事。生大厭離。生死智證明。見未來他身衰惱事。生大厭離。以厭離故。漏盡智證明。能作正觀斷於煩惱。復次念前世智證明。除於有愚。生死智證明。除眾生愚。漏盡智證明。除於法愚。復次念前世智證明。對治常見。生死智證明。對治斷見。漏盡智證明。對治常二邊。住於中道。復次念前世智證明。能生空。生死智證明。能生無願。漏盡智證明。能生無相。以如是等義故。此三三明隨順厭離之法。能棄生死隨順善法。到於涅槃。集法經說。有三種無學明。謂念前世智證明。生死智證明。漏盡智證明。云何無學念前世智證明。答曰。知諸眾生生死為相續法。無學智。云何無學生死智證明。答曰。知諸眾生自所作業。無學智。云何無學漏盡智證明。答曰。盡漏無學智。問曰。漏盡智證明。言是無學可爾。餘二明是非學非無學。何故說。是無學明耶。答曰。集法經。應作是說。無學人有三明。而不說者。有何意耶。答曰。二明雖是非學非無學。以是無學人身中可得故。亦名無學。如施設經說。三昧有二種。一是聖二非是聖。聖三昧有三種。一善有漏。二無漏。三不隱沒無記。善有漏三昧。以善故名聖。不以無漏。無漏三昧。以善故以無漏故名聖。不隱沒無記三昧。亦非善亦非無漏。而名聖者。以是聖人身中可

①道十(智)②廣二應③捷一健④比二此⑤是二學⑥實二廣⑦知二智⑧(生)一⑨聞二問⑩三二二⑪(之)一⑫言二日⑬說二從

得故名聖。彼亦如是問曰。何故無學人身上不立明學人身上不立明耶。答曰。以明義勝故。若以法而言。無學法勝於學法。若以人而言。無學人勝於學人。復次不雜無明故名明。學人身中慧。雜無明故不名明。

如來身中所有漏盡智有四事。一名通。二名明。三名力。四名示現。通者是漏盡通。明者是漏盡明。力者是漏盡力。示現者是說法示現。辟支佛無學聲聞所有漏盡智有三事。一是漏盡通。二是漏盡明。三是示現非力。如來身中所有念前世智生死智有三事。一是通。二是明。三是力。非示現。辟支佛無學聲聞所有念前世智生死智有二事。是通。是明。非力。非示現。學人身中所有念前世智生死智有一事。謂是通。非明。非力。非示現。問曰。如來身中所有智立力。非辟支佛聲聞身中智耶。答曰。無障礙。礙義是力義。聲聞辟支佛智為無智所障。礙故非力。曾聞佛世尊。尊者舍利弗。共一處經行。有一衆生。來詣其所。佛告舍利弗。汝可觀是衆生。過去世中。何處與是衆生而共同。止。時尊者舍利弗。即以初禪念前世智觀不知。乃至以第四禪念前世智觀亦不知。即從定起。而白佛言。我觀是衆生。都不能見所從來處。佛告舍利弗。辟支佛所有智見。過於汝等。復過辟支佛所有智見。此衆生從某世界來生此間。後時世尊與舍利弗。復在一處經行。時有一人命終。世尊見已。告舍利弗言。汝可觀是人。爲生何處。時尊者舍利弗。即以初禪天眼觀之。而不能見。

乃至起第四禪天眼觀之。亦不能見。即從定起。而白佛言。我以天眼觀察是人。不知爲生何處。佛告舍利弗。過辟支佛所知境界。有某國土。此人人生於彼中。問曰。如來所有念前世智生死智勝妙可爾。如佛漏盡智聲聞辟支佛亦爾。何故佛漏盡智立力。非聲聞辟支佛耶。答曰。佛漏盡智亦勝妙。如來身中所有漏盡智。其性猛利。若緣煩惱。煩惱即斷。聲聞辟支佛漏盡智。不猛利。故數緣緣煩惱。煩惱乃斷。譬如二人斫樹。一人勇健。加用利斧。一人性劣。又用鈍斧。雖俱斫樹。而勇健以利斧者疾。非性劣以鈍斧斫者。彼亦如是。非以自身所有漏盡智名爲力。令彼衆生得漏盡。故名力。世尊知此衆生以苦遲。通能盡漏。此衆生以樂速。通能盡漏。是故名力。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十二
迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

問曰。此六通何故。三示現。三非示現。答曰。令他信樂生希有想。入於法者。名爲示現。三通不爾。若作是說。我天耳聞聲。天眼見色。能知過去無數生事。人皆生疑。此事或虛或實。曾聞有一居士。請尼捷陀若提子及弟子衆。於其家食。時尼捷陀若提子既入其家。而便微笑。居士問言。大師已離種種調戲。今何故笑。師答之言。今我法中所有妙法。汝可悉得聞耶。是時居士殷勤重問。而便答言。南。拔提河側。有二獼猴。共鬪不已。忽然墮河。爲水所漂。是以我笑。是時居士。而作是言。大師天眼。甚爲希有。明淨乃爾。時諸尼捷。各坐其床。次第下食。以飯覆羹。而上其師。餘諸尼捷。以羹在上。諸餘尼捷。應時皆食。其師而獨不食。居士問言。大師。今者何故不食。師答之言。此飯無羹。是以不食。是時居士。便語師言。天眼明淨。希有乃爾。見南。拔提河側獼猴墮河。而不見飯底羹耶。以是事故。三通非示現。不能令他信樂生希有想。入於佛法。若以身通。令一身爲多。多還爲一種。種種變化。上至梵世。令多衆生。生希有想。若有知他心所念法者。語他人言。汝有如是念。作如是思。惟悉如其心。而不相違。令多衆生。於佛法中。生希有想。若爲他說法。使遠塵離垢。得法眼淨者。亦令多衆生。於佛法中。生希有想。以是事故。三通令他信樂生希有想。入於佛法。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十二

智捷度他心智品第二之五

問曰。此六通幾是明非示現。幾是示現非明。幾是明亦是示現。幾非是明亦非示現耶。答曰。二示明非示現者。謂念前世智生死智。二示現非明者。謂身通他心智通是。明亦示現者。謂漏盡通。非明非示現者。謂天耳通。

問曰。何等人應爲現神變。何等人不應爲現神變耶。答曰。若一向信。若一向不信者。不應

①力二是②③ ④是衆一衆是⑤ ⑥止二心⑦ ⑧性劣一劣性⑨ ⑩苦一善⑪ ⑫通二道⑬ ⑭不分卷及品⑮ ⑯論二經⑰ ⑱第五十二第一一〇 ⑲捷二健⑳下同 ㉑拔二跋㉒*

為現神變。若在中不定信不定不信者。應為現神變。令入佛法。何以知之。經說。佛住那迦健陀城波婆利迦菴羅林。時有居士子。名翅跋多。往詣佛所。頭面禮足。却坐一面。而白佛言。世尊。此那迦。乾陀城。豐樂熾盛。人民衆多。加信敬佛法僧。唯願世尊。可聽一沙門於此國土諸人衆前。現上人法種種神變。使那迦健陀人於佛法僧倍生信敬。佛告居士子。我不為諸弟子作如是說。汝等來往之處。於諸人前現上人法種種神變。我為諸弟子。而作是說。汝等應覆藏善法發露惡法。爾時居士子。復白佛言。世尊。見何過患。不令諸弟子現神變。而作是說。覆藏善法發露惡法耶。佛告居士子。示現有三種。一神足示現。二知他心示現。三說法示現。云何名神足示現。居士子。若沙門婆羅門。示現種種神變。一身為多身。多身為一身。乃至梵世身得自在。有信者見向不信者說。而作是言。我見沙門婆羅門。示現種種神變。一身為多身。多身為一身。乃至梵世身得自在。時不信者語信者言。汝見此事。有何奇異。有呪名捷陀羅。有人受持讀誦。亦能示現種種神變。居士子。於意云何。如是不信者。豈非嫌責諸信者耶。居士子白佛言。世尊。實生嫌責。復次居士子。若沙門婆羅門。說他人心中所念。汝有如是念如是思。惟悉如其言。而無慮者。有信者聞向不信者說。而作是言。我見沙門婆羅門。知他心中所念法。乃至廣說。時不信者言。汝見此事。有何奇異。有呪名利尼迦。若有受持讀誦之者。能知

他人心中所念法。乃至廣說。居士子。當知我。如是過患。不聽諸弟子。示現種種神變。而作是說。汝等當覆藏善法發露惡法。以是事故。一向信一向不信。不應為示現種種神變。若在中不定信不定不信者。應為現神變。令入佛法。問曰。何故名示現。答曰。如守門者法。故名為示現。如守門人。示現內法。令外人知。示現外法。令內人知。示現內法。令外人知。如說王今在內。澡浴飲食。觀種種珍寶。示現外法。令內人知者。如說今某國某村。持如是信物。今在門外。以是事故。如守門者法。故名為示現。

佛經說菩薩於夜初分。起通起明。於夜中分。起通起明。於夜後分。起通起明。問曰。菩薩何故初中後夜起通明耶。答曰。是恒河沙等諸菩薩。次第行法。復次初中後夜起通明者。欲令此身成法器故。復次欲令所作了了分明故。復次欲安足故起通。欲遠照故起明。復次喻如無礙解脫道故起通明。通如無礙道。明如解脫道。復次喻如見道修道故。通如見道。明如修道。復次喻如善有漏法無漏法有漏無漏無記法故。二通是善有漏。謂身通念前世智通。一通是無漏。謂漏盡智通。一通是有漏無漏。謂他心智通。二通是不隱沒無記。謂天眼天耳通。復次次第降魔衆故。曾聞菩薩修苦行。知此非道。便從彼起。受難陀難陀婆羅門。姊妹十六種。乳糜。令身有力。從吉人邊受草。詣菩提樹下。躬自敷草。猶如婆修迦龍王結身。交趺而坐。作是誓言。我

於此坐不盡漏終不起。是時。天地六種震動。如大海中船。亦動自在天宮。如法陀梨葉。爾時魔王。便作是念。今此宮殿。何故震動。如此觀察。乃知是菩薩在菩提樹結交趺坐立堅固。即從自宮詣菩薩所作是言。可起利利。今時濁惡衆生剛強。汝不能得阿耨多羅三藐三菩提。正應居在轉輪王位。我當獻汝七寶。爾時菩薩。語惡魔言。汝今所說。猶如小兒。日月星宿。可令墮落。山林大地。住在虛空。欲令我於此坐不盡漏而起者。無有是處。爾時惡魔復語菩薩。今我軟美之言。而汝不用。當現大怖畏事。令汝見之。是時惡魔作是語已。便雨衆華。還詣自宮。遍告六欲諸天。汝等皆應執持種種器仗鬪戰之具。我今有怨。在菩提樹下。惡魔去後。未久之間。爾時菩薩。即作是念。若與常人。有所諍競。尚不可輕。何況欲界中尊。

爾時菩薩。審諦觀察離欲之道。速離欲界。欲起初禪神足。化作種種相對之類。魔衆作鳥形來者。化作狸貓像。狸貓形來者。化作狗犬像。狗犬形來者。化作豹像。豹形來者。化作虎像。虎形來者。化作獅子像。獅子形來者。化作刀劍火焰者。雨者作蓋。自化其身。在琉璃宮內。以用障身。不障其眼。亦化此大地。可令出聲。化作如是相對法已。復作是念。我不會為行道之人作留難耶。便起念前世智。見過去百千萬世。不會為行道之人而作留難。乃以種種行道之具。而饒益之。復作是念。我作何善業。惡魔作何善業。見於惡魔作

◎乾二總◎ ◎卷第七十七終◎ ◎卷第七十八智健度他心智品之四首◎ ◎卷第七十八智健度他心品第二之四首◎ 造說釋說譯說同如卷第二十三 ◎乳十(蜜)◎ ◎安二婆◎ ◎天二大◎ ◎鏡二竟◎ ◎以一至◎

一大無限施會如魔所作會。我復倍是百千萬數。惡魔布施福業，尚不如我。何況持戒修定福業。

爾時菩薩以福德力故，端正而坐。是時惡魔將三十六億魔軍，皆作種種惡貌形色，詣菩提樹下。爾時菩薩語惡魔言：汝作一無限施會，如汝所作無限施會，我復倍汝百千萬數。魔語菩薩：我之施會，以汝為證，誰證汝耶？爾時菩薩即以相好莊嚴之手，按地出大音聲。魔軍聞聲，尋即破壞。是時菩薩以業報天眼，見一由旬色，不聞其聲，便起天耳通。一由旬外，雖聞其聲，不見其色。次起天眼通，雖見色聞聲，不知其心為何所念。次起他心智通，知帝釋眷屬心生歡喜，魔王眷屬心生愁惱。爾時菩薩復作是念：惡魔為以何事，發是惡心，皆因五欲具，貪著五欲，皆由煩惱，以是事故，便起漏盡通。故作是說：欲次第降魔故。初中後夜，起通明現在前。

若見苦時，先得何等不壞淨。見集滅道時，先得何等不壞淨。問曰：何故作此論？答曰：或有說：一時見諦，無次第見諦，如毘婆闍婆提問曰：彼何故作如是說耶？答曰：彼依佛經。佛經說若於苦無疑，亦於集滅道無疑。若說於苦無疑，亦於集滅道無疑者，豈非一時見諦非次第耶？為止如是說者，意亦明次第見諦。若一時見諦非次第者，則違佛經。如說須達多居士，往詣佛所，作如是問：世尊為一時見諦，為次第見諦耶？佛告居士：次第見諦。非一時見諦，譬如登四栴梯法。問曰：若次第見諦非

一時者，毘婆闍婆提所引經云何通耶？答曰：彼經文應如是說：若於道無疑，亦於苦集滅無疑，應作是說，而不說者，有何意耶？答曰：佛說得果人，若一人得果，於四諦無疑，復次此經說不行疑人，若人見苦，畢竟不行於疑，故作是說。尊者佛陀提婆作如是說：行者始入見道，義名於一切處信。問曰：彼尊者說次第見諦，不說一時見諦，何故作是說耶？答曰：應解彼所說，以彼作是說：行者在苦法忍時，更無住時，必得一切信，如持泥器於三重屋上投之於地，未至之頃，義已名破。彼亦如是，是故欲止他義，欲顯己義，亦欲說法相相應義故，而作此論。

佛身中無學法，是名佛緣彼無漏信，名於佛不壞信。辟支佛身中所有三根，菩薩身中所有二根，三諦名法。若緣彼無漏信，名於法不壞信。聲聞身中所有學法無學法，若緣彼無漏信，是名於僧不壞信。無漏戒是聖所愛戒。若見苦時，先得何等信？答曰：得法即於苦法。

尊者瞿沙說曰：信過患法於苦諦，信功德法於滅諦，若見集時，先得何等信？答曰：得法即於集法。尊者瞿沙說曰：見過患法於集諦，見功德法於滅諦，若見滅時，先得何等信？答曰：得法即於滅法。問曰：行者見三諦時，得二種不壞淨，謂信及戒，何故但說信不說戒耶？答曰：應說而不說者，當知此說有餘。復次此中不問有得幾不壞淨，但問有得緣何不壞淨戒，是無緣法故，是以不說。若見道時，先得何等信？答曰：得於佛法僧不壞信，外國法師。

作如是說：見道諦三剎那頃，信根現在前時，取其相應迴轉法。有四不壞淨。彼信若緣佛身中無學法，是名於佛不壞信。若緣辟支佛身中三根菩薩二根，名於法不壞信。若緣聲聞身中學無學法，是名於僧不壞信。取其迴轉戒，名聖所愛戒。不應如外國法師所說。爾寶沙門，作如是說：彼信總緣於法，無所分別。名於法不壞信。但信現在前時，未來則有無量信修未來修信。或有緣佛無學法者，是名不共。緣於佛不壞信。或有緣辟支佛三根菩薩二根者，是名不共。緣於法不壞信。或有緣聲聞身中學無學法者，是名不共。緣於僧不壞信。或有緣佛身中無學法辟支佛身中三根菩薩身中二根，或有緣佛身中無學法聲聞身中學無學法。或有緣辟支佛身中三根菩薩身中二根聲聞身中學無學法。或有緣佛身中無學法辟支佛身中三根菩薩身中二根聲聞身中學無學法。如是等盡是共緣於法不壞信。亦得迴轉聖所愛戒。如見道諦時三剎那頃，道比智亦如是。異者行人爾時見道諦三心頃，不得修緣前三諦信，是時頃修。

問曰：如滅道體是淨，處是淨處，見時得不壞淨可爾。苦集諦體非是淨，非是淨處，所以者何。是煩惱惡行邪見顛倒法。云何見時得不壞淨耶？答曰：以二事故，得不壞淨。一是可信，二是可求。於滅道諦得不壞淨，有二事。以是可信，亦是可求。於苦集諦得不壞淨，唯有一事。是可信非是可求。尊者瞿沙說曰：若為苦集所逼，則見滅道是勝。如人為風暴所逼。

疑二疑佛十(經)處一

則見室宅為勝妙。彼亦如是。堅信人於堅信道。以二事故。得不壞淨。一是可信。二是可求。於堅法道。亦有二事。堅法人於堅法道。亦以二事。一是可信。二是可求。於堅信道。唯是可信。非是可求。信解脫道。見到道。時解脫道。非時解脫道。聲聞道。辟支佛道。佛道。隨相而說。問曰。若信舍利弗身中無學法。為是於法不壞信。為是於僧不壞信。若是法者。彼緣聲聞身中無學法。若是僧者。舍利弗一人非僧。答曰。應說是僧。問曰。若然者。一人云何是僧。答曰。若以法而言是僧。若以人而言非僧。

若依未至禪。得未曾得。於佛不壞淨現在前時。現在二謂於佛及戒。未來四若起會得者現在前。現在二未來無。乃至依第四禪說亦如是。若依無色定。得未曾得。於佛不壞淨現在前時。現在一謂信佛。未來四若起會得者現在前。現在一未來無。

問曰。云何立不壞淨。為以自體。為以所緣。若以自體者。應有二種。謂信及戒。若以所緣者。應有三種。謂佛法僧。所以者何。戒無所緣。故。答曰。應作是說。以自體亦以所緣。自體者是戒。所緣者是信。如自體所緣。自體三寶。自體三歸說亦如是。此是不壞淨體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名不壞。不壞淨是何義。答曰。種種觀解種種籌量。得名不壞淨。復次不可破故名不壞淨。若沙門婆羅門。若天若魔若梵。及餘世間。無有能如法破者。故名不壞淨。復次此信不可斷。故

名不壞淨。無有沙門婆羅門能如法斷者。廣說。如上。尊者瞿沙說曰。若於佛法。不種種觀解。不種種籌量。猶如水上不繫之船。輕躁易壞。與上相違。則不輕躁易壞。故名不壞淨。問曰。世尊何故先說於佛不壞淨。乃至後說戒不壞淨耶。答曰。若作是說。則文義隨順。說者則易。受者易解。復次佛喻如醫。法喻無病。僧喻瞻病人。戒喻良藥。復次佛能說法。故在初佛為說何法。所以次信。法為誰說。法為僧說。所以次信。僧為以何事故名僧。以戒故名僧。所以次戒。復次能示眾生成道。故先信。佛能到涅槃城。故次信法。猶如善伴。故次信僧。如資糧。故次戒。復次信佛如船師。信法如彼岸。信僧如同載者。信戒如船。

佛經說此聖所愛戒。不破不穿。不雜穢惡。智者所稱譽。問曰。聖所愛戒。何故名不破不穿。不雜穢惡。廣說如雜捷度。
阿毘曇毘婆沙論卷第五十三

阿毘曇毘婆沙論卷第五十四

迦旃延子造 五百羅漢釋
北涼天竺沙門浮陀跋摩
共道泰等 譯

智捷度他心智品第二之六

佛經說佛告比丘。若有眾生。能信樂汝所說者。汝等應以慈愍心為說。四不壞淨。令得安住修行此法。廣如契經說。問曰。世尊何故

說此經耶。答曰。欲為說法者。顯示應聽法緣。故。說法者不知應為誰說。誰不應為說。心生怯弱。佛作是說。汝等不應輕有所說。若有眾生。能信樂汝所說者。乃可為說。復次欲說報恩法故。佛說此經。經說佛告比丘。若人於百年中。一肩負父。一肩負母。處處遊行。猶不名為報父母恩。佛告比丘。若父母不信教。令立信。無戒為說善戒。慳吝教令布施。無慧教令修慧。爾乃名為報父母恩。問曰。諸佛法中所有善法。盡應教人。何故獨說教四不壞淨耶。尊者波奢說曰。此中世尊說聖道名不壞淨。一切聖道。或是相應法。或是共有法。若說信則說相應法聖道。若說戒則說共有法聖道。復次此說現初門略要。始入法一切佛法所有善法。或是色或非色。若說戒。當知已說色性善法。若說信。當知已說非色性善法。如色法非色法。相應不相應。有依無依。有行無行。有勢用無勢用。有緣無緣。當知亦如是。復次所有善法。或是根性。或非根性。若說信。當知已說根性善法。若說戒。當知已說非根性善法。復次依四不壞淨故。施設四沙門果。復次此四不壞淨。有二種相。一不壞相。二是淨相。不壞相者。無漏信不為非信所壞。無漏戒不為非戒所壞。信於心數法中是淨相。戒於四大法中是淨相。復次為示止惡道。貧窮怖畏方便故。戒能止惡道怖畏。信能止貧窮怖畏。無漏信戒。雖無障非不因有漏信戒。復次欲引道。依外道受化者。令人佛法。諸比丘。或有親屬。依外道受化。以親受

說此經耶。答曰。欲為說法者。顯示應聽法緣。故。說法者不知應為誰說。誰不應為說。心生怯弱。佛作是說。汝等不應輕有所說。若有眾生。能信樂汝所說者。乃可為說。復次欲說報恩法故。佛說此經。經說佛告比丘。若人於百年中。一肩負父。一肩負母。處處遊行。猶不名為報父母恩。佛告比丘。若父母不信教。令立信。無戒為說善戒。慳吝教令布施。無慧教令修慧。爾乃名為報父母恩。問曰。諸佛法中所有善法。盡應教人。何故獨說教四不壞淨耶。尊者波奢說曰。此中世尊說聖道名不壞淨。一切聖道。或是相應法。或是共有法。若說信則說相應法聖道。若說戒則說共有法聖道。復次此說現初門略要。始入法一切佛法所有善法。或是色或非色。若說戒。當知已說色性善法。若說信。當知已說非色性善法。如色法非色法。相應不相應。有依無依。有行無行。有勢用無勢用。有緣無緣。當知亦如是。復次所有善法。或是根性。或非根性。若說信。當知已說根性善法。若說戒。當知已說非根性善法。復次依四不壞淨故。施設四沙門果。復次此四不壞淨。有二種相。一不壞相。二是淨相。不壞相者。無漏信不為非信所壞。無漏戒不為非戒所壞。信於心數法中是淨相。戒於四大法中是淨相。復次為示止惡道。貧窮怖畏方便故。戒能止惡道怖畏。信能止貧窮怖畏。無漏信戒。雖無障非不因有漏信戒。復次欲引道。依外道受化者。令人佛法。諸比丘。或有親屬。依外道受化。以親受

①緣二結 ②壞十(淨) ③如一無 ④[信]一 ⑤不分卷及品 ⑥[論]一 ⑦第五十四一百三 ⑧迦旃延子造 ⑨[五百羅漢釋]一 ⑩[北涼...譯]十五字 ⑪第二之六二下 ⑫[緣]一 ⑬怯二性 ⑭負二擔 ⑮始二胎 ⑯止二心 ⑰道二導 ⑱受二受

故。讚歎佛法。毀訾外道法。令他。瞋恚。轉遠佛法。佛。於是說。汝等無力無畏。不知衆生諸根心行。汝於彼人。若有憐愍心者。當爲說四不壞淨。若得四不壞淨。心不移動。所以者何。比丘當知。四大可令變異。若人得四不壞淨。無有變異。問曰。一切諸法。盡不變異。何以獨說四大不變異耶。答曰。以四法明四法故。復次行者。先觀四大不變異相。然後於一切法。見不變異相。復次外道計四大是常。佛說四大非是常法。假令四大如外道所說是常者。是常法可令變異。若我弟子。成就四不壞淨。有變異者。無有是處。復次四大能持展轉增長生死法。

佛經說。信是大象手。問曰。何故佛說信是大象手。答曰。能有所取故。如象有手。能取衆生數非衆生數物。如是聖弟子。有信手者。能取善法。

佛經說若聖弟子。成就於佛不壞淨。多任此法時。是時先成就於佛不壞淨。諸天心大歡喜。作如是言。如我等成就多任於佛不壞淨故。來生此間。諸聖弟子。亦成就於佛不壞淨。身壞命終。亦當生此。問。與我等同處。成就於法不壞淨。於僧不壞淨。於戒不壞淨。亦如是。問曰。彼諸天先於此間。盡成就四不壞淨。何故諸天。或有讚歎於佛不壞淨者。或有乃至讚歎於戒不壞淨者耶。答曰。衆生或有爲於佛不壞淨。勤修方便入於佛法。或有乃至爲於戒不壞淨。勤修方便入於佛法。若爲於佛不壞淨。諸天勤修方便入於佛法者。則

讚歎於佛不壞淨。乃至爲於戒不壞淨。諸天勤修方便入於佛法者。則讚歎於戒不壞淨。復次諸天。或有樂觀於佛者。或有樂觀於戒者。若樂觀於佛者。讚歎於佛不壞淨。乃至若樂觀於戒者。讚歎於戒不壞淨。

佛經說阿闍世王。成就無根信。問曰。一切有爲法皆有根。何故說阿闍世王信無根耶。答曰。此信以無見道根故。如說不壞智相應信。以見道爲根。彼無見道根故言無根。而有與見道相似信爲根。復次無漏智善根故言無根。無漏智以無漏智無漏善根爲根。彼不得無漏智。亦不得無漏善根。而得與無漏相似信。復次阿闍世王。不久供養佛。亦不親近諸有德比丘。而得如是信。若於樓觀象馬之上。見佛世尊。卽前向佛。以身投地。身無苦痛。是無根信力。亦是佛之威神。是故名無根信。復次此信無相似因。無有法與彼信作相似因者。如。乾樹無根。彼信亦爾。故名無根。復次雖有此信。不免惡道。故名無根信。

此四顛倒須陀洹。幾斷幾不斷。問曰。何故作此論答曰。如毘婆闍婆提說。有十二顛倒。謂無常有常。想顛倒。心顛倒。見顛倒。苦有樂想。顛倒。心顛倒。見顛倒。無我想。顛倒。心顛倒。見顛倒。不淨淨想。顛倒。心顛倒。見顛倒。八是見道斷。四是修道斷。八見道斷者。無常常想。顛倒。見顛倒。苦有樂想。顛倒。見顛倒。無我想。顛倒。見顛倒。不淨淨想。顛倒。見顛倒。四是修道斷者。無常計常。心顛倒。苦計樂。心顛倒。無我計我心。顛倒。不淨計淨。心顛倒。諸見道

斷者。苦比忍現在前時畢。竟斷諸修道斷者。金剛喻定現在前時畢。竟斷。問曰。彼何故作如是說。答曰。彼依佛經。佛經說佛告比丘。此四顛倒。想顛倒。心顛倒。見顛倒。乃至廣說。依此經故。說十二顛倒。以二事止如是說者。意而作問答。若作是問。此四顛倒。須陀洹。幾斷。則止彼說十二者。意。若作是答。須陀洹。盡斷。則止彼說。是修道斷者。意。所以者何。修道中無如是法。是須陀洹所斷。若顛倒有十二種。亦是修道斷者。則違佛經。如說佛告比丘。若有四顛倒。所顛倒者。當知皆是愚小凡夫。所以者何。凡夫觀生死法。不見端緒。如觀。狗腸。佛經若說四。當知則無十二。若說皆是愚小凡夫。當知則非修道所斷。問曰。若顛倒但有四者。毘婆闍婆提所引經云何通耶。答曰。想心親近顛倒故。亦名顛倒。問曰。受等諸數法。亦親近顛倒法。何故

不名顛倒耶。答曰。此二是世俗言說法故。世俗皆作是說。此人心顛倒。想顛倒。而不說受顛倒。思顛倒。問曰。顛倒體性是何。答曰。體性是慧。問曰。若顛倒體性是慧者。此五見幾是顛倒。幾非顛倒。答曰。二見半是顛倒。二見半非顛倒。二見半是顛倒者。謂身見見取邊見中常見。二見半非顛倒者。謂邪見戒取邊見中斷見。問曰。何故二見半是顛倒。二見半非顛倒耶。答曰。以三事故。是顛倒。一以猛利。二以妄取。三以一向性顛倒。邪見邊見所攝斷見。雖是猛利一向性顛倒。而非妄取。所以者何。一向壞物體故。戒取雖是猛利亦是妄

者何。一向壞物體故。戒取雖是猛利亦是妄

○(續)一○ ○於一作○ ○問一問○ ○乾一健○ ○免一勉○ ○狗一狗○ ○梁一沙○

取。而非一向性顛倒。所以者何。有少相似故。有色界道。能離欲界。有無色界道。能離色界。此是顛倒體性。乃至廣說。已說體性。所以今當說。何故名顛倒。顛倒是何義。答曰。所取顛倒故名顛倒。

此顛倒。一向見苦斷。問曰。何故顛倒一向見苦斷耶。答曰。因苦生故。還見苦斷。復次此顛倒。依果生故。還見果斷。復次身見是見苦斷性。是顛倒以身見。是見苦斷故。顛倒亦見苦斷。復次苦諦是龜現法。若於龜現法中。謬誤者。則為賢聖之所呵責。如人晝日謬誤人所呵責。彼亦如是。餘三諦微細。若於微細法中。有謬誤者。賢聖不必呵責。如人於夜有謬誤者。不必為人之所呵責。復次行者見苦已。更無顛倒心。無有是處。以分別故。而作是說。假令行者見苦諦已。不見餘三諦。他人問言。此陰是常是斷。答言。是斷。無有一刹那住者。為是苦是樂耶。答言。是苦。如熱鐵丸。是淨不淨耶。答言。是不淨。糞穢聚。有我無我耶。答言。無我。無作無作者。

問曰。堅信堅法人。亦斷顛倒。何故但說須陀洹耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次堅信堅法人。是分別相。於此顛倒。或有斷者。有不斷者。此中一向說不分別相者。復次欲令疑者得決定故。須陀洹行凡夫所行法。與妻子同一處宿。手捫摸骨人。著惱奢耶衣。梅檀塗身。亦著種種瓔珞華鬘。亦驅使奴婢僕從。亦以手打。搏眾生時。人見此事。故謂不斷顛倒。欲令此疑得決定故。而作是說。

堅信堅法人。尚無有漏善心不隱沒無記心。現在前。何況染汚心耶。

問曰。須陀洹斯陀含。起染愛時。為是樂想淨想。為是苦想不淨想。若起樂想淨想者。云何不是顛倒耶。若是苦想不淨想者。云何起染愛耶。答曰。應作是說。起樂想淨想。問曰。若然者。云何不是顛倒耶。答曰。先作是說。以三事故。是顛倒。一以猛利。二以妄取。三以一向性倒。須陀洹染愛。雖是猛利及以妄取。而非一向性倒。復次或有於諦計樂計淨。或有於境界計樂計淨。於諦計樂計淨者。須陀洹永斷於境界。計樂計淨者。須陀洹未斷。復有說。須陀洹起染愛時。計苦計不淨。問曰。若然者。云何起染愛耶。答曰。從無始已來。學習此法。身心生熟。為制伏此心。故此染愛。猶如自喜婆羅門。指觸糞穢。詣鍛師所。求以火淨之時。鍛師語言。可以灰土洗草。而以淨之。婆羅門言。如是等物。不能淨於我指。必當以火淨之。是時鍛師。燒鉗作火色。以鉗其指。時婆羅門。為執所苦逼。便振其手。以指著口中。婆羅門審知指不淨。但為苦痛所逼。而著口中。彼亦如是。復次為無始已來。久習煩惱。所逼切故。為治此法。起於染愛。如人身體鮮白軟細。而生癰瘡。極用苦痛。求欲治之。醫語之言。汝可以濕狗糞。而用塗之。其人即塗。審知狗糞不淨。為除病故。而以塗之。彼亦如是。

此三三昧須陀洹。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。問曰。何故作此論。答曰。為止言。

無過去未來行於世中愚故。廣說如上。

此三三昧須陀洹。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。答曰。未來悉成就。過去滅已。不捨則成就。現在若現在前則成就。道比智最初剎那無過去。所以者何。未有一剎那生已滅者。生已滅者。得果故捨。三未來成就。一現在。謂無願三昧。彼滅已不捨。若起空三昧。現在前。一過去成就。謂無願三昧。三未來。一現在。謂空。彼滅已不捨。若起無相三昧。現在前。二過去。謂空無願三昧。三未來。一現在。謂無相。若滅已不捨。於此三三昧。若起一現在前。過去未來三。現在一起。現在前者。三三昧。廣如使捷度大章說。信解脫轉根。作見到。廣說如人品中。若道過去。彼道已修已。猗耶。乃至廣說。修有四種。一得修。二行修。三對治修。四除去修。有為善法。是得修行修。有漏法。是對治除去修。外國法師說。修有六種。四如先說。更有二修。謂戒修分別修。戒修者是修根。如說若此六根。善調伏。善覆藏。善守護。善修者。謂能生樂。分別修者。分別於身。如說此身。謂髮毛爪齒等。乃至廣說。闕寶沙門。作如是說。此二修。當知在前二修中。謂對治除去修。是故修有四種。此中依二種修而作論。謂得修行修。如說若修法智。亦修比智耶。此亦依二修而作論。如說修身修心修戒修慧。此亦依二修而作論。謂對治除去修。如說云何修眼根。亦依此二修而作論。如說若修世俗初禪。亦修無漏耶。此亦依二修而作論。謂得修行修。如說若修空三

◎[顛]一多◎ ◎言二日◎ ◎[如]十黃◎ ◎骨二滑◎ ◎持一搏◎ ◎想一相◎ ◎所苦二苦所三◎ ◎卷第七十八終 ◎◎ ◎卷第七十九智健度他心智品之五首◎◎ ◎卷第七十九智健度他心智品第二之五首◎◎ ◎造說釋說譯說同異如卷第二十三 ◎◎ ◎[三]一◎◎ ◎[三]一◎◎ ◎[三]一◎◎

味。亦修無願耶。亦依此二修而作論。如說若修身念處。亦修受念處耶。亦依此二修而作論。如說若修無常想。亦觀無常想耶。此中或有說。是得修者。或有說。是行修者。如說云何可修法。一切善有為法。此中雖有種種修義。亦依得修行修而非論。是故得作四句。有法。是得修行修非對治修除去修。有法。是對治修除去修非得修行修。有法。是得修行修亦非對治修除去修。是得修行修非對治修除去修者。無漏有為法是也。是對治修除去修非得修行修者。染污法不隱沒無記有為法。是也。是得修行修亦是對治修除去修者。善有漏法是也。非得修行修亦非對治修除去修者。無為法是也。問曰。修是何義。答曰。勤義是修義。學習義是修義。明淨義是修義。現前修以行名說。未來修以得名說。現在以現在前故名修。未來以當生故名修。復次現在有所作故名修。未來與欲故名修。復次現在在身中故名修。未來以得故名修。

若道過去。彼道已修已猗耶。答曰。若道過去已修已猗修者。謂二種修。得修行修。已猗者已過去。頗道已修已猗。彼道不過去耶。答曰。有未來道。已修已猗。起不淨觀現在前。未來有無量剎那修。從第二剎那以後。盡名已修已猗道。謂得修以在未來故。不名過去。乃至起初盡智現在前。未來有無量盡智剎那修。從第二剎那修已後。盡名已修已猗道。謂得修若道未來。彼道非已修非已猗耶。答

曰。或道在未來。彼道非不已修。非不已猗。乃至廣作四句。云何道在未來。彼道非不已修。非不已猗。答曰。諸未來道。已修已猗。如上所說。云何道非已修非已猗。彼道非未來耶。答曰。起未曾得道現在前。起不淨觀。乃至盡智現在前。此道非已修非已猗。此道非未來非已修者。是行修故。非未來者。是現在故。云何道在未來。彼道非已修非已猗。答曰。諸未來道。非已修非已猗者。起不淨觀乃至盡智現在前。未來無量剎那修。諸未來修。與最初剎那俱者。彼道非已修已猗。所以者何。是今修今猗。謂得修而彼道在未來。云何道不在未來。彼道非不已修。非不已猗。答曰。過去道亦起未曾得道現在前。未曾得道者。未曾得淨觀。乃至盡智起現在前。問曰。此道是今修今猗。是行修何故說非不已修非已猗耶。答曰。此文應如是說。過去道是也。不應說起未曾得道現在前。若作是說。有何意耶。答曰。此道雖是行修。今修今猗。亦是得修已修已猗。若道現在彼道今修今猗耶。答曰。若道現在。彼道今修今猗。或具二修。謂得修行修。或有唯修行修。頗道今修今猗。彼道非現在耶。答曰。有起未曾得道現在前。未來相似者。修相似有四種。一修相似。二戒相似。三界相似。四性相似。修相似者。此中說起未曾得道現在前。未來相似者。修此中或有說。有漏道有漏道相似修。無漏道無漏道相似修。評曰。應作是說。有漏道有漏道相似。無漏道無漏道相似。評曰。應作是說。有漏道有漏道相似。所以者何。以彼力故。起世俗道

現在前。有漏無漏道修起無漏道現在前。無漏道有漏道修。戒相似者。如業。捷度說。若成就過去戒。亦成就未來現在相似戒耶。相似戒者。如速解脫戒。有相似速解脫戒。禪戒有相似禪戒。無漏戒有相似無漏戒。有作戒有相似有作戒。無作戒有相似無作戒。界相似者。如根捷度說。若成就此相似眼根。亦成就此相似身根耶。若法同在一界可得者。名界相似。欲界法與欲界法相似。色界法與色界法相似。無色界法與無色界法相似。性相似者。如毘尼中說。尊者陀婆摩羅子。左手放光。為諸相似比丘分房舍臥具。相似誦修多羅者。同在一處。相似誦毘尼者。同在一處。相似誦阿毘曇者。同在一處。相似行阿練若法者。同在一處。欲令諸比丘同。住談論靜默者。各相隨順。故餘經亦說。衆生種類相似相隨。行惡者與行惡者相隨。行善者與行善者相隨。此中於此四種相似中。依修相似而作論。起不淨觀現在前。未來有無量不淨觀剎那修。諸未來修。與最初剎那俱者。此是今修。謂得修。彼道非現在在未來故。阿那般那念處。煖頂忍世第一法。見道修道。盡智現在前時。說亦如是。問曰。退阿羅漢果。住須陀洹果時。須陀洹果。但是得亦是修耶。答曰。但是得不修。若還得阿羅漢果時。但是得亦是修耶。答曰。過去者是得非修。未來者是得亦修。問曰。何故過去者是得非修。未來者是得亦修耶。答曰。若有現在因者。有得亦修。若無現在因者。但得非修。問曰。須陀洹果。亦有現在因。

①動二動②③(修相似有)④者十(阿)⑤道十(有無漏道)⑥二有⑦漏二起⑧住二任⑨今二令⑩星二達⑪

何故但得非修耶。答曰。若有現在因。能勝進者。是得亦修。住須陀洹果。雖有現在因。而是退道故。但得非修。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十四

阿毘曇毘婆沙論卷第五十五

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等

譯

智健度修智品第三之一

八智。法智比智他心智等智苦智集智滅智道智。云何法智。乃至道智。如此章及解章義。此中應廣說優波提舍。問曰。彼尊者迦旃延子。何故依八智而作論。答曰。此中應廣如使^①捷度大章中說。法智攝幾智。乃至道智攝幾智。問曰。何故作此論。答曰。為止併義者意故。如毘婆闍婆提說攝他性法不攝自性法。為止如是說者意。而作此論。攝如使捷度一行品中廣說

法智攝法智。亦攝五智少分。謂他心智苦集滅道智總而言之。法智攝法智。然法智在六地。謂未至中間根本四禪。未至禪中者。攝未至禪中者。乃至第四禪中者。攝第四禪中者。又法智是四智。謂是苦智。乃至道智苦智攝苦法智。乃至道智。攝道法智。又法智在過去未來現在。過去者攝過去者。未來現在者。攝未來現在者。又過去法智。有無量剎那。彼剎那即攝彼剎那。未來現在說亦如是。云何攝

他心智少分^②邪。答曰。他心智是有漏無漏攝無漏者。不攝有漏者。彼無漏復有二種。謂法智分比智分。攝法智分。不攝比智分。是名少分。云何攝苦智少分^③邪。答曰。苦智是法智分比智分。攝法智分。不攝比智分。是名少分。乃至道智說亦如是。比智攝比智。亦攝五智少分。廣說如法智他心智攝他心智。亦攝四智少分。謂法智比智等智道智。總而言之。他心智攝他心智。然他心智在根本四禪中初禪者。攝初禪者。乃至第四禪者。攝第四禪者。又他心智。是有漏無漏。有漏者攝有漏者。無漏者攝無漏者。又他心智。是法智分比智分。法智分攝法智分者。比智分攝比智分者。在過去未來現在。如先所說。云何攝法智少分^④邪。法智是四智攝道智不攝餘智。是名少分。又道智是總相別相。攝別相者。不攝總相者。道智有緣三世者。有緣現在者。有緣自^⑤身。有緣他身者。有緣心心數法者。有緣五陰^⑥者。攝緣現在他身心心數法者。不攝緣過去未來自身及五陰者。是名少分。比智亦如是。隨相而說。云何攝等智少分^⑦邪。答曰。等智在十一地。從欲界乃至非想非非想處。攝在根本四禪地者。不攝餘地者。又等智緣總相別相。攝別相者。不攝總相。餘廣說如上。云何攝道智少分。答曰。道智在九地。謂未至中間根本四禪三無色定。攝根本禪地。不攝餘地者。是名少分。又道智緣總相別相。乃至廣說。是名少分。等智攝等智。亦攝一智少分。謂他心智。總而言之。等智

攝等智。然等智在十一地。謂欲界未至中間根本四禪四無色定。欲界攝欲界者。乃至非想非非想處。攝非想非非想處者。又欲界者。有善穢污不隱沒無記。善攝善者。穢污攝穢污者。不隱沒無記。不隱沒無記者。此三在過去未來現在。過去未來現在。即攝過去未來現在者。又過去。有無量剎那。彼剎那即攝彼剎那者。未來亦如是。如^⑧是欲界乃至非想非非想地說亦如是。云何攝他心智少分。答曰。他心智是有漏無漏。攝有漏者。不攝無漏者。是名少分。苦智攝苦智。亦攝二智少分。謂法智比智。總而言之。苦智攝苦智。然苦智在九地。謂未至中間根本四禪三無色定。未至禪攝未至禪者。乃至無所有處攝無所有處者。餘廣說如上。云何攝法智少分。答曰。法智是四智。謂苦集滅道智。攝苦智分。不攝餘智分。是名少分。如法智比智亦如是。如苦智。集滅智亦如是。道智攝道智。亦攝三智少分。謂法智比智他心智。總而言之。道智攝道智。廣說如上。苦智異者。攝他心智少分。云何攝他心智少分。答曰。他心智是有漏無漏。攝無漏者。不攝有漏者。是名少分。若成就法智。於此八智。為成就幾不成就幾。問曰。何故作此論。答曰。為止說無成就者意故。而作此論

①不分卷 ②[論]一 ③第五十四一百三 ④[論]一 ⑤第五十五一百四 ⑥[迦旃延子造]一 ⑦[五百羅漢釋]一 ⑧[北涼...譯]十五字 ⑨[阿毘曇毘婆沙論]十智 ⑩[度]一 ⑪第三之一二第三 ⑫第四 ⑬至十(云何) ⑭(云) ⑮捷二捷 ⑯下同 ⑰邪二邪 ⑱不三 ⑲(不)十攝 ⑳身十(者) ㉑者二有 ㉒(是)一 ㉓苦二若

增慧增道。不增智不增名。苦比智時。無他心
智四。謂法智比智等智苦智。有他心智五。此
中增見增慧增道增智增名。集法忍時。無他
心智四。有他心智五。此中增見增慧增道。不
增智不增名。集法智時。無他心智五。謂法
智比智等智苦智集智。有他心智六。此中增
見增慧增道增智增名。集法忍時。無他心智
五。有他心智六。此中增見增慧增道。不增智
不增名。集比智時。無他心智五。有他心智六。
此中增見增慧增道。不增智不增名。所以者
何。苦比智時。已立比智名。集法智時。已立集
智名。滅法忍時。無他心智五。有他心智六。
此中增見增慧增道。不增智不增名。滅法智
時。無他心智六。謂法智比智等智。集智滅
智。有他心智七。此中增見增慧增道增智增
名。滅比忍時。無他心智六。有他心智七。此中
增見增慧增道。不增智不增名。滅比智時。無
他心智六。有他心智七。此中增見增慧增道。
不增智不增名。所以者何。滅法智時。已立滅
智名。苦比智時。已立比智名。道法忍時。無他
心智六。有他心智七。此中增見增慧增道。不
增智不增名。道法智時。無他心智七。謂法
智比智等智苦智集智滅智道智。有他心智
八。此中增見增慧增道增智增名。道比忍時。
無他心智七。有他心智八。此中增見增慧增
道。不增智不增名。所以者何。道法智時。已立
道智名。苦比智時。已立比智名。乃至成就道
智隨相而說

若修法智時。亦修比智邪。修有四種。廣說

如上。此中因二修而作論。謂得修行修。凡夫
人離欲界欲時。方便道。九無礙道。八解脫道
中。現在修等智。未來亦修等智。第九解脫道
中。現在修等智。未來修等智。他心智。離初禪
欲時。若即依初禪作方便者。方便道中。現在
修等智。未來修等智。他心智。若依第二禪邊
作方便者。方便道。九無礙道。八解脫道。現
在修等智。未來亦修等智。第九解脫道。現在
修等智。未來修等智。他心智。乃至離第三禪
欲亦如是。離第四禪欲時。若即依第四禪作
方便者。方便道。現在修等智。未來修等智。他
心智。若依空處邊作方便者。方便道。九無礙
道。九解脫道。現在修等智。未來亦修等智。離
空處欲時。方便道。九無礙道。九解脫道。現在
修等智。未來亦修等智。乃至離無所有處欲。
說亦如是。未離欲界欲凡夫。起四無量初二
解脫初四勝處不淨安那般那般那念處。顛頂忍
世第一法時。現在修等智。未來亦修等智。離
欲界欲凡夫。起四無量初三解脫八勝處八一
切處不淨安那般那念處時。現在修等智。
未來修等智。他心智。離欲界欲凡夫。起達分
善根時。現在修等智。未來亦修等智。離欲界
欲凡夫。起通時。方便道二解脫道中。現在修
等智。未來修等智。他心智。一解脫道中。現在
修他心智。未來修等智。他心智。五無礙道中。
現在修等智。未來亦修等智。即彼凡夫。起無
色界解脫空處一切處識處一切處依無色界
念處時。現在修等智。未來亦修等智。此則說
凡夫人聖人見道中起如是功德現在前。即是

功德未來修。如起忍現在前。即未來修忍。起
智現在前。即未來修智。唯除三心頃。未來
修世俗道。謂苦比智。集比智。滅比智。修見道
邊等智。問曰。何故見道中。唯修相似法。修道
中。修相似不相似法。邪。答曰。見道中所緣定
對治定故。唯修相似法。不修不相似者。修道
中所緣不定對治亦不定故。修相似不相似
法。除答廣說。如難捷度。若無他心智入見道
道。比智現在前時。現在修二智。謂道智比智。
未來修六智。除等智他心智。若有他心智現
在。亦修二智。未來修七智。除等智。聖人以世
俗道。離欲界欲時。若以無漏作方便。方便
道。於八智中。若一智現在前。未來修七智。
若以世俗道作方便。方便道。九無礙道。八解
脫道中。現在修等智。未來修七智。第九解脫
道。現在修等智。未來修八智。離初禪欲時。若
以無漏作方便。於八智中。若一智現在前。
修未來修八智。若以世俗道作方便。方便道
九解脫道中。現在修等智。未來修八智。九無
礙道中。現在修等智。未來修七智。乃至離無
所有處欲。說亦如是。聖人以無漏道。離欲界
欲時。若以世俗作方便。現在修等智。未來修
七智。若以無漏作方便。於八智中。若起一
智現在前。修未來修七智。九無礙道。八解脫
道。於四智中。若起一智現在前。修未來修
七智。第九解脫道。於四智中。若一智現在
前。修未來修八智。離初禪欲時。若以世俗道
作方便。現在修等智。未來修八智。若以無漏
作方便。於八智中。若一智現在前。修未來

○時二淨 ○智十(苦智) ○[第一] ○礙二關 ○下同

中心剎那。起通時方便道。五無礙道。三解脫道。起四無量世俗解脫勝處。一切處不淨安那般那念世俗念處入滅定微細想時。解脫阿羅漢。轉根。作不動。若以世俗作方便。方便道。修動禪時。中心剎那起通時。方便道。五無礙道。三解脫道。起無量世俗解脫勝處一切處。起世俗念。處世俗無礙。起無諍願智半多俱置迦。入滅定時。微細。想。如是等時。起未曾得世俗智現在前。未曾得修法智比智。不修法智比智者學見跡。若阿羅漢。起已曾得世俗智現在前。已曾得功德現在前。尚不能令後剎那修。何況未來遠者。起未曾得世俗智現在前。謂聞思慧。及出滅定微細心。是時不得修法智比智。一切凡夫人。不修此智。所以者何。此智非凡夫法故。是以不修染汚心者。是退分。其性沈重。與懈怠相應。勝妙與精進相應。心能有所修。無記心者。是卑下劣弱。如腐種子。不能有所修堅固牢強心。能有所修入無想定滅定。是無心法有心法。能有所修無想。衆生或有說者。一切時不能起善心現在前。或有說者。雖起善心。不能爲修作所依。一切忍現在前時。唯修忍不修智問曰。起已曾得法現在前何故無未來修。邪。答曰。此法已用。已有所作。已與果故。復次此法已修已猗。更無勢用。復次起已曾得法現在前時。是行修在未來世時。是得修以經歷世故。但有損減。何得更增益邪。如人食用先所聚財物。但有損減。更無增益。彼亦如是。

復次多用功多有所作者。欲令未來世。能起已曾得法現在前。不多用功不多有所作者。不能令未來世者修。復次若起已曾得法現在前未來修者。世尊般涅槃時。入一切諸禪三昧。亦應。未來世修。若修者。則世尊得盡智時。則不具得一切諸善功德。欲令無如是過故。起已曾得功德。無未來世修。餘智修隨相廣說如經本。有見道邊等智。有得盡智時善根。此中應廣說如雜捷度。

法智當言緣法智。邪。問曰。何故作此論。答曰。欲止說境界緣無有體性者意亦明境界緣實有體性故。而作此論。或有說者。此中作如是問。法智緣幾智。邪。若如其所說。法智不緣比智。盡緣餘智。比智不緣法智。盡緣餘智。他心智等智。盡緣諸智。苦智集智。緣等智。他心智。不緣餘智。滅智不緣諸智。道智不緣等智。盡緣餘智。復有說者。此中作如是問。法智爲幾智所緣。若作是說。法智爲幾智所緣者。若如其所說。苦智集智比智滅智。不緣法智。餘智則緣苦智集智法智滅智不緣比智。餘智則緣滅智。不緣他心智。餘智則緣滅智。道智不緣等智。餘智則緣苦智集智。各不爲苦智滅智所緣。餘智則緣苦智集智。不緣道智。餘智則緣問曰。何故法智比智。各不相緣。邪。答曰。法智境界於下。比智境界於上。譬如二人同住一處。一人視地。一人視空。其二人面各不相。視。彼亦如是。法智於法智有幾緣。乃至於道智有幾緣。邪。問曰。何故作此論。答曰。欲止說四緣無體性

者意亦欲明四緣實有體性故。而作此論。法智於法智。有幾緣。邪。答曰。法智於法智。因次第緣威勢。問曰。何故此中說緣異。使捷度不善品中說緣異。如此中說。法智於法智。因次第緣威勢。如不善品中說。身見於身見。或四三二一邪。答曰。如此中所說。法智於法智。因次第緣威勢。彼中亦應如是說。如彼所說。復次欲現二門二略。廣說如使捷度。法智於法智。因次第緣威勢。因者如種子故。次第者前開導故。境界緣者。如執杖故。威勢緣者。不相障礙故。法智於法智。有一因。謂相似因。次第緣者。法智次第起法智現在前。境界緣者。法智緣法智。威勢緣者。不相障礙。法智於比智。因次第威勢無緣。因者。謂相似因。次第緣者。法智次第起比智現在前。威勢緣者。不相障礙。無緣者。法智比智。各不相緣。法智於他心智。因次第緣威勢。如先所說。法智於等智。次第緣威勢無因。所以者何。因者如種子。無漏法不爲有漏法作種子。法智於苦智滅智。因次第威勢無緣。所以者何。苦智集智有漏法。此智是無漏。滅智緣無爲。此智是有爲。餘廣說如上。法智於道智。因次第緣威勢。廣說如上。比智如法智。隨相而說。他心智於他心智。因次第緣威勢。如上所說。此中異者。若有因無緣。若有緣無因。有因無緣者。自身於自身。有緣無因者。他身於自身。他心智於等智。因次第緣威勢。因者二因。謂相似因報因。餘廣說如上。他心智於苦智集智。

者意亦欲明四緣實有體性故。而作此論。法智於法智。有幾緣。邪。答曰。法智於法智。因次第緣威勢。問曰。何故此中說緣異。使捷度不善品中說緣異。如此中說。法智於法智。因次第緣威勢。如不善品中說。身見於身見。或四三二一邪。答曰。如此中所說。法智於法智。因次第緣威勢。彼中亦應如是說。如彼所說。復次欲現二門二略。廣說如使捷度。法智於法智。因次第緣威勢。因者如種子故。次第者前開導故。境界緣者。如執杖故。威勢緣者。不相障礙故。法智於法智。有一因。謂相似因。次第緣者。法智次第起法智現在前。境界緣者。法智緣法智。威勢緣者。不相障礙。法智於比智。因次第威勢無緣。因者。謂相似因。次第緣者。法智次第起比智現在前。威勢緣者。不相障礙。無緣者。法智比智。各不相緣。法智於他心智。因次第緣威勢。如先所說。法智於等智。次第緣威勢無因。所以者何。因者如種子。無漏法不爲有漏法作種子。法智於苦智滅智。因次第威勢無緣。所以者何。苦智集智有漏法。此智是無漏。滅智緣無爲。此智是有爲。餘廣說如上。法智於道智。因次第緣威勢。廣說如上。比智如法智。隨相而說。他心智於他心智。因次第緣威勢。如上所說。此中異者。若有因無緣。若有緣無因。有因無緣者。自身於自身。有緣無因者。他身於自身。他心智於等智。因次第緣威勢。因者二因。謂相似因報因。餘廣說如上。他心智於苦智集智。

①脫二說②〔作〕一③勝一說④想一相⑤卷第七十九終⑥卷第八十捷度修智品之二首⑦卷第八十捷度修智品之三之二首⑧造說釋說譯說同異如卷第二十三⑨龍二條⑩未二木⑪視二見⑫導二道

因次第緣威勢。因者謂相似因。若有因無緣。若有緣無因。有因無緣者。因是無漏。苦集智緣有漏。有緣無因者。苦集智緣有漏。因是無漏。故他心智於滅智。因次第緣威勢無緣。廣說如上。他心智於道智法智比智。因次第緣威勢。廣說如上。等智於等智。因次第緣威勢。因者有三因。謂相似因。一切遍因。報因。餘廣說如上。等智於苦集智。次第緣威勢無因。所以者何。因如種子。有漏法不為無漏法作種子。等智於滅智道智。次第緣威勢無因。無緣。次第者。次第起滅道智現在前。威勢者不相障礙。無。因者有漏法不為無漏法作因。無緣者滅道智緣無漏等智是有漏。等智於法智比智。次第緣威勢無因。廣說如上。等智於他心智。因次第緣威勢。因者謂相似因。餘廣說如上。苦集滅智。於苦集滅智。因次第緣威勢無緣。因者相似因。次第緣者苦集滅智。次第起苦集滅智。威勢緣者不相障礙。無緣。所以者何。苦集智緣有漏。此諸智是無漏滅智緣無為。此諸智是有為。苦集滅智於道智法智比智他心智。因次第緣威勢。廣說如上。苦集滅智於等智。次第緣威勢無因。廣說如上。道智於道智法智比智他心智。因次第緣威勢。廣說如上。道智於等智。次第緣威勢無因。廣說如上。道智於苦集滅智。因次第緣威勢無緣。所以者何。道智是學無學。此諸智緣非學非無學。諸結欲界繫。彼結法智斷

界結。或謂如法智能斷色無色界結。比智亦能斷欲界結。或謂如比智不能斷欲界結。法智亦不能斷色無色界結。欲令此義決定。法智能斷色無色界結。比智不能斷欲界結。故而作此論。問曰。何故法智能斷色無色界結。比智不能斷欲界結。邪。答曰。法智先斷欲界結。故能斷色無色界結。比智先不斷色無色界結。故不能斷欲界結。復有說者。以比智未斷色無色界結。故法智能斷。以法智已斷欲界結。故比智不斷。復次若比智能斷欲界結者。為已斷色無色界結。邪。為未斷。邪。若已斷者。無有先斷色無色界結後斷欲界結者。若未斷者。比智則應有如是責。自界結欲未斷。乃斷他界結。譬如國王不能降伏自國。乃欲降伏他國。則有如是責。云何不能降伏自國。乃欲降伏他國。彼亦如是。復次道比智時。比智設離欲界欲。最後解脫道。比智乃出。以沒不出。不能斷欲界結。復次法智斷欲界結已。最後解脫道。其性猛利。以猛利故。能上斷色無色界結。比智斷非想非非想處結。最後解脫道。其性猛利。以猛利故。欲斷欲界結。而欲界結已斷。復次邪見能緣三界苦集者。先已斷結。次求其對治及滅。而能使色無色界結便斷。色無色界邪見。不能緣欲界。不能對治及滅。故不能斷欲界結。復以若是他界一切遍能緣三界苦集者。先已斷後求其對治及滅。而能使色無色界結便斷。猶如負責之人。先殺怨賊。後亦壞其遊戲歡娛之處。彼亦如是。復次法智猛利。不多用功。能斷不善無記煩惱。何況草木。彼亦如是。比智非猛利。多用功力。乃能斷無記煩惱。何能斷不善煩惱。譬如鈍刀。多用功力。能斷草木。何能斷鐵邪。彼亦如是。復次法智如千人敵。云何如千人敵。以能對治十八界十二入五陰。比智非如千人敵。云何非如千人敵。以對治十四界。十入五陰四陰。復次行者為欲界五陰之所逼切。如負重擔。求其對治及滅時。能斷色無色界結。法智能斷色無色界結者。是滅道法智。非苦集法智。問曰。何故非苦集法智。答曰。行者為欲界五陰之所逼切。欲負重擔求其對治。及滅時。能斷色無色界結。復次欲界是不定界。非修地。非離欲地。色無色界。是定地。修地。離欲地。不可以緣不定界智斷定界結。復次欲界是麤界。色界是細界。不可以緣麤界智斷細界結。復次欲界是下界。色界是中界。無色界是上界。不可以緣下界智斷中上界結。復次若苦集法智。能斷色無色界結者。便為於異處修厭異處得解脫。譬如斷手繫手得解脫。斷脚繫脚得解脫。不可斷手繫脚得解脫。斷脚繫手得解脫。彼亦如是。若以滅道法智。斷色無色界結。必是生欲界者。非生色無色界者。問曰。何故但是生欲界者。非是生色無色界者。答曰。入法智出比智方便心。是欲界繫法。以棄彼法。生色無色界故。復次與法智迴轉。成是欲界四大造。棄彼四大。生色無色界故。復次法智

邪。問曰。何故作此論。答曰。欲令疑者得決定。故。法智能斷色無色界結。比智不能斷欲

①次第二等 ②因二明 ③緣一 ④等二第 ⑤界一 ⑥謂十能 ⑦故二謂 ⑧精十斷 ⑨負二 ⑩責二 ⑪鈍一利 ⑫十(二) ⑬過二運 ⑭(若)十法 ⑮負二直 ⑯成一戒

於欲界。所作已竟。更不作方便。於色無色界。更不起現在前。猶如阿羅漢。更不起三界斷對治現在前。彼亦如是。

●校正序

宋本此卷首云。智健度他心智品第二之六。已說體性所以今當說。何故名念前世智。云云。卷末云。是說願智方便緣自身者等凡十五紙文。其與國本宋本迥異者何耶。今檢宋本錯亂。此文即是此論前文。宋丹則第五十卷。國本則五十一卷之全耳。而重書為此五十五卷者錯也。今依丹本正之。國本雖與二本不同。但分卷有異耳。序則不亂焉。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十五

阿毘曇毘婆沙論卷第五十六

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

智健度修智品第三之一

○問曰。若然者何故阿羅漢起苦集智現在前耶。答曰。欲觀此五陰。猶如重擔過患法故。尊者瞿沙。作如是說。生無色界。不能起禪及禪中功德現在前。生色界中。則能此說。是何義耶。答曰。此說滅道法智生色界者。能起此智。斷色無色界結。若煩惱已斷。更不起此智。評曰。不應作是說。生色界起法智現在前。所

以者何。此智非彼界對治故。復次此是不定壞相。或有起少分。謂滅道法智。或有不起少分者。謂苦集法智。或有起者。或不起者。未離欲者起。已離欲者不起。或時起或時不起。離欲道時起。離欲道時不起。以是事故。如前說者好。諸結欲界繫。彼結法智斷耶。答曰。或結是欲界繫。彼結非法智斷。乃至廣作四句。云何結是欲界繫。彼結非法智斷。答曰。諸結忍斷。亦餘智斷。亦不斷。忍者是四法忍。餘智者是等智。不斷者若已斷。若不作方便斷。云何結是法智斷。彼結非是欲界繫。答曰。諸結是色無色界繫。法智斷法智者是滅道法智。離色無色界結者。云何結是欲界繫。彼結法智斷。答曰。諸結欲界繫。法智斷法智者是四法智。離欲界結者。云何結非是欲界繫。彼結非是法智斷。答曰。諸結色無色界繫。彼忍斷若餘智斷亦不斷。忍者是四比忍。餘智斷者。若等智斷。若比智斷。不斷者。若已斷。若不作方便斷。諸結色無色界繫。彼結比智斷耶。答曰。諸結比智斷。彼結色無色界繫。頗有結色無色界繫。彼結非比智斷耶。答曰。諸結忍斷亦餘智斷。亦不斷。忍者是四比忍。餘智斷者。法智等智不斷者若已斷。若不作方便斷。諸結見苦斷。彼結苦智斷耶。答曰。或結是見苦斷。彼結非苦智斷。諸結忍斷。所以者何。彼忍是此結對治故。或結是苦智斷。彼非見苦斷。諸結是修道斷。彼結苦智斷。所以者何。苦智是修道所斷結對治故。如見苦所斷結。乃至見道所斷結。說亦如是。問曰。為無礙道斷煩惱。為

解脫斷耶。若無礙道斷煩惱者。使。健度所說云何通。如說結有九種。苦法智所斷種。乃至修道所斷種。若解脫道斷煩惱者。此文所說云何通。如說或結是見苦斷。彼非智斷。或結是苦智斷。彼結非見苦斷。答曰。應作是說。無礙道斷煩惱非解脫道斷。廣說如使。健度諸結法智斷法智滅作證耶。問曰。何故作此論。答曰。或有說。無礙道斷結得解脫道證解脫得。此是外國法師所說。為止如是說者。意亦明無礙道斷結得證解脫得。若當無礙道斷結得解脫道證解脫得者。則違此文。如說諸結法智斷比智滅作證耶。亦應作如是答。若以滅道法智斷非想非非想處結。比智滅作證而不作是答者。當知無礙道斷結得。亦得證解脫得。諸結法智斷。彼結法智滅作證。邪。答曰。諸結法智斷。彼結法智滅作證。隨斷爾所結。即證爾所滅。頗結法智滅作證。彼結非法智斷耶。答曰。有諸結忍斷亦餘智斷。須陀洹以世俗道。趣斯陀含果。斷一種結乃至五種。若六無礙道是法智者。是時證三界見道結忍所斷者。及欲界修道等智所斷五種結。斯陀含越阿那含果。以世俗道。斷二種結。若第九無礙道是法智者。是時證三界見道結忍所斷者。及欲界修道等智所斷八種結。離初禪欲。乃至離無所有處欲。若以比智等智。離非想非非想處欲。以比智斷八種結。第九無礙道。是法智者。是時證三界見道忍所斷結。及欲界修道等智所斷結。七地中比智等智所

●是十(問曰若然者可故阿羅漢起苦集智王見在前也) ●不分卷及品 ●宋元明宮四本俱無此校正序 ●論一 ●第 五十五第一一四 ●已二色 ●健二健 ●邪二耶 ●

斷結。非想非非想處比智所斷八種結。如是等結。是法智滅作證。諸結比智斷。彼結比智滅作證耶。答曰。諸結比智斷。比智滅作證。隨斷爾所結。有爾所滅作證。頗結比智滅作證。彼結非比智斷耶。答曰。有諸結忍斷亦餘智斷。比智滅作證。若以法智若以等智離欲界欲。乃至離無所有處欲。若以法智斷非想非非想處一種結乃至八種。若第九無礙是比智者。是時證三界見道忍所斷結。及八地法智等智所斷結。法智所斷非想非非想處八種結。諸結苦智斷。彼結苦智滅作證耶。答曰。諸結苦智斷。彼結苦智滅作證。隨斷爾所結。有爾所滅作證。頗結苦智滅作證。彼結非苦智斷耶。答曰。有諸結忍滅亦餘智滅苦智滅作證。須陀洹趣斯陀含果。以集滅道智等智。斷一種結乃至五種。若第六無礙道是苦智者。是時證三界見道忍所斷結。及欲界修道集滅道智等智所斷五種結。斯陀含趣阿那含果時。以集滅道智等智。斷二種結。若第九無礙是苦智者。是時證三界見道忍所斷結。欲界修道集滅道智等智所斷結。以集滅道智等智。離初禪欲。乃至離無所有處欲。以集滅道智。斷非想非非想處一種結乃至八種。若第九無礙道是苦智者。是時證三界見道忍所斷結。八地修道集滅道智等智所斷結。非想非非想處修道集滅道智所斷八種結。如苦智乃至道智。說亦如是。

前門是無礙道所作。此門是解脫道所作。若作是說。無礙道斷結得亦證解脫得。解脫道唯證解脫得者。前門是無礙道斷結得證解脫得此門說解脫道證解脫得。如斷結得證解脫得離過患習功德。去無利得有利捨卑賤。得勝妙離染愛得寂靜樂亦如是。復次斷是前門得無為是此門。復次斷結及作證是前門。先斷結後作證是此門。前門此門。是謂差別。眼根幾智知。乃至無色界修道所斷無明使幾智知問曰。何故作此論。答曰。或有說。無境界。唯有智。或說無智唯有境界。為止如是說者意故。而作此論。

諸法若問攝應思界而答。若問識應思入而答。若問使應思種而答。若問智應思諦而答。如是諸法易可顯現。此中間智。應思諦而答。法有五種。謂苦集滅道諦所攝。非諦所攝。欲界苦集諦攝。相應不相應法。色無色界苦集諦亦爾。滅諦唯攝不相應法。道諦攝相應不相應法。非諦所攝法。攝不相應法。欲界苦集諦所攝相應法。七智知。除比智滅智道智。不相應法。六智知。除比智滅智道智他心智。色界苦集諦所攝相應法。七智知。除法智滅智道智。不相應法。六智知。除法智滅智道智他心智。滅諦所攝法。六智知。除他心智苦智集智道智。道諦所攝相應法。七智知。除苦智集智滅智。不相應法。六智知。除苦智集智滅智他心智非諦所攝法。一智知。謂等智。問曰。何故名智。答曰。

智所知故名智。何故名所知。答曰。為智所知故名所知。如稱所稱量所量亦如是。量是智所量。是所知。此是略毘婆沙。餘門廣說如經本。如說修行廣布無常想。斷欲愛色無色愛掉慢無明。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說修行廣布無常想。乃至廣說佛經雖作是說。而不廣分別。佛經是此論所為根本。今欲廣分別故。而作此論。問曰。若佛經是此論所為根本者。世尊何故說此經耶。答曰。欲令懈慢不勤精進受化者勤精進故。復次為貪後有弟子。令不更求後有故。世尊說彌勒佛出世時。有諸比丘。作是願。使我見彌勒佛出乃般涅槃。佛作是說。汝等今者有資產所須適意故。作如是念。後若為諸有苦之所逼切者。於諸有中不生願樂。修行廣布無常想。能斷欲愛者。此想當言與法智苦智相應。當言有覺有觀。所以者何。在有覺有觀地故。當言與捨根相應。彼地有捨根故。當言與無願相應。謂苦無願。當言緣欲界繫緣欲界五陰故。斷一切色愛者。彼想當言與比智苦智相應。或有覺有觀。在未至初禪者。或無覺有觀。在中間禪者。或無覺無觀。在三禪者。或樂根相應。在第三禪者。或喜根相應。在初禪第二禪者。或捨根相應。在未至中間第四禪者。無願相應。謂苦無願。當言緣色界繫緣色界五陰故。斷一切無色愛者。此想當言與。比智苦智相應。當言或有覺有觀。在未至初禪者。或無覺有觀。在禪中間者。或無覺無觀。在三禪三無色定者。或樂根相應。在第三禪者。

諸二證 去二止 唯二惟 智二知 〔作〕一 比二法

或喜根相應。在初禪二禪者。或捨根相應。在未至中間第四禪三無色定者。與無願相應。謂苦無願。當言緣無色界繫。緣無色界四陰故。斷一切掉慢無明者。此想當言或法智相應。應苦智相應。比智相應。餘廣說如上。

問曰。八聖道盡能斷結。何故獨稱無漏想。答曰。世尊此中聖道以想名說。世尊或說道名想。廣說如四無量處。

問曰。無常想是七使對治。此中何故作三說耶。答曰。若使在三界是五種斷。見疑雖在三界非五種斷。悲使雖五種斷。不在三界。復次此使在三界。亦是見道修道斷。見疑雖在三界。非修道斷。悲雖是見道修道斷。不在三界。復次此使在三界。是凡夫聖人所行。見疑雖在三界。非聖人所行。悲使雖是凡夫聖人所行。非在三界。

問曰。何故三說愛使。一說餘使。答曰。餘使應說如愛使。而不說者。當知此說有餘。復次欲以種種說莊嚴於文。若以種種說莊嚴於文。義則易解。復次欲現二門故。乃至廣說。復次此愛是重惡多乘過患。欲重觀其過患故。廣說如上四諦處。

問曰。無常想是見苦所斷使對治。何故說斷一切欲愛使耶。乃至廣說。答曰。一切有二種。有少分一切。有一切一切。此中說少分一切。復次此中說聖人以無常想。斷三界修道所斷一切煩惱。

餘經復說。修行廣布無常想。能斷我慢。問曰。無常想是七慢對治。何故但說斷我慢耶。

答曰。無常想是我慢近對治。如說無常想能生無我想。若比丘有無常想。無我想者。能斷我慢。速於此法。得盡諸漏。

如說比丘於七處善觀三種義。速於此法。得盡有漏。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說。比丘於七處善。乃至廣說。佛經是此論所為根本。今欲廣分別故。而作此論。問曰。若佛經是此論。所為根本者。世尊何故說是經耶。答曰。學人於上沙門果。不作方便。設作方便。而不解知。佛作是說。如汝等入見道方便。不放捨者。不久亦當得盡諸漏。復次已得道者。患於修道所斷煩惱。欲說修道對治。令失道者。還得道。故如人猛健。患於怨家。他人語言。汝今猛健。何不降伏怨家。彼亦如是。如實知色是苦四智。謂法智比智等智。苦智。如實知欲界色。比智知色界色。等智知一切色。苦智知有漏色無常苦空無我。問曰。此則是四善處耶。答曰。此皆觀一諦。觀苦觀果。如實知色。是集四智。謂法智比智等智。集智。如實知欲界集。比智知色界集。等智知一切集。集智知有漏色因集有緣。問曰。此則是四善處耶。答曰。此皆觀一諦。觀集觀因。如實知色。滅是四智。謂法智比智等智。滅智。法智知欲界色滅。比智知色界色滅。等智知一切色滅。滅智知一切有漏色滅。止妙離。問曰。此則是四善處耶。答曰。此皆觀一諦。觀滅觀畢竟。如實知色滅道是四智。謂法智比智等智。道智。法智知欲界色滅道。比智知色界色滅道。等智知一切色滅道。道智知一切有漏色滅道。

正迹乘。問曰。此則是四善處耶。答曰。此皆觀一諦。觀道觀對治。如實知色味。此是四智。謂法智比智等智。集智。問曰。此則是四善處耶。答曰。此則觀一諦。觀集觀味。如實知色。此是四智。謂法智比智等智。苦智。問曰。此則是四善處耶。答曰。此則觀一諦。觀滅觀離。如色陰有七善處。乃至識陰亦有七善處。問曰。若然者。則有三十五善處。亦有無量善處。答曰。此是七處法。如色陰有七。乃至識陰亦有七。不過於七。如經說。須陀洹受七有。此是七處法。不過於七。廣說如四諦處。尊者波奢說曰。如實知色是苦。乃至如實知識是苦。如實知色是集。知色是滅。知色是滅道。知色是味。知色是患。知色是離。乃至知識亦如是。若如是說。則有七善處。復次若略說。則有七善處。若廣說。則有三十五善處。無量善處。如廣略。分別不分別亦如是。復次若為利根者說。則有七善處。若為鈍根者說。則有三十五善處。無量善處。如利根鈍根。因力緣力內。支力外。支力內。思惟力外。聞力法力。聞即能解力。廣分別力。當知亦如是。復次如在見道時。則有七。如觀察時。則有三十五無量善處。復次如賢聖所行時。則有七。如世俗所行。則有三十五無量善處。復次若作總相觀。則有七善處。若作別相觀。則有三十五無量善處。問曰。此中為說別相觀。為說總相觀耶。若說別相觀者。此文所說云何通。如說。

問曰。無常想是七慢對治。何故但說斷我慢耶。

問曰。無常想是七慢對治。何故但說斷我慢耶。

①諸二有② ③七二十④ ⑤今二令⑥ ⑦〔所〕一⑧ ⑨支二枝⑩

苦集業集煩惱有苦有業有煩惱道苦道業道煩惱苦業。當知亦如是。復次此中說三時謂積聚時。受用時。守護時。喜愛集色集。是說積聚時。觸集三陰集。是說受用時。名色集識集。是說守護時。復次此中說三時有。謂前時有。中有。生有。喜愛集色集。是說前時有。觸集三陰集。是說中有。名色集識集。是說生有。復次喜愛集色集。是說名色緣。觸集三陰集。是說名緣名。名色集識集。是說名色緣名。復次

愛求未來有。是故佛作是說。喜愛集是色集。心心數法。因觸而活。從觸生。以觸力故。能現在前佛作是說。觸集是三陰集。因名色立。而得增廣。是故佛作是說。名色集是識集。問曰。色滅離有何差別。答曰。若愛造。此色。彼愛若滅。是名色滅。若緣此色。生諸餘愛。彼愛若離。是名色離。乃至廣說。問曰。何故問色滅。答曰。因若斷。果亦斷。因若滅。果亦滅。捨因亦捨果。若吐因亦吐果。若害因亦害果。故問曰。何故已生愛說滅。未生愛說離耶。答曰。已生愛不可作未生愛。佛作是說。但當滅之。未生愛應。令不生。但當離。如有三種義患。一已受。二今受。三當受。已受者受竟。今受者忍受。當受者或以自力。或眷屬力。或財物力。方便求離。彼亦如是。餘答廣說如雜。捷度。如色滅離。乃至識滅離說亦如是。問曰。此中何故三說愛不說餘煩惱業耶。答曰。以愛是重過患難。斷難除故。廣說如上。如此中及施設經多分別滅諦耶。問曰。何故此中及施設經多分別滅諦耶。答曰。以此滅

於有為無為法中最勝故
阿毘曇毘婆沙論卷第五十六

阿毘曇毘婆沙論卷第五十七

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等
譯

●智。捷度相應品第四之一

七人堅信。堅法。信解脫。見到。身證。慧解脫。俱解脫人。八智。三三昧。三根。七覺支。八道支。堅信人。於此八智。幾成就幾不成就。乃至俱解脫人。幾成就幾不成就。如此章及解章義。此中廣說優波提舍。問曰。何故此中及定。捷度。依七人而作論。使捷度中。依五人而作論。廣說如使捷度不善品中。

堅信人。於此八智。幾成就幾不成就。問曰。何故作此論。答曰。欲止言無成就者意。亦明實有成就故。而作此論。復次欲以七人作章。八智。三三昧等立門故。而作此論。

堅信人。於此八智。幾成就幾不成就。答曰。或一二三四五六七八。苦法忍。無他心智。一。有他心智。二。苦法智。無他心智。三。有他心智。四。此中增見增慧。增通增智增名。苦比忍。無他心智。三。有他心智。四。苦比智。無他心智。五。有他心智。六。乃至道比忍。無他心智。七。有他心智。八。如堅信。堅法亦如是。所以者何。此二人地等所依身等道等離欲等定等。唯根有

差別。堅信是鈍根。堅法是利根。信解脫人。於此八智。幾成就。幾不成就。答曰。無他心智。七。有他心智。八。如信解脫。見到亦如是。所以者何。此二人地等廣說如上。身證人。於此八智。盡成就。如身證人。慧解脫俱解脫人亦如是。堅信人。於此八智。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。問曰。何故作此論。答曰。為止言無過去未來者意。亦明過去未來是實有法故。而作此論。復次先總明智成就不成就。今欲分別世中成就不成就故。而作此論。

堅信人。於此八智。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。答曰。苦法忍。無他心智。一。過去未來成就。有他心智。二。過去未來成就。無有現在。現在是忍故。苦法智。無他心智。一。過去成就。謂等智。三。未來成就。謂法智等智。苦智。二。現在成就。謂法智苦智。有他心智。二。過去成就。四。未來成就。增他心智。二。現在成就。如先說。苦比忍。無他心智。三。過去未來成就。有他心智。四。增他心智。現在無是忍故。苦比智。無他心智。三。過去成就。四。未來成就。增比智。二。現在成就。謂苦智比智。有他心智。四。過去成就。五。未來成就。二。現在成就。如先說。乃至道比忍。現在前。無他心智。七。過去未來成就。除他心智。有他心智。八。增他心智。現在無是忍故。如堅信。堅法亦如是。所以者何。此二人地等。廣說如上。信解脫人。於此八智。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。廣說如經本。堅信人。法智現在前時。幾智現在前。答曰。二。法智苦智。一。法智集智。二。法智

①此二比②合二今③斷十(難斷)④第五十六一第八十⑤第五十七一第八十一⑥(智捷度)一⑦⑧捷二捷⑨(之一)一⑩⑪⑫捷二捷⑬五二四⑭六二五

滅智二。法智道智二。體性是一。以事故異。對治欲界故是法智。以行故是苦集滅道智。比智現在前時。幾智現在前。答曰。二。比智苦智二。比智集智二。比智滅智二。體性是一。以事故異。對治色無色界故是比智。以行故是苦集滅智。苦智現在前時。幾智現在前。答曰。二。苦智法智二。苦智比智二。體性是一。以事故異。以行故是苦智。以對治故是法智。比智集智滅智說亦如是。道智現在前時。幾智現在前。答曰。二。道智法智二。體性是一。以事故異。以行故是道智。以對治故是法智。如堅信堅法亦如是。信解脫人。法智現在前時。幾智現在前。答曰。或二或三。法智苦智二。法智集智二。法智滅智二。法智道智。無他心智二。有他心智三。體性是一。以事故異。對治故是法智。以方便故是法智。以方便故是苦集滅道智。以方便故是他心智。如法智比智亦如是。他心智現在前時。幾智現在前。答曰。或二或三。他心智等智二。他心智道智三。體性是一。以事故異。方便故是他心智。對治故是法智比智。以自體故是等智。以行故是道智。等智現在前時。幾智現在前。答曰。或一或二。無他心智一。有他心智二。體性是一。以事故異。以自體故是等智。以方便故是他心智。苦智集滅智。如先說。道智現在前時。幾智現在前。答曰。或二或三。道智無他心智二。有他心智三。體性是一。以事故異。以行故是道智。以對治故是法智比智。以方便故是他心智。如信解脫。見到身證亦如是。慧解脫人。法智現在前時。幾智現在前。

答曰。或二或三。法智苦智非盡智無生智。二若是盡智無生智三。體性是一。以事故異。對治故是法智。以行故是苦智。以所作竟故是盡智。以從因生故是無生智。集智滅智說亦如是。法智道智非盡智無生智他心智二。若是盡智無生智他心智三。體性是一。以事故異。以對治故是法智。以行故是道智。以所作竟故是盡智。從因生故是無生智。以方便故是他心智。比智亦如是。他心智等智如先說。苦智現在前時。幾智現在前。答曰。或二或三。苦智法智非盡智無生智二。若是盡智無生智三。苦智比智非盡智無生智二。若是盡智無生智三。體性是一。以事故異。以行故是苦智。以對治故是法智。以所作竟故是盡智。從因生故是無生智。如苦智集滅智亦如是。道智現在前時。幾智現在前。答曰。或二或三。道智法智非盡智無生智他心智二。若是盡智無生智他心智三。道智比智非盡智無生智他心智二。若是盡智無生智他心智三。體性是一。以事故異。廣說如上。如慧解脫。俱解脫亦如是。問曰。何故不說盡智無生智攝他心智耶。答曰。他心智。以對治故。是法智比智。以方便故是他心智。他心智但緣他心。盡智無生智。緣自身他身及非身法。復次他心智緣現在。彼二智緣三世及無為。復次他心智緣心心數法。彼二智緣四陰五陰及無為法。復次他心智是見彼二智非見。堅信人。於此三昧。幾成就。幾不成。成就。答曰。滅法忍未生成就。二。謂空無願。滅法忍生成就。三。增無相。如

堅信人。堅信人亦如是。信解脫人。盡成就。如信解脫。見到身證。慧解脫。俱解脫亦如是。堅信人。於此三三昧。幾過去成就。幾未來成就。幾現在成就。答曰。若依空三昧得正決定者。苦法忍無過去。二未來成就。謂空無願。一現在成就。謂空。餘廣說如經本。依無願三昧得正決定。說亦如是。問曰。何等人依空三昧得正決定。何等人依無願耶。答曰。或有見行者。或有愛行者。若見行者。依空三昧。得正決定。若愛行者。依無願。唯除菩薩。是愛行人。依空三昧。得正決定。見行者有二種。一著我見。二著我所見。愛行者。亦有二種。一行我慢。二多懶。嗜著我見者。行無我行。著我所見者。行空行。行我慢者。行無常行。多懶墮者。行苦行。復次若利根者。依空三昧。得正決定。若鈍根者。依無願。如利鈍。乃至聞即能解。廣分別亦如是。若依無願得正決定者。或依無願無相。離三界欲。此身中不離起空三昧現在前。堅信人。空三昧現在前時。幾智現在前。答曰。或二或無。苦智法智二。苦智比智二。忍中無餘。廣說如經本。乃至如慧解脫。俱解脫亦如是。問曰。何故盡智無生智。不與空三昧相應耶。答曰。所行異故。若行是空三昧。所行非盡智無生智。若行是盡智無生智。所行非空三昧。復次空三昧與見相應。彼二智性非見。復次空三昧體。是第一義。所行亦是第一義。彼二智體。雖是第一義。而所行是世諦

●二十(智)●● ●若二者●● ●隨一情●●*

答曰。或二或無。苦智法智二。苦智比智二。乃至道智法智二。忍中無。如未知欲知根。七覺八道支亦如是。如堅信堅法亦如是。餘廣說如經本。若如此所說。則明慧解脫阿羅漢。能起根本禪現在前問曰。若慧解脫阿羅漢。能起根本禪現在前者。佛經云何通。如說。蘇尸摩問諸比丘。云何起諸禪現在前。諸比丘答。蘇尸摩。當知我等是慧解脫人。答曰。慧解脫有二種。一是少分。二是滿分。少分慧解脫者。能起一禪二禪三禪現在前。滿分者。乃至不能起一禪現在前。此中說少分慧解脫。經中說滿分慧解脫。是故二俱善通。

若法與法智相應。亦與比智相應耶。諸法以三事故共合。或以攝故合。或以相應故合。或以攝以相應故合。以攝合者。如智於智以相應合者。如智於定。以攝以相應合者。如智於根覺支道支。若法與法智相應。亦與比智相應耶。答曰。若法與法智相應。不與比智相應。所以者何。非一心故。若有法智。則無比智。而與他心智相應耶。答曰。或法與法智相應。不與他心智相應。乃至廣作四句。與法智相應不與他心智相應者。他心智所不攝法智相應法。彼是何耶。答曰。苦集滅法智他心智所不攝道法智相應法。與他心智相應非法智。法智所不攝他心智相應法。彼是何耶。答曰。比智他心智世俗他心智。與法智相應亦與他心智相應者。法智所攝他心智相應法。彼是何耶。答曰。法智他心智相應法。謂九大地。十善大地。及以心覺觀隨地。不與法

智相應亦不與他心智相應者。法智他心智所以者何。自體不應自體。廣說如上。及法智他心智所不攝不相應法。不攝者除自體。不相應者除相應。彼是何耶。答曰。苦集滅比智相應聚。他心智所不攝道比智相應聚。諸忍相應。他心智不相應。諸餘有漏心心數法。色無為。心不相應行。無緣故不與相應。如他心智。苦集滅道智正見亦如是。

若法與法智相應。不與等智相應。所以者何。法智相應聚異。等智相應聚異。與空三昧相應耶。法智與三三昧相應。空三昧與二智相應。謂苦法智苦比智。亦與二忍相應。謂苦法忍。苦比忍。是故得作大四句。與法智相應非空三昧者。空三昧應於法智。法智俱聚中空三昧體。與法智相應。不與空三昧相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及空三昧不相應法智相應法。彼是何耶。答曰。無願無相應聚。與法智相應者。與空三昧相應非法智。法智應於空三昧。空三昧俱聚中法智體。與空三昧相應非法智。所以者何。自體不應自體。如先說。及法智不相應空三昧相應法。彼是何耶。答曰。苦比智俱聚中苦忍俱聚空三昧相應法。與法智相應亦與空三昧相應者。除空三昧應於法智。除法智應於空三昧。法智空三昧俱聚中名除自體。餘心心數法。彼是何耶。答曰。謂八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與法智相應亦不與空三昧相應者。空三昧不與法智相應者。與苦比智苦忍相應者。空三昧自體。不與法智相應。以

是他聚故。亦不與空三昧相應。自體不應自體。如先說。法智不與空三昧相應者。與無願無相三昧相應者。法智自體。不與空三昧相應。以是他聚故。不與法智相應。自體不應自體。如先說。諸餘法智空三昧不相應法。彼是何耶。答曰。法智不相應無願無相俱聚是也。及有漏心心數法。色無為。心不相應行。如是等法。作第四句。如法智於空三昧。法智於無願三昧無相三昧喜覺支正覺亦如是。

若法與法智相應。亦與未知欲知根相應耶。乃至廣作四句。與法智相應不與未知欲知根相應者。未知欲知根所不攝法智相應法。彼是何耶。答曰。知根知已根所攝法智相應法。不與未知欲知根相應。所以者何。以是他聚故。與未知欲知根相應非法智者。未知欲知根所攝法智。未知欲知根俱聚中法智體。與未知欲知根相應非法智。自體不應自體。如先說。及法智不攝不相應未知欲知根相應法。彼是何耶。比智俱聚忍俱聚中。未知欲知根相應法。是名與未知欲知根相應非法智相應。所以者何。是他聚故。與法智相應亦與未知欲知根相應者。未知欲知根所攝法智相應法。彼是何耶。答曰。八根及彼相應非根心數法。不與法智相應亦不與未知欲知根相應者。未知欲知根所不攝法智。知根知已根俱聚中法智體。不與法智相應。自體不應自體。廣說如上。不與未知欲知根相應所以者何。以他聚故。及法智未知欲知根所。不攝不相應心心數法。彼是何耶。答曰。

●與二於● ●[以]一● ●心+(心)● ●應+(以)●

法智不攝不相應。知根已知根俱聚。及有漏心心數法。色無為心不相應行。如是等法。作第四句。如法智於未知欲知根。法智於知根已知根亦如是。

若法與法智相應。亦與念覺支相應耶。乃至廣作四句。與法智相應不與念覺支相應者。念覺支應於法智。法智俱聚中念覺支體與法智相應。不與念覺支相應所以者何。自體不應自體。如先說。與念覺支相應。不與法智相應者。法智應於念覺支。念覺支俱聚中法智體與念覺支相應。不與法智相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及法智不相應。念覺支相應法。彼是何耶。答曰。忍俱聚中。比智俱聚中。念覺支相應法。與法智相應。亦與念覺支相應者。除念覺支應於法智。以多故除。餘念覺支法智覺支聚中。各除自體。餘心心數法。與二相應。彼是何耶。答曰。謂八大地十善大地。及心覺觀隨地。不與法智相應。亦不與念覺支相應者。法智不相應念覺支。彼是何耶。答曰。忍俱聚中。比智俱聚中。念覺支體。不與法智相應。是他聚故。自體不應自體。如先說。一切無漏心。更無餘。有餘有漏心心數法。色無為心不相應行。作第四句。如法智於念覺支。法智於精進覺。枝猗覺。枝定覺。枝捨覺支。正方便正念正定亦如是。若法與法智相應。亦與擇法覺支相應耶。答曰。若法與法智相應。亦與擇法。覺。枝相應。願與擇法覺支相應。非法智耶。答曰。有。法智所不攝擇法覺支相應法。彼是何耶。答曰。忍

俱聚中。比智俱聚中。擇法覺支相應。如法智。比智說亦如是。
阿毘曇毘婆沙論卷第五十七

阿毘曇毘婆沙論卷第五十八

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

智捷度相應品第四之二

若法與他心智相應。亦與等智相應耶。乃至廣作四句。與他心智相應不與等智相應者。等智所不攝他心智相應法。彼是何耶。答曰。無漏他心智相應法。與等智相應。不與他心智者。他心智所不攝等智相應法。彼是何耶。答曰。他心智所不攝。若染污不隱沒無記等智相應法。與他心智相應。亦與等智者。他心智所攝等智相應法。彼是何耶。答曰。九大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與他心智相應。亦不與等智者。是等智他心智。所以者何。自體不應自體。如先說。及他心智等智所不攝不相應法。彼是何耶。答曰。苦智苦忍俱聚。集智集忍俱聚。滅智滅忍俱聚。道忍俱聚。及他心智所不攝道智相應法。已說一切有漏心無餘餘有色無為心不相應行。作第四句。如上他心智於等智。他心智於道智擇法覺支正見亦如是。若法與他心智相應。不與苦集滅智。不與空

無相相應。與無願相應耶。答曰。或與他心智相應。不與無願相應。乃至廣作四句。與他心智相應不與無願者。無願應於他心智。他心智俱聚中無願體。與他心智相應。不與無願。所以者何。自體不應自體。如先說。及無願不相應他心智相應法。彼是何耶。答曰。有漏他心智相應法。與無願相應非他心智者。他心智相應於無願。無願俱聚中他心智體。與無願相應。不與他心智。所以者何。自體不應自體。如先說。及他心智不相應無願相應法。彼是何耶。答曰。苦集無願不與他心智相應。以是他聚故。無願相應法。不與他心智相應。以是他聚故。與他心智相應亦與無願者。除無願應於他心智。除他心智應於無願。他心智無願俱聚中。各除自體。諸餘心心數法。與他心智無願相應。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與他心智相應。亦不與無願者。他心智不相應無願。彼是何耶。答曰。苦忍苦智集忍集智。道忍及他心智不攝道智。俱聚中無願體。不與他心智相應。以他聚故。不與無願相應。自體不應自體。如先說。無願不相應他心智。彼是何耶。有漏他心智俱聚中他心智體。不與無願相應。以他聚故。不與他心智相應。自體不應自體。如先說。及餘心心數法。彼是何耶。答曰。空無相俱聚。不與他心智相應。餘有漏心心數法。色無為心不相應行。如是等法。作第四句。如他心智於無願。他心智於六覺支四道支亦如是。若法與他心智相應。不與未知欲知根相應。

◎枝二支◎◎◎◎不分卷及品◎◎◎◎聚十(道智)◎◎

亦與知根相應耶。乃至廣作四句。與他心智相應不與知根相應者。知根所不攝他心智相應法。彼是何耶。答曰。知已根俱聚中。及有漏他心智俱聚中。與他心智相應法。與知根相應不與他心智者。知根所攝他心智。及他心智不攝不相應知根相應法。彼是何耶。答曰。苦集滅智俱聚。及他心智所不攝道智俱聚。與知根相應法。與他心智相應亦與知根相應者。知根所攝他心智相應法。彼是何耶。答曰。八根及彼相應非根心心數法。不與他心智相應。亦不與知根者。知根所不攝他心智。彼是何耶。答曰。知已根俱聚有漏中他心智體。不與知根相應。以他聚故。不與他心智相應。自體不應自體。如先說。及他心智知根所不攝不相應。諸餘心心數法。彼是何耶。答曰。未知欲知根俱聚他心智不攝不相應。知已根俱聚他心智不攝不相應。有漏心心數法。無為心不攝不攝。如是等法。作第四句。如他心智於知根。他心智於知已根亦如是。若法與等智相應。不與苦集滅道智三三昧覺支道支相應。若與苦智相應。不與集滅道智無相相應。亦與空三昧相應耶。乃至廣作四句。與苦智相應不與空三昧者。空三昧應於苦智。苦智俱聚中空三昧體。與苦智相應。不與空三昧相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及餘空三昧不攝苦智相應法。彼是何耶。答曰。無願俱聚中苦智相應法。與空三昧相應。不與苦智者。苦智應於空三昧。空三昧俱聚中苦智體。與空三昧相

應。不與苦智相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及餘苦智不攝空三昧相應法。彼是何耶。忍俱聚中。與空三昧相應法。與苦智相應。亦與空三昧者。除苦智應於空三昧。俱聚中各除自體。諸餘苦智空三昧相應心心數法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與苦智相應。亦不與空三昧者。苦智不攝空三昧。彼是何耶。苦忍俱聚中空三昧體。不與苦智相應。以他聚故。不與空三昧相應。自體不應自體。如先說。空三昧不攝苦智。彼是何耶。答曰。無願俱聚中苦智體。不與空三昧相應。是故聚故。不與苦智相應。自體不應自體。如先說。及餘心心數法。彼是何耶。苦智不攝無願俱聚無相俱聚有漏心心數法。無為心不攝不攝。如是等法。作第四句。如苦智於空三昧。苦智於無願三昧亦如是。餘廣說如法智。若法與集智相應。不與滅道智空三昧無相三昧。亦與無願相應耶。乃至廣作四句。與集智相應不與無願三昧者。無願應於集智。集智俱聚中無願三昧體。與集智相應。不與無願相應。所以者何。自體不應自體。如先說。與無願三昧相應。不與集智者。集智應於無願。無願俱聚中集智體。與無願相應。不與集智相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。及集智不攝無願相應法。彼是何耶。答曰。苦忍智俱聚中。集忍道忍道智俱聚中。無願相應法。與集智相應。亦與無願者。除集智相應無願。以多故。諸餘集智無願相

應法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與集智相應。亦不與無願三昧者。集智不攝無願。彼是何耶。苦忍苦智集忍道忍道智俱聚中無願體。不與集智相應。以他聚故。不與無願相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及餘心心數法。餘者是空三昧無相三昧俱聚一切有漏心心數法。無為心不攝不攝。如是等法。作第四句。餘廣說如法智。若法與滅智相應。不與道智空三昧無願三昧相應。亦與無相三昧相應耶。乃至廣作四句。與滅智相應不與無相三昧相應者。無相三昧應於滅智。滅智俱聚中無相三昧體。與滅智相應。不與無相三昧相應。所以者何。以三事故。自體不應自體。如先說。與無相三昧相應不與滅智者。滅智應於無相三昧。無相三昧俱聚中滅智體。與無相三昧相應。不與滅智相應。所以者何。自體不應自體。如先說。及滅智不攝無相三昧相應法。彼是何耶。滅忍俱聚中無相三昧相應法。與滅智相應。亦與無相三昧者。除無相三昧。應於滅智。以多故。諸餘滅智無相三昧相應法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與滅智相應。亦不與無相三昧者。滅智不攝無相三昧。彼是何耶。滅忍俱聚中無相三昧體。不與滅智相應。以他聚故。不與無相三昧相應。所以者何。自體不應自體。如先說。諸餘滅智無相三昧不攝心心數法。無漏法中。餘有空三昧無願三昧俱聚一切有漏心心數

◎未二不◎ ◎文二枚◎ ◎若十(法)◎ ◎相十應◎

法色無為心不相應行。如是等法。作第四句。餘廣說如法智。

若法與道智相應。不與空三昧無相三昧相應。亦與無願三昧相應耶。乃至廣作四句。與道智相應。不與無願三昧者。無願三昧。應於道智。道智俱聚中無願三昧體。與道智相應。不與無願三昧。所以者何。自體不應。自體如先說。與無願三昧相應。不與道智者。道智應於無願。無願俱聚中道智體。與無願三昧相應。不與道智。所以者何。自體不應。自體如先說。及道智不相應。無願相應法。彼是何耶。答曰。苦忍苦智集忍集智道忍俱聚中。與無願三昧相應法。與道智相應。及與無願三昧者。除道智相應無願。以多故除。諸餘道智無願三昧相應法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與道智相應。亦不與無願三昧者。道智不相應。無願三昧。彼是何耶。答曰。苦忍苦智集忍集智道忍俱聚中。無願三昧體。不與道智相應。以他聚故。亦不與無願三昧相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及除道智無願三昧不相應心心數法。無漏法中餘有空無相俱聚一切有漏心心數法。色無為心不相應行。如是等法。作第四句。餘廣說如法智。

與未知欲知根相應。以他聚故。與未知欲知根相應。不與空三昧者。未知欲知根所攝空三昧。未知欲知根俱聚中空三昧體。與未知欲知根相應。不與空三昧相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及餘空三昧所不攝。不與未知欲知根相應法。彼是何耶。答曰。無願無相三昧俱聚中。與未知欲知根相應法。與空三昧相應。亦與未知欲知根者。未知欲知根所攝與空三昧相應法。彼是何耶。答曰。八根及餘非根心數法。不與空三昧相應。亦不與未知欲知根相應者。未知欲知根所不攝空三昧。彼是何耶。知根知已根俱聚中空三昧體。不與未知欲知根相應。以他聚故。不與空三昧相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及空三昧未知欲知根所不攝。不相應諸餘心心數法。彼是何耶。答曰。未知欲知根不攝不相應。與無願無相三昧相應法。色無為心不相應行。如是等法。作第四句。如空三昧於未知欲知根。空三昧於知根知已根亦如是。

若法與空三昧相應。亦與念覺支相應耶。乃至廣作四句。與空三昧相應。不與念覺支者。念覺支應於空三昧。空三昧俱聚中念覺支體。與空三昧相應。不與念覺支相應。所以者何。自體不應。自體如先說。與念覺支相應。不與空三昧者。空三昧應於念覺支。念覺支俱聚中空三昧體。與念覺支相應。不與空三昧相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及餘空三昧不相應念覺支相應法。彼是何耶。無願無相三昧俱聚中。念覺支相應法。與空三昧相應。亦與念覺支者。除空三昧相應念覺支。以多故除。諸餘空三昧念覺支相應心心數法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與空三昧相應。亦不與念覺支者。空三昧不相應念覺支無願無相三昧俱聚中念覺支體。不與空三昧相應。以他聚故。不與念覺支相應。所以者何。自體不應。自體如先說。諸餘心心數法無漏心心數法。無餘餘有體如先說。如空三昧於念覺支。空三昧於擇法覺支精進覺支捨覺支正見正方便正念亦如是。

若法與空三昧相應。亦與喜覺支相應耶。乃至廣作四句。與空三昧不與喜覺支者。喜覺支應於空三昧。空三昧俱聚中喜覺支體。與空三昧相應。不與喜覺支相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及喜覺支不相應空三昧相應法。彼是何耶。未至禪中間禪第三第四禪三無色定中。空三昧相應法。與喜覺支相應。非空三昧者。空三昧應於喜覺支。喜覺支俱聚中空三昧體。與喜覺支相應。不與空三昧相應。所以者何。自體不應。自體如先說。及空三昧不相應喜覺支相應法。彼是何耶。無願無相三昧俱聚中喜覺支相應法。與空三昧相應。亦與喜覺支者。除喜覺支相應空三昧。除空三昧相應喜覺支。餘與空三昧喜覺支相應心心數法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與空三昧

願無相三昧俱聚中。念覺支相應法。與空三昧相應。亦與念覺支者。除空三昧相應念覺支。以多故除。諸餘空三昧念覺支相應心心數法。彼是何耶。答曰。八大地。十善大地。及心覺觀隨地。不與空三昧相應。亦不與念覺支者。空三昧不相應念覺支無願無相三昧俱聚中念覺支體。不與空三昧相應。以他聚故。不與念覺支相應。所以者何。自體不應。自體如先說。諸餘心心數法無漏心心數法。無餘餘有體如先說。如空三昧於念覺支。空三昧於擇法覺支精進覺支捨覺支正見正方便正念亦如是。

805

①廣二應 ②念一體 ③三十禪

相應亦不與喜覺支者。空三昧不相應喜覺支無願無相三昧俱聚中喜覺支體。不與空三昧相應。以他聚故。不與喜覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。喜覺支不相應空三昧。彼是何耶。未至中間禪第三第四禪三無色定俱聚中空三昧體。不與空三昧相應。所以者何。自體不應自體如先說。亦不與喜覺支相應。所以者何。彼地中無喜故諸餘心心數法。餘者未至中間第三第四禪三無色定中。無願無相三昧俱聚中一切有漏心心數法色無為心不相應行。如是等法作第四句。如空三昧於喜覺支。空三昧於正覺亦如是。若法與空三昧相應。亦與定覺支相應耶。答曰。若與空三昧相應。亦與定覺支相應。願與定覺支相應。不與空三昧相應耶。答曰。有。空三昧所不攝定覺支相應法。彼是何耶。無願無相俱聚中定覺支相應法。如空三昧於定覺支。空三昧於正定亦如是。如空三昧無願無相三昧說亦如是。異者無願無相三昧於喜覺支於正見正覺亦如是。若法與未知欲知根相應。不與知根已知根相應。亦與念覺支相應耶。乃至廣作四句。與未知欲知根相應不與念覺支者。未知欲知根所攝念覺支未知欲知根聚中念覺支體。與未知欲知根相應。不與念覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。與念覺支相應不與未知欲知根者。未知欲知根所不攝念覺支相應法。彼是何耶。答曰。知根已知根俱聚中念覺支相應法。不與未知欲知根相

應以他聚故。與未知欲知根相應亦與念覺支者。未知欲知根所攝念覺支相應法。彼是何耶。答曰。八根及彼相應非根心心數法。不與未知欲知根相應亦不與念覺支者。未知欲知根所不攝念覺支。彼是何耶。答曰。知根已知根俱聚中念覺支體。不與未知欲知根相應。以他聚故。不與念覺支相應行。所以者何。自體不應自體如先說。及餘心心數法。更無無漏心。餘一切有漏心心數法色無為心不相應行。如是等法。作第四句。如未知欲知根於念覺支。未知欲知根於擇法覺支精進覺支定覺支正見正方便正念正定亦如是。若法與未知欲知根相應。亦與喜覺支耶。乃至廣作四句。與未知欲知根相應不與喜覺支者。未知欲知根所攝喜覺支。未知欲知根俱聚中喜覺支體。與未知欲知根相應。不與喜覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。及喜覺支不攝不相應未知欲知根相應法。彼是何耶。答曰。未至中間第三第四禪中未知欲知根相應法。不與喜覺支相應。所以者何。彼地無喜故。與喜覺支相應不與未知欲知根者。未知欲知根不攝喜覺支相應法。彼是何耶。答曰。知根已知根中喜覺支相應法。不與未知欲知根相應。以他聚故。與未知欲知根相應亦與喜覺支者。未知欲知根所攝喜覺支相應法。彼是何耶。答曰。八根及彼相應非根心心數法。不與未知欲知根相應亦不與喜覺支者。未知欲知根不攝不相應

喜覺支彼是何耶。答曰。知根已知根俱聚中喜覺支體。不與未知欲知根相應以他聚故。亦不與喜覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。及餘未知欲知根喜覺支不攝不相應心心數法。彼是何耶。答曰。未至中間第三第四禪三無色中知根已知根俱聚中一切有漏心心數法色無為心不相應行。如是等法。作第四句。若法與未知欲知根相應。亦與猗覺支相應耶。乃至廣作四句。與未知欲知根相應不與猗覺支者。猗覺支應於未知欲知根。未知欲知根俱聚中猗覺支體。與未知欲知根相應。不與猗覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。與猗覺支相應不與未知欲知根者。未知欲知根不相應猗覺支相應法。彼是何耶。答曰。知根已知根俱聚中猗覺支相應法。不與未知欲知根相應。與未知欲知根相應亦與猗覺支者。猗覺支未知欲知根相應法。彼是何耶。答曰。十大地。九善大地。及心覺觀隨地。不與未知欲知根相應亦不與猗覺支者。未知欲知根不相應猗覺支。彼是何耶。知根已知根俱聚中猗覺支體。不與未知欲知根相應。是他聚故。亦不與猗覺支相應。所以者何。自體不應自體如先說。及餘心心數法。更無無漏心。餘有漏心心數法。色無為心不相應行。如是等法。作第四句。如未知欲知根於猗覺支。未知欲知根於捨覺支亦如是。若法與未知欲知根相應。亦與正覺

◎相+(三昧)◎ ◎知=如◎ ◎所)+不◎ ◎彼+(根)◎ ◎支+(相應)◎ ◎支+(故)◎

相應耶。乃至廣作四句。與未知欲知根相應。不與正覺者。正覺應於未知欲知根俱聚中正覺體與未知欲知根相應。不與正覺相應。所以者何。自體不應自體如先說。及正覺不相應。未知欲知根相應法。彼是何耶。中間禪三禪中未知欲知根相應法。與正覺相應。不與未知欲知根者。未知欲知根不相應。正覺相應法。彼是何耶。知根知已根俱聚中正覺相應法。不與未知欲知根相應。以他聚故。與未知欲知根相應亦與正覺者。未知欲知根正覺相應法。彼是何耶。答曰。十大地。十善大地。及心觀。不與未知欲知根相應。亦不與正覺者。未知欲知根不相應。正覺。彼是何耶。知根知已根俱聚中正覺。知根知已根俱聚中正覺體。不與未知欲知根相應。以他聚故。亦不與正覺相應。所以者何。自體不應自體如先說。及餘心心數法。餘者中間禪三禪三無色定中知根知已根俱聚中一切有漏心心數法。無為心。不相應行。如是等法。作第四句。如未知欲知根。知根知已根說亦如是。異者。

若法與知已根相應。亦與正見相應耶。乃至廣作四句。與知已根相應。不與正見者。知已根所攝正見知已根俱聚中正見體。與知已根相應。不與正見相應。所以者何。自體不應自體如先說。及餘正見不相應。知已根相應法。彼是何耶。答曰。盡智無生智俱聚中。與知已根相應。不與正見相應。以他聚故。與正見相應。不與已知根者。知已根所不攝正見相應法。未知欲知根俱聚中正見相應

法。不與已知根相應。以他聚故。與知已根相應。亦不與正見者。知已根正見相應法。彼是何耶。答曰。八根及彼相應。非根心心數法。不與已知根相應。亦不與正見者。知已根所不攝。正見未知欲知根俱聚中正見體。不與已知根相應。以他聚故。不與正見相應。所以者何。自體不應自體如先說。及餘心心數法。無漏法。無餘餘有漏心心數法。無為心。不相應行。如是等法。作第四句。餘相應如先品說。

是方便教諸子孫。汝等不應捨離如是方便。不久當得無量財寶。彼亦如是。云何四十四智體。知老死是一智體。知老死滅是二智體。知老死滅是三智體。知老死滅道。是四智體。知因老死。有四智體。乃至知行。亦有四智體。十一四則有四十四智體。問曰。何故不說知無明智體耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次。若是有支有為。作因者說智體。無明雖是有支有為。不作因。復次。有四法者立智體。無明有三法義故不立。知老死智是四智。謂法智比智苦智等智。知老死集智是四智。謂法智比智集智等智。知老死滅智是四智。謂法智比智滅智等智。知老死滅道智是四智。謂法智比智道智等智。知老死。有十六智。乃至知行。亦有十六智。若分別在身。及以利那。則有無量無邊。此中以有支以諦以對治故。有四十四智體。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十九

*迦旃延子造 *五百羅漢釋
北涼*天竺沙門浮陀跋摩
共道泰*等 譯

智。捷度相應品第四之三

有四十四智體。知老死智體。知老死集智體。知老死滅智體。知老死滅道智體。乃至知行亦如是。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說。佛告比丘。我今當說四十四智體。汝等皆應一心善聽。佛說是經。而不廣分別。佛經是此論所為根本。欲廣分別故。而作此論。問曰。若佛經是此論根本者。何故世尊說此經耶。答曰。世尊以如是方便道門。得阿耨多羅三藐三菩提。今欲以是方便道門示諸弟子。汝等不捨是方便道門者。不久當得盡漏。譬豪富長者。以如是方便積聚財物。復欲以

問曰。此四十四智體。幾在過去。幾在未來。幾在現在。答曰。或在過去。或在未來。或在現在。幾緣過去。幾緣未來。現在。答曰。三十三緣三世。十一緣非世法。若如雜。捷度所說者。三緣過去。謂知行行集知識集。三緣未來。謂知老死知老死集知生。十六緣現在。謂知生知生集。知有知有集。知取知取集。知愛知愛集。知受知受集。知觸知觸集。知六入知六入集。知名色知名色集。知識。十一緣三世。十一緣非世。幾是有漏。幾是無漏。答曰。或盡是有漏。或盡是無漏。幾緣有漏。幾緣無漏。答曰。二十二緣有漏。二十二緣無漏。幾是有為

◎知十(根知)◎ ◎第五十八二第八十一◎ ◎第五十九二第八十二◎ ◎捷一捷◎ ◎三二二◎ ◎捷二捷◎ ◎生知一◎

幾是無爲。答曰。盡是有爲。無有智是無爲者。幾緣有爲。幾緣無爲。答曰。三十三緣有爲。十一緣無爲。此智體不能得正決定。不得果。不離欲。不盡漏。是聖人本所得法。爲遊戲。故。爲觀本所作故。爲受現法樂故。爲受用聖法故。起此智現在前。

有七十七智體。問曰。何故作此論。答曰。此是佛經。佛經說。我今當說七十七智體。謂知生是老死緣智體。非不緣生有老死智體。乃至廣說。佛何故說此經者。如先說。

云何七十七智體。答曰。知生是老死緣是一智體。非不緣生有老死是二智體。過去生會爲老死緣是三智體。非不會緣過去生有老死是四智體。未來生當爲老死緣是五智體。非不當緣未來生有老死是六智體。及知法住智此法是無常是有爲從因緣生。是盡法是滅法。是無欲法。知如是法者是第七智體。如知老死有七智體。乃至知行亦有七智體。十一七智體則有七十七智體。問曰。此中何故不說知無明。緣智體耶。答曰。應說而不說者。當知此說有餘。復次若有支有爲作因者說智體。無明雖是有支有不爲作因。知生是老死緣。是四智體。謂法智比智等智集智。非不緣生有老死智體。何故復作此說耶。答曰。論有二種。一定自言。二定他言。定自言者。如佛弟子。以佛法義。定於自言。如外道弟子。以外道義。亦定自言。如育多婆提。以育多婆提義。定於自言。如毘婆闍婆提。以毘婆闍婆提義。定於自言。定他言者。如佛弟子定外

道弟子言。外道弟子定佛弟子言。如育多婆提。定毘婆闍婆提言。如毘婆闍婆提。定育多婆提言。或謂。此但爲論議故。作如是說。非是實法。欲令此義決定。有如是實事故。作是說。非不緣生有此老死。此智是四智。謂法智比智等智集智。通前有八智。如過去生會爲老死緣智體是四智。謂法智比智等智知集智。通前有十二智體。知非不會緣過去生有老死智體是四智。如先說。通前有十六智體。知未來生當爲老死緣智體是四智。如先說。通前有二十智體。知非不當緣未來生有老死智體是四智。如先說。通前有二十四智體。知法住智。乃至廣說。通前有二十五智體。如知老死緣有二十五智體。乃至知行緣有二十五智體。若分別在身及剎那者。則有無量無邊智體。此中以有支以世以諦以對治故。立七十七智體。問曰。何故不說知現在智體耶。答曰。或有說者。生是老死緣非不緣生有老死。是說知現在智體。過去者知過去。未來者知未來。復有說者。知生是老死緣非不緣生有老死。是說知三世。過去即知過去。未來即知未來。

問曰。此智幾在過去。幾在未來現在。答曰。或盡在過去。或盡在未來。或盡在現在。幾緣過去。幾緣未來。幾緣現在。答曰。若如所說生是老死緣非不緣生有老死。是說知現在智體者。二十二緣過去。二十二緣未來。二十二緣現在。十一緣三世。若作是說。生是老死緣非不緣生有老死。是說知三世智體者。二

十二緣過去。二十二緣未來。三十三緣三世。幾是有漏幾是無漏。答曰。或盡是有漏。或盡是無漏。幾緣有漏幾緣無漏。答曰。盡緣有漏。幾是有爲幾是無爲。答曰。盡是有爲。無有智體。是無爲者。幾緣有爲幾緣無爲。答曰。盡緣有爲。此智體不能得正決定。乃至廣說。

及法住智。乃至廣說。法住智者。是因智所以者何。住名爲因三界。上中下果。在彼中住故。若知此智。名知法住智。此智是四智。謂法智比智等智集智。復有說者。若欲知法住智。是名知法住智。知彼智是道智。問曰。若然者。此說云何通。如說此是盡法滅法無欲法無漏法。非是無欲法。答曰。此文應如是說。此是盡法滅法。不應言無欲法。而不說者。有何意耶。答曰。欲呵責無漏法故。經說蘇尸摩當知。先有法住智。後有涅槃智。問曰。此中何者是法住智。何者是涅槃智耶。答曰。知生死增長智是法住智。知生死增長滅智是涅槃智。復次知十二緣起是法住智。知十二緣起滅是涅槃智。知苦集智是法住智。知滅道智是涅槃智。若作是說則爲善通。先有法住智後有涅槃智。復有說者。苦集道智是法住智。滅智是涅槃智。問曰。若然者。先有法住智後有涅槃智。此說云何通。答曰。涅槃智亦有在後者。復次諸邊中智是法住智。根本中智是涅槃智。何以知之。經說有衆多異學梵志。共集一處。作如是談論。聞有此言。沙門瞿曇未出世時。我等爲國王大臣婆羅門居士。而見

尊重供養。今沙門瞿曇出世。奪我名稱利養。

◎說知二有說◎

猶如日出令火無光。我等今當作何方便還

得名譽利養。乃至廣說。復作是念。沙門瞿曇

更無異德。但善知經論。顏貌端正我等不假

顏貌。但知經論者。便可還得名譽利養。乃至

廣說。復作是言。今此衆中誰能堪任於沙門

瞿曇法中出家而竊於法。令我等受持讀誦

復作是言。今蘇尸摩梵志志念堅固。堪任於

沙門瞿曇法中出家竊法。令我等受持讀誦

即皆往詣蘇尸摩所。具陳上事而以告之。爾

時蘇尸摩以二事故。而便可之。一以親愛眷

屬故。二以善根因緣故。爾時蘇尸摩出王舍

城。詣於竹林。時有衆多比丘。在精舍門邊

往反經行。爾時蘇尸摩遙見諸比丘。即往其

所而作是言。諸比丘。當知我欲於沙門瞿曇

法中。淨修梵行。時諸比丘即將蘇尸摩詣世

尊所。而白佛言。今此蘇尸摩梵志者。欲於

世尊法中出家受具足。戒行比丘法。佛告諸

比丘。汝等可爲蘇尸摩出家授其具足。時諸

比丘即爲出家授具足。時蘇尸摩聰明智慧。

念力堅固。未久之間。讀誦三藏。少解其義。便

作是念。若欲利我親屬者。今正是時。從竹

林出欲詣王舍城。世尊有遍照眼。守護於法。

誰能竊者。爾時有五百比丘詣蘇尸摩所。或

有說者。是諸比丘佛所化作。或有說者。是

實比丘。時諸比丘到蘇尸摩所。皆作是言。蘇

尸摩。當知我等生分已盡。所作已辦。梵行

已立。不受後有時蘇尸摩便問諸比丘言。汝

等依於初禪得盡漏耶。答曰。不也。依第二第

三四禪及過色無色寂靜解脫得盡漏耶。

答言不也。時蘇尸摩復作是言。汝等既不依

禪定。而得盡漏。誰當信耶。時諸比丘皆作是

言。我等是慧解脫。時蘇尸摩不識慧解脫。若

我親屬問是義者。我則不知。以是事故。還詣

佛所。具以上事。向佛說之。佛作是答。蘇尸

摩。當知先有法住智後有涅槃智。蘇尸摩復

白佛言。世尊。我今不知何者法住智何者是

涅槃智。佛告蘇尸摩。汝知與不知。但法應如

是。先有法住智後有涅槃智。彼諸比丘。先

依未至禪盡漏後起根本禪。以是事故。知諸

邊中智是法住智根本中智是涅槃智

若成就法智亦成就比智耶。答曰。若得。云何

爲得。若苦比智現在前。設成就比智亦成就

法智耶。答曰。如是。所以者何。以法智在前

得故。若成就法智亦成就他心智耶。答曰。若

得不失。云何若得不失。已離欲愛。於彼離欲

不退。設成就他心智亦成就法智耶。答曰。若

得。云何爲得。若苦法智現在前若成就法智

亦成就等智耶。答曰。如是。設成就等智亦成

就法智耶。答曰。若得。云何爲得。若苦法智

現在前。若成就法智亦成就苦智耶。答曰。

如是。設成就苦智亦成就法智耶。答曰。如

是。所以者何。此二智一時得故。若成就法智

亦成就集滅道智耶。答曰。若得。設成就集滅

道智亦成就法智耶。答曰。如是。所以者何。

法智在前得故。若成就比智亦成就他心智

耶。答曰。若得不失。云何若得不失。已離欲

愛於彼離欲不退。設成就他心智亦成就比

智耶。答曰。若得。云何爲得。若苦比智現在

前若成就比智亦成就等智耶。答曰。如是。

設成就等智亦成就比智耶。答曰。若得。如先

說。若成就比智亦成就苦智耶。答曰。如是

設成就苦智亦成就比智耶。答曰。若得。如先

說。若成就比智亦成就集滅道智耶。答曰。若

得。如先說。設成就集滅道智亦成就比智耶。

答曰。如是。若成就他心智亦成就等智耶。答

曰。如是。設成就等智亦成就他心智耶。答

曰。若得不失。如先說。若成就他心智亦成就

苦集滅道智耶。答曰。若得。設成就苦集滅道

智亦成就他心智耶。答曰。若得不失。如先

說。若成就等智亦成就苦集滅道智耶。答曰。

若得。設成就苦集滅道智亦成就等智耶。答

曰。如是。若成就苦智亦成就集滅道智耶。答

曰。如是。所以者何。苦智在前得故。若成就集

智亦成就滅道智耶。答曰。若得。設成就滅道

智亦成就集智耶。答曰。如是。若成就滅智

亦成就道智耶。答曰。若得。設成就道智亦成

就滅智耶。答曰。如是

若成就過去法智亦成就未來耶。答曰。如是。

何等時成就過去未來法智耶。答曰。得正決

定。見苦諦時。二心頃。見集諦時。四心頃。見滅

諦時。四心頃。見道諦時。三心頃。得須陀洹果

斯陀含果阿那含果阿羅漢果。信解脫轉根

作見到時。解脫轉根作不動時。已起滅法智。

設成就未來法智亦成就過去耶。答曰。若滅

已不失。如先說。時若不滅。設滅便失。則不成

就何等時。成就未來法智。不成就過去耶。答

①淨二學②今二合③戒一④比二彼⑤二二一

答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。得須陀洹果。未起滅法智。先起滅者。得果故失。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。若成就過去法智。亦成就現在耶。答曰。若現在前。云何爲現在前。若不起比智等智忍。若非無心時。乃現在前。何等時成就過去現在法智耶。答曰。得正決定。見集諦時一心頃。見滅諦時一心頃。見道諦時一心頃。得須陀洹果。已起滅法智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智現在前。設成就現在法智。亦成就過去耶。答曰。若滅已不失。則成就何等時。成就現在法智。亦成就過去耶。答曰。如先說時。若不滅設滅便失。則不成就何等時。成就現在法智。非過去耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。得須陀洹時。未起滅法智。先起滅者。得果故失。起法智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。起法智現在前。若成就未來法智。亦成就現在耶。答曰。若現在前。何等時成就未來現在法智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。見集諦時一心頃。見道諦

時一心頃。得須陀洹果。已起滅法智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智現在前。設成就未來現在法智。亦成就過去耶。答曰。若滅已不失。則成就。如先說時。若不滅設滅便失。則不成就。何等時成就未來現在法智。不成就過去耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。得須陀洹果。未起滅法智。先起滅者。得果故失。起法智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。起法智現在前。若成就未來法智。亦成就現在耶。答曰。或成就未來法智。非過去現在。及過去非現在。及現在非過去。及過去現在。成就未來法智。非過去現在者。若得法智未滅。設滅便失。則不現在前。若得法智。是則明有未來。若未滅。設滅便失。則明無過去。不現在前。則明無現在。何等時成就未來法智。不成就過去現在耶。見道中無得須陀洹果。未起滅法智。先起滅者。得果故失。不起法智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。不起法智現在前。及過去非現在者。若已起滅法智。不起法智現在前。若已起滅法智。則明有過去。不起法智現在前。則明無現在。若成就過去。必成就未來。何等時成就過去未來法智。不成就現在耶。答曰。如先說。成就過去未來法智時。及現在非過去者。起法智現在前。若未滅設滅便失。起法智現在前。則明有現在。若未滅設滅便失。則明無過去。若成就現在。必成就未來。何等時成就未來現在法智。非過

去耶。答曰。如先說。成就未來現在法智時。及過去現在者。若以起滅法智不失。起法智現在前。若以起滅法智不失。則明有過去。起法智現在前。則明有現在。若成就過去現在。必成就未來。何等時成就三世法智耶。答曰。如先說。成就三世法智時。設成就過去現在法智。亦成就未來耶。答曰。如是。若成就現在法智。亦成就過去未來耶。答曰。未來則成就。過去若滅已不失。若未滅。設滅便失。則不成就。何等時成就三世法智耶。答曰。如先說。成就三世法智時。設成就過去未來法智。亦成就現在耶。答曰。若現在前。如先說。如法智作六句。比智苦智集智滅智道智作六句。亦如是。

阿毘曇毘婆沙論卷第五十九

阿毘曇毘婆沙論卷第六十

迦旃延子造 五百羅漢釋

北涼天竺沙門浮陀跋摩

共道泰等 譯

智健度相應品第四之四

◎若成就過去他心智。亦成就未來耶。答曰。如是。所以者何。若成就過去。必成就未來。何等時成就過去未來他心智耶。答曰。生欲界離欲界欲者。及生色界者。若學人於欲界色界。已起滅無漏他心智。命終生無色界。未得阿羅漢果者。設成就未來他心智。亦成就過

去耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若未滅設滅便失。則不成就。生欲界色界。則無是事。若於欲界色界。已起滅他心智。命終生無色界。於彼得阿羅漢果者。是時不起滅他心智。先起滅者。得果故失。若聖人於欲色界。不起滅無漏他心智。命終生無色界者。唯成就未來他心智非過去。若成就過去他心智。亦成就現在耶。答曰。若現在前云何為現在前。若不起餘智。不起忍。若非無心。乃現在前。設成就現在他心智。亦成就過去耶。答曰。如是。何等時成就過去現在他心智耶。答曰。生欲色界。起他心智現在前。若成就未來他心智。亦成就現在。必成就未來。若成就過去他心智。亦成就未來現在耶。答曰。未來則成就。現在若現在前。云何為現在前。如先說。何等時成就三世他心智耶。答曰。生欲色界。起他心智現在前。設成就未來現在他心智。亦成就過去耶。答曰。如是。何等時成就三世他心智耶。答曰。如先說。若成就未來他心智。亦成就過去現在耶。答曰。或成就未來他心智非過去現在。及過去非現在。及過去現在。何等時成就未來他心智。非過去現在耶。答曰。生欲色界中。無有是事。若學人於欲色界中。不起滅無漏他心智。命終生無色界。未得阿

羅漢果者。若已起滅他心智。命終生無色界。得阿羅漢果者。是時唯成就未來。及過去非現在者。生欲界離欲愛。不起他心智現在前。生色界不起他心智現在前。若學人已起滅無漏他心智。命終生無色界。未得阿羅漢果者。及過去現在者。生欲色界。起他心智現在前。設成就過去他心智現在他心智。亦成就未來耶。答曰。如是。何等時成就三世他心智。如先說時。若成就現在他心智。亦成就過去未來耶。答曰。如是。何等時成就三世他心智耶。答曰。如先說時。設成就過去未來他心智。亦成就現在耶。答曰。若現在前。云何為現在前。答曰。如先說。若成就過去等智。亦成就未來耶。答曰。如是。所以者何。一切衆生。盡成就過去未來等智。成就未來等智。亦成就過去耶。答曰。如是。若成就過去等智。亦成就現在耶。答曰。若現在前。云何為現在前。若不起無漏智。不起忍。若非無心乃現在前。設成就現在等智。亦成就過去耶。答曰。如是。餘廣說如經本。若成就過去法智。亦成就過去比智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就過去法智比智耶。答曰。得正決定。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。已起滅法智比智。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智比智。若不滅。設滅便失。則不成。何等時成就過去法智。不成就比智耶。答曰。得須陀洹果阿羅漢果。時解脫轉根作不動時。無有是事。所以者何。是時先有比智

故。何等時成就過去法智。不成就過去比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時二心頃。得斯陀含果時。已起滅法智非比智。先起滅者得果故失。得阿那含果信解脫。轉根作見到亦如是。設成就過去比智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就過去比智。不成就過去法智耶。答曰。見道中。無有是事。所以者何。見道中。先得法智故。得須陀洹果時。已起滅比智。不起滅法智。先起滅者得果故失。乃至時解脫轉根作不動。已起滅比智。不起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。若成就過去法智。亦成就未來比智耶。答曰。若得何等時成就過去法智。亦成就未來比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。已起滅法智。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。設成就未來比智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就未來比智。亦成就過去法智耶。答曰。如先說時。若不滅設滅便失。則不成。何等時成就未來比智。不成就過去法智耶。答曰。見道無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。不起滅法智。若成就過去法智。亦成就現在比智耶。答曰。若成就現在前云何為現在前。若不起餘智。不起忍。若非無心。乃現在前。何等時成就過去法智。亦成就現在比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。見集諦時一心頃。見滅諦時一心頃。得須陀洹果。已起滅法智。起比智現在前。

乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。起比智現在前。設成就現在比智。亦成就過去去法智耶。答曰。若滅不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失。則不成就。何等時成就現在比智。不成就過去去法智耶。答曰。見道中。無有是事。得須陀洹果。未起滅法智。先起滅法智者。得果故失。起比智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅法智者。得果轉根故失。起比智現在前。若成就過去去法智。亦成就過去現在比智耶。答曰。或成就過去去法智。不成就過去現在比智。及過去非現在。及現在非過去。及過去現在。成就過去去法智。非成就過去現在比智者。已起滅法智。未起滅比智。不起比智現在前。何等時成就過去去法智。不成就過去現在比智耶。答曰。得須陀洹果阿羅漢果。時解脫轉根作不動。無有是事。得正決定。見苦諦時一心頃。得斯陀含果阿那含果信解脫轉根作見到時。已起滅法智。未起滅比智。先起滅者。得果轉根故捨。不起比智現在前。及過去非現在者。已起滅法智比智。不起比智現在前。何等時成就過去去法智比智。不成就現在比智耶。答曰。如先說。及現在非過去者。已起滅法智。起比智現在前。若未滅設滅便失。何等時成就過去去法智現在比智。非過去去比智耶。答曰。如先說。及過去現在者。已起滅法智比智。起比智現在前。何等時成就過去去法智及過去現在比智耶。答曰。得正決定。見集諦時一心頃。見滅諦時一心頃。得須陀洹果。已起滅法智比智。

起比智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智比智起比智現在前。設成就過去去法智。亦成就過去去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就過去去法智。亦成就過去去法智耶。答曰。如先說。若不滅。設成就過去去法智耶。亦成就過去去法智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。已起滅比智起比智現在前。未起滅法智。先起滅者。得果故失。乃至時解脫轉根作不動。說亦如是。若成就過去去法智。亦成就未來現在比智耶。答曰。或成就過去去法智。不成就未來現在比智及未來非現在及未來現在。成就過去去法智非未來現在比智者。已起滅法智不失。未得比智。何等時成就過去去法智。非未來現在比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。及未來非現在者。已起滅法智不失。得比智不起現在前。何等時成就過去去法智及未來比智非現在耶。答曰。如先說。及未來現在者。已起滅法智不失。起比智現在前。何等時成就過去去法智。亦成就未來現在比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。見集諦時一心頃。得須陀洹果。已起滅法智。起比智現在前。乃至時解脫轉根作不動亦如是。設成就未來現在比智。亦成就過去去法智耶。答曰。若滅已不失。則成就。何等時成就未來現在比智。亦成就過去去法智耶。答曰。如先說。若不滅。設滅便失。則不成就。何等時成就未來現在比智。不成就過去去法智耶。答曰。見道中。無有

是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動時。未起滅法智先起滅者。得果轉根故失。起比智現在前。若成就過去去法智。亦成就過去去法智耶。答曰。或成就過去去法智。非過去去未來比智。及未來非過去。及過去未來成就過去去法智。非過去去未來比智者。已起滅法智不失。未得比智。何等時成就過去去法智。非過去去未來比智耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。及未來非過去者。已起滅法智不失。得比智未滅。設滅便失。何等時成就過去去法智及未來比智非過去耶。答曰。得正決定。見苦諦時一心頃。得須陀洹果阿羅漢果時解脫轉根作不動時。無有是事。所以者何。比智在前得故。得斯陀含阿那含果信解脫轉根作見到時。已起滅法智。未起滅比智。先起滅者。得果轉根故失及過去未來比智者。已起滅法智。比智不失。何等時成就過去去法智及過去未來比智耶。答曰。得正決定。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。已起滅法智比智。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智比智。設成就過去未來比智。亦成就過去去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅。設滅便失。則不成就。何等時成就過去未來比智。不成就過去去法智耶。答曰。見道中。無有是事。所以者何。法智在前得故。得須陀洹果。已起滅比智。未起滅法智。先起滅者。已得果故失。乃至時解脫轉根作不動亦如是。若成就過去去法智。亦成就過去未來現在比智耶。答曰。是有五

句成就過去法智非過去未來現在比智者。答曰。如先說及未來非過去現在者。答曰。如先說及過去未來非現在者。答曰。如先說及未來現在非過去者。答曰。如先說及過去未來現在者。已起滅法智比智。起比智。現前何等時成就過去法智。亦成就三世比智耶。答曰。得正決定。見集諦時一心頃。見滅諦時一心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智比智。起比智。現在前設成就過去未來現在比智。亦成就過去法智耶。答如先說。若成就過去法智。亦成就過去他心智耶。答曰。若滅已不失。則成就過去。何等時成就過去法智他心智耶。答曰。離欲愛人。得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得阿那含果阿羅漢果。離欲愛人。信解脫轉根作見到。時解脫轉根作不動。已起滅法智他心智。若不滅設滅便失則不成。何等時成就過去法智。非他心智耶。答曰。未離欲愛人得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果斯陀含果。未離欲愛人。信解脫轉根作見到時。已起滅法智。設成就過去他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就如先說時。若不滅設滅便失則不成。何等時成就過去他心智非法智耶。答曰。離欲愛人得正決定。見苦諦時二心頃。得阿那含果阿羅漢果。未起滅法智。設起滅者。得果故失。離欲愛信解脫轉根作見到。時解脫轉根

作不動。未起滅法智。設起滅者。轉根故失。若於欲界不起滅法智。命終生色界者。若於欲界色界。已起滅無漏他心智。不起滅法智。命終生無色界。未得阿羅漢果者。生欲界離欲愛凡夫。生色界凡夫。若成就過去法智。亦成就未來他心智耶。答曰。若得不失則成就。云何得不失。若離欲愛。於彼離欲不退。何等時成就過去法智。亦成就未來他心智耶。答曰。如先說時。設成就未來他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若已滅不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成。何等時成就未來他心智。不成就過去法智耶。答曰。離欲愛人得正決定。見苦諦時二心頃。得阿那含果得阿羅漢果。未起滅法智。設起滅者。得果故失。離欲愛信解脫轉根作見到。時解脫轉根作不動。未起滅法智。設起滅者。轉根故失。若於欲界。未起滅法智。命終生無色界。設起滅者。即於彼得阿羅漢果。生欲界離欲凡夫。生色界凡夫。若成就過去法智。亦成就現在他心智耶。答曰。若現在前。云何為現在前。若不起餘智不起忍。若非無心。乃現在前。何等時成就過去法智。智成就現在他心智耶。答曰。得阿那含果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。起他心智現在前。若於欲界起滅法智。命終生色界。起他心智現在前。設成就現在他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成。何等時成就現在他心智。不成就過去法智耶。答曰。見道中無有心智。不成就過去法智耶。答曰。見道中無有

是事。得阿那含果。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。設起滅者。得果轉根故失。起他心智現在前。若於欲界。不起滅法智。命終生色界。起他心智現在前。設起滅者。即於彼得阿羅漢果。起他心智現在前。生色界凡夫。起他心智現在前。若成就過去法智。亦成就過去現在他心智耶。答曰。或成就過去法智。不成就過去現在他心智及過去非現在。及過去現在。成就過去法智非過去現在他心智者。若已起滅法智。不起滅他心智。設起滅者便失。不起他心智現在前。何等時成就過去法智。不成就過去現在他心智耶。答曰。如先說。未離欲愛時。及過去非現在前者。已起滅法智他心智不失。不起他心智現在前。如先說。異者言不起他心智現在前。及過去現在者。已起滅法智他心智不失。起他心智現在前。何等時成就過去法智。亦成就過去現在他心智耶。答曰。見道中無有是事。得阿那含果。已起滅法智。起他心智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。起他心智現在前。若於欲界。已起滅法智。命終生色界。未得阿羅漢果。起他心智現在前。設成就過去現生他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成。何等時成就過去現在他心智。非過去法智耶。答曰。見道中無有是事。阿那含果。未起滅法智。起他心智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。起他心智現在前。若於欲界不起滅法智。命終生色

◎現+(在)◎ ◎答+(曰)◎ ◎就+(知)◎ ◎界-一◎ ◎智+(亦)◎

界。起他心智現在前。設起滅者。生色界得阿羅漢果。起他心智現在前。生欲色界凡夫。起他心智現在前。若成就過去法智。亦成就未來現在他心智耶。答曰。此中有三句。成就過去法智。不成就未來現在他心智者。答曰。先說。及未來非現在者。已起滅法智不失。得他心智不起現在前。何等時成就過去法智及未來他心智。非現在耶。答曰。離欲愛人。得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得阿那含果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。不起他心智現在前。若於欲界起滅法智。命終生色界。未得阿羅漢果。不起他心智現在前。若生無色界。未得阿羅漢果。及未來現在者。已起滅法智不失。起他心智現在前。何等時成就過去法智及未來現在他心智耶。答曰。如先說。成就過去現在他心智時。設成就未來現在他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成就。如先說。若成就過去法智。亦成就過去未來他心智耶。答曰。此中有三句。成就過去法智。非過去未來他心智者。答曰。如先說。及未來非過去者。已起滅法智他心智。未起滅。設滅便失。何等時成就過去法智及未來他心智耶。答曰。生欲色界。無有是事。若於欲色界起滅法智。不起滅無漏他心智。命終生無色界。未得阿羅漢果。及過去未來他心智者。答曰。如先說。設成就過去未來他心智。亦成就過去法智耶。答曰。如先說。

若成就過去法智。亦成就過去未來現在他心智耶。答曰。此中有四句。隨相而說。設成就過去未來現在他心智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成就。亦如先說。

若成就過去法智。亦成就過去等智耶。答曰。如是。何等時成就過去法智。亦成就等智耶。答曰。得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。設成就過去等智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成就。何等時成就過去等智。不成就過去法智耶。答曰。一切凡夫人及得正決定。見苦諦時二心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。設起滅者。得果轉根故失。若成就過去法智。亦成就未來等智耶。答曰。如是。何等時成就過去法智及未來等智。答曰。如先說。設成就未來等智。亦成就過去法智耶。答曰。若已滅不失則成就。如先說。若不滅。設滅便失則不成就。亦如先說。若成就過去法智。亦成就現在等智耶。答曰。若現在前。云何為現在前。若不起無漏智。不起忍。若非無心。乃現在前。何等時成就過去法智及現在等智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動時。已起滅法智。起等智現在前。設成就現在等智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅。設滅便失則不

成就。何等時成就現在等智。不成就過去法智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。未起滅法智。先起滅者。得果故失。起等智現在前。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果。轉根故失。起等智現在前。餘隨相廣說作七句。

若成就過去法智。亦成就過去苦智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就過去法智苦智耶。答曰。得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智苦智。若不滅設滅便失則不成就。何等時成就過去法智。不成就過去苦智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅集滅道法智。未起滅苦智。先起滅者。得果轉根故失。設成就過去苦智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。何等時成就過去苦智法智耶。答曰。如先說。若不滅設滅便失則不成就。何等時成就過去苦智。不成就過去法智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅苦比智。未起滅法智。設起滅者。得果轉根故失。若成就過去法智。亦成就未來苦智耶。答曰。如是。何等時成就過去法智。亦成就未來苦智耶。答曰。得正決定。見苦諦時二心頃。見集諦時四心頃。見滅諦時四心頃。見道諦時三心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。設成就未來苦智。成就過去法智耶。答曰。若滅

●答十(日)●* ●滅法一法滅●● ●(轉根)一●

已不失則成就。何等時成就未來苦智。亦成就過去法智耶。答曰。如先說時。若不滅設滅便失。則不成就。何等時成就未來苦智。不成就過去法智耶。答曰。得正決定。見苦諦時。○一心頃。得須陀洹果。未起滅法智。先起滅者。得果故失。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。若成就過去法智。亦成就現在苦智耶。答曰。若現在前。云何為現在前。若不起餘智不起忍。若非無心。乃現在前。何等時成就過去法智。亦成就現在苦智耶。答曰。得正決定。見苦諦時。○一心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智起苦智現在前。設成就現在苦智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成就。何等時成就現在苦智。不成就過去法智耶。答曰。得正決定。見苦諦時。○一心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。起苦智現在前。若成就過去法智。亦成就過去現在苦智耶。答曰。此中有四句。成就過去法智不成就過去現在苦智者。若已起滅法智不失則成就。未起滅苦智。設起滅者便失。不起苦智現在前。何等時成就過去法智。不成就過去現在苦智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。已起滅法智。未起滅苦智。設起滅者。得果故失。不起苦智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。未起滅苦智。設起滅者。得果轉根故失。不起苦智現在前。及過去非現

在者。已起滅法智苦智。不起苦智現在前。何等時成就過去法智苦智。○不成就現在苦智耶。答曰。得正決定。見苦諦時。○一心頃。見集諦時。四心頃。見滅諦時。四心頃。見道諦時。三心頃。得須陀洹果。已起滅法智苦智。不起苦智現在前。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智苦智。不起苦智現在前。及現在前非過去者。若已起滅法智不失。未起滅苦智。設起滅者便失。起苦智現在前。何等時成就過去法智及現在苦智非過去耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智。未起滅苦智。先起滅者。得果轉根故失。起苦智現在前。及過去現在者。已起滅法智苦智。起苦智現在前。何等時成就過去法智及過去現在苦智耶。答曰。得正決定。見苦諦時。○一心頃。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅法智苦智。起苦智現在前。設成就過去現在苦智。亦成就過去法智耶。答曰。若滅已不失則成就。如先說時。若不滅設滅便失則不成就。何等時成就過去現在苦智。不成就過去法智耶。答曰。見道中無有是事。得須陀洹果。乃至時解脫轉根作不動。已起滅苦比智。未起滅法智。先起滅者。得果轉根故失。起苦比智現在前。若成就過去法智。亦成就未來現在苦智耶。答曰。未來則成就。現在若現在前。餘隨相而說。若成就過去法智。亦成就過去未

來現在苦智耶。答曰。此中有四句。隨相而說。如法智於苦智作七句。法智於集滅道智作七句亦如是。過去法智過去比智過去他心智作七句。乃至道智作七句亦如是。餘廣說如使。健度。一行歷六七大七有以差別。答亦如使。健度

阿毘曇毘婆沙論卷第六十

毘婆沙序

釋道。擬作

毘婆沙者。蓋是三藏之指歸。九部之司南。司南既住。則群迷革正。指歸既宣。則邪輪輟駕。自釋迦遷降六百餘載。時北天竺。有五百應真。以為靈燭久潛。神炬落。耀。含生昏重。重夢方始。雖前勝迦旃延撰。阿毘曇以拯頹運。而後進之賢。尋其宗致。儒墨競構。是非紛如。故乃澄神畜觀。搜簡法相。造毘婆沙抑正衆說。或即其殊辯。或標之銓評。理致淵曠。文蹄艷博。西域勝達之士。莫不資之以鏡心。監之以朗識。而冥瀾潛灑。將洽殊方。然理不虛運。弘之由人。大沮渠河西王。天懷遐廓。標誠冲寄。雖迹纏紛務。而神接玄境。用能丘壑。廊廟館第林野。是使淵叟投策。巖逸來庭。息心昇堂。玄客入室。誠詣既著。理感不期。有沙門道泰。才敏自天。沖氣疏朗。關博奇趣。遠參異旨。往以漢土方等。既備幽宗。粗暢其所。未練唯三藏九部。故杖策冒嶮。爰至葱西。綜攬

○一三二○ ○不十(起)○ ○(失)十成○ ○鍵二捷○ ○* ○第六十二第八十二○ ○明本無此後序 ○擬二案○ ○* ○自二日○ ○擬二輝○ ○ ○評二訊○

梵文。義承高旨。并獲梵本十萬餘偈。既達涼境。王即欲令宣譯。然懼環中之固將或未盡。所以側席虛衿企屬明勝。天竺沙門淨陀摩。周流敷化。會至涼境。其人開悟淵博。神懷淵邃。研味鑽仰。愈不可測。以乙丑歲四月中旬。於涼城內苑閑豫官寺請令傳譯理味。沙門智嵩道朗等三百餘人。考文評義。務在本旨。除煩卽實。質而不野。王屢迴駕陶其幽趣。使文當理。詣片言有寄。至丁卯歲七月都訖。合一百卷。會涼城覆沒。淪湮遐境。所出經本。零落殆盡。今涼王信尙發中探練幽趣。故每至新異希仰奇聞。更寫已出本六十卷。送至宋臺宣布未聞。庶令日新之美。敏於當時。福祚之興。垂於來葉。擬以微緣豫參聽末。欣遇之誠。竊不自默。粗例時事。以貽來哲。

如來滅後。法勝比丘造阿毘曇心四卷。又迦旃延子造阿毘曇。有八捷度凡四十四品。後五百應真造毘婆沙。重釋八捷度。當沮渠翻時大卷一百。大武破沮渠已後。零落收拾得六十卷。後人分之作一百一十卷。唯釋三捷度。五捷度失盡。

毘婆沙序

No. 1547 [cf. Nos. 1543-1546]

轉婆沙論卷第一

阿羅漢尸陀繫尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

愛樂覺意葉 清淨戒妙枝

無比三十二 奇相華嚴身

最智甘露果 堅固精進根

具足聖道樹 我頂禮如來

善快說無比 息道無為城

歸命功德仙 消除愛愛感

離生老病死 安隱永無欲

大仙所演法 我今稽首禮

妙戒高顯現 山岳不移動

清淨智慧法 解脫大牟尼

禪等叢林樹 神足石無邊

聖衆大雪山 我今稽首禮

如是稽首禮 世稱無有比

大師廣演教 吾今奉受持

我說正覺語 增益無上樂

聖衆等欲聞 專心一意聽

轉婆沙說阿毘曇八捷度

雜結使智行四大根定見迦旃延子造見雜捷度總序曰

問曰。誰作此經。答曰佛。何以故。答曰。甚深

智微妙法性一切智境界。誰有此界。無餘唯

佛也。問曰。若爾者。云何作。答曰。尊者舍利

弗問佛答。復有說者。五百比丘問佛答。復有

說者。諸天問佛答。復有說者。化問佛答。何以

故。答曰。此法應爾。如知應當說。無能問者。彼

時世尊化作化端正極妙。宗敬悅可。剃除鬚

髮被僧迦鬘。叉手而問世尊答。如彼因緣經

所說也。問曰。若爾者。何以故說尊者迦旃延

作此經。答曰。彼尊者誦習轉教他人廣施設。

此誦習廣施設謂之造也。或曰。彼尊者迦旃

延作此經。問曰。如甚深智微妙法性一切智

境界。誰有此界。無餘唯佛。云何彼作答曰。彼

尊者本學利作誓願。於五千佛修阿毘曇。令

我於當來三耶三佛施設阿毘曇章句。是故

彼妙智觀已作此經。問曰。若爾者。佛阿毘曇

何者是。答曰。彼佛說道處處方處處城。種種

教化故。彼尊者迦旃延子。過去佛法中。以願

智觀一向略作捷度品數立章門。於中種種不

相似立雜捷度。說結立結捷度。說智立智捷

度。說行立行捷度。說四大立四大捷度。說根

立根捷度。說定立定捷度。說見立見捷度。如

佛說一切法句。彼尊者曇摩多羅。於過去佛

法中願智觀一向略。若說無常偏立無常品。

至說梵志立梵志品。如是彼佛說道處處方

處處城。種種教化故。彼尊者迦旃延子。過去

佛法中。以願智觀一向略作捷度品數立章

門。於中種種不相似立雜捷度。說見立見捷

度。復次一切佛世尊出世說三藏。契經律阿

毘曇。問曰。契經律阿毘曇何差別。一說者無

差別。何以故。答曰。從一智海出故無差別。大

悲出故無差別。欲饒益一切衆生故無差別。

入一解脫門故無差別。或曰。有差降。契經說

種種律說戒。阿毘曇說相。或曰。契經依力律

依大悲。阿毘曇依無畏。或曰。契經說增上意。

律說增上戒。阿毘曇說增上慧。問曰。若爾者。

契經亦說增上戒增上慧。律亦說增上意增

上慧。阿毘曇亦說增上意增上戒。此何差別。

答曰。若契經說增上戒者。當知律。若說增上

慧者。當知阿毘曇。如律說增上意者。當知契

經。若說增上慧者。當知阿毘曇。如阿毘曇說

增上意者。當知契經。若說增上戒。當知律。是

為契經律阿毘曇差別。問曰。何以故彼作經

者立此經。答曰。饒益他故。勤者聞者受者持

者思者量者觀者。無量結惡行須臾除。或復

依此度法性。譬如人欲益他故於闇冥處燃

明。有眼者令見色。如是彼作經者。饒益他故

立此經。若有意智者。彼依此度法性。佛世尊

亦饒益他故。說十二部經契經律阿毘曇。何

以故。答曰。說衆生有因力不緣他力而開解。

如是衆生不知差降。如緣他力而開解。如是

衆生知有差降。猶如此中優鉢羅鉢頭摩拘

牟頭分陀利。池中必有優鉢羅至分陀利華。

如日天子未出光不照時。華不敷不舒不香。

如日天子出光照時。華敷舒香。如是衆生因

力不緣他力而開解。如是衆生不知差降。如

緣他力而開解。如是衆生知有差降。敷信也。

舒根力覺道也。香戒也。如彼偈所說

如蓋屋密 而入闇中 雖有此色

眼所不覩 如是有 無智之人

不聞不知 法之善惡 有明有色

而眼得見 聞已能知 法之善惡

聞法能知 聞惡不作 聞除非義

〔論〕一〇 阿羅漢尸陀繫尼撰一〇 迦旃延子造一〇 〔阿羅漢尸陀繫尼撰〕一〇 〔符秦...譯〕十一字一〇 〔說阿毘曇八捷度第一〕十愛字,愛二受一〇 葉二葉一〇 感二感一〇 法二室一〇 大牟尼二無為衆一〇 雪覆一〇 〔轉婆沙〕一〇 見十(偈)一〇 一〇 〔迦旃...曰〕十二字一〇 〔先雜...曰〕七字一〇 梨二梨一〇 旃二旃一〇 本二令一〇 〔去〕一〇 見立二至一〇

聞得至滅

如是餘契經所說阿含雜賢聖弟子一心聽法。當爾時滅五蓋。具滿修七覺意。如是餘契經說。一因二緣發於等見。從他聞內正思惟。如是餘契經說。增一四有。四法饒益。人云何為四。親近善知識。聽善法內正思惟。大法向法。如佛世尊饒益他故說十二部經。如是彼作經者。饒益他故立此經。或以三事。增益智故。開意故。離計人故。增益智者。盡誦內外法無能益智。如阿毘曇也。開意者。衆生意在睡眠不知。何者已界一切遍使。何者非已界一切遍使。何者已地一切遍使。何者非已地一切遍使。何者已界緣。何者非已界緣。何者有漏緣。何者無漏緣。何者有為緣。何者無為緣。云何攝。云何相應。云何成就。云何不成就。云何因。云何緣。若此意轉不由他度不由他聞。自見自在身作證。由何力。唯阿毘曇也。離計人者。誦爾所阿毘曇前句後。何。如是四句不說計人。一切中說無我行。非衆生非命非長養非。士空淨聚也。以三事益智開意。離計人故作此經。或曰。壞無明故。猶如燃燈除去闇冥而生明。如是阿毘曇燈除無明生慧明。是為壞無明闇故。或曰。見無我像故。如鏡極。磨治諦見其像。如是阿毘曇鏡極了覺知諦見無我像。是為見無我像故。或曰。渡生死河故。如依船百衆生千衆生安隱。渡河。如是依阿毘曇船已。無數那術衆生安隱。渡生死河是為渡生死河故。或曰。見契經故。如人手

執燈見彼彼色不迷惑。如是慧者執阿毘曇

已。於彼彼契經不迷惑。是為見契經故立此經。問曰。何者阿毘曇性。答曰。無漏慧根也。攝彼同性故攝一界一入一陰。少所入及方便及相應及其有。攝三界二入五陰。三界者。色界法界意識界。二入者。意入法入。五陰者。色痛想行識陰。問曰。若爾者。阿毘曇無漏慧根。此經何故名阿毘曇。答曰。此阿毘曇具名阿毘曇。如餘具以具為名。樂具樂為名。如所說偈。彼樂博食。樂為持衣。樂為行步。依山窟間。垢具垢為名。如彼偈說。女垢梵行。女縛世間。苦行梵行。此洗無水。使具使為名。如契經所說。比丘色所使愛色。若比丘所使彼即是愛。若愛。愛已為魔所縛。欲具欲為名。如彼契經說。五欲功德世間愛樂念。鉤具鉤為名。如契經所說。五欲功德是魔魔鉤。縛具縛為名。如契經所說。比丘受色為魔所縛。不受者為離魔。行具行為名。如契經所說。此六細滑入本行報。報具報為名。如契經所說。中諸賢彼一施報。七生天上為天王。七生人為人王。如此中餘具餘為名。如是阿毘曇具名阿毘曇。但阿毘曇性無漏慧根是。如佛契經說。此鬼長夜無諛諂。無幻質直設問事者。盡欲知故無觸燒意。此亦如法。我寧可以甚深阿毘曇授之。問曰。此中云何說甚深阿毘曇。答曰。即是無漏慧根。如佛契經說。梵摩婆羅門長

夜無諛諂。無幻質直設問者。盡欲知故無

觸燒意。此亦如法。我寧可以甚深阿毘曇授之。問曰。此中云何說甚深阿毘曇。答曰。即是無漏慧根。如佛契經說。異學須跋無諛諂。無幻質直設問事者。盡欲知故無觸燒意。此亦如法。我寧可以甚深阿毘曇授之。問曰。此中云何說甚深阿毘曇。答曰。即是無漏慧根。如佛契經說。阿難。緣起甚深明亦甚深。問曰。此中云何說甚深。答曰。此中說因及緣甚深。如佛契經說。此處甚深。如此經緣起此亦極甚深。所謂捨離一切生死愛盡無欲滅盡涅槃。問曰。此中云何說甚深。答曰。此中因及緣。因及緣捨離說甚深。如佛契經說。一切法甚深故難見。難見故甚深。問曰。此中云何說甚深。答曰。此中說一切法甚深。如佛契經說。何故汝愚人盲無目。論甚深阿毘曇。問曰。此中云何說甚深阿毘曇。答曰。意生也。如佛契經說。先尼我法甚深難見難覺。非察行汝不審彼法。何以故。如汝長夜夜異見異忍異欲異樂。問曰。此中云何說甚深。答曰。此中說空三昧甚深。何以故。答曰。空無我。彼異學計有我。不審知彼但阿毘曇性無漏慧根。由彼故諸世間所修慧不淨。安般念意止暖來頂忍世間第一法。一切阿毘曇得名。由彼故諸思慧用。斷諸法自相及其相。壞愚種及緣愚。於法中不顛倒行。此亦一切阿毘曇得名。由彼故諸生所得報聞善慧。彼於此十二部聞受持思惟稱量。觀此一切阿毘曇得名。雖有是但阿毘曇性無

①合二舍②一三二③(出)十增一④人二一⑤或十(日)⑥何二句⑦士二出⑧廣一摩⑨渡二度⑩燈二⑪步二止⑫(見)十實⑬(縛)一⑭諛二諛⑮摩一寬⑯問十(事)⑰阿合十(經)⑱經二⑲緣因二因緣⑳中二雜

漏慧根問曰。阿毘曇有何句義。尊者婆須蜜說曰。此究竟智。此斷智。此第一義智。此伏阿毘曇。若有學自相共相。彼盡其力不能勝。以是故無非法在上。是謂阿毘曇。尊者曇摩多羅說曰。諸尊染污清淨縛解輪轉出要謂之法也。從此故名身身味身次第嚴治安處造作。是謂阿毘曇。尊者瞿沙說曰。諸趣解脫當求智時。未顯示顯示。是謂阿毘曇。所謂此苦。苦因。此道。道。果。是求。道。此無礙道解脫道。是增益道。是向是果。是故說諸趣解脫當求智時。未顯示顯示。是謂阿毘曇。曇無德說曰。此法無比。是謂阿毘曇。問曰。此有何無比。答曰。如所說偈

智為世間妙 能趣有所至
能用等正智 生老病死盡

復次慧過一切法上。如所說諸。妙聖弟子。以慧刀斷一切結縛使。惱纏重斷打重打割剝出。是以是故說此法無比。是謂阿毘曇。轉婆關婆提說曰。此法明能照。是謂阿毘曇。如所說世間無有明與慧等。上復如所說諸所有明。慧明說第一。是故說此法明能照。是謂阿毘曇。舍提說曰。未盡能盡未擇能擇。是謂阿毘曇。問曰。何所盡。答曰。結縛使。惱纏也。問曰。何所擇。答曰。界入陰緣起。是故說未盡能盡未擇能擇。是謂阿毘曇。譬喻者。說曰。法次法。向。是謂阿毘曇。問曰。云何法次法。答曰。佛契經說。涅槃第一義法。彼次更有何法。謂聖八道也。是故說法次法。是謂阿毘曇。

尊者婆跋本說曰。增上事增上轉故。是謂阿毘曇。如所說最上長增上最上慢增上慢。此亦爾。慢也。

三結三不善根。三有漏。四流四軛四受四縛。五蓋五結。五下結。五上結。五見。六身愛。七使。九結。九十八使。此一切佛契經除五結。九十八使。除五結已。當立五上結。何以故。答曰。彼是佛契經除九十八使已。無所立。問曰。何以故。爾答曰。尊者曇無多羅。盡以阿毘曇於四阿。捨契經等觀於中。非佛契經捨之。此非佛契經。是故應捨之。或曰。此五結於章不應捨。何以故。答曰。此佛說契經。增一阿。捨五法中於久時已來。亡失。彼作經者願智觀已。立此阿毘曇章。佛說無量部久時亡失。說者增一阿。捨從一法至百法。今從一法至十法。於此一多有失不存。如是至十。復說尊者舍那婆阿羅漢。是耆婆師。彼般涅槃日。即彼日亡失。七十千生經。阿毘曇中亡失。十千經。從是以來。佛法不復行。如是此無量部久時亡失。如是佛契經說五結。一增阿。含於五法中。久時亡失。彼作經者願智觀已。立此阿毘曇章。問曰。九十八使。非佛契經。何以故。於此章不捨。答曰。此一切是契經義。契經探契經說。佛契經中說。七使分別。界分別。種分別。行。攝已。便有九十九使。或曰。俱非佛契經。於章中俱不應捨。問曰。五結。非佛契經。於此章中何以不捨。答曰。彼作經者意欲爾。如我別說一切遍結。別說非一切遍。別說一切遍。非一切遍。彼別說一切遍。結如三結。別說非一切遍。如五

結。別說一切遍。非一切遍。如九結。是故彼作經者意欲爾。三結至九十八使。問曰。何以故作章。答曰。為立門故。不可以無章而得立門。不可以手莊虛空。問曰。何處可莊。答曰。莊可莊處。如是不可以無章而得立門。或曰。莫令無章空論也。或曰。以久住故。如此陰品數善造善作章善立門。百千中可一能得持。亦有不者。何況散解亂合聚誰能得持。是謂以久住故。或曰。自無亂知見。現故。若有作經亂知見者。彼經亦亂。以此可知。彼作經者無亂知見。結作此經不亂善正。是謂自無亂知見。現故作章。問曰。何以故佛契經立作章。答曰。欲現佛契經無量義故。此外部少義無義。少義者。誦羅摩那十二千章。二句義。羅摩泥將私陀去。波羅彌。還將來。無義者。以一女故殺十八嫁衆生。如鐵城滿中草。外部如是少義無義。問曰。佛契經云何。答曰。無量義無邊味。如大海無量甚深極廣無邊。佛契經亦如是。無量義無邊味者。如尊者舍利弗比。如是百千那術數作百千經。盡彼智住不可得。佛契經二句義。至底度彼岸。是謂佛契經現無量義故。或曰。忍問答現契經故。此外部問亦不忍。答亦不忍。猶如獼猴。子亦不忍。擣不忍。重擣。以杵擣便解散。如是此外部問亦不忍。答亦不忍。問事已如被杵擣。問曰。佛契經云何。答曰。如成就波羅。捺衣。杵擣亦忍。重擣亦忍。擣重擣益有色柔軟。佛契經亦如是。問亦忍。答亦忍。如問如答。戒色益好功德柔軟。是故忍問答現佛契經故。或曰。佛契經開示

①苦因②因苦③④(果)⑤⑥道十(果)⑦⑧有二由⑨⑩妙二妹⑪⑫攝二顯⑬*⑭(向)⑮一⑯⑰(答)⑱十增上⑲⑳(也)㉑㉒(三)㉓㉔(二)㉕(舍)㉖(舍)㉗*㉘*㉙增一㉚增一㉛*㉜以二已㉝㉞含二舍㉟*㊱界二果㊲㊳一八㊴㊵(現)㊶㊷二彼㊸㊹捺二奈

妙故。佛說契經此三事覆則妙開則不妙云何三。無明者。婆羅門語女。三事開則妙覆則不妙。云何三。明日月佛語^{阿含雜}是謂佛契經開示妙故佛契經作章。問曰。何以故先作章後立門。答曰。治地法故。如人欲種樹先治其地然後種樹。彼作經者亦如是。治地法先作章種樹法後立門。或曰。基法故。如人作舍。彼先作基然後立舍。彼作經者亦如是。基法故先作章。立舍法後立門。或曰。木。摸法故。如像師像師弟子前治。摸然後立枝節。彼作經亦如是。木。摸治法前作章。枝節法後立門。或曰。畫法故。如畫師畫弟子先摸然後。傳。采。彼作經者亦如是。摸法者先作章。傳。采法後立門。或曰。繩法故。如彼巧醫師醫弟子前繩。繩已然後結種種華鬘。彼作經者亦如是。繩法前作章。鬘法後立門。或曰。現尊法佛世尊亦復爾。說分別法。世尊前說。比丘人有六界聚六更四處^{一眞諦處二加處三慧處四息處也}十八意行。然後分別。是爲比丘六界六更四處十八意行。彼作經者亦如是。說法者前作章。分別法者後立門。是謂現尊法故。或曰。現修行法故。如彼修行前以四大造色作章。已然後彼色微細被散。彼作經者亦如是。四大造色法前作章。破散色法然後立門。是謂現修法故。或曰。現論法故。此論之法前問後答。是故現論法故。是謂彼作經者先作章後立門。問曰。何以彼作經先立三結。後立至九十八使。答曰。前已說阿毘曇說相當求阿毘曇相。不應索次第。契經當求次第。何以故。

此品次第說。此品律說本末當求本末此義由何生。但阿毘曇說相當求阿毘曇相。不應求次第。復次可說所以。彼作經先立三結後立至九十八使。但阿毘曇多破散亂合聚。誰能盡說次第。但阿毘曇說相當求。不應求次第。前後無在。尊者婆奢說曰。一切疑法不違。若先立三不善根。後立至九十八使。彼亦當有此疑。是故一切疑法不違前後無在。或曰。彼作經者意欲爾。如我先立三結後立至九十八使。以是故爾。或曰。增益法故。前現三後四五六七九十八使。是故增益法故。或曰。次第立四沙門果故。三結永盡立須陀洹果。是故彼前三不善根。餘盡立斯陀含果。永盡立阿那含果。是故此大立彼三有漏。永盡立阿羅漢果。是故彼後諸流。扼受乃至九十八使。此一切廣說有漏漏有差降有漏增。此三有漏。謂是流。扼受至九十八使。是故次第立四沙門果故。或曰。次第立結樹故。此是結樹前現三後四五六七九十八使。是故彼作經者。先立三結。後立至九十八使。廣說章處盡。

轉婆沙三結處第一

三結身見戒盜疑。問曰。三結有何性。答曰。身見者。三界有一種。此三種。戒盜者。三界有二種。此六種。疑者。三界有四種。此十二種。此二十一種是三結性。此三結性。已種相身所有自然。說性已。當說行。何以說結結義云何。答曰。縛義是結義。苦繫義是結義。雜毒義是結義。縛義是結義。苦繫義是結義。雜毒義是結義。縛義是結義。結是縛。縛是結。縛云何知。答曰。有契經。彼契經尊者舍利弗問尊者摩訶拘絺羅。云何賢者拘絺羅。眼繫色耶。色繫眼耶。答曰。尊者舍利弗。不眼繫色。不色繫眼。至意法不意繫法不法繫意。但此中若若若欲是彼繫也。尊者舍利弗。譬如黑牛一黑一白一軛一鞅。縛繫。尊者舍利弗。若有作是說。黑牛繫白牛。白牛繫黑牛。尊者舍利弗。彼爲等說不。答曰。不也。賢者拘絺羅。何以故。答曰。賢者拘絺羅。非黑牛繫白牛。非白牛繫黑牛。但以軛鞅繫是彼繫。如是尊者舍利弗。不眼繫色不色繫眼。至意法不意繫法不法繫意。但此中若若若欲是彼繫。阿含雜。是謂縛義是結義。苦繫義是結義者。欲界結欲界衆生欲界中苦繫。色界結色界衆生色界中苦繫。無色界結無色界衆生無色界中苦繫。諸欲界結彼是繫相。繫苦中非是樂。諸色無色界結彼是繫相。繫苦中非是樂。諸色無色界結彼是繫相。繫苦中非是樂。是謂苦繫義是結義。雜毒義是結義者。極妙生處世俗正受如解脫。除入一切入彼聖所。除結雜毒故。如極妙食雜毒。慧者能除。以雜毒故。如是極妙生處世俗正受。彼聖能除結雜毒。是謂繫義是縛義。苦繫義是結義。雜毒義是結義。如佛契經說三結盡須陀洹。問曰。如阿毘曇所說。八十八見所斷盡須陀洹。如華池喻。契經所說。無量苦盡須陀洹。何以故。說三結盡須陀洹。答曰。是世尊餘言略言。欲令行言。世尊爲教化故。或曰。爲人故。爲眷屬故。爲器故。爲教化故。彼受化者能辯說爾所事。或曰。佛世尊所說盡爲教化故。如醫療治盡爲病人故。彼醫爲病者。審知病根而說隨病投

◎婆二波◎◎[契]一◎◎經二結◎◎撰二模◎◎[師]一◎◎經十(者)◎◎傳二布◎◎采二彩◎◎◎[阿]二結◎◎◎[後]一◎◎[作]一◎◎[相]一◎◎[扼]二◎◎◎[轉婆沙]一◎◎[結]一◎◎[結]十◎◎◎[阿]二何◎◎

藥。不說減少恐病不^①差。亦不說增恐損其功。處中而說欲令病^②差。如佛世尊所說。盡為教化故。彼世尊為受化者。知身知使已為投道藥。亦不滅說恐結病不盡。亦不說增恐損其功。處中而說。或曰誘進教化故。事易行故。手扶佐故此中應說跋耆子喻。有說者。有比丘名跋耆子。於世尊境作沙門。世尊為漸漸設出二百五十戒。彼聞已厭。至世尊所說。世尊設出二百五十戒。半月次來令族。姓子學。唯世尊。我不能行爾所戒。世尊善不龜言勸。善哉善哉跋耆子。汝跋耆子。能行三戒。增上戒增上意增上慧不。彼聞已便踊躍作是念。我能善行此三戒。彼說曰。唯世尊。我當學。善逝。我當燃熾行。彼學三戒時。漸漸學一切戒海。若世尊如是為教化。說八十八見斷盡須陀洹無量苦盡須陀洹。彼聞已厭。誰能破此八十八苦山。誰能拔此八十八苦樹根。誰能度此八十八苦河。誰能竭此八十八苦海。如佛契經說三結盡須陀洹。彼受化者聞已。便欲我能善斷此三結彼斷三結時漸漸一切見斷結盡。是謂誘進教化故事易行故手扶佐故此中說跋耆子喻。^{律。或曰。盛}患重過多苦問曰。身見有何盛患。答曰。身見六十二見根。見是結根。結是行根。行是報根。一切世間依報。依報已生死中趣善法趣不善法趣無記法。問曰。戒盜有何^{盛患}。答曰。戒盜中生諸苦行問曰。疑有何^{盛患}。答曰。為過去故疑猶豫。為當來故疑猶豫。為現在故疑猶豫。於內中疑猶豫。此云何。何謂

此此衆生從何所來當何所至。何因何有。是謂^{盛患}重過多苦。或曰。功德怨家故。問曰。云何功德。答曰。須陀洹果。彼何近不親怨家。答曰。三結是。或曰。謂須陀洹果證時而為作礙不令入門。住如守門人。或曰。謂三解脫門相違。彼身見空定相違。戒盜無願相違。疑無相相違。是謂三解脫門相違故。以是故爾。或曰。謂盡無餘乃至阿羅漢。亦有相似身見得苦。未知智永盡。彼已盡已知。乃至阿羅漢亦有相似。如彼阿羅漢作是念。是我衣鉢。是我弟子沙彌。是我舍。是我園似如有我。戒盜得道未知智永盡。彼已盡已知。乃至阿羅漢亦有相似。如彼阿羅漢行乞食糞掃衣露坐。受沙門十^{二淨行}。似如淨行。疑得道未。知永盡。彼已盡已知。乃至阿羅漢亦有相似。彼阿羅漢見二道而疑。此是道非道耶。見二衣而疑。是我衣耶非我衣耶。遠見已而疑。是男耶是女耶。莫作是念。阿羅漢不盡此理定。須陀洹已盡。況阿羅漢。以是故說三結盡須陀洹。或曰。此現門現略^{四現度}。若有見斷結者。或一種二種四種。彼身見已說當知已說一種。戒盜已說當知已說二種。雖無餘二結可得二種。當知即彼戒盜二種。及彼相應法。疑已說。當知已說四種。或曰。若有見斷結者。或已界一切遍。或非已界一切遍。身見已說。當知已說已界一切遍。戒盜疑已說當知非已界一切遍。問曰。何以故。說一已界一切遍二非已界一切遍。答曰。若彼有非已界一切遍結。或有漏緣。或無漏緣。彼身見戒盜已說

當知已說有漏緣。疑已說。當知已說無漏緣。如已界一切遍非已界一切遍。如是已地一切遍非已地一切遍。已界緣非已界緣。已地緣非已地緣。盡當知。若有見斷結者。或有漏緣。或無漏緣。彼身見戒盜已說。當知已說有漏緣。疑已說。當知已說無漏緣。問曰。何以故。二有漏緣一無漏緣。答曰。若有有漏緣結者。或已界一切遍非已界一切遍。彼身見已說。當知已說已界一切遍。戒盜疑已說。當知已說非已界一切遍。如有漏緣無漏緣。如是評不評。世間出世間。住不住。依欲不依欲。盡當知。若有見斷結者。或有為緣或無為緣。彼身見戒盜已說。當知已說有為緣。疑已說。當知已說無為緣。如有為緣無為緣。如有有常緣無常緣。有恒緣無恒緣。有住緣不住緣。盡當知。或曰。若有見斷結者。或見性非見性。彼身見戒盜已說。當知已說見性。疑已說。當知已說非見性。如見性非見性。如是觀不觀。行非行。堅持不堅持。求不求。轉不轉。盡當知。是故說現門現略^{四現度}。以是故說三結盡須陀洹。問曰。始得道是須陀洹耶。為始得果是須陀洹耶。若始得道是須陀洹者。應第八是須陀洹。第八者堅信堅法。彼始得道賢信道堅法道。若始得果是須陀洹者。彼應倍欲盡欲愛盡是須陀洹。彼始得果斯陀含果阿那^含。果作此論已。說曰。始得道是須陀洹。問曰。若爾者。應第八是須陀洹。彼始得道堅信道堅法道。答曰。始得道是須陀洹。始得道入道彼堅信堅法。雖始得道是始入苦。或曰。始得

①差二應②* ③[姓]一④ ⑤[持上戒]一⑥ ⑦[漸]一⑧ ⑨六十(六)⑩ ⑪盛二成⑫* ⑬疑二疑⑭ ⑮ ⑯二二三⑰ ⑱知十(智) ⑲[現]一⑳ ㉑[已]一 ㉒[性]一 ㉓[信]十堅⑳

道是須陀洹。若見斷結永盡已知忍相違。已盡已知。耶見永斷。或曰。始得道是須陀洹。有想入故。可說人故。施。設人法故。或曰。始得道是須陀洹。思惟道故。果攝道故。道未知智故。或曰。始得道是須陀洹。若處得三事。未曾得道。捨會道。結盡得一味。或曰。始得道是須陀洹。若處得五事。未曾得道。捨會道。結盡得一味。得八智。一時修十六行。或曰。始得道是須陀洹可有生。更有說者。始得果是須陀洹。問曰。若爾者。倍欲盡欲愛盡。應是須陀洹。彼始得果。斯陀。含果阿那。含果。答曰。始得果是須陀洹。最初解脫故。最初度故。最初住果故。或曰。始得果是須陀洹。次第故。具縛故不越次故。或曰。始得果是須陀洹。四向四住果故。或曰。始得果是須陀洹。四雙八輩故。或曰。始得果是須陀洹。餘未得增行故。餘未得增行者。世間道未有所盡而得果。或曰。始得果是須陀洹。無差降故。無差降者。亦如上述世間道。未有所盡而得果。或曰。始得果是須陀洹。若果道不壞地亦不壞。道不壞者。一向無漏道得果。地不壞者。依未來得。非餘阿羅漢果者。雖道不壞。一向無漏道得果。然彼地壞依九無漏地得。斯陀。含果者。雖地不壞。依未來得非餘。然彼道壞世間無漏道得果。阿那。含果者。道亦壞地亦壞。道壞者。世間無漏道得果。地壞者。依六地得。此須陀洹果道亦不壞地亦不壞。以是故。始得果是須陀洹。更有說者。亦不始得道是須陀洹。亦不始得果是須陀洹。問曰。若爾者。爲云何。答曰。由彼須

陀洹果故。是須陀洹法故名爲人。如藥湯。由藥故名爲藥湯。由酥故名爲酥瓶。由蜜故名爲蜜瓶。如是。彼由須陀洹果故。是須陀洹由法故名爲人。如藥湯也。須陀洹者。八聖道名爲水是彼入。以是故名須陀洹。問曰。如斯陀。含阿那。含阿羅漢。入聖道水。彼何以故不名爲須陀洹。答曰。始起受名。始方便度。以是故名須陀洹。非斯陀。含阿那。含阿羅漢。不墮惡法者。終不墮三惡趣。問曰。如斯陀。含阿那。含阿羅漢。亦不墮惡法。何以故。但說須陀洹不墮惡法而非餘。答曰。各有各有差降故。此須陀洹不墮惡法是差降。斯陀。含一往來是差降。阿那。含不還欲界是差降。阿羅漢更不還有是差降。是謂各各差降故。一須陀洹名不墮惡法。非斯陀。含阿那。含阿羅漢。問曰。如凡夫人亦不墮惡法。何以故。說聖人不墮惡法。答曰。彼非定或墮惡法或不墮惡法。此聖人一向不墮惡法。無有一聖人墮惡法。如彼非定。以是故。聖人不墮惡法。非凡夫人。定者。聚正定住故名爲定。當言須陀洹定般涅槃變易故。趣正覺者。盡智無生智謂之覺。彼人依此有向有趣有樂有欲。是故說趣正覺極七還有者。問曰。如此極十四還有。極二十八還有。若取本有數者。天上本有七人。間七此十四。若取本有中陰數。天上本有七中陰。七人間本有七中陰。七。是二十八。何以故。說極七還有是須陀洹。答曰。法應七故不過七。一一趣故。世尊。說極七還有是須陀洹。若天上本有七中陰。七人間本有七中

陰七。彼一切皆不過七。以是故。世尊說。極七還有須陀洹。如餘契經說。四聖諦三轉十二行。此不應三轉十二行。應十二轉有。四十八行。但三轉十二法故。不過三轉十二行。觀一經說。世尊說。四聖諦三轉十二行。如餘契經說。比丘七處。善觀三種義。速於此。法中得漏盡。此不應七處。若應有三十五處善。亦有無量處善。但七法故。不過七觀。一一陰故。世尊說。比丘七處善觀三種。速於此法中得漏盡。如餘契經說。比丘我當爲說法。謂有二眼及色。耳聲鼻香舌味身細滑意法。此不應一二。應有六二。但二法故。不過二觀。一一入故。眼及色故。乃至意及法故。世尊說。比丘我當爲說法。謂有二也。如是。若天上本有七中陰。七人間本有七中陰。七。一切不過七。一一趣故。天趣故人趣中陰故。七本有七。是故。一一趣故。世尊說。極七還有是須陀洹。問曰。何以故。須陀洹極七還有亦不增減。婆奢說曰。一切有疑法不違。若增若減者。彼亦當有此疑。是故說一切疑法不違。或曰。是彼齊報因故。如彼齊報因。齊報果應爾。是故說。是彼齊報因故。或曰。行力故。須陀洹生七有聖道力故。不至八。如人爲七步蛇所螫。彼以四大力故。能行七步。毒力故。不至八。如是。須陀洹行故。生七有聖道力故。不至八。如人前食故。命至七日。食勢盡。不至八。如是。須陀洹本行故。生七有。行盡。不至八。或曰。彼住增上忍時。除欲界七生色無色界一一處。一一生。餘一切生得非數緣盡。若生得非數緣盡。

○耶二邪○ ○設二說○ ○酥二蘇○ 下同 ○說二諸○ ○有十(是)○ ○四二三○ ○[經]一○ ○善二若○ ○[法]一○ ○婆二波○ ○螫二蠶○ ○八十(本有七是故一一趣故世尊說極七還有是須陀洹問曰何以故須陀洹極七還有亦不增減婆奢說曰一切有疑法不違若增若減者彼亦當有此疑是故說一切疑法不違或曰是彼齊報因故如彼齊報因齊報果應爾是故說) ○(如人...故)百三十一 ○(除)十一 ○百五十二 ○

此生至竟不現在前。或曰。七生處故。①生處者。欲界六天及人。此中須陀洹應生。是故。七生處故。或曰。彼八生空無聖道故。若須陀洹至八有者。彼見諦已為非見諦。得果已為非得果。等行已為非等行。得聖人已為是凡人。無說有答。以是故須陀洹不至八有。或曰。世間中現事故。世間中現事者。至七世名為親。若至八非親。如是若須陀洹至八。於。恒沙佛法中遠離他不親。無說有答。以是故須陀洹不至八。若須陀洹極滿天上七生人間。彼中說。是但須陀洹有差降七生天上人間六天上六人間五天上五人間四天上四人間三天上三人間二天上二人間一。但須陀洹極滿天上七人間七。彼中說。是若極七生有是須陀洹。問曰。彼七何處滿。或有說者。若身得須陀洹果。彼身於七中。或有說數。或有不說數。謂有說數者。若天上得果人間般涅槃。人間得果天上般涅槃。謂有不說數者。若天上得果天上般涅槃。人間得果人間般涅槃。如是說者。若身中得須陀洹果。彼身於七中不數。何以故答曰。若彼身中得須陀洹果者。彼身中陰凡夫時。若此身於七中數者。應有二十七。不應二十八。若爾者。與施設所說相違。彼所說彼二十八有。往生後有。後依。後得身。得無漏道。用盡餘結。無說有答。是彼身於七中不數。問曰。極七生有須陀洹。於六生中聖道現在前耶。不現在前耶。若現在前者。何以不般涅槃。若不現在前者。彼意應無聖道。作此論已。有一說者現在前。問

曰。何以不般涅槃。答曰。彼行樂世間行力故不般涅槃。問曰。極七生有須陀洹極滿七。佛未出世。彼為白衣般涅槃為云何。答曰。不然。彼定出家般涅槃。彼如是若五百若千辟支佛。任仙人窟中。本盡為聲聞。是故說極七生有。七生天上人間者。從天至人從人至天。如人從園至園從節會至節會。彼亦如是。從天至人從人至天。是故說。天人往生者。往謂中陰。生謂本有。是故說。往生。信苦邊者。問曰。苦邊者。當言中當言外。若言苦中應無苦邊。若苦外。者世間現事云何通。如金籬初亦金中亦金後亦金。如是須陀洹初亦苦中亦苦後亦苦。云何有苦邊。作此論已。有一說者。阿羅漢最後陰是苦邊。或有說者。滅盡涅槃是苦邊。問曰。若阿羅漢最後陰是苦邊者。云何有苦邊。答曰。如有苦邊。謂更不受苦。更不結著苦。更不與苦作緣。問曰。若滅盡涅槃是苦邊者。譬喻云何。通答曰。此不必通。此亦非契經非律非阿毘曇。不可。以世間喻壞賢聖語世間事異賢聖事異。作苦邊者。苦謂之五。盛陰。彼是邊最邊後邊。是故說作苦邊。廣說三結處盡

鞞婆沙論卷第一

鞞婆沙論卷第二

* 阿羅漢尸陀槃尼撰

* 符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

三不善根處第二

三不善根者。貪不善根。恚不善根。癡不善根。三不善根有何性。答曰。貪不善根者。欲界愛五種六識身。恚不善根者。恚有五種六識身。癡不善根者。欲界無明盡有四種。見習見盡見道思惟所斷。見苦斷癡種少所入。問曰。何以故。答曰。謂此有十種。五見相應疑愛恚慢相應。不共有十。於中八種立不善根。二種不立。欲界身見邊見相應也。問曰。因者說是根。彼欲界身見邊見相應無明一切不善法。何以故不立不善根。答曰。謂性不善。亦一切不善法。因。彼立不善根。此欲界身見邊見相應無明。雖一切不善法。非性不善。問若爾者為云何。答曰。無記是。是故說欲界無明盡四種見盡見邊思惟所斷。一種少所入見苦斷也。六識身相應。此十五種三不善根性。此是三不善根性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說不善根不善根義云何。尊者婆須蜜說曰。生義養義增義不善根義。重說曰。長義受義滿義不善根義。重說曰。因不善義是不善根義。重說曰。轉不善義是不善根義。重說曰。順不善義是不善根義。重說曰。受不善義是不善根義。尊者曇摩多羅說曰。諸尊處所中種不善法轉順受。是故說不

①生二七 ②恒二洹 ③[後]一 ④窟二山 ⑤出 ⑥是十(是) ⑦[者]一 ⑧[作此...邊]十七字 ⑨以十(以) ⑩盛二威 ⑪[第]二 ⑫[問]一

善根義問曰。若因不善義是不善根義者。前生不善五陰後生不善五陰。亦是因前生十惡行。後生十惡行。亦是因前生。四十四不善使。後生。四十四不善使。亦是因意故。時無量不善。何以故說三不善根。答曰。佛世尊法真諦。餘真不能過上者。彼盡知法相。定知定行。有不善根相者立不善根。無不善根相不立不善根。尊者瞿沙說曰。世尊覺此隨彼力。隨重重彼隨彼近。此三不善根一切不善法。非餘不善法。或曰。謂一切不善法首在前主將法故。此力故一切不善法轉。或曰。謂一切不善法因根。導本所作緣等有習等起。於中因種子法故。根堅法故。或曰。謂一切不善法來持等持生養增。是故說不善根。或曰。謂功德怨家。問曰。此中何功德。答曰。三善根是。問曰。此何近不親怨家。答曰。三不善根是。或曰。如守門人不令入門。住守門法故。或曰。謂三善根相違。於中貪不貪相違。善不惡相違。癡不癡相違。或曰。謂說行本如所說。阿含中。迦藍此三行本習。迦藍貪行本習。迦藍惡行本習。或曰。謂各各相生各各相轉。如所說從愛生愛。從愛生悲。從悲生愛。於中無明。或曰。說相違相違。不相違相違故。衆生多起鬪諍縛。謂天阿須倫往共鬪。婆羅他。摩訶婆羅他。羅摩也。羅叉那也。爲私陀故。那也。阿訓那也。爲彼一女故。殺十八姦人。何以故。答曰。不相違相違故。不相違者愛相違者悲。問曰。何以故不說癡。答曰。於中已說。若彼智者天境界不作此惡。何況人間惡欲

故。人爲國故爲宮故爾所惡。何況園田作爾所惡。何況長者爲糞掃故。作。於春時多起鬪諍縛。是故說謂不相違相違。以此故爾。或曰。謂三痛所使。如所說樂痛中貪使所使。苦痛中悲使所使。不苦不樂痛中癡使所使。問曰。如此中一切所使。答曰。多故樂痛中多貪所使。苦痛中多悲所使。不苦不樂痛中多癡所使。貪因樂痛中起已。卽彼樂痛中受根已。增不善五陰。增不善五陰已。多起惡行。多起惡行已。生死中多受苦。悲因苦痛起。彼於苦痛中受根已。增不善五陰。增不善五陰已。多起惡行。多起惡行已。於生死中多受苦。癡因不苦不樂痛起。彼於不苦不樂受根已。增不善五陰。增不善五陰已。多起惡行。多起惡行已。於生死中多受苦。是故說謂此三痛所使。以此故爾。或曰。謂五種六識身使性。能起身行口行。斷善根時多方便。五種者。見苦斷至思惟斷。六識身者。眼識相應乃至意識相應。使性者。貪者欲使。悲者不可使。癡者無明使。能起身行口行者。爲貪故作身行口行。爲悲癡故作身行口行。斷善根時多方便者。如施設中所說。若斷善根彼云何斷。以何行。答曰。有一人性欲重悲重癡重。彼欲重悲重癡重。故難語難教難解難脫。是故說謂五種六識身使性能起身行口行。斷善根時多方便。彼立作不善根。問曰。如邪見能斷善根。彼何以故不立不善根中。答曰。方便堪任增上力。一切善惡多用方便力。非堪任作。有說者如菩薩。見世間生老病死苦皆無將。導始發無上

正真道意。於中初意最勝。不退轉不移動於此上三阿僧祇作行。不後得盡智無生智。當來修三界善根。或曰。彼邪見若斷善根。彼一切是不善根力。若彼不善根。令善根薄穿減。少力。然後彼邪見斷善根。或曰。謂彼斷善根時轉不轉。貪者轉悲者不轉。癡者轉不轉。彼邪見能轉非轉。以是故爾。或曰。此前已說謂五種。彼邪見非五種是四種。非六識身是意識。雖有使性不能起身行口行。何以故。答曰。無有見斷結能起身行口行。斷善根時不多方便。彼邪見最後時用。謂彼邪見離此聚。以是故不立。不善根中。謂此五陰離不善根中。彼亦離此聚色陰。非五種非六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。痛陰。想陰。識陰。彼相應行陰。謂彼離結。是五種六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。不相應行陰五種。非六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。結中五見及疑。非五種非六識身。雖有使性不能起身行口行。斷善根時不多方便。慢五種非六識身。雖使性不能起身行口行。斷善根時不多方便。餘說十纏。瞋纏。不語纏。睡纏。眠纏。調纏。悔纏。無慚纏。無愧纏。纏纏。於中瞋不語非五種。非六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。眠五種非六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。睡調此二五種六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。無慚無愧。此二五種六識身非使性。能起身行口行。

①四二三②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①[作]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(想陰)一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(不)一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(少力)二劣②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(導)二道②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(作)二行②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(時)十(故)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①(二)使②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

斷善根時多方便。慳嫉。此二非五種非六識身非使性。不能起身行口行。斷善根時不多方便。憤依誑誦高害。此一切說是結。垢依結非根本結。謂五種六識身使性。能起身行口行。斷善根時多方便。彼立不善根。若離此聚中彼不立不善根。或曰。謂此三不善根能起十惡行。起十惡行已生十惡道。問曰。云何此三不善根能起十惡行。起十惡行已生十惡道。答曰。佛說契經殺有三種。貪故悲故癡故。至邪見三種。貪故悲故癡故。阿毘曇亦說。謂此三不善根一切不善法因根。導本作緣有習起。如是三不善根能起十惡行。問曰。云何起十惡行已生十惡道。答曰。佛說契經習殺生修多修。生地獄畜生餓鬼中。若來生人中短壽。阿毘曇亦說。習增上殺修多修。生大阿鼻泥犁中。於中滅於中。軟。生熱地獄大熱地獄。喚大吽喚。想黑繩等活地獄。生畜生餓鬼中。如是起十惡行已生十惡道中。是故說三不善根。或曰。謂彼亦說增亦說薄。如所說云何增欲增悲增癡。答曰。因軟欲故便有中。因中便有增。因軟悲故便有中。因中便有增。因軟癡故便有中。因中便有增。如是增欲增悲增癡。問曰。云何欲軟悲軟癡。答曰。增上欲薄便有中。中薄便有軟。增上悲薄便有中。中薄便有軟。增上癡薄便有中。中薄便有軟。如是欲薄悲薄癡薄。是故說。謂彼亦說增亦說薄。以故爾。或曰。謂彼退時多因多緣。如所說若比丘比丘尼。自觀增欲悲癡。比丘比丘尼當知我於善法中退。世尊說此是退。是故

說謂彼退時多因多緣。以故爾。或曰。謂說結障。礙。如所說云何結障。礙。答曰。若眾生性欲重。悲重癡重。彼性欲悲癡重。故難教難語難解難脫。是故說結障。礙。以故爾。或曰。此現門略度。若有爾所不善根。或欲分悲分癡分。如彼契經說。婆羅門若有二十一結染著意。彼必生惡道趣泥犁中。說者尊者。曼摩多羅說。此契經中一切結立三分。爾所欲悲癡分。若說欲當知已說欲分。若說悲癡當知已說悲癡分。如欲悲癡分。如是親分不親分親不親分。益分不益分益不益分。樂分不樂分樂不樂分。盡當知。是故說現門略度。或曰。謂說內垢。如所說欲是內垢。悲癡是內垢。如內垢者。如是內不親怨敵盡當知。或曰。謂說塵。如所說欲是塵。悲癡是塵。如塵如是。垢穢障。大刺毒刀盡當知。以是故立三不善根。問曰。此。結云何行。答曰。若意中行欲此中無悲。若悲無欲。此二要有癡。問曰。何以故。若意中行欲此中無悲。若悲無欲。答曰。性相違故。貪性喜悲性憂。貪身長養受。悲身不長養受。貪身軟安隱緣中不礙。軟安隱者。若貪現在前一切身軟。緣中不礙者。若意中染著受。長夜。親不厭。悲身不軟。不安隱緣中。礙。不軟不安隱者。若悲現在前一切身不軟。緣中礙者。若意中悲現在前。眼不喜有所視。是謂性相違故。若意中行欲。此中無悲。若悲無欲。此二要有癡。此三不善根說五種六識身。問曰。何以故。三不善根說五種六識身。答曰。若此有見斷非思惟者。彼思惟斷不善心

應非根。若思惟非見斷者。彼見斷不善心應非根。若有五識身非意識者。謂彼意識不善心應非根。若有意識非五識者。謂彼五識不善心應非根。一切不善心中此三不善根。是根或二或一。貪相應不善意有二根。貪及彼相應無明。悲相應不善意有二根。悲及彼相應無明。離此已諸不善意。彼盡是一根無明。是此說多有根。身見法根。世尊法根。欲法根。不放逸法根。性根說一切法。問曰。何以故說身見法根。答曰。計我故。計我已生六十二見。以故爾。問曰。何以故說世尊法根。答曰。說故誰說染著清淨縛解輪。轉出要佛也。以故爾。問曰。何以故說欲法根。答曰。欲得善法。欲得者彼得善法。不欲得者彼得不善法。以故爾。問曰。何以故說不放逸法根。答曰。堅持善法故。不放逸者。彼能堅持善法。放逸者。彼堅持善法已便失。況能更堅持。問曰。何以故說性根一切法。答曰。不捨自己種故。問曰。如汝說無為中亦應有根。彼亦不捨己種。答曰。若無為中有根者無在。彼亦不捨己種。以故無在更有欲。治此各故說。性根者與因故。問曰。云何與因。答曰。前生後生因。問曰。如汝說苦法忍應無根。何以故。彼他不與自然因。答曰。彼苦法忍雖他不與自然因。而彼與他彼涅槃。他不與因。亦不與他因。彼云何性根與因。故此不論。如是說性根者。不捨己種故。以是故說性根一切諸法。廣說三不善處盡

①軟二滿②下同 ③想二相④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 [釋婆沙]一①* ②悲二有③

無明有漏。作譬喻者說。二根本結無明及有愛。何以故。答曰。謂彼二根本結。無明者本緣起根。有愛者當來有。問曰。若爾者。彼三有漏云何。答曰。彼說者愛或不善或無記。或有報或無報。或受二果或受一果。或無慚無愧相應。或無慚無愧不相應。彼若有不善有報受二果無慚無愧相應者。彼是欲界愛。因彼故諸餘欲界結。除無明得欲有漏名。謂無記無報一果無慚無愧不相應。此謂說色無色界愛。因彼故色無色界結。除無明有有漏得名。問曰。於此論中更有論生。何以故。欲界愛故。欲界結除無明欲有漏得名。何以故。色無色界愛故。色無色界結。除無明有有漏得名。答曰。謂愛故界斷地斷種斷。謂愛故愛一切盛結。以是故欲界愛故。欲界結除無明欲有漏得名。以是故色無色界愛故。色無色界結除無明有有漏得名。問曰。何以故。一切三界無明別立無明漏。答曰。謂無明前無智後無智中無智。內無智外無智內外無智。行無智報無智行報無智。覺無智法無智僧無智。苦無智習盡道無智。於六更樂入如真無智。無見癡冥故。以故爾。或曰。謂種重行重。種重者。一切結重與一無明等行重者。一切結共作行。復別立不共無明使。以故爾。或曰。謂彼說懶念。如所說此比丘懶念者。謂無明是有說。水中有蟲名懶念。自盲。教他亦盲。如是此無明已自盲。諸有行者亦盲。以故爾。或曰。謂九種。一種緣中癡。九種者。增上至軟軟。一種緣中癡者。彼有想無想軟軟一種也。問曰。此

事能一切非己界遍使。邪見有九種。一種緣中誘言無見盜九種。一種緣中受。第一戒盜九種。一種緣中受淨疑九種。一種緣中猶豫。如此事能一切非己界遍使。彼何不共事獨說無明。答曰。不也。問曰。若爾者此云何。答曰。此欲界癡起九種。一種亦起九種。如一種起九種。如是至第九種亦起九種。如欲界起九種。如是至有想無想處起九種。一切非己界遍使。無此事。謂彼爾所種爾所度今眾生生死癡。以故爾。或曰。謂彼住一時中。五種因五種緣五種使所使。以故爾。或曰。謂前普遍問曰。前者云何。答曰。於四聖諦不欲故。無明纏故。苦是苦不欲不忍。習是習盡是盡道是道不欲不忍。如飢餓人。初得惡食飽滿。後得極妙食而不欲。如是彼癡如惡食。無明纏故。後甘露四諦而不欲。不欲故苦是苦不欲不忍。習是習盡是盡道是道不欲不忍。不欲故生猶豫。有苦耶無苦耶。有習盡道耶。無習盡道耶。是疑如是無明中轉生疑一切猶豫令定故。若得正說。便從正定有苦習盡道。此是正見。若得邪說。便從邪定無苦習盡道。此是邪見。如是彼疑中轉生邪見。若無苦習盡道而有我。此是身見。如是彼邪見中轉生身見。若有我者。便作是念。是常耶是斷耶。若見次第相似。便作是念。有常也。此是計常見。若見壞事。便作是念。斷也。此是斷見。如是彼身見中轉生俱邊見。於中取一邊淨。以此為淨。為解脫出要。此是戒盜。如是彼邊見中轉生戒盜。若此為淨。解脫出要。是第一上最上妙最

妙。此是見盜。如是彼戒盜中轉生見盜。若彼已見便愛。此是愛使。他見便悲。此是不可使。彼見故貢高。此是慢使。如是彼見中轉生使。使中轉生纏。纏者十纏。眠纏不語纏睡纏眠纏調纏悔纏無慚纏無愧纏慳纏嫉纏。於中眠纏嫉纏依不可使。不語纏亦依愛亦依無明。依愛者。愛故覆藏。依無明者。無智故覆藏。睡調慳者。依愛。眠無慚無愧。依無明。更有說結垢依結。非根本結。憤依諂誑高害。於中憤害依不可使。依誑高依見盜。誑依五見。如是無明中轉生一切結。是故說前。普者從阿鼻至第一有可得。是故說普。遍者非如前說。住一時中五種。因五種緣五種使所使。問曰。若不爾者此云何。答曰。自界一切遍使中亦共一切遍使。非己界一切遍使中亦共一切遍使。己地一切遍使中亦共一切遍使。非己地一切遍使中亦共一切遍使。己界緣使中共緣使。非己界緣使中共緣使。己地緣使中共緣使。非己地緣使中共緣使。有漏緣使中共有漏緣使。無漏緣使中共無漏緣使。有為緣使中共有為緣使。無為緣使中共無為緣使。共一切結去灑散入內雜。謂彼爾所門爾所度令眾生生死中癡。以是故。一切三界無明別立無明有漏。如佛契經說。彼不正思惟未生欲有漏便生。生已增廣。問曰。如此結如所起隨所滅住不過一時。何以故。說未生欲有漏便生。生已增廣。答曰。此說軟中上故。彼結軟生。若不正思惟不依正事。便生中中增上。以故爾。尊者婆須蜜說曰。如佛說。若不

①二二三 ②中十(中) ③(故)一 ④(重)一 ⑤教一 ⑥教一 ⑦教一 ⑧教一 ⑨教一 ⑩教一 ⑪教一 ⑫教一 ⑬教一 ⑭教一 ⑮教一 ⑯教一 ⑰教一 ⑱教一 ⑲教一 ⑳教一 ㉑教一 ㉒教一 ㉓教一 ㉔教一 ㉕教一 ㉖教一 ㉗教一 ㉘教一 ㉙教一 ㉚教一 ㉛教一 ㉜教一 ㉝教一 ㉞教一 ㉟教一 ㊱教一 ㊲教一 ㊳教一 ㊴教一 ㊵教一 ㊶教一 ㊷教一 ㊸教一 ㊹教一 ㊺教一 ㊻教一 ㊼教一 ㊽教一 ㊾教一 ㊿教一

正思惟未生。欲有漏便生。生已增廣。云何增廣。答曰。不應增廣。但生復生故增廣也。彼結一過生。若不正思惟不依正事便生。至百千。是故說增廣。重說曰。軟中上故說增廣。彼結軟生若不^正思惟不依正事。便有中中增上。是故說增廣。重說曰。不增廣但生復生。重生故說增廣。彼結軟生。若不正思惟不依正事。便有中中。中有增上增上極增上。是故說增廣。重說曰。不增廣。但度境界故說增廣。因一界生彼結生住已緣餘界。捨彼已復緣餘界。依眼生彼結。若不正思惟不依正事。彼復依耳鼻舌身意生緣色生。若不正思惟不依正事。彼復緣聲香味細滑法生。是故說增廣。尊者曇摩多羅說曰。諸尊不應增廣。但人於一有中多行纏故說增廣。問曰。彼何所說。答曰。彼尊者謂。一切眾生結等生惡趣等。至生第一有。亦等於中或多行結或不爾。是故說。諸尊人於一有中多行纏故說增廣。或曰。受依果報果故說增廣。謂結未起時亦不受依果報果。起已便受依果報果。是故受依果報果故說增廣。或曰。與果受果故說增廣。若結未起時亦不與果亦不受果。生已便與果受果。是故與果受果故說增廣。或曰。與緣故說增廣。彼結未起時不與次第緣。若起已便與次第緣。是與緣故說增廣。如佛契經說。七有漏能多起憂悲惱。問曰。如三有漏。何以故說七有漏。答曰。此中說有漏具名有漏。如餘具餘名。阿毘曇具以阿毘曇為名。樂具樂為名。如所說偈

樂為揣食 樂為持衣 樂為行步
依山窟間 女垢梵行 女縛世間 苦行梵行
此洗無水
使其使為名。如所說。比丘色所使色所愛。比丘所使者。即彼愛彼。愛已為魔所縛。欲具欲為名。如所說。五欲功德世間愛樂念退具退為名。如所說。五因五緣等。意解脫阿羅漢若退若忘。云何為五。一者多誦。二者業。三者和合誨。四者遠行。五者長病。行具行為名。如所說。此六更樂入。本所作本所思本行所報。報具報為名。如所說。諸賢。我已一施報故。七生天上為天王。七生人為人王。如是有漏具有漏為名。尊者婆奢說曰。彼所說法竟。更有受化者來。彼能知此義異句異味。以是故。世尊。此義說異句異味也。尊者瞿沙說曰。佛說此契經中二漏。一者見斷。二者思惟斷。見斷者如已像。思惟斷者治。故。彼思惟斷者二種。一者須臾治。二者根本斷。於五品中現須臾治。最後品現根本斷。如佛契經說。彼如是知如是見。欲有漏心解脫。有有漏無明漏心解脫。問曰。如彼欲界除欲時。欲有漏心解脫。有有漏無明漏心解脫。何以故。有有漏無明漏心解脫。欲有漏心解脫。有有漏無明漏心解脫。答曰。本已解脫。解脫為名。如已來來為名。如所說。大王從何所來。當爾時非是來。彼已來也。已取證證為名。如所說。菩薩於正中取證時得等智。如來得盡智無生智時。

於欲得無欲無患無癡。善根本已盡盡為名。如所說。彼苦已盡樂已盡。憂喜本已沒。不苦不樂。護念清淨。於四禪成就遊也。已正受正受為名。如所說。云何念入慈正受。答曰。欲令眾生樂。已痛痛為名。如所說。彼覺樂痛時知樂痛。如是本已解脫。解脫為名。或曰。二俱永滅故說。二俱者。欲有漏無明有漏。有有漏無明有漏。彼欲界除欲時。雖有參差未永盡。彼有想無想處除欲時。永盡是二俱永滅故說。或曰。縛斷故說。本際不可知。如彼有有漏無明有漏。於彼欲有漏斷已。斷還復縛。若有有想無想處除欲已。彼縛至竟斷。是縛斷故說。或曰。緣斷故說。本際不可知。如彼有有漏無明有漏。彼欲有漏斷已。斷與三緣次第緣緣緣增上緣。若有有想無想處除欲已。彼緣盡斷。是緣斷故說。或曰。責治故說。謂彼修行人有有想無想處除欲已。彼欲有漏有有漏無明有漏。責數呵諫。我脫欲有漏有有漏無明有漏。謂將我生死中去。歎調。是責治故說。問曰。如所說。彼如是知如是見。欲有漏心解脫。有有漏無明有漏心解脫。如一切心數法解脫。何故獨說心解脫。答曰。妙說妙義故。彼一切心數品中何者最妙心也。如所說。王共眷屬行。或曰。謂說心主。因彼故立心數法。心者說大地。因彼故立十大地。或曰。謂彼神通作證時無礙道緣心。或曰。謂說遠行。如所說偈
遠行獨去 無身依身 難御能御
是世梵志
或曰。謂說前去。如所說偈

①[正]—② [增]—③* ④[廣]—⑤ ⑥本二大 ⑦[故]—⑧

所流下扼者施扼。彼當云何不受生死苦。以是故一切經說流已後說扼亦爾。廣說四流四扼處盡。

* 鞞婆沙四受處第五

四受者。欲受戒受見受我受。問曰。四受有何性。答曰。欲受性三十四種。愛五。慧五。慢五。明五。疑四十。纏是三十四。欲受性。戒受性六種。欲界二。色界二。無色界二。是六種戒受性。見受性三十種。欲界十。色界十。無色界十。是三十種見受性。我受性三十八種。愛十。色界五。無色界五。慢十。色界五。無色界五。無明十。色界八。無色界八。疑八。色界四。無色界四。此百八種四受性。此四受性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說受。受有何義。答曰。一事故說受。能然行捷疾行。能然行者。燃五趣中行。捷疾行者利故。或曰。三事故說受。燒受斷是故說受。問曰。云何燒義。答曰。薪義是受義。壞義是受義。纏義是受義。薪義是受義者。如因薪火燃。如是衆生因結薪行火燃。是故薪義是受義。壞義是受義者。如利刺極入身中能壞身。如此受利刺極入。法中能壞法身。是故壞義是受義。纏義是受義者。如蠶虫要以綿自纏而於中死。如是此衆生要以結自纏而生惡趣中。是故纏義是受義。薪義壞義纏義是受義。問曰。何以故。無明有漏中別立無明漏。流中無明流。扼中無明扼。然受中不別立無明受。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法能擔彼別立。或曰。前已說二事故。說受行燃捷疾行。彼無明雖燃五趣行。但非捷疾行。鈍故爛故不利行。故不定故不斷。或曰。此前三事。名爲受能燒受斷彼無明。雖有燒受但不斷。捷利者。能斷彼鈍爛不利行不定。不斷以是故受中不別立無明受。問曰。何以五見流中合立見流。扼中合立見扼。何以受中四見立見。受一見立戒受。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法能擔別立。或曰。前已說二事故。說受行然捷疾行。彼戒盜等然五趣行等餘見。或曰。前已說三事故。名爲受能燒受斷。彼戒盜等燒受斷等餘見。或曰。遠道故遠解脫。遠道者。欲種種苦行爲清淨。遠解脫者。如彼依此見而遠淫弊。或曰。二事欺誑。二事者。此內法外法。問曰。云何此內法欺誑。答曰。等受持乞食糞掃衣露坐。受持沙門十。二淨行。如人似淨行。如彼尊者婆耶。日日澡浴如似淨行。如是此內法欺誑。此外法云何欺誑。謂欲種種苦行爲淨。此尊者瞿沙亦爾說。此世間現事如見火二事。欺誑如小兒。以是故受中四見立見。受一見立戒受。問曰。何以故說我受爲行耶爲緣耶。若行是我受者。應身見是我受。此是我行若緣是我受者而無我。作此論已說曰。亦非行亦非緣。問曰。若不爾此云何。答曰。處所故。此欲界結欲處故。轉行衆生處故。眞處故。色無色界結非欲處故。轉行非衆生處故。非具處故。但我處故以故爾。如佛契經說。此四受者何本何習何生何緣。答曰。此四受無明本無明習無明生無明緣。問曰。

如一切契經說愛緣受。何以故。此契經中說無明緣受。答曰。爲異學故。彼異學亦出家捨家妻子。無家無守不畜財寶。彼亦無多惡。但由無明故。依諸見令彼生惡趣中。如彼老象入污泥中而陷沒。如是彼異學由無明故。依諸見令彼生惡趣中。以是故佛契經說。四受無明本無明習無明生無明緣。廣說四受處盡。

* 鞞婆沙四縛受處第六

四縛者。欲愛身縛。瞋恚身縛。戒盜身縛。我見身縛。問曰。四縛有何性。答曰。欲。愛身縛欲界愛五種。瞋恚身縛恚五種。戒盜身縛三界六種。我見身縛三界十二種。此二十八是四縛性。此縛性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說縛。縛有何義。答曰。束義是縛義。連續義是縛義。束義是縛義者。如彼施設所說。此無明未盡未知已彼彼身彼彼依彼彼得已身亦是因亦是緣。束而束遍束。連續相連續。如巧鬘師鬘師弟子。繩長已結作種種鬘。彼。縷於彼華亦是因亦是緣。結而結遍結。連續相連續。如是此無明未盡未知已彼彼身彼彼依彼彼得已身亦是因亦是緣。束而束遍束。連續相連續。是故說束義是縛義。連續義是縛義。相連續是縛義者。如彼契經說。當爾時香食也。二心中必有一。或愛相應。或恚相應。是故說連續義是縛義。問曰。若此衆生生死中。束而束遍束是縛義者。一切結亦爾。衆生生死中束而束遍束。何以故立四縛不立餘。答曰。是世尊餘言略言欲

疾行。彼無明雖燃五趣行。但非捷疾行。鈍故爛故不利行。故不定故不斷。或曰。此前三事。名爲受能燒受斷彼無明。雖有燒受但不斷。捷利者。能斷彼鈍爛不利行不定。不斷以是故受中不別立無明受。問曰。何以五見流中合立見流。扼中合立見扼。何以受中四見立見。受一見立戒受。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法能擔別立。或曰。前已說二事故。說受行然捷疾行。彼戒盜等然五趣行等餘見。或曰。前已說三事故。名爲受能燒受斷。彼戒盜等燒受斷等餘見。或曰。遠道故遠解脫。遠道者。欲種種苦行爲清淨。遠解脫者。如彼依此見而遠淫弊。或曰。二事欺誑。二事者。此內法外法。問曰。云何此內法欺誑。答曰。等受持乞食糞掃衣露坐。受持沙門十。二淨行。如人似淨行。如彼尊者婆耶。日日澡浴如似淨行。如是此內法欺誑。此外法云何欺誑。謂欲種種苦行爲淨。此尊者瞿沙亦爾說。此世間現事如見火二事。欺誑如小兒。以是故受中四見立見。受一見立戒受。問曰。何以故說我受爲行耶爲緣耶。若行是我受者。應身見是我受。此是我行若緣是我受者而無我。作此論已說曰。亦非行亦非緣。問曰。若不爾此云何。答曰。處所故。此欲界結欲處故。轉行衆生處故。眞處故。色無色界結非欲處故。轉行非衆生處故。非具處故。但我處故以故爾。如佛契經說。此四受者何本何習何生何緣。答曰。此四受無明本無明習無明生無明緣。問曰。

①兩二不② ③二二三④ ⑤新一新⑥ ⑦法十(身)⑧ ⑨二二三⑩* ⑪立二五⑫ ⑬家十(無家)⑭ ⑮愛一受⑯ ⑰縛十(見欲) ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

令行言。世尊為教化故。或曰。為人故為眷屬。故為器故為教化故。尊者瞿沙說曰。世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法相盡知行。若有縛相立縛中。無縛相不立縛中。或曰。謂極縛三界衆生。欲愛身縛。瞋身縛。極縛欲界衆生。戒盜身縛。我見身縛。極縛三界衆生。或曰。謂二事極縛白衣及學道者。欲愛身縛。瞋身縛。極縛白衣。戒盜身縛。我見身縛。極縛學道者。如白衣及學道。如出家及不出家。捨家妻子及不捨家妻子。有家無家。有畜財寶不畜財寶。盡當知。或曰。謂能起二諍。一者。姪欲故諍。二者。見欲故諍。如彼契經。持澡。罐杖。梵志至尊者。迦。旃延所。而問迦旃延。何因何緣。王王共諍。梵志梵志共諍。居士居士共諍。縣縣共諍。國國共諍。答曰。此梵志因。姪欲著故。令此王王共諍。梵志梵志共諍。居士居士共諍。縣縣共諍。國國共諍。重問曰。迦。旃延。此沙門亦無家無所守不畜財寶。迦。旃延。何。固何緣。沙門沙門共諍。答曰。見欲著故。此梵志沙門沙門共諍。謂彼能起二諍。一者。姪欲。二者。見欲。以故爾。如諍如是二邊。二箭。二戲。盡當知。以是故立四縛不立餘。廣說四縛處盡。轉婆沙論卷第二

轉婆沙論卷第三

* 阿羅漢尸陀槃尼撰 * 符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

五蓋處第七

五蓋者。欲愛瞋恚睡眠調悔疑問曰。五蓋有何性。答曰。欲愛欲界五種。六識身。瞋恚五種。六識身。睡眠二俱三界五種。不善無記一切染污心可得。於中不善者立蓋中。無記不立蓋中。眠欲界五種善不善無記。於中不善者立蓋中。謂善無記不立蓋中。悔欲界思惟斷善不善。於中不善者立蓋中。善者不立蓋中。疑三界四種不善無記。於中不善者立蓋中。無記者不立蓋中。此三十種是五蓋性。此是性。問曰。彼有何相。答曰。謂彼性即是相。即是性。一切法中不可離性說相。尊者婆須蜜說曰。於中欲得欲者便起欲愛。令衆生相違故起瞋恚。心沒故起。睡。已沒不動便眠不息。相者是調心中生恨。種種恨所作惡故生悔。心中行未成意不定故便生疑。已說恨相當說行。可以故說蓋。蓋有何義。答曰。障義是蓋。壞義是蓋。破義是蓋。墮義是蓋。蓋義是蓋。障義是蓋。而作障礙聖道及聖道方便善根。如彼契經所說。有樹大樹子小。而樹大謂覆餘小樹。覆餘樹已壞破墮臥。此云何。一千。閻那。二伽賓。閻羅。三伊說多。四閉鉢羅。五必樓。又。六優曇跋羅。七尼拘類。八那梨伽羅。此樹大樹子小。而樹大覆餘小

樹。覆餘樹已壞破墮臥。如大樹覆小樹已亦不生華不轉成果。如是衆生欲界心樹蓋所覆。不生覺意華。亦不轉成沙門果。是故說障義壞義破義墮義臥義是蓋義。問曰。若此蓋作障礙聖道及聖道方便善根者。一切諸結亦作障礙聖道及聖道方便善根何以故立五蓋不立餘。答曰。是世尊有餘言略言欲令行言。世尊為教化故。或曰。佛世尊於法真諦餘真無能過者。彼盡知法相盡知行。謂有蓋相立蓋中。或曰。謂彼三界除欲時。極作障礙非餘。或曰。謂彼正受障礙及果障礙。正受障礙者。九次第正受作障礙。果障礙者。九斷智果作障礙。或曰。欲愛者於離欲中而遠離。瞋恚者於離惡中而遠離。睡眠者於觀中而遠離。調悔者於止中而遠離。彼遠離已離欲離惡。止觀失已便心中生疑。有惡法報耶。無惡法報耶。或曰。欲愛瞋恚者壞戒身。睡眠壞慧身。調悔壞定身。彼已壞三身。於心中便生疑。有惡法報耶。無惡法報耶。或曰。欲愛瞋恚壞戒。睡眠壞觀。調悔壞止。彼壞三法已。於心中便生疑。有惡法報耶。無惡法報耶。或曰。謂欲界衆生數數行。此中幾慢行。幾見行。地獄中云。何行慢。豈可言我極燒汝。不知一切畜生豈有見耶。尊者瞿沙說亦爾。謂此欲界衆生數數行而不見答。欲令見各故說五蓋。或曰。謂此因時作障礙。果時亦作障礙。因時作障礙者。若蓋現在前。爾時不可善有漏心現在前。何況無漏果時作障礙者。若生惡趣中受惡報時。當爾時障礙一切諸功德。以是故佛

①[瞿]一②③ ④姪二淫⑤* ⑥旃旃旃⑦⑧* ⑨旃旃旃⑩⑪ ⑫固二因⑬⑭ ⑮如十(是二)⑯⑰ ⑱[論卷第三]一⑲ ⑳善二蓋㉑ ㉒睡二睡㉓ ㉔恨二性㉕㉖ ㉗閻二閻㉘ ㉙又二又㉚㉛㉜ ㉝令二今㉞ ㉟(微)十行㊱ ㊲(微微)十行㊳

曰。前已障礙是蓋義更無二結。令此衆生縛生死中。如愛如此衆生無明所盲愛所縛。如是不能至涅槃。如人有二怨家。一來近已。以一把土塗其目。二來近已。繫手足。彼盲被縛已不能有所至。如此衆生無明所盲愛所縛。如是不能至涅槃。以是故說頌

無明能使盲 愛縛衆生死
彼於中可得 諸惡不善法

此中說隣那摩候喻。說者有二賊。一者隣那二摩候。欲作賊時一來近已。以一把土塗其目。二來近已。繫手足。彼盲被縛已不能有所至。如是此衆生無明所盲愛所縛。彼已盲已縛。如是不能至涅槃。以是故說頌。如上也。此中隣那摩候喻。亦如是。以是故佛契經無明說蓋愛說結。廣說五蓋處盡

轉婆沙五結處第八

五結者。愛結。結。慢結。慳結。嫉結。問曰。五結有何性。答曰。愛結者。三界愛五種。此十五種。慢結亦爾。結者。五種慳結。嫉結。思惟所斷。此三十七種。是五結性。此結性已種相身所有自然。說相已當說行。何以故說結結義云何。答曰。縛義是結義。苦繫義是結義。雜毒義是結義。縛義是結義者。縛是結結是縛云何。答曰。有契經。尊者舍利弗問尊者摩訶拘絺羅。云何。繫者。拘絺羅。眼繫色耶。色繫眼耶。答曰。尊者舍利弗。不眼繫色。不色繫眼。至意法不意繫法。不法繫意。但此中

若姪若欲是彼繫也。尊者舍利弗。譬如二牛一黑一白。一扼一執縛繫。尊者舍利弗。若有作是說。黑牛繫白牛。白牛繫黑牛。尊者舍利弗。彼爲等說。不答曰。不也。尊者拘絺羅。何以故。答曰。賢者拘絺羅。非黑牛繫白牛。非白牛繫黑牛。俱以執。扼繫。是彼繫如是。尊者舍利弗。不眼繫色。不色繫眼。至意法不意繫法。不法繫意。但此中若。姪若欲是彼繫。是謂縛義是結義。若繫義是結義者。欲界結。欲界衆生欲界。苦中繫。色界結。色界衆生色界。苦中繫。無色界結。無色界衆生無色界。苦中繫。諸界結。彼是繫相。繫苦中非是樂。諸色無色界結。彼是繫相。繫苦中非是樂。是謂苦繫義是結義。結雜毒義是結義者。極妙生處世俗正受。如解脫除入一切。入彼聖所除結雜毒故。如極妙。食。雜毒慧者。能除以雜毒故。如是極妙生處世俗正受。彼聖能除結雜毒故。是謂繫義是縛義。苦繫義是結義。結雜毒義是結義。廣說五結處盡

轉婆沙五下結處第九

五下分結者。欲愛。瞋。恚。身見。戒盜疑。問曰。五下分結有何性。答曰。欲愛者。欲愛五種。六識身。瞋恚者。恚五種。六識身。身見者。三界一種。是三種。戒盜者。三界二種。是六種。疑者。三界四種。是十二種。此三十一種。是五下分結性。是下分結性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說下分結。下分結有何義。答曰。下墮下斷下縛。故說下分結。問曰。若下墮下分結義者。一切結下墮。欲界三十六使。有想

無想處二十八使。下墮下斷下縛。因有欲界三十六使。有想無想處二十八。下分結時須立無量下分結。何以故立五下分結。答曰。是世尊有餘言。略言欲令行言。世尊爲教化故。或曰。佛世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法。想盡知行。若有下分。想彼立下分結中。若無下分相。彼不立下分結中。或曰。下者說二種。一者界下。二者地下。界下者。欲界是。地下者。凡夫是。謂此衆生不度下界。何以故。因欲愛瞋恚故。不度下地。何以故。因身見戒盜疑故。復說下二種。一者界下。二者衆生下。界下者。欲界是。衆生下者。凡夫是。如此衆生不度下界。何以故。因欲愛瞋恚故。不度衆生下。何以故。因身見戒盜疑故。或曰。謂彼說如守獄門人。如人繫在獄中立二人。守獄門三人。防邏勅防邏人。若此獄囚作方便傷害。守獄門人突獄門走者。汝等三人隨其遠近攝來還繫獄中。彼獄囚作方便傷害。守獄門人突獄門走。彼三防邏者。隨其遠近攝來還繫獄中。如是此衆生不淨惡露傷害欲愛。慈傷害恚。出欲界獄中。至第一有。彼身見戒盜疑還攝來繫欲界獄中。尊者瞿沙亦爾說。二下分結未盡未知不能出欲界獄中。三下分結未盡未知至第一有。還攝來繫欲界獄中。尊者婆跋羅茶亦爾說。二繫故不得出。三未盡故還來欲界中。或曰。此現門現略現度。若有爾所結。或一種二種四種五種。身見說已。當知已說一種。戒盜說已。當知已說二種。雖無餘二結可得二種。當知即彼戒盜二種。及戒盜相應

一[轉婆沙]一[一] * 一[繫二] 一[二] * 一[扼二] 一[三] * 一[俱二] 一[四] * 一[經二] 一[五] * 一[食二] 一[六] * 一[立二] 一[七] * 一[想二] 一[八] * 一[慈傷] 一[九] * 一[二] 一[十] *

法疑說已。當知已說四種。欲愛瞋恚說已。當知已說五種。故曰現門現略現度。以是故佛立五下分結。若問何以故佛欲愛瞋恚立五下分結中。謂彼三不善根處所中。答彼一切報此間。若問何以故佛身見戒盜疑立五下分結中。謂彼三結處所中。答彼一切報此間。如是彼二論報此論。如佛契經說。諸比丘。持我所說五下分結不。彼諸比丘默然。世尊再三告諸比丘。持我所說五下分結不。彼諸比丘亦再三默然。當爾時尊者。驚童真亦在衆坐。於是尊者。驚童真從座起整衣服。偏袒右肩叉手向世尊。白世尊曰。唯世尊。我持世尊所說五下分結。如是說已。世尊告。驚童真曰。汝。驚童真。云何持我所說五下分結。驚童真曰。世尊。初說欲愛下分結我持之。瞋恚身見戒盜疑。世尊說五下分結我持之。世尊曰。汝。驚童真。云何持我所說五下分結。從何口受持我所說五下分結。我不一向說。汝愚癡人一向說問曰。如此五下分結。佛一切契經中說。何以故世尊呵責。驚童真答曰。尊者。驚童真行結故說。尊者。驚童真說。若行者是結不行者非是結。世尊未盡結故呵責。世尊說結行者不行者諸未盡者皆是結。或曰。尊者。驚童真結現在前故說。尊者。驚童真說。若結現在前即是結。不現在前非是結。世尊成就結故呵責。世尊說結若現在前者不現在前者諸結成就皆是結。以此事故。孩童呵責喻而呵責之。驚童真彼。衆多異學。不以此。孩童呵責喻。責汝耶。驚童如。孩童

年小未有欲意。欲令彼無有欲使耶。但所使故名爲欲愛使。或曰。驚童真現在結故說。尊者。驚童真說。若結現在是結餘者非是結。世尊三世結故呵責。或曰。尊者。驚童真未盡結故說。尊者。驚童真說。若結未盡是結餘者非結。世尊說盡未盡故呵責。以是故佛世尊呵責。驚童真廣說五下分結處盡

* 婢婆沙五上結處第十

五上分結者。色愛無色愛調慢無明。問曰。五上分結有何性。答曰。色愛者。色界愛思惟斷。無色愛者。無色界愛思惟斷。調慢無明者。色無色界思惟斷。此八種是五上分結性。是謂上分結性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說上分。上有何義。答曰。將至上墮生上上界縛。是故說上分。問曰。若將至上墮生上上界縛。是故說上分者。不應立流。此亦流下諸界諸趣諸生。流轉生死中。答曰。不然。問曰。若不爾者。此云何。答曰。諸界故立上分結。謂彼將至上墮生上上界縛。解脫故正智故聖道故善法故立流。離生至第一有中故是下。解脫故正智故聖道故善法故。尊者。婆跋羅。茶亦爾說。久時生上流下是故說流。說曰。此上分結生上不是下。問曰。此論中更有論生。何以故上分生上不是下。答曰。見諦思惟斷結亦生上亦生下。此上分結一向思惟所斷。以是故生上不生下。或曰。謂此聖意中可得非凡夫。彼聖人阿那含意中可得。非須陀陀斯陀。含。問曰。於此論中更有論生。何以故上分結阿那。含意中可得。非須陀陀斯

陀。含。答曰。即彼事如上說。謂彼生上不生下。是須陀陀斯陀。含亦生上亦生下。彼阿那。含。一向生上不生下。或曰。謂度界及得果。度界者欲界也。得果者阿那。含果也。須陀陀斯陀。含雖得果未度界。或曰。謂度界及下分永盡知。須陀陀斯陀。含亦不度界。亦不下分結永盡知。或曰。謂得果行功德不行惡。須陀陀斯陀。含雖得果亦行功德亦行惡。或曰。謂得果不同凡夫行事轉。須陀陀斯陀。含雖得果彼同凡夫行事轉。手。搏加。捲起身行口行。與妻子共居。捉持金銀。栴檀香華。蠶著。身臥高廣大床。摩觸女身兩兩相近。阿那。含永無此事。或曰。謂得果不復還世。問。不入母胎。銅釜無囚獄。不復處生熱藏中。須陀陀斯陀。含雖得果故有此事。以是故五上分結。阿那。含意中可得非餘。問曰。何以故一愛立二上分結。調慢無明立一。答曰。應立若未立者。是世尊有餘言現義門現義略現義度當知義。或曰。佛世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法性盡知行。諸法獨能擔彼獨立。謂不能不獨立。或曰。現二門二略二度二炬二明二光現二數。如愛立二上分結。如是調慢無明亦應立二。如調慢無明立一上分結。愛亦應立一。此上分應有四應有八。是故說現二門至現二數。或曰。謂愛斷於界斷於地斷於種。或曰。謂愛故盛一切結。以是故愛立二上分結。調慢無明立一。問曰。如睡調二俱。三界有五種。一切染污意可得。何以故。調立上分結而不立睡。答曰。佛世尊於法真諦餘真

① 愛二數 ② 中 ③ 偏二偏 ④ 孩二孩 ⑤ 衆多異一衆生 ⑥ 說性二所有說 ⑦ 上十(分) ⑧ 茶二芽 ⑨ 說二日 ⑩ 含二合 ⑪ (同)十行 ⑫ 持二持 ⑬ 捲二卷 ⑭ 拈二拈 ⑮ 問二問 ⑯ 四二日 ⑰ 此二比

無能過，彼盡知法性盡知行。謂有上分相立上分結。無上分相不立上分結。或曰此謂盛患重過多苦以盛患故婆須蜜經云。不善大地中以盛患故施設所說。凡夫起欲使時便生五法。一者欲愛使。二者欲愛使種。三者無明使。四者無明使種。五者調。以盛患故。阿毘曇雜捷度中間。云何不共無明使。云何不共調纏。此睡非多。盛患非多重過非多苦。以是故不立上分結中。或曰。此調於四。枝五。枝定能起意。彼睡於定隨順。復次若意睡。盛彼速發定。以是故調立上分結中不立睡問曰。五上分結。調是結性耶。非結性耶。若結性者。彼婆須蜜經云何通。彼經說結法云何九結是非結法。云何除九結已餘法。是結非結性者。此經云何通。此中說五上分結。色愛無色愛調慢無明。是作此論已說曰。是結性也問曰。以是故此經中立五上分結。彼婆須蜜經云何通。彼說結法云何九結是非結法。云何除九結已餘法。是外者作是說。此經應爾。結法云何九結。及五上分調是非結法。云何除九結及五上分調餘法。是外者此經如是說。屬寶此經何以故不作是說。答曰。應說若未說者何意。答曰。彼屬寶說。此五上分結調不定。或是結或非是結。或有結者或無結者。有時結有時非結。或是結或非是結者。謂色無色界是結。謂欲界非是結。或有結者或無結者。謂聖人意可得是結。謂凡夫人意可得是非結。有時結有時非結者。彼聖人中謂阿那含意可得是結。謂須陀洹斯陀

*含意可得是非結。以不定故。或是結或非是結。或有結者或無結者。有時結有時非結。以是故不立結中問曰。於此論中更有論生。何以故色無色界調立結。欲界調不立結。答曰。此欲界非定界。非思惟地。非除欲地。此欲界中結如放逸馬。以是故調此欲界不現色無色界是定界思惟地除欲地。彼結不如放逸馬。是故彼中調現。以是故色無色界調立結中。欲界調不立結中。或曰。此欲界多結非是法法想。如瞋憤不語。依誑諂高害。此非是法法想。壞故此中調不現。彼色無色界無此非是法法想。結於彼中調現。以是故色無色界調立結中。欲界調不立結中。或曰。此欲界非定界。非思惟地。非除欲地。此中無有定。謂調可亂意。色無色界是定界。是思惟地是除欲地。彼四。枝五。枝定中調起意。以是故色無色界調立結中。欲界調不立結中。廣說五上分結處盡

轉婆沙五見處第十一

五見者。身見邊見邪見見盜戒盜。問曰。此五見有何性。答曰。身見三界一種此三種邊見亦爾。邪見者三界有四種。此十二種。見盜亦爾。戒盜者三界有二種此六種。是三十六種五見性。是見性已種性身所有自然。性說已當說行。何以故名爲見。見有何義。答曰。觀故行故堅。受故緣深入故。觀者能視也。問曰。如邪觀顛倒觀云何是視。答曰。雖邪觀顛倒觀但慧故名視。此是慧性。如人見不了了亦名爲見。如是邪觀顛倒觀但慧故名爲視。此

是慧性故。曰觀行者能有所行。問曰。一時頃云何行。答曰。捷利故名爲行。故曰行。堅受者。邪事堅受。故此見邪事極堅受。非聖道刀不捨。如佛佛弟子與已。以聖道刀墮見。牙然後捨。以是故說頌曰

若受惡慧 如鱷魚齧 失搔摩^⑩ 非斧不離

說者大海中有虫。名失搔摩羅。彼虫若有所銜時。若草若木。彼極銜非刀不離。要以刀墮其牙然後得離。如是此見邪事極堅受。非聖道刀不捨。若佛佛弟子與已。以聖道刀。墮見牙然後捨。故曰堅受。緣深入者。此見緣中極入如鐵墮泥。是觀故行故堅受。故緣深入故名爲見。或曰。二事故名爲見。明故行故也。或曰。更有二事故名爲見。彼相成就故。彼事辦故也。或曰。三事故名爲見。彼相成就故。彼事辦故。緣深入故也。或曰。更有三事故名爲見。意故著故行故也。或曰。更有三事故名爲見。意故方便故無智故。意者惡意也。方便者惡方便也。無智者此二事俱也。復說意者正受人也。方便者察行人也。無智者依二聞也。如是共行說已今當別說。何以故名爲身見。答曰。此見己身轉行。是故說身見。問曰。餘見亦己身轉行。何以故說一身見不說餘。答曰。此身見一向己身轉行。非是他身非非身。餘見亦己身轉行。亦他身轉行。亦非身轉行。己身轉行者。己身緣也。他身轉行者。他身緣也。非身轉行者。盡道緣也。此身見一向己身轉行非他身非非身轉行。是故說一身見非餘。

① 謂一謂 ② 盛一或 ③ 云二立 ④ 枝二支 ⑤ 上 ⑥ 有時二有結是 ⑦ 此中二此 ⑧ 受一愛 ⑨ 牙二牙 ⑩ 是二見 ⑪ 日 ⑫ 銜二御 ⑬ 刀二力 ⑭ 也二他

意故無量愛云何一愛廣。施六中云何無量愛略施六中。云何立六身愛。答曰。依故立六身愛。若有一愛及無量。彼一切依六行六門六迹六度六識身相應。是依故說六身愛。問曰。恚及無明亦依六行六門六迹六度六識身相應。何以故說六愛身。不說六恚及無明身。答曰。是世尊有餘言。此現義義門義略義。愛當知義。如說六身愛恚無明亦爾若不說何意。答曰。謂愛界斷地斷種斷。或曰。謂愛盛一切諸結。或曰。謂愛不大。增。惡難除。恚大。增。惡易除。無明亦大。增。惡難除。以故。爾。問曰。何以故說身。答曰。多身故說身。非一愛時名眼更愛。非一愛時乃至意更愛。但多愛時說眼更愛。多愛時說乃至意更愛。如非一象名象軍。非一馬名馬軍。非一車名車軍。非一步名步軍。但多象名象軍。多馬名馬軍。多車名車軍。多步名步軍。如是。非一愛時說眼更愛。非一愛時說乃至意更愛。但多愛時說眼更愛。多愛時說乃至意更愛。是多身故名為身。廣說六身愛處盡。

* 韓婆沙七使處第十三

七使者。欲使恚使有使慢使無明使見使疑使。問曰。七使有何性。答曰。欲使者欲界愛五種六識身。恚使者恚五種六識身。有使者色無色界愛五種。慢使者三界五種。此十五種無明使亦爾。見使者三十六種。疑使者三界四種。此十二種。此九十八種是七使性。是使性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說使。使有何義。答曰。屬賓說三句。如。豪

使亦爾。所使是使相逐是使。如。豪使亦爾者。豪者說細如。豪。所說七使成一。豪。是說。豪使亦爾。所使是使。至一時中所使。一使中亦所使。是所使是使也。相逐是使。彼意中所使猶影相逐。如空行水行此亦爾。空行者鳥。水行者虫。說者如鳥飛空。運遊大海。彼諸水虫作是念。此大海水無量深廣。非是凡鳥能從此岸至彼岸。除一金翅鳥。虫知此鳥飛必墮水。見影便逐鳥極墮水虫得而食。如是未除欲業生。一切時七使得現在相逐。若結現在前。當爾時愛非愛依果報果。是故相逐是使。或曰。如。豪使亦爾者。薰堅著故。所使是使。相逐是使。相逐是使。或曰。如。豪使亦爾者。細事也。所使是使。相逐是使。相逐是使。或曰。如。豪使亦爾者。薰堅著也。或曰。如。豪使亦爾者。過去使也。所使是使。相逐是使。相逐是使。當來也。或曰。如。豪使亦爾者。所使是使。相逐是使。相逐是使。心不相應使也。問曰。如使無不心相應。答曰。彼使得以使為名。外者說四句。如。豪使亦爾。相入是使。所使是使。相逐是使。如。豪使亦爾者。豪者說細也。如所說此極細行也。相入是使。於意中相入。如麻中有油。如杏人中賦。所使是使。於意中所使如乳母為嬰兒所使。相逐是使。於意中相逐如影逐身。或曰。如。豪使亦爾者性也。相入是使。所使是使。相逐是使。相逐是使。薰堅著也。或曰。以三事得知使。一者性二者果三者人。性者欲使。如甜藥草。恚使。如苦果子。有使者如乳母衣。

慢使者如。憍貴人。無明使者如盲人見使者如迷失道。疑使者如惑一。道。是說性也。果者欲使修習多修習生雀鴛鴦中。恚使修習多修習生蛇虺中。有使修習多修習生色無色界中。慢使修習多修習生下賤中。無明使修習多修習生愚闇中。見使修習多修習生異道中。疑使修習多修習生邊地中。是說果也。人者欲使。當觀如難陀。恚使。當觀如貫合及鴛握摩。有使。當觀如阿私陀阿羅蘭。頭藍子也。慢使。當觀如摩那多陀。無明使。當觀如憍羅。見使。當觀如。驚重真。疑使。當觀如須那利多羅。是說人。以是三事得知使。一者性。二者果。三者人。問曰。慳嫉何以故不立使中。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂有使相立使中。謂無使相不立使中。或曰。說結二種。一者具結。二者不具結。具結者立使中。不具者不立使中。或曰。謂結見斷思惟斷彼立使中。此慳嫉一向思惟斷。以是故不立使中。或曰。此慳嫉者厚濁使。清薄。或曰。慳嫉。薰不堅著。使。薰。堅著。如處所燒草樹皮。火滅地即冷。慳嫉行亦爾。如處所燒狗骨木。彼火滅久地故。熱使行亦爾。以是故慳嫉不立使中。廣說八使處盡。

* 韓婆沙九結處第十四

九結者。愛結。恚結。慢結。無明結。見結。失願結。疑結。慳結。嫉結。問曰。九結有何性。答曰。愛結三界五種。是十五種。慢結。無明結。亦爾。恚結五種。六識身。見結。十八種。失願結。亦爾。疑結

①施二說 ②以故一故以 ③愛二受 ④增一情 ⑤惡二德 ⑥爾二亦 ⑦步二出 ⑧〔使〕一 ⑨真二道 ⑩運二經 ⑪薰二動 ⑫恚二志 ⑬憍二高 ⑭說二悅 ⑮賤二賦 ⑯合二合 ⑰真二道 ⑱薰二動 ⑲堅二性 ⑳物二有

三界四種是十二種。慳嫉結欲界思惟斷。此五種是九結性。是結性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說結。結有何義。答曰。縛義是結義。苦繫義是結義。結雜毒義是結義。縛義是結義者。縛是結結是縛。云何知。答曰。有契經。彼契經尊者舍利弗問尊者摩訶拘絺羅。云何賢者拘絺羅。眼繫色耶色繫眼耶。答曰。尊者舍利弗。不眼繫色不色繫眼。至意法不意繫法不法繫意。但此中若。姪若欲是彼繫也。尊者舍利弗。譬如二牛一黑一白。一扼一鞅縛繫。尊者舍利弗。若有作是說。黑牛繫白牛白牛繫黑牛。尊者舍利弗。彼爲等說不。答曰。不也。賢者拘絺羅。何以故。答曰。賢者拘絺羅。非黑牛繫白牛非白牛繫黑牛。但以扼鞅繫是彼繫。如是尊者舍利弗。不眼繫色不色繫眼。至意法不意繫法不法繫意。但此中若姪若欲是彼繫。是謂縛義是結義。苦繫義是結義者。欲界結欲界衆生欲界中苦繫。色界結色界衆生色界中苦繫。無色界結無色界衆生無色界中苦繫。諸欲界結彼是繫相。繫苦中非是樂。諸色無色界結彼是繫相。繫苦中非是樂。是謂苦繫義是結義。結雜毒義是結義者。極妙生處世俗世受。如解脫除入一切。入彼聖所除結雜毒故。如極妙食雜毒。慧者能除以雜毒故。如是極妙生處世俗正受。彼聖能除結雜毒故。是謂繫義是縛義。苦繫義是結義。義雜毒義是結義。共行說已當別說行愛結。云何。答曰。三界愛也。問曰。何以故使中欲界愛立欲使。色無色界愛

立有使。如是餘契經中說三愛。欲愛色愛無色愛。何以故。此契經一切三界愛立一愛結。答曰。佛世尊。於法真諦。餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法獨能擔彼獨立。若不能獨擔彼立品。或曰。世尊教化或有利根或中根或軟根。利根者一切三界愛說一愛結。中根者說二愛。如使中欲界愛立欲使。色無色界愛立有使。軟根者說三愛如所說三愛欲愛色愛無色愛。或曰。復次世尊教化。或欲略或欲廣或欲略廣。謂欲略者彼三界愛說一愛結。謂欲廣者彼說三愛。如所說三愛。欲愛色愛無色愛。謂欲廣略者彼說二愛。如使中欲界愛立欲使。色無色界愛立有使。或曰。復次世尊教化。或始行或少習行或已成行。謂始行者彼說三愛如所說三愛。欲愛色愛無色愛。謂少習行者彼說二愛。如使中欲界愛立欲使。色無色愛立有使。謂已成行者彼三界愛說一愛結。或曰。前已說苦繫義是結義。謂欲界愛此是繫相。繫苦中非是樂。謂色無色界愛彼一切繫相。繫苦中非是樂。是等共一相故。以是故世尊一切三界愛立愛結。問曰。悉結云何。答曰。於衆生起惡。問曰。如非衆生亦起惡。何以故說於衆生起惡。答曰。因衆生起惡於非衆生亦起惡。或曰。多故多因衆生起惡少非衆生。或曰。多增惡故。多增惡於衆生起惡。少增惡非衆生。問曰。慢結云何。答曰。七慢謂之慢結。七慢者慢增上慢慢增慢我慢欺慢不如慢邪慢此七慢謂之慢結。問曰。無明結云何。答曰。三界無知

也。問曰。見結云何。答曰。三見謂之見結。三見者。身見邊見邪見。是三見謂之見結。問曰。失願結云何。答曰。一盜謂之失願結。二盜者。見盜及戒盜。是二盜謂之失願結。問曰。何以故使中五見立一見使。結中。二見立見結。二見立失願結。答曰。佛世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法能獨擔彼獨立。謂不能獨擔彼立品。或曰。前已說苦繫是結義。謂身見彼名女繫苦中非是樂。謂邊見及邪見彼亦名女繫。苦中非是樂。是等共一名一性故。三立一見結。謂戒盜彼名界。繫苦中非是樂。謂見盜亦名界。繫苦中非是樂。是共一名一性故。是二見立一失願結。或曰。謂彼種等攝亦等。種等者謂見結十八種。失願結亦十八種。攝等者見結攝十八使。失願結亦攝十八使。謂彼種等攝亦等。以是故結中三見立見結。二見立失願結。問曰。疑結云何。答曰。於諦猶豫也。問曰。何以作是說於諦猶豫。答曰。不定者欲令定故。欲令定者若遠見生猶豫。是女耶非女耶。是男耶非男耶。見二道已生猶豫。是道耶非道耶。見二衣生猶豫。是我衣耶非我衣耶。莫作是念。是根本疑結。此是一切欲界不隱沒無記。耶行也。謂彼不定說欲令定。問曰。疑結云何。答曰。於諦猶豫是謂根本疑結。問曰。嫉結云何。答曰。心恚也。心恚者此結恚相也。問曰。慳結云何。答曰。心不欲捨也。心不欲捨者此結貪相也。問曰。何以作是說。答曰。不定者欲令定故。欲令定者。此世間嫉中慳想慳中嫉。想。嫉中慳

○五二一○ ○姪二淫○ ○於一○ ○軟二濡○ ○始二如○ ○二二三○ ○界二男○ ○耶一邪○ ○想二相○

想者謂見他好物而起嫉彼物於我好。彼物於我好。世間見已作是念。此人極慳。彼非慳是嫉也。慳中嫉想者。如守己妻子財寶。是物於此中莫出。是物於此中莫出。世間見已作是念。此人極嫉。此非嫉是慳也。謂彼不定嫉中慳。想慳中嫉想。說欲令定。問曰。嫉結云何。答曰。心悲也。心悲者此結悲相也。問曰。何答曰。心悲也。心不捨也。心不捨者此結貪相也。問曰。何以故十纏慳嫉立九結中。除不立答曰。佛世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂有結相立結中。謂無結相不立結中。或曰。現後現邊。彼十纏何謂後何謂邊。慳嫉也。以是故十纏中慳嫉立九結中。除不立也。或曰。謂卑結賤妾結穢結。弊結。若見他得恭敬供養。何故見已起嫉者。有百千無量錢財。於中不能持一錢。從今世至後世於中何故起慳。是謂卑結賤妾結穢結。弊結。故十纏慳嫉立九結中不立餘。或曰。謂因此慳嫉衆生生死中受無量輕易。世間二所輕易。一者貧窮。二者醜陋。嫉結修習多修習便醜陋。慳結修習多修習便貧窮。此二貧窮及醜陋。父母輕易兄弟姊妹亦輕易。至己妻子亦輕易。以是故十纏慳嫉立九結中不立餘。或曰。謂此慳嫉如守獄卒。如衆生繫在獄中。立二人守門不令入。如是此圍觀極嚴治已。立二人守門不令入。如是此衆生不出惡趣如獄囚者。由慳嫉故。不入天人如圍觀者。由慳嫉故。以是故十纏慳嫉立九結中。不立餘。或曰。謂因慳嫉天阿須羅數

數共鬪。如彼契經。釋提桓因至世尊所而問。大仙人。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹如是及餘各異身有幾結。世尊告曰。拘翼。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹。各異身有二結。慳及嫉。問曰。如此天及人或九結或六結或三結或無結。有九結者一切凡夫人。有六結者如凡夫欲愛盡。及聖人欲愛未盡。有三結者如聖人欲愛盡。無結者阿羅漢。天及人獨成就二結。慳及嫉。何以故。告拘翼。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹。如是及餘各異身有二結慳及嫉耶。答曰。謂慳嫉是豪貴結。彼釋提桓因於二天中增上豪貴主。彼爲此重擔慳嫉所纏。世尊爲彼譏刺義故說。拘翼。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹。如是及餘各異身有二結。慳及嫉。汝因慳嫉重擔所纏。或曰。以此慳嫉故。今天阿須羅數數共鬪。彼釋提桓因畏阿須羅。爲阿須羅所。離戰處不久。至世尊所而說義。世尊何因。何緣。天及阿須羅數數共鬪。世尊爲說義。拘翼。因慳嫉故。天及阿須羅數數共鬪。天上食妙。阿須羅有美女。彼諸天於食慳。不欲令阿須羅得。於女嫉令我得。阿須羅於女慳。不欲令天得。於食嫉令我得。彼天來下爲女故。阿須羅至天上爲食故。如是天及阿須羅數數共鬪。彼釋提桓因畏阿須羅所。離戰處不久。至世尊所而問。大仙人。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹。如是及餘各異身有幾結。世尊告曰。拘翼。天及人阿須羅毘舍和迦留羅羅刹。及餘各異身有二結慳及嫉。

以是故十纏慳嫉立九結中不立餘。廣說九結處盡。
 * 轉婆沙九十八使處第十五
 九十八使者。欲愛五悲五。色無色愛十慢十五無明十五見三十六疑十二。問曰。何以故作此論。答曰。如守本。文沙門。斷彼意故作此論。如名守本。文沙門者。是一切佛契經如本所說而執持。問曰。彼何以故作是念。答曰。彼作是說。更誰有力勝於佛者。謂佛契經說七使。彼當能作九十八使耶。謂彼欲爾者欲斷彼意故。此中九十八使說如實相。以是故作此論。佛契經說七使。彼分別界行種起九十八使。分別種者。謂七使。欲愛使中分別種。於九十八使中起五種。悲使亦爾。分別界種者。謂七使中有愛使者。使分別界種。於九十八使中起十使。若七使中慢使。亦分別界種。於九十八使中起十五種。無明使亦爾。謂七使中疑使。彼亦分別界種。於九十八使中起十二種。分別界行種者。謂七使中見使。分別界起十五欲界五見色無色界五見。分別行者。十八欲界六色無色界六。分別種者有四。如是五見分別界行種。於九十八使中起三十六使。是謂七使分別界分別行分別種。便起九十八使。廣說九十八使處盡。轉婆沙說不善品小章竟。
 轉婆沙論卷第三

◎第一卷◎ ◎者二若◎ ◎卒二本◎ ◎不十(中)◎ ◎無十天◎ ◎燒二燒◎ ◎何二和◎ ◎文二父◎ ◎欲愛使中二◎ ◎中欲愛使◎ ◎欲愛使◎ ◎竟二章◎ ◎論一◎

轉婆論卷第四

阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

解十門大章

二十二根。十八界十二入五陰。五盛陰六界。色法無色法。可見法不可見法。有對法無對法。有漏法無漏法。有為法無為法。過去法未來法現在法。善法不善法無記法。欲界繫法色界繫法無色界繫法。學法無學法非學非無學法。見斷法思惟斷法無斷法。四諦四禪四等四無色定。八解脫。八除入。十一切入。八智三三昧。三結。三不善根。三有漏四流四。扼四受四縛。五蓋五結五下分結五見。六身受七使九結。九十八使。

轉婆沙二十二根處第十六

二十二根者。眼根耳鼻舌身意根。男根女根命根樂根苦根。喜根憂根護根信根精進念定慧根。未知根已知根無知根。問曰。何以故。彼作經者依二十二根而作論。答曰。彼作經者意欲。亦如所欲。如是作經與法不相違。以是故依二十二根而作論。或曰。彼作經者無事。問曰。何以故。彼作經者無事。答曰。此是佛契經。佛契經說二十二根。彼作經者於佛契經中依本末處所已。此阿毘曇中作論。彼作經者不能二十二根中減一根。已立二十一。增一已立二十二。問曰。何以故。答曰。所謂一切佛契經。亦不增亦不減。不增者無增

可減。不減者無減可增。如不增不減。如是無量深無邊。無量深者無量義故。無邊者無邊味故。如大海無量深無邊。如是佛契經無量深無邊。無量深者無量義故。無邊者無邊味故。如尊者舍利弗。如是比百千那術。以佛契經二句作百千經。令智盡而住不能盡佛契經。或曰。得其邊。崖。如佛契經此論。是故作經者無事。問曰。置彼作經者。何以故。佛契經說二十二根。答曰。佛世尊為教化故說二十二根。彼受化者應須二十二根。或曰。契經有本末有因有緣。問曰。契經有何本末。答曰。說者有生聞梵志。彼中食後。佯遊行至世尊所。到已共世尊面相慰勞已。在一面坐。一面坐已。生聞梵志白世尊曰。瞿曇。我欲少有所問。聽我所問當為我說。世尊告曰。梵志。隨所欲問。梵志曰。瞿曇。根謂根。瞿曇。根有幾所。云何瞿曇。根根所攝。施設而施設。世尊告曰。汝梵志。有二十二根。從眼根至無知根。此梵志有爾所根。如是如來根根所施設而施設。梵志。若如是說此非根。如沙門瞿曇所施設。我捨此根更施設餘根者。彼但有言。數問已不知增益生癡。何以故。如非境界。如梵志問佛答。是故契經不必索本末此應索。彼梵志何以故問根不問界入陰諦沙門果道品緣起。有一說者。謂彼梵志疑而問。不疑不問。或曰。彼梵志善能求喜行。彼盡遊九十六種道。為施設根故。彼或有一為施設根如尼健。是故彼不截菜。亦不飲冷水。謂彼於外物計有命。想。問曰。彼尼捷於外物有何根。一

說者意根也。復有說者。命根也。如是說者意根及命根。更復有施設二根行及意。復有施設二根。若眼不見色耳不聞聲。彼是聖修諸根如彼波羅施。問曰。何以故名波羅施。答曰。是彼名波羅施。或曰。彼姓波羅施。是故名波羅施。如姓婆蹉拘蹉婆羅婆。竭提羅。如是彼姓波羅施。是故名波羅施。若母利利種父梵志種。此亦名波羅施。母梵志種父利利種。亦名波羅施。如從驢馬生名為驢。此梵志姓名波羅施。彼弟子名鬱多羅。中食後。佯行至世尊所。到已共世尊面相慰勞已。却坐一面。坐一面已。世尊告曰。鬱多羅。汝師波羅施為弟子說修根。鬱多羅白世尊曰。如是瞿曇。波羅施為弟子說修根。世尊告曰。鬱多羅。云何波羅施為弟子說修根。鬱多羅曰。唯瞿曇。眼不見色耳不聞聲。彼是聖修諸根。世尊告曰。如是鬱多羅。盲者為修根。鬱多羅。盲者眼不見色。彼時尊者阿難在世尊後。手執拂拂世尊。於是尊者阿難告鬱多羅曰。如是鬱多羅。瞿曇者為修根。鬱多羅。瞿曇者耳不聞聲。問曰。如尊者舍利弗。如是比百千那術。世尊能答彼能斷意。何以故。世尊答一。阿難答二。何以故。世尊不止阿難。答曰。世尊知阿難言在咽喉欲語。世尊三阿僧祇劫百千苦行已終不斷他辯。以是故本師讚曰。已弟子說法時。專心聽不斷論。以是故在眾說。於中間無能難。以是故不止。或曰。世尊作是念。若我說阿難比丘說亦爾。彼不增不減。如不增不減。以是

〔阿羅漢...撰〕八字二〔迦旃延子造〕五字一*〔阿羅漢...撰〕八字一* 〔轉婆沙〕一 明註曰喜南藏作五 亦二兩 二二三 崖二涯 佯二佯 想二相 期二度 而二面

故不止。或曰。斷彼異學意故。若世尊說一阿難不說二。彼異學還至己來已。當自稱譽。彼師伏我非弟子。我師往者彼不能伏。若世尊說一阿難說二。令彼異學勢力斷。彼作是念。我不與弟子何況師。是斷彼異學意故。世尊說一阿難說二。或曰。欲滿彼異學意願故。彼異學作是念。此沙門瞿曇不可伏不可勝。一切師最妙。謂本大師者彼亦不能伏。此況復如我比。我正可共弟子論。世尊常欲滿彼意所欲願。隨所應解而為說。是故欲滿彼異學意願故不止。或曰。義證故。阿難彼異學所宗敬。能說因提書。及容色妙故。世尊說。以此任問是法應汝所說不。以是義證故。世尊說一阿難說二。或曰。異學不欲令弟子有所說。恐還難問使我墮不如故。世尊無此事。如尊者舍利弗所有智。百千那術數不能及佛。況復餘者。以是故世尊不止阿難。或曰。現已無慳嫉妬故。異學不欲令弟子有所說。恐我所得供養弟子得故。世尊無此事。如世尊所得恭敬供養。盡令一切衆生得。佛不得者於此處亦不憂感。是謂現已無慳嫉妬故不止阿難。或曰。現善說法故。成就說法故。一見一慧一欲一忍故。彼異學法不善說。如破塔不可依。如是彼意盡壞志亦壞。師志異弟子志異。此法無彼答。如師志弟子亦爾。義同義句同句味同味乃至同第一義。是謂善說法故。成就說法故。一見一慧一欲一忍故。以是故。世尊說一阿難說二。故世尊不止阿難。問曰。世尊說彼異學有何答。彼說亦爾。盲及聾聖修

根。答曰。佛報彼梵志。極大答斷一切意。世尊說曰。若汝言聾盲聖修根者。為唐出家虛刺鬚髮空修梵行。應壞此二根。眼根及耳根。如是即聖修根。以是故。佛報梵志。極大答斷一切意。復有施設五根。香味眼皮耳根。香者鼻根。味者舌根。眼者眼根。皮者身根。耳即耳根。施設如毘施師也。復有施設十一根。五覺根五行根。五覺根者。眼耳鼻舌身根。五行根者。手足根。根大。便根。小便根。意根。為十一如僧味也。復有施設百二十根。問曰。云何異學施設百二十根。答曰。九十八使及二十二根也。如是說此不論。彼異學不能分別如此法。問曰。若不能分別者。云何彼異學施設百二十根。答曰。二眼二耳二鼻舌根身根。意根命根五痛根五信此地獄。二十畜生。二十餓鬼。二十天上。二十人間。二十阿須羅。欲令六趣彼亦二十。是彼異學施設百二十根。復有說者。彼異學非施設此百二十根。問曰。若不爾者復云何。答曰。彼異學施設百二十因陀羅。如所說。龍主迦留羅主阿須羅主。天主主人主梵天主。如此極上極妙身。一一應受百二十主。彼梵志聞已更生疑。不知何者第一義施設一根耶。至百二十根耶。彼聞釋種家生童男。三十二相莊嚴身。八十種好金色圓光。梵音聲如伽毘。凌伽鳥。視之無厭。彼生時行七步。二龍洗浴。梵志相記於二處。非餘。若在家者為轉輪王。如法法王。若除鬚髮被著袈裟信樂捨家學道。當成如來無所著等正覺。世間悉聞。彼已出家學道降魔。眷屬

已。成無上最正覺。得一切智及一切現斷一切疑。授一切定。決一切論。我當往問。何者第一義。施設一根至百二十根耶。彼便至世尊所。到已共世尊面相慰勞。慰勞已却坐一面。白世尊曰。唯瞿曇。我欲有所問。聽我所問。當為我說。世尊告曰。梵志。隨所欲問。梵志曰。瞿曇。根謂根。瞿曇。根有幾所。云何瞿曇。根根所攝施設而施設。此不說誰施設幾根。問曰。何以故不說。答曰。彼作是念。若我說者。彼聞已取彼勝者答我。世尊告曰。汝梵志有二十二根。從眼根至無知根。此梵志有爾所根。如是如來根根所攝施設而施設。梵志若如是說非此根。如沙門瞿曇所施設。我捨此根更施設餘根者。彼但有言數問已。不知增益生癡。何以故。如非境界。問曰。何以故說。此梵志有爾所根。如是如來根根所攝施設而施設。答曰。止彼本所聞。謂彼施設一根至百二十根。此非如彼所說。我是一切智一切見。猶不能增減二十二根。況復異學以見壞意成就凡智。以是故彼梵志問根。不問界入陰諦沙門果道品及緣起二十二根者。眼根至無知根。問曰。名有二十二根。種有幾阿毘曇者。說曰。師說也。名有二十二根。種有十七。阿毘曇者五根。不欲令是種男根女根未知根已知根無知根。問曰。男根女根何以不欲令是種。答曰。彼說如阿毘曇中所說。云何女根身根少分。云何男根身根少分。彼離身根不欲令男女根別有種。問曰。未知根已知根無知根。何以故。不欲令是種。答曰。彼說此九根合聚

①弟子十(等) ②住二往 ③眼十(根) ④天一大 ⑤一一二二 ⑥凌二陵 ⑦(魔)十眷屬 ⑧勞二安 ⑨(獻勞)一 ⑩女二如

未知根。九根合聚已知根。九根合聚無知根。合聚九根者。意根三痛根信五。此九根或時未知根。知時已知根。或時無知根。見道中未知根。思惟道中已知根。無學道中無知根。堅信堅法意中未知根。信解脫見到身證意中已知根。慧解脫俱解脫意中無知根。如此九根或未知根。或已知根或無知根。以是故。彼名有二十二根。種有十七。尊者曇摩多羅說名有二十二根。種有十四。彼尊者曇摩多羅。此五根不欲令是種。更有三命根護根定根。問曰。彼何以故。命根不欲令是種。答曰。此命根不相應行陰所攝。彼尊者曇摩多羅不相應行陰非是種。問曰。彼何以故。護根不欲令是種。答曰。彼尊者曇摩多羅說。有爾所痛。謂若樂若苦彼若不樂痛。亦不能苦亦不能樂。此云何痛。問曰。彼佛契經云何通。佛說三痛樂痛苦痛不苦不樂痛。答曰。彼說有樂痛苦痛。或軟或增上或鈍或利。謂彼樂痛苦痛軟樂痛苦痛鈍樂痛苦痛止。是彼不苦不樂痛。但彼離苦樂不欲更有痛。以故爾。問曰。彼何以故。定根不欲令是種。答曰。彼從契經起。佛契經說。定根云何。答曰。善意一心。彼曇摩多羅離心更無別定種。以是故。彼名二十二根。種有十四。尊者佛陀提婆說。名有二十二根。種或二或五。謂彼盡是有為法二分四大及心。彼說色根者是四大差降。無色根者是心差降。以是故。彼名有二十二根。種或二或五。如是說者名有二十二根。種有十七。如名如種如是名數種數名相種相名

異種異名別種別名覺種覺。如是盡當知。尊者瞿沙說曰。應說一根。是第一義意根也。問曰。何以故。答曰。謂此是內是普是共緣。內者內入所攝。普者從阿鼻地獄至第一有可得。共緣者一切法緣。謂餘根離此聚中。眼耳鼻舌身根男女根。雖是內。非是普非是共緣。五根中除護根。餘四痛雖共緣。非是內。非是普。護根及信五雖普及共緣。非是內。未知根已知根無知根無別種。彼前已說。謂根合聚。問曰。餘根何因得根名。答曰。依故猗故染著故淨故已淨故。依者眼根耳鼻舌身根也。猗者命根也。染著者五痛也。淨者信五也。已淨者未知根已知根無知根也。問曰。若爾者男根女根何因得根名。答曰。此欲界中姪稷姪種此姪稷姪種因男根女根也。或曰。因五事故。一者生。二者生欲樂。三者能止結。四者依起染汚身識。五者定行姪人。生者胎生也。生欲樂者。彼姪人於此處起欲樂已遍身中生樂。如聖人從眉間起聖樂已遍身中生樂。如是彼姪者此處起欲樂已遍身中生樂。能止結者。須臾止也。依染汚身識者。依餘三種生識善不善無記。依男根女根已必生不善身識非是善。非是無記。定行姪人者。習姪心非不習姪心。是五事故。一。生。二。生欲樂。三。能止結。四。依起染汚身識。五。定行姪人。以是故。男根女根得名。更有說者。此中命根六。當說第一義根。命根六者。眼耳鼻舌身命根。問曰。何以故。答曰。謂此根本衆生種。問曰。若此根本衆生種彼餘根何因得名。答曰。因

種因染著因淨因已淨。因種者意根也。因染著者五痛也。因淨者信五也。因已淨者三無漏根也。以是故餘根得名。問曰。男根女根何因得根名。答曰。謂此中轉生人。亦生出要人。轉生人者。如六師也。生出要人者。佛辟支佛聲聞也。以是故男根女根得名。或曰。命根八當說第一義根。命根八者。眼耳鼻舌身男女命根也。問曰。何以故。答曰。謂此根本衆生種。問曰。若此根本衆生種。彼餘根何因得名。答曰。因種因染著因淨因已淨得根名。因種者意根也。因染著者五痛也。因淨者信五也。因已淨者三無漏根也。以是故餘根得名。此是根根性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故名根。根有何義。答曰。增上義是根義。明義是根義。收義是根義。宗義是根義。最義是根義。勝義是根義。妙義是根義。生義是根義。問曰。若增上是根義者。一切有為法各相增。無為法亦有為法增。何以故。立二十二根。答曰。此增上緣或增上或軟或妙或下。謂彼增上緣增上及妙。當知二十二根。謂增上緣軟及下。當知餘法。或曰。雖一切有為法各相增及無為法有為法增。但餘無有增上緣如是增如是明如是收如是宗如是勝如是勝如是勝如是妙。如二十二根。如人各各相增。但餘無有增上緣。如村中主國中王四天下轉輪王。大千國梵王。三千大千世界佛世尊。如是雖一切有為法各相增及無為法有為法增。但餘無有增上如是增如是明如是收如是宗如是勝如是勝如是妙。如二十二根。是故說

①知二或②軟二滿③樂二彼④十七二十七⑤界二男⑥

增上義明義收義宗義最義勝義妙義生義是
 根義。問曰。若增上義是根義。此根義何所為
 增上緣。答曰。眼根四事為增上緣。一者己身
 端嚴。二者持己身。三者依生識。四者不共事。
 己身端嚴者。極令身妙具足一切。支節。若眼
 根不具。彼非端正多所。增惡。若眼具已。顏
 貌端正來不。增惡。是謂己身端嚴也。持己身
 者。眼見好惡除惡從好。令身久住。是謂持己
 身也。依生識者。依此眼生眼識。是謂依生識
 也。不共事者。眼根見色。此事餘根無也。耳根
 亦四事為增上緣。一者己身端嚴。二者持己
 身。三者依生識。四者不共事。己身端嚴者。極
 令身妙具足一切。支節。若耳根不具。彼非端
 正多所。增惡。若耳根具。足顏貌端正來不
 *增惡。是謂己身端嚴也。持己身者。耳聞好
 惡除惡從好。令身久住。是謂持己身也。依生
 識者。依此耳生耳識。是謂依生識也。不共事
 者。耳根聞聲。此事餘根無也。更有說者。眼根
 持生死身為增上緣。如所說偈

眼見諸惡 如實當求 慧以存世

除去諸惡

耳根持法身為增上緣。如所說偈

聞法能知 聞惡不作 聞除非義

聞得至滅

更有說者。眼根耳根俱持生死身及法身為
 增上緣。持生死身如前所說。持法身者。眼根
 近善知識誦習耳根聞法。近善知識及聞法
 已。思惟念向法次法。以是故彼契經說。彼
 時梵摩梵志二根不壞。眼根及耳根。問曰。何

以故。一切根中說二根不壞。眼根及耳根。答
 曰。謂二根入佛法中是門是度是道。以是故。
 一切根中說二根不壞。眼及耳根。鼻根舌根
 身根亦四事為增上緣。一者己身端嚴。二者
 持己身。三者依生識。四者不共事。己身端嚴
 者。極令身妙具足一切。支節。若三根不具者
 非端正多所。增惡。三根具者。顏貌端正來不
 *增惡。是謂己身端嚴也。持己身者。依此三
 根通。搗食。謂搗食即三入香味細滑是。是
 謂持己身也。依生識者。依此三根生三識。是
 謂依生識也。不共事者。謂鼻嗅香舌知味身
 知細滑。此事餘根無也。意根二事為增上緣。
 一者次生當來有。二者自在。次生當來有者。如
 所說。阿難。若識不入母胎。寧名色膜漸厚不。
 阿難曰。不也世尊。是謂次生當來有也。自在
 者。如所說。比丘。心牽世間心煩惱心生自在。
 更有說者。意根復有二事增上緣。一者染著。
 二者清淨。染著者。如所說。心染著衆生染著。
 清淨者。如所說。心清淨衆生清淨。是謂意根
 二事為增上緣。女根男根亦二事為增上緣。一
 者施設根。二者斷根。施設根者。本有一士夫。
 亦不知男亦不知女。若少生造色。因少造色
 故。女形異處所異持衣異所說異飲食異去來
 異男形亦異。更有說者。此男根女根復有二事
 為增上緣。一者染著。二者清淨。染著者非淫
 故說增上。此中無疑。問曰。若非姪者。此云
 何。答曰。若有具此二根。彼受非威儀。能起五
 逆斷善根。滅一切善種子。破壞一切善根。此
 不成男性不成男。無形二形不能作爾所惡。

清淨者。若具此二根。彼受具足威儀。能起
 定威儀。無漏威儀。除欲界結色界結。得須陀
 洹果斯陀。含果阿那。含果阿羅漢。果辟支佛
 果佛果。此不成男性不成男。無形二形不能
 發爾所功德。是謂男根女根二事為增上緣。
 命根二事為增上緣。一者施設根。二者斷根。
 施設根者。至命存說有根死已有何根。更有
 說者。命根四事為增上緣。種類續種類持種
 類行種類不斷。是謂命根四事為增上緣。五
 痛根一向染著。為增上緣。因五痛令衆生趣
 東西南北。過棧道過刺道。過荻藜道。過山嶮
 道。過羅刹瀆入大海。洄洑濤波失搔摩羅山。
 同水色黑風暴起度惡龍處。所求財物盡為
 五痛故。更有說者。樂根喜根亦有二事為增
 上緣。一者染著。二者清淨。染著者。如所說。
 樂痛愛使所使。清淨者。如所說。樂已心定。苦
 根憂根亦二事為增上緣。一者染著。二者清
 淨。染著者。如所說。苦痛恚使所使。清淨者。
 如所說。因苦習。信護根亦二事為增上緣。一
 者染著。二者清淨。染著者。如所說。不苦不樂
 痛癢使所使。清淨者。如所說。謂依六出要謹
 彼習彼依彼立已。謂此依六欲護便棄捨。如
 是彼得斷。如是五痛根二事為增上緣。信五
 根一向清淨為增上緣。如所說偈

信能度流 不放逸海 諦捨除苦

以慧清淨

如所說。舍利弗信。邪成就。若比丘比丘尼
 除去不善修行於善。復如所說。阿難精進能
 轉成道。如所說。舍利弗聖弟子成就精進力。

①文二肢②* ③增一增④* ⑤眼十(根)⑥* ⑦亦十(爾)⑧ ⑨足二已⑩ ⑪攝一攝⑫* ⑬含二合⑭* ⑮二二一⑯ ⑰邪二 耶⑱

除去不善修行於善。如所說。我說一切中念如所說。舍利弗聖弟子成就於念如守門人。除去不善修行於善。如所說偈。

定者是道 非定非道 定已自知
五陰與衰

如所說。舍利弗聖弟子成就三三昧。須除去不善修行於善。如所說偈。

慧為世間妙 能起有所至
能用等正智 生老病死盡

如所說。慧過一切法上。如所說。諸妹聖弟子以慧刀斷一切結縛使。惱纏重斷。打重打割。剝未知根。未見處當見處為增上緣。已知根已見處。當除諸惡為增上緣。無知根已除諸惡現法受樂為增上緣。是謂事於中此二十二根為增上緣。共行說已當說別行。云何眼根。答曰。謂眼色已見當見今見。及此餘所有已見者過去。當見者未來。今見者現在。及此餘所有者。謂彼眼識或空或非空。如眼根如是耳鼻舌身根亦爾。問曰。意根云何。答曰。謂意法已識當識今識。及此餘所有。已識者過去。當識者未來。今識者現在。及此餘所有者。謂彼意識相應。問曰。女根云何。答曰。身根少分。男根云何。身根少分。問曰。如身極微從足至頂滿。何以故。於身根少處說女根男根。尊者婆須蜜說曰。此二根令衆生得名是男是女。問曰。二形二形得名。欲令彼二形得名耶。尊者曇摩多羅說曰。諸尊此二根中生佛辟支佛聲聞仙人文尼善樂善御。問曰。云何命根。答曰。三界壽也。問曰。何以故。

不相應行陰中命根立。根種類不立。答曰。命根報果。一切報因行故。此種類不定。或報果或依果。以是故。命根立根中。種類不立。問曰。云何樂根。答曰。樂痛觸更樂。謂身心中生善樂能覺是痛。是謂樂根。問曰。苦根云何。答曰。苦更樂觸。若生身不善苦覺是痛。是謂苦根。問曰。喜根云何。答曰。喜更樂觸。若心中生善樂覺是痛。是謂喜根。問曰。憂根云何。答曰。憂更樂觸。若心中生不善苦覺是痛。是謂憂根。問曰。護根云何。答曰。不苦不樂更樂觸。若心中生非善非不善覺是痛。是謂護根。問曰。信根云何。答曰。行無欲時為善法故。若信能信重信兢重。已解當解今解屈伏意心淨。是謂信根。問曰。精進根云何。答曰。行無欲時為善法故。若精進方便力精勤已能當能今能心正持。是謂精進根。問曰。念根云何。答曰。行無欲時為善法故。若念次念數念。已憶當憶今憶。不忘心正憶。是謂念根。問曰。定根云何。答曰。行無欲時為善法故。若心住等住上住無亂不散攝正定。是謂定根。問曰。慧根云何。答曰。行無欲時為善法故。若擇選擇法擇視等視上視了等了上了山地眼覺慧行觀。是謂慧根。問曰。云何未知根。答曰。若人未見未觀。謂學慧慧根及諸根堅信堅法未觀四諦能觀。若人未見者。謂彼不見。謂未觀者。謂彼未觀。謂學慧慧根者。即是慧根也。及諸根堅信堅法未觀四諦能觀者。謂八根也。此九根合聚。謂未知根也。問曰。何以故。慧說二名餘道品一。答曰。妙說妙

義故。一切彼品中何者最妙慧是。如所說。王及眷屬行。或曰。謂慧能三觀。一者事觀二者見觀三者緣觀。謂彼相應法雖有二觀。事觀緣觀但非見觀。性慧。非慧故。謂彼共有法雖有一觀。是事觀但非見觀。性非慧故。亦非緣觀。非緣法故。此慧能三觀以故爾。或曰。謂慧見結不得久住。如地隱虫見物還入。如是慧見結不得久住。或曰。謂慧照意結賊不燒。如室有燈賊不敢燒。如是慧照意結賊不燒。或曰。謂無智則縛。智則解脫。或曰。於佛法中謂智快樂。能覺則妙。如盲入珍寶渚。如是有智入佛法中。如是有目入珍寶渚。如是有智入佛法中。是說於佛法中有智快樂能覺則妙。或曰。謂慧能觀餘道品。如彼盲聚一有目者而為將導。如是餘道品盲慧者。能觀而為將導入寶真諦。或曰。謂彼如人說眼首覺覺種種道種。或曰。謂慧能照一切法。此外事。如日月星宿摩尼藥瓔珞宮殿。能照一界一入一陰一世少所入一界者色界。一入者色入。一陰者色陰。一世者現在。此慧能照十八界十二入五陰三世。或曰。謂慧能斷諸法自相及共相。立法自相及共相。壞種癡及壞緣癡。於法中不顛倒行。或曰。謂彼說如講堂。如所說諸賢。我依戒立戒。昇戒已登無上慧講堂。少方便而觀千世界。或曰。謂斷結時說如利刀。如所說。諸妹聖弟弟子。以慧刀斷結縛使煩惱纏重斷。打重打割剝。或曰。謂彼說如珍寶。如所說。舍利弗聖弟子成就慧珍寶。除不善修行於善。或曰。佛世尊愛樂慧。佛世尊非

◎(二十二根處第十六之餘)十如所說◎ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

有三明阿羅漢。問曰。若爾者於彼經通。此經中何以不說。答曰。應說。若不說者。世尊有餘言。或曰。彼已說在此中。若有此三明明阿羅漢。或性慧解脫或俱解脫。已說慧解脫。當知已說性慧解脫三明明阿羅漢也。已說俱解脫。當知已說性俱解脫三明明阿羅漢。說者更有二師。尊者視遠羅。尊者瞿沙披摩。尊者視遠羅者稱說慧妙。尊者瞿沙披摩者稱說滅盡定妙。尊者視遠羅說慧勝。非滅盡定。慧者等緣。滅盡定者無等緣。尊者瞿沙披摩說。滅盡定勝非慧。慧者凡人亦有。滅盡定者非凡人。若稱說。慧者非滅盡定。彼說若有三明無八解脫者。是說三明明阿羅漢。謂三明明有八解脫。彼亦說三明明。何以故。謂彼慧勝非滅盡定。一明二明者慧解脫。若稱說。滅盡定者非慧。彼說若有八解脫無三明明。是說俱解脫。若有八解脫及三明明。此亦說俱解脫。何以故。謂彼滅盡定勝非慧。一明二明者慧解脫。說者彼此但虛論。不益經不益義。如是好。如前所說。此三明明阿羅漢。或得滅盡定。或不得。若得滅盡定。彼說俱解脫。不得者說慧解脫。復次未知根已知根無知根。更別說行未知根云何。答曰。未知當知未觀當觀未斷當斷。是故說未知根。問曰。若未知當知未觀當觀未斷當斷。是說未知根者。彼苦法忍生已。觀欲界五陰。於上生苦法智。欲界五陰已觀重觀。如此已觀當觀。何以故說未知根不說已知根。答曰。苦法忍生欲界始觀五陰。未已觀於彼上苦法智生已觀欲界五陰。或曰。苦法忍

生欲界五陰。雖觀欲界五陰。但未知彼上苦法智生。知欲界五陰因智。故名爲觀非是忍。或曰。於彼上當生道未會所觀意陰覆墮下。以是故說未。知根非已知根。問曰。已知根云何。答曰。已知當知已觀當觀未斷當斷。是故說已知根。問曰。若已知當知已觀當觀未斷當斷。是說已知根者。道未知忍生。除共有相應法。餘一切法智及觀。於彼上生道未知智。彼共有相應法智及觀。如此中未知當知未觀當觀。何以說已知根。不說未知根。答曰。外者十六心見道。彼初道未知智時。於見諦道中彼共有相應品智及觀。是故彼已知而知非未知。已觀而觀非未觀。問曰。此中依外不問不答若十五意見道此說云何。尊者僧伽婆修說曰。當道未知忍現在前時。修當來無量道未知忍。若彼當來修無量道未知忍。是彼觀共有相應法。說曰。此不論問曰。何以故此不論。答曰。非是當來道能觀。問曰。若不爾者。此云何。答曰。多故多已觀當觀少未觀當觀。如地無量無邊。知。是已觀當觀。如地一丸。如是未觀當觀。如空無量無邊如是已觀當觀。如空一蚊蚋處。如是未觀當觀。如海無量無邊。如是已觀當觀。如海一滂。如是未觀當觀。如須彌山王無量無邊。如是已觀當觀。如須彌山芥子數。如是未觀當觀。是謂多故。或曰。於彼上當生道。已會所觀。已會所觀意陰覆墮下。以是故說已知根非未知根。問曰。無知根云何。答曰。已知當知已觀當觀無有未斷可斷。是謂無知根。問曰。若已知當知已

觀當觀無有未斷可斷者。佛辟支佛聲聞。亦已知當知已觀當觀無有未斷可斷。何以故。三等一說。佛不說餘。答曰。謂始覺一切法不破正智。或曰。謂始得盡智。除二。種障結障及解脫障。或曰。謂意中除一種無知闇癡染著。及不染著等及第一義。或曰。謂意中除二種。疑惑猶豫處及結處。或曰。謂多聞無厭。或曰。謂得盡甚深緣起底。非如一切聲聞辟支佛。作譬喻三獸渡河。兔馬香象。兔者浮而渡河。馬者少多觸沙而渡。香象者盡底踏沙而渡。如是三乘渡緣起河。佛辟支佛聲聞。如兔浮渡河。如是當觀聲聞緣起智。如馬少多觸沙而渡。如是當觀辟支佛緣起智。如香象盡底踏沙而渡。如是當觀佛世尊緣起智。是故說謂得盡甚深緣起底。非如一切聲聞辟支佛。或曰。謂四聖諦的智箭極深入。如非一切聲聞辟支佛。作譬喻如一的三人共射。一者摩訶能伽。二者鉢鞞提。三者那羅延。摩訶能伽者雖著的不能入。何況能過鉢鞞提者雖著的能入不能令過。那羅延者射破的徹過入地。彼的亦不現。堅軟隨彼力軟中上。射破的亦有軟中上。如是三乘射四聖諦的。佛辟支佛聲聞。如摩訶能伽雖著的不能入。況當能過。如是當觀聲聞四聖諦智。如鉢鞞提雖著的能入不能令過。如是當觀辟支佛四聖諦智。如那羅延射破的徹過入地。如是當觀佛四聖諦智。此四聖諦的亦不現。堅軟隨彼智力有軟中上。四聖諦的便有軟中上。是故說謂。四聖諦的智箭極深入如非一切

●是二見● ●滿二滿● ●種二陰● ●著一者● ●少二多●

聲聞辟支佛。或曰。謂知自覺盡及具。辟支佛者。雖自覺及具非是盡。聲聞者不能自覺。何況具盡。是說謂知自覺具及盡。或曰。謂緣自覺及盡行。辟支佛者雖有自覺不能盡行。聲聞不能自覺。何況盡行。或曰。謂說無二種辯才不盡所說無異。或曰。成就身及身所依明行成。轉輪聖王雖身成就無身所依。聲聞辟支佛雖成就身。所依非是身。佛亦成就身。及身所依明行成。或曰。謂三成就色。揆妙語。復三成就警果教授。或曰。三不護及三不共。意止。或曰。謂四不護及四不諫。或曰。謂成就四智。因智時智想智他說智。復有四智。無滯智無住智無錯智無礙智。或曰。謂覺種種因覺種種果覺種種治覺種種意。或曰。一無二獨福力降魔。如非一切聲聞辟支佛。說者謂菩薩食難陀難陀波羅乳糜已。作如人意。坐道樹下。要不破結。加坐至盡有漏。彼時魔波旬宮殿六反震動。彼作是念。不知是誰力。彼見菩薩坐道樹下。作如人意。要不破結。加跌坐至盡有漏。彼時魔波旬雨華。而至菩薩所。到已善言語菩薩悉達阿鞞。是濁世時來生意剛強。如此時難可得成無上正真道。且起我當給汝七寶及以千子。領四天下為轉輪聖王。菩薩說曰。波旬。汝。唐疲勞。速令此地及泉源池水莊嚴村城舍宅人民飛在空中。空及日月星辰速令墮地。要不與汝起至盡有漏。魔波旬說曰。我以愛善之言用告汝。汝不起者當見極惡。作是語已。還至天上告六欲天。諸賢。當持鉞戟刀鉤金椎鉞斧。縹索長

鉤。我有怨家今在道樹下坐。彼時菩薩魔波旬還去不久便作是念。常凡人。共誣由當防護不應默住。何況欲界豪貴菩薩。去欲結迹先已。備習彼速除欲。已。發於神足種種變化。謂作鼠形者化作貓。謂作貓形化作狗。謂作狗形化作豹。謂作豹形化作虎。謂作虎形化作獅子。謂戴火化作雨。謂雨化作蓋。菩薩自化作琉璃臺。在中結。加跌坐。謂障形不障眼。變化已菩薩作是念。我種種變化若我他行法時有所燒亂者。魔波旬必能燒亂我。若我他行法時不作燒亂者。魔波旬終不能燒亂我。菩薩因此事念宿命。神通作證發已。觀百衆生千衆生行法時極供給所。當菩薩作是念。如我種種變化。如本行善因。令如此魔百千億來者。彼終不能燒亂我。何況一魔。菩薩作是念住。於是魔波旬及十八億魔作醜陋面牙齒。恐怖聲極惡音聲。執持種種鉞戟。滿三十六由延往詣道樹所。到已語菩薩曰。悉達阿鞞。汝見此惡衆不。速起莫於此中受無量苦。菩薩說曰。波旬。汝語如小兒。汝昔一齋之施。謂因果力今得如是自在。魔說曰。我一齋之施。汝施幾齋。菩薩說曰。我施無量百千時。魔說曰。我齋之施得汝為證。誰為汝證。彼時菩薩滿百千福相好莊嚴紫磨金色。以合曼掌按地。地即大動。此以為證。彼時此地如七寶器聲。彼魔衆聞已。恐怖散壞。顛面奔走。放惡音聲復道而還。菩薩所生眼。魔衆過一由延不復見。菩薩因此天眼神通作證發已。但見而耳不聞。菩薩因此天耳神通作

證發已。能聞不知以何意來。菩薩因此知他心神通作證發已。觀釋釋衆妙意來。魔魔衆惡意來。菩薩作是念。魔波旬何因來此觀守境界故來。以何故守境界。便作是念。以結故。菩薩因此斷一切結已。三十四心頃成無上正真等正覺道。三十四心頃者。見道十五心道未知智第十六。謂道已知智。此菩薩有想無想處除欲時。是方便道。有想無想處斷九品結。九無礙道九解脫道。是謂三十四心頃。謂一切三耶三佛。依此以降魔及官屬成最正覺。是說謂一無二獨。以福力降魔及官屬已。成無上正真道已。如非一切聲聞辟支佛。或曰。謂已智智滿及覺道行及行緣及緣根及根義。或曰。謂有十力四無所畏十八不共法。或曰。謂離世八法。不可得功德邊救諸危厄而為作歸。或曰。謂大悲久遠來微入普入一切衆生等轉行。久遠來者。三阿僧祇具修行遠來也。微入者。覺三苦微入也。一者苦者變易者。普來者。三界緣普入也。一切衆生等轉行者。怨親中間等意故。一切衆生等轉行也。是故說謂。大悲久遠來微入普入一切衆生等轉行。以是故等三說一佛。非聲聞辟支佛。問曰。何以故色陰中。眼耳鼻舌身根立根。外色聲香味細滑不立根。答曰。謂內彼立根。外者不立根。謂現在時衆生數彼立根。不定者不立根。謂受彼立根。不受者不立根。謂斷時痛痒重擔彼立根。不定者不立根。謂根彼立根。謂根義不立根。以故爾。問曰。何以故痛陰中。樂痛立二根。樂根及喜根苦痛亦立二

按一放一 加二加 加一 而二 唐二 謂二 共二 備二 發二 法 此二 無量百十 長二 放二 已二 行二

根。苦根及憂根。何以故不苦不樂立一根。護根。答曰。應說若不說者。世尊有餘言。現義現義門現義略現義。當知義。或曰。現二門二略二度二炬二明二光現二。處。如樂痛苦痛立二根。不苦不樂亦應立二根。此有差。降謂於彼可得起二根。如不苦不樂立一根。如是樂痛苦亦應立一根。有此等行。謂彼起一根。是說現二門二略二度二炬二明二光現二數。或曰。離相違故。樂痛苦痛相違。苦痛亦樂痛相違。彼不苦不樂痛更無餘痛相違。是離相違故。以故爾。或曰。轉行餘故。此樂痛苦樂根。轉行異喜根。痛苦亦異苦根。轉行異憂根。彼不苦不樂痛一切轉行。餘以故爾。或曰。樂痛或利或不。或狂或不狂。或住或不住。或定或不定。謂彼不利狂狂不住定彼立一根。是樂根利狂不住定彼立喜根。苦痛亦爾。彼不苦不樂痛一切不利不狂不住定。以是故樂痛立二根。樂根及喜根。苦痛亦立二根。苦根及憂根。不苦不樂立一根。護根。問曰。何以故不立根。答曰。多有法不立根中。何以獨問。問曰。色陰或立根或不立根。如是行陰或立根或不立根。痛陰及識陰盡立根。此想何以故盡不立根耶。答曰。謂無根相。無根相故不立根。或曰。根自力轉行此想。因他力轉行。如弟子及庸人隨彼教勸。教取即取。教捨即捨。如是想。若痛所覺彼想即想。若思所思彼想即想。若識所識彼想即想。尊者婆須蜜說曰。何以故想不立根者。增上義是根義。想非增上。問曰。如一切有

為法各各相增。無為法有為法增。何以故想非增上。答曰。謂諸法能增結彼立根。非想能壞結。問曰。想亦能壞結。世尊所說無常想。修習多修習。壞一切欲愛及色愛無色愛。壞一切無明及慢。何以故說想不能壞結。尊者曇摩多羅說曰。諸尊想者因他受想。彼從他起。如受所依。如彼餘心數法作緣。已然後受想。是故說諸尊想者因他受想。彼從他起。如所受依。以是故想不立根。問曰。結何以故不立根。答曰。增上義是根義。結非增上。痛於結增上故。問曰。結增上於解脫中退沒。在生死遠離於善。何以故說結非增上。答曰。不如是增上。如於解脫中退沒在生死遠離於善。此是說。下賤弊惡非增上。問曰。此痛因結增上。何以故痛立根結不立。答曰。雖痛因結起。因結得增上。但結是下賤。如城中豪貴主立守門人。彼守門者雖極增惡。但非此增上緣。如是增上主。如是痛雖因結起。因結得增上。但結下賤。以是故痛立根結不立。問曰。何以故。痛善染污不隱沒無記一切立根。慧者謂善彼立根。染污不隱沒無記不立根。答曰。痛者結所宗。是故善染污不隱沒無記盡立根。慧者善法所宗。謂善彼屬善法。謂染污彼斷善法。謂不隱沒無記不可用。以是故痛善染污隱沒無記盡立根。慧者謂善彼立根。染污不隱沒無記不立根。問曰。若妙義是根義者。涅槃於一切法最妙。何以故不立根。答曰。彼涅槃壞根非根。非根如車壞非車。瓶壞非瓶。財物壞非財物。如是涅槃壞根非根。或曰。

根者墮生老無常。涅槃者不墮生老無常。或曰。根者有因得有為相。涅槃者無因得無為相。或曰。根者轉世作行受果能知緣。涅槃者非轉世不作行不受果不知緣。或曰。根者前後可得。涅槃者無前後。或曰。根者軟中上可得。涅槃者離軟中上。或曰。根者墮世。涅槃者離世。或曰。根者是陰。涅槃者離陰。或曰。根者縛苦。涅槃者離苦。或曰。有為法者因行故。說妙義根義。但涅槃一切有為法中妙廣說。二十二根。處盡

神婆沙論卷第四

神婆沙論卷第五

*阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

十八界處第十七

十八界者。眼界色界眼識界。耳界聲界耳識界。鼻界香界鼻識界。舌界味界舌識界。身界細滑界身識界。意界法界意識界。說曰。此界亦是略說。亦是廣說。略說者因大經故。如大本起大般泥洹。廣說者因入故。入者亦是略說亦是廣說。略說者界故。廣說者陰故。陰者亦是略說亦是廣說。略說者入故。廣說者如所說諸有為求。是苦因彼故。更有說者。界者亦是略說亦是廣說。即此界故。此界中說色心廣心數法略。入亦是略說亦是廣說。即此入故。入中說色廣心數法略。陰亦是略

①處二數②③ [降] ④⑤ ⑥痛書二苦痛⑦ ⑧庸一備⑨ ⑩增一壞⑪ ⑫下二上⑬ ⑭ [沒] ⑮ ⑯ [非根] ⑰ ⑱ 處二竟⑲ ⑳ 略二細㉑

說亦是廣說。即此陰故。陰中說心數法廣色心略。更有說者。界者一向說廣。問曰。何以故。界一向說廣。答曰。攝一切法故。大本起大般泥洹雖說廣。但彼非攝一切法。入中雖攝一切法。但不說廣。陰中不攝一切法。陰者雖攝有為法。但不攝無為。亦不說廣。此界一向說廣及攝一切法。此是佛世尊略說廣說。非爾所廣說。如入本起大般泥洹。亦非爾所略說。如二施法施財施問曰。若不爾者。此云何。答曰。若法前說廣後說略。謂十八界法此攝受。立十二入中。謂十二入法此攝受。立五陰中。除無為法。謂五陰法此攝受。說諸有為求。是苦。諸有為求者。是謂世尊一向略說。此是佛略說廣說。世尊因此告舍利弗。舍利弗。我能為諸弟子法略說廣說。但知者難。因此略說廣說故。尊者舍利弗曰。唯世尊。但當略說及廣說。能有知法者。因此略說廣說故。作譬喻。如海中大龍海中長養身已。昇在虛空雲覆虛空。放電光震大音聲。我當降雨。彼時百穀藥木樹神恐怖作是念。海龍大身。若雨者當有所壞。彼時此地亦不。畏懼堪受龍雨。百歲千歲我能盡受如海大龍。如是世尊從幢英佛定光惟衛式棄隨葉拘留索拘耶舍牟尼迦葉三耶三佛。長養法身。以大悲乘虛空。以大慈雲覆陰世間。放智電光震大法音。舍利弗。我能為諸弟子法略說廣說。但知者難。如百穀藥木樹神恐怖。如是一切聲聞恐怖作是念。世尊能異名異句異味異法異義。若說法者。恐不能知。如地不畏懼堪受龍

雨。如是尊者舍利弗六十劫中長養智見。堪受世尊略說廣說。能有知法者。因此略說廣說故。問曰。如有法如舍利弗百千那術數。非其境界所知。何以故。舍利弗堪受世尊。答曰。堪受聲聞境界非佛境界。堪受聲聞智非佛智。堪受聲聞行非佛行。或曰。堪受依佛。尊者舍利弗作是念。此世尊等說饒益不空說法。一向滿具隨器說法。以是故尊者舍利弗堪受世尊。十八界者。眼界乃至意界。問曰。名十八界種有幾。答曰。名十八界種或十七或十二。若取六識者。失意界。如是名十八種十七。若取意識界失六識。如是名十八種十二。是名十八界種或十七或十二。如名如種。如是名數種數名相種相名異種異名別種別名覺種覺盡當知。問曰。若十八界種或十七或十二。云何名立十八界。答曰。以三事故身依緣。謂十八界六身六依六緣。六身者六內界。眼界耳鼻舌身意識界。六緣者六外界。色界聲香味細滑法界。是三事故身依緣。是立十八界。如佛契經所說。六十二界彼盡入中。此三事故身依緣。問曰。何以故。世尊說六十二界。答曰。斷異學意故。此身見六十二見根。斷身見故。佛契經說六十二界。如彼佛契經所說。拘翼。此世種種界無量界。彼謂知界。於彼。彼界強力盜一向入說。此佛契經以見名說界。此盡入十八界中。以三事故身依緣。佛所說契經以大樹作喻說。諸比丘。如大樹葉。界亦爾數。此佛契經以見名說界。此亦盡入十八界中。

以此三事故身依緣。是謂名立十八界。此是界性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說界。界有何義。答曰。性義是界義。段義分義微義異相義不相似義斷義。種種事是界事。舍提說曰。趣趣者是界。持長養是界。性義是界義者。身一意有十八性。如一山中多有性。鐵性銅性白鐵性鉛錫性金性銀性琉璃性水精性。如是一身一意有十八性。是性義是界義。段義是界義者。次第布肉便數有男有女。如竹篾次第織便數名蓋是扇。如木片便數為車宮舍講堂臺觀。如是次第布肉段便數為男女。是段義是界義。分義是界義者。女十八分男十八分。是分義是界義。微義是界義者。女十八微男十八微。是微義是界義。異相義是界義者。眼相異至意相異。是異相義是界義。不相似義是界義者。眼界不相似至意界不相似。是不相似義是界義。斷義是界義者。眼界斷三界。至意界斷三界。是斷義是界義。種種事是界事者。謂眼界事非至意界事。謂意界事非至眼界事。是種種事是界事。舍提說曰。趣趣者是界。持長養是界。趣趣是界者。趣諸界諸趣諸生趣輪轉生死。持者己性。長養者他性。是謂性義是界義。段義分義微義異相義不相似義斷義種種事是界義。舍提說曰。趣是界持長養是界。如是共行說已。當說別行。云何眼界。答曰。謂眼見色。已見當見今見。及此餘所有。已見者是過去。當見者未來。今見者現在。此及餘所有者。謂彼眼識或空或非空。更有說者。謂我眼見

①長二謂②〔彼〕一③〔義〕一④界二男⑤二事⑥

色是我所有。餘一切衆生餘所有。謂我眼不見色是我餘所有。餘一切衆生亦餘所有。更有說者。謂我眼見色是我所有。餘一切衆生亦所有。謂我眼不見色是我餘所有。餘不見色亦餘所有。問曰。如無此事。一眼二人見色。況多。何以故說。謂我眼見色是我所有。餘一切衆生亦所有。答曰。頗有此以他眼見色耶。但眼所用事因見色。彼見已便滅。謂用事已便滅。以是故說。謂我眼見色是我所有。餘一切衆生亦所有。更有說者。謂我眼見色是我所有。餘一切衆生亦非所有。亦非餘所有。謂我眼不見色是我餘所有。餘一切衆生非所有。亦非餘所有。此者不論。此眼云何非所有。非餘所有。問曰。若不論者此云何。答曰。如是好。如前所說。謂我眼見色是我所有。餘一切衆生餘所有。謂我眼不見色是我餘所有。餘一切衆生亦餘所有。問曰。如一眼能見色二眼不見色。云何見非見因非見見因。答曰。因見不見來。因不見見。來是各各相來故謂之因。見不見持不見見持。是各各相持故謂之因。見不見持不見見持。是各各等相持故謂之因。因見不見生因不見見生。各各相生故謂之因。見不見養不見見養。各各相養故謂之因。見不見長不見見長。各各相長故謂之因。或曰。謂眼見及不見。此二俱一界一入一根一見。一界者眼界。一入者眼入。一根者眼根。一見者眼見。如眼界耳鼻舌身界亦爾。問曰。色界云何。答曰。謂色眼已見當見今見。及此餘所有。已見者過去色。當見者未來

色。今見者現在色。及此餘所有者。屬寶說餘所有。色四種。有過去色。謂眼不見已滅。有當來色。謂眼不見當滅。有現在色。謂眼不見而滅。復有當來色不生法。是謂屬寶說。餘所有色四種。外者說餘所有。色五種。有過去色。謂眼不見已滅。有當來色。謂眼不見當滅。有現在色。謂眼不見而滅。復有當來色不生法。不生法者有二種。或眼識空或非空。是謂外者餘所有色說五種。說曰。復有所有色。或一衆生境界。或二或至百千。謂一衆生見至百千。此云何。如說法者昇乎高座。百千衆生見已起彼緣識。彼所有不起者餘所有。如月初生。百千衆生見已起彼緣識。彼所有不起餘所有。如大聚會莊嚴一女伎人。百千衆生見已起彼緣識。彼所有不起者餘所有。說曰。復有餘所有色。或一衆生不見。或二乃至百千。如山根山谷山腹山內。此大地內大海內須彌山王內。雖彼天眼境界。但不用故不見。問曰。非佛眼境界耶。答曰。頗有佛天眼常現在前耶。如色界。馨香味細滑界亦爾。問曰。云何眼識界。答曰。眼緣色生眼識。問曰。如除已性餘一切法緣生眼識。何以故說眼緣生眼識。答曰。謂彼近與增上緣。彼眼色生眼識時。極近與增上緣。非如已生老無常。或曰。謂彼依及緣。依者眼。緣者色。或曰。謂彼內及外。內者眼。外者色。或曰。謂彼根及根義。根者眼。根義者色。是說眼緣色生眼識。問曰。如色緣生識。何以說眼識不說色識。答曰。應說如彼外塵經所說。色更樂緣生識。若不說者是世尊有餘

言。此現義門現義略現義度當知義。或曰。妙說妙義故。雖色緣生識。但彼眼生識時。妙義如伎染衣書。如所說某處作伎。非無女伎。非無彈伎。非無歌伎。非無教伎。非無守者。但彼伎主極妙事。是說某處作伎。如說人染衣。非是人染衣。是色染衣。但彼人於染極妙事。是說人染衣。如說以筆書作字。非無墨非無紙非無人方便。但彼筆於字極妙。是說筆妙。如是雖色緣生識。但彼眼生識時妙事。是妙說妙義故。如彼染衣書。或曰。眼及眼識一依一意可得色不定。或曰。眼內色不定。或曰。眼在己意^{意者}神也。色不定。尊者婆須蜜說曰。如色緣生識。何以故說眼識不說色識。答曰。依眼非色。重說曰。眼妙非色。重說曰。眼已意可得非色。重說曰。眼近事色不定。重說曰。眼受非色。重說曰。眼增減識亦增減非色。重說曰。眼增上緣非色。尊者曇摩多羅說曰。若無眼者必不生識。問曰。若無色者亦不生識。答曰。若無一色者更有二乃至百千色。若無眼者以那術色在前。不可依此生識。是故說數事依。猗及妙 己意近受 增及上緣 師想在後

眼知色者。問曰。如識知色非眼知色。何以故說眼知色。答曰。此說應當爾。眼到眼識所教謂之見應爾。問曰。若不爾者何意。答曰。具故。如商人行。導。彼非商人。行是足行。但彼商人於行爲具。是說商人行。導。如是雖識知色。但彼眼見色具。是故說眼知色。或曰。除重說答故。如後當說眼知色謂心意識。問曰。

●來二未● ●所有二有● ●說二識● ●彼二伎● ●簡二術● ●導二道● ●是一足●

心意識有何差別。一說者無有差別。心意識一義無若干義。如此誦十種名。彼說火有十名。火炎燃熾盡薪惡黑烟居明炎雪怨。此是火十名彼同是一。如是誦火色者。說火色有十名

- 火赤多疫死 黃色起刀兵
- 紅炎有飢饉 雜色宜五穀
- 青色豐歡樂 白色國興盛
- 黑色境減損 此名火十色

如是餘契經說。謂痛等痛別痛覺。是痛此雖多名是一。痛如是餘契經說傷

釋統勳大 千眼拘翼 日夫天王 因提在後

此雖十名故是一。如是說心意識同一義非若干。或曰。有差別。心者過去。意者當來。識者現在。或曰。界施設心。入施設意。陰施設識。或曰。性義是心義。輸門義是意義。聚義是識義。或曰。猗性僑逸說心。性義是界義。恃財僑逸說意。輸門義是入義。恃命僑逸說識。陰者如怨家。或曰。思是心覺。意知是識。尊者婆。婆羅。茶說曰。能思能截是心。能覺能惻是意。能知能別是識。能思者是有漏。能截者是無漏。能覺者是有漏。能惻者是有漏。能知者是有漏。能別者是有漏。心意識是謂差別。如眼識。耳鼻舌身意識亦爾。問曰。意界云何。答曰。謂意法已知當知今知。及此餘所有。已知者過去。當知者未來。今知者現在。及此餘所有者。謂意或空或不空。問曰。云何法界。答曰。謂法意已知當知今知。已

知是過去。當知是未來。今知是現在。問曰。六識何以不立餘所有。答曰。行故立六識。彼過去意不作行。或曰。生故立六識。彼過去意無生法也。以是故六識不立餘所有。問曰。法界何以故不立餘所有。答曰。已說意當知已略說法界。謂彼不說此中說。謂彼說有餘此說無餘。是故法界不立餘所有。或曰。非是因法界故立所有餘所有。若因法界故立所有餘所有者。是一切十二入亦當立所有餘所有。但非法界故立所有餘所有。以是故作此論。顯色界法中。或所有或餘所有耶。答曰。有十色入。是有所餘所有。謂彼生老無常此所有。問曰。何以故。答曰。謂彼入法界中。法界者無餘所有。以故爾。顯無色法中所有餘所有耶。答曰。有七意界是有所餘所有。謂彼生老無常此所有。問曰。何以故。答曰。謂彼入法界中。法界者無餘所有。以故爾。顯有處繫在眼。彼處亦繫在色。亦繫在能生眼識耶。答曰。或是在處或餘處。問曰。云何是處。答曰。生欲界見欲界色。彼欲界眼欲界色。能生欲界眼識。生初禪中。初禪地眼見初禪地色。彼初禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。此謂是處。問曰。云何餘處。答曰。生欲界中。初禪地眼見欲界色。彼初禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。復生欲界。二禪地眼見欲界色。彼二禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。二禪地眼見初禪地色。彼二禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。二禪地眼見二禪地色。彼二禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。復生欲界。三禪地眼

見欲界色。彼三禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。三禪地眼見初禪地色。彼三禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。三禪地眼見二禪地色。彼三禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。三禪地眼見三禪地色。彼三禪地眼三禪地色。能生初禪地眼識。復生欲界。四禪地眼見欲界色。能生初禪地眼識。四禪地眼見初禪地色。彼四禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見二禪地色。彼四禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見三禪地色。彼四禪地眼三禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見四禪地色。彼四禪地眼四禪地色。能生初禪地眼識。是謂生欲界。如生欲界。生初禪二禪三禪四禪亦爾。是謂餘處繫在眼。餘處繫在色。餘處繫在能生眼識。頗有處繫在身。彼處亦繫在眼。亦繫在色。亦繫在能生眼識耶。答曰。或

●樂二喜● ●動二業● ●持二怙● ●笑一談● ●茶二等● ●憫二別● ●二二三●

是處或餘處。問曰。云何是處。答曰。生欲界。欲界眼見欲界色。彼欲界身欲界眼欲界色。能生欲界眼識。生初禪。初禪地眼見初禪地色。彼初禪地身初禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。是謂是處。問曰。餘處繫云何。答曰。生欲界。初禪地眼見欲界色。彼欲界身初禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。初禪地眼見初禪地色。彼欲界身初禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。復生欲界。二禪地眼見欲界色。彼欲界身二禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。二禪地眼見初禪地色。能生初禪地眼識。二禪地眼見二禪地色。彼欲界身二禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。復生欲界。三禪地眼見欲界色。彼欲界身三禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。三禪地眼見初禪地色。彼欲界身三禪地眼初禪地色。能生初禪地眼識。三禪地眼見二禪地色。彼欲界身三禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。三禪地眼見三禪地色。能生初禪地眼識。三禪地眼見四禪地色。彼欲界身四禪地眼四禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見三禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見二禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見初禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見四禪地色。能生初禪地眼識。如生欲界。能生初禪地眼識。是謂生欲界。如生欲

界。生初禪二禪三禪四禪亦爾。是謂餘處。頗有餘處繫在身。亦餘處繫在眼。亦餘處繫在色。亦餘處繫在能生眼識耶。答曰。有生欲界。三禪地眼見二禪地色。彼欲界身三禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。復生欲界。四禪地眼見二禪地色。彼欲界身四禪地眼二禪地色。能生初禪地眼識。四禪地眼見三禪地色。彼欲界身四禪地眼三禪地色。能生初禪地眼識。是謂生欲界。生二禪。三禪地眼見欲界色。彼二禪地身三禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。復生。二禪。四禪地眼見欲界色。彼二禪地身四禪地眼欲界色。能生初禪地眼識。四禪地眼見三禪地色。彼二禪地身四禪地眼三禪地色。能生初禪地眼識。是謂生二禪。如生二禪。三禪亦爾。是謂餘處。如眼界色。眼界識界說已。耳界聲界耳識界亦爾。頗有處繫在鼻。彼處亦繫在香。彼處亦繫在能生鼻識耶。答曰。有欲界鼻欲界香。能生欲界鼻識。如鼻界香界鼻識界說已。舌界味界舌識界亦爾。頗有處繫在身。彼處亦繫在細滑。彼處亦繫在能生身識耶。答曰。或是處或餘處。問曰。云何是處。答曰。生欲界覺欲界細滑。彼欲界身欲界細滑。能生欲界身識。生初禪覺初禪地細滑。彼初禪地身初禪地細滑。能生初禪地身識。是謂是處。問曰。云何餘處。答曰。生二禪覺二禪地細滑。彼二禪地身二禪地細滑。能生初禪地身識。生三禪覺三禪地細滑。彼三禪地身三禪地細滑。能生初禪地身識。生四禪覺四禪地細滑。彼四禪地身

四禪地細滑。能生初禪地身識。謂細滑能覺自地非覺他地。是謂餘處。頗有處繫在意。彼處亦繫在法。彼處亦繫在能生意識耶。答曰。或是處或餘處。問曰。云何是處。答曰。生欲界中知欲界法。彼欲界意欲界法。能生欲界意識。如是至生有想無想地。知有想無想地法。彼有想無想地意有想無想地法。能生有想無想地意識。此謂是處。問曰。餘處云何。答曰。生欲界中知初禪地法。彼欲界意初禪地意識法。或三界繫或不繫。初禪次第知欲界法。彼初禪地意欲界意識法。或初禪地或至有想地無想地。彼生欲界中知二禪地法。彼欲界意二禪地意識法。或三界繫或不繫。二禪次第知欲界法。彼二禪地意欲界意識法。或二禪地或至有想無想地。彼生欲界中知三禪地法。彼欲界意三禪地意識法。或三界繫或不繫。三禪次第知欲界法。彼三禪地意欲界意識法。或三禪地或至有想無想地。彼生欲界中知四禪地法。彼欲界意四禪地意識法。或三界繫或不繫。四禪次第知欲界法。彼四禪地意欲界意識法。或四禪地或至有想無想地。彼生欲界中知虛空地法。彼欲界意虛空地意識法。或三界繫或不繫。虛空處次第知欲界法。彼虛空地意欲界意識法。或虛空地或至有想無想地。彼生欲界中知識地法。彼欲界意識地意識法。或三界繫或不繫。識地次第知欲界法。彼識地意欲界意識法。或識地或至有想無想地。彼生欲界中知不用地法。彼欲界意不用地意識法。或三

界繫或不繫。不用處次第欲界法。彼不用地意欲界意識法。或不用地或有想無想地。彼生欲界中知有想無想地法。彼欲界意有想無想地意識法。或三界繫或不繫。有想無想處次第欲界法。彼有想無想地意識法。或三界繫或不繫。二禪次第初禪地法。彼中知二禪地法。彼初禪地意二禪地意識法。或二禪地意初禪地意識法。或初禪地或至有想無想地。彼生初禪中知四禪地法。彼初禪地意四禪地意識法。或三界繫或不繫。四禪次第初禪地法彼四禪地意初禪意識法。或初禪地或至有想無想地。彼生初禪中知空處地識處不用處有想無想地地法。彼初禪地意有想無想地意識法。或三界繫或不繫。有想無想地初禪地法。彼有想無想地意初禪地意識法。或初禪地或至有想無想地。是謂生初禪。如生初禪。至生有想無想處亦爾。此說是生。問曰。云何正受。答曰。欲界善心次第初禪正受。彼欲界意初禪意識法。或三界繫或不繫。初禪次第二禪正受順。彼初禪意二禪意識法。或三界繫或不繫。從二禪初禪正受逆。彼二禪意初禪意識法。或初禪地或至有想無想地。初禪地初禪次第三禪正受順。起彼初禪意三禪意識法。或三界繫或不繫。從三禪起初禪正

受逆超。彼三禪意初禪意識法。或初禪地或至有想無想地。二禪次第三禪正受順。彼二禪意三禪意識法。或三界繫或不繫。從三禪起二禪正受逆。彼三禪意二禪意識法。或二禪地或至有想無想地。二禪次第四禪正受順。彼二禪意四禪意識法。或三界繫或不繫。從四禪起二禪正受逆超。彼四禪意二禪意識法。或二禪或至有想無想地。三禪次第四禪正受順。彼三禪意四禪意識法。或三界繫或不繫。從四禪起三禪正受逆。彼四禪意三禪意識法。或三禪地或至有想無想地。三禪次第虛空處正受順超。彼三禪意虛空處意識法。或三界繫或不繫。從虛空處起三禪正受逆超。彼虛空處意三禪意識法。或三禪地或至有想無想地。四禪次第虛空處正受順。彼四禪意虛空處意識法。或三界繫或不繫。從虛空處起四禪正受逆超。彼虛空處意四禪意識法。或四禪地或至有想無想地。四禪次第虛空處正受順超。彼四禪意虛空處意識法。或三界繫或不繫。從虛空處起四禪正受逆超。彼虛空處意四禪意識法。或四禪地或至有想無想地。虛空處次第識處正受順。彼虛空處意識法。或三界繫或不繫。從識處起虛空處正受逆。彼識處意虛空處意識法。或虛空處或至有想無想地。虛空處次第不用處正受順超。彼虛空處意不用處意識法。或三界繫或不繫。從不用處起虛空處正受逆超。彼不用處意虛空處意識法。或虛空處或至有想無想地。識處次第不用處正受順。彼識處意不

用處意識法。或三界繫或不繫。從不用處起識處正受逆。彼不用處意識法。或識處或至有想無想地。識處次第有想無想處正受順超。彼識處意有想無想地意識法。或三界繫或不繫。從有想無想起識處正受逆超。彼有想無想地意識法。或識處或至有想無想地。從不用處次第有想無想處正受順。彼不用處意有想無想地意識法。或三界繫或不繫。從有想無想地起不用處正受逆。彼有想無想地意不用處意識法。或不用處或至有想無想地。是謂正受。問曰。餘正受云何。答曰。此設欲界四種變化意。一者初禪果。二者二禪果。三者三禪果。四者四禪果。初禪果變化心次第世俗初禪現在前。彼欲界意初禪意識法者。彼變化或六入或四入。問曰。應有六。何故四。答曰。彼不化香味故。問曰。何以不化香味。答曰。莫令成就是故不化。更有說者。彼化香味但彼不成就。如女有女根。男有男根。但彼不成就。如是彼化香味但不成就。如是說者必化香味。欲界二禪果變化心次第世俗二禪現在前。彼欲界意二禪意識法者。或六入或四入。世俗二禪次第二禪果欲界變化。彼二禪意欲界意識法者。變化六入。欲界三禪果變化心次第世俗三禪現在前。彼欲界意三禪意識法者。或六入或四入。世俗三禪次第三禪果欲界變化。彼三禪意欲界意識法者。變化

◎起一超◎ ◎[意]一◎ ◎[無想處]一◎, [無想]一◎ ◎不二有◎

六入。欲界四禪果變化心次第世俗四禪現在前。彼欲界意四禪意識法者。彼變化或六或四。世俗四禪次第四禪果欲界變化。彼四禪意識法者。變化六入。此餘正受也。問曰。若成就眼界彼亦成就色界耶。答曰。如是。若成就眼界彼亦成就色界。頗成就色界不成就眼界耶。答曰。有生欲界不得眼界。設得便失。不得者。生盲及處母胎卵膜漸厚。設得便失者。如眼界。若脫若腐若破若墮若挑若陷若瞽若瞎若烟若塵。如是餘患壞眼也。問曰。若成就眼界。彼亦成就眼識界耶。答曰。或成就眼界非眼識界。云何成就眼界非眼識界。答曰。生二禪三禪四禪。眼識界不現在前。是謂成就眼界非眼識界。云何成就眼識界非眼界耶。答曰。處胎卵膜漸厚。若生欲界不得眼根。設得便失。是謂成就眼識界非眼界。云何成就眼識界亦成就眼識界耶。答曰。生欲界具諸根。亦生初禪及生二禪三禪四禪。眼識界現在前時。是謂成就眼識界亦成就眼識界。云何不成就眼識界。亦不成就眼識界耶。答曰。生無色界。是謂不成就眼識界亦不成就眼識界。若成就色界。彼亦成就眼識界。問曰。或成就色界非成就眼識界。云何成就色界非眼識界耶。答曰。生二禪三禪四禪。眼識界不現在前時。是謂成就色界非眼識界。云何成就眼識界非色界耶。答曰。此無也。云何成就色界亦成就眼識界耶。答曰。生欲界具諸根。亦生初禪及生二禪三禪四禪。眼識界現在前時。是謂成就色界亦成就眼

識界。云何不成就色界亦不成就眼識界耶。答曰。生無色界。是謂不成就。色界亦不成就眼識界。問曰。若不成就色界。彼亦不成就眼界耶。答曰。如是。若不成就色界。彼亦不成就眼界。頗不成就眼界非不色界耶。答曰。有生欲界不得眼根。設得便失。問曰。若不成就眼界。彼亦不成就眼識界耶。答曰。或不成就眼界非眼識界。云何不成就眼界非眼識界。答曰。處胎卵膜漸厚。若生欲界不得眼根。設得便失。是謂不成就眼界非眼識界。云何不成就眼識界非不眼界。答曰。生二三四禪眼識界不現在前。是謂不成就眼識界非不眼界。云何不成就眼界眼識界。答曰。生無色界。是謂不成就眼界眼識界。云何非不成就眼界眼識界。答曰。生欲界具足眼根。生初禪亦生二三四禪。眼識界現在前。是謂非不成就眼界眼識界。問曰。若不成就色界彼亦不成就眼識界耶。答曰。如是。若不成就色界彼亦不成就眼識界。頗不成就眼識界非不色界耶。答曰。有生二禪三禪四禪。眼識界不現在前也。問曰。若眼界成就得不成就。彼亦色界成就得不成就耶。答曰。如是。若色界成就得不成就。彼亦眼界成就得不成就。頗眼界成就得不成就。非眼界成就得不成就。非色界耶。答曰。有生欲界得眼根。設得便失。問曰。若眼界成就得不成就。彼亦識界成就得不成就耶。答曰。或眼界成就得不成就。非眼識界。云何眼界成就得不成就。非眼識界。答曰。生欲界得眼根便失。是謂眼界成就得不成就。非眼識界。云何眼識界成就

得不成就非眼界。答曰。生二三四禪從眼識界起。是謂眼識界成就得不成就非眼界。云何眼界成就得不成就亦眼識界。答曰。欲色界沒生無色界。是謂眼界成就得不成就亦眼識界。云何非眼界成就得不成就亦眼識界。答曰。生欲界具足眼根。生初禪亦生二三四禪。眼識界現在前。是謂非眼界成就得不成就亦眼識界。問曰。若色界成就得不成就。彼亦眼識界成就得不成就耶。答曰。如是。若色界成就得不成就。彼亦眼識界成就得不成就。頗眼識界成就得不成就非色界耶。答曰。有生二禪三禪四禪。從眼識界起也。問曰。若不成就眼界得成就彼亦色界不成就成就耶。答曰。如是。若色界不成就成就。彼亦眼界不成就成就。頗眼界不成就成就非色界耶。答曰。有生欲界不具眼根獲眼根也。問曰。若不成就眼界得成就。彼亦眼識界不成就成就耶。答曰。或眼界不成就成就。非眼識界。云何眼界不成就成就非眼識界。答曰。生欲界眼根不具得眼根。是謂眼界不成就成就眼識界。云何眼識界不成就成就非眼界。答曰。生二禪三禪四禪。眼識界現在前。是謂眼識界不成就成就非眼界。云何眼界不成就成就非眼界。答曰。無色界沒生欲色界。是謂眼界不成就成就亦眼識界。云何非眼界不成就成就亦眼識界。答曰。生欲界眼根具足。生初禪亦生二三四禪。眼識界現在前。是謂非眼界不成就成就亦眼識界。問曰。若不成就色界

●得不成不得●

謂世諸流 念者制流 我說防流 以慧塞流

是謂流義是入義。海義是入義者。如彼契經說比丘海者。凡愚所未聞。凡人口說也。彼非此聖法中海。是大積聚水數

眼是入大海 彼色為濤波 若忍色濤波 彼不度眼海 濤波所迴轉 邪魅羅刹持

耳鼻舌身亦爾 意是入大海 彼法為濤波 若忍法濤波 彼不度意海 濤波所迴轉 邪魅羅刹持

是謂海義是入義。清白義是入義者。此說白清亦爾。輕故彼外書說亦名地亦名作。如彼契經。異學摩竭提說。沙門瞿曇。地壞地已壞何所作。是謂輪門義是入義。輸道藏義倉

義標義機義田義泉義流義海義白義清義是入義。共行說已當說別行。眼入云何。答曰。謂眼色已見當見今見。及此餘所有。已見過去。當見未來。今見現在。及此餘所有者。謂彼眼識或空或不空。如眼入耳鼻舌身意入亦爾。

問曰。色入云何。答曰。謂色眼已見當見今見。及此餘所有。已見過去。當見未來。今見現在。及此餘所有。如。色入聲香味細滑亦爾。問曰。何以故。說色入如十色入。何以故。說一色入。答曰。色入者是一。餘者二。名。色入者同名。餘入者不同名。彼說不同名。或曰。色入者二眼界。是說色入。或曰。色入者三眼界。肉

眼天眼聖慧眼。是說色入。餘入者非三眼界。

是故不說色入。或曰。色入者二眼界及眼識緣。是說色入。餘入者非二眼界。亦非眼識緣。是故不說色入。尊者瞿沙亦爾說。二眼界故及眼識緣故說一色入。或曰。謂色入者能斷壞。是說色入。餘入者不能斷壞。是故不說色入。

或曰。色入者大礙能捨。是說色入。餘入者非大礙亦不能捨。是故不說色入。或曰。色入者方所有及施設方。由延所有及施設由延。方所有者。方色入所有。方施設者。因色施設方。由延所有者。由延色入所有。由延施設者。因

色施設由延。謂色入。方所有及施設方。由延所有及施設由延。是說色入。餘入者。非方所有。亦非施設方。非由延所有。亦非施設由延。是故不說色入。或曰。謂色入者二十種。二十

一種是說色入。餘入者非二十種。亦非二十一種。是故不說色入。或曰。色入者可施設住此住彼。是說色入。餘入者不可施設住此住彼。是故不說色入。或曰。色入者色名及色所有。是說色入。餘入者雖色所有但非色名。是故不說色入。有法非色所有。但墮色名。如所說。謂彼息解脫度色無無色。如是色正受身作證遊行。此說十一種。是細滑入。何者四大軟

。澁輕重寒熱飲食飢渴。是謂十一種。是細滑入。問曰。何以故。說細滑入。為有所觸是細滑入耶。為性細滑是細滑入耶。為細滑緣是細滑入耶。若有所觸是細滑入者。不應極微觸極微。若性細滑是細滑入者。心心數法亦性細滑非觸細滑。若細滑緣是細滑入者。應心心數法緣細滑入非細滑緣細滑。作此論已。

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

。嚙斷咽舌齒相緣而發聲。問曰。法入云何。答曰。謂法意識已知當知今知已知過去。當知未來。今知現在。問曰。如一切十二入盡是法性。何以故說一法入。答曰。如是雖一切十

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

。嚙斷咽舌齒相緣而發聲。問曰。法入云何。答曰。謂法意識已知當知今知已知過去。當知未來。今知現在。問曰。如一切十二入盡是法性。何以故說一法入。答曰。如是雖一切十

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

。嚙斷咽舌齒相緣而發聲。問曰。法入云何。答曰。謂法意識已知當知今知已知過去。當知未來。今知現在。問曰。如一切十二入盡是法性。何以故說一法入。答曰。如是雖一切十

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

。嚙斷咽舌齒相緣而發聲。問曰。法入云何。答曰。謂法意識已知當知今知已知過去。當知未來。今知現在。問曰。如一切十二入盡是法性。何以故說一法入。答曰。如是雖一切十

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

。嚙斷咽舌齒相緣而發聲。問曰。法入云何。答曰。謂法意識已知當知今知已知過去。當知未來。今知現在。問曰。如一切十二入盡是法性。何以故說一法入。答曰。如是雖一切十

答曰。有所觸是說細滑入。問曰。不應極微觸極微。答曰。不可施設一極微。若施設者多合聚已施設。或曰。謂因身觸。謂因身觸者是說觸。尊者婆須蜜說曰。極微當言觸耶。當言非觸耶。答曰。當言非觸。但等。諦交易故。便有觸想。尊者曇摩多羅說曰。諸尊極微者當言不觸。但色合無中間故。觸則有想。如等。諦交易故。問曰。謂水中。影鏡中像是實耶非實耶。若實者面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。阿毘曇者說曰。實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如面不入鏡中。鏡亦不入面中。除此已云何更有色。答曰。我無量種成色非是一種。如緣月及陰燧珠。緣器便得水。此真實水用事。如緣日及陽燧珠。燧。緣牛糞人方便便得火。真實用火事。如是謂水中影鏡中像實有種相。是色入及眼識所知。問曰。如呼聲響應。彼是實耶為非實耶。若是實者。謂此發聲即滅。除此已云何更有聲。譬喻者說曰。非實。問曰。何以故非實。答曰。此間發聲即滅。除此已云何更有聲。阿毘曇者說曰。實有種相。是聲入及耳識所知。問曰。如此發聲彼即滅。除此已云何更有聲。答曰。我無量種成聲非是一種。謂頰

◎海十(海)◎◎色入二入色◎◎法一怨◎◎語一設◎◎語一設◎◎影二形◎◎經二鏡◎◎日二識◎◎時二雙◎

二入是法性。但有一法處所。如十八界雖是法性。但有一法界處所。十智雖是法性。但有一法智處所。七覺意雖是法性。但有一擇法覺意處所。六思念雖是法性。但有一念法處所。四意止雖是法性。但有一法意止處所。四辯雖是法性。但有一法辯處所。四信雖是法性。但有一信法處所。三寶三自歸雖是法性。但有一法寶一法歸處所。如是十二入雖是法性。但有一法入處所。或曰。法入者是一名。餘入者有二名。法入者同名。餘入者不同名。彼說不同名。或曰。謂彼法常入不異生老無常不壞。謂滅盡涅槃彼入法入中。是故說一法入。或曰。謂一切有為法封印想。謂三有為相。彼入法入中。是故說一法入。或曰。謂一切有為法說顯現誦習。謂名彼入法入中。是故說一法入。或曰。謂覺法是法。不覺是我。謂空三昧彼入法入中。是故說一法入。問曰。身見亦入法入中。謂覺法是我。何以故。不因身見說法入耶。答曰。此非如如覺身見。是如如覺空三昧。是謂因空三昧。故說法入非身見。或曰。此法可得。如風所從來。此名風入。如是法入中法可得。是故說法入。或曰。多法可得。故說一法入。法入中多有法入。謂色法無色法。可見法不可見法。有對法無對法。相應法不相應法。依法不依法。行法不行法。身法不身法。共緣法不共緣法。是謂多法可得。故說一法入。如佛契經。內六入前說眼入。後說乃至意入。外六入前說色入。後說乃至法入。問曰。何以故。世尊內六入前說眼入。後說乃至意

入。外六入前說色入。後說乃至法入。答曰。他說隨順故。如是他說隨順。如是應味次第順。或曰。世尊順說故他亦順受。故佛說如是順受亦如是順。或曰。因龜細故。內六入何者最龜眼入是。是故佛前說。何者最細意入是。是故佛最後說。外六入何者最龜色入是。是故佛前說。何者最細法入是。是故佛最後說。是因龜細故。佛契經內六入前說眼入。後說乃至意入。外六入前說色入。後說乃至法入。佛契經說。比丘此岸者內六入是。比丘彼岸者外六入是。問曰。何以故。佛契經內六入說此岸。外六入說彼岸。答曰。近遠法故。如河近者此岸遠者彼岸。如是謂心心河依者近緣者遠。是謂近遠法故。或曰。下上法故。如河謂所下處是此岸所上處是彼岸。如是心心法所依下所緣上。是謂下上法故。或曰。彼岸者第一義滅盡涅槃。彼攝外入。以是故佛契經內六入說此岸。外六入說彼岸。問曰。云何河。答曰。心心法是。如河兩岸所持眾生數非眾生數漂流入大海。如是心心法河內外入岸所持漂流眾生入生死海。問曰。云何船。答曰。聖道是如依船。筏。無量眾生而得。渡河。如是依聖道船。筏。無量眾生。渡生死河。佛契經說。六入當知。內六更樂入當知內。問曰。如此外亦當知。何以故。世尊說六入當知內六更樂當知內。答曰。世尊於契經中說內觀。世尊說內入諸根意。莫向外前內想內身。身觀後外後內外。是前內觀故。或曰。世尊教弟子不顛倒觀故。世尊說曰。莫顛倒觀常樂淨我。當觀無常苦空無我因

習本緣。以聖八行破壞有。是謂不顛倒觀。故。或曰。世尊教弟子不共觀故。世尊說莫共觀龜。溢。當觀如病癩箭蛇無常苦空無我。內六更樂火燒有。是不共觀故。或曰。佛契經說內意止。問曰。何以故。佛說內意止。答曰。為我故計有我。是吾作是我作。愛我已便有愛具。長養內故求外具。以是故佛契經說。六入當知。內六更樂入當知內。問曰。六入六更樂入何差別。一說者無差別。六入者眼入耳鼻舌身意入。六更樂入亦眼入耳鼻舌身意入。是故無差別。更有說者。有差別。謂近者是六入。謂遠者是六更樂入。問曰。如汝說六入者是現在。六更樂者過去未來。更有說者。謂近者是六更樂。謂遠者是六入。問曰。如汝說六更樂入是現在。六入者是過去未來。或曰。謂當行時轉是六更樂入。餘者是六入。或曰。謂依六入作行是六入。謂依六更樂作行是六更樂入。或曰。謂所有是六更樂入。餘所有者是六入。如說比丘鉢彼性是鉢如比丘用事。是故說比丘鉢如是謂所有是六更樂入。餘所有者是六入。尊者陀羅難提說曰。性入者是六入。行入者是六更樂入。如說鐵鉢鉢性是鐵。鉢如依酥用事。是故說鐵鉢。如是性入者是六入。行入者是六更樂入。佛契經說。二入無想眾生及有想無想天。問曰。何以故。佛契經說。二入無想眾生及有想無想天。答曰。餘地二種名。一者識住。二者眾生居。欲令二入中作二名。謂此雖有眾生居名。但無識。住名。是謂二名。故佛契經說。二入

●筏二我●●●●●渡二度●●●●●六二八●●●入●●●住一依●●●

緣是謂色。彼在法入中色。非因五識身非五識身緣。答曰。可說謂非因五識身。但六識身緣。彼在法入中色。雖不因五識身亦非五識身緣。但因意識身意識身緣。或曰。雖彼在法入中色非因五識身亦非五識身緣。但彼因依緣依。問曰。云何彼依。答曰。四大也。問曰。痛陰云何。答曰。佛契經說。痛陰云何。六身痛。此如契經所說阿毘曇亦爾。問曰。想陰云何。答曰。佛契經說。想陰云何。六想身。此如契經所說阿毘曇亦爾。問曰。行陰云何。答曰。佛契經說。行陰云何。六思身。阿毘曇說。行陰云何。答曰。行陰二種。一者心相應。二者心不相應。問曰。心相應行陰云何。答曰。痛想思更樂憶欲解脫念定慧善根不善根無記根結縛使煩惱纏所知所見所觀。如是諸所有心相應行。是謂心相應行陰。問曰。云何心不相應行陰。答曰。得無。想定滅盡定無想命根種類得處得種得入生老。死無常名身句身味身。如是諸所有心不相應行。是謂心不相應行陰。問曰。何以佛世尊一切相應不相應行陰中。一思立行陰耶。答曰。此思施設行時攝受種。是故佛一切相應不相應行陰中。一思立行陰。如愛施設習時攝受種。是故佛一切有漏種一愛立習諦。如是此思施設行時攝受種。是故佛一切相應不相應行陰中一思立行陰。問曰。識陰云何。答曰。佛契經說。識陰云何。六識身。此如契經所說阿毘曇亦爾。此是陰性已種相身所有自然。性說已當說行。何以故說陰。陰有何義。答曰。聚義是陰義。團義積義

檢義。世施設陰施設。多語是陰。義。聚義是陰義者。諸所有色過去未來現在。彼一切一向檢已立一色陰。如至識陰。是謂聚義是陰義。團義是陰義者。無量有為種團合已立五陰。是謂團義是陰義。積義是陰義者。猶糞積聚種種積。如是陰種種積。檢義是陰義者。諸所有色過去未來現在。若內若外若龜若細若惡若妙若遠若近。彼一切一向檢已立一色陰。乃至識陰亦爾。是謂檢義是陰義。世施設陰施設者。謂色陰三世乃至識陰亦三世。是世施設陰施設。多語是陰義者。謂色多語乃至識陰亦多語。問曰。如汝說一極微不應有色陰。謂彼無多語。答曰。不可以一極微施設。若施設者。便多聚。斂施設。阿毘曇者若掌護陰施設。彼說極微攝一界一入一陰少入。若不掌護者。彼說極微一界一入一陰。如人大穀聚取一粒去。他問人何所持。彼人若掌護穀聚者。說此穀聚中一粒。若不掌護者。說此穀一粒。如是阿毘曇者。若掌護陰施設。彼說極微一界一入一陰少入。若不掌護者。彼說極微一界一入一陰。是說多語陰語。是謂聚義是陰義。團義積義檢義世施設陰施設多語陰語是陰義。問曰。何以故。世尊前說色陰後說識陰。答曰。隨順他故。如是隨順他。應味次第順。或曰。世尊說隨順受教者亦順。或曰。龜細故。五陰中何者最龜。色陰是。是故佛前說四無色陰。何者最龜。痛陰是。是故佛前說。問曰。此痛無形無處亦不可見。云何龜細可知。答曰。行故知。如所說手痛足痛頭痛

如是。如是痛是行故知有龜細。何者最細。識陰是。是故佛後說。以是故。佛契經前說色陰後說至識陰。問曰。何故心數法中痛陰想陰別立陰。餘心數法立行陰。答曰。佛世尊於法真諦餘真無能過。彼盡知法相盡知行。謂法獨能擔彼別立。謂品能擔彼立品。或曰。此現二門二略二度二炬二光二明二數。或曰。如痛陰想陰別立陰。如是餘心數法亦應立。如餘心數法立一行陰。如是痛想亦立行陰中。如是陰或立三或十三。是故說此現二門二略二度二炬二光二明二數。或曰。謂此二界宗因。痛宗禪因想宗無色。或曰。謂因二法行者二界多求。痛勞。因痛於禪疲勞。因想於無色疲勞。或曰。謂因二法眾生生死中受無量苦。貪於樂痛及著顛倒想。或曰。謂二法滅立二定。無想定及滅盡定。或曰。謂二法治故。彼行者入二定。無想定及滅盡定。或曰。謂此二法別受二識住名。痛識住。及想識住。餘心數法一行識住。以是故。一切心數法痛陰陰別立陰。餘心數法立一行陰。問曰。何以故。說行陰如一切五陰有為。何故立一行陰。答曰。謂彼思有為想此入中。是故說行陰。或曰。謂彼一切有為法。封印想謂三有為。想。彼入中是故說一行陰。或曰。謂一切有為法顯現。誦習。謂名彼盡入中。是故說一行陰。或曰。謂一切有為法因習本緣。謂生彼盡入中。是故說一行陰。或曰。多法合聚故說一行陰。多有法入此中。相應不相應依不依行不行身不身共緣不共緣。是謂多法合聚故說一行陰。

●想二相● ●(死)一● ●義二語● ●斂二檢● ●彼二微● ●(謂)十識● ●痛一疾● ●想二相●

問曰。無爲何以故。不立陰中。答曰。謂非陰名亦非陰性。非色名亦非色性。是故不立陰中。非痛名亦非痛性。是故不立痛陰中。非想名亦非想性。是故不立想陰中。非行名亦非行性。是故不立行陰中。非識名亦非識性。是故不立識陰中。若作是念者。何以故。不立行中。陰者多有種。多種者非無爲。或曰。陰者墮生老無常。無爲者無生老無常。或曰。陰者與衰法有因得有爲相。無爲者非與衰法無因得無爲相。或曰。陰者世迴轉作行受果緣。無爲者非世迴轉不作行不受果不知緣。或曰。陰者墮於世。無爲者不墮世。或曰。陰者墮於陰。無爲者離於陰。或曰。陰者苦所縛。無爲者離苦縛。或曰。陰者軟中上。無爲者無軟中上。或曰。陰者前後可得。無爲者無前後。以是故無爲不立陰中。彼佛契經說八萬法身。問曰。法身者有何齊限數。有一說者。一數經名法身。謂彼一身。是謂一身齊限數。如是一切八萬。更有說者。謂契經說。意止此是一法身齊限數。如是契經說。意斷神足根力覺種道種。是謂一法身齊限數。如是至一切八萬。算者說。八字一句三十二字爲一首盧數。

有五百千 亦復五千 五百五千
一法身數

如是至八萬。如是說者。佛契經教化故說八萬度。謂度受化於聖道得度。彼八萬度名八萬法身。問曰。謂此有爾所身何以故。立五陰身。答曰。彼一切入五陰身中。謂欲者佛語教性。彼盡入色陰中。謂欲者佛語名性。彼盡入

行陰中。是故一切八萬法身盡入五陰中。此佛說契經。謂餘五陰身。戒身定身慧身解脫身。解脫知見身。問曰。如此餘五陰身。何以故。立五陰。答曰。彼亦盡入中。戒身入色陰中。餘者入行陰中。以是故佛契經說五陰。廣說五陰處盡

* 轉婆沙五盛陰處第二十

五盛陰者。色盛陰痛盛陰想盛陰行盛陰識盛陰。問曰。色盛陰云何。答曰。謂色過去未來現在。欲生而生。患怒癡及餘若干心煩惱生而生。彼欲生而生者愛是。患者瞋是癡者無明是。及餘若干心煩惱生而生者。謂彼心相應煩惱。說曰。此不應說恐生而生。問曰。何以故。答曰。恐者無智性。謂衆生無智彼便恐。更有說者。恐者身見性。謂衆生計有我彼便恐。此亦入中。如所說及餘若干心煩惱。如是說者此恐應說。問曰。何以故。答曰。恐者心數法心相應。問曰。此恐何所答曰。在欲界非色無色界。問曰。若色無色界無恐者。彼契經云何通。彼風吹火至梵處。謂衆生光音天不久。未曾見世間成敗。不知世間成敗彼見火已恐怖驚愕身毛豎。火不來至此耶。謂衆生前生光音天。彼見世間成敗。彼知世間成敗。見火已慰勞彼衆生。諸衆生勿恐怖。諸衆生勿恐怖。是火極至彼不至此。如汝所說。色無色界恐怖者。此云何通。如是餘偈云何解

世尊知一切 說法成就眼
如來人師子 世中無比士
彼時長壽天 名稱色微妙

聞已驚恐怖 如鹿畏獅子

若色無色界無恐怖者。此云何通。答曰。恐怖者此說厭。問曰。恐怖厭者何差別。答曰。名即是差別。此恐怖彼厭。是謂差別。或曰。恐怖者欲界。厭者三界。或曰。爲結障礙恐怖。爲善根障礙。是厭。尊者婆須蜜說曰。恐怖及厭何差別。答曰。爲結障礙是恐怖。爲善根障礙是厭。重說曰。爲不善法障礙是恐怖。爲善法障礙是厭。重說曰。二諦攝是恐怖。三諦攝是厭。重說曰。無智性是恐怖。慧性是厭。尊者曇摩多羅說曰。諸尊思念惡起諍是恐怖。諍已心懼相是厭。恐怖及厭是差別。問曰。恐怖者爲凡夫爲聖人。答曰。恐怖者凡夫非聖人。問曰。何以故。恐怖者凡夫非聖人耶。答曰。彼聖人恐怖已盡。更有說者。凡夫亦有恐怖。聖人亦有恐怖。問曰。如聖人恐怖已盡。何所有恐怖。答曰。有五恐怖。死恐怖惡趣恐怖不活恐怖惡名恐怖衆中恐怖。此五恐怖聖人已盡。餘恐怖聖人未盡。聖人者。須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛非佛。何以非佛。答曰。如來無所著等正覺恐怖永盡。如色盛陰痛想行識盛陰亦爾。此是盛陰性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說盛陰盛陰有何義。答曰。受所生是故說盛。謂生受是故說盛。受所養是故說盛。謂養受是故說盛。受所長是故說盛。謂長受是故說盛。受所來是故說盛。謂來受是故說盛。受所持是故說盛。謂持受是故說盛。受所等持是故說盛。謂等持受是故說盛。或曰。受所轉是故說盛。謂轉受是故

說盛。或曰。受著此中如塵垢。是故說盛。或曰。受於此中所攝是故說盛。或曰。此是受居室居處。依此已愛生而生。見慢無明及餘若干心煩惱生而生。或曰。此受所有是故說盛。如外職所有。如內職所有。如王所有。如是此受所有是故說盛。但內更無所有。若有問者。汝屬誰謂作是答。我是受所有。或曰。受所廣施設是。故說盛。謂廣施設受是故說盛。廣者說痛為名。此盛陰界中不別施設。地中不別施設。除其意。謂因我陰餘得盛陰名。因餘陰我得盛陰名。若此意不別施設者。此外物不可施設陰以故爾。問曰。陰及盛陰何差別。答曰。名即是差別。彼陰此盛陰。或曰。陰有漏無漏。盛陰一向有漏。或曰。陰染污不染污。盛陰一向染污。或曰。陰攝三諦。盛陰攝二諦。或曰。陰或斷或不斷。盛陰一向斷。或曰。陰或受相應或不相應。盛陰一向相應。或曰。陰得或結相應或不相應。盛陰得一向結相應不離結。或曰。陰或學或無學或非學非無學。盛陰一向非學非無學。陰及盛陰是謂差別。廣說五盛陰處盡

*轉婆沙六界處第二十一

六界者。地界水界火界風界空界識界。問曰。何以故作此論。答曰。此是佛契經。此佛契經十八界總已說六界。問曰。何以故。此佛契經十八界總已說六界。答曰。為教化故。世尊教化。或有利根或有鈍根。利根者說六界。鈍根者說十八界。如利根鈍根。如是因力緣力內力外力內思惟長養。從他聞盡當知。或曰。略

者說六。廣者說十八。如略如廣如是分別不分別。卷及舒。改不改。漸漸一時盡當知。以是故作此論。六界者。地界水界火界風界空界識界。此六界於十八界中攝十界。七界少所入攝十界者。四大及空界攝十界。眼界色界耳界聲界鼻界香界舌界味界身界細滑界。七界少所入者。識界攝七心界。少所入謂彼有漏無漏。謂有漏者攝。無漏者不攝。是故少所入。六界者地界水界火界風界空界識界。問曰。地界云何。答曰。佛契經說。地界云何堅是。此佛總說地界云何堅是。但彼堅無量差別。內異外亦異。外異者。如此屋牆壁樹木巖石山金銀琉璃摩尼水精珠銅鐵鉛錫白鐵內異者。如。髮毛爪齒筋骨脾胃心肝腸胃腹大小便手足異。及餘支節異。足極堅非手。謂內外堅。彼一切總已說地界云何堅是。問曰。水界云何。答曰。佛契經說。水界云何濕是。此佛總說水界云何濕是。但彼濕無量差別。內異外亦異。內異者。如此目淚涎唾膏肪髓腦膽膿血小便支節間各異。外異者。涌泉深淵流水。澹水河水池水大海。至下水輪謂內外濕。彼一切總已說水界云何濕是。問曰。火界云何。答曰。佛契經說。火界云何熱是。此佛總說。火界云何熱是。但彼熱無量差別。內異外亦異。內異者。令身熱身溫暖身。燒身熱得名數。飲食噉味令身安隱。手足各異支節亦異。外異者。如炬火燈火大聚火極大火。鑽火泥。犁火。波爐火。謂內極利非外。謂此飲食舉著釜中極煮色不變。食入腹中已色即

變。謂內外熱。彼一切總已說。火界云何熱是。問曰。風界云何。答曰。佛契經說。風界云何謂吹起是。此佛總說風界。云何吹起。是但吹起無量差別。內異外亦異。內異者。下風上風。支節風腹中風。力風脊風起風。屈申風喘息風。百脈風支節間各異。外異者。如塵土風無塵風。隨藍風。飄風成敗風。不成敗風。至風輪。謂內外吹起。彼一切總已說。風界云何吹起是。問曰。空界云何。答曰。佛契經說。空界云何。謂色邊色。謂色者造色是。於彼間施設。如眼空耳空鼻空口空咽空喉空。飲食來往處空。住消處空。下過處空。更有說者。空界云何。空邊色是。此說空色不空色。不空色者衆生數。空色者非衆生數。謂彼空非衆生數。邊施設。如樹間葉間牆間屋間隔間戶間。是謂空非衆生數。色邊施設。舊阿毘曇說。皮性膜性肉性筋性骨性髓性。色可知處亦可知。尊者婆須蜜說曰。云何知有空界。答曰。契經可知。世尊亦說。謂此空中空諸所色覆所不覆。問曰。云何契經可知非現知耶。答曰。現亦可知。謂晝所有明是空界所有。謂夜所有闇是空界所有。重說曰。形可知處亦可知。重說曰。夜闇障故不見。晝明障故不見。尊者曇摩多羅說曰。諸尊空界雖不可知。但非無智處。空界是色。非是色。亦非此住非彼住。亦非空者相貌。聲世轉可知。問曰。空空界何差別。答曰。空者非色。空界是色。空者不可見。空界者可見。空者無對。空界者有對。空者無為。空界者有為。問曰。此論中更有論生。若空無為者。

故一說 受二愛 改一段 * 髮毛一毛髮 支二肢 下同 清一淨 鏡二鏡 犁二犁 液一沃 力二刀 喉十(咽喉) 諸二謂 非十(非)

色。或曰。謂四大所有及造色所有是色。謂非四大所有。及非造色所有是無色。或曰。謂二十種及二十一種是色。謂非二十種。及非二十一種是無色。或曰。謂方所有及方施設。由延所有及由延施設是色。謂非方所有及非方施設。非由延所有及非由延施設是無色。或曰。謂色名及色所有是色。謂非色名及非色所有是無色。或曰。謂能可見現是色。謂細非可見非現是無色。尊者婆須蜜說曰。云何為色相。答曰。漸漸生相是色相。重說曰。漸漸開張相是色相。重說曰。方所受相是色相。重說曰。處施設相是色相。重說曰。有障。闍相是色相。重說曰。愚相是色相。重說曰。三相是色相。有色可見有對。有色不可見有對。有色不可見無對。重說曰。持去相持來相是色相。重說曰。種相是色相。問曰。過去當來色及極微。復無教色不可種。欲令非是色耶。答曰。過去色已種當來色當種。極微者雖非一可種。但餘極微合聚種。無教色者。雖不可種但教色可種。彼教色種已無教色。亦當言種如動樹。當知影亦動此亦爾。重說曰。覆虛空相是色相。重說曰。四大因相是色相。重說曰。色者無色相。問曰。何所說。答曰。色者無一色相。何以故。謂眼界異相至細滑界亦異相。重說曰。有對相是色相。此說數

漸漸生成 開施設方 處障*闍愚
三去來種 覆空與因 一相并對
餘者無色。廣說色無色處盡

。轉婆沙可見不可見法處第二十三

可見法者不可見法者。問曰。何以故作此論。答曰。斷計我人事故。及現大妙智故。斷計我人事故。此是可見法。不可見法是非我。現大妙智者。若有行智成就智。彼以此二句便知一切法。謂此俱攝一切法。具足一切法。是謂斷計我人事故及現大妙智故作此論。復何以故作此論。答曰。或有欲令一切法可見。慧眼界故。謂若有欲。爾者。斷彼意故說可見法不可見法。是謂斷他意。現已意說法如等故作此論。莫令斷他意。亦莫現已意但說如等法故作此論。可見法不可見法者。問曰。可見法云何。答曰。一入是問曰。不可見法云何。答曰。十一入是問曰。何以故說可見不可見法。答曰。謂眼行是可見。謂非眼行是不可見。或曰。謂眼光是可見。謂非眼光是不可見。或曰。謂二眼界是可見。謂非二眼界是不可見。或曰。謂三眼界是可見。謂非三眼界是不可見。或曰。謂二眼界及眼識緣是可見。謂非二眼界亦非眼識緣是不可見。尊者瞿沙亦爾說。二眼界及眼識緣故說可見。餘者不可見。尊者婆須蜜說曰。可見法有何義。答曰。可示現是可見。重說曰。可示他是可見。眼行光來是可見。重說曰。可說此彼是可見也。不可見有何義。答曰。不可示現是不可見。重說曰。不可示現他是不可見。重說曰。非眼行光來是不可見。重說曰。不可說此彼是不可見。廣說可見不可見法處盡

*轉婆沙有對無對處第二十四

有對法者無對法者。何以故作此論。答曰。斷

計我人事故。及現大妙智故。斷計我人事故。此是有對法。無對法非是我。現大妙智者。若有行智成就智。以此二句便知一切法。謂此俱攝一切法。具足一切法。是謂斷計我人事故及現大妙智故作此論。有對法無對法者。問曰。有對法云何。答曰。十入是。無對法云何。答曰。二入是。問曰。何以故說有對無對法。答曰。有對者說三種。一者障礙有對二者界有對。三者緣有對。障礙有對者。如手相礙。手與外種相礙。外種外種相礙。外種與手相礙。界有對者。如眼界有礙。如是至意法界有礙。緣有對者。如意識共相應一切法礙。婆須蜜經說。因眼色。闍。因色眼亦礙。至因意法礙。因法亦意。闍。彼尊者婆須蜜說。此一有礙是謂三種有對。於三種有對中。此因有對作論。非餘有對。或曰。謂大障礙能捨是有對。謂非大障礙非捨是無對。或曰。謂能可見現是有對。謂細不可見不。可現不可現是無對。或曰。謂種生長是有對。內事種者。謂時精繫。母胎生者。謂時彼精。漸厚長者。謂時肉段生。胞外種者。謂時以種子。種地中生者。謂時子生。萌。芽長者。謂時生莖節華果。謂種生長是有對。謂若不種不生不長是無對。或曰。謂可知此住彼住是有對。謂不可知此住彼住是無對。或曰。謂因四大造色所有是有對。謂不因四大非造色所有是無對。或曰。謂方所有施設方由延所有由延施設是有對。謂非方所有非施設方非由延所有非由延施設是無對。或曰。謂可知長短

。闍二礙。但二俱。轉婆沙。爾二界。見二現。可。胞二苑。芽二牙。

是有對。謂非可知長短是無對。尊者婆須蜜說曰。何以故說有對無對。答曰。謂大障礙是有對。謂非大障礙是無對。重說曰。謂能捨是有對。謂非能捨是無對。重說曰。謂大障礙者即是能捨。謂能捨者即是對。餘者無對。重說曰。微合是有對。重說曰。陰是有對。重說曰。覆虛空是有對。重說曰。微合者即是陰。陰者覆虛空。覆虛空者即是對。餘者是無對。問曰。何入障礙。何入有一說者。五入障礙。內中身入。外色香味細滑。餘入不可觸。更有說者。九入障礙。除眼入。如是說者。一切十入障礙。問曰。何以故。答曰。如手相障礙。如是若以手覆眼。非障礙耶。是故一切十入障礙。謂手相障礙。爾時五相障礙。手與外事障礙。爾時五障礙。四外事外事相障礙。爾時四四相障礙。外事障礙。爾時四障礙。廣說有對無對法處盡。

辨婆沙有漏無漏處第二十五

有漏法者無漏法者。何以故作此論。答曰。斷計我人事故。現大妙智。斷計我人事故。此是有漏法。無漏法非是我現大妙智者。謂行智成就智。彼此二句知一切法。謂此俱攝一切法。具足一切法。以是故作此論。復何以故作此論。答曰。欲令斷他意。或有欲令佛身一向無漏。辨婆閣婆提欲令佛身一向無漏。問曰。何以故。彼欲令爾。答曰。彼從佛契經起已。欲令佛身一向無漏。佛說契經。如來生世間長世間。不著世間法。如來無所著等。正覺出一切世間上。彼從此契經起。欲令佛

身一向無漏。欲斷彼意。故於此佛身說有漏。問曰。若佛身是無漏者。當有何答。答曰。若佛身一向無漏者。彼無喻女不應起。姪意。驚掘。魔不應起。瞋恚。慢高兒不應起。憍。憍羅迦。葉不應起。癡意。如此此中或有著。或有瞋。或癡。或有慢。以是故知佛身是有漏。問曰。若佛身一向有漏者。此辨婆閣婆提契經云何。通。答曰。彼契經因法身故說。如來生世間長世間者。此說生身不著世間法。如來無所著等。正覺出一切世間上者。此說法身。或曰。離世八法。故說世八法者。隨順世間。世間亦隨順八法。八法雖順世尊。然世尊不隨順八法。是謂離八法。故說世八法者。利不利。稱不稱。譽不譽。樂苦。此世八法攝十八界十二入五陰。此總說世八法攝十八界十二入五陰。但利有二種。有衆生數。非衆生數。衆生數。利者。象馬牛羊。犛牛。奴婢。妻子。利是衆生數。非衆生數。利者。穀珍。寶金。銀水。琉璃。摩尼。真珠。車渠。馬瑙。是非衆生數。利。於中衆生數。利。攝十八界十二入五陰。非衆生數。利。攝六界六入二陰。稱不稱。譽不譽。樂苦。攝一界一入二陰。彼一切總已說。世八法攝十八界十二入五陰。世八法者。利不利。稱不稱。譽不譽。樂苦。問曰。利云何。答曰。前已說利有二種。衆生數。非衆生數。此已得當得今得。是謂為利。非利云何。答曰。如此法非已得。非當得。非今得。是謂非利。稱云何。答曰。面稱其德。是謂稱。譽云何。答曰。面稱其德。是謂稱。譽云何。答曰。不面前稱揚其德。是謂譽。不譽云何。答

曰。不面前說其過。是謂不譽。樂云何。答曰。樂痛六識。身樂是謂樂。苦云何。答曰。苦痛六識。身是謂苦。說曰。世世此八法一向是欲界。問曰。若世八法一向是欲界者。當除欲界。結時世八法亦盡。何以獨說世尊離世八法。不說聲聞。答曰。離相似故說。說者若二阿羅漢根等。一者極得供養。二者不具供養。於彼一者起相似不如慢。二者起相似增上慢。如佛世尊得供養。一切衆生有是供養。世尊無者。世尊於彼不起相似慢如毛髮想。是謂離相似。故說世尊離世八法。不說聲聞。問曰。世尊亦有世八法。世尊有利者。一日中優伽長者三百千供養。不利者。婆羅門村如漢鉢入還空鉢出。若三月食麥。有稱者始生時。至阿迦。貳吒。功德香稱充滿其中。不稱者。曰旃遮女孫陀利女。十六大國醜名流布。不譽者。喜罵梵志。以五百罵。佛。譽者。彼還以五百讚。佛。如是婆利多者。譽者。為首。如是。比。曰。千以百千讚。佛。樂者。一切生死。禪最為樂。苦者。金。刺。足。疹。患。脊。風。頭痛。調達以惡傷足出血。何以故。說世尊離世八法。耶。答曰。為意不傾動。故說。世尊以四利為首。不自貢高。四不利為首。不以損減。四利為首。不以歡喜。四不利為首。不以憂感。四利為首。心無染著。四不利為首。心無憎惡。四利為首。亦不悅豫。四不利為首。亦不愁。四利為首。不與樂想。四不利為首。不以為苦。如須彌山王。時金剛輪。四種風吹不能傾動。如是世尊善住戒德輪。世八法風不能移轉。是

●經一淫● (隨)十順● ●察二滿● ●車渠馬瑙一碎碎● ●車渠一車渠● ●德一得● ●婆羅門一婆羅門● ●波羅門一波羅門● ●武二賦● ●日二因● ●比十(五)● ●日二百● ●解二捨● ●刺二刺● ●調二誦● ●惡二德● ●二邑● ●時二時● ●種二動●

謂意不傾動故說世尊離世八法。是謂斷他
 意見已意說如等法故作此論。莫令斷他意
 亦莫現己意。但說如等法故作此論。有漏法
 無漏法者。問曰。有漏法云何。答曰。十入二入
 少所入。問曰。無漏法云何。答曰。二入少所
 入。問曰。何以故說有漏無漏法。答曰。謂有增
 受長養有是有漏。謂能滅壞破有是無漏。謂
 有能相續有輪轉生死是有漏。謂能斷有相
 續。能斷輪轉生死是無漏。謂有身見種顛倒
 種愛種使種。貪處患處癡處。雜汚雜毒雜
 濁在有墮苦習諦是有漏。謂非身見種非顛
 倒種非愛種非使種。非貪處非患處非癡處。
 非雜汚非雜毒非雜濁非在有不墮苦習諦是
 無漏。或曰。謂苦習趣道有習趣道貪習趣道
 生老死習趣道是有漏。謂苦盡趣道有盡趣
 道貪盡趣道生老死盡趣道是無漏。尊者婆
 須蜜說曰。有漏相云何。答曰。有漏所生是有
 漏相。重說曰。此生於有漏是有漏相。重說曰。
 有所長養相是有漏相。重說曰。長養有相是
 有漏相。重說曰。謂種因有漏生是有漏相。無
 漏相云何。答曰。非有漏所生是無漏相。重說
 曰。不生有漏是無漏相。重說曰。謂種因無漏
 生是無漏相。廣說有漏無漏法處盡

*轉婆沙有為無為法處第二十六

有為法者無為法者。問曰。何以故作此論。答
 曰。斷計我人事故。現。大妙智故。斷計我人
 意者。此是有為法。無為法非是我現大妙智
 者。若行智成就智。彼以此二句知一切法。謂
 此俱攝一切法。具足一切法。是謂斷計我人

意見大妙智故作此論。有為法無為法者。有
 為法云何。答曰。十一入及一入少所入。問曰。
 無為法云何。答曰。一入少所入。問曰。何以故
 說有為法無為法。答曰。謂墮生老無常是有
 為。謂不墮生老無常是無為。或曰。謂興衰法
 有因得有為相是有為。謂非興衰法無因得
 無為相是無為。或曰。謂轉世。作行受。果知
 緣是有為。謂不轉世不作行不受果不知緣
 是無為。或曰。謂墮世是有為。謂不墮世是無
 為。或曰。謂墮陰是有為。謂離陰是無為。或
 曰。謂苦縛是有為。謂離苦是無為。或曰。謂前
 後可得是有為。謂前後不可得是無為。或曰。
 謂。軟中上是有為。謂離。軟中上是無為。尊
 者婆須蜜說曰。有為相云何。答曰。墮陰相是
 有為相。重說曰。墮世相是有為相。重說曰。災
 患相是有為相。無為相云何。答曰。不墮陰相
 是無為相。重說曰。不墮世相是無為相。重說
 曰。不災患相是無為相。重說曰。不憂。感相
 是無為相。重說曰。不愁無慮安隱相是無為
 相。廣說有為無為法處盡

*轉婆沙三世處第二十七

過去法者當來法者現在法者。問曰。何以故
 作此論。答曰。斷他意故。謂不欲令有過去未
 來。於世有愚說現在無為。斷彼意故。此過去
 未來真實說有種相。問曰。若過去未來非種
 者當有何答。答曰。若彼非種者。不應緣彼有
 意生。何以故。謂意無境界。若無境界生意
 者。是則無所依而生意。若無所依無所緣而
 生意者。應阿羅漢入無餘涅槃已還生意。何

以故。謂彼無依無緣而生意。若彼生意者。是
 則無脫無離不得出要。莫言有答。是故有過
 去未來真實有種有相。復次若無過去未來
 者當有何答。答曰。若彼非種者。不應有成就
 不成就。如二頭三手六陰十三入無成就不
 成就。如是若過去未來非種者。彼應無成就
 不成就。若彼成就不成就。是故以此可知有
 過去未來真實有種有相。謂彼欲令過去未
 來非種者。應當爾詰。若爾時因現在。彼時果
 何所在。過去耶未來耶現在耶。若說有過去
 者。是則有過去。莫言無過去。若言無過去者。
 此事不然。若說未來者。是則有未來。莫言無
 未來。若言無未來者。此事不然。若說有現在
 是則一時有因有果。若一時有因有果者。如
 世尊所說偈

作惡不即受 如薩闍乳酪
 罪惡燒所追 如灰覆火上

與此偈相違彼作惡不即受。如薩闍乳酪者。
 有說者。有草名薩闍。若末著乳中已即時成
 酪。作惡不如是即受。問曰。若不爾者云何。答
 曰。罪惡燒所追。如灰覆火上者。如以灰覆火
 初下足冷謂足。下轉。轉下便燒。如是衆生
 生死作惡行而樂中轉。捨身已生惡趣受惡
 果報。若非過法未來現在者。是故應無果。若
 無果者是故彼因不實。如二頭三手六陰十
 三入。或有常如無為。若爾時果現在。彼時因
 何所。在。過去耶未來耶現在耶。若說有過去
 者。是則有過去。莫言無過去。若言無過去者。
 此事不然。若說未來者。是則有未來。莫言無

●大二太● ●作二非● ●果二果● ●軟二滿● ●感二滅● ●末二未● ●〔下〕一● ●轉下二下轉● ●在二有●

未來。若言無未來者。此事不然。若說有現在者。是則一時有因有果。若一時有因。果者。如世尊所說偈

作惡不即受 如薩闍乳酪

罪惡燒所追 如灰覆火上

與此偈相違彼作惡不即受。如薩闍乳酪者。有說者。有草名薩闍。若末著乳中已即時成酪。作惡不如是即受。問曰。若不爾者云何。答曰。罪惡燒所追。如灰覆火上者。如以灰覆火初下足冷謂足下轉轉下便燒。如是衆生生死作惡行而樂中轉。捨身已生惡趣受惡果報。若非過去未來現在者。是故應無因。若無因者是故彼果不實。如二頭三手六陰十三入。或有常如無爲。或曰。若過去未來非種者。是則無有學道。如尊者婆須蜜所說偈

若無去來 是則無師 謂無師者

終無學道

或曰。若過去未來非種者。是則知已虛妄。如佛所說偈

言無過去 設有年歲 豈非是常

知已妄語

彼是無智果癡果闇果不勳果。謂欲令過去未來非種。但過去未來真實有種有相。是謂斷他意現已意說如等法故作此論。莫令斷他意。亦莫現已意。但說如等法。故作此論。過去未來法現在法。問曰。過去法云何。答曰。過去十八界十二入五陰。未來法云何。答曰。未來十八界十二入五陰。現在法云何。答曰。現在十八界十二入五陰。問曰。若此行無來

去無住。若來者是則來不應去。若去者是則去不應來。如尊者婆須蜜所說偈

行終不來 斯由空故 亦無有去 終則不住

若行無去來云何立三世。答曰。因行故立三世。如彼法未作行是說未來。若作行是說現在。若作行已滅是說過去。如眼未見色是說未來。若見是說現在。若見已滅是說過去。如是至意。若未來種是說未來。若現在種是說現在。若種已滅是說過去。如未生不去是說未來。如生未去是說現在。如生已去是說過去。如未生不沒是說未來。如生未沒是說現在。如生已沒是說過去。如未生不壞是說未來。如生未壞是說現在。如生已壞是說過去。如未起不去是說未來。如起未去是說現在。如起已去是說過去。如未起不沒是說未來。如起未沒是說現在。如起已沒是說過去。如未起不壞是說未來。如起未壞是說現在。如起已壞是說過去。因此可知一切如所說。比丘。有生真實有作有爲思緣起盡法衰法無欲法滅法壞法。此不壞者。無有是處。彼有生者即是生。真實者諦有是。有作者有爲是。有爲者災患是。思者因思念是。緣起者因緣是。盡法衰法無欲法滅法壞者要當有是。此不壞者終不自在。或曰。謂三世前是說過去。謂三世後是說未來。謂三世中是說現在。或曰。謂三世果是說未來。謂二世果是說現在。謂一世果是說過去。或曰。謂三世因是說過去。謂二世因是說現在。謂一世因是說未來。

問曰。如此二世一損可知。二增可知。一損可知者未來是。二增可知者過去是。何以故。未來不滅過去不滿。尊者婆須蜜說曰。頗有數爾所過去。未來爲不數。而作是念。增減可知耶。但過去未來無量故增減不可知。如大海以百千瓶器取彼水增減不可知。如是過去未來無量故增減不可知。重說曰。當來未生故滅不可知。過去增故滿不可知。重說曰。當來未起故滅不可知。過去沒故滿不可知。尊者曇摩多羅說曰。諸尊若世有二種者。應有增減。可知但因事合會故法生而滅。問曰。爲未起而起耶。爲已起而起耶。若未起而起者。何得法不有法而有。若已起者。何得法不轉還有。作此論已。答曰。因事故已起而起。因事故未起而起。因事故已起而起者。謂一切法各自有種性相住。因事故未起而起者。謂未來中起一切未來是未起。問曰。爲所有起彼即滅者。爲未來起即未滅耶。若所有起更餘滅者。爲色起痛滅耶。爲至行起識滅耶。作此論已。答曰。因事故謂所有起即滅。因事故所有起更餘滅。因事故謂所有起即滅者。謂色起色滅痛想行識起識滅。因事故所有起更餘滅者。謂未來起現在滅。陰故所有起即滅。世故所有起更餘滅。問曰。爲世起耶。爲世中起耶。若世起者。何得不有餘世餘行。若世中起者。應有捨有。作此論已。答曰。因事故世起。因事故世中起。因事故世起者。謂時起彼即是世。因事故世中起者。謂未來世中起

①(有)十果 ②即二有 ③薩闍乳酪一薩乳人酪酪 ④末一未 ⑤是則一則是 ⑥(說)一 ⑦非二有 ⑧三二二 ⑨* ⑩二一 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

彼當來世空。問曰。為已性中起耶。為他性中起耶。若已性中起者。何得性非有性。亦不有性而有性。若他性中起者。應有捨有。作此論已。答曰。非已性中起。亦非他性中起。問曰。若非已性中起。亦非他性中起者。此云何。答曰。彼法已性起已即滅。問曰。彼過去未來為合聚。如今現在屋舍房室牆壁樹木耶。為離散耶。若合聚如今現在屋舍房室牆壁樹木者。檀越施法何得不空。何得不有方處可見。何得不有常存。若過去未來離散不如現在合聚者。云何說過去。如是彼有過去世時。有拘舍婆提王城名善法講堂。王名善見。云何說當來。如是彼有當來世時。雞頭末王城。王名蟻伽。佛名慈氏。如來至真等正覺。過去境界宿命智云何立。未來境界妙願智云何立。又未來離散者。爾時彼法從未來世至現在世。何得不合時無而有離散時有而無。作此論已。有一說者。彼過去未來合聚。如今現在屋舍房室牆壁樹木。問曰。若爾者。檀越施法何得不空。答曰。顯示故不空也。問曰。何得不有方處。答曰。有方處。問曰。何故不見。答曰。不多作行故不見。若多行者便見。問曰。何得不有常存。答曰。時變不。停故不常存。更有說者。彼過去未來離散現在者一合聚。問曰。若過去未來離散者。云何說有過去。如是彼有過去世時。有拘舍婆提王城名善法講堂。王名善見。答曰。如前現在時有觀而說。問曰。云何說當來。如是彼有當來世時。雞頭末王城。王名蟻伽。佛名慈氏。如來至真等正覺。答曰。

彼亦如後現在時有觀而說。問曰。過去境界宿命。智云何立。答曰。彼亦如前現在時有觀而說。問曰。未來境界妙願智云何立。答曰。彼亦如後現在時有觀而說。問曰。若未來離散者。爾時彼法從未來世至現在世。何得不合時無而有離散時有而無。答曰。謂一切法已性種相住也。此說有四種薩婆多。一者事異。二者相異。三者時異。四者異事異者說。彼法與世隨轉時事。便有異非種異。如乳成酪變時味有異色不異。如是彼法從當來世至現在世。彼捨當來事不捨種。從現在世至過去世。彼捨現在事不捨種。相異者說。彼法世隨轉時過去時。成就過去相。非不成就未來現在相。當來時成就當來相。非不成就過去現在相。現在時成就現在相。非不成就過去未來相。如人染著一女。餘者非不染著。此亦如是。時異者說。彼法與世隨轉時隨時得名。時故非種故。如算子初下位一轉十至百千。彼一算子隨轉時得名。如一女人亦名為女亦名為婦亦名為母亦名為大母。彼一女人隨時得名。如是彼法隨時得名。時故非種故。說曰。此最亂施設世。此因行立三世。如彼法未作行是說未來。若作行是說現在。如作行已滅是說過去。是故此最亂施設世。異異者說。彼法隨世轉時說異異。非時故非種故說者。此最亂施設世。此說者未來一時。現在世二。現在一時。過去二。此一世中施設。三世。此最亂施設世。廣說三世處盡。

善法者不善法者無記法者。問曰。善法云何。答曰。善五陰及數緣盡。不善法云何。答曰。不善五陰。無記法云何。答曰。無記五陰及虛空非數緣盡。問曰。何以故說善法不善法無記法。答曰。謂生善趣彼是善。謂生不善處是不善。謂不生善處亦不生不善處是無記。或曰。謂善有芽及解脫。芽轉成。謂不善有芽轉成是不善。謂亦非善非不善有芽轉成是無記。或曰。謂善果及樂痛果是善。謂不善果及苦痛果是不善。謂非善果亦非樂果。非不善果亦非苦果。是無記。或曰。四事故說是善。一者性。二者相應。三者等起。四者第一義性者。或有說。慚愧性是善。或有說。三善根性是善。相應者。謂彼相應心數法。等起者。謂等起身行口行。第一義者。涅槃安隱義故說善。尊者跋。際亦爾說。

善性是智 相應。識俱 起身口行

涅槃第一

四事故。說不善性相應等起第一義性者。或有說。無慚無愧性是不善。或有說。三不善根性是不善。相應者。謂彼相應心數法。等起者。謂彼等起身行口行。第一義者。一切生死不安隱故說不善。尊者跋。際亦爾說。

不善性智 相應識俱 起身口行

生死第一

餘者無記。尊者瞿沙說曰。謂法正思惟性。正思惟相應。正思惟等起。正思惟所依果報果是善。謂法非正思惟性。非正思惟相應。非正思惟等起。非正思惟所依果報果是不善。餘

①室二空 ②停二亭 ③智二知 ④際二際 ⑤識二識

者無記。或曰：謂慚愧性。慚愧相應。慚愧等起。慚愧所依。果報是善。謂法無慚愧性。無慚愧相應。無慚愧等起。無慚愧所依。果報是不善。餘者無記。或曰：謂法三善根性。三善根相應。三善根等起。三不善根所依。果報是不善。餘者無記。或曰：謂法五根性。五根相應。五根等起。五根所依。果報是善。謂法五蓋性。五蓋相應。五蓋等起。五蓋所依。果報是不善。餘者無記。彼施設亦說善者。何以故善。答曰：善果愛果意樂果意欲果。以是故善。已說果。今當說報。復次善報愛報意樂報意欲報。以是故善。不善者。何以故不善。答曰：不善果不愛果意不樂果意不欲果是不善。已說果。今當說報。復次不善報不愛報不樂報不意欲報。不意欲報是不善。餘者無記。問曰：何以故說無記。如佛世尊。此苦一向記。此習盡道一向記。復次爾所一切謂十二入。佛亦一向記。一向分別。一向施設。一向顯示。何以故說無記。答曰：不以不說故名爲無記。問曰：若不爾者。此云何。答曰：善者記於善。不善者記於不善。此無記者不記善亦不記不善。是無記。或曰：善者二事故。記性及果。不善亦二事故。記性及果。此無記雖性記非果記。以是故無記。或曰：善者生善趣。不善者生惡趣。此無記者不生善趣亦不生惡趣。或曰：善者受善報。不善者受不善報。此無記者不受善報亦不受不善報。以是故說無記。說曰：或

復不說故名無記。如彼契經。梵志至世尊所。到已而問。瞿曇。世是常耶爲非常耶。世尊告曰：梵志。此是無記。云何瞿曇。世有邊耶爲無邊耶。世尊告曰：梵志。此是無記。云何瞿曇。是命是身耶。爲命異身異耶。世尊告曰：梵志。此是無記。云何瞿曇。如來終耶如來不終耶。如來終不終耶。如來亦不終亦不不終耶。世尊告曰：梵志。此是無記。如說。云何瞿曇。世是常耶爲非常耶。世尊告曰：梵志。此是無記。問曰：何以故不說。答曰：斷異學意故。異學至世尊所而問。云何瞿曇。人是常耶人非常耶。世尊作是念。我若說無人者。彼當言我不問此有以無。我若說常無常者而無有人。何得有常無常。如有問人。士夫石女兒有恭敬耶。善言耶。彼人作是念。我若作是說。石女無有兒。彼當言我不問女有兒無兒。我若說有恭敬有善言。而石女無有兒。何得有恭敬善言。如是異學至世尊所而問。云何瞿曇。人是常爲非常耶。世尊作是念。我若言有人。彼當言我不問有無。我若言常無常。而無有人。何得有常無常。此是不實問。非實論。非真諦問。非真諦論。是謂不實。不真諦故。世尊不記。如說。如說。云何瞿曇。世有邊耶世無邊耶。是命耶是身耶。爲命異身異耶。世尊告曰：梵志。此是無記。問曰：何以故世尊不記。答曰：斷異學意故。異學至世尊所而問。是命耶是身耶。爲命異身異耶。世尊作是念。我若說有身無有命。彼當言我不問此有無。我若言命異身異而有身無有命。何得身異命異。如有人問。云

何士夫牛角兔角相似不。彼人作是念。我若言牛有角兔無角。彼當言我不問此誰有誰無。我若言等相似。而牛角兔無角。何得等相似。如是異學至世尊所而問。是命耶是身耶。爲命異身異耶。世尊作是念。我若言有身無有命。彼當言我不問此有無。我若言命異身異。而有身無有命。何得身異命異。此是實問不實問。實論非實論。真諦問不真諦問。真諦論非真諦論。是謂實不實。真諦不真諦。故世尊不記。如說。云何瞿曇。如來終耶如來不終耶。如來終不終耶。如來亦不終亦不不終耶。世尊告曰：梵志。此是無記。問曰：世尊何以故不記。答曰：斷異學意故。異學者欲令法無有而有。彼異學至世尊所而問。云何瞿曇。此人無有而有耶。爲有而有耶。何此而無有而有。如是有而無耶。爲有而有。爲有已常耶。世尊作是念。無有此無有而有。此亦無有。有已而有常。此是不實問。不實論。非真諦問。非真諦論。是謂不實。不真諦故。世尊不記。此是不說故。謂之無記。謂佛說謂佛演說佛分別施設顯示。說曰：此說四論記。一者一向記論。二者分別記論。三者詰問記論。四者止記論。一向記論者。若有作是問。如來至真無所著等正覺耶。世尊善說法耶。如來弟子善向耶。一切行無常一切法無我涅槃息滅耶。此當爲一向記。是謂一向記論。何以故一向記論。答曰：此論趣義趣法趣智趣等覺趣涅槃。是故一向記論。分別記論者。若作是問。法過去耶。當

◎善十(善)◎◎不意二意不◎◎記一說◎◎記二說◎◎說一記◎◎[如說]一◎◎爲二無◎◎何此而二云何此如◎◎◎[有]一◎◎

為彼分別記。何以故。答曰。過去法者。或善或不善或無記。或欲界繫或色界繫或無色界繫。或學或無學。或非學非無學。或見斷或思惟斷或不斷。是謂分別記論。詰問記論者。若作是問。法過去耶。當還詰彼賢士問何法。何以故。過去法者。或善或不善或無記。或欲界繫或色界繫或無色界繫。或學或無學。或非學非無學。或見斷或思惟斷或不斷。是謂詰問記論。問曰。分別記論詰問記論何差別。答曰。正無差別。問差降故便有差別。問者二種。或有欲知而問。或有觸燒而問。欲知而問者。彼若言為我說法。當語彼多法。或過去未來現在。我當為說何者。若言為我說過去。當語彼過去法亦多。或有色陰至識陰。我當為說何者。若言為我說色。當語彼色亦多。或善或不善或無記。我當為說何者。若言為我說善色。當語彼善色亦多。或離於殺至不知時言。我當為說何者。若言為我說離殺。當語彼離殺亦多。或不貪生或不恚生或不癡生。我當為說何者。若言為我說不貪生。當語彼不貪生亦多。或有教或無教。我當為說何者。謂彼欲知而問。為彼法性分別開。不善記令彼知。有觸燒而問者。彼若言為我說法。當語彼多法。當為說何者。不應語彼過去未來現在。若言為我說過去。當語彼過去法亦多。我當為說何者。不應語彼或有色陰至識陰。若言為我說色。當語彼色亦多。我當為說何者。不應語彼或善或不善或無記。若言為我說善。當語彼善色亦多。我當為說何者。不應

為彼說或離於殺至不知時言。若言為我說離殺。當語彼離殺亦多。我當為說何者。不應語彼或不貪生或不恚生或不癡生。若言為我說不貪生。當語彼不貪生亦多。我當為說何者。不應語彼或有教或無教。謂彼觸燒問應當爾令彼或自答或默然住。是謂答故無差別。問差降故便有差別。止記論者。若作是問。云何瞿曇。世是常耶世無常耶。世尊告曰。梵志。此是無記。云何瞿曇。世有邊耶世無邊耶。是命是身耶。命異身異耶。如來終耶如來不終耶。如來終不終耶。如來亦不終亦不不終耶。世尊告曰。梵志。此是無記。是謂止記論。何以故止記論。答曰。此論不趣義不趣法不趣智不趣等覺不趣涅槃。是故止記論。問曰。云何此論名記論。謂此中不答一句。答曰。此是如等法第一義答謂默然。問曰。何以故。答曰。謂默然伏於彼。何況記而不伏。說者有異學名傷毘羅。為論故至罽賓。彼時。足晝林有阿羅漢尊者跋修羅。得三明三藏六通。離三界結。於內外法盡學知。彼傷毘羅聞此林中。有如此大論師。彼作是念。當往而問。彼到已共尊者跋修羅。相慰勞已却坐一面。却坐一面已。語尊者跋修羅。比丘。我等誰當先立論。我耶汝耶。尊者跋修羅曰。我是主人我應先立論。然汝是客令汝先立論。彼便先立論。說曰。一切論當有詰論。尊者跋修羅默然住。傷毘羅弟子便舉聲言。伏沙門伏沙門。尊者跋修羅說曰。傷毘羅還去。汝傷毘羅者自當知。彼時傷毘羅便還去不遠作是念。不知彼沙

門何所說。傷毘羅還去。汝傷毘羅者自當知。傷毘羅復作是念。我立此論一切論當有詰論。我此論有咎有諍有過。彼沙門若作是論。彼亦有此咎。彼傷毘羅告弟子曰。彼沙門得我便來。當共往禮彼沙門。弟子對曰。師衆中。得勝。何用禮彼沙門為。傷毘羅曰。寧從智者伏。不從愚者勝。彼傷毘羅便還至尊者跋修羅所。舉身投地已。說曰。汝為我師。我為弟子。汝得勝我不如。是謂或應默然而成論。況復記說而不成論。是故說如等法第一義答謂默然。是廣說善不善無記處盡。

* 裨婆沙欲界色界無色界繫法處第二十九
欲界繫法者。色界繫法者。無色界繫法者。問曰。欲界繫法云何。答曰。欲界繫五陰。色界繫法云何。答曰。色界繫五陰。無色界繫法云何。答曰。無色界繫四陰。問曰。何以故說欲界繫法。何以故說色界繫法。答曰。因欲繫足。是故說欲界繫。因色繫足。是故說色界繫。因無色繫足。是故說無色界繫。足者結也。如所說偈

若已盡不生	已盡不將隨
彼佛無量行	無跡何跡將
若叢深枝灑	無愛可將隨
彼佛無量行	無跡何跡將

如有足者。彼能趣東西南北。如是若有結足者。彼便趣諸界趣諸生趣輪轉生死中。是故說因欲界繫足是欲界繫。因色無色界繫足是色無色界繫。或曰。因欲繫縛。是故說欲界繫。因色繫縛。是故說色界繫。因無色

◎正十(故)◎, 正二答故◎, (答)十正◎ ◎足二是◎ ◎第一當◎ ◎ (已)十得◎ ◎一子◎

繫縛。是故說無色界繫。如繫人在堅柱堅
杙。彼因堅柱堅杙說是縛。如是因欲繫縛
是故說欲界繫。因色繫縛是故說色界繫。因
無色繫縛是故說無色界繫。或曰。謂有欲樂
是欲界繫。謂有欲樂是色界繫。謂有欲樂是
無色界繫。欲者愛樂者見。或曰。謂欲界著所
著情所惜已所已是欲界繫。謂色界著所著
情所惜已所已是色界繫。謂無色界著所著
情所惜已所已是無色界繫。或曰。謂欲界垢
雜垢汚雜汚毒雜毒是欲界繫。謂色界垢雜
垢汚雜汚毒雜毒是色界繫。謂無色界垢雜
垢汚雜汚毒雜毒是無色界繫。廣說欲界色
無色界繫法處盡

* 禪婆沙學無學非學非無學法處第三十

學法者無學法者非學非無學法者。問曰。學
法云何。答曰。學五陰。無學法云何。答曰。無
學五陰。非學非無學法云何。答曰。有漏五陰
及無爲。問曰。何以故說學無學非學非無學。
答曰。謂不貪道學斷貪是學。謂不貪道不學斷
貪是無學。餘者非學非無學。或曰。謂不志道
學斷志是學。謂不志道不學斷志是無學。餘
者非學非無學。或曰。謂不癡道學斷癡是學。
謂不癡道不學斷癡是無學。餘者非學非無
學。或曰。謂道學斷愛非愛本是學。謂道學斷
愛者。以此別無學。道非愛本者。以此別世。俗
道。謂道不學斷愛亦非愛本。是無學。謂道不
學斷愛者。以此別學。道亦非愛本者。以此別
世俗道。餘者非學非無學。或曰。謂不離愛意
中無漏法可得是學。謂離愛意中無漏法可

得是無學。餘者非學。非無學。或曰。謂結得縛
意中無漏法可得是學。謂結得不縛意中無
漏法可得是無學。餘者非學非無學。或曰。謂
攝見地思惟地是學。謂攝無學地是無學。餘
者非學非無學。或曰。謂攝見道思惟道是學。
謂攝無學道是無學。餘者非學非無學。或曰。
謂攝未知根已知根是學。謂攝無知根是無
學。餘者非學非無學。或曰。謂五人堅信堅法
信解脫見到身證意中無漏法可得是學。謂
二人慧解脫俱解脫意中無漏法可得是無
學。餘者非學非無學。或曰。謂七人四向三果
意中無漏法可得是學。謂一人意中無漏法
可得是無學。餘者非學非無學。或曰。十八人
意中無漏法可得是學。謂九人意中無漏法
可得是無學。餘者非學非無學。廣說學無學
非學非無學處盡

* 禪婆沙見斷思惟斷不斷法處第三十一

見斷法者思惟斷法者不斷法者。問曰。見斷
法云何。答曰。謂堅信堅法觀時忍斷。此云何。
見斷八十八使及彼相應法。是謂見斷法。思
惟斷法云何。謂學見迹思惟斷。此云何。思惟
斷十使及彼相應法。是謂思惟斷法。不斷法
云何。答曰。虛空不數緣盡數緣盡。學法無學
法。是謂不斷法。問曰。何以故說見斷思惟
斷。如見不離思惟。思惟不離見。見者是慧。思
惟者是不放逸。何者真實。答曰。此中說真實。
少見道者慧多不放逸。少思惟道者不放逸
多慧少。是故說此中真實少。更有說者。此中
說等真實。見道者所有慧亦與不放逸等。思

惟道者所有不放逸與而慧等。是故說此中
等真實。見斷法者思惟斷法者。尊者婆須蜜
說曰。如見四聖諦時斷一切結。何以故說見
斷法思惟斷法。答曰。以見斷以見除以見
捨。是故說見斷。復有作是說。亦思惟斷亦
見斷。但以見斷以見除以見捨。是故說見斷
何以故說思惟斷者。答曰。彼即以道修習多
修習。數數斷少少斷品品斷稍稍漸漸斷
令薄。是故說思惟斷。復有作是說。見斷亦思
惟斷。但彼即以道修習多修習。數數斷少少
斷品品斷稍稍漸漸斷令薄。是故說思惟
斷。何所說。答曰。彼作是說。見道是利道。彼
始起以一種慧斷九種結。思惟道是鈍道。彼
數數行以九種慧斷九種結。如二刀截一處。
一利二鈍利者始下便斷。鈍者數數下乃斷。
如是見道是利道。彼始起以一種慧斷九種
結。思惟道是鈍道。彼數數行以九種慧斷九
種結。更有說者。見道亦九種慧斷九種結。思
惟道亦九種慧斷九種結。引多中毒誰不欲
一時吐。問曰。若爾。有何得見道是利道。答
曰。所以見道是利道者。如思惟道以九種慧
斷九種結。如是見道亦以九種慧斷九種結。
但速於彼。是故說見道是利道。如是說者此
不論。如前說。如見道以一種慧斷九種結。思
惟道以九種慧斷九種結。或曰。謂道多見斷
結。是謂見斷。謂道思惟多斷結。是思惟斷。或
曰。謂道三相。眼明慧相斷結是見斷。謂道四
相。眼明智相斷結是思惟斷。或曰。謂道四
相。眼明覺慧相斷結是見斷。謂道五相。眼明

① 杖一我 ② 說欲一欲說 ③ 明註曰法下南藏有法字 ④ 俗道二道俗 ⑤ 是二者 ⑥ 學一 ⑦ 如十何 ⑧ 日一
⑨ 是二見 ⑩ 九種斷十九 ⑪ 有二者 ⑫ 如二好

覺智慧相斷結是思惟斷。或曰。謂忍斷結是見斷。謂智斷結是思惟斷。或曰。謂未知根斷結是見斷。謂已知根斷結是思惟斷。或曰。謂結如方便破石是見斷。謂斷結如方便挽藕絲是思惟斷。或曰。未見諦見諦時斷結是見斷。謂已見諦見諦時斷結是思惟斷。或曰。謂大力斷結如摩訶能伽是見斷。謂斷結如履坏器上是思惟斷。或曰。謂斷結時修異智修異知修異行是見斷。謂斷結時修不異智修不異知修不異行是思惟斷。或曰。謂向不成就果斷結是見斷。謂向成就果斷結是思惟斷。或曰。謂非稍稍斷是見斷。謂稍稍斷結是思惟斷。或曰。謂堅信堅法斷結是見斷。謂信解脫見斷。身證斷結是思惟斷。或曰。謂始起道斷結是見斷。謂數數起道斷結是思惟斷。或曰。謂斷結攝四沙門果是見斷。謂斷結或攝三果或二或一。是思惟斷。或曰。謂道斷結不替是見斷。謂道斷結或替不替是思惟斷。或曰。謂已斷結不退是見斷。謂已斷結或退或不退是思惟斷。或曰。謂已解脫不復縛是見斷。謂已解脫或縛或不縛是思惟斷。或曰。謂已離不繫是見斷。謂已離或繫或不繫是思惟斷。或曰。謂斷結時忍無礙道智解脫道是見斷。謂斷結時智無礙道智解脫道是思惟斷。或曰。謂斷結時智方便道智無礙道智解脫道是見斷。謂斷結時智方便道智無礙道智解脫道是思惟斷。或曰。謂斷結時四行修道是見斷。謂斷結時十六行修道是思惟斷。或曰。謂斷結時緣一一諦修道是見斷。

謂斷結時緣四諦修道是思惟斷。或曰。謂斷結時一。相似修道是見斷。謂斷結時相似不相似修道是思惟斷。或曰。謂斷結時修三昧是見斷。謂斷結時修三三昧是思惟斷。或曰。謂斷結時不住是見斷。謂斷結時或住不住是思惟斷。餘者無斷。廣說見斷思惟斷無斷處盡。

轉婆沙論卷第七

轉婆沙論卷第八

* 阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

四聖諦處第三十二之一

四諦者。苦諦智諦盡諦道諦。問曰。四諦有何性。阿毘曇者說曰。五盛陰是苦諦。有漏因是智諦。數緣滅是盡諦。學無學法是道諦。譬喻者說曰。名及色是苦諦。行及結是智諦。行及結滅是盡諦。止及觀是道諦。轉婆聞婆提說曰。八苦相是苦是苦諦。餘苦雖苦非苦諦。當來。有愛是習是智諦。餘愛及除有漏法。雖習非智諦。當來有愛滅是盡是盡諦。餘愛及除有漏法滅雖盡非盡諦。學八種道是道是道諦。餘學法及一切無學法雖道非道諦。問曰。如汝說阿羅漢應不成就二諦。智諦及道諦不成就智諦者。謂彼當來有愛是智諦。彼阿羅漢除欲時當來有愛盡也。不成就道諦者。謂彼學八種道是道諦。彼阿羅漢得果時

捨學八種道。尊者瞿沙說曰。已陰及他陰。衆生數非衆生數。彼一切苦是苦是苦諦。但觀時觀已陰。不觀他陰。衆生數非衆生數。問曰。何以故爾。答曰。謂彼觀是苦此他陰衆生數非衆生數不能生苦無命。此他陰衆生數非衆生數。於此已陰生苦。若無此已陰者。彼他陰衆生數非衆生數當生何苦。以是故。彼作此智。生經中設數已陰極生苦。他陰不如此。因已陰他陰生苦。不因他陰已陰生苦。以是故觀已陰不觀餘。謂已陰因及他陰衆生數非衆生數。彼一切習是智智諦。但觀時觀已陰因。不觀他陰衆生數非衆生數。謂已陰盡。及他陰衆生數非衆生數盡。彼一切是盡是盡諦。但觀時觀已陰盡。不觀他陰衆生數非衆生數盡。謂已陰道及他陰衆生數非衆生數道。彼一切是道是道諦。但觀時觀已陰道。不觀他陰衆生數非衆生數道。如是說者。謂已陰及他陰。衆生數非衆生數。彼一切是苦是苦諦。觀時亦盡觀。

問曰。如彼觀時觀苦。彼他陰衆生數非衆生數不生苦當何觀。答曰。設不生苦。但彼一切有無智欲令生智。有疑欲令生定。有誘欲令生信。復次何得他陰衆生數非衆生數不生我苦。若他手以足打我者。我寧不生苦耶。如是若於上若木若石墮我上者。我寧不生苦耶。以是故謂已陰及他陰衆生數非衆生數彼一切是苦。是苦諦觀時盡觀苦相故。謂已陰因及他陰。衆生數非衆生數因彼一切是習。是智諦觀時盡觀本末故。謂已陰盡

①明註曰斷下南藏有見字 ②斷二到 ③三二一 ④替二智 ⑤相二時 ⑥[之一]一 ⑦明註曰數南藏作諸 ⑧有二愛 ⑨命二令 ⑩習十(習) ⑪(苦)十盡 ⑫若二苦 ⑬明註曰若南藏作苦

及他陰。衆生數非衆生數盡彼一切是盡。是盡諦觀時盡觀止相故。謂已陰道及他陰。衆生數非衆生數道彼一切是道。是道諦觀時盡觀出要相故。此是諸諦性。已種相所有自然。說性已當說行。何以故說諦。諦有何義。答曰。實義是諦義。審義如義不顛倒義不虛義是諦義問曰。若實義是諦義者。虛空非數緣盡亦實亦審。亦如彼何以故不立諦。答曰。謂法癡癡因離癡能離癡。癡者是苦諦。癡因者是習諦。離癡者是盡諦。能離癡者是道諦。彼立諦。彼虛空非數緣盡非刺非刺因非離刺非離癡非離癡。是故彼不立諦。或曰。謂法。刺刺因離刺能離刺。刺者是苦諦。刺因者是習諦。離刺者是盡諦。能離刺者是道諦。彼立諦。彼虛空非數緣盡非刺非刺因非離刺非離癡非離癡。是故彼不立諦。或曰。謂法。病病因離病能離病。病是苦諦。病因是習諦。離病是盡諦。能離病是道諦。彼虛空非數緣盡非病非病因非離病非離病。是故彼不立諦。或曰。謂法。災患災患因離災患能離災患。災患者是苦諦。災患因者是習諦。離災患者是盡諦。能離災患者是道諦。彼虛空非數緣盡非災患非災患因非離災患非離災患。是故彼不立諦。或曰。謂法。苦若因離苦若能離苦。苦者是苦諦。苦因者是習諦。離苦者是盡諦。能離苦者是道諦。彼虛空非數緣盡非苦若因非離苦若能離苦。是故彼不立諦。或曰。謂法。陰陰因離陰能離陰。陰者是苦諦。陰因者是習諦。離陰者是盡諦。能離

陰者是道諦。彼立諦。彼虛空非數緣盡非陰非陰因非離陰非離陰。是故彼不立諦。或曰。謂此岸彼岸河筏。此岸者是苦諦。彼岸者是盡諦。河者是習諦。筏者是道諦。彼立諦。彼虛空非數緣盡非此岸非彼岸非河非筏。是故彼不立諦。或曰。彼虛空非數緣盡。無漏故不攝苦諦習諦。無記故不攝盡諦。無爲故不攝道諦。或曰。彼虛空非數緣盡。常故非三諦。無記故非盡諦。或曰。彼虛空非數緣盡。非陰故非三諦。無記故非盡諦。或曰。彼虛空非數緣盡。非世故非三諦。無記故非盡諦。或曰。謂法喜處緣及厭處緣。彼立諦。彼虛空非數緣盡非喜處緣亦非厭處緣。以是不立諦。或曰。謂法邪見及無漏見緣是立諦。彼虛空非數緣盡非邪見亦非無漏見緣。是故彼不立諦。或曰。謂法。是因是果彼立諦。彼虛空非數緣盡非是因是果。是故彼不立諦。問曰。若不顛倒義是諦義者。不應顛倒諦所攝。以顛倒故。答曰。行故相貌故一向顛倒住故說顛倒。如彼有審實種相。如是諦所攝。或曰。如彼有因有果。是諦所攝。如無常計常苦計樂不淨計淨無我計我如是說顛倒。問曰。若不虛義是諦義者。不應虛諦所攝。以虛故。答曰。姦偽欺誑一向佞諂住故說妄語。如彼有審實種相。是諦所攝。或曰。如彼有因有果是諦所攝。如不見言見見言不見。不聞言聞聞言不聞。不分別言分別分別言不分別。問曰。若不知言知知言不知。是說妄語。是謂實義是諦義。審義如義不顛倒義不虛義是

諦義。問曰。苦有何相。習盡道有何相。尊者婆須蜜說曰。逼迫相是苦相。本末相是習相。止相是盡相。出要相是道相。重說曰。已轉成是苦相。當轉相是習相。離行相是盡相。能離行相是道相。重說曰。已成輪轉生死是苦相。當輪轉生死是習相。已離輪轉生死是盡相。能離輪轉生死是道相。尊者曇摩多羅說曰。諸尊。處所中作諦相。彼五盛陰。堆阜如鐵團。入三苦依在內雜如鐵團著火中。火入鐵同火色。觀苦當如是。此苦行所轉結所變易有所趣連續有。此合會有當觀習諦。中起離結行不復連續有。此合會有當觀是盡諦。修習止觀知與衰法有因得盡。此合會有當觀道諦。是故說諸尊處所中作諦相。如世尊所說偈

一諦無有二 謂衆生疑
難陀觀諸諦 我說非沙門

問曰。如四諦。何以故佛說一諦無有二。尊者波奢說曰。一一諦故。世尊說一諦無有二。一諦者是苦諦。更無二苦諦。一諦者是習諦。更無二習諦。一諦者是盡諦。更無有二盡諦。一諦者是道諦。更無有二道諦。是故世尊說一諦無有二。或曰。一諦者是盡諦。斷多計解脫意故。異學欲令多有解脫無身無量意淨聚無。想聚世尊說彼非解脫非出要非離。唯有第一義解脫。謂盡諦是。是謂斷多計解脫意故。世尊說一諦無二。或曰。一諦者道諦是。斷多計道意故。異學欲令多有道。不食臥灰上叉手隨日月服氣食果裸形臥棘上著

刺二刺(下)同 (處)一(一) (語)二(說) (說)二(記) (堆)一(埠) (拍) (想)二(相) (之)十(是) (是)十(是)

弊草衣。世尊說此非道是惡道此不可依非
 是人所行惡人所行。唯一第一義道。謂道諦
 是。是謂斷多計道意故。世尊說一諦無二。如
 世尊所說契經。二諦等諦第一義諦。問曰。云
 何等諦云何第一義諦。答曰。等諦者。苦諦習
 諦等入此中。謂婦人男子小兒小女。若來若
 去若坐若住現種種行。第一義諦者。盡諦道
 諦。更有說者。等諦者三諦。彼盡亦說如城現
 如彼岸。第一義諦者是道諦。更有說者。一切
 四諦是等諦。亦第一義諦彼道諦。亦說如。椽
 觀。如山。是故一切四諦是等諦。亦第一義
 諦。苦諦習諦中等如前所說。婦人男子小兒
 小女。若來若去若坐若住現種種行。第一義
 者。無常苦空非我。因習有緣盡諦中等如所
 說。如園觀彼岸城。三耶三佛所說第一義者。
 盡。止妙離。道諦等者如所說。椽大石山。生
 七花成八種水第一義者。道正趣出要。是故
 一切四諦中。趣等亦。趣第一義。問曰。若一
 一切四諦中起等亦起第一義者。彼等應有十
 八界十二入五陰第一義。亦應有十八界十
 二入五陰。彼等諦第一。義諦何差別。尊者
 婆須蜜說曰。等諦者是諸法名。第一義諦是
 諸法性。重說曰。等諦者是俗數。第一義諦者
 賢聖數。等諦第一義諦是謂差別。問曰。彼
 等於第一義中是第一義耶。為非耶。若等於
 第一義中是第一義者。應有一諦。是第一義
 諦無有二諦。若等諦於第一義中非第一義
 者。亦應有一諦。是第一義諦無有二諦。作此
 論已答曰。有此等於第一義中是第一。若等

諦於第一義中非第一義者。如來說二不是
 真實。若如來說二真實者。是故可知等諦於
 第一義中是第一義。問曰。若等諦於第一義
 中是第一義應有一諦。是第一義諦無有二
 諦。答曰。是一諦第一義諦。問曰。若是一諦第
 一義諦者。云何如來說二諦。答曰。因事故如
 來說二諦若事是等諦。此事非第一義諦。若
 事第一義諦。此事非等諦。如一痛說四緣。因
 緣次第緣增上緣所緣緣。彼雖一痛說四緣。
 但若事因緣非此事乃至增上緣。若事增上
 緣非此事乃至因緣。如是一痛說六因。相應
 因共有因自然因一切遍因報因所作因。彼
 雖一痛說六因。但若事相應因非此事乃至所
 作因。若事所作因非此事乃至相應因。如是
 一諦第一義諦。若事等諦非此事第一義諦。
 若事第一義諦非此事等諦。尊者陀羅難提
 說曰。性名等諦。苦諦習諦所攝。如世尊契經
 所說。異學梵志梵志有三諦。云何為三。此異
 學梵志梵志作是說。不害一切眾生。若異學
 梵志梵志作是說。不害一切眾生。是謂異學
 梵志梵志一諦。復次異學梵志梵志作是說。
 我於他無所為他於我無所為。若異學梵志
 梵志作是說。我於他無所為他於我無所為。
 是謂異學梵志梵志二諦。復次異學梵志梵
 志作是說。諸所習法皆是盡法。若異學梵志
 梵志作是說。諸所習法皆是盡法。是謂異學
 梵志梵志三諦。問曰。此中云何說梵志云何
 諦。答曰。梵志者外。諦者即此三。餘者盡虛
 妄更有說者。梵志者此內法。諦者即此三。世

尊說契經斷異學意故。異學自言是梵志。常
 逼促他為齋故。殺牛亦殺羊雞猪。亦殺種種
 眾生為齋故。世尊說逼促他非梵志。謂不害
 一切眾生。是第一義梵志。異學自言是梵志。
 有所為故行梵行。為天女為天食。世尊說。若
 有所為故行梵行非梵志。謂無所著無所愛
 無所為行。梵行。是第一義梵志。異學自言是
 梵志。著斷滅計常。世尊說。若著斷滅計常非
 梵志。謂諸所習法皆是盡法。是謂第一義梵
 志。是謂梵志。此內法諦者即此三。佛說契經
 斷異學意故。或曰。此中說三分法身戒身定
 身慧身。彼不害一切眾生者是戒身。我不為
 他他不為我者是定身。諸所習法皆是盡法
 者是慧身。如三身三戒三思惟亦爾。或曰。
 此中說三三昧方便。空無願無相。彼不害一
 切眾生者。是空三昧方便。我不為他他不
 為我者。是無願三昧方便。諸所有習法皆盡
 者。是無相三昧方便。或曰。此中說根本三三
 昧。空無願無相三昧。彼不害一。切眾生者。
 是空三昧。我不為他他不為我者。是無願三
 昧。諸所習法皆是盡法者。是無相三昧。以是
 故此中說根本三三昧。如佛契經說。此是已
 行正法。所謂廣說四諦。問曰。何以故說已正
 行。答曰。謂已行者已修德行非因他修道。是
 謂說已正行。問曰。云何知。答曰。有佛契經。契
 經中有頭陀梵志。到世尊所而說偈言
 我觀世天人 梵志行無積
 我今禮大仙 拔我疑網刺

● 椽觀一筏現 ● 如二在 ● 止二上 ● 椽一筏 ● 趣一起 ● 義一者 ● 梵行二梵志 ● [切]一

如是愛起生死。盡道。以故爾。或曰。謂愛性壞散。有為能合會。如以水合會性散壞沙如是此愛性壞散。有為能合會以故爾。或曰。謂愛潤漬一切生死不萎乾。如水潤漬一切藥草樹木不萎乾。如是愛潤漬一切生死不萎乾。以故爾。或曰。謂愛潤漬種子生有萌芽。如水漬種子萌芽得生。如是愛潤漬種子生有萌芽以故爾。或曰。謂愛若意中著。彼餘結皆著。如衣有膩塵垢染著。如是此愛謂意中著。彼餘結皆著以故爾。或曰。謂愛若意中樂。彼餘結皆樂。如有水處蝦蟇魚樂中。如是謂愛若意中樂。彼餘結皆樂以故爾。或曰。謂愛受三有種名。彼初者名為愛種。廣者名為受種。已滅者名為無明種。謂愛受三有種名以故爾。或曰。謂愛說如羅網說水說灑。如所說比丘。我當為說愛羅網水灑。謂此眾生所纏裹陰蓋覆。弊以故爾。或曰。謂說不可計如所說。偈

本有斯一愛 此愛便有二
愛為連鉤鎖 彼愛不可計

謂說愛不可計以故爾。或曰。謂愛說廣如所說偈。問曰

廣無過於地 深無能踰海
高無出須彌 力無勝那延
佛答偈曰

廣無過於愛 腹為難可滿
僑慢最增上 大士無勝佛

或曰。謂愛染污一切正受增上主。如阿昆曇所說味相應初禪。當言入味耶。當言起味耶。

答曰。若味是入已味是起。味相應乃至有想無想處。當言入味耶。當言起味耶。答曰。若味是入已味是起。謂愛染污一切正受增上主以故爾。或曰。謂依愛於母胎有所依。因父母不淨便有精以故爾。或曰。謂愛持去狂愚如羅刹女。如所說。伽彌尼持去者是愛。以故爾。或曰。謂愛當來有依欲令得當來身樂欲樂欲已願求。願求已便轉成。以故爾。或曰。謂愛界斷地斷斷根斷。以故爾。或曰。謂愛盛一切結以故爾。或曰。謂愛為首說十法。如所說阿難因愛求因求利因利計。按因計按欲因欲著因著慳不捨因慳不捨家因家守。因守故阿難便知。便知有刀杖。因有刀杖便鬪諍。諍諍欺誑。妄言意中便生無量不善法。以是故佛契經。一切有漏種獨一當來有愛立習諦。愛盡苦盡聖諦云何。謂此愛當來有喜欲俱無斷捨吐盡無欲滅止沒。問曰。如此亦習盡何以故世尊說苦盡不說習盡。答曰。應說如說苦盡習盡亦爾。若未說者是世尊有餘言。此現義義門義略。當知義。或曰。為教化者。令彼欲故。如佛說。苦盡。如是受化者聞已欲得盡。彼作是念。彼盡極妙。謂離此弊惡苦。以是故佛契經說苦盡不說習盡。苦盡道聖諦云何。謂八聖道。是正見正志正語正業正命正方便正念正定。問曰。如此習盡道。何以故說苦盡道不說習盡道。答曰。應說如說苦盡道說習盡道亦爾。若未說者。是世尊有餘言。此現義義門。義略義度當知義。或曰。彼習此中已說。謂離習無有苦。離苦

無有習。已說苦盡道。當知已說習盡道。或曰。為教化者令彼欲故。如佛說苦盡道。如是受化者聞已欲得道。彼作是念。彼道極妙。謂能斷此弊惡苦以故爾。或曰。不受苦時現道功故。彼道問其義。能令因不作因耶。能令果非果耶。道義答曰。我不能令因不作因。不能令果非果。但所因及緣生苦者。彼緣彼因要當壞彼更不復受苦。更不復與苦相續。更不復與苦作因。是謂不受苦現道功故。以故爾。或曰。斷誑謗故說苦盡道。謂七歲八歲得阿羅漢果。於彼上或百歲在生死中多受苦。世間者誑謗彼道。何所能而令彼受爾所苦。世尊說謂道所應為已為斷當來苦。壽盡已更不復受苦。更不復連續苦。更不復與苦作因。是謂斷誑謗故佛契經說苦盡道非說習盡道。如世尊契經說。謂無量種種善法和合。彼一切盡攝入四聖諦。四聖諦者於彼說第一。謂攝故。諸野來生足一切盡攝入象足中。象足者於彼說第一。謂廣大故。是故諸無量種善法和合。彼一切盡攝入四聖諦。四聖諦者於彼中說第一。謂攝故。問曰。設使有三聖諦有為和合。彼盡諦無為云何和合。答曰。假使不和合。但攝故名為和合。或曰。此說得故。雖彼盡諦不和合。但彼得是和合。是謂得和合故說。或曰。和合說二有和合起和合。此三諦二和合。有和合起和合。彼盡諦起和合。但有和合。是謂有和合。故如世尊契經說。慧根當何所觀。四聖諦是。問曰。為攝故說。為緣故說。若攝故說者。不應慧根攝四聖諦。亦非四

①〔謂〕一② ③愛二受④ ⑤弊二蔽⑥ ⑦傷十(日)⑧ ⑨〔如〕一⑩ ⑪妄二妄⑫ ⑬義十(義)⑭ ⑮苦二如⑯ ⑰(若)十義
⑱是故二如是⑲ ⑳諦十(諦)㉑ ㉒故十(說)㉓

聖諦攝慧根若緣故說者。是一切法緣。作此論已答曰。非攝故說。亦非緣故說。問曰。若不爾者此云何。答曰。因事故。此慧根事。得四聖諦增上主。是故世尊說。慧根何所觀四聖諦是。如信根事得四不壞信增上主。是故世尊說。信根何所觀。四不壞信是。精進根事於四意斷增上主。是故世尊說。精進根何所觀。四意斷是。念根事於四意止增上主。是故世尊說。念根何所觀。四意止是。定根事於四禪增上主。是故世尊說。定根何所觀。四禪是。如是此慧根於四聖諦增上主事。是世尊說。慧根何所觀。四聖諦是。云何四。謂苦聖諦習盡道聖諦。問曰。如前因後果。何以故世尊前說苦後說習。答曰。此苦是故以前說。習細是故後說。如人前射射箭泥團草。束然後能射著毛不僻錯。如是此苦是。彼學已然後觀習細。問曰。如前修道然後盡作證。何以故世尊前說盡作證後說修道。答曰。謂觀盡觀道隨順。問曰。云何觀盡觀道隨順。答曰。彼行者前盡作證已。然後求道。當以何道得至涅槃。如人欲進路時。問他人土當示我道。彼還問欲至何所。曰。我欲至某城。彼曰。此是道。已知彼城說道易。如是若前說道後說盡。便不知趣何道。如前說盡後說道。已知盡便修道易。或曰。彼行者因道前除三諦癡。然後道道緣現。在前。謂除道諦癡。如人先見他面不自見面。以明淨鏡自照其面。如是彼行者彼因道先前除三諦癡。後道道緣現在前。謂除道諦癡。以是故世尊前說盡後說道。問曰。如前斷習

後知苦。何以故世尊前說知苦後說斷習。答曰。欲拔苦根本故。如樹前執持枝葉後斷其根。如是生死樹前知苦已後斷習。以故爾。或曰。謂此觀苦能來觀習。觀習已能來觀盡。觀盡已能來觀道。道不可以不觀苦而觀習。或曰。謂苦慧能來習盡道慧。不可以不起苦慧能起習盡道慧。或曰。謂觀苦觀習盡道方便門依。不可以不起苦觀能起習盡道觀。或曰。謂觀苦觀習盡道。因根將本作緣有習等起。不可以不起苦觀能起習盡道觀。或曰。謂觀苦。習盡道生持等持增長養。不可以不起苦觀能起習盡道觀。或曰。謂苦癡能執持習盡道癡。不可以不除苦癡能除習盡道癡。或曰。謂苦不癡能令習盡道不癡。不可以苦不癡能令習盡道不癡。尊者波奢說曰。彼行者觀五陰如癡已然後求因。此從何生。觀從習生。云何令無。謂滅盡涅槃。云何至。謂聖八道種。如人身中生癰極苦痛膿血流出。彼求所因此從何生。觀知或風寒熱。云何令無安隱處。云何至安隱。或服藥吐下或破。如是彼行者觀五陰如癡已後求因。此從何生。觀從習生。云何令無。謂滅盡涅槃。云何至。謂八聖道種。復次行者觀五陰如患已後求因。此從何生。觀從習生。云何令無。謂滅盡涅槃。云何至。謂八聖道種。如人有兒作賊凶暴隨惡知識後求因誰壞我兒。觀從惡知識生。誰能制之。觀善知識是。如是彼行者觀五陰如患已後求因。此從何生。觀從習生。云何令無。謂滅盡涅槃。云何至。謂八聖道種。以是故彼

行者前知苦已後斷習。斷習已次盡作證。盡作證已後修道。以是故前說苦後說習盡道。轉婆沙論卷第八

轉婆沙論卷第九

阿羅漢尸陀槃尼造

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

四聖諦處第三十二之餘

如世尊契經說。當知苦如阿毘曇說如以智知一切法。何以故世尊說獨說知苦。答曰。觀時故此說二種時。觀時分別時。如觀時如是佛契經說。當知苦如分別時。如是阿毘曇說以智知一切法。復次說二種隨順。觀隨順分別隨順。如觀隨順如是佛契經說。當知苦如分別隨順。如是阿毘曇說以智知一切法。或曰。一向無漏知。故佛契經說。當知苦有漏無漏。如是諍不諍世間出世間。住依欲出。一。要如是盡當知。或曰。知俗數故此說二種知。知俗數知第一義數。如知俗數。如是佛契經說。當知苦如知第一義數。如是阿毘曇說以智知一切法。云何知俗數。當知苦果是。當斷習者除一切結是。是謂俗數。云何第一義數。謂一切德是離一切結盡作證。能除一切世間根本是修。尊者波奢說曰。如世尊說。當知苦如阿毘曇說以智知一切法。何以故世尊說當知苦。答曰。斷生死根故。世尊說當知

① 東二來② ③ 彼二後④ ⑤ 道十(道)⑥ ⑦ (觀)十習⑧ ⑨ (論卷第)一⑩ ⑪ (阿羅漢...造)八字二(迦旃延子造)五字⑫ (阿羅漢...造)一⑬ ⑭ (符秦...譯)十一字一⑮ ⑯ (四聖諦...餘)十字二(四譯處下)四字⑰ ⑱ (一)一⑲ ⑳ 一切德二一功德⑳ 二切德㉑ ㉒ 道十(知)㉓

有盡趣道。貪趣道。盡生老死趣道。世俗道雖有思惟。但苦習趣道。有習趣道。貪習趣道。生老死習趣道。以是故世尊說思惟道不說世俗道。說曰。此說十六聖行。無常行苦行空行非我行。因行習行有行緣行。盡行止行妙行離行。道行正行趣行出要行。問曰。十六行有何性。有一說者慧性。謂說慧性者。彼慧是行能行他所行。謂彼相應法雖能行他所行。但非是行性非慧故。謂彼共有法雖有他所行。但非能行。非共緣故。亦非是行性非慧故。更有說者。心心法性。彼有說心心法性者。彼慧行能行他所行。謂彼相應法亦亦是行。能行他所行。謂彼。共有法。彼雖他所行非能行。非共緣故。非是行性非慧故。如一說如二如是好如前所說慧性。問曰。名十六行種有幾。一說者名十六行種七。謂苦行彼名亦四種亦四。謂習行名四種一。謂盡四行名四種一。謂道四行彼名四種一。是故名十六行種七。問曰。何以故苦行名四種亦四。答曰。謂此斷顛倒。猶如彼顛倒名四種亦四。彼治亦爾名四種亦四。如是說者名十六種亦十六。如名如種如是名數數種名相種種名異種異名別種別名覺種覺。如是盡當知。此是諸行性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說無常行。何以說乃至出要行。答曰。無常者說二事。時及緣。時者一時作事二時不作。緣者諸法性羸隨因及緣。苦者如病癱息也。空者內無作無教作。無覺無教覺。非我者不自在故。因者種子法故。習者來故。

有者流故。緣者轉成故。如泥團輪手水合已便成瓦器。此亦不盡者滅陰故。止者息三火故。妙者妙願滿故。一離者已離不更離故。道者除惡道故。正者除不正故。趣者向涅槃故。出要者出生死故。復次非常者非究竟住故。苦者勞厭重故。空者除我有見故。非我者除是我見故。因者來故。習者起故。有者可得故。緣者隨所緣故。盡者盡生死故。止者止苦火故。妙者善有常故。離者離生老無常故。道者求故。正者正住故。趣者趣城不移故。出要者安隱故。問曰。如苦四行無常苦空非我行。何以故說苦諦不說無常空非我諦。答曰。謂此行久遠行。以此行過去三耶三佛說苦諦。或曰。謂此苦行一向墮苦諦非餘。他無常行共墮三諦。空行及非我行共墮一切法中。此苦行一。同墮苦諦非餘。是故說苦諦非餘。或曰。謂此苦行一切能信。凡愚及慧。此法及外法以故爾。或曰。謂令極斷覺所覺行所行緣所緣根為根義。佛契經說。苦智彼所緣是苦諦。或曰。謂此行增捨有能除生死。如彼小兒與極妙食。若言當有苦彼便不欲。如是此苦行增捨有能除生死。以是故佛契經說苦諦。不說無常空非我諦。問曰。如習有四行因行習有緣行。何以故世尊說苦諦。不說因有緣諦。答曰。謂此行久遠行。以此行過去三耶三佛說苦諦。或曰。謂令極斷覺所覺行所行緣所緣根為根義。佛契經說。習智彼所緣是習諦。以是故佛契經說苦諦。不說因有緣諦。問曰。如盡有四行盡行止妙離行。何以故世尊

說盡諦不說止妙離諦。答曰。謂此行久遠行。以此行過去三耶三佛說盡諦。或曰。謂令極斷覺所覺行所行緣所緣根為根義。佛契經說。盡智彼所緣是盡諦。以是故佛契經說盡諦。不說止妙離諦。問曰。如道有四行道趣正出要行。何以故世尊說道諦。不說正趣出要諦。答曰。謂此行久遠行。以此行過去三耶三佛說道諦。或曰。謂欲令極斷覺所覺行所行緣所緣根為根義。佛契經說。道智彼所緣是道諦。以是故佛契經說道諦。不說正趣出要諦。說曰。此說涅槃無形。問曰。何以故說涅槃無形。答曰。聖所了故說無形。聖了彼自在身作證。無有能在前論說彼。是故聖所了故曰無形。或曰。離一切色故。故曰無形。此說四色。利利梵志居士工師。復次四色青黃赤白。彼中無有一色是離一切色。故曰無形。或曰。淨一切色故。曰無形。若利利修道彼得道果。梵志居士工師修道彼得道果。是離一切色故。故曰無形。或曰。亦非色不依色故。故曰無形。色法雖有形。非形依心心數法。雖依形非是形。彼涅槃亦不依色亦不依形。故曰無形。或曰。稱歎無量功德故。故曰無形。如人多有功德。說者此人功德多故不可具說。如是涅槃無量功德故。故曰無形。或曰。遍功德故。故曰無形。如摩尼遍有光明彼說無形。如是彼涅槃遍功德故。故曰無形。或曰。如此有為有因有果。彼涅槃無因無果故曰無形。或曰。如此有為法因故說果。果故說因彼涅槃非因故說果。非果故說因。故曰無形。說曰。彼涅

①[止]一 ②[共]二 ③[不]二 ④[爾]三 ⑤[同]二 ⑥[向]三 ⑦[聖]十 ⑧[慧]一 ⑨[覺]所 ⑩[說]二 ⑪[諦]三 ⑫[故]十 ⑬[利]二 ⑭[利]二 ⑮[故]二 ⑯[有]

沙門梵志。天及人魔梵及餘世間本所未轉。增益諸天種。減損阿須倫衆。聞此地神聲已。空中神四天王。三十三天。炎天兜術天。尼摩羅天化他應天。舉聲舉大音聲。此世尊於仙人住處鹿野苑中轉法輪。沙門梵志天及人魔梵及餘世間本所未轉。增益諸天種。減損阿須倫衆。即彼時。彼須臾頃一時聞聲徹梵天。此世尊於仙人住處鹿野苑中轉法輪。沙門梵志天及魔梵及餘世間本所未轉。增益諸天種。減損阿須倫衆。世尊轉法輪故。是故名轉法輪經。尊者曇摩多羅說曰。我觀世尊此所說法身毛皆豎。然世尊說義不違。譬喻不違。而此所說與義相違不次第。不與佛同。不與辟支佛聲聞同。於阿羅漢上三過說未知根。云何如此於阿羅漢上三過未知根現在前。我若欲捨此所說。然此所說世尊三阿僧祇行成此所說。然復有證。五比丘爲首。八十千天。若欲不捨。而此所說與義相違無次第。不與佛同。不與辟支佛聲聞同。於阿羅漢上三過說未知根。云何如此於阿羅漢上三過說未知根現在前。如所說五比丘。此苦本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此說未知根。五比丘當知。此苦本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此說已知根。五比丘。我已知苦。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此說無。知根。如是至道。如是三過說未知根。云何如此於阿羅漢上三過未知根現在前。如是此所說義相違不次第。不與佛同。不與辟支佛聲聞同。作此論已。不捨。但當改此

契經應當爾。五比丘。此苦習此苦盡此苦盡道。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。五比丘。當知彼苦。當斷習盡作證思惟道。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。五比丘。我已知苦習已斷盡已作證已思惟道。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。如是契經應爾。應爾已便有三轉及十二行。作如是說者。此契經不應改。本諸大論師有智強力者所不改。況復尊者曇摩多羅問曰。若不改此契經者。然此義相違無次第。不與佛同不與辟支佛聲聞同。於阿羅漢上三過說未知根。云何如此於阿羅漢上三過未知根現在前。答曰。此說二時說時觀時。如說時如是佛契經說。如觀時如是曇摩多羅所說。如是作已二俱好。尊者僧迦婆修說曰。此契經中不說未知根已知根無。知根。問曰。若不爾者此云何。答曰。佛契經說聞慧思慧。問曰。此契經說。五比丘。如我此。四諦三轉十二行生眼智明覺。五比丘。我自覺無上至真等正覺。云何佛以聞慧思慧。自覺無上至真等正覺耶。答曰。菩薩以聞慧思慧。極觀法極生法明。於法極除愚癡。謂菩薩於無上至真等正覺觀如等覺。觀如已成事。如人以濕皮覆面却已以婆羅覆面。謂障小色。如是菩薩以聞慧思慧。極觀諸法極生法明。於法極除愚癡。謂菩薩於無上至真等正覺觀如等覺觀如已成事。說曰。如所說五比丘。如我等覺觀如已成事。說曰。如所說五比丘。如此四諦三轉十二行生眼智明覺。問曰。如此應十二轉有四十八行。如說五比丘。此苦本

所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此一轉有四行。五比丘。此苦應當知。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此二轉四行。五比丘。我已知苦。本所未聞法。當正思惟時生眼智明覺。此三轉四行。是謂苦三轉十二行。如苦如是至道亦爾。如此應十二轉有四十八行。何以故。世尊說四諦三轉十二行。答曰。三轉十二法故。不過三轉十二行。觀一一諦故。世尊說四聖諦三轉十二行。如餘契經說。比丘七處善。應有三十五處善。亦有無量處善。但七法故不過七。觀一一陰故。世尊說比丘七處善觀三種義。速於此法中得漏盡。如餘契經說。七還有成須陀洹。彼不應七轉還有。應十四還有二十八還有。但法應七。故不過七。一一趣故。世尊說極七極七還有成須陀洹。如餘契經說當爲說法。謂有二眼及色耳聲鼻香舌味身細滑意法。此不應一二。應有六二。但二法故不過二。觀一一入故。眼及色故。乃至意及法故。如是此三轉十二行故。不過三轉十二行。觀一一諦故。世尊說四聖諦三轉十二行。彼生眼者爲見故。生智者爲決定故。生明者懸察故。生覺者覺了故。復次生眼者苦法忍。生智者苦法智。生明者苦未未知忍。生覺者苦未知智。如是至道亦爾。說曰。如所說拘隣知法未。拘隣對曰。已知世尊。已知善逝。問曰。何以故。世尊爲尊者拘隣說知未拘隣。答曰。欲令憶本昔誓故。說者菩薩本宿命時。名忍辱仙人。彼止山林中思惟行忍。彼

◎天及人◎及天人◎ ◎三二二◎ ◎尼二月◎ ◎〔彼〕一◎ ◎〔而〕十◎ ◎〔一〕十◎ ◎知一智◎ ◎〔論〕一◎ ◎三十(過)◎ ◎四諦二四聖諦◎ ◎斷二斷◎ ◎除十(除)◎ ◎〔七極〕一◎ ◎舌二香◎

時有王。名迦藍浮。將諸婦人眷屬圍遶到彼山林。無有男子純與婦人五樂自娛。彼娛樂已王疲極臥。諸婦人等知王眠已。捨王求華遊彼山間。遙見一處有菩薩。顏貌端正猶如日月。照於山林。在彼而住。見已便至菩薩所。到已頭面禮菩薩足。禮已却坐一面。於是菩薩爲其說法。愛欲不淨。此諸妹等。欲者不淨。臭處可厭。因起瞋恚。生無量苦。如是廣爲說。欲不淨。彼時迦藍浮王睡覺。不見諸婦人。彼作是念。咄此爲災。誰將諸婦人去。彼拔刀已往詣山間。推求遙見在菩薩前坐。彼作是念。此大鬼神所持。久見菩薩顏貌端正。諸女人等坐菩薩前。見已極生瞋恚。便至菩薩所。到已問菩薩曰。仙人得無想無想耶。對曰。不也。大王。得不用處識處空處耶。對曰。不也。大王。王曰。仙人得四禪三禪二禪一禪耶。對曰。不也。大王。彼作是念。咄此爲災。未棄結之人。見我婦人。王語菩薩曰。汝在此空靜處何所爲。而不得爾所功德。菩薩對曰。大王。我修行忍。王作是念。此見我瞋而言行忍。不可柔軟言。試此人忍。王向菩薩說曰。仙人。若行忍者。申右手。我當觀汝云何行忍。菩薩無恙意。即申右臂。王無慈心。棄捨後世。起極惡心。以利刀截手投足下。如是左手二足耳鼻割已。說曰。仙人何所願。菩薩對曰。大王。但有疲勞。汝取我身碎如胡麻。我終不捨於忍。如母愛子。但大王聽我誓願。而汝取我無過之人。以極利刀截身七分。如是我初得佛法。不久起大悲。思惟七種道斷汝七使。王作惡已離彼處。還

彼時山林中有異仙人在邊山。彼聞迦藍浮王加惡於忍辱仙人。於是。彼仙人至忍辱仙人所。到已問曰。仙人不極患身苦耶。忍辱仙人對曰。我無苦痛。仙人問曰。因有足故。知有行來。因有手知有取受。汝無手足耳鼻七分之餘。云何言無苦痛耶。忍辱對曰。不以身壞名爲苦痛。心壞乃爲苦痛。謂受地獄畜生餓鬼不善之果。復次汝等若有疑者。觀此瘡處。血淨流出如牛乳不。仙人問曰。汝遭被囚時。修何等意。菩薩對曰。彼王以利刀截我身。支節時。我於一切衆生修於大慈。仙人說曰。善哉。善哉。修習大行。緣汝斯行。饒益一切世間。仙人慰勞已。便還所止。仙人還不久。四大天王極大起。凍雹風雨。已至忍辱仙人所。到向忍辱仙人說曰。仙人當勸我等。我當壞彼迦藍浮王妻子眷屬國土人民。忍辱仙人身毛皆堅。說曰。謂我手足耳鼻斷身七分。我於彼不起毛髮之惡。況復彼國人民於我無過而欲加之。四大天王說曰。若不欲行惡。何得憂感止此山林。忍辱對曰。我但憂念彼迦藍浮王。何故彼作爾所惡。謂當受地獄極苦。謂菩薩轉後身已。乃至降魔成無上最正覺。覺已爲尊者。拘隣說法。尊者拘隣。遠塵離垢。諸法眼生。已說曰。拘隣謂昔截我手足耳鼻。斷身七分。我作誓願。汝取無過之人。斷身七分。我初得佛法。不久得大悲。修七種道斷汝七使。本所誓願。今爲果不。尊者拘隣慚愧羞恥。對曰。真果世尊。真果善逝。是謂欲令憶本誓。故世尊說拘隣知法未。如尊者拘隣見諦。彼時

世尊觀當來世知何者多。我三阿僧祇劫多耶。爲拘隣受當來陰界入身多耶。世尊觀拘隣受一阿鼻泥犁陰界入身多。非佛三阿僧祇劫。一時間須臾頃數多。世尊作是念。若我三阿僧祇劫苦行不作餘事。但脫拘隣爾所苦。於三阿僧祇果願已畢。世尊如是觀比丘拘隣。應當害一切衆生。一切衆生亦當害拘隣。比丘拘隣當食一切衆生。一切衆生亦當食拘隣。比丘拘隣當縛一切衆生。一切衆生亦當縛拘隣。若我三阿僧祇苦行不作餘事。但脫拘隣爾所苦。於三阿僧祇果願已畢。如所說此世尊於波羅捺捺仙人住處鹿野苑中轉法輪。問曰。轉法輪處一切三耶三佛定耶爲非定耶。若定者。定光如來契經云何通。彼說定光如來無所著。覺於燈王城。呵梨那山轉法輪。若不定者。彼尊者法實偈云何通。此處過去佛 第一初說法 作此論已。答曰。轉法輪處不定。問曰。若爾者。定光如來經善通尊者。法偈云何解。答曰。此不必通。非契經非毘尼。非阿毘曇。但彼作頌者。欲令句義合故。更有說者。此是常定處。如是說者。一切三耶三佛處常定。一金剛座處。二轉法輪處。三天上來下處。問曰。云何知金剛座處定。答曰。有契經說。過去時有王名頂生。彼領四天下得自在。與四種兵欲至天上。彼時輪住虛空。輪住已。一切四種兵亦住。四種兵住已。頂生王便恐怖。身毛皆豎。王作是念。將不亡失國耶。命不中天耶。爲諸天不

①貌二眼②苦二若③久又④起一⑤彼二後⑥足一⑦支二肢⑧到十已⑨忍二忍辱⑩生十(一切衆生)* ⑪[害拘]一⑫[食]一⑬燈二燈⑭法實一實⑮但作本文⑯生二來*

欲見我耶。於是彼空中天慰勞頂。*生王曰。大王勿恐。怖。大王勿恐怖。亦不亡失國。命。亦不中天。諸天非不喜見。頂。*生王問天曰。天若我無此災患者。何以故輪住空中。天對曰。大王此處一切恒沙。之如來。無所著等正覺。降魔官屬已成無上最正覺。是故此處一切衆生無能歷上者。是故輪住空中。於是頂。*生王還從上下已。即於彼處立鉢婆極大供養已。更從餘處飛昇天上。共釋提桓因半座。聞者三千六百釋命終。彼之故在座。以此經可知金剛座處常定。問曰。云何知轉法輪處常定。答曰。如法實偈所說。問曰。若爾者尊者法實偈善通。彼說定光如來無所著等正覺於燈王城訶梨那山轉法輪。答曰。彼燈王城者即是波羅捺。阿梨那山者。即是仙人住處鹿野苑。以此可知一切三耶三佛轉法輪處常定。問曰。云何知從天上。來下處常定。答曰。如所說於過去時衆多比丘同止彼處。少有所爲。雖彼處遊餘處。諸比丘去不久。餘異學入住彼處。彼衆多比丘於後時還來本處。語異學言。此是我處。異學亦說。此是我處。彼便共極大鬪諍。諸比丘厭諍已。語異學曰。當共作真諦言。有真諦者便得此處。異學言可爾。可爾。異學多作誠諦語而不成就。比丘說曰。聽我誠諦語。彼處有師子幢。彼諸比丘同一聲發誠諦語。以此真實之言。若一切恒沙三耶三佛爲母故及三十三天說法已來下初至此處者。以此真諦言令師子幢現有變化。彼時師子極大震吼。諸異學聞已驚怖畏懼。便捨

而走不入彼處。彼師子口極大吐花。花滿彼處。以此可知一切諸三耶三佛從天上下是常定處。以此事知。一切三耶三佛三處常定。金剛座處轉法輪處天上下處。問曰。如所說地神舉聲。彼時諸大天亦集近世尊座。如四大天王釋提桓因及大梵天首陀會天及餘極妙天龍鬼神近世尊座。諸地神坐處遠不近世尊。何以故地神前發音聲。答曰。此地神是彼諸天給使。是故彼前發聲。或曰。地神者不常定。是故彼前發聲。如大聚會極作伎樂。謂不常定人者。便速前舉聲笑。謂常定人然後摩序笑。如是地神非常定。是故前發音聲。除諸天常定。是故。最後發聲。或曰。地神。常當護菩薩故。說者謂菩薩兜術終已。生閻浮提迦羅衛國。不亂入母胎。彼時釋提桓因勸遮勒天子。汝遮勒五百青鬼。菩薩在母胎。常當擁護莫令有觸燒菩薩者。於是遮勒天子受釋教已。便勸五百青鬼。當往迦羅衛國擁護菩薩。彼諸青鬼菩薩在母胎。及生常擁護之。以佛轉法輪。地神作是念。菩薩在母胎及生。我等常擁護。此是我等疲勞所得功報。彼歡喜悅豫故前發聲。此世尊轉法輪問曰。聞此法已地神舉聲音徹梵天。何以故聲不過梵天。答曰。謂耳識現在前故聲徹也。過梵天上無有自地耳識現在前。或曰。梵天請佛轉法輪故聲徹梵天。首陀會天勸請菩薩。使成無上最正覺。謂與菩薩化作老病人死人及沙門。彼一切首陀會天所作。菩薩見老病死人及沙門已。厭患出家學道。至降魔官屬已成無

上最正覺。彼時首陀會天踊躍歡喜發大音聲。謂我等爲菩薩化作老病死人及沙門。是我等疲勞所得功德。以是故成無上正覺時。聲徹至首陀會天。大梵天請佛世尊轉法輪。彼踊躍歡喜發大音聲。此世尊轉法輪。是我等疲勞所得功報。以是故轉法輪時。聲徹梵天不過上。說者謂佛爲四天王故聖語說四諦。二知二不知。謂不知者爲曇羅國語說。一知一不知。謂不知者爲彌離車國語說。摩含兜。含。僧。含。摩。薩婆多。韓裂羅。此說苦邊盡知。問曰。世尊爲四天王說四諦聖語。爲有力耶無力耶。若有力者何以故爲二聖語說。一曇羅國。一彌離車國語說。若無力者本師偈云何通

一音聲說法 悉遍成音義
 彼各作是念 最勝爲我說
 一音聲說法者。是梵音也。悉遍音者。若有眞且人。彼作是念。謂佛作。眞且語說法。如是陀勒摩勒波勒佉沙。婆佉梨。謂彼處若有兜佉勒人。彼作是念。謂佛作兜佉勒語說法。現義者著欲者作是念。世尊說不淨。患者作是念。世尊說慈。癡者作是念。世尊說緣起。彼各作是念。最勝爲我說者。衆中作是念。世尊爲我故說法。是故說

一音聲說法 悉遍成音義
 彼各作是念 最勝爲我說
 作此論已。答曰無力。何以故。世尊不可以耳見色以眼聽聲。問曰。若無力者此偈云何通

①[怖]一② ②[亦]一③ ③[之]一④ ④阿二何⑤ ⑤來下二天下⑥ ⑥羅二羅⑦ ⑦摩二洋⑧ ⑧最一定⑨ ⑨常當二當常⑩ ⑩五二王⑪ ⑪首二前⑫ ⑫德二報⑬ ⑬彼二佉⑭ ⑭說語二語說⑮ ⑮含二含⑯ * ⑯眞且二眞且⑰ * 眞但⑱ ⑱婆二娑⑲ ⑲(一)一⑳

答曰。此偶不必通。偈者非契經非律非阿毘曇。但彼作頌者。欲令句義合故。此是讚佛非是實。如鞞婆闍提說諸佛不眠。以除陰蓋故。佛世尊亦常定故。如是更有說者。諸佛世尊不飲不食。除諸著味故。此是讚佛非是實。如是偈讚佛非是實。若通此偈者當何意。答曰。世尊所說應機捷速。世尊語極速。為一說已復為一說。如似一時。或曰。世尊語音一切音。各有境界應。適一切音。世尊極知。真且語勝生。真且中者。如是陀勒摩勒。波勒。佉沙婆。佉梨兒佉勒。世尊極知。佉勒語勝生。佉佉勒中者。以是故。說一音聲說法。悉遍成音義。更有說者世尊有力。問若爾者此偈為善通。何以故。世尊為四天王說四諦。為二聖語說。為一曇羅國語說。為一彌離車國語說。答曰。欲滿彼四天王意願故。二天王願世尊聖語為我說四諦。一願曇羅國語。一願彌離車國語。世尊常欲滿他一切善願。隨所欲而為說法。是謂滿四天王意願故。為二聖語說四諦。為一曇羅國語。為一彌離車國語說。或曰。斷他疑故。莫令有作是念。世尊但善於聖語。不能曇羅國語彌離車國語。是故斷他疑故。說我一切中自在。以故爾。或世尊教化。或為變身口或不變。謂不變身口者。若為彼變便不得度。以是故世尊以己力遊。朋者尸人間一日行十二由延。說者即彼日教化七十千人入聖法中。謂一切緣不變身口。謂教化變身口者。若為彼不變便不得度。以是故。世尊為四天王二聖語說。一曇羅語說。一彌離

車語說。說四諦時如是行觀時一切根本聖行。問曰。四聖諦幾性斷非緣斷。幾緣斷非性斷。幾性亦緣斷。幾亦非性斷亦非緣斷。答曰。性斷非緣斷。謂苦諦習諦無漏緣。此性斷非緣斷。緣斷非性斷者。謂道諦有漏緣。此緣斷非性斷。性斷緣斷者。謂苦諦習諦有漏緣。此性斷亦緣斷。非性斷亦非緣斷者。謂盡諦及道諦無漏緣。此非性斷亦非緣斷。廣說四諦處盡。

鞞婆沙論卷第九
四諦處盡

鞞婆沙論卷第十

*阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

四禪處第三十三

四禪者。初禪二禪三禪四禪。問曰。四禪有何性。答曰。五陰是性。此是禪性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說禪。禪有何義。為棄結故禪耶。為正觀故禪耶。若棄結為禪者。無色中亦有定謂能棄結。若正觀為禪者。欲界中亦有定謂能正觀。作此論已。有一說者。棄結故名禪。問曰。若棄結名為禪者。無色中亦有定謂能棄結。何以故不名為禪耶。答曰。謂棄二種結不善及無記。彼名為禪。無色中定雖棄無記結非棄不善。是故彼不名為禪。問曰。若爾者應依未來名為禪。彼棄二種結不善及無記。答曰。此說呵責棄故。此說二

種棄。斷棄呵責棄。彼依未來為欲界結故。二種棄。斷棄呵責棄。上地雖非斷棄。但是呵責棄。是謂呵責棄故。問曰。若爾者盡道法智分。一切未知智分不應是禪。謂彼欲界結亦非斷棄亦非呵責棄。答曰。莫具取界莫具取地。可得彼一界一地。欲界結斷棄呵責棄。彼無色中一時頃不得。謂此欲界結斷棄及呵責棄。尊者瞿沙說曰。一切六地欲界結斷棄亦呵責棄。但彼依未來生已棄欲界結。彼餘地當何所棄。彼亦能棄。但無結可棄。如一人有六怨家共謀議。若隨所得處當斷其命。彼初怨家斷此人命。餘者當何所斷。彼亦能斷。但無人當何所斷。如是一切六地欲界結斷棄呵責棄。但彼依未來生已棄欲界結。彼餘地當何所棄。彼亦能棄。但無結可棄。如人持六燈入冥室中。彼初明已棄。至冥餘燈當何所棄。彼亦能棄。但無冥可棄。如是一切六地欲界結斷棄呵責棄。但彼依未來生已棄欲界結。彼餘地當何所棄。彼亦能棄。但無結可棄。如一切日光壞諸闇冥。初日中日西日。但初光出已棄。夜闇冥。餘光當何所棄。彼餘光亦能棄。但無冥可棄。如是彼一切六地欲界結斷棄亦呵責棄。但依未來生已棄欲界結。彼餘地當何所棄。彼亦能棄。但無結可棄。或曰。禪者定可得。謂一切緣中定亦棄一切結。欲界定雖一切緣中定。但不棄結。無色界定亦不一切緣中定。亦不棄一切結。以是故不名為禪。或曰。謂禪者普智可得道。亦能棄結。欲界定雖普智可得。但無有道棄結。無色

①道二道 ②波二彼 ③法二法 ④問十(日) ⑤朋二明 ⑥(若)一 ⑦性十(斷) ⑧(亦)一 ⑨斷十(亦) ⑩至二室 ⑪夜二瓶

界雖有道能棄結。但無普智可得。謂禪中普智可得道亦棄結。或曰。謂三道可得此名為禪。非欲界無色界三道可得。是故彼不名為禪。或曰。謂三地可得此名為禪。非欲界無色界三地可得。是故不名為禪。或曰。謂三根可得此名為禪。非欲界無色界三根可得。是故不名為禪。或曰。謂三學可得增戒增定增慧。此名為禪。非欲界無色界三學可得。是故不名為禪。或曰。謂攝四。枝五枝五陰定可得。是故不名為禪。或曰。謂三示現可得。神足示現觀察示現。教授示現。此名為禪。非欲界無色界三示現可得。是故不名為禪。或曰。謂三神足可得。捷疾神足。捷疾神足。身。踊神足。意解神足者。如力士屈申臂頃。於中間至阿迦尼吒。意。捷疾神足者。如識旋轉諸界。於中間至阿迦尼吒。身。踊神足者。謂一切身。踊如鳥飛虛空如畫人飛。此名為禪。非欲界無色界三神足可得。是故不名為禪。或曰。謂具三十七道品可得彼名為禪。非欲界無色界具三十七道品可得。是故不名為禪。更有說者。正觀故名爲禪。問曰。若正觀名為禪者。欲界中亦有定謂能正觀。何以故不名為禪。答曰。欲界定雖有定名但無定用。如泥梁雖有梁名無有梁用。如是欲界定雖有定名而無定用。色界定既有定名而有定用。如木梁既有梁名而有梁用。如是色界定既有定名而有定用。或曰。欲界定燒亂不定。如四衢道然燈。四面風吹隨風東西。如是欲界定燒亂不定。色界定不燒亂。常定不動如室中燈。風所不

吹炎不東西。如是色界定亦不燒亂常定不動。或曰。欲界定不堅無力無士夫功。色界定堅固有有力有士夫功。以是故此名為禪。說曰。此名禪十八枝。初禪有五枝。覺觀喜樂一心。二禪有四枝。內淨喜樂一心。三禪有五枝。猗樂念正智一心。四禪有四枝。不苦不樂護念一心。問曰。禪枝名十八種有幾。答曰。禪枝名十八。種有十一。謂初禪五枝此名亦五種亦五。二禪增一枝。三禪三枝增樂念正智。四禪增二枝不苦不樂護。此禪枝名十八。種有十一。更有說者。禪枝名十八種有十。問曰。何以故。答曰。謂初禪二禪樂及三禪樂。此應同共立一枝。此者不論問曰。何以故。答曰。謂初禪二禪樂此是三禪樂者。應有禪枝名十八種有十。但初禪一禪樂異。三禪樂亦異。初禪二禪樂三禪樂。初禪二禪樂行陰所攝。三禪樂痛陰所攝。是謂禪枝名十八種有十一。如名如種。如是名數種種數名相種相。名異種異。名別種別。名覺種。覺如是盡當知。此是禪性已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說禪枝。禪枝有何義。答曰。順義是枝義。助行義是枝義。攝義是枝義。順義是枝義者。謂彼地定枝隨順即立彼地中。助行義是枝義者。此枝斷結除結時助彼定行。攝義是枝義者。此枝斷結除結時出入總攝。是謂順義助行義攝義是枝義。此應作四句。問曰。謂禪枝是道品耶。答曰。初禪有覺二禪信三禪樂四禪不苦不樂。此禪枝非道品。云何道品非禪枝。云何禪枝亦道品。答曰。餘枝此是

禪枝亦道品。云何非禪枝亦非道品耶。答曰。除此行已。問曰。謂初禪枝亦是道品耶。答曰。或初禪枝非道品。云何初禪枝非道品。答曰。初禪有覺此是初禪枝非道品。云何道品非初禪枝。答曰。信念精進護正見正語正業正命此是道品非初禪枝。云何初禪枝亦道品。答曰。餘枝此是初禪枝亦道品。云何非初禪枝亦非道品。除此行已。問曰。謂二禪枝是道品耶。答曰。或二禪枝非道品。云何二禪枝非道品。答曰。二禪信此是二禪枝非道品。云何道品非二禪枝。答曰。信念精進護正見正語正業正命此是道品非二禪枝。云何二禪枝亦道品。答曰。餘枝此是二禪枝亦道品。云何非二禪枝亦非道品。答曰。除此行已。問曰。謂三禪枝是道品耶。答曰。或三禪枝非道品。云何三禪枝非道品。答曰。三禪樂是三禪枝非道品。云何道品非三禪枝。答曰。信精進喜護正。志正語正業正命此是道品非三禪枝。云何是三禪枝亦道品。答曰。餘枝此是三禪枝亦道品。云何非三禪枝亦非道品。答曰。除此行已。問曰。謂四禪枝亦是道品耶。答曰。或四禪枝非道品。云何四禪枝非道品。答曰。四禪不苦不樂。此是四禪枝非道品。云何道品非四禪枝。答曰。信精進喜護正見正。志正語正業正命此是道品非四禪枝。云何是四禪枝亦道品。答曰。禪枝此是四禪枝亦道品。云何非四禪枝亦非道品。答曰。除此行已。問曰。謂禪枝是意止耶。答曰。或禪枝非意止。云何禪枝非意止。答曰。初禪有覺二禪信三禪

①枝二支②下同 ③得十(此名為禪非欲界無色界攝四支五支五陰定可得)④捷一捷⑤(捷)一⑥* ⑦誦二誦⑧* ⑨二二⑩⑪十(名)⑫枝十(答曰精進正語正業正命是道品非禪支)⑬志二智⑭枝二支⑮枝二支⑯下同

樂四禪不苦不樂。此是禪枝非意止。云何意止非禪枝。答曰。信精進正語正業正命。此是意止非禪支。云何禪支亦意止。答曰。餘支此是禪枝亦意止。云何非禪枝亦非意止。答曰。除此行已。如四意止意斷神足根力覺道亦如是。問曰。謂初禪枝是意止耶。答曰。或初禪枝非意止。云何初禪枝非意止。答曰。有覺此是初禪枝非意止。云何意止非初禪枝。答曰。信念精進護正見正語正業正命。此是意止非初禪枝。云何初禪枝亦意止。答曰。餘枝此是初禪枝亦意止。云何非初禪枝亦非意止。答曰。除此行已。問曰。謂二禪枝是意止耶。答曰。或二禪枝非意止。云何二禪枝非意止。答曰。二禪信此是二禪枝非意止。云何意止非二禪枝。答曰。信念精進護正見正語正業正命。此是意止非二禪枝。云何二禪枝亦意止。云何二禪枝亦非意止。答曰。餘枝此是二禪枝亦意止。云何非二禪枝亦非意止。問曰。謂三禪枝是意止耶。答曰。三禪樂是三禪枝非意止。云何意止非三禪枝。答曰。信精進喜護正見正語正業正命。此是意止非三禪枝。云何是三禪枝亦意止。答曰。餘枝此是三禪枝亦意止。云何非三禪枝非意止。答曰。除此行已。問曰。謂四禪枝亦是意止耶。答曰。或四禪枝非意止。云何四禪枝非意止。答曰。四禪不苦不樂。此是四禪枝非意止。云何意止非四禪枝。答曰。信精進喜猗正見正語正業正命。此是意止非四禪枝。云何是四禪枝亦是意止。答曰。餘枝此是四禪

枝亦是意止。云何非四禪枝亦非意止。答曰。除此行已。如四意止四意斷神足根力覺道亦如是。問曰。謂初禪枝亦是二禪枝耶。答曰。或初禪枝非二禪枝。云何初禪枝非二禪枝。答曰。初禪有覺有觀此是初禪枝非二禪枝。云何二禪枝非初禪枝。答曰。二禪信此是二禪枝非初禪枝。云何初禪枝亦二禪枝。答曰。餘枝此是初禪枝亦二禪枝。云何非初禪枝亦非二禪枝。答曰。除此行已。問曰。謂初禪枝亦是三禪枝耶。答曰。或初禪枝非三禪枝。云何初禪枝非三禪枝。答曰。初禪三枝有覺有觀喜。此是初禪枝非三禪枝。云何三禪枝非初禪枝。答曰。三禪三枝樂念正智。此是三禪枝非初禪枝。云何初禪枝亦是三禪枝。答曰。餘枝此是初禪枝亦三禪枝。云何非初禪枝亦非三禪枝。答曰。除此行已。問曰。謂初禪枝亦是四禪枝耶。答曰。或初禪枝非四禪枝。云何初禪枝非四禪枝。答曰。初禪有四枝有覺有觀喜樂。此是初禪枝非四禪枝。云何四禪枝非初禪枝。答曰。四禪有三枝。不苦不樂護念。此是四禪枝非初禪枝。云何初禪枝亦四禪枝。答曰。一心此是初禪枝亦是四禪枝。云何非初禪枝亦非四禪枝。答曰。除此行已。問曰。謂二禪枝亦三禪枝耶。答曰。或二禪枝非三禪枝。云何二禪枝非三禪枝。答曰。二禪有二枝信喜。此是二禪枝非三禪枝。云何三禪枝非二禪枝。答曰。三禪有三枝樂念正智。此是三禪枝非二禪枝。云何二禪枝亦是三禪枝。答曰。餘枝此是二禪枝亦三禪枝。云何非二

禪枝亦非三禪枝。答曰。除此行已。問曰。謂二禪枝亦是四禪枝耶。答曰。或二禪枝非四禪枝。云何二禪枝非四禪枝。答曰。二禪三枝信喜樂。此是二禪枝非四禪枝。云何是四禪枝非二禪枝。答曰。四禪有三枝。不苦不樂護念。此是四禪枝非二禪枝。云何二禪枝亦四禪枝。答曰。一心。此是二禪枝亦四禪枝。云何非二禪枝亦非四禪枝。答曰。除此行已。問曰。謂三禪枝亦是四禪枝耶。答曰。或三禪枝非四禪枝。云何三禪枝非四禪枝。答曰。三禪有三枝猗樂正智。此是三禪枝非四禪枝。云何四禪枝非三禪枝。答曰。四禪二枝不苦不樂護。此是四禪枝非三禪枝。云何是三禪枝亦四禪枝。答曰。餘枝此是三禪枝亦四禪枝。云何非三禪枝亦非四禪枝。答曰。除此行已。問曰。初禪有覺何以故不立道品。答曰。觀壞故。問曰。二禪信何以故不立道品。答曰。二禪信者緣內心。道品者緣四諦。問曰。三禪樂何以故不立道品。答曰。猗樂壞故。問曰。四禪不苦不樂何以故不立道品。答曰。護壞故。問曰。精進何以故不立禪枝。答曰。此前已說順義是枝義。此精進防定隨順。問曰。何謂定隨順。答曰。樂是如所說樂已心定。謂衆生慙慙精進彼少受樂。問曰。正語正業正命何以故不立禪枝。答曰。禪枝者相應依行己力共緣。正語正業正命者。不相應不依無行無己力不共緣。問曰。何以故初禪三禪五枝。二禪四禪四枝。答曰。前已說順義是枝義。謂法諸地隨順彼定此立枝。或曰。起隨順從五枝至五

枝。從四枝至四枝。問曰。謂三禪次第入空處。

彼從五枝起入無枝。何得隨順。答曰。一切內

外事要當初用隨順。說者月德王及遮勒大

臣。十二年學成就一金。凡然後師子吼。我等

能化令一切地為金。復次如彼行者。謂神足

智作證成神通時。始習初如胡麻。便一寸四

寸一尺二尺半尋一尋一丈丈五二丈。謂神足

智作證成神通已。一發意乃至阿迦。貳吒。如

是彼行者入超越時。要當初用隨順。從五枝

至五枝。從四枝至四枝以故爾。或曰。此欲界

難可斷難可破難可度。因彼故初禪立五枝。

初禪非難可斷非難可破易可度。是故二禪

立四枝。二禪染汚喜難可斷難可破難可度。

因彼故三禪立五枝。三禪非難可斷非難可破

非難可度。以是故四禪立四枝。或曰。此欲界

五欲可得。因彼故初禪立五枝。初禪。無五

欲可得。為彼故二禪立四枝。二禪五種喜相

應愛可得。因彼故三禪立五枝。三禪無五種

喜相應愛可得。因彼故四禪立四枝。以是故

初禪三禪立五枝。二禪四禪立四枝。問曰。如

初禪信可得。何以故信立二禪枝。不立初禪

答曰。前已說順義是枝義。謂法諸地隨順定

此立枝。或曰。謂處彼行者極信界棄欲。極信

地棄欲。謂彼行者此欲界多諸惡。除欲已便

作是念。我已度此不定界。此定界不知當云

何度。如初禪已除欲。彼意極定作是念。此一

切可離從欲界至第一有。謂處彼行者。極信

界棄欲極信地棄欲。以是故信立二禪枝不

立初禪枝問曰。如猗一切地可得。何以故立

三禪枝。答曰。此前已說。謂法諸地隨順定此

立枝。或曰。二禪染汚愛不定。如羅利種可得。

謂彼行者三禪地退。世尊說應止彼以是故

猗立三禪枝餘地不立。問曰。如猗及護一切

地可得。何以故猗立三禪枝護立四禪枝。答

曰。相壞故猗壞護故不立三禪枝。護壞猗故

不立四禪枝。問曰。云何此法相壞。答曰。猗者

能止護者不求此極相違。如諸人去住。眠覺

此極相違如是猗者能止護者不求此極相

違。是謂相壞。故猗立三禪枝護立四禪枝問

曰。如念及正智四禪可得。何以故念立四禪

枝正智不立四禪枝。答曰。三禪道燒亂。自地

亦燒亂。道燒亂者。二禪地染汚喜不定如羅

刹。謂令行者三禪退。世尊說當正念。莫令二

禪。地喜於三禪地退。已地亂者。彼三禪地樂

一切生死中最妙。世尊說當知。莫著此樂令

不至上地。四禪雖有道燒亂但無已地燒亂

道燒亂者。彼三禪中樂一切生死中最妙。世

尊說當正念。莫著此三禪地樂令於四禪地

退。謂已地無燒亂可說正智。莫著令不能至

上地。以具故念及正智立三禪枝。四禪立念

枝不立正智。問曰。此中云何說禪。云何禪

說。應初禪三禪有四枝。二禪四禪有三枝。答

曰。定者亦是禪亦是禪枝。餘枝雖是禪枝非

是禪。如正見是道亦是道枝。餘者雖是道枝

非是道。擇法覺意是覺意亦覺枝。餘者雖是

覺枝非覺。定是神亦是神足。餘雖神足非神

非時不食是齋亦是齋枝。餘雖是齋枝非是

齋。如是定是禪亦是禪枝。餘雖是禪枝非是

禪。如世尊契經說。四禪現法安樂遊處。問

曰。何以故世尊說四禪現法安樂遊處。答曰。

凡夫現法意計著樂。意不捨離欲界。欲令勸

離欲界結故。世尊說契經。謂彼著少所樂。不

欲棄欲界結。世尊說若欲極廣受無量樂者。

當棄欲界結。根本地現在前。彼中無量樂可

得。是謂凡夫現法意計著樂意不捨離欲界

欲令勸離欲界結故。世尊說契經。四禪現法

安樂遊處。問曰。如此後世安樂遊處。何以故

世尊說現法安樂遊處。不說後世安樂遊處。

答曰。此應說如現法安樂遊處。後世安樂處

亦當說。若未說者是世尊有餘言。此現義

義門義略義度當知是義。或曰。已說現法安

樂遊處當知已說後世安樂遊處。或曰。現法

安樂遊處是因。後世安樂遊處是果。如因果

已作當作已成當成已生當生已連續當連

續。如是盡當知。或曰。現法安樂遊處者是近

後世安樂遊處者是遠。或曰。現法安樂遊處

者是龜。後世安樂遊處者是細。如龜及細。如

是可見不可見。可現不可現。如是盡當知。或

曰。謂一切現法安樂遊處。非一切後世安樂

遊處。或曰。謂現法安樂遊處者一切聖。後世

安樂遊處者非一切聖。或曰。謂一切可信凡

夫及慧者。此法及外法。或有不信後世。何況

信後世安樂遊處。以是故佛契經說。四禪現

法安樂遊處。如世尊契經說四禪為食。問曰。

何以故世尊說四禪為食。答曰。長養法身故。

凡二丸(瓦) 貳二賦(順十(行) 初一) 無五欲二五欲界 枝十(護四禪支) 貳二眼 地十(喜地) 具二是 如餘二如如飲

尊契經說四禪爲食。如世尊契經說四禪爲坐。問曰。何以故世尊說四禪爲坐。答曰。爲高廣故。高者出欲界故。廣者攝無量善法故。問曰。何以故名爲坐。答曰。諸聖生死疲勞。除生死疲勞故。說四禪爲坐。如人涉路疲極坐休息。如是諸聖生死疲勞。坐禪休息已。除生死疲勞。以是故佛契經說四禪爲坐。如世尊契經說。四禪爲四功德。四無色爲一功德。問曰。何以故世尊說四禪爲四功德。說四無色爲一功德。答曰。禪者種種若干相非相似。是故可得一功德。無色者非種種非若干相非相似。是故一切合已說一功德。或曰。禪者種種功德莊嚴。是故一切合已說一功德。或曰。禪者多有妙法。是故一切合已說一功德。無色者無多妙法。是故一切合已說一功德。或曰。禪者能可見可現。是故說一切合已說一功德。無色者細不可見難可現。是故一切合已說一功德。以是故佛契經說四禪爲四功德。四無色爲一功德。如世尊契經說。末那此四增心現法安樂遊處。比丘禪起已。我說當還入。末那此四息解脫度色至無色。比丘禪起已。我說當教他。問曰。何以故佛世尊說四禪起已當還入。說四無色起已當教他。答曰。此禪者種種若干相非相似。是故彼聖起已還復欲入。無色者非種種非若干相非相似。是故聖起已不欲還入。世尊說若不欲入者當教他。教他已。謂彼心入心起不令忘。或曰。禪者種種功德莊嚴。是故聖起已復欲還入。無色者非種種功德莊嚴。是故聖起已不欲入。世尊說若不

欲入者當教他。教他已。謂彼心入心起不令忘。或曰。禪者多妙法。是故聖起已還復欲入。無色者無多妙法。是故聖起已不欲還入。世尊說若不欲入者當教他。教他已。謂彼心入心起不令忘。或曰。禪者能可見可現。是故彼聖起已復欲還入。無色者細不可見難可現。是故彼聖起已不欲還入。世尊說若不欲還入者當教他。教他已。謂彼心入心起不令忘。是故佛世尊說四禪起已。還當入。如世尊契經說四禪增意。問曰。何以故世尊說四禪增意。答曰。一切地無有定。極堅有力有功如根本地。以是故佛契經說四禪增意。或曰。此中可得增上心心數法。如無量等解脫。除入一切入。以是故佛說四禪增意。或曰。諸聖於此中增上門受樂。如無量等門解脫。除入一切入門。是故說四禪增意。如世尊契經說。四禪是天道。諸天道未淨。衆生當淨。已淨當增益淨。問曰。此爲取證故說四禪天道。厥耶。爲有漏盡耶。若取證故說四禪天道者。應六地取證。依未來禪中間根本四禪。若有漏盡者。應九地盡有漏。此六及三無色。作此論已。答曰。爲取證故。亦有漏盡故。說四禪天道。問曰。若爾者置無色故。應在六地。何以故世尊說四禪諸天道。尊者瞿沙說曰。具眷屬故。世尊契經說四禪天道。依未來禪中間。是初禪眷屬是謂具眷屬。故世尊說四禪諸天道。尊者。婆奢說曰。此說天是淨天。天者三種天。作天生天淨天。作天者如王。生天者從四天王至有想無想處淨天者如阿羅漢。彼阿羅漢者此中

有二種道。見道及思惟道。忍道及智道。法智道及未知智道。是故說天淨天。或曰。謂道及娛樂道。謂道及至竟道。謂道及淨天道。以故爾。或曰。佛法中現大妙事故。如彼施設所說。謂轉輪王未出世時。大海水出高一由延。謂不知轉輪王道。是故無能行轉輪王道。謂轉輪王出世已。彼時大海水水還減一由延。轉輪王道便淨金沙布下。令轉輪王將四種兵。按行天下。如是佛世尊未出世時。不知根本四禪。謂衆生欲除結。非根本及無色。謂世尊出世已。便知根本四禪。謂佛教化無量眷屬入滅盡涅槃。是謂佛法中現大妙事故說四禪諸天道。或曰。計著生天道。現第一義天道。故生天者。三十三天。說者三十三天有四園觀。一名種種。二名歡樂。三名龜澁。四名雜肆。彼園觀中地四階道。多諸道男女玉女衆遊戲。有種種香種種伎樂。生種種花。種種飲食餽饌豐盈。種種飛鳥。鳧雁鴛鴦悲鳴相和。令三十三天無量門無量度受五欲樂。已入園觀中。如是佛法中滅盡涅槃。如四園觀。彼中設四禪如四階道。無礙道解脫道如多諸男女。神通道如玉女衆遊戲。聖戒種種如香。四枝五枝樂如種種伎樂。覺道花如生種種花。無欲喜無上法漿如種種飲食餽饌豐盈。學無學如種種飛鳥。鳧雁鴛鴦悲鳴相和。令彼聖無量門無量度受聖樂。入滅盡涅槃。如園觀。是謂計著生天道現第一義故。世尊說四禪諸天道未淨衆生當淨已淨增益淨。云何爲四。此比丘離欲惡不善法。有覺有

①末二未②朱③還當二當還④歐二跡⑤娑二波⑥彼一⑦有二得⑧故二案⑨歐二觀⑩道一⑪伎二妓⑫第二義

觀離生喜樂。初禪成行遊處。彼離欲惡不善法者。問曰。如離一切欲界。何以故世尊但說離欲惡不善法。答曰。世尊已說離欲惡不善法。當知已說離一切欲界。或曰。謂欲惡不善法難壞難破難度。是故世尊說當離欲惡不善法。或曰。謂欲惡不善法增上患極重過多諸惡。是故世尊說當離欲惡不善法。或曰。謂始盡已不復成就聖道與彼相違。聖道者不與善有漏法相違。非隱沒無記。但與欲惡不善法相違。當棄欲惡不善法時彼棄一切。如燈不與炷相違。非油非燈器。但與闇冥相違。當除闇時亦燒炷亦消油亦熱器。如是彼聖道燈不與善有漏法相違。亦非隱沒無記。但與欲惡不善法相違。當棄欲惡不善法時彼棄一切。是謂始盡已不復成就聖道與彼相違。以是故世尊說離欲惡不善法。或曰。謂彼行者欲斷欲惡不善法故。修初禪地道。以是故世尊說棄欲惡不善法。或曰。謂彼行者離欲惡不善法時離一切欲界。是故世尊說離欲惡不善法。或曰。謂欲惡不善法非上行上不可得。以是故世尊說離欲惡不善法。問曰。離欲惡不善法者。何者欲何者惡不善法。答曰。欲者五欲。惡不善法者淫欲。或曰。欲者欲想。惡不善法者恚想害想。或曰。欲者欲覺。惡不善法者害覺。或曰。欲界欲有漏。惡不善法者餘有漏。或曰。欲者欲流。惡不善法者餘流。或曰。欲者欲。扼。惡不善法者餘。扼。或曰。欲者欲愛。惡不善法者餘愛。或曰。欲者欲蓋。惡不善法者餘蓋。或曰。欲者現欲愛。惡不

善法者即是愛。謂彼是不善因此愛故。說離惡不善法是謂欲。是謂惡不善法。是故說離欲惡不善法。有覺有觀者。與覺俱與觀俱。是故說有覺有觀。離生喜樂者。離惡法中生。如從水生名為水生。從陸生名為陸生。如是離惡法中生。是故說離生喜樂。問曰。如地上地離為最上妙。何以故說初禪地離不說餘。答曰。始得故初得故。是故說初禪離。或曰。疑者現決定。初禪此欲界極近。為近故如此欲界設豪華處眷屬處。初禪亦爾。如此欲界身識現在前。初禪亦爾。如此欲界有覺有觀。初禪亦爾。如此欲界出息入息。初禪亦爾。莫令作是念。彼非是離欲決定故說彼初禪離。或曰。令彼行心歡喜故。如彼行者此欲界多諸惡。除欲已初禪現在前。已心極歡喜。非復得盡智無生智。或曰。除苦根憂根故。除無慚無愧故。除。揣食婬愛故。世尊說初禪地離。或曰。謂初禪地離已地中三。漏地圍繞。或曰。謂初禪地離上地離依方便門。或曰。謂依初禪三行者。取證得果無欲有漏盡。一具縛二倍棄欲三棄婬欲。以故爾。或曰。謂初禪具三十七品可得。以是故初禪為離。是故說離生喜樂。初禪者次第數為初。順次數為初。復次次第順正受。是故說初。成就遊處者。謂此中善五陰到得成就。是故說成就遊處。復次比丘有覺有觀息內淨。一心無覺無觀。定生喜樂二禪成就遊處。彼有覺有觀息者。有覺有觀已盡故問曰。如是息一切初禪者。何以故但說息有覺有觀。答曰。已說有覺有觀息。當知已

說一切初禪息。或曰。謂有覺有觀難可斷離可破難可度。以故爾。或曰。謂彼行者斷有覺有觀故。修二禪地道以故爾。或曰。謂彼行者息有覺有觀。一切初禪息以故爾。或曰。謂有覺有觀非上。行不可得。世尊說當慙息。以故爾。是故說有覺有觀息內淨者。內者心淨者信。以彼信令心淨。是故說內淨。尊者婆須蜜說曰。內淨有何義。答曰。有覺有觀心定時生濁。有覺有觀息已便心淨。如器中盛水。若熱沸濁不定不見面像。若水清涼不沸濁便定見面像。如有覺有觀心定時生濁。有覺有觀息已便心淨。重說曰。有覺有觀心定時生調。有覺有觀息已便心淨。如水波涌息已水便清。如有覺有觀心定時生調。有覺有觀息已便心淨。是故說內淨。一心者。欲界六。種意六識身。初禪四。種意四識身。二禪一。種意一識身。獨意地。是故說一心。無覺無觀者。非覺觀俱。是故說無覺無觀。定生喜樂者。初禪地定中生。是故說定生喜樂。問曰。如初禪有定。何以故說二禪地定。或曰。初禪地定故說二禪地定。或曰。謂二禪地定從初禪定中生。從初禪定中來。從初禪定長養。從初禪定所轉。或曰。初禪此欲界極近。極近故知此欲界設豪華處眷屬處。初禪亦爾。如此欲界身識現在前。初禪亦爾。如此欲界有覺有觀。初禪亦爾。如此欲界出息入息。初禪亦爾。初禪此所燒亂不定。二禪無此燒亂。彼定而定。或曰。謂二禪離聲根本。聲根本者。是有覺有觀。如所說。居士覺觀已然後言說。謂二

①扼一扼②* ③揣一摶④ ⑤(無)十漏⑥ ⑦陰二除⑧ ⑨(數)十息⑩ ⑪以十(是)⑫ ⑬行十(上)⑭ ⑮種一重⑯* 或二答⑰

禪離聲根本以故爾。或曰。謂二禪說賢聖默然如所說。比丘賢聖默然者二禪是。謂二禪賢聖默然。以故爾。是故說定生離。喜樂二者。次第數便有二。順次數有二。復次次第順正受。是故說二。成就遊處者。謂二禪地善五陰到得成就。是故說成就遊處。復次比丘離喜欲無求遊。念住正智覺受身樂。謂彼聖說捨念安樂遊處。三禪成就遊處。彼離喜欲者已斷二禪喜故。問曰。如離一切二禪欲者何以故但說離喜。答曰。已說離喜欲。當知已說離一切二禪欲。或曰。謂喜。成患極重過多諸惡以故爾。或曰。謂彼行者斷喜故。修三禪道以故爾。或曰。謂彼行者離喜離一切二禪以故爾。或曰。謂喜非上行上不可得。世尊說當慙離離以故爾。是故說離喜欲無求遊者。已得三禪樂不餘求念住者。護三禪樂故。正智者覺三禪樂受身樂者。自覺二種樂。捨樂痛樂。謂彼聖說捨者。說者教他。捨者已放捨。問如聖一切地教他已亦放捨。何以故但說三禪。答曰。謂三禪道有燒亂。已地亦有燒亂。道有燒亂者。二禪是。於中染污喜燒亂。如羅刹種令彼行者三禪退。此是道燒亂。已地燒亂者。三禪地一切生死最妙樂。是謂已地亂。彼聖教初修行者當正念住。莫令二禪地喜於三禪地退。此亦應正念。莫於中著樂令不至上地。如彼商人主。彼教初行人。某方有姪家。某處有戲家。某許有酒家。莫入彼家令失錢財。如是聖教初修行者當正念住。莫令二禪地喜於三禪地退。此亦應正覺。莫於中

著樂令不至上地。以是故彼聖三禪說及捨是故說謂聖說。捨念安樂遊處三禪者。次第數便有二。順次數有三。復次次第順正受便有三。是故說念安樂遊處三禪。成就遊處者。謂三禪地善五陰到得成就。是故說成就遊處。復次比丘樂斷苦斷。前憂喜已沒。不苦不樂護念淨。四禪成就遊處。彼樂斷苦斷者。問曰。如除欲界結時苦盡。已三禪除結樂已盡。何以故三禪除結時說苦盡。答曰。本已斷斷為名。如已解脫解脫為名。如所說。彼如是知如是見。欲有漏心解脫。有有漏無明有漏心解脫。如已。未來為名。如所說。大王從何所來。當爾時非是來彼已來也。已取證為名。如所說。菩薩於正受中取證時得等智。如來得盡智無生智時。於欲得無欲無患無愚癡。善根本已盡盡為名。已正受正受為名。如所說。云何念入慈正受。答曰。欲令眾生樂已痛痛為名。如所說。彼覺樂。痛時知樂痛如是前已斷斷為名。或曰。二俱永滅故說。二俱者樂根苦根。欲界除欲時。雖有參差未永滅。彼三。禪樂說是苦。謂彼是無常。如世尊契經說。比丘謂無常即是苦。或曰。彼三禪樂痛說如苦。如佛契經說。比丘樂痛當觀如苦痛。當觀如刺。不苦不樂痛當觀如毒蛇。或曰。此出息入息說是苦。彼聖極有苦想。非凡夫地獄苦想。是故說樂斷苦斷。前憂喜已沒者。欲界除欲時憂已盡。二禪除欲時喜已盡。是故說前憂喜已沒。不苦不樂者。已除苦樂故。護者出息入息斷。不欲求餘念淨者。八事念

淨故。問曰。如一切下地無漏念清淨。何以故但說四禪念清淨。答曰。念離結煩惱故。有念離結不離煩惱。有離煩惱不離結。有離結亦離煩惱。有不離結亦不離煩惱。離結不離煩惱者。三禪無漏念。離煩惱不離結者。四禪世俗念。離結離煩惱者。四禪無漏念。不離結亦不離煩惱者。三禪世俗念及欲界念。是謂念離結煩惱。故說四禪念清淨。或曰。念不失不壞故。三禪成敗所及。謂彼所依念亦壞。彼四禪一切成敗所不及。謂彼所依念亦不壞。是謂念不失不壞。故說四禪念清淨。或曰。念離內外燒亂故。初禪內有燒亂覺觀如火。如此內有燒亂。外燒亂亦及火所燒。二禪內有燒亂者喜如水。如此內燒亂。外燒亂亦及水所漬溺。三禪內有燒亂者。出息入息如刀風。如此內燒亂。外燒亂亦及風所吹。四禪內無燒亂如此內無燒亂。外燒亂亦不及。是謂念離內外燒亂故。或曰。謂四禪依中猶如齊。上三無漏地。下亦三無漏地。謂四禪依中如齊。以故爾。或曰。謂依四禪三行者。取證得果除欲有漏盡。佛辟支佛聲聞以故爾。或曰。謂四禪定不移動。普知依度無極。一切依最妙地。以故爾。或曰。世尊為身清淨故說依清淨。四禪中身清淨輕如燈焰。謂所依念亦清淨。是謂世尊為身清淨。故說依亦清淨。或曰。謂四禪智邊智上智。原。或曰。謂四禪四大邊色邊造色邊處所邊以故爾。或曰。謂四禪二廣處所廣善根廣。以是故說四禪念清淨。四禪者次第數便有四。順次數有四。復次次第正受

①成一盛②③問十(日)④⑤念二覺⑥⑦未二來⑧⑨證十(證)⑩⑪痛十(痛)⑫⑬禪十(除欲時永滅是二俱永滅故說或曰彼三禪)⑭⑮苦十(苦)⑯⑰刺二刺⑱⑲齊二齊⑳*㉑原一源

便有四。是故說四禪成就遊處者。謂四禪善五陰到得成就。是故說成就遊處。謂世尊契經說。四禪究竟道。初禪廣說已。說曰。梵志此說名如來盡根如來所行如來所服。彼不以爲究竟。是如來無所著等正覺。如是二禪三禪四禪廣說已。說曰。梵志此說如來盡根如來所行如來所服。彼以爲究竟。是如來無所著等正覺。問曰。何以故世尊捨三禪。施設四禪究竟道。答曰。此是佛世尊爲已故說。彼梵志聞一切恒沙三耶三佛依四禪成無上最正覺。梵志作是念。若沙門瞿曇施設四禪究竟道者。沙門瞿曇應有一切智一切見。若沙門瞿曇不施設四禪究竟道者。沙門瞿曇非一切智非一切見。於是彼梵志。到世尊所。到已面相慰勞。面相慰勞已却坐一面。使梵志坐一面已。白世尊曰。唯瞿曇。我欲有所問聽我所問。世尊告曰。當問恣所問。如是說已。白世尊曰。唯瞿曇。說究竟道。云何究竟道。云何沙門瞿曇施設究竟道。世尊爲廣說三禪已。說曰。是謂梵志如來盡根如來所行如來所服。彼不以爲究竟。是如來無所著等正覺。四禪廣說已。說曰。梵志。此說如來盡根如來所行如來所服。彼以爲究竟。是如來無所著等正覺。彼梵志聞已意得定。沙門瞿曇。眞實一切智一切見。以是故四禪說究竟道。問曰。何以故名如來盡根。答曰。智故得故。如大象於春時見多青草已被跳象衆入池中食藕根。彼見已歡喜以牙掘地。掘地已安足。如是世尊四禪地護行已。掘諸法地安智足。是謂智

故得故說如來盡根。彼如來盡根者。立止故說。如來所行者立觀故說。如來所服者立止觀故說。如佛契經說四禪安樂遊處。答曰。根本地易成。佛契經說安樂遊處非根本地。及無色難成。故佛不說安樂遊處。問曰。云何此地難成。答曰。彼行者欲界行結所縛。依未來現在前。彼一向苦一向遲。如人堅反縛兩手。欲令還自解彼一向苦一向遲。如具彼行者欲界行結所縛。依未來現在前。一向苦一向遲。或有行者。觀不淨惡露或安般。謂觀不淨者。彼或十年或二十年。觀白骨或成此定或不成。謂數出入息。彼或十年或二十年數息已。或成此定或不成。謂成此定已。餘欲界結不極動。初禪現在前。彼初禪謂禪中間現在前。一向苦一向遲。彼一地餘滅心心數法。餘心心數法現在前。滅應已微現在前。俱滅已觀俱現在前。如人以木破木以石破石。彼一向苦一向遲。如是行者彼一地中餘心心數法滅已。餘心心數法現在前。滅應已微現在前。覺俱滅已觀俱現在前。是一向苦一向遲。謂初禪除欲已不動。二禪現在前。三禪除欲已不動。三禪現在前。三禪除欲已不動。四禪現在前。問曰。謂四禪除欲已空處現在前。何以故此地難成。答曰。無色微難覺不可見。或有不信無色。如彼契經。彼居士至尊者阿難所說曰。尊者阿難。我本聞無色已如臨深。云何衆生名無色。是謂根本地易成故。佛契經說安樂遊處非根本地。及無色難成故。佛不說安樂遊處。或曰。謂不勤求除欲可得。如

二人乘馬一乘不調一乘極調。謂乘不調者彼極勤御。謂乘調者彼不極勤御。如是有衆生除欲。或非根本及無色。或根本地。謂非根本及無色者。彼一向勤求行道。謂根本地者。彼不一向勤求行道。以是故說根本地安樂遊處。或曰。謂攝四枝五枝定可得。問曰。非根本地及無色有枝耶無枝耶。若有者何以故根本地說枝餘不說。若無者此施設所說云何通。彼中說頗有空處。最妙定最妙地枝可得耶。答曰。有如從空處起次第入空處作此論已。有一說者。非根本地及無色有枝。問曰。若有者何以不說。答曰。應說謂初禪五枝。除喜已增不苦不樂。此五枝說初禪邊。謂二禪有四枝。除喜增不苦不樂。此枝說三禪邊。謂四禪有四枝。彼四禪邊亦無色定。更有說者。根本地有枝餘者無枝。問曰。若根本地有枝餘者無枝者。是故此中不說。施設云何通。答曰。彼中說覺枝道枝彼是枝。如是說者根本地有枝餘者無枝。或曰。謂樂修道可得。如二人俱趣一方。一從水道。二從陸道。雖同至一方。但水道者樂非陸道。如是有衆生除欲。或非根本地及無色。或根本地。雖至一處無餘涅槃界。但彼根本者樂非餘。或曰。謂根本地現在前時。一切身四大現在前。非根本地。及無色現在前時。心邊四大現在前。更有說者。非根本及無色現在前時。一切身四大現在前。但生樂不如根本地。如二人池水浴。一在岸上。一入池中浴。水俱除垢說者爲樂。謂池中者如是雖非根本地。及無

①見一現②到二至③使一彼④具二是⑤二十一十二⑥餘二除⑦俱一但⑧〔無〕一⑨枝二支⑩下同
⑪枝二支⑫下同 ⑬說二誰⑭

色現在前時。一切身四大現在前。但彼樂不如根本地。以故爾或曰。謂二種樂可得。外及內。外樂者。謂從禪起入非根本地及無色。內樂者。謂從禪起還入禪。謂二種樂可得。以故爾。或曰。二種樂可得。猗樂及痛樂。三禪有二種樂。四禪雖無痛樂。但猗樂極妙非彼二種。謂二種樂可得。以故爾。或曰。謂二法等行精進及止。雖一切地增精進。但因定力根本地。精進及止等行。以故爾。或曰。謂無悲樂極廣大可得。如所說。謂此中無悲此。是極樂以故爾。或曰。謂樂出要道可得。如多有人。渡河。或以材浮囊草束。或極大船。彼雖俱。渡河。但乘船。渡者為樂。如是有業生除欲。或非根本地及無色。或根本地。彼雖同度至涅槃。但彼根本樂出要至涅槃非餘地。以是故。契經說四禪安樂遊處。廣說四禪處盡

轉婆沙論卷第十

轉婆沙論卷第十一

阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

四等處第三十四

四無量等慈悲喜護。問曰。何以故次禪說無量等。答曰。從禪生故次說等禪。有餘功德次說無量等。問曰。無量等有何性。答曰。慈悲護無貪性。取彼共有法相應法。欲界色界有五

陰性。喜根性取彼共有法相應法。欲界色界五陰性。問曰。若喜是喜根性者。彼婆須蜜施設云。何通彼問。慈云何。答言。慈及慈相應痛想行識。云何痛與痛相應耶。答曰。彼說應爾。慈云何。答曰。慈及慈相應想行識。當爾。若不爾者當有意。答曰。彼總說五陰性。四無量等雖痛不與痛相應。但彼想行識相應。此是無量等性。己種相身所有自然。說性已當說行。何以故說無量。無量等有何義。答曰。除戲故說無量等。問曰。若除戲說無量等者。彼四無量等有二戲用。何等除戲。答曰。慈悲除見戲。謂眾生多行見。彼多有悲喜護除愛戲。是故除戲說無量等。或曰。除放逸故說無量等。或曰。聖遊戲故說無量等。如豪貴者多種種樂戲。如是聖遊戲無量等。是謂聖遊戲故說無量等。界者欲界繫亦色界繫。地者七地欲界依未來禪中間根本四禪。依者依欲界行者慈樂行悲苦行喜悅行護捨行。緣者或有說欲界無量等緣初禪。初禪地緣二禪。二禪地緣三禪。三禪地緣四禪。更有說者已地緣如是說者一切緣欲界。一切緣眾生。一切緣緣。緣欲界者。或五陰眾生緣。或二陰眾生緣。若己心住者。五陰眾生緣若不己心住者。二陰眾生緣。意止者四意止。智者性非智與等智相應。定者非與定相應。痛者總三痛相應樂根喜根護根。問曰。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。答曰。當言過去。當言未來。當言現在。問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言現在緣耶。答曰。當言是過去緣。當

言是未來緣。當言是現在緣。問曰。當言己意緣耶。當言他意緣耶。答曰。當言他意緣。問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。答曰。當言是名緣。當言是義緣。問曰。無量等如說行亦爾耶。為說異行異耶。有一說者。無量等者如說行亦爾。前行慈。是故世尊前說慈悲喜護亦爾。更有說者。無量等者說亦異行亦異。問曰。何以故說亦異行亦異。答曰。或有但行慈等不行餘等。問曰。何以故。答曰。無有等漸漸正受。無有順正受。亦非逆正受。亦非超正受。如無量等解脫。除入一切入亦爾。問曰。何等人能行無量等。答曰。人有二種。一者求惡二者求功德。求惡者彼終不能行無量等。謂彼至於阿羅漢所亦求惡。何行犯何所失何所過。常誦習持謂求功德者。彼能行無量等。謂彼至於斷善根所求功德。問曰。斷善根者無功德何所求。答曰。彼斷善根者。端正極妙形見本宿行。見已便作是念。本宿行為極妙。如是受極妙果。是謂求惡者不能行無量等。求功德者能行無量等。問曰。行無量等時作何方。便答曰。此慈前從親起行。一切眾生立三品。親品怨家品中人品。彼親品復立三品。軟中上。上親品者父母尊師。彼前上親品樂開解欲令彼樂。然此心極惡難御難制難持。於親極妙意中不住。彼精進勤不捨還攝意。於上親品開解欲令彼樂。如人以豆投錘。數數投不住。彼精勤不捨。要投令住。如是彼精勤不捨還攝意。於上親品樂開解欲令彼樂。於上親品開解已。中親及軟親開解。然後中品人

○渡二度 ○二及 ○(佛)十次 ○廣一度 ○阿羅漢尸陀槃尼撰 ○尊者迦旃延子造 ○迦旃延子造 ○(阿羅...撰) 八字 ○求二於 ○

及滯怨家開解。然後中然後增上怨家品開解欲令彼樂。如一切眾生平等如稱無欺。樂開解如上親品。如至增上怨家品。如是慈成就。如慈悲喜亦爾。護因中品行問曰。護何以故因中品行。答曰。當捨親品者憎愛。捨怨家者憎恚。是故前中品開解。此是眾生然後捨怨家問曰。何以故前捨怨家。答曰。悲易除非愛。然後捨上親。如一切眾生平等如稱無欺。捨一切眾生已。如中品如是至上親品。如是護等成就說曰。前行慈問曰。何以故前行慈。答曰。彼前求欲饒益眾生。慈者是饒益相。已饒益眾生。彼作是念。當除不饒益事。悲者除不饒益相。饒益眾生已。除不饒益事。彼作是念。令眾生喜。謂眾生喜已。然後捨眾生。更有說者。前行悲問曰。何以故前行悲。答曰。前欲令眾生除不饒益事。悲者除不饒益事。已除不饒益事。便欲饒益慈者饒益相。如以除眾生不饒益事饒益。彼作是念。令眾生喜。然後捨眾生。更有說者。此二無量等各各相懷悲及喜。若前行悲要當次行喜。問曰。何以故次悲要行喜。答曰。如悲令心憂。彼生喜已除憂。若前行喜要次行悲。問曰。何以故喜次要行悲。答曰。如生喜心調然後起悲攝受。問曰。謂欲令眾生樂慈。正受用何樂令眾生樂開解。有一說者。謂自受樂飲食樂。衣被床座樂。以如此樂令一切眾生樂開解。問曰。如汝說一切眾生不應樂開解。一切眾生無有此樂。更有說者。三禪地增上樂眾生樂開解。問曰。如汝說謂不得三禪。彼不能令眾生樂

開解。更有說者。三禪地宿命智憶已。眾生樂開解。問曰。作如是說。謂三禪地不得宿命智。彼不能令眾生樂開解。更有說者。謂眾生樂是彼緣從彼行慈。問曰。作如是說。非一切眾生受如此樂。更有說者。有眾生樂根現在前。是彼緣從彼行慈。問曰。作如是說。非一切眾生樂根現在前。亦非一切眾生如是成就樂根。尊者婆須蜜說曰。謂眾生樂慈正受。彼定。行所緣以何樂令眾生樂開解。答曰。謂彼自受安樂。若飲食樂及衣被床臥樂。是彼緣從彼行慈。問曰。此定不。應一切眾生緣。亦不一切眾生受如此樂。重說曰。三禪地增上樂眾生樂開解。問曰。此定不應一切眾生緣。亦不一切眾生得三禪地樂。重說曰。三禪地宿命智憶已。眾生樂開解。問曰。此定不應一切眾生緣。亦不一切眾生得三禪地宿命智。重說曰。謂眾生樂是彼緣從彼行慈。問曰。此定不應一切眾生緣。亦非一切眾生樂。重說曰。有眾生樂根現在前。是彼緣從彼行慈。問曰。此定不應一切眾生緣。亦非一切眾生樂根現在前。尊者曇摩多羅說曰。諸尊見諸眾生樂想與慈愍俱有饒益心。愍念眾生平等行如會見。彼行者入城村乞食。見無錢財者。及無床臥裸形惡垢弊衣手足。割裂頭髮蓬亂手執瓦器。到家家乞下聲。軟語從他。乞索當施貧窮當惠。困厄當給孤。獨復見象乘馬乘車。乘步乘。金冠莊飾光曜照目。著妙衣持蓋。隨從。擊鼓吹貝作五倡伎。如彼天子。見此二已。食後還至本處。舉衣鉢洗足。或坐繩木床。

身柔軟意柔軟。坐已以彼苦者安處樂中。令彼苦者亦如此樂。是故說諸尊見眾生。樂想與慈愍俱有饒益心。愍念眾生平等行如會所見。問曰。謂欲令眾生樂慈正受。彼眾生不得樂彼定當言顛倒耶。當言不顛倒耶。答曰。當言不顛倒。欲饒益故。或曰。當言不顛倒。以妙意故。或曰。當言不顛倒。感眾生故。尊者婆須蜜說曰。當言不顛倒。有眾生樂根現在前。是彼緣從彼行慈。重說曰。當言不顛倒。有眾生樂。是彼緣從彼行慈。重說曰。當言不顛倒。壞恚故。尊者曇摩多羅說曰。諸尊不由彼行慈故。眾生得樂。但從彼行除恚。問曰。顛倒行亦除恚。答曰。謂正行除恚非是顛倒。謂以餘行除恚是不善。或曰。謂彼如是意開解欲令眾生苦者。應有顛倒。但彼如是意開解欲令眾生得樂。而彼眾生不得樂。彼有何過。或曰。謂彼入善心饒益一切眾生故。是非顛倒。說曰。此說三思惟。一自相思惟。二總相思惟。三得解思惟。自相思惟者。如色相思惟。色至誠相思惟。識是謂自相思惟。總相思惟者。如十六聖行是謂總相思惟。得解思惟者。如此無量等解脫。除入一切入。此三思惟中說無量等解思惟非餘。問曰。無量等為遍緣一切眾生耶。為有方。齊限耶。若遍緣一切眾生者。云何不得眾生海邊。若有方。齊限者。此契經云何通。彼四無量等滿一切世間成就遊作此論已。有一說者。無量等遍。緣一切眾生。問曰。云何不得眾生海邊。答曰。設得一切眾生海邊當有何咎。佛契經說。四生卵生胎

①清一軟②③ ④〔彼〕一⑤⑥ ⑦喜十〔彼〕⑧⑨ ⑩受二愛⑪⑫ ⑬衣一依⑭⑮ ⑯行一何⑰⑱ ⑲應二勝⑳㉑ ㉒齊二期㉓㉔㉕

生濕生化生 除此已更無衆生。如是得衆生
海邊但總相非自相。更有說者。無量等方有
*齊限。問曰。此契經云何通。彼四無量等滿
一切世間成就遊。答曰。此衆生說方爲名。更
有說者。佛遍緣一切衆生聲聞辟支佛方有
*齊限。更有說者。佛辟支佛遍緣一切衆。聲
聞方有*齊限。更有說者。佛辟支佛聲聞得度
無極遍緣一切衆生。餘聲聞方有*齊限。如是
說者。無量等者。是得解思惟。若佛遍緣一切
衆生者。辟支佛聲聞亦爾。若佛方*齊限者。
辟支佛聲聞亦爾。問曰。如無量等遍緣一切
衆生。何以故。說意與慈俱滿東方已成就遊。
如是南方西方北方一切諸方。意與慈俱滿
諸方已成就遊。答曰。此契經應當爾。意與慈
俱滿東方。衆生已成就遊。如是南方西方北
方一切諸方。意與慈俱滿。衆生已成就遊。此
應當爾。若不爾者當何意。答曰。此衆生說以
方爲名。問曰。頗不發初禪地無量等。能發二
禪地無量等耶。有一說者。不可不發初禪地
無量等能發二禪地無量等。問曰。何以故不
可不發初禪地無量等能發二禪地無量等
耶。答曰。謂初禪地無量等。二禪地無量等依
方便門。是故不可不發初禪地無量等能發
二禪地等。更有說者。可不發初禪地無量
等能發二禪地無量等。如聖道可得。初禪地
不發能發二禪地。何況無量等得解思惟。問
曰。無量等一地不可得各各次第現在前。餘
地各各次第能現在前耶。爲不耶。有一說者
曰。無量等地亦不可各各次第現在前。要從

彼一地相似善根現在前。謂次第無量等現
在前。無量等現在前已。有如此行慈樂行悲
苦行喜悅行護捨行。問曰。初禪地無量等
上。速發二禪地無量等耶。於二禪地無量等
上。速發初禪地無量等耶。答曰。二禪地無
量等上速發初禪地無量。非初禪地無量等
上速發二禪地無量等。如學梵書已速學法
樓書。非學法樓速學梵書。如是二禪地無量
等上。速發初禪地無量等。彼定捷度說。云
何思惟慈正受。答曰。衆生樂。云何思惟悲正
受。答曰。衆生苦。云何思惟喜正受。答曰。悅
衆生。云何思惟護正受。答曰。舍是衆生。
問曰。此云何說正受。答曰。前正受已正受
爲名。此中證答如前說。如世尊契經說。謂
須涅多羅弟子爲梵天。人上故說法時。不具
一切戒行。彼或生四天王中。或生三十三天
中。或生炎天。或生兜術天。或生化自在天。或
生他化自在天。謂須涅多羅弟子爲梵天上
說法時。具一切戒行。彼思惟四梵遊處。於欲
除欲已多遊行故梵天中。問曰。如此所說須
涅多羅勝非釋迦文。何以故。謂須涅多羅弟
子具一切戒行彼生梵天中。謂不具一切戒
行。彼生欲界六天中。謂釋迦文弟子具一切
戒行。彼生善處及滅盡涅槃界。謂不具一切
戒行。彼生地獄餓鬼畜生中。答曰。此不然。何
故應當從契經索次第何因何緣。佛契經說。
須涅多羅以無量等。是戒謂爲梵天上說法。
謂須涅多羅弟子爲梵天上說法時。求等能
行具足等。彼生梵天中。謂須涅多羅爲弟子

梵天上故說法時。求無量等不能具足行無
量等。彼行增上善根生欲界六天中。復次
爾時一切衆生各有妙行。謂不行無量等。彼
生欲界六天中。何況求無量等不能。發無量
等。云何彼增上善根不生欲界六天中耶。是
謂此中說不是犯戒及破戒。釋迦文學二百
五十禁。是戒爲無餘涅槃故說法。謂釋迦文
弟子不犯戒不破戒。便生善處亦入無。爲涅
槃。謂釋迦文弟子犯戒越戒不具足戒。生地
獄餓鬼畜生中。生。人惡趣中。是謂契經次
第。於是須涅多羅作是念。我不應爾與弟子
俱生一處一趣。我寧可增益思惟慈。增益思
惟慈已。當生光音天中。於是須涅多羅後時
增益思惟慈。增益思惟慈已。生光音天中。問
曰。如已成菩薩除諸。疾患。何以故自行二禪
發。於等。爲弟子說初禪。答曰。須涅多羅觀
弟子根本。齊限故。或曰。二禪地無量等。無
佛法時不可得發。唯有已成菩薩能發。餘一
切不能。或曰。須涅多羅菩薩作是念。此梵
志長夜欲得梵天。常願梵天究竟梵天。彼作
是念。今我等生梵天上近大梵天。須涅菩薩
常欲滿他願故。隨所欲而爲說法。問曰。如三
四禪無量等極妙。何以故說二禪地無量等
妙。答曰。彼弟子無量等故。說二禪地無量等
妙。或曰。爲初禪地無量等故。說二禪地無量
等妙。或曰。須涅菩薩作是念。彼三禪四禪地
無量等。無佛時不可得尊者瞿沙亦爾說。若
上地可得無量等者。須涅多羅不應說我寧可
增益思惟無量等生光音天。此非凡夫地。但

○地十(無量)○ ○量十(等)○ ○舍一捨○ ○(人)一○ ○爲二餘○ ○人二諸○ ○疾患二嫉惡○ ○於十(無量)○ ○日二白○

佛威神故。令弟子能彼現在前問曰。何以故說梵遊行處。答曰。初梵可得及一切具。依未來已雖初可得。但非是一切具。上地雖一切可得。但非是初。此初禪中亦初可得。亦一切具。是故說梵遊行處。或曰。能除非梵故。曰梵遊行處。非梵者欲界結。彼能除是謂除非梵遊行處。或曰。謂思惟大梵已得梵天王故。曰梵遊行處。或曰。以梵音說。故曰梵遊行處。或曰。梵者。謂如來彼說分別施設顯示。故曰梵遊行處。問曰。無量等及梵遊行處何差別。有一說者。無有差別。無量等有四。慈悲喜護。梵遊行處亦四。慈悲喜護。是故無差別。或曰。謂初禪可得。彼是梵遊行處。上地可得。彼是無量等。或曰。除非梵故名梵遊行處。戲故名無量等。或曰。除非梵故名梵遊行處。除放逸故名無量等。或曰。三地可依。未來初禪中禪是名為梵遊行處。七地可得。欲界未來禪中禪根本四禪。名為無量等梵遊行處。無量等是謂差別。如世尊契經說諸比丘。我自七歲思惟慈心。七歲成敗不來至此世。世成敗時我生光音天中。世不成敗生餘空靜梵宮。彼為梵天。餘處千反作他化自在天子。三十六為釋提桓因。無量百千作轉輪聖王。說曰。此中七夏月名七歲。說者菩薩極好時多諸善根。地無沙石生諸金銀。在中國為人王。彼國極熱。離城不遠有山林。謂至夏月彼城中人往詣山林。彼菩薩留人守城已。出城亦詣山林。彼人夏四月各各作務。菩薩別至高顯處。發無量等。發無量等已。夏四月遊行無量

等。過夏四月已。謂人出林中已還入城。菩薩出林已亦還入城。彼時菩薩極設大會施與作福欲得食者與食。渴者與飲。裸者與衣。施與屋舍床臥燈明。亦持戒說者菩薩六往。反山林七反。或有說者。菩薩命終已生光音天。或有說者。成敗時彼命終生光音天。是故此中七夏月名七歲。問曰。若說無量等果生梵天上及光音天中。此應當爾。謂無量等色界果色界法。若說無量等果生他化自在天子釋提桓因及轉輪聖王。此色界善根。彼欲界不受報。何以說無量等果生他化自在天子及釋提桓因轉輪聖王。答曰。菩薩於三地發無量等。欲界初禪二禪。欲界無量等果生他化自在天子釋提桓因及轉輪聖王。初禪地無量等果生大梵。二禪地無量等果生光音天。或曰。無量等於此故。欲界有出心入心。如市肆中一切雜物可得。欲界亦爾。此欲界乃至盡智無生智有相似相。謂欲界出心入心。由彼果生他化自在天子釋提桓因及轉輪聖王。根本無量等生大梵天及光音天中。或曰。謂菩薩極設大會時施與作福。欲得食者與食。渴者與飲。裸者與衣。施與屋舍床臥燈明。由彼果作轉輪聖王。若持戒者由彼果作釋提桓因及他化自在天子。無量等果生大梵天及光音天中。或曰。此佛契經說三福。一者施二者戒三者思惟。此契經說比丘。我作是念。是誰行果。是誰行報。令我大尊神妙。比丘。我作是念。此三行報令我至尊。極大神妙。云何三。一施二御三攝。施者是施福。御者是戒

福。攝者是思惟福。彼施。福果作轉輪聖王。戒福果作釋提桓因及他化自在天子。思惟福果作大梵天及光音天。以故爾。問曰。何以故色界一切善根說無量等。思惟福不說餘。答曰。謂無量等者果不可燒。如彼契經。天至世尊。所以偈問曰

何物火不燒 而風不能壞
水災壞地時 何者水不漬
世尊偈答曰

福火所不燒 福風不能壞
福水所不漬

雖非福亦不燒但燒其果。無量等亦不燒。福亦不燒果。以是故佛契經說。色界一切善根中。說無量等思惟福。如佛契經說。慈正受時火。所不燒。毒所不中。刀所不傷。不由他橫。死問曰。何以故慈正受時。火所不燒。毒所不中。刀所不傷。不由他橫。尊者婆須蜜答曰。彼定無諍。是故諍不能動。重說曰。彼定極大威神。是故諸天所護。重說曰。色界四大現在前故。彼患不能動。如彼色界四大充滿。身體合一極厚如石。是故彼患不能動。是謂慈正受時。火所不燒。毒所不中。刀所不傷。不由他橫。死問曰。悲喜護正受時。此患能動耶。不動耶。若動者何以故慈正受不動。悲喜護而動耶。若不動者何以故但說慈正受不動。不說悲喜護正受。作此論已。答曰。悲喜護正受亦不動。問曰。何以故說慈正受不動。不說悲喜護正受耶。答曰。應說如說慈悲喜護亦爾。若不說者。是世尊有餘言。此現義門義度義略

①(梵)十餘②②反二返③③令二今④④福果二果福⑤⑤所以二而⑥⑥所不二不能

當知是義或曰悲喜護雖正受時不動但起時或能動慈起亦不動或曰悲喜護雖正受時不動起或能傷壞慈起亦不傷壞或曰根本悲喜護正受時雖不動但悲喜護方便可動慈方便亦不動說者有一人得欲界慈方便彼以不知犯於王法為執事所收將送王所王當爾時乘大象出城遙見彼人顧問左右此是何人臣曰王曰此人犯於王法願王罰之王時手執古律省其過狀此人所犯法王應手行刑王怒隆盛以劍投之彼人見王瞋恚尋方便行慈正受如豆投木即還墮地彼劍如是投身即還墮王足下時王驚怖問彼人曰汝行何術作何盡道施何幻化彼人對曰大王願王歡喜我不作術不作盡道及以幻化王問曰若不爾者此云何彼人對曰我見王瞋於天王所行於慈心是故此劍不害我身是故可知慈方便亦不動況根本慈耶以是故說慈正受時不動不說悲喜護如佛契經說慈修習多修習能除諍悲修習多修習能除恚喜修習多修習能除不樂護修習多修習能除害問曰無量等能除結耶不能除結耶若無量等能除結者此定捷度云何通彼說慈除何繫結答曰無處所悲喜護除何繫結答曰無處所若無量等不除結者此契經云何通作此論已答曰無量等不能除結問曰若爾者定捷度所說善通此契經云何解答曰除結有二種一者須與除二者究竟除如須與除者是佛契經所說慈修習多修習能除諍悲修習多修習能

除恚喜修習多修習能除不樂護修習多修習能除害如無量等不能究竟除結者如定捷度所說如是此二說為善通如佛契經說慈修習多修習除淫諍護修習多修習亦除諍問曰何諍慈能除何諍護能除答曰諍有二種處諍非處諍處諍者慈能除非處諍者護能除復有二種諍一者欲捨棄生命二者繫衆生謂捨棄生命慈能除謂繫衆生者護能除如是諍慈除如是諍護除如佛契經說不淨修習多修習能除淫欲慈修習多修習除淫欲淨問曰何淫不淨能除何淫慈能除答曰六種欲一色欲二處欲三行欲四淫欲五更樂欲六莊飾具欲色欲者以不淨除處欲者以慈除行欲者不淨除更樂欲者以慈除淫欲者以不淨除莊飾具欲者以慈除如是欲不淨除如是欲以慈除如世尊契經說如是修習慈心解脫如是多修習能得阿那含果或復上得問曰如無量等不能除結何以故說如是修習慈心解脫如是多修習能得阿那含果或復上得答曰此佛契經以聖道名說慈佛說聖道多種名或以痛為名或以想為名或以思為名或以意為名或以信為名或以精進為名或以念為名或以定為名或以慧為名或以燈為名或以我為名或以石山為名或以華為名或以水為名或以痛為名者如所說比丘覺已此苦知如真此習盡道知如真是謂痛為名或以想為名者如所說無常想修習多修習能除一切淫欲一切色欲一切無色欲一切無明一

切自慢是謂想為名或以思為名者如所說末那若思及行黑黑報謂思能除是謂思為名或以意為名者如所說偈
當制意入處 謂無所有緣
終不染著世 可受一切供
是謂意為名或以信為名者如所說偈
信能度流 不放棄海 真諦除苦
慧應清淨
如所說舍利弗信成就若比丘比丘尼除去不善修行於善是謂信為名或以精進為名者如所說阿難精進能轉成道如所說舍利弗聖弟子成就精進力除去不善修行於善是謂精進為名或以念為名者如所說我念一切中念如所說舍利弗聖弟子成就於念如守門人除去不善修行於善是謂念為名或以定為名者如所說偈
定者是道 非定非道 定以自知
五陰興衰
如所說舍利弗聖弟子成就三三昧須除去不善修行於善是謂定為名或以慧為名者如所說偈
慧為世間妙 能趣有所至
能用等正智 生老病死盡
如所說慧過一切法上如所說諸妹聖弟一切結縛使惱纏重斷打重打割剝是謂慧為名或以燈為名者如所說偈
勤修不放逸 受攝及調御
慧者能然燈 癡闇不能壞

古二右(2) 日二白(2) 天一(1) 說慈一慈說(2) (能)一(2) 淨二諍(2) 末二末(2) (謂)一(2) (四等處第三十四之餘)十如所說(2) 信十(根)(耶) 須二(2) (說)一(2) (說)一(2)

是謂燈為名或以我為名者。如所說。比丘我者聖八道。是謂我為名。或以石山為名者。如所說。比丘大山石山者堅固常住不壞。一切同一體等見是。是謂石山為名。或以華為名者。如所說。比丘生七覺花者七覺是。是謂花為名。或以水為名者。如所說。比丘成就八味水者聖八道是。是謂水為名。如此佛說聖道多種名。如是佛契經說。聖道以慈為名。或曰謂慈意慈解脫計慈。意方便。或凡夫時求阿那含果。或聖人時求阿那含果。謂凡夫時求阿那含果者。彼除欲界結時得慈意解脫。彼若取證彼得阿那含果。謂聖人時求阿那含果。除欲界結得阿那含果。於阿那含果上得慈意解脫。以是故說。如是修慈意解脫。如是多修習得阿那含果。或復上得。但無量等不除結。問曰。無量等何者最妙。有一說者。慈為最妙。謂慈。正受一切衆不能傷害。更有說者。悲為最妙。謂佛發於大悲而說法。問曰。何故但說大悲而不說大慈大喜大護。答曰。應說如說大悲。大慈大喜大護亦爾。謂從佛意中功德可得盡應說大。何以故。佛世尊無量慈心饒益心善心。是故謂從佛意中功德可得盡應說大。更有說者。此不應難。何以故。若悲即是大悲者可難。但悲異大悲異。問曰。若悲異大悲異者。悲及大悲何差別。答曰。即以名為差別。一者悲。二者大悲。或曰。地亦有差別。悲在七地。大悲根。本第四禪地。或曰。意亦有差別。悲佛辟支佛聲聞同。大悲但佛非餘。或曰。身亦有差別。悲者男女身可得。

大悲者男身可得非女身。或曰。除結亦有差別。悲無貪。善根能除貪。大悲無愚癡。善根能除癡。或曰。行亦有差別。悲者能悲不能救。大悲者亦能悲亦能救。如二人在河岸上。彼時河中有漂溺人。彼一人意雖欲拔濟。而無有力。但索掌而住。彼第二人有意亦有有力。拔濟彼人著安隱處。如彼一人見已索掌而住無力者。悲亦如是。如彼第二人有意亦有有力。拔濟彼人著安隱處者。大悲亦如是。尊者曇摩多羅說曰。諸尊佛世尊大悲。從久遠來極微入遍一切入等攝。一切衆生聲聞何能悲。及色無色界衆生。問曰。何以故說大悲。答曰。以大賈得故名大悲。非如聲聞道以一施以一人故。亦非如辟支佛道一楊枝施一。把施故。但一切極妙事極。愛物施。除非已有。然後可得。是謂大賈得故名大悲。或曰。生大身故名大悲。非如聲聞道辟支佛道不具身可得。但彼大士三十二相八十種好莊嚴其身。紫磨金色圓光一尋。梵音聲妙如迦毘陵鳥。視之無厭。是謂生大身故名大悲。或曰。以大方便求得故名大悲。非如聲聞道一種二熱三解脫。亦非如尊者舍利弗六十劫中增益智慧。亦非如辟支佛百劫中增益智慧。但具足三阿僧祇劫。修無量苦行然後可得。是謂大方便求得故名大悲。或曰。極多饒益衆生故名大悲。如此衆生願求佛道。願求辟支佛聲聞道。得大富生豪貴家。顏貌端正生天上人中。彼一切皆由大悲。是謂多饒衆生故名大悲。或

曰。墮大慳衆生能拔濟之故名大悲。如佛見衆生墮於五趣而度脫之安處。道果。彼一切皆由大悲故。是謂墮大慳衆生能拔濟故名大悲。或曰。能動大護山故名大悲。佛世尊於四禪地不共遊處名為大護。謂佛護現在前時。爾時一切衆生地獄餓鬼畜生熾燃。如甘蔗竹等葦稻麻。叢林熾燃。佛於彼處心無傾動。如大悲現在前已。爾時佛身極堅固力。大悲能動如風吹芭蕉樹。是謂能動大護山名大悲。或曰。以大士能入考掠中故名大悲。如佛化作末羅力士形。或作瓦師形。或作乞人形。或作妓女形。手牽難陀至五趣中。為齋囉魔故。迴前地令後廣。迴後地令前廣。佛常定不亂。口出廣長舌而自覆。面極成就。慚愧。為女人現陰馬藏。捨妙禪樂。捨極妙佛法。為教化故。過百千億鐵圍山大鐵圍山至恒沙國土。一切由大悲故。是謂大士能入大考掠中名大悲。如世尊律所說。世尊為衆生慈滿已而說法。問曰。謂世尊為衆生慈滿故而說法。彼衆生得樂耶。不得樂耶。若衆生得樂者。何以不以慈滿一切地獄餓鬼畜生天人。而為說法。若彼衆生不得樂者。此偈云何通。

如鬼心念惡 若往著於人
不觸亦不害 能令生痛畏

彼鬼心念惡者。能動惡果。況佛心念善。善不動善果耶。作此論已說曰。世尊為衆生慈心滿。為說法。彼衆生得樂。問曰。若樂者何以故。不以慈滿一切地獄餓鬼畜生天人。而為說法。

①[為]一②③意二慈④⑤含二舍⑥⑦正二無⑧⑨慈二悲⑩⑪本十(本)⑫⑬把二和⑭⑮愛二受⑯⑰是二或⑱⑲道十(道)⑳㉑筆二畫㉒㉓故二彼㉔㉕[廣]一㉖㉗[名]一㉘㉙若二若

答曰。世尊觀衆生行轉不轉。謂衆生作轉行。爲彼慈滿而說法。謂衆生作不轉行不爲慈滿而說法。更有說者。世尊爲衆生慈滿說法者。彼衆生不得樂。問曰。若衆生不得樂者。此偈云何通。

如鬼心念惡 若往著於人 不觸亦不害 能令生痛畏

答曰。佛世尊無量種慈滿。或以神足。或現愛緣。或知樂。或善細滑。或清涼影。或以神足者。如所說。世尊最後遊世間。至波婆國閻浮林精舍。波婆國人聞世尊遊世間。到此波婆國閻浮精舍。波婆國人聞已。聚集一處共設要令。我等盡當往見世尊。若不往者。當罰舊金錢五百枚。彼設如是要令已。一切往詣世尊所。爾時大臣留枝。於世尊所無敬信意。彼亦往至世尊所。彼時阿難遙見大臣留枝來。見已告言。善來善哉善哉。留枝。汝能來見世尊。此世尊具足無上福田。不久無常所壞。留枝大臣曰。阿難我不故來見沙門瞿曇。我但不違親里要令故耳。尊者阿難。謂留枝。不違親里何等要令。大臣留枝曰。尊者阿難。我等親里聚集一處共設要令。我等盡當往見世尊。若不往者。當罰舊金錢五百枚。尊者阿難。我寧與舊金錢五百枚。不願來見沙門瞿曇。但我作是念。無令於親里有諍。於是尊者阿難牽大臣留枝臂。至世尊所。到已白世尊曰。唯世尊。此大臣留枝。本舊親里。然於世尊無信敬心。唯願世尊。善爲說法。令於世尊有信敬心生於歡喜。彼留枝心行愛志亂不定。諸

佛世尊終不爲亂志者說法。彼時世尊。離處不遠。化作沸尿地獄。深廣無量。令彼舉聲。有大臣名留枝。於世尊所無信敬心。彼命終已當生此中。大臣留枝見大地獄。聞聲已恐懼生厭。佛世尊知彼恐懼生厭已。隨順說極妙法。大臣留枝聞法已。遠塵離垢諸法眼生。此佛以大慈滿大臣留枝問曰。云何說慈滿。答曰。彼神足是。復次或以神足。如所說。調達勸阿闍世王。有象名檀那波勒。以清酒飲之令醉。放使奔趣害於世尊。彼時象遙見世尊。便走趣向彼。時世尊遙見象來。見已左右面化作極高牆。後化作極大澗。深百千丈。上化極大山雷聲而下。在前化五大師子。彼象見五大師子已。極大恐怖迴視左右。面有極大牆。還迴視後有極大澗。深百千丈。而仰視大火山雷聲而下。見已謂生一切世火燃想。佛世尊見象大畏懼已。還攝却五大師子。却五大師子已。唯見佛足下清涼。見已至世尊所。到已頭面禮世尊足。以鼻投世尊足。彼時世尊諸相莊嚴紫磨金色。滿五千福祐一切。世尊以右手摩象頭。摩象頭已醉便解。醉解已。世尊爲說偈曰

象莫害大龍 象龍出世難 象莫害大龍 終不生善處 不應捶而捶 無恙而生恙 當受十倍報 速疾往生彼 當受極苦痛 身體亦毀壞 當遭困重疾 心亂志惱惡 或遭災困厄 爲他所誹謗

或親戚離別 錢財盡亡失 居室諸所有 爲火所焚燒 身壞無有慧 當生地獄中

彼象聞此偈已。眼便淚出。佛爲作象音而說法。彼象聞佛說法。命終生三十三天。此佛爲象故慈滿問曰。此中云何慈滿。答曰。即彼神足是。謂神足或現愛緣者。如所說。梵志有一兒守稻田。天大暴雨爲雹所殺。及壞稻田。彼梵志以二俱喪故。便意亂生狂裸形而走。乃至舍衛阿那邠邸園。彼梵志應從佛化。世尊遙見梵志從遠而來。見已作是念。今此時恒沙佛爲說法者不能令度。彼時世尊離彼不遠。化作稻田及彼一子。梵志見此二已還得本心。彼作是念。此是我子及以稻田。令我常抱憂患。見已便至世尊所。到已頭面禮世尊足。却坐一面。彼於世尊有信敬心內懷歡喜。世尊隨順爲說妙法。彼梵志聞佛說法。遠塵離垢得法眼生。此佛爲梵志慈滿。問曰。此中云何慈滿。答曰。即彼現愛緣是。復次現愛緣者。如所說。婆斯吒女梵志有六子。命終念子憂感。意亂生狂裸形而走。乃至舍衛阿那邠邸園。彼女梵志應從佛化。世尊遙見女梵志從遠而來。見已作是念。今此時若恒沙佛爲說法者不能令度。彼時世尊離彼不遠。化作六子。女梵志見六子已遠得本心。此是我子令我常抱憂患。彼有慚愧。便長跪而坐。彼時世尊告阿難。汝阿難取鬱多羅僧與彼女梵志。如是世尊。彼尊者阿難受世尊教已。取鬱多羅僧與女梵志。女梵志取阿難鬱

○(謂)一○(者)二考○ ○謂二語○ ○說○ ○離二說○ ○尿一尿○ ○(於)一○ ○放一於○ ○(作)一○ ○(六)十(火) ○而二不○ ○十二千 ○二二○ ○坐一至○ ○(法)一○ ○佛二神足○

多羅僧被著。至世尊所。到已禮世尊足。禮足已却住一面。彼於世尊有信敬心。內懷歡喜。世尊隨順為說妙法。女梵志聞佛說法。遠塵離垢諸法眼生。此佛為彼女梵志故慈滿。問曰。此中云何慈滿。答曰。即彼現愛緣。是謂現愛緣。或現智藥者。如所說。摩訶先。優婆夷。請佛及僧供養醫藥。彼時有一比丘。得病服藥。醫教勸當服肉。汁。彼病比丘語侍病者賢者。汝語摩訶先優婆夷。某比丘有患服藥。當須肉汁。彼時侍比丘者。便至摩訶先優婆夷所。到已語摩訶先優婆夷。妹當知。某比丘遇患服藥。當須肉汁。彼摩訶先優婆夷告使人曰。汝持此物往買肉與彼比丘。彼使人持物往周遍波羅捺城。索肉不能得。說者彼曰。梵摩達王生一童男。盡勸城內不得殺生。彼使人還至摩訶先優婆夷所。到已白摩訶先優婆夷曰。大家當知。周遍城中索肉不可得。摩訶先優婆夷作是念。此為災比丘得患而服藥。若不得肉或能命終。便持利刀入屋中。割身軟肉與使人。汝使人。自煮與彼比丘。彼使人如所勸持與比丘。彼比丘不知。持往與病比丘。彼病比丘亦不知而服。至病得愈。摩訶先優婆夷患身疼痛。彼時摩訶先優婆夷。夫少有事為出行不在。彼摩訶先優婆夷夫還。自問內人曰。摩訶先。今所在。內人對曰。大家。摩訶先在屋中極患苦痛。彼時摩訶先夫聞已極患無有敬心。彼作是說。若施者不知。受者亦不知耶。我當往向佛論之。於是摩訶先夫至世尊所。彼時世尊無量

百千乘前後圍繞而為說法。摩訶先夫見已作是念。今不得論。明當請世尊會。然後當論。作是念已。便前至世尊所。到已禮世尊足。禮足已却坐一面。彼時世尊為摩訶先夫。無量方便而為說法。勸進等勸進令歡喜等歡喜。無量方便為說法。勸進等勸進令歡喜等歡喜。默然住。彼時摩訶先夫從座起。又手向世尊。白世尊曰。唯世尊。明設微小會。願世尊及僧。感故當受。世尊受彼摩訶先夫請默然而住。於是摩訶先夫知世尊默然可已。禮世尊足繞世尊已。還本所止。到已即。彼夜具諸餽。設種種淨妙供饌。辦已。便白時至。彼時世尊晨著衣服。諸比丘前後圍繞。往詣彼摩訶先夫舍。到已就座。世尊知而問內人。摩訶先優婆夷今為所在。內人曰。唯世尊。摩訶先優婆夷行。來斷。極患苦痛在屋中。佛世尊知內緣起。知外亦如是。於是世尊屈伸臂頃。至雪山上取藥來已。摩訶先。著瘡上已。告摩訶先優婆夷夫曰。呼摩訶先優婆夷出。世尊呼汝。唯然世尊。摩訶先夫受世尊教已。便至摩訶先所。到已語摩訶先。世尊呼汝。聞世尊呼瘡即平服同一色。聞已於世尊所倍增信敬。內懷歡喜至世尊所。到已禮世尊足却住一面。世尊隨順為說妙法。摩訶先優婆夷及諸眷屬聞說法已。遠塵離垢諸法眼生。此世尊為摩訶先優婆夷故慈滿。問曰。此中云何慈滿。答曰。即彼智藥。復次智藥者。如所說。彼時愚癡琉璃王。破迦維羅衛城。將彼釋種極妙六女。彼在堂上而自誇說。我能壞汝

親族令無遺餘。彼釋女對曰。王有宿福。我親族見諦盡是聖人。但王不應全命而來。彼王作是念故。能為彼敢有所言。彼王捨於後世。無有慈心。截彼釋女手足已。棄著塹中。彼釋種女盡應佛化。彼世尊為教化故。便至彼處。見彼遭無量苦患。見已作是念。今此時此釋六女若恒沙佛為說法者。彼患斯苦不能令受化。佛世尊知內緣起。知外亦如是。於是世尊屈伸臂頃。至雪山上取藥來已。摩訶先。著瘡上已。苦痛即除。便生樂痛。生樂痛已。世尊隨順為說妙法。彼六釋女聞說法已。遠塵離垢諸法眼生。此世尊為六釋女慈滿。問曰。此中云何慈滿。答曰。即彼智藥。是謂智藥。或以更樂者。如所說。世尊遊諸房到一房舍。世尊見彼房中有一比丘。遇患苦痛獨自無伴。眠大小便中不能起居。世尊知而問比丘。何以故遇此患獨自無伴。病比丘質直白世尊曰。唯世尊。我欲情不能看視他。他亦不看視我。唯世尊我無所依。唯善逝我無所怙。世尊告曰。比丘。汝不為我故出家學道作沙門耶。比丘曰。唯然世尊。唯然善逝。世尊告曰。比丘。我是汝所依及天世間。彼時世尊於彼臥處徐徐扶起。將出外安徐令臥。彼時世尊還入房中。出彼薦席除大小便。泥治臥屋。更布新薦席。洗浴病比丘已。更著新衣浣濯故衣。還將入房。徐徐臥新床褥上。以手摩身。世尊告曰。比丘。若汝不增勤修不到欲到。不獲欲獲不證欲證者。比丘但更遭重患復甚於此。如世尊以手摩病比丘。所苦即除。便得樂

①優婆夷二優披夷②下同 ③汁二汗④汝二往⑤法⑥自二家⑦今十(為)⑧彼二後⑨(便)一⑩(諸)一⑪(來)二永

痛得樂痛已。世尊隨順爲說妙法。比丘聞說法已。遠塵離垢。諸法眼生。此世尊爲彼比丘故慈滿問曰。此中云何慈滿答曰。彼更樂是。復次更樂者。如所說。世尊遊者闍嶠山一方。調達亦在一方。彼時調達遭重頭痛不可堪忍。彼時世尊以具足相好紫磨金色滿百千福手。貫彼山摩調達頭。除一切苦痛便得樂痛得樂痛已。調達作是念。是誰之恩。彼還顧見是世尊手。見已說曰。善哉悉達。善學此醫。以此醫方足得生活。此世尊爲調達慈滿。問曰。此中云何慈滿。答曰。卽更樂是。是謂更樂。或以涼冷影者。如所說。世尊及尊者舍利弗同遊一處。尊者阿難在佛後執拂拂佛。彼時有鳥爲鷹所逼。怖畏飛趣尊者舍利弗影中住。身戰如獨搖樹。彼鳥離舍利弗影。飛至佛影中無恐畏。阿難見已叉手白佛曰。甚奇世尊。如此鳥在尊者舍利弗影中時。身戰如獨搖樹。離舍利弗影。至世尊影已便無恐畏。世尊告曰。如是阿難。如是阿難。舍利弗比丘。雖離於殺不極清淨。是故。鳥住影中。身戰如獨搖樹。阿難。我於三阿僧祇劫離於殺。極具足清淨。淨行。是故鳥住我影中而無恐怖。此世尊爲彼鳥故慈滿問曰。此中云何慈滿答曰。卽涼冷影是。復次涼冷影者。如所說。有一賊。被截手足棄著塹中。彼賊世尊應化。世尊作是念。若此時恒沙佛爲一賊說法者。不能度彼。時世尊往至賊所。到已彼賊在世尊影中。卽離苦痛便得樂痛得樂痛已。世尊隨順爲說妙法。賊聞法已。遠塵離垢諸法

法眼生。此世尊爲賊故慈滿問曰。此中云何慈滿答曰。卽涼冷影是。是謂涼冷影。如世尊無量種慈滿非一種。以是故律說。世尊慈滿衆生而說法。如世尊契經說。四種人受於梵福。謂人未曾立處。以如來舍利立作鑰婆。是謂初人受於梵福。復次謂人未曾立處。作房舍已施招提僧。是謂二人受於梵福。復次謂人若有鬪亂。僧而和合之。是謂三人受於梵福。復次謂人心與慈俱滿一方已成就遊。如是二三四維上下滿一切諸方已。心與慈俱成就遊。如是心與悲喜護俱滿一方已成就遊。如是二三四維上下滿一切諸方已成就遊。是謂四人受於梵福。譬喻者說曰。此非佛契經所說。亦非梵福。佛契經說。無量等是梵福。何以故。謂無量等與果等。如此受梵福。謂金剛座及轉法輪。從天下處立鑰婆。如是彼立小小鑰婆。得梵福與等耶。如此受梵福。謂竹園祇桓。深林邃林。立大僧坊。如是彼立小小房。得梵福與等耶。如此受梵福。謂調達鬪亂。僧而和合之。如是彼拘舍彌比丘小小譯。而和合之得梵福。與等耶。是故非佛契經。亦非梵福。佛契經說。無量等亦是梵福。如是說者。是佛契經說。亦是梵福問曰。如此果不與等。答曰。饒益他故。世間福相。如無量饒益他。謂修無量等。如是此亦無量饒益他。謂未曾立處。以如來舍利立鑰婆。謂因彼處百千衆生修善身口意行。供養世尊。繪綵華蓋。幡幡伎樂。碎末塗香。願求佛道。聲聞辟支佛道。得大富生豪貴家。顏貌端正。生天上人

中。觀此極有饒益。如此無量極饒益他。謂發於無量等。此亦如是。無量饒益他。謂未曾立處。作房已。施與招提僧。謂因彼處百千衆生修善身口意行。誦習讀者問者教者。思惟契經律阿毘曇。思惟靜默除欲界結。除色界無色界界結。得須陀洹斯陀。含阿那。含阿羅漢。果。爲佛法僧故。佐助衆事。願求佛道。聲聞辟支佛道。得大富生豪貴家。顏貌端正。生天上人。觀此極有饒益。如此無量極饒益他。謂發於無量等。此亦如是。無量饒益他。謂和合鬪亂僧者。如僧鬪亂壞。爾時未取證不取證。未得果不得果。不能除結。不得漏盡。亦不誦習契經律阿毘曇。亦不思惟契經律阿毘曇。亦不思惟靜默。不除欲界結。亦不除色無色界結。不得須陀洹斯陀。含阿那。含阿羅漢。果。三千大千世界不轉法輪。至首陀會天。意亂。謂和合鬪亂僧已。未取證取證得果。能除結得漏盡。誦習契經律阿毘曇。思惟契經律阿毘曇。亦思惟靜默。除欲界結。除色無色界結。得須陀洹斯陀。含阿那。含阿羅漢。果。三千大千世界轉于法輪。至首陀會天。意亦不亂。觀此極有饒益。或曰。謂未曾立處。以如來舍利立鑰婆者。如來是梵因。彼處受梵福。謂未曾立處。作房施招提僧。因梵行人處受梵福。謂和合鬪亂僧者。謂聖道因。彼處受梵福。尊者婆須蜜說曰。謂未曾立處。以如來舍利立鑰婆。以四事故受梵福。云何爲四。開極妙意。廣出財物。及立舍利。所作已訖。謂未曾立處。作房施招提僧。以四事故受梵福。開極妙

○(護)一○(身)二○(極)一○(淨)十○(深)○(被)一○(慈)滿二○(慈)○(心)二○(成)○(等)一○(林)一○(僧)二○(謂)二○(界)一○

意廣出財物所作已訖。誦習禪思未定得定。謂和合鬪亂僧。以四事故受梵福。除口四過。以四事故受於梵福。離諍不諍。除去五蓋色界果封在色界。問曰。梵福福為幾數。有一說者。謂所因行得轉輪王。此是梵福數。更有說者。謂所因行得天帝釋。是謂梵福數。更有說者。謂所因行得他化自在天子。是謂梵福數。更有說者。謂所因行得大梵。是謂梵福數。更有說者。世敗還成時。一切衆生所因行施設。此大地。是梵福數。更有說者。梵天請世尊轉於法輪。聖大梵請佛所轉法輪受福。是梵福數。問曰。大梵不隱沒無記心請佛世尊。云何受梵福。有一說者。謂始發梵天我當往請佛世尊。即彼時大梵受梵福。此者不論。何以故。如汝所說應不作行而受報。問曰。若不爾者。此云何。答曰。大梵天請世尊轉法輪。大梵天聞已便作是念。我請故佛轉法輪。彼以此懷歡喜心。發極妙善願。彼時受梵福。更有說者。除已成菩薩。餘一切衆生所受福。此是梵福數。如是說者名梵福者。此稱譽讚歎。但梵福者無量不可計阿僧祇不可數。如世尊契經說。慈修習多修習生遍淨天。悲修習多修習生空處。喜修習多修習生識處。護修習多修習生不用處。問曰。若說慈修習多修習生遍淨天者。此應爾。謂慈果。報在遍淨。謂說悲修習多修習生空處。喜修習多修習生識處。護修習多修習生不用處者。此不應爾。何以故。此是色界功德善根。不應受無色界

報。何以故說悲修習多修習生空處。喜修習多修習生識處。護修習多修習生不用處。有一說者。彌勒下已當為說之。餘者不能。或曰。為相似故說。慈是樂行樂根。一切生死中最妙。彼三禪中可得。是故佛說修慈生遍淨。悲者能呵責壞色。空處亦呵責壞色。是故佛說修悲生空處。喜者悅行。識處意亦悅行。是故佛說修喜生識處。護者能捨不用處。亦說名為捨。是故佛說修護生不用處。或曰。彼行者令意悅樂故。或有行者欲得三禪。或欲得空處。識處不用處。謂欲得三禪者。彼除欲界結。意不樂不悅。除初禪欲不樂不悅。於二禪除欲時。三禪現在前意悅樂。謂欲得空處者。彼除欲界欲意不樂不悅。乃至三禪除欲。意不樂不悅。於四禪除欲時。空處現在前意悅樂。謂欲得識處者。彼除欲界欲意不樂不悅。乃至四禪除欲。意不樂不悅。謂空處除欲時。識處現在前意悅樂。謂欲得不用處者。彼除欲界欲意不樂不悅。至空處除欲。意不樂不悅。於識處除欲時。不用處現在前意悅樂。是謂行者令意悅樂故。以故爾。或曰。此中說覺支道支。謂覺支道支者能除一禪。彼說慈為名。謂覺支道支除四禪。彼說悲為名。謂覺支道支除道支除空處者。彼說喜為名。謂覺支道支除識處者。彼說護為名。是謂說覺支道支。以故爾。或曰。斷異學意故。異學無色中計解脫想。於無量等中說道想。謂異學無色中計解脫想者。彼世尊說無量等量共同。尊者瞿沙亦爾說。異學於離中者癡。於不離中計解脫想。謂計

解脫想者。彼世尊說無量等共同。廣說四無量等處盡。轉婆沙論卷第十一

轉婆沙論卷第十一

阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

四無色處第三十五

四無色者。空處識處不用處有想無想處。問曰。何以故作此論。答曰。斷他意故作此論。或有欲令無色中有色。或有欲令無色中無色。轉婆沙論婆提欲令無色中有色。有多婆提欲令無色中無色。問曰。轉婆沙論婆提何意欲令無色中有色。答曰。彼從佛契經起無色中有色。彼言。世尊契經說。名色緣識。識緣名色。無色中有識。若無色中有識者。亦當應有色。更餘契經說。壽煖識此三法常合終不相離。此三法不可得別施設。若此三法不可得別施設者。無色中有識。若無色中有識者。亦當應有煖。煖者即是色。除契經世尊說。若作是說。我離色離痛想行。獨施設識。若來若住若生若終。此不應作是說。無色中有識。若無色中有識者。亦當應有四識住。復更說詰責事。若無色中無色者。謂從欲界色界終生無色界。彼或八萬劫色永斷。若從彼終生欲界色界。八萬劫色永斷還復生。若八萬劫色永斷還復生者。應阿羅漢入無餘涅槃界。一切有

聖一謂(日)一(報)一封(謙)十(空)四二三(不悅)十(於四禪除欲時空處現在前意悅樂謂欲得識處者彼除欲界欲意不樂不悅至四禪除欲意不樂不悅)四十字(等量二量等)明註曰等量南藏作量等(阿羅漢尸陀槃尼撰)尊者迦旃延子造(迦旃延子造)阿羅漢撰八字

爲行永斷後亦當還生。若阿羅漢入無餘涅槃界。一切有爲行永斷後。亦當還生者。應無解無脫無離無出要。莫言有答。是故無色中有色。以此契經證故。轉婆闍婆提說無色中有色。問曰。有多婆提何意欲令無色中無色。答曰。從佛契經起。欲令無色中無色。彼言。世尊契經說。彼息解脫度色至無色。如是像正受身作證成就遊。若度色至無色者。是故無色中無色。更餘契經說。離欲至色。離色至無色。若離色至無色者。是故無色中無色。更餘契經說。一切度色想。滅有對想。不念雜想。無量空是空成就遊。若度一切色想者。是故無色中無色。更餘契經禪品中說。謂得可得有可。若色若痛想行識。彼觀此法如病如癰如刺如箭如毒蛇。觀無常若空非我。無色品中說。謂得可得有可。若痛若行識。彼觀此法如病如癰如刺如箭如毒蛇。觀無常若空非我。若禪品中說。色無色品中不說色者。以是故可知無色中無色。復更說詰責事。若無色中有色者。斷法次第不可知。謂諸有法在欲界。此法在色無色界者。如是斷法次第不可知。若斷法次第不可知者。究竟斷法不可知。因斷法次第故。至究竟可施設。若至究竟不斷者。應無解無脫無離無出要。莫言有答。是故無色中無色。以此契經證故。有多婆提說無色中無色。如是一說如是二但說。如是無色中無色好。問曰。若無色中無色者。此有多婆提。云何通彼轉婆闍婆提所說契經證答曰。此契經說有意可通。問曰。有何意云

何通。答曰。佛世尊或以欲界故說契經。或色界故。或無色界故。或欲界色界或色無色故。或三界故。或離三界故。欲界故說非色無色界者。如所說。三界欲界界界界。此契經欲界故說。非色無色界。爲色界故說。非欲界非無色界者。如上禪品所說。此契經色界故說。非欲界非無色界。無色界故說。非欲界非色界者。如上無色品所說。此契經無色界故說。非欲界非色界。欲色界故說。非無色界者。如此契經名色緣識識緣名色。此契經欲色界故說。非無色界。何以故。此欲色界中有色。是故此名色緣識識緣名色。無色中無色。是故此名緣識識緣名色。以是故此契經欲色界故說。非無色界。色無色界故說。非欲界者。如禪經所說經意生經。此契經色無色界故說。非欲界。三界故說者。如所說。欲界色界無色界。此契經三界故說。離三界故說者。如所說。比丘。我當說涅槃及涅槃道。此契經離三界故說。如所說壽煖識。此三法常合終不相離。此三法不可得別施設者。此契經亦欲色界故說。非無色界。何以故。此欲色界中有色。是故此三法常合終不相離。此三法不可得別施設。無色中無色。是故此壽識。此二法常合終不相離。此二法不可得別施設。是謂此契經意之所通。如。汝所說。此契經三法常合終不相離。不可得別施設者。此三法亦可得別施設。界故入故陰故。界別施設者。壽者法界所攝。煖者色界所攝。識者七意界所攝。入別施設者。壽者法入所攝。煖者。觸入所攝。識

者意入所攝。陰別施設者。壽者行陰所攝。煖者色陰所攝。識者識陰所攝。如是此三法不能常合。亦可別施設。界故入故陰故。莫作是說。此契經三法常合終不相離。此三法不可別施設。如所說。若作是說。我離色離痛想行。獨施設。若來若。往若生若終。此不應作是說者。此契經亦欲色界施設說。何以故。此欲色。界中有色。是故此識四識住故施設。無色界中。無色。是故此識三識住故施設。謂作是說。我除四識住獨施設。此終不能施設。謂除一識住。識。三識住故施設。彼能施設。如所說若無色中無色者。謂從欲色界終生無色界。彼或八萬劫色永斷。若從彼終生欲界色界。八萬劫色永斷還復生。若八萬劫色永斷還復生者。應阿羅漢入無餘涅槃界。一切有爲行永斷後亦當還生。若阿羅漢入無餘涅槃界。一切有爲行永斷後亦當還生者。應無解無脫無離無出要。莫言有答。是故無色中有色者。答曰。此不應通。此非契經非律非阿毘曇。不可以世間譬喻壞實聖法。世間喻異。賢聖法亦異。此若通者當有何意。答曰。或因色無色生色無色。或因色無色生無色。或因無色生無色。或因無色生色無色。因色無色生無色者。若從欲色界終還生欲色界。因色無色生無色者。若從欲色界終生無色界。因無色生無色者。若從無色界終生無色界。因無色生色無色者。若從無色界終生欲色界。或有色相續至竟斷或須臾斷。謂色相續至竟斷者。彼不復還生。謂色相續須臾

◎亦二方◎ ◎〔欲〕一◎ ◎汝二法◎ ◎觸二色◎ ◎住一住◎ ◎〔界〕一◎ ◎〔無〕一◎ ◎〔識〕一◎

斷者。彼還復生。彼阿羅漢入無餘涅槃界。一切有為行永斷。是故不復生。問曰。彼禪婆闍婆提。云何通此有多婆提所說契經證。答曰。彼言。如佛契經說。彼息解脫度色至無色。如是像正受身作證成就遊。此契經佛度色故說。無色中有色。但微細四大布散空界。說曰。此不論。何以故。說色極微者。猶籠於四陰然。彼說四陰不說色陰。以此不知無色中無色。問曰。如所說離欲至色。離色至無色。此云何通答曰。如彼色離欲界於色中故有色。如是無色離色。於無色中亦應有色。說曰。此者不論。何以故。若彼色離此欲界色者可爾。但彼色離此欲界中欲不離色。色中無有欲。如是彼無色離此色界中色。以是故無色中無色。餘契經證者。彼不能通。唯彼無智果闍果癡果非精勤果。謂欲令無色中有色。但無色中無色。是謂欲斷他意現己意。說如等法。故作此論。莫令斷他意。莫現己意。但說如等法。故作此論。四無色者。空處識處不用處有想無想處。空處云何。如婆須蜜經所說。空處者空處正受及生。謂善痛想行識是。問曰。何以故。如禪或說正受及生。或說生非正受。無色者說一切正受及生。答曰。彼無色非種種。非若干相。非不相似。是故一切說正受及生。禪者種種若干相不相似。是故或說正受及生。或說生非正受。或曰。無色者非種種功德莊嚴。是故一切說正受及生。禪者種種功德莊嚴。是故或說正受及生。或說生非正受。或曰。無色者無多妙法。是故一切說正受及生。禪

者多有妙法。是故或說正受及生。或說生非正受。或曰。無色者細不可見難可現。是故一切說正受及生。禪者籠可見可現。是故或說正受及生。或說生非正受。四無色定者。空處識處不用處有想無想處。空處云何。於是比丘度一切色想。滅有對想。不念雜想。無量空是無量空處成就遊。彼度一切色想者。色想者。謂四禪大地布散色想現彼應滅以是故說度一切色想。滅有對想者。對想者。五識身相應想是。問曰。如欲界除欲時滅五識身相應想。或除初禪欲時滅。何以故四禪除欲時說滅有對想。答曰。雖有五識身相應想。或欲界除欲時滅。或初禪除欲時滅。但彼想處未滅。謂四禪除欲已彼想處滅。以想滅故說。或曰。滅依故說。雖有五識身相應想。或欲界除欲時滅。或初禪除欲時滅。但依未滅。謂四禪除欲已所依便滅。是故依滅故說。更有說者。有對相者。悲相應想是。問曰。如悲相應想。欲界除欲時永滅。何以故四禪除欲時說。答曰。滅因故說。謂因及緣生。悲色因色緣。是彼色四禪除欲時永滅。是謂因及緣滅故說。以是故滅有對想說。不念雜想者。四禪地布散想。問曰。彼何以故說不念。答曰。謂彼四禪布散想。退空處正受。世尊說不思念此想。修空處正受道。以是故說不念雜想。無量空。是空處成就遊者。問曰。何以故說空處。為性耶。為緣耶。若是性

者應四。陰性。若是緣者應緣四諦。作此論已。答曰。空處者非性亦非緣。但方便故說空處。如彼施設所說。云何方便空處正受。云何方便成空處正受。此始初行時。或住山頂上。或住高閣上。或住高臺上。謂此地極高處不念。彼謂此地極下處。彼念是空意解是空。彼觀是空分別是空。是從空。故成就此正受。以成此定說名為空處。或曰。此法應爾。謂彼地始無色彼名空處。或曰。離色故說空處。彼行者於下地色緣色已。除欲界欲乃至三禪。彼於四禪上更無色可緣除四禪欲。彼爾時生空想。如人攀枝至枝上樹極標。彼上更無有枝而可攀緣。爾時便起空想。如是行者於下地色緣色。除欲界欲乃至三禪。四禪上更無色可緣。除四禪欲。彼時便起空想。是離色故便說空處。或曰。謂從空處起相似想。說者有一比丘。得空處正受。彼從定起手。按摸床。同學。問曰。汝何所求。答曰。我自求我。同學說曰。汝在床上更何所求。謂從定起相似想。是說空處。是故說無量空。無量空處成就遊者。謂彼空處地善四陰到得成就。是故說無量空處成就遊。復次比丘度一切無量空處無量識處成就遊。問曰。何以故說識處。為性耶。為緣耶。若性者應有四陰性。若緣者應四諦緣。作此論。不答曰。無量識處者。亦非性亦非緣。但方便故說無量識處。如彼施設所說。云何方便無量識處正受。云何精勤成就無量識處正受。是始初行時。觀淨眼識想。觀淨耳鼻舌身意識

◎彼二後◎ ◎空處者一◎ ◎時一◎ ◎初一◎ ◎相二想◎ ◎修二爾◎ ◎是十(無量)◎ ◎陰二除◎ ◎故二處◎ ◎汝二謂◎ ◎不二已◎

想觀淨大火聚焰觀淨燈光。彼念是識意解是識。彼觀是識分別是識。是從識故成就此正受。以成此定說名無量識處。或曰。彼相似故從此起。生悅樂悅樂識。是故說無量識處。無量識處成就遊者。謂此無量識處善四陰到得成就。是故說無量識處成就遊。復次比丘度一切無量識處無所有處成就遊。問曰。彼中無何等。答曰。有所有者。無量行彼中無此。是故說無所有處。尊者婆須蜜說曰。彼無我計我。是故說無所有處。

問曰。如一切地無我計我。何以故無所有處說無我計我。答曰。一切地計我意無有。如少縛欲穿。如無所有處。是故說無所有處無我計我。重說曰。彼中無有常計常及常住。是故說無所有處。重說曰。彼中無著處無依處無歸處。是故說無所有處。成就遊者。此中謂無所有處善四陰到得成就。是故說成就遊。復次比丘度一切無所有處非想非不想處成就遊。

問曰。何以故說非想非不想處。答曰。彼想不定非想亦不定。想不定者。如七想正受中想定。此中不爾非想不定者。如無想定滅盡定。此中亦不爾。問曰。若不爾者此云何。答曰。彼處鈍。不利不捷疾不定斷。是故說非想非不想處。成就遊者。此中謂非想非不想處善四陰到得成就。是故說成就遊。問曰。何以故彼一界。或二倍壽。或不也。如空處二萬劫壽。識處四萬劫壽。何以故。無所有處不說八萬劫壽。何以故。非想非不想處說十六萬劫壽。

答曰。彼報因。齊限。謂彼因。齊限。報亦爾。或曰。空處有無量行。或不無量行。無量行者受二萬劫壽。不無量行者亦受萬劫壽。是故彼受二萬劫壽。識處亦有無量行。或不無量行。無量行者受二萬劫壽。不無量行者亦受二萬劫壽。是故彼無量行壽分斷。以故爾。或曰。空處中有止有觀。止者受萬劫壽。觀亦受萬劫壽。是故彼受二萬劫壽。識處亦有止亦有觀。止者受二萬劫壽。觀者亦受二萬劫壽。是故彼受四萬劫壽。識處止觀漸薄。是故觀分斷。以故爾。或曰。彼一切地性二萬劫壽。空處性二萬劫壽。識處性亦二萬劫壽。以度一地故更二萬劫壽。是故彼受四萬劫壽。無所有處性亦二萬劫壽。以度二地故更受四萬劫壽。是故彼受六萬劫壽。非想非不想處性亦二萬劫壽。以度三地故更受六萬劫壽。是故彼受八萬劫壽。以故爾。是故彼一界或二倍。或不說曰。欲界及非想非不想無聖道。

問曰。何以故欲界及非想非不想無聖道。答曰。非田非地非器故。以故爾。或曰。此說二邊。一欲界邊。二非想非不想邊。彼聖道除二邊故而處其中。以故爾。或曰。此說一於有二根。一欲界有根。二非想非不想有根。彼聖道除二有根而處其中。以故爾。或曰。此欲界非定界。非思惟地。非除欲地。非想非不想。鈍不利不捷疾不定斷。聖道者是定是思惟能除欲不鈍極利捷疾。以故爾。或曰。此欲界增調。非想非不想處增。止。聖道。者是止觀。以是故。

欲界及非想非不想處無聖道。廣說四無色處盡。

轉婆沙八解脫處第三十六

八解脫者。色觀色。初解脫。內無色想觀外色。二解脫。淨解脫身作證成就遊。三解脫。復次比丘度一切色想。滅有對想。不念雜想。無量空。是無量空處成就遊。四解脫。復次比丘度一切無量空處。無量識。是無量識處成就遊。五解脫。復次比丘度一切無量識處。無所有處成就遊。六解脫。復次比丘。一切度無所有處。非想非不想成就遊。七解脫。復次比丘度一切非想非不想處。想滅正受身作證成就遊。八解脫。

問曰。八解脫有何性。答曰。初三解脫不貪性。無量空處無量識處無所有處非想非不想處四陰性。想滅解脫不相應行陰性。界者。初三解脫繫在欲界亦繫色界。無量空處解脫。無量識處解脫。無所有處解脫。或繫在無色界。或不繫。非想非不想想滅解脫繫無色界。地者。初二解脫初禪地二禪地。淨解脫者根本四禪。無量空處解脫即空處處地。無量識處解脫即無量識處處地。無所有處解脫即無所有處處地。非想非不想想滅解脫即非想非不想處處地。依者。初三解脫依欲界。無量空處解脫至非想非不想處解脫依三界。想滅解脫者依欲色界。行者。初二解脫不淨行淨解脫是淨行。無量空處解脫。無量識處解脫。無所有處解脫。或十六行。或離十六行。非想非不想處想滅解脫離行。緣者。初三解脫色陰

①(不利)一②③ ④處十(不)⑤ ⑥齊二劑⑦* ⑧四一⑨ ⑩倍一信⑪ ⑫止二上⑬ ⑭者二若⑮ ⑯轉婆沙十(論)⑰* (轉婆沙)一⑱* ⑲一切度二度一切⑳

緣。空處解脫乃至非想非非想解脫緣四諦。想滅解脫無有緣。意止者。初三解脫身意止。空處解脫乃至非想非非想解脫三意止。想滅解脫法意止。智者。初三解脫。雖性非智與等智相應。空處解脫乃至無所有處解脫。或六智。或非也。非想非非想解脫一等智。想滅解脫非智。定者。初三解脫性非定。亦非定相應。空處解脫乃至無所有處解脫或定或離。非想非非想解脫想滅解脫非定。痛者。初二解脫與二根相應。喜根護根。淨解脫至非想非非想解脫。一護根相應。想滅解脫不與痛相應。

問曰。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。答曰。當言過去。當言未來。當言現在。

問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言現在緣耶。當言非世緣耶。答曰。七解脫。當言過去緣。當言未來緣。當言現在緣。當言非世緣。想滅解脫。當言非緣。

問曰。當言己意緣耶。當言他意緣耶。當言非意緣耶。答曰。七解脫。當言己意緣。當言他意緣。當言非意緣。想滅解脫。當言非緣。

問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。答曰。七解脫。當言名緣。當言義緣。想滅解脫。當言非緣。此是解脫性。已種相所有自然說性已。當說行。何以故說解脫。解脫有何義。答曰。不向門義是解脫義。

問曰。若不向門義是解脫義者。何等解脫。於何事不向門耶。答曰。初二解脫於色欲不向門。淨解脫不淨不向門。空處解脫乃至非想

非非想處解脫。下地相續不向門。想滅解脫。二事不向門。一心永滅。二不向門。心永滅者。謂斷一切心。不向門者。謂一切共緣相續不向。

問曰。如所說。內無色想觀外色者。若內無色想時即觀外色耶。為觀外色非內無色想耶。若內無色想時即觀外色者。何得不一時有二種心耶。若一時有二種心者。何得不破心耶。若破心者。何得不有無量心耶。若觀外色非內無色想者。此契經云何通。此中說內無色想觀外色。作此論已。答曰。觀外色無有內無色想。

問曰。若觀外色無有內無色想者。此契經云何通。此中說內無色想觀外色。答曰。此契經說。善根及善根方便。若說內無色想。是彼善根。方便觀外色者。此是根本善根。或曰。此中說前按計分別。彼行者前按計分別已。如我內無色想當觀外色。是故說內無色想觀外色。問曰。彼不淨想盡。是欲界色入境界耶。為非耶。若彼不淨想盡。是欲界色入境界者。此尊者阿那律契經。云何通說者。尊者阿那律遊於山林中。爾時四妙天女化作上妙色已。到尊者阿那律所。禮尊者阿那律足。於一面住。白尊者阿那律曰。尊者阿那律。我等四妙天女於四事善得自在。云何四。天色。天衣。天飾。天樂。尊者阿那律。我等四妙天女若意所欲。化天四事。天五欲等共娛樂。尊者阿那律。便作是念。我今寧可於四禪地。不淨想現在前已。當觀不淨。爾時尊者阿那律作是念已。

四禪地不淨想即現在前。便觀四妙天女不淨。終不能於不淨得解。爾時尊者阿那律告四妙天女曰。諸妹皆作青色。問曰。何以故。尊者阿那律告彼諸妹。皆作青色耶。答曰。尊者阿那律作是念。此色極好種種。若盡同一色者。或於不淨得解。爾時四妙天女聞尊者阿那律教已。盡化青色。於尊者阿那律前歌舞戲笑。尊者阿那律於不淨猶故不解。尊者阿那律復告曰。諸妹盡作黃色。盡作赤色。問曰。何以故。尊者阿那律告四妙天女。諸妹皆作黃色。盡作赤色。答曰。尊者阿那律作是念。觀緣行時或從不淨得解。爾時四妙天女聞尊者阿那律教已。盡化黃色。盡化赤色。於尊者阿那律前歌舞戲笑。尊者阿那律於不淨猶故不解。尊者阿那律復告諸妹。盡作白色。問曰。何以故。尊者阿那律告四妙天女。諸妹盡作白色。答曰。尊者阿那律作是念。此白色觀不淨時極隨順。若作白色者。或於不淨得解。爾時四妙天女聞尊者阿那律教已。盡化作白色。於尊者阿那律前歌舞戲笑。尊者阿那律於不淨猶故不解。尊者阿那律作是念。此色甚為極妙。作是念已。即閉塞諸根。若彼不淨想盡。是欲界色入境界者。此契經云何解。答曰。尊者阿那律雖於不淨想不得解。但利根者於不淨能得解。如佛辟支佛聲聞得度無極。

問曰。能於佛身解不淨耶。為不耶。答曰。佛身者極妙極好。諸得不淨想者。盡來於佛身觀不淨。終不能於佛足指觀不淨。況復極妙面

得不淨耶。唯佛觀佛能解不淨。更有說者。不淨想者有二種。一觀別相。二觀總相。觀別相者。終不能於佛身解不淨。觀總相者。或能於佛身解不淨。復有二種不淨想。一壞色。二緣行壞色。不淨想者。終不能於佛身解不淨。緣行不淨想者。或能於佛身解不淨。問曰。淨解脫爲色觀色耶。爲內無色想觀外色耶。若內無色想觀外色者。彼二解脫及第三解脫何差別。作此論已。答曰。淨解脫者。內無色。想觀外色。

問曰。若淨解脫內無色想觀外色者。二解脫及三解脫何差別。答曰。名即是差別。此二三地亦有差別。二解脫者初禪二禪地。淨解脫者根本四禪地。除病亦有差別。二解脫者除色欲淨解脫者除不淨。或曰。二解脫者緣觀不淨不起結。淨解脫者緣觀淨亦不起結。緣觀不淨不起結者。此非奇。緣淨觀不起結者。此乃爲奇。二解脫及三解脫是謂差別。問曰。此說淨解脫極妙緣亦極妙。何以故說淨解脫極妙緣亦極妙耶。答曰。謂此非是常人所能得。唯淨潔自意。從妙天來者彼能得如所說。有異比丘。來至世尊所。到已禮世尊足却坐一面。世尊爲說妙法。勸進等勸進。以無量方便等勸進已默然住。於是比丘聞世尊所說法內懷歡喜。從坐起整衣服露右肩。又手向世尊。白世尊曰。唯世尊。願賜處所。彼時尊者阿難在世尊後。手執拂拂世尊。彼時世尊還顧告阿難曰。爲客比丘。併一房令得止

宿。唯然世尊。彼時尊者阿難受世尊教已。爲客比丘。併一房與客比丘。客比丘白尊者阿難曰。尊者阿難。爲我故極掃灑此房。除諸穢惡懸縶幡蓋。燒衆名香散種種花。設廣大床褥極令柔軟。於是尊者阿難聞已。到世尊所白世尊曰。唯世尊。向冥來客比丘如是告勸尊者阿難。爲我故極掃灑此房。除諸穢惡懸縶幡蓋。燒衆名香散種種華。設廣大床褥極令柔軟。世尊曰。阿難。速爲彼客比丘如所言。尊者阿難波斯匿王常請供養。於是尊者阿難受世尊教已。至波斯匿王宮。取種種具便掃灑彼房。除諸穢惡懸縶幡蓋。燒衆名香散種種花。設廣大床褥極令柔軟。尊者阿難一切具施設已還所止。於是彼客比丘於房中即其夜發淨解脫。三明作證得六神通。於八解脫順逆已晨朝神足。歎虛而去。於是尊者阿難明朝至彼房看。見空房不見客比丘。於是尊者阿難到世尊所。白世尊曰。唯世尊。昨冥來客比丘如是告勸已。而彼客比丘空房而去。世尊告曰。阿難。勿誤彼客比丘。何以故。阿難。彼客比丘者於房中即其夜發淨解脫。三明作證得六神通。於八解脫順逆已。晨朝神足。歎虛而去。阿難。彼客比丘淨潔自意。從妙天中來。阿難若不具種種供給者。彼比丘終不能發爾所功德。是故以此可知。非是常人所能得。唯淨潔自意從妙天中來者可得。是故說淨解脫極妙緣亦極妙。問曰。如此二正受。無想正受想滅正受。二俱無心。何以故想滅正受立解脫。無想正受不立耶。

答曰。謂勇猛勤行多作方便彼立解脫。謂不勇猛不勤行不多作方便。彼不立解脫。或曰。謂未曾行未曾得未曾轉彼立解脫。謂曾行曾得曾轉彼不立解脫。或曰。謂不共彼立解脫。謂共彼不立解脫。或曰。謂此法可得非外彼立解脫。謂此法及外可得彼不立解脫。問曰。云何知無想正受此法可得。答曰。有證。如所說。得無想正受。彼從中起息所往來。持衣鉢具。言語柔和飲食。庠徐。有長老比丘。得妙智觀。觀已作是念。彼比丘極妙具足威儀禮節。我寧可觀之。得何功德。彼觀知乃是凡夫人。唯得無想正受。知已從三昧起。呼彼比丘告曰。子此非是妙。汝離佛法中極妙善根。而與異學同行。何用是爲。速當捨之。於是彼比丘求極多方便。欲捨本心終不能離。說者比比丘乃至退服還家。卒不能離本心。彼命終已生無想天。是故以此可知無想正受此法中亦得。或曰。謂聖人可得。非凡夫人。彼立解脫。謂一向凡夫人可得非聖人。彼不立解脫。或曰。此已說。二事故名爲解脫。一者共緣相續不向門。二者盡斷心。彼無想正受不能一切共緣相續不向門。亦不能盡斷心。是故想滅正受立解脫。無想正受不立解脫。問曰。何以故無色具足立解脫。禪者不具足立解脫耶。答曰。此禪龜可見。是故不具立解脫。無色極微細不可見。是故具立解脫。或曰。禪者種種非一相不相似。是故不具立解脫。無色者非種種非不一相非不相似。是故具立解脫。或曰。禪多有功德多有妙法。是故不具立

◎觀總一總觀◎◎(相)一◎◎想二相◎◎併二併◎◎歎一歎◎◎(其)一◎◎既二既◎◎摩二摩◎◎
本二本◎

解脫。無色者無多功德無多妙法。是故具立解脫。或曰。禪者種種善根莊嚴。是故不具立解脫。無色者無種種善根莊嚴。是故具立解脫。或曰。禪解脫一向有漏。是故不具立解脫。無色解脫者有漏無漏。是故具立解脫。問曰。何以故禪解脫一向有漏。無色解脫有漏無漏耶。答曰。禪解脫者得解思惟。無色解脫者真實思惟。以是故禪解脫一向有漏。無色解脫有漏無漏。

問曰。何以故八解脫說淨解脫想滅解脫身作證。不說餘。答曰。餘亦說。如彼大因經所說。阿難。如比丘於八解脫順逆身作證成就遊。以此可知餘亦說身作證。問曰。此一契經說八解脫身作證。餘契經何以唯說此二解脫身作證。答曰。此二解脫勇猛勤行多作方便。以是故說二解脫身作證。或曰。謂此二解脫說界邊。淨解脫者說色界邊。想滅解脫者說無色界邊。以故爾。或曰。謂此二解脫說地邊。淨解脫者說四禪地邊。想滅解脫者說非想非非想地邊。或曰。淨解脫者緣觀淨不起結。世尊說身當作證。想滅解脫者非心法。身所生非心所生。身力可得。非心力可得。世尊說身當作證。或曰。世尊說大因經。八解脫身作證成就遊者。彼一切遊二解脫故。以是故世尊說淨解脫想滅解脫身作證。說曰。此佛契經說八解脫為方。問曰。何以故世尊說八解脫為方。答曰。為教化故。有受化者應聞方名得解。是故世尊為教化故。說八解脫為方。如餘契經。為教化故說諸為方。如是世尊為

教化故。說八解脫為方。或曰。此契經有因有緣。如所說。王波斯匿告捕象者。汝捕象人。速捕野象已白我。令知。於是捕象者受王教已。至空野處捕象。得已還白王曰。唯尊當知已捕得象。隨王處分。於是王告善御象。汝御象人。速調御此野象。調已還來白我。彼善御象者受王教已。將野象而調御之。極調已還白王曰。唯尊所勅調象。今已極調。於是王欲試。此象。令御象者御。已。王乘。所出出城已而彼象遙見大牝象群。見已奔走馳向。彼善御象者極以力御而不能制。彼象被鈎斫而無所覺。於是王告善御者。汝速迴此象無令斷我命根。御者對曰。天王。極以力制而不可禁。王及御象者殆至於死。彼宿緣象象趣樹間。於是善御象者手攀枝授與王。於是王及善御者攀枝而下。象奔走趨群。王告御象者曰。汝云何令頂生王乘此不調之象。御者叉手對曰。天王。當賜威顏。此象極已調。王告曰。云何知極調。御者對曰。天王。彼象已習人間之食。彼食空野中食不能存命。彼欲止自還。還已當令王見所以為調。於是野象欲止還至王城。彼御象者將象至王所。告象曰。我當令汝有所作。勿得動轉。若不忍者。我當令汝如本所更。彼象有智即然可之。軍令我死願不見本所更事。彼御者以大鐵鉗。鉗大熱鐵圍著其頂上。燒象頂如燒樺皮。彼象不敢動轉。於是御象者白王曰。天王。當觀象調如此。王告御者曰。前者是誰之過。御者對曰。天王。是心之過。王告曰。何以故不調御心。御者對

曰。唯能御形不能調心。王告曰。誰有能調心者。於是御者右膝跪地。叉手面向祇桓精舍白王曰。天王。彼佛世尊止此舍衛祇樹給孤獨園。彼能調心。於是王有心於世尊。欲見世尊。於是王及御者還乘本象。便往祇樹給孤獨園。彼時世尊為無量百千衆眷屬圍繞說微妙法。於是王下象已。步至世尊所。世尊方便說喻。非一切聲聞辟支佛。彼王漸欲近。世尊見已告諸比丘。象師御象走趨一方。或東西南北及諸方。御馬師調御馬走趨一方。或東西南北及諸方。調牛師調御牛走趨一方。或東西南北及諸方。無上士。御人師。調御人趣一切方。一切方者色觀色。是初方。乃至想滅解脫身作證成就遊為八方。以是故佛契經以解脫說為方。問曰。解脫云何如方。答曰。同八事故名為方。解脫者八。方亦八。問曰。如方有十解脫有八。云何同八事故名為方。答曰。如彼御象者能御八方。終不能令至上下。是故同八事故名為方。或曰。如象因方而趣。如是受化者。緣故解脫現在前。尊者瞿沙說曰。解脫及方者。三事同。三事差降。三事同者。如象不趣向方不可調御。世尊亦爾。不因化者不能令解脫現在前。如象調御至一方不趣餘方。如是世尊為受化者。令一解脫現在前。非餘解脫。如象調御趣一方遠離餘方。如是世尊為受化者。令一解脫現在前。遠離餘解脫。此三事同。三差降者。象者不至方不可調御。世尊住一方已。為受化者極令彼遠。能令解脫現在前。象者御趣一方不

①遊二由 ②令二今 ③知二却 ④明註曰知南處作却 ⑤此一法 ⑥已二象 ⑦所二而 ⑧便二更 ⑨御二天 ⑩是二界 ⑪因二日 ⑫是十者 ⑬因二向 ⑭不二為 ⑮焉

趣餘方。世尊爲八受化者。能令一時八解脫
現在前。象者御趣一方遠離餘方。世尊爲受
化者。能令一解脫現在前。餘解脫近爲習學
故。是謂三差降。廣說八解脫處盡

* 裨婆沙八除入處第三十七

八除入者。云何爲八。此比丘內有色想觀外
色少。若好醜彼色壞已見。作如是想。此初
除入。復次比丘內有色想觀外色無量。若好
醜彼色壞已見。作如是想。此二除入。復次
比丘內無色想觀外色少。若好醜彼色壞已
見。作如是想。此三除入。復次比丘內無色
想觀外色無量。若好醜彼色壞已見。作如
是想。此四除入。復次比丘內無色想觀外色
無量。若好醜彼色壞已見。作如是想。此五
除入。復次比丘內無色想觀外色無量。若好
醜彼色壞已見。作如是想。此六除入。復次
比丘內無色想觀外色無量。若好醜彼色壞
已見。作如是想。此七除入。復次比丘內無
色想觀外色無量。若好醜彼色壞已見。作如
是想。此八除入。復次比丘內無色想觀外色
無量。若好醜彼色壞已見。作如是想。此八
除入。

光。如是比丘內無色想觀外色。赤赤色赤見
赤光。無量無量淨。意愛樂無厭。彼色壞已
知壞已見。作如是想。此七除入。復次比丘內
無色想觀外色。白白色白見白光。無量無
量淨。意愛樂無厭。如明星白白色白見白
光。如成就波羅捺衣。極熨熱令悅澤。白白色
白見白光。如是比丘內無色想觀外色。白
色白見白光。無量無量淨。意愛樂無厭。彼
色壞已見。作如是想。此八除入

名爲除入。八除入者。云何爲八。此比丘內有
色想觀外色少者。少自在故。少緣故名爲少
好者。謂色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色
青黃赤白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如
是想。此初除入。復次比丘內無色想觀外色
少者。少自在故。少緣故名爲少好者。謂色
青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
二除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
三除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
四除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
五除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
六除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
七除入。復次比丘內無色想觀外色無量者。
自在無量故。緣無量故名爲無量。好者。謂
色青黃赤白悅澤名爲好。醜者。謂色青黃赤
白不悅澤名爲醜。彼色壞已見。作如是想。此
八除入。

好若醜彼色壞已見。作如是想。此三
除入。復次比丘內無色想觀外色無量。若好
醜彼色壞已見。作如是想。此四除入。復次
比丘內無色想觀外色。青青色青見
青光。無量無量淨。意愛樂無厭。如青蓮花
青青色青見青光。如成就波羅捺衣。極熨熱
令悅澤。青青色青見青光。如是比丘內無色
想觀外色。青青色青見青光。無量無量淨。意
愛樂無厭。彼色壞已見。作如是想。此五除入。
復次比丘內無色想觀外色。黃黃色
黃見黃光。無量無量淨。意愛樂無厭。如迦
羅尼。黃黃色黃見黃光。如成就波羅捺衣。
極熨熱令悅澤。黃黃色黃見黃光。如是比丘
內無色想觀外色。黃黃色黃見黃光。無量無
量淨。意愛樂無厭。彼色壞已見。作如是想。
如是。此六除入。復次比丘內無色想觀外
色。赤赤色赤見赤光。無量無量淨。意愛樂
無厭。如頻頭迦羅花。赤赤色赤見赤光。如成
就波羅捺衣。極熨熱令悅澤。赤赤色赤見赤

問曰。八除入有何性。答曰。無貪善根性。彼相
應法共有法總五陰性。界者。或欲界繫。或色
界繫。地者。初四除入初禪二禪地。後四除入
第四禪地。何以故。謂從初解脫二解脫。或初
四除入故。從淨解脫後四除入故。依者。盡
依欲界。行者。初四除入不淨行。後四除入
淨行。緣者。盡緣欲界中色入緣。意止者。
是身意止。智者。雖性非智。但等智相應。定
者非定。痛者。初四除入喜根相應。後四除入
護根相應。問曰。當言過去耶。當言未來耶。當
言現在耶。答曰。當言過去。當言未來。當言現
在。問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言
現在緣耶。答曰。當言過去緣。當言未來緣。當
言現在緣。問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。
答曰。當言名緣。當言義緣

問曰。當言已意緣耶。當言他意緣耶。答曰。當
言已意緣。當言他意緣。此是除入性。已種相
身所有自然。說性已。當說行。何以故。說除入。
除入有何義。答曰。緣壞故名爲除入。如所說。
能壞處所者。是故世尊說除入。是謂緣壞故

◎ (尼華)十◎ ◎成就二成熟◎ ◎觀外二外觀◎ ◎依二衣◎ ◎修二精◎ ◎如是作一作如是◎

呵責自在教勅自在。如大家已有奴呵責自在教勅自在。如是彼色中離欲斷欲度欲便壞已知壞已見。呵責自在教勅自在。是故說彼色壞已知壞已見。作如是想者。如是。修彼想也。是故說作如是想。此三除入。三者。次第數便有三。次順數便有三。復次次第正受便有。故曰三。除入者何所除入。當正受時壞色故曰除入。復次比丘。內無色想觀外色無量者。自在無量故。緣無量故。名為無量。好者。謂色青黃赤白悅澤名為好。醜者。謂色青黃赤白不悅澤名為醜。彼色壞已知壞已見者。彼色中離欲斷欲度欲便壞已知壞已見。呵責自在教勅自在。如大家已有奴呵責自在教勅自在。如是彼色中離欲斷欲度欲便壞已知壞已見。呵責自在教勂自在。是故說彼色壞已知壞已見。作如是想者。如是。修彼想也。是故說作如是想。此四除入。四者。次第數便有四。次順數便有四。復次次第正受便有四。故曰四。除入者何所除入。當正受時壞色故曰除入。復次比丘。內無色想觀外色青者。現青想現青種現青聚。是故說青。色者。如此色青如是彼色形亦青。是故說青色。青見者。眼行眼境界眼光。是故說青見青光者。青光清明青焰。是故說青光無量者。無量無邊不可計。是故說無量。無量淨者。如彼色無量。如是彼色中淨亦無量。是故說無量淨。意愛者。彼色愛喜好喜念。是故說意愛。意樂者。意樂著自娛。是故說樂。無厭者。樂欲忍。是故說無厭。如青蓮花青青色青

見青光。如成就波羅捺衣。極熿熱令悅澤。青色青見青光。如是比丘內無色想觀外色青。青色青見青光。如是無量無量淨。意愛意樂無厭。彼色壞已知壞已見者。彼色中離欲斷欲度欲。便壞已知壞已見。呵責自在教勂自在。如大家已有奴呵責自在教勂自在。如是彼色中離欲斷欲度欲。便壞已知壞已見。呵責自在教勂自在。是故說彼色壞已知壞已見。作如是想者。如是。修彼想也。是故說作如是想。此五除入。五者。次第數便有五。次順數便有五。復次次第正受便有五。故曰五。除入者何所除入。當正受時壞色故曰除入。如青除入。黃赤白除入亦如是。問曰。何以故無色不立除入。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過。彼盡知諸法相盡知行。謂有除入相彼立除入。謂無除入相彼不立除入。或曰。除入者能壞色。以故名為除入。無色中無色可壞。以故彼不立除入。廣說八除入處盡。 * 神婆沙十一切入處第三十八

十一切入者。云何為十。此比丘地一切入。一思惟上下諸方無二無量。水一切入。火一切入。風一切入。青一切入。黃一切入。赤一切入。白一切入。無量空處一切入。無量識處一切入。十思惟上下諸方無二無量。問曰。十一切入有何性。答曰。初八無貪善根性。無量空處無量識處一切入四陰性。界者。初八色界繫。無量空處無量識處一切入者。無色界繫。地者。初八一切入根本第四禪。何以故。從淨解脫成八一切入故。無量空處一切入即無量空處地。無量。識一切入即無量識處地。依者。一切依欲界。行者。八一切入淨行。無量空處無量識處一切入不施設行。緣者。初八一切入欲界緣。無量空處無量識處一切入無色界緣。意止者。初八一切入身意止。無量空處無量識處一切入三意止。智者。初八一切入雖性非智。但等智相應。無量空處無量識處一切入是等智。定者。非定。痛者。一切護根相應。問曰。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。答曰。當言過去。當言未來。當言現在。問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言現在緣耶。答曰。當言過去緣。當言未來緣。當言現在緣。問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。答曰。當言名緣。當言義緣。問曰。當言已緣耶。當言他緣耶。答曰。當言已緣。當言他緣。此是十一切入性。已種相身所有自然。說性已。當說行。何以故說一切入。一切入有何義。答曰。普緣故名一切入。十一切入者。此比丘地一切入者。普緣故一思惟。一者。次第數便有一。順次數便有一。復次次第正受便有一。上下者。上即上方。下即下方。諸方者。四方及四維也。無二者。不俱不散。無量者。無量無限不可計。水一切入。火一切入。風一切入。青一切入。黃一切入。赤一切入。白一切入。無量空處無量識處一切入。無量一切入者。普緣故。十思。性者。次第數便有十。順次數便有十。復次次第正受便有十。上下

◎(內無...故)十五字一◎ ◎青十(青)◎ ◎[如是]一◎ ◎識十(處)◎ ◎入二八◎ ◎ (無)十無◎ ◎惟一性◎ ◎性二惟◎

者。上即上方。下即下方。諸方者。四方及四維。無二者。不俱不散。無量者。無量不可限不可計。

問曰。無所有處非想非非想處。何以故不立一切入。答曰。佛世尊於法真諦。餘真無能過上。彼盡知諸法相盡知行。謂有一切入相立一切入。謂無一切入相不立一切入。或曰。無量行故無量空處。無量識處立一切入。無所有處非想非非想處無量行。是故不立一切入。

問曰。此中說上下及諸方。八一切入應爾。上下及諸方無量空處無量識處一切入。無地不可見。何以故說上下及諸方。答曰。彼雖無上下。正受故可得上下。謂彼行正受者。或上或下或中。是故說上下。如契經說諸賢行地。一切正受者作是念。謂地即是我。謂我即是地。我與地一無二。

問曰。此云何如是行地一切正受者。謂地計是我。答曰。行正受者會行正受故說。如本會作沙門故以沙門為名。會阿練阿練為名。會戒律戒律為名。會法師法師為名。如是行正受者。會行正受故說。

問曰。三禪何以故不立解脫除入一切入。答曰。三禪樂一切生死中最妙。行者。著彼樂不求此善根以故爾。問曰。若爾者何以故三禪中有神通變化。答曰。如是彼中或有善根或無。莫令彼地善根空。或曰。此神通變化能長養樂。非是損解脫除入一切入。於樂是損非是長養。以是故三禪不立解脫除入一切入。

問曰。解脫除入一切入何差別。答曰。解脫者令不向門。除入者壞於緣。一切入者普緣解脫除入一切入。是謂差別。廣說十一切入處盡。

鞞婆沙論卷第十二

鞞婆沙論卷第十三

*阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦國寶三藏僧伽跋澄譯

八智處第三十九

八智者。法智未知智知他心智等智苦智智智盡智道智。問曰。何以故彼作經者依八智而作論。答曰。彼作經者意欲爾。如所欲如是作經。與法不相違。以是故依八智而作論。或曰。彼作經者無事。問曰。何以故彼作經者無事。答曰。此是佛契經。契經說八智。彼作經者於佛契經中依本末處所。已此阿毘曇中作論。彼作經者不能八智中減一智已立七智。增一智已立九智。問曰。何以故。答曰。所謂是一切佛契經亦不增亦不減。不增者無增可減。不減者無減可增。如不增不減如是無量深無邊。無量深者。無量義。無邊者。無邊味。故。如大海無量深無邊。如是佛契經無量深無邊。無量深者。無量義。無邊者。無邊味。故。如尊者舍利弗。如是比百千那術。以佛契經二句作百千經。令智盡而住。不能盡佛契經二句得其邊。崖。如佛契經此論是故作

經者無事。問曰。若佛契經此論佛契經者。說無量智。或說二智。如增一中說二法或說四智。如增一中說四法或說八智。如增一中說八法或說十智。如增一中說十法。如佛契經說無量種智。何以故。彼作經者離無量種智。依八智而作論。答曰。謂八智是中說亦攝一切智。二智雖攝一切智。但略。十智雖攝一切智。但極廣。或曰。謂八智數。數現在前。盡智無生智不數數現在前。或曰。謂八智數數思惟。盡智無生智不數數思惟。或曰。謂八智是見性及智性。盡智無生智雖是智性但非見性。或曰。謂八智有欲無欲意中可得。盡智無生智一向無欲意中可得。如有欲無欲。如是有患無患有癡無癡有慢無慢。如是盡當知。或曰。謂八智學無學意中可得。盡智無生智一向無學意中可得。如學無學。如是作不作求不不息如是盡當知。以是故彼作經者離無量種智。依八智而作論。彼作經者或依一智頃作論。如難捷度所說。頗以一智知一切法耶。答曰。不也。問曰。如此智生一切法無我。此何所不知。答曰。不知自然。不知共有法。不知相應法。問曰。何以故爾。答曰。彼作經者依一智頃作論以故爾。若彼作經者依一切八智作論而問。頗八智一智能知一切法耶。可答有等智。如是七六五四三二一。若彼作經者依一智作論而問。頗一智知一切法耶。亦可答有等智也。若彼作經一智中依二時頃立論而問。頗一智二時頃知一切法耶。亦可答有一智二時頃。謂一智一時

◎〔著〕一◎◎佛契經契經一佛契經佛契經◎◎二深◎◎智十(智)◎◎〔數〕一◎◎〔亦〕十可◎

頃除自然相應法共有法。餘者盡知一切法。謂一智二時頃者。知自然相應共有法如是彼。智二時頃盡知一切法。但彼作經者。一智一時頃立論而問。願一智知一切法耶。答曰。不也。八智者。法智未知智知他心智等智苦智習智盡智道智。問曰。八智有何性。答曰。慧性攝。一持一入一陰少所入。相應法共有法攝。三持二入五陰。此是智性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故。說智智有何義。答曰。決定義是智義。問曰。若決定義是智義者。疑品中不應有智。彼疑品者非決定。答曰。疑品中有智者性決定。但餘事故名疑品。謂彼疑品若是苦猶豫疑。如是習盡道是道猶豫疑。作譬喻者說曰。謂心中有智不應有無智。謂心中有疑不應有決定。復次譬喻者詰責。阿毘曇師諸尊如叢林。阿毘曇師說法性亦如是。一心中施設智施設無智。一心中施設疑亦施設決定。但阿毘曇師說法性。一心中施設智無智亦施設非智非無智。一心中施設疑亦施設決定。施設亦非疑亦非決定。智者慧。無智者無明。非智非無智者餘法。疑者猶豫。決定者智。非疑非決定者餘法。問曰。此當言智耶。當言了耶。答曰。亦名為智。亦名為了。智者決定義故。謂知苦習盡道。了者開義。謂開己意亦開他意。以是故亦名為智。亦名為了。如是共行說已。當說別行。問曰。如一切十智法性。何以故說一法智。答曰。十智雖是法性但事故說一法智。知十八界雖是法性但事故說一法界。如十二入雖是法性但事

故說一法入。如七覺意雖是法性但事故說一擇法覺意。如六思念雖是法性但事故說一法念。如四信雖是法性但事故說一信法。如四意止雖是法性但事故說一法意止。如四辯雖是法性但事故說一法辯。如三寶三自歸雖是法性但事故說一法寶法歸。如是雖有十智是法性但事故說一法智。或曰。此法智者。一名餘者一名。法智者同名餘者不同名。是故說一法智非餘。或曰。謂法智始覺法。如法故說法智。謂後覺如法。是未知智。是說未知智。或曰。謂法智。初得無壞信。是故說法智。謂後得無壞信。是未知智。或曰。謂法智。除欲界多非法相結。如悲憤不語依諸結是未知智。或曰。謂法智。法智除欲界結是法智。謂除色無色界結是未知智。問曰。何以故說他心智。答曰。謂知他心。是故名知他心智。問曰。如知他心數法何以故。說知他心智不說心數法智。答曰。方便求故知他心智。此法多事故得名。或性故或依故或相應故或方便求故或行故或緣故或行緣故。性故得名者如界入陰。依故得名者如六識身。謂依眼者彼名眼識。謂依乃至意名為意識。相應故得名者如覺樂痛法覺苦痛法覺不苦不樂痛法。方便求故得名者如此知他心智。復次如無量空處無量識處行故得名者如苦智習智。緣故得名者如四意止如五見。正受行緣故得名者如盡智道智。此智名亦同緣亦同。此中方便求故名知他心智。因此故彼

行者。精勤方便求欲令我知他心。然後不精勤方便求。自然知他心數法。如人欲求見王。既見王已并見眷屬。如是行者精勤方便求欲令我見他心。然後自然知他心數法。以故爾。或曰。妙說妙義故。彼品何者最妙心。是如所說。如王行眷屬隨從以故爾。或曰。謂說心王。因彼故立心數法。心者說大地。因彼故立十大地。或曰。謂彼神通作證時。無礙道緣心以故爾。如是如前心所答。於此中盡答。以故說知他心智。問曰。何以故說等智。答曰。知等故名等智。如此中淨不淨行盡行裁割纒去來坐臥言語飲食。如是餘事是謂知等。故曰等智。問曰。如知第一義苦習盡道乃至一切法。何以故。說等智不說第一義智。答曰。多知等故名等智。少知第一義。是故不說第一義智。或曰。隱沒故名等智。猶如器蓋上名隱沒。如是此智隱沒故名等智。或曰。此智謂依於癡與癡相續。癡所持是故名等智。尊者婆須蜜說曰。此智非智相。但多人舉作智相。是故名等智。如彼多人舉作王。性非王種。但多人會推舉為王。以多人舉故。是故說名多人舉。但王如是。此智非智相。但多舉。非智相。是故名等智。問曰。何以故說苦智。何以故說乃至道智。答曰。謂苦行四行乃至道行四行。是名苦智乃至道智。問曰。世俗智亦苦行四行乃至道行四行。何以故不名苦智乃至道智。答曰。是世俗智與苦習同一縛。是故不名苦智乃至道智。或曰。此世俗法誹謗。說言。無苦無習盡道。是故不應說苦智至。道

①(一)十智 ②(一心中) ③初未 ④王二法 ⑤性二姓 ⑥非智相二作智想 ⑦作智相 ⑧說二諦 ⑨道二苦

智或曰。謂苦行四行乃至道行四行。能滅壞破有。是名苦智乃至道智。世俗智雖苦行四行乃至道行四行。但增長長養有。是故非名苦智至道智。或曰。謂苦行四行乃至道行四行。能斷有相續。能斷輪轉生死。是故名苦智乃至道智。世俗智雖苦行四行乃至道行四行。能相續有輪轉生死。是故名苦智乃至道智。或曰。謂苦行四行乃至道行四行。苦盡趣道。有盡趣道。貪盡趣道。盡生老死趣道。是故名苦智乃至道智。世俗智雖苦行四行乃至道行四行。苦習趣道。有習趣道。貪習趣道。生老死習趣道。是故名苦智乃至道智。或曰。謂苦行四行乃至道行四行。非身見種。非顛倒種。非愛種。非使種。非貪處非悲處非癡處。非雜汚非雜毒非雜濁。非在不墮苦習諦。是名苦智乃至道智。世俗智雖苦行四行乃至道行四行。是身見種顛倒種愛種使種。貪處悲處癡處。雜汚雜毒雜濁在有墮苦習諦。是故非名苦智乃至道智。說曰。四事故名為法智。始知法故名爲法智。知現法故名爲法智。於法非愚故名爲法智。於法非欺故名爲法智。遙知故名未知智。此亦四事從因遙知果。從果遙知因。從身行口行遙知心。從見善說法遙知世尊。知他心智亦四事。因次第緣增上。此智有四緣。知亦四緣。等亦四事。名等相續等俗數等所入等。苦亦四事。生苦老苦病苦衰苦習亦四事。行結愛處所。盡亦四事。一者三結盡。二者欲盡。三者五下分結盡。四者一切結盡。道亦四事。一者緣。二者現

法安樂遊。三者身遊戲。四者觀所作辦。盡智亦四事。空三昧不相應不攝見不與他心智俱。所求已捨。無生智亦四事。一者依二者方便求三者意四者不轉。說曰。一智攝一切智。法智是此性非如法智。但十智性是法。二智攝一切智。有漏無漏相續非相續繫非繫。三智攝一切智。法智未知智等智。四智攝一切智。法智未知智他心智等智。五智攝一切智。法智未知智他心智等智。六智攝一切智。苦習盡道智他心智等智。七智攝一切智。法智未知智等智苦習盡道智。八智攝一切智。法智未知智他心智等智苦習智盡智道智。問曰。若八智攝一切智者。餘更有八智法界住智涅槃智生死智念宿命智漏盡智妙智盡智無生智。云何此八智攝彼八智。答曰。此八智盡攝彼八智。問曰。云何此八智攝彼八智。答曰。法界住智者是法性。彼是四智法。智未知智知他心智等智。涅槃智者是盡智。彼是四智法智未知智盡智等智。生死智念宿命智者。本阿毘曇師及闍賓說者一等智。尊者瞿沙說曰。生死智念宿命智六智。法智未知智等智苦習智道智。除知他心智盡智。問曰。何以故除知他心智。答曰。生死智念宿命智緣過去未來。知他心智緣現在。是故除知他心智。問曰。何以故除盡智。答曰。生死智念宿命智是有爲緣。盡智無爲緣。是故除盡智。如是說者生死智念宿命智是一宿命智。有漏

盡智者。或有說。謂智有漏盡緣是漏盡智。更有說者。漏盡智者漏盡意中可得。是漏盡智。謂說漏盡緣。是漏盡智者此四智。法智未知智盡智等智。謂說漏盡意中可得。是漏。盡智者一切十智漏盡意中可得。妙智者本阿毘曇師及闍賓說一智等智。尊者瞿沙說曰。妙智者七智。法智未知智他心智等智苦習智道智除盡智。問曰。何以故除盡智。答曰。妙智者有爲緣。盡智者無爲緣。是故除盡智。如是說者妙智一等智盡智。無生智者六智。法智未知智苦習智盡智道智除知他心智等智。問曰。何以故除知他心智。答曰。盡智無生智知他心智。不相應故除知他心智。問曰。何以故除等智。答曰。盡智無生智是無漏。等智是有漏。是故除等智。如此八智攝彼八智。說曰。一切智當言一智智知故。知如法故。十智當言法智。性法故。十智當言妙智。願滿故。十智當言盡智。得漏盡故。十智當言無生智。不轉故。問曰。此八智幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾不繫。答曰。六智是不繫。等智三界繫。知他心智或色界繫或不繫。地者法智。六地未。至中間根本四禪。未知智者九地。此六地及三無色。知他心智根本四禪。問曰。何以故根本四禪。答曰。神通故謂神通定可得。彼知他心智可得非本地及無色。非神通定可得。等智十一地。苦。習智盡智道智法智分六地。未知智分九地。依者法智知他心智依欲界。未知智等智依三界。苦智

①智一者 ②智二未 ③[盡]一 ④爲二緣 ⑤至二來 ⑥[智]一

習智盡智道智法智分依欲界。未知智分依三界。行者法智未知智十六行。知他心智道四行等智或十六行或離十六行。苦智習智盡智道智各四行。緣者法智未知智四諦緣。知他心智欲界色界緣。他有漏無漏心心數法等智。或四諦緣或離四諦。苦智苦諦緣。習智習諦緣。盡智盡諦緣。道智道諦緣。意止者法智未知智苦智習智道智四意止。盡智法意止。知他心智心意止等智或四意止。或離四意止。智者即智定者。法智未知智三三昧相應。知他心智道無願相應。等智或三三昧相應。或不相應。苦智。二三昧相應。習智盡智道智各一三昧相應。痛者法智未知智知他心智苦智習智盡智道智總三根相應。樂根喜根護根。等智五根相應。問曰。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。答曰。當言過去當言未來當言現在。問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言現在緣耶。答曰。法智未知智等智或過去緣。或未來緣。或現在緣。或離世緣。知他心智當言現在緣。苦智習智道智當言過去緣。當言未來緣。當言現在緣。盡智當言離世緣。問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。答曰。當言名緣當言義緣。問曰。當言己意緣耶。當言他意緣耶。當言離意緣耶。答曰。法智未知智等智當言己意緣。當言他意緣。當言離意緣。知他心智他意緣。苦智習智道智當言己意緣。當言他意緣。盡智。當言。離意緣。廣說八智處盡

轉婆沙三三昧處第四十

三三昧者。空三昧無願三昧無想三昧。問曰。應說一三昧。如十大地十心心數法。如五根五力七覺種八道種。說一三昧應說二三昧。如所說有漏無漏。相續不相續。繫不繫。應說四三昧。如所說欲界繫色界繫無色界繫不繫。應說五三昧。如所說欲界繫色界繫無色界繫斷無斷。應說六三昧。如所說欲界繫色界繫無色界繫學無學非學非無學。應說九三昧。如所說增上增上中增上軟。中上中中中軟。軟上軟中軟軟。應說十八三昧。有漏九種無漏九種意故。一時頃有無量三昧。云何一三昧廣施設三三昧。云何無量三昧略施設三三昧耶。答曰。以三事故。一行二不願三緣。行者空三昧行二行。空行非我行。不願者。不願有故。問曰。若不願是無願者亦不願道耶。答曰。不也。何以故。無願者是聖道能除有。以故不願有聖道者不願道。何況願有緣者無想。離十想法故。十想法者。五界想。色聲香味細滑。二衆生想。男想女想。三有爲有爲想。生老無常。此者彼中無一。是離十想法故名無想。是謂三事故行不願緣說三三昧。或曰。除結故說三三昧。空三昧除身見。無願三昧除戒盜。無想三昧除疑。是謂除結故說三三昧。彼施設中說謂空三昧。即是空三昧非無願。非無想。謂無願即是無願。非空三昧非無想。謂無想三昧即是無想。非空三昧非無願。問曰。何以故別說三。答曰。行各異故。謂空三昧行。此行非無願行非無想行。謂無願行。此行非空三昧行非無想行。謂無想行。此行

非空三昧行非無願行。是謂行各異故別說三三昧。復如所說。謂空三昧即是空三昧。亦是無願非無想。謂無願即是無願。亦是空三昧非無想。謂無想即是無想。非空三昧亦非無願。問曰。何以故并說二別說一。答曰。一時得故。共除結故。一時得者。若依空三昧取證亦得無願。若依無願取證亦得空三昧。共除結者。此二俱。具若斷除結種。是謂一時得故。共除結故。并說二別說一。復如所說。謂空三昧即是空三昧。亦是無願亦是無想。問曰。何以故一切并說。答曰。此三昧空無有常計常。常住不變易以。是故一切并說謂無願即是無願亦是空三昧亦是無想。問曰。何以故此三昧無願。答曰。此三昧不願姪患癩。亦不願受當來有。是故此三昧是無願。謂無願三昧即是無想。亦是空三昧亦是無願。問曰。何以故此三昧是無想。答曰。此三昧無有色想。無有聲香味細滑法想。是故此三昧無想。問曰。三三昧有何性。答曰。行陰性。界者或三界繫或不繫。地者或十一地或九地。依者依三界。行者空三昧有二行。空行非我行。無願有十行。無常行因習本緣道正趣出要。無想有四行。盡止妙離。此中應作四句。謂空三昧亦是行空行耶。答曰。或空三昧非行空行。云何空三昧非行空行耶。答曰。謂空三昧行非我行。是謂空三昧非行空行。云何空行非空三昧耶。答曰。謂空三昧行空行時相應諸法。是謂行空行非空三昧。云何空三昧亦是行空行。答曰。謂空三昧行空行。是謂空三昧亦是行

①二二三② ③離二無④ ⑤轉婆沙十(論)⑥(轉婆沙)一⑦想二相⑧ ⑨具若二見苦⑩ ⑪具苦⑫ ⑬是二易⑭

空行。云何非空三昧亦非行空行。答曰。若即取此種類。應說謂空三昧行。餘行相應法。若不即取此種類。應說除此行如行。如是已行當行。如空行三四句。如是無我行亦三四句。是謂空三昧六四句。無願三十。無想十二。并說四十八四句。緣者空三昧緣苦諦。無願緣三諦。無想緣盡諦。意止者空三昧無願四意止。無想法意。止智者雖性非智。空三昧四智相應。法智未知智苦智等智。無願七智相應。法智未知智等智。知他心智苦智智道智。無想四智相應。法智未知智盡智等智。定者即定。痛者三痛相應。樂根喜根護根。問曰。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。答曰。當言過去。當言未來。當言現在。問曰。當言過去緣耶。當言未來緣耶。當言現在緣耶。當言非世緣耶。答曰。空無願當言過去緣。當言未來緣。當言現在緣。無想者當言非世緣。問曰。當言名緣耶。當言義緣耶。答曰。當言名緣當言義緣。問曰。當言已意緣耶。當言他意緣耶。當言非意緣。答曰。空三昧無願當言已意緣。當言他意緣。無想三昧當言非意緣。此是三三昧性。已種相身所有自然。說性已當說行。何以故說三昧三昧有何義。答曰。三事故說三昧。一。等二相續三緣縛。等者衆生久時心數法亂。謂令正真。因三昧故。相續者衆生久時心數法不次第生。若生善便有不善無記。若生不善便有善無記。若生無記便有善不善。謂令一向次第生善相縛相續除不善無記。唯因三昧故。緣縛者衆生久時心數法散。色聲

香味細滑法。謂令攝檢縛一緣中。因三昧故。是謂三事故等相續緣縛說三昧。或曰。以三事故。一攝二不散三不捨說三昧。或曰。復有三事故。一者一意二不散三不捨說三昧。如世尊契經說三三昧三解脫門。問曰。三三昧者。空三昧無願無相解脫門。亦空三昧無願無相。此二何差別。答曰。三昧者有漏無漏解脫門者一向無漏。是謂差別。問曰。此論。更有論生。何以故三昧有漏無漏。解脫門一向無漏耶。答曰。此是解脫門。解脫門者不應有漏。亦不應繫縛。是故三昧有漏無漏。解脫門一向無漏。

問曰。解脫門者。為取證故解脫門耶。為有漏盡故解脫門耶。若取證故解脫門者。應苦法忍相應是解脫門餘者非。若有漏盡故解脫門者。應金剛三昧相應是解脫門。餘者非。作此論已。答曰。解脫者。取證故亦漏盡故。問曰。若取證漏盡故是解脫門者。應苦法忍相應是解脫門餘者非。答曰。一切取證故。得一切漏盡。故名為解脫門。問曰。何以故名為門。答曰。向面故名為門。如勇健夫執轡自障。以極利刀害彼怨家。如是行者三昧向面已。以利慧刀害結怨家。如是謂向面故名為門。如世尊契經以三三昧為鬘。問曰。何以故佛世尊說三三昧為鬘。答曰。增上恭敬故。極妙故。如人以鬘冠首。妙故他所恭敬。如是行者以三三昧鬘冠首。妙故天及人增上恭敬。是謂增上恭敬妙故說三三昧為鬘。或曰。如人首冠華鬘風不亂其髮。如是聖三三昧冠首。善

根功德。覺觀風不能亂以故爾。或曰。如人以純結花作鬘久住不速解散。如是聖三三昧結功德鬘。得久住不速遺忘以故爾。或曰。如人以華結作鬘多有所直。如是聖以三三昧結功德鬘。多有所直。取證得果除結漏盡。因此事故佛契經說。舍利弗聖弟子成就三三昧鬘。除去不善修行於善以故爾。或曰。謂以三三昧廣師子吼。如所說尊者舍利弗遊拘薩羅止。山林中。離彼不遠有異學亦在中止。彼時人民於四月節會遊戲。彼異學少有事緣。下山林至人間。遇彼節會得酒肉豐足。彼醉挾瓶還本山林。彼遙見尊者舍利弗。見已輕之。甚奇我亦止於林彼亦止於林。我亦出家彼亦出家。我亦捨妻色彼亦捨妻色。我有如此樂彼有如此苦。即時說偈曰

美酒我飲醉 今復持一瓶
山地草樹木 視之一金色
於是尊者舍利弗作是念。此死瘦梵志能說此偈。我豈不能以偈答之。即時說偈曰

我飲無想酒 持空三昧瓶
山地草樹木 視之如棄唾
尊者舍利弗於此偈中以三三昧作師子吼。我飲無想酒者。此現無想三昧。持空三昧瓶者。此現空三昧。山地草樹木視之如棄唾者。此現無願三昧。如是此偈中尊者舍利弗作師子吼。以是故佛契經說三三昧為鬘。問曰。死瘦者。無命根無意非衆生數。彼梵志有命有意是衆生數。何以故說言死瘦耶。答曰。以彼輕易意故言死瘦。或曰。彼無慧命根故言

◎味二林◎ ◎更一便◎ ◎善二喜◎ ◎從二緣◎ ◎經二結◎ ◎[山]一◎ ◎一一次◎ ◎酒二醉◎

死瘦。說曰：此說多有無想。或以空三昧說無想。或以見道說無想。或以無疑說無想。或以非想非不想說無想。或無相即說無想。或以空三昧說無想者。如所說我本無想。三昧所為所行。謂我所為所行者。我今便止不欲。謂彼比丘思惟空法。便忘衆生想不見男女。此是空三昧說無想。復次空三昧說無想者。如所說有一比丘。得空解脫門。而不自知何果何功德。彼作是念。誰能為我記此三昧果及功德。復作是念。尊者阿難聖所稱譽。世尊印可阿難。必能為我記此三昧果及功德。復作是念。若我至尊尊者阿難所。問此三昧何果功德者。或能尊者阿難還問我。比丘得此三昧耶。我若說得云何示他功德。我若言不得云何欺彼上尊。比丘我若默然住。云何觸燒上尊。比丘復作念。我當尋從尊者阿難。或能日他從尊者阿難所聞此事。於是彼比丘六年中尋從尊者阿難而不聞此事。於是彼比丘後時從尊者阿難。尊者阿難謂此三昧精勤修行不增不減。如水定住。住故解脫。解脫故住。此三昧何果何功德耶。尊者阿難問曰。比丘。汝得此三昧耶。比丘對曰。唯然尊者阿難。得此三昧。尊者阿難說曰。比丘謂此三昧精勤修行不增不減。如水定住。住故解脫。解脫故住。比丘。此三昧智果智功德。比丘不久當得智。精勤修行者勇猛專志。是故說精勤修行。不增不減者不增涅槃不減生死。是故說不增不減。或曰。不增者除我故。不減者除是我故。

或曰。不增者除我見故。不減者除有我見故。是故說不增不減。如水定住者。如泉眼出水覆泉眼不捨。如是彼三昧所緣生而不捨彼緣。比丘此三昧智果智功德者。取證得果漏盡故。說智果智功德。於是彼比丘問尊者阿難善方喻說。內懷歡喜誦習受持已。禮尊者阿難足。繞尊者阿難已而去。彼比丘因尊者阿難教授。獨靖寂燕坐心不放逸。精勤遊已。知法至得阿羅漢。此是空三昧說無想。見道說無想者。如所說目捷連。彼覘舍梵不為汝記第六無想行人耶。第六無想行人者。堅信堅法。此義說第六無想行人。彼無想不可數不可施設。或此住或彼住。或苦法忍或苦法智。或苦未未知忍或苦未未知智。或盡法忍或盡法智。或盡未未知忍或盡未未知智。或道法忍或道法智。或道未未知忍。是謂無想不可數不可施設。以是故堅信堅法。說第六無想人。此中見道說無想。問曰。何以故此見道說無想。答曰。見道速疾道捷疾。道不住故。以是故見道說無想。或無疑說無想者。如所說尊者瞿多有欲想。有慧想。有癡想。若無者。是謂無想。是謂無疑。此中說無疑是無想。問曰。何以故說無疑是無想。答曰。結者能令退因。結相故。無疑不減不退。以是故無疑說無想。或非想非不想說無想者。如所說彼度一切無所有處。非想非不想處成就遊。此中非想非不想說無想。問曰。何以故非想非不想說無想。答曰。彼想亦非定。非想亦非定。想非定者。

如七想。正受。非想亦非定者。如無想。正受想滅。正受鈍故不利。故不捷疾。故無想即說無想者。如所說三三昧空三昧無願無想。此中無想即說無想。如世尊說。空三昧上尊所居。問曰。何以故說空三昧上尊所居。答曰。上尊多遊中故。三千大千國土。佛世尊於功德中最高上尊。彼多遊此中。第二上尊尊者舍利弗。彼亦多遊此中。是謂上尊所居多遊此中。名空三昧上尊所居。或曰。謂空三昧於此法不共居故。說空三昧上尊所居。雖百歲在此外法者。但彼故名為小成就。愚法故。雖七歲在此法者。但彼名為上尊成就。上尊法故。謂空三昧於此法不共居故。名為上尊所居。問曰。無願無想於此外法為有耶為無耶。答曰。雖無根本無願無想。或有相似無願行相。似是危行。無想行相似是止行。一切九十六種術無有似空三昧。況根本空三昧。謂空三昧於法此不共居。是故說上尊所居。或曰。定住故說空三昧上尊所居。此衆生未觀空故。常亂馳逸狂奔不住如水擾動。意如是不住。若觀空法已。定住不移動如須彌山。是謂定住。故說空三昧上尊所居。或曰。一切愛非愛便不善不善樂具。苦具不共俱。是故說空三昧上尊所居。如所說尊者舍利弗命終。弟子退服還家。當爾時黑齒比丘常與尊者舍利弗不相得。彼作是念。我當至彼說此凶問。便詣尊者舍利弗所。到已說曰。尊者舍利弗欲知不。尊母命終。弟子退服還家。尊者舍利

①〔無相〕一②③ ④(是)十念⑤⑥ ⑦靖寂燕一靜冥⑧ 靖冥⑨ ⑩減一滅⑪ ⑫正二止⑬⑭⑮ ⑯正二止⑰*

弗說曰：黑齒比丘。此者知當如何。如汝所說。母命終者。此有之性。誰生不死者。汝所說弟子。退服還家者。此凡夫人。性常移動。世尊說。唯。一聖人。常不移動。如所說阿難見誦之人。知。已犯戒捨戒退服還家者。非有此處。黑齒比丘。作是念。雖有斯言。心必不樂。爾時尊者舍利弗見此事。清旦整服持鉢入舍衛分衛。分衛已。食後舉衣鉢。澡洗手足。以尼師檀著左肩上。入安陀林坐禪。尊者舍利弗安陀林坐禪時。作是念。世間頗有極好妙事可愛。謂當變易起我愁憂苦惱耶。復作是念。世間無有極好妙事可愛。謂當變易起我愁憂苦惱。爾時尊者舍利弗。時從禪起。出安陀林詣祇樹給孤獨園。尊者阿難遙見尊者舍利弗來。見已說曰。善來尊者舍利弗。為從何來。何處坐禪。爾時尊者舍利弗答曰。阿難。從安陀林來。在彼坐禪。尊者阿難問曰。尊者舍利弗。在安陀林云何坐禪。答曰。阿難。我於安陀林思惟。有覺有觀。問曰。云何尊者舍利弗。有覺有觀。三昧答曰。阿難。我於安陀林坐禪時。作是念。世間頗有極好妙事可愛。謂當變易起我愁憂苦惱耶。尊者阿難問曰。作是念時。為獲何等。答曰。阿難。我作是念。世間無有極好妙事可愛。謂當變易起我愁憂苦惱。

舍利弗。世尊般涅槃。不起愁憂苦惱。何以故。如彼我。是我極斷故。是謂一切愛非愛。便不善樂。苦具不共俱。是故說空三昧上尊所居。復次如所說。世尊遊舍衛祇樹給孤獨園。爾時尊者阿難在一處坐禪。便作是念。一時世尊遊釋種處城名尼錯。彼時我從世尊聞如此所說義。阿難。我多遊空三昧。云何昔世尊所說善知善受持耶。於是尊者阿難。從下哺起至世尊所。到已禮世尊足。却住一面。白世尊曰。唯世尊。世尊昔一時遊釋種處城名尼錯。彼時我從世尊聞如此所說義。阿難。我多遊空三昧。云何昔世尊所說善知善受持耶。如是阿難。如是阿難。我所說汝善知善受持。何以故。阿難。我今亦多遊空三昧。問曰。若彼善知善受持者。何以故問世尊。若問者云何善知善受持。作此論已。答曰。善知善受持。問曰。若善知善受持者。何以故問。答曰。尊者阿難以壞釋種憂感。意中不定。故問。說者彼愚癡。流離王伐迦維羅衛盡壞彼族。尊者阿難聞愚癡。流離王伐迦維羅衛盡壞我釋種。聞已。明且與一比丘為伴。入彼城視本城。猶若天宮。今如丘塚。牆壁樓榭。埵窠。腐皆已毀壞。有種種華樹。種種果樹。園觀。盡已摧折。縱橫蔽地。若干花池。蓮華池。青蓮花池。盡頽毀枯竭。異類奇鳥。鴛鴦鴛鴦。鴿鷓鴣孔雀。千秋青雀。飛在空中。烟火所熏。徘徊在上。無量男女。喪失父母。號哭悲泣。隨逐阿難。彼時異學。優曇鉢園中。七萬賢聖。埋半身在地。以大

香象鐵。把把之。尊者阿難見已。增益悲酸。世尊因彼處故。與諸比丘前後圍繞。諸根寂定。意行不動。猶如山地。執心如持油鉢。御五根。馬如淨金山而入彼城。於是尊者阿難遙見世尊。妙光耀身。阿難見已。作是念。甚奇生地。同壞種族俱滅。我有如此憂感。而世尊猶若大山。無有傾斜。彼時世尊知尊者阿難。意欲行。便告尊者阿難曰。阿難。我多遊空三昧。而汝有村想。我具足寂靜想。而汝有人想。我具足法想。彼時尊者阿難及餘比丘。喪失親族。內懷憂感。不能行善。於是世尊因此處。故遊於人間。次第遊行。還至舍衛。遊舍衛祇樹給孤獨園。彼時尊者阿難憂感心除。於寂靜處。作是念。昔一時世尊遊釋種處城名尼錯。彼時我從世尊聞如此所說義。阿難。我多遊空三昧。云何昔世尊所說善知善受持耶。於是尊者阿難從下哺起至世尊所。到已禮世尊足。却住一面。白世尊曰。唯世尊。世尊昔一時遊釋種處城名尼錯。彼時我從世尊聞如此所說義。阿難。我多遊空三昧。云何世尊所說善知善受持耶。世尊告曰。如是阿難。如是阿難。我所說汝善知善受持。何以故。阿難。我今亦多遊空三昧。問曰。若問者云何善知善受持。答曰。彼善知善受持者不耶。受持不顛倒受持。不前不後。受持不盡遺忘。但內懷憂感。意中不定。故問。說曰。如世尊說。阿難。我今亦多遊空三昧。彼時諸比丘聞所說。作是念。空三昧者。諸佛世尊必不共遊居。非諸聲聞辟支佛。彼時世尊知諸聲聞意念

○樓二樓○ ○所說一說所○ ○流離二帝再○ ○七二十○ ○把把二爬爬○ 把把○ ○斜二邪○ ○桓二恒○ ○今二多○ ○耶二邪○

行已。告尊者阿難曰。阿難。諸有比丘欲多遊空三昧者。阿難。彼比丘當不念村想不念人想。應念寂靜想。問曰。世尊。現何等村想。何等人想。何等寂靜想。何等地想。何等無量空處想。何等無量識處想。何等無所有處想。何等無意想。何等有為意解脫。何等無為意解脫。何等漏盡。答曰。村想者。現緣迦維羅衛想。人想者。現殺舍夷人想。寂靜想者。現尼拘類樹園想。地想者。現四禪想。無量空處乃至無所有處想者。現除此欲色界。或曰。村想現欲界。欲界者說如村。如所說偈

謂能棄^①村刺 罵言及縛害
比丘離苦樂 如山不可動

人想者。現凡人想。寂靜想者。現二禪想。此說賢聖默然。地想者。現滅色想。因色故便有截耳鼻手足。無量空處想乃至無所有處想者。現除欲色界。是謂現村想至無所有處想。問曰。何以故。常說村想人想當莫念。答曰。謂此二想令諸比丘內多懷憂感。世尊說當捨此行善法。以是故。常說莫念村想人想。問曰。何以故捨下想增上想。答曰。制亂故。若世尊不捨下想增上想者。便有亂。諸佛世尊法常不亂說。是謂制亂故。或曰。制重說故。若世尊不捨下想增上想者。便為有重。諸佛世尊法常不重說。是謂制重說。故捨下想增上想。阿難。此不顛倒。如真寶空三昧。謂有為解脫無為解脫。問曰。云何此中有為解脫無為解脫。答曰。有為解脫者。等意解脫。無為解脫者。無礙解脫。問曰。何以故說等意解脫。答

曰。以少道得故說等意解脫。問曰。何以故說無礙解脫。答曰。以無量道得故說無礙解脫。問曰。何以故說無礙解脫不動。答曰。結者能令動。無礙者因結不動不轉不退。以是故無礙解脫說不動。謂至竟漏盡者。謂現一切漏盡。廣說三三昧處。盡廣說大章盡
轉婆沙論卷第十三

轉婆沙論卷第十四

阿羅漢尸陀槃尼撰

符秦罽賓三藏僧伽跋澄譯

中陰處第四十一 出阿毘曇結使 捷度人品非次

中陰者。何以故作此論。答曰。斷他意故作此論。或有欲令有中陰。或有欲令無中陰。轉婆闍婆提欲令無中陰。育多婆提欲令有中陰。問曰。轉婆闍婆提何意欲令無中陰。答曰。彼從佛契經。欲令無有中陰。五無間罪作已。增長無間必生地獄中。若以無間生地獄者。是故無中陰。餘契經說偈曰

梵志命根盡 未至閻王所
中無頓止處 必往不可除

若中無頓止處者。是故無有中陰。復更說世俗喻事。如光如影無有中間。如是若終若生無有中間。以此契經證故。轉婆闍婆提說無有中陰。問曰。育多婆提何意欲令有中陰。答曰。從契經起。欲令有中陰。彼言。世尊契經說。三事合故入母胎中。父母共會。母或時滿

有所堪任香陰已至。若香陰至者。是故有中陰。餘契經說五阿那含。中般涅槃生般涅槃行般涅槃無行般涅槃上流至阿迦膩吒。若說中般涅槃者。是故有中陰。餘契經婆蹉梵志至世尊所問曰。瞿曇。若是時捨此身已未至餘處。衆生乘意行。瞿曇。當爾時此衆生依受何住。沙門瞿曇。為彼衆生說依受何住。世尊說曰。婆蹉。若是時捨此身已未生餘處。衆生乘意行。婆蹉。當爾時彼衆生依受愛住。我說彼依受愛住。若說衆生捨此身已。未生餘處。衆生乘意行者。是故有中陰。復更說。詰實事。若言無中陰者。謂從閻浮提終生壽單越者。彼於此中斷彼間未有而有。若爾者應無有法而有。莫言有咎。是故有中陰。如是一說如是。一但說有中陰好。問曰。若有中陰者。此育多婆提云何通。彼轉婆闍婆提所說契經證。答曰。此契經證有意可通。問曰。有何意云何通。答曰。謂佛說契經五無間罪作已。增長無間必生地獄中者。佛於此契經除餘趣除餘行。除餘趣者。謂五無間罪作已增長。必生地獄中不生餘趣。除餘行者。謂五無間罪要受生報。不受現報不受後報。是謂此契經意之所通。如汝所說。此契經五無間罪作已。增長無間必生地獄中者。有此要當具五無間罪作已增長必生地獄耶。頗有四三二一。生地獄耶。或有除五更餘罪生地獄耶。頗有時時五無間罪作已增長即生地獄耶。為或住世百歲耶。此契經或有意或無意。但不說無有中陰。問曰。若爾者如此偈云何通

①村刺二人想 ②制一制 ③[者]一 ④阿羅漢尸陀槃尼撰 ⑤迦勝延子造 ⑥[阿羅...撰]八字一 ⑦(起)十欲 ⑧欲二起 ⑨未二來 ⑩詰二語 ⑪報二現

梵志命根盡 未至閻王所
中無止頓處 必往不可除

答曰。佛於此偈除餘趣除餘行。除餘趣者。謂此梵志作惡行增長已。必生地獄不生餘趣。除餘行者。謂此梵志作惡行增長已。必受生報非現法報後。報。問曰。此世間喻云何通。如光如影無有中。如是若終若生無有中。問。答曰。此不應通。此非契經非律非阿毘曇。不可以世間喻壞賢聖法。世間喻異。賢聖法異。復次應壞。若壞喻。以亦應壞義。光及影非命根無意非衆生數。若終若生有命。根有意是衆生數。設通此喻當有何意。答曰。此喻乃說有中陰非說無中陰。如光如影無有中。如是死陰中陰無有中。中陰生陰亦無中。問。如是此喻乃說有中陰。非說無中陰。問曰。此神婆闍婆提云何通。彼育多婆提所說契經證。答曰。彼說者如所說。三事合故入母胎中父母共合會。母。或時滿有所堪任香陰已至者。此不應說香陰已至。何以故不應說。此爲彈琴耶而言香陰以至。問曰。若不應說者此云何。答曰。當言名陰行。何以故。彼因陰行是故說當言名陰行。說者此不論。何以故。若說香陰若說陰行。故不能除中陰。問曰。此云何通五阿那含。中般涅槃生般涅槃行般涅槃無行般涅槃上流至阿迦。膩吒。答曰。彼說者有天名中。彼生中天命未盡而終。說者此不論。何以故。佛契經不說名中天。佛契經說。從四天王至非想非非天不聞有中。復次此契經說。生般涅槃行般涅槃無行般涅槃。

欲令有天命。生般涅槃行般涅槃無行般涅槃耶。復次如汝說。命未盡而終名中般涅槃者。除菩薩及禪越人。餘一切衆生命未盡而終。欲令一切衆生中般涅槃耶。問曰。云何通婆蹉梵志至世尊所問曰。瞿曇。若是時捨此身已未生餘處。衆生乘意行。瞿曇。當爾時此衆生依受何住。沙門瞿曇。爲彼衆生說依受何住。世尊說曰。婆蹉。若是時捨此身已未生餘處。衆生乘意行。婆蹉。當爾時彼衆生依受愛住。我說彼依受愛住。此云何通。答曰。彼說者。此中說無色界天乘意行。彼梵志有朋友。極敬念而命終。以天眼觀欲界而不見。觀色界亦不見。如不見已便作念。爲斷滅耶。爲云何。彼聞有沙門瞿曇一切智一切見。我當往至彼問其本末。爾時梵志至世尊所。到已白世尊曰。瞿曇。爲是時捨此身。以未生餘處衆生乘意行。瞿曇。當爾時此衆生依受何住。沙門瞿曇。爲彼衆生說依受何住。世尊說曰。婆蹉。若爾時捨此身已未生餘處衆生乘意行。婆蹉。當爾時彼衆生依受愛住。我說依受愛住。以此知說無色界天乘意行。問曰。佛契經多說乘意行。或化或中陰或色無色天或始人或地獄。此中云何知無色天乘意行。彼亦問。此云何知中陰乘意行。答曰。即此契經知此中說捨此身已。未生餘處。以是故此契經說中陰乘意行。問曰。若無中陰者。謂閻浮提命終已生禿單越。彼於此斷於彼無有而有。若無有而有者。是則無有法而有。答曰。彼說者彼終不捨死時陰。要當受生

時陰。得生時陰已。然。彼捨死時陰。如虫名。終不捨後足。要當安前足。安前足已。然後舉後足。如是彼終不捨死時陰。要前受生陰。受生名然後捨死時陰。問曰。如汝說。謂人間命終生地獄中。彼不應捨人間陰得地獄陰。若不捨人間陰得地獄陰者。彼應即人爲地獄。若即人爲地獄者。是則極壞。如世尊說五趣。地獄餓鬼畜生天人與相違。但彼無智果。愚癡果不動果。謂言無中陰。但有中陰。其實有種相。是謂斷他意見已意。說如等法故作此論。莫令斷他意。亦莫現己意。但說如等法故作此論。問曰。若有中陰者形爲大小。答曰。如四五月小兒。是中陰形大小。問曰。若形如此者不應有顛倒想。於母所有害心。於父所有害心。於父所有害心。於母所有害心。答曰。雖此形小但彼捷疾諸根利。如人畫壁作老人形像形小而老。如是彼中陰形雖小。但彼捷疾諸根利。問曰。菩薩中陰形爲大小。答曰。如本身有三十二相八十種好莊嚴其身。紫磨金色圓光一尋。梵音聲妙聲。伽毘陵伽鳥視之無厭。以是故住中陰時。百億天下妙光普遍。謂日月最妙多力猶不能遍照。彼以妙光普遍。見妙光已衆生各相知。異衆生異衆生。問曰。若如此菩薩生中陰者。尊者法實偈云何通。菩薩妙清淨 乘大白龍象 從兜術天下 降神入母胎 問曰。此偈不必通。何以故。非契經非律非阿

往二住 報一 以二已 根一相 母一 賦二貳 依十此 未二來 彼二後

毘曇。但作頌者。欲令句義合故。若必通此偈者當何意。答曰。此現方俗吉故。菩薩母夢中見順。彼相書所記故。但菩薩從九十一劫除畜生。彼豈乘畜生入母胎耶。問曰。趣中陰為云何。答曰。謂生地獄者足在上頭向下。如佛所說偈

諸墮地獄者。 足上頭向下
惡意於仙人 戒德及苦行

謂生天上者。頭上足在下。如箭射虛空。謂生諸方者。傾身而去。如鳥飛虛空。如神足飛。問曰。中陰形為云何。答曰。地獄者如地獄形。如是乃至天為天形

問曰。中陰者自相見耶。答曰。相見

問曰。若相見者何者見耶。答曰。地獄者還見地獄。如是乃至天還見天。更有說者。天中陰見五趣中陰。人見四餓鬼見三畜生見二地獄見一。如是說者地獄見地獄。如是至天

問曰。此所生眼見中陰耶。答曰。不也。問曰。云何知。答曰。有契經佛契經說。謂若男若女犯戒與惡法俱。彼身壞時未至惡趣。意所乘行如黑羊毛。光如夜闇冥。謂極淨天眼彼能見。謂若男若女持戒行與善法俱。彼身壞時未生善趣。意所乘行如白淨衣。光如夜月盛明。謂極淨天眼彼能見。以此契經可知。謂天眼不極淨。彼不能見。況所生眼當能見耶。問曰。住中為幾時。答曰。生天及地獄者。速生餓鬼畜生。人如合會時不久終已便生

問曰。或有衆生合會便生者可爾。謂不合會母或在天堂。父或至震旦。而彼命終當云何

生。答曰。當觀彼衆生緣轉不轉。若彼於母緣不轉於父緣轉。彼時母極守貞正。要趣至他人所令彼得生。若於父緣不轉於母緣轉。彼時父極守貞正。要當趣他女人所令彼得生。問曰。若二俱緣不轉。二俱不合此終當云何。答曰。彼衆生緣行故。父所營事未訖。市肆未成。便有還心。彼尋路行時不為刀兵火毒所中。亦不因他終要還己。俱緣合會彼便得生

問曰。謂衆生常行欲者。此可爾。謂衆生時節行欲者。如馬春時行欲。羴牛夏時行欲。狗秋時行欲。豹冬時行欲。彼衆生命終時云何。答曰。彼衆生緣故。非時所行欲彼便得生。或曰。彼生相似處此名牛亦名羴牛。羴牛者時節行欲。牛者常行欲。謂應生羴牛者便生牛中。名為狗亦名為狐。狐者常行欲。狗者時節行欲。謂應生狗中者便生狐中。名為熊亦名為熊。熊者常行欲。熊者時節行欲。應生熊者便生熊中。尊者婆須蜜說曰。中陰者當言七日住。當言過耶。答曰。中陰住當言七日。何以故。身羸故住七日不過七日。問曰。謂滿七日父母不合會者。彼時為斷耶。答曰。不斷但還生中陰。重說曰。中陰者當言七日。尊者曇摩多羅說曰。中陰者父母不合會亦可久時住。問曰。中陰者有衣無衣耶。答曰。色界一切諸天有衣。何以故。如法身不裸形。生身亦爾。欲界中菩薩有衣。及白淨比丘尼有衣。餘一切衆生無衣。更有說者。白淨比丘尼有衣。菩薩無衣。問曰。何以故。白淨

比丘尼有衣菩薩無衣。答曰。白淨比丘尼以衣布施聖衆故。問曰。菩薩所施衣多。非白淨比丘尼所施衣。毛數。何以故。白淨比丘尼有衣菩薩無衣。答曰。白淨比丘尼以衣施聖衆作誓願。令我於中陰有衣。以是故於中陰有衣。即以此衣入母胎中。以此衣出母胎。謂白淨比丘尼增長衣亦隨身增長。謂大已出家學道。取所著衣割截作五衣。成阿羅漢果。捨有餘涅槃界。入無餘涅槃界而般涅槃。即以衣纏身而耶維之。菩薩所作功德。盡願求無上正真道。是故最後身於一切衆生中成最妙果。以是故。白淨比丘尼有衣菩薩無衣

問曰。中陰食為云何。答曰。諸倉廚中器所盛食而取食之。問曰。如雨下甚多。如是衆生墮阿鼻地獄。中陰其數如此。何況餘趣中陰數耶。若盡來食者。此諸衆生當何所食。復次此食極重。化身甚細。云何食此而得消化。答曰。此者不論

問曰。若不爾者當云何。答曰。以香為食。諸有德衆生食花果香妙食香。諸無德衆生團廁不淨及汚泥氣以為食。問曰。中陰何處。答曰。欲界色界非無色界。問曰。何以故。欲界色界非無色界。答曰。謂有色者便有中陰。無色中無色是故無中陰。問曰。何以故。有色便有中陰。答曰。如印印泥則有文現。如是本中有若有色者見已便知有如此中陰。是故謂有色者便有中陰。或曰。謂有來往便有中陰。無色界中無有來往。是故無色中無有中陰。問

●[日]一○● ●[衣]一○● ●[有]一○● ●[毛]二無○ ●[二]格○● ●

曰於此身終即生此身彼云何有來往。答曰。謂此衆生或有識從足指滅者。或從頂滅。或從臍滅。或從心滅。謂從足指滅者。當知生惡趣中。謂從頂滅者。當知必生天上。謂從臍滅者。當知必生諸方。謂從心滅者。當知必般涅槃。謂此衆生多愛著面。謂識從足指滅者。還來趣面是彼往來。復次從足指滅即趣足指。無色界中亦無有此。以是故。無色界無有中陰。問曰。中陰趣所攝趣耶。若趣所攝者。此施設云何通。彼所問四生爲攝五趣耶。五趣爲攝四生耶。彼中答。四生攝五趣。非五趣攝四生。問曰。不攝何等。答曰。中陰也。若離趣者。此尊者曇摩難陀所說云何通。彼所說中陰者隨趣所攝。如種子萌芽未成實名爲稻。如是地獄中陰。雖未至地獄名爲地獄。如是至天作此論已。答曰。中陰趣所攝。問曰。若中陰趣所攝者。尊者曇摩難陀所說爲善通。如施設所問。四生攝五趣耶。爲五趣攝四生耶。彼中答。四生攝五趣。非五趣攝四生。問曰。不攝何等。答曰。中陰也。此云何通。答曰。此所說應當爾。四生攝五趣耶。五趣攝四生耶。答曰。隨種相攝此應當爾。更有說者。中陰離趣。問曰。若中陰離趣者。施設所說善通。如尊者曇摩難陀所說。中陰隨趣所攝。如稻子萌芽未成實名爲稻。如是地獄中陰雖未至地獄名爲地獄。如是至天。答曰。彼尊者說不向餘趣不說攝。謂彼地獄中陰彼不趣餘趣。要當生地獄。如是至天。是故尊者曇摩難陀說。不向餘趣不說攝。如是說者中陰離趣。何

以故。中陰者是亂趣者非亂。不應非亂攝亂。亦不應亂攝非亂。或曰。中陰者不定趣者定。不應不定攝定。亦不應定攝不定。或曰。趣者已到。爲名中陰者方當趣。以是故中陰離趣。問曰。中陰者具諸根耶。爲不具諸根耶。有一說者具諸根。更有說者不具諸根。問曰。若不具諸根者。諸本有不具諸根。彼即是中陰耶。有一根者即是。更有說者異。如是說者中陰具諸根。何以故。中陰者始行。復次彼衆生六門常求有。是故中陰具諸根。問曰。中陰去速耶。爲神足去速耶。有一說者神足去速非中陰。更有說者。中陰去速非神足。何以故。行力強非神足力。如是說者神足去速非中陰。問曰。若神足去速非中陰者。何以故。說行力強非神足。答曰。當聽所以說行力強非神足力者。神足者能止神足佛能止一切衆生。一切衆生不能止佛。辟支佛者除佛能止一切衆生。一切衆生不能止辟支佛。尊者舍利弗者。除佛辟支佛已能止一切衆生。一切衆生不能止。尊者舍利弗乃至利根止鈍根。鈍根不能止利根。中陰者非衆生所能止。非法非呪術亦非藥。非佛辟支佛及聲聞度無極能止。要當往生。是故說行力強非神足力。但神足去速非中陰。如世尊契經所說。三事合會已入於母胎。父母合會爲姪欲故。母或時滿。時滿者。彼女人以欲滿體如滿溢。河如是彼女人姪欲滿體。更有說者。母或時滿者。是女人病。是故說或時滿。有所堪任者。彼女人極有力。懷妊持至九月十月。是故說有所堪任。

香陰已至。香陰者中陰也。香陰於彼時有二意愛心及害心。若女者彼於父有愛心於母有害心。作是念。無此女者我共此男合會。彼不見母自見其父合會。謂父母不淨彼作是念是我有。見已便悶。悶已此陰轉厚。陰轉厚已便捨中陰得生陰。若男者彼於母有愛心於父有害心。作是念。若無此男者我與此女合會。彼不見父便與女人合會。謂父母不淨彼作是念是我有。見已便悶。悶已此陰轉厚。陰轉厚已便捨中陰得生陰。一切凡夫如是顛倒意入母胎。唯一菩薩無顛倒心入母胎。謂世尊說此契經。父母有德香陰無德。不得入母胎。香陰有德父母無德。亦不得入母胎。父母有德香陰亦有德。三事等合得入母胎。問曰。如此豪貴者亦與賤女共會。或賤男共貴女合會。云何三事等和合。答曰。謂豪貴與賤女人共會者。彼賤女人隨彼得貴。謂若賤男與貴女共會。彼貴女隨彼得賤。如是三事等和合。問曰。中陰由何處入母胎。答曰。中陰隨所欲入。何以故。謂中陰者。於垣牆樹木山河石壁盡無所闕。如是說者。中陰從產門入母胎。以此事故。雙生兒前出爲小後出爲大。何以故。謂彼先入故。問曰。如一胎中有五趣中陰可得。如猪狗魚蝦。謂胎中地獄中陰可得。云何不燒彼胎。答曰。彼火行所作。謂作惡行者便被燒。謂不作惡行者便不被燒。復次彼根本大地獄。猶尚不恒被燒。何況中陰恒被燒耶。如彼日連施設所說。或有時活大地獄有冷風起。展轉唱音言。等活衆生

○或一○ ○爲名二名爲 ○諸二謂 ○河二何 ○共二等 ○圖二慶

等活衆生。彼衆生還活肌肉血脈還生。如彼根本大地獄猶尚不恒被燒。何況中陰恒被燒耶。此說中陰四種。一中陰。二意乘行。三香陰。四求有。問曰。何以故說中陰。答曰。二陰中間故名爲中陰。二陰者死陰生陰。此二陰中間生故名爲中陰。問曰。何以故說意乘行。答曰。意所生故名意乘行。衆生或以行生。或以結生。或意生行生者地獄是。要畢其行終不中死。結生者卵生胎生及欲界化生天。意生者化中陰及色無色界天始初人。此中意生故中陰名意乘行。問曰。何以故說香陰。答曰。以香存命故。中陰名香陰。問曰。何以故說求有。答曰。於六入門常求有。是故中陰說求有。如世尊契經說。調達即身入地獄。問曰。調達有中陰耶無中陰耶。答曰。調達有中陰。但死陰即滅中陰尋生。中陰即滅生陰尋生。說者釋提桓因以契經白世尊。偈曰

於此坐終已 大仙我天身
既還復其命 淨眼我自。知

問曰。釋提桓因爲終更生。爲不終不生。若終更生者彼中陰云何。若不終不生者此偈云何。通如也作此論已。答曰。釋提桓因終已更生。問曰。若終已更生者云何。答曰。諸天中陰生陰化生也。化者死身不現不可知。問曰。如所說。此天如十六男女形。在天膝上坐。爾時諸天不見耶。答曰。見。但諸天作是念。此釋提桓因極大力極大德極大神足。於如來前現其神足。更有說者。彼諸大威德天。如因陀羅。披樓那伊。沙那此三釋子亦如五如是彼諸大天等本有

中有大小。一種如是釋提桓因終已更生身大。但諸天不知。如是說者釋提桓因不終不生。問曰。若釋提桓因不終不生者。此偈云何。通如也答曰。除五衰相故說偈。諸天有五衰相有五死相。五衰相者。諸天身潔淨柔軟從香池浴。還出池已水不著身。衰時。便著諸天身力強目初不。胸。衰時便。胸。諸天五欲境界極妙。極好端正無比。常不樂一處。意如陶輪。衰時便守一處。諸天衣裳璣珞相。聲妙。猶五樂音。衰時便無音聲。諸天遍有光明。如摩尼寶。影不可見。衰時便有影現。更有說者。影不可見。但光不極妙。是謂五衰相。五死相者。諸天花冠未曾萎而萎。寶衣未曾有垢而有垢。腋下汗流。形色變易。不樂本座。是謂五死相。衰相者猶可禁制。死相者不可禁制。釋提桓因生五衰相。不久當生五死相。便作是念。我當何恃怙脫五死相。觀唯有佛。便。往至世尊所聽微妙法。歡喜見諦。即除五衰相。故彼以軟愛言白世尊。說此偈。或曰。除惡道故說此偈。佛於惡道拔濟釋提桓因。安處天人中。彼即除惡道故。以軟愛言白世尊。我應於惡道即滅斷壞。遭遇世尊拔濟惡道。如人出獄中囚著安隱處。彼囚數至人所。以軟愛言答謝彼人。我應於獄中斷壞。遭蒙仁恩得脫此難。如是佛世尊於惡道拔濟釋提桓因。安處天人中。彼即除惡道故。以軟愛言白世尊。我應於惡道即滅斷壞。遭遇世尊拔濟惡道。以無上慧得存此命。皆世尊恩。是謂除惡道故說偈。或曰。見斷結病盡故說偈。世尊

脫釋提桓因見斷結病。安處第一義如醫療病令得除愈。彼人數數至醫所。以軟愛言答謝彼人。我應於病斷壞。遭蒙仁恩得免此疾。如是佛世尊。說釋提桓因見斷結病。安處第一義。彼即除見斷結病盡故。以軟愛言白世尊。我應於見斷結病斷壞。遭遇世尊拔濟見斷結病。以無上慧得存此命。皆世尊恩。是謂除見斷結病故說此偈。或曰。謂欲令現法報行增益長壽。釋提桓因見佛聽法。受現法報。增益長壽。是謂現法受報故說此偈。問曰。中陰爲轉耶爲不轉耶。答曰。不轉。界趣處所故。問曰。若中陰界不轉者。此不多聞比丘。生經云何通。說者一比丘不多聞坐禪。因宿緣故得世俗初禪。彼作是念。我得須陀洹果。得世俗二禪。復作是念。我得斯陀含果。得世俗三禪。復作是念。我得阿那含果。得世俗四禪。復作是念。我得阿羅漢果。彼於此中未得想得。捨方便不增求未得欲得未獲欲獲未證欲證。彼即命終生第四禪地中陰。便作是念。我一切結盡斷。一切生死。應般涅槃。不應更生。何以故有此中陰。必無解脫。若令有者我今應有。彼生邪見誹謗涅槃。便於四禪地中陰。轉生阿毘大地獄中。答曰。彼本有時轉非入中陰轉。彼於此中未得想得。捨方便不增求未得欲得未獲欲獲未證欲證。彼臨欲命終時。生第四禪地瑞應。彼見已便作是念。我一切結盡。我斷一切生死。應般涅槃。不應更生。何以故有此瑞應。必無解脫。若令有者我今應有。彼生邪見誹謗涅槃。便於四禪地瑞應

①知一如②通十知③披一波④沙一⑤五二王⑥胸二禪⑦極一⑧深一振⑨業⑩往二生⑪疾二病⑫說二脫⑬處二隱⑭日二囚⑮坐二生

轉生阿毘大地獄中。是謂本有時轉非入中陰轉

問曰。若中陰趣不轉者。彼善行惡行生經云何通。說者舍衛城有二人。一人行善。一人行惡。彼行善者彼即命終。因後生報行故生地獄中陰。便作是念。我當極修善不作惡行。應生天上不墮地獄。何以故生地獄中陰。彼憶修善已轉生地獄中陰。得天中陰即生天上。行不善者命終。因後生報行生天中陰。彼作是念。我當極作惡行不修善行。應墮地獄不應生天。何以故生天中陰。見已作是念。必無善惡報果。若有者我今應有。彼生邪見誹謗因果。轉天中陰得地獄中陰即生地獄。若中陰趣不轉者。此二人云何轉答曰。彼本有時轉非入中陰轉。凡一切衆生命欲終時。必有善惡瑞應。彼善行者善瑞應。不善行者惡瑞應。善瑞應者如所說偈

若見善行者 終時作是言

我視苑園觀 流河水花池

惡瑞應者。如所說偈

若見惡行者 終時作是言

我視火刀劍 鴉犬及狐狼

彼善行者。因後生報行。命欲終時生地獄瑞應。見已作是念。我當極修善不作惡行。應生天上不應墮地獄。何以故生地獄瑞應。彼憶修善已。轉地獄瑞應終已生天上。彼不善行因後生報行。命欲終時生天瑞應。見已作是念。我當極作惡行不修善行。應墮地獄不應生天。何以故生天瑞應。必無善惡報果。若令

有者我今應有。彼生邪見誹謗因果。轉天瑞應終已生阿鼻大地獄中。是謂本有時轉非入中陰轉。問曰。若中陰處所不轉者。瓶沙王生經云何通。如所說從兜術中陰至兜術天。當爾時四天王毘沙門。大天王。設餽饌食香氣極妙。瓶沙王聞彼香已。轉兜術中陰生四天王。若中陰處所不轉者。瓶沙王云何轉。答曰。瓶沙王亦本有時轉非入中陰轉。說者阿闍世王父法王無過無惡。檢在牢獄。刑刀削足。禁制飲食使不得通。長抱苦惱不能堪忍。便作是念。世尊不見我苦。善逝不念我苦

爾時世尊及五百比丘遊摩竭國耆闍崛山。爾時世尊知瓶沙王意之所念。告尊者目。捷連曰。目。捷連汝往至瓶沙王所。持我言善慰勞大王。世尊作是說。大王。我與汝所作已作免於惡趣。汝所作惡行定當受報。惡行報者如來向不免。況今大王。爾時尊者大目。捷連受世尊教已。即入三昧。於耆闍崛山沒至彼牢獄。爾時尊者目。捷連從三昧起。告瓶沙王曰。大王。世尊作是說。大王我與汝所作已作免於惡趣。汝今所作惡行定當受報。惡行報者如來向不免。況今大王如是尊者目。捷連廣爲說法。瓶沙王飢渴所逼不知法妙。爾時瓶沙王問尊者目。捷連何處天有極妙食。我生自得食。尊者目。捷連稱歎四天王。天至他化自在天有極妙食。瓶沙王應生兜術天。聞彼飲食已作是念。我先食此近食已。然後當生兜術天。彼命終已生四天王。

作毘沙門太子名最勝子。是謂本有時轉非入中陰轉。以此事可知。中陰界亦不轉。趣亦不轉。處所亦不轉。如尊者目。捷連施設所說。始人者以胸臆行名爲摩厥勒。生三手衆生名爲象。問曰。彼衆生爲終已作摩厥勒象。爲不終不生。若終已更生者中陰云何。若不終不生者。何以故說。人或是摩厥勒或是象。作此論已。答曰。彼衆生終已更生。問曰。若終已更生者。彼中陰云何。答曰。謂彼本陰中陰盡是化。化者身不可見。更有說者。彼衆生亦不終亦不生。問曰。若不終不生者。何以故說。人或是摩厥勒或是象。答曰。謂彼衆生從光音終來此彼當爾。是畜生中但形如人。後轉飲食惡時惡衆生意惡。巧詐滋多故。人形轉滅遂成畜生形如蝦蟇。初色黑身圓。後色蒼形方。如是彼衆生從光音天來生畜生中。但人形。以生四惡事故。人形轉滅遂成畜生形。是謂彼衆生說或摩厥勒或是象。但不終不生。廣說中陰處盡

轉婆沙四生處第四十二

四生者。卵生胎生濕生化生。問曰。卵生云何。答曰。謂衆生卵生。入卵卵所纏卵所裏啄破生等生起等起成轉成有。此云何。答曰。如雁鴛鴦孔雀鸚鵡鴿千秋。或龍或金翅鳥或人。如是比衆生卵生。入卵卵所纏卵所裏啄破生。轉生起等起成轉成有。是謂卵生。問曰。胎生云何。答曰。謂衆生胎網生。入胎網胎網所纏胎網所裏裂壞生等生起等起成轉成有。此云何。答曰。象馬猪羊驢驘駝水

①當一當 ②說一現 ③憶一增 ④憤 ⑤生十(耶) ⑥大二天 ⑦爾一爾 ⑧餽 ⑨刑一形 ⑩制一制 ⑪捷二捷 * ⑫持二時 ⑬[作]一 ⑭彼二從 ⑮天二王 ⑯命終二終命 ⑰[色]一 ⑱[形]一 ⑲轉婆沙十(論) ⑳[轉婆沙]一 ㉑裏二裏 ㉒轉二等 ㉓云二如

牛野鹿。或龍或金翅鳥或人。如是比衆生胎網生。入胎網胎網所纏胎網所裹裂壞生等生起等起成轉成有。是謂胎生

問曰。濕生云何。答曰。謂衆生因竹筴孔腐樹孔。因臭魚臭肉或因穢食。或因閘廁汚泥。或

因諸糞除。或因熱氣鬱蒸。或各各相近。或各各相逼。生等生起等起成轉成有。此云何。答

曰。蜘蛛蚊虻。飛蛾。蠅。或龍或金翅鳥或人。如是。比衆生因竹筴孔腐樹孔。因臭

魚臭肉。或因穢食。或因閘廁汚泥。或因諸糞除。或因熱氣鬱蒸。或各各相近。或各各相逼。

生等生起等起成轉成有。是謂濕生

問曰。化生云何。答曰。謂衆生成就一切根具足身。支節。一時生等生起等起成轉成有。此

云何。答曰。一切地獄一切餓鬼一切中陰一切天。或龍或金翅鳥或人。如是。比衆生成就

一切根具足身。支節。一時生等生起等起成轉成有。是謂化生

問曰。四生有何性。答曰。四陰五陰性。欲色界五陰性。無色界四陰性。是謂四生性。已種

相身。已有自然。說性已當說行。何以。故說生。生有何義。答曰。衆生已生。扼故名爲生。

問曰。若衆生已生。扼故名爲生。界趣亦扼衆生。何以故不說生耶。答曰。謂唯有衆

生。扼及一切衆生。扼。謂界者雖一切衆生扼。但非衆生數。亦扼趣者。雖衆生扼。但

非一切衆生扼。離中陰故。此生唯衆生扼。及一切衆生扼。是故說四生。問曰。四生界

有幾生。答曰。欲界一切四生可得。色無色界

唯一切化生。問曰。此四生趣有幾生。答曰。地獄餓鬼天唯一化生。更有說者。餓鬼胎生可得。如彼餓鬼女。向尊者目。捷連說偈

晝有二五子 夜間亦二五 尋生我已食 我意猶不飽

畜生及人一切四生可得。問曰。云何知人中有卵生。答曰。如所說閻浮利地多有商人。入

海採寶得二鵝鳥。形色極妙隨意所化。失一在。謂在者與共遊戲覆臥一室。彼合會

時遂漸生二卵。卵後漸熟便生二童子。極妙端正。後大出家學道得阿羅漢果。一名尊者

者尸披羅。二名尊者復鉢鉢。披羅。聞久作南山寺主

問曰。云何知人中有濕生。答曰。如所說有頂生王尊者遮羅尊者優波遮羅利女

問曰。云何知人中有化生。答曰。劫初人也是也。說曰。一切從四生盡得聖法。聖人已得聖

法者。不復卵生濕生。問曰。何以故聖人已得聖法。不復卵生濕生。答曰。卵生濕生畜生趣

所攝。聖人者已離畜生趣。或曰。此二生多有愚聖人者。已得觀。或曰。卵生濕生者逼淫。聖

人者意廣。或曰。卵生濕生無可恃怙。聖人者成就恃怙法。若披梨女有恃怙者。不應有輕

易女彼極下賤。檀提梵志無喻女無敢輕易者。以有主故。或曰。聖人者濕生卵生二生。

若卵從母胎出啄卵出。以此事故鳥名二生。如沙門及梵志。名爲二生。從母胎生出家學

道。尊者瞿沙說曰。何以故聖人已得聖法。不復卵生濕生。答曰。如父趣向子亦爾。問曰。云

何如父趣向子亦爾。答曰。如已成菩薩不卵生濕生。如是聖人已得聖法。不卵生濕生。是故說如父趣向子亦爾。是謂聖人已得聖法

不卵生濕生。問曰。四生何生最廣。有一說者。卵生最廣。說者外國四海邊山腹巖腹平澤

卵滿其中。驢駱駝象馬猪羊水牛野鹿盡踏破之。如是卵生最廣。更有說者。胎生最廣。

說者一魚一蝦蟇生子。滿七稻田七河。如是胎生最廣。更有說者。濕生最廣。說者如夏月

時齒土灰牛屎肉及諸濕處積聚。從欲界至梵天。須臾一時頃虫滿其中。如是濕生最廣。

如是說者化生最廣。何以故。謂化生盡攝三趣。二趣少所入。盡三趣者。地獄餓鬼天。二趣

少所入者。畜生及人。復次欲色界一切衆生皆生中陰。中陰者是生生他。以是故化生最

廣

問曰。四生何生最妙。答曰。化生最妙。問曰。若化生最妙者。何以故佛世尊不從化生。答

曰。不等和合故。謂有化人時爾時無佛。謂有佛時爾時無化生人。是謂不等和合故佛世

尊不化生。或曰。化生身無力故。不勝十力四無所畏。或曰。化身柔軟不勝無上正眞道。或

曰。此一向極愛念與親相續。菩薩恒一向極愛修善。以是故胎生不化生。或曰。菩薩長夜

作行求尊父母。父母亦長夜作行求孝順子。若菩薩從化生者。則誓願行無果無報。以是

故菩薩胎生不化生。或曰。說法受故。若世尊從化生已。詣聚論所呵責者。彼比丘當作念。

此人無父母無兄弟姊妹及諸親族。但來呵

①結二結 ②〔飛〕一 ③蠅一獨 ④比二彼 ⑤支二肢 ⑥比二此 ⑦〔四〕一 ⑧已二所 ⑨〔故〕一 ⑩扼二扼 ⑪形色二其形 ⑫其鳥 ⑬形 ⑭披二波 ⑮復一復 ⑯濕二長 ⑰故十〔故〕 ⑱四二西 ⑲內二內 ⑳生生能二化生

責我等。如閻浮利地最豪貴家親族衆多。迦維羅衛最爲人中。世尊生彼。如口含唾不樂久停。出家學道住一林中歎譽一林。以是故說法時多有受化。是謂說法受故佛世尊胎生不化生。或曰斷誹謗故。世尊胎生不化生。如世尊在大衆中。一切人無不見者。從兜術天終降生母胎。十月已滿在林毘園生。卽行七步。二龍浴身二十九出家。三十五得道。六年苦行已。食二女乳糜。降魔官屬成無上道。猶有異學來誹謗者。過百劫已。於大海中生一幻。土食一切施。何況世尊化生者。異學豈不增誹謗耶。是謂斷誹謗故世尊胎生不化生。或曰饒益他故。世尊胎生不化生。若世尊化生者。般涅槃時不見身舍利。若不見者。如今般涅槃滅千載。舍利如芥子。百千衆生皆悉供養恭敬。供養恭敬已。願求佛辟支佛聲聞道。豪貴家天上人中形貌端正無有雙比。乃至入無餘涅槃界。若世尊化生者。爾所功德盡斷滅不現。以是故佛世尊胎生不化生。問曰。何以故化生終時身不可見。答曰。化生身者。一時生。一時滅。如人入水。一時沒一時出。出已還沒不復現。如是化生身。一時生一時滅。或曰。化生身者多有造色少四大。多四大故終時可見。或曰。化生身者多根少非根。多非根故終時可見。化生者少髮毛爪齒骨。以是故化生身終時身不可見。問曰。若化生身終時不可見者。彼契經云何通。化生金翅鳥搏撮化生龍而食。若化生不現者。云何以彼爲食。答曰。意欲食故取之。但不除飢

渴。或曰。化身妙軟入腹卽當食。如油如酥入腹當食。如是化身妙軟入腹卽當食。或曰。一時吞是故當食。或曰。彼金翅鳥有方便意。先吞其尾然後至頭。命未斷時以當食。是故化身當食。問曰。若化身終時不現者。彼餘契經云何通。彼地獄卒取彼罪人。從脚剝皮至頭。從頸至足。云何可見。答曰。著身故可見。離身不可見。如重雲電光。出則見沒則不見。如是著身故可見。離身不可見。問曰。天上鳥是卵生耶。爲化生耶。若。卵生者應終時身見。諸天見已何得不起。憎惡心耶。諸天有六種樂。謂眼見色盡。見可樂不見非樂。喜非不喜。念非不念。善色非不善色。快色非不快色。妙非不妙。如是至意作此論已。有一說者。天上鳥卵生。問曰。若卵生者應終時身可見。諸天見已何得不起。憎惡心耶。答曰。天上鳥終時可見。但風吹去速。如是說者。天上鳥化生。廣說四生處盡

裨婆沙論卷第十四

①土二上②他二化③[出]一合④[是]一合⑤生二身⑥卵十(若卵)⑦憎二增⑧見二不

舍利弗阿毘曇論序

釋道標撰

阿毘曇。秦言無比法。出自八音。亞聖所述。作之雖簡。成命曲備。重微曠濟。神要莫比。真祇。恒之微風。反。衆流之宏趣。然佛後開味。競執異津。或有我有法。或無我有法。乖忤純風。虧聖道。有舍利弗。玄哲高悟。神實翼從。德備左面。智參照來。其人以為是非之起。大猷將隱。既曰像法。任之益滯。是以敢於佛前所聞經法。親承即集。先巡堤防。遮抑邪流。助宣法化。故其為經也。先立章以崇本。後廣演以明義。之體四焉。問分也。非問分也。攝相應分也。問分者。寄言扣擊。明夫應會。非問分者。假韻默通。惟宜法相。攝相應分者。總括自他。釋非相無。序分者。遠述因緣。以彰性空。性空彰則反迷至矣。非相無則相與用矣。法相宜則邪觀息矣。應會明則極無遺矣。四體圓足。二諦義備。故稱無比法也。此經於先出阿毘曇。雖文言融通。而旨各異制。又載自空。以明宗極。故能取貴於當時。而垂軌於千載。明典振於遠維。四衆率爾同仰。是使殉有者祛妄見之惑。向化者起即隆之勳。迢迢焉。故冥宗之遺緒也。豐臺焉。故歸輪之所契也。此經標明曩代。靈液西陲。純教彌於閩風。玄門扇於東嶺。唯秦天王。冲資叡聖。冥根樹於

既往。實相結於皇極。王德應符闡揚三寶。聞妓典誥。夢想思攬。雖曰悠邁。感之愈勤。會天竺沙門。曇摩耶舍。曇摩掘多等義學。來遊秦土。既契宿心。相與辯明經理。起清言於名教之域。散衆微於自無之境。超超然。誠韻外之致。惜惜然。覆美稱之實。於是詔令傳譯。然承華天哲。道嗣聖躬。玄味遠流。妙度淵極。持體明旨。遂識其事。經師本雖闡誦。誠宜謹備。以秦弘始九年。命書梵文。至十年。尋應令出。但以經趣微遠。非徒開言所契。苟彼此不相領悟。直委之譯人者。恐津梁之要。未盡於善。停至十六年。經師漸閑秦語。令自宜譯。皇儲親管理味。兼了復所向。盡然後筆受。即復內。呈。上討其煩重。領其指歸。故令文之者修飾。義之者綴潤。并校至十七年訖。若乃文外之功。勝契之妙。誠非所階。未之能詳。並求之衆經。考之諸論。新異之美。自宜之於文。惟法住之實。如有表裏。然原其大體。有無兼用。微文淵富。義旨顯灼。斯誠有部之永塗。大乘之靡趣。先達之所宗。後進之可仰。標以近質。綜不及遠。情未能已。猥參斯典。悃感之誠。脫復微序。庶望賢哲。以恕其鄙。

舍利弗阿毘曇論卷第一

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍 共曇摩掘多等 譯

問分入品第一

問曰。幾入。答曰。十二。何等十二。內六入外六入。何等內六入。眼入耳入鼻入舌入身入。意入。是名內六入。何等外六入。色入聲入香入味入觸入法入。是名外六入。如是內六入外六入。是名十二入。云何眼入。眼根是名眼入。云何眼入。眼界是名眼入。云何眼入。若眼我分攝。去來現在。四大所造淨色。是名眼入。云何眼入。若眼我分攝。過去未來現在淨色。是名眼入。云何眼入。我分攝。已見色今見色。當見色不定。若眼我分攝色光。已來今來。當來不定。是名眼入。云何眼入。若眼我分攝。色已對眼今對當對不定。若眼無礙。是眼入。是眼根是眼界。是田是物。是門是藏。是世是淨。是泉是海。是沃。是洩。是澆。是瘡。是膿。是目。是入我分。是此岸。是內入。眼見色。是名眼入。耳鼻舌身入亦如是。云何意入。意根是名意入。云何意入。識陰是名意入。云何意入。心意識六識身七識界。是名意入。云何意入。若識過去未來現在。內外龜細。卑勝遠近。是

十。姚秦... 譯。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

純。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

名意入。云何六識身。眼識身耳鼻舌身意識身。云何眼識身。緣眼緣色緣明緣思惟。以此四緣生識。已生今生當生不定。是名眼識身。云何耳鼻舌身意識身。緣意緣法緣思惟。以此三緣識已生今生當生不定。是名意識身。是名六識身。云何七識界眼識界耳鼻舌身意識界意界識界。云何眼識界。若識眼根主色境界。已生今生當生不定。是名眼識界。云何耳鼻舌身識界。若識身根主觸境界。已生今生當生不定。是名身識界。云何意界。意知法念法。若初心已生今生當生不定。是名意界。云何意識界。若識相似。不離彼境界。及餘相似心。已生今生當生不定。是名意識界。是名七識界。云何過去識。若識已滅。是名過去識。云何未來識。若識未生未出。是名未來識。云何現在識。若心生未滅。是名現在識。云何內識。若識受是名內識。云何外識。若識不受。是名外識。云何塵識。若識欲界繫。是名塵識。云何細識。若識色界繫無色界繫不繫。是名細識。云何卑識。若識不善不善法報。若識非報非報法不適意。是名卑識。云何勝識。若識善善法報。若識非報非報法。適意。是名勝識。云何遠識。若諸識根遠極相遠不近不近邊。是名遠識。云何近識。若諸識相近極相近邊。是名近識。云何色入。色界是名色入。云何色入。隨行色相。是名色入。云何色入。若色可見有對眼識所知。是名色入。云何色入。若色入業法煩惱所生報我分攝。身好色非好色。姝妙非姝妙。妍膚非妍膚。嚴淨

非嚴淨若善心若不善心若無記心。所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。青黃赤白黑紫。龜細長短方圓。水陸光影煙雲塵霧氣明闇等。及餘外色眼識所知。是名色入。云何聲入。聲界是名聲入。云何聲入。若色不可見有對。耳識所知。是名聲入。云何聲入。若聲入業法煩惱所生報我分攝。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若善心不善心無記心所起集。聲音句言語口教。若外聲耳識所知。貝聲大鼓聲小鼓聲。箏聲篳篥聲銅鈸聲。舞聲歌聲伎樂聲悲聲男聲女聲。人聲非人聲。衆生聲非衆生聲。去聲來聲。相觸聲。風聲雨聲水聲諸大相觸聲。及餘外聲。耳識所知。是名聲入。云何香入。香界是名香入。云何香入。若香入業法煩惱所生報我分攝。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。若外香鼻識所知。樹根香。樹心香。樹膠香。樹皮香。華香葉香果香。好香非好香。及餘外香鼻識所知。是名香入。云何味入。味界是名味入。云何味入。若色不可見有對。舌識所知。是名味入。云何味入。若味入業法煩惱所生報我分攝。身甜。酢。苦。辛。鹹。淡。涎。癢。若外味舌識所知。若甜。酢。苦。辛。鹹。淡。水。汁。及餘外味舌識所知。是名味入。云何觸入。觸界是名觸入。云何觸入。若色不可見有對。身識所知。是名觸入。云何觸入。若觸入業法煩惱所生報我分攝。身冷熱。輕重。龜細。澁滑。堅。軟。若外觸身識所知。若冷熱

輕重龜細。澁滑堅。軟。及餘外觸身識所知。是名觸入。云何法入。法界是名法入。云何法入。受想行陰。若色不可見無對。若無爲。是名法入。云何法入。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫無貪無恚無癡。順信悔不悔悅喜心進心除。信欲不放逸。念定心捨疑怖使。生老死命結。無想定得果滅盡定。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除智緣盡非智緣盡決定法住緣。空處智識處智不用處智。非想非非想處智。是名法入。十二入幾色幾非色。十色一非色。一二分或色或非色。云何十色。眼入耳鼻舌身入。色入聲香味觸入。是名十色。云何一非色。意入是名一非色。云何一二分或色或非色。法入是名一二分或色或非色。云何法入。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法入。云何法入。非色。受想乃至滅盡定智緣盡。乃至非想非非想處智。是名法入。非色。十二入幾可見。幾不可見。一可見十一不可見。云何一可見。色入是名一可見。云何十一不可見。九色入意入法入。是名十一不可見。十二入幾有對。幾無對。十有對二無對。云何十有對。十色入是名十有對。云何二無對。意入法入。是名二無對。十二入幾聖幾非聖。十非聖二二分。或聖或非聖。云何十非聖。十色入是名十非聖。云何二二分或聖或非聖。意入法入。是名二二分

①云二六 ②適一過 ③近一遠 ④軟一滿 ⑤味十(法) ⑥甜一酢 ⑦酢一醋 ⑧澁一忽 ⑨戒一或

外若外香。鼻識所知。樹根香樹心香樹膠香
 樹皮香。葉香花香果香。好香非好香。及餘外
 香。鼻識所知。是名香入非受。云何味入受。若
 味入內味入。是名味入受。云何味入受。若味
 入業法煩惱所生報我分攝。身甜。醉若辛
 鹹淡涎癢。是名味入受。云何味入非受。若味
 入外若外味。舌識所知。若甜。醉若苦辛若
 鹹淡。若水若汁及餘外味。舌識所知。是名味
 入非受。云何觸入受。若觸入內。是名觸入受。
 云何觸入受。若觸入業法煩惱所生報我分
 攝。身冷熱輕重龜細澁滑堅軟。是名觸入受。
 云何觸入非受。若外觸入身識所知。若冷若
 熱若輕若重若龜若細若澁若滑若堅若軟
 及餘外觸身識所知。是名觸入非受。云何意
 入受。若意入內。是名意入受。云何意入受。若
 意入業法煩惱所生報我分攝。眼識乃至意
 識。是名意入受。云何意入非受。若意入外。是
 名意入非受。云何意入非受。若意入善不善
 無記非我分攝。眼識乃至意識。是名意入非
 受。云何法入受。若法入內。是名法入受。云何
 法入受。若法入業法煩惱所生報我分攝。受
 想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心
 進。信欲念怖生命有漏身進。是名法入受。云
 何法入非受。若法入外。是名法入非受。云何
 法入非受。若法入善不善無記非我分。攝。除
 命餘法入非受。是名法入非受。內外亦如是。
 十二入幾有報幾無報。八無報。四二分或有
 報或無報。云何八無報。眼入耳鼻舌身入香
 入味入觸入。是名八無報。云何四二分或有

報或無報。色入聲入意入法入。是名四二分
 或有報或無報。云何色入有報。若色入報法。
 是名色入有報。云何色入有報。若色入善不
 善心。善不善心所起去來屈。申迴轉。是名色
 入有報。云何色入無報。若色入報。若色入非
 報非報法。身好色非好色。姝妙非姝妙。妍膚
 非妍膚。嚴淨非嚴淨。無記心所起去來屈申
 迴轉。若外色眼識所知。是名色入無報。云何
 聲入有報。若聲入報法。是名聲入有報。云何
 聲入有報。聲入若善若不善。善心不善心所
 起集聲音句言語口教。是名聲入有報。云何
 聲入無報。若聲入報。若聲入非報非報法。身
 好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。
 若無記心所起集聲音句言語口教。若外聲
 耳識所知。是名聲入無報。云何意入有報。若
 意入報法。是名意入有報。云何意入有報。除
 意入善報。餘意入善不善境界意識界。是名
 意入有報。云何意入無報。若意入報。若意入
 非報非報法。眼識乃至意識。是名意入無報。
 云何法入有報。若法入報法。是名法入有報。
 云何法入有報。除法入善報。餘法入善有為。
 若不善受想乃至煩惱使結。二定法入一切
 色。是名法入有報。云何法入無報。若法入報
 法入非報非報法。除無貪無恚無癡煩惱
 使結身口非戒無教。除法入無報。
 十二入幾心幾非心。一心。十一非心。云何一
 心。意入是名一心。云何十一非心。除意入餘
 非心。是名十一非心。
 十二入幾心相應幾非心相應。十非心相應。

一不說心相應非心相應。一二分或心相應
 或非心相應。云何十非心相應。十色入是名
 十非心相應。云何一不說心相應非心相應。
 意入是名一不說心相應非心相應。云何一
 二分或心相應或非心相應。法入是名一二
 分或心相應或非心相應。云何法入心相應。
 若法入心數受想乃至煩惱使。是名法入心
 相應。云何法入非心相應。若法入非心所生。
 乃至非想非非想處智。是名法入非心相應。
 十二入幾心數幾非心數。十一非心數。一二
 分或心數或非心數。云何十一非心數。十色
 入意入。是名十一非心數。云何一二分或心
 數或非心數。法入是名一二分或心數或非
 心數。云何法入心數。若法入有緣受想乃至
 煩惱使。是名法入心數。云何法入非心數。若
 法入無緣生。乃至非想非非想處智。是名法
 入非心數。
 十二入幾緣幾非緣。一緣。十非緣。一二分或
 有緣或非緣。云何一緣。意入是名一緣。云何
 十無緣。十色入是名十無緣。云何一二分或
 緣或非緣。法入是名一二分或緣或非緣。云
 何法入緣。若法入心數受想乃至煩惱使。是
 名法入緣。云何法入無緣。若法入非心數生。
 乃至非想非非想處智。是名法入無緣。
 十二入幾共心幾非共心。十一非共心。一二
 分或共心或非共心。云何十一非共心。十色
 入意入。是名十一非共心。云何一二分或共
 心或非共心。法入是名一二分或共心或非
 共心。云何法入共心。若法入隨心轉。共心生

①攝二別 ②申二身 ③(若)十法 ④癡二疑 ⑤相二想

共住共滅。受想乃至煩惱使。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身。進正身除。是名法入共心。云何法入非共心。若法入不隨心轉。不共心生不共住不共滅生。乃至非想非非想處智。是名法入非共心。隨心轉不隨心轉亦如是。

十二入幾業幾非業。九非業。三二分或業或非業。云何九非業。眼入耳入鼻入舌入身入意入香入味入觸入。是名九非業。云何三二分或業或非業。色入聲入法入。是名三二分或業或非業。云何色入業。若善心不善心無記心所起。去來屈申迴轉身教。是名色入業。云何色入非業。身好色非好色。姝妙非姝妙。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。若外色眼識所知。是名色入非業。云何聲入業。若善心不善心無記心所起。集聲音句言語口教。是名聲入業。云何聲入非業。若好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若外聲耳識所知。是名聲入非業。云何法入業。思身口非戒無教。有漏身口戒無教。正語正業正命。是名法入業。云何法入非業。除思身口非戒無教有漏身口戒無教。正語正業正命。餘法入非業。是名法入非業。

一三分或業相應或非業相應或不說業相應。非業相應。云何法入業相應。若法入思相應。除思餘受想乃至煩惱使。是名法入業相應。云何法入非業相應。若法入非思相應。乃至非想非非想處智。是名法入非業相應。云何法入不說業相應。非業相應。思是名法入不說業相應。非業相應。

十二入幾共業。幾不共業。一共業。十非共業。一二分或共業非共業。云何一共業。意入是名一共業。云何十非共業。十色入是名十非共業。云何一二分或共業或非共業。法入是名一二分或共業或非共業。云何法入共業。若法入隨業轉。共業生共住共滅。受想定心思觸乃至煩惱使。無想定滅盡定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命。正身進正身除。是名法入共業。云何法入非共業。法入若不隨業轉。不共業生不共住不共滅。不定心思。生老死命結得果。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進九無爲。是名法入非共業。隨業轉不隨業轉亦如是。

端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。無記心所起。去來迴轉屈申身教。若外色眼識所知。是名色入非因。云何聲入因。若聲入報法。是名聲入因。云何聲入因。若聲入善不善。若善心不善心所起。集聲音句言語口教。是名聲入因。云何聲入非因。若聲入報。若聲入非報。非報法。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。集聲音句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入非因。云何觸入因。因四大地大水大風大火大。是名觸入因。云何觸入非因。除四大餘觸入法。是名觸入非因。云何法入因。法入緣若法入非緣有報。除得果餘法入非緣善報。受想乃至煩惱使。二定結一切色。是名法入因。云何法入非因。若法入緣。無報不共業。生老死命得果有漏身進九無爲。是名法入非因。

十二入幾有因幾無因。十一有因。一二分或有因或無因。云何十一有因。十色入意入。是名十一有因。云何一二分或有因或無因。法入是名一二分或有因或無因。云何法入有因。若法入有緒受想乃至正身除。是名法入有因。云何法入無因。若法入無。緒智緣盡。乃至非想非非想處智。是名法入無因。有緒無緒有因。無因有緣無緣有爲無爲亦如是。

①若好聲二身好聲②身好語③二一④因十(因)⑤(入)十無⑥卷第一上終⑦卷第一下問分入品第一之餘首⑧譯號同異如首卷⑨緒一著⑩因二緣⑪[無因有緣]一⑫

十二入幾斷智知。幾非斷智知。八非斷智知。四二分或斷智知或非斷智知。云何八非斷智知。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。是名八非斷智知。云何四二分或斷智知或非斷智知。色入聲入意入法入。是名四二分或斷智知或非斷智知。云何色入斷智知。若色入不善。不善心所起。去來屈申迴轉身教。是名色入斷智知。云何色入非斷智知。色入若善若無記。身好色非好色。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。若善心若無記心所起。去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入非斷智知。云何聲入斷智知。若聲入不善。不善心所起。集聲。音句言語口教。是名聲入斷智知。云何聲入非斷智知。若聲善。若無記。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若善心若無記心所起。集聲音句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入非斷智知。云何意入斷智知。若意入不善。不善意識所知。是名意入斷智知。云何意入非斷智知。若意善。若無記。身進正身除智緣盡決定。是名法入修。云何法入非修。若法入不善。若無記。受想思觸。疑怖煩惱使結。身口非戒無教有漏身進。是名法入斷智知。云何法入非斷智知。除使結身口非戒無教。除法入非斷智知。是名法入非斷智知。斷非斷亦如是。

十二入幾修幾非修。八非修。四二分或修或非修。云何八非修。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。是名八非修。云何四二分或

修或非修。色入聲入意入法入。是名四二分或修或非修。云何色入修。色入若善心所起。去來屈申迴轉身教。是名色入修。云何色入非修。若色入不善。若無記。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。若不善心若無記心所起。去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入非修。云何聲入修。若善善心所起。集聲。音句言語口教。是名聲入修。云何聲入非修。若聲入不善。若無記。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若不善心若無記心所起。集聲音句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入非修。云何意入修。若善善心所起。集聲。音句言語口教。是名意入修。云何意入非修。若意入不善。若無記。受想乃至心捨無想定。得果滅盡定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命。正身進正身除智緣盡決定。是名法入修。云何法入非修。若法入不善。若無記。受想思觸。疑怖煩惱使結。身口非戒無教有漏身進。非聖七無為。是名法入非修。

十二入。幾證。幾非證。一切證如事知見。十二入。幾善。幾非善。幾無記。八無記。四三分或善或不善或無記。云何八無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。是名八無記。云何四三分或善或不善或無記。色入聲入意入法入。是名四三分或善或不善或無記。云何色入善。若色入修善心所起。去來屈

申迴轉身教。是名色入善。云何色入非善。若色入隨不善心所起。去來屈申迴轉身教。是名色入非善。云何色入無記。若色入受。色入非報非報法。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。無記心所起。去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入無記。云何聲入善。若聲入修善心所起。集聲音句言語口教。是名聲入善。云何聲入不善。若聲入斷不善心所起。集聲音句言語口教。是名聲入不善。云何聲入無記。若聲入受。若聲入非報非報法。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。集聲音句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入無記。云何意入善。若意入修善心所起。集聲音句言語口教。是名意入善。云何意入不善。若意入斷善意識所知。是名意入不善。云何意入無記。若意入受。若意入非報非報法。眼識乃至意識。是名意入無記。云何法入善。若法入修受想。乃至心捨無想定。得果滅盡定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除智緣盡決定。是名法入善。云何法入不善。若法入斷受想思觸。疑怖煩惱使結。身口非戒無教。有漏身進。是名法入不善。云何法入無記。若法入受。若法入非報非報法。非聖七無為。是名法入無記。

十二入幾學幾無學。幾非學非無學。十非學

①申二神②音句二言白③若一④善十界⑤悔一⑥知十疑⑦智一⑧音二言*⑨正身進⑩隨二斷⑪報二教⑫意一⑬非報一

非無學。二三分或學或無學或非學非無學。云何十非學非無學。十色入。是名十非學非無學。云何二三或學或無學或非學非無學。意入法入。是名二三或學或無學或非學非無學。云何意入學。若意入聖非無學。是名意入學。云何意入學。若意入學信根相應。意界意識界。是名意入學。云何意入學。學人離結使聖心入聖道。若堅信若堅法。及餘趣人見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。離煩惱修。見學人若須陀洹若斯陀含若阿那含。若觀智具足。若智地。若觀解脫心。即證沙門果。若須陀洹果。若斯陀含果。若阿那含果。若實人若趣意界意識界。是名意入學。云何意入無學。若意入聖非學。是名意入無學。云何意入無學。若意入無學信根相應。意界意識界。是名意入無學。云何意入無學。無學人欲得阿羅漢。未得聖法欲得修道。觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣。若意界意識界。是名意入無學。云何意入非學非無學。若意入非聖識受陰眼識乃至意識。是名意入非學非無學。云何法入學。若法入聖非無學。是名法入學。云何法入學。學信根及信根相應心。數法。若法非緣無漏非無學。是名法入學。云何法入學。學人離結使聖心入聖道。乃至即得阿那含果。若實人若趣。若受思想觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡。定。正語正業正命正身進正身除智緣盡決

定。是名法入學。云何法入無學。若法入聖非學。是名法入無學。云何法入無學。無學信根及信根相應心數法。若法入若非緣無漏非學。是名法入無學。云何法入無學。無學人乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若受思想觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡。定。正語正業正命正身進正身除智緣盡。是名法入無學。云何法入非學非無學。若法入非聖。受陰想受陰行受陰。若色不可見無對。有漏非聖無為受想。乃至無想定。初四色非聖七無為。是名法入非學非無學。十二入幾報幾報法。幾非報非報法。五報三分。或報或非報非報法。四三分或報或報法。或非報非報法。云何五報。眼入耳入鼻入舌入身入。是名五報。云何三分或報或非報。或非報法。香入味入觸入。是名三分或報或非報非報法。云何四三分或報或報法或非報非報法。色入聲入意入法入。是名四三分或報或報法或非報非報法。云何香入報。香入若受是名香入報。云何香入報。香入若業法煩惱所生報我分攝。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。是名香入報。云何香入非報非報法。若香入外。若外香鼻識所知。樹根香樹心香樹膠香樹皮香。葉香花香果香好香。非好香。及餘外香鼻識所知。是名香入非報非報法。云何味入報。若味入受。是名味入報。云何味入報。若味入業法煩惱所生報我分攝。身甜。醉苦辛鹹淡澁。是

名味入報。云何味入非報非報法。若味入外。若外味入舌識所知。若甜。醉苦辛鹹淡水。及餘外味舌識所知。是名味入非報非報法。云何觸入報。若觸入受。是名觸入報。云何觸入報。若觸入業法煩惱所生報我分攝。身冷熱輕重龜細澁滑堅軟。是名觸入報。云何觸入非報非報法。若觸入外。若外觸身識所知。若冷熱輕重龜細澁滑堅軟。及餘外觸身識所知。是名觸入非報非報法。云何色入報。若色入受。是名色入報。云何色入報。若色入業法煩惱所生報我分攝。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。受心所起去來屈申迴轉身教。是名色入報。云何色入報法。若色入有報。是名色入報法。云何色入報法。色入若善不善。若善心若不善心所起去來屈申迴轉身教。是名色入報法。云何色入非報非報法。若色入無記非我分攝。非報非報法心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入非報非報法。云何聲入報。若聲入受。是名聲入報。云何聲入報。若聲入業法煩惱所生報我分攝。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。受心所起集聲音句言語口教。是名聲入報。云何聲入報法。若聲入有報。是名聲入報法。云何聲入報法。若聲入善不善。若善心若不善心所起集聲音句言語口教。是名聲入報法。云何聲入非報非報法。若聲入無記非我分攝。非報非報法心所起集聲音句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入非報非報法。云

①(若)十非②③數二致④⑤受十(受)⑥⑦[或]一⑧⑨譯入十(受具名聲入報云何聲入報若聲入)十四字⑩報二疑

何意入報。若意入受。若意入善報。眼識乃至意識。是名意入報。云何意入報法。若意入有報。是名意入報法。云何意入報法。除意入善報。餘意入善。若不善境界意識界。是名意入報法。云何意入非報非報法。若意入無記非我分攝。眼識乃至意識。是名意入非報非報法。云何法入報。若法入善報。除無貪無恚。餘受想乃至心捨怖生命無想定得果滅盡定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法入報。云何法入報法。若法入有報。是名法入報法。云何法入報法。除法入善報。餘法入善有為。若不善受想乃至煩惱使結二定一切色。是名法入報法。云何法入非報非報法。若法入無記非我分攝。若聖無為受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔。不悔悅喜心進信欲念怖生老死。有漏身進九無為。是名法入非報非報法。

十二入幾見斷幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。八非見斷非思惟斷。四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。云何八非見斷非思惟斷。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。是名八非見斷非思惟斷。云何四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。色入聲入意入法入。是名四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。云何色入見斷。若色入不善非思惟斷見斷。煩惱心所起去來屈申迴轉身教。是名色入見斷。云何色入思惟斷。若色入不善非見斷思惟斷煩惱心所起去來

屈申迴轉身教。是名色入思惟斷。云何色入非見斷非思惟斷。若色入善若無記。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。若善心若無記心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入非見斷非思惟斷。云何聲入見斷。若聲入不善非思惟斷見斷。煩惱心所起集聲音言言語口教。是名聲入見斷。云何聲入思惟斷。若聲入不善非見斷思惟斷。煩惱心所起集聲音言言語口教。是名聲入思惟斷。云何聲入非見斷非思惟斷。若聲入善若無記。身好聲非好聲。聲衆妙聲。非衆妙聲。軟聲非軟聲。若善心若無記心所起集聲音言言語口教。若外聲耳識所知。是名聲入非見斷非思惟斷。云何意入見斷。若意入不善非思惟斷見斷。煩惱相應意界意識界。是名意入見斷。云何意入思惟斷。若意入不善非見斷思惟斷。煩惱相應心意界意識界。是名意入思惟斷。云何意入非見斷非思惟斷。若意入善若無記。眼識乃至意識。是名意入非見斷非思惟斷。云何法入見斷。若法入不善非思惟斷見斷。煩惱一時俱斷。若法入不善非見斷思惟斷。煩惱一時俱斷。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑。怖煩惱使結。身口非戒無教有漏身進。是名法入見斷。云何法入思惟斷。若法入不善非見斷思惟斷煩惱一時俱斷。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑。怖煩惱使結。身口非戒無教。有漏身進。是名法入思惟斷。云何法入非見斷非思惟斷。若法入善若無記。除疑煩

惱使結身口非戒無教。餘法入是名法入。非見斷非思惟斷。十二入幾見斷因。幾思惟斷因。幾非見斷非思惟斷因。一切三分。或見斷因或思惟斷因或非見斷非思惟斷因。云何眼入見斷因。若眼入見斷法報。地獄畜生餓鬼眼入。是名眼入思惟斷法報。地獄畜生餓鬼眼入。是名眼入思惟斷因。云何眼入非見斷非思惟斷因。若眼入善法報。天上人中眼入。是名眼入非見斷非思惟斷因。耳入鼻入舌入身入亦如是。云何意入見斷因。若意入見斷若意入見斷法報。眼識乃至意識。是名意入見斷因。云何意入思惟斷因。若意入思惟斷法報。眼識乃至意識。是名意入思惟斷因。云何意入非見斷非思惟斷因。若意入善若意入善法報。若意入非報非報法。眼識乃至意識。是名意入非見斷非思惟斷因。云何色入見斷因。若色入見斷法報。身非好色非端嚴非妍膚非嚴淨。見斷因心所起去來屈申迴轉身教。是名色入見斷因。云何色入思惟斷因。若色入思惟斷若思惟斷法報。身非好色不端嚴非妍膚非嚴淨思惟斷因。心所起去來屈申迴轉身教。是名色入思惟斷因。云何色入非見斷非思惟斷因。若色入善若色入善法報。若色入非報非報法。身好色端嚴妍膚嚴淨。非見斷非思惟斷。心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色入非見斷非思惟斷因。云何聲入見斷因。若聲

①[法]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[心]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[報]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[聲]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[非好聲]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[非衆妙聲]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[斷]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[解二觸]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[怖二悔]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[疑]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[身口...教]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[斷]—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱
使。生老死命結無想定。有漏身口戒無教有
漏身進有漏身除。是名法入色界繫。云何法
入無色界繫。若法入無色漏有漏。受想思觸
思惟見慧解脫無礙順信心進心除信欲。不
放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結。有漏
身口戒無教。有漏身進有漏身除。是名法入
無色界繫。云何法入不繫。若法入聖無漏無
為。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫無礙順信
悅喜心進心除信欲不放逸念。定心捨得果
滅盡定。正語正業正命正身進正身除九無
為。是名法入不繫

入非過去非未來非現在。若法入無為智緣
盡。乃至非有想非無想處智。是名法入非過
去非未來非現在。
舍利弗阿毘曇論卷第一

舍利弗阿毘曇論卷第二

姚秦·罽賓三藏·曇摩耶舍
共·曇摩崛多等 譯

問分界品第二

十二入幾過去幾未來幾現在。幾非過去非
未來非現在。十一三分或過去或未來或現
在。一四分或過去或未來或現在。或非過去
非未來非現在。云何十。一三分或過去或未
來或現在。眼入乃至觸入。是名十一三分或
過去或未來或現在。云何一四分或過去或
未來或現在。或非過去非未來非現在。法入
是名一四分或過去或未來或現在。或非過去
非未來非現在。云何眼入過去。若眼入生已
滅眼入。是名眼入過去。云何眼入未來。若
眼入未生未出。是名眼入未來。云何眼入現
在。若眼入生未滅眼入。是名眼入現在。乃
至觸入亦如是。云何法入過去。若法入生已
滅。受想乃至正身除。是名法入過去。云何法
入未來。若法入未生未出。受想乃至正身除。
是名法入未來。云何法入現在。若法入生未
滅。受想乃至正身除。是名法入現在。云何法

問曰。幾界。答曰。十八界。云何十八界。眼界
耳界鼻界舌界身界。色界聲界香界味界觸
界。眼識界耳識界鼻識界舌識界身識界。意
界意識界法界。云何眼界。眼根是名眼界。云
何眼界。眼入是名眼界。云何眼界。若眼我分
攝四大所造淨色。是名眼界。若眼我分攝眼
界四大所造。過去未來現在淨色。是名眼界。
云何眼界。若眼我分攝已見色今見當見不
定。若眼我分攝色光已來今來當來不定。是
名眼界。云何眼界。若眼我分攝眼已對色今
對當對不定。若眼我分攝色已對眼今對當
對不定。是名眼界。若眼無礙。是眼是眼入是
眼根是眼界。是田是物是門是藏。是世是淨
是泉是海。是沃熯是洄。是瘡是繫是目。
是我分是此岸是內入眼見色。是名眼界。
耳界鼻界舌界身界亦如是。云何色界。色入
是名色界。云何色界。若色隨行色相是名色
界。云何色界。若色可見有對眼識所知。是名
色界。云何色界。若色界業法煩惱所生報我

分攝。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非
妍。膚。嚴淨非嚴淨。若善心若不善心若無記
心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所
知。青黃赤白紫黑龜細長短方圓。水陸光影
烟雲霧氣明闇。及餘外色眼識所知。是名
色界。云何聲界。聲入是名聲界。云何聲界。若
色不可見有對。耳識所知。是名聲界。云何聲
界。若聲界業法煩惱所生報我分攝。身好聲
非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若善
心若不善心若無記心所起集聲音言語口
教。若外聲耳識所知。① 嘖聲大鼓聲② 小鼓聲
箏聲篋篋聲銅鈸聲。舞聲歌聲③ 伎樂聲④ 哭
聲。男聲女聲人聲非人聲。衆生聲非衆生聲。
去聲來聲相觸聲。風聲雨聲水聲。諸大相觸
聲。及餘外聲耳識所知。是名聲界。云何香界。
若香入是名香界。云何香界。若香不可見有對
鼻識所知。是名香界。云何香界。若香界業法
煩惱所生報我分攝。身好香非好香。軟香非
軟香。適意香非適意香。若外香鼻識所知。樹
根香樹⑤ 心香樹膠香樹皮香葉香花香果香。
好香非好香。及餘外香鼻識所知。是名香界。
云何味界。若味入是名味界。云何味界。若色
不可見有對舌識所知。是名味界。云何味界。
若味界業法煩惱所生報我分攝。身甜⑥ 酢苦
辛酸淡澁癯。若外味舌識所知。若甜⑦ 酢苦辛
酸淡若水若汁。及餘外味舌識所知。是名味
界。云何觸界。若觸入是名觸界。云何觸界。若
色不可見有對身識所知。是名觸界。云何觸
界。若觸界業法煩惱所生報我分攝。身冷熱

①一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕
①論卷第一②非問分入品第一③一十(下)註細④(論)一⑤卷第二
卷第三⑥[姚秦...譯]十七字一⑦[意界]一⑧色光二先⑨[色]一⑩復二復⑪目二因⑫自⑬[膚]一⑭*
⑮二貝⑯⑰[小鼓聲]一⑱伎十(聲)⑲哭二笑⑳[心]一㉑[眼]一㉒二睛

脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念
定心捨得果滅盡定。正語正業正命正身進
正身除。智緣盡非智緣盡。決定法住。緣空處
智識處智不用處智非想非非想處智。是名
法界無漏。有愛無愛有求無求當取非當取
有取無取有勝無勝亦如是

十八界幾受幾非受。五受十三二分。或受或
非受。云何五受。眼界耳界鼻界舌界身界。
是名五受。云何十三二分或受或非受。色界
聲界香界味界觸界。眼識界耳識界鼻識界
舌識界身識界意識界法界。是名十三
二分或受或非受。云何色界受。色界若內。是
名色界受。云何色界受。若色界業法煩惱所
生報我分攝。身好色非好色。端嚴非端嚴。
妍^①膚非妍^②膚。嚴淨非嚴淨。若受心所起去
來屈申迴轉身教。是名色界受。云何色界非
受。若色界外。是名色界非受。云何色界非受。
若色界善若不善若無記非我分攝。若善心
若不善心若非報非報法。心所起去來屈申
迴轉身教。若外色眼識所知。是名色界非受。
云何聲界受。若聲界是內。是名聲界受。云何
聲界受。若聲界業法煩惱所生報我分攝。身
好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。
受心所起集聲音句言語口教。是名聲界受。
云何聲界非受。若聲界外。是名聲界非受。云
何聲界非受。若聲界善若不善若無記非我
分攝。若善心若不善心若非報非報法。心所
起集聲音。句言語口教。若外聲耳識所知。
是名聲界非受。云何香界受。若香界內。是名

香界受。云何香界受。若香界業法煩惱所生
報我分攝。身好香非好香。軟香非軟香。適意
香非適意香。是名香界受。云何香界非受。若
香界外。是名香界非受。云何香界非受。若
香^③樹皮香。葉香花香果香。好香非好香。及
餘外香鼻識所知。是名香界非受。云何味界
受。若味界內。是名味界受。云何味界受。若味
界業法煩惱所生報我分攝。身甜^④。酢^⑤。苦^⑥。辛^⑦。鹹^⑧。
淡^⑨。澁^⑩。是名味界受。云何味界非受。若
味界外。是名味界非受。云何味界非受。若
外汁及餘外味舌識所知。是名味界非受。云
何觸界受。若觸界內。是名觸界受。云何觸界
受。若觸界業法煩惱所生報我分攝。身冷熱
輕重^⑪。麤細^⑫。澁滑^⑬。堅軟^⑭。及餘外觸身識所知。是
名觸界非受。云何眼識界受。若眼識界內。是
名眼識界受。云何眼識界受。若眼識界業法
煩惱所生報我分攝。眼識界。是名眼識界受。
云何眼識界非受。若眼識界外。是名眼識界
非受。云何眼識界非受。若眼識界非受。若
眼識界非受。耳識界鼻識界舌識界身識界
亦如是。云何意界受。若意界內。是名意界受。
云何意界受。若意界業法煩惱所生報我分
攝。是名意界受。云何意界非受。若意界外。是
名意界非受。云何意界非受。若意界善。不善
若無記非我分攝。是名意界非受。云何意
界亦如是。云何法界受。若法界內。是名法界
受。云何法界受。若法界業法煩惱所生報我
分攝。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔

悅喜心進信欲念怖生命有漏身進。是名法
界受。云何法界非受。若法界外。是名法界
非受。云何法界非受。若法界善若不善若無
記非我分攝。餘法界非受。是名法界非受。內
外亦如是

十八界幾有報幾無報。十三無報。五二分或
有報或無報。云何十三無報。八色界五識界。
是名十三無報。云何五二分或有報或無報。
色界聲界意界意識界法界。是名五二分或
有報或無報。云何色界有報。若色界善若不
善若善心若不善心所起。去來屈申迴轉身
教。是名色界有報。云何色界無報。若色界報
色界非報非報法。身好色非好色。端嚴非端
嚴。妍^①膚非妍^②膚。嚴淨非嚴淨。無記心所
起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是
名色界無報。云何聲界有報。若聲界報法。是
名聲界有報。云何聲界有報。若聲界善若不
善若善心若不善心所起集聲音句言語口教。
是名聲界有報。云何聲界無報。若聲界報若
聲界非報非報法。身好聲非好聲。衆妙聲非
衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起集聲音
句言語口教。若外聲耳識所知。是名聲界無
報。云何意界有報。若意界報法。是名意界有
報。云何意界有報。除意界善報。餘意界善若
不善意界。是名意界有報。云何意界無報。若
意界報若意界非報非報法。是名意界
無報。意識界亦如是。云何法界有報。若法界
報法。是名法界有報。云何法界有報。除法界

報法。是名法界有報。云何法界有報。除法界

①(云何...受)二十九字 ②(云何...受)二十九字 ③(云何...受)二十九字 ④(云何...受)二十九字 ⑤(云何...受)二十九字 ⑥(云何...受)二十九字 ⑦(云何...受)二十九字 ⑧(云何...受)二十九字 ⑨(云何...受)二十九字 ⑩(云何...受)二十九字 ⑪(云何...受)二十九字 ⑫(云何...受)二十九字 ⑬(云何...受)二十九字 ⑭(云何...受)二十九字 ⑮(云何...受)二十九字 ⑯(云何...受)二十九字 ⑰(云何...受)二十九字 ⑱(云何...受)二十九字 ⑲(云何...受)二十九字 ⑳(云何...受)二十九字 ㉑(云何...受)二十九字 ㉒(云何...受)二十九字 ㉓(云何...受)二十九字 ㉔(云何...受)二十九字 ㉕(云何...受)二十九字 ㉖(云何...受)二十九字 ㉗(云何...受)二十九字 ㉘(云何...受)二十九字 ㉙(云何...受)二十九字 ㉚(云何...受)二十九字 ㉛(云何...受)二十九字 ㉜(云何...受)二十九字 ㉝(云何...受)二十九字 ㉞(云何...受)二十九字 ㉟(云何...受)二十九字 ㊱(云何...受)二十九字 ㊲(云何...受)二十九字 ㊳(云何...受)二十九字 ㊴(云何...受)二十九字 ㊵(云何...受)二十九字 ㊶(云何...受)二十九字 ㊷(云何...受)二十九字 ㊸(云何...受)二十九字 ㊹(云何...受)二十九字 ㊺(云何...受)二十九字 ㊻(云何...受)二十九字 ㊼(云何...受)二十九字 ㊽(云何...受)二十九字 ㊾(云何...受)二十九字 ㊿(云何...受)二十九字

善報。餘法界善。若有為。若不善受。想乃至煩惱使結。二定一切色。是名法界有報。云何法界無報。若法界報。若法界非報。非報法。除無貪無恚。無癡煩惱使。結身口非戒無教。餘法界無報。是名法界無報。

十八界幾心幾非心。七心十一非心。云何七心。七識界是名七心。云何十一非心。十色界法界。是名十一非心。

十八界幾心相應。幾非心相應。十非心相應。七不說心相應。非心相應。一二分或心相應。或非心相應。云何十非心相應。十色界是名十非心相應。云何七不說心相應。非心相應。七識界是名七不說心相應。非心相應。云何一二分或心相應。或非心相應。法界是名一二分或心相應。或非心相應。云何法界心相應。若法界非心相應。若法界若非心。乃至非想非非想處。智。是名法界非心相應。

十八界幾心數幾非心數。十七非心數。一二分或心數。或非心數。云何十七非心數。十色界七識界。是名十七非心數。云何一二分或心數。或非心數。法界是名一二分或心數。或非心數。云何法界心數。若法界有緣受。想乃至煩惱使。是名法界心數。云何法界非心數。若法界非緣生。乃至非想非非想處。智。是名法界非心數。

十八界幾有緣幾無緣。七有緣十無緣。一二分或有緣或無緣。云何七有緣。七識界是名

七有緣。云何十無緣。十色界是名十無緣。云何一二分或有緣或無緣。法界是名一二分或有緣或無緣。云何法界有緣。若法界心數受。想乃至煩惱使。是名法界有緣。云何法界無緣。若法界非心數。生。乃至非想非非想處。智。是名法界無緣。

十八界幾共心幾不共心。十七不共心。一二分或共心或不共心。云何十七不共心。十色界七識界。是名十七不共心。云何一二分或共心或不共心。法界是名一二分或共心或不共心。云何法界共心。若法界隨心轉。共心生。共住共滅。受。想乃至煩惱使。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法界共心。云何法界不共心。若法界不隨心轉。不共心生。不共住不共滅。生。乃至非想非非想處。智。是名法界不共心。隨心轉。不隨心轉。亦如是。

十八界幾業幾非業。十五非業。三二分或業或非業。云何十五非業。八色界七識界。是名十五非業。云何三二分或業或非業。色界聲界法界。是名三二分或業或非業。云何色界業。若善心若不善心。若無記心所起。去來屈申迴轉身教。是名色界業。云何色界非業。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。若外色眼識所知。是名色界非業。云何聲界業。若善心若不善心。若無記心所起。集聲音。何言語口教。是名聲界業。云何聲界非業。身好聲非好聲。眾妙聲非眾妙聲。軟聲非軟聲。若外聲耳識所知。是名聲界非業。

云何法界業。思身口非戒。非教。有漏身口戒無教。正語正業正命。是名法界業。云何法界非業。除思身口非戒無教。有漏身口戒無教。正語正業正命。餘法界非業。是名法界非業。

十八界幾業相應。幾非業相應。七業相應。十非業相應。一二分或業相應。或非業相應。或不說業相應。非業相應。云何七業相應。七識界是名七業相應。云何十非業相應。十色界是名十非業相應。云何一二分或業相應。或非業相應。或不說業相應。非業相應。法界是名一二分或業相應。或非業相應。或不說業相應。非業相應。云何法界業相應。若法界思相應。除思餘受。想乃至煩惱使。是名法界業相應。云何法界非業相應。若法界非思相應。生。乃至非想非非想處。智。是名法界非業相應。云何法界不說業相應。非業相應。思。是名法界不說業相應。非業相應。

十八界幾共業幾非共業。七共業十不共業。一二分或共業或不共業。云何七共業。七識界是名七共業。云何十不共業。十色界是名十不共業。云何一二分或共業或不共業。法界是名一二分或共業或不共業。云何法界共業。若法界隨業轉。共業生。共住共滅。受。想定心思。觸。乃至煩惱使。一定有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法界共業。云何法界不共業。若法界不隨業轉。不共業生。不共住不共滅。不定心思。生。老死命。結得果。身口非戒無教。

○[若]一○ ○[無]二○ ○[結]三法 ○[非]一○ ○[一]一○ ○[緣]一○ ○[有]一○ ○[分]一○ ○[無]十(無) ○[共]心以下聖乙本斷缺 ○[非]二無 ○[戒]無教一○

正身進正身除。智緣盡決定。是名法界修。云何法界非修。法界不善若無記受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使生老死命結。身口非戒無教。有漏身進非聖七無爲。是名法界非修

十八界幾證幾非證。一切證如事知見

十八界幾善幾非善幾無記。十三無記。五三分或善或不善或無記。云何十三無記。八色界五識界。是名十三無記。云何五三分或善或不善或無記。色界聲界意界意識界法界。是名五三分或善或不善或無記。云何色界善。若色界修善心所起。去來屈申迴轉身教。是名色界善。云何色界不善。若色界斷不善心所起。去來屈申迴轉身教。是名色界不善。云何色界無記。若色界受若色界非報非報法。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍

*膚。嚴淨非嚴淨。無記心所起。去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色界無記。云何聲界善。若聲界修善心所起。集聲音言言語口教。是名聲界善。云何聲界不善。若聲界斷不善心所起。集聲音言言語口教。是名聲界不善。云何聲界無記。若聲界受若聲界非報非報法。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲

非軟聲。無記心所起。集聲音言言語口教。若外聲耳識所知。是名聲界無記。云何意界善。若意界修。是名意界善。云何意界不善。若意界斷意界。是名意界不善。云何意界無記。若意界受若意界非報非報法。意界。是名意界無記。云何法界善。若法界修

受想。乃至心捨無想定得果滅盡定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。智緣盡決定。是名法界善。云何法界不善。若法界斷受想。思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。身口非戒無教。有漏身進。是名法界不善。云何法界無記。若法界受非報非報法非聖無爲。受想思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖生老死命。有漏身進非聖七無爲。是名法界無記

十八界幾學幾無學。幾非學非無學。十五非學非無學。三三分或學或無學或非學非無學。云何十五非學非無學。十色界五識界。是名十五非學非無學。云何三三分或學或無學或非學非無學。意界意識界法界。是名三三分或學或無學或非學非無學。云何意界學。若意界學信根相應意界。是名意界學。云何意界學。學人離結使聖心入聖道。若堅信若堅法。及餘趣人見行過患。觀涅槃寂滅。如實

觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。離煩惱修道。見學人若須陀洹斯陀含阿那含。觀智具足。若智地若觀解脫心。即證沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果。若實人若趣意界。是名意界學。云何意界無學。若意界非學。是名意界無學。云何意界無學。若意界無學。信根相應意界。是名意界無學。云何意界無學。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得修道。觀智具足。若智地若觀解脫心。即

得阿羅漢果。若實人若趣意界。是名意界無學。云何意界非學非無學。若意界非聖意界。是名意界非學非無學。意識界亦如是。云何法界學。若法界修

得阿羅漢果。若實人若趣意界。是名意界無學。云何意界非學非無學。若意界非聖意界。是名意界非學非無學。意識界亦如是。云何法界學。若法界修

得阿羅漢果。若實人若趣意界。是名意界無學。云何意界非學非無學。若意界非聖意界。是名意界非學非無學。意識界亦如是。云何法界學。若法界修

得阿羅漢果。若實人若趣意界。是名意界無學。云何意界非學非無學。若意界非聖意界。是名意界非學非無學。意識界亦如是。云何法界學。若法界修

得阿羅漢果。若實人若趣意界。是名意界無學。云何意界非學非無學。若意界非聖意界。是名意界非學非無學。意識界亦如是。云何法界學。若法界修

①三二二②〔非軟聲〕一③〔思〕一④〔見〕一⑤〔報〕一⑥至二是⑦〔正〕一⑧定二是一⑨報十(或報法)⑩

非報法。色界聲界意界識界法界。是名五分或報或報法或非報非報法。云何香界報。若香界受。是名香界報。云何香界報。若香界業法煩惱所生報我分攝。身好香。非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。是名香界報。云何香界非報非報法。若香界外。若外香鼻識所知。樹根香樹心香樹膠香樹皮香。葉香花香果香。好香非好香。及餘外香鼻識所知。是名香界非報非報法。云何味界報。若味界受。是名味界報。云何味界報。若味界業法煩惱所生報我分攝。身甜。醉苦辛鹹淡。涎癢。是名味界報。云何味界非報非報法。若味界外。若外味舌識所知。若甜。醉苦辛鹹淡。水汁及餘外味舌識所知。是名味界非報非報法。云何觸界報。若觸界受。是名觸界報。云何觸界報。若觸界業法煩惱所生報我分攝。身冷熱輕重龜細。澁滑堅軟。是名觸界報。云何觸界非報非報法。若觸界外。若外觸身識所知。若冷熱輕重龜細。澁滑堅軟。及餘外觸身識所知。是名觸界非報非報法。云何眼識界報。若眼識界受。是名眼識界報。云何眼識界報。若眼識界業法煩惱所生報我分攝。眼識界。是名眼識界報。云何眼識界非報非報法。若眼識界外。若外眼識界非報非報法。若眼識界外眼識界。是名眼識界非報非報法。耳識界鼻識界舌識界身識界亦如是。云何色界報。若色界受。是名色界報。云何色界報。若色界業法煩惱所生報我分攝。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。若受心所起去來屈申迴轉身教。是名色界

報。云何色界報法。若色界有報。是名色界報法。云何色界報法。若色界善若不善。若善心若不善心所起去來屈申迴轉身教。是名色界報法。云何色界非報非報法。若色界無記非我分攝。非報非報法。心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色界非報非報法。云何聲界報。若聲界受。是名聲界報。云何聲界報。若聲界業法煩惱所生報我分攝。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若受心所起集聲音言語口教。是名聲界報。云何聲界報法。若聲界有報。是名聲界報法。云何聲界報法。若聲界善若不善。若善心若不善心所起集聲音言語口教。是名聲界報法。云何聲界非報非報法。若聲界無記非我分攝。非報非報法。心所起集聲音言語口教。若外聲耳識所知。是名聲界非報非報法。云何意界報。若意界受。若意界善有報。是名意界報。云何意界報法。除意界善報。餘意界善若不善。意界是名意界報法。云何意界非報非報法。意界若無記。識非我分攝。意界。是名意界非報非報法。意識界亦如是。云何法界報。若法界善報除無貪無恚。餘受想乃至心捨怖生命。無想定得果滅盡。定。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法界報。云何法界報法。若法界有報。是名法界報法。云何法界報法。除法界善報。餘法界善有為。若不善受想。乃至煩惱使結二定一切色。是名法

界報法。云何法界非報非報法。若法界無記非我分攝。若聖無為受想思觸思惟覺觀。見慧解脫。悔不悔。悅喜心進信。欲念。怖生老死。有漏身進九無為。是名法界非報非報法。十八界幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷。非思惟斷。十三非見斷。非思惟斷。五三分或見斷。或思惟斷。或非見斷。非思惟斷。云何十三非見斷。非思惟斷。八色界五識界。是名十三非見斷。非思惟斷。云何五三分或見斷。或思惟斷。或非見斷。非思惟斷。色界聲界意界識界法界。是名五三分或見斷。或思惟斷。或非見斷。非思惟斷。云何色界見斷。若色界不善非思惟斷。見斷煩惱心所起去來屈申迴轉身教。是名色界見斷。云何色界思惟斷。若色界不善非見斷。思惟煩惱心所起去來屈申迴轉身教。是名色界思惟斷。云何色界非見斷。非思惟斷。若色界善若無記。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。若善心若無記心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知。是名色界非見斷。非思惟斷。云何聲界見斷。若聲界不善非思惟斷。見斷煩惱心所起集聲音言語口教。是名聲界見斷。云何聲界思惟斷。若聲界不善非見斷。思惟煩惱心所起集聲音言語口教。是名聲界思惟斷。云何聲界非見斷。非思惟斷。若聲界善若無記。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。若善心若無記心所起集聲音言語口教。若外聲耳識所知。是名聲界非見斷。非思惟斷。云何意界見斷。若意界不

①〔非好香〕一 ②起集二集起 ③起二報 ④〔意〕一 ⑤〔識〕一 ⑥或二非 ⑦〔界〕一

善非思惟斷。見斷煩惱相應。心意界。是名
見斷思惟斷。云何眼界思惟斷。若眼界不善非
斷。云何眼界非見斷非思惟斷。若眼界善若
無記眼界。是名眼界非見斷非思惟斷。意識
界亦如是。云何法界見斷。若法界不善非思
惟斷見斷煩惱一時俱斷。受想思觸思惟覺
觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖煩
惱使結。身口非戒無教。有漏身進。是名法界
思惟斷。云何法界非見斷非思惟斷。若法界
善若無記。除疑煩惱使結身口非戒無教。除
法界。是名法界非見斷非思惟斷

十八界幾見斷因。幾思惟斷因。幾非見斷非
思惟斷因。一切三分。或見斷因或思惟斷因或
非見斷非思惟斷因。云何眼界見斷因。若眼
界見斷法報。地獄畜生餓鬼眼界。是名眼界
見斷因。云何眼界思惟斷因。若眼界思惟斷
法報。地獄畜生餓鬼眼界。是名眼界思惟斷
因。云何眼界非見斷非思惟斷因。若眼界善
法報。天上人中眼界。是名眼界非見斷非思
惟斷因。耳界鼻界舌界身界亦如是。云何色
界見斷因。若色界見斷。若色界見斷法報。身
非好色非端嚴非妍膚非嚴淨。見斷因心所
起去來屈申。迴轉身教。是名色界見斷因。云
何色界思惟斷因。若色界若思惟斷。若思惟

斷法報。身非好色非端嚴非妍*。膚非嚴淨。

思惟所斷因心所起去來屈申迴轉身教。是名

色界思惟斷因。云何色界非見斷非思惟斷

因。若色界善若色界善法報。若色界非報

非。報法。身好色端嚴。妍膚。非見斷非

思惟斷因心所起去來屈申迴轉身教。若外

色眼識所知。是名色界非見斷非思惟斷因。

云何聲界見斷因。若聲界見斷。若聲界見

斷法報。身非好聲非衆妙聲非軟。聲。見斷

因心所起集聲音言語口教。是名聲界見

斷因。云何聲界思惟斷因。若聲界思惟斷。若

聲界思惟斷法報。身非好聲非衆妙聲非軟

聲。思惟斷因心所起集聲音言語口教。是

名聲界思惟斷因。云何聲界非見斷非思惟

斷因。若聲界善法報。若聲界非報非報法。身

好聲衆妙聲軟聲。非見斷非思惟斷因。心所

起集聲音言語口教。若外聲耳識所知。是

名聲界非見斷。非思惟斷因。云何香界見斷

因。若香界見斷法報。身非好香非軟香非適

意香。是名香界見斷因。云何香界思惟斷因。

若香界思惟斷法報。身非好香非軟香非適

意香。是名香界思惟斷因。云何香界非見斷

非思惟斷因。若香界善法報。若香界非報非

報法。身好香軟香適。意香。若外香鼻識所知。

是名香界非見斷非思惟斷因。云何味界見

斷因。若味界見斷法報。身甜酢苦辛鹹淡涎

癢。是名味界見斷因。云何味界思惟斷因。

若味界思惟斷法報。身甜*酢*苦*辛*鹹*淡*涎*
癢。是名味界思惟斷因。云何味界非見斷非

思惟斷因。若味界善法報。若味界非報非報

法身甜*酢*苦*辛*鹹*淡*涎*癢。若外味舌識所

知。是名味界非見斷非思惟斷因。云何觸界

見斷因。若觸界見斷法報。身冷熱能重堅。澁

是名觸界見斷因。云何觸界思惟斷因。若觸

界思惟斷法報。身冷熱能重堅。澁。是名觸界

思惟斷因。云何觸界非見斷非思惟斷因。若

觸界善法報。若觸界非報非報法。身冷熱輕

細軟滑。若外觸身識所知。是名觸界非見斷

非思惟斷因。云何眼識界見斷因。若眼識界

見斷法報。地獄畜生餓鬼眼識界。是名眼識

界見斷因。云何眼識界思惟斷因。若眼識界

思惟斷法報。地獄畜生餓鬼眼識界。是名眼

識界思惟斷因。云何眼識界非見斷非思惟

斷因。若眼識界善法報。若眼識界非報非報

法。天上人中眼識界。是名眼識界非見斷非

思惟斷因。耳識界鼻識界舌識界身識界亦

如是。云何眼界見斷因。若眼界若見斷意界

若見斷法報意界。是名眼界見斷因。云何意

界思惟斷因。意界若意界思惟斷。若意界思

惟斷法報。是名意界思惟斷因。云何意界非

見斷非思惟斷因。若意界善若意界善法報。

若意界非報非報法意界。是名意界非見斷

非思惟斷因。意識界亦如是。云何法界見斷

因。若法界見斷法報。受想思觸思惟覺觀。見

慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念。疑怖煩惱

使生命結。身口非戒無教有漏身進。是名法

界見斷因。云何法界思惟斷因。若法界思惟

斷法界思惟斷法報。受想思觸思惟覺觀。見

①(通)一② ③(報)一④ ⑤(研)二好實⑥ ⑦(聲)十(非好聲)⑧ ⑨(非思惟斷)一⑩ ⑪(界)一⑫ ⑬(若)二外⑭ ⑮(意)一⑯ ⑰(因)若...
斷)七字一⑱ ⑲(疑)二陰⑳* ㉑(苦)辛鹹二鹹辛 ㉒(疑)一⑳

慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖煩惱使生
 命結。身口非戒無教有漏身進。是名法界思
 惟斷因。云何法界非見斷非思惟斷因。若法
 界善若法界善法報。若法界非報非報法。除
 疑煩惱使結身口非戒無教。餘法界非見斷
 非思惟斷因。是名法界非見斷非思惟斷因。
 十八界。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾
 不繫。六欲界繫。九二分或欲界繫或色界繫。
 三四分或欲界繫或色界繫或無色界繫或不
 繫。云何六欲界繫。鼻界香界鼻識界舌界
 味界舌識界。是名六欲界繫。云何九二分
 或欲界繫或色界繫。眼界耳界身界色界聲
 界觸界眼識界耳識界身識界。是名九二分
 或欲界繫或色界繫。云何三四分或欲界繫
 或色界繫或無色界繫或不繫。意界意識界
 法界。是名三四分或欲界繫或色界繫或無
 色界繫或不繫。云何眼界欲界繫。若眼界欲
 界有漏眼界。是名眼界欲界繫。云何眼界色
 界繫。若眼界色漏有漏眼界。是名眼界色
 界繫。耳界身界亦如是。云何色界欲界繫。
 若色界欲漏有漏。身好色非好色。端嚴。非端
 嚴。妍。膚非。妍。膚。嚴淨非嚴淨。欲行心所
 起去來屈申迴轉身教。若外色眼識所知欲
 漏有漏。是名色界欲界繫。云何色界色界繫。
 若色界色漏有漏。身好色端嚴妍。膚嚴淨。
 色行心所起去來屈申迴轉身教。若外色眼
 識所知色漏有漏。是名色界色界繫。云何
 聲界欲界繫。若聲界欲漏有漏。身好聲非好
 聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。欲行心所

起集聲音句言語口教。若外聲耳識所知欲
 漏有漏。是名聲界欲界繫。云何聲界色界繫
 若聲界色漏有漏。身好聲衆妙聲軟聲。色行
 心所起集聲音句言語口教。若外聲耳識所
 知色漏有漏。是名聲界色界繫。云何觸界欲
 界繫。若觸界欲漏有漏。身冷熱輕重龜細。澁
 滑堅軟。若外觸身識所知欲漏有漏。是名觸
 界欲界繫。云何觸界色界繫。若觸界色漏有
 漏。身冷熱輕。細軟滑。若外觸身識所知色
 漏有漏。是名觸界色界繫。云何眼識界欲界
 繫。若眼識界欲漏有漏。眼識界。是名眼識界
 欲界繫。云何眼識界色界繫。若眼識界色漏
 有漏。眼識界。是名眼識界色界繫。耳識界身
 識界亦如是。云何意界欲界繫。若意界欲漏
 有漏。意界。是名意界欲界繫。云何意界色界
 繫。若意界色漏有漏。意界。是名意界色界繫。
 云何眼界無色界繫。若眼界無色漏有漏。意
 界。是名眼界無色界繫。云何意界不繫。若意
 界無漏。意界。是名意界不繫。意識界亦如
 是。云何法界欲界繫。若法界欲漏有漏。受想
 思觸思惟。覺觀。見慧解脫無貪無恚無癡順
 信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱
 使生老死命結。身口非戒無教。有漏身口戒
 無教。有漏身進。是名法界欲界繫。云何法界
 色界繫。若法界色漏有漏。受想思觸思惟覺
 觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲
 不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想
 定。有漏身口。戒無教。有漏身進。有漏身除。
 是名法界色界繫。云何法界無色界繫。若法

界無色漏有漏。受想思觸思惟覺觀。見慧解
 脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨
 疑煩惱使生老死命結。有漏身口戒無教。有
 漏身進。有漏身除。是名法界無色界繫。云何
 法界不繫。若法界聖無漏無為。受想思觸思
 惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除
 信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。正語正業
 正命正身進正身除。九無為。是名法界不繫。
 十八界。幾過去幾未來幾現在。幾非過去非
 未來非現在。十七三分。或過去或未來或現
 在。一四分。或過去或未來或現在。或非過去
 非未來非現在。云何十七三分或過去或未
 來或現在。眼界乃至意識界。是名十七三分
 或過去或未來或現在。云何一四分或過去
 或未來或現在。或非過去非未來非現在。法界
 是名一四分或過去或未來或現在。或非過去
 非未來非現在。云何眼界過去。若眼界生已
 滅。眼界。是名眼界過去。云何眼界未來。若眼
 界未生未出眼界。是名眼界未來。云何眼界
 現在。若眼界生未滅。眼界。是名眼界現在。乃
 至意識界亦如是。云何法界過去。若法界生
 已滅。受想乃至正身除。是名法界過去。云何
 法界未來。若法界未生未出受想乃至正身
 除。是名法界未來。云何法界現在。若法界生
 未滅。受想乃至正身除。是名法界現在。云何
 法界非過去非未來非現在。若法界無為。智
 緣盡。乃至非有想非非想處智。是名法界非
 過去非未來非現在。

●繫十(若色男欲界繫) ●非二不 ●研二好 ●細二重 ●覺二學 ●[戒]一 ●惱二怖 ●此下聖本有光明皇
 后顯文 ●論卷第二二非問分界品第二

舍利弗阿毘曇論卷第三

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等譯

問分陰品第三

問曰。幾陰。答曰。五陰。何等五。色陰。受陰。想陰。行陰。識陰。云何色陰。若色法是名色陰。云何色陰。十色入若法入色。是名色陰。云何色陰。四大若四大所造色是名色陰。云何色陰。三行色。可見有對色。不可見有對色。不可見無對色。是名色陰。云何色陰。若色過去未來現在。內外。龜細。卑勝。遠近。是名色陰。云何色法。眼耳鼻舌身入。色聲香味觸入。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色法。云何十色入。眼耳鼻舌身入。色聲香味觸入。是名十色入。云何法入色。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名法入色。云何四大。地水火大。火大風大。是名四大。云何四大所造色。眼耳鼻舌身色聲香味。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名四大所造色。云何可見有對色。色入。是名可見有對色。云何不可見有對色。眼耳鼻舌身聲香味觸入。是名不可見有對色。云何不可見無對色。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有

漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名不可見無對色。云何過去色。若色生已滅。是名過去色。云何未來色。若色未生未出。是名未來色。云何現在色。若色生未滅。是名現在色。云何內色。若色受。是名內色。云何外色。若色非受。是名外色。云何內色。若色欲界繫。是名內色。云何細色。若色色界繫若無色界繫若不繫。是名細色。云何卑色。若色不善若色不善法報。若色非報非報法不適意。是名卑色。云何勝色。若色善若色善法報。若色非報非報法不適意。是名勝色。云何遠色。若諸色相遠極相遠不近不近邊。是名遠色。云何近色。若色相近極相近近邊。是名近色。云何受陰。一受受陰若心受。是名受陰。云何受陰。二受受陰身受心受。是名受陰。云何受陰。三受受陰樂受苦受非苦非樂受。是名受陰。云何受陰。四受受陰欲界繫受色界繫受無色界繫受不繫受。是名受陰。云何受陰。五受受陰樂根苦根喜根憂根捨根。是名受陰。云何受陰。六受受陰眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰。云何受陰。七受受陰眼識界相應受耳鼻舌身意界意識界相應受。是名受陰。云何受陰。十八意行及餘意受。是名受陰。云何受陰。三十六尊句及餘意受。是名受陰。云何受陰。百八受及餘意受。是名受陰。云何受陰。若過去未來現在。內外。龜細。卑勝。遠近。受。是名受陰。云何身受。若受身識相應。是名身受。云何心受。若受意識相應。是名心受。云何身受。若受五識身相應。眼識耳識鼻識舌

識身識。是名身受。云何心受。若受意識相應。是名心受。云何樂受。若身心樂受。是名樂受。云何苦受。若身心苦受。是名苦受。云何非苦非樂受。若身心非苦非樂受。是名非苦非樂受。云何欲界繫受。若受欲漏有漏。是名欲界繫受。云何色界繫受。若受色漏有漏。是名色界繫受。云何無色界繫受。若受無色漏有漏。是名無色界繫受。云何不繫受。若受聖無漏。是名不繫受。云何樂根。若身樂受眼觸樂受。耳鼻舌身觸樂受。是名樂根。云何苦根。若身苦受眼觸苦受。耳鼻舌身觸苦受。若身苦受。云何喜根。若身心樂受。若身樂受。是名喜根。云何憂根。若身心苦受。若身心苦受。是名憂根。云何捨根。若身心非苦非樂受。眼觸非苦非樂受。耳鼻舌身意觸非苦非樂受。捨根。是名捨根。云何眼觸受。若受眼識相應。是名眼觸受。云何耳鼻舌身意觸受。若受意識相應。是名意觸受。云何眼識界相應受。若受眼識界共生共住共滅。是名眼識界相應受。云何耳鼻舌身意界意識界相應受。若受意識界共生共住共滅。是名意識界相應受。云何十八意行。六喜行六憂行六捨行。如是六喜行六憂行六捨行。是名十八意行。云何除十八意行餘意受。除十八意行餘意受。是名除十八意行餘意受。云何三十六尊句。依六貪喜。依六出

①[論]-①②③ ②[第]-①②③ ③三十(上)細註④ ④姚秦...譯⑤十七字-①②③ ⑤是名二名是⑥眼十(入)⑦除二陰⑧(色)⑨色十(細色)⑩色十(若色龜色云何細色若色色界繫若無色界繫若不繫是名細色云何卑色)二十九字⑪適二通⑫(近)-①②③ ⑬識十(身)⑭若一受⑮[若受]-① ⑯觸苦-苦觸⑰[受]-①② ⑱觸-鼻⑲[捨]-①②③

喜。依六貪憂。依六出憂。依六貪捨。依六出捨。云何依六貪喜。眼知色愛喜適意愛色欲染相應。今得當得已得。過去變滅憶念生喜。如是喜是名依貪喜。耳鼻舌身意。知法。愛喜適意。愛法欲染相應。今得當得已得。過去變滅憶念生喜。如是生喜是名依貪喜。是名依六貪喜。云何依六出喜。色無我知無常變異離欲滅。如實觀過去如此色無常苦變。如實觀生喜。如是喜名依出喜。聲香味觸法無我。知無常變異離欲滅。如實觀過去如此法無常苦變。如實觀生喜。如是喜是名依出喜。是名依六出喜。云何依六貪憂。眼知色愛喜適意愛色欲染相應。今未得當未得。已得變滅憶念生憂。如是憂是名依貪憂。耳鼻舌身意。知法愛喜適意愛法欲染相應。今未得當未得。已得變滅憶念生憂。如是憂是名依貪憂。是名依六貪憂。云何依六出憂。色無我知無常變異離欲滅。如實觀過去如此色無常苦變。如實觀已。於寂滅解脫勝法希求。何時當入。如諸聖人所成就行。緣此生憂。如是憂是名依六出憂。聲香味觸法無我知無常變異離欲滅。如實觀過去如此法無常苦變。如實觀已。於寂滅解脫勝法希求。何時當入。如諸聖人所成就行。緣此生憂。如是憂是名依出憂。是名依六出憂。云何依六貪捨。眼見色凡夫。人生捨。癡如小兒不見過患不知報。如是不知得捨。於色無方便。是名依貪捨。耳鼻舌身意。知法凡夫人捨。癡如小兒不見過患不知報。如是是名依捨。於法無方便。是名

依貪捨。是名依六貪捨。云何依六出捨。色無我知無常變異離欲滅。如實觀過去去色如此色無常苦變異。如實觀已生捨。如是知得捨。於色有方便。是名依出捨。聲香味觸法無我知無常變異離欲滅。如實觀過去如此法無常苦變異。如實觀已生捨。如是知得捨。於法有方便。是名依六出捨。如是依六貪生喜。依六出生喜。如是依六貪憂。依六出憂。如是依六貪捨。依六出捨。如是和合。是名。三十六尊句。云何除三十六尊句餘意受。除三十六尊句餘意受。是名除三十六尊句餘意受。云何百八尊句。現在三十六尊句。過去三十六尊句。未來三十六尊句。現在三十六尊句。如是和合。是名百八尊句。云何除百八尊句餘意受。除百八尊句餘意受。是名除百八尊句餘意受。云何過去受。若受生已滅。是名過去受。云何未來受。若受未生未出。是名未來受。云何現在受。若受生未滅。是名現在受。云何內受。若受受。是名內受。云何外受。若受非受。是名外受。云何能受。若受欲界繫。是名能受。云何細受。若受色界繫。無色界繫不繫。是名細受。云何卑受。若受不善若受不善法報。若受非報非報法不適意。是名卑受。云何勝受。若受善法報若受非報非報法適意。是名勝受。云何遠受。若受諸受相遠極相遠不近不近邊是名遠受。云何近受。若受相近極相近近邊。是名近受。云何想陰。一想想陰若思想識想究竟識想。是名想陰。云何想陰。二想想陰身受相應心想相應。是名想陰。云何想陰。三想想陰樂受相應

想苦受非苦非樂受相應想。是名想陰。云何想陰。四想想陰欲界繫想色界繫想無色界繫想不繫想。是名想陰。云何想陰。五想想陰樂根相應。若思想喜根愛根捨根相應想。是名想陰。云何想陰。六想想陰色想聲香味觸法想。是名想陰。云何想陰。七想想陰眼識界相應想耳鼻舌身意識界相應想。是名想陰。云何想陰。十八意行相應想及除想識想究竟識想。是名想陰。云何想陰。三十六尊句相應想。及除想識想究竟識想。是名想陰。云何想陰。百八受相應想。及除想識想究竟識想。是名想陰。云何想陰。若思想過去未來現在內外能細卑勝遠近。是名想陰。云何身受相應想。若思想身受共住共滅。是名身受相應想。云何心受相應想。若思想心受共住共滅。是名心受相應想。云何樂受相應想。若思想樂受共住共滅。是名樂受相應想。云何苦受非樂非苦受相應想。若思想苦受非樂非苦受共住共滅。是名非樂非苦受相應想。云何欲界繫想。若思想欲漏有漏。是名欲界繫想。云何色界繫想。若思想色漏有漏。是名色界繫想。云何無色界繫想。若思想無色漏有漏。是名無色界繫想。云何不繫想。若思想聖無漏。是名不繫想。云何樂根相應想。若思想樂根共住共滅。是名樂根相應想。云何苦根喜根憂根捨根相應想。若思想捨根共住共滅。是名非苦非樂根相應想。云何色想。若思想眼識相應想。是名色想。云何聲香味觸法想。若思想意識相應想。是名法想。云何

①愛二受②* ③[滅]—④⑤⑥ ⑦未二來⑧ ⑨如二知⑩⑪[六]—⑫⑬ (人生...兒)七字二(生癡如小兒)五字⑭⑮ [報如]—⑯⑰ ⑱如二女⑲ ⑳三十六尊句二世尊六句㉑ [意]—⑳㉑㉒ [意]—㉓㉔ ㉕[受]—㉖㉗ ㉘[若受]—㉙㉚ ㉛[若受]—㉜㉝ [想]—㉞ ㉟[香]—㊱㊲ ㊳[想]—㊴㊵ ㊶[共住]—㊷㊸ ㊹[想苦受]—㊺㊻ ㊼名十(苦受)㊽㊾ ㊿[想]—①②③

報。云何色陰有報。除色陰善報。餘色陰善不善。若善心若不善心所起去來屈申迴轉身

教。集聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業

正命正身進正身除。是名色陰有報。云何色陰無報。若色陰非報非報法。眼入耳鼻舌入

身入。香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非

好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所。起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口

教。若外色眼識所知。若外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業

正命正身進正身除。是名色陰無報。云何受陰有報。若受陰報法。是名受陰有報。云何受

陰無報。除受陰善報。餘受陰善若不善意觸受。是名受陰有報。云何受陰無報。若受陰報

若受陰非報非報法。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰無報。云何想陰有報。想陰若報

法。是名想陰有報。云何想陰有報。除想。陰善報。餘想陰善若不善法想。是名想陰有報。

云何想陰無報。想陰若報想陰若非報非報法。色想聲香味觸法想。是名想陰無報。云何

行陰有報。行陰若報法。是名行陰有報。云何行陰有報。除行陰善報。餘行陰善若不善思

乃至煩惱使結一定。是名行陰有報。云何行陰無報。行陰若報行陰若非報非報法。除無

貪無恚。癡煩惱使結。餘行陰無報。是名行陰無報。云何識陰有報。識陰若報法。是名識陰

有報。云何識陰有報。除識陰善報。餘識陰善

若不善境界意識界。是名識陰有報。云何識陰無報。識陰若報識陰若非報非報法。眼識

乃至意識。是名識陰無報

五陰幾心幾非心。一心四非心。云何一心。識陰是名一心。云何四非心。色陰受陰想陰行

陰。是名四非心

五陰幾心相應。幾非心相應。二心相應。一非心相應。一不說心相應非心相應。一二分或

心相應或非心相應。云何二心相應。受陰想陰。是名二心相應。云何一非心相應。色陰是

名一。非心相應。云何一不說心相應非心相應。識陰是名一不說心相應非心相應。云何

二分或心相應或非心相應。行陰是名一二分或心相應或非心相應。云何行陰心相

應。行陰若心數思乃至煩惱使。是名行陰心相應。云何行陰非心相應。行陰若非心數生

乃至滅盡定。是名行陰非心相應

五陰幾心數幾非心數。二心數二非心數。一二分或心數或非心數。云何二心數。受陰想

陰。是名二心數。云何二非心數。色陰識陰。是名二非心數。云何一二分或心數或非心數。

行陰是名一二分或心數或非心數。云何行陰心數。行陰若緣思乃至煩惱使。是名行陰

心數。云何行陰非心數。行陰若非緣生乃至滅盡定。是名行陰非心數。

五陰幾有緣幾非緣。三緣一非緣。一二分或緣或非緣。云何三緣。受陰想陰識陰。是名

三緣

云何一非緣。色陰是名一非緣。云何一二分

或緣或非緣。行陰是名一二分或緣或非緣

云何行陰緣。行陰若心數思乃至煩惱使。是名行陰緣。云何行陰非緣。行陰若非心數生

乃至滅盡定。是名行陰非緣

五陰幾共心幾非共心。二共心。一非共心。

二二分或共心或非共心。云何二共心。受陰想陰。是名二共心。云何一非共心。識陰是名

一非共心。云何二分或共心或非共心。色陰行陰。是名二分或共心或非共心。云

何色陰共心。若隨心轉共心。共生共住共滅。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語

正業正命正身進正身除。是名色陰共心。云何色陰不共心。若不隨心轉不共心生。不共

住不共滅。十色入一切法入色。是名色陰非共心。云何行陰共心。行陰若隨心轉共心生

共住共滅。思乃至煩惱使。是名行陰共心。云何行陰不共心。行陰若不隨心轉不共心生

不共住不共滅。生乃至滅盡定。是名行陰不共心。隨心轉不隨心轉亦如是

五陰幾業幾非業。三非業。二二分或業或非業。云何三非業。受陰想陰識陰。是名三非業。

云何二分或業或非業。色陰行陰。是名二分或業或非業。云何色陰業。若善心若不

善心若無記心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口

戒無教。正語正業正命。是名色陰業。云何色陰非業。眼入耳鼻舌身入香味觸入。身好

色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟

非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟

●膚二貢●●●●●起一趣●●●●●除一●●●●●陰善二除若●●●●●癡二疑●●●●●非二不●●●●●云何●●●●●二十二字一●●●●●卷第三上終●●●●●卷第三下問分陰品第三之餘首●●●●●譯號同異如首卷●●●●●二一●●●●●非二不●●●●●行陰一●●●●●若二共●●●●●生

聲非軟聲。若外色眼識所知。若外聲耳識所知。有漏身進有漏身除。正身進正身除。是名色陰非業。云何行陰業。思是名行陰業。云何行陰非業。除思餘行陰。是名行陰非業。

五陰幾業相應。幾非業相應。三業相應。一非業相應。一三分或業相應或非業相應。或不說業相應非業相應。云何三業相應受陰。想陰識陰。是名三業相應。云何一非業相應。色陰是名一非業相應。云何一三分或業相應或非業相應。或不說業相應非業相應。行陰是名一三分或業相應或非業相應。或不說業相應非業相應。云何行陰業相應。行陰若思相應觸乃至煩惱使。是名行陰業相應。云何行陰非業相應。行陰若非思相應。生乃至滅盡定。是名行陰非業相應。云何行陰不說業相應非業相應。思是名行陰不說業相應非業相應。

五陰幾共業幾不共業。三共業。二二分或共業或不共業。云何三共業。受陰想陰識陰。是名三共業。云何二分或共業或不共業。色陰行陰。是名二分或共業或不共業。云何色陰共業。色陰若隨業轉共業生共住共滅。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰共業。云何色陰不共業。色陰若不隨業轉不共業生不共住不共滅。十色入初三色。是名色陰不共業。云何行陰共業。行陰若隨業轉共業生共住共滅。又定心思觸乃至煩惱使無。想定滅盡定。是名行陰共業。云何行陰不共業。若

行陰不隨業轉不共業生不共住不共滅。不定心思生死命結得果。是名行陰不共業。隨業轉不隨業轉。亦如是。

五陰幾因幾非因。三因。二二分或因或非因。云何三因。受陰想陰識陰。是名三因。云何二分或因或非因。色陰行陰。是名二分或因或非因。云何色陰因。色陰若報法。是名色陰因。云何色陰因。色陰善若不善及四大善心若不善心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。地水火風大。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰因。云何色陰非因。若。色陰報色陰。非報。非報法。眼入耳鼻舌入身入香味入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。若外色眼識所知。若外聲耳識所知。除四大餘觸入所攝有漏身進。是名色陰非因。云何行陰因。行陰緣行陰非緣有報。除得果餘行陰非緣善報。思乃至煩惱使結一定。是名行陰因。云何行陰非因。行陰緣無報不共業生老死命得果。是名行陰非因。

五陰幾有因幾無因。一切有因。一切有結。一切有緣。一切有爲。五陰幾知幾非知。一切知如事知見。一切識意識如事識。一切解如事知見。一切了如事知見。五陰幾斷智知。幾非斷智知。一切二分。或斷

智知或非斷智知。云何色陰斷智知。色陰不善不善心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。是名色陰斷智知。云何色陰非斷智知。色陰善無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。善心若無記心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。若外色眼識所知。若外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰非斷智知。云何受陰斷智知。受陰不善思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名受陰斷智知。云何受陰非斷智知。受陰善無記眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非斷智知。云何想陰斷智知。想陰不善法想。是名想陰斷智知。云何想陰非斷智知。想陰善無記色想聲香味觸法想。是名想陰非斷智知。云何行陰斷智知。行陰不善思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰斷智知。云何行陰非斷智知。行陰善無記。除疑煩惱使結。餘行陰非斷智知。是名行陰非斷智知。云何識陰斷智知。識陰不善境界。是名識陰斷智知。云何識陰非斷智知。識陰善無記。眼識乃至意識是名識陰非斷智知。斷非斷亦如是。

五陰幾修幾非修。一切二分。或修或非修。云何色陰修。色陰若善心所起去來屈申迴轉

①[想]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
②[云何...應]七字一③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
③[相]一④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
④[二]一⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑤[共]一⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑥[想]一⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑦[色]一⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑧[非]一⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑨[非]一⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑩[結]一⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑪[云何...知]四十四字一⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
⑫[善]一⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

身故。集聲音言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身除。是名色陰修。云何色。陰非修。色陰不善無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍*膚非妍*膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。柔*妙聲非柔*妙聲。軟聲非軟聲。不善心無記心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。若外色眼識所知。若外聲耳識所知。身口非戒無教有漏身進。是名色陰非修。云何受陰修。受陰善意觸受。是名受陰修。云何受陰非修。受陰不善無記眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非修。云何想陰修。想陰善法想。是名想陰修。云何想陰非修。想陰不善無記色想聲香味觸法想。是名想陰非修。云何行陰修。行陰善思乃至心捨無想定得果滅盡定。是名行陰修。云何行陰非修。行陰不善無記思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念。疑怖煩惱使生老死命。是名行陰非修。云何識陰修。識陰善意識界。是名識陰修。云何識陰非修。識陰不善無記。眼識乃至意識。是名識陰非修。

五陰幾證幾非證一切證如事知見

五陰幾善幾不善幾無記。一切三分。或善或不善或無記。云何色陰善。若色陰修善心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身除。是名色陰善。云何色陰不善。若色陰斷不善心所起。去來屈申迴轉身

教。集聲音言語口教。身口非戒無教。有漏身進。是名色陰不善。云何色陰無記。色陰受色陰非報非報法。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍*膚非妍*膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。柔*妙聲非柔*妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。若外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身進。是名色陰無記。云何受陰善。若受陰修意觸受。是名受陰善。云何受陰不善。受陰斷意觸受。是名受陰不善。云何受陰無記。受陰受受陰若非報非報法眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰無記。云何想陰善。若想想陰修法想。是名想陰善。云何想陰不善。想想陰斷法想。是名想陰不善。云何想陰無記。想想陰受想陰非報非報法色想聲香味觸法想。是名想陰無記。云何行陰善。行陰修思乃至心捨無想定得果滅盡定。是名行陰善。云何行陰不善。行陰斷思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰不善。云何行陰無記。行陰受行陰非報非報法思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖生老死命。是名行陰無記。云何識陰善。識陰修意識界。是名識陰善。云何識陰不善。識陰斷意識界。是名識陰不善。云何識陰無記。識陰受識陰非報非報法眼識乃至意識。是名識陰無記。

五陰幾學幾無學。幾非學非無學。一切三分。或學或無學或非學非無學。云何色陰學。色

陰若聖非無學。是名色陰學。云何色陰學。學人離結使聖心入聖道。若堅信若堅法。及餘趣人見行過患觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。離煩惱修道。見學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即證沙門果。若須陀洹果若斯陀含果若阿那含果。若實人若趣正語正業正命正身進正身除。是名色陰學。云何色陰無學。色陰若聖非學。是名色陰無學。云何色陰無學。無學人欲得阿羅漢。未得聖法欲得修道觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣正語正業正命正身進正身除。是名色陰無學。云何色陰非學非無學。色陰非聖色受陰十色入初四色。是名色陰非學非無學。云何受陰學。受陰聖非無學。是名受陰學。云何受陰學。受陰學信根相應意觸受。是名受陰學。云何受陰學。學人離結使乃至即證阿那含果若實人若趣意觸受。是名受陰學。云何受陰無學。受陰非聖非學。是名受陰無學。云何受陰無學。受陰無學信根相應意觸受。是名受陰無學。云何受陰無學。無學人欲得阿羅漢乃至即得阿羅漢果。若實人若趣意觸受。是名受陰無學。云何受陰非學非無學。受陰非聖受受陰眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非學非無學。云何想陰學。想陰聖非無學。是名想陰學。云何想陰學。想陰學信根相應法想。是名想陰學。云何想陰學。學人離結使乃至即得阿那含果。若實人若趣法想。是名想陰學。

①陰二除 ②妙二好 ③〔受〕一 ④〔受〕一 ⑤〔非乘妙〕一 ⑥色陰二陰色 ⑦〔行陰不善〕一 ⑧行二得 ⑨陰二除

云何想陰無學。想陰聖非學。是名想陰無學。云何想陰無學。想陰無學信根相應法想。是名想陰無學。云何想陰無學。無學人欲得阿羅漢。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣法想。是名想陰無學。云何想陰非學非無學。想陰非聖想受陰色想聲香味觸法想。是名想陰非學非無學。云何行陰學。行陰聖非無學。是名行陰學。云何行陰學。行陰學信根相應心數法。若法非緣無漏行陰所攝非無學。是名行陰學。云何行陰學。學人離結使乃至即得阿那含果。若實人若趣若思觸思惟覺觀。見慧解脫無礙。順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰學。云何行陰無學。行陰聖非學。是名行陰無學。云何行陰無學。無學信根相應心數法。若法非緣無漏行陰所攝非學。是名行陰無學。云何行陰無學。無學人欲得阿羅漢。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣思觸思惟覺觀。見慧解脫無礙信順悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無學。云何行陰非學非無學。行陰若非聖受陰思乃至無想定。是名行陰非學非無學。云何識陰學。識陰若聖非無學。是名識陰學。云何識陰學。學人離結使。乃至即得阿那含果。若實人若趣若境界意識界。是名識陰學。云何識陰無學。識陰無學信根相應境界意識界。是名識陰無學。云何識陰無學。無學人

欲得阿羅漢。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若境界意識界。是名識陰無學。云何識陰非學非無學。識陰非聖識受陰眼識乃至意識。是名識陰非學非無學。五陰幾報幾報法。幾非報非報法。一切三分。或報或報法或非報非報法。云何色陰報。色陰若受色陰善報。眼入耳入鼻入舌入身入身好色非好色。端嚴非端嚴。妍*膚非妍*膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。身甜*酢苦辛鹹淡涎癢。身冷熱輕重龜細*澁滑堅軟。受心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命。正身進正身除。是名色陰報。云何色陰報法。色陰若有報。是名色陰報法。云何色陰報法。除色陰善報。除色陰不善若善心若不善心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰報法。云何色陰非報法。色陰若無記非我分攝。非報非報法。心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。若外聲香味觸。若外觸身識所知。有漏身進。是名色陰非報非報法。云何受陰報。受陰若受受陰善報眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰報。云何受陰報法。受陰有報。是名受陰報法。云何受陰報法。除受陰善報。除受陰不善意觸受。是名受陰報

法。云何受陰非報非報法。受陰無記非我分攝。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非報法。云何想陰報。想陰若受想陰善報色想聲香味觸法想。是名想陰報。云何想陰報法。想陰若有報。是名想陰報法。云何想陰報法。除想陰善報。除想陰不善法想。是名想陰報法。除想陰善報。除想陰不善法想。是名想陰報法。云何想陰非報非報法。想陰無記非我分攝。色聲香味觸法想。是名想陰非報非報法。云何行陰報。行陰受。行陰善報除無貪無恚。除思乃至心捨怖生老死命無想定得果滅盡定。是名行陰報。云何行陰報法。行陰有報。是名行陰報法。云何行陰報法。除行陰善報。除行陰不善思乃至煩惱使結二定。是名行陰報法。云何行陰非報非報法。行陰無記非我分攝。思觸思惟覺觀。見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念。疑怖生老死。是名行陰非報非報法。云何識陰報。識陰若受識陰善報眼識乃至意識。是名識陰報。云何識陰報法。識陰有報。是名識陰報法。云何識陰報法。除識陰善報。除識陰不善境界意識界。是名識陰報法。云何識陰非報非報法。識陰無記非我分攝。眼識乃至意識。是名識陰非報非報法。五陰幾見斷幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切三分。或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。云何色陰見斷。色陰不善非思惟斷見斷。煩惱心所起去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。是名色陰見斷。云何色陰思惟斷。色陰不善非見

①〔行陰學〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①〔法〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①〔行〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①〔疑〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①〔若〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①〔識〕—①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

斷思惟斷。煩惱心所起去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。身口非戒無教。有漏身進。是名色陰思惟斷。云何色陰非見斷非思惟斷。色陰善無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍*膚非妍*膚。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。善心無記心所起去來屈申迴轉身教集聲音言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰非見斷非思惟斷。云何受陰見斷。受陰不善非思惟斷。見斷煩惱相應意觸受。是名受陰見斷。云何受陰思惟斷。受陰不善非見斷。思惟斷煩惱相應意觸受。是名受陰善無記眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非見斷非思惟斷。云何想陰見斷。想陰不善非思惟斷。見斷煩惱相應法想。是名想陰見斷。云何想陰思惟斷。想陰不善非見斷。思惟斷煩惱相應法想。是名想陰善無記色。云何想陰非見斷非思惟斷。想陰善無記色想聲香味觸法想。是名想陰。非見斷非思惟斷。云何行陰見斷。行陰不善非思惟斷。見斷煩惱。一時俱斷。思觸思惟覺觀。見慧解脫。不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰見斷。云何行陰思惟斷。行陰不善非見斷。思惟斷煩惱。一時俱斷。思觸思惟覺觀。見慧解脫。不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰思惟斷。云何行陰非見斷非思

惟斷。行陰善無記。除疑煩惱使結餘行陰非見斷非思惟斷。是名行陰非見斷非思惟斷。云何識陰見斷。識陰若不善非思惟斷。見斷煩惱相應意識界。是名識陰見斷。云何識陰思惟斷。識陰不善非見斷思惟斷煩惱相應意識界。是名識陰思惟斷。云何識陰非見斷非思惟斷。識陰善無記眼識乃至意識是名識陰非見斷非思惟斷。五陰幾見斷因。幾思惟斷因。幾非見斷非思惟斷因。一切三分。或見斷因或思惟斷因或非見斷非思惟斷因。云何色陰見斷因。色陰見斷法報。眼入耳入鼻入舌入身入。身非好色非端嚴非妍*膚非嚴淨。身非好聲非衆妙聲非軟聲身非。衆妙香非。好香非。軟香非。適意香。身甜。酢苦辛。鹹淡涎癢。身冷熱。龜重堅。澁。見斷因心所起去來屈申迴轉身教集聲音言語口教身口非戒無教。有漏身進。是名色陰見斷因。云何色陰思惟斷因。色陰思惟斷法報。眼入耳入鼻入舌入身入。身非好色非端嚴非妍*膚非嚴淨。身非好聲非衆妙聲非軟聲。身非。好香非。軟香非。適意香。身甜。酢苦辛。鹹淡涎癢。身冷熱。龜重堅。澁。思惟斷因心所起去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。身口非戒無教。有漏身進。是名色陰思惟斷因。云何色陰非見斷非思惟斷因。色陰善色陰善法報。色陰非報非報法。眼入耳入鼻入舌入身入。身好色端嚴妍*膚嚴淨。身好聲衆妙聲軟聲。身好香軟香適意香。身甜。酢苦辛。鹹淡涎癢。身冷熱。輕細軟滑。非見斷非

思惟斷因。心所起去來屈申迴轉身教。集聲音言語口教。外色眼識所知。外聲香味。外觸身識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。正語正業正命正身進正身除。是名色陰非見斷非思惟斷因。云何受陰見斷因。受陰若見斷受陰見斷法報。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰見斷因。云何受陰思惟斷因。受陰思惟斷受陰思惟斷法報。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰思惟斷因。云何受陰非見斷非思惟斷因。受陰善受陰善法報。受陰非報非報法。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名受陰非見斷非思惟斷因。云何想陰見斷因。想陰不善非思惟。斷相應。見斷煩惱相應法想。是名想陰見斷因。云何想陰思惟斷因。想陰不善非見斷。思惟斷煩惱相應法想。是名想陰思惟斷因。云何想陰非見斷非思惟斷因。若想像善想像善法報想像若非報非報法色想像聲香味觸法想。是名想像非見斷非思惟斷因。云何行陰見斷因。行陰見斷行陰見斷法報。思觸思惟覺觀。見慧解脫。不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰見斷因。云何行陰思惟斷因。行陰若思惟斷。行陰思惟斷法報。思觸思惟覺觀。見慧解脫。不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。是名行陰思惟斷因。云何行陰非見斷非思惟斷因。行陰若行陰善善法報。行陰非報非報法。除疑煩惱使結。餘行陰非見斷非思惟斷因。是名行陰非見斷非思惟斷因。云何識陰見斷因。識陰若見

①[云何...斷]十四字 ②[非見斷]一 ③[衆妙香非]一 ④[衆]一 ⑤[好二妙]二 ⑥[非軟香]一 ⑦[非好香]一 ⑧[好二研]二 ⑨[集二進]二 ⑩[外二非]二 ⑪[斷]一 ⑫[斷相]一 ⑬[斷]一 ⑭[斷十(因)]十 ⑮[生]一 ⑯[結十(生)]十 ⑰[斷行二行斷]二 ⑱[疑]一 ⑲[何二行]二

斷識陰見斷法報。眼識乃至意識。是名識陰見斷因。云何識陰思惟斷因。識陰思惟斷識陰思惟斷法報。眼識乃至意識。是名識陰思惟斷因。云何識陰非見斷非思惟斷因。識陰善識陰善法報識陰非報非眼識乃至意識。是名識陰非見斷非思惟斷因。

五陰。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾不繫。一切四分或欲界繫或色界繫或無色界繫或不繫。云何色陰欲界繫。色陰欲漏有漏。眼入耳鼻舌身入香入味入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍。膚非妍。膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆。妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。身冷熱輕重龜細。澁滑堅軟。欲行心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。外色眼識所。知。欲漏有漏。外聲外觸身識所知。欲漏有漏身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進。是名色陰欲界繫。云何色陰色界繫。色陰色漏。眼入耳入。身好色端嚴妍。膚嚴淨。身好聲衆妙聲軟聲。身冷輕細軟滑。行心所起。去來屈申迴轉身教。集聲音句言語口教。外色眼識所知。色漏有漏。外聲外觸身識所知。色漏有漏身口戒無教。有漏身除。是名色陰色界繫。云何色陰無色界繫。色陰無色漏有漏。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。是名色陰無色界繫。云何色陰不繫。色陰若聖無漏正語正業正命正身進。正身除。是名色陰不繫。云何受陰欲界繫。受陰欲漏。有漏眼觸受耳。鼻舌身意觸受。是名受陰欲界繫。云何受陰色界繫。受陰色漏

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

意識界。是名識陰不繫。五陰。幾過去。幾未來。幾現在。幾非過去非未來非現在。一切三分或過去或未來或現在。云何色陰過去。色陰生已滅。是名色陰過去。云何色陰未來。色陰未生未出。是名色陰未來。云何色陰現在。生未滅色陰。是名色陰現在。受陰想陰行陰識陰亦如是。

舍利弗阿毘曇論卷第三

問分四聖諦品第四

姚秦。罽賓三藏。曇摩耶舍。共。曇摩崛多。等。譯。

問曰。幾聖諦。答曰。四。何等四。苦聖諦。苦集聖諦。苦滅聖諦。苦道聖諦。云何苦聖諦。生苦老苦病苦死苦。不愛會苦。愛別離苦。所求不得苦。除愛總。五受陰苦。是名苦聖諦。此苦聖諦。真實如爾。非不如爾。不異不異物。如如來正說聖人諦故。是名聖諦。云何生。若諸衆生諸衆中生。重生。增長生。陰得諸入衆和合。是名生。云何老。若諸衆生諸衆中衰寢戰掉諸根熱命滅行故。是名老。云何病。若諸衆生諸衆中病作病客病苦病因熱生病因冷因風自地時變諸大增減不等業報雜病。是名病。云何死。若諸衆生諸衆中終沒死時過陰壞捨身變滅離衆。是名死。云何不愛會。若不愛不喜不適意。若惡獸毒虫等。若棘刺穢

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

意識界。是名識陰不繫。

五陰。幾過去。幾未來。幾現在。幾非過去非未來非現在。一切三分或過去或未來或現在。云何色陰過去。色陰生已滅。是名色陰過去。云何色陰未來。色陰未生未出。是名色陰未來。云何色陰現在。生未滅色陰。是名色陰現在。受陰想陰行陰識陰亦如是。

舍利弗阿毘曇論卷第三

問分四聖諦品第四

姚秦。罽賓三藏。曇摩耶舍。共。曇摩崛多。等。譯。

問曰。幾聖諦。答曰。四。何等四。苦聖諦。苦集聖諦。苦滅聖諦。苦道聖諦。云何苦聖諦。生苦老苦病苦死苦。不愛會苦。愛別離苦。所求不得苦。除愛總。五受陰苦。是名苦聖諦。此苦聖諦。真實如爾。非不如爾。不異不異物。如如來正說聖人諦故。是名聖諦。云何生。若諸衆生諸衆中生。重生。增長生。陰得諸入衆和合。是名生。云何老。若諸衆生諸衆中衰寢戰掉諸根熱命滅行故。是名老。云何病。若諸衆生諸衆中病作病客病苦病因熱生病因冷因風自地時變諸大增減不等業報雜病。是名病。云何死。若諸衆生諸衆中終沒死時過陰壞捨身變滅離衆。是名死。云何不愛會。若不愛不喜不適意。若惡獸毒虫等。若棘刺穢

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

有漏眼觸受耳鼻。舌身意觸受。是名受陰色界繫。云何受陰無色界繫。受陰無色漏有漏意觸受。是名受陰無色界繫。云何受陰不繫。受陰聖無漏意觸受。是名受陰不繫。云何想陰欲界繫。想陰欲漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰欲界繫。云何想陰無色界繫。想陰無色漏有漏色想聲香味觸法想。是名想陰無色界繫。云何想陰不繫。想陰聖無漏法想。是名想陰不繫。云何行陰欲界繫。若行陰欲漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔不悔悅喜心進信欲不放逸念疑怖煩惱使生老死命結。是名行陰欲界繫。云何行陰色界繫。若行陰色漏有漏思觸思惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑煩惱使生老死命結無想定。是名行陰色界繫。云何行陰無色界繫。若行陰無色漏有漏思觸思惟見慧解脫無癡順信心進心除信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰無色界繫。云何行陰不繫。行陰聖無漏思觸思惟覺觀。見慧解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念定心捨得果滅盡定。是名行陰不繫。云何識陰欲界繫。識陰若欲漏有漏眼識乃至意識。是名識陰欲界繫。云何識陰色界繫。識陰色漏有漏眼識耳識身識意識。是名識陰色界繫。云何識陰無色界繫。識陰無色漏有漏意界意識界。是名識陰無色界繫。云何識陰不繫。識陰聖無漏意界

①妙二好② ③知欲二欲知④ ⑤集二進⑥ ⑦有漏一⑧ ⑨鼻一⑩ ⑪舌一⑫ ⑬惟十覺觀⑭ ⑮未一來⑯ ⑰色陰一⑱ ⑲此下聖本有光明皇后願文 ⑳論卷第三二非問分陰品第三㉑ 問分卷第三 ㉒三十(下)細註 ㉓兩二地 ㉔陰二除 ㉕地二他

愛瞋恚。若得甘露。是名阿那含果。云何阿那含果。五下分煩惱斷身見疑戒盜欲愛瞋恚。聖道一時俱斷煩惱。是名阿那含果。云何阿那含果。五下分煩惱斷身見疑戒盜欲愛瞋恚。聖道一時俱斷煩惱。若得甘露。是名阿那含果。云何阿羅漢果。若思惟斷色界無色界煩惱斷無餘。是名阿羅漢果。云何阿羅漢果。思惟斷色界無色界煩惱斷無餘。若得甘露。是名阿羅漢果。云何阿羅漢果。若一切煩惱盡。是名阿羅漢果。云何阿羅漢果。若一切煩惱盡。若得甘露。是名阿羅漢果。云何苦滅道聖諦。此八。支聖道正見正覺正語正業正命正進正念正定。是名苦滅道聖諦。是苦滅道聖諦。苦實如爾。非不如爾。不異不異物。如如來正說。聖人語是謂聖諦。云何正見。學人離結使聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱見學人。若須陀洹。斯陀含。阿那含。若觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得修道觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣若法中。澤重。澤究竟。澤法。澤思惟覺了達自相他相共相。思持辯觀進辯慧。智見解射方便術焰光明。焰炬慧眼慧根慧力擇法正覺不癡。是名正見。云何正覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若覺重覺正憶想攀緣心了。是名正覺。云何正語。學人離結使。乃

至即得阿羅漢果。若實人若趣若口四不善不樂盡離見過戒慎不作不容斷根盡無餘彼不善法中堪行善。是名正語。云何正業。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若身三不善。不樂遠離見過戒慎不作不容斷根盡無餘彼不善法中堪行善。是名正業。云何正命。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣除身口不善餘邪命不樂遠離見過戒慎不作不容斷根盡無餘彼不善法中堪行善。是名正命。云何正進。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若身心發出度堪忍不退動力進不離不懈不緩不懶墮進根進力進覺是名正進。云何正念。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若念憶念微念慎念住不忘如語相續念不失不奪不鈍不鈍根念根念力念覺。是名正念。云何正定。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若心住正住專住心一向心一樂心不亂依心意心獨定定根定力定覺。是名正定。四聖諦。幾色。幾非色。二非色。二二分或色或非色。云何二非色。集聖諦滅聖諦。是名二非色。云何二二分或色或非色。苦聖諦道聖諦。是名二二分或色或非色。云何苦聖諦色。眼耳鼻舌身入色入聲香味觸入身口非戒無教有漏身口戒無教有漏身進有漏身除。是名苦聖諦色。云何苦聖諦非色。受想思觸慧惟覺觀見慧解脫無貪無恚無癡順信悔悅喜心進心除信欲不放逸念定心捨疑怖煩惱使生老死命結無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦非色。云何道

聖諦色。正語正業正命正身進。是名道聖諦色。云何道聖諦非色。正見正覺正心進正念正定。是名道聖諦非色。四聖諦。幾可見。幾不可見。三不可見。一二分或可見或不可見。云何三不可見。集聖諦滅聖諦道聖諦。是名三不可見。云何一二分或可見或不可見。苦聖諦是名一二分或可見或不可見。云何苦聖諦可見。色入是名苦聖諦可見。云何苦聖諦不可見。除色入餘苦聖諦不可見。是名苦聖諦不可見。四聖諦。幾有對。幾無對。三無對。一二分或有對或無對。云何三無對。集聖諦滅聖諦道聖諦。是名三無對。云何一二分或有對或無對。苦聖諦是名一二分或有對或無對。云何苦聖諦有對。十色入是名苦聖諦有對。云何苦聖諦無對。初四色受想乃至無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦無對。四聖諦。幾聖。幾非聖。二聖。二非聖。云何二聖。滅聖諦道聖諦。是名二聖。云何二非聖。苦聖諦集聖諦。是名二非聖。有漏無漏有愛無愛有求無求當取非當取有取無取有勝無勝亦如是。四聖諦。幾受。幾非受。三非受。一二分或受或非受。云何三非受。集聖諦滅聖諦道聖諦。是名三非受。云何一二分或受或非受。苦聖諦。是名一二分或受或非受。云何苦聖諦受。苦聖諦若內。是名苦聖諦受。云何苦聖諦受。苦聖諦業法煩惱所生報我分攝。眼入耳入鼻入舌入身入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚

①〔若〕一 ②支二枝 ③苦二真 ④深一擇 ⑤智一知 ⑥焰炬一照 ⑦

非妍膚，嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。身甜。醉苦辛鹹淡涎癢。身冷熱輕重龜細滲滑堅軟。受心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教有漏身。集。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖生命。眼識乃至意識。是名苦聖諦受。云何苦聖諦非受。苦聖諦外。是名苦聖諦非受。云何苦聖諦非受。苦聖諦善若不善無記。非我分攝。若善心不善心非報非報法。心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。若外色眼識所知。聲香味若外觸身識所知。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進。有漏身除。除命餘受想乃至無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦非受。內外亦如是。

四聖諦。幾有報。幾無報。一有報。一無報。二分或有報或無報。云何一有報。集聖諦是名一有報。云何一無報。滅聖諦是名一無報。云何二二分或有報或無報。苦聖諦道聖諦。是名二分或有報或無報。云何苦聖諦有報。苦聖諦報法。是名苦聖諦有報。云何苦聖諦有報。除苦聖諦善報。除苦聖諦善不善。不善善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。受想乃至煩惱使結無想定。定意界意識界。是名苦聖諦有報。云何苦聖諦無報。苦聖諦若報。苦聖諦非報非報法。眼入耳鼻舌身入。香入味入觸入。身好色非好

色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。除無貪無悲癡煩惱使結。除受想乃至無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦無報。云何道聖諦有報。道聖諦報法。是名道聖諦有報。云何道聖諦有報。學人離結使。聖心入聖道。若堅信堅法及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱無學人。欲得阿羅漢未得聖法。欲得修道。若實人若趣若正見正覺正語正業正命正進正念正定。是名道聖諦有報。云何道聖諦無報。道聖諦無報。是名道聖諦無報。云何道聖諦無報。見學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心即得沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果無學人阿羅漢觀智具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。若實人若趣正見乃至正定。是名道聖諦無報。

四聖諦。幾非心。幾非心。二分或心或非心。云何三非心。集聖諦滅聖諦道聖諦。是名三非心。云何一二分或心或非心。苦聖諦。是名一二分或心或非心。云何苦聖諦心。眼識乃至意識。是名苦聖諦心。云何苦聖諦非心。十色入初四色受想乃至無想定。是名苦聖諦非心。四聖諦。幾心相應。幾非心相應。一心相應。一

非心相應。一二分或心相應或非心相應。三分之一或心相應或非心相應。或不說心相應非心相應。云何一心相應。集聖諦是名一心相應。云何一非心相應。滅聖諦是名一非心相應。云何一二分或心相應或非心相應。道聖諦是名一二分或心相應或非心相應。云何一三分或心相應或非心相應。或不說心相應非心相應。苦聖諦是名一三分或心相應或非心相應。或不說心相應非心相應。云何道聖諦心相應。道聖諦若心數正見正覺正心進正念正定。是名道聖諦心相應。云何道聖諦非心相應。道聖諦非心數正語正業正命正身進是名道聖諦非心相應。云何苦聖諦心相應。苦聖諦若心數受想乃至煩惱使。是名苦聖諦心相應。云何苦聖諦非心相應。苦聖諦若非心數十色入初四色生乃至無想定。是名苦聖諦非心相應。云何苦聖諦非心相應。云何苦聖諦非心數。除心餘苦聖諦緣受想乃至煩惱使。是名苦聖諦非心數。云何苦聖諦非心數。苦聖諦若非緣及心十色入初四色生乃至無想定。是名苦聖諦非心數。云何苦聖諦非心數。若道聖諦緣正見正

四聖諦。幾心數。幾非心數。一心數。一非心數。二分或心數或非心數。云何一心數。集聖諦是名一心數。云何一非心數。滅聖諦是名一非心數。云何一二分或心數或非心數。苦聖諦道聖諦。是名一二分或心數或非心數。云何苦聖諦心數。除心餘苦聖諦緣受想乃至煩惱使。是名苦聖諦心數。云何苦聖諦非心數。苦聖諦若非緣及心十色入初四色生乃至無想定。是名苦聖諦非心數。云何苦聖諦非心數。若道聖諦緣正見正

● 醉一諦 ● 集一進 ● (善)一 ● 無一若 ● 心一

覺正心進正念正定。是名道聖諦心數。云何道聖諦非心數。若道聖諦非緣正語正業正命正身進。是名道聖諦非心數

四聖諦。幾緣。幾非緣。一有緣。一非緣。二二分或有緣或無緣。云何一有緣。集聖諦是名一有緣。云何一無緣。滅聖諦是名一無緣。云何二二分或有緣或無緣。苦聖諦道聖諦。是名二二分或有緣或無緣。云何苦聖諦有緣。苦聖諦若心數及心。受想乃至煩惱使眼識乃至意識。是名苦聖諦緣。云何苦聖諦非緣。除心餘苦聖諦非心數十色入初四色生乃至無想定。是名苦聖諦非緣。云何道聖諦緣。道聖諦心數正見正覺。正進正念正定。是名道聖諦緣。云何道聖諦非緣。道聖諦若非心數正語正業正命正身進。是名道聖諦非緣

四聖諦。幾共心。幾不共心。一共心。一不共心。二二分或共心或不共心。云何一共心。集聖諦是名一共心。云何一不共心。滅聖諦是名一不共心。云何二二分或共心或不共心。苦聖諦道聖諦。是名二二分或共心或不共心。云何苦聖諦共心。苦聖諦若隨心轉共心生共住共滅有漏身口戒無教有漏身進有漏身除受想乃至煩惱使。是名苦聖諦共心。云何苦聖諦不共心。苦聖諦不隨心轉不共心生不共住不共滅十色入初四色生乃至無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦不共心。云何道聖諦共心。道聖諦隨心轉共心生共住共滅正見乃至正定。是名道聖諦共心。云何道聖諦不共心。道聖諦不隨心轉。不共心生。不共住

不共滅。正語正業正命正身進。是名道聖諦不共心。隨心轉不隨心轉亦如是

四聖諦幾業。幾非業。二非業。二二分或業或非業。云何二二分或業或非業。苦聖諦道聖諦。是名二二分或業或非業。云何苦聖諦業。善心不善心無記心。所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。是名苦聖諦業。云何苦聖諦非業。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身進。有漏身除。除思餘受想乃至無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦非業。云何道聖諦業。正語正業正命。是名道聖諦業。云何道聖諦非業。正見正覺正進正念正定。是名道聖諦非業

四聖諦。幾業相應。幾非業相應。一業相應。一非業相應。二二分或業相應或非業相應。一二分或業相應。或一業相應。集聖諦是名一業相應。云何一非業相應。滅聖諦是名一非業相應。云何二二分或業相應或非業相應。道聖諦是名二二分或業相應或非業相應。云何一三分或業相應或非業相應。或不說業相應非業相應。苦聖諦是名一三分或業相應或非業相應。或不說業相應非業相應。云何道聖諦業相應。道聖諦若思相應正見正覺

正進正念正定。是名道聖諦業相應。云何道聖諦非業相應。道聖諦若非思相應正語正業正命正身進。是名道聖諦非業相應。云何苦聖諦業相應。苦聖諦若思相應除思受想乃至煩惱使眼識乃至意識。是名苦聖諦業

相應。云何苦聖諦非業相應。苦聖諦若非思相應十色入初四色生乃至無想定。是名苦聖諦非業相應。云何苦聖諦不說業相應非業相應。是名苦聖諦不說業相應非業相應。四聖諦。幾共業。幾非共業。二共業。一不共業。二二分或共業或非共業。云何二共業。集聖諦道聖諦。是名二共業。云何一不共業。滅聖諦是名一不共業。云何一二分或共業或不共業。苦聖諦是名一二分或共業或不共業。云何苦聖諦共業。苦聖諦若隨業轉共業生共住共滅有漏身口戒無教有漏身進有漏身除受想定心思觸乃至煩惱使無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦共業。云何苦聖諦不共業。苦聖諦不隨業轉。不共業生。不共住不共滅。十色入身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進。不定心思生老死命結。是名苦聖諦不共業。隨業轉不隨業轉亦如是

四聖諦。幾因。幾非因。二因。一非因。一二分或因或非因。云何。一因。集聖諦道聖諦。是名二因。云何一非因。滅聖諦是名一非因。云何一二分或因或非因。苦聖諦是名一二分或因或非因。云何苦聖諦因。苦聖諦緣。苦聖諦非緣有報。苦聖諦非緣善報。四大善心不善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言

◎正十(心)◎ ◎三二二◎ ◎念一命◎ ◎一—二◎

語口教。地大水火風大。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進。有漏身除。受想乃至煩惱使。無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦。云何苦聖諦非因。苦聖諦非緣。無報不共業。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。除四大餘觸入所攝及有漏身進生老死命。是名苦聖諦非因。

四聖諦幾有因。幾無因。三有因。一無因。云何三有因。苦聖諦集聖諦道聖諦。是名三有因。云何一無因。滅聖諦是名一無因。有緒無緒。有緣無緣。有爲無爲。亦如是。

四聖諦幾知。幾非知。一切知如事知見。四聖諦幾識。幾非識。一切識意識如事識。四聖諦幾解。幾非解。一切解如事解。四聖諦幾了。幾非了。一切了如事了。

四聖諦幾斷智知。幾非斷智知。一斷智知。二非斷智知。一二分或斷智知或非斷智知。云何一斷智知。集聖諦是名一斷智知。云何二非斷智知。滅聖諦道聖諦。是名二非斷智知。

云何一二分或斷智知或非斷智知。苦聖諦是名一二分或斷智知或非斷智知。云何苦聖諦斷智知。苦聖諦不善不善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結意

界意識界。是名苦聖諦斷智知。云何苦聖諦非斷智知。苦聖諦善無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。軟聲非軟聲。善心若無記心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進。有漏身除疑煩惱使結。餘受想乃至無想定眼識乃至意識。是名苦聖諦非斷智知。斷非斷亦如是。

四聖諦幾修。幾非修。二修。一非修。一二分或修或非修。云何二修。滅聖諦道聖諦。是名二修。云何一非修。集聖諦是名一非修。云何一二分或修或非修。苦聖諦是名一二分或修或非修。云何苦聖諦修。苦聖諦善善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進。有漏身除。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。不善心無記心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。身口非戒無教。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使生老死命結眼識乃至意識。是名苦聖諦非修。

四聖諦幾證。幾非證。一切證。知如事見。

四聖諦幾善。幾不善幾無記。二善。一不善。一三分或善或不善或無記。云何二善。滅聖諦道聖諦。是名二善。云何一不善。集聖諦是名一不善。云何一三分或善或不善或無記。苦聖諦是名一三分或善或不善或無記。云何苦聖諦善。苦聖諦修善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進。有漏身除。乃至心捨無想定。意識界是名苦聖諦善。云何苦聖諦不善。苦聖諦斷受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進。若不善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。信欲念疑怖煩惱使結。意識界。是名苦聖諦不善。云何苦聖諦無記。苦聖諦無記。眼入耳入鼻入舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。衆妙聲非衆妙聲。軟聲非軟聲。無記心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身進。受想思觸思惟覺。觀見慧解脫悔不悔悅喜心進。信欲念。怖生老死命。眼識乃至意識。是名苦聖諦無記。

四聖諦幾學。幾無學。幾非學非無學。二非學非無學。二二分或學或無學。云何二非學非無學。苦聖諦集聖諦。是名二非學非無學。云何二分或學或無學。滅聖諦道聖諦。是名二分或學或無學。云何滅聖諦學。須陀洹果斯陀含果阿那含果。是名滅聖諦學。云何

疑二心

知如事二如事知

若二苦

疑二心 知如事二如事知 若二苦

滅聖諦無學。阿羅漢果。是名滅聖諦無學。云何道聖諦學。學人離結使聖心入聖道。若堅信若堅法。及餘趣人見行過患觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱見。學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果。若斯陀含果阿那含果。若實人若趣正見乃至正定。是名道聖諦學。云何道聖諦無學。學人欲得阿羅漢。未得聖法欲得修道。若實人若趣正見乃至正定。是名道聖諦報法。云何苦聖諦報。眼入耳入舌入身入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。眾妙聲非眾妙聲。軟聲非軟聲。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。身甜*酢苦辛鹹淡延癢。身冷熱輕重龜細澁滑堅軟。受心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。除無貪無恚。除受想乃至心捨怖生命無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦報。云何苦聖諦報法。苦聖諦有報。是名苦聖諦報法。云何苦聖諦報法。除苦聖諦善報。餘苦聖諦善不善。善心若不善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。受想乃至煩惱使結無想定。意識界。是名苦聖諦報法。云何苦聖諦非報非報法。苦聖諦無記非我分攝。非報非報法心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲香味。外觸身識所知。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖生老死。眼識乃至意識。是名苦聖諦非報非報法。

四聖諦。幾報。幾報法。幾非報非報法。一報法。一非報非報法。一二分或報或報法。一三分或報或報法或非報非報法。云何一報法。集聖諦是名一報法。云何一非報非報法。滅聖諦是名一非報非報法。云何一二分或報或報法。道聖諦是名一二分或報或報法。云何一三分或報或報法。或非報非報法。苦聖諦是名一三分或報或報法。或非報非報法。云何道聖諦報。道聖諦無報。是名道聖諦報。云何道聖諦報。見學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心即得沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果無學人觀智具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。若實人若趣正見乃至正定。是名道聖諦報。云何道聖諦報法。道聖諦善報。是名道聖諦報法。云何道聖諦報法。學人離結使聖心入聖道。若堅信堅法及餘趣人。見行過患觀

涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。無學人欲得阿羅漢。未得聖法欲得修道。若實人若趣正見乃至正定。是名道聖諦報法。云何苦聖諦報。眼入耳入舌入身入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。眾妙聲非眾妙聲。軟聲非軟聲。身好香非好香。軟香非軟香。適意香非適意香。身甜*酢苦辛鹹淡延癢。身冷熱輕重龜細澁滑堅軟。受心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。除無貪無恚。除受想乃至心捨怖生命無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦報。云何苦聖諦報法。苦聖諦有報。是名苦聖諦報法。云何苦聖諦報法。除苦聖諦善報。餘苦聖諦善不善。善心若不善心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。受想乃至煩惱使結無想定。意識界。是名苦聖諦報法。云何苦聖諦非報非報法。苦聖諦無記非我分攝。非報非報法心所起。去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲香味。外觸身識所知。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念怖生老死。眼識乃至意識。是名苦聖諦非報非報法。

聖諦。是名二非見斷非思惟斷。云何一二分或見斷或思惟斷。集聖諦是名一二分或見斷或思惟斷。云何一三分或見斷或思惟斷。或非見斷非思惟斷。苦聖諦是名一三分或見斷或思惟斷。或非見斷非思惟斷。云何集聖諦思惟斷。集聖諦見斷。云何集聖諦思惟斷。集聖諦思惟斷。集聖諦見斷。云何集聖諦思惟斷。集聖諦見斷。云何苦聖諦見斷。苦聖諦不善非思惟斷見斷。煩惱心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結意界意識界。是名苦聖諦見斷。云何苦聖諦思惟斷。苦聖諦不善非見斷思惟斷。煩惱心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。身口非戒無教。有漏身進。受想思觸思惟覺觀見慧解脫悔不悔悅喜心進信欲念疑怖煩惱使結意界意識界。是名苦聖諦思惟斷。云何苦聖諦非見斷非思惟斷。苦聖諦善無記。眼入耳鼻舌入身入香入味入觸入。身好色非好色。端嚴非端嚴。妍膚非妍膚。嚴淨非嚴淨。身好聲非好聲。眾妙聲非眾妙聲。軟聲非軟聲。若善心若無記心所起去來屈申迴轉身教集。聲音句言語口教。外色眼識所知。外聲耳識所知。有漏身口戒無教。有漏身進有漏身除。除疑煩惱使結餘受想乃至無想定。眼識乃至意識。是名苦聖諦非見斷非思惟斷。

諦。是名苦聖諦現在。集聖諦道聖諦亦如是。舍利弗阿毘曇論卷第四

舍利弗阿毘曇論卷第五

姚秦·罽賓三藏·曇摩耶舍
共曇摩崛多等譯

問分根品第五

問曰。幾根。答曰。二十二根。何等二十二根。眼根耳根鼻根舌根身根女根男根命根樂根苦根喜根憂根捨根意根根進根根念根根慧根。未知欲知根知根已知根。云何眼根。眼入名眼根。云何眼根。眼界名眼根。云何眼根。若眼我分攝四大所造淨色名眼根。云何眼根。若眼我分攝四大所造過去未來現在淨色名眼根。云何眼根。若眼我分攝已見色今見當見不定。若眼我分攝色光已來今來當來不定名眼根。云何眼根。若眼我分攝已對色今對當對不定。若眼我分攝色已對今對當對不定名眼根。若眼無礙。是眼是眼入。是眼根。是眼界。是田是物。是門是藏。是世是淨。是泉是海。是沃焦。是河。液。是瘡是繫。是目。是我分。是此岸。是內入眼見色。是名眼根。耳根鼻根舌根身根亦如是。云何女根。若女女性女形女相。是名女根。云何男根。若男男性男形男相。是名男根。云何命根。壽是名命根。云何命根。若衆生住。是名命根。云何

命根。諸衆生諸衆生中不終不退不喪不死時未過行在護持名命根。云何樂根。若身樂受眼觸樂受耳鼻舌身觸樂受樂界名樂根。云何苦根。若身苦受眼觸苦受耳鼻舌身觸苦受苦界名苦根。云何喜根。若心樂受意觸樂受喜界名喜根。云何憂根。若心苦受意觸苦受憂界。是名憂根。云何捨根。若身心不苦不樂受眼觸不苦不樂受耳鼻舌身意觸不苦不樂受捨界名捨根。云何意根。意入名意根。云何意根。識陰名意根。云何意根。若心意識六識身七識界名意根。云何意根。若識過去未來現在內外麁細卑勝遠近。是名意根。云何六識身。眼識身耳鼻舌身意識身。云何眼識身。緣眼緣色緣明緣思惟。以四緣識生已生今生當生不定。是名眼識身。云何耳鼻舌身意識身。緣意緣法緣思惟。以三緣識已生今生當生不定。名意識身。是名六識身。云何七識界。眼耳鼻舌身識界。意界意識界。云何眼識界。若識眼根生色境界已生今生當生不定。名眼識界。云何耳鼻舌身識界。若識身根。生觸境界已生今生當生不定。名身識界。云何意界。意知法念法若初心已生今生當生不定。是名意界。云何意識界。若識相似不離彼境界。及餘相似心識已生今生當生不定。名意識界。是名七識界。云何過去識。若識生已滅。名過去識。云何未來識。若識未生未出名未來識。云何現在識。若識生未滅。名現在識。云何內識。若識受名內識。云何外識。若識非受名外識。云何能

識。若識欲界繫名能識。云何細識。若識色界繫無色界繫若不繫名細識。云何卑識。若識不善若識不善法報若識非報非報法不適意名卑識。云何勝識。若識善若識善法報若識非報非報法適意名勝識。云何遠識。若識相遠極相遠不近不近邊名遠識。云何近識。若識相近極相近近邊名近識。云何信根。學人離結使。聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未解欲解。未得欲得。未證欲證。修道離煩惱見學人。若須陀洹。斯陀含。阿那含。觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。無學人欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道離煩惱觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣。若信入信究竟入信真信心淨。是名信根。云何進根。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣身心發出度堪忍不退勤力進不離不懈不緩不礙。情進進力進覺正進。是名進根。云何念根。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不失不奪不鈍不鈍根念念力念覺正念。是名念根。云何定根。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣。若心住正住。專住心一向。一心一樂心不亂依念獨一定力定覺正定。是名定根。云何慧根。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣。若法中擇重擇究竟擇擇法思惟覺了達自相他相共相思持辯進辯慧。智見解脫方便術焰

①[論]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[若]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[色]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[命]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[識]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[復]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[若]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[法]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[若]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[是]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[專]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①[心]—②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

光明照。炬慧眼慧力擇法正覺不薄。是名慧根。云何未知欲知根。堅信堅。法人。若法聖無漏非根得名根除。未知欲知根中。思想觸思惟覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨正語正業正命正身除。是名未知欲知根。云何知根。見學人若法聖無漏非根得名根除知根中想思觸思惟覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。是名知根。云何已知根。無學人阿羅漢果。若法聖無漏非根得名根除已知根中想思觸思惟覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。是名已知根。

二十二根。幾色。幾非色。七色。十一非色。四分或色或非色。云何七色。眼根耳根鼻根舌根身根女根男根七色。云何十一非色。命根樂根苦根喜根憂根捨根意根信根念根定根慧根。名十一非色。云何四分或色或非色。進根未知欲知根已知根。名四分或色或非色。云何進根色。身發出度。名進根色。云何進根非色。進根非色。心發出度。名進根非色。云何未知欲知根色。正語正業正命正身除。名未知欲知根。云何未知欲知根非色。想思觸思惟覺觀。解脫悅喜心除欲不放逸心捨。名未知欲知根非色。云何知根色。正語正業正命正身除。名知根色。云何知根非色。想思觸思惟覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定。名知根非色。云何已知根色。正語正業正命正身除。名已知根色。云何已知根非色。想思觸思惟覺觀

解脫悅喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定。名已知根非色。

二十二根。幾可見。幾不可見。一切不可見。

二十二根。幾有對。幾無對。七有對。十五無對。

云何七有對。眼根乃至男根。名七有對。云何十五無對。命根乃至已知根。名十五無對。

二十二根。幾聖。幾非聖。八聖。十一非聖。三分或聖或非聖。云何八聖。信根乃至已知根。名八聖。云何十一非聖。眼根乃至苦根及憂根。名十一非聖。云何三分或聖或非聖。

喜根捨根意根。名三分或聖或非聖。云何喜根非聖。喜根有漏。名喜根非聖。云何喜根非聖。喜根非學非無學意觸樂受。名喜根非聖。云何喜根聖。喜根無漏。名喜根聖。云何喜根聖。喜根信根相應意觸樂受。名喜根聖。云何喜根聖。喜根學若無學學人離結使聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離結使見學人。若須陀洹斯陀含阿那含。觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得修道觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣若意觸樂受。名喜根聖。云何捨根非聖。捨根有漏。名捨根非聖。云何捨根非聖。捨根非學非無學。眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身意觸。不苦不樂受。名捨根非聖。云何捨根聖。捨根無漏。名捨根聖。云何捨根聖。捨根信根相應意觸不苦

不樂受。名捨根聖。云何捨根聖。捨根學無學學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若意觸不苦不樂受。名捨根聖。云何意根非聖。意根有漏。名意根非聖。云何意根非聖。識受陰。名意根非聖。云何意根非聖。意根非學非無學眼識乃至意識。名意根非聖。云何意根聖。意根無漏。名意根聖。云何意根聖。意根信根相應意識界。名意根聖。云何意根聖。意根學無學學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若意界意識界。名意根聖。有愛無愛有求無求當取非當取。無取有勝無勝亦如是。

二十二根。幾受。幾非受。八受。八非受。六二分或受或非受。云何八受。眼根乃至命根。名八受。云何八非受。信根乃至已知根。名八非受。云何六二分或受或非受。樂根苦根喜根憂根捨根意根。名六二分或受或非受。云何樂根受。樂根內名樂根受。云何樂根受。樂根樂法。煩惱所生報我分攝眼觸樂受耳鼻舌身觸樂受。名樂根受。云何樂根非受。樂根外眼觸樂受耳鼻舌身觸樂受。名樂根非受。云何苦根受。苦根內名苦根受。云何苦根受。苦根業法煩惱所生報我分攝眼觸苦受耳鼻舌身觸苦受。名苦根受。云何苦根非受。苦根外眼觸苦受耳鼻舌身觸苦受。名苦根非受。云何喜根受。喜根內名喜根受。云何喜根受。喜根樂法煩惱所生報我分攝意觸樂受。名喜根受。云何喜根非受。喜根外名喜根非受。云何喜根非受。喜根善不善若無記非我分

①根一類 ②法二信 ③思想二想思 ④是 ⑤學二覺 ⑥進根非色 ⑦除二餘 ⑧根色二根 ⑨色根 ⑩放 ⑪根 ⑫悅 ⑬二二三 ⑭聖 ⑮入二心 ⑯若智地 ⑰聖 ⑱受二意 ⑲信根 ⑳無十有 ㉑亦二之 ㉒八 ㉓業二樂 ㉔煩惱 ㉕耳鼻...受 十七字 ⑳耳鼻...受七字 ㉑喜根...受十二字 ㉒受二愛 ㉓煩惱

攝意觸樂受。名喜根非受。云何憂根受。憂根內名憂根受。云何憂根*受。憂根業法煩惱所生報我分攝意觸苦受。名憂根受。云何憂根非受。憂根外名憂根非受。云何憂根非受。憂根善不善若無記非我分攝意觸苦受。名憂根非受。云何捨根受。捨根內名捨根受。云何捨根受。業法*煩惱所生報我分攝眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身意觸不苦不樂受。名捨根受。云何捨根非受。捨根外名捨根非受。云何捨根非受。捨根若無記善不善非我分攝眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身意觸不苦不樂受。名捨根非受。云何意根受。意根內名意根受。云何意根受。意根業法煩惱所生報我分攝眼識乃至意識。名意根受。云何意根非受。意根若外名意根非受。云何意根非受。意根善不善無記非我分攝眼識乃至意識。名意根非受。內外亦如是。

二十二根。幾有報。幾無報。一有報。十無報。十一二分或有報或無報。云何一有報。未知欲知根。名一有報。云何十無報。眼根乃至苦根。名十無報。云何十一二分或有報或無報。除未知欲知根。餘喜根乃至已知根。名十一二分或有報或無報。云何喜根有報。喜根報法。名喜根有報。云何喜根有報。喜根除善報。除喜根善不善意觸樂受。名喜根有報。云何喜根無報。喜根無報喜根若報喜根非報非報法意觸樂受。名喜根無報。云何憂根有報。憂根報法。名憂根有報。云何憂根有報。憂根善不善意觸苦受。名憂根有報。云何憂根無報。憂根

若報憂根非報非報法意觸苦受。名憂根無報。云何捨根有報。捨根報法。名捨根有報。云何捨根有報。捨根除善報。除捨根善不善意觸不苦不樂受。名捨根有報。云何捨根無報。捨根若報捨根非報非報法眼觸非苦非樂受。耳鼻舌身意觸不苦不樂受。名捨根無報。云何意根有報。意根報法。名意根有報。云何意根有報。除意根善報。除意根善不善意界意識界。是名意根有報。云何意根無報。意根報意根非報非報法眼識乃至意識。名意根無報。云何信根有報。信根報法。名信根有報。云何信根有報。學人離結使聖心入聖道堅信堅法。及餘趣人見行過患。觀涅槃寂滅。觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修離離煩惱無學人。欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道。若實人若趣信入信究竟入信真信心淨。名信根有報。云何信根無報。信根報名信根無報。云何信根無報。見學人須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心即得沙門果。須陀洹果斯陀含果阿那含果。無學人欲得阿羅漢觀智具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。若實人若趣信入信究竟入信真信心淨。名信根無報。進根念根定根慧根亦如是。云何知根有報。知根報法。名知根有報。云何知根有報。見學人見行過患。觀涅槃寂滅。觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。若實人若趣若思想觸思惟覺觀解脫喜心除欲不放逸心捨滅盡定正語正業正命正身除。名知根

有報。云何知根無報。知根報名知根無報。云何知根無報。見學人須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果須陀洹果斯陀含果阿那含果。若實人若趣若思想觸思惟覺觀解脫喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名知根無報。云何已知根有報。已知根報法。名已知根有報。云何已知根有報。無學人欲得阿羅漢果觀智具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。若實人若趣若思想觸思惟覺觀解脫喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名已知根無報。二十二根。幾非心。一心。二十一非心。云何一心。意根名一心。云何二十一非心。除意根餘一切非心。

二十二根。幾心相應。幾非心相應。九心相應。八非心相應。一不說心相應非心相應。四二分或心相應或非心相應。云何九心相應。除意根進根餘樂根乃至慧根。是名九心相應。云何八非心相應。眼根乃至命根。名八非心相應。云何一不說心相應非心相應。意根是名一不說心相應非心相應。云何四二分或心相應或非心相應。進根未知欲知根知根已知根。名四二分或心相應或非心相應。云

有報。云何知根無報。知根報名知根無報。云何知根無報。見學人須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果須陀洹果斯陀含果阿那含果。若實人若趣若思想觸思惟覺觀解脫喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名知根無報。云何已知根有報。已知根報法。名已知根有報。云何已知根有報。無學人欲得阿羅漢果觀智具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。若實人若趣若思想觸思惟覺觀解脫喜心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名已知根無報。二十二根。幾非心。一心。二十一非心。云何一心。意根名一心。云何二十一非心。除意根餘一切非心。

①[識]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[已知...報]十七字一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[法]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[解]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[有]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[除]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[心]十(進心)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩(進)①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩

何進根心相應。進根心發出度。名進根

心相應。云何進根非心相應。進根非心數身

發出度。名進根非心相應。云何未知欲知。根

心相應。未知欲知根。若心數想。思觸思惟覺

觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨名未知欲知

根心相應。云何未知欲知根非心相應。未知

欲知根非心數正語正業正命正身除。名未

知欲知根非心相應。云何知根心相應。知根

若心數想思觸思惟覺觀解脫悅喜心除欲不

放逸心捨。名知根心相應。云何知根非心相

應。知根非心數得果滅盡定正語正業正命

正身除。名知根非心相應。已知根亦如是

二十二根。幾心數。幾非心數。九心數。九非

心數。四二分或心數或非心數。云何九心數。

除意根進根。除樂根乃至慧根。名九心數。云

何九非心數。眼根乃至命根意根。名九非心

數。云何四二分或心數或非心數。進根未知

欲知根知根已知根。名四二分或心數或非

心數。云何進根心數。進根若緣心發出度。是

名進根心數。云何進根非心數。進根非緣身

發出度。名進根非心數。云何未知欲知根心

數。未知欲知根緣想思觸思惟覺觀解。脫悅

喜心。除欲不放逸心捨。名未知欲知根心數。

云何未知欲知根非心數。未知欲知根非緣

正語正業正命正身除。名未知欲知根非心

亦如是

二十二根。幾緣。幾非緣。十緣。八非緣。四二

分或緣或非緣。云何十緣除進根餘樂根乃

至慧根及意根名十緣。云何八非緣。眼根乃

至命根名八非緣。云何四二分或緣或非緣。

進根未知欲知根。知根已知根。名四二分或

緣或非緣。云何進根緣。進根心。數發出度。

名進根緣。云何進根非緣。進根非心數身發

出度。名進根非緣。云何未知欲知根緣。未知

欲知根若心數想思觸思惟覺觀解脫悅喜心

除欲不放逸心捨。名未知欲知根緣。云何未

知欲知根非緣。未知欲知根非心數正語正

業正命正身除。名未知欲知根非緣。云何知

根緣。知根心數想思觸思惟覺觀解脫悅喜

心除欲不放逸心捨。名知根緣。云何知根非

緣。知根非心數得果滅盡定正語正業正命

正身除。是名知根非緣。已知根亦如是

二十二根。幾共心。幾不共心。十共心。九不共

心。三二分或共心或不共心。云何十共心。除

意根進根餘樂根乃至未知欲知根。名十共

心。云何九不共心。眼根乃至命根及意根。名

九不共心。云何三二分或共心或不共心。進

根知根已知根。名三二分或共心或不共心。

云何進根共心。進根若隨心轉共心生住

共滅心發出度。名進根共心。云何進根不

正命正身除。是名知根共心。云何知根不共

心。知根若不隨心轉不共心生不共住不共

滅得果滅盡定正語正業正命正身除。名知

根不共心已知根亦如是。隨心轉不隨心轉

亦如是

二十二根。幾業。幾非業。十九非業三二分或

業或非業。云何十九非業。眼根乃至慧根。名

十九非業。云何三二分或業或非業。未知欲

知根知根已知根。名三二分或業或非業。云

何未知欲知根業。思正語正業正命。名未知

欲知根業。云何未知欲知根非業。想觸思惟

覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨正身除。

名未知欲知根非業。云何知根業。思正語正

業正命名知根業。云何知根非業。想觸思惟

覺觀解脫悅喜心除欲不放逸心捨得果滅

盡定正身除。名知根非業已知根亦如是

二十二根。幾業相應。幾非業相應。十業相應。

八非業相應。一二分或業相應或非業相應。

三分或業相應或非業相應。或不說業相

應非業相應。云何十業相應。除進根餘樂根

乃至慧根及意根。名十業相應。云何八非業

相應。眼根乃至命根。名八非業相應。云何一

二分或業相應或非業相應。進根名一二分

或業相應或非業相應。云何三三分或業相

應或非業相應或不說業相應非業相應未知

○(根)一○ ○(思)一○ ○(心)一○ ○(出)十發出○ 發出二出發○ ○(脫)一○ ○心數一○ ○心○ ○(知根)一○ ○數

十(心)○ ○(欲知)一○ ○(心)一○ ○(捨)一○ ○想二思○ ○命十(正身除)○ ○悅喜二喜悅○ ○(或非

業相應)一○

人若趣若信入信究竟入信真信入真信心淨。名信根報。云何信根報法。信根有報名信根報法。云何信根報法。學人離結使聖心入聖道堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱無學人。欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道。若實人若趣若信入信究竟入信真信入真信心淨。是名信根報法。進根念根定根慧根亦如是云何知根報。知根無報。名知根報。云何知根報。見學人須陀洹斯陀含阿那含。觀智具足若智地若觀解脫心。即得沙門果須陀洹果斯陀含果阿那含果。若實人若趣若思想思觸思惟覺觀解脫。喜悅心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。是名知根報。云何知根報法。知根有報名知根報法。云何知根報法。學人見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀。集苦滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。若實人若趣若思想思惟覺觀解脫。喜悅心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名知根報。云何已知根報。已知根無報。名已知根報。云何已知根報。無學人欲得阿羅漢果。觀智具足若智地若觀解脫心。即時得阿羅漢果。若實人若趣若思想思惟覺觀解脫。喜悅心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名已知根報。云何已知根報。無學人欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道。若實人若趣若思想

思觸思惟覺觀解脫喜悅心除欲不放逸心捨得果滅盡定正語正業正命正身除。名已知根報。云何樂根報。樂根受名樂根報。云何樂根報。樂根業法煩惱所生報我分攝眼觸樂受。耳鼻舌身觸樂受。名樂根報。云何樂根報。非報法。樂根無記非我分攝眼觸樂受。耳鼻舌身觸樂受。名樂根非報法。云何苦根報。苦根受名苦根報。云何苦根報。苦根業法煩惱所生報我分攝眼觸苦受。耳鼻舌身觸苦受。是名苦根報。云何苦根報。非報法。苦根無記非我分攝眼觸苦受。耳鼻舌身觸苦受。是名苦根非報法。云何喜根報。喜根受名喜根報。喜根業法煩惱所生報我分攝眼觸喜受。耳鼻舌身觸喜受。是名喜根報。云何喜根報。非報法。喜根無記非我分攝眼觸喜受。耳鼻舌身觸喜受。是名喜根非報法。云何憂根報。憂根受名憂根報。憂根業法煩惱所生報我分攝眼觸憂受。耳鼻舌身觸憂受。是名憂根報。云何憂根報。非報法。憂根無記非我分攝眼觸憂受。耳鼻舌身觸憂受。是名憂根非報法。云何捨根報。捨根受名捨根報。捨根業法煩惱所生報我分攝眼觸捨受。耳鼻舌身觸捨受。是名捨根報。云何捨根報。非報法。捨根無記非我分攝眼觸捨受。耳鼻舌身觸捨受。是名捨根非報法。云何捨根報。捨根有報。名捨根報。云何捨根報。除捨根善報。除捨根不善意觸。不苦不樂受。名捨根報。云何捨根非報。不苦不樂受。名捨根非報。云何捨根非報。捨根無記非我分攝眼觸不苦不樂受。

耳鼻舌身意觸不苦不樂受。名捨根非報。云何意根報。意根受意根善報眼識乃至意識。名意根報。云何意根報。意根有報。名意根報。云何意根報。除意根善報。除意根不善意界意識界。名意根報。云何意根非報。意根若無記非我分攝眼識乃至意識。名意根非報。二十二根。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。十八非見斷非思惟斷。四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。云何十八非見斷非思惟斷。眼根乃至苦根。信根乃至已知根。名十八非見斷非思惟斷。云何四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。喜根憂根捨根意根。名四三分或見斷或思惟斷或非見斷非思惟斷。云何喜根見斷喜根不善非思惟斷見斷煩惱相應意觸樂受。名喜根見斷。云何喜根思惟斷。喜根不善非見斷思惟斷煩惱相應意觸樂受。名喜根思惟斷。云何喜根非見斷非思惟斷。喜根善無記意觸樂受。名喜根非見斷非思惟斷。云何憂根見斷。憂根不善非思惟斷見斷煩惱相應意觸苦受。名憂根見斷。云何憂根思惟斷。憂根不善非見斷思惟斷煩惱相應意觸苦受。名憂根思惟斷。云何憂根非見斷非思惟斷。憂根善無記意觸苦受。名憂根非見斷非思惟斷。云何捨根見斷。捨根不善非思惟斷見斷煩惱相應意觸不苦不樂受。名捨根見斷。云何捨根思惟斷。捨根不善非見斷思惟斷煩惱相應意觸不苦不樂受。名捨根思惟斷。

①竟十(信) ②喜悅一悅喜 ③悅心除二心悅 ④集苦二苦集 ⑤果二思 ⑥修道(脫)十七字一 ⑦樂一 ⑧善二喜 ⑨(報)一 ⑩(法)一 ⑪(彼)十憂 ⑫(報)一 ⑬(捨)一 ⑭(非報)一 ⑮(善報餘意根)一 ⑯(根)一

云何捨根非見斷非思惟斷。捨根善無記眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身意觸不苦不樂受。名捨根非見斷非思惟斷。云何意根見斷。意根不善非思惟斷見斷煩惱相應意界意識界。是名意根見斷。云何意根思惟斷。意根相應不善非見斷思惟斷煩惱相應意界意識界。名意根思惟斷。云何意根非見斷非思惟斷。意根善無記眼識乃至意識。名意根非見斷非思惟斷。

二十二根。幾見斷因。幾思惟斷因。幾非見斷因。非思惟斷因。九非見斷因。非思惟斷因。十三三分或見斷因。或思惟斷因。或非見斷因。非思惟斷因。云何九非見斷因。非思惟斷因。樂根信根乃至已知根。名九非見斷因。非思惟斷因。云何十三三分或見斷因。或思惟斷因。或非見斷非思惟斷因。除樂根。餘眼根乃至意根。名十三三分或見斷因。或思惟斷因。或非見斷非思惟斷因。云何眼根見斷因。眼根見斷法報地獄畜生餓鬼眼根。名眼根見斷因。云何眼根思惟斷因。眼根思惟斷法報地獄畜生餓鬼眼根。名眼根思惟斷因。云何眼根非見斷非思惟斷因。眼根善法報天上人中眼根。名眼根非見斷非思惟斷因。耳鼻舌身根女根男根亦如是。云何苦根見斷因。苦根見斷法報眼觸苦受。耳鼻舌身觸苦受。名苦根見斷因。云何苦根思惟斷因。苦根若思惟斷法報眼觸苦受。耳鼻舌身觸苦受。名苦根思惟斷因。云何苦根非見斷非思惟斷因。苦根善法報苦根非報法眼觸苦受。耳鼻

舌身觸苦受。名苦根非見斷非思惟斷因。云何喜根見斷因。喜根若見斷意觸樂受。名喜根見斷因。云何喜根思惟斷因。喜根思惟斷意觸樂受。名喜根思惟斷因。云何喜根非見斷非思惟斷因。喜根善法報喜根若非報非報法意觸樂受。名喜根非見斷非思惟斷因。云何憂根見斷因。憂根若見斷法報意觸苦受。名憂根見斷因。云何憂根思惟斷因。憂根思惟斷法報意觸苦受。名憂根思惟斷因。云何憂根非見斷非思惟斷因。憂根善法報憂根若非報非報法意觸苦受。名憂根非見斷非思惟斷因。云何捨根見斷因。捨根若見斷法報意觸不苦不樂受。名捨根見斷因。云何捨根思惟斷因。捨根若見斷法報意觸不苦不樂受。名捨根思惟斷因。云何捨根非見斷非思惟斷因。捨根善法報捨根若非報非報法意觸不苦不樂受。名捨根非見斷非思惟斷因。云何意根見斷因。意根若見斷法報眼識乃至意識。名意根見斷因。云何意根思惟斷因。意根若見斷法報眼識乃至意識。名意根思惟斷因。云何意根非見斷非思惟斷因。意根善法報意根若非報非報法眼識乃至意識。名意根非見斷非思惟斷因。云何欲界繫。八不繫。四二分或欲界繫。或色界繫。一三分或欲界繫。或色界繫。或無

色繫。復一三分或欲界繫。或色界繫。或不繫。二四分或欲界繫。或色界繫。或無色界繫。或不繫。云何六欲界繫。鼻根舌根女根。男根若根憂根。名六欲界繫。云何八不繫。信根乃至已知根。名八不繫。云何四二分或欲界繫。或色界繫。眼根耳根身根樂根。名四二分或欲界繫。或色界繫。云何一三分或欲界繫。或色界繫。或無色界繫。命根名一三分或欲界繫。或色界繫。或無色界繫。云何復一三分或欲界繫。或色界繫。或不繫。喜根名復一三分或欲界繫。或色界繫。或不繫。云何二四分或欲界繫。或色界繫。或不繫。捨根意根。名二四分或欲界繫。或色界繫。或無色界繫。或無色界繫。或無色界繫。云何眼根欲界繫。眼根欲漏有漏眼根。名眼根欲界繫。云何眼根色界繫。眼根色漏有漏眼根。名眼根色界繫。耳根身根亦如是。云何樂根欲界繫。樂根欲漏有。漏。眼觸樂受。耳鼻舌身觸樂受。名樂根欲界繫。云何樂根色界繫。樂根色漏有漏眼觸樂受。耳鼻舌身觸樂受。名樂根色界繫。云何命根欲界繫。命根欲漏有漏欲行壽。名命根欲界繫。云何命根色界繫。命根色漏有漏色行壽。名命根色界繫。云何命根無色界繫。命根無色漏有漏無色行壽。名命根無色界繫。云何喜根欲界繫。喜根欲漏有漏意觸樂受。名喜根欲界繫。云何喜根色界繫。喜根色漏有漏意觸樂受。名喜根色界繫。云何喜根不繫。喜根聖無漏意觸樂受。名喜根不繫。云何捨根欲界繫。捨根欲漏有漏眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身

①(根)一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

觸不苦不樂受。名捨根欲界繫。云何捨根色界繫。捨根若色漏有漏眼觸不苦不樂受。耳身觸意觸不苦不樂受。名捨根色界繫。云何捨根無色界繫。捨根無色漏有漏意觸不苦不樂受。名捨根無色界繫。云何捨根不繫。捨根聖無漏意。界意識界意觸不苦不樂受。名捨根不繫。云何意根欲界繫。意根欲漏有漏眼識乃至意識。名意根欲界繫。云何意根無色界繫。意根色漏有漏眼識耳識身識意識。是名意根無色界繫。云何意根不繫。意根聖無漏意。界意識界。是名意根不繫。是名意根不繫。

舍利弗阿毘曇論卷第五

舍利弗阿毘曇論卷第六

姚秦*罽賓三藏*曇摩耶舍
共*曇摩崛多*等 譯

問分七覺品第六

問曰。幾覺答曰。七。何等七。念覺擇法覺喜覺。進覺除覺定覺捨覺。云何念覺。學人離結

使聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。見學人。若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得修道觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不。失不奪不鈍不鈍根念念根念力正念。是名念覺。云何擇法覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若法中擇重擇究竟擇擇法思惟覺了達自相他相共相。思持辯觀進辯慧。智見解。脫方便術焰光明照耀慧眼慧根慧力無癡正見。是名擇法覺。云何進覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若身心發出度堪忍不退勤力進不離不懈不緩不惰進進根進力正進。是名進覺。云何喜覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣歡喜踊躍重踊躍究竟踊躍治淨滿足心歡喜。是名喜覺。云何除覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若身樂心樂身柔心柔身輕心輕身軟心軟身除心除。是名除覺。云何定覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣心住正住專住心一向心一樂心不亂依信心獨定定根定力正定。是名定覺。云何捨覺。學人離結使。乃至即得阿羅漢果。若實人若趣若捨不著心等心直不諂心不貴非受。是名捨覺。七覺。幾非色。五非色。二二分或色或非

色。云何五非色。念覺擇法覺喜覺定覺捨覺。是名五非色。云何二二分或色或非色。進覺除覺。名二二分或色或非色。云何進覺。身發出度。名進覺。云何進覺非色。心發出度。名進覺非色。云何除覺。身樂身柔身輕身軟身除。是名除覺。云何除覺非色。心樂心柔心輕心軟心除。是名除覺非色。七覺。幾可見。幾不可見。一切不可見。七覺。幾有對。幾無對。一切無對。七覺。幾聖。幾非聖。一切聖。七覺。幾有漏。幾無漏。一切無漏。一切無受。一切無求。一切非當。趣。一切無取。一切無勝。七覺。幾受。幾非受。一切非受。一切外。七覺。幾有報。幾無報。一切二分或有報或無報。云何念覺有報。念覺報法。名念覺有報。云何念覺有報。學人離結使。聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。無學人欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不。失不奪不鈍不鈍根念念根念力正念。名念覺有報。云何念覺無報。念覺報名念覺無報。云何念覺無報。見學人須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果。無學人欲得阿羅漢果。觀智具足。若智地。若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不。失

【觸】一○【捨根...界】二十二字一○【界意識界意】一○【論卷二問分根品】一○【五二九】一○【精】十進○
【失二共】一○【智二知】一○【脫二射】一○【懈二解】一○【不十(風)】一○【趣二取】一○

不奪不鈍不鈍根念念根念力正念。是名念覺無報擇法進喜除定捨覺亦如是

七覺。幾心。幾非心。一切非心

七覺。幾心相應。幾非心相應。五心相應。二二分或心相應或非心相應。云何五心相應。念

覺擇法覺喜覺定覺捨覺。名五心相應。云何

二二分或心相應或非心相應。進覺除覺。名

二二分或心相應或非心相應。云何進覺心

相應。進覺若心數。發出度。名進覺心相應。

云何進覺非心相應。進覺若非心數身發出

度。是名進覺非心相應。云何除覺心相應。

除覺若心數心樂心柔心輕心軟心除。是名

除覺心相應。云何除覺非心相應。除覺若非

心數身樂身柔身輕身軟身除。是名除覺非

心相應。七覺。幾心數。幾非心數。五心數。二

二分或心數或非心數。云何五心數。念覺擇

法覺喜覺定覺捨覺。是名五心數。云何二二

分或心數或非心數。進覺除覺。是名二二分

或心數或非心數。云何進覺心數。進覺若緣

心發出度。名進覺心數。云何進覺非心數。進

覺若非緣身發出度。名進覺非心數。云何除

覺心數。除覺若緣心樂心柔心輕心軟心除。

是名除覺心數。云何除覺非心數。除覺若非

緣身樂身柔身輕身軟身除。名除覺非心數。

七覺。幾緣。幾非緣。五緣。二二分或緣或非

緣。云何五緣念覺擇法覺喜覺定覺捨覺。是

名五緣。云何二二分或緣或非緣。進覺除覺。

名二二分或緣或非緣。云何進覺緣。進覺若

心數。發出度。名進覺緣。云何進覺非緣。進

覺若非心數身發出度。名進覺非緣。云何除

覺緣。除覺若心數心樂心柔心輕心軟心除。

名除覺緣。云何除覺非緣。除覺若非心數身

樂身柔身輕身軟身除。名除覺非緣

七覺。幾共心。幾不共心。五共心。二二分或共

心或不共心。云何五共心。念覺擇法覺喜覺

定覺捨覺。名五共心。云何二二分或共心或

不共心。進覺除覺。名二二分或共心或不共

心。云何進覺共心。進覺隨心轉共心生共住

共滅心發出度。名進覺共心。云何進覺不共

心。進覺若不隨心轉不共心生不共住不共

滅身發出度。名進覺不共心。云何除覺共心。

除覺若隨心轉共心生共住共滅身樂心樂身

柔心柔身輕心輕身軟心軟身除。名除覺

共心。云何除覺不共心。除覺若不隨心轉不

共心生不共住不共滅身樂身柔身輕身軟身

除。名除覺不共心。隨心轉不隨心轉亦如是。

七覺。幾業。幾非業。一切非業

七覺。幾業相應。幾非業相應。五業相應。二二

分或業相應或非業相應。云何五業相應。念

覺擇法覺喜覺定覺捨覺。名五業相應。云何

二二分或業相應或非業相應。進覺除覺。名

二二分或業相應或非業相應。云何進覺業

相應。進覺思相應心發出度。名進覺業相應。

云何進覺非業相應。進覺若非思相應身發

出度。名進覺非業相應。云何除覺業相應。除

覺若思相應心樂心柔心輕心軟心除。是名

業相應七覺。幾共業。幾非共業。一切共業。一

切隨業轉七覺。幾因。幾非因。一切因

七覺。幾有因。幾無因。一切有因。一切有緒

一切有緣。一切有爲

七覺。幾知。幾非知。一切知如事知見

七覺。幾識。幾非識。一切意識如事識

七覺。幾解。幾非解。一切解如事知見

七覺。幾了。幾非了。一切了如事知見

七覺。幾斷智知。幾非斷智知。一切非斷智知

七覺。幾修。幾非修。一切修

七覺。幾證。幾非證。一切證如事知見

七覺。幾善。幾非善。幾無記。一切善

七覺。幾學。幾無學。幾非學非無學。一切二分

或學或無學。云何念覺學。學人離結使。聖

心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過

患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲

得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱見學

人。若須陀洹斯陀含阿那含。若觀智具足。若

智地若觀解脫心。即證沙門果。若須陀洹果

斯陀含果阿那含果。若實人若趣若念憶念

微念順念住不忘相續念不失不奪不鈍不鈍

根念念根念力正念。名念覺學。云何念覺無

學。無學人欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修

道觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅

漢果。若實人若趣若念憶念微念順念住不

忘相續念不失不奪不鈍不鈍根念念根念

力正念。名念覺無學。擇法進喜除定捨覺亦

①(心)+發②②(是)一③③(心)+發④④(除名)一⑤⑤(學)一⑥⑥

或報或報法。云何念覺報。念覺無報。名念覺報。云何念覺報。見學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心即得沙門果。若須陀洹果斯陀含果阿那含果無學人。欲得阿羅漢果。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不失不奪不鈍不根念念根念力正念。名念覺報。云何念覺報法。念覺有報。名念覺報法。云何念覺報法。學人離結使。聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱無學人。欲得阿羅漢果。未得聖法。欲得修道。若實人若趣若念憶念微念順念住不忘相續念不失不奪不鈍不根念念根念力正念。名念覺報法。擇法進喜除定捨覺亦如是。

七覺。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷非思惟斷。

七覺。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷非思惟斷。

七覺。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾不繫。一切不繫。

七覺。幾過去。幾未來。幾現在。幾非過去非未來非現在。一切三分或過去或未來或現在。云何念覺過去。念覺若生已滅名過去。云何念覺未來。念覺若生未出。名念覺未來。云何念覺現在。念覺生未滅。名念覺現在。擇法覺乃至捨覺亦如是。

●舍利弗阿毘曇論問分不善根品第七

問曰。幾不善根。答曰。三。何等三。貪不善根。恚不善根。癡不善根。云何貪不善根。桶望名貪不善根。云何貪不善根。五欲中。喜愛適意愛色欲染相續。眼識色。喜愛適意愛色欲染相續。耳鼻舌身識觸。喜愛適意愛色欲染相續。他欲他色。他財他婦他童女他所須。希望得。若貪貪著心相應。貪希望愛心欲染重欲染究竟欲染及餘可貪法。若貪重貪究竟貪希望愛心欲染重欲染究竟欲染。是名貪不善根。云何恚不善根。忿怒名恚不善根。云何恚不善根。若少衆生。若多衆生。傷害繫縛。作種種。困苦。若瞋恚重瞋恚。究竟瞋恚。相應瞋恚。忿怒橫瞋。憎惡惱心。相憎無慈。無憐愍。無利益衆生。及餘所瞋恚法。若恚重恚究竟恚。相應瞋。忿怒橫瞋。憎惡惱心。瞋恚相憎無慈。無憐愍。無利益法。名瞋恚不善根。云何癡不善根。無明是名癡不善根。云何癡不善根。不知苦集滅道。不知過去。不知未來。不知過去未來。不知內。不知外。不知內。外。六觸入集滅味過患。不知如實出。不知如爾。不知業報。不知緣善不善無記黑白有緣無緣有光無光不作親不親。彼法中若癡奪心應奪心。覆蓋蓋暗冥。荒穢纏心癡濁無明無明流。無明淵。無明使。無知無見。無解無脫。無方便。及餘法中癡若癡奪心應奪心。覆蓋蓋闇冥。乃至無知無見無解無脫。無方便。名癡不善根。三不善根。幾色。幾非色。一切非色。三不善根。幾可見。幾不可見。一切不可見。三不善根。幾有對。幾無對。一切無對。三不善

根。幾聖。幾非聖。一切非聖。三不善根。幾有漏。幾無漏。一切有漏。一切有愛。一切有求。一切當求。一切有取。一切有勝。三不善根。幾受。幾不受。一切不受。一切外。三不善根。幾有報。幾無報。一切有報。三不善根。幾心。幾非心。一切非心。三不善根。幾心相應。幾非心相應。一切心相應。三不善根。幾心數。幾非心數。一切心數。三不善根。幾緣。幾非緣。一切緣。三不善根。幾共心。幾不共心。一切共心。一切隨心轉。三不善根。幾業。幾非業。一切非業。三不善根。幾業相應。幾非業相應。一切業相應。三不善根。幾共業。幾不共業。一切共業。一切隨業轉。三不善根。幾有因。幾無因。一切有因。一切有緒。一切有緣。一切有爲。三不善根。幾知。幾非知。一切知知見如事。一切誠意識如事。一切解一切了。三不善根。幾斷智知。幾非斷智知。一切斷智知。一切斷。三不善根。幾修。幾非修。一切非修。三不善根。幾證。幾非證。一切證知見如事。三不善根。幾善。幾不善。幾無記。一切不善。三不善根。幾學。幾無學。幾非學非無學。一切非學非無學。三不善根。幾報。幾報法。幾非報非報法。一切報法。三不善根。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切二分或見斷或思惟斷。云何貪不善根見斷。貪不善根見斷。貪不善根。是名貪不善根見斷。云何貪不善根思惟斷。貪不善根思惟斷。因貪不善根。名貪不善根思惟斷。恚癡亦如是。三不善根。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。二欲界繫。一三分或

●〔舍利弗阿毘曇論〕一〇〇● ●喜愛二愛喜● ●〔因〕一〇，因二因● ●外十〔不知〕●

心數幾非心數。一切心數。三善根。幾緣。幾非緣。一切緣。三善根。幾共心。幾不共心。一切共心。一切隨心轉。三善根。幾業。幾非業。一切非業。三善根。幾業相應。幾非業相應。一切業相應。三善根。幾共業。幾非共業。一切共業。一切隨業轉。三善根。幾因。幾非因。一切因。三善根。幾有因。幾無因。一切有因。一切有緒。一切有緣。一切有為。三善根。幾知。幾非知。一切知如事知見。三善根。幾識。幾非識。一切識意識如事識。一切解。一切了。三善根。幾斷智知。幾非斷智知。一切非斷智知。一切非斷。三善根。幾修。幾非修。一切修。三善根。幾證。幾非證。一切證。知見如事。三善根。幾善。幾非善。幾無記。一切善。三善根。幾學。幾無學。幾非學。二非學非無學。一三分或學或無學或非學非無學。云何二非學非無學。無貪無恚。名二非學非無學。云何一三分或學或無學。或非學非無學。無癡善根。名一三分或學或無學或非學非無學。云何無癡善根學。無癡善根聖非無學。名無癡善根學。云何無癡善根學。學信根相應無癡善根。名無癡善根學。云何無癡善根學。學人離結使聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。見學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果。須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。若實人若趣無癡善根。名無癡善根學。云何無癡善根無學。無癡善根若聖非

學。名無癡善根無學。云何無癡善根無學。無學信根相應無癡善根。名無癡善根無學。云何無癡善根無學。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得聖法。修道觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣無癡。名無癡善根無學。云何無癡善根非學非無學。三善根。幾報。幾報法。幾非報非報法。二報法。一。二。分或報或報法。云何二報法。無貪無恚。名二報法。云何一。二。分或報或報法。無癡善根。名一。二。分或報或報法。云何無癡善根報。無癡善根無報。名無癡善根報。云何無癡善根報。見學人須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若智地若觀解脫心。即得沙門果。若須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。無學人欲得阿羅漢。觀智具足。若智地若觀解脫心。即得阿羅漢果。若實人若趣無癡。名無癡善根報。云何無癡善根報法。無癡善根有報。名無癡善根報法。云何無癡善根報法。學人離結使。聖心入聖道。堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲得修道。若實人若趣無癡。名無癡善根報法。三善根。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷非思惟斷。三善根。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷非思惟斷。三善根。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾不繫。二欲界繫。一。四。分或欲界

繫或色界繫或無色界繫或不繫。云何二欲界繫無貪無恚。名二欲界繫。云何一。四。分或欲界繫或色界繫或無色界繫或不繫。無癡善根。名一。四。分或欲界繫或色界繫或無色界繫或不繫。云何無癡善根欲界繫。欲漏有漏無癡善根。名欲界繫。云何無癡善根色界繫。色漏有漏無癡善根。名色界繫。云何無癡善根無色界繫。無色漏有漏無癡善根。名無色界繫。云何無癡善根不繫。聖無漏無癡善根。名不繫。三善根。幾過去。幾未來。幾現在。幾非過去非未來非現在。一切三分或過去或未來或現在。云何無貪善根過去。無貪善根生已滅名過去。云何無貪善根未來。無貪善根未生未出名未來。云何無貪善根現在。無貪善根生未滅名現在。無恚無癡亦如是。

*舍利弗阿毘曇論問分大品第九
問曰。幾大。答曰。四。何等四。地水火風大。云何地大。二地大。內地大。外地大。云何內地大。若身內別堅受堅。骨齒爪髮毛妍膚肌皮。筋脾腎肝肺心腸胃大腸小腸大腹小腹糞穢。此身及餘內受堅。名內地大。云何外地大。外非受堅。銅鐵鉛錫白鐵金銀真珠琉璃珂貝璧玉珊瑚錢性寶貝珠沙石土鹹鹵石糞掃灰土地草木枝葉莖節。及餘外非受堅。名外地大。如是內地大地外地大地大。云何水大。二水大。內水大。外水大。云何內水大。身內受。水膩涎癢。膽肝肪髓腦脂腸涕唾膿血小便。及餘身內受水潤等。名內水大。

①[一切...因]十六字一② ③[切十(切)]④ ⑤[無貪]一⑥ ⑦[分或...二]十七字一⑧ ⑨[法十(無)]⑩ ⑪[論]一⑫ *筋十(脈)⑬ ⑭ 膽肝二痰汗⑮

云何外水大。若外水膩非受。蘇油生酥。蜜黑石蜜乳酪。酪漿醪酒甘蔗酒蜜酒。及餘外水膩非受。名外水大。如是內水大外水大名水大。

云何火大。二火大。內火大。外火大。云何內火大。身內火受熱。若熱能令熱。身熱內燠。若服食飲等消。及餘身內別受火。名內火大。云何外火大。外火非受熱。火熱日熱珠熱舍熱。牆熱山熱穀氣熱草熱木熱牛屎糞熱。及餘外火熱非受。名外火大。如是內火大外火大名火大。

云何風大。二風大。內風大。外風大。云何內風大。身受風。上風下風依節風。骨節風。風出息入息風。餘內別受風。名內風大。云何外風大。外風非受。東風南風西風北風。離塵風不離塵風。冷風熱風。黑風旋風。風動地風。及餘外風非受。名外風大。如是內風大外風大名風大。

四大。幾色。幾非色。一切色。四大。幾可見。幾不可見。一切不可見。四大。幾有對。幾無對。一切有對。四大。幾聖。幾非聖。一切非聖。四大。幾有漏。幾無漏。一切有漏。一切有愛。一切有求。一切當取。一切有取。一切有勝。四大。幾受。幾非受。一切二分或受或非受。云何地大受。地大若內名地大受。云何地大受。地大業法煩惱所生報我分攝。名地大受。云何地大非受外。地大名地大非受。水火風大亦如是。四大。幾有報。幾無報。一切無報。四大。幾心。幾非心。一切非心。四大。幾心相應。幾非

心相應。一切非心相應。四大。幾心數。幾非心數。一切非心數。四大。幾緣。幾非緣。一切非緣。四大。幾共心。幾不共心。一切不共心。一切不隨心轉。四大。幾業。幾非業。一切非業。四大。幾業相應。幾非業相應。一切非業相應。四大。幾共業。幾非共業。一切不共業。一切不隨業轉。四大。幾因。幾非因。一切因。四大。幾有因。幾無因。一切有因。一切有緒。一切有緣。一切有為。四大。幾知。幾非知。一切知如事知見。四大。幾識。幾非識。一切識如事識。一切了如事知見。四大。幾斷智知。幾非斷智知。一切非斷智知。四大。幾修。幾非修。一切非修。四大。幾證。幾非證。一切證如事知見。四大。幾善。幾不善。幾無記。一切無記。四大。幾學。幾無學。幾非學。非無學。一切非學。非無學。四大。幾報。幾報法。幾非報法。一切二分或報或非報非報法。云何地大報。地大受名地大報。云何地大報。地大業法煩惱所生報我分攝。名地大報。云何地大非報非報法。外

地大名地大非報非報法。水火風大亦如是。四大。幾見斷。幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷非思惟斷。四大。幾見斷因。幾思惟斷因。幾非見斷非思惟斷因。一切三分或見斷因或思惟斷因或非見斷非思惟斷因。云何地大見斷因。若見斷法報地大。名地大見斷因。云何地大思惟斷因。思惟斷因法報地大。是名地大思惟斷因。云何地大非見斷非思惟斷因。善法報地大非報非報法。名地大非見斷非思惟斷因。水火風大亦如是。四大。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。幾不繫。一

切二分或欲界繫或色界繫。云何地大欲界繫。欲漏有漏地大。名欲界繫。云何地大色界繫。色漏有漏地大。名色界繫。水。火。風大亦如是。四大。幾過去。幾未來。幾現在。一切三分或過去或未來或現在。云何地大過去。地大生已滅名過去。云何地大未來。地大未生未出名未來。云何地大現在。地大生未滅名現在。水火風大亦如是。

*舍利弗阿毘曇論問分優婆塞品第十
問曰。是優婆塞耶。答曰。是誰優婆塞。是佛優婆塞。何等佛。釋迦牟尼佛。何所勸。是優婆塞。謂法。何等法。離欲。何等離欲。滅盡。何等滅盡。涅槃。齊幾名為優婆塞。若人諸根男相具足。心無錯亂。不為苦惱所逼。欲作優婆塞。向尊上心。向彼為主。依於捨彼喜樂。彼法輪未轉。未有衆僧。口受二教。歸依佛。歸依法。受此二語已。即名優婆塞。如偈說

離垢煩惱使 證第一常寂
降伏稱無量 為彼提謂說
歸佛及歸法 離垢無上寶
未有第三寶 教令依二寶
非為欲損彼 大仙無所恪
此法義應爾 大仙不毀僧
法輪既轉。便有聖衆。即說三語。口受三教。歸依佛。歸依法。歸依僧。受此三語已。即名優婆塞。如佛說

歸依處衆多 山巖及樹木
園林及神寺 斯由苦所逼
此歸非安隱 此歸非為上

此歸非安隱 此歸非為上

蘇一酥一 蜜一膏一 酪一酪一 大一大一 地一地一 四大一 因一 欲界一名十七字一 火風大一大風火一 動二熏一 謂二為一 所一 波十(彼)一 降二除一 格二垢一 寺二等一

非歸依此處 能離一切苦

若歸佛法僧 正觀四真諦

苦由於集生 能滅於苦集

八正安隱道 必至甘露處

此歸最為安 此歸最為上

歸依於此處 能離一切苦

問曰。優婆塞戒。答曰五。何等五。盡壽不殺

生。是優婆塞戒。盡壽不盜。是優婆塞戒。盡壽

不邪淫。是優婆塞戒。盡壽不妄語。是優婆塞

戒。盡壽不飲酒。是優婆塞戒。如是優婆塞

五戒。盡壽受持。不得違犯。齊幾為持戒優婆

塞。若優婆塞。於此五戒中。常持戒護行近

行。不亂行。不濁行。不難行。隨順

戒行。齊是名持戒優婆塞。如偈說

智人能持戒 稀望於三樂

尊重得利益 終受天上樂

見如是等處 智者能離惡

利根持淨戒 常得第一樂

云何殺生若生衆生想。故斷衆生命。死時未

到。到時未死。教令殺害。斷命勿令活。彼語。聞

已過彼時已滅彼生已仆地。如此身業口業。

是衆生故斷衆生命。當斷不定斷。彼是殺生

業。若行彼業者。是名殺生人。云何不殺生優

婆塞戒。若於彼業不樂。遠離不作。護不犯

斷根捨不善堪忍行善。名不殺生。是優婆塞

戒。如佛說

不殺亦不教 亦不勸他殺

諸定及驚怖 及與大名稱

於一切衆生 盡捨諸刀杖

云何不與取。若有人不與取。若村中若山澤

不與盜心取他物。若共他行若共相劫取

他物。想起盜心稀望愛護作已有。如是身業

口業取去取來。離本家移處壞封幟出界彼

業是不與取。若行彼業者。名不與取人。云何

不盜是優婆塞戒。於彼業不樂。遠離不作。護

戒不犯。斷根捨不善堪忍行善。是名不盜

優婆塞戒。如佛說

不盜亦不教 不取不持去

亦不勸他取 離諸不與取

云何邪淫。若有邪行人。若有母護父護兄護

弟護姊護妹護自護法護姓護親里護信要護

乃至花鬘護。若共如此宿。共行欲法。若自

妻非道行。彼業是邪行。若行彼業者。是名

邪行人。云何不邪淫是優婆塞戒。若於彼業

不樂。遠離不作。護戒不犯。斷根捨不善堪忍

行善。是名不邪淫。是優婆塞戒。如佛說

離淫不淨行 觀欲如火坑

雖未能離欲 足不犯他妻

云何妄語。若有人妄語。若伴中衆中親里中

貴人中國主前若人情人為證。如所知說。彼

人不知言知。知言不知。見言不見。不見言見

若自為為他。若為財於衆中故作妄語。隱所

忍隱所欲隱所覺隱所想隱心知。不見言見

見言不見。不聞言聞。聞言不聞。不覺言覺

覺言不覺。不識言識。識言不識。先欲妄語。

語時知妄語。語竟知妄語。如是虛誑意以為

財故。若集聲音句言語口教是妄語業。若行

彼業者。是名妄語人。云何不妄語。是優婆塞

戒。於彼業不樂。遠離不作。護戒不犯。斷根捨

不善堪忍行善。是名不妄語。是優婆塞戒。如

佛說

若伴若衆中 一一不妄語

不說不勸教 離一切虛妄

云何飲酒放逸處。若有飲酒放逸處。若酒膠

酒甘蔗酒蒲桃酒蜜酒。及餘物酒。若飲酒若

愛樂酒。灑身乃至草葉一漚。彼業是飲酒

放逸處。若行彼業者。是名飲酒放逸人。云何

不飲酒不放逸。是優婆塞戒。若於彼業不樂。

遠離不作。護戒不犯。斷根捨不善堪忍行

善。名不飲酒不放逸處。是優婆塞戒。如佛說

聖言當離酒 亦勿與他酒

不飲不勸樂 知此放逸處

知此不善門 憍傲愚者然

知此處不善 戒德自防護

不殺亦不盜 實語不飲酒

不淫斷欲法 不夜非時食

謙卑不高床 息聽止觀樂

不花鬘塗香 如是名八齋

隨彼時持齋 智人隨食施

飲食供養僧 不放逸貪著

供養於父母 如法求財物

以自修家業 得生日光天

五戒。幾色幾非色。一切色。五戒。幾可見。幾

不可見。一切不可見。五戒。幾有對。幾無對。

一切無對。五戒。幾聖。幾非聖。一切非聖。五

戒。幾有漏。幾無漏。一切有漏。一切有愛。一

切有求。一切當取。一切有取。一切有勝。五戒

①酒一漏 ②雜二離 ③偶二佛 ④見二是一 ⑤聞二聞 ⑥若二者 ⑦於一捨 ⑧共二若 ⑨行彼一彼 ⑩不二邪 ⑪酒十以酒 ⑫帝二滴 ⑬殺亦不盜二盜亦不殺

幾受。幾非受。一切非受。一切外五戒。幾有報。

幾無報。一切有報。五戒。幾心。幾非心。一切

非心。五戒。幾心相應。幾非心相應。一切非心

相應。五戒。幾心數。幾非心數。一切非心數。

五戒。幾緣。幾非緣。一切非緣。五戒。幾共心。

幾不共心。一切不共心。一切不隨心轉。五戒。

幾業。幾非業。一切業。五戒。幾業相應。幾非

業相應。一切非業相應。五戒。幾共業。幾非共

業。一切不共業。一切不隨業轉。五戒。幾因。

幾非因。一切因。五戒。幾有因。幾無因。一切

有因。一切有緒。一切有緣。一切有為。五戒。

幾知。幾非知。一切知如事知見。五戒。幾識。

幾非識。一切識意識如事識。一切解。一切了。

五戒。幾斷智知。幾非斷智知。一切非斷智

知。五戒。幾修。幾非修。一切修。五戒。幾證。幾

非證。一切證知見如事。五戒。幾善。幾不善。

幾無記。一切善。五戒。幾學。幾無學。幾非學

非無學。一切非學非無學。五戒。幾報。幾報

法。幾非報非報法。一切報法。五戒。幾見斷

幾思惟斷。幾非見斷非思惟斷。一切非見斷

非思惟斷。五戒。幾見斷因。幾思惟斷因。幾

非見斷非思惟斷因。一切非見斷非思惟斷

因。五戒。幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。

幾不繫。一切欲界繫。五戒。幾過去。幾未來。幾

現在。幾非過去非未來非現在。一切三分或

過去或未來或現在。云何不殺。戒過去不殺

戒生已滅名過去。云何不殺戒未來。不殺戒

未生未出名未來。云何不殺戒現在。不殺戒

生未滅名現在。乃至不飲酒不放逸戒亦如

是 舍利弗阿毘曇論卷第六 十品 第一

舍利弗阿毘曇論卷第六 十品 第一

舍利弗阿毘曇論卷第七

姚秦 罽賓三藏 曇摩耶舍 共曇摩崛多等 譯

非問分界品第一

色界。非色界。可見界。不可見界。有對界。無

對界。聖界。非聖界。有漏界。無漏界。有愛界。

無愛界。有求界。無求界。當取界。非當取界。

有取界。無取界。有勝界。無勝界。有受界。非

*受界。內界。外界。有報界。無報界。心界。非

心界。心相應界。非心相應界。心數界。非心數

界。緣界。非緣界。共心界。非共心界。隨心轉

界。不隨心轉界。業界。非業界。業報界。非業

報界。業相應界。非業相應界。非業相應非非

業相應界。共業界。不共業界。隨業轉界。非隨

業轉界。因界。非因界。有因界。無因界。有緒

界。無緒界。有緣界。無緣界。有為界。無為界。

智界。非智界。識界。非識界。解界。非解界。了

界。非了界。斷智知界。非斷智知界。斷界。非斷

界。修界。非修界。證界。非證界。有餘涅槃界。

無餘涅槃界。善界。不善界。無記界。學界。無

學界。非學。非無學界。報界。報法界。非報。非報

法界。見斷界。思惟斷界。非見斷非思惟斷界。

見斷因界。思惟斷因界。非見斷非思惟斷因

界。卑界。中界。勝界。龜界。細界。微界。發界。出

界。度界。勤界。持界。出界。斷界。離欲界。滅

界。欲界。色界。無色界。色界。非色界。滅界。三

出界。過去界。未來界。現在界。非過去非未來

非現在界。過去境界。未來境界。現在境界。

非過去非未來非現在境界。欲界繫

界。色界繫界。無色界繫界。不繫界。色界受

界。想界。行界。識界。五出界。六出界。地界。

水界。火界。風界。空界。識界。樂界。苦界。喜

界。憂界。捨界。無明界。欲界。恚界。害界。出

界。不恚界。不害界。光界。淨界。色界。空處界。

識處界。不用處界。非想非非想處界。十八界。

云何色界法。若色是名色界。云何非色界法。

非色是名非色界。云何可見界。色入是名可

見界。云何不可見界。除色入餘法。是名不可

見界。

云何有對界。十色入是名有對界。云何無對

界。意入法入。是名無對界。

云何聖界。若法無漏。是名聖界。云何非聖界。

若法有漏。是名非聖界。

云何有漏界。若法有愛。是名有漏界。云何無

漏界。若法無愛。是名無漏界。

云何有愛界。若法有求。是名有愛界。云何無

愛界。若法無求。是名無愛界。

云何有求界。若法當取。是名有求界。云何無

求界。若法不當取。是名無求界。

云何當取界。若法有取。是名當取界。云何非

當取界。若法無取。是名非當取界。

云何有取界。若法有勝。是名有取界。云何無

取界。若法無勝。是名無取界。

①知十(一切非斷)②戒二或③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲

①[界]一

②[欲界...界]十八

③[識界]一

④[虛]十

⑤[論]一

⑥七十(上)

⑦受二愛

⑧[第一]一

⑨[七字]一

⑩[問分]一

⑪[非]一

⑫[智界非智界]二

⑬[出]二

⑭[界]一

⑮[識]二

⑯[滅]二

⑰[欲界]一

⑱[非]一

⑲[非]一

⑳[非]一

㉑[非]一

㉒[非]一

㉓[非]一

㉔[非]一

㉕[非]一

㉖[非]一

㉗[非]一

㉘[非]一

云何有勝界若法有取。是名有勝界。云何無勝界若法無取。是名無勝界。云何有勝界若法界有餘界勝妙過上。是名有勝界。云何無勝界若法界無餘界勝妙過上。是名無勝界。云何受界若法內。是名受界。云何非受界若法外。是名非受界。

云何內界若法受。是名內界。云何外界若法非受。是名外界。

云何有報界若法報法。是名有報界。云何無報界若法報若。非報非報法。是名無報界。云何心界。意入是名心界。云何非心界。除意入餘法。是名非心界。

云何心相應界若法心數。是名心相應界。云何非心相應界若法非心數。是名非心相應界。

云何心數界。除心餘緣法。是名心數界。云何非心數界若法非緣及心。是名非心數界。

云何緣界若法取相及心。是名緣界。云何非緣界。除心餘非心數法。是名非緣界。

云何共心界若法隨心轉共心生共住共滅。是名共心界。云何非共心界。若法不隨心轉不共心生不共住不共滅。是名不共心界。

云何隨心轉界若法共心生共住共滅。是名隨心轉界。云何不隨心轉界若法不共心生不共住不共滅。是名不隨心轉界。

云何業界。身業口業意業。是名業界。云何非業界。除身業口業意業餘法。是名非業界。云何業報界若法愛若法善報。是名業報界。

云何非業報界若法報若非報非報法。是名非業報界。

非業報界

云何業相應界若法界思相應。是名業相應界。云何非業相應界若法非思相應。是名非業相應界。云何非業相應非非業相應界。思是名非業相應非非業相應界。

云何共業界。若法隨業轉共業生共住共滅。是名共業界。云何不共業界若法不隨業轉不共業生不共住不共滅。是名不共業界。

云何隨業轉界若法共業生共住共滅。是名隨業轉界。云何不隨業轉界若法不共業生不共住不共滅。是名不隨業轉界。

云何因界若法緣若法非緣有報若法非緣。除得果餘善報及四大。是名因界。云何非因界若法非緣無報不共業得果。是名非因界。

云何有因界若法有緒。是名有因界。云何無因界若法無緒。是名無因界。

云何有緒界若法有緣。是名有緒界。云何無緒界若法無緣。是名無緒界。

云何有緣界若法有為。是名有緣界。云何無緣界若法無為。是名無緣界。

云何有為界若法有緣。是名有為界。云何無為界若法無緣。是名無為界。

云何知界。一切法知如事知見。是名知界。云何非知界。無非知界。復次說。一切法非知如事知見。是名非知界。

云何識界。一切法識意識如事識。是名識界。云何非識界。無非識界。復次說。一切法非識意識如事識。是名非識界。

云何解界。一切法解如事知見。是名解界。云何非解界。無非解界。復次說。一切法非解如事知見。是名非解界。

何非解界。無非解界。復次說。一切法非解如事知見。是名非解界。

云何了界。一切法了如事知見。是名了界。云何非了界。無非了界。復次說。一切法非了如事知見。是名非了界。

云何斷智知界。若法不善。是名斷智知界。云何非斷智知界。若法善若無記。是名非斷智知界。

云何斷界。若法不善。是名斷界。云何非斷界。若法善若無記。是名非斷界。

云何修界。若法善。是名修界。云何非修界。若法不善無記。是名非修界。

云何證界。一切法證如事知見。是名證界。云何非證界。無非證界。復次說。一切法非證如事知見。是名非證界。

云何有餘涅槃界。如世尊說。云何彼是二涅槃界。何等二有餘涅槃界無餘涅槃界。云何有餘涅槃界。謂此比丘阿羅漢。諸漏盡。所作竟。捨於重擔。逮得己利。是盡有煩惱。正智得解諸陰界入。以宿業緣住故。以心受諸苦樂。有適意不適意。是名有餘涅槃界。云何無餘涅槃界。謂比丘五陰滅。未來五陰不復續生。是名無餘涅槃界。

云何善界。若法善。是名善界。云何不善界。若法不善。是名不善界。云何無記界。若法受若法非報非報法。是名無記界。

云何學界。若法學。是名學界。云何無學界。若法非學。是名無學界。云何非學界。若法非學。是名非學非無學界。

云何非學界。若法非學。是名非學非無學界。

●[法]—●●● ●[非報]—●●●● ●[入]—●● ●[法]—●●● ●愛—受● ●[報]—●●●● ●[界]—●●● ●界—報●●● ●[法]—●●● ●[名]—●●●● ●[正]—●●● ●善界若法—善男子 ●[若]—●●● ●[法]—●● ●[非報]—●● ●[聖]—●●

云何報界。若法受若法善報。是名報界。云何報法界。若法有報。是名報法界。云何非報非報法界。若法無記非我。分攝。是名非報非報法界。

云何見斷界。若法不善非思惟斷。是名見斷界。云何思惟斷界。若法不善非見斷。是名思惟斷界。云何非見斷非思惟斷界。若法善無記。是名非見斷非思惟斷界。

云何見斷因界。若法見斷法報。是名見斷因界。云何思惟斷因界。若法思惟斷。若法思惟斷法報。是名思惟斷因界。云何非見斷非思惟斷因界。若法善若法善法報。若法。報非報非報法。是名非見斷非思惟斷因界。

云何卑界。若法不善。是名卑界。云何中界。若法無記。是名中界。云何勝界。若法善。是名勝界。云何卑界。若法不善若無記。是名卑界。云何中界。若法非善。是名中界。云何勝界。若法善無漏。是名勝界。

云何麤界。若法欲界繫。是名麤界。云何細界。若法空處繫。不用處繫。若不用處繫。是名細界。云何微界。若法非想非非想處繫。是名微界。復次麤界。若法欲界繫。若色界繫。若空處繫。若識處繫。若不用處繫。是名麤界。復次細界。若法不繫。是名細界。云何微界。若法非想非非想處繫。是名微界。

云何發界。進若發正發生起觸證。是名發界。云何出界。進若廣進未度。是名出界。云何度界。進若廣已度。是名度界。云何勤界。力勤界。是名勤界。云何持界。總持持界。是名持

界。云何出界。出出界。是名出界。復次勤界。謂勤精進。何等精進。若身心發出度。用心不退轉。勤力正進。是名勤界。復次持界。謂念。何等念。如所聞所習法。持彼法。正持令住。不忘想念。是名持界。復次出界。捨一切漏盡。愛滅涅槃。是名出界。云何斷界。若比丘。樹間空處。如是觀身行惡惡報。今世報後世報。捨身惡行修身善行。如是觀口意行惡惡報。今世報後世報。捨口意惡行修口意善行。是名斷界。云何離欲界。愛盡離欲涅槃。是名離欲界。云何滅界。愛盡離滅涅槃。是名滅界。

云何欲界。從阿鼻大地獄。上至他化自在天。若色受想行識分。是名欲界。云何色界。從梵天至阿迦尼吒天。若色受想行識分。是名色界。云何無色界。從空處天至非想非非想處天。若受想行識分。是名無色界。云何色界。若法色。是名色界。云何非色界。除二滅餘非色法界。是名非色界。

云何滅界。二滅智緣滅非智緣滅。是名滅界。云何三出界。如世尊說。三出界。何等三。出界。謂出欲至色。出色至無色。若所作所集滅。是謂出。何謂出欲至色。若緣欲生有漏。熱彼色中無。是謂出欲至色。何謂出無色。若緣色生有漏。熱彼無色中無。是謂出無色。若緣無色生有漏。熱彼無色中無。是謂出無色。何謂所作所集滅。若緣行生有漏。熱彼涅槃無。是謂所作所集滅。是謂出。是名三出界。

云何過去界。若法生已滅。是名過去界。云何

未來界。若法未生未出。是名未來界。云何現在界。若法未滅。是名現在界。云何非過去非未來非現在界。若法無為。是名非過去非未來非現在界。

云何過去境界。思惟過去。若法生。是名過去境界。云何未來境界。思惟未來。若法未生。是名未來境界。云何現在境界。思惟現在法。若法生。是名現在境界。云何非過去非未來非現在境界。思惟非過去非未來非現在。若法生。是名非過去非未來非現在境界。

云何欲界繫界。若法欲漏有漏。是名欲界繫界。云何色界繫界。若法色漏有漏。是名色界繫界。云何無色界繫界。若法無色漏有漏。是名無色界繫界。云何不繫界。若法界聖無漏。是名不繫界。

云何色界。色陰是名色界。云何受界。受陰是名受界。云何想界。想陰是名想界。云何行界。行陰是名行界。云何識界。識陰是名識界。

云何五出界。如世尊說五出界。何等五。謂比丘念欲時。心不向欲不清。不住不解。念出心出。心向清住解。心善至善調善修心。若於欲出解起。緣欲生有漏。熱出解離。不受是痛。是名出欲界。復次比丘念瞋恚時。心不向瞋恚不清。不住不解。念不瞋心不恚。心向清住解。心善至善調善修心。若於瞋恚出解起。緣瞋恚生有漏。熱出解離不受是痛。是名出瞋恚界。復次比丘念害念害時。心不向害不清。不住不解。念不害心向清住解。心

①分二今②[報]一③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

善至善調善修心。若於害出解起。緣害生有漏熾熱。彼出解離。不受是痛。是名出害界。復次比丘念色時。心不向色。不向。不住不解。念無色無色。心向清住解。心善至善調善修心。於色出解起。緣色生有漏熾熱。出解離。不受是痛。是名出色界。復次比丘念自身。心不向自身。不清不住不解。念自身滅。滅自身心向清住解。心善至善調善修心。若於自身出解起。緣自身生有漏熾熱。出解離。不受是痛。是名出自身界。是名五出界。

云何六出界。如世尊說六出界。如比丘向彼比丘如是說。比丘我慈解心親近多修學。作乘作物。謹慎識善進。我為瞋恚心所覆。彼比丘責此比丘。比丘莫如是說。莫謗世尊。謗世尊不善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若慈解心親近多修學。已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。若瞋恚覆心者。無有是處。世尊說。比丘出瞋恚心。善慈解心。若修多學無量。復次比丘向彼比丘如是說。比丘我悲解心親近多修學。作乘作物。謹慎識善進。我故為害心所覆。彼比丘責此比丘。比丘莫如是說。莫謗世尊。謗世尊非善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若悲解心親近多修學。已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。為害覆心者。無有是處。世尊說。比丘出害心。若悲解心。若修多學無量。復次比丘向彼比丘如是說。我喜解心親近多修學。作乘作物。謹慎識善進。我故為不樂心所覆。彼比丘責此比丘。比丘莫如是說。莫謗世尊。謗世尊非善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若喜解心親近多修學。已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。為不樂心所覆。世尊說。比丘出疑。惑。斷我慢。是名六出界。

善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若喜解心親近已。多修學已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。為不樂心所覆。無有是處。世尊說。比丘出不樂心。若喜解心善修多學無量。復次比丘向彼比丘如是說。我捨解心親近多修學。作乘作物。謹慎識善進。我故為愛患心所覆。彼比丘責此比丘。莫如是說。莫謗世尊。謗世尊非善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若捨解心親近已。多修多學已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。若有愛患覆心。無有是處。世尊說。比丘出愛患心。若捨解心善修多學無量。復次比丘向彼如是說。我無想定心親近多修學。作乘作物。謹慎識善進。我故有念想識。彼比丘責此比丘。比丘莫如是說。莫謗世尊。謗世尊非善。世尊不如是說。比丘此非怖望處。若無想定心親近已。多修學已。作乘作物。已。謹慎已。識已。善進已。若有念想識。無有是處。世尊說。比丘出一切想。若無想定心善修多學無量。復次比丘向彼比丘如是說。我滅我及我所故。有疑。惑。斷我慢。是名六出界。

云何地界。二地界。內地界外地界。云何內地界。若此身內受堅。骨齒髮毛薄皮膚肌肉筋脈脾胃肝肺心胃大腸小腸大腹小腹。此身及餘內受堅。是名內地界。云何外地界。若

外非受堅。銅鐵鉛錫白鐵金銀真珠琉璃。珂貝璧玉珊瑚錢性寶貝珠沙石草木枝葉莖節。及餘外非受堅。是名外地界。如是內地界。云何水界。二水界。內水界外水界。云何內水界。若此身內受。水涎。汗。肪。髓。脂。腦。涕。唾。膿。血。小便。及餘此身內受水潤等。是名內水界。云何外水界。若外水界非受。蘇。油。蜜。石。蜜。黑。石。蜜。乳。酪。酪。漿。醪。酒。甘蔗。酒。蜜。酒。及餘外水非受。是名外水界。如是內外水界是名水界。云何火界。二火界。內火界。外火界。云何內火界。若此身內受火熱。若熱能令熱令身熱令內焦。若服食飲等消。及餘此身內受火。是名內火界。云何外火界。若外火非受熱。若火熱日熱珠熱。舍熱。牆熱。山熱。穀熱。草熱。木熱。牛糞熱。及餘外火熱非受。是名外火界。如是內外火界。是名火界。云何風界。二風界。內風界。外風界。云何內風界。若此身內受風。上風下風。依節間風。骨節遊風。出入息風。及餘內受風。是名內風界。云何外風界。若外風非受。若東西風。南北風。雜塵風。不雜塵風。冷風。熱風。黑風。毘風。動地風。及餘外風非受。是名外風界。如是內外風界。是名風界。云何空界。二空界。內空界。外空界。云何內空界。若此身內受空。非四大所覆。若耳。鼻。口。門。若此身內受空。非四大所覆。若食飲出處。及餘此身內受空。非四大所覆。是名內空界。云何外空界。若外空非受。非四大所覆。若丘。井。瓶。壑。坎。谷。及餘外空非受。非四大所覆。是名

外非受堅。銅鐵鉛錫白鐵金銀真珠琉璃。珂貝璧玉珊瑚錢性寶貝珠沙石草木枝葉莖節。及餘外非受堅。是名外地界。如是內地界。云何水界。二水界。內水界外水界。云何內水界。若此身內受。水涎。汗。肪。髓。脂。腦。涕。唾。膿。血。小便。及餘此身內受水潤等。是名內水界。云何外水界。若外水界非受。蘇。油。蜜。石。蜜。黑。石。蜜。乳。酪。酪。漿。醪。酒。甘蔗。酒。蜜。酒。及餘外水非受。是名外水界。如是內外水界是名水界。云何火界。二火界。內火界。外火界。云何內火界。若此身內受火熱。若熱能令熱令身熱令內焦。若服食飲等消。及餘此身內受火。是名內火界。云何外火界。若外火非受熱。若火熱日熱珠熱。舍熱。牆熱。山熱。穀熱。草熱。木熱。牛糞熱。及餘外火熱非受。是名外火界。如是內外火界。是名火界。云何風界。二風界。內風界。外風界。云何內風界。若此身內受風。上風下風。依節間風。骨節遊風。出入息風。及餘內受風。是名內風界。云何外風界。若外風非受。若東西風。南北風。雜塵風。不雜塵風。冷風。熱風。黑風。毘風。動地風。及餘外風非受。是名外風界。如是內外風界。是名風界。云何空界。二空界。內空界。外空界。云何內空界。若此身內受空。非四大所覆。若耳。鼻。口。門。若此身內受空。非四大所覆。若食飲出處。及餘此身內受空。非四大所覆。是名內空界。云何外空界。若外空非受。非四大所覆。若丘。井。瓶。壑。坎。谷。及餘外空非受。非四大所覆。是名

○(自身)一○ ○(界)一○ ○(彼)十(慎)○ ○(丘)二(比)○ ○(莫謗)說十五字一○ ○(識)二(謹)○ ○(謗)二(非)○ ○(若)一○ ○(彼)二(我)○ ○(惑)二(或)○ ○(胃)二(胃)○ ○(骨)二(骨)○ ○(大腹)小腹一○ ○(受)一○ ○(地)一○ ○(膽)二(痰)○ ○(識)二(斷)○ ○(蘇)二(酥)○ ○(蜜)一○ ○(酪)一○ ○(餘)一○ ○(受)二(是)○ ○(間)二(簡)○ ○(寶)二(辟)○ ○(食)飲一○ ○(飲)食一○ ○

外空界。如是內空界外空界。是名空界。云何識身。六識身。眼識身耳鼻舌身意識身。是名識界。

云何樂界。眼觸樂受耳鼻舌身觸樂受樂根。是名樂界。云何苦界。眼觸苦受耳鼻舌身觸苦受苦根。是名苦界。云何喜界。若心樂受喜根。是名喜界。云何憂界。若心苦受憂根。是名憂界。云何捨界。身心非苦非樂受。謂眼觸非苦非樂受。耳鼻舌身觸非苦非樂受捨界。是名捨界。

云何無明界。癡不善根。是名無明界。云何欲界。欲欲界。是名欲界。云何恚界。恚恚界。是名恚界。云何害界。害害界。是名害界。云何欲界。若欲欲欲賦。欲愛欲喜。欲支欲定。欲肯欲渴。欲焦欲納。是名欲界。云何恚界。若欺惱衆生。侵陵恚望。非斷命根。是名恚界。云何害界。若欺害衆生。恚望侵陵。斷命根。是名害界。云何欲界。五欲愛喜適意愛色欲染相續。眼識色。愛喜適意愛色欲染相續。耳鼻舌身識觸愛喜適意愛色欲染相續。若他欲他封邑他婦女他物令我得。若貪重貪究竟貪相應恚望愛欲染重欲染究竟欲染。及餘可貪法。若貪重貪究竟貪恚望愛欲染重欲染究竟欲染。是名欲界。云何恚界。若少衆生。若多衆生。傷害此衆生。繫縛令得種種苦。若恚重恚究竟恚相應。忿怒憎惡惱心。恨戾不慈。不惑不利益。是名恚界。云何害界。若惱衆生。以手拳瓦石刀仗。及餘諸惱。如是欺害衆生。侵惱恚望斷命。是名害界。

云何出界。除慈悲餘善出法。是名出界。云何不恚界。慈是名不恚界。云何不害界。悲是名不害界。

云何光界。色光。慧光。云何色光。火光。日光。月光。珠光。星宿光。佛光。衆生光。及餘四大所造光明照明。是名色光。云何慧光。三慧。思慧。聞慧。修慧。是名慧光。如是色光。慧光。是名光界。云何淨界。淨解脫及餘淨色。能淨色適意見無厭。是名淨界。

云何色界。色入色陰。是名色界。云何空處界。二空處界。或有爲空處界。或無爲空處界。云何有爲空處界。空處定。空處生。云何空處定。若比丘。離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干想。成就無邊空處。云何空處生。若親近此定多修學故。空處天四種我分攝。受想行識。是名空處生。如是空處定。如是空處生。是名有爲空處界。云何無爲空處界。若以智斷空處界若斷。是名空處。無爲識處界。不用處界。非想非非想處界亦如是。

云何十八界。眼界。色界。眼識界。耳界。聲界。耳識界。鼻界。香界。鼻識界。舌界。味界。舌識界。身界。觸界。身識界。意界。法界。意識界。是名十八界。

舍利弗阿毘曇論非問分業品第二

思業。思已業。故作業。非故作業。受業。非受業。少受業。多受業。熟業。非熟業。色業。非色業。可見業。不可見業。有對業。無對業。聖業。非聖業。有漏業。無漏業。有愛業。無愛業。有求業。無求業。當取業。非當取業。有取業。無取業。

取業。有勝業。無勝業。受業。非受業。內業。外業。有報業。無報業。心相應業。非心相應業。心數業。非心數業。緣業。非緣業。共心業。不共心業。隨心轉業。不隨心轉業。非業。相應業。非業。相應非非業。相應業。共業。非共業。隨業。轉業。不隨業。轉業。非因業。有因業。有緒業。有緣業。有爲業。知業。非知業。識業。非識業。解業。非解業。了業。非了業。斷智知業。非斷智知業。斷業。非斷業。修業。非修業。證業。非證業。教業。非教業。身有教無教業。口有教無教業。身業。口業。意業。戒業。無戒業。非戒非無戒業。身戒無戒非戒非無戒業。口戒無戒非戒非無戒業。意戒無戒非戒非無戒業。善業。不善業。無記業。學業。無學業。非學非無學業。報業。報法業。非報非報法業。見斷業。思惟斷業。非見斷非思惟斷業。見斷因業。思惟斷因業。非見斷非思惟斷因業。卑業。中業。勝業。龜業。細業。微業。樂受業。苦受業。捨受業。樂受業。苦受業。非苦非樂受業。喜處業。憂處業。捨處業。喜處業。憂處業。非喜非憂處業。現法受業。生受業。後受業。與樂業。與苦業。與不苦不樂業。樂果業。苦果業。不苦不樂果業。樂報業。苦報業。不苦不樂報業。過去業。未來業。現在業。過去境界業。未來境界業。現在境界業。非過去非未來非現在境界業。欲界繫業。色界繫業。無色界繫業。不繫業。四業。四受業。五怖五怨五無間業。五戒越五戒因貪業。因恚業。因癡業。因不貪業。因不恚業。因不癡業。趣地獄業。趣畜

①文一枚 ②定二宅 ③肯二態 ④能 ⑤陳二害 ⑥愛二受 ⑦俱一狐 ⑧卷第七上終 ⑨卷第七下首 ⑩同異如首卷 ⑪舍利弗阿毘曇論 ⑫論 ⑬業二界 ⑭二二 ⑮相應業非業二相應共非 ⑯不十轉 ⑰斷業非斷業 ⑱戒 ⑲業十受樂業受苦業受捨業 ⑳

生業。趣餓鬼業。趣人業。趣天業。趣涅槃業。

七不善法。七善法。八聖語。非八聖語。因貪

身業。口業。意業。因悲身業。口業。意業。因癡身

業。口業。意業。因不貪身業。口業。意業。因不

悲身業。口業。意業。因不癡身業。口業。意業。

十不善業道。十善業道。十法成就墮地獄速

若。積牙。十法成就生天速如。積牙。二十法

成就墮地獄速如。積牙。二十法成就生天速

如。積牙。三十法成就墮地獄速如。積牙。三

十法成就生天速如。積牙。四十法成就墮地

獄速如。積牙。四十法成就生天速如。積牙。

云何思業。意業是名思業。云何思已業。身業

口業。是名思已業

云何故作業。若業故作受報。是名故作業。云

何不故作業。若業。不作不受報。是名不故

作業

云何受業。若業有報。是名受業。云何非受業。

若業無報。是名非受業。復次受業。若業有報。

及無報思。是名受業。復次非受業。若業無

報身業口業。是名非受業

云何少受業。若業受少報。是名少受業。云何

多受業。若業不受少報。是名多受業

云何熟業。若業近受報。是名熟業。云何非熟

業。若業非近受報。是名非熟業

云何色業。身業口業。是名色業。云何非色業。

意業是名非色業

云何可見業。若業色入攝。是名可見業。云何

不可見業。若業法入攝。是名不可見業

云何有對業。若業聲入色入攝。是名有對業

云何無對業。若業法入攝。是名無對業

云何聖業。若業無漏。是名聖業。云何非聖業。

若業有漏。是名非聖業

云何有漏業。若業有愛。是名有漏業。云何無

漏業。若業無愛。是名無漏業

云何有愛業。若業有求。是名有愛業。云何無

愛業。若業無求。是名無愛業

云何有求業。若業當取。是名有求業。云何無

求業。若業非當取。是名無求業

云何當取業。若業有取。是名當取業。云何非

當取業。若業無取。是名非當取業。云何有取

業。若業有勝。是名有取業。云何無取業。若業

無勝。是名無取業

云何有勝業。若業有取。是名有勝業。云何無

勝業。若業無取。是名無勝業。復次有勝業。若

此業有餘業勝妙過上。是名有勝業。復次無

勝業。若此業無餘業勝妙過上。是名無勝業

云何受業。若業內。是名受業。云何非受業。若

業外。是名非受業

云何內業。若業受。是名內業。云何外業。若業

非受。是名外業。云何有報業。若業有報。是名

有報業。云何無報業。若業非報。是名無報

業

云何心相應業。若業心數。是名心相應業

云何非心相應業。若業非心數。是名非心相

應業

云何心數業。若業緣。是名心數業。云何非

心數業。若業非緣。是名非心數業

云何緣業。若業心數。是名緣業。云何非緣業。

若業非心數。是名非緣業

云何共心業。若業隨心轉共心生共住共滅。

是名共心業。云何非共心業。若業不共心轉

不共心生不共住不共滅。是名不共心業

云何隨心轉業。若業共心生共住共滅。是名

隨心轉業。云何不隨心轉業。若業不共心生

不共住不共滅。是名不隨心轉業

云何非業相應業。若業非思相應。是名非業

相應業。云何非業相應非非業相應業。思是

名非業相應非非業相應業

云何共業。若業隨業轉共業生共住共滅。是

名共業。云何不共業。若業不隨業轉不共業

生不共住不共滅。是名不共業

云何隨業轉業。若業共業生共住共滅。是名

隨業轉業。云何不隨業轉業。不共業生不共

住不共滅。是名不隨業轉業。云何因業

若業緣業若業非緣善有。是名因業。云

何非因業。若業非緣無報不共業。是名非

因業

云何有因業。若業有緒。是名有因業

云何有緒業。若業有緣轉業若業共業。是名

有緒業

云何有緣業。若業有為。是名有緣業

云何有為業。若業若有緣。是名有為業

云何知業。一切業知如事知見。是名知業。云

何非知業。無非知業。復次說一切業非知如

事知見。是名非知業

云何識業。一切業識意識如事識。是名識業

云何非識業。無非識業。復次說一切業非識

①聖語非二非聖語 ②積牙一標半 ③不十(故) ④報二業 ⑤[業]一 ⑥無求業二求無業 ⑦心二正 ⑧[共]一 ⑨[業]一 ⑩善有二有報 ⑪善報 ⑫[報]一 ⑬業若二若業 *

意識如事識。是名非識業。

云何解業。如事知見。是名解業。云何非解業。無非解業。復次說一切業非解如事知見。是名非解業。

云何了業。一切業了如事知見。是名了業。云何非了業。無非了業。

云何斷智知業。業若不善。是名斷智知業。云何非斷智知業。若業善若無記。是名非斷智知業。

云何斷業。若業不善。是名斷業。云何非斷業。若業善若無記。是名非斷業。

云何修業。若業善。是名修業。云何不修業。若業不善。無記。是名非修業。

云何證業。一切業證如事知見。是名證業。云何非證業。無非證業。復次說一切業非證如事知見。是名非證業。

云何教業。身業口業。是名教業。云何無教業。意業是名無教業。云何身。若身業色入攝。是名身。若身業。云何身無教業。若身業法入攝。是名身無教業。云何口。若口業聲入攝。是名口。若口業。云何口無教業。若口業法入攝。是名口無教業。云何身業。若業非緣非身業。是名身業。云何口業。若業非緣非身業。是名口業。云何意業。若業緣。是名意業。云何戒業。若業善心所起去來屈申迴轉身教集聲音句言語口教有漏身口戒無教正語正業正命及善思。是名戒業。云何無戒業。若業不善不善心所起去來屈申迴轉身教集聲音句言語口教身口。作非戒無教及不善

思。是名無戒業。云何非戒非無戒業。若業無記心所起去來屈申迴轉身教集聲音句言語口教及無記思。是名非戒非無戒業。云何身戒業。若身業善善心所起去來屈申迴轉身教有漏身戒無教正業身正命。是名身戒業。云何身無戒業。若身業不善不善心所起去來屈申迴轉身教集聲音句言語口教有漏口戒無教正語口正命。是名口戒業。

云何口無戒業。若口業不善不善心所起集聲音句言語口教口非戒無教。是名口無戒業。云何口非戒非無戒業。若口業無記無記心所起集聲音句言語口教。是名口非戒非無戒業。云何意戒業。若意業善善心相應思。是名意戒業。云何意無戒業。若意業不善不善心相應思。是名意無戒業。云何意非戒非無戒業。若意業無記無記心相應思。是名意非戒非無戒業。

云何善業。若業修。是名善業。云何不善業。若業斷。是名不善業。云何無記業。若受若業非報非報法。是名無記業。

云何學業。若業聖非無學。是名學業。云何無學業。若業聖非學。是名無學業。云何非學非無學業。若業非聖。是名非學非無學業。云何報業。若業受若業善報。是名報業。云何報法業。若業有報。是名報法業。云何非報

非報法業。若業無記非我分攝。是名非報非報法業。云何見斷業。若業不善非思惟斷。是名見斷業。云何思惟斷業。若業不善非見斷。是名思惟斷業。云何非見斷非思惟斷業。若業善無記。是名非見斷非思惟斷業。云何見斷因業。若業見斷。若見斷法報。是名見斷因業。云何思惟斷因業。若業思惟斷。若思惟斷法報。是名思惟斷因業。云何非見斷因非思惟斷因業。若業善若業善法報。若業報非報非報法。是名非見斷因非思惟斷因業。

云何卑業。若業不善。是名卑業。云何中業。若業無記。是名中業。云何勝業。若業善。是名勝業。復次卑業。若業不善無記。是名卑業。復次中業。若業非聖善。是名中業。復次勝業。若業聖無漏。是名勝業。

云何龜業。若業欲界繫。是名龜業。云何細業。若業色界繫不繫。是名細業。云何微業。若業無色界繫。是名微業。復次龜業。若業欲界繫色界繫。是名龜業。復次細業。若業空處繫識處繫不用處繫若不繫。是名細業。復次微業。若業非想非非想處繫。是名微業。復次龜業。若業欲界繫色界繫空處繫識處繫不用處繫。是名龜業。復次細業。若業不繫。是名細業。復次微業。若業非想非非想處繫。是名微業。云何受樂業。若業樂受相應。是名受樂業。云何受苦業。若業苦受相應。是名受苦業。云何受捨業。若業不苦不樂受相應。是名受捨業。云何樂受業。若業樂受樂報。是名樂受業。云何

云何樂受業。若業樂受樂報。是名樂受業。云何

①[是名非識業]一②③ ④[業]一⑤ ⑥[善若]二若善 ⑦(若)十無⑧⑨ ⑩見二事 ⑪(有)十教⑫* ⑬[作]一⑭⑮ ⑯[身]一⑰ ⑱身十(業)⑲ ⑳(身)十業㉑ ㉒戒業二業戒 ㉓口十(業)⑳㉔ ㉕[云何...業]十九字一㉖ ㉗[意]一㉘ ㉙心十(非)㉚ ㉛業二善 ㉜若十(業)㉝ ㉞[法]一㉟* ㊱[云何...業]四十字一㊲ ㊳[因]一㊴ ㊵[因]一㊶ ㊷[業]一㊸

苦受業。若業受苦報。是名苦受業。云何捨受業。若業受不苦不樂報。是名捨受業。

云何樂受業。除苦受不苦不樂受業餘業。若善有報。是名樂受業。云何苦受業。若業不善。是名苦受業。云何非苦非樂受業。除樂受苦受業若餘業。是名非苦非樂受業。

云何喜處業。若業發已生喜。是名喜處業。云何憂處業。若業發已生憂。是名憂處業。云何捨處業。若業發已出捨。是名捨處業。復次喜處業。除捨處業餘處業。若善有報。是名喜處業。復次憂處業。若業不善。是名憂處業。復次捨處業。除喜處業餘處業。若善有報。是名捨處業。復次喜處業。若業善有報。是名喜處業。復次憂處業。若業不善有報。是名憂處業。復次非喜處非憂處業。除喜處憂處業。若餘業是名非喜處非憂處業。

云何現法受業。若業生我分。若長幼所作。成就此業。於此生我長幼身受報。是名現法受業。

云何生受業。若業生我分。長幼所作。成就此業。生受報。是名生受業。云何後受業。若業生我分。若長幼所作。成就此業。第三第四生受報或多。是名後受業。

云何與樂業。若業與樂果。是名與樂業。云何與苦業。若業與苦果。是名與苦業。云何非與樂非與苦業。除與樂與苦業若餘業。是名非與樂與苦業。

云何樂果業。若業善有樂報。是名樂果業。云何苦果業。若業不善。是名苦果業。云何非樂

果非苦果業。除樂果苦果業若餘業。是名非樂果非苦果業。

云何樂報業。若業樂果。是名樂報業。云何苦報業。若業苦果。是名苦報業。云何非樂非苦報業。除樂報苦報業若餘業。是名非樂非苦報業。云何樂報業。若業善有報。是名樂報業。云何苦報業。若業不善。是名苦報業。云何非樂非苦報業。除樂報苦報業若餘業。是名非樂非苦報業。

云何過去業。若業生已滅。是名過去業。云何未來業。若業未生未出。是名未來業。云何現在業。若業生未滅。是名現在業。云何過去境界業。思惟過去法若業生。是名過去境界業。云何未來境界業。思惟未來法若業生。是名未來境界業。云何現在境界業。思惟現在法若業生。是名現在境界業。云何非過去非未來非現在境界業。思惟非過去非未來非現在法若業生。是名非過去非未來非現在境界業。

云何欲界繫業。若業欲漏有漏。是名欲界繫業。云何色界繫業。若業色漏有漏。是名色界繫業。云何無色界繫業。若業無色漏有漏。是名無色界繫業。云何不繫業。若業聖無漏。是名不繫業。

云何四業。黑業黑報。白業白報。黑白業黑白報。非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。是名白業白報。云何黑白業黑白報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

報。若白業白報。是名黑白業黑白報。云何非黑非白業非黑非白報。若聖有報斷煩惱。是名非黑非白業非黑非白報。云何黑業黑報。若業不善有報。此業報是名黑業黑報。云何白業白報。若業善有報。此業報是名白業白報。云何黑白業黑白報。若業善有報。無一業若黑白黑白報。彼若黑業黑

①苦二善②業十(業)③出二生④處業二業處⑤憂二憂⑥(非)十與⑦果十(業)⑧(在)一⑨(云何...業)十四字⑩觸一⑪此二若⑫往生二住生⑬業二核

口行。行清淨不清淨意。行成就清淨不清淨業。彼行清淨不清淨身口意行已。成就清淨不清淨業已。生清淨不清淨處。生清淨不清淨處已。觸清淨不清淨觸。觸清淨不清淨觸已。受清淨不清淨受。難受苦樂如人如天。若衆生。往生。隨所作業生。生已。觸觸我知衆生由業與苦樂是名。黑白業黑白報云何非黑白業非黑白報業能盡業。若黑業黑報。若斷思。若白業白報。若斷思。若黑白業黑白報。若斷思。是名非黑白業非黑白報業能盡業。是名四業。

云何四受業。如世尊說四受業。何等四。有業現苦後有苦報。有業現樂後有苦報。有業現苦後有樂報。有業現樂後有樂報。云何受業現苦後有苦報。若人忍憂忍苦。殺生緣殺生故。以種種心受憂苦忍憂忍苦。竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語貪欲瞋恚邪見緣邪見故。以種種心受憂苦忍憂忍苦。竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語貪欲瞋恚邪見緣邪見故。以種種心受喜樂。身壞命終墮惡道地獄。此受業現樂後有苦報。云何受業現苦後有樂報。若人忍憂忍苦。不殺生緣不殺生故。以種種心受憂苦忍憂忍苦。不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語不貪。不欲不瞋恚正見緣正見故。以種種心受憂苦。身壞命終生善道天上。此受業現苦後有樂報。云何受業現樂後

有樂報。若人忍喜忍樂。不殺生緣不殺生故。以種種心受喜樂忍喜忍樂。不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語不貪欲不瞋恚正見緣正見故。以種種心受喜樂。身壞命終生善道天上。此受業現樂後有樂報。是名四受業。

云何五怖。若殺生緣殺生故。今身生怖。後身生怖。竊盜邪姪妄言。語飲酒放逸處緣飲酒放逸處故。今身生怖。後身生怖。是名五怖。云何五怨。若殺生緣殺生故。今身生怨。後身生怨。竊盜邪姪妄言飲酒放逸處緣飲酒放逸處故。今身生怨。後身生怨。是名五怨。

云何五無間。害母無間。害父無間。害阿羅漢無間。壞僧無間。於如來身惡心出血無間。云何害母無間。若母母想故斷命。是名害母無間。云何害父無間。若父父想故斷命。是名害父無間。云何害阿羅漢無間。故斷阿羅漢聲聞命。是名害阿羅漢無間。云何壞僧無間。一面請四比丘。或多第二面請四比丘。或多行籌唱令。是名壞僧無間。云何於如來身惡心出血無間。若故於如來身惡心出血成就業。乃至傷如髮端。是名於如來惡心出血無間。是名五無間。

云何五戒。不殺生。不竊盜。不邪姪。不妄言。不飲酒放逸處。是名五戒。云何越五戒殺生竊盜邪姪妄言飲酒放逸處。是名越五戒。云何因貪業。業若貪因貪緒貪集貪緣身業口業意業。是名因貪業。云何因悲業。業若悲因悲緒悲集悲緣身業口業意業。是名因悲業。

云何因癡業。業若癡因癡緒癡集癡緣身業口業意業。是名癡因業。云何不貪因業。若不貪因不貪緒不貪集不貪緣身業口業意業。是名不貪因業。云何不悲因業。若不悲因不悲緒不悲集不悲緣身業口業意業。是名不悲因業。云何不癡因業。若不癡因不癡緒不癡集不癡緣身業口業意業。是名不癡因業。云何趣地獄業。若業不善增能令生地獄。是名趣地獄業。云何趣畜生業。若業不善中能令生畜生。是名趣畜生業。云何趣餓鬼業。若業不善軟。能令生餓鬼。是名趣餓鬼業。云何趣人業。若業善不增能令生人中。是名趣人業。云何趣天業。若業善增。能令生天上。是名趣天業。云何趣涅槃業。若業聖有報。能斷煩惱。是名趣涅槃業。

云何八非聖語。不見言見。見言不見。不聞言聞。聞言不聞。不覺言覺。覺言不覺。不識言識。識言不識。是名八非聖語。云何八聖語。不見言不見。見言見。不聞言不聞。聞言聞。不覺言不覺。覺言覺。不識言不識。識言識。是名八聖語。

云何七不善法。殺生竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語。是名七不善法。云何七善法。不殺生不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語。是名七善法。

云何八非善法。殺生竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語。是名七不善法。云何七善法。不殺生不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語。是名七善法。

云何八非善法。殺生竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語。是名七不善法。云何七善法。不殺生不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語。是名七善法。

云何八非善法。殺生竊盜邪姪妄言兩舌惡口綺語。是名七不善法。云何七善法。不殺生不竊盜不邪姪不妄言不兩舌不惡口不綺語。是名七善法。

行十(行)① 黑二所② 心十(心)③ 不(不)④ 身十(身)⑤ 今二令⑥ 語二言⑦ 口十(業)⑧ 不貪因⑨ 業二因不貪業⑩ 是名不悲因業⑪ 口業⑫ 向二趣⑬ 趣⑭ 善法二法善⑮

教口非戒無教。是名因貪口業。云何因貪意業若意業不善因貪不離貪覆心相應思。是名因貪意業。云何因患身業。若身業不善因患不離患覆心所起去來屈申迴轉身教身非戒無教。是名因患身業。云何因患口業。若口業不善因患不離患覆心所起集聲音句言語口教口非戒無教。是名因患口業。云何因患意業。若意業不善因患不離患覆心相應思。是名因患意業。云何因癡身業。若身業不善因癡不離癡覆心所起去來屈申迴轉身教身非戒無教。是名因癡身業。云何因癡口業。若口業不善因癡不離癡覆心所起集聲音句言語口教口非戒無教。是名因癡口業。云何因癡意業。若意業不善因癡不離癡覆心相應思。是名因癡意業。云何因不貪身業。若身業善因不貪離貪非貪覆心所起去來屈申迴轉身教有漏身戒無教。是名因不貪身業。云何因不貪口業。若口業善因不貪離貪非貪覆心所起集聲音句言語口教有漏口戒無教。是名因不貪口業。云何因不貪意業。若意業善因不貪離貪非貪覆心相應思。是名因不貪意業。云何因不患身業。若身業善因不患離患非患覆心所起去來屈申迴轉身教有漏身戒無教。是名因不患身業。云何因不患口業。若口業善因不患離患非患覆心所起集聲音句言語口教有漏口戒無教。是名因不患口業。云何因不患意業。若意業善因不患離患非患覆心相應思。是名因不患意業。

云何因不癡身業。若身善業因不癡離癡非癡覆心所起去來屈申迴轉身教有漏身戒無教正業身正命。是名因不癡身業。云何因不癡口業。若口業善因不癡離癡非癡覆心所起集聲音句言語口教有漏口戒無教正語口正命。是名因不癡口業。云何因不癡意業。若意業善因不癡離癡非癡覆心相應思。是名因不癡意業。云何十不善業道。殺生竊盜邪淫妄語兩舌惡口綺語貪欲瞋恚邪見是名十不善業道。云何十善業道。不殺生不竊盜不邪淫不妄言不兩舌不惡口不綺語不貪欲不瞋恚正見行。是名十善業道。云何十法成就墮地獄速如*積茅殺生乃至邪見。十法成就墮地獄速如*積茅云何十法成就生善處速如*積茅。不殺生乃至正見行。是十成就生善處速如*積茅。云何二十法成就墮地獄速如*積茅。自殺生教他殺生乃至自邪見。教他邪見。是名二十法成就墮地獄速如*積茅。云何二十法成就生善處速如*積茅。自不殺生。教他不殺生。乃至自正見。教他正見行。是二十法成就生善處速如*積茅。云何三十法成就墮地獄速如*積茅。自殺生教他殺生讚歎殺生乃至自邪見。教他邪見。讚歎邪見。是三十法成就墮地獄速如*積茅。云何三十法成就生善處速如*積茅。自不殺生教他不殺生。讚歎不殺生乃至自正見。教

他正見。讚歎正見。行是名三十法成就生善處速如*積茅。云何四十法成就墮地獄速如*積茅。自殺生教他殺生。讚歎殺生。願樂殺生乃至自邪見。教他邪見。讚歎邪見。願樂邪見。是四十法成就墮地獄速如*積茅。云何四十法成就生善處速如*積茅。自不殺生教他不殺生。讚歎不殺生。不願樂殺生。乃至自正見。教他正見。讚歎正見。願樂正見。是四十法成就生善處速如*積茅。舍利弗阿毘曇論卷第七

舍利弗阿毘曇論卷第八

*姚秦*罽賓三藏曇摩耶舍共曇摩*崛多*等譯

非問分人品第三

凡夫人。非凡夫人性人。聲聞人。菩薩人。緣覺人。正覺人。趣須陀洹果證人。須陀洹人。趣斯陀含果證人。斯陀含人。趣阿那含果證人。阿那含人。趣阿羅漢果證人。阿羅漢人。自足人。他足人。學人。無學人。非學人。非無學人。正定人。邪定人。不定人。盲人。一眼人。二眼人。慈行人。悲行人。喜行人。捨行人。空行人。無相行人。無願行人。不惱行人。勝入行人。一切入行人。修八解脫人。六通人。五此竟人。五彼竟人。一分解脫人。二分解脫人。慧解脫人。身證人。見得人。信解脫人。堅信人。堅法人。斷五支人。六支成就人。一護人。四依人。滅

①[應]一② ③不貪離貪非貪④不貪非⑤[離患]一⑥ ⑦[聲]十⑧[口]一⑨ ⑩善因不患⑪無患⑫善業一業善⑬[非癡]一⑭命二身⑮非癡二癡不⑯十十(法)⑰[名]一⑱見十(願樂邪見)⑲[是三...見]百十一字⑳(教他...生)十字二(不教他殺生不讚歎殺生不願樂殺生)十五字㉑行是名二願樂正見行是㉒(教他...不)八字二(不教他殺生不讚歎)八字㉓生十(行)⑳生二行㉔[業品竟]一㉕此下聖本有光明皇后願文㉖論卷二非問分卷㉗七十(下)㉘[論卷第]一㉙八十(上)㉚[人]一㉛邪二所㉜(無相人)十空行人㉝不二無㉞人十(斷)㉟滅異二斷

是名趣阿羅漢。果證人。復次阿羅漢人。若人思惟斷色行煩惱無色行煩惱無餘斷。是名阿羅漢人。復次阿羅漢人。若人一切煩惱斷。是名阿羅漢人。一切煩惱盡阿羅漢果。若人得觸證。是名阿羅漢人。云何自足人。如世尊說。世二人難得。何等二。自足他足。云何他足。若人施沙門。婆羅門。貧無厭人貧窮乞。人。飲食車乘衣服香花塗。香床褥臥具舍宅依。止聲明。是名他足人。云何自足人。若比丘有漏盡。乃至所作已辦更不還。有。是名自足人。如是二人誰所說。如來性因曰

稱自足他足 世間甚希有

施者如清池 常住淨戒身

又能施飲食 是人甚難得

離欲斷瞋恚 滅癡得無漏

聖法以自足 是人甚難得

云何學人。趣須陀洹果證人。須陀洹人。趣斯陀含果證人。斯陀含人。趣阿那含果證人。阿那含人。趣阿羅漢果證人。是名學人。云何無學人。阿羅漢。是名無學人。云何非學非無學人。凡夫人。是名非學非無學人

云何正定人。若人上正決定。是名正定人。云何邪定人。若人入邪定。是名邪定人。云何不定人。若人不上正決定。不入邪定。是名不定人。云何正定人。若人得正決定。是名正定人。云何邪定人。若人得邪定。是名邪定人。云何不定人。若人不得正決定。不得邪定。是名不定人。云何正定人。若人得聖五根已。曾得。是名正定人。云何邪定人。若人作五無間業。

成就已未受報。於五無間業成就。若一若二未受報。是名邪定人。云何不定人。若人未得聖五根未曾得。不作五無間業。不成就不受報。於五無間業不成就。若一若二不受報。是名不定人

云何盲人。若人成就眼。未得財寶。能得財寶。弘廣。無如是眼。若人成就眼。未生善法。能生善法。無如是眼。是名盲人。云何一眼人。如人成就眼。未得財寶。能得財寶。弘廣。有如是眼。如人成就眼。未生善法。能生善法。無如是眼。是名一眼人。云何二眼人。若人成就眼。未得財寶。能得財寶。弘廣。有如是眼。如人成就眼。未生善法。能生善法。無如是眼。是名二眼人

云何慈行人。若人得慈解心。多行是行。是名慈行人。云何悲行人。若人得悲解心。多行是行。是名悲行人。云何喜行人。若人得喜解心。多行是行。是名喜行人。云何捨行人。若人得捨解心。多行是行。是名捨行人。復次慈行人。若人得慈解調心已。修行柔軟已。次第上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。是名慈行人。復次悲行人。若人得悲解調心已。修行柔軟已。次第上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿羅漢果。是名悲行人。復次喜行人。若人得喜解調心已。修行柔軟已。次第上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿羅漢果。是名喜行人。云何捨行人。若人得捨解調心已。修行柔軟已。次第上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿羅漢果

果阿羅漢果。是名捨行人

云何空行人。若人得空定。多行是行。是名空行人。云何無相行人。若人得無相定。多行是行。是名無相行人。云何無願行人。若人得無願定。多行是行。是名無願行人。復次空行人。若人得空行。上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。是名空行人。復次無相行人。若人得無相定。上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿羅漢果。是名無相行人。云何無願行人。若人得無願定。上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿羅漢果。是名無願行人。若人得無惱法。何等無惱法。謂若人知勸讚。知不勸讚。知勸讚不勸讚已。非勸讚非不勸讚。說法明了知法明了。知法已內樂精進。背不說惡。而不讚善。稱滿說法。非不稱滿。不必願方語。不是非人禮。隨方說法。復次修根力覺禪解脫定修已。得聖無漏捨。若捨則應法律。不行欲樂。凡夫卑行。不行非聖無義苦行。常捨二邊入應中道行。知勸讚知不勸讚。知勸讚非不勸讚已。不勸讚非不勸讚。說法明了知法明了。知法已內樂精進。背不說惡。前不讚善。稱滿說法。非不稱滿。不必願方語。不是非人禮。隨方說法。無惱害離惱。於惱解脫入無惱法。復次此是彼人數共制名無惱。是名無惱行人

云何勝入行人。若人得八勝入。多行是行。是名勝入行人。云何一切入行人。若人得十一切入。多行是行。是名一切入行人。云何修八

●果證人二果人證 ●婆一披 ●食二食 ●香二身 ●止二上 ●[若人...人]五十二字 ●善二業 ●當二餘 ●[知勸讚非不勸讚] ●[非] ●[惱] ●[入] ●[人]

解脫人。若人得八解脫。多行是行。是名修八解脫人。云何六通人。若人六通成就。多行是行。是名六通人。

云何五此竟人。七生人。家家人。斯陀舍人。一種人。若現身得阿羅漢人。云何七生人。須陀洹是名七生人。復次七生人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。聖道一時俱斷。於彼斷住。未得上道。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。作業必當生受七天七人。受行七天七人。身已盡苦邊。是名七生人。云何家家人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。聖道一時俱斷。得上道。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。未斷作業。必當生或受二三人。身。彼或受行二三人。身已盡苦邊。是名家家人。復次家家人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。未如斯陀舍人。必當生或受二三人。身。受行二三人。身已盡苦邊。是名家家人。云何斯陀舍人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。以聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。以聖道一時俱斷。於彼斷住。未得上道。思惟斷欲愛瞋恚無餘斷作業。必當生受一天一人。身。受行一天一人。身已盡苦邊。是名斯陀舍人。復次斯陀舍人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。以聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。過家家人。非如一種人。必當生受一天一人。身。受行一天一人。身已盡苦邊。是名斯陀舍人。云何一種人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。以聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。以聖

道一時俱斷得上道。餘思惟斷。欲愛瞋恚無餘斷。未斷作業。必當生受一人。身。受行一人。身已盡苦邊。是名一種人。復次一種人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚多斷過斯陀舍。非如阿那含。必當生受一人。身。受行一人。身已盡苦邊。是名一種人。云何現身得阿羅漢人。若人

以我分身。若長若幼。上正決定。此人此生我分身此長。此幼。得須陀洹果。斯陀舍果。阿那含果。得阿羅漢果。是名現身得阿羅漢果人。是名五此竟人。

云何五彼竟人。中般涅槃人。速般涅槃人。無行般涅槃人。有行般涅槃人。上流般涅槃人。云何中般涅槃人。若人五下分煩惱斷。身見疑戒盜。欲愛瞋恚。以聖道一時俱斷。彼有五根利用最勝。信根進根念根定根慧根。若此道樂速解。若修彼道已。得阿羅漢果。彼有留難現身。不得阿羅漢果。或多諸緣行慈愍親屬。宿業必當生受一天身。於彼有不適意。生不適意。任不適意。行不適意。於彼天

身中般涅槃。何謂中般涅槃。於欲界命終。若生色界天上。於彼天壽中。於彼斷法中。般涅槃。是名中般涅槃。復次此是彼人數共制名中般涅槃。是名中般涅槃人。云何速般涅槃人。若人五下分煩惱斷。身見疑戒盜。欲愛瞋恚。以聖道一時俱斷。此聖五根利。不如中般涅槃。何等五。信根進根念根定根慧根。若此道若速解。若修彼道得阿羅漢果。彼有留難現身。不得阿羅漢果。以多諸緣行慈愍親屬。由宿業必受一天身。於彼有不適意。生不適

意。住不適意。行不適意。於彼天身速般涅槃。何謂速般涅槃。欲界命終。生色界天上。彼天壽少樂多離。速般涅槃。是名速般涅槃。復次此是彼人數共制。名速般涅槃人。是名速般涅槃人。云何無行般涅槃人。若人五下分煩惱斷。身見疑戒盜。欲愛瞋恚。以聖道一時俱斷。此聖五根軟。何等五。信根進根。定根慧根念根。若此道樂難。解若修彼道得阿羅漢果。彼有留難。現身不得阿羅漢果。以多諸緣行慈愍親屬。由宿業必當生受一天身。彼有適意。住不適意。行不適意。於彼天身有行般涅槃。何謂有行般涅槃。欲界命終。若生色界天上。彼有行難得無間道。得已便於彼般涅槃。是名有行般涅槃。復次此是彼人數共制。名有行般涅槃。是名有行般涅槃人。云何上流至阿迦膩吒人。若人五下分煩惱斷。身見疑戒盜。欲愛瞋恚。以聖道一時俱斷。此聖五根最軟。何等五。信根

由宿業必受一天身。於彼有不適意。生不適

道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚煩惱分斷。以聖

道一時俱斷得上道。餘思惟斷。欲愛瞋恚無餘斷。未斷作業。必當生受一人。身。受行一人。身已盡苦邊。是名一種人。復次一種人。若人見斷三煩惱。身見疑戒盜。聖道一時俱斷。思惟斷欲愛瞋恚多斷過斯陀舍。非如阿那含。必當生受一人。身。受行一人。身已盡苦邊。是名一種人。云何現身得阿羅漢人。若人

以我分身。若長若幼。上正決定。此人此生我分身此長。此幼。得須陀洹果。斯陀舍果。阿那含果。得阿羅漢果。是名現身得阿羅漢果人。是名五此竟人。

○(苦邊)二邊苦 ○(此)一 ○(有)一 ○(有行...下)二十三字二(若五下般人上流般涅槃)十字 ○(人)一 ○(若)一 ○(於)一 ○(速)十(行) ○(盜)一 ○(定)根慧根念根二念根定根慧根 ○(意)一 ○(名)二多 ○(人)云何上流二名有行般

進根念根定根慧根。若此道或樂難解。或苦難解。修彼道已。得阿羅漢果。彼有留難。現身不得阿羅漢果。以多諸緣行慈愍親屬。由宿業必當生受五天身。於彼天上有適意生適意。住適意行適意。此若命終上流。至阿迦膩吒。何謂上流至阿迦膩吒。於欲界命終。生色界無勝天中。如彼天壽住彼天壽。住已彼命終轉生無熱天中。生無熱天中已。彼命終轉生善見天中。生善見天中已。彼命終轉生如妙善見天中。生如妙善見天中已。彼命終轉生阿迦膩吒天中。如彼天壽住。如彼天壽住已。速無間道得阿羅漢果。得阿羅漢果已。即於彼般涅槃。是名上流至阿迦膩吒。復次此是彼人數共制。名上流至阿迦膩吒。是名上流至阿迦膩吒人。是名五彼竟人。云何一分解脫人。若人先學時得八解脫滅盡定。非後無學時得八解脫滅盡定。後無學時得八解脫滅盡定。非學時得八解脫滅盡定。是名一分解脫人。云何二分解脫人。若人學時得八解脫滅盡定。後無學時亦得八解脫滅盡定。是名二分解脫人。復次一分解脫人。若人盡智生非無生智。是名一分解脫人。復次二分解脫人。若盡智生無生智。是名二分解脫人。云何慧解脫人。若人寂靜解脫過色無色。彼非身觸行見慧斷有漏。是名慧解脫人。云何身證人。若人寂靜解脫過色無色。修身觸行非慧見斷有漏。是名身證人。云何見得人。若人寂靜解脫過色無色。彼非身觸行。非慧見斷有漏。如世尊所流布法。多用慧擇行。是

名見得人。云何信解脫人。若人寂靜解脫過色無色。彼非身觸行。非慧見斷有漏。如世尊所流布法。以慧擇行不及見得。是名信解脫人。云何見得人。若人得堅法上正決定。得須陀洹果。得斯陀含果。得阿那含果。未得八解脫滅盡定。是名見得人。云何信解脫人。若人得堅信上正決定。得須陀洹果。得斯陀含果。得阿那含果。未得八解脫滅盡定。是名信解脫人。云何堅信人。若人寂靜解脫過色無色。彼非身觸行。非慧見斷有漏。如世尊所流布法。慧觀而堪忍。是名堅信人。云何堅信人。若人性好信多信上正決定。未得四沙門果。一一觸證。若須陀洹果。若斯陀含果。若阿那含果。若阿羅漢果。彼於五根信根多。餘四根少。未得八解脫滅盡定。是名堅信人。云何堅信人。若人性好擇法多擇法上正決定。未得四沙門果。一一觸證。若須陀洹果。若斯陀含果。若阿那含果。若阿羅漢果。彼於此五根慧根多。餘四根少。未得八解脫滅盡定。是名堅信人。云何斷五支人。若人五蓋斷欲愛蓋瞋恚睡眠掉悔疑蓋。是名斷五支人。復次斷五支人。若人五下分煩惱斷。身見疑戒盜欲愛瞋恚。是名斷五支人。云何六支成就人。若人六捨成就。彼眼見色無憂無喜捨行念知。耳聞聲鼻嗅香舌嘗味。身覺觸意知法。無憂無喜捨行念知。是名六

支成就人。云何一護人。若人以念護心成就。是名一護人。云何四依人。若人知堪忍知親近知離知捨。是名四依人。云何滅異緣實人。若人於此外或有沙門婆羅門異緣見。我世常此見實餘虛妄。我世非常此實餘虛妄。我世常非常此實餘虛妄。我世非常非非常此實餘虛妄。我世有邊此實餘虛妄。我世無邊此實餘虛妄。我世非有邊非無邊此實餘虛妄。身是命此實餘虛妄。命是身此實餘虛妄。身異命異此實餘虛妄。無命無身此實餘虛妄。有如去涅槃此實餘虛妄。無如去涅槃此實餘虛妄。有如去非不如去涅槃。此實餘虛妄。於彼一切滅害捨解吐出離盡已。是名滅異緣實人。云何求最勝人。若人欲求斷有求斷求梵淨行所作已竟。何謂欲求。欲界未覺未知。欲界未斷法若欲界陰界入。若色聲香味觸。若眾生若法。若求彼希望聚集盡求愛求已。希望已聚集盡求已。是名欲求。云何有求。色界無色界未覺未知。色界無色界未斷。若色界無色界陰界入。若禪若解脫。若定若三摩跋提。若求此希望聚集盡求愛求已。希望已聚集盡求已。是名有求。云何求梵淨行。謂八聖。若求彼希望聚集盡求愛求已。希望已聚集盡求已。是名求梵淨行人。若人欲求斷有求斷。求梵淨行所作已竟。是名求最勝

①已二見 ②速二建 ③得一 ④人一 ⑤生一 ⑥得一 ⑦此十五 ⑧法二信 ⑨覺二觸 ⑩異一
 ⑪妄十(有如去非不如去涅槃此實餘虛妄)十四字 ⑫實二見 ⑬淨二清 ⑭陰界一

身智。內受。觀受智。外受觀。受智。內外受。觀
 內外受智。內心觀。心智。外心。觀心智。內
 外心觀。內外心智。內法中觀。內法智。外法中
 觀。外法智。內外法中觀。內外法智。內境界
 智。外境界智。內外境界智。衆生境界智。色
 境界智。非色境界智。衆生境界智。有爲境界
 智。無爲境界智。衆生境界智。法境界智。無境
 界智。衆生境界智。少智。中智。無量智。少境界
 智。中境界智。無量境界智。少智。少境界少
 智。中境界少智。無量境界中智。少境界中
 智。中境界中智。無量境界無量智。少境界無
 量智。中境界無量智。無量境界少任智。中任
 智。無量任智。少智。少任少智。中任少智。無
 量任中智。少任中智。中任中智。無量任無量
 智。少任無量智。中任無量智。無量任善道方
 便。惡道方便。善方便。惡方便。勸方便。寂
 靜方便。取方便。捨方便。過去智。未來智。現
 在智。過去境界智。未來境界智。現在境界智。
 非過去非未來非現在境界智。欲界繫智。色
 界繫智。無色界繫智。不繫智。苦智。集智。滅
 智。道智。法智。比智。世智。他心智。法辯義辯
 辭辯應辯。作智。非離智。離智。非作智。作離
 智。非作非離智。非取非出智。有染智。非。離
 非離染智。非有染有染。有離染智。非有染非
 離染智。① 扼智。非離扼離扼智。非。離。扼離
 扼智。非。扼非離。扼智。智果智。非斷果智。
 斷果智。非智果智。智果斷果智。非智果非
 斷果智。智果智。非得果得果智。非智果智。果
 得果智。非智果非得果智。盡智。非覺覺智。非

盡。盡覺智。非盡非覺智。解智。非。脫。脫智。
 非解解。脫智。非解非。脫智。退分智。任分智。
 增長分智。解分智。退分智。非任分任分智。
 非退分任分退分智。非退分非任分智。退分
 智。非增長分增長分智。非退分退分增長分
 智。非退分非增長分智。退分智。非解分解
 分智。非退分退分解分智。非退分非解分智。
 任分智。非增長分增長分智。非任分任分增
 長分智。非任分非增長分智。任分智。非解
 分解分智。非任分任分解分智。非任分非解
 分智。增分智。非解分解分智。非增分增分
 分智。非增分非解分智。五智。六通。七方便。
 苦法智。苦比智。集法智。集比智。滅法智。滅
 比智。道法智。道比智。九方便。如來十力。十
 智性。四十四智性。七十七智性。
 云何正見。見若善順不逆。是名正見。云何正
 智。智若善順不逆。是名正智。云何正見。若忍
 善順不逆。是名正見。云何正智。智若善順
 不逆。是名正智。云何正見。除盡智。無生智。
 若餘見善順不逆。是名正見。云何正智。盡智
 無生智。是名正智。
 云何慧根。學人離結使。聖心入聖道。若堅信
 若堅法。及餘趣人見行過患。觀涅槃寂滅。如
 實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲
 證。修道離煩惱。見學人若須陀洹。若斯陀含。
 若阿那含。觀智具足。若智地若觀解脫心。即
 證一沙門果。若須陀洹果。若斯陀含果。若
 阿那含果。無學人欲得阿羅漢。未得聖法。欲
 得修道。觀智具足。若智地若觀解脫心。即得

阿羅漢果。若實人若趣若法。擇重擇究竟。擇
 擇法思惟。覺了達自相他相共。相思念。辨觀
 生自在。智慧見解射方便術。焰光。明照。曜
 慧眼。慧根。慧力。擇法正覺。無癡正見。是名慧
 根。云何慧力。慧根是名慧力。
 云何擇法正覺。慧力是名擇法正覺。
 云何解脫智。若於解脫中。智見解脫方便。
 心於貪欲。瞋恚。解脫。我心解脫。於貪欲。瞋恚。
 即智見彼解脫方便。是名解脫智。此論智見
 丹藏皆
 作射

云何覺。如來若智生。於一切法中。無礙智見。
 得自在。自由力。尊自在。勝貴自在。知見。無上
 正覺。如來十力。成就四無所畏。大慈。成就自
 在轉法輪法。是名覺。
 云何正智。智若善順不逆。是名正智。云何
 邪智。智若不善不順。是名邪智。
 云何聖智。智若無漏。是名聖智。云何非聖智。
 智若有漏。是名非聖智。
 云何有漏智。智若有愛。是名有漏智。云何
 無漏智。智若無愛。是名無漏智。
 云何有愛智。智若有求。是名有愛智。云何無
 愛智。智若無求。是名無愛智。
 云何有求智。智若當取。是名有求智。云何無
 求智。智若不當取。是名無求智。
 云何當取智。智若有取。是名當取智。云何

①(外)十受②觀二觀③(內)十心④外心二心⑤觀十(外)⑥(智)一⑦內二中⑧智十(內境界智外境智)
 ⑨衆生二家生⑩少十(智)⑪(少智)一⑫便十(無量住無量智少住無量智無量住善道方便惡道方便)二十七
 字⑬(寂靜方便取方便)一⑭(離智)一⑮(離智)一⑯(離智)一⑰(離智)一⑱(離智)一⑲(離智)一⑳(離智)一㉑(離智)一
 ㉒(離智)一㉓(離智)一㉔(離智)一㉕(離智)一㉖(離智)一㉗(離智)一㉘(離智)一㉙(離智)一㉚(離智)一
 ㉛(離智)一㉜(離智)一㉝(離智)一㉞(離智)一㉟(離智)一㊱(離智)一㊲(離智)一㊳(離智)一㊴(離智)一
 ㊵(離智)一㊶(離智)一㊷(離智)一㊸(離智)一㊹(離智)一㊺(離智)一㊻(離智)一㊼(離智)一㊽(離智)一
 ㊾(離智)一㊿(離智)一

非當取智。智若無取。是名非當取智。云何有取智。智若有勝。是名有取智。云何無取智。智若無勝。是名無取智。

云何有勝智。智若有取。是名有勝智。云何無勝智。智若無取。是名無勝智。云何有勝智。若於此智有餘智勝妙過上。是名有勝智。云何無勝智。於此智於餘智勝妙過上。是名無勝智。

云何有勝智。如來若生智。於一切法中無礙智見。得自在自由力豪尊自在勝貴自在智見。無上最勝正覺如來十力成就四無所畏大慈自在成就轉法輪。除彼智若餘智。是名有勝智。云何無勝智。若前所餘智。是名無勝智。

云何受智。智若智內。是名受智。云何非受智。智若智外。是名非受智。

云何內智。若智受。是名內智。云何外智。若智非受。是名外智。

云何有報智。若智報法。是名有報智。云何無報智。若智非報非報法。是名無報智。

云何凡夫共智。智非凡夫生得。凡夫亦生得。是名凡夫共智。云何凡夫不共智。若智非凡夫生得。凡夫不生不得。是名凡夫不共智。云何非凡夫共智。若智凡夫。得非凡夫亦生得。是名非凡夫共智。云何非凡夫不共智。若智凡夫生得。非凡夫不生不得。是名非凡夫不共智。

云何聲聞共智。若智非聲聞生得。聲聞亦生得。是名聲聞共智。云何聲聞不共智。若智非

聲聞生得。聲聞不生不得。是名聲聞不共智。云何非聲聞共智。若智聲聞生得。非聲聞亦生得。是名非聲聞共智。云何非聲聞不共智。若智聲聞生得。非聲聞不生不得。是名非聲聞不共智。

云何如電智。若智少住少間住。如電少住少間住。智亦如是。少住少間住。是名如電智。云何如金剛智。若智無量。無量住無量間住。猶如金剛無量無量住無量間住。智亦如是。無量無量住無量間住。是名如金剛智。復次如電智。若智生斷少煩惱分。猶如電雲間出照少分速滅。智亦如是。斷少煩惱分。是名如電智。復次如金剛智。若智生斷一切煩惱。無餘微細。無不盡速斷。如金剛投於珠石無不破壞摧折。智亦如是。若生已斷一切煩惱。無有龜細不斷不盡者。是名如金剛智。復次如電智。謂智生得須陀洹果斯陀含果阿那含果。是名如電智。復次如金剛智。若智生得阿羅漢果。是名如金剛智。復次如電智。謂智生得須陀洹果斯陀含果阿那含果得阿羅漢果辟支佛。是名如電智。復次如金剛智。如來謂智生於一切法。無礙知見。得自在自由力尊貴勝自在智見無上覺如來十力。成就四無所畏大慈。成就自在轉法輪。如是智是名如金剛智。

云何不定得智。若智得不定得難得。是名不定得智。

云何定得智。若智得定得不難得。是名定得智。

云何行進護持智。若智得非定得難得。非自由力非尊非自在。非所欲處。不如所欲。不盡所欲。行進難得。猶如船逆流難。若得如此智。非定得難得。非由力非尊非自在。非所欲處。不如所欲。不盡所欲。行進難得。是名行進護持智。云何非行進護持智。若智得定得。非難得自由力尊自在。所欲處如所欲盡所欲。易行不難生得。猶如船順流不難。若得如此智。定智不難智自由力尊自在。所欲處如所欲盡所欲行非難生得。是名非行進護持智。

云何一分修智。若智生想有光明不見色。若見色不想有光明。是名一分修智。云何二分修智。若智生想有光明亦見色。是名二分修智。復次一分修智。若智不斷煩惱。若斷煩惱非生智。是名一分修智。復次二分修智。若智亦斷煩惱。是名二分修智。復次一分修智。若智是盡智生非無生智。是名一分修智。復次二分修智。若智生盡智無生智。是名二分修智。

云何盡智。貪欲瞋恚愚癡盡已。我貪欲瞋恚愚癡盡。即於彼智見解。脫方便。是名盡智。云何無生智。貪欲瞋恚愚癡滅已不復生。我貪欲瞋恚愚癡盡不復生。即於彼智見解。脫方便。是名無生智。

云何法住智。若智聖有為境界。是名法住智。云何涅槃智。若智聖涅槃境界。是名涅槃智。復次法住智。除緣如爾。若餘法如爾非不如爾。非異非異物。常法實法。法住法定非緣。是

云何行進護持智。若智得非定得難得。非自由力非尊非自在。非所欲處。不如所欲。不盡所欲。行進難得。猶如船逆流難。若得如此智。非定得難得。非由力非尊非自在。非所欲處。不如所欲。不盡所欲。行進難得。是名行進護持智。云何非行進護持智。若智得定得。非難得自由力尊自在。所欲處如所欲盡所欲。易行不難生得。猶如船順流不難。若得如此智。定智不難智自由力尊自在。所欲處如所欲盡所欲行非難生得。是名非行進護持智。

云何一分修智。若智生想有光明不見色。若見色不想有光明。是名一分修智。云何二分修智。若智生想有光明亦見色。是名二分修智。復次一分修智。若智不斷煩惱。若斷煩惱非生智。是名一分修智。復次二分修智。若智亦斷煩惱。是名二分修智。復次一分修智。若智是盡智生非無生智。是名一分修智。復次二分修智。若智生盡智無生智。是名二分修智。

①餘二除 ②智十(智) ③(若)一 ④智十(智) ⑤[不]一 ⑥(生)十得 ⑦(無量)一 ⑧(住)一 ⑨知見二 ⑩(自)十力 ⑪(非)十自 ⑫[智]一 ⑬智見二知見

名法住智。復次涅槃智。彼涅槃寂靜。是舍是護。是證是依。是不沒是度。是不熱是不燥。是無憂是無惱。是無苦痛。及餘行觀涅槃。若智生。是名涅槃智。

云何方便界。眾界比界觸界思惟界。此色界此無色界。此可見界此不可見界。此有對界此無對界。此聖界此非聖界。此界即於彼。界解。脫方便。是名方便界。云何思惟方便界。若思惟眾思惟比思惟。觸憶念思惟。此善思惟。此不善思惟。正憶念。此邪憶念。此憶念即於彼知見方便解。脫。是名思惟方便。云何非法方便。非法眾。非法比。非法觸思惟非法。此輕罪此重罪此有餘罪此無餘罪。此作惡此非作惡。此眾罪。即於彼知見解。脫方便。是名非法方便。云何除非法方便。除非法方便。除非法方。便。比。除非法方便觸思惟。除非法方便。如是得除非法輕罪。如是除重罪。如此除有餘無餘罪。如是除作。惡。如是除非作惡罪。如是除諸罪。如是除諸罪已。如是勝法除罪。則於彼知見解。脫方便。是名除非法方便。云何入定方便。入定眾入定比。入定觸入定思惟。此入想定無想定。此入隨想定不隨想定。此入離色定。此入勝入定。此入一切入定。如是入諸定如是入諸定已。如是勝法入定。即於知見解。脫方便。是名入定方便。云何出定方便。出定眾出定比。出定觸出定思惟。如是出想定無想定。如是隨想定出不隨想定。如是出離色定出不離色定。如是出勝入定。入一切入定。如是出諸定。如是出

諸定已。如是勝法出定。即於彼知見解。脫方便。是名出定方便。

云何有覺智。若智覺相應共生共住共滅。是名有覺智。云何無覺智。若智非覺相應不共覺生不共住不共滅。是名無覺智。云何有觀智。若智觀相應共生共住共滅。是名有觀智。云何無觀智。若智非觀相應不共生不共住不共滅。是名無觀智。

云何有喜智。若智喜相應共生共住共滅。是名有喜智。云何無喜智。若智非喜相應不共生不共住不共滅。是名無喜智。

云何有味智。若智樂受相應。是名有味智。云何捨智。若智不苦不樂受相應。是名捨智。云何有用智。若智有境界。是名有用智。云何無用智。若智生無境界。是名無用智。復次若智生斷無明。是名無用智。

云何善智。若智修。是名善智。云何不善智。若智斷。是名不善智。云何無記。智若智受若智非報非報法。是名無記智。

云何學智。若智聖非無學。是名學智。云何無學智。若智聖非學。是名無學智。云何非學非無學智。若智非聖。是名非學非無學智。

云何報智。若智受若智善報。是名報智。云何報法智。若智有報。是名報法智。云何非報非報法智。若智無記非我分攝。是名非報非報法智。

云何見斷智。若智不善。非思惟斷。是名見斷智。云何思惟斷智。若智不善非見斷。是名思惟斷智。云何非見斷非思惟斷智。若智無

記。是名非見斷非思惟斷智。

云何見斷因智。若智見斷。若智見斷法報。是名見斷因智。云何思惟斷因智。若智思惟斷。若智思惟斷法報。是名思惟斷因智。云何非見斷非思惟斷因智。若智善若智善法報。若智非報非報法。是名非見斷非思惟斷因智。云何卑智。若智不善。是名卑智。云何中智。若智無記。是名中智。云何勝智。若智善。是名勝智。復次卑智。若智不善若無記。是名卑智。復次中智。若智非聖善。是名中智。復次勝智。若智聖無漏。是名勝智。

云何能智。若智欲界繫。是名能智。云何細智。若智色界繫若不繫。是名細智。云何微智。若智無色界繫。是名微智。復次能智。若智欲界繫。若色界繫。是名能智。復次細智。若智空處識處不用處繫若不繫。是名細智。復次微智。若智非想非非想處繫。是名微智。復次能智。若智欲界繫若不繫。若空處識處不用處繫。是名能智。復次細智。若智非想非非想處繫。是名能智。復次微智。若智不繫。是名微智。云何三。明。憶念宿命證智。眾生生死證智。漏盡證智。云何憶念宿命證智。若智生憶念無量宿命。憶念一生二三四五十二三十四五十五百千生。萬生十萬生無量百生無量千生無量萬生。或無量劫壞。或無量劫成。我本在彼。如此名如此姓如此生。如此食如此命。如此命短。如此命久住。如此處苦樂。從彼終生從彼。於彼終復生彼。如此具足憶念若干宿命。是名憶念宿命智。

證二燈三(界)一(此)十正(此)一(比)十(丘) (彼)一(便)十(除非法方便) (惡)十(罪) (則)二(耶) (出)十(隨) (入)二(出) (觀)二(覺) (智)十(生) (非)一(智)二(若) (若)二十五字(若智不繫是名細智復次微智若智不繫是名細智復次微智若智非想非非想處繫是名微智)三十七字 (智)十(不繫是名細智復次微智若智)十二字 (細)二(微) (復)次(智)十二字 (生)一(千)十萬

證明。云何衆生生死智證明。若智生天眼清淨過於人眼。見衆生生死好色惡色惡道善道卑勝。知衆生如所造業。此衆生身惡行成就。口惡行成就。意惡行成就。誘聖人邪見行邪見業。身壞命終生惡道地獄畜生餓鬼。此衆生身善行成就。口善行成就。意善行成就。不誘聖人。正見行正見因業。身壞命終生善道天上人中。如此天眼清淨過人眼見是。名衆生生死好色惡色善道惡道卑微。知衆生如所造業。是名衆生生死智證明。云何漏盡智證明。若智生漏盡。無漏解脫。心解脫慧解脫。現身自證知成就行。生已盡梵行已立。名稱遠聞。所作已辦更不還有。是名漏盡證智明。是名三明。云何三慧。思慧聞慧修慧。云何思慧。不由他聞。不受他教。不請他說。不聽他法。自思自覺自觀。若智生非修行。是名思慧。云何聞慧。從他聞受。他教。請他說聽他法。非自思非自覺非自觀。若智生。是名聞慧。云何修慧。若修根力覺禪解脫定入定。若修已修若智生。是名修慧。是名三慧。

云何三眼。肉眼天眼慧眼。云何肉眼。若眼我分攝四大所造淨。是名肉眼。云何天眼。若天眼我分攝。是名天眼。云何慧眼。三慧思慧聞慧修慧。是名慧眼。復次。肉眼除天眼我分攝。若餘眼四大所造淨。是名肉眼。復次天眼若天眼我分攝。及修天眼。是名天眼。復次慧眼除修天眼。若餘三慧思慧聞慧修慧。是名慧眼。是名三眼。

云何內身觀內身智。一切內四大色身攝法

一處內四大色身攝法。觀無常苦空無我若智生。是名內身觀內身智。云何外身觀外身智。一切外四大色身攝法。一處外四大色身攝法。法觀無常苦空無我若智生。是名外身觀外身智。云何內外身觀內外身智。一切內外四大色身攝法。一處內外四大色身攝法。觀無常苦空無我。若智生。是名內外身觀內外身智。云何內受觀內受智。一切內受。一處內受。觀無常苦空無我若智生。是名內受觀內受智。云何外受觀外受智。一切外受。一處外受。觀無常苦空無我若智生。是名外受觀外受智。云何內外受觀內外受智。一切內外受。一處內外受。觀無常苦空無我若智生。是名內外受觀內外受智。云何內心觀內心智。一切內心。一處內心。觀無常苦空無我若智生。是名內心觀內心智。云何外心觀外心智。一切外心。一處外心。觀無常苦空無我。若智生。是名外心觀外心智。云何內外心觀內外心智。一切內外心。一處內外心。觀無常苦空無我若智生。是名內外心觀內外心智。云何內法觀內法智。除四大色身攝法受心。餘一切內法。一處內法。觀無常苦空無我若智生。是名內法觀內法智。云何外法觀外法智。除四大色身攝法受心。餘一切外法。一處外法。觀無常苦空無我若智生。是名外法觀外法智。云何內外法觀內外法智。除四大色身攝法受心。餘一切內外法。一處內外法。觀無常苦空無我。若智生。是名內外法觀內外法智。

云何內境界智。思惟內法。若智生。是名內境界智。云何外境界智。思惟外法智生。是名外境界智。云何內外境界智。思惟內外法智生。是名內外境界智。云何衆生境界智。無衆生境界智。復次衆生慈行悲喜捨行思惟智生。是名衆生境界智。云何色境界智。思惟色法智生。是名色境界智。云何無色境界智。思惟無色法智生。是名無色境界智。云何衆生慈行悲喜捨行智生。是名衆生慈行悲喜捨行思惟智生。是名衆生慈行悲喜捨行思惟智。云何無境界智。思惟法智生。是名法境界智。云何無境界智。無境界智。復次思惟過去未來法智生。是名無境界智。云何衆生境界智。無衆生境界智。復次衆生慈行悲喜捨行。是名衆生境界智。云何少智。若少住。少間住。是名少智。云何中智。若智中住。中間住。是名中智。云何無量智。若智無量無量住。無量間住。是名無量智。復次少智。若智少住。少少境界。是名少智。復次中智。若智中住。中中境界。是名中智。復次無量智。若智無量住。無量利無量境界。是名無量智。云何少境界智。若智一衆生。若一法若一行始生。除如來涅槃。是名少境界智。云何中境界智。若智數衆生。若法始生。除如來涅槃。是

①知二智②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[人]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[我]十生②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[他]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[法]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[身]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[心]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[外]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[智]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[無]十(智)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[境]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[少]二(中)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 ①[是]一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺

道智、八聖道。正見正覺正語正業正命正精進正念正定。若智見解*脫方便。是名道智。復次苦智。一切有為有漏苦諦所攝法。若一處有為有漏苦諦所攝法。見苦見無我思惟苦。若智見解*脫方便。是名苦智。復次集智。一切苦因苦集。若一處苦因苦集。見集見無我思惟集。此因此緣成就一切苦。若智見解*脫方便。是名集智。復次滅智。盡一切苦。盡煩惱盡漏法。若一。切處。盡苦盡煩惱盡。漏法。見滅見無我思惟滅。若智見解*脫方便。是名滅智。復次道智。出要正滅苦。若一處聖道出要正滅苦。見道。見無我思惟道。此因此緣盡一切苦。若智見解*脫方便。是名道智。云何法智。若智聖無漏。非比類智一切相。是名法智。云何比智。若智聖無漏比類智一切相無餘。是名比智。云何世智。若知諸衆生。若知法名字語言。若知過去語未來語現在語男女非。男女語一語二語三語衆語無量語一切語。若智見解*脫方便。是名世智。云何他心智。若以智知他心。若智見解*射方便。是名他心智。復次法智。若有為有漏苦諦所攝法。見苦見無我思惟苦。若苦因苦緒苦集。見集見無我思惟集。盡苦盡煩惱盡有漏。見漏見無我思惟滅。若聖道見無我思惟道。及思惟餘法。若於彼聖無漏智非比類智一切相。是名法智。復次比智。若人已行法中生法智。彼於餘法中。如彼彼生如彼相。如彼比類。此如彼彼如此。若聖無漏智比類智一切相。是名比智。復次

世智若知諸衆生。若知法數。若共施設語言名字。若色受想行識。若苦集滅道。若地獄畜生餓鬼人天。若智見解*脫方便。是名世智。復次他心智。若以智知他衆生他人人數及心。有愛心如實知有愛心。無愛心如實知無愛心。有瞋恚心如實知有瞋恚心。無瞋恚心如實知無瞋恚心。有愚癡心如實知有愚癡心。無愚癡心如實知無愚癡心。少心如實知少心。實心如實知實心。不定心如實知不定心。定心如實知定心。非解脫心如實知非解脫心。解脫心如實知解脫心。有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。若智見解*脫方便。是名他心智。云何法辯。法乘法比法觸。若聖智無餘。是名法辯。云何義辯。義衆義比義觸。若聖智無餘。是名義辯。云何辭辯。辭衆辭比辭觸。若聖智無餘。是名辭辯。云何應辯。應衆應比應觸。若聖智無餘。是名應辯。復次法辯。除辭辯應辯。除辭辯。若聖智無漏智非比類智知相無餘。是名法辯。復次義辯。除辭辯。若聖智無漏智比類智知相無餘。是名義辯。復次辭辯。除辭辯。若聖智無漏智知相無餘。是名辭辯。復次應辯。除辭辯。若聖智無漏智知相無餘。是名應辯。若色受想行識。若苦集滅道。若地獄畜生餓鬼人天。若當如是說如是辭如是分別。若智見解*脫方便。是名辭辯。復次應辯。辯應謂智。以如是智知。若智見解*脫方便。是名應辯。復次法辯。若色受想行識。若苦集滅道。非義觸。非因觸。非緒觸。非緣觸。若於聖無漏智非比類智知相無餘。是名

法辯。復次義辯。義觸因觸緒觸緣觸。以此義若色受想行識。若苦集滅道。若於無漏智比類智知相無餘。是名義辯。復次辭辯。以得三辯法。辯義。辯辭。辯辭。辯辭。若言語開解無礙無纏無滯。若契明了。若知見解*脫方便。是名辭辯。復次應辯。以得三辯法。辯義。辯辭。辯辭。辯辭。若隨開無礙無纏無邊無量無盡不可思議不可計數。若知見解*脫方便。是名應辯。復次法辯。法智是名法辯。復次義辯。比智是名義辯。復次若分別法不可思議。是名法辯。復次若思分別思義。是名義辯。何謂辯。辯謂智緣。智謂智力智。謂勝智。謂金剛智。謂無餘智如此四辯成就法方便。義方便。經方便。辭方便。應方便。過去方便。未來方便。過去未來方便。若彼成就此四辯。若有人欲盡此經義。無有是處。是名四辯。云何作智非離智。若非聖有報。是名作智非離智。云何離智非作智。若聖有報能斷煩惱。是名離智非作智。云何作離智。無一智若作若離。彼若作智非離智。離智非作是名作離智。云何非作非離智。除作離智。若離智。是名非作非離智。復次作智非離。若欲界有報。是名作智非離。云何離智非作。若聖有報能斷煩惱。是名離智非作。復次作離智。若智生斷欲界煩惱。受色界無色界有。是名作離智。復次非作非離智。若智無報。若智聖有報非斷煩惱。是名非作非離智。有染

①(緒苦集)一②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①男女二女男②射二脫③(於)一④彼二似⑤知二智⑥知二如⑦(有愚知)十一字一⑧嫉二疾宮⑨(不)一⑩(定心心)七字一⑪心十(解脫心)⑫辯二辨⑬若二善⑭開十(解)⑮若知二知若⑯緣智謂智力智二智力⑰作十(智)⑱(非)一⑲離十(智)⑳(智)一

無染有。扼無*扼亦如是

云何智果智非斷果。智。若智生已生智非斷
煩惱。是名智果智非斷果。云何斷果智非
智果。若智生斷煩惱非智生。是名斷果智非
智果。云何智果斷果。智。若智生已智生斷煩
惱。是名智果斷果。云何非智果非斷果。智。
除智果斷果。若餘智。是名非智果非斷果
智復次智果智非斷果。若智生得非聖五通
若非聖五通。或得若一若二。是名智果智非
斷果。復次斷果智非智果。若智生得斯陀含
果。是名斷果智非智果。復次智果斷果。若
智生得須陀洹果。斯陀含果阿那含果阿羅
漢果。是名智果斷果。復次非智果非斷果
智。若智無報。若智有報。非智生非能。斷煩
惱。是名非智果非斷果。智果得果亦如
是

云何盡智非覺。若智生。盡煩惱非覺智。除盡
智若餘智。是名。盡智非覺。云何覺智非盡
若智生得非聖五通。或若一若二。是名覺智
非盡。云何盡覺智。若智生得須陀洹果。斯陀
含果阿那含果阿羅漢果。是名盡覺智。云何
非盡非覺智。若智有報。非能斷煩惱
非生智。是名非盡非覺智。解脫亦如是。

舍利弗阿毘曇論卷第九

舍利弗阿毘曇論卷第十

姚秦*罽賓三藏*曇摩耶舍
共*曇摩崛多*等 譯

非問分智品第四之二

云何退分智。若智不善。是名退分智。云何住
分智。若智無記。是名住分智。云何增長分智。
若智非聖善。是名增長分智。云何解分智。若
智聖有報能斷煩惱。是名解分智。云何退分
智。若智生退於非聖善法非住非增長。是名
退分智。云何住分智。若智生於非聖善法。住
不退不增長。是名住分智。云何增長分智。若
智生增長非聖善法不退不住。是名增長分
智。云何解分智。若其解解相應。是名解分智。
云何退分智非住分智。若有退非住。是名退
分智非住分智。云何住分智非退分智。若有住
非退。是名住分智非退。云何退分住分智。
無一智退分住分智。彼若住分智非退分。若
退分者非住分。是名退分住分智。云何非
退非住分智。除退分住分智。若餘智見。名非
退非住分智。云何退分智非增長分智。若有
退非增長。是名退分智非增長。云何增長分
智非退。智若增長非退。是名增長分智非退。
云何退分增長分智。無一智退分增長分。彼
若退分非增長分智。增長分智非退分。是
名退分增長分智。云何非退分非增長分智。
除退分增長分智。若餘智是名非退分非增
長分智。云何住分智非解分智。若有住分

非解。是名住分智非解。云何解分智非住分
智。若有解非住。是名解分智非住。云何住分
解分智無一智。若住分解分。若住分智非解
分解分智非住分。是名住分解分智。云何非
住分非解分智。除住分解分智。若餘智。是名
非住分非解分智。云何增長分智非解分智。
若有增長非解。是名增長分智非解分。云何
解分智非增長分智。若有解非增長。是名解
分智非增長分。云何增長分解分智。無一智
若增長分解分。若增長分智非解分解分智
非增長分。是名增長分解分智。云何非增長
分非解分智。除增長分解分智。若餘智。是名
非增長分非解分智

云何五智。如世尊說。修無量義定心等明照。
比丘修此定已。無量義定心等明照已。內五
智生。何等五。此定現世樂後受樂報內生智。
此定聖無染內生智。此定聖人親近內生智。
此定寂靜勝妙聖心得解脫得除惡法內生智。
憶念入此定憶念出此定內生智。修定無量
無量心等明照。比丘修定已。無量心等明照
生此五智。是名五智

云何六通。神足智證通。天耳智證通。觀心心
數法智證通。憶念宿命智證通。衆生生死智
證通。漏盡智證通。云何神足智證通。若智生
受無量神足動大地。以一爲多以多爲一。近處
遠處牆壁山崖岸通達無礙如虛空。結加跌坐。
往來空中如飛鳥。入地如水履水如地。身出
烟焰如大火聚。日月神力威德難量。手能捫
摸。乃至梵天身得自在。是名神足智證通。云

①扼二輓②* ③[智]一④⑤ ⑥智二斷⑦ ⑧智十(若智)⑨ ⑩[斯陀含果]一⑪* ⑫[斷]一⑬ ⑭[盡煩惱]一⑮⑯⑰ ⑱(覺)十智
⑲⑳ ⑳盡智二非盡⑳ ㉑云何二復次㉒⑳ ㉓通二道㉔ ㉕脫二射㉖⑳ ㉗此下聖本有光明皇后頌文 ㉘論二非問分
㉙第九二第八㉚⑳ 第八下㉛ ㉜第十二第九㉝⑳ 第九上㉞ ㉟(非問...二)九字二(分智品之餘)五字㉠㉡ ㉢住十(名退不
增長是名退分智云何住分智若智生於非聖善法住)十二四字 ㉣退二通 ㉤(非)一 ㉥者二智 ㉦(分)一 ㉧心二止
㉨生二法 ㉩崖二岸 ㉪

何天耳智證通。若智生天耳過於人耳。聞二種聲。人非人聲。是天耳智證通。云何觀心。心數法智證通。若智生知他衆生他人心心數。若有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。有慧心如實知有慧心。無慧心如實知無慧心。有癡心如實知有癡心。無癡心如實知無癡心。疾心如實知疾心。亂心如實知亂心。少心如實知少心。貴心如實知貴心。不定心如實知不定心。定心如實知定心。非解脫心如實知非解脫心。解脫心如實知解脫心。有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。是名觀心心數智證通。云何憶念宿命智證通。若智生憶念無量若干宿命。憶念一生二三四五十二三三十四五十五百千生萬生十萬生無量。十生無量百生無量千生無量百千萬生。乃至若劫成劫壞若劫成壞。無量劫成無量劫壞無量劫成。我本在彼。如是名如是姓如是生。如是食如是命。如是久壽如是短壽。如是受苦樂。從彼死生彼。從彼死生彼。已後從死生彼。從死生此。如是有行成就。憶念若干宿命。是名宿命智證通。云何衆生生死智證通。若智生天眼清淨過人。見衆生生死好色惡色善道惡道卑勝。知衆生如所造業。衆生身惡行成就。口惡行成就。意惡行成就。誘聖人邪見行。緣。邪見故。身壞命終生惡道地獄畜生餓鬼。衆。生身善行口善行意善行成就。不誘聖人正見行緣正見故。身壞命終生善道天上人中。如是天眼清淨過人。是名衆生生死智證通。云

何漏盡智證通。若智生有漏盡得無漏心解脫慧解脫。現世自證知成就行。我已盡梵行已立。所作已辦不復還有。是名漏盡智證通。是名六通。

云何七方便。如世尊說。比丘七處方便三種觀。此法中純善遠聞。謂尊丈夫。云何比丘有七處方便。如比丘。知色知色集知色滅知色滅道。知色味。知色過患知色出。知受知受集知受滅知受滅道。知受味知受過患知受出。知想想集知想滅知想滅道。知想味知想過患知想出。知行知行集知行滅知行滅道。知行味知行過患知行出。知識知識集知識滅知識滅道。知識味知識過患知識出。云何比丘知色。如比丘四大所造色如實知。比丘如是知色。云何比丘知色集。如比丘以愛集知色。如比丘知色知色集。云何比丘知色滅。如比丘愛滅以愛滅知色滅。比丘如是知色滅。云何比丘知色滅道。如比丘知實知八聖道正見正覺正語正業正命正精進正念正定。如是比丘知實知色滅道。云何比丘知色味。若綠色生喜樂是色味。如是比丘知色味。云何比丘知色過患。若色無常苦變異法是色過患。如是比丘知色過患。云何比丘知色出。若色欲染調伏欲染斷滅是出。如是比丘知色出。若有沙門婆羅門。如是知色知色集知色滅知色滅道。知色味知色過患知色出。若厭色離欲滅趣道。若善趣若善趣人。於是法中明了。及餘沙門婆羅門。如是知色知色集知色滅知色滅道。知色

味知色過患知色出。若厭色離欲證滅解脫不復生。善解脫若善解脫人。純善若純善人。無復生處云何比丘知受。六受身。眼觸受耳鼻舌身意觸受。是名六受身。比丘如是知受。云何比丘知受集。如比丘以觸集知受集。如是知受集。云何比丘知受滅。如比丘以觸滅知受滅。如是比丘知受滅。云何比丘知受滅道。如比丘知受滅道。如比丘知實知八聖道正見正覺正語正業正命正精進正念正定。如是比丘知受滅道。云何比丘知受味。若緣受生喜樂是受味。如是比丘知受味。云何比丘知受過患。受無常苦變異法是受過患。如是比丘知受過患。云何比丘知受出。受欲染調伏欲染斷滅是受出。如是比丘知受出。若有沙門婆羅門。如是知受知受集知受滅知受滅道。知受味知受過患知受出。厭受離欲證滅解脫不復生。善解脫若善解脫人。純善若純善人。無復生處。云何比丘知想。六想身。色想聲香味觸法想。是名六想身。如是比丘知想。云何比丘知想集。如比丘以觸集知想集。如是比丘知想集。云何比丘知想滅。比丘以觸滅知想滅。如是比丘知想滅。云何比丘知想滅道。如比丘知實知八聖道正見乃至正定。如是比丘知想滅道。云何比丘知想味。若緣想生喜樂是想味。如是比丘知想味。云何比丘知想過患。想無常苦變異法是想過患。如是比丘知想過

○二一三○ ○貴一價○* ○十(萬)○ ○[乃至]一○ ○(若)十劫○ ○從彼二日後從○ ○(已後)生○ 九字二(從死生)三字 ○邪二取○ ○(生)一 ○(色)一 ○色十(集) ○(知色)一 ○(精)十進 ○(受)一 ○

惟。是出定有覺有觀。是無覺有觀。是無覺無觀。是空。是無相。是無願。是出定。是出定已。是法勝出定。若知見解射方便。是名出定方便。云何定境界方便。若思惟法定生。若法是定境界。若知見解射方便。名定境界方便。云何定行處方便。定行謂四念處。若知見解射方便。是名定行處方便。云何定樂方便。定樂謂除樂樂。定樂名字。定樂觸。定樂思惟。是有覺有觀定樂。是無覺有觀。是無覺無觀。是空。是無相。是無願。定。是定樂。是法勝定樂。若知見解射方便。是名定樂方便。云何轉定方便。於初禪心起入二禪心住。於初禪心起入三禪心住。於初禪心起入四禪心住。於二禪心起入三禪心住。於二禪心起入四禪心住。於三禪心起入四禪心住。若知見解射方便。是名轉定方便。何謂善取。順不順法相善思惟善解。云何非定順法。若法不善。是名非定順法。云何定順法。若法善。是名定順法。復次非定順法。若法有勝。是名非定順法。復次定順法。若法無勝。是名定順法。復次非定順法。若思惟法定不生。是名非定順法。復次定順法。若思惟法定生。是名定順法。善取法相善思惟善解。是謂善取順不順法。相善思惟善解。是名九方便。

云何如來十力。處非處智如來力。過去未來現在業受業處因報智如來力。他衆生他人根勝非勝智如來力。他衆生他人若干解智如來力。若干界無量世界智如來力。一切道至處智如來力。禪解脫定入定垢淨起智如來

力。憶念宿命證智如來力。衆生生死證智如來力。有漏盡智如來力。何謂處非處如來力。云何處非處。非處謂身行惡口行惡意行惡。謂受愛喜適意報非處。若身行惡口行惡意行惡。受不喜不愛不適意報有是處。非處謂身行善口行善意行善。謂受不喜不不適意報非處。若身行善口行善意行善。受愛喜適意報有是處。非處謂身行不善口行不善意行不善。成就誘聖人邪見業。故彼因緣身壞命終。生善道入天中非處。若身行不善口行不善意行不善。成就誘聖人邪見行。緣邪見業故彼因緣故身壞命終。生惡道地獄中有是處。非處若身善行口善行意善行。成就不誘聖人正見行。緣正見業因緣故。身壞命終生惡道地獄中非處。若身善行口善行意善行。成就誘聖人正見行。緣行正見業因緣故。身壞命終。生善道入天中有是處。非處若見具足人故斷母命無有是處。是處若凡夫人故斷母命有是處。非處若見具足人。故斷父命。無有是處。是處若凡夫人故斷父命有是處。非處若見具足人。故斷羅漢聲聞命無是處。是處若凡夫人。故斷羅漢命有是處。非處若見具足人破衆僧有是處。非處若見具足人。於如來身惡心出血無有是處。是處若凡夫人。於如來身惡心出血有是處。非處若見具足人。於是法外求餘尊勝。無有是處。是處若凡夫人。於是法外求餘尊勝有是處。非處若見具足人。於是法外求餘受供養者。無有

是處。是處若凡夫人。於是法外求餘受供養者有是處。非處若見具足人。於是法外求餘沙門婆羅門說正見。無有是處。是處若凡夫人。於是法外求餘沙門婆羅門說正見有是處。非處若見具足人。於是法外若餘沙門婆羅門說法。讚言此一切智一切見。無有是處。是處若凡夫人。於是法外若餘沙門婆羅門說法。讚言此一切智一切見有是處。非處若見具足人。若於法外若有沙門婆羅門。異緣實我世常。此實餘虛妄。我世非常。此實餘虛妄。我世常非常。此實餘虛妄。我世非常非常。此實餘虛妄。我世有邊。此實餘虛妄。我世無邊。此實餘虛妄。我世有邊無邊。此實餘虛妄。我世非有邊非無邊。此實餘虛妄。命是身。此實餘虛妄。身是命。此實餘虛妄。身命異。此實餘虛妄。無命無身。此實餘虛妄。有如是去涅槃。此實餘虛妄。無如是去涅槃。此實餘虛妄。有如是去無如是去涅槃。此實餘虛妄。非有如是去非無如是去涅槃。此實餘虛妄。異緣實爲真實。無有是處。是處若凡夫人。若於是法外。若沙門婆羅門有異緣實我世常。此實餘虛妄。乃至非有如是去非無如是去涅槃。異緣實爲真實有是處。非處。

舍利弗阿毘曇論卷第十

①故二以② ③緣邪見業故彼二以彼邪見業④ ⑤(有)十是⑥ ⑦[有]一⑧ ⑨[邊]一⑩ ⑪大頁 ⑫不分卷及品⑬

誘聖人正見行。緣正見業因緣故。身壞命終
生善道天上。是謂處。若凡夫人故斷母命。故
斷父。命羅漢聲聞命。故破衆僧。故於如來身
惡心出血。是謂處。若凡夫人。於是法外求餘
尊勝。求餘受供養。求餘沙門婆羅門說正見。
讚餘沙門婆羅門言。是一切智一切見。是謂
處。若凡夫人。於是法外若有沙門婆羅門異
緣實我世常。此實餘妄語。乃至非有如去非
無如去涅槃。以異緣實爲真實。是謂處。若
凡夫人以戒盜爲淨。以邪緣求吉。墮地獄畜
生餓鬼。受第八人身。是謂處。若一轉輪聖王。
若轉輪聖王生於中國。若轉輪聖王生尊貴
家。若利利大姓家。若婆羅門大姓家。若長者
大姓家。若端正姝妙身相成就。若轉輪聖王
生多財寶金銀珂貝珊瑚摩尼真珠琉璃象馬
車乘。值使穀帛倉庫盈滿。是謂處。若一如來
無所著等正覺出世。若如來無所著等正覺
生於中國。若如來無所著等正覺生尊貴家
利利大姓家婆羅門大姓家。端正姝妙身相
成就。若如來無所著等正覺生多財寶家。有
金銀錢財玉貝象馬車乘。值使穀帛倉庫盈
滿。是謂處。若男子爲轉輪聖王。若男子爲如
來無所著等正覺。若男子爲天帝釋爲魔王
爲梵王。是謂處。復次如來說。如此時地獄中
住。如此時畜生中住。如此時餓鬼中住。如此
時人中住。如此時天上住。是謂處。何謂因。若
業因貪。若業因恚。若業因癡。若業因不貪。若
業因不恚。若業因不癡。是謂因。復次色。有此
因此方便。受想行識有此因此方便。入初禪

定。有此因此方便。入第二第三第四禪定。斷
惡法成就善法。是謂因。何謂報。若業受業五
道中受報。地獄畜生餓鬼人天色受想行識
是謂報。彼過去未來現在業受業處因報。如
來如實知。如是如來過去未來現在。受業處
因報如實知。如實分別如實解。如是緣慧知
見解射方便。是名過去未來現在業受業處
因報智如來力。何謂如來力。如來此處由智
力尊自在勝尊最上無勝善人大人。如來如
此力成就。所欲處如所欲盡所欲。入定出定。
是謂如來力。

華鉢頭摩華拘頭摩華分陀利華。已出水空中
住不著水。如是如來他衆生他人根勝非勝如
實知。此衆生利根軟根善敬善解。恐後沈沒
如金剛。以不聞法便退。當有知法者。此衆生
若根成就有斷母命。有斷父命。有斷阿羅漢
聲聞命。有破衆僧。有於如來身惡心出血。此
衆生若根成就。有於是法外若求餘尊勝。有
求餘受供養者。謂餘沙門婆羅門能說正見。
有讚歎餘沙門婆羅門。此是一切智一切見。
此衆生若根成就。有於是法外。若有餘沙門
婆羅門。異緣實我世常餘虛妄。乃至非有如
去非無如去涅槃。比實餘虛妄。謂異緣實爲
真實。此衆生若根成就。有以戒盜爲淨邪緣
求吉。墮地獄畜生餓鬼。受第八人身。此衆生
若根成就。有生利利大姓家婆羅門大姓家居
士大姓家。此衆生若根成就。有生四天王
三十三天焰天兜率天化樂天他化自在天。
此衆生若根成就。有生梵天梵輔天梵衆天
大梵天。此衆生若根成就。生光天少光天無
量光天光音天。此衆生若根成就。生淨天少
淨天無量淨天遍淨天。此衆生若根成就。生
實天少實天無量實天果實天。此衆生若根
成就。有生無想天。此衆生若根成就。有生無
勝天無熱天善見天妙善見天阿迦膩吒天。
此衆生若根成就。有生空處天識處天不用
處天非想非非想處天。此衆生若根成就。有
離欲惡不善法有覺有觀。離生喜樂。成就初
禪行。此衆生若根成就。有滅覺觀。內正信一
心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。此衆生

何謂他衆生他人根勝非勝智如來力。云
何他衆生他人。除諸佛世尊。若餘衆生。是名
他衆生他人。云何根。二十二根。眼根耳根鼻
根舌根身根男根女根。命根樂根苦根喜根
憂根捨根意根信根進根念根定根慧根未知
欲知根根已知根。是名根。云何非勝根。若
根不善。是名非勝根。云何勝根。若根善。是名
勝根。復次非勝根。若根非是聖。是名非勝根。
復次勝根。若根是聖。是名勝根。復次非勝根。若
根聖軟。是名非勝根。復次勝根。若根聖利。是
名勝根。如來於他衆生他人根勝非勝如實
知。此衆生利根軟根善敬善解。恐後沈沒如
金剛。以不聞法便退。當有知法者。譬如。優
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利華
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利
華。有優鉢羅華鉢頭摩華拘頭摩華分陀利
華。從泥出未出水。有優鉢羅華鉢頭摩華拘
頭摩華分陀利華。從泥出與水等。有優鉢羅

何謂他衆生他人根勝非勝智如來力。云
何他衆生他人。除諸佛世尊。若餘衆生。是名
他衆生他人。云何根。二十二根。眼根耳根鼻
根舌根身根男根女根。命根樂根苦根喜根
憂根捨根意根信根進根念根定根慧根未知
欲知根根已知根。是名根。云何非勝根。若
根不善。是名非勝根。云何勝根。若根善。是名
勝根。復次非勝根。若根非是聖。是名非勝根。
復次勝根。若根是聖。是名勝根。復次非勝根。若
根聖軟。是名非勝根。復次勝根。若根聖利。是
名勝根。如來於他衆生他人根勝非勝如實
知。此衆生利根軟根善敬善解。恐後沈沒如
金剛。以不聞法便退。當有知法者。譬如。優
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利華
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利
華。有優鉢羅華鉢頭摩華拘頭摩華分陀利
華。從泥出未出水。有優鉢羅華鉢頭摩華拘
頭摩華分陀利華。從泥出與水等。有優鉢羅

何謂他衆生他人根勝非勝智如來力。云
何他衆生他人。除諸佛世尊。若餘衆生。是名
他衆生他人。云何根。二十二根。眼根耳根鼻
根舌根身根男根女根。命根樂根苦根喜根
憂根捨根意根信根進根念根定根慧根未知
欲知根根已知根。是名根。云何非勝根。若
根不善。是名非勝根。云何勝根。若根善。是名
勝根。復次非勝根。若根非是聖。是名非勝根。
復次勝根。若根是聖。是名勝根。復次非勝根。若
根聖軟。是名非勝根。復次勝根。若根聖利。是
名勝根。如來於他衆生他人根勝非勝如實
知。此衆生利根軟根善敬善解。恐後沈沒如
金剛。以不聞法便退。當有知法者。譬如。優
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利華
鉢羅花池波頭摩華池拘頭摩華池分陀利
華。有優鉢羅華鉢頭摩華拘頭摩華分陀利
華。從泥出未出水。有優鉢羅華鉢頭摩華拘
頭摩華分陀利華。從泥出與水等。有優鉢羅

◎命十(斷)◎◎謂二爲◎◎錢財二財錢◎◎[受]一◎◎◎卷第九上終◎◎◎卷第九下非問分智品第四之三首◎◎譯號同異
如首卷◎優鉢羅二優婆塞◎◎[姓]一◎◎天王十(天)◎◎

若根成就。有離喜捨行念智身受樂。如諸聖人說捨念樂行。成就第三禪行。此眾生若根成就。有斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念清淨。成就四禪行。此眾生若根成就。有離一切色想滅瞋恚想。不思惟。若干想。成就無邊空處行。此眾生若根成就。有離一切識無邊識處行。此眾生若根成就。有離一切識處。成就不用處行。此眾生若根成就。有離一切不用處。成就非想非非想處行。此眾生若根成就。有受無量若干神足能動大地。如以一為多以多為一。乃至梵天身得自在。此眾生若根成就。有天耳清淨過人聞二種聲。人聲非人聲。此眾生若根成就。有知他眾生他人心。有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。乃至知有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。此眾生若根成就。有憶念若干宿命。念一生二生三生。乃至成就此行。此眾生若根成就。天眼清淨過人。見眾生生死好色惡色善道惡道卑勝。乃至如實知眾生所造業。此眾生若根成就。有上正決定得須陀洹果斯陀含果阿那含果得阿羅漢果。此眾生若根成就。有力由有力自在成就行。此眾生若根成就。無有斷母命。乃至由力自在成就行。如來如此他眾生他人根勝非勝。如實選擇分別緣慧。知見解射方便。是名他眾生他人根勝非勝智如來力。何謂如來力。彼如來此處由智力尊自在。力勝力最勝最上無過者善人。如來此力成就。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。何謂

他眾生他人若干解智如來力。云何他眾生他人。除諸佛世尊。若餘眾生。是名他眾生他人。云何解若心向彼心至彼。尊上彼解彼。是名解。如來他眾生他人。如實知若干解。此眾生有解卑有解勝。眾生有解惡有解善有解生死有解涅槃。眾生有解色。有解聲香味觸法。眾生有解利利大姓婆羅門大姓居士大家。眾生有解四大天王天三十三天焰天兜率天化樂天他化自在天。眾生有解梵天梵輔天梵衆天。大梵天。眾生有解光天少光天無量光天光音天。眾生有解淨天少淨天無量淨天遍淨天。眾生有解實天少實天無量實天果實天。眾生有解無想天。眾生有解無勝天無熱天善見天妙善見天阿迦膩吒天。眾生有解空處天識處天不用處天非想非非想處天。眾生有解入初禪第二第三第四禪。眾生有解入空處定識處定不用處定入非想非非想處定。眾生有解神足證智。有解天耳證智。有解心擇證智。有解憶念宿命證智。有解解眾生生死證智。眾生有解上正決定得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。眾生有解由力尊自在。眾生若能解見斷母命。有斷父命。有斷阿羅漢聲聞命。有破壞於僧。有於如來身惡心出血。眾生若解有於是法外求餘尊勝求堪受供養者。有讀餘沙門婆羅門能說正見。讚餘沙門婆羅門。此是一切智一切見。眾生若能有於是法外有沙門婆羅門異緣實我世常。此實餘虛妄。乃至非有如去非無如去涅槃。此實餘虛妄。眾生若解有以

戒盜為淨。邪緣求吉。墮地獄畜生餓鬼。受第八人身。眾生若解有生利利大姓家婆羅門大姓家居士大家。眾生若解生四天王天三十三天焰天兜率天化樂天他化自在天。眾生若解有生梵天梵輔天梵衆天大梵天。眾生若解有生光天少光天無量光天光音天。眾生若解有生淨天少淨天無量淨天遍淨天。眾生若解有生實天少實天無量實天果實天。眾生若解有生無想天。眾生若解有生無勝天無熱天善見天妙善見天阿迦膩吒天。眾生若解有生空處天識處天不用處天非想非非想處天。眾生若解有離欲惡不善法有覺有觀離生喜樂成就初禪行。眾生若解有滅覺觀內淨信一心無覺無觀定生喜樂成就二禪行。眾生若解有離喜捨行念知身受樂。如諸聖人解捨念樂行成就三禪行。眾生若解有斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念淨成就四禪行。眾生若解有離一切色想滅瞋恚想。不思惟若干想成就無邊空處行。有離一切空處成就無邊識處行。有離一切識處成就不用處行。有離一切不用處成就非想非非想處行。眾生若解有獲若干神足能動大地。以一為多以多為一。乃至梵天身得自在。眾生若解有天耳清淨過人聞二種聲人非人聲。眾生若解有他眾生他人知他眾生心。有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。乃至有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。眾生若解有憶念若干宿命。憶念一身二身三身。乃至此成就行。眾生若解有天眼

◎若干=若干◎ ◎[大梵天]-◎ ◎能=解◎ ◎心]-◎

清淨過人。見衆生生死好色惡色善道惡道卑勝。乃至知衆生如所造業。衆生若解有上正決定得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。衆生若解由力尊自在。衆生若解無有斷母命。衆生若解無有乃至由力尊自在。如是如來他衆生他人若干解。如實選擇分別緣慧。知見解射方便。是名他衆生他人若干解智如來力。何謂如來力。如來此處由智力尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大大。如來此力成就。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。

何謂若干界無量界及世智如來力。云何若干界色界非色界。乃至十八界。如界品說是名無量界。云何世。有二種世。衆生世行世。云何衆生世。衆生謂五道中生地獄畜生餓鬼人天中。是名衆生世。云何行世。行謂五受陰。色受陰受想行識受陰。是名行世。如來於此若干無量界世如實知。如是如來若干界無量界及世。如實選擇分別緣慧。知見解射方便。是名若干界無量界世智如來力。何謂如來力。如來此處智由力尊自在力勝力最勝最上無有過者。善人大大。如來成就此力。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。何謂至一切道智如來力。云何至一切道無有一衆生一法一智一道能至一切道。唯有如來報法。得名至一切道。如來如實知至一切道。若成此道行。能牽至短命久命。若成此道行。能牽至多病少病。若成此道行。能牽至卑賤尊貴。若成此道行。能牽至醜陋姝妙。若成

此道行。能牽至少賤多賤。若成此道行。牽至少威德多威德。若成此道行。牽至無智慧有智慧。若成此道行。能牽至刹利大姓婆羅門大姓居士大家。若成此道行。牽至四天王天三十三天焰天兜率天化樂天他化自在天。多修此道。牽至於梵天梵輔天梵衆天大梵天。多修此道行。牽至於光天少光天無量光天光音天。多修此道。牽至於淨天少淨天無量淨天遍淨天。多修此道。牽至實天少實天無量實天果實天。多修此道。牽至無想天。多修此道。牽至無勝天無熱天善見天妙善見天阿迦膩吒天。多修此道。牽至空處天識處天不用處天非想非非想處天。多修此道。能入初禪定二禪三禪四禪定。多修此道。能入空處定識處不用處非想非非想處定。多修此道。得神足證智。得天耳證智。得心擇證智。得憶念宿命證智。得衆生生死證智。此道苦難解。此道苦速解。此道樂難解。此道樂速解。多修此道。能上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。多修此道。得由力尊自在。衆生若行。有斷母命。有斷父命。有斷阿羅漢聲聞命。有破衆僧有於如來身惡心出血。衆生有於是法外求餘尊勝。有求餘供養者。有求餘沙門婆羅門能說正見者。有讚餘沙門婆羅門言是一切智一切見衆生。若行有於是法外求餘沙門婆羅門。異緣實我世常。此實餘虛妄。我世非常。此實餘虛妄。乃至非有如去非無如去涅槃。此實餘虛妄。謂異緣實爲真實。衆

生若行有以戒盜爲淨。邪緣求吉。墮地獄畜生餓鬼。受第八人身。衆生若行有生刹利大姓家婆羅門大姓家居士大家。衆生若行有生四天王天三十三天焰天兜率天化樂天他化自在天。衆生若行有生梵天梵輔天梵衆天大梵天。有生光天少光天無量光天光音天。衆生若行有生淨天少淨天無量淨天遍淨天。衆生若行有生實天少實天無量實天果實天。有生無想天。此衆生若行有生無勝天無熱天善見天妙善見天阿迦膩吒天。衆生若行有生空處天識處天不用處天非想非非想處天。衆生若行有離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。有滅覺觀內淨信一心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。有離喜捨行念知身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。有斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念淨。成就四禪行。衆生若行有離一切色想滅瞋恚想。不思惟若干想成就無邊空處行。有離一切空處成就無邊識處行。有離一切識處成就不用處行。衆生若行有離一切不用處成就非想非非想處行。衆生若行有受無量若干神足能動大地。以一爲多。以多爲一。乃至梵天身得自在。有天耳清淨過人聞二種聲。人非人聲。有知他衆生他人人心。有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。乃至有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。若憶念無量若干宿命。一生二生三生。乃至成就法行。若天眼清淨過人。觀衆生生死好色惡色善欲惡欲卑勝。乃至知衆

◎念二命◎ ◎此十道◎ ◎實一◎ ◎衆生二樂生◎

生如所造業。衆生若行有得上正決定。得須陀洹果斯陀含果阿那含果阿羅漢果。衆生若行爲得由力尊自在。衆生若行無有斷母命。乃至無有得由力尊自在。如是如來至一切處道。如實選擇分別緣慧知見解射方便。是名至一切處道智如來力。何謂如來力。如來此處由智力尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大人。如來此力成就。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。

何謂禪解脫定入。定垢淨起智如來力。云何禪。如比丘離欲惡不善法有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。滅覺觀內淨信一心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。離喜捨行念。知身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念淨。成就四禪行。是名禪。云何解脫。色觀色。初解脫。內無色想。滅瞋志想不思惟若。干想。成就無邊空處行。四解脫。離一切空處。成就無邊識處行。五解脫。離一切識處。成就無所有處行。六解脫。離一切不用處。成就非非非想處行。七解脫。離一切非非非想處。成就滅受想行。八解脫。是名解脫。云何定。有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。空定無。相定無願定。是名定。云何入定。入想定無想定隨想*定不隨想定不共色定共色定無勝定。一切入定。是名入定。云何垢。欲垢瞋恚垢愚癡垢煩惱垢障蓋繫縛惡行垢。及餘垢法。若禪解脫定入定垢。不淨不起。不清不妙汚染業無光明。是

名垢。云何淨。若欲盡瞋恚盡愚癡盡。煩惱盡障蓋繫縛惡行盡。及餘垢法盡。若禪解脫定入定無垢淨。起清妙不汚染業有光明。是名淨。云何起。如初禪起心入二禪。如初禪起心入三禪。如初禪起心入四禪。如二禪起心入三禪。如二禪起心入四禪。如三禪起心入四禪。是名起。復次若淨即是起。若起即是淨。是謂淨起。彼如來於禪解脫定入定垢淨起如實知。如是如來於禪解脫定入定垢淨起。選擇分別緣慧知見解射方便。是名禪解脫定入定垢淨起智如來力。何謂如來力。如來此處智力由尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大人。如來此力成就。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。

何謂憶念宿命智證如來力。如來憶念自及他若干宿命。憶念若一生二生三生四生五生。若十二三三十四五十五百生。若干生。百千生無量百生無量千生。若劫成若劫壞。若劫成壞若無量劫成。無量劫壞。無量劫成壞。我本在彼。如是名如是姓如是生。如是飲食如是命。如是命長短。如是受苦樂。從彼終生彼。從彼終生此。成就行。憶念若干宿命。如人從自聚落至他聚落。在彼聚落。若行若住若坐若語若默。從彼聚落至餘聚落。若行若住若坐若語若默。此人後時來至自聚落。憶念前一切聚落不以爲難。我從自聚落至他聚落。我在彼聚落。如是行如是住如是坐。如是語如是默。我從彼聚落至餘聚落。

我在彼聚落。如是行如是住如是坐。如是語如是默。我從彼聚落復至餘聚落。如是行如是住如是坐。如是語如是默。我還至自聚落。如是如來憶念自及他無量若干宿命。憶念若一生二生三生。乃至此成就行。如是如來憶念宿命智證。如實選擇分別緣慧知見解射方便。是名憶念宿命智證如來力。何謂如來力。如來此處由智力尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大人。此如來力成就。所欲處如所欲盡所欲。出定入定。是謂如來力。何謂衆生生死智證如來力。如是如來以天眼清淨過人。見衆生生死好色惡色善道惡道卑勝。知衆生如所造業。衆生身惡行口惡行意惡行。成就誘聖人邪見行。緣邪見業故身壞命終墮惡道地獄畜生餓鬼。此衆生身善行口善行意善行。成就不誘聖人正見行。緣正見業故。身壞命終生善道天上人中。如是天眼清淨過人。見衆生生死好色惡色善道惡道卑勝。知衆生如所造業。如聚落城邑中有高臺。清淨眼人在臺上住。見東方衆生西方往來周旋。見西方衆生東方往來周旋。見南方衆生北方往來周旋。見北方衆生南方往來周旋。自見臺邊人出入往反周旋。如是如來天眼清淨過人。見衆生生死好色惡色善道惡道卑勝。乃至知衆生如所造業。如是如來衆生生死智證。如實選擇分別緣慧知見解射方便。是名衆生生死智證如來力。何謂如來力。如來此處由智力尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大人如來此力成就。所

勝最上無過者。善人大人如來此力成就。所

○〔定〕一○◎* ○知二智○◎ ○千二十○ ○相一想○◎ ○不濟二不淨○ ◎〔煩惱盡〕一○◎ ○力如來二如來力○◎ ○此二比○◎ ○自二目○ ◎射二脫○◎

欲處如所欲盡所欲出定入定。是謂如來力。何謂有漏盡智如來力。何謂有漏。七漏。見斷漏。忍斷漏。親近斷漏。遠離斷漏。調伏斷漏。戒斷漏。思惟斷漏。是名漏。云何盡漏。若漏盡緣盡調伏緣調伏離正離捨吐斷出。是名漏盡。如是如來身及他漏盡如實知如泉水清淨不濁。若彼若有沙石螺蚌龜魚鼈於中遊行。於泉水邊。清淨眼人。見彼明了。若沙石螺蚌龜魚鼈於中遊行。彼人見此沙石螺蚌龜魚鼈於中遊行。如是如來自及他漏盡如實知。如是如來漏盡。智如實。選擇分別緣慧知見解射方便。是名有漏盡智如來力。何謂如來力。此處由智力尊自在力勝力最勝最上無過者。善人大人如來此力成就。所欲處如所欲盡所欲出定入定。是謂如來力。此是如來十力

云何十二智性。如世尊說。諸比丘。當說十二智性。諦聽諦聽。善受善思惟。我當說。比丘言如是。諸比丘。至心聽。世尊如是說。何等十二智。比丘。此苦聖諦。先未聞法。我生智生眼生覺生明生衛生慧生解。諸比丘當知。此苦聖諦。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。我知此苦聖諦已。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。此集聖諦。先未聞法。我生智生眼生覺生明生衛生慧生解。諸比丘當知。此集聖諦。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。我斷此集聖諦已。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。此滅聖諦。先未聞

法。我生智生眼生覺生明生衛生慧生解。諸比丘。當證此滅聖諦。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。我證此滅聖諦已。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。此道聖諦。先未聞法。我生智生眼生覺生明生衛生慧生解。諸比丘。當修此道聖諦。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。我修此道聖諦已。先未聞法。生智生眼生覺生明生衛生慧生解。比丘。此四聖諦三分十二行。我若不如實知者。不得無上正覺。亦不說言得。比丘。此四聖諦三分十二行。我如實知故。今得無上正覺。亦說言得。是名十二智性

云何四十四智性。如世尊說。比丘。我當說四十四智性。諦聽諦聽。善受善思惟。我當說。比丘言如是。世尊。諸比丘。至心聽。世尊如是說。何等四十四智。如是比丘。知老死知老死集。知老死滅知老死滅道。生有取愛受觸六入名色識。知行知行集。知行滅知行滅道。云何比丘知老死。云何老謂諸衆生諸衆中衰耗戰掉面皺諸根熟命促行故是名老。云何死。謂諸衆生。諸衆生終沒死盡除壞捨陰。此物變異離世。是名死。比丘。如是知老死。云何比丘知老死集。如比丘以生集知老死。云何比丘知老死滅。如比丘以生滅知老死滅。如是比丘知老死滅。云何比丘知老死滅道。如比丘如實知八聖道。正見正覺正語正業正命正進正念正定。如是比丘知老死滅道。比丘若知老

死知老死集。知老死滅知老死滅道。此是法智。比丘於現在智。明了常解以過去未來而取比類。如過去沙門婆羅門。已知老死。已知老死集。已知老死滅。已知老死滅道。彼一切已知。如我自知。如未來沙門婆羅門。當知老死。當知老死集。當知老死滅。當知老死滅道。若一切當知如我自知。是名比智。比丘。若二智明了。謂法智比智。是謂比丘見解具足得堪忍得勝法得無畏。向此法調伏。知此調伏。見此法調伏。學知學術成就流向法。於梵淨行法必能常住。於甘露門解射自在。是名四十四智

死知老死集。知老死滅知老死滅道。此是法智。比丘於現在智。明了常解以過去未來而取比類。如過去沙門婆羅門。已知老死。已知老死集。已知老死滅。已知老死滅道。彼一切已知。如我自知。如未來沙門婆羅門。當知老死。當知老死集。當知老死滅。當知老死滅道。彼一切當知如我自知。此是比智。比丘。若二智明了。謂法智比智。是謂比丘見解具足得堪忍得勝法得無畏。向此法調伏。知此調伏。見此法調伏。學知學術成就流向法。於梵淨行法必能常住。於甘露門解射自在。是名四十四智

死知老死集。知老死滅知老死滅道。此是法智。比丘於現在智。明了常解以過去未來而取比類。如過去沙門婆羅門。已知老死。已知老死集。已知老死滅。已知老死滅道。彼一切已知。如我自知。如未來沙門婆羅門。當知老死。當知老死集。當知老死滅。當知老死滅道。彼一切當知如我自知。此是比智。比丘。若二智明了。謂法智比智。是謂比丘見解具足得堪忍得勝法得無畏。向此法調伏。知此調伏。見此法調伏。學知學術成就流向法。於梵淨行法必能常住。於甘露門解射自在。是名四十四智

死知老死集。知老死滅知老死滅道。此是法智。比丘於現在智。明了常解以過去未來而取比類。如過去沙門婆羅門。已知老死。已知老死集。已知老死滅。已知老死滅道。彼一切已知。如我自知。如未來沙門婆羅門。當知老死。當知老死集。當知老死滅。當知老死滅道。若一切當知如我自知。是名比智。比丘。若二智明了。謂法智比智。是謂比丘見解具足得堪忍得勝法得無畏。向此法調伏。知此調伏。見此法調伏。學知學術成就流向法。於梵淨行法必能常住。於甘露門解射自在。是名四十四智

①(若)一①* ②智二知② ③選二撰③ ④所一行④ ⑤十二行二下二行⑤ ⑥比丘二比丘⑥ ⑦老死十(苦)⑦ ⑧觸二解⑧ ⑨集二滅⑨ ⑩中二生⑩ ⑪沒二致⑪ ⑫進二集⑫* ⑬謂二諸⑬ ⑭(法)一⑭

性云何七十七智性。如世尊說諸比丘。我當說七十七智性。諦聽諦聽。善受善思惟。我當說比丘言。如是世尊。諸比丘。至心聽。世尊如是說。云何七十七智。無明緣行智。無無明。無行智。如過去無明緣行智。無無明無行智。如未來無明緣行智。無無明無行智。若法住智。彼亦盡法變法離欲法滅法。乃至生緣老死智。無生無老死智。如過去生緣老死智。無生無老死智。未來生緣老死智。無生無老死智。若彼法住智。亦盡法變法離欲法滅法。是名七十七智性。^{智品竟}

舍利弗阿毘曇論卷第十二

姚秦*罽賓三藏*曇摩耶舍

共*曇摩崛多*等 譯

非問分緣品第五

善緣方便善緣解有緣方便。聖忍非智有緣方便。聖智非忍有緣方便。受問答因俱生法。若因此有此。若無因無此。若此生有此。若此滅有此。若無明緣行。乃至生緣老死。憂悲苦惱苦聚成就。如是純苦具足。無明滅則行滅。乃至生滅則老死憂悲苦惱聚滅。如是苦聚滅。是緣方便成就。若彼於過去緣疑惑。我過去有。我非過去有。何姓過去有。何因過去有。若於未來緣疑惑。我未來有。乃至何因

未來有。若彼因緣疑惑。我云何有。我云何非有。何因有何。生處。此眾生從何來去至何處。若於佛疑惑。是佛世尊非佛世尊。世尊善說法。世尊不善說法。世尊聲聞來善趣。世尊聲聞來不善趣。行常行無常。行苦。行非苦。行我法非我法。寂靜涅槃非寂靜涅槃。有與無與。有施無施。有祀無祀。有善惡業果報。無善惡業果報。有今世無今世。有後世無後世。有父母無父母。有無天。眾生有化生。眾生無化生。世有沙門婆羅門正趣正至。若今世後世自證知說。世無沙門婆羅門正趣正至。若今世後世自證知說。若於法疑惑。心不決定。猶豫二心疑心不了。無量疑不盡非解脫。彼時無有。若有沙門婆羅門。異緣實我世常。此實餘虛妄。乃至如去不如去。彼時亦無有。何況聖緣方便成就。終無此煩惱垢。云何緣。如佛告諸比丘。我當說緣緣生法。云何緣。無明緣行。若諸佛出世若不出世。法住法界。住彼法界。如來正覺正解已。演說開示分別顯現。說無明緣行乃至生緣老死。若如此法。如爾非不如爾。不異不異物。常法實法法住法定。如是緣是名緣。云何緣生法。老死無常。有為緣生盡法變異法離欲法滅法。乃至無明無常有為緣生法盡法變異法離欲法滅法。是名緣生法。云何緣方便。若彼緣若此緣生法。若見解射方便。是名緣方便。比丘。齊幾名善緣方便。彼緣此緣生法。如實知如實見。齊是名善緣方便。云何無明。癡不善根。是名無明。云何無明緣行。無明緣福行非

福行不動行。云何非福行。不善身行。不善口行。不善意行。云何不善身行。若人無慧無明不斷。行殺盜淫。及餘不善身行。是名不善身行。云何不善口行。若人無慧無明不斷。行妄語兩舌惡口綺語。及餘不善口行。是名不善口行。云何不善意行。若人無慧無明不斷。起貪欲瞋恚邪見。是名不善意行。此身口意不善行。名非福行無明緣現世行。云何福行。身善行口善行意善行。云何身善行。若人無慧無明不斷。不殺盜淫。及餘身善行。是名身善行。云何口善行。若人無慧無明不斷。不妄語兩舌惡口綺語。及餘口善行。是名口善行。云何意善行。若人無慧無明不斷。無貪無恚正見。是名意善行。此身口意善行。是名福行無明緣現世行。復次若人無慧無明不斷。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。彼身業無教。戒法入攝意識所知。口業無教。戒法入攝意識所知。意業由意生受想思觸思惟。如是身口意善行。是名福行無明緣現世行。復次若人無慧無明不斷。滅覺觀內信心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。彼身業無教。戒法入攝意識所知。口業無教。戒法入攝意識所知。意業由意生受想思觸思惟。如是身口意善行。是名福行無明緣現世行。

①無二明 ②生無二無生 ③生緣二緣生 ④[智品竟]一 ⑤第十一—第九 ⑥第九下 ⑦第十二—第十 ⑧* ⑨因二內 ⑩生二至 ⑪行十(行) ⑫[行]一 ⑬法住二法比 ⑭法此 ⑮住比 ⑯癡二緣 ⑰戒二誠 ⑱下同

生。作有漏口意善行。當受色界生。作善行已。身壞命終。生色界天上。以因緒緣故。生色界天上。有思共思議。如是緣未來行生未來識。是名行緣未來識。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當受無色界生。作有漏口意善行。當受無色界生。作善行已身壞命終。生無色界天上。以因緒緣故。無色界天上有不動思共彼思議。如是緣未來行生未來識。是名行緣未來識。復次若最後行未知而滅。若無間行滅已。識續餘道生。彼行彼緣無間緣。若因識續餘道生。彼行緣彼識因緣。若思行彼識續餘道生。彼行緣彼識境界緣。若彼行識續餘道生。彼行緣彼識依緣。若報行識續餘道生。彼行緣彼識報緣。若起行識續餘道生。彼行緣彼識起緣。若行相應識續餘道生。彼行緣彼識異緣。若行增上識續餘道生。彼行緣彼識增上緣。此最後識滅。初識續餘道生。最後識滅已。初識即生。無有中問。喻如影移日。續日移影。影之與日無有中問。如是最後識滅。初識續餘道生。後識滅已。即受初識。無有中問。若最初識。若最後識相應法。不至後識。喻如眼識滅已生耳識。耳識滅已生眼識。眼識相應法不至耳識。耳識相應法不至眼識。如是最後識最後識相應法。不至初識。初識相應法不至後識。後識滅已。即生初識。謂此時過。謂此滅彼生。謂此終彼始。非彼命彼身。非異命異身。非常非斷。非去非來。非變。非無因非。無作。非此作此受。非異作異受。知有去來。知有生。知有業相續。知

有說法。知有緣。無有從此至彼者。無有從彼至此者。何以故。業緣相續生。如佛說阿難。識有緣。如是阿難問已有答。識有何緣行緣。此是答。阿難。若無行者當有識不。世尊。無也。以是阿難。此因緒緣識若行緣識。如向所說。以此故說

云何識緣名色。有緣共欲識生。有欲身業生。有欲口業生。有欲意業生。共有欲身業口業是謂色。共有欲意業。由意生受想思觸思惟。謂名。如是現在識生現在名色。是名識緣現在名色。共有願慧共有愚癡。無共欲無共願。無共愚癡。善不善有緣無記識。無記身。業口業意業。無記身業口業謂色。無記意業由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在識生現。在名色。是名現在識緣現在名色。復次若人無慧無明未斷。作不善識。彼作不善識已。身壞命終墮地獄畜生餓鬼。以因緒緣故。生地獄畜生餓鬼。名色。四大四大所造色。是色由意生受想思觸思惟謂名。是名緣現在識生未來名色。是為識緣未來名色。復次若人無慧無明未斷。作有漏善識。當受欲界生。作善識已。身壞命終若生人中。若生欲界天上。以因緒緣故。受人中若欲界天上名色。四大四大所造色。是色由意生受想思觸思惟。是名如是緣現在識生未來名色。復次若人無慧無明未斷。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行彼喜樂。初禪尊上堪忍住喜樂。初禪尊上堪忍住已。識依樂取。彼身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界天上名

色。四大四大所造色。是色由意生受想思觸思惟。是名如是緣現在識生未來名色。是名識緣未來名色。乃至復次若人無慧無明未斷。離一切無所有處。成就非有想非無想處行喜樂。彼非有想非無想處尊上堪忍住喜樂。非有想非無想處尊上堪忍多住已。識依樂多修行。身壞命終生非有想非無想處天上。以因緒緣故。生非想非非想處天上。名由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在識生未來名色。是名識緣未來名色。復次若人無慧無明未斷。作不善行已。身壞命終生地獄畜生餓鬼。以因緒緣故。生地獄畜生餓鬼。初識共彼識名色。四大四大所造色。是色由意生受想思觸思惟。是名如是緣未來識生未來名色。是名識緣未來名色。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當生色界。作善行已。身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界。初識共彼識名色。四大四大所造色。是色由意生受想思觸思惟。是名如是緣未來識生未來名色。是名識緣未來名色。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當生無色界。作有漏口善行意善行。當生無色

○無二天 ○(業)一 ○(在)一 ○作二行 ○名二 ○(如)十是 ○[如]一 ○共彼識二被識共

界。作善行已。身壞命終。生無色界天上。以因緒緣故。生無色界天上。初識共彼識名。由意生受想思觸思惟。是名如是緣未來識生未來名。是名識緣未來名。如佛說。阿難。名色有緣。如是阿難問已有答。名色何緣識緣名色。此是答。阿難。識不入胎有名色生不。世尊。無也。阿難。識不入胎有名色集不。世尊。無也。阿難。若嬰兒識斷壞非有。彼有名色增長廣大不。世尊。無也。阿難。無一切識者。有名色不。世尊。無也。以是因緒緣名色。阿難。若識緣名色。如向所說。以是因緒緣名色。云何名色緣六入緣搏食。現在眼根潤益增長。耳鼻舌身意根潤益增長。搏食謂色。由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在名色生現在六入。是名名色緣現在六入。緣衣服洗浴調身。現在眼根潤益增長。耳鼻舌身意根潤益增長。衣服洗浴調身搏食謂色。由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在名色生現在六入。是名名色緣現在六入。緣喜處色。現在眼根潤益增長。耳鼻舌身意根潤益增長。喜處色謂色。由意生受想思觸思惟謂名。如是色緣現在六入。復次若有比丘阿羅漢諸漏已盡所作已辦。捨於重擔已利具足。有煩惱盡正解脫已。受勝業成就。彼現在眼根潤益增長。耳鼻舌身意根潤益增長。若實人身業口業謂色。意業由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在名色生現在六入。是名名色緣現在六入。復次若有比丘大神足大威力。於自身起心化作餘色身。一切支節諸根成就。

現在潤益增長。眼根耳鼻舌身意根潤益增長。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在名色生現在六入。是名名色緣現在六入。復次若有比丘得神足心得自在命。行住若一劫若減一劫。彼現在眼根潤益增長。耳鼻舌身意根潤益增長。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。如是緣現在名色生現在六入。是名名色緣現在六入。復次若人無慧無明未斷。作不善身口意行。不善身行口行謂色。不善身行由意生受想思觸思惟謂名。作不善名色已。身壞命終生地獄畜生餓鬼。以因緒緣故。生地獄畜生餓鬼。眼耳鼻舌身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當受欲界生。作有漏口善行意善行。當受欲界生。身善行口善行謂色。意善行由意生受想思觸思惟謂名。作善名色已。身壞命終若生人中欲界天上。以因緒緣故。生人中欲界天上。眼耳鼻舌身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。減覺觀內淨信心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。若行人身口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。離喜捨行念智身受樂。如諸聖人能捨念樂行。成就三禪行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。以因緒緣生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣故。生淨居天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。減覺觀內淨信心。無覺

喜樂。成就二禪行。若行人身口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。離喜捨行念智身受樂。如諸聖人能捨念樂行。成就三禪行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。以因緒緣生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣故。生淨居天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。減覺觀內淨信心。無覺

無明未斷。減覺觀內淨信心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。若行人身口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生色界天上。以因緒緣故。生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。離喜捨行念智身受樂。如諸聖人能捨念樂行。成就三禪行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。以因緒緣生色界天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣故。生淨居天上。眼耳鼻身意根。如是緣現在名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人依聖共覺。減覺觀內淨信心。無覺

○(名)十色○* ○支二肢○ ○業一名○(業)一○ ○(名)一○ ○(未來...斷)十四字二(如是緣現在名色生未來六入是斷)十四字 ○若行二行若 ○(六)一 ○以因緒緣二因緒緣故○(以)一 ○(斷)一 ○身二眼耳身意 ○名二色○

無觀依定生喜樂。成就二禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣故。得淨居天上眼耳身意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人依聖共覺。離喜捨行念知身受樂。如諸聖人能捨念樂行。成就三禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣得淨居天上眼耳身意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人依聖共覺。斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念淨。成就四禪行。若實人身業口業謂色。若實人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生淨居天上。以因緒緣得淨居天上眼耳身意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未斷。離一切空處。成瞋恚想。不思惟若干想。成就無邊空處行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生空處天上。以因緒緣得空處天上意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未斷。離一切空處。成就無邊識處行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生識處天上意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未

斷。離一切識處。成就無所有處行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生無所有處天上。以因緒緣得無所有處天上意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未斷。離一切無所有處。成就非有想非無想處行。若行人身業口業謂色。若行人意業由意生受想思觸思惟謂名。彼作善名色已。身壞命終生非有想非無想處天上。以因緒緣得非有想非無想處天上意根。如是緣現在名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未斷。作不善身口意行。作不善行已。身壞命終墮地獄畜生餓鬼。以因緒緣得地獄畜生餓鬼名色。四大四大所造色。由意生受想思觸思惟謂名。名色增長。得地獄畜生餓鬼眼耳鼻舌身意根。如是緣未來名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當受欲界生。作有漏口善行。當受欲界生。作善行已。身壞命終若生人中若欲界天上。以因緒緣得人中欲界天上名色。四大四大所造色。由意生受想思觸思惟謂名。名色增長。得人中若欲界天上眼耳鼻舌身意根。如是緣未來名色生未來六入。是名名色緣未來六入。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當受色界生。作有漏口善行。當受色界生。作善行已。身壞命終生色界天上。以因緒緣得色界天上名色。四大四大所造。謂色。由意生受想思

觸思惟謂名。名色增長。得色界天上眼耳身意根。如是緣未來名色生未來入。是名名色緣未來入。復次若人無慧無明未斷。作有漏身善行。當受無色界生。作有漏口善行。當受無色界生。作善行已。身壞命終生無色界天上。以因緒緣得無色界天上名。由意生受想思觸思惟謂名。名增長得無色界。天上意根。如是緣未來名色生未來入。是名名色緣未來入。如佛說。阿難六入。有緣。如是阿難問已有答。六入何緣。名色緣六入。此是答。阿難。無一切名色者。有六入不。世尊。無也。如是阿難。以因緒緣六入。阿難。名色緣六入。如向所說。以是故說云何六入緣觸。六入緣二觸。身觸心觸。是名六入緣觸。復次六入緣三觸。樂觸苦觸不苦不樂觸。是名六入緣觸。復次六入緣三觸。欲界繫觸色界繫觸無色界繫觸。是名六入緣觸。復次六入緣五觸。五受根相應觸。是名六入緣觸。復次六入緣六觸。眼觸耳鼻舌身意觸。是名六入緣觸。復次六入緣七觸。眼識界相應觸。耳鼻舌身意識界相應觸。是名六入緣觸。復次六入緣十八觸。眼樂觸苦觸不苦不樂觸。耳鼻舌身意識界相應觸。不苦不樂觸。是名六入緣觸。如佛說。阿難。觸有緣。如是阿難問。已有答。觸有何緣。六入緣觸。此是答。阿難。若無六入者。有觸不。世尊。無也。阿難。以因緒緣觸。阿難。六入緣觸。如向所說。以是故說云何觸緣受。觸緣二受。身受心受。是名觸緣受。復次觸緣三受。樂受苦受不苦不樂受。是

●身十(根)●●[色]一●●[彼]一●●[謂]一●●名十(色)●●天二無●●[色]一●●●有二●

是色行生有。是名色。云何無色有。二種無色有。或無色有即業有。或無色有即生有。云何無色有即業有。無色行未竟未知未斷。若作無色行有報身口意業。名無色有即業有。云何無色有即生有。若作業成就已。無色界天上受四種我分身。受想行識。是名無色有即生有。此謂受有。此謂報有。此謂復有。如是有無色行業有。如是無色行生有。是名無色有。如佛說。阿難。有有緣。如是阿難問已有答。有有緣。取緣有此是答。阿難。若無一切取者有有不世尊。無也。阿難。以因緒緣。阿難。取緣有如向所說。以是故說

云何有緣生。若諸衆生衆中生重生住胎出胎得生。陰具諸入衆和合。是名生。如佛說。阿難。生有緣。阿難問已有答。生何緣。有緣生。此是答。阿難。若無一切有者有生。不世尊。無也。阿難。以因緒緣有緣生。如向所說。以是故說。云何生緣老死憂悲苦惱大苦聚。云何老。謂衆生衰老戰掉諸根熟。念滅行。故是名老。云何死。若諸衆生終沒死盡。時過陰壞捨身。此陰變異衆別離。是名死

云何憂。衆生觸若干苦法。若憂重憂究竟憂。內熱內心憂。是名憂。云何悲。憂纏逼迫憂。煎具足憂惱心亂。窮歎啼哭追憶。並語。或自撲亂語。是名悲。云何苦。若身覺苦。眼觸苦受乃至身觸苦受。是名苦。云何惱。若心覺苦。意觸苦受。是名惱。云何大苦聚。若衆苦若罵辱苦若心不定。是名大苦聚。如佛說。阿難。老死憂悲苦惱大苦聚有緣。阿難問已有答。老

死憂悲苦惱大苦聚有何緣。生緣老死憂悲苦惱大苦聚。此是答。阿難。若無生有老死憂悲苦惱大苦聚。不世尊。無也。阿難。以因緒緣。老死憂悲苦惱大苦聚。若生緣老死憂悲苦惱大苦聚。如上說

云何如是純苦聚集。謂七苦法。老死憂悲苦惱大苦聚。是名純苦陰。復次十一苦法。無明行識名色六入觸受愛取有生。是名純苦陰。復次亦十八苦法。無明行識名色六入觸受愛取有生老死憂悲苦惱大苦聚。是名純苦陰。如是純苦陰有集和合生俱生。生已俱生已。出俱出。出已俱出。已得成就是謂純苦陰集。云何無明滅則行滅。若無明生則行生。若無明滅則行滅。是謂無明滅則行滅。乃至若有生則有老死。若生滅則老死滅。是謂生滅則老死滅。云何純苦陰滅。純苦陰者。謂七苦法。老死憂悲苦惱大苦聚。是名純苦陰。復次十一苦。是名純苦陰。復次十八苦法。無明乃至大苦聚。是名純苦陰。如是純苦陰盡變異。寂靜滅沒。名純苦陰滅

舍利弗阿毘曇論卷第十三

舍利弗阿毘曇論卷第十三

舍利弗阿毘曇論卷第十三

靜樂於精勤。不樂諸業。不樂非業。不行無義語。不樂無義語。不行睡眠。不樂睡眠。不行集語。不樂集語。不行依止。不樂依止。不行放逸。不樂放逸。不行親近。不樂親近。如是道生正生起正起觸證。是名一道。復次獨遠離捨惡。遠離不雜垢穢。離諸欲惡。如是道生正生起正起觸證。是名一道。復次不共貪欲瞋恚愚癡煩惱。不共障礙覆蓋繫縛惡行。如是道生正生起正起觸證。是名一道。復次獨不放逸。精進念知修遠離行。如是道生正生起正起觸證。是名一道。復次獨處閑靜。親近隨坐。或曠野空處山谷崖窟。露處草坐。處在林藪塚間水側遠離聚落。如是道生正生起正起觸證。是名一道。復次心獨住正住正止一入定。是名一道。復次一向柔軟調伏清淨。是名一道。復次貪欲瞋恚愚癡煩惱障礙覆蓋繫縛惡行盡。是名一道。復次離欲寂靜修正覺滅。惡得涅槃。是名一道。何謂道。一。枝道。乃至十一。枝道。是名道。是道是橋。是因是門。是根是起。是勝是緒是辨。生正生起正起出正出。善法和合成就。是名道

何謂衆生清淨。衆生謂五道生也。爲人天衆生故。說親近四念處修行多學。得戒清淨心清淨見清淨。授記度疑清淨知見道非道清淨。趣道知見清淨得知見清淨。如見令不清淨衆生清淨。令垢穢衆生無垢穢。是謂衆生清淨

何謂遠離憂悲。云何憂。衆生觸若干苦法。若憂重憂。內熱熱內心熱。是名憂。云何悲。謂衆

何謂遠離憂悲。云何憂。衆生觸若干苦法。若憂重憂。內熱熱內心熱。是名憂。云何悲。謂衆

●衆字明本缺 ●念二命 ●煎二箭 ●並二苦 ●〔論卷〕一 ●第十三 ●第十一 ●十 ●〔姚秦...譯〕十七字一 ●〔行〕一 ●處二樂 ●柔二未 ●枝二支 ●起二趣 ●辨二辨 ●見二足 ●清淨二淨淨

生憂纏逼迫。憂箭具足。憂惱心亂。窮歎啼哭。追憶並語。或自堆撲。口出亂語。是名悲。四念處親近修學。遠離憂悲。是名遠離憂悲。何謂滅盡苦惱。苦謂若身覺苦。眼觸苦受。乃至身觸苦受。是名苦。云何惱。若心覺苦。意觸苦受。是名惱。四念處親近修學。苦惱滅。是謂滅苦惱。

何謂得涅槃。涅槃謂四沙門果。四念處親近修學。得四沙門果。是謂得涅槃。

何謂斷五蓋。若滅五蓋。是謂斷五蓋。何謂修四念處。謂內身觀身。行動精進。應正智念。除世間貪憂。外身觀身。行動精進。應正智念。除世間貪憂。內外身觀身。行動精進。應正智念。除世間貪憂。受心法亦如是。云何身觀身。身謂四大色身。父母因緣飲食長養。衣服調適塗油潤身。無常破壞變異之法。是名身。復次名身。色身是名身。復次地身水火風身。是名身。復次象象馬象車象步象。是名身。復次六識身六觸身六受身六想身六思身六愛身六覺身六觀身。是名身。云何內身觀身。若比丘一切內四大色身所攝法。若內一處四大色身所攝法。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內身觀身。復次比丘。一切內身四大色身所攝法。若內一處四大色身所攝法。思惟苦患。癡箭貪味病。依緣壞法不定。不滿可壞。苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至名色緣六入。乃至是名內身觀身。復次比丘。一切內身四大色身所攝法。若內一處四大

色身所攝法。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至名色滅則六入滅。乃至是名內身觀身。復次比丘。行樂知行樂。乃至臥樂知臥樂。身住樂如實知。乃至是名內身觀身。復次比丘。去來屈申迴轉正知行。乃至眠覺語默正知行。乃至是名內身觀身。復次比丘。出息長知長。入息長知長。出息短知短。入息短知短。如旋師挽繩。繩長知長。繩短知短。乃至是名內身觀身。復次比丘。從頂至足。從足至頂。見諸不淨。觀身中有髮毛爪齒薄皮厚皮。血肉筋脈脾腎心肺。大小穢藏便利涕唾膿血脂肪腦膜淚汗髓骨。如淨眼人於二門倉觀見諸穀。胡麻大豆小豆。粟豆大麥小麥。如是比丘觀身中。從頂至足。從足至頂。具諸不淨。乃至是名內身觀身。復次比丘。觀身諸大此身中。唯有地水火風大。如巧屠牛師屠牛師弟子屠牛為四分。若坐立行住但見四分。如是比丘觀此諸大。此身唯有地水火風大。然此諸大但依水。火生各相違。飲食長養羸劣無力。不堅無強。念念不住。乃至是名內身觀身。復次比丘。觀身食住食集。緣食得住無食無住。如火緣薪得燃無薪則滅。如是比丘。觀身食住食集。緣食得住無食不住。如佛說

觀身所集苦 一切皆緣食
若能除滅食 則無是諸苦
如是知過患 食是成就苦
比丘滅食已 必定得涅槃

是名內身觀身。復次比丘。觀身盡空俱空

以念遍知解行。乃至是名內身觀身。復次比丘。觀身是癡瘡。此身有九瘡津漏門。若所出津漏皆是不淨。乃至如摩訶迦葉說。四大色身是衰耗相違津漏。乃至壽命短促。乃至是名內身觀身。及餘諸行一切內四大色身所攝法。一處內四大色身所攝法。思惟得定心住正住。是名內身觀身。云何內身觀身。若受。謂若內緣生自性已分。是名內。云何觀。謂如實人微觀正覺緣觀解。是名觀。云何行。如是微觀成就。不違法護持行微行。是名行。云何勤精進。謂如實人若順法多行精進。是名勤精進。復次若身心發起顯出越度不退。是名勤精進。云何正智。謂如實人知見解射方便。是名正智。云何念。謂如實人憶念。微念緣念。住不忘相續念。不失不集。是名念。云何世間。有二種世間。衆生世間行世間。五道受生。是名衆生世間。五受陰。是名行世間。云何貪。貪不善根。是名貪。云何憂。意觸苦受。是名憂。云何除。覆背解斷吐出。是名除

云何外身觀身。若比丘外一切四大色身所攝法。若外一處四大色身所攝法。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名外身觀身。復次比丘。一切外四大色身所攝法。若一處外四大色身所攝法。若觀苦痛癡箭著味病依緣壞法不定。不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至名色緣六入。乃至是名外身觀身。復次比丘。外一切四大色身所攝法。外一處四大色身所攝法。思惟滅知滅解滅受

○哭二明 ○或二戒 ○堆二推 ○意二志 ○(身)一 ○應二尋 ○下同 ○依緣二緣依 ○名色二色名 ○樂一 ○知行樂一 ○樂一 ○眠二眼 ○倉二食 ○大二米 ○請二擇 ○(身)一 ○火生二火性 ○大性 ○迦葉二迦 ○色一 ○謂二謂 ○知二智 ○集二毒 ○食二食 ○(名)一 ○得二行 ○

滅。無明滅則行滅。乃至名色滅則六入滅。乃至是名。外身觀身行。及餘諸行外一切四大色身所攝法。若外一處色身所攝法。思惟得定心住正住。是名外身觀身行。云何外身謂身非受非內非緣生非自性非己分。是名外餘義如上說

云何內外身觀身行。如比丘一切內外四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。觀無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內外身觀身行。復次比丘。一切內外四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。若觀苦痛癱箭著味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。無明緣行乃至觸緣受。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。一切內外四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。思惟滅知滅解滅受滅。無明滅則行滅。乃至名色滅則六入滅。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍棄在塚間。若一日至三日。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍棄在塚間。若一日至三日。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍棄在塚間。若一日至三日。為烏鳥虎狼。若干諸獸之所食。噉。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節相連。青赤爛壞膿血不淨臭穢可惡。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節相連。餘血皮所覆筋脈未斷。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節相連。血肉已離筋脈未斷。乃至是名內外

身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節已壞未離本處。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節斷壞遠離本處。脚脛。膊脾臆脊脇肋手足肩臂項鬚諸骨各自異處。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍骨節久故色白如貝色青如鴿朽敗碎壞。乃至是名內外身觀身行。復次比丘。若見死屍在火聚上。燒髮毛皮膚血肉筋脈骨髓。一切髮毛乃至骨髓漸漸消盡。觀此法不至東方南西北方四維上下處住。此法本無而生。已生還滅。乃至是名內外身觀身行。及除一切諸行四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。思惟得定心住正住。是名內外身觀身行。云何內外身若受若非受。是名內外身。餘義如上說。比丘觀身法緣起緣滅行。有身起內念。比丘如是觀身法緣起緣滅行。有身起內念。以智以明識不依身。無所依行不受於世。如是比丘。內身觀身行勤精進正智。正念。除世貪愛。外身內外身亦如是

云何受觀受行。受謂六受。眼觸受乃至意觸受。是名受。云何內受觀受行。如比丘一切內受。若一處內受。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內受觀受行。復次比丘。一切內受。若一處內受。思惟苦患癱箭著味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至觸緣受。乃至是名內受觀受行。復次比丘。若一切內受。若一處內受。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至觸滅

則受滅。乃至是名內受觀受行。及餘諸行一切內受一處內受。思惟得定心住正住。是名內受觀受行。何謂內。受謂內。是內是緣是自性是己分。是名內。餘義如上說

云何比丘外受觀受行。如比丘一切外受。若一處外受。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名外受觀受行。復次比丘。一切外受。若一處外受。思惟苦患癱箭著味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至觸緣受。乃至是名外受觀受行。復次比丘。若一切外受。若一處外受。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至觸滅

云何內外受觀受行。如比丘一切內外受。若一處內外受。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內外受觀受行。復次比丘。一切內外受。若一處內外受。思惟苦患癱箭著味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至觸緣受。乃至是名內外受觀受行。復次比丘。若一切內外受。若一處內外受。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至觸滅

受亦如是。若受有染樂受。知我有染樂受。若

受亦如是。若受有染樂受。知我有染樂受。若

①(內)十外② [及餘...行]三百九十九字一③ ④色身二身色⑤ ⑥若二野⑦ ⑧未二木⑨ ⑩勝二腦⑪ ⑫(正)一⑬ ⑭受二外⑮ ⑯若二者⑰ ⑱解二解⑲ ⑳[內外]一㉑ ㉒知二若⑳ ㉓若⑳ ㉔解二解⑲ ㉕(受)一⑬

受無染樂受。知我無染樂受。苦受不苦不樂受亦如是。是名內外受觀受行。及餘諸行。一切內外受。若一處內。外受。思惟得定心住正住。是名內外受觀受行。云何內外受。受若非受。是名內外。餘義如上說。如是比丘。觀受法緣起行。觀受法緣滅行。如是比丘。觀受法起滅行。有受念內以智以明識不依受無所依行不受一切世。如是比丘。內受觀受行勤精進正智。正念。除世貪憂。外受內外受亦如是。

云何心觀心行。云何心。若心意識六識身七識界是名心。云何內心觀心行。如比丘一切內心。若一處內心。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內心觀心行。復次一切內心。若一處內心。思惟苦患癡箭味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行緣識。乃至是名內心觀心行。復次比丘。一切內心若一處內心思惟滅。知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。行滅則識滅。是名比丘內心觀心行。及餘法行一切內心。若一處內心思惟得定心住正住。如是比丘內心觀心行。云何內。心若心受謂內。是內是緣是自性是己分。是名內。餘義如上說。

云何比丘外心觀心行。如比丘一切外心。若一處外心。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名外心觀心行。復次比丘。一切外心。若一處外心。思惟苦患癡箭味病依緣。壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣

行行緣識。乃至是名外心觀心行。復次比丘。一切外心。一處外心。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅。則行滅。行滅則識滅。乃至是名外心觀心行。及餘心行一切外心。一處外心。思惟得定心住正住。是名外心觀心行。云何外。心非受謂外。非內非緣非自性非己分。是名外。餘義如上說。

云何比丘。內外心觀心行。如比丘一切內外心。一處內外心。思惟無常。知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內外心觀心行。復次比丘。若一切內外心一處內外心。觀苦患癡箭味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知。緣解緣受緣。即無明緣行行緣識。乃至是名內外心觀心行。復次比丘。一切內外心一處內外心。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。行滅則識滅。乃至是名內外心觀心行。復次比丘。有欲心如實知有欲心無欲心。如實知無欲心。乃至有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內外心觀心行。及餘諸行一切內外心。若一處內外心。思惟得定心住正住。是名內外心觀心行。云何內外心。心若受非受。餘義如上說。如是比丘。觀心法緣起行。如是緣滅心行。比丘緣起滅心行。有心起內念。以智以明識不依心。無所依行不受於世。如是比丘。內心觀心行勤精進。正智正念。除世貪憂。外心內外心亦如是。

云何法觀法行。法謂除四大色身攝法受心。

及餘若色非色可見不可見有對無對聖非聖。是謂法。云何比丘內法觀法行。若比丘除四大色身攝法受心。若餘一切內法。若一處內法。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。若餘一切內法。若一處內法。思惟苦患癡箭味病依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至生緣老死憂悲苦惱眾苦聚集。乃至是名內法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。及餘一切內法。若一處內法。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至生滅。則老死憂悲苦惱眾苦聚集。滅乃至是名內法觀法行。及餘諸行。除四大色身所攝法受心。若一切內法若一處內法。思惟得定心住正住。是名內法觀法行。云何內法。法受謂內。是內是緣是自性是己分。是名內。餘義如上說。

云何比丘外法觀法行。如比丘除四大色身攝法受心。若外一切法。若外一處法。如事思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名外法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。餘外一切法。若一處外法。如事思惟苦惱眾苦味依緣壞法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至生緣老死憂悲苦惱眾苦聚集。乃至是名外法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。及餘外一切法。若一處外法。如事思惟滅知滅解滅受

法。若一處外法。如事思惟滅知滅解滅受

●(外)一●●●知二如●●(若)一●●●(一)一●●●●(壞)一●●●定二足●●(則)一●●●●●(知無常)一●●●●●十(苦空無我)●●(苦空無)●●(即)一●●●●(緣)一●●●●(內)一●●●●●得定二法正●●得正定●●(解滅)一●●●

滅。即無明滅則行滅。乃至生滅則老死憂悲苦惱衆苦聚集滅。乃至是名外法觀法行。及餘諸行。除四大色身攝法受心。餘一切外法。若一處外法。如事思惟得定心住正住。是名外法觀法行。云何外法。法非受謂外。非內非緣非自性非已分。是名外。餘義如上說。

云何比丘。內外法觀法行。如比丘除四大色身攝法受心。一切內外法。若一處內外法。如事思惟無常無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名內外法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。餘一切內外法。若一處內外法。如事思惟苦惱癯箭味患依緣壞緣法不定不滿可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至生緣老死憂悲苦惱衆苦聚集。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。除四大色身攝法受心。及餘一切內外法。若一處內外法。如事思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅則行滅。乃至生滅則老死憂悲苦惱衆苦聚集滅。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。我內有欲如實知。我內有欲。我內無欲如實知我內無欲。如欲未生如實知欲未生。如欲當生如實知欲當生。如欲現生如實知當斷。如欲斷已如實知不復生。瞋恚愚癡睡眠掉悔疑亦如是。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。我內有眼識色欲恚。如實知我內有眼識色欲恚。我內無眼識色欲恚。如實知我內無眼識色欲恚。如眼識色未生欲恚。如實知未生。如眼識色未生欲恚。如實知當生。如眼識色現在生

欲恚。如實知當斷。如眼識色已斷欲恚。如實知不復生。耳鼻舌身意亦如是。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。我內有念覺。如實知我內有念覺。我內無念覺。如實知我內無念覺。如念覺未生。如實知未生。如念覺未生。如實知當生。如念覺生已。如實知有具足。修餘六覺亦如是。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。如實知苦集苦滅苦道。如實知漏。漏集漏滅漏。滅道。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。厭離一切行入甘露界。是寂靜此勝滅一切行。愛。滅涅槃。乃至是名內外法觀法行。及餘諸行。除四大色身攝法受心。及餘一切內外法。若一處內外法。如事思惟定心住正住。是名內外法觀法行。云何內外法。法若受若不受。是名內外法。餘義如上說。如是比丘。觀法緣起法行。觀法緣滅法行。如是不依法。無所依行不受於世。如是比丘。內法觀法行勤精進。正智正念除世貪愛。外法內外法亦如是。如實修學四念處。當有是怖於一切世常無我行。心不高不下亦無住處。若有一空行。若得此後心不作無益。不受不著色聲香味觸。於三世無礙。於欲界解脫。色界無色界解脫滅不復生。此是苦際。如春末月極盛熱時無有雲霧。少水在瓦器便速煎滅。如是比丘。若得後心不作無益。不受不著色聲香味觸。乃至滅不復生。此是名苦際。

如風吹猛焰 滅時不移處

以覺扇名色 盡亦無所至
如工鍛熱鐵 流星滅無象
陶冶漸歸無 求相信難得
如雨投海中 本滯豈復存
解脫亦何有 空故湛然樂
捨身離於想 諸受無所覺
所行盡寂靜 識亦自然滅

問曰。幾正勤。答曰。四。何謂四。若比丘。惡不善法未生欲令不生。起欲自勉勝攝心正斷。惡不善法已生必當斷。起欲自勉勝攝心正斷。善法未生欲令生。起欲自勉勝攝心正斷。善法已生欲令住。具足修不忘增廣。起欲自勉勝攝心正斷。云何惡法未生欲令不生。身口意惡行。是名惡不善法。復次十不善業道。是名惡不善法。復次不善根不善根相應。不善根所起非緣非受。是名惡不善法。復次貪欲瞋恚愚癡無慚無愧自高諍訟妬慳惜諛諂諛欺僞匿惡無慚無愧自高諍訟強毅放逸我慢增上慢等。是名惡不善法。復次十邪法。是名惡不善法。如是惡不善法未生未起未和合。令我不生不起不和合。是名惡不善法未生欲令不生。何謂起欲。若欲重欲欲作欲起欲顯出欲。越度欲得欲觸欲證。是名起欲。何謂自勉。堪忍力厲未得欲得未解欲解未證欲證。是名自勉。何謂勝進。身心發起顯出越度堪忍不退勤力修進。是名勝進。此進起正起正生觸證。是名勝進。何謂攝心。心意識六識身七識界。是名心。是心攝攝攝

欲恚。如實知當斷。如眼識色已斷欲恚。如實知不復生。耳鼻舌身意亦如是。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。我內有念覺。如實知我內有念覺。我內無念覺。如實知我內無念覺。如念覺未生。如實知未生。如念覺未生。如實知當生。如念覺生已。如實知有具足。修餘六覺亦如是。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。如實知苦集苦滅苦道。如實知漏。漏集漏滅漏。滅道。乃至是名內外法觀法行。復次比丘。厭離一切行入甘露界。是寂靜此勝滅一切行。愛。滅涅槃。乃至是名內外法觀法行。及餘諸行。除四大色身攝法受心。及餘一切內外法。若一處內外法。如事思惟定心住正住。是名內外法觀法行。云何內外法。法若受若不受。是名內外法。餘義如上說。如是比丘。觀法緣起法行。觀法緣滅法行。如是不依法。無所依行不受於世。如是比丘。內法觀法行勤精進。正智正念除世貪愛。外法內外法亦如是。如實修學四念處。當有是怖於一切世常無我行。心不高不下亦無住處。若有一空行。若得此後心不作無益。不受不著色聲香味觸。於三世無礙。於欲界解脫。色界無色界解脫滅不復生。此是苦際。如春末月極盛熱時無有雲霧。少水在瓦器便速煎滅。如是比丘。若得後心不作無益。不受不著色聲香味觸。乃至滅不復生。此是名苦際。

○(餘)十一一切○我內有欲二內身欲○如欲當生二如欲未生如欲未生○實生二未生○(欲)十實○[法]一○[漏]一○[滅]一○[緣]一○[名]一○[至]二生○[工]二巧○[欲]二集○[苦]二海○[合利弗阿毘曇論]一○[論]一○[口]一○[眼]二○[高]二商○[越]二起○[力]二二功○

緣攝勸。厲正勸勉。踊躍歡喜。是名攝心。何謂正。正因正思惟正方便。是名正。何謂斷。捨惡法生善法清白法現世樂行。知見慧分別斷漏盡一切苦際。是名斷。惡不善法已生必當斷。起欲自勉勝進攝心。正斷亦如是說。但已生為異。何謂善法未生欲令生。身口意善行。是名善法。乃至何謂斷。捨惡法生善法清白法現世樂行。知見慧分別斷漏盡一切苦際。是名斷。何謂善法生已欲令住。身口意行善。是名善法。乃至復次十正法正見乃至正智及餘隨正法。是名善法。如此善法生和合。令我住不失不忘。令我究竟。是名善法生已住。何謂具足。戒乘未具足欲令具足。乃至解脫知見乘未具足欲令具足。是名具足。何謂修。若善法親近正親近。依正依勤行修學。是名修。何謂不忘。欲令善法不失不奪相續念不忘。是名不忘。何謂增廣。欲令善法增長廣進。是名增廣。乃至何謂斷。捨惡法生善法清白法現世樂行。知見慧分別斷諸漏盡一切苦際。是謂斷。

*舍利弗阿毘曇論非問分神足品第八

問曰。幾神足。答曰。四。謂欲定斷行成就修神足。精進定心定慧定斷行成就修神足。

云何欲。謂欲重欲作。欲發起欲顯出欲越度。欲得欲觸欲解欲證是名欲。

云何定。若心住正住。是名定。如是欲如是定。是名欲定。復次貴欲向欲。依欲趣欲增上欲。以欲為主得定。心住正住。是名欲定。復次善欲發起得定。心住正住。不善欲發起得定。心

住正住。無記欲發起得定。心住正住。是名欲定。復次不欲行善。即自思惟此非我所善。非所好非。所應非所行非我時。我何故不欲行善。便以欲為尊上得定。心住正住。是名欲定。復次欲行善法。即自思惟是我所善。是所好是所應。是所行是我。行時。我欲行善。以欲為尊上得定。心住正住。是名欲定。復次善欲不生。善欲不生已不善欲生。共貪欲瞋患愚癡行。即自思惟此非我所善。非所好非所應。非所。行非我時。我何故不欲行善。乃共貪欲瞋患愚癡行。尊上善欲得定。心住正住。是名欲定。復次不善欲不生。不善欲不生已善欲生。不共貪欲瞋患愚癡行。即自思惟。是我所善是所好是所應是所行。是我行時。我欲行善。不共貪欲瞋患愚癡行。以善欲為尊上得定。心住正住。是名欲定。

云何斷。以善法引心引正引調正調止。正止不失不移是名斷。復次身心發起顯出越度堪忍勤力進不退。是名斷。復次修四正斷。是名斷。復次捨惡不善法生善法現世樂行。知見慧分別。斷諸漏盡一切苦際。是名斷。

云何斷行。悅喜信捨念正智。是名斷行。復次欲定斷行成就修神足。除欲精進心慧。餘所隨法受想。思觸思惟覺觀。解脫順信。悅喜心。隨信不放逸念心捨除身進及餘所隨色。是名斷行。

云何成就。欲定斷及斷行共起正共起受正受生正生具足。是名成就。

云何修。此欲定斷行成就神足。親近正親近

依正依勤行修學。是謂修。

云何神。如意通如意化如意自在作種種變。是名神。復次如比丘有大神力。能無量變化震動大地。以一為多。以多為一。若近物遠物。若牆壁高山。徹過無礙。如行虛空。結跏趺坐。陵虛如鳥入。出地中如出沒水。履水如地。身出烟焰如大火聚。日月威德以手捫摸。乃至梵天身得自在。是名神。

何謂足。如欲定斷行。是足。是齊。是因。是門。是起。是道。是至。是緣。是緒。是勢。神生正生起。若比丘。欲定斷行成就修神足。令我欲不高不下不沒不散。前後常想行。前如後。後如前。晝如夜。夜如晝。其心開悟無有覆蓋。修行明了以身定心。以心定身。樂想輕想舉身行。云何下欲。若欲共懈怠相應。不動進不自勉。廢善退法。是名下欲。云何懈怠。欲。墮。墮。墮。墮。於善法廢退。是名懈怠。若欲共懈怠相應。不動進不自勉。廢善退法。是名下欲。

云何高欲。若欲共掉相應。不共寂靜相應。成就亂行。是名高欲。云何掉。若心亂不寂靜。是名掉。若欲共掉相應。不共寂靜相應。成就亂行。是名高欲。

云何沒欲。若欲共睡眠相應。不共滅念慧。不成就不別善法。是名沒欲。云何睡眠。煩惱未斷。身不樂不調不輕不軟不除。是名睡眠。云何眠。煩惱未斷。心。憂。懼。覆。蔽。是名眠。若欲共睡眠相應。滅念不相應。慧不成就。不別善法。是名沒欲。

云何沒欲。若欲共睡眠相應。不共滅念慧。不成就不別善法。是名沒欲。云何睡眠。煩惱未斷。身不樂不調不輕不軟不除。是名睡眠。云何眠。煩惱未斷。心。憂。懼。覆。蔽。是名眠。若欲共睡眠相應。滅念不相應。慧不成就。不別善法。是名沒欲。

① 願一助 ② 記一說 ③ 所一 ④ 行一 ⑤ 非十(非) ⑥ 行十(行) ⑦ 正一止 ⑧ 思一忍 ⑨ 信悅喜一悅善 ⑩ 隨一除 ⑪ 結跏趺坐 ⑫ 出 ⑬ 身十(地身) ⑭ 神十(足) ⑮ 至一主 ⑯ 緒二諸 ⑰ 勢一熱 ⑱ 如一着 ⑲ 後一如 ⑳ 其二甚 ㉑ 墮二情 ㉒ 墮二情 ㉓ 墮二情 ㉔ 墮二情 ㉕ 墮二情 ㉖ 墮二情 ㉗ 墮二情 ㉘ 墮二情 ㉙ 墮二情 ㉚ 墮二情 ㉛ 墮二情 ㉜ 墮二情 ㉝ 墮二情 ㉞ 墮二情 ㉟ 墮二情 ㊱ 墮二情 ㊲ 墮二情 ㊳ 墮二情 ㊴ 墮二情 ㊵ 墮二情 ㊶ 墮二情 ㊷ 墮二情 ㊸ 墮二情 ㊹ 墮二情 ㊺ 墮二情 ㊻ 墮二情 ㊼ 墮二情 ㊽ 墮二情 ㊾ 墮二情 ㊿ 墮二情

云何散欲。起欲染共欲染相應。多欲見淨不觀過患。於外五欲心散。著色聲香味觸。是名散欲。云何欲染。若欲欲。欲賦欲。愛欲喜欲。支欲。網欲忍欲得欲。集欲掃望。是名欲染。若欲向欲染共欲染欲染相應。多欲見淨不觀過患。於外五欲心散。著色聲香味觸。是名散欲。云何前後常想行。若比丘。且行如事思惟入善法。出世間入涅槃。離欲定相應。且行已。日中。行。日中行已。晡行已。上經行。上經行已。下經行。下經行已。入室。入室已。初夜行。初夜行已。後夜行。後夜行已。如事思惟入善法。出世間入涅槃。離欲定相應。是名前後常想行。

云何前如。後後如前。如比丘。如事根力覺禪解脫定入定前。行。如事根力覺禪解脫定入定後行。如事根力覺禪解脫定入定後行。已如事根力覺禪解脫定入定前後行是謂前如後後如前。

云何晝如夜夜如晝。如比丘。若取明想善受晝想。後如晝思惟明想。夜亦如是。如夜晝亦如是。是名晝如夜夜如晝。

云何其心開悟無有覆蓋。若貪欲瞋恚愚癡垢。煩惱垢障礙覆蓋繫縛。不善行垢是障礙心。不開心。覆蓋心。是蔽心。是起向縛不淨心。是不白明了心。是名覆蓋心。若心無貪欲瞋恚愚癡垢。乃至明了心。是謂其心開悟無有覆蓋。

云何修有明心。若比丘。修共慧光明心。修有明心。修共明想心。修有明心。云何共慧光明

心。若三慧照明。謂聞思修慧是名共慧光明心。若親近正親近勤行修學。是謂修共慧光明心。修有明心。云何共明想心。若比丘。取諸明相。若火光日月光珠光星宿光。取諸光明相已。若樹下露處思惟光明。知光明解光明受光明。如實人若想像思想。是名光明想心。若共想生共住共滅。是名共明想心。若親近正親近勤行修學。是名修共明想心。修有明心。復次比丘。若於樹下露處。以清淨心遍解行有明心勝。如實人若想像思想。是名明想心。若共想生共住共滅。是名共明想心。若親近正親近勤行修學。是名修共明想心。修有明心。復次比丘。若一樹下若二若三乃至十樹。以清淨心遍解行有明心勝。乃至是名修共明想心。修有明心。復次比丘。若於一園以清淨心遍解行。乃至是名修共明想心。修有明心。復次比丘。於一園若二若三乃至十園。以清淨心遍解行。乃至是名修共明想心。修有明心。復次比丘。一聚落若二若三乃至十聚落。以清淨心遍解行。乃至是名修共明想心。修有明心。復次比丘。乃至水陸周匝。以清淨心遍解行。乃至是名修共明想心。修有明心。

云何以身定心以心定身。若比丘以心身上正上舉正舉。如人持鉢。乞食以絡盛鉢。盛正盛舉正舉。如是比丘以心身上正上舉正舉。云何比丘。以身定心。若比丘思惟身無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住。正住身樂身調身輕身軟身除。是名以身定心。復次比丘。身苦惱癡箭味患依緣。壞法不定。不可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。乃至名色緣六入。如是不放逸觀。得定心住。正住。身樂身調身輕身軟身除。是名以身定心。復次比丘。身苦惱癡箭味患依緣。壞法不定。不可壞苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明滅則行滅。乃至名色滅則六入滅。如是不放逸觀。得定。心住。正住。身樂身調身輕身軟身除。是名以身定心。復次比丘。行知行樂。住知住樂。坐知坐樂。取知取樂。如是身住樂如實知住樂。如是不放逸觀。得定。心住。正住。身樂身調身輕身軟身除。是名以身定心。乃至復次比丘。若見死屍在火聚上燒。髮毛皮膚血肉筋脈骨髓漸漸消盡。觀此法不至東西南北四維上下。不至餘處住。此法本無而生。已有還滅。觀身如是法。不放逸觀。得定。心住。正住。得身樂身調身輕身軟身除。是名以身定心。此章乃有二十四科復大釋以身定心不異一故略之

〔欲〕一〇一 〔受〕二受一〇一 〔支〕二支一〇一 〔枝〕一〇一 〔網〕二網一〇一 〔集〕二集一〇一 〔行〕二行一〇一 〔下〕二下一〇一 〔世〕一〇一 〔後〕二後一〇一 〔白〕二白一〇一 〔名〕一〇一 〔心〕二心一〇一 〔謂〕二謂一〇一 〔相〕一〇一 〔復〕二復一〇一 〔心〕一〇一 〔無〕二無一〇一 〔三〕二三一〇一 〔支〕二支一〇一 〔之〕一〇一 〔比丘〕一〇一 〔空〕二空一〇一 〔緣〕一〇一 〔調心〕一〇一

丘。有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。乃至有勝心無勝心如實知。如是不放逸觀得定。心住正住。得心樂心調心輕心軟心除。是名以心定身。

云何樂想。憶想上身行。云何樂想。若比丘離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若身離生喜樂。津液遍滿。此身盡離生喜樂。津液遍滿無有減少。如善洗浴師善洗浴師弟子。以細澡豆盛著器中。以水灑已。調適作搏。搏此津液遍滿。不乾不濕內外和潤。如是比丘。身離生喜樂。津液遍滿。此身盡離生喜樂。津液遍滿無有減少。如實人若憶想知想。是名樂想。此想身微受正微受。緣微受。以何身受意身受。是名樂想上身行。復次比丘。滅覺觀內淨信心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。若此身定生喜樂。津液遍滿。身盡定生喜樂。津液遍滿無有減少。如大陂湖以山圍繞。水從底。涌出。水不從東西南北方來。陂水自從底。涌而出。此陂津液遍滿無有減少。如是比丘。此身定生喜樂。津液遍滿。此身盡定生喜樂。津液遍滿無有減少。如實人若憶想。是名樂想。此想身微受正微受。緣微受。以何身受。意身受。是謂樂想上身行。復次比丘。離喜樂捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨。念樂行。成就三禪行。若此身。無喜樂津液遍滿。此身無喜樂盡。津液遍滿無有減少。如優鉢羅池波頭摩池拘牟頭。池分陀利池。若優鉢羅花乃至分陀利花。從泥涌出。未能出水。此花若根若頭。水津液遍滿。從

根至頭從頭至根。津液遍滿無有減少。如是比丘。若此身無喜樂。津液遍滿。此身盡津液遍滿。無有減少。如實人若憶想知想。是名樂想。若身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是名樂想上身行。復次比丘。斷苦樂先

身以清淨心遍解行。此身清淨無不遍處。如男子女子。著白淨衣。上下具足。從頭至足。從足至頭。無不遍處。如比丘。若此身以清淨心遍解行。此身清淨。無不遍處。如實人若憶想知想。是名樂想。此想身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是名樂想上身行。云何輕想。若比丘思惟身輕知輕解輕受輕。如兜羅綿輕。如劫鉢輕。布著平地。微風來吹。便得離地。如是比丘。思惟身輕知輕解輕受輕。如是不放逸觀得定。心住正住。即得定已。離地四寸上行。如實人若憶想知想。是名輕想。此想身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是名輕想上身行。若比丘此定親近多修學。離地半人身上行。若一人身二人身。乃至七人身上行。如實人若憶想知想。是名輕想。若此想身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是謂輕想上身行。若比丘此定親近多修學。若離地半多羅樹上行。若一多羅樹乃至七多羅樹上行。如實人若憶想知想。是名輕

想。此想身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是謂輕想上身行。若比丘此定親近多修學。如意所欲。離地上行。無有限量。近遠盡能住至。如實人若憶想知想。是名輕想。若此想身微受正微受緣微受。以何身受意身受。是謂輕想上身行

若比丘彼樂想輕想親近正親近多修學。欲令我心調伏寂靜由力自在。如意所欲。成就種種神足。若彼樂想輕想親近正親近多修學已。心調寂靜。由力自在。如意所欲。得成就種種神足。彼受種種無量神足。能動大地。以一為多。以多為一。若近若遠。高出牆壁。徹過無礙。如行虛空。結加趺坐。遊空如鳥。於地出沒。猶出入水。履水如地。身出烟焰。如火聚。日月有大威德。手能撲摸。乃至梵天。身得自在。如定品廣說。是名欲定斷行成就修神足。精進定心定慧定斷行。成就修神足。亦如是廣說。

舍利弗阿毘曇論卷第十三

舍利弗阿毘曇論卷第十四

姚秦。罽賓三藏。曇摩耶舍。共曇摩崛多。譯

非問分。禮品第九

因緣具足。則能得定。因緣不具。不能得定。修定有如此因緣。謂比丘愛護解脫戒。成就威儀行。已行處。愛護微戒。懼如金剛。受持於戒。

名十(定心) 憶想一想憶 此一 漏二漏 波一波 念一 無十(苦) 池一陀 減二減 喜二喜 不一所 男二男 人二子 如十(是) 知二如 以何二何謂 身行二行身 名一 受一 想一 微十(微) 是 多羅十(樹) 憶二憶 住二住 彼二波 力一 想一 加二加 精二 此下聖本聖乙本俱有光明皇后願文 卷第十三卷第十一 非問分念處品第六 非問分念處品第六卷十 第十四 第十二 禪十(定)

斷邪命。行正命。善知識。善親厚。善衆。攝諸根門。飲食知足。勤行精進。初不睡眠。離障礙法。如此比丘。知斷五蓋。心垢損智慧法。離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。乃至斷苦樂先滅憂喜。不苦不樂捨念淨。成就第四禪行。云何愛護解脫戒。若隨順戒不行放逸。以戒爲門。爲足爲因。能生善法。具足成就。以此戒故。名爲持戒。以此順不放逸名持戒。護持威儀行。是謂愛護解脫戒。

云何成就威儀行。一切身不善行。一切口不善行。一切意不善行。是名非威儀行。身一切善行。口一切善行。意一切善行。是名成就威儀行。復次恭敬和尚及和尚同學。恭敬阿闍梨及阿闍梨同學。恭敬上下坐。是名威儀行。云何已行處。有六非已行處。若姪女處。寡婦處。大童女處。不能男處。比丘尼處。沾酒處。是名六非已行處。又如佛說比丘莫至他國。非已行處。若至他國非已行處。魔得其便。比丘何謂他國非已行處。謂五欲也。是名至五欲非已行處。云何已行處。若彼非威儀行。此非已行處。捨離正捨離緣捨離。不親近。正不親近。緣不親近。是名已行處。又如佛說。行於自國已行處。若比丘自國已行處。魔不得便。比丘何謂自國已行處。謂四念處也。是自國已行處。若以此威儀行。起正起受。正受。是謂威儀已。行成就。

云何愛護微戒懼如金剛。若微細戒。若念作起。意欲和合作。若於彼多起惡畏相令。我莫犯。是謂懼微戒如金剛。

何謂受持於戒。若比丘不離一切戒。常持一切戒。常住一切戒。親近於戒。持戒不瑕。不穢不垢。不懈不缺。受持一切戒。是謂受持於戒。云何捨邪命行正命。云何邪命。若沙門婆羅門。邪命自活。謂諛諂詐稱。占相吉凶。爲他使命現相。激動以利求利。以此非法。得衣鉢醫藥。臥具所須。受用食噉。以此繫染貪著。陵蔑他人。堪忍非法。不見過患。不知出世。若比丘離如是等邪命。如法得衣鉢醫藥。臥具所須。受用食噉。不以此繫染貪著。不陵蔑他人。不堪忍非法。深見過患。知出世。是謂斷邪命行正命。

云何善知識。謂沙門婆羅門。持戒賢善。斷貢高放逸。忍辱成就。自調自減。自入涅槃。欲離欲欲盡。乃至欲離癡癡盡。應染處不染。乃至應癡處不癡。應止處不止。應受處不受。身口意業清淨。正命清淨。行信慚愧。多聞精進。念慧修行。八道具足。戒定慧解脫解脫知見。衣食知足。是謂善知。何謂識。若識善識。共行。慈重行慈。究竟行慈。常敬不離。是名善知識。云何善親厚。凡夫持戒人。是凡夫持戒人善親厚。堅信人。是堅信人善親厚。堅法人是堅法人善親厚。乃至阿羅漢。是阿羅漢善親厚。如是等自共親厚。是名親厚。若善知識若善親厚。隨順不離相親近。是謂善知識善親厚。

云何善衆。若依持戒人學持戒。心向彼。尊上彼。傾向彼。解彼。若依定人學定。乃至彼解脫。知見人。學解脫。知見。心向彼。尊上彼。傾向彼。解彼。是謂善衆。

云何攝諸根門。若比丘。眼見色。不取色相。能起眼根者。攝令不放逸。斷惡不善法及稀望世。愛順持戒。守護眼根得眼根戒。乃至意識法不取法相。能起意根者。攝令不放逸。斷惡不善法及稀望世。愛順持戒。守護意根。如此六觸入。謹微念解射念善成就行。見欲過患。常自護意。是謂攝諸根門。

云何飲食知足。知量而食。不掉。不生。貢高。不爲養身。不爲嚴飾身。唯欲安身。不起瞋恚。欲修梵行。斷故受。不生新受。爲活命故。捨憎愛金剛。常處中行。不求利。勤力樂行。如人患瘡。以藥塗之。爲欲令愈。比丘亦爾。知量而食。不起掉。不生貢高。乃至不求利。勤力樂行。云何掉食。若作是念。我食此食已。當作身口意掉。是名掉食。云何貢高食。若作是念。我食此食已。當增長放逸。是名貢高食。云何養身食。若作是念。我食此食已。當益於身。是名養身食。云何嚴飾身食。若作是念。我食此食。當端正姝好妙相成就。是名嚴飾身食。若比丘不作是念。我食此食。當作身口意掉。當作貢高。當養身。當嚴飾身。是謂不掉食。不貢高。不養身。不嚴飾身。

云何但欲令身住。應作是念。我食此食。但欲令身住。不終不沒。是名但欲令身住。云何不起瞋恚。若飢。緣飢故。生身心苦受。若食過度。緣過度故。生身心苦受。若比丘。知足

①梨二黎②* ③正二起④ ⑤行十(處)⑥ ⑦念二今⑧ ⑨令⑩ ⑪陵蔑二處蔑⑫* ⑬深二染⑭* ⑮行二信⑯ ⑰慈二思⑱ (善)十親厚⑳ ㉑彼二依㉒ ㉓愛二愛㉔* ㉕(不)十貢㉖ ㉗(不)爲十嚴飾㉘

而食。善思量食。則曠悲滅。不生不起。是名不起曠悲。

云何欲修梵行。梵行謂八聖道也。應作是念。我食此食已。能修梵行。令梵行人住。為盡苦際。是名欲修梵行。

云何斷故受不生新受。若飢緣飢故。生身心苦受。是名故受。何謂新受。若食過度緣過度故。生身心苦受。是名新受。若比丘。知足而食。善思量食。是名斷故受不生新受。

云何為活命故食。應作是念。我食此食。為住命根。謹持戒行故。是名為活命故食。

云何捨憎愛金剛。若飢緣飢故。生愛煩惱金剛。憶念我憎如是。飲食。若食過量緣過量故。生憎煩惱金剛。我不憶念如是過度飲食。若比丘。知足善思量食。捨離憎愛煩惱金剛。是名捨離憎愛金剛。

云何不求利。若不以食為足。多食嗜味貪味。動求稀望飲食。是名求利。若比丘。以食為足。量食。嗜味不貪。味不動求。不稀望飲食。是名不求利。

云何勤力。若作是念。我食此食。欲身動進自勉。是謂勤力。

云何樂行。若飢緣飢故。生身心苦受。若食過度緣過度故。生身心苦受。是名不樂。若比丘。知足。善思量食。無有不樂。是名樂行。

云何動精進。不睡眠。若比丘。於晝或結。加趺坐思惟。或經行。心離障礙法。初夜若。經行。若思惟。心離障礙法。中夜右脇著床。累脚而眠。思惟起覺想。後夜若。思惟經行。心離障礙

法。是名動精進不睡眠。

云何離障礙法。障礙法謂五蓋也。如佛說五蓋。是心煩惱損智慧法。又如佛次說。若在家出家人。有五蓋覆心。若自知義。若知他義。若知自他義。若過人法。若離欲見增進。若知若見。無有是處。五蓋遮礙善法。纏縛污染。生起結使。故名障礙。若修行清淨。去障礙法。清白明了。是名離障礙法。

云何斷五蓋。離滅沒除。是謂斷五蓋。何謂心垢。五蓋是心煩惱垢。賦不明。是名心垢。

云何損智慧法。五蓋覆心。慧力羸劣。是名損智慧法。

云何離欲惡不善法。欲謂五欲。復次塵非欲。聖法中謂是求那。若憶想染著此是欲。如佛說。

種種色非欲。衆生想欲染。世間色常住。健者離欲染。

若此五欲中。貪重貪堪忍繫著。是名欲。云何惡不善法。身口意惡行。是名惡不善法。復次十不善業道。是名惡不善法。復次不善根相應法。不善根所起無緣非受法。是名惡不善法。復次貪欲瞋惡慧癡忿怒怨嫌妄語嫉妬。

慢等。是名惡不善法。復次邪見邪覺邪語邪業邪命邪進邪念邪邪解脫邪智及餘隨邪法。是名惡不善法。如是欲惡不善法。若遠離不近不雜純淨別處。是名離欲惡不善法。云何有覺有觀。若行覺觀。是謂有覺有觀。云何離生喜樂。若離欲惡不善法生喜樂。是名離

生喜樂。云何成就初禪行。初禪有五支。覺觀喜樂一心。云何覺。重覺究竟覺諸所憶念法。明來至思惟心。是名覺。云何觀。心行順行微行津液微觀心微轉。是名觀。云何喜。歡喜踊躍。是名喜。云何樂。心忍受樂意觸樂受。是名樂。云何一心。心住正住是名一心。此五支。是名初禪。何謂初。若此四禪。以次順不逆。以次入定。此是始。此是初。此是一。是名初。何謂禪。謂捨心垢正捨緣捨。是謂名禪。復次煩惱未斷能斷。是名禪。復次煩惱斷已得現世樂行。是名禪。復次如是善法成就。入禪明了。熾盛清淨。是名禪。復次如是定住甚深妙義。專著智慧。是名禪。復次行人。行覺觀意喜心定。如行人。若受思想惟覺觀見慧解脫無癡順信悅喜心進心除信欲不放逸念心捨意界意識界。及餘隨色。是名禪。復次隨法非禪是隨禪法。若心住正住。此名禪。得定是定。已。護持威儀住行微行。是名成就初禪行。若比丘身離生喜樂。津液遍滿。此身盡離生喜樂。津液遍滿。無有減少。如善洗浴師善洗浴師弟子。以細澡豆。盛著器中。以水灑已。調適作搗此搗津液遍滿。不乾不濕。內外和潤。如是比丘。此身離生喜樂。津液遍滿。無有減少。云何津。云何液。云何遍。云何滿。如比丘住禪時。離生喜樂。初生正生起正起觸證。身離生喜樂。爾時名津住禪時。離生喜樂。漸開微行。未能增廣。身離生喜樂。爾時名液住禪時。離生喜樂。能增廣未至彼岸。身離生喜樂。爾時名遍住禪時。離生喜樂。能到彼岸。齊是謂身離生喜

①今二念②③ ④憶念我二我憶念⑤ ⑥飲食一飲食⑦ ⑧(不)十嗜味⑨ ⑩樂十(行)⑪ ⑫加二應⑬ ⑭經行二終行⑮ ⑯累二量⑰ ⑱知他二能知⑲ ⑳去二法㉑㉒ ㉓如十(是)㉔ ㉕語二顯㉖ ㉗門二行㉘ ㉙是二如㉚

樂爾時名滿。如農夫初以水溉田地。始津潤名津。潤已水漸開微行未能增廣名液。液已水漸增廣未到彼岸名遍。遍已水到彼岸。一切高下盡滿。滿時水還。攘水口名滿。比丘亦如是。住禪時離生喜樂。初生正生起正起觸證身離生喜樂。爾時名津。離生喜樂。漸開微行未能增廣身離生喜樂。爾時名液。離生喜樂。能增廣未到彼岸。身離生喜樂。爾時名遍。離生喜樂。能至彼岸。齊是謂離生喜樂。爾時名身滿。復次津液遍滿。如是諸句。義一名異。如佛說。何謂覺。若覺重覺。究竟覺。諸所憶念法明來至思惟心語。是名覺諸比丘。此義不應如是說。覺異重覺異。究竟覺異。諸所憶念異法明來至異思惟心語異。如覺諸句義一名異。津液遍滿亦如是。義一名異。如比丘修慈心。遍解東方南西北方四維上下。慈心普廣無異無量。無怨無恙。遍解一切世間行。爾時以衆生為境界。如是比丘身離生喜樂。津液遍滿。時以身為境界。不應如是說。如比丘應思惟無常行。離欲不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。便離生喜樂。遍滿身得離生喜樂已。除身炙心炙。身煖心煖。身熱心熱。身熱心然。身熾心熾。身惡心惡。身不樂心不樂。身不調心不調。身不輕心不輕。身不煖心不煖。身不除心不除。如比丘除身炙心炙。乃至身不除心不除已。得身不炙不煖不熱不不不不。得樂則無煩惱金剛。不求利勤力樂行。齊是謂離生喜樂遍滿身。

云何滅覺觀。若覺觀寂靜正寂靜滅沒除。是名滅覺觀。云何內淨信。內有信正勝信生。具足成就。是名內淨信。云何一心。心獨住正住正獨處入定。是名一心。云何無覺無觀。若除覺觀已。定心喜樂。具足成就。是名無覺無觀。云何定生喜樂成就二禪行。云何二禪。二禪有四支。內。信喜樂一心。云何內淨信。若比丘離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。如比丘思惟覺觀我覺觀內淨信寂靜勝。比丘思惟覺觀已覺觀寂靜正寂靜捨滅沒除盡覺觀寂靜正寂靜捨滅沒除盡已內淨信具足成就。是名內淨信。如比丘若以行若受教若法相若方便若專心若思惟若觸離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。如比丘行若受教。乃至親近多修學已。心向寂靜尊上寂靜。傾向寂靜心向寂靜。尊上寂靜傾向寂靜已。覺觀寂靜正寂靜滅沒除盡。覺觀寂靜正寂靜滅沒除盡已。內淨信生。具足成就。是名內淨信。復次比丘思惟覺觀是覺法滅覺法心清淨清淨。人心。是名內淨。行。復次比丘思惟覺觀是覺法離覺法心清白清白心。是名內淨信。復次比丘思惟覺觀是覺法除覺法心明了。明了。是名內淨信。復次比丘思惟覺觀是覺法無覺無觀地寂靜勝妙是名內淨信。復次比丘。思惟有覺觀其心不軟不調不清淨不清白不明了。無覺觀其心軟調清淨清白明了。其心軟乃至明了。是名內淨信。復次比丘。思惟無覺無觀心喜心定如行人若信入信究竟入信勝信淳信心信。是名內淨信。何謂喜。如行人歡喜踊

躍。是名喜。何謂樂。如行人忍受樂。樂意觸樂受。是名樂。何謂一心。如行人信心正信。是名一心。如是四支。名二禪。何謂二。如四禪次順不逆以次入定行二與初無有中問。是謂二。何謂禪。禪謂捨心垢正捨緣捨。是名禪。乃至復次無覺觀行意喜心定如行人若受想思觸思惟乃至及餘所隨色。是名禪。復次隨法非禪是隨禪法。若心住正。住。是名禪。得是定已。護持威儀住行微行。是名成就二禪行。若比丘定生喜樂。津液遍滿。此身盡定生喜樂。津液遍滿。無有減少。如大陂湖。以山圍遶。水從底涌出。不從東方南西北方來。自從底涌出。此陂津液遍滿。無有減少。如是比丘。身定生喜樂。津液遍滿。無有減少。云何津。云何液。云何遍。云何滿。如比丘住禪時身定生喜樂生正生起正起。重證身定生喜樂。爾時名津。住禪時。定生喜樂。漸開微行。未能增廣。身定生喜樂。爾時名液。住禪時。身定生喜樂。能增廣未到彼岸。定生喜樂。爾時名遍。住禪時。定生喜樂。能至彼岸。齊是謂定生喜樂。爾時名身滿。如農夫初以水溉田。始津潤爾時名津。津潤已水漸開微行。未能增廣。爾時名液。液已水遂增廣。未到彼岸。爾時名遍。遍已水到彼岸。地一切高下盡滿。滿時水還攘水口。爾時名滿。比丘亦如是。住禪時身定生喜樂生正生起正起觸禪定生喜樂。爾時名津。乃至住禪時。定生喜樂。能至彼岸。齊是謂定生喜樂。爾時名身滿。復次津液遍滿。如是諸句義一名異。如佛說。云何觸緣。眼緣

●下同 ●(淨)十信 ●(人)一 ●行二信 ●明了十(心) ●樂意二信 ●名二若 ●住二信 ●重二觸 ●住二往 ●(證)十禪定 ●眼二明 ●

色生眼識。三法和合觸。眼非觸色非觸。若此
法共和合聚集。是謂觸。諸比丘。此義不應如
是說。共異和合聚集異。如此諸句。義一
名異。津液遍滿。亦復如是。義一名異。如比
丘。修悲遍解東方南西北方四維上下。悲心
普廣。無異無量。無怨無恙。遍解一切世間行。
爾時以衆生爲境界。比丘住禪時。身定生喜
樂。津液遍滿。以身爲境界。不應如是說。如
比丘應思惟苦行滅覺觀內淨信心。獨無覺
觀。定生喜樂。成就二禪行。便定生喜樂。身
遍滿得定生喜樂已。除身炙心炙。乃至身不
除心不除。得身不炙不煖不熱不燥不焦得
樂則無煩惱金剛。不求利勤力樂行。齊是謂
定生喜樂遍滿身

云何離。喜滅沒除盡是謂離。云何捨行。謂共
捨定得正得護持威儀住行微行。是名捨行。
云何念正智。念正智成就。是名念正智。云何
身受樂。樂謂忍樂意觸樂受。是名樂。此樂
身受正受微受緣受以何身受意身受。是名
身受樂。云何如諸聖人解。聖人謂佛及聲聞。
知自地善法現世樂行。入定出定已。顯示教
化流布開解演說分別顯現。是名如諸聖人
解捨念樂行。云何成就三禪行。三禪有五支。
共味捨念正智無喜樂一心。云何共味捨。如
比丘。滅覺觀內淨信心觸。無覺無觀。定生
喜樂。成就二禪行。如比丘。觀喜龜我喜龜心
踊躍共味捨勝寂靜。如比丘。觀喜龜喜寂靜
正寂靜滅沒除盡。喜寂靜正寂靜滅沒除盡
已。共味捨生正起正起。具足成就。是名

共味捨。如比丘。若行乃至觸滅覺觀內淨信
心觸無覺觀。定生喜樂。成就二禪行。如比丘。
行乃至觸觀近正親近多修學。如比丘。行乃
至觸親近正親近多修學已。心向寂靜心向
寂靜。已。尊上寂靜尊上寂靜。已。傾向寂靜。
傾向寂靜已。喜寂靜。正寂靜滅沒除盡。喜寂
靜正寂靜滅沒除盡已。共味捨生正起正
起具足成就。是名共味捨。復次比丘。離喜樂
修無喜共味定。如行人捨勝捨心調正。親調
心無作非受。是名共味捨。云何念。行人念憶
念。是名念。云何正智。如行人智見解射方便。
是名正智。云何無喜樂。如行人不忍受苦
樂意觸不苦不樂受。是名無喜樂。云何一心。
如行人心住正住。是名一心。如是五支。是
名三禪。何謂三。如四禪次順不逆。以次入
定行三與二。無有中間。是名三。云何禪。謂
捨心垢正捨緣捨。是名禪。乃至復次離喜樂
修。無喜共味定。如行人受想思觸思惟。乃至
及餘隨色。是名禪。復次隨法。非禪是隨禪法。
若心住正住。是名禪。得是定護。持威儀住
行微行。是名成就三禪行。如比丘。身無喜
樂。津液遍滿。無有減少。如優鉢羅池波頭摩
池拘勿頭池分陀利池花從閻湧出。未能出
水。此花若根若頭。水津液遍滿。無有減少。如
是比丘。身無喜樂。津液遍滿。無有減少。云何
津。云何液。云何遍。云何滿。如比丘。住禪時無
喜樂。初生正起正起觸證。如比丘。住禪時無
身無喜樂。爾時名津。乃至住禪時無喜樂。能
到彼岸。齊是名無喜樂。爾時名身滿。如農夫

初以水溉田地。始津潤爾時名津。津潤已水
漸開微行。未能增廣。爾時名液。液已水遂
增廣。未到彼岸。爾時名遍。遍已水廣。到彼
岸。地一切高下。盡滿滿時。水還據水口。如農
夫放水處。齊是名滿。比丘亦如是。住禪時身
無喜樂。生正起正起觸證。身無喜樂。爾時
名津。乃至住禪時無喜樂。能到彼岸。齊是
名無喜樂。爾時名身滿。復次津液遍滿。如
是諸句。義一名異。如佛說此苦聖誦法未曾
聞自思惟。生智生眼生覺生明生通生慧生
解。諸比丘。此不應如是說。謂智異眼異覺異
明異通異慧異解異。如此諸句。義一名異。津
液遍滿。亦復如是。義一名異。如比丘。修喜心
遍解東方南西北方四維上下。喜心普廣。無
異無量無怨無恙。遍解一切世間行。爾時以
衆生爲境界。比丘住禪時。身無喜樂。津液遍
滿。以身爲境界。不應如是說。如比丘。應思惟
無我法離喜捨行念正智身樂。如諸聖人解
捨念樂行。成就三禪行。便無喜樂滿身。得無
喜樂已。除身炙心炙。乃至身不除心不除。如
比丘。除身炙心炙。乃至身不除心不除。已。得
身不炙乃至不煖得心不炙乃至不燥得樂則
無煩惱金剛。不求利勤力樂行。齊是名無喜
樂遍滿身。云何斷苦樂。如比丘。斷苦樂。是
名斷。云何先滅憂喜。如比丘。憂喜已滅。寂
靜正寂靜是名先滅憂喜。云何不苦不樂捨
如佛告舍利弗。如聖人離欲惡不善法成就
喜行。爾時無有五法。謂共欲染相續喜樂。
共欲染相續憂苦。共不善喜樂。共不善憂苦。

初以水溉田地。始津潤爾時名津。津潤已水
漸開微行。未能增廣。爾時名液。液已水遂
增廣。未到彼岸。爾時名遍。遍已水廣。到彼
岸。地一切高下。盡滿滿時。水還據水口。如農
夫放水處。齊是名滿。比丘亦如是。住禪時身
無喜樂。生正起正起觸證。身無喜樂。爾時
名津。乃至住禪時無喜樂。能到彼岸。齊是
名無喜樂。爾時名身滿。復次津液遍滿。如
是諸句。義一名異。如佛說此苦聖誦法未曾
聞自思惟。生智生眼生覺生明生通生慧生
解。諸比丘。此不應如是說。謂智異眼異覺異
明異通異慧異解異。如此諸句。義一名異。津
液遍滿。亦復如是。義一名異。如比丘。修喜心
遍解東方南西北方四維上下。喜心普廣。無
異無量無怨無恙。遍解一切世間行。爾時以
衆生爲境界。比丘住禪時。身無喜樂。津液遍
滿。以身爲境界。不應如是說。如比丘。應思惟
無我法離喜捨行念正智身樂。如諸聖人解
捨念樂行。成就三禪行。便無喜樂滿身。得無
喜樂已。除身炙心炙。乃至身不除心不除。如
比丘。除身炙心炙。乃至身不除心不除。已。得
身不炙乃至不煖得心不炙乃至不燥得樂則
無煩惱金剛。不求利勤力樂行。齊是名無喜
樂遍滿身。云何斷苦樂。如比丘。斷苦樂。是
名斷。云何先滅憂喜。如比丘。憂喜已滅。寂
靜正寂靜是名先滅憂喜。云何不苦不樂捨
如佛告舍利弗。如聖人離欲惡不善法成就
喜行。爾時無有五法。謂共欲染相續喜樂。
共欲染相續憂苦。共不善喜樂。共不善憂苦。

○(已)一○(一)○(正)○(二)○(三)○(親)○(二)○(三)○(二)○(一)○(九)○(得)○(如)○(持)○(十)○(滅)○(是)○(津)○(液)○(是)○(謂)○(名)○(謂)○(喜)○(喜)○(要)○

共善愛苦。舍利弗如聖人離欲惡不善法。成就喜行。如是五法盡。無如聖人離欲惡不善法。得成就喜行共欲染相續喜樂乃至共善憂苦。爾時已滅。及餘共善憂樂亦滅。是謂入第四禪。云何第四禪第四禪有四支。不苦不樂捨念淨一心。云何不苦不樂捨。如比丘。離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。如比丘。觀無喜樂龜心。猶有作若不苦不樂捨。勝寂靜觀無喜樂龜無喜樂寂靜正寂靜滅沒除盡已。不苦不樂捨。正生起正起具足成就。是名不苦不樂捨。如比丘若行乃至觸離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。如比丘行乃至觸親近多修學已。向寂靜已向寂靜。尊上寂靜尊上寂靜。傾向寂靜傾向寂靜已。無喜樂寂靜。無喜樂寂靜滅沒。除沒除盡已。不苦不樂捨。正生起正起具足成就。是名不苦不樂捨。復次比丘。雖無喜樂。修不苦不樂捨定。如行人身心不忍受苦樂眼觸不苦不樂受乃至意觸不苦不樂受。是名不苦不樂捨。云何念。如行人念憶念。是名念。云何淨。如行人念離欲染清淨。離惡不善法清淨。離覺清淨。離觀清淨。離喜清淨。離樂清淨。離苦清淨。離憂清淨。及離餘煩惱法清淨。是名淨。云何一心。如行人若心住正住。是名一心。此四支是名第四禪。何謂四禪。次順不逆。以次入定行四與三無有中間。是名四。何謂禪。捨心垢正捨緣捨。是名禪。乃至復次離無喜樂修不苦不樂捨定。如行人受思想觸

思惟。乃至及餘隨色。是名禪。復次隨法非禪是修禪法。心住正住。是名禪。得如是定。護持威儀住行微行。是名成就四禪行。如比丘。修清淨。深心。身遍解行。無不遍處。如男子女人。著白淨衣。上下具足。從頭至足。從足至頭。無不遍處。比丘亦爾。修清淨心。身遍解行。無不遍處。比丘入第四禪。心不高不下不憎不愛定住不動。猶如靜室。涅治內外戶牖俱閉無有風塵。於其室內。然以油燈。若人非人。若風若鳥。無有觸者。然焰不高不下不傾不曲定住不動。比丘入第四禪。亦復如是。心不高不下。乃至定住不動。云何高心。共掉相應心。是名高心。云何下心。共懈怠相應心。是名下心。復次共七慢。相應心。是名高心。共我相應心。是名下心。云何愛心。共染相應心。是名愛心。云何憎心。共瞋恚相應心。是名憎心。此四禪中。心不共掉不掉相應。乃至不共瞋恚相應。是名不高不下不憎不愛。云何住若心住。正住獨處定。是名住。云何不動處。不動謂第四禪。如佛語。優陀夷。若比丘。離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。我說是動。此有何動。謂覺觀不滅。若比丘。滅覺觀內淨信一心無覺無觀。定生喜樂。成就二禪行。我說是動。此有何動。謂喜未滅。若比丘。離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。我說是動。此有何動。謂捨樂未滅。若比丘。斷苦樂先滅憂喜不苦不樂捨心淨。成就四禪行。我說是不動。若比

丘離欲惡不善法入初禪。從初禪起入二禪。從二禪起入三禪。從三禪起入四禪。是謂到不動處。比丘如是修學四禪。欲證通法。隨心所欲。即能得證。自在無礙。如四衢平處有善調駕。驅有善御者隨意自在。如是比丘親近四禪多修學已。欲證通法。隨心即得。自在無礙。如盛水瓶。堅牢不漏。盛以淨水。平滿為飲。隨人取用。如意自在。如是比丘親近四禪多修學已。欲證通法。隨心所欲。自在無礙。如陂泉遮水。平滿為飲。隨人決用。如意自在。如是比丘親近四禪。多修學已。欲證通法。隨心所欲。即能得證。自在無礙。若比丘欲以神足動地。能以一為多。以多為一。乃至梵天身。得自在隨所欲入。若欲受天耳清淨過人。能聞二聲。人非人聲。隨所能入。若欲知他衆生。能知有欲心。如實知有欲心無欲心。如實知無欲心。隨所能入。若欲憶念無量宿命能憶一生。乃至成就此行。隨所能入。若欲受天眼清淨過人。能見衆生生死。乃至如所造業。隨所能入。若欲盡有漏成無漏。得心解脫慧解脫。現世自知證成就行。我生已盡。梵行已立。所作已辦。不受後有。隨所能入。如是四禪親近多修學。得如是果報。

舍利弗阿毘曇論卷第十四

舍利弗阿毘曇論卷第十五

姚秦。罽賓三藏。曇摩耶舍
共。曇摩崛多。等。譯

非問分道品第十之一

有人出世。如來無所著等正覺。說種種因種種門種種道種種向道。今當集諸道門。有一支道二支道三支道四支道五支道六支道七支道八支道九支道十支道十一支道。云何一支道。身念處。是名一支道。云何二支道。定慧。是名二支道。云何三支道。有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。空定無。想定。無願定。是名三支道。云何四支道。四念處。四正斷四神足四禪四無量四無色定四向道四修定四斷。是名四支道。云何五支道。五根五力五解脫入五出界五觀定五生解脫法。是名五支道。云何六支道。六念六向六出界六明分法六悅因法六無喜正覺。是名六支道。云何七支道。七覺七想七定因緣法。是名七支道。云何八支道。八聖道八解脫。八勝入。是名八支道。云何九支道。九滅九次第定九想。是名九支道。云何十支道。十想十直法十一切入。是名十支道。云何十一支道。十一解脫入。是名十一支道

受無常。如實人念憶念是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘身苦惱癡箭味患依緣壞法不定。不滿可壞苦空無我。思惟緣。知緣受緣。即無明緣行。行緣識緣。緣名色。名色緣六入。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘思惟身滅。知滅解滅受滅。即無明滅。無明滅則行滅。行滅則識滅。識滅則名色滅。名色滅則六入滅。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘知行樂住住樂坐坐樂臥知臥樂。如是身住樂。如實人念憶念是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。去來屈伸應正智行。執持衣鉢。如法飲食。病瘦醫藥除疲極睡眠。及。大小便利於行住坐臥覺悟說法默然。應正智行。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。出息短知出息短。入息短知入息短。如旋師旋師弟子繩長知長繩短知短。如是比丘。出息長知長。入息長知長。出息短知短。入息短知短。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。從頂至足皆

是不淨。此身中有爪齒髮毛薄皮厚皮肉筋脈脾胃心肺大小穢處涕唾膿血脂肪腦膜淚汗骨髓。如淨眼人。於一門倉。觀見諸穀。胡麻米豆小豆。豌豆大麥小麥。如是比丘。觀此身中。從頂至足。皆是不淨。此身中但有爪齒乃至骨髓。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。觀四大。此身有地大水大火大風大。如屠牛師屠師弟子屠牛為四分若坐若立觀此四分。如是比丘。觀此身地大水大火大風大。觀此諸大。各各相違。有此諸大依於外大飲食長養羸劣不堅念。磨滅暫住不久。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是觀此身依食住依食長養。緣食住無食不住。如火依薪得然無薪則滅。如是比丘觀此身依食住依食長養。緣食住無食不住。如世尊說

觀身所集苦 一切皆緣食

若能除滅食 則無是諸苦

如是知過患 食是成就苦

比丘滅食已 決定得涅槃

如是人念憶念實名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘觀身盡空俱空。以念遍知解行。如竹葦盡空俱空。如是比丘觀身盡空俱空。以念遍知解行。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果

十五二十三 十三上 實一天竺 曇摩耶舍 曇摩崛多 等 一 之一 想二相 八二入 大小二小 悟二 十(肌) 二卑 實二 是

乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。觀身是癯瘠。身中有九瘡津漏門。所出津漏。皆是不淨津漏。是胎始膜。是腐敗。是臭穢。是可惡津漏。眼出眇淚膿血津漏。耳出。耳聾膿血津漏。鼻出涕痰膿血津漏。口出涕唾膿血津漏。二處出便利膿血津漏。如人癯瘠乾痂久住。如是九瘡津漏門所出。皆是不淨津漏。是胎始膜。是腐敗。是臭穢。是可惡津漏。比丘如是觀身是癯瘠。此身九入九瘡九津九漏。眼耳鼻口一一處所出津漏皆是不淨津漏。是胎始膜。是腐敗。是臭穢。是可惡津漏。眼出眇淚膿血津漏。耳出。耳聾膿血津漏。鼻出涕痰膿血津漏。口出涕唾膿血津漏。二處出便利膿血津漏。如摩訶迦葉所說。四大身是衰耗相違津漏。眾病所居處。眾苦所依處。愛護身者。如愛護死屍。壽命短促。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。觀三根集業。貪根集業。恚根集業。癡根集業。若貪作業貪共貪。貪集業。因貪緣身口意。是非聖業。是有漏業。是集業非滅垢業。瞋恚愚癡。亦復如是。若成就此業。父母具足有漏心向陰欲受生。彼陰滅滅母胎生初識有色。共彼識四大所造色。謂色由意生受想思觸。謂名如是名色共生共起。彼不從東。方南西北方四維上下來。不從父母出。不從業出。亦非餘處出。因眾緣和合。因集業因父母出。如春後月無有雲霧。日中時有人持火珠。以乾牛糞粉上。便有

火生有光出。如是觀火。不從東方乃至牛糞中出。如是眾緣和合有火生光出。比丘如是觀名色。不從東方。乃至不從業出。眾緣和合。因集業因父母生。便有。色名。七日時。是胎始膜。復七日如雲。復七月初肉。復七日始堅。乃至四十九日。身肢節具足。帝釋問世尊。諸佛不以色為我。云何身有覺。云何水中生骨。復云何能住胎。問已有答。世尊為決疑。一切行生滅。世尊。如實知一切行生滅。帝釋諦聽。我今當說。初有胎始膜。因胎始膜。便有。如雲。因如雲便有初肉。因初肉便有始堅。因始堅便有支節諸入。爪髮。因母飲食便住。帝釋復問

衆生不知何法 衆生不覺何法
衆生何法染貪 衆生何法繫縛
衆生不知生法 衆生不覺滅法
衆生身法染貪 衆生愛法繫縛
帝釋宜實諦聽 知因法則能離
慧者能度死流 度已終不復還

若母懷妊。或九月。或十月。身重自愛護。若九月若十月愛護重身已。便生子。生已母以血養。聖法中。以母乳為血。後便能食能食已。諸根增長。諸根增長已。諸根具足。後則衰變。骨節離解。皮緩面皺。氣力微弱。齒落髮白。身體傭曲。拄杖羸劣。氣息轉少。不耐苦痛。壯時已過。血肉漸消。多諸苦患。死命迫促。如尸婆羅所說

人命去不還 日夜常衰損

如魚處熱水 生苦死復逼

以如是方便。知法無常有為緣生。盡法變法。離法滅法。我所非我有。我非我所有。我。我所皆無有我。如是慧者。正觀不放逸。勤念正。慧寂靜行。若依貪妄想斷。斷已內心正住。止。獨處得定。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。人有眼耳鼻舌身意。假名為人。眼耳鼻舌身意非人。離眼耳鼻舌身意亦非人。若如是法。正生正成就。正出。假名為人。如含。有梁椽牆壁假名為舍。梁椽牆壁非舍。離梁椽牆壁亦非舍。若如是法。正生正成就。正出。假名為舍。比丘如是思惟。人有眼耳鼻舌身意。假名為人。眼耳鼻舌身意非人。離眼耳鼻舌身意亦非人。若如是法。正生正成就。正出。假名為人。如象經所說。比丘緣木緣竹緣繩索緣泥圍繞虛空。假名為舍。比丘如是緣骨緣筋緣血肉緣皮膚圍繞虛空。假名為我。以如是方便。知此法無常有為緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所有。我所我皆無有我。如是正慧見。如是不放逸。勤念正智寂靜行。依貪妄想斷。斷已內心正住。止。獨處得定。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。緣有眼。假名為我。無眼亦不假名為我。眼非我離眼。若是我眼。應當有異。以眼非我故。眼無有異。若無眼亦不假名為我。

① 耳一結 ② 支一肢 ③ 爪一抓 ④ 覺一貫 ⑤ 柱一柱 ⑥ 劣二步 ⑦ 婆羅二婆羅 ⑧ 去二法 ⑨ 水二中 ⑩ 我所一 ⑪ 慧一知 ⑫ 止二心 ⑬ 我所二我所 ⑭ 定一

以眼非我離眼亦非我。以是故。緣假名爲我。無眼亦不假名爲我。耳鼻舌身心緣心假名爲我。無心亦不假名爲我。心非我離心非我心。若是我心。應當有異。以心非我故。心無有異。若無心亦不假名爲我。以心非我離心亦非我。以是故。緣心假名爲我。無心亦不假名爲我。如世尊說。若說眼爲我者非也。眼有生滅。若生滅者。我亦應生滅。則有此負。是故非也。若說眼爲我者此事不然。耳鼻舌身心亦復如是。如是方便知此法無常。有爲緣生。盡法變法。離法滅法。我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。如是正慧見。如是不放逸勤念正智寂靜行。依貪妄想斷。斷已內心正住正止獨處定。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟若見色是我。受想行識是我。此見共欲共瞋共患共癡共取共忍住共苦共虛妄共衆惱共焦熱不離欲。不滅。不寂靜。不正。覺。不得沙門果。不得涅槃。若此見成就。於生老病死苦本。則聚集和合。若見色無我。受想行識無我。此見不共瞋恚。不共患癡。不共取。不共忍住。不共苦。不共虛妄。不共衆惱。不共焦熱。解離欲滅。寂靜正覺。得沙門果得涅槃。若此見成就。於生老病死苦本。則不聚集和合。如世尊說。諸比丘。有人如是見緣有我所緣有我所。我言有我所。若實若有。盡不可得。諸比丘。此非純愚法也。世尊是也。諸比丘。如愚者計有

常。不異不異物不變法。常定住有是也。世尊有也。諸比丘。若計有常。不異不異物不變法。常當定住也。世尊無也。若愚者計有我。若我常不異不異物不變法。常定住有是也。世尊有也。諸比丘。計有我。若當不異不異物不變法。常當定住也。世尊無也。諸比丘。若愚者依止。若依。常見。不異不異物不變法。常當定住也。世尊有也。諸比丘。若依止。若依常見。不異不異物不變法。常當定住也。世尊無也。以是故。諸比丘。若一切色。過去未來現在。內外。卑勝。遠近。如是一切色。我非我所。我。所非我有。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。受想行識觀亦如是。復次比丘。若作是見。我樂世樂當樂常不異不異物不變法常定住。但我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。若作是見。我斷滅。但我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。若作是見。我能見聞覺知思惟分別。但我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。聖人若如是見如是聞。有我。是謂正慧觀。聖人若如是見如是聞。有我。是我。所。終無驚恐。復次如世尊說。色非我。若色是我。色不應受苦患。色應得自在。如是有如是非有。以色非我故。色受苦患。色不得自在。如是有如是非有。受想行識非我。我非識。若識是我。識不應受苦患。識應得自在。如是有如是非有。以識非我故。識受苦患。識不得自在。如是有如是非有。是故當知此法無常有。爲緣生。盡法變。法離。法。我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。如是

不放逸勤念正智寂靜行。依貪妄想斷。斷已內心正住正止獨處定。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學。得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟世間種種苦。此苦何因何。緒何集何生何尊上。如是思惟世間種種苦。因陰緒陰集陰生陰尊上緣陰。有喪父母兄弟姊妹妻子親屬苦。有衰耗衆病苦。有諸不適意觸。若手。拳。觸。鞭杖。觸。瓦石。觸。刀。杖。觸。寒熱。觸。飢渴。觸。風日。觸。蚊虻。觸。有國王大臣。枷鎖繫閉。纏縛。肉斷骨出如貝。騎利木刀。以石錘脚。五車。礮。裂。以繩拘結。火鑿燒身。身爲火。傳。以刀削身。以鈎鉤肉。剝皮。蜜塗。令虫啖食。草裏火燒。扇車吹身令破。鐵鏃纏身。斷手足耳鼻。驅上。標頭。以箭射殺。最後斬殺。有如是等苦。如世尊說

無有如欲火 無有如毒
無有如癡網 無有如陰苦
如實知此已 涅槃第一樂

是故當知。此法無常有。爲緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所。我。所我。皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸勤念正智寂靜行。依貪妄想斷。斷已心正住正止獨處定。如實人念憶念。是名身念處。此念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟身多苦多失多惱多悲多衆苦。觀身生正起正起出正出成就具足生種種病。若因熱生病。因陰生病。因風生病。因自力生病。因他

①所我二我所 ②覺二學 ③純二純 ④(常)一 ⑤是十(有如是) ⑥(法)一 ⑦法十(滅法) ⑧緒二緣 ⑨(間)一 ⑩拳二握 ⑪杖二仗 ⑫鎖二鎖 ⑬珠 ⑭纏二道 ⑮礮二砲 ⑯纏身二身纏 ⑰標二樹 ⑱(此)一

惱生病。因時變生病。因諸大相違生病。因食不消生病。因業報生病。因集生病。眼病耳鼻舌身病。頭痛肩痛。牙齒咽喉。腦痛蛇肌。氣逆呼。呻咽塞聲。欬嘔吐。下利絞痛熱病腹痛。瘡癬疥癩皮膚瘡癩。如虫行。侵。姪瘡癩疥癩瘡白癩枯燥。癩狂病痔。病赤腫病。外為種種虫瞰蚤虱壁虱蚊虻蠅子。內乃至一毛處。無不有虫。如世尊說。色生住出生病居苦出老死。若受想行識生住出生病居苦出老死。復次如世尊說。三苦。行苦。苦。苦。變苦。是故當知。此法無常有。為緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所有。我我所皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸勤念正智寂靜行依貪妄想斷。斷已內心正住正止。獨處定。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學。得須陀洹果。乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。何因何住何非因何非住。如是思惟。因脚骨住。因膊骨住。因髀骨住。因腕骨住。因臑骨住。因脊骨住。因脊骨住。因手骨住。因臂骨。因臂骨住。因肩骨住。因項骨住。因頭骨住。因髓住。因髓住。因骨住。因肉住。因肉住。因血。因血住。因皮住。因皮住。因薄皮住。因毛。因毛住。因風住。因風住。因水住。因地住。因諸作業及種子聚落。衆生聚落。藥草叢林。比丘如是思惟。因脚骨住。因膊骨住。因髀骨住。因腕骨住。因臑骨。因骨乃至住毛。若無脚骨。膊骨不住。無膊骨。肩骨不住。無肩骨。項骨不住。無項骨。頭骨不住。無頭骨。髓骨不住。無髓骨。筋骨不住。無筋骨。肉不住。無肉。血不住。無血。皮不住。無皮。薄皮不住。無薄皮。毛不住。無毛。虛空風不住。如無風。水不住。若無水。地不住。如無地。諸作業及種子聚落。衆生聚落。藥草叢林。不住。比丘如是思惟。若無脚骨。膊骨不住。無膊骨。乃至頭骨不住。無髓骨。膊骨乃至毛不住。以骨盛髓。筋纏骨。肉覆筋。血塗肉。皮裹血。薄皮膜厚皮。毛衣薄皮。如世尊說。若法生滅。因行住。是故當知。此法無常有。為緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所有。我我所皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸勤念正智寂靜行依貪妄想斷。斷已內心正住正止。獨處定。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學。得須陀洹果。乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。何因何住何非因何非住。如是思惟。因脚骨住。因膊骨住。因髀骨住。因腕骨住。因臑骨。因骨有假口業。無口無假口業。因意有假意業。無意無假意業。若身作業。若口說業。業觸身去來。屈伸迴轉。身教。集聲音言言語口教。若因意作業。無意無作業。如世尊說。

心為法本 心尊心使 中心念善 即言即行 福樂自追 如影隨形 是故當知。此法無常有。為緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所有。我我所皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸勤念正智寂靜行依貪妄想斷。斷已內心正住正止。獨處定。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學。得須陀洹果。乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。何因何住何非因何非住。如是思惟。因脚骨住。因膊骨住。因髀骨住。因腕骨住。因臑骨。因骨有假口業。無口無假口業。因意有假意業。無意無假意業。若身作業。若口說業。業觸身去來。屈伸迴轉。身教。集聲音言言語口教。若因意作業。無意無作業。如世尊說。

心為法本 心尊心使 中心念善 即言即行 福樂自追 如影隨形 是故當知。此法無常有。為緣生。盡法變法離法滅法。我所非我有。我非我所有。我我所皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸勤念正智寂靜行依貪妄想斷。斷已內心正住正止。獨處定。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學。得須陀洹果。乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。何因何住何非因何非住。如是思惟。因脚骨住。因膊骨住。因髀骨住。因腕骨住。因臑骨。因骨有假口業。無口無假口業。因意有假意業。無意無假意業。若身作業。若口說業。業觸身去來。屈伸迴轉。身教。集聲音言言語口教。若因意作業。無意無作業。如世尊說。

◎腦二壯◎ ◎膊二略◎ ◎欸二欸◎ ◎如二是◎ ◎經二徑◎ ◎廣二順◎ ◎病赤二赤病◎ ◎苦十(苦)◎ ◎[果]一◎
 ◎[膊]二[腦]◎ ◎[骨]筋二[筋]骨◎ ◎[刻]作木二[於]作本◎ ◎[業]二[若]◎ ◎[語]二[說]◎ ◎[世尊說]二[中尊說]◎ ◎[追]二[造]◎
 ◎[於]二[子]◎ ◎[形]十(英智實捨)◎ ◎[止]二[土]◎ ◎[行]二[彼]◎ ◎[此]十[最後]◎ ◎[初識]一[初]◎ ◎[後]二[後]◎

非命非斷。非生非住。非有變非無因。非天所作。非此作此受。非異作異受。知有去來。知有生。知有業相續。知有說法。知有緣。無有從此至彼者。無有從彼至此者。但行相續生。以業緣故。如世尊說。我所空。我於我所。不應疑我所。不應說於一切法不應疑。是故當知。此法無常有為緣生盡法變法滅法離法。我所非我有。我非我所有。我*所我皆無有我。是謂正慧觀。如是不放逸。勤念正智寂靜行。依貪妄想斷。斷已內心正住。正止。獨處定。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。若見嬰兒。心愚癡無識。眠臥穢處。如是思惟。我亦如是。法如是相。未離是法。我身亦是有生法。有生過患。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。若見男子女人。年老衰熟。髮白齒落。皮緩面皺。身體優曲。拄杖羸步。氣息不調。如是思惟。我身亦如是。法如是相。未離是法。我身亦是有老法。有過患。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。若見男子女人。身患苦有。眠臥穢處。羸劣無力。動止須人。如是思惟。我身亦如是。法如是相。未離是法。我身亦有病。有病過患。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比

丘。若見男子女人身壞時過。若是親屬。若非親屬。棄其死屍。如草糞土。如是思惟。我身如是。法如是相。未離是法。我身亦壞法。有死過患。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍棄在塚間。一日至三日。觀自身。如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍棄在塚間。一日至三日。臄脹青瘀。觀自身。如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍棄在塚間。一日至三日。若。烏鳥虎狼。為若干諸獸所食。噉。觀自身。如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節相連。青赤爛壞。膿血不淨。臭穢可惡。觀自身。如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節相連。血肉所覆。筋脈未斷。觀自身。如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節相連。血肉已離。筋脈未斷。觀自身。如是法如是相。未離

是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節已壞。未離本處。觀自身如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節已壞。遠離本處。脚髀。膊。臑。脊。脇。肋。手足。肩。臂。項。鬲。體。各自異處。觀自身如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍骨節久。故色白。如貝色。青如鴿朽。敗碎壞。觀自身如是法如是相。未離是法。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。復次比丘。見死屍在火。聚上。一切髮毛。皮膚。血肉。筋脈。骨髓。一切髮毛。乃至骨髓。漸漸消盡。觀此身法。不至東方。南。西。北。方。四維。上下。住。此身法本無而生。已有還滅。如實人念憶念。是名身念處。念親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名身念處。一支向涅槃道。何謂身念。身發起生。是名身念。思惟身生。是名身念。身境界生。是名身念。依身生。是名身念。身分別生。是名身念。何謂定慧。二支向涅槃道。何謂定。心住正住。是名定。何謂慧。智分別是名慧。如是定如是慧。是名定慧。親近多修學得須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。是名定慧。二支向涅槃道。復次

○[多]一○ ○柱二柱 ○(老)十過患 ○烏鳥二鳥烏 ○聚上一切髮二念處一支 ○定慧十(定慧)

比丘。若一切有為法。若一處有為法。思惟無常知無常解無常受無常。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。若一切有為法。若一處有為法。思惟苦思惟離苦味。依緣壞法。不定不滿變滅可壞。苦空無我。思惟緣知緣解緣受緣。即無明緣行。行緣識。識緣名色。名色緣六入。六入緣觸。觸緣受。受緣愛。愛緣取。取緣有。有緣生。生緣老死憂悲苦惱純苦聚集。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。若一切有為法。思惟滅知滅解滅受滅。即無明滅。無明滅則行滅。乃至純苦聚集滅。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。行知行樂住住樂坐知坐樂臥知臥樂。如身行住坐臥樂。如實知不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。乃至若見死屍在火聚上。亦如上說。復次比丘。如是思惟。我內有欲染。如實知內有欲染。若內無欲染。如實

知內無欲染。如欲染未生。如實知未生。如欲染生。如實知生。如欲染生已斷。如實知斷。如欲染斷已。如實知更不復生。內有瞋恚睡眠掉悔疑亦如是。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。我內眼識色有欲染瞋恚。如實知內眼識色有欲染瞋恚。內眼識色無欲染瞋恚。如實知內眼識色無欲染瞋恚。如未生眼識色欲染瞋恚。如實知未生眼識色欲染瞋恚已斷。如實知斷。如眼識色欲染瞋恚斷已。如實知更不復生。耳識聲鼻識香舌識味身識觸意識法亦如是。不放逸觀得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。如是思惟。我內有念正覺。如實知內有念正覺。內無念正覺。如實知內無念正覺。如念正覺未生。如實知未生。如念正覺未生。如實知生。如念正覺已生具足修。如實知具足修。擇法正覺精進正覺除正覺定正覺捨正覺亦如是。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。如實知苦苦集苦滅苦滅道。如實知漏漏集。漏滅

漏滅道。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。復次比丘。心畏怖故。出一切有為。入甘露界。此寂靜勝離一切有為盡涅槃。如是不放逸觀。得定心住正住。是名定。如實人若智分別。是名慧。如是定如是慧。是名定慧。定慧親近多修學得須陀洹果乃至阿羅漢果。是名定慧二支向涅槃道。何謂定。煩惱未斷者。欲染斷正斷寂靜。瞋恚愚癡煩惱障礙諸縛惡行滅正滅寂靜。如是定如煩惱未斷者。欲染斷正滅寂靜。瞋恚愚癡障礙諸縛惡行滅正滅寂靜。如是定何謂慧。如實人若智分別。色如實分別。受想行識亦如是。如明眼人。上高山頂。若觀東方。如實分別。若南西北方。如實分別。如是慧。如實分別色受想行識。是名慧。

◎云何有覺有觀定。若定覺觀。相應覺觀。共生共住共滅。是名有覺有觀定。復次有覺有觀定。若定覺觀得正得緣得。是名有覺有觀定。復次有覺有觀定。比丘離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。比丘有覺有觀。喜樂一心。若入此定者。得五支正得緣得覺觀喜樂一心。是名初禪有覺有觀定。復次比丘。若得有覺有觀定。有喜共味定。比丘觀喜龜心有悲無喜樂勝寂靜。比丘觀喜龜已。喜寂靜正寂靜滅沒除。喜寂靜正寂靜滅沒

①〔滅〕一②③ ④北方二北方⑤ ⑥卷第十三上終⑦ ⑧卷第十三下非問分道品第十之餘首⑨ 露說同異如卷第十五

除已故。有覺觀無喜樂一心。若入此定者。得四支正得緣得覺觀。無喜樂一心。是名非禪非禪間有覺有觀定。如比丘。若行若受教若法相若方便若專心若思惟若觸得有覺有觀有喜共味定。如比丘行乃至觸親近多修學已。心向寂靜。心向寂靜已。尊上寂靜。尊上寂靜。正寂靜滅沒除。滅沒除已。有覺觀無喜樂一心。若入此定者。得四支正得緣得覺觀無喜樂一心。是名非禪非禪間有覺有觀定。復次比丘。若得有覺有觀無喜樂共味定。此比丘觀無喜樂心。有作不苦不樂捨寂靜勝。此比丘觀無喜樂心。無喜樂寂靜。寂靜正寂靜。正寂靜滅沒除。滅沒除已。故。有覺有觀不苦不樂捨一心。若入此定者。得四支正得緣得覺觀不苦不樂捨一心。是名非禪非禪間有覺有觀定。如比丘。若行若受教若法相。若方便若專心。若思惟若觸得有覺有觀無喜樂共味定。如比丘行乃至觸親近多修學已。心向寂靜。心向寂靜。尊上寂靜。尊上寂靜。傾向寂靜。傾向寂靜已。無喜樂寂靜。寂靜正寂靜。正寂靜滅沒除。滅沒除已。有覺有觀不苦不樂捨一心。若入此定者。得四支正得緣得覺觀不苦不樂捨一心。是名非禪非禪間有覺有觀定。云何無覺有觀定。若定離覺。觀相應不共覺生不共住不共滅。觀共生共住共滅。是名無覺有觀定。復次無覺有觀定。若定不得覺不不得緣不緣得。觀得正

得緣得。是名無覺有觀定。復次無覺有觀定。若比丘。得有覺有觀有喜共味定。此比丘觀覺。無覺有觀定寂靜勝。此比丘觀覺。已覺寂靜。覺寂靜正寂靜。正寂靜滅沒除。滅沒除已。故。有觀喜樂一心。若入此定者。得四支正得緣得觀喜樂一心。是名禪間無覺有觀定。如比丘若行若受教若法相若方便若專心用意。若思惟若觸得有覺有觀有喜共味定。此比丘彼行乃至觸親近多修學。如比丘行乃至觸親近多修學已。心向寂靜。尊上寂靜。傾向寂靜。心向寂靜。尊上寂靜。傾向寂靜。已。覺寂靜正寂靜滅沒除。覺寂靜正寂靜滅沒除已。故。有觀喜樂一心。若入此定者。得四支正得緣得觀喜樂一心。是名禪間無覺有觀定。何謂禪間。是初禪二禪間。從初禪趣二禪時。復次比丘。得無覺有觀有喜共味定。此比丘觀喜樂心。猶有悲無喜。樂寂靜勝。比丘觀喜樂心。喜寂靜正寂靜滅沒除。喜寂靜正寂靜滅沒除已。故。有觀無喜樂一心。若入此定者。得三支正得緣得觀無喜樂一心。是名非禪非禪間無覺有觀定。如比丘。若行若受教若法相。若方便。若專心。若思惟。若觸得無覺有觀有喜共味定。如比丘。行乃至觸。親近多修學。親近多修學已。心向寂靜。心向寂靜。已。尊上寂靜。尊上寂靜。傾向寂靜。傾向寂靜已。喜寂靜滅沒除已。故。有觀無喜樂一心。若入此定者。得三支正得緣得觀無喜樂一心。是名非禪非禪間無覺有觀定。復次比丘。得無覺有觀無喜共味定。比

丘觀無喜樂心。猶有作不。若不樂捨寂靜時。比丘觀無喜樂心。無喜樂寂靜寂靜正寂靜。正寂靜滅沒除。滅沒除已。故。有觀不苦不樂捨一心。若入此定者。得二支正得緣得不苦不樂捨一心。是名非禪非禪間無覺有觀定。如比丘若行若受教若法相若方便若專心。若思惟。若觸。得無覺有觀無喜樂共味定。如比丘。行乃至觸。親近多修學。行乃至觸親近多修學已。心向寂靜。尊上寂靜。傾向寂靜。傾向寂靜已。無喜樂寂靜正寂靜滅沒除。滅沒除已。故。有觀不苦不樂捨一心。若入此定者。得三支正得緣得觀不苦不樂捨一心。是名非禪非禪間無覺有觀定。是名無覺有觀定。何謂無覺無觀定。若定離覺觀覺觀不共生不共住不共滅。是名無覺無觀定。復次無覺無觀定。若定於覺觀不不得不得緣得。是名無覺無觀定。

舍利弗阿毘曇論卷第十五

舍利弗阿毘曇論卷第十六

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

非問分道品第十之二

復次無覺無觀定。如比丘。滅覺觀內淨信一心無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。此比丘。故。有內淨信喜樂一心。若入此定者。得四支正得緣得內淨信喜樂一心。是名第二禪

◎寂靜十(已)◎ ◎若二善◎ ◎者一◎ ◎若一◎ ◎已一◎ ◎若一若◎ ◎二二三◎ ◎不分卷及品◎

生則爲自損。他已損我。若我還報自損甚。彼比丘如是思惟已。於衆生堪忍。除滅瞋惱心。於衆生憐愍起悲心。或有衆生。先未曾侵惱比丘。乃至無因緣橫瞋。如上所說。如比丘若於東方衆生。滅瞋惱心。於衆生憐愍起悲心。南西北方衆生。滅瞋惱心。於衆生憐愍起悲心。比丘以悲心遍解一方行。第二第三第四。四維上下。一切以悲心廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解諸世間行。是名悲。何謂喜。如比丘。不思惟衆生樂不知樂不解樂不受樂。比丘於衆生。不得憐愍。不起悲心。如比丘。若見衆生快樂受樂。若父母兄弟姊妹妻子親屬知識大臣。若諸天子。若諸天子。若佛若佛弟子。於彼衆生得悅喜。不依欲染想。或有衆生。已曾侵惱比丘。比丘於衆生心障礙不清淨不解。比丘如是思惟。衆生已曾侵惱我。衆生雖侵惱我。我不應侵惱彼。我若侵惱衆生。則爲自損他已損我。若我還報自損甚。彼比丘如是思惟已。於衆生堪忍。除滅瞋惱心。於衆生得悅喜。不依欲染想。或有衆生。先未曾侵惱比丘。乃至無因緣橫瞋。如上所說。比丘若於東方衆生。除滅瞋惱心。於衆生得悅喜心。不依欲染想於南西北方衆生。滅瞋惱心。於衆生得悅喜心。不依欲染想。比丘以喜心遍解一方行。第二第三第四。四維上下。一切以喜心廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解諸世間行。是名喜。何謂捨。如比丘。不思惟衆生樂不知樂不解樂不受樂。不得憐愍。不起悲心。不得悅喜。不依欲染想。如比丘。但

緣衆生故得捨。如人入叢林中。不分別此是鉢多樹。尼。居陀樹。毘梨叉樹。優頭披羅樹。家枝樹。加毘耶樹。若毘耶羅樹。家尼柯羅樹。彌陀樹。伊陀伽樹。但見叢林。不分。別諸樹。如是比丘。不思惟衆生樂不知樂不解樂不受樂。不得憐愍。不起悲心。不得悅喜。不依欲染想。但緣衆生故得捨。或有衆生。已曾侵惱比丘。比丘於衆生心障礙不清淨不觀不解。比丘如是思惟。衆生已曾侵惱我。衆生雖侵惱我。我不應侵惱。我若瞋惱衆生。則爲自損。他已損我。若我還報自損甚。於彼比丘。如是思惟已。於衆生堪忍。除滅瞋惱心。但緣衆生故得捨。或有衆生。先未曾侵惱比丘。乃至無因緣橫瞋。如上所說。如比丘。若於東方衆生。滅瞋惱心。但緣衆生故得捨。於南西北方衆生。除滅瞋惱心。但緣衆生故得捨。如比丘。以捨心遍解一方行。第二第三第四。四維上下。一切但以捨心廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解諸世間行。是名捨。是名四無量。何謂四無色定。如比丘。離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干想。成就無邊空處行。離一切空處。成就識處行。離一切識處。成就不用處行。離一切不用處。成就非想非非想處行。是名四無色定。何謂四向道。向苦道難行。向苦道速行。向樂道難行。向樂道速行。何謂向苦道難行。如比丘。性多貪欲。性多瞋恚。性多愚癡。是比丘行道。防欲染故。數受憂苦。防瞋恚故。數受憂苦。防愚癡故。數受憂苦。是比丘

聖五根鈍行。何等五信根。精進念定慧根。比丘五根鈍行故。證無間定盡諸漏。是名向苦道難行。何謂向苦道速行。如比丘。性多貪欲。性多瞋恚。性多愚癡。是比丘行道。防欲染故。數受憂苦。防瞋恚故。數受憂苦。防愚癡故。數受憂苦。是比丘聖。行五根利行。何等五信根。精進念定慧根。比丘五根利行證無間定盡諸漏。是名向樂道難行。如比丘。性欲染少。性瞋恚少。性愚癡少。是比丘緣欲染少故。不數受憂苦。緣瞋恚少故。不數受憂苦。緣愚癡少故。不數受憂苦。是比丘聖五根最利行。何等五信根。精進念定慧根。比丘五根利行證無間定盡諸漏。是名向樂道速行。是名四向道。何謂四修定。如世尊說四修定。何等四。有修定親近多修學得現世樂行。有修定親近多修學得見。有修定親近多修學得慧分別。有修定親近多修學得漏盡。何謂修定親近多修學得現世樂行。如比丘。離欲惡不善法。離生喜樂。成就初禪行。滅覺觀內淨信一心無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。斷苦樂先滅憂喜不苦不樂捨念淨。成就四禪行。如是修

①爲二是一 [爲] 一 ②居二俱 ③優二憂 ④別十(音) ⑤觀二親近 ⑥惱十(彼) ⑦[行] 一 ⑧[有] 一

定親近多修學得現世樂行。何謂修定親近多修學得知見。如比丘善取明想善持善想。比丘如晝修明想。夜亦如是。如夜修明想。晝亦如是。以心開悟。不覆蓋心。心修有明。此定親近多修學得知見。何謂修定親近多修學得慧分別。如比丘知受生。知受住。知受滅。知想生。知想住。知想滅。知覺生。知覺住。知覺滅。此定親近多修學得慧分別。何謂修定親近多修學得漏盡。如比丘知五受陰生滅。知色知色集。知色滅。知受想行識。知識集。知識滅。此定親近多修學得漏盡如波羅延經所。問。斷一切欲想。滅憂惱捨睡眠遮掉悔捨念淨先滅覺知覺解脫斷無明。是名四修定。何謂四斷。戒斷微護斷。修斷。知緣斷。何謂戒斷。如比丘眼見色。不取相不分別。令發眼根。常自攝行。莫依希望世憂惡不善法。慎護眼根。得眼根戒耳鼻舌身意。意知法。不取相。分別令起意根。常自攝行。莫依希望世憂惡不善法。慎護意根。得意根戒。是名戒斷。何謂微護斷。如比丘取善相生微護若骨節。若腫胞。若腫脹若青瘡若赤黑。若爛壞離散。如是觀善相生微護。是名微護斷。何謂修斷。如比丘修念正覺依離欲依無染依滅愛擇法正覺進正覺喜正覺除正覺定正覺修捨正覺依離欲依無染依滅愛。是名修斷。何謂智緣斷。如比丘或在樹下露處。如是思惟。身不善惡行報今世及後世。如比丘堪忍斷身惡行。修身善行。口不善行報。今世及後世。如比丘堪忍斷口惡行。修口善行。意不

善行惡報。今世及後世。如比丘堪忍斷意不善行。修意善行。是名智緣斷。

戒護緣修斷 自性如來說
比丘行是法 一切苦際盡
是名四斷智。

何謂五根。信根進根念根定根慧根。是名五根。五力亦如是。何謂五解脫處。謂比丘不放逸勤念正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。何謂五。若世尊為比丘說法。若師說。若慧梵淨行者說。隨順如來說。若師若慧梵淨行者說。聽已受法受義。受法受義已生悅。悅已生喜。喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定已如實知見。如比丘不放逸。勤念正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。是名初解脫處。復次比丘。非世尊非師非慧梵淨行者說時。如先所聞法。廣讀誦通利。如比丘先所聞法。廣讀誦通利。受法受義。如比丘受法受義已生悅。悅已生喜。喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定已如實知見。比丘如是不放逸勤念正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。是名第二解脫處。復次比丘。非世尊非師非慧梵淨行者說時。非先所聞法。廣讀誦通利時。如比丘先所聞法。廣為他說。如比丘隨彼所聞法。通利。廣為他說。如比丘隨彼所聞法。通利。廣為他說。受法受義。比丘受法受義已生悅。悅已生喜。喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定已如實知見。比丘如是不放逸勤念

正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。是名第三解脫處。復次如比丘。非世尊非師非慧梵淨行者說時。非先所聞法。廣讀誦通利時。非先所聞法。通利。廣為他說。分別時。如比丘。先所聞法。通利。自心分別。如比丘隨所聞法。通利。自心分別。受法受義。比丘受法受義已生悅。悅已生喜。喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定已如實知見。比丘如是不放逸勤念正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。是名第四解脫處。復次比丘。非世尊非師非慧梵淨行者說時。非先所聞法。廣讀誦通利時。非先所聞法。通利。廣為他說。分別時。非先所聞法。通利。自心分別時。如比丘善取定相善思惟善解射。比丘善取定相善思惟善解射已。受法受義。受法受義已生悅。悅已生喜。喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定已如實知見。比丘如是不放逸勤念正智寂靜行。心未解脫得解脫。諸漏未盡得漏盡。未得無上安隱得安隱。是名第五解脫處。五出界如界品說。云何五觀定。如正信經。舍利弗白佛言。世尊。復有無勝法。如世尊說法入定觀。世尊。有此入定觀。或有沙門婆羅門。勤精進勇猛。正思惟多學行心。如法思惟入定。入定已觀身。從頂至足。從足至頂。乃至薄皮。皆是不淨。是名初入定觀。復次或有沙門婆羅門。勤精進勇猛。正思惟多學行心。如法思惟入定。入定已不觀皮血肉。但觀人骨。

◎問二門◎ ◎取相二處取想◎ ◎[得眼根]一◎ ◎善十(惡)◎ ◎行惡二惡行◎ ◎一切苦際盡二盡一切苦際◎ ◎卷第十
三終◎ ◎卷第十三下終◎ ◎卷第十四非同分道品之餘首◎ ◎卷第十四非同分道品第十之餘首◎ ◎卷第十四道品下首◎ ◎譯
號同異如卷第十五 ◎[受]一◎ ◎受二義◎ ◎

此身中有骨齒爪。是名第二入定觀。復次或有沙門婆羅門。勤精進勇猛。正思惟多學行心。如法思惟入定。入定已不觀皮血肉骨。但觀人識。識住此世。住他世。識未斷。不離二世。是名第三入定觀。復次或有沙門婆羅門。勤進勇猛。正思惟多學行心。如法思惟入定。入定已不觀皮血肉骨。復觀人識。識不住此世。不不住他世。識斷離此世。未斷離他世。是名第四入定觀。復次或有沙門婆羅門。勤進勇猛。正思惟多學行心。如法思惟入定。入定已不觀皮血肉骨。復觀人識。識不住此世。不住他世。識善斷離二世。是名第五入定觀。如是無勝入定觀。世尊善知無勝世尊善通達。無有能過者。如我意所知。或有沙門婆羅門。能稱出世尊知者。無有是處。是名第五入定觀。何謂五起解脫法。如世尊說。五法親近多修學已得解脫。何謂五。如比丘。觀身不淨想。觀食不淨想。觀諸行無常想。觀世不樂想。觀身死想。如是五法。親近多修學。能得解脫。是名五起解脫法。云何六念。念佛乃至念天。何謂念佛。以佛為境界。念善順不逆。是名念佛。何謂念法。以法為境界。念善順不逆。是名念法。何謂念僧。以僧為境界。念善順不逆。是名念僧。何謂念戒。戒謂身口戒。以戒為境界。念善順不逆。是名念戒。何謂念施。施有二種。財施法施。以施為境界。念善順不逆。是名念施。何謂念天。若過搏食化生天。彼天不觀宿業。不分別宿業。以天為境界。念善順不逆。是名念天。是名六念。

六空如空三昧說。六出界如界品說。何謂六明分法。如世尊說。六法親近多修學生明得明分。能令明廣大。何謂六。無常想。無常苦想。苦無我想。食不淨想。一切世間不樂想。死想。何謂無常。想明分。法。如比丘。或樹下露處。作是思惟。色無常。受想行識無常。若如是五受陰。觀無常行。如世尊說。有為法三相生住滅。如比丘。思惟生住滅。調心修令柔軟。柔軟已思惟色無常。受想行識無常。行人若憶想。是名無常想。親近多修學。親近多修學已。生明得明分。能令明廣大。是名無常想明分法。何謂無常苦想明分。如比丘。或在樹下露處。如是思惟。色無常。若無常則是苦。受想行識無常。若無常則是苦。如是五受陰。觀苦行。如世尊說。若色生住。即是生苦。有病有老死。若受想行識生住。即是生苦。有病有老死。復次如世尊說。三苦。行苦苦變易苦。何謂行苦。五受陰行自性苦。行自性苦。生等生起等起出等出。具足成就。生種種病。因熱生病。因痰癰。因風因過力。因他惱。因時變。因諸大相違。因食飲不消。因宿業報。因諸大不調生病。生眼病。耳鼻舌身病。頭痛面痛。口齒咽痛。胸痛病。生蛇身病。呼嘔痛。醫效病。嘔吐病。生疥病。身熱腹痛病。生癰疥瘡微風。侵淫瘡癩。蛆白癩。乾枯癩。狂病。生痔病。下赤腫虫食病等。蠶。蠅。虱。蚊。蛇。蟻。子。此身乃至一毛處。無不有虫。如人癩。腫上生毒。腫五受陰行性苦。

亦如是。生等生起等起出等出。具足成就。生種種病。因熱生病。乃至一毛處。無不有虫。是名苦苦。何謂變易苦。如五受陰行。轉變衰熱。壞敗盡滅。終沒離滅。是名變易苦。如比丘於彼行苦苦變易苦。調心修令柔軟。柔軟已思惟色苦。思惟受想行識苦。如行人若憶想。是名無常苦想。親近多修學。生明得明分。能令明廣大。是名無常苦想明分法。何謂苦無我想明分法。如比丘。在樹下露處。如是思惟。色無常。若無常即是苦。若苦即無我。受想行識無常。若無常即是苦。若苦即無我。若於此想。五受陰。觀無我行。如世尊說。色無我。色若是我。色應不受苦患。色應得自在。如是有。如是非有。以色非我故。色受苦患。色不得自在。如是有。如是非有。受想行識無我。受想行識若是我。識不應受苦患。識應得自在。如是有。如是非有。如比丘。如是調心修令柔軟。柔軟已思惟。色無我。受想行識無我。如行人若憶想。是名苦無我想。親近多修學。生明得明分。能令明廣大。是名苦無我想明分法。何謂食不淨想明分法。何等食。食有四種。謂搏食。觸食。思食。識食。如世尊說。衆生有四種食。食此食。能令衆生住。能令陰和合。能有利益。何等四。一謂搏食。二觸食。三思食。四識食。何等謂搏食。搏食有二種。龜細。何謂龜。除天淨食。天香食。除衣服洗浴調身食。苦餘搏食。是名龜搏食。何謂細搏食。天淨食。天香食。衣服洗浴。調身食。是名細搏食。復次龜搏食。除天香食。除衣服洗浴食。

○[不]一○ ○內二皮○ ○[皮]一○ ○稱一○ ○若一名○ ○死一無○ ○[想]一○ ○法二想○ ○如二若○ 智
○四陰一○ ○因十(力因)○ ○喘二呼○ ○喘二痛○ ○痰二嗽○ ○蚊二瘡○ ○疥二癩○ ○癩二瘡○ ○癩二瘡
二順○ ○蠶二數○ ○蠶二數○ ○蠶二數○ ○蠶二種○

舍利弗阿毘曇論卷第十六

舍利弗阿毘曇論卷第十七

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

非問分道品第十之三

念死。比丘思惟死知死解死覺死。如行人若
 想憶想。是名死想。親近多修學已。生明得明
 得明分。能令明廣大。是謂死想明分法。是名
 六明分法。何謂六悅因法。如比丘悅已生喜
 喜已得身除。身除已受樂。受樂已心定。心定
 已如實知見。是名六悅因法。何謂無喜六正
 覺。念正覺乃至捨正覺。是名無喜六正覺。何
 謂七覺。念正覺乃至捨正覺。是名七正覺。
 何謂七想。如世尊說。七想。親近多修學。得
 大功德。得至甘露。何謂七不淨想。厭想一
 切世間不樂。死想無常。苦想無我。苦無我
 報。得大功德。得至甘露。以何緣故作是說。如
 比丘。心知分別不淨想。令欲心退沒不展。當
 漸漸除盡。背捨厭離已正住。如筋如鳥。羽
 如頭羅草。投於火中。焦捲不展。後便消盡。比
 丘如是。心知分別不淨想。令欲心退沒不展。
 後便消盡。背捨厭離已正住。如比丘。或有心
 知分別不淨想。心於欲想。猶生津漏。如本無
 異。心不背捨。不厭離。不正住。比丘如實自
 知。我便為未修不淨想。我未增益異名色。我
 未得修果報。如比丘。有正智。如比丘。心知
 分別不淨想。於欲想。心不生津漏。於本有異
 背捨厭離正住。比丘如實正知。我已修不淨
 想。我有增益異名色。我得修果報。此比丘。有
 正智。行不淨想。親近多修學已。得大果報。得
 大功德。得至甘露。以是因緣。說如食不淨
 想。親近多修學已。得大果報。得大功德。得至
 甘露。

若餘搏食。是名龜搏食。復次細搏食。天香
 食。衣服澡浴調身食。是名細搏食。何謂觸食。
 六觸。眼觸。耳鼻舌身意觸。是名觸食。何謂思
 食。六思身。色思。聲香味觸法思。是名六思
 身。是名思食。何謂識食。六識身。眼識。耳
 鼻舌身意識。是名六識身。是名識食。搏食。或
 是食。或非食。觸思識食。或是食。或非食。何
 謂搏食。是食。若緣搏食。得諸根增長。不損
 壞不減壽。是名搏食。食。云何搏食非食。若
 緣搏食。諸根不增長。損壞減壽。是名搏食
 非食。何謂觸思識食。是食。若緣識食。諸根增
 長。不損壞不減壽。是名識食。何謂識食
 非食。若緣識食。諸根不增長。損壞減壽。是名
 識食非食。比丘受搏食。如食子肉。觀不淨想。
 觸思識食。有解射想。思惟滅依離欲染。如行
 人若憶想。是名食不淨想。親近多修學已。
 生明得明。能令明廣大。是名食不淨
 想明分法。何謂一切世間不樂。想明分法。如
 比丘。於一切世間。厭離不樂。地獄世畜生世
 餓鬼世人世天世衆生世行世。厭離不樂。如
 比丘。於此世間。有取心者。必執所見。如比
 丘。斷離不受。如是諸見。如行人。若憶想。是
 名一切世間不樂。親近多修學已。生明得
 明。能令明廣大。是名一切世間不樂
 想明分法。何謂死想明分法。如比丘。或在樹
 下露處。如是思惟。我是死法。有死過患。若
 餘衆生。亦有死法。有死過患。若地獄畜生餓
 鬼人天及一切衆生。往來生死。得名衆生者。
 皆有死法。有死過患。比丘思惟陰壞捨身。憶

以何因故作是說。如比丘。心知分別食不
 淨想。於揣食。心退沒不進。漸當除盡。背捨厭
 離已正住。如筋如鳥。羽。如頭羅草。投於火
 中。焦捲不展。後便消滅。比丘如是。心知分別
 揣食不淨想。令揣食淨想退沒不進。漸當除
 盡。背捨厭離已正住。如比丘。或有心知分別
 揣食不淨想。心於揣食。猶生津漏。如本無異。
 心不背捨。不厭離。不正住。比丘如實自知。我
 便為未修揣食不淨想。我未增益異名色。我
 未得修果報。如比丘。有正智。如比丘。心
 知分別揣食不淨想。於揣食。心不生津漏。於
 本有異。背捨厭離正住。比丘如實正知。我已
 修揣食不淨想。我有增益於異名色。我得修
 果報。此比丘。有正智。揣食不淨想。親近多修
 學已。得大果報。得大功德。得至甘露。以是
 因緣。說如一切世間不樂。親近多修學
 已。得大果報。得大功德。得至甘露。以何因
 緣故作是說。如比丘。心知分別一切世間不
 樂。世間種種想。心退沒不進。漸當除盡。背
 捨厭離已正住。如筋如鳥。羽。如頭羅草。投於
 火中。焦捲不展。後便消滅。比丘如是。心知分

①食十(是)②③ ④七十(正)⑤⑥ ⑦羽二期⑧⑨⑩ ⑪沒二後⑫⑬ ⑭不分卷及品⑮⑯ ⑰羽二期⑱⑲⑳* ㉑智二知㉒

別一切世間不樂想。令世間種種想退沒不進。漸當除盡背捨厭離已正住。如比丘。或有
心知分別一切世間不樂想世間種種想。心
猶生津漏。如本無異。不肯捨不厭離不正住。
比丘如實自知。我便爲未修一切世間不樂
想。我未增益異名色。我未得修果報。如是
比丘有正智。如比丘。心知分別一切世間不
樂想。於世間種種想。心不生津漏。於本有
異。背捨厭離正住。比丘如實正知。我已修一
切世間不樂想。我有增益異名色。我得修果
報。此比丘有正智。一切世間不樂想親近多
修學。多修學已。得大果報。得大功德。得至
甘露。以是因緣故說如死想。親近多修學已。
得大果報。得大功德。得至甘露。以是因緣
故作是說。如比丘。心知分別死想。倚恃命根。
而自貢高。以命根決定堪忍常住。心貪著命
根。如是盡斷無餘。如比丘。或有心知分別死
想。倚恃命根。而自貢高。以命根決定堪忍常
住。心貪著命根。如是未斷。比丘如實自知。
我便爲未修死想。我未增益異名色。我未修
果報。如是比丘有正智。如比丘。心知分別死
想。倚恃命根。而自貢高。以命根決定堪忍
常住。心貪著命根。如是盡斷無餘。如比丘。
如實自知。我已修死想增益異名色。我得果
報。如是比丘。有正智死想。親近多修學已。
得大果報。得大功德。得至甘露。以是因緣
故。說如無常想。親近多修學已。得大果報。得
大功德。得至甘露。以何因緣故作是說。如比
丘。心知分別無常想。於利養名譽恭敬心。退

沒不進。漸當除盡背捨厭離已正住。如筋如
鳥。羽。如頭羅草投於火中燒捲不展。後便
消盡。比丘如是心知分別無常想。於利養名
譽恭敬。心退沒不進。漸當除盡背捨厭離已
正住。如比丘。或有心知分別無常想。於利養
名譽恭敬。心猶生津漏。如本無異。不肯捨
不厭離不正住。比丘如實自知。我便爲未修
無常想。我未增益異名色。我未得修果報。如
是比丘。如實自知。如比丘。心知分別無常想。
於利養名譽恭敬。心不生津漏。於本有異。背
捨厭離正住。比丘如實正知。我已修無常想。
我有增益異名色。我得修果報。比丘有正智
無常想。親近多修學。多修學已。得大果報。得
大功德。得至甘露。以是因緣故。說如無常苦
想。親近多修學已。得大果報。得大功德。得至
甘露。以何因緣故作是說。如比丘。心知分別
無常苦想。於懼念慮。情不信放逸不動不觀
等。生恐怖大畏切逼想。如臨死舉。刀觀無
常苦想。比丘或有心知分別無常苦想。於
邃^{*}情懈怠不信放逸不動不觀等。不生恐怖
大畏切逼想。非如臨死舉。刀如比丘如實自
知。我便爲未修無常苦想。我未增益異名色。
我未得修果報。如是比丘。如實自知。如比
丘。心知分別。則無常苦想。於邃^{*}情懈怠不
信放逸不動不觀等。生恐怖大畏切逼想。如
臨死舉。刀觀無常苦想。如比丘。如實正知。
我。以修無常苦想。我增益異名色。我得果
報。此比丘有正智無常苦想。親近多修學已。
得大果報。得大功德。得至甘露。以是因緣

故。說如苦無我想。親近多修學已。得大果
報。得大功德。得至甘露。以何緣故作是說。如
比丘。心知分別苦無我想。於諸有識身及諸
外物。計我我所。生憍慢等。俱離寂靜正解
脫。如比丘。或有心分別。善無我想。於諸有
識身及諸外物。計我我所。生憍慢等。心猶不
離不寂靜不解脫。如比丘。如實自知。我便爲
未修苦無我想。未增益異名色。我未得修
果報。如是比丘。如實自知。如比丘。心知分
別苦無我想。於諸有識身及諸外物。計我
我所。生憍慢等。心俱離寂靜正解脫。如是比
丘。如實知我已。修苦無我想。我增益異名色。
得修果報。此比丘有正智苦無我想。親近多
修學已。得大果報。得大功德。得至甘露。以是
因緣故說。是名七想。何謂七定因緣法。正見
正覺正語正義正命正進正念是名七定因緣
法。
何謂八聖道。正見乃至正定。是名八聖道何
謂八解脫。色觀色解脫。是名初解脫。內無色
想觀外色。是名第二解脫。淨解脫。是名第
三解脫。離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干
想。成就無邊空處。是名第四解脫。離一切空
處。成就無邊識處。是名第五解脫。離一切
識處。成就無所有處。是名第六解脫。離一
切無所有處。成就非非非想處。是名第七
解脫。離一切非非非想處。成就滅受想。行
是名第八解脫。何謂色觀色初解脫。如比丘。
不滅內色想。取外色想。比丘以外色調心。修
令柔軟。修令柔軟已。得色解脫。如比丘。心

住二作◎ 羽二翔◎ 情三慮◎ 刀二力◎ [則]一◎ 以二已◎ (修)十果報◎ 苦二若◎ 名色二
色欲◎ (無)十夜◎ 計二識◎

知分別外色想。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。何謂色。如比丘。未分別內色。未滅不沒。不除。是名色。何謂觀。若外色。以眼識會見。如實見微見緣見。以意識分別。如實分別微分別緣分別。是名觀。何謂初。八解脫。次順不逆。以次入定行。是初是始是前。是名初。何謂得解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼。為解脫。是名解脫。何謂內無色想觀外色第二解脫。如比丘。滅內色想已。取外色。相。以外色調心。修令柔軟。修令柔軟已得解脫。知比丘。心知分別外色。相。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。何謂內無色想。如比丘。內色想分別滅沒除已。是名內無色想。何謂觀。若外色。以眼識會見。如實見微見緣見。以意識分別。如實分別微分別緣分別。是名觀。何謂第二八解脫。以次順不逆。以次入定行。第二與初。無有中問。是名第二。何謂解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼得解脫。是名解脫。何謂第三淨解脫。如比丘。取一淨色相。若火相。日月星宿摩尼珠七寶宮殿綵色衣被華果金銀銅環琉璃真珠珂貝珊瑚玉石。及餘寶性。比丘取是諸淨色相已。得淨解脫。比丘心知分別淨色。相。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼為解脫。何謂淨。諸色好展轉相照適意觀無厭。是名淨。何謂解。心向彼。是名解。脫。何謂第三八解脫。以次順不逆。以次入定行。第三與二。無有中問。是名第三。何謂解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。是名解脫。何謂離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干想。

成就無邊空處行。第四解脫。何謂色想。若眼識相應想。是名色想。何謂瞋恚想。若忿怒相應想。是名瞋恚想。何謂若干想。若外穢濁非善分想。是名若干想。復次色想若不離色界想及眼識相應想。是名色想。復次瞋恚想。若五識身相應想。及忿怒相應想。是名瞋恚想。復次若干想。若諸衆生。諸物諸境界諸清淨諸煩惱。是名若干想。如比丘。離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干想。如比丘。身中孔。若耳孔。鼻孔。口門。飲食入處。飲食住處。飲食出處。思惟空知空解空受空。如比丘。知身有欲。猶如蒜皮。思惟漸令薄。知薄解薄受薄。思惟漸令破散。知破散解破散受破散。如是比丘。知內色想已。若外物中孔。若地中孔穴。井窞坑谷坎窞。思惟空知空解空受空。如比丘。分別內外色想已。觀空處寂靜。思惟無邊空知無邊空解無邊空受無邊空。如行人若思想憶。是名空處想。此想與定共生共住共滅。是名入空處定。復次比丘。大地及須彌山作火聚想。思惟烟知烟解烟受烟。思惟然知然解然受然。思惟燒知燒解燒受燒已。比丘思惟無邊空處寂靜勝。思惟無邊空處。知解受無邊空處寂靜勝。如行人若思想憶。是名空處想。此想與定共生共住共滅。是名入空處定。復次比丘。如是思惟。若現世欲想。未來欲想。現世色想。未來色想。此想。空處寂靜勝。微細善淨。比丘思惟無邊空處寂靜勝處。知解受無邊空處寂靜勝。如行人若思想憶。是名空處想。此想與定共生共住共

滅。是名入空處定。復次比丘。如是思惟。現世欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。此想。空處寂靜勝。永滅無餘寂靜勝。比丘思惟無邊空處寂靜知解。受無邊空處。如行人若思想憶。是名空處想。此想與定共生共住共滅。是名入空處定。何謂第四八解脫。以次順不逆。以次入定行。第四與三。無有中問。是名第四。何謂解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。是名解脫。何謂離一切空處。成就無邊識處行。是第五解脫。如比丘。如是思惟。我已成就無邊空處行。頗有法勝無邊空處不。比丘便作是念。唯有空處行。如人以大器覆小器。如是思惟。此器勝彼器。此器以何因故勝。我以此器覆彼器故。如比丘。如是思惟。我已遍解無邊空處行。頗有法勝無邊空處不。比丘便作是念。唯有識勝無邊空處行。識以何因故勝。我以此識遍解無邊空處故。如比丘思惟無邊識處寂靜知解受無邊識處寂靜。如行人若思想憶。是名識處想。此想與定共生共住共滅。是名入識處定。復次比丘。如是思惟。若現在欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。空處想等。但識處永滅無餘。唯識處寂靜勝。如比丘思惟無邊識處寂靜勝。知解受無邊識處寂靜勝。如行人若思想憶。是名識處想。此想與定共生共住共滅。是名入識處定。復次比丘。如是思惟。若現在欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。空處想等。但識處永滅無餘。唯識處寂靜勝。如比丘思惟無邊識處寂靜勝。知解受無邊識處寂靜勝。如行人若思想憶。是名識處想。此想與定共生共住共滅。是名入識處定。

①為解脫二得解脫 為解脫 ②取二聚 ③相二想 ④相二想 ⑤(脫)一 ⑥(想)一 ⑦(空)一 ⑧(如)一

若憶想。是名識處想。此想與定共生共住共滅。是名入識處定。復次比丘。如是思惟無邊空處入無邊識處入寂靜勝微細善淨。如比丘。思惟無邊識處寂靜勝知解受無邊識處寂靜勝。如行人若憶想。是名識處想。此想與定共生共住共滅。是名入識處定。復次比丘。如是思惟。若入空處定。若入識處定。寂靜勝微細善淨。如比丘思惟無邊識處寂靜勝知解受無邊識處寂靜勝。如行人若憶想。是名識處想。是名入識處定。何謂第五八解脫。以次順不逆。以次入定行。第五與四無有中間。是名五。何謂解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。是名解脫。何謂離一切識處成就無所有處行。是第六解脫。如比丘。如是思惟。我已遍解無邊識處行。頗有法勝無邊識處。不比丘。便作是念。唯有識無所有處勝。如比丘。思惟無所有處寂靜勝知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。如是思惟。我非我所有我所非我有。如比丘思惟無所有處寂靜勝知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。觀一切世間空。世間空已想無依止處。如比丘。思惟無所有處寂靜勝知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。以大

地須彌山。作火聚想。思惟烟知解受烟。思惟然知解受然。思惟燒知解受燒。已比丘思惟無所有處寂靜勝。知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。如是思惟。若現在欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。空處想。識處想。此想無所有處寂靜勝。知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。如是思惟。若現在欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。空處想。識處想。無餘寂靜勝。如比丘。思惟無所有處寂靜勝。知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。如是思惟。無邊空處入無邊識處入無所有處入寂靜勝微細善淨。如比丘。思惟無所有處寂靜勝。知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。復次比丘。如是思惟。若入空處定。識處定。若入無所有處定。寂靜勝微細善淨。如比丘。思惟無所有處寂靜勝。知解受無所有處寂靜勝。如行人若憶想。是名無所有處想。此想與定共生共住共滅。是名入無所有處定。何謂第六八解脫。以次順不逆。以次入定行。第六與五。無有中間。是名六。何謂解脫。心向彼。尊上彼。傾向彼。以彼解脫。是名解脫。何謂離一

切無所有處。成就非想非非想處行。是第七解脫。如比丘。如是思惟。想是我過患。想是癡瘡想是我箭。非想非非想處寂靜勝。比丘思惟非想非非想處寂靜勝。知解受非想非非想處寂靜勝。如行人若憶想。是名非非非想處想。此想與定共生共住共滅。是名入非非非想處定。復次比丘。如是思惟。若現在欲想。未來欲想。現在色想。未來色想。空處想。識處想。無所有處想等。非非非非非想處寂靜勝微細善淨。比丘思惟非非非非非想處寂靜勝。如行人若憶想。是名非非非非非想處想。此想與定共生共住共滅。是名入非非非非非想處定。復次比丘。如是思惟。若入無邊空處定。若入識處定。若入無所有處定。若入非非非非非想處寂靜勝微細善淨。比丘思惟非非非非非想處寂靜勝。知解

① 處想二想處 ② (寂靜...有處)十六字 ③ ④

於彼勝解。是名勝知見。何謂有如是想。若有想不分散不相離。一定黃。是謂有如是想。何謂內無色想。觀外色赤赤光。若於是色勝知見。有如是想。如比丘。滅內。色已。取外赤色想。比丘以外赤色調心。修令柔軟。柔軟已。比丘得赤勝解。比丘知見分別赤色。心向彼。尊上彼。傾向彼。於彼勝解。何謂內無色想。比丘內色想滅沒除。是謂內無色想。何謂觀外色。若外赤色。眼識會見。如實見緣見。意識分別。如實分別緣分別。是謂觀外色。何謂觀外色。若外白色。眼識會見。如實見緣見。意識分別。如實分別緣分別。是名觀外色。何謂白。白有二種。有性白。染白。是名白。何謂勝知見。若於彼色勝受已。知見分別。心向彼。尊上彼。傾向彼。於彼勝解。是名勝知見。何謂有如是想。若有想不分散不相離。一定白色。是謂有如是想。是名八勝處。何謂九滅。若入初禪定。言語。刺滅。若入二禪定。覺觀。刺滅。若入三禪定。喜。刺滅。若入

四禪定。出息入息。刺滅。若入空處定。色想。刺滅。若入識處定。空處。刺滅。若入無所有處定。識處。刺滅。若入非想非非想定。無所有處。刺滅。若入滅盡定。受想。刺滅。是名九滅。何謂九次第定。如比丘。離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。乃至離非想非非想處。成就滅受想定。是名九次第定。何謂九想。不淨想。食厭。離想。一切世間不樂想。死想。無常想。無常苦想。苦無我想。斷想。離欲想。是名九想。何謂十想。不淨想。食厭想。一切世間不樂想。死想。無常苦想。苦無我想。斷想。離欲想。滅想。是名十想。何謂十直。正見。正覺。正語。正業。正命。正進。正念。正定。正解脫。正智。是名十直。何謂十一切入。地。一切入。以一想上下縱廣無二無量。水。一切入。火。一切入。風。一切入。青。一切入。黃。一切入。赤。一切入。白。一切入。空。一切入。識。一切入。以一想。知上下縱廣無二無量。何謂地。地。謂地界地大。是名地。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘界。如人入地。一切入。是名一。何謂想。若想不分散不相離。一向地想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人若上下縱廣。皆思惟地知解受地。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二想。唯有地想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於地無異想。是名無量。何謂水。一切入。一想上下縱廣。何

謂水。水界水大。是名水。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘界。如人入水。一切入。是名一。何謂想。若想不分散不相離。一向水想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人若上下縱廣。皆思惟水知解受水。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二想。唯有水想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於水無異想。是名無二無量。何謂火。一切入。一想上下縱廣。何謂火。火界火大。是名火。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘界。如人入火。一切入。是名一。何謂想。若想不分散不相離。一向火想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人若上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二想。唯有火想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於火無異想。是名無二無量。何謂風。一切入。一想上下縱廣。何謂風。風界風大。是名風。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘界。如人入風。一切入。是名一。何謂想。若想不分散不相離。一向風想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟風知解受風。是謂上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二想。唯有風想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於風無異想。是名無二無量。何謂青。一切入。一想上下縱廣無

◎內色想滅二滅內色想◎ ◎刺二刺◎ ◎離一◎ ◎知一◎ ◎若二名◎ ◎名十(無二)◎ ◎廣十(無二無量)◎ ◎ (若)一◎ ◎非二入◎

二無量。何謂青。青有二種。性青染青。是名青。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入青一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向青想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟青知解受青。是謂上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有青想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於青無異想。是名無二無量。何謂黃一切入。一想上下縱廣無二無量。何謂黃。黃有二種。性黃染黃。是名黃。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入黃一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向黃想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟黃知解受黃。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有黃想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於黃無異想。是名無二無量。何謂赤一切入。一想上下縱廣無二無量。何謂赤。赤有二種。性赤染赤。是名赤。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入赤一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向赤想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟赤知解受赤。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有赤想。無

量無邊。阿僧祇。無邊無際。於赤無異想。是名無二無量。何謂白一切入。一想上下縱廣無二無量。何謂白。白有二種。性白染白。是名白。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入白一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向白想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟白知解受白。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有白想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於白無異想。是名無二無量。何謂空一切入。一想上下縱廣無二無量。何謂空。空有二種。內空界。外空界。是名空。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入空一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向空想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。皆思惟空知解受空。是名上下縱廣。何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有空想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於空無異想。是名無二無量。何謂識一切入。一想上下縱廣無二無量。何謂識。識六識身。眼。識耳鼻舌身意識身。是名識。何謂一切。若盡無餘方便。是名一切。何謂一。若獨非餘。如人入識一切入。是名一。何謂想。若不分散不相離。一向識想。是名想。何謂上下縱廣。上謂虛空。下謂地。縱廣謂四方。如人上下縱廣。思惟識知解受識。是名上下縱廣。

何謂無二無量。上無二。下無二。縱廣無二。上無量。下無量。縱廣無量。無二。想。唯有識想。無量無邊。阿僧祇。無邊無際。於識無異想。是名無二無量。是名十一一切入。何謂十一解脫。如陀舍長者詣阿難所稽首畢。却坐一面。問尊者阿難言。頗有一法。如比丘。不放逸。勤念正智寂靜行。心未解脫。得解脫。諸漏未盡。得漏盡。未得無上安隱。得安隱。不。尊者阿難答陀舍長者言。有也。長者問言。何者是。阿難謂長者言。如比丘。離欲惡不善法。有覺有觀。離生喜樂。成就初禪行。比丘如是思惟。此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘。不放逸。勤念正智寂靜行。心未解脫。得解脫。諸漏未盡。得漏盡。未得無上安隱。得安隱。復次長者。如比丘。滅覺觀內正信。一心無覺無觀。定生喜樂。成就二禪行。比丘如是思惟。此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘。不放逸。勤念正智寂靜行。心未解脫。得解脫。諸漏未盡。得漏盡。未得無上安隱。得安隱。復次長者。如比丘。離喜捨行。念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。比丘如是思惟。此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常

滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘斷苦樂先滅憂喜不苦不樂捨念淨。成就四禪行。比丘如是思惟。此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘捨心遍解一方行。南西北方四維上下。一切慈解心廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解諸世間行。比丘如是思惟。此慈解心正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘悲心遍解一方。南西北方四維上下。一切悲心。廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解諸世間行。比丘如是思惟。此悲解心正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法

樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘喜心遍解一方行。南西北方四維上下。一切喜心。廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解世間行。比丘如是思惟。此喜解心正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘捨心遍解一方行。南西北方四維上下。一切捨心。廣大尊勝。無二無量。無怨無恚。遍解世間行。比丘如是思惟。捨解心正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘離一切色想。滅瞋恚想。不思惟若干想。成就無邊空處行。比丘如是思惟。入此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是

一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘離一切空處成就無邊識處行。比丘如是思惟。入此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。長者此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。復次長者。如比丘離一切識處。成就無所有處行。比丘如是思惟。入此定正學正生。若一切正學正生已。盡知是無常滅法。比丘如實知見。斷一切諸漏。心得解脫。雖未斷諸漏。比丘以法欲法樂故。斷五下分煩惱。於彼化生。而般涅槃。不還此世。此是一法。如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫。諸漏未盡。得漏盡未得無上安隱得安隱。阿難說已。陀舍長者言。如人求一寶藏得十一寶藏。尊者阿難。我亦如是。求一解脫入。得十一解脫入。尊者阿難。如長者子舍。有十一門。為火所燒。猛焰熾盛。長者長者子。意欲出時。於諸門中。自在得出。尊者阿難。我亦如是。於十一法門中。所欲出處。隨意得出。尊者阿難。如邪見婆羅門。猶為師求財供養師。況聞正見而不供養。時陀舍長者請毘耶離來僧波多離來僧。請已作種種餽饋以飯來僧。食充足已。或以履屨。或以白氈萬張。以施來僧。別以三衣及好房舍。

◎悲心遍解二悲解心遍◎ ◎方十(行)◎ ◎[如]一◎ ◎[得]一◎ ◎世十(長者)◎ ◎隱十(復次長者如比丘離一切無所有處成就非想非非想處行比丘如是思惟入此定正學正生若一切正學正生已盡知是無常滅法比丘如實知見斷一切諸漏心得解脫雖未斷諸漏比丘以法欲法樂故斷五下分煩惱於彼化生而般涅槃不還此世長者此是一法如比丘不放逸勤念正智寂靜行心未得解脫得解脫諸漏未盡得漏盡未得無上安隱得安隱)百四十字◎ ◎三二二◎

七求。七摸。七作。七生。^{七法} 八世間法。八非聖語。八懈怠事。八難處。妨修梵行。^{八法} 九若干法。九愛根法。九衆生居。九犯戒過患。^{九法} 十煩惱使。十煩惱結。十想。十覺。十邪。十惱事。十不善業道。十法成就墮地獄速如。積鉢^{十法} 十一。心。妬。二十種身見。二十法成就墮地獄速如。積鉢。二十一。心垢。三十法成就墮地獄速如。積鉢。三十六。愛行。三十法成就墮地獄。四十法成就墮地獄速如。積鉢。六十二見

何謂特生。衆生貴生。以生自高。以生爲境界。若心憶念。謂生妙好而以自高。是名特生。復次特生。我生。勝彼中生。彼生卑。世間諸生中我生最勝。衆生重於生。常敬於生。若心憶念諸生妙好而以自高。是名特生。特姓特色。特財。特尊。特勝。特豪。族。特無。病。特年。壯。特命。壯。特。功。巧。特多。聞。特辯。才。特得。利。養。特得。恭敬。特尊。重。特備。足。特師。範。特徒。衆。特黨。侶。特長。宿。特力。特神。足。特禪。特無。求。特知。足。特獨。處。特阿。蘭。若。特乞。食。特糞。掃。衣。特我。能。離。荒。食。特一。受。食。特塚。間。特露。處。特樹。下。特常。端。坐。特隨。敷。坐。特但。三。衣。亦如上廣說

何謂諛諂。若依他求利。改變儀式。現攝諸根。是名諛諂。何謂邪敬。若依他求利。飾辭美言。將順他意。詐現巧便。以是行[○]敬。是名邪敬。何謂現相。若依他求利。見有衣食。器具。醫藥。諸物。心希欲得。現相稱好。是名現相。求利。何謂依使。爲人役使。雖復輕賤。以利故隨逐不息。是名依使。何謂歎索。若依他求利。見

有衣服飲食。具湯藥諸物。心希欲得。先歎其善。復言我須。是名歎索。何謂以利求利。心希欲得。若從彼人得利。以示此人。若從此人得利。以示彼人。此所得利。向彼歎譽。此施主。彼所得利。向此歎譽。彼施主。若如是得利。是名以利求利

何謂我勝。若以慢自高。謂身勝。是名我勝。何謂嗜味。貪食多求種種味。是名嗜味。何謂不謹戒。若捨出家威儀。是名不謹戒。何謂瞋相變。若起不善心。令諸根變異。若以十惱一發起。令諸根變異。是名瞋相變

何謂忿尊教。尊謂佛佛弟子。若教授便拒違瞋忿。或多語。或嘔。覺現瞋。若教令慎護。重禁。便拒逆。瞋忿。或多說。或復。嘔。覺現瞋。是名忿尊教。何謂違尊教。尊謂佛佛弟子。若教授令[○]順。護。重。禁。違。返。是名違尊教。何謂戾尊教。若世尊所制。莫作是說。莫作是作。莫作是言。莫作是分別。彼不作是說。故說。不應作是作。故作。不應作是言。故言。不應作是分別。故分別。是名戾尊教

何謂欺[○]陵。若於衆生。觸惱輕蔑。不欲斷害其命。是名欺[○]陵。何謂捶打。若輕易手[○]拳。捶打。是名捶打。何謂[○]斗。欺。若不等心。受出多少。是名[○]斗。欺。何謂[○]稱。欺。若不等心。受出輕重。是名[○]稱。欺。何謂[○]財。物。欺。若好物中。雜惡物。若分種種物。若以繩界。定移本處。是名財物欺。何謂傷。若侵破他人身。是名傷。何謂侵害。若輕蔑衆生。瞋恚希害。欲斷其命。是名侵害。何謂繫閉。若衆生爲生死纏縛。常處幽闇。

是名繫閉。何謂批摸。若起不善心。以手求覓。是名批摸。何謂侵奪。若起不善心。於他財物。侵欺劫奪。是名侵奪。何謂故作。若心起不寂靜行。心知而造。是名故作。何謂長語。若橫言輕謗。是名長語。何謂橫言。若無義語。是名橫言。何謂輕謗。若無實誑他。是名輕謗。何謂迫惱。若國王。國王臣吏。若蹴踢[○]困。若取他財物。是名迫惱。何謂詐善。若欲欺誑。若取財物。而現親附。是名詐善。何謂隱藏。若人共物未分。私取好者。覆匿。是名隱藏。何謂共畜。若人已行籌分物。以物不善。強擇取好者。是名共畜。何謂好說官事。常以官法言首。或言籌算。或言長短。染樂[○]其事。是名好說官事。世間事。兵甲事。鬪戰事。車乘婦女事。華鬘事。酒肉事。姪欲事。床臥事。衣服事。飲食事。沾酒事。親里事。亦復如是。若染樂其事。何謂若干語。除上樂[○]說事。若餘事。衆生異物。異境界。異自然異。是名若干語。何謂思惟世間事。若憶念爲首。思惟世間成壞。是名思惟世間事。何謂說海事。若以海爲言首。或說諸寶。或說真偽。染樂其事。是名說海事

何謂不知法。若於善不善無記法。不知自相。不觀相。不分別相。是名不知法。何謂不知義。若於諸法。今世後世義。不知自相。不觀相。不分別相。是名不知義。何謂[○]時。不知。若不知時。節。應入聚落。應出聚落。應誦讀。應受學。應思惟。於此時。不知自相。不觀相。不分別相。是名不知時。何謂不知足食。不知足言。不知足。不知自相。不觀相。不分別相。是名不知足。

○(七法竟)一○ ○(八)十妨○ ○(八法竟)一○ ○(九法竟)一○ ○積二攬○ ○[十法竟]一○ ○妬一垢○ ○三十二四十四 ○[四十法成就墮地獄]一○ ○敬十(恭敬)○ ○[相]一○ ○瞋二擊○ ○[順二慎]○ ○陵二凌○ ○斗十(斛)○ ○困二因○ ○其二是○ ○[說]一○ ○時不知二不知時○

何謂不知自身。不知我應有如是信如是戒如是學問如是施如是慧如是應答。若於此法不知自相不觀相不分別相。是名不知自身。何謂不知衆生。刹利衆婆羅門衆居士沙門衆。應如是往反。應如是坐起。應如是言默。若於衆中不知自相。不觀相不知分別相。是名不知衆。何謂不知人。若持戒毀戒人。若可觀人。若於此人不知自相。不觀相不分別相。是名不知人。何謂不知勝劣人。若尊卑人不知自相。不觀相不分別相。是名不知勝劣人。

何謂邪見。或有人起如是見。無施無與無祠。無善惡業報。無今世後世。無父母無天。無化生衆生。無世間沙門婆羅門正趣正至。若今世後世自知證分別說。是名邪見。何謂邊見。若見一切有見一切無。見一切一見一切異。若見一切種種。是名邊見。何謂倒見。若見正覺謂非正覺。若非正覺謂是正覺。若見善法謂非善法。若見不善法謂是善法。若見正趣沙門婆羅門謂非正趣。若非正趣沙門婆羅門謂是正趣。若有作是見。我樂世樂後生當樂恒常不斷不變易法當當定住。是名倒見。何謂求覓見。若於諸見中選擇選擇己。是名求覓見。何謂求覓戒。若以戒爲淨。若貪求批摸。是名求覓戒。何謂求覓道。若以道爲淨。貪求批摸。是名求覓道。何謂求覓戒。道。若俱以爲淨。若貪求批摸。是名求覓戒。道。何謂身見。若我見。何謂我見。或有人謂色是我。色中有我。色是我有。我是色有。見受想行識亦

如是。是名身見。何謂躁。若動止輕速疾。是名躁。何謂自稱。若歎美過能。是名自稱。何謂無信。若不信不入信不勝信不真信。若心不信。是名無信。何謂不覺。若無慧。是名不覺。何謂慳惜。若貪不捨。是名慳惜。復次慳惜他施與利養所須。是名慳惜。何謂面譽。不求他財利。隨順他意對稱其善。是名面譽。何謂遮惜。若慳惜財物。令人防護門戶。恐沙門婆羅門得入乞求。是名遮惜。

何謂不信業。若於善不善無記業中不解重不解究竟不解。是名不信業。何謂不信業報。善不善業有報。若於此報不解重不解究竟不解。是名不信業報。何謂毀學。若非法行施者。是名毀學。何謂毀學。若非法行施者。是名毀學。何謂自勝。若自高我有信戒施聞智慧辯才。是名自勝。何謂譽怨。若人有怨家。欲現其惡。反稱其善。有信戒施聞智慧辯才。是名譽怨。何謂虛歎。心有邪悔。若無信戒施聞智慧辯才。歎說言有。是名虛歎。

何謂不自在。若煩惱心起所作衆善不得隨意。是名不自在。何謂屬他。若業不淨。若欲現親。或作奴僕侍從。是名屬他。何謂事他。若與貴勝遨遊戲笑。恃爲形勢。是名事他。何謂不怨憎。若愛喜。是名不怨憎。何謂怨憎。若瞋忿。是名怨憎。何謂沈沒。若善法。廢退。是名沈沒。何謂心悲。若心不善悲。是名心悲。何謂無厭。若於生活具多欲不止。是名無厭。何謂不勤進。若於善法意不專樂。是名不勤進。何謂

不忍辱。若於善法不能堪忍受。是名不忍辱。復次不忍辱。或有不耐飢渴寒熱風雨蚊虻蟻子。不適意語。若身心苦痛酸楚。終時刀風解形。不能堪忍受。是名不忍辱。何謂非威儀。若毀佛結戒。是名非威儀。何謂不受教。若如法教授心不敬順。是名不受教。

何謂近惡知識。若殺生盜竊邪淫妄語飲酒放逸處。若近此人作知識重知識究竟知識相敬念。是名近惡知識。何謂惡親厚。若殺生盜竊邪淫妄語飲酒放逸處。若共此人親厚重親厚究竟親厚相敬不離。是名惡親厚。何謂取惡行。依殺生者學殺生。心向彼尊上彼傾向彼以彼爲解。依盜竊者學盜竊。依邪淫者學邪淫。依妄語者學妄語。依飲酒放逸處者學飲酒放逸處。心向彼尊上彼傾向彼以彼爲解。是名取惡行。何謂惡行。若不善境界行。是名惡行。

何謂親近怯弱者。若不信者無慚無愧者。不學問者懈怠者。失念者無慧者。若親近此人恭敬承事。是名親近怯弱。何謂受怯弱法。若怯弱者所說法恭敬受行。是名受怯弱法。何謂知怯弱。若怯弱者所說法。惡法善聽受心能分別。是名知怯弱法。何謂持怯弱法。若怯弱者所說法。若持此法正持住不忘相續念不失。是名持怯弱法。何謂不順思惟。若不順善思惟。是名不順思惟。何謂親近怯道。謂邪見乃至邪定。若親近多修學。是名親近於怯道。何謂劣心。若心懈怠。是名劣心。何謂亂心。若心散在五欲色

◎生一若◎ (生)一◎ ◎利一殺◎ ◎道二盜◎ ◎反二友◎ ◎廢二發◎ ◎

道者。受無量種種苦。如是。取身見。受諸苦痛不至彼岸。是名身見。何謂立身見。若樂起身見。是名立身見。何謂憂身見。若緣身見。故生憂惱。重生究竟生憂惱。是名憂身見。何謂求身見。若緣身見。故求色受想行識。是名求身見。何謂親近身見。若緣身見。故親近色受想行識。是名親近身見。何謂身慢見。若緣身見。故身慢。是名身慢見。何謂遊戲身見。若緣身見。故取愛色受想行識。是名惜身見。若緣身見。故取我。受想行識。是名我身見。何謂欲染。若欲界欲色無色界欲。是名欲染。共欲染悲不。親增樂欲亦如是。何謂悵望。若愛初觸。是名悵望。何謂重悵望。若廣大未極彼岸。是名重悵望。何謂究竟悵望。若廣大以極彼岸。是名究竟悵望。何謂難足。若欲界不足。色無色界不足。是名難足。難滿著灑津流沒枝網生本希嗜熾渴宅忍塵瘡受。亦如上說一法。

漏。若貪著色無色界法。是名有漏。何謂欲求。若欲界未度。欲界未知。欲界未斷。欲界陰界入色聲香味觸法。若求覓聚集。是名欲求。何謂有求。若色界無色界未度。色無色界未知。色無色界未斷。色無色界未入。禪解脫定入定。若求覓聚集。是名有求。何謂不持戒。若破戒。若不持戒。是名不持戒。何謂害見。若六十二見及邪見。是名害見。何謂戒衰。若毀戒不護持。是名戒衰。何謂見衰。若六十二見及邪見。是名見衰。何謂衰命。若邪命。是名衰命。何謂衰儀。若非威儀行。是名衰儀。何謂衰行。若比丘非自境界行。是名衰行。何謂作惡。不善法成就。是名作惡。何謂不作善。出世間善法若不作不成。是名不作善。何謂親近在家。若順世間違於正行。是名親近在家。何謂親近出家。若不順在家法違於世行。是名親近出家。何謂二緣欲染。若緣淨色緣不順思惟生欲染。是名二緣欲染。何謂二緣瞋恚。緣怨憎緣不順思惟。是名二緣生瞋恚。薰如烟荒。何謂二緣生邪見。緣他邪說緣不順思惟生邪見。是名二緣生邪見。何謂瞋恚。若忿怒重忿怒。是名瞋恚。何謂伺怨。若欲報仇纏究竟纏心行癡業究竟忿怒若瞋恚。是名伺怨。何謂懷恨。若心垢穢煩惱所污。是名懷恨。何謂熾熱。若不適意。而生憂惱。是名熾熱。何謂嫉妬。若他得利養尊重恭敬禮拜。而生嫉妬重嫉妬究竟嫉妬。是名嫉妬。何謂慳惜。若財施法施貪吝。不捨聚集樂著。是名慳惜。何謂幻變。若

於尊勝及餘人前。為名聞虛譽故。自覆過失。詭譎他人。何謂姦欺。若心邪曲不正。是名姦欺。何謂無慚。若自作惡內心不悔。是名無慚。復次無慚。若人無慚。於可恥法不恥。於惡不善法不恥。是名無慚。何謂無愧。若自作惡不羞他人。是名無愧。復次無愧。若人不愧。於可羞法不羞。於惡不善法不羞。是名無愧。何謂矜高。慢他自譽。是名矜高。何謂諍訟。若起身口意不善掉動。是名諍訟。何謂貢高。若起不善心。嚴飾己身稱歎己善。意不開解。是名貢高。何謂放逸。若不攝亂念。是名放逸。何謂慢。若言我勝。是名慢。何謂增上慢。言我與勝等。是名增上慢。二法。

舍利弗阿毘曇論卷第十九

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

非問分煩惱品第十一之二

何謂內集。若於內法中。欲染共欲染。非不增樂欲。悵望重悵望究竟悵望。難足難滿。貪灑津流沒枝網生本希嗜著熾渴宅忍塵瘡愛。是名內集。何謂外集。若於法欲染共欲染。乃至塵瘡愛。是名外集。何謂內外集。若於內外法欲染共欲染。乃至塵瘡愛。是名內外集。何謂悵望。若自有善法悵望故欲令他知。是名悵望。何謂大悵望。若多悵望。是名大悵望。

①取一趣②何謂一若蘇③[慢]一④故二欲⑤[色]十受⑥[染]一⑦親增二情⑧受二愛⑨遇二回
⑩梨二黎⑪[門]一⑫未二求⑬在二出⑭[法]一⑮[生]十欲⑯[生]十瞋⑰薰二纏⑱邪二緣⑲惟二順⑳幻二句㉑諸二諍㉒人十(是名句變)㉓[法]一㉔起二去云
不分卷及品

六不讓

何謂六誣根。如世尊說諸比丘有六誣根。應當解解已勤修令斷。何謂六。比丘瞋恚。常念怨嫌。於世尊不恭敬尊重讚歎。不以香花供養法僧亦如是。於戒缺行荒行垢行。告諸比丘。若比丘瞋恚。常念怨嫌。於眾僧中。起瞋恚共誣緣誣。令多眾生損滅。使多眾生受苦。天人衰耗。告諸比丘。如是不善誣根。親自他未斷。當共和合勤精進。勇猛應斷不善誣根。告諸比丘。如是不善誣根。親自他斷已。自心專念。令不復生。如是便知得斷不善誣根。復次比丘。若懷恨熾熱。若嫉妬慳惜。若詭欺姦非。若求諸見他人。誹謗。常憶不捨。若邪見邊見亦如是。是名六誣根。六法竟

何謂七共染。若女人自思惟。女身女形女。相女服飾。欲女音聲。女瓔珞。女人樂染此物。樂染此物已。思惟外男身男形男相男服飾。男欲男音聲。男瓔珞。女人樂染此物。樂染此物已。思惟和合。緣和合。故生喜樂貪著。愛樂女身。樂和合已。以如是故。常不欲轉女身。男子自思惟。若男身乃至常不欲轉男身。亦如是。是名七共染。何謂欲染。有一好種姓婆羅門。往至如來所。到已問訊。却坐一面。問世尊曰。瞿曇沙門。自是梵淨行不。世尊答。婆羅門。若言正梵淨行者我是也。以何緣故。婆羅門我梵淨行。不不荒不垢穢。婆羅門復問。瞿曇沙門。梵淨行荒缺垢穢。耶。世尊答曰。梵淨行有荒缺垢穢。婆羅門復問。云何梵淨行有荒缺垢穢。世尊答。或有人言。我是梵

淨行者。雖不與女人交通。然受女人澡浴衣服。按摩調身。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是謂共欲染。非清淨梵行。有荒缺垢穢。未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。然與女人。對目相視。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是謂共欲染。非清淨梵行。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是謂共欲染。非清淨梵行。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。不於障外聞女人音聲歌舞語笑啼哭。然憶念女人。曾共從事戲笑言語相娛樂時。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是名共欲染。非清淨

梵行者。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。不於障外聞女人音聲歌舞語笑啼哭。不憶念女人。曾共從事戲笑言語相娛樂時。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是名共欲染。非清淨

有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。不於障外聞女人音聲歌舞語笑啼哭。不憶念女人。曾共從事戲笑言語相娛樂時。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是名共欲染。非清淨行者。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。亦不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。不於障外聞女人音聲歌舞語笑啼哭。不見長者及長者子。以五欲具足相娛樂時。然願生天上。故行梵淨行。我以此戒。以此道。以此苦。梵淨行。令我作天王。或作輔臣。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是謂共欲染。非清淨梵行者。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。此七共欲染。我觀於內心。設當七共欲染未斷。我亦不自說。有正梵淨行婆羅門。以我七共欲染斷。故說有正梵淨行得無所畏。是名七共欲染。何謂七識住處。或有眾生若干身若干想。欲界人或天。此謂初識住處。若有眾生若干身一身若干想。光音天。是名第二識住處。若有眾生

梵行者。有荒缺垢穢。未脫於生老病死憂悲苦惱。眾苦聚集。我謂此未脫於苦。復次婆羅門。或有人言。我是梵淨行者。不與女人交通。不受女人澡浴衣服。按摩調身。不親近女人。言說戲笑調弄。不與女人。對目相視。不於障外聞女人音聲歌舞語笑啼哭。不憶念女人。曾共從事戲笑言語相娛樂時。以為喜樂。以為氣味。告婆羅門言。是名共欲染。非清淨

◎香花二華香◎◎講一脫◎◎相一誤◎◎謂十(七共)◎◎耶一也◎◎按一案◎◎[非]一◎◎啼二涕◎◎
◎[娛]一◎◎樂二樂◎◎親一視◎◎

有衆生一身一想遍淨天。是名第四識住處。若有衆生無邊空處。此名第五識住處。若有衆生無所有處。此謂第六識住處。若有衆生無所住處。此謂第七識住處。是名七識住處。

何謂七慢。不如慢。勝慢。增上慢。我慢。邪慢。慢中慢。何謂慢。若我勝心。於彼貢高。是名慢。何謂不如慢。彼不如我心於彼貢高。是名不如慢。何謂勝慢。我與勝者等心於彼貢高。是名勝慢。何謂增上慢。未得起得想心於彼貢高。是名增上慢。何謂我慢。我有善法心於彼貢高。是名我慢。何謂邪慢。若無善法心於彼貢高。是名邪慢。何謂慢中慢。若見他慢生慢心於彼貢高。是名慢中慢。復次我慢者。有身者。心於彼生貢高。是名我慢。復次邪慢。若有邪見者。心於彼生貢高。是名邪慢。復次慢中慢。我於勝中勝貴中貴心於彼生貢高。是名慢中慢。是名七慢。

何謂七不敬若不恭敬佛。不恭敬法。不恭敬僧。不恭敬戒。不恭敬定。不恭敬慧。不恭敬善法。是名七不敬。

何謂七漏。見斷漏。忍辱斷漏。親近斷漏。離斷漏。調伏斷漏。戒斷漏。思惟斷漏。是名七漏。何謂七怯弱法。殺生竊盜邪淫妄語兩舌惡口綺語。是名七怯弱法。

何謂七動。我當有。我當無。我色當有。我色當無。我想當有。我想當無。我非有想非無想當有。是名七動。七自恃七求七。橫七作七生亦如是。七法。

何謂世間八法。利衰毀譽稱譏苦樂。是名。世

八法

何謂八非聖語。若不見言見。見言不見。不聞言聞。聞言不聞。不覺言覺。覺言不覺。不識言識。識言不識。是名八非聖語。

何謂八懈怠事。若有懈怠比丘。如是思惟。我今日入聚落乞食已。我得飽細食不充足。以不足故。令我羸瘦。不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。是名初懈怠事。復次比丘如是思惟。我今日入聚落中乞食。得飽細食充足。身體重妨。如肉囊盛錢。不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第二懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我今日有作務疲懈。不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第三懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我明日當作務。身當疲懈。便不樂經行坐禪。我今豫眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第四懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我今日行來。身體疲極。不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第五懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我明日當行。身必疲極。便不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第六懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我今患苦。不樂經行坐

禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。此謂第七懈怠事。復次懈怠比丘。如是思惟。我患苦。差未久。我身羸弱。不樂經行坐禪。我欲眠臥。懈怠比丘。即便眠臥。不能勤進。為未得欲得未解欲解未證欲證。是名八懈怠事。何謂八難處妨修行。有佛出世。如來無所著等正覺。明行足為善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊。說寂靜滅盡離欲法正趣至涅槃道。或有衆生在地獄處。是名初難處妨修行。復次佛出世如來無所著乃至佛世尊。說寂靜滅盡離欲法正趣至涅槃道。或有衆生在畜生處。餓鬼處。長壽天處。若邊地愚癡人。若比丘比丘尼優婆塞優婆夷所不至處。是名乃至第五難處妨修行。復次佛出世如來無所著乃至佛世尊。說寂靜滅盡離欲法正趣至涅槃道。或有衆生共生國中。然邪見倒見。邪見倒見果報純熟。故畢生地獄。是名第六難處妨修行。復次佛出世如來無所著乃至佛世尊。說寂靜滅盡離欲法正趣至涅槃道。或有衆生共生國中。然瞋言瘡癩。如羊手現語相。不知說善惡業報。是名第七難處妨修行。復次佛不出世。不名如來乃至佛世尊。不說寂靜滅盡離欲法正趣至涅槃道。或有衆生在國中。不瞋言瘡癩。亦能分別善惡業報。然不值佛世。是名八難處妨修行。八法。

何謂九若干法。緣若干界。故生若干觸。緣若干觸。故生若干受。緣若干受。故生若干想。緣若干想。故生若干覺。緣若干覺。故生若干欲。

何謂十(勝)。

何謂一(是)。

何謂二(必)。

何謂十(勝)。

高十(勝) 見一無 身十(見) 一(是) (恭)十敬 (名)一 (橫)二橫 (世)一 身二 事 二 差二 畢二必

緣若干欲故生若干利養。緣若干利養故生若干求。緣若干求故生若干焦熱。是名九若干法。

何謂九愛本法。緣愛故生求。緣求故生利養。緣利養故生所作。緣所作故生欲染。緣欲染故生堪忍。緣堪忍故生慳惜。緣慳惜故生積聚。緣積聚故。生愛護傷害捶打相繫閉共圍誣。是名九愛本法。

何謂九衆生居。或有衆生。若干身若干想欲界人天。此謂初衆生居。或有衆生。若干身一思想。謂初生梵天。此謂第二衆生居處。或有衆生。一身若干想。謂光音天。此謂第三衆生居處。或有衆生。一身一思想。謂遍淨天。此謂第四衆生居處。或有衆生。無受無想。謂無想天。此謂第五衆生居處。或有衆生。無邊空處。此謂第六衆生居處。或有衆生。無邊識處。此謂第七衆生居處。或有衆生。無所有處。此謂第八衆生居處。或有衆生。非想非非想處。是名九衆生居。

何謂犯戒九過患。悔。不悅不喜不除心苦散亂不如實知見不解射不方便。是名犯戒九過患九法。

舍利弗阿毘曇論卷第十九

舍利弗阿毘曇論卷第二十

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

非問分煩惱品第十一之三

何謂十煩惱使。見煩惱使。疑煩惱使。戒道煩惱使。愛煩惱使。瞋悲煩惱使。嫉妬煩惱使。慳惜煩惱使。無明煩惱使。憍慢煩惱使。

掉煩惱使。是名十煩惱使。
何謂十煩惱結。見煩惱結。疑煩惱結。戒盜煩惱結。欲染煩惱結。瞋悲煩惱結。色染煩惱結。無色染煩惱結。無明煩惱結。慢煩惱結。掉煩惱結。是名十煩惱結。

何謂十想。欲想。瞋想。害想。貪想。譏論想。此內外想。國土想。卑想。不善想。若干想。依貪想。是名十想。

何謂十覺。瞋悲覺。害覺。親里覺。國土覺。不覺。他不覺。識相應覺。無慈相應覺。依利養覺。依貪覺。是名十覺。何謂十邪法。邪見。邪覺。邪語。邪業。邪命。邪進。邪定。邪慧。邪解脫。邪智。是名十邪法。

何謂十惱。若已侵生惱心。今侵生惱心。當欲侵生惱心。若我不愛喜適意者。已利益生惱心。今利益生惱心。當欲利益生惱心。橫瞋生惱心。是名十惱。何謂十不善業道。殺生竊盜邪婬妄言惡口兩舌綺語貪恚邪見。是名十不善業道。何謂十法成就墮地獄速如。積。殺生乃至邪見。此十法成就墮地獄速如。積。

鉤十法

何謂十一心垢。疑是心垢。不思惟是心垢。怖

是心垢。悲是心垢。惡是心垢。睡眠是心垢。過精進是心垢。軟精進是心垢。無能是心垢。若干想是心垢。著色是心垢。何謂疑是心垢。或有人緣過去疑。或我過去有。我過去非有。何

姓我過去有。何因我過去有。若緣未來疑。惑。我未來有。我未來非有。何。姓我未來有。何因我未來有。若緣現在疑惑。我現在有。我

現在非有。何。姓現在有。何因現在有。諸衆生從何處來。去至何處。若緣現在疑惑。我

現在有。我現在非有。何。姓現在有。何因現在有。諸衆生從何處來。去至何處。若彼於

佛世尊疑惑。是佛世尊非佛。世尊善說法。世尊非善說法。世尊聲聞衆善趣。世尊聲聞

衆非善趣行。常行非常行。苦行非苦。無我法非無我法。寂滅涅槃。非寂滅涅槃。有與無與。

有施無施。有祀無祀。有善惡業果報。無善惡業果報。有今世無今世。有後世無後世。

有父母無父母。有天天衆生有化生。衆生非化生。世有沙門婆羅門正趣正至。若今世

後世自證知說。世無沙門婆羅門正趣正至。若今世後世自證知說。若於彼法。疑惑重疑

惑。究竟疑。惑。心不決定。猶豫二心疑。不了無量疑。不盡非解。猶豫重猶豫。究竟猶豫。是名疑是心垢。何謂不思惟是心垢。若色

聲香味觸法。若衆生及法。不正計校分別籌量憶念。是名不思惟是心垢。何謂怖是心垢。色聲香味觸法。若衆生及法。緣此畏怖究竟。

①[天]一三② ③[不]一④, [不悅]一⑤ ⑥ ⑦不分卷及品⑧ ⑨遺一盜⑩* ⑪掉一掉⑫ ⑬[內]一⑭ ⑮[惡邪]一⑯ ⑰[標]二撥⑱* ⑲[十法]一⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

婆羅門。因此於本劫本見。計我及世間是常。於四見中無有能過。或有沙門婆羅門。有捷疾相智。善能觀察。以捷疾相智方便觀察。謂爲審諦。以己所見。以己辯才。作是說言。我及世間是常。此實餘虛妄。此是四見。諸沙門婆羅門。因此於本劫本見。計我及世間是常。於四見中無有能過。此沙門婆羅門。於本劫本見。計我及世間是常。如是一切盡入四見中。我及世間是常。於此四見中無有能過。唯有如來。知是見處。如是持。如是執。亦知報應。如來所知。又復過是。雖知不著。以不著則得寂滅。知愛集滅味過出要。以平等觀無餘解脫故名如來。是名餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。眞實平等讚歎如來。

復有餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。眞實平等讚歎如來。何等法是。諸沙門婆羅門。於本劫本見起論言。我及世間。亦常亦無常。諸沙門婆羅門。因此於本劫本見。計我及世間。半常半無常。於四見中無有能過。或有^①是時。此劫始成。有餘衆生。福盡命盡行盡。從光音命終。生空梵宮中。便於彼處。生愛著心。復願餘衆生共生此處。此衆生。既生愛著願已。復有餘衆生。命行福盡。於光音命終。來生此空梵宮中。其先生衆生。便作是念。我於此處。是梵大梵。我自然有。無能造我者。我盡知諸義。典千世界。於中自在最爲尊貴。能爲變化微妙第一。爲衆生父。我獨先有。餘衆生後來。後來衆生我所化成。其後衆生。復作是念。彼是大梵。彼能自造無造彼者。盡知諸

義。典千世界。於中自在最爲尊貴。能爲變化微妙第一。爲衆生父。母。彼獨先有。後有我。我等衆生彼所化成。彼梵衆生。命行盡已。來生此間。漸已長大。剃除鬚髮。出家被法服。修梵志行。入定意三昧。隨三昧心自識本生。便作是言。彼大梵者。能自造作無造彼者。盡知諸義。典千世界。於中自在最爲尊貴。能爲變化微妙第一。爲衆生父。常住不變。而彼梵化作我等。我等無常變易。不得久住。是故當知。我及世間。亦常亦無常。此實餘虛妄。是謂初見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。亦常亦無常。於此四見中。無有能過。或有衆生。喜戲笑懈怠。數數戲笑。以自娛樂戲笑。娛樂時身體疲極。便自失意。以失意故。便命終來生此間。漸已長大。剃除鬚髮。出家被法服。修梵志行。入定意三昧。以三昧力自識本生。便作是言。彼餘衆生。不數數戲笑。娛樂常在彼處。常住不變。由我數數戲笑。致此無常變易法。是故知我及世間。亦常亦無常。此實餘虛妄。是名第二見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間。亦常亦無常。於此四見中。無有能過。或有衆生。展轉相視。相視已便自失意。由此命終來生此間。漸已長大。剃除鬚髮。出家被法服。修梵志行。入定意三昧。以三昧力識本所生。便作是言。如彼衆生。以不展轉相視。不失意故。常住不變。由我等數數相視。故便失意。致此無常變易法。我以是知我及世間。亦常亦無常。此實餘虛妄。是名第三見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間。亦

常亦無常。於此四見中無有能過。或有沙門婆羅門。捷疾相智。善能觀察。以捷疾相智觀察。已言。我及世間。亦常亦無常。此實餘虛妄。是名第四見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間。亦常亦無常。於此四見中無有能過。諸沙門婆羅門。於本劫本見起論。我及世間。亦常亦無常。盡入四見中無有能過。唯佛能知此見處。如是持。如是執。亦知報應。如來所知。復過於此。雖知不著。以不著則得寂滅。知愛集滅味過出要。以平等觀無餘解脫故名如來。是名餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。讚歎如來。

復有餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。眞實平等讚歎如來。何等是法。諸沙門婆羅門。於本劫本見起論。我及世間。有邊無邊。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間。有邊無邊。於此四見中無有能過。或有沙門婆羅門。種種方便入定意三昧。以三昧力觀世間起邊想。彼。作是說。此世間有邊。是實餘虛妄。所以者何。我以種種方便入定意三昧。以三昧力。觀世間有邊。是故知世間有邊。此實餘虛妄。是名初見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間有邊。於四見中無有能過。或有沙門婆羅門。種種方便入定意三昧。以三昧力。觀世間起無邊想。彼。作是言。世間無邊。此實餘虛妄。所以者何。我以種種方便入定意三昧。以三昧力。觀世間無邊。是故知世間無邊。此實餘虛妄。是名第二見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間無邊。

復有餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。眞實平等讚歎如來。何等是法。諸沙門婆羅門。於本劫本見起論。我及世間。有邊無邊。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間。有邊無邊。於此四見中無有能過。或有沙門婆羅門。種種方便入定意三昧。以三昧力。觀世間起無邊想。彼。作是言。世間無邊。此實餘虛妄。所以者何。我以種種方便入定意三昧。以三昧力。觀世間無邊。是故知世間無邊。此實餘虛妄。是名第二見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我及世間無邊。

①是二過 ②[母]一 ③愛二受 ④作是說二依是諸

於此四見中無有能過。或有沙門婆羅門。種
 種方便入定意三昧。以三昧力觀世間。觀上
 方有邊。四方無邊。彼作是言。世間有邊無
 邊。此實餘虛妄。所以者何。我以種種方便入
 定意三昧。以三昧力。觀上方有邊四方無邊。
 是故我知世間有邊無邊。此實餘虛妄。是名
 第三見。諸沙門婆羅門。因本劫本見起論。我
 及世間。有邊無邊。於此四見中無有能過。或
 有沙門婆羅門。有捷疾相智。善能觀察。彼以
 捷疾相智觀察已言。我及世間。非有邊非無
 邊。此實餘虛妄。是名第四見。諸沙門婆羅門。
 因本劫本見起論。我及世間。非有邊非無邊。
 此實餘虛妄。於此四見中無有能過。諸沙門
 婆羅門。於本劫本見起論。我及世間。有邊無
 邊。盡入四見中無有能過。唯佛能知此見處。
 如是持如是執。亦知報應。如來所知。又復過
 是。雖知不著。以不著則得寂滅。知。愛集滅味
 過出要。以平等觀無餘解脫故名如來。
 復有餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。真
 實平等讚歎如來。何等是餘甚深微妙大法
 光明。使賢聖弟子。真實平等讚歎如來。諸沙
 門婆羅門。於本劫本見異問異答。諸沙門婆
 羅門。因本劫本見。異問異答。於此四見中無
 有能過。或有沙門婆羅門。作如是論。作如是
 見。我不知有善惡業報耶。無善惡業報耶。我
 不見不知故。若言有善惡業報。若言無善惡
 業報者。世有沙門婆羅門。廣博多聞。聰明
 智慧。常樂閑靜。機辯精微。世所尊重。能以智
 慧。善分別諸見。設當問我諸見深妙義者。我

不能答。則有慚愧。我心懷恐怖。當以是答。
 以為歸依。為洲。為舍。為究竟道。若彼問者。當
 以是答。此事如是。非也。此事實非也。此事異
 非也。此事非異非。不異非也。是名初見。諸沙
 門婆羅門。因此問異答。於此四見中。無有
 能過。或有沙門婆羅門。作如是論。作如是見。
 我不見不知。為有他世耶。無他世耶。世間有
 諸沙門婆羅門。以天眼及他心智。在遠處能
 見我。我若近。猶不能見。如是人。能知有他世
 無他世。我不知不見。有他世無他世。若我
 者。則為妄語。我畏妄語故。以為歸依。為洲。為
 舍。為究竟道。彼設問者。當以是答。此事如是
 非也。此事實非也。此事異非也。此事非異非。
 不異非也。是名第二見。諸沙門婆羅門。因此
 問異答。於此四見中。無有能過。或有沙門
 婆羅門。作如是見。作如是論。我不知不見。何
 者。善何者不善。我不知不見。若言是善是
 不善。我則生愛。從愛生恚。有愛有恚。則有受
 生。我欲滅受。惡畏受故。以為歸依。以為洲。為
 舍。為究竟道。彼設問者。當以是答。此事如是
 非也。此事實非也。此事異非也。此事非異
 非。不異非也。是名第三見。諸沙門婆羅門。
 因此問異答。於此四見中。無有能過。或
 有沙門婆羅門。愚冥闇鈍。愚冥闇鈍故。他有
 問者。便隨他言。答。此事如是。非也。此事實非
 也。此事異非也。此事非異非。不異非也。是名
 四見。諸沙門婆羅門。因此問異答。於此
 四見中。無有能過。諸有沙門婆羅門。於本劫
 本見。異問異答。盡入四見中。無有能過。唯佛

能知此見處。如是持如是執。亦知報應。如來
 所知。復過於。雖知不著。以不著則得寂滅。
 知受集滅味過出要。以平等觀無餘解脫。故
 名如來。是為甚深微妙大法光明。使賢聖弟
 子。真實平等讚歎如來。
 復有餘甚深微妙大法光明。使賢聖弟子。真
 實平等讚歎如來。何等是餘甚深微妙大法光
 明。使賢聖弟子。真實平等讚歎如來。諸沙門
 婆羅門。於本劫本見。謂無因而有此世間。彼
 盡入二見中。諸沙門婆羅門。因本劫本見。無
 因而有此世間。於此二見中。無有能過。彼諸
 沙門婆羅門。以何因緣。於本劫本見。謂無因
 而有。於此二見中。無有能過。或有眾生。無想
 無受。若彼眾生起想。即便命終。來生世間。漸
 以長大。剃除鬚髮。出家被法服。修梵志行。入
 定意三昧。以三昧力。見本想生。便作是念。我
 本無有想。自然有此。是無因而有。世間此實
 餘虛妄。是名初見。諸沙門婆羅門。因本劫本
 見。謂無因而有。於此二見中。無有能過。或有
 沙門婆羅門。有捷疾相智。善能觀察。彼以
 捷疾相智觀察已。如是說。此世間無因而有。
 此實餘虛妄。是名第二見。諸沙門婆羅門。因
 本劫本見。無因而有。此世間於此二見中。
 無有能過。諸沙門婆羅門。於本劫本見。無因
 而有。盡入二見中。無有能過。唯佛能知此見
 處。乃至無餘解脫。故名如來。亦如上所說。諸
 沙門婆羅門。於本劫本見中。無數種種隨意
 所說。彼盡入十八見中。諸沙門婆羅門。因本
 劫本見。無數種種隨意所說。於此十八見。

●見二者● 但宮本無真實平等四字 二十四字● (是名餘甚深微妙大法光明使賢聖弟子真實平等讚歎如來) ●來十● ●受二受●

有。此實餘虛妄。是名四見。復有言。我是有邊非想非無想是世。命終已我不復有。此實餘虛妄。是名五見。復有言。我非是有邊非想非無想是世。命終已我不復有。此實餘虛妄。是名六見。復有言。我有邊無邊非想非無想是世。命終已我不復有。此實餘虛妄。是名七見。復有言。我非有邊非無邊非想非無想是世。命終已我不復有。此實餘虛妄。是名八見。諸沙門婆羅門。因末劫末見。有非想非無想論。謂非想非無想是我。是世。彼盡入八見中。無有能過。唯佛能知此見處。乃至無餘解脫故名如來。亦如上所說。

復有餘甚深微妙大法光明。唯有賢聖弟子。能以此法讚歎如來。何等是甚深微妙大法光明賢聖弟子。能以此法讚歎如來。諸沙門婆羅門。因末劫末見。有斷滅論說。衆生斷滅無餘。彼盡入七見中。因末劫末見。有斷滅論說。衆生盡無餘。於七見中。無有能過。諸沙門婆羅門。以何因緣。於末劫末見。有斷滅論說。衆生斷滅無餘。於七見中。無有能過。或有沙門婆羅門。作如是論作如是見。我身四大入。從父母生乳哺衣食長養摩捫擁護。然是無常必歸。磨滅。齊是我斷滅。是名初見。諸沙門婆羅門。因末劫末見。有斷滅論說。衆生斷滅。於七見中。無有能過。或有沙門婆羅門。作如是論。此不得名斷滅。我欲界天斷滅無餘。齊是我斷滅。是名二見。復有沙門婆羅門。作是論。此不名斷滅。色界化身諸根具足斷滅。齊是謂我斷滅無餘。是名三見。復有言。此不

名斷滅無色空處斷滅。齊是謂我斷滅無餘。是名四見。復有言。此不名斷滅無色識處斷滅。齊是謂我斷滅無餘。是名五見。復有言。此不名斷滅無色不用處斷滅。齊是謂我斷滅無餘。是名六見。復有言。此不名斷滅。無色非有想非無想處斷滅。齊是謂我斷滅無餘。是名七見。諸沙門婆羅門。因此於末劫末見。言此衆生類斷滅無餘。於此七見中。無有能過。唯佛能知此見處。乃至無餘解脫故名如來。亦如上說。

復有餘甚深微妙大法光明。唯有賢聖弟子。能以此法讚歎如來。何等是甚深微妙大法光明賢聖弟子。能以此法讚歎如來。諸沙門婆羅門。因末劫末見。現在有泥洹。論說衆生現在有泥洹。彼盡入五見中。因末劫末見。說現在有泥洹。於五見中。無有能過。諸沙門婆羅門。何因緣於末劫末見。說衆生現在有泥洹。於五見中。無有能過。或有沙門婆羅門。作是見作是論。我盡現在五欲自恣。齊是我得現在涅槃。是名初見。諸沙門婆羅門。因末劫末見。謂我現世得涅槃。謂衆生現在有涅槃論。於五見中。無有能過。復有諸沙門婆羅門。作是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂成就初禪行。齊是謂我得現在涅槃。是名二見。復有沙門婆羅門。作如是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如滅有覺觀。內淨信心。無覺無觀。定生喜樂。成就

二禪行。齊是謂我現在得涅槃。是名三見。復有沙門婆羅門。作是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人解捨念樂行。成就三禪行。齊是現在得涅槃。是名四見。復有沙門婆羅門。作是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如能斷樂斷苦先滅憂喜。不苦不樂捨念。清淨。成就四禪行。齊是謂我現在得涅槃。是名五見。諸沙門婆羅門。因末劫末見。有現在涅槃論。於此五見中。無有能過。唯佛能知此見處。乃至無餘解脫故名如來。亦如上說。是。諸沙門婆羅門。因末劫末見。種種起見隨意所說。於此四十四見中。無有能過。唯佛能知此見處。乃至無餘解脫故名如來。亦如上說。諸沙門婆羅門。因本劫本見末劫末見種種起見隨意所說。盡入此六十二見中。因本劫本見末劫末見種種起見隨意所說。於六十二見中。無有能過。唯佛能知此見處。乃至無餘解脫故名如來。亦如上說。諸沙門婆羅門。因於本劫本見有常論說我世間是常。諸沙門婆羅門。於此生智。謂異信異欲異聞異緣異覺異見異定異忍。因此生智。彼以布施。則得名受。乃至現在涅槃。亦復如是。諸沙門婆羅門。生常論世間是常。彼因受緣受生愛。而不自覺知染著。於愛爲愛所伏。乃至現在涅槃。亦復如是。諸沙門婆羅門。因本劫本見。言世間是常。彼緣觸故若離觸緣。而立論者。無有是處。乃至現在涅槃。

復有餘甚深微妙大法光明。唯有賢聖弟子。能以此法讚歎如來。何等是甚深微妙大法光明賢聖弟子。能以此法讚歎如來。諸沙門婆羅門。因末劫末見。現在有泥洹。論說衆生現在有泥洹。彼盡入五見中。因末劫末見。說現在有泥洹。於五見中。無有能過。諸沙門婆羅門。何因緣於末劫末見。說衆生現在有泥洹。於五見中。無有能過。或有沙門婆羅門。作是見作是論。我盡現在五欲自恣。齊是我得現在涅槃。是名初見。諸沙門婆羅門。因末劫末見。謂我現世得涅槃。謂衆生現在有涅槃論。於五見中。無有能過。復有諸沙門婆羅門。作是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂成就初禪行。齊是謂我得現在涅槃。是名二見。復有沙門婆羅門。作如是說。此不名現在涅槃。復有現在涅槃微妙第一。汝所不知。獨我能知。如滅有覺觀。內淨信心。無覺無觀。定生喜樂。成就

①我是有邊 ②非有邊 ③非無邊 ④是我 ⑤斷滅 ⑥斷滅 ⑦斷滅 ⑧斷滅 ⑨斷滅 ⑩斷滅 ⑪斷滅 ⑫斷滅 ⑬斷滅 ⑭斷滅 ⑮斷滅 ⑯斷滅 ⑰斷滅 ⑱斷滅 ⑲斷滅 ⑳斷滅 ㉑斷滅 ㉒斷滅 ㉓斷滅 ㉔斷滅 ㉕斷滅 ㉖斷滅 ㉗斷滅 ㉘斷滅 ㉙斷滅 ㉚斷滅 ㉛斷滅 ㉜斷滅 ㉝斷滅 ㉞斷滅 ㉟斷滅 ㊱斷滅 ㊲斷滅 ㊳斷滅 ㊴斷滅 ㊵斷滅 ㊶斷滅 ㊷斷滅 ㊸斷滅 ㊹斷滅 ㊺斷滅 ㊻斷滅 ㊼斷滅 ㊽斷滅 ㊾斷滅 ㊿斷滅

集諦繫根法。一切根。是名非集諦繫根法。何謂滅諦繫根法。無滅諦繫根法也。何謂非滅諦繫根法。一切根。是名非滅諦繫根法。何謂道諦繫根法。八聖道。是名道諦繫根法。何謂非道諦繫根法。除八聖道。若餘根。是名非道諦繫根法。何謂諸聖諦繫根法。若非繫根。及除八聖道。是名諸聖諦繫根法。何謂非諸聖諦繫根法。除八聖道若餘聖根。是名非諸聖諦繫根法。何謂苦諦繫非根法。除愛若餘非根法非根有為。是名苦諦繫非根法。何謂非苦諦繫非根法。愛及一切無為。是名非苦諦繫非根法。何謂集諦繫非根法。愛是名集諦繫非根法。何謂非集諦繫非根法。除愛若餘非根。是名非集諦繫非根法。何謂滅諦繫非根法。智緣盡。是名滅諦繫非根法。何謂非滅諦繫非根法。除智緣盡若餘非根。是名非滅諦繫非根法。何謂道諦繫非根法。無道諦繫非根法也。何謂非道諦繫非根法。一切非根。是名非道諦繫非根法。何謂諸聖諦繫非根法。若非聖非根苦集滅。是名諸聖諦繫非根法。何謂非諸聖諦繫非根法。除苦集滅若餘非根。是名非諸聖諦繫非根法。何謂眼入法。眼入。是名眼入法。何謂非眼入法。除眼根若餘法。是名非眼入法。耳鼻舌身意亦如是。何謂色入法。色界。是名色入法。何謂非色入法。除色界若餘法。是名非色入法。聲香味觸法入亦如是。何謂受法。若意所受。是名受法。何謂非受法。除受若餘法。是名非受法。何謂想法。若記憶想。是名想法。何謂非想

法。除想若餘法。是名非想法。何謂思法。若思正思。是名思法。何謂非思法。除思若餘法。是名思法。何謂觸法。六觸。是名觸法。何謂非觸法。除觸若餘法。是名非觸法。何謂思惟法。若計按分別籌量憶念。是名思惟法。何謂非思惟法。除思惟若餘法。是名非思惟法。何謂非覺法。若覺憶想。是名覺法。何謂非覺法。除覺若餘法。是名非覺法。何謂觀法。若心行微行順行。是名觀法。何謂非觀法。除觀若餘法。是名非觀法。何謂見法。見慧無癡見使戒。道使。是名見法。何謂非見法。除見若餘法。是名非見法。慧法亦如是。何謂解脫法。若解脫重解脫究竟解脫。是名解脫法。何謂非解脫法。除解脫若餘法。是名非解脫法。何謂無貪法。若法不希望。是名無貪法。何謂非無貪法。除無貪若餘法。是名非無貪法。何謂無恚法。若無惱。是名無恚法。何謂非無恚法。除無恚若餘法。是名非無恚法。何謂無癡法。善見善慧無癡。是名無癡法。何謂非無癡法。除無癡若餘法。是名非無癡法。何謂順信法。善信信根順信。是名順信法。何謂非順信法。除順信若餘法。是名非順信法。何謂悔法。於作非作處作非作已。若悔心熾熱。是名悔法。何謂非悔法。除悔若餘法。是名非悔法。何謂非悔法。於作非作處作非作已。若不悔心不熾熱。是名非悔法。何謂非無悔法。除非悔若餘法。是名非無悔法。何謂悅法。若心悅豫。是名悅法。何謂非悅法。除悅法若餘法。是名非悅法。何謂喜法。若喜踊躍重踊躍寂

靜心歡。是名喜法。何謂非喜法。除喜法若餘法。是名非喜法。何謂心進法。若心發起顯出越度。是名心進法。何謂非心進法。除心進若餘法。是名非心進法。何謂心除法。若心樂心調心輕心軟。是名心除法。何謂非心除法。除心除若餘法。是名非心除法。何謂信法。若信入信。是名信法。何謂非信法。除信法若餘法。是名非信法。何謂欲法。若希冀欲作。是名欲法。何謂非欲法。除欲若餘法。是名非欲法。何謂不放逸法。若護心。是名不放逸法。何謂非不放逸法。除不放逸若餘法。是名非不放逸法。何謂念法。若念憶念。是名念法。何謂非念法。除念若餘法。是名非念法。何謂定法。若一心。是名定法。何謂非定法。除定若餘法。是名非定法。何謂心捨法。若捨勝捨順捨心無作非受。是名心捨法。何謂非心捨法。除心捨若餘法。是名非心捨法。何謂疑法。若不到所斷煩惱處。是名疑法。何謂非疑法。除疑若餘法。是名非疑法。何謂怖法。若驚畏是名怖法。何謂非怖法。除怖若餘法。是名非怖法。何謂煩惱使法。若十使。是名煩惱使法。何謂非煩惱使法。除十使若餘法。是名非煩惱使法。何謂見使法。不善見不善慧若見使若餘法。是名非見使法。何謂疑使法。如上說。何謂非疑使法。除疑使若餘法。是名非疑使法。何謂戒道使法。不善見不善慧若戒道分戒道。是名戒道使法。何謂非戒道使法。除戒道使若餘法。是名非戒道使法。

◎集二聖◎◎道二證◎◎法二非◎◎無二非◎◎非二無◎

是名苦聖諦法。何謂非苦聖諦法。除苦聖諦若餘法。是名非苦聖諦法。何謂集聖諦法。謂愛復有欲染喜樂。是名集聖諦法。何謂非集聖諦法。除集聖諦若餘法。是名非集聖諦法。何謂滅聖諦法。愛離捨出解脫滅盡無餘。是名滅聖諦法。何謂非滅聖諦法。除滅聖諦若餘法。是名非滅聖諦法。何謂道聖諦法。八聖道。是名道聖諦法。何謂非道聖諦法。除八聖道若餘法。是名非道聖諦法。何謂眼根法。眼入。是名眼根法。何謂非眼根法。除眼根若餘法。是名非眼根法。耳鼻舌身根亦如是。何謂女根法。女身女性女相女形。是名女根法。何謂非女根法。除女根若餘法。是名非女根法。何謂男根法。男身男性男相男形。是名男根法。何謂非男根法。除男根若餘法。是名非男根法。何謂命根法。若壽。是名命根法。何謂非命根法。除命根若餘法。是名非命根法。何謂樂根法。受陰中樂根。是名樂根法。何謂非樂根法。除樂根若餘法。是名非樂根法。苦根憂根。喜根捨根亦如是。何謂意根法。意入。是名意根法。何謂非意根法。除意根若餘法。是名非意根法。何謂信根法。聖信聖順信。是名信根法。何謂非信根法。除信根若餘法。是名非信根法。何謂進根法。聖心進正身進進根。是名進根法。何謂非進根法。除進根若餘法。是名非進根法。何謂念根法。聖念念根。是名念根法。何謂非念根法。除念根若餘法。是名非念根法。何謂定根法。聖定根法。是名定根法。何謂非定根法。除定根

若餘法。是名非定根法。何謂慧根法。聖見聖慧聖無癡。根。是名慧根法。何謂非慧根法。除慧根若餘法。是名非慧根法。何謂未知欲知根法。堅信堅法人。聖無漏法。非根得名。根謂想思等分。是名未知欲知根法。何謂非未知欲知根法。除未知欲知根若餘法。是名非未知欲知根法。知根知已根亦如是。何謂念覺法。聖念覺。是名念覺法。何謂非念覺法。除念覺若餘法。是名非念覺法。何謂擇法覺法。聖見聖慧聖無癡擇法覺。是名擇法覺法。何謂非擇法覺法。除擇法覺若餘法。是名非擇法覺法。何謂進覺法。聖心進。正身進覺。是名進覺法。何謂非進覺法。除進覺若餘法。是名非進覺法。何謂喜覺法。聖喜喜覺。是名喜覺法。何謂非喜覺法。除喜覺若餘法。是名非喜覺法。何謂除覺法。聖心除除覺。是名除覺法。何謂非除覺法。除除覺若餘法。是名非除覺法。何謂定覺法。聖定定覺。是名定覺法。何謂非定覺法。除定覺若餘法。是名非定覺法。何謂捨覺法。聖心捨捨覺。是名捨覺法。何謂非捨覺法。除捨覺若餘法。是名非捨覺法。何謂貪不善根法。若希望。是名貪不善根法。何謂非貪不善根法。除貪不善根若餘法。是名非貪不善根法。若希望。是名貪不善根法。若不希望。是名貪善根法。何謂非貪善根法。除無貪善根若餘法。是名非無貪善根法。無慧無癡亦如是。何謂地大法。觸入中地大。是名地大法。何謂非地大法。除地大若餘法。是名非地大法。水火風大亦

如是。何謂不殺生戒法。不殺戒。是名不殺生戒法。何謂非不殺生戒法。除不殺生戒若餘法。是名非不殺生戒法。乃至不飲酒。不放。逸亦如是。何謂色法。若法色。是名色法。何謂非色法。除色若餘法。是名非色法。何謂可見法。色入。是名可見法。何謂不可見法。除色入若餘法。是名不可見法。何謂有對法。十色入。是名有對法。何謂無對法。意入法入。是名無對法。何謂聖法。若法無漏。是名聖法。何謂非聖法。若法有漏。是名非聖法。有漏無漏有染無染有求無求當取非當取有取無取有勝無勝亦如是。何謂受法。若法內。是名受法。何謂非受法。若法外。是名非受法。何謂內法。若法受。是名內法。何謂外法。若法非受。是名外法。何謂有報法。若法報法。是名有報法。何謂無報法。若法報若非報非報法。是名無報法。何謂心法。意入。是名心法。何謂非心法。除心若餘法。是名非心法。何謂心相應法。若法心數。是名心相應法。何謂無心相應法。若法非心數及心。是名無心相應法。何謂非心相應法。若法非心數。是名非心相應法。何謂非非心相應法。若法非非心數。是名非非心相應法。何謂非非心數法。除心若餘有緣法。是名非心數法。何謂非心數法。若法無緣及心。是名非心數法。何謂有緣法。若法心數及心。是名有緣法。何謂無緣法。

①〔喜根捨根〕一② ③信一順④ ⑤〔慧〕十根⑥ ⑦聖一根本⑧ ⑨根十〔法〕⑩ ⑪餘一是⑫ ⑬正二何⑭ ⑮聖 ⑯〔不〕一⑰ ⑱逸十〔處法非不飲酒放逸處法〕⑳

除心若餘非心數法。是名無緣法。何謂共心法。若法隨心轉共心生共住共滅。是名共心法。何謂不共心法。若法不隨心轉不共心生不共住不共滅。是名不共心法。隨心轉亦如是。何謂業法。身口意業。是名業法。何謂非業法。除身口意業若餘法。是名非業法。何謂業相應法。若法思相應。是名業相應法。何謂無業相應法。若非思相應及思。是名無業相應法。何謂非業相應法。若法非思相應。是名非業相應法。何謂非無業相應法。若法思相應。是名非無業相應法。何謂非業相應非不業相應法。思是名非業相應非不業相應法。何謂非非業相應非非不業相應法。若思相應若非思相應。是名非非業相應非非不業相應法。何謂共業法。若法隨業轉共業生共住共滅。是名共業法。何謂非共業法。若法不隨業轉不共生不共住不共滅。是名不共業法。隨業轉不隨業轉亦如是。何謂因法。若法有緣。若無緣有報。除得果若法無緣善報及四大。是名因法。何謂無因法。若法無緣無報不共業得果。是名無因法。何謂有因法。若法有緒。是名有因法。何謂無因法。若法無緒。是名無因法。有緒無緒有緣無緣有為無為亦如是。何謂知法。一切法知如相知見。是名知法。何謂非知法無非知法。復次一切法不如相知見。是名非知法。識非識了非了解非解亦如是。何謂斷智知法。若法不善。是名斷智知法。何謂非斷智知法。若法善無記。是名非斷智知法。斷非斷亦如是。何謂修法。

若法善。是名修法。何謂非修法。若法不善無記。是名非修法。何謂證法。一切法證如相知見。是名證法。何謂非證法無非證法。復次一切法非證不如相知見。是名非證法。何謂善法。若法修。是名善法。何謂無善法。若法不善無記。是名無善法。何謂不善法。若法斷。是名不善法。何謂無不善法。若法善無記。是名無不善法。何謂無記法。若法受。若非報非報法。是名無記法。何謂無無記法。若法善不善。是名無無記法。何謂學法。若法聖非無學。是名學法。何謂非學法。若法非聖若無學。是名非學法。何謂無學法。若法聖非學。是名非學法。何謂非非學法。若法非聖非學。是名非非學法。何謂非非非學法。若法非聖非非學法。何謂非非非非學法。何謂報法。若受若善報。是名報法。何謂非報法。若不善若善有報。若非報非報法。是名非報法。何謂報報法。若法有報。是名報報法。何謂非報報法。若報若非報非報法。是名非報報法。何謂非非報非非報法。若報若報法。是名非非報非非報法。何謂見斷法。若法不善非思惟斷。是名見斷法。何謂非見斷法。若法善無記若思惟斷。是名非見斷法。何謂思惟斷法。若法不善非見斷。是名思惟斷法。何謂非思惟斷法。若法善若無記見斷。是名思惟斷法。何謂非思惟斷法。非見斷非思惟斷法。若法善無記。是名非見

斷非思惟斷法。何謂非非見斷非非思惟斷法。若法不善。是名非非見斷非非思惟斷法。何謂見斷因法。若法見斷若見斷法報。是名見斷因法。何謂非見斷因法。若法善若善法報。若思惟斷若思惟斷法報。若非報非報法。是名非見斷因法。何謂思惟斷因法。若法思惟斷。若思惟斷法報。是名思惟斷因法。何謂非思惟斷因法。若法善若善法報若見斷法報。若非報非報法。是名非思惟斷因法。何謂非見斷非思惟斷因法。若法善若善法報。若非非報報法。是名非非見斷非思惟斷因法。何謂非非見斷非非思惟斷因法。若法不善。若不善法報。是名非非非見斷非非思惟斷因法。何謂欲界繫法。若法欲漏有漏。是名欲界繫法。何謂非欲界繫法。若法色無色界繫法。若不繫。是名非欲界繫法。何謂色界繫法。若法色漏有漏。是名色界繫法。何謂非色界繫法。若欲界無色界繫若不繫。是名非色界繫法。何謂無色界繫法。若法無色漏有漏。是名無色界繫法。何謂非無色界繫法。若法欲界若色界繫若不繫。是名非無色界繫法。何謂不繫法。若聖無漏無為。是名不繫法。何謂非不繫法。若三界繫。是名非不繫法。何謂過去法。若法生已滅。是名過去法。何謂非過去法。若未來現在非過去去非未來非現在。是名非過去法。何謂未來法。若法未生未出。是名未來法。何謂非未來法。若過去現在。若非過去非未來非現在。是名非未來法。何謂現在法。若法生未滅。是名現在法。何謂非現

①(善)十法②(報)十(法)③(非)報報一報非報

道諦繫根法。除餘法。除何等法。除非道諦

繫非根法。諸聖諦繫非根法。除非陰界入攝

問何等法。問非諸聖諦繫法。問諸聖諦繫根

法。除餘法。除何等法。除諸聖諦繫非根法。非

諸聖諦繫非根法。除非陰界入攝。問何等法。

問諸聖諦繫法。問非諸聖諦繫根法。除餘法。

除何等法。除非諸聖諦繫非根法。眼入法。幾

非陰界入攝。問何等法。問非眼入法。除餘法。

除何等法。除眼入法。乃至法入亦如是。眼界

法。除非陰界入攝。問何等法。問非眼界法。除

餘法。除何等法。除眼界法。非眼界法。除非陰

界入攝。問何等法。問眼界法。除餘法。除何等

法。除非眼界法。乃至法界亦如是。色陰法。幾

非陰界入攝。問何等法。問非色陰法。除餘

法。除何等法。除色陰法。非色陰法。除非陰

界入攝。問何等法。問色陰法。除餘法。除何等

法。除非色陰法。乃至識陰亦如是。苦聖諦

法。除非陰界入攝。問何等法。問非苦聖諦法。

除餘法。除何等法。除苦聖諦法。非苦聖諦法

。除非陰界入攝。問何等法。問苦聖諦法。除餘

法。除何等法。除非苦聖諦法。乃至道聖諦亦

如是。眼根法。除非陰界入攝。問何等法。問非

眼根法。除餘法。除何等法。除眼根法。非眼

根法。除非陰界入攝。問何等法。問眼根法。除

餘法。除何等法。除非眼根法。乃至知已根亦

如是。念覺法。除非陰界入攝。問何等法。問非

念覺法。除餘法。除何等法。除念覺法。非念覺

法。除非陰界入攝。問何等法。問念覺法。除餘

法。除何等法。除非念覺法。乃至捨覺法亦如

是。貪不善根法。除非陰界入攝。問何等法。問

非貪不善根法。除餘法。除何等法。除貪不善

根法。非貪不善根法。除非陰界入攝。問何等

法。問貪不善根法。除餘法。除何等法。除非貪

不善根法。患癡不善根法亦如是。無貪善根

法。除非陰界入攝。問何等法。問非無貪善根

法。除餘法。除何等法。除無貪善根法。非無貪

善根法。除非陰界入攝。問何等法。問無貪善

根法。除餘法。除何等法。除非無貪善根法。無

患無癡亦如是。地大法。除非陰界入攝。問何

等法。問非地大法。除餘法。除何等法。除地大

法。非地大法。除非陰界入攝。問何等法。問

地大法。除餘法。除何等法。除非地大法。水火

風大亦如是。不殺生戒法。除非陰界入攝。問

何等法。問非不殺生戒法。除餘法。除何等法。

除不殺生戒法。非不殺生戒法。除非陰界入

攝。問何等法。問不殺生戒法。除餘法。除何等

法。除非不殺生戒法。乃至不飲酒不放逸處

亦如是。色法。除非陰界入攝。問何等法。問非

色法。除餘法。除何等法。除非色法。非色法。非

陰界入攝。問何等法。問色法。除餘法。除何等

法。除非色法。乃至過去。未來。現在亦如是

舍利弗阿毘曇論卷第二十二

舍利弗阿毘曇論卷第二十三

姚秦·罽賓三藏·曇摩耶舍

共曇摩囉多等譯

攝相應分相應品第二之上

心心數法。當知相應。當知不相應。當知無相

應。當知非無相應相應。當知亦有相應不相

應。無相應非無相應。當知亦有相應不相應

。當知亦有相應不相應。無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

相應不相應。無相應非無相應。當知亦有

【非】一① 【除】一② 【法】一③ 現在十(法)④ 二十二二十七⑤ 十七下⑥ 二十三二十八⑦ 第二之上二下⑧ ⑨(之上)一⑩ (不)十自⑪ ⑫道二法⑬ ⑭問二門⑮ ⑯意二想

是名意識界。何謂身觸。若觸身識相應。是名身觸。復次身觸若觸五識身相應。眼識耳鼻舌身識。是名身觸。何謂心觸。若觸意識相應。是名心觸。何謂名觸。若心觸。是名名觸。何謂對觸。若身觸。是名對觸。何謂愛觸。若觸欲染相應。是名愛觸。何謂悲觸。若觸瞋悲相應。是名悲觸。何謂明觸。若觸聖智相應。是名明觸。何謂無明觸。若觸不善非智相應。是名無明觸。何謂明分觸。若觸明分生明得明能令明廣大。是名明分觸。何謂無明分觸。若無明得無明能令無明廣大。是名無明分觸。復次明分觸。若觸聖忍相應。是名明分觸。復次無明分觸。若觸非聖煩惱相應。是名無明分觸。復次明分觸。若觸聖能得智果。是名明分觸。復次無明分觸。若觸非聖。若善無記。是名無明分觸。何謂樂根。若身忍。受樂。眼觸樂受。耳鼻舌身。觸樂受樂界。是名樂根。何謂苦根。若身不忍受苦。眼觸苦受。耳鼻舌身。觸苦受苦界。是名苦根。何謂喜根。若心忍受樂。意觸樂受喜界。是名喜根。何謂憂根。若心不忍受苦。意觸苦受憂界。是名憂根。何謂捨根。若身心不忍受苦樂。眼觸不苦不樂。耳鼻舌身。觸不苦不樂受捨界。是名捨根。何謂受。若心受。是名受。復次受六受。眼觸受。耳鼻舌身。觸受。何謂眼觸受。若受眼識相應。是名眼觸受。乃至意受亦如是。復次眼觸受。緣眼緣色生眼識三法和合觸緣受。是名眼觸受。乃至意受亦如是。何謂想。若想像勝想。是名想。復次六想。色想聲香味

觸法想。何謂色想。若眼識相應。是名色想。聲香味觸法亦如是。復次色想。色境界思惟色。若想像勝想。是名色想。聲香味觸法亦如是。何謂思。若思正思緣思。若心有作。是名思。復次思六思。色思聲香味觸法思。何謂色思。若思眼識相應。是名色思。聲香味觸法思亦如是。復次色思。色境界思惟色。若思正思緣思。若心有作。是名思。聲香味觸法思亦如是。何謂觸。若觸正觸。是名觸。復次觸六觸。眼觸耳鼻舌身。何謂眼觸。若觸眼識相應。是名眼觸。耳鼻舌身。何謂耳觸。若觸眼識緣眼緣色生眼識。三法和合觸。是名眼觸。耳鼻舌身。何謂鼻觸。若觸鼻識。是名鼻觸。耳鼻舌身。何謂舌觸。若觸舌識。是名舌觸。耳鼻舌身。何謂身觸。若觸身識。是名身觸。耳鼻舌身。何謂意觸。若觸意識。是名意觸。耳鼻舌身。何謂心觸。若觸心識。是名心觸。耳鼻舌身。何謂對觸。若觸對識。是名對觸。耳鼻舌身。何謂愛觸。若觸愛染。是名愛觸。耳鼻舌身。何謂悲觸。若觸悲瞋。是名悲觸。耳鼻舌身。何謂明觸。若觸明智。是名明觸。耳鼻舌身。何謂無明觸。若觸無明。是名無明觸。耳鼻舌身。何謂樂根。若身忍。受樂。眼觸樂受。耳鼻舌身。觸樂受樂界。是名樂根。何謂苦根。若身不忍受苦。眼觸苦受。耳鼻舌身。觸苦受苦界。是名苦根。何謂喜根。若心忍受樂。意觸樂受喜界。是名喜根。何謂憂根。若心不忍受苦。意觸苦受憂界。是名憂根。何謂捨根。若身心不忍受苦樂。眼觸不苦不樂。耳鼻舌身。觸不苦不樂受捨界。是名捨根。何謂受。若心受。是名受。復次受六受。眼觸受。耳鼻舌身。觸受。何謂眼觸受。若受眼識相應。是名眼觸受。乃至意受亦如是。復次眼觸受。緣眼緣色生眼識三法和合觸緣受。是名眼觸受。乃至意受亦如是。何謂想。若想像勝想。是名想。復次六想。色想聲香味

觸法想。何謂色想。若眼識相應。是名色想。聲香味觸法亦如是。復次色想。色境界思惟色。若想像勝想。是名色想。聲香味觸法亦如是。何謂思。若思正思緣思。若心有作。是名思。復次思六思。色思聲香味觸法思。何謂色思。若思眼識相應。是名色思。聲香味觸法思亦如是。復次色思。色境界思惟色。若思正思緣思。若心有作。是名思。聲香味觸法思亦如是。何謂觸。若觸正觸。是名觸。復次觸六觸。眼觸耳鼻舌身。何謂眼觸。若觸眼識相應。是名眼觸。耳鼻舌身。何謂耳觸。若觸眼識緣眼緣色生眼識。三法和合觸。是名眼觸。耳鼻舌身。何謂鼻觸。若觸鼻識。是名鼻觸。耳鼻舌身。何謂舌觸。若觸舌識。是名舌觸。耳鼻舌身。何謂身觸。若觸身識。是名身觸。耳鼻舌身。何謂意觸。若觸意識。是名意觸。耳鼻舌身。何謂心觸。若觸心識。是名心觸。耳鼻舌身。何謂對觸。若觸對識。是名對觸。耳鼻舌身。何謂愛觸。若觸愛染。是名愛觸。耳鼻舌身。何謂悲觸。若觸悲瞋。是名悲觸。耳鼻舌身。何謂明觸。若觸明智。是名明觸。耳鼻舌身。何謂無明觸。若觸無明。是名無明觸。耳鼻舌身。何謂樂根。若身忍。受樂。眼觸樂受。耳鼻舌身。觸樂受樂界。是名樂根。何謂苦根。若身不忍受苦。眼觸苦受。耳鼻舌身。觸苦受苦界。是名苦根。何謂喜根。若心忍受樂。意觸樂受喜界。是名喜根。何謂憂根。若心不忍受苦。意觸苦受憂界。是名憂根。何謂捨根。若身心不忍受苦樂。眼觸不苦不樂。耳鼻舌身。觸不苦不樂受捨界。是名捨根。何謂受。若心受。是名受。復次受六受。眼觸受。耳鼻舌身。觸受。何謂眼觸受。若受眼識相應。是名眼觸受。乃至意受亦如是。復次眼觸受。緣眼緣色生眼識三法和合觸緣受。是名眼觸受。乃至意受亦如是。何謂想。若想像勝想。是名想。復次六想。色想聲香味

① (復次...觸) 二十二字 (何謂...觸) 十四字 ② 分十 (觸若) ③ 受二愛 ④ 眼二根 ⑤ (若) ⑥ 色十 (覺) ⑦ 倒二眼 ⑧ 千二子 ⑨ 無二供

滅道。知前際後際。知前後際。知內知外。知六觸入集滅大過患出要。知因緣。知業報。知緣生善不善無記黑白有緣無緣有明無明可作不可作可親近不可親近。若於彼法。無癡無闇。無忘無失。正念無障礙。無覆蓋。無闇蔽。無荒無纏。無濁。明焰術光焰知見解射方便。慧眼慧根慧力擇法覺正見。及餘廢法中。無癡無闇無忘無失。正念無障礙無覆蓋無闇蔽。無荒無纏無濁明焰術光焰知見解射方便。慧眼慧根慧力擇法覺正見。是名無癡何謂順信。若信善順不逆。是名順信。何謂悔若可作不可作處。若作不作已。若於彼心。熱重熱熱究竟熱熱。是名悔。何謂不悔。若可作不可作處。若可作不可作已。若於彼不熱不熱重不熱不熱究竟不熱。不熱。是名不悔。何謂悅。若心悅豫歡樂。愛樂。未喜。是名悅。何謂喜。若歡喜踊躍正踊躍。離悲寂靜。是名喜。何謂心進。若心發起顯出越度。是名心進。何謂心除。若心樂心調心輕心軟是名心除。何謂信。若信入信勝信。是名信。何謂欲。若欲重欲稀望欲欲發起欲顯出欲度欲得欲觸欲解射欲證。是名欲。何謂不放逸。若覆護心念欲令我心不染於染法。不恚於恚法。不癡於癡法。不著垢穢法。不順於色欲法。不貢高於貢高法。不放逸於放逸法。是名不放逸。何謂念。若念憶念。是名念。何謂心捨。若捨勝捨捨心等心均心清淨心無作非。受。是名捨。何謂怖。若於色聲香味觸法。若眾生。若怖重怖究竟怖。心驚毛豎。是名怖。何謂煩惱使。十

使見使疑使戒。道使愛使。恚使嫉妬使。慳惜使。無明使。慢使掉使。是名煩惱使。何謂見使。除戒。道見。若餘見。是名見使。復次見使。六十二見。及邪見。是名見使。何謂疑使。若有人緣過去疑。惑。我過去有。我非過去有。以何性過去有因。何過去有緣未來疑惑。我未來有。我非未來有。以何性未來有因。何未來有緣。現在疑。惑。我現在有。我現在非有。以何性我現在有因。何現在有謂我生處。此眾生從何處來。去至何處。若世尊疑。惑。是佛世尊非佛世尊。世尊善說法。世尊非善說法。世尊聲聞來善趣。世尊聲聞來非善趣。行常行非常。行苦行非苦。無我法非無我法。寂靜涅槃。非寂靜涅槃。有與無與。有施無施。有祀無祀。有善惡業果報。無善惡業果報。有今世無今世。有後世無後世。有父母無父母。有天天無天。衆生有化生。衆生無化生。世有沙門婆羅門正趣正至。若今世後世自證知說。世無沙門婆羅門正趣正至。若今世後世身證知說。若於彼法疑惑重疑惑究竟疑惑。心不決定。猶豫二心疑心不。無量疑不盡不解脫。猶豫重猶豫究竟猶豫。是名疑使。何謂戒。道使。若戒。道見。是名戒。道使。復次以戒為淨。以戒。道為淨。解脫無依盡一切苦際。若忍欲覺觸證戒謂護身口。道謂邪。吉養髮敬事水火日月。持牛鹿狗默然等戒求。為力士報人天中尊。如是勤行苦行邪行。此謂道。若戒若道求覓。求覓已以是為淨。為淨已為解脫。為解脫已以是為聖人

為羅漢為涅槃。若於彼忍欲堪任樂著。是名戒。道使。何謂愛使。若欲染。是名愛使。何謂瞋使。若憎恚。是名瞋使。何謂嫉妬使。若他得利養恭敬尊重讚歎禮拜。憎嫉瞋恚忿怒心嫉。是名嫉妬使。何謂慳惜使。若財物慳惜不捨心貪。是名慳惜使。何謂無明使。疑不善根。是名無明使。何謂憍慢使。若以慢自高。是名憍慢使。何謂掉使。若掉動不定發奔逸不寂靜不正寂靜心不息。是名掉使。有覺有觀定無覺有觀定。無覺無觀定。空無相無願定。如道品三支道中廣說。何謂信根。學人離煩惱聖心趣聖道。若堅信堅法。及餘趣人。見行過患。觀涅槃寂滅。如實觀苦集滅道。未得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱見學人。若須陀洹斯陀含阿那含。觀行具足。若智地。若觀解脫心即得沙門果須陀洹果斯陀含果阿那含果。無學人阿羅漢未得聖法。欲得修道。觀行具足。若智地若觀解脫心即得阿羅漢果。如實人如趣人。若信入信勝信真信心淨是名信根。進念定慧根亦如是。

舍利弗阿毘曇論卷第二十三

忘二妄(一) (不)一(一) 愛一受(一) 未二味(一) 受二愛(一) 怖重二稀望(一) 稀望(一) (心)一(一) (慢)一(一) 惑二或(一) (於)十我(一) 性二姓(一) 祀二祀(一) 了十(了)(一) 疑十(處)(一) 若二善(一) (是)一(一) 覺二觀(一) 觀二覺(一) 大頁 不分卷及品(一)

舍利弗阿毘曇論卷第二十四

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

攝相應分相應品下

◎七十。二相應門分。今當說。五識界。各十二。二識界。各六十。身觸十三。心觸名觸。各五十三。對觸亦十三。身觸愛觸二十五。悲觸二十三。明觸三十五。無明觸三十四。明分觸三十五。無明分觸三十。樂根十三。苦根亦如是。喜根五十一。愛根三十七。捨根五十六。受六十五。想思觸思惟。各除自性。餘數覺五十九。觀六十。忍五十三。見五十四。智三十五。解脫六十九。無貪二十九。無恚亦如是。無癡四十二。順信四十四。悔三十四。不悔三十六。悅五十二。喜亦如是。心進六十。心除四十一。信五十八。欲六十一。不放逸四十六。念五十九。心捨四十一。怖二十七。煩惱使四十九。見使二十八。疑使十九。戒道使二十八。愛使二十九。憎使二十七。嫉妬二十四。慳惜使亦如是。無明三十九。慢掉亦如是。有覺有觀定三十五。無覺有觀定三十四。無覺無觀定三十三。空定三十四。無相無願亦如是。信根三十八。進根三十九。念根亦如是。定根三十四。慧根三十六。何謂眼識界分。若法眼識界相應。謂身觸對觸無明分觸樂根苦根捨根受想思觸思惟解脫。是名眼識界分。耳鼻舌身識界分亦如是。

何謂意見分。若法意界相應。謂心觸名觸愛觸憎觸明觸無明觸明分觸無明分觸。喜根乃至慧根。是名意見分。意識界分亦如是。何謂身觸分。若法身觸相應。謂眼識界耳識界鼻識界舌識界身識界樂根苦根捨根受想思惟解脫。是名身觸分。何謂心觸分。若法心觸相應。謂意識界除觸喜根乃至慧根。是名心觸分。名觸分亦如是。何謂對觸分。若法對觸相應。謂眼識界耳鼻舌身識界。樂根苦根捨根受想思惟解脫。是名對觸分。何謂愛觸分。若法愛觸相應。謂意見界喜根捨根受想思。思惟覺觀見智解脫無癡。喜根捨根受想思。信欲不放逸念心捨。有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。空定無相定。無願定。信根乃至慧根。是名明觸分。何謂無明觸分。若法無明觸相應。謂意見界識界喜根憂根捨根受想思。思惟覺觀見智解脫。不悔悅喜心進信欲念煩惱使。愛使無明慢掉使。是名愛觸分。何謂悲觸分。若法悲觸相應。謂意見界識界憂根受想思惟。覺觀忍見智解脫。無貪無恚。欲念怖煩惱使。使無明慢掉使。是名悲觸分。何謂明觸分。若法明觸相應。謂意見界識界喜根捨根受想思。思惟覺觀見智解脫無癡。順信悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。空定無相定。無願定。信根乃至慧根。是名明觸分。何謂無明觸分。若法無明觸相應。謂意見界識界喜根憂根捨根受想思。思惟覺觀見智解脫。不悔悅喜心進信欲念怖煩惱使。及十煩惱使。是名無明觸分。

何謂明分觸。若法明分觸相應。謂意見界識界。喜根捨根受想思。思惟覺觀忍見智解脫無癡。順信悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。有覺有觀定。乃至慧根。是名明分觸。何謂無明分觸。若法無明分觸相應。謂眼耳鼻舌身識界。意見界識界。樂根苦根喜根憂根捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫無貪無恚無癡。順信不悔悅喜心進信欲不放逸念心除。怖。有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。是名無明分觸。何謂樂根分。若法樂根相應。謂眼識界耳鼻舌身識界。身觸對觸無明分觸想思觸思惟解脫。是名樂根分。何謂苦根分。若法苦根相應。謂眼識界耳鼻舌身識界。身觸對觸無明分觸想思觸思惟解脫。是名苦根分。何謂喜根分。若法喜根相應。謂意見界識界。心觸名觸愛觸明觸無明觸明分觸無明分觸想思觸。思惟覺觀忍見智解脫。無貪無恚無癡。順信不悔悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。煩惱使見使戒道使愛使無明慢掉使。有覺有觀定。乃至慧根。是名喜根分。何謂憂根分。若法憂根相應。謂意見界識界。心觸名觸悲觸無明觸無明分觸想思觸。思惟覺觀忍見智解脫。無貪無恚無癡。順信不悔悅喜心進信欲不放逸念心捨。煩惱使見使疑使戒道使。使嫉妬慳惜使無明慢掉使。是名憂根分。何謂捨根分。若法捨根相應。謂眼識界耳鼻舌身識界。意見界識界。眼耳鼻舌身觸心觸

◎前一頁 ①不分卷及品 ②二一 ③三二四 ④道二 ⑤ ⑥[使]一 ⑦ ⑧憎一 ⑨明十(使) ⑩掉十(使) ⑪界二思 ⑫不二入 ⑬悔悅二悅悔 ⑭[分]一 ⑮觸十(意觸) ⑯

名觸對觸愛觸明觸無明觸明分觸無明分
 觸。癡順信心除。信欲不放逸念捨。煩惱使
 見使疑使戒。道使愛使無明慢掉使。有覺有
 觀定乃至慧根。是名捨根分
 何謂受分。若法。受相應。何謂非分。謂諸自
 性。是名非。受分
 何謂想分。若法想相應。何謂非分。謂諸自
 性。是名非。想分
 何謂思分。若法思相應。何謂非分。謂諸自
 性。是名非。思分
 何謂觸分。若法觸相應。何謂非分。謂諸自
 性。是名非。觸分。思惟分如想說
 何謂覺分。若法覺相應。何謂非分。謂五識界
 身觸對觸樂根苦根自性。無覺有觀定無覺
 無觀定。是名非覺分
 何謂觀分。若法觀相應。何謂非分。謂五識界
 身觸對觸樂根苦根自性。無覺無觀定。是名
 非觀分
 何謂忍分。若法忍相應。何謂非分。謂身無明
 觸十五自性忍見智無癡慧根。見。斷三煩惱
 身見疑戒。道。是名非忍分
 何謂見分。若法見相應。何謂非分。九一向身
 五自性忍智無癡慧根見。斷三煩惱身見疑
 戒。道。是名非見分
 何謂智分。若法智相應。謂境界意識界。心觸
 名觸明觸喜根捨根受想。觸思惟覺觀解脫
 順信悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。有
 覺有觀定乃至定根。是名智分
 何謂解脫分。若法解脫相應。何謂非分。謂自

性疑使。是名非解脫分
 何謂無貪分。若法無貪相應。謂境界意識界
 心觸名觸無明分觸。喜根憂根捨根受想思
 觸思惟覺觀。忍見解脫無癡順信悔不悔悅
 喜心進信欲不放逸念。是名無貪分
 何謂無恚分。若法無恚相應。謂境界意識
 界。心觸名觸無明分觸喜根憂根捨根。受想
 思觸思惟覺觀。忍見解脫無癡順信悔不悔
 悅喜心進信欲不放逸念。是名無恚分
 何謂無癡分。若法無癡相應。謂境界意識界
 心觸名觸明觸明分觸無明分觸喜根憂根捨
 根。受想思觸思惟覺觀。解脫無貪無恚順信
 悔不悔悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨
 有覺有觀定乃至定根。是名無癡分
 何謂順信分。若法順信相應。謂境界意識界
 心觸名觸明觸明分觸無明分觸。喜根憂根
 捨根。受想思觸思惟覺觀。忍見智解脫。無貪
 無恚無癡。悔不悔悅喜心進心除。欲不放逸
 念心捨除信根。有覺有觀定乃至慧根。是名
 順信分
 何謂悔分。若法悔相應。謂境界意識界。心觸
 名觸悲觸無明觸無明分觸。憂根受想思觸
 思惟覺觀。忍見解脫無貪無恚無癡。順信心
 進信欲不放逸念煩惱使見使戒。道使恚使
 無明憍慢掉使。是名悔分
 何謂非分。若法非悔相應。謂境界意識界。心
 觸名觸愛觸無明觸無明分觸。喜根受想思
 觸思惟覺觀。忍見解脫無貪無恚無癡。順信
 悅喜心進信欲不放逸念。煩惱使見使戒。道

使愛無明慢掉使。是名非悔分
 何謂悅分。若法悅相應。何謂非分。謂身九恚
 觸憂根捨根悔自性怖疑恚嫉妬慳惜。是名
 非悅分
 何謂喜分。若法喜相應。何謂非分。謂身九恚
 觸憂根捨根悔自性喜怖疑恚嫉妬慳惜。是
 名非喜分
 何謂心進分。若法心進相應。何謂非分。謂身
 九。自性進根。是名非心進分
 何謂心除分。若法心除相應。謂境界意識界
 心觸名觸明觸明分觸無明分觸。喜根捨根
 受想思觸思惟覺觀。忍見智解脫無癡。順信
 悅喜心進信欲不放逸念心捨有覺有觀定乃
 至慧根。是名心除分
 何謂信分。若法信相應。何謂非分。謂身九順
 信信根疑。是名非信分
 何謂欲分。若法欲相應。何謂非分。謂身九自
 性疑。是名非欲分
 何謂不放逸分。若法不放逸相應。謂境界意
 識界。心觸名觸明觸明分觸無明分觸。喜根
 憂根捨根。受想思觸思惟覺觀。忍見智解脫
 無貪無恚無癡。順信悔不悔悅喜心進心除
 信欲念捨。有覺有觀定乃至定根。是名不放
 逸分
 何謂念分。若法念相應。何謂非分。謂身九自
 性念根疑。是名非念分
 何謂心捨分。若法心捨相應。謂境界意識界
 心觸名觸明觸明分觸無明分觸。喜根捨根
 受想思觸思惟覺觀。忍見智解脫無癡順信

①觸十(想思觸思惟覺忍見智解脫無貪無恚無)十六字
 ②受二愛
 ③[何謂...分]二十二字一
 ④斷二進
 ⑤(思)十觸
 ⑥(分)一
 ⑦界十(心觸分)
 ⑧定二慧

悅喜心進心除信欲不放逸念。有覺有觀定乃至慧根。是名心捨分。

何謂怖分。若法怖相應。謂意識界。心觸名觸。無明觸無明分觸。憂根受想思惟覺觀。忍見解脫心進信欲念。煩惱使使無明慢掉使。是名怖分。

何謂煩惱使分。若法煩惱使相應。謂意識界。心觸名觸。愛觸。無明觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。悔不悔悅喜心。進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名見使分。

何謂疑使分。若法疑使相應。謂意識界。心觸名觸。無明觸。憂根。捨根。受想思惟覺觀。心進。煩惱使無明慢掉使。是名疑使分。

何謂戒道使分。若法戒道使相應。謂意識界。心觸名觸。無明觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。解脫。悔不悔悅喜心。進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名戒道使分。

何謂愛使分。若法愛使相應。謂意識界。心觸名觸。愛觸。無明觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。不悔悅喜心。進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名愛使分。

何謂慧使分。若法慧使相應。謂意識界。心觸名觸。慧觸。無明觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。不悔悅喜心。進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名慧使分。

覺觀。忍見解脫。悔心進信欲念。怖。煩惱使無明慢掉使。是名慧使分。

何謂嫉妬使分。若法嫉妬使相應。謂意識界。心觸名觸。無明觸。憂根。受想思惟覺觀。忍見解脫。心進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名嫉妬使分。

何謂慳惜使分。若法慳惜使相應。謂意識界。心觸名觸。無明觸。憂根。受想思惟覺觀。忍見解脫。心進信欲念。煩惱使無明慢掉使。是名慳惜使分。

何謂無明使分。若法無明使相應。謂意識界。心觸名觸。愛觸。無明觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。悔不悔悅喜心。進信欲念。怖。煩惱使見使疑使戒道使愛使使嫉妬使慳惜使無明使掉使。是名慢使分。

何謂慢使分。若法慢使相應。謂意識界。心觸名觸。愛觸。無明觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。悔不悔悅喜心。進信欲念。怖。煩惱使見使疑使戒道使愛使使嫉妬使慳惜使無明使掉使。是名慢使分。

何謂掉使分。若法掉使相應。謂意識界。心觸名觸。愛觸。無明觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。悔不悔悅喜心。進信欲念。怖。煩惱使見使疑使戒道使愛使使嫉妬使慳惜使無明使掉使。是名掉使分。

何謂有覺有觀定分。若法有覺有觀定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。不悔悅喜心。進信欲念。怖。煩惱使見使疑使戒道使愛使使嫉妬使慳惜使無明使掉使。是名有覺有觀定分。

何謂有覺有觀定分。若法有覺有觀定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見解脫。不悔悅喜心。進信欲念。怖。煩惱使見使疑使戒道使愛使使嫉妬使慳惜使無明使掉使。是名有覺有觀定分。

見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨信根。進根念。根慧根。是名有覺有觀定分。

何謂無覺有觀定分。若法無覺有觀定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。無明分觸。喜根。憂根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨信根。進根念。根慧根。是名無覺有觀定分。

何謂無覺無觀定分。若法無覺無觀定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。無明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨信根念。根慧根。是名無覺無觀定分。

何謂空定分。若法空定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨。信根。進根念。根慧根。是名空定分。

何謂無相定分。若法無相定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨。信根。進根念。根慧根。是名無相定分。

何謂無願定分。若法無願定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨。信根。進根念。根慧根。是名無願定分。

何謂無願定分。若法無願定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨。信根。進根念。根慧根。是名無願定分。

何謂無願定分。若法無願定相應。謂意識界。心觸名觸。明觸。明分觸。喜根。捨根。受想思惟覺觀。忍見智解脫。無癡順信。悅喜心進心除。信欲不放逸念。心捨。信根。進根念。根慧根。是名無願定分。

①忍二思 ②(使)十分 ③分十(若法疑使分) ④(名觸)一 ⑤界二思 ⑥覺十(觀) ⑦(何謂...定分)八十九字一 ⑧(觀)一 ⑨(覺觀)一

何謂信根分。若法信根相應。謂意界意識界。心觸名觸明觸明分觸。喜根捨根受想思觸。思惟覺觀。忍見智解脫無癡順信悅喜心除。信欲不放逸念心捨。除信根從有覺有觀定乃至慧根。是名信根分。

何謂進根分。若法進根相應。謂意界意識界。心觸名觸明分觸。喜根捨根受想思觸。思惟覺觀。忍見智解脫無癡順信悅喜心除。信欲不放逸念心捨。除進根從有覺有觀定乃至慧根。是名進根分。

何謂念根分。若法念根相應。謂意界意識界。心觸名觸明觸明分觸。喜根捨根受想思觸。思惟覺觀。忍見智解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸。念心捨。除念根從有覺有觀定乃至慧根。是名念根分。

何謂定根分。若法定根相應。謂意界意識界。心觸名觸明觸明分觸。喜根捨根受想思觸。思惟覺觀。忍見智解脫無癡順信悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。信根進根念根慧根。是名定根分。

何謂慧根分。若法慧根相應。謂意界意識界。心觸名觸明觸明分觸。喜根捨根受想思觸。思惟覺觀。解脫順信悅喜心進心除。信欲不放逸念心捨。從有覺有觀定乃至定根是名慧根分。

眼識界幾法相應。問何等法。問眼識界相應法。除餘法。除何等法。除非眼識界相應法。眼識界。謂無緣法意識分。身四識界。耳鼻舌身識界亦如是。意界幾法相應。問何等法。問意

界相應法。除餘法。除何等法。除非意界相應法。意界。謂無緣法身分。意界。意識界。幾法相應。問何等法。問意識界相應法。除餘法。除何等法。除非意識界相應法。意識界。謂無緣法身分。身觸幾法相應。問何等法。問身觸相應法。除餘法。除何等法。除非身觸相應法。身觸。謂無緣法意識分。心觸幾法相應。問何等法。問心觸相應法。除餘法。除何等法。除非心觸相應法。心觸。謂無緣法身分。名觸幾法相應。問何等法。問名觸相應法。除餘法。除何等法。除非名觸相應法。名觸。謂無緣法身分。對觸幾法相應。問何等法。問對觸相應法。除餘法。除何等法。除非對觸相應法。對觸。謂無緣法意識分。愛觸幾法相應。問何等法。問愛觸相應法。除餘法。除何等法。除非愛觸相應法。愛觸。謂無緣法身分。意識善無記分。不善非愛觸相應諸煩惱相應分。悲觸幾法相應。問何等法。問悲觸相應法。除餘法。除何等法。除非悲觸相應法。悲觸。謂無緣法身分。意識善無記分。若不善非悲觸相應諸煩惱相應分。明觸幾法相應。問何等法。問明觸相應法。除餘法。除何等法。除非明觸相應法。明觸分。謂無緣法身分。意識非聖分。聖智分。無明觸幾法相應。問何等法。問無明觸相應法。除餘法。除何等法。除非無明觸相應法。無明觸。謂無緣法身分。意識善無記分。明分觸幾法相應。問何等法。問明分觸相應法。除餘法。除何等法。除非明分觸相應法。明分觸。謂無緣法身分。意識非聖分。聖智分。無明

分觸幾法相應。問何等法。問無明分觸相應法。除餘法。除何等法。除非無明分觸相應法。無明分。觸。謂無緣法意識善無記分。聖分。樂根幾法相應。問何等法。問樂根相應法。除餘法。除何等法。除非樂根相應法。樂根。謂無緣法意識分。身苦根捨根分。苦根幾法相應。問何等法。問苦根相應法。除餘法。除何等法。除非苦根相應法。苦根。謂無緣法意識分。身樂根捨根分。喜根幾法相應。問何等法。問喜根相應法。除餘法。除何等法。除非喜根相應法。喜根。謂無緣法身分。意識憂根捨根分。憂根幾法相應。問何等法。問憂根相應法。除餘法。除何等法。除非憂根相應法。憂根。謂無緣法身分。意識喜根捨根分。捨根幾法相應。問何等法。問捨根相應法。除餘法。除何等法。除非捨根相應法。捨根。謂無緣法身分。樂根苦根分。意識喜根憂根分。受。法幾法相應。問何等法。問受相應法。除餘法。除何等法。除非受相應法。受。謂無緣法。想。思觸。思惟亦如是。覺幾法相應。問何等法。問覺相應法。除餘法。除何等法。除非覺相應法。覺。謂無緣法身分。意識無覺有觀分。觀幾法相應。問何等法。問觀相應法。除餘法。除何等法。除非觀相應法。觀。謂無緣法身分。意識無覺無觀分。忍幾法相應。問何等法。問忍相應法。除餘法。除何等法。除非忍相應法。忍。謂無緣法身分。意識智疑分。見幾法相應。問何等法。問見相應法。除餘法。除何等法。除非見相應法。見。謂無緣法身分。意識疑分。智幾法相應。問何等法。

○(信)一○(念)一○(觸)一○(法)一○(想)二相○

問智相應法。除餘法。除何等法。除非智相應法。智謂無緣法身分。意識非聖分聖忍分。解脫幾法相應問何等法。問解脫相應法。除餘法。除何等法。除非解脫相應法。解脫謂無緣法意識疑分。無貪幾法相應。問何等法。問無貪相應法。除餘法。除何等法。除。無貪相應法。無貪。謂無緣法身分。意識不善無記分善非欲界分。若欲界無慧分。復有欲界非無貪相應無慧無癡相應分。無慧幾法相應。問何等法。問無慧相應法。除餘法。除何等法。除非無慧相應法。無慧。謂無緣法身分。意識不善無記分。善非欲界分。欲界無貪分。復有欲界非無慧相應。無貪無癡相應分。無癡幾法相應。問何等法。無癡相應法。除餘法。除何等法。除非無癡相應法。無癡。謂無緣法身分。意識不善無記分。順信幾法相應。問何等法。問順信相應法。除餘法。除何等法。除非順信相應法。順信。謂無緣法身分。意識不善若無記分。悔幾法相應。問何等法。問悔相應法。除餘法。除何等法。除非悔相應法。悔。謂無緣法身分。意識喜根捨根分。非悔相應憂根相應分。不悔幾法相應。問何等法。問不悔相應法。除餘法。除何等法。除非不悔相應法。不悔。謂無緣法身分。意識憂根捨根分。非不悔相應喜根相應分。悅幾法相應。問何等法。問悅相應法。除餘法。除何等法。除非悅相應法。悅。謂無緣法身分。意識憂根捨根分。非悅相應喜根相應分。喜幾法相應。問何等法。問喜相應法。除餘法。除何等法。除非喜相應

法。喜謂無緣法身分。意識憂根捨根分。非喜相應悅相應分。心進幾法相應。問何等法。問心進相應法。除餘法。除何等法。除非心進相應法。心進。謂無緣法身分。心除幾法相應。問何等法。問心除相應法。除餘法。除何等法。除非心除相應法。心除。謂無緣法身分。意識不定分。信幾法相應。問何等法。問信相應法。除餘法。除何等法。除非信相應法。信。謂無緣法身分。意識疑分。欲幾法相應。問何等法。問欲相應法。除餘法。除何等法。除非欲相應法。欲。謂無緣法身分。意識疑分。不放逸幾法相應。問何等法。問不放逸相應法。除餘法。除何等法。除非不放逸相應法。不放逸。謂無緣法身分。意識不善無記分。念幾法相應。問何等法。問念相應法。除餘法。除何等法。除非念相應法。念。謂無緣法身分。意識疑分。心捨幾法相應。問何等法。問心捨相應法。除餘法。除何等法。除非心捨相應法。心捨。謂無緣法身分。意識不定分。怖幾法相應。問何等法。問怖相應法。除餘法。除何等法。除非怖相應法。怖。謂無緣法身分。意識喜根捨根分。非怖相應憂根相應分。煩惱使幾法相應。問何等法。問煩惱使相應法。除餘法。除何等法。除非煩惱使相應法。煩惱使。謂無緣法身分。意識善無記分。見使幾法相應。問何等法。問見使相應法。除餘法。除何等法。除非見使相應法。見使。謂無緣法身分。意識善無記分不善非見使相應諸煩惱相應分。疑使幾法相應。問何等法。問疑使相應法。除餘法。除何等法。

除非疑使相應法。疑使謂無緣法身分意識善無記分。不善非疑使相應諸煩惱相應分。戒。道使幾法相應。問何等法。問戒道使相應法。除餘法。除何等法。除非戒道使相應法。戒。道使。謂無緣法身分。意識善無記分。不善非戒。道使相應諸煩惱相應分。愛使幾法相應。問何等法。問愛使相應法。除餘法。除何等法。除非愛使相應法。愛使。謂無緣法身分。意識無記分。不善非愛使相應諸煩惱相應分。恚使幾法相應。問何等法。問恚使相應法。除餘法。除何等法。除非恚使相應法。恚使。謂無緣法身分。意識善無記分。不善非恚使相應諸煩惱相應分。嫉妬使幾法相應。問何等法。問嫉妬使相應法。除餘法。除何等法。除非嫉妬使相應法。嫉妬使。謂無緣法身分。意識善無記分。不善非嫉妬使相應諸煩惱相應分。慳惜使幾法相應。問何等法。問慳惜使相應法。除餘法。除何等法。除非慳惜使相應法。慳惜。謂無緣法身分。意識善無記分。不善非慳惜使相應諸煩惱使相應分。無明使幾法相應。問何等法。問無明使相應法。除餘法。除何等法。除非無明使相應法。無明。謂無緣法身分。意識善無記分。慢掉亦如是。有覺有觀定幾法相應。問何等法。問有覺有觀定相應法。除餘法。除何等法。除非有覺有觀定相應法。有覺有觀定。謂無緣法身分。意識不定分二定相應分。無覺有觀定幾法相應。問何等法。問無覺有觀定相應法。除餘法。除何等法。除非無覺有觀定相應法。無覺

●(非)十無● ●(問)十無●

有觀定。謂無緣法身分意識不定。二定相應分。無覺無觀定幾法相應。問何等法。問無覺無觀定相應法。除除法。除何等法。除非無覺無觀定相應法。無覺無觀定。謂無緣法身分意識不定。二定相應分。空定幾法相應。問何等法。問空定相應法。除除法。除何等法。除非空定相應法。空定謂無緣法身分。意識非聖分。無相無願相應分。無相定幾法相應。問何等法。問無相定相應法。除除法。除何等法。除非無相定相應法。無相定。謂無緣法身分。意識非聖分。聖空無願相應分。無願定幾法相應。問何等法。問無願定相應法。除除法。除何等法。除非無願定相應法。無願定。謂無緣法身分。意識非聖分。聖空無相相應分。信根幾法相應。問何等法。問信根相應法。除除法。除何等法。除非信根相應法。信根。謂無緣法身分。意識非聖分。進根念根定根慧根亦如是。

舍利弗阿毘曇論卷第二十四

此卷經解射字他本並是解脫字。勘第十卷並二十一卷。解射是無漏觀也。意云。結使煩惱猶如矢射有傷害故。無漏之觀解彼無傷故立此名。恐後人見古來多本並是解脫字。反生疑惑故以指之。呈訖指之。

舍利弗阿毘曇論卷第二十五

姚秦*罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多*等 譯

緒分遍品第一

十緣。正法門遍緒七轉十行解一切法等入十緣。謂因緣無間緣境界緣依緣業緣報緣起緣異緣相續緣增上緣。何謂因緣。若法因。是名因緣。復次因緣。若法共非共有報是名因緣。復次因緣。若法有緣。若法無緣有報。除得果。若餘法無緣善報及四大。是名因緣。何謂無間緣。若法生滅。是名無間緣。復次無間緣。若法已滅若未滅。若陰界入法。各自性即生。若先已滅於現在。是名無間緣。何謂境界緣。一切法境界緣。如相生心心數法。是名境界緣。何謂依緣。若法有倚。是名依緣。復次依緣。若法依法生。此法於彼法依緣。依身有身業。依口有口業。依意有意業。依四大有身口意業。依地有稼穡業種子聚落衆生聚落藥草叢林。依惡知識便生惡不善法。依善知識便生善法。依眼依色生眼識及眼識相應法。耳鼻舌身意亦如是。依內大生內大。依內大生外大。依內大生內外大。依內外大生內外大。依內外大生內外大。滅亦如是。是名依緣。

何謂業緣。業是業緣。若非業是業緣。若業異業因生業。是名業緣。何謂報緣。若法有報。是名報緣。何謂起緣。若法能起所起。是名起緣。復次起緣。若法自起。能起他流津增長。謂專殺結善根不善根意識思想覺四大。是名起緣。何謂異緣。若法共有。是名異緣。何謂相續緣。若法增益不斷。是名相續緣。復次相續緣。若法初生軟。次生中後生上。軟法於上法是相續緣。是名相續緣。何謂增上緣。若法勝是名增上緣。復次增上緣。若法所增上所向所歸所傾向而生。若以欲增上。以精進增上。以心增上。以思惟增上。以貪增上。以瞋恚增上。以愚癡增上。以無貪增上。以無恚增上。以無癡增上。以戒增上。以定增上。以慧增上。以我增上。以世間增上。以法增上。以眼根增上。以耳鼻舌身意根增上。以增上為增上。以境界增上。以依增上。何謂以欲增上。若法以欲勝而生。彼欲於法為增上緣。精進增上心。進於思惟貪瞋恚愚癡無貪無恚無癡戒定慧增上亦如是。何謂我增上。如佛經說。三增上。何謂三。我增上。世間增上。法增上。何謂我增上。如比丘或在樹下露處。心生惡不善法想。比丘如是思惟。我設在屏處。作惡不善業。作惡不善業已。心自退毀。比丘如是思惟。我欲護持禁戒成就威儀。若犯微戒畏如金剛順學戒行。是名我增上。比丘為我增上故。斷惡不善法修行善法。是故名我增上。何謂世間增上。如比丘或

①問二何②③ ④二十四二十八⑤⑥ (此卷...之)八十一字一⑦⑧ ⑨二十五二十九⑩⑪ ⑫正法二法正⑬⑭ ⑮進於二增上⑯ ⑰退毀二思惟⑱

在樹下露處。心生惡不善法想。比丘如是思惟。世間一切處。止有天。天眼見知他心。天遠見我。我近不見天。自相謂言。觀此善男子。以信出家。離行惡不善法。復有諸沙門婆羅門。天眼見知他心。遠見我近不見。諸沙門婆羅門自相謂言。觀此善男子。以信出家。離行惡不善法。比丘如是思惟。我欲護持禁戒成就威儀。若犯微戒畏如金剛順學戒行。是名世間增上。比丘為世間增上故。斷惡不善法修行善法。是故名世間增上。何謂法增上。如比丘或在樹下露處。如是思惟。世尊善隨時說法。有慧者能受趣向涅槃。此法非怖望者瞋恚者掉悔者疑惑者能受。比丘如是思惟。我欲護持禁戒成就威儀。若犯微戒畏如金剛順學戒行。是名法增上。比丘為法增上故。斷惡不善法修行善法。是故名法增上。如偈說

世間無屏處 可以作惡業
唯人自證知 若虛若是實
言無虛者勝 是則不自毀
若以有違犯 而不知覆藏
賢者及與天 見世作惡時
以此我勝行 世間勝比丘
法勝者順行 不退於實法
降魔威力勝 自證勝寂滅
遠離捨六情 滅苦不受有
已沒不復還 永離於生死

是名三增上。何謂眼根增上。眼見色思惟色。眼根。生色境界。若生心數。此法眼根勝。是

名眼根增上。耳鼻舌身根增上亦如是。何謂意根增上。意知法思惟法。意根主。以法為境界。若法生心數。此法意根勝。是名意根增上。何謂增上為增上。若法初起。至後法隨用。是名增上為增上。何謂境界增上。若一切境界如事中勝。是名境界增上。何謂依增上。若一切法依如事依勝。是名依增上。因有幾緣。四何等四。共起增長報。是名因有四緣。謂因生義如母子。無間謂補處義如代坐。境界謂的義如箭射的。依謂物義如舍宅。業謂作義如使作。報謂津漏義如樹生果。起謂生長義如長財。增上謂自在義如人王。因緣無間緣。或因緣即無間緣。或因緣非無間緣。何謂因緣即無間緣。若法因生滅。是名因緣即無間緣。何謂因緣非無間緣。若法因非生滅若未滅。是名因緣非無間緣。非因緣無間緣。或非因緣即無間緣。或非因緣非無間緣。何謂非因緣即無間緣。若法非因生滅。是非因緣即無間緣。何謂非因緣非無間緣。若法非因非生滅若未滅。是名非因緣非無間緣。因緣境界緣。或因緣即境界緣。或因緣非境界緣。何謂因緣即境界緣。若法因有境界。是名因緣即境界緣。何謂因緣非境界緣。若法因無境界。是名因緣非境界緣。非因緣境界緣。或非因緣即境界緣。何謂非因緣非境界緣。何謂非因緣即境界緣。若法非因有境界。是名非因緣即境界緣。何謂非因緣非境界緣。若法非因非境界緣。是名非因緣非境界緣。

因緣依緣一切因緣。是依緣非因緣是依緣無也。因緣業緣。或因緣即業緣。或因緣非業緣。何謂因緣即業緣。若法因是業能生業。是名因緣即業緣。何謂因緣非業緣。若法因非業若業不能生業。是名因緣非業緣。非因緣是業緣無也。因緣報緣。或因緣即報緣。或因緣非報緣。何謂因緣即報緣。若法因此有報。是名因緣即報緣。何謂因緣非報緣。若法因無報。是名因緣非報緣。非因緣是報緣無也。因緣起緣。或因緣即起緣。或因緣非起緣。何謂因緣即起緣。若法因是起。是名因緣即起緣。何謂因緣非起緣。若法因非起。是名因緣非起緣。非因緣是起緣無也。因緣異緣。或因緣即異緣。或因緣非異緣。何謂因緣即異緣。若法因是共。是名因緣即異緣。何謂因緣非異緣。若法因非共。是名因緣非異緣。非因緣是異緣無也。因緣相續緣。或因緣即相續緣。或因緣非相續緣。何謂因緣即相續緣。若因有增長。乃至生第三。是因緣即相續緣。何謂因緣非相續緣。若因無緣增長。設增長不能乃至生第三。是名因緣非相續緣。非因緣是相續緣無也。因緣增上緣。或因緣即增上緣。或因緣非增上緣。何謂因緣即增上緣。若法因是增上。是因緣是增上緣。何謂因緣非增上緣。若法因非增上。是名因緣非增上緣。非因緣增上緣。或非因緣是增上緣。或非因緣非增上緣。

①離二報 ②以二已 ③而知二知而 ④生二主 ⑤以法一法以 ⑥至二主 ⑦(名)十非 ⑧不二無

緣非報緣。若法無境界彼無報。是名非境界緣非報緣。

境界緣起緣。或境界緣是起緣。或境界緣非起緣。何謂境界緣是起緣。若法有境界是起緣。是名境界緣是起緣。何謂境界緣非起緣。若法有境界彼非起。是名境界緣非起緣。非境界緣起緣。或非境界緣是起緣。或非境界緣非起緣。何謂非境界緣是起緣。若法無境界是起。是名非境界緣是起緣。何謂非境界緣非起緣。若法無境界彼非起。是名非境界緣非起緣。

境界緣異緣。或境界緣是異緣。或境界緣非異緣。何謂境界緣是異緣。若法有境界是共。是名境界緣是異緣。何謂境界緣非異緣。若法有境界彼非共。是名境界緣非異緣。非境界緣異緣。或非境界緣是異緣。或非境界緣非異緣。何謂非境界緣是異緣。若法無境界是共。是名非境界緣是異緣。何謂非境界緣非異緣。若法無境界彼非共。是名非境界緣非異緣。

境界緣相續緣。或境界緣是相續緣。或境界緣非相續緣。何謂境界緣是相續緣。若法有境界是增長乃至能生第三。是名境界緣是相續緣。何謂境界緣非相續緣。若法有境界彼不增長。若增長不能乃至生第三。是名境界緣非相續緣。非境界緣相續緣。或非境界緣是相續緣。或非境界緣非相續緣。何謂非境界緣是相續緣。或境界緣非相續緣。何謂非境界緣非相續緣。若法無境界是增長。乃至能生第三。是名非境界緣是相續緣。何謂非

境界緣非相續緣。若法無境界彼不增長。若增長不能乃至生第三。是名非境界緣非相續緣。

境界緣增上緣。或境界緣是增上緣。或境界緣非增上緣。何謂境界緣是增上緣。若法有境界是增上。是名境界緣是增上緣。何謂境界緣非增上緣。若法有境界彼非增上。是名境界緣非增上緣。非境界緣增上緣。或非境界緣是增上緣。或非境界緣非增上緣。何謂非境界緣是增上緣。若法無境界是增上。是名非境界緣是增上緣。何謂非境界緣非增上緣。若法無境界彼非增上。是名非境界緣非增上緣。

境界緣因緣。或境界緣是因緣。或境界緣非因緣。何謂境界緣是因緣。若法有境界是因。是名境界緣是因緣。何謂境界緣非因緣。若法有境界彼非因。是名境界緣非因緣。非境界緣因緣。或非境界緣是因緣。或非境界緣非因緣。何謂非境界緣是因緣。若法無境界是因。是名非境界緣是因緣。何謂非境界緣非因緣。若法無境界彼非因。是名非境界緣非因緣。

境界緣無間緣。或境界緣是無間緣。或境界緣非無間緣。何謂境界緣是無間緣。若法有境界是生滅。是名境界緣是無間緣。何謂境界緣非無間緣。若法有境界彼非生滅。若未滅。是名境界緣非無間緣。非境界緣無間緣。或非境界緣是無間緣。或非境界緣非無間緣。何謂非境界緣是無間緣。若法無境界是

生滅。是名非境界緣是無間緣。何謂非境界緣非無間緣。若法無境界彼非生滅。若未滅。是名非境界緣非無間緣。

依緣業緣。或依緣是業緣。或依緣非業緣。何謂依緣是業緣。若法依是業。若業能生業。是名依緣是業緣。何謂依緣非業緣。若法依彼非業。若業不能生業。是名依緣非業緣。非依緣是業緣無也。

依緣報緣。或依緣是報緣。或依緣非報緣。何謂依緣是報緣。若法依有報。是名依緣是報緣。何謂依緣非報緣。若法依非報。是名依緣非報緣。非依緣是報緣無也。

依緣起緣。或依緣是起緣。或依緣非起緣。何謂依緣是起緣。若法依是起。是名依緣是起緣。何謂依緣非起緣。若法依非起。是名依緣非起緣。非依緣是起緣無也。

依緣異緣。或依緣是異緣。或依緣非異緣。何謂依緣是異緣。若法依是共。是名依緣是異緣。何謂依緣非異緣。若法依彼非共。是名依緣非異緣。非依緣是異緣無也。

依緣相續緣。或依緣是相續緣。或依緣非相續緣。何謂依緣是相續緣。若法依增長。乃至能生第三。是名依緣是相續緣。何謂依緣非相續緣。若法依彼非增長。若增長不能乃至生第三。是名依緣非相續緣。非依緣是相續緣無也。

依緣增上緣。或依緣是增上緣。或依緣非增上緣。何謂依緣是增上緣。若法依是增上。是名依緣是增上緣。何謂依緣非增上緣。若法

依緣增上緣。或依緣是增上緣。或依緣非增上緣。何謂依緣是增上緣。若法依是增上。是名依緣是增上緣。何謂依緣非增上緣。若法

依緣非增上緣。何謂非境界緣是增上緣。若法無境界是增上。是名非境界緣是增上緣。何謂非境界緣非增上緣。若法無境界彼非增上。是名非境界緣非增上緣。

依緣因緣。或依緣是因緣。或依緣非因緣。何謂依緣是因緣。若法依是因。是名依緣是因緣。何謂依緣非因緣。若法依彼非因。是名依緣非因緣。非依緣是因緣無也。

依緣無間緣。或依緣是無間緣。或依緣非無間緣。何謂依緣是無間緣。若法依是生滅。是名依緣是無間緣。何謂依緣非無間緣。若法依彼非生滅。若未滅。是名依緣非無間緣。非依緣是無間緣無也。

依緣業緣。或依緣是業緣。或依緣非業緣。何謂依緣是業緣。若法依是業。若業能生業。是名依緣是業緣。何謂依緣非業緣。若法依彼非業。若業不能生業。是名依緣非業緣。非依緣是業緣無也。

依緣報緣。或依緣是報緣。或依緣非報緣。何謂依緣是報緣。若法依有報。是名依緣是報緣。何謂依緣非報緣。若法依非報。是名依緣非報緣。非依緣是報緣無也。

依緣起緣。或依緣是起緣。或依緣非起緣。何謂依緣是起緣。若法依是起。是名依緣是起緣。何謂依緣非起緣。若法依非起。是名依緣非起緣。非依緣是起緣無也。

依緣異緣。或依緣是異緣。或依緣非異緣。何謂依緣是異緣。若法依是共。是名依緣是異緣。何謂依緣非異緣。若法依彼非共。是名依緣非異緣。非依緣是異緣無也。

依緣相續緣。或依緣是相續緣。或依緣非相續緣。何謂依緣是相續緣。若法依增長。乃至能生第三。是名依緣是相續緣。何謂依緣非相續緣。若法依彼非增長。若增長不能乃至生第三。是名依緣非相續緣。非依緣是相續緣無也。

依緣增上緣。或依緣是增上緣。或依緣非增上緣。何謂依緣是增上緣。若法依是增上。是名依緣是增上緣。何謂依緣非增上緣。若法

依緣非增上緣。何謂非境界緣是增上緣。若法無境界是增上。是名非境界緣是增上緣。何謂非境界緣非增上緣。若法無境界彼非增上。是名非境界緣非增上緣。

依緣因緣。或依緣是因緣。或依緣非因緣。何謂依緣是因緣。若法依是因。是名依緣是因緣。何謂依緣非因緣。若法依彼非因。是名依緣非因緣。非依緣是因緣無也。

依緣無間緣。或依緣是無間緣。或依緣非無間緣。何謂依緣是無間緣。若法依是生滅。是名依緣是無間緣。何謂依緣非無間緣。若法依彼非生滅。若未滅。是名依緣非無間緣。非依緣是無間緣無也。

依緣業緣。或依緣是業緣。或依緣非業緣。何謂依緣是業緣。若法依是業。若業能生業。是名依緣是業緣。何謂依緣非業緣。若法依彼非業。若業不能生業。是名依緣非業緣。非依緣是業緣無也。

依緣報緣。或依緣是報緣。或依緣非報緣。何謂依緣是報緣。若法依有報。是名依緣是報緣。何謂依緣非報緣。若法依非報。是名依緣非報緣。非依緣是報緣無也。

◎非相續二非增長◎ ◎（非）+相◎ ◎兼+（是）◎

依彼非增上。是名依緣非增上緣。非依緣是增上緣無也。

依緣因緣。或依緣是因緣。或依緣非因緣。何謂依緣是因緣。若法依是因。是名依緣是因緣。何謂依緣非因緣。若法依非因。是名依緣非因緣。非依緣是因緣無也。

依緣無間緣。或依緣是無間緣。或依緣非無間緣。何謂依緣是無間緣。若法依是生滅。是名依緣是無間緣。何謂依緣非無間緣。若法依彼非生滅若未滅。是名依緣非無間緣。非依緣是無間緣無也。

依緣境界緣。或依緣是境界緣。或依緣非境界緣。何謂依緣是境界緣。若法依有境界。是名依緣是境界緣。何謂依緣非境界緣。若法依無境界。是名依緣非境界緣。非依緣是境界緣無也。

業緣報緣。或業緣是報緣。或業緣非報緣。何謂業緣是報緣。若法業能生業有報。是名業緣是報緣。何謂業緣非報緣。若法業能生業無報。是名業緣非報緣。非業緣報緣。或非業緣是報緣。或非業緣非報緣。何謂非業緣是報緣。若非業若業不能生業有報。是名非業緣是報緣。何謂非業緣非報緣。若法非業若業不能生業無報。是名非業緣非報緣。

業緣起緣。或業緣是起緣。或業緣非起緣。何謂業緣是起緣。若法業能生業。是名業緣是起緣。何謂業緣非起緣。若業不能生業彼非起緣。是名業緣非起緣。非業緣起緣。或非業緣是起緣。或非業緣非起緣。何

謂非業緣是起緣。若法非業若業不能生業。是名業緣是起緣。何謂非業緣非起緣。若法非業若業不能生業。生起。是名非業緣非起緣。

業緣異緣。或業緣是異緣。或業緣非異緣。何謂業緣是異緣。若法業能生業是共。是名業緣是異緣。何謂業緣非異緣。若法業能生業非共。是名業緣非異緣。非業緣異緣。或非業緣是異緣。何謂非業緣是異緣。若法非業若業不能生業。是名非業緣是異緣。何謂非業緣非異緣。若法非業若業不能生業非業。是名非業緣非異緣。

業緣相續緣。或業緣是相續緣。或業緣非相續緣。何謂業緣是相續緣。若法業能生業。是謂增長乃至能生第三。是名業緣是相續緣。何謂業緣非相續緣。若法業生業非增長。若增長不至生第三。是名業緣非相續緣。非業緣相續緣。或非業緣是相續緣。或非業緣非相續緣。何謂非業緣是相續緣。若法非業若業生非業是增長。乃至生第三。是名非業緣是相續緣。何謂非業緣非相續緣。若法非業若業生非業非增長。若增長不至生第三。是名非業緣非相續緣。

業緣增上緣。或業緣是增上緣。或業緣非增上緣。何謂業緣是增上緣。若法業生業是增上。是名業緣是增上緣。何謂業緣非增上緣。若法業生業非增上。是名業緣非增上緣。非業緣增上緣。或非業緣是增上緣。或非業緣非增上緣。何謂非業緣是增上緣。若法非業若業生非業是增上。是名非業緣是增上緣。何謂非業緣非增上緣。若法非業若業生非業非增上。是名非業緣非增上緣。

若業生非業是增上。是名非業緣是增上緣。何謂非業緣非增上緣。若法業若業生非業非增上。是名非業緣非增上緣。

業緣因緣業緣。是因緣非業緣因緣。或非業緣是因緣。或非業緣非因緣。何謂非業緣是因緣。若法非業若業生非業是因。是名非業緣是因緣。何謂非業緣非因緣。若法非業若業生非業非因。是名非業緣非因緣。

業緣無間緣。或業緣是無間緣。或業緣非無間緣。何謂業緣是無間緣。若法生業是生滅。是名業緣是無間緣。何謂業緣非無間緣。若法業生業非生滅若未滅。是名業緣非無間緣。非業緣無間緣。或非業緣是無間緣。或非業緣非無間緣。何謂非業緣是無間緣。若法非業若業生非業是生滅。是名非業緣是無間緣。何謂非業緣非無間緣。若法非業若業生非業非生滅若未滅。是名非業緣非無間緣。業緣境界緣。或業緣是境界緣。或業緣非境界緣。何謂業緣是境界緣。若法業生業有境界。是名業緣是境界緣。何謂業緣非境界緣。若法業生業無境界。是名業緣非境界緣。非業緣境界緣。或非業緣是境界緣。或非業緣非境界緣。何謂非業緣是境界緣。若法非業若業生非業有境界。是名非業緣是境界緣。何謂非業緣非境界緣。若法非業若業生非業無境界。是名非業緣非境界緣。

業緣依緣業緣。是依緣非業緣是依緣報緣是起緣無也。非報緣起緣。或非報緣是起緣。或非報緣非起緣。何謂非報緣是起緣。若法非

業緣依緣業緣。是依緣非業緣是依緣報緣是起緣無也。非報緣起緣。或非報緣是起緣。或非報緣非起緣。何謂非報緣是起緣。若法非

業緣依緣業緣。是依緣非業緣是依緣報緣是起緣無也。非報緣起緣。或非報緣是起緣。或非報緣非起緣。何謂非報緣是起緣。若法非

○(法)一○(非)十業○生二非○業二共○[乃]一○法十(業)○

界緣。或非起緣是境界緣。或非起緣非境界緣。何謂非起緣是境界緣。若法非起有境界。是名非起緣是境界緣。何謂非起緣非境界緣。若法非起無境界。是名非起緣非境界緣。起緣是依緣非起緣是依緣起緣業緣。或起緣是業緣。或起緣非業緣。何謂起緣是業緣。若法起是業生業。是名起緣是業緣。何謂起緣非業緣。若法起非業若業生非業。是名起緣非業緣。非起緣業緣。或非起緣是業緣。或非起緣非業緣。何謂非起緣是業緣。若法非起是業生業。是名非起緣是業緣。何謂非起緣非業緣。若法非起非業若業生非業。是名非起緣非業緣。起緣是報。緣無也。非起緣報緣。或非起緣是報緣。或非起緣非報緣。何謂非起緣是報緣。若法非起有報。是名非起緣是報緣。何謂非起緣非報緣。若法非起非報。是名非起緣非報緣。異緣是相續緣無也。非異緣相續緣。或非異緣是相續緣。或非異緣非相續緣。何謂非異緣是相續緣。若法非共是增長至生第三。是名非異緣是相續緣。何謂非異緣非相續緣。若法非共非增長若增長不至生第三。是名非異緣非相續緣。異緣增上緣。或異緣是增上緣。或異緣非增上緣。何謂異緣是增上緣。若法共是增上。是名異緣是增上緣。何謂異緣非增上緣。若法共非增上。是名異緣非增上緣。非異緣增上緣。或非異緣是增上緣。或非異緣非增上緣。

何謂非異緣是增上緣。若法非共是增上。是名非異緣是增上緣。何謂非異緣非增上緣。若法非共非增上。是名非異緣非增上緣。異緣因緣。異緣是因緣。非異緣因緣。或非異緣是因緣。或非異緣非因緣。何謂非異緣是因緣。若法非共是因。是名非異緣是因緣。何謂非異緣非因緣。若法非共非因。是名非異緣非因緣。非因緣。異緣是無間緣無也。非異緣無間緣。或非異緣是無間緣。或非異緣非無間緣。何謂非異緣是無間緣。若法非共是生滅。是名非異緣是無間緣。何謂非異緣非無間緣。若法非共非生滅若未滅。是名非異緣非無間緣。異緣境界緣。或異緣是境界緣。或異緣非境界緣。何謂異緣是境界緣。若法共有境界。是名異緣是境界緣。何謂異緣非境界緣。若法共無境界。是名異緣非境界緣。非異緣境界緣。或非異緣是境界緣。或非異緣非境界緣。何謂非異緣是境界緣。若法非共有境界。是名非異緣是境界緣。何謂非異緣非境界緣。若法非共無境界。是名非異緣非境界緣。異緣依緣。異緣即是依緣。非異緣是依緣。異緣業緣。或異緣是業緣。或異緣非業緣。何謂異緣是業緣。若法共是業生業。是名異緣是業緣。何謂異緣非業緣。若法共非業若業生非業。是名異緣非業緣。非異緣業緣。或非異緣是業緣。或非異緣非業緣。何謂非異緣是業緣。若法非共是業生業。是名非異緣是業緣。何謂非異緣非業緣。若法非共非業若業生非業。是名非異緣非業緣。

業生非業。是名非異緣非業緣。異緣是報緣無也。非異緣報緣。或非異緣是報緣。或非異緣非報緣。何謂非異緣是報緣。若法非共有報。是名非異緣是報緣。何謂非異緣非報緣。若法非共非報。是名非異緣非報緣。異緣起緣。或異緣是起緣。或異緣非起緣。何謂異緣是起緣。若法共是起。是名異緣是起緣。何謂異緣非起緣。若法非共起。是名異緣非起緣。非異緣起緣。或非異緣是起緣。或非異緣非起緣。何謂非異緣是起緣。若法非共起。是名非異緣是起緣。何謂非異緣非起緣。若法非共非起。是名非異緣非起緣。相續緣是增上緣無也。非相續緣增上緣。或非相續緣是增上緣。或非相續緣非增上緣。何謂非相續緣是增上緣。若法非增長若增長不至生第三是增上。是名非相續緣是增上緣。何謂非相續緣非增上緣。若法非增長若增長不至生第三非增上。是名非相續緣非增上緣。相續緣因緣。相續緣因緣無也。非相續緣是因緣。或非相續緣是因緣。或非相續緣非因緣。何謂非相續緣是因緣。若法非增長若增長不至生第三是因。是名非相續緣是因緣。何謂非相續緣非因緣。若法非增長若增長不至生第三非因。是名非相續緣非因緣。相續緣是無間緣無也。非相續緣無間緣。或非相續緣是無間緣。或非相續緣非無間緣。何謂非相續緣是無間緣。若法非增長若增長

①緣+(無也)②③ (是)④⑤

長不至生第三是生滅。是名非相續緣是無間緣。何謂非相續緣非無間緣。若法非增長若增長不至生第三非生滅若未滅。是名非相續緣非無間緣。

何謂相續緣境界緣。或相續緣是境界緣。或相續緣非境界緣。何謂相續緣是境界緣。若法增長至生第三有境界。是名相續緣是境界緣。何謂相續緣非境界緣。若法增長至生第三無境界。是名相續緣非境界緣非相續緣境界緣。或非相續緣是境界緣。或非相續緣非境界緣。何謂非相續緣是境界緣。若法非增長若增長不至生第三有境界。是名非相續緣是境界緣。何謂非相續緣非境界緣。若法非增長若增長不至生第三無境界。是名非相續緣非境界緣。

舍利弗阿毘曇論卷第二十五

舍利弗阿毘曇論卷第二十五

舍利弗阿毘曇論卷第二十六

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍 共曇摩崛多等 譯

緒分遍品之二

相續緣業緣。或相續緣是業緣。或相續緣非業緣。何謂相續緣是業緣。若法增長至生第三是業生業。是名相續緣是業緣。何謂相續緣非業緣。若法增長至生第三非業若業生非業。是名相續緣非業緣非相續緣業緣。

或非相續緣是業緣。或非相續緣非業緣。何謂非相續緣是業緣。若法非增長若增長不至生第三是業若業生業。是名非相續緣是業緣。何謂非相續緣非業緣。若法非增長若增長不至生第三非業若業生非業。是名非相續緣非業緣。

相續緣是報緣無也。非相續緣報緣。或非相續緣是報緣。或非相續緣非報緣。何謂非相續緣是報緣。若法非增長若增長不至生第三有報。是名非相續緣是報緣。何謂非相續緣非報緣。若法非增長若增長不至生第三非報。是名非相續緣非報緣。

相續緣是起緣無也。非相續緣起緣。或非相續緣是起緣。或非相續緣非起緣。何謂非相續緣是起緣。若法非增長若增長不至生第三。是名非相續緣是起緣。何謂非相續緣非起緣。若法非增長若增長不至生第三非起。是名非相續緣非起緣。

相續緣是異緣無也。非相續緣異緣。或非相續緣是異緣。或非相續緣非異緣。何謂非相續緣是異緣。若法非增長若增長不至生第三是共。是名非相續緣是異緣。云何非相續緣非異緣。若法非增長若增長不至生第三非共。是名非相續緣非異緣。

相續緣是異緣。或非相續緣非異緣。何謂非相續緣是異緣。若法非增長若增長不至生第三是共。是名非相續緣是異緣。云何非相續緣非異緣。若法非增長若增長不至生第三非共。是名非相續緣非異緣。

非增上緣是因緣。若法非勝是因。是名非增上緣是因緣。何謂非增上緣非因緣。若法非勝非因。是名非增上緣非因緣。

增上緣是無間緣無也。非增上緣無間緣。或非增上緣是無間緣。或非增上緣非無間緣。何謂非增上緣是無間緣。若法非勝是生滅。是名非增上緣是無間緣。何謂非增上緣非無間緣。若法非勝非生滅若未滅。是名非增上緣非無間緣。

增上緣境界緣。或增上緣是境界緣。或增上緣非境界緣。何謂增上緣是境界緣。若法勝有境界。是名增上緣是境界緣。何謂增上緣非境界緣。若法勝無境界。是名增上緣非境界緣。

增上緣依緣。增上緣是依緣。非增上緣是依緣。何謂增上緣是依緣。若法勝非勝非業若業生非業。是名增上緣非依緣。何謂增上緣非依緣。若法勝非勝非業若業生非業。是名增上緣非依緣。

增上緣業緣。或增上緣是業緣。或增上緣非業緣。何謂增上緣是業緣。若法勝是業生業。是名增上緣是業緣。何謂增上緣非業緣。若法勝非業若業生非業。是名增上緣非業緣。何謂增上緣非業緣。若法勝非業若業生非業。是名增上緣非業緣。

◎[何謂]一◎ ◎增長一非增長不◎ ◎ ◎不分卷及品◎ ◎相續一增長◎ ◎[名]一◎ ◎[非]一◎ ◎*

四大造色此謂色。復次若法非色有爲此謂名。色有三種。可見有對不可見有對。不可見無對。若如是名色法。是謂名色因。云何六入因。若眼入耳鼻舌身意入法因。是名六入因。云何觸因。若眼觸耳鼻舌身意身觸觸法因。是名觸因。云何受因。若苦受樂受不苦不樂受法因。是名受因。云何愛因。若欲愛有愛斷愛法因。是名愛因。云何取因。若欲取見取戒取我取法因。是名取因。云何有因。若欲有色有無色有法因。是名有因。云何生因。若諸衆生中生生入胎出陰成就陰入法因。是名生因。云何老因。若諸衆生中頭白齒落皮皺身體戰掉諸根衰熟行朽命促法因。是名老因。云何死因。若諸衆生中終沒死喪時過陰捨身。形於彼變異離本身衆法因。是名死因。云何憂因。若衆生爲種種苦逼。若憂重憂究竟憂。若內熱憂悴此法因。是名憂因。云何悲因。若衆生憂爲憂所逼憂箭入心。若追憶啼哭狂言口教法因。是名悲因。云何苦因。若身不忍受苦。眼觸苦受耳鼻舌身觸苦受法因。是名苦因。云何惱因。若心不忍受苦。意觸苦受法因。是名惱因。云何衆苦因。若身心苦重苦究竟苦心惱亂法因。是名衆苦因。云何食因。有四種食。搗食麤細觸食意思食識食。如是法因。是名食因。云何漏因。欲漏有漏無明漏法因。是名漏因。云何復有因。若法初陰界入法因。是名復有因。云何非因因。若法非因。是名非因因。云何非無間因。若法非無間因。是名非無間因。云何

何非境界因。無非境界因無非依因。云何非業因。若法非業因。是名非業因。云何非報因。若法非報因。是名非報因。云何非起因。若法非起因。是名非起因。云何非異因。若法非共因。是名非異因。云何非相續因。若法非增長因。是名非相續因。云何非增上因。若法非勝因。是名非增上因。云何非名因。若法非名因。是名非名因。云何非色因。若法非色因。是名非色因。云何非無明因。若法非無明因。是名非無明因。云何非行因。若法非行因。是名非行因。云何非識因。若法非識因。是名非識因。云何非名色因。若法非名色因。是名非名色因。云何非六入因。若法非六入因。是名非六入因。云何非觸因。若法非觸因。是名非觸因。云何非受因。若法非受因。是名非受因。云何非愛因。若法非愛因。是名非愛因。云何非取因。若法非取因。是名非取因。云何非有因。若法非有因。是名非有因。云何非生因。若法非生因。是名非生因。云何非老因。若法非老因。是名非老因。云何非死因。若法非死因。是名非死因。云何非憂因。若法非憂因。是名非憂因。云何非悲因。若法非悲因。是名非悲因。云何非苦因。若法非苦因。是名非苦因。云何非惱因。若法非惱因。是名非惱因。云何非衆苦因。若法非衆苦因。是名非衆苦因。云何非食因。若法非食因。是名非食因。云何非漏因。若法非漏因。是名非漏因。云何非復有因。若法非初陰界入因。是名非復有因。云何非非因非因法非有因。有因法。非因。有因法。非因非

有因法。因法非和合因和合因法。非因。因和合法。非因亦非和合因法。云何因法非有因。因法無非因。復次善根不善根專敬結。是名因法非有因。云何有因法非因。若法非因有爲。是名有因法非因。云何因有因法。除善根不善根專敬結。若餘法是名因有因法。云何非因非有因法。除因有因法若餘法。是名非因非有因法。因法非和合因和合因法。非因因和合法。非因亦非和合因法亦如是。前因法非共因。共因法非前因。前因共因法。亦非前因非共因法。前因法非後因。後因法非前因。後因法非共因。共因法非後因。後因法非共因。共因後因法。亦非共因非後因法。云何前因法非共因。若法生是前因非共因。是名前因法非共因。云何共因法非前因。若法生是共因非前因。是名共因法非前因。云何前因共因法。若法生是前因共因。是名前因共因法。云何非前因非共因法。除前因共因法若餘法。是名非前因非共因法。復次前因法非共因。若法初生非報。是名前因法非共因。云何共因法非前因。若法非因有爲。是名共因法非前因。云何前因共因法。除初生非報。若餘共法。是名前因共因法。

①[捨]—② ③[形]—④ ⑤[衆苦]—⑥ ⑦[因]—⑧ ⑨[是]—⑩

結眠沒思惟斷法。除戒道。十結眠沒非見斷非思惟斷法。九結眠沒見斷因法。除戒道。九結眠沒思惟斷因法。除戒道。十結眠沒非見斷非思惟斷因法。八結眠沒欲界繫法。除色無色染。七結眠沒色界繫法。除欲染瞋恚無色染。六結眠沒無色界繫法。見疑無色染無明。慢掉。不繫法無也。十結眠沒過去法。十結眠沒未來法。十結眠沒現在法。非過去非未來非現在法無也。

未生智人。欲界未竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒十。欲界八。除色染無色染。色界七。除欲染瞋恚無色染。無色界六。見疑無色染無明慢掉。

已生智人。欲界未竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒七。欲界五。除色染無色染。色界四。色染無明慢掉。無色界四。無色染無明慢掉。復有生智人欲界已竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒。五欲界疑。色界四。色染無明慢掉。無色界四。無色染無明慢掉。

未生智人。欲界未竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒。見結中八。除自性及戒道。四結眠沒疑中。瞋恚無明慢掉。八結眠沒戒道。

除自性及無色染五結眠沒欲染結。見疑無明慢掉。五結眠沒瞋恚結中。見疑無明慢掉。五結眠沒色染結中。見疑無明慢掉。八結眠沒無明結中。除自性及戒道。八結亦眠沒慢掉結中。除自性及戒道。八結眠沒眼入耳入中。除戒道及無色染。從鼻入舌入。乃至過去未來

現在。亦如上說。非過去非未來非現在無也。

生智人欲界未竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒。見結中無也。疑戒道亦無。三結眠沒欲染結中。無明慢掉。三結眠沒瞋恚結中。無明慢掉。三結眠沒色染結中。無明慢掉。三結眠沒無色染結中。無明慢掉。六結眠沒無明結中。除自性。六結眠沒慢掉結。除自性。六結眠沒眼入耳入。除無色染。五結眠沒鼻入舌入。除色染無色染。六結眠沒身入。除無色染。七結眠沒意入。六結眠沒色入聲入。除無色染。五結眠沒香入味入。除色染無色染。六結眠沒觸入。除無色染。七結眠沒法入。六結眠沒眼界耳界。除無色染。五結眠沒鼻界舌界。除色染無色染。六結眠沒身界除無色染。六結眠沒色界聲界。除無色染。五結眠沒香界味界。除色染無色染。六結眠沒觸界。除無色染。六結眠沒眼識界耳識界。除無色染。五結眠沒鼻識界舌識界。除色染無色染。六結眠沒身識界。除無色染。七結眠沒意界意識界法界。七結眠沒色陰。受想行識陰亦如是。七結眠沒苦諦。三結眠沒集諦無明慢掉。滅諦道諦無也。六結眠沒眼根耳根。除無色染。五結眠沒鼻根舌根。除色染無色染。六結眠沒身根。除無色染。五結眠沒男根女根。除色染無色染。七結眠沒命根。五結眠沒樂根。除瞋恚結無色染。四結眠沒苦根。瞋恚無明慢掉。五結眠沒喜根。除瞋無色染。四結眠沒憂根。瞋恚無明慢掉。六結眠沒捨根。除瞋恚。七結眠沒意根。聖根無也。地獄畜生餓鬼無也。五

結眠沒人中。除色染無色染。天上通七結。五結眠沒欲界天。除色染無色染。四結眠沒色界天。色染無明慢掉。四結眠沒無色界天。無色染無明慢掉。五結眠沒欲界。除色染無色染。四結眠沒色界。色染無明慢掉。四結眠沒無色界。無色染無明慢掉。七結眠沒色法。非色法亦如是。六結眠沒可見法。除無色染。七結眠沒不可見法。六結眠沒有對法。除無色染。七結眠沒無對法。聖法無。七結眠沒非聖法。有漏法七。無漏法無。有染法七無染法無。有求法七無求。法無。當取法七非當取法無。有取法七無取法無。有勝法七無勝法無。受法七非受法七。內法七外法七。有報法七無報法七。心法七非心法七。心相應法七非心相應法七。心數法七非心數法七。有緣法七無緣法七。共心法七非共心法七。隨心轉法七不隨心轉法七。業法七非業法七。業相應法七非業相應法七。共業法。不共業法七。隨業轉法七不隨業轉法七。因法七非因法七。有因法七無因法七。有緒法七無緒法七。有緣法七無緣法七。有為法七無為法七。知法七非知法七。識法七非識法七。解法七非解法七。了法七非了法七。斷智知法七非斷智知法七。斷法非斷法亦如是。脩法七不脩法七。證法七非證法七。善法七不善法七。無記法七。學法無學法非非學非非學法七。報法七報法法七。非報。法非報法法七。見斷法無思惟斷法七。非見斷非思惟斷法七。見斷因法無思惟斷法七。非見斷

○慢二誤 ○[道]一 ○[除]一 ○法二七 ○[法]一 ○(七)十不 ○[法]一

非思惟斷因法七。欲界繫法。五。除色染無色染。色界繫法四。色染無明慢掉。無色界繫法四。無色染無明慢掉。不繫法無。過去法七。未來法七。現在法七。非過去非未來非現在無也。

生智人欲界已竟。色界未竟。無色界未竟。幾結眠沒。見結中無也。疑戒道欲染瞋恚無也。三結眠沒色染結中。無明慢掉。三結眠沒無色染。無明慢掉。四結眠沒無明結。除自性。四結眠沒慢掉結。除自性。四結眠沒眼入耳入。除無色染。鼻入舌入無。四結眠沒身入。除無色染。五結眠沒意入。四結眠沒色入聲入。除無色染。香入味入無。四結眠沒觸入。除無色染。五結眠沒法入。四結眠沒眼界耳界。除無色染。鼻界舌界無。四結眠沒身界。除無色染。四結眠沒色界聲界。除無色染。鼻界舌界無。四結眠沒觸界。除無色染。四結眠沒眼識界耳識界除無色染。鼻識界舌識界無。四結眠沒身識界。除無色染。五結眠沒意界識界法界。五結眠沒色陰。受想行識陰亦如是。五結眠沒苦諦。三結眠沒集諦。無明慢掉。滅諦道諦無。四結眠沒眼根耳根。除無色染。鼻根舌根無。四結眠沒身根。除無色染。男根女根無。五結眠沒命根。四結眠沒樂根喜根。除無色染。苦根憂根無。五結眠沒捨根喜根。諸無漏根無。地獄畜生餓鬼人中無。五結眠沒通天上。欲界天無。四結眠沒色天上。除無色染。四結眠沒無色天上。除色染。欲界無。四結眠沒色界。除無色染。四結眠沒無色界。除色

染。四結眠沒色法。無色法亦如是。四結眠沒可見法除無色染。五結眠沒不可見法。四結眠沒有對法。除無色染。五結眠沒無對法中。聖法無非。聖。有漏法五無漏法無。有染法五無染法無。有求法五無求法無。當取法五非當取法無。有取法五無取法無。有勝法五無勝法無。受法五非受法五。內法五外法五。有報法五無報法五。心法五非心法五。心相應法五心不相應法五。心數法五非心數法五。有緣法五無緣法五。共心法五不共心法五。隨心轉法五不隨心轉法五。業法五非業法五。業相應法五非業相應法五。共業法五非共業法五。隨業轉法五不隨業轉法五。因法五非因法五。有因法五無因法五。有緒法五無緒法五。有爲法五無爲法五。知法五非知法無。識法非識法。解法非解法。了法不了法。亦如是。斷智知法五。非斷智知法五。斷法非斷法亦如是。五脩法五非脩法五。證法五非證法五。善法五不善法五。無學法五。非學法五。非學非無學法五。解法五報法五。非報非報法五。見斷法無思惟斷法五。非見斷非思惟斷法五。見斷因法無思惟斷因法五。非見斷非思惟斷法五。欲界繫法四。除無色界繫法四。除無色染。色界繫法四。除色染。不繫法無。過去法五未來法五。現在法五。非過去非未來非現在法無。

舍利弗阿毘曇論卷第二十七
姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

緒分假結品之二

◎若人眠沒見疑戒道結中。此人有幾結。有十。若人眠沒欲染瞋恚結中。此人有幾結。或十或七。若人眠沒色染無色染無明慢掉結中。此人有幾結。或十或五。若見結疑結眠沒法中。此法中有幾結。或十或九或八或七或六或五。若戒道結眠沒法中。此法中有幾結。或十或九或八或七或六。若無明慢掉結眠沒法中。此法中有幾結。或十或九或八或七或六或五或四。^{◎人}若見結疑結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七或六或五。若戒道結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七。若欲染結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七或六。若瞋恚結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七或六或五或四。若色染無色染結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七或六。若無明結眠沒法中。此人有幾結。或十或九或八或七或六或五或四。

◎五二八◎ ◎[根]—◎ ◎聖十(法)◎ ◎[法五]—◎ ◎[無因法五]—◎ ◎五十(有緣法五無緣法五)◎ 五二無◎ ◎五二無◎ ◎[五]—◎ ◎[無]—◎ ◎[無學法五]—◎ ◎五二無◎ ◎[法]—◎ ◎[斷]—◎ ◎[斷]—◎ ◎[斷]—◎ ◎不分卷及品◎ ◎戒道二成◎ ◎下同, ◎下同 ◎[人]—◎ ◎[人]—◎ ◎[法]—◎

得智果。是名明分觸。若觸非聖若善無記。是名無明分觸。

云何聖觸。若觸無漏。是名聖觸。云何非聖觸。若觸有漏。是名非聖觸。

云何有漏觸。若觸有染。是名有漏觸。云何無漏觸。若觸無染。是名無漏觸。

云何有染觸。若觸有求。是名有染觸。云何無染觸。若觸無求。是名無染觸。

云何有求觸。若觸當取。是名有求觸。云何無求觸。若觸不當取。是名無求觸。

云何當取觸。若觸有取。是名當取觸。云何非當取觸。若觸無取。是名非當取觸。

云何有取觸。若觸有勝。是名有取觸。云何無取觸。若觸無勝。是名無取觸。

云何有勝觸。若觸有取。是名有勝觸。云何無勝觸。若觸無取。是名無勝觸。復次若此觸有餘勝妙。是名有勝觸。若此觸更無餘勝妙。是名無勝觸。復次若如來所生觸。於一切法無礙知見。乃至自在成就。除此觸若餘觸。是名有勝觸。若上所除觸。是名無勝觸。云何受觸。若觸內。是名受觸。云何非受觸。若觸外。是名非受觸。

云何內觸。若觸受。是名內觸。云何外觸。若觸非受。是名外觸。

云何有報觸。若觸報法。是名有報觸。云何無報觸。若觸報非報法。是名無報觸。

云何凡夫共觸。若觸非凡夫生得。凡夫亦生得。是名凡夫共觸。云何凡夫不共觸。若觸非凡夫生得。凡夫不能生得。是名凡夫不共觸。

云何非凡夫共觸。若觸凡夫生得。非凡夫亦生得。是名非凡夫共觸。云何非凡夫不共觸。若觸凡夫生得。非凡夫不生得。是名非凡夫不共觸。

云何聲聞共觸。若觸非聲聞生得。聲聞亦生得。是名聲聞共觸。云何聲聞不共觸。若觸非聲聞生得。聲聞不生得。是名聲聞不共觸。

云何非聲聞共觸。若觸聲聞生得。非聲聞亦生得。是名非聲聞共觸。云何非聲聞不共觸。若觸聲聞生得。非聲聞不生得。是名非聲聞不共觸。

云何如電觸。若觸少少住少時住。如電少少住少時住。觸亦如是。是名如電觸。云何如金剛觸。若觸無量住無量時住。如金剛無量住無量時住。觸亦如是。是名如金剛觸。復次若觸生已斷少煩惱分。如電從雲中出。少少關分速滅。觸亦如是。是名如電觸。若觸生已斷一切煩惱。無餘煩惱。若龜若微無不斷滅。如金剛投於珠石。破壞摧折無不自在。觸亦如是。是名如金剛觸。復次若觸生已得須陀洹。乃至阿那含果。是名如電觸。若觸生已得阿羅漢。是名如金剛觸。復次若觸生已得須陀洹。乃至阿那含。得聲聞辟支佛阿羅漢果。是名如電觸。若觸生已。若如來所生觸。於一切法無礙知見。乃至自在成就。是名如金剛觸。云何不定得觸。若觸得不定得難得難持。是名不定得觸。云何定得觸。若觸得決定得不難得易持。是名定得觸。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

無由力尊自在。不如所欲。不隨所欲。不盡所欲。有行難生難得。如船逆水難行。觸亦如是。是名有行難持觸。云何無行易持觸。若觸得決定得不難得易得。乃至如船順水易行。觸亦如是。是名無行易持觸。

云何一分修觸。若觸生已。想有光明。然未見色。若見色。不想有光明。是名一分修觸。云何二分修觸。若觸生已。想有光明。亦見色。是名二分修觸。復次若觸生已。生智。然不斷煩惱。若斷煩惱。非生智。是名一分修觸。若觸生已。智生能斷煩惱。是名二分修觸。復次若觸生已。盡智生。非無生智。是名一分修觸。若觸生已。盡智生及無生智。是名二分修觸。

云何有欲觸。若觸有欲人欲染相應。是名有欲觸。云何無欲觸。若觸離欲人非欲染相應。是名無欲觸。云何悲觸。若觸有悲人。憎相應。是名有悲觸。云何無悲觸。若觸離悲人非悲相應。是名無悲觸。云何有癡觸。若觸有癡人。癡相應。是名有癡觸。云何無癡觸。若觸離癡人非癡相應。是名無癡觸。

云何沒觸。若觸睡眠相應。不共內滅念相應。慧未成就不能分別善法。是名沒觸。云何散觸。若觸想欲染共欲染。欲染相應多欲見淨。於外五欲中彼染著。是名散觸。

云何少觸。若觸不定。是名少觸。云何多觸。若觸定。是名多觸。

云何不定觸。若觸不定人非定相應。是名不定觸。云何定觸。若觸定人定相應。是名定觸。

云何不解脫觸。若觸不解脫人非解脫相應。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

云何有行難持觸。若觸得不定得難得難持。

是名不解脫觸。云何解脫觸。若觸解脫人解脫相應。是名解脫觸。

云何有勝觸。若觸有勝人有勝法相應。是名有勝觸。云何無勝觸。若觸無勝人無勝法相應。是名無勝觸。

云何有覺觸。若觸有覺覺相應。共覺共生共住共滅。是名有覺觸。云何無覺觸。若觸非覺相應。不共覺生不共住不共滅。是名無覺觸。云何有觀觸。若觸觀相應。共觀生共住共滅。是名有觀觸。云何無觀觸。若觸非觀相應。不與觀共生不共觀住不共滅。是名無觀觸。

云何有喜觸。若觸喜相應共喜生共住共滅。是名有喜觸。云何無喜觸。若觸非喜相應不共喜生不共喜住不共滅。是名無喜觸。云何共味觸。若觸樂受相應。是名共味觸。云何共捨觸。若觸不苦不樂受相應。是名共捨觸。

云何忍相應觸。若觸忍共生共住共滅。是名忍相應觸。云何非忍相應觸。若觸非忍共生共住共滅。是名非忍相應觸。云何智相應觸。若觸智共生共住共滅。是名智相應觸。云何非智相應觸。若觸非智共生共住共滅。是名非智相應觸。云何初忍觸。若觸聖無漏堅信聖法人所修。是名初忍觸。云何初智觸。若觸聖無漏見道人所修。是名初智觸。

云何欲終觸。若觸最後識相應。是名欲終觸。云何始生觸。若觸初識相應。是名始生觸。云何善觸。若觸修。是名善觸。云何不善觸。若觸斷。是名不善觸。云何無記觸。若觸受若非報非報法。是名無記觸。

云何學觸。若觸聖非無學。是名學觸。云何無學觸。若觸聖非學。是名無學觸。云何非學非無學觸。若觸非聖。是名非學非無學觸。云何報觸。若觸受善報。是名報觸。云何報法觸。若觸有報。是名報法觸。云何非報非報法觸。若觸無記非我分攝。是名非報非報法觸。云何見斷觸。若觸不善非思惟斷。是名見斷觸。云何思惟斷觸。若觸不善非見斷。是名思惟斷觸。云何非見斷非思惟斷觸。若觸善無記。是名非見斷非思惟斷觸。

云何見斷因觸。若觸見斷若見斷法報。是名見斷因觸。云何思惟斷因觸。若觸思惟斷若思惟斷法報。是名思惟斷因觸。云何非見斷因非思惟斷因觸。若觸善若善法報若非報非報法。是名非見斷非思惟斷因觸。

云何軟觸。若觸不善。是名軟觸。云何中觸。若觸無記。是名中觸。云何上觸。若觸善。是名上觸。復次若觸不善若無記。是名軟觸。若觸非聖善。是名中觸。若觸聖無漏。是名上觸。

云何龜觸。若觸欲界繫。是名龜觸。云何細觸。若觸色界繫若不繫。是名細觸。云何微觸。若觸無色界繫。是名微觸。復次。若色界繫。是名龜觸。若空處繫識處繫不用處繫若不繫。是名細觸。若非想非非想處繫。是名微觸。復次若觸欲界繫色界繫空處繫識處繫不用處繫。是名龜觸。若觸不繫。是名細觸。若觸非想非非想處繫。是名微觸。

云何樂受觸。若觸樂受相應。是名樂受觸。云何苦受觸。若觸苦受相應。是名苦受觸。云何不苦不樂受觸。若觸不苦不樂受相應。是名不苦不樂受觸。復次若觸受樂報。是名樂受觸。若觸受苦報。是名苦受觸。若觸受不苦不樂報。是名不苦不樂受觸。復次除不苦不樂樂報。是名不苦不樂受觸。復次除不苦不樂樂報。是名不苦不樂受觸。若觸善有報。是名樂受觸。若觸不善有報。是名苦受觸。若觸善有報。是名樂受觸。若觸不善有報。是名苦受觸。除樂受苦受觸若餘觸。是名非苦非樂受觸。

云何喜處觸。若觸始起已生喜。是名喜處觸。云何憂處觸。若觸始起已生憂。是名憂處觸。云何捨處觸。若觸始起已生捨。是名捨處觸。復次除捨處觸若餘觸善有報。是名喜處觸。若觸不善。是名憂處觸。除喜處觸。若觸善有報。是名捨處觸。復次若觸善有報。是名喜處觸。若觸不善。是名憂處觸。除喜處憂處觸若餘觸。是名非喜處非憂處觸。

云何有覺有觀觸。若觸有覺有觀定相應。是名有覺有觀觸。云何無覺無觀觸。若觸無覺無觀定相應。是名無覺無觀觸。云何空相應觸。若觸空定共生共住共滅。是名空相應觸。云何無相相應觸。若觸無相定共生共住共滅。是名無相相應觸。云何無願相應觸。若觸無願定共生共住共滅。是名無願相應觸。

云何現報觸。若觸即生我分攝若觸所起作成就即生我分攝受報。是名現報觸。云何生報觸。若觸生我分攝若觸所起作成就無間

云何現報觸。若觸即生我分攝若觸所起作成就即生我分攝受報。是名現報觸。云何生報觸。若觸生我分攝若觸所起作成就無間

●(覺)一●●(共)一●●(若觸)一●●見二是●●若十(欲界繫若)●●(若觸)一●●

生受報。是名生報觸。云何後報觸若觸生我分攝若觸所起作成就第三第四生受報或過。是名後報觸

云何與樂觸。若觸樂果。是名與樂觸。云何與苦觸。若觸苦果。是名與苦觸。云何不與樂不與苦觸。除與樂與苦觸若餘觸。是名不與樂不與苦觸。復次若觸善有報。是名與樂觸。若觸不善。是名與苦觸。除與樂與苦觸若餘觸。是名非與樂非與苦觸

云何樂果觸。若觸樂報。是名樂果觸。云何苦果觸。若觸苦報。是名苦果觸。云何非樂果非苦果。觸除樂果苦果觸若餘觸。是名非樂果非苦果觸。復次若觸善有報。是名樂果觸。若觸不善有報。是名苦果觸。除樂果苦果觸若餘觸。是名非樂果。非苦果觸。樂報觸苦報觸非樂報非苦報觸亦如是

云何過去觸。若觸生已滅。是名過去觸。云何未來觸。若觸未生未起。是名未來觸。云何現在觸。若觸生未滅。是名現在觸

云何過去境界觸。思惟過去法若生觸。是名過去境界觸。云何未來境界觸。思惟未來法若生觸。是名未來境界觸。云何現在境界觸。思惟現在法若生觸。是名現在境界觸。云何非過去非未來非現在境界觸。思惟非過去非未來非現在法若生觸。是名非過去非未來非現在境界觸

云何欲界繫觸。若觸欲漏有漏。是名欲界繫觸。云何色界繫觸。若觸色漏有漏。是名色界繫觸。云何無色界繫觸。若觸無色漏有漏。是名無色界繫觸。云何不繫觸。若觸聖無漏。是名不繫觸

云何共慈觸若觸。慈解心共生共住共滅。是名共慈觸。共悲觸共喜觸共捨觸亦如是云何樂根相應觸。樂根共生共住共滅。是名樂根相應觸。苦根喜根憂根捨根相應觸亦如是

云何眼觸。若觸眼識相應。是名眼觸。耳鼻舌身意亦如是。復次緣色生眼識三法和合生觸。是名眼觸。耳鼻舌身意亦如是

云何眼識界相應觸。若觸眼識界共生共住共滅。是名眼識界相應觸。耳鼻舌身識界亦如是。云何意界相應觸。若觸意識共生共住共滅。是名意界相應觸。意識界相應觸亦如是云何十八觸。眼觸樂受眼觸苦受眼觸不苦不樂受。耳鼻舌身意亦如是。是名十八觸

舍利弗阿毘曇論。緒分假心品第七
心性清淨。為客塵染。凡夫未聞故。不能如實知見。亦無修心。聖人聞故。如實知見。亦有修心。心性清淨。離客塵垢。凡夫未聞故。不能如實知見。亦無修心。聖人聞故。能如實知見。亦有修心。今當集假心正門

聖心非聖心。乃至六識界七識界心
云何聖心。若心無漏。是名聖心。云何非聖心。若心有漏。是名非聖心

云何有漏心。若心有染。是名有漏心。云何無漏心。若心無染。是名無漏心
云何有染心。若心有求。是名有染心。云何無染心。若心無求。是名無染心

云何有求心。若心當取。是名有求心。云何無求心。若心不當取。是名無求心

云何當取心。若心有取。是名當取心。云何非當取心。若心無取。是名非當取心
云何有取心。若心有勝。是名有取心。云何無取心。若心無勝。是名無取心

云何有勝心。若心有取。是名有勝心。云何無勝心。若心無取。是名無勝心。復次若於此心有餘心過勝妙。是名有勝心。若於此心更無餘心過勝妙。是名無勝心。復次若如來所生心。於一切法無礙知見。乃至自在成就。除此心若餘心。是名有勝心。若無所餘心。是名無勝心

云何受心。若心內。是名受心。云何非受心。若心外。是名非受心
云何內心。若心受。是名內心。云何外心。若心非受。是名外心

云何有報心。若心報法。是名有報心。云何無報心。若心非報法。是名無報心。云何凡夫共心。若心凡夫生得。凡夫亦生得。是名凡夫共心。云何凡夫不共心。若心非凡夫生得。凡夫不能生得。是名凡夫不共心。云何非凡夫共心。若心凡夫生得。非凡夫亦生得。是名非凡夫共心。云何非凡夫不共心。若心非凡夫生得。非凡夫不生不得。是名非凡夫不共心

云何聲聞共心。若心聲聞生得。聲聞亦生得。是名聲聞共心。云何聲聞不共心。若心非聲聞生得。聲聞不生不得。是名聲聞不共心。云何非聲聞共心。若心聲聞生得。非聲聞亦生得。是名非聲聞共心。云何非聲聞不共心。若心非聲聞生得。非聲聞不生不得。是名非聲聞不共心

●(非)一●(不)十得●(心)十(報若)●(餘)二●(勝)十(妙)●(緒)二●(觸)二●(慈)●(非)一

是名非聲聞共心。云何非聲聞不共心。若心聲聞生得非聲聞不生不得。是名非聲聞不共心。

云何如電心。若心少住少住時住如電少住少時住。是名如電心。云何如金剛心。若心無量住無量時住如金剛無量住無量時住。是名如金剛心。復次若心生已斷少煩惱分如電從雲中出少闇分速滅。心亦如是。是名如電心。若心生已斷一切煩惱無餘煩惱。若龜若微無不斷滅。如金剛投於珠石無不破壞摧折。是名如金剛心。復次若心生已得須陀洹果乃至阿那含果。是名如電心。若心生已得阿羅漢果。是名如金剛心。復次若心生已得須陀洹果乃至阿那含果。得聲聞辟支佛阿羅漢果。是名如電心。若心生已。若如來所生心。於一切法無礙知見。乃至自在成就。是名如金剛心。

云何不定得心。若心得不得難得難持。是名不定得心。云何定得心。與上相違。是名定得心。

云何有行難持心。若心得不得難得難持無由力尊自在不如所欲不隨所欲不盡所欲有行難生難。行如船逆水難行心亦如是。是名有行難持心。云何無行易持心。與上相違。是名無行易持心。

云何一分修心。若心生已想有光明然不見色若見色不想有光明。是名一分修心。云何二分修心。若心生已想有光明亦見色。是名二分修心。復次若心生已生智然不斷煩惱

若斷煩惱不生智。是名一分修心。若心生已生智能斷煩惱。是名二分修心。復次若心生已盡智非無生智。是名一分修心。若心生已盡智生及無生智。是名二分修心。

云何有欲心。若心有欲人欲染相應。是名有欲心。云何無欲心。若心離欲人非欲染相應。是名無欲心。云何有恚心。若心有恚人非恚相應。是名有恚心。云何無恚心。若心離恚人非癡相應。是名有癡心。云何無癡心。若心離癡人非癡相應。是名無癡心。

云何沒心。若心睡眠相應不共內滅念相應慧未成就不能分別善法。是名沒心。云何散心。若心欲染共欲染欲染相應多欲見淨於外五欲中彼彼染著。是名散心。

云何少心。若心不定。是名少心。云何多心。若心定。是名多心。

云何不定心。若心不定人非定相應。是名不定心。云何定心。若心定人定相應。是名定心。

云何不解脫心。若心不解脫人非解脫相應。是名不解脫心。云何解脫心。若心解脫人解脫相應。是名解脫心。

云何有勝心。若心有勝人有勝法相應。是名有勝心。云何無勝心。若心無勝人無勝法相應。是名無勝心。

云何有覺心。若心覺相應共覺生共住共滅。是名有覺心。云何無覺心。若心非覺相應不共覺生不共住不共滅。是名無覺心。云何有觀心。若心觀相應共觀生共住共滅。是名有

觀心。云何無觀心。若心非觀相應不共觀生不共住不共滅。是名無觀心。

云何有喜心。若心喜相應共喜生共住共滅。是名有喜心。云何無喜心。若心非喜相應不共喜生不共住不共滅。是名無喜心。云何共味心。若心樂受相應。是名共味心。云何共捨心。若心不苦不樂受相應。是名共捨心。

云何忍相應心。若心忍共住共住共滅。是名忍相應心。云何非忍相應心。若心非忍共住共住共滅。是名非忍相應心。

云何智相應心。若心共智。生共住共滅。是名智相應心。云何非智相應心。若心非智共住共住共滅。是名非智相應心。

云何忍為始心。若心聖無漏堅信堅法所修。是名忍為始心。云何智為始心。若心聖無漏見道人所修。是為智為始心。

云何欲終心。若最後識。是名欲終心。云何始生心。若心初識。是名始生心。

云何善心。若心修。是名善心。云何不善心。若心斷。是名不善心。云何無記心。若心受。若心非報非報法。是名無記心。

云何學心。若心聖非無學。是名學心。云何無學心。若心聖非學。是名無學心。云何非學非無學心。若心非聖。是名非學非無學心。

云何報心。若心受若善報。是名報心。云何報法心。若心有報。是名報法心。云何非報非報法心。若心無記非我分攝。是名非報非報法心。云何見斷心。若心不善非思惟斷。是名見斷

①不二有 ②得定一定得 ③行二得 ④生十(共生) ⑤若二非

心。云何思惟斷心。若心不善非見斷。是名思惟斷心。云何非見斷非思惟斷心。若心善若無記。是名非見斷非思惟斷心。

云何見斷因心。若心見斷若見斷法報。是名見斷因心。云何思惟斷因心。若心思惟斷若思惟斷法報。是名思惟斷因心。云何非見斷非思惟斷因心。若心善法報若心非報非報法。是名非見斷非思惟斷因心。

云何軟心。若心不善。是名軟心。云何中心。若心無記。是名中心。云何上心。若心善。是名上心。復次若心不善若無記。是名軟心。若心非聖善。是名中心。若心聖無漏。是名上心。

云何龜心。若心欲界繫。是名龜心。云何細心。若心色界繫若不繫。是名細心。云何微心。若心無色界繫。是名微心。復次若心欲界繫。若色界繫。是名龜心。若心空處繫識處繫不用處繫若不繫。是名細心。若心非想非非想處繫。是名微心。復次若心欲界繫若色界繫若空處繫識處繫不用處繫。是名龜心。若心不繫。是名細心。若心非想非非想處繫。是名微心。云何樂受心。若心樂受相應。是名樂受心。云何苦受心。若心苦受相應。是名苦受心。

云何不苦不樂受心。若心不苦不樂受相應。是名不苦不樂受心。復次若心受樂報。是名樂受心。若心受苦報。是名苦受心。若心不受不樂報。是名不苦不樂受心。復次除不苦不樂受心。若除心善有報。是名樂受心。若心不善。是名苦受心。除樂受心。若除心善有報。是名不苦不樂受心。復次若心善有報。是名樂受心。若心不善。是名苦受心。除苦受樂受心。若餘心。是名非苦非樂受心。

是名不苦不樂受心。復次若心善有報。是名樂受心。若心不善。是名苦受心。除苦受樂受心。若餘心。是名非苦非樂受心。

云何喜處心。若心始起生喜。是名喜處心。云何憂處心。若心始起生憂。是名憂處心。云何捨處心。若心始起生捨。是名捨處心。復次除捨處心。若餘心善有報。是名喜處心。若心不善。是名憂處心。除喜處心。若餘心善有報。是名捨處心。復次若心善有報。是名喜處心。若心不善。是名憂處心。除喜處憂處若餘心。是名非喜處非憂處心。

云何有覺有觀心。若心有覺有觀定相應。是名有覺有觀心。云何無覺有觀心。若心無覺有觀定相應。是名無覺有觀心。云何無覺無觀心。若心無覺無觀定相應。是名無覺無觀心。云何空相應心。若心空定共生共住共滅。是名空相應心。云何無相相應心。若心無相定共生共住共滅。是名無相相應心。云何無願相應心。若心無願定共生共住共滅。是名無願相應心。

云何現報心。若心即生我分攝若心起作成。就即生我分攝此所起作受報。是名現報心。云何生報心。若心生報我分攝若所起作成。就無間生受報。是名生報心。云何後報心。若心生我分攝若所起作成成就第一生乃至第四生受報或過。是名後報心。

云何與樂心。若心樂果。是名與樂心。云何與苦心。若心苦果。是名與苦心。云何不與樂不與苦心。除與樂與苦心若餘心。是名不與

苦不與樂心。復次若心善有報。是名與樂心。若心不善有報。是名與苦心。除與苦樂若餘心。是名不與苦不與樂心。

云何樂果心。若心樂報。是名樂果心。云何苦果心。若心苦報。是名苦果心。云何非樂果非苦果心。除苦果樂果心若餘心。是名非樂果非苦果心。復次若心善有報。是名樂果心。若心不善有報。是名苦果心。除樂果苦果心若餘心。是名非樂果非苦果心。樂報心苦報心非樂非苦報心亦如是。

云何過去心。若心生已滅。是名過去心。云何未來心。若心未生未起。是名未來心。云何現在心。若心生未滅。是名現在心。

云何過去境界心。思惟過去法若生心。是名過去境界心。云何未來境界心。思惟未來法若生心。是名未來境界心。云何現在境界心。思惟現在法若生心。是名現在境界心。云何非過去非未來非現在境界心。思惟非過去非未來非現在法若生心。是名非過去非未來非現在境界心。

云何欲界繫心。若心欲漏有漏。是名欲界繫心。云何色界繫心。若心色漏有漏。是名色界繫心。云何無色界繫心。若心無色漏有漏。是名無色界繫心。云何不繫心。若心聖無漏。是名不繫心。

云何共慈心。若心慈解心共生共住共滅。是名共慈心。共悲心共喜心共捨心亦如是。云何樂根相應心。若心樂根共生共住共滅。是名樂根相應心。苦根喜根憂根捨根相應心。

◎(若)一◎◎(若心)一◎ ◎樂二苦◎◎ ◎不與苦)一◎◎ ◎解)十心◎◎

亦如是

云何六識身。眼識身乃至意識身。云何眼識身。緣眼緣色緣明緣思惟。以此四緣和合識已生今生當生不定。是名眼識身。耳鼻舌身意識身亦如是。是名六識身

云何七識界。眼識界乃至意識界。云何眼識界。若識眼根生色境界。已生今生當生不定。是名眼識界。耳鼻舌身識界亦如是。云何意識界。意生法思惟法。若初心已生今生當生不定。是名意識界。云何意識界。不離彼境界若餘心。似彼已生今生當生不定。是名意識界

*舍利弗阿毘曇論緒分十不善業道品第八

問曰。幾不善業道。答曰十。殺生乃至邪見

云何殺生。若人以惡心殺生。無有慈愍專在殺害。是名殺生。云何盜竊。若人於聚落中及山野間。盜他財物。是名盜竊。云何邪淫。若女人為父母護兄弟姊妹護自護法護。姓護親里及諸知識乃至受花蠶護。若犯此等。是名邪淫。云何妄語。若人不知言知。知言不知

不見言見。見言不見。或為己身。或為他人。或為財物故作妄語。是名妄語。云何兩舌。若人在此聞至彼說。欲壞此人故。在彼聞至此說。欲壞彼人故。未破者。令破。已破者欲使盡散。樂別離他。是名兩舌。云何惡口。若人出言

龜獮苦切。他人聞已。不喜不悅。是名惡口。云何綺語。若人出非時。言無義語非法語非調伏語不寂靜語。是名綺語。云何貪欲。若人於他村邑他財物生憐望心。欲令他物作己有

是名貪欲。云何瞋恚。若人瞋恚。欲令前眾生

得緊閉傷害為種種苦加。是名瞋恚。云何邪見。若人邪見無施無祠無善惡業報無此世他世無父母無天無化生來生無沙門婆羅門。是名邪見

殺生以何因。殺生為誰因。殺生以貪因以瞋因以癡因。以心心數法因。殺生是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中短壽。竊盜以何因。竊盜為誰因。竊盜以貪

因。乃至以心心數法因。盜竊是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中財物消耗。邪淫以何因。邪淫為誰因。邪淫以貪

因。乃至以心心數法因。邪淫是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中誣競。妄語以何因。妄語為誰因。妄語以貪因。乃至以心心數法因。妄語是地獄畜生餓鬼因

是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中常被誣謗。兩舌以何因。兩舌為誰因。兩舌以貪因。乃至以心心數法因。兩舌為誰因。是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人

中眷屬親厚相憎嫉破壞。惡口以何因。惡口為誰因。惡口以貪因。乃至以心心數法因。惡口為誰因。惡口是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中聞不適意聲。綺語以何因。綺語為誰因。綺語以貪因。乃至以

心心數法因。綺語為誰因。是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中言不貴重。貪欲以何因。貪欲為誰因。貪欲以結

生人中多諸緣事。瞋恚以何因。瞋恚為誰因。瞋恚以結因以使用。以心心數法因。瞋恚為誰因。是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中多有怨憎。邪見以何因。邪見為誰因。邪見以結因以使用。以心心數法

因。邪見為誰因。是地獄畜生餓鬼因。是鬼神人中貧賤因。若餘報生人中以邪為吉

*舍利弗阿毘曇論緒分十善業道品第九

問曰。幾善業道。答曰十。何等十。不殺生乃至正見。云何不殺生。若人離殺生。棄捨刀杖。慚愧慈悲。哀愍一切眾生。是名不殺生。云何不

盜竊。若人離竊盜。不盜他物。是名不盜竊。云何不邪淫。若人離邪淫。他所護女終不淫犯。是名不邪淫。云何不妄語。若人離妄語。不

知言不知。知言知。不見言不見。見言見。不為己身。不為他人。不為財物而作妄語。是名不妄語。云何不兩舌。若人離兩舌。在此聞不至彼說不欲壞此。在彼聞不至此說不欲壞彼。若破壞者欲令和合。已和合者欲令增歡喜共相娛樂。是名不兩舌。云何不惡口。若人離惡口離龜獮言。語言柔軟令人愛喜。是名不惡口。云何不綺語。若人應時語。真實語。有義語。調伏語。寂靜語。順時善語。是名不綺語。云何無貪。若人離貪。不憐望他村邑財物。令

①(身)一①② ②(殺)一①② ③(姓)二王①② ④(合)二今①② ⑤(言)二語①② ⑥(短)一① ⑦(為誰因兩舌)一①② ⑧(是)一①② ⑨(哀)一①② ⑩(令)二業①②

舍利弗阿毘曇論卷第二十八

姚秦*罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多*等 譯

緒分定品第十之一

不殺生以何因。不殺生為誰因。不殺生以無
貪因。以無恚因。以無癡因。以心心數法因。
不殺生為誰因。是天上人中受樂因。若餘報
生人中長壽。不竊盜以何因。不竊盜為誰因。
不竊盜以無貪因。乃至以心心數法因。不竊
盜是天上人中受樂因。若餘報生人中財物
不消耗。不邪淫以何因。不邪淫為誰因。不
邪淫以無貪因。乃至以心心數法因。不邪淫
是天上人中受樂因。若餘報生人中不諍競。
不妄語以何因。不妄語為誰因。不妄語以無
貪因。乃至以心心數法因。不妄語是天上人
中受樂因。若餘報生人中不被誹謗。不兩舌
以何因。不兩舌為誰因。不兩舌以無貪因。乃
至以心心數法因。不兩舌是天上人中受樂
因。若餘報生人中眷屬親厚。不相憎嫉破壞。
不惡口以何因。不惡口為誰因。不惡口以無
貪因。乃至以心心數法因。不惡口是天上人
中受樂因。若餘報生人中聞適意聲。不綺語
以何因。不綺語為誰因。不綺語以無貪因。乃
至以心心數法因。不綺語是天上人中受樂
因。若餘報生人中言為貴重。無貪以何因。無
貪為誰因。無貪以專敬因。專敬以善根因。以
心心數法因。無貪是天上人中受樂因。若餘
報生人中無諸緣事。無恚以何因。無恚為誰
因。無恚以專敬因。乃至以心心數法因。無
恚是天上人中受樂因。若餘報生人中無多
怨憎。正見以何因。正見為誰因。正見以專敬
因。乃至以心心數法因。正見是天上人中受
樂因。若餘報生人中不以邪為吉

五。支定。五智定。共念。出息入息定。共不淨
想定。入火定。共證知神足定。共證知天耳定。
共證知他心定。共證知宿命定。共明想定。無
間定。根定。力定。正覺定。正定。邪定。聖定。非聖
定。有漏定。無漏定。有染定。無染定。有求定。無
求定。當取定。非當取定。有取定。無取定。有勝
定。無勝定。受定。非受定。內定。外定。有報定
無報定。凡夫共定。凡夫不共定。非凡夫共
定。非凡夫不共定。聲聞共定。聲聞不共定。
非聲聞共定。非聲聞不共定。如電定。如金剛
定。不定得定。定得定。有行難持定。無行易
持定。一分修定。二分修定。有想定。無想定。
如事定。憶想定。離色想定。不離色想定。無
勝入定。遍入定。有覺定。無覺定。有觀定。無
觀定。有喜定。無喜定。共味定。共捨定。忍
相應定。非忍相應定。智相應定。非智相應
定。忍為始定。智為始定。欲終定。始生定。善
定。不善定。無記定。學定。無學定。非學。非無學
定。報定。報法定。非報。非報法定。見斷定。
思惟斷定。非見斷。非思惟斷定。見斷因定。
思惟斷因定。非見斷。非思惟斷因定。下定中
定上定。龜定。細定。微定。有覺有觀定。無覺有

觀定。無覺無觀定。空定。無相定。無願定。三
願得定。非三願得定。內身觀。內身定。外身觀
外身定。內外身觀。內外身定。內受觀。內受定。
外受觀。外受定。內外受觀。內外受定。內心觀
內心定。外心觀。外心定。內外心觀。內外心定。
內法觀。內法定。外法觀。外法定。內外法觀。內
外法定。內境界定。外境界定。內外境界定。
內定境界定。外定境界定。衆生境界定。色境
界定。無色境界定。衆生境界定。有為境界定。
無為境界定。衆生境界定。法境界定。無境界
定。衆生境界定。少定。中定。無量定。少境界定。
中境界定。無量境界定。少定。少境界。少定。中
境界。少定。無量境界。中定。少境界。中定。中境
界。中定。無量境界。無量定。少境界。無量定。中
境界。無量定。無量境界。少住定。中住定。無量
住定。少定。少住。少定。中住。少定。無量住。中定
少住。中定。中住。中定。無量住。無量定。少住。無
量定。中住。無量定。無量住。過去定。未來定。現
在定。過去境界定。未來境界定。現在境界定。
非過去。非未來。非現在境界定。欲界繫定。色
界繫定。無色界繫定。不繫定。作定。非離離
定。非作。非離定。亦非作。非離定。取定。非出。出定。
非取。取出定。亦非取。非出定。有染定。非離染
定。非有染。有染離染定。亦非有染。非離
染定。有*梘定。非離*梘。離*梘定。非有*梘。有
梘離*梘定。亦非有*梘。非離*梘定。智果定。非
斷果。斷果定。非智果。智果斷果定。亦非智
果。非斷果定。智果定。非得果。得果定。非智果。
智果得果定。亦非智果。非得果定。盡定。非覺

○〔以〕一○一○ ○〔若〕一○一○ ○二十七二十○ ○二十下○ ○二十八二十一○ ○〔之一〕一○一○ ○支二枝○ ○〔有〕十受
○非二無○ 〔非受定〕一○ ○〔無〕一○一○ ○梘二梘○ ○〔智果〕一○一○

覺定非盡。盡覺定。亦非盡非覺定。射定。非解
 解定。非射解定。亦非射非解定。退分定。住
 分定。增長分定。射分定。退分定。非住分。住
 分定。非退分。退分住分定。亦非退分非住分
 定。退分定非增長分。增長分定非退分。增
 長分定。亦非退分非增長分定。退分。定非
 射分。射分定非退分。射分定。亦非退分。射
 分定。住分定非增長分。增長分定非住分。住
 分增長分定。亦非住分非增長分定。住分定
 非射分。射分定非住分。住分射分定。亦非住
 分非射分定。增長分定非射分。射分定非增
 長分。增長分射分定。亦非增長分非射分定。
 四念處四正斷四神足四禪。四無量四無色
 定。四向道四果。四修定四斷。五根五力。五解
 脫入五出界。五觀定五生解脫法。六念六
 定。六出界。六明分法。六悅根法。六無喜正
 覺。七覺七想七定所須八聖道八解脫八勝
 入。九滅九次第滅定九想。十正法十遍入。十
 一解脫入

云何五支定。如佛告諸比丘。諦聽諦聽。善思
 念之。吾當為汝說聖五支定。諸比丘言。唯然
 受教。云何得修聖五支正定。如比丘離欲惡
 不善。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。身
 離生喜樂。津液遍滿此身。盡離生喜樂。津液
 遍滿無有減少。如善澡浴師。若善澡浴師弟
 子。以細澡豆盛著器中。以水灑之。調適作搏。
 此搏津液遍滿。不乾不濕內外和調。如是比
 丘。身離生喜樂。津液遍滿無有減少。是名修
 聖五支初支定。復次比丘。滅覺觀內正信一

心。無覺無觀定生喜樂。成就二禪行。此身定
 生喜樂。津液遍滿。此身盡定生喜樂。津液遍
 滿無有減少。如破湖水底。涌出。不從東方南
 西北方來。此水從底。涌出。能令池津液遍滿
 無有減少。如是比丘。此身定生喜樂。津液遍
 滿。此身定生喜樂。津液遍滿無有減少。是謂
 修聖五支第二支定。復次比丘。離喜捨行念
 正智身受樂。如諸聖人。解捨念樂行。成就三
 禪行。此身無喜樂。津液遍滿。此身無喜樂。津
 液遍滿無有減少。如優波羅華池。鳩頭摩
 華池。鉢頭摩華池。分陀利華池。從泥中出未
 能出水。此華從根至頭。從頭至根。皆津液遍
 滿無有減少。如是比丘。此身無量喜樂。津液
 遍滿此身。津液遍滿無有減少。是謂聖五支
 第三支定。復次比丘。斷苦樂先滅憂喜。不苦
 不樂捨念淨。成就四禪行。此身以清淨心遍
 解行。此身以清淨心遍解行無有減少。如男
 子女人著白淨衣。從頭至足。從足至頭。無不覆
 處。如是比丘。以清淨心遍解行。此身以清淨
 遍解行無有減少。是謂修聖五支第四支定。
 復次比丘。善取觀相。善思惟善解。如立人觀
 坐者。如坐人觀臥者。如是比丘。善取觀相善
 思惟善解。是謂修聖五支第五支定。如是比
 丘。修聖五支定。親近多修學已。欲證通法。稀
 望欲證。隨心所欲即能得證。自知無礙。如四
 衢處有善調馬善駕已。有善御乘者。乘已隨
 意自在。如是比丘。親近聖五支定多修學已。
 欲證通法。稀望欲證。隨心所欲即能得證。自
 在無礙。如盛水瓶堅牢不漏。盛以淨水。平滿

為欲隨人傾用。如意自在。如是比丘。親近聖
 五支定多修學已。欲證通法。稀望欲證。隨心
 所欲自在無礙。如比丘。如破泉遍水。平滿為
 飲。如人決用如意自在。隨所決即出。如是比
 丘。親近聖五支定多修學已。欲證通法。稀望
 欲證。隨心所欲。即能得證自在無礙。如比丘
 欲受無量若干神足動地。能以一為多。以多
 為一。乃至梵天身得自在隨所能入。如智品
 說。如比丘欲受天耳清淨過人能聞人非人
 聲。隨所能入。如比丘欲受知他眾生心能知
 有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲
 心。乃至無勝心如實知無勝心。隨所能入。如
 智品說。如比丘欲受憶念無量宿命。能憶一
 生二生三生四生五生。乃至成就此行。隨所
 能入。如智品說。如賢比丘。欲受天眼清淨過
 人。能見眾生生死。乃至如所業報隨所能入。
 如智品說。如賢比丘。欲受盡有漏成無漏得
 心解脫慧解脫。現世自智證成就行。我生已
 盡梵行已立。所作已辦更不受有。隨所能入。
 如是修聖五支定。親近多修學已。得如是果
 報。云何比丘。離欲惡不善法。有覺有觀離生
 喜樂。成就初禪行。如比丘。一切有為法。若
 一處有為法。思惟無常。知無常解無常受無
 常。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀
 離生喜樂。成就初禪行。如是比丘。離欲惡不
 善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如是
 乃至見死屍在火聚上觀。如道品一支道廣
 說。復次比丘。如是思惟。我內有欲染。如實
 知內有欲染。若內無欲染。如實知內無欲染。

①(智)十增②③ ④分十(退分)⑤⑥ ⑦(增長分)一⑧ ⑨定十(退分定)⑩ ⑪分十(退分)⑫⑬ ⑭分十(非)⑮ ⑯定二空⑰ ⑱(此)十
 身⑲ ⑳[若]一㉑ ㉒滿二節㉓㉔* ㉕[此身定...遍滿]十字一㉖㉗ ㉘波二鉢㉙ ㉚鳩二波㉛ ㉜鉢二鳩㉝ ㉞隨二聞㉟ ㊱
 道二定㊲

如欲染未生。如實知未生。如欲染未生。如實知生。如欲染生已斷。如實知斷。如欲染斷已。如實知更不復生。內有瞋恚睡眠掉悔疑亦如是。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。比丘如是。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。復次比丘。如是思惟。我內眼識色。有欲染瞋恚。如實知內眼識色。有欲染瞋恚。內眼識色無欲染瞋恚。如未生眼識色。有欲染瞋恚。如實知未生。如未生眼識色。有欲染瞋恚。如實知生。如生眼識色。有欲染瞋恚。如實知斷。如眼識色。有欲染瞋恚。如實知更不復生。耳識聲。鼻識香。舌識味。身識觸。意識法。亦如是。不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。比丘如是。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。復次比丘。如是思惟。我內有念正覺。如實知內有念正覺。內無念正覺。如實知內無念正覺。如念正覺未生。如實知未生。如念正覺未生。如實知生。如念正覺生。已具足修。如實知具足。修擇法正覺。精進正覺。喜正覺。除正覺。定正覺。捨正覺。亦如是。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。比丘如是。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。復次比丘。如實知若苦若集若苦滅。如實知漏漏集漏漏滅道。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。比丘如是。謂離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。復次比丘。

心畏怖故。出一切有為。入甘露界。此寂靜妙勝離一切有為。愛盡涅槃。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。比丘如是。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。第二禪第三禪第四禪亦如是說。云何比丘。善取觀相。善思惟善解。如比丘一切有為法。若一處有為法。思惟無常。知無常解無常受無常。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘若行若法相。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若法相善取相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別緣。復次比丘。若一處有為法。思惟是苦患癡箭味過依緣壞法不定。不滿可壞。苦空無我。思惟緣知緣受緣。即無明緣行。行緣識。識緣名色。名色緣六入。六入緣觸。觸緣受。受緣愛。愛緣取。取緣有。有緣生。生緣老死憂悲苦惱眾苦聚集。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘若法相。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若行若法相。善取相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。比丘如是。善取觀相善思惟善解。復次比丘。若一處有為法。若一處有為法。從思惟是苦患癡箭。乃至心畏怖故。出一切有為。入甘露界。此寂靜此妙勝。離一切有為。愛盡涅槃。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘。若有色受想行識。善取法相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。比丘如是。善取觀相善思惟善解。復次比丘。一切有為法。若一處有為法。從思惟是苦患癡箭。乃至心畏怖故。出一切有為。入甘露界。此寂靜此妙勝。離一切有為。愛盡涅槃。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘。若有色受想行識。善取法相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。

是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘若行法相。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若行若法相。善取相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。比丘如是。善取觀相善思惟善解。復次比丘。行知行樂。住知住樂。坐知坐樂。臥知臥樂。如是身住樂。如實知住樂。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘若行若法相。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若行若法相。善取相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。比丘如是。善取觀相善思惟善解。復次比丘。從去來屈伸。乃至心怖畏故。出一切有為。入甘露界。亦如是說。第二禪第三禪第四禪。亦如是說。何謂善取觀相善思惟善解。如比丘一切有為法。若一處有為法。思惟無常。知無常解無常受無常。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘若有色受想行識。善取法相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。比丘如是。善取觀相善思惟善解。復次比丘。一切有為法。若一處有為法。從思惟是苦患癡箭。乃至心畏怖故。出一切有為。入甘露界。此寂靜此妙勝。離一切有為。愛盡涅槃。如是不放逸觀。離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。如比丘。若有色受想行識。善取法相善思惟善解。善識順識緣識。分別順分別緣分別。

如十(實知)◎◎ 若二善◎◎ (觀)一◎◎

比丘如是善取觀相善思惟善解。第二禪第三禪第四禪亦如上說。如是五支。是名五支定。

云何五智定。如世尊說。諸比丘修定無量明了。諸比丘若修定無量明了。緣生五種智。何等五。若有定現樂後樂報緣此生智。若有定聖無染緣此生智。若有定不怯弱者能親近緣此生智。若有定寂靜勝妙獨修除得緣此生智。若有定念入正念起緣此生智。云何定現樂後樂報緣此生智。云何現樂定。如比丘離欲惡不善法。有覺有觀離生喜樂。成就初禪行。若身離生喜樂津液遍滿。此身盡離生喜樂。津液遍滿無有減少。如善澡浴師。若善澡浴師弟子。以細澡豆盛著器中。以水灑。已調適作搏。此搏津液遍滿。不燥不濕內外和潤。如是比丘身離生喜樂津液遍滿。身盡離生喜樂。津液遍滿無有減少。如比丘增益受離生喜樂出世樂寂靜樂滅樂正覺樂沙門果樂涅槃樂。此定如是謂現樂。復次比丘。滅覺觀內淨信一心。無覺無觀定生喜樂。成二禪行。若身定生喜樂津液遍滿。此身盡定生喜樂。津液遍滿無有減少。如大陂湖以山圍遶。水從底涌出。不從東方西南西北方來。此陂水津液遍滿。此陂盡津液遍滿無有減少。如是比丘身定生喜樂津液遍滿。此身盡津液遍滿無有減少。如比丘增益受無喜樂。出世樂寂靜樂滅樂正覺樂沙門果樂涅槃樂。此定如是謂現樂。復次比丘。離喜捨行念正智身受樂。如諸聖人。解捨念樂行。成就三禪行。若

身無喜樂。津液遍滿身無喜樂。津液遍滿無有減少。如優鉢羅花池波頭摩花池鳩頭摩花池分陀利花池。從泥稍出未能出水。此花若根若頭。水津液遍滿。從根至頭從頭至根。津液遍滿無有減少。如是比丘。若身無喜樂津液遍滿。此身盡津液遍滿無有減少。如比丘增益受無喜樂出世樂寂靜樂滅樂正覺樂沙門果樂涅槃樂。此定如是謂現樂。復次比丘斷苦斷樂先滅憂喜不苦不樂捨念淨。成就四禪行。若身以清淨心遍解行。此身清淨無不遍處。如男子女人身著白淨衣上下具足。從頭至足從足至頭無不遍處。如是比丘。若身以清淨心遍解行。此身清淨無不遍處。如比丘增益受寂靜妙樂出世樂寂靜樂滅樂正覺樂沙門果樂涅槃樂。如是定謂現樂。云何定後樂報。如比丘。思惟無常苦空無我。思惟涅槃寂靜。得定心住正住。如比丘得定已。即得初聖五根。得初聖五根已。上正決定捨凡夫地。若不得須陀洹果而中命終。無有是處。不得須陀洹果作惡作惡業已。命終墮三塗。無有是處。如比丘親近此定多修學。多修學已。見斷三煩惱。得須陀洹果觸證。觸證已。斷地獄畜生餓鬼苦。受七生人天報。斷餘生天人中苦。如是定謂後樂報。如比丘親近此定。多修學。多修學已。思惟斷欲染瞋恚煩惱分。斷欲染瞋恚煩惱分已。得斯陀含果觸證。觸證已。斷地獄畜生餓鬼苦。受天上人

中生。斷餘生天上人中苦。如是定謂後樂報。如比丘親近此定多修學。多修學已。思惟斷

欲染瞋恚盡無餘。無餘已得阿那含果觸證。觸證已。斷地獄畜生餓鬼人中苦。若受一天生若五生。餘天上苦皆斷。如是定謂後樂報。如比丘親近此定多修學。多修學已。思惟斷色界無色界煩惱盡無餘。無餘已得阿羅漢果觸證。觸證已。斷地獄畜生餓鬼人中天上苦。一切有一切道一切生一切繫縛一切結使煩惱皆斷無餘。如是定謂後樂報。何謂緣此生智。若內分別若外分別。知見覺證。此謂緣此生智。何謂有定聖無。染緣此生智。何謂非聖定。若定有漏。此謂非聖定。復次非聖定。若定非學非無學。此謂非聖定。復次非聖定。除空無相無願定。若餘定謂非聖定。何謂聖定。若定無漏。是名聖定。復次聖定。若定學無學。此謂聖定。復次聖定。空無相無願定。此謂聖定。以何義謂聖。以斷離貪欲瞋恚愚癡諸結煩惱故謂聖。定。云何有染定。若定有求。此謂有染定。復次有染定。若定非學非無學。此謂有染定。復次有染定。除空無相無願定。若餘定。此謂有染定。以何義有染。染謂愛。愛於此定中得正得緣得。定亦於愛中得正得緣得。是謂有染定。云何無染定。若定無求。此謂無染定。復次無染定。若定學無學。此謂無染定。復次無染定。空無相無願定。此謂無染定。以何義無染。染謂愛。愛定中不得正得不緣得定愛中不得正得不緣得。是謂無染定。何謂緣此生智。若內分別若外分別。知見覺證。此謂緣此生智。云何有定不怯弱者親近緣此生智。云何怯弱者。若無信

怯弱者親近緣此生智。云何怯弱者。若無信

◎(正)十念◎ ◎[已]一◎ ◎成十(就)◎ ◎喜二苦◎ ◎定聖一聖定◎ ◎[定]一◎

枝葉受為薪。比丘以外火大內外水風大草木枝葉。思惟烟知烟解烟受烟。乃至是名入火定。復次比丘內外火大受為火。內地水風大受為薪。比丘以內外火大受為火。內地水風大。思惟烟知烟解烟受烟。乃至是名入火定。復次比丘內外火大受為火。外地水風大草木枝葉受為薪。比丘以內外火大外地水風大草木枝葉。思惟烟知烟解烟受烟。乃至是名入火定。復次比丘內外火大受為火。內外火大內外水風大草木枝葉。思惟烟知烟解烟受烟。乃至是名入火定。

何謂共證知神足定。欲定斷行成就修神足。精進定心定慧定斷行成就修神足。受種種神足震動大地。以一為多以為一。若近若遠。高山牆壁徹過無。閉。如行虛空。結加跏坐陵空如鳥。出入地中如出沒水。履水如地。身出烟炎如火聚。日月威德以手捫摸。乃至梵天身得自在。云何動地。如比丘受少地想。受無量水想。若欲動地動正動。如所欲隨所欲盡所欲。如沽酒師沽酒師弟子壓酒已。以囊投大水中。手執兩角擡舉隨意牽挽自在。如所欲隨所欲盡所欲。如是比丘受少地想。受無量水想。若欲動地動正動。如所欲隨所欲盡所欲。是名地動定。云何以一為多。如比丘定親近多修學已。於自身起心化為餘色身。支節具足諸根無缺。如陶師陶師弟子治成調泥為種種器。悉能成辦能得財利。如是比丘於自身起心。化為餘色身。支

節具足諸根無缺。如是思惟。此四大色身所化色身。四大色身異。所化色身異。於此四大色身起心。化為餘色身。支節具足諸根無缺。如人出箱中衣。如是思惟。此是箱此是衣。箱異衣異。以箱故出衣。如是比丘思惟此四大色身此所化。身色。四大色身異。所化色身異。於此四大色身起心。化為餘色身。支節具足諸根無缺。若化為二身三身乃至百身千身。隨所欲化為種種身。是名以一為多定。云何以多為一。如比丘定親近多修學已。以神足化無量身還為一身。如人散種種穀子布地還攝為一聚。如是比丘以神足化作無量身。還攝為一身。是名以多為一定。云何徹過無。如比丘定親近多修學已。若近若遠。高山牆壁。徹過無礙如遊虛空。近謂光明來至於眼。現在已前。不滅不沒不除不盡。遠謂光明不來至眼。不現在前。滅沒除盡。山有二種。土山石山巖窟沙石。是名山。牆壁二種。木牆壁土牆壁。若近若遠高山牆壁。思惟一切高山牆壁皆空。如比丘於此地山岸。棘刺處幽險深河。悉不思惟。但思惟平等如地。如。礫牛皮釘布平地無有。禰。比丘如是不放逸觀故。能近物遠物。高山牆壁徹過無。閉如遊虛空。是名徹過無。閉定。云何結加跏坐。陵虛如鳥。如比丘定親近多修學已。上昇空虛結加跏坐。遊於東方南西北方四維上下。猶如飛鳥離地至空。如是比丘不放逸觀故。結加跏坐遊空如鳥。是名遊空定。云何出入地中如出沒水。如比丘定親近多修學

已。出入地中如出沒水。比丘思惟地為水知水解水受水。如是比丘不放逸觀故。出入地如水。是名出入地如水定。云何履水如地。如比丘定親近多修學已。履水如地。比丘思惟水為地知地解地受地。比丘如是不放逸觀故。履水如地。是名履水如地定。云何身出烟炎如火聚。如比丘定親近多修學已。身出烟炎如火聚。比丘受內火大為火。內地水風大為薪。以內火大地水風大。思惟出烟知烟解烟受烟。思惟出炎知炎解炎受炎。比丘如是不放逸觀故。身出烟炎如火聚。是名身出烟炎如火聚定。云何日月威德以手捫摸。如比丘定親近多修學已。日月威德以手捫摸。比丘思惟日月為近知近解近受近。比丘住閻浮提。能舒右手捫摸日月。復次比丘自身起心。化為餘色身。支節具足諸根無缺。以此化身至四天王上。以手捫摸日月。又以此四大色身。至四天王上。以手捫摸日月。是名日月威德以手捫摸定。云何乃至梵天身得自在。如比丘定親近多修學已。乃至梵天身得自在。比丘從自身起心。化為餘色身。支節具足諸根無缺。以此化身至梵天上親近梵天。共住共坐共去來共入定。知見共言說。又以此四大色身。飛到梵天親近梵天。共住共坐共去來共入定。知見共言說。是名乃至梵天身得自在定。若比丘定親近多修學已。得報定若入定不入定。能作種種無量神足。謂動地乃至梵天身得自在。是名共證知神足定。

①[受]一①② ③[隨所欲]一④⑤ ⑥以二衣⑦ ⑧身色二色身⑨ ⑩[乃]一⑪* ⑫[空虛]二⑬⑭ ⑮[乃]一⑯* ⑰[空虛]二⑱⑲ ⑳[乃]一㉑* ㉒[空虛]二㉓㉔ ㉕[乃]一㉖* ㉗[空虛]二㉘㉙ ㉚[乃]一㉛* ㉜[空虛]二㉝㉞ ㉟[乃]一㊱* ㊲[空虛]二㊳㊴ ㊵[乃]一㊶* ㊷[空虛]二㊸㊹ ㊺[乃]一㊻* ㊼[空虛]二㊽㊾ ㊿[乃]一

何謂共證知天耳定。如比丘若取野。藿荻聲想。比丘心離於野。藿荻聲。令心入細野。藿荻聲。比丘以細野。藿荻聲。調心柔軟。令心入於天耳智證。如是不放逸觀。得共證知天耳。得定心住正住。比丘得定已。令心向於人聲。人何所論何所說。比丘如是不放逸觀。得聞人聲。如人所論何所說。悉皆聞之。如比丘定親近多修學已。令心向於地獄。畜生餓鬼天聲。天何所論何所說。比丘如是不放逸觀。得聞天聲。如所論何所說。悉皆聞之。如比丘定親近多修學已。以天耳清淨過人。一時聞二種聲。人非人聲。若比丘定親近多修學已。得報定若入定不入定。以天耳清淨過人。一時聞二聲。人非人聲。是名共證知天耳定。

何謂共證知他心定。如比丘取自心相。我心何因生何由滅。何親近何遠離。比丘如是取自心相已。令心向他心證知。比丘如是不放逸觀。得共證知他心定。住正住。比丘得定已。欲知人心何所思何所覺何所思惟。比丘如是不放逸觀。能知人心如所思如所覺如所思惟。悉皆知之。如比丘定親近多修學已。欲知地獄畜生餓鬼天心何所思何所覺何所思惟。比丘如是不放逸觀。能知地獄餓鬼畜生天心如所思如所覺如所思惟。悉皆知之。如比丘定親近多修學已。能知他人他衆生心。有欲心如實知有欲心。無欲心如實知無欲心。有恚心如實知有恚心。無恚心如實知無恚心。有癡心如實知有癡心。無癡心如實知無癡心。沒心如實知沒心。散心如實知散

心。少心如實知少心。多心如實知多心。不定心如實知不定心。定心如實知定心。不解脫心如實知不解脫心。解脫心如實知解脫心。有勝心如實知有勝心。無勝心如實知無勝心。若比丘定親近多修學已。得報定若入定不入定。能知他人他衆生心。有欲心如實知有欲心。乃至有勝心無勝心。如實知有勝心無勝心。是名共證知他心定。

何謂共證知宿命定。如比丘思惟無間心。後心前心漸漸無間。比丘如是思惟無間心。得證知共心無間定。心住正住。比丘得定已。憶念一心二心三心四心五心十心乃至百心千心若過或有母腹中生初識。比丘如是思惟。何心滅已母腹中生初識。比丘。令心向宿命證知。比丘如是不放逸觀。得共宿命證知定。心住正住。比丘得定。憶念不難。彼本生本有本居處本所起本我分。若欲終心。若心滅已。母腹中受初識。若修此定。憶念不難。比丘如是思惟我本何名何姓何生何食何壽命何究竟住受何苦樂。比丘若修此定。知我本如是名如是姓如是生如是食如是壽命如是究竟住如是受苦樂。是名共證宿命定。如比丘定親近多修學已。憶念一生二生乃至百生千生若過。或曾在無想天上住。知無間心障礙。以凡夫未聞故。言我不曾在彼忽然自生。以聖人聞故。如是思惟我宿命。始由心證知有如是天。是色無想無受無心住處。比丘如是思惟。我若憶念宿命色。比丘思惟無間色。後色前色漸漸無間。比丘如是思惟

無間。色得共證知宿命色無間定。心住正住。比丘得定已。憶念不難。是名共證知宿命定。如比丘定。想親近多修學已。憶念一生二生乃至百生千生若過。或有曾在無色天上。以無間色障。闕以凡夫未聞故。言我不曾在彼忽然自生。以聖人聞故。如是思惟我宿命。由色證知有如是無色有想有受。若無色地。比丘如是思惟。我若憶念宿命心。比丘思惟後心前心漸漸無間。比丘如是思惟無間心。得共宿命心無間定。心住正住。比丘得定已。憶念不難。是名共證知宿命定。如比丘定親近多修學已。憶念種種無量宿命。若憶念一生二生乃至百生千生。若劫成若劫壞若劫成壞。我本曾在彼。如是名如是姓乃至如是受苦樂。我此命終生彼。彼命終生此。於此成就行。憶念種種無量宿命。若比丘定親近多修學已。得報定若入定不入定。憶念種種無量宿命。從一生乃至於此成就行。是名共證知宿命定。

舍利弗阿毘曇論卷第二十九

舍利弗阿毘曇論卷第三十

姚秦罽賓三藏曇摩耶舍
共曇摩崛多等 譯

緒分定品下

何謂共明想定。如比丘取諸明相。謂火光日月星宿光摩尼珠光。取諸光明相已。若樹

● 聖二花 ● 令二念 ● 定二之 ● [想]一 ● 不分卷及品 ●

下露處。思惟光明知光明受光明。如實人若
 想憶想。是名光明想。若定此想共生共住共
 滅。是名共明想定。如比丘定親近多修學已。
 若樹下露處。以清淨心遍解行有明勝心。如
 實人若想憶想。是名明想。若定此想共生共
 住共滅。是名共明想定。如比丘定親近多修
 學已。若一樹下。若二三乃至十樹下。以清
 淨心遍解行有明勝心。如實人若想憶想。是
 名明想。若定此想共生共住共滅。是名共明
 想定。如比丘定親近多修學已。若一園。二
 三乃至十園。以清淨心遍解行有明勝心。如
 實人若想憶想。是名明想。若定此想共生共
 住共滅。是名共明想定。如比丘定親近多修
 學已。若一園二三乃至十園。以清淨心遍解
 行有明心勝。如實人若想憶想。是名明想。若
 定此想共生共住共滅。是名共明想定。如比
 丘定親近多修學已。若一聚落二三乃至十
 聚落。以清淨心遍解行有明心勝。如實人若
 想憶想。是名明想。若定此想共生共住共滅。
 是名共明想定。如比丘定親近多修學已。若
 一園二三乃至十園。以清淨心遍解行有明
 *心勝。如實人若想憶想。是名明想。若定此
 想共生共住共滅。是名共明想定。如比丘定
 親近多修學已。水陸周匝。以清淨心遍解行
 有明心勝。如實人若想憶想。是名明想。若
 定此想共生共住共滅。是名共明想定。如比
 丘定親近多修學已。以天眼清淨過人。見衆
 生生死好色善道惡道卑勝。知衆生造
 業此衆生身惡行成就。口意惡行成就。誘賢

聖邪見造邪見業。身壞命終墮地獄畜生餓
 鬼。此衆生身善行成就。口意善行成就。不誘
 賢聖正見。造正身業。身壞命終生天上人
 中。如是以天眼清淨過人。見衆生生死好色
 惡色善道惡道。知衆生造業。修此定已。以
 天眼清淨過人。見衆生生死。乃至知所造業。
 是名共明想定。若比丘定親近多修學已。得
 報定。若入定不入定。以天眼清淨過人。見
 衆生生死。乃至知衆生所造業。是名共明想
 定
 何謂無間定。比丘思惟無常苦空無我涅槃
 寂靜。得定心住。得定已得初聖五根。以得
 初聖五根故。上正決定。離凡夫地未得須陀
 洹果。若中命終。無有是處。若未得須陀洹果。
 墮地獄畜生餓鬼。無有是處。若比丘定親近
 多修學已。得無間定向須陀洹果。若此定無
 間滅已。得須陀洹果。是名無間定。若比丘
 定親近多修學已。得無間定向。斯陀含果。若
 此定無間滅已。得斯陀含果。是名無間定。若
 比丘定親近多修學已。得無間定。向阿那含
 果。若此定無間滅已。得阿那含果。是名無間
 定。若比丘定親近多修學已。得無間定。向
 阿羅漢果。若此定無間滅已。得阿羅漢果。是
 名無間定。云何定根。學人離煩惱。聖心入聖
 道。若堅信堅法。是名定根。云何定根。學人離
 煩惱。聖心入聖道。若堅信堅法。及餘趣人見
 行過患。觀涅槃寂滅。若實人觀苦集滅道。未
 得欲得。未解欲解。未證欲證。修道離煩惱。見
 學人若須陀洹斯陀含阿那含觀智具足。若

智地若觀解脫心。若得四沙門果。若須陀洹
 果斯陀含果阿那含果。無學人阿羅漢。未得
 聖法。欲得修道。觀智具足。若智地若觀解脫
 心。得阿羅漢果已。如實人如趣人。若心住
 正住專住緣住。心一定一樂。不分散不捨心
 依安心。獨處定力定覺正定。是名定根。云何
 *定力。定根是名定力。云何定覺。定力是名
 定覺。云何正定。若定善順不逆。是名正定。
 云何邪定。若定不善不順逆。是名邪定。
 云何聖定。若定無漏。是名聖定。云何非聖定。
 若定有漏。是名非聖定
 云何有漏定。若定有染。是名有漏定。云何無
 漏定。若定無染。是名無漏定
 云何有染定。若定有求。是名有染定。云何無
 染定。若定無求。是名無染定。云何有求定。
 若定當取。是名有求定。云何無求定。若定非
 當取。是名無求定
 云何當取定。若定有取。是名當取定。云何非
 當取定。若定無取。是名非當取定
 云何有取定。若定有勝。是名有取定。云何無
 取定。若定無勝。是名無取定
 云何有勝定。若定有取。是名有勝定。云何無
 勝定。若定不取。是名無勝定。復次若定有
 餘定勝妙過。是名有勝定。若定無餘定勝妙
 過。是名無勝定。復次若修定已如來於一切法
 無礙知見得由力尊勝無上正覺如來十力成
 就四無所畏。大慈大悲轉於法輪。自在成就。
 除此定若餘定。是名有勝定。若上所除定。是
 名無勝定

①(二三乃至十園) ②(心勝) ③(身二見) ④(斯陀含) ⑤(須陀洹) ⑥(四) ⑦(獨一) ⑧(謂) ⑨(十定) ⑩(定)

云何受定。若定內是名受定。云何非受定。若定外是名非受定。

云何內定。若定受是名內定。云何外定。若定非受。是名外定。

云何有報定。若定報法。是名有報定。云何無報定。若定報若非報非報法。是名無報定。

云何共凡夫定。若定非凡夫入出凡夫亦入出。是名共凡夫定。云何不共凡夫定。若定非凡夫入出。是名不共凡夫定。云何非凡夫共定。若定凡夫入出非凡夫亦入出。是名非凡夫共定。云何非凡夫不入出。是名非凡夫不共定。

云何共聲聞定。若定非聲聞入出聲聞亦入出。是名共聲聞定。云何不共聲聞定。若定非聲聞入出聲聞不入出。是名不共聲聞定。

云何非聲聞共定。若定聲聞入出非聲聞亦入出。是名非聲聞共定。云何非聲聞不共定。若定聲聞入出非聲聞不入出。是名非聲聞不共定。云何如電定。若定少少住少時住。如電少少住少時住定亦如是。是名如電定。云何如金剛定。若定無量無量住無量時住。如金剛無量無量住無量時住定亦如是。是名如金剛定。復次若定修已。漸少煩惱分。如電從雲中出。少關分便速滅。定亦如是。是名如電定。若定修已斷一切煩惱。若龍若微無不斷滅。無不斷滅。如金剛投於珠石無不破壞摧折。定亦如是。是名如金剛定。復次若修定得須陀洹果斯陀含果阿那含果。是名如電定。若修定得阿羅漢果。是名如金剛定。

復次若修定得須陀洹果乃至阿羅漢果辟支佛道。是名如電定。若修定若如來所修定。於一切法無礙知見得。由力尊勝無上正覺。如來十力成就四無所畏。大慈大悲轉於法輪。自在成就。是名如金剛定。

云何不定得定。若定得不定得難得難持。是名不定得定。云何定得定。若定得決定得不難得易持。是名定得定。

云何有行難持定。若定得不定得。難得難持。無由力尊自在。不如所欲。不隨所欲。不盡所欲。有行難入出。如船逆水難行。定亦如是。是名有行難持定。云何無行易持定。若定得決定得不難得易得。由力尊自在如所欲隨所欲盡所欲。無行入出。如船順水易行。定亦如是。是名無行易持定。

云何一分修定。若修定已。想有光明但不見色。若見色不想有光明。是名一分修定。云何二分修定。若修定已。想有光明亦見色。是名二分修定。復次若修定已。生智但不斷煩惱。若斷煩惱不生智。是名一分修定。若修定已。智生能斷煩惱。是名二分修定。復次若修定已。盡智生。非無生智。是名一分修定。若修定已。盡智生及無生智。是名二分修定。

云何有想定。若定有境界。是名有想定。云何無想定。若定無境界。是名無想定。復次除無想定滅盡定。若餘定是名有想定。若無想定滅盡定。是名無想定。

云何如事定。若法如法如狀貌如自性如隨緣所起如相入。出。是名如事定。

云何憶想定。若法如法。相如狀貌如自性如隨緣起。若如法相。若非如法相入出。是名憶想定。

云何離色想定。若定離色想入。若離色想入。是名離色想定。云何不離色想定。若定不離色想入。若不離色想入。是名不離色想定。復次若定無色界。是名離色想定。若定色界及聖。是名不離色想定。

云何勝入定。若八勝入。是名勝入定。云何一切入定。若十一一切入。是名一切入定。云何有覺定。若定覺相應。共覺生共住共滅。是名有覺定。云何無覺定。若定非覺相應。不共覺生不共住不共滅。是名無覺定。

云何有觀定。若定觀相應。共觀生共住共滅。是名有觀定。云何無觀定。若定非觀相應。不共觀生不共住不共滅。是名無觀定。

云何有喜定。若定喜相應。共喜生共住共滅。是名有喜定。云何無喜定。若定非喜相應。不共喜生不共住不共滅。是名無喜定。

云何共味定。若定染污相應。是名共味定。云何共捨定。若定不苦不樂受相應。是名共捨定。

云何忍相應定。若定忍共生共住共滅。是名忍相應定。云何非忍相應定。若定非忍共生共住共滅。是名非忍相應定。

云何智相應定。若定共智生共住共滅。是名智相應定。云何非智相應定。若定非智共生共住共滅。是名非智相應定。

云何忍始定。若定聖無漏。堅信堅法所修。是

○[定]一○, 定十(若)○ ○漸二斷○ ○[無不斷滅]一○ ○[不]一○ ○[出]一○ ○相二想○ ○[定]一○ ○共覺二覺共 ○有二相應○ ○共觀二觀共○, [觀]一○ ○污二行○

名忍始定。云何智始定。若定聖無漏見道人所修。是名智始定。

云何欲終定。若定最後識相應。是名欲終定。云何始生定。若定初識相應。是名始生定。云何善定。若定修是名善定。云何不善定。若定斷是名不善定。云何無記定。若定受非報非報法。是名無記定。

云何學定。若定聖非無學。是名學定。云何無學定。若定聖非學。是名無學定。云何非學非無學定。若定非聖。是名非學非無學定。云何報定。若定受若定善報。是名報定。云何報法定。若定有報。是名報法定。云何非報非報法定。若定無報非我分攝。是名非報非報法定。

云何見斷定。若定不善非思惟斷。是名見斷定。云何思惟斷定。若定不善非見斷。是名思惟斷定。云何非見斷非思惟斷定。若定善無記無名非見斷非思惟斷定。

云何見斷因定。若定見斷若見斷法報。是名見斷因定。云何思惟斷因定。若定思惟斷若思惟斷法報。是名思惟斷因定。云何非見斷非思惟斷因定。若定善若善法報。若非報非報法。是名非見斷非思惟斷因定。

云何下定。若定不善。是名下定。云何中定。若定無記。是名中定。云何上定。若定善。是名上定。復次若定不善無記。是名下定。若定非聖善。是名中定。若定聖無漏。是名上定。

云何龜定。若定欲界繫。是名龜定。云何細定。若定色界繫若不繫。是名細定。云何微定。若

定無色界繫。是名微定。復次若定欲界繫色界繫。是名龜定。若定空處繫識處繫不用處繫若不繫。是名細定。若定非想非非想處繫。是名微定。復次若定欲界繫色界繫空處繫識處繫不用處繫。是名龜定。若定不繫。是名細定。若定非想非非想處繫。是名微定。若定非想非非想處繫。是名微定。

云何有覺有觀定。無覺有觀定。無覺無觀定。空定無相定無作定。如道品三。支道中廣說。云何三願得定。若願果得定。若願得定。若寂靜願得定。若比丘得一二定。若空無相無作定。比丘如是思惟。我應親近多修學此定。願欲得四沙門果故。比丘定親近多修學。願欲得四沙門果故。比丘定親近多修學。願欲得四沙門果。若如是得定。是名願果得定。若比丘勤進行。或有欲無欲有進無進。比丘如是思惟。我應修此欲及進親近多修學。比丘欲及進親近多修學。應勤進定心。若如是得定。是名願得定。若比丘得一二定。不得定難得難持。比丘如是思惟。我應親近多修學此定。令我得由力尊自在。比丘定親近多修學。令我得由力尊自在。若如是得定。是名不寂靜願得定。是名三願得定。云何非三願得定。不

得果得定。不願得定。不寂靜願得定。若比丘得一二定。若空無相無作定。比丘不如是思惟。我應親近多修學此定。不願欲得四沙門果故。比丘定親近多修學。不願欲得沙門果故。比丘定親近多修學。已得沙門果。若如是得定。是名不願果得定。若比丘勤進行。或有欲無欲有進無進。比丘不如是思惟。我應

修欲及進親近多修學。比丘欲及進親近多修學。應勤進定心。若如是得定。是名不願得定。若比丘。近得一二定。不。定得難得難持。比丘不如是思惟。我應親近多修學此定。令我得定由力尊自在。比丘定親近多修學。令我得定由力尊自在。若如是得定。是名不寂靜願得定。是名非三願得定。

云何內身觀內身定。若比丘一切內四大色身攝法。若一處內四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內身觀內身定。云何外身觀外身定。若比丘一切外四大色身攝法。若一處外四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外身觀外身定。云何內外身觀內外身定。若比丘一切內外四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外身觀內外身定。云何內受觀內受定。若比丘一切內受。若一處內受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內受觀內受定。云何外受觀外受定。若比丘一切外受。若一處外受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外受觀外受定。云何內外受觀內外受定。若比丘一切內外受。若一處內外受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外受觀內外受定。云何內心觀內心定。若比丘一切內心。若一處內心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內心觀內心定。云何外心觀外心定。若比丘一切外心。若一處外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外心觀外心定。云何內外心觀內外心定。若比丘一切內外心。若一處內外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外心觀內外心定。云何內

修欲及進親近多修學。比丘欲及進親近多修學。應勤進定心。若如是得定。是名不願得定。若比丘。近得一二定。不。定得難得難持。比丘不如是思惟。我應親近多修學此定。令我得定由力尊自在。比丘定親近多修學。令我得定由力尊自在。若如是得定。是名不寂靜願得定。是名非三願得定。

云何內身觀內身定。若比丘一切內四大色身攝法。若一處內四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內身觀內身定。云何外身觀外身定。若比丘一切外四大色身攝法。若一處外四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外身觀外身定。云何內外身觀內外身定。若比丘一切內外四大色身攝法。若一處內外四大色身攝法。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外身觀內外身定。云何內受觀內受定。若比丘一切內受。若一處內受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內受觀內受定。云何外受觀外受定。若比丘一切外受。若一處外受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外受觀外受定。云何內外受觀內外受定。若比丘一切內外受。若一處內外受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外受觀內外受定。云何內心觀內心定。若比丘一切內心。若一處內心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內心觀內心定。云何外心觀外心定。若比丘一切外心。若一處外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外心觀外心定。云何內外心觀內外心定。若比丘一切內外心。若一處內外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外心觀內外心定。云何內

云何內外受觀內外受定。若比丘一切內外受。若一處內外受。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外受觀內外受定。云何內心觀內心定。若比丘一切內心。若一處內心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內心觀內心定。云何外心觀外心定。若比丘一切外心。若一處外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名外心觀外心定。云何內外心觀內外心定。若比丘一切內外心。若一處內外心。觀無常苦空無我。得定心住正住。是名內外心觀內外心定。云何內

○無一非○ ○支二枝○ ○近十(多)○ ○(不)一○ ○得二願○ ○近得一二得一一○,得言○ ○定得二得定○

未來定。若定未生未出。是名未來定。云何現在定。若定生未滅。是名現在定。云何過去境界定。思惟過去法若定生。是名過去境界定。云何未來境界定。思惟未來法若定。生是名未來境界定。云何現在境界定。思惟現在法若定生。是名現在境界定。云何非過去非未來非現在境界定。思惟非過去非未來非現在法若定生。是名非過去非未來非現在境界定。

云何欲界繫定。若定欲漏有漏。是名欲界繫定。云何色界繫定。若定色漏有漏。是名色界繫定。云何無色界繫定。若定無色漏有漏。是名無色界繫定。云何不繫定。若定聖無漏。是名不繫定。

云何作定非離。若定非聖有報。是名作定非離。云何離定非作。若定聖有報能斷煩惱。是名離定非作。云何作離定。無一定若作若離。若作定非離。若離定非作。是名作離定。云何非作非離定。除作離定若餘定。是名非作非離定。復次作定非離。若定欲界有報。是名作定非離。若定聖有報。能斷煩惱。是名離定非作。若修定斷欲界煩惱。受色無色界有。是名作離定。若定無報。若定聖有報。非斷煩惱。是名非作非離定。取定非出出定。非取出取定。非取非出定。有染定。非離染離染定。非有染有染離染定。非有染非離染定。有。扼定。非離扼離扼定。非有扼有扼離扼定。非有扼。非離扼定。亦如是。云何智果定非斷果。若修定生智非能斷煩惱。

是名智果定非斷果。云何斷果定非智果。若修定斷煩惱不生智。是名斷果定非智果。云何智果斷果定。無一定若智果若斷果。若智果定非斷果。若斷果定非智果。是名智果斷果定。云何非智果非斷果定。除智果斷果定。若餘定。是名非智果非斷果定。復次智果定非斷果。若修定得非聖五通。或一或二。是名智果定非斷果。若修定得斯陀含果。是名斷果定非智果。若修定得須陀洹果阿那含果阿羅漢果。是名智果斷果定。若定無報若定有報。非生智非能斷煩惱。是名非智果非斷果定。智果定非得果定。得果定非智果。智果得果定。非智果非得果定。亦如是。

云何盡定非覺。若修定斷煩惱不生智。是名盡定非覺。云何覺定非盡。若修定生智不斷煩惱。是名覺定非盡。云何盡覺定。無一定若盡若覺。若盡定非覺若覺定非盡。是名盡覺定。云何非盡非覺定。除盡覺定若餘定。是名非盡非覺定。復次若修定得斯陀含果。是名盡定非覺。若修定得非聖五通。或一或二。是名覺定非盡。若修定得須陀洹果阿那含果阿羅漢果。是名盡覺定。若定非報若定有報。非能斷煩惱非生智。是名非盡非覺定。射定非解。解定非射。射解定。非射解定亦如是。云何退分定。若定不善。是名退分定。云何住分定。若定無記。是名住分定。云何增長分定。若定非聖善。是名增長分定。云何射分定。若定聖有報能斷煩惱。是名射分定。復

次若修定退非聖善法非住不增長。是名退分定。若修定非聖善法住不退不增長。是名住分定。若定共射相應。是名射分定。云何退分定非住分。若定有退非住。是名退分定非住分。云何住分定非退分。若定住非有退。是名住分定非退分。云何退分住分。無一定退分住分。若退分非住分若住分非退分。是名退分住分定。云何非退分非住分定。除退分住分定若餘定。是名非退分非住分定。云何退分定非增長分。若定有退非增長。是名退分定非增長分。云何增長分定非退分。若定增長非退。是名增長分定非退分。云何退分增長分定。無一定退分增長分。若退分非增長分。是名退分增長分定。云何非退分非增長分定。除退分增長分定若餘定。是名非退分非增長分定。云何退分射分。若定有射非退。是名退分射分定。云何射分定非退分。若定有射非退。是名射分定非退分。云何退分射分定。無一定退分射分。若退分非射分。是名退分射分定。除退分射分定若餘定。是名非退分非射分定。云何住分定非增長分。若定有住非增長。是名住分定非增長分。云何增長分定非住分。若定有增長。是名增長分定非住分。云何住分增長分定。無一定住分增長分。若住分定非增長分定。若增長分非住分。是名住分增長分定。云何非住分非增長分定。除住分增長分定若餘定。

○(名)一○(名)二○(界)一○(扼)二○(扼)三○(下)同○(非)一○(解)二○(非)十○(若定)一○(分)十○(定)三

是名非住分非增長分定。云何。有住分定非
 射分。若定有住非射。是名住分定非射分。云
 何射分定非住分定。若射非住。是名射分定
 非住分。云何住分射分定。無一定若住分射
 分。若住分定非射分。若射分定非住分。是名
 住分射分定。云何非住分非射分定。除住分
 射分定。若餘定。是名非住分非射分定。云何
 增長分定非射分。若定有增長非射。是名增
 長分定非射分。云何射分定非增長分。若定
 有射非增長。是名射分定非增長分。云何增
 長分射分定。無一定若增長分射分。若增長
 分定非射分。若射分定非增長分。是名增長
 分射分定。云何非增長分非射分定。除增長
 分射分定。若餘定。是名非增長分非射分定。
 四念處。四正勤。四神足。四禪。四無量心。四
 無色定。四向四果。四修定四斷。五根五力五
 解脫入。五出界五觀定。五生解脫法。六念六
 空六出界。六明分法。六悅根法。六無喜正覺。
 七覺七想七定所須。八聖道八解脫八勝處。
 九滅九次第滅定九想。十想十正法。十一切
 入十一解脫入。如《上品》廣說。

舍利弗阿毘曇論卷第三十

尊婆須蜜菩薩所集論序

婆須蜜菩薩大士。次繼彌勒作佛。名師子如來也。從釋迦文降生。轉提國。為大婆羅門梵摩淪子。厥名壽多羅。父命觀佛。尋侍四月。具觀相表威變容止。還白所見。父得不還。已出家學。改字婆須蜜。佛般涅槃後。遊教周妬國。槃。奈園。高才蓋世。奔逸絕塵。撰集斯經焉。別七品為一捷度。盡十二捷度。其所集也。後四品一捷度。訓釋佛偈也。凡十一品十四捷度也。該羅深廣。與阿毘曇並與外國。傍通大乘。持明盡漏博涉十法百行之能事畢矣。尋之澹然猶滄海之無岸。可不謂之廣乎。陟之眩爾猶崑岳之無頂。可不謂之高乎。寶渚極目。厭夜光之珍。巖岫舉睫。厭天智之玉。懿乎富也。何過此經。外國昇高座者。未墜於地也。集斯經已入三昧定。如彈指頃神昇兜術。彌妬路彌妬路。刀利。及僧迦羅利。適彼天宮。斯二三君子。皆次補處人也。彌妬路。刀利者。光炎如來也。僧伽羅利者。柔仁佛也。玆四大士。集乎一堂。對揚權智。賢聖默然。洋洋盈耳。不亦樂乎。厨寶沙門僧伽跋澄。以秦建元二十年。持此經一部來詣長安。武威太守趙政文業者。學不厭士也。求令出之。佛念譯傳。跋澄難陀禰婆三人執。胡。文。慧嵩筆受。以三月五日出。至七月十三日乃訖。胡本十二千首盧也。余與法和對校修飾。武

威少多潤色。此經說三乘為九品。持善修行。以正觀。選。十六最悉。每尋上人之高韻。未嘗不忘意味也。恨闕數仞之門曉。懼不悉其宗廟之美。百官之富矣。

尊婆須蜜菩薩所集論卷第一

尊婆須蜜造

符秦厨寶三藏僧伽跋澄等譯

聚捷度首第一。乘言地親也。自品首。盡七品名。聚捷度。

十力哀出世。覺知一切法。我今禮如來。法及諸聖衆。最勝之善句。諸賢聖聽聞。瞿曇大衆中。有益衆生類。

云何為色相問色相云何。答曰。如覺知諸法。云何覺知諸法。答曰。為有界想為有勝耶。答曰。彼有一想。問一想為有勝耶。答曰。一想之中著欲諸垢諸界所縛。終不縛者是故諸結則衰。問如中諸結為有勝耶。答曰。當有顯還甘露。問如中當還甘露為有勝耶。答曰。依生身意受諸苦惱緣亦不起。是故身意諸苦惱已過去。問如中無色相。問設無色相亦無相。答曰。若無色相亦無彼色。色相亦無相亦無淫色相。問猶如汝無色相有色。如是我無色相亦無相。亦有相耶。或作是說。漸漸與色相。問一色中或與或不與。此義云何。或作是說。若色一時漸積彼無色相。或作是說。漸漸分別色相此亦如本所

說。或作是說。攝統色相。問過去未來色最別無教便有無色。或作是說。攝繫色相。或作是說。及諸蓋色相。或作是說。壞敗色相。此亦過去未來所說。或作是說。色相有三種。可見有對。不可見有對。不可見無對。問若諸色不可見無對。欲使彼無色相耶。或作是說。色相往來是謂色相。問過去未來義不有異。或作是說。色相為色。或作是說。因四大義為色。世尊亦說四大。緣彼四大生色陰受盛問取要言之。彼則不說緣諸所有色。彼一切是四大。四大所造。答曰。此非取要。又作是說。緣更生諸痛陰。或作是說。汝問何色相。設青青為色相。設黃即彼色相也。問我問一切色相。設彼是色相相無勝。答曰。色不同一相。此中有何答。設相相不同。此義不然。猶若地為堅相。如今地異堅異。問一切色同一相。猶如無常。問自相無相地為自相。是故不應作是說。問我無自相我問一切諸相。或作是說。有對色相是色。為色相有對相者。猶如捺箭筈。是謂有色。如種穀子在地隨時澆灌。彼便有色。云何非色相。答曰。反上所說義尊。曇摩多羅說諸物無對彼非色。是謂非色相。無對之物彼亦不生。是謂無對。猶如無對是對述。彼便是無對。如是非色相。四大所造色。有何等異。或作是說。無有異也。諸四大即是造色。問如世尊言。諸所有色彼一切是四大。四大所造耶。於此經有違。答曰。非所造聲。更有餘根。如說六更樂愚人貪忍苦樂行從此所與樂以來於其中間不出六更樂外更有

①序次行宋本元本宮本俱有未詳作者四字明本有失述序人名五字 ②(尊)十婆 ③奈二本 ④盡二寶 ⑤海之若海 ⑥崖二 ⑦刀二力 ⑧胡二梵 ⑨文二本 ⑩正二止 ⑪逐二經 ⑫常二常 ⑬(根)一 ⑭(尊婆須蜜造)一 ⑮(第一)一 ⑯(之一) ⑰(秦言地...度)十五字 ⑱聖二善 ⑲益二蓋 ⑳還二遠 ㉑淫二 ㉒謂二諸 ㉓同二因 ㉔根二貌

七更樂也。亦無造者。問若無造聲者。亦不變易欲色。是我所色。亦是我有耶。或作是說。堅濡熱動是四大相。猶如非地色從色造色。問四大轉轉優劣色不常作。欲使彼有造色耶。答曰。雖彼四大轉轉優劣得四大相。四大所與色非得四大相。彼非所與色。或作是說。諸緣彼四大四大所與色。問四大亦因四大。欲使是與色耶。答曰。彼雖因四大。有若干所因。四大是與色相。問色綠色相色。轉生。色。答曰。云何得知色轉生色。復不緣四大耶。或作是說。有漏四大所與色。亦有漏亦無漏。問諸有漏所造與色。被四大有何差降。諸無漏所與色何等四大造耶。或作是說。無記四大所與。復次所造色者。善不善無記。此亦如上所說。或作是說。依彼四大得與色。問心心念法亦依四大。欲使彼是與色耶。答曰。依四大諸根。諸根亦依心心念法。是故彼不依四大問。名色者展轉不相依。或作是說。增上四大四大增上與色。問是謂衰耗增上。是謂增上不生猶如一切法展轉增上相生。是故彼不生。尊僧伽多羅說。四大大事與因緣生色。問四大各各不相離。亦非大事與。此義云何。答曰。若得不離。或四大非色。如風種空流離色種無香味。四大非色入色造。尊婆須蜜說。更樂亦是四大所與色也。如地色地香地味。尊曇摩多羅說。猶如微妙色四大得解。亦及餘色。是謂與色也。以何等故身識入細滑入。或是四大或非四大。或作是說。彼無因緣。如明識色。或青或非青。是謂身識入細滑入或是四

大或非四大。或作是說。謂四大相。彼非一切從細滑得。四大相不同。濡堅相亦不同。龜細輕重寒飢渴。於彼細滑龜地所生。輕者火風所造。重者地所生。寒者水所造。飢渴火風所造。問無有出地堅者。細滑龜是地處所。是謂有增。如地不正故曰細滑。如地不平正故曰堅龜也。是故無龜細滑。設龜細滑當成就者。一切常可得。如青色不可得。是故不成就。彼或有輕因。彼復有重。是故輕重不得成就。若成寒者。云何得生青蓮華。不於彼四大得。是故寒不成就。若火盛則飢。風為渴本。或作是說。一切身識細滑入。當言四大也。不離四大有身識也。四大轉增各各說。云何無明。或作是說。無智是無明也。問云何無智言非智耶。設是非智彼是無明。草木牆壁皆不智。欲使彼是無明耶。答曰。心心法與法相應。問心所念法衆。名心法相無智。云何彌沙塞作是說。未辯無明修行無明。彼不有明時彼謂無明。如不有鹽彼謂之無鹽。問若彼無有明時。彼便起明則有無明。猶如彼器無鹽彼器謂之無鹽。若不有明彼無明。空便有無明。若是明物是無明者。云何行有緣。或作是說。五蓋是無明。世尊亦說。世間愚人無明所覆。問結無有要處。或作是說。思惟不淨是謂無明。世尊亦說。比丘當思惟不淨。未生欲漏便生。已生欲漏倍增廣。有漏無明漏亦復如是。亦言。無明習即是。有漏習。是故思惟不淨。是謂無明也。問非思惟不淨是無明耶。被緣思惟不淨亦是無明。

又世尊言。如是比丘思惟不淨。緣是無明無明緣愛。是故無此思惟不淨是無明也。問若無明緣。無明意有何違。如所說無明緣癡。或作是說。四顛倒是無明。問若見斷顛倒是故無明。見苦斷見結無明結亦如是。無有要處。或作是說。一切結是無明。智者是明。一切結不覺知。是故一切結是無明。問使無有要處。答曰。若有十現色入要處。如是有使要處。或作是說。實不生也。邪生無明。或作是說。無明名者無智疑。順邪也。或作是說。無明有六相癡順邪疑怖望欲得無要處。或作是說。無明於聖諦不作無智也。順邪是謂無智。或作是說。自造有衆生。是我所無明。我造非有也。無明相云何。如上所說。復作是說。於此衆生愚癡無明相。云何無明有緣。如上所說。復次有我物有無明無。明四顛倒有何差別。或作是說。見是顛倒無常。有常苦有樂不淨有淨無我有我。有彼相應及餘結使相應無智是無明。問彼所相應無智無常有常苦有樂乃至無我有我。一處顛倒見此無智是顛倒。此義云何。或作是說。見諦所斷顛倒。見諦思惟所斷無明。問若無明見所斷彼顛倒有何差別。或作是說。無有差別。顛倒者是無明也。問若當爾者。須陀洹亦無有無明也。或作是說。無明無有壞敗。壞敗者是顛倒也。問相應者。或有壞敗或無壞敗。此義云何。或作是說。無道者謂無明。邪道者謂之顛倒。或作是說。無要者謂之無明。要者謂之顛倒。或作是說。一切結使是無明也。無明微者謂之顛倒。

①濡一軟 ②一轉 ③色一死 ④彼一彼 ⑤名一各 ⑥耶一取 ⑦名一多 ⑧無一 ⑨順一懷 ⑩有帶 ⑪若十(苦) ⑫敗壞一壞敗

復次一切結是顛倒。顛倒微者亦是無明。云何內相。云何外相。答曰。諸法自相。壞者外相。內相外相有何差別。或作是說。不。普遍是內相。普遍者是外相。問設當普者。虛空亦復普。設內相攝持。非內相還外相。是故有內相有外相。或作是說。不壞外相。壞者內相問普者亦壞。餘者無常苦亦無常。答曰。五陰已壞。一不壞無常普遍。問如壞自相。不壞普遍相。如是不壞自相。壞者外相。或作是說。其不相類。問青象青。黃者不相象。欲使彼是內相是外相。答曰。青。黃不同。欲使青是內相非外相。或作是說。現者是內相。未知智是外相。問彼或有未知智。欲使彼是內相是外相。乃至未知智究竟自相。或作是說。依是自相依者外相。問名色各各相依。亦是內相外相耶。若依外相彼自相外相依外相無常依無常。或作是說。不共自相。共者外相。問外亦是不共。無常苦別。答曰。五陰中云何無常外不共。問如彼無常色無常痛想行識。如實思惟乃至識無常。或作是說。與自然相應是內相。不相應是外相。問若外無實者。今亦無也。若外相有者。彼亦有自相。或作是說。無有外相。一切自相。問若無外相者。諸法亦無外。或作是說。已辯自相不辯外相。或作是說。覺是自相。不覺者外相。遍有不壞象。未知智所依不共。不自有。無有不辯造也。猶如有此。三有為有為相。餘者亦有為。摩訶僧耆說。當說此無常的異相異無為相。今亦當有為相。作是說。當說無量。速有為法。問一諸相與三相

相應。問有何等異。答曰。展轉相生。生者已滅。亦復不住。問我有二起等生展轉相生。是故於中不異。或作是說。說已當復說。問有為相無為相當有為耶。或作是說。非此非彼。速有為法。亦當說餘。此非相視有為法。此生此滅。常住不變易。是故不說。彼當說有常當說無常。或作是說。當說有常。問有常相者是為有為。或作是說。當說無常。速有為法。此亦如上所說。或作是說。當說有常當說無常。起常住及彼當言無常。問有無為相今當有為。或作是說。不得說有常無常。以何等故。諸法行成故彼無常。彼法行成是故非無常數。諸法縛著是故非有常非無常。初偈品竟。

尊婆須蜜菩薩所集偈品首 聚離度之二
口口行有何等異。或作是說。無有異。口者即口行也。問設口是口行者。身非身行耶。問若口與口行無異者。身與身行亦無有異。此義云何。少不屬身或是身行。或作是說。文字說文字所載是口行。問若一字非口行者。非與口行相應耶。答曰。一一諸字非口行非相應。如一一字有諸義音響相應。或作是說。有所言是口所作。如口行中從口。行者是口。語言。他有喜有樂有愁憂。當言是口行耶。答曰。非口語使彼有喜有樂。復次但作餘義。義有所思惟。則生喜相。或作是說。口有所說。口思惟行。出口者皆是口行。問若思惟是身行者。思惟是口行。思惟是意行。是故三行無有定處。答曰。我身行異。心行異。口行異。

意行異。問所作行不定處者。復次聲是口行。字數亦是口行也。口字數有何等異。或作是說。口是善不善無記。字數者無記。問若口無記語者。彼字數有何等異。或作是說。字數斷是口非是字數。問云何瘡瘡人與畜生有何等異。欲使彼無口行耶。或作是說。言是口義非字數。問如彼字數亦是義。猶如自然物。如風吹鈴鳴。非口行耶。本入三昧。或作是說。口造業行非字數亦造行。尊作是說。二聲無有差別。二事相行別念知善字數斷是口。敷演深義亦是口亦是口行。二聲俱不異。羅入三昧乃知。以何等故。口善不善無記。字數者唯無記。或作是說。口發由心。然非字數也。問字數發亦由心非不用。心或作是說。妙無妙口所造。然非字數。問字數妙非妙所造。猶如夢中覺及從三昧起。或作是說。口指授教授。然非字數也。問如無記口言非指授教授。我為所造。是故彼善不善無記。然非字數也。或作是說。口身行集然非字數。問字數者亦集身行。尊作是說。當量此二事不見彼不自相。亦不見其功口意等起。生妙無指授。受報兩相須。也。想與識有何差別。或作是說。無有差別。此二俱發出由心。問設發出由心者。必有定處。若無差別者。陰亦定處。答曰。若如汝有三心意時則有陰處。或作是說。此是差別是謂想是識。問名有定處當說自相。或作是說。想為想識為識。問此何義為所作。或作是說。想為想識為識。問此亦是我疑想自知識。識自知識有何等異。或作是說。心即是想心

尊婆須蜜菩薩所集論卷第一 一五四九

①普二並 ②黃一異 ③諸二說 ④遠二還 ⑤問二門 ⑥初偈品 ⑦聚離度第一之一竟 ⑧網註 ⑨尊婆須蜜二二 ⑩十六字二 ⑪聚離度首第一之二 ⑫八字 ⑬口十口 ⑭行一中 ⑮語二諸 ⑯餘二除 ⑰口二日 ⑱尊婆須蜜多羅入三昧乃知拾字明本文 ⑲唯二證

亦是識。問設心當爾者。則無有異想痛心有何差別。或作是說。想憶所作識能自識問彼想為憶何等。若憶。何者是故。想自憶想。若憶餘者。彼則有一緣。或作是說。名憶是想。自相是識。問一法俱有二名字及自相。問設一法俱有二名字者。彼名亦異。自亦異。設名不與相同者。是故想亦自有相。識者憶名。或作是說。外憶為想。自相是識。如此本已說。尊作是說。分別名自想。自想憶識不惟此所作。意名是外。乃至眼更痛及想及心及識。有何等差別。當以此七方便說之。尊作是說。眼綠色生眼識。自相受識。識流馳此諸法。還更以此差降。意有三法。識別與識共。俱彼所得苦樂。造諸想。追本所作。亦是想心所行法。是心此法當言一相。當言若干想。或作是說。當言一相。若識緣青意亦當爾。若不爾者。正有一緣。一緣相應法。答曰。一相無有自相。問忍痛識想分別。心能思维。想亦相知。問一切別。青實其青。想亦相知。心亦心知。識亦識知。此義云何。或作是說。此無量相妙非妙痛。名為想所作。自識所作。自識自相。問無有一緣。尊作是說。當言無量相。設一相者。法則有壞。法則有亂。此無有定處。如此諸法而有自相。猶如此有為法不可得作無為法。無為法亦不可得作有為法。若爾者。世尊出世為何所為。答曰。不以此義佛世尊出。言或使有為作無為。無為作有為。譬如珍寶不可言非珍寶。非珍寶不可言是珍寶。但分別者知。譬如。導方師。非道不可言道。道不可言非道。但導

者能知。譬如然燈。下不可言高。高不可言下。但照明其高下。譬如醫師。藥不可言苦。苦不可言藥。苦。藥各異。上亦復如是。復次世尊為衆生故說此法義。猶如此有為法於三世各有自相得知外相。以何等故。或起或不。此之謂也。或作是說。相有若干。問彼相本無住。是故彼有相生。答曰。本有此相未生。問設本有相相無若干。答曰。如彼不種自生相者。則穢相各各異生。不與同相各未生。是謂相若干。問設彼相已生。若未生者是故。彼各有增減。是故彼本無有而有生。答曰。如來言相無若干。彼則穢相生有異。或不生以此生有異。譬如青異無常苦異各無勝如此亦如是。或作是說。事有若干。此亦如本所說。或作是說。因緣或生或不生也。問或無有緣。答曰。別無有緣。此二不等等生。問初無等語耶。答曰。非不有語。或作是說。三世處或生或不生。此之謂也。未來處是謂未來。過去世是謂過去。現在世是謂現在。問世與行有異耶。設當世別行別者世常住。若世即是行者。是故彼行或聚或移。或作是說。一事不同。或生或不生。過去行者知過去行。未來行知未來行。是謂未來。現在行知現在行。是謂現在。問如彼未來非現在。設非現在常住也。若現在是故。彼未來知有現在則有現在。若彼未來知現在者則無現在。現在者便知現在知有現在。如彼現在移者則有過去。設無過去者則有常有過去。是故汝現在知過去則有過去。設當如現在知過去無有

過去也。汝過去知有過去則無則無過去。或作是說。此為何作是說。此為何作自相相應。答曰。是謂住常已作自相。若常不與自相相應者。則無有世自相生世。問若自相生世者。即彼相生過去。是故世無有常處。答曰。我相未生。未來世未生。不壞現在世。不以生無生為異。是故世有常處也。問若彼相不生亦生非今有。答曰。若今不生亦不生無為。復次常自相相應此亦當無。或生或不生。是謂若無常者彼亦不生今亦無相應。

相作若干種 因緣世如是
一一共相生 本相為所作

猶如此有為法非不無非為不有。無為法非不無非為不有。以何等故。有為法謂之無常。無為謂之有常。或作是說。有為法相有若干。不有無為法。或作是說。有為法作若干種。不有無為法。或作是說。有為法有因緣。不有無為法。或作是說。有為法有世處所。不有無為法。或作是說。有為法有種種別異。不有無為法。或作是說。有為法種種別異。不有無為法。尊作是說。有為法所作相因緣。則因緣相生。因與緣有何差別。或作是說。無有差別。合會所有無。合會則無。即是因與緣。如所說。因即是緣者。是謂生老病死。問設合會有者。彼即是緣。因眼有眼識。欲使彼是因非緣耶。答曰。非眼合會生眼識。有對則有眼識。是故合會亦是因亦是緣。或作是說。合會是因。所作是緣。問若合會作合會者。因非緣乎。答曰。一一所作緣。合會有因。問若一一所作非因者。合會亦非因耶。答曰。一一所作非因合會有。如一

○者二時 ○何二向 ○想二相 ○導二道 ○藥二樂 ○藥二樂 ○別一於 ○是二過 ○問二問 ○[未]

一所作非合會。合會有合會亦復如是。或作是說。自然是因。非自然是緣。問麥所生。牙。牙與麥相類耶。設與麥相類者。欲使四大同。因業耶。或作是說。次第是。因。在遠者是緣。問因緣及次第緣。因緣及次第緣無有差別。若善次第起不善心是因非緣耶。或作是說。不共是因共是緣。問眼不共生眼識。欲使此是因非緣。麥與根。牙共生莖。此是緣非因。或作是說。生者是因。更生是緣。問今生無緣。麥更生無因。或作是說。自長養是因。養他是緣。問若自心生善即為自養。欲使此是因非緣耶。尊作是說。迴轉是說。迴轉是因。不迴轉是緣。

無有合會 自然次第 諸共所生 自身迴轉

云何次第緣耶。或作是說。過去心所念法次第緣也。問未來心中間生次第緣。或作是說。過去現在心中間生次第緣。問未來心中法若久生中間彼次第緣生。或作是說。一切心心法。謂之次第緣。問如今阿羅漢後心次第更生餘心。或作是說。除阿羅漢後心。餘心心法謂之次第緣。問滅盡三昧後心復生餘心。答曰。起心中間次第緣也。尊作是說。若心次第生心者。即次第緣也。何以故。非色心心法有次第緣也。從何法出。何以故。次第少者生多。多者生少。次第緣相云何。或作是說。行施所避是次第緣相。或作是說。照其心是次第緣相。或作是說。次第心性迴轉是次第緣相。或作是說。次第心性。益次第緣相。次第

緣當言定當言非定。當言常定。或作是說。當言常定。問如阿羅漢於今後心次第更生餘心。答曰。阿羅漢非有後心次第緣。或作是說。當言非常定。問則無次第緣。答曰。猶如因緣無有常定必有因緣亦復如是。尊作是說。以觀現在次第緣。彼當言常定。觀現在相次第緣自有常。當言已果。云何得知有無教。或作是說。從所生知。亦作是說。有色不可見無對。問云何審從所生知此非現在。若色不可見無對。無色亦不可見無對。是故汝色無色無有差別。或作是說。常住餘得知見有無教。戒成就彼所作供養。我觀有無教戒。觀彼所作相。問彼非觀所作無教。彼觀所作智教。若作有無教者。諸所有無教。彼一切當觀所作。彼所有教最是妙行。或作是說。事事相觀照。戒律不戒律滅盡。戒有不見戒律滅。見有戒律不戒律滅盡。問非戒律滅盡道亦非戒律滅盡。或作是說。由墮罪知說禁戒時。知有墮不墮者犯無量罪。觀彼有此無教諸犯罪者。問彼非無教憶本所犯。設無教。犯相者乃至無教。彼一切犯罪。或作是說。知有勝不勝者。不觀教則有無教。如觀有為則有。無為。雖有此教我觀彼無教。問彼不盡有勝無勝。若觀一切無勝者。欲使彼有勝耶。設有者則無有勝。若一切妙有勝者彼則無也。或作是說。生天上然後能知習行不犯然後生天上。問云何習行不犯。為數數不犯。能知心不犯。從彼修習行。然後得生天上。或作是說。不知。何以故。彼非智章。彼有教義。住與共相應。況無教

者。彼依經生天。如彼智章無教身。身痛有何差別。或作是說。無教身縛身痛心縛。問彼為身根所縛。或作是說。無教戒數色陰所攝。又身痛者是意法。痛陰所攝。或作是說。二俱無對。增減難說。無教心心不相應行有何種別。或作是說。無教是色。心不相應行非色。或作是說。無教者是物。心不相應行非物。或作是說。無教非智觀物各各成。心不相應行自然法所造

第二偈品竟 胡本題在此理 應題於偈後也

口識有三種 猶如三有為

因緣有四種 無教有三業

尊婆須蜜菩薩所集偈品首案捷度之三

苦由因意得 無智亦有五

色根悉具足 各各有七苦

得心心法因緣。不思惟緣。心心法緣自相欲使作緣。或作是說。無也。何以故。因緣心心法之所攝持。不可使青國覺緣也。外國見聞當覺者。青國有緣。如彼覺青國則有覺。若青有國作緣。因緣自相則有二覺。若覺若餘覺。緣青國攝餘青國。若覺緣青國。彼亦不敢青國攝覺作緣。或作是說。得如所說。如恐怖人不知為誰所恐心。自相作緣。緣亦不自知。問彼非自相作緣耶。設作緣者自知有緣。自相性自爾。或作是說。得如所說。有是想有是心。答曰。是誰想是誰心。若作是說。彼即是緣。若不作是說。是為想是為心。如是心不合不相應。或作是說。得若未來心心法。作緣緣彼即是緣。當熟思惟。彼心心法自相作緣。彼不知

①牙二芽②* ③因二田④* ⑤請一請⑥ ⑦益二直⑧⑨ ⑩犯二化⑪ ⑫無為二為無⑬ ⑭(第二偈...也)十七字⑮(口識有...業)二十字⑯⑰(第二偈...也)十七字⑱(案捷度第一之二)八字⑲ ⑳尊婆須蜜菩薩所集論卷第一終㉑ ㉒尊婆須蜜菩薩所集論卷第二首偈,造號同異如首卷,(尊婆須蜜...三)十六字㉓(案捷度首第一之三)八字㉔ ㉕由二田㉖ ㉗敢二觀㉘

有緣。何以故。不以未來緣造有緣。答曰。彼不自相作緣。若作自相緣者。緣亦有智生自相。而造緣緣不自知。問彼痛自相。而造緣不作緣。痛無處所。痛自相生。現其實頭復有痛。或作是說。得設當不得者則有二。知他人。心。心各各作緣已。心自作緣。是故自然不知此。非是妙。是故已得。或作是說。得設當不得者。心緣心無有究竟。則有因緣。此非是妙。是故已得。尊作是說。得痛相心有何差別。此意識境界不從中得得識。若不得識受自相。此謂究竟。於中有餘意識入。則有壞敗。

不還心恐怖 未來想亦爾
痛及他人 心緣痛此彼

*還心心法。設心心緣。此二俱前後而自作相。或作是說。得如覺青國一時作緣。問此非譬喻。設當作緣者。則有二自覺。或作是說。不可得也。設作緣者。青與覺等無有異也。覺亦復無異。是故是耶。是故不得此非如。或作是說。不可得。何以故。非以此轉而受諸法。非一轉非再轉。故曰為一。是故可得。以何等故眼識不知眼根。或作是說。可見緣眼識。不可見緣眼根。問耳識今知耳根。彼緣不可見。或作是說。攝境界是眼。近者是眼根。是故不知。問鼻識今知鼻根。彼還境界。或作是說。四大是眼。非四大境界。是故不知。問身識今知身根。彼是四大境界。或作是說。依眼。根識非心心法自依是故不知。問意識今不知意根。彼即是依。問不可知。無有一切諸法境界。

或作是說。若眼壞敗是眼識。眼不掩眼。是故彼不知。問此亦是我疑。何故眼不掩眼。答曰。此中無物自然自然所壞。或作是說。不可知。設當知者。諸入則有壞敗。六識未壞時。或作是說。彼非此境界。問此亦是我疑。何以故。彼非境界。或作是說。色自相攝受諸眼識。非色自然非眼根。是故彼不知。

可見以近坐 我依彼四大
掩眼而有壞 境界是色相

耳根可見亦復如是。鼻根可見。當言非近坐。舌根身根可見。彼是四大我所造。當作是說。如此五根色。一切四大所造。以何等故若干相有若干貌。或作是說。無有相貌。猶如眼識。諸所有色一切四大之所造。有若干相有若干貌。無所有故。亦復如是。或作是說。處有勝故。及餘處眼根。乃至身。髮。是故種種根所。以種種相故。是故種種貌。問餘處有一貌。或復有二。欲使彼眼根有若干相有若干貌。一切處盡是身根。欲使身根作若干相若干貌。或作是說。四大所造色歡喜根。及餘四大歡喜眼根。餘乃至身根。於中種種相。問餘四大歡喜一眼。或有餘二眼。欲使眼所視處有種種相耶。或作是說。我作四大眼根及餘四大眼。餘乃至身根。於中種種相。廣說如上。問餘四大一眼。或餘有二。欲使眼根有種種貌。或作是說。行垢所造根。因緣行垢得眼根。餘乃至身根。於中種種相。廣說如上。答曰。餘因行垢而成一眼根。或復成二根。欲使眼根作種種相耶。或作是說。四大之中相應

行。所以有種種相者。以其作種種貌。問或一四大。或二或四。答曰。一切少。通有四大。少多共合。或作是說。四大境界有增減。是故妙四大所造色亦妙。問頗或時地有堅相無堅相。答曰。一切堅相但堅相。但堅相有增減。譬如鐵鉛錫下至金首。尊作是說。始生百物有種種相。所以種種相者。以其有種種貌。

色處諸勝者 歡喜及我造
速疾行相應 自與病生老

眼根相作此等者。有何差別。或作是說。以眼見色見已見當見。是謂眼見。問此亦是我疑。云何以眼見色見已見當見。終不起法眼。不見色不已見不當見。欲使彼是眼耶。答曰。我已說是。設如此像亦是自然。問云何不見是見自然耶。答曰。眼是其貌。或作是說。黑瞳子是眼所照者。問云何得知黑瞳子是眼。答曰。黑瞳子是本。問黑瞳子非其本。答曰。及餘事無所攝。欲使彼是眼。是故此事不然。彼亦當異。是故彼事無所攝。欲使彼非眼耶。或作是說。四大所造色眼根歡喜。因有眼識境界。是謂指授教戒。是謂彼作。問一切五根所造色歡喜。是故彼非眼根自相。或作是說。依眼識。根有眼根依眼識。是謂其事。問諸不起法。是眼識異。不等依彼眼識。欲使彼非眼耶。或作是說。四大是眼根眼識相依。是謂其事。問四大相自壞。是謂四大相自壞。眼根相不壞。一相依眼識造眾事。問如四大自相壞一相眼根。如是我相眼根不壞。一相眼識相依而成。

①還一還②* ③[作]一④⑤ ⑥根一眼⑦* ⑧婁一根⑨ ⑩緣一餘⑪ ⑫相一相⑬* ⑭貌二眼⑮ ⑯根⑰⑱* ⑲通一通⑳ ㉑與一與⑳
㉒ ㉓以二已⑳ ㉔瞳一童㉕* ㉖者二耳㉗ ㉘云二日㉙ ㉚自相一相自㉛ ㉜[根]一⑳

作是說。色香味細滑所纏。眼根眼識增益作衆事。問今五識身各知眼根。或作是說。此非境界。問此亦是我疑。何以故。或作是說。彼非境界。眼根無自相無有數。然後成眼根。問若眼根無自相者。眼無有覺。答曰。知眼數之物。是謂覺知。眼如身數之物。謂之厭足。身厭足者。非四大身有一自相。或作是說。所造色自然。眼識增上現有增減。是謂其事。算數彼時漸漸知性自然爾於中諸入亦復當爾。

觀眼黑*瞳子

歡喜各相依

四大皆集聚

無造無狐疑

五根亦復如是。意根自相。依有何差別。或作是說。意知諸法。已知當知。眼根亦復如是。意識造增上。是謂其事。或作是說。意識相依相。意根依意識。是謂其事。或作是說。或出或沒。五識身意根依識。是謂其事。問無色界不生意識於彼無五識身。或作是說。六識身意識身增上。從增上諸所生識。是謂其事。問名色展轉不相依。復次彼識自相。意根增上。是謂其事。算數彼時。乃至究竟彼性。自然於中意識則有壞。云何爲意。云何爲意識。前說四事。六識身相應意。增上識所生智。心緣彼是意識也。

第三偈品竟

尊婆須蜜菩薩所集偈品首聚捷度之四

如現在痛自身不更。過去未來痛。亦不樂亦不苦。云何得知我苦我樂。尊摩訶僧著作是說。彼痛自然自身更自然識知。問此非譬喻。不見有物自然所迴轉。如有斷絕之物。

能不自相斷。或不自割。指頭自不相觸。此亦如是。尊摩羅囉。作是說。心相應智慧而得知。問設當爾者。自然知自然。一緣相應法。尊彌沙塞。作是說。以心不相應智知之。問若當爾者。則有二智。言有人者。一部名作是說。人知問人亦用智知。設不用智知者。初不知盡當有所知。或作是說。第一義無有知。若苦若樂。言知樂生者。亦是邪慢。言有苦有樂。問阿羅漢如今不知者。彼有邪慢耶。或作是說。痛爲意轉中間。中間我自生識。彼境界於中得知。問如意識性。彼非意識境界。意識者及意識識境界。彼非痛性。云何得知。或作是說。見樂見苦。然後得知。問愚人今亦知。復不有是。是苦是樂。或作是說。依身苦樂然後得知。問如彼依痛已滅。云何得知。是謂依樂痛。是謂依苦痛。猶如彼痛身不自更。云何攝意。或作是說。心已生時緣現在痛。問心欲生時。未來彼非緣未來。是故彼是境界。或作是說。現在心次第以沒緣彼痛。問次第痛沒。亦不知苦亦不知樂。云何得知。或作是說。苦樂

相憑。無復有餘有苦有樂。彼生意中間。境界生意識境界。彼乘識處自性。作識相有苦有樂。況復衆生隨痛志亂。

自然智慧者

人最第一義

志所造痛身

已生苦樂行

猶如此心心法內依外生諸入。以何等故。依內生不依外。或作是說。依內生。問等無礙中依彼生內。然不依外。此義云何答曰。猶如等無礙。是謂內是謂外。問云何此非顛倒耶。

如等無礙是謂內是謂外。如是等無礙已生內非外。或作是說。內有妙事外無也。此亦是我疑。或作是說。內自性成就然非外。問外性亦自成就。如自身色香味。或作是說。內親近非外也。問無處所則無近遠。已還境界二俱相近。二俱相依生。或作是說。內生然非外。問外亦復生。如自身中色香味。或作是說。內造苦樂。問外亦造苦樂。如自身中色香味細滑。或作是說。內有上中下。上中下者。從心心法生。問外亦有上中下。上中下者。從心心法生。復有異響聲與起耳識。復有異大力鼓聲。或作是說。內不牢固。問次第因緣亦不牢固。欲使彼相依生。或作是說。內是增上。問外亦是增上。等無礙中內增上非是外增上。此義云何。一切諸有爲法。各各有增上。或作是說。以內故造苦。然非外。如畫眉點眼而見色。問如所說倍畫使大而視之。高聲語我當諦聽。或作是說。依內諸入。此師意所造與心俱有識依四大。彼各各有勝諸根充足。

自性依微妙

遠近及取捨

下無牢增上

師意識在後

猶如此心心法內依外緣入因緣生。以何等故。內有壞敗然非外。或作是說。此現在事猶如觀彼日影。眼則有敗然日無咎。問此亦是我疑。以何等故。眼有壞敗非日之咎。或作是說。內諸根縛然非外也。問外亦諸根縛。如自身中色香味。或作是說。內有吾我想。問外亦有吾我想。阿羅漢無有吾我想。欲使彼不壞敗耶。或作是說。依內生諸入。然非外也。如上

○依一作○ ○第三偈品竟一聚捷度第一之三竟○ 但作細註 ○(尊婆須蜜·四)十六字二(聚捷度首第一之四)八字 ○問二問 ○(見)一 ○作二非 ○知二如 ○(是)一 ○痛二緣 ○明註曰痛北藏作緣 ○相二想 ○類二類 ○然二 ○字二罕 ○

所說或作是說。內得親近然非外。問此無人處不有入處。安有近遠。已還境界二俱親近。欲使依二生耶。或作是說。內已生然非外。問外亦復生。如自身中色香味。或作是說。自性住者然非外也。問外亦自性住。如自身中色香味。尊作是說。若自依物轉心法。居彼住者外內諸入。彼諸法展轉。生諸根壞敗也。

現在縛諸根 依造有吾我 親近諸所造 自性是我有

如尊者舍利弗說。彼諸賢眼內入無有壞敗。見其色光不諦思惟。亦無眼識深思惟者。何者是。或作是說。次第緣是其思惟。問頗次第緣無耶。答曰。無有不有時。一切識身有現在也。設有現在彼則生。或作是說。自然因彼是思惟。問曰。頗有時無自然因耶。答曰。無不無時不常有等。問曰。頗有不等耶。答曰。非不有等。或作是說。大義思惟。問設無大義者。云何不生識耶。答曰。不生。問若鞭杖捶打彼不起識耶。答曰。以境界力彼識則起。或有不起。如入無想。三昧滅盡三昧。及餘定心者。此亦如上所說。或作是說。發起心者先已說竟。或作是說。心所。憶識則其思惟。此亦是我疑。或作是說。語思惟是其相。問志思惟無有差別。或作是說。心心法與心相應是其思惟。問諸相應法是其思惟。生諸識然識非思惟。此義云何。或作是說。思惟衆生緣生識性起諸縛。此之謂也。

次第有彼緣 因大義照明 希望作衆生 相應及諸智

生彼有思惟有何差別。或作是說。次第緣是彼思惟生者爲生。問彼不生思惟。設當生者無有差別。若不生者。所說非是思惟。非彼眼識得生。此則相違。五事亦復如是。或作是說。彼思惟心法心相應行生。彼思惟生。非心相應行。尊作是說。彼生心轉法彼思惟。復次生者自然造法。譬如炎光前後相因生。云何得知炎因光。或作是說。有炎便有光。無光則無炎。於中得知炎因有光。問若二俱起者。云何得知炎因有光無光則無炎。答曰。炎所生貌然非光。問云何得知炎生光然非光。答曰。炎所纏縛。問炎所纏縛。或作是說。若有炎時光隨時應。此亦如上所說。或作是說。炎壞則光壞。是故得知炎因光。問二俱壞者。云何得知炎壞則光壞。光壞炎不壞。或作是說。炎熾盛則有光。此亦是我疑。或作是說。合會而有。此亦是我疑。或作是說。炎大光大炎短光短炎。此亦前已說。或作是說。炎不淨時光則不淨。淨則光淨。此亦是我疑。或作是說。以見光炎是其本。由是得知炎因光。問是光義故求索油炷。欲使油炷因光耶。答曰。不以光故求索油炷。但以光故求索炎也。以炎故求索油炷。或作是說。非炎故有其光也。相應有光。炎與光最是妙事。問設二俱生是謂妙是謂非妙。此義云何。或作是說。本與炎生光。由是知之。炎因光也。問此非譬喻。不見炎無光者。答曰。此亦非譬喻。如覺彼炎。更相緣時。時無有光。如其光非其炎迴轉。希望覺亦不相生。則有慢意。

時無有光。如其光非其炎迴轉。希望覺亦不相生。則有慢意。

各各壞敗相 希望相應行 達清淨義者 合會如前說

猶如六識身。必依過去自然因。志不錯異緣亦不誤。以何等故。一人非前非後。六識身二俱起。或作是說。一次第緣一識住。問一者識相應一一識相依。或作是說。一者彼思惟一識則相應住。問。設一識相應。此是一識。或作是說。一相依一識相應住者。一識相應一識住。

如一切衆生。必有所趣受報。自作當受。彼有未來現在所造。以何等故。一人不前不後。五有不轉。或作是說。一趣結使熾盛。或作是說。一趣受諸報。尊作是說。識共相應。然後轉一識。諸轉所造報行皆應識種。以是知之。如無有衆生未曾有而生有。便般泥洹。以何等故。衆生無有滅。或作是說。汝莫計爾所數耶。有爾所衆生不知滅。若不計者。何以故不知滅。或作是說。衆生無有窮。是故不知滅。譬如大海水無限量。千瓶往取亦無減。此亦如是。問大海江河及餘泉源皆往趣。欲使衆生本無今有耶。答曰。於異方刹土衆生來到此間。尊作是說。於彼刹土衆生無有滅。此義云何。有衆生遊異方界。執賢聖道出界到界。志性云何。有何等希望。當作是觀。猶如此三聚衆生有損無益。以何等故。三聚衆生不知有滅。或作是說。汝爲計算爾所數耶。爾所衆生無有滅。若不數者。誰知有滅。或作是說。無量所造衆生。此亦如上所說。尊作是說。在處處在處無有滅。此事云何。如阿毘曇說。必

處處在處無有滅。此事云何。如阿毘曇說。必

居一在自 尼生有 何者 憶一意 語二諸 語二說 明註曰此南藏作則 達二達 設二誤 相二根 應一 識一 何十故 說一 莫二算 能二算 處在處二在 處處 滅二滅

有世不疑。有邪聚當言滅盡。設爾者此義不然。如今有此盡。

如此三世一世中未來有損無益。一世中過去有增無損。以何等故未來世無滅。過去有滿。或作是說。汝計爾所數耶。過去未來有爾所數耶。知有滅若不計者。誰知有滅。或作是說。過去已壞未來未生。或作是說。過去未來無有處所。或作是說。過去未來無有限量。世尊作是說。若二法照明。何以故。世無處所。事相應緣生。已生當壞。是其事。衆生增減。乃論者也。故曰。誰計。豆而不說也。本無今有。若有斯言。則亦有答。故皆抑之耳。佛止梵志。亦其事也。聖人之教。遂覺號也。衆生無。棄形而上事也。如入寂靜三昧。無量無邊。遍非盡淨。彼三昧為緣何等。或作是說。無量邊福是其緣。問今不盡淨。答曰。彼不自知。問設自知者。彼緣何等。若淨無量彼非邪智耶。或作是說。不淨謂之淨。訓心是義。問若淨言淨者。訓心不常無常。解說訓心是義。或作是說。一切寂靜此之謂也。彼亦如是。問如今入第二禪。是時眼盡見黃。是故一時自相壞敗。或作是說。淨是彼緣。問誰無此三昧。答曰。思惟無空缺處。有是三昧。問一切三昧亦無空缺處。欲使一切三昧作寂靜三昧耶。答曰。非一切自相相受。非一切造無量相。若自相受無量相者。彼是行人三昧。尊作是說。淨是其緣。彼此相應。如緣然薪起烟。及諸因緣各相依而生淨。如是起諸相應及諸因緣。當作是觀。彼三昧當言不順當言順。如上五事無異。尊作是說。當言非不順漸漸近順。

食謂觀人。然食非人。彼愚觀者為緣何等。或作是說。食是其緣。問彼非愚觀非思惟食。設餘思惟食者。復有餘緣。欲使寂靜無寂靜緣耶。或作是說。人是其緣。問食非是人。答曰。如彼不自知。問設自知者。吾我是緣耶。復次彼愚觀者。食此處所希望求索。彼愚觀當言順當言不順。如上二事說。尊作是說。當言順味愛是對。若依骨。瑣起若干想。自知我身骨瑣。亦復如是。彼想為緣何等。或作是說。骨瑣即是其緣。問身非骨瑣。答曰。此亦骨瑣。瑣即是其緣。或作是說。自身是緣。此骨瑣。瑣皮肉所纏。問彼想非身。若觀骨。瑣想則緣自身。欲使青綠黃色耶。復次義想緣彼自身。分別希望彼相當言順當言不順。如上二事說。尊作是說。當言順欲使有對。

第四偈品。竟。痛及二心。炎影光滅。未曾有聚。青食骨。瑣。尊婆須蜜。論卷第一。

尊婆須蜜菩薩所集論卷第一。符案。屬寶三藏僧伽跋澄等譯。偈品首聚。捷度之五。又世尊言。四事攝人攝人者。其義云何。或作是說。衆生性壞。如彼沙為水所浸。各相相共攝。故曰其義。如彼沙為水所浸。各相

粘著。亦復如是。或作是說。衆生性自壞。以此四事相攝各成辦。是故攝人。猶是作蓋。升攝諸子。此亦如是。或作是說。集聚法。衆生方便故曰攝人。以何等故。其義謂之攝人。或作是說。俱有戒行。或作是說。俱同境界。或作是說。俱同所見。復次勸助義。謂之攝人。又世尊言。無常是無常法。云何無常。云何無常法。或作是說。過去去行無常。未來現在行是無常法。亦當求法。亦當次住。或作是說。過去未來現在行無常。未來行是無常法。亦當往來。彼法。或作是說。過去現在行無常。未來生法不生法。是無常法。彼亦與法相應。或作是說。一切諸行亦是無常。亦是無常法。如所說。因是無常。如果是無常法。問因亦緣餘果。果亦緣餘因。豈彼不是無常無常法耶。答曰。惟因緣餘果。果緣餘因。如因是無常。如果是無常法。問如今因非無常。如今果非無常法。是故彼即無常即無常法。復次諸行迴轉。彼無常。是法。是無常法。

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

又世尊言。諸有塵垢是塵垢法。云何名塵垢。云何名塵垢法。或作是說。塵垢展轉相緣。是謂塵垢法。或作是說。彼塵垢相應法。謂之塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼迴轉法。是謂塵垢法也。或作是說。塵垢雜塵垢。彼所起身行口行。是謂塵垢法。或作是說。一切有漏行塵垢是塵垢法。如其因是塵垢。如其果是塵垢法。尊作是說。衆生不壞造五陰行衆惱見逼。是謂塵垢法。又世尊言。汝今比丘。生老病死。終更受形。生

①(苦薩所集)十

②(無)十邊

③(二)一

④(處)一

⑤(項)一

⑥(第四偈品)竟

⑦(竟)二意

⑧(符案)屬寶

⑨(三)藏僧伽

⑩(跋澄)等譯

⑪(偈品)首聚

⑫(捷度)之五

⑬(二)聚捷度

⑭(第一)之四

⑮(竟)四

⑯(一)二二聚捷度

⑰(第一)之四

更受形。逝死有何差別。或作是說。中陰諸形此是生。更轉陰住。生此是生。中陰壞敗謂之逝。初。死陰壞敗此是死。或作是說。出母胞胎此是生。始入母胎此是更生。形展轉增此是逝。初死陰壞敗此是死。或作是說。卵。稜合會生。此事云何。此諸根漸漸熟。受生化生合會。彼諸根不漸漸熟。類成化生者。若彼命終時。不見其身。稜合會。死已見其身。或作是說。無有差別。當說須臾頃。復次趣往生時。最初受陰生造陰住超越。超越造陰受生處所。是謂爾時命終。住超越造陰受生處所。陰更移轉。是謂終命斷絕。諸陰散落是謂死。又世尊言。諸比丘結常隨從。彼時有死。諸有死是故有數。說是語時此義云何。或作是說。愛隨從彼命終時習行。彼謂死受諸有。欲愛欲受欲陰。色愛色受。無色愛無色受無色陰。已得彼陰。是謂有數。若欲界色無色界。故曰彼有數。或作是說。使所纏諸使纏。受陰受諸有。已得此有。是謂有數。故曰彼有數。或作是說。一切結所使若力勝者。當命終時便自憶彼謂死。故曰彼有數染惡。或作是說。軟色因緣起諸垢。垢色所使中色起。緣色所使起增上結。故曰有數。或作是說。色著色所使。色著色死。為色所持因生色。故曰有數。或作是說。諸欲有所須。為彼所使。方便求索已得竟。是故有數。如是諸有所須便求索。已得彼物彼便死。彼便有數。泥。黎中若。餘惡趣。或作是說。愛所使造有。持。往生老病死。彼有數。或作是說。垢所使結起行。持往有悔意惡

趣中。彼有數。若死時不悔便生天上。或作是說。數演四諦世尊說法。若比丘使所使。是謂死。為現習諦。彼有數。為現苦諦。於是比丘不使所。使則不死。為現道諦。彼有數。為現盡諦。尊作是說。五盛陰非使。唯無明有愛。彼相應五陰纏裹。已纏裹則有數。泥黎若餘惡趣

一切諸愛使 軟色自纏裹

若復有餘愛 行諦後有五

又世尊言。於是比丘色無常過去未來。況復現在。以何等故世尊說。況復現在。或作是說。過去色壞敗。未來色未生。現在色生不壞。彼名無常。若壞若生及未生。況復生法有壞敗。故曰況復現在。或作是說。過去未來色無處所。現在有處所。故曰無常。如其無處所無常。況無處所。故曰況復現在。或作是說。過去未來色不可壞。現在可壞。彼名無常。能使壞者可壞。況復能壞。故曰況復現在。或作是說。未來色未來久遠住。過去色過去久遠住。現在色現在久遠一時住。故曰無常。若久遠住者。若當久遠住。況復一時住。故曰況復現在。或作是說。壽欲終時。世尊故說。過去久遠人壽命長壽八十四千歲。亦有阿僧祇歲者。未來久遠人亦當壽極長壽八十四千歲。亦有阿僧祇歲。如今壽者。極壽百歲。出百歲者少。故曰況復現在。或作是說。此世尊教戒語。況復衆生現在色。言是我所意染著。過去未來未必染著。於中婬意偏多。現無常故。曰況復現在。尊作是說。現在暫現。過去未來不常

住展轉往來。按契經句說。又世尊言。比丘當取塚間五納衣。少易得人無貪愛。云何塚間衣。易得。云何少。云何易得。云何不貪愛。或作是說。人著者少。故曰少。處處易得。故曰易得。是佛所許。人無貪者。價數甚少。故曰少。不從人求亦復無主

又世尊言。比丘行道甚苦。比丘乞求苦。共居苦。彼云何行道。云何乞求。云何共居。或作是說。五盛陰是行道愛身是乞求。結使是共居。尊作是說。如向者語比丘行道苦乞求苦共居苦。衆生於彼流轉生死苦。於此義故說行道苦。於三苦甚苦。身苦行苦變易苦。希望他樂亦是苦。是苦一切乞求。無方便共居苦

處無常法界 生諸著塵垢

使況復現在 補納衣甚苦

第五偈品竟

尊婆須蜜菩薩所集偈品首聚健度之六

又世尊言。如彼偈所說。不可食彼食。以何等故。佛世尊說偈不可食。或作是說。世尊不以食故。但欲教化彼婆羅門。是故不受。問不以偈故說不可食。食非其義。故曰不可食。或作是說。彼婆羅門。淨意慳貪嫉妬。受彼食時。彼便作是念。沙門瞿曇。以食故而說法。如採合詩頌。以錢財故歎譽。乞者如彼良醫歎譽藥草。無病不療。或作是說。欲現神足變化。彼婆羅門。佛為現三變化而教。戒之。尊作是說。以二事故。佛世尊說偈不受取。自現其義。現衆生應受化故。使起謹心

①(生)一〇〇 ②死一便〇 ③疑一膜〇* ④諸一設〇 ⑤(垢)一〇〇 ⑥黎一梨〇* ⑦住一住〇 ⑧使一長〇 ⑨歲一壽〇 ⑩戒二誠〇* ⑪按二案〇 ⑫塚一家〇* ⑬易二勿〇 ⑭他二也〇 ⑮(是苦)一〇〇 ⑯(處無常...甚苦)二十字〇(第五偈品竟)五字〇 ⑰(第五偈品竟)五字二(聚健度第一之五竟)八字夾註〇 ⑱(尊婆須蜜...六)十六字二(聚健度第一之六)七字〇 ⑲(偈品...六)八字二(聚健度偈品之六)七字〇 ⑳首二前〇 ㉑住一住〇* ㉒耕田二四〇 ㉓妬二妬〇

又世尊言。斷欄斷壁而住門。闔。門。闔者義云何。或作是說。於此慢忘依彼門。闔。吾我所造。如婆。嗟種說。如是瞿曇沙門於法化中無有枝葉莖節皮牙。電淨。牢固不可移動。云何於法化中枝葉莖節皮牙。電淨。言牢固者。其義云何。或作是說。戒於此法化中枝葉莖利養是皮。三昧是電。解脫是牢固。問云何於法化中無有戒。無有業。無有利養。無有三昧。或作是說。戒牢固。是故枝葉莖利養。利養是牢固。皮。電者三昧。現其少相。解脫牢固。或作是說。有諸邪見。於此經中枝葉莖皮。電作是說。如是現其義。此非瞿曇世尊法化見牢固解脫牢固。或作是說。戒成就。葉莖現其相類。三昧成就皮。電現其相類。智慧成就現其相。如是瞿曇世尊非以是故修梵行。餘解脫牢固神通之德也。

又世尊偈言。本所更歷。云何色處不相類失本所更歷起慈悲。或作是說。自然。或作是說。威儀自然。戈作是說。以二事故。因本所更歷而起慈悲。自識宿命。或有來告語者。或作是說。如彼事說本因緣也。

又世尊言。於。居。反。叔。驅。樹。喻。爾時二使者。如其實事往語國主已。復道而還。彼云何如其實事。云何復道而還。或作是說。四賢聖諦如其實事。八賢聖道是復道而還。問設道諦中云何。有定處。云。有何別名。答曰。無虛偽者出要為道。或作是說。如其章如其實語。如其所知。復道而還。或作是說。如見諦道。實語亦復如。是如思惟。道復道而還亦復如。

是。尊作是說。四賢聖諦如其實語。八聖道復道而還。此諦相語勸無相物。契經中清淨說是語。案經說。又世尊言。著塚間五納衣。有五事則不應法。臭色壞脆饒風婆羅夜又所居處。云何塚間。云何臭。云何色壞。云何饒風。云何婆羅夜。又。答曰。衣死所纏用裹死人。若臥若被在身。故曰塚間衣。被塵垢汚無色。雖染不成色。不淨臭處熱暑暴。如此衣有希望乃至蠟為首置彼已。天神不往詣。惡鬼近故。曰婆羅夜又。

又世尊言。愛盡欲盡欲盡愛盡。愛與欲有何差別。或作是說。無有差別。愛即是欲。問今無愛盡欲盡。當作是說。欲盡欲盡故曰愛盡欲盡。或作是說。愛少欲多。問欲有上中下愛有中下。或作是說。念食為欲。於彼遂染著。彼是愛故曰愛。問如所說。如痛貪欲愛彼便滅。如是彼痛當滅彼有違。或作是說。得欲未得愛時得便是欲。問今已得無有染。未得無有欲。或作是說。愛取為欲。不愛取為愛。問

*愛取無有欲。不愛取無有愛。或作是說。意地是愛。六身識是欲。問若意地愛。彼欲有何差別。或作是說。內是欲外是愛。問今內無染外無有欲。或作是說。敬是欲造者是愛。問如所說痛中欲者。彼所造是愛則有差違。或作是說。未得已得諸生歡喜。是謂欲已得食欲諸貪著。是謂愛也。尊作是說。和顏悅色是欲。娛樂志悅意迴轉是謂愛。

無有柔軟念。已得而染著。

意及內諸愛。悅色所娛樂。又世尊言。因是有便有是不。因是有非為不。說此語時此義云何。或作是說。現在無明生諸行生過去未來。問猶如此現在無有。或作是說。無明依吾我生諸行。不依則無。故因依此吾我無有。或作是說。不盡有餘無明生諸行。已盡無餘則不生行。故曰此不盡有餘無有。或作是說。一切眾具生無明行無眾具則不生。故曰因此具無有。尊作是說。自憑仰依意增益。故依此說。今非有無有苦諦。當言過去耶。當言未來耶。當言現在耶。或作是說。當言現在。不以過去未來覺苦。問過去已縛。未來當縛。現在或有不縛。欲使彼非苦諦耶。復次五盛陰中起苦諦想。無數世時敷演智慧。苦諦習諦亦復如是。或作是說。當言現在。非以過去未來愛而受有。問過去已辯未來當辯。現在愛非一切辯耶。欲使彼非習諦耶。復次有漏行中起習諦想。無數世中敷演習諦。道諦亦復如是。或作是說。當言現在。非以過去未來道斷結。問過去已滅。未來當滅。現在或有不滅。欲使彼非道諦耶。復次無漏行中已起道諦想。無數世時敷演道諦。

偈詩頌門闔。婆。嗟喜。於叔。塚間衣及欲。因諦各有三。第六偈品竟。尊婆須蜜菩薩所集樂度偈品之七。佛有五眼。及三種生。有為相實。不生有空。又世尊言。比丘我。以佛眼觀彼衆生。利根鈍。

又世尊言。斷欄斷壁而住門。闔。門。闔者義云何。或作是說。於此慢忘依彼門。闔。吾我所造。如婆。嗟種說。如是瞿曇沙門於法化中無有枝葉莖節皮牙。電淨。牢固不可移動。云何於法化中枝葉莖節皮牙。電淨。言牢固者。其義云何。或作是說。戒於此法化中枝葉莖利養是皮。三昧是電。解脫是牢固。問云何於法化中無有戒。無有業。無有利養。無有三昧。或作是說。戒牢固。是故枝葉莖利養。利養是牢固。皮。電者三昧。現其少相。解脫牢固。或作是說。有諸邪見。於此經中枝葉莖皮。電作是說。如是現其義。此非瞿曇世尊法化見牢固解脫牢固。或作是說。戒成就。葉莖現其相類。三昧成就皮。電現其相類。智慧成就現其相。如是瞿曇世尊非以是故修梵行。餘解脫牢固神通之德也。

又世尊言。於。居。反。叔。驅。樹。喻。爾時二使者。如其實事往語國主已。復道而還。彼云何如其實事。云何復道而還。或作是說。四賢聖諦如其實事。八賢聖道是復道而還。問設道諦中云何。有定處。云。有何別名。答曰。無虛偽者出要為道。或作是說。如其章如其實語。如其所知。復道而還。或作是說。如見諦道。實語亦復如。是如思惟。道復道而還亦復如。

①闔=問②* ③壁=壁④⑤* ⑥居=居⑦⑧* ⑨於=於⑩* ⑪居=居⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

根可化易教。少諸塵垢。不聞退法者。猶如此三眼。云何眼。謂之佛眼。肉眼。天眼。慧眼。或作是說。如來三眼者。當言一切佛眼耶。何以故。一切是如來智慧眼。問如今不觀一切衆生。諸所觀者。幽冥處悉遍。算作是說。如來聖智常住不變移。一切衆生。蠕動之類。謂之佛眼。佛眼者。當言善耶。當言無記耶。或作是說。當言善亦是無記。何以故。一切三眼是佛眼。尊作是說。當言善無有錯亂志。佛眼者。當言有漏。當言無漏耶。或作是說。當言有漏。當言無漏。當言無漏。何以故。三眼是佛眼。尊作是說。當言無漏。何以故。不以有漏中間生有漏。猶如此如來十智。何等智是佛眼。或作是說。諸如來十智。彼一切當言是佛眼也。何以故。一切如來是智慧眼。或作是說。法智未如智。是如來常住。不起不移不共。一切衆生。蠕動之類。當言佛眼也。猶如此十力。何等力是佛眼。或作是說。根智者。當言佛眼也。以此知之。或有衆生。利根。鏡根中根。或作是說。是一切十力。當言佛眼。此非如來智。乃至十力。猶如此諸行。無數緣生。以何等故。生者言生。或作是說。生者最妙。譬如以衆多事染衣裳。染者是。人。問等無礙中。是妙。是非妙。此義云何。有染青衣。是故不定。或作是說。雖有此緣生不縛。是故生者。生。問緣有此生緣。所縛生。是故不定。或作是說。初無有實不生。問初無有生及彼緣。是故此非緣。或作是說。非生行生。今合會行生。是故合會行生。或作是說。若生行生如是。彼緣無有方便。等無礙中生所

生非緣生。則有差違。如彼緣法。生諸法。無緣則不生。如是不異。是故當捨此然生。非自然造起諸法。此事不然。猶如此諸行。二生等生。何以故。言一生。或作是說。一者生行。餘生者亦是生。問此亦是我疑。何以故。一者非生。餘行亦是生。或作是說。彼有一因。餘者是果。問雖有各各生。此二非二因。彼亦是果。或作是說。行無二生。問此來事。不相應行多。云何有一生。或作是說。此二俱不生。相應則生行。復次。此有欲意。生自然生。以何等故。生者言生。彼非有等法。或作是說。生者已生行。或作是說。此非生。餘者生。乃生若生有生者。則有流轉生。不絕。若行自生。行已自生。此是自生。彼云何無生者。生是故此義不然。猶如此三。者有爲有爲相。起盡住無變易。云何住者有變易。或作是說。起者名。生。盡者無常住。老者變易。是謂變易。問設彼老有勝者。勝者變易。若無變易。則無有異。或作是說。未來久遠住。過去現在。則有變易。如是住便有變易。問若起未起。變易有勝者。設無有勝。則無變易。復次。無有一物。住有變易。意住有變易。起最初生。死者滅。所生處。各各相遷。身住轉。轉移住。則有變易。此事當言等耶。當言漸漸等。或作是說。當言適等。一時俱起。問一時老變易。則有壞敗。或作是說。當言漸漸等起。所作於彼住。便有變易。漸至盡。俱生漸漸生。復次。作衆行有爲相。更不造行。若得造行者。則有等則俱生。是故一時。生老變易。壞敗。是故此非義。云何爲苦諦。相習諦。相盡諦。相道諦。相。或作

是說。衆惱苦諦。相轉移習諦。相。休息爲盡諦。相。出要爲道諦。相。或作是說。成就爲苦諦。相。迴轉爲習諦。相。轉住爲盡諦。相。能迴還爲道諦。相。

復次。章義作實諦。相。於五陰聚中。洋銅鐵丸。受如此三苦。染著憂惱。如吞熱丸。苦。苦行。苦變易。苦。如彼燒鐵丸。入火與火無異。如是當觀。苦苦。知其惱相。於此苦愛轉行變易。惡趣之處。奔走馳向。是謂等有。觀其習諦。相。行垢造行不縛等。有是謂非等有。當觀盡諦。相。修戒。休息。智慧。生相應。因滅。如是修行。觀道諦。相。以何等故。過去行不復生。或作是說。誰見更生者。若疑過去行。或作是說。已滅不生。問現在復生耶。或作是說。若不相應。彼不生也。問如彼過去相應。復次。一相應成一果。非一相應成二果。是故不生。云何得知。言有虛空。或作是說。此現事。問謂增上。慢空。無根本。現在事得知。亦有不可知。或作是說。無著無生。問有著者。生。則可知。無彼著。則無生。或作是說。設無空者。物無分齊。雖有分齊。是故有虛空。問夢中所見一切物。盡住。若物所容受。容受增容。受彼展轉。彼展轉。是故不定。亦不可究竟。是故無虛空。或作是說。以世俗故。故說此耳。如衆生號。薩睡。那羅未。味。閻摩。納婆。唾。反。或作是說。不可究知。何以故。此智所知。何以故。色與空不相應。無色不與空相應。於此至彼。無所有言。空。是世俗言數。

佛有五眼 及三種生 二有爲諦

○(當言無漏)一○(者)二○(者)二○(者)一○(生)老十八字一○(作)二住○(苦)十(苦)○(慢)二
 符○(無)二(彼)無○(容)受一○(耳)一○(味)二(果)○(唾)二(唾)○(觀)過反一○(反)十(音)○(味)奴流反一○(奴)流反一○(非)十智○(二)二三

不生有空

世間八法攝幾陰幾持幾入。如章所說。有利無利粟利財利衣裳利攝四持四入。色陰所攝。象利馬利男女利攝十七持十一入。五陰已獲所得利。攝法持法入。行陰所攝。有名稱無名稱譽攝聲持聲入。色陰苦樂攝法持法入。痛陰所攝一切世間八法。攝十八持十二入。五陰五欲若苦若樂。當言成就。當言不成就。或作是說。樂當言成就。因彼緣生欲樂間因。緣生苦欲使成就苦耶。或作是說。苦當言成就。世尊亦說。如是摩檀提^{婆羅}衆生欲未盡。於欲苦中起娛樂。樂。相得諸顛倒。乃至契經說。問如今無有生欲樂想。答。曰。顛倒起樂想。或作是說。無有苦無有成就樂。假號言有苦樂慢生。如種種趣。或。有一趣。方俗殊異。思惟生苦樂慢阿毘曇者。其義云何。或作是說。契經偈決生諸法義。理深遠故曰阿毘曇。或作是說。四賢聖諦法能專修行故。曰阿毘曇。或作是說。泥洹是法修行受證故。曰阿毘曇。或作是說。十二因緣十二緣法。能自覺痛故。曰阿毘曇。或作是說。八賢聖道數演彼義故。曰阿毘曇。復次諸縛著解脫永盡無餘。於此義中分別諸法因。有名身句身味身。漸漸著漸漸住漸漸等相應。是謂阿毘曇。諸神形人形而作人聲。當言是人。當言非人聲。或作是說。當言此非人聲。昔見捷陀越國鬼。著摩竭國人語。作捷陀越聲音。語摩竭國鬼。捉捷陀越國人。作摩竭國音聲。或作是說。此是人聲非鬼^{羅刹}。響是人音響。遙知聲

*響。此某甲音響。問非人著人形語。是故有音聲復次當言此非人聲。見過去人。見未來人。亦見方俗。神著人語實無虛神。^阿提離不憶所說。世尊亦說此非阿拘婆羅天子。阿拘婆羅天子說此偈言。魔天波旬著阿拘婆羅天子說此偈言。此魔所說非其天子。以何等故。天謂之鬼。或作是說。居住天上故曰天。如生水中謂之水種。生山澤中謂之山澤種。或作是說。生至天上故曰天。如其乘車謂乘車人。或作是說。宿止天上謂之天。如住城^耶是城^耶人。若比丘著衣食。起欲想瞋恚想。起殺害想。彼檀越主頗有罪無耶。或作是說。彼檀越無有罪。何以故。彼人作罪已不受。問如世尊言。若比丘彼比丘身著衣裳^入無量念三昧專志不移。彼檀越主得無量善業功德。如是契經各相違。答曰。彼不作是心。我作欲想。問不作是念。彼受我物。入無量念三昧專志不移。問彼不作是心。施此人食。食入無量三昧。著檀越衣答曰。若著檀越衣食。彼使獲福。問不應作是說。自身有患。餘人受疼痛。不於中間思惟不淨。有非罪咎。應慚不慚。應羞不羞。彼慚愧羞。當言善耶。當言不善耶。當言無記耶。或作是說。當言善與法相應。問彼不與法相應。可慚便慚。彼當言^法法相應。或作是說。當不善有顛倒想為好。復次當言不善。如是彼說增益魔界。如所說命異身異。諸所生是命。作是說。此義云何。問生者即命耶。命非生是故。命非命。命非命餘命餘身。此事不然。身亦不得異。或作是說。若生是命者

又身非命。是故身非生。身不生時命異身異。身與命各各異。或作是說。生者是命。身者即生。是故身是命。身與命異。對異無有此。若諸法因對生者。此法當言。與法相應生。或作是說。當言生。曾一時見炎光同出。問此非譬喻。如意炎者非光。如光非炎。若俱取者則有二情。或作是說。當言俱相應生。若隻生者無初火自然。猶如彼有薪然無火。設復有火然復無薪。是故當言相應生。問如彼^初初火自然。火當生時謂之然。如生無薪。或作是說。此當言生。設彼隻生者。十二因緣則不順。如彼有無明無有行。如無明滅時彼便有行。問彼十二因緣則不有順。如有無明彼行不生。行生無有無明。或作是說。此等俱相應生。設隻生者相應無有果。果無有因。如俱生無有果。如有果無有俱相應生。問彼俱相應生。彼俱無有果。果無有因。如俱相應生果不生。若果^{不生}不生。無有俱相應生。或作是說。當言俱相應生。若隻生者本亦當隻生。是故當言。本生若不隻生。亦復不俱相應生。亦當隻生。是故當言。本生若不隻生。亦復不俱相應生。永不復生。問非境界因有果。彼相應生隻生。先亦當隻生。是故本當壞。若本不壞俱相應生。亦復不壞是故永不壞。問已生我有壞。是故本不壞。問若隻不生。相應亦不生是故永不生相應俱生。或作是說。當言相應生。先有穀種後有萌芽。問中間穀子盡。若種^子子時則有生。答曰。此非譬喻。穀子腐則無。或作是說。當言相應生。若俱起相應與果二俱

①(彼)十緣 ②相一想 ③[日]一 ④有二作 ⑤痛一悟 ⑥捷一健 ⑦響二響 ⑧提二是 ⑨生一往 ⑩耶二耶 ⑪入二人 ⑫彼二使 ⑬(與)十法 ⑭命十(命) ⑮初二被 ⑯無二死 ⑰隻十(生) ⑱先二光 ⑲牙二牙 ⑳(數)十子

起。此非方便言果證。猶如牛角。問俱有炎光炎因有光。此亦當爾。問此非譬喻。二炎光二俱不可得。或作是說。當言俱相應生。設俱生者。因與果則齊等。問此義云何。答曰。若心因心彼則有齊等。問我心已盡。俱相應在內。或作是說。若一時俱相應果心。彼亦展轉相因。不一時俱生。是故一時盡相應。問或以我過去俱相應在內。或時現在。是故非我過去。或作是說。當言相應生。設有相應生者。如俱相應在內彼無也。俱相應生是果。果亦俱相應在內。彼無相應俱有果。是故俱應生。

又世尊言。如是相像邪命呪術畜生蟲。螺。畜生。呪者此義云何。或作是說。蛇虺。厲毒。唐畜生。是故畜生呪。或作是說。諸畜生趣相應呪。亦是呪如鹿。鳥驚呪降象出。蟠龍。或作是說。一切邪命是畜呪。復次畜生之趣常有餘希望。是畜生呪。解脫名者是義云何。或作是說。解脫縛著淨無染汚解脫。或作是說。心得解脫故曰解脫。復次增上離三界有。故曰解脫。

法欲阿毘曇 二鬼及衣裳 慚愧命相應 邪命諸解脫

又世尊言。痛緣有愛。云何痛緣有愛。或作是說。樂痛起愛。如是痛緣有愛。問云何非求起愛。答曰。彼亦求樂痛有樂痛求是謂樂痛求。問云云何苦痛求起愛著。答曰。彼亦名起。苦緣起樂痛求愛。又世尊言。彼為苦痛所逼娛樂欲想。問云何今不苦不樂痛是愛因緣。答曰。不苦不樂痛

息想不復興盛。自知息想不復更求。或作是說。五愛。獨處愛。不獨處愛。復求他愛。不求他愛。愚愛。於彼樂痛現在起不獨處愛。未起求他愛。苦痛起不求他愛。已起獨處愛。不苦不樂痛便休息想。未起求他愛。已起不獨處愛。復起愚愛。或作是說。苦痛起三惡道上。彼衆生有愛自患。是故身自有愛。以是愛身緣樂痛人所造。是故苦痛愛是緣樂痛。從人乃至遍淨天生彼衆生。於彼已趣我想。是故樂痛是愛緣。不苦不樂痛至果實天。乃至攝有想無想天。生彼衆生於已自起愛。是故不苦不樂痛是愛緣。或作是說。愛樂報處當知痛。如是愛緣此法當言相應起。當言一一起。或作是說。當說相應起。如緣細滑起愛。與細滑相應。如痛緣愛與愛相應。問欲使六入緣細滑耶。與六入相應。或作是說。當言相應起。何以故。亦作是說。眼更痛眼更愛。問眼更苦痛。眼更樂痛。欲使苦痛樂痛與共相應。或作是說。當言一一生。以何故痛緣愛生。非相應法各各相緣。或作是說。當言一一生。世尊亦說。眼更痛緣起眼更愛。然不眼更愛緣眼更生痛。或作是說。當言相應生。有伴侶一一生愛樂報。

又世尊言。如婆闍國^清人。如彼男女強相劫奪。云何他男他女。答曰。妻人自守。若為人未出門嫁。或復出門嫁。有日期數。當出門嫁。當言他女成就者其義云何。或作是說。一切法空則不成就。問如所說人成就善法。此契

經有違。或作是說。諸有所生是成就義。問學法無學法。欲使彼成就耶。或作是說。不滅盡者是成就義。問凡夫人一切法在未盡欲。使彼成就耶。或作是說。形有所得是成就義。問無垢人已得學法。欲使彼得阿羅漢成就耶。或作是說。無棄捨法是成就義。問學人不棄捨無學法。欲使成就耶。答曰。彼已不得。問汝所說無棄捨法是成就義。是義不然。或作是說。設俱得者彼則成就。是謂成就復次不相應衆生法。漸漸有礙縛彼成就。猶如此人能有所忍。寒熱地獄衆生復有冬夏不。或作是說。受地獄苦。彼亦受寒熱自然所逼。如苦酒中蟲在蜜則死。問如是行成此事不虛。答曰。何以故。彼行受此罪苦。問彼身無有苦。何以故。所作因緣不堪忍展轉生苦。以此因緣亦生樂亦生微苦。或作是說。彼不俱有身體瘡癢。有苦苦生懊惱啼哭苦。問彼不命過耶。答曰。行報未盡是故不死。如衆生處胎。以何等故。泥黎畜生餓鬼及天自識宿命然非人。或作是說。彼道自爾。以是自識宿命受陰入。是故彼自識問若彼已得生。餘者何以不自識。或作是說。諸化生者自識。人處胎是故不識。問設化生自識者。餘者一切不自識耶。答曰。一切生時皆自識。諸天染著亦不自識。三惡趣中苦痛切身。意志自識。問此不相類。何以故。亦說化生天子展轉告化生天子所從來生。復次一切無邊亦無定處。或有衆生自識不自識者。或以三昧力自識宿命。或以智現在前彼當言自識宿命。

問一答一 因一應一 螺畜乃至愛六百二字宮本斷缺 螺二卷一 呪一祝一 厲二業一 唐一唐一 鳥二鳥一 蟠二蟠一 心得脫八字一 起一趣一 於彼二彼於一 愛二受一 言一 眼一 以何二何以 樂闍二樂門 學法二生 以故二故以 衆二眾一 自二自一

又世尊言。若有作是想。思惟不淨。未生欲漏便生。已生欲漏便增。設爾思惟者。欲漏為增耶。或作是說。若未生便生。已生不復生。於中便增多。問前生不住。或作是說。彼不為多。復次如。未生前境界最初中。如是未生便生。如奔走境界。如是增多。或作是說。彼不為多。但依少有中便增是增多。復次得一物修行。斷諸著人。不相應縛。選擇。結使。

愛著相應行 希望取他妻

二俱憶宿命 無漏有四種

云何種種論。云何畜生論。或作是說。種種論者。復種種論是故種種論。如王論。下至賊論。畜生論造畜生論。如所說。如論如象廣說。或作是說。無因緣論種種論。無儀論畜生論。復次諸論者。無端緒。無因緣。無所應。無有處。是謂種種論諸所論者。趣畜生及依餘。是謂畜生論。種種論者。謂畜生論者。有何差別。如前所說。復次諸種種論者。及畜生論。非種種論諸所論。昔所更歷生死。亦是畜生論諸所論。是謂畜生論。以何等故。等越次取證。先從法得喜。然後佛。或作是說。先修行法。修行法已。是微妙法得法喜。歎一切智。乃說此微妙法。然後得佛喜。彼善住。住此法者。彼更得喜。復次等生法智忍。當言法喜不可壞。如彼法喜。彼得佛喜。如所說於苦無恨。於佛法僧是等得喜。

又世尊言。若比丘觀十二緣起。彼則觀法。云何觀十二緣起。彼則觀法耶。或作是說。觀十二緣起。亦觀法。時不觀人。或作是說。觀十二緣起。如實觀之。如人見諦。此謂之法。復次觀十二緣起等。越次取證。彼已越次取證。則見賢聖法。證見十二緣起。彼一切觀法耶。設觀法。彼一切觀十二緣起耶。或作是說。諸觀十二緣起。彼一切觀法也。設觀諸法。彼一切觀十二緣起。觀十二緣起時。彼亦觀法。觀法時。彼亦觀十二緣起。或作是說。頗觀十二緣起。不觀法耶。以世間智觀。不等越次取證。頗觀法。不觀十二緣起耶。空解脫門等。越次取證。頗觀法。及十二緣起。以是緣觀。無願解脫門等。越次取證。頗不觀法。不觀十二緣。除上爾。取事則其義也。復次諸觀十二緣起。彼一切觀諸法也。頗觀法。非十二緣起耶。及諸方便行。

又世尊言。諸比丘。我不與世俗。世與我。云何世俗與世尊。或作是說。世尊。世尊。是故世尊不與世俗。俗無此心。我護世尊。或作是說。以二事故有。諍訟。起貪欲受。意不肯離。邪見取纏。甚著愛欲。如此法世尊。以盡。是故世尊不與世俗。世俗。未盡。是故世尊。或作是說。猶如惡馬不隨正路行。如是世俗與世尊。諍。

如尊者羅吒婆羅。說彼微法言非法。云何為微法。或作是說。如王法。輸財。或作是說。如諸長者。升斛稱寶。復次如法難達甚微。如貪利強言。作想。希望利。不親強親。託病求物。比丘佐助眾事。詐病所須。取服胡麻子。或詐言狂癡。求索無厭足。及諸非法。現在前者。諸病皆求利。是謂微法。

又世尊言。諸比丘。此八部眾。刹利眾。婆羅門。眾長者。眾沙門。眾四大天眾。三十三天眾。魔眾。梵眾。以何等故。餘諸天。不言是眾。或作是說。一切是眾。世尊。但說此世間不可思議。或作是說。是世尊勸化語。然此諸眾。數來會盡。流諸天。至世尊所。或作是說。此眾則盡。說八。復次方便集會。皆成眾事。於彼眾。皆有數。皆成眾事。故曰八部眾。以何等故。物近眼不見。遠則見。然耳則聞聲。或作是說。此非方喻。境界法爾。或作是說。無所到是眼境界。是故不與耳同。復次。明是眼伴。曉了諸色。近眼失明。境界不復得明。

種種論歡喜 觀彼彼觀我
無諍世自諍 八部眾觀色

又世尊現其義。漸漸教化。是故世尊不與世俗。諍。以何等故。名阿耨摩。是賊盡其力。後逐世尊。然不能還。或作是說。世尊前地。卷後舒。或作是說。世尊威神。使彼身重。或作是說。諸天使彼身重。或作是說。神足境界。不可思議。復次世尊於地上。化使無色。肉眼所不見。是故世尊行疾。自在解脫。如是行時。非人能測。

得等諦第一義諦。定無有疑。不可沮壞。或作是說。得是世俗義。故曰等諦。不曉了世俗。是謂第一義諦。或作是說。名等諦。說義。名第一義諦。復次。曉了眾生心意。故是等諦。有此因緣。曉了心意。是謂第一義諦。得名苦諦。習諦。定無有疑。不可破壞。或作是說。得五盛陰。是苦諦。愛習諦。問愛亦是陰中。或作是說。五盛陰。是苦諦。行垢是習諦。問行垢亦在陰中。

①未二來 ②結使二法便 ③僧二增 ④時二則 ⑤證二諸 ⑥取二所 ⑦諍二爭 ⑧下同 ⑨惑二敏 ⑩怒 ⑪但二 ⑫未二志 ⑬尊二俗 ⑭〔彼〕一 ⑮輪二論 ⑯升二斗 ⑰解二解 ⑱諸病二託病 ⑲諸痛 ⑳但二 ㉑世二苦 ㉒沮二沮 ㉓習二若

或作是說。果是苦諦。因緣是智諦。問果緣他果緣他果此非是苦是習耶。答曰。苦即是習習即是苦。如果是苦如緣是習。問如果非習如緣非苦。是故苦即是習。習即是苦。復次得五陰有漏苦習。問修行苦時。亦有修行習耶。答曰。修習時不修行苦。唯修行習得智通達。定無有疑不可破壞。或作是說。得諸智耶。知彼是智。一分別是通達相問智由他知智。彼即是智耶。通達亦復如是。或作是說。智即是通達耶。或有通達非智知解脫物。復次若智耶。知及餘自然。即是其事。此無定義。得味。定無有疑不可破壞。或作是說。得味即是義味。諸法是謂味。問味非其義。云何義非其味。或作是說。一義之中有若干味。是故味異義異。問一味之中有若干義。義非味乎。或作是說。味即是義。或義非味。味解脫物。復次味即是義。或處處有味。如彼所說。緣無定處自相相應。相如上說。因。與緣如前所說。得十二緣起。十二緣起法。定無有疑不可。沮壞。或作是說。得如契經所說。此十二緣起。如性法法常住。廣說十二緣起法無明行。問十二緣起諸緣起法。或作是說。十二緣起因。十二緣起法是果。問因非果。果非因。十二緣起非十二緣起法耶。或作是說。十二緣起十二緣起。法起。問起亦是十二緣起。或作是說。若十二緣起。是十二緣起法耶。或十二緣起法。彼非十二緣起諸起。空寂法。或作是說。諸法生時。是十二緣起諸法。已生十二緣起法。問如是者義無有定。十二緣起即是十二緣起

法。或作是說。與十二緣起相應果。實是十二緣起法。或作是說。已生諸行是十二緣起。彼諸法生由十二緣起。問彼所生不由十二緣起耶。復次諸法自。應爾。十二緣起不造自相味相應法。微妙法。成就授決有何差別。或作是說。平等說如實無虛。或作是說。十二緣起是平等法。成就十二緣起相是授決法。或作是說。說四聖諦是平等法。順從四諦是授決法。或作是說。最勝功德是平等法。弟子功德成就就是授決法。復次語不。猶是平等法。語無狐疑成就。是受決法。慈孝於父慈孝於母有何差別。或作是說。恩慈於母孝養於父。故無差別

等智苦諦 智義自相 緣起十二 慈孝父母

云何眼識意識分別。或作是說。以是因緣。彼境界如是。眼識意識分別。問不壞意識耶。答曰。如倒彼眼識界有意識界。然界不壞。如是。倒彼色入法入不壞。或作是說。有眼識意識分別。彼相類造。是故造境界是意識。問云何造相類。設更眼識憶不忘失。彼即不分別耶。設不憶者。云何不憶造色相類。或作是說。非更眼識意識分別。設當分別識入則壞。問境界壞。答曰。亦說境界壞。或作是說。非更眼識意識分別。何以故。世尊亦說。以二緣故。生識意識生法。設彼更眼識意識分別者。則增諸入。意。意聲亦復如是。問多有諸入。或生一或生二識。雖有一物。意識緣。相多痛生識。是故彼有多。或作是說。若眼識定青。意識亦

定青。相類識是眼識。此意識此是眼識。云何。答曰。若眼增上者。彼是眼識。若意識增上者。彼是意識。或作是說。設眼增上不相應。緣青起識。意增上彼不相應。緣青起識。是故相應。壞果無有壞。問如彼眼增上及相應。或起諸識。或黃相應壞果壞。如是眼增上及相應。意增上定青起識。有相應壞有果壞也。云何世尊知彼衆生宿命。或作是說。劫燒流轉衆多衆生。生果實天。於彼各自相告語。本宿命。以是得知。問若衆生不生彼。不自識宿命。從此已來。經歷皆不知。或作是說。衆生之類曾止住。自識彼宿命。餘不止宿者。觀察便知。問一切不共行。或作是說。自校計思惟則知。彼意上已說。或作是說。佛境界不可思議。或作是說。十二緣起善分別說。或作是說。自識宿命智。知其力勢。或作是說。微妙智得其力勢。復次各各別異於彼。如來神智便生。得阿惟三佛。故曰常住。如所說難陀摩陀優波夷說。尊者我夫無常。犯戒惡法生。餓鬼中。其婦人夢見夫主。云我生餓鬼中。云何餓鬼夢中作是語。或作是說。化作人形不作本象。造如是貌。問如今云何造。或作是說。餓鬼夢中不作本形。昔造因緣有其力勢。又盡思想夢。轉見形。言觀形。象。復次睡眠志不如本狂有所見。或聞惡聲響。諸法定有。彼一切法等定。耶。定。設諸法等定。耶。定。彼一切法定有耶。或作是說。諸法等定。耶。定。彼一切法定有耶。頗彼法定有。彼非等定。耶。定。自相定有。復次當言非諸法等定。耶。定。餘人當言。等定。耶

①知二智 ②與二與 ③(法起)一 ④(相)十應 ⑤應二相 ⑥法決二決法 ⑦獲一獲 ⑧[是]一 ⑨受二授 ⑩(孝)一 ⑪倒二到 ⑫是二見 ⑬一 ⑭相二想 ⑮經二運 ⑯知二得 ⑰波二婆 ⑱象二條

定。達囉名者何等法。或作是說。報施之法名曰達囉。導引福地亦是達囉。問非以所施而生上界。如所說生上界者。善功德報。是達囉業。或作是說。施法果報是達囉法。故曰說檀囉法。問非以施法果處所。復次割意所愛。成彼施處。於今所養義是檀囉。秦言財施法。如餓鬼檀囉。以何等故。佛世尊是大法主。或作是說。如王攝統國界。誅斷刑罰。如是世尊為諸聲聞斷疑網結。故曰法主。或作是說。如王典國民無不順。如是世尊一切善法無不成辦。故曰法主。或作是說。如王典國所作自在。刑罰榜笞皆悉自在。如是世尊於聲聞中法得自在。療諸惡趣。故曰法主。或作是說。如轉輪聖王施貧窮人衣裳寶物。如是世尊無財衆生施以七寶。故曰法主。或作是說。正法之主。故曰法主。或作是說。如所說梵相應契經。我所覺。寤法善誦誦念供養承事依彼住。如所說云。何如來至真等正覺王法比丘。世尊告曰。以此契經義故。曰世尊法主十六婆羅門。阿逸是其云。何得知。世尊有方齒四十味。味皆別。或作是說。或觀一切種好三十二相。盡知一切相。然後得知。復次算數者。如觀掌器無不分別。觀方類車師子臆。知方齒四十味。味分別。如二因緣攝生死受諸行報。無色界衆生。以此因緣與欲界相應。不成就行垢。云何彼沒生此間。或作是說。過去行垢來生此間。如彼不成就。云何來生。答曰。若退轉時便得成就。如阿羅漢不成就一切結。從阿羅漢退轉時復得成就諸結。問阿羅漢云何成就諸結。或作

是說。善根功德空無有不解脫。不善根無所還。問如欲界中餘善根滅盡。以何因緣彼善根滅。何等故復還善根。或作是說。欲愛未盡便生彼界。問如所說外神仙異學欲愛盡。說欲愛已盡。問愛未盡苦當言盡。如所說在塵土戲童女厭之便棄去。後愛未盡便有盡名。如所說。乃至死便盡。如人言有吾我。或作是說。處處有一切結於彼亦有欲界結。問若處處有一切結者。界有壞敗。答曰。猶如此間有無色界結界不有壞。如是彼間有欲界結界不有壞。或作是說。如於此間漸漸增益。彼間漸漸減。如於此間親近界便與彼合。問說。往彼起欲界結不為終耶。答曰。如住此間起無色界結。彼則不終也。如是彼間起欲界結。則不終也。問住此間起無色界結。欲界中色則不滅盡。則於彼間終也。問我喜言無色界有色。是故彼間起欲界結。無色界色不盡。彼便終。如阿羅漢於色界化形往至色界。欲界形體都在不除。欲使作彼形取阿那含。生有想無想天。入不用定。賢聖道現在前。欲作是言彼終耶。復次彼行陰所纏欲界使熾盛。依彼行陰。於我愛未永盡愚癡不除。是故生此間甚著不離。非過去行而辯衆事。

相有二貌行 四行亦有二
四無明愛使 相應及有弟
是謂初偈第一品始攝以結捷度
識是世尊母 邪聚及檀囉
十六婆羅門 生死是因緣此舉七品終結捷度
尊婆須蜜菩薩所集捷度初竟

尊婆須蜜論卷第二
尊婆須蜜菩薩所集論卷第二
* 尊婆須蜜造
符秦闍寶三藏僧伽跋澄等譯
心捷度章
又世尊言。彼心意執持不去乎手。非二心齊等。云何心意執持不去乎手。摩訶僧者作是說。心自然持問攝不善心非善攝不善。曇摩囉作是說。心相應智慧攝。問不善心善智慧攝。非善智慧攝不善心相應。尊彌沙塞作是說。心不相應智慧而攝。問心不相應智慧非心非意。如所說心意所攝。持跋次子作是說。執持人心。問人無心意。如所說攝心意。或作是說。修不善心時善心因緣便斷。如是彼心乃至不生。如是彼心則有所攝。問不善心修不善心時。善心緣斷絕。欲使善心成不善心耶。答曰。非不善心知善心因緣。或作是說。思惟增益心不淨。猶如為欲所縛。思惟欲欲不淨。彼欲漸少。問欲與不淨二事不異。或作是說。思惟校計心有亂。思惟心不有亂。如是彼心則攝。問非思惟不淨。及心有亂則等清淨。或作是說。心意生時緣現在心。如是當言心有攝持問心已生未生不緣未生。或作是說。不善心意作大方便。不順住不善心取其緣。如是攝持彼心。問如不善心不作方便。如其方便無不善心。是故方便無有定處。或作

①達囉二囉囉 ②下同 ③秦一此 ④主二王 ⑤寤二悟 ⑥減二滅 ⑦住二住 ⑧終二結 ⑨入二入 ⑩辯二辦 ⑪行二大 ⑫弟二第 ⑬邪二耶 ⑭尊婆須蜜...竟 ⑮十二字二(緊捷度第一竟)六字 ⑯此下聖本有光明皇后頌文 ⑰(菩薩所集)十論 ⑱二二 ⑲三三四 ⑳首十(品)㉑首十(第二) ㉒者二祇

是說。過去不善心意有處所。穢惡。厭不用心

常避。如是彼心則有攝持。問此義不然。如二人相倚。人執持。復次然二心俱等。不有疑

錯。如燈燃見明。復次當親近善知識。衆生類聞正法。思惟校計。善心因緣轉增。益。轉著

展轉相。依漸漸多。如是等相應力有增。益。彼力利不善心不普廣修行。修行善心遂有增

益。如是彼心則有執持。如所說心廣有覺心微有觀。云何心廣。或作是說。有覺心盛。心盛

則廣。是故心廣有覺。或作是說。五識身廣。意識身微。或作是說。不善心廣。善有漏微。或作

是說。不修行心廣。修行心微。或作是說。見諦所斷心廣。思惟所斷心微。或作是說。造彼造

廣。便有微。欲界相應心。大色界相應心。微。色界相應。廣無色界相應微。或作是說。泥。黎

心廣。畜生心微。畜生心廣。餓鬼心微。如是相像。乃至有想無想天。當是說。復次阿毘曇說。

選擇三界心展轉生造。廣照明有覺與梵天相應。更不出梵天。齊是說何。以等故。五識

身有欲愛。然非無欲。或作是說。如契經所說。眼見色愛著好色。問眼見色意識地愛著。

當如所見。說彼契經。眼見色根成就見。不淨思惟校計。欲使五識身無有欲耶。或作是

說。如所說此六愛身及眼更愛乃至意。問眼更因緣起意地愛。彼有眼更愛。如所見說。思

惟六識身。欲使五識身有歡喜耶。或作是說。五識身無三昧。心無三昧。心中結則熾盛。三

昧心不解脫。是故五識身有欲。非不無。故。問不一切等有欲愛。設當一切有者。阿羅漢

亦當有愛生。彼阿羅漢於五識身中無有三

昧。修行心意便生欲愛。如色愛無色愛。如所喜一切大地相應。非五識身中有三昧耶。

或作是說。不方便求。五識身便有結。便求使欲不生。是故五識身有愛非爲無愛。

問若我等不勤求者。是故有欲。一切盡相近有方便求。是故一切盡成就欲。或作是說。無

有處所便有。五識身生。結使亦生。非不。欲有欲便有欲盡。是故五識身有欲非爲無欲。

此亦如上所說。或作是說。觀色欲使縛眼識迴轉。不於中間廣出義。方便修七覺意。住求

無欲。是故五識身欲非爲無欲。或作是說。五識身中不越次。親近共住中間。中間生意識。

彼則有愛。彼一切是五識身全越次。彼五識身休息。五識身觀不淨欲使無欲。是故五識

身有欲。非爲無欲。或作是說。身亦不有愛。亦不無愛。何以故。世尊亦說。

典六增上王 於染甚染著 不染便無染 染者謂之愚

問我受此語。思惟染便有染。思惟不染便無染。以此契經五識身亦不有欲。亦不無欲。此

義云何。答曰。若無護喜五識身。思惟染便有染。思惟無染便無染。是故以此契經五識

身亦不有欲亦不無欲。或作是說。五識身不錯誤設不錯誤。若有欲若無欲。是故五識身

亦不有欲亦不無欲。問彼相應法有錯亂。無色界無有錯亂。欲使彼亦不有欲亦不無欲。

耶。答曰。諸相應法或有亂或無亂。此義云何。無色界計有吾我便有愛。復次自相所攝五

識身。不言自相。欲無欲。是故五識身亦不有

欲亦不無欲。猶若此心所念法俱相應生。云何相應義。故作是說。乘載義是相應義。問眼

識。招致意識。欲使眼識與意識相應耶。答曰。此依餘不與同。問如所說乘載義是相應義。

此事不然。或作是說。不移動義是相應義。問四大不移動。欲使彼各相應耶。答曰。此非因

緣。問如所說。不移動義是相應義。此事不然。或作是說。有因緣是相應義。問眼識緣意識

有因緣。欲使彼相應耶。答曰。彼依餘。問如所說。不移動義是相應義。此事不然。或作是說。

有因緣是相應義。問眼識緣意識有因緣。欲使彼相應耶。答曰。彼依餘。問如所說。不移動

義是相應義。此事不然。或作是說。一因緣義是相應義。問有衆多衆生。觀月初出。欲使同

一緣相應耶。答曰。彼依餘。問如所說。一因緣義是相應義。此事不然。或作是說。所有希望

義是相應義。問壽命煖氣生。欲使彼相應耶。答曰。此無因緣。問如所說。壽命煖氣是相應

義。是事不然。或作是說。俱生義是相應義。問心不相應行等生。欲使彼相應耶。答曰。此非

因緣。問如所說。等生義是相應義。是事不然。或作是說。一起一住一盡彼相應。此亦如上

所說。或作是說。一希望一因緣一時造。是謂相應。問此義云何。答云。依一緣一時造。或

作是說。一事所須義是相應義。問忍智是一。欲使彼相應耶。答曰。彼非一時造。問如所說

一事義者是相應義。是事不然。或作是說。千義是相應義。識所適處各相開避。心所念

一○厭一載○ ○燈燃二然燈○ ○彼二微○ ○大二本少○ ○廣二造○ ○黎二翠○ ○身十(言)○ ○故二欲○ ○(欲) 一○住二任○ ○說二記○ ○識○ ○說十(五識)○ ○護二觀○ ○(有)十欲○ ○云二日○ ○千二十○ ○明註 日千字北藏作十字

法則有、選數。或作是說。無有相應。何以故。彼非一切不俱生。問如所說心所念法。與心相應。與心縛著。依心迴轉。彼有違。亦說俱生痛想念。彼所說不與相應。亦不俱生。如是彼無惟說無相應。亦說見諦信不壞智相應。問若相應聲。二比丘亦說。小有諍訟與共相應。欲使彼共相應耶。若已念聞聲是念者。亦說眼色以二因緣生。念法識更樂痛行及因緣。欲使識是念耶。若與聲俱生者。亦說比丘心俱生。毘摩質阿須倫頸有五縛。而自觀見。欲使彼心俱生耶。誰依意識。或作是說。五識身已生依盡。問無色界中不生意識。彼無五識身。或作是說。依六識身。問色有增減則不可知。或作是說。心左右四大依意識。問彼視色無有增減。或作是說。一切身四大依意識。問所造色無有增減。答曰。以彼四大便有依名字。尊僧迦蜜作如是說。自根依身意識見一心一切自根。身心所作處處有勝。復次心俱有四大。當言依識。識與彼四大各各相依。如索繩。繩

如菩薩夢見五事。如彼識為依何等。或作是說。見聞念知是其緣。問彼初不作如是大夢。夢見纒麗木在臍中生。問我聞阿須倫作如是大臥具。我亦聞婆修提婆躄中生大蓮花。或作是說。曩昔三耶三佛作如是大夢。彼聞某甲授決時。彼是識因緣。或作是說。彼識見聞念知本亦經歷。彼非不有緣。晝想夜夢。是故彼夢彼識。當言顛倒當言非顛倒耶。或作是說。當言顛倒。本無今造。復次當言非顛

倒等正覺果。如菩薩所說安詳降母胎。安詳止住。安詳出母胎。云何菩薩降母胎。云何止住。云何出母胎。或作是說。彼降神時便自知我處母胎。止住時便自知我止住母胎。後出胎時便自知我出母胎。次降時亦自知是我最後處。母胎住亦自知最後住更不復處。出母胎亦自知更不復入母胎。彼安詳心。當言相應當言不相應。或作是說。當言相應。如所說。我安詳降神。問著所生心不著是安詳。云何著與不著相應。或作是說。當言不相應。何以故。生心染著不染著心是安詳。是故著不與無著相應。問云何今安詳降神。答曰。自知身意。如所說。先起安詳心。後生染著心。復次本亦有安詳。與中陰心相應。觀身漸厚

生心。與何等著相應。或作是說。與欲相應。問若爾者無入地獄。或作是說。或與欲相應。或與瞋相應。或作是說。生惡趣中者。彼與欲瞋相應。生善趣中者。彼不與染著垢相應。善心便生天上。復次不與諸垢著相應。生心與本行相應。如瓦陶輪。當作是觀。以何等故。身根言是身識緣非因。或作是說。有瞋恚身根。無瞋恚身識。非瞋恚無瞋恚緣。問有瞋恚是四大。無瞋恚無教戒緣俱。或作是說。集聚是身根。不集聚是身識。非集聚無集聚緣。問無集聚甚微。欲使微因心耶。或作是說。色是身根。無色是身識。色非無色緣。問設當有色便有因。善不善心無色。欲使善是不善因耶。或作是說。處所是身根。無處所是身識。非處所無處所緣。或作是說。無境界是身根。有境界是身識。非無境界是境界緣。或作是說。若

身根是身識緣者。乃至身根彼便有身識。是故有一根。或作是說。若身根是身識緣者。身根生身識。是故身根有差違。或作是說。若身根是身識緣者。則有因緣處所。不有因緣有增上緣。或作是說。自然因無自然身根身識。復次彼非自性亦非迴轉。及他衆生迴轉。如一切心四因緣生。有阿羅漢最後緣心。以何等故。阿羅漢最後心不還。或作是說。次第中間希望因緣。彼非後心次第緣。或作是說。有希望。或作是說。所生因希望。復次於彼後心。有四因緣果於彼數。當作是說。不於中間當有無明。有愛當來受此非緣。言阿羅漢有如所見法。心意所迴如是身壞。以何等故。阿羅漢善無記心終不還。或作是說。中間緣有希望。或作是說。希望有違。或作是說。因希望。復次以二事故。於現法中心性得還。或以本行。或現在造。當來亦有。以三事故得還。行垢得還。行垢自然。阿羅漢無有行垢。是故阿羅漢不迴轉

心定覺觀法 無欲相應意
睡眠諸義起 造生四因緣

願五識身有顛倒行耶。或作是說。有。如旋。杖輪。眼識謂是輪。問非眼識謂是輪。色自相境界眼識意識謂是輪。或作是說。五識身有欲。顛倒性有欲。是故五識身顛倒。問當言非顛倒。如樂痛言有樂。或作是說。非移動五識身。非以移動。當言有顛倒見。問不移動亦是顛倒。如於色生邪見。復次自相攝五識身。不顛倒攝自相。是故顛倒移動

◎選二算◎ ◎小二少◎ ◎以一已◎ ◎疑一疑◎ ◎想一相◎ ◎現一見◎ ◎杖一枝◎

如非一心。選擇有勝作是得是。云何不善心
 心避不親近者。善威儀一心者僧名。作是說
 曰。若心意空轉轉有實。虛空一心彼便有選
 擇。問一心無有選擇。此事不異便有增益。以
 選擇無增益。或作是說。非一心選擇有勝意
 有選擇。問如一心不選擇勝意不有選擇
 耶。答曰。如一心意有多。如是一一心無衆
 多。有選擇衆多。或作是說。第一義無有心。選
 擇行亦無不善。便生善心於中遊。復次善心
 以生則無有不善心。問作是不得是。復次心
 有選擇。不應作是說。吾我自性自累。教化衆
 生便有和合。以作選擇見功德。彼避不善緣
 妙行善威儀與儀相應。頗有一心不在。此彼
 自相不前不後作緣也。或作是說。有譬如五
 欲發意相緣。欲使一時周遍耶。答曰。無有自
 然五欲一時周遍。設當緣者便有三痛生。或
 作是說。譬如青青謂青國。意一時作緣。問此
 非譬喻。若當作緣。如青則等如覺則有耶。是
 故彼有等是故彼有耶。復次作識想心當言
 無也。非以本作。有餘識非一迴有二轉。惟有一
 我是故無也

如一切衆生。一一心迴轉一自相境界。過去
 未來心不憶不知。云何得知種種二自相。或
 作是說。由義說得知。問設復說義。云何得知
 或作是說。餘各各心空彼無所有。便得知一
 心。憶本所更由是得知。知。問若一心憶彼便憶
 青非黃一誓願或作是說。一一取自相。和合
 取二相。由是得知。復次我自性意所一一相
 方便迴轉。如青發黃色。有種種二相非所。自

相方便無。色界沒生色界時。云何欲界相應
 心。所念法得成就。或作是說。希望得不疑希
 望。是吾我欲界心所念法。問無漏心所念法
 有希望。欲使無漏心所念法得成就耶。或作
 是說。得生便有彼生。解脫欲界心所念法。問
 彼無漏心所念法亦復解脫。欲使得欲界成
 就無漏耶。或作是說。得生有有是欲界心所
 念法。亦生欲界。問生欲界中起無漏心所念
 法。欲使彼得無漏成就耶。復次必化作欲界
 形。欲界心所念法迴轉。無色界沒生色界時。
 諸欲界心所念法得成就。當言彼心無威儀
 耶。當言伎術。答曰。當言彼伎術當言威儀。諸
 化化形彼是伎術。處化住處心非有移動。當
 言威儀無色界欲沒時。來生色界諸得善根。
 彼善根與誰相應。云何得彼善根。或作是說。
 彼善根色界相應。便得希望已得生必得生。
 不疑定生。得。復次當言欲界相應當言色界
 相應。得色有有本所觀。觀。近生不得過去。
 當觀亦還時。云何得知。一切心與十大地相
 應。或作是說。若彼無痛者。則無痛界。亦無想
 者則無心。若無念者便無心。無更樂者則無
 此三法。無思惟者則不生識。若無欲者一切
 心所念法不生。若無解脫者則無解脫。若無
 念者則無境界。若無三昧者心則有亂。若無
 智慧者境界不可分別。復次阿毘曇必有實
 相。依因緣等生諸法相應。一一相應不一相
 應。觀心果也。以何等故。生心不得報。或作是
 說。設生心有報者。便迴轉非以報有報。餘者
 有還是彼非報。問報有福報如所說不。住。乃

至。智知有福報有所照。或作是說。染著生
 心。不染著是報。是故非報。問染著有報如所
 說。修行無明思惟廣說等住。如是衆生煙意
 偏多。復次行垢彼心有熾盛。云何彼報行
 頗一心亂一定。或作是說。或亂相應心心亂
 三昧相應心三昧思惟。一亂相應心。一三昧
 相應。是故一心亂一心三昧。問若亂相應亂
 三昧相應思惟。彼亂相應。彼三昧相應。是故
 彼有亂彼有三昧。或作是說。不善心亂善心
 三昧。一善一不善。是故一亂一三昧。問不善
 不得言三昧。或作是說。一心之中無有亂無
 有三昧。意有亂有三昧。無所因緣。是心意是
 謂亂心意。一緣是謂三昧。惟一心意亂三
 昧。一切有一一分別。是故一切心無亂無三
 昧。彼非微妙不可究竟。是故此非緣。問若
 一心亂一心三昧。彼一切一一分別。是故一
 切心有亂有三昧。此非微妙。是故不緣
 頗彼心亂是三昧耶。或作是說。有亂相應
 心。亂三昧相應心。及亂相應。彼與三昧相應
 一切心十大地法。是故彼有亂有三昧。問三
 昧無亂相應。亂亦與三昧相應。欲使三昧與
 亂相應亂與三昧相應耶。此非微妙是故非
 緣。或作是說無也。不善心亂。善心是三昧。善
 與不善異。是故亂異三昧異。問不善不得言
 三昧。答曰。無有不善三昧。如所說三昧何者
 是。謂善心獨處。復次無有一心有亂。有三
 昧。此亦如上所說
 滅盡三昧起心緣何等。或作是說。本末是緣
 如所說本心成具有所興起。作如是心者無

①知二智②③ ④得⑤ ⑥觀一觀⑦ ⑧住一住⑨ ⑩智⑪ ⑫頗二損⑬ ⑭明註曰頗字南藏作俱字 ⑮與一異⑯
 ⑰有十(亂有)⑱

有興起問云何斷滅心所念作緣答曰。如斷滅不善意。善意中間復起不善。問彼不斷滅心意。便有縛著心意。復次諸有此處不可思議。滅盡三昧若本心本意有斷滅緣。彼則有心。心非為無因。是故緣起。復次若心次第起心。於彼次第緣欲起。當言因本緣。以何等故。心所念法不知自然滅。或作是說。若自然滅者。三等相應無有更樂。或作是說。若自知者。無有二。亦說二緣生識。如偈所說。親近自然斷滅邪見。有勝攝他不異於我。如餘方便。苦則有等。以何等故。心所念法自不知相應法。或作是說不知二俱生。設當知者生緣無生。無生緣生。生緣無作。或作是說。空一聚畜。設當知者則不空。則有無數聚攝一時頃二分相應法。如有餘緣。如有餘相應法。復次不知一緣。設當知者亦知自然。設當知者。識緣痛痛亦緣自然。如所說智者。彼即是痛也。以何等故。心所念法不知等有法。或作是說。此非等有。或作是說。等有不自知。復次若還述者。云何有因緣彼有攝持。以何等故。相應法謂之心內入。然不餘相應法。或作是說。一切是內心亦是外心。是一切心差降。問無入處所。或作是說。內根及意根。非餘相應法。問意念。心所念根。如彼樂根乃至慧根。或作是說。由心故念迴轉。猶如心流馳不住心所念法。問二俱並生。為由何等生。若一續生者。由痛識念生。想亦生智慧。或作是說。心所念法如彼境界。心生彼亦生念。問二俱並生為去何所。若一續生者。痛

識相念亦復生。或作是說。意。心所依有識法。問心亦依心。欲使心非內耶。答曰。雖復心依心。依心有識法。念非依心。或作是說。心增益上此心念法。此亦如上所說。或作是說。心意不自滅念。便有滅。如滅盡三昧。問想痛於彼盡。然非有心。答曰。心於彼滅。何以故。心行所念。彼非有。行已得休息。世尊亦說。誰當有人說。有有想。而無此言。亦無是念。此事不然。復次想識滅有所選擇。當言內入及餘相應法。牢固與餘法相應。於中得知過去識。當言內入不與。餘法相應。

又世尊言。無常是苦。云何苦痛無常苦。或作是說。若有常彼是苦。如無常彼是涅槃。問如自知苦痛。彼自以苦若有常。彼不自知者。非有常苦耶。或作是說。苦痛盡時餘苦則避。無常滅盡時。欲使無常是樂耶。或作是說。苦痛生時便有苦。苦痛滅時便是無常生無常。是故無常苦。問樂痛生時便有樂便生無常。欲使無常是樂耶。或作是說。彼非無常苦所攝。彼苦自然彼無常。非自然苦。問如所說若無常是苦者。此事不然。答曰。諸無常者。彼一切是苦。少有自然。苦少有無常。苦少有種苦。復次彼非無常苦。無常義異苦義異。復次苦痛生時無常所逼。自然苦各自聚集。

又世尊言。受樂痛時。彼便自知受樂痛。云何受樂痛時。彼便自知受樂痛。如上初捷度說。云何自知有苦。復次樂痛放逸。彼境界生意識念。彼識與意共同作吾我想。便自知我受

樂痛。況復衆生以痛見逼。心便慣亂。以何等故。心所念法不自依處所。或作是說。頗有見自依處所耶。如心所念法。問有色之物各自親近。答曰。有色之物極微亦極微。各各不相觸。是故此非問。或作是說。無色亦不相觸。問色識有教戒不自親近。或作是說。選擇不觸。問選擇非教戒不自親近。是故此非義。或作是說。無對不可觸。復次設當受觸者。則有細滑入。問如觸身根。此非更樂。如是彼觸者。非有更入也。頗緣不愁憂生樂痛耶。或作是說。有如人見怨家死便生樂痛。問彼樂痛非緣怨家。怨家緣彼樂痛。是故此非憂。或作是說。無也。此事不定。定緣不愁憂不生苦痛。問以彼因緣或生樂痛。或生苦痛。或緣二生。不以因緣俱知二事。復次無有因緣有愁憂無愁憂成就。如彼或有愁憂或無愁憂。或彼亦不有愁憂。亦不無愁憂。彼或有愁憂。或無愁憂。或亦不有愁憂。亦不無愁憂。因緣合會或生樂痛。或生苦痛。或生不樂痛。或生不苦痛。頗緣愁憂生苦痛耶。或作是說。有如見母死便生苦痛。問彼痛不緣母。母緣彼痛。是故此非愁憂。或作是說。無也。定緣不愁憂生樂痛。聞以彼因緣或生樂痛或生苦痛。復次無有因緣。成就有愁憂無愁憂。或有愁憂或無愁憂。或亦不有愁憂亦不無愁憂。彼因緣合會或生樂痛。或生苦痛。或生不苦不樂痛。二牢固及一滅盡。自然增上慢苦痛意不相觸。無愁憂有愁憂。以他人為父起樂痛。彼痛緣何等。或作是說。父是其緣。問彼非親父。答曰

識念。彼識與意共同作吾我想。便自知我受

○義二識○ ○苦二若○ ○識二設○ ○餘法一法餘○ ○若二苦○ ○心便二便心○ ○心○ ○彼二復○ ○聞二問○

起如是思想。問如有言是我痛我是其緣。或作是說。怨家緣。問彼痛非怨。若彼不造諸痛與因緣。欲使造青耶。若痛不緣青。復次痛義父相是其緣。怨是處所也。諸身中痛彼是心痛耶。設是心痛。彼是身痛耶。或作是說。諸身中所有痛。彼一切痛與心相應也。問如所說有此二痛。身痛心痛則有相違。或作是說。一切痛是心痛。乃至五根增上。是謂身也。色增上者乃至意根增上。彼是心痛心增上也。或作是說。諸到境界攝諸根生。是謂身也。無有思想諸不到境界。攝由三根生。彼是心有思想也。或作是說。諸痛依身根攝內更樂緣生。是謂身痛。於中有餘痛生者。是謂心痛。復次諸身痛與心相應。頗有心痛非身痛耶。諸所痛外所造痛。若知長短。短亦知長。彼識為緣何等。或作是說。若知長短彼緣短。若短知長彼緣長也。問長非短短非長。答曰。以此得知問若知有我。我是緣耶。或作是說。若知長短彼則緣長。若知長彼則緣短。問如今不知如所造若知餘者識則有餘緣。欲使青非緣青色耶。或作是說。無有不知長短短知長。彼識不得言住。不觀香味更樂造長短也。頗有盲人不得天眼以眼識見諸色耶。或作是說。有若曾與相應後獲果。彼生眼識眼便壞敗。是故盲人生眼識眼腐敗。是故盲人眼識知色。問彼眼有餘生。是故不得言盲。答曰。非以彼眼觀。若觀眼者眼則不盲。從生盲者。是故不盲。問非以從生盲。此眼識觀若觀眼不盲者。覺諸識相相應有諸覺。或作是說。若眼沒

時生眼識。彼眼識壞敗。彼時生眼識。是故盲人攝色問不等有。是故彼生眼識。若盡滅生眼識。若一切滅盡生眼識者。彼生眼不起眼識。欲使盲人生眼識耶。起眼生眼識。復次不斷眼有彼迴轉。亦有開避處。便生眼識。已得因緣迹則有相應。若實相應不得言是眼識。又世尊言。六塵界比丘。以何等故意識言有漏耶。或作是說。彼界有漏所生。是故言有漏也。或作是說。有漏生彼界故曰有漏也。或作是說。彼界行報故曰有漏。或作是說。彼界是人算數。然人非無漏故曰有漏。或作是說。流轉生死無有窮極。故曰有漏。或作是說。緣彼界降母胎中。不緣無漏法降母胎中。是故彼界言有漏也。復次彼界言有吾我。此非無漏實生有漏。是故彼界曰有漏也。

又世尊言。攝諸相比丘識所攝。爾時命過處所趣三惡趣。展轉不止。泥犁餓鬼畜生生不染汚心。云何生天上。或作是說。由諸結使生天上。亦由結使或入地獄。問云何造不善行耶。或作是說。由結使故便生天上。以瞋恚故入地獄瞋恚之相當爾時。或作是說。以小染著亦得生天上。增上結使生三惡趣。增上瞋恚爾時命過。或作是說。行相重累生諸結使。如行造不善便生惡趣。如結使所纏作諸善行便生天上。起不善行有諸衰耗爾時命過也。或作是說。一切結使拔諸善根。隨行善惡各趣其道。復次從上來生。契經句則有違。今當說要。如。船度彼此。報行生行則受其果。當於爾時。無力之人。不造善本。是故有處所不得言

最是後識合會有是死。復次識與本行相應。又世尊言。長夜依心思惟修行善觀誦讀。云何心長夜修行。一心者。一部僧名作是說。一心長夜修行。不得衆多心修行。修行得生。問一心如是長夜修行。則不有生亦無差降。思惟差降無有異。展轉生思惟則有思惟。展轉心意則有長益。是故生意長夜思惟。復次心有不行有時乃至命終。從此發意菩薩求道。從是思惟乃至得無學術得利。展轉心取相彼有思惟。一時。惟心所念善法當觀意。思惟以何等故。諸相應法想及識不謂是食。或作是說。彼一切是食。世尊教語說一切則說一切。問非以說識則說一切。或作是說。彼一切是食。是世尊勸教語。問諸相應法等有生。或作是說。二於中還食識意。有二方便揣食樂食。問諸相應法或受有或不受。此義云何。復次相應法或有食相或無食相。如色香味聲更樂。欲使二生色是眼識境界耶。餘者亦爾。但欲自養。是食義揣食差違。諸根四大得長益軟美飽。彼以食想則生彼界。思惟相應意所念。如彼有痛。彼生無有量如心有痛。若此諸法以樂為食想。彼生受諸身根痛。亦得。將行想亦得行。彼則生受諸識將去識。乃至識意相應身根縛著。及心所念法。當言迴轉而有開避處痛食想。復次合會造相是其相。

供養及身名 長短盲意見
取非以相著 有漏意在後

以。何故諸相應法想痛是意行耶。非餘相應

①家二(其)②此二有(等)③眼十(識)④眼不二眼識⑤攝二(緣)⑥船二(紅)⑦一部僧名四字明本作夾註⑧(思)十惟⑨(將)一⑩何十(等)⑪

法。或作是說。此一切由意行興。是世尊勸教語。說此爲首則說一切意。問說一則說一切。或作是說。此世尊勸教語。問諸相應法等生力。勢。或作是說。由意而生是故。謂意行問諸相應法。或隨意生或不隨意生。此義云何。或作是說。此意所作故曰意行。問諸相應法。或意所作或非意所作。此義云何。復次意所。纏如是諸法不於中間有迴轉。意識展轉迴轉無有休止。

又世尊言。更樂習痛習想習行習名。習色習識習。以何等故諸相應法。更樂習痛習想習行習名色習識習。或作是說。一切相應法更樂習名色習。復次更樂勝意中名色識更樂增。乃至痛有增名色增識有增。問等中間此妙此非妙。此義云何。以一更樂非相由心生。是故彼無也。更樂增意便有增。或作是說。眼緣色因緣等中間緣。緣名色生識。此三集聚故。曰更樂緣更樂。更樂便生痛或想或意。問惟由更樂生痛。復由餘更樂生想。世尊亦說。有彼痛不言有彼痛。便言有想。此事不然。此契經有違。非以心所念法展轉相應。或作是說。眼緣色生眼識。此三集聚有更樂。彼識等有便生痛。由痛便生想。緣想便生意。復次諸相應法方便便勝。如二人共行一道所至必到。色聲香味細滑明。牙。欲使二俱生耶。有增減如實。

又世尊言。毘闍維多魯奚帝婆羅門。如一人色住百歲。及餘行痛起便盡不生色展轉不相應。說此義云何。或作是說。色色展轉。此世尊教戒語。世作是相。彼色是我所。我著色

住。或作是說。色亦展轉生死。無記意自迴轉。心所念法亦有善亦有不善。或作是說。色亦展轉。復次色以人迴轉。心所念法有實。復有餘趣。復次色亦展轉。然色自然乃至住不死。如作智他自作方便。求色亦住百歲。

又世尊言。此四顛倒想顛倒心顛倒見顛倒。以何等故。諸相應法不謂痛顛倒。或作是說。此世尊教。戒語。說此則盡說痛。問說一則說一切。或作是說。此世尊勸助語。如上所說。結。善有定。問諸相應法無有勸助。或作是說。此世尊教。戒語。此教。戒與世尊教。戒語。此教。戒與世顛倒想顛倒心顛倒見顛倒。然痛非顛倒。或作是說。此一切顛倒也。復次微想顛倒中。心顛倒增上見顛倒。復次一顛倒心所作無常想見有常想。得諸相應法。或說言不顛倒。或作是說。不可得也。如識境界迴轉心亦迴轉。問設一切有常者。我一定自相無境界。答曰。有常是識。有常。有常知痛。相無想心。知心。問若一切常者非一切痛耶。一切智。或作是說。得識自相攝。是故彼非顛倒心。心亦顛倒亦非顛倒。問善不顛倒。然善不與不善相應。是故此非義。復次處所相緣無由業相應。是故彼有生。一切顛倒一切不顛倒。一無有勝自造我。

又世尊言。三集聚更樂。云何意地有三集聚更樂。意界一部份是說。意持意境界等樂。問二心俱等。亦說心意識。一心作是說。若展轉心。彼無有三集聚。復次依一心境界等有更樂。問亦說意緣生諸法。意識三集聚更樂。彼不依心意。是故無三集聚。若彼依心則有三

心。心性一部份是說。心滅盡時生心境界。此三集聚。問心生時未來未生心。是故無三集聚。復次過去有得意根。現在得意識境界。普照意識所更如是。意地三集聚有更樂。問云何過去現在有集聚。答曰。此非等集聚事集聚。如是得彼事亦相應。云何眼識緣善。或作是說。以眼識善心等起緣身故。是謂眼識緣善。問若彼身故自然善。云何彼等起不觀身。身有教。色。無彼輪無有眼。唯色相現故曰輪轉。此謂身故。若身亂是善者。云何讀頌不如是耶。此非故當熟觀。復次非自相境界眼識。非色自相境界善。是故無有眼識緣善也。云何眼識緣無記耶。或作是說。所可用眼識善不善心起。除其身故。及除色處因緣。是謂眼識緣無記。問一一無有處所。住色聲香味細滑。觀其所生處。復次色自相境界。眼識非色自相善不善也。是故一切眼識緣無記也。善緣眼識。不善緣無記。緣有何差別。此亦如上所說。問若不善無記心起身教相類。是故眼識無有差降。非以所愛造有識自相。緣青心心所念法青爲意喜所更。有何差別。或作是說。識青喜識痛青喜痛。想知心念。問一二共相應。或作是說。非一識與二相應。復次眼識青自相迴轉痛痛喜忍。此名數等所作。心亦如是。復次如是所說。一識與二相應。是故如是非識自性。我一性自性非我自性。是故無我。此二有機。是故一識青善成就心造意。造是故此不相應。彼或有喜。或亦不有喜。亦不無喜。是故或有喜或無喜。或亦不有喜。

心。心性一部份是說。心滅盡時生心境界。此三集聚。問心生時未來未生心。是故無三集聚。復次過去有得意根。現在得意識境界。普照意識所更如是。意地三集聚有更樂。問云何過去現在有集聚。答曰。此非等集聚事集聚。如是得彼事亦相應。云何眼識緣善。或作是說。以眼識善心等起緣身故。是謂眼識緣善。問若彼身故自然善。云何彼等起不觀身。身有教。色。無彼輪無有眼。唯色相現故曰輪轉。此謂身故。若身亂是善者。云何讀頌不如是耶。此非故當熟觀。復次非自相境界眼識。非色自相境界善。是故無有眼識緣善也。云何眼識緣無記耶。或作是說。所可用眼識善不善心起。除其身故。及除色處因緣。是謂眼識緣無記。問一一無有處所。住色聲香味細滑。觀其所生處。復次色自相境界。眼識非色自相善不善也。是故一切眼識緣無記也。善緣眼識。不善緣無記。緣有何差別。此亦如上所說。問若不善無記心起身教相類。是故眼識無有差降。非以所愛造有識自相。緣青心心所念法青爲意喜所更。有何差別。或作是說。識青喜識痛青喜痛。想知心念。問一二共相應。或作是說。非一識與二相應。復次眼識青自相迴轉痛痛喜忍。此名數等所作。心亦如是。復次如是所說。一識與二相應。是故如是非識自性。我一性自性非我自性。是故無我。此二有機。是故一識青善成就心造意。造是故此不相應。彼或有喜。或亦不有喜。亦不無喜。是故或有喜或無喜。或亦不有喜。

①勢二契② ③謂二日④ ⑤纏二縛⑥ ⑦[習]一⑧ ⑨牙二芽⑩ ⑪住二注⑫ ⑬戒二誡⑭ ⑮問十(訊)⑯ ⑰善二著⑱ ⑲有常二知識⑳ ㉑相二想㉒ ㉓意二竟㉔ ㉕三二二㉖ ㉗色二旋㉘ ㉙讀二詩㉚ ㉛愛二更㉜ ㉝想二念

亦不無喜。是故此事不相應。

頗心三時住耶。答曰。無也。何以故。心無有壞。是故初時不壞永不復壞。是故心空。若心有增住者。因緣有若干相。彼上更。三緣。若心第三時住者。青黃。亦無有色相。有色相亦無增減亦無希望。是故心虛空。或作是說。若

心增上住者。或時歡喜而修行道。此非微妙。是故心虛空。或作是說。若心三時作者。或遭惡時希望境界便生希望境界。過去希望境界。二希望境界不可究竟。是故心虛空。或作

是說。若心自然彼三時住。初第二過時則有增減。增減有餘。是故心虛空。若無增減中究竟亦虛空。是故永不復壞。若彼不自覺知彼三時壞。何以故。彼自覺知初時則壞是故心虛空。復次若心住三。昧中間心。中間心中間

相應。心住相應。心住相應。亦虛空。不於中間相應住。中間不為不空。是故心虛空。以何等故言心虛空。然不及色。此亦所說。上偈亦說。聲是色因。不有命等有迴轉。或作是說。若色空者住無住。所生之處即於彼壞敗。彼不有

妙是故上色住。或作是說。色亦虛空如心。何以故。若色不虛空者。愛生色住。生色。是故一時空則不有色。此非微妙。是故色虛空。或作是說。若色增上住者。命過時心生色中陰。心則有迴轉。此非微妙。是故色虛空。或作是說。若色自然三時。或第二時。時有增上

轉有增上。若初第一增時轉。住。若無增空。是故永不有壞。若彼自覺三時壞敗。何以故。即彼自覺初時壞敗。是故色虛空。復次若色增

上住者。中間相應住。若中間相應住者。初時亦當中間相應住。若中間不相應住者。相應則不虛空。不於中間相應住。相應非不虛空。是故色空。

想痛二字在 梵志穢意行 眼覺境界青 慢性亦虛空

如所說所觀見彼是眼所知者。是識云何眼所觀識所知。或作是說。眼觀視色攝境界。或作是說。依眼生識。如眼觀色識為因緣。如是所知。或作是說。無有眼觀視。設當觀視者。乃至有眼則觀。如識等有生。如是識知。是故眼不觀視。或作是說。眼無所觀。設當觀者乃至色有二相。眼有所照。一切觀視非一切觀緣。是故眼不觀視。或作是說。眼無所觀識無所知。復次眼緣色生眼識。彼作觀想觀識所知。

世尊亦作是說。復次眼無所觀。設眼觀者。耳所當聞鼻聞香。是故二根義則有所攝。是故眼無所觀。觀識有何差別。或作是說。眼有所觀識有所知。或作是說。所觀照是眼攝。境界是識。或作是說。無有差別。觀識而無有異。此是一義。是世尊教戒語。復次有此處所。觀異識異。二俱不同。觀他識識他。設當如觀餘識同者。是眼是識無有差別。設眼境界識亦是境界。眼觀色識無巧便攝取境界。此事不然也。是故當捨此

如眼緣色生眼識。以彼眼識知有色。然非眼也。以何等故。彼眼謂之識耶。非色識。當方便說。如聚捷度依諸內入。或作是說。眼識知

眼謂之眼識。或作是說。彼無有識。復次眼緣色生眼識。於彼作十世俗想。謂眼識也。世尊亦作是說。或作是說。修諸根身識。由根有識也。如種種趣一趣之中。由食思惟隨時自性造諸根。當言身識。如無色界相應諸心所念法。色界為妙。高下龜細思惟此已。云何彼作壞敗色想。或作是說。彼無有壞敗想。然彼色未盡。設色盡者。彼謂壞敗想也。或作是說。彼有壞敗想。彼不修色想。若以離色想。以離謂之壞敗色想。復次彼非壞敗色想。彼不入無色界定。若入無色界定成就彼定。彼謂壞敗色想。如此五識身不知各自相依。云何意識不知相相依耶。或作是說。知意依意識設意不知意識者。則心心不相觀也。或作是說。知自身諸根依彼意識。彼是意識境界。一切諸法境界是意識也。或作是說。知一切身體周遍四大。比依意識。彼是意識境界。設不知者。此亦無痛有也。依意識。或作是說。不知若以意識知者。則無三聚此非微妙。是故不知或作是說。不知。設當知者。則有二世尊。亦說二因緣生諸識。是故不知。復次諸根則依識。設意識自知相依者。如是意識則有壞敗。復次心俱生。如是四大當言依識身。彼非意識境界。未壞六識身。入無記心心所念法。根得增益四大增益。當言未得。或作是說。當言未得。不以無記心心所念法生諸希望。問無記心性迴轉希望則壞敗。或作是說。當言得也。觀見諸根。歡喜心者。繫惡心者。無記心者是故當言得也。或作是說。如此處所有隱沒無

●三二二● ●亦亦● ●味二時● ●住二住● ●入二人● ●比二皆●

記心。彼則成就有無記心心所念法。諸根四大增益。欲使我等說隱沒無記心耶。復次一切心色增益一切心依色而有展轉相生。乃至眼識生諸行。此不微細若超越彼念識身起眼識。亦無法不轉。諸根四大如種子。復次。伎術諸藝成就威儀禮節皆以成辦。威儀心無記。如是。伎術此則得知。無記心所念法。諸根四大得增益。若心卒亂。彼一切心解散耶。設心解散。彼一切心卒亂耶。或作是說。若心卒亂。彼一切心解散。設心解散。彼一切心卒亂。一切心染著。亦卒亂亦解散。彼與卒亂相應。彼是解散。問無有愁心不善無有三昧。或作是說。無有一心若亂若散。意亦無有亂散。頗心卒亂非解散耶。心有一因緣。意有所攝持。頗心解散非亂耶。意識無數因緣亦無所攝。頗心有亂有解散耶。意性無數因緣。亦有所攝持。頗心不卒亂不散。一緣意識無所攝持。問如一心不卒亂不散。彼不一切解散耶。答曰。如一心不在此有衆多意。如是一心瞋恚無有解散。亦無衆多復次若心解散。彼一切心有亂也。頗心亂非解散一緣迴轉。譬如士夫從一路走。如緣五識身自相迴轉。如是想像意識或作是說。如彼迴轉彼不想像。或作是說。若眼識青。有定意識。意識亦青想像識。是謂眼識是謂意識者。此事不然。問想像意識。若眼增上彼是眼識。頗意增上彼是意識耶。答曰。有。如汝眼增上。諸相應青黃白黑。生識諸著亦有勝。如是我眼增上。諸生相應眼識。如意

增上相應生者。彼是意識。或作是說。若眼增上。及相應青黃白黑生識著。是意增上。諸相應青黃白黑生識著。是故相應果壞。問眼增上果。乃至諸生相應意增上果。於中則果壞。若眼青黃白黑果不壞。汝眼增上諸相應青黃白黑生識欲。使眼增上相應不耶。相應不增。是故此非義。或作是說。不如彼造彼相像。問為誰造。相像。若憶彼境界則彼是緣。若不憶者為誰造想像。若憶彼境界則即是因緣。若不憶者或作是說。不如彼迴轉。設如彼迴轉者則二衆多。世尊亦說。以二因緣生諸識。問衆多生二識。或一二生諸識。如汝有衆多二也。汝意緣生想痛識。是故汝衆多二。或作是說。不如彼迴轉。設如彼迴轉者。則不有壞諸入已定。是故不如彼迴轉。問已還中間無有色入法入。如還中間眼識持意識持不壞敗。如是有諸入。中陰中初心為依何處色。或中陰或初死。或作是說。初死不生作衆事。問非現中陰依心而住耶。答曰。心無有住處。心生便滅。滅無所作。是故彼無所依滅不生。復次中陰依色心耶。念法亦是依色展轉相生。如大策阿羅漢。最後心為緣何等。或作是說。自緣意命等命想。空解脫門而現在前取般涅槃。或作是說。一切諸行是其緣。取般涅槃。或作是說。涅槃是其緣。涅槃滅想無想。解脫門而現在前取般涅槃。復次見聞念知是其緣。彼心無記。自無吾我想。取般涅槃。本行已棄永滅不起。

諸根因緣本 依意增益生
心廣意遊行 中陰羅漢心
尊婆須蜜菩薩所集心健度第二竟
尊婆須蜜 論卷第三
尊婆須蜜菩薩所集論卷第四
* 尊婆須蜜造
符秦罽賓三藏僧伽跋澄等譯
三昧健度首
又世尊言。諸比丘集聚來會有二因緣。若當論經深義。若當賢聖默然口不出言。云何論經深義。云何賢聖默然口不出言。或作是說。於欲不著。觀欲惡露不淨是謂論經深義。於第二禪賢聖默然思惟。尊者大目犍連亦作是說。於是比丘思惟第二禪。是謂賢聖默然。或作是說。十二因緣。是謂論經深義。思惟十二因緣。是謂賢聖默然。或作是說。契經偈決廣布是深經義。心專一不亂而聽法。是謂賢聖默然。或作是說。棄一切惡行。是深經義。念棄一切行而思惟之。是謂賢聖默然。或作是說。空無思想。願分別廣布。是深經義。思惟空無思想。是謂賢聖默然。或作是說。分別四賢聖諦。是深經義。善思惟四賢聖諦。是賢聖默然。或作是說。法論者。合集人民布現等法。賢聖默然者。思惟不淨觀。法起則起法滅則滅。或作是說。說法聲遠聞。是謂法論。思惟內事。是謂賢聖默然。復次集聚來會。亦是其事。當

①切二初②轉二轉③伎二伎④念二心⑤卒二本⑥有二青⑦增二環⑧相二想⑨者十(此中少)夾註
⑩不有二三⑪還二遠⑫[尊婆須蜜...集]八字一⑬三二四⑭聖本首缺⑮四二五⑯首十(第三)⑰
(說)十二⑱想二相⑲[則起法滅]一⑳則十(法)⑰

說諸法，已說當善聽之。於彼法論親近賢聖，譬如戒輪定輪智輪解脫輪解脫智慧見智慧輪。乃至十二因緣輪聞此輪已持誦誦讀不染著不厭，心不亂善思惟，是謂賢聖默然，如所說尊大目捷連賢聖默然。此是其義。曇摩提那比丘尼作是說：彼比丘從滅盡三昧起，近三更樂寂更樂不用定更樂，無想更樂云何寂更樂。云何不用定更樂。云何無想更樂。或作是說：空解脫門是寂更樂，無願解脫門不用定更樂，無想解脫門是無想更樂。或作是說：彼從滅盡三昧起緣涅槃無漏故，不用定現在前，即當言不用定。彼不用定彼無想定，無漏不用定，不用定緣涅槃無想也。復次彼從滅盡三昧起，住有想無想，起若干心。當言近無想更樂。彼住時入不用定起若干心。當言近不用定更樂。若住彼時起識處起若干心。當言近寂更樂，是謂其義。於五三昧彼起若干心。當言起心。猶如漸漸睡眠覺便速起疾。如是漸漸入滅盡三昧不漸漸起。當言是觀。頗有二斯陀含成就無漏一禪現在前第二禪不現在前耶。或作是說有。若應空者則現在前，若應無願者不現在前。或作是說：若所依有力者，則現在前，若所依力少則不現在前。或作是說：若利根者則現在前，若鈍根者不現在前。或作是說：若厭欲界棄欲界行則現在前，若厭三界棄三界行則不現在前。復次未曾有所造行入無漏三昧觀應無漏。頗初禪中間近滅盡三昧耶。或作是說：有若得驪騫度三昧，則於禪中間入

滅盡三昧也。或作是說：若依初禪等越次取證。則於初禪中間四諦所斷結使，則近滅盡三昧間彼非近初禪中間。入三昧彼便得近。或作是說：初禪中間入第二禪時，梵天上諸相應結，則得滅盡。問必起禪中間。是故。不近禪中間。或作是說：若依初禪中間等越次取證，彼於初禪中間四諦所斷結，近滅盡三昧。問此非初禪中間。何以故。必起世俗禪中間。賢聖道而現在前。復次非入初禪中間近滅盡三昧。結使未盡。外觀盡彼智種俱。住之法。當無覺有觀即起不滅盡。如樂衆生入慈三昧非一切衆生。有樂彼三昧為緣何等。或作是說：諸樂衆生即彼因緣。問不緣一切衆生有其慈。或作是說：一切衆生有其樂根彼即緣。問非一切衆生有樂根現在前。亦有現在衆生有樂根。或作是說：若自更樂彼一切衆生解脫。問非以此樂使衆生樂。或作是說：非以慈堂一切衆生有樂。復次以此方便堅住其心滅諸瞋恚成就諸法。問以顛倒故滅諸瞋恚。復次覺諸衆生有其樂根。求衆樂解脫。施恩衆生皆成就之。如本所說。彼三昧當言顛倒。當言不顛倒。或作是說：當言非顛倒。諸樂衆生是其因緣。或作是說：當言非顛倒。一切衆生皆樂根。此是慈因緣。如本所說。復次當言非顛倒。瞋恚滅盡。如苦衆生入。慈三昧。非一切衆生有苦。彼三昧為緣何等。或作是說：諸苦衆生彼即其因緣。或作是說：一切衆生有苦根。彼悲是其緣。或作是說：非以悲堂故一切衆生有苦。復次以此方便而堅

住其心。滅其害心。復次覺諸衆生有苦相苦解脫。并及悲一切衆生。皆求使安。如本所說。彼三昧當言顛倒。當言非顛倒。或作是說：言非顛倒。諸苦衆生即是其緣。或作是說：當言非顛倒。滅其害心。如喜衆生入喜三昧。非一切衆生喜。彼三昧為緣何等。或作是說：諸喜衆生是其緣。或作是說：一切衆生有喜根。是喜其緣。或作是說：自得歡喜。欲使一切衆生同。或作是說：非以喜堂故一切衆生有喜。復次以此方便堅住其心。滅諸愁憂。復次覺諸衆生歡喜相喜解脫。於一切衆生同喜。如本所說。彼三昧當言顛倒。當言非顛倒。或作是說：當言非顛倒。諸喜衆生即是因緣。或作是說：當言非顛倒。一切衆生有喜根。是故是喜因緣。如本所說。復次當言非顛倒。愁有差違。又世尊言。於是比丘當修安般守意斷諸觀想。云何當修安般守意斷諸觀想。或作是說：修安般守意入第二禪。已入第二禪觀已越過。問亦有餘方便入第二禪。是故餘方便斷諸觀想。或作是說：修安般守意依色界迴轉。不依觀。想斷諸觀想。此亦如上所說。或作是說：計出入息。有一緣於中無觀無覺。如是斷諸觀。此亦如上所說。復次安般守意緣近不緣為若干緣無衆生。彼少生業斷諸觀想。又世尊言。遍觀諸身覺出息。遍觀諸身覺入息。云何遍觀諸身覺出息。云何遍觀諸身覺入息。或作是說：觀身盡無常覺出入息。問不從三昧起耶。答曰：三昧不起。彼方便必作不疑。或作是說：觀身一切不淨。出息入息。俱不染著亦不

〔智〕一三三 〔定〕二二二 〔含〕二二二 〔彼〕十不 〔住〕住 〔有〕一 〔慈〕二悲 〔緣〕一 〔想〕一

捨或作是說一切身中出息入息皆悉覺知或作是說一切身中觀色界觀迴轉時。出息入息不攝其想亦不捨。復次以此方便堅住其心。以此事廣思惟之。云何入第四禪盡出入息。或作是說。計出入息時。即彼覺知入第四禪於中出入息能悉滅之。問。以除方便入第四禪。彼出入息滅耶。或作是說。入第四禪時。於四禪地息有迴轉。聖諸毛孔無出入息。問不從起三昧。出入息不迴轉耶。答曰。起更依餘息迴轉。或作是說。如入初禪。遂便增長。第二禪微第三亦微。如是漸漸息時第四禪無有。復次捐棄覺彼時禪出入息不迴轉。以何等故。生欲界衆生得禪。於禪不退。命終時便生色界。已生色界得一切禪。於禪不退。便命終還生色界。或作是說。此間行對地。此間起禪而生彼間。設彼入三昧。設生彼間者有報。不以報有報。問如今無有彼沒還生彼間耶。或作是說。入第三禪淨氣味相應。無漏禪淨得生彼間。於氣味相應。退以無漏般涅槃。如是生彼間。若淨禪三昧即生彼間。若入氣味相應禪。於彼間退。若入無漏禪。即於彼間而般涅槃。或作是說。此間入四種禪。漸漸退住退增上退漸漸。退住退生彼間。增上退越彼間。厭退般涅槃。如是生彼間。若入漸漸退三昧。便於彼間退。若入住退三昧即生彼間。若入增退三昧超越彼地。以無漏道於彼間般涅槃。或作是說。非以禪得生彼間。行垢染著得生彼間。若已行對死者。若復住彼間。以行對不死即生彼間。若不以禪生彼間者。

非中間禪生彼間。答曰。無苦。若依未來禪還欲愛盡。於中間禪得生彼間。復次此二俱非妙。衆生生欲界得諸禪。色愛未盡便命終生色界。色愛盡無色愛未盡。命終不生。色無色界。無色界愛盡。便命終生無處耶。問云何。受報耶。答曰。若愛盡報相應則無也。如彼前則隨後。中間相應果生色界。衆生得禪色愛未盡。便命終不作方便求生欲界。若不厭棄方便不增。方便求者便生。生色界愛盡。無色愛未盡。便命終不生無色界。無色界愛盡。命終生無處所。問云何今受報耶。答曰。無有定受相應行報。於色界行禪甚難得。況無色界三昧也。

更樂斯陀*含 有滅盡無量
念說一切身 云何滅欲界

若一切超越識。入處無有。不用定云何彼無耶。少有思惟。或作是說。彼無。猶處。有所恃。枯無有思惟。問一切三昧思惟此事。或作是說。彼無有樂無有常。亦有不思惟。此亦如上所說。或作是說。彼無有吾我。亦不思惟。此亦如上所說。復次如若干種相貌。便離想解脫。以何等故不用定謂之護耶。或作是說。彼三昧無有定無有。當有以有。是故不用定謂之護也。或作是說。道護越彼道。是故不用定謂之護也。或作是說。護是果。世尊亦說。修護廣布越不用定。復次無量定不選擇。不造利養住也。云何淨是不淨義。或作是說。諸不淨相。則是淨義。問無有不淨相。彼或有淨或不淨。答曰。所謂淨者。彼是顛倒。彼或有常或無

常。欲使言無無常相耶。或作是說。淨相者言無淨。問設彼無淨相者。則不染著。非以淨相彼染著。答曰。不淨。作淨相則染著。說彼有淨相者。如彼觀之。彼則染著。若不如實觀者。是故彼無淨相。或作是說。專意心念如是不淨。問彼或終成或不終成。欲使彼是淨。欲使彼不淨耶。復次色無有淨無有不淨也。如彼所趣貪著不離。頗捨修四禪不用定生淨居天耶。或作是說。無也。捨修四禪得生彼間。問諸有修第四禪生淨居天。彼一切生淨居天耶。答曰。以事行故不生。叙子生萌芽。行事故不生。復次頗依未來禪修無漏道。彼滅諸結生淨居天。諸修分別禪入第四禪。彼一切生淨居天耶。設生淨居天。彼一切修分別禪。入第四禪耶。或作是說。諸生淨居天。彼一切修分別禪入第四禪。頗修分別禪入第四禪。不生淨居天耶。阿羅漢若無色界阿那含。或作是說。頗修分別禪入第四禪。彼不生淨居天。得修分別入第四禪。淨居天上愛盡也。頗生淨居天。不修分別入第四禪耶。依未來修無漏道。彼滅諸結使也。頗修分別入第四禪。亦生淨居天耶。得修分別入第四禪。淨居天上愛未盡。頗不修分別入第四禪。亦不生淨居天上耶。除上爾所事。則其義也。云何修分別入第四禪耶。或作是說。入淨禪三昧。以無漏思惟分別。問淨禪彼非無漏思惟。如無漏思惟者。彼不淨禪。復次無漏禪於其中間入淨禪。淨禪中間入無漏禪。不以無漏長養淨禪。彼長養淨居禪。云何知有淨居天耶。或作是說。

○(禪)十覺○ ○(復)十以○ ○(獲)一唯○ ○(厭)十退○ ○(色)一○ ○(界)一○ ○(今)十受○ ○(盡)一○ ○(猶)二倍○ ○(有)十無○ ○(作)二則○ ○(入)二人○

修分別第四禪生淨居天。如此間見修分別第四禪。無色愛未盡命終。然後得知有淨居天。如此禪因緣復次由阿那那^①含知。世尊亦說。此趣不易得。猶如我凡夫人長處生死。除淨居天。如^②初第二第三禪修分別禪。以何等故。初第二第三禪不生淨居天耶。或作是說。最初得頂。第四禪。復能分別禪。及欲愛盡不生餘地。問如不觀入思惟三昧分別四禪。何故不觀入第四禪分別八地。或作是說。諸得利根便能分別四禪。恃估利根復越餘地。問越第四禪是故不生第四禪地。復次天地變易時。乃至第三禪地壞。然非賢地變易。世尊變易時。此有諸賢。以行報對故。得生淨居天。若得第四禪。依初禪等越次取證。諸結不相應。於四禪退。當言得彼諸結。彼成就耶。或作是說。當言得。問如所說以外道滅。便得賢聖道。乃至究竟盡彼無。或作是說。當言不得。以作彼賢聖道。乃至究竟。問不於中間生四禪地。答曰。此事無苦復^③越第四禪。或作是說。思惟所斷非四禪所斷。何以故。四諦所斷是賢聖道。非思惟所斷。復次依彼念復更造念。復次於第四禪退。何以故。彼等越次取證忍智迴轉。然彼等方便力。不於等方便力退。是故不於四禪退。若得想三昧。依第三禪等越次取證。無想三昧不退。命終後生無想衆生。或作是說。生果實天。此三昧是彼間地。問如彼越地。云何復言彼地等越次取證。或作是說。不得無想三昧等越次取證。彼意遲鈍。彼三昧永寂。問入第三禪意。耶無疑。

復次等越次生第四禪。越次取證。想三昧不廣布。亦不親近。復次生第四禪中。無有淨不淨。云何知方便。如得三四禪。無想名不終。如一切第四禪得念待喜。以何等故。謂三禪非餘禪耶。或作是說。此世尊教戒語也。問此義云何。謂第三觀禪念待喜非第四禪。或作是說。世尊勸助語。說此則說餘。問說初禪則說餘禪耶。或作是說。三禪中樂彼是最妙。是故念待護於中不退。問當護一切禪。或作是說。三禪中樂是妙者。念待是其事。如氣味者。問此非第三禪念待。所以著樂。第四禪亦當有念造無教。如是我有禪。復次彼事有勝。云何第二禪。相應念心不斷喜處所也。如一切第四禪得護念淨。以何等故。得護念淨。謂之四禪非餘禪耶。或作是說。是世尊教。戒語。問於中念護有淨相。則一切^④護。或作是說。於中有淨護念求護喜根。或作是說。威力初禪迴轉是其緣。亦依第四禪得念處所護。若苦若樂有覺有觀。及出入息。以離諸惡。或作是說。於彼衆生多結盡。爾時護念亦護諸禪。復次於中行有增心不移動。樂所造念息而護三昧。頗凡夫人^⑤及滅盡三昧耶。或作是說。凡夫人不^⑥及彼三昧。此非凡夫人三昧也。或作是說。凡夫人緣上界得滅上界。至有想無想。有生入處。如所緣滅有想無想處。是故不入彼三昧。或作是說。凡夫人亦有三昧。入三昧時心初得休止。想心得定。復次想界彼是因緣。捐棄彼緣不欲三昧。如^⑦愛

持迦羅那子入無想定。便恐懼生有想無想天。是故不入三昧。復次不入定也。何以故。如凡夫人入三昧。漸漸有力勢乃^⑧至究竟。凡夫人恐懼。自見吾我滅盡想。是故不入彼三昧。頗有菩薩入滅盡三昧耶。或作是說。入彼三昧也。菩薩發大弘誓。求索一切處所。若不入此三昧者。則不能一切衆生處所。或作是說。不入彼三昧。何以故。彼非凡^⑨夫三昧。此凡夫人菩薩。或作是說。不入彼三昧也。菩薩以世俗道。緣上地^⑩滅下分結。有想無想盡無所有^⑪有緣。滅有想無想處。是故不入三昧。世尊曇摩多羅作是說。雖菩薩自觀羸劣不究竟恐懼。復次菩薩以智慧越彼瞋恚。竟無有^⑫限。非不有三昧方便。無想三昧滅盡三昧有何差別。或作是說。無想三昧是凡夫人三昧。滅盡三昧非凡夫人三昧。問我不論此事為誰三昧。復次當說三昧相貌。或作是說。此無想三昧廣大無邊。滅盡三昧休止不起。問若此俱無心所念法。此二俱非廣大休止耶。或作是說。無想三昧與色相應。滅盡三昧與無色相應。問我亦不論此三昧處所。但當說三昧自相。或作是說。無想三昧無想衆生果。滅盡三昧有想無想果。問我亦不論^⑬為誰果。但當說三昧自相。或作是說。無想三昧自知入有想三昧。滅盡三昧想痛自知入三昧。此如上所說。復次如所欲二俱心所念法。則有是^⑭想無相。如所說有想三昧心得覺知。於^⑮心三昧廣大休止。色無色界相應果。方便則有勝。若依不用

①(那)一 ②初二禪 ③或十(從) ④復二彼 ⑤界 ⑥越二起 ⑦禪二諸 ⑧然一時 ⑨那二都 ⑩夫
 戒二滅 ⑪相二想 ⑫護二說 ⑬及二入 ⑭也二耶 ⑮愛二儀 ⑯持二時 ⑰[至]一 ⑱心二此
 十(人) ⑲滅二離 ⑳[有]一 ㉑觀二說 ㉒限二慎 ㉓為十(是) ㉔想二相

定。得阿羅漢。為思惟何等相應心所念法。得阿羅漢。或作是說。不用定相應。世尊亦說。如彼所有痛想行識法。思惟彼法。如契經本說。或作是說。有想無想相應。自知有想無想。遠有想無想。不遠不用定也。得有想無想。欲盡或作是說。若不用定愛未盡。依不用定。逮阿羅漢果。彼與不用定相應。有想無想相應心所念法。思惟得阿羅漢果。若得有想無想三昧。依不用定逮阿羅漢果。彼與有想無想心所念法相應。逮阿羅漢果。復次如自思惟。惟我無。吾我所纏。已得斷。智便得愛盡。思惟何等苦陰行而得盡餘苦。如自田業作。餘者不獲此。此亦當如是。以何等故。無漏三昧謂之餘緣非。淨三昧耶。或作是說。無漏三昧緣三界。以無漏初禪覺。知三界。然淨初禪無巧便覺知梵天。是故若有因緣然非淨。或作是說。無漏三昧者。一一相生。是故以此初禪得無常想。則獲一切也。然淨初禪不以此同。或作是說。無漏三昧者。斷諸一切結使。永盡無餘。依無漏初禪滅三界結。如是一切以淨初禪無巧便滅梵天上。或作是說。以得無漏初禪。得已無漏色。然不以淨初禪而現在前。亦不得第二禪。復次非以淨三昧展轉而得。修行增上禪淨現在前。復以餘方便第二淨禪而現在前。無漏初禪現在前時。得增上無漏無色。是故無漏三昧展轉有因緣。然非淨。以何等故。諸三昧上氣味相應。三昧與下氣味相應。三昧中間因緣。謂之因緣。然非上下緣。或作是說。入三昧時起禪中間。彼退

不迴。如欲上。梯從一。梯始。若從梯下。亦由一。復次入第二禪。氣味相應退。復有入初禪。然非初禪。氣味相應入第二禪。慈大慈有何差別。或作是說。微謂之慈。廣謂之大慈。或作是說。少所入為慈。一切遍入為大慈。或作是說。慈緣身苦。大慈緣身意。或作是說。慈緣衆生。苦。大慈緣救衆生。苦。復次大慈廣無有邊。遍至一切衆生。無不蒙賴。復次如來世尊護一切衆生。然非聲聞。有近有遠。一切衆生有所。愍念。欲使聲聞。愍有色無色衆生。若淨解脫門。如自因緣。八現色入。及自因緣。十二入。此有何差別。或作是說。微解脫門中。八現色入。增上十二入。或作是說。少有三昧解脫門大三昧。謂之現色入。無量三昧十二入。或作是說。淨相謂之解脫門。結盡八現色入。無有思惟十二入。復次增上是解脫門。因緣十二入。長諸結亦是十二入。

一切苦凡夫 或菩薩威勝
無漏上下界 勝行解脫門

又世尊言。無禪不智。無智不禪。有禪有智。是謂涅槃。說此語其義云何。或作是說。以此契經得須陀洹。得諸禪故。說無智不禪。須陀洹亦有斯智慧。是故禪亦依彼。問平等覺觀於中有禪。若如契經者。外亦有禪。是故彼有智。故說無禪不智。問外亦有世俗智慧。答曰。若彼外有智慧者。亦外涅槃。故說有禪有智。是謂涅槃。或作是說。若智慧是心地者。亦無智慧。彼無有一心禪。故說無禪不智。若無一心禪。彼亦無有思惟智慧。故曰無智不禪。若有一心禪。思惟智慧。彼滅諸結使。故曰有禪有智。是謂涅槃。復次若有無生智得等禪法。便有休止。況成果實。故曰無禪不智。若縛著心意。便變易。況當有果實。故曰無智不禪。彼若有止觀。彼止觀觀外時。修行解脫牢固。不有滅盡。故曰有禪有智。是謂涅槃。三昧義云何。或作是說。緣一心所念法。是謂三昧。問無想三昧滅盡三昧。無有心所念法。欲使彼非三昧耶。或作是說。衆多心緣一處所。是謂三昧。此亦如上所說。復次三昧有若干相。善法三昧。雖離三昧。九次第禪。諸義與心等者。是謂三昧。頗因苦相應。禪現在前耶。或作是說。無也。與苦相應。便有念待念待禪。是故不現在前。或作是說。或現在前與苦相應。如實知之。便起念。於中禪現在前。復次不戲笑時。依苦禪現在前。此大瞋恚四等。梵堂何者最勝。或作是說。慈最是勝。慈愍衆生。皆令安隱。慈彼而已入慈三昧。無有狐疑。或作是說。悲最是勝。以大悲故。來出世說法。亦不見有大慈大護。或作是說。護最是勝。為良果實。修護。則修不用定。復次護最是勝。衆事休息。是護筋力。欲瞋恚滅。以衆生故。是故護勝。以何等故。初禪曰寂。第二禪曰三昧。或作是說。斯二俱寂三昧。初禪休息衆多。是故第二禪寂。復次如其地種水種。如是空寂不善法。由初禪生。故曰空寂。是故意定由二禪生。故曰三昧。內喜者。此義云何。或作是說。有覺有觀。生心離緣。有覺有觀。生心便歡喜。如去

①遠二遠②已二也③田二由④淨二異⑤知二智⑥梯二梯⑦苦十(苦)⑧慈二慈⑨離緣二雜糅⑩八二入⑪若彼二彼若⑫無有二有無⑬護二設⑭愍二愍⑮良二取⑯說二觀⑰離緣二雜糅

汚泥水漸漸清。或作是說。調戲心息便清淨。如水。踊使緩流涓涓澄清。或作是說。彼心緣一住彼謂等清淨。如所說去濁復清。復次入二禪意得清淨。有此彼處得初禪也。喜樂有差別。或作是說。下為喜。增上為樂。或作是說。心所念樂痛為喜。身樂痛為樂。或作是說。踊躍生喜。猗生樂。復次彼方便心。喜。無有罣礙。於中相應喜。身心不亂謂之樂。諸有不廢禪者。彼一切成就禪耶。設成就禪。彼一切不廢禪耶。或作是說。諸成就禪。彼一切不廢禪也。頗不廢禪。彼不成就禪耶。若無垢人生無色界。復次頗不廢禪不成就禪耶。諸有漸漸稍稍彈指之頃。思惟眼無常也。頗成就禪非有不廢禪耶。阿羅漢智慧解脫也。頗不廢禪亦成就禪耶。諸得禪不失。頗不成就禪亦廢禪耶。除上爾所事。則其義也。以何等故。世尊於四禪起於四禪涅槃。然不用餘耶。或作是說。慧後衆生故。故現照明。以斯後衆生知佛世尊常不離四禪。況當我等能離禪耶。或作是說。如檀尼寶客時欲命終。以珍奇寶物最後妙寶。施彼貧窮。如是四禪衆中妙。是故留在後。然非如來世尊有諸垢著。或作是說。彼有自在非有巧便。初死時入第一禪尙難。況第四禪。復次諸入一切佛。如轉輪聖王所欲便至。佛世尊亦復如是。自在諸法王所欲便至。當作是觀。以何等故佛世尊般涅槃時。一切禪解脫。入三昧正受而現在前。或作是說。自將養身。或作是說。身體羸弱養得筋力。或作是說。衆茶也。名全師子。報其

施福。或作是說。為後衆生故現照明。或作是說。現有自在不有自在。命終時入第一禪尙難。況入一切禪解脫正受。復次現法不盡。如來世尊一切功德成就。以得自在所欲便至。禪三昧苦樂。

堂寂及心意 歡喜。念不廢

四禪最在後

如所說十八纏。安般守意。貪欲。患瞋睡眠調戲。疑無想攝。不思惟止。不端思惟。方便求少。有方便多語。無益希望。念著多行。貪寶怨恨。從此以起集聚意。此有何差別。答曰。欲有義。是謂貪欲。衆生心瞋恚是謂瞋恚。心有煩悶。是謂睡眠。睡重謂之眠。心未休止謂之調戲。心不專定謂之疑。心不究竟。流馳萬端亦疑。出息入息觀不離意。攝無想。思惟處所。安般守意。於中作方便。安般守意少方便。不思惟不專意。思惟增上方便。安般守意。意少方便。不作增上方便。算數多語。有覺有觀力所逼。以此方便不樂怨恨增上。希望思想。萬端喜愛。安般守意。得他處意。方便起意有所攝。二月專成行經。如經所說。說此語其義云何。以何等故世尊二月專成行經。或作是說。此非問也。是佛世尊威儀化導。緣大慈悲故說此法。或作是說。當言於爾時無有佛事。諸淳熟根便得度脫。諸不淳熟根。彼得聞法。或作是說。彼比丘數往親近於如來所。彼時世尊入三昧定。渴善易化。或作是說。彼比丘聽深妙法。數往承受不入正受。是故世尊常三昧定。我若入此定。彼諸比丘亦當入此

定。或作是說。以後沈溺衆生故現照明。或作是說。於現法中自在所欲。如所說辭多羅摩納。或作是說。此是要言。義使諸比丘無有異行。世尊說入定福。然不自入定。或作是說。一切智長養。如種樹隨時澆灌。因緣相成。或作是說。有異學梵志。備作是說。瞿曇沙門無有禪定。但說法耳。是故世尊入定坐禪。如所化耶。見衆生而攝取之。是故世尊入定坐禪。復次以二因緣故。世尊入定三昧。自所見法而遊戲其中。復以衆生故現其照明。當於爾時我比丘專念入息。專念出息。現四意止。觀入息短自知息短。觀入息長自知息長。入定不久息出入速。如入定三昧。亦堪任久住。一切身毛孔悉皆知之。此亦如上所說。猗身行觀身行相。廣布漸漸至於其中間住出入息。依歡喜喜。若初禪地。若觀第二禪地。常作是觀地。亦依其事樂初禪地。若第二若第三禪地。皆觀其地。心行所由亦觀想痛。或作是說。觀心意行。猗心意行。意行漸薄。是謂由心觀識心遂歡喜。如來無有憂喜心等。若當解脫。所以菩薩心常歡喜。若三昧若解脫。起若干相觀無常想。觀出入息常觀滅盡。除愛結使永盡無餘。觀無欲觀愛盡觀諸使盡。復作是說。觀無常觀身無常。觀盡觀無明盡。觀無欲觀有愛盡。觀盡觀有餘。有餘無餘涅槃果盡。復作是說。觀無常觀五陰無常。觀五陰空無我。觀無欲觀無陰苦。觀盡觀五陰無生法。復以微妙無欲入第四禪。彼有天曰。嗚呼哀哉。如來命過無出入息。雖

定。或作是說。以後沈溺衆生故現照明。或作是說。於現法中自在所欲。如所說辭多羅摩納。或作是說。此是要言。義使諸比丘無有異行。世尊說入定福。然不自入定。或作是說。一切智長養。如種樹隨時澆灌。因緣相成。或作是說。有異學梵志。備作是說。瞿曇沙門無有禪定。但說法耳。是故世尊入定坐禪。如所化耶。見衆生而攝取之。是故世尊入定坐禪。復次以二因緣故。世尊入定三昧。自所見法而遊戲其中。復以衆生故現其照明。當於爾時我比丘專念入息。專念出息。現四意止。觀入息短自知息短。觀入息長自知息長。入定不久息出入速。如入定三昧。亦堪任久住。一切身毛孔悉皆知之。此亦如上所說。猗身行觀身行相。廣布漸漸至於其中間住出入息。依歡喜喜。若初禪地。若觀第二禪地。常作是觀地。亦依其事樂初禪地。若第二若第三禪地。皆觀其地。心行所由亦觀想痛。或作是說。觀心意行。猗心意行。意行漸薄。是謂由心觀識心遂歡喜。如來無有憂喜心等。若當解脫。所以菩薩心常歡喜。若三昧若解脫。起若干相觀無常想。觀出入息常觀滅盡。除愛結使永盡無餘。觀無欲觀愛盡觀諸使盡。復作是說。觀無常觀身無常。觀盡觀無明盡。觀無欲觀有愛盡。觀盡觀有餘。有餘無餘涅槃果盡。復作是說。觀無常觀五陰無常。觀五陰空無我。觀無欲觀無陰苦。觀盡觀五陰無生法。復以微妙無欲入第四禪。彼有天曰。嗚呼哀哉。如來命過無出入息。雖

① 踊二滿 ② 志誠一願志 ③ 睡二眠 ④ 萬二方 ⑤ 熱二淑 ⑥ 其二異 ⑦ 淨 ⑧ 盡觀有餘二有餘盡觀 ⑨ 無二五 ⑩ 耶一邪 ⑪ 堂二常 ⑫ 禪三昧苦樂五字聖本作次傷第一句 ⑬ 渴二淳 ⑭ 熟二淑 ⑮ 其二異 ⑯ 淨 ⑰ 盡觀有餘二有餘盡觀 ⑱ 無二五

諸根未錯命終不久。時諸賢聖堂相。諸賢聖人。持以此得賢聖道神通堂淨天堂淨天處。梵天堂佛堂。是佛行不還者。還。阿羅漢於現法樂四禪賢聖樂行。復次專念入息有入息想。觀出息有出息想。不離方便有出入息行。如是垢除。思惟念出入息想。有覺有觀漸漸薄。廣大休息。彼復作是念。身意連屬自知息短。便自知之不捨本相。如復有餘。世尊思惟思惟漸休息。作無覺心休息。彼身心無有是念。身心有移動。身住心住。無願息長觀出息長。觀出息長亦知之不離本相。於中世尊出入息。一切身體皆悉觀之不離本相。復次世尊轉修行。倍得休息心。出入息薄皆悉觀之不離本相。是謂世尊四種思惟出入息。是其事無量因緣自然氣味。復次世尊作是象。彼心不移動。心如金剛。迴轉歡喜和顏悅色。皆悉觀之不離本相。復次世尊實生身心。皆悉觀之不離本相。復次世尊。觀彼喜樂。無命有無命想。心行得解脫。皆悉觀之不離本相。復次世尊彼歡喜樂。有曠大想心得解脫。彼心休息。行漸薄休息。皆悉觀之不離本相。是謂如來四種痛思惟彼痛。分別解脫無量因緣。所由除其自相。復次世尊彼受化人無命有命。想心得解脫。皆悉觀之不離本相。彼心得歡喜。思惟歡喜。倍甚歡喜。皆悉觀之不離本相。彼心歡喜為一水味起方便。皆悉觀之不離本相。彼心緣三昧定。方便解脫如實無異。皆悉觀之不離本相。是謂如來四種思惟心。分別解脫無量因緣。所由除其自相。復次

世尊廣解脫心。如實觀之無異。以作勞動。當於爾時出息入息展轉觀之。是謂觀安般守意。亦觀其緣。觀次第縛。觀罪行報。觀遍一切心所行。展。轉觀之。是謂觀安般守意。次第縛罪福行報。彼如此法無常心解脫。皆悉觀之不離本相。彼如是十事住諸法。法想諸盛陰皆悉捐棄思惟休息。皆悉觀之不離本相。無相無常想者。愛永盡無欲。思惟休息。皆悉觀之不離本相。彼心所作降伏修行。作我斷想思惟休息。皆悉觀之不離本相。是謂如來四種思惟法。分別解脫無量因緣。所由除其自相。如是十六事者。以更歷廣大安般守意堂。世尊思惟未曾離彼則有相與共應。亦與行相應。以微妙行起第四禪。乃至滅盡三昧。彼有一無觀。此無出息入息。亦不搖動。亦無所覺知。亦無本心。嗚呼哀哉。瞿曇沙門命過。有第二天。觀如來身顏色未變。便作是語。此未命過。今命過亦當不久。有第三天。會觀世尊及弟子入三昧正受時。亦見從三昧起。便作是語。此非命過。亦當不命過。所入堂作如是形。象。當成阿羅漢。問云。今世尊知從三昧起本所迴轉。答曰。聽時清淨諸根清淨。是故彼大因緣清淨意。識生從彼起。復作是語。自覺知無數之念修自在智。是謂賢聖堂。無垢賢聖清淨天也。神通不亂乃至梵天所覺。斷結學阿羅漢無學。如來堂諸學比丘不還者。還無學果實。於現法中善講堂得無疑法。如尊者舍利弗說。善樂休息。謂之涅槃。尊者

摩訶拘絺羅問尊者舍利弗。彼云何樂無有痛痒。廣說如契經。彼無痛痒故曰樂。說此語時其義云何。或作是說。尊者拘絺羅痛樂為彼說。然樂痛不究竟。尊者舍利弗說。止樂。乃至究竟樂有常樂。或作是說。觀痛樂彼少。有痛樂少有苦樂。無觀樂是涅槃。故曰所以樂者彼無痛。或作是說。痛樂為苦所縛。休息樂者不與苦相應。故曰彼樂。或作是說。痛樂無有定實樂。休息樂有定實樂。故曰彼樂。復次如性行迴轉得。彼入初禪時欲界相應。遂便有增。若彼與欲縛見思惟想行瞋恚便盛。如樂衆生必當受苦。是故生死垢外唯涅槃樂。是謂尊者說此義。故曰無痛痒故樂。又世尊汝有吒婆羅色。四大人自言。是我所者則當久住。若更生餘想者。亦有滅盡。說此語時此義云何。問世尊所許汝學布。吒婆羅。彼想起便滅欲使移轉。問云何瞿曇沙門。我者即是想耶。想頗有所見耶。設當見者。是我想者便知想若干種。如上所說。便知想非類。彼時世尊逆質其義。云何汝有吒婆羅人有吾我。也。彼曰。實爾瞿曇。有色四天人。有吾我。彼時世尊欲生其言。汝有吒婆羅言。色。妙及四天身。人有吾我住者是我所。若生餘想想生便滅。如來性行志不可移動。又世尊言。如是阿難。想三昧者。教戒成就。又生有想無想天。若比丘入彼禪一分別。說此語時其義云何。或作是說。此七三昧志如金剛衆事悉備。是故教戒成就。無想三昧及有想無想三昧滅盡三昧。心不相應休息不起。是

①人二入自②還一還③還一還④倍得二自滅⑤象二像⑥觀彼二彼歡⑦行十(心)⑧(心)十行
 ⑨(倍甚歡喜)一⑩(轉)一⑪意一想⑫議二意⑬結二歸⑭有二布⑮大二天⑯披二婆⑰也一耶⑱邪⑲妙二沙⑳[身]一㉑戒二滅⑳*

故彼無教。戒成就。或作是說。此七三昧亦有漏亦無漏。以無漏道。教成就。是故彼賢聖教。戒成就。無想三昧及有想無想三昧。滅盡三昧。盡有漏。非以有漏道得成就。戒。是故彼無教。戒成就也。或作是說。無常想。苦想。無我想。滅盡休息想。道出要想。便教。戒成就。無想三昧。及有想無想三昧。遊。出三三昧想。是故彼無教。戒成就。復次智慧。照明與身相應。等觀身中。彼無想三昧。滅盡三昧。相應行。以得休息。猶如禪人從禪中起。能有所說。若親近住入禪中。餘時不能有所說。有想。無世尊故說此耳。又世尊言。五法成就。常處閑居山頂叢林。衣裳龜弊。不以為醜。不擇飲食。床臥病瘦。常作去欲之想。觀如是色法成就諸義。常處閑居山頂叢林。說此諸語時。其義云何。或作是說。猶如有人。婬意偏多。欲愛未盡。有此諸病。或作是說。是世尊勸教語。況成就五法。不樂閑居。常作城傍行。雖處閑居。亦少少耳。復次如山澤法。不肯修行。不能至閑居所。樹閑空處。不修變易想。是故彼人不處閑居山頂叢林。自計吾我。彼處閑居。復有是。妄自計吾我者。常處人間。又世尊言。於彼比丘內。起無色想。外觀色。乃至觀白有白想。如契經說。以何等故。白像色。色便有鮮。最衆行中妙。或作是說。此爲上色。是故彼緣色爲上。或作是說。緣白思。惟生心。白復次亦天眼與諸行。以是故。白爲上。又世尊言。有此三樂。無諍訟樂。居獨處樂。無欲於人樂。云何無諍訟樂。云何獨處樂。云何無欲

於人樂。或作是說。戒無諍訟。是故當學禁戒。無欲於人樂者。思惟三昧定。居獨處者。降伏其心。居獨處樂。智無有亂。是故當學智慧。無諍訟樂。當學智慧。身意無怒樂。或作是說。一切生死爲苦。無生死爲樂。彼禁戒盡。無諍訟樂。諸亂永盡。居獨處樂。無有戒禁。盡居閑處樂。復次戒禁。清淨去苦行意。無過行痛樂。便生念與相應。無欲於人樂。念禁戒者。身有喜惱。於此禁戒。常意修行。生諸樂痛。念相應者。居閑處樂。如尊者舍利弗說。諸賢。半月說戒。不起法。現在前作證。不起法。觀者何等。或作是說。所可用道。得須陀洹果。常親近彼道。半月說戒。成阿羅漢果。或作是說。彼諸賢。半月說戒。以無常智。苦諦未生。便見習諦。習諦中間。便見盡諦。盡諦中。便見道諦。或作是說。半月說戒。與長。四抓。梵志說法時。即思惟十二事。所遭衆相。分別無數。乃不起法觀。

垢著念身樂 色劣想想至
閑居分別行 三樂及止觀
尊婆須蜜菩薩所集之三昧。健度第三竟。

人天善處。如是天人善處。以何故。光音天。身一形像。有若干想耶。或作是說。彼一切。自有得禪報。是故有若干想。彼一切。天皆樂想。苦想。故曰。若干想。問。梵伽夷。天。光音天。得禪報。彼一切。天。有樂想。有苦想。欲使彼。一身。一形像。有若干想耶。復次。有覺。有觀。三昧。心。便熾盛。便得因緣。此心。算數。入第二禪。有覺。有觀。休息。若光音天。顏色。障障。彼同一形。此之謂也。念者。生高下。是故。彼有若干想。以何等。故。色界。天眼。觀色。耳聞聲。然鼻。不聞。香。舌不知。味。耶。或作是說。彼不有。香味。處所。問。色界之中。無香味。耶。答曰。得境界。諸根。以遠離。香味。故也。問。如來。欲界。不遠離。則知。答曰。彼根不錯。亂。欲界。香味。錯亂。彼以行。故來。云何。欲界之中。無錯亂。縛。問。或以。欲界。香味。縛。者。方便求滅。若未曾。更者。欲使。緣報。此事。不然。若使苦復。加苦者。色聲。亦復。當爾。是。故。色聲。而不可得。答曰。眼非。境界。耳者。色聲。不縛。著。問。色聲。在遠。亦縛。著。日月。在遠。遙。矚目。睛。若。擊。大鼓。而耳聞。聲。設得。色聲。香味。更樂。身根。亦當縛。著。是。故。身。更樂。不縛。著。或作是說。彼。無苦根。鼻。根。則有。亂。亦。諸。根。成就。是。故。彼。一切。諸根。答曰。彼。所。問。者。是。故。彼。根。成就。也。問。彼。諸所有。者。即是。諸。根。成就。耶。生。喪。目。者。根。亦當具足。答曰。人。生。喪。目。者。亦。不。同。其。相。根。不有。具。問。無。色。界。中。根。不。具。足。此。非。妙。是。故。無。或作是說。彼。無。有。鼻。識。舌。識。問。光。音。相。應。無五。識。身。彼。彼。使。不。見。不。聞。答曰。梵。天。上。念相應。生。眼。識。耳。識。亦。見。亦。聞。何以。故。不。與。欲

教十(戒) 出二步 以二已 無十(想) 常二當 姪二淫 妄二念 忘 訟二諍 常二學 抓二爪 三二二 止二正 尊婆須蜜...之]八字一 集之二所集 健二健 尊婆須蜜菩薩所集論卷第五終 尊婆須蜜菩薩所集論卷第六首 造號同異如首卷 尊婆須蜜...集]八字一 健二健 首十(第四) 首二第四 相一 說二語 明註曰白字南藏作人 等一 請二精 彼使二使彼

界相應生鼻識。舌識知有香味。答曰。彼不
因香味。是故彼不生識。彼亦用色聲。是故
生眼識耳識。或作是說。彼根鈍彼境界鈍。是
故不迴轉。問眼耳不迴轉耶。答曰。眼耳捷疾
不攝境界。亦能起神通。復次亦聞香味知於
少不明設彼本不得香味。是故彼根成就。
得自在境界已得根境界便生穢根。如色界未
來至欲界眼見色。耳聲。彼眼識耳識當言欲
界相應耶。當言色界相應耶。或作是說。當言
欲界相應。亦當言色界相應。化作是欲界形
來彼當言欲界相應。還作欲界形來者彼當言
梵天上相應。次諸相應彼自然當言彼相應。
彼便作是念。如有覺有觀五識身云何。彼光
音天相應三昧亦有覺然非三昧心。乃至有想
無想。以何等故色界天有鼻根舌根。然無男
根女根耶。或作是說。彼說無男女用也。問鼻
根舌根彼亦當無用。或作是說。彼不習欲。問
不於香味無欲耶。鼻根舌根亦無欲。或作是
說。男根女根亦無欲。或作是說。彼生入處自
爾復次已除姪。根彼行不住。彼有男根女根。
彼便作是念。云何於此間有不成男。阿羅漢
亦有此。亦復如是。欲界之中無女根不成男
處惡胎。欲使知識愛欲更樂。彼阿羅漢識本
所更至死不起心。以何等故色界天起壽行。
謂之住耶。或作是說。淨無有亂。問入欲界禪
三昧欲使彼各無壽行耶。或作是說。彼自
然意爾。此亦如上所說。彼亦。各各壽。世尊
亦說。閻婆那天子壽命速疾壽不常住無處
所。復次無有壽命生死有住者。彼相應生自

然縛著。若作是說。諸有怨家。彼則有害意
也。又世尊言。比丘。閻浮利人三處勝鬪單越
人。此間。捷勇猛亦修梵行住。其義云何。答
曰。此勝於彼。勇健亦不畏死。一切生死方便
求天無有境界著。有勝志憶本所說造詩頌。
天無有境界縛勝於此間修梵行而不遠離於
此間出家。於此間修行道。然天無有境界勝。
以何等故。諸天子喪逝便懷愁憂。或作是
說。身愛未盡也。問色界之中身愛未盡。彼使
彼喪逝時生愁憂耶。答不以色界相應有根
也。問如今愛未盡生欲界中。復次彼境界淨
甚深著。彼不相應便生愁憂。諸有命觀六愛
身愚昧力行。何以故。彼命過時不生愁憂依
彼勝。亦作是說。欲界之中有愁憂。云何天子
知喪逝法。或作是說。亦自知我人生我壽命
盡不久。問彼不定壽命。復次本有相應。相。彼
即知亦當聞。云何天子知於此沒生彼間。或
作是說。於彼道受報行。欲使宿命所更則有
果報。果報未熟彼自憶知我當生彼間。或作
是說。彼喪逝時彼行相應。以此行故此法
當生彼處。復次聞。須能分別知生因緣自
知所趣。云何天子知於彼間逝生此間。或作
是說。彼生自然。或作是說。憶彼化生。復次彼
不一切憶諸不捷疾根者。彼不憶捷疾根者。
憶如所說。他化天子。諸使憶乃至契經意。
善趣各各觀。此間無有根
生愛無所攝。自知此間沒
彼天子喪逝法便五相。此義云何。或作是說。
本所造緣善報不善報。善報行者。得天眼自

然福。不善報者。則生五相。或作是說。愁憂因
緣則是彼緣。若已生愁憂彼則有生。是故愁
憂中間當言愁憂因緣。或作是說。自依因緣
則生彼行報因緣。愁憂因緣如因緣淳熟。自
依因緣則有行報壞緣無常心。天子喪逝法
生五相時。當言等生。當言漸漸生。或作是說。
當言等生也。彼一切緣愁憂生故。愁憂生此
五相起。或作是說。當言漸生。已生愁憂便順
熱。使彼華飾枯。見已倍懷愁憂。色變憔悴
便自驚愕。使彼流汗。污盈面。已有流汗。污衣裳。
自見衣裳污。便自不樂坐。復次當言漸生。如
蓮華欲熟時葉稍稍落。如是彼天行果熟時。
此相漸漸生。以何等故。天子住一劫。或作
是說。乘生行果使日往行增上則有此報。問
衆生行無有經劫者。或作是說。天地融爛時
行報便滅。問前造行後受報。彼無有力。勢
盡壞敗爛。復次會聞此非劫之數。以何等故
月住一劫。答曰。如日無異。以何等故。梵天言
住一劫。或作是說。天地融爛便有此生。天地
不融爛便斷。問此非劫數。或作是說。二十中
劫。四劫劫大劫住二十中劫是謂作劫。問契
經則有違如所說。天地反覆梵天宮室便生
彼間。若天地不反覆生光音天宮。復次此
會聞不有生處壽住劫也。又世尊言。於是
比丘有六更樂地獄。云何六更樂地獄。或作
是說。阿鼻名六更樂地獄。於彼衆多。復次一
切地獄皆六更樂。於彼衆多苦毒愁憂。又世
尊言。於是比丘有六更樂天。云何六更樂天。
或作是說。他化自在天彼宮衆多。復次一切

○因一四○ ○耳十(聞)○ ○亦二耶○ ○根二想○ ○淨一靜○ ○各各二名(各)各(名)明註日各各二字南藏作各
一字 ○諸二數○ ○捷二健○ ○復二壞○ ○命二今○ ○相二想○ ○聞二問○ ○須二須○ ○諸二語○ ○勢二熱
○間二根○ ○順二頌○ ○倍二信○ ○汗二汗○ ○坐二生○ ○往二住○ ○經二運○ ○報二根○ ○四(十)○ ○至二空○

天皆更樂。共相娛樂而受其福。以何等故七神止處是惡趣。果實有想無想天非所攝。或作是說。此如來勸教語人欲界天說欲界已初二第三禪地分別則分別無色界說三無色界則說色界。問如所說二入處。彼則有違。或作是說。是如來勸教語於中識捷疾。如諸惡趣果實有想無想。問此亦不生。亦說二入處。淨居天捷疾。識處亦不住。或作是說。諸有六識處相。彼是識處住。惡趣有想無想天無斷滅無識淨居天。是諦所斷無識。無想衆生盡無有識。是故彼識無住處。問彼不生也。云何阿那毘天淨居天也弗樓天果實天彼有識處。有捷疾識。亦不識彼處相應。復次所樂處識住處。不樂惡趣苦惱衆多。果實天或與相應學餘滅有或求無想睡眠時住。或無想衆生。是故彼不樂處所更增生有想無想天。復次天心得休息彼少所樂。是故不得言彼識攝處。所以何等故無衆生居。謂惡趣然果實天所以攝。或作是說。是如來教。戒語。說人則說惡趣餘殘。說色界則說果實。或作是說。是如來教。戒語。此衆生居衆多衆生娛樂其中。復次惡趣苦多不樂。其中果實天。或攝住處所。或不攝住處所。何以等故。無想衆生自生壽命行住。然比丘不。入有相三昧。或作是說。彼志寂靜。問於此比丘入相三昧。志意寂靜欲使彼不各有壽命行耶。或作是說。彼無有壞敗。無刀火毒害。或作是說。於彼心意則有迴轉。亦不死。或作是說。彼常入三昧。此亦如上所說。或作是說。彼亦各有壽命行。

世尊亦說。如住牢固契經所說。復次或有壽命行自說生。或皆相應生。然於此間多有怨家。此不究竟入三昧。若作是說。則無壞敗。如無想衆生修道想盡。云何彼間。終來生此間。或作是說。如想中間入無想三昧。於無想三昧退還彼想。則作因緣。或作是說。非彼三昧想有滅盡。於此間起復。修行想。如久處閑居造諸愚冥。上亦有增。復次行因緣故。受諸想著。以彼行故。猶著愛染自愚等。彼愚如所墮處則墮其中。如以穀子散虛空中即還墮地。

命終上日月 梵天劫數限
泥黎趣七處 九神有想天

尊婆須蜜菩薩所集天捷度第四竟
尊婆須蜜論卷第四

尊婆須蜜菩薩所集論卷第五

尊婆須蜜造

符秦罽賓三藏僧伽跋澄等譯

四大捷度首

又世尊言。比丘色無斷智亦無所知。無斷滅欲愛未盡不斷苦原。云何色無斷智。云何亦無所知。云何無斷滅。云何愛未盡。或作是說。自相斷智智相應。觀彼自相諸結使盡永斷無餘。從此以來常懷和合。自斷智拔諸結。使彼無欲愛。色拔諸結使更不復染。或作是說。以世俗道斷智。以第一道。知彼世俗

道者。結使得斷。彼已盡。謂第一道拔諸結使彼欲愛盡。或作是說。以四諦道知。以思惟道斷。知四諦道滅盡。思惟所斷道欲愛盡。或作是說。身諦處所是知智慧處所。是斷智施處所。欲愛盡休息處所不起。復次於此色分別知色。彼色亦無常。知苦空無我。彼空無我色恒隨愚癡。彼滅無常苦無復愛著。彼欲愛盡。如是自隨愚癡不除已愛。無明斷愛盡無餘。身壞命盡身名識除。如是不有等苦盡。以何等故。地種為堅相。或作是說。於中無有事法性自爾。問設地堅無緣者。水亦當無緣。如水無有堅。如是因無地也。或時為水。是故當說地有緣。或作是說。有不堅緣。不以財果相應有緣也。問財無有因緣則有常。一切相應相類異流轉諸行。或時有或時無。復次地是其事。堅有堅報。問亦曾見軟成堅。是故堅無有緣。答曰。一切諸四大。或時有堅有實有軟因緣成堅。是故軟與堅地為因緣。火種風種亦復如是。如地種堅相可使不堅相耶。或作是說。不可得也。獨自思惟自相不知思惟。思惟無量斷思。水種火種亦如是。可得四大一時俱生。有多少數也。答曰。可得也。曼鉢花以風相知。有一四大處。彼有四大耶。或作是說。有一大則有四大。不得分離。問有一則有四大者。終不有一欲使無四。或作是說。有一則有四大。世尊亦說。諸所有色彼則有四大。由四大生。問此但說色是謂為色。若如汝經說則無有四大。或作是說。曾見如石在火精練然後乃軟。故彼

①彼二依 ②入二入 ③是二見 ④戒二誠 ⑤何以二以 ⑥入二八 ⑦味二味 ⑧此十亦 ⑨修二次 ⑩猗二情 ⑪黎二梨 ⑫尊婆須蜜集八字一 ⑬不分卷 ⑭此下聖本有光明皇后願文 ⑮菩薩所集 ⑯論二經 ⑰聖本首缺 ⑱尊婆須蜜造一 ⑲首十第五 ⑳原二源 ㉑減一 ㉒以二已 ㉓曼二曼 ㉔火二大 ㉕練二練

無者亦不成軟。是故一切是也。或作是說。有一則有四。設地無水者則有壞敗。問欲使壞敗在處處耶。或作是說。不遍有一切。若當遍有一切者。石無有水風不可得。問便有增益。答曰。於中長者則在處處。復次此不有定。不遍有一切所。可無處彼不可得。以何等故。四大謂煖法非冷法耶。或作是說。若四大是冷法者。則在處處。一時有煖有冷。問。此所造色則無處處。是故一時。有寒暑。或作是說。若四大是冷法者。此非四大。當言五大。問此亦是我疑。何以故無五大。或作是說。煖法冷法大事與。是故四大當言非冷法。復次此四大亦煖法亦冷法。若無煖法者。但當言冷法。初新眼識當言是微非眼識知。答曰。當言非眼識知。無有根微妙未知智知。問如彼色新者一切無見。答曰。一一不可見。合集然後可見。如身中垢一一不可見。垢盡然後可見。復次色最鮮明。當言造眼識不習餘色。有鮮明。如是不可沮壞。得餘四大所造色耶。或作是說。不可得也。此在處處。問如色處所。如瞻蔔花香甚香好。云何無處所。或作是說。不可得四大增益。四大因緣依彼四大。復次不可得四大中間。說可得者。則彼無有造色。彼則有非不有。瞻蔔花香從彼生少有迴轉。又世尊身非以瞻蔔花香從彼生少有迴轉。又世尊言。如火梵燒野澤。當言火燒耶。不燒當言燒耶。或作是說。不燒當言燒。如依造色火生當言燒。或作是說。無有不燒而燒。設燒而燒者則無有燒。此變易義。世俗之數所造。火燒者

是謂野澤。復作是說。火無所燒到便燒。若未到無因。若起當言燒。若滅當言燒。或作是說。滅當燒彼有此想。火燒野澤當燒。問彼生則有想。火燒火。或作是說。火無所燒。此亦如上所說。

色所知相者 堅并及多少
如有一煖色 色住二相燒

諸所有火盡有所燒耶。說有所燒。盡是火耶。答曰。或是火非有燒。過去未來火在木。鐵火在舍。火神祠火也。頗有所燒彼非火耶。答曰。汝為寒耶。燒彼非火耶。如所說炎暑繁熾生老病死。頗有火有燒耶。答曰。依彼所造火現在欲怒癡也。頗有非火非燒耶。答曰。除上爾所事則其義也。以何等故。弊惡四大生微妙色。或作是說。緣所造色。依彼四大便有色生。色緣彼色。香緣彼香味。緣彼味是故展轉增。或作是說。四大增上所生色。復以餘事彼則有勝。或作是說。緣四大生色。非一因緣。想應彼則有勝。如一弦琴高下隨曲聲與歌同。如衆人有咽喉聲各有異字亦復異。復次四大境界各有異。是故四大與色不同。問有一人見色。非與色聲香味同。答曰。彼非一色。彼或有好醜。依彼色或依香或依味。亦見多少色聲香味。如琉璃雲母方鹽苦摩利瞻蔔花自然自然者當言滅當言增。答曰。當言有增有減。或作是說。不增不減。非有增非有減。復次若觀彼事。亦不有增亦不有減。是故不作是說。等生四大展轉相觸。當言不觸耶。或作是說。當言觸也。各各集聚。或作是說。當言

不觸。空無所有。初各各不相觸。復次當言觸三昧中色。彼有觸想根依四大。當言根轉有下。當言根轉有上。或作是說。當言不高不下。亦不移動。或作是說。設當有下有高者。則有移動。或作是說。此則散亂。如車輪轉轉不常住。義無有處彼亦如是。復次觀有住相。於中有高下未知根。是故根力四大。於此間是苦法。色聲香味依四大色聲香味。當言下當言上耶。或作是說。亦不下亦不上。此皆集聚。設有下有上者。則當有散。復次當言雜。如車輪轉轉不常住。若一色可得者。於彼中間色復有色耶。或作是說。可得若亦無邊亦無有中。盡無所有。問設彼有中間者。則非第一義。有餘中間。復次不可得空無所有。最細微色者得聲香味。或作是說。得皆為集聚。問今非有細微色耶。彼則為微。或作是說。色最細微。彼色聲香味不住獨處。設當有者。一不別。復次更有異刹土想。設當少所有者。一切無吾我。我亦如是。色不去離色習不可稱。問若四大若小若大者。彼所有色聲香味。當言觸彼色耶。或作是說。亦離彼色色則有壞。問四大壞色亦有壞。問云何得知四大壞色壞四大亦壞。問亦見希望壞所依亦壞然希望不壞。復次彼不觸。設當觸者則為細滑更樂。問如觸身根。彼非細滑更樂。答曰。非以觸身根有細滑更樂也。彼處以何識知。或作是說。用二識知。眼識意識。復次或不以識知。何以故。彼非識處住色聲香味細滑法本所造處。聲當言耳根來耶。當言於彼間聞。或作

①此一②有寒暑③寒暑④法二冷⑤說二設⑥有二可觸⑦服二當⑧火二灰⑨色二冷⑩說二設⑪耶二也⑫想二相⑬若二苦⑭若二何⑮探二糞⑯第⑰

是說當言來。順風聞聲。逆不大聞。問設順風來者。逆風何以不聞。或作是說。當言彼聞。如大市中聲甚高遠四方皆聞。問迴轉速疾則無方。有方便憍慢。如旋無枝輪其像如輪。若聞其聲周遍四面。如以一滴油著水器中皆悉周遍。答曰。觀無枝輪人向不同非以聲速疾得。住義也。設當聲滅者則少有所攝。當言彼相依來。當言彼不相依來。問如人來者彼則有聲也。相依來不是其聲。若聲從耳根來。當言相依來。當言不相依來。或作是說。當言相依來。問彼則有是各相依來。不以聲故而耳根

若有少勝者 不觸根一色
一微依更樂 依住聲相應

香鼻根當言來。為於彼。問聞香耶。答曰。當言來香無處所。鼻聞香鼻根來者。當言彼相依來。不相依。往。問依痛作諸想。當言相依來。如藏羅薩羅花逆風聞香。當言香近鼻根不近鼻根耶。或作是說。當言不近。設當近者則為細滑更樂。復次當言近也。不以不觸彼聞香也。味當言舌根來耶。當言於彼知味。答曰。當言來。非以舌根無處所知味。諸味從舌根來者。彼當言相依來。當言不相依來。答曰。當相依來非不相依知有味。味舌根當言近當言不近。或作是說。當言不近。設當近者則為細滑更樂。復次當言近。非以不近彼有所攝更樂身根當言來耶。當言於彼住。答曰。當言來。彼不以身根觸無處所。諸更樂與身來者。當言相依來。當言不相依來。或作

是說。當言相依來。各各相依。復次當言不相依來。彼相依則所造色。可見者其義云何。或作是說。自現故曰可見。或作是說。從眼中得故曰可見。復次可現示人故曰可見。不可見者其義云何。如上義無異。有對法其義云何。或作是說。對住故曰有對。或作是說。選擇故曰有對。復次覺知空義故曰有對。法者其義云何。如上義無異。可得餘色處所。或作是說。不可得此集聚義。或作是說。不可得色處想著。復次住三世知有處所。如彼處所。是故不餘無對。有對造作處所空空處有何差別。或作是說。空無有形可數處。是故空識色空界。或作是說。空不可見色不可見識處可見。或作是說。空無有對。有對是空識。復次不可移動謂虛空。造色本末是空。識。相亦微妙。可住無住得無住住。得青無青得無青青。如此四義前已說。以何等故樹若干種陰影不異。或作是說。是樹陰因緣。或作是說。緣四大有其蔭。復次蔭。無有義。在在處處冥去無處所。彼彼常住不移處。自作識想。

香味現更樂 有對住不移
因緣境界盡 二情樹及影

以何等故大海水同一鹹味。或作是說。昔仙聖呪術使然耳。或作是說。海中眾生大小便使然耳。或作是說。彼有大鹽山使然耳。或作是說。潮波水激波。猶如此間見水。湧為鹽。復次彼器自然使水成鹹。如此間見器淨水淨器。不淨水如四大相觸各各聞聲。彼義云何。或作是說。緣四大是其義。實相觸其故各

各聞聲。問此間作聲彼聞。響應聲連屬。答曰。本行報故。如埤埴器輪。或作是說。前已生。響聲各各相應。非以中間更有聲異。聞初聲然後有中間聲。欲使彼非聲因緣耶。復次彼聲展轉有其諸故。如盆器聲。擣便出聲。展轉聞聲。如有神通地壁皆過空亦無礙。彼云何知此是地此是空。或作是說。若最有方便者此是地此是空。如所說入地踊出其猶能浮入出水也。水中常可用力空不用力。或作是說。空無所著不入三昧。亦復自知空去地遠地亦是空。復次意性迴轉名色有勝。有染著處所。如地不可見空亦如是。空無有義。如所說染著衆生。空為地想地為空想。欲使彼想獲果實耶。或作是說。由想故彼獲果實。問彼則自想。壞耶。或作是說。彼不以想故得獲果實。彼想顛倒。問空為地想則有壞。地為空想亦作壞。不以想故戒有顛倒。設當以想戒顛倒者。一家同相。然後衆生空為地想地為空想。此不相應。齒者當言根相應。當言非根相應。答曰。諸血肉相著。彼根當言著。彼便有痛。若肉血不著齒。彼非根所縛。設彼無有痛。當言無苦不淨。當言非根縛。答曰。當言非根縛。不以捐棄不淨時有苦痛也。不淨當與欲俱起數數畜積。答曰。當言與欲俱起。彼生有長益。空為何相。或作是說。空相不可數。或作是說。容受為空相。復次空無有義。是故彼無有相。觀在物言有空耳。又世尊言。無邊無際。去此東。利土流轉反覆時。世尊亦說。世無限數此不可記。說是

是說。當言相依來。各各相依。復次當言不相依來。彼相依則所造色。可見者其義云何。或作是說。自現故曰可見。或作是說。從眼中得故曰可見。復次可現示人故曰可見。不可見者其義云何。如上義無異。有對法其義云何。或作是說。對住故曰有對。或作是說。選擇故曰有對。復次覺知空義故曰有對。法者其義云何。如上義無異。可得餘色處所。或作是說。不可得此集聚義。或作是說。不可得色處想著。復次住三世知有處所。如彼處所。是故不餘無對。有對造作處所空空處有何差別。或作是說。空無有形可數處。是故空識色空界。或作是說。空不可見色不可見識處可見。或作是說。空無有對。有對是空識。復次不可移動謂虛空。造色本末是空。識。相亦微妙。可住無住得無住住。得青無青得無青青。如此四義前已說。以何等故樹若干種陰影不異。或作是說。是樹陰因緣。或作是說。緣四大有其蔭。復次蔭。無有義。在在處處冥去無處所。彼彼常住不移處。自作識想。

①逆十(風) ②住二往 ③來一求 ④間一聞 ⑤住一住 ⑥相一相 ⑦說一說 ⑧相一想 ⑨無一復 ⑩勞二勞 ⑪響二響 ⑫擣二擣 ⑬作二復 ⑭相一想 ⑮(後)一 ⑯言非二非言 ⑰容二空 ⑱觀二應 ⑲東二樂 ⑳利二利

語時其義云何。或作是說。此不可記。斷滅有常。刹土無有邊無有限。現其有多。復次衆生境界世尊不然。彼生死方便無有衆。生邊際。如無數集聚有二果。如兩石相。磨便有火出。或作是說。彼不一集會火因。大聲因聲有聲。二事合會成。火因緣。或作是說。彼或有集會便有聲出。或有火出。是故彼不與相應。復以因緣力便有色非因緣。當觀如是。如心彼或有色習。或聲或爲相應。

一味兩相觸 無想及神通

齒澤有二相 無邊無有限

微當空當言不空。或作是說。當言不空。設當空者則有往來。以生勝故則有往來。或作是說。當言空。何以故。彼無有壞敗。設不空者亦有壞敗。或作是說。微妙自然空。初第二處。則當有勝各各有異。若無勝者彼故空。是故究竟不壞敗。彼自覺知時。彼三味壞是故彼不自覺初時。則壞。是故當言虛空。復次當言空何以故。相應無有空。設此微妙。當住者。彼非相應住。是故住相應。初時則住勝。若不任中間相應者則不空。設中間相住。相應亦不空相應亦空。是故當言相應空。微妙者當言有方當言無方。如所說彼集微妙方便成就。如所說當亦有方當言亦無方。設微妙者集無有限量。於彼有減。復次無有方不有無方。空無所有不可具說。若於此若於彼。以何等故。內六入三入謂之死。或作是說。此緣無記。或作是說。此是死根。復次此還境界還有死。與一色聲香味細滑。彼當言

一因。當言無數因。或作是說。當言一因。一相應生。問云何果不壞有相應果。相自然壞得無果報。問不以自然得果報。證我相應便有果報。是故相應不壞。答曰。雖相應無記。是故相應無因相應作因。彼亦復無也。或作是說。當言一因爲四大因。問云何四大不壞有壞果報。答曰。事相應故。或作是說。當言無數因。色爲色因。香爲香因。味爲味因。復次當言無所因。相應壞則果壞。是色相應異香亦異。問有衆多相應。一微妙耶。答曰。一微妙衆多色聲香味之數有。其微妙想得六大勝。知色所由各有上中下。或作是說。得如薪出火如牛屎火觀事增減自相亦有增減。答曰。上中下各有勝。或作是說。火亦增火。若鑽火時若見日光出光皆是因緣果有壞敗。可得火自相。或無自相。或作是說。不可得也。何以故。非以熱知熱上中下。彼各有宜聲。當言空當言不空。或作是說。當言不空。設聲空者聲無所攝。不以事故。心持心俱有壞。亦見聲自作。是故彼不究竟。彼心不生。問以本故心聲出。響應。若二俱事者此理不然。是故此無苦。或作是說。當言空。設聲有住處者。彼則當久住。何以故。聲無有壞此非妙。是故聲空。或作是說。當言空。設聲有住處者。則當數數聞若不數數聞者。是故當言空。或作是說。若聲自然空者。初第二第三處。則有勝無有異。復次聲當言空。設聲有住處者。中間相應亦當住。此亦如上所說。聲當言有方。尋聲當言無方。或作是說。當言有方。尋聲知有人。亦知

一切東方有聲。非餘方聲。問不取彼聲。或有須聲處所。彼則有聲。如言頭有痛不知所在。痛所生處彼亦當見。如是聲有處所。彼聲亦當現。復次不當言有方。聲等俱生不當言無方。俱當觀聲。若此若彼方。當言成就。當言不成就。或作是說。當言成就。如日初出光從東方。所沒處從西方。問若閻浮利日出。鬱單越日沒。若閻浮利日沒。鬱單越日出。是故不成就。問一切四方中央有須彌山。是鬱單越成就。問此亦不同。須彌山在一邊。一北一南。東西方亦如是。北方從北方。或東或南。是故鬱單越不得成就。復次當言不成就。何以故。此非義以生思惟觀便有智慧。彼亦不住性成就。色或無也。或作是說。當有過去亦爾未來現在亦爾。問此因緣無辯何事。答曰。因緣有礙。復次觀彼住。物等行其業空無所有。亦不造新。能說等業。以何等故。暖水之時先從上熱非下熱。或作是說。鎗龜更緣先熱。冷氣下流。復次先從下熱。反由火炎多少。炎先至上。冷氣下住。

二微妙入 水大諸根 二聲東方

水熱在後

頗有一色不前不後四方盡現耶。或作是說。無也。一色微妙。彼不可見。方不成就。是故無也。復次作四角想。擲毬空中。此毬或墮東邊。或墮西邊。或墮南邊。或墮北邊。以何等故。彼燒丸鐵既軟且輕。或作是說。是火木筋力亦用風力。彼風力輕。水力使軟。火力使淨。或作是說。不獨彼鐵餘有輕者相則

○(生)一 ○磨二扣 ○大二火 ○火二大 ○則二敗 ○空二定 ○當二常 ○設二收 ○或二是 ○想二相 ○與二與 ○微二數 ○[得]一 ○新二新 ○問二問 ○問二問 ○須二項 ○頭二頭 ○越二日 ○越十(日) ○越二日 ○越二日 ○越二日 ○當二常 ○無二爲 ○暖二煖 ○煖 ○鎗 ○二鎗 ○鎗 ○炎二火 ○彼二微 ○彼二被 ○丸二鐵 ○火二大 ○筋二筋

自壞。彼性自爾必。熟不疑。復次自然觀。輕重自然。於其中間或時觀輕或時觀重。彼則軟細地種等。生彼鮮明者。由地種生。當言與火相應。應如四大所造青色。四大所造黃色耶。或作是說。青色微妙。或作黃色。非。青色如青黃石。復次餘四大所造青色。餘四大所造黃色。或依微妙或依黃。非以一色微妙相依。如是青赤。如是青白。如是黃赤。如是黃白。如是赤白是謂六。問如四大所造。酢味。彼四大所造鹹味也。或作是說。或四大所造。酢味。則四大所造鹹味。亦見其義。酢鹹。復次餘四大所造。酢味。餘四大所造鹹味。或有微妙依。酢或依鹹味。如是鹹苦。如是酢辛。如是酢。甜。如是。酢穢。如是鹽苦。如是鹽辛。如是鹽。甜。如是鹽穢。如是辛苦。如是辛。甜如是辛穢。如是。甜苦。如義所說。頤地種因水種耶。或作是說。無也。無有四大。復因四大各別異。復次有曾見地種有軟時。如剛物融消。頤地種因火種耶。或作是說。有如。鑽木得火。頤地種因風種耶。答曰。有。耶。如扇則有風。頤水種因地種耶。或作是說。無也。如種無有餘因此各別異。復次有如剛融消。頤水種因水種耶。答曰。有如水朽故。頤水種因火種耶。答曰。無耶。非以中間有熱氣。頤水種因風種。答曰。無也。不以中間風生風。頤火種因地種耶。答曰。無不以中間軟堅生火也。頤火種因水種耶。答曰。無也。不以中間軟堅火生水。頤火種因火種耶。答曰。有。亦見火還生火。頤火種因風種耶。答曰。無也。不以

中間風堅火生風也。頤風種因地種耶。答曰。無也。非以餘種。復因餘種此變易法。復次有亦見虛空中風集雲雨。頤風種因水種耶。答曰。無也。不以中間軟堅生風也。頤風種因火種耶。答曰。無也。不以中間軟堅生風。頤風種因風種耶。答曰。有。亦見虛空中風漸。漸速疾。頤泥。黎中陰還因泥。黎陰耶。答曰。有。如從泥。黎中死。泥。黎中陰現在前生泥。黎。中受泥。黎形。頤泥。黎中陰因畜生陰耶。或作是說。無也。非以餘趣。復次有如從泥黎中死受畜生陰。如是一切諸趣。一一諸趣各各有五義。一切四大覺別所知。問欲使住有開。開耶。復次說世。俗相。衆生四大一切有對一切四大依色。或作是說。一切四大依一切色四大所造。或作是說。三大依色。一風不依色。非以依風得色。復次地種水種依色。非以中間此四大依火依風而得色也。云何得知。餘四大餘所造色。答曰。非一切色有牢固。非一切色中間知四大當說如聚捷度中。而無有異

一切方鐵丸 色味及持陰

攝彼諸知法 知有若干想

身幾陰幾持幾入所攝。當隨象根。答曰。身根身持身入色陰所攝。四大身四持四入色陰所攝。色身九持九入色陰所攝。痛身法持法入痛陰所攝。想身法持法入想陰所攝。意身法持法入行陰所攝。受身法持法入行陰所攝。名身身法持法入行陰所攝。象身馬身車身輦身。十七持十一入五陰所攝。色陰

幾陰幾持幾入一切所攝界。若干種色陰色持。彼色持色入色陰所攝。棄捐色持十四持十入五陰所攝神山處。色陰十八持十二入五陰所攝。如尊者舍利弗說。有炎則有火有火則有炎。然見炎各異處。說是時其義云何。或作是說。此等生語。或作是說。展轉無中間故說此義復次欲解縛故。故說此義。如尊者舍利弗說。汝諸賢。如壽如盛。煖此法成。辦非為不為。不。辨色不因色習。說是語時其義云何。或作是說。欲界色界性所造此方便說。或作是說。欲界色界性造展轉無礙。亦方便說。復次三界所造展轉相依。日當言因日光。當言因四大。或作是說。當言因日光色因有色。或作是說。若覆蓋色便生煖氣。影者是光因緣。當言無緣色則不生。復次當言因四大。煖氣為光。淨。當言因聲。當言因四大。或作是說。聲亦因四大亦因自然。或作是說。當言因四大。四大相因便有聲出響。應當言因聲。當言因四大。或作是說。當言因聲。前已生聲彼因自然。復次當言因四大。由四大有聲。彼於中間生不觸。自鳴者當言因聲。當言因四大。或作是說。當言因聲。當言因四大。或作是說。於其中間本聲不自鳴。復次當言因四大。四大不自鳴。諸所有圓色者。彼所有色聲香味亦圓耶。或作是說。彼不於中圓。彼有一處圓。問設有圓者色聲香味亦當圓。云何彼不圓。答曰。如有白色。如是彼有一白無色聲香味。如是當有圓。彼有一處圓。或作是說。彼一色圓非以色故有色處所。復次觀住有對

①熱二然②色十(則)③作二依④齊二有⑤酢二醋⑥甜二嗜⑦酢二醋⑧(酢)一⑨鑽二鑽⑩耶二也⑪耶二也⑫(也)一⑬漸速二速漸⑭黎二黎⑮如十(是)⑯趣十(因餘趣)⑰如二以⑱開二閉⑲俗二俗⑳而二有㉑象根二象根㉒受二受㉓身二牙㉔煖二煖㉕辦二辦

或作是說。禪攝世間第一法。學攝苦法忍。阿羅漢成就者非學法。是故世間第一法成就阿羅漢。非苦法忍。問若依禪。等越次取證。彼禪攝苦法忍。欲使禪成就苦法忍耶。答曰。學攝苦法忍不學亦不不學。禪攝世間第一法。以捨此學。此學。禪然非不學亦非不學也。問如所說若禪攝世間第一法者。是故禪成就世間第一法。是事不然。或作是說得微妙無漏法。或有不成就。非世間第一法。是故不成就苦法忍。問得增上世間第一法。微不成就

復次作默然想。復次諸善根。緣增上中下法。當言成就。若凡夫人五下分結盡。彼當言一處阿那含耶。或作是說。不得作是語。如阿羅漢一切結使盡。阿那含不一處所盡趣處盡。阿羅漢一處盡不。復次若彼賢聖道一處。五下分結盡斯陀含。亦當復說一處阿那含。況當凡夫人。若欲界結使於中間少。有不盡也。

又世尊言。人有五惡誹謗諸賢。口出惡言瞋怒無常。作不情罪人所憎。嫉。說是語時其義云何。或作是說。若人與不相得不觀行作意。懷猶預誹。謗諸賢。是謂此人誹謗愁惱彼人。懷顛倒意醜惡喜諍。除四所犯。諸犯罪業身懷猶預。於中復犯餘事。是謂人所憎。嫉。或作是說。淫欲偏多瞋怒無常。不避尊卑為人情。嫉。而前欺詐幻惑。讒人無實常習非法。復次彼人以精進意。去欲哉。悉欲行頭陀。威儀禮節常不失時人所信樂。歎譽彼

人不還使。還。是謂此人當言犯法。此人不服戒律。意常親近。於其中間所得利養。亦歎譽說。常威儀禮節得不喜。亦不修行不知思養。是謂此人當言不存。設有人增上戒不成戒。喜聞諍訟誹謗諸賢。是謂此人喜怒無常。若人微妙行中。分別戒律誦誦禁戒。事學知。無戒無智慧者。是謂此人常懷猶預。復次有人微妙行中。分別戒律誦誦禁戒。是謂此人人所憎。嫉。如憂陀那耶婆。羅耶說。云何尊者婆羅墮。以何因緣此諸比丘年少端正。出家未久修善功德。於深法中娛樂。諸根柔和顏色暉暉。皮體軟細樂靜知足。如野鹿象。盡形壽清淨修梵行知足。如野鹿象。其義云何。答曰。坐禪諷經而不順從不著事務。是謂知足。隨法乞求亦不染著。是謂如野鹿象。

又世尊言。我見調達無有毫釐之善。我不記之。調達入地獄更歷劫數不可療救。所以然者。如調達入骨徹髓三歸命佛。當言彼調達此非善法耶。或作是說。此非善法。此亦非歸命三尊。瞋恚盛故說此語。設當入地獄者。如所說。若歸命佛者。彼不墮惡趣。設當實者。若不向三惡趣。如所說。調達入地獄。經歷一劫。是故彼調達無有善法。或作是說。調達亦有善法。猶不能拔調達。還。是故彼不可療救。調達有三不情罪。復次彼有頂法調達。由此方便故曰有善法。

又世尊言。我弟子中第一比丘遊四空定。名跋陀婆梨。四等力成就名僧迦摩寺。此二人有何差別。或作是說。尊跋陀婆梨得軟身護。以自多娛樂。彼以此娛樂先得護堂。尊者僧迦摩寺得增上護。然不多調習。於中先見護力成就。復次尊跋陀婆梨得四禪四等心。恒諷誦習。於中得自在先見護堂。尊者僧迦摩寺遊六善來堂。是謂先發意得護力成就云何。知阿羅漢而不復更生。或作是說。以捨諸結使。有諸結使便生。阿羅漢無有結使便不生。亦未曾見無結有生者。於中知阿羅漢不復更生。復次身愛諸垢永盡。故曰阿羅漢。不於中間無明有愛更染著身。以是之故。阿羅漢不復更生中陰之中。當言如所趣。當言往不如此所趣。或作是說。當言往如所趣中陰。是山神之處。如世尊言。彼有如是慢。譬如極黑羊毛。亦如冥室無明。復次是中陰之弱。復次當言往如所趣。如死欲至時善惡俱至中陰。亦如是隨行善惡。各趣其所中陰。當言住過七日。當言住不過七日。或作是說。當言。住過七日。何以故。如隨行善惡亦無方便。有過七日者。問如七日中間未得處胎。便當斷滅耶。答曰。不斷滅故。度中陰形。復次乃至因緣集聚俱住不斷。若不得生因緣者。是故久住。

步遊四句中 世俗凡夫人

王婆利毫釐 護阿羅漢陰
又世尊言。於是比丘有四人。強記智慧。宣布智慧。順從頑固。齊一句。說是語時其義云何。或作是說。強記智慧人者。發語便知義如易化者。若比丘如彼法便滅。世尊亦知宣布

①等二第②彼二波③此學一④禪然一⑤情二債⑥嫉二疾⑦謗一誦⑧諸二罪⑨淫二淫⑩悉二志⑪還二逮⑫預二勝⑬嫉二疑⑭順教二故⑮有十(一)⑯老輩二毫釐⑰家⑱經二運⑲還二罪⑳速⑳情二債㉑信㉒傷二像㉓住二往㉔王二五㉕毫釐二毫釐㉖家

智慧說即解。如所說。比丘非汝色非汝。痛想行譏非汝。世尊亦說。順從頑鹵人者。以若干行誘進便順從。云何比丘為色。諸所有色彼盡四大。四大所造廣說。頑鹵。齊一句人者。亦不解義。或作是說。強記智慧人者利根。心相相知。分別智慧人中根。順從人者軟根。頑鹵人。齊一句者無有根。或作是說。強記智慧人者。宿命求解脫力。宣布智慧人者。宿命求解脫。復次強記智慧人設便知。如尊者舍利弗質便默然。分布智慧人者。分別曉了然後能知。如尊者弗迦羅婆梨審明義理。順從人者。隨時學增上戒律。隨時降伏心意。隨時學增上智慧。此之謂也。本性所習漸學戒律。漸受訓誨承受奉行。如尊者羅。雲漸漸至道。頑鹵。齊一句人者。受句義。亦不解義理。亦不解深法。以何等菩薩本宿命時。不等越次取證。或作是說。以盟誓故。以此誓願當出世作佛未度當度。未解脫當使解脫。或作是說。菩薩思念觀。彼以智慧意常發願言。度諸眾生。或作是說。菩薩速一切智以自具足。以眾生故不等越次取證。復次諸根未熟故。不等越次取證。以何等故。阿那那。堤長者。供養四如來不於彼佛出家學道。或作是說。此盟誓因緣。以願誓故當供養餘如來。或作是說。親族力勢不能去恩愛意。或作是說。彼長者意常樂寂靜好施鈍根。以寂靜故。不趣惡趣之功德處處獲大報。鈍根者不見。家累之。慈。以是故不出家作沙門。復次彼長者姪意偏

多。常樂姪女之間作方便。一切諸佛如所造事得賢聖道。以何等故。不成男不應法義。或作是說。諸情闕少。是故不應法義。或作是說。心馳萬端不得三昧。是故不應法義。或作是說。障諸報實宿所作緣。得受此形不依智慧。復次遂障結使彼結所蓋。不得休止心無慚愧。又世尊言。作偷婆有三事。多薩阿竭阿羅訶三耶三佛。比丘漏盡者。轉輪聖王。以何等故。學辟支佛不入此三事。或作是說。是如來勸教語。說佛則說辟支佛。說比丘漏盡者則說學。彼或有漏盡者。復次彼亦是數。以此眾生故現其深義。此勸教語如上所說

又世尊言。於是比丘有六阿羅漢。退法阿羅漢。念法護法住。法分別法無疑法。此有何差別。或作是說。種種無學根。上。上中上下中中上中下下下中中。於彼下下中成就。謂退法阿羅漢也。下上成就者。謂念。法阿羅漢也。中下成就者。謂護法阿羅漢也。中中成就者。謂住劫阿羅漢也。中上成就者。謂分別法阿羅漢也。三上成就者。謂無疑阿羅漢也。彼聲聞增上下成就。辟支佛者上中成就。多薩阿竭上上成就。或作是說。猶如一人方便造業。有不慍勤者。亦有鈍根。彼以方便業不慍勤。鈍根求等心解脫受證。彼復以方便不慍勤。鈍根於等心解脫便退轉。是謂退法阿羅漢。猶如一人方便求甚慍勤。鈍根彼以方便甚慍勤。鈍根得等心解脫受證。彼以方便慍勤。鈍根護等心解脫。是謂護法阿羅漢

也。猶如一人常方便求甚慍勤。然鈍根彼以常方便求甚慍勤。然鈍根得等心解脫證。彼以常方便求甚慍勤。然鈍根得等心解脫。亦不增亦不減。是謂住劫阿羅漢也。猶如一人常方便求甚慍勤。然利根彼以常方便求甚慍勤。然利根得等心解脫證。彼以常方便求甚慍勤。然利根得無疑。是謂分別法阿羅漢也。猶如一人常方便求甚慍勤。然利根彼以常方便求甚慍勤。然利根得無疑等心解脫證。是謂無疑法阿羅漢也。復次若人恃怙他力。尋生得等心解脫證。是故等心解脫猶如羸病人尋起無持扶人便還臥床。是謂退法阿羅漢也。若復有人等心解脫不牢固。但恐失意欲求死以刀自害。是謂念法阿羅漢也。若復有人等心解脫。護等心解脫。我能護此盡形壽守持。隨時育養。是謂護法阿羅漢也。若復有人等心解脫。超越鈍根住中根。是故等心解脫不退轉。亦不增不死。是謂住劫阿羅漢也。若復有人等心解脫。初始有益得諸根。彼恃怙外。力得無疑。是謂分別法阿羅漢也。若復有人自以己力初始得增上根。住等解脫自知時節。是謂無疑法阿羅漢也

又世尊言。阿難離舍離甚樂無極。跋闍復彌亦甚快樂。遮波羅寺亦甚快樂。瞿曇彌那拘驢亦甚快樂。閻浮利有若干種快樂。無比人民茂盛。以何等故世尊作是說。或作是說。正坐入定使諸比丘生樂希望。或作是說。轉舍離城甚樂無極。穀食豐賤乞求易得。跋闍復

①齊一開②* ③雲二云④⑤⑥⑦堤一堤⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
 中中① ②於彼下下中二下下於彼中下下③ ④法十(也)⑤ ⑥增二增⑦ ⑧劫二初⑨ ⑩根利二利根⑪ ⑫[謂]一⑬ ⑭能二等
 ⑮ ⑯離二離⑰ ⑱波二彼*

彌甚樂無極。人民和順不遭苦厄。遮波羅
寺輪法瞿曇彌尼拘陀種種座具少事寂靜。
閻浮利地有若干種園菓。種種人民茂盛智
慧業明。復次世尊亦復現去諸縛著。滅若
干彼無欲永息

初發意菩薩 出家不成男

三塔六羅漢 鞞舍離在後

又世尊言。遊鞞舍離從今以後。不復更見鞞
舍離。更無三佛來鞞舍離。何以故。尊作是說。
或作是說。更不復受胎。復次等智滅彼。死
迹。欲鞞舍離城樂法衆生報諸狐疑。是謂
彼時。以何等世尊請摩訶迦葉與半座坐。或
作是說。時諸比丘輕易迦葉起染汚心。不知
迦葉入大法要。以是故世尊與半座坐。欲使
比丘心開意解。懼獲不善報。或作是說。彼尊
者有種種功德。世尊先所化。恐諸比丘犯禁
戒罪。或作是說。第一。尊重尊者阿那律。世尊
往視依衣。更請摩訶迦葉與半座。或作是
說。世尊欲付授戒律。後來衆生信受其言。復
次未曾有與弟子半座者。復次世尊欲布現
大德。又世尊言。諸比丘等。若沙門婆羅門晝
有夜想。夜有晝想。彼心意顛倒。比丘如我晝
有晝想。夜有夜想。於我心無有顛倒。說是語
時其義云何。或作是說。彼起天眼除外想修
向明想。觀晝如觀夜無異。彼或無異。彼或
時晝有夜想。夜有晝想。然世尊不爾。或作是
說。彼沙門婆羅門於眠寐中夜有晝想。晝有
夜想。是彼顛倒。復次閑居右脇倚臥。觀如是
色入禪中。然世尊若行若坐常如一定

又世尊言。於是比丘有三如來。於是比丘於
現法中實有無疑。自得智慧亦教他人入智
慧。云何自得智慧。或作是說。彼不可得虛無
有實。況當得實。復次是世尊勸教語也。作
是語我覺此。或作是說。若彼著色心所念法。
自譽戒盜自憑仰作。以實爲虛。世尊觀彼見
盜。復次是彼邪見。五陰之中是我所實住。佛
所語亦如是。不有餘陰。言我所以何等故。以
外道盡欲愛等越次取證。相應不退轉法此
之謂也。或作是說。彼以二道滅諸結使。或以
世俗道。或以無漏道斷諸結使。或作是說。若
依禪等越次取證。彼觀禪便有道生。彼不
見諦所斷。是故不退轉。復次彼等越次取證
時。修行忍智得等方便力勢尋益。若力勢
無益者。不於力勢中退轉。是故不退轉

又世尊言。四雙八輩幾果成就幾無果成就。
或作是說。五果成就。須陀洹斯陀含阿那含
趣阿羅漢及阿羅漢。一非果成就。趣須陀洹
果證。二人或果成就。或果不成就。趣斯陀
含果證。趣阿那含果證。彼趣斯陀含果證者。
方便欲愛未盡等越次取證。當言非果成就。
有得須陀洹果。求趣斯陀含證。當言彼果成
就也。以無爲須陀洹果。趣阿那含果證。彼
欲愛盡等越次取證。當言非果成就。彼復得
斯陀含果。求趣阿那含果。當言彼果成就。無
爲斯陀含果彼果有爲。當言諸根壞敗。是謂
知有八人

又世尊言。四沙門無有五。說是語時其義云
何。答曰。道智爲如來自得證果。無著說道清
淨說法而轉法輪。彼故敷演道命。爲學諸
智慧。斷諸疑網誹謗道者。無究竟行。無戒律
威儀犯諸戒。爲沙門服皆悉覺知。彼第二沙
門當言攝辟支佛。第三沙門當言攝凡夫人。
第四沙門當言攝外道。異一切假沙門被服。
計吾我著命計衆生。彼一切於道退轉

又世尊言。無染著謂戒

無染著袈裟 袈裟被服始
意已得所欲 袈裟非無著

說是語其義云何。答曰。有三種。濁身口意
穢濁。彼若思惟校計。是謂無穢。袈裟服虛稱
詐逸。非神仙所學。彼非其宜。此謂之忍。亦
非移動。如實而對意常審諦。彼若不得忍。
被罵便報罵。被打便報打。此非沙門法。況
當作如此行。是故不應袈裟。故彼袈裟無
著。又世尊言。若已生刈斷更不種。說是語
時其義云何。答曰。對生受。於四禪止處生
行垢因緣。所造之義便有斷絕。來無有對亦
不受生。四禪止住處亦復不生。選擇取要。
設與四神止處因本行緣。彼亦不受。已除
棄愛已盡受。第二人馳走當言此無學亦無
威儀。亦不觀於無上智慧涅槃滅盡。得仙人
法是謂大仙人

初迦葉睡眠 最勝無有欲
已說四袈裟 斷滅不復生

又世尊言

習智至無智 降伏作牢固
有漏盡無餘 是謂爲梵志

說是語其義云何。尊者大迦葉契經是說也。

○(尼)一○ ○以二已○ ○死二無○ ○(尊)一○ ○更二便○ ○無二有○ ○(彼)十作○ ○言十(有)○ ○合二
合○ ○學十(學)○ ○諸十(學)○ ○種二祿○ ○審二審○ ○打二打○ ○又二入○ ○答十(日)○ ○禪二神
○ ○神二禪○ ○二二一○ ○業二業○ ○

自持法比丘習智智者。學雖諸梵行人住彼業者獲法養生之具。彼亦是法戒律之義。故曰。智者知不於中間住已修行心得觀覺照住二解脫。彼已思惟無明愛盡。欲說眼根此沙門法。故曰有漏盡無欲。故曰爲梵志者。世尊即是大梵志。心垢已盡

又世尊言

比丘無有欲 有欲見大懼

於欲不退轉 是謂爲涅槃

說是語其義云何。答曰。智慧相應寂靜。以自娛樂無有憂感。是謂比丘無有欲。無事清淨靜事。爲苦惱有欲。彼見法者乃能覺知。是謂有欲。見大懼於欲不退轉。捐棄諸垢善漸漸益等相應。是謂三昧。一切結使盡覺聖道。是謂涅槃。以何等故。入慈三昧不可傷害。或作是說。諸天衛侍而護其身。或作是說。彼三昧者閑靜無事。害不加身身不有壞。復次受色界四大身

又世尊言

鹿鹿歸野 鳥歸虛空 法歸分別

羅漢歸滅

分別人者何者是。答曰。學謂之分。能分別色痛想行識賢聖之道。皆悉分別

又世尊言

無想有思想 思想不_有有想

如是變易色 緣想有其數

變易色人何者是。或作是說。生無色界阿那含。當言變易色想。彼則色想變易。復次阿羅漢。於中亦變易想。阿羅漢不於五陰有所變

易。修行究竟。以何等故。世尊謂調達食睡子。或作是說。爾時調達方便欲壞衆僧。以是之故。世尊呵之。恐諸比丘意有移動或作是說。淳惡之人。以染和誨之。數數。住求欲壞聖躬。爾時世尊逆其意。利語誨。或作是說。若於佛得供養具。調達欲使入已。故曰食睡子。復次調達本有大神足。化作小兒形。金縷帶。腰住阿闍世太子抱上。宛轉戲笑。彼時阿闍世太子抱弄。口與睡使吮。彼時調達亦復食睡。太子亦復知此尊調達。爾時世尊以沙門息心意。呵曰。食睡子也。云何調達先善根斷壞。衆壞衆僧。仁後善根斷。或作是說。調達本善根斷後壞衆僧。亦告人民善惡無果報。以是警故。發意壞衆僧。問非以今壞衆僧有非法想。或作是說。調達先壞衆僧。後善根斷。非以善根斷壞衆僧。有劫數債罪。設當彼告語者。善惡無果報。不以壞有非法相也。問若壞衆僧非已善根。欲使向惡趣耶。世尊亦說。我不見調達。毫釐之善。契經句廣說。復次調達從壞僧以來。齊是以來善根本斷。如彼告語。我壞瞿曇沙門。衆僧斷轉法輪。便歡喜踊躍。彼當言善根本斷。從是以來作衆惡事無變悔心。是故壞衆僧善根本尋斷。云何善根本斷得善根本。或作是說。設生泥_梨中者。知受泥。梨苦痛。我作是罪今受此報。此當言得善根本。或作是說。如此受泥

梨中陰。便有觀心有是果實。當言得善根本。復次於現法中或有得者。於彼有善知識者。便起悔心。漸漸教至道。鹿_躑躑者。其義

云何。漸漸膾_脾故曰鹿_躑躑。七合滿盈其

義云何。肉脈平正鈎鎖骨。七處滿足平住

色不變移。是謂七合滿盈。師子臆其義云何。

身無高下不前却。是謂師子臆。味味知者其

義云何。輕軟微妙皆悉能知。是爲味味曉

了

不養賢恐懼 慈及諸所趣

無想有想睡 曩昔云何相

以何等故。鳥畜生昔日皆能語。今不能語。或

作是說。爾時從人中終生畜生中。以前所習

故能語也。問如今從人中終生畜生者。亦復

能語。或作是說。所可食噉與人無異。如今

無有此食四大改異。以是之故不能語也。問

如今與微妙食使噉者。能語不乎。或作是

語。昔日時人無鬪諍訟無殺害心。爾時畜

生見人亦不恐懼。與共止住聞其音響。故

能知語。問如今生畜生人無有恐懼。復能

語耶。或作是說。今亦能語。但不可解。若得

音響。響才便能解語。如夷狄語語不可解。若

俱解二語者彼則能知。問昔時之人得音響

辯才。便能知乎。復次不見畜生知文字者。

或聞欲音響者。鸚鵡鴛鴦此便可解。然世尊

喻無有差違。智者所說欲使人解。是事不然

精進者云何自知不墮惡趣。或作是說。知無

解者不墮惡趣。我無此犯戒意。是故不墮

惡趣。或作是說。得功德力。如寤寐中善意不

變。彼便作是念。我命終時有不善報不墮惡

趣。或作是說。不誠之思墮惡趣中。亦不生

惡念。彼有熾盛衆生。我不墮惡趣。或作是

①脫二勝②憂二愛③有二思④染二柔⑤住二往⑥利二和⑦帶二舞⑧衆十(僧)⑨仁二然⑩已二以
⑪善二會⑫梨二梨⑬陳二陳⑭其義二義其⑮脾二衆⑯肉二肉⑰鑽二項⑱爲二
⑲語二說⑳見二是㉑墮二墮㉒處二處

說。彼無有此方便能自覺了。世尊亦說。如是精進者覺知。亦自知所趣。我生彼。問。如我亦知精進所趣。以刀自害若飲毒藥。問。精進雖知故不如佛究竟。復次若有教戒者。不恃怙。戒。我不生惡趣。亦不得第四禪。心發涅槃想有趣三惡道也。遠離七處。亦作是說。大行分別契經。以心穢濁眾生趣惡道。世

尊亦說。如壽百歲奉具足戒。然戒羸不捨能拔惡趣。邪。欲使六師逼迫。衆。將拘利人入惡道中。此之謂之惡。彼得第一精進。彼亦好信世尊者。有惡趣法智慧自在也。諸邪

定者彼一切成就邪見耶。設成就邪見者。彼一切成就邪定耶。或作是說。諸定邪見者。彼一切成就邪見。設成就邪見。彼一切成就邪定。五逆為邪見成就邪定。或作是說。諸成就邪見者。彼一切成就邪定。頗成就邪定非

成就邪見也。斷善根本不成就五逆。復次諸定邪見者。彼一切成就邪見也。頗成就邪見。彼非邪定耶。想心成就邪見。諸定等見者。彼一切成就等見耶。設成就等見。彼一切

定等見耶。或作是說。諸定等見。彼一切成就等見也。設成就等見。彼一切定等見。賢聖之道是等見。彼定成就等見。復次諸定等見者。彼一切成就等見也。頗成就等見。非定等見

耶。等心想心一切成就等見。諸上流者。彼一切阿迦尼吒。設阿迦尼吒處。彼一切是上流耶。答曰。或有上流。非阿迦尼吒處。或有阿迦尼吒處。非上流也。或有上流及阿迦尼吒。或非上流非阿迦尼吒處。云何上流非阿

迦尼吒處。若阿那含生色界中。然憶上事不定阿迦尼吒也。若欲界中生若阿那含。生無色界然憶上事。若欲界所生。是謂上流非阿迦尼吒處。最初阿迦尼吒處。是謂阿迦尼吒非上流。若阿那含生色界中。然憶上事定在阿迦尼吒。是謂上流及阿迦尼吒。云何非上流非阿迦尼吒

答曰。除上爾所事則其義。以何等故。阿那含阿羅漢住劫不移動。或作是說。住。劫者不為世所迴轉也。復次得等解脫。柔軟下根超越住上。是故等解脫亦不增亦不減。故曰。住不移動。然阿那含當言住已得誓願。凡夫

人者當言善心命終。當言不善心命終。當言無記心命終。或作是說。當言不善心。念非以善心有所住處。問如世尊言。臨欲終時得善心。所念已還等見。是謂契經有相違

或作是說。若生惡趣中者。彼不善心命終也。若生天上者。彼善心命終。如最後心。住受生亦復如是。或作是說。當言無記心命終也。以無記心自住身中有報數望終。復次若不修善。不修善法。不住後心亦不滅。是故當言

無記心命終。若作是說。必死無疑。是時當言命終有所避處。以何等故。阿羅漢不得最後善心。或作是說。自住心受報望終。然爾時無善。是故不得善。復次若修善終時亦不住。復次彼心無記本行休息。又世尊言。與共止住然後得知。或有不不知顏色和悅。其義云

何。答曰。若聞彼毀譽輕舉。信用樂受他語。雖顏色悅。禪指頃信樂忍受。有威儀禮節

身樂靜寂得歡喜。外如不密內懷詐僞。若復說法之時。無義辯才無法辯才。如是不如至實。是謂愚癡。又一等信等戒等聞等智慧等施。現在前時何者最。是大果。二俱清淨。一俱清淨。或作是說。二分別俱清淨。世尊亦說。於彼比丘布施之家。二分俱清淨。是謂檀

越親。第一之德。問云何兩意。或作是大果。或非大果。答曰。田業良如良穀子。猶田業良彼穀子好。問猶田猶穀子。然不隨時。是故難可齊。或作是說。二分俱清淨。已得清淨。作如是施。心所有因緣得諸報實。問若施勝者則施無有等。當說等施。復次量二果平等思

念所行。是故彼施二俱清淨。有諸果實。問如向者世尊言。於彼比丘二分俱清淨。檀曜者第一之施。如是則差違。答曰。多二分俱清淨。意所念行亦清淨。心意平等果亦平等。云何殺害之蟲有淨法生。或作是說。邦

國時俗使親友明黨意所思惟。復次如水波動。世俗等者。彼有淨行者。或以行報故便有止淨行者。墮殺害中於彼生。中間行報

因緣便受其殃。親近善知識而聽受法。思惡露不淨。如是殺害之人也。云何清淨之人而生黑法。或作是說。隣國時俗使爾親友朋黨意所思惟。復次如水波動。彼不善等者。清淨行者。或以行報閉塞不善行已。得淨彼

生中間便受行報。彼親近不善知識。聽不善法。亦不思惟惡露之行。如是清淨便生黑法。又世尊言。二法成就。若不有善自不精進

念一命終(一) 心十(心) 說二語 休二依 和二知 他二陀 是(是) 劫二法 間如我二聞如或(聞知或) 戒二哉 邪一邪 衆十(好) 之(之) 也(也) 親二親 殺二殺 邦二隣 明二朋 止二山 隣二邦 淨十(行) 黑二果 若二善

若他精進牢固不移。云何他精進牢固不移。或作是說。以五法內自省察。教他精進牢固不移。若一切違與共相應者。則有壞敗。復次學他非法不應法而犯。未會有如義法不爾。以何等故。世尊言聲聞第一耶。或作是說。現微妙法。或作是說。現聲聞威儀。或作是說。擁護法故。或作是說。為諸比丘發勇猛意等行具足。復次以二因緣故。世尊言聲聞第一弟子。現授決義故。於彼解脫現變化故。

畜生語精進 上流住不移

凡夫人止住 施之所供養

黑白無戒人 此弟子第一

*尊婆須蜜菩薩所集契經捷度第六竟。

尊婆須蜜論卷第五

尊婆須蜜菩薩所集論卷第六

*尊婆須蜜造

符秦罽賓三藏僧伽跋澄等譯

更樂捷度。首

又世尊言有二樂。出家者所不應學。若於欲中染著樂。現世無事樂。云何於欲中而染著欲樂。云何現在無事樂。或作是說。憶過去欲所生樂者。是謂於欲中染著欲樂。憶現在欲諸所生樂。是謂現在無事樂。或作是說。結使欲相諸所生樂。是謂欲中染著欲樂。欲相諸所生樂。是謂現在無事樂。或作是說。貪欲相諸所生樂。是謂於欲中染著欲樂。意

喜想欲便睡眠樂得利養樂。是謂現在欲樂。復次習著向欲。已得先足身意所生樂。是謂於欲中染著欲樂。已得等意諸所生樂由身意興。是謂現在無事樂也。又尊者舍利弗言諸賢。此十二行法集聚。得賢聖法。說是語時其義云何。答曰。處處止住造處住。住智慧處住應適處。是謂己身威儀。若偏授決則著一事。分別義理則演分別。問疑論者則演其疑。安處論者則論其安。是謂彼身威儀。或有觀見無姦詐無幻惑。性質朴是謂己威儀。分別根義是他威儀。已得人身生中國。得賢聖體。眼耳根意根諸清淨現其實事。穢行諸使意不染著。以智順從無有過失。得十力尊。佛出世得三喜入本無。如來樂深妙法。如來弟子善成就者。緣彼意無有謬亂。得賢聖法廣分布。智慧所攝說微妙法無有狐疑。奉持誦誦初不遠離。諸法。注者。展轉流布。於等法中以法食施於彼。以因緣故。以己威儀施於彼。作諸梵行。四無空處現有長益。得賢聖人。生彼善處。現五無空處。皆使遠離。諸根具足現六無空處。皆使遠離。所未會行現七無空處。皆使遠離。六住處現八無處。皆使遠離。復次以人賢聖諸入因緣生者。現仁良義他威儀。佛興出世說微妙法。以因緣故。故丈夫力已威儀者諸入歡喜。現迴轉說諸法已住。便求演說。諸根具足現曩昔所作功德。又尊者大遍者延說

信歡喜念者 不遍佛境界

最勝所至處 意常連屬喜

說是語其義云何。答曰。智慧成就信堅固。喜樂佛法志性不亂。受持智法意常專精。如是諸法無有差違。順從法教於中入定。故曰信歡喜念。瞿曇翼從初無空缺。所至到處意常連屬。還微妙法。莫作是觀。此非妙法。

又世尊言。信為第一財。說是語時其義云何。答曰。智者所用故曰信為第一財。錢財之業。賢聖財非賢聖財已得不失心。便作是念。彼非賢聖財。摩尼寶器自然成物及餘雜寶錯廁其間。復有異寶。車乘碼礮為人所貪。常當擁護。亦無厭足不可藏匿。賢聖財者。各有七相。如信財乃至智慧財。於此間各自娛樂心踊躍喜。然不慳慳自住平等。貪著他財心不堅固。所欲便造不守智慧。除貪愛欲智慧充足。以智勝彼。復次非賢聖財者。邪志業相應。然賢聖財等志業相應。故曰信財第一。復次信名者。信著外財。意無有亂。成就家法善知止足。善有田業善意娛樂。猶如此間沙門法出要為樂。樂靜處休息樂道場處樂。故曰擇法善為樂。先服甘露言無有虛語。甚吉祥功德成就。故曰味吉祥。緣此因緣知智慧為明。無有愚意不與顛倒相應。故曰最為明。

又世尊言。如阿難比丘。於六更樂無餘已離。皆使滅盡。亦無有身諸所生苦樂而受其報。亦無心亦無形體亦無諸入。亦無作所生苦樂而受其報。亦無空缺處。此是苦際。說是語時其義云何。答曰。此六更樂內六更樂永盡

①二一① ②此下聖本有光明皇后頌文 ③(菩薩所集)十論④論二菩薩所集⑤五二七⑥六二八⑦首十(第七)⑧食十(食)⑨(住)一⑩注二住⑪(於)一⑫人二入⑬延二近⑭通二退⑮還二遠⑯財二則⑰車乘二障礮⑱

無餘。捨諸欲著更不復習欲盡愛使永除。滅盡見結不起。復作是說。無欲思惟惡露諸欲已盡修行止觀。復作是說。無欲得無願解脫門。盡成就空解脫門。彼無有身亦無有至智。亦無語亦無彼心。亦無智亦無彼體。及外諸入未盡者則無。有諸入亦無內入。及餘未盡者亦復無也。亦無所依亦不永盡。復作是說。彼無有身除去結使。如是一切彼無有身身之相貌。如是一切彼無有身。亦無身行口行。亦無心意行。亦無彼體境界行報亦不迴轉。彼諸入亦無邪見。內諸入便具足。依彼諍訟。無有苦樂之報。尊曇摩多羅作是說。六更樂相應之時。則六細滑入也。於彼細滑則有累。彼無有餘。全具無欲。愛著未盡。於彼性相應便觀苦根本。如是無餘亦無有欲。如是相應去離愛著。便住無欲。如彼苦相應性。住無我想示現智慧。如是無餘盡修行滅盡。如是修行已。去離愚癡住點慧中。無明無欲便起有明想。故曰住無餘滅盡。彼無有身亦不得四大身。如處所縛已心無有苦樂。無有惡流轉生死。四神止處。入生入諍訟者。或著已或不著已。如其處所。四神止處意迴轉開避處此盡熾然。又世尊言。眼惛望意欲見色。諸不善色眼不樂。云何眼惛望意欲見色不善色眼不樂。或作是說。惛望由眼門。愛瞋恚現其所由。復次云何眼惛望非境界所攝。復次心相應便有所照生便有益。如尊者舍利弗說。諸所有色見是我所等自觀知已。遠離分別別節。云何知色止住不移動。已捨離觀

肢節想。答曰。如是便有更樂集聚。彼則還境界。或有是或非彼。如長。抓梵志作是語。瞿曇一切我不忍。如是經句。說是語時其義云何。或作是說。見尊者舍利弗出家便起是念。我一切不忍。彼二人者。皆出家一切如我所願。故語世尊。如是見不忍耶。復作是說。一切觀皆有疑。爾時世尊便作語。汝疑復有疑耶。復作是語。現一切非觀一切非。爾時世尊復作是語。此復是汝非見。又世尊言。閑居樂。靜意常娛樂。親近思惟觀淨樂。思惟與思惟相應。閑居樂。靜思惟樂。靜。此有何差別。或作是說。閑居樂。靜以休息意。思惟樂。靜已得止觀。或作是說。閑居樂。靜者。現涅槃休息。思惟樂。靜者。現道出要。或作是說。閑居樂。靜者。現初第二意斷。思惟樂。靜者。第三第四意斷。復次有二想。諸結使斷。拔諸染著。娛樂彼初不遠離。是謂閑居樂。靜。當觀有三思惟。善法住處所。謂相應住。有所益止觀相應。故曰娛樂。是為思惟樂。靜。又世尊言。於是比丘當身身相觀莫起身想。亦莫作觀想。說是語時其義云何。或作是說。觀身不淨莫味著。身亦莫起淨想。或作是說。身無常空無我。當作是觀。莫起身常樂想想是我。當作是觀。復作是說。思惟身身觀。莫計身出由。復次淨除行地觀。辯大事。按計惡露方便思惟。悉了知已盡不生。智慧眼所照分別悉了。

又世尊言。有四法句。不可。粗法句。不亂法句。等念法句。等定法句。句義為何等。或作是說。諸法句斷故曰法句。不可壞善根無瞋恚善根。等念等定無癡善根。或作是說。修行諸法故曰法句。不起貪欲貪欲盡無。無瞋恚恚盡。等念睡眠等念。等定調戲。疑盡。復次沙門法句不可。粗壞。無瞋恚戒。等念求定威儀。等定求智慧威儀。如曇摩提比丘尼說樂痛是苦痛分。分者其義云何。答曰。有對則有分。於彼樂痛便有苦痛自然之對。苦痛有樂痛分自然之分。苦樂痛有不苦不樂痛之分。除去不苦不樂痛。有無明分。明相應無明是明分。展轉相盡。因明是行分。行垢是無明分斷滅。作如是行是涅槃分。無餘涅槃界。滅一切諸行已。作是涅槃無分。爾時世尊歎譽謂甚戒梵行。又世尊言。尊者魔樓子說。是命是身見諦是我所修梵行。云何身異命異耶。於是比丘見諦是我所不修梵行。說是語時其義云何。答曰。雖記別一見。不記別餘見。尊曇摩多羅作是說。如是是命是身。於是比丘見諦不修梵行。知見之所趣彼所依處。見便往照不依處所。二俱有累。最勝如是說。有十三聚事。有身有我見。一切忍思惟。法句比丘命。又世尊言。云何汝摩羅天子。有異梵志年少端政。當作如是行。說是語時其義云何。或作是說。尊者摩羅。天子志樂十想而作是說。亦世尊欲拔諸結使。復作是說。如是彼人欲

①不無無 ②全二命 ③抓一爪 ④[是]一 ⑤靜二精 ⑥謂一住 ⑦辨一辨 ⑧粗一粗 ⑨疑十 (從) ⑩大二太 ⑪亦二然

使貪欲結使滅盡。尊作是說。如契經句語然。與異學梵志論結使集聚由思想得。汝端政摩羅*天子。甚幼少而臥抱。辱未有色欲。況當有貪欲繫著心意。結使者貪欲愛使。云何世尊觀犯諸過罪。如貪欲使知有力劣受戒戒所攝持。若彼有力語無有違。若貪下中者不化。則無有五上分結。如是當察此事。此無有異。是故世尊知

又世尊言。於是跋陀婆梨比丘有具足行。彼戒不具足。閑居。靜處巖峻坐禪。以此閑居。靜處巖峻坐禪。世尊作是誨。天亦復誨。智者梵行亦復誨。亦自誨。誨之義為何等。或作是說。被責之人是最勝教戒語。亦誨誨天。亦誨誨智者梵行。亦自誨。或作是說。當言責數。世尊亦責數此非我弟子。諸天亦責數此沙門非釋子。智者梵行亦責數此非平等之法。復自責誨。我非沙門。復次如是歎譽世尊平等教戒。如是世尊義責數。如世尊說。成就五法閑居。靜處巖峻坐禪。以朽弊衣而知止足。以飯食病瘦醫藥之具。知足作欲愛想。爾時世尊以義責誨天亦誨。如所說世間增上智及梵行者亦復誨。如所說世間增上法增上我增上

又世尊言。是謂苦。是謂苦習。是謂一觀。是謂苦盡。是謂苦盡出要。是謂第二觀。說是語時其義云何。或作是說。是謂苦。是謂苦習。觀因緣果實。是謂苦盡。是謂苦盡出要。觀因緣果實。或作是說。一觀結使第二觀淨。復作是說。一觀本所造。第二觀已過。復作是說。一觀。

苦第二觀無苦。復次一觀有漏。第二觀無漏。如摩竭檀提梵志作是說。我見色好。汝籬羅墮逝。我見瞿曇沙門坐。辱色壞者其義云何。或作是說。諸根謂壞。彼以無生法眼者。尊作是說。諸根眼亦是異。異學書籍。彼此迴轉。於泥遊行不見染污

又世尊言。觀其力勢亦觀誨。無力勢無誨。當為說法。云何有力勢有誨。非為說法。或作是說。以人根故。善行之名。說不善行之時。亦歎譽誨。若於彼人歎譽善行。去不善行說平等法。問又世尊為人說。歎譽善行。去不善行。欲使世尊歎譽教戒耶。答曰。世尊亦知此戒律。世尊不作是言。彼有教戒。或作是說。無有功德力勢。教戒功德。有教戒各歎譽其名。若不歎譽其名。實無有疑。隨時說法。復次亦無巧便。雖指授亦不教戒。若有方便。於彼踏步而教誨之。不觀方便而觀不方便。欲使彼當言說法分別。隨時作觀至使得望

又世尊言。以女人八事繫縛男子。歌舞談笑。顏色細滑姿態。恩愛義者為何等。或作是說。身體瘡瘻是恩愛義。復作是語。身體。瘡瘻身體平。政是恩。愛。或作是說。諸根瘡根相根義是恩愛義。尊作是說。愛女人相是恩愛義。又世尊言。汝復波伽也。如來有四說法。彼有無量功德無量法句。無量法句味廣說。說是語時其義云何。或作是說。此是不善。是謂第二意斷。彼復滅不善。是謂初意斷。是謂善。此謂第三意斷。彼復思惟此謂四

意斷。彼有無量功德。文字無量謂之法句。文字次第是謂法句味。或作是說。是謂不善。苦諦所斷。是謂習諦。善思惟盡諦。是謂道諦。彼有無量功德。是謂法句。名身味為味身。復次如來說法有盡。應一切說法。由二迹平等身習出要迹。得平等身盡出要迹。彼無顛倒無有忍無有善。有是顛倒有退轉。忍善之中有無量功德。所以作是說。謂法句語法句味滅身字。如優婆塞梨長者說。如來世尊於彼愚癡異學不善之中。說是語時其

義云何。或作是說。不可使無信人火能燒也。復次彼無信者。現無有義。或作是說。現彼無信者盡。復次或於彼時尼提茶。無信於此法中現其有信。如尊者阿難說。尊者舍利弗已般涅槃。我今世尊精神閉塞。不知四方。亦不思惟法。說是語時其義云何。答曰。身無所覺現身行惡。不識四方者。現心無行。不思惟法者。現不諷誦。復作是語。身無所覺者。現身說重。不識四方者。現心有愚。不思惟法者。現不說法。復作是語。身無所覺者。現身無行。不識四方者。現心有亂。不思惟法者。亦不聞往古。又世尊言

識法如幻。最勝故說。說是語時其義云何。答曰。色是我所。彼若聚沫因緣合會。無數物成就漸漸集聚。所持不牢性劣弱不得久住。饒諸怨家親近怨家。作如是色愛著。色欲因緣合會。更樂色味香根。如是無數物色之根本。處母胞胎。處胎長大。年壽時過。當於爾時漸漸前進。集聚一處。有

◎此二而◎ ◎於二深◎ ◎[瘡瘻身體]◎ ◎故一正◎ ◎愛十(義)◎ ◎[世]十尊◎ ◎[也]一◎
 ◎[是說]二◎ ◎[有]一◎ ◎[波]二◎ ◎[是]一◎

男女傷。知有衆生處所衆生不牢固形。牢固相應因緣性弱。造作諸行。化若干種怨家集聚。必當壞敗。有力怨家常被繫縛。必當壞敗。自性住親近怨家。故曰色如聚沫。痛如水泡者。彼如水中泡潤雨。與風合成。如是吾我痛者。諸根境界與識等生。故曰痛如水泡。想如野馬者。彼如野馬。盛夏炎暑無有雲蔽。亦無風塵。無有漿水便起水想。如是作吾我想者。皆是幻惑衆生。顛倒。故曰想如野馬。行如芭蕉者。彼如芭蕉樹極峻高大。皮皮相纏中無有實。如是吾我者不得久住。作若干種行。然無有實皆不牢固。故曰行如芭蕉。識法如幻者。彼如幻師。無衆生謂有衆生想。吾我識如是。故曰識如幻法。最勝爲釋種。故曰最勝說。

又世尊言。學者生三刺。三刺義者其義云何。答曰。此三集聚知有不淨。謂淫怒癡。又世尊言。王波斯匿。云何大王。於草竹叢或大叢積。而以火。炷燒彼諸草木。頗有種種異形不乎。答曰。義各各異。聲音不同。

端政住閑居 愚癡無教戒
優波離所說 色幻及三刺

又世尊言。有四捨法。云何爲捨法。如所說非句味義。復次契經有成言。如所說即是其六果。說此契經是棄捨法。如所說即是其義。又世尊言。若比丘供養病者。則供養我身無異。云何供養病者供養世尊無異。或作是說。供養病者脫於困厄。復作是語。佛世尊常法。供養病者長益諸法。復作是語。彼不供

養供養佛世尊。復次世尊感諸病者。猶如有人。語看病者曰。汝供養此人。則供養我無異。復次如來常自悲衆生。供養世尊擁護衆生。世尊言。比丘。我當說法。義理深遠。是諸法味。云何爲義。云何爲味。或作是說。名爲味相。分別名者是爲義。復作是語。敷演爲義。意娛樂爲味。復作是語。一切名爲味。微妙爲義。復次義依彼契經章句分斷。漸相應爲味。如所說婆羅門言人依何所。說是語時其義云何。答曰。若有相應選擇長益。即是彼所依。便有人名生等方便。亦依穀米有人名生。穀米依地。地爲水所漂。風持水。當於是時風。寒虛空。風爲空所攝。空爲明所攝。然後知有虛空。照明爲日月所攝。於中三界迴轉時。乃至梵天各各相謂言。梵天梵迦高天大梵忍成就忍滅諸結。復作是語。依涅槃依涅槃住。云何得知。世尊戒成就三昧成就智慧成就。或作是說。由阿含得知。世尊亦說迦葉我亦不見天人及魔梵天沙門婆羅門衆。有異沙門婆羅門自言。我戒成就成就勝我者。智慧成就勝我者。解脫成就勝我者。解脫見慧成就勝我者。或作是說。如來藏身復次記授決。於法身中智慧成就者則知三昧成就。三昧成就者則知戒成就。戒成就則知有涅槃。教意不能。猶如三昧住。意亦不亂亦不犯戒。是故世尊戒成就勝。三昧成就勝。智慧成就勝。以何等故。無常謂心不相應行。然無苦空無我。或作是說。無常非心意

法。苦空無我者。是心意法也。問此皆心所念法。亦是心不相應法。若作空觀思惟空者。彼則是空。若思惟無常非無常觀。彼是無常。若不作無常觀。無常異空異。復次集聚智有苦患。忍知爲空。無我是無常。復次無常者無相之物。

又世尊言。此不可造作。處所在居家。螺文梵行盡形壽修清淨行。螺文義者其事云何。或作是說。昔有仙人。名螺文。精進純備而處居家。不有梵行。或作是說。如彼螺文有清淨行。然居家不清淨不清淨善。復次螺文造書文。風雨不能。粗壞。處俗修梵行。此非爲清淨。如阿那含在家眷屬圍繞。此非爲善清淨行耶。云何以神足能隱形不現。或作是說。自化形極細。或作是說。化無色四大。或作是說。思惟輕舉使形昇虛空。肉眼見廣大。復次神足境界不可思議。云何神足化形極細。或作是說。化無色四大。復作是語。以大入小。重垂於輕。如所從生。大火炎中取螢火光。復次神足境界不可思議。如所說仙人有五復曰六。其義云何。或作是說。仙人五世尊爲上。此之謂也。復次五比丘中世尊爲六。此之謂也。如尊者爾者說。汝選擇念見聞念知。見聞者其義云何。或作是說。謂結使也。不盡謂之流結。盡謂之漏盡也。復次諸所聞者方便所攝。一切彼聞菩薩時。謂見聞念知。如尊者寶頭盧說。如大王所說。揭陀婆梨梵志。千不覺不可計數。如彼愚人。無明不善非良福田。彼非良福田其義云何。或作是說。如耕

法。苦空無我者。是心意法也。問此皆心所念法。亦是心不相應法。若作空觀思惟空者。彼則是空。若思惟無常非無常觀。彼是無常。若不作無常觀。無常異空異。復次集聚智有苦患。忍知爲空。無我是無常。復次無常者無相之物。

又世尊言。此不可造作。處所在居家。螺文梵行盡形壽修清淨行。螺文義者其事云何。或作是說。昔有仙人。名螺文。精進純備而處居家。不有梵行。或作是說。如彼螺文有清淨行。然居家不清淨不清淨善。復次螺文造書文。風雨不能。粗壞。處俗修梵行。此非爲清淨。如阿那含在家眷屬圍繞。此非爲善清淨行耶。云何以神足能隱形不現。或作是說。自化形極細。或作是說。化無色四大。或作是說。思惟輕舉使形昇虛空。肉眼見廣大。復次神足境界不可思議。云何神足化形極細。或作是說。化無色四大。復作是語。以大入小。重垂於輕。如所從生。大火炎中取螢火光。復次神足境界不可思議。如所說仙人有五復曰六。其義云何。或作是說。仙人五世尊爲上。此之謂也。復次五比丘中世尊爲六。此之謂也。如尊者爾者說。汝選擇念見聞念知。見聞者其義云何。或作是說。謂結使也。不盡謂之流結。盡謂之漏盡也。復次諸所聞者方便所攝。一切彼聞菩薩時。謂見聞念知。如尊者寶頭盧說。如大王所說。揭陀婆梨梵志。千不覺不可計數。如彼愚人。無明不善非良福田。彼非良福田其義云何。或作是說。如耕

法。苦空無我者。是心意法也。問此皆心所念法。亦是心不相應法。若作空觀思惟空者。彼則是空。若思惟無常非無常觀。彼是無常。若不作無常觀。無常異空異。復次集聚智有苦患。忍知爲空。無我是無常。復次無常者無相之物。

又世尊言。此不可造作。處所在居家。螺文梵行盡形壽修清淨行。螺文義者其事云何。或作是說。昔有仙人。名螺文。精進純備而處居家。不有梵行。或作是說。如彼螺文有清淨行。然居家不清淨不清淨善。復次螺文造書文。風雨不能。粗壞。處俗修梵行。此非爲清淨。如阿那含在家眷屬圍繞。此非爲善清淨行耶。云何以神足能隱形不現。或作是說。自化形極細。或作是說。化無色四大。或作是說。思惟輕舉使形昇虛空。肉眼見廣大。復次神足境界不可思議。云何神足化形極細。或作是說。化無色四大。復作是語。以大入小。重垂於輕。如所從生。大火炎中取螢火光。復次神足境界不可思議。如所說仙人有五復曰六。其義云何。或作是說。仙人五世尊爲上。此之謂也。復次五比丘中世尊爲六。此之謂也。如尊者爾者說。汝選擇念見聞念知。見聞者其義云何。或作是說。謂結使也。不盡謂之流結。盡謂之漏盡也。復次諸所聞者方便所攝。一切彼聞菩薩時。謂見聞念知。如尊者寶頭盧說。如大王所說。揭陀婆梨梵志。千不覺不可計數。如彼愚人。無明不善非良福田。彼非良福田其義云何。或作是說。如耕

○與二與○ ○根二相○ ○淫二姪○ ○積二積○ ○柱二住○ ○優二復○ ○(又)十世○ ○漸十(漸)○ ○寒二寒○ ○住二往○ ○或二所○ ○昇二升○ ○(若)十肉○ ○以二已○ ○垂二乘○ ○者二者○ ○(之)一○

田人不別良田。彼謂非良田人。彼亦不知有此良田。亦不染著。是謂非良田。彼亦不知有此無是。亦不染著。是謂非良田。復次穀子所生處別其好醜。則知有良田。是故彼不知。是謂非良田。諸所諍訟盡欲界相應耶。設欲界相應盡是諍訟耶。或作是說。諸有諍訟者。彼一切欲界相應也。或欲界相應非諍訟。行垢相應解無著法。復作是語。或有諍訟彼非欲界相應也。答曰。色無色界相應染污法。或欲界相應彼非諍訟耶。欲界相應不染污法。及諍訟欲界相應染污法。或非欲界相應。亦非諍訟。色無色界相應不染污法。及無漏法也。諸不諍訟。彼一切色無色界相應耶。設色無色界相應。彼一切是不諍訟耶。或作是說。諸色無色界相應。彼一切是不諍訟。頗不諍訟。彼非色無色界相應耶。欲界相應不染污法及無漏法。復次或不諍訟。彼非色無色界相應。欲界相應不染污法及無漏法。或不相應不諍訟。色無色界相應不染污法。或不諍訟亦不色無色界相應染污法。色無色界相應染污法觀現在事。其義云何。或作是說。現在所作目悉。覽見。是謂現在事。復作是語。得諸色根是謂現在事。復作是說。有二種現在。根現在。意現在。於彼根現在中。若得色根。意現在者若若意不觀。復作是語。如彼眼識相。當言有三種更苦樂。有其痛痒意便有想。色聲香味細滑法中。思惟自相便有識生。是謂現在。自境界外。彼亦不空有境界也。我者其義云何。或作是說。我者愛

己著形也。復作是語。內是我所。復次自性諸入彼是我所。餘不牢固。現在及我此二事有何等異。或作是說。緣前有物。是謂現在。著己是謂我所也。復作是語。攝持諸根是謂現在。內為我所。復次露現緣前眼。若有所者彼則自違

又世尊言。薩毘梵志

造作諸業事。往涅槃無疑

無有有滅盡。比丘不處胎

說是語時其義云何。答曰。解道彼以此道自堅立處。等以此道一切結使盡。故曰造作諸業事。往涅槃無疑者。闍冥得除究竟得智。無有有滅盡者。生有死無。彼度此生老病死。以現其妙。自堅立者。以修梵行。以倚住諸道梵行求以倚更無有如是。有處胎彼滅。謂之胎盡。彼比丘者。於乞法中現其滅盡。如所說雖多婆羅門

我見天人世。無穢淨行除

故我禮大仙。脫我無明疑

說是語其義云何。答曰。如我見。尋原本。故曰我見天人世。無穢者。現無所攝。云何得知。以一切去離愛欲漸去除無穢。一切婆羅門行淨。彼志成就無有諍訟。故曰婆羅門。習業之時觀其所求。故曰禮大仙。所求以此然大法我如來以此大法。故曰大也。以得智當言見三昧。解脫我疑刺。以究竟授我三昧

我不堪解脫。洗除頭多。胡

法為微妙智。如是能度流

說是語其義云何。我不堪解脫者。洗除頭多。胡。自現體中。現著淨法為微妙智。如是能度流。緣二等見有愚因淨因觀也

住義將養病。敷演無常理

六開田難沮。現露淨不堪

又世尊言

究竟不驚懼。無縛亦無疑

已斷諸有刺。此最是後體

說是語其義云何。答曰。有二究竟。欲究竟已。辨事究竟。修梵行以此度。究竟緣此因善智修定理。亦不驚懼。於無記體中亦不恐畏。亦不驚怖老病死。故曰不驚懼。如有異梵志。不以實智。不以真威儀。便作是說。歎譽彼此歎譽己身。此究竟智不如彼說究竟智成就。故曰不毀。彼戒盜盡者便盡生。故曰此最是後體。三界愛盡亦無縛著。是觀謂其緣。故曰離三有刺。因緣盡永無有餘

又世尊言

此最為究竟。迹滅為最上

滅一切諸相。淨迹永常存

說是語其義云何。答曰。此最為究竟。現事究竟休息者。現三火息。現有餘涅槃。迹者現智作處。盡一切諸相者。衆生相衆生所作方便。初中竟之貌也。作是觀一切結

又世尊言

最後愛念語。託情親朋友

不應作便說。智者皆分別

說是語其義云何。答曰。藏匿之語與衆生相應。故曰意念語也。於中所有親友有二益

此二是一 說二語 住二住 零二等 切十(智) 志二去 頭二類 胡二翅 田二四 沮二沮 辨二辨 竟一 梵一

彼不益彼此。二親友指授彼時。智者皆別知。以彼結。此彼此共同。又世尊言。當於爾時殺貴飢饉。生苗不生實。苗義云何。或作是說。以食故授。故曰苗。復作是語。以籌選擇故曰苗。種種子生一莖。故曰莖也。復以種種穀子亦不生苗。故曰苗也。

又世尊言。比丘當學自然自歸法。然法歸不異歸。我然法歸有何等異。或作是說。我然者我好也。自。辨其事。法然者歡喜踊躍。或作是說。我然者內身觀痛心法。法然者外身身觀痛心法。復作是語。我然者思惟惡露。於法順法者是法然也。復次親近善知識及聽正法我然也。思惟惡露欲。辨彼事者。是法然也。教誨欲。辨彼事者。欲為如是諸事則其事。

又世尊言。若阿難生是意。我有是比丘僧緣。我有是比丘僧。我當護比丘僧。世尊復作是語。舍利弗目犍連求索比丘僧。我常不收。收況當汝。汝。鈍愚食睡之人。說是語其義云何。或作是語。如彼世尊如彼世尊。舍利弗目犍連求索比丘僧。我常不收。或作是說。從慈定起調達求索。從定三昧起。尊者阿難作是問。復次現依我盡以前契句。我當護弟子以二契句。非我因緣慈悲於彼。又世尊言。有是十法愛。慈念潤情世間驚懼。以何等故。戒多聞梵行愛。慈見喜娛樂。或作是說。作其善果。復次作衆多想。又世尊言。那迦頻婆羅門長者。彼作如是眼見色便娛樂。說是語其義云何。或作是說。

如此形彼無歌舞香薰塗身香價甚貴。或作是語。妓樂戲笑因是故說。復次緣女欲故說是語。非不閉居境界。能作欲愛刺利殺毀譽。以利義故居處山澤。如曇摩塵那比丘尼說。樂痛姪所使。苦痛曠志所使。不苦不樂痛無明所使。說是語其義云何。或作是說。是如來教。戒之語。復作是語。是如來勸。戒之。教。當言可說。當言不可說。或作是說。當言可說。何以故。如世尊言。我當說法。有義有味味可演說。是故義亦可說。若義不可說者。說法則無有義。問說義為說味。二俱說義味之時。有義有味。若所說欲使義味與法異耶。設義理與法異者。是故不如契經文。或作是說。義可說名義展轉是謂名。於義當言不可說。復次想所作語。無想所作義。是故義不可說。

又世尊言。我當說法。初善中善竟善。云何於此法化中。云何為初。云何為中。云何為竟。或作是。說。戒為首思惟惡露為中涅槃為竟。復作是語。初學大戒中學增中心。學增智慧。復次說法之時緣初現初受化。受化迴轉為中後為究竟。彼於此初為結原中為結原竟為結原故曰初善中善竟善。又世尊言。如所說以三事不忘而憶。取本相自緣已。初不失其旨。說是語其義云何。答曰。昔本境界取持守護。為想所受持。故曰本相所攝。自然於已迴轉因緣。自然者。方便自然親近自然。故曰自然。於已數數降伏心。便有誠護持。故曰志強記不忘也。如所說如是於中法住

法空法如實緣。是因緣是謂因緣生。說是語其義云何。答曰。如是於中諸法者。彼修行法。法住者。不有變易。法空者。因緣果實。如是知修行不異因緣者。觀所作行。又世尊言。更樂為一。隔。更樂習為二。隔。痛痒處中。說是語其義云何。或作是說。更樂為一。隔。所作為習想。更樂習為二。隔者。痛處中者。異也。復次更樂無明更樂六入為習。無明生更樂。痛處其中。又世尊言。是故比丘當如是學。如出家想降伏其心。說是語其義云何。或作是語。是世尊勸教語。當於爾時求解脫故。出家學道。復次等出家故。故說此語。

又世尊言。於中摩羅童子餘比丘當何所為。年在幼少。出家未久學道日淺。來入此法亦復未久。云何汝今年老形熟長老。欲與我速疾求教。戒。說是語其義云何。或作是說。年少比丘更作是念。此亦年老方欲習學。我等亦當在後習學所作自恣。復作是語。年少比丘便作是念。此如是年老亦無所逮。況當我等有所獲乎。無勇猛志。復作是語。彼年少比丘當作是知。彼求教訓。況當彼求道復作是語。衆多見聞年少比丘況我等。彼求教訓。況當年少比丘不求耶。復次是世尊屬累之語。各莫作疲倦意。以何等故。曩昔如來等正覺閑居山澤。巖峻坐。具歎譽爾所事。然不處其中。然世尊歎譽其德亦處其中。或作是說。昔日之時無有閑處山澤叢林。村落相連鷄皆飛過。問說無閑居以何等故今歎

又世尊言。我當說法。初善中善竟善。云何於此法化中。云何為初。云何為中。云何為竟。或作是。說。戒為首思惟惡露為中涅槃為竟。復作是語。初學大戒中學增中心。學增智慧。復次說法之時緣初現初受化。受化迴轉為中後為究竟。彼於此初為結原中為結原竟為結原故曰初善中善竟善。又世尊言。如所說以三事不忘而憶。取本相自緣已。初不失其旨。說是語其義云何。答曰。昔本境界取持守護。為想所受持。故曰本相所攝。自然於已迴轉因緣。自然者。方便自然親近自然。故曰自然。於已數數降伏心。便有誠護持。故曰志強記不忘也。如所說如是於中法住

①此一① ②復二大② ③辨二辨③ ④收二與④ ⑤鈍二和⑤ ⑥慈二慈⑥ (慈)一⑦ ⑧慈二慈⑧ ⑨戒二誠⑨ * ⑩戒二教⑩ ⑪教二語⑪ ⑫(受化)一⑫ ⑬初二物⑬ ⑭相二想⑭ ⑮行十(法者彼修行)⑮ ⑯隔二隔⑯ * ⑰異二果⑰

譽之答曰。歎過去閑居之德。復作是語。彼時佛教化衆生。爾時不以閑居作教化事。恐不入彼教律中。復作是語。爾時衆生貴重思惟定。不許彼閑居。靜處。村落之中。應受化衆生起惡露觀。復作是語。爾時衆生意多著樂。皆不許閑處。恐意厭不堪閑處。

又世尊言。是語此契經句之語誰能堪。調達於世尊前有所論。世尊亦不於中住。諸於壞增中歎其快者。世尊亦當爾。彼人無緣。亦不有彼人不逆。亦不能有如是善比丘於如來前從彼惡語。何以故。世尊功德相應無能知者。諸閑居者禮敬承事便知彼人。是故世尊不許。以何等故。本世尊等正覺乃至證弟子等法住。然後復世尊久般涅槃。爾時復住。或作是說。彼衆生是佛所化。是故聲聞不能教化。復作是語。爾時衆生貴重止觀。彼時說法。復次是時如來極長壽。彼亦如今。閻浮利地。然後世爾處短壽中。爲諸受化衆生及餘趣。我觀去來契經所說教。戒語勅聲聞。

語竟世明我衆僧。受無有痛不。可說善說三法及更樂。年少端正歎譽本尊婆須蜜菩薩所集更樂捷度第七竟。尊婆須蜜論卷第六。

尊婆須蜜菩薩所集論卷第七

*尊婆須蜜造

符秦罽賓三藏僧伽跋澄等譯

結使捷。度第八

垢穢當言隨顛倒。當言不隨顛倒。或作是說。或隨顛倒或不隨顛倒。四顛倒當言隨顛倒。欲慢瞋恚邪見當言不隨顛倒。問云何不如實染耶。亦說如實觀彼便知。是故不與相應。答曰。集聚便可知亦非自相。若觀自相知者。皆有厭患意。無有自相意不迴轉。問如集聚可知。是集聚則有欲也。觀彼顛倒如自相觀。便染著無有不染著。無有自相意不迴轉。或作是說。當言隨顛倒與癡相應。問愚癡不與愚癡相應。欲使愚癡隨顛倒耶。或作是說。當言不隨顛倒。顛倒設當隨顛倒者。彼則不斷滅。非以顛倒還滅顛倒。問如善無記心心法不隨顛倒。彼亦可滅。垢亦如是。答曰。善無記心心法。還續如故。結可使永無。是故彼當言顛倒。復次當言不隨顛倒。與邪志與使相應。不與相順生不成就。彼不淨成就。以何等故。謂身見是顛倒不淨無能有害者。無有實我身見迴轉。或作是說。意有淨相不淨迴轉。答曰。無有淨相。彼或有淨或不淨。問若有淨彼有顛倒。彼或曰有常或曰常。欲使無常相不成就耶。答曰。無常相不成就。設常無常相不成就者。彼亦當有相。然非相是故無常相不成就。或作是說。見顛倒與愚癡

相應。不淨非顛倒與智相應。問愚癡不與愚癡相應。欲使愚癡非顛倒耶。智不與智相應。欲使智顛倒耶。或作是說。身見是垢。垢與顛倒相應。是故身見顛倒不淨。由智之功。智不智不隨顛倒。是故不淨非顛倒。問垢相應心心法。然非垢著。欲使彼隨顛倒耶。智相應心心法。然非智。欲使彼隨顛倒耶。復次如其種類。不淨相共染著。不可使諸陰自相有所染著。如陰無我成就。如其種類淨成就也。是故身見顛倒然非不淨。一切諸見攝六十二見。爲六十二見攝一切諸見。或作是說。一切諸見攝六十二見。爲六十二見攝一切諸見。或作是說。一切諸見攝六十二見。六十二見亦攝一切諸見。問如所說薩毘梵志。三乃至三十六種種異。云何彼非諸見耶。答曰。此事如是。二及六十亦復如是。或作是說。一切諸見攝六十二見。非六十二見攝一切諸見。不攝何等。彼涅槃言無涅槃俱生者。至五邪見無一邪見。復次六十二見所生見。當言所攝也。如薩毘所說。三乃至六十。沙門依智慧依智慧相依字想諸垢盡。云何六十三見。或作是說。無有六十三見。正有此二見。或作是說。言無涅槃者是邪見。是謂六十三見。或作是說。言無道者是邪見。是謂六十三見。復次所見是謂六十三見。如是五邪見身猶豫見邪見見盜戒盜。無因所生見。爲何等見所攝。至死不捨見。爲何等見所攝。或作是說。無因所生見。言有所因。是邪見習諦所斷。復

①〔後〕一②③ ④問二明⑤ ⑥受二愛⑦⑧ ⑨可二有⑩ ⑪善一尊⑫⑬ ⑭〔尊婆須蜜菩薩所集〕一⑮⑯ ⑰六二八⑱ ⑲七二九⑳ ㉑度十(首)㉒ ㉓〔第八〕一㉔㉕ ㉖耶二邪 ㉗〔爲〕一 ㉘〔亦〕十攝 ㉙〔或作...見〕二十三字 ㉚ ㉛是十(邪) ㉜智二智

有至死不捨見。無作言有。作。此是戒盜苦諦所斷。復次無因所生見。無有見有見所攝也。至死不捨見者。當言有見。所攝。以何等見使已盡心相應使更生耶。然無有因緣。或作是說。因緣者結使盡因緣。未盡有餘。盡不復生。問如是諦無漏緣。結使有盡不盡者。緣盡因緣。答曰。緣已盡無餘。是謂滅也。問此緣不同諸使。未盡緣便盡。是故非緣是故。結使便盡也。或作是說。常相應無有不相應時。問非因緣。復次或有彼不緣。或作是說。未盡彼即是緣。復以此緣更不復生。復次盡不復生。問若緣有漏諸結使盡。數數彼緣不復更生。不滅亦不生。欲使無漏心是彼緣耶。結使轉生結使。或作是說。彼相應一生一住一滅。不如其緣。已盡各散不一處。彼心有使不如其緣。問彼心未盡。諸相應使一起一住一盡。不如其緣。欲使不斷者是其緣耶。結使非結使緣也。或作是說。諸相應使與心共。住不如其緣。是故已盡。是相應使。彼心有使不如其緣。此亦如上所說。或作是說。諸相應使染著于心。不如其緣。是故已盡相應結使。彼心有使不如其緣。此亦如上所說。或作是說。相應使。彼心染污不如其緣。是故已盡諸相應使。彼心有使不如其緣。此亦如上所說。復次設當如彼緣者。彼心有使。亦見無漏心緣使。彼則有使。復次諸相應使當言彼心有使也。若盡若不盡。如力勢王所欲自至。以何等故。欲界相應。邪見。謂色無色界苦。然非於彼界所使。或作是說。自界所使不干餘界。

問此亦是我疑。何以故不干餘界。設於欲界造餘界者。欲使有漏界造自有界。邪見故彼界亦使所使。或作是說。彼界少慢漸去離。是故彼界非使所使。問若去離者。在自界中亦當去離。是故自界亦為使所使。或作是說。非以彼見有所疑。亦不緣彼界。問云何彼有無此說法耶。答曰。有彼若以此說使說者。此非其義無長益。問無有苦惱。彼亦不作是念有所說。或作是說。知而言無。設當知而言無者。此非苦智耶。云何言無苦。若不知無知。云何言無。是故盡無爾所事。問知而言無。不知而言無。設無知而言無者。若不知云何言無。是故無也。復次緣使所使。何以故。彼不為使所使。復次彼見界無定處。一切有苦而言無。欲使欲界越次彼謂不盡。然後與欲界相應。以何等故緣涅槃邪見無涅槃。然不於彼使所使。或作是說。彼不有此使問無能誹謗彼者。欲使誹謗緣涅槃耶。或作是說。誹謗之言去涅槃遠。是故不於彼所使。問有漏之法亦去離誹謗。是故有漏亦為使所使。此亦如上所說。誹謗所說。亦如本無異。有是誹謗。復次若緣使不為使所使。陰持入中。彼見無生處所。已有所生。何以不為涅槃所使。以何等故。涅槃中無有瞋恚。或作是說。此非瞋恚境界。問彼誹謗境界。欲使誹謗非緣涅槃耶。或作是說。有漏之法。便有瞋恚無是涅槃。是故緣涅槃無有瞋恚。問有漏之法便有瞋恚。無漏是涅槃。欲使瞋恚非涅槃緣耶。或作是說。以方便捨衆生。便有瞋恚起。然涅槃非衆

生之教。是故緣涅槃無有瞋恚。問有漏之法衆數中便有名生。復次無造之相。速有瞋恚起。然涅槃無造之事。是故涅槃中無有瞋恚。若作是說。我必墮泥裂中不須涅槃。彼心與何結相應。或作是說。與瞋恚相應。問緣涅槃有瞋恚耶。或作是說。彼染相應無明之數。彼不知涅槃。復次彼心當言與愛相應。又世尊言。於是比丘欲界之中有歡喜樂天。契經句廣說。彼云何命終更受形。便自憶我本為歡喜樂天。便作是念。我本為歡喜天。或作是說。於彼退轉。復作是念。彼不於欲界起吾我想。問生欲界中懷宿命所更。我本某甲身。如是起吾我想。欲使彼謂退轉耶。復次諸所有名色相應結使欲界因緣。彼則有強記。復作是念。尋生之時審有誓願。復次我見之。想不觀斷滅。復作是念。等故凡夫本為歡樂天。以何等故。凡夫人不於苦觀苦。欲界相應身見猶豫見。謂之斷滅耶。或作是說。不淨滅貪欲。現拔一苦。亦用思惟斷。問四諦所斷非思惟耶。此二種所斷一種乎。四諦所斷以盡。若思惟所斷不盡不捨。或作是說。種種結已盡永盡漸漸盡。於彼身見已盡不究竟盡。問若漸漸結盡者。更亦當不生。亦說有三種身見。結生身見。使盡身見處所之法。便有所照。於彼作惡露觀。如是身見使便生。復次生十想法所種。便作是語。如是意所斷。不於中間賢聖道能斷結使。

①作此二此作② ③所二何④ ⑤[是]一⑥ ⑦結二緣⑧* ⑨邪二耶⑩ ⑪言十(使所使復次彼見界無定處一切有苦而言)十七字 ⑫後二彼⑬ ⑭梨二梨⑮

顛倒不淨見 薩毘五見戒
二種及瞋恚 泥。梨德本苦

以何等故。欲界相應身見猶豫見。謂之無記。然非不善耶。或作是說。彼非大身口意行所能造作。問亦有餘見諦所斷結。由身口生欲。使彼言無記耶。或作是說。彼身有優劣。問云何得知有優劣。或作是說。彼結長益時不生惡趣。問彼未必不善乃至入惡趣。或作是說。不善有報結無有報。是故此無記。問如彼見受形時。云何無有報。復次設彼作是顛倒見。無有安處。云何無有不善。彼便當有彼見無有報。是故不善。云何有垢受不善報。是故無記。是事不然。世尊亦說。如是比丘。愚癡者即不善根。若當言無記者。此事不然。以何等故。色無色界相應。謂之無記。然非不善。或作是說。彼非造身口行。或作是說。彼受形時無優劣。或作是說。彼不受果報。或作是說。彼無有報。此亦如上所說。復次諸欲著者。彼不善耶。彼則有是意不受惡報。彼不受顛倒。彼不迴轉。彼不安隱。彼亦不然。是故當離。若結非非善者。云何今不善耶。結亦由行增。是故言無記者。是事不然。所用心誹謗四賢聖諦者。云何彼心因。染義耶。或作是說。非可以一心能使四諦有若干相。復次彼心因緣集聚。問若四諦異因緣亦異者。則不誹謗四諦也。若四諦因緣同。心則緣四諦也。此亦如上答無異。所說不順其理。復次非心誹謗。用邪見誹謗也。一步始苦諦處所。非因苦諦無有盡諦。盡無有道。各自求苦諦處所。此之謂也。彼無有義可從得者。以何等故。無垢人遂進斷結。欲界相應結使。及思惟所斷先盡。

然後色無色界相應。或作是說。此漸生賢聖道。先辨欲界事。後色界後無色。或作是說。欲界結使。色界相應使。是故先斷欲界相應結。後色界相應。後無色界相應。或作是說。欲界相應近。色界相應遠。無色界相應轉遠。或作是說。有對之處。即前滅結。欲界相應先在前。後色無色界相應也。是故欲界相應結先滅。後色界相應。後無色界相應。此亦如上所說。復次彼道漸益。有對即滅。後則有是也。何以故。思惟所斷結不漸漸斷耶。當作是觀。未知智觀色無色界。彼不有長益齊限。亦有展轉。持信奉法。以未知忍知。是故彼無苦以方便觀。以何等故。欲界相應行。思惟苦等越次取證。然非色界相應無色界相應。或作是說。此漸生賢聖道。先辨欲界事。後色無色界同。問彼欲思惟道生。先辨欲界事。後色無色界等。此亦如上所說。此苦龜以是縛著。此亦如上所說。復次此勸教方便。諸者年雖能逆是者。於此造事一切諸行。捐棄已盡苦根本。以何等故。色界相應行於苦思苦。不還阿羅漢果。然非欲界相應色界相應。此亦如上所說。此苦龜親近此間。以是縛著。復次作無吾我想。所可縛著當言盡無欲也。欲使苦行不思惟更思惟餘苦耶。如自捨田除他田中草穢。觀彼亦如是。頗有一心諸法滅盡。還智慧然身不受證耶。或身受證不還智慧耶。或還智慧身亦受證耶。或不還智慧身亦不受證耶。或作是說。若得盡法忍

時。欲界相應盡諦道諦思惟所斷結盡。爾時還智慧。然身不受證。色無色界相應苦諦習諦所斷結盡。爾時身受證不還智慧。欲界相應苦諦習諦所斷結盡。爾時還智慧。身亦受證。色無色相應盡諦道諦所斷結盡。思惟所斷結盡。亦不還智慧亦不身證。問若盡法忍生盡諦所斷結未盡亦非其類。答曰。生者便滅。已滅不生。若生者不滅則非其類。問欲使便觀生盡者已盡。當作是觀。或作是說。盡法忍起時。欲界相應道諦相應所斷結盡。還智慧身不受證。色無色界相應苦諦習諦所斷結盡。身受證不還智慧。欲界相應苦諦習諦所斷結盡。爾時還智慧。身亦受證。色無色相應盡諦道諦所斷結盡。亦不還智慧。身亦不受證。復次得盡法智時。亦如是無異。二分俱不盡。頗見相。應痛愛結相應非見結相應耶。或作是說。或於欲倍愛盡等越次取證。習已生盡智未生。欲界相應盡諦道諦所斷。上中下見相應痛。下愛結相應非見結相應。問世尊亦說。若比丘於痛貪欲而滅盡時。貪欲盡痛便盡也。云何貪欲盡痛便盡耶。或作是說。見諦人與世俗等。見相應痛與愛結相應。不與見結相應。非見結盡彼見結。復次習智已生。無色界愛盡。與世俗等。見相應痛與愛結相應。非見結相應。云何緣涅槃無明而隨涅槃耶。或作是說。彼無智愚癡所纏。問彼作是念無智是愚癡耶。或作是說。有二種癡隨涅槃也。與邪見相應。無明言無涅槃。

①染二深②從二促③辨二辯④後二彼⑤持二持⑥還二還⑦答二故⑧應二痛

弊。疑相應無明者。猶豫不定一法相應。問邪見無明各不異耶。如是疑無明。此諸法各異。復次無明隨涅槃耶。復次如是五盛陰言是我所。如閉兩目。一切智有目者少。如身緣有漏生諸結使。如所緣結彼身有漏。或作是說。諸身有漏。如彼緣生結使。彼身非有漏。如緣盡緣道有諸結使。問又世尊言。於是比丘諸所有色。過去未來現在。貪欲生便生怨癡。其餘心所念結使。是謂在漏泡。此契經則有違。或作是說。諸身有漏緣彼生諸結。如緣生結彼身有漏。生無漏義。有漏義。結有漏義。復次若身不中間生見。彼身有漏。不如彼緣生諸結也。彼造結時染著身處所

二種說不善 誹謗捨離去 阿羅漢一忍 冥有漏在後

以何等故。調戲。有思惟斷。或作是說。見諦者有調戲。故曰用思惟斷。問見諦者亦有無明。彼見諦思惟所斷。或作是說。二俱調戲。見諦所斷亦思惟。復次此見諦所生調戲見諦所斷。如彼調戲少所說。不順此所作不。辨。若越境界彼思惟所斷。若少有。辨逼迫礙持。是故二俱調戲。或作是說。凡夫人調戲熾盛。見諦者調戲微。是二俱調戲見諦所斷。復次無恐懼有穢汚意。何以故不見諦所斷。若見迹者。或有隨從。彼調戲思惟所斷。從無色界終生欲界。云何欲相應結而現在前。如上聚健度所說。復次若作是意。生無色界欲界相應使永斷。然非無色界相應使。是欲界相應使緣彼則有是耶。彼則不生欲界。設生時

中間不生。結使亦不現在前。無因緣現在前。復次凡夫人無有結盡。作不善行。彼欲界相應結謂之盡也。如世尊言。於是比丘。汝等不思惟。亦不作方便。則是結因緣。神識所止處。彼於此間當作方便。從無色界終生色界時。云何色界結使而現在前。答曰。不拔諸結使。譬如火災緣炎。有如是明所纏。作不善行者。便受色有。此亦如上聚健度所說。色界終生欲界時。云何欲界相應使而現在前。如上聚健度所說。復次漸漸欲愛增有力勢。因本彼欲愛盡此三災。災變。風災水災火災。此由衆生垢生此三災。為此三災衆生有垢。或作是說。由衆生垢著有此災變。猶如衆生罪有刀劍劫。或作是說。由災變故衆生有垢著。猶如狗犬陰陽有時。或作是說。由垢著故有災變。彼彼衆生有欲界結。彼彼有災變起。如彼彼有災變。結使。使增益。復次衆生善法常修習行。便遊餘國土。彼因行增上。衆生有壞敗學本所習。云何緣使便有所使。云何相應所使。或作是說。貪欲使甚愛著。是謂所使。瞋恚使不愛著意不染著。是謂所使。有愛使甚愛著。是謂所使。憍慢使熾盛極熾盛心。勇悍。是謂所使。見使五見。於彼身見使自依所使。猶豫見者斷滅有常。是謂所使。邪見使無因誹謗無作。是謂所使。見盜使不可護持。極微妙好最爲上。是謂所使。戒盜使淨解脫上出要。是謂所使。無明使無智盲冥愚惑。是謂所使。疑使惛望猶豫爲是。爲非意不審實。是謂所使。如是緣使所使也。未會更

與相應所使。問無漏亦緣使。如是彼所使欲使。彼緣亦是所使耶。或作是說。如彼彼有諸使緣。彼彼有使緣時。各各相牽引。爲是使所使。如是如是使緣所使。彼使染著。如是使相應所使。問無漏使如其緣。轉轉有增益。故使無漏緣是使耶。緣是所使。或作是說。緣相應不得解脫。是謂所使。問無漏緣亦是使緣亦是使。無有餘緣所使。復次雖使所使者。所迴轉處彼則有使。若相應使所使者。餘亦相應。復次衆生使因緣所使也。貪欲緣法爲有幾使所使。或作是說。欲界相應一切有漏緣也。復次三界有漏緣退時。而生欲界得三界結。得是時三界結有漏緣所使使。名者其義云何。或作是說。次第所使使。亦所使。緣亦是使。使爲著義亦是生義。使爲持義亦是使義。復次當說等智是彼所使。以彼使若有漏所使也。或用或不用。垢者爲何義。或作是說。垢著人體。受諸愛亦是垢緣。苦亦是垢。復次二種垢心相應垢衆生垢。彼心垢著。染著心意如垢汚衣。衆生垢有或隨他。如負重擔。以此因緣。以此事計按。彼時便有心垢生。世尊亦說。爲心垢所惑。心淨行則淨。合會成衆生。世尊故說。此善根者其義云何。善不善根是謂善根義。起諸善行是善根義。復次於神種善原順從受。報是善根義。不善根者其義云何。無記爲種子義。無記爲根義。無記爲因緣義。無記爲根。復次形體色無記法順從受持。是謂無記義。以何等故。身見謂之苦諦所斷耶。或

問二門 在有 二一 有二用 辨一辨 有十(明) 災變二變災 使十(便) 勇二 通 緣二 二者著 報二執 根十(義)

作是說。緣彼苦如是知苦便滅已滅。緣便盡諸結使盡。或作是說。有常。想我想。身是我所。身見作無常想。苦我想已盡。是故謂之苦諦所斷。復次見身見身彼身受苦惱。是故彼身現說苦惱是故滅。當作是觀

調戲不復生 如有三結使身及諸結使 三種根所斷

以何等故。習智生盡道見盜謂之盡耶。或作是說。始初有見盜染縛彼見。彼滅盡時此亦滅也。問。結使便有見盜。是故亦是思惟所斷。或作苦諦。有違見盜及疑。是故四諦所斷。問苦緣結最在前爲上爲妙。盜云何與苦有差違。復次云何度苦結前爲盜耶。若苦不能在前導者。是故見盜苦諦所斷。如所說諦無住處言是我所。以何等故彼謂邪見。或作是說。由此因緣故說之耳。是故謂邪見。或作是說。若此諦實作盜。復次彼非緣空。復次有我所便有是見。云何是上分結。或作是說。五下分結者。貪欲瞋恚身見戒盜疑。此不盡有欲界苦。上界三結不盡。受色無色界陰。欲使是上界病耶。答曰。不由此有病彼已盡。阿那含受色無色界有。是故無病。問若彼三結已盡。受色無色界有。是故彼不生欲界無垢人已盡。復受三結有。欲使界有不迴轉耶。或作是說。二結屬下分。貪欲瞋恚也。若不盡受欲界有。已盡不復更受。問一切欲界結未盡受欲界有。欲使是欲界結。盡耶。是上分結。或作是說。當言一。切是上分結若不盡受欲界有。問如所說五上分結則

無其名。或作是說。二結未盡貪欲瞋恚。不出欲界。三結未盡復還來欲界。是故五上分結未盡。復次諸結使。從欲界滅不在餘處彼當言上分。云何是上五分結。或作是說。五上分結。色愛無色愛調戲憍慢無明。以何等故。此未盡受色無色有三結未盡修行彼時。受色無色有。欲使上是五上分結耶。答曰。彼不由受有色無色界有。是故不受彼有。問三結已盡。此無垢人受欲界。欲使是五上分結耶。或作是說。若諸結未盡離欲界。受色無色界有。彼謂五上分結。或作是說。二是五上分結。色愛無色愛。於中修行受色無色界有。或作是說。一切色無色界有。一切未盡。受色無色界有。復次諸結使。可使色無色界結盡。彼是五上分結

云何緣瞋恚。或作是說。非妙非上有愁憂苦惱。或作是說。愁憂漸去離遠。或作是說。以衆生之故有其瞋恚。復次永離去如去惡草。欲與念有何差別。或作是說。欲是垢著。念非垢著。或作是說。欲是不善。念是善無記。或作是說。欲受有念不受有。或作是說。欲與念當相應者。或有欲有念。如有人欲。受盡有念於師。復次欲以方便生念。惛慧生。是故欲亦是惛慧。瞋恚穢污。此二有何差別。或作是說。瞋恚是結穢污非結。復次瞋恚是不善穢污是善無記。復作是語。瞋恚受有穢污不受有。復作是語。瞋恚彼是穢污耶。或是穢污彼非瞋恚。如修不淨時是其義。復次瞋恚受諸有。穢污不受有。於彼瞋恚亦

不受有。懈怠睡眠有何差別。或作是說。懈怠是身睡眠屬心。或作是說。世俗義爲懈怠。出世俗義爲睡眠。復次初爲懈怠。疲倦爲睡眠。邪解脫四顛倒有何差別。或作是說。見諦所斷是爲顛倒。見諦思所斷是謂邪解脫。或作是說。能爲人數演是爲顛倒。不能爲人說是爲邪解脫。或作是說。諸顛倒者是邪解脫。或是邪解脫彼非顛倒。解脫結使。復次邪解脫者。當言是心顛倒耶。亦不離四顛倒有意顛倒耶。調戲疑有何差別。或作是說。調戲思惟所斷。疑見諦所斷。復次心染污有悔恨心。是爲調戲。心不究竟猶豫不定。是謂疑也。以何等故。凡夫人退時見諦思惟所斷結便有增益。然世尊弟子退時。思惟所斷結便增益。然非見諦所斷結。或作是說。以一思惟道。凡夫人斷諸結。彼思惟道退時。一切增益。然世尊弟子或以思惟道斷。非見諦所斷。彼一切無有增益。或作是說。凡夫人以智滅諸結使。彼智退時一切增益。言世尊弟子以忍智滅諸結使。然不於忍退。亦不大增益。或作是說。凡夫人於中間滅諸結使。彼退轉時一切有增益。然世尊弟子於中間少有滅盡。不究竟盡。彼退轉時於中間。彼退轉時彼便有增益。復次凡夫人以行。緣有諸使。彼盡形壽而爲覆蔽。彼行緣所繫故便增益。然世尊弟子以見等越次取證。諸結使盡便增益。是故彼增益不可移動。等見想心等彼護守。彼或時退持。以何等色無色界相應結使謂之無報耶。或作是說。彼不長身口意

○想二相 ○(話)十結 ○盡耶二耶盡 ○切十(結) ○問二問 ○離去二去離 ○受二受 ○(非)十九 ○

行有所補。或作是說。彼雖有身口意行。彼不有增益。或作是說。不好醜之報。或作是說。無記無有報也。復次若結使有報者。云何有違。如彼有緣若彼誹謗者。不受色無色界報。如是有緣亦復無也。彼不受有。是故無結亦復不定。是故捨離。

不度不敗壞 瞋恚欲瞋恚

增上解脫戲 退轉無果報

若五欲有欲無染汚心。此二有何差別。或作是語。五欲有愛使。不染汚心者。而不受有愛。復作是語。五欲之中有愛不善。不染汚心是善。復作是語。五欲之中有愛受有。不染汚心者而不受有。復作是語。五欲之中有愛有諸善想。不染汚心者不斷諸苦原。復次五欲之中有愛者。言有我緣便歡喜踊躍。不染汚心者。第一義諦不移動。起衆生想以得等智。真是染汚心。彼則當有。云何彼凡夫人謂非染汚心。我可所緣彼非凡夫人有所造。諸神仙人於外以巧方便。謂無染汚心。若苦諦所斷見。盜。及習諦所斷。此二有何差別。或作是說。苦諦所斷見。盜者。彼則苦諦所斷。見。盜者。彼則習諦所斷也。問此二俱是見。盜。遍在二諦。或作是說。若與苦諦不相應。則彼苦諦所斷也。若習諦不相應。彼則習諦所斷。問如苦結現在前。最妙最上為最第一。盜云於苦諦不相應。復次苦諦所斷結使。以苦諦。拔則有妙想。當作是觀。與化有何差別。答曰。內心所攝心佞為姦詐。外不與心同。是多化有差別。以何等故。心非賢聖道

耶。或作是說。是世尊教化之語。說此則說心無異。彼則心相應。問何以故說心之時。不盡說心所念法。或作是說。是如來教誡之語。有是教誡而有智慧。如搗香末以香為首。色聲香味亦復如是。問造一事所生之處。諸相應法無有力勢。或作是說。自相所攝心集聚心。是賢聖道。是故心非賢聖道。或作是說。心亦是賢聖道。等三昧有衆多心共。一緣三昧者。心有增減無有異三昧也。

復次道心遂盛。志意所造心有所說也。欲界相應身見猶豫。除彼相應無明。及得餘法可說隱沒乎。或作是說。可得諸法相應及餘心所念法心解脫行。以何等故。須陀洹不淨謂淨滅耶。或作是說。不淨有淨想。有顛倒。須陀洹已盡也。問若顛倒須陀洹已盡者。彼則不染著也。苦想無我想不淨想。彼當染著。復次然須陀洹不淨有淨想已盡也。見中邪見。當知已盡。何等蓋中疑結耶。云何非蓋中疑結耶。或作是說。若欲界相應。彼是疑出要也。若色無色界相應。彼非疑蓋也。或作是說。若入三昧內者。彼是疑蓋。若真果者。彼非疑蓋也。復次一切調戲是疑蓋甚增多。欲界相應非疑蓋也。若自計吾我者。彼一切是身見。設是身見。彼一切自計吾我耶。或作是說。諸所有法自計吾我者。彼一切是身見也。頗是身見彼法非自計吾我。自。依我見。或作是說。頗有法自計吾我彼不身見耶。我見相應心所念法。頗有身見彼不自計吾我耶。自依我見。頗有身見及自吾我見

是也。頗非身見亦非自計吾我。除上爾所事則有義。復次彼有法自計吾我。彼非身見耶。又世尊言。我今當說彼說我當說。或有身見。彼不自計吾我我見。或非身見亦非自計吾我。除上爾所事則其義也。諸有見生。無病自言樂。云何生此見。或作是說。以三昧力自識宿命。初第二第三禪地。皆悉識知於此間樂故使爾耳。知有樂。復次貪嫉見身觀上方便。有寒熱觀諸苦。言於中便作是念。我有是樂然苦趣。其惡道諸所生見。偏有一苦無病當死。云何生此見。或作是說。此是三昧力。自識宿命。墮惡道中亦自識宿命。於此間憂苦。於中便作是念。我已甚苦。復次自計吾我。以善方便觀其所造作。如食想。偏見一苦樂亦是苦。諸所生見自計苦。樂有安隱想。此是何結。或作是說。三昧力自識宿命。人天之中及欲界自識宿命。於此間自識苦樂。於中便作是念。我有是苦樂。復次自計吾我。觀其方便受其苦樂。於中便作是念。苦樂是我所。安隱處起死想。諸所生見。自計不苦不樂安隱處所。作如是想。云何生此見。或作是說。此是三昧自識宿命。四禪地自悉了知。於此間受其苦樂。彼便作是念。無苦樂想。復次作我想見墮惡趣受苦樂。或時無樂。彼則有是想也。彼復作是念。無苦無樂無我見。亦作死想。諸所生見。所謂我色起者。四大所造壞敗至死。如是我見趣彼等見。此是何見。答曰。或有時見行以天眼知欲界便有生。彼不作是觀。便作是念。不墮

○果報二復果○ ○[中]一○ ○真是二具足○ ○可二何○ ○盜二道○ ○通二道○ ○拔二伏○ ○有二是○ ○依二佐 ○ ○(我)十見○ ○有二其○ ○色二已○

惡趣。諸所生見言有我者。斷欲界痛壞敗至死。如是我者等斷絕。此是何見生。答曰。或有時見行以天眼見色界形。彼不作是觀。復作是念。墮惡趣中諸所生見言我。無色空處斷絕壞敗不成。至死不捨。如是等斷絕。云何生此見。答曰。或有時見行知有色界形。彼不觀餘。軌復作是念。墮惡趣中諸所生見所謂我者。無色空處壞敗不成。至死不捨。是謂等我見斷絕。云何生此見。答曰。等入三昧不觀所生。彼作念已斷壞也。識處不用處。有想無想處亦復如是。如所說命異身異乃至死。以何等故彼無見生。或作是說。自計我常住有淨果實。亦不見果。此無見生復次心所念法言有常。因彼因緣便誹謗言。彼則生無。如體中有現在無明使相應。於彼體現在無明使相應。若體中與現在愛使相應。或作是說。如體中有現在愛使相應。於彼體中有現在無明使相應也。願體中與現在無明使相應。彼不與現在愛使相應也。及有餘結而現在前。復次二結俱不有一時而現在前。何以故。用思惟諸結使。不一時二俱生也。是思惟譬喻有四顛倒。當言緣諦。當言不緣諦。五陰顛倒是其緣。陰中無有常無我。設當緣彼者。此事不然。答曰。無常陰者而緣有常。設當不緣諦者。則是顛倒無常有常。謂顛倒無者則非無常。

使可知。又世尊言。於是比丘有著耶。我及彼亦著。或作是說。三昧無常彼相應結使。謂之無常相應。問此亦是我疑。何以故彼三昧謂之無常。答曰。此已休息。問上三昧已休。欲使彼亦是無常耶。或作是說。彼地有常。然相應結使謂之無常。此亦如上所說。又世尊言。味欲穢露。犯諸結使亦不捨離。云何。味欲。云何有犯。云何穢露。云何有結。云何為捨。答曰。於欲染著起欲想。欲想想樂想。是謂。味欲。於欲染著起欲想。是謂。味欲。於欲染著起欲想。有苦樂。想。是謂穢露。於欲染著起欲想。愛著有衆多方便。是謂犯欲。有衆多縛著心染污。是謂欲結使。欲結使者。欲有若干想觀知所生。是謂捨欲也。

意。盜邪姦偽

及體顛倒者

尊婆須蜜論卷第八

尊婆須蜜論卷第八

尊婆須蜜論卷第八

符秦罽賓三藏僧伽跋澄等譯

菩薩所集行捷度音

阿羅漢於欲界般涅槃。云何受色無色界相應報。或作是說。速疾受報故。受色無色界行受閉靜身。問若能受陰者。何以故。不究竟盡諸行。不得阿羅漢。受色無色界報。設速阿

羅漢。於現法中受報界。是故後世受報緣。則有微妙報。若彼行還阿羅漢不捨因緣。以難行還阿羅漢。則有其緣相應之行。是行果未熟受妙報。或作是說。初第二第三禪地。緣彼行受苦樂報。第四禪地及無色界相應受不苦不樂報。此亦如上所說。復次阿羅漢若般涅槃受善報。拔諸苦原不善善者緣。云何般涅槃有其處所。彼作是念。云何彼無所有耶。當作是觀。設彼行無報者。彼行則無所有。亦無果實。行亦無所有。如倉穀欲使不得成就不生萌芽。彼則無所有。若阿羅漢行果已壞。是謂報果。阿羅漢亦無所有。是故此不爾行所有。頗有人自害身命。非阿羅漢父母。受五逆罪耶。或作是說。有也。作父想往殺人者受五逆罪。復次母化為男子。彼人作母想往殺人者。則受五逆罪。頗殺女人。非母非阿羅漢受五逆罪耶。或作是說。有也。作母想殺他女人者。則受五逆罪。復次母化為女人。彼女人作父想殺人者。則受五逆罪也。不成男殺父母。當言受五逆罪。當言不受五逆罪。或作是說。不受五逆。何以故。不成男愚癡不能起上結使。不於中間有上結。有不情罪。或作是說。上結不成男。於中方便必受五逆。如是出要是五逆。彼不有五逆。是故不受。當作是觀。或作是說。當言不受報。何以故。彼不有恩慈。向於父母心不一定。設當受報者受五逆罪。或作是師想。當作是論。世間純是五逆罪。若畜生還自害父母。當言受五逆罪。當言不受五逆罪。或作是說。當言不受

何二可(三) 軌二趣(三) 味二味(三)* 想二相(三) 盜邪姦偽二想盜邪姦偽(三) 苦樂二樂苦(三) 尊婆須蜜菩薩所集(一) 七二九(九) 蜜十(菩薩所集) 八二二(三) 善(菩薩所集) 一(三) 首十(第九之一) 靜二精(三) 還二速(三)* 原二源(三)* 牙二芽(三)

五逆罪。何以故。畜生無有是智。有尊卑想。於其間有是五逆罪。或作是說。有智衆生便受五逆罪。有智能造結使。猶如御馬師。以衣纏頭合馬。壯者。便知是我母。還自鬻根斷。或作是說。彼法自爾。有智衆生無有限量。畜生之類如聞音響。千秋人身生子還害其母。後逮阿羅漢果。復次當言無五逆罪。彼無有恩慈於二父母。設有慈心日日衰耗受五逆罪。當以師想。作是論。設當爾者。一切世間皆是五逆。凡夫人住殺害心。當言成就善心。當言不成就善心耶。或作是說。當言不成就。彼無此智慧能悉分別。彼無禁戒。問今凡夫人不生天上。唯聞戒生天上。或作是說。當言或成就或不成就。若生天上彼則成就。若入地獄者彼不成就。問此義不然。云何亦聞大行。分別契經說。於七處犯則入地獄。不犯則生天上。復次或有成就或不成就。誰成就。於三昧戒具足。不犯戒律。禪不退轉命終後。是謂成就誰不成就。三昧戒不具足。犯戒律。於禪退轉便命終者。是謂不成就。阿羅漢最佳後心有漏界。當言成就當言不成就。或作是說。當言成就捨戒律。問云何受果報。於彼後心而受果報。問行與報等無有異此非論。是故無此。或作是說。當言不成就。彼三昧戒不受其報。問盡形壽三昧戒不具足。復次阿羅漢遍滿世界。復次當言成就。盡形壽彼便作是念。云何今受報。彼言前。若後。云何於其中間而受果實耶。若作講堂房舍。當言身行當言意行。或作是說。

當言身行。身求方便勤勞有功。問是何等身善行所攝。答曰。非盡身行。是身三善行所攝。或作是說。當言口行。口有所陳。我施衆僧房舍。口行所作。當問是何等口善行所攝。答曰。至誠語知時語不麁獷語。或作是說。當言意行。意有決了以物施彼。意已施了後發口言。我今施至誠不妄語。問是何等善行所攝。答曰。意三善行。不起貪嫉無瞋恚等見。復次若身教。戒我有所施。彼身有教。戒我有所施。彼當言口教意教。若身口有教。我有所施。彼當言身教口意教。不於中間起房舍福念。諸善根成就。於此間設復還生爲人。若出家若處俗修法。彼以何故不於現法中不出家修行法。或作是說。彼善根未熟已。更生諸善根便成熟。或作是說。彼以善因緣有礙不得出家。復以此因緣得豪貴家。復次於此間或有憑依外力。而有成就所依者。強諸結已盡。諸善行具足。若無方便諸善法。衰耗。彼於此間終更生復得出家。當作是觀。有爾所事。以何等故。結有果實行無果實。或作是說。行報是其對已受此報。諸結使盡道是其對。道未生而有果實。問行亦是道對。道生結則滅。復次有報受其教一切消滅。或作是說。若行數數有果實。則上亦無果實。是故不斷絕。問欲使不斷絕耶。復次此俱有二果共一法。何以故。無果復言有果。若彼有自然行

受報教男女 不成男亦爾

凡夫人後心 施講堂房舍

如此地須彌大山王。衆生受行教衆生般涅。彼漸微小耶。答曰。不微小也。何以故。一切衆生緣其行報。若不受報者。彼或有衆生受報不受報者。此非彼過。有其微小穀子芥鬼芥藥草樹木。當言自受行報。當言受增上報。或作是說。當言受行報。問則無有不與取。答曰。他所受則無有不與取。問爲受誰物。或作是說。若有所受彼是行報。若無所受彼亦是行報。問彼亦是受報。彼亦是不受報。欲使彼是行報。復次受行增上。何以故。不以行報故受其果實。不斷苦。原樂。原。如草木園果。以何等故。往昔人修十善行時。延命長壽田業豐熟。如今日之人修十善行時。亦不長壽亦無田業。或作是說。往昔人長夜修十善。如今日人不長夜修十善。問如今不長夜修十善。彼則得長壽也。亦得好田業。或作是說。彼往昔修十善。如今日人不修十善。問無始之人修清淨之行。今可得受長壽耶。及大田業。或作是說。彼非現在受行報。餘處受行報。彼時長壽及大田業。於彼行果餘處受。如今日修行十善。彼時餘處受報。問如今亦不觀。或餘處受行報。亦得長壽有大田業。復次無量衆事延衆生命。亦由田業。不獨此行行。亦無量衆事。如今可觀。或有方俗諸趣。或有衆行延命長壽。以何等故。持戒人教他不持戒便自墮罪。或不持戒人教他持戒便有戒律。或作是說。持戒人教他不持戒。是故犯戒若犯威儀然精進人不精進人

其十(中) 壯一壯 壯 壯 (復)十作 言一若 若二名 合十(是) 戒一誠 戒一誠 始 一規 由二有

不得威儀。若持戒人教他不持教使不持戒。然不持戒人不教使。持戒人教使持戒。或作是說。精進人教他不持戒。處在希望。希望以壞教戒。不持戒人教他持戒。不起希望。希望壞則戒壞。復次持戒人教他不持戒人。若起想念則曰不持戒。有持戒力而不退轉。不持戒人教他不持戒。若起想念。當言持戒人以精進力遊頤有一口行。有福無福報耶。或作是說。愛此教彼有是一心。口有一教。本起想念作是語。收某甲縛某甲。問。發善心有教有功德生。善法具足起諸教戒。若不善心有教。則有不善福生。心所念有善不善生。復次教戒有衆想生。或作是說。口無善行善心有教。不善口行。不善心口行。不以一教有善心生。是故無也。復次口教相類。亦有虛亦有實。善心生不善心亦生。無記心亦生。復次一切屬心行。亦有善亦有不善亦有無記。是心所念口行處所。當言。行口一心亦善亦不善。是故無也。以何等故。身行亦善亦不善。或作是說。有作殺害想。一處有教身本起念。當殺某甲當賞某甲。問。設善心有教。則有福生善心已生。若不善心有教。則無有善福生。不善心有教心是身本。若心所念有福無福。然教戒者有二殺害心。或作是說。善身行善身。口教不善身行不善。身心有教不以一教。當言善當言不善是故無也。復次教相類亦見禮敬。興起善心。興起不善心。興起無記心。復次一切心所念有是教善不善無記。是故心所念不以念有善有不善。是故無也。云

何得知阿羅漢有漏戒成就。或作是說。彼非具足有盡威儀。猶如是威儀。不還阿羅漢。如*還阿羅漢無異。或作是說。設阿羅漢有漏戒不成就者。彼無有罪犯。已復還悔。或有漏戒成就阿羅漢。復次若阿羅漢不起有漏戒。亦不量有漏此是世俗。是謂因緣。亦不藏匿起衆生想。以等聖諦方便之心賢聖妙法。於此戒而隨空性。當作是觀。又世尊言。於是阿難大愛道比丘尼。若受八重法。則是出家之要。亦是禁戒。亦是比丘尼行。云何出家要。云何禁戒。云何比丘尼行。或作是說。承受重法。亦是出家禁戒。亦是比丘尼行。亦作是說。彼則是禁戒比丘尼行。或作是說。捐棄家業。是謂出家。承受重法。謂是禁戒。到時乞食不失威儀。是謂比丘尼行。復次於現法中習學威儀被沙門服。出家學道得具足戒。以方便得此禁戒。順從不失時節。是謂比丘尼行。云何學增上戒。云何學增上心。云何學增上智慧。或作是說。身威儀口威儀衆行清淨。是謂增上戒。四禪。是謂學增上心。分別四諦。是謂學增上智慧。或作是說。等語等行業等方便。是謂學增上智慧。是謂學增上智慧。等念等定。是謂學增上心。等見等志等治。是謂學增上智慧。或作是說。若戒依思惟。是謂學增上戒。若依止觀。是謂學增上心。若以止觀斷諸結使。是謂學增上智慧。或作是說。見不持戒志爲穢能去離彼者志在禁戒。彼一一學。是謂學增上戒。見去離穢意不染著。習學三昧。於彼一一學。是謂增上

心。無有方便見諸穢露能捨去離。以方便智慧親近善友。於彼一一學。是謂學增上智慧。復次順近賢聖八道分別威儀。是謂增上戒。盡壽奉戒當去惡就善賢聖道起諸三昧。以智慧學增上心。於此三昧有方便遂增益於其中間諸賢聖道智慧。是謂增上智慧。於此智慧方便修行。以何等故。舒尼二十億沙門以一房施之。得九十一劫不墮惡趣。菩薩於此中間作無數功德而入地獄。或作是說。舒尼二十億心偏在施衆生。以此好施功德。所生之處常好惠施。意續不斷。以是不墮惡趣。然菩薩者意偏在智慧。意甚勇猛不墮惡趣。或作是說。舒尼二十億意在閑居。有信解脫。以此閑居之德不墮惡趣。然菩薩者修行道業。彼或時不墮惡趣。若失志便墮惡趣。若不矢志不墮惡趣。便生天上。或作是說。菩薩者九十一劫不入惡趣。古昔經歷出九十一劫無數生死也。尊曇摩多羅作是說。此誹謗語。菩薩方便不墮惡趣。菩薩發心以來求坐道場。從此以來不入泥犁。不入畜生餓鬼。不生貧窮處裸跳中。何以故。修行智慧不可沮壞。復次菩薩發意。還三不退轉法。勇猛好施智慧遂增益順從。是故菩薩當知不墮惡法。

大王曩昔時 持戒身口行
羅漢瞿曇彌 學不墮惡趣

以何等故。阿羅漢謂之福田耶。或作是說。心無垢著能供事彼者便獲大福。如田除去惡草穀好滋茂。問於彼不敬當獲大罪。此當言

①戒十(者)②發一散③行口二口行④比二此⑤得二德⑥心二意⑦貧一貧

不善福田。答曰。不有。福也。如稻田中善。理惡草。設有一日種異草。故名稻田如實無疑。或作是說。心修行根力覺意。便緣善心生諸福業。是故阿羅漢謂之福田也。問不善心亦生欲使非福田耶。答曰。阿羅漢無有不善念緣其德業。何以故。惡緣不善念。然阿羅漢無有是惡。緣是非緣。或作是說。阿羅漢能使他者。意亦不移動。復次心當惠施諸法之本。是謂福田。彼生便長益廣布在大果。是故阿羅漢謂之福田。於彼便作是念。彼非實福田。然實福田。雖復於彼造邪業事。不於中住隨他邪事。若一揣施之福生善樂天處。於彼得種種宮殿屋舍。當一揣之施獲爾所福耶。當非獨一揣之施獲爾所福。或作是說。當言一揣之施獲爾所福也。何以故。所可由行生彼問者。此行種種宮殿屋舍。問云何一行得種種宮殿屋舍。答曰。衆行集聚。或作是說。非一揣之施獲爾所福。可緣善心所念法。以是之故而生彼問。彼行亦種種得彼宮殿屋舍。或作是說。非一揣之施得生彼問。持戒得生。亦作是說。施獲大福。持戒生天。問如宮者說。緣一揣施之福。七生天上人間受福自然。答曰。以此因緣彼戒成就。是故彼問受福。設作是說。是揣施之報。七生天上人間受福自然。不以一行七反受福也。是故彼自然。如是不以揣施之報生彼問。此事如審一揣之施。復次揣施相應。彼亦在外無身根生。願彼行是身根。展轉相因增上生。因緣行相應。受種種果報。

如一種行有增益。有種種。藕。華報。如彼畫師作種種圖像如實。以何等故。聲無有報。或作是說。聲有響報。報中間無有報。是故聲無報。問心中間生報。欲使心非報耶。或作是說。聲現在合會而有。聲。然報不爾。是故聲非報。問境界現在合會而有。使彼非報也。或作是說。聲亦是報。世尊亦說。歡喜欲聞聲便有是。答曰。彼聲或歡喜或非歡喜。如今無有報。如二俱當有報。聞聲亦當有報。問或時歡喜或時非歡喜。欲使聞非是報耶。或作是說。聲亦是報。菩薩梵音大人之相。受諸行報實。問咽喉四大此是行報。以有梵音彼非受報。答曰。金色四大所造。欲使彼非報耶。復次聲非報亦不非報。何以故。聲是巧匠。有一心還貪欲所造生喜生憂。然報不爾。是故聲非報。頗有殺生口行所攝耶。或作是說。如大王所說勅彼殺生。問身行口行則無有定。復次因緣口行而造殺。生。殺害不得言口行所攝。於彼便作是念。云何今勅使殺人。彼有口惡行。若殺生者則有殺妬不盡。以殺害意便墮惡趣。頗有妄語身行所攝耶。或作是說。有猶如手印。口不發言有種種教引證時人。問亦無身行口行。復次無也。無有身行。彼便作是念。今云何手印及身行。當作是觀。相行不等也。若於夢中修行十善。當言是身行耶。當言是口行耶。當言是意行耶。或作是說。當言三種。以三種行攝十善行。問若於夢中害衆生。當言犯殺戒耶。復次當言是意行。意之所念於中便有是。如夢中見身行口

行。此非為喻。若非法作法想壞亂衆僧。若法作。非想。何者。罪最重。答曰。壞非法想。鬪亂衆僧者。罪最重。問設俱作二法想。鬪亂衆僧者。罪最重。復次若瞋恚熾盛心發惡念。彼罪最重。又世尊言。三種德業施戒思惟。於彼比丘施者。戒為微妙。戒思惟為妙。以何等故施戒為妙。戒思惟為妙。或作是說。施得大福。戒生天上。思惟離惡趣。微妙彼便生天。以生天離惡趣。復次以施恭敬相應獲施之德。若施少與心有違。能使衆生而使住戒。可使不可使衆生自心解脫。是故施戒為妙。戒思惟為妙。如所說二種德業能所施。能食人信施。彼云何有所施。云何能食人信施。或作是說。若割己惠施是謂為施。若受施能消是謂食人信施。問云何得知有福德耶。或作是說。若緣施心是謂為施。若緣食施心。是謂受人信施。或作是說。若割己惠施心是謂為施。若緣尊心是謂食人信施。復次長諸功德。如隨種種福德所纏絡。或作彼福德增益。若施無厭足。數求方便。又世尊言

種園果茂盛 或作橋度人
病則醫藥救 晝夜獲大福
云何彼獲大福。或作是說。受施者得福。問云何得知大福。或作是說。由施得福於彼思惟。是故得大福。如前說

善覺能覺者 是瞿曇弟子
晝夜勤苦行 念常不離佛
彼不作餘念。常思惟念佛。或作是說。如種穀子。或時茂好或時不茂好。福亦如是。一

福十(四)自 理二埋 實十(是) 藕二偶 華一 聲二報 生殺害二善教生 非十(法) 罪最二最罪 種二福 度二渡

切作善福隨時茂好。或作是說。如所說獲大福。或作是說。如所說念獲大福。復次於彼身得福。或時彼身於彼福漸漸以方便得福。

田業善處生 二聚夢威儀 何者最福重 福謂之園觀

若從果實天衆生何塔多慶反。淨天。彼當言與行緣故生彼天。當言以結。彼生彼。或作是說。當言以行緣生彼。四禪微妙思惟得生彼。修行四禪而生彼間。是故當言以行因緣生彼。或作是說。俱以二事生彼受結使對。是故有結使名。便有行名。復次以行因生。世尊亦說。是故當言緣行生。又世尊言。於是不那沙。或有一人造惡續造身諸行。云何彼造諸身行。或作是說。身行有三種。下中上。於下為造惡。續造為上。造惡續造為中。觀彼上者造惡續造。觀下謂之造惡續造。若下者二俱觀。謂之造惡續造是故中有下也。造惡作身行。或作是說。趣三惡道。是謂造惡。生色無色界。是謂續造。欲界。天人造惡。續造惡也。處無定。要造惡續造。作諸衆行。或作是說。三種無明緣行。有福者無福者無漏福者。於彼無福行是謂造惡。無漏福者續造也。有福者造惡續造也。作諸福行是謂造惡續造也。復次人作種種行。無數處解脫。此不可一時而辦。一心所為。如一切惡趣而有三痛。以何等故。一切造惡續造耶。或作是說。不以惡趣生諸行報。或作是說。不於彼中間生諸行報。或作是說。不以積行而生

彼間 復次諸等。識盛而有定處。不更處有苦樂行。以何等故。天人之中作諸善行謂之受報耶。或作是說。彼境界自爾。問或有惡微妙數。或作是說。善微妙數者言是我所。問惡趣之中亦有善言是我所。欲使彼善生耶。或作是說。若能拔濟。彼無有惡結行由結生。是故不善遍在一切。問如所說戒生天上者此事不然。答曰。戒拔惡趣不善行結而生彼間。是謂戒生天。如所說五下分結盡。謂之生上。無有盡而生者。復次無有報生無記報。復次緣禪行而生。生因緣便有名與。如此而生彼間。如方俗處所不得處所。於彼意而生心。以此而生彼。如是善報因緣生因緣。而有名與則生天上。云何障行。或作是說。生諸。悔心。以彼

悔心而不障道。復次有貪欲處所。田業壞敗。於彼所須。田業盡為障蔽。如所說有五罪行。或有人無慚愧不恥衆人。建妄無志情意迷惑。此有何差別。或作是說。於此間或有人。作彼色像而思惟。一切無有慚愧。永住不慚愧心。已有不慚愧心加犯諸惡。於此間或有人無有尊卑。教授戒律亦不肯受。不潤漬其心。重復更犯餘罪。於此間或有人如其色像而思惟。一切慚愧盡滅。住無有愧心。復以無愧心犯諸惡行。當於此間學。彼不復憶更犯餘罪。於此間或有人不知當作是學。彼後不知更犯餘惡。是其同異。又世尊言。不知迹解脫。不知迹解脫說。云何迹解脫。云何為迹解脫說。答曰。有二迹解脫。比丘僧目

前。而說比丘戒清淨與相應。是謂比丘迹解脫。比丘尼僧在目前。而說與共相應。是謂比丘尼迹解脫。此迹解脫有五相。於異僧前而說。而誦習讀數演使人奉行。是謂迹解脫。又世尊言。不解戒不解說戒

云何為戒。云何為說戒。問戒清淨是謂戒。五種賢聖。是謂戒行。又世尊言。還來行比丘。便運集。屬授人往行屬授。云何為屬授。云何為屬授行人。或作是說。四部所行得四行。餘殘屬授往行人。十部所行而十行。餘殘屬授往行人。二十部所行得二十行。餘殘屬授往行人。衆所行事得衆行。與戒屬授往行人。復次若比丘德行成就。彼曰得行。病不堪任入衆。彼謂屬授人。往行又世尊言。於是目捷連深妙法中。漸漸布行漸漸學漸漸迹漸漸受誨。云何於深法中漸漸布行漸漸學漸漸迹漸漸受誨。或作是說。馬師滿宿之徒。於此間得信而修行之。聽微妙法。聞法而奉行。觀察諸法量諸法。應適不違身便受證。智慧分別以禪而觀。或作是說。如所說捷那目捷連契經。身威儀口威儀。等命清淨漸漸而學。根威儀念威儀。漸漸布行四禪。謂漸漸迹也。如是如來之教化。如是受訓誨。或作是說。初將至戒場。再唱三唱四唱四行具足。是謂漸漸行。如是受具足。如是學增上戒。於彼增上心後。學增上智慧。如是漸漸學戒若學。是時初四諦所斷結盡。便建道迹。後思惟所斷欲界相應色界相應無色界相應。如是漸漸而知。此一切漸漸而知。如是

①(多慶反) ②尼一居 ③彼一使 ④天一三 ⑤要一惡 ⑥辨二辯 ⑦誨二誨 ⑧悔一悔 ⑨田二由 ⑩聖二集 ⑪往二住 ⑫人行一行人 ⑬建二遠 ⑭遠 ⑮遠

漸漸受訓誨。復次以色身說法。比丘厭佛歎法。歎比丘僧。意堪忍心好喜。常不遠離。不口所陳。心淨為淨。當受歸命。亦說初出家人戒律具足。本所造行去離非行。亦不及此。亦不及彼。如是漸漸布教。如是漸漸而作漸漸佐助衆事。增上律增上述。解脫而說戒。如是漸漸布教。於彼學時隨時學增上戒。隨時學增上心。隨時學增上智慧。如是布具足迹隨行。彼時漸漸受訓誨。是謂漸滅。是謂受證。是謂住入。要如是受訓誨。

◎又世尊言。備十功德如來為沙門結戒。欲使增聚使增。善任不移。欲使增安隱。不信者令信。信者重令信。降伏惡人為慚愧。作導師於現法中教誨。盡有教未生衆生。使盡有漏梵行之住。此有何等異。答曰。當學此戒本。無如來聲聞衆。便有所攝而不壞。與共相應等學諸戒說。當等說得等解脫同其類。此何集聚義。當言有勝。故曰增集聚。作是學時。欲降衆分別義分別法。欲使成就善住沙門妙法。故曰攝取增。學如是戒時。降伏衆分別義分別法。欲使成就善住沙門法。故曰欲使增善住也。

學如是戒時。降沙門展轉無欲展轉無展轉不相惱。故曰欲使增安隱。學如是戒時。化自相未曾得喜今便得之。故曰不信者令信。學如是戒時。化自相已。得信重令增益。界不相干。故曰信者重令信。如不信者已生信重令修行。於中邪路衆生導示大道。不越戒次。故曰降伏惡人。已降伏惡人。於中慚愧衆生

得惡伴侶無有苦惱。惡人何等異。以第三訓誨第三。一切衆生皆作是觀。七事自相自相已。故曰欲使慚愧者安隱降伏。如是戒者於現法中於惡行中已自修行。故曰於現法中盡有漏教降伏。此戒便生善處。閉惡趣門戒律成就。故曰未生衆生使盡有漏有漏。當言當作是觀。作如是學戒者。增上戒增上心增上智慧而不斷絕。如是深法得久住。故曰梵行久住。

種種業所作 如三善所障 不漸現在戒 囑授及訓誨

◎又世尊言。阿難今是汝過。汝作不善。云何三告汝而不答。吾使如來住劫設當答者。如來為住劫耶。或作是說。如來住劫。然如來無處所。問今何故作是語。諸修行四神足。意欲住劫。亦能盡其劫數。答曰。現神足威力。問世尊若善修行而不住。云何現其威力。答曰。聲聞住劫便能住劫。問若為聲聞說。濁者則無有相根。或作是說。亦能住劫。復次為侍衛人能久住。亦不求索設當請使住便住。至阿難得阿羅漢果。或作是說。若緣前請若緣後請。求世尊住者。然世尊不。作是說。今云何作是說。先何以不說。譬如有人過他邦土。人便作是念。不請使住。設請使住者便住也。乃至尊者阿難得阿羅漢果。或作是說。若前請若後請。然世尊不住也。云何今作是說。猶如有人適他邦土。還時便有人告。若前請若後請而不住。設當語何以先不告語。或作是說。不住也。何以無處所。一阿惟三佛俱出

世。於此劫中彌勒世尊當出現世。是故不住。此爾所事前以歎說竟。復次設尊者阿難不聞如來告。為魔所厭。世尊知魔厭。云何告語。乃至二三於中有何過。厭不能應答。彼便作是念。雖世尊告時未疲厭。於其中間魔便起厭意。是故不能應答。爾時告語無有力勢。能後便作是語。我目前聞如來語承受奉行。云何疲厭而憶本所作。若世尊欲住者。是故修其怖望。欲化導衆生故。如所聞。阿羅訶彌勒授決。亦聞無有二三三耶三善阿惟三佛而出現世也。以何故。當言使世尊住劫。此至三事。當作是觀。以何等故十二入四善不善無記八無記。或作是說。四行報八是報非行。問意入非行。欲使彼是無記耶。或作是說。四與心相應與心俱起。問設今自然善不善。彼云何有起有方便或作是說。心自然善不善。彼相應心所念法及心不相應行俱起身口行。問彼如上所說涅槃無有善復次色入者色不可壞。聲入聲不可壞。此因緣集聚如是便有善不善所作意相應。不住色聲中。獨無有侶。是故當觀。若覺犯罪睡眠清淨耶。或作是說。有如草五體布地而悔便睡眠。復次求請悔過。請衆人解過作三行。便睡眠故眠不覺。頗有持戒不梵行。或作是說。有五戒優婆塞。以己妻為足。及餘優婆塞奉賢聖戒。以己妻不淨行。比丘者持戒精進。身威儀具足。然有淫意不盡而共相應。當言非梵行。及餘比丘於賢聖戒精進。姪意未盡與共相應。當言非梵行。若阿羅漢已般

◎本二彼◎ ◎住一住◎ ◎行持度第九之一竟卷第十終◎ ◎卷第十一持度首第九之二首◎ ◎彌二屬◎ ◎彌二若◎ ◎作二住◎ ◎阿羅阿二阿羅◎ ◎住二住◎ ◎悔二誨◎ ◎淫二經◎

涅槃而供養。當言彼得行報耶。當言現在有其功力。或作是說。當言得行報。若先已作福德。彼便得供養。若本不作福德。彼生存在世求食難得。說當獲供養。問云何今受報。復次現在方便所造。諸於彼功德具足者。彼方便所造。如空中不可受報。如世尊言。猶如有人。於此間不承受請問已。此因緣報故作如是行。作如此事。生惡趣入地獄中。若還生人間無有智慧。此是何行報。或作是說。已愚癡故。彼不請問事不明。便墮惡趣。復作是說。不請問時。意謂清淨。此是戒盜苦諦所斷。復次如此堅信。常奉持法。於中生諸方便。是伴非伴而不現道。以此深法中信契經阿含深語。不於中忍。有諸方便。如是阿毘曇阿含微妙三語身證之教。不於中而作方便。如是禁律阿含微妙之語而信趣向。不於中作方便。復以此法疑無智慧。此是智慧之路。設不請問趣惡道者。彼便住世滿此衆生。又世尊言。彼身惡行口意惡行各相牽速。云何行相牽速。或作是說。見有惡行亦見瑞應。命過時便作是語。見火炎起見狗吠。若善行命過時便作是語。我見天寶宮殿屋舍。見諸園果。或作是說。有諸緣報。有此瑞應行。是謂惡是謂善。或作是說。報漸觀近懷諸怖望。如觀近無善覺知成敗。是謂緣無義行牽速。或作是說。於惡趣沈沒設心亦覆蔽。是謂牽速。復次云何緣過去行。復次如此惡行意便好喜。當於爾時便有證有驗。亦見諸瘡瘻結使遂增惡行。

又世尊言。於現法中便有悔意。彼悔意當言善耶。不善耶。當言無記耶。或作是說。當言善。惡自見惡於彼作惡行念。問不於今墮惡趣中。答曰。彼善少不善力大。復作是語。與少善生於善處。如所說得善心念法與等見俱。或作是說。當言不善。與邪見相應。雖復憶念後更忘失。所不應憶者後便憶之。是故當言不善。復次云何世尊說。譬喻與不相應自不相應。此非譬喻也。一切作惡行者。則有悔意也。能自修已則生天上。世尊亦說。設彼悔者亦是善心。云何善心無善命過。若悔是不善者。云何不善心多彼智相應。若悔是無記者。云何無記心無善命過。是故此非佛語。以何等故。未來教不得成就。或作是說。不以未來教而有教耶。問過去教者亦無教。欲使不成就過去教耶。答曰。教已過去。問未來亦當有教。復次雖不作行便有所獲。如是無行而有果實。於彼便作是念。云何今不思惟。亦有福德。彼當作是觀。又世尊言有緣生。云何有緣生。或作是說。中陰中五陰是謂有緣生。或作是說。所生五陰是謂有緣生。或作是說。已處母胎是謂有緣生。或作是說。所生五陰諸得行緣而受報數。是心將從受諸色報。命根心不相應行。是謂有緣生。復次趣惡生者最初得有。是謂有緣生。有則有生。

明爲所作行。是一切行緣。或作是說。如今過去一切緣。過去亦是一切結緣。復次過去最要言之。現在廣說現其善教。問不如彼一切結緣。或作是說。本所作行一切結是緣。過去無明聲。已說與無明相應。現在所造聲與無明相應。現在所造聲。已說無明造聲相應。問不以現在無明聲。作是說與無明相應。或作是說。生無智力少足故。譬喻衆生示現。若行無明於此生是緣。由結故生諸行。是故譬喻衆生現在若行。問彼迴轉譬喻衆生現其善行。過去之時一切結是緣。復次結結相生行。緣其根生彼結。彼結彼各相應。結由行生。行由結生。行由行生。謂無明緣行生。結緣行生。復作是說。愛緣有行已。熾然作諸行。當作是觀。以何等故。色界無垢人。謂之成就無漏戒。然非有漏。答曰。此不捨賢聖道。便成就戒。界遊已滅。世俗事。界遊行無有無色界無色界定戒。是故不得名成就。以何等故。行報故生無色界天。或作是說。以無想三昧衆生報故也。問無想三昧亦非心亦非心所。念法云何。由是報故生。答曰。無想三昧有漏善心不相應行有報。問設彼三昧有報。彼不與行相應。世尊亦說由行而生。或作是說。若於心中間入無想三昧。緣彼心報生無色界天。問云何若於心中間入第二禪。緣彼報生光音天耶。或作是說。無想三昧無心。無想三昧相應心報而生彼間。無有無想三昧相應心。何以故彼無有想。世尊亦說。彼想有教無教有心教耶。此無處所。復次

①說一況②③ ④意二法⑤⑥ ⑦常二當⑧ ⑨有一者⑩⑪ ⑫幸二幸⑬* ⑭連二連⑮* ⑯六二吹⑰⑱ ⑲諸二者⑳㉑ ㉒漸十(漸)⑳
⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

無想三昧彼則有。是不由行而生彼心。亦無行方便。世尊亦說。由行報而有生。復次無想三昧心相應心所生報是緣。能作是住。如生無想界天。如善御車人所向無疑。如報緣除其報則受其有。頗緣滅盡三昧報生有想無想天耶。或作是說。彼三昧有漏之有報。非有想無想天。更受生緣。是報而生。問滅盡三昧亦不與行相應。世尊亦說。由行而生。或作是說。滅盡三昧有心。是故滅盡三昧相應心報故。生有想無想天。問無有滅盡三昧心相應痛。何以故彼無想世尊亦說。彼有想無想心覺當有覺。亦無處所。或作是說。不生也。何以故。已越有想無想天。以滅盡三昧緣是果報而生彼間。問如所說越有想無想天。入想忍三昧則有彼地。亦說盡越不用定處。修有想無想定。彼亦是不用定地。問滅盡三昧入是三昧。不以貪欲故。欲愛未盡。入有想無想三昧。非不欲盡。不用入處有想無想定。復次如所說滅盡三昧無有心。彼則有是也。彼無有報無有心。復次有想無想天滅盡三昧報而受。彼三昧非報緣。又世尊言。歡喜施者。便得歡喜。從心所好。施真正處。云何觀是歡喜。為觀受者。為觀施者。或作是說。當觀施者。從物因緣若施彼時。彼則受報也。問設彼受者有福歡喜。答曰。彼非真正處。亦說從心所好施真正處。或作是說。從檀越心如郁伽長者說。是謂如來二端。我所愛者。願世尊納受。以大慈故而不

見逆。我從如來聞。歡喜施者。便得歡喜。復次當觀施者意。從施時便是念。我今割意施。作是心已受大報。如尊者舍利弗說。若行後世受。報者。彼不可得現世受報。設行現世受報。彼不可得後世受報。世尊亦說。或有尼捷子。若行現世受報。彼不可得後世受報耶。設行後受報。彼不可得現世受報。如是尼捷子輩愚癡盡無果實。說是語其義云何。或作是說。尼捷子作是見。行盡苦盡行盡。謂一意識。不可得後世受報。行現世受報痛。若彼愚癡盡無有果實。於此法中垢盡苦盡。若道生時滅諸結使。若無愚癡無有果實。問若於此法中不盡行本。不得般涅槃。亦無有上。答曰。如阿羅漢速疾受報。問。如所說契經則有違。或有阿羅漢。行報。漸薄。不相應。果便滅。若阿羅漢能行報者。亦能廣博諸行。或作是說。猶如彼行實在者。彼行道亦復實在。或作是說。諸行實在便有集聚。設行不實在者。可使作集聚。復次此非行報義也。於深法中不失深法。如其義理遊戲。其彼義無有疑。彼作是念。如今云何後身受報。當作是觀。如是阿羅漢不得衆行而受報也。以何等故。祭祠餓鬼得然不及餘趣。或作是說。此生趣自爾。問。此是我疑。何以故生趣自爾耶。或作是說。餓鬼嫉妬心意便顛倒河無河想。見水不淨及諸飲食漿水。若餓鬼祭祀飲食。便發歡喜意心不顛倒。若彼餓鬼得增上行時彼受食。或作是說。餓鬼以嫉妬意。彼不能作好境界。若彼餓鬼有所祭祀發歡喜意。於

彼得好心遊好境界。或作是說。餓鬼以嫉妬意身體長大心常懈疲。以懈疲心不至神妙。餓鬼所。若彼餓鬼而祭祀食於施發歡喜心。便得身大心廣。以彼心廣大故。得遊諸大餓鬼所。彼亦歸伏禮跪。以身大故。彼餓鬼得增上行。於彼受食。復次與人作福。彼人不得如餓鬼與彼施食者。餓鬼善心好施。彼便受行若彼飲食。是故非餘趣。諸心與身行俱起。口行俱起。當與心共同耶。當言不與心共同。或作是說。當言與心共同與心俱起。問云何心不與行同耶。或作是說。當言不與心共同。本所生心與行俱起。若不生則不有起。是故當言不與心共同。或作是說。或與心共同。或不與心共同。諸與心迴轉則與心共同。諸不與心迴轉則不與心共同。復次緣彼有心行有迴轉。亦各相攝。先有迴轉便有所攝。行與結有何差別。或作是說。行是身是口是意。然結是意。問若行是意與彼結有何差別。或作是說。行是善不善無記。結是不善。問若行不善。與彼結有何差別。或作是說。意行意行。結亦不意亦不不意。問云何意無有報耶。復次一切心所念。當言皆是行。然世尊視若干種行漸漸有疑。云何無虫便有殺意。或作是說。如無有虫便有殺虫之想。如無虫便有殺害意。若有虫處彼無有殺意。何以故。彼虫或有常或無常。設有常者。亦不能墮此無有相。設有常者。如是得斷滅。復次所造五陰作虫思想。便言我盡形壽不殺。若越彼意者行各散一處。是故彼便有善想。若於彼虫便有殺意。

○(有)十彼 ○處二想 ○從一彼 ○報二教 ○(所)十如 ○(漸)十漸 ○此十(亦) ○

何以故。由彼虫故。因緣合會則有差違。設不
差違則不能有所起。若有差違則有所起。云
何不有所起則有所起。若有差違不得無違者
不得。無有力能起。若得有所起。云何起無差
違或不能起。又世尊言。有四不可思議。世間
不可思議。衆生行報不可思議。及佛境界不
可思議。以何等故。此謂之不可思議。或作
是說。方便力少不足思議。或作是說。無有餘
方便作如是知。如佛世尊或作是說。不可思
議深妙難究是故不可思議。復次作我思議
者成狂。愚癡思惟心亦亂。衆生行報及佛境
界。非已心所了。亦不可觀。

無明無色界 及彼無垢人
無想及滅盡 舍利弗餓鬼

種種諸根相 衆生難思議

諸入不善三昧。彼盡犯二罪耶。或作是說。諸
犯不善者。彼盡犯二罪。犯彼罪時成五逆。問
云何犯五逆時不犯二罪耶。復次唯犯一罪。
何以故。世尊說有五罪。若犯不善罪時而犯
二罪。作是廣說而思惟說。一時彼無罪。是故
犯一罪。若轉輪聖王女寶得色聲香味。當言
由行報得。當言不由行報得上得。或作是說。
當言由行報得。問云何餘行報餘者受報。答
曰。女寶者由行報故彼便得。若彼得彼王得
是報。復次由行報得上得。若由行報得。不作行
而受報。女寶則有壞敗。轉輪聖王不由他行
受報。鬪亂僧若鬪亂僧。當言一劫入泥。梨
耶。當言中劫受泥。梨罪。或作是說。當言一
劫受泥。梨罪。世尊亦說。鬪亂僧經歷一劫。

問已過半劫。云何。全受一劫罪。答曰。餘方
刹土至彼泥。梨。如犯罪重之人。數移徙入
深獄。然後脫其罪過。若復受劫罪。一劫泥
梨中受罪。問泥。梨受罪之人無有此理。至
他方泥。梨受罪。命未盡便死。或作是說。二
十劫中及四劫劫大劫。二十中劫受罪。是謂
一劫受罪。若劫融燒時。便生二十中劫。云何
彼經歷爾所時。復次當中劫受泥。梨罪。無有
欲界衆生受一劫之壽。諸鬪亂僧彼一切住
一劫受罪耶。設住一劫受罪者。彼一切鬪亂
僧耶。或作是說。諸鬪亂僧彼一切一劫受罪。破
壞僧者最重之罪。或作是說。鬪亂僧非住一
劫受罪耶。若壞亂意而鬪亂僧者受五逆罪。復
次或住一劫受罪。彼非鬪亂僧現其報。或鬪
亂僧及一劫受罪耶。若非法壞鬪亂意而壞
僧者。或不鬪亂僧。亦不一劫受罪耶。除上爾
所事也。鬪亂僧當言性受罪。當言非性受罪。
或作是說。當言性受罪。何以故。鬪亂僧最
重之罪。若此非受罪者。云何今性受罪。問諸
鬪亂僧彼一切受無救之罪。問如殺生者性
受罪。諸不殺害受罪。害罪如是。鬪亂僧性自
受罪。諸不鬪亂僧。彼一切受無救之罪。復次
當言非性受罪。何以故。僧成就鬪亂罪。然非
無救罪。諸惡行鬪亂僧。彼性當言受罪也
又世尊言。意行者最重。如法慧契經言。一
行最重罪鬪亂僧。非意行鬪亂僧也。說是
語其義云何。或作是說。一切行最重罪。除
其五逆。及餘行意行最重罪。或作是說。意
口行思惟。彼行已口行。彼最第一。意行意行

最重罪。思惟行鬪亂僧最重罪。復次不
於中間意行有鬪亂僧。非彼思惟而鬪亂。諸
惡行鬪亂僧者。當言彼最重罪。以何故。非
滅五人不得鬪亂僧。答曰。必當有二部僧。
勅使如調達鬪世尊聲聞衆。彼壞凡夫僧。不
能壞賢聖之人。問今不受五逆罪。答曰。作僧
想而壞凡夫衆受五逆罪。如父作父想而殺
害其命。受五逆罪。問若今世尊說鬪亂僧受
一劫罪。答曰。此世尊教戒語。調達作是想我
壞僧。或作是說。比丘衆謂之比丘僧。於彼凡
夫人勅使鬪亂。或復賢聖人在世尊側而不
能壞亂。或作是說。有十四事鬪亂之章。無垢
人不可壞敗。不能壞世尊。是故世尊不可
壞。復次世尊聲聞衆內無垢人。外凡夫人於
彼壞外凡夫人衆。內無垢人不可沮壞。是世
尊衆不可沮壞。以何等故記之。結言無報耶。
或作是說。無記者即無報也。或作是說。彼不
於身體有所長益。或作是說。不化身口意行。
復作是說。無記心所念法。自憑依有是苦惱
攝持諸法而有報也。復次無記無報法亦是
有報也。如所說我今不行。乃至不知爲趣何
所。而見光明。云何是報。復次諸善不善法。或
有因或有緣有諸果實。於彼作報想。無記之
法或有因或有緣有諸果實。是故無記法而
有報也。須陀洹。性有瑕罪。當言。性無瑕穢
或作是說。無有瑕罪。瑕罪者現諸穢病。或作
是說。無有瑕罪。瑕罪者現諸穢病。或作是
說。無瑕罪依善不。譯。復次當言有瑕穢想。
心邪見未滅

①根相一相觀②相根③④梨二梨⑤⑥全二今⑦⑧罪重二重罪⑨⑩滅二滅⑪⑫(彼)十不⑬⑭性一性⑮⑯罪一罪

犯罪樂鬪亂 住劫及性罪 不滅五壞衆 無記性淨行

酒漿者。當言性罪。當言非性罪。答曰。當言非性罪。何以故。若飲酒者。淳酒有餘教以入腹。若服呪術飲食術。當作是觀非梵行。當言性罪。當言非性罪。或作是說。當言性受罪。不於中間結穢有其梵行。復次當言非梵行。心是其罪。性染污觀。復結與起當言有罪。性罪者其義云何。或作是說。性染污是謂性罪。復作是說。性不善是謂性罪。復次性有瑕穢是謂性罪。非性罪者其義云何。答曰。不染污是謂非性罪。復作是說。性常不善是謂非性罪。復次非性有瑕是謂非性罪。頗有比丘。四事之中各無所犯。然不捨戒而就白衣。當言非比丘。或作是說。有人根變易根已變易。當言非比丘。或作是說。因緣果實邪見而現在前。若布現示人。是謂當言非比丘。或作是說。若自長養此比丘非比丘也。彼若勤修戒行於中移轉。云何當捨戒而越戒律。復次有所稀望。稀望者流轉生死。當言於比丘法退轉。若無教誨也。又世尊言。若比丘於比丘受衣裳。入無量心三昧而思惟之。彼果報無量。施主檀越福增益善增益。善食無病。是謂自作。餘者不受耶。答曰。非自作餘者受報。復次施主檀越所受之德。問云何不成就而受其福。答曰。由田業潤厚於彼種穀子。若種人憶田好不好。必獲好穀。問此亦不相應。云何於田種子不於三昧檀越有其德。復次有彼人受彼信施。施主檀越得其處所。便有福德長

益。是故不可沮壞。無瞋恚之體。彼便有休息根心意歡喜。受施之人不堪任施。施者自受福。又作是說。以此法施彼彼為誰得。或作是說。無有得者。是謂不與取。復次受施主之語。此何由。施若依比丘者彼則有所還。若於道果。道果受其教誨無有所還。又世尊言。摩納衆生行。由與由行所造。由行因緣。由行施為衆生。由行成若好若醜。說是語其義云何。答曰。自所造行受其果報。衆人不牢固。如所作行便受其報。是謂行因緣受其生報。行若處處生。在在受其報。是謂行胎生。若捨其行有若干相。若捨其行此衆生如上所說。衆生有上下。是故行衆生有所演說。若其有好有醜。有何行故。若本劫衆生自然食身能飛行。或作是說。於欲界。愛盡。諸欲界熾盛善根。由其果報也。問今亦不有所現耶。或於彼種善根之中。果報有自然身能飛行。答曰。衆行備具彼果不得生實。復次由生因緣行報因緣。有如是對。於彼自在施所造得。彼則身能飛行。由彼施主之德方便。彼則有頭光明。諸尊重梵行者。病痛遭困厄車馬施。彼則身能飛行

飲酒其犯邪 性犯最重罪

飛比丘遊行 行自造人後 尊婆須蜜菩薩所集行度度第九竟

尊婆須蜜菩薩所集智度度第十

又世尊言。彼於不淨修念覺意。云何於不淨修念覺意。或作是說。計意作不淨想。按計身中而修念覺意。如是於不淨修念覺意。或

作是說。覺意分別不淨。覺意中間入不三昧。不三昧中間修念覺意。復次相各自有義。當作是觀。然不與不淨念覺意相應。又世尊言。比丘汝等當修護。比丘若修護已盡斷除欲界愛。盡色界愛。盡無色界愛。盡於此橋慢盡無明。云何修護。或作是說。諸覺意四禪四等。或作是說。修無漏四禪。或作是說。護覺意不忘失。復次修道得諸果實故。於此說諸所生即滅常得護也。於欲界愛盡等。越次取證時。云何修斷欲界相應。思惟所斷而修行道。或作是說。彼不盡便修行道。彼本以盡已世俗道。問四諦所斷結已盡。世俗道欲使彼盡不修道耶。修道法忍。是故思惟所斷盡而修行道。答曰。彼非四諦也。斷修法忍也。以賢聖諦起此道。問若四諦所斷已盡不修行道者。不以彼結世俗道永斷結使。是故見諦人不究竟盡。或作是說。彼滅未來結。問欲界愛盡等越次取證。以未來所修以思惟斷。答曰。彼不得思惟斷道。設得是時世間思道。若知彼力契經者。或作是說。未知智中間起思惟道。問彼不實有阿那含須陀洹得禪。答曰。進前取阿那含。是故修行道諦。便得阿那含。然須陀洹不得禪。復次二種結已盡。思惟彼二種事。修行二事。有二智修行。於彼愛盡等越次取證。無量之事皆悉具。淨修其心。作如是行道。以三界結四諦斷欲界相應。用思惟斷修行諸聖住阿那含處。彼時亦作是觀。欲界相應結使用思惟斷修行道時。諸得未來善根。當言滅

①施一說②③ ④還一遠⑤* ⑥與二與⑦⑧ ⑨本二大⑩ ⑪(受)十愛⑫⑬ ⑭頭一顏⑮ ⑯[尊婆須蜜菩薩所集]一⑰⑱ ⑲九十(之二)⑳ ㉑卷第八終㉒㉓, 卷第十一終 ㉔㉕ ㉖卷第九首㉗㉘㉙, 卷第十二首㉚, [尊婆須蜜菩薩所集]一㉛ ㉜首十(第十)㉝ ㉞(經)一㉟ ㊱(以)十四㊲

諸結使也。或作是說。當言斷滅。問云何以未來道滅。答曰。未來之道便有力勢。現在不滅也。諸有力勢生彼則能滅。如是未來之道。有力勢生彼則能滅。復次當言彼不能滅也。以未知智所領。當言用思惟所斷以世俗之數。彼非身所習出要。以何等故五盛之陰。不言是想意止。或作是說。法意止所攝。當言想身意止色陰所攝。痛意止者。痛陰所攝也。法意止者。想陰所攝也。行陰者此無爲也。復次心意止所攝。當言是想也。身身相觀痛痛相觀。於痛思惟一切心處。所作如是。觀法意止者。合數之義。於陰垢著染汚。當作如是觀。須陀洹住果實心。於三界中當言成就等智。當言不成就等智。或作是說。當言成就。何以故。善根者。以二事滅不相應果滅縛著。於彼若去離界。然須陀洹不退轉越彼界。是故當言成就。復次覺。知三界時以捨等智。復次空於空。無願於無願。無想於無想。當言成就也。彼不捨意也。又世尊言

法園觀浴池 婆羅門異學

閑。靖無垢濁 與諸真人俱

我浴神。諍訟 不漬體滅惡

說是語是義云何。答曰。賢聖沙門津。於此義中法園觀浴池也。彼不顛倒結已盡。心枝葉諸垢永盡。謂之法也。不順從戒是謂戒。梵志未越不善根。觀彼不善是謂閑靜。無穢無濁。於佛聲聞發歡喜心。是謂與諸真人俱。成就等智分別等智。覺知深義而入其中。是謂浴神心。無有垢穢。亦不作是想。或作是說。

滅本惡心。不作是想。是謂不漬身滅惡也。以何等故空緣有漏耶。無願者亦緣有漏亦緣無漏。或作是說。空者緣苦諦緣有漏。無願者亦緣苦諦。亦緣習諦。亦緣道諦。是故無願亦緣有漏亦緣無漏。復次各自遷已。亦不自覺。亦不得無漏法。是故空緣有漏也。現有所失能知棄捨。爾時無復有願田業之想。如群鹿驚四面無有障礙。於中無願亦緣有漏亦緣無漏。世俗上無我智有何差別。或作是說。世俗爲下增上爲世俗上。或作是說。一切無我智是謂世俗上。一切順越世俗。復次諸分別曉了是謂世俗。諸不曉了彼謂之世俗上。復次世俗無我智。作識別觀方便。非方便有如斯事。作是思惟。彼自相彼無巧便。無我自度視世俗上。以何等故未知智非緣欲界。或作是說。法智已作緣。問忍已作緣。法智不作緣。或作是說。現有法智懸思未知智現有欲界。是故而不作緣。問欲界之中或有現或無有現。色無色界或有現欲界愛。復次此不相應世尊亦說。彼以此法見知自過去未來。將往是謂往。是謂當言未知智。是故有未知智緣欲界

覺意而敷演 欲界根上陰
須陀洹法空 差別若干界

以何等故。生終世俗智便忘失。然非世俗上。或作是說。世俗智富足。以智相佐世俗上智者。亦富足以彼相佐而不修行。或作是說。垢力勢大非世俗智。以垢所纏。然後世俗力大非結不爲結所纏。復次作世俗智想作等想。

現有所說。世俗上智者。作無想與相應如實義。因長益處所緣得其章義。依彼有功德不可沮壞。以何等故。阿羅漢謂之不成就學法耶。或作是說。此已捨學法遊果果行。或作是說。得無學法則不成就學法。此之謂也。或作是說。若成就學法者則是其學。若成就無學法則無學法也。復次根度無極則有緣果。度無極果度無極緣入度無極。於中阿羅漢當言不成就學法。彼則有如此不如意。亦不學亦不學。法不成就也。當作是觀。當作限量世俗之法學無學法也。以何等故。四辯才二界有漏二於三界無漏。或作是說。不於。此色界中名身句身有所繫。有所敷演所有無漏智。是故二界有漏也。復有無色界第一義不迴轉智三昧。入彼三昧不迴轉智。若無漏智迴轉者。然此三界皆悉無漏。復次無色界無有辯才。然辯才非有漏亦不生有漏中間有漏以何等故。六通三有明三非有明。或作是說。第一義明盡有漏二。便招來得其明聲。或作是說。阿羅漢因果報智明。自識宿命知我從某處終。緣此因緣而生是間。因果報者。微視通我某處終。由此因緣當生彼間。因果智而知。盡有漏智者。我已此道而盡有漏諸因果報智。復次第四通自知所從來。第五通知始生智者。第六通與共相應。是謂智盡有漏。若相應智者。彼第一義明初通者。知諸伎術。第二通者攝持諸聲。第三通者而親自相。如此三解脫門空無願無想。以何等解脫門等越次取證。答曰。空無願生便能越已生。

知一智 二解 淨 諍訟二時須 順二慎 說二想 觀十(當作是觀) 此二以 已二以 伎二

當言等越次取證。如得分別智。以何等故未
知智不與同緣色無色界。或作是說。一時數
演見諦所斷結。問此亦是我疑。何以故。二界
見諦所斷一敷演。然非三界二界有何差別。
一見諦所斷。然非思惟所斷。或作是說無常
苦空無我問三界集聚是謂無常。或作是說
不現未知智。彼可量現在前。問欲界少有現
色。無色界不現。是故現非義。復次是謂三界
等越次取證。是謂當言未知智。此是其道等
越次取證。忍與智有何差別。或作是說。忍能
忍事智能知物。問無智者能忍乎。忍時有智
耶。或作是說。忍為下智為上。或作是說。盡道
為忍道果為智。復作是說。斷道為忍。解脫道
為智。復作是說。斷道為忍。無所罣礙為智。復
次如行道人不能前進。便自勸勉安隱到處
所。如是等越次取證。先得智慧眼導引為忍。
越彼岸為智。忍為下

諸不忘學法 分別覺意門
來生及分別 忍。法是十經

用何等故以忍斷結。然不用智或作是說。道
已生便斷。是故忍斷結。忍已能捨。是智不能
斷。忍無不斷結。或作是說。盡道為忍。道果為
智。然非以道果斷結。是故不以智斷。或作是
說。盡道為忍。解脫道為智。非以解脫道斷也。
是故智不斷。復次見地見諦所斷結。盡道障
道不等道斷也。此相應是故忍斷。以智覆不
生。當作是觀。以何等故。盡時忍斷結斷。結
非生時。或作是說。盡時忍現在道斷結。是故
盡時忍斷結。若忍生時道未生則不能斷。是

故生時不斷。問若生時忍不斷結者。彼不有
違耶。答曰。然生時忍不斷者。如是彼則不有
違。所以生斷。是故彼相佐助。問若自觀者忍
已生。彼便自滅無生無復。闍冥。復次若所生
忍滅結已生。當言便盡。猶如。然明闍冥悉
除。問若所生忍滅當言是結耶。已生道未知
忍。一切見諦所斷結盡。是故忍成就須陀洹。
答曰。一切見諦所斷結盡。不以智集聚名須
陀洹。何以故。不以此有為得須陀洹果。如世
尊說。於是比丘。諸觀五盛陰如實而知。是
謂須陀洹。不以見苦名須陀洹。亦作是說。三
結盡名須陀洹。不以忍集聚名須陀洹

又世尊言。比丘說一切結時。四意止等說而
說。世尊亦說。說善樂比丘時。四意止等說而
說。然一切諸法非善說。是語其義云何。或
作是說說一切法時。四意止等說而說道有
緣。以是故說善說善聚時。四意止等說而說。
亦由道說。復次說一切法時。四意止等說而
說。由八正道三十七品。以是故說。說善聚時。
四意止等說而說。第一義聚善聚。由是故說。
諸如來相義起微妙智。諸聲聞亦有此微妙智
耶。設聲聞有此微妙智。彼是如來相義起微
妙智耶。或作是說。諸如來相義起微妙智。彼
相義聲聞有也。起微妙智。諸眾生類。於彼如
來聲聞起微妙智。如彼智境界迴轉時。復次
不應作是說。眾生微妙智心智慧歡喜。有其
誓願微妙智者。彼聲聞漸漸而智現在前。如
來者於智得自在心思惟心。三昧清淨。於欲
便能無有罣礙起微妙智。以何等故。四意止

無身意止生耶。或作是說。意止無有思惟漸
漸而至。復次漸漸有益。如來之。教漸漸諷誦
承受者。復次身身相觀作諸意。痛痛相觀流
行。痛痛相觀作諸意。心心相觀有流行。心心
相觀作諸意。法法相觀有流行。如是漸漸修
意止。以何等故。七覺意中謂先謂念覺意耶。
或作是說。次第言之。復次如來次第所說。為
誦者所說。復次念覺意先現在前。為人次第
說修說覺意。如所說如彼所念法選擇諸法。
亦復觀知味諸法。於彼法選擇。亦復覺知諸
法之時。便有勇猛發歡喜意。意盛不少。無有
異身。心有所。猗受樂。使。三昧觀其心意。以
何等故八賢聖道。先謂之等見。或作是說賢
聖道不審修行。復次如來次第說。為誦者所
說。復次等見為人次第行道。猶如一切四神
足中。以得自在精進心定。以何等故。一切自
在三昧盡行成就。是謂四神足精進三昧心三
昧。三昧盡行成就。是謂神足。或作是說。諸
增上起諸三昧。彼彼所說。如所說比丘自在
增上得諸三昧。彼有自在三昧精進心比丘
增上得諸三昧。彼則謂三昧。復次如此諸事
轉增。以三昧定。或時禪三昧增得自在。起諸
自在自在迴轉。或時精進增起諸精進精進
迴轉。或時心增起心心迴轉。或時味增起
味味迴轉。於中說四神足便有增上。五根
五力有差別。或作是說。增上為根義。不可沮
壞為力義。復次外種力當觀修根。內種力當
觀修力。於彼修行人諸根不牢固謂之根。不
可沮壞謂之力

法是一滿具 結一然 關一 然一 丘一 諸一 智一知 教二數 猗二倚 使二便 彼一 時十(三昧) 味三三昧 味二味味

又世尊言。猶言一信。餘或從餘處聞。或覺諸種以見觀人。復次有智不可壞智。此處不然。說是語其義云何。或作是說。須陀洹種於彼心。欲親近善知識。何以故。由信生欲禮拜承事。從彼聞現說法言得知諸種。思惟惡露。見諸禪現法。法相生義。復次先有所聞。如一切諸行無常也。於彼智得諸信。由有信便有智慧。善亦智慧如其實義。彼謂之欲。欲義者已智攝。彼好醜觀諸行技。計算數。如其實義起智慧眼。如憶彼諸法見諸忍。

二忍一切法 諸種身為初 覺意見所墮 種種及餘處

以何等故。以苦種等越次取證。然不由惱瘡瘻。或作是說。瘡瘻有漏。然非有漏道。等越次取證。苦種無漏。以無漏道等越次取證。復次瘡瘻種者。界柔。差集聚漸漸興起。苦種者。以苦陰相應。作如是觀。苦種瘡瘻種有者。何差別。或作是說。苦種瘡瘻種有漏。苦種無漏。復次苦種切身之相。瘡瘻疫疾之相。瘡種起漏之相。以何等故眼根謂之見耶。或作是說。是世俗所見語。如有見淨有見不淨。復次。還眼便有所見。世間契經是謂眼根謂見。以何等故忍不謂智。或作是說。智能知事忍不能知。是故忍不謂之智。復次已得見是謂有智。非以忍有智。是故忍非智。以何等故。盡智無生智不謂之見。或作是說。若盡智無生智是見者。則九種成就阿羅漢。亦說十種成就阿羅漢。是故彼智不謂之見。問如無學等見謂之智。有其定處。云何彼非智是見耶。

彼亦有行處。復次智當見度彼岸。為見彼所度。便有是。云何不十種有定。當言是觀八種為地。如此智當言無學法。猶如此三解脫門。空無願無想。等越次取證當言得已。起等越次取證當言得。答曰。空無願等越次取證當言得。以越次取證當言得。無想者已越次取證當言得。若空三昧時彼修無願三昧耶。設修無願三昧。彼修空三昧耶。或作是說。或空非無願。云何空非無願。已得空三昧現在前。是謂空非無願。云何無願非空。已得無願三昧現在前。不得無願三昧現在前。不得是時修空三昧。是謂無願非空。云何修空無願。不得空三昧而現在前。得是時修無願三昧。不得無願三昧而現在前。得是時修空三昧。不得無想。不得世俗智而現在前。得是時修空無願三昧。是謂修空無願三昧。云何不修空非無願。本得無想三昧而現在前。若本不得無想三昧而現在前。不得是時修空無願三昧。本得世俗智而現在前。若本不得世俗智而現在前。不得是時修空無願三昧。一切凡夫人染污心無記心。滅盡三昧無想三昧無想天。是謂非空非無願。復次或空非無願。學見迹若阿羅漢。得空而現在前。或無願非空。修行習忍智迴轉時。道法忍迴轉時。道法智修行迴轉時。道未知忍迴轉時。學見迹若阿羅漢。得無願三昧而現在前。或空無願修行苦時。忍智迴轉修行道法時。道未知智迴轉時。學見迹若阿羅漢。不得空無願無想而現在前。或非空非無願。三

昧修行盡時忍智迴轉。學見迹若阿羅漢。本得無想三昧而現在前。一切世間心思惟。不得無想三昧。於中亦有降伏想。若修空三昧。彼修無想三昧耶。設修無想三昧。彼修空三昧耶。或作是說。空非無想。云何空非無想。得空三昧而現在前。若不得空三昧而現在前。不得是時修無想三昧。不得無願三昧而現在前。得是時修空三昧。云何無想非空。得無想三昧而現在前。若不得無想三昧而現在前。不得是時修空三昧。云何修空無想。不得空三昧而現在前。得是時修無想三昧。若本不得無想三昧而現在前。得是時修空三昧。不得無想三昧而現在前。得是時修空三昧。不得世俗智而現在前。得是時有空無想三昧。云何非空非無想。得無願三昧而現在前。不得無願三昧而現在前。得世俗智而現在前。不得世俗智而現在前。是時不得修空無想三昧而現在前。一切染污心無記心。入無想三昧滅盡三昧。不修空三昧非無想。是謂非空非無想。復次或空非無想。修行苦時忍智迴轉。學見迹若阿羅漢。得空三昧而現在前。或無想非空。修行盡時忍智迴轉。學見迹若阿羅漢。得無想三昧而現在前。或空無想。修行道時未知智迴轉。學見迹若阿羅漢。不得空無願無想三昧而現在前。云何非空非無想。修行習時忍智迴轉。道未知智迴轉修行道法智。道未知忍迴轉時。學見迹若阿羅漢。本得無願三昧。一切世間心思惟不修空無想三昧。不於其

○一一如○ ○法十(法) ○彼二後 ○[計]一 ○等越一越等 ○差十(別) ○瘡一瘡 ○瘡一瘡 ○還二 ○(謂)十智 ○起一越 ○法二道 ○

有降伏。若修無願三昧。彼修無想三昧耶。設修無想三昧。彼修無願三昧耶。或作是說。或無願非無想。云何無願非無想。得無願三昧而現在前。不得無願三昧而現在前。是時不得空三昧而現在前。是時不得修無想三昧。不得空三昧而現在前。三昧而現在前。不得無想三昧而現在前。是時不得修無願三昧。云何修無願無想三昧。不得無想三昧而現在前。得是時修無想三昧。不得無想三昧而現在前。得是時修無願三昧。不得空三昧而現在前。是時修無願無想三昧。云何非修無願無想三昧。得空三昧而現在前。得世俗智而現在前。不得世俗智而現在前。是時不得修無願無想三昧。一切染心無記心。無想三昧滅盡三昧無想天。修無願無想三昧。是時謂不修無願無想三昧。復次或無願非無想。修行習時忍智迴轉。道未知忍迴轉時。修行道未知智。道未知忍迴轉時。學見迹若阿羅漢。得無願三昧而現在前。或無想非無願。修行盡前忍智迴轉。學見迹若阿羅漢。得無想三昧而現在前。云何無願無想。修行道未知智迴轉時。學見迹若阿羅漢。不得空無願三昧而現在前。或非無願非無想三昧。學見迹若阿羅漢得空三昧而現在前。一切世俗心思惟不修無願無想三昧。於其中有降想。若應時修空三昧。彼時修無願三昧耶。設應時修無願三昧。彼時修空三昧耶。當作是說。如上所得然不及現在前。復

次若應時修空三昧。彼時不修無願三昧。設便應時修無願三昧。彼時不修空三昧。何以故。時節迴轉。當作是觀。空無想亦復如是。無願無想亦復如是。以何等故。三界修行等智謂之有漏耶。或作是說。即彼三界所有。彼是有漏也。或作是說。所謂等智是以有漏也。或作是說。如彼智諦得不如彼諦此。當修行。復次三界所修等智。師意作是想。譬如空無願無想。於無想故。曰修於彼作是想。當作是觀。以何等故。色界不等越次取證。或作是說。彼無有此厭患之法猶如欲界也。問不以此患等越次取證。設有患者。惡趣中亦等越次取證。或作是說。欲界有是行報問若於欲界取般涅槃。云何有色無色界行報耶。答曰。欲界受報問有何因緣。色界無色界行報。非欲界受。色無色界行報。或作是說。以其軟根不等越次取證。問猶如此間利根而生彼間。云何彼間有軟根。答曰。彼生自爾。問非色界無垢人起賢聖道耶。答曰。已得能起。問不得無學道能起。復次便有降伏想。復次於此間作行。命終生色界。因相有力故。彼不等越次取證。若最初起無生智為幾智中間起。或作是說。或盡智中間起。我已知苦盡智。然不知無生智起一切諸諦。復次三盡智中間起。我生死盡是謂盡智。我梵行立是謂盡智。所作已辦是謂盡智。更不受後身是謂無生智。

以何等故。苦智知苦智。習智知習智。道智者唯道智耶。或作是說。苦諦有漏五陰。於彼苦智迴轉。因智亦迴轉。道者無漏五陰。彼出要智便迴轉。於彼有道智。復次於苦思苦與迴轉有順。是故謂習智道智。復次苦與迴轉有順。於彼有習智道智。一思惟相。若緣是說者。於中不可沮壞。世尊界根智為緣何等。或作是說。因智道智界根智也。彼因道是其緣。或作是說。諸根展轉界根智是其智也。復次最第一義善緣界根。恐畏厭患有何差別。或作是說。欲界相應為恐畏。三界為厭患。或作是說。有己為恐畏。彼我為厭患。問結中間為畏。善根中間為厭患。復次覺知怨敵欲。任障者。是為恐畏。心馳逸為厭患。強顏無畏有何差別。或作是說。結中間為強顏。善根中間為無畏。復次意所入餘處為強顏。意剛強為無畏。捷疾智速智有何差別。答曰。捷疾義實曉了。速對以彼漸漸方便義。次第捷疾智。利智無礙智有何差別。答曰。斷諸結為利智。分別諦為無礙智。甚深智慧普遍智慧有何差別。答曰。覺知此緣是甚深智慧。長益眾多普遍智慧。別智慧廣智慧有何差別。答曰。種種相覺知諸義。是謂別智慧。一處普遍智。是謂廣智慧。所可用智速須陀洹果。彼智慧當言已知根所攝未知根所攝。答曰。所可用知無為速須陀洹果。彼智當言已知根未知根所攝。猶如一切結見四諦悉斷。以何等故。或見諦斷或思惟斷此之謂也。或作是說。見諦道斷者。彼見諦所斷也。思惟道斷

○(在)一○(現)十前○(時)一○(便)二使○(作)二修○(色)一○(二)二三○(住)二住

已說二苦相 眼忍智越次 思惟觀三界 有生猶如本

者。彼思惟斷也。問彼有長益現一長益。或有餘思惟答曰。如齊眼所見。彼齊眼思惟。如齊眼思惟。彼眼所見。是故無力勢。或作是說。彼最初見諦斷者。彼見諦斷也。見諦者已見諦。住斷。或習而斷。彼思惟斷。或作是說。諸忍所斷。彼見諦斷也。諸智所斷。彼思惟斷也。或作是說。有前敵彼思惟斷。諸無前敵。彼見諦斷也。復次諸等智。非因緣。猶如以木鑽火。彼見諦斷。彼見長益斷。如想心耶。彼鑽彼思惟斷。

苦世尊厭患 強顏捷疾利

甚深別智慧 須陀洹及諦

●尊婆須蜜菩薩所集。知捷度第十竟。
尊婆須蜜論卷第八

尊婆須蜜論卷第九

尊婆須蜜造

符秦罽賓三藏僧伽澄澄等譯

●菩薩所集見捷度第十一

若諸法是彼法因緣。頗有時彼法當言非彼法因緣耶。或作是說。猶如彼法未生。爾時彼法非因緣。或作是說。以事因緣故。因及餘因緣非因緣。次定一切諸行。各各自因自果。及獲餘果報永不復生。設當爾者界有差違。最有吉法

阿羅漢從阿羅漢退。還復得阿羅漢果。諸得根力覺道意。當言本得得。當言本不得。得。或作是說。若得等解脫。當言本得得。若得無

礙解脫。當言本不得得。復次阿羅漢有六種根而有增減。諸阿羅漢分別其義。彼於此相應時。彼本不於他得道迹。有益思惟。有益斷。有益思惟。當言本得得。是謂有道思惟斷。有益當言本不得得。若阿羅漢作阿羅漢想布施。假使非阿羅漢。而作阿羅漢想布施。何者最得福多。或作是說。若阿羅漢作阿羅漢想布施者。彼最得福多也。何以故。田業有增益安處良田。問如心意行如念所起。云何作是說受福最多。若由良田得福多者。諸有施一阿羅漢。彼盡得平等福。是故此非不然。或作是說。二俱受福等。何以故。一以良田第二由心故。問若以良田有益者。非由心故。云何得平等福。復次若非阿羅漢作阿羅漢想布施者。彼最得福多。何以故。彼阿羅漢功德心最微妙。問若尼提子外道異學。作阿羅漢想布施者。彼最得福多耶。答曰。彼不知阿羅漢功德也。若復彼是阿羅漢。作阿羅漢想布施者。如是彼最得福多。彼無是力緣阿羅漢功德。若得知阿羅漢功德。彼不與外道異學尼提子施。復次取要言之。猶如枯朽樵柱。作阿羅漢想而惠施者。於彼亦大得功德。不得何等。須陀洹果。設得便失。或作是說。如彼須陀洹。七反往來有信解脫。彼見諦果所攝。不得須陀洹果。彼若得見諦。彼信解脫果所攝。便棄須陀洹果。復次彼須陀洹七反周旋。彼須陀洹所攝。諸鈍根不得中上。如須陀洹家家遊者。若二若三。於彼遊行盡其苦本。彼須陀洹下根所攝便次之。已得中上。

若須陀洹家家遊者。二家周旋盡其苦本。彼下中須陀洹果所攝便棄之。非以無為須陀洹果若得若棄。若諸法成就。彼法相成就耶。假使諸法相成就者。彼法成就耶。答曰。若諸法成就者。彼法相成就也。外眾相不成就。若諸法自相成就。彼法成就也。若諸法不成就。彼諸法相不成就耶。或法相不成就。彼法非為不成就。外眾相不成就。彼法自相成就。成就者其義云何。自相相應。是謂成就。不成就者其義云何。不自相相應。是謂不成就。又世尊言。是謂此生。作如是說。命異身異。設作如是說。彼二同一義。分別有若干。云何同一義。答曰。若自依已得彼緣義。作如是說。當親近尊。諸作此見。彼命彼身。云何生此見。或作是說。生身便生此見。乃至有根身與相應。今亦復然。於中復有命復有身。或作是說。觀眾生根眾生相。眾生者。眾生根眾生性。眾生類眾生種。於中便有彼命彼身。如是所說。女身有力。於中不有短。有大身不覺更樂苦者。意根斷絕。諸所生見命異身異。云何生此見。或作是說。展轉觀身心者。亦展轉相觀。彼心心法作我想。命異身異。而有此見。或作是說。諸有禪者。觀其威儀作因緣。觀彼因緣。彼便作是意。身異命異。身所為行迴轉時。或作是說。身不壞敗便命終。便作是念。身異命異。若身未住便命終。或作是說。睡眠之中夢見身遊行。於

●〔尊婆須蜜所集〕一 ●知二智 ● 不分卷 ● 蜜十〔菩薩所集〕 ● 八二十二 ● 九二十三 ● 尊婆須蜜造一
● 尊婆須蜜十菩薩 ● 度十〔首〕 ● 第十一 ● 緣次二復之 ● 復次 ● 得 ● 明註曰南
藏缺得字 ● 廢二疑 ● 得二復 ● 旋二施 ● 要二款 ● 原二源 ● 法相二相法 ● 就十〔機〕 ●
(世)十尊 ● 住二往 ●

是有身。彼便作是念。命異身異。若夢中有所遊行。或作是說。以三昧自憶宿命。於彼彼終生是間。彼見身住於中。便作是說。身異命異。或作是說。微聽以天眼觀衆生類。衆生時衆生時。身在中陰轉。而見彼。便作是念。是命身俱遊。復次身中間憶本所更巧便迴轉。彼便作是念。命異身異。若後他人曰。命異身異。

諸所生見無因無緣。衆生垢著。非有因非有緣。衆生染著。云何生此見。或作是說。若處閑居。或作是說。觀諸垢起。觀處宮中。或見清淨。彼便作是念。無因起諸垢著。復次以二力故。生諸垢著。若因力若境界力。由是因緣。而不知無因無緣。衆生染著得諸見。若他人說。諸所生見。無因無緣衆生清淨。非有因非有緣。衆生清淨。云何生此見。或作是說。於此觀至空閑處而不清淨。處深宮中。或有清淨。於中便作是念。無因而有清淨。復次以三力故。清淨。因力境界力方便力。彼相應時。因力境界力。善法如迴轉有清淨生。由是故不知無因。無緣。衆生清淨得此見。若以他說。

諸所生見。無因無緣。衆生無智無見。非有因非有緣。衆生無智無見。云何生此見。或作是說。彼便有無慳者。云何起無智無見。若復生者。如是無智於中便作是念。無因無緣。衆生無智無見也。復次生死行因緣無方便。行亦不勤求。住無智無見中。不思惟彼因與餘相應。無智無見相應。有不相應時。智相應時。無因無緣。衆生無智無見得諸見。若由他說。

諸所生見。無因無緣。衆生智見。非有因非有緣。衆生智見。云何此見。或作是說。觀慳者不起智見。以少慳。或起智見。於中便作是念。彼以無因衆生有智見。復次有五事。智見迴轉。名所攝義所攝。知彼因與餘相應。智見相應不相應。知是時無因無緣。衆生智見得諸見。若由他說。

諸所生見。無力無精進。云何生此見。或作是說。或見人貌有得田業。有不得田業。或復有人貌少有田業。於中無果人貌無力無精進得諸見。復次有衆多相應。於今世後世。或有得果報。於彼或以事而不得果報。慳者於中不得果時。無力無精進得諸見。若由他說。

因他本所緣 須陀洹成就
四種及二種 因命四種力
諸所生見無施無受者。契經云何生此見。答曰。善行惡行果所生。若親近時。於中不可知果實無善行惡行得諸見。或由他說。無今世無後世。亦無衆生類。有生者。如是有彼觀無。有父因事而有。世無阿羅漢修行道人。而無有道。

諸所生見。於此間有命活。後世更不復死。云何生此見。或作是說。是謂人有吾我身。彼若命終時。地身還歸地。水歸水。火歸火。風歸風。諸根歸虛空。或作是說。度世陰時不見歸來。於此間命活得諸見。復次處胎中。若胎中終。而觀其命彼亦見終始。於此間命活得諸見。或由他說。

又世尊言有六生。云何有六生。或作是說。如契經所稱。黑生之人於黑法生。復次異學言有六生。黑生青生黃生白生赤生微妙白生。於彼黑生屠猪。魚捕鹿放鷹殺牛及餘惡行。青生者尼隸子學道者。黃生者處在居家。受於梵志。赤生者如沙門釋子及諸修梵行者。白生者裸形學道。微妙白生者難陀婆磲。訖梨舍僧訖栗。妬瞿舍盧味迦梨子。

諸所生見實有。此七大身不作用。不應化。寡聚離甚深住。云何生此見。或作是說。四大性苦樂性。展轉迴轉不觀有勝。彼依識命相。此七身不作不應作得諸見。或作是說。四大苦樂。四大以生觀。彼時有七身不作不應作。如是得諸見。復次心之與色選擇所見。於中不懷自覺。七身不作不應作。如是得諸見。或復有時由他說。

諸所生見無有風。云何生此見。或作是說。風有命想。彼復作是念。無有風。此是衆生類。復次有常想壞敗想。依彼無有風得諸見。若由他說。

云何得知。此非富貴所造。或作是說。設當自富者。彼則富。一切諸物俱有迴轉也。續生不斷。是故富貴非其因。復作是說。若富是因。者。一切諸物則相類也。與前是因展轉妙物。是故富貴因。復次若富是因。內無物事不集聚。不於中間事。不集聚不有物。是故富貴非因。云何得知此非因。答曰。設非因作者。集聚當有一切物續生不斷。觀彼因轉續不復生。復作是說。若無因物迴轉者。一切諸物皆當相

七九二

類因有增便果有增。是果非因。復次若物無因迴轉者。不於中間有進有集聚也。不於中間事不集聚。於中得知。非有因物迴轉。云何得知彼非命彼非身。答曰。身若干種自相壞敗。無壞之相命所愛也。於中得知彼非命非身也。或作是說。身因緣所轉展轉而生。非命展轉愛。於中得知彼非命非身也。復次身所造若自爲若他爲。如是不愛命。於中得知於非命非身也。

云何得知非餘命餘身。答曰。餘命身不可得。亦不有可得時亦不可說。於中得知非餘命餘身。復作是說。身義異無數。自然無所爲。然無數愛。於中得知非餘命身也。義所造我事往有展轉。命非展轉愛。於中得知非餘命身也。

又世尊言。彼作彼自得。無記不可說。餘作餘自得。此不可言說。是語其義云何。或作是說。彼作彼自得者。此順從有常。餘作餘自得者。此順從斷滅。此二物而求。如來處中而說法。於中不記。或作是說。彼作彼自得。此無記最第一義。覺知諸行。餘作餘自得。此無記得等語。是故現行不可壞。非由而受行報。復次彼作彼自得。已作已自得。世尊說空。於中不說。餘作餘受報者。所作餘者受。如是世尊說因緣。是故不記。云何得。智餘行。事所造。或作是說。設有行事造者。彼事一切行行。二俱所作行續生。是故事不造行。復作是說。設事造行。者。一切行則非妙。一事之中展轉行妙。於中得知非事造行。

復次設事造行者。於中間有集聚行。不於中間行集聚迴轉。於中得知非事造行。云何得知有餘處終。或作是說。見心被柔心迴轉。於中便見終心被柔心迴轉也。如是於中得知餘處終。後作說本所生根所依根。便有曠大根意。因觀彼若處母胎中。不於中間本根意。彼亦不於中間本根。是故宿命。彼於此至彼中。得知餘處終。復次不於中間心有所爲。見心色依彼色有其心。垢相爲心見色迴轉。於中得知見有餘處。諸有物步步生者。以何等故本時不生。或作是說。事不充足。問或無二事。答曰。無不有時得有果實。問頗不有二時耶。答曰。無不有時現在因。問此亦是我疑。何以故不生。或作是說。諸物本時生彼現在因。復次在未來因。猶如無因。若彼本時不生。復次諸物本生今盡因生。然本不盡本時果不生。於中便當有。況復行本時不盡耶。當作是觀。論中間非以盡事故說。

如學。學。作是說。物有壞敗然不盡。云何得知物盡而不壞敗。或作是說。設物壞敗者。於彼亦有來。若子處母胎一時來若步步知。於中得知物有盡而不壞敗。或作是說。若物壞敗者。彼亦當來。子處母胎形現斷絕常迴轉。於中得知物有盡而不壞敗。復次見是其事相應相思惟而生。是故集聚物盡壞敗方便。曠患有增所可得。往。於中知物有盡而不壞敗。

若有於此生 富貴亦無因
命作餘處終 物盡及壞敗

見捷度第十一竟

尊婆須蜜菩薩所集捷度第十二

鬱陀羅耶契經廣說。是語。其義云何。或作是說。五識身境界有迴轉於中。便作是說。此意遊行境界有捐棄。問如六虫契經說。種種若干種。問一切境界是意。彼五識身見境界便有威儀。或作是說。五識身根聲所說。意識爲意聲。五識身各各相持彼義。是意識一切境界所持強記不忘。猶如五匠師各有伎藝往諸受一人。或作是說。五識身境界現在。五識身威儀。過去未來意。此契經之要。復作是說。五識身境界五識身自相。現意識集聚而更之。復作是說。五識身境界。攝五識身與餘相類。復作是說。五識身持意識身來。彼相似因果種法。是意識也。五識身便有境界此之謂也。復作是說。意識身有二種。有敷演有不敷演。有敷演謂之意境界。

復次此是世尊教誡之語。若說因緣。優陀羅耶那五識身。於此種義而敷演。是故當知根。欲知根者當憶身。云何界。諸根故曰意。威儀境界意有盡意。有念意。本憶事。本憶事。往欲知意方便者。當憶所念。云何彼意。周流稀望。本四意止而迴轉。是故念方便。欲知意方便者。當憶四意止。云何彼有念。故曰念婆羅門當憶四意止。四意止爲本七覺意迴轉。是故欲知意止方便。當憶七覺意。云何有此意止。是故婆羅門四意止。當憶七覺意。修七覺意住明解脫。是故欲知覺意方便者。當憶

○言說一說記○ ○記一說○ ○智一知○ ○者一名○ ○行二作○ ○學一或○ ○往一住○ ○(尊婆須蜜菩薩所集)十見○ ○(尊婆須蜜菩薩所集)一○ ○度十(首)○ ○(第十二)一○ ○說十(說)○ ○(此)十境○ ○(識)十身○ ○

明解脫。云何有是七覺意。是故婆羅門七覺意。憶明解脫也。猶如作明解脫。彼彼得二根結斷。是故欲知明解脫。無明有愛愛斷當作是憶。云何住明解脫。是故婆羅門無明解脫。憶。涅槃憐陀羅耶。憶久遠論以越此論。世尊亦說是謂賢聖禁戒迴轉。或有所覺少有所憶。彼無明斷愛盡所作事辦。故曰往至。涅槃我梵行立。

未知根其義云何。或作是說。未越次之人。不修行諸學智慧智慧根。諸所有根堅法。未修行四諦而修行之。是謂未知根也。何以故。彼不一切覺。智。問須陀洹一切不覺知。亦復以此一切覺知。見諦之人便知諸根。復次未知根者。有如是相。猶如眼根。此人無有是相。是故當觀阿毘曇相。已知根者其義云何。或作是說。見諦之人諸學智慧智慧根。及餘根信解脫。見諦身證修行上四諦。是謂。是謂已知根。何以故。無知之人。問彼人向便知欲使。彼是智慧根耶。復次我已知是謂已知根。猶如眼根。眼根是謂已知根。猶如王臣。如依賢聖。是已知根。如依果樹有果。無一切相。是故當觀阿毘曇相。

無知根者其義云何。答曰。漏盡阿羅漢諸無學智慧智慧根。及根已。辦解脫智慧解脫。若阿羅漢見法善居處。是謂無知根。何以故。以作來事此諸根也。以何等故涅槃謂之無漏。或作是說。彼不生有漏。復作是說。不能生有漏。復作是說。彼不起有漏。復作是說。彼不與有漏相應。復次彼

不造有漏。亦不。希有漏。是故涅槃謂之無漏。以何等故。涅槃謂之無智。或作是說。云第一義無智阿羅漢問此亦我疑。何以故作是說。無智果謂之無智。猶如行果。六情謂之本行。尊作是說。諸有敬此。無智是涅槃。彼便有無智自然涅槃。是故當捨此非論也。以何等故想不謂之根耶。或作是說。增上義是根義。然想非增上類。問如所說一切諸法各各增上。是故想亦當有增上。復作是說。想不能斷除結。問如所說。修無常想盡斷欲愛。是故想亦斷結。復作是說。想不為根所攝。如所說修無常想。斷一切欲愛。尊作是說。造想相者攝持自相。如觀所持。

諸有苦者。彼一切成就苦根耶。設成就苦根。彼一切盡苦耶。答曰。諸苦者。彼一切成就苦根。或成就苦根彼非苦也。得苦根而不失。及餘根而現在前。諸樂者。彼一切成就樂根耶。設成就樂根。彼一切樂耶。答曰。諸樂者。彼一切成就樂根也。或成就樂根非樂。得樂根而不失。及餘根而現在前。未知根者。為攝幾根。復有幾根攝未知根。答曰。未知根。一很少入所攝。智慧根。一攝。未知。根智慧根。或作是說。未知根者九根少入。五善意根樂根喜根。九根攝未知根。此亦尊曇摩多羅作是說。未知根。一攝。未知根也。復次一攝攝未知根。即未知根也。已知根無知根亦復如是。未知根與幾根相應。幾根與未知根相應。或作是說。

未知根與八根相應。五善樂根喜根。八根與未知根相應。如上無異。或作是說。未知根者與九根相應。如上義。九根與未知根相應。尊亦作是說。未知根不與諸根相應。諸根不與未知根相應。已知根無知根亦復如是。頗依壞敗已。依壞諸愛著先集聚然後果。作是說。頗眼根壞眼識不壞。問云何不依眼識耶。答曰。生者不有依諸欲一時集集聚果實。彼作是說。無也。眼根眼識俱生四大。俱有色聲香味四大。依色聲香味四大。此之謂也。問此亦於中有疑。頗依壞依不壞。諸愛上愛色住。彼作是說有也。若眼識壞眼根不壞。問若眼根有眼識者。彼則今無。云何今十二因緣而有達耶。亦因彼而有。無彼則無有。若欲空色者。彼作是說無也。所依壞彼所依盡壞也。

頗眼根與眼識俱生耶。如上義所說。以何等故五根盡善耶。然後三根善。不善無記。或作是說。五根是無漏。三根亦有漏亦是無漏。尊作是說。五根。偏等相應辦大事。三根者無有定理。以何等故憂根報不可得。答曰。現在慳慳便有憂根。此不可得。已亦失。是故彼非報。尊作是說。憂根。偏染著不類其報。是故彼非報也。以何等故。欲界疑與二根相應。憂根護根。色界相應疑與三根相應。樂根喜根護根。或作是說。色界無有憂根。是故不與彼相應。問欲界中亦有樂根喜根。欲界與彼相應耶。尊作是說。疑無有難與憂根相應。憂根左側。便

①愛二愛②③ ④涅槃⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

有護根憂根之數無有疑有樂有喜

願世間第一法。不於苦法忍中間緣緣。或作是說。有除其智慧。及餘世間第一法智慧。智慧中間緣。尊作是說。識識中間緣。心法者。於彼性迴轉少。中間有多多中間有少。是故不於中間有緣。願世間第一法。不與樂根喜根護根相應。答曰。有如上三根。如此間第一法相應。問如所說。依第三禪等越次。取證。若世間第一法而現在前。是謂世間第一法與樂根相應。如是彼有違。以何等故。男根女根謂之有形耶。答曰。於中有名是男是女。問若俱有二形。亦名有二形。諸女人彼一切成就女根耶。設成就女根彼一切是女人耶。答曰。諸女人盡成就女根也。願成就女根彼非女人耶。猶如有二形成就二根。猶如熊龍及餘生種。諸男人彼一切成就男根耶。設成就男根彼一切是男人耶。或作是說。諸男人彼一切成就男根。願成就男根彼非男人耶。猶如有二形。復次或是男人彼不成就男根耶。猶如色無色界天。願成就男根彼非男人耶。猶如有二形成就二根。猶如熊龍及餘生種。亦如上半月易形。嫉妬希望。外形或男人成就男根。若人生欲界中。或非男不成就男根。女生而寡作病寡處。卵。糞。糞。糞。及餘生。或時漸厚。諸非男非女。彼一切不成就男女根耶。設不成就男根女根。彼一切非男根非女根耶。或作是說。諸不成就男根女根。彼一切非男非女。願非男非女。彼成就男根女根。猶如有二

形。復次或不成就男根女根。非為。非男也。猶如色無色天。界。願成就男根女根。非為男非為女。猶如有二形成就二根。猶如熊龍及餘生種。願成就男根非女根。然非為女非男根。猶如半月易形。嫉妬病。願不成就男根女根。彼不得言是男根是女根。猶如生腫病處胎衆生。卵。糞。糞。糞。及餘種不亂衆生。五三無漏智。想苦樂方便。不壞有二意。疑世間男女。根捷度第十二竟。

尊婆須蜜菩薩所集一切有捷度。第十三當言一切皆有耶。答曰。當言一切皆有。何以故。猶若十二入有此十二因緣。是故一切皆有。問若一切皆有者。云何無者亦當有。無物者亦皆悉有。答曰。云何於無言無復有耶。若言有一切者。一切言無亦有。云何得知。猶如無者亦有。欲使現在亦有無。為現在有為中有無耶。設一切一切有者。亦當有此無。云何得一切有。若無一切有亦當虛無。無者無物一切皆有。復作是說。當言一切有。如此一切乃至有為無為彼則有。是故一切有。問計校一切。吉。應。因。無。是。故。不。吉。一。切。有。答曰。如現在有為現在計校。現在無有。吉。因。欲使現在有為耶。若有一切者。一切。辦。無。因。云。何。還。一。切。有。不。一。切。吉。因。若。實。一。切。無。吉。因。如。所。說。有。一。切。無。一。切。因。彼。無。復。作。是。說。當。言。有。一。切。何。以。故。說。無。一。切。者。亦。無。一。切。所。持。攝。持。三。一。切。是。故。一。切。有。問。云。何。不。一。切。持。還。自。然。持。一。切。內。有。答。曰。若

一切持還自然持一切內有欲使有現在持耶。還自然持現在內有。若有一切持還持還自然持。云何還一切持。云何還一切持不有自然持。若審有一切持有自然持。如所說有一切持有自然持。彼亦無也。復作是說。當言一切有。何以故。如爾所覺。不如彼有。不有彼彼無也。是故一切有。一切遍有一切耶。答曰。不得言有。何以故。猶如有青色彼無黃色。尊作是說。不當言。何以故。不以物有勝有餘也。不以住勝有餘。若彼有者此非好。不威儀。當言有一切耶。答曰。不得作是說。何以故。不以無常言有常。亦不有常言無常。尊作是說。一切名者。此相無處所。是故盡不得言有。一切盡當有一切耶。答曰。不得言無也。盡有一切。何以故。不以無常言有常有常言無常。尊作是說。不應作是語。何以故。緣是有諸法界德。諸法。耗。亂。諸。法。耗。亂。諸。法。無。有定處。是故不應作是說。一當言一切有耶。答曰。不應作是說。何以故。凡夫人亦不還學無學法。學無學法。無學無學法。是故不應作是說。尊作是說。不應作是說。若成就者彼則有也。然無有一切成就也。是故不應作是說。一當言一切成就耶。或作是說。不應作是說。凡夫人不成就學無學法。是故不應作是說。復次不應作是說。何以故。若有所得而不忘失。彼當成就彼亦不盡得不失。是故不應作是說也。一切智者其義云何。或作是說。覺知一切是謂薩芸然。猶如明書則名書師。復次於一切事。知自在。是謂薩芸

取二所 糞二膜 非二非 女非為 界二男 尊婆須蜜菩薩所集 十根 卷第九終 卷第十三終 卷第十首 卷第十四首 度十首 第十三 吉二告 辨二辨 言有二有 耗二耗 還十知

然諸薩芸然。後悉知一切。假使悉知一切。彼悉薩芸然耶。答曰。如是悉知一切。是謂薩芸然。復次不得作是語。悉知一切言薩芸然。猶如書師明其書疏。然一切智不爾。普知一切有常無常。然非一切智。

一切有一切。一切根一切。一切一一切。一切智而智。云何有有相。答曰。智是其相。法是其相。有是其相。無是其相。實是其相。復次有三有。觀有所有珍寶如所有是謂有。此間有彼間有實有。如所有。是謂有。云何無是無相。無智相無有相。無物相無有相。無法相無有相。復作是說。如彼無者即是其相。復次有二無。二觀如所有是謂無。無珍寶如所有。此間無彼間無。云何有漏是有漏相耶。答曰。無漏所生是有漏相。復作是說。無漏所生是有漏相。復作是說。有有漏所起是有漏相。復作是說。無漏相應是有漏相。復次不於中間有有漏者。是故無漏。是故當觀有漏相。彼便有是。云何今不起園林。彼衆生行報因緣。彼行當觀有漏所起。云何無漏是無漏相。答曰。如上所說。復次或中間有漏整行為無也。彼當觀無漏。云何有為是有為相。三是有為相。起滅作變易。復作是說。無常相是有為相。復作是說。因緣滅相是有為相。復作是說。所作相是有為相。復作是說。久遠墮相是有為相。復次若有衆生集聚是有為相。云何無為是無為相。當說如上無異。云何過去過去相。答曰。壞敗相是過去相。滅盡相為過去相。復次迴轉意所越。是過去相。當作是觀。云

何未來是未來相。答曰。未生相是未來相。未起相是未來相。復次意迴轉不。還是未來相。當作是觀。云何現在是現在相。答曰。生不壞敗是現在相。復作是說。生不盡是現在相。復次意迴轉時。當觀現在彼今生。若相及有為。有漏并無漏。有為無為。過未生及現在三世。當言過去。當言未來。當言現在。答曰。過去世當言過去。未來世當言未來。現在世當言現在。久遠行熾然。此三論議章。五陰當言過去。當言未來。當言現在。答曰。五陰當言過去。未來現在所要言之。五盛陰亦如是。十二入十八持亦如是。意身所有諸過去者。彼一切有。設有彼一切過去。或作是說。諸過去者彼一切有。頗有彼非過去。如所說。尊者曩昔闍頭比丘。從施家親屬家知識家。然彼家非過去。

復次或過去彼非有。如所說。一切結使過去。彼不結使起而滅。或有彼非過去。如所說。尊者曩昔闍頭比丘。從施家。當於爾時等行。或有亦過去。諸衆行出世而滅度。或非有非過去。除上爾所事則其義。諸未來彼一切必當有耶。假使有者。彼一切未來耶。或作是說。諸有者。彼一切未來也。頗未來彼不有耶。未生法行。復次或有未來彼非有。未生法行或有。彼非未來。如世尊言。彼阿難當作比丘。若大若小意不聰。明。不善年少意無智。當於爾時等俱行或未來。及有諸行未生必當生。或非未來非有。除上爾所事則其義也。諸現在者彼一切有耶。設有彼一切現在耶。或作是

說。諸現在一切有也。頗有一切彼非現在耶。過去未來。行及無為。復次或現在非有。如所說

我無有家長 亦復無親屬
無妻子僕從 已得離解脫

或有衆生。家數爾時等俱行亦如是。於此間無餘處無。或有或無。彼非現在過去未來。無為或現在。及有諸色生。便滅亦不有。亦不現在也。若色過去。如彼色所有彼色過去耶。設有過去彼色有耶。或作是說。諸過去物。問如所說。諸過去彼一切色。或作是說。諸色物彼過去物。問諸所有色彼一切過去也。或作是說。色物異過去物異。問一則有二。復次色過去物。所生色亦自然。亦復所生。如是有也。未來現在物。亦復如是

世章二陰 諸持二入 過去來物

色有及三

猶如色無常。如彼色物亦復無常。若無常者盡無所有。彼所有如上無異。苦空無常亦復如是。猶如青色用眼識知。云何彼青彼識無異耶。設如彼知彼是青色耶。或作是說。猶如青色彼是智也。問過去是青色。是故過去亦知。作是說。彼知即是青色。問過去不知。是故過去非有青。或作是說。青異知異。問眼識則顛倒。或作是說。彼青異知異。問眼識則有顛倒。復次智者是等諦。復次自然物所事。辨。又世尊言。識用知物。是故謂之識也。說。是語其義云何。或作是說。此是識相。用知物故謂識。問無過去未來識彼非識。尊

◎後二彼◎ ◎ (毒)一◎ ◎ 還二遠◎ ◎ 明二朗◎ ◎ 現一見◎ ◎ 是二其◎

作是說。久遠契經句。復次取要言之。當作是說。若知衆生當觀彼識。猶如彼識彼是知耶。或作是說。猶如彼識彼是知耶。問過去未來識知。或作是說。猶如彼識彼是知。問過去未來不知。是故彼非識。復次識不知。緣所因識所生知。有衆生便有等諦。諸所識彼一切知耶。設知彼一切識耶。或作是說。諸有識彼一切知也。問過去未來識知。或作是說。諸所識彼一切是知。頗有識彼非知耶。過去未來識。問如所說。識者是知是謂識。是謂契經有迷。復次識知緣所作識所生知。衆生便有等諦巧便。云何知一切心是緣。或作是說。一切心緣四因緣生。或作是說。境界心有所攝。或作是說。世尊亦說。緣二因緣識便生。或作是說。若心無緣者。彼則是識。知者是識也。尊作是說。所爲性說心迴轉緣迴轉。此知。識於中得知。一切心有緣。

無常苦空 無我知識 諸所爲知
彼因緣心
一切有捷度第十三竟
尊婆須蜜菩薩所集偈捷度首
等二不等遠 如來無量智
不染守內外 如實敬供養

支佛自寤等。阿羅漢解脫等。一切趣向等所見。故曰等等不等遠。或作是說。此事等於中等。猶如羅云調達。本無如來如如。不如如道來。是謂如來。言無有異故曰如來。成就大智慧無量智。成就無限智慧。是謂無量智慧。

無量境界智慧成就。是謂無量智慧。無量涅槃。是謂無量智慧。復次無量智慧成就無量智慧。世尊除彼覺智慧智句。是謂無量智慧。不染汚者。於此間內受有外是餘物。復作是說。於此間內受有外趣善處。復作是說。於此化說法愛。不起外者。於彼說法愛不起諸結。如實敬供養。如是應供養。

於著不著者 於慢不著慢
知苦自田業 如實敬供養
於著不著者。諸見是著。若於三界見。盡彼謂過去。若於慢不著慢者。三種慢世俗著而不著。知苦自田業者。忍彼苦外諸入。復作是說。於著不著者。已越慢著是謂不著。於慢不著慢者。於七慢種中於彼染著而不染著。知苦自田業者。苦識受識住處田業染著。復作是說。於著不著者。現見諦所斷結盡於慢不著慢者。現思惟所斷結盡。知苦自田業者。苦五盛陰田業行是結。復次一切結。著彼越一切著。是謂無著也。於慢不著慢者。染著諸慢染不著諸慢。知苦自田業者。於彼苦苦諦知者知道諦。彼田業者。是習諦本所有結盡。是謂盡諦。

不依望厭觀 相佐起諸見
因緣無所有 如實敬供養
不依望厭觀者。貪望命望不應依。彼有二種。愛見者。諸佐彼愛命愛佐見厭觀。有二種道。道果也。得起他諸見。他厭觀有二斷滅見。有常見已越彼。因緣無所有者。有二因緣。愛見是也。彼滅盡。復作是說。不依望者有愛

見望厭觀者。於彼現出要起他諸見。於一切諸見中。亦知他出要已越彼已。因緣無所有者。識識處住盡。復作是說。不依望者。現愛結盡起他諸見。現諸結盡。因緣無所有者。若愛結緣結盡彼無所緣。復次不依望厭觀。思惟所斷結盡起他諸見。起他諸見現諦所斷結盡。因緣無所有者。已越一切諸結。思惟見諦所斷結盡。彼無所緣也。

於家能滅意 他家無染著
不起此彼患 如實敬供養
於家能滅意者。有三家愛見是也。滅意者。以此家依依意。若歡喜已依彼二便依意相應。此斷若意相應道。於斷他家無所染著者。有二他家。愛家見家。於彼不染著。不起此彼患者。愛所起由見故。諸此愛見盡。彼無所起。復作是說。不起此彼患者。亦如上得無異。復作是說。於家能滅意者。一切結是行一切結盡。他家不染著者。於妻子男女不染著。若愛若見不起者。於四受起中現其滅盡。復作是說。於家能滅意者結欲。於他家意不染著者。不起者不愛。不起者於欲不起欲愛盡。復作是說。家者是習諦。意者是道諦。於他家不染者是苦諦也。不起者是盡諦。復作是說。於家能滅意者。現見結斷。於他家不染著者。現愛結盡。不起者諸愛結見結盡。彼無所造。復次於家不染著者。現見諦所斷結盡。於他家無染著者。現思惟所斷結盡。不起者諸見諦思惟所斷結盡。彼無所造。

多望口文字 捐棄滅無有

識一說 尊婆須蜜菩薩所集 十一 尊婆須蜜菩薩所集 一 首十(第十四之一) 云二 盡二 著二者 道 三二 依 歡一 者二者

覺一切解脫 如實敬供養

多望口文字者。多望者修望。口文字亦。修作是說。多望者多望是愛。口文字者口所陳說。復作是說。多望者是諸見。文字者愛。復次多望者思惟所斷。文字者見諦所斷。捐棄者已滅盡。無有所著者。是謂不起法。能覺者覺知一切諸法是謂覺。覺知三痛是謂覺。通達諸智皆悉成就。是謂覺也。於一切解脫者。於三界解脫也。於三縛解脫。愛縛垢縛見縛也。

癡無得其便 一切法照明
由身而扶持 逮覺最上等

此最淨鬼語

癡無得其便者。癡者是無明。緣內無明愚中間愚相應。復作是說。愚是無明。諸見愚中間與愚相應。復作是說。無明是愚。結愚中間與愚相應。復次無明是愚。無明緣行愚中間與愚相應。無有此盡。於一切法現諸智。現其因緣現其方便。現其道迹。由身而扶持者。住有餘涅槃界。逮阿惟三佛。以此忍覺知無。覺時。十力一切智四無所畏。最上過者休息安隱處。此淨鬼。又語此最妙鬼。清淨此無學門

偈說不應食 等觀於彼法
偈說諸佛喜 諸法本梵志

偈說不應食者。作是說。世尊不為食故。往爾時世尊。欲教化婆羅門故是住也。後作是說。或不承受我語。復恐婆羅門作是念。沙門瞿曇為食故說法。復作是說。欲現其神足故不受食。彼婆羅門應受佛化。若觀彼法時以

是故觀。及聲聞及大丈夫。是彼威儀行。說得諸佛喜者。斷滅而不取。諸法本梵志。於中有賢聖沙門法。如是賢聖教

諸餘大神仙 盡漏觀慚愧
以甘饌供養 種德最福田

諸餘者。諸雜穢飲食現受請供養。大神仙者。還大法是謂大神仙。盡漏者。諸有無明愛在身中能除去。是謂盡漏。慚愧休息。若戒盜盡。彼慚愧休息。以甘饌供養。種德是福田。是何謂德田是福田。於中專精意著。萌。身長益。是謂福田。或作是說。便。以此事餘造。彼大神仙。盡漏慚愧休息。以甘饌供養。種德是福田。或作是說。彼婆羅門作是說。偈諸餘大神仙。盡漏慚愧休息。以甘饌供養。種德者福田

教化沈沒人 越生老病死
能仁漏具足 諸願悉普至

教化沈沒者。沈沒諸見結以彼捐棄。越生老病死者。越度生老病死。能仁者。謂無學斷諸結使。漏具足者。諸智漏具足成就。是謂解脫。成就智無限。是謂能仁成就漏成就。諸願悉普至者。有如是功德。越生老病死。越諸果願。復作是說。一切沈沒結使。彼能捨離。度生老病死。謂之涅槃。此亦悉速知。是謂度生老病死。作是說。教化沈沒人。見其垢染著。度生老病死者。現愛結盡。復次若教化沈沒人者。現諸見諦所斷結盡。度生老病死者。現思惟所斷結盡。餘殘亦如是

能仁行無姪 不為壯所纏

於欲身解脫 彼牢固能仁

能仁行無姪者。於尊者大迦葉授決廣說。能仁者是無學也。行者往就行無有姪。去離非梵行。不為壯所纏者。或復有時。若少壯不與貪欲。況當老邁。於慢得解脫者。於四慢不造意不貪。是故當遠離。彼牢固者。咄棄諸惡法。牢固智慧成就。是謂牢固。能仁者是無學也。覺知所為。復作是說。能仁行無姪者。現安隱處。不為壯所纏者。現少壯當盡。於欲永解脫者。現業當盡。餘殘亦如是

不二倍越岸 亦不一倍終
高下語句義 是沙門所傳

不二倍越岸者。有諸疑網。不越無量生死岸。疑網未盡不能越生死。二倍者。姦偽幻惑也。復作是說。諸有二倍者。彼不能越不越。彼一倍者。行垢成就一倍。喪終。高語句義者。高者現身出要。不高者現身習出要。復作是說。高者是謂生天。不高者趣惡道中。是沙門所傳。世尊敷演

或有持戒香 亦不樂*校飾
或有持戒香 語直不卒暴

或不卒暴者。或有不著衣故犯諸禁限。亦不樂*校飾者。不作是意莊嚴身口。亦不聽伎樂。或有持戒香者。或有學士遊行四方。稱揚其名常無倦心。或修梵行者。不說戒有虧

歸命佛最勝 一切皆解脫
是尊最勇猛 遊至無為中

佛者。覺知一切諸法。最勝者。具足諸力。歸命

①修十(復)②③由二申④⑤遠二還⑥⑦[此最淨鬼語]一⑧⑨魔時二學明⑩⑪又二又⑫住二住⑬⑭謂二誰⑮⑯身二芽⑰⑱(彼)十便⑲⑳壯二莊*㉑㉒二二一㉓高十(下)㉔㉕[說]一㉖㉗按二修*㉘㉙*

沒冥必還明 若沒如今無
作有常之想 淨眼與我說

沒冥必還明。問云何為明。猶如日日照。若沒
如今無者。若有常若斷滅。還處入淨聚淨眼
與我說與我布現。尊無所不知

沒滅不可數 願說所無者
散離一切愛 亦散一切義

沒滅不可數者。有限之法彼則無也。願說所
無者。諸愛盡者諸愛限數。彼無有此愛諸陰。
由行生者諸陰限數。彼無此陰。散離一切愛
者。亦散一切義。三界愛盡

二問釋種子 淨眼不授決
乃至三大仙 授決我欲聞

二問釋種子淨眼不授決。彼爾時作二問。云
何觀世間。亦不見死生。世尊不與授決。何以
故。欲教訓之。彼亦聞三語而授決。於中作是
說。乃至三大仙授決我欲聞

今世及後世 梵天上諸天
見亦無所知 瞿曇者德至

今世者是人世。後世謂惡趣。梵天者謂梵迦
夷天。諸天者謂欲界天。見亦無所知者云何
見。瞿曇普德至者。世尊聲振四方。如是世
諦一切智。猶如轉法輪。說聲聞乃至梵天

若欲如是見 義論之所歸
云何觀世間 而不見死生

若欲如是見者。如是成就妙智。世間及梵
天而不知見。義論之所歸者。欲聞受決之所
歸。云何觀世間而不見死生者。云何觀六入。
不生餘境界

觀世皆悉空 愚王亦專念
以能拔我見 如是越生處

觀世皆悉空亦自見愚王。爾時世尊為說空
常。專不移動念者。不念邪事遊意止中。我見
者。是愚身見而滅之。如是度死處亦不生閻
浮境界。尊者拔蘇盧作是說。聞斷滅有常。
爾時世尊不與授決。彼亦聞第三句跡而授
決。於中作是說。二問釋種子。今世後世者是
欲界天。梵天者梵迦夷天。及天者及餘色界
天。見亦不知者。住中迹中而不知。如是越所
見者。成就如此妙智。世及天者不能解知。如
此中亦斷滅有常。觀世斷滅有常。而不見死
生。云何除斷滅有常。而住中迹越生死岸。觀
世皆悉空者。自還所覺。若斷滅有常。彼觀皆
悉空。住其邊際。如是觀六入。則能越生死
岸

天女衆所圍 亦親近妖魅
彼圍名愚惑 云何獲安處

天女衆所圍。彼修行人。聞三十三天天女衆
所圍者。以天音樂亦親近妖魅。三十三天在
街巷頭門闕左右園果浴池。四天王有諸。女
鬼。顏色弊惡聲響兇獷。喜恐怖人。彼圍名愚
惑者。雜園果甚樂無極。天五樂自娛圍能惑
人。云何獲安處者。云何得出要

彼道名曰等 彼方名不恐
事亦名無聲 覺法名具足

彼道名曰等者。無嗔亦不曲。彼方名不恐者。
涅槃名曰方。於彼無生。病老死之恐。事亦名
無聲者。止觀是名事。無有結著故曰無聲者。

賢聖無漏三昧。覺法之具足者。覺出要與
共相應

慚亦不有緣 念者將從人
智慧能御車 等見先導前

慚亦不有緣者。慚諸結穢惡。彼猶如船車。如
是緣慚而起道意。不復思惟。念者將從人。猶
如車以虎皮覆上。若。豹皮纏恐不得其便。不
可親近。若怨家盜賊不得其便。如是念。將從
不得親近諸惡行。智慧能御車者。猶如侍車
人如好車。如是道智慧最。是道猶如御車者。
知道非道猶如御車者。侍車而行應進則進。
如是智慧欲退時。便起勇猛意。意若熾盛便
使休息。猶如御車者。知進便進。如是智慧
思惟方便。等見先導前者。等見先在前而修
行道。世尊亦說。等見生等志。復作是說。如
彼賢聖人。八種道本亦說故曰慚。亦是彼緣
行學增上戒。念者將從人也。學增上心說智
慧御車也。等見先導前者。復作是說。彼車是
其處衆行具足。是其緣者有三種。道等語
業等命。念者將從人等念也。智慧能御車者。
等志等方便也。等見先導前者。即等見也。復
作是說。諸止觀是食者。如本車所說。慚亦是
緣者。戒是其食。念將從人者。止是其食。智慧
能御車者。觀是其食

諸有如此乘 衆萌男女類
彼乘如此車 往至無住方

諸有如此乘。衆萌男女類
乘往至無住方。彼已修行道。未至涅槃。便使
至涅槃也

諸有如此乘。衆萌男女類
乘往至無住方。彼已修行道。未至涅槃。便使
至涅槃也

者二善 云去 浮 女二 病老二老病 之二名 約二狗 不得二得不 使 一

五斷五已滅 修行五上者
五數比丘過 是謂已度流

五斷者。五蓋也。五已滅者。五下分結也。修行五上者。是五根也。五數比丘過者。已越五上分結。是謂度流者。已度生死流也。復作是說。五斷者。五邪見也。五已滅是五身結也。修行五上者。五禪種。五數比丘過者。已度彼欲數。如所說著欲是謂欲數。是謂度流者。已度欲流。復作是說。五斷者。五趣中結也。已滅五者。是五道也。修行五上者。五解脫入也。五數比丘過者。即越彼五趣。是謂度流者。度生死流也。復作是說。五斷者。五心縛也。已滅五者。心五穢也。修行五上者。五念結也。五數比丘過者。已度心五縛也。是謂是度流者。度生死流也。

五覺及眠寐 五眠寐及覺
有五受塵垢 五是清淨行

五覺及眠寐者。五邪見睡眠五根與。寐。五睡。眠及覺者。五根睡眠五邪見覺。寐。有五受塵垢者。五見也。是五清淨行者。五根也。如是五身結力結念處所。下分中禪數。上分中解脫。入阿那含凡夫人

奔走不樂中 養新新縛著
猶奔冥燈火 見聞一所作

奔走不樂中者。已斷解脫奔有常不樂斷滅。復離斷滅有常不樂有常。養新新縛著者。謂所生見增益諸縛。猶奔冥燈火者。猶如鉢勝伽虫。油燈休息想。非捨離墮。作如是邪見有休息想。作捨離想墮。見聞一所作者。見淨

有淨緣。聞淨有淨緣。如是一切諸見。復作是說。奔走不樂中者。不樂五欲中不樂一欲。養新新縛著者。欲愛縛墮。見聞一所作者。住五欲中。復作是說。奔走不樂中者。不樂欲界奔走色無色界中。餘亦如是。如奔所趣如今所覺。或作是說。亦復此事不樂奔結。走解脫牢固。向新解脫牢固

老覆蓋世間 為死所圍繞
衆生患愛病 法住於世間

老覆蓋世間者。所覆不得解脫。為死所圍繞者。亦不得走避。如所說

非空非海中 非入山石間
無有地方所 脫止不受死

衆生患愛病者。愛縛所纏不能度三界。法住於世間者。住世八法。十善行迹。或善或不善。復作是說。住十二因緣。或作是說。為苦所害。使住道也。或作是說。住於七法。或作是說。其事云何住世間

偈頌緣為事 文字為甘味
依名而有偈 造者偈之身

偈頌緣為事者。意欲便造偈敷演諷誦。文字為甘味者。分有文字次第分開布行。依名而有偈者。依名造作猶如十句偈。造者偈之身。造偈頌為首

以六興起世 六已成就業
六造世間法 有六受苦惱

以六興起世者。六愛身也。六已成就業者。六病身也。六造世間法者。造內六入也。有六受苦惱者。外六入也。復作是說。以六興起世者。

六愛身也。六已成就業者。外六入也。六造世間法者。造六塵也有六受苦惱者。六痛身也

四方非四方 上下最勝界
不聞不覺知 說法使我寤

四方非四方者。最勝界者。當言結聲響。不聞不覺知者。集聚之相故。曰無所無不知。說法使我寤者。說道審諦出要之業。世尊知根說法之義。使我時得寤

本盡不造新 於有無愛著
種盡法不生 涅槃猶燈滅

本盡不造新者。過去貪欲盡。更不造新者。未來貪欲盡也。於有無愛著者。現在貪欲盡也。種盡者。識種及所生有種盡也。法不生者。彼識處不生除去行垢。涅槃猶燈滅者。不起便涅槃。猶如燈滅者。不可限量。住至東方若後南方。如是阿羅漢般涅槃不可限量。復作是說。本盡者。過去結滅。不造新者。未來垢盡。於有無愛著者。現在垢盡。種盡者。此垢種盡不生法者。更不受住。涅槃者。燿然無垢。猶燈滅者。不為造有所縛。復作是說。本盡者。過去行盡所可受報者也。不造新者。新垢不造。於有無愛著者。行有餘。復作是說。本盡者。因盡也。不造新者。於彼因無有果實。於無愛著者。於彼有餘。復作是說。本盡者。六入盡及本行空。不造新者。不造新行。餘亦如是

此王車朽敗 身亦如是朽
眞法不朽敗 於己而平均

①度二渡②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

此王車朽敗者。王波斯匿車在。深朽故無有光色。身亦如是朽者。如是在隱匿處。為老病所逼無有光顏。眞法不朽敗者。亦不羸弱。何以故。於己平均。平均法何者是。道諦是也。諸佛說法是平均法。

道爲八等妙 聖諦有四句

無欲法爲上 與二足作眼

道爲八等妙者。一切諸道賢聖八道爲上。聖諦有四句者。一切諸諦賢聖諦爲上。一切諸法涅槃息爲妙。與二足作眼者。一切衆生佛最爲聖。一切悉知。猶如實有涅槃道。何以故。雙出二事。於尊因陀摩羅沙門名作是說。求爲道出要爲涅槃。不空爲諦義。毘舒佉作是說。猶如智於境界迴轉。道亦如是。猶如智有境界。如是諦涅槃。猶如斷結。猶如智有境界。諦亦如是也。

覺龜亦覺細 意盛慢所畏

此非智所覺 意或奔諸趣

覺龜者不善也。覺細善有漏受諸有也。復作是說。覺龜者見諦所斷。覺細者思惟所斷。復作是說。覺龜者與欲界相應。覺細者與色界相應。復作是說。覺龜覺欲也。覺細者覺智也。意盛慢所畏者。自意所生意流馳意。流馳與相應覺知。如是與無明智彼有覺也。各馳走展轉覺知心意常亂。

如在意覺知 無惱威儀念

在心意識盛 無餘諸佛滅

如在意覺知者。等住覺知漸爲方便。無惱威儀念者。威儀者亦不覺。念者專其念。心不移。

動住者。如念無異。熾盛者。無餘之所滅。佛能永滅。問疑無有疑身絕欲使。彼亦是佛耶。答曰。諸佛是法。親近諸佛於此契經。復次諸界佛所滅。聲聞不能滅諸界。復作是說。無餘諸佛境界滅。

天遠地無邊 大海亦無際

日月降光處 及其滅處所

有實無實法 是謂四極遠

天遠地無邊者。偈廣說。乃至滅處方遠俱越。有實無實法者。是四極遠。自極遠此法道。無實法是垢。復作是說。有實法十善。無實法十不善法。復作是說。實法是涅槃。無實法是生死。復作是說。實法是諦。無實法是諸見。復作是說。實法是七法。無實法是七非法。復作是說。實法諸佛之要。敷演法教。無法不闡等法。印法教也。彼於是不久自然之理。

優婆尼摩王 既覺寤馳走

偈緣世滅盡 生老道二遠。

偈健度第二品竟

尊婆須蜜菩薩所集偈品首

盡形壽愚癡 親近諸智者

彼不識了法 猶杓不別味

盡形壽愚癡。愚癡者。謂之無此力勢。知善語惡語義。彼盡形壽親近諸知識。亦不解了法。智在須臾間。親近諸智。彼能識了法。猶舌盡別味。智在須臾間。親近諸智者。智者謂之諸陰善持善入善。又此力勢成諸器教。愚癡者。謂之無此力勢。不能解十二因緣。智者謂之有此力勢說十二因緣。愚癡者不成聖諦之

器。智者謂之數四。四演諦故。曰智在須臾間。親近諸智者。

彼於死不死 住者亦不住

於窮亦好施 此法非無義

彼於死不死者。於嫉妬中於妬死而死。好施者於妬著不死。以智慧命爲活。住者亦不住。猶如逐商人失道。爲惡狗盜賊所害。猶不捨道人。不爲惡獸盜賊所害。此最是施於貧能施者。彼感孤窮。此久遠常法。或作是說。於彼死不死者。慳嫉於惡趣中死。好施者生天上儲糧在前。猶如商人糧食之少便遭困厄。於少能施者。此法是孤窮。是爲孤窮之法。

本樂得存命 此瞿曇弟子

保命自知短 無常求所施

坐具亦無常 覺知世無常

命知足易滿 本盡苦原本

本樂得存命者。爾時諸天爲諸懈倦比丘。說佛語本樂得存命。知足易滿易養。禪樂三昧善居止。無常求所施者。亦不留遺餘。以乞求爲命。坐具無常者。在樹下空處。遊戲其中意不專一處。知世無常者。本盡苦原本。知六入無常度生死流。復作是說。本樂得存命者。此瞿曇弟子。本以智慧爲命無常求所施。坐具亦無常者。以無常想乞求。復以無常想處彼坐具。覺世無常本盡苦原本者。修無願解脫。覺無所造而般涅槃。

以何智慧知 慧必不有難

以何智慧知 是謂名爲慧

①(特)十思②③ ④作一次⑤⑥ ⑦龜十(者)⑧ ⑨自一感⑩ ⑪極二然⑫ ⑬印二即⑭ ⑮卷第十四終⑯ (偈健度第二品竟)一⑰ ⑱保命自知短⑲ ⑳世二是㉑ ㉒命知足易滿⑳ ㉓原二源㉔ ㉕處二受㉖ ㉗十(門)㉘

以何智慧知慧必不有難。是何智。如想無有異。以何智慧知是謂名慧者。以何等智慧知。已知而知者。若法無有難諸法無有二想。於中以何智慧知。是謂名為智慧。諸法無有二想。無有二種生。以何智慧知。是謂名為智慧。此智慧。智已知。便是其知。此是何智。猶如一切無常智智亦無常。一切無我智智亦無我。猶如有一切智亦有知。

有寡有生者 出牛入牛者
亦有牛長大 欲者天便雨

有寡有生。檀尼所由原寡不生。牝牛。憶來導引前在。後驅牛者。牛長者。大牛長無寡。無有生者。出牛入牛者亦復無也。亦無有牛長大。欲者天便雨無寡。世尊作是說。一切無現無所取。復作是說。色無色界結無有不盡者。無生者欲界無有結不盡者也。憶牛者無明也。入者彼相應心心法。與彼迴轉心不相應行。牛長大者。於此慢盡所作事辦。

無怒除去穢 流水側一宿
廬露我大覆 若欲天便雨

無怒除去穢。流水側一宿者。現無怒。除穢者現。瞋恚盡大穢除盡。流水側一宿者。涉道於彼宿也。欲化牧牛者。種種姦。偽盡身姦。彼不淨見根。姦是識身彼。亦盡也。我已除火三火息。

我已見屋室 更不起愛著
汝盡脇勸推 屋舍皆壞敗

我已見。屋者。愛受諸有是屋舍。復作是說。屋舍者此間慢也。復作是說。屋舍是有漏行。

復作是說。屋舍者起諸識更不起愛著者。更不復受有汝盡脇勸推者。愛欲已盡。復作是說。脇勸推者。於此慢相應法彼永盡。復作是說。脇者起諸行結彼盡也。復作是說。脇者是愛彼盡。屋舍皆壞敗者。五盛陰彼盡無餘。復作是說。屋舍皆壞敗者。身見彼盡無餘。復作是說。屋舍是無明彼盡無餘。復作是說。屋舍是識處住。彼盡無餘。

人能善眠寐 亦復憂所護
心常樂禪中 欲使壞娛樂

人能善眠寐者。阿吒羅婆戶住。法授決中廣說也。阿吒羅婆作是說。彼亦不作憂如我所憂。世尊說彼不作憂如我所憂。彼不為比丘。從彼乞求者。受取屋舍法。如是非比丘。比丘契經彼非為比丘。不作比丘作比丘行法。家法者。受取屋舍作諸屋舍行。非以乞食為比丘也。

若有福有惡 除去修梵行
練滅受不起 彼謂之比丘

若有福有惡者。福者是善有漏行陰。惡者不善除去者謂已斷也。梵行者修行其道。練滅不受起者。降伏一切魔眾。降伏一切諸結。行者是住也。彼謂之比丘成就比丘行法。復作是說。福者不用定行。惡者無福行。已斷滅彼而修梵行。二二三昧二二共會。練滅不起者。背彼彼道意止。彼謂之比丘斷諸結。

青數白所覆 一輻車而行
不勝觀此邊 斷諸流結縛

廣說如雜阿含

二十九修跋陀人 我出家行學道

我已知五十歲 於中學修跋陀
戒定修行術 獨步思惟念
敷演說法智 於此無沙門

戒者身律口命清淨。三昧者諸善心。獨步行者是其事。術者是智。獨步心思惟三昧。敷演說法智。於彼此無沙門者。智法是道。彼入內外無沙門。問戒行有何差別。答曰。戒是有漏行是無漏。復作是說。戒是學行是無學。三昧心獨處有何差別。答曰。三昧是有漏。一心獨處是無漏。三昧是學。一心獨處是無學。復作是說。戒是增上戒。三昧是增上心行術。增上智慧是謂見諦道。一心思惟道。是謂見諦道。思惟道。甚深法此少入無外沙門也。復作是說。戒行是增上戒。三昧獨處學增上心術者。學增上智慧。此是智法如少所入無外沙門也。復作是說。戒三昧如所說。於戒是修行。謂學增上行。行術者是增上智慧。是謂學增上智慧。獨處心思惟者。是謂學增上心。是謂知。法少所入無外沙門也。

有量無量集 能仁捨諸行

自謹慎內情 無明卵自壞

有量無量集者。有量是行報生有。諸行者是壽行捨之。能仁者是無學。能仁內樂者禪解脫三昧樂。三昧中自謹慎以空為首三謹慎自謹慎成就。無明卵自壞者。猶如壞卵。不復觀卵。觀如是世尊。捨壽命不觀壽命行。或作是說。量者是人無量者是餘行也。行者

①智一知 ②無十(有) ③天二大 ④偽二為 ⑤物一助 ⑥舍二室 ⑦屋十(室) ⑧(法)一 ⑨憂十(也) ⑩彼二行 ⑪彼此二此彼 ⑫以下宮本斷缺 ⑬練二談 ⑭也二已

受諸有行。內自樂者樂諸道也。餘亦如是

若愛無住處 意漸得開解

彼愛能仁除 不知天及人

若愛無住處者。情放逸流馳。彼有二種愛見也。無住處若由愛若由是。意有二種。意愛意見也。漸者俱越二三愛盡。能仁行天及人所不知。能仁行天及人所不能知。復作是說。若愛無住處。愛是欲愛也。住處諸見也。意漸得開解者。意是有愛。漸是無明。有二愛盡。天及人所不能知。諸見無明盡

若內無瞋怒 有有獲種種
彼無恐畏惱 諸天不往見

若內無瞋怒者。自喜無瞋恚。有有獲種種者。中有有是謂有。於此間有彼無恐畏惱者。善修空善明十二因緣。樂者四出要樂而成就。無惱者無有遺餘也。財物之愛設有遺餘。財物之中若得若失亦無愁惱。諸天不往見者。已取涅槃不見五趣。復作是說。若內無瞋恚者。現瞋恚盡。有有獲種種者。現其欲盡。彼無恐畏惱者。善無有憂現愚癡盡。諸天不往見者。無欲無瞋恚亦無愚癡。已所涅槃不見涅槃

人中等正覺 自訓專正志
遊行梵迹中 常樂心滅息

人中等者。生於人中。等正覺者。盡覺知諸法。自訓者。自然具。專正志者。得三三昧。遊行梵迹者。敬尊法中心。常樂滅息者。諸三昧心得休息。害諸結心得休息。而樂其中

衆人所敬仰 盡超一切法

諸天亦歸命 是謂聞無著

衆人所敬仰者。承事歸命。盡超一切法者。越諸善法。猶如超諸偈頌。亦度諸不善法。諸天亦歸命者。諸天亦承事歸命。是謂聞無著者。彼從世尊聞。佛天人所供養也

一切結過去 於園越園果

於欲出要樂 猶如鍊真金

一切結過去者。度九結是謂一切結過去。復作是說。度於三結過去也。於園越園果者。五欲爲園。於彼愛盡。越諸愛患。越諸結越有樂於欲出要者。於欲解脫樂初禪復次欲中出要樂淨處樂。等樂其中。是謂於欲出要樂。猶如鍊真金者。如金被鍊無有穢垢極妙。如是如來已越於欲盡無諸漏

三佛名流布 猶如日除冥

於世第一尊 亦如安明山

三佛名流布者。功德聲聞世尊四方上下。乃至阿迦尼吒天皆聞其聲。猶如日除冥者。如日出時普照世間。冥皆爲明無不蒙其恩。如是世尊已逮正覺。以光明普照三界。於世第一尊者。以此名爲尊。彼一切爲現照明。亦如安明者。如須彌山王於衆山中極高最大。世尊亦如是。於一切衆生中而作。偈導

我當說其義 亦不作稀望

一切名龍者 實名爲如來

我當說其義者。當龍功德。亦不作稀望。尊因陀摩那作是說。是無義語。尊摩醯羅作是說。不作諸衆行。或作是說。不作怨讎。如所說亦無瞋恚而有所作。復作是說。亦不造惡行。

切名龍者。實名爲如來。諸有名龍者。於一切中如來最妙龍

能忍不嫉彼 如龍有二足

慳勤修梵行 所行龍餘迹

能忍不嫉彼如龍有二足者。彼猶龍象前脚已得隱。然後身得迴。如是如來以牢固法身得迴轉。慳勤修梵行所行龍餘迹者。猶如龍象後脚。以得隱。然後身得迴轉。如來亦如是。賢聖法服。曩昔諸如來。已得牢固法身得迴轉

信爲大龍象 護爲白雙牙

念願智慧頭 威儀用法觀

信爲大龍象者。猶如龍象受取皆由鼻。如來如是。以信棄不善法而攝善法。猶如龍象鼻最爲要。尊曇摩多羅作是頌契經者之重過。不得言如來之信。更自有因緣。一切諸智算數。象爲大龍。猶如龍象受取皆由鼻。如來亦如是。親近諸法數。亦復分別觀有色身。清淨行如來護亦復如是。賢聖八品道清淨無塵垢。復作是說。猶如龍象牙不可移動。如來亦如是。於四等中受取諸氣味。便得自在。如來牙亦如是。勇猛有衆相。如來亦如是。於六善來。當有衆相好丈夫之才。念願者猶如龍象頭。盡取一切諸味。如來神足亦復如是。一切諸法皆悉普具。復作是說。猶如龍象頭而扶持頭。如來亦如是。念最爲上頭爲智者。猶如龍象以頭爲命。如來亦如是。以智慧爲命。復作是說。猶如龍象色身之中頭最爲上。如來亦如是。法身之中三耶三佛最爲上。威儀

◎喜二意◎ ◎著二者◎ ◎超一越◎ ◎鍊一鍊◎ ◎越一超◎ ◎偈一唱◎ ◎隱一理◎ ◎以二已◎ ◎當二堂◎ ◎智者二智慧者◎ 智慧智◎

用法觀者。或作是說。此事亦如是。二眼用法觀。猶如龍象左右有兩肩。如來亦如是。有二種。等身習出要。等身盡出要。迹滅不復起。復作是說。猶如龍象。有諸法觀速疾而知。如來亦如是。有衆相知衆生。或作是說。猶如龍象。心意有衆相。若步若行皆悉知之。如來亦如是。於色身中頭最爲上。如來亦如是。阿耨多羅三藐三菩提。法身中最高。或作是說。此亦是其事。有入法觀。猶如龍象左右有二肩。如來亦如是。有二種。等習身出要。等盡身出要。復作是說。猶如龍象法觀作衆相。御象知其相。如來亦如是。亦知其相解衆生。或作是說。猶如龍象意之所念。悉能成辦。若行若住皆悉知之。本無如來亦復如是。知衆生根本。或作是說。猶如龍象意之所念。若行若住皆悉知之。本無如來亦如是。知衆生根相。或作是說。猶如是知衆生根。或作是說。猶如龍象意之所念。若住若行皆悉知之。如來亦如是。知諸根相。親近諸行。於衆生中敷演法。默然承受奉行。展轉相應。

法藏皆滿具 照明除拂去
樂禪出入息 內自善謹慎

法藏皆滿具者。猶如龍象腹入若干種食。皆依仰之。如來亦如是。法等。諸藏依法食。照明除拂去者。猶如龍象尾拂蚊虻蠅皆能拂去。如來亦如是。身中敷演教樂禪。出入息內自善謹慎。猶如龍象以出入息而養其形。常以爲樂。如來亦如是。常以四禪而養其形。內方便具足。

龍行求茂草 龍住威儀盛
龍臥威儀具 坐亦威儀成
一切龍威成 是謂龍威儀

龍行求茂草者。乃至是謂龍威儀者。世尊於一切威儀中戒三昧成就。得三昧亦成就。若威儀成就。意食不穢處而不食。龍食而量腹命亦不貪。意食不穢處穢處而不食者。穢處食者何等是。有貪意起與邪命俱。彼是穢處。無穢處者。反上事也。彼如來除去穢食。擇無穢食使根充足而無衆病。猶如膏。拊創亦如膏車。服衆藥草無有貪著。故曰不貪。

以得食斷飢 不畜積遺餘
受彼信施食 除彼不與取

以得食斷飢者。草爲食覆爲衣。不畜積遺餘。不得畜積。不露形體。得施食。纔欲存形。受彼信施食。除彼不與取者。以法求取。復次當說其要。若得遺長復。次藏貯以爲家業。彼如來皆悉知除去非行。故曰斷諸飢渴者也。

斷諸一切結 亦斷諸縛著
彼行在在處 亦無憂畏患

斷一切諸結者。滅七結也。亦斷諸縛著者。滅三縛也。復次本無如來結根。使根永盡無縛著。起諸照明故。曰斷諸一切結也。如來見諸穢心不染著。故曰彼行在在處處也。

愚死命有二數 有無怒見家業
善眠寐二比丘 草覆衣一切使

偶健度第三品竟
尊婆須蜜菩薩所集偈品首
見色無娛娛 無欲及諸貪

況革囊盛糞 使五意移動

見色無娛娛者。何以故。世尊作是說。況革囊盛糞者。或作是說。現其愛盡。天樂天女。常無欲於彼。況革囊盛糞。復次欲斷摩訶檀提志縛。不欲使頻至佛所。

梵志慢滿擔 怒烟害爲灰
口淨心如火 心者火坑藏

梵志慢滿者。猶如負重擔不畏懼於人。如是慢所縛不畏懼。怒烟者。猶如先有烟然後火。乃然。如是。失有怒然後方有教。猶如烟亂一切色。怒亦如是而亂衆色。害爲灰者。猶如灰無用於物。如是害亦無用於物也。口淨者猶如淨投火。如是舌長益於諸法。心者火坑藏者。猶如祠火處所。如是心爲智火所然。自動人中明者。猶如自第一火。

信種自暴露 智慧爲耕犁
慚愧心所縛 心手之執杖

信種自暴露者。猶如先有萌芽。如是信爲道然後行道。暴露者暴爲閑居。猶如莖生得雨潤澤。如是生善功德以暴潤澤。智慧爲耕犁者。猶如集聚耕地。如是信成衆善功德。如是智慧成衆善功德。耕者結使。慚愧者猶如犁。如是慚愧住智慧。心縛者三三昧是。意縛猶如輻。如是三昧猶如不移動。手執杖者。猶如耕地杖用驅行。如是念耕結得善願。

身整口亦整 猶如往求食
實作擇去穢 受語而解脫
身整身律儀也。口整者口律儀。猶如往求食

①(於)十法 ②親一觀 ③諸一諸 ④善一喜 ⑤得二行 ⑥拊創二傳 ⑦捷一我 ⑧大二欲 ⑨(偶健度第三品竟) ⑩(尊婆...首)十一字二(偶健度首第十四之四)九字 ⑪盛二成 ⑫失二光 ⑬牙二芽 ⑭輻二輛 ⑮手二心手之

者。命命清淨也。實作擇去穢者。以智諦耕除諸。受語而解。脫者。猶如耕犁。人事辦則捨。如是等與相應而捨其行。諸已滅便有勇猛意。

勇猛共二軛 方便獲安處
已往不復還 所至無憂畏

勇猛共二軛者。猶如牛有力勢不捨其軛。如是勇猛之力。亦不捨其軛。方便獲安處者。有四方便已盡是謂涅槃。亦是安隱處勇猛志。彼已往不復還者。有力勢不復還。所至無憂畏者。已到涅槃諸憂畏患永盡無餘。

如是耕田作 彼曰甘露果
能忍如是業 一切苦解脫

如是耕田作者。作如是修行道也。彼曰甘露果涅槃為果。能忍如是業者。修行此道。一切苦解脫者。於三界苦而得解脫。或作是說。道教於彼智慧斷諸結使。身整口亦整。猶如往求食者。等語等業等命。勇猛共二軛者。方便也。念為杖者等念也。意縛者等三昧也。已說五根彼信種信根也。勇猛共二軛精進根也。念為杖者念根也。意縛者定。根也。智慧唱導是慧根也。

專念巧便求 亦不樂在家
群雁往奔池 盡流除瞋恚

專念巧便求者。出家學道。專念者繫念不移。亦不樂在家者。不樂處家恩愛之中。群雁往奔池盡流除瞋恚者。猶如群雁捨大山林無戀慕情。如是彼滅於五欲無戀慕情。所可用道滅於五欲。如所說法之所除。況非法也。復

作是說。專念求巧便者。常樂閑居坐禪。亦不樂在家者。不樂於三界。衆生。群雁往奔池盡流除瞋恚者。流為無明。所可用道除無明。彼道亦除。復作是說。專念巧便求者。而修行道遊居意山中。亦不樂在家者。遠離愛著。如所說諸痛中愛此是愛也。已能捨彼亦不樂愛著。群雁往奔池盡流除瞋恚者。流為六入。如所說長者眼為識流。源彼能滅六入所可用道。滅六入者。彼道亦滅。

諸度江海者 作橋度彼岸
有縛我求度 智者先達岸

諸度江海者。如所說如瞿曇世尊。由異學故往受恒水水神作是說。彼。河恒薩牢頻闍作諸橋諸不得神足。或作是說。諸受頻闍者。結為頻生。死為薩牢。如所說由薩羅有是池。作諸橋修行道也。捨山者滅於五欲。縛拔求度者。外道求道。智者先達岸者。說度生死岸。復作是說。諸度頻闍者。見諦所斷結滅也。薩羅者思惟所斷結滅也。作橋者興起道也。捨山者滅諸。蓋。縛拔者修學道。智者先達岸。羅漢度生死岸。

不於見。健疾 是我之齊限
非行能除往 不染於家累

不於見。健疾者。等智成就。健疾。彼不淨之見不聞健疾。非健疾者。能淨其邊。彼亦欲淨於欲。厭。界亦不聞將往。何以故。不染於家累者。彼不隨此見。若林柱牢固。於他盡其語。若無欲善根。能仁亦牢固。

若林柱牢固者。尊者阿那律授決中廣說。猶如林柱不可移動。如是彼尊者。若毀罵若喚譽不可移動。於他盡其語者。語在內若毀罵復有喚譽者。善無欲者諸結使盡。善根者於三三昧。是三昧根。能仁亦復牢固者。佛聲無學智。

不二行作講堂 養妻子非比丘
於衆生不改瞋 能仁常護衆生

不二行作講堂者。獵師喻中已說。不二行作講堂者。獵師所行閑居聚中。比丘行聚中。聚。閑居獵師所為非行。比丘護賢行。養妻子非比丘。獵師及妻子比丘非其行。唯自養以法。聚。彼於衆生不改瞋者。獵師不改於殺生。能仁常護衆生者。比丘無有殺意。

於前中間後 從他受信施
亦無怨恨心 能仁亦護彼

於前者不食。中間者半食。後者餘食未盡。從他受信施。比丘得食。亦無怨恨心者。亦不罵亦不能傷其形。不作強顏。不是語我不得物。終不離此法。復作是說。於前者好微妙食。中者中食。後者下食。從他得信施者。從他受信施。不說惡語。所得惡食處亦不避。亦不執語所得惡食處。亦不頻往彼乞求皆悉遍。復作是說。惡不能壞其意好不起愛著。

有說第一者 夜又淨非淨
何爲此解脫 無餘名曰善

有說第一者。此夜又淨說。猶如此有想無想天。何爲此解脫者。如是無餘智者方便說淨。

①脫十(等) ②彼二被 ③衆二中 ④盡十(流) ⑤源二原 ⑥河二阿 ⑦蓋二善 ⑧鹿二捷 ⑨是二見 ⑩齊二所 ⑪亦二述 ⑫善二若 ⑬衆二取 ⑭法二去 ⑮淨二智

飢渴第一病 行爲第一苦

如實知是者 涅槃第一樂

飢渴第一病者。斷手授決中已說。彼斷手不大苦。如飢渴者。行爲第一苦者。彼行有若干種。若如實知此者。涅槃第一樂。能知如是行。不成就所作行口。彼便有樂。復作是說。飢渴第一病者。常爲所縛乃至不可治。行爲第一苦者。如實知之能知此諸行。諸行涅槃第一樂者。休息爲樂。無所觀爲樂永樂。復作是說。飢渴爲第一病者。是苦諦也。行爲第一苦者。無明緣行也。受諸患是謂習諦也。如是實知者是道諦也。涅槃第一樂者是盡諦也。

慚愧梵志衣 梵志手爲淨
水常流不住 舌陳爲深。溢

慚愧梵志衣者。尊者大目犍連授決中已說。猶如衣裳用覆蓋隱處。慚愧亦如是。蓋覆隱處。梵志手淨者。猶如已淨祀火。我亦如是。而修淨行去離行。水常流不住舌陳爲深。溢者。猶如以深。溢盪滌不淨器。我舌亦如是。除去穢行晝夜不休息。

祀火有常想 以依內心意
晝夜勤祠祀 律儀不失節

祀火有常想者。止觀彼然智火。以依內心意者。自依。猗心彼能滅。晝夜修行律儀。不失節諸根。在內彼能思惟。心被教訓。是謂藏匿。復作是說。隱處者身口意。律儀訓者諸戒具足。復作是說。慚愧梵志衣者。現善行起。梵志手淨者。水常流不住。舌陳爲深。溢。舌善行第二偈謂心善行。於三善行。名婆羅門。

度慚常呵彼 我與況汝要
亦不作非行 當知此非我

度慚者。可慚而不慚。彼當知不自親。況當親除者。當呵彼者非親者。當知是怨仇而住我所。我與汝說要者。諸有雜穢。雖。慎從衆生。當。知此姦穢。亦不作非行者。諸有親厚事彼不起惱。所作方便當知。慎怨家。

於欲意不離 念亦無厭足
觀彼能離者 彼具智慧足

於欲意不離者。菩薩授決中已說。乃至意念欲心亦無厭足。不能去離彼愛。能離者現欲想盡。於中次第觀彼盡時。是說曰彼能離者。彼具慧乃足者。諸觀欲不淨彼著愛欲也。

諦諦而善見 尊者轉嘆天

諦諦而善見者。諦是苦諦也。習諦增上諦。是道諦也。盡諦復作是說。有三諦苦諦習諦道諦。增上是盡諦。復作是說。諦是等諦。增上第一義諦。

解脫彼此脫 解脫復見縛
賢聖不見脫 解脫於愚惑

一子授決中已說。解脫彼此脫者。於妄語中解脫。爲殺所染。解脫復見縛者。於一害得脫。復爲他所染也。賢聖不得脫者。見諦而得解脫於愚惑。於縛繫彼不得解脫。如是斷滅見得解脫。有常見所縛。如是聞念中得解脫。如是身見中得解脫。爲猶豫取縛。於貪欲得解脫。爲色愛所縛。於色愛得解脫。爲無色愛所縛。

若於長短中 龜細好。惡行

於世不與取 故曰名梵志

若於長短中者。答曰。長短不成就。於彼少有所觀便有長也。少有所觀便有短也。此如來教誡語也。又龜者亦不成就。問云何量亦不成就耶。答曰。於中不說量不可持亦無來者。若受不與取。彼則龜亦不成就。於彼亦不盡有量。有清淨行亦有少成就。問諸有清淨行成就。答曰。非以行不與取色。於中淨不淨行。彼則成就。是廣舌教誡之語。故曰梵志者。具足衆行是謂梵志。或作是說。起諸不與取結諸結盡。是婆羅門。

不善而有善 當依三佛家
不住益衆生 彼曰而依有

不善而有善者。於不善中終便生餘處。彼先滅本想。而更得餘想。常依三佛家者。不依母胎。不住益衆生者。於他家命終在母胎長大。彼曰而依有。意生有是善行。

若數於世易 無勝況當世
永滅無烟噎 於中樂不害

滿願子於其中求數者。知而滅世者。諸入異於彼外。不異者是內。復作是說。異者是天。不異者是地獄。復作是說。異者色無色界相應。不異者欲界相應。此數是無常苦空無我。因果自相遍相。無勝況當世者。無明見所知。如說染著魔所縛息者。三火息滅休息。常永寂有滅息。永烟噎滅現。願患所纏盡。復作是說。現內緣諸結盡無烟噎。如所說愛所行也。有覺息亦無烟噎。如所說有覺亦烟。無害者現三害盡。無望者現利望命盡。復次現有愛

○若二苦 ○溢二盪 ○猗二倚 ○名十(日) ○親二觀 ○慎二順 ○知一如 ○是十(是) ○惡二要 ○誠二戒 ○是十(謂) ○當二當 ○當二當

盡能有所越

解脫墮復墮 貪著復來還

已還歡樂處 於善住善處

解脫復墮者。解脫者於欲界脫。亦脫欲界結使。色無色界愛未盡。於彼墮。墮便生。貪著復來還者。彼不能展轉除盡欲界相應結來住彼。於彼方便染著。欲界諸結使不能拔離。復起欲界結使。來至欲界。已還歡樂處者。謂佛聲聞彼已還安隱處。無生無病死之患。歡樂處者。賢聖八品道。於善住善樂三昧樂於中遊行。永還安樂處者。復作是說。解脫墮復墮者。於須陀洹得解脫墮地獄。彼墮天貪著復來還。欲界愛未盡。還來人間。還歡樂處者。無有恐懼入地獄之憂。樂者。賢聖之道。於善住善者。越一切諸結還於涅槃。復作說。墮復墮者。斷滅見。解脫有常見。墮貪著復來還者。地獄餓鬼畜生。於有常斷滅解脫而修行道。餘者亦如是。

見慢起信意 見偈等前後

飢依欲及諦 解脫滿願子

尊婆須蜜菩薩所集偈捷度第四竟

尊婆須蜜論卷第十

阿毘曇心論卷第一

尊者法勝造

晉太元元年僧伽提婆
共惠遠於廬山 譯

界品第一

前頂禮最勝 離惱慈哀顏

亦敬順教衆 無著應真僧

說曰。法相應當知。何故應知法相者。常定知
常定相。彼曰。定智有定智相則爲決定。以
是故說法相應當知。問世間亦知法相此極
愚。亦知堅相地濕相水熱相火動相風。無礙
相空非色相識。如是一切不應已知復知。若
已知復知此則無窮。無窮者。此事不然。云何
說法相應當知。答世間不知法相。若世間知
法相。一切世間。亦應決定。而不決定。法
相者常定不可說知法相而不決定。若然者
不決定亦應決定。但不爾。是以世間不知法
相。復次堅相地無常相苦相非我相。若不爾
者。堅相應有常相樂相有我相。而不爾。是
故堅相即無常相苦相無我相。若世間於地
知堅相者。無常相苦相無我相亦應知而不
知。是故世間不知地堅相。問前說法相應當
知此法云何。答

若知諸法相 正覺開慧眼

亦爲他顯現 是今我當說

問佛知何法。答

有常我樂淨 離諸有漏行
諸有漏行轉相生故離常。不自在故離我。壞
敗故離樂。慧所惡故離淨。問若有常我樂
淨。離諸有漏法者。云何衆生於中受有常我
樂淨。答

計常而爲首 妄見有漏中
衆生於有漏法。不知相已。便受有常我樂淨。
如人夜行有見起賊相彼亦如是。問云何是
有漏法。答

若生諸煩惱 是聖說有漏
若於法生身見等諸煩惱。如使品說是法說
有漏。問何故。答

所謂煩惱漏 慧者之假名
煩惱者說漏。漏諸入故。心漏連注故。留住生
死故。如非人所持故。是故說有漏。問此更有
名耶。答

是名爲受陰 亦復煩惱淨
是法說盛陰 是法說盛陰
說勞說淨。問何故。答

煩惱受淨起故 是彼應當知
身見等諸煩惱。勞於衆生故說煩惱。惱受身
故說受。忿怒心故說淨。從身見等生諸有漏
法。是生勞故說勞。生受故說受。生淨故說淨。
已說盛陰。陰相今當說

若遠離煩惱 無漏諸有爲
一切雜受陰 是陰聖所說
謂法離身見等諸煩惱。亦解脫諸漏有爲從
因生故。是一切及前說盛陰。此總說陰。是五
陰色痛覺云。想行識。問色陰云何。答

十種謂色入 亦無教假色
是分別色陰 牟尼之所說
十種。謂色入者。眼色耳聲鼻香舌味身細滑。
亦無教假色者。如業品說。此色是色陰。分別
色陰時。是世尊說

所名曰識陰 此即是意入
於十八界中 亦復說七種
謂識陰即是意入。亦界中七種分別。眼識耳
鼻舌身意識及意

餘則有三陰 無教三無爲
謂是說法入 亦復是法界
餘則有三陰者。痛陰想陰行陰。無教三無爲
者。虛空。數緣滅。亦非數緣滅。此總說法入亦
復是法界。如是此法說陰界入。但陰一向有
爲界。及入有爲無爲。已說陰界入。一一相今
當說

界中一可見 十則說有對
無記謂八種 餘則善不善
界中一可見者。色界此可視在此在彼是故
可見。當知十七不可見。十則說有對者。十界
有對眼色耳聲鼻香舌味身細滑。是各各相
對各各相障礙。處所若有一則無二。是故有
對。當知八無對。無記謂八種者。眼耳鼻香舌
味身細滑。此非樂報可記。亦非苦報可記。故
曰無記。餘則善不善者。色聲意法及六識。善
身動是善色。不善身動是不善色。餘色無記。
如是聲口動淨心七識界。善不善煩惱相應
是不善餘無記。法界。識心相應彼如心說。若
不相應如雜品說

尊者法勝造 晉太元元年 僧伽提婆 共惠遠 於廬山 譯

尊者法勝造 晉太元元年 僧伽提婆 共惠遠 於廬山 譯

有漏有十五 餘二三三有
欲有中者四 十一在二有

有漏有十五者。五內界五外界五識界漏止住故餘二者。意界意識界法界。此或有漏或無漏。若漏止住是有漏。異則無漏。三三有者。意法識界是。三有中可得。欲有色有無色有。欲有中者四者。香味鼻識舌識是一向欲有。中攝非色無色有。離欲攝食故一切香味是性攝食。十一在二有者。欲有色有十一界內五色聲細滑及是境界識。此非無色中以離色故

有覺有觀五 三行三餘無
有緣當知七 法入少所入

有覺有觀五者。五識界與覺觀俱。故覺觀相應。三行三者。意法識界此三行。若欲界及初禪是有覺有觀。若中間禪是無覺少觀。是上無覺無觀。餘無者。謂餘界非覺。俱亦非觀。俱不相應故。有緣當知七者。七界有緣有此緣故。故曰有緣。如人有子謂之有子。彼亦如是。眼識緣色耳識緣聲鼻識緣香舌識緣味身識緣細滑意識緣諸法。法入少所入者。若心心數法。是有緣餘則無緣

九不受餘二 為無為共一
一向是有為 當知十七界

九不受者。受名謂若色根數。亦不離根是心心數法。所行於中止住故。異則不受。於中九界不受。聲心法界非於中心心數法止住。餘二者。五內界若現在是受。於中心心數法止住。過去未來不受。非彼心心數法止住。色香味細滑若不離根及現在是受。如心心數法

根中止住。彼中亦爾。不離根故餘則不受。為無為共一者。一法界有為及無為。於中三種有常故不。可有為。餘法界無常故有為。有為無為合施設故。是以為無為共一。一向是有為當知十七界者。十七界無常故一切有為。是故一向有為。問如是分別法相已。云何攝法為自性為他性。答自性。問何故答

諸法離他性 各自住己性
故說一切法 自性。定所攝

諸法離他性者。謂眼離耳。如是一切法不應說若離者是攝。以故非他性所攝。各自住己性者。眼自住眼性。如是一切法應當說。若住性是攝。故說一切法自性之所攝。已施設自性所攝。於中可見法一界一陰一入所攝。如是一切法。復次此義契經品當廣說

行品第二

已說諸法自相。如法生今當說。問若諸法自性所攝者。亦當以自力故生。答

至竟無能生 用離等侶故

一切法不能自生。所以者何。諸行性劣無勢力故。如羸病人不能自力起。問若不自力起。當云何起。答

一切眾緣力 諸法乃得生

如羸病人由他扶起。彼亦如是。如心由伴生。今當說

若心有所起 是心必有俱
心數法等聚 及不相應行

心者意。意者識。實同而異名。此心若依若緣若時起。彼心共俱心數法等聚生。問何者心

數法等聚。答

想欲更樂慧 念思及解脫
作意於境界 三摩提與痛

想者事立時隨其像貌受。欲者受緣時欲受。更樂者。心依緣和合不相離。慧者於緣決定審諦。念者於緣憶不忘。思者功德惡俱相違於心造作。解脫者於緣中受想時彼必有是。作意者於緣中勇猛發動。定者受緣時心不散。痛者樂不樂俱相違緣受

一切心生時 是生聖所說
同共一緣行 亦復常相應

一切心生時是生聖所說者。此十法一切心生時共生。是故說名大地。同共一緣行者。一切心共俱同一緣行不相離。亦復常相應者。各各共俱及與心俱常相應共行。離增減故。故曰相應。已說心數法謂通一切心中。不通今當說

諸根及覺觀 信。猗不放逸
進護眾煩惱 或時不相應

諸根者。善根無貪無恚無愚癡。覺者於心能相續。觀者於心細相續。信者成實真淨。猗者善心時於身心離惡故快樂。不放逸者。信善時方便不捨。進者作事專著。護者作事。行以不行求以不求。自守無為。眾煩惱者。如使品說此法非一切心中可得。或時相應或時不相應。問何故說心數。答意謂之心。彼眷屬故說心數。已說諸心數法相。如所生今當說

不善心品中 心數二十一

①可十(說)② ③定二之④ ⑤以二已⑥ ⑦猗二倚⑧ ⑨信二作⑩

穢汚二損減 欲界非不善

不善心品中。心數二十一者。不善名若心生欲界諸煩惱除欲界身見邊見。是轉成不愛果故謂不善。此心品中當知有二十一心數法十大地覺觀。二煩惱無慚愧。睡。調不信放逸懈怠穢汚二損減。欲界非不善者。謂心品是欲界穢汚非是不善。如身見邊見相應。心。此品中當知有十九心數法。除無慚愧一向不善故。

善不共二十 無記有十二 悔及於眠心 是能以爲增

善不共二十者。不共名謂心獨一無明煩惱。生是二十心數。除一煩惱餘如前說。善名謂淨心能轉成愛果。此心共俱當知有二十。十大地覺觀信進。猗不放逸善根護慚愧。無記有十二者。不穢汚心品中有十二心數法。十大地覺觀。悔及於眠心是能以爲增者。悔名事不成恨爲悔是善不善。彼相應心品中增悔餘心數法如前說。眠名滅心一向。合不自在爲眠。是一切五品中生彼盡增益。餘心數法如前說。若睡眠不行三品中是增二。餘心數法如前說。問此欲界心相續說色界云何。答。

初禪離不善 餘知如欲有 禪中間除覺 於上觀亦然

初禪離不善餘知如欲有者。初禪無不善彼中有四品善穢汚不共無記是如欲界說。善中二十無記十二穢汚十九。已離不善當知亦離無慚愧。一向不善故不共有十八。禪

中間除覺者。中間禪無覺彼一向除覺餘如初禪說。於上觀亦然者。第二第三第四禪亦復無觀。及無色界於中一切除觀覺前已除。已說心數法由伴生色今當說。

極微在四根 十種應當知 身根有九種 餘八種謂香

極微在四根十種應當知者。謂極微在眼中是知有十種。地種水風火風種。色種香味細滑種。眼根種身根種。耳鼻舌極微亦如是。身根有九種者。謂餘身。根極微九種彼有一根種餘如上說。餘八種者。於中餘非根色中極微有八種。問此極微何界說。答謂香欲界中有香。色界中離香彼一切除香味種。餘種如欲界說問前已說若心生彼中。必心數法生。及心不相應行。於中已說心數法。心不相應行云何。答。

一切有爲法 生住變異壞 一切有爲法各各有四相生住異壞。世中起

一切有爲法各各有四相生住異壞。世中起故生。已起自事立故住。已住勢衰故異。已異滅故壞。此相說心不相應行。問若一切有爲法各有四相者是爲相。復有相。答是亦有四相。彼相中餘四相俱生。生爲生住爲住異爲異壞爲壞。問若爾者便無窮。答。

展轉更相爲

此相各各相爲。如生生各各相生。如是住住各各相生。異異各各相異。壞壞各各相壞。是以非無窮。後四相各行一法。前四相各行八法。生者生八法。前三後四及彼法餘亦如是已說諸行伴。如由伴生今當說。

所作共自然 普遍相應報

從是六種因 轉生有爲法

一切因盡在六因中。此因生一切有爲行。於中所作因者。生法時不障礙不留住。由此故生不相似法。如由地萬物得生。共因者。諸行各各相伴由此故生。如心心數法心不相應行及極微種。自然因者謂彼自己相似如習善生善。習不善生不善。習無記生無記如物種隨類相因。一切遍因者。謂諸煩惱轉相續生。如見我審入計著。由此見故於我有常無常審入計著。謗陰相審入計著。於陰相猶豫受有常樂淨等生。諸煩惱如是。說諸一切遍如。使品說相應因者。心及心數法。各各力於一緣中。一時行相離則不生報因者。謂行生於生中轉成果。如善愛果不善不愛果由此故生。已說諸因。諸法隨因中生今當說。

若心因報生 心數及煩惱 是從於五因 興起應當知

若心心數法因報生及諸煩惱。是從五因生。報因生者。從所作因生。彼生時相似不相似物不障礙故住。從共因生伴力故生。彼各各相伴。及心不相應行共伴從自然因生。彼有相似前生無記法從相應因生。俱一時一緣中行從報因生彼善不善。謂此果穢汚心心數法除報因無記故。是從一切遍因生由此故生。餘四因如前說。

是彼不相應 諸餘相應法 除其初無漏 是從四因生

是彼不相應者。若色從報生及心不相應行

①二三② ③調二掉④ ⑤心此二此心⑥ ⑦共二善⑧ ⑨眠二眼⑩ ⑪(十)一⑫ ⑬合二令⑭ ⑮根二種⑯ ⑰必二心⑱ ⑲彼二從⑳ ㉑住二生㉒

是從四因生。所作因共因報因自然因。穢汚色及心不相應行亦從四因生。所作因共因自然因一切遍因。諸餘相應法除其初無漏。是從四因生者。餘心心數法除其初無漏。亦從四因生。所作因共因自然因相應因。

謂餘不相應。因生當知三及諸餘相應。初生無漏法。謂不相應法前所說於中。餘若有自然因除初無漏是從三因生。所作因自然因共因。初無漏相應亦從三因生。所作因共因相應因。是前無自然。

於中不相應。應從二因生。若從一因。中。生者必無有。於中不相應應從二因生者。初無漏品中。色心不相應行從二因生。所作因共因。已說一切有為。於中若從一因生者必無有。已說諸因。如此因如來定知諸法相。覺力教化故說。緣今當說。

次第亦緣緣。增上及與因法從四緣生。明智之所說。次第緣者。一。心生相續無間。緣緣者。心心數法境界。緣彼故心心數法生。增上緣者。是所作因一切萬物。萬物生時不作罣礙。但自所作爲要。是說增上緣。因緣者。共因相應因自然因報因一切遍因。已說諸緣。諸法隨緣生今當說。

心及諸心數。是從四緣生。二正受從三。謂餘說於二。心及諸心數是從四緣生者。心心數法從四

緣生。前開導故生是彼次第緣。境界是彼緣緣除其自己。餘一切諸法。是彼增上緣。二正受從三者。無想定滅盡定是從三緣生。於中入定心是彼次第緣。於中自地前生功德是彼因緣。及。餘俱生住異壞。亦彼因緣。彼增上緣如前說。謂餘說於二者。雖彼餘心不相應行。及色從二緣生。因緣及增上緣。問以何故此諸法謂之行答。

多法生一法。一亦能生多。緣行所作行。如是應當知。多法生一法。一亦能生多者。無有一法能自力生。但一法由多法生。多法亦由一法生。以是故謂緣行所作行如是應當知。

業品第三。已說諸行己性及由諸因緣生。今謂此有因能嚴飾果種。生種生差別可得。今當說。業能。莊嚴世。趣趣在處處。以是當思業。求離世解脫。業能莊飾世趣。在處處者。三世於五趣中。種種身差別嚴飾。是世嚴飾事。唯業。是以當思業求離世解脫。

身業及口業。有有之所造。從是生諸行。嚴飾種種身。身業及口業。有有之所造者。謂身口意業生身所造作。從是生諸行嚴飾種種身。此業相今當略說。

身業教無教。當知二俱有。口業亦如是。意業。唯無教。身業教無教當知二俱有者。身業性二種有

教性無教性。於中有教者。身動是善不善無記。善從善心生。不善從不善心生。無記從無記心生。無教者。若作業牢固。轉異心中此種子生。如善受戒人不善。無記心中。彼猶相隨。惡業人惡戒相隨。口業亦如是者。口業性亦二種。意業。唯無教者。意業性一向無教。所以者何。不現故思微相續故。問此五業幾善。幾不善。幾無記。答。

教當知三種。善不善無記。意無教亦然。餘不說無記。教當知三種善不善無記者。身口教說三種善不善無記。於中善身教者。行。施持戒等善心作身動。不善身教者。殺生不與取非梵行等。不善心作身動。無記身教者。無記心作身動。如威儀工巧伎術。如是口動善者。如不虛言饒益相應。應時言等從善心生。口業不善者。如妄言兩舌惡口綺語等。從不善心生。口業無記者。從無記心生。口業意無教亦然者。意業無教亦三種善不善無記。善心相應思是善。不善心相應思是不善。無記心相應思是無記。餘不說無記者。餘有二身無教及口無教。彼二種善不善。無無記。所以者何。無記心羸劣。彼不能生強力業。謂轉異心中彼相似相隨。是故身無教口無教無無記。問無記業何。業性。何處繫。答。

色有無記二。隱沒不隱沒。隱沒繫在色。餘在於二界。色有無記二。隱沒不隱沒者。身口業是色性以業色性故。二種隱沒及不隱沒。隱沒者。謂

隱沒繫在色。餘在於二界。色有無記二。隱沒不隱沒者。身口業是色性以業色性故。二種隱沒及不隱沒。隱沒者。謂

隱沒繫在色。餘在於二界。色有無記二。隱沒不隱沒者。身口業是色性以業色性故。二種隱沒及不隱沒。隱沒者。謂

①因二同 ②中二生 ③餘二彼 ④莊嚴二莊飾 ⑤以是二是以 ⑥唯一惟 ⑦唯一性 ⑧施二於 ⑨業二等

煩惱所覆亦從諸煩惱生。異者是不隱沒。隱沒繫在色者若隱沒一向繫色界。所以者何。思惟斷煩惱能起身口業。此欲界思惟斷煩惱一向不善。不以不善煩惱能起無記業。餘在於二界者。不隱沒無記業。亦繫在欲界。亦繫在色界。意業如心說是餘處分別。故今不說。

身口業無教 當知善不善
三相禪無漏 調御威儀戒

身口業無教當知善不善者。業若色性於中若無教性是善不善。三相禪無漏調御威儀戒者。無教戒有三相。無漏禪生調御威儀。無漏者謂戒道共俱行。正語正業正命。禪生者謂禪俱行離惡。調御威儀戒者謂欲界戒。

無教在欲界 教依於二。有
當知非心俱 謂餘心俱說

謂欲界無教是非心共俱。所以者何。謂受戒。雖善心不善心無記心隨行。而不與善不善無記共。俱教者亦在欲界亦在色界。但非心共俱。所以者何。由身故色界無教。及無漏與心共俱。所以者何。由心故此非餘心中隨行。已分別諸業。若成就業今當說。

無漏戒律儀 見諦所成就
禪生若得禪 持戒生欲界

無漏戒律儀見諦所成就者。見諦謂無漏見。見聖諦。初生無漏見時見於欲界苦諦。是故一切聖人成就無漏戒。禪生若得禪者。謂得禪是成就禪戒。持戒生欲界者。若受戒者。故成就欲界戒。已略說成就。如過去未來。現在

可得。今當說

謂住威儀戒 無教在於今
當知恒成就 或復盡過去

謂住威儀戒無教在於今當知恒成就者。若住威儀。儀一切時成就無教戒。彼終不離至命盡所縛。或復盡過去者。或成就過去無教戒。若盡不失。謂初已盡是成就過去。過去者假名為盡。

若有作於教 即時立中世
當知成過去 已盡而不捨

若有作於教即時立中世。若作身口教。爾時即成就現在教。現在者假名中世。當知成過去已盡而不捨者。若彼教已盡不失。爾時即成就過去。

謂得禪無教 成就滅未至
中若入正受 教亦如前說

謂得禪無教成就滅未至者。若得禪彼成就過去未來。所以者何。如彼禪成就戒亦復爾。中若入正受者。現在假名中。彼若入定。空爾時成就現在無教。所以者何。與定俱故。教亦如前說者。如住威儀戒。若作教爾時成就現在教。若不作教爾時不成就教。若盡不失爾時成就過去。若不盡設盡便失。爾時不成就。住禪戒亦復如是。

悉成就當知 得道若未。生
中間在道心 盡不捨前世

悉成就當知得道若未。生者。一切得道成就未來無漏無教。所以者何。如彼無漏心成就戒亦復爾。中間在道心者。已合道若入於定。

爾時即成就現在。盡不捨前世者。前世是過去彼於此無教。若盡不失如得聖果。及退者成就過去無教。

若作惡不善 立戒成就二
至彼纏所纏 盡已盡當知

若作惡不善立戒成就二者。如此住威儀戒。或住禪戒或住無漏戒。或作不善濁重纏。爾時於不善中起無教。即成就教及無教。若非濁重纏不起無教。問幾時成就。答至彼纏所纏若纏所纏隨可得成就。盡已盡當知者。彼纏若盡教及無教亦隨盡。

處不威儀戒 無教成就中
惡而不愛果 亦復過去盡

處不威儀戒無教成就中惡而不愛果者。若住不威儀戒。爾時成就就不善無教。不善名不愛果。亦復過去盡者。滅非不滅。

有教現於時 是說成就中
亦復盡過去 善於上相違

有教現於時是說成就中亦復盡過去者。教謂如前說。善於上相違者。如住威儀戒說。不善如是住不威儀說善至彼善心。

若處中所作 即成就中世
亦復過去盡 或二亦復一

若處中所作即成就中世。亦復過去盡。或二亦復一。處中者。不威儀亦非不威儀住是居中容。彼如善住說善。或復二有教及無教。或一向教。或善不善。或一。問云何得色界戒云何捨。為根本禪得。為餘方便。答非一向根本。禪。

色界中善心 得定威儀戒
是失彼亦失 無漏有六心

①有二界②[戒]一③雖二唯④[見]一⑤故二彼⑥儀十(戒)⑦[空]一⑧生二至⑨禪十(若得)⑩色界二一界⑪

色界中善心得定威儀戒者。若得色界善心。或離欲或不離欲。彼一切得色界戒。所以者何。一切色界善心中戒常共俱。問云何失。答是失彼亦失。問無漏云何。答無漏有六心無漏戒。無漏六地心共得。問云何失。答是失彼亦失。六地者。未來禪中間禪根本四禪。問此戒幾時捨答

調御威儀戒 是捨於五時
禪生及無漏 二時覺所說

調御威儀戒是捨於五時者。威儀戒五時捨。罷道犯戒死時。邪見增法沒盡。禪生及無漏二時覺所說者。禪戒二時捨退及上生。無漏戒亦二時捨退及得果。問餘業云何捨。答

不善戒有二 善無色亦然
穢污說一時 若業住於意

不善戒有二者。不作方便及死時善無色亦然者。善無色業亦二時捨。善根斷時及上生。穢污說一時若業在於意者。穢污意業一時捨離欲時。已說諸業性及成就。如此業世尊種種分別。今當說

若業與苦果 當知是惡行
意惡行增上 貪瞋恚邪見

若業與苦果當知是惡行者。謂業是不善盡說是惡行。不善者苦果。意惡行增上貪瞋恚邪見者。不善思願。是意惡行復三種說意惡行。貪瞋恚邪見

此相違妙行 最勝之所說
若於中最上 是名為十道

此相違妙行最勝之所說者。此相違一切善

業及無貪無恚正見。若於中最上是名為十道者。若於不善業中。若業最上者是說業道。如殺生不與取邪行妄言兩舌惡口綺語貪恚邪見。於中殺生者。衆生想捨衆生意斷他命求方便成業。不與取者。物他所有他想不與輒取。邪行者。婦女他。所有犯於道。若自所有時時犯非道。妄言者。異想意欺誑他說。兩舌者。憎他故親相離方便說。惡口者。以瞋於他不愛言。綺語者。不善心無義言。貪者欲界欲恚者忿怒邪見。者誘因果此。是業道。餘者非業道。謂此行方便求及飲酒等。不正業思願者是根本業。此以彼十為道

若業現法報 次受於生報
後報亦復然 餘則說不定

謂業能成現法果時則不定。問如世尊說三業樂報苦報不苦不樂報此云何。答

若欲界中善 及色界三地
是應有樂報 受者定不定

若欲界中善及色界三地是應有樂報者。欲界善業生報與樂俱。及色界初禪第二第三。亦生報與樂俱。此總說樂報。問此亦是定耶。答受者定不定。若定若不定是四地中。善一切有樂報

生不苦不樂 謂在於上善
若受於苦報 是說不善業

生不苦不樂謂在於上善者。第四禪地善業及無色中是不苦不樂報。是生報與不苦不樂俱。於中無樂報。若受於苦報是說不善業。不善業是苦報。必與苦痛俱。受報此亦定

不定如上。問世尊說四業。黑黑報白白報。黑白黑報。不黑不白無報。此云何。答

色中有善業 是白有白報
黑白在欲界 黑報說不淨

色中有善業是白有白報者。色界善業是白報一向不淨故。及離不善故彼一向極妙報。是謂白有白報。黑白在欲中者。欲界善業黑白黑白報。所以者何。是不善所壞羸劣故說黑白。彼難受報愛不愛故說黑白報。黑報說不淨者。不善謂不淨是黑增惡故。鄙賤故是說黑報

若思能捨離 是盡無有餘
彼在無礙道 謂是第四業

謂道能滅此三業是無礙道。若有思此思是第四業。於中四思惟道滅。第二業十三有二道。見諦道四。思惟道九。是無漏思不增惡故不黑。不五樂故不白。與無窮相違故無報。問世尊說身口意曲穢濁。此云何。答

曲生於諂偽 穢從瞋恚生
欲生謂為濁 世尊之所說

曲生於諂偽者。若業從偽生。是曲欺誑故。穢從瞋恚生者。若業從恚生。是穢一向誑故。欲生謂為濁世尊之所說者。若業從欲生。是濁一向塵垢故。問如世尊說三淨身口意。此云何。答

淨一切妙行 滿者是身口
謂無學意滿 即是無學心

淨一切妙行者。若有妙行是一切淨。離煩惱不淨故。問滿云何。答滿者是身口。無學意中

○或二以○ ○二一○ ○住二在○ ○[是]一○ ○所有二有所○ ○憎二增○ ○[者]一○ ○是十(是)○ ○此十(業)○
○淨二淨○ ○中二界○ ○道二礙○ ○五二可○ ○淨二淨○

身口妙行。是謂滿善除一切罣礙故。謂無學意滿即是無學心者。若無學意滿是無學心。所以者何。無學心者。已遠得^①文尼相故。已說諸業假名果。今當說

善惡不善業 是俱有二果
善或成三果 一果謂餘說

善惡不善業是俱有二果者。善業成二果所依果及報果。無漏業亦有二果。所依果及解脫果。不善業亦有二果。所依果及報果。善或成三果者。謂善有漏業能除諸煩惱是三果所依果報果及解脫果。一果謂餘說者。謂餘無記業是一果所依果。無餘。問造色相是身口業。是業何。四大造。答

自地若有大 依於身口業
無漏隨力得 是彼謂之果

自地若有大依於身口業者。若欲界諸業是依於欲界大此所造故。色界業亦如是。問無漏諸業云何。答無漏隨力得是彼謂之果者。無漏色若依四大得即依彼地。若任欲界得道。彼身口業欲界四大造。如是一切地謂力。除色界欲及無色界。彼若命終生無色中。若未得而得身口業。是身口業即彼地四大造。問如世尊說三障。業障煩惱障報障。是相云何。答

無間無救業 廣能生煩惱
惡道受惡業 障礙亦應知
此三法障礙者。必不受聖法。是故說障礙。問此業何等最大惡。答
若業壞僧者 是說為極惡

謂業壞僧是業最惡。是阿鼻大地獄住劫。問何者最大妙。答

第一有中思 當知彼最大
非想非非想處於有第一。彼地攝思是大妙極大果彼八萬劫壽報
阿毘曇心論卷第一

阿毘曇心論卷第二

*尊者法勝造

*晉*太元元年僧伽提婆

*共惠遠*於廬山 譯

使品第四

已說諸業。諸煩惱今當說

一切有根本

九十八使者

業侶生百苦 文尼當說思 譬怨不識則害成。若識則得離。諸煩惱亦然。當知如怨家。問云何知。答

一切諸使品

當知立二種

見諦所斷種

亦思惟所斷 若有使者。盡見斷及思惟斷。謂從見道是見斷。從思惟道是思惟斷。於中

說二十八使

是繫在見苦

謂當見苦時

斷滅盡無餘

見習斷當知

十九滅亦然

增三見道斷

十說思惟止

是謂九十八使已說。種界今當說

第一煩惱種

在欲當知十

二種種有七 餘八見道斷

在欲界當知 四思惟斷

謂餘在二界 是亦當分別

在欲界當知四思惟斷者。此三十六使是欲界繫。謂餘在二界是亦當分別者。餘六十二使。於中三十一色界繫。三十一無色界繫。已說界諸使。今當說

受邊見邪見 及與五我見

二盜應當知 是煩惱說見

從因相續不識諸法性。於中或有^②常相。或有斷相。斷常是二邊世尊之所說。於中若見受邊是謂受邊見。誹謗真實義此見是邪見。若有情識類愚於中計我是謂身見。有漏法受第一此見是見盜。非因見因此見是戒盜。此五煩惱是^③慧性故說見

欲猶豫瞋恚 慢癡說非見

是界差別故 轉行種種名

欲猶豫瞋恚慢癡說非見者。欲名^④受念想思。於諸行中樂著猶豫名如前所見。於中或思惟瞋恚名所作相違忿怒。慢名自^⑤舉。癡名所有不識。此五煩惱說非見。是謂一切諸煩惱。是界差別故轉行種種名者。是十煩惱或從苦行。或從習或從滅或從道。於中若從苦行者。是見苦斷如是至道。餘思惟斷

下苦於一切 離三見行二

道除於二見 上界不行恚

下苦於一切者。下苦是欲界苦。於中行一切十煩惱。凡愚於欲界苦不了因見斷。不了果見常謗果謗苦邪見。苦受第一見盜。謂法於

①文二半 ②四六二大 ③除二隨 ④業二報 ⑤知一如 ⑥當說二說當 ⑦使二結 ⑧四思二思四
⑨五二吾 ⑩常二當 ⑪相二想 ⑫慧二惠 ⑬受二受 ⑭舉二與

法非因計因戒盜。自見欲他見悲從見中或
 從自見舉慢。不了無明。離三見行二者。習
 及滅各七行。身見行於現五陰。習者細微不
 現是故於中不行滅亦如是。受邊見者亦行
 於現。戒盜行於。界彼亦非習滅。道除於二見
 者。身見邊見不行於道有漏境界。故戒盜者
 行於道。似道故終竟不解至不見正道。上界
 不行悲者。如欲界分別。色無色界亦爾。除其
 悲彼中無悲意止柔軟故。諸見及疑非思惟
 所斷。餘欲界四思惟所斷。色界三無色界二。
 問云何彼緣境界。答

普遍在。苦因 疑見及無明
 是一切種使 樂在一。地中

見*苦斷種及見習斷。疑見及無明此煩惱是
 普遍。一切五種行於自地。所以者何。一切有
 漏法是苦習性。問何故行於自地非他地。答
 非境界故不行於上。離欲故不行於下。是謂
 欲界十一一切遍煩惱。色無色界亦爾。餘不
 一切遍自種境界故

初煩惱五種 四說為第二
 境界於上界 未離*慧所說

欲界見苦斷邪見。誘色無色界苦見盜。受第
 一戒盜受解脫方便疑。惑無明不了。見習斷
 邪見誘色無色界因見盜。於因受第一疑。惑
 無明不了。如是色無色界一切地。乃至無所
 有處

邪疑是俱生 及不共無明
 息止道二斷 當知無漏緣

見滅斷邪見誘於滅。是緣滅故無漏緣。如是

疑*惑於滅。及彼相應無明無漏緣。如是見滅
 斷不共無明。謂不欲於涅槃。彼亦無漏緣。見
 道斷亦復如是。是十八使無漏緣。問云何有
 漏種諸使所縛。答

若種在欲界 一切諸遍使
 緣縛於。已地 在上界亦然
 其餘諸結使 當知自種緣
 所使於自界 及是相應品

其餘諸結使當知自種緣所使於自界者。一
 切不遍使自於種中。緣諸法即彼所使。及是
 相應品者。一切遍及不一切遍。是一切自品
 中相應所使

若無漏所行 及他地緣惱
 是相應所使 境界解脫故

若無漏所行及他地緣惱是相應所使。若
 使無漏緣及上地緣。是自品相應所使非緣
 使。所以者何。境界解脫故。此使不。緣於境
 界。無漏諸法解脫一切煩惱。上地諸法解脫
 下地煩惱。問此使當言不善為無記。答

己身見邊見 此相應無明
 是欲中無記 色無色一切

己身見邊見此相應無明是欲中無記者。欲
 界身見邊見及相應無明是無記。所以者何。
 己身見數數行。若當不善者欲界衆生。應無
 有樂多作不善故。復次若不善者相違於福。
 此中計我人行福令我得樂。不善者相違於

善。是以身見非不善。斷見是無常見厭於生
 死是亦非不善。是故非不善有常見亦不違

善。如身見是故非不善。餘欲界煩惱一。向
 不善。色無色一切者。色界無色界諸使盡無
 記。所以者何。正受所壞故。不善者受苦痛
 報彼中無苦痛。問一切諸煩惱盡縛自所有
 境界為不。答

貪欲瞋恚慢 知或過去縛
 未來受一切 餘二世盡受

貪欲瞋恚慢知或過去縛者。謂過去愛恚慢。
 是不必於前一切自境界起愛者。不能於前
 一切法中起。非以不見生故。未來受一切者。
 謂未來愛恚慢縛一切有漏法。所以者何。緣
 一切有漏故。餘二世盡受者。見疑及無明總
 緣一切法。是故縛過去未來諸有漏法。現在
 使不定故不說。若有者受自相彼應說如過
 去。已說諸使境界。次第今當說

次第是轉生 自地於自地
 上地亦生下 此事當分別

次第是轉生自地於自地者。一切諸煩惱於
 自地煩惱次第緣。可得一一次第生一切。上
 地亦生下此事當分別者。梵天上命終次第
 生欲界一切。若彼中穢污心命終。此中一向
 穢污心相續。如是一切地

已說諸使自相。如此煩惱世尊教化故多種
 說今當分別。問世尊說七使。欲愛恚有愛慢
 見疑及無明。此云何。答

欲界五種欲 此說欲愛使
 色無色如上 有愛當分別

欲界五種欲此說欲愛使者。見苦習滅道思
 惟斷。色無色如上。有愛當分別者。色界愛五

●從二疑● ●界二果● ●苦一若●* ●地一切● ●惑二或●* ●惑二或● ●己二色● ●緣二縛● ●(於)十善● ●向二無● ●報二想●

種無色界亦爾

恚即是恚使 五種如前說

憍慢及無明 十五在三界

恚即是恚使五種如前說者。瞋恚亦如是五種。憍慢及無明十五在三界者。慢欲界五種。色界五種。無色界五種。無明亦爾

見使三十六 說普在三界

疑使有十二 此七有異名

見使三十六說普在三界者。欲界十二見五見苦斷。二見習斷二見滅斷。三見道斷。色無色界亦爾。疑使有十二者。欲界有四見苦習滅道斷。色無色界亦爾此七有異名者。此煩惱說扼受流漏。問何以等故答

扼縛及受流 漏一切無窮

諸扼及受流 煩惱是說漏

繫一切眾生故說扼。受生具故說受。流下一切眾生故說流。漏一切無窮故說漏。已說種種相。相應根今當說

諸使在三界 盡護根相應

隨地諸根使 相應於色身

諸使在三界盡護根相應者。一切九十八使盡護根相應。諸煩惱後時依於無求而止。隨地諸根使相應於色有者。梵天及光曜有喜根。彼地諸使喜根相應及護根。遍淨有樂根。彼地諸使。樂根相應及護根

邪見及無明 欲界中樂苦

瞋恚疑唯苦 謂餘一向樂

邪見及無明欲界中樂苦者。欲界邪見無明樂根相應及苦邪見者作惡業為喜淨業為憂。

彼相應無明亦爾。瞋恚疑唯苦者。疑憂感為本不決定故。不喜瞋恚亦爾謂餘一向樂者。欲界餘使一向樂相應非苦。彼歡喜為本

二勳堅著身 見斷唯應意

欲界諸煩惱 此根是相應

二勳堅著。名諸煩惱思惟斷。彼身痛相應心痛。於中身痛者樂根及苦根。心痛者喜根及憂根俱有。護根一切身痛思惟斷意俱有。見斷唯應意者。見諦斷結唯意相應。欲界諸煩惱此根是相應者。是謂欲界諸煩惱。已分別相應根。上煩惱今當說

無慚亦無愧 睡悔及與慳

嫉掉眠煩盛 故設上煩惱

此八事說上煩惱諸使是煩惱。於中此上從中起此。是使垢依於使。問何者使垢。答

一切煩惱俱 說睡及與掉

無慚不善俱 無愧亦復然

一切煩惱俱說睡及與掉者。掉名於心不止息。是一切煩惱相應。煩惱是不止息。眠雖名沈意。彼亦一切煩惱相應。以沈心。使生煩惱。無慚不善俱無愧亦復然者。無慚名行惡時不慚他。無愧名自惡不厭不著。此二上煩惱。一向不善相應非無記

謂苦在於意 悔思惟所斷

眠唯在欲意 餘各自建立

謂苦在於意悔思惟所斷者。悔名作善作惡事不成而悔。不可說是喜故一向苦相應。是意愛根相應從惡行生故。說思惟斷苦相應故當知是欲界。眠唯在欲意者。眠意閉故眠

是一向欲界在意地。彼於欲界一切煩惱相應。一切諸煩惱行於眠時。餘各自建立者謂餘二上煩惱嫉及慳。嫉名見他樂生熱。慳名守護惜著。彼俱自建立非餘煩惱相應。問諸煩惱幾識相應。答

欲瞋恚無明 當知依六識

謂欲思惟斷 色中隨所得

欲瞋恚無明當知依六識。謂欲思惟斷者。欲界思惟所斷。愛恚無明六識相應。色中隨所得者。愛無明色界隨所得。梵天上四識彼中。此二煩惱四識相應。餘煩惱在意識中。已說諸煩惱。如所斷今當說

一時斷煩惱 而於中解脫

無量時所得 正智之所說

一時斷煩惱而於中解脫者。此煩惱無礙道一時斷。非已斷復斷。無量時所得正智之所說者。此得盡數如欲界見斷。五時得盡證自分。及四沙門果如是。一切如賢聖品說

欲界中解脫 聖說四斷智

離色無色界 當知五斷智

永盡無餘謂之斷智。於中若欲界見苦習所斷。若盡得無餘解脫是一斷智。見滅斷二。見道斷三。思惟斷四。色無色界見苦習斷一。斷智。見滅斷二。見道斷三。色界思惟斷四。無色界思惟斷五。問以何等故於斷分斷智。答智果故說斷智。如瞿曇性中生亦名瞿曇。此亦復爾。問此諸使為心相應為不相應。答相應。所以者何

心為使煩惱 障礙清淨遠

何二以何 身二有 唯二惟 勳二勳 (及)十心 設二說 掉二調 眠二睡 使二使 著二著 苦二若 分二名 性二姓 清淨二淨相

諸妙善可得 當知相應使

心為使煩惱者。若使心不相應不以煩心。若煩惱者是故相應障礙。名若使心不相應。不障礙諸善法。若障礙者善法不生。不障礙。使生是故相應。淨相違諸妙善可得者。若使不相應不與善相違。若不與善相違者善心亦應生。若不與善相違。應是煩惱性亦不應作患。若相違常相隨不生善。不相隨則生善。因此事故是相應使。

賢聖品第五

已說使品。賢聖品今當說

如此聖斷勞 衆恐怖之本

等方便正智 今當說善聽

不。亭心者無能起正見是以

始自身處所 繫縛心令定

亦欲縛識足 及盡煩惱怨

是方便於身 眞實相常定

諸痛及此心 法亦如是觀

此身不淨相無常相苦相無我相。是相定眞實彼自身一處繫心離心亂。始眞實觀身相。次觀痛後觀心。彼伴彼依及彼相應餘心數法。觀亦諸心不相應行。如其性如其相所有如是。彼身痛心法意。正次第生

入法中總觀 同觀諸法相

此四是無常 空無我非樂

入法中總觀同觀諸法相者。入法意止中彼聖總觀諸行相。觀諸行相已增長養。止。生無垢智眼。一切身痛心法總觀。問云何。答

此四是無常 空無我非樂

此身痛心法展轉相生。故無常不自在。故空非主故無我。惡災患故苦

從是名煖法 卽是意中生

行是十六行 正觀四眞諦

從是名煖法卽是意中生者。彼如是觀生善。煖。於中當生無漏智火能燒一切行薪。問彼何行何境界。答行是十六行正觀四眞諦。彼行是十六行境界。四眞諦四行觀苦諦。此苦性劣從因緣生故無常。無常力所壞故苦。內離人故空。不自在故無我。四行觀習此習成相似果故因。行相續習。一切生死無窮可得故有。不相似事相續故緣。四行觀滅此滅覆一切患盡故滅。除一切煩惱火故止。勝一切法故妙。捨生死故離。四行觀道此道至非品故道。非顛倒故如。一切聖所履故迹。生死患轉出故乘。是謂彼行十六行境界。四眞諦善根謂之煖法

彼起已成立 生頂及于忍

得世第一法 依倚於一相

彼起已成立生頂及于忍。若已成煖法於中復於欲界生善根如頂。亦十六行觀四眞諦。勝煖法故說頂。已增上頂生善根名爲忍。亦十六行觀四眞諦堪任故說忍。若忍已成立。得世第一法依倚於一相。一切世俗功德中。最勝生善根名世間第一法。開涅槃門故。於凡夫意中最勝故。說第一法。問以何等故說依倚於一相。答於凡夫意中。更無有比二功德。若有者彼亦應開涅槃門而不開。是故說依倚於一相。問彼幾行何緣何地所攝。

答

彼行苦四行 說攝依六地

彼行苦者。彼卽緣苦諦非餘四行者。謂行苦諦境界無常爲首。所以者何。如初無漏心緣彼亦復爾。說攝依六地者。彼法攝於六地。未來禪中間禪根本四禪。非欲界不定界故。非無色界無見道故。問餘善根何地所攝。答忍亦攝六地。餘則依於七

忍亦攝六地者。謂順忍六地所攝如世間第一法。餘則依於七者。煖及頂七地所攝。此六及欲界未除欲。欲界已除欲色界

世第一法次 必興起法忍

忍次生於智 俱觀於下苦

世第一法次必興起法忍。世間第一法次。生無漏法忍名苦法忍。彼未曾觀今觀時堪任故曰忍。是謂初無漏無礙道。忍次生於智者。彼次第生苦法智。同境界受眞實性解脫道。問彼忍及智何緣。答俱觀於下苦。下苦者欲界苦彼同緣

上苦亦如是 因滅道亦然

是正觀諸法 說十六淨心

上苦亦如是者。上苦是色無色界苦。彼亦是生忍無礙道智解脫道。苦未知忍及苦未知智。因者是習諦彼亦如是生四道。如苦習法忍。習法智習未知忍。習未知智。滅者滅亦如是生四道。滅法忍滅法智滅未知忍滅未知智。道亦然者。道亦如是生四道。道法忍。道法智道未知忍道未知智。是正觀諸法說十六淨心者。是見法。見法者。謂之正觀是

①名二者 ②使二便 ③應二遣非 ④亭二停 ⑤正二止 ⑥止二心 ⑦煖二暖 ⑧是二時 ⑨煖二暖 ⑩名十故 ⑪問二門

見異名

從法行利根 此在十五意

從信行當知 鈍見亦在中

從法行利根此在十五意者。彼十五心。頂若利根是說從法行。從信行當知鈍見亦在中者。即彼十五心。頂若鈍根是說從信行

未離欲界欲 趣向於始果
捨六趣至二 三向九無漏

未離欲界欲趣向於始果者。彼從信行及從法行趣沙門果時。若未離欲俱趣須陀洹果。捨六趣至二者。欲界煩惱九種。微微微中微上。上中微中。中中上上微上中上上。彼若凡夫時已離六種。彼於後若趣證。是俱趣第二果。三向九無漏者。若已離九種是俱趣阿那含果

若至十六心 是名住於果
信解脫。濡見 見到說利見

若至十六心是名住於果者。十六心名道未知智心相應。彼生已說住於果。未曾離欲界欲俱須陀洹。已離六品俱斯陀含。盡離九品俱阿那含。信解脫。濡見見到說利見者。若彼趣時從信行鈍根是信解脫。若彼從法行利根是見到

未盡思惟斷 極生生死七
家家有三盡 俱在道迹果

未盡思惟斷極生生死七者。彼信解脫及見到未離欲界思惟所斷煩惱。是生生死七。彼有天上七生及人中。故說極生生死七。家家有三盡者。若三種盡上微上中上上是說家

家。彼天上及人中。或生二家或生三家。後般涅槃故說家家。俱在道迹果者。極七有及家當言俱住須陀洹

六盡一往來 離八謂一種
九滅盡不還 已出欲汚泥

六盡一往來者。若有六種盡上三中三是斯陀含。彼餘一往來。人中一往來已般涅槃。故說斯陀含離八謂一種者。若八品盡是一種。彼餘。唯一生無餘故說一種。九滅盡不還者。若一切九品盡是阿那含。彼不復來欲界故說阿那含。所以者何。已出欲汚泥

如是九煩惱 若在上八地
彼雙道所滅 世尊之所說

如是九煩惱若在上八地者。如欲界九種煩惱。煖。煖至上。上上界亦如是。八地中梵世。光曜。遍淨。果實無量空處。無量識處。無所有處。非想非非想處。彼雙道所滅世尊之所說者。此一切煩惱欲界。及色無色界雙道所滅。以無礙道滅。解脫道得證。問此道為世俗。為無漏。答

有垢無垢道 俱能離八地
住中說身證 謂獲滅盡定

欲界地一。色界地四。無色界地三。亦世俗道滅亦無漏。凡夫從世俗道尚得遠離。況復。聖住中說身證。謂獲滅盡定者。住於八地無欲中。謂學得滅盡定是身證。所以者何。法似涅槃身所觸故說身證

金剛喻定次 必速得盡智
生意我生盡 離於一切漏

金剛喻定次必速得盡智者。金剛喻定名非想非非想處。離欲時第九無礙道最後學心。於中一切諸煩惱永盡無餘。一切聖行畢竟故。說金剛喻三摩提。此次第生盡智最初無學智。生意我生盡離於一切漏者。彼生定意我一切生盡。彼於爾時無著。解脫於一切漏。問無著。幾種。答
無著有六種 是從信生五
速得於二智 當知時解脫
無著有六種者。世尊說六無著。退法念法護法等住。必昇進不動法。於中若。濡智及。濡進。是得退具便退故說退法。煖智及。煖進。進力常自護心故說護法。中智及。等進。是不增不損等。住於中道故說等住。少利而廣進彼必得不動。故說必昇進利智。及廣進是始得不動故說不動。是從信生五速得於二智者。於中五曾從信行彼有二智。盡智及無學等見。當知時解脫者。彼當知時解脫是求時。不能一切時隨所欲學善
不動法利根 是不時解脫
獲得於三智 成就等解脫
不動法利根是不時解脫者。謂一向利根是不動法。彼不時解脫能一切時。隨所欲學善不求時。獲得於三智者。彼有三智盡智無生智無學等見。成就等解脫者。謂此五無著時解脫。是成就等意解脫。謂不動法是成就不動解脫
慧解脫當知 不得滅盡定

◎頂二頃◎◎* ◎[上]一◎◎◎濡二軟◎◎* ◎煖二軟◎◎◎◎*(賢)十聖◎◎◎◎(有)十幾◎◎◎◎◎智二頃◎◎◎

*唯有俱解脫 成就滅盡定

慧解脫當知不得滅盡定者。此六無著若不成就滅盡定。是說慧解脫是慧力解脫非定力。唯有俱解脫成就滅盡定者。此六無著若得滅盡定是說俱解脫。彼俱力解脫慧力及定力。已說賢聖。人法今當說

從信行諸法 及從法行法

聖道見諦道 是盡同一相

從信行法從法行法是說見道

於中諸根法 是名未知根

謂餘有學法 佛說已知根

於中諸根法是名未知根者。於見道法中謂根根數如心及痛信。前五根是未知根。謂餘有學法佛說已知根者。離見道學法諸餘學法中。即彼根說已知根

當知無知根 在於無學中

已得果便捨 前道應當說

當知無知根在於無學中者。無學法中即彼根說無知根。已得果便捨前道應當說者。此無漏法昇進得果時。捨無礙道所攝及解脫道

已盡為解脫 得攝於一果

不穢汚第九 滅盡應當說

已盡為解脫得攝於一果者。無礙道至解脫道。於其中間得煩惱盡。但得果時一切煩惱盡得一解脫果。不穢汚第九滅盡應當說者。說諸煩惱九種道所滅。但不穢汚第九無礙道一時斷不漸漸

若有相似名 彼能獲不動

無著及信脫 彼同性增道

若有相似名彼能獲不動者。謂無著不能一切得不動。性必昇進得彼是相似名。無著及信脫彼同性增道者。謂信解脫一向性必昇進。是增益諸根速得見到非餘。問云何知漸漸見諦。答

建立功德惡 次第見真諦

非以見功德時見惡。亦不以見惡時見功德。亦非初總觀彼惡。亦非一時一切厭。亦非總功德諸功德亦非一時合。是以建立功德。惡次第見真諦。問云何知有為無為果。答以無礙道力得有為無為果。無礙道力得有為果及無為果。是故以無礙道力。得有為無為果阿毘曇心論卷第二

阿毘曇心論卷第三

*尊者法勝造

晉*太元元年僧伽提婆

共*惠遠*於廬山 譯

智品第六

智慧性能了 明觀一切有

有無有涅槃 是相今當說

謂智賢聖品已略說有無。有境界今當說

三智佛所說 最上第一意

法智未知智 及世俗等智

此三智攝一切智。於中法智名謂境界。於欲界苦習滅道無漏智境界。是初受法相故曰

法智。從法智根現見已。非根現亦見未知智。未知智名謂境界。色無色界苦習滅道無漏智境界。是後受法相故曰未知智。等智名謂有漏智。是多取等諦。智男女長短為首

苦習息止道 二智如可得
此名與四智 解脫師所說
此二智法智未知智。若行於諦如是相似名所說。苦諦境界說苦智。習諦境界說習智。滅諦境界說滅智。道諦境界說道智。解脫師所說

若智觀他心 是從三中說

盡無生智二 境界在四門

若智觀他心是從三中說者。他心智謂有漏境界。是等智境界。欲界道是法智境界。色界道是未知智。盡無生智二者。無學二智盡智無生智。於中所作已竟受無學智是盡智。不復更作受無學智。是無生智是亦法智未知智。問盡智無生智何諦境界。答境界在四門。此二智四諦境界苦習滅道。已說十智。行今當說

二智十六行 法智未知智

如是行或非 是說為等智

二智十六行法智未知智者。法智性是十六行四行受。苦四行習四行滅四行道未知智。色無色界亦爾。如是行或非是說為等智者。煥頂忍第一法中攝等智行。無漏行二諦所攝。十六行第一法攝四行聞思。及餘思惟等智十六行。離此餘等智非十六行。謂施戒慈如是比

四智有四行 決定行所說

如是比

①見一先 ②首二等 ③性二惟 ④惡二非 ⑤惠二慧 ⑥智二知 ⑦說十(也) ⑧煥二暖

正觀他心智 此或是或非

四智有四行決定行所說者。苦智四行如上說。習滅道智亦如是。正觀他心智此或是或非者。無漏他心智四行如道智有漏非

盡智無生智 離空無我行

說有十四行 受相為最勝 盡智無生智離空無我行。說有十四行者。盡智無生智十四行除空無我行。所以者何。彼行等諦我已作不復更作。空無我者不以此行。受相為最勝者。非一切無漏智在十六行。十六行者是總行。更有無漏智受十六相。如身意止是自相智。不在十六行前受十六行。此自相行於諸無漏智前受故勝。已說十六行。如此智所得今當說

第一無漏心 或有成就一

二或成就三 於上增益一

第一無漏心或有成就一者。第一無漏心苦法忍相應。未離欲成就一等智。已離欲成就他心智。二或成就三者。第二無漏心苦法智相應。未離欲成就三法智苦智等智。已離欲成就他心智。於上增益一者。於上四。時增說一。四時得苦未知智。得未知智習法智。得習智滅法智。得滅智道法智。得道智。忍中不得智。問此智何地所攝。答

九智聖所說 依倚於上地

禪中有十智 無色地中八

九智聖所說依倚於上地者。未來禪中間禪。無他心智根本禪攝。禪中有十智者。根本四禪中有十智無色地中八者。無色中有八

智除法智他心智。法智者境界。於欲界不以無色境界。於欲界他心智行。乘色無色中無色。已說地。修今當說。修有二種得修行修

得修者。謂功德未曾得而得。得已諸餘功德彼所倚。亦得得已後時不求而生。行修者。謂曾得功德今現在前行。問此諸智云何修。答若以得為修 智者諸聖見 彼即當來修 諸忍亦如是 若已得為修智者諸聖見彼即當來修者。見諦道中謂智現在前行。即彼當來修法智乃至道智。諸忍亦如是者。忍亦如是苦法忍現在前行。即苦法忍當來修。非智非餘忍如是一切

是於三心中 得修於等智

或修七或六 最後心所說

是於三心中得修於等智者。即見諦道中。三心。須當來修等智。苦未知智。習未知智。滅未知智。行此三諦時得修等智。所以者何。此三諦。習已觀非道諦。謂地見道即彼地等智及欲界。或修七或六最後心所說者。道未知智離欲修七智。謂阿那含果所攝。未離欲修六智除他心智。彼中非想非非想道得沙門果。是以不修等智

十七無漏心 於上思惟道

當知修於七 六修增益根

十七無漏心於上思惟道當知修於七者。須陀洹果上思惟道。十七心。須修七智。此道未來禪所攝是以無他心智。盡智無生智是無學。以故無餘七智必修。所以者何。彼意

此功德常不空。若不修者曾得已捨復未更得。於其中間應空而不空是以必修。六種增益根者。增益根名謂信解脫。增益諸根逮得

見到。彼有九無礙道九解脫道。是一切無礙道一切解脫道修六智。此說未離欲是以無他心智。爾時學道不學斷煩惱。彼未曾得修功德非已曾得。是以不修等智 得不還果時 遠離於七地 思學諸通道 解脫修習八

得不還果時者。若得不還果修八智彼中要得根本禪是以修他心智餘智如前。遠離於七地者。四禪三無色離欲時。一切九解脫道修八智。於中一切修下地禪。思學諸通道解脫修習八者。三通如意足天眼天耳。一切九解脫道修八智。所以者何。攝根本禪故

此無礙道中 及滅第一有 彼八解脫道 說者修習七

七地離欲時一切無礙道中。修七智除他心智。所以者何。此無礙道修滅結。智他心智非滅結。以故不修非非想處第一有。彼離欲時八解脫道中修七智除等智。所以者何。等智於非想非非想處轉。還以非離故

離於第一有 六修無礙道 乘上應當知 修習於下地

離於第一有六修無礙道者。第一離欲時九無礙道中。修六智除他心智及等智。乘上應當知修習於下地者。此修一切地當知修自地諸智。及下地所攝。謂依初禪離欲彼修二地功德。自地所攝及未來禪。如是至無所有處

此功德常不空。若不修者曾得已捨復未更得。於其中間應空而不空是以必修。六種增益根者。增益根名謂信解脫。增益諸根逮得見到。彼有九無礙道九解脫道。是一切無礙道一切解脫道修六智。此說未離欲是以無他心智。爾時學道不學斷煩惱。彼未曾得修功德非已曾得。是以不修等智 得不還果時 遠離於七地 思學諸通道 解脫修習八

◎說二者◎ ◎時十(中)◎ ◎上二二◎ ◎色十(地)◎ ◎以二已◎ ◎須二頃◎ ◎習二智◎ ◎學十(智)◎ ◎種二修◎ ◎前十(說)◎ ◎八二入◎ ◎智二習◎ ◎離二敵◎

漏無漏一切 諸地修功德
初無學心中 此未知智意

漏無漏一切諸地修功德初無學心中者。得無著果時九地及自地。亦一切諸地於中修。所以者何。非想非非想處地煩惱相違。一切地有煩惱意不明淨。無煩惱意明淨。是以離彼修一切。問此無學初心何智相應。答此未知智意。是初無學心未知智相應。彼作是念我生已滅。是非想非非想處生緣。所以者何。最後盡故是以苦未知智相應。問又世尊言見智慧此三為一種為種種。答此是慧之差別慧性所有。但以事故世尊或說見或說智。問此義云何。答

謂決定能知 諸忍非智性
盡智則非見 無生智亦然
謂決定能知諸忍非智性者。修行八忍能求故見能視故慧。但非智不決定故。所以者何。用始緣故。盡智則非見無生智亦然者。盡智無生智視故慧決定故智。但非見不求故無所為故。餘無漏慧種三性所有見智及慧。善俗有漏智 在意及諸見
當知此則見 說一切是慧
善俗有漏智在意及諸見當知此則見者。意識地中善有漏慧。三性見智及慧。五見煩惱性此見所有觀察故。亦不離智及慧。餘有漏慧種非見性所有。所以者何。無記意識相應慧種。非見性所有不觀察故。穢汚慧種亦非見性。所有煩惱所壞故。五識相應慧種亦非見性。所有不觀察故亦不離智性。說一切是

慧者。謂前所說離如忍中。離智盡智無生智離見。除善意識地及五見已餘有漏慧離見慧不如是。所以者何。一切智種一切見種即是慧種故。問一智幾智緣。答
法智未知智 曉了於九智
因智及果智 是二智境界
法智未知智曉了於九智者。法智觀九智緣九智除未知智。所以者何。未知智者非欲界果非欲界因非欲界滅非欲界道。未知智亦如是九智緣除法智。因智及果智是二智境界者。習智是因智。彼有漏他心智及等智緣同習故。餘非緣無漏故。苦智亦如是此即果智
道智是九智 解脫智無緣
餘一切境界 決定智所說
道智是九智者道智境界九智不緣等智有漏故。餘盡緣同道諸故。解脫智無緣者。解脫智是滅智。非緣智緣無為故。餘一切境界決定智所說者餘有四智緣一切十智。等智緣十智境界一切法故。他心智亦緣十智。具他心智境界故。盡智無生智亦緣十智。一切有為境界故。問又世尊言。未知智如離非想非非想處得無著果。未知智是彼道。非以此可知未知智。是彼道非餘耶。答亦有法智是色無色界道。問何者。答

若息止及道 法智之所行
是滅於三界 非欲未知智
若息止及道法智之所行是滅於三界者。謂滅法智及道法智。在思惟道是滅於三界結。或有法智離色無色界欲。謂此重見惡是於

欲界思惟滅及道。離色無色界欲非苦智非習智。所以者何。不同苦習同於滅道故。問頗有未知智滅欲界不。答非欲未知智。無有未知智能滅於欲界。所以者何。無彼重見惡而悲此。問神通智性所有彼。亦應當說一一幾智。答
如意足等智 天眼耳亦然
六於宿命 五說他心智
如意足等智天眼耳亦然者。如意足說等智天眼耳亦然如是。無漏智不以此行。六於宿命命者。宿命通有六智。法智憶法智分未知智憶未知智分等智憶俗。苦智憶過去苦智智。憶過去習道智憶過去道。五說他心智者。他心智通有五智。法智知他心中法智及彼相應心心數法未知智亦如是。等智知他俗心心數法。道智知他無漏心心數法他心智

九智漏盡通 聖人之所說
八境界於身 法十九智二
九智漏盡通聖人之所說者。漏盡通無漏九智。一切漏相違故。問又世尊言。身身觀意止觀者。是慧此意止何。智所有。答八境界於身八智觀身色假名為身。是八智所知除他心智及滅智。若智緣色者是身意止。此二智不緣色。法十者。法意止有十智離色痛心餘法。謂法是境界有十智自。相界。及一切總。如是法意止。九智二者。痛及心九智除滅智。謂智緣痛是痛意止。謂智緣心是心意止。問諸如來有智力。云何如來力施設智。及如

○滅二盡○ ○悲二非○ ○智十(性)○ ○相十(境)○ ○如二智○知○

來四無所畏智性。所有如所說我等正覺。此諸法未等正覺不見此相。如是一切此亦應當分別。一一幾智性所有。答

是處非處力 及無畏第一
此是佛十智 餘此中差別

是處非處力及無畏第一此是佛十智者。佛有十智是處。非處力。是處智名受諸法真實相真實行。受知此法如是相如是行。是謂是處智非處智。名諸法他相他行不可得。則知非此法如是相如是行是名非處智。是佛十智初無畏。亦十智等正受故。餘此中差別者。是處非處力差別有十力初無畏差別。有四無所畏處非處智。是境界差別故十種分別初無畏亦境界差別故四種分別。問四辯亦智性所有。此亦應當分別。一一幾智。答

法辯辭辯一 應義辯俱十
願智是七智 智最勝所說

法辯辭辯一者。法辯名覺諸法名是等智。非以無漏智受名。世俗中名是假號。無漏智不以此行。辭辯名覺正說。此亦等是俗中假智號。應義辯俱十者。應辯名觀及現無所罣礙方便智是十智義。辯名覺諸法真實。彼亦十智受真實相故。其人云辭應二辭應一問願智有幾智。答願智是七智智最勝所說。願智有七智除他心智盡智無生智。願智者利捷疾境界。於三世受一切諸法。是七智性所有。其人云定品第七問如是知諸智。此智當云何。答

智依於諸定 行無罣礙行

是以思惟定 欲求其真實

智依於諸定行無罣礙行者。如燈依油離風處光焰甚明。如是智依於定意離諸亂。智光甚明必定無疑行於緣。是以思惟定欲求其真實

決定說四禪 及與無色定
此中一一說 雜味淨無漏

決定說四禪及與無色定者。有八定四禪及四無色定。此中一一說雜味淨無漏者。初禪有三種味相應淨無漏。如是一切諸定。門云何味。相應。云何淨。云何無漏。答

善有漏是淨 無熱謂無漏
氣味愛相應 最上無無漏

善有漏是淨者。謂善是淨故說淨。無熱謂無漏者。煩惱假名熱謂定無煩惱是無漏。氣味愛相應者。謂禪無色定愛相應。是具足共相應共行是說味相應。最上無無漏者。最上非想非非想處彼中無無漏。不捷疾行故是有三種餘各三種。問禪何性所有。答

五枝有覺觀 亦復有三痛
若若干種四心 謂之是初禪

五枝者。謂五枝攝受初禪令堅固。亦從此得名覺觀。喜樂一心覺名。當入定時。生善功德。始能心思惟觀名。令心細相續相連喜名。於定中悅樂名。已悅於身心中心安隱快樂。一心名。於緣中心專不散。此種住定時是枝及入時捨時是故五枝。初禪有覺觀者。有覺有觀即是初禪。問以受五枝今覺觀何用。答枝者謂善是於五枝中。說穢污及無記。

亦有覺有觀而不是善。亦復有三痛者。初禪有三痛樂根喜根護根。於痛中樂根是身痛。喜根是意地。護根在四識。若干種者梵世中若干種有上有下。是說具足生處。四心者初禪有四心。眼識耳識身識意識。謂之是初禪者。此一切諸法謂是初禪。已說初禪。第二今當說

二痛若干種 二禪有四枝
五枝是第二 此禪說二痛

二痛者。第二禪有二痛喜根及護根。若干種者。於中身有若干種。已離覺觀有若干心。或時入喜根或時入護根。但喜是根本邊有護根。二禪有四枝者。第二禪有四枝。內淨喜樂一心內淨名。是信於離中生信。已得初禪離便作是念。一切可離餘枝如前說。此種於第二禪是枝。五枝是第三者。第三禪有五枝樂護念智一心。樂者意識地中樂根。護者已樂於樂不求餘。其人云護念雖有念者。是護方便不捨智者不令樂。一心者定此種於第三禪中是枝。此禪說二痛者。第三禪有二痛。樂根及護根。樂根是根本。護根是邊

離息入息出 第四有四枝
此枝謂說善 亦復分別種

離息入息出者。息入者來息出者去。是第四禪中無。所以者何。彼由定力故身諸毛孔合。第四有四枝者。第四禪有四枝。不苦不樂護淨念。一心求離苦樂。不苦不樂餘如前說。問何禪是枝。相應。答此枝謂說善。善禪枝相應枝非穢污亦非無記。亦復分別種者。謂

人二經師 辭二辯 辭一也 門二問 相一 是十以 建一捷 三二二 枝二支 千二 初十生 一 入二受 枝二支 下 二禪 三二四 離二痛 云二立 也 二二三 四二三 求二永 相二根

種隨處已說。當知是餘處不應有。如初禪有覺有觀。四心說此種餘一切地無。第四禪離息入息出。是三中無不應說。已說四禪四無色定。謂餘今當說。問如世尊言。有根本依。若未離欲。未有根本依。而有無漏功德。是無漏功德何地所攝。答未來禪所攝。又世尊所說有三定。有覺有觀無覺少觀無覺無觀。於中初禪是有覺有觀。第二禪是無覺無觀。謂無覺少觀。定是何地所攝。答是中間禪所攝。是未來禪中間禪相今當說。

相應有覺觀 俱在未來禪
觀相應中間 明智之所說

相應有覺觀俱在未來禪者。未來禪中有覺有觀。觀相應中間明智之所說者。中間禪少有觀而無覺。彼漸漸心息止。

無依而二種 除其味相應
中禪有三種 俱為說一痛

無依而二種除其味相應者。未來禪一向善有漏及無漏。有漏者淨。無漏即無漏。中禪有三種者。中間禪有三種味淨無漏生死居故。俱為說一痛者。未來禪及中間禪俱有一痛護根非本地故。已說諸定餘功德。於中攝今當說。

三摩提有通 無量修一切
除入及諸智 解脫於中起

三摩提者。三三摩提空無願無相。無漏心繫縛故。有通者。有六通如意足智天耳智他心通智憶宿命智生死智漏盡通智。無量者。四無量慈悲喜護。無量眾生境界故曰無量。修

一切者。十一切入。地一切入。水火風青黃赤白一切入。無量空處一切入。無量識處一切入。盡具解脫一切入。除入者。八除入內未除色想不淨觀少境界。一無量境界。二除色。相少境界。三無量境界。四復除色想青黃赤白觀除入。除淨境界故曰除入。及諸智者。諸智有十如前說。解脫者。八解脫未除色想不淨思惟一。除色想不淨思惟二。淨思惟三。四無色及滅盡定。境界背不向故說解脫。於中起者。此諸功德九地中可得及於中起。其人云 應十地已說諸功德隨地可得今當說。

一慧悲及護 慈亦有五通
說遍四禪中 六中有現智

一慧悲及護慈亦有五通。說遍四禪中。六中有現智。一慧悲及護慈亦有五通說遍四禪中者。一慧謂他心智三無量。及五通是一切功德根本。四禪中非餘。六中有現智者。現智是法智。六地中有根本四禪未來禪中間禪。

除入中說四 於中亦有喜
初解脫及二 功德初二禪

除入中說四。於中亦有喜。初解脫及二。功德初二禪。前四除入喜等初二解脫。此功德初二禪中非餘。

除入謂有餘 及與解脫一
亦八一切入 佛說最上禪

除入謂有餘。及與解脫一。亦八一切入。佛說最上禪。後四除入淨解脫前八一切入。是功德第四禪中非餘。

除脫即名說 二一切亦然
滅盡最在後 餘九謂無漏

除脫即名說。二一切亦然。滅盡最在後。餘九謂無漏。餘脫即名說。二一切亦然者。餘四解脫自名

所說。及二一切入亦如是。無量空處解脫無量空處一切入。於無量空處中所攝如是。至非非非想處所攝。滅盡最在後者。滅盡定非非非非想處所攝。所以者何。謂未離彼欲亦入。餘九謂無漏者。謂餘無漏法九地所攝。如三三摩提七智漏盡通是九地所攝。四禪三無色未來。及中間等智是十地所攝。此亦非非非非想處可得定數故。問此功德幾有漏幾無漏。答。

三解脫當知 有漏及無漏
定智已分別 謂餘盡有漏

三解脫當知有漏及無漏者。無量空處無量識處。無所有處解脫是有漏無漏。定智。無分別者。定如契經品說。無漏智及諸通如智品說。謂餘盡有漏者。餘一切功德一向有漏。如三通威儀法故色聲受相故。無量眾生緣故。一切入意解希望故。三解脫亦如是。非非非非想處非。捷疾行故。想智滅離覺觀故。除入亦意解希望故。已說諸功德。相成就今當說。

未能度於欲 成就味相應
度下未至上 成就淨諸定

未能度於欲成就味相應者。謂地若未離欲。於彼地成就味相應度。下未至上成就淨諸定者。謂離欲界欲。若未生梵世地上地。彼成就淨初禪。及初禪地有漏功德。如是一切盡當知。

住上應當知 無漏成就禪
求得諸功德 知非無欲中

住上應當知無漏成就禪者。謂離下地欲彼住上地。亦成就下地無漏。如見諦離欲住梵世。上地。成就無漏初禪。及初禪地定等諸無漏功德。如是一切盡當知。世俗功德繫在隨生處。無漏在斷中。是以離生處捨有漏功德不捨無漏。求得諸功德知非無欲中者。已說離下地欲成就上功德。當知非一切功德離欲時得。如如意足智天眼智天耳智無記。性所有。欲及滅盡定。此求得。非離下地欲時得。已說成就因緣今當說。定種有二十三。八味。相應八淨七無漏。問此一一種幾種因。答

妙無漏無染 七種謂之因
淨味相應禪 當知因有一

妙無漏無染七種謂之因者。一一無漏七種自然因。自地相應因。淨味相應禪。當知因有一者。味相應初禪。於味相應初禪因非餘。非善因不相似故。非餘地穢汚因行相違故。淨初禪於淨初禪因。非穢汚因不相似故。非無漏因亦不相似故。非餘地淨因自地果報故。及自地繫縛故。如是一切盡當知。已說因緣次第緣。今當說問一一次第生幾種。答

無漏禪次第 興起六種禪
七八九有十 起禪亦空定

無漏初禪次第生六種自地淨及無漏。如是第二第三禪無漏。無所有處次第生七。自地二下地四上地一。無漏第三禪次第生八。自地二下地二上地四。無漏無量識處次第生九。自地二下地四上地三。餘無漏次第生十。

自地二下地四上地四

淨六有七八 九十生十一
味相應諸禪 興二乃已十

淨六有七八九十生十一者。淨非想非非想處次第生六。自地味相應及淨下地四。淨無漏無所有處無量識處。非味相應離欲故。如是一切盡當知。一切自地味相應。味相應諸禪興二乃以十者。味相應禪次第生二。自地味相應及淨不生餘。各各相違故。如是一切自地二下地一淨。其人云不應。一切味相應死時生。已說次第緣緣。今當說問一一幾種緣答

淨以無漏禪 必緣一切地
穢汚相應禪 獨緣於己地

淨以無漏禪必緣一切地者。淨及無漏禪一切地緣一切種。穢汚相應禪獨緣於己地者。味相應禪緣於自地味相應禪及淨。非無漏愛無無漏緣。亦不樂於他地

無色無有力 緣下有漏地
善有根本地 穢汚如味禪

無色無有力緣下有漏地者。無色定不能緣下地有漏法極寂靜故。問何謂無色不能緣下地有漏法。答善有根本地淨。及無漏根本無色。是自地緣及上地非下地緣。穢汚如味禪者。如味相應說無色亦然

謂餘於色界 無量等功德
是必欲界緣 世尊之所說

謂色界餘功德如無量等。一切入除入及解脫。唯緣欲界緣無量苦眾生。青等諸色此則

欲界。所以者何。神通二界緣故。問世尊所說

動禪是云何。答。動一切四禪無漏者。動有漏是無漏力故。受淨居果報。問若一切四禪

* 動者。以何等故下三禪中無淨居果。答
若能動諸禪 是依第四禪
三地愛盡故 淨居果實中

若得第四禪是能動禪。第四禪者先。動餘者後。謂得第四禪離三禪欲。以是故下地無有淨居果實中。有問世尊言。有願智是云何。答。謂

無著性不動 是得一切定
彼由定力故 能起頂四禪

於中若彼意生功德。願智不諍辯首諸功德。願智者如所願入定。或過去或未來或現在。或有為或無為是一切盡知。不諍者。欲令他意不起諍。便不起辯者。諸法義及味決定。無疑不罣礙無所畏。問是願智不諍及辯何地攝。答

三地有願智 無諍依五地
法辭辯依二 二辯依於九

三地有願智者。願智三地所攝。第四禪初禪及欲界。入第四禪知初禪及欲界。說無諍依五地者。無諍五地可得根本四禪四及欲界。欲令一切不諍。法辭辯依二者。法辯名緣味是欲界及梵天世。非上地離覺觀故。辭辯名是味撰智。彼亦二地中可得。欲界及梵天世。二辯依於九者。義辯及應辯九地中可得。四禪四無色及欲界。已說初禪。當知已說未來及中間。此是初禪眷屬故。問云何得此定。答

性二餘 欲二故 此十功德 無十相 餘二因 三二 九二無 已二以 緣十 十緣 初十禪 應十禪 唯二惟 動二熏 謂一 所十辯

斷欲亦復生 而得於淨禪
穢汚退及生 無漏唯斷欲

斷欲亦復生而得於淨禪者。淨初禪二時得。離欲時及上地沒生梵天世。如是一切盡當知。穢汚退及生者。穢汚味相應是退時得。若欲界及梵天世遷退於爾時得。味相應初禪生時得者。若上地命終生欲界及梵天世於爾時得。味相應初禪如是一切盡當知。無漏唯斷欲者。無漏唯斷欲時得。謂聖得離欲於爾時得無漏初禪。如是一切盡當知。問此功德誰能除煩惱。答

無漏除煩惱 亦復定中間
一切定中間 相應於護根

無漏除煩惱者。無漏初禪八地除煩惱。如是一切盡當知。亦復定中間者。定中間名謂下地除欲。以方便道故終不得根本。生。未得離欲餘不能除。一切定中間相應於護根者。一切定中間護根相應終不得喜至不得義。問變化心有幾。謂有如意足能變化答八。四禪果欲界。四禪果初禪地。問彼誰成就。答

下地變化意 成就彼種果
若合三種心 上地應當說

下地變化意成就彼種果者。謂若成就禪是成就彼果下地變化心。問如說初禪有四心。住於上地欲聞欲見。彼云何見聞。答。梵世地識現在前。問彼幾時成就。答若合三種心上地應當說。若時彼識現在前。若眼識。若鼻識若耳識若身識。爾時成就彼識。若

不現在前即滅爾時不成就
阿毘曇心論卷第三

阿毘曇心論卷第四

尊者法勝造

晉太元元年僧伽提婆
共惠遠於廬山譯

契經品第八
已說定品契經品今當說

一切智所說 契經微妙義
此吾今當說 宜應善心聽

雖有一切阿毘曇契經義。然諸契經應具分別今當說。世尊說三界欲界色界無色界。問此云何。答

欲界十居止 色界說十七
無色中有四 三有亦復然

欲界十居止者。此欲界十居止。地獄畜生餓鬼人。六欲天。四王天。三十三天。炎。摩。兜。師。哆。化。樂。他化自在。是衆生起欲想。此處所中若可得物盡望望欲所有。是以說欲界。問色界云何。答色界說十七。色界說十七者。居梵身梵宮樓光。少光無量光光曜。少淨無量淨遍淨。無量礙受福果實。無想衆生不煩不熱善見善現色究竟。此處所不起欲想。但成極妙色。非男非女形是故色界。無色中有四者。無色界四。居無量空處。無量識處。無所有處。非想非非想處。此處所無色彼離

色欲。是以說無色界。問世尊說三有欲有色有無色。此云何。答三有亦復然謂前三界分別即是三有。問如世尊所說七識住。是云何。答

善趣是欲界 及色界三地
無色亦如是 慧知諸識住

此欲界中若趣善數。如人及六欲天。色界前三地無色前三地。初禪地上。二禪地三。二禪地上。三禪地三。三禪地上。四禪地九。於中前三地及無色前三地。是說七識住。何以故。不壞識故惡趣中苦痛壞故。不得立識住。第四禪無想定壞故。亦不得立識住。非想非非想處。滅盡定壞故。不得立識住。是故不說

第一有無想 衆生居說九
諸有漏四陰 是說四識住

第一有無想衆生居說九者。此七識住及無想衆生非想非非想處。是說九衆生居。於中衆生居止是故說衆生居。諸有漏四陰是說四識住者。有漏色痛想行。若識相續有此伴。是故說識住。問世尊說十二枝緣起。此亦應當說相。答

諸煩惱及業 有體漸漸生
是名說有枝 衆生一切生

於中煩惱是無明愛受名說業者。行及有名說體者。餘枝是一切衆生漸漸生依體立煩惱。煩惱所作業業所作體。是故十二種分別。問此枝為一時行為漸漸。答非一時。十二苦陰說十二枝。無明為首

除二斷(一) 生二至(二) 地至(三) (若鼻識)一(四) (第)一(五) 惠一兼(六) 四十(天) (摩)十(天) (師)二(摩) 陀天(七) 樂十(天) 在十(天) (受)一(二) 欲二(欲) 居十(止) (光)一(三) 故十(說) 二二三 是二故 枝二支 受二取 苦二若

彼是次第立 受於生死中
過去及未來 處中說於八

彼有*枝次第立於中前生時一切煩惱。共有
及伴說無明。由此故造業。業造果是行。彼生
種心是識。彼共生四陰相續是名色。於中所
依眼為首。諸根是六入。根境界心和合是更
樂。更樂所生受是痛。痛所著是愛。痛具所煩
勞是受。彼所勞造業是有。於中更受果是生
彼生中無量起災。患是老死。如是此有*枝
一切生中。二攝過去世。二未來。八現在生
中攝。問世尊說六界此云何。答

諸大謂有四 及與有漏識
亦色中間知 是界說生本

諸大謂有四及與有漏識亦色中間知者。四
大地水火風有漏識及色中間可知。謂眼所
受此六法說界。問以何等故於衆多法中說
六界。答是界說生本。是六法生死之本。此中
有士夫想。於中身地所生。水所潤火成熟除
爛腐臭。風所起。空中間飲食。由風行出入識
所立。此中起士夫想。是生死性故說界。問世
尊說四聖諦此相云何。答

諸行若有果 有漏是說苦
若有因是習 苦盡謂之滅

諸行若有果有漏是說苦者。一切有漏。從行
因中生。亦作一切苦患。是故一切行說苦諦。
若有因是習者。一切有漏行。他因。是以一
切行說習諦。如一女亦說母亦說女前後故。
如是有漏行亦說苦諦亦說習諦。已生當生
故。苦盡謂之滅者。一切有漏行滅休息止謂

之滅諦

若有無漏行 是說為道諦
彼為二事故 見著則知微

若有無漏行是說為道諦者。一切無漏行說
道諦。何以故。休息苦時盡是。具故。問何以
故說諦。答彼為二事故。二事說諦。自相真
實非顛倒。及見彼得非顛倒意。問如前因後
果。以何等故。世尊前說果後說因。答見著則
知微。聖諦雖有前習後苦。先修道後得滅。但
應前見苦諦後見習諦。如是應先見滅諦後
見道諦。何以故。苦難習細滅難道細。是故世
尊先說苦諦後說習諦。先說滅諦後說道諦。
問世尊說四聖沙門果此幾種。答

聖果有六種 最勝在九地
第三在六地 二俱依未來

聖果有六種者。六種四沙門果無漏五陰及
數緣滅。問四沙門果何地所攝。答最勝在九
地。最勝是無著果。是九地所攝。根本四禪
三無色未來及中間。第三在六地者。不還果
六地所攝。具足四禪未來及中。非無色以
無法智故。二俱依未來者。須陀洹果及斯陀
含未來禪所攝。以未離欲故。問世尊說四道。
苦非速。通苦速。通樂不速。通樂速。通此何
相。答

從信行諸法 無煩惱遲想
從法行諸法 無煩惱速想

從信行諸法無煩惱遲想者。從信行無漏法
是非速。鈍根聲所攝是遲。若受此當知信解
脫時解脫。亦受同鈍根故。從法行諸法無煩

惱速想者。從法行無漏法利根聲所攝是速。
若受此當知見到不時解脫亦受同利根故

根本禪地中 知假名樂想
小及難得故 餘皆是苦想

根本禪地中知假名樂想者。根本四禪中利
根及鈍根法說樂道。何以故。止觀。導等故
及樂行故。小及難得故餘皆是苦想者。餘地
攝無漏是苦想。所以者何。以小故。未來禪中
間禪止道小。無色中觀小。是故極苦一向難
得及小故說苦。問世尊說四不壞淨。於佛不
壞淨。於法僧聖戒不壞淨此云何。答

自覺聲聞法 解脫亦餘因
清淨無垢信 聖戒及決定

自覺聲聞法解脫亦餘因清淨無垢信者。自
覺是佛。彼佛無著果所攝。無學功德是佛法。
於此法若無漏信。是說於佛不壞淨。已取正
證聲聞。彼學無學功德是說聲聞法。於此法
若無漏信。是說於僧不壞淨。涅槃中無漏信
及餘有為法。如苦諦習諦信。菩薩無漏功德
信。學無學辟支佛法信。是說於法不壞淨。聖
戒者無漏戒。是說於戒不壞淨。問以何等故
不壞淨。一向無漏非有漏。答及決定此是決
定。從正見中生故無漏信無漏戒定無漏有
漏信者為不信所壞。有漏戒者為非戒所壞。
是以不決定。無漏不壞至後生是以決定。故
不壞淨一向無漏。問世尊說修定有四。有修
定於現法中得樂居。有修定得知見。有修定
分別慧。有修定得漏盡。此何相。答

初禪若有善 說現法是樂

①去二二② ③種十(子)④ ⑤患二資⑥ ⑦從行二行從⑧ ⑨他二說⑩ ⑪具二道⑫ ⑬中十(間)⑭ ⑮通二道⑯ * ⑰導等二
等道⑱

若知於生死 是說名知見

初禪若有善說現法是樂者。淨及無漏初禪能得現法樂居。若知於生死是說名知見者。生死智通。是說修定知見共依五陰。

慧分別當知 求得諸功德

金剛喻四禪 是名為漏盡

慧分別當知求得諸功德者。方便生功德名欲界戒。聞思修功德一切色無色界善法。一切無漏有為法。是一切修定分別慧。金剛喻四禪是名為漏盡者。金剛喻名最後學心共相應。共有第四禪所攝。是說修定漏盡。何義此如來自已說。問世尊說四如意足四正斷四意止。彼亦應當說相。答

善有為諸法 求方便等起

佛說如意足 亦現正意斷

善有為諸法求方便等起佛說如意足者。求方便等起如前修定分別慧。說是一切如意足。如意乘器故。亦現正意斷者。即此一切功德說正斷

彼亦是意止 四聖種亦然

謂有恩力生 彼聖之所說

彼亦是意止者。即此法亦說意止。問世尊說四聖種此云何。答四聖種亦然。即此法亦說四聖種。問何以故。此一切功德。說意止正斷如意足聖種。答謂有恩力生。彼聖之所說。此諸法謂定恩力生由定。住。是故說如意足。精進恩力生故說正斷。念恩力生故說意止。少欲知足。恩力生故說聖種。已共分別道品。自相今當說

淨信精進念 喜慧及倚覺

護思惟戒定 是法謂道品

此十法說道品非餘。於中信是信根信力精進是四正斷。精進根精進力精進覺。枝正方便。念是念根念力念覺。枝正念。喜是喜覺。枝。慧是四意止慧根慧力。擇法覺。枝正見。倚是倚覺。枝。護是護覺。枝。思惟是正志。戒是正語正業正命。定是四如意足定根定力定覺。枝正定。問何以此法如是多種分別。答

處方便一意 濡鈍及利根

見道思惟道 佛說三十七

處者。正念立緣中故說意止。方便者。正方便故說正斷。一意者。立一意故說如意。足。濡鈍意得故說根。利根者。利根意得故說力。見道者。見道得故說道。支。思惟道者。思惟道得故說覺。支。是謂分別事故。佛說三十七。此十法事故佛說三十七。問此道品何地所攝。答

禪第二未來 是說三十六

三四三十五 中間禪亦然

禪第二未來是說三十六者。第二禪無正志未來禪無喜覺。枝。餘有三四三十五。中間禪亦然者。第三第四禪中間禪。無喜覺。枝。無正志餘有

第一說一切 三空三十一

最上二十一 欲界二十二

第一說一切者。初禪具有三十七。三空三十一者。三空中有三十一。喜正志正語正業正

命身意止彼中無餘有。最上二十一者。非想非非想處。無七覺八道及身意止。欲界二十二者。除覺。枝道。枝餘有。問世尊說四食揣食更樂食意思食識食。是何。想。答

諸食中揣食 是欲界三種

識思及更樂 是食謂有漏

諸食中揣食是欲界三種者。欲界揣食三種香味細滑。除飢渴故說食。識思及更樂是食謂有漏者。有漏識有漏思有漏更樂。是說食有何義。後生相續不斷故說食。問世尊說三摩提空無願無相。此三摩提云何行幾行。答

無願有十行 二行是空定

聖行中四行 說是無想定

無願有十行者。無願三摩提行十行。無常行苦行習諦四行道諦四行。二行是空定者。空三摩提二行空及無我行。聖行中四行說是無想定者。無想三摩提滅諦四行。問世尊說四顛倒。於無常有常想心顛倒想顛倒見顛倒。苦有樂想不淨有淨想非我有我想。心顛倒想顛倒見顛倒。此何見斷為何性。答

曉了見苦斷 四種是顛倒

三見性所有 捨見正見說

曉了見苦斷四種是顛倒者。一切四顛倒見苦斷以行苦處故。三見性所有捨見正見說者。顛倒是見性三見中最上即是說顛倒。身見是說我見我是我見故。邊見見有常及斷見盜不淨見淨彼一切行苦處。及見性所有心想見作亂故。說心顛倒想顛倒見顛倒。但

◎思二思◎ ◎住二生◎ ◎倚二倚◎ ◎枝二支◎ ◎濡二軟◎ ◎足十(軟鈍者)◎ ◎支一枝◎ ◎想一◎ ◎二二一◎ ◎想二相◎

非性顛倒。問世尊說多見六十二首。是何見所攝。答一切見是五見所攝。身見爲首。問云何知。答

誹謗於真實 此說爲邪見
非實而見實 是二見及智

誹謗於真實此說爲邪見者。謂見誹謗真實法無。此如說無施無。齊無說。如是一切說邪見。非實而見實是二見及智者。五陰中不真實我見。我觀有。是實見說身見。非真實樂淨觀有樂淨。是見見盜及餘邪智思惟所斷。如夜有見。謂是賊。如堅木人像

淨見謂戒盜 是非因見因
受邊說此見 依斷滅有常

淨見謂戒盜是非因見因者。謂法於法非因見是因。此見是戒盜。如苦行至解脫。受邊說此見依斷滅有常者。謂見無常事見常。是謂有常見。謂因緣相續不識已見斷。是謂斷見謂之受邊見

建立諸誹謗 因依於二邊
若有事轉行 是正見應斷

建立諸誹謗者。說邪見。彼若誹謗苦是見苦斷。若誹謗習是見習斷。若誹謗滅是見滅斷。若誹謗道是見道斷。身見建立於苦我是我是見苦斷。見盜建立苦爲樂是見苦斷。若習是見習斷。若滅是見滅斷。不受正法是故見滅斷道亦復然。戒盜若行有漏處是見苦斷。若行無漏處是見道斷。見斷滅計常是亦見苦斷。現五陰受斷滅計常非不現。此中分別一切諸見。問世尊說二十二根。此云何答

諸界在於內 身三及命根
是根生死依 聖人之所說

諸界在於內者。眼耳鼻舌意。身三者。身根三種身根男根女根。及命根者。命根第九。是根生死依聖人之所說者。此九根生死依故。說根衆生是生死想

從痛諸煩惱 信首依清淨
九根謂無漏 是三依於道

從痛諸煩惱者。樂根苦根喜根憂根護根。是諸痛從此諸煩惱故說根。信首依清淨者。信根精進念定慧根。依此解脫故說根。九根謂無漏是三依於道者。信首五根三痛及意根。是若無漏依道故說根。謂從信行行道所攝是未知根。謂思惟道所攝是已知根。謂無學道所攝是無知根。問此中幾欲界繫。幾色界繫。幾無色界繫。答

欲界四善八 色種性有七
諸心數者十 一心慧所說

欲界四者男根女根苦根憂根。是一向欲界繫。餘如界品說。善八者。信首五根及三無漏。色種性有七者。色根有七五色根男根女根餘者非色。問幾性心幾性心數幾非性心非性心數。答諸心數者。十信首五根及五痛一心慧所說者。意根是餘根非性心非性心數。問幾有報幾無報。答

一及十有報 是慧之所說
十三中是報 見實者分別

一者愛根一定有報。一向善不善故。現在方便起是不從報生。非威儀非工巧。是以非無

記故一向有報。及十有報是慧之所說者。信首五根謂有漏是有報。謂無漏是無報。意根及三痛謂無記及無漏是無報。餘善不善是有報。苦根謂無記是無報餘有報。問幾是報幾非是報。答十三中是報。見實者分別十三根中。或性是報或非色根。七命根意根及四痛無記法者。善不善中生故報。問生時幾根最。初得報。答

二或六七八 謂初時可得
欲中有報。相 亦六及上一

二或六七八謂初時可得者。謂漸漸成根。如卵生濕生胎生。是最初時二根生身根及命根。化生無形得六根。五色根及命根。一形七二形八。欲中有報想者。此說是一向欲界衆生。亦六及上一者。色界最初得六根。無色一。彼爾時一向穢汚心。是以一向穢汚得心心數法非報。問命終時幾根最後捨。答

四捨八與九 或復捨於十
死時漸漸滅 善捨各增五

四捨八與九或復捨於十死時漸漸滅者。無記心漸命終時。最後捨四根身意命護根。無形一時無記心命終捨八根。一形九二形十。善捨各增五者。即彼善心加增信首五根。如是色無色界隨根可得亦如是。問幾見斷幾思惟斷幾無斷。答

二斷無斷四 二種根有六
三微妙不斷 謂餘思惟斷

二斷無斷四者。四根見斷思惟斷無斷意根及三痛。二種根有六者。信首五根及愛根。三

①(爲)十首②③ ④答十(日)⑤⑥ ⑦齊二實⑧⑨ ⑩是實一實是⑪ ⑫若十(見)⑬ ⑭斷十(滅)⑮ ⑯初十(初)⑰ ⑱相一報⑲

微妙不斷者。三無漏是不斷。謂餘思惟斷者。九根思惟斷命根八及苦根。已說諸經。門今當說。問世尊說六識。眼識耳鼻舌身意識此識識何法。答

若取諸根義 是五種心界
受一切諸法 是謂意識界

若取諸根義是五種心界者。義名五種色是五識識。眼識識色乃至身識識細滑。受一切諸法是謂意識界者。意識識一切諸法。此境界一切諸法。問有十法欲界相應不相應。色界相應不相應。無色界相應不相應。有為無漏相應不相應。無為二種善及無記。此中應分別智。一一智境界幾法。答

五法應當知 法智之境
未知智為七 他心境界三

五法應當知法智之境者。五法法智境界欲界相應不相應。無漏相應不相應無為善。未知智為七者。未知智境界七法。色無色界及無漏相應不相應無為善。他心境界三者。他心智境界三法欲色及無漏相應

有漏智有十 因果境界六
解脫智一法 道二謂餘九

有漏智有十者。有漏智是等智。彼一切十法境界一切法境界故。因果境界六者。苦智及習智是境界六法。三界相應不相應。解脫智一法者。滅智境界一法。唯無為善。道二者。道智境界二法。有為無漏相應不相應。謂餘九者。餘盡智無生智是境界九法。除其無為無記是謂智解

自地煩惱定 所使於自地
一切遍是種 隨在於彼類

自地煩惱定所使於自地者。欲界諸煩惱所使於欲界。梵世諸煩惱所使於梵世。如是至非想非非想處盡當知。一切遍是種隨在於彼類者。通一切遍不通一切遍。諸煩惱所使隨種通一切遍亦他種。如身見見苦斷。此中苦諦所斷一切使所使。及見習斷通一切。如是至命根思惟斷。此思惟所斷一切所使及通一切

三界煩惱定 定在於三界
二界應當知 一界亦復然

三界煩惱定定在於三界者。謂法三界所攝是定在於三界。此中三界一切使所使。如意根定在三界。此中一切使所使。二界應當知者。謂法二界所攝是定於二界。此中二界一切使所使。隨界可得。如覺觀定在欲色界。此中欲色界一切使所使。一界亦復然者。謂法定在一界。此中一界一切使所使如憂根。定在欲界一切使所使

此佛說契經 顯示於諸法
識智及諸使 分別此三門

此佛說契經中。若說諸法是三門應分別。識門智門使門。如欲有中五根義是六識。色界四識除鼻識舌識。相應不相應故七智知。五種故欲色界使所使

雜品第九

已說契經品雜品今當說

已說隨相應 一一分別法

於上衆雜義 今略說善聽
有緣亦相應 有行或與依

於上衆雜義今略說善聽。有緣亦相應。有行或與依。心及心數法。是同一義說。心及心數法此名差別。一切行一緣是故說有緣。更互相應故說相應。境界行故說行。由依生故說依

從緣生亦因 有因及有為
說處有道路 有果應當知

從緣生亦因。有因及有為。說處有道路。有果應當知。有為法中此名差別。由依緣故說緣。生他故說因。由依因故說有因。由依造有故說有為。多方便善顯現故說處。依過去未來現在道路故說道路。有轉成果故說有果

有惡亦隱沒 穢污下賤黑
善有為及習 亦復名修學

有惡亦隱沒。穢污下賤黑。善有為及習。亦復名修學。有惡亦隱沒穢污下賤黑者。不善及隱沒無記法此名差別。不可說鞞中立故說有惡。煩惱所覆故說隱沒。煩惱垢污故說穢污。凡鄙故說下賤。無智闇亂故說黑。善有為及習者。善有為法此名差別。慧中生故說善行時。能得功德及可行故說習及修。已說心相應行。心不相應行今當說

無思想二定 亦衆生種類
句身味名身 命根與法得

無思想二定。亦衆生種類。句身味名身。命根與法得。凡夫性所有。及諸法四相。非色不相應。說是有為行。無思想者。生無想天心。心數法不起。二定者。無想定滅盡定。無想定名厭於生死解脫想。由第四禪心相續一時斷。滅盡定名厭於勞務息止想。由非想非非想心相續一時斷。亦

◎門二問◎ ◎三界二界◎ ◎唯二惟◎ ◎切十(運)◎ ◎切十(使)◎ ◎界十(此中欲界)◎ ◎使二便◎

衆生種類者。生處已生於此處衆生依及心相似。句者名會所說如所行非常謂與義法味者句會事。廣說如偈及契經。名者字會說義如說常命根者。根及大等相續不斷。得者成就諸法不捨。凡夫性者。未取正證離聖法。是凡夫性。所有四相者。生住老無常。非色者。此一切諸法如上所說。非色非色所攝。不相應者無緣故。說是有爲行者。有爲造故說有爲行。問此中幾善幾不善幾無記。答

善二三種五 七應是無記
二在色當知 一在無色地

善二者。無想定滅盡定。三種五者。得生老住無常。善中善不善中不善無記中無記。七應是無記者。七無記無想天衆生種類。句味名命凡夫性所有。問此中幾欲界繫幾色界繫幾無色界繫。答二在色。當知一在無色地。二在色當知者。無想定及無想天是色界。一在無色地者。滅盡定在無色界

二界說於三 謂餘在三界
有漏無漏五 其餘定有漏

二界說於三者。句味名亦在欲界亦在色界。非無色界離言語故。謂餘在三界者。衆生種類命得凡夫性所有。及四相通在三界。問此中幾有漏幾無漏。答曰。有漏無漏五其餘定有漏五者。得生老住無常。在有漏中有漏。在無漏中無漏。其餘定有漏者。謂餘一切定有漏。問此離聖法假名凡夫三界中無記。此云何捨云何斷。答

初無漏心中 聖不成就捨

凡夫流諸界 離欲時滅盡

初無漏心中聖不成就捨者。第一無漏心中得聖法時得不成就捨。凡夫流諸界者。流諸界時謂處所命終此處所捨。謂處所生彼處所得無記故。離欲時滅盡者。謂地凡夫所有。若此地離欲爾時得滅凡夫性。已說心不相應行。無爲今當說。三無爲法數緣滅非數緣及虛空。於中數緣滅者。解脫諸煩惱。依於數緣滅有漏法離煩惱解脫。數緣力智力計技事有而無。是名數緣滅。無聖礙之相是名曰虛空。謂不障礙色是虛空

諸法衆緣起 亦從依與緣
不具以不生 此滅非是明

一切有爲法從衆緣而生無緣則不生。如眼識依眼依色依空依明依地依寂寂然。若此一切共和者便得生。若餘不具便不得生。如眼時眠一切時生。爾時是餘事不具眼識不得生。若彼眼識應當生而不生。眼生已終不復更生離此緣故。是有未來不復當生。彼起具差違不和是非數緣滅。如是一切行盡當知。已說無爲因今當說。問有爲法說是因。此中云何因爲誰。因。答

前因相似增 或俱依倚生
二因及一緣 一向已生說

前因相似增者。前生法後生相似因轉增。如*濡善於自地。*濡善因。及中因上因中於中因。及上因上。*唯上因。行法時有住有增終不滅。以是故非爲*濡因。或俱依倚生者。或因俱生如相應因及共有因。二因及一緣一

向已生說者。自然因已生當言因。非不生前者後因。未生者無前後。若爲有者應隨時生不從因。但不爾是故不有一切。遍因亦如是及次第緣。問謂此報者爲是衆生數爲非衆生數。答報是衆生數報者衆生。數法中說非不衆生數。所以者何。衆生數者不共有。非衆生數共有是故非報。問是果法云何。答有爲解脫果。一切有爲法性果。所有由因緣故無解脫亦應說道果。問有緣法云何行緣。答有緣者俱有緣法是相應是共俱一緣中行不別。問何處行。答行於他境界。他境界中行非自性。離自行及緣差別故。問心心數法爲有處所爲無處所。答無處所。所以者何。普因故普因生心心數法。因二眼生一識。若有住處者應住一眼中一識故。若爾者第二眼不應見色而見。是故非一眼中住。如是一切盡知。若如是者以是故無住處。問世尊說心解脫云何。心解脫爲過去爲未來爲現在。答生時而解脫道生時解脫。所以者何。道生時諸煩惱滅。是故生時解脫。問道生時斷煩惱爲不。答

道滅時滅結 明慧之所說

道滅時斷諸煩惱非生時。所以者何。道生時是未來。未來道者不能行事。以是故無礙道滅時斷煩惱。解脫道生時解脫。問世尊說有愛無有愛。有愛幾種無。有幾種。答

有愛有五種 無有獨一相

有愛有五種。有愛名於生不生物。若愛是名有愛。此五種。有苦斷見。習滅道斷及思惟

●(不)十因● ●有十(愛)● ●有二見● ●習二集●

斷。無有獨一相者。無有愛名已見斷。樂於斷是名無有愛。此一向思惟斷。所以者何。從見愛思惟斷。此是不轉行相續中。愛非愛見是故思惟斷。問世尊說三界斷界無欲界滅界此何相。答

愛處餘煩惱 滅盡是三界

愛斷是無欲界。處斷是滅界。餘煩惱斷是斷界。問十心欲界。善穢汚無記色界。善穢汚無記無色界。善穢汚無記及無漏。此心幾穢汚心中可得。幾善心中可得。幾無記心中。答

穢汚心得十 正覺之所說

善心中得六 無記即無記

穢汚心得十正覺之所說者。穢汚心中得一切十心界。及地來還時三界善穢汚及無記。此心一切得退時得無漏。善心中得六者。善心中得六心。欲界善求學得及身口行。亦變化心無記。色界善變化心無記。無色界善心及無漏。無記即無記者。無記心。唯無記以劣故。問前已說道品十法。此中幾根性所有幾非根。答

道品有六法 當知是為根

此中六法根性。所有信首五根及喜餘者非根所有。問諸法為自性相應。為他性。答

相應於諸法 是說謂為他

諸法他性相應不自性。非為自性於自性伴。問若此解脫當云何。答

緣中解於縛 大仙人所說

諸煩惱於緣中愚即彼不起愚。緣中縛即於中解。不可以相應解相應。所以者何。以空

故。問若斷即是解脫為。異。答如是若解脫者即是斷。問頗斷非解脫不。答有。或斷已故縛。見道及思惟。苦智已生習智未生。見苦所斷煩惱斷。而見習所斷煩惱縛。如是思惟所斷一切種。更互相緣故。問見四真諦云何得不壞淨。答

二解於三諦 四由見正道

興起清淨信 修習於二世

二解於三諦者。觀苦習滅得於法不壞淨。苦智習滅相應信。是名不壞淨得是及聖戒。四由見正道興起清淨信者。見道時具得四。問幾世修。答修習於二世。諸法修於二世。現在。修行未來者得修。問心共行法云何。答

一切心數法 說是心共行

此相及餘法 作亦應當知

一切心數法說是心共行者。一切心數法說心共行心近故。此相者。此心有四相生住老無常。亦心近故。及餘法者。餘心數法相亦心共行。作亦應當知者。無教戒如前說。問斷法云何。答斷諸有漏法。一切有漏法斷雜惡故。問知法云何。答知及諸無垢有漏及無漏。是一切知法一切智境界故。問近法云何。答過去未來是說遠不辦事故。問近法云何。答餘說近。現在近。辦事故。無為近速得故。問定法云何。答

無間無救業 及諸無漏行

慧者說是定

五無間業是定必至地獄故。無漏行亦是定必至解脫果故餘不定。問見處云何。答見處

必有漏一切有漏法見處五見處所故。問若成就根是成就幾根。答

說有十九根 謂成就極多

少成就極八 曉了根所說

說有十九根。謂成就極多者。十九根成就極多如二形。及具根者未離欲見諦。少成就極八曉了根所說者。成就八根如不具身根斷善根。及生無色中凡夫。問幾種更樂。答五種增有對無明 處中明更樂

聖道俱有二 能興起成果

意識相應更樂是說增更樂。五識相應更樂是。謂有對更樂。穢汚更樂是說無明更樂。無漏更樂是說明更樂。有漏非穢汚更樂。是說非明非無明更樂。問何等道。德果為無礙道為解脫道。答聖道俱有二能興起成果。二道共得果。一者解縛。二者得解脫。此二道成果。問無著任何心般涅槃。答無。著心中得無為涅槃。無著一切事無所作。無為無所求住。從報心中便般涅槃。問幾有。答

生有及死有 根本亦復中

生有者。始生時陰是謂生有。死有者死時陰是謂死有。根本有者。除生有及死有。於其中間陰是謂根本有。中有者。有所至陰是謂中有。問說有厭有離欲。云何厭云何離欲。答

諸智在苦因 此忍修於厭

滅欲得無欲 說普在四中

諸智在苦因此忍修於厭者。若智及忍緣苦習。是說厭行厭處故。滅欲得無欲。說普在

◎(得)十無◎ ◎異十(不)◎ ◎修行二行修◎ ◎辨二辨◎ ◎謂一說◎ ◎德二得◎ ◎者十(報)◎ ◎無十(所)◎

四中者。四諦中智及忍說離欲能斷欲故
論品第十

威儀不威儀 若離復獲得
不由此致勝 能決定者答

答有從無色生色

頗得聖果時 一切離諸惡
有為淨善法 得已而不修

答有退時得過去

道者興起時 未遠離諸惡
解脫時離惡 願答已必定

答有謂當來願

頗光曜煩惱 興起於定時
清淨初禪中 獲得墮衰退

答有無著果修及勳修

頗見諦道中 逮得諸善法
是法亦有緣 聖者不見緣

答有欲界中修行等智

頗慧有漏果 遠離淨功德
不離從於意 此亦是彼果

答有欲界變化心

頗住無礙道 成就於諸滅
諸煩惱從彼 非如無漏見

答有修學諸道時

頗結不解脫 無垢者獲得
而不斷煩惱 謂此無垢盡

答有從光曜中生梵天時

頗無漏淨地 未曾得已得
不離欲非退 不依於見道

答有離色欲取證時。得無漏無色思惟道

頗未得諸法 而逮得此法
不捨彼不得 若能知者答

答有餘初無漏心品。得餘無漏功德。捨凡夫
事餘者一切不得

阿毘曇心論卷第四

No. 1551 [cf. Nos. 1550, 1552]

阿毘曇心論經序

今欲解釋阿毘曇心利益弟子故。問曰。不須
解釋。所以者何。古昔論師已釋阿毘曇心。利
益弟子故不須釋。答曰。不然。應須解釋。所
以者何。古昔論師雖釋阿毘曇心太廣太略。
彼未學者迷惑煩勞無由能取。我今離於廣
略。但光顯修多羅自性。是故須釋。問曰。何
故釋阿毘曇心利益弟子耶。答曰。彼中已說
不顛倒法相。釋不顛倒法相令彼覺悟真實。
是故離諸過惡生諸功德。得勇猛第一義利。
問曰。若如是者。隨意解釋。答曰。我當解釋。
但諸師造論以吉爲初。一切古中三寶最勝。
是故本師爲顯三寶少分功德故。於論初先
說此偈

阿毘曇心論經卷第一

法勝論大德優波扇多釋

高齊天竺三藏那連提耶舍譯

六卷成部

界品第一

前頂禮最勝 離熱饒益言

彼言說相應 羅漢見實等

前者先也。頂禮者淨信曲躬禮也。最勝者。

世尊爲應供者之所供養。又於一切法中勝

故名最勝。復次世尊。於一切法於一切種而

得自在故名最勝。離熱者。離燒義也。謂煩

惱熱能燒身心。世尊離彼故名離熱。此是自

己智斷成就。彼師如是說者。彰於如來自利

滿足。次說饒益言者。世尊言說。能饒益一

切衆生。饒益者謂安隱也。安隱饒益一義異

名。此彰世尊利他滿足。此略說天人師自利

利他功德滿足。彼二種世尊等作究竟。是故

應供中勝。彼言說相應者。謂道理義顯示相

應如是功德相應天人師語。禮敬此者名禮

法寶。羅漢見實等者。應受天人阿修羅等供

養故名阿羅漢。此說無學。實者謂四聖諦。

以學見者彼名見實。此唯說學。此學無學

等。謂第一義僧。禮敬此者名禮僧寶。問曰。

何故禮敬。答曰

佛開覺慧眼 若知諸法衆

亦爲他顯現 我今說少分

①顯一修②③ ④顯二熏⑤⑥ ⑦道二通⑧⑨ ⑩四十(勝)⑪⑫ ⑬(法勝)十阿⑭, [阿毘曇心論經]一⑮ ⑯[經]一⑰ ⑱(別譯)十今⑲⑳
⑳光二先㉑ ㉒(法勝)十阿㉓㉔ ㉕[經]一⑳* ㉖一十(別譯)細註㉗㉘ ㉙[法勝論]一㉚㉛ ㉜[大德優波扇多釋]一㉝* ㉞
天竺三藏二沙門㉟ ㊱提十(衆)㊲㊳ ㊴(六卷成部)一㊵* ㊶唯二惟㊷*

慧眼者。謂無礙智眼義也。若者。若佛所說所顯所宣所釋法也。知者解也。法者持也。持於自性。為他作緣故名為法。法有積聚故名法衆。法衆群聚一義異名。亦為他顯現者。自覺知己利世間。故為他顯示。或有覺知不為他說。如昇攝波林經說。我今說少分者。於彼佛說法中。我今但說少分法相。豈能盡說如是義。已。問曰。何法是佛所說而欲說耶。答曰。所謂有漏無漏。有煩惱無煩惱。受。陰有淨無淨。色無色等。我今當說。

一切有漏行 離我樂常淨
此受於我等 不見有漏故

一切有漏行離我樂常淨者。諸有漏行。離我離樂離常離淨。彼中世間不能觀察。無明覆障闇智於此四門顛倒而見。故名顛倒。問曰。何因故知諸有漏行離於我耶。答曰。我事無故屬因緣故行名。為他。非我自性。計我者說。我不屬他除此更無。是故我性不可得。無我因故諸行離我。問曰。何因故知諸行離樂。答曰。作逼迫故。諸有漏行是苦自性亦是苦緣是故逼迫。逼迫名苦是故離樂。問曰。何因故知諸行離常。答曰。以生滅故。現見諸行生而即滅。無見常者是故離常。問曰。何因故知諸有漏行離於淨耶。答曰。污染事故。諸有漏事煩惱境界。不淨污染是故離淨。問曰。如是諸行離於我等。世間何故取我等耶。答曰。此受於我等不見有漏故。諸有漏行不如實見。世間不能觀察作我等解。猶如怨家匿藏惡欲。許出美言遊行家內實非親友作親友

解。我所覆故不見無我。是故現見行等作業以迷惑。故無我事而見於我。對治覆苦事故於行住等想謂為樂。故於苦受。陰中而作樂解。相似相續覆無常事。彼現見色相似相續。記憶宿事誦持經論故於無常行中而作常解。皮色覆於不淨事。故彼於髮毛爪齒處等少時見淨。於不淨中而作淨解。雖見屎尿。雖復不淨。猶生迷惑。此雖不淨餘者應淨。猶如野干看。緊叔迦華。問曰。何故論初先說顛倒。答曰。為知不顛倒法相故我先已說。欲令弟子解真實故。以不顛倒心安隱易解。是故論初先說顛倒。問曰。為當但有此離我等諸有漏法。更有餘耶。答曰。更有

若處生煩惱 是聖說有漏
以彼漏名故 慧者說煩惱

若處生煩惱是聖說有漏者。若依若聚若緣。若衆生數非衆生數。生身見等煩惱是法說有漏。問曰。何故。答曰。以彼漏名故慧者說煩惱。觀察煩惱為作漏名。故以彼法生於煩惱。依漏起故名為有漏。如有怖道有毒食等。應如是說。若事屬漏。為漏所攝。彼名有漏。此說無漏緣生煩惱。非無漏法屬於煩惱為煩惱攝。無漏法但緣生煩惱。問曰。漏義云何。答曰。從有頂下至無間獄。於其中間六入瘡漏。是故名漏猶如瘡漏。又留住生死故名為漏。問曰。此更有名耶。答曰。更有

亦名有煩惱 取陰及有淨
煩取淨生故 知彼自性說

亦名有煩惱取陰及有淨者。是有漏法。亦名

有煩惱。亦名取陰亦名有淨。問曰。何故彼諸名說。答曰。煩取淨生故知彼自性說。諸煩惱取淨等漏之異名。從煩惱生彼亦生煩惱故名有煩惱。如是從取生彼亦生取故名有取。從淨生彼亦生淨故名有淨。問曰。是蔭世尊所說為取蔭。即是蔭為離取蔭別有蔭耶。答曰。若取蔭者彼即是蔭。或有蔭而非取蔭。問曰。何者是耶。答曰

若行離煩惱 此是無漏蔭
及前有取蔭 是蔭聖所說

若行離煩惱此是無漏蔭者。此蔭更有餘說。有二種蔭。無漏有漏。若行離身見等煩惱。是名無漏。是蔭非取蔭。及前有取蔭。是蔭聖所說者。若此無漏蔭及前所說取蔭合說為蔭。謂色等五蔭。問曰。蔭義云何。答曰。聚義是蔭義。問曰。若如是者蔭但假名無有實事。非但一物得有聚名和合故名聚。答曰。非但有相亦有實事。有此事者便有彼相故蔭有相。如佛所說礙相是色蔭等。是故有事界等所攝智識使等境界。如四聖諦故蔭有事非但假名。問曰。蔭界入等有何差別。答曰

十種謂色入 亦名無教色
是分別色蔭 世尊之所說

十種謂色入亦名無教色。是分別色蔭。世尊之所說。色有二種。一者微塵積聚色。二者非微塵積聚色。微塵積聚色者。謂十色入眼乃至觸。非微塵積聚色者。名無教色。法入所攝。彼業品當說。此等一切是色蔭相入色蔭數。佛說為色蔭。以此觸彼。以彼觸此是故名色。以此觸彼。以彼觸此義也。如佛所說。如手等觸。觸

①法衆 ②已二也 ③陰二陰 ④為二屬 ⑤陰二蔭 ⑥記二計 ⑦於一 ⑧千一軒 ⑨緊二緊 ⑩蔭二陰 ⑪非微塵積聚乃至入字義者四百七十三字元本大異卷末出之。cf. p. 839, 明註曰。北本所證十色入微塵積聚者等唯前五識所對觸色為意入所攝取境為緣六識分辯十八界中為一法界佛所說總為眼根一門所攝乃至見色入字義者此。南藏十色入次第轉生於自地煩惱次第緣可得生一切上地亦生下當分別者梵天命終生欲界五種欲以說欲愛患使惱慢及無明見使總攝十二見中見苦滅道斷色無色界亦爾聚一切業生故說流漏一切無窮乃至種種相應眼至今當說等文中所釋南北二藏是譯師所得梵本簡別差訛論義不中其文各有廣略理辭易辨故此博知後高賢閱者幸乎造耳

故名色。問曰。若如是者。除無教色。彼非是色。何以故。非手等可觸。以無對故。汝意若謂。以所依者是可觸故。彼亦是可觸。故無過者。受等亦應是色。汝意若謂。彼所依四大是可觸故。彼亦是可觸者。我當說言。現見所須作功業事。作畫作泥。若如是者。受等心數亦應是色。故汝有過。彼等亦依眼等諸根。彼亦應是可觸。答曰。非但生心心數因。非心心數依眼等根。如光依珠。彼生時眼等作因。如是眼等是觸。彼非觸也。復次造色。依大如光依珠。是故大是觸。故彼亦是觸。問曰。雖如是說。汝相猶自不成。何以故。除過去未來微塵色。故答曰。相不可壞。過去色觸已滅。未來色亦如是相生。如是微塵亦是可觸。以微細故不可得知。是故一切諸色皆是可觸。

所名為識。是說為意入。

於十八界中。亦說為七界。

識。謂六識身。是十二入中說為意入。於十八界中。分別為七心界。眼識界耳識界鼻識界舌識界身識界意識界等。識者能知於緣故名為識。識者能取緣義也。

餘則有三。無教三無為。

是說為法入。彼亦是法界。

如前所說受等諸法總為一法入。十八界中為一法界。彼入義者門義是入義如窓牖。如佛所說。婆羅門眼為門乃至見色。入字義者是輸義也。能增長心心數法。以是義故名之為入。界義者性義是界義。如朱砂界雄黃界等。界字義者能持自相與他作緣是故名界。

是界事有十七。或復十二何以故。除六識界更無意界。是故十七即六識身。展轉相續名為意界。如父子名子展轉相續次第名父。如是除意界外無別六識界。是故十二依及依者。緣差別故。故有十八。彼界入事等攝一切法。故彼蔭一向但是有為。問曰。蔭中何故不攝無為。答曰。無蔭相故。二種蔭相共相別相。共相者。聚義是蔭義及無常等。別相者色礙等。是二種相無為中無。是故不攝無為。餘更有何義。謂非顛倒事及斷方便。無為非顛倒事及斷顛倒方便。顛倒事故說取蔭。為斷顛倒方便故說無漏蔭。是故蔭中不攝無為。如是說蔭界入境最廣。故建立於界欲說種種義。故如是說。

界中一可見。十界說有對。

八界是無記。餘則善不善。

界中一可見者。十八界中當知一界可見。所謂色界。何以故。是眼識境界故是故可見。復次可示此示彼是故可見。餘十七種定不可見。十界說有對者。十八界中五內界。謂眼耳鼻舌身。五外界謂色聲香味觸。是等十界說有對。三種有對。所謂障礙有對。境界有對。緣有對。障礙有對者。如手左右手相對。境界有對者。謂根與境界相對。緣有對者。意識於一切法。此中唯取障礙有對。更相障礙故名有對。彼一切十種界更互相對。若不爾者。彼不增長。如上座鳩摩羅多說若心欲起時為他所障礙。當知是有對。相違是無對。餘八界定無對。八界是無記者。十八界中

當知八界是無記。所謂眼耳鼻舌身香味觸。彼無愛不愛果可記。是故無記。餘則善不善者。餘十界說無記善不善。謂色聲界身口意作。是善不善。何以故。從善不善心起故。餘者是無記。眼識等七心界。是善不善無記。心相應法界。是善不善無記。心數法界。是自性相應善不善無記。彼自性善者。謂慚愧不貪等三善根。相應善者。與彼受等心數相應。自性不善者。謂無慚無愧貪等三不善根。相應不善者。與彼受等心數相應。與二相違是無記。不相應法界雜品當說。無為中一善二無記。數緣是善。虛空非數滅是無記。於中善攝愛果安隱故名為善。善攝者謂道諦苦集諦少分。愛果者謂苦集諦少分。安隱者謂滅諦。相違名不善。彼苦集諦少分。除此名無記。無善不善可記故名無記。無果可記亦名無記。

十五定有漏。餘二三三有。

欲有中者四。十一在二有。

十五定有漏者。五內界五外界五識界。此十五界一向有漏。餘二者。餘有三界。意界法界意識界等。彼有二種。有漏無漏。有漏者生漏共漏相應。滿足跡處故名有漏。與此相違是名無漏。略說未知欲知根等。諸無漏根俱生法及彼得。出世間解脫得。及無為是無漏。餘是有漏。三三有者。即此三界於三有中可得。欲有中者四者。香味鼻識舌識界等一向欲界攝。彼非色界離搏食愛故。十一在二有者。五內界色聲觸界。及緣彼三識界。此等十

①識十(界)②③ ④三=天⑤⑥ ⑦漏=漏⑧⑨

一在欲色界。非無色界無色故。彼為欲界使所繫。是欲界繫。為色界使所繫。是色界繫。為無色界使所繫。是無色界繫。

有覺有觀五 三種三餘無
有緣當知七 亦法界少分

有覺有觀五者。五識界一向有覺有觀與覺觀相應義故。三種三者。意界法界意識界。彼有三種。欲界初禪有覺有觀。中間禪無覺有觀。第二禪上乃至有頂無覺無觀。法界有覺有觀者。欲界及梵世除覺觀心數。法界無覺無觀者。中間禪除觀心數。法界無覺無觀者。第二禪上乃至有頂心數法界。中間禪觀一切無教等。不相應法界欲界梵世觀此三不攝。若欲說者應言無觀有覺。餘無者。餘十界無覺無觀彼與覺觀不相應故。有緣當知七亦法界少分者。七心界及心數法界是有緣。有此緣故名有緣。彼有境界可取故說有緣。復有餘緣名如手緣杖。此等世俗言說。當知餘定無緣。

九不受餘二 有為無為一
一向是有為 當知十七界

九不受者。九界決定不受受名。若色在根數及不離根。若割截殘壞心心數法。於中受在中住故異則不受。彼七心界聲界法界。此等九界名為不受。彼非心心數法止住處故。餘二者。餘九界二種五內界若在現在名受。或此現在識雖空亦名有受。以彼種類眾生數攝故說為受。如是過去未來及非眾生數名為不受。色香味觸與根不相離。在現在者名

受。如根中心心數法。止住彼中亦爾餘名不受。略說若法生而未滅。眾生數有對可牽可推彼名為受。彼生而未滅者除過去。未來眾生數者除現在。非眾生數有對者除生未滅。心心數法可牽可推者除聲界。有為無為一者。因緣和合作故名。此能生義也。作者。何有因義也。有因義者有為義也。有為故名。一法界合有為無為。此中三種常故無為。虛空數滅非數滅。受等三。陰及無作色名有為。一向是有為當知十七界者。餘十七界有因故一向是有為。問曰。如是分別法相竟。云何攝法為自性為他性。答曰

諸法離他性 各自住己性
是故一切法 自性之所攝

諸法離他性者。謂眼離耳。如是一切事若性離性。相攝者是說不相應。是故非他性攝彼有何過。若一生滅除一切亦生滅。此非道理是故他性不攝。各自住己性者。眼自住眼性如是一切法。是故一切法自性之所攝者。是故自性攝一切法。此師所說自相攝義也。此亦二種生及分齊。生者。色。陰攝十色入乃至法入中色。眼界攝眼界。分齊者。此一念攝一念不攝餘念。若餘攝名者。如臺觀攝基陸梁椽等是世俗言說。彼眼界一界一入。一陰所攝。當知一切法亦如是

行品第二

已說諸法相生差別今當說。問曰。若一切法自性攝者。亦應自力能生耶。答曰

初無一能生 以離伴侶故

一切彼此力 諸法乃得生

初無一能生以離伴侶故者。有為諸行自性羸劣。是故無法自力能生。問曰。云何得生。答曰。一切彼此力諸法乃得生。有為諸法彼此力生。如二羸人彼此力起。此一切行略說四種。所謂色心心數法心不相應行。彼生亦有四種作取作依作增上伴。彼作取者。依果報果及丈夫果少分。作依者。諸界六入造色四大作增上者。一剎那生事一切諸法。伴者。心心數法彼此為伴及諸有為相。如是等有為我當先說。共心俱生伴

若有心生處 必與心共生
諸心法等聚 及不相應行

心者。心意識義一異名。是心善等分別。界分別。種分別。依分別無漏等分別。無量種差別。是心若依若緣若剎那生。決定共心心數法及心不相應行生。問曰。心心數法云何。答曰。想欲及觸慧。念思與解脫。作意於境界。三摩提受等

想者。於緣能取相貌。謂取男女龜細木。杌長短等相。欲者。愛樂如。見已樂等。觸者。依緣心和合如日光珠。異和合生火。慧者。能知於緣如此是色非味非是等。念者。繫念於緣。思者。善不善俱相違心轉。解脫者。於緣中心轉不障礙故。作意者。取緣勇健。有人言。心專注義也。三摩提者。取緣時心不亂也。受者。於樂不樂俱相違緣中受也

一切心生時 是生聖所說
同於一緣轉 亦復常相應

①何十(義)②③ ④陰二陰⑤ ⑥陰二陰⑦* ⑧界二識⑨⑩ ⑪聚二衆⑫ ⑬机二机⑭ ⑮見二是⑯ ⑰異二異⑱

一切心生時是生聖所說者。是想等十法共一切心俱生故名大地。是大地心故名大地。同於一緣轉者。此十法共一切心。俱一緣中轉不別緣也。有五種同。所謂相貌緣時依事。同一相貌一緣一時依一事。同者共相應義。亦復常相應者。此常與心相應彼此俱生。相應取緣故名相應。已說一切心中相應法。非一切心中相應法今當說。

諸根有慚愧 信猗不放逸
不害精進捨 或熱及覺觀

諸根者。不貪不瞋不癡善根體即是慧。大地共故此中不說。不貪者於有無有不著。不瞋者於衆生數不悲。不癡者尊重己身於惡羞恥。愧者尊重世間法。信者不顛倒因果。信猗者善心離惡身中怡泰。不放逸者調柔方便於可作不可作。捨作方便一向心此是修善義。不害者於衆生數不惱心。精進者捨離過惡修習功德。守護增長策勵心。捨者心平等一切善心俱順道理。此十法一切善心中可得故名善大地。或熱者我見等煩惱使品當說。心龜名覺是捷利義。心細名觀是微少義。此法非一切心中可得。或有可得或不可得。次。後若聚乃至心數生我今當說。此心心數法善等分別有五種聚。所謂不善不共善。隱沒無記。不隱沒無記。欲界成就五種。色無色界成就四種除不善。

不善心聚中 心數二十一
三見中。滅一 欲二見少三
不善心聚中心數二十一者。不善心者若心

與無慚無愧相應。此心聚中有二十一心數。謂十大地及覺觀。二煩惱貪瞋慢疑。及彼中一無明貪乃至疑等。彼此不相應無明。與彼相應與一切煩惱相應故。七種起煩惱。謂無慚無愧睡掉不信放逸。解怠。問曰。一切不善心中悉有二十一耶。答曰。不爾。三見中。滅一欲二見少三。不善心聚中邪見見取戒取心相應有二十法。此中除慧。欲二見少三者。欲界身邊二見相應有十八法。除慧前已說。除無慚無愧見是慧性故。見相應聚中無慧。非一聚中有二慧事。身邊二見是無記。無慚無愧一向不善是故少三。

善心二十二 不共有二十
無記有十二 悔眠俱被增

善心二十二者。十大地十善大地及覺觀。不共有二十者。不善心聚二十一中除一煩惱。不共者。唯一無明非餘使。無記有十二者。不隱沒無記聚中有十二心數。謂十大地及覺觀。彼中無信等功德無貪等過惡。何以故無記故。不隱沒者非是穢污。悔眠俱。被增者。追變名悔。是悔三種。善不善無記。於中善不善行作名善不善。彼四種差別。或有善建立不善。如作施等已悔。或有不善建立善。如作惡已悔。或有不善建立不善。如作惡已悔少。或有善建立善。如作施等善已悔少。若餘威儀等悔。彼是無記。是故與悔相應聚中增悔餘心數如前說。於中悔人非貪等使轉。非無礙人非悔。是故不善悔相應聚中。但一無明是煩惱非餘。是故有二十一種。善悔相應聚

中但增於悔。如是二十三種。不隱沒無記者。十三種此於三聚中轉。謂不共善不隱沒無記。眠者寐也。此於一切五聚中轉。何以故。眠者有不善穢汚無記心。是故彼中增一眠。餘心數如前說。如是三聚二種悔眠俱轉彼中增二。此是欲界心法次第。問曰。色無色界云何答曰。

初禪離不善 當知如欲界
中間禪除覺 於上觀亦然

初禪離不善當知如欲界者。初禪離不善聚離無慚無愧故。餘有四聚如欲界說。中間禪除覺者。中間禪除覺。餘如初禪說。於上觀亦然者。二禪以上乃至有頂。除覺觀。餘如初禪說。已說心心數法由伴力生。色法今當說。

微塵在四根 十種應當知
身根九外八 謂在有香地

微塵在四根十種應當知者。謂眼根微塵有十種。當知十種不相離義也。謂地水火風色香味觸眼根身根。此等十種常不相離。耳鼻舌亦如是。身根九者。除眼根等。餘悉同前。外八者。非根法中八種微塵。謂四大色等四塵。問曰。何界微塵如是說耶。答曰。謂在有香地。此是欲界中義。彼有香故。色界微塵離於香味是故彼中除於香味。餘如前說。問曰。前說若心起時。彼心心數法及不相應行生。已說心心數法。不相應行云何。答曰。

一切有爲行 生住及異壞
是亦有四相 彼此更相爲
一切有爲行生住及異壞者。一切有爲行有

○或二惑○ ○後二復 ○誠二滅○ ○解二解 ○被二彼 ○聚一聚 ○以二已 ○有一於

四種相。生住異壞未生故名生。已自事立故名住。已衰變故名異。已勢滅故名壞。如是說。若有為法得如是相者。名心不相應行。我今當說有為相。此事可知故名相。彼生住老無常。生者有為事。住者安立。老者衰變。無常者壞也。彼非一時作生者以生為業。餘者生竟作業。是故有為生住異壞非是一相。問曰。若一切有為法有四相者。此亦是有為此更有餘相耶。答曰。是亦有四相。是亦有四種相。共彼生謂生住住異異壞壞。問曰。若如是者便為無窮。答曰。彼此更相為。此相彼此相為。生。生。生。生。生。生。如是。住。住。住。住。住。住。異。異。異。異。異。異。壞。壞。壞。壞。壞。壞。此後四為一法。生。生。生。生。非。非。非。非。非。非。住。住。住。住。住。住。非。非。非。非。非。非。法。餘亦如是。前四種相各為八法。生。生。生。生。八法。謂前三相後四起相。及彼所相法。當知餘亦如是。已說諸行共生隨伴故。生無伴不生今當說。

所作共相似 普遍相應根
從此六種因 轉生有為法

此六種因轉生有為法。所作因者。若法於餘法中不作障礙。以此力故彼法得生。如眼生時一切法除自性。如是耳等除自性。非自性與自性作因。共因者。諸行與伴共生如心。心數法。心不相應行有為相。如是四大微塵。隨心戒等。相似因者。若義能生相似法。如習善生善。習不善生不善。如習工巧能知工巧。如種麥生麥。如是等一切遍。因者。若

諸煩惱必相續生。如執著我見者以見力故。於我執著斷常。誘於陰相疑。或取清淨。及最勝慢等過生。餘亦如是。一切遍應當知。相應因者。心心數法彼此力。俱一時一緣中轉。問曰。若心心數法一時彼共生因與相應因何差別。答曰。不相離義是相應因。同一果義是共生因。如執杖杖業。如渡河牽手不斷等。報因者。謂世間生中受生。相續事果名生。如善愛果不善不愛果。已說諸因法。若法從因生今當說。

報生心心法 及餘雜煩惱
悉從五因生 共生應當知

若報生心心數法。及穢污心心數法等從五因生。報生心心數法五因者。謂所作因共生因相似因相應因報因。所作因者。彼法生時相似不相應事不作障礙。共生因者。彼此伴生彼生等。心不相應行伴力生。相似因者。前生無記法。或作是解。是報因生非威儀等何以故。彼勝故非勝與劣作因。相應因者。彼此力一時一緣中轉。報因者。彼或善不善業。此則彼果穢污。心心數法無報因。何以故。隱沒非無記果報性故。遍因第五由彼力故此得生。餘四因如前說。

是彼不相應 及餘相應法
除最初無漏 彼從四因生

是彼不相應者。若報生色及報生心。不相應行從四因生。謂所作因共生因相似因報因。穢污色及穢污心。不相應行亦從四因生。謂所作因共生因相似因遍因。及餘相應法除

最初無漏。從四因生者。餘心心數法除最初無漏。亦從四因生。謂所作因共生因相似因相應因。餘者謂不隱沒無記。除報。

若餘不相應 相似當知三
及諸餘相應 最初無漏法

若餘不相應相似當知三者。前所說心不相應及餘彼餘名餘。彼謂善不隱沒無記除報。若彼相似因成就。除初無漏從三因生。謂所作因共生因相似因。及諸餘相應最初無漏法者。彼初生無漏相應亦從三因生。謂所作因共生因相應因。彼無相似前生無漏故無相似因。

彼中不相應 是從二因生
若從一因生 必定無此事

彼中不相應是從二因生者。彼初生無漏聚中色。及心不相應行。從二因生。謂所作因共生因。已說一切有為法。若從一因生必定無此事者。一切法必定從所作因共生因生。餘因不定。是故無法從一因生。已說因差別。世尊以如是因為化衆生故說緣。我今當說。

次第亦緣緣 增上及與因
法從四緣生 世尊之所說

如是四緣生一切有為法。彼次第緣者。心一生次第相續作容受方便。緣緣者。心心數法境界攀挽方便緣彼故能生。增上緣者。法生時不作障礙。如王自在即是前說所作因。因緣者。除所作因其餘五因彼是因緣。問曰。因之與緣有何差別。答曰。或有說者。無有差別。我說因者如種子法。緣者彼持方便如

①非二北 ②生二此相 ③異二衰 ④根二報 ⑤因二用 ⑥彼從二從彼 ⑦從十(彼) ⑧除二餘 ⑨[因]一

地糞等。已分別緣。若法隨緣生今當說

心及諸心法 是從四緣生

二正受從三 餘法說於二

心及諸心法是從四緣生者。心心數法從四緣生。前容受此法是次第緣。境界是緣緣。除自性餘一切法是增上緣。共生因自分因相應因是因緣。或時有遍因報因。二正受從三者。無想正受滅盡正受從三緣生。彼二入定心是次第緣。彼前生正受念及正受心。界地善自分名相似因。共生住異壤名共生因。如此二因是彼因緣增上緣如前說。餘法說於二者。餘心不相應行。及色從二緣生。謂因緣增上緣。問曰。此法何故名行。答曰

多法生一法 是亦能生多

緣行所作故 名行應當知

多法生一法是亦能生多者。一法以多法力故生。是亦能生多法。如是一切彼此力。緣行所作故名行應當知者。此亦是緣亦是行故名緣行。緣行所作故名緣行。所作此亦能作緣行是故名行。如是說者。此行爲他所作。亦能作他是故名行

●阿毘曇心論經卷第一

○非次第是轉生自地。於自地者。一切諸

煩惱於自地。煩惱次第緣可得。一。一次第生。一切上地亦生下。此事當分別者。梵天上命終次第生欲界一切。若彼中穢汚心命終。此中一向穢汚心相續。如是一切地。已說諸使自相。如此煩惱世尊教化故多種說。今當分別。問世尊說七使。欲愛恚有

愛慢見疑及無明。此云何。答

欲界五種欲 此說欲愛使

色無色如上 有愛當分別

欲界五種欲此說欲愛使者。見苦習滅道思惟斷。色無色如上。有愛當分別者。色界愛五種。無色界亦爾

恚即是恚使 五種如前說

憍慢及無明 十五在三界

恚即是恚使五種如前說者。瞋恚亦如是五種。憍慢及無明十五在三界者。慢欲界五種。色界五種。無色界五種。無明亦爾

見使三十六 說普在三界

疑使有十二 此七有異名

見使三十六說普在三界者。欲界十二見。五見苦斷。二見習斷。二見滅斷。三見道斷。色無色界亦爾。疑使有十二者。欲界有四。見苦習滅道斷。色無色界亦爾。此七有異名者。此煩惱說扼受流漏。問以何等故。答扼縛及受流 漏一切無窮

諸扼及受流 煩惱是說漏

繫一切衆生故說扼。受生具故說受流。下一切衆生故說流漏。一切無窮故說漏。已說種種相。相應根今當說

●阿毘曇心論經卷第二

法勝論 * 大德優波扇多釋

高齊 * 天竺三藏那連 * 提耶舍譯

* 六卷成部

業品第三 別譯

已說諸行因緣力生。次觀察世間生滅差別。由於煩惱業因故生。當思彼業師欲廣說於業。是故說此

業莊飾世間 趣趣各各異

是以當思業 求離世解脫

業莊飾世間趣趣各各異者。如是一切世間五趣。種種身生業能莊飾。當思彼業爲世間因生種種身。如世尊說衆生差別。由業所作謂高下優劣。是以當思業求離世解脫。彼業自性種地成就善不善差別。爲知彼故當勤思惟。問曰。何者彼業。云何思惟。爲世間因生種種身。答曰

身口意集業 在於有有中

從彼生諸行 及受種種身

身口意集業在於有有中者。有三種業。謂身口意業。彼身所作或業依身名爲身業。若口所作名爲口業。意相應名爲意業。衆生世世造作身口意業。從彼生諸行及受種種身者。彼業生於諸行及外衆具宅舍色力。罪福命等及受衆生種種身。此行有二種。謂衆生數非衆生數共不共。不共者。各各衆生業增上生。共者。一切衆生業增上生。如是地獄等五

◎(法勝)十阿◎◎ ◎非次第乃至當說四百十一字元本文也 cf. P. 334 ◎(法勝)十阿◎◎ ◎[法勝論]一◎◎ ◎天竺三藏二沙門◎◎ ◎提十(黎)◎◎ ◎罪福二勢富◎

趣淨不淨。種種業身受苦樂種種差別。以彼衆生種種。是故求解脫者必定應知是業

身業應當知 有教及無教
口業亦如是 意業。唯無教

身業應當知有教及無教者。身業二種。謂有教數及無教數。彼有教。數者身動。無教者。身動滅已。與餘識相應。彼相續轉如受戒竟。雖不善無記心善戒隨生。如捕鳥等雖善無記心惡戒隨生。口業亦如是者。口業亦有二種。謂有教性無教性。意業。唯無教者。意業。唯無教。性非如色教。此業不可示他故名無教。有言辭故名教。此五業中

有教當知三 善不善無記
意業亦如是 餘不說無記

有教當知三善不善無記者。身教口教當知三種善不善無記。善者謂行施受戒等。善心起動身。不善者謂殺生等不善心起動身。無記者有二種。謂隱沒不隱沒。隱沒者謂穢污無記心起動身。不隱沒者非穢污無記心起動身。所謂威儀工巧。口教亦如是應當知。意業亦如是者。意業亦有二種。彼善心相應。必善。不善心相應。名不善穢污無記心相應。必隱沒無記。非穢污無記心相應。名不隱沒無記。餘不說無記者。餘有二業。謂身口無教。彼有二種。謂善不善。無記。何以故。羸劣故。以無記心羸劣故不能起強業。若與餘識俱與彼事相續。如執須摩那華。雖復捨之猶見香隨。何以故。香勢續生故。非如執木石等。已說彼諸業

色無記二種 隱沒不隱沒
隱沒繫在色 餘在於二界

色無記二種隱沒不隱沒者。若色性業教無記名前已說。此有二種。當知隱沒不隱沒。隱沒繫在色者。若隱沒者。繫在色界。非上地。何以故。彼無記作心故。非在上地。下地煩惱起現在前。何以故。以離欲故。亦不在欲界。修道斷煩惱能起身口業。何以故。外門轉故。見道斷煩惱內門行故。不能起身口業。欲界修道斷煩惱但是不善。非不善煩惱能起無記業。餘在於二界者。若不隱沒無記繫在欲色二界。意業如心說。何以故。彼隱沒不隱沒通三界。故於中

若教無教戒 略說有三種
無漏及禪生 依順解脫戒

若教無教戒略說有三種者。無教戒略說當知有三種。問曰云何。答曰。無漏及禪生依順解脫戒。無漏戒者與道俱生。謂正語正業正命。禪生戒者與禪俱生。謂離欲不離欲。凡夫及聖人。依順解脫戒者。謂衆聚和合。於彼士夫邊。啓請受得。此三種戒攝一切戒。問曰。如是分別有教無教戒竟。何者與心俱生。何者不與心俱生。答曰

無教在欲界 教依於二有
當知非心俱 謂餘心俱說

欲界無教若順解脫戒所攝。及不攝。彼一切非心俱。不隨心轉義。問曰。何故不隨心轉。答曰。彼受戒已。不善無記心亦隨生故。不與善不善無記心隨轉。何以故。無心亦隨轉故。教

者。欲色二界不隨心轉。何以故。屬身故。餘心亦有故。謂餘心俱說者。餘謂禪無漏戒。彼二種隨心轉。何以故。異心不隨轉故。以彼心力生二種。彼常隨心作隨順義。故彼二種過去去成就。未來未來成就。現在現在成就。已說業差別。若業成就今當說

無漏戒律儀 見實則成就
禪生若得禪 持戒生欲界

無漏戒律儀見實則成就者。謂從初苦法忍。及一切聖人成就無漏戒。是戒在於六地。未來中間根本四禪。此色地亦無漏。彼未離欲見諦成就未來地戒。若離欲一切有學極少成就三地。或有六地一切阿羅漢成就六地。禪生若得禪者。成就禪戒非餘。是戒在九地。謂禪近地中間四禪。若人若得諸地。若凡夫若聖人。是得成就彼地戒。持戒生欲界者。若受戒者彼成就順解脫戒。是戒欲界人得非餘趣受。已略說成就差別。隨成就過去未來現在戒。今當說有三種人。謂住戒人。住非戒人。住非戒非非戒人。住戒人者亦有三種。以戒有三種故。彼者

若住解脫戒 彼無教現在
當知恒成就 或盡成過去

若住解脫戒彼無教現在當知恒成就者。若住順解脫戒。彼人從初剎那受無教戒。現在一切時成就彼現在無教。常次第相續乃至命未盡。何以故。要期分齊故。或盡成過去者。或有住順解脫戒。成就過去無教戒。謂已滅不捨。捨事有五因緣。後當說

①唯二惟②* ③(數)一④⑤ ⑥殺二教⑦ ⑧必二名⑨⑩* ⑪無十(無)⑫⑬ ⑭復一後⑮ ⑯欲色二色欲⑰⑱ ⑲者十(若得禪者)⑳
①九二六②③ ④或二過⑤⑥

若有作於教 成就於中世
彼盡而不捨 當知成過去

若有作於教成就於中世者。中世名現在。若人作身口教求受戒時。成就現在教戒。彼盡而不捨當知成過去者。盡者過去義。彼教盡時若不捨者成就過去教戒。此捨因緣如前說。略說如是初念教時。成就現在教及無教。彼後乃至教未盡未來。成就過去現在教及無教。此教盡已若不捨者。成就過去現在無教。彼但成就於過去教。非現在教。

若得禪無教 成就滅未來
中若入正受 教亦如前說

若得禪無教成就滅未來者。若得禪者成就過去未來禪戒。如成就禪彼人無教。雖決定滅由彼禪力故初如是彼得過去。如禪第二念等三世成就乃至未起禪。若起不捨成就過去未來無漏戒。與禪同故此中不說。既說禪戒亦說彼已。何以故。若有見諦教者彼人決定得於禪戒。故說禪戒即是說彼。

若作不善業 住戒成就二
共煩惱纏俱 當知彼盡盡

若作不善業住戒成就二者。若人住順解脫戒若住禪戒。彼不見諦作於不善。增上纏時不善無教便起。彼人爾時成就不善教及無教問曰。何者住禪戒作不善耶。答曰。若未離欲依未來禪得作不善。問曰。幾時成就無教耶。答曰。共煩惱纏俱。是人乃至未捨於不善纏當知彼盡盡。若捨彼纏彼教無教亦捨。若住非戒處 無教成就中

當知不愛果 或復盡過去

若住非戒處無教成就中當知不愛果者。住非戒者所謂屠羊殺雞殺豬捕魚捕鳥等。是人於一切時成就現在不善無教。是人初發作業剎那時。即於一切衆生所成就不善戒攝無教。若人初殺生時即得殺生所攝無教。於後隨所殺生。更得殺生所攝無教。非律儀攝戒。先已得故更不重得。或復盡過去者。第二念以去殺生。及非律儀攝無教。成就過去現在。乃至不捨剎那謝過去者名盡。

若剎那住教 是說成就中
亦復盡過去 善於上相違

若剎那住教是說成就中者。隨住教時成就現在教剎那現在名剎那住。亦復盡過去者。隨教剎那謝於過去未斷以來。是時成就過去現在。若盡而未捨但成就過去。善於上相違者。如住律儀說不善。如是住非律儀說善。極淨信心作施等善。彼時善無教起彼捨此亦捨。

若處中所作 是說成就中
亦復盡過去 或二亦復一

若處中所作是說成就中者。處中謂非律儀非不律儀。彼若作善成就現在善教。若作不善成就現在不善教。亦復盡過去者。是教若滅未斷亦成就過去現在。若盡已不捨但成就過去。或二者。或教無教過去現在。若極欲作必定方便不捨。亦復一者。方便盡已但成就現在無教。有人乃至命未盡來。成就現在無教不截止故。問曰。已說教順解脫戒。禪無

漏戒云何得耶。答曰

色界中善心 得禪律儀戒
是捨彼亦捨 無漏有六心
色界中善心得禪律儀戒者。若有人得色界善心。或時離欲或不離欲。彼一切得禪律儀戒。一切色界善心戒。常隨順。唯除六心。所謂眼耳鼻識及聞慧。心臨命終心起作業心。問曰。此云何捨。答曰。是捨彼亦捨。若捨色界善心亦捨於彼。無漏有六心者。彼無漏戒六心共得。所謂未來中間根本四禪。彼捨此亦捨。問曰。如是諸戒彼何者戒。幾時捨耶。答曰。

順解脫調伏 是捨於五時
禪生無漏戒 二時智所說

順解脫調伏是捨於五時者。謂捨自分種類時。捨戒時。斷善根時。二根生時。正法隱沒時。捨。或有。人說。犯戒根本梵行時捨。屬資者說。有四時捨。除後二種。禪生無漏戒二時智所說者。禪戒二時捨退及度界地。無漏戒亦二時捨退及得果。彼根次第得果相似故不別說。有人別之彼三時捨。問曰。非律儀云何捨。答曰。

非律儀四時 如是善無色
穢污唯一時 是說在於意

非律儀四時者。謂受戒時。得禪戒時。二根生時。捨自分種類時。彼戒非戒於三時捨。謂本勢過。希望止。方便息。是說捨戒非戒應當觀察。問曰。已說色自性業。無色自性業。竟復云何。答曰。如是善無色善無色業亦四時捨。謂

①後一彼②③④(如)一⑤⑥⑦乃二力⑧⑨人二一⑩

得果時退時。斷善根時。度界地時。穢污。唯
一時是說在於意者。穢污意業於一時捨。謂
離欲時。隨處處離欲彼彼捨。已說業自性及
成就。隨彼業世尊無量門分別。今當說

若業與苦果 當知是惡行
復有意惡行 貪瞋及邪見

若業與苦果當知是惡行者。若業感不愛果
當知是惡行。謂殺生等所有不善身口意業。
及。後眷屬是謂惡行。隱沒無記。無果報故不
說惡行。復有意惡行貪瞋及邪見者。彼不善
思是意惡行如前所說。復有貪瞋邪見業分。
當知如業以果成。因故。如女為梵行垢。如是
等已說

彼相違善行 最勝之所說
於中若增上 聖說十業道

彼相違善行最勝之所說者。與惡行相違當
知悉是善行。謂一切善業意業無貪無瞋正
見。於中若增上聖說十業道者。彼善行惡行
業中。若增上業勝者說名業道。彼惡行中增
上者名不善業道。若善行中增上者是善業
道。不善業道者。謂殺生等七種及貪瞋邪見
等。善業道者。謂離殺等七種。及不貪不瞋正
見。或。行方便重非業道。或業道重。故如是
說。殺生者。於彼他衆生想。作欲殺意欲害命
方便。彼業究竟名殺生不與取者。於他物
中作他物解。不與想欲劫奪意。取屬於己是
名不與取。邪行者。於所行處非道非處非時。
於非所行處行是名邪行。妄語者。異想誑他
想言說是名妄語。兩舌者。穢污心欲破壞他

語業是名兩舌。龜惡語者。以瞋忿心。他不愛
語說是名龜惡語。軟見貪等被顛頤。不善語
無益語非法語是名綺語。貪者。愛他資產惡
欲是名為貪。瞋者。增上惱他壞他心過惡是
名為瞋。邪見者。謗無因果是名邪見。此為十
不善業道。與此相違名善業道。餘業不名業
道。謂此業道後方便。及飲酒打拍等惡行。禮
拜等善行離飲酒思。如是等是。業非業道。問
曰。業道有何義。答曰。是業是道故名業。道又
業之道故名業。道業道業道故名業道。七業
亦業亦道是思之道故。三是業道此非業義。
問曰。何故諸煩惱中。此貪等三說是業道非
餘。答曰。增上惡故自。煩惱他故。此極過惡
餘不如是。彼對治不貪等。白道。於此業道攝
不攝業。略說二種。謂定不定。定有二種。報定
時定。時定有三種。問曰。云何。答曰

謂現法果業 次受於生果
後果亦復然 當知時各定

若業於此生作。即此生熟名現法受業。若業
次生熟者名生受業。過次生後餘生熟者名
後受業。此等三種名時決定。報決定者。報
決定熟非時決定。若得因緣便熟。餘名不定。
問曰。如世尊說樂受等三業。云何差別。答
曰

欲界中善業 及色界三地
是說為樂受 此亦定不定

欲界中善業及色界三地是說為樂受者。欲
界中善業能生與樂俱行報。色界初禪二禪
三禪地中。亦生與樂俱行報。彼總說樂受。問

曰。此業亦。時定耶。答曰。此亦定不定。若定
若不定。此四地中善業悉名樂受。此是樂受
所攝果報。故名樂受

生不苦不樂 彼在於上善
若受於苦報 是說不善業

生不苦不樂彼在於上善者。若第四禪及無
色界善業名不苦不樂受。彼業能生不苦不
樂俱行報故。若受於苦報是說不善業者。謂
不善業名為苦受。彼業能生苦受俱行報。故
此業亦定不定。問曰。如世尊說。黑黑報等四
業。云何分別。答曰

若色中善業 是白是白報
黑白欲界中 二黑說不淨

若色界中善業是白是白報者。色界中善業
是白。一向無惱故。彼報亦白。一向可愛故。黑
白欲界中者。欲界善業雜於不善故名黑白。
彼無一業黑白二報雜受。問曰。若報非黑云
何名黑。答曰。以不愛故名之為黑。愛者名白。
二黑說不淨者。不善業名黑。不可愛故。彼黑
還生黑報

若思能破壞 彼諸成就業
無礙道相應 是說第四業

若道能斷彼三種業。謂無礙道攝十七學思。
是第四業此不可呵故名不黑。無有染著故
名不白。與流轉相違故名無報。彼見道中法
智分攝。相應四思及離欲界八無礙道相應
八思。此十二思斷黑黑報業。第九無礙道相
應一思斷黑白報業。初禪離欲乃至第四禪
離欲第九無礙道攝。相應四思斷白白報業。

○後二彼 ○行二後 ○業二等 ○煩一惱 ○白二自 ○時一是

餘非報業。無色善業此中不數。何以故。無二白事。謂鮮潔白可喜樂白。故不說白。此經中世尊說中有。問曰。如世尊說。身口意業。曲過濫等何者是耶。答曰。

諂生謂為曲 過從瞋恚生 欲生謂為濫 世尊之所說

諂生謂為曲者。方便諂他覆藏己事。心曲名諂。此在欲界梵世非上地。彼在心地修道所斷。若業從諂起。以果成。因。故世尊說。曲彼非曲性。過從瞋恚生者。從瞋生業。以果成。因。故世尊說。過。欲生謂為濫者。若業從欲生。果中說因。故世尊說濫。問曰。如世尊說三種清淨三種寂靜。彼相云何。答曰。

一切妙行淨 無學身口淨 所謂意淨者 即是無學心

一切妙行淨者。所有身口意有漏無漏妙行一切說淨。問曰。有漏妙行不淨處。所云何說淨。答曰。與煩惱不淨相違。故。彼少分淨能引道第一義淨。故。問曰。云何名淨。答曰。無學身口淨。無學身口妙行。名身口淨。所謂意淨者。即是無學心。彼無學心名為意。淨得牟尼相離煩惱語言。斷三界癡髮。擯。依有頂煩惱。身有起作意不寂靜。是故不說牟尼。牟尼者是寂靜義。為斷樂水洗淨等。教是故說淨。為斷牟尼。故說身口意牟尼。已說業和合差別。業果差別。今當說。

善業不善業 是俱說二果 善或成三果 餘一果當知

善業不善業是俱說二果者。善業有二種果。謂欲界四禪。問曰。如世尊說三障。是相云何。答曰。

彼有漏善有依果報果。依果者。前生後生界地。自分善。報果者。無記。無漏斷煩惱業。有依果解脫果。依果者。前生聖道後生聖道。一切相似增長不減。解脫果者。謂無礙道斷諸煩惱。彼不善業亦有二果。依果報果。善或成三果者。若有漏善斷煩惱者。彼有三果。依果報果解脫果。如世俗斷結道。除一果當知者。謂無記業及餘無漏不斷結者。彼有一果。所謂依果。問曰。彼身口業造色自性四大所起。彼何者業何四大造。答曰。

自地若有大 身口業所依 無漏隨力得 是還依彼力

自地若有大身口業所依者。若欲界身口業。彼但欲界四大造。色界亦如是。無漏隨力得。是還依彼力者。無漏身口業隨力所得。還依彼地。如是四大生。若欲界無漏道起。彼還依欲界。如是四大造無漏身口業。應當知。如是色界還依彼地。如是四大造無漏業。應當知。問曰。若生無色界。捨於學戒。得無學戒。彼捨依何地戒。得依何地戒耶。答曰。隨依彼地生。隨依彼地滅。依彼地過去戒。及依五地未來戒等。皆悉捨之。更得依五地未來戒。五地者。謂欲界四禪。問曰。如世尊說三障。是相云何。答曰。

無間無救業 廣生諸煩惱 惡道受惡報 障礙應當知

有三種障。所謂業障煩惱障報障。障礙聖道及聖道方便故名。為障。業障者。五無間業。所謂殺母殺父殺阿羅漢。破僧惡心。出佛身血。

作此業已。必定次生無間地獄。故名無間。殺母殺父。棄背恩義。故墮無間地獄。其餘三種。壞福田故。煩惱障者。謂動煩惱及利煩惱。動煩惱者。數行煩惱。利煩惱者。增上煩惱。現行煩惱名之為障。非成就者。何以故。一切眾生平等成就諸煩惱故。報障者。隨所住報。非聖道器。報過惡故。問曰。彼何者是。答曰。一切惡道。北鬱單越。無想眾生。一向是凡夫地。故。問曰。此三業中何者最為大惡。答曰。

妄語破壞僧 當知極過惡 有頂世中思 善中最大。乘

妄語破壞僧當知極過惡者。一切業中。破僧妄語最為極惡。彼得阿鼻地獄。經一劫住。十三聚火圍遶其身。何以故。彼法非法。想非法。法想。亦破壞見法。想破僧起異道。故破壞法輪。是故此業一切業中。最為極惡。有二種破僧。謂破法輪及破羯磨。破羯磨者。同一界內。別處布薩作羯磨等。問曰。何者善業得最大果。答曰。有頂世中思。善中最大果。有頂正受思。一切善中得最大果。彼八萬劫極寂滅。故。果報因緣。故有頂中思。說為大果。餘金剛喻。相應思一切大果。彼一切結究竟盡果。故。

使品第四 業及煩惱因緣流轉已廣說。業彼業煩惱力故。受種種生非離煩惱。是故師欲分別煩惱。作如是說。

一切有根本 業侶生百苦 九十八種使 牟尼說當思 一切有者。謂欲有色有無色有。此等三有九

十八使以爲根本。何以故。此爲業侶。能生種種受生等苦。彼業由於煩惱力故受生有。力非離煩惱。是故欲求解脫者應當知之。知已遠離。何以故。如不識怨則爲所害。經中佛說有七種使。彼界行種分別爲九十八使。所謂貪使界分別爲三種。分別爲五界種。分別爲十五。慢無明使亦復如是。瞋使界分別爲一種。分別爲五。疑使界分別爲三種。分別爲四。行分別爲五。行種分別爲十二。身邊二見同見。苦斷故爲一種。戒取見苦見道斷故爲二種。邪見見取爲四種。如是爲十二使。界行種分別爲三十六使。是故有九十八使。問曰。云何知耶。答曰

一切諸使品 當知立二分 謂見道斷分 及以修道斷 見道所斷乃至修道所斷。*唯有此等諸使更無有餘。見者視也。彼爲見所斷故名見道斷。此言爲忍所害義也。修者是數習義。爲修所斷故名修道斷。此說爲得性道所斷義也。煩惱二十八 當知障見苦 彼當見苦時 斷盡無有餘 於見道修道所斷九十八使中。二十八使障於見苦故。見苦斷此後當說

滅者。當知十使修道所斷。已說使種差別。彼界差別今當說 最初煩惱種 欲界當知十 二中各有七 八種見道斷

最初煩惱種欲界當知十者。如前所說初見苦斷煩惱種類。彼中十使繫在欲界。所謂身見邊見邪見見取戒取貪瞋慢疑無明。二中各有七者。如前所說見集滅斷煩惱種類。彼中各有七使亦係欲界。當知於此十中除身見邊見戒取爲七。八種見道斷者。此欲界係七中增於戒取

欲界應當知 四使修道斷 謂餘上二界 當知同可得 欲界應當知四使修道斷者。謂貪瞋慢無明等如是彼三十六使。係在欲界應當知。謂餘上二界者。餘六十二使係在色無色界。當知同可得者。如是三十一使係在色界。三十一使係無色界。三十六中除五瞋使。已說使數種界差別。使自性今當說 所謂有身見 邊見及邪見 二取應當知 此五見煩惱

此五煩惱皆是見性。身見者彼於五受。陰中執我我所。是名身見。邊見者於彼計著斷常是名邊見。邪見者誹謗四諦。審爾計著是名邪見。戒取者於自在等自性丈夫中間智等。彼非解脫苦因中妄執爲因。取戒等此中除等名取戒故名戒取。見取者於有漏法執爲最勝。取見等此亦除等名故名見取。此智慧性故說名見。此等五見攝一切見。此一邪見

邪執著故。以行差別故說五種 貪欲及疑瞋 慢無明非見 境界差別轉 說有種種名

貪欲及疑瞋慢無明非見者。貪者彼於有中愛想樂著是名爲貪。疑者於諦實義計以爲實。或誇實義彼中猶豫是名爲疑。瞋者若他侵陵。不能容忍便生惡欲。於衆生所極作逼迫破壞。非處生心惱彼是名爲瞋。慢者於自地中稱量心舉是名爲慢。無明者於諦。相中不知不淨是名無明。此五煩惱非慧性故。使不說見。如是一切煩惱境界差別轉說有種種名者。此十煩惱隨於境界。差別轉故立種種名。此中若緣苦轉說見苦斷。如是見集斷等亦爾

不苦於一切 離三見二轉 道除於二見 上界不行瞋 下苦於一切者。欲界中苦是名下苦。彼一切十使與見苦相違。問曰。云何相違。答曰。世間不能觀察。彼於苦。陰不如實知。聞說。陰苦不喜不樂。此不觀察是名愚癡。以愚癡故於中生疑。爲但是。陰爲有我耶。起如是心是名爲疑。疑故邪說或本習故。謗言無。陰是名邪見。計有於我是名身見。見彼相似相續不斷故生常見。見彼因果相續壞滅。以迷惑故生於斷見。執於斷常故名邊見。於此見中取以爲淨是名戒取。於此見等取爲最上。是名見取。若愛已見是名爲貪。若恚他見是名爲瞋。以此自高是名爲慢。如是次第此十煩惱與苦相違。離三見二轉者。除身見邊見戒取。其

見集斷十九者。十九使障於見集故見集斷。當知滅亦然者。當知見滅亦斷十九使也。增三見道斷者。二十二使見道所斷。十說修道

①力二九②苦二若③界行二行界④得二智⑤三二亦⑥薩二陰⑦陵二凌⑧相二想⑨使二彼⑩陰二蓋

餘七使集及滅轉。彼於苦因不知是名無明。癡故生疑於苦因。為有為無是名為疑。疑故邪說或因本習。謗無苦因是名邪見。於彼取勝是名見取。餘如前說。如是於滅諦涅槃不知是名無明。以愚癡故迷惑涅槃為有為無。是名為疑。餘如前說。道除於二見者。道除身邊二見餘八種轉。於彼不信受道是名無明。餘一切如前說。戒取者於此諸見。牛戒等中信以為淨。問曰。彼身見等何故不於集滅道中轉耶。答曰。身見於果中行我我所轉。無有作如是解。於此苦因及滅道等計於我者。是故身見於苦中轉。故見苦實悉斷無餘。邊見從身見生。是故苦緣若見斷身見者。彼緣彼見亦斷邊見。問曰。若戒取不信於因。計自在因為道。彼云何見苦斷耶。答曰。彼愚於果。計自在等。陰名而起彼常分別。於自在等以作因想。彼時能以無常等行觀察苦諦。計自在等因想即斷故見苦斷亦不信道彼計非道為道。為道故見道斷見真道故滅中無此。何以故。如是因道滅中無故。上界不行瞋者。色無色界除瞋。餘如欲界說。何以故。彼無損害相故。有善欲故。性寂靜故。心滋潤故。是故無瞋。已說諸使自性差別。緣差別今當說

普遍在苦因 疑見及無明
是使一切品 謂在於一地

見苦見集所斷品中。疑見及相應無明不共無明。此十一使當知界。界自界地中一切遍。此於自地一切五品中緣使上不使下。何以故。離欲性故。下不使上。何以故。非境界故。

故說使於自地。問曰。一切遍義云何。答曰。緣一切有漏事義故名一切遍義。彼一切一切衆生。一切有漏事中。本來起故。是名一切遍義。無有一有漏法。若凡夫人本來不取執我我所等者。問曰。何故見。苦見集所斷品中。說一切遍非滅道耶。答曰。一切有漏緣故。同一意故。是以堅固一切有漏事苦集諦攝。見滅見道所斷諸使。少分有漏緣少分無漏緣。非同一意故。非堅固亦非一切緣。問曰。何故貪瞋慢等非一切遍。答曰。此是自相使故。於一衆生少分亦生。一切遍使則不如是。一切遍者緣一切界一切地故。貪等作意起求貪欲。具一切遍者但於他現生惡行猶如河流。已說自界地一切遍他界地一切遍今當說

初煩惱五種 四說為第一
於上境界轉 普遍智所說

前說十一一切遍中。除身邊二見餘九煩惱。他界地中說一切遍。彼欲界見苦所斷邪見。謗色無色界苦果。見取取勝戒取於非苦因取為苦因。疑彼中猶豫無明迷惑。如是欲界見集所斷邪見。謗色無色界。陰。因見取於因事取勝。疑於因事猶豫無明迷惑。如是色界邪見謗無色界苦果。如是應廣說。地亦如是。初禪地謗第二禪苦。如是應廣說。乃至不用處謗非想非非想處。復次無色界異彼無他界一切遍。何以故。上無界故。非想非非想處無他地。一切遍上無地故。問曰。何故身邊二見非他界地一切遍耶。答曰。非異界地生。於異界地。陰生我我所無此理也。無二身事行

此非現見故彼無我故。無生我所理也。邊見者於己。陰中計存斷常

邪見及與疑 俱生獨無明
見滅道二斷 當知無漏緣

見滅斷邪見謗於滅諦。疑者疑於滅諦。彼二相應無明及獨一無明。無明不見相於滅處。轉此三煩惱緣滅諦故。是無漏緣道中亦爾。如是三界有十八使定無漏緣。問曰。何故見滅所斷。貪等煩惱非無漏緣。答曰。如其無漏緣者。則不見貪過。是故貪使非無漏緣。若貪滅道者。是善法欲非貪使也。非瞋者毀皆相不生故。自性柔軟作故。無漏非可慢也。清淨最勝是涅槃道故非二取

阿毘曇心論經卷第三

*法勝論 *大德優波扇多釋

高齊 *天竺三藏那連 *提耶舍譯

*六卷成部

使品之。二別譯

問曰。彼何者使。何處使

欲界一切種 一切遍使使
緣縛於自地 上地亦如是

欲界一切種一切遍使使緣縛於自地者。欲界一切遍。使使。欲界一切種上地亦如是者。色無色界自地亦如是

其餘諸結使 當知於自種

①道一第 ②地一切 ③苦二若 ④一二二 ⑤釋二譯 ⑥(第四)十之 ⑦二二餘 ⑧使一使緣 ⑨地緣

緣使於自地 一切共依品

其餘諸結使當知於自種緣使於自地者。非一切遍使。於自種類自地法中。緣使所使此彼境界。一切共依品者。一切遍使及不遍使。於自種類自品相應法中相應使

若無漏所行 他地緣煩惱 彼相應所使 境界解脫故

若無漏所行他地緣煩惱彼相應所使者。若使無漏緣。及他界地緣煩惱。彼相應所使非緣使。問曰。何故。答曰。境界解脫故。此使解脫境界故。無漏諸法解脫一切煩惱。問曰。云何緣而不使。答曰。無住處故。彼對治無漏。是故不得住處。譬如炎熾琉璃蚊蚋等蟲。樂昇其上而不能住。如人履於熱地以熱觸故不能停足。彼亦如是。上地諸法解脫下地。是故緣而不使。問曰。此使云何。為是不善為是無記。答曰

身見及邊見 彼俱生無明 是欲中無記 色無色一切

身見及邊見俱生無明是欲中無記者。欲界身邊二見。及彼相應無明是無記。何以故。與施戒等不相違故。身見常見於施戒修不相違。何以故。欲受未來可愛果故。是故作施等事。不善則與施等相違。是故無記。又諸衆生常行此見。若此煩惱是不善者。欲界應無有一衆生得受樂者。何以故。常行不善故。復次此見愚於自事不逼迫他。是故身見非是不善。斷見隨順離欲近於無我。能作厭離無常行故亦非不善。欲界諸餘煩惱皆是不善。

色無色一切者。色無色界所有諸使悉是無記。四支五支三昧所制伏故不能生報。譬如善呪制伏毒蛇不能為害。彼亦如是。復次不能為報因者。不善能生。苦受報。上無苦受不可欲界受於彼果。問曰。云何一切煩惱。決定於自境界中。轉。為富不耶。答曰不也。問曰。云何。答曰

貪瞋慢當知 過去或緣縛 未來說一切 餘一切三世

貪瞋慢當知過去或緣縛者。若過去世貪瞋慢等彼非一切。於自境界中過去世縛。何以故。非不見不聞。不聞不分別事起貪瞋慢。何以故。分齊緣故。或時有人於眼生貪非餘身分。何以故。自相使故。非貪等使共取境界如。身見等。未來說一切者。若未來世貪瞋慢等。緣縛三世諸有漏法。彼中若五識身。必定生法係縛未來。若不生法係縛三世。及意地生不生法。亦緣縛三世諸有漏法。何以故。彼緣一切有漏法故。餘一切三世者。見疑無明是名為除。彼共相縛故。若過去未來緣縛三世諸有漏法。何以故。彼是共相使故。現在使不定是故不說。若有者彼自相使隨現在前。彼現在未來縛。未來縛者。謂意地及不生五識身等。過去世者。若於彼起已滅不斷於彼中縛。若共相使現在前者。彼縛三世諸有漏法。已說使世差別。次第轉今當說

煩惱次第轉 自地於自地 上地亦生下 次第應當知

煩惱次第轉自地於自地者。謂一切使於自

地使次第緣轉。一一次第生於一切。上地亦生下次第應當知者。於梵世地命終次第生欲界。一切彼中染污心命終。次第欲界中陰穢汚心生。如是乃至有頂中生。或生如是生。如生無色界還生無色界。問曰。如世尊說貪等七使。云何差別為九十八。答曰

欲界五種貪 此說欲愛使 色無色亦爾 有愛應當知

欲界五種貪此說欲愛使者。所謂見苦集滅道修道斷等。五種欲貪說欲愛使。此如前說。色無色亦爾有愛應當知者。色界五種。無色界中亦有五種說有愛使

瞋即是瞋使 五種如前說 憍慢及無明 十五在三界

瞋即是瞋使五種如前說者。欲界瞋有五種。見苦斷等說為瞋使。憍慢及無明十五在三界者。欲界憍慢亦有五種見苦斷等。色無色界亦有五種。此十五種慢說為慢使。無明亦爾

見使三十六 當知在三界 疑使有十二 略說為七種

見使三十六當知在三界者。見使三十六當知十二係在欲界謂見苦斷五。見集斷二。見滅斷二。見道斷三。色無色界亦爾。疑使有十二者。四種係在欲界。謂見苦集滅道斷。色無色界亦爾。此十二種說為疑使。略說為七種者。此界性種差別為九十八使。世尊經中略說為七種。問曰。使有何義。答曰。彼微細義是為義使。使微細行。龜者名纏。常隨入義名使。如胡麻。摶相。著義名使。猶如小兒著於

①(答)十為②③ ④(於)十苦⑤⑥ ⑦轉二縛⑧⑨ ⑩或二世⑪ ⑫或二世⑬ ⑭明註曰或北藏作世 ⑮[不聞]一⑯⑰ ⑱身二是⑲ ⑳(若)一 ㉑ ㉒使二彼⑳㉑ ㉒隨入二入隨⑳㉑ ㉒摶二團⑳㉑

乳母相續義名使。猶如鼠毒。如四日瘡病。如責日息。如鐵黑色不捨。如讀誦漸積。如是煩惱。世尊說爲。扼流取漏縛。問曰。何故。答曰。

厄取及漂流 泄漏與繫縛
以是義故說 厄流取漏縛

苦繁義說厄。此有四種。謂欲厄有厄見厄無明厄。取生具故說爲取。此亦四種。謂欲取見取等。漂衆生故說流。亦有四種。如厄中說彼流出義是漏義。一切生中行漏有三種。謂欲漏有漏無明漏。能繫縛世間義故名縛。問曰。何者爲結。答曰。結有九種。謂愛結結慢結無明結見結他取結疑結慳結嫉結。已說煩惱名差別根相應今當說。

諸使在三界 盡捨根相應
隨地諸根使 相應至色有

諸使在三界盡捨根相應者。三界一切煩惱盡與捨根相應。何以故。無明與捨根相應。彼隨順一切煩惱。及隨順別煩惱。一切煩惱後時悉皆處中而息。隨地諸根使相應至色有者。如梵世有喜根樂根。彼中諸使與此相應。如光曜天有喜根。彼地諸使與喜根相應。遍淨天亦有樂根。彼中諸使與樂根相應。

邪見及無明 欲界中樂苦
瞋恚疑。唯苦 謂餘一向樂

邪見及無明欲界中樂苦者。欲界邪見與苦根樂根相應。邪見者作惡業則喜。作善業則憂。無明者與一切根相應。瞋恚疑唯苦者。欲界疑使不定故不喜故。與愛根相應。瞋恚於不愛相轉故。與苦根憂根相應。謂餘一向樂。

者。欲界諸餘煩惱與喜根樂根相應。彼除邪見。謂餘見貪慢等喜轉。

謂熏二種身 見斷唯意地
欲界諸煩惱 說諸根相應

謂熏二種身者。修道所斷煩惱名熏。彼與身受心受相應。除慢唯意地故。彼苦根樂根是說身受。憂根喜根是說心受。捨根二種受。一切身受修道所斷。心受二種斷。見斷唯意地者。見斷煩惱與心受諸根相應。一切見斷煩惱在意地故。欲界諸煩惱說諸根相應者。此必定欲界煩惱法如是。上地隨地根相應亦如是。疑者色界中唯與喜根樂根相應。彼疑善助道想與喜相應。已說煩惱。起煩惱今當說。

無慚與無愧 睡悔及慳嫉
掉眠煩惱上 故說起煩惱

使者亦說煩惱。彼增上者是起煩惱。此等八法彼中生故。名起煩惱亦名爲纏。彼中睡眠無愧三種依於疑起。掉慳無慚三種依於貪起。悔依疑起。嫉依瞋起。自身作惡不嫌名爲無慚。不顧他不羞名爲無愧。睡時令心無所堪能。以眠著故。令五根不能轉意不自在。於愛不愛境界生於分別。心不寂靜是名爲掉。於可作不作不可作想。後退變心熱是名爲悔。見他資產。心中不喜是名爲嫉。於法於財福德吝惜。與施相違慳心是名爲慳。

一切煩惱伴 當知睡與掉
無慚及無愧 必定不善俱

一切煩惱伴當知睡與掉者。此二起煩惱與一切煩惱相應。何以故。通三界故。一切煩惱

不寂靜故。當知掉煩惱現前。於善無能故當知睡。無慚與無愧必定不善俱者。此二起煩惱與不善使相應。欲界一向不善故。

悔在意說苦 修道之所斷
眠唯在欲意 餘各自建立

悔在意說苦者。悔在意地下劣處生。故與憂根相應。說苦者當知在欲界非上界。問曰。爲誰所斷。答曰。修道之所斷。悔在善行惡行中。故修道所斷。眠唯在欲意者。眠在欲界意地。眠時一切煩惱共行。是故欲界意地一切煩惱相應。餘各自建立者。餘謂慳嫉彼自力轉。不與餘煩惱相應。義除無明決定修道所斷。與不共無明使相應。問曰。此使與幾識身相應。答曰。

貪欲瞋恚癡 當知依六識
謂欲修道斷 上地隨所得

貪欲瞋恚癡當知依六識。謂欲修道斷者。欲界修道所斷。愛恚無明六識相應。若見道斷者唯在意地。上地隨所得者。色無色界愛無明等。隨所得識身即與相應。如梵世四十四識身可得。彼中二使即與四識身相應。此上唯與意識相應。彼中餘使一向在意地故。已分別煩惱斷分別今當說。

一切斷煩惱 方便智所說
如此得解脫 當知非一時

*一切斷煩惱方便智所說者。此諸煩惱謂在無礙道中。一時頓斷不數數斷。彼斷有四種。謂知緣伴斷斷緣。自清淨。彼知緣者。謂見苦集所斷自界緣及無漏緣。伴斷者。謂他

①扼二扼②厄二扼③下同 扼④下同 ⑤唯二惟⑥下同 ⑦慢十(漫)⑧掉二掉⑨慳⑩(掉)一⑪退二道⑫不一⑬與二及⑭(十四)一⑮一切二一時⑯此二是一

界緣斷緣者謂滅道所斷有漏緣。自清淨者。謂修道所斷隨彼彼所斷。如是如是。如是自身清淨。如此得解脫當知非一時者。此得解脫隨彼數數得。如欲界見斷五時作證。謂自對治時。如見苦斷苦法智。如是乃至見道斷道法智。及四沙門果此前所斷。須陀洹果攝亦如是。色無色界三。諦亦如是。此中說自對治比智分見道斷者。斷作證決定凡夫。聖者色無色界見道所斷一時斷。是故此中無自對治。有頂地中見苦集。滅斷者。決定五時如前說。賢聖次第法見道斷者。但四沙門果自對治。即是須陀洹果決定修道斷。欲界三時謂凡夫地阿那含果及阿羅漢果。一切悉斷法此自對治。須陀洹果中不說色界二種。謂自對治阿羅漢果。自對治者。一切色界離欲無色界。但阿羅漢果一切斷法。已說滅作證。斷知今當說

欲界中解脫 佛說四斷知
色無色解脫 當知五斷知
因盡斷得無漏解脫。得度界建立斷知。何以故。解脫無餘隨得斷知名。彼有九種。彼中欲界見苦集斷者得無餘解脫。何以故。開一切遍因故。斷故此一斷知見滅斷。第二見道斷。第三修道斷。第四此斷下分別。色無色界亦爾。見斷三如前說。色界修道斷第四。此無餘離色欲故。分別無色界修道斷。第五此一切結盡分別。於此斷知分別有二。謂得阿那含果及阿羅漢果。以此二處度界得果故。

問曰諸使爲與心相應爲不相應。毘婆闍婆提說。心不相應是故生疑。答曰。決定相應。何以故

爲心作煩惱 障礙淨。法相
諸妙善可得 故非不相應

爲心作煩惱者。若使決定。心不相應者。不應爲心作煩惱。應如色等境界。然爲心作煩惱。如說貪欲穢心。以此言故當知相應。障礙者。若使心不相應者。善智生時不應障礙。應如虛空不作障礙。今爲障礙故知相應。淨相違者。若使與心不相應者。便應與善不相違。不相違故則應非過。然爲過故當知相違。若相違者故知相應。諸妙善可得者。若汝使與善相違。心不相應者。使恒相續於中善應不能得起。現見善法能得起故。是故諸使非不相應。是相應也

賢聖品第五

已說流轉次第。不流轉次第今當說

賢聖棄如此 煩惱衆怖。獷
精進方便智 彼方便善聽

賢聖者。於人天中應受供養故名賢聖。棄者捨離義也。如若方便如是義。此者次第說使。辨其相貌。煩惱者。相續煩勞衆生故名煩惱。衆怖。獷者。謂是一切苦惱因義。正精進者。如法精進義也。方便智者。謂含摩他制發捨時智義。方便者。謂彼方便義也。善聽者。謂至心聽。聽智攝持義。方便者。據始業。地人乃至無學地人。戒等所作方便行者。始業今當說

始於身一分 行者係自心
係縛於識足 爲殺智慧怨
始於身一分行者係自心者。問曰。何處係耶答曰。若鼻端若眉間。不淨阿那波那。界入三方便觀故。自身分中說係心非外法。雖有外緣方便不說。問曰。何故係心。答曰。係縛於識足心。性躁亂動轉不住。如驚猿猴。此是係一緣中義。問曰。何故係一緣中。答曰。爲殺智慧怨。實智怨者。所謂煩惱。爲斷彼義是故一心得觀。如實非亂心也。見如實故能斷煩惱以是義故作如是說

此方便於身 真實相決定
諸受及自心 法亦隨順觀

心係一緣故觀身實相。身實相者。謂不顛倒相如義也。問曰。何者是身實相。答曰。自相及共相。彼自相者。謂十色入及法入中少分色也。彼共相者。所謂無常苦空無我。如是等義不亂心。行者三方便中隨意現前。方便行次第身實相得決定。此行者觀微塵色念念散壞。是時身念處觀滿如畦水流法入受念處。無色法中受是最龜。故觀身後次觀於受。是人觀受自相共相。爾時受念處滿。彼受依心。是故受後次觀於心。此處亦自相共相。決定意解心念處滿。爾時爲觀其餘法故。入法念處。其餘法者。所謂二陰及無爲法。彼亦觀於自相共相。爾時法念處滿
入法中總觀 得法真實相
此四是無常 空無我非樂
入法中總觀得法真實相者。入餘法念處已。

此二是一 諸一地 滅一斷 前說二時謂 法相二相違 心一 不二取 獷二 獷二 辨二 智二知 人二 二陰 時一

行者知分齊緣念處修方便。於一切法餘共相壞緣念處。數數慣習修身受緣共相法念處。如是身心緣如是三二。當知如是壞緣。數數慣習修已。一切身受心法念處一來總觀。問曰。云何。答曰。此四是無常空無我非樂。總觀一切有爲諸法。無常等如是義。彼念念展轉壞滅故是無常。虛無故空。不自在故無我。三苦常隨逐故非樂。彼人欲壞煩惱覓其元首。如所見法因果差別。分別於諦彼中二種。因果有漏無漏。彼有漏者集因。苦果。彼無漏者道因滅果。彼人如是分別諦已。初發趣次第聞思。念處自相共相。攝取分齊緣諦中分布。彼時壞緣法念處四諦中。思惟十六行觀。

從是名爲暖 於覺法而生
十六行等起 觀察四聖諦

從是名爲暖於覺法而生者。行者思惟共法念處。次後最初修事。共法念處相續建立。聖者名暖善根。問曰。彼法幾行何境界。答曰。十六行等起觀察四聖諦。行者以十六行觀察四諦。彼以四行觀察苦諦。此苦本無今有已有還離故無常。三苦隨逐故。苦內離人故空。不自在故無我。如是亦以四行觀察集諦。此集生相似果故因。能生流轉故集。能牽一切生死故有。能和合不相似事故緣。亦以四行觀察滅諦。此滅與一切生死相違故滅。離一切煩惱火故止。於一切法中勝故妙。能捨生死故離。亦以四行觀察道諦。此道能至非品故道。不顛倒故正。一切聖足所履處故跡。

出過生死故出。問曰。暖有何義。答曰。智於所知。如鑽燧相研能窮盡諸有。生無漏智火。暖爲相故名暖。

是法增長已 生頂及於忍

次世第一法 依於一剎那

是法增長已生頂及於忍。行者入正精進故得善助道。隨順來具增長勝進力故。暖得增長成就已。彼人修一切苦法念處。生勝善根名頂。問曰。頂是何義。答曰。不動善根。彼住此頂時。離諸過故能入忍中。彼若不者還退任暖。如人登山。若不至頂則墮四邊。行者如是。正方便相續。頂增長已次生善根名順諦忍。是修一切共法念處。勝進彼二法以十六行觀察四諦。問曰。忍有何義。答曰。彼於四諦無常等行。樂欲增長是故名忍。是故說順諦忍。能除四諦增上愚。暖頂能除四諦下中愚。非增上忍增長已。次世第一法依於一剎那。忍增長已一切共法念處勝進。故生如是一切世間功德中最勝善根。彼初開聖道門故名世第一法。有說。世間中最勝故名世第一法。此法一剎那起。此行者開涅槃門已。滅與苦法忍次第緣故。一念暖頂忍及彼最上功德。此一切善根皆五陰性。問曰。汝言世第一法與聖道作次第緣。云何是五陰性。答曰。心心數法與次第緣。色心不相應行。隨順一果。是故非過。問曰。此世第一法何緣。答曰。苦諦。彼緣苦諦義也。問曰。幾行。答曰。四行。若苦諦境界四行如上所說。彼行此行。問曰。幾地所攝。答曰。六地生。當知未來中間根

本四禪。問曰。餘達分善根幾地所攝。答曰。餘亦依六地彼亦六地。如世第一法。問曰。何故達分善根六地所攝。答曰。從彼能生見道。彼地有見道有見道處卽有此等。何以故。見道眷屬故。是故如是。

世間第一法 次必起於忍
忍次生於智 能覺於下苦

世間第一法次必起於忍。暖等次第生如上因分。乃至能生世第一法。世第一法次第生無漏法。欲界見苦斷十使對治名苦法忍。昔所未見法欲知樂名忍。此最初無漏無礙道。忍次生於智者。苦法忍次第生苦法智。解脫道自性。問曰。此忍智何緣。答曰。能覺於下苦。下苦謂欲界苦。此二種緣如是義。

謂色無色苦 集滅道亦然
此法無間等 從於十六心

謂色無色苦者。色無色界苦亦如是。生忍無礙道智解脫道。聖者亦說苦比忍苦比智。集滅道亦然者。集滅道亦如是生四種。異義二忍爲無礙道。二智爲解脫道。此法無間等說於十六心者。此十六心。須成就無間等。無間等是見義。此十五心。須是見道。最後一心是修道攝。從此名修地乃至金剛喻定。此後名所作已辦地。略說三地。謂見地。修地無學地。隨此地建立人今當說。

隨法行利見 此在於十五
隨信行非利 當知亦在中

隨法行利見此在於十五者。見道所攝十五心。若利根者說隨法行。智慧隨法行故名

○[彼]一○ ○苦二若○* ○[彼]一○ ○暖二煖○下同 ○行二事○ ○苦二共○ ○陰二散○ ○從一說○ ○須二頃○ ○* ○十二中○

隨法行。此障不信於他義也。隨信行非利。當知亦在中者。卽此十五心人。若軟慧者說隨信行。是信他法得行義也。彼人信現在前慧隨順。與彼相違說法行。

未離欲界欲 趣向於初果

第二捨於六 第三九無垢

未離欲界欲趣向於初果者。此隨信行隨法行人。先未離欲具一切縛。至決定。分名向須陀洹果。第二捨於六者。欲界修道所斷煩惱分別九種。所謂下下中下上。中下中中上。上下上中上上。彼信行法行人在凡夫地。已割六種煩惱後。入決定。是時說向斯陀含果。第三九無垢者。若割九種煩惱後入決定。是時說向阿那含果。

若至十六心 是說住於果

軟見信解脫 淨見說見到

若至十六心是說。信於果者。在十六心道比智相應彼起。若利根若軟根俱說。信果先未離欲須陀洹果。離六種欲斯陀含果。離九種欲阿那含果。軟見信解脫者。若軟根者向地中名信行。彼住三果名信解脫。淨見說見到者。彼利根者住果名見到。

未盡修道斷 當知七往來

家家有三盡 彼住須陀洹

未盡修道斷當知七往來者。此人住果未斷修道斷故當知七生死。彼人中受七生。欲界天中受七生。及中陰二十八生俱受七生。故名七生。如七葉樹。如七處善家家有三盡者。若住果若凡夫人。欲界修道斷中三種盡。上

上上中上下下。彼說家家。家家者從家至家往來而入涅槃。故名家家。人中二三家天中二三家往來。此有二種謂人家家及天家家。以業根斷煩惱差別故名家家。業者於凡夫分。作受二二三有集業。根者得無漏根。斷煩惱者。斷三四種煩惱。彼住須陀洹者彼七往來。及家家說住須陀洹果。問曰。何故名須陀洹。答曰。須陀名聖道流。洹名爲入。若人相續初見修道入彼流中。又是人得須陀洹果。故名須陀洹。如。婁孕女兒。以法名人。

六盡斯陀含 離八一種子

九品盡不還 已出欲泥故

六盡斯陀含者。若人斷六種盡。謂上品三種中品三種是斯陀含。從此命終生於天上。復生人中而般涅槃。名斯陀含。離八一種子者。一生種子義。彼人餘唯一生。若人若天有一種子。謂人一種子。或煩惱差別名一種子。彼餘唯一有未盡故名一種子。是人爲阿那含果向。當知斯陀含果中勝道攝。九品盡不還者。若人欲界一切九種煩惱斷名阿那含。不還來欲界生故名阿那含。問曰。何故不還來。答曰。已出欲泥故。出愛欲泥。是故不復還來欲界。

如是九煩惱 在於上八地

彼雙道所斷 世尊之所說

如是九煩惱在於上八地者。如是欲界修道斷煩惱如前說。九種煩惱下下乃至上上。當知八地亦如是。謂四禪四無色定彼雙道所斷。世尊之所說者。彼三界煩惱。當知無礙解

脫道斷。無礙道斷結得解脫道證。解脫下下道斷上上種。乃至上上道斷下下種。此略說一百七十八道及見道。問曰。云何決定出世間道。斷煩惱爲當不耶。答曰。不也。問曰。云何。答曰。

有垢無垢道 俱能勝八地

住彼說身證 謂得滅正受

有垢無垢道俱能勝八地者。有垢者世間道無垢者無漏道。彼八地欲界四禪三無色定。世間出世間道能過彼有頂。中必出世間道能過彼世俗道。亦無礙道解脫道。彼無礙道三種轉。謂苦龜障解脫道亦三種。謂。上妙出世間道。如前所說無常行等。住彼說身證謂得滅正受者。彼八地離欲中住學人。若得滅盡定者。彼名身證。身證涅槃相似法故。是名身證。

金剛喻三昧 次必生盡智

生意我生盡 羅漢離諸漏

金剛喻三昧次必生盡智者。生有頂離欲第九無礙道。最後學心名金剛喻三昧。猶如金剛無不能壞。次後必生盡智。此初無學心。彼二智異。或若比智或集比智。如彼人從盡智起。作如是緣盡隨順生慧。生意我生盡者非想非非想處四陰。當知此中生。何以故。最後斷故。羅漢離諸漏者。彼盡智起時一切漏盡名阿羅漢。於天人中應受供養。故名阿羅漢。問曰。阿羅漢有幾種。答曰。

阿羅漢六種 五從於信生

彼得於二智 當知時離垢

①[行]一②③ ④入二八⑤ ⑥信二住⑦⑧ * ⑨名二言⑩⑪ ⑫作二中⑬ ⑭三二二⑮⑯ ⑰妻一懷⑱ ⑲一二二⑳㉑ ㉒上二止㉓

阿羅漢六種者。謂退法思法護法任法必昇進法不動法。彼中若人軟智軟方便。最初與退具相應。必定退故名退法。若人軟智軟方便。常厭惡身念欲壞滅。彼死成就思法。若軟智增上精進。以精進力自護。是名護法。若中智等精進住此道。不進不退故名住法。少利智極精進必能進至不動。名必昇進法。若利智廣精進。初得不動。是名不動法。五從於信生彼得於二智者。此六種阿羅漢中。前五種本是信行。彼有二智。盡智無學正見。彼或時退是故不生無生智。彼盡智或一刹那。若次第無學正見現在前。或增長。若彼現在前當知時。無垢者彼時解脫。觀察若國土若時若伴若說法若衣食等。進修善根。此善根分。不一時隨所欲進修。故名時解脫。

不動法利根 是非時解脫

彼得於三智 自解脫成就

不動法利根是非時解脫者。若人一向利根是不動法。當知非時解脫。彼人善。分於一切時隨所欲進。不觀於時故名非時解脫。彼得於三智者。彼生三智。謂盡智無生智無學正見。彼是不退法。是故生無生智。是人盡智一刹那無生智。或一刹那若次第無學正見現在前。或時得勝進便彼現在前。自解脫成就者。彼人成就自相似名解脫。當知時解脫者。彼決定時得解脫。成就不動者非。非彼煩惱之所能動。猶如王印。故名不動。

當知慧解脫 不得滅盡定
唯有俱解脫 成就滅盡定

當知慧解脫不得滅盡定者。是六種阿羅漢中。若不得滅盡定者。當知是慧解脫。慧解脫者。彼唯慧力得解脫故名慧解脫。唯有俱解脫成就滅盡定者。彼六種阿羅漢中。若得滅盡定者。當知是俱解脫。以慧力故。於煩惱障而得解脫。以定力故。於解脫障而得解脫。以是義故名俱解脫。如上所說賢聖士夫。略說二種。謂學無學。為斷煩惱故。學是名為學。非斷煩惱故名無學。何故不學。學已竟故。已分別賢聖人。法差別今當說。

若隨信行法 及隨法行法

如是見諦道 是盡同一相

若隨信行法。若隨法行法。若見。諦彼同一相見諦道中。信行法行差別。以法名人。

彼中諸根數 是說未知根

諸餘有學法 智者說。智根

彼中諸根數是說未知根者。彼見諦道所攝之中。若根數法。所謂意根樂根喜根捨根。信等五根是名未知根。未知欲知故名未知根。彼見道所攝士夫當知如是根。諸餘有學法智者說知根者。見道已上即此諸根數法說為知根。知已復知故名知根。若修道所攝士夫當知如是根。

於中無學法 當知知已根

得果捨前道 此義應當知

於中無學法當知知已根者。於無學法中即此諸根數法名知已根。知已更無所知故名知已根。若無學所攝士夫當知如是根。問曰。此賢聖人一次第如上所說。彼人一切成

就先所得道。為當不耶。答曰。得果捨前道。此義應當知。若此士夫入道已。當知勝進行。此得果已捨於前道。何以故。不欲令彼果向一故。若退根。及增進根。彼亦捨道。此中不說得須陀洹果捨於見道。得斯陀含果或捨見道。或捨須陀洹果勝道得阿那含果。或捨見道。或捨斯陀含果勝道得阿羅漢果。捨阿那含果。捨阿那含果勝道。若增進根差別者。捨果勝道亦得果利根所攝學無學。捨果亦得果。若退者捨勝得劣。問曰。如得果者捨於前道。彼亦捨斷不耶。答曰。捨道非斷。

已盡為解脫 得依於一果

不穢汚第九 除斷應當知

已盡為解脫得依於一果者。先所斷煩惱。一解脫得果攝。是故不捨斷。向道中所有解脫道得如是解脫。問曰。斷煩惱如前說。彼不穢汚。云何斷耶。答曰。不穢汚第九除斷應當知。已說九種煩惱。九種道斷彼不穢汚。決定第九無礙道時頓斷非漸漸斷。不穢汚者。謂善有漏不隱沒無記行。穢汚色亦必定最後斷。問曰。何故煩惱九種斷非善等耶。答曰。煩惱相違故。聖道與煩惱相違。不與善相違。厭惡煩惱故亦捨善。同一係縛故。問曰。已說阿羅漢勝進根。云何阿羅漢得不動。答曰。

若有相似名 彼能得不動

此人亦信脫 彼性亦增道

若有相似名彼能得不動者。非一切阿羅漢皆能得不動。若功德名相似者彼能得之。謂必昇進。此人亦信脫彼性亦增道者。此語

○無垢二離垢○明註曰無垢北藏作離垢 ○分十(別)○(特)十時○(非)一○ ○學二淨○ ○若二及○ ○諸十(道)○ ○智二知○明註曰智北藏作知 ○道二進○ ○已二以○ ○相十(名相)○

有餘。若信解脫必昇進性能得見到非餘。增道者根增如是義問曰。已說次第見諦。未說其因。當說彼因答曰

功德惡差別 次第見真諦 無礙道力得 有為無為果

功德惡差別次第見真諦者。此中二諦過惡差別。二諦功德差別。非見過惡者見於功德。非見功德者見於過惡。何以故。行緣差別故。非不於諦真實見故而諦無間等。非此一智能總觀諦功德過惡差別。以是義故。次第見諦。問曰。見諦得沙門果。彼云何。為是有為是無為耶。答曰。無礙道力得有為無為果。若斷煩惱無為。若解脫道有為。彼二種皆無礙道力得。是故二種俱說沙門果

*阿毘曇心論經卷第三

*阿毘曇心論經卷第四

*法勝論 *大德優波扇多釋

高齊 *天竺三藏那連 *提耶含譯

*六卷成部

智品第六 別譯

今欲分別涅槃分智。何以故。以智能斷諸煩惱故。欲廣釋智。故先說此

若智性能了 觀察一切有 有無有涅槃 彼相我當說

有無有者。所謂涅槃。是故智者觀有無有。有者一切有漏法謂苦集義。有無有者謂滅諦

也。一切有無有。故名有無有。於彼中無有義也。此說有對治謂是滅。是故滅非無也。非無物有對治。如滅盡正受心心數法不行故。對治說滅。是有物如是涅槃一切有對治。是故有事如除病得無病。彼相謂寂滅寂滅相等。彼攀緣智。智者觀察於彼。非無境界而有智轉。是故若智觀察此即是道。問曰。彼何者是。答曰

三智佛所說 最上第一覺 法智隨順智 及以世俗智

此三智攝一切智。法智者。若智欲界境界。或欲界滅對治。或境界無漏。彼初取法決定行。故名法智。隨順智者。若智色無色境界。色無色界滅對治。或境界無漏。次法智後次第隨順。故名隨順智。世俗智者。若有漏智多受。俗數。謂男女等故說世智。如是等名世俗智

苦集及滅道 二智而隨生 如是四種智 牟尼隨名說

法智隨順智者。隨聖諦轉。世尊隨名說苦諦境界。故說苦智。如是集滅道諦境界。故曰集滅道智。於此苦集二智行差別。苦行轉名苦智。集行轉名集智。緣無差別同緣五陰。故滅道二智行緣差別

若智觀他心 是從三中說 盡無生智二 當知在四門

若智觀他心是從三中說者。三智中他心智有漏。是世智。若欲界對治境界。彼是法智。若色無色界對治境界。是隨順智心心數境界。

彼心心數方便成就。故名他心智。盡無生智二者。盡智無生智是二智。謂法智隨順智。彼所作究竟受是盡智。不復更作受是無生智。問曰。盡智無生智何諦境界。答曰。當知在四門。此緣四諦義也。除初盡智彼緣二諦。已分別十智。行分別今當說

二智十六行 法智隨順智 上已說及餘 是說世俗智

世智十六行轉。前後皆有彼十六行。暖頂忍攝。餘聞思修慧第一法攝。四行無間等邊十二行。彼外更有行。謂施戒慈等

四智有四行 決定行所說 若知他心智 如是行或非

四智有四行決定行所說者。苦智有四行。集滅道智亦如是。若知他心智如是行或非者。若無漏他心智。彼有四行。如道智是道智少分故。若有漏者行則異。但攝有漏心心數法

盡智無生智 離空無我行 說有十四行 受相為最上

盡智無生智離空無我行說有十四行者。盡智無生智第一義轉。亦親近世智作意我生盡。如是等取我衆生相似行。空行無我行。定是第一義轉非世俗緣。是故盡智無生智。空行無我行不轉故有十四行。問曰。所有無漏智。一切十六行攝不耶。答曰。不爾。受相為最上。彼十六行是共行。若復取自相無漏智。如身念處等。彼非十六行攝。已說行差別。得今當說

最初無漏心 或有成就一

①說二知 ②俗二欲 ③日二名 ④暖二煖

二或成就三 於上四增一

最初無漏心或有成就一者。最初苦法忍相應心。未離欲成就一智謂世智。離欲成就他心智不現在前。非見道次第他心智現在前。何以故。與流轉相違故。二或成就三者。第二無漏苦法智相應心。未離欲成就三法智若智世智。若離欲成就他心智。於上四增一者。於上四心剎那中。當知一一增苦比智。得比智集法智得集智滅法智。得滅智道法智得道智集滅道比智。及忍不得未曾得智。問曰。在何地。答曰。

九智聖所說 此依於二地
當知禪有十 無色地中八

九智聖所說此依於二地者。九智依未來禪中間禪除他心智。當知禪有十者。根本四禪各有十智。問曰。何故中間禪未來禪無他心智。答曰。微細境界故。此境界微細於他身中心心數法未來禪。少道非少道能取微細義。彼根本禪道止觀雙行。是強力道故彼能取無色地中八者。除法智他心智。法智者欲界境界。無色界於欲界依對治行緣遠。是故無色界無法智。他心智緣色能生。是故於色界轉非無色中。餘未來有頂有一世智。何以故。有漏故。已說地差別。修差別今當說。修有六種。所謂得修習修對治修出離修戒修觀察修。彼得修者。若於善法不得。得現在未來故。習修者。先所得功德現前修習。對治修者。諸有漏法修對治道。出離修者。若修道時捨離穢法。戒修者。若能調伏諸根道。觀察修者。若

觀察身等。此中。唯取二修。謂得修習修

若得修諸智 謂在聖見道

彼即當來修 諸忍亦如是

若得修諸智謂在聖見道彼即當來修者。若見道諸智現前修。彼即當來修。謂苦法智現在修。彼亦未來修。非忍非餘智。如是乃至道法忍。諸忍亦如是者。忍中亦如是。苦法忍現在修彼亦未來修。非智非餘忍。一切忍亦如是。問曰。何故見道唯修自分道。修道修自分非自分耶。答曰。未修智故。故見道中智未習未練。修道中二種並作。

於彼三心中 得修於世智
或修七或六 當知最後心

於彼三心中得修於世智者。彼見道三心中得修世智。謂苦集滅比智。隨彼地見道即彼地有世智。及欲界世智修。若彼依未來地得決定。彼修七地世俗智。如是依第四禪不修。答曰。彼無邊故。諦無間等邊成就故名無間等邊。無能修一切道。於他道不能修於自身修。乃至未來。彼行者。自分不現前。於三諦自他俱能知能斷能證。是故隨得邊故能修。是故彼能修非餘。是故法智亦不修。何以故。諦無間等未究竟故。於此諦世俗智本會作證。是故此智修但有善名。方便猶未得。或修七或六當知最後心者。若離欲界欲道比智彼修七智。阿那含果所攝。除世俗智盡智無生智。若未離欲修六智除他心智。非想非非想處對治彼得沙門果。是以不修世智

於彼上修道 十七無漏心

當知修七種 增益根修六

於彼上修道十七無漏心當知修七種者。若未離六種欲。從須陀洹果上修道中。十七剎那當知修七智。此道未來禪攝故。無他心智亦無盡智無生智。以無學故。是故彼中修餘七智。彼若以世俗道進彼世俗智現在前七種未來。若出世間道四種法智。一一現在前。餘七智未來。增益根。修六者。增益根者。謂或信解脫。練治諸根進得見到。彼增進根。一切無礙道解脫道中得修六智。未離欲故無他心智。又復修道精進非斷煩惱。精進是人未得修進功德。是故不修世智。

得不還果時 出過上七地

熏修諸神通 解脫修習八

得不還果時者。若得阿那含果時必得根本禪。是故修他。心智。及前說七種。出過上七地者。彼四禪三無色離七地欲時。九解脫道中亦修八智。若以世俗道修進。彼世俗智現在前未來八。若出世間道修進彼時四比智。及滅道法智一一現在前未來八。熏修諸神通解脫修習八者。熏修起一解脫道。彼中八法智比智。一一現在前未來八。起神通境界宿命智解脫道中。世俗智現在前未來八智。他心智解脫道法智比智。若世智中他心智。一一現在前未來八。天耳生死通解脫道無記故不修。

此無礙道中 及出第一有
彼八解脫道 當知修於七

①唯二惟②下同 ③(者)一④謂二得⑤彼二行⑥自二一⑦修二或⑧心二忍⑨天耳二不此⑩

七地離欲一切無礙道中修七智。無礙道中修對治智。是故不修他心智。彼非對治故。熏修起二心無礙道相似。初是無漏第二世俗。無漏心中八法智比智一一現在前。未來七除他心智。一切無礙道不修他心智。世俗道世俗智現在前未來亦七。起四神通無礙道中。無漏他心智道法比智。一一現前未來定七。有頂離欲八解脫道。四比智二法智。一一現在前未來亦七。世俗智於彼中退。非對治故。世俗智未曾至有頂。彼或時作方便不決定

出過第一有 無礙道修六
上乘應當知 修習於下地

出過第一有無礙道修六者。第一有離欲九無礙道修六智。除他心智世俗智餘現在前。解脫道前已說。六智謂四比智二法智。上乘應當知修習於下地者。一切地中當知修自地智及下地智。若初禪進彼修自地功德。亦修未來禪攝功德。如是乃至不用處次第亦如是。若人乃至不用處離欲依初禪。乃至有頂離欲。是人九地無漏智修進。如是一切應當知

無學初心修 諸地生功德
漏無漏一切 此是隨順智

無學初心修諸地生功德漏無漏一切者。得阿羅漢果一切地。漏無漏功德一切修進。問曰。何故此地修一切功德。答曰。斷一切縛得蘇息故。如來解縛法降伏煩惱。力士眾咸慶快。心得自在。首繫解脫。緝。如王登祚諸方萬姓

貢上珍寶盡難勝。煩惱怨。離殺怨家故。一切國土人皆歸伏。彼先雖得下地功德。有煩惱相續故不明淨。今除煩惱盡故功德明淨。及入出定心成就。是故熏修。若任欲界得阿羅漢果法或如是。若住色界得阿羅漢者。彼二界功德修進滿足。是故一界生。如是地。地應當知問曰。無學初心何智相應。答曰。此是隨順智。此隨順智相應。彼作如是我生已盡。非想非非想處陰取此中生彼人緣彼。何以故。最後斷故。是故彼苦比智或集比智。問曰。世尊說若見智慧。此為一為異耶。答曰。彼是慧性。世尊觀因緣故。故如是說

諸忍則非智 盡無生非見
若餘諸聖慧 當知三種性

諸忍則非智者。八無間等忍非智。何以故。不決定故。決定義是智義。忍不決定。自品對治疑隨生故。忍者求欲轉。智者求欲斷。是故忍非智。盡無生非見者。盡無生二智能見示故。慧決定故。智何故非見。無求故中平故。若餘諸聖慧當知三種性者。餘無漏慧事見智慧性

若善有漏智 在意則是見
煩惱見是智 此及餘說慧

若善有漏智在意則是見者。善有漏意地智能求故亦說見。煩惱見是智者。若煩惱見自性。謂身見等彼彼測量。思覺轉故推求故名見。彼決定故名智。此及餘說慧者。若已說者。見事慧事及餘未說者。如無記意地五見。外穢污意地及五識身相應。所有智一切是慧。

當知此中未說者說。彼中若無記不能測量。不能覺察。不能推求故非見。穢污煩惱所污故。五識身相應不能分別現境界故。一往墮故諸見不爾。問曰。一智緣幾智答曰

法智隨順智 觀察於九智
因智及果智 二智境當知

法智隨順智觀察於九智者。法智緣九智除法智。比智亦緣九智除法智。道法智緣一切。法智彼分亦餘智苦集法智。緣欲界世智。如是道比智緣自分比智。苦集比智緣色無色界世智。及世俗他心智。問曰。何故法智比智不更互彼此相緣。答曰。上下緣差別故。如二人觀地虛空。因智及果智二智境當知者。集智緣有漏他心智及世俗智。何以故。集諦分數故。不緣餘智。餘無漏故。苦智亦爾

道智緣九智 滅智無境界
餘一切境界 決定智所說

道智緣九智者。道智緣九智除世俗智。何以故。有漏故。餘九智緣。何以故。道諦分數故。滅智無境界者。滅智不緣智。何以故。緣無為故。餘一切境界決定智所說者。餘四智緣十智。世智緣十智。何以故。一切法境界故。如是他心智一切他心心數境界故。彼有漏他心智緣有漏智。如無漏緣無漏。彼中法智法智分隨順。隨順智分。地根人度非緣。盡無生智亦如是。一切有為境界故。問曰。如佛說。隨順智若有頂離欲。得阿羅漢果。不盡是隨順智耶。答曰。彼分對治法智斷故。亦有法智彼分對治。問曰。何者是耶。答曰

① 網一精 ② 離一敵 ③ 地一 ④ 苦一若 ⑤ 隨順一 ⑥ 地根二根地

若彼滅道中 法智之所轉
彼三界對治 非欲隨順智

若彼滅道中法智之所轉彼三界對治者。諸
修道中滅道法智亦色無色界對治。彼人生
欲界捨色無色界結。彼自地。陰所逼惱。彼中
極見其過故。為離彼故求對治。三界中離欲
去彼有頂離欲。但法智無礙道。彼隨順智解
脫道。問曰。何故非苦集法智去。答曰。苦集不
等故。欲界苦集下劣。色無色上勝。不應觀察
下劣厭離於上。有何過異處惱異處厭離滅
道相似。是故觀彼厭離三界欲。此道理說也。
問曰。頗有隨順智。亦於欲界為對治耶。答曰。
非欲隨順智。無有隨順智為欲界對治。無有
一人於彼見增上過。無此道理也。若於色無
色離欲。然後於欲界離欲者。無有如是理也。
或初難斷自地不能離。譬如國王不能降伏
自國。而欲降伏他國。如王降伏自國然後降
伏他國。法智亦爾。問曰。神通何智性。答曰

神足天眼耳 當知一世智
六智憶宿命 五說他心智

神足天眼耳當知一世智者。神足天眼天耳
是一世智。非無漏智如是轉。彼神足通智能
示現種種事。示現種種事是智慧能。天耳通
者。天耳識相應慧。生死智通者。天。眼識相
應慧。六智憶宿命者。憶念過去處神通六智。
謂法。智憶法智分。隨順智憶隨順智分。世智
憶世智分。苦智憶過去。苦。集智亦如是。道
智出世間行。屬賓論師說但一世智。五說他
心智者。他心智通五智。謂法智隨順智世智

道智及他心智等

九智漏盡通 決定智所說

八智身中轉 法十九智二

九智漏盡通決定智所說者。漏盡通無漏九
智漏盡智攝故。問曰。如他心智盡無生智不
攝。云何言攝耶。答曰。無學正見攝故。彼一切
三種智說漏盡通。問曰。念處何智性。答曰。八
智身中轉。苦有身名彼中八智轉。除他心
智及滅智。法十者。除色受心餘法名法念處。
彼中十智轉如前說。九智二者。受心中除滅
智九智轉。問曰。如來十力四無所畏是智性。
彼智云何差別。答曰

是處非處力 及以初無畏
當知佛十智 除此中差別

是處非處力及以初無畏當知佛十智者。若
彼是處非處力十智。如是初無畏我正遍知。
如是廣說彼亦十智。何以故。正取故。除此中
差別者。處非處力差別。餘力初無畏差別餘
無畏。問曰。佛何故差別作多種。答曰。佛隨處
化衆生。欲故差別多種。有人信樂廣說不樂
總說。有人樂於略說。力義者隨自樂欲。能成
就義是力義。無障礙義是力義。能制義是力
義。無能侵欺義是力義。能映奪他義是力義。
彼處非處力者。因果中決定無礙者。是名處
非處力。自業智力者。善不善業處事因報若
多若少若定不定。如是等義中若無礙智。是
名自業智力。彼禪解脫三昧正受智力者。此
禪等自性名字得方便。攝有味淨無漏退住
勝達分。如是等義中若無礙智。是名定力根

差別智力者。於衆生下中上根能知。若無礙

智。是名根差別智力。種種解智力者。衆生下
中上自解知無障礙。是名種種解智力。種種
性智力。知衆生性。知法差別性。若無礙智。
是名種種性智力。一切至處道力者。一切生
死轉業。能盡一切生法。知無障礙智。是名至
處道智力。憶宿命智力者。自他過去生死展
轉。憶知無障礙智。是名憶宿命智力。生死智
力者。衆生未來有相續見無障礙智。是名生
死智力。漏盡智力者。若漏盡漏盡方便。若無
礙智。是名漏盡智力。如來十力無畏。如經中
廣說。不怯弱義是無畏義。無恐怖義是無畏
義。無逃避義是無畏義。不下劣義是無畏義。
如師子自力雄猛滿足不假於伴。如師子無
畏是無畏義。問曰。無礙。現見亦是智性。彼
云何差別。答曰

法辯辭辯一 樂義辯俱十

七智是願智 智者之所說

法辯辭辯一者。彼法無礙者句味現前。若無
礙智是名法無礙。是世智。辭無礙者。言音正
不正方便隨方俗語。若無礙智。是名辭無礙
彼亦世智。樂義辯俱十者。樂說無礙者法辭
義相應。任放不怯弱說種種說。若無礙智是
名樂說無礙。此有十智。義無礙者。於法自相
共相。若無礙智是名義無礙。是亦十智。能受
真實相故。問曰。願智有幾智。答曰。願智是七
智。智者之所說。願初轉樂欲義轉。故名願智。
彼七智屬賓論師。說除他心智盡智無生智
定品第七之一

諸一謂(一) (二) (三) (四) (五) (六) (七) (八) (九) (十) (十一) (十二) (十三) (十四) (十五) (十六) (十七) (十八) (十九) (二十) (二十一) (二十二) (二十三) (二十四) (二十五) (二十六) (二十七) (二十八) (二十九) (三十) (三十一) (三十二) (三十三) (三十四) (三十五) (三十六) (三十七) (三十八) (三十九) (四十) (四十一) (四十二) (四十三) (四十四) (四十五) (四十六) (四十七) (四十八) (四十九) (五十) (五十一) (五十二) (五十三) (五十四) (五十五) (五十六) (五十七) (五十八) (五十九) (六十) (六十一) (六十二) (六十三) (六十四) (六十五) (六十六) (六十七) (六十八) (六十九) (七十) (七十一) (七十二) (七十三) (七十四) (七十五) (七十六) (七十七) (七十八) (七十九) (八十) (八十一) (八十二) (八十三) (八十四) (八十五) (八十六) (八十七) (八十八) (八十九) (九十) (九十一) (九十二) (九十三) (九十四) (九十五) (九十六) (九十七) (九十八) (九十九) (一百)

智依於三昧 無罣礙而轉
是故思惟定 求於真實相

智依於三昧無罣礙而轉者。如燈依淨油炷。離風動處光焰不動而甚明淨。如是三昧依智離諸亂風無障礙轉。其心不動如是義也。轉行於緣無有疑惑。是故思惟定求於真實相者。若無定不能生真實智。無有離真實智。能趣涅槃。是故求真實相者。必定須知三昧。彼三昧者何。謂善一心。是最勝根義也。如是一根轉自善心相續名一心。最勝者。或云境界名也。如是一緣轉是善心相續名一心。問曰。何者是三昧。云何知耶。答曰

決定說四禪 及與無色定
是中一一說 有味淨無漏

決定說四禪及與無色定者。略說八種三昧攝一切三昧。是中一一說有味淨無漏者。是中一一三昧。有三種味相應淨無漏

善有漏名淨 無熱說無漏
有味愛相應 有頂無無漏

善有漏名淨者。彼中若有漏善當知名淨。無熱說無漏者。若離煩惱者當知是無漏。問曰。若無漏第一。義淨。何故世間煩惱相續說名為淨。不說無漏為淨。答曰。無漏不待言說自知是淨。世間法淨不。障他人不知。為欲成彼故。說離煩惱。是名彼非相違。能牽無漏故。是故說淨。有味愛相應者。若三昧。愛相應者是味相應。亦有與餘煩惱相應禪等。見疑增上慢修定者。緣縛力禪等愛相應。非餘煩惱共相應。非餘煩惱能如是緣縛心。如愛

為三昧緣縛。有頂無無漏者。有頂有淨味相應非無漏。不捷利故。聖道捷利。問曰。此禪何等性耶。答曰

五支有覺觀 亦復有三受
彼種種四心 是說為初禪

五支者除五支故名五支。問曰。除支更有禪耶。答曰。不然。彼支一一。是禪各各相支義須分別。分義是支義。如車支如王支。問曰。何者是支。答曰。覺觀喜樂及一心。彼覺者正受初心微細少義也。喜者入定心悅。樂者身心樂離龜重。猶息心調柔方便。一心者心繫一緣有覺有觀。問曰。初說五支今何故說有覺有觀。答曰。支者善有覺有觀。此說穢污三受者。此中有三受。三識身樂根意地喜根四識身捨根。彼種種者。梵世種種身彼上下身。以覺觀力故生四心者。彼有四心眼耳身意識。是說為初禪者。此諸法是說初禪。俱生正受此禪中攝

第二有四支 種種及二受
第三有五支 此禪說二受

第二有四支者。內淨是信義也。離初禪決定界地過故。正信喜樂一心。彼無共種種身。何以故。無覺觀故。成就種種心。或時喜根現在前。有時捨根現在前。彼根本喜根未來捨根。二受者喜根捨根必定意地。如是等事說第二禪。第三有五支此禪說二受者。第三禪五支捨念安慧樂。一心樂著樂故不求餘名捨護。喜食故名念。恐第二禪地喜喜自地

過。一切世間勝樂對治。及正智樂意地樂根。一心名定。二受者樂根捨根。此中二受樂根捨根。此等法是說第三禪

離息入息出 第四有四支
支者謂說善 隨事如先說

離息入息出第四有四支者。第四禪無出入息。三昧力故。彼身無孔。四支者彼不苦不樂受捨念清淨一心。問曰。味相應等三種禪悉成就耶。答曰。支者謂說善。善禪與支相應。當知非穢污。問曰。穢污中無何者。答曰。初禪中無離生喜樂。問曰。穢污中亦有喜何故言無。答曰。猶樂彼離生與喜相應。故說離生喜樂。此一向善故彼無。餘者有喜。於此有喜彼非支穢污。第二禪無內淨煩惱濁亂故。猶樂先捨。是故第三禪中無憶念安慧。最勝樂惑心故無憶念。若彼有念者是失念。失念故非支。非安隱非安隱故非支。捨亦無。一向善故。第四禪中除。何以故。二種等故。第四禪無捨念清淨非善故無捨。煩惱染污故念不清淨。是故非支。彼或失念故非支。隨事如先說者。若事善禪中已說。穢污禪中不除。彼穢污禪中亦說。彼初禪中覺觀一心。餘人欲立喜者。是故穢污初禪四支。彼第二禪喜一心。餘人欲立信者。是故第二禪三支。第三禪樂一心。餘人欲立念慧。是故第三禪四支。第四禪不苦不樂一心。亦有欲立念者。是故第四禪三支。一切攝故說支是善。問曰。已說初禪有覺有觀。未來禪中間禪初禪攝。彼云何彼中有覺觀。答曰

◎義二善 ◎障二影 ◎成二或 ◎名二故 ◎淨二離 ◎愛二受 ◎味二時 ◎支二受 ◎故一 ◎禪一

相應有覺觀 智說未來禪
觀相應中間 明智之所說

相應有覺觀智說未來禪者。未來依有覺觀。觀相應中間明智之所說者。中間禪有觀無覺。何以故。止息地故。次第方便人相續止息。問曰彼何自性答曰

未來二自性 或離味相應

中間禪三性 二俱有一受

未來二自性或離味相應者。未來禪淨無漏二非味相應。正受愛故說味。厭離欲道於中無執著。是故無味受生愛不除。何以故。於彼連節縛故。未來禪連節縛。墮。中間禪三性者淨無漏味相應。二俱有一受者。未來禪中間禪必定一受謂捨根。問曰。何故未來禪無喜。答曰。有怖畏故。近欲界故。彼行者有怖畏是故彼中喜不生。所作未究竟故。欲界離故。彼起此未得。是故所作未究竟是人。不生喜。又止少故。中間禪亦止少。是故彼中無喜。已說地。彼中功德今當說

三昧通無量 一切入處修

除入及諸智 解脫於中起

三昧者三三昧。空無願無相。彼空有二種。有漏無漏。有漏者有漏無漏法空無我思惟。無漏者有漏法空無我思惟。若三昧無願亦二種。有漏無漏。有漏者有為法無常苦因道等行思惟。若三昧無漏者。有漏法無常苦因道等行思惟。若三昧無相者。滅等行思惟。若有漏無漏三昧此中一向取。無漏當知。通者六通如智品說。無量者。四無量慈悲喜捨。此無

量眾生緣故。故名無量。彼慈者欲令一切眾生得樂。如是想心轉善對治。是無善善根性。故說名慈。苦眾生如何得脫。如是想轉善對治。無善善根性名悲。喜眾生如是想轉善對治。無善善根性名喜。捨眾生如是想轉善對治。無善善根性名捨。彼一切。共伴共方便。欲界中四陰性色界五陰。性。一切入處修者。十一切入。如修多羅中說。彼中八無貪善根性貪對治故。及伴及方便五陰性。於上四陰性相續無間無有空缺。廣作意解。是說一切入處。除入者八除入。如經中說。彼一切無貪。貪對治故。及伴及方便。欲界是四陰色界是五陰。能映奪緣故名除入。極增上極光曜極最勝緣此善根速得除入。如奴雖莊嚴猶為主欺。或說非一切聖人能欺緣。彼依緣煩惱不能起。是故名除入。智者十智如智品說。解脫者。八解脫如經說。彼初三解脫不貪善根。貪對治故。共伴共方便五陰。性餘四無色解脫四陰性。滅盡定不相應行陰性。問曰。解脫有何義。答曰。不現前斷後心故名解脫。初三色貪背捨故。淨不淨背捨。於上四種一切行轉背捨。想受滅一切緣轉背捨。及斷後故。於中起者。三昧等解脫邊功德禪中生。當知已說解脫邊功德。今隨彼彼地可得今當說

五通四禪中 及見他心智

六中有法智 五中三無量

五通四禪中者。五通攝受支三摩提故。及見他心智者。他心智亦如是。六中有法智者。法智六地四根本禪中間及未來。五中三無量者。五地中除喜無量。四禪中及欲界

除入中說四 及與喜無量

亦二種解脫 初禪第二禪

初四除入及喜無量初第二解脫。初禪第二禪欲界色貪對治故。初禪中立二解脫。四除入初禪地色貪對治故。第二禪立二解脫。四除入第二禪無色貪。何以故。眼識身無故。是第三不立解脫。是故是中亦不立除入及一切處。欲入解脫中。入除入欲入除入故。入一切處。彼為勝樂所惑。彼不能生如是善根。喜根亦如是。故初第二禪中有非餘禪

餘有四除入 及與一解脫

亦入一切入 佛說最後禪

後四除入。淨解脫。及八一切處。在第四禪非餘

餘脫自名說 二一切亦然

滅盡最在後 餘無垢九地

餘脫自名說者。無邊虛空處解脫。乃至非想非非想處解脫。二一切亦然者。餘自名說無邊虛空處無邊識處。滅。盡在後者。決定有頂攝。隨順斷後邊次第下地心心數法斷已。乃至非想非非想地初斷上上。次斷上中。後斷下下。一切斷已彼滅盡定。餘無垢九地者。若餘無漏功德。所謂三三昧七智及漏盡通彼九地中四禪中三無色中未來中間世智。有頂處亦有。是故說遍一切地

三解脫當知 有漏及無漏

定智通已說 其餘悉有漏

①觀一 ②問二 ③隨二 ④愛二為 ⑤共二捨 ⑥性二除 ⑦淨二淨 ⑧盡十(最) ⑨

三解脫當知有漏及無漏者。無邊虛空處無邊識處不用處解脫。當知有漏無漏。定智通已說者。定修多羅品當更廣說。彼無漏智神通智品已說。其餘悉有漏者。如是三通威儀故。受色聲自相故。無量衆生緣故。一切除入初三解脫。彼一切信解念處故。非想非非想非捷利行故。想受滅無慧故。皆有漏

*阿毘曇心論經卷第四

*阿毘曇心論經卷第五

*法勝論 *大德優波扇多釋

高齊 *天竺三藏那連 *提耶舍譯

*六卷成部

定品之二。別譯

已說功德自性。亦說有漏無漏。成就今當說

當知未離欲 成就味相應

離下未至上 成就淨諸定

當知未離欲成就味相應者。若人若此地未

離欲。成就此地味相應。離下未至上成就淨

諸定者。離欲界欲未生第二禪中等梵世。若

離欲若不離欲。成就淨初禪。及彼地餘善功德

住上應當知 成就下無漏

方便生功德 當知非離欲

住上應當知成就下無漏者。聖人生梵世上。

成就無漏初禪及餘無漏。三昧神通及智等

諸功德。彼地有漏功德生處縛。無漏斷縛。是

故離生處捨有漏非無漏。如是一切地隨其義說。方便生功德當知非離欲者。已說離下地欲成就諸功德。當知說得成就不在前方便現在前者彼非離欲。方便得者如天眼耳。彼無記故。無漏淨味相應不攝。是故得彼三種禪時不得滅盡。是滅盡定者方便故。彼得現前二十三種正受。八味相應八淨七無漏。問曰。彼中一一幾種因答曰

所謂無漏定 一一七種因

味淨相應禪 當知因有一

所謂無漏定一一七種因者。一一無漏七種

無漏中。自分因中因自地者。亦相應共生因。

味淨相應禪當知因有一者。味相應初禪味

相應初禪因非餘。初禪因不相似故。非餘地

穢汚因行相違故。非穢汚行相違亦非自分。

如是淨初禪淨初禪因。非穢汚非無漏何以

故。不相似故。非餘地淨因自地果報故及自

地係縛故。如是一切。問曰。一一次第生幾

種答曰

無漏禪無色 逆順超次第

次第生六種 當知乃至十

無漏初禪次第生六種。自地淨及無漏。如是

第二第三禪如是超越正受。無漏無所有處

次第生七。自地二下地四上地。一。無漏第二

禪次第生八。自地二初禪地二上地四。無漏

無邊識處次第生九。自地二下地四上地三。

餘無漏次第生十。自地二下地四上地四。

或六至十一 謂淨次第生

從二乃至十 當知說有味

或六至十一。謂淨次第生者。淨非想非非想處次第生六。自地味相應及淨下地四。淨及無漏非味相應。離欲故。淨初禪次第生七。自地三上地四。淨及無漏淨不用處次第生八。自地三上地一下地四。淨第二禪次第生九。無邊識處次第生十。餘十一。如是一切當知正受時如是說非死時。是故彼中上下地味相應不攝。生得淨次第上下味相應生。從二乃至十當知說有味者。味相應初禪次第生二。自地味相應及淨。彼此不相違故。有頂味相應次第生十。正受。味三自地二。及下地淨自地煩惱所惱故。依不用處地淨以自救護。如是一切地下地淨三。及死時上地退下地一切味相應。問曰。前說正受。煩惱今當說。答曰。淨次第正受煩惱說味相應。及受生煩惱何以故。煩惱力生非定力。是故此中說一切煩惱淨必定定力。是故說共正受煩惱。問曰。彼中一一幾幾種。答曰

淨及無漏禪 一切地中轉

自地有漏法 味相應所緣

淨及無漏禪一切地中轉者。淨及無漏禪緣

一切地一切事。自地有漏法味相應所緣者。

味相應禪緣自地味相應。及淨非無漏。何以

故。非無漏緣。有愛亦非愛他地

無色則不行 於下有漏事

若根本彼善 穢汚如味禪

無色則不行於下有漏事者。無色正受不緣

下地有漏法。何以故。下地不寂滅故。亦緣下

地無漏。如比智分。問曰。一切有漏不緣下地

地無漏。如比智分。問曰。一切有漏不緣下地

◎皆十(悉)◎ ◎之二二第七之餘◎ ◎[別譯]一◎ ◎是二定◎ ◎七二一◎ ◎[一]一◎ ◎[不]十生◎ ◎味二時◎

耶。答曰。不爾。若根本彼善。若根本無色淨。及無漏。彼緣自地及上地不緣下地。未來禪。若緣下地。彼於下地。愈想緣厭離穢污。如味禪者。如味相應禪說。無色穢污亦如是。

色界若有餘 無量等功德
彼欲界境界 世尊之所說

若色界功德。謂四無量一切處等。彼緣欲界。何以故。除神通說無量等。彼五神通緣欲色界。問曰。如前說。熏禪中修智。彼云何熏。答曰。若能熏諸禪。是依第四禪。

三地愛盡故 淨居唯廣果

若能熏諸禪。是依第四禪者。得第四禪能熏禪非餘。彼人數數入無漏。四禪起無漏。數數入有漏禪。復還入無漏。還入有漏。漸略乃至住二剎那。如是方便。若一無漏心。若一有漏心。是時一念有漏。一念無漏。二念一有漏。一無漏。是說成就。問曰。此何處得果。答曰。淨居天中。何以故。三地愛盡故。淨居唯廣果。若得第四禪。離三地愛。是故此得第四禪人。淨居廣果中。凡夫共修熏禪。不與凡夫共。五種者。下中上上中。上上。彼如是五種不廣天無熱天。善見天。善現天。及色究竟天。是故此得中得果。問曰。如前說。七種願智。是云何。答曰。

無著不動法 得一切正受
彼三昧智力 能起頂四禪

彼人煩惱不能逼惱。心相續故。一切正受。心力相續。生故得三功德。謂願智無諍及無礙。彼願智者。若欲知過去未來現在及無為。彼時願智邊際。住第四禪正受能知。無諍名於他。

相續中。煩惱諍不欲起。此人他相續中。不起煩惱諍。無礙名如前說。問曰。願智何地攝。答曰。

三地有願智 無諍五地中
二地法辭辯 二辯依九地

三地有願智者。第四禪初禪及欲界。決定第四禪中得。欲界唯人中能起欲界。梵世相應心。記起言說心。彼處有。是故說三地。無諍五地中者。根本四禪及欲界。此決定於四禪中得。人中能起非餘處。二地法辭辯者。法辭辯。欲界梵世。此五地根本四禪及欲界。此但名緣言從名轉。是故起語言道。有覺觀處說辭辯。欲界及梵世。何以故。言語緣故。二辯依九地者。義辯樂說辯。欲界四禪中及四無色定。未來中間禪根本初禪攝。問曰。云何得此正受。答曰。

離欲及受生 而得於淨禪
穢污退及生 無漏唯離欲

離欲及受生而得於淨禪者。淨初禪二時得。離欲時得及上地沒生梵世。彼地過捨。如是一切。穢污退及生者。味相應禪退上得下。或第二禪中若欲界纏若梵世纏退。爾時得味相應初禪生得者。如上地沒生欲界及梵世。爾時得味相應。初禪如是一切。無漏唯離欲者。無漏禪離欲得。謂聖人離欲界欲。彼得無漏初禪。昔所未得故得。如是一切。問曰。此功德何者能除煩惱。答曰。

無漏除煩惱 正受中間者
一切定中間 相應於捨根

無漏除煩惱者。無漏禪。無色除煩惱非世俗。問曰。何故世俗不斷煩惱。答曰。同一。係縛故。世俗共煩惱一縛。是故自地煩惱不能斷。如人被反縛不能自解。若彼對治及斷中生。問曰。一切世俗不能斷煩惱耶。答曰。有世俗能斷煩惱。問曰。何者是。答曰。正受中間者。謂未來禪猶未得根本禪。若作方便得離下地欲。彼初禪未來有漏無漏。餘未來一向有漏。為根本禪無色正受。是故說世俗不斷煩惱。問曰。此近禪何處。答曰。一切定中間相應於捨根。一切正受中間捨根相應。未得所求故不生喜。問曰。雖說神足境界智證神通。未說幾種變化心今當說。答曰。十四欲界初禪果。初禪地初禪果。欲界二禪果。初禪地二禪果。二禪地二禪果。乃至第四禪亦如是。問曰。彼誰成就。答曰。

下地變化心 成就彼種果
隨彼識相應 彼上地成就

下地變化心成就彼種果者。若人成就禪。是人成就彼果。下地變化心。如得初禪是初禪地。欲界中初禪果。成就如是一切應當知。問曰。汝先說第二禪等無五識身。若生於上若欲見聞。彼云何見聞。答曰。梵世識現前。問曰。何故上地無此識。答曰。無覺觀故。問曰。彼幾時成就。答曰。隨彼識相應。彼上地成就。乃至彼識相應爾時成就。或眼識或耳識或身識。隨爾時現在前爾時成就。此識滅時名捨。何以故。係屬根故。修多羅品第八。

①及二無 ②若二善 ③彼二後 ④唯二惟 ⑤下同 ⑥者二有 ⑦上二下 ⑧記二說 ⑨無色二無漏 ⑩係二繫

一切智口所說最深微細義。此餘我今當說

一切智口說 甚深微細義

我今說少分 修多羅諦聽

問曰。如佛說三界。彼何者是。答曰

欲界十居處 色界說十七

無色界有四 決定唯彼有

欲界十居處者。謂地獄畜生餓鬼人六欲界

天。種類此十居處。當知說欲界。此衆生有欲

想轉。若此處具足彼一切愛欲相應。是故說

欲界。色界說十七者。梵身梵富樓。少光無量

光光曜。少淨無量淨遍淨。無。蔭福生大果無

想衆生。不廣不熱。善見善現色究竟。此十七

居處說色界。此居處欲想不轉。彼極大色非

男女相。是故說色界。無色界有四者。無色界

有四居處。無邊虛空處。無邊識處。無所有處。

非想非非想處。此居處中色不生。何以故。離

色欲故。又次第滅故。若無色中生色者。便無

次第滅。然有次第滅。若無者。應色中生欲過。

是故無色中不生色。是故說無色。問曰。如佛

說三有。欲有色有無色有。此云何。答曰。決定

唯彼有。前所說界此即是有。問曰。如世尊說

七識住。彼何者是。答曰

善趣是欲界 及色界三地

無色亦三地 當知爲識住

欲界善趣數謂人天。色界前三地。無色界前

三地。此七地說識住處。問曰。何故三惡道第

四禪有頂不說識住耶。答曰。若地爲見斷修

斷。若不斷生識彼說識住。三惡趣中無不斷

事。第四禪中無想衆生。及淨居天。無見斷事。

是故第四禪不攝。有頂一向有漏。若識樂住

說識住。三惡道中識不樂住。何以故。苦逼迫

故。淨居天向涅槃故識不樂住。無想衆生亦

一向無心。是故第四禪不攝。有頂行不捷利。

是故彼亦不攝。三種衆生或樂境界樂樂樂

想。彼中樂境界衆生人及欲界天。樂樂三禪

地樂樂三無色。是故彼說識住。問曰。九衆生

居云何。答曰

有頂及無想 是說衆生居

四種有漏陰 當知識住處

有頂及無想是說衆生居者。前說七識住。及

無想天有頂。此說九衆生居。問曰。何故惡道

無想衆生外第四禪不說衆生居耶。答曰。隨

何處樂住不欲去。彼處名衆生居。惡道中無

此二。廣果中雖欲樂住亦欲樂去。問曰。如佛

說四識住。彼云何。答曰。四種有漏陰。當知識

住處。有漏色受想行。是名。陰說識住。取俱

識生住執著長養故名識住。是故無漏非識

住。彼壞有故。彼亦非取和合識住處。問曰。何

故識非識住處。答曰。彼因由不成。如王道王

非是道。無任分俱生識名住處。三和合名住

處。此識非如是。問曰。無有他識現前緣耶。答

曰。自和合不生故。彼亦不成就彼。亦衆生數

非衆生數。問曰。云何外識。住處事作。答曰。

和合俱生依緣住多故無過。彼亦緣住彼自

分地界非他分地界。問曰。如世尊說十二緣

起。彼有何相。答曰

諸煩惱及業 有事次第生
當知是有支 衆生一切生

無明愛取是煩惱。行及有是業。餘支是事。如

是此煩惱業事。彼彼生中次第起故說緣起

支。彼中煩惱依事。煩惱作業業作事。如是

彼諸分建立 謂衆生受生

過去及未來 中間當知八

彼諸分建立謂衆生受生者。此分差別說十

二支。問曰。此云何。答曰。過去。去及未來中間

當知八。於中無明者過去煩惱。行者過去

業。識者相續心及眷屬名色者已受生相續

連。縛不滅。未生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

色。六入者已生四種色根。未入未具。是名名

① 蔭二陰 ② 陰二除 ③ 是十(無無始有輪轉) ④ (無始有輪轉) ⑤ 去二二 ⑥ 縛二縛 ⑦ 愛二受 ⑧ *

說。因六界因緣入母。腹胎。修多羅句如是。彼大亦生是故名大生。如大衆生如大生。於此中地堅相水濕相火。熱相風輕舉相。色邊受色相名虛空界。色者是。與思異事也。識者了知相也。問曰。聖諦有何相。答曰。

果相似諸行 有漏是說苦
因相似是集 滅諦衆苦盡

果相似諸行有漏是說苦者。一切有漏行從因生。遍惱相是故說苦。因相似是集者。一切有漏行他因相似。是故彼說苦集。如一稻種子前後相望故。亦說果亦說因。如是有漏行觀已生當生故。亦說苦說集。滅諦衆苦盡者。一切有漏行究竟盡滅。是說滅諦。

若無漏諸行 是說爲道諦
彼二種名故 從龜次第見

若無漏諸行是說爲道諦者。一切無漏行說道諦。彼一切苦滅故說道。問曰。何故說名諦。答彼二種名故。二種事故名諦。謂自相不虛。及見彼生不顛倒。心覺。問何故虛空非數滅。非諦攝。答曰。非因果故。此觀察苦盡故。觀察聖諦彼非苦若因非離苦方便。但欲盡苦故觀察。譬如。病因病藥。病。差如觀察病。問曰。聖諦有何義。答曰。聖者如實覺已。爲他顯示故名聖諦。是中逼迫相是苦。生相是集。寂靜相是滅。出離相是道。問曰。如見因有果。何故佛先說果後說因耶。答曰。從龜次第見。如是但見無間等故世尊前說果。行者先得苦無間等。後苦因。先滅後道。何以故。先知果已。後斷因修習生故。彼行者於苦自性無間。已

彼時爲斷苦因。故決定智生是過患因故。如是彼行者先見滅相。彼時爲欲證滅。故修方便生決定智。是故先說果。如是先見龜後見細故。苦龜集細施設推求故。信故滅龜道細。是故先說滅後說道。如修多羅說。比丘當爲說滅爲趣滅故說道。如是等。是故先求滅後修道。如向城道先覓道已然後得入。一切皆信滅而不信道。是故欲易知故從龜次第說。問曰。世尊說四沙門果。彼幾事。答曰。

聖果事有六 最勝在九地
第三在六地 二種依未來

聖果事有六者。六事說沙門果。五無漏陰及數緣滅。問曰。沙門果何義。答曰。聖道說沙門。彼精進成就故名沙門果。問曰。世俗道亦精進丈夫得。彼亦得沙門果。答曰。彼見聖道果差別。問曰。此何果何地攝。答曰。最勝在九地。阿羅漢果九地攝。未來中間四禪三種。色第三在六地。阿那含果六地攝。除無色。二種依未來須陀洹斯陀含果未來攝。何以故。未離欲故。問曰。跡有何相。答曰。

隨信行諸法 無煩惱鈍根
隨法行諸法 無煩惱速相

隨信行諸法無煩惱鈍根者。隨信行人。自身無漏法軟分攝者。當知鈍信行攝故。信解脫時解脫亦攝。當知軟根故。隨法行諸法無煩惱速相者。隨法行自身法利根所攝故。當知速相彼攝故。見到不時解脫法亦攝。當知何以故。利根故。

彼禪根本中 當知是樂通

小及難得故 當知餘說苦

彼禪根本中當知是樂通者。根本四禪若軟根法。及利根法當知樂跡。止觀等得道故及樂行故。小及難得故當知餘說苦者。餘者無漏地攝道名苦以少故。彼未來中間禪止道少。無色中觀少無漏。未來中間禪止道間從。未來得故得彼故。易修。禪中間禪一。中間心數斷除現前。謂覺斷觀現前成。就如木斷木。無色界微細難成就五陰轉斷。四陰轉現前。彼難如是難得故說難。非聖道苦自性非苦受相應。此中建立勝道故。入涅槃城義故名跡義。問曰。不壞淨云何。答曰。

佛及聲聞法 解脫亦餘因
清淨無垢信 聖戒謂決定

佛及聲聞法解脫亦餘因清淨無垢信者。一切種正覺智菩提佛。彼阿羅漢攝功德佛法。當知於彼中若無漏信彼名佛不壞淨。他教授得正決定聲聞。當知彼中學無學得聲聞法。若彼無漏信彼是僧不壞信。若於涅槃若無漏信。轉餘有爲法中。如苦諦集諦等信如無漏。菩薩功德學無學辟支佛法。一切法中不壞信。彼苦集中正信清淨。滅道中希求信。無漏戒聖道俱生第四不壞淨。云何名不壞。知已決定清淨信名不壞信。問曰。何所知不壞。答曰。四聖諦中。問曰。何故無漏不壞信。答曰。決定故彼實智俱生無漏信。及戒決定有漏信者。能障欺呵不信。持戒破戒呵欺障。無漏餘不生能障欺呵。是故決定無漏不壞信差別者。問曰。修定有何相。答曰。

①版二龍 ②熱二煖 ③與二與 ④心一正 ⑤病十(病) ⑥差二差 ⑦彼二彼 ⑧根二相 ⑨自身二身
⑩通二道 ⑪未來二來未 ⑫易二爲 ⑬信十(彼是法不壞信)

初禪若有善 當知現法樂

謂得生死智 是說名知見

初禪若有善當知現法樂者。淨及無漏初禪現法樂住。是名修定得現法樂。謂得生死智。是說名知見者。生死智通是說修定得知見。

慧分別當知 方便生功德

金剛喻四禪 是名爲漏盡

慧分別當知方便生功德者。所有方便生功德。乃至欲界有戒聞思修功德。三界中隨所有。若有爲無漏。彼一切說名修定得分別。慧。金剛喻四禪是名爲漏盡者。金剛喻定者。最後學心彼共眷屬相應。第四禪地漏盡故是說修定。此世尊自說已功德。菩薩閻浮提樹影中。初禪正受彼見法樂住。十一起煩惱清淨天眼智見。如。跌祇羅經說。彼經說知受生如是等。慧差別。依第四禪無上正真道證漏盡。問曰。如意足何自性。答曰。

善有爲諸法 方便之所起

佛說如意足 是亦說正燒

善有爲諸法方便之所起佛說如意足者。若彼方便所起法。已說彼一切如意器故說如意足。自心自在起種種功德。成就如意足名如意足。足支具因一義也。何者是謂三昧。彼四種增上差別。如欲增上生三昧名欲三昧。如是精進心增上生名簡擇三昧。初起欲故欲增上。欲生已欲所求爲得故。精進定增上起精進已。不捨精進隨順趣向心名心定。此欲精進心道理現前。如意足具身中究竟故名。慧三昧若不簡擇餘此一心一切成就。一

切心中生故方便差別。彼增長故說餘功德。彼亦說正燒。此如是所說功德亦說爲正燒。依道理能燒煩惱草故名正燒。或以。能斷煩惱故說正斷。入正決定故名正勝。彼捨過惡功德生。守護增長策勸業名精進正勝。彼四種業差別故。一心建立精進能作四業。現在煩惱得斷。未來不生。於善法容受生故。生已相續不失方便力。彼亦四種差別。

隨其勢力生 以彼名說彼

彼亦說念處 亦說四聖種

彼亦說念處亦說四聖種。彼前所說功德說念處如修多羅。身受心法內外俱自相共相是名念處。彼四種緣差別故。彼一切緣分齊差別故。身念處身緣非餘法。如是受念處說受念處非餘心念處。說心心念處非餘法念處。二種餘法緣。以想陰行陰有爲緣。及壞緣。以身受身心受。如是等乃至一切法緣。問曰。云何聖種。答曰。聖種亦如是。彼所說功德亦說聖種。聖以此爲種故名聖種。此法自性是聖種。故說聖種。於此種中生故名聖種。四種愛生對治故。說四差別。因衣服故。愛生。廣說四種如修多羅。問曰。云何以此功德爲如意足。乃至四正斷等耶。答曰。隨彼勢力生以彼名說彼。此法以定力生故名如意足。精進力生故說正斷。念增上生故說念處。知足增上生故說聖種。已說助善提分。共此自相今當說

淨信精進念 智慧及意矜

覺分及與捨 思戒三摩提

如佛所說三十七助善提分法。彼名有三十

七事有十。於中信等如偈中結集。彼中信根信力名信。正斷精進根精進力精進覺支正精進。此是精進。念根念力念覺支正念。是名念四念處。慧根慧力擇法覺支正見。是等名慧。喜捨捨覺支。正思惟戒。是正語正業正命。如意足定根定力定覺支正定八支是定支。問曰。何故如是多種說。答曰。

處方便一心 軟及利亦然

見道亦修道 故說三十七

處者正緣處故說念處。方便者正方便說正斷。一心者一心中住處。是故說如意足。軟根相續見名根。利事此亦是根利根相續見故名力。彼中增上義是根義。餘不能陵名力見道得見故名道分。修道見故名覺支。說三十七。此十法如是各各業差別故佛說三十七。此中覺支一向無漏。餘有漏無漏。問曰。道品云何有漏。善提是無漏。彼善提器善提眷屬是故名善提分。如是此中與善提遠有漏隨順善提故名善提分。是故無過

二禪三十六 未來禪亦然

三四及中間 是悉三十五

二禪三十六者。除思何以故此地無覺觀故。未來禪亦然者。亦三十六除喜覺支。何以故未成就是故無喜。我已先說。三四及中間是悉三十五者。第四第三中間三十五除喜除正思惟

初禪說一切 三空三十二

有頂二十二 欲界亦如是

初禪說一切者。初禪中一切三十七。三空三

◎慧二慧◎◎◎◎◎ ◎[提]一◎◎ ◎跌二跌◎◎ ◎就十(彼)◎◎ ◎能十(正)◎◎ ◎種十(聖)◎◎ ◎愛二愛◎◎◎ ◎[名]一◎◎◎
◎慧二慧◎下回 ◎我二戒◎

十二、除喜正思正語正業正命。有頂二十二者。一切無覺支道支是故二十二。隨何處覺支次說道分。彼中當知有漏無漏。欲界亦如是者。欲界亦二十二。一向是有漏二處一向有漏故。問曰四食何地何性。答曰

諸食中搏食 欲界說三入
識食及思觸 是食說有漏

諸食中搏食欲界說三入者。搏食是欲界三入香味觸。事有十三十一事是觸。四大七種造色。所謂澁滑重輕冷飢渴及香味。問曰何故色聲非食。答曰見聞非增長。滿足根大資益義是食義。或見或聞妄分別力故生。樂受觸生喜彼喜不能潤益根大。是故觸為食能利益。非色聲香味離分別亦能資益身。識食及思觸是食。說有漏者識思觸是有漏。彼持生相續縛能牽有是故名食。無漏觸等雖利益諸根大。彼不能牽有故斷除有是故非食。有三種事故名食。能牽後有。牽已復牽攝持自身是故名食。彼意思識牽未來有。搏食觸食生已諸有攝持。或復一切諸食皆能牽有。皆能攝持諸根。問曰先所說諸三昧。何者三昧幾種轉。答曰

無願有十行 空二行當知
四行說無相 是說為聖行

無願有十行者。無願三昧總說十行。緣三諦故十行轉。苦中無常苦二行。集中四行如前說。道中四行亦如前說。問曰何故不緣滅答曰不願求故名無願。是不樂求義也。不願何等謂苦彼因盡則無。是故彼因亦捨彼因修

道盡是故緣道。是故此定緣苦因道不緣滅。或復說於有為不願是故緣三諦。是中修道如服苦藥。如是。如空二行當知。身見近對治故空三昧有二行。何等為二。空無我。身見取我我所行見。我對治故說無我行。我所對治故說空行。如彼法無我是故無我。四行說無相者。無相三昧滅四行轉。除有為行但緣於法。行說無相此中顯示解脫門。故一向無漏三昧。問曰顛倒云何斷何自性。答曰

謂彼四顛倒 當知見苦斷
於彼增上見 見實者廢立

謂彼四顛倒當知見苦斷者。一切四顛倒依苦轉。是故見苦斷已說三見中。於彼增上見者。此四顛倒三見中少分是見自性。經中想心濁故說想心倒。見實者廢立。何以故增上見中。若得增上如是力顛倒建立。如我見顛倒非我所見。如是邊見常見顛倒非斷見。見取淨樂見顛倒。問曰誰增上。答曰推建立一向顛倒。是故顛倒彼如是。是故非一切見是顛倒。邪見斷見雖推及一向倒。壞事轉建立戒取。推建立非一向顛倒。取少淨非勝見勝取少勝。我見力建立我所。是故我所見不立顛倒。問曰世尊說多見如六十二見彼見何見攝答曰五見攝。問曰此云何。答曰

誹謗於真實 此見說邪見
非實而建立 二見及是智

誹謗於真實此見說邪見者。若見誇真實有義言無所有。如無施等是為邪見。非實而建立二見及是智者。於陰中非實我所建立身

見。非真實樂淨建立見取。若餘非實建立。如見。杭建立人想。邪智非邪。見

又戒威儀取 非因而見因
若攝受邊見 依常見斷見

又戒威儀取非因而見因者。如自在天因牛戒見等。生天世間流轉解脫。若攝受邊見依常見斷見者。若見諸行常是名常見。如說常者彼不知因果連續。是故於事中立斷是名斷見。是二見名受邊見。除此更無餘見。是故一切見入此見中當知。問曰此見何斷何不斷。答曰

誹謗而建立 因見依二邊
隨於此事轉 若見彼則斷

誹謗邪見已說。彼若誇苦彼說見苦斷。如是集等建立不實說二見。彼身見於苦建立見苦斷。見取若見苦斷樂等建立是故見苦斷當知。如是見集斷等戒取。若依於有漏轉彼見苦斷。若依無漏轉彼見道斷當知。斷見常見依苦轉。是故見苦所斷
*阿毘曇心論*經卷第五

*阿毘曇心論*經卷第六

*法勝論*大德優波扇多釋

高齊。天竺三藏那連。提耶舍譯

*六卷成部

修多羅品之二。別譯

問曰。世尊說二十二根。彼云何。答曰

如一如二 建一見 杭一杭 見十(又) 苦二若 天竺三藏二沙門 之二一第八之餘 (別譯)

謂眼等四根 身根有三種
如意根及命 此根生死依

謂眼等四根者。眼耳鼻舌。彼眼根眼識依淨色。於色已見今見未來或當知此。或復有異彼餘自分。問曰何謂自分。答曰彼相似義也。如色不會見今不見當不見。何以故識空故。如是一切如識自依說。身根有三種者。身根亦如是。彼說三種身根男根女根。如意根何者意根。若心意識彼復六識身。若已知法今知法當知法。或復是自分彼無生法如是當來。及命者命根第九彼三界壽。此根說生死依故說根。衆生生死故

受是煩惱伴 信等依涅槃
九根若無漏 此三依於道
受是煩惱伴者。苦樂憂喜捨受。雜煩惱煩惱伴依地故說根。信等依涅槃者。言精進定念定慧依寂滅伴故說根。九根若無漏。是三依於道者。信等五喜樂捨意根等。有漏無漏此中若無漏。彼依於道三根說。如賢聖品說。如是諸根名二十二。事十七。男根女根身根少分。三無漏無異。問曰何者是根義。答曰彼增上義是根義。如人主獸王一切法有增上主。彼最勝增上主名根。彼取六境界增上主。男女二根衆生差別分別增上主。初時無差別。命根持衆生身增上。受有煩惱增上。信等涅槃增上。無漏道差別增上。

欲界相應。問曰何故色界無男女根。答曰無受用事故。鼻舌二根亦應無。爲端嚴身故生無妨。又男女二根令身醜惡故無。無苦根非逼迫果故。彼他不惱故無憂根。何以故無知生故。彼智知欲界。餘色根意根界品已說。捨根信等五根三界相應不相應。喜樂根色欲相應不相應。無漏三根決定不相應命根。雜品當說。問曰幾善。答曰善八。信等五三無漏必定是善非不善。餘憂根受等善不善無記憂根命根後當說。餘如界品說如是取色七者眼等五及男女根。此等是色餘非色。問曰幾心性幾非心性如是廣說。答曰諸心數有十。五受五信等。一心智者說者。意根一種心自性。無漏前已說九根無漏。三餘非心數決定。問曰幾有報幾無報。答曰

一及七有報 此義應當知
十三中是報 見實者所說
一及十有報此義應當知者。憂根一向有報。何以故善不善故。問曰何故憂根無記無。答曰憂根與喜下劣行相違。非身邊見相應故。非隱沒無記分別轉故。非不隱沒無記。非工巧報生威儀等分別生。若彼分別生誰在於後。非離欲滅離欲不斷故。非不隱沒無記是故非不隱沒無記。憂根信等中若有漏彼有報。若無漏彼無報。意根及三受若不善善有漏彼有報無記。無漏無報。苦根善不善有報。無記無報餘根非有報。問曰何故不善善有漏有報。答曰堅固住故資助。如哇水潤糞覆爛壞堅固種子生。非無漏無資緣故。如在

倉中種子。雖堅不生愛水不潤故。餘煩惱如糞無故不能爛壞。非無記有報。如爛種子雖置哇中不生。問曰幾根是報。答曰十三中是報見實者所說。七色根意根。命根。除憂根四受是有報。亦有非報色長養非報餘是報。命根正受果壽行數。彼非報餘是報。意根及受善穢污非。報。威儀工巧變化心數非報。餘是報餘根決定非報。問曰幾根最初生時得報。答曰

二。或六七八 初念生時得
欲中有報相 色六及上一
若衆生根次第生。卵生濕生胎生彼初念二根報生身根及命根。意根彼是穢污是故不取。非穢污心爲連繫報。非穢污是故非報。捨根亦如是。化生無根六色根五及命根。一切化生不少眼根等。一根七二根八。欲中有報根故。此法用欲界衆生當知。色六及。上一者。色界得六。無色界一但命根。問曰死時最後捨幾根。答曰

捨四八與九 亦說捨於十
漸終及頓沒 善捨各增五
捨四八與九亦說捨於十漸終及頓沒者。無記心漸終捨四身意命捨根。無根一時無記心死捨八。謂眼等根命意捨根。一根九二根十不善心亦爾。問曰善心捨幾根。答曰善捨各增五。於是中加信等五根。色無色隨所得亦如是。問曰幾見斷如是等應當廣說。答曰
二斷無斷四 六根則二種
三無漏不斷 餘則修道盡

①是二此②漏十(根)③七二十④無二非⑤(命根)一⑥(報)一⑦或六二六或⑧根二相⑨上二生

二斷無斷四者。意根及三種受此見斷修斷。若無漏無斷。六根則二種者。憂根見修斷。信等五根修道斷不。三無漏不。一向無漏故。餘則修道盡者。餘九根修道斷。彼眼等八不穢汚故。修道斷墮生死故非不斷。苦根五識身是故修道斷。問曰世尊說六識身。彼取何法。答曰

若取識根義 五種心境界
若取一切法 是則意識界

若取識根義五種心境界者。色等五境界五識身取。眼識取色。形色相色者。謂青等無量種。形相者長等無量種。彼眼等不到取眼著藥。擗則不見。耳識聲亦不到取。鼻舌香味身觸此到取。一切五識身能取現在境界。問曰意識云何取。答曰若取一切法是則意識界。若五識身所取。彼若不取過去未來。現在法及無為一切意識取。除彼剎那自體共生相應法。問曰初知不壞境界已說此境界。云何十種差別。答欲界相應不相應如是。色界無色界如是。無漏有為無為善無記。問曰十智一一智幾法境界。答曰

五法應當知 法智之境界
七種隨順智 他心境界三

五法應當知法智之境界者。欲界相應不相應及無漏無為善。七種隨順智者。色無色無漏相應不相應善無為。他心境界三者。欲色界無漏相應

有漏當知十 因果智有六
解脫智一法 道智二餘九

有漏當知十者。世俗智一切十種法境界。因果智有六者。若集智三界相應不相應。解脫智一法者。滅智中一無為善。道智二者。道智有為無漏相應不相應。餘九者。盡智無生智境界九法除無為。無記使境界如前說。復欲總說故說此

自地諸煩惱 定使於自地
自種一切遍 在彼種類中

自地諸煩惱定使於自地者。欲界一切使。所使。欲界乃至有頂地。地亦然。勝故對治故。下地不使。離欲現前上地不使。自種一切遍在彼種類中者。自種類法自種類使所使。一切遍他類亦使如身見。見苦斷使所使見集斷等他類亦使。如是一切遍使說。乃至修道斷修道斷一切使。所使一切遍。使

三界定煩惱 如是定三界
如是說二界 一界生亦然

三界定煩惱如是定三界者。三界攝煩惱中三界使所使。隨方便如意根。三界於中一切三界使所使。如是說二界者。二界所攝法二界使所使。如方便如覺觀欲界及色界。於中欲界色界使所使。一界生亦然者。一界所攝法一界使所使。如憂根欲界於中欲界使所使

此佛所說經 若事我已說
識智及諸使 觀察此三門

此佛所說經中。若我所說法此三門應宣說。識智及諸使。觀察此三門。識門智門使門。如欲界中根事一切有。是故欲界六識身當知相應不相應故。七智知除

比智滅智道智。五種類攝故。欲界一切使所使。色界三根事有此四識識七智知。色無色界一切使所使。無色界無五境界。但一識識六智知。除他心智法智滅智道智。無色界一切使所使。如是一切應當知

雜品第九
已說定相續 種種諸餘法
於上眾雜義 我今當略說

已說定相續種種諸餘法者。已說諸法彼此相續種種聚。於上眾雜義我今當略說者。於上所說廣義今略說

有緣有相應 有行及有依
心及心數等 是說總略義

此是心心數法名。於種種法中繫緣轉故名有緣。俱同行同方便名相應。境界行作故名有行。依根轉故名有依

從緣生亦因 有因及有為
說事及世道 有果此決定

此是有為法名。彼彼緣和合得生故名緣生。他法生故因由力故。有因諸法和合作故名有為。多因差別顯示故名說事。未有。有轉自相。行名世。彼有。果名有果

有罪亦隱沒 穢汚下賤黑
善有為及習 亦復名修學

有罪亦隱沒穢汚下賤黑者。此是不善隱沒無記法種種名。可厭惡故名有罪。煩惱覆蔽故名隱沒。煩惱垢汚故名穢汚。凡鄙故名下賤。無智。闇分故名黑。善有為及習亦復名修學。善有為法如此名也。智中有或相續此

①識二諸②* ③擗二覽④* ⑤(所)一⑥⑦ ⑧使十(一)⑨⑩, (使)⑪⑫ ⑬有二由⑭⑮ ⑯行十(故)⑰⑱ ⑲果十(故)⑳㉑ ㉒闇二暗

法名智是故善。如世間說善巧人歌舞善巧手。或善者慧名彼慧善談說故名善。攝取如是義也。功德增上成就說習。亦說修心。不相應行此中當說

無想二正受 亦衆生種類

句味與名身 命根與法得

謂彼凡夫性 及諸法四相

非色不相應 說是有爲行

無想名無想衆生。心心數法不轉。二無心定者。無想定滅盡定。無想定名厭於生死解脫想。第四禪力相續次第中間滅。滅盡定名厭散亂心寂滅想。初住想心思念。非想非非想過惡心心數次第滅。衆生種類名一趣生衆生。身根長短來去住飲食自共分。句名字集隨所欲說義。分齊究竟名句。如婆伽羅那云。言說味者字生。名者隨義名也。如牛馬等。如毘伽羅論言句。命者隨得根大。心和合事次第相續不壞。因得名得法到成就。得一義也。凡夫性者。未到正決定聚遠離聖士夫法。四相者生老住無常如行品說。非色者。非此法色自性。不相應者不相應無緣也。說是有爲行者。行隱攝故。問曰此行幾是善如是等廣說。答曰

二善五種三 當知七無記

二在於色界 一在無色地

二善者。無想正受滅盡正受。一向是善有報故。無想正受無想報滅盡正受。除命根有頂四陰。五種三者。得生老住無常等。善中善不善中不善無記中無記。當知七無記者。無想

種類句味名命根凡夫性。問曰幾欲界如是等。應廣知。答曰二在於色界。無想正受廣果地故。一在無色地者。滅盡定非想非非想處攝故

二界三當知 餘在於三界

有漏無漏五 其餘定有漏

二界三當知者。名句味欲界色界。非無色界。離語言故。餘在於三界者。種類命凡夫相。問曰幾有漏幾無漏如是等。答曰有漏無漏五。得生老住無常相等。有漏中有漏無漏中無漏。得者有漏中有漏。無漏盡爲無漏。數滅聖凡夫有漏無漏。非數緣無爲。唯有漏其餘定有漏者。當知餘行決定有漏。問曰離聖法名凡夫。彼云何捨云何斷。答曰

最初無漏心 是聖不得捨

愚夫流轉界 離欲時滅盡

最初無漏心是聖不得捨者。聖者苦法忍捨凡夫性。是捨凡夫對治愚夫流轉界者。此凡夫事界流轉捨。隨彼處。決捨地生隨地得。不隱沒無記故。如一刹那得。離欲時滅盡者。隨地離欲若凡或聖。彼地凡夫事斷。問曰三無爲已說彼有何相。答曰

斷煩惱遠離 是名數緣滅

無諸障礙相 是名爲虛空

斷煩惱遠離是名數緣滅者。若身見等煩惱數緣力所滅。彼斷次第斷若遠離欲得。彼數分名數滅。無諸障礙相是名爲虛空者。容受色無障礙。任來去等事得是名虛空

依於衆緣法 有依及攀緣

若具不生 此滅非是智

有爲法依緣力能生彼無不生。如眼識眼色明空。憶彼生和合意作眼識生餘。闕一則不生。若與餘識相應。念念眼生滅和合。闕此眼識不生。若彼眼依識欲生彼不生。若彼眼生滅已。彼必定不復生。如是色彼緣闕。彼眼識未來滅不復生。如是餘識身如得生說。若彼生滅彼初非智緣。如是事不數數而滅名非數滅。略說未來不立法中。緣闕畢竟不生。自然滅名非數滅。問曰已說有爲法因。彼何法何因。答曰

前因相似增 或俱依倚生

二因及一緣 一向已生說

前因相似增者。前前法如是相似未來因。亦增因非滅因。如軟善根軟中上自地善根因中增。增增因修習法住增非滅。非勝法爲下因。或俱依倚生者。如相應共有因。二因及一緣一向已生說者。自分因已生說非未生前生後生自分因。說非未生有前後。如是一切遍因。亦說當知次第緣過去現在。阿羅漢最後心心數除。餘過去現在心心數。彼一切名次第緣一種。一種不差別前聚後聚。次第緣故名次第緣。問曰何故色心不相應行非次第緣耶。答曰衆雜事色雜如是。一時欲界色界不相應現前。如受戒凡夫及聖人亦不相應行。三界不相應一時現前。心心數不雜事故得名次第緣。問曰報爲衆生數。非衆生數耶。答曰

報是衆生數 有爲解脫果

報是衆生數。有爲解脫果

①義二善②得字下宋本一字空白③隱二陰④廣一當⑤二二三⑥唯二推⑦下同⑧決一沒⑨滅二滅

有緣說俱轉 謂於他相轉

報是衆生數者。衆生數法必定得名爲報。何以故不共故。非非衆生數共故。問曰。報者何義。答曰。不相似受故。如善不善無記。問曰。果法說何者。答曰。有爲解脫果。一切有爲法善不善無記果。因緣相依故。緣滅。無爲者彼說道果。問曰。有緣法云何緣中轉。答曰。有緣說俱轉。若法有緣彼一時緣轉不別異。問曰。何處緣轉。答曰。謂於他相轉。他攀緣義也。非自性自性緣。何以故。自性離自性故。一切事如如眼不自見。指端不自觸。刀不自割。相應不緣。何以故。一緣故。俱生亦不緣。太相近故。如眼若藥。擗眼眵。眼睫太近故不見。自依不能緣。問曰。彼有住處無住處耶。答曰。

遍因無處所 欲生時解脫

煩惱智心中 道欲滅時滅

遍因無處所者。此遍因心。心數二眼因生一識。如是耳鼻舌識亦然。若有處所應一眼中生。若然者應一眼見非二眼見。或兩識生不然是故無處所。問曰。何心解脫。爲過去現在未來耶。答曰。欲生時解脫。欲生時道滅煩惱。是故欲生時得解脫。無學心障中得解脫。問曰。道生時斷煩惱耶。答曰。煩惱智心中道欲滅時捨。道欲滅時斷。煩惱欲生是未來。未來道不能作事。是故無礙。道欲滅時捨煩惱。解脫道欲生時解脫煩惱得。次說煩惱名。問曰。有愛有幾種。答曰。

有愛有五種 無有唯一相
愛事餘煩惱 斷離是三界

有愛有五種者。有愛名有中貪著彼五種。苦集滅道見修道斷。無有唯一相者。無有愛名斷見。自身斷樂。彼亦修道斷。何以故。見愛見道斷。此亦轉愛是故修道斷。此須陀洹雖不斷亦不共行。何以故。斷見所長養故。彼皆上現前彼須陀洹斷盡。因緣相應知故。問曰。如世尊說斷界離界滅界何者是。答曰。愛事餘煩惱斷離是三界。斷愛離界彼愛染著相應事。斷滅界彼亦染亦相應。彼若餘煩惱斷彼斷界。彼相應非染。近對治故如是建立。如是一切一相十一心。欲界善不善隱沒無記不隱沒無記。色界三除不善。無色界三亦如是及無漏。問曰。此中幾穢汚心得幾善無記。答曰。

穢汚心得十 智者如是說

善心必得六 無記即無記

穢汚心得十智者如是說者。界地。地來還二界善穢汚隱沒無記心得相續心。餘無色界善穢汚不隱沒無記。彼現前事得。問曰。欲界色界不隱沒無記云何。答曰。變化心色界欲生時得。彼禪力得非餘。是故非無記得退非無漏。如無學退學得。如是等如是得故緣次第說。非一人一剎那中得十。善心必得六者。善心得六如盡智。欲界善無漏心中。變化心亦無記。如是色界無色界善心及無漏。無記即無記者。不隱沒無記心唯得無記心。非餘現前亦得前已說。非彼剎那未得心得。問曰。十法菩提分彼中幾根性。答曰。

菩提分六法 當知是根性
諸法若相應 當知是他分

菩提分六法當知是根性者。信等五及喜覺支。餘者非根自性。問曰。爲自性相應法。爲他性相應法。答曰。諸法若相應當知是他分。分相應。當知非自性自性伴。一時無二故。問曰。何處得解脫。答曰。

緣中得解脫 大仙如是說

亦少斷而縛 見道及修道

緣中得解脫大仙如是說者。緣中離煩惱不能於相應解脫。何以故。一剎那故。煩惱心一念緣中。衆生愚。惑於緣不愚。故解脫煩惱成就。問曰。若不相應亦斷不耶。所斷者相應不相應耶。答曰。若不相應亦斷。亦少斷而縛。見道及修道。有少分斷亦非解脫。如苦智生集智未生。若見苦斷煩惱斷。彼見集斷一切遍煩惱縛。修道中亦一種斷。彼中八種縛乃至八斷究竟下下縛。問曰。見諦云何得不壞淨。答曰。

二覺於三諦 四由見正道

能起不壞淨 修習於二世

二覺於三諦四由見正道能起不壞淨者。苦集滅無間等。得法不壞淨及聖愛戒。彼三法自性故。見道一切得四種佛法僧彼中有故。問曰。幾世法修。答曰。修習於二世。現世。修行未來得修。問曰。何法隨心轉。答曰。

一切心數法 說與心俱轉

若心相及餘 作亦應當知

一切心數法說與心俱轉者。一切心數法說與心共行。何以故。共心一緣故。若心相及餘者。此心相生等彼亦隨心轉。共心一生滅故。

◎報二數◎ ◎心一◎ ◎皆二背◎ ◎上二土◎ ◎地一◎ ◎惑二或◎ ◎修行二行修◎

及餘者。如是餘心數相亦隨心轉。一種方便安隱故。作亦應當知者。此業名也。彼中說心數處。已說思身口業。未盡今當說彼禪道無教戒彼力生故說作。彼隨心轉心一果故。心作一事一切隨心轉說。問曰斷法云何。答曰

斷諸有漏法 智者亦無垢 滅未來說遠 此餘說則近

斷諸有漏法者。一切有漏法斷有過故。是故無漏不斷。彼無垢故無過去垢故名斷。如衣有垢荒事。問曰知法云何。答曰知者亦無垢。若有漏法及無漏法。是一切知法。一切法智境界故。隨方便智如智品說。問曰遠法云何。答曰滅未來說遠。不辦事遠者過去未來世處遠相遠自分遠。不辦事遠者過去未來世道。處遠者海此彼岸。相遠者如地與虛空濕與。暖異。分遠者善法不善法。欲色無色雖一相亦亦是遠。此餘則說近者。餘現在及無為彼當知近。現在能辦事故近。無為隨處速得。數緣非數緣滅。隨處得。虛空者遍一切處。問曰決定法云何。答曰

所謂無間業 及諸無垢行 慧者說決定 見處是有漏

所謂無間業及諸無垢行。慧者說決定者。無間業邪定如是法決定將向地獄故。餘亦有惡行決定能趣地獄。彼不定無間非不定。已說決定無垢行正決定得解脫果。除。五無間業餘者不定。有漏及無為不定。問曰見處法云何。答曰見處是有漏。一切有漏法是見處五見相應故。若此法穢汚見緣。相應使俱生

伴法中住。彼法名見處。問曰幾根衆生成就。答曰

說有十九根 謂成就極多 極少成就八 曉了根所說

說有十九根謂成就極多者。若一切多成就根彼十九。如不斷善根不缺根二根故。此凡夫是故彼無漏根不缺根。如是未離欲聖人。彼一根二無漏。無極少成就八曉了根所說者。若一切少成就但八。如餘身根斷善根。彼有身意命根五受等。及生無色界凡夫彼意命捨根信等五根有。問曰幾種觸。答曰

增語及有對 明無明處中 所謂得果者 是則雙道事

增語及有對明無明處中者。彼意識相應觸增語觸。何以故增語依轉故。由增語轉彼名增語。由意識故語轉。是故意識與彼相應觸名增語觸。或增語名彼意識分別境界非餘五識。是故增語境界相應觸名增語觸。五識身相應觸名有對觸。何以故有對依緣故。五有對觸。穢汚無明觸。無漏明觸非穢汚。有漏非明非無明觸。問曰云何無礙道得果者。為無礙道解脫道耶。答曰所謂得果者是則雙道事。雙道俱得果。無礙道斷結得。解脫道得解脫證。如以毒蛇一手著甕中一手蔽頭。如怨家一手推出一手閉門。問曰阿羅漢任何心入涅槃。答曰

無著住報心 得入於涅槃 生有及壞有 本有亦復中

無著住報心得入於涅槃者。一切所作事中平住任運心。阿羅漢住報生心中入涅槃。亦住威儀心入涅槃。何以故任運行故。說住報心入涅槃。彼自然心斷隨順故。住無記心入涅槃。善心中相續彼次第心息。不善心身離欲時捨穢汚心。有頂離欲時捨善無記現前。彼最後心是故住如是無記心入涅槃。問曰幾種有。答曰四種有。生有及壞有本有亦復中。彼生有者。生剎那若陰生。壞有者死時最後陰。本有名生有死有中問陰名本有。中間有名死已乃至未受生有。此中間處所陰名中有。或有不立中有者。彼人處所中間不相續。彼言不相應。何以故心數依處轉見。此心數依處見非餘。彼何所依共報身。此不存中陰者。欲界處相續見行相違心數轉。是故不生相續。若存中陰者彼依處。如是有中陰生見。法不相違心數轉。相應成就處相續故。是故必有中陰。問曰如佛說有厭離。云何厭云何離。答曰

諸智在苦因 及忍修於厭 離欲得無欲 說在於四中

諸智在苦因及忍修於厭。離欲得無欲。說在於四中。諸智在苦因及忍修於厭者。苦集緣智及忍說厭厭事轉故。離欲得無欲說在於四中者。苦集滅道中智及忍說厭離。能壞欲故。彼中忍見道壞智者。修道無礙道斷煩惱不復見道智。無礙道修道中有四智

離律不律儀 而得於律儀 不因彼得勝 若能知者說

離律不律儀而得於律儀。不因彼得勝若能知者說。答曰有無色界沒生色界。凡夫法彼人界流

①智二知②彼一故③暖二煖④辨二辨⑤慧二慧⑥五二正⑦無二根⑧五(識身依有對及緣有對是故彼相應觸名)⑨界二異⑩厭離一離欲

轉時。捨戒繫屬界故。是入色界時。得彼禪
戒退分故。是故不增

頗得沙門果 聖賢離諸過
得有為善法 不名為修習

答曰有如本得退過去彼得不增。是故
名不修習。餘習修不能現前。本所得者更得

頗道與起時 未離諸過答
解脫時離惡 能決定者說

答曰有如未來修如前生現前。盡智除。若餘
未來盡智。彼欲生時得彼時未解脫。何以
故本時障解脫。一切未來無學。相續心解
脫故

頗光曜煩惱 起已定相應
清淨初禪中 而得於退法

答曰有光曜纏生。退阿羅漢得盡智者。初清
淨禪盡智力。得彼時捨彼學無學。或熏修初
禪等

頗有見諦道 得於諸善法
彼法是有緣 智者不見緣

答曰有欲界中無間等邊得世智。欲界陰不
見比智。彼無間邊得世智。是故彼時不見欲
界陰

頗果有漏。慧 相應淨功德
不相應智慧 彼時得彼果

答曰有如欲界離欲。非梵世離欲。彼欲界第
四禪果。變化心不相應斷故。成就彼於此禪
中彼果。彼禪中不相應。慧不斷故。如是色
界變化心說。於上下地離欲不離欲

頗住無礙道 成就於諸滅

障礙彼煩惱 非彼無漏見

答曰有如有漏通生住無礙道。隨地通能生
彼地離欲。彼有通離欲斷。是故彼住無礙道
彼遠離成就。常相續得遠離

頗有煩惱滅 無垢者獲得
非捨彼煩惱 於彼無垢盡

答曰有如光曜中梵世生。欲生時欲界煩惱
遠離得。如是彼前已斷彼遠離得。世俗故彼
地繫屬。是故地流轉捨。又復還來得彼得名
遠離得

頗無垢淨地 未曾得而得
非離欲非退 不依於見道

答曰有如色離欲證決定無漏。無色修道中
方便得

頗未得法中 而得於勝利
不捨彼不利 若曾學者否

答曰有彼初生無漏品。除餘無漏功德。得時
彼不捨凡夫事。苦法忍彼退一切無漏功德。
不得凡夫事

大德優波扇多為利益弟子故造此阿毘曇心
論

*阿毘曇心論經卷第六

No.1552 (cf. Nos. 1550, 1551)

雜阿毘曇心論卷第一

尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

序品第一

古昔諸大師 於諸甚深法
多聞見聖跡 已說一切義

精勤方便求 未曾得異分
阿毘曇心論 多聞者已說

或有極總略 或復廣無量
如是種種說 不順修多羅

光顯善隨順 唯此論為最
無依虛空論 智者尚不了

極略難解知 極廣令智退
我今處中說 廣說義莊嚴

廣說 梵音云毘婆沙以毘婆沙中義莊嚴處中之說諸師釋
法勝阿毘曇心論廣略不同法勝所釋最為略也優婆塞多
有八千偈釋又有一師萬二千偈釋此二論名為廣也和修
樂頌以六千偈釋法宏遠支曠無所執著於三藏者為無依
虛空論也

敬禮尊法勝 所說我頂受
我達摩多羅 說彼未曾說

弟子咸勸請 毘曇毘婆沙
專精思惟義 賢眾所應學

正要易解了 離惱濟群生

復次為顯現清淨煩惱對治。依阿毘曇毘婆
沙所應故。大德法勝及我達摩多羅共莊嚴
雜阿毘曇心。離諸廣略說真實義。問且置真
實義。云何名阿毘曇。云何名毘婆沙。答於牟

● 惡二欲 ② ● 若餘二若無 ③ ● 去餘 ④ ● 彼二後 ⑤ ● 慧二惠 ⑥ * ● (雜阿...一)九字二 (雜阿毘曇心序卷第一)九字 ⑦ ● 聖本首
缺 ⑧ ● [尊者...造]五字 ⑨ * ● [三藏]一 ⑩ * ● [序品第一]一 ⑪ ● 精勤二精進 ⑫ ● 梵二胡 ⑬ ● 宏二婆 ⑭ ● 摩二磨 ⑮ *

尼所說等諦第一義諦甚深義味。宜暢顯說
真實性義。名阿毘曇。又能顯現修多羅義。如
燈照明。是惠根性若取自相則覺法。是阿毘
曇若取來具是五陰性。名者諸論中勝。趣向
解脫是名阿毘曇

復次毘婆沙者。於牟尼所說性真實義。問答
分別究暢真要。隨順契經開悅衆心。所謂性
相名字地依行緣念智根定世善。及界學。見
諦斷義。緣方便得亦離欲得。何處初起攝相
應因緣果有果等。無量諸法種種義。生說種
種類種種說。是名毘婆沙論。如佛世尊略說

二智法智比智。毘婆沙說無量分別。所謂彼
法智者。是無漏慧性。是智相。名者初知法
故。是名法智。在六地依欲界十六行境界四
諦四念處智即智相三根三三昧相應。樂捨也三
三昧謂有覺有觀無。墮三世緣三世及離世。是善
緣三種。善無記。是不繫緣欲界及不繫。是學無
學緣三種。善無學非。是不斷緣三種。道斷不斷也
名緣及義緣方便得離欲得欲界起。法界法。

入行陰所攝。意界法界意識界相應。三因自
性三因所生四緣。自性四緣所生。是初生無
漏依果及功用果。俱生者唯功用果。有果者
三果。謂前二及解脫果。不說增上果。如是
一切法應當知。問已知久遠緣起根本阿毘
曇毘婆沙說彼對治。何故說真實義。答為知
真實義故。若不分別諸論難可了知。以不知
故實智不生。實智不生故不知真實。不知真
實故不見煩惱諸行過惡。以不見過故墮於
惡趣。與彼相違則生。天解脫。問已說所以

說當說真實義。答是論於諸論中最高殊勝。
具足顯示一切境界。於阿毘曇論增廣智惠。
五濁世增。時命智慧念皆悉損減。觀察是等
於廣大論聞持恐怖。為利自他略說真實三
時善說。哀愍外道邪論諸師。遠慕前勝正論
法主及諸聖衆。普於是中生大敬信。開發衆
生佛法僧念故。顯示三寶真實功德。方造論
端故說是偈

頂禮前最勝 離惱安教尊
所說悉具足 羅漢見眞諦

頂禮者。起善心轉愛果舉體敬禮也。前者先
也。何者為先謂最勝也。示供養處故。最勝
有何義。伏諸煩惱故名最勝。如偈所說。憂波
伽當知。如我等諸佛悉已離諸漏。是故名最
勝。離惱者。煩惱諸纏繞其身心。世尊曠劫悉
安衆生。熾然永盡故名離惱。安樂說故當知
離惱。是故次說安教。安者謂安隱也。教謂言
說。教有所安故曰安教。略說自安安他。離
惱者自安也。安教者安他也。不顛倒故故知
安教。是故次說所說悉具足。說者言說也。即
是安教。具足者。辯正深妙顯現決斷。說不顛
倒到真實義。不違二諦故曰具足。是故禮彼
名供養法。阿羅漢者。到究竟處法相滿足。
是故次說阿羅漢。真實福田應彼供養故名
阿羅漢。此一向說無學。說無學已次說學見
真實。真實者。四聖諦不顛倒。謂已學八忍八
智見彼真諦故名見真實。雖住見道未周四
諦必當見故亦名見真實。問何故敬禮。答

牟尼尊悉知 法聚二種相
亦為他顯現 我今說少分

牟尼者。身口意滿故曰牟尼。悉者。凡一切智
所說修多羅毘尼阿毘曇流布至今。知者。知
見覺義也。法者持也。持自性故名法。法有積
聚故名法聚。彼善法善法聚。不善無記法亦
如是。二者數名。相者相貌也。問云何二相
答自相及共相。自相者不共。即此非餘。如礙
相是色。如是比。共相者共。此及餘。如色無
常。如是比。問若礙相是色自相者亦是共相
觀四陰故是自相。觀十種色故是共相。如是
自相即共相觀故。二種自相共相則為不成。
答一自故。礙者是色相故。名色自相衆色差
別故說十種。汝言觀故自相共相不成者不
然。何以故不壞故。如父子。如果種。如苦集
諦。如聽制。若觀自相則非共相。若觀共相則
非自相。如一人亦名父亦名子。以父故名子
以子故名父。若觀父則不觀子。若觀子則不
觀父。若言不成者不然。何以故。已成故。是為
父子義成。若善若惡正見邪見於中廣說起
無間業。若無父義亦無無父邪見及有父正
見。此若無者淨穢亦無。淨穢無者解脫亦無。
若無無間業者亦無因果。因果無者一切法
亦無。莫言非過。是故父子義成不可已成更
成。若已成更成此則無窮。是故自相共相義
成。問佛所知法一切當說耶。答不也。問何所
說。答亦為他顯現。我今說少分。顯現者開示
義也。他者受化人也。若義饒益隨順梵行。如
申恕林契經說。於彼為他說法中我今說少

○編二揭自 ○契經二修多羅 ○說二論 ○觀十(也) ○(天)一 ○方二為 ○(雜阿毘曇)一 ○(論)一 ○
一三二 ○眞諦一眞實 ○勝十(者) ○說十(也) ○相二想 ○名二日 ○學十(也) ○(是)一

分。如來所知深廣無量。如舍利弗等尚不能盡說。況復餘人。問世尊說何法。答有漏無漏如是一切

一切有漏行 離我樂常淨
不見有漏故 計我等妄受

此諸有漏行。不自在故離我。三苦成故離樂。緣力故離常。煩惱處故離淨。問何等是有漏行。答諸煩惱所生五陰。問若有漏行離我樂常淨者。云何衆生而於中受。答不見有漏故計我等妄受。衆生於有漏行不知相已便受我樂常淨。作業所覆故不知非我。威儀所覆故不知是苦。相似相續覆故不知非。常薄皮覆故不知不淨。如是不知故受我樂常淨。問何相為有漏行。答

若增諸煩惱 是聖說有漏
以彼漏名故 惠者說煩惱

若依若緣增長身見等諸煩惱。如使品說。彼諸行從漏生。故。生漏故。漏處故。是說有漏。法。無漏緣不增長。軟中上者不然。增依故非不增。增依不增緣。問何故。答

以彼漏名故 惠者說煩惱
煩惱者說名漏。一切入處常漏故。心漏連注故。是故增煩惱諸行當知是有漏。問彼更有名耶。答

亦名為煩惱 受陰及與諍
煩受諍起故 是諸賢聖說

即此有漏行。名為煩惱受陰。何以故。煩受諍起故。是諸賢聖說。身見等諸煩惱。衆生故名煩惱。受自身故名受。擾亂心故名諍。諍

有三種。煩惱諍。陰諍。闍諍。煩惱諍者。百八煩惱。陰諍者。死。闍諍者。各各相違。當知此中說煩惱諍。身見等諸煩惱。生諸有漏行。從煩惱生。故說煩惱。從受生。故說受陰。從諍生。故說諍。已說受陰。相。陰相今當說

若行離煩惱 亦解脫諸漏
此及前受陰 是陰聖所說

若行離身見等諸煩惱及諸漏。當知是無漏行。此諸無漏行及前說受陰。是名為陰。相。陰受陰差別者。轉不轉合是陰。轉者是受陰。問何者是。答

所謂色受陰 想行及與識
是五陰次第 龜細隨順說

是五陰謂色陰受想行識陰。云何色陰。一切諸色。過去未來現在。如是廣說。彼起已滅。是說過去。未起未滅是說未來。已起未滅是說現在。在自身名為內。在他身及非衆生數名為外。復次內外義如入處說。龜者名有對。細者名無對。若言不成是則不然。觀故觀故不成者不然。若觀龜則非細。染汚名惡色。不染汚名好色。過去未來名為遠。現在名為近。遠義四種。如行品說。彼一切一向略說。色陰此名略非事略。如色陰受想行識亦如是。於中差別者。自身受名為內。他身受名為外。內緣外緣方便力起境界力起。龜者五識身。細者意地。染汚不染汚界地亦如是。乃至識陰亦如是。行是行陰。外者衆生非衆生數當知。問色。乃至識有何相。答。礙相是色相。隨覺是受相。順知是想相。造作是行相。分別是識

相。彼過去色雖不礙會礙故。當來色。雖未礙當礙故。極微一一雖不礙衆微集則礙。無作雖不礙以作色是礙故。彼亦礙。如樹動影亦動。如色陰過去未來。餘四陰亦如是。問何故前說色陰乃至識陰。答。是五陰次第。龜細隨順說。彼五陰中色陰最龜。五識依故。六識境界故。是故前說。受陰雖非色行龜故。如色說。如我首足等。痛受隨轉如是。乃至識陰最細。是故後說。復次從不可知本際已來。男為女。色女為男。色。染著處故。是故前說。樂受貪故起色欲。想顛倒故起樂受貪。煩惱故起想顛倒。依意故起煩惱。復次二種色觀。故入佛法中為甘露門。謂不淨觀及安般念。彼不淨觀者觀造色。安般念者觀四大。是故前觀色陰。觀色已見受過。見受過已。想不顛倒。想不顛倒已。煩惱不行。煩惱不行已。心則堪忍。此則順說五陰。今當逆說。淨穢之生。以心為本。故前觀識陰。觀識已。煩惱薄。煩惱薄已。起法想。起法想已。則貪受不生。貪受不生。故觀察色。是故先說色陰乃至識陰。問云何分別說色陰。答

十種謂色入 及無作假色
是分別色陰 牟尼之所說
十種謂色入者。眼耳鼻舌身。無作假色者。如業品說。是諸色一一說色陰。所名為識陰。此即是意入。於十八界中。亦復說七種。謂識陰即是意入。十八界中說七心界。餘則有三陰。無作三無為。

①當十(爲)②③ ④是十(故)⑤⑥ ⑦(法)一⑧⑨ ⑩聖賢一賢聖⑪⑫ ⑬相一想⑭⑮ ⑯去二云⑰ ⑱彼十(已)⑲⑳ ㉑相二想 ㉒羅字
明本缺 ㉓(痛)一⑳㉔ ㉕觀二說⑳㉖ ㉗本十(是)⑳㉘ ㉙識十(陰)⑳㉚ ㉛[色]一⑳㉜ ㉝香舌二舌香⑳

是則說法入。亦復說法界

餘三陰者。受陰想陰行陰。無作三無為者。虛空數滅非數滅。此七法說法入亦說法界。問以何等故受想別立陰。餘心法立一行陰。答

輪轉於生死 當知二諍根 是故別受想 建立二種陰

二事故衆生輪轉生死。謂樂受貪及顛倒想。樂受貪故行愛。倒想計著故行見。二諍根者。習欲愛貪欲縛從受生。見欲縛從想生。受修諸禪想修無色。復次心法或根或非根。根法受非根法是想。是故隨義說。問五陰一切是行。何故說一行陰。答

五陰雖是行 而一受行名 有為法多故 說行陰非餘

以行陰中有相應不相應等有為行多。相應者思願等不相應者謂得等。問一切悉是行陰。何故契經說一思為行陰非餘。答勝故增上故前故作。相是行。相。彼思是作性。若有餘陰悉入五陰中。今當如實說

廣說諸法陰 共數有八萬 戒等及餘陰 悉是五陰攝

八萬法陰皆色陰攝。以佛說語性故。有說。名性者行陰攝。餘戒等五陰。彼戒陰色陰攝。定惠解脫解脫知見陰皆行陰攝。若有餘陰名悉入五陰中。問齊何當言法陰。答

法陰謂經論 如是一一說 及諸對治行 悉名法陰數

有說。一經論名為法陰。如是經論數有六

千。復有說。一一陰處是法陰處。又說。陰處界處等為法陰數。如是說者謂衆生有八萬行。是故世尊隨彼所行為說對治。悉是法陰數。問前說十種謂色入。亦無作假色是。名色陰。何等為入答

所謂眼耳鼻 舌身及與意 色聲香味觸 餘則說法入

彼眼入者。眼識所依四大所造淨色。不可見有對。耳鼻舌身亦如是。差別者。隨識所依。意入者。是心意識。名義業世施設。彼名等所作差別應當知。名者。名為心。名為意。名為識。義者。集起是心義。思量是意義。別知是識。業者。遠知是心。前知是意。續生是識。世者。過去世是意。當來世是心。現在世是識。施設者。界施設心。入施設意。陰施設識。復次貪

患癡等分別則無量境界。定心名不亂。此相違染污心名為亂。解忘相應心名為下。精進相應心名為舉。少習淨心及染污心名為少。多習淨心名為多。少根易得少對治少隨轉。諸染污心名為小。此相違善心名為大。於彼得修習修不修習。如是染污心名不修。此相違善心名為修。自性解脫及在解脫。於彼染污心名不解脫。此相違善心名解脫。或有心自性解脫非在解脫。或有心在解脫非自性解脫。或有心自性解脫。亦在解脫。或有心非自性解脫亦非在解脫。自性解脫非在解脫者。是學無漏心。在解脫非自性解脫者。是無學無漏心。自性解脫亦在解脫者。是無學無漏心。非自性解脫亦非在解脫者。是學有

漏心及凡夫心。色入者三種謂色處俱。色者青黃赤白。如是廣說。處者身作色。俱者如造畫等。聲入者三種。謂因受四大聲。因不受四大聲。因俱聲。因受四大者。謂咽喉唇舌因緣發聲。因不受四大者。謂風鈴樹等因緣發聲。因俱聲者。謂擊鼓吹貝因緣發聲。彼聲一有二種。謂可意不可意。香入者三種。謂好香惡香非好惡香。味入者六種。謂辛酸甜苦鹹淡。問若嘗味時。別味者為舌識。先覺為身識耶。答若先覺冷。暖則先身識後舌識。若先別辛等味者則先舌識後身識。觸入者十一種。謂四大及七種造色。七種造色。謂澁滑輕重冷。暖飢渴。澁者龜強。滑者細軟。輕者不可稱重者淳厚。冷者求暖。飢者欲食渴者欲飲。問何大增故澁滑乃至飢渴。答或有說無偏增者。彼業報先得澁。四大果乃至飢渴。復有說。水火增故滑。地風增故澁。地水增故重。風火增故輕。水風增故冷。風增故飢。火增故渴。問幾觸能起身識。答有說。從澁至渴一一能起。又說。五觸能起四大與澁。如是乃至飢渴。復有說者。十一種起身識等。是身識境界故無過有二種自相。事自相及入處自相。事自相者等境界。入處自相者自相境界故。此十一種。二種欲界繫。飢及渴非色界繫。九種欲界色界繫。色界衣雖不可稱。餘亦可稱亦可積聚。雖無冷暖之患。而有長養調適。飢渴者。或說依果以飲。食能斷故。阿毘曇者說。報色不可斷已更續。屬資者說。飢渴是善不善報障故不可知。食消已還復

①餘十(則有)②③ ④二一(一)⑤ ⑥謂二諸⑦⑧ ⑨相二想⑩⑪* ⑫說一語⑬ ⑭陰十(數)⑮⑯ ⑰論二輪⑱ ⑲(其)十數⑳ ㉑名十(為)㉒ ㉓具十(等)㉔ ㉕酸甜二諸甜⑶ ㉖酥恬⑷ ㉗覺二學⑸ ㉘暖十(等)㉙ ㉚色十(者)㉛ ㉜[暖]一⑵ ㉝一⑵ ㉞身二⑵ ㉟[可]一⑵

可知是故富者飢渴是善報。貧者飢渴是不善報。法入者。四種無作色。如業品說。心法如行品說。心不相應行如雜品說。無爲此品後當說。內入中眼入境界觸前說。外入中色入自性觸前說。苦樂所入門故說入處。又殺義是入處義。心心法於此中滅。問入處觸入處何差別。答觸入處即是入處。或入處非觸入處。外入是也。若內入處非分者。是入處。非觸入處。緣差不起觸者名非分也觸所住故名觸入處。觸空者唯是入處。觸所入門故如窓牖。天竺爲窓牖爲入

聖惠眼。以色觸故說二十種。所謂青黃赤白長短正不正方。圓高下。煙雲塵露光影明闇。彼長等八事三種分別。餘悉無記。問一切十二入盡是法性。何故但說一法入。答彼一切諸法。雖盡是法入。法中衆多故。一法入非餘。彼一切雖盡是法入。但一入中衆多法故。謂色法無色法。相應不相應法。有爲無爲法。是故但說一法入。復次三有爲相。彼法相不相違。彼入法入中。是故但說一法入。又一切諸法以名顯現。彼名入法入中。法者真實相。謂空解脫門。以前法覺法故。是空入法入中。身見能自覺者不然。顛倒轉故。法者第一義。謂寂滅涅槃。是法入法入中。問世尊說契經無量入。何故但說十二入。答

雖於一身中 所作事各異 依緣自性故 十二種分別

於一身中具十二入。但事各異。若事是眼入。此事乃至非法入。若事是法入。此事乃至非法眼入。問何等爲眼入事乃至法入事。答眼以見色爲事。色以眼所行爲事。如是乃至法入。譬如一室十二人止事業各異。彼亦如是。又依緣差別說十二。謂六識身有六依六緣。又自性分別說十二。若眼自性乃至非法自性。若法自性乃至非法自性。問十入處及法入少分。是色何故獨說一入處爲色入。答雖有衆多色。但說一色入。當知一色入。三眼境界故。於彼入中。三眼境界者名爲色入。肉眼天眼

彼十一切入。八入二四入及五解脫入。皆悉十二攝。十一切入中。前八入及八勝處。是無貪善根性。悉入法入中。若取眷屬則五陰性悉入意入法入中。十一切入中。後二入及四無色入。是四陰性悉入意入法入中。二入者。謂無相衆生入及非想衆生入。無想衆生入十入性。除香味入。說四無色則已說非想入。五解脫入是慧性。眷屬是五陰性。悉入三入中。聲入意入法入。五解脫入者一者佛說即得解脫二者聞已思惟得三者因自誦經得四者因爲他說法得五者因問所說十八界爲種有十八名有緣得也問所說十八界爲種有十八名有十八。答

境界依者依 分別十八種 十八界。或十七種。或十二種。若取眼界則失六識。若取六識則失意界。譬如別取樹則失林。若取林則失樹。指捲等譬亦如是。若取意界則失六識。若取六識則失意界。問若然者云何說十八界。答

境界依者依 分別十八種 三事故說十八界。依故。依者故。境界故。依謂六依。眼界乃至意界。依者謂六識界。眼識界乃至意識界。境界謂六外界。若言阿羅漢最後心不生後識非意界者。此則不然。以餘緣故後識不續如地無種。復次因觸故立十八界。眼觸三因緣生。謂眼色識。如是乃至意。器故。食故。食者故。器謂眼界。食謂色界。食者謂眼識界。問應說二十一界。二眼二耳二鼻爲六。舌界身界七心界六外界。答

二眼說一界 以二一自故 耳鼻亦如是 二共說一界 爲令身端嚴 彼皆不一一 雖有二眼而說一界。以一自故。共一四大造故。一自見故。非一自有二根。一識所依故。二眼眼識依亦不應二根。一識依一入處故。一入境亦俱受一入境界故。二眼共取一色。以一眼見色則不明了。二眼見色則明了。二耳二鼻成一界亦如眼說。爲莊嚴身故生二眼二耳二鼻。以一眼者人不愛敬故。是故眼等生二。身舌生一。如佛世尊雖說種種界。悉入十八界中。今當次第說

①爲一謂②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

若有諸餘界 世尊契經說 各隨其自性 悉入十八界

若世尊說餘界悉入十八界中。以三事故。依故。依者故。緣故。如世尊說。橋尸迦。世有種種界。謂諸見以界名說。彼悉入法界中。若彼說六十二界。如多界經說及餘契經。以界名說者各隨其。義入十八界中間界入陰何差別。答

界說一切法 彼即十二入 除三無為法 餘則說五陰

一切法說十八界。以不離依故。依者故。緣故。彼一切法即說十二入。七心界為意入。此即義差別。除三無為餘法說五陰。積聚勢故。問若一切法說界。界即是入。除三無為說陰。何故世尊三種說答

牟尼觀衆生 欲解根不同 性行愚差別 故說陰界入

衆生三種欲解。廣略中。廣者為說界。中者為說入。略者為說陰。軟中上根亦如是。恃性憍逸為說界。性義是界義。恃財憍逸為說入。輸門義是入義。恃命憍逸為說陰。以陰死法故。始行者為說界。少行者為說入。已行者為說陰。愚於色心為說界。愚於色為說入。愚於心法為說陰。問陰入界有何義。答

聚積是陰義 輸門義說入 種性義說界 是三種差別

十一種無量色等。總說色陰。如庫藏如軍衆。譬如四種軍其類各別名為軍衆。色亦如是。雖有十一同一色相名為色陰。如阿毘曇說。善觀色陰者。一極微攝一界一入一陰少分。

不善觀者言。一極微攝一界一入一陰。如色陰。受想行識陰亦如是。輸門義說入者。通苦樂故。種性義說界者。如一身中多種種性各異故說。金性銀性等。如是一身中種種種性各異故說。十八界。問以何等故說十八界十二入五陰。不增不減。答

境界依者依 度量法所應 是故界入陰 不增亦不減

境界依者依。度量法所應。是故界入陰。不增亦不減。境界度量所應者六依。六依者六緣。彼依若增則非依以無依者故。若減則依者無所依故。如是一切入亦以依緣為量。陰者何故染著。樂受著故。何故樂受著。想顛倒故。何故想顛倒。煩惱相應故。煩惱依意即依意。如所說意緣法生意識。離是依更無餘依故。已說界入陰自性及因緣。今當廣說界

界中一可見 又說一切界 無記謂八種 餘則善不善

界中一可見者。十八界中色界可見可視。在此在彼是故可見。復次示人心行是故可見。復次自現故。謂眼所行。當知十七不可見無。行相故。又說。一切界皆可見。慧眼境界故。如所說偈。彼一切諸法。慧者見無我。如阿毘曇說。學見跡見四真諦迹故。是故十八界一切皆可見。無記謂八種者。八界無記。謂五情香味觸。無愛不愛果可記故說無記。餘十界可記善及不善故。謂色聲。法七心界。善身動是善色。不善身動是不善色。餘色無記。如是聲口動淨心七識界是善。無慚無愧相應心是不善。餘則無記法界。若心相應如心說。若不相應如雜品說。善有四種。自性相應共

起第一義。自性善者。慚愧及三善根。相應者。即彼相應心心法。共起者。即彼所起身口業及心不相應行。第一義者。謂涅槃。是為四種善。自性不善者。無慚無愧三不善根。相應者。即彼相應心心法。共起者。即彼所起身口業及心不相應行。第一義者。輪轉危嶮。俱相違者是無記。問一切法十二入。即是世尊所記。何故說無記。答不以一向不說故名無記。善者記為善。不善者記為不善。不記善不善故說無記。若因果時則記因果異則無記。或有不說名無記。如記論契經說

一切皆當死 是論一向記 一切死復生 是名分別論 若問生殊勝 是名詰問論 衆生五陰異 是名止記論

一向記論者。若有問一切衆生悉當死耶。應一向答。一切衆生皆悉當死。分別論者。若有問一切皆當死復生耶。應分別答。有煩惱者死而復生。無煩惱者死已不生。詰問記論者。若有問人生殊勝不。應反問汝方何趣故。若言方天。趣應答言劣。若言方惡趣應答言勝。止記論者。若有問陰與衆生而為異為同耶。應當止。何以故。以不應故。譬如有問石女兒善恭敬不。石女無兒何得答言恭敬不恭敬。如是有陰而無衆生。何得有同異耶。以不應故不答。阿毘曇者說。一向記論者。若有問如來無所著等正覺耶。善說教法耶。世尊弟子善向耶。色無常受想行識無常耶。善分別苦集滅道耶。應一向答。義饒益故。分別論者。

① 義十(悉) ② 緣十(緣) ③ 界入二入界 ④ 亦二六 ⑤ 減二滅 ⑥ 行二彼 ⑦ 法十(界) ⑧ 法十(者) ⑨ 極二起 ⑩ 爲二若

若言爲我說法應問言。法有衆多。若過去若未來若現在。欲說何法。若言爲我說過去法。應問。過去法亦多。或色陰。或受想行識陰。爲說何者。若言色陰。應問。色陰亦多。或善不善無記。爲說何者。若言善色。應問。善色有七種。不殺生乃至不綺語。爲說何者。若言不殺。應問。不殺有三種。不貪不恚不癡。爲說何者。若言不貪。應問。不貪有二種。作及無作。爲說何者。如是等論名爲分別記論。詰問論者。若有問法。應反詰。法有衆多。汝問何者。不爲分別若過去未來現在乃至作無作。若軟心者爲分別說。若諂曲者則還反問令彼自答。是名詰問論。止記論者。若有問言世有邊耶世無邊耶。如是等如虛空花。豈不可記言香與不香。是名止記論。已說記無記。十二有對今當說。

十二界有對 一界說少分
十界七有對 一少分亦然
說境界有對 障礙及與緣

眼耳鼻舌身界及七心界。此十二界說有對。法界中少分亦說有對。謂心法。又十色界說有對。七心界及法界少分亦說有對。問此中說何等有對。答。

說境界有對 障礙及與緣

三種有對。境界有對。障礙有對。緣有對。境界有對者。如施設經所說。眼與色對。乃至意與法對。已說意界當知。已說七心。界法界少分是故當知。十二界一界少分是有對。五外界法界少分是無對。如彼經等說。若觀陸則不

觀水。如是廣說。障礙有對者。謂各各相對。各各處障礙。若彼有一則無第二住。極微聚故。障礙故。可分。故據處所故當知。八無對此中應廣說。緣有對者。心法。於境界轉。應如是言。若法境界有對。彼法障礙有對耶。應作四句。或境界有對非障礙有對者。七心界及心相應法界。或障礙有對非境界有對者。五外界。或境界亦障礙有對者。五內界。或非境界亦非障礙有對者。法入所攝色無爲心不相應行。若法境界有對。彼緣有對耶。謂緣有對是境界有對。或境界有對非緣有對。謂五內界。

有漏有十五 餘二三三有
欲。有中。有。四 十一在二有

十五界一向有漏。五內界五外界五識界。漏所生故。生漏故。漏處故。漏於中起故。說有漏。如。前有怖畏。與漏俱故。說有漏。如雜毒食。餘二者。意界法界意識界。此三界二種。或有漏或無漏。若漏所生是有漏。相違則無漏。三三有者。意界法界意識界。三有中可得。欲有色。有無色。有。無漏者是不繫。雖三界身中得。非自性得。故。欲界中有四者。香界味界及此境界識。非色無色界。離搗食欲故。三入是搗食性。彼亦應無觸者。此則不然。觸入性有二種。或是搗食性。或非非搗食者。在色界彼無搗食性。以身微妙故。香味一向搗食性。是故彼無。境界無故。彼識亦無。問彼無香味亦無彼識者。鼻界舌界亦應無。答。具諸根故。諸根展轉相持故。十一在二有者。欲有色

有。五內界色聲觸界及此境界識。此十二一非無色界。離色性故。

有覺有觀五 三行三餘無
有緣當知七 法入說少分

有覺有觀五者。五識界有覺有觀。能。乃至梵世非上地。三行三者。三界三種。意界意識界心相應法界。欲界及初禪有覺有觀。禪中間無覺有觀。上地及一切不相應法無覺無觀。問有覺有觀地法有四種。或有覺有觀。無覺有觀。無覺無觀。非有覺有觀非無覺有觀。非無覺無觀。云何有覺有觀。答。曰。欲界及初禪。除覺觀諸餘心法。云何無覺有觀。答。曰。覺。云何無覺無觀。答。色心不相應行。云何非有覺有觀非無覺有觀非無覺無觀。答。曰。觀餘無者。謂餘非有覺非有觀。無緣故。有緣當知七法入說少分者。七心界說有緣。有此緣故。故曰有緣。如人有子。謂之有子。法界少分有緣者。心法少分無緣者。非心法。謂眼識及相應法。緣色乃至身識及相應法。觸緣意識及相應法。一切法緣。請以一切法爲境。眼身識亦同。此。

九不受餘二 爲無爲共一
一向是有爲 當知十七界

九不受者。九界不受受名。若色現在根數及不離根。若此斷壞破裂逼迫。心心法受。於彼止住故。異則不受。謂九界不受。七心界聲界法界無斷壞故。餘二者。五內界現在是受。起斷等知故。過去未來是不受。心心法不住故。色香味觸若現在及不離根是受。如心心法

①(惡)十數 ②問十(記) ③止二正 ④一(及) ⑤故二別 ⑥於二有 ⑦有二界 ⑧前一(道) ⑨(故)一(一) ⑩非搗食二(搗食性) ⑪一二二 ⑫法十(界) ⑬(白)一 ⑭緣色二(緣) ⑮觸緣二(緣觸) ⑯一切法緣二(一切法) ⑰[謂以...此]二十字一 ⑱此十(也)

根中止住彼中亦爾。不離根故。為無為共一者。一法界有為無為。於中三種。常故無為。餘法無常故有為。是故為無為共一。一向是有為當知十七界者。十七界無常故。一向有為生滅故。三有為相所成故有因故。墮陰故墮世故。軟中上故。與上相違是無為。

有罪及有報 染污及隱沒

修習則有十 一界中有見 亦說有心法 一界是見性

七心界色聲法界二種。或有罪或無罪。穢污是有罪。不穢污是無罪。如有罪如無罪。如是穢污隱沒亦如是。五識界色界聲界若善不善是有報。若無報是無報。意界意識界法界若不善善有漏是有報。若無報無漏是無報。問以何等故不善善有漏是有報無報無漏是無報。答譬如外種三事和合生有種堅實。既以水。覆以草土。自性眾具力故。牙葉得生有種雖堅實。不以水澆。不草土覆。眾緣不具故。牙葉不生。有種不實。雖澆以水覆以草土。自性不實故。牙葉不生。如外種三事差別。如是。內緣起亦三事差別。如初種如是不善善有漏法堅固。既以愛水。覆以餘結。以自性眾緣力故有牙得生。如第二種如是無漏法堅固。無愛水澆及餘結覆。因緣不具故有牙不生。如第三種如是無記法。雖澆以愛水覆以餘結。自性不實有牙不生。修習則有十者。七心界色聲界善者修。不善無記者不修。法界善有為修。不善無記及數滅不修。問以何等故不善無記及數滅是不修。答為愛

果故修。不善無記無愛果故不修。數滅性是果不相續生故不修。當知八界無罪無報無染污無隱沒不修。一界中有見者。法界中有八種見。身見等五見。世俗等見。學見。無學見。見者觀視故。決定故。堅受故。緣深入故。如陰夜見色穢污慧見法亦如是。如晴夜見色。世俗等見亦如是。如陰晝見色。學見亦如是。如晴晝見色。無學見亦如是。亦說有心法者。即此法界有心法。謂受。相等。有此心法故說有心法。當知十七界及一界少分非心法。一界是見性者。一界是見性。謂眼界能視故。當知十六界及一界少分非見。問云何見。為眼見。為眼識見。為眼識相應慧見。為和合見。彼何所疑一切有過。若言眼見者。餘識俱時何故不見。何故不俱得一切境界。若言眼識見者。識相非見相。無眼者亦應見。若言眼識相應慧見者。復以耳識相應慧聞耶。若言和合見者。此則不定。或時眼識二十二法。或二十一。或十二。答

自眼見色 非彼眼識見

非慧非和合 不見障色故

自眼見色。是故餘識俱時則不見。以餘識俱空眼現在前非自分故。以是因故不俱得一切境界自分諸根不俱識任根故名自分。無有二識俱行。無第二次第緣故。問若眼離識不見色者。是則識見非眼見。復復何用。答識成彼則成彼。非分則因非分故。如受不離想想不離受。彼亦如是。若眼識見者誰復識耶。若慧見者誰復知耶。若和合見者此等諸

法事。業各異其義。有間則無和合。若和合見者則應有二決定自法。是義不然。若復眼識見者應見障色。以無對故。慧及和合亦復如是。以眼識無對不識障色。謂不見者不然。應分別故。分別者應言何故眼識不識障色。應說眼一境界轉故是故眼識。不識障色。眼有對有對故不見障色。是故眼識不識。識應有二自性。若識若見餘亦如是。又復眼識見者何故不識。已知眼識不識障色。復應知眼一境界轉故。當復說礙有對依故不識障色者不然。有無對依故眼識二種依眼及次第滅意。若有對依故不見障色。者無對依故應見障色。異說有過。眼是不共依意是共依不見障色者不然。依者於色等相非分。亦非眼是色故。眼識是色。亦非眼無緣故。無緣亦非眼不相應故。不相應如是等皆有過。復次意亦是不共依若依眼識生。未曾依彼餘識生。心一相續轉故。是故意亦是不共依。見識無間識即見者不然。四種不壞故。世尊說見聞覺識四種不壞。若識即見者。唯聞覺識三種見即識故不如是。是故當知眼見識用分別建立四種者不然。不見障色先已說過。識見有間名義各異。眼光照名為見。心隨分別名為識。若復言眼見彼應稱眼量者。彼自生過。識無限量故。識無限量世尊所說。如世尊說眼有見。而謂識見者不然。如言意識法。復有餘法於中識耶。若言即意識法者。當知眼亦如是。如所說梵志眼是門為見色。故。此見之異名。汝於所說妄解。心無法無方處而

穢二染(一) 牙二芽(一) 內十(因) 因二固 一十(法) 業十(合) 復一(一) 復十(百) 對十(故眼) 者一(一) 故一(一) 知十是 法一 故二者

言出入者不然。即彼契經說。意是門爲識法故。更無異法於中識法。是故眼中即見從眼見至此凡七章初詰問辨非餘六章辨析釋識等非見物異人異叙其所執終則檢實能造以成己義

極微數有十 九界四大造

二界說少分 內界說十二

此即是根性 一界中有根

極微數有十者。十色界是極微聚。有分故。覆障故。大礙故。據處所故。當知八界非極微聚。九界四大造者。除觸界。餘九色界四大造。四大所生故。四大因故。四大與此諸界五因共生。因依因建立。因養因長。因。二界說少分者。二界當分別觸界法界。或四大造。或非四大造。觸界中四大性非四大造。七種造色四大造。法界中身業口業四大造。餘法界非四大造。七心界非四大造。十一種四大。眼入所依。乃至法入所依。非意入。造色亦十一種。眼入乃至法入。非意入。或有說。眼入所依四大生眼入。餘亦如是。復有說者。眼入所依四大生。二入。眼入身入。觸入。如是。乃至舌入所依。是中差別者。說自根身入所依生。二入。身入。觸入。色聲香味入所依亦如是。觸入所依唯生觸入。彼又作是說。一切四大生色聲。一切欲界色不離香味。法入所依亦如是。眼入所依生七入。眼入身入及五境界。如是。乃至舌入所依身入所依生六入。除眼等四根。法入所依亦如是。色入所依生五入。乃至觸入所依亦如是。復有說者。眼入所依生十一入。乃至法入所依亦如是。於此四大因緣分別異相四大起異相造色。應作四句。有同相四

大起異相造色。有異相四大起同相造色。有異相四大起異相造色。有同相四大起同相造色。云何同相四大起異相造色。謂觸相四大起十一種造色。云何異相四大起同相造色。謂堅濕暖動相四大起觸相造色。云何異相四大起異相造色。謂堅濕暖動相四大起相四大起異相造色。謂堅濕暖動相四大起十一種造色。云何同相四大起同相造色。謂觸相四大起觸相造色。問四大造色何差別。答四大是因。造色是果。堅濕暖動相是四大。若色因四。大而無四大相。彼是造色。復次不可見者四大。可見不可見者造色。如是等說。內界說十二者。內五。色及七心界。此十二是內界。當知六界是外。問法故說內人故說內耶。若法故說內者。一切法無自。若人故說內者。法無有人。答法故說內。但非一切法。心心法所依故說內。彼意界亦依亦依者。彼五色界是依。非依者。心法雖是依者而非依。餘非依亦非依者。此即是根性者。即此十二說根。一界中有根者。法界中十一法是根。餘者非根。當知五界及一界少分非根。

分餘分十七 一界說有分

十七界墮世 一少分三業

分餘分十七者。除法界。餘界說有分及餘有分。彼眼界有分者。三種世分別故。過去已見色。現在今見色。未來當見色。餘有分者。四種過去不見色已滅。現在不見色而滅。未來世二種。謂不生法及生法。生法者不見色當滅。餘色界亦如是。七心界若未來不生法彼餘有分。餘者是有分。一界說有分者。法界一向

是有分。非餘有分。以一切法界意識境界故。若言餘界亦應非餘有分者。此則不然。彼不以意識故立有分餘有分。謂眼見色是有分。不見色是餘有分。謂色眼所見是有分。所不見是餘有分。差別者。若眼是一有分。餘一切亦有分。若一餘有分。餘一切亦餘有分。色若見者是有分非餘。耳鼻舌身聲香味觸亦如是。第一義如眼說。俗數如色說。問頗共有法或有分或餘有分耶。答有。十色入或餘有分。彼生等相是有分。法界攝故。若不生法意是餘有分。彼相應共有法是有分。法界攝故。問有分餘有分有何義。答有分時說有分。眼界有二種。有業及無業分。彼有業分爲無業分。所分故說有分。彼無業分亦爲有業分。所分亦說有分。二分俱得有分相。問何等分數名分。答無業分爲有業分。所分故說餘有分。何以故。得有業分力故。如人有子彼亦如是。十七界墮世者。十七界墮三世事故說三世。或過去或未來或現在。若起已滅是過去。若未起是未來。已起未滅是現在。復次若未作是說未來。若作是說現在。若作已滅是說過去。一界當分別者。法界若有爲墮三世。若無爲則不墮三世。業者。三界有業。謂色聲法。色界身作是業。謂色界非業。聲界口作是業。餘聲非業。法界身口業及思是業。餘法界非業業相。業品當廣說。

非學非無學 當知十五界

彼悉修道斷 餘界俱三種

於彼三界中 說持戒犯戒

於彼三界中 說持戒犯戒

辨一辨... 物一抑... 物異人異二初申異人... 義十(也) 三入二入 觸二鼻 彼又二復 大十(生) 色十(界) 彼二外 五+(外) 問十眼 分十(故) 問一 界一 者一 三二世三 法十(界) 謂二餘

非學非無學當知十五界者。十色界五識界。是非學非無學。有漏故。即此諸界。修道斷智對治故。餘界俱三種者。餘三界。意界法界。或見斷或修斷或無斷。學相應意是學。謂苦法忍。乃至金剛三昧相應意是學。無學相應意是無學。謂盡智無生智。及無學等見相應意是無學。非學非無學相應意是非學非無學。謂善染污無記。善有三種。方便得離欲得生得。染污有二種。不善及隱沒無記。無記有四種。威儀工巧。報生變化。如意界。意識界亦如是。法界或學或無學或非學非無學。謂學身口業受想行陰是學此即無學。法界所攝有漏身口業受想行陰及無為是非學非無學。學無學義。業品當廣說。此三界忍對治是見斷。智對治是修斷。智無漏是無斷。見斷修斷義。使品當廣說。於彼三界中說持戒犯戒者。謂色界善身作是持戒。不善身作是犯戒。聲界是口作。法界唯無作。持戒犯戒相業品當廣說。

十七說有上 一界說二種
果有果十七 一三覺所說

十七說有上者。除法界。彼十七界有上。有為故。一界說二種者。法界或有上或無上。有為法界及虛空非數滅是有上數滅。善故常故說無上。果有果十七者。除法界。餘十七界是果有果。以有為法性劣展轉相因生故。一三覺所說者。法界有三種。或果非有果。或果有果。或非果非有果。果非有果者數滅。果有果

者有為法界。非果非有果者。虛空非數滅

三界三種緣 一依亦復然
五一或分別 餘緣唯說一

三界三種緣者。眼耳意識界三種緣。善不善無記。一依亦復然者。意識界所依亦三種善不善無記。五一者五識依一種。或分別者。謂俱起五根及次第滅意。若取俱起依則一無記。以五根唯無記故。若取次第滅意則三種。以意界善不善無記故。復次眼識依分次第緣分應作四句。或依分非次第緣分。或次第緣分非依分。或依分亦次第緣分。或非依分非次第緣分。依分非次第緣分者。眼識俱起眼根。次第緣分非依分者。波次第滅心法。依分亦次第緣分者。次第滅意。非依分非次第緣分者。除上爾所事。乃至身識依亦如是。問意識依是次第緣耶。答曰如是。意識依是次第緣。頗次第緣非意識依耶。答意識依相應心法。問若眼識以意界為依者。何故名眼識不名意識耶。答眼是不共依故。如種。牙如鼓聲。眼是眼識不共依。意是共依。以六識身展轉次第緣生故。餘緣唯說一者。鼻。識舌。識身識。唯緣無記。以香味觸一向無記。故。意界即六識身。離是無餘故不說。法界。若心相應如心說

若眼隨生見 耳界隨生聞
三界隨生覺 意界隨生識

若眼隨生名為見。耳隨生名為聞。三事隨生名為覺。意隨生名為識。彼三界以方便得離欲得。修得神通性四支五支定果。是故彼

隨生各別建立。餘三隨生無彼相分故共建立。問覺有何義。答

境界唯無記 覺心於中轉
隨生三種識 是則名為覺
香味觸一向無記。無記故說覺。是故隨生三識名為覺

二境不近受 遠近境界一
餘一向近受 依及境界等

二境不近受者。眼識耳識不近受境界。如逼眼色不見故。耳亦如是逼則不聞。雖深在內而遠聞外聲。若言遠亦不見聞者。此則不論意識者遠近境界悉受。除自己及相應共有。餘一切法悉受。餘一向近受者。鼻舌身識近受境界依緣無間故。依及境界等者。謂鼻舌識身識。此三識依取等境界。鼻根香微均而生識。舌身根微亦如是。謂根塵合處乃生。合

二界說不定 一境界亦然
五界依或俱 一界依說遠

二界說不定者。眼識耳識依緣俱不定。眼識界。或依大而緣小如見毛端。或依小而緣大如見山。或依緣等如見蒲桃果。耳識亦如是。一境界亦然者。意識境界不定境界或大或小。一切法境界故。依無形故。大小不可說。離意界六識無別體故。不說心法如心說。五界依或俱者。五識身或與依俱。俱者。謂五根。遠者次第滅意。一界依說遠者。意識界依說遠。謂彼次第滅意

十一界有二 六三一四種
事及長養報 剎那與依種

①斷學二學斷②種十(報生)③(報生)一④(智)一⑤(廣)一⑥牙二芽⑦(識)一⑧(界此三界)十唯⑨(唯緣...觸)八字二(界此三界)四字⑩(緣)十故⑪說二記⑫法界乃至說九字聖本作夾註⑬文二枝⑭二二三⑮(受)一⑯鼻十(識)⑰合處乃生二合處⑱者二識⑲者⑳蒲桃一蒲荷⑳蒲桃⑳形二刑⑳(故)一⑳謂二說

十一界有二者。五內界聲界五識界二種。六三者。色香味觸意識界。此六界三種一四種者。法界四種。問云何種說二三四答事及長養報剎那與依種。彼眼界二種報及長養。彼報生者。善不善業報果。三惡道是不善業果。人天是善業果。眼及眾具。梵行正受所長養故。是長養無別依性故不說。依剎那事亦爾。如眼。耳鼻舌身界亦如是。聲界亦二種。長養及依。問何故聲非報。答現在方便生故。聲者。現在方便生。報者。前業所起。聲者。隨欲生。報非隨欲生。復次。聲聲有。間報報無間。若聲是報者。應如色一切時不斷。而聲有斷。是故非報。五識界報及依。色香味觸界三種報依長養。意界三種報依剎那。剎那者。苦法忍俱生意界。意識界亦如是。法界四種。報剎那依事。彼報者。善不善業報果。剎那者。苦法忍眷屬。依者。除苦法忍眷屬。餘善有為法界。除報餘不隱沒無記有為法界染污法界。無為法界唯有事

生身眼色界 自地及他地
若彼眼識生 自他地亦然
生欲界。欲界身。欲眼界。欲界色。欲界眼識生。如是生初禪地。初禪地身。初禪地眼。初禪地色。初禪地眼識生。是名自地。他地者。生欲界。初禪地眼見欲界色。彼欲界身初禪地眼欲界色。初禪地眼識生。見初禪者。彼欲界身初禪地眼色。初禪地眼識生。生欲界。二禪地眼見欲界色。彼欲界身二禪地眼欲

界色初禪地眼識生。見初禪地者。彼欲界身二禪地眼初禪地色初禪地眼識生。見二禪者。彼欲界身二禪地眼色初禪地眼識生。生欲界。三禪地眼見欲界色。彼欲界身三禪地眼見欲界色初禪地眼識生。見初禪者。彼欲界身三禪地眼初禪地色初禪地眼識生。見二禪者。彼欲界身三禪地眼二禪地色初禪地眼識生。見三禪者。彼欲界身三禪地眼色初禪地眼識生。生欲界。四禪地眼見欲界色。彼欲界身四禪地眼見欲界色初禪地眼識生。見初禪者。彼欲界身四禪地眼初禪地色初禪地眼識生。見二禪者。彼欲界身四禪地眼二禪地色初禪地眼識生。見三禪者。彼欲界身四禪地眼三禪地色初禪地眼識生。見四禪者。彼欲界身四禪地眼色初禪地眼識生。如說生欲界。乃至生第四禪亦如是。有差別者。謂下地眼不見上地色。生上地地下眼不現在前

耳界如前說 鼻舌界自地
身觸即地說 意識則衆多
耳界如前說者。如前說眼識耳識亦如是。鼻界說自地者。生欲界。欲界身欲界鼻欲界香欲界鼻識生。舌界亦如是。身觸即地說者。身識有差別故。生欲界。欲界身欲界觸欲界身識生。初禪亦如是。生二禪。二禪身觸初禪地身識生。以覺自地觸故。非他地生。第三第四禪亦如是。意識則衆多者。或自地意自地法自地意識生。或他地。彼自地者。生欲界。欲界意欲界法欲界意識生。乃至生有想無想

處亦如是。他地者。生欲界正受時。欲界善心次第初禪正受。起彼欲界意初禪地意識生法。或三界繫或不繫。初禪次第欲界善心現在前。彼初禪意欲界意識生法。或三界繫或不繫。初禪次第正受。彼初禪意二禪意識生法。或三界繫或不繫。如是第二禪初禪。初禪第二禪。初禪第三禪。第三禪初禪。乃至有想無想處。逆順次第超越應廣說。有差別者。此正受為意界。彼正受為意識。若禪為意識者法。或三界繫或不繫。若無色為意識者。彼法自地上地及不繫。又復正受淨初禪次第欲界初禪果變化心現在前。彼初禪意欲界意識生。法者欲界化。即彼欲界初禪果次第淨初禪現在前。彼欲界意初禪意識生法。或三界繫。乃至第四禪亦如是。生者。彼欲界沒生初禪地。彼欲界意初禪地意識生法。或色無色界繫或不繫。初禪地沒生欲界彼初禪地意欲界意識生法。或三界繫或不繫。乃至有想無想處亦如是。彼沒者是意受。生者。是意識。但彼法自地上地及不繫

若彼得眼界 或彼所依識
二俱得不得 亦色及與捨
若彼得眼界者。或眼界不成就。得成就。非眼識界。謂無色界沒生第二第三第四禪。生欲界漸得眼根。或彼所依識者。或眼識界不成就得成就非眼界。謂上三禪地沒生欲界及初禪。若即住彼眼識現在前。二俱得者。或眼及眼識界俱得。謂無色界沒生欲界及初禪。俱不。可得者。非眼界不成就得成就。亦

①業一報 ②眼二眼 ③問二問 ④報十(生) ⑤有事二事有 ⑥地二說 ⑦或不繫乃至宋元明宮聖五本俱作本文 ⑧[可]一

非眼識界不成就得成就。謂生欲界不失眼
 根及梵天上若命終生梵天及欲界。第二第
 三第四禪沒生第二第三第四禪。無色界沒
 生無色界。亦色者。若色界不成就得成就。彼
 即眼界不成就得成就。或眼界非色界者。生
 欲界漸得眼界。若色界不成就得成就。彼眼
 識界耶。應作四句。色界不成就得成就非眼
 識界者。無色界沒生上三禪中。眼識界不成
 就得成就非色者。即彼三禪沒生欲界及初
 禪若即住彼眼識現在前色界不成就得成
 就。亦眼識界者。無色界沒生欲界及初禪。非
 色界亦非眼識界者。除上爾所事。及與捨者。
 如說得捨亦如是廣說

色界二識識 乃至觸亦然

諸餘十三界 一向意識緣

色界二識識者。謂色界二識識。眼識及意識
 眼識界自相意識界自相及共相。乃至觸亦
 然者。聲界二識識。耳識及意識。耳識界自
 相意識界自相及共相。乃至觸界二識識。身
 識及意識。身識自相意識自相及共相。以五
 識身自相境界故。不思惟故現在境界故。一
 念故。諸餘十三界一向意識緣者。五色根
 七心界及法界。此十三界一向意識。識自相
 及共相。此意識二種壞緣。及不壞緣。不壞緣
 者。即此十三界緣。壞緣者。十三與五境界一
 一合緣。乃至十八界總緣

思惟識三種 是意欲有中

色無色分別 一種謂餘界

思惟識三種是意欲有中者。欲界意識有三

種思惟。自性思惟。隨憶思惟。分別思惟。彼
 自性思惟者。謂覺也。隨憶思惟者。意地念
 也。分別思惟者。意地不定慧也。此三思惟
 欲界意識思惟也。色無色分別者。色無色界
 意識或三種。謂初禪地不定。入定者二。不
 定者三。三禪意識不定者二。除自性思惟。若
 定者一。隨憶思惟。有說。無色界無不定者。彼
 ① 惟一種。隨憶思惟。若說有不定者。定者一。
 不定者二。一種謂餘界者。五識身說餘唯有
 自性思惟不利故。問如是分別法相已。云何
 攝法為自性為他性答自性。何以故

諸法離他性 各自住己性

故說一切法 自性之所攝

諸法離他性者。眼界離十七界異性故。餘界
 亦如是。不應說若離性是攝以異相故。故說
 自性之所攝非他性。各自住己性者。一切性
 各住自相。此性非他相故。應說若住者是攝
 非餘故。說一切法自性之所攝。謂自性
 自性不空。非餘。自色色不空。又復說相持義
 是攝。如契經說。如樓觀中心眾材所依為樓
 觀之最。如所說。如。凝持衣。如戶樞持扇。如
 斧持薪。或說方便攝。如所說。此五根慧
 為首。謂攝故。或說和合攝。謂四攝事能攝眾
 生。或說隨順攝。如所說。等見等至等方便
 是慧身。或攝取故名攝。謂和上以財法攝。此
 等世俗言說非究竟攝。自性自性攝者。是究
 竟第一義。三段攝。此中說者。是自性攝。如
 是自性攝不捨第一義故。已說自性攝。眼界
 攝一界一入一陰。不攝十七界十一入五陰。

復次右眼攝右眼。左眼攝左眼。眼二種。長
 養及報。長養攝長養。報攝報。報復二種。善
 業報。不善業報。善業攝善業報。不善業報
 攝不善業報。不善業報三種。謂三惡趣。畜生
 攝畜生。餓鬼地獄亦如是。善業報二種。謂
 人天。人攝人天攝天。過去攝過去。未來現
 在乃至剎那攝剎那

界中說一界 陰入亦復然

如是陰入界 則攝一切法

一界者法界。一入者意入。一陰者色陰也
 ① 界品 竟

雜阿毘曇心論卷第一

雜阿毘曇心論卷第二

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

行品第二

已說諸法自相住。法生今當說。若以諸法攝
 自性。謂以自力生者不然。何以故

至竟無能生 用離等侶故

一切眾緣力 諸法乃得生

至竟無能生用離等侶故者。諸行自性羸劣
 不能自生。問若不自生當云何生。答

一切眾緣力 諸法乃得生

如人船相假得度彼岸。彼心心法展轉力生。
 攝受境界亦如是。先當說心心法由伴生

若彼心起時 是心必有俱

①根二相②* ③[界]一④⑤ ⑥界二根⑦⑧ ⑨及二又⑩⑪ ⑫惟一唯⑬⑭ ⑮攝十(攝)⑯⑰ ⑱自一如⑲⑳ ㉑二線⑳㉒ ㉓斧二
 附⑳㉔ ㉕薪二新⑳㉖⑳㉗ ㉘根二持⑳㉙ ㉚(生)一⑳㉛ ㉜至二志⑳㉝ ㉞或十(說)⑳㉟ ㊱(是)一⑳ ㊲(右)十眼⑳㊳
 ㊴(不)十善⑳ ㊵(不)一⑳ ㊶業十(報)⑳㊷ ㊸(也)一⑳ 此下聖本有光明皇后願文 ㊹[界品竟]一⑳㊺ ㊻(論)一⑳*

諸心法等聚 及不相應行

諸行展轉相因生彼心。若依若緣若剎那生。彼心法等聚生。問云何心法等聚答。

想欲及觸慧 念思與解脫 憶定及與受 此說心等聚

想者。於境界取像貌。欲者。於緣欲受。觸者。於依緣心和合生觸境界。慧者。於緣決定審諦。念者。於緣記不忘。思者。功德惡俱相違造作轉心。解脫者。於緣作想受彼限量是事必爾憶者。於緣發悟。定者。受緣不亂。受者。可樂不可樂俱相違於境界受。

一切心生時 是生聖所說 同共一緣行 亦復常相應

此十法一切善不善無記心。俱生大地可得。故說大地同共一緣行者。一切心同一緣轉。不相離無二決定。亦復常相應者。展轉共俱及與心俱常相應辦一事故。問相應有何義。答等義是相應義。問心法或多或少。云何等義是相應義。答事等故。若一心中。一想二受者。非相應義。以一心一想生。餘心法亦爾。以是故等義是相應義。復次時依行緣等義是相應義。時等者。一剎那時生故。依等者。若心依眼生心法亦爾。行等者。若心行青生心法亦爾。緣等者。若心緣色。生彼亦緣色。是故說常相應。已說心法通一切。不通今當說。

諸根有慚愧 信猗不放逸 不害精進捨 一切善心俱

諸根者。謂二善根。不貪不恚。於生及資生具壞貪著名不貪。於衆生數及非衆生數壞

瞋恚名不。瞋恚。於諸過惡自厭名為慚。於諸過惡羞他名為愧。於三寶四諦淨心名為信。身心離惡名為猗息。作善方便離惡不作名不放逸。不逼迫他名不害。斷起未起惡生起未起善欲方便勤修不息名精進。心平等名為捨。此善十法通一切善心中。若有漏無漏五識相應意識相應故說善大地。已說善大地。煩惱大地今當說。

邪解不正憶 不順智失念 不信懈怠亂 無明掉放逸

顛倒解名邪解。脫。邪受境界名不正憶。顛倒決定名不順智。邪記。妄受名失念。於三寶四諦不淨心名不信。不斷起未起惡不生起未起善不動方便名懈怠。境界所牽散隨諸緣名為亂。前際等不知名無明。心躁動不息名為掉。離作善方便名放逸。

煩惱大地十 一切穢汚心 無慚及無愧 說不善大地

煩惱大地十。一切穢汚心者。此邪解脫等十法。一切染汚心俱。謂欲界色界無色界。五識身意識地。是故說煩惱大地。問睡亦一切穢汚心俱。何故不立煩惱大地。答順正受故。謂衆生睡速發定。是故不立。若大地彼煩惱大地。應作四句。或有大地非煩惱大地。謂受想思觸欲。或煩惱大地非大地。謂不信懈怠無明掉放逸。或大地亦煩惱大地。謂憶解脫念定慧。或非大地非煩惱大地。除上爾所事。已說煩惱大地。不善大地今當說。

無慚及無愧 說不善大地

謂於諸過惡不自厭名無慚。於諸過惡不羞他名無愧。此二法一向不善。一切不善心相應。是故立不善大地中。已說不善大地。小煩惱大地今當說。

忿恨誑慳嫉 惱詔覆高害 如此諸煩惱 說為小大地

於饒益不饒益應作不作非作反作。瞋相續生名為忿。於可欲不可欲應作不作非作反作。忿相續生名為恨。為欺彼故現承事相名為誑。於財法惜著名為慳。於他利養恭敬名譽功德不忍心忌名為嫉。不欲事會所欲事乖思惟心熱名為惱。覆藏自性曲順時宜名為詔。為名利故自隱過惡名為覆。方他習性族財富色力梵行持戒智慧正業心自舉特名為高。欲逼迫他名為害。此十法說小煩惱大地。不通有故。修道斷非見道斷。在意地非五識。非一心俱生行各異故。有一則無二。問大地善大地煩惱大地不善大地小煩惱大地何差別。答大地四種。善不善隱沒無記不隱沒無記。善大地唯善。煩惱大地二種。不善及隱沒無記。不善大地唯不善。小煩惱大地中。誑詔高二種不善及隱沒無記。餘一向不善。

不善心品中 心法二十一 欲三見一滅 二見除三種

不善心品中心法二十一者。不善。謂欲界煩惱相應除身見邊見。轉成不愛果故名不善。不善有八種。貪恚慢疑邪見取戒取不共及彼相應無明。彼貪恚慢疑心二十一法共

①一二三 ②生二法 ③謂一 ④善十(心) ⑤[瞋]一 ⑥[為]一 ⑦[脫]一 ⑧妄二忘 ⑨[心]一 ⑩應十(故) ⑪[美]一 ⑫方二妨 ⑬性二姓 ⑭[大地]一

生十大地及懈怠等十法。謂懈怠無明不信放逸掉睡覺觀無慚無愧。欲三見一滅者。欲界邪見見取戒取。彼相應心二十法共生除慧二見除三種者。欲界身見邊見彼相應心十八法共生。除慧及無慚無愧。餘如前說。除無慚無愧一向不善故。無兩慧見即慧故。

欲善二十二 不共有二十
無記說十二 悔眠俱即增

欲善者。謂欲界淨心轉成愛果有三種。生得及聞思。彼心二十二法共生十大地十善大地覺觀。不共有二十者。不共名彼心獨一。無明煩惱。有二十心法共生。除一煩惱。無記說十二者。欲界不隱沒無記心四種。報生威儀工巧變化心。彼四種無記心。十二心法。共生十大地覺觀。悔眠俱即增者。心追變名為悔。是善不善無記。彼心品中。憎悔。餘如前說。當知悔三種。善不善及不隱沒無記。非餘自力故。毘婆沙者。說。不欲令悔有無記。以悔捷利故。眠名身心昏昧。略緣境界名為眠。彼一切五品心俱生。即彼心品增眠若悔眠俱生。於三品中增二。問此說欲界心。色界復云何。答。

初禪離不善 餘知如欲有
禪中間除覺 於上觀亦然

初禪無不善。彼有四品心。善不共隱沒無記不隱沒無記。此諸心品。除無慚無愧。餘如欲界說。彼善品二十二。愛慢疑俱生十九。五見及不共俱生有十八。不隱沒無記十二。無慚無愧一向不善故。彼色界無色界無悔眠

亦爾。禪中間除覺。餘如初禪說。於上觀亦然者。第二第三第四禪及無色界無觀。已說心心法伴力生。色今當說。

極微在四根 十種應當知
身根九餘八 謂是有香地

極微在四根十種應當知者。四根十種極微共生四大色香味觸。眼根身根耳鼻舌根亦爾。身根九者。謂餘身根有九種。彼唯有身根種。餘如前說。餘八者。離根色香味觸極微八種。問此諸極微何界說。答謂是有香地。欲界中極微與香合。香味不相離。有香則有味。色界極微非揣食性故離香味。色界四根極微八種。餘身根極微七種。外極微六種。問若眼根極微十種者。云何不見即是色即是餘種。如是則法性雜亂與阿毘曇相違。阿毘曇說。眼根一界一入一陰攝。答二種極微。事極微聚極微事極微者。謂眼根極微。即眼根。微餘極微皆說自事。以事極微故。阿毘曇說。眼根一界一入一陰攝。聚極微者。衆多事此中說聚極微。住自相故法相不雜亂。如心相應法其相各異。非為雜亂。彼亦如是。四種遠義。此品後當說。問前說若心生必心法共生。及不相應行。於中已說心法。心不相應行云何。答。

一切有為法 生住及異滅
此亦有四相 展轉更相為

一切有為法生住及異滅者。一切有為法有四相。生住異滅。世中起故生。已起自事立故住。已住勢衰故異。已異勢壞故滅。此相說心不相應行。問若一切有為法有四相者。應

相復有相。答此亦有四相。即此相俱生。生生住住異異滅滅。問若爾者便無窮。答展轉更相為。相隨相展轉相生非無窮。前生生生生生生生前生。如是住住住住各相住。異異異各各相異。滅滅滅滅各各相滅。問相隨相展轉相為前相為幾法。答。

當知前四相 相各為八法
隨相亦應知 相相唯相一

前四相一一為八法。前生。除自己生八法。三。相四隨相及彼法。住者除自己住八法。異者除自己異八法。滅者除自己滅八法。三相四隨相。及彼法自性不自為故。自性不自滅如指端不自觸。問隨相為幾法。答隨相亦應。如相相唯相一。此四隨相各為一法。隨生生前生。隨住住前住。隨異異前異。隨滅滅前滅。已說諸行展轉相生。謂一時生不亂今當說。

異性相說遠 處所時亦然
戒種及大地 諸識性分別

異性相說遠處所時亦然者。遠有四種。所謂異性遠相遠處所遠時遠問何等遠法。答戒種及大地諸識性分別。彼異性遠者。謂如一身中善戒惡戒無作相續生。雖於一身中一時起同無作性。而性各異故說遠。相遠者。謂四大種展轉相養共一處住合為一體。其相各異故說遠。處所遠者。謂天竺國振旦地雖一時生合成一體。然彼處異故說遠。時遠者。謂眼生眼識。彼後生前生時。問遠故說遠。已說諸行一時生不亂。諸行從因生彼因今當說。

①眠二隱②二十二十二③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①(有)一②(彼)一③(憍)二④(說)一⑤(昏)二⑥(憍)⑦(界)一⑧(極)十
⑨(以)事一⑩(後)二⑪(相)一⑫(如)二⑬(知)⑭(謂)二⑮(答)十(所謂)⑯(種)二⑰(地)⑱(地)二種⑲(振)二⑳(間)二

所作共自分 一切相應報
從是六種因 轉生有爲法

謂所作因共有因自分因一切遍因相應因。此六因攝一切因。此六因生一切有爲行。已說因名。一一相今當說。

相似不相似 各除其自性

一切是作因 生時無障故

相似不相似各除其自性一切是作因者。若相似不相似法。除自性展轉爲因。說所作因。何以故。生時無障故。法生時除自性一切性各自住異分等生不障礙。如因地故作淨不淨業因空故得往來。如眼識生時十七界不障礙。故生如是一切界。問何以故自性於自性非所作因。答自性不自爲故。不自依故。自性於自性不養不損不受不害不持不壞不增不減不成不敗不障礙名所作因。自性於自性無不障礙故不立所作因。問若不障礙是所作因者。以何等故。不一切法一時生耶。一時滅耶。生時滅耶。滅時生耶。答不和合故。雖有所作因。要須和合生。亦非一切法一時和合生和合滅亦非一和合二果。問若如是者有一殺衆生餘衆生不爲障礙。何故殺者有罪非餘衆生耶。答無惡心分。又不作業故。盜等亦如是。問若外物是一切衆生增上所生者。何以故。不與取。不於一切衆生邊得盜罪。答無受分故。無人功果故。若一切衆生於彼悉有受分及人功果者。取者於彼則得盜罪。亦非一物一切衆生受及人功果三種增上。自增上法增上世增上。自增上者。彼起

煩惱境界現在前。能自守護不爲罪業。莫令我受苦。法增上者。如有多聞者。彼起煩惱境界現在前。爲護法故而不爲罪。世增上者。如有一名聞大德。彼起煩惱境界現在前。護世間故而不爲罪。已說所作因。共有因今當說。

一起性有依 亦復說無依
當知共有因 展轉爲因果

一起性有依亦復說無依。當知共有因者。一時生心心法隨心轉心不相應行道共定共戒及共生四大。此諸法說共有因。展轉爲因果者。若一時起展轉爲果。是共有因。十一。入雖一時生。彼不展轉爲果。自分因者。異時共一果。共有因者。諸行展轉力一時生。謂心於心法隨心轉心不相應行。隨心轉色此亦於心也。眼於生等生等於眼。及四大種展轉共有因。有對造色非展轉果故非共有因。問隨轉有何義。答若有心則有彼法。謂下則下中則中上則上。如是比。彼有十隨轉。所謂一起一住一滅一果一依一報。善則善不善則不善無記則無記墮一世人已說十種隨轉。於中有漏斷結道八種隨轉。除不善無記。世俗方便道解脫道勝進道及餘善有漏心七種隨轉。除不善無記及解脫果。無漏斷結道七種隨轉。除不善無記及報。無漏方便道解脫道勝進道六種隨轉。除不善無記解脫果及報。不善心七種隨轉。除善無記及解脫果。無記心六種隨轉。除善不善解脫果及報。有共有亦共有因。有共有非共有因。彼眼於八法共有亦共有因。謂四相四隨相。相於眼共有

共有因。隨相於眼共有非共有因。生於八法共有共有因。除生自性。眼及餘相隨相生。此五法於生共有共有因。餘隨相共有非共有因。如是餘相隨相亦如是。乃至觸入亦如是。意入於五十。八入相隨相。八法於餘共有非共有因。有五十四法於意入共有共有因。除四隨相。又說。十四法於意入共有共有因。謂十大地心相四。餘八十四法共有非共有因。大地亦如是說。五十四法於心共有共有因。除心隨相。是說爲善。若異此者。與衆事分。阿毘曇相違故如彼說。除身見等法生住異滅諸餘穢污苦諦。如是一切法盡當知。已說共有因。自分因今當說。

前生與後生 亦說彼未生
自地相似因 或說於他地

前生與後生者。謂過去前生。於過去後生及現在自分因。問爲已生已生因復未生因耶。答亦說彼未生未生者。謂未來如是前生後生因。當知過去現在於未來自分因。未來於未來無自分因。無前後故。問云何一切前生於後生未生自分因爲不。答自地欲界欲界因非他地乃至非想非非想。非想非非想地因非他地。何以故。因果斷地故。問云何一切自地一切自地因爲不。答相似自分因。自地亦相似自分因。非不相似。如善善因穢污穢污因無記無記因。以相似相似法相續。謂習善生善。習不善生不善。習工巧生工巧。習威儀生威儀。是說內分分隨種生亦如是。問一向自地自分因。復爲他地耶。答或說

●入二人● ●八十(法共有共有因謂十六大地大地相四十意)十六字● ●似十(相似)●

於他地。他地當分別。若無漏法一切九地展轉因。離愛故不墮界故。下與勝因非勝下因。有漏者。愛縛故墮界故唯自地。已說種種自分因。謂善法非一切善法因今當說

穢污有九種 展轉更相因

謂受生所得 方便生非下

穢污有九種者。此染污九種。下下乃至上上。展轉更相因。以展轉相續現在前故。及彼彼受生。一切頓得故。問穢污九種展轉相因。餘者復云何。答謂受生所得。若受生得善彼亦九種展轉相因。問方便生者復云何。答方便生非下。若方便生。謂聞思修生。彼於等及增因非下。謂下下因乃至上上因。上上唯上上因乃至非下。下因。復次聞聞因思因修因。復次思因及修因。非聞因以下故。修唯修因。非餘以下故。復次修慧四種。暖頂忍世間第一法。彼暖法四種因頂三。忍二。世間第一法唯世間第一法因非餘。此說善有漏法。不隱沒無記四種。報生威儀工巧變化心。彼報生四種因。威儀三。工巧二。化心唯化因。是說有漏。無漏法者。苦法忍苦法忍因。乃至無生智因。無生智唯無生智因非餘。已說自分因。謂此因受果與果今當說

善等自分因 受果而不與 或與而不受 或俱不俱說

有善自分因受果而不與。應作四句。受而不與者。謂善根斷時最後捨得。或與而不受者。謂善根續生時最。生初得。或俱者。不斷善根餘自性住。俱非者。除上爾所事。復次穢污

而不與者。謂當得阿羅漢果時穢污得。最後捨與而不受者。阿羅漢果退時最初得。得俱者。未離欲餘自性住。俱非者。除上爾所事。已說無緣有緣法受而不與者。善心次第穢污及無記心現在前。與而不受者。穢污及無記心次第善心現在前。俱非者。除上爾所事。穢污及無記心亦如是說。已說自分因。一切遍因今當說

苦集於自地 疑見及無明 說一切遍因 諸煩惱前起

苦集於自地疑見及無明說一切遍因者。長養境界故。一向決定故。二種使故。一切煩惱苦集諦攝。見苦集所斷煩惱種見疑。即彼相應無明及不共無明。此諸使不動方便亦熾然故。及遍煩惱故說一切遍因。斷知分別故。界分別故。自地非他。地間為誰遍因。為何分是遍因。答諸煩惱前起過。去現在未來一切遍因。現在未來一切遍因。又復諸煩惱心相續生。如我見審爾計著以見力故。起常審爾計著誘真諦相受第一及清淨。於諦猶豫貪患癡慢等諸過差別生。如是一切一切遍應當知。一切遍使品當說。已說一切遍因相應因今當說

謂同一行法 一依亦一時 及一境界轉 是說相應因

若行若依若時若境界心轉。即彼行彼依彼時彼境界受等心法轉。若彼心法轉。即彼心轉性羸劣故。展轉力生如東盧。是故說心於心法相應因。心法於心法及心因。非心於心

因。何以故。三事故。無一刹那二心俱生。前心不待後心。一切諸法自性不自願。色心不相應行無相應因。無緣故。已說相應因。報因今當說

不善善有漏 三世之所攝 以彼有報故 說名為報因

若善有漏及不善墮三世行。於生死中生生相續果報生。謂善愛果不善不愛果。有業一入果報生。謂命根。若得意入則二入。謂意入法入。觸入亦如是。若得身入則三入。謂身入觸入法入。色香味入亦如是。若得眼入則四入。謂眼入身入觸入法入。耳鼻舌入亦如是。有業或五六七八九十一入報。以業種種故。當知果報亦種種。如外種種果亦種種。如稻甘蔗蒲桃等。非種種者如麩麥等。當知內緣起亦如是。有一世業三世報。無三世業一世報。果不滅因故。如是一刹那業多刹那果。非多刹那業一刹那果。欲界一陰報因得一果。謂得也。二陰報因得一果。謂身業口業。四陰報因得一果。謂善不善心心法色界一陰報因得一果。謂得及無想正受。二陰報因得一果。謂初禪作色。四陰報因得一果。謂無隨轉業善心心法。五陰報因得一果。謂有隨轉業善心心法。無色界一陰報因得一果。謂得及滅盡正受。四陰報因得一果。謂善心心法一業種一身種類非多。謂現報業等各別故。與阿那律陀契經相違者不然。彼說初故如是說。一施報故生大性家生識宿命。自見施果已更增淨業。果報增廣乃至漏盡。

謂有隨轉業善心心法。無色界一陰報因得一果。謂得及滅盡正受。四陰報因得一果。謂善心心法一業種一身種類非多。謂現報業等各別故。與阿那律陀契經相違者不然。彼說初故如是說。一施報故生大性家生識宿命。自見施果已更增淨業。果報增廣乃至漏盡。

①[下]一②③ ④暖二暖⑤* ⑥此十(自分)⑦⑧ ⑨生初二初生⑩ ⑪得俱二俱得⑫ ⑬[地]一⑭ ⑮去十(過去)⑯ ⑰常一當⑱ ⑲謂二如⑳ ㉑種十(種)㉒ ㉓挑二荷㉔ ㉕性二姓

說彼根本如一粒種子。又復說彼一施時有衆多行。於一緣中發願。或願天上或願人中。已說因自性如此。因受果與果今當說

五中世受果 亦說二與果
已盡與果一 二因當分別

五中世受果者。現在名中世五因。住現在世受果。亦說二與果者。若相應因共有因。住現在世與果。於此時受果。即於此時與果。故說二與果。已盡與果一者。已盡名過去報因。於過去世住與果二因當分別者。謂自分因及遍因。或住現在世與果。或過去世所作因。不說以亂故。已說因受果與果。世建立今當說

作因一切法 二因說二世
餘三說三世 增依報功果

作因一切法二因說二世餘三說三世者。有為無為一切法說作因。自分因一切遍因說過去現在。餘三因說三世。已分別三世諸因。若果因有果今當說。增依報功果。作因有增上果。自分因遍因有依果。報因有報果。相應因共有因有用果。已分別諸因。諸法從因生今當說

報生心心法 及與諸煩惱
悉從五因生 是義應當知

報生心心法及與諸煩惱悉從五因生者。彼報生心心法及煩惱心心法從五因生。報生心心法五因。所作共有自分相應報因。所作因者。彼法生時相似不相似法住不障礙共有因者。展轉力生展轉為伴及心不相應行伴生。自分因者。彼前生自分法相應因者。彼

俱一緣中轉。報因者。彼善不善此則彼果除遍因。報無記故。煩惱心心法除報因。染污故。從遍因生。餘四因如前說

若彼不相應 諸餘相應法
除其初無漏 是從四因生

報色及心不相應行從四因生。除遍因。無記故。除相應因。無緣故。穢汚色及心不相應行從四因生。除相應因。無緣故。除報因。染污故。諸餘相應法除其初無漏者。謂善有漏心心法。威儀工巧變化心心法。除苦法忍相應。諸餘無漏心心法從四因生。除遍因報因。謂餘不相應 自分當知三

及諸餘相應 初生無漏法
謂報生穢汚餘若有自分因。除初無漏。從三因生。所作因其有因自分因。非相應因。無緣故。二因前已除。及諸餘相應初生無漏法者。如苦法忍相應法亦三因生。所作因其有因相應因。無前生無漏故無自分因。亦無遍因報因

於中不相應 是從於二因
若從一因生 當知必無有

於中不相應是從二因生者。初無漏品中色心不相應行從二因生。所作因其有因。已說一切有為法。於彼廣說中從一因生者必無有。何以故自性羸劣故。乃至一極微生亦除自己。諸餘一切法所作因。及其生生住異滅除報及初無漏。諸餘不穢汚。彼初無漏報生相應不相應乃至初無漏法。彼報生相應從

五因生。除遍因 報生不相應。從四因生。除遍因相應因。如是穢汚相應不相應差別者。唯除報因。從一切遍因生。除報及初無漏。諸餘不染污相應四因生。除遍因報因。不相應三因生。除遍因相應因報因。初無漏相應三因生。相應因共有因所作因。不相應二因生。所作因其有因。已說諸因。如此因世尊教化力及覺真實相力故說。緣今當說

次第亦緣緣 增上及與因
法從四緣生 世尊之所說

一切法性緣力境界力攝受生。性羸劣故。一切緣皆四緣攝。彼與開道方便是次第緣。任。杖方便是緣緣。不障礙分是增上緣。種子法方便是因緣

除羅漢後心 諸餘心心法
常有行已生 是說次第緣

除阿羅漢最後心相應。諸餘過去現在心心法一一相續生。彼諸心一一生相續無間故名次第緣。彼阿羅漢最後心相應非次第緣。無餘心相續故。未來心心法未起故。無餘心相續。亦無次第緣。亦非未來先後次第方便立。若未來先後次第方便立者。壞正方便修義。正方便修邪方便修應隨分次第生。若言一心次第建立二心善及穢汚。若正思惟時。善心生穢汚心非數滅。若邪方便思惟時。穢汚心生善心非數滅。如種子亦為。牙亦為。麤。若*牙具和合。牙則不生。若*麤具和合。麤則生。牙則不生。此則不然。何以故。前已說先後非分故。以阿羅漢最後心是意

前已說先後非分故。以阿羅漢最後心是意

①緣一漏 ②二因生二於二因 ③[從]一 ④與一於 ⑤道二導 ⑥杖一持 ⑦牙二芽 ⑧麤二藥

界故。應是次第緣者不然。緣分異故。若言阿羅漢最後心不為意識依亦名意界者。得依相故。如是阿羅漢最後心無間相續亦名次第緣。此亦不然。何以故。緣分異故。相故立界。如無分眼不見色。以眼識空故。亦名眼界。亦得依相故。阿羅漢最後心如前說。緣者業故建立阿羅漢最後心作次第緣業。事無間相續生非分心法亦如是說。常者非如自分因遍因。問以何等故。色心不相應行非次第緣。答以亂故。不亂者說。次第緣色心不相應行亂故非次第緣。以一時善不善無記漏無漏異界行現在前故。欲界三種思惟聞慧。思慧生慧非修慧。不定故。彼欲界聞慧思慧次第聖道現在前。聖道次第三種思惟現在前。色界三種思惟聞慧。修慧生慧非思慧。色界定故。彼聞慧修慧次第聖道現在前。聖道次第聞慧修慧現在前。無色界二種思惟修慧生慧。彼修慧次第聖道現在前。聖道次第修慧現在前。此義擇品當廣說。

或法心次第 非彼心無間 無間非次第 俱不俱當知 或法心次第非彼心無間者。除初正受剎那。諸餘正受剎那相續。及起定心無間非次第者。初正受剎那彼生住異無常及諸相續心。彼生住異無常俱者。初正受剎那。除起定心諸餘相續心。不俱者。除初正受剎那。彼生住異無常諸餘相續正受剎那等。彼生住異無常。若法心次第。彼正受無間應作四句。或法心次第非正受無間者。初正受剎那除起定

心諸餘相續心。正受無間非心次第者。除初正受剎那。彼生住異無常諸餘相續正受等。彼生住異無常俱者。除初正受剎那諸餘相續正受及起定心。不俱者。初正受剎那彼生住異無常除起定心。彼生住異無常諸餘相續心。彼生住異無常滅盡正受。心所牽心所作故。心次第心相違故。非心次第緣起定心前雖有定無間相續。以非心故還以心為次第緣。已說次第緣緣今當說。

境界於一切 心及諸心法 是故一切法 說名為緣緣 一切法是心心法緣隨其事。謂眼識及相應。以色為緣。乃至意識及相應。以一切法為緣。於一色眼識生一決定知言並見衆色者。此則不然。以速故。非俱。見言。俱者。增上慢如旋火輪。非輪輪想增上慢。若不了了見色差別者則可總受。如觀叢林。聲香味觸亦應如是知。已說緣緣。增上緣今當說。若彼所作因 此即增上緣 所謂因緣者 當知餘因說 前說所作因。當知即是增上緣。除自性。一切性不障礙故。法生時自作已事以勝故名增上緣。已說增上緣。因緣今當說。所謂因緣者。當知餘因說。除所作因餘因說。已說緣。諸法隨緣生今當說。 心及諸心法 是從四緣生 二正受從三 謂餘說於二 心及諸心法是從四緣生者。心心法從四緣生。前開導故生。是彼次第緣境界。是彼緣緣

除自己餘一切法。是彼增上緣。餘因隨其所應說。因緣。二正受從三者。無想正受滅盡正受從三緣生。二正受前心心法是彼次第緣。自地前生善法及彼共起四相。是彼因緣增上緣。如前說。謂餘說於二者。除無想定滅盡定。餘心不相應行及色。此諸法二緣生。謂因緣增上緣。已說諸法從緣生。有為法分齊今當說。 分齊有三種 名色及與時 初分說一字 極微剎那餘 分齊有三種名色及與時者。一切有為法立三種分齊。隨其事名分齊。色分齊。齊時分齊。問此云何。答初分說一字極微剎那餘。少名者。謂一字。名之至少極於一字。故說一字。為名分齊。少色者。謂一極微。若真實行智分析色相。色之至細極於一微。故說一微為色分齊。少時者。謂一剎那。時之至少極於一念。故說剎那為時分齊。剎那量者。有說。如壯夫疾迴歷觀衆星。隨其所歷一星一剎那。如是一切。又說。如壯夫彈指頃經六十四剎那。又說。如壯夫以極利刀斷迦尸細縷。斷一縷一剎那。如是一切。又說。世尊不說剎那。如所說。比丘當知。四善射夫執弓俱射。如彼廣說。已說極微如是。色增長今當說。 七微成阿耨 七耨成銅塵 水兔羊毛塵 當知從七起 七極微成一阿耨。彼是最細色。天眼能見。及菩薩轉輪王見。七阿耨為銅上塵。七銅上塵為水上塵。七水上塵為一兔毫上塵。七兔毫

①緣十(生)②緣二識生③(事)一④一亦⑤相一齊⑥(彼)一⑦[見]一⑧齊二劑⑨為名二名為⑩說十(時)⑪起二從⑫(-)一⑬*

上塵爲一羊毛上塵

牛毛戶向塵 蟻蟲麩麥等

小大是轉增 皆從七數起

七羊毛塵成一牛毛塵。七牛毛塵成一向遊塵。七向遊塵成一蟻。七蟻成一蟲。七蟲成一麩麥。

麩麥

如是七麩麥 轉增爲一指

二十四指量 名之爲一肘

七麩麥爲一指。二十四指爲一肘

四肘爲一弓 五百拘屢舍

去村拘屢舍 是名爲空處

如是應當知。彼數卽身量四肘爲一弓。去村五百弓名。爲空處。是摩竭提一拘屢舍。北方名拘屢舍半。問已知刹那乃至拘屢舍。八拘屢舍名。一由旬。當說身量。以何爲身量。答彼數卽身量。前所說肘量及拘屢舍。當知卽是身量。彼人間肘作身量。閻浮提人長三肘半。或四肘。弗婆提人長八肘。瞿陀尼人十六肘。鬱單越人三十二肘。以前說拘屢舍爲天身量。四天王身。拘屢舍四分之一。三十三天半拘屢舍。帝釋身一拘屢舍。夜摩天身拘屢舍四分之一。兜率陀天身一拘屢舍。化自在天身一拘屢舍及拘屢舍四分之一。他化自在天身一拘屢舍半。此是欲界天身量。色界梵天身半由延。梵福樓天身一由延。大梵天身一由延半。少光天身二由延。無量光天身四由延。光音天身八由延。少淨天身十六由延。無量淨天身三十二由延。遍淨天身六十四由延。福愛天身百二十五由延。福生天身

二百五十由延。廣果天身五百由延。無想天身亦爾。無希望天身千由延。無熱天身二千由延。善見天身四千由延。善現天身八千由延。色究竟天身萬六千由延。此說色界天身量。此名色分。齊。問如前說時分。齊。刹那。餘時今當說。答

刹那百二十 說名恒刹那

六十名羅婆 三十摩睺羅

百二十刹那名一恒刹那。六十恒刹那名一羅婆。七千二百刹那也。三十羅婆名一摩睺羅多。二十一萬六千刹那也

三十摩睺羅 說名一日夜

欲界或晝夜 於上以劫數

三十摩睺羅多爲一日一夜。有六百四十八萬刹那也。已知日夜刹那數。壽命今當說。欲界或晝夜於上以劫數者。欲界衆生壽卽以上晝夜數爲欲界壽量。或劫數閻浮提人壽或無量或十歲。弗婆提人二百五十歲。瞿陀尼人五百歲。鬱單越人千歲。人間五十歲爲四天王天上一日一夜。卽以是日三十日爲一月。十二月爲一歲。如是日月歲數。四天王天壽五百歲人間九百萬歲。是等活地獄一日一夜。卽以是日三十日爲一月。十二月爲一歲。如是日月歲數。等活地獄壽五百歲人間百歲。爲三十三天一日一夜。如是日月歲數。三十三天壽千歲人間三億六百萬歲。是黑繩大地獄一日一夜。如是日月歲數。黑繩大地獄壽千歲人間二百歲。爲焰摩天上一日一夜。如是日月歲數。焰摩天壽二千歲人間十四億四百萬歲。是衆合大地獄一日

一夜。如是日月歲數。衆合大地獄壽二千歲人間四百歲。爲兜率陀天上一日一夜。如是日月歲數。兜率陀天壽四千歲人間五十七億六百萬歲。是呼地獄一日一夜。如是日月歲數。呼地獄壽四千歲人間八百歲。爲化樂天上一日一夜。如是日月歲數。化樂天壽八千歲人間二百三十億四百萬歲。是大呼地獄一日一夜。如是日月歲數。大呼地獄壽八千歲人間千六百歲。爲他化自在。天一日一夜。如是日月歲數。他化自在天壽一萬六千歲人間九百二十一億六百萬歲。是熱大地獄一日一夜。如是日月歲數。熱大地獄壽一萬六千歲。衆熱大地獄壽半劫。無擇大地獄壽一劫。畜生趣極長壽亦一劫。如持地龍王。餓鬼極長壽五百歲。問已說欲界壽。上界復云何。答於上以劫數。彼色界梵身天壽半劫。梵福樓天壽一劫。大梵天壽一劫半。少光天二劫。無量光天四劫。光音天八劫。少淨天十六劫。無量淨天三十二劫。遍淨天六十四劫。福愛天一百二十五劫。福。生天二百五十劫。廣果天五百劫。無想天亦如是。無希望天千劫。無熱天二千劫。善見天四千劫。善現天八千劫。色究竟天萬六千劫。無色界空處二萬劫。識處四萬劫。無所有處六萬劫。非想非非想處八萬劫。一切三界皆有中天。唯除鬱單越及兜率天最後身菩薩及無想天。問以何等故。此諸法說行。答

多法生一法。一亦能生多。緣行所作行。是行應當知。無有法自力生。一法以多法力故

●月二及● ●[爲]一● ●夜二炎● ●天十(上)● ●[壽]一● ●生二光●

生。多法亦以一法力故生。如是一切有為法。是故說緣行所作行。是行應當知。緣彼行故有所作故說緣行。行所作故作彼行故說作行

雜阿毘曇心論卷第三

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

業品第三

已說諸行展轉因緣力生。彼諸行所起種種生。生差別勝者唯業。彼業今當說

業能莊飾世 趣趣各處處

是以當思業 求離世解脫

業能莊飾世趣各處處者。如是一切五趣種種。性生種種業莊飾。以業為種。彼有芽生業差別故生差別。如種差別故芽差別。是以當思業求離世解脫。業於受生勝故。是故欲背生死者當善觀察。問誰業。答

身口意集業 在於有有中

彼業為諸行 嚴飾種種身

身口意集業在於有有中者。身業口業意業。此三業生種種果。衆生住於本有死有中有生有中。修集諸業。問云何立三業。為自性故。為依故。為等起故。若自性者。應一業。謂語業。若依者。一切依身亦應一業。謂身業。若等起者。一切從意起亦應一業。謂意業。答

此亦如是。三事故。彼自性者語業。以語即業故。依者身業。以業依身故。身作故身合故。身運故。等起者意業。雖身業口業意業所起。然不共受名如眼識。問如所說業何所為。答彼業為諸行及受種種身。此說一切衆生增上果。謂外衆具名為行。若衆生形相壽命等是彼業果。問若彼內外分種種相者。此云何為四大種種相。為造色種種相。為業種種相。答三種悉有生因依因建立因養因長因故。是四大種種相。自分因故。是造色種種相。報因故。是業種種相。雖外分無報因。然衆生作善行彼得好色好處。若作惡行得惡色惡處。以業種種故內外分亦種種。是業相今當略說

身業當知二 謂作及無作

口業亦如是 意業當知思

身業當知二謂作及無作者。身業二種作性及無作性。作者。身動身方便身作。無作者。身動滅已與餘識俱彼性隨生。如善受戒穢污無記心現在前善戒隨生。如惡戒人善無記心現在前惡戒隨生。口業亦如是者。口業二種作無作性如前說。意業當知思者。意業是思自性。有欲令意業是無作性。此則不然。意非作性。非色故。及三種故。無作亦名不樂亦名離。亦名捨。亦名不作。以不作之名是無作。言非業者不然。何以故。作故。若善不作不善。若不善不作善。亦名作。如捨覺支。不以名捨故捨修。止餘事故名為捨。彼亦如是。又復作因故作果。見因說果。如世尊

說。形質故是色。無作亦非色。以作是色故。彼亦名色。彼亦如是。已說五業。如此業種種差別今當說

作當知三種 善不善無記

意業亦如是 除不說無記

作當知三種善不善無記者。身作及口作。三種善不善無記。彼善者。淨心身口動。如施戒等。不善者。不善心身口動。如殺生等。無記者。無記心身口動。意業亦如是者。意業亦三種。善心相應是善。不善心相應是不善。無記心相應是無記。餘不說無記者。餘二業身無作及口無作。彼二種善不善。無記何以故。無記。心羸劣故。強力心能起身口業。餘心俱行相續生。如手執香華。雖復捨之餘氣續生。非如執木石等。問已知五業思非色性。大地中已說故。餘業有何性。答

色性不染 不染汚 五地

隱沒繫在色 不善在欲界

色者一切身業口業是色性。因四大故。彼身作可見有對。口作不可見有對。無作俱不可見無對。問身口業幾種答染汚不染汚。彼色二種。染汚不染汚。染汚者。煩惱所起。彼有二種。隱沒無記及不善。隱沒無記者。無報無慚無愧不相應。一果煩惱等起。不善者。有報無慚無愧相應。二果煩惱等起。不染汚亦二種。善及不隱沒無記。善者。得愛果。彼亦二種。有漏及無漏。此品後當廣說。不隱沒無記者。不隱沒無記心等起。謂威儀。工巧非報生。強力心能起身口業。報生心羸劣故不起。是故身口

①二十(行品說竟)細註②③ ④聖本首缺 ⑤三二四⑥ ⑦性二姓⑧ ⑨(以)一⑩ ⑪無十(無)⑫ ⑬(心)一⑭ ⑮五二無⑯ ⑰工二功

業非報性。若報生心能起身口業者。彼身口業亦應是報。但不爾。現在方便生故。若報

生心。不應名。威儀。工巧。是故身口業非報。問幾地所攝。答不染汚五地。欲界及四禪。此則總說。若善作唯至初禪非上地。問何故善身口作至初禪非上地。答。心起身口作業。彼心細故。向外心起作業。彼心。內向故。覺觀起作業。彼地無故。善無作者。五地欲界及四

禪。有無作。禪律儀無漏律儀。不隱沒無記身。作亦五地如前說。差別者。欲界作威儀。工巧心等起。色界作威儀。心等起。彼無。工巧心。問已說上地無起作心。云何有作。答。彼初禪力起作心。現在前故起。若說善亦應爾者。不然。以生上地。下地善心不現在前。以彼劣故。隱沒繫在色者。若隱沒無記身口業。在色界初禪非上地。無起作心故。非生上地。下地染汚心。現在前離欲故。亦不在欲界。修道斷煩惱等起身口業。而欲界修道斷煩惱一向不善故。見道斷心不起身口業。此品後當說。不善在欲界者。若染汚中不善者。在欲界非色界。何以故。彼善心易得故。正受長養故。無無慚無愧故。無苦受故。不善者受苦受眷屬報。色無色界無。無有色界業受欲界報界異故。因果斷界故。已說身口業自性種地。謂無作律儀差別今當說

若。作無作戒 略說有三種
無漏及禪生 依別解脫戒

若。作無作戒略說有三種者。無作戒若律儀所攝。略說當知三種。問何者是。答。無漏及禪

生依別解脫戒。彼無漏戒與道一果道俱行。謂學無學禪生者。彼禪戒與禪一果禪俱行。正語正業正命。正命者。建立身業口業。無別體故。身業口業從無貪無恚無癡生。無恚無癡生者。名正語正業。無貪生者。名正命。雖一心中有三善根。以增上故說如貪等。行如動風藥如字音。依別解脫戒者。謂受戒式又尸羅隨轉亦有斷律儀。契經品當廣說。問是身業口業何等不隨心轉。何等隨心轉。答

無作在欲界 作依於二有
當知非心俱 謂餘心俱說

欲界無作不隨心轉。謂受戒已不善無記心亦隨轉。亦不與善不善無記心隨轉異相故。又復覆惡戒故。由作故。不定故。作者欲色界亦不隨心轉。由身故。非心一果故。謂餘心俱說者。禪律儀無漏律儀是餘。彼隨心轉。心一果故。由心故。已說建立業。成就戒今當說

無漏戒律儀 得道則成就
禪生若得禪 持戒生欲界

無漏戒律儀得道則成就者。得道謂一切聖道。從苦法忍乃至無生智。成就無漏律儀。此無漏律儀在六地。未來中間根本四禪。彼須陀洹斯陀含向及果。成就一地無漏戒。阿那含向或成就一地或六地。阿那含果或三地乃至六地。阿羅漢六地。禪生若得禪者。若得禪成就禪律儀。謂得不失此亦六地。持戒生欲界者。若受戒則成就別解脫律儀。此律儀謂欲界人非餘。無受分故。已略說成就戒。世分別今當說

謂住別解脫 無作於轉時
當知恒成就 盡不捨過去

謂住別解脫無作於轉時。當知恒成就者。別解脫律儀現在無作戒常成就。念念得未曾得。盡不捨過去者。住別解脫律儀無作若滅而不捨。則成就過去。捨事。此品後當說

若有作於作 即時立中世
已盡而不捨 當知成過去

若有作於作即時立中世者。中世。謂現在住身口求受戒。爾時成就現在身口作。已盡而不捨。當知成過去者。若作盡不捨。爾時成就過去作。非現在。以作不念念相續生故

若得禪無作 成就滅未至
中若入正受 作亦如前說

若得禪無作成就滅未至者。若得禪彼則成就過去未來禪律儀。若初得禪彼無始生死滅過去者今悉得之。中若入正受者。如禪正受現在。彼無作亦爾。隨心生故。作亦如前說者。如前別解脫作求時成就現在。若滅已不捨。爾時成就過去非現在。住禪者作亦如是。問若生色界。云何成就作。答。世尊到色界。色界諸天禮敬右邊。乃至未。究竟。爾時成就過去作

悉成就當知 得道若未。生
中間道在心 盡不捨前世

悉成就當知得道若未生者。一切聖人一切時成就未來無漏律儀。中間道在心者。若道現在爾時成就無漏無作律儀。盡不捨前世者。前世是過去。若彼無作滅已不捨。是成就

○生心二心生○ ○禪十禪○ ○作二住○ ○戒一○ ○者一○ ○究一○ ○生二至○

過去

若作不善業 立戒成就二

至彼纏所纏 盡已盡當知

若作不善業立戒成就二者。謂住別解脫禪生無漏律儀。若以不善極惱纏。起。加捲等不善作無作。此則成就作無作。此說未離欲行不善故。問幾時成就。答至彼纏所纏。乃至纏未捨住非律儀。盡已盡當知者。若彼纏盡。作無作亦盡。

若住不律儀 無作成就中

能受不愛果 或復盡不捨

若住不律儀無作成就中能受不愛果者。住不律儀。謂屠膾等。彼一切時現在成就不善無。作。不善無作。念念生故。或復盡不捨者。彼無作滅不捨。則成就過去。

若剎那住作 即時說中世

已盡而不捨 善於上相違

若剎那住作即時說中世者。彼住不律儀者。受不律儀時。成就現在作。已盡而不捨者。彼作滅而不失。則成就過去非現在。不相續故。善於上相違者。如住律儀說不善。住不律儀說善。

若處中所作 是則立中世

若盡而不捨 或二亦復一

若處中所作是則立中世者。處中。謂非律儀非不律儀。若受善時心不淳淨。成就現在善作。若住不善時不極惱纏。成就現在不善作。若盡而不捨者。滅已不捨。彼成就過去作非現在。不相續生故。或二者。若善淳淨心。不

善極惱纏。受。彼現在成就作及無作。亦復一者。謂第二剎那起唯無作現在。若過去現在分別。若善不善分別亦爾。

隱沒不隱沒 二作俱非盡
及淨不淨等 一切無生說

隱沒不隱沒二作俱非盡者。若隱沒無記及不隱沒無記作不成就。過去羸劣心等起故。餘勢不強故。若現在受作時則成就現在。剎那成就故亦不說無作。以無記無俱故。及淨不淨等一切無生說者。若善不善隱沒無記及不隱沒無記作悉不成就。未來以無住。未來世受作故。問何等為律儀不律儀。答

流注相續成 善及不善戒
於一切衆生 律儀不律儀

彼別解脫律儀者。謂受戒於一切衆生一切時戒不斷。或十二種或二十一種隨轉。不律儀者。謂住不律儀於一切衆生一切時惡戒不斷。問何等住不律儀。答十二種住不律儀。所謂屠羊養雞養豬捕鳥捕魚獵師作賊魁膾守獄呪龍屠犬。司獵。屠羊者。謂殺羊。以殺心若養若賣若殺。悉名屠羊。養雞養豬亦如是。捕鳥者。殺鳥自活。捕魚獵師亦如是。作賊者。常行劫害。魁膾者。主殺人自活。守獄者。以守獄自活。呪龍者。習呪龍蛇戲樂自活。屠犬者。旃陀羅。司獵者。王家獵主。若屠羊者。雖不殺餘衆生。而於一切衆生所得不律儀。何以故。若一切衆生為羊像在前者。於彼一切悉起害心。一切衆生有作羊理故。若復無作羊理者。於彼亦有害心故得不律儀。如

住慈心仁想普周。當知住餘不律儀亦如是。若王若典。刑若聽訟官有害心者。悉墮不律儀義。問得律儀。齋何時。答

謂受律儀戒 盡壽或日夜
不律儀盡壽 二俱無增受

謂受律儀戒盡壽或日夜者。受別解脫律儀有二種。或盡壽者。謂七衆。七衆者。比丘比丘尼式叉摩尼沙彌沙彌尼優婆塞優婆夷。日夜者。謂受齋有二種時分。齋。日夜及盡壽。問不律儀復云何。答不律儀盡壽。謂不律儀盡形壽。非日夜。問以何等故律儀得日夜非不律儀。答彼無受性故。無有言我日夜受不律儀者。以可羞厭故。善律儀有受性可欣慶故。二俱無增受者。律儀不律儀俱無增受。半月一月六月。善惡希望不究竟捨。日夜戒亦如是。過者不然。無分齋性故。二種分。齋前已說。彼因緣故不律儀無日夜受。是因緣前已說。問別解脫律儀云何得。答

受別解脫戒 當知從他教
隨心中上 得三品律儀

受別解脫戒當知從他教者。別解脫律儀從他教得。若衆若人若法。衆者。謂白四羯磨受具足。人者。謂善來。法者。謂佛及五比丘等。又問樂。謂須陀耶律毘婆沙說十種受具足。所謂自起。謂佛超升離生。謂五比丘善來。謂耶舍等師受。謂摩訶迦葉問樂者。謂須陀耶受重法。謂摩訶波闍提遣使。謂法與律師第五人。謂邊地十衆。謂中國三歸三說。問何等種得律儀。答隨心中上得三品律儀。

加捲二加拳。學加。作十(念念)。(念念)一。善二言。(彼)一。詞二何。若十殺。刑二形。(不)十律儀。齋二齊。齋二齊。彼因...說十七字。第二等。(種)一。

法三時捨斷善根時。退時。生諸地時。穢污唯離欲者。穢污無色法離欲時捨。若此品對治生即捨此品。已說諸業自性及成就。如此業世尊種種分別今當說。

若業與苦果 當知是惡行
復有意惡行 貪瞋恚邪見

若業與苦果當知是惡行者。若身口業及思不愛報果生故。當知是惡行。問唯此惡行耶。答復有意惡行。謂貪瞋恚邪見不善思。是意惡行如前說。復有貪恚邪見

是相違妙行 最勝之所說
若於中增上 說名十業道

是相違妙行最勝之所說者。惡行相違悉是妙行。若身善業悉是身妙行。若口善業悉是口妙行。若意善業及無貪無恚正見悉是意妙行。隱沒不隱沒無記業。無報故非惡行非妙行。若彼不隱沒無記巧便者。如行行如說。與此相違不隱沒無記及隱沒名不巧便。問一切善行惡行皆業道所攝耶。答若於中增上說名十業道。此諸善行惡行中增上業勝者是業道。彼妙行增者說善業道。惡行增者說不善業道。若言不定者不然。以根本業道多增上極逼迫故。極恐怖故。事究竟故。是故說增上者是根本業道。問何等為業道。答殺生乃至邪見。彼殺生今當說

有欲殺生心 衆生想殺生
是名為殺生 盜淫亦如是

有欲殺生心衆生。想殺生者。謂欲殺他衆生。定不定衆生起衆生想。殺彼衆生名作無作。

或復一向名無作。是身業殺生非餘不具自在者。口語及仙人意所嫌而殺。謂是口意業自性者不然。業自性異故。事不究竟故。若謂有心無心殺彼衆生俱應得殺罪。如觸火食毒者不然。非譬故。若手執刀若手擲刀。若有心若無心。觸火不燒。若呪毒若藥雜毒服者。若有心若無心不死。殺生不如是。是故非譬。若復謂於火毒得不燒不死因緣而殺生不得不殺因緣者不然。得不惡心故。如彼刀呪衆藥等是不燒不死因緣。不惡心是不殺因緣亦如是。以不惡心殺生則非殺生。如執刀觸火不燒。問無心害衆生不死耶。答死。雖殺生不得殺罪。無惡心故。雖逼迫他不得殺罪。謂此非說者不然。如不逼迫不攝他而罪福長養故。謂斷善根得慈心。是故不非說盜者物他所有他物想知不與欲取。取作己有想名作無作。或一向名無作。是身業盜。邪淫者。父母等護起護想道非道行無護者非處非時。是不應行而行名作無作。是身業邪淫

謂彼異想說 別離不軟語
無義不誠說 是則口業道

見聞等事顛倒不顛倒覆藏想起名作無作。或一向名無作。是口業。妄語。或身動或默然。謂布薩事。是亦名妄語。若言身意業性者不然。業性異故。著身口業故。譬如著身。若身。放作者是身業。譬如曾眼更後身觸得長等。譬如受戒時口作得身業。譬如受具足時若默然若無心得身業。別離者。若壞若不壞欲壞想。若已壞不令和合。名作無作。或一

向名無作。是口業兩舌。不軟語者惱亂心。若惱不惱名作無作。或一向名無作。是口業惡口。無義不誠語者。不善心非義非時不應法言。隨入一切口惡行。如無明隨煩惱。如音聲隨字

衆生相違害 是名為瞋恚
他物己想貪 邪見謂何見

衆生相違害是名為瞋恚者。於他衆生惡心欲殺欲打。與慈悲相違。是名瞋恚。他物己想貪者。愛他物欲爲己有想名爲貪。是一切欲界貪。邪見謂何見者。於施等作無見名爲邪見。問何業道誰究竟。答

殺生與惡口 及瞋恚業道
皆由瞋恚成 衆生處所起

殺生與惡口及瞋恚業道皆由瞋恚成者。殺生惡口瞋恚當知從瞋恚成。究竟時要與瞋恚俱。問從何處生。答衆生處所起。此三業道當知從衆生處所起

身二業及貪 貪欲所究竟
皆由貪欲成 衆具處所起

身二業及貪貪欲所究竟皆由貪欲成者。偷盜邪淫及貪。是三業道當知貪欲究竟。問此復何處起。答衆具處所起。此三業道當知從衆具處所起

謂有餘口業 是皆三所成
從名處所起 明智之所說

謂有餘口業是皆三所成者。妄語兩舌綺語當知從貪欲瞋恚愚癡究竟。問彼復從何處起。答從名處所起明智之所說。此三口業道

①[及]一①② ③想殺一殺想④ ⑤[難]一①②③ ④[取]一①② ⑤邪一他⑥⑦ ⑧誠說一成就說⑨ ⑩成就⑪ ⑫妄二忘⑬ ⑭放二故⑮ ⑯或二戒⑰ ⑱[是]一① ⑲誠二成⑳ ㉑語二說㉒㉓ ㉔要一惡㉕

當知從名起

邪見名色起 亦從愚癡成

一切諸業道 三種為方便

邪見名色起亦從愚癡成者。謂邪見從名色處所起。問此誰究竟。答亦從愚癡成。此邪見當知從愚癡究竟。問一切業道方便如根本究竟為有異耶。答一切諸業道三種為方便。一切十不善業道。貪欲瞋恚愚癡悉為方便。貪殺者為皮肉筋骨等故殺。為己故或為親友故。瞋恚殺者。殺怨家及怨親友。令其憂惱。愚癡殺者。言殺諸毒蟲等因緣無罪以害人故。殺諸禽獸等因緣無罪為人食故。波私國說。如父母老若惡病應殺因緣無罪。貪盜者。盜所須物為己他故。瞋盜者。若盜怨若怨親物令其憂惱。癡盜者。如婆羅門說一切地所生物悉施婆羅門。婆羅門弱劣故利利等受用。是故婆羅門言自取己物無罪。而彼取時作他物想。故名盜。貪邪姪者。於衆生所貪心方便。若他所受及自所受。若為財利非貪方便則瞋恚起。謂於怨家及怨親所受。癡邪姪者。如說橋船野田華果道路女人。一切衆生悉共受用。如婆羅門說婆羅門應有四婦。利利應三。轉舍應二。首陀羅一。口業若貪起當知從貪生。若恚起當知從恚生。若癡起當知從癡生。貪者若貪次第起是即從貪生。若瞋所起是從瞋恚生。愚癡所起是從愚癡生。瞋恚邪見亦如是。問云何業道定是作無作非耶。答

根本業無作 或復說有作

方便終則異 貪不貪等起

根本業無作或復說有作者。色自性七業道定無作。或復作邪姪定有作。以自究竟故。非他餘業道不定。若自作則有作。若使他作者一向無作。問頗非身作而得殺生耶。答有。謂口作。頗非口作而得妄語耶。答有。謂身作。頗非身口作而得二罪耶。答有。謂仙人起惡心。謂布薩事。若欲界色性善業道定有作及無作。禪無漏律儀唯無作非作。由心故。方便者有作。若淳淨心及極利纏作有無作。若不淳淨心及不極利纏作者。唯有作無無作。終則異者。業道終唯無作。作業已息故。問何等為業道方便。何等為終。答殺方便謂屠羊者若捉若買若牽來一打。三打。乃至命未盡悉名方便。當斷命時刹那頃作及無作。是根本業道。後乃至於是處不善身所作及無作。是殺生。終。乃至綺語亦如是。是名為終。貪恚邪見無方便現在前則是根本起。有說。身口業道一切十業為方便及終。此云何。如欲殺彼衆生殺此衆生為因然後殺彼。謂殺生祈請助力殺彼。或劫他財以資殺事。或姪彼所。受令殺其主。或於彼知友妄語惡口兩舌綺語以離其親。或貪彼財。或復瞋彼。或起邪見長養殺法後殺彼子。復姪彼婦。次第乃至十不善業道。當知是終。如是一切盡當知。貪不貪等起者。不善業道貪恚癡為方便亦為終。善業道以不貪不恚不癡起。捨不善業道方便即是善業道方便。捨根本即是根本。捨終即是終。問此云何答如沙彌受具足

入戒場周匝禮僧求^和和上受衣鉢白一羯磨乃至二羯磨。皆是方便。第三羯磨彼利那頃作及無作。是根本業道。次說四依。如是乃至於是處身口所作及無作。是名為終。問何處有幾業道答

地獄五業道 齋單曰後四

餘方具有十 及餘惡趣天

地獄五業道者。地獄衆生有五不善業道。惡口綺語貪恚邪見。無相殺故無殺業道。無受財故無盜。無執受女人故無邪姪。異^想想說故名妄語。彼無異想故無妄語。常離故無兩舌。為苦所逼故有惡口。不時說故有綺語。貪及邪見成就而不行。瞋恚者俱有。齋單曰後四者。有後四不善業道。壽分定故無殺生。無受財故無盜。無執受女人故無邪姪。欲行欲時將彼女人往詣樹下。樹自曲枝而覆其上。然後行欲去已還復。若樹不覆並愧而離。無欺他故無妄語。常和故無兩舌。柔軟故無龜言。有歌歎故有綺語。意業道雖成就而不行餘方具有十者。除齋單曰。餘三方有十業道。或不律儀所攝。或離不律儀所攝。及餘惡趣天者。畜生餓鬼及欲界天有十業道。離不律儀雖天不害。天而害餘趣。又說天亦有截手足斷而還生。若斬首^若若中截則死。展轉相奪等。乃至十業道一切悉有。色無色天無有不善業道。問何處有幾善業道。答

地獄齋單曰 有三善業道

等現於無色 彼聖成就十

地獄齋單曰有三善業道者。地獄有無貪無

①唯二惟 ②唯 ③一 ④三 ⑤二 ⑥自 ⑦當 ⑧一 ⑨無 ⑩終 ⑪後 ⑫受 ⑬愛 ⑭主 ⑮生 ⑯於 ⑰二 ⑱作 ⑲和 ⑳上 ㉑二 ㉒越 ㉓想 ㉔二 ㉕相 ㉖上 ㉗二 ㉘土 ㉙柔 ㉚二 ㉛業 ㉜若 ㉝一

慧正見。躡單。日亦爾。等現於無色者。無色界即此三現在前行。彼聖成就十者。無色界聖人。成就無漏十善業道。

如此亦復異 謂色界律儀 畜生餓鬼異 餘如是亦異

如此亦復異謂色界律儀者。色界禪律儀所攝具十善業道。亦成就亦現在前。聖人生彼則有無漏業道。畜生餓鬼異者。畜生餓鬼亦有十善業道。離律儀亦。離不律儀。餘如是亦異者。閻浮提弗婆提提陀尼及欲界天說餘。彼有十善業道。是律儀所攝。或離律儀。謂欲界天唯有禪無漏律儀。問幾不善業道一時與思。俱轉。答

不善業道起 一與思俱轉 二三乃至八 當知次第增

此身自性三不善業道。彼一一與思俱轉。謂殺生偷盜邪淫。二俱轉者。殺他衆生而盜取。三俱轉者。遣二使已自行邪淫。以此行自究竟非他故。若彼種類和合者則一切俱究竟。口業道一俱轉者。謂綺語。二俱轉者。攝妄語非時說綺語。攝欲別離說非時說綺語。攝惡口說非時說綺語。三俱轉者。攝欲別離說妄語非時說綺語。攝惡口妄語非時說綺語。攝惡口欲別離說非時說綺語。四俱轉者。攝欲別離妄語惡口非時說綺語。意業道者。一俱轉。行別故不二。如是五六七八俱轉。遣六使自行邪淫。不由他故。若彼種類和合者則一時俱究竟及貪現在前。如是八不善業道與思俱轉。問幾善業道一時與思俱

轉。答

所謂善業道 二三及與四 六七九與十 一時思俱轉

欲界善五識身現在前。初禪地三識及依無色盡智無生智。此二善業道與思俱轉。謂無貪無恚。欲界善意識現在前。色界不定心及無色界。又依無色無漏正見三事與思俱轉。優婆塞及沙彌染污及無記心受律儀。四即此善五識住。六即此善意識住及比丘染污無記心非心。七比丘善五識住。若依禪盡智無生智俱心。九即此比丘善意識住及色界定心依禪無漏正見現在前。十善業道與思俱轉。問何業道有幾果。答

一一果有三 所謂為報果 依果及增上 是名業道果

一一業道皆有三果。謂報果依果增上果。彼業道修習多修習生地獄中是報果。從地獄出來生人中受相似果。謂殺生者短壽。盜者失財。邪淫者妻不貞良。妄語者惡名譏論。兩舌者親友乖離。惡口者常聞惡聲。綺語者言語不正。貪者增貪。瞋者增瞋。邪見者增癡。是為依果。此諸業道增上果者。謂衆具。無有光澤。多遭霜雹塵垢汚濁臭穢不淨。居處嶮曲。茨棘惡刺果實零落。少微細極大苦。惱無有華果。問云何果相似。答

苦他惡道苦 傷壽則短。壽 外具不光澤 壞彼光澤故

苦他惡道苦者。謂殺生令彼受苦得惡道苦。此是相似。問殺何等陰。為色陰耶為五陰耶。

答有說。色陰以色可斷壞故。四陰非觸。有說。五陰四陰雖非觸。彼依色陰轉。殺色陰亦殺彼。如瓶破則失乳。問為殺無記為三種耶。答有說。無記以無記受刀杖故。餘。二非觸。又說。一切三種如前說。問殺何陰過去耶未來現在耶。若過去者彼已滅。若未來者不可得。若現在者彼剎那頃不住。答有說。未來現在世住壞未來和合。又說。未來現在以現在受刀杖不相續陰滅。傷壽則短命者。謂彼殺者斷彼命故而得短壽。外具不光澤壞彼光澤故者。謂彼殺者壞彼光澤故。所得衆具悉不光澤。一切業道隨其所應當知。盜及邪淫雖不令彼苦。以壞希望故。如不別離亦名兩舌。彼雖不惱亦名惡口。已說業道分。差別今當說

謂現法果業 次受於生果 後果亦復然 當知分各定

三業現受。生受後受。現法受業者。若業此生作即此生熟。名為現受。若第二生熟者。名為生受。第二生後熟者。名為後受。或有欲令四業前三及不定受。前三者不轉。不定者轉。轉者謂持戒等護故。譬喻者說。一切業轉乃至無間。彼說若無間不轉者。亦無有越第一有。若越第一有者。故知無間業亦轉。彼有說現法業不必現報熟。若熟者現法受非餘。如是說者。說八業現法報。或定不定乃至不定受業亦如是。是故彼說分定熟不定應作四句。或分定熟不定。或熟定分不定。或分定熟亦定。或非分定亦非熟定。問此四業幾

○界二異 ○離二不 ○(離)一 ○(俱)一 ○論二勝 ○悴二惡 ○茨二刺 ○惱二違 ○壽二命 ○二二 ○(道)一 ○(已)一 ○生二五

一身種類種。答三。除現法受。欲界四種業種。色無色界亦如是。地獄趣四種不善業種。善者三種。除現受業。餘趣俱四種。生欲界凡。夫欲愛未盡。欲界四種。若欲愛盡。梵天愛未盡。若不退種性法者。欲界三種。除生受。梵天亦三種。除現受。若退種性法者。梵天如前說。欲界四種善業種。如是隨其義一切地生凡夫聖人亦如是說。已說現受等。樂受今當說。

欲界中善業 及色界三地 說名為樂受 此亦不定

欲界中善業及色界三地說名為樂受者。欲界善業得樂受及眾具報。色界乃至第三禪業皆得樂報。問禪中間業得何等報。答有說。初禪樂報。此非說。以阿毘曇說。或業得心受非身耶。答有善無覺業。又說。禪中間業不得受報。唯有色心不相應行。問此分亦定耶。答此亦不定。若定若不定此四地中善皆有樂報。

得不苦不樂 是說為上善 若受於苦報 是說不善業

得不苦不樂是說為上善者。第四禪地善業及無色地善業說不苦不樂報。以彼得不苦不樂受及眾具故。問下地何故無不苦不樂報耶。答有說。下地能而彼受細故。下地不寂靜而彼受寂靜故。若下地作善業皆為樂受故。無有求不苦不樂受者。雖不求苦報。以求樂故作惡行。是故雖不求而受苦報。若受於苦報是說不善業者。不善業說苦報。苦受果故。

非獨業受報。四陰五陰亦受報。但業勝故說業受報。當知此亦不定。問幾種受。答所謂自性受。相應與報受。現前及境界。是說五種受。

五種受。謂自性受。相應受。報受。現前受。境界受。自性受者。受也。相應受者。受相應法。報受者。樂受等業。現前受者。現在受。如大因經說。若樂受現在前時。二受則滅。境界受者。眼觸生覺。受色是攀緣義。此五種受中當知說報受非餘。問世尊說黑報等四業。云何建立。答。色。有中善業。是白有白報。黑白在欲中。俱黑說不淨。色。有中善業。是白有白報。色。有中善業。是白有白報者。色界善業一向無瞋。離黑。問無色界業勝非色界。何故不說。答二報故。色界受中陰及生陰。無色界唯有生陰。如是色。色。可見不可見。有對無對受報。又彼有三業五陰十善業道受報故。說。黑白在欲中者。欲界善業雜不善業。故是故說黑白。又一身中二種業可得。亦二種報。是故如是說。非黑即是白。黑異相故。俱黑說不淨者。不善業說黑。彼有黑報。彼因穢污穢污故說黑。及鄙賤可惡。故說黑報。唯鄙賤黑非穢污黑。不染污故。

若有思能壞 彼諸業無餘 此說無量閑道 謂是第四業

若道能滅彼三業。彼道相應思是第四業。此業不染污故。不黑不可樂故。不白不墮界故。無報。問何業幾思斷。答。

說有十二思 斷於黑報業 四思能斷白 一思二俱離

說有十二思斷於黑報業者。黑業十二思斷見道四法忍相應思。及離欲界欲八無。閑道相應思。四思能斷白者。四思斷白業。初禪離欲第九無。閑道相應思。乃至第四禪離欲亦爾。以善有漏法最後無。閑道斷故。一思二俱離者。欲界離欲第九無。閑道相應思。滅黑業及黑白業。問世尊說曲穢濁。此云何。答。

曲者從詔起 穢從瞋恚生 欲生謂為濁 世尊之所說

曲者從詔起者。詔者說曲。於曲相法所起業名為曲。彼曲果故。詔者以不直故名為曲。以詔所。閑難出生死難入涅槃。譬如曲木。穢從瞋恚生者。二種穢。穢自身及他身故。瞋恚者名為穢。於穢相法所起業名為穢。彼果故。欲生謂為濁。世尊之所說者。欲者染性故名為濁。若業欲所起名為濁。彼果故。果似因說。問幾種等起。答。

等起有二種 因及彼剎那 如前所迴轉 此亦隨迴轉

等起有二種因。及彼剎那者。有二種等起。因等起者。我當作所作。彼剎那等起者。若心住作彼業。問此二等起何等為轉何等為隨轉。答轉者。謂彼前若彼因等起者名轉。後者說隨轉。彼剎那等起說隨轉。問六識身何等為轉何等為隨轉。答。若識修道斷 在意有二種

夫二未 種十種 性二姓 說一 報二根 前二在 有中二中有 賤一賊 惡二 污 閻二 果似二 似果 為一

五種心說一 餘則說有漏

若識修道斷在意有二種者。修道所斷意識亦轉亦隨轉以彼俱能起業故。彼亦善不善無記。彼善轉即善隨轉。不善無記亦如是。無記者威儀。工巧。彼威儀心轉即彼隨轉善穢汚心現在前去者不然。以速起故。如旋火輪。*工巧心亦如是。前已說報生心不起身口業。五種心說一者。五識身說隨轉受自作故。非轉無思惟故。餘則說有漏者。見道斷心說餘。彼是轉能為因等起故非隨轉。不以見道斷心等起身口業。以微細故。內向故。若復見道斷心等起身口業者。彼業為見道斷為修道斷為俱道斷。若言見道斷者。無有色見道斷。明無明相違故。若言修道斷者。修道斷法而見道斷心等起者。此則不應。若言俱斷者。則有可分。此亦不然。如契經說。邪見人身口業說是見。彼亦說因等起。問何等為淨。答

一切妙行淨 無學身口滿 所謂意滿者 即是無學心

一切妙行淨者。若所有妙行一切說淨。若身妙行是說身淨。如是比。問有漏法有垢。云何說淨。答煩惱相違故。引導第一義淨故。問云何滿。答無學身口滿。無學身口妙行說滿。所謂意滿者即是無學心。無學心說意滿。牟尼相故。問以何等故色陰識陰說滿非餘。答龜細故。心者第一義滿。以身口業比知止息增廣故。煩惱熱不損故。意語不壞故。是故說阿羅漢滿非餘。問妙行淨滿何差別。答所作

善故說妙行。清淨故說淨。牟尼故說滿。復次愛果故說妙行。離煩惱故說淨。離癡故說滿。已說業。業果今當說

相似說依果 報則不相似 淨及不淨果 是則說為報

依果者。謂善生善。如是比當知說自分因。報果者。謂淨不淨果。如前說。報因與果相似者。謂依果。不相似者。善不善因無記果

所謂解脫果 離欲見真說 以功力所得 是說功用果

所謂解脫果離欲見真說者。解脫果謂斷也。以功力所得是說功用果者。若果以功力所招及斷是說功用果

種種相諸法 其果唯一相 是說增上果 除前所起法

若多相諸法相似不相似唯唯一果。謂增上果。謂所作因。除前所起法者。除前生於後生非果。問增上果功用果何差別。答所作事成為功用果。受用為增上果。謂種殖者有二果。受用者有增上果。已總說果。若彼果是業有今當說

有漏斷結業 五果是有果 無漏斷結道 彼則有四果

有漏斷結業五果是有果者。世俗斷結道彼業有五果。彼後相似及增上是依果。彼業報是報果。彼結斷是解脫果。彼所招及斷是功用果。除自己餘一切法是增上果。無漏斷結道彼則有四果者。無漏斷結道彼業有四果。除報果。餘果如前說

不善業四果 亦餘善有漏 餘無漏有三 無記業亦然

不善業四果亦餘善有漏者。不善業四果。除斷結道。諸餘善有漏業。謂方便道解脫道勝進道及聞等慧。此諸業亦有四果。除解脫果。餘無漏有三無記業亦然者。除斷結無漏。諸除無漏業。及無記業有三果。除報。果及解脫果

四二及三果 三四亦復二 三二三淨等 是說為業果

善業者。以善法為四果。除報果。以不善為二果。功用及增上果。以無記為三果。除依果及解脫果。不善業者以。不善法為三果。除報果。解脫果。以無記法為四果。除解脫果。自分。遍因以欲界身見邊見無記法為依果。以善為二果。功用及增上果。無記業者以無記法為三果。依果功用果增上果。以善為二果。功用果及增上果。以不善為三果。除報果解脫果

過去一切四 中未來亦然 中於中說二 未生未生三

過去一切四者。過去業以一切三世法為四果。除解脫果。不墮世故。中未來亦然者。現在業以未來法為四果。如前說。中於中說二者。現在業以現在法為二果。功用果及增上果。未生未生三者。未來業以未來法為三果。報果功用果增上果

自地自地四 或以他地二 若正思惟地 亦有解脫果

①則一者②善二是③及以④所二前⑤殖一植⑥果及二及果⑦用十(果)⑧(不)一⑨返二

自地自地四者。自地業以自地法為四果。除解脫果。如欲界繫以欲界繫。乃至非想非非想亦如是。或以他地二者。他地業以他地法為二果。功用果增上果。若無漏業以他地無漏為依果。若正思惟地亦有解脫果者。定地或有解脫果謂無*閑道所攝

皆以一切三 三二一復五

二二次第說 謂是學等業

學業以學為三果。依果功用果增上果。以無學為三果亦如是。以非學非無學為三果。解脫果功用果增上果。無學業以無學為三果。依果功用果增上果。以非學非無學為二果。功用果增上果。以學為一果。增上果。非學非無學業以非學非無學為五果。以學為二果。功用果增上果。以無學為二果亦如是

謂說三四一 四三及與二

四復一亦二 是說見等業

見道斷業以見道斷法為三果。依果功用果增上果。以修道斷法為四果。除解脫果。以無斷法為一果。增上果。修道斷業以修道斷法為四果。除解脫果。以無斷法為三果。解脫果功用果增上果。以見斷法為二果。功用果增上果。無斷業以無斷法為四果。除報果。以見斷法為一果。增上果。以修道斷法為二果。功用果增上果。已說業有果。身業口業四大造。今當說

自地若有大 身口業所依 無漏隨力得 此即是彼果

自地若有大身口業所依者。若欲界身口業

即欲界四大造。色界初禪地身口業即初禪四大造。乃至第四禪亦如是。以墮界故。煩惱合故。無漏隨力得此即是彼果者。無漏身口業隨所依力得。即彼地四大造。若生欲界無漏初禪正受。乃至第四禪彼身口業即欲界四大造。一切地生亦如是。不墮界故。非煩惱合故。若須陀洹斯陀含阿那含果及向佛辟支佛聲聞波羅蜜道法智比智品。依欲界身現在前。彼一切業欲界四大造。若依色界身現在前。彼一切業色界四大造。學生無色界依五地未來戒成就。若先彼地起無漏道。即依彼地過去。若彼得阿羅漢果。彼捨學戒得無學未來依五地戒。問世尊說三障。此云何。答

無間無救業 廣生諸煩惱

惡道受惡報 障*閑應當知

三障。業障煩惱障報障。謂障。閑聖道及聖道方便故說障。除此三障。餘法雖為障。然此三障五因緣易見易知。所謂處趣生果人。彼業障者五無間業。所謂害父母害阿羅漢壞僧出佛身血。此業報無間必生地獄中。是故說無間。有二因緣故得無間。背恩義及壞福田。彼害父母是背恩無間。餘者壞福田無間。罪最大者所謂壞僧。次出佛身血。次害阿羅漢。次害母次害父。彼義雜品當廣說。煩惱障者。謂勤及利煩惱。有衆生煩惱勤而不利。應作四句。勤而不利者。數行軟煩惱利而不勤者。增上煩惱不數行。亦勤亦利者。數行增上煩惱。不勤不利者。不數行軟煩惱。彼

軟煩惱不利者。此說煩惱障。以依軟結便有中依中便增故。若利煩惱不勤者非障。以不數行故。若俱者一切惡。不俱者一切勝。當知善根亦如是。以行煩惱故建立障非成就者。以一切衆生等成就煩惱故。隨其所應。彼煩惱障者。當知黃門氣喘富蘭那等。又復說難陀央掘魔鬱鞞羅迦葉。如是比以說力故彼得見諦。舍利弗等非其境界。報障者。惡道處鬱單。曰無想天處問此障何者最大惡。答

所謂煩惱障 是說最大惡

無間業為中 報障則為軟

三障中煩惱障最大惡。次業障次報障。以煩惱障能轉業障業障轉報障故。又說報障最大惡。以一切因時可轉果時不可轉故。此則不然。彼或有煩惱障成就。或業障或報障或煩惱。惱業障。或煩惱障報障無業障報障俱成就。以因果不俱故。彼業障者三方。煩惱障報障者五趣。問如所說無間業其罪最大。謂壞僧。僧壞有何性。答

謂不和合性 當知是僧壞

不隱沒無記 是不相應行

僧壞者。是不和合性。不隱沒無記不相應行陰攝。壞僧罪是妄語。問何等誰成就。答

壞者則是僧 罪則壞僧人

彼受一劫報 無擇地獄中

壞者則是僧罪則壞僧人者。僧成就壞。壞僧人成就罪。彼受一劫報無擇地獄中者。壞僧罪無擇地獄中受一劫報。若作餘惡行種餘地獄報。彼或無擇。彼後不能壞僧。壞僧後作

餘惡行。彼一切皆無擇地獄果。若多行惡行者所受身。廣大而柔軟多受衆苦。餘無間業後不能壞。僧者。要族姓端正戒聞才辯。如是之人乃能壞僧。以彼自立爲大師故。犯戒者非增上。問云何壞僧答

大師及是道 諸比丘異忍
破壞和合僧 所謂見行增

大師及是道諸比丘異忍破壞和合僧者。謂比丘起如是希望。提婆達多是我大師非罪。彼所制五法。是道非八正。當知是壞僧。又說受籌見聞俱增。問何等人破僧。答謂見行增上者。見行人壞僧。惡希望故。非愛行人輕動故。問爲在家人壞僧爲出家。答比丘受具足比丘壞僧非在家非沙彌非比丘尼。若彼心住壞僧。即彼心是。果六識身一一現在前。壞僧覺亦如是。問何處壞僧爲幾人答

三方極少八 是則羯磨壞
閻浮提至九 是則法輪壞

三方極少八是則羯磨壞者。三天下羯磨僧壞。極少者至八。以四人名僧非三故。若於一住處界內。二部僧各別作布薩羯磨。當知是僧壞。問何處壞法輪爲幾人。答閻浮提至九是則法輪壞。閻浮提法輪壞非餘處。以此有道則有異道。若此有大師則有異師。極少至九人。乃至二部各別。有一人僧所同者。教僧者僧隨順者。教無慚愧部。謂提婆達也。問爲壞聖僧爲凡夫僧。答凡夫壞。非聖人。以正定聚故。不壞淨故。又說得忍凡夫亦不壞。已入決定聖僧世尊不壞眷屬故。問住何分

僧不壞。答

不結界前後 牟尼已涅槃
息肉未起時 及無第一雙

於此六時中 則無壞法輪

有六時僧不壞。謂不結界結界因緣前已說。亦非前亦非後。以此二分中僧一味故。亦非大師般涅槃後。無異師故。亦非未起惡戒惡見息肉。亦非未建立第一雙。以僧壞不經一宿別住第一雙還和合故。或有欲令七因緣不壞。謂大師在衆彼無威光故。非一切諸佛悉有壞僧由行故。問此五無間業何等最大惡答

妄語破壞僧 於諸業最惡
第一有中思 是說最大果

妄語破壞僧於諸業最惡者。壞僧妄語是爲最惡。以轉法身故。法者佛所重。以彼廣方便轉故。壞僧者惱亂大衆故。若僧壞未超昇離生者。不超昇離生亦無得果亦無坐禪學問思惟業生。大千世界法輪不轉。若僧還和合者未超昇離生者。超昇離生及得果。離欲漏盡坐禪學問思惟業生。大千世界法輪復轉。問此說妄語最大罪。又餘處說意業及邪見是諸大罪有何差別。答五無間罪中妄語爲最大。三業中意業爲最大。五見中邪見爲最大。復次報廣故妄語最大罪。惱大衆故意業最大罪。斷善根故邪見最大罪。問何等業最大果。答第一有中思是說最大果。以彼思於非想非非想處八萬劫壽以報果故說。解脫果者金剛三昧相應思最大。以彼思永斷

一切煩惱得果故。又說一思種八萬劫。然後多思成滿。如畫師先以一色作摸後布衆線。又說一時正受一行一緣。衆多思現在前。於中或有思受十千劫壽。有三十千劫四十千劫壽者。此說大劫數。

雜阿毘曇心論卷第三

雜阿毘曇心論卷第四

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

使品第四

已廣說業。彼業伴煩惱受種種生。非離煩惱。煩惱今當說

一切有根本 業侶生百苦
謂彼有七使 牟尼說當思

謂欲有色有無色有。此有貪欲等七使爲種。以煩惱故業。業故受生彼煩惱業伴生百苦。不離於業。煩惱轉時作十事。所謂根堅固分相續起於田生依果種業。有執自具愚於緣引識流越善業急縛義不合作越界方便。彼智者當知此義。如此七使爲九十八。今當說

界行種分別 說有九十八
十種修道滅 餘則見道斷

此七使界行種分別爲九十八使。彼七使中貪欲使於九十八使中以種分別爲五。嗔使亦如是。有愛使界種分別爲十。慢使界種分別爲十五。無明使亦如是。見使行分別爲五。

①僧十(壞僧) ②增二者 ③增一僧 ④見行二行見 ⑤愛行二行愛 ⑥果十(具) ⑦[非]一 ⑧入二八 ⑨僧十(增) ⑩業二法 ⑪昇二是 ⑫諸二說 ⑬[爲]一 ⑭摸二誤 ⑮絲二彩 ⑯緣二絲 ⑰此下聖本有光明皇后頌文 ⑱四二五 ⑲有二者 ⑳執二熱

行種分別爲十二。界行種分別爲三十六。疑使界種分別爲十二。是爲七使分別爲九十八。問此九十八使幾見斷幾修斷。答十種修道滅。餘則見道斷。愛慢無明界分別爲九。瞋恚爲十。餘八十八使見道斷。彼於諦暫見則斷。故曰見道。若數習道而斷。故曰修道。若見道所斷。是說見斷。若修道所斷。是說修斷。如是不覺心覺心九種一種九種九種。破石方便斷。藕絲方便。未見。爾炎觀。已見爾炎觀。彼斷時修四行道。是見道斷。彼斷時修十六行道。是修道斷。對無事對有事亦如是。已說使對治差別。謂種差別。今當說

使有二十八 是障於見苦 彼當見苦時 永盡無有餘 見斷八十八使中二十八障。見苦故見苦斷。斷義此品後當說

見集斷十九 當知滅亦然 增三見道斷 十說修道滅

見集斷十九使障。見集故見集斷。當知滅亦然者。見滅斷十九使亦如是。增三見道斷者。二十二使見道斷。十說修道。滅者。十使修道斷如前說。已說。使種差別。界差別今當說

第一煩惱種 在欲當知十 二種種有七 餘八見道斷

第一煩惱種在欲當知十者。如前說。初見苦斷煩惱種。彼十使欲界繫。二種種有七者。見集見滅斷各七使欲界繫。餘八見道斷者。見道斷八使欲界繫

欲界應當知 四是修道斷

謂餘上。二界 當知同可得 欲界應當知四是修道斷者。若修道斷煩惱四。是欲界繫。如是說欲界三十六使。謂餘上二界者。餘六十二使在色無色界。問幾色界繫幾無色界繫。答當知同可得。彼三十一使色界繫。三十一使無色界繫。已說界種差別。使自相今當說

所謂有身見 受邊見邪見 二取應當知 是五說名見

諸行從緣起而無知亂心。愚夫於五受陰若自若共起我我所審爾計著。是名有身見。於諸行受斷常審爾計著。是名受邊見。無施等審爾計著。是名邪見。於有漏法受第一審爾計著。取見等除等故是名取見見。於有漏行受淨等審爾計著。取戒等除等故是名取戒見。此五煩惱決斷故說見。此一邪見邪決斷故。以行差別故說五見。二取。梵音中亦可言取亦可實與理乖而意存求宗故言。選擇所受非道故言竊取。

貪欲疑瞋恚 慢癡說非見 境界差別轉 建立種種名

貪欲疑瞋恚慢癡說非見者。於彼境界樂著名貪欲於諦。或名爲疑。衆生非衆生數忿怒名瞋恚。族姓色力富勢伎術等方他卑等上起意自高名爲慢。於諦愚名爲癡。此五煩惱非慧性故非見。是爲十使。境界差別轉建立種種名者。此十使境界差別轉故建立種種名。此諸使若障見苦說見苦斷。如是障見集滅道說見道斷

下苦說一切 二行離三見

道除於二見 上界不行恚

下苦說一切者。下苦謂欲界苦。彼一切十使與見苦相違故見苦斷。二行離三見者。除身見邊見戒取。餘七使與見集滅相違故見集滅斷。道除於二見者。除身見邊見餘八使與見道相違故見道斷。問何故身見邊見見苦斷非餘耶。答苦處轉故。果處轉故。見彼則斷不遠隨至根。此見不隨根故初見諦則斷。問何故戒取見苦見道斷非集滅耶。答彼處起故異學於彼二諦相違非集滅。彼垢處故於集諦欲。洗浴處故於滅諦欲。若內法者見苦斷。外法者見道斷。問疑使何故不修道斷。答於事不見故疑。於事見故斷。彼方起見故無有見修道斷。上界不行恚者。色無色界除恚餘如欲界說。彼色界見苦斷九。見集滅斷六。見道斷七。修道斷三。無色界亦如是。問上二界何故無恚耶。答彼無有無慚無愧慳嫉憂苦性故。寂止養身故。得慈心故。無九惱性故。離不饒益相故。離一向不善故。二果故是瞋恚。已說使界建立一切遍今當說

普遍在苦因 疑見及無明 是使一切種 謂在於一地

見苦集所斷疑見。彼相應無明及不共。此十使當知地地一切遍。廣境界故。自地如是緣使五種。上不使下。非境界故。離欲故。斷知故。下不使上。劣非所使事故。依果不可得故。當知見諦所斷是一切穢汚法因。彼應如是。何以故。聖人不起無有愛瞋恚纏慢種現在前者。應說轉非分故。無有愛者斷見所

①爾二分②〔彼〕一③〔滅者〕道④六字一⑤〔使種差別界〕一⑥說十〔使種差別界〕⑦七二十⑧二一⑨梵二胡⑩此二瓶⑪二一⑫方二力⑬〔離〕一⑭地二他⑮劣十〔故〕⑯

長養隨斷見起。彼斷見滅故。曠纏者邪見所長養隨邪見起。彼邪見滅故。慢種者身見所長養隨身見起。彼身見滅故。已說自地一切遍。他地今當說。

他地為境界 除二見如前

地地九遍使 非想則不然

前說十一一切遍。除身見邊見餘九一切遍。從欲界乃至無所有處。是他地一切遍。彼欲界見苦斷邪見。若自若共謗色無色界果。見取受第一。戒取受淨。起疑或無明不了。欲界見集斷邪見。若自若共謗色無色界陰因。見取於因受第一。疑或無明不了。如是初禪見苦集所斷邪見。若自若共謗七地苦集。如是廣說。乃至無所有處見苦集所斷邪見。若自若共謗一地苦集。如是廣說。非想非非想處地無。他地一切遍。無上地故。界亦如是說。無色界無他界一切。地遍無上界故。問一切遍有何義。答一切有漏種普緣義是一切遍義。緣力持義是一切遍義。一切起一切眾生一切事故名一切遍。無有凡夫於有漏法本來不取我等行。問何故身見邊見說自地一切遍非他地耶。答見現境界故。此見見現境界。非下地生見上地。雖上地生見下地前已說上地使不緣下地愛悲慢自相起故。不緣他種。況緣他地。未離欲者雖樂上地。是欲非貪。

若緣苦邪見 是達於見苦

一地緣九地 緣集亦復然

若緣苦邪見是達於見苦。一地緣九地者。欲

界見苦斷邪見緣九地苦。從欲界乃至非想非非想處非一時。謂欲界非色界。若異者則斷知壞及界壞。初禪緣八地。二禪七地。乃至非想非非想緣非非想。緣集亦復然者。如說見苦斷邪見。見集斷邪見亦如是。問云何唯使是一切遍。復餘法耶。答

若一切遍使 同一果諸行

當知一切遍 非為諸得等

若一切遍使相應受等法及共有生等。彼亦一切遍。同一果故。和合故。相隨行故。前後無不合故。是名一切遍。一果等非线性故。得非一切遍。一切遍使。三事故。五種因緣五種使五種。彼相應法五種因緣五種不使五種。非使性故。彼共有法五種因。不緣五種不使五種。是故說。若一切遍使一切遍因作四句。一切遍使非一切遍因者。未來一切遍使也。一切遍因非一切遍使者。過去現在一切遍使相應共有法也。一切遍使一切遍因者。過去現在一切遍使也。非一切遍使。使非一切遍。因者。除上說

邪見疑相應 及不共無明

滅道之所斷 當知無漏緣

見滅見道斷邪見疑相應無明及不共無明。此六使當知境界無漏緣。彼見滅斷邪見誘於滅。疑惑無明不了於滅處轉。如是見道斷於道處轉。問見滅斷邪見為見滅誘耶不見耶。若見者。不應誘以見故。若不見者。不應無漏緣。答見誘。但邪見如有處人想誘處彼亦如是。問如欲界見苦斷邪見緣九地苦乃

至非想非非想處緣一地。見滅斷亦然耶。答不然。問云何。答

若滅境界見 自地諸行滅

是境界非餘 滅盡非因故

若滅境界見自地諸行滅是境界非餘者。欲界見滅斷邪見。緣欲界諸行滅。非餘初禪初禪乃至非想非非想處亦如是。問何故非他地。答滅盡非因故。滅盡者無為故非展轉因。非展轉因故自地諸行滅為邪見境界故非餘。謂善。知亦如是者。然何以故轉生相違故。善智者行諦與轉生相違。是故彼轉異穢污亦異。以有漏地因果斷故。謂見苦斷邪見亦自地苦為境界者不然。展轉相牽故。若生若依若立若因。展轉因故。問見道斷邪見云何轉。如見苦集斷邪。如見滅斷邪。答異轉。問云何。答

若道境界見 彼見則緣道

展轉相因故 六地及九地

道者展轉相因故。欲界見道斷邪見緣六地。法智品。色界無色界八地。見道斷邪見緣九地。未知智品唯法智。未知智展轉相因。若彼法欲界愛所潤見我所受。彼諸對治應欲界見道斷邪見緣。非此煩惱他地緣。如此論。未知智亦如是說。問滅道法智非色無色界法對治耶。是故彼智應為色無色界見道斷邪見境界。若非境界者亦不應說。若法色無色界愛所潤見我所受。彼諸對治應色無色界見道斷邪見緣。答俱全故無過。非全法智為彼界對治。雖滅道法智非苦

●他十(境界)●●他二地●●[地]一●●●復二非●●界十(無色界)●●●使二因●●●因二使●●知二智●●未知二比智●●[智]一●●●唯二難●●

集法智。亦非滅道法智全為色無色界對治。唯修道法智對治非見道。彼初非分故。是故汝所說不然。譬如樂根意行。意捨在欲地因六界樂根不在意行問何故貪恚慢見取戒取非無漏緣耶。答。

貪緣不應責 不為不饒益

寂靜第一淨 彼非無漏緣

智者見貪過。若無漏緣者不應見過。若不見過亦不應斷。若欲涅槃者。是善法欲則非貪愛。不饒益故起瞋。彼非不饒益。不寂靜故起慢。而彼寂靜。見取者第一行轉無漏法第一。若彼無漏緣者。應是正見非煩惱不顛倒故。戒取亦如是。問諸使何所使。答。

欲界一切種 一切遍使使

緣縛於自地 上地亦復然

欲界一切種一切遍使使緣縛於自地者。欲界一切遍使緣使欲界五種。問色無色界云何。答。上地亦復然。如是色無色界自地一切遍使緣使自地五種

謂彼諸餘使 當知緣自種

緣使自境界 一切所依品

謂彼諸餘使當知緣自種緣使自境界者。餘不一切遍及一切遍使。自相境界故。緣使自種法一切所依品者。若一切遍及不一切遍。若有漏緣若無漏緣。彼各使自品相應法

若使無漏緣 他地緣煩惱

自品相應使 境界解脫故

若使無漏緣他地緣煩惱自品相應使。若使無漏緣及他地緣自品相應使非緣使。何

以故。境界解脫故。此使境界解脫。以無漏法解脫一切煩惱。上地諸法解脫下地煩惱故。問一一使幾使。使。答。

彼使身見者 見苦所斷種

見集一切遍 見苦餘亦然

彼使身見者見苦所斷種。見集一切遍者。謂身見為見。苦斷。一切使所使。以自種故。及見集斷一切遍所使。廣境界故。問見苦斷餘使云何。答。見苦餘亦然。如說身見。當知見苦斷餘使亦如是。

如苦集亦爾 滅道有漏緣

盡使於自種 修道斷亦然

如苦集亦爾者。如說見苦斷。見集斷亦如是。滅道有漏緣盡使於自種修道斷亦然者。如是見滅見道。修道斷亦如是。差別者。見滅見道斷使自種有漏緣。使盡使自種及一切遍使使。亦無漏緣相應使使。問已知使諸使。使所。使。諸使。使。誰為緣。使。非。相應使。乃至誰非緣使。亦非相應使。使。答。

見苦使自品 緣使及相應

見相應無明 緣使餘亦然

彼身見身見相應無明二種使使緣及相應。餘見苦斷使及見集斷一切遍緣使非相應使。不同品故。餘使亦非緣使亦非相應使。身見相應非使。法身見及相應無明相應使亦緣使。餘見苦斷使及見集斷一切遍使緣使非相應使。餘使亦非相應使。如身見如是。邊見見苦斷邪見見取戒取疑貪恚慢亦如是。見苦斷無明於見苦斷無明及見集斷一

切遍緣使非相應。餘見苦斷使亦緣亦相應使。餘亦非緣亦非相應使。如見苦斷見集斷亦如是。見滅見道斷有漏緣及修道斷亦如是。差別者。若使相應可得。即彼使相應使及緣使

若滅境界見 彼俱生無明

諸一切遍使 有漏緣相違

若滅境界見彼俱生無明者。見滅斷邪見彼相應無明相應使。彼無明邪見相應使。彼相應法二俱相應使。問餘使復云何。答。諸一切遍使有漏緣相違。若一切遍及見滅斷種有漏緣使緣使。餘非相應使亦非緣使。以是義故當知餘無漏緣使亦如是。不共無明差別者。彼無相應使使

彼使與微入 隨入亦隨逐

是從三事起 當知不斷等

彼使與微入隨入亦隨逐者。彼使者作也。微入者性也。隨入者相應也。隨逐者得也。復次使者如乳嬰兒。微入者微細行也。隨入者如麻中油。隨逐者如空行影水行隨。問云何起彼使。答。是從三事起當知不斷等。三事故起貪使。因力境界力方便力。彼貪欲使不斷不知是因力。貪欲纏所緣是境界力。彼不正思惟是方便力。此說煩惱具足因緣不必要具三事。若必具三事起者不應退。當知一切使亦如是。問諸使為不善。為無記耶。答。

身見受邊見 彼相應無明

欲界中無記 色無色一切

身見受邊見彼相應無明欲界中無記者。欲

地二也(也) 行十(也) 地二界 使一俱 積二乘 使一(使) 諸二何 誰十(所) 使十(諸) 相二根 相應十(使) 使十(使) 為一(使)

界身見邊見及相應無明是無記。何以故。於
施戒。修不相違故。若計我者行施令我後世
得樂。亦持戒令我生天。亦修道令我得解脫。
斷滅見者順解脫。復次此見於自事中愚故
起。不為逼迫他起。彼計我者眼見色言。我
見非眼見。不我見色逼迫他。是故非不善
餘欲界煩惱是不善。色無色一切者。色界無
色界使一切無記。正受壞故。無苦受性故。不
善者苦受報。彼色無色界無。非色無色界有
欲界報。果報斷地故。問何使何處轉。答

貪欲瞋恚慢 過去或緣起
未來說一切 餘二世盡縛

貪欲瞋恚慢過去或緣起者。過去貪恚慢是
自相煩惱故。不能於一切有漏法起。貪者不
能不見不聞不思惟境界起。由方便故熾然。
或時有人於眼起愛非餘身分。恚慢亦如是。
未來說一切者。未來貪恚慢緣縛三世。一切
有漏法以三世緣故。餘二世盡縛者。見疑無
明是餘。彼共相起故。若過去未來縛三世有
漏法。現在使不定故不說。若有者若自相煩
惱現在前。即彼現在未來縛過去。若於彼起
已滅不斷。問非為過去使斷。即彼未來斷耶。
何故說過去起已滅不斷耶。答不以等種故
說。有時增上中種先起。彼若過去斷即彼未
來斷。於彼事中未來軟煩惱縛。是故無過。若
共相煩惱現在前縛三世一切有漏法。此則
總說。若五識身煩惱過去縛過去。現在縛現
在。未來若生法縛未來。若不生法縛三世事。
若意地者過去未來現在盡縛三世事。問云

何縛。答若眼識身煩惱縛所。縛。綠色。彼相
應法相應縛。彼相應法意入及法入。如是乃
至身識身煩惱縛所。緣觸。彼相應法相應縛。
若意地煩惱縛所緣十二入。彼相應法相應
縛。彼相應法意入及法入。彼婆蹉部說。人成
結成事成。阿毘曇者說。人不成結成事成。譬
喻者說。結成人不成事不成。境界不定有欲
無欲故。有時於彼起欲起起慢起嫉起厭
起悲起捨。已說使世建立。次第今當說

煩惱次第起 自地於自地
上地亦生下 當知隨次生

煩惱次第起自地於自地者。自地一切使於
自地一切。煩惱次第轉一一次第生一切。上
地亦生下當知隨次生者。上地煩惱次第生
下地煩惱。彼染污心命終起下地中陰生陰。
彼非想非非想地次第生八地。乃至梵世次
第生欲界。問此諸煩惱世尊說。扼流取受漏
縛。彼云何。答

有扼漂流取 泄漏與結縛
以是義故說 扼流取漏縛

苦所扼故說。扼。故彼四種欲。扼。有扼見
*扼無明。扼。問何故五見說見。扼。一無明立
一扼耶。答等摺故。問何故色無色界結除見
無明。餘立一有扼耶。答等正定地故。及隱
沒無記故。漂眾生故說流。彼亦四種。如扼
說。取有故說取。極執故。彼亦四種。欲取見取
戒取說我取。問何故無明說扼流。而不說
取耶。答非捷疾行故。執受義是取義。捷疾行
彼無明非捷疾行。以愚故不說取。問何故四

見說見取。一取說戒取耶。答等摺故。謂彼
能熾然業及違道故。內外可得故。外道不食
等苦作道想。內道糞掃衣等作道想。問何故
色無色界結說我取。非欲界耶。答內處起故。
色無色界結內向起自己緣故。欲界結外向
起故。是故說欲取。一切入處漏故。心漏連
注故說漏。彼三種。欲漏有漏無明漏。問何故
說見流見扼。不說見漏耶。答住義是漏義。
此見捷疾於住不順。是故餘不捷疾。煩惱雜
已說。漏漂義是流義。見於漂順。是故建立
流苦。繫義是縛義。問扼流取漏縛有何性。
答

數有二十九 亦說二十八
三十六十五 欲等扼流性

彼欲扼性二十九。貪五恚五慢五疑四十纏
纏此品後當說。有扼二十八。愛十慢十疑
八。見扼三十六。五見界行種分別三十六
無明扼界種分別有十五。流亦如是

謂前三十四 次種說三十
第三者說六 第四三十八

欲取性三十四。貪五恚五慢五無明五疑四
十纏。見取三十。除戒取。戒取性六。戒取界
種分別有六。說我取性三十八。愛十慢十無
明十疑八。色無色界有二纏。睡及掉纏。非界
種分別。前已說故。此中不說

說彼欲漏性 當知四十一
有漏五十二 無明漏十五

欲漏性四十一。貪五恚五慢五疑四見十二
十纏。有漏性五十二。愛十慢十疑八見二十

①修不相違一連修不相②彼一故③盡二緣④共二六⑤[縛]一⑥[緣]一⑦緣一縛⑧自一因⑨扼二願⑩*

四。無明漏性十五。此百八煩惱。* 扼義故說
* 扼漂義故說流。取義故說取。為漏義故說漏。問諸煩惱種云何起。答

無知故猶豫 猶豫故邪見
因此邪見故 轉生諸身見

初以無知故苦不欲。乃至道不欲是名無明。無明故猶豫。苦非苦耶。乃至道非道耶。是無明轉生疑。疑故求決定。若得正方便生正決定。則有苦集滅道。若邪方便生邪決定。則無苦集滅道。是疑轉生邪見。若此非苦者則是我。是邪見轉生身見

從是起邊見 戒取戒想取
於彼決定已 次第生見取

彼於我見變壞便見斷。若見相似相續便見常。是身見轉生邊見。若見一邊淨。是邊見轉生戒取。若淨者是為第一。是戒取轉生見取

自見則生欲 他見則起恚
自見舉名慢 從使轉生纏

彼自見生染。他見起恚。自見舉慢。是從見起貪。恚慢從使生上煩惱纏。問何者是。答

無慚與無愧 睡悔慳嫉掉
眠忿及與覆 是上煩惱纏

十纏。所謂無慚無愧睡悔慳嫉掉眠忿覆。此相行品已說。謂此是使依。依者。梵音膩山。地膩山。津液如。蘇蜜。瓶。出也。問何纏何使依。答

無愧睡與眠 此三無明依
掉慳及無慚 是從貪欲生

無愧睡與眠此三無明依者。無愧睡眠當知無明依。問若彼纏是無明依者。以無明相應

耶。答若無明依即無明相應。或無明相應非無明依者。餘七纏是。掉慳及無慚是從貪欲生者。掉慳無慚纏是貪欲依。問若纏是貪欲依。即彼相應耶。答作四句依不相應者。慳纏是相應不依者。無愧睡眠是。亦依亦相應者。掉及無慚是。非依非相應者除上說

覆纏二使依 悔則因猶豫
忿嫉瞋恚依 明智之所說

覆纏二使依者。或說覆纏是愛依。以愛力故覆藏。有說是無明依。以無知力故覆藏。悔則因猶豫者。悔纏是疑依忿嫉瞋恚依。明智之所說者。忿嫉纏是瞋恚依。問此煩惱垢有六。何依。答急縛是纏。輕繫是垢。是十纏六垢差別義也。

所謂煩惱垢 害恨瞋恚依
誑高依貪欲 是義應當知

所謂煩惱垢害恨瞋恚依者。害及恨是瞋恚依。誑高依貪欲是義應當知者。誑高垢是貪欲依

所謂五邪見 諂依由是生
說依見取果 是惱應當知

所謂五邪見諂依由是生者。五見起諂依。健疾故。說依見取果是惱應當知者。惱垢是見取依。問何纏與何煩惱相應。答

一切煩惱俱 說睡及與掉
無慚不善俱 無愧亦復然

一切煩惱俱說睡及與掉。此二纏一切煩惱相應。一切穢污心不寂靜故當知掉。煩惱現在前心無所堪。故當知睡。雖掉掉不相應及睡睡不相應。自性故以少故不說。當知使

即煩惱。彼纏一切煩惱俱故。五種六識身三界不善及無記。無慚不善俱無愧亦復然者。此二纏一切不善使相應。一切不善心現在前。壞恭敬不畏罪。是故彼纏說五種六識身不善故欲界繫

悔。在於意苦 修道之所斷
眠唯在欲意 餘各自建立

悔在於意苦者。悔在意地。捷疾故。以愁。戚起故。憂相應故。苦受所攝故在欲界。問此何斷。答修道之所斷。善行惡行中生故修道斷。眠唯在欲意者。眠在欲界意地。眠時一切煩惱共行。是故欲界一切煩惱相應。餘各自建立者。餘纏上煩惱各自建立。所謂忿覆慳嫉不與餘使相應。除無明當知悔亦自建立。餘煩惱行非性故。問何故慳嫉立九結中。非餘耶。答

所謂慳與嫉 獨立離於二
是故此二纏 立於九結中

慳嫉二纏自力起故。獨立一向不善故離於二。以是故立於九結中。睡掉者一切煩惱俱故不獨立。不善及無記故不離二。眠亦與餘使相應故不獨立。善不善無記故不離二。無慚無愧雖離二而不獨立。悔雖獨立而不離二。善不善故。忿及覆雖獨立亦離二。或有欲令是使性彼記有八纏睡眠。若善者當知非纏。纏一向穢污故。問愛何故立一結而二使或三或六耶。答得一縛相故立一結。正定地不定地故說二使。界別故說三。依別故說六。問何故三見立見結。二見立他取結耶。答名

即煩惱。彼纏一切煩惱俱故。五種六識身三界不善及無記。無慚不善俱無愧亦復然者。此二纏一切不善使相應。一切不善心現在前。壞恭敬不畏罪。是故彼纏說五種六識身不善故欲界繫

○[為]一○ ○蘇二麻○ ○瓶二羯○ ○[也]一○ ○以二與○ ○六十(為)○ ○健二捷○ ○在二不○ ○威二悲○

等故。事等故。身見邊見邪見是女。名十八使自性。是故立一結。他取結是男。名彼亦十八使自性。是故立一結。是故如是說。若見相應法愛結繫。非見結亦非不見使使。若集智生滅智未生見滅見道斷。見取以彼一切遍見結斷故。雖自種見結不斷。而不緣彼無漏緣故。非相應異品故。非見使不使。以五見爲見使。三見爲見結故。已說煩惱自性。根相應今當說。

諸使在三界 盡捨根相應 隨地諸根使 相應至色有

諸使在三界盡捨根相應者。三界一切使捨根相應。何以故。隨順一切。煩惱故。與欣。戚及俱煩惱轉行故。以一切煩惱皆處中而息故。若異者無離煩惱。是故捨根得五種六識身三界。隨地諸根使相應至色有者。謂喜根樂根乃至梵世。彼諸使喜根樂根相應。光音天亦有喜根。彼地使喜根相應。遍淨天有樂根。彼地使樂根相應。果實天有一捨根。彼諸使捨根相應。非餘。愛等是欣煩惱。瞋是瞋煩惱。同共一。邪見是俱煩惱。根悉與彼相應。緣行也。

邪見及無明 欲界中樂苦 瞋恚疑唯苦 謂餘一向樂

邪見及無明欲界中樂苦者。邪見起惡業則喜。淨業則憂。無明一切根相應。瞋恚疑唯苦者。欲界疑不決定故不喜。是故苦受相應。初禪二禪無餘根性。與喜根相應。欲界喜根龜故。衆生不應起而起。如貧賤人常戲笑隨彼

事不應起而起。欲界疑微細故不與喜根相應。瞋恚憂。戚行起故苦受相應。謂餘一向樂者。欲界餘煩惱樂行起故樂受相應。

謂。勤二相應 見斷唯應意 欲界諸煩惱 說諸根相應

謂。勤二相應者。修道斷煩惱名爲勤。身受謂。勤二相應者。修道斷煩惱名爲勤。身受相應及心受若。六識身者。彼五根相應如所起隨其義說彼苦根欲界樂根。五識身喜根憂根意地捨根。六識身一切身受修道斷意俱有見斷。唯應意者。見道斷煩惱在意地。意識諸根相應非隨事起故。欲界諸煩惱說諸根相應者。此說欲界諸煩惱。上地隨地根相應亦如是說。問諸種何根相應。答。睡掉無慚無愧五根相應。眠三根。除樂根苦根。忿悔嫉恨害惱憂根。及捨根覆誑誑三根。除樂根苦根喜根及捨根高三根。除苦根憂根。以高意地故。三界喜行轉故。問諸使幾識相應。答。

貪欲瞋恚癡 當知六識俱 謂欲隨道斷 上地隨所得

貪欲瞋恚癡當知六識俱謂欲修道斷者。欲界修道斷欲恚無明六識相應。上地隨所得者。色無色界無瞋恚。愛無明隨有識身即彼相應。謂梵世四識身可得。即彼地二使四識相應。

無色界一切 非事慢意地 當知彼七使 自性果及人

無色界一切者。謂使無色界見道斷及修道斷。非事慢意地者。欲色界見道斷及慢。此諸

使在意地。雖上三禪亦意地。以界分別故不說地。問云何知使。答當知彼七使自性果及人。三事故知使。謂自性果及人。彼自性者。貪欲使如與渠。勤。瞋恚使如苦種子。有愛使如嬰兒衣。慢使如憍人。無明使如愚癡人。見使如迷失道。疑使如惑二道。果者。貪欲使修習多修習生鴛鴦。雀等衆鳥中。瞋恚使修習多修習生虺蛇中。有愛使修習多修習生色無色界。慢使修習多修習生卑賤中。無明使生闍冥中。謂世界中間。見使生邪見家。疑使生邊地。及人者。貪欲使當觀如難陀等。瞋恚使如央掘魔等。有愛使如阿私多阿羅蘭鬱。

頭藍子等。慢使如慢高兒等。無明使如醉羅迦葉等。見使如須那利多羅等。疑使如摩訶迦葉等。以此三事知使者則能遠離。如知嶮道。滿煩惱爲使。不滿煩惱爲纏。是故纏不立使。煩惱垢亦如是。以是五事具故名滿煩惱五事者。謂諸結縛使上煩惱纏。若一一不具名不滿煩惱。已說煩惱建立。斷煩惱今當說。

一時斷煩惱 正智之所說 如此諸解脫 亦非一時得

一時斷煩惱正智之所說者。此諸煩惱頓斷不漸漸。謂自分對治起時。而苦法忍起。欲界見苦所斷十使頓斷。苦未知忍。色無色界十八使頓斷。如是乃至道未知忍。十四使頓斷。修道。漸漸聖道起。上上四使頓斷。乃至上上聖道起。漸漸四使頓斷。如是一切地。問見道一時斷應爾。以一種道斷九種結故。修道

①見取戒取四字宋元明宮四本俱作本文 ②[取]一③* ④疑二疑⑤ ⑥[也]一⑦ ⑧樂苦二苦樂⑨ ⑩勤二黑⑪* ⑫六二心⑬ ⑭[者]一⑮ ⑯雀二首⑰ ⑱頭二投⑲ ⑳漸漸二軟軟⑳*

斷者。以九種道斷九種結。云何一時斷答修
道斷者。若此種對治起。即此種頓斷不漸漸
初已斷故。如此諸解脫亦非一時得者。彼諸
解脫數數得。謂欲界見苦諦斷。及色無色界
見苦集滅斷。六時得。謂自分對治時。及四
沙門果時。及增益根時。色無色界見道斷五
時得。除自分對治。以道未知智初得故。欲界
修道斷五種五時。除須陀洹果。三種。四時。
軟軟

種三時。色無色界七地及非想非非想地八
種三時。除前三沙門果。軟軟種二時。阿羅
漢果及增益根。問諸煩惱云何斷。答
謂彼緣中覺 及說彼緣斷
亦說得對治 又復彼緣滅

四事斷煩惱。謂知緣。緣斷。得對治。彼緣滅。
知緣者。見苦見集斷自界緣及無漏緣。緣斷
者。見滅見道斷有漏緣。得對治者。修道斷
彼緣滅者。他界緣。復次五事斷煩惱。謂因永
滅。得斷轉依。知緣。得對治。已說斷煩惱因
緣建立。斷知今當說

欲界中解脫 聖說四斷知
離色無色界 當知五斷知
九斷知欲界煩惱斷立。四斷知色無色界煩
惱斷立。五斷知雖智知而斷。是智果故說斷
知。如業果亦名業

苦集煩惱盡 總說一斷知
滅道斷各一 如欲上亦三
彼欲界見。苦集煩惱盡立一斷知。見滅斷
二。見道斷三。如欲界。色無色界見苦見集斷

亦立一。見滅斷二。見道斷三。此品後廣說

修道斷當知 三界斷說一
三斷是智果 餘則說忍果

欲界修道斷一斷知。色界斷二。無色界斷
。此三當知是智果。問以何等故色無色界見
道。斷立一斷知修道斷立二耶。答見道斷同
對治故。修道斷不同故。問餘斷知何果。答除
則說忍果。見道斷盡六斷知。說忍果。忍對治
故。見道斷盡若言忍果。非斷知者不然。謂忍
智眷屬故。與智同一果故。是故見道修道斷
俱得名智果。已說斷知是智果。謂若地若道。
若法智未知智。若彼同品果今當說

初地說一切 禪五亦復八
無色說一果 眷屬果亦然

初地說一切者。未至依具九斷知果。彼三界
對治故。禪五亦復八者。阿毘曇者說。根本禪
五斷知果。謂色無色界煩惱斷。如前說。尊者
瞿沙說。有八除五下分結盡斷。知。是未至依
果故。彼欲令欲界見諦斷盡。是禪果禪中間
如禪說。無色說一果者。三無色定說一斷知
果。一切結盡是。眷屬果亦然者。如色空處
眷屬亦說一斷知果。色愛盡是。雖四地修道
斷盡建立斷知。但第四禪軟軟種盡得斷知
名。是故說是空處眷屬果

世俗道果二 聖九法智三
未知智說二 彼品果六五

世俗道果二者。五下分結盡及色愛盡。是世
俗道果。謂聖人以世俗道斷二界結故。聖九
者。一切九斷知是聖道果。以聖道對治一切

煩惱故。法智三者。三斷知是法智果。五下分
結盡色愛盡及一切結盡。是以修道法智斷
三界結故。未知智說二斷知是未知智果。色
愛盡及一切結盡。是以色無色界修道果故。
彼品果六五者。法智品果有六斷知。欲界見
道斷三。及前說法智果三。未知智品五斷知
果色無色見道斷三。及前說未知智果二。問
誰成就幾斷知。答

或有諸聖人 未成就斷知
或成一二三 四五及與六

見道五心頃不成就斷知。集法智集未智忍
一。集未知智滅法忍二。滅法智滅未知忍三。
滅未知智道法忍四。道法智道未知忍五。須
陀洹六。向斯陀含品果者。若倍欲盡超升
離生如前說。若次第向成就六。斯陀含果亦
六。向阿那含果。若欲愛盡超升離生如前
說。若次第向成就六得阿那含果一。下分
結盡是向阿羅漢果者。若色愛未盡一。色愛
盡二。阿羅漢果一。一切結盡斷知是。問誰捨
幾斷知。答

捨一二五六 如捨得亦然
得果及度界 二處斷知集

捨一二五六者。阿羅漢果退捨一斷知。色
愛盡阿那含色界纏退捨一。若色愛未盡欲
界纏退捨一。色愛盡阿那含果欲界纏退
捨二。得阿羅漢果捨二。若欲愛盡超越阿那
含捨五。次第捨六。問誰得幾斷知。答如捨
得亦然。或有得一斷知。見道第六第八第十
第十二第十四。乃至道未知智心一一得一

①四十(種)②苦十(見)③後十(當)④[此]一⑤[斷]一⑥非二五⑦是二若⑧[者]一⑨知二智⑩
[如色]一⑪如色二如⑫四十(修)⑬[知]一⑭六五二五六⑮二者二斷四字宋元明宮四本俱作本文
⑯合二舍⑰[果]一⑱超二起⑲升二界⑳[五]一㉑[阿]一

次第。阿那*合果得一。五下分結盡是聖人色愛盡一。色愛盡是阿羅漢果一。一切結盡是得二者。阿羅漢無色界纏退得六者。若阿羅漢若阿那*合欲界纏退無有得五者。是故經中無。問此斷知何處集。答得果及度界二處斷知集。此斷知二處集。阿那*合果阿羅漢果。以彼處得果。即彼度界。是故下分結上分結斷時得道未知智生。六種斷雖得果非度界。色愛盡雖度界非得果。餘非度界亦非得果。是故此諸斷知處不名為集。已說建立自性果成就捨得集。若因緣彼斷得斷。知名。今當說

謂彼二因滅 離繫及度界
得於無漏得 及缺第一有

以四因緣故。或五彼斷得斷知名見道。四因緣謂俱因滅。俱繫離。得無漏解脫得。及缺第一有。彼苦法忍苦法智苦未忍生非俱因滅。雖見苦斷因滅非見集斷。以是義故非俱繫離。雖得無漏解脫得。未缺第一有故。如是一因緣合。三因緣不合。苦未知智集法忍生。雖得無漏解脫得及缺第一有。餘二因不具。是故此處不立斷知。集法智生俱因滅。謂先見苦斷因滅。今見集斷因滅。當知亦是俱繫離得無漏解脫得。苦未知智生時。已缺第一有。是故此處建立斷知。集未知智生一切因緣具。是故此處建立斷知。如是滅法智第三。滅未知智第四。道法智第五。道未知智第六。此說見道也。修道斷五因緣。前四及界永斷是為五。欲界修道斷煩惱九種展轉相縛。乃

至非。相非非想地亦如是。彼欲界一種斷。乃至八種具二因緣。謂得無漏解脫得及缺第一有。三因緣不具。第九種滅具五因緣。是故此處建立斷知。初禪一種斷。乃至八種具二因緣非餘。如前說。第九種斷具四因緣。一因緣不具。謂度界。第二第三禪及三無色亦如是。第四禪地乃至八種斷具二因緣非餘。第九種斷具五因緣。是故此處建立斷知。非想非非想亦如是。以是義故凡夫離欲不立斷知。以彼不得無漏解脫得亦不缺一有故。已說斷知三種境界五種愛生今當說

好境俱不俱 彼二種愛生
惡境二亦然 一則謂為捨

好境俱不俱彼二種愛生者。好名可愛樂境界。若得彼境界不離愛生。云何令我於此事不離。若未得者想得愛生。云何當得。惡境二亦然者。惡名不可愛樂境界。彼亦二種。愛生俱者離想愛生。不俱者不得想愛生。一則謂為捨者。捨名境界非可愛樂非不可愛樂。一向愚愛生。問彼使為心相應為不相應。此何所疑。二師異說故。毘婆闍婆提。欲令不相應。有多婆提。欲令相應於此有疑答相應何者

謂使煩惱心 障礙不違淨
妙善心可得 非不相應使

使有二事故惱心緣及相應。若使心不相應者。不應於緣中惱心。以彼無緣故。一切心不相應法。無緣亦不相應。非有相應法故。心為使所惱。如所說貪欲惱心故心不解脫。

以此說故知使心相應。障礙者。若使心不相應者。道生時不應障礙。不違心相續故。以障礙故非不相應。不違淨者。若使心不相應。不應與善心相違。與善心一時俱生。不應作過作過故是故非不相應。復次。善妙心可得。功德相違故名使。若使心不相應者。彼常行故。善心應無生處。善心生故當知非不相應。復次說著相等故。云何貪使。謂染著相。云何瞋使。謂心法惱。云何慢使。謂心法學。如是比。是故使心非不相應。若纏善心相違非使者不然。何以故。得使相故。貪欲纏故名貪欲纏。如是比。不說差別因。俱是貪欲。而言纏相應使不相應者。但有言說。竟不說差別因緣。若言纏以使為種子者。所說不成。因不相應果相應故有過。是使非不相應

雜阿毘曇心論卷第五

雜阿毘曇心論卷第五

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

實聖品第五

已說諸煩惱。修行今當說

初則名始業 次則已習行

思惟已度者 當知第三種

三種修行。謂始業已習行思惟已度始業者。不淨轉。未曾得境界解思惟分。已習行者。受自相念處轉。未曾得決定分善根。此上當

①知二如②相一想③得一彼④有⑤善妙二妙善⑥是十故⑦第⑧聖本首缺⑨五二六

知思惟已度。以此上一乘道故。復次不淨觀亦三種修行。謂從足指起乃至頂。除去皮血肉意解思惟。是名始業。於此骨。瑣不作想生周遍大地。又觀骨。瑣不作想。彼骨。瑣展轉相對大風飄搏消為雪聚。是名已修行。略觀骨。瑣還至自身。於其所緣清淨寂靜唯觀一色。是名思惟已度。如是乃至略境界。當知善根漸增。當知一切餘方便善根亦如是。已說修行。餘今當說。

若此煩惱怖 遠離諸賢聖 如實正具足 方便應善聽

若者。若種若方便若分別。此者。次第說示煩惱煩惱者。熱惱故。亦離一切有漏。但煩惱過如毒飯。是故說離煩惱衆恐怖本者。起種種業種種生。遠離者。數滅滅。賢聖者。正定聚。謂七人及真實凡夫。如實正具足者。謂住真實道。方便應善聽者。彼方便道當一心聽。方便者。一切善法方便。向解脫行施等起非唯道。三苦所逼迫世間不能覺。欲令修定故。

始於自身分 繫縛心令定 欲縛於識足 為盡智慧怨

始者。先也。自身分者。自身中一處也。若眉間鼻端及足指。繫縛者。安立緣中令不散。何所安立。謂自心定力故起智慧。問何故。答欲縛於識足。心流轉不住故縛一緣中。一心故知真實不亂。問何故縛一緣中。答為盡智慧怨。智慧怨者。謂諸煩惱彼應斷。雖觀他身如觀死尸。契經說。以彼遠因故。此說近因觀。又隨順一切度門故。謂觀白骨身分隨

順三度門。觀死尸唯隨順一不淨度門。三度門者。謂不淨觀安般念界方便觀。彼貪欲者以不淨觀度。覺觀者以安般念度。見行者以界方便觀度。如師所授隨樂修行。不淨觀安般念。契經。品廣說。界方便觀今當說。此以愚夫不正思惟障蔽慧眼。不觀真實緣起之法。宿業煩惱無量法。積聚五陰起積聚想。以愚惑故。於緣起所作中。計我作等諸邪見縛。或時修行近善知識。得聞正法起正思惟已。能於自身界方便。觀此身種種自性種種業種種相。謂地等六界。彼地界為水界潤故不相離。水界為地界持故不流散。火界成熱故不淤壞。風界動搖故得增長。空界空故食等入出。識界合故有所造作。又觀此身從足至頂種種不淨穢惡充滿。觀察此色猶如猛風飄散積沙。於無色法先後相續異分觀察。如是觀者。得空解脫門種子。於彼生死厭離不樂。得無願解脫門種子。於生死不樂已正。向涅槃。得無相解脫門種子。若於此得不作想覺已。觀一切有為皆悉散壞。是名界方便滿。問如是觀已復云何。答。

是方便於身 真實相決定 諸受及自心 法亦如是觀

彼修行者不淨觀安般念界方便觀。一一住已。身受心法各觀真實。真實者不顛倒。相者二種。謂自相及共相。色相是身。自相四種。及所造隨覺相是受自相。識相是心目相。法念處有種種法種種各異相。隨知是想相。為作是思相。如是比。共相後當說。問此念處

如大地建立應說一。有漏無漏分別應說二。軟中上分別應說三。即此有漏無漏分別應說六。身等有漏無漏分別應說八。九品分別應說九。身等若內若外若內外分別應說十。九品有漏無漏分別應說十八。身等軟中上有漏無漏分別應說二十四。身等若內若外若內外若厭離若不樂若觀察分別應說三十六。身等九品有漏無漏分別應說七十二。若念念分別應說無量。何故說四念處耶。答四倒四念四識住及陰。以四種修所治故。說四種隨修法。彼治不淨淨想顛倒故說身念處。治苦樂想顛倒故說受念處。治無常常想顛倒故說心念處。治無我想顛倒故說法念處。如是餘種種隨所應說。問此念處云何滿。答以二因緣滿。謂壞境界及善根增。壞境界者。以極微利那壞境界隨其義。善根增者。謂依軟善根中依中增。是名為滿。問何故前說身念處。後乃至法念處耶。答起隨順故。世尊說三種隨順。起隨順。說隨順。無間等隨順。起隨順者。謂念處及禪。無色修行者。前起身念處乃至後起法念處。是故世尊前說身念處乃至法念處。當知禪無色亦如是。說隨順者。正斷如意足根力覺道。枝乘。一刹那起精進具四正斷說易故。已生惡不善法方便令斷。乃至已生善法方便令住。如是廣說。如是正斷。以所作故說四正斷。非自性故。無間等隨順者。說真諦修行者先入苦無間等故。是故前說廣說如是。問何故修行者先起身念處乃至法念處耶。答龜故。五陰何者

除二際(一) 瑣一(二) 身二分(三) 覺觀二思覺(四) 品十(當)(五) 此以二以此(六) 自二此(七) (種)一(八) 向二(九) 當二相(十) 念一食(十一) 枝二支(十二) 令二今(十三) [自]一(十四) 廣說如是二如是廣說(十五)

龜。謂四種及所造。是故先觀受。雖非色以行龜故次說。謂手足等痛受則隨轉。雖想行陰龜非識。而與涅槃合施設。法念處故彼最細。是故先觀心後觀法。雖一切悉是法。此於法想滿故建立。是故說一法念處非餘。如界品中說。法入此中亦爾。想滿於。聲是。想於。名滿。問幾種念處。答

三種說念處 自性及其共
亦說名為緣 閑等慧亦然

三種說念處自性及其共亦說名為緣者。三種念處。謂自性念處。共念處。緣念處。自性念處者。說不顛倒。惠。何以故。如說順身。觀身觀者。是。惠念者所作事。不忘授緣故。除自性過故說念處。共念處者與正慧一果法。如世尊說。比丘善法積聚。謂四念處。是為正說。緣念處者。一切法如所說。比丘一切法說四念處。是為正說也。攝受具故。及略緣故。共念處斷煩惱非餘。自性念處雖有略境界。彼具不足故。攝受具道斷煩惱。緣念處雖攝眾具。然境界普散故。略境界道斷煩惱。問唯此念處三種。餘亦然。耶。答聞等慧亦然。餘亦三種。謂聞思修。聞者常於名處起。從師受契經律阿毘曇思者或思處起。或離思。修者一向離名起。如三人學浮。一始學二半學三善學。始學者近岸。半學者或近或離。善學者離岸。初人者譬聞慧。第二者譬思慧。第三者譬修慧。修慧能斷煩惱永離名故。及正定故。謂二種無義者不然。何故。趣修慧故。修慧者具四念處。身受心法。彼法念處斷煩惱非

餘。總境界故。非餘。事境界故。起法念處故亦非無義。法念處二種。壞緣不壞緣。若慧緣色是身念處。若緣受是受念處。若緣心是心念處。若緣想行及無為是不壞緣。法念處餘今當說

入法中總觀 得法真實相
此四是無常 空無我非樂

入法中總觀得法真實相者。修行者入不壞緣法念處。修一。一念處。遍觀一切法自相共相已。入壞緣法念處。色。受緣念處。色。想緣色行緣色識緣。如是三四五陰緣。是法念處。成一切身受心法念處。一覺總觀度此云何。此四是無常空無我非樂。以無常等行總觀一切有漏法。彼念念滅故無常。離常等故空。不自在故無我。實逼迫故苦

從是名為煖 於法覺而生
十六行等起 觀察四聖諦

從是名為煖於法覺而生者。彼修行者於壞緣法念處次第生善根名為煖。問幾行何境界。答十六行等起觀察四聖諦。彼煖法行苦諦等十六行。彼苦聖諦四行。乃至道聖諦四行。行義智品當廣說。彼煖法生。緣三諦法念處現在修未來四。一行現在修未來四。自分非不自分。緣滅諦法念處現在修即此未來修。非初離陰觀得修緣陰道。一行現在修未來四。緣三諦增進四念處。一。一念處現在修未來四。一行現在修未來十六。緣滅諦增進法念處現在修未來四。一行現在修未來十六。修未增善根。修自分行會善根。現在

修修自分不自分行。煖法是慧自在隨轉法則五陰性。煖者生聖智火故。煖為種故說煖法

是法增長已 生頂及於忍
得世第一法 依於一剎那

是法增長已生頂及於忍者。修行者正方便正憶念增長。得隨順善業眾具故。煖法得增長。次生善根名為頂。緣四聖諦行十六行。彼頂法緣四諦緣滅諦增進法念處現在修未來四。一行現在修未來十六。緣三諦增進四。念處一。一現在修未來四。一行現在修未來十六。此善根亦慧性隨轉法五陰性。頂法者在煖上故曰頂。劣於忍名為下。或時世尊說。信如為波羅延說。或說慧如為諸年少比丘說受事。於此頂退名頂。退名頂墮。煖亦應有墮但不說。頂墮者以多憂惱故有。三處起大憂惱如失大寶。謂非想非非想離欲退離欲界欲。及頂法退者名不成就性。彼修行者於此正方便成就頂善根。增進生諦順忍。緣四諦行十六行。初忍及增進法念處現在修未來四。一行現在修未來十六。忍者於四聖諦堪忍欲樂。煖頂亦堪忍者不然。忍不退故。遠惡趣故。近聖道故。是故說諦順忍非煖頂。問忍增長生何善根。答得世第一法依於一剎那。謂增上忍次第緣生。凡夫所得最勝善根。名世間第一法。此亦五陰性。彼有漏故名世間。勝煖等故說第一。此亦凡夫所修最上功德。一剎那不住故。似見道故。煖頂忍相續故。有說。彼慧修一切總觀法念處。次第生

名滿一名名滿也 惠一慧 觀身一身觀 耶一也 何十(以) 起二應 受二受 想二相
〔彼〕一 增二會 會二增 〔自〕一 在二性 〔在〕一 〔退名頂〕一 退十(退) 慧修二修類

決定分世間行善根。彼建立九品彼軟軟軟中軟上名煖法。中軟中中名頂法。中上上軟中中名忍法。上上名世間第一法。若觀陰無常等善根名煖法。觀三寶功德名頂法。觀察聖諦名忍法。觀苦聖諦次第聖道名世間第一法。彼得煖法已。若退捨若命終捨若度界地捨。亦起無間業斷善根生惡趣中。緣此福故要得涅槃。頂法退亦如是。唯除斷善根。忍則不退。有命終捨及度界地捨。不作無間業不斷善根不墮惡趣。以忍大力故。如師子王群獸遠避。忍力如是。一切惡心非數滅亦如大王之所住處。人天惡行心皆柔軟。問世間第一法何緣幾行。答

下苦有四行 說攝依六地 忍法亦如是 謂餘或依七

下苦有四行者。欲界苦說。下。彼世間第一法所緣。無常苦空。無我行轉非餘。似見道故。有二種修行者。愛行及見行。愛行有二種。我慢行及懈怠增。見行亦二種。我及我所計著。我慢者。修無常行世間第一法。懈怠增者。修苦行。我行計著者。修非我行。我所計著者。修空行。問幾地所攝。答謂攝依六地。未來中間根本四禪。非欲界。無定故。非無色界。無見道故。問餘決定。分善根幾地攝。答忍法亦如是。謂忍六地攝。如世間第一法。謂餘或依七者。煖頂亦六地。尊者瞿沙。欲令欲界亦有。問已說決定分次第起。聖道次第起復云何。答

世間第一法 次生苦法忍

忍次生於智 俱觀於下苦

世間第一法次生苦法忍。世間第一法次生苦法忍。欲界見苦斷十使對治。是則初無漏無礙道。復次世間第一法次第不作不向不行。捨邪業邪趣邪見。邪業者五無間業。邪趣者惡趣。邪見者五見。又世間第一法分苦法忍作五種定。謂地定行定緣定利那定次第緣定地定者。若此地世間第一法。即此地苦法忍。行定者。若此行世間第一法。即此行苦法忍。緣定者。必同緣故。利那定者。若此利那背。即此利那生。次第緣定者。世間第一法次第必生苦法忍。增上忍分作三種定。除利那及次第緣。以是故緣苦忍。後得超。昇離生。彼思惟欲界苦及色無色界苦乃至色無色界行對治。是名下忍。彼復思惟欲界苦乃至欲界行對治。捨色無色界行對治。是中忍。彼一一諦觀察捨還。乃至欲界苦相續修。然後復捨。相續乃至欲界苦一利那思惟。是增上忍。然後生世間第一法。忍次生於智者。苦法忍次第生苦法智。解脫道自性。問此忍智何緣。答俱。觀於下苦。下苦是欲界苦。彼苦俱觀

謂色無色苦 集滅道亦然 此法無間等 說是十六心

謂色無色苦者。色無色界苦亦如是。苦比忍無礙道。苦比智解脫道。集滅道亦然者。集滅道諦亦以二忍為無礙道。二智為解脫道。此法無間等是說十六心者。此十六心頃為法無間等。無間等是見義。此十五心頃是見

道。最後一心是修道。問何故三諦忍及智見道攝。道諦最後心修道攝耶。答修十六行道故。道比智相應修十六行。非見道修十六行道比智相續故。果道所攝。謂不應者不然。如盡智成者此則成。若此非分者無學道亦非分。略說三地。見地修地無學地。於此諸地建立人。如是義今當說

隨法行利根 此在十五意 隨信行鈍見 當知亦在中

隨法行利根此在十五意者。見道十五心人。若利根說隨法行。隨法行故說隨法行。不從他信故。隨信行鈍見當知亦在中者。即此十五心人。若鈍根者說隨信行。信他得度故。隨信行者少觀察。隨法行者多觀察

隨信隨法行 若具煩惱縛 乃至五種斷 當知向始果

此隨信隨法行人。若具煩惱縛。若一二三四五種斷名向須陀洹果。煩惱上上等分別故立九品。彼若凡夫時未曾斷一品名具縛。若斷一品名不具縛。若斷五品超昇離生。欲界見苦斷五品斷苦法智得解脫證。乃至見道斷五品斷道法智得解脫證。欲界修道斷五品斷斯陀含果得解脫證

六斷乃至八 是向第二果 離欲至八地 是則第三向

六盡乃至八是向第二果者。此隨信行隨法行者。若已六七八品斷。此說向斯陀含果。離欲至八地是則第三向者。此隨信行隨法行者。若離欲乃至無所有處盡。彼俱向阿那

①下十(苦) ②[分]一 ③[者]一 ④界十(界) ⑤下二法 ⑥礙一 ⑦昇二升 ⑧是十(名) ⑨觀二緣 ⑩[苦]一 ⑪說是二 ⑫是二其 ⑬界二斷 ⑭含二合

*合果

若至十六心 是名住於果

軟見信解脫 利見名見到

若至十六心是名住於果者。第十六心名道

比智相應彼起俱說住果。若須陀洹若斯陀

*含若阿那*含。軟見。信解脫者。若軟見。入

見道名隨信行。彼住三果時名信解脫。利見

名見到者。若利根入見道名隨法行。彼住三

果時名見到。見到信根勝信解脫。但以慧所

勸說見到

非事諸煩惱 謂彼一切盡

乃至未進行 是名須陀洹

若見道斷八十八結盡 是須陀洹果。乃至

未集行。是名住須陀洹果。若方便斷上上

種。是名向斯陀*含果。即此種乃至五品斷超

*昇離生道比智起名須陀洹。非向斯陀含以

向彼果道。未一念現在前故。問斷衆多煩惱。

何故世尊說三結盡耶。答十使是根本。五見

疑愛恚慢無明。彼見道斷六。五見及疑。彼

見道斷六使永盡。彼三轉三隨轉。彼身見是

轉。邊見是隨轉。戒取是轉。見取是隨轉。疑

是轉。邪見是隨轉。已說轉。當知已說隨轉。

是故世尊說。三結盡是須陀洹。復次此諸煩

惱。或一種二種四種。已說身見當知已說一

種。已說戒取當知已說二種。已說疑當知已

說四種。如是一切遍不一切遍有漏緣無漏

緣盡當知。此結已盡已知。乃至阿羅漢。猶有

相似隨轉故

未盡修道種 受生生死死七

當知彼所說 極滿須陀洹

彼須陀洹修道種未盡。彼極滿當知七有。七

生人間中陰生陰及欲界天。此總說七有。不

過七故。如七葉樹。問何故說七有不增不減

耶。答如七步蛇所螫。四大力故至七步。毒

力故不至八。如是業力故七生。道力故不至

八。彼住增上忍時。除欲界七生。餘一切生

得非數滅至竟不現在前。若人間超*昇離生

人間滿七天上者還天上滿。中間聖道雖現

在前。業力持故不般涅槃。問若滿七生佛不

出世。彼云何得阿羅漢果。答有說。在家得阿

羅漢果。得果已不住家。又說。即彼形自出家。

成就壞淨故希望具足故。見惡行過故。是

故須陀洹法不墮惡趣。又佛種性中生故。智

火明淨故。見境界過故。止觀具足故。聖道

藥所*勸故。如王。太子。如內火增人。如巧便

魚。是故須陀洹不墮惡趣。凡夫雖不墮惡趣。

以少及不定故。不說。住正定聚故說定。必得

涅槃故說趣正覺。七有者如前說。住者中陰。

生者生陰。故說住生。更不受餘生故名住苦

邊。不必一切須陀洹滿七有也

若斷三四種 成就彼對治

餘二生三生 是說名家家

三因緣故建立家家。謂煩惱斷成就根及受

生。煩惱斷者。欲界修道斷煩惱。三品四品

斷無有。五品斷名家家。若能斷五品者。勢

力故必斷六品成斯陀*含。非第六品力能障

令不至果。成就根者。得彼對治無漏諸根。受

生者。或更受欲界。餘二生三生。若三因緣

一不具非家家。有二種家家。若天若人。天

家家者。謂欲界四天。或受二生三生。或受一

天處種類身。或二或三。人家家者。謂人間身

或一天下或二或三。或一家或二或三。問家

家有何義。答從家至家而般涅槃故曰家家

須陀洹勝四名家家

六品煩惱斷 見道斷一切

是說斯陀*含 謂彼未進行

若欲界修道斷上三品中三品。及見道斷一

切盡住果未進行。名斯陀*含。問斯陀*含有

何義。答於此命終生欲界天。一來人間而般

涅槃

若七八品斷 成就對治根

餘則受一生 是名一種子

若欲界修道斷七品八品。及見道斷一切盡。

得彼對治無漏根。欲界餘一生名一種子。三

因緣一不具非一種子。若天一種子受天

一身而般涅槃。人間亦爾。餘一生種子故說

一種子。問何故八品斷名一種子。五品斷不

名家家耶。答正使六品斷為家家者猶生欲

界。是故欲界業煩惱不為障*礙。一種子九

品盡生色界。是故欲界業煩惱極作障*礙。以

是故說三處衆生業極作惱亂。三處後當說。

一種子者是上斯陀*含

九品盡不還 當知有多種

或五及七八 或復說衆多

九品盡不還者。見道斷一切及欲界修道斷

九品結盡當知阿那*含。問有爾所煩惱斷何

故世尊說五下分結盡為阿那*含耶。答一二

①信二住②③④ ⑤入二入⑥ ⑦動一薰⑧* ⑨集二道⑩⑪⑫ ⑬[相]一⑭ ⑮大二太⑯ ⑰不說二說不⑱ ⑲說名二名說 ⑳五二三
㉑天十(人) ㉒者二故 ㉓[命]一⑳㉔ ㉕斯十(斷)㉖㉗ ㉘[故]一 ㉙者二皆㉚

四五種。如是一切五下分悉攝故。可惡卑下同義。復次二種下。界下及衆生下。界下者欲界。衆生下者凡夫。貪恚繫故。下界者難度。故身見戒取疑繫故。衆生下如守門防護故。聖人或先斷二結或三結。集斷故說五。不還欲界名阿那含。此亦多種。或五及七八或復說衆多。是說阿那含五種者。謂中般涅槃。

生般涅槃。行般涅槃。無行般涅槃。上流般涅槃。七者。中般涅槃有三種。如契經說。中般涅槃者。一如小進。二如火二如。三小進。四如前說。八者。五種如前說。又現法般涅槃無色界阿那含及不定人。色界五種根建立則十五。中般涅槃上中下。根乃至上流亦如是。地建立則二十。初禪有五。乃至第四禪亦五。種性建立則三十。中般涅槃有六種。謂退法種性。思法護法住法。昇進法不動法種性。如是乃至上流亦如是。處所建立則八十。梵身天五。如是乃至阿迦膩吒天。種性根建立則九十。地種性建立則百二十。地種性根建立則三百六十。種性處建立則四百八十。種性處根建立則一千四百四十。記曰

十五有二十 三十與八十
九百二十 及三百六十
四百八十種 千四百四十
如是廣略說 攝受阿那含
根地及種性 處所廣建立
隨彼煩惱斷 今當次第說

復次一阿那含謂中般涅槃。根建立三。地四。種性六。處所十六。種性根十八。地種性二

十四。地離欲三十六。地種性根七十二。處種性九十六。地種性離欲二百一十六。處種性根二百八十八。地種性根離欲六百四十八。處種性離欲八百六十四。處種性根離欲建立二千五百九十二。當知是中般涅槃數。乃至上流亦如是。此一切攝受萬二千九百六十。記曰

一三四與六 十六及十八
謂說二十四 復說三十六
七十有二種 九十有六種
二百一十六 二百八十八
六百四十八 八百六十四
及復說二千 五百九十二
如是阿那含。其數有五倍。即上二千五百九十二五倍爲一萬二千九百六十
六已說一切阿那含。五阿那含相今當說
利根軟煩惱 住於一種業
是中般涅槃 分別六種性
利根軟煩惱住於一種業是中般涅槃者。此人利根及軟煩惱。作中陰業增長不作生陰業。彼於欲界沒住色界中陰得無漏道。以此道捨餘結而般涅槃。是中般涅槃。度欲界難故非欲界中陰般涅槃。若欲令般涅槃者。彼應斷不善無記二種結。得若二若三沙門果。越度三界。而欲界中陰於此無能。若色界沒者上流品所攝。問此人幾種性。答分別六種性。中般涅槃當知六種性退法乃至不動。若說利根不應退種性者不然。彼亦建立九品根故

精進勤方便 修習速進道

是生般涅槃 彼亦有二說
精進勤方便修習速進道是生般涅槃者。生般涅槃人作中陰生陰業。命終受色界天中陰及生陰。彼初生起有行道。謂勤方便及速進道。疾斷餘結。初生便般涅槃故說生般涅槃。彼亦有二說者。有說若初生斷煩惱般涅槃者不然。無捨壽行分故。無有捨壽行者。乃至盡壽住。此義爲勝

第三勤方便 離於速進道
第四不動求 三俱說六種
第三勤方便離於速進道者。彼行般涅槃。若差別者。不行速進道。餘如前說。名者。起有行道斷餘煩惱而般涅槃。是行般涅槃。復次依有爲緣三昧斷煩惱而般涅槃。亦是行般涅槃。第四不動求者。此無行般涅槃亦不動求亦不行速進道。餘如前說。名者。起無行道斷餘煩惱而般涅槃。是無行般涅槃。復次依無爲緣三昧斷煩惱而般涅槃。亦是無行般涅槃。三俱說六種者。行與無行及生般涅槃。當知俱說六種性。此三種雖皆是生般涅槃。義差別故說三無過

超半超處處 是名爲上流
此亦六種性 當知進不進
超半超處處是名爲上流者。上流有二種。或先得動禪或不得。彼先得者。先動禪修三禪而後退住初禪。初禪味相應命終生梵天中。彼亦三種。超半超及一切處沒彼超者。生初禪乃至離第三禪。欲勤修滿超第四禪。彼命終生阿迦膩吒天。半超者。從梵天沒或生

【說】一〇一〇 〇木二大〇〇 〇小二少〇〇 〇人二又〇〇〇 〇根一〇〇〇 〇十一一〇〇 〇說二數〇〇 〇(賢聖品第六之餘)十復次〇〇
〇十(也)〇〇〇〇 〇壽二受〇〇 〇(若)一〇〇 〇是十(有)〇〇 〇是十(有)〇〇〇 〇(亦)十是〇〇 〇動二熏〇〇〇 〇動二熏〇〇〇
第二地〇

一二三處，然後生阿迦膩吒天。一切處沒者。生一一處。乃至阿迦膩吒天。先得勳者。不生淨居天生無色界。餘如前說。問。此幾種性。答此亦六種性。上流亦六種性。退法乃至不動此非初住不動種性根。謂退法種性於*勳修禪退後得見到。當知進不進者。上流者當知有進不進。應作四句。當進修非不進者。謂住欲界梵天。不進非當進者。謂住阿迦膩吒天。亦進亦不進者。謂住餘天。非進非不進者。無也。若向無色界者非*勳修。是故說生無色界。問世尊說七士夫趣。彼云何建立七士夫趣。答

謂生根煩惱 是說有三種
不生亦復然 及二上流一

一阿那*含四因緣故七種建立。所謂根建立。煩惱建立。生不生建立。及上進建立。彼生者。初利根軟煩惱。第二中根中煩惱。第三軟根上煩惱。如生三不生亦三。上流者說上進。凡夫轉還故非上流。無色界上流有五事勝。謂界勝地勝正受勝陰滅煩惱斷。雖有五事勝。不得*勳修。故不建立士夫趣

如是九煩惱 在於上八地
謂彼雙道滅 世尊之所說

如是九煩惱在於上八地者。如欲界修道斷煩惱有九品。從軟軟至上上。上八地亦如是。謂四禪四無色。彼初見道起以一種道斷九種煩惱。問若色無色界煩惱亦九種。彼何故不建立離欲人耶。答一處中二生非分故。欲界有如是天如是方如是家聖人二生。非色

無色界聖人二生。若二生者無生般涅槃乃至上流。謂彼雙道滅世尊之所說者。此三界煩惱當知無*礙解脫道滅。無*礙道能斷煩惱。得解脫。道得解脫證。無*礙道斷煩惱。解脫道不失所作故說雙道滅。若言解脫道斷煩惱者。云何為起耶未起耶。若起者彼初盡智生時應有煩惱。此則非究竟。若未起者不應未來道斷煩惱耶。問為何道斷煩惱耶。答

有垢無垢道 俱能離八地
住彼說身證 謂得滅正受

有垢無垢道俱能離八地者。有垢者世俗道。無垢者聖道。除第一有餘地離欲時。當知有漏無漏道。離第一有唯無漏。有漏於彼非分故。世俗道攀上地故。離下地煩惱如折樓虫。非想非非想處無有上地可攀。能離彼結。自地繫縛故不能離自地結。如人被縛不能自解。彼世俗無*礙道三行。若龜若若若龜障。彼現故說龜。三苦成故說苦。易觀故說龜障。解脫道亦三行。謂止妙出一行無*礙道。下緣解脫道上緣聖行後當說。住彼說身證。謂得滅正受者。住八地見道修道斷。一地見道斷。中住得滅正受說名身證。是故學人於第一有一一離欲中起滅正受。彼或具結所縛得滅正受。或八品盡得。世尊以度諸正受故說言。度一切非想非非想想。知滅身作證具足住法。以涅槃與身合故說身證滅正受定品當廣說

金剛喻定次 必生於盡智

生意我生盡 應供離諸漏

金剛喻定次必生於盡智者。非想非非想地離欲第九無*礙道名金剛三摩提。無一不壞故名金剛。此義擇品當廣說。金剛定次第必生盡智。此初二智。或苦比智或集比智。謂彼盡智起已起自己行。生意我生盡。彼非想非非想處四陰緣有根本故。應供離諸漏者。彼盡智生一切有漏盡名為應供。應一切供養故。害一切煩惱故。更不於有田種識種子故。不動阿羅漢盡智次第無生智起。彼盡智一剎那。無生智或一剎那。若次第等見現在前一剎那。若無生智現在前則相續。時意解脫。盡智或一剎那。若次第等見現在前一剎那。若復盡智現在前。則相續。問阿羅漢幾種。答

阿羅漢六種 隨信行生五
彼得於二智 當知時解脫

阿羅漢六種者。謂退法思法護法住法。昇進法不動法。若初學地不常方便不頓方便。是名退法。思法亦如是。堪能思願護法者。常方便不頓方便以隨護故不退。住法者。頓方便不常方便不退亦不進。必昇進者。常方便頓方便是鈍根能得不動。不動法者。常頓方便是利根。有說。若退法者必退。乃至得必*昇進。必昇進者。必*昇進。彼說六種。是欲界阿羅漢。色無色界有二種。住法及不動法有說。退法不必退。若退者唯此種性非餘。彼說三界悉有六種阿羅漢。隨信行生五者。此六種阿羅漢中。前五種是信種性。彼成就二智。謂盡智及無學等見。彼或時退故不說無

①勳二熏②勳一③此十(職)④道得解脫⑤障一⑥知一⑦以二似⑧則一⑨(如)十是
⑩頓方便⑪必昇進⑫必昇進⑬必昇進

生智。世尊以更不受生故一切契經說更不受後有知如真。當知時解脫者。當知此是時解脫。衣食床臥具處所說法及人隨順故。善根增進不能一切時隨所欲進故。說時解脫

不動法利根 是不時解脫

彼得於三智 自解脫成就

不動法利根是不時解脫者。若不動法一向利根。能一切時隨所欲進修善業。不待眾具。是不時解脫彼得於三智者。彼成就三智。盡智無生智及無學等見。是不退法。自解脫成就者。當知彼自己相似名解脫成就

時意解脫者。待時故。時意解脫成就不動法者。不動故。不為煩惱所動故說不動。是不退義。問何故時意解脫名為愛非不動耶。答彼極自護故。猶如一目不自在故。畏退故。如借他物彼相繫善根非分故。不動解脫有相繫善根。謂彼有餘三摩提故。是故不名愛

慧解脫當知 不得滅盡定

若得滅盡定 當知俱解脫

慧解脫當知不得滅盡定者。此六種阿羅漢不得滅盡定者說慧解脫。以慧力解脫煩惱障故名慧解脫。若得滅盡定當知俱解脫者。此六種阿羅漢得滅盡定者說俱解脫。彼慧力離煩惱障心得解脫。滅正受力離解脫障得解脫。是故名俱解脫。若復退法一切俱解脫作四句。退法非俱解脫者。謂退法不得滅盡定。俱解脫非退法者。謂五種羅漢得滅盡定。亦退法亦俱解脫者。謂退法得滅盡定。亦非

退法亦非俱解脫者。謂五種羅漢不得滅盡定乃至不動解脫亦如是

諸根說九種 亦說九種人

七種諸聲聞 緣覺及如來

此說九種根。謂軟軟乃至上上。阿羅漢人亦九種。謂前五種及二不動解脫。或因時解脫得不動。或始得不動。此七種聲聞及緣覺如來是名九種人。已說根建立人。若人成就根今當說

軟中最軟根 是為初種人

乃至增上上 第九人當知

彼退法成就軟軟根。思法軟中。護法軟上。住法中軟。昇進中中。因時解脫種性不動法中上。初不動解脫上軟。緣覺上中。如來上上

謂以學種性 得彼無學果

或即彼種性 或進不退轉

六種阿羅漢。或以學地如是種性得阿羅漢。即彼種性。羅漢。或增益根得不退轉。彼種性修習根故。彼退法有三事後當說。不動法唯一事。即。住彼般涅槃。餘阿羅漢有二事。已說根本種性阿羅漢。增進。根今當說

所謂三四五 六七次第增

是諸退法等 說五羅漢等

彼退法有三事。謂退住學。法退法根。若住彼般涅槃若上增進根。思法有四事。謂退住學根退即住退法根。若異者應進不退。前說彼種性不退故。住退法根即住彼般涅槃上增進根。護法有五事。謂護法退住學根住退法根住思法根。即住彼般涅槃上增進根。住法

六種。必昇進七。隨其義說。已說建立賢聖人相。建立法今當說

謂隨信行法 若隨法行法

及與見諦道 是盡同一相

隨信行法隨法行法及見諦道。此三種法盡同一相。差別者。隨信行者鈍根。隨法行者利根

於中諸根法 是名未知根

謂餘有學法 佛說已知根

於中諸根法是名未知根者。彼見諦所攝根數有九法。謂意根樂根喜根捨根信等五根。是名未知根。此諸根。隨信行隨法行所成就。名者。未知當知故說未知根。問苦法忍生觀欲界五陰。後苦法智生非於五陰。已知當知耶。若言未知當知此則不然。答忍非智非智性故無過。忍是見非智性故。以智知故非不然。謂餘有學法佛說已知根者。除見道學法餘學法。即此根數九法說已知根。此根信解脫見到身證所成就。雖道比智生觀道比忍。是未知當知以少故不說。如大海一漚須彌一塵虛空蚊虻

當知無學法 是說無知根

得果捨前道 無礙智所說

當知無學法是說無知根者。當知無學法即此根數九法說無知根。此根慧解脫俱解脫所成就。彼見道六地四禪未來中間。非上地方便善根。非分及非廣境界故。修道學法九地。此六地及三無色五陰性。得果捨前道無礙智所說者。得果時當知捨前無漏道得須

○(無願)一○ ○(阿)十羅漢○ ○住彼二彼住○ ○根二相○ ○等二學○ ○等二事○ ○(法)一○ ○三十(三)○ ○諸十(道)○ ○諸二道○ ○(非智)一○ ○(此)十信○ ○以二已○ ○淨二滴○ ○色十(四陰)○

陀洹果。捨。見得斯陀。含果。若先倍欲盡亦捨見道。若次第者。捨須陀洹果及須陀洹進道。得阿那。含果。若先欲愛盡亦捨見道。若次第者。捨斯陀。含果及斯陀。含進向道。得阿羅漢果。捨阿那。含果及阿那。含進向道。問世尊說隨信行等七人。云何建立耶。答

方便及諸根 正受解脫俱
當知賢聖七 事則說有六

方便及諸根正受解脫俱當知賢聖七者。五因緣故說七人名。七非事。五因緣者。謂方便根正受解脫正受解脫。方便者。隨信行隨法行。隨信行者。信多故說隨信行。先種諸業信他故作。後得道已以本名說。隨法行者。先自思惟與造諸業。後得道已以本名說。根者。信解脫見道。鈍根說信解脫。利根說見道。正受者。是身證解脫者。是慧解脫。正受解脫者。是俱解脫。事則說有六者。此諸聖人有六。見道有二。謂隨信行隨法行。修道有二。謂信解脫見道。無學道有二。謂時解脫不時解脫。隨信行人應說一。謂七人根故。應說三。謂軟中上種性故。應說五。謂退法乃至必昇進道故。應說十五。住苦法忍乃至道比忍。離欲者應說七十三。欲界離欲十。謂具縛乃至九品盡。初禪九。乃至無所有處。復次根種性道依建立增亦應廣說。如是隨信行人有十四萬七千八百二十五。彼所攝受

一三五十五 及與七十三
謂根種性道 離煩惱當知
三倍次五倍 十五及九倍

如是衆多種 唯說隨信行
當知餘聖人隨其義亦應如是說。問如契經說向須陀洹等八人此云何。答

以有五事故 說有八人名
先後事各一 中間則有三

此四向四果說八人。名事有五。向須陀洹及阿羅漢此名一事。亦一須陀洹及向斯陀。含此名二事。一斯陀。含及向阿那。含阿那。含及向阿羅漢亦如是。彼前四人成就一地聖道。即此。亦說家家及一。種。向阿那。含果或一地乃至六地。阿那。含果或三地乃至六地。向阿羅漢或三地乃至九地。阿羅漢成就九地。彼沙門果道壞地壞應作四句。道壞非地壞者。斯陀。含果。地壞非道壞者。阿羅漢果。道壞地壞者。阿那。含果。道不壞地不壞者。須陀洹果。雜依諸禪名。道壞。雜依諸禪名。地壞。

已盡爲解脫 得依於一果
不穢汚第九 滅盡應當說

已盡爲解脫得依於一果者。向道中諸解脫道。得解脫得果時。法智品所斷盡得一解脫。得比智品所斷盡得二解脫。得道不壞故。故說一得果時說五因緣。得未曾道捨會道。頓得八智。一時修十六行。得一味解脫果。問穢汚斷前已說。不穢汚云何斷。答不穢汚第九滅盡應當說。前已說煩惱眷屬九品斷。不穢汚者。任第九無。礙頓斷非漸漸。不穢汚者。世俗善及不隱沒無記。五陰穢汚色亦第九無礙斷。以少故不說。問何故煩惱九品斷。不穢汚第九無。礙斷耶。答煩惱聖道相違故。聖

道與煩惱相違。不穢汚不相違。是故彼如是。如是道起隨所應斷煩惱斷。軟軟道起上上煩惱斷。乃至上上道起軟軟煩惱斷。如小明滅龜闢大明滅微闢。彼亦如是。以穢汚者自性斷不成就。不穢汚者捨煩惱過如難毒無著相似名 彼能獲不動

信解脫種性 *昇進亦增道

無著相似名彼能獲不動者。非彼一切阿羅漢能得不動。唯功德名相似者得。謂必。昇進於彼五種中增進根者得。謂退法進至思法。如是次第盡當知。又得不動有九無。礙及九解脫道。如得阿羅漢也。九無。礙道八解脫道時解脫攝。第九解脫道不時解脫攝。彼一切果道所攝彼方便道。若無漏者果道所攝。有漏者不攝。信解脫種性。昇進亦增。道者。彼信解脫若必。昇進種性能得見到非餘性。是故學地五種亦增進根。增進道者謂熾然根。增進根者人中增非餘趣。聖道增非世俗道。學者依禪無學者依禪及無色。須陀洹斯陀。含依未來增進根。即彼捨一地得一地。阿那。含若先依初禪及眷屬超。昇離生及次第未得第二禪。彼增進根者捨三地果得三地果。若得第二禪非第三禪。後依初禪增進根者。即彼捨三地果及四地勝果道。即得三地果。如是乃至得無漏無所有處。捨三地果及捨九地勝果道。得三地果。若謂捨多道得少道應退者不然。何以故。得勝道故。彼人意解故問捨道亦捨斷耶。答世俗道斷者不捨。若非想非非想處煩惱一。種斷。得見到時彼非想

①見十(道)②③④⑤一字宮本缺 ⑥亦一⑦⑧種十(子)⑨⑩雜二離⑪* ⑫度十(也)⑬⑭得十(果)⑮⑯(故)一⑰⑱⑲道二進⑳㉑(彼)一⑳㉒⑳

非非想修道斷捨斷及對治。而不成就煩惱得。如凡夫生上地時。又復若先依初禪超。昇離生。後依第二禪增進根者。彼捨三地果及四地勝果道。得四地果。如是一切地應廣說。若住果而增進根者。彼方便無礙及解脫道果所攝。若住勝果道增進根者。若彼方便無礙道勝果道所攝。若解脫道果所攝。一方便道一無礙道亦一解脫道。如是見道亦六種性。而無增進根。以速道故。如是決定分善根亦六種性。修行者次第增進根。唯世間第一法無增進根以一念故。已說諸根滿。謂學滿非滿今當說

或有學果滿 或根或正受
或復三俱滿 無學二亦然

彼學有三事滿。或果滿或根滿或正受滿。若信解脫阿那含不得滅盡定者。唯果滿非根滿。軟根故。非正受滿。不得滅盡定故。見。到須陀洹斯陀含。唯根滿非果滿非正受滿。信解脫阿那含得滅盡定。果滿及正受滿非根滿。見到阿那含不得滅盡定者。果滿及根滿非正受滿。見到得滅盡定者。三事滿無學二亦然者。一切無學果滿。無二果性故。慧解脫軟根者。果滿非根滿。利根者。果滿及根滿。俱非正受滿。俱解脫軟根者。果滿及正受滿非根滿。利根者三事滿。問三種滿謂善觀諦云何觀諦為頓耶。為漸耶答

建立功德惡 漸漸見真諦
無礙道力得 有為無為果

建立功德惡漸見真諦者。於此真諦見過

惡故立苦集諦。見功德故立滅道諦。是故非見過惡時見功德。亦非見功德時見過惡。體異故。亦非不如實見諦。名諦無間等。亦非一智總觀諦。諦衆多性故。是故漸漸見真諦。有說。無我行頓無間等。彼如是說無我行緣一切法應頓無間等者不然。何以故。顛倒衆多故。自性相應共有法非境界故。諦異相故。無我等於此諦衆多。門。顛倒非一。無我起斷衆多自性惑。是故非一。無間等漸漸。無間等。擇品當廣說。問諦無間等得沙門果。云何為有為果耶。無為果耶。答無礙道力得有為無為果。煩惱數滅及解脫道俱無礙道力得。是故俱說沙門果。煩惱滅是解脫果及功用果。解脫道是功用果及依果。問此無間等有幾種答

謂三無間等 緣事見無間
當知有三種 或二亦復一

三種無間等。謂緣無間等。事無間等。見無間等。彼慧。三種無間等。緣無間等者。見性故。事無間等者。能成事故。見無間等者。見性故。慧相應法二種無間等。緣無間等及事無間等。彼共有法唯一。事無間等。彼苦忍苦智於苦諦三種無間等。於滅諦道諦事無間等。當知集忍集智於集諦亦如是。滅忍滅智於滅諦三無間等。於苦集道諦事無間等。道忍道智於道諦三無間等。於苦集。滅諦事無間等。修道隨其義當知如是。見諦無間等。以是因緣當知漸次無間等。

雜阿毘曇心論卷第五

雜阿毘曇心論卷第六

尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

智品第六

已說建立賢聖人。智今當說

若智性能了 明照一切有

有無有涅槃 彼諸相今說

若者若其事。智者決定義。了者分別也。明照者觀察也。一切有者極三有際。謂苦集諦有者有性也。有無有者有盡也。涅槃者諸煩惱滅。此說滅諦。彼諸中亦示道諦相者。自性自然性。今說者顯示自性也。問何等為智答

三智佛所說 最上第一覺

謂法智比智 及世俗等智

此三智攝一切智。法智者。若智境界欲界苦集滅道無漏智也。此初受法相故說法智。比智者。若智境界色無色界苦集滅道無漏智也。若此行法智轉。即此行隨轉。是比智以比類智故說比智。等智者。若智境界一切法有漏智也。等者多受俗數。謂男女長短等。故說等智

苦集及滅道 二智從諦生

是名與四智 牟尼隨諦說

此法智比智隨諦轉。世尊隨彼諦聲說。境界苦諦說苦智。境界集滅道諦說道智

①不得十(滿) ②到二道 ③(漸)一 ④ ⑤異二果 ⑥門二性 ⑦擇二釋 ⑧三二 ⑨滅十(諦) ⑩此下聖本有光明皇后頌文 ⑪聖本首缺 ⑫(三藏)一 ⑬ ⑭六二七 ⑮謂法智一法智及 ⑯及二亦 ⑰智二知 ⑱與二與

若智觀他心 是從三中說
盡無生智二 境界在四門

若智觀他心是從三中說者。三智觀他心。以法智品為境界說法智。以比智品為境界說比智。以有漏心心法為境界說等智。盡無生智二者。盡智無生智是二智。謂法智比智。彼所。作究竟決定轉是盡智。不復當作決定轉。是無生智。問何諦境界。答境界在四門。謂彼緣四諦。問若世尊說三智。云何說十。答

對治及方便 自性行行緣
已作因長養 是故說十智

七因緣故說十智。謂對治方便自性行行緣已作因長養。彼對治者。法智比智是無漏智。欲界對治說法智。色無色界對治說比智。法智雖色無色界對治。而非一切亦非全種。是故不說。方便者。他心智亦。智心法。但彼方便欲知彼心故。自性者。等智多取俗數如前說。行者。苦智集智。此二智行不壞緣壞。一緣故。此二智共一緣。是故於彼緣無常行轉。是苦智亦應說無常。智以苦極增厭故名苦智。復次不共故苦行一向有漏緣。無常行者。若有漏三諦緣。若無漏有漏緣。空無我行者。若有漏一切法緣。若無漏有漏緣。是故苦智苦行。應作四句。或苦智非苦行者。謂苦智行餘行。或苦行非苦智者。謂苦智相應法。或苦智亦苦行者。謂苦智行苦行。或非苦智亦非苦行者。謂苦智行餘行諸相應法。如行已行當行亦如是。如苦行無常空無我亦如是。如

苦智十二乃至道智亦如是。行緣者。謂滅智道智。以彼智緣不壞行亦不壞。已作者謂盡智。所作已作故。因長養者。謂無生智。因一切無漏智故。住不動身故。已說因緣建立十智。善等分別今當說

九智唯說善 一智三分別
一見二非見 餘則有二種

九智唯說善者。除等智餘九智說善愛果故。一。知三分別者。等智或善或不善。無記。一見者他心智。是見分別性故。二非見者。盡智無生智。非見非分別性故。餘則有二種者。餘七智或見或非見。若法智比智苦集滅道智盡智無生智所不攝者是見。攝者非見。等智或見或非見。五見世俗正見。是見以捷疾故。疑愛恚慢無明相應慧非見。何以故。二使覆故。無明相應慧雖無二使。一能極覆非餘煩惱。何以故。非觀察方便故。不隱沒無記慧非見。不捷疾故。五識相應慧非見。非思量性故

學與無學六 二智說無學
非學無學一 當知一三種

學與無學六者。謂法智比智苦集滅道智。或學或無學。若學人所得是學。若無學人所得是無學。二智說無學者。盡智無生智是無學。離煩惱住故。非學非無學一者。謂等智是非學非無學。有漏故。當知一三種者。謂他心智或學或無學。非學非無學。若唯以學心心法為境界是學。若以無學心心法為境界是無學。若唯以有漏心心法為境界。是非學非無

學

八智性不斷 二*知二種說
有漏無漏一 一則說有漏

八智性不斷者。除他心智及等智。餘八智不斷。離垢故。二智二種說者。他心智若有漏是修道斷。若無漏是不斷等智。若忍對治是見斷。若智對治是修斷。有漏無漏一者。他心智或有漏或無漏。以有漏心心法為境界是有漏。以無漏心心法為境界是無漏。一則說有漏者。等智一向有漏。煩惱住處故。當知八智不斷說無漏

四智有為緣 有常緣則一
五智二境界 明智之所說

四智有為緣者。謂他心智苦集道智有為緣。以陰為境界故。有常緣則一者。謂滅智無為緣。以涅槃為境界故。五智二境界者。謂法智比智盡智無生智。以三諦為境界是有為緣。以滅諦為境界是無為緣。等智亦以三諦為境界是有為緣。以數滅及虛空為境界是無為緣

法智應當知 是從六地起
比智則九地 他心智在禪

法智應當知是從六地起者。法智六地可得。自性得也。謂四禪未來中間非無色。無色不緣欲界故。比智則九地者。比智九地可得。謂未來中間四禪三無色。他心智在禪者。謂根本禪有他心智。是四支五支定果故

等智應當知 在於十一地
謂彼諸餘智 品品如前說

①作十(境界)②③ ④智二知⑤ ⑥復次二復⑦⑧(應)一⑨ ⑩謂二諸⑪(彼)十所作⑫ ⑬知二智⑭* ⑮(或)十無記⑯ ⑰(謂)十盡智⑱ ⑲(或)十非⑳ ㉑謂彼二彼謂㉒

等智應當知在於十一地者。等智在十一地。謂欲界未來中間四禪四無色。謂彼諸除智品如前說者。謂苦集滅道智盡智無生智。若法智品在六地如法智。若比智品在九地如比智。

若說諸念處 一智當知後 三則說一智 餘四明智說

若說諸念處一智當知後者。謂滅智是法念處。無為緣故。三則說一智者。謂他心智。他心心法緣故。是三念處。除身念處餘四明智說者。謂餘八智是四念處。五陰緣故。

一智欲界依 二界依有一 二智三界依 餘六一或三

一智欲界依者。法智唯欲界依。以法智隨生。或欲界四大造故。二界依有一者。他心智欲色界依。依色故。二智三界依者。比智等智三界依。餘六一或三者。苦智等六智。若法智品欲界依。比智品三界依。依者身之別名

名則十六行 事或說十六 離於十六行 除間非無漏

名則十六行者。謂無常苦空非我因集有緣滅。止妙出道正迹乘。眾緣所持故無常。逼迫故苦。我所見對治故空。我見對治故非我。種子法故因等起故集。相續故有。相成熟故緣。諸陰盡故滅。三。火息故止。離內惱故妙。離外惱故出。趣向故道。巧便故正。等趣故迹。至究竟故乘。復次非究竟故無常。重擔故苦。內離人故空。不自在故非我。來方便故因。出生方便故集。增長故有。與依故緣。不相續

離相續故滅。離三有為相故止。善故常故妙。第一休息故離邪徑對治故道。不正對治故正。登涅槃城故是。一切有對治故乘。問事有幾行。答事或說十六。此名十六行。有說事有七。謂苦行名四。事亦四。顛倒對治故集行名四。事一。滅道亦如是。如是說者名十六事。亦十六。者善。問離十六行更有無漏慧耶。答離於十六行。餘間非無漏。離十六行無有無漏慧。如契經說。我生已盡。此亦是苦。等行生盡。如言我斫木為誰斫。斫斫此亦如是。問此諸智各有幾行。答

二智十六行 法智及比智 如是行或非 是說為等智

二智十六行法智及比智者。如所說十六行一切法智比智轉。如是行或非是說為等智者。等智行十六行亦非十六行。十六行者。謂煖等善根。是十六行及餘不定聞思慧亦非者。如病如癱等行。是名為非。問若等智是十六行者。何故不說名苦智乃至道智。答壞境界。無漏行不壞境界。別諦緣故。有漏行壞境界。有漏無常行三諦。緣空非我行一切法緣

四智有四行 決定行所說 若智知他心 如是行或非

四智有四行決定行所說者。苦智有四行。乃至道智亦如是。若智知他心如是行或非者。若無漏他心智是道四行。有漏智非自相境界故

盡智無生智 離空無我行

說有十四行 謂近於等故

盡智無生智離空無我行說有十四行者。盡智無生智十四行。除空無我行。問何故非空無我行耶。答謂近於等故。盡智無生智第一義而近等。空無我行第一義近第一。問彼諸行為誰能行。亦為他所行耶。為何等性。答

謂慧行能行 亦為他所行 餘有依二種 無依他所行

謂慧行能行亦為他所行者。慧自性是行。能於彼爾炎中行無常等行。彼亦為無常等行所行。餘有依二種者。除慧餘相應等法是亦能行。有緣故。亦為他所行。他所緣故。非行非慧性故。無依他所行者。若彼不相應法。謂色無為心不相應行。是他所行。非慧性故。非能行。無緣故。已說建立行。建立得今當說

謂初無漏心 或有成就一 二或成就三 四時各增一

謂初無漏心或有成就一者。謂初苦法忍相應心。若未離欲成就一等智。若離欲成就他心智。二或成就三者。第二苦法智相應心。若未離欲成就三智。苦智法智等智。若離欲成就他心智。四時各增一者。於上四時一一增苦比智。若未離欲四智法智比智苦智等智。若離欲得他心智。集法智增集智。滅法智增滅智。道法智增道智忍中不得智。非智性故。集滅道比智不增智。以苦比智得名故。已說成就智。修今當說

若得修於智 謂在聖見道 即彼當來修 諸忍亦如是

以上聖本斷缺 止二正 所十對治 火二大 足二述 者善二善者 餘二除 者一 答十(-) 等一 行十(非行) 智一

若得修於智謂在聖見道即彼當來修者。見道諸智現在修。即彼未來修。謂苦法智現在修。未來修苦法智非非餘智。如是乃至道法智。諸忍亦如是者。苦法忍現在修。即彼未來修。非非餘忍。一切忍亦如是。問何故見道唯修自分修道修自分及非自分耶。答彼初得種性故。見道初見諦故。唯修自分非餘。又不雜道故。捷疾故。不覺道故。

於彼三心中 得修於等智

當知最後心 或修七或六

於彼三心中得修於等智者。見道三心無間等邊修等智。謂苦集滅比智。若依禪未來超昇離生。彼修一地見道二地等智。謂禪未來及欲界。若依初禪。超昇離生修二地見道三地等智。乃至第四禪修六地見道七地等智。問道比智邊何故不修等智耶。答邊非分故。諦無間等邊修故名無間等邊。無能修一切道及佛邊際而知一切苦集滅。復次世俗智於彼諦曾無間等故。修見道眷屬故。無間等邊等智是見道眷屬。道比智是修道。所以無色界不修。以無見道故。問法智何故不修。答諦無間不究竟故。若修者應說無間等中。若欲界者則四陰性以不定故。若色界者五陰性以定故。有定則有定共色故。有陰是。以有五陰。智增故說修等智。若苦無間等邊有四事。欲界緣欲界苦。色界緣色無色界苦。集滅無間等邊亦如是。是不生法依隨信行隨法行故。彼隨信行隨法行成就而不現在前。或修七或六當知。最後心者。若離欲得道。比智未來修七智。除

等智盡智無生智。若未離欲修六智。除他心智。修非想非非想處對治道等智。非彼對治故不修。

於彼上修道 十七無漏心 當知修於七 增益根或六

於彼上修道十七無漏心當知修於七者。若未離六種欲。從須陀洹果進九無礙道八解脫道修七智。此道禪未來攝故。無他心智盡智無生智。是無學故不修。餘七智必修。若世俗智離欲。彼現在修一等智。未來修七。若無漏者四法智。一一現在修未來七。增益根或六者。謂信解脫求見到。彼無礙道修六智非他心智。無礙道相違故。非等智。似見道故。非盡智。無生智無學故。若未離欲解脫道亦修此六若離欲修七智。是故說或昇進得不動者。九無礙道修七智非他心智。無礙道相違故。非等智。非第一有對治故。非無生智。未得故。八解脫道修八智亦得他心智故。第九解脫道修十智。是故說或

得不還果時 及離上七地

勤修諸神通 解脫修習八

得阿那含果必得根本禪故修八智。除盡智無生智及四禪三無色。此七地離欲時九解脫道修八智。若世俗道離欲時等智現在修未來八。若無漏道離欲者是苦等六智一一現在修未來八。六智者。謂苦比智集滅道比智及滅道法智也。勤修禪一解脫道學修八智。無學修十智。神足他心智宿命通一解脫道亦修八智。根本禪攝故。天眼天耳解脫道

無記故不修上三通得時及後用時悉是解脫道解脫道眼耳無。道悉是善神足降伏衆生故餘二所見微。此故無記。

此諸無礙道 及滅第一有 即彼八解脫 當知修於七

七地離欲無礙道。及對修禪二無礙道。學諸通五無礙道。七地離欲及對修以一等智。無漏智無礙道。二念故言。二五通各有。一。言五。修七智。除他心智。無礙道相違故。第一有離欲八解脫道修七智。除等智。非對治故。

第一有離欲 無礙道修六 上乘應當知 修習於下地

第一有離欲無礙道修六者。第一有離欲九無礙道修六智。除他心智及等智。一切方便道有漏無漏修八智。上乘應當知修習於下地者。若此地離欲即修此地無漏智及下地。謂初禪離欲即修初禪功德及未來。如是乃至第一有離欲。修一切地無漏功德。上對治名為上乘。

無學初中 修於一切地 無學相似修 或苦習比智

無學初中修於一切地者。無學初盡智相應心修九地功德。問修何等種無學功德。答謂無學相似修。若退法者修九地軟軟功德。乃至如來地修上上功德。問無學初心何智。答或苦集比智。或苦比智。或集比智。生緣故作如是念。我生已盡此非想非非想處。四陰生緣最後盡故。已說修無漏功德。有漏今當說。

盡智心俱修 善有漏功德

①未二當 ②修二有 ③超二起 ④昇二升 ⑤定十(色) ⑥有十(定) ⑦最二是 ⑧比二皆 ⑨智二知 ⑩似二以 ⑪勤二熏 ⑫智十(及) ⑬(苦等)一 ⑭勤二熏 ⑮(善)一 ⑯記十(也) ⑰礙二關 ⑱七二十 ⑲煎二點 ⑳二十(二) ㉑二十(一也) ㉒(也) ㉓五二也 ㉔(一)一 ㉕故言二道故 ㉖言五二立 ㉗智二集 ㉘俱修二修俱

九地至一地 次第修亦減

得阿羅漢果時或修九地善有漏功德。乃至成一地。問何故九地乃至一地也。答。謂生於欲界修九地有漏。若生第一有則修於一地若生欲界得阿羅漢果

得盡智所修九地善根。若生初禪修八地。除欲界。如是乃至非想非非想處。即修彼地善根。問何故於此處修三界善根。答一切縛解永蘇息故。如三等縛解。如降伏煩惱力士衆咸稱善。如王登祚解脫灌頂一切皆獻珍奇寶物。先雖得下地功德。以上地煩惱故智光不明。得阿羅漢果一切功德增修。修義擇品當廣說。問世尊說見智慧。爲一爲異耶。答

諸忍則非智 盡無生非見 餘一切聖慧 當知三種性

諸忍則非智者。八無間等忍非智。不決定故。自品對治疑得縛故。決定義是智義故。復次忍者希望求。智者希望息。復次忍是見非智性。智性。盡無生非見者。盡智無生智非見息。求故。中平故。背生死故。餘一切聖慧當知三種性者。除忍及盡智無生智。餘慧種能求故見決定。故智問何者是。答學八智及無學等見

若善有漏智 在意則是見 煩惱見是智 此及餘說慧

善有漏意地智能求故見。有說。非一切意識相應善有漏智是見性。謂從不思議識身所起故非見。五識次生意。此非見也。命終心非見。羸劣故。起

作心非見。外向故。如是好謂初說。凡說得理者。煩惱見是智者。若見自性。謂身見等。從思量生故說見。亦說智決定故。此及餘說慧者。此說若智若見及餘未說者。謂意識相應無記。除五見諸餘意地染污及一切五識相應。當知一切是慧。謂彼說未說者。若無記慧非見。不捷疾故。工巧慧雖捷疾而非見。求生所障故。染污前已說。五識相應慧非見。不分別故。不捷疾故。一往故。問一智幾智緣答

法智及比智 觀察於九智 因智及果智 境界於二智

法智及比智觀察於九智者。法智緣九智。除比智。比智亦緣九智。除法智。問何故不展轉相緣。答下上境界故。法智緣下比智緣上。是故不展轉相緣。如二人同止。一人觀下一人觀上。地空異觀故不相見面。若言不自緣如不自見面者不然。續觀故。因智及果智境界於二智者。苦集智緣有漏。他心智及等智苦集諦所攝故

道智緣九智 解脫智無緣 餘一切境界 決定智所說

道智緣九智者。道智緣九智。除等智餘九智。緣道諦所攝故。解脫智無緣者。滅智不緣。智緣無爲故。餘一切境界決定智所說者。除四智。他心智等智盡智無生智緣十智。問如前說若欲界對治是法智。雖色無色界對治非一切亦非。全。何等法智爲色無色界對治。答謂彼滅及道。法智之所行。是三界對治。非欲界比智

謂彼滅及道法智之所行是三界對治者。有修道滅法智道法智。是三界修道所斷對治。彼於欲界極見過患。思惟欲界行滅及對治。得離三界欲。問何故非苦集法智。答下劣上勝故。非觀劣能離勝處欲。滅道俱勝。是故觀此滅三界欲。復次若緣欲界離色無色界者。是爲異厭異不樂異解脫。此則不然。問頗比智離欲界也。答非欲界比智無比智。欲界對治自事未究竟故。如王降伏自界怨已然後伏他。法智亦如是。無有比智先滅色無色界後滅欲界也。又法智是極利智。尙滅不善況無記也。問神通幾智性答

神足天眼耳 是說一等智 或六智宿命 五說他心智

神足天眼耳是說一等智者。神足天眼天耳一等智。無漏智不以此行。神足者。種種示現。天耳通是天耳識相應慧。生死通是天眼識相應慧。神足餘品當說。天耳方便思惟大。彼方便漸增得色界四大所造清淨天耳。隨聲遠近一切悉聞。天眼方便思惟明相。彼方便漸增於眼周圍。得色界四大所造清淨天眼。處於一方遍觀十方。一切悉見而非一時。或六智宿命者。尊者瞿沙說。六智非他心智。緣現在故。非滅智。緣無爲故。非盡智。無生智。非見性故。阿毘曇者說。一等智緣衆生名。姓等故。方便者。或於自身或於他身。於是處方便即於是處究竟。或復餘也。聲聞緣覺從前身起乃至究竟隨其所欲。唯有如來隨意自在。若前若後隨所聞見皆悉憶念五

①[功德]一② ③成二或④⑤⑥ ⑦也二耶⑧⑨* ⑩請生乃至地二十字宋元明宮聖五本作五言四句偈 ⑪[智性]一⑫ ⑬故智二智故 ⑭⑮(也)一⑯ ⑰說十(也)⑱⑲ ⑳全二合㉑ ㉒對治十(耶)⑳㉑ ㉒[有]一㉓ ㉔集十(滅)㉕ ㉖[是]一㉗⑳* ㉘也二耶㉙ ㉚神足十(通)㉛ ㉜智二知㉝* ㉞姓二性㉟ ㊱聞見二見聞

說他心智者。五智知他心。謂法智知他法智。品心。心法自分境界故。比智亦如是。道智知他無漏。心心法。等智知他世俗。心心法。他心智五也。方便者。或從自身。或從自心。取其相貌。如是相身。有如是相心。以是方便。善根漸增。乃至知他心心法。是名成就於色。方便及自心起。至成就時。不緣色及自心。離於行緣。知他心智根。地。人度不知根度者。軟不知中上根。謂乃至第四禪地。軟知下地。軟。無漏非餘。有漏者。知有漏。不知無漏。地度者。初禪不知二禪。人度者。學人不知無學人。是故佛心心法。非一切他心智境界。一切他心智事。境界。自相境界。心心法境界。現在境界。他境界。除見道是修道得。故空無不相。應盡智。無生智。不攝離無礙。道問神通云。何如說而生為異也。答。或有說。如說而生。如世尊先說神足。是故前生。乃至後說生死智。是故後生。尊者瞿沙說。謂欲界處起神通。如說而生。若色界則異此。修行者。聞說色界。天而不見。欲見故起天眼。見而不能往。故起神足。往而不聞。說故起天耳。雖聞而不知。心云何。往故起他心智。知他心。而不自知。先所從來。故起宿命智。如是說者。神通無有次第。正受。亦無超越。正受。亦無順正受。亦無逆正受。當知神通。解脫道所攝。非無礙道。問力無所畏。一一幾智性。答。

處非處智力。及第一無畏。此是佛十智。餘此中差別。處非處智力及第一無畏。此是佛十智者。處

處非處智力及第一無畏。此是佛十智者。處

非處力及初無畏。此十智性。普境界故。問餘力無畏。何智性也。答。餘此中差別。處非處力。差別有餘力。初無畏。差別有餘無畏。世尊觀受化者。希望故。建立多種。問何故。世尊自說功德也。答。為求佛道者。修念佛三昧故。復次。於等解脫。現差別故。樂說辯才故。無盡無滯。無缺。乃至降伏醉象等。中有疑者。不知誰力。為彼故。顯示自力。故。復次。為受化者。說實功德。不過量故。離非大人法故。

淨業有愛果。不淨果不愛。此說為是處。異則說非處。應當如是知。是處非處力。淨業有愛果不淨。不愛果。此說為是處者。因果決定。彼無障礙智。知此是彼。決定因。謂淨業有愛果。不淨業不愛果。猶如外種。因果隨類。異則說非處者。與是相違。名非處。應當如是知。是處非處力者。等起。容受義。是處義也。與是相違。名非處義也。不伏不屈。故。無勝無動。故。說力。

彼十智自性。在於十一地。決定說如來。謂閻浮提。依彼十智自性者。如前說。普境界故。十智自性。緣一切法。是十六行。或離行。四念處。三正受。三根相應。在於十一地者。謂欲界四禪。未來中間。四無色。決定說如來者。說建立如來力。非聲聞緣覺。以如來除二種。無知故。謂染污不染污。是故佛智。不為非智所屈。是無學及非學。非無學。非是學。聲聞緣覺。雖除染污。不除不染污。如來除二種疑。使處疑。處非處

疑。謂閻浮提。依者。謂閻浮提。身現在前。非餘。餘方無佛出世。故。閻浮提。人利根。易覺。是故。佛閻浮提。出世。非餘。

第二力八智。於彼事業轉。及法受煩惱。餘則如前說。

第二力八智者。自業智力。八智。除滅智。道智。無漏緣故。是故說八。行或離行。空無願相應。問何緣。答。於彼事業轉。及法受煩惱。彼事者。是業果。身口業及思。是業。法受者。有四法受。有法受。現世樂。後世樂。如是比。煩惱者是業因。於此轉緣。此起。餘則如前說者。餘如處非處力說。

諸禪及背捨。正受三摩提。第三力迴轉。九智餘如前。諸禪及背捨。正受三摩提。第三力迴轉者。禪者。四禪。背捨者。八背捨。正受者。無想定。滅盡定。及四無色。三摩提者。空無相無願。第三力者。於此禪。背捨。正受。三摩提。中轉緣。此起。問此力何性。答。九智性。除滅智。及滅四行。無相三昧。無為緣故。餘如前者。餘如自業智力說。

於上下諸根。第四力迴轉。第五說解力。第六於界緣。

於上下諸根者。上者。勝下者。劣。根者。主。第四力者。上下諸根力也。迴轉者。緣也。謂緣三諦。從緣根。方便起。故說上下諸根力。如他心智。第五說解力者。解者。欲也。彼亦二種。有勝有劣。勝者。善欲。劣者。惡欲。復次。欲道。及道果者。勝。欲生。死者。劣。此亦緣三諦。從欲方

於上下諸根者。上者。勝下者。劣。根者。主。第四力者。上下諸根力也。迴轉者。緣也。謂緣三諦。從緣根。方便起。故說上下諸根力。如他心智。第五說解力者。解者。欲也。彼亦二種。有勝有劣。勝者。善欲。劣者。惡欲。復次。欲道。及道果者。勝。欲生。死者。劣。此亦緣三諦。從欲方

心二身 地二度地度 十(心) 故一 住一 處當乃至力八字聖本作常行 淨十(果) 不愛果一果不愛 離二唯 處一 身十(業) 受二處 主二生

便起故說欲力。第六於界緣者。界者自性也。有二種如前說

於彼種種趣 第七力迴轉 當知已說四 餘皆如前說

於彼種種趣第七力迴轉者。趣者道也。彼亦種種。向地獄乃至涅槃。彼緣。趣及眾具故名趣力。當知已說四餘皆如前說者。已說根解界趣力。餘因緣當知如禪背捨正受三昧說或有說。趣智力是十智性

知宿命有行 是說第八力 謂禪有煩惱 餘則如前說

知宿命有行是說第八力者。宿命力於宿命所。受若所行所受。種種悉知。彼所行者謂中陰。所受者謂本有。以本有所受。若利利若婆羅門。如是。比悉知。是宿命力。說一智。謂宿命。智有二種。謂曾得今得。上中下說三地。建立說四。軟中上會得今得說六地。會得今得說八。下。下至上上說九地。及。下中上分別說十二。下。下等會得今得說十八地。下中上會得今得說二十四地。下。下等分別說三十六地。下。下等會得今得說七十七。此總說一宿命智。謂禪者。根本禪非眷屬。非無色無神通所依三摩提故。四。支五。支所攝三摩提神通所依。唯禪非餘。若依彼禪得宿命通。即知彼禪及下地。若依初禪得神通。知初禪及中間。同一地故。有煩惱者。前已說。是等智是故無漏事是法念處。餘則如前說者。如趣智力說

第九力當知 遠離於所緣

命。終及受生 行於來生數

第九力當知遠離於所緣者。生死智力除緣。餘如宿命智說。聲聞不方便見千世界。方便者見二千世界。緣覺不方便見二千世界。方便見三千世界。佛不方便見三千世界。方便見無量無邊億百千三千世界。問何緣。答命終及受生行於來生數。彼緣色入。如所說隨業受法如實。智。當知彼說眷屬。生死智此則內法

第十力十智 或六一一切地 示現力明通 餘皆如前說

第十力十智或六者。若說漏盡人所得為漏盡智者。彼說十智性。若以漏盡緣故為漏盡智者。彼說六智。除他心智苦集道智。一切地者。漏盡智在十一地。攝受生故。示現力明通者。彼漏盡智說名示現。謂教誠示現。令彼歡喜不傾動故說力。永離無明故說明。通種性故說通。宿命智力生死智力是說通明力。非示現。問此非學非無學耶。何故契經說。三明一向無學。答無學身中得故。導第一義明故。問六通何故三通。建立明非餘耶。答三種愚對治故。彼初明滅前際愚。第二滅後際愚。第三滅真諦愚。導三解脫門故。六通中二通是示現非明。謂神足他心智。二是明非示現。謂宿命智及生死智。漏盡通俱有。天耳通俱無。餘皆如前說者。餘所未說者因緣如前說。已說力。無畏今當說

初則如初力 第二如第十 餘二如二七 是名無畏安

初則如初力者。言我等正覺此初無畏。即處非慮力。第二如第十者。言我諸漏已盡。此即漏盡力。餘二如二七是名無畏安者。言我為諸弟子說障道法。彼言不障道者。無此畏也。此即自業智力。言我為諸弟子說道是賢聖出離。言不出離者。無此畏也。當知此即趣力。問世尊何故說此契經。答制善星及婆羅婆誹謗故說此契經。善星言。沙門瞿曇無過入法。為制彼故說前二無畏。婆羅婆言。沙門釋種子法我悉知見。為制彼故說後二無畏。復次前二無畏是說自安。後二無畏是說安他。不屆伏義是無畏義。離恐怖故。問力無畏何差別。答有說。無差別。又說。智是力。智光普照是無畏。安住是力。勇猛是無畏。智無盡是力。辯無盡是無畏。如是等。復次一一力攝四無畏。一一無畏攝十力。此十四法。又三不共念處及大悲。是佛十八不共法。不共一切聲聞緣覺故不共。念處及大悲是慧性。問無諍何地云何行何處現在前。何緣何等人起何等自性。也。答

第四禪有垢 無諍三方依 緣欲未生惱 依不動智慧 第四禪者。無諍在第四禪非餘。普境界故。於一切依最勝故。是有垢離聖行故。無諍者。煩惱相違故。三方依者。三方現在前非餘。說力所起故。緣欲未生惱者。緣欲界未來煩惱。謂貪恚癡慢自相煩惱非總相。總相是普境界。是故得四念處捨根相應。依不動者。依離煩惱身得。故三昧力故。唯不動法者所能起非

初則如初力 第二如第十 餘二如二七 是名無畏安

①前一②起二③受二更④比二⑤軟⑥支二枝⑦一十⑧終二緣⑨二千二一十 ⑩受法一法受⑪誠一戒⑫非一⑬建二道⑭二二三⑮彼一⑯辨二辨⑰故十名⑱依一

餘。智慧者。是智慧。自性也。彼阿羅漢不行五
因緣故。則能令彼不起煩惱。謂正威儀及正
說分別應受不應受觀察住處及觀察人。正
威儀者。於一方正身坐。若有人來即觀其心。
觀察彼心何等威儀令不起結。若此威儀令
彼不起。即時便住如是威儀。正說者。若有
人來即觀其心。若說而起。彼結則不為說。
不說而。起則便為說。分別應受不應受
者。他施眾具即觀察之。若受其施而起彼結。
雖須不受。不受而起雖不須而受。觀。察住處
者。若住此處而起彼結。雖眾具豐足則便捨
去。觀察人者。先觀察人然後入里。若舍若
若有起結者則便不入。云何於彼復作惡緣。
為攝他故作是思惟。我於往昔煩惱身時。彼
等於我起煩惱故受不受果。況今離欲。當作
方便令彼於我必不起惱。佛及波羅蜜諸聲
聞等。得無諍滿而不數入。有時不入因惱得度故

所謂妙願智 遠離彼境界
於彼最後得 六智自在性

所謂妙願智遠離境界者。妙願智亦在第四
禪。是有漏依。三方不動者所得。是智慧性
緣一切法。普境界故。無色依者。上云無色依者
謂欲色界是無色界氣分故名。此依是津風觀
此釋願智因依果。知無色界也。觀行差別如田
夫。是故說四念處。如願而知故說。願智欲
知而知是其義。於彼最後得者。若起彼智
時。謂欲界善心次第初禪現在前。如是次第
乃至非想非非想處。如是逆次第乃至欲界
善心。復順次第乃至第四禪現在前。彼復於
第四禪從軟至中從中至增。於彼增上第四

禪後起願智。六智自在性者。此智六種自性。
謂三無礙智除辭無礙。又無諍智後邊智及
妙願智。此智三因緣故起。攝他故。攝教法故。
覺世間不安的故

義辯漏無漏 在於一切地
佛說為方便 餘則如前說

義辯漏無漏者。此辯十智性。以一切法第一
義故。有說。六智性。除他心智苦集道智。以滅
諦最第一義故。是故說行念處三昧緣。在於
一切地者。此辯在十一地。自性得故。佛說為
方便者。義辯以佛所說為方便。若先無佛說
則無能起者。不知義故。餘則如前說者。餘
所未說者。如願智說

所謂為應辯 境界道及說
因明論方便 或三餘如前

所謂為應辯境界道及說者。應辯緣道及言
說。是故九智自性除滅智有十二行。因明論
方便者。此辯不以因明論為方便。則無能起
者。不知不應故。是故說阿毘曇為方便。以
因明論無如阿毘曇者。以智具足故。或三者。
此辯三智性。謂辯及願智最後智。有說。知
一切法第一義。彼亦義辯。餘如前者。餘所
未說者。如義辯說

法辯緣施設 在於五地中
以數為方便 餘如無諍說

法辯緣施設者。法辯緣名分齊。在於五地中
者。謂欲界及四禪。非上地。以無色界不緣名
及下地。非分故。以數為方便者。法辯以數論
為方便。餘如無諍說者。餘所未說者。如前無

諍說

聲明論方便 是則為辭辯
境界於言說 二地餘如前

聲明論方便是則為辭辯者。辭辯以聲明論為
方便。若先不習聲明論。則不能起離種子故。
境界於言說者。此辯緣言說。是故是身念處。
二地者。欲界及初禪。非上地。離覺觀故。餘如
前說者。如法辯說。問辯云何。如說生耶為
異耶答有說。如說生。謂先於法起名巧便。知
名未知義故次第起義辯。雖知義不知辭故
次起辭辯。知辭已不能連注說故次起應
辯。又說。先起義辯。知義不知名故次起法辯。
知名不知辭故次起辭辯。知辭不能連注說
故次起應辯。應辯如前說。又說。名隨說轉。是
故先起辭辯後起法辯。義依名轉。是故次起
義辯。此三辯導應辯。問此辯云何。為一一得
也。答不然。若得一則具四。如四聖種一時
得。此亦如是。

雜阿毘曇心論卷第七

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

定品第七

已說智。定今當說

智依於諸定 安不動而轉
是故當思定 勤求見真實

①自二目 ②正說二共語 ③若說二若共語 ④彼結二結者 ⑤結 ⑥為說二共語 ⑦不二若不共 ⑧說二語 ⑨起十
(結者) ⑩[察]一 ⑪[也]一 ⑫(彼)十境界 ⑬[所]一 ⑭[上]一 ⑮[上云...也]三十八字 ⑯津二律 ⑰
為十(賦) ⑱知二如 ⑲[也]一 ⑳願十(智) ㉑(如智) ㉒[而]一 ㉓故十(上云無色依者此依是律
言義謂欲色界是無色界氣分故名為依此釋願智因依果知無色界)三十七字夾註 ㉔[智]一 ㉕有二亦 ㉖彼二後 ㉗
(餘)十如 ㉘[辯]一 ㉙此下聖本有光明皇后願文 ㉚聖本首缺 ㉛(三藏)一 ㉜定二是 ㉝七二八 ㉞智
二有

正智耶。答喜及覺。觀亂故不立支種。以是故亦不立念。又不立行捨。猗樂與行捨相違故。樂動捨問第三禪何故不立不苦不樂耶。答隨順無明品故。明無明相違。以是義故第四禪不立正智。問味相應等三種禪悉成就支耶。答支者唯說善。當知善禪與支相應非穢污。問穢污無何等。答初禪無。離生喜樂煩惱相應故。第二禪無。內淨煩惱濁亂故。第三禪無。念及正知煩惱樂所迷故。第四禪無。淨念及行捨煩惱相違故。復次初禪二禪無。猗樂一向善故。三禪四禪亦無。行捨隨事如先說者。若事彼禪先已說。餘禪復說者非未曾事增益。如初禪二禪說喜樂。當知此二枝非四。如是一切地。問此禪支有幾。答

禪支名十八 事則有十一

無色無有支 禪眷屬亦然 禪支名十八者。禪支名有十八。初禪有五支。第三禪亦爾。第二禪四支。第四禪亦爾。支前已說。事則有十一者。初禪五支名五。事亦五。第二增內淨。第三增行捨念樂正智。第四增不苦不樂。初禪支非二禪支作四句。初禪支非二禪。支者謂覺觀。第二非初者。謂內淨。亦初亦第二者。謂喜樂一心。非初非第二者。除上說。如是乃至第四禪展轉說。無色無有支。禪眷屬亦然者。四無色及禪眷屬不立支。以苦行故。支所攝禪是樂行。是故說彼地為苦道。若彼立支者。應一切地名樂道

有覺亦有觀 是說未來禪 禪中間有觀 明智之所說

有覺亦有觀是說未來禪者。未至依有覺有觀。未至者。是初禪眷屬。禪中間有觀明智之所說者。禪中間有觀而無覺。修行者轉寂靜故。問何故初禪二禪立中間依非上地耶。答彼昇降可得故。初禪有覺有觀。第二禪無彼中間有觀無覺。故別立依。上地無此。昇降故不立

未來或二種 謂離味相應 禪中間三種 亦俱說一受

未來或二種謂離味相應者。有說。禪未來二種性。淨及無漏。非味相應。彼雖有連。鎖縛力令未來禪受覺天生生死相連由初禪愛。須除此則二取此則三彼無正受愛。不除受生愛無過如是說者有味相應。禪中間三種者。禪中間有三種性味相應淨無漏亦有味相應如餘地。亦俱說一受者。未來及中間俱有一受謂捨受。未來者有畏故無樂受。近欲界故。修行者有畏故樂受不起。事未究竟故。修行者向離欲而未得故樂受不起。憂隨生故。欲界縛有餘故。如人被縛。有解有餘猶生疑畏不起樂受。彼亦如是。寂靜劣故。如未來禪中間亦如是。隨其義說已說地所起功德今當說

三摩提與通 無量一切處 勝處及諸智 背捨於中起

彼三摩提者。三三摩提。空無願無願應言無欲無相。彼善心平正故說三摩提。彼空者二種。謂有漏無漏。若有漏者一切法緣。無漏者有漏緣。此復九種。謂內空外空內外空有為空無為空。有為無為空無事空第一義空空。內空

者。謂內入空作無我思惟。外空內外空有為空無為空有為無為空亦如是。無事空者。謂無彼彼物。第一義空者。謂眼起時無所從來。滅時無所至。如是比說空空者。謂有漏空於無漏空作空空思惟。無願亦二種。謂有漏無漏。俱二種緣。隨其義說。彼復五種。謂內等三種及有為無願無願無願。有為無願者。於有為法以有漏無漏無願。作無常等行思惟。餘如空說。無相者。無相有二種。謂有漏無漏。彼復四種。謂於內入數滅以有漏無漏作滅止妙出無相思惟如是外及內外無相亦無相。無相三摩提修多羅品當廣說。重三昧雜品當廣說。通者六通智品已說。問若修神通作證證者顯現義也謂不失所作顯也彼成神通時為起耶不起耶。答若解脫是無記者。彼則起出定名為起。若解脫是無記者。則出三昧也。若善即三昧也若善者不起無量者

二無量無志 最後說無貪 第三說喜根 謂彼欲界依

二無量無志者。謂慈及悲。是無志善根性。瞋悲對治故。是處志者以慈對治。非處志者以悲對治。復次為捨眾生起慈以慈對治。為楚罰眾生起悲以悲對治。是故求功德者。能起無量非求過惡。彼乃至斷善根所亦求功德。謂見本淨業。求過惡者。乃至阿羅漢所亦求過惡。謂見本不淨業。最後說無貪者。捨無量是無貪善根性。謂無貪非欲愛瞋悲對治者不然。何以故。不絕無志故。問捨是貪欲對治。不淨觀亦貪欲對治。何貪以捨對治。何貪以不淨觀對治耶。答色貪以不淨觀對治。

智二知(觀)一(解)十(也)支一(問)二(升)二(項)二(銀)二(有解)一(禪)一(願)一(無願)一(無漏)一(無相)一(彼)二(復)一(無相)一(道)一(道)十(彼)一(彼成)起二十二字(出定...也)二十四字(起)二然

婬貪以捨對治。第三說喜根者。喜無量是喜根性。隨生法是五陰性。相者。以安饒益是慈相。除不安是悲相。隨喜是喜相。任放是捨相。謂彼欲界依者依者身也。欲界現在前非餘。何以故。樂饒益轉故。謂見欲界眾生苦。欲令得樂饒益。以除苦故。色無色界無苦。復次瞋恚對治故。慈無量者瞋恚過對治。如所說慈修習多修習除瞋恚。悲除害喜除不樂捨除欲愛瞋恚。色無色界無此諸過。又欲界有三方。除躡單越。問無量正受何等思惟。答

樂苦喜眾生 眾生無餘想
隨其所應轉 無量眾生緣

於彼眾生欲令得樂。如是思惟入慈正受。於苦眾生歎言苦哉欲令脫苦。如是思惟入悲正受。欣彼眾生如是思惟入喜正受。惟彼眾生無有餘想。如是思惟入捨正受。問慈力不能令苦眾生得樂。何故非顛倒耶。答善故。安希望所起故。正思惟相應故。瞋恚相違故。眾生緣者。緣欲界眾生。如所說若思惟滿一方成就住者。此說器及器中。以是義故當知無量是有漏眾生緣故。周遍總緣一切眾生。謂四生離此更無有餘眾生。離欲得方便得離欲得者離欲時得後方便現在前。問云何方便。答慈者從親起。謂欲起慈心時於一切眾生立為三品。謂親怨中。親復分別下中上品。先於上親品起真實希望。謂父母及餘尊重者。謂彼久習惡希望故饒益心不至。還復攝心作饒益想。如是上親乃至上怨得不等住。是名成就慈心正受。悲喜亦如是。捨從中品

起。如是廣說。名者。緣無量眾生故說無量勝處說有八 前三色背捨及八一一切處 無貪善根性

此諸善根當知無貪性。貪對治故。是有漏意解思惟故。問此非無貪善根性。何以故說觀說想故。如契經說。內色想外觀色。如是廣說。觀者是慧。是故勝處是慧性。阿毘曇解脫處云。勝知勝見見即證也。背捨亦說色觀。色是初背捨。是故前三背捨是慧性。如是一切處說地普一想。是故一切處是想性。而說無貪性者不然。答此諸善根無貪性。慧想增故。彼說見及想如宿命念及勝色想。是故無過。如會滅處隨念智念增故。言彼憶念會所更無量事。彼亦是智。如勝色想是慧性。以想增故說勝色想。復次。想近故說是故。說。想無過無貪慧想不相離。一依一行一緣一果一依果。依果此依亦是津氣義也。津氣果凡三種。一從通因生。二從自分因生。三從報因生。二從自分因生。三從報因生。二從自分因生。三從報因生。當知說餘云何知無貪性。貪對治故。此善根當知貪對治。若是無癡性者。應說癡對治慧。雖一切煩惱對治。癡最近故非貪。若一切處是。想自性者。非煩惱對治。不決定故。是故當知此善根是無貪性

若說彼眷屬 是則五陰性
此說三方依 境界欲界色

若說彼眷屬是則五陰性者。當知此諸善根及眷屬是五陰性。此說三方依者。此諸善根於三方身起除躡單越。亦非餘。何以故。此諸善根貪欲對治故。非色無色界有貪欲。躡單越雖有貪欲。慧力劣故是故不能起此善根。

欲界諸天雖有貪欲。以著樂故亦不能起此諸善根。境界欲界色者。此諸善根緣欲界色。初二背捨前四勝處。作青瘀等行於色入。處轉。不淨行轉故。餘者淨行轉。是故得為身念處。問何故彼修行者於緣受淨相耶。答為試不淨故。為成不成耶。觀不淨者懈怠心生。欲令攝持故。又欲自觀知所堪能。作是念。以不淨觀不起煩惱未足為奇。淨觀不起乃為奇特。又現善根有所堪能故

背捨中最後 心不相應行
是說二界依 先從欲界起

背捨中最後心不相應行者。想受滅背捨是心不相應行性。問一切心心法滅何故說想受滅耶。答以此二力故令修行者於二界極生疲勞。受力故於禪疲勞。想力故於無色疲勞。受想義如陰中說。是說二界依者。欲界色界身現在前非無色。何以故。非心故。欲色界有色。是故彼心心法滅。命根依色轉。無色中無色。若彼正受時。心心法滅命根應斷。無所依故。應死非正受是事不然。先從欲界起者。滅盡正受先從欲界起。於彼退生色界。復離彼欲而現在前。問何故色無色界得初起禪無色非滅盡正受耶。答禪以三事故起。謂因力業力方法方便力。因力者。謂彼於禪會已近起。業力者。謂已作受業長養。有四法受業已作而長養方法方便力者。如劫成敗時。無色界二事起。因力及業力。無法方便力。以彼無成敗故。滅盡正受從說力起。說者欲界。謂佛及波羅蜜聲聞說。是故彼欲界身能初起非餘。欲界一入正

①[慈]-②③ ④觀-⑤見⑥⑦ ⑧[也]-⑨ ⑩(如)十是⑪ ⑫想二相⑬ ⑭(說想)-⑮⑯ ⑰[也]-⑱⑲⑳* ㉑想二根㉒㉓ ㉔[處]-㉕㉖ ㉗足二是一㉘

修多羅說。慈極至遍淨。悲極至空處。喜極至識處。捨極至無所有處。有說。此經以無量名說聖道。彼受化者以無量名入聖道故。復次彼對治覺支以。無量名說。謂第三禪對治覺支以慈名說。如是乃至無所有處對治覺支以捨名說。復次以相似名說者。謂慈者樂行樂受乃至第三禪。悲者苦行空處呵責色轉喜者欣悅行識處者悅識住。捨者捨行無所有處說捨

餘有四勝處 及與一背捨 亦八一切處 說在最上禪

後四勝處淨捨前八一切處在第四禪。非餘下地。亦有淨背捨相似善根而不建立。不淨所壞故。是。故亦有後四勝處相似善根。說地正受及地一切處。彼地正受在欲界及四禪。地一切處在第四禪非餘。何以故。離八事惱亂故。欲界色欲有二種身欲心欲也對治彼故。初禪立二背捨四勝處。初禪色欲亦有二種故。二禪立二背捨。二禪無二種色欲故。三禪不立背捨。樂勝樂故。不能起此等善根。及一切處以彼背捨入勝處。以勝處入一切處。以初背捨入初二勝處。以第二背捨入第三第四勝處。以淨背捨入後四勝處。以後四勝處復入一切處

餘即名背捨 二一切亦然 滅盡最在後 餘無漏九地

餘即名背捨者。除空處九無。閑道及命終心。餘善盡說空處背捨。無。閑道向第四禪命終心向生是故不立背捨。當知餘無色亦如是。

二一切亦然者。空處識處一切處亦即名說。問識處上何故不立一切處耶。答修行者先入背捨觀而不能勝。然後入勝處而不能無邊意解觀。然後入一切處無邊青意解觀。如是黃赤白復如是。思惟此色何所依。觀依地大種然後入無邊地意解觀。餘大亦如是。彼復如是思惟。云何昇進。謂覺知。即先入空處一切處。彼覺知何依觀依意識。彼即入無邊識處一切處。此依更無所依。是故上不立一切處。滅盡最在後者。滅盡正受第一有中攝。何以故。隨順滅心故。次第漸微故易滅。問滅盡定不應第一有攝。何以故。如所說度一切非想非非想處想受滅成就住。答第一有攝。世尊以彼度諸正受及愛欲故說也。學者度正受住故說。無學者度愛欲故說。復次度一切非想非非想處者。此說見道斷。想受滅者。此說修道斷。如是曾習未曾習共不共離欲得及方便得盡當知。以勝故。不共故。界地究。竟故。二背捨說身作證。識滅盡正受及入定心是有漏隨順滅心故。出定心有漏無漏。彼正受方便得非離欲得。若退而更起者。得未曾得非已曾得。餘無漏九地者。若餘無漏功德。謂三三昧漏盡通在九地。謂四禪三無色未來中間。有漏三昧在十一地。謂此九及欲界亦第一有

三背捨當知 有漏及無漏 定智通已說 其餘悉有漏

三背捨當知有漏及無漏者。空處識處無所有處背捨。當知有漏亦無漏。定智通已說者。定前已說。諸智神通如智品說其餘悉有漏者。餘三通似工巧故。受色聲自相故。無量者緣衆生故。一切處勝處初三背捨得解思惟故。第一有正受不捷疾故。想受滅心相違故。皆悉有漏。問背捨勝處一切處何差別。答

謂彼性背捨 能勝所緣處 無。聞普周滿 名如所度說

不向故說背捨。勝彼處故說勝處。以勝處故世尊說勝處。雖非一切修行者能勝彼處。但於緣中煩惱不起亦名勝處。無邊意解故說一切處。復次軟善根說背捨。中者說勝處。上者說一切處。復次因說背捨。果說一切處。因果說勝處。已說諸功德自性成就地有漏無漏。謂禪無色三種成就今當說

未離欲當知 成就味相應 離下未至上 成就淨諸定 未離欲當知成就味相應者。若彼地未離欲成就彼地味相應。離下未至上成就淨諸定者。謂離欲界欲非梵天彼成就淨初禪及初禪地餘功德。凡夫人成就味相應及淨。聖人成就三種

住上應當知 成就下無漏 方便生功德 當知非離欲

住上應當知成就下無漏者。聖人生梵天上成就無漏初禪及餘無漏三昧神通等諸功德。有漏諸功德生處縛。無漏不縛。是故離生處捨有漏功德非無漏。方便生功德當知非離欲者。已說離下地欲成就諸功德。當知

謂彼性背捨 能勝所緣處 無。聞普周滿 名如所度說

不向故說背捨。勝彼處故說勝處。以勝處故世尊說勝處。雖非一切修行者能勝彼處。但於緣中煩惱不起亦名勝處。無邊意解故說一切處。復次軟善根說背捨。中者說勝處。上者說一切處。復次因說背捨。果說一切處。因果說勝處。已說諸功德自性成就地有漏無漏。謂禪無色三種成就今當說

①[無量]一② ③說二謂④ ⑤[故]一⑥ ⑦聞二礙⑧ ⑨聞二礙⑩ ⑪竟二意⑫ ⑬[識]一⑭ ⑮[悉]一⑯ ⑰聞二問⑱

得非。現在在前者彼非離欲方便得者謂
◎天眼天耳智此無記性故。不入淨無漏味相
應。是故得彼三種禪時。不得作方便已乃現
在前。六通二是無記。解脫道所攝故。餘四
是善。問此諸方便所得功德。何等斷煩惱。何
等不斷煩惱耶。答

根本淨初禪 是亦同一縛

不能斷煩惱 無量亦復然

根本淨初禪是亦同一縛不能斷煩惱者。根
本淨初禪。自地煩惱一縛所縛故不能斷煩
惱。他地世俗道現在前時乃能捨離。如人被
縛不能自解。彼亦如是。自地味所味故不能
捨離。如人親友雖劣不捨。彼亦如是。若諸煩
惱根本禪對治者彼斷得。若不斷得彼非對
治。是故無漏禪煩惱對治有漏者方便斷。如
是乃至非想非非想處。無量亦復然者。無量
不斷煩惱。緣衆生故。法相者斷煩惱。復次
解脫道攝故無。閎道攝者斷煩惱。復次緣現
在故緣三世者斷煩惱以須與治故。世尊修
多羅說慈斷瞋恚。須與治者。諸結暫息如
負。債寬期

當知五背捨 及與八勝處

亦十一一切處 不能斷煩惱

空處識處一切處及非想非非想背捨。此法
根本所攝不斷煩惱如前說。想受滅背捨心
相違故不斷煩惱。色背捨勝處一切處亦不
斷煩惱。自相境界故。共相道斷煩惱非自相
復次意解思惟故。真實思惟斷煩惱非意解。
復次假想思惟故。不假。想思惟斷煩惱。復次

事境界故。非事思惟斷煩惱。復次解脫道攝
故。無。閎道所攝斷煩惱。二十三種正受八味
相應八淨七無漏。問此三昧一幾種因。答
所謂無漏定 一一七種因

味相應因一 謂彼淨亦然

所謂無漏定一一七種因者。無漏初禪。於無
漏初禪相應共有自分因。於無漏三禪三無
色。定自分因。如是乃至無所有處此則總說。
初禪所攝道有六種。隨信行。隨法行。信解
脫。見到。時解脫。不時解脫。隨信行道六種
因。隨法行道三種因。信解脫道四種因。見到
道二種因。時解脫道亦二種因。不時解脫即
不時解脫因。味相應因一者。味相應初禪味
相應初禪因非餘。初禪因不相似故非他地
因。因果斷故。彼味相應五種。見苦斷乃至
修道斷。見苦斷見苦斷因。如是一切。謂彼淨
亦然者。淨初禪淨初禪因。非味相應非無漏。
不相似故。非他地淨因。自地繫縛故。淨初禪
四。種。退分住分勝分決定分。彼退分四種因。
住分三。味。勝分二。決定分唯決定分非餘。
以劣故。當知餘地亦如是。問一一次第生幾
種。答

無漏禪無色 逆順超次第

次第生六種 七八九與十

無漏初禪次第生六種。自地淨。及無漏第二
第三禪亦如是。無漏無所有處次第生七。自
地二上地一下地四。無漏第二禪次第生八。
自地二下地二上地四。無漏識處次第生九。
自地二上地三下地四。餘無漏次第生十。比

智品所攝。禪次第無色現在前非法智品所
攝。法智品者下地依下地緣。是故次第無色
不現在前

從六至十一 謂淨次第生

次生二至十 味相應非三

從六至十一謂淨次第生者。淨非想非非想
處次第生六種。自地味相應及淨。下地四淨
及無漏非味相應。離欲故。淨初禪次第生
七。自地三上地四。淨及無漏淨無所有處次
第生八。自地三上地一下地四。淨第二禪次
第生九。淨識處次第生十。餘十一此說方便
得離欲得非生得。是故不說上下地味相應
◎生得。淨命終時次第生一切地味相應。問何
等淨初禪次第生聖道耶。答謂決定分。若異
者不應建立四種。次生二至十味相應非三
者。味相應初禪次第生二種。自地味相應及
淨。非無漏。煩惱相違故。非上地。未離欲故。
非三者不生三。若說三者不然。第二禪味相
應次第生四。自地二。除無漏。下地二味相
應及生得淨。謂第二禪愛畏故依。淨初禪自
護。如修多羅說。寧依初禪厭離俱思惟正受。
不依第二禪劣思惟。第三禪生五。自地第二
二禪二初禪。一。味相應第四禪生六。空處
七。識處八。無所有處九。非想非非想處十。自
地二。無所有處二。下地味相應六。謂受生
煩惱故。問一一緣幾種。答

淨與無漏禪 緣於一切地

自地有漏法 味相應處所緣

淨與無漏禪緣於一切地者。淨及無漏禪緣

◎現在十(前)◎ ◎天=入◎ ◎諸結=謂◎ ◎債=實◎ ◎[想]=一◎ ◎於=捨◎ ◎[定]=一◎ ◎脫=說◎ ◎種=稱◎
◎[味]=一◎ ◎無漏十(地)◎ ◎無=九◎ ◎二=一◎ ◎欲十(欲)◎ ◎[生]=一◎ ◎一=二地◎ ◎相=想◎ ◎處=

一切地一切種。廣境界故。彼無漏比智品緣八地。法智品緣一地。方便善根緣四諦。自地有漏法味相應所緣者。味相應初禪緣自地味相應及淨非餘。此義使品已廣說。不緣無漏及他地

無色則不緣 下地有漏種
謂根本善有 穢汚如味禪

無色則不緣下地有漏種謂根本善有者。無色根本淨及無漏。不緣下地有漏法。離色相故。緣自地及上地故說非下。比智品緣下無漏故說非有漏種。以方便所攝無。閑道緣下地故說根本。世俗道斷結無礙。下緣解脫上緣也。說善有。穢汚如味禪者。如味相應禪緣自地味相應無色亦如是

謂色界有餘 無量諸功德
是則緣欲界 最勝之所說

四無量等諸功德緣欲界前已說。除神通故說無量等諸功德。彼五神通緣欲色界。謂初禪者緣初禪及欲界非上地。餘亦如是隨其義說。淨禪三種。一煩惱。二道。三不勤。煩惱。勤者。退分有煩惱。道。勤者。道所。勤謂。勤修。餘者非。勤。問彼何等禪能。勤答

若能。勤諸禪 是依第四禪
三地愛盡成 淨居唯果實

依第四禪。勤初禪。何以故。離八事惱亂故。於一切依最勝故。有五種勤。軟中上上中上上。此生五種淨居。下地亦有五種勤。第三禪愛盡故。下地不生淨居。彼所依或不起勤

起不起是出方便者。以無漏第四禪流注具足定不出也。正受。然後有漏次復無漏。於彼流注漸略。乃至無漏二剎那次第有漏二剎那現在前。此則有漏無漏。勤禪方便成。若一剎那無漏一剎那有漏復一剎那無漏。是名。勤禪成。有十五心。五有漏心十無漏心。問何故。勤禪答。或有念正受。或畏諸煩惱。或復樂受生。是各隨義說

*勤禪有三因緣。念正受者。謂修行者愛念正受為現法樂住故。畏煩惱者。畏退故。樂受生者。樂生淨居故。彼信解脫具三因緣正受。見到有二。不畏煩惱不退法故。時解脫亦二。不樂生背一切生故。不時解脫唯。愛念正受不畏煩惱不退法故。不樂生背一切生故。勤禪五陰性。有漏及無漏緣四諦。以無漏散有提義言。如是。廣說。無漏心。勤有漏心如花散支提。問已說三種正受彼云何得。答

離欲及受生 而得於淨禪
穢汚退及生 無漏唯離欲

離欲及受生而得於淨禪者。淨初禪二時得離欲界欲及上地沒生梵天。問退時亦得。謂初禪離欲退得初禪退分善根。何故不說耶。答此中說一切淨。先不得而得。退時退分善根雖先不得而得。餘三種先成就。先失一得三今都無故非一切是故不說。願淨初禪離欲得離欲捨退及受生亦如是耶。答有退分初禪。欲界離欲退時得。梵天離欲時捨。梵天離欲時得勝。梵天離欲退時得。欲界離欲退時捨。上地沒生梵天。時得。梵天沒生欲界時捨。乃至無所有處

亦如是非想非非想離欲得非生。得無上地故。穢汚退及生者。味相應初禪退時得。謂初禪離欲界及梵天纏退。生得者。謂上地沒生欲界。及梵天如是。乃至無所有處非想非非想唯退得。無漏唯離欲者。無漏初禪離欲得。謂聖人離欲界欲。此說次第人。若依初禪超。昇離生亦得。乃至一切地亦如是。問此諸功德何等斷煩惱。答

無漏除煩惱 及正受中間
一切定中間 相應於捨根

無漏除煩惱者。無漏根本初禪八地煩惱對治。乃至無所有處二地煩惱對治。及正受中間者。正受中間名方便道。謂斷下地煩惱乃至未離下地欲。不得根本正受。餘非對治。一切定中間相應於捨根者。一切方便道捨根相應。未得故不生歡悅。問如所說上地無身識若上。地欲眼見耳聞身觸時。彼云何見聞觸耶。答梵世識現在前。問上地何故無此識耶。答前已說。上地覺觀非分故無此三識身。上地欲見欲聞欲觸。初禪識現在前則見聞觸非欲界非修果故。問何時成就。答

隨識現在前 上地則成就
捨則不成就 心力羸劣故

乃至此識現在前。若眼識若耳識若身識。爾時成就。心羸劣不隱。沒無記故。是故剎那成就。從彼起已不隨轉。問已知善穢汚正受得時及諸識成就。彼化心云何得一時得幾心。答

受生及離欲 得是諸化心

●勤二熏* ●(謂)十退● ●唯二推● ●(應)十廣● ●[時]一● ●[地]一● ●沒二說●

有二因緣得化心。受生及離欲。或頓得二三四五受生者。上地沒生梵天。爾時得初禪。果二心。一欲界。二初禪。若生二禪得三心。一欲界。二初禪。三即自地。生三禪得四心。下地三自地。一。若生四禪得五心。下地四自地。一。是說受生得。離欲者。離欲界欲得二心。如前說。初禪離欲得三心。二禪離欲得四心。三禪離欲得五心。是故說。或一剎那得化心而不斷。欲界離欲時最後無。闍道作四句。得而不斷者。謂初禪地初禪果化心。離欲界欲時得初禪果化心此。心為初禪結。斷而不得者。謂欲界第二第三第四禪果化心。三地化心是欲界法故為欲界煩惱纏亦離欲界欲斷初禪未離欲故不得也。亦得亦斷者。謂欲界初禪果化心。不得不斷者。謂餘化心。乃至第三禪離欲隨義說。於此十四化心。欲界四色界十。彼欲界化心化作欲界化。色界化心化作色界化。自分故。彼化八種。生欲界化欲界化。自身及他身如是。色界生色界亦如是。欲界化四入。色界化二入。何以故。不化根故。是故化無心。一心一化或多。但一地也。住神足能令住。雖涅槃化隨轉。如尊者陀驪涅槃已化火燒身。尊者大迦葉全身久住。世尊化教化非分佛事竟故。般涅槃不留化。問為修慧化亦生慧耶。答亦生慧。退生得化心故是先離欲所得修慧也。魔天化心是生慧也。如魔化為佛身。魔天女化身詣佛所。若化人所食之食。若彼化主本欲自養身者。彼食。現在。化主身中消也。若本不欲。養身者。則彼食但聚在化人處也。問成就幾種化心。答

或有二三四 五七及與九 增三或亦五 如是成化心

若生欲界欲愛盡梵天愛未盡。及生梵天於彼愛未盡。是成就二。若生第二禪於彼愛未盡。是成就三。若生第三禪於彼愛未盡。是成就四。若生第四禪是成就五。若生欲界及梵天。梵天愛盡二禪愛未盡。是亦成就五。若生二禪。二禪愛盡三禪愛未盡。是成就七。如是廣說。應說九及增三五第四禪愛盡生第三禪。生第二禪更增三生初禪更增五也。問若欲界化初禪果。及初禪地化初禪果有何差別。答色界界勝故勝。又欲界第一禪果。色界初禪果欲界去勝。能至二禪。色界界勝。一切化皆如是。離欲得化心及方便得化心各有十四種。說雜阿毘曇心論卷第七

雜阿毘曇心論卷第八

尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

修多羅品第八

已說定修多羅今當說

一切智所說 修多羅妙義

我今當少說 修行宜善聽

知一切故說一切智。一切者。謂十二入。於彼自相共相一切悉知。所說者。一切智人親自演說。妙義者。謂甚深性相微妙義也。此微妙義是修多羅說。故言修多羅妙義。今者。謂此論。少說者。以牟尼所說無量無邊故言少說。

修多羅者。凡有五義。一曰出生。出生諸義故。二曰泉涌。義味無盡故。三曰顯示。顯示諸義故。四曰繩墨。辨諸邪正故。五曰結鬘。貫穿諸法故。如是五義。是修多羅義。雖義不在說而因說顯現。故言說義。謂因說名轉因名顯義。善聽者。宜一其心決定善聽。問世尊說施戒修。彼一一有幾種答。惠施持淨戒。是各有四種。修禪則有二。說名為功德。畏三種畏。欲方便令度三畏故。世尊略說此三種功德。彼畏貧窮畏者方便令度是故說。畏惡道畏者方便令度是故說。畏生死畏者。方便令度是故說。問何等為施性答。無貪相應思。俱起同一果。眾具處所生。此則是施性。無貪善根相應思。施物處所生。及隨轉身口業。是五陰施自性。以說色香味等具足故言。思願等非施者不然。何以故。於物說施名世尊開發施。主心故令思願堅牢故。於物說施名即是施物處所生。問前說四種施。何等為施種答。所謂自攝受。亦復攝受他。或有二俱攝。或二俱不攝。有自攝故施。有攝他故施。有攝自他故施。有報恩故不為攝自他施。謂阿羅漢供養佛為報恩故不為自他攝。彼自攝者。若未離欲者。供養於支提。及凡夫離欲。是名自安施。聖人未離欲。及凡夫離欲。供養支提。則自

①(果)一②③ ④三二二⑤ ⑥所十(結所)⑦ ⑧一心二心一⑨ ⑩(欲)一⑪⑫⑬ ⑭現二即⑮⑯⑰ ⑱(自)十養⑲ ⑳及一是㉑ ㉒(二) ㉓[得]一⑴ ⑵種十(也)⑶ ⑷此下聖本有光明皇后顯文 ⑸[第]一⑹ ⑺聖本聖乙本俱首缺 ⑻第八十(上) ⑼(天竺)一⑽⑾ ⑿八二九⑿ ⑿辨二辨⑿ ⑿各二名⑿ ⑿以上聖乙本缺 ⑿今二爾 ⑿主二生 ⑿他十(也)⑿ ⑿二也 ⑿提十(請願處名支提)夾註⑿ ⑿(是)十則⑿

攝施以施受欲界報故。謂未離欲者生欲界故。凡夫雖離欲生色無色界。後還受欲界後報及不定報。是名自攝不攝他。何以故。支提非衆生故。

離欲非凡夫 除其現法果
施與諸衆生 是名爲攝他

若阿羅漢若阿那含。除起現法果施。若餘施爲衆生者。是名攝他非自攝。阿羅漢生非分故。阿那含雖受生在色無色界。而不受施果。以因果斷故建立界。

未離欲界欲 已離欲凡夫
施與諸衆生 當知二俱攝

謂聖人未離欲。及離欲凡夫施與衆生。當知二俱攝。

離欲非凡夫 除其現法果
供養於支提 是則俱不攝

若阿羅漢。若阿那含。除起現法果施而供養支提。此非自攝亦非攝他。阿羅漢無生故。阿那含雖有生而欲界非分故不自攝。支提非衆生故不攝他。彼憶念本恩。爲報恩故。佛雖般涅槃猶供養支提。復次

或有爲攝他 供養於支提
無量衆見聞 皆生隨喜心

或供養支提亦爲攝他。以幢幡花蓋燒香散花供養支提。令無量衆生見者隨喜生天解脫因。是故世尊修多羅說。於未曾立處建立支提能生梵福。以攝無量衆生故名梵福。問齊何當言梵福。答有說。除近佛地菩薩。諸餘一切衆生能生大富大力等增上果業。是梵福

量。復有說者。世界成時一切衆生。器世界生。此能生器世界業。是名梵福量。又復此施

謂彼希望等 七種施非上
第八莊嚴心 是名最勝施

世尊說八種施。謂希望施。怖畏施。反報施。期報施。家法施。生天施。求名施。爲莊嚴心爲調伏心爲順修行爲得最上義故施。希望施者。選擇福田欲求多果故施來求者。施來求者施是舊阿毘曇說希望施。怖畏施者。方於亡失。施故施。謂見有失。想寧施不失。反報施者。曾得彼利云何不報。期報施者。若施於彼彼還還報。家法施者。習先人施非自信施。生天施者。求生天故施。求名施者。爲稱譽故施。此七種施。慧所鄙故非上。不求生死樂施是名莊嚴心施。此道方便施故於財施中最爲第一。是名上施。已說施。果果今當說

壽色力安樂 辯才等五種
施報百千等 施主之所獲

布施如上說。五種如世尊施五德修多羅中說。食已壽非不食。是故施壽。乃至。辯才亦復如是。相似因生相似果。謂得長壽乃至。辯才報。如種外種隨類收實。此亦如是。壽者。謂人天非惡趣。此以持因故說施壽。如說。離殺生修習多修習得長壽。此以招引因故說。譬如二種母。生母及養母。離殺生者如生母。施食者如養母。施畜生五種報得百倍福。謂和合者得。如是廣說。見道中雖不食而能受施。已說施及果。謂即施即果今當說

慈無諍滅定 見道及無學
從彼正受起 施者得即果

慈心無諍三昧。滅盡三昧。見道阿羅漢果從此起已。若有施者得即果。何以故。於無量衆生以安饒益相。是慈以慈。熏身故。從此起已施者得即果。無諍三昧令無量衆生煩惱不起。以廣攝功德。熏身故。從此起已施者得即果。滅盡三昧以廣功德。熏身故。似。涅槃故。從此起已施者得即果。見道所斷結永盡。以聖道。熏身故。從此起已施者得即果。修道斷結永盡心得自在住阿羅漢果。從此起已施者得即果。已說即果大果今當說

父母若病人 及與說法師
近佛諸菩薩 施者得大果

施此五種人得大果。何以故。父母長育生身恩故施者得大果。病者無所依怙增悲心故施者得大果。說法者增長法身故示人善惡故施者得大果。近佛地者積集功德廣攝衆生故施者得大果。問爲思願勝令施清淨。爲福田勝耶。若思願勝者。何故世尊讚歎福田。若福田勝者。何故施一福田而果不得等耶。答思願勝故施清淨。福田因力故。是故先說思願及眷屬名布施福。以淳淨心離身財求隨智慧行。如是施者則獲大果。若異者彼求名稱施勝福田。非大人施。若以田力生罪福者。不成田力等。應得無間業而不得故。當知思願力也。功德福田能起勝思願。是故世尊讚歎福田。問已知長養生身施。長養法身施復云何。答

現二見 攝十施 擇一釋 亡二忘 施一 想二相 辨一辨 熏二動 涅二滅 田力二男 田力二男

善說諸經法 遠離諸顛倒
不謗於牟尼 是說為法施

於修多羅毘尼阿毘曇 真實分別不著名利
廣攝衆生是名法施彼雖無*想著而顛倒說
誹謗如來真實因緣。而作異想。當知此則亂
心因緣。雖說不顛倒而心染著。如彼商人是
故偈說。不知牟尼說。如刀火及毒。於此善
分別猶如食甘露。復次三種顛倒謂法顛倒。

人顛倒時顛倒。法顛倒者。如有說。修習淨
想斷貪欲。人顛倒者。謂貪欲者而為說慈時
顛倒者。人根未熟為說真諦。如是比與此相
違名不顛倒說法。已說法施。無畏施今當說
以離等受說 安慰諸恐懼
是名無畏施 能壞貧窮怖

若見衆生今世後世及俱恐怖。以離受戒。說
慈心安慰言。衆生勿怖。我當為汝所作。令得
無畏。是名無畏施。彼恐怖如。貧窮。與彼真
實對治名無畏施已。說無畏施。大施今當說
普於群生類 等受戒律儀
功德流增廣 是則為大施

世尊說五戒為大施。攝無邊衆生故。起無邊
樂故。財施者。不能攝一切衆生。唯受戒則能。
已受持五戒已。於一切衆生盡形壽。念念中
得十二種未曾得律儀。三善。根。一起。身口。作無。作。彼戒。流
注相續不斷。問已知四種施。前四種戒云
何。答

欲界及禪生 無漏戒律儀
斷律儀從二 是說律儀種
四種律儀。謂別解脫律儀。禪律儀。無漏律儀。

斷律儀。別解脫律儀者。謂七衆所受戒。禪律
儀者。謂有漏隨生戒。無漏律儀者。謂學無學
戒。斷律儀者。謂離欲界欲九無閼道隨生戒。
若有漏是禪戒。若無漏是無漏戒。此律儀。業
品已說。已說四種戒。謂餘四今當說
或以希望受 *或以恐怖持
有願菩提支 及與清淨戒

有四種戒。所謂希望戒。恐怖戒。願覺支戒。
清淨戒。希望戒者。謂求生天及餘處故。持
戒。恐怖戒者。畏自責畏他責畏罰畏惡趣畏
不活畏惡名故持戒。願覺支戒者。為莊嚴心
故為方便求最勝義故持戒。清淨戒
者。謂無漏戒。離垢故。問云何淨持戒。答

根本眷屬淨 不為覺所壞
攝受於正念 隨順般涅槃
有五因緣。戒清淨。所謂根本淨。眷屬淨。不為
覺所壞。攝受正念。正向解脫。根本淨者。離越
根本業道。眷屬淨者。離殺生等方便。不為覺
所壞者。離欲害害三覺惱亂。攝受正念者。攝
受佛法僧念。以是故亦離諸無記心。正向解
脫者。為解脫持戒。不為身財及餘所作。是
故亦說隨順覺支。此五因緣。戒清淨。世尊說
得大果。離一切惱亂故。問已知一切正行所
依戒如天德瓶。云何二種修。答

禪無色無量 得修及習修
不淨安般念 二修義亦然
此諸禪等功德。熏心。如熏衣如花。熏麻如
融金。是故如是說。如熏衣修。如熏麻修。如
融金修。現在者習修。未來者得修。現在者用

故。未來者起故。現在者作所作。未來者當
作。現在者生故。未來者得故。現在者現前
分。未來者成就分。禪無色無量。定品已廣說。
不淨觀者無貪性。貪對治故。又對治四種貪
故復說四種。謂斷威儀貪故修死屍觀。斷色
貪故修青瘀等觀。斷觸貪故去皮肉修骨瑣
觀。斷處所貪故修骨節分離觀。此不淨觀復
有四種。謂退分住分勝分決定分。退分者。住
彼則退。住分者。住彼不進不退。勝分者。住彼
必升進。決定分者。住彼順聖道。界者欲色
界。地者十地。欲界禪中間根本四禪及四眷
屬。依者欲界行者非行。緣者緣欲界。念處者
身念處。智者等智。非三昧受生故三根相應
墮三世。過去者緣過去。現在者緣現在。未來
者若生法緣未來。若不生法緣三世。是善緣
無記。是非學非無學緣非學非無學。是修道
斷緣修道斷。當言緣義。問為方便得離欲
得。答亦方便得亦離欲得。若離欲界欲得初
禪。乃至離三禪欲得第四禪。後方便現在前
問不淨觀云何方便。答彼修不淨觀者。至塚
間極善取彼相。取已還至坐處洗足安坐。柔
軟其身心離諸蓋。取彼外緣以方己身。繫心
在足骨脛骨。膝骨髀骨。臍骨。腰骨脊骨。脇
骨。手骨臂骨。肩骨頸骨。頤骨。牙齒骨齒。骨。髑
髏骨。若繫心眉間。若樂略觀者。先從身
念處度。若樂廣觀者。從眉間觀髑髏乃至
足骨。從此一座一房一堂一僧伽藍一村一
鄉一國。若但從想起者。非有是處。若周遍
大地至眼光者。能觀彼處白骨充滿。若復略

知一如 實十(人於不長如貧乏財)夾註 已一 根一即 二二一一 二字宋本空白 作一 前十(說) 或一戒 以下聖本斷缺 支二枝 混用 持一 修二俱 瑣二 故十(謂有上諸處也)夾註 升一昇 爲十離 取十(相) 在 一 骨一

者。次第還至眉間繫心眉間。是名不淨觀成。或有不淨觀。緣少非自在少。作四句。緣少非自在少者。謂於自身數數入不淨觀。自在少非緣少者。謂周滿四海大地不淨一時觀察。不能數數入不淨觀。緣少亦自在少者。謂一時觀察自身不淨而不能數數入不淨觀。非緣少亦非自在少者。周滿四海大地不淨亦不能數數入不淨觀。復次不淨觀。緣無量非自在無量。作四句。緣無量非自在無量者。謂周滿四海大地不淨。清淨而不能數數入不淨觀。自在無量非緣無量者。謂於自身數數入不淨觀。緣無量亦自在無量者。謂周滿四海大地不淨亦不能數數入不淨觀。非緣無量亦非自在無量者。謂於自身不能數數入不淨觀。已說不淨觀。安般念今當說。安那者持來。般那者持去。亦名阿濕波。娑婆濕波。娑念者憶念。於安那般那審諦繫念。心不虛妄。修習彼念故說修。安般念是慧性。於彼品念增故說安般念。如念處如念宿命。初起者。於母胎中臍處所業生風起。或向下或向上。向下者。造下身分身諸毛孔。向上者。造上身分身諸毛孔。毛孔成已出息最初。乃至命終出息最後。正受亦爾。謂出初入定初入出定。六因緣得六種安般念。所謂數隨止觀還淨。數者。修行者巧便繫念數出入息。無一出入息而不覺知。若心亂者。或時減數。或時增數。或時亂數。減數者以二為一。增數者以一為二。亂數者出作入。想入作出想。心不亂者名為等數。五出息五入息。此名十數。若修行

者數時於十中間心亂者。還從一數起。若十數滿已。若亂不亂。要還從一起。畏心散故不遇十。畏心聚故不減十。於上無未曾數故。隨者。出入息去無所行。而隨為長為短耶。為遍身耶。為在一處耶。入為遠為近。齊何轉還耶。止者。隨心所樂於身一分。繫心令住而觀察之。彼息於身為益為損為冷為暖。如是等觀者。修習極修習。如憶自己名。隨其所欲而現在前。還者。若依欲覺者少行。依出離覺者勤行。淨者。淨諸蓋。彼修行者於出入息作一息。觀身如竹筒。觀息如穿珠。出入息不動。於身不發身識。是名安般念成。有說。亦起身識但不傷於身。又修行者於出入息。以極微壞。是名身觀。受出入息。是名受即觀。彼受是名受觀。識出入息。是名識即觀。彼識是名識觀。想出入息。是名想即觀。彼想是名想觀。謂極微壞。色色盡滅。然後以善及想。令現前。即便觀彼三以三念處方便。種子非入息未滅而有出息。非出息未滅而有入息。生是名因安般無常行度。入息逼迫故出息滅。是名苦行度。此名得方便無願解脫門種子。出入息生住滅不自在。是名因出入息無我行度。觀出入息離常等。因彼故空行度。是名得方便空解脫門種子。於出入息生厭心。向涅槃。是名得方便無相解脫門種子。依彼軟三三昧中依中增。如是次第。暖法乃至盡智無生智。問世尊說界。此云何。答。

二十說欲界 色界或十六

無色界有四 處所次第說

二十說欲界者。謂八大地獄畜生餓鬼四天

下六欲天。此二十說欲界。此諸眾生以欲受身。眾具及第二。是故說欲界。色界或十六者。謂梵身梵富樓少光無量光音少淨無量淨。遍淨無量陰福生果實無煩無熱善見善現色。究竟。此十六處說色界。有欲令十七如前十六及大梵。彼眾生受色身。非眾具非第二。是故說色界。無色界有四者。謂空處識處無所有處非想非非想處。此處眾生不受色身。離色欲故名無色界。問云何立三界。為愛斷故。為處所故。若愛斷者應有九。謂欲界愛斷欲界。如是初禪乃至非想非非想處。若處所故立者。應有四十。如前說。答總愛斷故說。謂欲界愛斷欲界。如是色界愛斷無色界愛斷無色界。欲界不定故一使。色無色界定故不一使。問云何建立界。答處所次第說。有說。從下次第上。謂最下無擇地獄。次大熱地獄。如是次第乃至色究竟。色究竟上復有無擇地獄。次第乃至色究竟。若離一欲界欲。則離一切欲界欲。若得初禪神足。能到一欲界及一梵世。復有欲令周遍傍立界。問世尊說七識住。此云何。答。

善趣在欲界 及色界三地 無色三亦然 是說為識住

欲界善趣。謂天及人。色界前三地。無色前三地。此七地說識住。有色眾生成就色身。種種身者種種形。種種想者苦樂不苦不樂想。是名初識住。復次種種身者如前說。一想者染汚世。彼梵身天初生作是念。我從大梵天生。大梵天作是念。我能生彼尊卑處所故及

①[清]一②③ ④波二婆⑤⑥* ⑦娑婆二娑阿⑧⑨ ⑩娑阿⑪⑫ ⑬娑二娑⑭⑮ ⑯[毛孔]一⑰ ⑱減二減⑲⑳ ㉑者二名㉒ ㉓想二除㉔㉕ ㉖暖二煖㉗㉘㉙ ㉚囉㉛ ㉜行二修㉝ ㉞動二熏㉟ ㊱種子十(也)㊲ ㊳三二二㊴ ㊵暖二煖㊶㊷㊸ ㊹囉㊺ ㊻陰二覆㊼㊽ ㊾(俱)十身 ㊿斯十(色界) ㊿復十(次) ㊿身天二天身

覺觀識身故。梵天有種種身。是名第二識住。一身者色身形處量等。種種想者樂及不若不樂想。根本喜疲厭眷屬捨根現在前。捨疲厭已喜復現在前。是名第三識住。一身一想者。一身如前說。一想者樂。是名第四識住。無色衆生者不成就色身。離色欲故。度一切色想者。行離色故說。以色想眼識相應故。若離初禪欲度欲愛行。離第四禪欲度行色行。以是義故。說滅有對想。五識身相應故。不念種種想者。彼種種想。謂第四禪地普散以緣種種入故。若染汚者緣十入。不染汚者緣十二入。離欲擾亂故說。不念無量者。無量行故方便思惟空入。空正受故說空處入。空處入成就者。得成就彼地四陰。是名第五識住。方便思惟識入識處。是名第六識住。無量行非分故說無所有處。是名第七識住。問何以故。立七識住。答若識於彼樂住故說識住。惡道苦逼迫故識不樂住。淨居天向涅槃故識不樂住。無想衆生無心故。餘第四禪或求無色或求淨居或求無想故識不樂住。第一有不捷疾故識不樂住。復次若彼有壞識法故不立識住。惡道者苦根壞故。第四禪無想三昧壞故。第一有滅盡三昧壞故不立識住。問九衆生居云何。答

第一有無想 是說衆生居

謂有漏四陰 是說四識住

第一有無想是說衆生居者。前說七識住及無想天第一有是說九衆生居。問惡道何故不說衆生居耶。答樂住非分故多苦故不樂住。

淨居天疾向涅槃故不樂住。餘第四禪如前說。問四識住云何。答謂有漏四陰是說四識住。除識陰餘有漏四陰說識住。有說衆生數陰說識住者不然。何以故。依行緣相應分義故名爲住。依者識所依緣者能緣非所緣分者。胡音云。去未來雖非衆生數亦有。無漏法亦說。識住者不然。何以故。壞染汚識故不立識住。識陰非識住。二非分故。先後不俱故。不顧自性故。自分識住自分陰。謂欲界住欲界如是比。不異界不異地不異身。問何故自分陰說識住非不自分。答以自分陰攝識故。問不自分心陰及非心陰云何名識住。他界心住時名非自心。陰答得相故。彼亦識住相成就。若彼自分識生者彼則隨轉。彼有住識義。中間因緣礙故識不生非識住非分。問世尊說緣起。彼有何相。答

煩惱及業事 彼隨次第生

當知是有支 衆生一切生

三分緣起支。謂煩惱業事。此煩惱業及事。於彼彼生次第起名緣起支。當知是緣起支。此諸分建立。謂衆生受生。過二及未生。中間說於八。

此諸分建立 謂衆生受生

過二及未生 中間說於八

此諸分建立。謂衆生受生者。於此三分緣起說十二支。問此云何。答過二及未生中間說於八。彼過去生時諸煩惱分說無明。過去生時業說行。現在相續說識。彼相續已六入分未滿說名色。諸根滿分說六入。未能分別苦樂不苦不樂根塵識合說觸。分別苦樂分齊而未能分別。煩惱分齊說受。樂受於可愛不可愛。若離若合。思愛生說愛。現在廣生煩惱說取。更生後有說有。現在有種未來陰生說生。未來陰熟說老。未來陰捨說死。

三有支煩惱 二業事則七

七名前有支 五則說後分

三有支煩惱二業事則七者。謂無明愛及取三有支。是煩惱行。及有二支是業餘支說事。七名前有支五則說後分者。當知從無明至受七支。是名前緣起。餘五支說後緣起。

前支五說果 餘二則爲因

後支三說因 餘二則爲果

前緣起從識乃至受是果。無明行是因。後緣起前三支說因。後二支說果。問有支前後得展轉合耶。答得。此云何

前癡後愛取 行有合亦然

名色入觸受 是說同老死

謂初受身識 是則未來生

問已知有支。前後展轉相攝。彼云何起。答煩惱起煩惱業 彼業轉生事

事亦生於事 亦復生煩惱

緣煩惱生煩惱者。謂緣愛生取。緣煩惱生業者。謂緣取生有。緣業生事者。謂緣有生生。緣事生事者。謂緣生生老死。緣事復生煩惱者。前說名色六入觸受即是後支老死。以是故說緣受生愛。亦說緣老死無明。是名爲無始有輪。問有四種緣起。何等爲四。答

謂彼相續轉 刹那與連縛

及前謂分段 此則說緣起

相續轉者是無始義。因果展轉相縛故說緣起。猶如滿月始不可知。是故修多羅說。

①彼二無 ②胡一梵 ③發二波 ④注二住 ⑤(五)一 ⑥無十(無) ⑦陰十(也) ⑧住識二識住 ⑨礙二關 ⑩彼隨二隨彼 ⑪愚二遇 ⑫愛二受 ⑬愛二受 ⑭(從)一 ⑮煩二惱 ⑯惱二業 ⑰(緣)一 ⑱說二枝 ⑲(受生)一 ⑳輪二轉

有愛本際不可知。應說無不應說不可知自有有而不可知者不然。何以故。無言說因故。言說無者。若有問言。何故無則不容言說因。言說不可知者。若問何故不可知。則答言。無何等如滿月輪始不可知。如是因緣相續緣起。滿月輪始不可知。是故言不可知。一利那頃一切有支現在前故說利那。如識身論說於莊嚴事。無知故起貪。無知者是無明。貪者是行。於事知者是識識共起四陰是名色。名色建立諸根是六入。六入所著是觸。觸隨覺是受。受所喜樂是愛。愛俱生纏是取。受當來生業是有。未來陰起是生。陰熟故是老。捨陰是死。展轉相縛故說連縛因緣。根本展轉久遠義。非唯十二支說緣起。若生若所生一切有為。法說緣起。尊者富那耶舍說。或緣起非已緣起者。謂未來法。已緣起非緣起者。謂過去現在阿羅漢命終五陰。緣起已緣起者。除過去現在阿羅漢命終五陰。諸餘過去現在法。非緣起非已緣起者。謂無為法。分段間可得故說分段。彼過去生時煩惱。分說無明餘如前說。問世尊說生及趣。為生攝趣為趣攝生。耶。答

生攝一切趣 非趣攝於生
謂生中陰增 當知非趣攝

生攝趣非趣攝生。問何故答謂生中陰增中陰者。生所攝非趣攝。以到故說趣。中陰者是去非到。是故非趣。生者謂四生。卵生胎生濕生化生。欲界具四生。色無色界一切化生。地獄化生。畜生四種。餓鬼化生。亦有胎生人

四種天化生。化生最廣。以全二趣三趣少分故此亦最勝。問若最勝世尊何故不生耶。答時不俱故。若有化生時則無佛。出佛出世時則無化生人。復次一切勝故。世尊一切勝所生種性於一切眾生最勝。說法信受故。及斷種性貢高慢故。趣者五趣。謂地獄畜生餓鬼人天。不可樂故說地獄身橫行故說畜生。從他希求故說餓鬼。意寂靜故說人。光明故說天。有欲令阿修羅與天同趣。是故說言。汝先是天。問若然者何故不見諦耶。答詔曲所覆故。有說是大力餓鬼。天趣不說故。問若爾者。釋天云何與相習近耶。答貪色故。負多究弊。荼勒又。亦餓鬼趣攝緊那羅毘舍遮薩魯。娑迦閣羅頤求羅。畜生趣攝。問世尊說六界。此云何。答

所謂四大種 及諸有漏識
亦色中間相 此界說生本

所謂四大種及諸有漏識亦色中間相者。四大五識身及有漏意識亦色中間。謂眼所受是空界數。是名六界。問已說十八界何故別說六界耶。答此界說生本。此界說土夫數建立生根本故。是故無漏法不立六界中。四大如界品說。問諸有何相。答

謂性果諸行 有漏是說苦
因性則為集 滅諦眾苦盡

謂性果諸行有漏是說苦者。一切有漏行有因及縛性故說苦。因性則為集者。此有漏行是因性者說集諦。是故苦集是一物。因果故立二諦。滅諦眾苦盡者。一切有漏法究竟寂

滅。是說滅諦
若無漏諸行 是說為道諦
此二因緣故 龜細次第現

若無漏諸行是說為道諦者。一切無漏行說道諦。有相違故。問何故說名諦。答此二因緣故。有二因緣說諦。謂自性不虛及見。彼得不顛倒覺。虛空非數緣滅雖自性不虛。無記故無漏故不說諦。若法是苦。苦因離苦。苦對治故彼立諦。彼無漏故非苦非苦因。無記故非離苦。無為故非苦對治。是故說四諦病。病因無病藥亦如是說。問聖諦有何義。答聖於此諸諦起真實覺及顯示他故說聖諦。此逼迫相說苦。生相說集。寂止相說滅。出離相說道。問應前因後果。何故世尊前說果耶。答龜細次第現。雖如是。以隨順無間等故前說果苦龜故先無間等。如是比。滅雖微非道先施設說諦求滅龜非道。復次易度義故。從龜次第立龜者。欲界苦彼先無間等。後色無色界苦。色界苦雖龜。非無色界定不定故。是一無間等。問真諦無間等云何。為自相為共相耶。答諦故自相。陰故共相。問世尊說四沙門果為幾事。答

聖果事有六 最勝在九地
第三在六地 二種依未來

聖果事有六者。六事說沙門果。謂無漏五陰及數滅。聖道說沙門。彼是此果。沙門果擇品當廣說。問此果何地攝。答最上在九地。阿羅漢果九地攝。謂未來中間根本四禪及三無色。第三在六地者。阿那含果六地攝。除無

①無十(始)②③論二輪④⑤受二愛⑥法說二說法⑦⑧趣十(趣者應言倒也)夾註⑨⑩耶二也⑪全二生⑫令⑬出十(世)⑭⑮茶二茶⑯⑰波二波⑱諸二謂⑲行二法⑳(比)一㉑(離)一㉒是十(故)㉓
⑳沙門十(果)㉔㉕禪二禪

色二果依未來者。須陀洹斯陀含果依未來。未離欲故。問道有何相。答

隨信行行法 離煩惱遲相
隨法行行法 離煩惱速相

隨信行行法離煩惱遲相者。隨信行所行無漏法。軟根品所攝故當知是遲。若隨信行所受當知信解脫時解脫。亦受同。軟根故。隨法行行法。離煩惱速相者。隨法行所行無漏法。利根品所攝。當知是速道。若隨法行所。受當知見到不時解脫。亦受同利根故

根本禪地中 當知是樂道
減及難得故 當知是說苦

根本禪地中。當知是樂道者。謂根本四禪地。軟根法及利根法說樂道。止觀等故。彼地道樂行。減及難得故。當知是說苦者。依餘地道說苦道。以減故。謂未來中間止道減。無色定觀道。減。是以方便難得說苦。非聖道是苦受性。亦非苦受相應。雖苦盡道。亦無量分別。此地及根建立故說四。彼根本禪地。若利根說樂道及速道。若鈍根說樂道及非速道。餘地道。若利根說苦道及速道。若鈍根說苦道及非速道。正昇進故說道。正向解脫故說道。問云何不壞淨。答

佛及聲聞法 解脫亦餘因
清淨無垢信 聖戒謂決定

佛及聲聞法解脫亦餘。因清淨無垢信者。若於佛所得無學法起無漏信。是名於佛不壞淨。若於僧所行學無學法起無漏信。是名於僧不壞淨。若於涅槃起無漏信。除前所說法。

謂於餘苦集諦及菩薩無漏功德辟支佛無漏功德起無漏信。是名不壞緣法不壞淨。別緣法實。若不壞緣法不壞淨。則何故無漏說不壞淨。答謂決定故。真實智俱生無漏信。戒決定有漏信。為不信所壞。有漏戒為惡戒所壞。無漏者經生不壞。是以決定故無漏立不壞淨。此義擇品當廣說。

初禪若有善 說名現法樂
謂得生死智 是說名知見

初禪若有善說名現法樂者。淨無漏初禪現法安樂住。是名修定得現法樂。當知第四禪亦如是。初禪亦說後世樂住。然不一。若退若生上地若般涅槃。後世樂不定故世尊說。現法現法安樂住。謂得生死智是說名。知見者。生死智通是名修定得。知見如力處說盡當知

當知分別慧 方便生功德
金剛喻四禪 是名為漏盡

當知分別慧方便生功德者。若方便生諸功德。從善法欲聞思修三界善及無漏。是一切說名修定得分別慧。金剛喻四禪是名為漏盡者。金剛喻定名最後學心相應。依第四禪。是名修定得漏盡。此世尊自己說第四禪一切菩薩無所有處愛盡。依第四禪超昇離生乃至漏盡。問如意足何等自性。答

善有為諸法 方便之所起

佛說如意足 是亦說正斷

善有為諸法方便之所起佛說如意足者。前所說方便所生功德。彼一切如意器故說如意足。自心自在起種種功德故說如意。彼如意足故說如意足。足支俱同一義。問何者是。答謂三昧。彼復四種增上分別。若欲增上起三昧名欲定。精進心慧增上起三昧亦如是。彼先欲故欲增上。欲生已成故精進增上。精進方便已隨順求故心增上。於欲精進心正向如意足究竟故慧增上。若無慧者餘則失。問何等為如意。何等為足。答定為如意。欲等為足。雖有受等諸法生。但取此生定故說此為足。此義雜品當廣說。是亦說正斷者。即此諸功德說正斷。以正智火燒諸煩惱草故說正燒。此亦斷諸煩惱故說正斷。復次滅煩惱最勝故說正勝。彼過惡功德捨離長養。若防若增堪能故說正斷。彼復四種事分別故。如一刹那燈作四事。謂燒炷油盡器熱破開。如是一刹那精進現在前。作四事已生惡法等。如修多羅廣說。息煩惱種道根斷過去未來煩惱得。煩惱得斷說過去滅未來不起。雖斷一切有漏。以惡法極惡故。聖道相違故。唯說惡法斷生。一果故說惡生。二果故說不善。已生善法相續住故說住。軟中上增長故說重修增廣。阿羅漢雖無不善法及斷對治。而有壞對治。是壞對治持對治遠分對治故。亦說四正斷。色無色界亦如是

此說四念處 四聖種亦然
如其增上生 是皆隨名說

想二相(即此地) 軟一漏(別緣...也) 十(雜緣三實故曰壞緣) 八(雜緣...也) 九(別緣法實故言不壞緣也) 十(別緣法實故曰不壞緣也) 十(也) 一(信十(無漏信) 二(是) 一(是) 卷第八上終 卷第八下修多羅品第九之餘首 造說羅漢同異如卷第八 如二智 現二見 現二見 現法 斷十煩惱 治十(也)

此說四念處者。謂前說功德亦說念處。謂身受心法。內外俱自相共相隨順觀故說念處。如賢聖品說。四聖種亦然者。謂前所說功德亦說四聖種。聖以此為種故說聖種。聖從彼生故說聖種。問聖種何等性。答無貪善根性。若眷屬是五陰性。四種愛取對治故說四因。

衣生愛因。乞食因。床臥具因。有無有生愛。無貪愛者愛斷滅上三及隨彼次第對治立四聖種。衣乞食攝藥故。又不一切不一切時故藥不別立。聖種現在境界起故。知足立聖種非少欲知足於現在處起少欲於未來處起現在不取一錢難非未來轉輪。王聖種者。於出家者有二種勝。謂希望及受用。在家者唯希望。種者是。故持義。是故別解脫律儀以無作為聖種。非作色無色界。雖無衣食然有聖種。謂無漏律儀。問何故此諸功德說如意足乃至聖種耶。答如。其增上生。是皆隨名說此諸功德。定增上生故說如意足。精進增上生故說正斷。念增上生故說念處。知足增上生故說聖種。問世尊說三十七覺品有幾種性。答

淨信精進念 智慧及喜猗 覺品相應捨 思戒三摩提

如所說十事。餘覺品分悉入其中。此云何謂信是信根信力。精進是正斷精進根精進力。精進覺支。正方便念是念根念力念覺支。正念慧是念處慧根慧力擇法覺支正見。喜是喜覺支。猗是猗覺支。捨是捨覺支。思是正思惟。戒是正語正業正命。三摩提是如意足。定根定力定覺支正定。鞞波。娑欲令戒有二

種身口業不壞故說十一事。問何故此諸法多種建立答

處方便自在 軟及利亦然 見道亦修道 故說三十七

處者正緣。處建立故說念處。方便者正方便。故說正斷。自在者自在功德故說如意足。軟者信等五法軟者說根。及利亦然者。此諸根若增上者說力。是故增上義說根。難伏故說力。問何者是根云何次第。答信精進念定。慧是根次第者。信因果能為一切善法根本。是故前說信。信已捨惡修善故精進方便。精進方便已心於境界念住。心住已於緣不亂。不亂已堪能觀察。復次於法觀察已心定。心定已隨正念住。正念住已正堪能。正堪能已信業果。是說逆次第問云何立五根。答地故建立彼初業地信。修導一切勝法故。見地精進修見道速進故。薄地說念。修念住令貪恚癡薄故。離欲地說定。修定修根本禪故。無學地說慧。修慧永離無明故。說力亦如是。見道者。見道道支修見道速進故。正見乃至正定。彼於法顯示自相共相故說正見。思量正義故說正思惟。邪命所不攝口四惡行數滅離故說正語。邪命所不攝身三惡業數滅離故說正業。邪命數滅離故說正命。正方便堪能故說正方便。正念緣不忘故說正念。執執正一心念故說正定。次第如修多羅說。正見者。彼正見是道亦道支。餘者是道支非道。如是是禪亦禪支。餘者是禪支非禪。如說。定八種亦如是。修道者。修道覺支修道所斷煩惱種

九品斷頓極覺故。以覺義故說覺支。彼擇法覺是覺亦覺支。餘者是覺支非覺。次第如修多羅說。問何故喜。猗捨立覺支非道支。正思正語正業正命立道支非覺支。信俱非耶。答隨順覺故。乃至知緣常生喜。乃至生喜常生覺。謂息一切事及捨常生覺。於進不隨順故非道支。進去是道義。喜者不去。樂住處故。猗捨與去一向相違故不說道支。戒者於道輪為。數故立道支非相應故非覺支。正思策正見故於進去隨順非覺故立道支非覺支。信者始習度覺道者已度。是故俱不立。是說三十七者。此十法各別。事分別故世尊說三十七。彼初業地說念處於身等分別修故。暖法說正方便。生聖智火暖故。頂法說如意足。得頂法功德自在故。忍法說根。彼於進增上故。世間第一法說力住。彼勢不可伏故。見道說道支。速進故。修道說覺支。覺悟故。以數漸增故。先覺支次道支。四乃至八。此諸覺品

二禪三十六 未來亦復然 三四及中間 是悉三十五

二禪三十六者。除正思地無思故。未來亦復然者。未來禪亦三十六。除喜難起故。三四及中間是悉三十五者。第三第四及中間禪三十五。除喜及正思。

初禪說一切 無色三十二 最上一十二 欲界亦復然

初禪說一切者。初禪具三十七品。無色三十二者。三無色三十二。除喜正思正語正業正

初禪說一切者。初禪具三十七品。無色三十二者。三無色三十二。除喜正思正語正業正

初禪說一切者。初禪具三十七品。無色三十二者。三無色三十二。除喜正思正語正業正

初禪說一切者。初禪具三十七品。無色三十二者。三無色三十二。除喜正思正語正業正

衣二依 減十除 名有二有名 聖王 故 其二 猗二 二沙 明註曰 南藏作信 修十 修者應音勸謂以信勸初業下一切修應如是知 夾註 修者應音勸謂以信勸初業下一切修應如是知 夾註 定修 道 報 頓二須 數二聲 輪二禪 思十 惟 彼 道二誦 悟二寤 未來禪二禪未來 及十禪

命。最上二十二者。非想非非想處無道支及覺支。道支雖有漏在覺支後說。當知是無漏。是故修多羅說。三十七覺品一向無漏故。如修多羅說。修不淨觀俱念覺支。彼以不淨觀調心故。然後覺支現在前。欲界亦復然者。欲界。二十二。問四食在何地有何性。答。

諸食中搏食 欲界說三入

識食思及觸 是食說有漏

諸食中搏食欲界說三入者。搏食是欲界中三入處。謂香味觸。事則有十三。謂十一觸及香味。隨其所應彼或以草或以木或以根或以果或以五穀或以汁或以香或以溫。暖。如是比。識食思及觸是食說有漏者。謂識思觸若有漏者。持生相續及招有故。是故說食。無漏觸等雖攝持諸根四大而不招有。斷有故。是故非食。問何故色非食。答色龜故非食。壞色故。不名食。色不能攝攝諸根四大。攝義是食義。此義擇品當廣說。問三三昧一有幾行轉。答。

無願有十行 二行是空定

四行說無相 是說為正行

無願有十行者。無願三昧十行轉。所謂無常行苦行集四行道四行。二行是空定者。空三昧空行及無我行轉。四行說無相是說為聖行者。無相三昧滅諦四行轉定品已廣說。問四顛倒云何。斷何等性。答。

謂彼四顛倒 當知見苦斷

三見自性增 見實者分別

謂彼四顛倒當知見苦斷者。一切四顛倒不

遠尋根本故苦處起故見苦斷。毘婆闍婆提欲令有十二顛倒。所謂無常。常。倒。想。倒。見。倒。心。倒。餘亦如是。彼八種見道斷無常無我六。此二各有六。也。若有樂見倒不淨淨見倒四。見道修道斷苦。及不淨想心倒。樂淨斷以見諦者見斷而想心不盡。如是說者此義不然。何以故。顛倒是見性故。想心為見所亂故。說想心顛倒受等。雖為見所亂非世所傳。故不說。若問須陀洹云何染著者。煩惱不斷。故。如在家須陀洹我倒斷。猶起男女結非法。想起男女結彼亦如是。三見自性增見實者分別者此四顛倒。是三見自性但說少分。見真實者所建立。問何故。答以增上故。若彼見增上分建立顛倒。謂如身見中立我見是倒。非我所見邊見中立常見是顛倒。非斷見見取中立樂淨見是倒。非餘。計惡為好。計劣為勝。如是一切不立倒也。◎悉是見取但以輕故。問何故餘見不立倒。答三事故說倒。所謂決斷妄置一向倒。一向倒謂下為。謂彼邪見及邊見所攝斷見。雖決斷及一向倒。而非妄置從壞事生故。戒取雖決斷及妄置。不一向倒。謂少實於少實處起故。阿毘曇說。身見見取全倒。無始久習倒。煩惱斷已。須陀洹斯陀含猶染著境界。問世尊說多見何見攝。答五見攝。問此云何。答。

非謗於真實 此見是邪見

不實而妄置 是二見及置

非謗於真實此見是邪見者。若見非謗真實。謂無有無苦等無苦等是說邪見。不實而妄置是二見及智者。於陰不實妄置我所是身見。妄置樂淨是見取。若於餘處所不實而妄置士夫等。如是一切是邪智非見。非因而見因 是說為戒取

若攝受邊見 依斷滅有常

非因而見因是見說戒取者。謂於彼無因而見因是戒取。如為自在天故。斷食等求生天。能辨性及士夫得解脫性者。世性謂能知世得解脫。若攝受邊見依斷滅有常者。若相似相續隱覆無常行而見常是常見。不識因果分相續而見斷是斷見。除此五見更無餘見。是故說一切見五見攝。問此見云何斷。答。

於此諸事轉 或因見及二邊

非謗者 說邪見若謗苦 當知見苦斷苦處起

故見集等亦如是。如見滅道斷見取戒取異處生見異處斷。以此義故欲界上緣煩惱亦如是說。不實而妄置者說二見。彼身見苦處起故見苦斷。見取者若於果不實而妄置者見苦斷。於因起者見集斷。於見滅所斷起者見滅斷。見道所斷起亦如是。非修斷決斷故。戒取者非因見因。若於有漏處起者見苦斷。若見道所斷處起者見道斷。斷常見見苦處起者見苦斷。問世尊說二十二根彼云何。答。

謂眼等四根 身根有三種

意根及與命 是根生死依

謂眼等四根者。如界品說。身根有三種者。身根說三種。謂身根男根女根。意者意根前已說。以眼界即意根故及與命者。壽說命根是

①(亦)十二②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺
①(心)二②(心)一③(心)一④(心)一⑤(心)一⑥(心)一⑦(心)一⑧(心)一⑨(心)一⑩(心)一⑪(心)一⑫(心)一⑬(心)一⑭(心)一⑮(心)一⑯(心)一⑰(心)一⑱(心)一⑲(心)一⑳(心)一㉑(心)一㉒(心)一㉓(心)一㉔(心)一㉕(心)一㉖(心)一㉗(心)一㉘(心)一㉙(心)一㉚(心)一㉛(心)一㉜(心)一㉝(心)一㉞(心)一㉟(心)一㊱(心)一㊲(心)一㊳(心)一㊴(心)一㊵(心)一㊶(心)一㊷(心)一㊸(心)一㊹(心)一㊺(心)一
①(心)一②(心)一③(心)一④(心)一⑤(心)一⑥(心)一⑦(心)一⑧(心)一⑨(心)一⑩(心)一⑪(心)一⑫(心)一⑬(心)一⑭(心)一⑮(心)一⑯(心)一⑰(心)一⑱(心)一⑲(心)一⑳(心)一㉑(心)一㉒(心)一㉓(心)一㉔(心)一㉕(心)一㉖(心)一㉗(心)一㉘(心)一㉙(心)一㉚(心)一㉛(心)一㉜(心)一㉝(心)一㉞(心)一㉟(心)一㊱(心)一㊲(心)一㊳(心)一㊴(心)一㊵(心)一㊶(心)一㊷(心)一㊸(心)一㊹(心)一㊺(心)一
①(心)一②(心)一③(心)一④(心)一⑤(心)一⑥(心)一⑦(心)一⑧(心)一⑨(心)一⑩(心)一⑪(心)一⑫(心)一⑬(心)一⑭(心)一⑮(心)一⑯(心)一⑰(心)一⑱(心)一⑲(心)一⑳(心)一㉑(心)一㉒(心)一㉓(心)一㉔(心)一㉕(心)一㉖(心)一㉗(心)一㉘(心)一㉙(心)一㉚(心)一㉛(心)一㉜(心)一㉝(心)一㉞(心)一㉟(心)一㊱(心)一㊲(心)一㊳(心)一㊴(心)一㊵(心)一㊶(心)一㊷(心)一㊸(心)一㊹(心)一㊺(心)一
①(心)一②(心)一③(心)一④(心)一⑤(心)一⑥(心)一⑦(心)一⑧(心)一⑨(心)一⑩(心)一⑪(心)一⑫(心)一⑬(心)一⑭(心)一⑮(心)一⑯(心)一⑰(心)一⑱(心)一⑲(心)一⑳(心)一㉑(心)一㉒(心)一㉓(心)一㉔(心)一㉕(心)一㉖(心)一㉗(心)一㉘(心)一㉙(心)一㉚(心)一㉛(心)一㉜(心)一㉝(心)一㉞(心)一㉟(心)一㊱(心)一㊲(心)一㊳(心)一㊴(心)一㊵(心)一㊶(心)一㊷(心)一㊸(心)一㊹(心)一㊺(心)一

根生死依者。此諸根生死依故立根。問根有何義。答

增上是根義 五根說四種 當知餘四根 各有二增上

增上是根義者。彼增上義是根義。端嚴義是根義。勝義是根義。上義是根義。主義是根義。雖一切有為法各各增上。然或劣或勝當知勝者立根如人。主天主問增上義有幾種。答眼等四種增上。謂眼等五根四種增上緣。所謂令身端嚴。導養己身。依生識不共事。彼眼根令身端嚴者。若眼。根不具人不喜見多所。憎惡不為增上。導養己身者。若眼見安危去危就安令身久住。依生識者。依眼生眼識及相應法。不共事者。唯眼見色非餘。耳根令身端嚴導養己身如前說。依生識者。依耳生耳識及相應法。不共事者。唯耳聞聲非餘。餘根令身端嚴如前說。導養己身。此三根通搏食令身久住。依生識者。此三根各各生自分識。不共事者。各行境界。當知餘四根各有二增上。男根女根有二事增上緣故勝。謂眾生別相別始者。一眾生二根生已。眾生別及眾生。相別。復次煩惱清淨故。謂此二根具足能作不律儀。乃至能作五無間業斷善根。清淨者。謂受律儀得果離欲種三乘種子。若無形二形不能起如是善惡。命根者。種類相續及持。意根者。續當來有自在隨轉。有相續者。如所說香陰有二心展轉現在前。若愛若志自在者。如所說心牽世間。如是廣說

受或煩惱分 信等依清淨

九根若無漏 此三依於道

受或煩惱分者。苦樂。喜憂捨受。隨順煩惱分。為增上緣。謂受。熏諸煩惱。以受樂著故。煩惱樂著。復次受為煩惱。清淨增上緣。煩惱分者。如所說樂受貪使。苦受悲使。捨受癡使。清淨分者。如所說樂已心定因。苦。集。依六出離。捨行信等。信等依清淨者。隨順清淨故。信等五根修清淨分。九根若無漏是三依於道者。信等五根喜樂捨及意根。此九根有漏無漏。若無漏者。依道故立三根。若隨信。行隨法行道所攝。是未知根。若信解脫見。到道所攝。是已知根。若無學道所攝。是無知根。已說諸根。餘因緣擇品當說。問此諸根何界繫答

欲界四善八 色種根有七

心法則有十 一心三根二

欲界四者。謂男根女根苦根憂根欲界繫。餘色根及意根。如界品說。如意根。信等及捨根亦如是。樂根喜根。若有漏欲色界繫。無漏則不繫。命根雜品當說。三無漏根不斷故不繫。問幾善。答善八。謂信等五根三無漏根。是善愛果故。命根及諸受有報。果當說。餘如界品說。色種根有七者。眼等七根。是色。餘者非色。問幾性心。幾性心法。幾非心。幾非心法。答心法則有十。謂信等五根五受根。此是心法。心相應故。一心者意根。是心自性。得心相故。命根等八。非心非心法。無緣故。三根二者。無漏三根有二種。謂心法及心性多集故。問幾有報幾無報。答

於此諸根中 一及十有報 十二中是報 命根唯是報

於此諸根中一及十有報者。憂根一向有報。彼善不善有漏故。現在方便生故。非報生。非威儀。非工巧。非學習法故。亦非無漏。從煩惱生故。意根。不善善有漏是有報。無漏無記是無報。三受亦如是。苦根善不善是有報。無漏是無報。信等五根若有漏是有報。若無漏是無報。問幾是報幾非報。答十二中是報。謂色根七有是報。非報如界品說。意根及四受或是報或非報。若善不。善果。是報。命根唯是報者。命根一向是報。有欲令是正受果。問初生時得幾根報。答

二或六七八 最初生時得

當知欲界報 色六無色一

二或六七八最初生時得。當知欲界報者。此諸根漸漸生。謂胎生卵生濕生。彼初生利那得二根。謂身根命根。彼利那意根。是穢汚非不穢汚。心相續受生故。捨根亦如是。餘根亦得而不說。非報。故。化生無形六。謂五色根及命根一形七二形八。此一向說欲界。色六無色一者。色界得六根。一向化生故無男女前已說。無色界唯一命根。問命終時幾根最後捨。答

捨四八與九 或復捨於十 漸終及頓沒 善捨各增五

捨四八與九。或復捨於十。漸終及頓沒者。無記心漸命終捨四根。謂身意命。捨。若無形無記心一時命終捨八根。謂眼等五根意命及

主一生 主一生 根十(根) 情二增 身十(者) 增上十(者) 相二根 喜憂一憂喜 二 二 清淨十(分) 集二智 行一 若一 諸根十(事) (廣)十說 果二 是二說 (幾)一 法及心二及心法 善不二不善 不善善一善不善 善十(業) (是)一 故十(謂) (謂上界沒生時先所求者今悉得)夾註 (上界沒生時先所求者今悉得)夾註十化 (十)化 (彼)十一向 九二無 捨十(根)

捨根。無記心一形九二形十。不善心亦爾。問善心捨幾根。答善捨各增五。若善心命終各增信等五根。是說欲界沒還生欲界者欲界沒生上界者。除無形二形。離欲俱非分故。色無色界命終。隨所得根。亦如是說。無漸命終。此說諸根現在前捨非成就捨。不隱沒無記說得捨。善者於此命終即此生說行捨。若生餘處則得捨。問幾見斷幾修斷幾不斷。答

二斷無斷四 六根則二種

三無漏不斷 餘則修道斷

二斷無斷四者。謂意根樂根喜根捨根有三種。或見斷或修斷或不斷。彼隨信。行隨法行道斷說見斷。信解脫見道斷說。修斷。無漏說不斷。六根則二種者。謂憂根見斷及修斷。信等五根修斷及不斷非見斷。不染污故。三無漏不斷者。一向無漏故。餘則修道斷者。謂餘九根修道斷。命根等八不隱沒無記故非見斷。墮生故非無斷。苦根五識身相應故非見斷。從煩惱生故非不斷。問若成就根彼成就幾根。答

或成就三四 五七及與八

十一與十三 是說定成就

若成就意根必成就三根。謂意命捨。餘或成就。或不成。眼耳鼻舌根若生色界必成就。若生欲界得而不失則成就。若生無色界及生欲界。處胎漸厚諸根未滿及得而失則不成。身根若生欲色界必成就。生無色界不成。樂根生遍淨天若下及聖人人生上必成就。凡夫生上不成。喜根生光音天必成就。

餘如樂根說。苦根生欲界必成就。生上界不成。憂根未離欲必成就。離欲不成。信等五根不斷善根必成就。斷則不成。三無漏根隨地聖人必成就。無學地也。凡夫不成。如意根。命根捨根亦如是。若成就身根必成就四根。謂身意命捨。餘如前說。若成就樂根亦成就四根。謂命意。樂捨。若成就眼根必成就五根。謂身。意命捨及眼。根。耳鼻舌根亦如是。若成就喜根亦成就五根。謂喜樂意命捨。若成就苦根必成就七根。謂身意命四受除憂根。若成就男根必成就八根。謂前七及一形。女根亦如是。若成就憂根亦成就八根。謂身意命及五受。若成就信根亦成就八根。謂信等五根及意命捨。精進念定慧根亦如是。若成就已知根必成就十一根。謂意命喜樂捨信等五根及已知根。無知根亦如是。若成就未知根必成就十三根。謂身意命苦樂喜捨信等五根及未知根。問幾根得沙門果。答

九根得初果 或獲二沙門
謂以十一根 究竟第四果

九根得初果者。九根得須陀洹果。謂意根捨根信等五根未。知已知根。未知根無礙道。已知根解脫道。俱有七根。或獲二沙門者。若倍欲盡得斯陀含果。九根如前說。若欲愛盡得阿那含果。亦九根八根如前說。三受隨所用說。若次第得斯陀含果。世俗道七。謂意捨及信等五根。無漏道八。前七及已知根。次第得阿那含果亦如是。謂以十一根究竟第

四果者。十一根得阿羅漢果。謂意根及三受信等五根已知根無知根。已知根無礙道。無知根解脫道。問此云何為分定為用定耶。若分定者阿那含果亦有三受。若用定者無此三用。尚無二受一時行。何況三耶。答用定身故。非利那故。謂以樂根得阿羅漢果。於彼退已復從喜根得。若復退已復從捨根得。而阿那含果以此受得。若彼退者還從此受得非餘。問世尊修多羅說六識身。此諸識識何境界。答

若取諸根義 五種心境界
若取一切法 是則說意識

若取諸根義五種心境界者。色等五境界五識所取。眼識取色乃至身識取觸。受自相故。及現在境界故。若取一切法是則說意識者。意識緣一切法。共相境界故。思惟故。數數念故。此義廣說如界品已說。識境界智境界今當說

欲色界諸陰 無色與無漏

有依無依八 及彼二無為

有十法欲界相應不相應。色無色界亦如是。有為無漏相應不相應二種。無為善及無記。問此十法智所知一一智幾法為境界。答

五法應當知 法智之境界
比智七為緣 他心境界三

五法應當知法智之境界者。謂欲界相應不相應無漏相應不相應無為善。比智七為緣者。謂色無色界及無漏相應不相應無為善。他心境界三者。謂欲色界及無漏相應心心

〔亦〕一〔一〕〔二〕〔三〕〔四〕〔五〕〔六〕〔七〕〔八〕〔九〕〔十〕〔十一〕〔十二〕〔十三〕〔十四〕〔十五〕〔十六〕〔十七〕〔十八〕〔十九〕〔二十〕〔二十一〕〔二十二〕〔二十三〕〔二十四〕〔二十五〕〔二十六〕〔二十七〕〔二十八〕〔二十九〕〔三十〕〔三十一〕〔三十二〕〔三十三〕〔三十四〕〔三十五〕〔三十六〕〔三十七〕〔三十八〕〔三十九〕〔四十〕〔四十一〕〔四十二〕〔四十三〕〔四十四〕〔四十五〕〔四十六〕〔四十七〕〔四十八〕〔四十九〕〔五十〕〔五十一〕〔五十二〕〔五十三〕〔五十四〕〔五十五〕〔五十六〕〔五十七〕〔五十八〕〔五十九〕〔六十〕〔六十一〕〔六十二〕〔六十三〕〔六十四〕〔六十五〕〔六十六〕〔六十七〕〔六十八〕〔六十九〕〔七十〕〔七十一〕〔七十二〕〔七十三〕〔七十四〕〔七十五〕〔七十六〕〔七十七〕〔七十八〕〔七十九〕〔八十〕〔八十一〕〔八十二〕〔八十三〕〔八十四〕〔八十五〕〔八十六〕〔八十七〕〔八十八〕〔八十九〕〔九十〕〔九十一〕〔九十二〕〔九十三〕〔九十四〕〔九十五〕〔九十六〕〔九十七〕〔九十八〕〔九十九〕〔一百〕

法境界故

有漏當知十 因果智有六

解脫一道二 餘二境界九

有漏當知十者。等智行一切十法。廣境界故。

因果智有六者。苦集智知六法。謂三界相應

不相應有漏境界故。法智比智故。解脫一者。

滅智緣一法。謂無為善數滅境界故。道二者。

道智緣二法。謂有為無漏相應不相應學無

學境界故。餘二境界九者。盡智無生智緣九

法。除無記無為四諦境界故。問諸使何所使。

答 自地諸煩惱 定使於自地

自種一切遍 隨使於彼種

自地諸煩惱定使於自地者。彼欲界煩惱即

使欲界法。乃至第一有亦如是。勝故對治故

下不使上。離欲身行故上不使下。自種一切

遍隨使於彼種者。自種諸法自種使所使一

切遍亦他種。五種境界故

若定三界法 三界使所使

二界生當知 一界亦復然

若定三界法三界使所使者。三界所攝五種

法。彼三界一切使所使。如是一切法隨所應

說。二界生當知者。二界所攝法。二界煩惱所

使隨其所應。謂覺觀欲。色界五種。彼欲色界

一切使所使。謂意根。三界五種。彼三界一切

使所使。如是一切法隨其所應。一界亦復然

者。若定一界法彼一界使所使。謂憂根。欲界

五種。彼欲界一切使所使。如是一切法隨其

此經牟尼說 其性已分別

識。知及諸使 當知是三門

此佛所說修多羅。我已具分別。當以三門通

所謂識門智門使門。如施欲界修道斷五陰

性。彼七智知。除比智滅智道智。欲界故除比

智。有漏故除滅智道智。三識識。謂眼識耳識

意識。四入攝故。欲界一切遍及修道所斷使

所使。戒八智知。除他心智滅智。三識識。謂

眼識耳識意識。欲色界一切遍及修道所斷

使所使。修者不放逸性九智知。除滅智。意識

識三界一切遍及修道所斷使所使。一切修

多羅皆如是說。隨其所應。若總說義。欲知

攝者當觀界建立。欲知智門者當觀諸建立。

欲知識門者當觀入建立。欲知使門者當觀

種建立。如是說者此則易知。修多羅品竟

雜阿毘曇心論卷第八

雜阿毘曇心論卷第九

*尊者法救造

宋天竺三藏僧伽跋摩等譯

雜品第九

已分別諸法 一一定相續

於上衆雜義 是今當略說

已分別諸法一一定相續者。已說諸法展轉

相續種種品類。於上衆雜義。請決定應相續說

於此品說。是今當略說

有緣亦相應 有行及有依

心及諸心法 是同一義說

此是諸心法。名差別有彼緣故說有緣。於

境界轉故時依行緣事俱轉故說相應。有行

者是慧。智品已說。彼於緣作行故說有行。依

他轉故說有依

從緣生亦因 有因亦有為

說處及與道 有果應當知

此是諸有為法名差別。彼彼緣和合等生故

說從緣生。生餘法故說因。由因力故說有因。

因緣等作故說有為。能生說故名說處。過去

未來現在道所攝故說道。彼有果故說有果

有罪亦隱沒 穢污下賤黑

善有為說習 亦復說名修

有罪亦隱沒穢污下賤黑者。此是不善及隱沒

無記諸名差別。與罪俱故說有罪。是可惡厭

義煩惱上煩惱所覆故說隱沒。是漏所覆義

煩惱垢所污故說穢污。極鄙故說下賤。闇冥

故說黑。黑者有二種。穢污黑及不可意黑。此

說穢污黑。不說不可意黑。以不可意黑亦有

不善報黑故。善有為說習亦復說名修者。此

是善有為法諸名差別。彼善法所攝及愛果

故說善。增長功德故說習及修。此說得修及

習修親近是習義種義是修義現在名習未來名修故說善有為。對治修

斷修者。一切有漏法亦說修。問何等為心不

相應行。答

無想二正受 亦衆生種類

句味與名身 命根與法得

無想者。彼無想衆生受生心心法滅。有說。無

想。正受果。有說。名第四禪眷屬果。有說。乃

使十(謂意根三界五種彼三界一切使所使)夾註... 知一智自... 戒十(者)... [修多羅品竟]... 此下聖本有光明皇后願文... [論]... 第八十(下)... 聖本首缺... [天竺]... [等]... 九... [雜]... 二亦...

至有心是有心果。無心是無心果。問為前心多為後心多。答有說。後心多前心。樂欲速入無想。如是說者此不定。或前多或後多。若以此威儀入無想正。定。即以此威儀入無想住。從彼起已謗涅槃乘。後報業生欲界。彼報業盡不起餘業故。二正受者。無想正受滅盡正受。無想正受者。遍淨愛盡上愛未盡。先作出離想。思惟心心法滅。從欲界起非餘。此根利故。凡夫起非聖人。無有聖人於有作出。有想。方便得非離欲不退轉。問無想正受無想何差別。答無想正受是因。無想是果。此善彼無記。此有報彼是報。此有行彼無行。滅盡正受者。離無所有處欲先止息思想。惟心心法滅。問此正受云何。答心心法滅相續中間心不相應行隨流四大諸根住。是說滅盡正受。餘如定品說。種類者。衆生身諸根支節事業飲食相似。彼種類有六種。所謂界種類趣種類生種類處所種類自身種類性種類。界種類者。欲界衆生欲界衆生種類。色無色界亦如是。趣種類者。於一趣生一趣種類。生種類者。受一生一趣種類。處所種類者。生無擇獄無擇獄種類。乃至第一有亦如是。自身種類者。同生一界一趣。生一者四。而有種種自身如衆鳥。如是比。性種類者。所稟性同是性種類。若六種類相似者是名種類。句者。集諸名味究竟顯義。味身者是字身。味者是字。味聲謂是字之模。胡音中有法非今形色字也。名者。名諸法。以名顯義。如名男女。命者壽。謂得陰界入不壞。問命行壽行何差別。答有說。無差別。有說。宿業果名壽。

修果名命。問世尊何故捨第五分壽。答善究竟佛事故。餘事聲聞究竟故。復次住四聖種故。有及衆具盡無餘故。得者得諸法。得成就同一義後當廣說。

謂彼凡夫性 及諸法四相
非色不相應 說是有為行

凡夫性者。謂不得聖法。四相者。謂生住老無常。行品已說。非色者。此諸法非色性。四種及造色非分故。不相應者。無緣故。說是有為行者。他為故。為他故。問此諸行幾善幾不善幾無記。答

二善五種三 當知七無記
二在於色中 一在無色地

二善者。無想正受滅盡正受。是善修性故。五種三者。得生住老無常善中善不善中不善無記中無記。生等與法一果故。得者非不自分故。當知七無記者。無想種類句味名命根凡夫性。問此諸法幾欲界繫幾色界繫幾無色界繫。答二在於色中。謂無想天無想正受色界繫。無想天第四禪果故。無想正受第四禪攝故。一在無色地者。滅盡正受無色界繫。第一有攝故

二界說有三 餘在於三界
有漏無漏五 餘則盡有漏

二界說有三者。句味名身在欲色界。非無色界。語非分故。餘在於三界者。種類得命根凡。夫性諸得相在三界。普遍故。問幾有漏幾無漏。答有漏無漏五。謂四有為相在無漏法中則無漏。有漏法中則有漏與法一果故。得者

若得有為亦如是。若得數滅或有漏或無漏。共凡夫故。若得非數滅是有漏。無記故。即以此義說繫不繫。餘則盡有漏者。無想天無想正受滅盡正受衆生種類命根句味。名凡夫性。一向有漏。有攝故。問離聖法名凡夫性。云何捨云何斷。答

初無漏心中 當知捨不得
凡夫流諸界 離欲時滅盡

初無漏心中當知捨不得者。聖人初無漏心生時捨凡夫性。初無漏心謂苦法忍相應。彼生時捨凡夫性。若言起已捨者。彼住苦法忍時。應非聖人。不捨凡夫故。是故說生時。是故佛說二法生時究竟其事。內事謂苦法忍眷屬。外事謂諸光明。凡夫流諸界者。凡夫流諸界時。若此地命終即捨此地。若生彼地即得彼地。不隱沒無記故。非究竟捨。不得聖法故。離欲時滅盡者。若離此地欲若凡夫及聖人。爾時斷此地凡夫性。不隱沒無記故。問三無為有何相。答

煩惱斷離繫 是名為數滅
無諸障。閑相 是說為虛空

煩惱斷離繫是名為數滅者。以智慧斷身見等煩惱及眷屬。得於此得離繫。此諸離繫名數滅。數相對也。有說。唯一滅事無自分故有衆多得。若此得滅得證即此涅槃。是故涅槃不共。毘婆沙說。於此繫事即此離繫事。若異者見苦所斷結種斷。餘煩惱亦應斷。作證一事。若爾者後諸對治則應無用。但未究竟故。是故事各別無自分因故說無自分。此無

①(少)十樂② ③定二受④ ⑤有二離⑥ ⑦一十(也)⑧ ⑨胡一梵⑩ ⑪有二在⑫ ⑬以上聖本缺 ⑭夫二天⑮ ⑯閱二觀⑰

自分因亦不與他苦法忍及眷屬雖無自分因而與他自分因。彼品非分故說非品。煩惱滅故說涅槃。無邊說故言非說。勝一切法故說最勝。智果故說智。不動故說無生。在解脫道邊故說邊。出一切法故說出。離無常等過故說妙。無諸障。闍相是說為虛空者。謂不障。闍種種色。以有來去等故說虛空。譬喻者說虛空非色亦非非色。言虛空者。隨順世間故說。有說。非無虛空容有故。若無虛空者。不應容有。容有故是故有虛空事。

依於諸緣法 有依及境界 不具則不生 此滅非是明

一切有為法依緣及境界力生。羸劣故。彼非分則不生。如眼識依眼色明空及彼憶念和合故生。一一不具則不生。除識現在前時念念頃餘眼滅餘眼生。衆緣不具故眼識不得生。若眼識應依彼眼生者則不生。依等已滅故至竟不生。以先無方便而滅故說非數滅。如眼識一切識身亦如是。又無漏者隨信行道進得。隨法行道非數滅。一切道亦如是。隨其義盡當知。問若此勝進道得何故非道果攝。答為餘事故。斷煩惱故動方便不為非數滅。是故非道果攝。問一切有為法說因誰為誰因答

前因相似增 或俱依倚生 二因及一緣 一向已生說

前因相似增者。前法為後相似法因及增因。非軟因。謂修法時。若住若增非減。或俱依倚生者。謂相應因及共有因。二因及一緣一向

已生說者。謂自分因已生說。非未生。前者後因。未生者無前後。故。一切遍因亦如是。次第緣亦已生說。因緣義行品已說。問報當言衆生數非衆生數耶。答

報謂衆生數 有為解脫果 有緣說俱行 謂於他相轉

報謂衆生數者。報說衆生數。不共故。不以他眼見。亦不成就。餘報義亦如是。衣食等衆具當知是功用果增上果。非衆生數。以共故。問果云何。答

有為解脫果 一切有為法 說果有因生 故及數緣滅

亦說道果。果義業品已說。問心心法云何於緣轉。答有緣說俱行。若有緣法俱於緣中轉。辦一事。問於何緣轉。答謂於他相轉。心心法緣他法非自性。何以故。無二決定不自行。亦不緣相應一行一緣故。亦不緣共有同一果故。此義擇品當廣說。問心心法為有方處為無方處。答

普因無方處 生時心解脫 煩惱在道心 乃至滅時捨

普因無方處者。心心法普因生。謂因二眼生一識。耳鼻識亦如是。若有方處所者。應於一眼中轉。若然者應一眼見色。不應俱見。此義界品已說。若言二識俱生者不然。何以故。第二次第緣非分故。一識住二眼見色者不然。無分故。若一識住二眼中者。應有分生。若住左眼者非右眼。方處別故。此則非說。無色無分故。若復一識住二眼者。彼二眼間身

根中亦應生。若爾者眼識即身識。若中間不生者。應斷作二分。非一前已說。無二識俱生。故問何世心解脫。答生時心解脫。道生時是煩惱滅時。是故道生時心解脫。如。坻塘漏近水先出。彼亦如是。又說。一切未來心解脫非獨生時。但以初解脫故說生時。問道生時斷煩惱為不。答煩惱在道心。乃至滅時捨。道滅時滅。煩惱事究竟故。生時是未來。云何未來道能究竟事。是故說無。闍道滅時斷煩惱。問有愛有幾種。答

有愛有五種 無有唯一相 愛事餘煩惱 滅盡是三界

有愛有五種者。有愛貪於有有五種。謂見苦集滅道修道斷。以五行種有貪故。無有唯一相者。無有愛謂見斷。已於自報斷生樂著。是修道斷。何以故。見貪見道斷。此貪隨報。無常起報者修道斷。不隱沒無記故。報無常亦如是。與報同一果故非見道斷。貪緣修道斷非一切遍故。此無有愛。須陀洹斯陀。含不斷而不行。斷見所長養故。如悔疑所長養。須陀洹斯陀含亦不行。問世尊說三界。斷界無欲界滅界。此云何。答愛事餘煩惱滅盡是三界。彼愛盡是無欲界。事盡是滅界。餘煩惱盡是。斷界。取近對治故。論者如是說。世尊修多羅說。一切行盡名斷界。無欲界滅界亦如是。問十二法欲界善不善隱沒無記不隱沒無記。色界三除不善。無色界三亦如是。及學無學。此十二法幾穢污心中得幾善心中得幾無記心中得。答

①動一三種 ②故一 ③答一 ④有為乃至滅二十字本本作長行 ⑤辨一辯 ⑥他相一相地轉 ⑦相他 ⑧坻一提 ⑨合二合 ⑩下同

若得九種法 當知穢汚心
善心得六種 無記即無記

若得九種法當知穢汚心者。界及地來。還時。欲色界得七心上界沒遺生色界時得欲界化無記心及色界三心及欲界善善根續時得退時。得三界穢汚及學心。餘不得者。謂無色界善不隱沒無記及無學。雖無色界善少有退得。謂退分。但此中說悉不成就而得。此則通說。非一人一心中得九法善心得六種者。善心中得六心。欲界不隱沒無記。色界善不隱沒無記。無色界善及學無學。亦通說。非一時得。無記即無記者。不隱沒無記即得無記非餘。羸劣故。問道品十法幾根性幾非根性。答

道品有六法 當知是根性
諸法若相應 是說為他性

道品有六法當知是根性者。信等五根及喜覺。支。當知是根性。得根相故。餘者非根性。間相應者為自性為他性。答諸法若相應是說為他性。諸法他性相應。非自性。無有一性二剎那俱起故。前與後不合故。自性不自為故。此義行品已廣說。問於何解脫。答

緣中得解脫 大仙之所說
亦有斷而縛 見道及修道

緣中得解脫大仙之所說者。當知緣中得解脫。不能於相應解脫。一剎那故。心與煩惱俱生故。衆生於緣中愚。即彼起不愚煩惱解脫。問斷即解脫耶。答若解脫即是斷。亦有斷而縛。有少斷非解脫。謂苦智生。集智未生。見苦所斷煩惱斷。見集所斷一切遍使縛。彼

緣未斷故。及修道一品斷。餘八品縛乃至八品斷。第九品斷即解脫。餘一切亦如是。問見諦云何得不壞淨。答

二解於三諦 四由見正道
而得不壞淨 修習於二世

二解於三諦四由見正道而得不壞淨者。苦集滅無。間等得法不壞淨及聖戒。道無間等得四不壞淨。此義擇品當廣說。問何等世修答修習於二世。現在者習修現在前故。未來者得修不現前故。得隨續故。過去非修。現在因非分故。問何等法隨心俱轉。答

一切諸心法 說與心俱轉
亦此心諸相 餘相及所作

一切諸心法說與心俱轉者。一切心法與心俱轉。與心同一果故。亦此心諸相者。此心生等相亦與心俱轉。亦與心同一果故。餘相者。此心法相亦與心俱轉。及所作者。作名無作戒由心故。亦與心俱轉。亦與心同一果故。問斷法云何。答

斷法謂有漏 知者亦無垢
滅未來說遠 餘則說於近

斷法謂有漏者。有過故。如衣有垢則洗非無垢。彼亦如是。問知法云何。答知者亦無垢。若有漏無漏法一切說知隨其事。何以故。除無知故。問遠法云何。答滅未來說遠。過去未來法說遠。遠現在識故。此說時遠四遠義行。品已說。餘則說於近者。現在說近。與識身俱故。無為說近。不繫方處故。隨彼彼方得滅。

由道故。非數滅。離勤求故。世義界品已廣說。問定法云何。答

所謂無間業 及諸無漏道
慧說名為定 見處謂有漏

所謂無間業及諸無漏道慧說名為定者。無間業說邪定。定趣地獄故。無漏行說正定。定趣解脫果故。餘者不定。問世尊於菩提樹下於一切衆生建立三聚。為建立衆生分齊耶。為建立法分齊耶。若衆生分齊者。云何說不得衆生邊而衆生無邊。若法分齊者。聲聞亦應建立。云何說如來不共耶。答有說。衆生分齊總相非自相。謂說四生。除此更無衆生。問若然者聲聞亦應建立。如來聲聞何差別。答有差別。如來自力建立。聲聞從佛聞。此則差別。又說。如來建立衆生分齊。聲聞緣覺建立法分齊。世尊建立三聚衆生已。今猶安樂衆生大悲故。晝夜三時以佛眼觀察衆生。問見處云何。答見處謂有漏。一切有漏法是見處所穢汚見俱。若法穢汚見緣使及相應使。彼說見處。又說。緣自界見力故。有漏法得見處名。非餘緣使。非分故。如是好者謂前說。問若衆生成就根。彼成就幾根。答

說有十九根 謂成就極多
極少成就八 曉了根所說

說有十九根謂成就極多者。聖人極多成就十九根。謂未離欲具諸根。若住見道除已知無知根及一形。若住修道除未知無知根及一形。凡夫不斷善根具諸根及二形。除三無漏根。極少成就八曉了根所說者。極少成就

①還二退②(得)一③(此)十亦④(得)一⑤支二枝⑥(脫)一⑦問二問⑧知二智⑨立十(法)⑩者二有

八根謂餘謂身根漸死。身根善根斷漸命終生無擇地獄大山所迫。唯有身根命根意根及五受根。若生無色界凡夫。意命捨信等五根間有幾種觸答。

增語以多名故 及有對 明無明處中 所謂得果者 是則雙道事

增語及有對明無明處中者。增語者。若意識身。相應觸。緣一切法故說增語。又緣多名故說增語。雖第五觸亦緣多名。彼五識初得名故無過。若五識身相應觸。依有對根故說有對無漏者說明。觸明相應故穢汚者說無明。觸無明生故。不穢汚有漏者說非明非無明。觸俱不相應故。此五觸隨順不隨順相應依分別故說十六種。隨順不隨順建立者。謂愛恚相應觸相應分別故說苦樂不苦不樂觸。依分別故說眼耳鼻舌身意觸。問得果者為無閼道為解脫道。答所謂得果者是則雙道事。雙道俱得果。無礙道及解脫道。無礙道斷煩惱。得解脫道得解脫證。又說無礙道得果。解脫道護彼所作事令不失故。如是說問世尊說厭已離欲。云何厭云何離欲。答

若智在苦。因 及忍說為厭 能離貪欲故。 說四為離欲

若智在苦因及忍說為厭者。緣苦集智及忍說厭。緣可厭事故。苦集諦惡行煩惱所依故說為厭事。能離貪欲故說四為離欲者。若忍及智於四諦轉盡說為離欲。壞貪欲故。雖離一切煩惱。但貪欲是諸煩惱足。是故說離欲。彼憎不樂背惡。此厭之差別。離欲滅解脫斷

盡。此離欲之差別。問阿羅漢住何心般涅槃。答

羅漢住報生 及與威儀心 隨順心滅故 趣向般涅槃

阿羅漢住報生及威儀心而般涅槃。何以故。隨順心滅故。善心堅住於心滅不隨順。無記心羸劣。羸劣故於心滅隨順。復次少過故善心依果報。果門過生故。無記。唯有依果門無報果門。復次背諸趣故。若向諸趣者彼必善心動現在前。莫令我生惡趣中。是故彼背一切趣故住常性心。有時彼身分中善心空如斷善根。不善心亦空如離欲界欲。復次漸離生死故。謂於欲界離欲離不善心第一有離欲離染汚心。無記心現在前離善心。命終心現在前離無記心。尊者說曰。此達摩多羅以古昔達摩多羅為尊者動相續者善心。彼命終時不隨轉也。有說。欲令下地有不苦不樂報者。彼說欲界。乃至第四禪報生及威儀心般涅槃。無色界唯報生非威儀。色非分故。有欲令下地無不苦不樂報者。彼說欲界。乃至第三禪唯住威儀心般涅槃。餘如上說。問幾種有答

生有及壞有 本有亦復中 當知二剎那 一染三有二

生有及壞有本有亦復中者。生有者謂生分五陰與生俱故名生有。相續心俱生義。壞有者死邊。五陰與死俱故名死有。沒心俱起義。本有者。除生分死分五陰。彼中間有。本業所種久住故故名本有。中有者。死已乃至未得餘生有。於其中間問受生有。五陰趣所不

攝。於二中間起故名中有。問此諸有幾剎那幾久住。答當知二剎那。死有及生有。各剎那頃。不久住故。以此義當知本中有久住。問幾染汚幾不染汚。答一染三有二。生有一向染汚。以染汚心故生相續非不染汚。彼欲界凡夫三十六使。一一使令生相續。聖人修道斷四使。一一亦如是。色界凡夫三十一使。一一使令生相續。聖人三使。無色界亦如是。使令生相續非纏。餘有染汚不染汚。問修行者幾時極為業所障礙。答

若離欲界欲 越度第一有 及與起忍法 極為業障礙

於此三時修行者。業極作障礙。謂聖人離欲界欲時。彼欲界業極作障礙。義言汝若離欲。我於何處受報。以聖人離欲界欲不受欲界生。死。永得蘇息故。以不退果命終故。謂取阿羅漢果時。彼受後生報。業極作障礙。義言汝度第一有無復生處。我於何處受報。謂住頂法起忍時。彼受惡趣報。業極作障礙。以起忍法永離惡趣故。餘如前說。問事有幾種。答

當知有五種 自性及與因 繫縛若攝受 一切境界事

五種事。所謂自性事。因事。繫事。攝受事。境界事。自性事者。若法自己性以事名說。如所說若得事是成就彼事。因事者。如所說云何有事法。答言有因繫事者。如所說若此事愛結繫。即彼事瞋恚繫耶。彼五種法以事五種法也。名說攝受事者。如受取也。如所說田事家事。如是。比。境界事者。如所說一切法智所知隨其

①(身)一② ③語十(也)④ ⑤相一想⑥ ⑦(五識)一⑧⑨ ⑩礙二閼⑪⑫下同 ⑬因二因⑭ ⑮離二阿 ⑯唯二羅⑰ ⑱(於)一⑲ ⑳康二廣㉑* ㉒[垢]一㉓ ㉔極二及 ㉕(死)一㉖ ㉗[水]一㉘ ㉙五種二五事 ㉚ ㉛五種法是五行也 ㉜名說 ㉝受二是 ㉞取二邪 ㉟比二此

事。若法彼法緣以事名說。復有異五種事

說陰卽爲事 界入事亦然
及與世利那 是名五種事

若說陰卽以陰爲事。非餘種。如是乃至說利那卽以利那爲事。非餘種。如是略說。同實異名盡當知。問如業品說五種果云何。唯此果復有餘耶。答有欲令更有四果

育多婆提說 安立及方便
亦說和合修 是名爲四果

安立果者。如水住風輪。水輪是風輪安立果。如是一切方便果者。謂從不淨觀方便。乃至起盡智無生智。彼盡智無生智是不淨觀方便果。如是一切方便此是以因求果 趨向方便也盡當知。和合果者。謂眼色明念和合眼識生。如是法和合生法。此法是和合果。修果者。謂色界道欲界化及作欲界語。彼化及語是色界修道果。如是一切。問神足幾種。胡言。果地或言神足在或言富滿皆義出 耳悉不全得本名答

運身及意解 意念自在通
意念唯如來 當知二則共

三種自在。運身自在。意解自在。意念自在。運身自在者。舉身陵虛猶若鳥飛。意解自在者。遠作近解。屈申臂頃至色究竟。意念自在者。如眼識至色頃隨意卽至。此意念自在者唯佛非餘。一切智所知到彼岸故。當知二則共者。運身自在及意解自在。如來緣覺聲聞共。是禪果故。問一切阿那含入色無色界不。一切信解脫得見到不。一切退法者必退不。答入色無色界 亦復增益根

及與賢聖退 生中間定無

聖人還受生者。如前所說。餘因緣定無。還受定不至上二界 亦不增進根亦復不退還受生者。謂欲界得果還生欲界者。厭於處胎見有之過。不入色無色界。以壽長故也。久修聖道故。不能增進根。如下親友不能捨離。彼亦如是。生中間修習聖道故不退。問何時佛出世。何時轉輪聖王出世。何時辟支佛出世。答

劫減佛興世 增時轉輪王
二時辟支佛 如是應當知

劫減時佛興於世。順解脫師故。佛是解脫師。爲捨生死出世說法。增時衆生向生死見轉勝樂故。若爾時佛出世者則爲空出。以衆生不能捨生死極著樂故。滅時衆生背生死見煩惱惡行極增上故能捨生死。是故乃至歲衆生時佛乃出世。非滅也。若滅者爾時衆生非法貪不正貪。謂衆生天悉行邪法。勤利煩惱非善法器故。轉輪聖王多於增時出于世間。能以十善建立衆生。是故滅時不出。以彼衆生向惡行故。是故增時易化。時淳故。初滅時轉輪聖王亦出。於世猶淳故。辟支佛二時出世。作自事故。問得爲有得爲無。若得復有得者。此得復應有餘得。云何非無窮。若無得者。得云何成就。答

若彼諸法生 二得共俱起
二得俱生者 當知有得得

若諸法生。卽彼法二得。俱生得及得得。彼得力故成就法及得得。得力故成就得。以得及得得故。俱一心中展轉相得。是故非無窮。彼

色陰行陰一得。餘陰亦如是。初得能得一 爲無爲一 得爲及小得欲界善戒惡戒。若過去者三世得。若現在者現在未來得。若未來者卽未來得。欲界善及穢汚四陰。色界善五陰及穢汚四陰。無色界善及穢汚四陰。無漏五陰。變化心共生四陰。三世三世得隨其類得。威儀四陰。多以世斷及剎那斷得。若彼善修者三世得。工巧亦如是。無記色及報生四陰。以世斷及剎那斷得。過去過去未來未來現在現在。問苦法忍有幾得。乃至道比忍有幾得。答

諸得有十五 得於苦法忍
其餘見增道 當知一一滅

諸得有十五得於苦法忍。苦法忍有十五得。以見道十五心故。一切心彼得生一得。與彼忍俱生。十四後生。其餘見增道當知一一滅者。見道名見增道。惠增上故。餘見道漸度一心中得轉滅。苦法智十四得一俱生。十三後生。無前生未曾得故。苦法智俱生得今始起故 無前生故十四餘無前生苦比忍十三得一俱生。十二後生。苦比智十二得一俱生。十一後生。乃至道比忍一得俱生。無後生者。見道究竟故。無前生未曾得忍故。既無後起又無前生故唯一也問解脫得何地攝。答

若於彼地中 斷及壞對治
卽攝解脫得 法智比智品

若於彼地中斷及壞對治卽攝解脫得者。有說。若彼地斷對治彼解脫得。卽彼地攝。由斷對治故。如是說者。謂欲界見道修道斷解脫得。初禪地未來初禪及中間攝

●果一乘三 ●名十(也) ●岸二垢 ●退十(也) ●[謂樂生天] ●自一目 ●得十(得) ●及二得 ●得十(也) ●得十(得) ●增一 ●惠二 ●少十(也)

第二禪四地攝。即前三地及第二禪。第三禪五地攝。即前四地及第三禪。第四禪見道修道斷及無色見道斷六地攝。即前五地及第四禪。空處修道斷七地攝。即前六地及空處識處。修道斷八地攝。即前七地及識處無所有處及非想非非想處。修道斷解脫得九地攝。未來中間根本四禪及三無色。又有說者。若彼地攝斷對治及壞對治。此說欲色界見道修道斷無色界見道斷解脫得六地攝。無色界修道斷如前說。法智比智品者。又復有說。若地法智品。欲界見道修道斷解脫得即彼地攝。若地比智品。色無色界見道修道斷解脫得即彼地攝。此說欲界解脫得六地攝。色無色界解脫得九地攝。問若道俱起得。彼得是俱起道因不唯除所作因餘通問答

與道俱起得 俱起而非因
道亦非彼因 後起或有無

與道俱起得俱起而非因者俱起道與得既非共因又無餘因故相與無因也道俱起得彼非道因。不一果故。不一果則無共因義。道亦非彼因者。得俱起道亦非得因。亦不一果故。問後起得云何。答後起或有無。前起道於後起得或有因或無因。與後相似增道得相。似增解脫得因。非軌道得軌道解脫得因此是自然因故不為中上因非上下因謂苦法忍一得俱生。彼得非忍因。忍亦非得因。苦法智三得俱生。二道得一解脫得。苦法智非彼諸得因。彼諸得亦非苦法智因。彼苦法忍三得因。苦比忍四得俱生。三道得一解脫得。苦比忍非彼諸得因。彼諸得亦非忍因。苦法智三得因。非

苦法忍得因。以忍劣故比忍比智及解脫得苦比智六得俱生。四道得二解脫得。苦比智非彼諸得因。彼諸得亦非智因。苦比忍三得。因非三得因。謂法智品中得乃至道比忍二十二得俱生。五道得。七解脫得。道比忍非彼諸得因。彼諸得亦非忍因。道法智三得因法智自於未來得作自然因下諸解脫得及比忍得得劣故非因非餘因。問空空何行何自性何緣何地攝耶。答

空行有垢住 是說為空空
說無學境界 在於十一地

空行生已空空後起。空行觀五盛陰空。彼空空起於彼空思惟空。如人燒死屍時執杖轉側然後燒杖。彼亦如是。有垢者。謂有漏義。擊聖道故空空。擊聖道。不以聖道。擊聖道。以無漏厭行不緣無漏故。住者。三昧自性。空空者。於空行空。義。無學境界者。以無學為緣義。謂無學空行是彼緣。又說。緣空行俱生五陰。十一地者。有漏故。普境界空空。空空十一地。欲界乃至非想非非想處。問云何無願無願。答

行於無常行 是無願無願
俱在於不動 欲界餘如前

行於無常行是無願無願。無常行相應無願。觀五盛陰無常。於彼後起無願無願。思惟無願無常。若苦行者則為顛倒。聖道非苦性故。亦非因等行與聖道相違故以無願無願與聖道相違故不等。若作因等行者。應順聖道。然後擊聖道。以違聖道故亦不道等行。以道等行樂道故。俱在於不動者。謂前說空空及無願無願。

此二是不動法阿羅漢能現在前三昧。有勢力故。離煩惱故。見到者雖利根得自在三昧。然未離煩惱故。時解脫雖離煩惱。不得自在三昧。鈍根故。不時解脫者得自在三昧。利根者。欲界現在前多從說力起故非餘。除餘單曰餘三方。餘如前者。餘事如空空說

謂無相無相 彼行於寂止
行於無記滅 餘則如前說

謂無相無相彼行於寂止者。無相者。於數滅觀寂止。於彼後起無相無相行。義言汝非數滅亦寂止。問彼何緣。答行於無記滅非數滅。是彼緣是無記。亦不起非數滅。不起如前說。以是義故不說滅行。以有二種滅。謂非數滅無常滅。若言滅行者。不知何等滅。亦非妙出行。以無記非妙非出故。非三相所成故。止餘如前說者。餘如空空說。又彼三昧。利根者。盡智生時得後方便現在前。佛不方便辟支佛少方便聲聞或中或上。空空無願無願法智比智苦智後現在前。無相無相法智比智滅智後現在前。若欲界三昧禪未來所攝聖道後起。若非想非非想地無所有處聖道後起。餘者自地次第。問超越三昧云何正受。答

超越三摩提 上下至第三
及不念思惟 於緣超亦然

超越三摩提上下至第三。謂超越三昧正受時。有漏初禪次第。有漏第二禪現在前。如是次第乃至非想非非想處。然後次第還

①作宋本空白 ②似二以 ③上字上宋本空白(中)十上 ④因十(忍) ⑤七二十 ⑥比十(智) ⑦非因二得因也 ⑧非因也 ⑨擊二繫 ⑩義十(說) ⑪空二故 ⑫後二彼 ⑬若一若 ⑭行十(也) ⑮(作)十道 ⑯無記二記無 ⑰言十(行) ⑱二二三

至初禪。於此諸地善修習已起無漏初禪。次第乃至無所有處。又復次第還至初禪。又此地善修習已。復起有漏初禪正受。從初禪起超入有漏第三禪。第三禪起已入空處。空處起已入無所有處。逆超亦如是。此地善修習已。然後起無漏超正受。是名超越方便。然後能有漏初禪起。次第入無漏第三禪正受。無漏第三禪次第有漏空處。有漏空處次第無漏無所有處。逆超亦如是。是名超越正受成就也。相遠故不超第四正受也。三方不時解脫能起非餘。何以故。離煩惱故。自在三昧。勢力故。如前說。及不念思惟於緣起亦然者。若不穢汚而斷境界者。彼因不憶念思惟境界。因不念思惟者。率爾能緣超至三也。亦至第三。謂初禪緣欲界。次第上緣初禪二禪而正受。後超如上三昧中。故舉始以明終耳。緣初禪次第下緣欲界。次第上緣第二第三禪也。初禪緣二禪。次第下緣欲界及初禪。上緣第三第四禪如是。一切地盡當知。無色不緣下。前已說。雖苦法智次第苦比忍生乃至緣第一有。此不斷境界故。相續不斷故。淨背捨次第雖緣自地心起。或緣上地。但彼染汚。問佛語當言善為無記耶。答。

佛語善無記 如彼初心轉

究竟亦復然 無記或清淨

佛語善無記者。若調伏處方便而說是善。如說一切行無常一切法無我涅槃永滅。如是比。若彼不方便說是無記。如問阿難何故園中高聲大聲。如是比。如彼初心轉究竟亦復

然。無記或清淨者。世尊以善心發語。即以善心究竟。無記心發語。或無記心究竟。或善心究竟。無有善心發語無記心究竟。說時轉增不減故。問聲聞云何。答。

聲聞則不定 究竟及與轉

說時不退減 唯是佛世尊

聲聞則不定究竟及與轉者。聲聞善心發語或善心究竟或無記心究竟。無記心發語或善心究竟或無記心究竟。問何故世尊善心發語善心究竟。聲聞善心發語無記心究竟耶。答說時不退減唯是佛世尊。唯佛世尊說時不退。聲聞者舍利弗等說時猶退。問幾入可燒幾入能燒。答。

諸入中有四 可燒亦能燒

可稱亦能稱 斷能斷無惑

諸入中有四可燒亦能燒者。色香味觸可燒亦能燒。不相離故。有說。此四入可燒不相離。更有一入能燒。謂火大得燒相故。可稱亦能稱者。即前說四入可稱亦能稱不相離故。有說。四入能稱一種可稱得重相故。斷能斷無惑者。即前說四入可斷亦能斷。此中無惑說。問地地界何差別。答。

地謂色形處 堅相說地界

餘二亦二種 風即風或異

地謂色形處者。色形處是地。色入所攝眼識識此世間名。地界說堅相者。堅相是地界。觸入攝身識識。此則第一義。餘二亦二種者。水及火亦二種。色形處是水。濕潤是水界。色形處是火。熾熱是火界。餘如前說。風即

風或異者。有說。風即風種。以非世間立名故。有說。此亦世間立名。有塵風無塵風。如是比。問善根有幾種。答。

福分說一種 及與解脫分

於福決定分 第四離諸漏

福分說一種者。若欲界聞思慧勝進施戒等俱生。得轉輪王帝釋及餘欲界大力自在身報。及色無色界勝進善根能有果者。是名福分。及與解脫分者。解脫分亦是欲界聞思施戒等俱生。背諸有向解脫。殖此諸善根者。中間雖斷善根猶名逆流。何以故。必得涅槃故。是故如是說。寧為調達。不為外道。謂頭藍子。調達雖造三逆斷諸善根滅善種子入無間地獄。阿毘至阿者。無毘至者。擇也。問也。以因地獄罪畢。於四萬歲壽人中。得辟支佛。證諸根猛利。勝舍利弗等。鬻頭藍子雖離八地生第一有。於彼報盡命終。來生於法林中。作著翅飛狸。殘害一切水陸衆生。死墮無間地獄。世尊不記得解脫時種種解脫種者。有如是相處聽法坐。若聞法時悲泣流淚身毛為豎。見生死過涅槃善利。敬信正法及說法者。於福決定分者。觀察真諦暖等善根。於諦決定分。於諦滿足故。順向聖道故名決定分。彼賢聖品已說。第四離諸漏者。無漏善根。謂學無學彼

前已說。問云何於惡趣得非數滅。答。

當知布施等 能轉於惡趣

必定與忍俱 施等同或異

當知布施等能轉於惡趣者。或有施不墮惡道。或戒或聞或思或暖或頂。若見生死過涅槃

①(乃)十至②③④ ⑤起二超⑥⑦* ⑧(相)一⑨⑩ ⑪超二起⑫⑬ ⑭離二惟⑮⑯ ⑰勢二熱⑱ ⑲界二者 ⑳間一聞名為聞㉑㉒ ㉓故二文㉔,又㉕ ㉖(也)一㉗ ㉘記二語 ㉙減十(語)㉚㉛ ㉜惑二或㉝* ㉞種二重㉟ ㊱聞一問㊲,問立㊳ ㊴種二稱㊵㊶ ㊷善十(根滅善)㊸ ㊹無十(也) ㊺也十(種也) ㊻舊十(也) ㊼堅二堅

槃善利故。背生死向涅槃而行布施。如此施者能轉惡道。餘善根亦如是。布施能轉惡道而非頂。若謂不爾者不能。何以故。背生死故。或有未得決定善根而能極厭生死非得決定善根者。復次施與惡趣煩惱業極相違非頂。是故無過。問若諸善根不必定離惡趣者。何者必定。答必定與忍俱。頓捨惡道必在於忍。忍與一切惡趣煩惱業相違故。捨忍者。惡趣煩惱業尚不起。況不捨。施等同或異者。從施乃至頂或時離惡趣或不離。以非一切施能違惡趣煩惱業故。餘善根亦如是。已說轉惡趣因緣。謂意識不共今當說。意識有六事不與五識共

離欲及退時 受生亦命終
斷善及相續 當知是意識

此六事說任意識。思惟故。普緣故。世尊雖說眼見色耳聞聲身覺觸退。彼亦牽意識現在前故退。問住何等受命終及受生。答

謂一切眾生 悉住於捨受
命終及受生 以不捷疾故

謂一切眾生悉住於捨受命終及受生者。一切眾生住不苦不樂受命終及受生。問何故。答以不捷疾故。一切分中生分死分不明了不覺悟故。於諸受中不苦不樂受最捷疾不明了故。是故一切眾生住不苦不樂受命終及受生。問若然者不苦不樂受應無漏無漏聖道捷疾故。答非不苦不樂受無漏聖道力能令利故。如水在辛則辛在苦則苦。甜酢鹹淡亦如是。

雜阿毘曇心論卷第十

*尊者法救造
宋*天竺三藏僧伽跋摩*等譯
擇品第十之一
雖已說多法 決定衆雜義
於彼無量處 當復擇其要
牟尼說見道 疾故名法輪
或說學八支 轉至於他心

牟尼說見道疾故名法輪者。滅二種癡故說牟尼。寂滅滿足故說牟尼。說者顯示也。彼見增故說見道。以慧增故。求爾炎故。至非品故說道。疾者速進也。見道是捷疾道。不起定故。一品道頓斷九品結。是法故說法。離衆生故。捨此至彼故說輪。謂捨苦至集乃至捨滅至道。復次似輪故說輪。如輪下轉至上上轉至下。如是見道輪。下忍轉至上智。復轉至忍。復次上下義故說輪。如輪下至上上至下。如是見道輪。緣欲界已上緣第一有。緣第一有已下緣欲界。復次降伏諸方故說輪。如聖王輪。或說學八支轉至於他心者。尊者瞿沙說。學八支轉至他心名轉法輪。是故說如來於波羅。奈仙人住處轉法輪。以是義故別於二乘聲聞辟支佛自力轉法輪。雖拘隣等自轉法輪自修道非他。然由開悟因緣故說世尊轉法輪。雖苦法忍起已轉。但道比智起說名為轉。以彼處具五因緣故。所謂捨會道。得未曾道。結盡得一味。頓得八智。一時修十六

行。拘隣等五人及八萬四千諸天見諦。彼先見諦故以拘隣為因緣。世尊及拘隣起世俗心。地神知故。於大力尊天所聞故。踊躍歡喜故。本常守護故。近住地神舉聲大唱。遠住地神展轉宣告。非彼自力知見。是常勝心非劣心境界故。如是須臾頃。虛空神天展轉唱聲乃至梵天不至上地。以彼自地耳識非分故。有說。以梵名名阿迦膩吒天聲。雖念念滅而相續起故言聲至梵天。轉輪王出世以十善業道化導衆生。以十善業道欲界受報。是故轉輪王出世聲至他化自在天。以未離欲故不至離欲地。梵天勸請世尊轉法輪故。是故聲至梵天。淨居天勸發成無上道故。是故聲至淨居天。成稱業故聲有齊限。問云何為梵輪。答

佛說具足道 廣大名梵輪
齊輻輳具足 對治非梵行

一切八聖道共依廣大故名為梵輪。彼正語正業正命不壞故名為齊。齊穀也。正見正思惟正方便依成立故廣緣故名為輻。正念正定攝正見正思惟正方便輻故名為輳。煩惱名非梵。不愛果故。道者對治非梵煩惱是故名梵輪。已說梵輪。賢聖八支成就。齊本音便波婆素

謂優婆塞 受時他二說
具足一日夜 離嚴飾威儀

優婆者近。婆素者住。近盡壽三婆遷住故說近住。三者等。婆遷者護。謂等護一切衆生。一切經論中言律是故說隨一切衆生慈心住得

雜阿毘曇心論卷第九

①能二然②(受)十生③此下聖本有光明皇后頌文④十一之一⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿
①能二然②(受)十生③此下聖本有光明皇后頌文④十一之一⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

律儀。彼若作是念。於此受不於彼受。不得律儀。心不淨故別受。不得律儀。律儀離增減故。受者受取由作故。非發心而得。時者謂明相出時受。他者從他人受。從衆生故不從非衆生數。不言語故。非嬰孩非眠非癡非狂不解齋法故。彼此和合故得受。若得犯戒及煩惱起能見過者從彼受。二俱說者。授者受者二皆說授者。先說受者隨說。若授者不說則不成授。授不成故受亦不成。若受者不說則不成受。無受說故。非無說而作業生。作不生故無作亦不生。無作不生故則無餘識俱生功德。若二人一時說者亦不成受。無授故。具足者。聖八支成就。如比丘不具足律儀則非比丘。此亦如是。一日一夜者。第三分。齊非分故有二分。齊如前說。齋律儀得日夜分。齊。餘律儀得盡壽分。齊。離嚴飾威儀者。謂。纓絡被服爲嚴飾故。著者悉應捨。離住威儀受。以莊嚴爲放逸足故。調伏住則不放逸。放逸者不應作而作。壞威儀者不恭敬故。不得律儀。黃門時黃門無形二形不生律儀。何以故。貪欲增故。無慚愧增故。在人趣依三方非餘。捷疾知覺故。五種清淨因緣修多羅品已說。問齋幾是尸羅支。幾是不放逸支。幾是持支答。

尸羅支有四 不放逸支一
除則是持支 齋支慧所說
前四是尸羅支 尸羅譯言修習亦言正順
三昧亦言清涼亦言安眠 捨性罪自
性戒故。不飲酒是不放逸支。飲酒是放逸支。
令心失念故。是故離彼名不放逸支。餘則是

持支者。隨順戒故。有說離非時食是齋。餘者齋支。復有說。離非時食是齋亦齋支。餘者是支。如等見是道亦道支。擇法覺是覺亦覺支。彼亦如是。若說九支者不然。何以故。離高床大床塗身香華。共立一支。俱莊嚴處起故。如老死立一有支。俱熱故。彼亦如是。問離兩舌惡口綺語等是離性罪。何故不立齋律儀耶。答難護故。常習近故。出家者尚難護以常行故。況復在家。如是難護者諸威儀。除不飲酒。餘遮罪亦不立齋支。問已知惡戒熱所燒。齋律儀梅檀塗今當說。何故無不具足律儀。優婆塞何所疑俱見其過。若有不具足優婆塞律儀。優婆塞者。何故無不具足沙彌律儀沙彌耶。若無者何故說一行等優婆塞。何得所說非無義。答

具律優婆塞 比丘律儀一
以彼缺減義 牟尼說少分
具。律優婆塞比丘律儀一者。有一說具足優婆塞律儀名優婆塞。非不具足沙彌。比丘亦如是。如說我某甲歸依佛兩足尊歸依法離欲尊歸依僧諸衆尊我是優婆塞。當證知盡壽捨衆生受歸依心清淨。乃至第三口作得優婆塞律儀。問此是離殺生口作。云何得餘律儀耶。答當知除等故。應說我盡壽捨衆生等。如戒等取除等故名戒取。彼亦如是。復次捨衆生者。謂捨自衆生故。從今乃至捨自衆生所受戒。終不毀犯。復次波羅提木叉律儀於衆生處得。彼作是說。我從今日不殺衆生。亦於彼不盜不邪淫不妄語。以護彼故不飲酒。

是故一切遮罪中。離飲酒立優婆塞律儀。以飲酒一切放逸足故。自所受難護故。是故說離他姪。當知兩舌惡口綺語亦如是說。以彼聖人經生猶故知而不說犯。若言無一行等優婆塞者不然。實有一行等優婆塞建立此云何。以彼缺減義牟尼說少分。佛以缺戒者故說少分優婆塞。彼具戒優婆塞。若持一不持四。是名一行。持二不持三。是名少分。餘亦如是。謂所得戒令知故爲說非無義。問若人九歲。若十歲受優婆塞律儀。然後取妻。以彼女人爲妻分。先於彼女人所爲得律儀。不若得者云何不犯戒。若不得者何得非少分。答得支非具足得。不他姪處不得離非梵行處。謂爲妻分已不起他姪。所不應作亦如是。優婆塞受沙彌戒。不捨優婆塞戒得沙彌戒。以勝爲名故不名優婆塞。若彼沙彌還俗時。說言我作優婆塞。當證知即是優婆塞。若異者應更受優婆塞律儀。比丘亦如是。已說律儀。律儀比類今當說

二律儀妙行 業道初解脫
說業及尸羅 如是七種名
波羅提木叉律儀作時。即彼剎那無作。凡有七種名。一名律儀。二名波羅提木叉律儀。三名妙行。四名業道。五名波羅提木叉。六名業。七名尸羅。彼一切惡戒對治故名律儀。防護惡戒故。入七衆具故名波羅提木叉律儀。於一切衆生所得故。善作故名妙行。得愛果故。思願道故名業道。思願從彼道轉故。彼最初隨順解脫故名波羅提木叉。隨一切衆生慈

○齊一素○◎* ○纓絡一環瑠◎ ○離一離◎ ○支二足◎ ○床一◎ ○律十(儀)◎ ○說一◎ ○彼一◎ ◎*(名) ○(若)一◎ ○(具)一◎

心得故。業者作。所起作故。言是思者不然。是說波羅提木叉故。以此當知亦非後三業道。尸羅者淳善義。不害心起故。後諸無作有五種名。除波羅提木叉及業道。除波羅提木叉者。非前故。除業者。在起業思願後故。已說律儀。類名。謂身身業成就不成就今當說成就身非業。或說業非身

或有身業俱 或亦不俱說

成就身非業者。謂或有凡夫人處卵胎迦羅羅胞肉段堅厚。前身作已。捨此身未成未能起作。無龜心現在前故。龜心現在前能起身業。而彼細心現在前。如是內向外內事外事盡當知。復次彼分中極苦逼迫故不能動轉。何能起作。若生欲界不住律儀。亦非不律儀處身無作。若眠若狂若醉。無求無方便捨作因緣。業品已說。或說業非身者。謂聖人生無色界。彼成就道共身業非身。彼色非分故。或有身業俱者。聖人處母胎迦羅羅。胞肉段堅厚。若生欲界。處律儀波羅提木叉禪無漏。住不律儀不住律儀。亦非不律儀身有。作。有作不失。若生色界。此諸身色衆生居故。身業者。或有說律儀。或說不律儀。或不捨作故。或亦不俱說者。無色界凡夫非身無色故。非身業凡夫故。口業亦如是。問世尊說四種入胎此云何。答

謂入不正知 及住與出胎 乃至入正知 住出亦復然

彼少福衆生入母胎。顛倒想轉顛倒解。所謂風飄雨。雪大寒大闇。多衆擾亂聲。入華間林

中草窠華窟樹下牆間。住於母胎。亦顛倒想及顛倒解。所見如前說。出胎亦顛倒想解。所見如前。多福衆生見園林浴池殿堂樓閣跏趺端坐。餘如前說。是名第一入胎。第二入胎者。自知入胎。不顛倒想不顛倒解。而住出顛倒。如前說。第三入胎者。自知我如是入胎如是任胎。出則顛倒如前說。第四入胎者。自知我如是入胎。住時自知我如是任胎。出時自知我如是出胎。問此諸入胎者說何等入。答

初者不淨業 亦復不求智 中二各成一 第四俱成就 彼初者善業不清淨亦不求智。第二者業清淨而不求智。第三者求智業不清淨。第四者俱成就。又說初入胎者一切衆生。第二轉輪王。第三辟支佛。第四如來。問須陀洹有不善業。邪。若有者何故不墮惡趣。若無者應離欲。離欲者無有是處。答

住於初果者 一種不淨業 而不墮惡趣 業不具足故 須陀洹。雖有修道斷不淨業。無見道斷業。無對事故。是故不墮惡趣。具不具足故。如車二輪具能有所運。一輪壞則無所堪。彼亦如是。鳥譬亦然。愚者墮惡趣非智者。凡夫墮惡趣非聖人。犯戒墮惡趣非持戒。惡心墮惡趣非善心。如修多羅品說。食擇品當說今當說

四食在欲界 四生趣亦然 三食上二界 搏食彼則無

四食在欲界者。欲界有四食。四生趣亦然者。四生五趣亦有四食。地獄中鐵丸洋銅。雖復

增苦壞。飢渴故名食。及冷風觸身亦名為食。三食上二界搏食彼則無者。色無色界無搏食。身輕微故。無色故。問諸趣一趣何食增。答

於彼餓鬼趣 意思食為增 及與諸卵生 三無色亦然

於彼餓鬼趣意思食為增者。餓鬼趣意思食增。以彼意行多故。及與諸卵生者。彼亦意思食增。以彼處卵生常念母故。得不爛壞。三無色亦然者。除非非非非想。餘三無色亦意思食增。意行多故

胎生搏食增 謂彼人趣中 地獄識食增 第一有亦然

胎生搏食增謂彼人趣中者。胎生者人趣中搏食增多。以搏食持身故。地獄識食增第一有亦然者。地獄識食增。識持名色故。非想非非想亦識食增。以識持名故

欲天如人趣 色界觸食增 及與畜生趣 濕生亦復然

欲天如人趣者。欲界天搏食增。色界觸食增者。色界天觸食增受修禪故。及與畜生趣濕生亦復然者。畜生趣中濕生者觸食增。持義是食義。如櫛持瓶安住不壞。如是以食持身。身則不壞。牽有故說食。問若然者一切有漏法是食。牽有故。答增上故說力。能牽有故說食。有二事故名食。謂前方便牽。牽已復長養。問何故說四是食。答此不應問一切難起。但隨量所應故說四。彼搏食者。長養諸根四大故說食。觸者長養心心法故說食。意思者

①起業二業起②(比)十類③(施)二海④作十(作)⑤雪二雨⑥成二威⑦邪二耶⑧難二唯⑨(故不)十具⑩(當說)一⑪思食二食思⑫精二枝⑬起二趣

長養當來有故說食。識者長養名色故說食。是故說四食。問若歸依佛法僧者。梵音中三寶名覆護歸依越向護應云歸。歸佛。爲何所歸。三寶各二種。佛有二種身。謂生身及法身。法亦二種。謂第一義涅槃法及一切無我法。僧亦二種。謂第一義僧及等僧。爲歸何等。答。

歸依彼諸佛 所得無學法
涅槃無上法 僧學無學法

諸佛所成就無學法名爲佛。歸者歸佛所得無學法名歸佛。不歸佛所成就無學法等諸有漏法。自性不解脫故。以是故當知亦除生身。若言於如來所起惡心傷足出血不得無間罪者不然。何以故。起惡心故。謂於佛所得無學法起惡心而傷足故得無間罪。復次壞佛所得無學功德所依故。所依壞故依者亦壞。如瓶壞乳亦壞。歸依愛盡名歸法。善故常故。當知除餘法。以餘法無善及常故。歸依僧所得無學法名歸僧。不歸僧所成就非學非無學法及生身。以有漏故。亦非等僧可壞故。問歸依以何爲自性。答有說。口業自性。言說假合故。復有說亦身口業自性。戒自性故。問歸依有何義。答覆護義是依義。安慰義是依義。以是因緣故歸依。是受律儀。門修多羅品說四不壞淨言。擇品當廣說今當說。

緣覺菩薩道 及與三眞諦
於彼無垢信 是法不壞淨

辟支佛所得三根及眷屬。一切菩薩所修行道及苦集滅諦。緣此諸法起無漏信。是名不壞淨法。不壞淨壞緣後當說。

隨生清淨戒 佛僧如歸說
此事有二種 說有四種名

隨生清淨戒者。謂無漏隨生身口業。是賢聖所重戒。是名戒不壞淨。佛僧如歸說者。佛及僧當知如前歸依說。彼緣佛法無漏信。是於佛不壞淨緣。僧法無漏信。是於僧不壞淨。若緣佛所得無漏法及菩薩所得學法。是名壞淨法不壞淨。如是緣佛辟支佛法聲聞法乃至一切學無學法。是亦名壞淨法不壞淨。問不壞淨有幾事。答此事有二種。謂信及戒。信者心淨。戒者四大淨。說有四種名者。事緣建立故有四。以信緣別故爲三種。知淨者。若知若得若持清淨。問何所知。答四眞諦。復有說者名不壞淨。如首羅長者。復次勇猛故不。有說者名不壞淨。如依長者。此二長者皆得不能斷各依已自說爲名問云何次第。答佛知淨在前。佛是根本。以說故問佛何所能。答曰覺法。問誰持法。答曰僧。問彼僧云何得一味。答曰聖戒。復次能說者爲佛。何所說。謂法爲誰說。謂僧誰持法。謂戒。復次良醫者佛。治病者法。看病者僧。藥者聖戒。是名次第說。彼於苦集諦及下根。於道諦一因緣得不壞淨。謂信也。三根於苦根下根。於道未能愛樂。唯信也。彼於滅諦及中上根。於道諦二因緣得不壞淨。謂信及欲樂。三根於滅悉皆愛樂。中上根於道乃能愛樂。信。有修多羅品說沙門果。擇品當廣說今當說。

所謂沙門果 無爲亦有爲
有爲學果三 無學果第四

二種沙門果。有爲及無爲。有爲學果有三。有

爲無學果第四。一切無爲悉非學非無學

八十九聖人 沙門無爲果
亦說於有爲 一切沙門道

彼見道八忍。是沙門八智。是沙門有爲果。八種煩惱斷。是沙門無爲果。欲界修道離欲九無礙道。是沙門九解脫道。是沙門有爲果。九種煩惱斷。是沙門無爲果。如是乃至非想非非想離欲盡當知。顯現故世尊說四。以此處五因緣具故。謂捨會道得未曾道。結盡。得一味解脫。頓得八智。一時修十六行。以此處道決定及決定究竟故。若斷者所作及所作究竟。問頗一念頃一智知一切法。邪。答無也。何以故。

雖知一切空 而非知一切
除其共相應 自性亦復然

若此智生知一切法空及無我。而不知自己自性。不自願如指端不自觸。此亦如是。又無二決定故。無有一智二決定。自知知他亦不知相應法共。一行一緣故。一切相應品法同行同緣。不知共有法。一果故。同決定轉故。此智聞慧思慧非修慧。何以故。修慧者分段緣故。是故說欲界色界。以無色界聞思非分段問對治幾種。答。

所謂斷對治 壞持及遠分
此四應當知 是名對治種

有四種對治。所謂斷對治。壞對治。持對治。遠分對治。斷對治者。無礙道斷煩惱得故。壞對治者。於緣中作過行故。謂無常苦空非我等。如是比。持對治者。與煩惱斷得合。謂解脫道

①(梵音...是)二十五字(爲何...等)五十三字(上註梵字宮本作胡字) ②實二實 ③是十(也) ④(假)一 ⑤門二問 ⑥唯二惟 ⑦中上二上中 ⑧有十(也) ⑨(廣)一 ⑩自二若 ⑪(以)一

及後諸餘與煩惱斷得合。遠分對治者。解脫道為首。若法忍是見苦所斷煩惱。斷對治及壞對治。於餘欲界繫法。壞對治。若欲愛盡超昇。離生苦法忍。亦是遠分對治。如是一切道隨其義盡當知。修多羅品說修義。擇品當廣說今當說

初得若習行 對治及斷修
當知此四種 是名為修義

四種修。謂得修。行修。對治修。斷修。得修者。謂初得未曾得有為功德。習修者。謂曾得善法相續生。對治修者。謂修四種對治名為對治修。是有漏法敵對治道。斷修者。謂斷煩惱故。修道是斷煩惱得義。上取能治能斷為修今四句可。取所治所斷為修依下

四句。初句無漏有為法。第二句不善法無記有為法。第三句善有漏法。第四句無為法。有說。六種修前四及分別修防護修分別修者。如修多羅說。謂此。身髮毛爪齒。如是比。防護修者。謂根如所說善調御六根。如是廣說。如是好者。謂四種修。如前說。此二種修。斷修對治修所攝。已說見道修道決定相。差別義。今當說

煩惱通三界 若見斷二種
二斷則三種 俱見道前行

若煩惱三界繫。見道斷。謂五見及疑。此見道前行二種。五見疑定見道前斷變無明與見俱滅實雖未盡名已悉攝隨見受名名為前行下修道不待見道。或見道斷。或見道修道斷。云何見道斷。若結非想非非想處繫。隨信行隨法行無間忍斷。彼非想非非想處繫此以地定故

說。隨信行隨法行此以人定故說。無間忍此以對治定故說。斷者此以所作定故說。云何見道修道斷。謂八地。若凡夫斷修道斷若聖人斷見道斷。問何故凡夫斷煩惱一向修道。答凡夫不能部分捨煩惱。如是見斷如是修斷。復次凡夫不能一種道斷九種故。若三界五種。謂愛慢無明。此見道前行三種。或見道斷或修道斷。或見道修道斷。若彼煩惱非想非非想處繫。隨信行隨法行無間忍斷。是見道斷。若九地學見迹修道斷。是修道斷。餘八地。若凡夫斷修道斷。若聖人斷見道斷

若欲界煩惱 五行有二種
彼修齊限故 說修道前行

若欲界五行。彼修道前行二種。或修道斷。或見道修道斷。若學見迹修道斷是修道斷。餘若凡夫斷修道斷。若聖人斷見道斷。彼決定前斷是故說前行。問前說緣此諸緣何時作事。答

次第緣所作 說彼法生時
緣緣所作業 彼法滅時說

次第緣所作說彼法生時者。生時是未來。與轉俱故。亦應說轉時彼法生時。次第緣為作業。與處義故名次第緣。彼法生者得處故。若言色及一切心不相應行亦得。處而生。應說次第緣者不然。彼事行品已說。緣緣所作業彼法滅時說者。法滅時緣緣為作業。以法滅時是現在能攝受境界。非未來未起故。非過去已滅故

三因所作業 謂彼法生時

二因之所作 當知滅時說
三因所作業謂彼法生時者。法生時三因作業。所謂自分因。一切遍因。報因。自分因力故法生相似相續。是故法生時自分因作業。一切遍因報因隨順建立生法故。彼法生時作業。總說故說法生時三因作業。除初無漏餘善。除報除不隱沒無記。自分因作業染污者。自分因一切遍因作業。報者自分因報因作業。二因之所作當知滅時說者。有緣法滅時。相應因共有因作業。業同故。一果故。不相應法共有因無緣故。增上緣者一切時不障礙住。是故不說。不待說故。所作因亦如是。問云何一切眾生等心起等心住等心滅為不邪。所以問者。有眾生身或大或小。為身大則心大。身小則心小。邪。為一切等。又眾生進止遲速不同。為遲行心遲。速行心速。為悉等邪。復次眾生或有安靜知覺如山。或有不住動若飛塵。為靜者心遲動者心速。為悉等邪。答

一切眾生類 心起住滅等

貪欲等相應 不相應亦然

一切眾生類心起住滅等者。一切眾生心等起等住等。滅時無多少。何以故。剎那故。亦無大小。非色故。四大差別故。身有大小。身輕者速身重者遲。心轉多緣故則覺飄動。心止一緣則念安靜。貪欲等相應不相應亦然者。若心有貪無貪。彼一切心俱起俱住俱滅。剎那故。貪心不作業故現重。無貪心作業故現輕。乃至有解脫無解脫盡當知。有貪無貪如界

①昇二升②③ ④習修二修習⑤ ⑥斷二修⑦ ⑧[也]一⑨ ⑩身十(上)⑪ ⑫今二令⑬ ⑭見十(諸)⑮ ⑯[處]一⑰ ⑱飛二風 ⑲ ⑳四大十(所起)㉑ ㉒(有)一㉓

品說

問已說有心分一切衆生心俱起俱住俱滅。無心分復云何等。謂入無想滅盡正受者。此心滅。餘衆生心起。還從定覺此心生。餘衆生心滅。云何等答當知此說有心者然。無心者亦同。謂入無想滅盡正受者。彼餘衆生心起。此初正受剎那亦起。從定覺時餘衆生心滅。此後正受亦滅。若住定時餘衆生心亦起亦滅。此正受亦起亦滅。復有說言。一切心起不必同。或有心起不滅。作四句。初句從無想滅盡正受起。第二句入正受時。第三句有心者。第四句住正受時。此無有大小。無形故。已說諸心起滅。廣心義今當說。

欲界中有四 色無色各三 亦學無學心 說此次第生

欲界中有四色無色。界各三亦學無學心者。有十二心。所謂欲界繫善心不善心隱沒無記心不隱沒無記心。色界繫善心隱沒無記心不隱沒無記心。無色界亦如是。及學心無學心。問十二心云何建立。答繫不繫界種建立。繫及不繫立二心。繫者界種分別立十心。不繫者種分別立二心。是故說十二心。說此次第生者。此諸心一一次第生。諸心今當說。

欲界善生九 亦復從八起 二穢汚生四 亦從十心生

欲界善生九者。欲界善心次第生九心。欲界四自地故。色界善心。謂初方便入正受時彼隨順故。此則總說。非色界一切。有說。未來

禪攝非餘。又說。未來及初禪。又復說中間禪。尊者瞿沙說。乃至第二禪。如超越正受從初禪起。超第二禪及眷屬第三禪現在前。此亦如是。色界穢汚心。謂受生時此善心命終。彼穢汚心相續生。無色界穢汚心亦如是。及學無學心。彼亦隨順故。色無色界不隱沒無記心。不次第現在前。心縛自地故。無色界善心不現在前。極相遠故。此亦從八起者。欲界善心亦從八心次第生。欲界四自地故。色

界善及穢汚。善心如前說。穢汚者謂初禪地煩惱所惱。即依欲界善心防護。故從學無學心起。欲界善心現在前。二穢汚生四者。欲界不善心及隱沒無記心次第生。自界四心。非上地相違故。亦從十心生者。彼欲界二種穢汚心。從十心次第生。自界四色。無色界六謂受生時。

無記次生七 亦復從五起 色界善十一 亦從九心生

無記次生七者。欲界不隱沒無記心次第生。七心。自界四。色界善。謂變化心次第生。隱沒無記。謂受生時。無色界亦隱沒無記心。亦復從五起者。欲界不隱沒無記心從五心次第生。自界四。色界善次第生。謂變化心。色界善十一者。色界善心次第生。除無色界不隱沒無記心。亦從九心生者。色界善心從九心次第生。除欲界二穢汚心。及無色界不隱沒無記心。

色界穢汚六 亦從八心起 無記次生六 從三次第生

色界穢汚六者。色界隱沒無記心次第生六心。自界三欲界三。除欲界不隱沒無記。亦從八心起者。色界隱沒無記心從八心次第生。除欲界二穢汚及二無漏。無記次生六者。色界不隱沒無記心次第生六心。自界三欲界二穢汚無色界穢汚。從三次第生者。從自界三心次第生。

無色善生九 亦從六心起 穢汚心生七 彼亦從七生

無色善生九者。無色界善心次第生九心。除欲界善不隱沒無記心及色界不隱沒無記心。亦從六心起者。無色界善心亦從六心次第生。自界三色界善及二無漏。穢汚心生七者。無色界隱沒無記心次第生七心。自界三色界善心及穢汚欲界二穢汚心。彼亦從七生者。無色界隱沒無記心亦從七心次第生。自界三。欲色界善及不隱沒無記心。

無記心生六 亦復從三起 學心生於五 亦從四心生

無記心生六者。無色界不隱沒無記心次第生六心。自界三下界穢汚三。亦復從三起者。無色界不隱沒無記心從自界三心次第生。非餘報數故。學心生於五者。學心次第生五心。二無漏及三界善心。非穢汚。性相違故。非不隱沒無記。性不捷疾故。亦從四心生者。學心亦從四心次第生。即學心及三界善心非無學。是因故。亦非餘。如前說。

無學心生四 亦從五心生 已說十二心 二十應當說

◎(擇品第十一之二)十問◎ ◎[界]一◎◎* ◎超一越◎◎ ◎生二五◎◎ ◎隱沒無記二穢汚◎◎

無學心生四者。無學心次第生四心。即無學心及三界善心。非學。是果故。非餘如前說。亦從五心生者。無學心從五心次第生。二無漏及三界善心。已說十二心二十應當說者。已說十二心次第生。如此十二心分別為二十。今當說

二善二穢汚 報生及威儀

工巧諸禪果 欲界中八心

欲界八心。謂方便生善心及生得善不善及隱沒無記不隱沒。無記者有四種。報生威儀工巧變化心

除不善工巧 餘則在色界

離禪果威儀 餘四在無色

除不善工巧餘則在色界者。色界有六心。除不善及工巧。餘如前說。離禪果威儀餘四在無色者。無色界有四心。除威儀及變化心。色無色界除工巧。無事業故。除不善。離無慚無愧故。無色界除威儀。往來非分故。除變化心。支所攝禪非分故

學與無學心 此則為二十

彼心次第生 各隨其義說

學與無學心此則為二十者。學與無學心及前十八。是為二十心。繫不繫界種分別。此差別者前總說。善及不隱沒無記今亦種分別。彼心次第生各隨其義說者。謂此心展轉次第生今當說

欲方便生十 亦從八心起

生得次生九 亦從十一生

欲方便生十者。欲界方便善心次第生十心。

自界七除變化心。以彼淨禪次第生故。色界方便善心及學無學心。亦從八心生者。彼欲界方便善心從八心次第生。自界二善心及二穢汚心。色界方便善心穢汚心。及學無學心。生得次生九者。欲界生得善心次第生九心。自界七。除變化心色無色界穢汚心。亦從十一生者。欲界生得善心從十一心次第生。自界七。如前說。色界方便善心穢汚心及學無學心

二穢汚生七 亦從十四起

報生威儀八 是亦從七生

二穢汚生七者。欲界不善及隱沒無記次第生自界七心。除變化心。亦從十四起者。此二穢汚從十四心次第生自界七。除變化心。色界四種。除方便善心及變化心。無色界三。除方便善心。報生威儀八者。欲界報生及威儀次第生八心。自界六。除方便善心及變化心色無色界穢汚心。是亦從七生者。此欲界報生及威儀心亦從自界七心次第生。除變化心

工巧心生六 亦復從七起

變化心生二 亦即從二生

工巧心生六者。欲界工巧心次第生自界六心。除方便善心及變化心。亦復從七生者。彼亦從自界七心次第生。除變化心。變化心生二者。欲界變化心次第生二心。欲界變化心及色界方便善心。亦即從二生者。亦即從此二心次第生

色方便十二 是亦從十起

生得次生八 亦從五心生

色方便十二者。色界方便善心次第生十二心。自界六欲界三。方便善心及生得善心變化心。無色界方便善心及學無學心。是亦從十起者。色界方便善心從十心次第生。自界四。除威儀及報生。欲界二方便善心及變化心。無色界三方方便善心穢汚心及學無學心。生得次生八者。色界生得善心次第生八心。自界五除變化心。欲界二穢汚心無色界穢汚心。亦從五心生者。色界生得善心從自界五心次第生。除變化心

色穢汚生九 亦從十一起

威儀心生七 從五次第生

色穢汚生九者。色界穢汚心次第生九心。自界五。除變化心。欲界四二善二穢汚心。亦從十一起者。色界穢汚心從十一心次第生。自界五。除變化心。欲界三。生得善威儀及報生。無色界三。除方便善心。威儀心生七者。色界威儀心次第生七心。自界四。除方便善心及變化心。欲果二穢汚無色界穢汚。從五次第生者。色界威儀心從自界五心次第生。除變化心

當知色報生 亦如威儀說

謂彼諸禪果 當知如欲界

當知色報生亦如威儀說者。色界報生心次第生七心。亦從五心生。如威儀說。謂彼諸禪果當知如欲界者。色界變化心次第生二心。色界方便善心及變化心。亦即從此二心次第生

○者二無記○ ○七二十○ ○[汚]一○ ○心生二生心○ ○三二○ ○[說]一○

無色初生七 是亦從六生
生得亦生七 當知從四起

無色初生七者。無色界方便善心次第生七心。自界四。色界方便善心及學無學心。是亦從六生者。無色界方便善心從六心次第生。自界三。除報生。色界方便善心及學無學心。生得亦生七者。無色界生得善亦次第生七心。自界四。下界三穢汚。當知從四起者。彼從自界四心次第生

穢汚生八心 是從十心起
報心生於六 是亦從四生

穢汚生八心者。無色界穢汚心次第生八心。自界四欲界二穢汚色界方便善心及穢汚心。是從十心起者。無色界穢汚心從十心次第生。自界四欲界三生得善威儀及報生色界亦如是。報心生於六者。無色界報生心次第生六心。自界三。除方便善心下地三穢汚心。是亦從四生者。彼報生心從自界四心次第生

學心次生六 從四次第起
無學心生五 是亦從五生

學心次生六者。學心次第生六心。三界方便善心欲界生得善欲界生得善強而利二界弱而鈍也及學無學心。從四次第起者。學心從四心次第生。三界方便善心及學心。無學心生五者。無學心次第生五心。三界方便善心欲界生得善及無學心。亦從五心生者。三界方便善心及學無學心。問何故方便善心次第生。威儀工巧及報生心。此諸心何故不次第生方便善心邪。答

威儀工巧自樂所作故。報生心羸劣故。無所作故。謂威儀心樂習威儀故。是故次第。不起。方便善心。出心不動方便故。方便善心次第生。威儀心工巧心亦如是。報生心羸劣。無所作故。本業所種故。是故入彼心者。不能出心不動方便故。從方便善心次第生。若言穢汚心樂著境界及羸劣故不應從穢汚心境界次第生方便善心者不然。何以故。境界不異故。見過故。不羸劣故。於彼境界過惡轉。即彼起功德。是故彼境界不異於彼行。煩惱疲厭故。即彼境界觀察生長夜習煩惱故。穢汚心不羸劣。是故彼應次第生方便善心。欲界生得善心雖捷疾而非方便。以捷疾故。從彼色界方便善心及學無學心次第生。以非方便故不能次第生。彼諸心色界生得善心不捷疾。亦非方便。不捷疾故。不從學無學心及無色界方便善心次第生。非方便故。故不次第生。彼諸心無色界亦如是。色界穢汚心次第生。欲界生得善心以捷疾故。無色界穢汚心不次第生。色界生得善心。不捷疾故。問云何正法。答

經律阿毘曇 是名俗正法

三十。七覺品 是說第一義

經律阿毘曇是名俗正法者。修多羅律阿毘曇。是言說正法。依名處起故。前已說。佛語是語自性。語則依名轉。以他處轉故。是故名俗數。顯第一義故名正法。以名顯義故。三十七覺品是說第一義者。三十七覺品是第一義正法。離名起故。有漏修慧雖離名轉。有垢

故不說第一義正法。如正法有二種。行法者亦二種。修法及修。修法者謂誦習。修者謂修禪。彼俗數。正法者是修法。是持義。第一義正法是修。是故說修行法者住則正法住。修行者滅則正法滅。世尊勸發修行者故不說分齊如前說。金剛三昧擇品當廣說。今當說

五十二及餘 亦復說八十

或有說十三 是金剛三昧

有說。五十二金剛三昧。禪未來所攝。若依禪未來苦比智得阿羅漢果。於非想非非想處四陰無常苦空非我思惟。若集比智得者。集諦四行一行思惟。若滅法智。欲界繫行滅。滅諦四行思惟。若道法智。斷欲界繫行道。道諦四行思惟。若滅比智。或初禪地繫行滅思惟。或乃至非想非非想繫行滅思惟。若道比智。於彼九地比智品道四行思惟得阿羅漢果。如是智行緣分別則五十二苦異故滅異情八地滅有三十二行道則類屬通異地同性情無礙別是以觀通通觀。九地唯有四行合前四諦十六行為五十二。如禪未來。乃至第四禪亦如是。空處二十八。自地若集八行四空滅諦十六行九。處二十四。無所有處二十。以無色無法智。法智。緣欲界故非無色。下地行滅緣。下地苦非境界故。下地對治緣展轉因故。有說。禪未來八十金剛三昧。是中差別者說道比智。亦一一地對治緣。得阿羅漢果觀七地道比智地各四行有二。十八合前五十二為八十也。如禪未來。乃至第四禪亦如是。空處四十。識處三十二。無所有處二十四。尊者瞿沙說。禪未來所攝金剛三昧。十三見道四比忍相應四三昧修道非想非非想離欲九無礙道相應九三

①自二目 ②不二生 ③(以)十不 ④說二記 ⑤謂 ⑥(九)一 ⑦二十(也) ⑧(處)一 ⑨緣欲界二欲界緣

味。彼一切第一有對治。金剛三昧世俗道非境界故。乃至第四禪亦如是。空處九乃至無所有處亦如是。此是總說。若說忍智行種緣分別禪未來所攝。則有一千四百九十二金剛三昧。乃至第四禪亦如是。空處四百六十八。識處三百二十四。無所有處二百一十六。問彼智品所說神通彼神通為一切善為非。答

三通則說善 餘二是無記
當知依欲色 世尊說慧性

三通則說善者。神是智他心智宿命智。此三通說善。何以故。愛果故。極方便所起故。調伏他故。不信樂者令信樂故。此三通令他極調伏故歡喜。歡喜心相應慧是善。信心相應故。餘二是無記者。謂天眼天耳。此二神通是無記。愛果及極方便非分故。又受色聲起。是故無記。問何處現在前何等性。答當知依欲色世尊說慧性。此神通欲色界現在前非餘。依色故。彼先欲界起故。後色界能現在前。彼非初業堪能非分故。是智慧性從分別起故。依成依者故。此釋通有眼。如施設經說。爾時色界四大造眼處周。圓。天眼淨。如修多羅品說。諸根事言擇品當廣說。今當說

當知彼諸根 慧者善分別
名有二十二 事則說十七

佛說諸根。名有二十二。事有十七。以男女根及三無漏根無別事故不立事。餘根攝故。男女根離身根更無故。是故說云。何男根。身根少分。女根亦如是。又一識依故。若識依身

根起。即依男女根。無異相根共生。一識三無漏根九根合成故。九根者。意根樂根喜根捨根信等五根。此九根道及人分別故立三根道分別者。見道說未知根。修道說已知根。無學道說無知根。人分別者。隨信行隨法行說未知根。信解脫見到身證說已知根。慧解脫俱解脫說無知根。問等及第一義有何相。答

若事分別時 捨名則說等
分別無所捨 是則第一義

若事分別時捨名則說等者。若事分別時捨名者。此則等事。等事。梵音云三比。果提譯言等。集非。第一義決定事不可得故。如瓶分別色香味觸時捨瓶名。亦非捨色香味觸別有瓶名。是故名等事。如是一切分別無所捨。是則第一義者。若事分別時不捨名者。是第一義。如五盛陰名苦諦。若分別五時亦不捨苦名。以色是苦故。乃至識亦如是。彼色復十一種。一一入皆苦。乃至剎那及極微分別時亦不捨苦名。彼得相故。如是一切如雜品說。中陰擇品當廣說。問為定為不定。答

界趣地必定 中陰五無礙
說名為香食 求有乘意行

界趣地必定者。中陰界趣地不轉。欲界中陰必生欲界。色界生色界。如是地獄趣生地獄。乃至人趣生人。四天王生四天王。乃至阿迦膩吒天亦如是。中陰五者。中陰五陰性。有去來故。非離色有去來。是故欲色界有中陰非無色界。色非分故。無礙者。極微故。一切形障所不能礙。業力故住母胎。若異者不應

住胎。說名為香食。求有乘意行者。以香為食故說香食。若薄福者食諸穢香。若大力者食諸淨香。求於生有故說求有。從意生故說乘意行。此諸衆生或業生。謂地獄如所說彼諸衆生業所縛。或煩惱生。謂人及欲界。或報生。謂飛鳥。或從意生。謂色無色界。及劫初人。化及中陰。二有中間起。離趣故。是故說中陰。問中陰幾時住。答

七日或七七 乃至彼和合
或裸形食香 諸根悉具足

七日者。有說。中陰七日住。身羸劣故。問若和合者應爾。若彼父母異處者。是人命終當云何。答當觀是衆生業轉不轉。若於母可轉於父不可轉者。彼父則從他女人令中陰會。於父緣可轉者亦如是。若二俱不可轉者。此人未死而彼先和合此說常行欲者。若時節行者。彼衆生業因緣故。令彼非時亦行。有說。或於相似處生。謂若應生時行處者非彼時故。則於相似常行處生。隨其類說。七七者。有說。七七日住。乃至彼和合者。復有說。不定乃至未和合間常住。問中陰有衣無衣。答或裸形。色界中陰有衣。色界慚愧增故。如彼法身不裸形。生身亦爾。欲界菩薩及白淨比丘尼中陰有衣。餘衆生無衣。無慚愧增故。問中陰何食。答香食。欲界中陰以香為食。前已說。色界離擗食。食身極微故。唯三種食。問具諸根不。答諸根悉具足。中陰具諸根。何以故。中陰報薄故。又彼衆生求有故。於六入門常求有。問形為云何。答

①(是總說若說忍智)一② ③(何)一④ ⑤(於)二⑥ ⑦(果)二⑧ ⑨(集)十(也)⑩ ⑪(第)二⑫ ⑬(亦)一⑭ ⑮(者)一⑯ ⑰(故)一⑱ ⑲是十(乃至地獄亦如是)⑳ ㉑(說)一㉒ ㉓(是總說若說忍智)十天⑳ ㉔(色)一㉕ ㉖(離)二 ㉗(二)二一⑳ ㉘(問)二門㉙

隨行量不定 或有見不見
入則從生門 或生顛倒想

隨行者各如其趣。地獄中陰如地獄形。乃至人天如人天形。問中陰云何行身量云何。答行量不定。中陰行及身量不定。地獄中陰足上頭下而行。天中陰上。昇如箭射空。餘中陰側身傍去。如畫人飛。量者。色界中陰量如本有。欲界菩薩中陰亦如本有。三十二相莊嚴其身。是故菩薩中陰光明徹照百億天下。言白象身入母胎者不然。已離畜生故。菩薩從九十一劫來常離畜生。順相書故。令菩薩母見如是夢。欲界餘衆生中陰身量。如有知小兒形。諸根猛利故。以顛倒想入胎。問中陰中陰爲相見不。答或有見不見。或中陰以中陰爲境界。不一。有說。地獄中陰見地獄中陰。如是一切。又說。地獄中陰見地獄中陰。畜生見二趣。餓鬼見三趣。人見四趣。天見五趣。生陰眼則不見。若天眼極清淨者能見。問從何處入胎。答入則從生門。彼從生門入。是故雙生者後生爲長。問以何想入胎。答或生顛倒想。非一切衆生顛倒想入母胎。除近佛地菩薩。彼近佛地菩薩。於母母想於父父想。餘衆生悉顛倒想入胎。若男中陰者。於母染想於父。若女中陰者。於父染想於母。若無此男者與此女會。想見男去而與女會。見彼精時而謂已有即生歡喜。生歡喜故陰則漸厚。陰漸厚已依母右脇。向背蹲坐。女則相違說。中陰因緣後當說。

雜阿毘曇心論卷第十

雜阿毘曇心論卷第十一

*尊者法救造

宋*天竺三藏僧伽跋摩*等譯

擇品下

問知法誡法明法此云何。答

知者一切法 誡明亦復然

知及意識明 彼各隨事說

彼苦智知苦。乃至道智知道。無漏智分段緣故。善等智者亦知苦。乃至虛空數非數滅。普緣一切法故。識者亦識一切法。彼眼識識色。乃至身識識觸。攝受自相故。意識識眼色眼識。如是一切普緣故。明者亦明一切法隨其事。彼苦忍苦智明苦。乃至道忍道智明道。分段緣故。善有漏慧亦明。苦乃至虛空非數滅。問劫云何過。答

刀兵病饑饉 說名中劫過

除地餘三種 說名大劫過

刀兵病饑饉說名中劫過者。三種中劫過。謂

刀兵病疫饑饉。刀兵劫者。謂乃至人壽十歲

時。貪癡惡境界。行諸邪法各住害心。手執

草木皆成刀劍。更相殺害。如是經七日。刀

兵中劫過。疾疫劫者。亦壽十歲時。多諸疾病。

無有醫師方藥。薄福德故。遇病輒死。如

是經七月七日。疾疫中劫過。饑饉劫者。亦壽

十歲時。饑渴增上。體極羸劣。普天亢旱。種殖

不收。數米而食。煎煮人骨以飲其汁。如是經

七年七月七日。饑饉中劫過。如是說者。若於

今世一日一夜持不殺戒。終不生彼刀兵劫

中。一呵黎勒果施僧福田。終不生彼疾疫劫

中。若以一食施僧福田。終不生彼饑饉劫中。

此閻浮提惡劫互起。餘方則少有相似。如此

間刀兵劫起。彼唯瞋恚增上。如此間疾疫劫

起。彼唯羸劣少力。如此間饑饉劫起。彼唯增

饑渴。問云何大劫過。答除地餘三種。是名

大劫過。三大種說大劫過。謂火水風非地種。

何以故。不利故。利者壞大劫。復次地種壞劫

者。壞劫應至第四禪。而未會至第四禪。問何

故壞劫不至第四禪。答淨居天故。彼無上地

生。即彼般涅槃故。亦不下生。下地非數滅

故。若彼住經壞劫者亦不然。增上福力生彼

處故。內擾亂非分故。若彼地內有擾亂者。

則外有災患。彼初禪內有覺觀。火擾亂故外

爲火災所燒。第二禪內有喜。水擾亂故外爲

水災所漂。第三禪內有出入息。風擾亂故外

爲風災所壞。問第四禪未曾有擾亂者何得

不常。答剎那無常所壞故。如是說者。第四

禪地不定相續。隨彼天生宮殿俱起。若天命

終彼亦俱沒。問何等劫盡最初。答

七火次第過 然後一水災

七火火七水 復七火後風

七火次第起者。謂最初火劫起。如是說言。若

火劫將起。爾時人壽八萬歲。地獄命終者不復

還生。當知劫盡。乃至地獄無有一衆生住。是

名地獄劫盡。如地獄劫盡。畜生餓鬼亦如是。

若畜生於人有用者與人俱盡。是時閻浮提

唯一人。無有教者能入初禪。從初禪起已

●并二升● ●者二兒● ●向背二背向● ●下二第十一之三● ●知二智● ●[苦乃至]一● ●一呵黎二以一呵黎● ●是二說● ●內二外●

舉聲唱言。離生喜樂甚為快樂。如是音聲展轉相告遍閻浮提。諸餘衆生亦無師教悉入初禪。乃至閻浮提無一衆生住。是名閻浮提劫盡。唯除壽單曰。欲界一切善趣亦復如是。壽單曰。命終無得禪者。離欲非分故。又於彼時初禪一衆生無有教者而入第二禪。從禪起已舉聲唱言。定生喜樂甚為快樂。如是音聲遍至梵天。餘諸衆生亦復如是。乃至初禪無一衆生住。是名衆生世劫盡。是時世界久遠虛空。乃至七日出。問曰。從何處出。答有說。劫成時由乾陀山後有七日輪住從彼而出。有說。一日分爲七分。復有說。一日七倍熱。復有說。從無間地獄火出。如是說者。衆生業力故。增上果器世界起。彼業盡如是擾亂生。乃至梵天燒然如是。七火次第過然後一水災者。七火災過已然後一水災。乃至壞第二禪。問水從何處起。答有說。從第三禪際雨熱。灰水。復有說。水輪涌出。擾亂起如前說。七火七水者。七火災次第過然後一水災。如是七火災一七水災。復七火後風者。復七火災過然後一風災。水災風災從火災次第起。此則善說。是遍淨天六十四劫壽也。水災所漂乃至第二禪風災所壞。乃至第三禪百億四天下一時俱壞。十九中劫世間空。一中劫器世界壞。一中劫器世界成。十九中劫漸次第住。若處最初空是處最後住。若處最後空是處最前住。問云何心亂。答

錯亂本業報 恐怖及傷害
若彼解支節 聖說水火風

錯亂本業報怖畏及傷害者。四因緣心亂。謂四大錯亂本業報。恐怖及傷害身。四大錯亂者。飲食不適故四大錯亂。四大錯亂故令彼心亂。本業報者。本造心亂業報已熟。問何者是。答好傳衰禍令他愁苦。或復罵言。汝癡狂心亂。驅迫衆生令墮險處。焚燒山澤強與人酒。或以妄想倒說佛語。如是比業得心亂果。恐怖者。見非人形來驚畏。恐怖故彼心則亂。傷害身者。爲非人所打故。彼以不淨汚大衆會處及佛僧塔故彼處非人瞋。即打故彼則心亂。此說凡夫人。聖人無本業行報心亂。若先種定報業者。先受報已然後超。昇離生。若種不定報業者若超。勝離生彼業則滅。心亂者在欲界。彼地獄不心亂。常亂故。畜生餓鬼及人則心亂。除壽單曰。欲界天亦有心亂。問何等聖人心亂。答須陀洹斯陀含阿那含阿羅漢辟支佛唯佛心不亂。聲不壞髮不白。面不皺。不漸般涅槃。世尊擾亂業久已滅盡。行妙行故。亂者意識非五識心。不分別故。有漏心亂非無漏。真實行故。是故若說心狂亂是散亂耶。作四句。初句謂狂者善有漏心不隱沒無記心。第二句謂自相住者穢汚心。第三句謂狂者穢汚心。第四句謂自相住善心及不隱沒無記心。問何等能解支節耶。答若能解支節聖說水火風。三大能解支節非地大。不利故。火大解支節者。謂命終時火大增遍燒筋。燒筋已節節解。節節解已不久命終。水大解支節者。謂節節解時先令筋爛。筋爛已餘如前說。風

大解支節者。令筋碎。筋碎已餘如前說。支節解已不過日夜命終。四大錯亂故。地獄無解支節。支節常解故。業報故不死。畜生餓鬼及三方解支節。除壽單曰。無罪業故。天亦如是。凡夫聖人解支節。唯除佛。罪報者解支節。佛無罪報故。已說解支節。退今當說

退法有三種 得未得習行 或一人一退 未得退說二 謂彼習行退 三聖俱亦然 退法有三種。得退未得退習行退。得退者。所得功德遇退。因緣則退。未得退者。應得功德放逸故不得。習行退者。已得功德。有因緣故不得習行。問何等人何事退。答或一人一退。若得退者是鈍根聲聞非利根。利根者三昧力故是故說。或云何知有得退。答以說二種阿羅漢故。謂退法不退法。若言道退果不退者不然。何以故。斷得與道合故。得者道諦攝。是故道退非斷者不然。若言離煩惱種云何生者。應說如初無漏心無前因而生。彼亦如是。復次有自分因分故。從無際生死煩惱自分因分生。言煩惱於三處起非說者不然。何以故。爲起煩惱具滿故說衆生起。煩惱具有三因緣。謂因力境界力方便力。彼欲愛使未斷未知是因力。斷者無礙。欲愛纏所著法是境界力。彼不正思惟是方便力。是彼說意。若從彼說不正思惟者。前不正思惟非分則不起。若有前不正思惟此則無窮。又復善無記心至竟不生。若不正思惟相續無。若不生者。解脫亦非。燒諸煩惱不應還生。如火燒木爲灰至竟

若不正思惟相續無。若不生者。解脫亦非。燒諸煩惱不應還生。如火燒木爲灰至竟

①友二次 ②(後)十復 ③支二肢 ④心則二則心 ⑤即二節節 ⑥昇二升 ⑦勝二升 ⑧那二也 ⑨(因) ⑩或二問 ⑪復二彼

為灰不復為木。如是阿羅漢以智火燒煩惱薪不應復為煩惱。彼不應如是。何以故。譬不合故。云何如燒薪有灰。若如是阿羅漢煩惱有餘如灰耶。若有餘者非阿羅漢。有煩惱故。若無者不如上譬。然非彼聖道如火燒薪。但聖道起斷煩惱得解脫得作證。彼若離聖道亦捨解脫得繫得還起。如諸退相違經說。當知說不時解脫故未得。退說二者若彼未得退者。謂聲聞辟支佛非佛。住一切最勝根故。聲聞者不得佛辟支佛勝根。辟支佛不得佛勝根。是故有未得退。略說一切眾生若修行皆應得聖慧眼。若不修行入名色者是為未得退。問云何知有未得退。答信佛說故。如世尊說。諸天及世人退於智慧者。染著於名色。不見聖諦故。謂彼修行退三聖俱亦然者。若修行退者。謂聲聞辟支佛如來。三聖悉有以中間諸因緣故。所得功德不能常現在前。問云何知有修行退。答說心心法退故。如世尊說。於此四種心心法得現法安樂住。我說彼一一退。如修多羅廣說。又復說。不動意解脫身作證成就遊者彼不退。以是故知世尊亦有修行退。是故說。世尊多遊未至。非根本地。何以故。近欲界故。雖不動意解脫有修行退。然彼成就。得修故彼一切現在時。得常隨轉。彼心心法者現在修。謂不現在前者名為退。修行退最多者謂世尊。何以故。功德無邊故。如轉輪聖王廣受境界。又說。攝他故名不動。自攝。故名心心法。世尊多攝他少自攝。如是世尊大悲大捨。問何處不退。答

諸天則不退 果退終不死 亦不造彼業 住果所不為

諸天則不退者。諸天不退。以利根天得果故。利根者則不退。若鈍根人得果然後生天亦不退。無生故。聖人無生不退。此前已說。退。具非分故。世尊說五退具。多事業等。五退法彼天則無。是故不退。以天不退故。當知退者必人中。以退具可得故。果退終不死者。果退者終不死。要還得果。何以故。下地生非數滅故。非數滅法終不更現在前。不生法故。以果所攝道決定及決定究竟故。以果道蘇息處故。彼人得蘇息。又果處善自護故。以果處具三因緣及五因緣故。前已說。彼三果退非須陀洹果。見道斷煩惱非對。治事故。見道斷煩惱依我處轉。而無有我。修道斷煩惱是對事。修道斷煩惱淨處轉。彼有淨想不淨。想。彼思惟諸行不淨。得離欲淨思惟。於見不淨退。無有法我我所思惟。於非我見退。復次須陀洹果方便廣前施戒修等向解脫。如是比。又須陀洹果見道得故無有見道退。速道故。利故。非想非非想處對治故。若阿羅漢果退至須陀洹果。當知退三果。彼對治煩惱得成就故。亦不造諸業如彼住於果者。若得果人所不為。彼退果人亦不作。何以故。不作律儀故。聖道已滅惡行故。如會服藥。復次希望具足故。彼人希望滅果。對治惡行故。問齊何當言菩薩。答

若修諸相好 方便起彼業 從是轉增進 說名為菩薩

若有眾生。以一食施。起決定心。發無畏言。我當作佛。能起相報增長彼業。齊是名菩薩。以能從此作相似相續業故。若不如是。但有空名。菩薩雖有初起不退心。是則菩提決定非趣。趣應言到決定。謂造相報業已。是則俱決定。是故齊相報業為名。以彼離四因緣故。謂離惡趣。離非男。離卑姓。離不具根。得一因緣。謂生性識宿命。以生識宿命故聞即受持。眷屬信受離眾生過。度三阿僧祇劫。於百劫中種相報業。除釋迦牟尼。釋迦牟尼菩薩精進故。除九劫餘九十一劫。有說。二三阿僧祇非劫阿僧祇。謂劫阿僧祇。生阿僧祇。善行阿僧祇。問相報業為何等性。答身業口業增上意業。又是智慧性非聞慧。以劣故。非修慧。欲界不定故。閻浮提種非餘方。男子非女人。佛出世非不出世。見佛非不見佛。緣造業非緣餘。有說。一思願種三十二相業。後種種業滿。又復說。一定心一行一緣。衆多思願現在前。有願足下安平住果。有願乃至肉髻。彼一一相百福眷屬。福量者。有說。一轉輪聖王福。是名一福量。又復說。一帝釋福。有說。劫成時一切衆生業增上器世界生。是名福量。有說。除近佛地菩薩。諸餘衆生福樂自在業。是名一福量。佛無學法是菩提。謂盡智無生智。薩埵求此。智故名菩提。薩埵得此菩提覺一切法故名為佛。雖相報業後得轉輪聖王。而聖王相者當知是餘業報。問幾種薩埵多。答

一種異分別 或有說相異 或說分分異 或復說異異

◎退說一說退◎ ◎染二深◎ ◎得修一修得◎ ◎故十(故)◎ ◎無二經◎ ◎具一其◎ ◎治一◎ ◎想一相◎ ◎智一◎ ◎離二唯◎

此四種薩婆多。一種異分別者。彼說諸法隨世轉時。分異非事異。如乳變為酪捨味力饒益不捨色。如金銀器破已更作餘器捨形不捨色。法從未來至現在亦如是。當知此是轉變薩婆多。相異者。過去法與過去相合。不離未來現在相。如人著一色非不著餘。彼亦如是。此說有過。若過去諸法不離未來現在相者。竟何所成。亦成合義。若爾者則世亂。如人著一色於一色愛著亦行亦成就於餘成就而不行是故彼說世亂。譬亦相違。分分異者。說諸法隨世轉時。分分異非事異。此則不亂建立世。何以故。業別故。謂法未作業說未來。作業說現在。作業已說過去。彼異者彼說諸法隨世轉時。前後相待非事異亦非分異。如一女人亦名女亦名母。前後相待故。謂觀女則知母。觀母則知女。此最亂建立世。彼說過去世一刹那有三世。說言觀前起相名未來。觀後起相名現在。問諸師說諦無。間等等各各異。薩婆多及婆蹉部說次第諦無間等。曇無得等說一無間等。何者為實。答今當以五支如實說五支者一曰宗二曰因三曰譬四曰合五曰結六曰義如下偈說

次第無間等 智諦異相故
見瓶不見衣 是故彼亦然

以異相故見瓶不見衣見衣不見瓶。彼亦如是。於異相諦見苦時不見餘。如是一切。是故次第無間等說一無間等者。彼說於諦一無間等。何以故。信聖賢故。如世尊說。比丘於苦無疑。集亦無疑。滅道亦如是。如燈俱作四事。熱器燒炷油盡破開。如是一智知苦乃至修道。是故一無間等。彼說智諦異相者不然。一相故。一切慧一智相於一切法境界作無我行。如世尊說。一切法無我。智慧者能見彼厭於苦時是即道清淨。諦相亦如是說。瓶衣異相者此亦不然。何以故。自相無間等非分故。共相境界無間等非自相。謂色等五陰壞相壞相即無常相。共境界智一無間等。若異者則自生過次第無間者言。汝言賢聖說者。此則密語。此說有餘義。如世尊說若苦無疑於一切無疑。為彼疑行故說。若彼苦無間等生。彼疑至竟不行。非數滅故。為除有餘說故世尊說。給孤獨修多羅如是說言。長者於四聖諦次第無間等。如是廣說。所說如燈者燈有多性多業過。我不取燈事。若分別時燈捨自名。前已說。彼明色入攝力能破闇。彼熱觸入攝能作餘事。若不爾者壞決定義。慧不如是。若言同者則有過。若言一相者此亦不然。行別故。無常行智異。苦空無我等行智亦各異如是。比若不爾者無解脫門。不壞行是解脫門。雜觀名為壞三脫異觀故不壞如汝說緣一切法作無我行。以頓觀一切法故。此則不定思惟分定思惟行各別諦緣。是故不應說彼厭於苦時是即道清淨。不可以厭行緣於滅道。滅道是可樂事

故。一切緣者不通一切。相違故。以無我行不即行。此無我行故。自性不自觀故。亦無二決定性。亦不觀相應共一行一緣故。亦不觀共有共。一果一決定故。又說。一切行無常者亦非無常行。作滅無間等。滅者常故。當知彼行遠以向真諦故說。如所說觀此衆生長夜成就身口意惡行。言此衆生即是地獄及餘惡趣。實非此人即是地獄。以向地獄故說。彼亦如是。又復是空無間等者則非無願無相。彼一切法境界非分故。莫言有過。是故一切法無我行是不定思惟。定思惟者有漏緣。若不爾者解脫門滅。若言自相無間等非分者不然。何以故。以觀故。是自相共相。謂逼迫相是苦相。觀三諦故是自相。觀陰故是共相。如是一切當知。皆以觀故說自相共相。言不爾者不然。何以故。以不壞觀故。前已說。前說中陰後當說今當說。問為有中陰為無。答當知有中陰。世尊之所說。譬如村問道。彼則有俱過。此說有中陰。何以故。世尊所說故。如世尊說。七士夫趣有中般涅槃。若無中陰者則無中般涅槃。若言有中。天從彼般涅槃者不然。天趣中不說故。世尊修多羅說。四天王天乃至非想非非想處不說有中。天。餘亦有過。若說生般涅槃。復有名生天耶。如是一切。阿那含亦應如是說過。是故彼是妄想說。若言壽命中間般涅槃者不然。除壽單曰及後邊菩薩。多有衆生不盡壽而死。此皆是中般涅槃耶。是故此皆有過。問此云何。答譬如村問道。如從

●異十(異)● ●問二問● ●雜二難● ●天二天●●*

一村至一村。如是死陰生陰。從死陰趣生陰亦如是。如阿濕波羅延經說。若彼處來。如是廣說。若無中陰者則無去來。是故應有中陰。若言為除有餘說修多羅故。世尊說修多羅及偈言。五無間罪作已。次第生無間地獄中。又復為梵志說偈言。少為老病漂到於閻王所。梵志無住處亦無有資糧。是故無中陰者此不然。何以故。業趣無間故說修多羅及偈。謂作無間業已必先受無間報。然後受餘業報。亦必生地獄趣中。非餘趣。如汝所解。世尊說修多羅五無間業作已。次第生地獄中。為要五無間生地獄中。為二三四耶。為更餘罪生地獄中耶。當知此經及偈意。

若言如影者。如月極遠影現水中。非彼月來至水中。如是死陰生陰如影。衆生何用中陰為者。此亦不然。何以故。彼則有俱過。月及水俱。死陰生陰不俱。是故有過。眼識足下身識譬亦如是。若先取生陰而捨死陰。如折樓虫者不然。何以故。趣不別及二識合過故。是故說有中陰。如所說四種薩婆多。問為有一切有為無答。

當知一切有 非有一切相
一切無一切 無有他相法

此有是薩婆多所立。一切者。謂十二入。彼諸入有自相非餘。一切相所作別故。作業別前已說。一切無一切者。謂學法中有學法無無學法。無學法中有無學法亦無學法。如空中亦無有跡。如是比。問此說有云何無有。答無有他相法。如眼相是眼人。無餘入相相別故。

以是故說一切法不雜

一切世悉有 不違其所應
牟尼之所說 聲聞僧無佛

有三世薩婆多。此薩婆多所立。問何故。答現在世者觀過去未來故施設。若無過去未來者則無現在世。現在世無者亦無有為法。是故有三世。莫言有答。若言久遠是過去當有是未來非是有唯現在者此不然。何以故。有業報故。世尊說有業有報。非是業報俱現在。若業現在當知報在未來。若報現在當知業已過去。若言俗數說者。亦說作者不可得。若言俗數說有業有報者此亦不然。世尊亦說作者不可得。此亦俗數說耶。神口所說第一義空修多羅。而汝妄想說此有故彼有。如是比。當知如汝說久遠是過去當有是未來非是有唯現在是有者。莫作是說。我亦能說現在者於既往是未來。於當有是過去。此非智者說。如所說若無信等五根。我說是凡夫輩。若學人纏所纏信等五根不現在前道與煩惱不俱故。是故應知有過去未來。若異者聖人應是凡夫。若言得隨生此亦不然。無法得非分故。依處非分故。聲聞僧無佛者聲聞僧不攝佛。何以故。三寶不滅故。若世尊聲聞所攝。應有三寶非三佛。無別體故。歸依及不壞淨念等亦如是。莫言有過。是故聲聞僧不攝佛。如世尊修多羅說。橋曇彌。施僧亦是供養我。當知是說比丘僧聖僧福田僧。世尊者彼三僧所攝。破煩惱故。聖故。第一義福田故。非聲聞僧自覺故。

設令廣章句 群生大恐怖

無勝甚深相 我今但略說
若廣說者衆生怖畏。是故我今不廣說。章句深。達。阿毘曇明淨智慧所解。諸論音聲妙義於此略說。

古昔諸大師 演說無量義
我今隨所解 分別說少分

我今於尊者法勝所說中。以少智慧思量撰集造立章句。將以申述助宣遺法。非欲僞慢求名稱故。如彼所說。若生諸煩惱是聖說。有漏滅道亦生煩惱。而非有漏增。煩惱非分故。無漏緣煩惱滅而不增。前已說。是故我說增也。無漏緣軟中上不增者不然。依增故。

決定知此論 章句微妙義
於彼智慧衆 勇猛無所畏

於此論章句義味。能決定知善分別說者。於諸智慧衆中心無怯畏。善解法相故。

我今增益論 其心無所貪
為令智者樂 疾得寂滅樂

經本至略義說。深廣難可受持。如虛空論難可了知。前已說。是故增益論本。隨順修多羅義。令易了知。以知義故煩惱則斷。

雜阿毘曇心論品第十一

離律不律儀 而得於律儀
不因彼致勝 能決定者說

答有。謂無色界沒生色界時。無色界凡夫名非律儀非不律儀。無色界善惡律儀非分故。從彼命終生色界時得善律儀。色界律儀與

阿二河 處十(處) 答一 答十若 三二二 達二遠 說二記 今一 非二悲 減二滅 知二智 衆十(生) 我今今我 斯十(雜阿毘曇心論品竟)八字 雜阿毘曇心一 第十一 第十二 離二雜

心俱故。非勝進。無色界勝故

頗得沙門果 賢聖離諸過

得有為善法 不名為修習

答有。謂果所攝聖道滅已。然後退。不增進根還得。彼先過去果所攝道先滅。故非修。現在因非分故。離諸過者非世俗故。有為者非無為故。善者非不善無記故

道未舉起時 遠離諸過答

解脫時離惡 能決定者說

答有。謂修行者住金剛三昧。除初盡智諸餘無學法。是未起時不向故。解脫時者。一切無學道頓解脫初盡智生時。是生時是解脫時。離諸過惡者。非有漏故

頗光音纏起 是彼定相應

清淨初禪退 而得於退法

答有。謂阿羅漢第二禪纏退時。盡智所得。初禪退與盡智合故。有退薰修。初禪與第四禪合故。阿那含亦爾。言淨者明所退。非無學故

頗於見諦道 得彼諸善法

彼法是有緣 聖智不見緣

答有。謂與苦比智俱。欲界等智苦無間等邊修亦不見彼智緣。以彼緣欲界。而苦比智不緣欲界故。集滅無間等邊亦如是。道比忍得緣三諦智而不觀彼諦。住異境界故。如住學法得無學法得無學法非學法。如是從法智品至比智品。比智品復至法智品

頗果有漏慧 無漏慧所斷

彼果所因起 謂不離欲慧

答有。謂聖人離欲界欲。未離初禪欲。欲界初禪果化心離欲。欲界愛盡故。初禪慧未離欲。彼愛未盡故。一切化心亦如是。隨其義除自地果

頗住無礙道 而得於諸滅

此相違煩惱 非彼無漏見

答有。謂凡夫人修神通時。無礙道斷神通相違煩惱而得諸滅。非無漏見相違。何以故。聖人離欲時。法忍現在前。得忍相違煩惱滅故

頗諸煩惱滅 離欲者獲得

不斷於煩惱 而得無垢盡

答有。謂上地命終生梵天時。得欲界煩惱滅。而不斷彼煩惱。先已斷故。餘一切地亦如是

頗無垢淨地 未曾得而得

非離欲非退 不依於見道

答有。謂初禪離欲。依初禪及眷屬超昇離生。道比智生成就三地阿那含果。從彼定起入第二禪。得第二禪無漏。得彼無漏時。非離欲。先離欲故。非退。勝進故。非見道。見道究竟故。當知上地及增益諸根亦如是

頗護未曾得 而得於寂滅

不捨彼不得 若能知者說

答有。謂除苦法忍眷屬。得。餘無漏道得。彼初無漏捨。一切凡夫性不得。餘不捨。先已捨故

若成就八忍 亦成就七智

此諸無漏見 不見何無漏

一切滅一切道。唯除道比忍眷屬。彼忍不見自性不自觀故。無二性故。亦不見相應一行一緣故。不見共有一果一決定故

頗法未曾得 有漏邊境界

唯有不動者 彼能擊善法

答有。謂無相無相於無窮生死未曾得。而得空聖道故說有漏緣。非數滅故說邊境界。餘非分故說唯不動。空聖道故說擊善法

已起無漏慧 於彼未起者

前生非後因 若能知者說

答有。謂前增非後軟因。彼果相似及增故

頗離六地欲 聖亦成彼果

不成無漏禪 若能知者說

答有。謂空處離欲依禪未至超昇離生。苦法忍生道比智未生。以八十九沙門果故。故言成彼果。以苦法智是苦法忍依果及功用果。見苦所斷煩惱盡是解脫果及功用果。而不成無漏禪。未得故

頗諸無漏法 而為界所攝

能生彼法者 不入彼界中

答有。謂無漏戒彼界所攝。非漏所攝。戒者四大所造。彼果故。四大者觸界所攝。身識境界故

頗一大種滅 於禪地不起

二大種在前 若能知者說

答有。謂聖人生欲界無漏初禪。次第有漏初禪現在前。一種四大滅。謂欲界四大以無漏隨轉。若於彼生現在前。即彼地四大造故。二種四大現在前者。謂欲界及初禪地。四大

①說一復②③④ ⑤知字明本缺 ⑥得十(得)⑦⑧ ⑨欲一欲⑩ ⑪苦二若⑫ ⑬界二果⑭⑮ ⑯(四)一⑰⑱

道共戒名無漏隨轉若於彼欲界生即彼欲界四大造故此四大與無漏俱起滅也

頗法因三道 是三種自性

謂三種一地 亦復在三地

答有。謂無學慧。以彼見道修道。無學道為因。盡智無生智無學等見是自性。軟中上分別故說三種。無學地所攝故說一地。有覺有觀等分別故在三地

頗有有漏受 二成一不成

二根二種成 是說為身證

答有。謂身證人依初禪初禪眷屬及第二禪增進根。上地不現在前成就苦根有漏樂根。此人先得第三禪地無漏樂。以轉根故捨復未更得。以依下地增進根故。不修上地學道。如得學果一憂根不成就。離欲故。喜根捨根各有二種。謂有漏無漏。是悉成就。以禪未至中間攝捨根。是故得捨根。初禪二禪攝喜根。是故得喜根

九地煩惱滅 而得於諸禪

不得無色定 或復得當說

答有。謂阿羅漢能得禪定非無色。諸禪亦得亦現在前。無色者成就而不行

一法衆多性 或一三有無

彼是無學法 因力所長養

答有。謂無知根。建立一根故說言一。九根和合故說衆多性。以衆多性故說非一。一無學地故說一地。覺觀分別故說三地。有者謂有名。無者無別事。無學得故說無學法。三因成故說因長養

頗法是有分 與彼餘有分

相似生住壞 若能知者說

答有。謂色入是餘有分。彼相與入俱生住滅。共一果故。色入者不作業故說餘有分。彼相者法入攝故。是有分

頗諸相應法 或說餘有分

或復說有分 若能知者說

答有。謂未來不生法意入是餘有分。不作業故。餘心法是有分。法入攝故

頗二阿那含 共生於一地

第一法或成 俱得一地果

答有。謂一阿那含依第二禪超。昇離生。第二阿那含依第三禪。彼命終俱生第三禪。彼依二禪超。昇離生者。增進禪故。捨世間第一法即依第三禪者。成就捨。上諸地亦如是。得一地果者。謂無覺無觀禪

頗有不動法 俱受於一有

一成就九地 善有漏一無

答有。謂一生欲界一生初禪。生欲界者。九地有漏法成就。生初禪者。八地。除欲界地。增捨俱受一有故說一有。有漏者。以無漏生上成就下故說有漏

頗住一剎那 得捨三脫門

或復捨於二 一捨還復得

答有。謂生無色界當得阿羅漢住金剛三昧。得無學三。昧門。捨學三。脫門。捨滅受想定及非想非非想處。捨一切退分。得一切勝分。中亦捨亦得故言一念滅受想定及非想。得斷知言捨二捨退得勝故捨一得一也

頗成沙門果 成就聖非聖
而不得斷知 若能知者說

答有。謂無間等苦智生集智未生。爾時於八十九沙門果分成就。於四沙門果不成就。亦不得斷知

度彼無勝海 少力所不任

今我隨所能 宣說甚深義

世間貧窮人 彼可卒令富

無智則不然 要須大方便

世間寶易得 慧寶甚難獲

是故應勤學 漸入甚深智

正解涅槃路 邪惑生死徑

慧能滅癡闇 如日除幽冥

為求解脫故 當勤修智慧

薩婆多比丘。莊嚴阿毘曇偈。願令一切衆生。

智慧漸增疾得解脫

雜阿毘曇心論卷第十一

①〔無〕一②③ ④衆十〔根〕⑤⑥ ⑦是一起⑧⑨ ⑩分二八⑪入⑫⑬ ⑭昇二升⑮⑯* ⑰覺二學⑱ ⑲昧二脫⑳㉑ ㉒任二住㉓㉔ ㉕辛二本

阿毘曇甘露味論卷上

No. 1553

尊者瞿沙造

曹魏代譯失。三藏名

布施持戒品第一

云何布施。自持財物施與。為三種故。自為身故。為他人故。為彼我故。供養塔寺佛辟支佛。阿羅漢。自為身故。施與衆生。為他人故。布施與人。為彼我故。思田物好得好報。云何思好。信淨與供養。云何田好。有三種田。有大德。有貧苦。有大德貧苦。云何大德。佛菩薩辟支佛阿羅漢。阿那含斯陀含須陀洹。云何貧苦。畜生老病聾盲瘡癩。如是種種貧苦。云何大德貧苦。有佛菩薩辟支佛阿羅漢。阿那含斯陀含須陀洹。老病聾盲瘡癩貧苦。大德田者。恭敬心得大報。貧苦田者。憐愍心得大報。大德貧苦田者。恭敬憐愍。心得大報。是為福田好。云何物好。不殺他不偷不奪不繫不鞭不欺不誑。淨物隨多少隨時布施。是為物好。信云何。知後世果若涅槃。一心不動。是謂信淨。云何自除慳貪。恭敬於人。是謂淨供養。云何奉迎禮拜。自手施與等。是謂供養。云何田異。行善持戒禪定智慧解脫得果等功德。若有如是謂田異。救濟危厄。異因緣得異苦。有無苦。發心供給得妙果報。布施佛即時一切得福。布施衆僧若受用得一切福。未受用不得一切福。供養法故得大報。若學人聰明大智慧。

以法故供養。是謂供養。法布施得富。受施竟得樂力壽等功德。除結勝得大果報。若施畜生受百世報。若施不善人受千世報。若施善人受千萬世報。若施離欲凡夫受千萬億世報。若施得道人得無數世報。若施佛至涅槃受報。布施有六難。一者憍慢施。二者求名施。三者為力施。四者強與施。五者因緣施。六者求報施。衆僧中分別施。是謂布施六難。云何持戒。有二種律儀。不善善律儀。云何不殺。殺生偷盜婬嫉。是謂身三惡律儀。兩舌惡口妄言綺語。是謂口四惡律儀。貪恚惡邪。是謂意三惡律儀。云何殺生。有他生知是生。故奪命。如是殺生。有他受物知是他受物。故盜心偷奪。如是盜。有婦女他所有。知他婦女。故欲共婬。若道非道中。自有婦犯非道。如是婬嫉。若知言不知不知言知。若疑言不疑不疑言疑。如是妄語。若有實欲別離故異說。是謂兩舌。如是染污心他人不愛言。如是惡口。不知時無義言。如是綺語。財物他有貪愛應我有。如是貪見彼不喜。欲令苦痛。如是恚。惡邪有二種。實有物而言無顛倒見聞。云何實有物而言無。無罪無福報。無今世後世。無父母無佛辟支佛阿羅漢餘得道等。如是實有而言無。云何顛倒。見聞善惡天作非行報果。如是惡邪。是謂三種不善業。悔是三事除却不作。是謂三種善業。常遠三種惡行三種善。是謂持戒堅固。布施持戒禪定思惟。必得三果。得財富得生天得解脫。世三十種福田。父母老病善人離欲凡夫有漏七人四道向四道果。從滅

禪入起。辟支佛菩薩佛比丘僧。有去來人飢渴

阿毘曇甘露味界道品第二

三界。欲界色界無色界。是三界中有五種道。地獄畜生鬼神天及中陰道。云何。地獄大地獄八種。第一僧時披。第二黑繩。第三合會。第四魯臘。第五摩呵魯臘。第六般那。第七波多般。第八阿鼻。一大地獄各有十六地獄眷屬。云何。畜生。無脚兩脚四脚多脚。水行陸行空行。云何鬼神道。種種身。欲界不善行三種上中下。上報地獄。中報畜生下報餓鬼。云何人道。四種人。東弗于逮人。西瞿耶尼人。南閻浮提人。北鬱單曰人。欲界四種善行報生。云何天道。欲界有六天。第一四天王天。第二切利天。第三鹽天。第四兜術天。第五尼摩羅天。第六他化自在天。欲界中六種善報生。色界十七處。梵富樓梵迦夷摩呵梵。少光無量光光曜。少淨無量淨遍淨。果實。得德。大果不煩。不惱。善觀。快見。阿迦尼吒。四禪三種。上中下報。十二處生。四禪有漏無漏雜報。凡夫居聖人生三處。聖人凡夫共生大果處。凡夫得無想定生無想天。無色界空處識處不用處。有想無想處。得無色定。是次第生無色處。隨定力得生處。是為天道。欲受欲用欲畜。以是因緣說欲界。無欲有色。以是因緣說色界。無色界四陰。以是因緣說無色界。人中五十歲是四王天。一日一夜。如是三十日為一月。十二月為一歲。四天王壽天上五百歲。當人間一萬歲。是僧時泥梨中一日一夜。如是三

①[尊者瞿沙造]一②* ③[曹魏...名]八字二(失譯)二字④* ⑤三藏二人⑥* ⑦愛一受⑧⑨ [三十]一⑩⑪ ⑫[阿毘曇甘露味]一⑬* ⑭地獄十(道)⑮⑯ ⑰善生十(道)⑱⑲ ⑳界十(有)㉑㉒ ㉓四王天二四天王㉔㉕ ㉖一八九⑷ ㉗時十(披)㉘⑸* ㉙梨二黎⑺⑻*

十日爲一月。十二月爲一歲。僧*時泥*犁壽五百歲。復次人中百歲是忉利天一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。忉利天壽天上千歲。當人間三億六萬歲。是黑繩泥*犁中一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。黑繩泥*犁壽千歲。復次人中二百歲是鹽天一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。鹽天壽天上二千歲。當人間數十四億四萬歲。是魯臘泥*犁中一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。魯臘泥*犁壽二千歲。復次人中四百歲是兜術天一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。兜術天上壽四千歲。當人間數五十七億六萬歲。是摩呵魯臘泥*犁中一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。摩呵魯臘泥*犁壽四千歲。復次人中八百歲是化應聲天一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。化應聲天上壽八千歲。當人間數二百三十億四萬歲。是多般泥*犁中一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。多般泥*犁中壽八千歲。復次人中千六百歲是他化自在天一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。他化自在天上壽萬六千歲。當人間數九百二十一億六萬歲。是般*多槃泥*犁中一日一夜。如是三十日爲一月。十二月爲一歲。般*多槃泥*犁中壽萬六千歲。當人間數半劫。阿鼻泥*犁壽一劫。畜生中壽有彈指頃。半日。一月。一歲。十歲。一百千萬億歲。乃至一劫壽。餓鬼中壽乃至七萬歲。人中閻浮提

人壽或無數歲。或至十歲。今時壽百歲多少。過瞿耶尼人壽二百五十歲。東*弗于逮人壽五百歲。北*鬱單曰人壽千歲。不增減。餘處衆生壽有增減。是謂欲界中衆生壽。云何色界中壽。梵迦夷天壽半劫。梵富樓天壽一劫。摩呵梵天壽一劫半。是謂初禪壽。少光天壽二劫。無量光天壽四劫。光曜天壽八劫。是謂二禪壽。約淨天壽十六劫。無量淨天壽三十二劫。遍淨天壽六十四劫。是謂三禪壽。果實天壽一百二十五劫。得德天壽二百五十劫。大果天壽五百劫。無*急天壽千劫。無惱天壽二千劫。善觀天壽四千劫。快見天壽八千劫。阿迦膩吒天壽萬六千劫。是謂四禪壽。空處壽二萬劫。識處壽四萬劫。不用處壽六萬劫。有想無想處壽八萬劫。是謂無色界壽。如是三界衆生壽。

*阿毘曇甘露味住食生品第三

有四識住。云何四。色*痛想行。欲界色界中識多緣色住。空處識處識多緣痛住。不用處識多緣想住。有想無*想識多緣行住。有四種食。情命根大長故。云何四食。一者搏食。二者樂食。三者意思食。四者識食。揣食三入攝。香味細滑入。以何等故色入不攝。揣食眼見食。情命根大不長故。揣食有二種。有能有細。云何能。飯餅如是一切。云何細。飲消香塗身。云何樂食。眼更樂耳鼻舌身更樂。有漏意更樂。能後世生相續不斷。樂食多鳥卵鵝雁。如是一切。意思食多水蟲卵魚。如是一切。識食多有想無想處。及中陰衆生。揣食多欲

界中。餘三食多色無色界中。揣食第一。樂食細。意思食次細。識食最細。四種生卵生胎生濕生化生。泥*犁天中陰一切化生鬼神二種生。胎生及化生。餘衆生四種生。化中*衆生一時得六情根。餘殘生最初得身根命根。諸餘根次第得。四有。生有死有本有中。有中。死中中間細五陰。是謂中有。中有生有譬如印作字。如父子相似。除無色界餘一切受中陰。無色界終生欲色界受中陰。譬如中阿那含有中陰。餘生中有生有亦如是。

*阿毘曇甘露味業品第四

雜心中緣雜垢起雜行。雜行中雜受報。云何雜行。有三種行。身行口行意行。善行不善行。無記行。學行無學行非學非無學行。見諦斷行。思惟斷行。無斷行。現世報生報後報。樂報苦報不樂不苦報。黑報白報雜報。不黑不白無報行。行盡必受報行。不必受報行。云何身行。身動身作。云何口行。口動口作。云何意行。意動意思。云何善行。善身作善口作善意思。云何不善行。不善身作不善口作不善意思。云何無記行。無記身動無記口動無記意思。云何學行。學身無教學口無教學意思。云何無學行。無學身無教學口無教學意思。云何非學非無學行。有漏身動口動意思。云何見諦斷行。堅信堅法見忍斷八十八結相應思。云何思惟斷行。信解脫見到思惟斷十使相應思。及染汚身行口行善有漏行無記行。云何無斷行。諸無漏行。云何現世報。若作善惡行今世得非後世得。云何生報。隨

①[天上]一②③ * ④魯臘二合會⑤⑥ * ⑦[摩呵]一⑧⑨ * ⑩多般二摩呵魯臘⑪⑫ * ⑬多槃二那⑭⑮ * ⑯歲十(波多般泥梨)⑰⑱ ⑲(波多般泥犁)⑳ ㉑僧渴二增⑳ ㉒非二佛⑳ ㉓急二須⑳ ㉔痛想二想痛⑳ ㉕想十(處)⑳ ㉖[有]一⑳ ㉗[來]一⑳ ㉘煎二行⑳

善惡。後行第一生得非餘生。云何後。法報。隨行善惡後第二生得。若第三第四若過得報。云何樂報。欲界善行。色界乃至三禪善行。是受樂報。云何苦報。不善行受報。云何不苦不樂報。第四禪善有漏行。及無色界善有漏行。云何黑黑報。不善行黑黑報。云何白白報。善有漏行白白報。云何雜報。欲界善惡雜行雜受報。云何不黑不白無報行。行盡三界漏盡時。無礙道攝無漏思也。云何必受報行。五逆行必受惡報。現世報生報後報餘殘。有緣有人必受報。無緣無人不必要報。一切有漏行故作熱得報。不故作不熱不得報。故作不熱不得報。三種行。身業教無教。口業教無教。意業有教。云何教行。若身口意作。云何無教行。身口作。意起餘心時。常在不失無教色。善不善心。不生無記心。不生無教色。所以者何。無記心力劣故。無記有二種。有隱沒不隱沒。結使所覆是隱沒。不覆是不隱沒。云何隱沒無記法。欲界中身。耶邊。耶。及彼相應無明共有法。色無色界一切結使。及色界身口行。是謂隱沒無記法。云何不隱沒無記法。坐臥立行。伎巧報法變化心虛空非智緣盡。是謂不隱沒無記法。無教三種。一無漏。二定共。三戒律儀。云何無漏戒。正語正業正命。云何定共戒。得禪離欲惡法。云何戒律儀。受戒時得善有漏身口行。云何得三種律儀。一切得道無漏律儀成就。一切得禪定共律儀成就。欲界人受戒戒律儀成就。戒律儀人最初教作時。現前無教成就。若盡不失成就過去得禪

人一切過去未來定共律儀成就。若入定過去未來現在成就。無漏律儀未來一切成就。若入道現在前成就。若盡不失成就過去律儀人。若作重惡不善成就。不善教無教。若不重惡成就。不善教無教。若惡心滅不成就教無教。不律儀人現在成就。不善無教。若盡不失成就過去不善無教。若作重善成就善教無教。若不重善成就善教無教。若善心滅不成就教無教。若中間人若作重善若不善。成就善不善教無教。若作不重善不善。成就教無教。若善不善心。滅不成就教無教。得色界善心成就禪律儀。若心退不成就禪律儀。一切色界善心中律儀心相應。除眼心耳身心開慧死時心。六地無漏心力成就無漏律儀。云何六地。未到禪地初禪中禪二禪三禪四禪。退六地心不成就無漏律儀。有二事失無漏律儀。若退若得道果。有二事失禪律儀。若退若命終。有三事失戒律儀。一犯戒。二捨戒。三惡邪起。若法滅盡時。有人言失戒律儀。有言不失實不失。有四事失不律儀。一受戒。二不更作。三一心息求。四得道善色。云何失。若斷善根。若命終。餘殘染污心數法。斷結時斷有五種果。一報果。二所依果。三增上果。四身力果。五解脫果。善有漏法或四果或五果。能斷結使是謂五果。不能斷結是謂四果。除解脫果。不善法有四果。除解脫果。無漏法或四果或三果。若斷結四果除報果。若不斷結三果除報果解脫果。無記法三果除報果解脫果。云何報果。不善法善有漏法得報果。云何

所依果。善不善無記法。常行增長益至竟得。是謂所依果。云何增上果。若好若不好共俱受最上受。是謂增上果。云何身力果。身行為作等。是謂身力果。云何解脫果。智滅結是謂解脫果。善根不善根無記根三種。善根不貪不恚無癡。善根三種。不善根貪欲瞋恚愚癡。四種無記。根無記愛無記無明無記見無記。慢三種法。善法不善法無記法。云何善法善身口業善心。心相應法。及心不相應行及智緣盡。是為善法。云何不善法。不善身口業不善心心相應法。及心不相應行。是為不善法。云何無記法。無記身口業無記心心相應法。及心不相應行。虛空非智緣盡。是謂無記法。不飲酒布施供養尊重等。是謂善身口業攝。飲酒搗打惱慢尊重等。是不善身口業攝。是為十業道不攝欲界身口業。欲界四大造。如是色界無漏身口業何四大造。若依六種地。即彼地四大造。若生無色界。如是本得無漏身口業。即彼地四大造。三種命終。有命盡福不盡。有福盡命不盡。有福盡命盡也。

* 阿毘曇甘露味陰持入品第五

諸有漏法四事離。云何四。無常無我無樂無淨煩惱諸漏。何以故。趣一切生處。心漏連注。隨世界故。是謂有漏。三界有百八煩惱。九十八結十纏是煩惱何處生。是說有漏法。亦名受陰及煩惱處。從是中有二種五陰。有漏無漏。受陰一切有漏。云何色陰。諸四大造。十二入除意入。諸餘入及法入攝無教色。是謂色陰。是色陰二種。可見不可見。云何可見。一

①後行二行後 ②[法]一 ③[故作不熱不得報]一 ④三二二 ⑤若一苦 ⑥意二竟 ⑦不二中 ⑧耶二邪 ⑨伎一技 ⑩減二成 ⑪為二謂 ⑫隨二隨 ⑬

入色入云何不。可見九入及法入攝。無教色復有三種色。有可見有對。有不可見有對。有不可見無對。色入可見有對。餘九入不可見有對。法入無教色不可見無對。是謂色陰。云何痛陰。受痛六更樂生。是有二種痛。身痛心痛。三種痛。苦痛樂痛不苦不樂痛。四種痛。身記無記心記無記。五種痛。五痛根。是六種痛。眼更痛耳鼻舌身意更痛。十八種痛。眼有喜樂護。三十六種痛。十八痛中有善不善。百八種痛。過去未來現在各三十六。一衆生須臾起無數痛。是謂痛陰。云何想陰。意種種緣一切法想。是三種小大無數種種。收入攝。以是因緣想是謂想陰。云何行陰。有爲法中行作種種諸法。是行陰二種。心相應法不相應。云何心相應。一思二更樂三憶等諸法。是名心相應。云何心不相應。得二無想三滅盡定等心不相應。是謂行陰。云何識陰。青黃赤白等諸法分別識。是識有六種。眼識耳鼻舌身意識。云何眼識。眼情依止識色。是謂眼識。如是耳鼻舌身意。意情依止識法。是謂意識。是謂識陰。十二入。眼入耳鼻舌身意入是內六入。色入聲香味細滑法入。是外六入。亦復眼識乃至意識合十八。持四大淨造色識因緣是謂眼。如是四大淨造聲香味細滑識因緣。是謂耳鼻舌身。一切眼識塵色十二種。長短明闇青黃赤白觸細色邊空色身教色。一切耳識塵聲。衆生數聲非衆生數聲。一切鼻識塵香。好香臭香等香。一切舌識塵味。辛酸鹹苦甘等六十。三種味。一切身識塵。細滑輕重堅軟

寒熱飢渴四大等。一切意識塵法。是謂一切法。五識不能分別意識分別。心意識無差別。說有差別。情塵識合是生更樂共生痛等。十大地十煩惱大地。十小煩惱地。是諸法共心生。共緣共住共起共滅。譬如燈明熱共起共住共盡。問十八持幾善幾不善幾無記。答八無記。十當分別。色持聲持七識持法持有善不善無記。云何善色。善身教。云何不善色。不善身教。云何無記色。除善不善身教。諸餘色持。是謂無記。如是聲塵眼識有善不善無記。云何善。善憶相應眼識。云何不善。不善憶相應眼識。云何無記。無記憶相應眼識。如是耳鼻舌身意。意識持法持。或善不善無記。云何善。法持攝善身口業善痛想行陰及智緣盡。云何不善。法持攝不善身口業不善痛想行陰。云何無記。法持攝無記痛想行陰及虛空非智緣盡。問十八持幾有漏幾無漏。答十八持十五持有漏。三當分別。云何三。意持法持意識持有漏憶相應意持。是謂有漏。無漏憶相應意持。是謂無漏。意識亦如是。法持中攝有漏身口業有漏痛想行陰。是謂有漏。法持攝無漏身口業無漏痛想行陰及無爲法。是謂無漏。問十八持幾欲界繫幾色界繫幾無色界繫幾不繫。答四持欲界繫。香味鼻識舌識。以揣食處故。十四當分別。眼持欲色界繫。云何欲界繫。欲界繫四大造。如是耳鼻舌身色聲細滑持欲界繫。欲界繫四大造。云何色界繫眼持。色界繫四大造。如是耳鼻舌身色聲細滑持色界繫。色界繫四大造。眼識欲色界繫。云何

欲界。欲界憶相應眼識。耳身識持亦如是。云何色界。色界憶相應眼識。耳身亦如是。意持欲界繫色無色界繫。或不繫。云何欲界繫。欲界憶相應意持。云何色界繫。色界憶相應意持。云何無色界繫。無色界憶相應意持。云何不繫。無漏憶相應意持。意識持亦如是。法持或欲界繫。或色無色界繫。或不繫。法持攝欲界繫身口業。及痛想行。陰。是謂欲界繫。云何色界繫。法持攝色界繫身口業。及痛想行陰。是謂色界繫。云何無色界繫。法持攝無色界痛想行陰。是謂無色界繫。云何不繫。法持攝無漏身。口業。無漏痛想行陰及無爲法。是謂不繫。問十八持幾內入攝幾外入攝。答十二持內入攝。眼耳鼻舌身意。眼識持耳鼻舌身意識持。六外入攝。色持聲香味細滑法持。問幾有覺有觀。幾有覺無觀。幾無覺無觀。答十無覺無觀。五情五塵五識有覺有觀。三當分別。意持有覺有觀。欲界初禪有覺有觀。中間禪有覺無觀。上地無覺無觀。意識亦如是。法持攝身口業諸不相應行無爲無覺無觀。餘殘如意持。問幾共緣幾不共緣。答七心持共緣。何以故。自塵緣故。十持不共緣。五情五塵。法持當分別。法持攝身口業。識心不相應行無爲不共緣。餘殘共緣。問十八持幾受幾不受。答九持情根合若現在是受。於中心心數法止住過去未來不受。非彼心心數法止住。聲持七識持法持是不受。非彼心心數法止住。問十八持幾有爲幾無爲。答十七持有爲。法持當

○(可)一○(等)○(十)○(眼)○(二)○(外)○(三)○(二)○(十)○(繫)○(陰)○(除)○(口)一○(眼)持二識持識(持)眼識(識)眼識(識)識二諸(持)

分別、或有為或無為。云何有為。法持攝身口業痛想行陰是謂有為。智緣盡非智緣盡虛空。是謂無為。

* 阿毘曇甘露味行品第六

一切有為法無勢力起。因他力共生。是諸法有四相起住老無常。問若有四相。是應更復有相。答更有四相。彼相中餘四相俱生。生為生住為住老為老無常為無常。問若爾者不可盡答展轉自相為諸行法二種。有心相應有心不相應。云何心相應。痛想思更樂憶欲解脫信精進念定慧覺觀。邪行不邪行善根不善根無記根。一切使惱結縛纏一切智慧。如是種種心相應法。是謂心相應行。云何心不相應行。得生住老無常無想定滅盡定無想處。種種方得物得入得名眾句眾味眾凡夫性。如是種種法。是謂心不相應行。因緣次第緣緣緣增上緣。一切有為法從是四緣生。云何因緣。五因相應共有自然遍報因。是謂因緣。云何次第緣。諸法中心心數。是。是法滅是法起。是為次第緣。云何緣緣。緣塵故心心數法生。是謂緣緣。云何增上緣。一切萬物不相障礙。是謂增上緣。六因。相應因共有自然遍報所作因。云何相應因。心諸數法因。諸心數法心因。是謂相應。云何共有因。諸法各各相伴。心諸心數法因。諸心數法心因。復次共生四大共有因。造色心不相應行。心心數法心不相應行因。云何自然因。謂彼前生善後生善。前生不善後生不善。前無記後無記。云何遍因。謂身見計我我有常。諸陰受有常我

樂淨等生諸煩惱。云何報因。謂善生樂報。不善生苦報。云何所作因。一切諸法各各不相障礙。不留不住。報心有五因除遍因。如是心數法。一切煩惱有五因除報因。報生色及不相應行有四因。除相應因遍因。染污色及不相應行有四因。除相應因報因。餘殘心心數法有四因。除報因遍因。餘殘心不相應行或二因或三因。除相應因遍因報因。或除自然因。或不無初。無漏心相應法有三因。除自然因報因遍因。是無漏心中生色及心不相應行有二因。其因所作因。心心數法是從四緣生。無想定滅盡定是從三緣生。除緣緣。心不相應行及諸色法是從二緣生。除次第緣緣緣。無有法一緣生。餘法力故生。一法三事會更樂共生。痛想思憶欲解脫信精進念定慧護共心起合成就。是諸法共心俱三法會更樂身心受痛緣分別識想動思心不忘憶欲作欲心無礙解脫信。種種事勤精進緣勝不忘。念心不動定。分別法慧心不著護事緣起。心法相應得諸法成就。痛想。思更樂憶欲解脫念定慧是十大地法。何以故。一切心共生。云何相應共一緣行不增不減。是謂相應。十煩惱大地。一切不善心中共生。不信懈怠忘心亂闇鈍邪憶邪解脫調無明邪行。云何不信。心不入法。云何懈怠。心不在作。云何忘不念。云何心亂。心不一心。云何闇鈍。不曉事。云何邪憶。非道念。云何邪解脫。不捨顛倒。云何調心。走不息。云何無明。三界中無。智。云何邪行。不住善法。十小煩惱地。瞋優波那不語波

陀舍摩夜舍恥慳嫉慢大慢。云何瞋心忿動。云何優波那心含毒住。云何不語覆藏罪事。云何波陀舍非法事急持不捨。云何摩夜身口欺人。云何舍恥。心伎收。云何慳心惜畏盡。云何嫉見他好事瞋。云何慢於卑賤我勝。於上我等。云何大慢。等中我大於大中我勝大。此十煩惱地意識相應。非五識故言小也。於中七煩惱欲界繫。舍恥欲界及梵天慢大慢三界繫。十善大地不貪不恚信。不捨不精進護不燒。惱。云何不貪不恚信。不捨不精進。不護。云何不恚。若眾生邊非眾生邊心不起。云何信。知實事心清淨。云何猗。心善離重得輕冷。云何不放棄。心繫善法。云何精進。習近善法。云何護。於諸法離住。云何不燒。惱。一切眾生中身口意不犯惡。云何慳。自作惡事羞。云何愧。於人中作不可事愧。是十法一切善心相應。是故說大地。三處愛處不愛處中處愛處者。姪欲慳貪惜等諸煩惱生。不愛處者。瞋恚譎諍嫉妬等諸煩惱生。中處者。愚癡憍慢等諸煩惱生。一切結使煩惱三毒所攝。所以者何。有三不善根。一切結使煩惱。此三毒。生能斷三善根。能惱亂三界眾生。是故三毒所攝。

* 阿毘曇甘露味因緣種品第七

十二因緣者。無明行識名色六入更樂痛愛受有生老死。是十二因緣有三種。一煩惱二業三苦。三種煩惱無明愛受。二種業行及有七種苦識名色六入更樂痛生老死。二種過去攝。二種未來攝。八現在攝。諸煩惱業因業

●(是)一● ●(十)因● ●思更樂一更樂思● ●(一)夜● ●(知)智● ●(慳)惱● ●(類)種●

苦因苦煩惱因煩惱煩惱因煩惱業因業苦因苦苦因。彼種次第起。過去無明與一切煩惱相應是無明。緣此造業。造業造世間果是名行。彼行因緣染汚心得身根分別識。譬如種子識母是識。是識共生四無色陰。亦相續生色是名色。依眼等根境界是六入。情塵心和是更樂。更樂生受是痛痛所著是愛。渴具所煩勞是受。勞造業是有。未來果是生。生起無量苦是老死。復次無明不知四諦。內外法去來今佛法衆因緣。如是種種實法不知。是謂無明。癡人作三種行。有德行無德行不動行。云何有德行。得好報。云何無德行。得惡報。云何不動行。生色無色界。復次布施持戒禪。云何布施。二種布施。一者財施。二者法施。五種持戒。若受戒至竟淨除惡心垢。常念守護不求世間報。禪者不淨觀數息等意。一切有漏善定法。是有德行。云何無德行。三不善根十不善道等種種罪。是謂無德行。云何不動行。初禪乃至有想無想定。是謂不動行。三因緣有漏識受第一七有是謂識。從識有名色痛想行識陰是謂名。四大及造色是謂色。二事俱說名色名色生六入。六入生更樂。更樂有六種。二種身意起有對增語。六識分別故六種更樂。更樂生愛不愛不愛。不愛有三種痛。苦樂不苦不樂。云何苦痛。瞋使所使。云何樂痛。欲使所使。云何不苦不樂痛。無明使所使。起樂住樂盡不樂。是謂樂痛。起苦住苦盡不苦。是謂苦痛。不智不樂智時樂。是謂不苦不樂痛。生三種渴。欲渴色渴無色渴。求無

厭足想渴。生四種受。欲受見受戒受我受。欲界繫除十二見。諸餘煩惱。是謂欲受。四邪見是謂見受。外持戒求索道。是謂戒受。色無色界繫除二十四見。諸餘煩惱。是謂我受。四受生諸結使業處。三種有欲有色有無色有。有生得五陰是謂生。行衰。古是老。二種老。一漸消漸消老。二年熟老。二種死。有自死他殺死。得愁憂悲惱苦。云何愁心。不用不欲事來心熱是謂愁。云何悲哭。種種說哭是謂悲。云何苦。身惱苦是謂苦。云何憂。心惱是謂憂。云何惱。縣官水火盜賊等種種急及餘事。是謂惱。如是無量苦聚是無明等因緣。是因緣盡諸報果盡。如是無量苦聚盡。六種合得人身。云何六種。四大空識。地水火風。三大有色地水火量度長短魚細。風風種一種。四大常合無差別。堅相地濕相水熱相火動相風。外四大成就內四大種。色中空。眼識緣有內外。是謂空種。五識及有漏意識。是謂識種。生。卅六種。堅高地。水潤。合。火煮除爛臭。風動坐起動作。生長因空。餘食消化風持去。識力有命。是謂人。

*阿毘曇甘露味淨根品第八

已知大知根。內六根如前說。男相男識是謂男根。女相女識是謂女根。三界中活相是謂命根。六識相應樂痛是謂樂根。五識相應苦痛是謂苦根。意識相應樂痛是謂喜根。意識相應苦痛是謂憂根。六識相應不苦不樂痛是謂護根。諸善法中信是謂信根。如是精進念定。慧根。堅信堅法道攝。無漏九根是未知根。信解脫見到道攝。無漏九根是已知根。無學道攝。無漏九根是大知根。云何根義。有力有利是謂根。六情男女命九根世界中有有力有利五痛根煩惱生有力有利。信等五根善法中有有力有利。三無漏根道中有有力有利。得道故諸根各自有力有利。二十二。根幾欲界繫幾色無色界。繫幾不繫四根欲界繫男女。憂苦根五根欲色界繫。眼耳鼻舌身根有漏喜樂根欲色界繫。有漏護意命根信等五根一切三界繫。無漏意根護根喜樂根信等五根是不繫。是九根合是三無漏根。未知根已知根大知根。二十二根幾受幾不受。樂等五根信等五根。一切無漏根是不受。餘殘根或受或不受。二十二根幾善幾不善幾無記。八根善。信等五三無漏八無記。根。眼等五根男女命根六當分別意根樂等五痛根。或善或不善或無記。二十二根幾有漏幾無漏。信等五樂喜護意或有漏或無漏。後三根一向無漏。十根有漏。眼耳鼻舌身男女命憂苦。三種生最初得二根。身根及命根。化生或六七八無形。六一形。七二形八。眼等五及命男女根。餘殘根次第得。色界中最初得。六根五情命

①〔不愛〕一② ③古二苦④ ⑤卅一世⑥ ⑦合二治⑧ ⑨餘二款⑩ ⑪一切二意根三⑫ ⑬〔根〕一⑭ ⑮七十〔形〕⑯⑰

根。無色界最初得一命根。欲界無記心漸命終四。或八或九或十。若善心死九。若十三若十四若十五。二十二根幾見諦斷幾思惟斷幾不斷。四根或見諦斷或思惟斷或不斷。意樂喜護根愛根。或見諦斷或思惟斷。信等五根或思惟斷或不斷。三不漏根不斷。餘殘根思惟斷

*阿毘曇甘露味結使禪智品第九

九十八使二種斷。見諦斷思惟斷。二十八見苦斷。十九見習斷。十九見盡斷。二十二見道斷。十思惟斷。欲界繫見苦斷十使見習斷。七使見盡斷。七使見道斷。八使思惟斷。四是三十六使欲界繫。除瞋恚餘殘結使色無色中各斷三十一。略言實十使。身邪邊邪邪。見盜戒盜疑愛恚慢無明。云何身邪。五陰中。計我。如是見謂身邪。世界有邊無邊。如是見謂邊邪。無四諦因緣果報。如是見謂邪見。有漏法中計常第一。如是見謂見盜。非淨因緣中求淨道。如是見謂戒盜。未得道心癡不了。是不是有不有。是謂疑癡心。諸法中欲著是謂愛。癡心中不欲對來。心忿動是謂瞋。自大心貢高是謂慢。諸法實相不知。是謂無明。是諸使欲界苦諦。一切習諦七盡諦亦爾。道諦八諸邪。疑見諦斷。欲界四思惟斷。色無色界六思惟所斷。貪恚慢無明五行斷。疑邪。邪見盜四諦斷。身邪邪邊邪苦諦斷。戒盜苦諦道諦斷。欲界苦諦斷六五邪疑。習諦斷三二邪疑。無明二種苦諦斷。無明或遍或不遍。云何遍六使相應及不共無明是謂遍。云何不遍。三使相應無明是不遍。如是習三使相應及不共無明

是謂遍餘殘不遍諸使除愛恚慢。餘殘一切遍。何以故。是諸使五緣。是一切遍使中二邪。及彼相應無明。自界一切遍非他界。色界亦如是。無色界一切遍使自界一切遍。餘殘一切遍使自界一切遍亦緣他界。無明一切使相應因。及不共無明。三界盡諦道諦所斷。邪*邪疑無明。是十八使無漏緣。餘有漏緣諸有漏緣使及彼。相應無明有漏緣。餘殘無明無漏緣。一切三界結使護根相應。梵天光。耀天中諸使護根相應及喜根。遍淨天諸使護根樂根相應。欲界繫邪。邪見無明。三根相應。喜根愛根護根。疑二根相應。愛根護根。瞋恚三根相應。愛根苦根護根。餘殘欲界見諦斷。二根相應。喜根護根。欲界中思惟所斷。六識相應。除慢慢意識相應。一切見諦所斷。意識相應。十小煩惱是說纏。一瞋二自罪怖三睡四眠五調六戲七慳八嫉九無慚十無愧。云何瞋。心惡利動。云何自罪怖。畏人見聞。云何睡。心沈心重身重一切結使相應。云何眠。心合臥出不自在眠。欲界繫意識相應。云何調。心不善不。自與一切結使相應。云何戲。作善不善後悔。與愛根相應。云何慳。愛惜心愒。云何嫉。見他得好事不歡喜。欲使得苦。是二結欲界繫思惟所斷。云何無慚。自作惡不羞。云何無愧。作惡不愧他。是二一切不善法相應。三結愛恚無明六識相應。色界二愛無明四識相應。餘殘結使意識相應。一時無礙道斷結使作證時重作證。斷欲界結得三斷智。欲界苦諦習諦所斷一斷智。盡諦所斷二斷智。

道諦所斷三斷智。色無色界四諦所斷結盡三斷智。欲界中五下分結盡七斷智。色界思惟所斷八斷智。一切結使煩惱盡九斷智。滅結無餘是謂斷智。有如是諸結使。心不相應纏心相應。是事不然。一切心相應。何以故。起結使煩惱壞善法。見結使是時善法生。是故知一切結使心相應。是諸一切結使二事斷禪智相應心。云何禪斷初柔軟心。云何智分別諸法。入定一心諸法無常等觀思惟。是謂智禪智俱行共思惟得解脫。三時善精進一心護坐禪時。若心柔軟。是時應思惟精進。若心調是時應一心思惟善。若是二事俱不柔軟不調是時放心去。譬如鍛金師持金著火中。時時囊吹。時時持水澆。時時放休。何以故。若常吹金便焦融。常水澆冷不熱。若常放不調熱。坐禪亦如是。囊吹如精進。著水澆如禪。放捨如護。何以故。常精進心調。常定一心心柔軟常護不受諸心。是故時時勤精進。時時一心定。時時護。如是心和調。一切結使中得解脫

*阿毘曇甘露味三十七無漏人品第十

坐禪法先繫心一處。若頂上若額端若眉間若鼻頭若心中。令心一處住。若念走攝來還著。處處。是心者譬如彌猴。繫頭著柱繞柱走不得去極便住。心走亦如是。繫心著法。便不去極便住。漸漸觀身痛意法。是人法意止中。淳淨一心得實智慧。觀一切行實相。生滅不住故無常。積災患故苦。內無人故空。不自在故非我。從是得煖法意中起。譬如鑽火木

①四(使)②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

中生。佛法中生信淨善根四緣。觀十六行。四行觀苦諦。從因緣生不住故無常。無常力壞故苦。無人故空。不自在故非我。四行觀習諦。生相似果故。習因。生死不絕故習。不可盡故有。不相似相續故緣。四行觀盡諦。一切苦患閉故盡。除一切結使火故。止。勝一切法故妙。出三界故度。四行觀道諦。能到涅槃故道。非顛倒故應。聖人所行故住。能離世間惱故出。觀十六行善法常勤精進。是謂煖法。從是煖善根增。勝長。是謂頂善根。信三寶。若信。五陰無常若苦空非我。如是緣四諦十六行。勝煖法故說頂已增上。頂隨諦忍名忍善根。是有三種上中下。緣四諦觀。觀十六行。順諦增上善根。是名世間第一法。一心時心心數法。是謂世間第一善根。有言信等五根是世間第一法。如實義。一心時心心數法。是世間第一善根。能開涅槃門。是凡夫法中第一緣。觀一諦四行。無常若苦空非我。何以故。第一無漏心緣苦諦。世間第一法亦如是。六禪地未到禪中間禪四禪。是忍頂。煖善根。六地中有世間第一法。次第起無漏人。是名苦法忍。未會見。始見能忍故說忍。是初忍無礙道。次第苦法智生。實知若苦若法智解脫道。是二心緣欲界繫苦。未知忍無礙道。未知智解脫道。是二心緣色無色界繫。苦習盡道諦亦如是。是正觀。諸法十六淨心。十五心中利根。是說隨法行。鈍根是說隨信行。是二人未離欲界結向第一果。欲界結使六種斷向第二果。若九種結盡向第三果。向第一果欲到十

五心中行人。亦復果中間行人。是二人隨法行。隨信行到十六心中得果住。是二人先未斷結。滿十六心俱須陀洹。若斷六種結。滿十六心俱斯陀含。若斷九種結。滿十六心俱阿那含。得第三果。八十八結盡。是人無漏戒善根成就。說須陀洹。利根得果名見到。鈍根得果名信解脫。是二人若欲界繫思惟斷結。不盡七死七生。若先盡三品是名家家。三死三生。八直道水流到涅槃。是中行須陀洹。六種結盡是說斯陀含。八種結盡是說一種生欲界天還生人中便般涅槃。是名一種及斯陀含。五阿那含。中般涅槃。生般涅槃。行般涅槃。無行般涅槃。上流阿迦尼到阿那含。復有無色界生阿那含。色無色界。苦盡得般涅槃。不生下界。是說阿那含。欲界結使九種。色無色界亦如是。是諸結使兩道斷。無礙道解脫道。先無礙斷解脫道成就。譬如得毒蛇著瓶中蓋口。世俗道出世。出世道。界道。斷欲界色無色界繫諸結使。世俗道亦能斷除世界上繫。八地離欲得滅盡定。是說身證阿那含。若俱解脫阿羅漢法似涅槃身中著。五下分結盡得阿那含。五上分結盡得阿羅漢。是色無色界中諸餘結。使纏縛是說心調。如金剛定次第滅智生。是時得阿羅漢果。是最上有離欲無礙道。亦最後學心是金剛定次第。初無學滅智生。我諸生盡滅。我得阿羅漢。一切結盡大小煩惱斷滅。是說阿羅漢。一切人天中應受供養。是名阿羅漢。是無學九種一退法。二不退法。三思法。四守法。五住法。

六能進法。七不動法。八慧解脫。九俱解脫。云何退法。軟智軟精進。五退具中行退道果。是謂退法。云何不退法。利智勤精進。五退具中行不退道果。是謂不退法。云何思法。軟智軟精進。勤觀身不淨可惡。思惟自滅身。是思法。云何守法。軟智勤精進。自守身。是守法。云何住法。中智中精進。中道行不增減。是住法。云何能進法。少利智勤精進。能得不動善。是能進法。云何不動法。利根大勤精進。先時得不動善。是不動法。云何慧解脫。不得滅盡定。是慧解脫。云何俱解脫。能得滅盡定。是俱解脫。隨信行五種阿羅漢名時解脫。是諸阿羅漢。二智滅智無學。直見。隨法行一種阿羅漢。利根是名不時解脫。是阿羅漢三智滅智無生智無學。直見。八阿羅漢愛時解脫成就。不動法。成就隨信行見諦道十五心中無漏九根。是名未知根。十六心得果。是無漏九根。是名已知根。是九根俱無學法。是名大知根。得果時失向道。道中斷結使盡。二種成就。有為無為。得大果時一切失本二種得一種成就。九種斷結使諸不隱沒法。第九心一切得斷。能進法阿羅漢。不動善非餘。信解脫學得利根。名見到非餘。見諦道中結使各各異。無漏法各各異。以是故漸漸見諦。不一時見無礙道力得果。以是故二種果有為果無為果。

阿毘曇甘露味論卷上

①觀十(觀)②[習]一③止二上④[勝]一⑤五十(受)⑥始二經⑦諸法一法諸⑧三二二⑨一⑩苦二色⑪出世世界道の界道⑫世十(界)⑬惡二得⑭直二真⑮*

阿毘曇甘露味論卷下

*尊者瞿沙造

*曹魏代譯失三藏名

智品第十一

十智。法智未知智等智知他人心智苦智習智盡智道智滅智無生智云何法智。欲界繫諸行苦中無漏智。欲界繫諸行習中無漏智。欲界繫諸行盡中無漏智。欲界繫諸行道斷故道中無漏智及法智地中無漏智。是謂法智云何未知智。色無色界繫諸行苦中無漏智。色無色界繫諸行習中無漏智。色無色界繫諸行盡中無漏智。色無色界繫諸行道斷故道中無漏智及未知智。未知智地中無漏智。是謂未知智云何等智。一切有漏智慧若善不善無記是謂等智云何知他人心智禪中思惟力得欲界中知他心心數法。是謂知他心智云何苦智。五受陰中無常苦空非我無漏智觀。是謂苦智云何習智。五受陰習因有緣無漏智觀。是謂習智云何盡智。盡止妙出無漏智觀。是謂盡智云何道智。八直道應住出無漏智觀。是謂道智云何滅智。見苦斷習。無證思惟道。是四法中無漏智觀。是謂滅智云何無生智。我已見苦不復更見。我已斷習不復更斷。已盡作證不復更作證。已思惟道不復更思惟道。是四法中無漏智觀。是謂無生智。是十智中二智十六行。法智未知智

煖頂忍法中等智十六行。世間第一法中等智四行。餘殘無行。無漏他心智四行。如道智。有漏知他心智無行。苦智四行。習智四行。盡智四行。道智四行。滅智無生智。各十四行。除空無我行。未到禪及中禪地有九智。除知他心智。餘四禪中十智。無色定八智。除法智知他人心智。第一無漏心成就一等智。第二無漏心成就三智。等智法智苦智。第三無漏心過。第四無漏心成就四智。等智法智苦智未。第五無漏心過。第六無漏心成就五智。等智法智苦智未。第七無漏心過。第八無漏心亦過。第九無漏心成就六智。等智法智苦智未。第十無漏心過。第十一無漏心過。第十二無漏心成就七智。等智法智苦智未。知習習智盡智道智。若已離欲會知他人心智。二種修智得修行修。先未得功德今得是謂得修。先得功德現在前入是謂行修。見諦道中現在前修彼即當來修。如是諸忍現在前修亦當來修。苦未知習習未知智盡未知智。是三未知智中修等智。道未知智中或修六或修七。若未離欲修六智。已離欲修七智。知他人心智過須陀洹果。十七心中修七智。除滅智無生智知他心智。是十七心中信解脫得利根時。無礙解脫兩道中修六智。除他心智等智滅智無生智。得阿那含果。解脫道中修八智。除滅智無生智。如是七地離欲時。解脫道中修八智。除滅智無生智。是謂無礙道中修七智。除他人心智滅智無生智。有想無想離欲時。八解脫道中修七

智。除等智滅智無生智。九無礙道中修六智。除等智知他心智滅智無生智。初無學心中修有漏無漏諸善根。初無學心苦未知智相應。有言習未知智相應。何以故。有想無想處生緣相應。初無學心見諦八忍求覓故名見。非智滅智無生智是智非見。餘殘無漏慧亦慧亦見亦智。除意識相應善有漏慧。及五邪見。餘殘有漏慧。亦智亦慧非見。法智九智緣。除未知智。未知智九智緣除法智。道智九智緣除等智。苦智習智一切有漏法緣。餘殘智十智緣。等智他心智滅智無生智。二智盡法智道法智。能滅三界結。六通四通。等智身通耳通眼通宿命通他心通。五智法智未知智道智等智他心智漏盡通。無漏九智除等智。四意止身意止八智。除他心智盡智。痛意止心意止九智。除盡智。法意止十智。四辯法辯辭。辯。等智應辯義辯。各十智。願智七智。除他心智滅智無生智。十力第一力十智知。二力三力四力五力六力九智除盡智。七力十智。八力九力一智等智。十力九智除等智。第一無畏十智知。二無畏九智知除等智。三無畏八智知除道智盡智。四無畏八智知除苦智習智

①無二盡②③ ④煖二暖⑤* ⑥第二等⑦⑧ [法]一⑨⑩ ⑪謂二諸⑫ ⑬除十(知)⑭⑮ ⑯[辯]一⑰⑱ (阿毘曇甘露味)一 ⑲* ⑳(油)一㉑㉒ ㉓禪一禪㉔

無無漏定善法。空閑靜處。坐若立若臥若行若步。定意智巧心中。軟信。如是心應入禪定。禪相應欲精進念慧一心。是諸善法。趣初禪定。離欲離惡不善法。有覺有觀離欲生得喜樂。是謂初禪。染著外入是謂貪欲。瞋恚睡眠調戲疑。此諸蓋是謂惡不善法。是二內外惡法斷是謂離。心迴轉緣是謂覺。心受行思惟是謂觀。惡不善法斷。力得禪是謂離欲。心生悅是謂喜。身心安隱是謂樂。心繫緣中是謂一心。是初禪五支。姪欲大苦罪不樂離力安隱出。如是思惟欲等。諸善法心中生。是謂得初禪道。是三痛根相應。喜樂護根。樂根三識身相應。眼耳身識。喜根意識相應。護根四識相應。是初禪有別身別想有別身一想。四心初禪眼耳身意。是謂初禪諸覺觀。滅內淨一心無覺無觀定生得喜樂相應。是謂二禪覺觀。如前說。斷却是謂滅。諸地信無垢是謂內清淨。意識繫緣不散是謂一心。喜樂支如前說。是二痛根相應。喜根護根。別身一想喜相應根本近地護根相應。除滅覺觀垢。除滅思惟功德。是道趣二禪。離喜垢故。護行下受身樂無漏人。是說樂護念。下樂入三禪。離喜如前說。護心放捨樂二種痛樂不煩惱。是樂身中行念守看是樂難知實法。是故無漏說樂。亦行護欲等諸善法。是道趣三禪。觀喜惡罪不喜樂觀禪。止樂護念智一心。是謂五支如前說。是謂三禪。斷樂苦先滅憂喜根。護念淨入四禪。欲等諸善法。亦復觀樂苦垢不苦不樂善止是道入四禪。四支護念善智一心

禪力滅喘息。是謂四禪。一切禪支善。未到禪地有覺有觀。中間禪無覺有觀。是二地護根相應。未到禪地二種淨無漏非味。四禪中三種味淨無漏。是謂禪法。離色憶亦觀無量空。入空定觀色垢空處善止。觀是道趣空定。憶無量識入識處。觀空處垢識處善止。觀是道趣識定。無量識行是。為苦。憶不用處行入不用定。觀無量識處垢。不用處善止。觀是道趣不用定。有想處病無想處癡。如是思惟入有想無想定。觀不用處垢。有想無想善止。觀是道趣有想無想定。是謂有想無想定。趣涅槃道二種。一觀身不淨。二念數息。身意止中第一二解脫。四除入中廣說不淨法。入定數息一二乃至十念。守出入息如守門人。觀一切法起滅。是二相。自相六種分別。觀身無常苦空非我。如是一切諸法觀。恐畏世界漸漸滅垢行善法。起。至涅槃。未到禪地中間禪地四禪地三無色地有二種。有漏無漏。有頂一切有漏十想。無常苦苦無我。觀食一切世間不可樂不淨死斷無欲盡想。憶念諸行無常。是謂無常想。憶念生等苦滿世間。是謂苦想。憶念內外無常苦不自在空。是謂苦無我想。憶念多勤苦得食噉時不淨。是謂觀食想。憶念生老病死等怖畏種種煩惱滿世界。是謂一切世間不可樂想。自身內實觀。是謂不淨想。憶念一切生必得死。是謂死想。憶念滅一切煩惱善止。是謂斷想。憶念非常離欲。是謂無欲想。憶念五受陰更不生盡止妙離涅槃。是謂盡想。是十想常憶念得盡苦際

*阿毘曇甘露味雜定品第十三
三昧等通一切。入。陰入智解脫禪。三三昧空三昧無願三昧無想三昧。心繫緣無漏故是謂三昧。一心觀五受陰空無我非我。是謂空三昧。入是三昧不願姪怒癡更有生。是謂無願三昧。是三昧緣離十*想法。云何十*想。色等五塵。男女生老無常。是謂無*想三昧。空三昧二行。空行無我行。無願三昧十行。無常苦行亦習道行。無*想三昧盡四行。四等慈悲喜護。自得快樂事念與一切衆生。是有三種心。先所親眷屬。次及中人後怨家賊。一心思惟。一切三界衆生身及怨家等無異。除內瞋恚。是慈等相應痛想行識。能起正語正業。亦不相應諸行。是謂慈等。一心思惟。三界衆生身心種種辛苦欲拔濟。如是思惟能除外惱。是悲等相應痛想行識。能起正語正業。亦不相應諸行。是謂悲等。一心思惟。三界衆生歡喜得樂能除憂苦。喜等相應痛想行識。能起正語正業。亦不相應諸行。是謂喜等。一心思惟。三界衆生樂苦喜放護。能除欲瞋護等相應痛想行識。能起正語正業。亦不相應諸行。是謂護等。六通神足天眼天耳識宿命他心智漏盡通。除第六通。餘殘凡夫亦得。云何神足通是有三種。一者飛行二變化三聖人通有三種飛行。一身去譬如飛鳥。二於此土忽然不現到他方。三心力自在如屈申臂。是謂諸佛神通非餘道。常觀身空學輕舉。是道趣神通。能大能小能多少能少多。能轉作種種物。是謂變化神通。凡夫人變化至七日。

◎(若)十生◎◎欲二深◎◎諸二五◎◎善十(心)◎◎爲一謂◎◎自二是◎◎起一應◎◎至十(到)◎◎入二人◎
◎入二人◎◎想二相◎◎通十(佛通)◎

不過七日滅。佛佛弟子自在變化。變化時觀世間淨作不淨。不淨作淨。除淨不淨念心念護。是謂聖人神通。是三種通從四神足力生。一切色緣漸得輕舉。諸佛一時得。天眼通自眼邊。色界四大造淨生得天眼。自地下地近遠徹視。見一切細微色。憶念日月星宿火明珠。是道得天眼通。天耳通自耳邊。色界四大造淨生得天耳。天人地獄餓鬼畜生種種聲憶念識知。是道趣天耳通。識宿命通念先世事所來生處。是道趣宿命通。知他人神通。常念他染污心及他清淨心悉知。自心生滅能分別知。是道趣知他心通。三界漏一切我盡。如是知五受陰無常等憶念。是道得漏盡通。宿命通及天眼漏盡是謂明。宿命通知因緣世次第是謂明。天眼通知因緣如行業得報是謂明。漏盡通欲界色無色界漏盡我盡諸漏是謂明。十一切入。憶念一切地不念餘。是謂地一切入。乃至識一切入亦如是。八解脫。內有色想外觀色。內無色想外觀色。淨解脫作證四無色定滅盡定。是謂八解脫。緣觀轉心得解脫。是謂解脫。觀內色不淨及觀外色。是謂初解脫。不觀內色觀外色不淨。是第二解脫。分別觀內外色一切淨色。是第三解脫。四無色定四解脫滅盡解脫。內有色想外觀色少好醜。是緣勝知見第一除入。內有色想外觀色無量好醜。是緣勝知見第二除入。內無色想外觀色少好醜。是緣勝知見第三除入。內無色想外觀色無量好醜。是緣勝知見第四除入。內無色想外觀色青是緣勝知

見第五除入。黃赤白亦如是。內不除色想外淨少色觀。一無量緣。二內除色想外淨少色觀。三無量緣。四除青黃赤白憶念。四除入淨緣勝。是故說除入。好色形像端正除垢故解脫。是謂除入。名別三解脫四除入。八一切入淨解脫攝。十智如前說。三等慈悲護及五通根本四禪中有。六地中法智未到禪中間禪根本四禪喜等第一第二解脫。初四除入。禪初禪二禪中有餘殘除入淨解脫八一切入第四禪中有。餘殘解脫二一切入自名攝。滅盡解脫有頂中攝。三三昧七智漏盡通九地中有漏。有頂中一切有漏鈍不捷疾。是故有漏滅盡定無智慧。是故有漏。五通中多無記心四等緣衆生。是故有漏。欲愛未盡三界結使成就。欲愛已盡色無色界結使成就。色愛盡無色界結使成就。無色界愛盡三界結使不成就。欲界愛盡淨無漏初禪成就。如是一切地中聖人無漏成就。聖人生上下地無漏成就。求得五通四等下地結垢不成就。世俗道依未到禪地離下地欲。如是一切地無漏道依根本禪地。自地亦上地離欲。如是一切地。是故凡夫有頂中不能離欲。煖法頂法忍法世間第一法離欲。人修有漏禪定。二時。現在未來。見諸道中苦習盡。未知智中現在前修無漏智。未來二種有漏無漏智。餘殘心中現前無漏未來無漏。世尊弟子若離欲愛。依未到禪地現在前修有漏道。未來修有漏無漏

道。第九解脫道現在修有漏道。未來修有漏無漏。初禪及修無漏未到禪。若依未到禪現在修無漏道。未來修有漏無漏道。第九解脫道中現在前修無漏道。未來修有漏無漏道。初禪世尊弟子若離初禪愛欲。依未到二禪地現在前修有漏道。未來修有漏無漏道。第九解脫道中現在前修有漏道。未來修無漏。三種初禪及修淨無漏第二禪。若離初禪愛。依無漏道趣二禪。自地修無漏。他地修有漏無漏道。第九解脫道中現在前修無漏道。未來修無漏。三種初禪及淨無漏第二禪。乃至不用處離欲亦復如是。有頂中離欲時。修一切無漏禪定。第九解脫道中現在前修無漏道。未來修無漏。及修三界繫善根二十三種定。有味八淨八無漏七一切無漏七地無漏自然因。自地無漏。自地無漏三種因。相應因共有因自然因。第一有味定。第一有味定因非他因。第一淨定。第一淨定因非他因。第一無漏定。次第起六種定。第一禪二種淨無漏。如是第二第三禪。無漏第二禪次第三生八。地。自地二上地四下地二。無漏第三禪第四禪空處定。次第生。上上地四下地四自地二。無漏識處次第生。九。上地三下地四自地二。無漏不用。處定次第生。七。上地一下地四自地二。第四無色定次第生。六。下地四自地二。淨禪亦如是。有味次第生二。自地有味亦復淨。如是一切地諸禪定淨無漏。一切緣一切法緣。有味自地。自地有味緣亦復淨。緣有味不能無漏緣諸淨。無漏無色定不緣有漏地。有

①(禪)一②③ ④二⑤三⑥ ⑦(地)一⑧ ⑨十(地)⑩ ⑪九(地)⑫ ⑬(處)一⑭ ⑮七(地)⑯ ⑰六(地)⑱

味無色定自地有味緣。及緣淨不能緣無漏。四等八除入三解脫八一切入。是諸法一切欲界緣。五通欲色界緣。一切薰禪無漏禪薰有漏禪。得四禪人先薰第四禪後薰下三禪得五淨居報。不動法阿羅漢。得一切禪定。是能得頂禪。能住壽亦能捨壽。願智從心所願。盡知去來今諸法。多知未來法。四辯法辯辭辯應辯義辯令他心不起恚。是謂無諍。四禪中攝。亦復欲界願智第四禪攝。亦復欲界法辯辭辯欲界攝。及梵天中餘二辯九地攝。欲界四禪四無色淨禪二時。得離欲時。得生時。得有頂禪二時。得退時得生時。得無漏禪二種得。若退時得若離欲得九地攝。無漏能斷結使。變化有十四心。色界十心欲界四心。初禪有二變化心。初禪一欲界一。二禪有三變化心。二禪一初禪一欲界一。三禪有四變化心。三禪一初禪一欲界一。四禪有五變化心。四禪一三禪一初禪一欲界一。何等禪成就。是果下地變化心。成就三禪地住。梵天識現在前能見聞。爾時成就。即滅爾時不成就。

*阿毘曇甘露味三十七品第十四

意止意斷神足根力覺道。是七法到涅槃。是中七覺無漏。六當分別或有漏或無漏。有言。七覺意八直道一切無漏。餘殘當分別。四意止一切地禪定中有攝四種智常念守。是謂念止。三種念身中行智慧。是謂身念止。如是痛心法念止。是謂四念止。以何等故。不說三念止若五念止。以破四顛倒故說四念止云何

身念止。淨想顛倒壞故。身實相觀三十六不淨若死蟲生臭爛骨在等。如是觀身淨想顛倒壞。云何痛念止。觀諸有痛生住滅苦。樂痛中婬欲使。苦痛中瞋恚使。不苦不樂痛中無明使。觀無常苦空無我。是謂痛念止。云何心念止。觀染污心不染污心。若一心若散心苦無常等觀。是謂心念止。云何法念止。觀內法觀外法。觀內外法。若觀去來法。若觀諸結使幾斷幾不斷。若觀苦無常。觀習因緣觀盡止。是謂法念止。云何四意斷。心中生惡不善法欲除却。欲勤精進制心住善法。未生惡不善法莫令生。勤精進制心住善法。未生善法欲使生。勤精進住善法。已生善法念住莫失。增長廣大勤精進住善法。是謂四意斷。云何四神足。欲定精進定心定。勤慧定從是得一切功德。是謂四神足。欲定斷諸行。成就第一神足。欲作是謂欲。心不散是謂定。欲精進念慧喜猗。是謂諸行合欲定。如是精進心慧欲大欲得定故。是謂欲定。如是精進心慧。是謂四神足。信精進念定慧。是謂五根。四不壞信中有信。是謂信根。四意精進。是謂精進根。四念止中念不忘。是謂念根。四禪定中一心。是謂定根。四諦中慧。是謂慧根。根利疾第一。是謂根義。信等五力惡不善法不能壞。是謂力。小是根大是力。念擇法精進喜猗定護。是謂七覺。云何念。念有為法生滅種種罪涅槃至妙。是謂念覺。是中分別思惟。是謂擇法覺。是中思惟勤精進。是謂精進覺。是中得善法味歡悅。是謂喜覺。是中思惟身心輕

軟安隱隨定是謂猗覺。是中因緣攝心住不亂。是謂定覺。是中放心息不念不欲。是謂護覺。種種智慧得禪定力。除一切煩惱。是謂七覺果。一切煩惱斷念等七法是名覺。直見直思直語直業直命。直念直方便直定。是謂八直道。四諦中實智慧。是謂直見。是中善不瞋不惱三種覺觀。是謂直思。四種邪語斷。是謂直語。三種邪業斷。是謂直業。不善邪命斷。是謂直命。是中思惟勤精進。是謂直方便。是中思惟念不忘。是謂直念。是中一心住。是謂直定。是謂八直道趣涅槃。信精進念定慧喜猗護思戒。是十法分別說三十七信法。是謂信根信力精進精進根精進力四意斷精進覺意直方便。念根念力念覺意直念喜喜覺慧慧根慧力四念止擇法覺直見猗猗覺定定根定力四神足定覺直定護護覺思思戒直語直業直命直因緣。四種智慧住是名念止。直精進是名意斷。緣中一心住不散。是名四神足。鈍根人心中生。是名五根。利根人心中生。是名五力。見諦道中。是名八直道。思惟道中。是名七覺。是十法攝三十七品。未到禪地三十六除喜覺。二禪地亦三十六除直思。三禪四禪中間禪三十五除喜覺直思。初禪三十七。三空定三十二除喜覺直思直語直業直命。有頂中二十二除七覺八道。欲界亦二十二除七覺八道。

*阿毘曇甘露味四諦品第十五

四諦苦諦習盡道諦。云何苦諦。一種惱相為苦。二種身苦心苦。三種苦苦別離苦行無常

◎(得)一◎ ◎中十(已)◎ ◎(勤)一◎ ◎直念直方便二直方便直念◎ ◎念十(念)◎

苦四種身內外苦心內外苦五種五盛陰苦。六種三界苦三毒苦。七種七識處苦。八種苦生老病死怨憎會恩愛別離所求不得苦。一切種種苦是謂苦諦。云何習諦。是種種苦因五受陰是謂習諦。云何盡諦。苦習盡無餘智緣盡是謂盡諦。行八直道是謂道諦。是四諦次第應知斷證。自思惟實相。實得果。得行人。不欺誑是謂諦。龜識故次第。苦諦龜易識。以是先苦諦。識苦推苦因從習中生。以是習諦第二。是苦諦何處滅盡。得解脫思惟涅槃中。以是故盡諦第三。是盡云何得。思惟行八直道斷結使盡諦。以是故道諦第四。五受陰報果時是謂苦諦。五受陰因緣時是謂習諦。亦謂苦諦。譬如人亦名子亦名父。習諦多是結使。何等結使。九結愛結瞋結恚慢無明疑見失願慳嫉結。三界欲是愛結。眾生中心忿動惡利是瞋結。七種慢是慢結。三界繫愚癡是無明結。三見是見結。二見是失願結。四諦中不定了是疑結。心惜愛格是慳結。妬他含志是嫉結。盡諦二種。有漏斷結使盡是一種。無漏道斷結使盡是二種。種種諸淨法。若四辯法辭應義。一切名字知實相。是謂法辯。一切語言談論智。是謂辭辯。一切法知實相。是謂應辯。一切智慧語言禪定通智。是謂義辯。須陀洹四不壞信佛不壞信。法不壞信。僧不壞信。淨戒中不壞信。阿羅漢果攝諸無學法。種種佛大功德中無漏信。是謂佛不壞信。涅槃中無漏及無漏諦中學無學法中。及菩薩實功德中無漏信淨。是謂法不壞

信。得無漏道果信有四雙八輩一切功德。佛弟子眾中信非餘處。是謂僧不壞信。無教無漏戒。是中無漏信。是謂戒不壞信。淨實智慧共合信。以是故無能勝是無漏戒。是故不壞信是謂四不壞信。有四事修定。修定於現法中得樂居。修定得智見。修定分別慧。修定得漏盡諸善。初禪能得現在樂居。生死智通是謂智見。方便求功德。是欲界無教戒聞思修功德。一切色無色界法。一切無漏有為法。是謂分別慧。金剛喻四禪。是最後學心共相應漏盡。是謂修定。得漏盡第四禪所攝。四道苦難知苦易知。樂難知。樂易知。隨信行無漏法。鈍根是苦難知。隨法行無漏法利根苦易知。根本四禪中利根及鈍根法說樂道。何以故。止觀道等故。他地中止觀多少故是說。苦未到禪中間禪二處止道少觀道多。無色中觀道少止道多。是謂苦道難得。故七識住一欲界中諸天及人。色界梵衆天除初生天。是異身異想。二梵衆天初生異身一想。三二禪生天一身異想。四三禪生天一身一想。五空處生天。六識處生天。七不用處生天。是謂七識住。何以故。不壞識故。惡趣中苦痛壞識故。不立識住。第四禪無想定壞識故。亦不立識住。非想非非想處滅盡定壞識故。亦不得立識住。九衆生居此七識住。及無想衆生非想非非想處。是謂九衆生居。於中居止故。衣被飲食臥具喜斷結使。思惟緣力得道。是說四聖種。若好若不好。衣被飲食臥具知足三聖種。求守失苦。是三苦失善道。不食命不活。以是

故趣得知足。三苦失離欲心中得樂歡喜。是謂第四。百八種痛眼耳鼻舌身意更樂生。是謂六更。有三種眼見色憂喜護。乃至意念法憂喜護。是有善不善。善十八不善十八。是謂三十六。三種是謂百八。三十六過去。三十六未來。三十六現在。五識不能分別。是。故無憂喜。意行中心數法相續不斷常憶是謂念。憶因緣隨順是法。因緣重憶識念力強。是故不忘過去法。眼人心心數法因緣夢見有。無因無緣夢見。是夢若過去。世若未來世。若夢見人生角。是。先牛角。是強思惟人何以不生角。如是念已。夢見人生角心散心亂是謂癡。若身病故癡。若鬼魅故癡。若先世因緣故癡。三支。戒支定支慧支。云何戒支。欲界有教無教戒。色界中無教戒。云何定支。修十四定。云何慧支。三種慧聞思惟修。欲界二種聞思惟。色界二種聞思惟。無色界一種聞思惟。二種律儀。一情律儀。二戒律儀。云何情律儀。不得起姪母等想。若姊妹女想。見女人不應憶。不思念女根想。從是多罪惱。觀心身離是謂情律儀。除却姪欲種種不善法。不毀戒行無玷污。心無瑕穢淨却七姪欲。是謂戒律儀。煩惱惡業惡業報。是有三障。逆業極重煩惱三惡道報。是三事若一事不受聖法。是故說障。不善覺觀有三種。姪欲恚惱是破三種善覺觀。不姪不恚不惱。三種病姪怒癡是病有三種藥。身不淨觀慈念衆生觀十二因緣。是謂三種藥。修身修戒修心修慧。是法不受一切惡報。或多少受報。或今世或後世少受

①[得]一②③ ④僧一增⑤ ⑥謂一說⑦ ⑧樂一藥⑨ ⑩[三苦失]一⑪⑫ ⑬故一謂⑭ ⑮眼一觀⑯ ⑰慧一法⑱ ⑲先十(見)⑳ ㉑思惟二及修⑳ ㉒思惟二謂修㉓ ㉔說二混㉕ ㉖玷一點㉗

初無漏心。是時捨凡夫性。生他界時亦捨凡夫性。得他界凡夫性。離欲時第九解脫道中斷。云何三無為。智緣盡非智緣盡虛空。云何智緣盡。有漏無漏智慧力諸結使斷得解脫。是謂智緣盡。云何非智緣盡。未來因應生不生。是謂非智緣盡。云何虛空。無色處無對不可見。是謂虛空。共依因相應因共有因。先生自似因未生後諸法因。如是遍因亦次第緣。衆生中報因。一切有爲法。有爲法果亦涅槃果。何以故。一切有爲法。因緣生涅槃道果。諸相應法一緣中一時共行。他相中非自相中。心心數法無處無方土。所以者何。緣一切處故。道生時諸結使欲滅。是故欲生道得解脫。不滅道時欲滅無礙道斷結使。欲生解脫得解脫。三愛欲愛有愛不有愛。諸物求索是謂欲愛。得時貪惜是謂有愛。見斷求斷是謂不有愛。思惟所斷三十七品。除直思直語直業直命猗護。餘殘是根法。四念止一一現在前。何以故。分別緣諸法。諸法他相應自不相應。緣諸法中結使應離。是爲斷有斷未離。云何斷未離。得苦智未得習智。習智所斷。苦諦所斷。緣三諦中得二不壞信。苦諦習智盡諦法戒不壞信。道諦中得四不壞信。一切心數法隨心行。共一緣故。如是無教戒生住老壞隨心行。一切有漏法應斷何以故。罪垢故。一切有漏無漏法應知。何以故。智緣一切法過去未來諸法遠。何以故。不辦事故現在諸法近。何以故。辦事故無爲亦近。何以故。疾得故。一切有漏法見處五見緣故。極多少成就十

九根情不壞。有二根亦復見諦人不壞情未離欲。是謂十九。最少八根斷善根。漸命終有殘身根。亦復無色界凡夫更樂三事合情緣識。是更樂五種。有對增語明無明非明非無明。五識相應是謂有對。意識相應是謂增語。染污更樂是謂無明。無漏更樂是謂明不染污。有漏更樂是謂非明非無明。兩道得果。一斷結使。二得解脫。阿羅漢報心般涅槃。一切法放捨故。四有生有死有本有中。初生得五陰是謂生有。死時五陰是謂死有。除生死五陰中間是謂本有。死已能到諸趣五陰是謂中有。苦習諦智忍緣諸法是謂厭。厭物緣故四諦中諸智忍是爲離欲。欲滅故。三有漏欲有無明。欲界除無明餘殘煩惱。是謂欲有漏色無色界除無明餘殘煩惱。是有有漏三界繫癡是無明。漏。是諸漏一切盡。是時得一切苦盡得一切智甘露味。得道聖人名瞿沙造
阿毘曇甘露味論卷下

入阿毘達磨論卷上

No. 1554

塞建。陀羅阿羅漢造

三藏法師玄奘奉 詔譯

- 敬禮一切智 佛日無垢輪
- 言光破人天 惡趣本心闇
- 諸以對法理 拔除法相愚
- 我頂禮如斯 一切智言藏

劣慧妄說聞 覆蔽牟尼言
照了由明燈 稽首然燈者
有聰慧者。能具受持諸牟尼尊教之文義。由拘事業有未得退。有劣慧者。聞對法中名義稠林便生怖畏。然俱恒有求解了心。欲令彼於阿毘達磨法相海中深潤。復處欣樂易入。故作斯論
謂善逝宗有八句義。一色二受三想四行五識六虛空七擇滅八非擇滅。此總攝一切義。色有二種。謂大種及所造色。大種有四。謂地水火風界能持自共相。或諸所造色。故名爲界。此四大種如其次第以堅濕煖動爲自性。以持攝熟長爲業。大而是種故名大種。由此虛空非大種攝。能生自果是種義故。遍所造色故名爲大。如是大種唯有四者。更無用故。無堪能故。如床座足。所造色有十一種。一眼二耳三鼻四舌五身六色七聲八香九味十觸一分十一無表色。於大種有故名所造即是依止大種起義。此中眼者。謂眼識所依。以見色爲用淨色爲體。耳鼻舌身准此應說。色有二種。謂顯及形。如世尊說惡顯惡形。此中顯色有十二種。謂青黃赤白煙雲塵霧影光明闇。形色有八種。謂長短方圓。高下正不正。此中霧者。謂地水氣。日焰名光。月星火藥寶珠電等諸焰名明。障光明生於中。餘色可見名影。翻此名闇。方謂曼曼方。圓謂團圓形平等名正。形不平等名不正。餘色易了故今不釋。此二十種皆是眼識。及所引意識所了別境。聲有二種。謂有執受及無執受。大種爲因有差

①中一定 ②不滅道二道滅 ③厭一 ④有 ⑤有 ⑥有 ⑦有 ⑧有 ⑨有 ⑩有 ⑪有 ⑫有 ⑬有 ⑭有 ⑮有 ⑯有 ⑰有 ⑱有 ⑲有 ⑳有 ㉑有 ㉒有 ㉓有 ㉔有 ㉕有 ㉖有 ㉗有 ㉘有 ㉙有 ㉚有 ㉛有 ㉜有 ㉝有 ㉞有 ㉟有 ㊱有 ㊲有 ㊳有 ㊴有 ㊵有 ㊶有 ㊷有 ㊸有 ㊹有 ㊺有 ㊻有 ㊼有 ㊽有 ㊾有 ㊿有

別故。墮自體者名有執受。是有覺義。與此相違名無執受。前所生者名有執受。大種爲因。謂語手等聲。後所生者名無執受。大種爲因。謂風林等聲。此有情名非有情名差別爲四。謂前聲中語聲名有情名。餘聲名非有情名。後聲中化語聲名有情名。餘聲名非有情名。此復可意及不可意差別成八。如是八種皆是耳識及所引意識所了別境。香有三種。一好香二惡香三平等香。謂能長養諸根大種名好香。若能損害諸根大種名惡香。若俱相違名平等香。如是三種皆是鼻識。及所引意識所了別境。味有六種。謂甘酢鹹辛苦淡別故。如是六種皆是舌識。及所引意識所了別境。觸一分有七種。謂滑性澀性重性輕性及冷飢渴柔軟。名滑是。意觸義。龜強名澀。可稱名重。翻此名輕。由此所逼煖欲。因名冷。食欲因名飢欲因名渴。此皆於因立果名。故作如是說。如說諸佛出現樂等。大種聚中水火增故有滑性。地風增故有澀性。地水增故有重性。火風增故有輕性。水風增故有冷。風增故有飢。火增故有渴。無表色者。謂能自表諸心心所轉變差別。故名爲表。與彼同類而不能表。故名無表。此於相似立遮止言。如於利帝利等說非婆羅門等。無表相者。謂由表心大種差別。於睡眠覺亂不亂心。及無心位有善不善色相續轉不可積集。是能建立苾芻等因。是無表相。此若無者。不應建立有苾芻等。如世尊說。於有依福業事彼恒常福增長。如是無表總有三種。謂律儀不律

儀俱相違所攝故。律儀有三種。謂別解脫靜慮。無漏律儀別故。別解脫律儀復有八種。苾芻律儀。二苾芻尼律儀。三動策律儀。四正學律儀。五動策女律儀。六近事男律儀。七近事女律儀。八近任律儀。如是八種。唯欲界繫。靜慮律儀。謂色界三摩地隨轉色。此。唯色界繫。無漏律儀。謂無漏三摩地隨轉色。此。唯不繫。不律儀者。謂諸屠兒及諸獵獸捕鳥捕魚劫盜典獄縛龍煮狗豎涼魁膾。此等身中不善無表色相續轉。非律儀非不律儀者。謂造毘訶羅窣堵波僧伽。運摩等。及禮制多燒香散華讚誦願等。并捶打等所起種種善不善無表色相續轉。亦有無表。唯一刹那。依總種類故說相續。別解脫律儀由誓願受得前七至命盡第八一晝夜。又前七種捨由四緣。一捨所學故。二命盡故。三善根斷故。四二形生故。第八律儀即由前四及夜盡捨。靜慮律儀由得色界善心故得。由捨色界善心故捨。屬彼心故。無漏律儀得捨亦爾。隨無漏心而得捨故。得不律儀由作及受。由四緣故捨不律儀。一受律儀故。二命盡故。三二形生故。四法爾得。色界善。心處中無表。或由作故得。謂殷淨心猛利煩惱。禮讚制多及捶打等。或由受故得。謂作是念。若不爲佛造曼。茶羅終不先食。如是等願。或由捨故得。謂造寺舍敷具園林施苾芻等。捨此無表。由等起心及所作事俱斷懷故。如是無表及前所說。眼等五根。唯是意識所了別境。齊此名爲初色句義。然諸法相略有三種。一自共相。二分共相。三遍

共相。自共相者。如變壞故。或變礙故。說名爲色。如是即說可惱壞義。如法王說。苾芻當知。由變壞故名色取蘊。誰能變壞。謂手觸故。即便變壞。乃至廣說。如能疾行故名爲馬。以能行故說名牛等。分共相者。如非常性及苦性等。遍共相者。如非我性及空性等。由此方隅。於一切法。應知三相。受句義者。謂三種領納。一樂二苦三不苦不樂。即是領納三隨觸義。從愛非愛非二觸生。身心分位差別所起。於境歡感非二爲相。能爲愛因。故名受。如世尊說。觸緣受受緣愛。此復隨識差別有六。謂眼觸所生受。乃至意觸所生受。五識俱生身受。意識俱生名心受。由根差別建立五種。謂樂根苦根喜根憂根捨根。諸身悅受。及第三靜慮心悅受名樂根。悅是攝益義。諸身不悅受名苦根。不悅是損損義。除第三靜慮。餘心悅受名喜根。諸心不悅受名憂根。諸身及心非悅非不悅受名捨根。此廣分別如根等處。想句義者。謂能假合相名義解。即於青黃長短等色。螺鼓等聲。沈麝等香。鹹苦等味。堅軟等觸。男女等法相名義中假合而解。爲尋伺因故名爲想。此隨識別有六如受。小大無量差別有三。謂緣少境故名小想。緣妙高等諸大法境故名大想。隨空無邊處等名無量想。或隨三界立此三名。行有二種。謂相應行不相應行。相應行者。謂思觸欲作意勝解念定慧尋伺信精進慚愧不放逸輕安不害捨欣厭不信懈怠忘放逸善根不

◎名二而◎ ◎意二喜◎ ◎因一◎ ◎冷十(性)◎ ◎運二羅◎ ◎心十(故)◎ ◎茶二茶◎ ◎故十(說)◎

持戒多聞工巧等事。若於劣謂已勝。或於等謂已等。由此令心高舉名慢。若於等謂已勝。或於勝謂已等。由此令心高舉名過慢。若於勝謂已勝。由此令心高舉名慢過慢。若於五取蘊執我所。由此令心高舉名我慢。若於未證得預流果等殊勝德中謂已證得。由此令心高舉名增上慢。若於多分族姓等勝中謂已少劣。由此令心高舉名卑慢。若實無德謂已有德。由此令心高舉名邪慢。如是七慢總名慢結。無明結者。謂三界無知以不解了為相。如盲瞽者違害明故。說名無明。此遮止言依對治義。如非親友。不實等言。即說怨家。虛誑語等。無明即是結故名無明結。見結者。謂三見即有身見邊執見邪見。五取蘊中無我所。而執實有我我所相。此染污慧名有身見。身是聚義。有而是身故名有身。即五取蘊於此起見名有身見。即五取蘊非斷非常。於中執有斷常二相。此染污慧名邊執見。執二邊故。若決定執無業無果無解脫無得解脫道。撥無實事。此染污慧名邪見。如是三見名見結。取結者。謂二取即見取戒禁取。謂前三見及五取蘊。實非是勝而取為勝。此染污慧名見取。取是推求及堅執義。戒謂遠離諸破戒惡禁。謂受持烏雞鹿狗露形拔髮斷食臥灰。或於妄執生福滅罪。諸河池中數數澡浴。或食根菓草藥藥物以自活命。或復塗灰。拔頭髮等皆名為禁。此二俱非能清淨道。而妄取為能清淨道。此染污慧名戒禁取。諸婆羅門有多聞者。多執此法以為淨道。而彼

不能得舉竟淨。如是二取名為取結。疑結者。謂於四聖諦令心猶豫。如臨歧路見結草人躊躇不決。如是於苦心生猶豫。為是非乃至廣說疑即是結故名疑結。嫉結者。謂於他勝事令心不忍。謂於他得恭敬供養財位多聞及餘勝法心生妬忌。是不忍義。嫉即是結故名嫉結。慳結者。謂於己法財令心吝惜。謂我所有勿至於他。慳即是結故名慳結。結義是縛義。如世尊說。非眼結色非色結眼。此中欲貪說名為結。如非黑牛結白牛亦非白牛結黑牛。乃至廣說。先所說結亦即是縛。以即結義是縛義。故然契經中復說三縛。一貪縛。謂一切貪如愛結相說。二瞋縛。謂一切瞋如恚結相說。三癡縛。謂一切癡如無明結相說。隨眠有七種。一欲貪隨眠。二瞋隨眠。三有貪隨眠。四慢隨眠。五無明隨眠。六見隨眠。七疑隨眠。此七別相結中已說。然應依界行相部別。分別如是七種隨眠。謂貪諸欲故名欲貪。此貪即隨眠故名欲貪隨眠。此唯欲界五部為五。謂見苦所斷。乃至修所斷。瞋隨眠亦唯欲界五部為五。有貪隨眠唯色無色界各五部為十。內門轉故。為遮於靜慮無色解脫想。故說二界貪名有貪。慢隨眠通三界各五部為十五。無明隨眠亦爾。見隨眠通三界各十二為三十六。謂欲界見苦所斷具五見。見集滅所斷唯有邪見及見取二。見道所斷唯有邪見見取戒禁取三。總為十二。上二界亦爾。為三十六疑隨眠通三界各四部為十二。謂見苦集滅道所斷此中欲貪及瞋隨眠。唯有部

別無界行相別。有貪疑慢無明隨眠。有界部別無行相別。見隨眠具有界行相部別。行相別者謂我所。行相轉者名有身見。斷常行相轉者名邊執見。無行相轉者名邪見。勝行相轉者名見取。淨行相轉者名戒禁取。微細義是隨眠義。彼現起時難覺知故。或隨縛義是隨眠義。謂隨身心相縛而轉。如空行影水行隨故。或隨逐義是隨眠義。如油在麻膩在搏故。或隨增義是隨眠義。謂於五取蘊由所緣相應而隨增故。言隨增者。謂隨所緣及相應門而增長故。如是七種隨眠。由界行相部差別故成九十八隨眠。謂欲界見苦所斷具十隨眠。即有身見邊執見邪見見取戒禁取疑貪瞋慢無明。見集所斷有七隨眠。於前十中除有身見邊執見戒禁取見滅。所滅所斷有七隨眠亦爾。見道所斷有八隨眠。謂即前七加戒禁取。修所斷有四隨眠。謂貪瞋慢無明。如是欲界有三十六隨眠。色界有三十一隨眠。謂於欲界三十六中除五部瞋。無色界亦爾。故有九十八隨眠。於中八十八見所斷。十修所斷。三十三是遍行。謂界中見苦集所斷諸見疑。及彼相應不共無明。餘皆非遍行。十八是無漏緣。謂界中見滅道所斷邪見疑。及彼相應不共無明。此十八種緣滅道故名無漏緣。餘皆有漏緣。此中有漏緣者。由所緣相應故隨增。無漏緣者。但於自聚由相應故隨增。九是無為緣。謂界中見滅所斷邪見疑。及彼相應不共無明。緣滅諦故名無為緣。餘皆有為緣。十種隨眠次第生者。先由無

①拔頭髮二持頭鬚 ②一斷 ③縛二續 ④〔所滅〕一 ⑤界十〔界〕

立取。謂在家衆由此誑惑。計自餓服氣及墜山巖等爲天道故。諸出家衆由此誑惑。計捨可愛境受杜多功德爲淨道故。薪義是取義。能令業火熾然相續而生長故。如有薪故火得熾然。如有煩惱故有情業得生長。又猛利義是取義。或纏裹義是取義。如蠶處繭自纏而死。如有情四取所纏。流轉生死喪失慧命。身繫有四種。謂貪欲身繫。瞋恚身繫。戒禁取身繫。此實執身繫。欲界五部貪名初身繫。五部瞋名第二身繫。六戒禁取名第三身繫。十二見取名第四身繫。種種纏縛有情自纏故名身繫。是等網網有情身義。

蓋有五種。謂貪欲蓋瞋恚蓋憍沈睡眠蓋掉舉惡作蓋疑蓋。欲界五部貪名初蓋。五部瞋名第二蓋。欲界憍沈及不善睡眠名第三蓋。欲界掉舉及不善惡作名第四蓋。欲界四部疑名第五蓋。覆障聖道及離欲染并此二種加行善根故名爲蓋。

前說諸界諸趣。諸生諸地。受苦應說。云何界趣生。地界有三種。謂欲界色界無色界。欲界有二十處。謂八大地獄。一活。二黑繩。三衆合。四號叫。五大號叫。六炎熱。七極炎熱。八無間。并傍生鬼界爲十。有四洲人。一瞻部洲。二勝身洲。三牛貨洲。四俱盧洲。有六欲天。一四大王衆天。二三十三天。三夜摩天。四覩史多天。五樂變化天。六他化自在天。合二十處。色界有十六處。謂初靜慮有二處。一梵衆天。二梵輔天。第二靜慮有三。一少光天。二無量光天。三極光淨天。第三靜慮有三。一少

淨天。二無量淨天。三遍淨天。第四靜慮有八天。一無雲天。二福生天。三廣果天。四無煩天。五無熱天。六善現天。七善見天。八色究竟天。合十六處。大梵無想無別處所故非十八。無色界雖無上下處所。而有四種生處差別。一空無邊處。二識無邊處。三無所有處。四非想非非想處。趣有五種。一捺洛迦。二傍生。三鬼界。四天。五人。生有四種。謂卵胎濕化。地有十一。謂欲界未至靜慮中間四靜慮。四無色爲十一地。欲界有頂一向有漏。餘九地通有漏及無漏。前界趣生一向有漏。

智有十種。謂法智。類智。世俗智。他心智。苦智。集智。滅智。道智。盡智。無生智。於欲界諸行及彼因滅加行無間解脫勝進道。并法智地中所有無漏智名法智。無始時來常懷我執。今創見法故名法智。於色無色界諸行及彼因滅加行無間解脫勝進道。并類智地中所有無漏智名類智。隨法智生故名類智。諸有漏慧名世俗智。此智多於瓶衣等世俗事轉故。名世俗智。此有二種。一染污。二不染污。染污者復有二種。一見性。二非見性。見性有五。謂有身見。邊執見。邪見。見取。戒禁取。非見者。謂疑貪瞋慢無明忿害等相應慧。不染污者。亦有二種。一善。二無覆無記。無覆無記者。非見不推度故。是慧及智。善者若五識俱。亦非見是慧及智。若意識俱。是世俗正見亦慧亦智。諸定生智能了知他欲色界繫。一分無漏現在相似心所法名他心智。此有二種。一有漏。二無漏。有漏者。能了知他欲色

界繫。心心所法。無漏者有二種。一法智品。二類智品。法智品者。知法智品心心所法。類智品者。知類智品心心所法。此智不知色無爲心不相應行。及過去未來無色界繫。一切根地補特伽羅勝心心所皆不能知。於五取蘊果分有無漏智。作非常苦空非我行相轉名苦智。於五取蘊因分有無漏智。作因集生緣行相轉名集智。於彼滅有無漏智。作滅靜妙離行相轉名滅智。於彼對治得涅槃道有無漏智。作道如行出行相轉名道智。有無漏智作是思惟。苦我已知。集我已斷。滅我已證。道我已修。盡行相轉名盡智。有無漏智作是思惟。苦我已知。不復更知。乃至道我已修。不復更修。無生行相轉名無生智。此後二智不推度故。非見性。他心智。唯見性。餘六智通見性。非見性。世俗智。唯有漏。他心智。通有漏及無漏。餘八智。唯無漏。滅智。唯無爲緣。他心。苦集道智。唯有爲緣。餘五智。通有爲無爲緣。苦集智。唯有漏緣。滅道智。唯無漏緣。餘六智。通有漏無漏緣。法智。在六地。謂四靜慮。未至中間。類智。在九地。謂前六地下三無色。他心智。在四地。謂四靜慮。世俗智。在一切地。餘六智。法智。品者在六地。類智品者在九地。

忍有八種。謂苦集滅道。法智忍及苦集滅道類智忍。此八是能引決定智勝慧。忍可苦等四聖諦理。故名爲忍。於諸忍中。此八唯是觀察法忍。是見及慧。非智自性。決定義是智義。此八推度意樂未息。未能審決。故不名智。苦法智忍與欲界見苦所斷十隨眠得俱滅。

◎經一體◎ ◎論一覽◎ ◎謂一諸◎ ◎唯二惟◎

苦法智與彼斷得俱生。忍為無間道。智為解脫道。對治欲界見苦所斷十種隨眠。如有二人。一在舍內驅賊令出。一關閉門不令復入。苦類智忍與色無色界見苦所斷十八隨眠得俱滅。苦類智與彼斷得俱生。餘如前說。如是四心能於三界苦諦現觀於集滅道各有四心。應知亦爾。此十六心能於三界四諦現觀。斷見所斷八十八結得預流果。餘修所斷十種隨眠。謂欲界四色無色界各三為十。欲界四種譬如東廬總分為九。謂從上上乃至下下。彼對治道無間解脫亦有九品。謂下下品道能對治上上品隨眠。乃至上上品道能對治下下品隨眠。六品盡時得一來果。九品盡時得不還果。如欲界四總分為九。亦有九品無間解脫能對治道。色無色界各有四地。一。地中能治所治。各有九品應知亦然。漸次斷彼八地隨眠。乃至有頂下下品盡時得阿羅漢果。四果中間所有諸道。及前見道名為四向。隨在彼果前即名彼果向。如有八補特伽羅。謂行四向及住四果。如是向果由種性別分。為六種。謂鈍利根種性異生。若入見道十五。心。須名隨信行及隨法行。即此二種至修道位。謂從第十六心乃至金剛喻定。名信勝解及名見至。即此二種至無學位。謂從初盡智乃至最後心。名時解脫及不時解脫等。謂心。所種類差別有無量種。依心有故名心所法。猶如我所。如是心所名相應行不相應行與此相違。謂諸得等。得謂稱說有法者。因法有三種。一淨。二不淨。三無記。淨

謂信等。不淨謂貪等。無記謂化心等。若成此法名有法。者稱說此定因。名得獲成就。得若無者。貪等煩惱現在前時。有學既無。無漏心故應非聖者。異生若起善無記心。爾時應名已離染者。又諸聖者與諸異生無涅槃得。互相似故應俱名異生。或俱名聖者。如法王說。起得成就十無學法故名聖者。永斷五支。乃至廣說。又世尊說。苾芻當知。若有成就善不善法。我見如是諸有情類。心相續中善不善得增長無邊。作如是說。汝等苾芻。不應校量有情勝劣。不應妄取補特伽羅德量淺深。乃至廣說。故知法外定有實得。此有二種。一者未得已失今獲。二者得已不失去。應知非得與此相違。於何法中有得非得。於自相續及二滅中有得非得。非他相續。無有成就他身法故。非非相續。無有成就非情法故。亦非虛空。無有成就虛空者故。彼得無故非得亦無。得有三種。一者如影隨形得。二者如牛王引前得。三者如犢子隨後得。初得多分如無覆無記法。第二得多分如地上地沒生欲界結生時欲界善法得。第三得多分如聞思所成慧等。除俱生所餘得。此中應作略毘婆娑。謂欲界繫善不善色無前生得。但有俱生及隨後得。除眼耳通慧及能變化心。并除少分。若威儀路若工巧處極數習者。諸餘一切無覆無記法。及有覆無記表色。唯有俱生得。勢力劣故無前後得。所餘諸法一一容有前後俱得。善法得。唯善。不善法得。唯不善。無記法得。唯無記。欲界法得。唯欲界。色界法

得。唯色界。無色界法得。唯無色界。無漏法得通三界及無漏法。無漏法者。謂道諦三無為。俱不繫故。道諦得。唯無漏非擇滅得通三界。擇滅得色無色界。道力起者即墮彼境界。無漏道力起者是無漏故。無漏法得總說有四種學法得。唯學。無學法得。唯無學。非學。非無學法得有三種。非學。非無學法者。謂諸有漏及無為有漏。及非擇滅得。唯非學。非無學。擇滅得學道力起者。唯學。無學道力起者。唯無學。世間道力起者。唯非學。非無學。見所斷法得。唯見所斷。修所斷法得。唯修所斷。非所斷法得有。三種。謂修所斷及非所斷。非所斷法者。謂道諦及無為。道諦得。唯非所斷。非擇滅得。唯修所斷。不染污故。是有漏故。故擇滅得。世間道力起者。唯修所斷。無漏道力起者。唯非所斷。一切非得皆。唯無覆無記性攝。非如前得有差別義。然過去未來法一一各有三世非得。現在法無現在非得。得與非得性相違故。無有現在可成就法。不成就故。然有過去未來非得欲色無色界及無漏法一一皆有三界非得。無有非得是無漏者。非得中有異生性故。如說。云何異生性。謂不獲聖法。不獲即是非得異名。又諸非得。唯無記性。故非無漏

已離第三靜慮染。未離第四靜慮染。第四靜慮地心心所滅。有不相應法名無想定。雖滅一切心心所法而起此定。專為除想故名無想。如他心智。此無想定是善第四靜慮所攝。唯非聖者相續中起求解脫想。起此定故。聖

○若二若○ ○為二有○ ○[心]一○ ○須二頃○ ○類○ ○解十(脫)○ ○所二種○ ○妄二忘○ ○婆二沙○ ○但二俱○ ○唯二惟○ ○[法]一○ ○隨二隨○ ○三二二○ ○[故]一○

者於此如惡趣想深心厭離。此唯順定受。謂順次生受。是加行得非離染得滅定者。謂已離無所有處染。有頂心心所法滅。有不相應法。能令大種平等相續。故名爲定滅。是有頂地加行善攝。或順次生受。或順後次受。或順不定受。起此定已未得異熟便般涅槃。故不定受。此定能感有頂地中四蘊異熟。彼無色故。聖者能起非諸異生。由聖道力起此定故。聖者爲得現法樂住求起此定。異生於此怖畏斷滅。無聖道力故不能起。聖者於此由加行得非離染得。唯佛世尊於此滅定名離染得。初盡智時已於此定能自在起。故名爲得。諸佛功德不由加行。隨欲即起現在前故。若生無想有情天中。有法能令心心所滅。名無想事。是實有物。是無想定異熟果故。名異熟生。無記性攝。即廣果天中有一勝處。如中間靜慮名無情天。生時死時俱有心想。中間無故立無想名。彼將死時如久睡覺還起心想。起已不久即便命終。生於欲界。將生彼者必有欲界順後次受決定業故。如將生彼北俱盧洲。必有能感生天之業。

先業所引六處相續無間斷因。依之施設四生五趣。是名命根亦名爲壽。故對法說云何命根。謂三界壽。此有實體能持煖識。如伽他言
壽煖及與識 三法捨身時
所捨身僵仆 如木無思覺

契經亦說。受異熟已名那落迦。乃至非想非非慮處應知亦爾。若異命根無別有法。是根性攝遍在三界。一期相續無間斷時。可依施設四生五趣。生無色界起自上地善染汚心。或起下地無漏心時依何施設化生天趣起善染時應名爲死若起無記憶復名生。撥無命根有。斯大過。諸有情類同作事業同樂欲因。名衆同分。此復二種。一無差別。二有差別。無差別者。謂諸有情皆有我愛。同資於食樂欲相似。此平等因名衆同分。一身內各別有一。有差別者。謂諸有情界地趣生。種姓男女近事茲芻。學無學等種類差別。一身內有同事業。樂欲定因名衆同分。此若無者。聖非聖等世俗言說應皆雜亂。諸異生性異生同分有何差別。同樂欲等因。說名彼同分。異生性者能爲一切無義利因。如契經說。茲芻當知。我說愚夫無。聞異生。無有少分惡不善業。彼不能造。又世尊說。若來人中得人同分。異生性於死生時。有捨得義。故異生性與同分別。

諸法生時有內因力。令彼獲得各別功能。即此內因說名生相。謂法生因總有二種。一內。二外。內謂生相。外謂六因。或四緣性。若無生相。諸有爲法應如虛空等。雖具外因緣亦無生義。或應虛空等亦有可生義成有爲性。是大過失。由此故知。別有生相能引別果。暫時住因說名住相。謂有爲法於暫住時各有勢力。能引別果令暫時住。此引別果勢力內因說名住相。若無住相。諸有爲法於暫住時。應更不能引於別果。由此故知有別住相。老謂衰損。引果功能令其不能重引別果。謂有爲法若無異相。衰損功能何緣不能引別果。已

更不重引。引而復引。應成無窮。若爾又應非剎那性。由此故知別有異相。無常者謂功能損已。令現在法入過去因。謂有別法名爲滅相。令從現在。墮過去世。此若無者。法應不滅。或虛空等亦有滅義。此四有爲之有爲相。若有此四有爲相者。便名有爲。非虛空等。然世尊說。有三有爲之有爲相。有爲之起亦可了知。盡及住異亦可了知。爲所化生。厭有爲故。如示。黑耳與吉祥俱。住異二相合說爲一。是故定有四有爲相。非即所相有爲法體。若即所相有爲體者。如所相體與能相一。能相亦應展轉無異。若爾諸法滅時應生。生時應滅。或全不生。此四本相。是有爲故。如所相法有四隨相。謂名生。生乃至滅。然非無窮。以四本相各相八法隨相。唯能各相一故。謂法生時并其自體九法俱起。自體爲一相隨相八。本相中生。除其自體生餘八法。隨相中生於九法內。唯生本生。勢力劣故。住異滅相應知亦爾。本相依法。隨相依。隨相。法因相故得有作。因相因隨相得有作用。作用者何。謂生住異滅。所生等者。謂引果功能。故有爲法體雖恒有而用非常。假茲四相內外因力。用用得成故名身。文身等者。謂依語生。如智帶義影像而現。能證自義名名句文。即是想章字之異目。如眼識等依眼等生帶色等義影像而現。能了自境名等亦爾。非即語音親能證義。勿說火時便燒於口。要依語故火等名生。由火等名證火等義。證者謂能於所顯義生他覺慧。非與義合。聲有礙故。

定滅二滅定 死時二時死 新二期 四二問 分十(非) 隨二隨 黑二異 隨一 因二 用 用二因

已永離染法故名爲離。獲此滅已衆苦皆息故名爲滅。證此滅已一切災患煩惱火滅故名涅槃。

非擇滅者謂有別法畢竟障礙未來法生。但由闕緣非由擇得。如眼與意專一色時。餘色聲香味觸等謝。緣彼境界五識身等。由此滅能永障故。住未來世畢竟不生。緣闕亦由此滅勢力。故非擇滅決定實有。如世尊說。若於爾時樂受現前二受便滅。彼言滅者。除此是何。定非無常及擇滅故。又契經說。苾芻當知。若得預流。已盡地獄。已盡鬼界。已盡傍生。此言盡者是非擇滅。爾時異熟法未得擇滅故。爲初業者愛樂勤學。離諸問答略制斯論。諸未遍知阿毘達磨深密相者。隨自意集諸戲論聚置於現前。妄構邪難欲相排毀。彼即誘佛所說至教。如世尊說。有二種人誘佛至教。一者不信生於憎嫉。二者雖信而惡受持。

*說一切有部入阿毘達磨論卷下

No. 1555 (cf. 1556)

五事毘婆沙論卷上

尊者法救造

◎三藏法師玄奘奉 詔譯

分別色品第一

敬禮佛法僧 我今隨自力

欲於對法海 探少眞實義

哀愍弟子等 當釋能生慧

滅愚五事論 令彼覺開發

尊者世友爲益有情製五事論。我今當釋。問何用釋此五事論耶。答爲欲開發深隱義故。若未開發此深隱義。如有伏藏未開發時。世間無能歡喜受用。若爲開發此深隱義。如有伏藏已開發時。世間便能歡喜受用。又如日月雖具威光雲等翳時不得顯照。若除彼翳顯照事成。本論文詞應知亦爾。雖略略辯種種勝義若不廣釋便不顯。爲令光顯故我當釋。問已知須釋五事論因。尊者何緣製造斯論。答有弟子等怖廣聞持。欲令依略覺自共相。謂彼尊者常作是思。云何當令諸弟子等於一切法自相共相依止略文起明了覺。以明了覺喻金剛山。諸惡見風不能傾動。不明了覺如蘆葦花。爲惡見風之所飄鼓。旋還飄颺猶豫空中。如是欲令諸弟子等起堅固覺。故作斯論。問何謂諸法自相共相。答堅固覺等是諸法自相。無常苦等是諸法共相。世間雖於諸法自相有能知者。然於共相皆不能知。如是欲令諸弟子輩於二相法能如實知。故造斯論。問已知須造五事論緣。此復爲何名五事論。答由此論中分別五事。是故此論得五事名。依處能生事義無異。阿毘達磨諸大論師咸作是言。事有五種。一自性事。二所緣事。三繫縛事。四所因事。五攝受事。當知此中唯自性事。問若爾何故說有五法。答事之與法義亦無異。問何故此論唯辯五法。有作是說。此責非理。若滅若增俱有難故。有說此論略顯諸法體類差別不相雜亂攝一切

法。故唯說五若總於五立一法名。雖是略說攝諸法盡。而不能顯心等五法體類差別不相雜亂。若說有漏無漏等二。有學無學非二。等三。欲色無色不繫等四。應知亦爾。問豈不列名即知有五。何故論首先標五數。答如續繫花易受持故。謂如以縷連繫衆花。易可受持莊嚴身首。如是數縷連繫衆花。易可受持莊嚴心慧。或先標數後列其名。是製作者舊儀式故。應知法聲義有多種。謂或有處所說名法。如契經說。汝應諦聽吾當爲汝宣說妙法。或復有處功德名法。如契經說。苾芻當知。法謂正見。邪見非法。或復有處無我名法。如契經說。諸法無我。當知此中無我名法。法謂能持。或能長養。能持於自長養望他。

問何故此中先辯色法。答一切法中色最難故。是一切誠所緣境故。與入佛法爲要門故。謂入佛法者。有二甘露門。一不淨觀。二持息念。依不淨觀入佛法者觀所造色。依持息念入佛法者觀能造風。問依何義故說之爲色。答漸次積集。漸次散壞。種植生長。會遇怨親。能壞能成皆是色義。佛說變壞故名爲色。變壞即是可惱壞義。有說變壞故名爲色。問過去未來極微無表皆無變壞。應不名色。答彼亦是色。得色相故。過去諸色雖無變壞。而當變壞故立色名。未來諸色雖無變壞。而當變壞故立色名。如過未眼雖不能見。而曾當見故立眼名。得彼相故此亦應爾。一一極微雖無變壞。而可積集變壞成。諸無表色雖無變壞。隨所依故得變壞名。所依者何。謂四大

法。故唯說五若總於五立一法名。雖是略說攝諸法盡。而不能顯心等五法體類差別不相雜亂。若說有漏無漏等二。有學無學非二。等三。欲色無色不繫等四。應知亦爾。問豈不列名即知有五。何故論首先標五數。答如續繫花易受持故。謂如以縷連繫衆花。易可受持莊嚴身首。如是數縷連繫衆花。易可受持莊嚴心慧。或先標數後列其名。是製作者舊儀式故。應知法聲義有多種。謂或有處所說名法。如契經說。汝應諦聽吾當爲汝宣說妙法。或復有處功德名法。如契經說。苾芻當知。法謂正見。邪見非法。或復有處無我名法。如契經說。諸法無我。當知此中無我名法。法謂能持。或能長養。能持於自長養望他。

◎獲二說◎ ◎ (唐)十三◎ ◎探一探◎ ◎眞一眞◎ 續◎ ◎愍二愍◎ ◎開二開◎ ◎發二發◎ ◎已二以◎ ◎眞二眞◎ ◎諸相自法二諸法自相◎ ◎辨二辨◎ ◎未二去◎

種。由彼變礙無表名色。如樹動時影亦隨動。或隨多分如名段食。或表內心故名爲色。或表先業故立名色。云何者。問尊者何故復說此言。答前所略說今欲廣辯。若有見有對色。若無見有對色。若無見無對色。總攝名爲諸所有色。言一切者。謂此諸色攝色無餘四大種者。問何故大種唯有四耶。協尊者曰。此責非理。若減若增俱有疑故。不違法相說四無失。有作是說。爲遮外道大種有五。故唯說四。彼執虛空亦是大種。問何故虛空不名大種。答虛空無有大種相故。謂大虛空是大非種。以常住法無造作故。大德妙音亦作是說。虛空大種其相各異。虛空雖大而體非種。又諸大種若能成身。多是有情業異熟攝。虛空無彼業異熟相。是故虛空定非大種。問所說大種其義云何。答亦種亦大故名大種。如世間說大地大王。問此中所說種是何義。答能多積集能大障礙。能辦大事故名爲種。問此四大種作何事業。答此四能造諸所造色。謂依此。四諸積集色。大障礙色。皆得生長。如是名爲大種事業。問造是何義。因爲緣。若是因義此四大種。於所造色五因皆無。如何可言造是因義。若是緣義諸所造色。除自餘法皆增上緣。是則不應唯四能造。有作是說。造是因義。雖四大種於所造色無相應等五種因義。而更別有生等五因。即是生依立持養五。復有說者。造是緣義。雖所造色除其自性。餘一切法皆增上緣。而四大種是所造色。近增上緣非所餘法。如說眼色。爲眼識緣。彼

說勝緣此亦應爾。問頗有是色非四大種。亦非大種所造色耶。答有。謂一或二或三大種。此一二三不名四故。又諸大種非所造故。問何故大種非所造耶。答因色果色相各異故。或諸大種若所造攝。爲四造一三造一耶。若諸大種四能造一。地等亦應還造地等。是則諸法應待自性。然一切法不待自性。但藉他緣而有作用。若諸大種三能造一。因數既闕。應不能造。如所造色因必具四。問已總了知大種所造。復欲開此二種別相。何謂大種。其相云何。答地等界名大種。堅等性是其相。問若堅性等是地等相。所相能相豈不成一。答許此成一亦有何過。故毘婆沙作如是說。自性我物相本性等。名言雖殊而義無別。不可說諸法離自性有相。如說涅槃寂靜爲相。非離寂靜別有涅槃。此亦應然。故無有過。此中堅性即堅分堅體約種類說。堅性是地界。然此堅性差別無邊。謂內法中爪髮等異。外法中有銅錫等殊。又內法中手足等堅異。外法亦爾。故堅性無邊。問若爾堅性應共相攝。云何說爲地等自相。答堅性雖多而總表如。地多變礙總表色蘊。所表既一故非共相。有說堅性通二相攝。觀三大種則成自相。若觀堅類有內外等無邊差別。復成共相。如變礙性通二相攝。觀餘四蘊則成自相。若觀色性有十一種品類差別。復成共相。又如苦諦其相逼迫觀三諦時此成自相。若觀有漏五蘊差別。即此逼迫復成共相。堅性亦然故通二種。問若如是者。云何建立自共相

別不相雜亂。答以觀。待故無雜亂失。謂若觀彼立爲自相。未嘗觀彼立爲共相。若復觀此立爲共相。未嘗觀此立爲自相。故自共相觀待而立。問已知大種相各有異。大種作業差別云何。答地界能持住行二類令不墜落。水界能攝性乖違事令不離散。火界能熟不熟物類令不朽敗。風界能令諸物增長或復流引。是謂大種各別事業。問地水火風各有二性。謂堅等性及色性攝。云何一法得有一相。答一法多相斯有何失。如契經說。一一取蘊有如病等無量種相。或堅等性是地界等自相所攝。其中色性是地界等共相所攝。故於一法有二種相。一自二共。亦不違理。問如是四界可相離不。答此四展轉定不相離。云何知然。契經說故。入胎經說。羯賴藍時若有地界無水界者。其性乾燥則應分散。既不散故知定有水界能攝。若有水界無地界者。其性融釋則應流注。既不流注。故知定有地界能持。若有水界無火界者。其性潤濕則應朽敗。既不朽敗。故知定有火界能熟。若有火界無風界者。其性則應無增長義。既漸增長。故知定有風界動搖。問若爾經說當云何通。如契經說。茲芻當知。於此身中火界若發。或即令捨命。或生近死苦。答經依增盛不增盛說。不言火體身中本無。問地界與地有何差別。答地界堅性地謂顯形。地界能造地謂所造。地界觸處身識所識。地謂色處眼識所識。是謂地界與地差別。水火亦然。風或風界。問已具了知堅濕暖動四大種相展轉乖違。

●大二太● ●問二問● ●[此]一● ●四+(大)● ●[法]一● ●別+(四)● ●待二故● ●觀二觀●

如四毒蛇居一身。復欲聞彼所造色相。且何名爲彼所造色。答彼所造色。謂眼根等。眼即根故說名眼根。如青蓮華餘。根亦爾。謂眼等五種亦界處攝。何故此中獨標根稱。答爲欲。簡別色等外境。謂若說爲眼等界處。則根。根義差別難知。是故此中獨標根稱。此則顯示所造色中內者名根外名根義。問此中所說根義云何。答增上最勝現見光明。喜觀妙等皆是根義。問若增上義是根義者。諸有爲法展轉增上。無爲亦是。有爲增上。則一切法皆應是根。答依勝立根故無斯過。謂增上緣有勝劣。當知勝者建立爲根。問何根於誰有幾增上。答五根各於四事增上。一莊嚴身。二導養身。三生識等。四不共事。先辯眼根。莊嚴身者。謂身雖具衆分餘根若闕眼根便醜陋故。導養身者。謂眼能見安危諸色避危就安。身久住故。生識等者。謂依眼根一切眼識及相應法皆得生故。不共事者。謂見色用唯屬眼根。二十一根無斯用故。次辯耳根。莊嚴身者。謂耳聾者不可愛故。導養身者。謂耳能聞好惡聲別避惡就安。身久住故。生識等者。謂依耳根一切耳識及相應法皆得生故。不共事者。謂聞聲用唯屬耳根。二十一根無斯用故。鼻舌身識及相應法皆得生故。不共事者。謂嗅嘗覺香味觸用屬鼻舌身。非餘根故。問如是五根有何勝德。誰爲自性業用云何。答眼根德者。謂與眼識及相

應法爲所依故。眼根自性即是淨色。能見諸色。是眼業用。餘根三事類眼應知。此中且說有業用根非一切根識所依故。此色澄淨故名淨色。或復此中與眼識等爲所依者。顯同分根。說淨色言顯彼同分。問何謂同分彼同分。根如是二名所目何別。答有業用者名同分根。無業用根名彼同分。如能見色名同分眼。不見色者名彼同分。彼同分眼差別有四。一有過去彼同分眼。謂不能見諸色已滅。二有現在彼同分眼。謂不能見諸色今滅。三有未來彼同分眼。謂不能見諸色當滅。四有未來定不生眼。其同分眼差別唯三。謂除未來定不生眼。耳根等四如眼應知。或復五識各二所依。一俱時生。謂眼等五。二無間滅。謂即意根。唯說識依濫無間意。但言淨色五體應同。故淨色言簡無間意。與眼等識爲所依言。顯眼等根差別有五。由斯故說五識所依與等無間緣差別各四句。俱生眼等根爲第一句。無間滅心所爲第二句。無間滅心爲第三句。除前餘法爲第四句。問誰能見色。爲眼根見。爲眼識見。爲與眼識相應慧見。爲心心所和合見耶。汝何所疑一切有過。若眼根見餘識行時寧不見色。何不俱取一切境耶。若眼識見。諸識但以了別爲相。非見爲相。豈能見色。若與眼識相應慧見。應許耳識相應慧聞。彼既非聞此云何見。若心心所和合能見。諸心心所和合不定。謂善眼識與二十二心所相應。不善眼識與二十一心所相應。有覆無記眼識與十八種心所相應。無覆無記眼識與

十二種心所相應。既不決定云何和合。答眼根能見。然與眼識合位非餘。譬如眼識了別色用依眼方有。又如受等領納等用必依於心。此亦應爾。由斯理趣餘識行時。眼既識空不能見色。亦無俱取一切境失。以一相續中無二心轉故。問何故具六所依所緣。而一相續中無六識俱轉。答等無間緣唯有一故。復有餘義。若眼識見誰復能識。若慧見者誰復能知。若心心所和合能見。諸法一一業用不同。於中定無和合見義。又應一體有二作用。謂許能見及領納等。復有餘義。若識見者識無對故。則應能見被障諸色。慧及和合應知亦然。是故眼根獨名能見。問已知見用唯屬眼根。眼見色時爲二爲一。答此不決定。若開兩眼觀諸色時則二俱見。以開一眼按一眼時。便於現前見二月等。閉一按一此事則無。是故有時二。眼俱見。又發智論說俱見因。謂雙開時見分明等。兩耳兩鼻應知亦然。問何緣二眼二耳二鼻。雖各兩處而立一根。答二處眼等體類一故。二所取境一界攝故。二能依識一識攝故。又二俱時能取境故。雖有兩處而立一根。女根男根即身攝。是故於此不別立根。眼根極微在眼。精上對境而住如香菱花。耳根極微在耳穴內。旋環而住如卷樺皮。鼻根極微在鼻內。背上面下如雙爪甲。舌根極微在舌上形如半月。然於舌中如毛髮量無舌根微。身根極微遍諸身分

五事毘婆沙論卷上

●聞一問● ●根二眼● ●簡二攝● ●根一● ●種一● ●眼二根● ●二一● ●精二晴● ●睛● ●五事...
...上]八字一●

五事毘婆沙論卷下

尊者法救造

*三藏法師玄奘奉 詔譯

分別色品第一之餘

問所造色內根所攝者我已了知。今復欲聞非根攝者願說其相。答色聲香味所觸無表此中色謂好顯色等。若青黃等色不變壞名好顯色。此若變壞名惡顯色。若平等者名二中間。似顯處色。問色處有二。一顯二形。何故此中唯辯顯色。答今於此中應作是說。色有二種。一顯二形。顯色謂青黃等。形色謂長短等。而不說者有何意耶。謂顯色能及易知故。如是諸色於六識中二識所識。謂眼及意先用眼識唯了自相。後用意識了自共相。謂彼諸色住現在時。眼識唯能了彼自相。眼識無間起分別意識。重了前色自相或共相。然此所起分別意識。依前眼識緣前色境。如是意識正現在時。所依所緣並在過去。由斯五境住現在時。意識不能了彼自相。是故色境二識所識。謂諸眼識現在前時。唯了現在自相非共。若諸意識現在前時。通了三世自相共相。以諸意識境界遍故。有分別故。眼識無間非定起意識於六識身容隨起一種。若眼識無間定起意識者。則苦根不應為苦等無間。苦根唯在五識身故。若爾便遠根蘊所說。如說苦根與苦根為因等無間增上。然依眼識

了別色已。無間引起分別意識。故作是言。眼識先識眼識受已。意識隨識聲有二種。乃至廣說。有執受大種者。謂諸大種現在剎那有情數攝。無執受大種者。謂諸大種過去未來有情數攝。及三世非有情數攝。此中有執受大種所生聲。名有執受大種為因。有執受大種與此所生聲。為前生等五種因故。無執受大種為因聲亦爾。若從口出手等合生。名有執受大種因聲。若從林水風等所生。名無執受大種因聲。餘如前釋。諸所有香。乃至廣說。諸悅意者說名好香。不悅意者說名惡香。順捨受處名平等香。鼻所嗅者謂鼻根境。餘如前釋。諸所有味。乃至廣說。諸悅意者名可意味。不悅意者名不可意味。與二相違名順捨處味。舌所嘗者謂舌根境。餘如前釋。問若嘗味時為先起舌識先起身識耶。答若冷。暖等增則先起身識。若鹹。醋等增則先起舌識。若觸味平等亦先起舌識。味欲勝故。所觸一分。乃至廣說。滑性者謂柔軟。澁性者謂龜強。輕性者謂不可稱。重性者謂可稱。冷者謂彼所逼便起。暖。飢者謂食欲。渴者謂飲欲。如是。七種是觸處攝。以所造色而為自性。前四大種雖觸處攝。非所造色而為自性。是故觸處有十一種。今七所造故名一分。身所觸者謂身根境。餘如前釋。問何大種增故有滑性。廣說乃至。何大種增故有渴。耶。有作是說。無偏增者。然四大種性類差別。有能造滑性。廣說乃至有能造渴。復有說者。水火界增故能造滑。地風界增故能造澁。火風界增

故能造輕。地水界增故能造重。水風界增故能造冷。唯風界增故能造飢。唯火界增故能造渴。此言增者謂業用增非事體增。如心心所。無表云何。乃至廣說。墮法處色者。墮有六種。一界墮。二趣墮。三補特伽羅墮。四處墮。五有漏墮。六自體墮。界墮者。如結蘊說。諸結墮欲界。彼結在欲界等。趣墮者。謂若攝屬如是趣者名墮是趣。補特伽羅墮者。如毘奈耶說。有二補特伽羅。墮僧數中令僧和合。處墮者如此中說。無表色云何。謂墮法處色。有漏墮者如此論說。云何墮法。謂有漏法。自體墮者。如大種蘊說。有執受是何義。答此增語所顯墮自體法。無表色者。謂善惡戒相續不斷。此一切時一識所識。謂意識者。以無對故。色等五境於現在時五識所識。於三世時意識所識。此於恒時意識所識。眼等五根亦一切時意識所識。此無表色總有二種。謂善不善。無無記者。以強力心能發無表。無記心劣不發無表。諸善無表總有二種。一者律儀所攝。二者律儀所不攝。不善無表亦有二種。一者不律儀所攝。二者不律儀所不攝。律儀所攝無表復有四種。一者別解脫律儀。二者靜慮律儀。三者無漏律儀。四者斷律儀。別解脫律儀。謂七眾戒。靜慮律儀。謂色界戒。無漏律儀。謂學無學戒。斷律儀者。依二律儀一分建立。謂靜慮律儀無漏律儀。離欲界染九無間道隨轉攝者。名斷律儀。以能對治一切惡戒。及能對治起惡戒煩惱。故名為斷。前八無間道隨轉攝者。唯能對治起惡戒煩惱。第九

①色二品 ②似二以 ③辨二辨 ④[受]一 ⑤暖二煖 ⑥醋二酢 ⑦七二一 ⑧渴二澁 ⑨耶二者 ⑩種性二性 ⑪特二持 ⑫眼二眼 ⑬能二對

無間道隨轉攝者。能對治惡戒。及能對治起惡戒煩惱。問別解脫律儀何緣故得何緣故捨。答由他教得四緣故捨。何等爲四。一捨所學戒。二二形生。三善根斷。四失衆同分。問靜慮律儀何緣故得何緣故捨。答色界善心若得便得。若捨便捨。此復二種。一由退故。二由界地有轉易故。問無漏律儀何緣故得何緣故捨。答與道俱得無全捨者。若隨分捨則由三緣。一由退故。二由得果故。三由轉根故。問斷律儀何緣故得。何緣故捨。答靜慮律儀所攝者。如靜慮律儀說。無漏律儀所攝者。如無漏律儀說。律儀所攝善無表者。若強淨心所發善表得此無表。若劣淨心所發善表不得此無表。捨此無表由三種緣。一意樂息。二捨加行。三限勢過。不律儀所攝不善無表者。謂屠羊等諸不律儀。此不律儀由二緣得。一由作業。二由受事。此不律儀由四緣捨。一由受別解脫戒。二由得靜慮律儀。三由二形生。四由失衆同分。然一切色略有四種。一者異熟。二者長養。三者等流。四者剎那。此中眼處唯有二種。一者異熟。二者長養。無別等流。以離前二更不別有。等流性故。耳鼻舌身處應知亦爾。色處唯有三種。一者異熟。二者長養。三者等流。香味觸處應知亦爾。聲處唯有二種。於前三除異熟。墮法處色唯有二種。初無漏心俱者剎那所攝。餘等流攝。

分別心品第二

問已知色相誑惑愚夫不可撮摩。猶如聚沫。欲聞心法。其相云何。答謂心意識不應說心。

是所問故。問心意識三有何差別。答此無差別如世間事。一說爲多多說一故。一說多者。如說。士夫爲人。儒童等。多說一者。如說。鳥豆等同名再生。應知此中同依一事說。心意識亦復如是。復有說者。亦有差別。過去名意。未來名心。現在名識。復次界施設心。處施設意。蘊施設識。復次依遠行業說名爲心。依前行業說名爲意。依續生業說名爲識。復次由採集義說名爲心。由依趣義說名爲意。由了別義說名爲識。此復云何。謂六識身者。問此何唯六非減非增。答所依等故。謂識所依唯有六種。若減識至五則一所依無識。若增識至七則一識無所依等。六所緣應知亦爾。然說識異唯約所依。等識爲身者一識有多故。非一眼識名眼識身。要多眼識名眼識身。如非一象可名象身。要有多象乃名象身。此亦如是。眼識云何。謂依眼根者顯眼識所依。各了別色者顯眼識所緣。復次謂依眼根者說眼識因。色者說眼識緣。如世尊說。茲芻當知。因眼緣色。眼識得生。問眼與眼識爲何等因。答此爲依。譬如大種與所造色爲依因義。各了別者說眼識相。識以了別爲其相故。此中意說。依眼緣色有了別相。名爲眼識。廣說乃至依意緣法有了別相。名爲意識。問何不但說謂依眼根等。或不但說各了別色等。答若隨說一義不成。故謂若但說依眼根等。則彼相應受等諸法。亦依眼根等。應名眼等識。若復但說各了別色等。既有意識亦了別色等。則應意識名眼等識。然此中說依眼根等。遮能了別色

等意識。復說各能了別色等。遮眼等識相應受等。問眼色明作意爲緣生眼識。何故但說眼識非餘。答眼根勝故。如舞染書。眼不共故。如某種芽眼所依故。如鼓聲等眼隣近故。如說覺支。眼耳身識各有四種。謂善不善有覆無記無覆無記。不善者唯欲界。有覆無記唯在梵世。善無覆無記通欲界梵世非在上地。有尋伺故。鼻舌二識各有三種。除有覆無記。唯在欲界。緣段食故。意識有四種。通三界不繫。問若初靜慮以上諸地無三識身。生彼如何有見聞觸。答以修力故。初靜慮地三識現前。令彼三根有見聞觸。依如是義故有問言。頗有餘地身餘地眼餘地色餘地眼識生耶。答有。謂生第二靜慮地者。用第四靜慮地眼見第三靜慮地色。彼第二靜慮地身。第四靜慮地眼。第三靜慮地色。初靜慮地眼識生此中。五識身各有二種。一者異熟。二者等流。意識身有三種。一者異熟。二者等流。三者剎那。此中剎那。謂苦法智忍相應意識。問頗有一因道現在前。一剎那頃所捨之心。或有是同類因。自性非有同類因。或有。有同類因非同類因。自性。或有是同類因。自性亦有同類因。或有非同類因。自性亦非同類因。答道類智忍時應作四句。第一句者。謂已生苦法智忍相應心。第二句者。謂未來見道相應心。第三句者。謂除已生苦法智忍相應心。諸餘已生見道相應心。第四句者。謂除前說。問頗有一因道現在前一剎那頃所捨之心。或有是有漏有漏緣。或有是有漏無漏緣。或有是有漏無漏

①(不)十攝②③鳥二鳥④⑤等二說⑥⑦則一別⑧⑨某二其

漏緣。或有是無漏有漏緣耶。答有。道類智忍時應作四句。第一句者。謂色無色界繫見道所斷有漏緣隨眠相應心。第二句者。謂色無色界繫見道所斷無漏緣隨眠相應心。第三句者。謂滅道忍智相應心。第四句者。謂苦集忍智相應心。問頗有無事煩惱對治道現在前。一剎那頃所捨之心。或有無漏緣非無漏緣緣。或有無漏緣非無漏緣。或有無漏緣亦無漏緣緣。或有非無漏緣亦非無漏緣緣。如是四句准義應思。問頗有利那心現在前所滅之心。或有非定非定緣。或有非定是定緣。或有是定是定緣。或有是定非定緣。如是四句准義應思。問頗有利那心現在前所滅之心。或有已生非已生心為因。或有已生心為因非已生。或有已生亦已生心為因。或有非已生亦非已生心為因。如是四句准義應思。

分別心所法品第三

問已知非一所依所緣行相流轉猶如幻事。極難調伏如惡象馬。由有貪等差別之心。今復欲聞心所法相。何謂心所法如何知別有。答所有受等名心所法。經為量故知別有體。如世尊說。眼色二緣生於眼識。三和合故。觸與觸俱起有受想思。乃至廣說。薩他筏底契經中言。復有思惟。諸心所法依心而起繫屬於心。又舍利子問俱胝羅。何故想思說名意行。俱胝羅言。此二心所法依心起屬心。乃至廣說。由如是等無量契經。知心所法定別有體。又心所法若無別體。則奢摩他毘鉢

舍那。善根識住諸食念住諸蘊六。六覺支道支結結學法。及有支等契經應滅。又不應立大地法等。然經所說。法門無滅。大地法等實可建立。故知別有諸心所法。問寧知心所與心相應。答經為量故。如世尊說。見為根信證智相應。故知心所有相應義。問言相應者是何義耶。答阿毘達磨諸大論師咸作是說。言相應者是平等義。問有心起位心所法多。有心生時心所法少。云何平等是相應義。答依體平等作如是說。若一心中二受一想。可非平等。是相應義。然一心中一受一想。思等亦爾。故說平等是相應義。復次等不乖違。是相應義。等不離散。是相應義。平等運轉。是相應義。如車衆分故名相應。復次同一時分同一所依同一行相同一所緣同一果同一等流同一異熟是相應義。此復云何。謂受想思乃至廣說。問何故先說受非先說想等。答行相應故。受雖無礙不住方所。而行相應如色施設。故世間說。我今手痛足痛頭痛乃至廣說。想思觸等無如是事。受云何。謂領納性。有領納用名領納性。即是領受所緣境義。此有三種。謂樂受苦受不苦不樂受者。若能長養諸根大種。平等受性名為樂受。若能損減諸根大種。不平等受性名為苦受。與二相違非平等非不平等受性名為不苦不樂受。復次若於此受令貪隨眠二緣隨增。謂所緣故或相應故。是名樂受。若於此受令瞋隨眠二緣隨增。謂所緣故或相應故。是名苦受。若於此受令癡隨眠二緣隨增。謂所緣故。或相應故名不苦

不樂受。雖癡隨眠於一切受二緣隨增。而不共癡自依而起。自力而轉。多與不苦不樂受俱餘明了故不作是說。由可意不可意順捨境有差別故。建立如是三領納性。是故但說有三種受。而實受性有無量種。有餘欲令無實樂受及不苦不樂受。問彼何緣說無實樂受。答經為量故。為契經說。諸所有受無非是苦。又契經說。汝應以苦觀於樂受。若樂受性是實有者。如何世尊。教諸弟子觀樂為苦。又契經言。於苦謂樂名顛倒故。若有樂受應無於苦。謂樂想倒心倒見倒。又契經說。諸有漏受苦諦攝故。此中攝者。是自性攝。非實樂受。是苦自性。云何可言是苦諦攝。既說苦諦攝故無實樂受。又相異故。謂逼迫相說名為苦。非實樂受有逼迫相。如何可言諸有漏受皆苦諦攝。又現觀故。謂觀一切有漏皆苦。說名現觀。若樂受性是實有者。觀樂為苦成顛倒見。應非現觀。是故定知無實樂受。阿毘達磨諸論師言。實有樂受經為量故。謂契經說。佛告大名。若色一向是苦非樂。非樂所隨有情不應貪著諸色。乃至廣說。又契經言。并樂并喜於四聖諦我說現觀。又契經說。有三種受。謂樂受苦受不苦不樂受。又契經言。諸樂受生時樂住時。樂由無常有過患。諸苦受生時苦住時。苦由無常有過患。若樂受性非實有者。應非如苦作一類說。應於樂受作別類說。應於苦受作別類說。又若樂受非實有性。應無輕安。以無因故。如契經說。由有喜故身心輕安。若無輕安亦應無樂。展轉乃至應無涅槃

● (或有……耶)九字● (答有……時)七字● ①六二大● ②法門二汝問● ③為二謂● ④[教]—●

薩婆多宗五事論

大番國大德三藏法師沙門法成
於甘州修多寺道場

法有五種。一者色法。二者心法。三者心所有法。四者心不相應行法。五者無為法。何名色法。謂彼一切從四大種。四大所造所生諸色。何謂四大。地界水界火界風界。何名造色。謂眼根耳根鼻根舌根身根。諸色諸聲諸香諸味及觸一分兼無表色

何名心法。謂心意識。彼復云何謂眼識耳鼻舌身意識六識之身。何名心所有法。謂與心相應諸法。彼復云何。謂受。相。思。觸。作意。欲。勝解。信。精進。念。定。慧。尋。伺。放逸。不放逸。善根。不善根。無記根。諸結。繫縛。微廣。諸隨煩惱。纏繞安住。知。見。所有現觀。復有餘法。與心相應如是等類。名爲心所有法。何名心不相應行法。謂有諸法與心不相應。彼復云何。謂得。無相等至。滅盡等至。無相所有。命根。衆同分。得處所。得事。得處。生。老。住。無常性。名身。句身。及以文身。復有餘法與心不相應。如是等類。名爲心不相應行法

何名無爲法。謂三種無爲。虛空。非擇滅。及以擇滅。此名無爲法。云何地界。謂堅硬性。云何水界。謂薄潤性。云何火界。謂熱暖性。云何風界。謂輕動性。云何眼根。謂眼識依清淨色。云何耳根。謂耳識依清淨色。云何鼻根。謂鼻識

果故。謂諸樂具是增上果。非異熟果。所以者何。所有樂具可有與他共受用故。自命終已不失壞故。謂諸樂具與他有情可共受用。諸異熟果定無與他共受用義。墮自相續不共他故。又諸樂具自命終已。如象馬等猶不失壞。諸異熟果與身命俱。身命若無彼定失壞。故可愛業若無樂受應空無果。其理決定。又攝益故。若無樂受諸根大種應無攝益。若謂攝益。由諸有情分別境界非由樂受。理亦不然。應知攝益如由苦受有損害故。又正加行必有果故。若無樂受則正加行應空無果。正加行者。應以苦受爲異熟果。無樂受故。如邪如行必以苦受爲異熟果故。正加行應以樂受爲異熟果。更相違故。如明與闇影與光等。又由樂受起惡行故。若無樂受惡行應無。由諸有情貪著樂受。起諸惡行。感苦受果。惡行若無。應無苦受。苦受既有惡行非無。既有惡行定有樂受。又法受故。如契經說。有四法受。或有法受現樂後樂。或有法受現苦後樂。或有法受現樂後樂。或有法受現苦後苦。若無樂受法受應一。不應有四。由如是等種種因緣定有樂受。問若有樂受。世尊所說達樂受經有何理趣。答有別理趣。且初經說。諸所有受無非苦者。當知彼經依三苦說。何謂三苦。一者苦苦。二者壞苦。三者行苦。若諸苦受由苦苦故。說名爲苦。若諸樂受由壞苦故。說名爲苦。若諸不苦不樂受由行苦故。說名爲苦。如契經說。無常故苦。應知彼經有此理趣。五事毘婆沙論卷下

無漸次因果非有故。彼師於此作救義言。如上地中雖無有喜。而非無有身心輕安。故引證言。非爲決定。彼救非理。所以者何。以上地中都無喜故。應觀此義。如健達縛三事和合。食名色。經。如契經言。父母交會有健達縛。正現在前。而見有時無父母會。有健達縛亦現在前。如受濕生及化生者。非受胎卵二生有情離父母合有入胎義。又如經言。三事和合謂壽。暖識。然無色界雖無有。暖而有壽識。非欲色。界壽識雖。暖。又如經說。身依食住。非上二界住由三食。欲界亦然。非欲界中住由四食。上界亦爾。又如經言。名色緣識識緣名色。非無色界雖無有色。而名與識展轉相緣。令欲色中亦有此義。此中亦爾。若有喜處。由有喜故得有輕安。若處喜無輕安亦有。由餘緣故不應爲責。何謂餘緣。謂先欲界有勝喜受。引未至定輕安令起。初二靜慮有勝喜受。引上地中輕安令起。若全無喜則無輕安。由此證知定有樂受。又如初果在上二界。雖不能得而彼能得阿羅漢果。先力引故。此亦應然不應爲責。又如以杖先擊於輪。後捨杖時其輪猶轉。此亦應爾。由先喜力引後輕安。是故輕安定由有喜。喜即喜受樂受所攝。是故定知實有樂受。又由樂受有希望故。如契經說。若有樂者於法希望。樂受若無則應於法無希望者。是故定知實有樂受。又可愛業應無果故。若無樂受諸可愛業應空無果。諸可愛業定以樂受爲其果故。亦不應言諸可愛業以諸樂具爲異熟果。樂具但是增上

①經二識 ②暖二暖 ③* ④界二身 ⑤全二令 ⑥無一行

依清淨色。云何舌根。謂舌識依清淨色。云何身根。謂身識依清淨色。云何諸色。謂諸好色及非好色。彼二中間所住諸色及顯色等。最初一識眼識所知。眼識所受。意識能知。是故諸色眼識意識二識了知。云何諸聲。聲有二種。謂執受大種因所生。及非執受大種因所生。最初一識耳識所知。耳識所受。意識能知。是故諸聲耳識意識二識了知。云何諸香。謂好香惡香平等了香。最初一識鼻識所知。鼻識所受。意識能知。是故諸香鼻識意識二識了知。云何諸味。謂可意及非可意。平等香味。最初一識舌識所知。舌識所受。意識能知。是故諸味舌識意識二識了知。云何所觸一分。謂滑性。澁性。輕性。重性。冷飢渴等。最初一識身識所知。身識所受。意識能知。是故諸觸一分身識意識二識了知。何等名為諸無表色。謂法處所攝色。於一切時唯一意識之所了知。云何眼識。依於眼根。各別了色。云何耳識。依於耳根。各別了聲。云何鼻識。依於鼻根。各別了香。云何舌識。依於舌根。各別了味。云何身識。依於身根。各別了觸。云何意識。依於意根。各別了法。云何為受。謂領納性。此復三種。謂苦樂不苦不樂。云何為相。謂遍知性。此復三種。小大無量。云何為思。謂心造行意所作業。此復三種。謂善不善及以無記。云何為觸。謂三和合。此復三種。受樂受苦。及受不苦不樂。云何作意。謂心所轉。此復三種。謂學無學非學非無學。

云何為欲。謂樂作性。云何勝解。謂心所樂樂性樂作。云何為信。謂心極淨。云何精進。謂心欣樂。云何為念。心明記性。云何為定。心一境性。云何為慧。謂決擇法。云何為尋。心廉為性。云何為伺。心細為性。云何放逸。不修諸善。云何不放逸。謂修諸善。諸善根者。謂三善根。無貪善根。無瞋善根。無癡善根。不善根者。三不善根。貪不善根。瞋不善根。癡不善根。無記根者。四無記根。謂無記愛見慢無明。云何無記愛。謂色無色五種所作。云何無記見。謂欲界中所行身見及以邊見。色無色中所行五見。云何無記慢。謂色無色五種所行。云何無記無明。謂欲界中所行身見及以邊見。相應無明。色無色中五種所行。言諸結者。謂九種結。貪結。恚結。慢結。無明結。見結。勝執結。疑結。結。結。云何貪結。謂三界貪。云何恚結。依諸有情忿恨為性。云何慢結。謂七種慢名。為慢結。謂慢。過慢。慢過慢。我慢。增上慢。卑慢。邪慢。云何為慢於劣計勝於等計等。彼以為因。慢恃慢性。心之高舉。心之所傲。心之所執。此名為慢。云何過慢。於等計已。勝或於勝計已。等彼以為因。慢恃慢性。心之高舉。心之所傲。心之所執。此名過慢。云何增上慢。謂於未得上之殊勝計已。謂得上之殊勝或未證觸亦未現前上之殊勝計已。證明彼以為因。慢恃

慢性。心之高舉。心之所傲。心之所執。此名增上慢。云何卑慢。謂於多分殊勝計已。少分下劣。彼以為因。慢恃慢性。心之高舉。心之所傲。心之所執。此名卑慢。云何邪慢。謂具非德計已。具德彼以為因。慢恃慢性。心之高舉。心之所傲。心之所執。此名邪慢。此七種慢名為慢結。云何無明結。謂三界無知。此名無明結。云何見結。謂三種結名為見結。云何為三。一身見。二邊執見。三邪見。云何身見。謂於五取蘊隨觀為我。或為我所。彼以為因。忍樂慧觀。及以所見此名身見。云何邊執見。謂於五取蘊隨觀斷常。彼以為因。忍樂慧觀。及以所見此名邊執見。云何邪見。謂誘因果。及以作用壞有之事。彼以為因。忍樂慧觀。及以所見此名邪見。此三種見名為見結。云何勝執結。二種勝執名勝執結。云何為二。一見勝執。二戒禁勝執。云何見勝執。謂於五取蘊隨觀。為最上為勝。為極。彼以為因。忍樂慧觀。及以所見此名勝執見。云何戒禁勝執。謂於五取蘊隨觀。為淨。為解脫。為出離。彼以為因。忍樂慧觀。及以所見此名戒禁勝取。此二種勝取名勝執結。云何疑結。謂於諸諦猶豫為性。云何疾結。心亂為性。云何慳結。心執為性。是故說為諸結。言繫縛者。所說諸結。彼亦名縛。然縛有三種。謂貪縛。瞋縛。癡縛。故說為縛。言微廣者。謂七微廣。云何為七。一貪微廣。二瞋微廣。三有欲微廣。四慢微廣。五無明微廣。六見微廣。七疑微廣。云何貪微廣。五種

微廣名貪微廣。云何爲五。謂欲界所繫見苦所斷所有貪欲。欲界所繫見集滅道。及修所斷所有貪欲。此五微廣名貪微廣。云何瞋微廣此五種

微廣名瞋微廣。云何爲五。謂見苦所斷所有瞋悲。見集滅道及修所斷所有瞋悲。此五微廣名瞋微廣。云何有欲微廣。此十微廣名有欲微廣。云何爲十。謂色繫五。無色繫五。云何

名爲有貪微廣。色界繫五。謂色界繫見苦所斷所有請欲。及色界繫見集滅道及修所斷

所有貪欲。如色繫五。無色繫五。亦復如是。此十微廣名有欲微廣。云何慢微廣。此十五種

微廣名慢微廣。云何爲十五。謂欲繫五。色界繫五。無色繫五。何等名爲欲界所繫五種

慢微廣。謂欲界繫見苦所斷所有諸慢。欲界所繫見集滅道及修所斷所有諸慢。如欲繫

五色界繫五。無色繫五。亦復如是。此十五種微廣名慢微廣。云何無明微廣。此十五種微

廣爲無明微廣。何等十五。謂欲繫五。色界繫五。無色繫五。云何名爲欲界所繫五種慢微

廣。謂欲所繫見苦所斷所有光明。欲界所繫見集滅道及修所斷所有光明。如欲繫五。色

界繫五。無色繫五。亦復如是。此十五種微廣名無明微廣。云何見微廣。謂三十六微廣名

見微廣。何等爲三十六。謂欲繫十二。色繫十二。無色繫十二。何等名爲欲界所繫十二見

微廣。謂欲界繫身見邊見。欲界所繫見苦所斷所有邪見及以見取。欲界所繫見滅所斷

所有邪見及以見取。欲界所繫見道所斷所

有邪見及以見取執禁戒取。如欲界所繫十二。色繫十二。無色繫十二。亦復如是。此三十六微廣名見微廣。云何疑微廣。十二種微廣名疑微廣。何等十二。謂欲繫四。色界繫四。無色繫四。云何名爲欲界所繫四疑微廣。謂欲界繫見苦斷疑

欲界所繫見集滅道所斷諸疑。如欲界繫。色界繫四。無色繫四。亦復如是。此十二種微廣

名疑微廣。故說名微廣。言諸隨煩惱者。所有微廣彼則名爲諸隨煩惱。有是隨煩惱非微

廣。謂除微廣餘心所生。染污行蘊。纏繞安住者。謂八種纏繞安住。云何爲八。一昏沈。二睡

眠。三掉舉。四惡作。五疾妬。六慳恪。七無慚。八無愧。是故說名纏繞安住。言知者謂十種

智。何等爲十。一法智。二隨類智。三他心智。四世俗智。五苦智。六集智。七滅智。八道智。九盡

智。十無生智。云何法智。謂欲繫諸行了無漏智。欲繫行因無漏諸智。欲繫行滅無漏諸智。

欲界繫行斷道之中無漏諸智。復次法智。法智地中無漏諸智。此名法智。云何隨類智。色

無色繫諸行之中無漏諸智。色無色繫諸行

目中無漏諸智。色無色繫行滅之中無漏諸智。色無色繫行斷道中無漏諸智。復次隨所

了智。隨了地中無漏諸智。此等名爲隨類智。云何他心智。從修生智。所修之果。依於所修

所得無退。以其智慧。了欲所行及色所行似他心。法證得現前了無漏法一分。此等名爲了他心智。云何世俗智。謂有漏智此名世俗智。云何苦智。於五取蘊了無常性。苦性。空

性。無我之性。作意所生無漏之智。此名苦智。云何集智。於有漏因而起。因集生緣作意無漏之智。此名集智。云何滅智。謂於滅中起滅。靜妙出離作意。無漏之智。此名滅智。云何道智。謂於道中起於道。如行出作意無漏之智。此名道智。云何盡智。謂自遍了知若自知斷集。自知證滅。自知修道。以爲其因。知見覺慧了知分明。現前證得。此名盡智。云何無生智。謂自遍了知諸苦故。更無可知之智。自斷集

故。更無可斷之智。自證滅故。更無可證之智。自修道故。更無可修之智。以爲其因。知見覺

慧了知分明。現前證得。此名無生智。言見者。雖則彼智亦是其見亦復有見。非即是智。從

現觀邊所生八忍。謂知苦法忍。知苦隨類忍。知集法忍。知集隨類忍。知滅法忍。知滅隨類

忍。知道法忍。知道隨類忍。故說名見。言所有現觀者。即彼知見亦是現觀。是故說爲現觀。

云何爲得。謂諸法所獲。云何無想等至。謂已離遍淨貪。未離上貪。由出離想作意。爲先心

心法滅爲性。云何滅盡等至。謂已離無所有處貪。由止息想作意爲先心。心法滅爲性。云

何無想所有。謂生無想有情天中心心法滅爲性。云何命根。謂三界壽。云何衆同分。謂諸

有情自類相似。云何得處所。謂獲諸境。云何得事。謂獲諸蘊。云何得處。謂獲內外處。云何

爲生。謂成就蘊。云何爲老。謂諸蘊熟。云何爲住。謂諸行不壞。云何無常性。謂諸行壞。云何

名身。即彼增語。云何句身。謂文圓滿。云何文身。即彼字身。名爲文身。云何處空。所行之

因。即是虛空。非有障礙。諸色種類不能遍覆。此名虛空。云何非擇滅。謂非離。云何擇滅。謂滅亦離。是故說為法有五種。一者色法。二者心法。三者心所有法。四者心不相應行法。五者無為法。五事論一卷

No. 1557

阿毘曇五法行經

後漢安息三藏安世高譯

苦法點可苦法點。習法點可習法點。盡法點可盡法點。道法點可道法點。苦法者。謂形體萬物皆當衰老死亡。是為苦。癡人謂可常保持。是為樂點。可知是為苦。便不復向生死。是為苦法點。可

習法者。謂欲習得習姪習怒習癡習好習美。點可者如是為習。從習得盡便不欲。是為習法點。可盡法者。謂人物會當消散滅盡。便得亦不喜。失亦不憂。是為盡法點。可道法者。行道得道。作善上天。作惡入惡。道點可者。知去惡就善。是為道法點。可點者。覺可者。知本不知是為苦。苦為一意知為苦。是為二意。習為一意知為習。是為二意。盡為一意知為盡。是為二意。道為一意知為道。是為二意。此八意在外

非常苦空非身。本習生因緣盡。止如意。要道處受觀。盡。苦空非身何緣得盡。盡從苦來。從苦得

盡。因盡便得空。得空便知非我身。是四意為隨苦諦

何等為苦。一切在生死皆為苦。會欲亦不欲。會欲。謂人諸所欲得亦不欲。謂人意諸所不欲。是皆為苦。貪從習出。隨非常意求滅苦從習得

何等為法。謂因緣作是得是是為法。當為識已識為却意當為斷。從四諦中苦諦。習諦為證有。道見苦知從。習起。見。習知苦見盡諦知非常

何等為可。謂喜道不忘道。常求道以道為可。何等為點。常問道為點。已問能受能行是為點。習亦如是。盡滅亦如是。道亦如是

苦為罪法為行結。點為三十七品經。可為行者。為行道。如是為。習。如是為盡。如是為道。皆為增上

第一為苦。何等為苦。一切惡不可意為苦。已識苦不欲者。便行道不離為可。苦生有本。苦為何等。本從萬物。萬物無有亦不盡。已不盡人亦不憂。已不憂人亦無有苦

第二為。習。何等為。習。意隨愛為。習。斷愛無有。習。持何等行為斷愛。萬物皆從因緣生。斷因緣不復生。當那得斷因緣。持意念道。已持意念道。意不得兩念。便在道是。為。習

第三為盡。苦法為萬物。以敗便得憂。已得憂便老。已老便得病瘦死。是名為外盡苦法。何以故。為外盡苦法。為自罪未除。何以故。為自罪未除。為生死未滅。何以故。生死未滅。為非一意。何以故。非一意。為不墮禪棄故。何以故。

不墮禪棄不受行如佛語。是名為外盡。內盡為何等。意墮守。已墮守。餘意不得生。已餘意不得生。便滅結。已滅結。便罪盡。已罪盡。便盡無有。是名為內盡

第四為道。何等為道。苦可意道名為八種。何等為八種。如是安般守意說八行意。不墮生死但有墮道。已墮道。便斷上頭三事。何等三事。苦習盡。已斷苦。習盡便定。已定所向便得道。何等為得道。已苦滅。不復生。是為得。有五法行。何等五。一者色。二者意。三者所念。四者別離意行。五者無為

色為何等。所色一切在四行。亦從四行所。四行為何等。地種水種火種風種。亦從四行。因。所色為何等。眼根耳根鼻根舌根身根。色聲香味細滑。亦一處不更

意為何等。所意心識。是為何等。六識身。六識為何等。眼識耳識鼻識舌識身識心識

所念法為何等。若所念法意共俱。是為何等。痛想行痒念欲。是意定點。信進計念貪不貪善本惡本不分別本。一切結縛。便勞。從起所點所見所要亦所有。如是法意共俱。是名為意所念法

別離意行為何等。所別離意不共。是為何等。得不思想。政盡。政不思想念想。下輩苦得處得種得。入生老。止非常名字絕具如應。亦餘如是法分別意行。是名分別意行

無為何等。空滅未離滅不須受

地種為何等。堅者。水種何等。濕者。火種何等。熱者。風種何等。起者。眼根何等。眼識相著可

○[後漢]一○① ○要二惡○ ○習二集○* ○[是]一○② ○行十(行)○ ○便二傳○ ○政二正○* ○止二死○

色。耳根何等。耳識相著可色。鼻根何等。鼻識相著可色。舌根何等。舌識相著可色。身根何等。身識相著可色。色爲何等。若色端正不端正等色。俱中央色。像上頭一識更。眼識更爲心識更。是色兩識。更知何等。兩眼識心識。聲爲何等。從受行出聲。亦不從受行出聲。從受行本聲。亦不從受行本受聲。若上頭一識更知耳識已。更心識便知是聲。兩識更知耳識心識。香爲何等。若根香若莖香若花香若實香。香。香臭香等香所香。是名爲香。若上頭一識。一識更知鼻識已。更心識便知是香。兩識更知鼻識心識。味爲何等。若酢味甜味鹽味苦味鹹味辛味澁味。亦所噉覺味。若上頭一識知舌識。舌識已更心識便知是味。兩識更知舌識心識。細滑更爲何等。若滑若龜若輕若重若寒若熱若飢若渴。爲上頭一識知身識。身識已更心識便知。是一處樂爲兩識更知身識心識。心識一處不更。色爲何等。若色法識想著。是爲何等。若身善者不善者不更。若常一識知心識

眼識爲何等。眼相依色因知。耳識爲何等。故耳根相依聲因知。鼻爲何等。鼻根相依香因知。舌識爲何等。舌根相依味因知。身識爲何等。身根相依樂著因知。心識爲何等。心根相依法因知。痛爲何等。爲樂是亦爲三輩少多無有量。想爲何等。所對行爲何等。所作是亦爲三輩。善惡。不分別福殃度。願樂爲何等。三會是亦爲三輩。善樂惡樂亦不善亦不惡樂意念。何等爲意念。是亦爲三輩。善

惡不分別。欲爲何等。欲作是何等。意可意爲何等。念思惟何等。爲一意。點爲何等。爲觀法。信爲何等。可意。進爲何等。觀念。計爲何等。所念使求增望念願。願是名爲計。分別念爲何等。所觀觀隨不絕相隨。是名爲念。計念爲何等。異意大爲計。意微爲念。計念是爲異貪爲何等。不隨善法不信至誠不行不應行。是名爲貪。不貪爲何等。隨善法信至誠行應行。是名爲不貪。善本何等。有三善本。無有貪善本。無有瞋善本。無有愚癡善本。是名爲善本。不善本爲何等。不善本有三。貪爲不善本。瞋惡爲不善本。愚癡爲不善本。是名爲不善本。不分別本爲何等。有五不分別。愛不分別。憍慢不分別。癡不分別。疑不分別。行是名爲不分別本

結爲何等。有九結。一爲持念結。二爲憎結。三爲憍慢結。四爲癡結。五爲邪結。六爲失願結。七爲疑結。八爲嫉結。九爲慳結。持念結爲何等。三界中貪。增結爲何等。爲人。間不可息。憍慢結爲何等。憍慢結名爲七輩。何等七。一爲憍慢。二爲憍。三爲自慢。四爲自計慢。五爲欺慢。六爲不如慢。七爲邪慢。憍慢爲何等。不如者我爲勝。如者等。從是憍慢自計意起。意識合意。是名爲憍慢。憍慢爲何等。輩中勝勝中等。從是所慢亦自計自計勝者勝。是名爲自慢。亦說者憍慢慢當爲一切合會。是名爲自慢。自計慢爲何等。爲五陰自身是我身計自念。從是慢慢自知意生意起合意。是名爲自計慢。欺慢爲何等。未得

計得未知計知未盡計盡。從是憍慢自計意觀意起合意。是名欺慢。不如慢爲何等。遠不如自計少不如。若豪若業。若業若何。若罪若病不及十倍百倍。自計如是爲不如。從是憍慢自計自見意生意起合念。自爲是名爲不如慢。邪慢爲何等。不賢者自計賢者。從是有憍慢自念自計。意生意起合念。是名爲邪慢。是爲七慢。慢名爲憍慢結

癡結爲何等。三界中所有癡。是名爲癡結。邪結爲何等。邪結有三輩名爲邪結。一爲身邪。二爲邊邪。三爲邪邪。身邪爲何等。是身是我身。是名爲身邪。邊邪爲何等。一者斷滅。二者常在。是名爲邊邪。邪邪爲何等。邪邪爲評本壞福。是爲三邪。失願結爲何等。失本不受功投恩。是名失願結。是兩失名爲失願結。盜結爲何等。兩盜名盜結。一爲受盜。二爲戒盜。受盜爲何等。爲五陰念尊大最無有極。從是所欲所意。所可所用。是名爲盜結。盜戒爲何等。從是淨從是離。從是解從是要出用。是故所人所意所可所願。是名爲盜結。是兩盜名爲盜結。疑結爲何等。爲疑四諦。是名爲疑結。嫉結爲何等。亂意爲嫉結。慳結爲何等。不能制意。是名爲慳結。故一切結。縛者爲何等。所結者名爲縛。故說縛使。二爲不可使。三爲欲世間使。四爲憍慢使。五爲癡使。六爲邪使。七爲疑使。

①根一識 ②香十(若) ③[身識] ④眼十(根) ⑤識二根 ⑥不十(份) ⑦憎二增 ⑧增二憎 ⑨間二四 ⑩如十(我) ⑪慢二憍慢 ⑫是二自 ⑬癡二聚 ⑭邪二取 ⑮盜戒二戒盜 ⑯者二結

欲使為何等。欲使名為五使。何等為五者欲從苦見斷欲。著欲從習見斷欲。著欲從盡見斷欲。著欲從道見斷欲。著欲從思惟見斷欲。是名為五使。名為欲使不可使名為何等。五使名為不可使。何等為五。從苦見不可斷從習見不可斷。從盡見不可斷。從道見不可斷。從思惟見不可斷。是五使名為不可使。世間欲可使為何等。十使名為世間欲使。何等為十。著色見苦斷欲。著色見習斷欲。著色見盡斷欲。著色見行道斷欲。從色因著思惟斷欲。從無有色因著見苦斷欲。從無有色因著見習斷欲。從無有色因著見盡斷欲。從無有色因著見道斷欲。從無有色因著思惟斷欲。是十使名為欲使世間使。著欲見苦惱慢斷。著欲見習惱慢斷。著欲見盡惱慢斷。著欲見道惱慢斷。著欲見思惟惱慢斷。著色見苦惱慢斷。著色見習惱慢斷。著色見盡惱慢斷。著色見道惱慢斷。著色見思惟惱慢斷。著無有色見苦惱慢斷。著無有色見習惱慢斷。著無有色見道惱慢斷。著無有色見思惟惱慢斷。是十五使名為惱慢使。癡使為何等。十五使名為癡使。何等為十五。著欲見苦癡斷。著欲見習癡斷。著欲見盡癡斷。著欲見道癡斷。著欲見思惟癡斷。著色見苦癡斷。著色見習癡斷。著色見盡癡斷。著色見道癡斷。著色見思惟癡斷。著無有色見苦癡斷。著無有色見習癡斷。著無有色見道癡斷。著無有色見思惟癡斷。是十五使名為癡使。

著無有色見道癡斷。著無有色思惟癡斷。是十五使名為癡使。三十二使著欲。十二使著色。十二使著無有色。是名為三十六使。十二使著欲為何等。著欲見苦斷身邪。著欲見苦斷要邪。著欲見苦斷邪。著欲見習斷身邪。著欲見習斷要邪。著欲見習斷邪。著欲見盡斷身邪。著欲見盡斷要邪。著欲見盡斷邪。著欲見道斷身邪。著欲見道斷要邪。著欲見道斷邪。著欲見思惟斷身邪。著欲見思惟斷要邪。著欲見思惟斷邪。是名十二使著欲使。十二使著色為何等。著色見苦斷身邪。著色見苦斷要邪。著色見苦斷邪。著色見習斷身邪。著色見習斷要邪。著色見習斷邪。著色見盡斷身邪。著色見盡斷要邪。著色見盡斷邪。著色見道斷身邪。著色見道斷要邪。著色見道斷邪。著色見思惟斷身邪。著色見思惟斷要邪。著色見思惟斷邪。是名十二使著色使。十二使著無有色為何等。著無有色見苦斷身邪。著無有色見苦斷要邪。著無有色見苦斷邪。著無有色見習斷身邪。著無有色見習斷要邪。著無有色見習斷邪。著無有色見盡斷身邪。著無有色見盡斷要邪。著無有色見盡斷邪。著無有色見道斷身邪。著無有色見道斷要邪。著無有色見道斷邪。著無有色見思惟斷身邪。著無有色見思惟斷要邪。著無有色見思惟斷邪。是名十二使著無有色使。是為三十六使。疑使為何等。十二使名為疑使。何等十二。著欲見苦斷疑。著欲見習斷疑。著欲見盡斷疑。著欲見道斷疑。著色見苦斷疑。著色見習斷疑。著色見盡斷疑。著色見道斷疑。是名十二使名為疑使。

疑。著色見盡斷疑。著色見道斷疑。著無有色見苦斷疑。著無有色見習斷疑。著無有色見盡斷疑。著無有色見道斷疑。是名為十二疑。使是為塵是為塵。腦有時塵無有腦者。除塵所餘亂意念法。是為腦非塵。從起為八。一為睡。二為瞑。三為樂。四為疑。五為猗。六為恣態。七為不愧。八為不慚。是故說從起八所點為何等。十點。何等為十。一為法點。二為比點。三為知人心點。四為巧點。五為苦點。六為習點。七為滅點。八為道點。九為盡點。十為無為點。法點為何等。在生死欲所無有結點。在生死欲本所無有結點。在生死欲滅無有結點。在生死欲壞道行無有結點。亦在法點亦在法地所無有結點。是名為法點。比點為何等。在色無有色行無有結點。在色無有色本無有結點。在色無有色行滅無有結點。在色無有色行斷為道無有結點。亦在比點亦在比地無有結點。是名為比點。知人心點為何等。所點行所點福所點合。已得不舍。常在前常念不忘。為人故為他家故。思行。是故意念。知。是名為知人心點。巧點為何等。世間所行點。是名巧點。苦點為何等。受五陰非常苦空非身念所無有結點。是名為苦點。習點為何等。世間本亦本集生因緣。思念無有結點。是名為習點。滅點為何等。滅滅為點。最要念不結點。是

①〔為〕一②③ ④習二盡⑤⑥ ⑦道二盜⑧ ⑨戒盜一盜戒⑩* ⑪斷二惱⑫⑬* ⑭恣二姿⑮⑯⑰⑱ ⑲起八一八起⑳ ㉑合二捨㉒* ㉓忘二妄㉔⑵ ㉕思二思 ㉖知二如㉗⑶ ㉘是名二名為㉙⑷ ㉚集二習㉛ ㉜思二畏⑸

名爲滅點

道點爲何等。道爲道如應受觀者。欲出念無有結點。是名爲道點

盡點爲何等。已識苦已。含習盡。已有證。道已行從是點見知意得應。是名爲盡點

無爲點爲何等。苦已更不復更。習已畢不復畢。盡已有證不復用證。道已行不復行。從是所點所見所知所意得。是名爲無爲點。故說所點

所有見爲何等。所有點見爲見。有時見非點。爲何等。八更者可。八更者可爲何等。苦法點可。苦譬點可。習法點可。習譬點可。盡法點可。盡譬點可。道法點可。道譬點可。故說所見。若得是爲點。不有時得。非點八更可如上說。故說所更

德爲何等。得法爲德。無有思想思惟爲何等。天上一處名爲一切淨。在有無有欲前有思想出所意念法滅不隨。是名爲不思想思惟。滅思惟爲何等。二十。六天上名爲不欲中得道者。上頭行要出所意念法滅。倒。是名爲滅思惟不思想爲何等。無有思想人化生天上。上頭意亦墮天上時意除是中間。乃從是若意念法滅倒。是名爲不思想

念根爲何等。三界中命會爲何等。人同居得。處爲何等。同郡縣。種得爲何等。爲五陰。入得爲何等。所內外得入。是名爲入得。生爲何等。得陰。老爲何等。陰熟。止。行何等。宿命行來望。非常爲何等。已生復亡。名字爲何等。知分別。絕爲何等。字爲具。政用

爲何等。字會

空爲何等。虛空無所有無所著無所色。是名爲空。盡尙未離爲何等。已盡不復更不復著。盡爲何等。度世無爲。是名爲五法五行說具

阿毘曇五法行經

